

取扱説明書



**DORICO PRO<sub>5</sub>**  
Advanced Music Notation System

 **steinberg**

Steinberg マニュアル制作チーム: Cristina Bachmann, Martina Becker, Heiko Bischoff, Lillie Harris, Christina Kaboth, Dennis Martinez, Insa Mingers, Matthias Obrecht, Sabine Pfeifer

翻訳: Ability InterBusiness Solutions (AIBS), Moon Chen, Jérémie Dal Santo, Rosa Freitag, GiEmme Solutions, Josep Llodra Grimalt, Vadim Kupriianov, Roland Münchow, Boris Rogowski, Sergey Tamarovsky

このマニュアルは、目の不自由な方や視力の弱い方へのアクセシビリティに配慮しています。このマニュアルは複雑かつ多くの図が使用されているため、図の説明は省略されていることをご了承ください。

本書の記載事項は、Steinberg Media Technologies GmbH 社によって予告なしに変更されることがあり、同社は記載内容に対する責任を負いません。本書に掲載されている画面は、すべて操作説明のためのもので、実際の画面と異なる場合があります。本書で取扱われているソフトウェアは、ライセンス契約に基づいて供与されるもので、ソフトウェアの複製は、ライセンス契約の範囲内でのみ許可されます(バックアップコピー)。Steinberg Media Technologies GmbH 社の書面による承諾がない限り、目的や形式の如何にかかわらず、本書のいかなる部分も記録、複製、翻訳することは禁じられています。本製品のライセンス所有者は、個人利用目的に限り、本書を1部複製することができます。

本書に記載されている製品名および会社名は、すべて各社の商標、および登録商標です。詳しくは、[www.steinberg.net/trademarks](http://www.steinberg.net/trademarks) をご覧ください。

© Steinberg Media Technologies GmbH, 2024.

All rights reserved.

Dorico Pro\_5.1.30\_ja-JP\_2024-04-03

# 目次

<b>11</b>	<b>新機能</b>		
<b>17</b>	<b>はじめに</b>		
17	プラットフォーム非依存文書		
17	ドキュメントの構成		
18	表記規則		
19	キーボードショートカット		
20	Steinberg 社の Web サイトへのアクセス方法		
<b>21</b>	<b>Dorico のコンセプト</b>		
21	デザイン方針とハイレベルコンセプト		
22	Dorico のプロジェクト		
22	Dorico のモード		
23	Dorico のフロー		
23	Dorico のプレーヤー		
24	Dorico のインストゥルメント		
25	ポップオーバー		
25	Dorico の音符と休符		
26	リズム上の位置		
27	Dorico のレイアウト		
28	Dorico のページテンプレート		
29	Dorico のキーボードショートカット		
30	Dorico Pro のオプションダイアログ		
<b>32</b>	<b>ユーザーインターフェース</b>		
32	プロジェクトウィンドウ		
46	ワークスペースの設定		
56	カラー設定		
61	言語設定		
63	「環境設定 (Preferences)」 ダイアログ		
64	「環境設定 (Preferences)」 ダイアログの「キーボードショートカット (Key Commands)」 ページ		
70	ジャンプ小節		
<b>75</b>	<b>プロジェクトとファイルの処理方法</b>		
75	Hub		
77	新規プロジェクトの開始		
78	プロジェクト/ファイルを開く		
79	異なるバージョンの Dorico のプロジェクト		
80	「存在しないフォント (Missing Fonts)」ダイアログ		
81	「プロジェクト情報 (Project Info)」ダイアログ		
84	プロジェクトテンプレート		
86	ファイルの読み込みと書き出し		
114	自動保存		
116	プロジェクトのバックアップ		
117	「プロジェクトの解析 (Project Statistics)」ダイアログ		
<b>120</b>	<b>設定モード</b>		
120	設定モードのプロジェクトウィンドウ		
133	プレーヤー、レイアウト、フロー		
135	プレーヤー		
141	アンサンブル		
143	インストゥルメント		
150	インストゥルメントの変更		
156	打楽器キットとドラムセット		
168	フレット楽器のチューニング		
173	カポ		
183	プレーヤーグループ		
187	フロー		
190	レイアウト		
203	プレーヤー名、レイアウト名、インストゥルメント名		
210	フロー名とフロータイトル		
211	ビデオ		
<b>218</b>	<b>記譜モード</b>		
218	記譜モードのプロジェクトウィンドウ		
234	入力と編集		
241	リズムグリッド		
242	キャレット		
247	音符の入力		
285	音符のデュレーション		
290	MIDI 録音		
298	記譜記号の入力		
460	音符/アイテムの選択		
469	アイテムの編集		
477	印刷されない要素を非表示にする		
478	連結線を表示/非表示にする		
478	動作の取り消し/再実行		
479	ナビゲーション		
485	インストゥルメントフィルター		
490	ガイド		
491	挿入モード		
495	配置ツール		
517	移調ツール		
527	楽譜の変換		
545	コメント		
551	フローの分割		
<b>553</b>	<b>浄書モード</b>		
553	浄書モードのプロジェクトウィンドウ		
567	ページテンプレート		
595	フロー見出し		
601	フレーム		
635	グラフィックスライス		
643	音符のスペーシング		
652	アイテムの表示位置の移動		
656	タッキングインデックスのプロパティ		
<b>658</b>	<b>再生モード</b>		
658	再生モードのプロジェクトウィンドウ		
669	トラック		
677	再生ヘッド		
680	楽譜の再生		
685	声部の個別再生の有効化		
687	トラックをミュート/ソロにする		
689	再生時の反復		
692	スウィング再生		
698	「トランスポート (Transport)」ウィンドウ		
701	再生テンプレート		
710	エンドポイント		
717	MIDI トリガー領域		
<b>719</b>	<b>印刷モード</b>		
719	印刷モードのプロジェクトウィンドウ		
724	レイアウトの印刷		
728	グラフィックファイルとしての書き出し		

733	プリンター	886	ミキサーチャンネル
733	印刷/書き出し用のページ配置	890	チャンネルの表示/非表示
735	両面印刷	890	チャンネルのスクロール
736	ページサイズと用紙サイズ	890	チャンネルの高さを変更する
738	グラフィックファイルの形式	891	チャンネルのボリュームを変更する
740	注釈	892	パンニングチャンネル
<b>742</b>	<b>ページ形式設定</b>	893	FXチャンネルの追加
744	ページのサイズと向きの変更	894	チャンネル名の変更
745	ページ余白の変更	894	Insert をチャンネルにロードする
746	レイアウトへのページテンプレートのセットの適用	896	リバーブプラグインの変更
747	デフォルトの譜表サイズの変更	896	ステージテンプレート
748	デフォルトの譜表/組段のスペーシングを変更する	905	スペーステンプレート
749	譜表/組段の両端揃え (垂直方向) を変更する	<b>913</b>	<b>ライブラリー</b>
750	空白の譜表の表示/非表示を切り替える	913	ライブラリーマネージャー
753	最終フローのあとの空白の譜表を表示/非表示にする	917	「レイアウトオプション (Layout Options)」ダイアログ
757	ページの挿入	919	「記譜オプション (Notation Options)」ダイアログ
759	ページの削除	921	「音符入力オプション (Note Input Options)」ダイアログ
760	左側のページからレイアウトを始める	923	「浄書オプション (Engraving Options)」ダイアログ
760	同じページに複数のフローを表示する/表示しない	925	「再生オプション (Playback Options)」ダイアログ
761	「最初 (First)」のページテンプレートをいつ使用するかの変更	927	音楽フォント
762	フロー見出しの表示/非表示の切り替え	929	テキストの形式設定
763	フロー見出しの上の情報の表示/非表示を切り替える	938	「コードダイアグラムの編集 (Edit Chord Diagrams)」ダイアログ
764	最後の組段の両端揃え (水平方向) の変更	941	カスタムコード記号
765	コンデンシングの有効化/無効化	950	カスタムインストゥルメント
768	余白	967	カスタムの符頭セット
772	譜表サイズ	976	カスタムの演奏技法
776	譜表のスペーシング	984	カスタムライン
784	配置設定	1003	カスタムの調性システム
789	組段区切り	1014	音楽記号
792	フレーム区切り	1017	カスタムページサイズ
795	タッチット	1019	エクスペッションマップ
799	コンデンシング	1039	パーカッションマップ
822	パート形式のコピー	1046	再生効果
<b>826</b>	<b>プロパティ</b>	<b>1049</b>	<b>記譜に関するリファレンス</b>
826	プロパティパネル	<b>1050</b>	<b>はじめに</b>
827	ローカルプロパティとグローバルプロパティ	<b>1051</b>	<b>臨時記号</b>
828	プロパティ範囲の変更	1051	浄書オプションで臨時記号の設定をプロジェクト全体に適用する
829	数値フィールドの値を変更する	1052	臨時記号の削除
<b>831</b>	<b>キーエディター</b>	1052	臨時記号を表示/非表示にするか括弧を付ける
831	キーエディターパネル	1054	臨時記号のサイズの変更
843	キーエディターの音符	1054	臨時記号のカラーを表示/非表示にする
852	演奏される音符のデュレーションと記譜された音符のデュレーション	1055	臨時記号のスタック
855	演奏技法エディター	1058	オルタードユニゾン
856	ベロシティーエディター	1059	微分音の臨時記号
859	強弱記号エディター	1060	臨時記号の有効範囲ルール
865	MIDI ピッチベンドエディター	<b>1064</b>	<b>アーティキュレーション</b>
866	MIDI CC エディター	1065	浄書オプションでアーティキュレーションの設定をプロジェクト全体に適用する
871	テンポエディター	1065	アーティキュレーションのコピーと貼り付け
875	ヒストグラムツール	1065	アーティキュレーションの削除
879	変換ツール	1066	アーティキュレーションの位置
881	キーエディター設定	1071	再生時のアーティキュレーション
<b>883</b>	<b>ミキサー</b>	<b>1073</b>	<b>小節</b>
883	ミキサーパネル	1073	小節の長さ
884	ミキサーウィンドウ	1073	小節/拍の削除
885	ミキサーツールバー	1076	空白の小節の幅を変更する

1077	小節の分割	1155	浄書オプションでコード記号の設定をプロジェクト全体に適用する
<b>1078</b>	<b>小節線</b>	1156	コード記号の外観のプリセット
1079	浄書オプションで小節線の設定をプロジェクト全体に適用する	1157	コード記号のフォントスタイル
1079	小節線のフローごとの記譜オプション	1157	コード記号の位置
1079	小節線のタイプ	1162	コード記号領域
1084	組段の小節線と大括弧/中括弧を表示/非表示にする	1164	コード記号の移調
1085	単一譜表の組段で組段の小節線を表示/非表示にする	1164	コード記号の表記の変更
1086	リピート小節線に羽根を表示/非表示にする	1166	コード記号のルートとクオリティーを表示/非表示にする
1087	ティックの長さを変更する	1167	複合コード記号の配置を変更する
1087	小節線の表示位置の移動	1168	コード記号の背景の塗りつぶし
1088	譜表グループをまたぐ小節線	1169	括弧付きのコード記号
<b>1094</b>	<b>小節番号</b>	1174	MusicXML ファイルから読み込まれたコード記号
1094	浄書オプションで小節番号の設定をプロジェクト全体に適用する	<b>1175</b>	<b>コードダイアグラム</b>
1095	小節番号を表示/非表示にする	1176	コードダイアグラムの構成要素
1096	小節番号の囲み線を表示/非表示にする	1176	浄書オプションでコードダイアグラムの設定をプロジェクト全体に適用する
1097	長休符における小節番号の範囲を表示/非表示にする	1177	コードダイアグラムのプロジェクト全体の音符入力オプション
1098	ガイド小節番号の表示/非表示	1177	コードダイアグラムを表示/非表示にする
1098	小節番号のパラグラフスタイル	1179	使用されるコードダイアグラムのグリッド
1100	小節番号の位置	1182	コードダイアグラムのフィンガリングの表示/非表示を切り替える
1104	小節番号の変更	1185	コードダイアグラムシェイプを変更する
1105	サブ小節番号	1186	新しいコードダイアグラムシェイプを作成する
1108	小節番号とリピート	1188	コードダイアグラムのフォントスタイル
<b>1112</b>	<b>連桁</b>	1189	開始フレット番号の水平位置の変更
1112	連桁のグループ化に関するフローごとの記譜オプション	1190	コードダイアグラムのサイズの変更
1113	拍に従う連桁グループ	1190	コードダイアグラムの向きを変更する
1114	手動で音符に連桁を付ける	<b>1191</b>	<b>音部記号</b>
1117	連桁の太さを変更する	1192	音部記号を装飾音符のあとに表示
1118	譜表に対する連桁の位置	1193	音部記号の表示位置の移動
1119	連桁の傾斜	1194	組段の途中にある音部変更記号のデフォルトのサイズを変更する
1121	中央配置の連桁	1194	実音と移調音で異なる音部記号を設定する
1123	譜表をまたぐ連桁/トレモロの作成	1195	音部記号の表示/非表示の切り替え
1127	連桁のでっぱり	1198	音部記号のオクターブを変更する
1127	第2連桁	1199	オクターブ指示記号付き音部記号
1130	連桁内の連符	<b>1201</b>	<b>オクターブ線</b>
1131	連桁内の休符	1202	浄書オプションでオクターブ線の設定をプロジェクト全体に適用する
1131	ステムレット	1202	オクターブ線の位置
1133	扇形連桁	1204	オクターブ線の表示/非表示の切り替え
<b>1136</b>	<b>音符と休符のグループ化</b>	1205	浄書モードのオクターブ線
1137	拍の境界をまたぐタイを表示/非表示にする	1205	オクターブ線の垂直スタックの順番を変更する
1138	拍子のカスタム連桁グループを作成する	1206	オクターブ線の角度の変更
1139	カットコモンの拍子記号の拍のグループ化を変更する	<b>1208</b>	<b>キュー</b>
<b>1140</b>	<b>大括弧と中括弧</b>	1209	浄書オプションでキューの設定をプロジェクト全体に適用する
1141	浄書オプションで大括弧(ブラケット)と中括弧(ブレイス)の設定をプロジェクト全体に適用する	1209	レイアウト内のキューを表示/非表示にする
1142	アンサンブルタイプごとの大括弧によるグループ化の変更	1210	キューのオクターブを変更する
1144	1つの譜表の中括弧を表示/非表示にする	1211	キューラベルのオクターブ移調を表示/非表示にする
1144	大括弧の終端の外観を変更する	1212	キューの内容
1145	第2括弧	1213	キューラベル
1148	小副括弧	1215	キューの記譜記号
1148	カスタムの譜表のグループ化	1216	キューの符尾の方向
<b>1154</b>	<b>コード記号</b>	1218	キューのタイ
1155	コードの構成要素	1218	キューの休符
		1220	キューの音部変更記号
		1221	リズムによるキュー

- 1226 キューの表示オプション
- 1229 強弱記号**
- 1229 強弱記号のタイプ
- 1230 浄書オプションで強弱記号の設定をプロジェクト全体に適用する
- 1230 強弱記号の位置
- 1235 強弱記号レベルを変更する
- 1236 局部的強弱記号を表示/非表示にする
- 1236 結合式強弱記号の区切り文字を表示/非表示にする
- 1237 強弱記号に括弧を付ける
- 1238 強弱記号 sforzando/rinforzando の外観を変更する
- 1239 強弱記号の背景の塗りつぶし
- 1241 声部固有の強弱記号
- 1241 強弱記号の修飾語句
- 1246 段階的強弱記号
- 1255 messa di voce ヘアピン
- 1257 ニエンテ記号
- 1260 強弱記号のグループ
- 1262 リンクされた強弱記号
- 1264 強弱記号のフォントスタイル
- 1264 再生時の強弱記号
- 1268 数字付き低音**
- 1269 浄書オプションで数字付き低音の設定をプロジェクト全体に適用する
- 1269 音符入力オプションで数字付き低音の設定をプロジェクト全体に適用する
- 1270 レイアウトで数字付き低音の表示/非表示を切り替える
- 1271 休符に数字付き低音を表示する
- 1272 数字付き低音に単一の括弧を表示する
- 1273 数字付き低音の括弧のスタイルを表示する
- 1273 数字付き低音のホルドの線
- 1277 数字付き低音の位置
- 1281 数字付き低音の外観
- 1286 フィンガリング**
- 1287 フィンガリングの一般的な配置規則
- 1287 浄書オプションでフィンガリングの設定をプロジェクト全体に適用する
- 1288 フィンガリングを替え指のフィンガリングに変更する
- 1289 既存のフィンガリングの変更
- 1290 譜表に対するフィンガリングの位置の変更
- 1292 フィンガリングのサイズを変更する
- 1293 フィンガリングに囲み線/下線を表示する
- 1294 フィンガリングの表示/非表示
- 1295 フィンガリングの削除
- 1295 フィンガリングのフォントスタイル
- 1297 親切フィンガリング
- 1299 フレット楽器のフィンガリング
- 1305 フィンガリングスライド
- 1309 バルブ式金管楽器のフィンガリング
- 1310 弦楽器におけるフィンガリングのシフト指示の表示/非表示
- 1312 MusicXML ファイルから読み込まれたフィンガリング
- 1313 弦の指示記号**
- 1314 浄書オプションで弦の指示記号の設定をプロジェクト全体に適用する
- 1314 開放弦の指示記号の外観を変更する
- 1315 弦の指示記号のサイズを変更する
- 1315 弦の指示記号を削除する
- 1316 弦の指示記号の位置
- 1318 前付け**
- 1318 タイトルの追加
- 1319 作曲者の追加
- 1320 作詞者の追加
- 1321 著作権情報の追加
- 1321 ページテンプレートへの献呈の追加
- 1322 プレーヤーリストを追加する
- 1323 ページテンプレートの欄外見出しを編集する
- 1325 レイアウトの移調テキストの編集
- 1325 レイアウト名の枠線の表示/非表示
- 1327 装飾音符**
- 1327 装飾音符の一般的な配置規則
- 1329 既存の音符を装飾音符に変換する
- 1329 装飾音符を標準の音符に変換する
- 1330 小節線の前後に装飾音符を表示する
- 1331 装飾音符のサイズ
- 1331 装飾音符のスラッシュ
- 1333 装飾音符の符尾
- 1334 装飾音符の連桁
- 1334 再生時の装飾音符
- 1335 延長記号と休止記号**
- 1336 浄書オプションで延長記号と休止記号の設定をプロジェクト全体に適用する
- 1336 フェルマータのタイプ
- 1337 プレス記号のタイプ
- 1338 中間休止記号のタイプ
- 1338 延長記号と休止記号の位置
- 1342 再生時の延長記号と休止記号
- 1346 調号**
- 1347 浄書オプションで調号の設定をプロジェクト全体に適用する
- 1347 調号の配置
- 1348 調号のタイプ
- 1349 組段の開始位置にある調号を表示/非表示にする
- 1350 調号の変更の前の打ち消しのナチュラル記号の表示/非表示を切り替える
- 1350 調号の位置
- 1352 予告の調号
- 1354 異名同音の調号
- 1355 調号の背景の塗りつぶし
- 1357 調性システム**
- 1358 オクターブの均等な分割 (EDO)
- 1358 調性システムの変更
- 1359 調性システムの読み込み
- 1360 調性システムの書き出し
- 1361 歌詞**
- 1361 浄書オプションで歌詞の設定をプロジェクト全体に適用する
- 1362 歌詞のタイプ
- 1363 歌詞の音節のタイプ
- 1364 歌詞のコピーと貼り付け
- 1366 歌詞の書き出し
- 1366 歌詞のフィルター
- 1368 歌詞の位置
- 1374 歌詞のパラグラフスタイル
- 1377 歌詞テキストの編集
- 1379 歌詞のハイフンと歌詞の延長線
- 1382 歌詞のライン番号
- 1384 歌詞番号

1386	エリジョンスラー	1465	浄書モードのグリッサンドライン
<b>1388</b>	<b>音符</b>	1466	再生時のグリッサンドライン
1388	浄書オプションで音符の設定をプロジェクト全体に適用する	<b>1469</b>	<b>ギターベンド</b>
1388	符頭セット	1472	ギタープリベンドとギタープリダイブ
1397	弦への音符の割り当て	1473	ギターポストベンド
1398	符頭の表示/非表示	1474	ビブラートバーのダイブとリターン
1399	加線の幅を個別に変更する	1475	ベンドの音程
1401	付点の統合	1476	浄書オプションでギターベンド、プリベンド、ポストベンドおよびビブラートバーのダイブとリターンの設定をプロジェクト全体に適用する
1403	音符と休符の表示オプション	1477	ギターベンドホールドの線を表示/非表示にする
<b>1406</b>	<b>括弧付きの符頭</b>	1478	ギタープリベンド/プリダイブの方向を変更する
1407	浄書オプションで括弧付きの符頭の設定をプロジェクト全体に適用する	1478	プリベンド/プリダイブの臨時記号を表示/非表示にする
1408	符頭に括弧を表示する	1479	ベンディング、プリダイブおよびポストベンドの削除
1409	タイでつながれた1つまたはすべての符頭に括弧を表示する	1480	浄書モードのギターベンド
1411	コードの括弧の分割	<b>1485</b>	<b>ギターテクニック</b>
1412	単一の符頭の丸括弧の外観を変更する	1485	ビブラートバーの演奏技法
1412	符頭の丸括弧の形状を変更する	1486	タッピング
1414	浄書モードにおける符頭の括弧	1488	ハンマーオンとプルオフ
<b>1415</b>	<b>符尾</b>	1489	浄書オプションでギターテクニックの設定をプロジェクト全体に適用する
1415	浄書オプションで符尾の設定をプロジェクト全体に適用する	1490	音符をデッドノートとして表示する
1416	符尾の方向	1491	ビブラートバーのディップの音程を変更する
1421	符尾の長さ	1491	音符の譜表とタブ譜のギターテクニックの表示/非表示を切り替える
1422	符尾の表示/非表示	1492	譜表に対するギターテクニックの位置の変更
1423	符尾の背景の塗りつぶし	1493	ギターテクニックの削除
<b>1425</b>	<b>ハーモニクス</b>	<b>1495</b>	<b>ジャズアーティキュレーション</b>
1426	音符をハーモニクスに変換する	1496	ジャズの装飾音
1427	倍音の変更	1497	浄書オプションでジャズアーティキュレーションの設定をプロジェクト全体に適用する
1428	ハーモニクスの臨時記号を表示/非表示にするか括弧を付ける	1497	ジャズアーティキュレーションの位置
1429	ハーモニクスの外観/スタイル	1498	既存のジャズアーティキュレーションのタイプや長さを変更する
<b>1434</b>	<b>装飾音</b>	1499	スムーズのジャズアーティキュレーションの線のスタイルを変更する
1434	浄書オプションで装飾音の設定をプロジェクト全体に適用する	1500	ジャズアーティキュレーションの削除
1435	装飾音の音程の変更	<b>1501</b>	<b>ページ番号</b>
1436	装飾音の位置	1501	ページ番号のパラグラフスタイル
<b>1438</b>	<b>トリル</b>	1502	ページ番号の数字スタイルの変更
1438	トリル記号の表示/非表示を切り替える	1503	ページ番号を表示/非表示にする
1439	トリルの速さの変更	1505	ガイドページ番号の表示/非表示
1440	トリルの延長線で速さの変更指示の表示/非表示を切り替える	<b>1506</b>	<b>ハーブのペダリング</b>
1440	トリルの延長線の表示/非表示を切り替える	1507	浄書オプションでハーブのペダリングの設定をプロジェクト全体に適用する
1441	トリル音程	1507	ハーブペダルダイアグラムの外観の変更
1446	トリルの音程の外観	1509	レイアウト内のハーブのペダリングを表示または非表示にする
1449	再生時のトリル	1510	ハーブペダルダイアグラムの枠線を表示または非表示にする
<b>1453</b>	<b>アルペジオ記号</b>	1513	ハーブペダルダイアグラムの位置
1453	浄書オプションでアルペジオ記号の設定をプロジェクト全体に適用する	1513	部分的なハーブのペダリング
1454	アルペジオ記号のタイプ	<b>1516</b>	<b>ペダル線</b>
1456	アルペジオ記号の長さ	1517	浄書オプションでペダル線の設定をプロジェクト全体に適用する
1456	アルペジオ記号の一般的な配置規則	1517	サスティンペダルのリテイクおよびペダルの強さの変更指示
1458	再生時のアルペジオ	1523	ペダル線の位置
<b>1461</b>	<b>グリッサンドライン</b>	1524	ペダル線の分割
1462	浄書オプションでグリッサンドの設定をプロジェクト全体に適用する		
1462	空白の小節をまたぐグリッサンド		
1462	グリッサンドのスタイルの変更		
1463	グリッサンドのテキストを個別に変更する		

- 1525 ペダル線のマージ  
 1526 ペダル線の開始記号、フック、および延長線  
 1532 テキストによるペダル線の記号  
 1535 再生時のペダル線  
 1535 MusicXML ファイルから読み込まれたペダル線
- 1536 演奏技法**  
 1537 浄書オプションで演奏技法の設定をプロジェクト全体に適用する  
 1537 演奏技法へのテキストの追加  
 1538 演奏技法の背景の塗りつぶし  
 1540 演奏技法の表示/非表示  
 1541 演奏技法の位置  
 1542 演奏技法の延長線  
 1548 演奏技法のグループ
- 1551 ライン**  
 1553 ラインの構成要素  
 1554 浄書オプションでラインの設定をプロジェクト全体に適用する  
 1554 ラインの位置  
 1560 ラインの長さ  
 1563 ラインのボディスタイルの変更  
 1564 ラインのキャップの変更  
 1565 ラインの方向の変更  
 1565 ラインへのテキストの追加  
 1573 浄書モードのライン
- 1574 リハーサルマーク**  
 1574 浄書オプションでリハーサルマークの設定をプロジェクト全体に適用する  
 1575 リハーサルマークの囲み線のタイプの変更  
 1576 リハーサルマークの位置  
 1576 リハーサルマークのインデックスの変更  
 1577 リハーサルマークのシーケンスタイプの変更  
 1578 リハーサルマークに先頭および末尾テキストを追加する  
 1579 リハーサルマークのパラグラフスタイルの編集
- 1580 マーカー**  
 1580 浄書オプションでマーカーの設定をプロジェクト全体に適用する  
 1581 マーカーを表示/非表示にする  
 1581 マーカーの垂直位置の変更  
 1582 マーカーのテキストを編集する  
 1583 マーカー/タイムコードのフォントスタイルの編集  
 1584 マーカーの枠線のスタイルを変更する  
 1584 マーカーのタイムコードを変更する  
 1585 マーカーを重要なマーカーに指定する
- 1586 タイムコード**  
 1587 タイムコードの開始位置の値を変更する  
 1587 タイムコードの垂直位置を変更する  
 1588 マーカーのタイムコードの表示/非表示  
 1589 タイムコードの構成要素の表示/非表示  
 1589 タイムコードの表示頻度を変更する
- 1591 リピート括弧**  
 1591 浄書オプションでリピート括弧の設定をプロジェクト全体に適用する  
 1592 リピート括弧でリピート回数の総数を変更する  
 1593 リピート括弧のセグメントの長さの変更  
 1594 リピート括弧の位置  
 1595 リピート括弧のテキストの編集  
 1595 リピート括弧のセグメントの外観を変更する  
 1596 リピート括弧のフックの長さを変更する
- 1597 MusicXML ファイルのリピート括弧
- 1598 リピートマーカー**  
 1599 浄書オプションでリピートマーカーの設定をプロジェクト全体に適用する  
 1599 リピートマーカーのパラグラフスタイル  
 1600 コーダ/セーニョ記号のサイズの変更  
 1600 リピートマーカーの記号を表示/非表示にする  
 1601 リピートマーカーのインデックスの変更  
 1602 リピートマーカーのテキストの編集  
 1604 リピートマーカーを表示/非表示にする  
 1604 コーダの前に表示される小節線の変更  
 1605 リピートマーカーの位置  
 1607 リピート回数
- 1610 小節リピート記号**  
 1611 浄書オプションで小節リピート記号の設定をプロジェクト全体に適用する  
 1611 小節リピート領域の繰り返されるフレーズの長さを変更する  
 1612 領域の強調表示の表示/非表示を切り替える  
 1612 小節リピート記号のカウント  
 1616 小節リピート記号のグループ化
- 1618 通し番号付き小節領域**  
 1619 浄書オプションで通し番号付き小節領域の設定をプロジェクト全体に適用する  
 1619 通し番号付き小節領域の表示/非表示を切り替える  
 1619 通し番号付き小節領域のカウント
- 1625 スラッシュ符頭**  
 1625 浄書オプションでスラッシュ符頭の設定をプロジェクト全体に適用する  
 1626 スラッシュ符頭のデザインを個別に変更する  
 1627 スラッシュ付き声部  
 1629 スラッシュ領域  
 1633 スラッシュ領域のカウント  
 1637 複声部におけるスラッシュ
- 1640 休符**  
 1640 休符の一般的な配置規則  
 1641 暗黙の休符と明示的な休符  
 1643 休符のフローごとの記譜オプション  
 1644 浄書オプションで休符の設定をプロジェクト全体に適用する  
 1644 休符のカラーを表示/非表示にする  
 1645 休符を垂直に移動する  
 1646 休符の削除  
 1647 空白の小節で小節休符を表示/非表示にする  
 1649 長休符
- 1655 スラー**  
 1656 浄書オプションでスラーの設定をプロジェクト全体に適用する  
 1656 スラーの一般的な配置規則  
 1663 スラーのスタイル  
 1667 スラーのカーブ方向  
 1669 譜表および声部をまたぐスラー  
 1670 入れ子状のスラー  
 1672 リンクされたスラー  
 1673 スラーのセグメント  
 1675 浄書モードのスラー  
 1679 スラーの高さ  
 1681 スラーの肩のオフセット  
 1683 再生時のスラー



<b>1684</b>	<b>譜表ラベル</b>	<b>1768</b>	テキストアイテムのパラグラフスタイルの変更
<b>1685</b>	浄書オプションで譜表ラベルの設定をプロジェクト全体に適用する	<b>1769</b>	テキストアイテムを組段の開始位置に揃える
<b>1685</b>	譜表ラベルを表示/非表示にする	<b>1770</b>	テキストの衝突回避の有効化/無効化
<b>1687</b>	組段区切り/フレーム区切りの位置の譜表ラベルを表示/非表示にする	<b>1770</b>	テキストアイテムへの枠線の追加
<b>1688</b>	譜表ラベルのコンテンツ	<b>1774</b>	テキストアイテムの背景の塗りつぶし
<b>1690</b>	譜表ラベルに表示されるインストゥルメントの移調	<b>1775</b>	テキストアイテムの表示/非表示
<b>1692</b>	隣接する同一のインストゥルメントの譜表ラベルをグループ化する	<b>1776</b>	<b>タイ</b>
<b>1693</b>	譜表ラベルの番号スタイルの変更	<b>1777</b>	浄書オプションでタイの設定をプロジェクト全体に適用する
<b>1694</b>	音楽の譜表のラベルを全大文字/頭文字大文字で表示する	<b>1777</b>	タイとスラー
<b>1695</b>	プレーヤーグループのラベル	<b>1778</b>	タイのスタイル
<b>1697</b>	譜表ラベルのパラグラフスタイル	<b>1781</b>	タイのカーブ方向
<b>1698</b>	打楽器キットの譜表ラベル	<b>1783</b>	非標準のタイ
<b>1699</b>	コンデンシングされた譜表の譜表ラベル	<b>1785</b>	レセヴィブレタイの表示/非表示
<b>1703</b>	<b>譜表</b>	<b>1786</b>	タイの削除
<b>1704</b>	譜表線の太さの変更	<b>1786</b>	タイのつながりの分割
<b>1704</b>	譜表の削除	<b>1787</b>	浄書モードのタイ
<b>1705</b>	追加の譜表/オッシア譜表の削除	<b>1790</b>	タイの高さ
<b>1706</b>	追加の譜表	<b>1792</b>	タイの肩のオフセット
<b>1710</b>	オッシア譜表	<b>1795</b>	<b>拍子記号</b>
<b>1716</b>	組段の分割記号	<b>1796</b>	浄書オプションで拍子記号の設定をプロジェクト全体に適用する
<b>1717</b>	組段オブジェクト	<b>1796</b>	拍子記号のタイプ
<b>1720</b>	組段のインデント	<b>1798</b>	親切拍子記号
<b>1722</b>	<b>ディヴィジ</b>	<b>1800</b>	弱起 (アウフタクト)
<b>1723</b>	「ディヴィジを作成 (Change Divisi)」ダイアログ	<b>1801</b>	大きな拍子記号
<b>1725</b>	ディヴィジ作成の入力	<b>1804</b>	拍子記号のスタイル
<b>1726</b>	既存のディヴィジ作成を編集する	<b>1809</b>	拍子記号の位置
<b>1727</b>	ディヴィジのパスセージを終了させる	<b>1812</b>	拍子記号の表示/非表示
<b>1727</b>	ユニゾン範囲	<b>1813</b>	入れ替え可能な拍子の拍子記号を終了する
<b>1729</b>	音楽の譜表のディヴィジ	<b>1813</b>	拍子記号の背景の塗りつぶし
<b>1730</b>	ディヴィジの譜表ラベル	<b>1814</b>	拍子記号のデザインを個別に変更する
<b>1733</b>	ディヴィジ作成のラベル	<b>1815</b>	拍子記号のフォントスタイル
<b>1736</b>	再生時のディヴィジ	<b>1816</b>	<b>トレモロ</b>
<b>1737</b>	<b>タブ譜</b>	<b>1817</b>	浄書オプションでトレモロの設定をプロジェクト全体に適用する
<b>1738</b>	浄書オプションでタブ譜の設定をプロジェクト全体に適用する	<b>1818</b>	トレモロの一般的な配置規則
<b>1738</b>	タブ譜のリズム	<b>1818</b>	タイのつながりの中のトレモロ
<b>1739</b>	音符の譜表とタブ譜を表示または非表示にする	<b>1820</b>	トレモロの速さの変更
<b>1740</b>	タブ譜で音符に割り当てられた弦の変更	<b>1820</b>	2分音符の重音トレモロの外観に関する設定を変更する
<b>1741</b>	タブ譜のタイでつながれた音符の外観を変更する	<b>1821</b>	トレモロの削除
<b>1742</b>	タブ譜で音符の囲み線を表示または非表示にする	<b>1822</b>	トレモロが付いた音符の位置
<b>1744</b>	タブ譜の付点の配置を変更する	<b>1822</b>	トレモロストロークの移動
<b>1744</b>	タブ譜の数字用フォントスタイルの編集	<b>1823</b>	再生時のトレモロ
<b>1745</b>	<b>テンポ記号</b>	<b>1826</b>	<b>連符</b>
<b>1746</b>	浄書オプションでテンポ記号の設定をプロジェクト全体に適用する	<b>1826</b>	浄書オプションで連符の設定をプロジェクト全体に適用する
<b>1746</b>	テンポ記号のタイプ	<b>1827</b>	入れ子状の連符
<b>1747</b>	テンポ記号の位置	<b>1828</b>	既存の音符を連符に変換する
<b>1748</b>	テンポのテキストの変更	<b>1829</b>	連符から標準の音符に変換する
<b>1750</b>	テンポ記号のフォントスタイル	<b>1829</b>	連符が小節線をまたぐことの許可/禁止の切り替え
<b>1750</b>	テンポ記号の表示/非表示	<b>1830</b>	連符の連桁
<b>1751</b>	テンポ記号に括弧を付ける	<b>1831</b>	連符の角括弧
<b>1752</b>	メトロノームマーク	<b>1834</b>	連符の数や比率を示す数字
<b>1757</b>	段階的テンポ変更	<b>1838</b>	<b>無音程打楽器</b>
<b>1761</b>	テンポの等式	<b>1838</b>	打楽器キットと個々の打楽器インストゥルメント
<b>1763</b>	<b>テキストアイテム</b>	<b>1839</b>	無音程打楽器の演奏技法
<b>1764</b>	テキストのタイプ	<b>1845</b>	一線譜による打楽器の譜表
		<b>1846</b>	無音程打楽器のフローごとの記譜オプション

1847	打楽器キットの音符の記譜記号
1848	打楽器キットの表示タイプ
1850	打楽器のレジェンド
1855	打楽器キットにおける声部
1857	ユニバーサルインド太鼓記譜法
<b>1858</b>	<b>声部</b>
1859	声部のフローごとの記譜オプション
1859	声部カラーの表示/非表示
1860	対立する声部での符頭の重なりを許可する/禁止する
1861	複声部の音符位置
1864	未使用の声部
1864	他の声部の音符がすでにある譜表に伸びた音符
<b>1866</b>	<b>用語集</b>
<b>1880</b>	<b>索引</b>

# 新機能

## 追加された新機能: バージョン 5.1.30

### ステータスバーの幅

- ステータスバーのツールの表示/非表示を切り替えられるようになりました。「[ステータスバーのツールを表示/非表示にする](#)」を参照してください。

### 組段の小節線

- 個々の組段/フレーム区切りとコーダの位置の組段の小節線と大括弧/中括弧を非表示にできるようになりました。「[組段の小節線と大括弧/中括弧を表示/非表示にする](#)」を参照してください。

### コーダの間隔

- 個々のコーダセクションの前の間隔を変更できるようになりました。組段の途中のコーダと、組段の開始位置のコーダのデフォルトの間隔を個別に設定することもできます。「[コーダの前の間隔を変更する](#)」を参照してください。

### コンデンシングされた譜表の譜表ラベル

- 連続したプレーヤー番号を、「1-4」のように統合された範囲として表示できるようになりました。「[コンデンシングされた譜表ラベルの番号を統合する方法の変更](#)」を参照してください。

## 追加された新機能: バージョン 5.1.20

### コメントパネルの改良

- コメントをさまざまな属性でソートしたり、表示する情報を変更したりできるようになりました。[コメントの並べ替え](#) および [コメント情報の表示/非表示](#) を参照してください。

### ミキサーの値

- ミキサーチャンネルでパンニングとボリュームの正確な値を入力できるようになりました。[チャンネルのボリュームを変更する](#) および [パンニングチャンネル](#) を参照してください。

### ボウイング記号

- 演奏技法をボウイング記号として定義できるようになりました。これは、垂直スタッキングの順番に影響します。「[演奏技法を編集 \(Edit Playing Techniques\) ダイアログ](#)」を参照してください。

### 譜表ラベルの改良

- 譜表ラベルを表示/非表示にする際、最初のフローのみ、またはレイアウト内のすべてのフローに変更を適用できるようになりました。「[譜表ラベルを表示/非表示にする](#)」を参照してください。
- 譜表ラベルが非表示の場合のみ、フローの最初の組段をインデントできるようになりました。「[最初の組段のインデントの変更](#)」を参照してください。

### 結合拍子の拍子記号

- 分母が同じ結合拍子の拍子記号を1つの拍子記号に統合できるようになりました。拍子の区切りには破線の小節線がそのまま表示されます。「[結合拍子の拍子記号の統合](#)」を参照してください。

## 追加された新機能: バージョン 5.1.10

### ハーブペダルエディター

- 演奏技法パネルの新しい「**ハーブペダル (Harp Pedals)**」セクションでは、ビジュアルエディターを使用してハーブペダルダイアグラムを作成できます。「[演奏技法パネル](#)」を参照してください。

### カスタムページサイズ

- ページサイズの寸法を編集してカスタムページサイズを作成できるようになりました。「[カスタムページサイズ](#)」を参照してください。

### 臨時記号のカラー

- 親切臨時記号や強制臨時記号をそれぞれ異なる色で表示できるようになりました。「[臨時記号のカラーを表示/非表示にする](#)」を参照してください。

## 追加された新機能: バージョン 5.1.0

### ハイライト

#### Iconica Sketch

- Iconica Sketch のサウンドと、それらを使用するための再生テンプレートが Dorico Pro に追加されました。「[再生テンプレート](#)」を参照してください。

#### テキストの書き出し

- プロジェクト内のすべてのテキストを CSV ファイルに書き出しできるようになりました。「[テキストの書き出し](#)」を参照してください。

#### プロジェクトの解析

- Dorico Pro では、プロジェクト全体または個々のフローのみの解析を生成できるようになりました。楽譜内にいくつの小節があるかを把握したり、記譜された小節と空の小節を区別したりできることは、浄書料金を計算する際に必要となる場合があります。「[プロジェクトの解析 \(Project Statistics\)](#)」[ダイアログ](#)」を参照してください。

#### 「履歴 (History)」ダイアログ

- 実行した編集と選択をダイアログで確認し、選択した動作までのすべての動作を取り消したり再実行したりできるようになりました。「[履歴 \(History\)](#)」[ダイアログ](#)」を参照してください。

#### カスタムインストゥルメント

- Dorico Pro 5.0 で採用されたインストゥルメントのカスタマイズを拡張し、インストゥルメントファミリーやインストゥルメントのスコアの順番を作成したり編集したりできる新しいダイアログが追加されました。「[インストゥルメントファミリーを編集 \(Edit Instrument Families\)](#)」[ダイアログ](#) および「[インストゥルメントのスコアの順番を編集 \(Edit Instrument Score Orders\)](#)」[ダイアログ](#)」を参照してください。

#### 多声部のバランス

- Dorico Pro は、多声音楽のメロディーとベース音を特定し、それらを伴奏音に対して強調できます。「[多声部のバランスの有効化/無効化](#)」を参照してください。
- 対位法による楽曲のテーマに特化した声部のバランスオプションが追加されました。「[対位法による楽曲の強弱記号ルールの有効化/無効化](#)」を参照してください。

#### 再生時の延長記号と休止記号

- 音符のデュレーションの変更と間隔の挿入を組み合わせ、延長記号と休止記号が再生に反映されるようになりました。「[再生時の延長記号と休止記号](#)」を参照してください。

## その他の新機能

### 「プロジェクト情報 (Project Info)」 ダイアログ

- 「プロジェクト情報 (Project Info)」ダイアログのフィールド内の特定の文字に、斜体、太字、太字斜体のマークダウン形式設定を使用できるようになりました。「[「プロジェクト情報 \(Project Info\)」 ダイアログ](#)」を参照してください。

### インストゥルメントの変更の改良

- インストゥルメントの変更を、変更後のインストゥルメントの最初の音符の前まで遅らせたり、インストゥルメントの変更ラベルのキューに対する表示位置を変更したりできるようになりました。「[インストゥルメントの変更の位置を変更する](#)」を参照してください。
- インストゥルメントの変更通知をレイアウトごとに個別に非表示にできるようになりました。「[インストゥルメントの変更通知を表示/非表示にする](#)」を参照してください。
- Dorico Pro では、インストゥルメントの変更ラベルに2つのパラグラフスタイルを使用できるようになりました。これにより、インストゥルメントの変更通知の外観を、新規インストゥルメントのエントリーに表示されるラベルとは別にカスタマイズできます。「[インストゥルメントの変更ラベルのパラグラフスタイル](#)」を参照してください。

### 非表示の記譜記号

- ポップオーバーエントリーを括弧でくくることで、非表示のテンポ記号や演奏技法を入力できるようになりました。[ポップオーバーを使ったテンポ記号の入力](#) および [ポップオーバーを使った演奏技法の入力](#) を参照してください。

### マウスによる編集

- マウスでクリックしてドラッグすることで、音符をオクターブの分割単位で移調できるようになりました。「[個々の音符のピッチの変更](#)」を参照してください。

### フローの書き出し

- フローを個別の PDF ファイルとして書き出しできるようになりました。「[グラフィックファイルとしての書き出し](#)」を参照してください。

### 演奏されるデュレーションをロック

- この新機能を使用すると、ピアノロールエディターで記譜上の位置やデュレーションに対して行なった編集に関係なく、音符の演奏されるデュレーションを保持できます。「[キーエディターパネルツールバー](#)」を参照してください。

### 使用されるコードダイアグラムのグリッド

- 使用されるコードダイアグラムのグリッドからコードダイアグラムシェイプを個別に除外できるようになりました。「[使用されるコードダイアグラムのグリッドにコードダイアグラムを含める/除外する](#)」を参照してください。

### キューの改良

- 小節線に対するキューの音部変更記号のデフォルトの位置が更新され、新しいオプションで変更できるようになりました。「[キューの音部変更記号](#)」を参照してください。
- リズムによるキューの符頭を、標準の符頭ではなくスラッシュ符頭として表示できるようになりました。「[リズムによるキューのスラッシュ符頭を表示/非表示にする](#)」を参照してください。
- 負の値を使用して、リズムによるキューを譜表の内側または下に配置できるようになりました。「[リズムによるキューの譜表上の位置を変更する](#)」を参照してください。

### 強弱記号の改良

- ハイフン付き段階的強弱記号の音節の外観と位置に新しいオプションが追加されました。[段階的強弱記号の外観を変更する](#) および [段階的強弱記号の省略](#) を参照してください。

### 予告の調号/親切拍子記号

- 組段の終了位置にある予告の調号と親切拍子記号を非表示にできるようになりました。[予告の調号を表示/非表示にする](#) および [親切拍子記号の表示/非表示](#) を参照してください。

### グリッサンドの再生

- Dorico Pro では、MIDI ピッチベンドを使用した連続的なグリッサンド再生を行なえるようになりました。「[グリッサンドの再生タイプを変更する](#)」を参照してください。

### ディヴィジの改良

- スラーや拍子記号の扱いを含め、ディヴィジパッセージとユニゾンパッセージの間の移行が大幅に改良されました。「[ユニゾン範囲](#)」を参照してください。
- ディヴィジ作成のラベルを水平方向にずらしたり、背景を塗りつぶしたりできるようになりました。「[ディヴィジ作成のラベル](#)」を参照してください。
- ユニゾンの復元が休符と重なる場合、その直後の音符の位置にユニゾンラベルを自動的に表示できるようになりました。「[休符の位置のユニゾンラベルを許可する/禁止する](#)」を参照してください。

## 追加された新機能: バージョン 5.0.20

### ミキサーパネル

- 高さが十分にある場合、ミキサーパネルにチャンネルストリップが表示されるようになりました。「[ミキサーパネル](#)」を参照してください。

### タイのつながり

- 音符の符尾の方向の変更など、記譜モードでタイのつながりに対して編集を行なうと、そのつながりの中のすべての音符とタイに影響するようになりました。

## 追加された新機能: バージョン 5.0.0

### ハイライト

#### Groove Agent SE

- Dorico Pro に Groove Agent SE が追加され、ドラムセットトラックにパターンをドラッグしたり、MIDI トリガー領域を使用してパターンをトリガーしたりできるようになりました。「[Groove Agent SE からドラムセットパターンを読み込む](#)」を参照してください。
- Groove Agent SE をインストールしている場合は、新しい再生テンプレートを使用して、ドラムセットを追加するときに Groove Agent SE を自動的にロードできます。「[再生テンプレート](#)」を参照してください。

#### マウスによる編集

- マウスでクリックしてドラッグすることで、音符の移調、移動、コピーを行なえるようになりました。「[マウスによる編集の有効化/無効化](#)」を参照してください。

#### 複数アイテムの作成

- 音符の入力中でなくても、複数の譜表に記譜記号を同時に入力できるようになりました。Dorico Pro の初期設定では、各譜表の最初の音符の位置に記譜記号が入力されます。「[アイテムの入力位置の設定を変更する](#)」を参照してください。

#### スクラブ再生

- Dorico Pro でスクラブ再生を使用できるようになりました。「[スクラブ再生](#)」を参照してください。

#### MIDI トリガー領域

- この新機能を使用すると、Groove Agent のパターンを再生に使用する場合などに、音符を楽譜に表示することなく再生できます。「[MIDI トリガー領域](#)」を参照してください。

#### スペーステンプレートとステージテンプレート

- これらの新しい機能を組み合わせることで、楽譜のリアルな再生パフォーマンスを容易に実現できます。ステージテンプレートを使用すると、実際のステージのようにインストゥルメントを配置できます。スペーステンプレートは、パンニングとリバーブの設定をインストゥルメントのス

ページポジションに適用することで、さまざまな部屋やコンサートホールをエミュレートします。これにより、ステレオフィールドをよりリアルに使用し、より深く、自然な反響で再生できます。[スペースステンプレート](#) および [ステージステンプレート](#) を参照してください。

### カスタムインストゥルメント

- 新しい「[インストゥルメントを編集 \(Edit Instruments\)](#)」ダイアログでは、既存のすべてのインストゥルメントの編集や、新しいインストゥルメントの作成を行なえます。各インストゥルメントの編集できるデフォルト設定には、移調、譜表の数、名前、演奏できる範囲などがあります。「[カスタムインストゥルメント](#)」を参照してください。

### ピッチの輪郭強調

- この新しいアルゴリズムにより、メロディーをさらに表情豊かに再生できます。「[ピッチの輪郭強調の有効化/無効化](#)」を参照してください。

## その他の新機能

### ユーザーインターフェースの改良

- ステータスバーにオプションが追加され、現在のレイアウトの実音と移調音、ギャラリービューとページビューを簡単に切り替えられるようになりました。「[ステータスバー](#)」を参照してください。
- 再生中の再生ヘッドの追従をプロジェクトウィンドウごとに個別に有効化/無効化できるようになりました。「[再生ヘッドの追従の有効化/無効化](#)」を参照してください。

### ミドル C のナンバリング変換

- Dorico Pro 全体でミドル C (MIDI ノート 60) に使用されるナンバリング変換を変更できるようになりました。「[ミドル C のナンバリング変換を変更する](#)」を参照してください。

### インストゥルメントのナンバリング

- デフォルトのプレーヤーの順番に一致するようにインストゥルメントの番号を付け直せるようになりました。「[インストゥルメント番号の付け直し](#)」を参照してください。

### 譜表ラベルの改良

- 単純な例では、個々のインストゥルメント名の水平方向の配置や行間の設定が、各パラグラフスタイルの設定より優先されて譜表ラベルで使用されるようになりました。「[インストゥルメント名を編集 \(Edit Instrument Names\)](#)」ダイアログ」を参照してください。
- 各フローの最初の組段のみ譜表ラベルにプレーヤー名を表示し、他のすべての組段では譜表ラベルにインストゥルメント名を表示できるようになりました。「[譜表ラベルにインストゥルメント名/プレーヤー名を表示する](#)」を参照してください。

### 付点

- 音符のデュレーションのキーボードショートカットを 2 回押して、付点音符のデュレーションを選択できるようになりました。「[付点音符の入力](#)」を参照してください。

### テキストの改良

- テキストアイテムとテキストフレームの両方に、Unicode 文字をより簡単に入力できるようになりました。「[テキストアイテムの入力](#)」および「[テキストフレームへのテキストの入力](#)」を参照してください。
- 個々のテキストアイテムやテキストフレーム内の行間を、パラグラフスタイルとは関係なく調節できるようになりました。「[記譜モードのテキストエディターオプション](#)」および「[浄書モードのテキストエディターオプション](#)」を参照してください。
- 個々のテキストフレームの背景と枠線の色を変更できるようになりました。「[テキストフレームの背景色を変更する](#)」および「[テキストフレームの枠線の色を変更する](#)」を参照してください。
- 選択した複数のテキストアイテムに適用されるパラグラフスタイルを同時に変更できるようになりました。「[テキストアイテムのパラグラフスタイルの変更](#)」を参照してください。

### 再生の改良

- 特定のリピート回で音符やアイテムをミュートできるようになりました。これにより、たとえば、選択した音符を 2 回めのみ聴くことができます。「[音符/アイテムを個別にミュートする](#)」を参照してください。

- Dorico Pro では、MIDI ピッチベンドを使用した微分音の再生を行なえるようになりました。「[「エクスプレッションマップ \(Expression Maps\)」 ダイアログ](#)」を参照してください。

#### ミキサーの改良

- ミキサーに複数の FX チャンネルを追加できるようになりました。「[FX チャンネルの追加](#)」を参照してください。
- ミキサーでチャンネル名を変更できるようになりました。「[チャンネル名の変更](#)」を参照してください。

#### 音楽フォント

- さまざまな新しい音楽フォントファミリーをデフォルトで使用できるようになりました。「[音楽フォント](#)」を参照してください。

#### アイテムを非表示にする

- どの移調のレイアウトでも、他のレイアウトとは無関係に音部記号を非表示にできるようになりました。「[音部記号の表示/非表示の切り替え](#)」を参照してください。
- 個々のレイアウトでオクターブ線を非表示にできるようになりました。「[オクターブ線の表示/非表示の切り替え](#)」を参照してください。



# はじめに

このたびは Dorico Pro をご購入いただきありがとうございます。

Steinberg の楽譜作成アプリケーションを末永くご愛用いただければ幸いです。

Dorico は、コンポーザー、編曲家、楽譜浄書家、出版社、演奏家、教員、学生などを対象ユーザーとした、美しい楽譜を作成できる次世代のアプリケーションです。Dorico は、楽譜を印刷する場合にも、デジタル形式で共有する場合にも最適な、非常に優れたプログラムです。

他のすべての Steinberg 製品と同様、Dorico は、その基礎部分から徹底して、ミュージシャンで構成されたチームによって設計されています。そしてミュージシャンだからこそ、ユーザーのニーズをしっかりと把握しており、使い方が簡単で覚えやすく、優れた結果を得られる製品を作り上げるために努力しています。また、Dorico と既存のワークフローを統合し、さまざまな形式でファイルを読み込んだり書き出したりできます。

Dorico は、ミュージシャンと同じ方法で音楽をとらえ、音楽の要素と実際の演奏に対し、他の楽譜作成アプリケーションよりも深い理解を備えています。独自の設計により、楽譜の入力や編集、スコアレイアウト、リズムの自由度、その他さまざまな関連領域について、これまでにない柔軟性を実現しています。

ぜひ本製品をご活用ください。

Steinberg Dorico チーム一同

## プラットフォーム非依存文書

このマニュアルには、Windows と macOS の両方のオペレーティングシステム用の内容が記載されています。

一方の OS 固有の機能や設定は、その旨が明記されています。記載がない場合は、Windows と macOS の両方に当てはまります。

注意事項:

- このマニュアルでは macOS のスクリーンショットが使用されており、Dorico Pro のテーマは「Dark」が選択されています。
- Windows の「**ファイル (File)**」メニューで使用できる機能の一部は、macOS ではプログラム名メニューにあります。

## ドキュメントの構成

本書では、情報はその内容に応じて3つの異なるトピックに分類されています。

### ユーザーインターフェースの説明

ユーザーインターフェース項目の機能、およびダイアログやパネルなどのその他の項目のオプションと設定を説明するトピック。

### 基本コンセプトの説明

特定のソフトウェア機能のコンセプトと機能を説明するトピック。

### 手順の説明

特定のタスクを実行する方法の、手順に沿った指示を行なうトピックです。これらのトピックには、その手順に従うべき理由の例や、注意すべき点を含めて、得られる結果の簡単なまとめを紹介するものが多くあります。

本書はこのように情報を分割することで、最初から最後まで読み通すことが求められるガイドではなく、必要に応じて詳細な情報や指示を参照できる参考文献として機能する構造になっています。

### ヒント

説明のトピックにはタスクを実行する方法は記載されておらず、手順のトピックにはそれが何であるかの説明はありません。アイテムやコンセプトに関する一般的な情報が必要な場合は、「強弱記号」などの名称で検索することをおすすめします。具体的な動作の説明が必要な場合は、「移動する」といった動詞を含めて検索することをおすすめします。

トピックの一番下にあるリンクから関連コンテンツを参照できます。またサイドバーを確認することでも、ドキュメントの構成上近くにある関連トピックを見つけられます。

---

## 表記規則

本書では、構造要素およびマークアップの要素を使用して、目的に応じた情報を提供します。

### 構造要素

#### 前提

手順を開始する前に完了しておくこと、または満たす必要がある条件を示します。

#### 手順

特定の結果を得るために必要な手順を示します。

#### 重要

システムや接続されたハードウェアに影響を及ぼす事項、データ損失のリスクを伴う事項など、重大な問題について示します。

#### 補足

問題やその他の関連情報について示します。

#### ヒント

役に立つ追加の情報を表示します。

#### 例

例を示します。

#### 結果

手順の結果を示します。

#### 手順終了後の項目

手順を実行したあとに行なう操作または必要事項を示します。

#### 関連リンク

本書に記載のある関連トピックを示します。

### 強調表示

太字はメニュー、オプション、機能、ダイアログ、ウィンドウなどの名前を示します。

例

「プロジェクト情報 (Project Info)」ダイアログを開くには、「ファイル (File)」 > 「プロジェクト情報 (Project Info)」を選択します。

---

太字が大なり記号で区切られている場合は、複数のメニューを連続で開くこと、あるいはシーケンスの最初に示されているダイアログ内を移動するための指示を表わします。

---

例

「編集 (Edit)」 > 「記譜 (Notations)」 > 「声部 (Voices)」 > 「声部を選択 (Change Voice)」 > [声部] を選択します。

このオプションは「環境設定 (Preferences)」 > 「音符の入力と編集 (Note Input and Editing)」 > 「編集 (Editing)」で変更できます。

---

ファイル名とフォルダーパスは、別々のフォントで表示されます。

---

例

example\_file.txt

---

## キーボードショートカット

キーボードショートカットは、一緒に押すと設定されたタスクが実行されるキーの組み合わせです。多くのキーボードショートカットはオペレーティングシステムが異なっても同じですが、中には違う場合もあるため、このガイドではそれらについて説明します。

キーボードショートカットが各オペレーティングシステムの同等の修飾キーを使用する場合、それらの修飾キーはスラッシュで区切り、最初に Windows の修飾キー、次に macOS の修飾キーを表示します。

---

例

**[Ctrl]/[command]+[Alt/Opt]+[↓]** の意味: Windows では **[Ctrl]+[Alt]+[↓]** を押し、macOS では **[command]+[Opt]+[↓]** を押します。

---

キーボードショートカットがオペレーティングシステムによってまったく異なる場合は、最初に Windows のキーボードショートカットを表示し、そのあとに macOS のキーボードショートカットを表示します。

---

例

**[#]** の意味: Windows では **[#]** を押し、macOS では **[\]** を押します。

---

本書では、説明書の言語に一致するキーボードショートカットが使用されています。たとえば英語版の説明書では、キーボードショートカットは英語のキーボード言語に対応しています。

関連リンク

[Dorico のキーボードショートカット \(29 ページ\)](#)

[「環境設定 \(Preferences\)」ダイアログの「キーボードショートカット \(Key Commands\)」ページ \(64 ページ\)](#)

[キーボード言語の変更 \(69 ページ\)](#)

[アプリケーション言語の変更 \(61 ページ\)](#)

## Steinberg 社の Web サイトへのアクセス方法

「ヘルプ (Help)」メニューからは、追加の情報にアクセスできます。

このメニューには、Steinberg 社のさまざまな Web サイトへのリンクが表示されます。メニュー項目のいずれかを選択すると、Web ブラウザーが自動的に起動し、該当のページが開きます。開いたページから、サポート情報や互換性情報、FAQ、更新情報、他の Steinberg 製品の情報などにアクセスできます。

# Dorico のコンセプト

Dorico は、そのデザイン方針から生まれたいくつもの重要なコンセプトに基づいています。

これらのコンセプトは Dorico での作業効率を大幅に向上させ、このマニュアルを使いこなすのに役立つため、しっかりと理解しておくことをおすすめします。

## デザイン方針とハイレベルコンセプト

Dorico のような楽譜作成ソフトウェアはデザインについて深く考えて開発する必要があり、そのデザイン方針は楽譜作成アプリケーションをよく使うユーザーにとって特に興味深いかもしれません。Dorico は、コンピューター上の操作性よりも音楽的なコンセプトを重視した先進的なデザインを採用しており、多くのメリットを提供する製品です。

グラフィックを重視した他の多くの楽譜作成アプリケーションでは、譜表または譜表を作成するインストゥルメントの定義が最上位のコンセプトです。それらのアプリケーションでフルスコアを設定する場合、はじめに正しい数の譜表を追加し、そのあとすぐにレイアウトを決定しなければなりません。つまり、2本のフルートが譜表を共有するのか、個別の譜表を持つのかどうか、または使用するトランペットは2本なのか3本なのかをあらかじめ知っておく必要があります。これらの決定項目の多くは、個々のパートを入力、編集、および作成する過程の全体に大きく影響します。

通常、スコアの各組段には、特定の組段において非表示になっている譜表がある場合でも、同じ数の譜表を含める必要があります。つまり、同じインストゥルメントを複数のプレーヤーで演奏する場合には譜表を共有するようにするなど、全体に共通する表記規則を自分で管理する必要があります。このような手法には時間がかかり、必然的にミスの原因となります。

一方 Dorico は、あらかじめ作成されたスコアの設定に楽曲の演奏を従わせるのではなく、実際の楽曲の演奏方法に合わせてスコアを作成できるように設計されており、スコアというものを、実用的な演奏法を柔軟に表現するためのものに落とし込んでいます。

Dorico の最上位のコンセプトが、スコアを演奏する人であるミュージシャンのグループとなっているのはこのためです。スコアは、1つ以上のグループ(二部合唱、オーケストラとオフステージの室内楽アンサンブルなど)に対して作成できます。各グループには、1つ以上のインストゥルメントを演奏する人を表すプレーヤーが1人以上含まれています。プレーヤーは、1つ以上のインストゥルメントを演奏する個人(イングリッシュホルンを持ち替えるオーボエ奏者など)、または全員が同じ楽器を演奏するグループ(バイオリン奏者8人など)のいずれかです。

Dorico と他の楽譜作成アプリケーションの最大の違いは、音楽コンテンツとスコアを表示するレイアウトが独立して存在する点なのです。

スコアのグループによって演奏される実際の楽譜は、1つ以上のフローに属します。フローは、1楽曲全体、ソナタまたはシンフォニーの1楽章、ミュージカルの1曲め、音階練習曲もしくは練習曲など、任意の範囲の独立した楽譜です。フローによっては、プレーヤーが演奏する楽譜を持たない場合があります。たとえば、クラシックの交響曲のゆったりとした楽章ですべての金管楽器プレーヤーが演奏しない場合や、映画用のスコアで特定のプレーヤーが演奏しない場合があります。このような場合でも、フローにはあらゆる組み合わせのプレーヤーを含めることができるため問題ありません。

Dorico のデザイン方針にはいくつかのメリットがあります。最大のメリットは、同じ音楽コンテンツを共有するさまざまなレイアウトを、それぞれの要件に合わせてカスタマイズされた外観で作成できる点です。たとえば、1つのプロジェクトに、好きなだけの数のインストゥルメントをより少数の譜表に要約した指揮者用のスコア、各プレーヤーの楽譜を個別の譜表に記述したフルスコア、合唱のリハーサル用にピアノと声楽の譜表のみを含むカスタムスコアレイアウト、および特定のプレーヤーに属する楽譜のみを含めたパート譜などを作成できます。

これらの情報はすべて同じ Dorico プロジェクトファイル内に共存できるため、フローやパートを個別のファイルとして書き出す必要がありません。

関連リンク

[コンデンシング \(799 ページ\)](#)

[レイアウトへのプレーヤーの割り当て \(193 ページ\)](#)

## Dorico のプロジェクト

プロジェクトは、Dorico で作成する個別のファイルです。プロジェクトには、非常に短いものから非常に長いものまで、あらゆるインストゥルメントの組み合わせで書かれた複数の個別の楽譜を含めることができ、必要な数だけレイアウトを使用できます。

たとえば、1つのプロジェクトを作成して、バッハの『平均律クラヴィーア曲集』のすべての前奏曲とフーガを別々のフローに含めることができます。そのあと、1巻のフローだけを含むレイアウトを作成し、2巻のフローを含むもう1つのレイアウトを作成します。

記譜された楽譜に加え、プロジェクトには、適用されている再生テンプレート、ページテンプレート、オプションダイアログの設定といったその他の関連情報も保存されます。

Dorico のプロジェクトは .dorico ファイルとして保存されます。

関連リンク

[Dorico のフロー \(23 ページ\)](#)

[Dorico のレイアウト \(27 ページ\)](#)

[Dorico Pro のオプションダイアログ \(30 ページ\)](#)

[Dorico のページテンプレート \(28 ページ\)](#)

[再生テンプレート \(701 ページ\)](#)

[「プロジェクト情報 \(Project Info\)」ダイアログ \(81 ページ\)](#)

## Dorico のモード

Dorico のモードは、スコア作成ワークフローのフェーズの論理的な順序を表わしますが、必要に応じていつでも切り替えることができます。

Dorico Pro には以下のモードがあります。

### 設定

設定モードでは、インストゥルメントやそのインストゥルメントを割り当てるプレーヤー、フロー、レイアウト、ビデオなど、プロジェクトの基本的な要素を設定できます。また、たとえばレイアウトに割り当てられたプレーヤーを変更するなど、それらが互いにどのように作用するかも設定できます。

設定モードでは、楽譜領域の楽譜を表示したり、他のタブやレイアウト間で表示を切り替えたりできますが、楽譜領域内のアイテムを選択したり、編集したりすることはできません。

### 記譜

記譜モードでは、楽譜を入力できます。また、アイテムの位置や音符のピッチを変更したり、音符やアイテムを削除したりして、楽譜を編集できます。ツールボックスとパネルを使用して、最も一般的に使用されるすべての音符および記譜項目を入力できます。

設計により、記譜モードでページ上の音符やアイテムの表示位置を動かすことはできません。表示位置の調整は浄書モードでのみ行えます。

### 浄書

浄書モードでは、音符やアイテムの位置、サイズ、外観を微調整できるほか、ページテンプレートの編集や作成も含め、プロジェクトのページレイアウトを設定できます。

設計により、浄書モードでは浄書中のミスを防ぐために、音符やアイテムを削除したり、音符の位置やピッチを変更したりすることはできません。

### 再生

再生モードでは、再生時に楽譜をどのように発音するかを変更できます。たとえば、再生テンプレートの変更や VST インストゥルメントの割り当て、オートメーションの入力、ミキシングの調節などを行なえるほか、再生時に記譜上のデュレーションに影響を与えずに音を発音するデュレーションを変更することもできます。

### 印刷

印刷モードでは、レイアウトを印刷したり、グラフィックファイルとして書き出したりできます。レイアウトの印刷時に、用紙サイズのほか、両面印刷や冊子印刷などのオプションを指定できます。レイアウトの書き出し時に、PDF や PNG などのさまざまなグラフィックファイル形式を指定できるほか、書き出す際のファイル名に含める情報も設定できます。

#### 関連リンク

[設定モード](#) (120 ページ)

[記譜モード](#) (218 ページ)

[浄書モード](#) (553 ページ)

[印刷モード](#) (719 ページ)

[再生モード](#) (658 ページ)

## Dorico のフロー

フローとは、アルバム内の 1 歌曲、ソナタや交響曲の 1 楽章、ステージミュージカルの 1 曲め、数小節からなる短い音階練習曲や初見練習曲など、音楽コンテンツ内で完全に独立している、個別の楽譜の範囲のことです。1 つのプロジェクトに複数のフローを含めることができます。

各フローには、ほかのフローからは独立した形で、プレーヤーを任意に組み合わせた楽譜を含めることができます。たとえば、古典派の交響曲の第 2 楽章で、金管楽器のプレーヤーがタチェットになることは珍しくありません。この場合、第 2 楽章のフローから金管楽器のプレーヤーを削除し、ほかの楽章のフローには残すことができます。映画のキューなどでは、一部のキューにおいて特定のプレーヤーが必要とされないことがあります。この場合、該当のフローには演奏するプレーヤーのみを含めることができます。

Dorico では、フローにプレーヤーを正しく割り当てると、個々のパートに対してタチェットシートを自動的に生成できます。

#### 関連リンク

[プレーヤー、レイアウト、フロー](#) (133 ページ)

[フロー](#) (187 ページ)

[タチェット](#) (795 ページ)

[フロー見出し](#) (595 ページ)

## Dorico のプレーヤー

Dorico におけるプレーヤーとは、1 人のミュージシャンまたは同じセクション内の複数のミュージシャンのことを指します。プレーヤーにはインストゥルメントを割り当てることができ、インストゥルメントを追加するにはプロジェクトに少なくとも 1 人のプレーヤーを追加しておく必要があります。

- シングルプレーヤーとは、1 つ以上のインストゥルメントを演奏できる 1 人のプレーヤーを指します。たとえば、アルトサクソフォンも演奏するクラリネット奏者や、バスドラム、シンバル、トライアングルを演奏する打楽器奏者がソロプレーヤーです。
- セクションプレーヤーとは、全員が同じインストゥルメントを演奏する複数のプレーヤーを指します。たとえば、オーケストラの第 1 バイオリンセクションの 8 人のバイオリン奏者からなるバイオ

リンセクションプレーヤーや、混声合唱のソプラノパートのソプラノセクションプレーヤーなどがあります。

#### 補足

セクションプレーヤーが持てるインストゥルメントは1つだけですが、ディヴィジすることはできません。つまり、セクションプレーヤーを小規模なユニットに分けることができます。これは、一般的に弦楽器で必要とされる機能です。

このプレーヤーというコンセプトのおかげで、Dorico ではインストゥルメントの変更、ディヴィジ、複数のプレーヤーの楽譜をより少ない数の譜表へ要約するなどの作業を非常に簡単に行なうことができます。

また、大規模な楽譜でオンステージプレーヤーとオフステージプレーヤーを区別する場合など、プレーヤーをグループ化することもできます。プレーヤーのグループ化とは、プレーヤーをまとめてスコア上に配置し、グループ外のプレーヤーとは別に通し番号を付け、各レイアウトに設定されたアンサンプルタイプに応じてそれらを括弧で括弧することを意味します。

プレーヤーはレイアウトとフローのあらゆる組み合わせに割り当てることができます。

#### 関連リンク

- [プレーヤー、レイアウト、フロー](#) (133 ページ)
- [プレーヤー](#) (135 ページ)
- [プレーヤーグループ](#) (183 ページ)
- [ディヴィジ](#) (1722 ページ)
- [コンデンシング](#) (799 ページ)
- [アンサンプルタイプによる大括弧でのグループ化](#) (1143 ページ)

## Dorico のインストゥルメント

Dorico における、インストゥルメントとは、ピアノ、フルート、バイオリンなど、個々の楽器を指します。またソプラノやテナーなどのボーカルもインストゥルメントと見なされます。

演奏者が楽器を持つと同じように、Dorico ではプレーヤーがインストゥルメントを持ちます。セクションプレーヤーが持てるインストゥルメントは1つだけですが、シングルプレーヤーは複数のインストゥルメントを持つことができます。これにより、オーボエとイングリッシュホルンを持ち替えるプレーヤーのインストゥルメントを切り替える場合などに、インストゥルメントを簡単に変更できます。

各インストゥルメントには独自の譜表が自動的に割り当てられますが、インストゥルメントの変更を許可した場合は、音符が重ならない限り、同じシングルプレーヤーに割り当てられた複数のインストゥルメントの楽譜が1つの譜表に表示されます。

Dorico には、各インストゥルメントのプロパティに関する情報のデータベースがあります。これには、音域、一般奏法および特殊奏法、記譜の規則、調性、チューニング、音部記号、譜表の数、譜表タイプなどが含まれます。これらのプロパティをあらかじめ定義しておくことで、プロジェクトの正しい設定を簡単かつ迅速に行なうことができます。たとえば、移調音のレイアウトでト音記号を自動的に表示するFホルンのインストゥルメントなどがあります。同様に、すべての調号を非表示にするティンパニのインストゥルメントもあります。

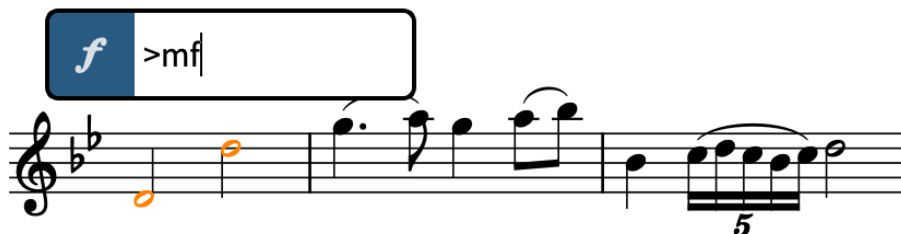
#### 関連リンク

- [インストゥルメント](#) (143 ページ)
- [インストゥルメントの変更](#) (150 ページ)
- [移調楽器](#) (146 ページ)
- [カスタムインストゥルメント](#) (950 ページ)



## ポップオーバー

ポップオーバーを使用すると、コンピューターのキーボードのみを使用して、さまざまな記譜記号を入力したり、選択した音符の移調などのタスクを実行したりできます。ポップオーバーはさまざまなアイテムやタスク用のテキストエントリーを使用する一時的な数値フィールドであり、目的ごとに専用のポップオーバーがあります。



エントリーの例が入力された強弱記号のポップオーバー

ポップオーバーの主なメリットは、音符を入力しながら使用できるという点です。たとえば、新しい拍子記号を入力したい位置まできたら、拍子記号のポップオーバーを開き、使用する拍子記号を入力し、音符の入力を続けることができます。

多くの記譜記号に対して特定のエントリーを入力する必要がありますが、各記譜記号のエントリーは一貫して論理的に構造化されています。たとえば、連符は常に、3:2 や 5:4 などの比率で表わされます。調号は、メジャーキーには大文字、マイナーキーには小文字を使用して表わされます。拍子記号は一对の数字で表わされ、一般的な拍子記号には、3/4 や 6/8 のようにスラッシュを使用します。

音符の入力中は、それぞれのポップオーバーを使用して入力する記譜記号に応じて、現在選択されている音符 (通常は最後に入力した音符)、またはキャレットが表示されている現在の位置のいずれかに記譜記号が入力されます。

ポップオーバーは左側のアイコンで見分けることができます。これらのアイコンは、ウィンドウの右側にある記譜ツールボックスのアイコンと同じです。記譜ツールボックスでは、対応する記譜パネルの表示/非表示を切り替えられます。記譜記号は記譜パネルからでも入力できます。

記譜モードは音符とアイテムを一緒に入力したり音符のピッチを変更したりできる唯一のモードであり、ポップオーバーは記譜モードでのみ使用できます。ポップオーバーは、キャレットが有効またはアイテムが選択されている一番上の譜表の上で、キャレット位置、または選択した中で一番前にあるアイテムのリズム上の位置に開きます。

関連リンク

[キャレット](#) (242 ページ)

[音符の入力](#) (247 ページ)

[記譜記号の入力](#) (298 ページ)

[記譜ツールボックス](#) (224 ページ)

[右ゾーン \(記譜モード\)](#) (228 ページ)

## Dorico の音符と休符

Dorico では、音符と休符の記譜や分割は、表記規則に基づくルールによって意味的に決定されます。これはつまり、音符と休符のデュレーションがあとから変化し、最初にそれらを入力したときとは異なる形で表示される場合があることを意味しています。

Dorico は以下の主要なコンセプトに基づいており、コンテキストに応じて音符と休符の記譜方法を更新できます。

1. 複数の音符がタイで連結されたタイのつながりとして表示される場合であっても、音符は1つのユニットとして扱われます。

## 2. 入力した音符間の間隔は、暗黙の休符が自動的に埋めます。

拍子記号を入力すれば、それに対応する拍子を Dorico が理解し、任意のデュレーションに必要な音符を入力するだけで記譜できるようになります。たとえば、音符の間に休符を入力したり、半小節をまたぐ音符にタイを入力したりする必要はありません。拍子記号の変更や音符の開始位置の移動をあとから行なうと、小節線をまたいだ 4 分音符をタイでつながれた 2 つの 8 分音符として記譜したり、同じ小節内にある 2 つの 8 分休符を 1 つの 4 分休符に統合したりするなど、音符と休符の記譜方法が自動的に更新されます。

既存の音符をタイで連結すると、それらが 1 つの音符に変換されたり (タイでつながれた 2 つの 4 分音符ではなく 2 分音符が表示されるなど)、より多くの音符が含まれるタイのつながりに変換されたりする場合があります。これは、Dorico ではタイのつながりが 1 つの音符として扱われ、デュレーション、適用されている拍子記号、小節内の音符の位置に応じて、Dorico が自動的に音符を適切に記譜し、連桁で連結するためです。同様に、タイで連結された 4 分音符と 8 分音符の後ろに休符ではなく 8 分音符を入力した場合に付点 4 分音符になるなど、直後に入力した音符によってコンテキストが変化し、音符が変換されることがあります。

### ヒント

記譜モードでは、タイのつながりが 1 つの音符として扱われるため、タイのつながりの一部を選択するとタイのつながり全体が選択されます。ただし、キャレットを有効にしてタイのつながりの中の必要な位置に移動すれば、強弱記号などの記譜記号をタイのつながりの途中に入力することもできます。

音符と休符のグループ化および連桁のグループ化のデフォルト設定はフローごとに変更できます。たとえば、タイのつながりの中で現在の拍子とは異なる形で分割された拍を指定する場合など、個々の音符と休符のデュレーションを強制できます。

### 関連リンク

[音符 \(1388 ページ\)](#)

[タイ \(1776 ページ\)](#)

[暗黙の休符と明示的な休符 \(1641 ページ\)](#)

[音符と休符のグループ化 \(1136 ページ\)](#)

[拍に従う連桁グループ \(1113 ページ\)](#)

[連桁のグループ化に関するフローごとの記譜オプション \(1112 ページ\)](#)

[キャレット \(242 ページ\)](#)

[音符の入力 \(248 ページ\)](#)

[音符/休符のデュレーションの強制 \(288 ページ\)](#)

[タイの入力 \(274 ページ\)](#)

## リズム上の位置

Dorico では、特定の拍子記号を持つ個々の小節内の位置ではなく、フロー内の音楽的時間における場所です計算される位置に音符やアイテムが配置されています。

Dorico における音楽的時間とは、各フローの開始位置から始まる拍数を意味します。たとえば、4/4 拍子の第 4 小節の 3 拍めにある音符は、Dorico では拍子記号や小節内の位置に関係なく 15 拍めにある音符と見なされます。

このアプローチが大きな柔軟性をもたらします。たとえば、Dorico では小節や拍子記号と関係なく音符やアイテムが存在しているため、音符同士の相互関係を変更したり、各小節の最後に休符を追加したりすることなく拍子記号を変更できます。かわりに、小節線が別の位置に移動し、これにより小節線や半小節をまたいだ 4 分音符をタイでつながれた 2 つの 8 分音符として記譜するなど、必要に応じて音符のグループ化が更新されます。さらには、拍子記号を入力することなく音符の入力を始めることもできます。

同様に、挿入モードを使用すれば、音符を誤って記譜するリスクを冒すことなく、音符を前や後ろに簡単に動かすことができます。また、アイテムは音符に連結されているのではなく、特定の位置に存在しているため、楽譜内のアイテムを音符とは切り離して考えることができます。タイのつながりの途中で強弱記号を入力するなど、音符の開始位置と一致しない位置にアイテムを入力するには、その位置にある他のいずれかのアイテムを選択するか、キャレットを有効にしてそのキャレットの位置にアイテムを入力します。

Dorico では、音符やアイテムの位置は、ページ上の表示位置とは区別されます。そのため、楽譜内の適用する位置にアイテムを入力したあとで表示位置を動かしても、アイテムが別の音符に適用されたり、長休符が意図せず分割されたりすることがありません。これは、たとえば弦楽器で小節の最初からピチカートを適用する場合に、垂直方向のスペーシングが狭く、「pizz.」の指示を少しだけ横に動かしたい場合などに便利です。アイテムは適用される位置に連結線で接続されるため、そのアイテムがどこに属しているかは常に明らかです (連結線は印刷されません)。

関連リンク

[音符と休符のグループ化 \(1136 ページ\)](#)

[拍の境界をまたぐタイを表示/非表示にする \(1137 ページ\)](#)

[連符 \(1112 ページ\)](#)

[拍子記号 \(1795 ページ\)](#)

[挿入モードでの音符の挿入 \(262 ページ\)](#)

[音符 \(1388 ページ\)](#)

[キャレット \(242 ページ\)](#)

[挿入モード \(491 ページ\)](#)

[リズムグリッド \(241 ページ\)](#)

[注釈 \(740 ページ\)](#)

[連結線を表示/非表示にする \(478 ページ\)](#)

## Dorico のレイアウト

レイアウトでは、ページ形式および浄書のルールに従って、フローなどの音楽コンテンツを組み合わせることができます。また、レイアウトを使用すると、さまざまな形式での書き出しや印刷に利用できるページ番号付きの楽譜を作成できます。たとえば、パートレイアウトには通常、1人のプレーヤーの楽譜が表示されますが、フルスコアレイアウトにはプロジェクト内のすべてのプレーヤーの楽譜が表示されます。

アンサンブルの一般的なプロジェクトには、複数のレイアウトが含まれます。初期設定では、Dorico プロジェクトにはすべてのプレーヤーの楽譜が含まれたフルスコアレイアウトが1つと、それぞれの楽譜のみが含まれた各プレーヤーのパートレイアウトが含まれます。ただし、必要な数だけレイアウトを作成することもできます。

プロジェクトに最初のプレーヤーを追加すると、フルスコアレイアウトとパートレイアウトが自動的に作成されます。そのあと、プロジェクトにプレーヤーを追加するたびに各プレーヤーのパートレイアウトが作成され、それらはすべて既存のフルスコアレイアウトに割り当てられます。

レイアウトにはプレーヤーとフローのあらゆる組み合わせを含めることができます。レイアウトは各インストゥルメントが演奏する音符など、これらのプレーヤーとフローの音楽コンテンツを共有します。たとえば、フルスコアで音符のピッチを変更すると、対応するパートレイアウトでもその音符のピッチが更新されます。

音符のスペーシング、譜表サイズ、ページサイズ、余白、配置設定 (組段区切りやページめくりの位置) など、各レイアウトのページ形式設定に関するあらゆる側面をレイアウトごとに個別に制御できます。1つのレイアウトでこれらの設定を変更しても他のレイアウトには影響しません。たとえば、パートレイアウトに組段区切りを挿入しても、フルスコアの配置設定は変更されません。

同様に、ローカルプロパティを使用すれば、他のレイアウトに影響を与えることなく1つのレイアウトでのみ多くのアイテムの外観を変更できます。たとえば、フルスコアレイアウトではテキストアイテムを非表示にして、パートレイアウトでは表示させるということができます。

レイアウトのデフォルトのページ形式設定は、ページテンプレートで定義されています。初期設定では、フルスコアレイアウトはパートレイアウトとは異なるページテンプレートセットを使用しますが、各レイアウトに異なるページテンプレートセットを適用することもできます。たとえば、一部のパートレイアウトに異なる欄外見出しが必要な場合や、一貫して短い楽曲フレームが必要な場合などです。

レイアウトを削除しても、プロジェクトから楽譜が削除されることはありません。

関連リンク

- [レイアウト \(190 ページ\)](#)
- [プレーヤー、レイアウト、フロー \(133 ページ\)](#)
- [ページ形式設定 \(742 ページ\)](#)
- [配置設定 \(784 ページ\)](#)
- [コンデンシング \(799 ページ\)](#)
- [プロパティ \(826 ページ\)](#)
- [ローカルプロパティとグローバルプロパティ \(827 ページ\)](#)
- [ページテンプレート \(567 ページ\)](#)
- [ページテンプレートのセット \(569 ページ\)](#)
- [ページテンプレートの種類 \(573 ページ\)](#)
- [レイアウトへのページテンプレートのセットの適用 \(746 ページ\)](#)
- [レイアウトの印刷 \(724 ページ\)](#)
- [グラフィックファイルとしての書き出し \(728 ページ\)](#)

## Dorico のページテンプレート

Dorico Pro のページテンプレートを使用すると、複数のページや異なるレイアウトに共通した配置のフレームを適用することで、一貫性のあるページ形式設定を実現できます。

フレームは、テキスト、楽譜、グラフィックを表示できるボックスです。デフォルトのページテンプレートは、ページの大部分を占める大きな楽曲フレームと上下のテキストフレームによって構成されます。これらのテキストフレームには、ページテンプレートの種類に応じて異なる情報が表示されます。

スコアとパートのすべてのページには、ページテンプレートのデフォルト形式設定が引き継がれます。新規フレームの挿入など、ページテンプレートに何らかの変更を加えた場合、ページテンプレートの優先がページに適用されている場合を除き、このページテンプレートを使用するすべてのページに変更が自動的に反映されます。

Dorico Pro には異なる種類のページテンプレートが用意されています。これは通常、最初のページにはタイトル、作曲者、著作権などの追加情報が含まれ、後続のページとは別に適切なページ形式設定を用意する必要があるためです。Dorico Pro はこの追加情報を表示するためにトークンを使用します。

ページテンプレートは、ページテンプレートのセットに収められています。初期設定では、Dorico Pro にはフルスコアとパートレイアウトに個別のページテンプレートのセットが用意されています。ページテンプレートのセットは、作成するすべてのレイアウトに自動的に適用されます。

### 補足

Dorico Pro では、レイアウト内の個々のページを変更すると、ページ形式変更の一種であるページテンプレートの優先が設定されます。これは、たとえばページテンプレートエディターでの編集ではなく、1つのページのタイトルや欄外見出しを編集した場合などです。ページテンプレートの優先が設定されたページは、ページテンプレートを変更しても更新されず、たとえばレイアウトの短縮により空の状態になったとしても、自動的に削除されません。

関連リンク

- [ページテンプレートのセット](#) (569 ページ)
- [ページテンプレート](#) (567 ページ)
- [ページテンプレートの種類](#) (573 ページ)
- [フレーム](#) (601 ページ)
- [ページの形式変更](#) (584 ページ)
- [トークン](#) (617 ページ)

## Dorico のキーボードショートカット

Dorico のキーボードショートカットは、合理的かつ一貫性があり、テンキーを使用せず標準的なコンピュータキーボードで入力できるように設計されています。

例

- 矢印キーを押すと楽譜領域内を移動できます。
- [Alt/Opt]** を押すと選択したアイテムを変更できます。  
たとえば、記譜モードで **[Alt/Opt]** を押しながら上下の矢印キーを押すと、音符が 1 度ずつ移調されます。**[Alt/Opt]** を押しながら左右の矢印キーを押すと、音符/アイテムの位置が移動します。浄書モードで、**[Alt/Opt]** を押しながらいずれかの矢印キーを押すと、アイテムの表示位置の移動幅が小さくなります。
- 記譜モードで、**[Shift]+[Alt/Opt]** を使用すると音符/アイテムのデュレーションを変更できます。たとえば、**[Shift]+[Alt/Opt]+[→]** を押すと、音符/アイテムが現在のリズムグリッドの間隔ずつ長くなります。
- [Ctrl]/[command]** を使用すると、選択したアイテムを変更する量が増えます。  
たとえば、記譜モードで **[Ctrl]/[command]+[Alt/Opt]** を押しながら上下の矢印キーを押すと、音符が 1 オクターブずつ移調されます。**[Ctrl]/[command]+[Shift]+[Alt/Opt]+[→]** を押すと音符のデュレーションが 2 倍になります。浄書モードで、**[Ctrl]/[command]+[Alt/Opt]** を押しながらいずれかの矢印キーを押すと、アイテムの表示位置の移動幅が大きくなります。
- 記譜モードで、**[Shift]** を押しながら文字キーを押すとポップオーバーが開きます。  
たとえば、**[Shift]+[D]** を押すと強弱記号のポップオーバーが開き、**[Shift]+[O]** を押すと裝飾音のポップオーバーが開きます。
- [Ctrl]/[command]+[Shift]** を押しながら特定の文字キーを押すと、オプションダイアログが開きます。  
たとえば、**[Ctrl]/[command]+[Shift]+[L]** を押すと「レイアウトオプション (Layout Options)」が開き、**[Ctrl]/[command]+[Shift]+[N]** を押すと「記譜オプション (Notation Options)」が開きます。

Dorico のデフォルトのキーボードショートカットはキーボードの言語設定によって異なりますが、これは初期設定ではアプリケーションの言語設定に従います。

利用できるキーボードショートカットを確認するには、以下のいずれかの操作を行ないます。

- 「ヘルプ (Help)」 > 「キーボードショートカット (Key Commands)」を選択し、「Dorico キーボードショートカット (Dorico Key Commands)」ウィンドウを開いて、すべての使用可能なキーボードショートカットを確認します。
- 「環境設定 (Preferences)」 > 「キーボードショートカット (Key Commands)」で特定の機能やメニュー項目のキーボードショートカットを検索します。このダイアログでは、新しいキーボードショートカットを割り当てたり、デフォルトのキーボードショートカットを変更したりもできます。
- キーボードショートカットが割り振られたツールや機能の上にマウスを移動させると、対応するキーボードショートカットを括弧内に示したツールヒントが表示されます。

関連リンク

[インタラクティブ「Dorico キーボードショートカット \(Dorico Key Commands\)」マップ \(66 ページ\)](#)  
[「環境設定 \(Preferences\)」ダイアログの「キーボードショートカット \(Key Commands\)」ページ \(64 ページ\)](#)

[キーボード言語の変更 \(69 ページ\)](#)

[アプリケーション言語の変更 \(61 ページ\)](#)

## Dorico Pro のオプションダイアログ

楽譜の外観および Dorico Pro の機能のデフォルト設定を制御するオプションを、そのタイプと目的に応じてさまざまなダイアログで使用できます。

これらのダイアログで利用できるオプションには慣れておくことをおすすめします。各プロジェクトに最適な設定を見つけておくことにより、手作業による変更や表示位置の微調整の必要が減るためです。

オプションダイアログで行なった変更は、設定をデフォルトとして保存しない限り、現在のプロジェクトにのみ適用されます。デフォルトとして保存すると、それ以降のすべてのプロジェクトの開始時に使用されるデフォルト設定が更新されます。

Dorico Pro には、グローバル設定に対する以下のダイアログがあります。

### レイアウトオプション (Layout Options)

ページサイズ、譜表サイズ、小節番号の外観や位置など、レイアウトごとに変わる可能性が高いオプションが含まれます。「**レイアウトオプション (Layout Options)**」で設定したオプションは選択しているレイアウトにのみ影響しますが、そのレイアウトのすべてのフローに適用されます。

### 記譜オプション (Notation Options)

連桁のグループ化や臨時記号の有効範囲ルールなど、フローごとに変わる可能性が高いオプションが含まれます。「**記譜オプション (Notation Options)**」で設定したオプションは選択しているフローにのみ影響しますが、それらのフローが表示されているすべてのレイアウトに適用されます。

### 音符入力オプション (Note Input Options)

MIDI キーボードを使用したコード記号の作成など、入力の処理方法に関連するオプションが含まれます。「**音符入力オプション (Note Input Options)**」で設定したオプションはプロジェクト全体に影響しますが、設定をデフォルトとして保存しない限り、他のプロジェクトには影響しません。

### 浄書オプション (Engraving Options)

音符やアイテムの外観および位置を高精度で制御するオプションが含まれます。たとえば、クレッシェンドをヘアピン表記とテキスト表記のどちらで表示するかを設定したり、連桁内の音程の間隔に従って連桁の傾斜を設定したりできます。「**浄書オプション (Engraving Options)**」で設定したオプションはプロジェクト全体に影響しますが、設定をデフォルトとして保存しない限り、他のプロジェクトには影響しません。

### 再生オプション (Playback Options)

再生時に何の音を出すか、また記譜項目の再生方法 (強弱記号の種類による音量の変化を設定する強弱のカーブ、反復を再生するか、フローとフローの間に間隔を空けるかなど) を制御するオプションが含まれます。「**再生オプション (Playback Options)**」で設定したオプションはプロジェクト全体に影響しますが、設定をデフォルトとして保存しない限り、他のプロジェクトには影響しません。

### ヒント

多くのオプションには同等のプロパティがあり、音符やアイテムごとに変更できます。

関連リンク

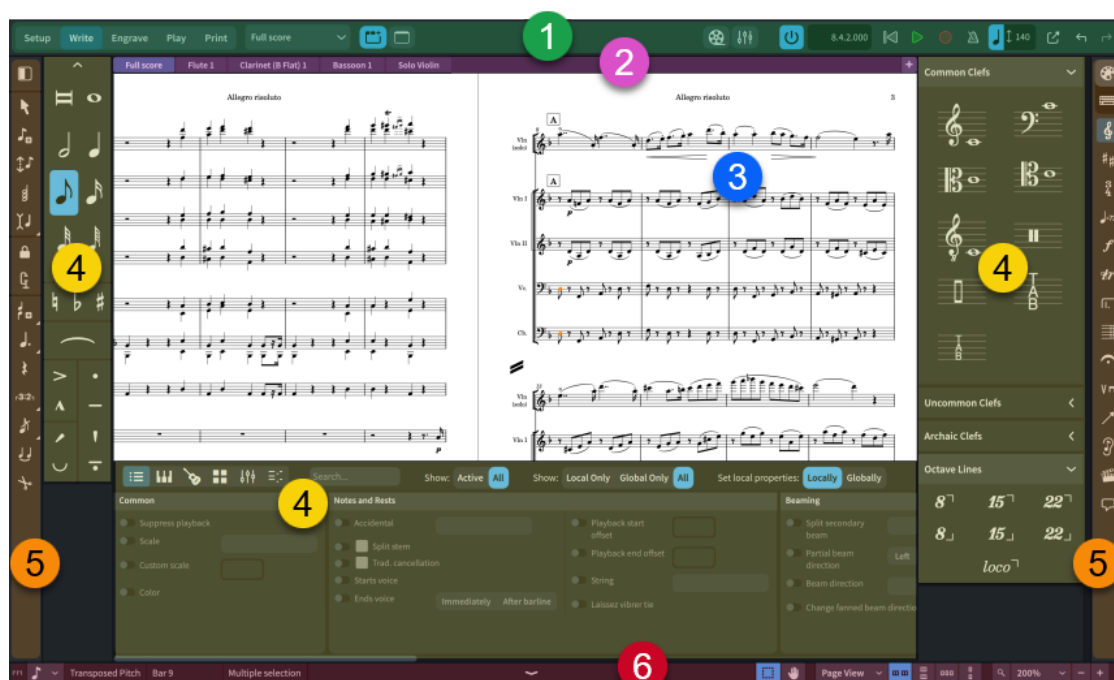
- [「レイアウトオプション \(Layout Options\)」ダイアログ \(917 ページ\)](#)
- [「記譜オプション \(Notation Options\)」ダイアログ \(919 ページ\)](#)
- [「音符入力オプション \(Note Input Options\)」ダイアログ \(921 ページ\)](#)
- [「浄書オプション \(Engraving Options\)」ダイアログ \(923 ページ\)](#)
- [「再生オプション \(Playback Options\)」ダイアログ \(925 ページ\)](#)
- [「環境設定 \(Preferences\)」ダイアログ \(63 ページ\)](#)
- [ライブラリーマネージャー \(913 ページ\)](#)
- [プロパティ \(826 ページ\)](#)

# ユーザーインターフェース

Dorico Pro のユーザーインターフェースは、すべての重要なツールがすぐに見えるように設計されています。この章では、ユーザーインターフェースの主な機能を紹介します。

## プロジェクトウィンドウ

Dorico Pro のメインプロジェクトウィンドウでは、プロジェクトでの作業に必要なすべてのオプションとツールにアクセスできます。同じプロジェクト、または別のプロジェクトを複数のプロジェクトウィンドウで開くことができます。



プロジェクトウィンドウは、以下の領域で構成されています。

### 1 ツールバー

各モードや、ワークスペースオプション、**ミキサーウィンドウ**、**ビデオウィンドウ**、およびミニトランスポートにアクセスできます。また、動作の取り消しと再実行も行なえます。

### 2 タブバー

開いているすべてのタブが表示されます。楽譜領域を分割して複数のタブを開く場合は、タブグループが表示されます。設定モード、記譜モード、浄書モードで使用できます。

### 3 中央の領域

プロジェクトウィンドウの中心部であり、ここでプロジェクトの作業を行ないます。

新規空白プロジェクトを開始すると、この領域にプロジェクト開始領域が表示され、最初のプレイヤーを追加できます。

プレイヤーまたはアンサンブルを追加すると、この領域は楽譜領域となり、現在選択しているレイアウトの楽譜が表示されます。

再生モードでは、この領域にトラックの概要が表示され、Cubase などのデジタルオーディオワークステーション (DAW) と同様の形で楽曲が表示されます。



印刷モードでは、プロジェクトがどのように用紙に印刷されるか、またはどのように画像ファイル形式に書き出されるかを印刷プレビュー領域にプレビューとして表示します。

#### 4 ゾーン

プロジェクトウィンドウの左右と下の端にあるゾーンには、楽譜の作成と編集に必要な音符、記譜記号、機能が表示されたパネルがあります。各ゾーンで使用できるパネルはモードによって異なります。

#### 5 ツールボックス

楽譜の入力や編集に使用できるアイテムやツールにアクセスできます。それぞれのツールボックスには、モードごとに異なるアイテムやツールが含まれます。

#### 6 ステータスバー

楽譜領域の異なるビューやページ配置を選択できます。また、ズームオプションや楽譜領域で選択しているアイテムの概要も表示されます。

関連リンク

[新規プロジェクトの開始 \(77 ページ\)](#)

[ワークスペースの設定 \(46 ページ\)](#)

[設定モードのプロジェクトウィンドウ \(120 ページ\)](#)

[記譜モードのプロジェクトウィンドウ \(218 ページ\)](#)

[浄書モードのプロジェクトウィンドウ \(553 ページ\)](#)

[再生モードのプロジェクトウィンドウ \(658 ページ\)](#)

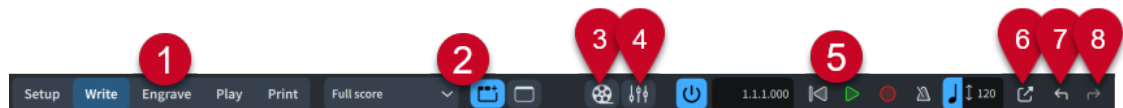
[印刷モードのプロジェクトウィンドウ \(719 ページ\)](#)

## ツールバー

各モードや、ワークスペースオプションに加え、**ミキサー**および主なトランスポートオプションを選択できます。ツールバーはプロジェクトウィンドウの上部に配置されており、すべてのモードで使用できます。

ツールバーの表示/非表示を切り替えるには、以下のいずれかの操作を行ないます。

- **[Ctrl]/[command]+[6]** を押します。
- 「**ウィンドウ (Window)**」 > 「**ツールバーを表示 (Show Toolbar)**」を選択します。



ツールバーには以下のものがあります。

#### 1 モード

プロジェクトウィンドウで選択できるワークスペースです。スコアを作成するワークフローの異なるフェーズのことを指します。メインプロジェクトウィンドウの幅が著しく狭い場合は、モードボタンがメニューに切り替わります。

#### 2 ワークスペースオプション

楽譜領域に開くレイアウトを選択したり、ゾーンやタブバーの表示/非表示を切り替えたりできます。

#### 3 ビデオを表示 (Show Video)

ビデオウィンドウを開いたり閉じたりします。

#### 4 ミキサーを表示 (Show Mixer)

ミキサーウィンドウを開いたり閉じたりします。

#### 5 ミニトランスポート

「再生 (Play)」、「録音 (Record)」、「クリック (Click)」を含む、主なトランスポート機能に素早くアクセスできます。

#### 6 トランスポートバーを表示 (Show Transport Bar)

再生と MIDI 録音に関する機能がある「トランスポート (Transport)」ウィンドウの表示/非表示を切り替えます。

#### 7 元に戻す (Undo)

前の動作を取り消すことができます。

#### 8 再実行 (Redo)

「元に戻す (Undo)」を使用して取り消した前の動作を復元できます。

関連リンク

[Hub \(75 ページ\)](#)

[Dorico のモード \(22 ページ\)](#)

[「トランスポート \(Transport\)」ウィンドウ \(698 ページ\)](#)

[ビデオ \(211 ページ\)](#)

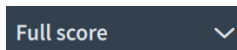
[ミキサーウィンドウ \(884 ページ\)](#)

[動作の取り消し/再実行 \(478 ページ\)](#)

## ワークスペースオプション

ツールバー中央のワークスペースオプションでは、異なるレイアウトを選択したり、作業環境を変更したりできます。

### レイアウトセレクター



現在のタブに表示するレイアウトを選択できます。

### タブを表示 (Show Tabs)

楽譜領域の上にあるタブバーの表示/非表示を切り替えます。



タブバーが非表示になっているときの「タブを表示 (Show Tabs)」



タブバーが表示されているときの「タブを表示 (Show Tabs)」

### ゾーンを非表示/再表示 (Hide/Restore Zones)

すべてのゾーンの表示/非表示を切り替えます。



ゾーンが表示されているときの「ゾーンを非表示/再表示 (Hide/Restore Zones)」



以前はすべてのゾーンが表示されていたが、今はすべて非表示になっているときの「ゾーンを非表示/再表示 (Hide/Restore Zones)」

関連リンク

[レイアウト \(190 ページ\)](#)

[レイアウトの切り替え \(47 ページ\)](#)

[ゾーンとパネル \(40 ページ\)](#)

[ゾーンの表示/非表示の切り替え \(48 ページ\)](#)

## ミニトランスポート

ツールバーの右にあるミニトランスポートから、Dorico Pro の主なトランスポート機能に素早くアクセスできます。

### プロジェクトの有効化 (Activate Project)

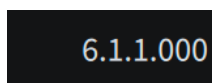


プロジェクトの再生を有効化/無効化します。再生を無効にすると、トランスポート機能と再生機能が無効になります。

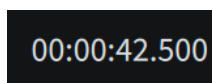
### タイムディスプレイ

以下のいずれかの形式で、再生ヘッドの位置が表示されます。

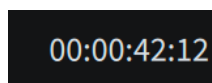
- 小節、拍、およびティック
- 経過時間 (時間、分、秒、ミリ秒の順)
- タイムコード (時間、分、秒、フレームの順)



小節と拍が表示されたタイム  
ディスプレイ



経過時間が表示されたタイム  
ディスプレイ



タイムコードが表示されたタ  
イムディスプレイ

タイムディスプレイをクリックすると、表示形式を切り替えられます。

### フローの最初に巻き戻し (Rewind to Beginning of Flow)



フローの最初に再生位置を移動します。

### 再生 (Play)

「環境設定 (Preferences)」の「再生 (Play)」ページの設定に応じて、再生ヘッドの位置または選択した中で一番最初のアイテムの位置から再生を開始/停止します。



再生の停止時



再生中

### 録音 (Record)

MIDI 録音を開始/停止します。



MIDI 録音中以外の「録音 (Record)」



MIDI 録音中の「録音 (Record)」

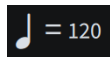
### クリック (Click)



再生および録音中にメトロノームクリックを再生/ミュートします。

### テンポモード

再生と録音の両方に使用されるテンポが表示されます。再生ヘッドの位置に従って値が、モードに従って外観が変化します。

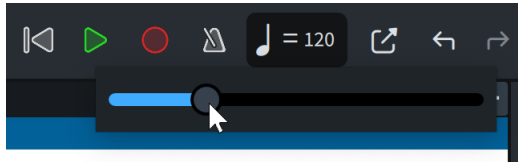


固定テンポモード



追従テンポモード

- テンポモードを切り替えるには、拍の単位をクリックします。
- 固定テンポモードで使用されるメトロノームマークの値は、数字をクリックしてスライダーを表示し、それを左右にドラッグして変更できます。



### スクラブ再生 (Scrub Playback)

スクラブ再生を有効化/無効化します。



スクラブ再生中以外の「スクラブ再生 (Scrub Playback)」



スクラブ再生中の「スクラブ再生 (Scrub Playback)」

### ヒント

「トランスポート (Transport)」ウィンドウには、追加のトランスポート機能が含まれます。

#### 関連リンク

[「トランスポート \(Transport\)」ウィンドウ \(698 ページ\)](#)

[楽譜の再生 \(680 ページ\)](#)

[再生ヘッドの移動 \(678 ページ\)](#)

[スクラブ再生 \(682 ページ\)](#)

[MIDI 録音 \(290 ページ\)](#)

[テンポモードの変更 \(683 ページ\)](#)

[クリックに使用するサウンドを変更する \(672 ページ\)](#)

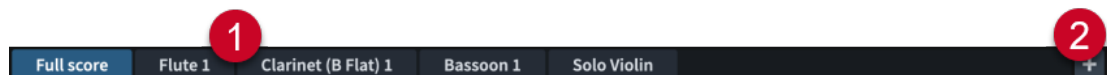
[「環境設定 \(Preferences\)」ダイアログ \(63 ページ\)](#)

[タイムコード \(1586 ページ\)](#)

## タブバー

Dorico Pro のタブバーを使用すると、同じプロジェクトウィンドウ内で異なるレイアウトを表示できます。タブバーは、ツールバーと楽譜領域の間にあります。

- ツールバーの「タブを表示 (Show Tabs)」をクリックして、タブの表示/非表示を切り替えることができます。

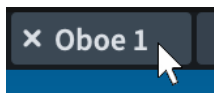


タブバーには以下のものが含まれます。

### 1 タブ

すべての開いているタブバーが、開いた順番で左から右へ並べられて表示されます。各タブは、選択したレイアウト名でラベル付けされます。楽譜領域で現在開かれているタブは強調表示されません。

それぞれのタブの上にマウスを合わせると「x」が表示され、クリックするとタブが閉じます。



## 2 新規タブ (New Tab)

新規タブを開きます。タブには、別のタブやウィンドウで既に開いている別のレイアウト、またはレイアウトの別のビューを表示できます。

### ヒント

新規プロジェクトにデフォルトでタブバーを表示するかどうかは、「**環境設定 (Preferences)**」 > 「**全般 (General)**」 > 「**ビュー (View)**」で変更できます。

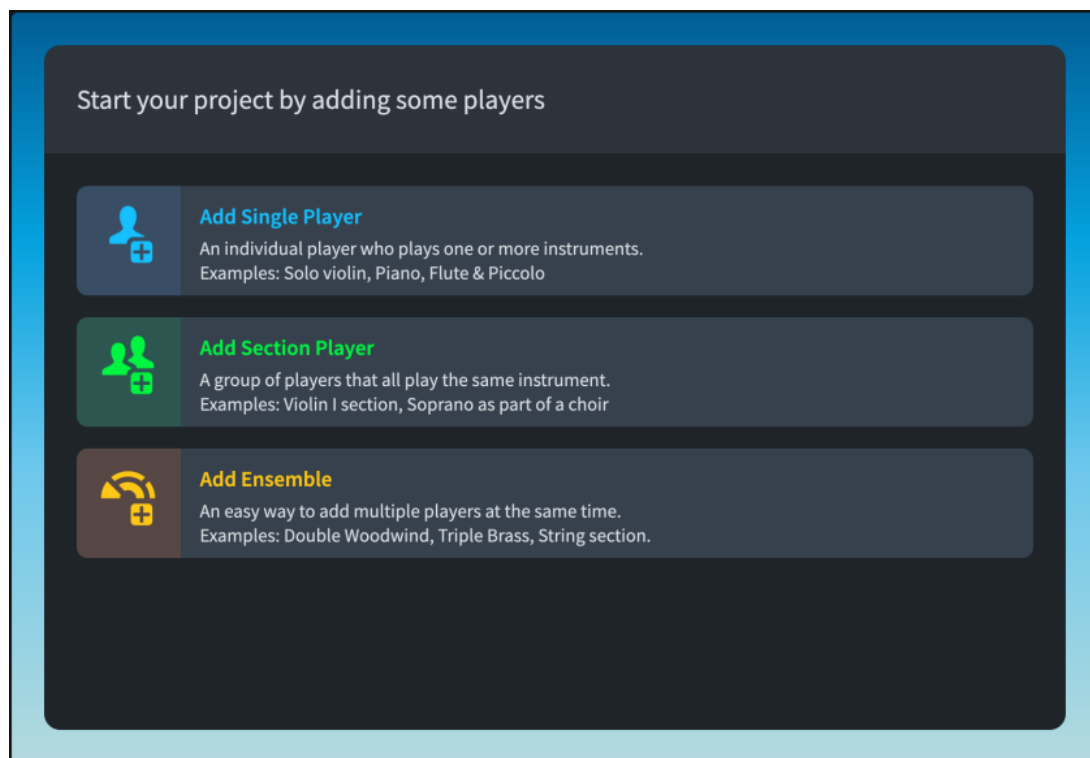
### 関連リンク

[「環境設定 \(Preferences\)」 ダイアログ \(63 ページ\)](#)

## プロジェクト開始領域

設定モード、記譜モード、および浄書モードでは、空白プロジェクトを新規作成すると、プロジェクト開始領域がプロジェクトウィンドウの中央に表示されます。プレーヤーを1人でも追加すると、楽譜領域が表示されます。

プロジェクト開始領域にはカードが表示され、ここでプロジェクトにプレーヤーを追加できます。

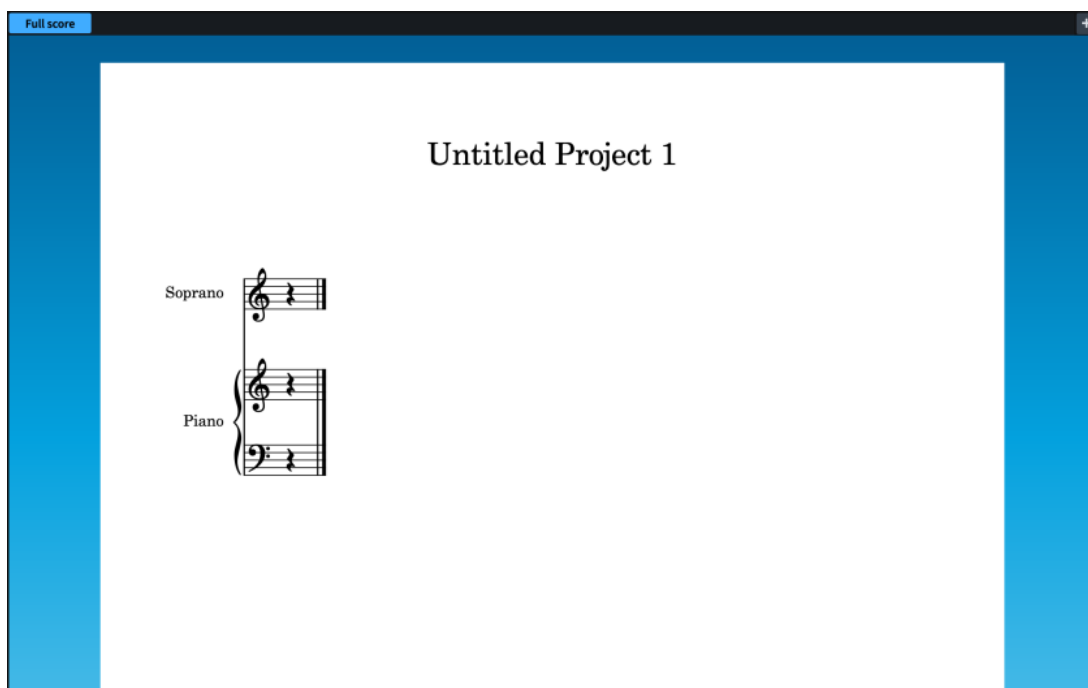


### 関連リンク

[プレーヤーの追加 \(136 ページ\)](#)

## 楽譜領域

設定モード、記譜モード、浄書モードでは、楽譜領域に現在選択しているレイアウトの楽譜が表示されます。楽譜領域はプロジェクトウィンドウの中心部であり、ここでプロジェクトの作業を行ないます。



楽譜領域には、ギャラリービューまたはページビューでレイアウトが表示されます。浄書モードでは、レイアウトは常にページビューで表示されます。

楽譜領域の上のタブバーを使用すると、プロジェクト内の複数のレイアウトを同時に開いてそれらを切り替えることができます。楽譜領域の右側と下部のスクロールバーを使用すると、レイアウト内でスクロールできます。

ツールバーのレイアウトセクターを使用して、楽譜領域に他のレイアウトを表示できます。

ウィンドウの左右および下の端にゾーンを開くと、楽譜領域のサイズが小さくなります。ゾーンの表示/非表示は必要に応じて切り替えられます。

### 関連リンク

[ツールバー](#) (33 ページ)

[ギャラリービューまたはページビューへの切り替え](#) (54 ページ)

[レイアウトの切り替え](#) (47 ページ)

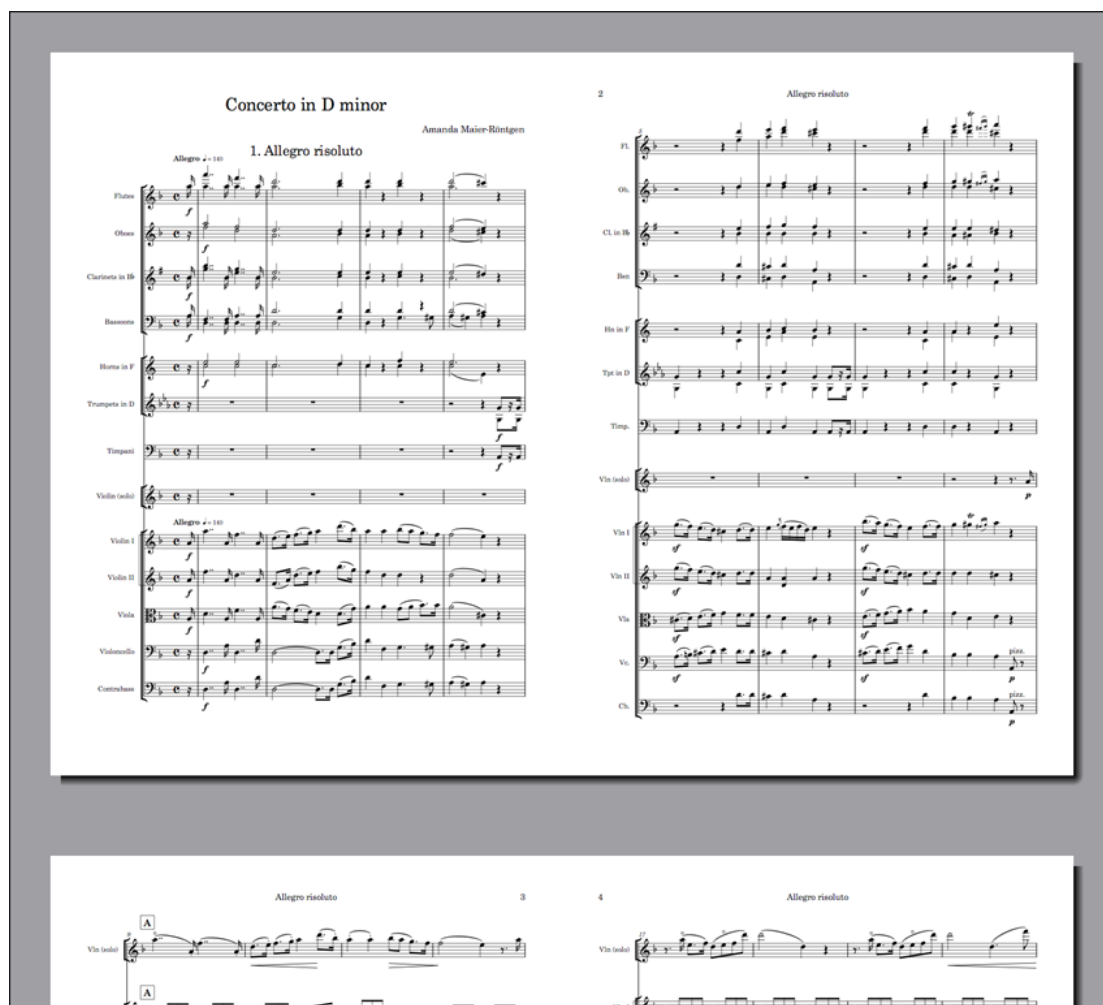
[ゾーンの表示/非表示の切り替え](#) (48 ページ)

[ナビゲーション](#) (479 ページ)

[レイアウト](#) (190 ページ)

## 印刷プレビュー領域

印刷プレビュー領域は印刷モードのプロジェクトウィンドウの中心部であり、印刷内容や書き出す内容がグラフィックとして表示されます。



「2 ページを 1 ページに集約」に設定した場合の印刷プレビュー領域

印刷プレビュー領域には、「**レイアウト (Layouts)**」パネルで選択した最初のレイアウトのプレビューが表示されます。スクロールしてすべてのページを表示できますが、レイアウトの編集はできません。レイアウトを変更するには、設定モード、記譜モード、または浄書モードに切り替える必要があります。

### ヒント

**[Home]** を押して先頭ページに、**[End]** を押して最終ページに直接移動できます。これらのキーボードショートカットは「**環境設定 (Preferences)**」の「**キーボードショートカット (Key Commands)**」ページで変更できます。

単一の印刷ジョブで複数のレイアウトを印刷する場合、印刷プレビュー領域には最初のレイアウトのみが表示されます。印刷プレビューで各レイアウトのページ配置が期待通りに表示されるか確認したい場合は、印刷する前に各レイアウトを個別に確認する必要があります。

### 関連リンク

[印刷モードのプロジェクトウィンドウ \(719 ページ\)](#)

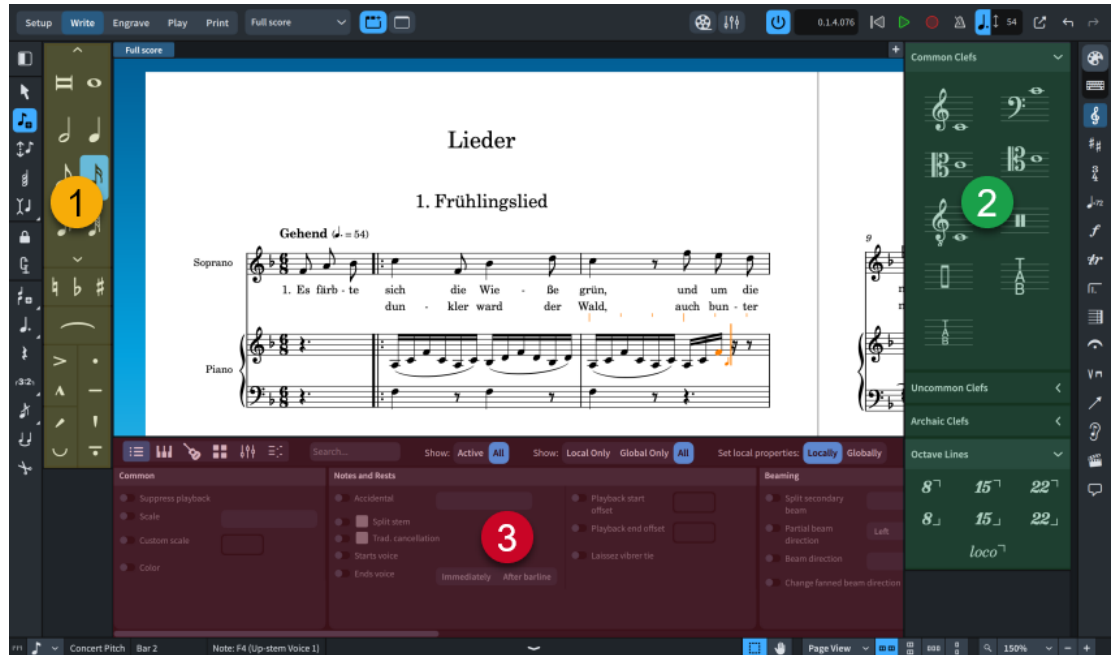
[印刷モードの「レイアウト \(Layouts\)」パネル \(720 ページ\)](#)

「環境設定 (Preferences)」ダイアログの「キーボードショートカット (Key Commands)」ページ (64 ページ)

## ゾーンとパネル

プロジェクトウィンドウの左右と下の端にあるゾーンには、楽譜の設定、記譜、編集、形式設定に必要な音符、記譜記号、機能が表示されたパネルがあります。各ゾーンで使用できるパネルはモードによって異なります。

ゾーンを個別に表示したり非表示にしたり、同時にすべてのゾーンを表示したり非表示にしたりできます。



- 1 左ゾーンです。記譜モードでは、ここに音符パネルが表示されます。
- 2 右ゾーンです。記譜モードでは、ここには現在の記譜ツールボックスの選択に応じて、さまざまなパネルが表示されます。
- 3 下ゾーンです。記譜モードでは、ここにはプロパティパネルやミキサーなど、さまざまなパネルが表示されます。

Dorico Pro の各モードごとに、それぞれのゾーンにさまざまなパネルが表示されます。

### モードとパネル

モード	左ゾーン	右ゾーン	下ゾーン
設定	プレーヤーパネル	レイアウトパネル	フローパネル
記譜	音符パネル	記譜パネル	プロパティ、キーボード、フレットボード、ドラムパッド、ミキサー、およびキーエディターのパネル



モード	左ゾーン	右ゾーン	下ゾーン
浄書	形式設定、フレーム、およびグラフィックスライスのパネル	ページパネル	プロパティおよびミキサーパネル
再生	トラックインスペクターと「VST と MIDI (VST and MIDI)」パネル	なし	ミキサーとキーエディターパネル
印刷	レイアウトパネル	印刷オプションパネル	なし

#### 関連リンク

[Dorico のモード \(22 ページ\)](#)  
[ゾーンの表示/非表示の切り替え \(48 ページ\)](#)  
[プレーヤーパネル \(121 ページ\)](#)  
[「レイアウト \(Layouts\)」パネル \(設定モード\) \(129 ページ\)](#)  
[フローパネル \(132 ページ\)](#)  
[音符パネル \(223 ページ\)](#)  
[右ゾーン \(記譜モード\) \(228 ページ\)](#)  
[下ゾーン \(記譜モード\) \(228 ページ\)](#)  
[左ゾーン \(浄書モード\) \(556 ページ\)](#)  
[ページパネル \(562 ページ\)](#)  
[プロパティパネル \(826 ページ\)](#)  
[トラックインスペクター \(661 ページ\)](#)  
[キーエディターパネル \(831 ページ\)](#)  
[ミキサーパネル \(883 ページ\)](#)  
[印刷モードの「レイアウト \(Layouts\)」パネル \(720 ページ\)](#)  
[印刷オプションパネル \(721 ページ\)](#)

## ツールボックス

ツールボックスは、一部のモードではプロジェクトウィンドウの左右の端に配置されます。ツールボックスは現在のモードによって含まれるツールおよびオプションが異なりますが、一般的に音符や記譜記号を入力および変更したり、対応するゾーンにさまざまなパネルを表示したりできます。

モードごとに、以下のツールボックスを使用できます。

#### 記譜モード

- 音符ツールボックス (プロジェクトウィンドウの左側)
- 記譜ツールボックス (プロジェクトウィンドウの右側)

#### 浄書モード

- 浄書ツールボックス (プロジェクトウィンドウの左側)

#### 関連リンク

[プロジェクトウィンドウ \(32 ページ\)](#)  
[音符ツールボックス \(219 ページ\)](#)  
[記譜ツールボックス \(224 ページ\)](#)  
[浄書ツールボックス \(554 ページ\)](#)

## ステータスバー

プロジェクトウィンドウの下部のステータスバーから、楽譜領域で使用するビューやページ配置を選択できます。

補足

モードによって使用できないオプションがあります。



### 1 リズムグリッドセレクター

リズムグリッドの間隔を変更します。これは、アイテムが移動する間隔など、入力および編集の特定の操作に影響します。

### 2 レイアウトの移調

楽譜領域で現在開いているレイアウトの移調を変更できます。

### 3 順番 (Order)

インストゥルメントのスコアの順番を変更できます。設定モードでのみ使用できます。

### 4 選択の概要

現在選択しているアイテムに関する以下の情報が、左から右に表示されます。

- 現在選択しているアイテムが含まれる小節または小節の範囲
- 単一音符のピッチや声部、複数音符の和音など、選択しているアイテムの概要

### 5 展開矢印マーク

下ゾーンの表示/非表示を切り替えられます。

### 6 再生ヘッドに追従 (Follow playhead)

再生中に、対応するウィンドウのビューを再生ヘッドに追従させるかどうかを設定できます。

### 7 選択ツール

「範囲選択ツール (Marquee Tool)」と「ハンドツール (Hand Tool)」の使用を切り替えることができます。

### 8 ビュータイプ

楽譜領域で現在開いているレイアウトのビュータイプを、ページビューとギャラリービューの間で切り替えることができます。

### 9 ページ配置オプション



個別のページまたは見開きと呼ばれるページのペアを水平方向に配置するか垂直方向に配置するかを選択できます。

### 10 ズームオプション

楽譜領域とその音楽コンテンツの表示倍率を変更できます。プリセットズームレベルまたはカスタムズームレベルのどちらかを使用できます。

### 11 MIDI アクティビティインジケータ/オーディオエンジン接続の警告

注意が必要な MIDI またはオーディオの問題がある可能性があることを示します。

- 一時的な緑色のライト  は、Dorico Pro が接続されたデバイスから MIDI 入力を受信していることを示します。緑色のライトが点灯し続けている場合は、接続された MIDI デバイスから大量のデータが送信されており、問題が生じる可能性があります。
- 警告アイコン  は、デバイスが選択されていない場合やサンプリングレートが誤っている場合など、Dorico Pro からオーディオエンジンに MIDI イベントを送信できない状態を示します。

す。警告アイコンをクリックすると「**デバイス設定 (Device Setup)**」ダイアログが開き、ほとんどの場合はそこで問題を解決できます。

関連リンク

[リズムグリッド \(241 ページ\)](#)

[MIDI 録音 \(290 ページ\)](#)

[楽譜の再生 \(680 ページ\)](#)

[MIDI 入力デバイスの有効化/無効化 \(297 ページ\)](#)

[ギャラリービューまたはページビューへの切り替え \(54 ページ\)](#)

[レイアウトの移調音/実音の設定 \(194 ページ\)](#)

[デフォルトのプレーヤーの順番の変更 \(137 ページ\)](#)

[ミドルCのナンバリング変換を変更する \(55 ページ\)](#)

[再生効果 \(1046 ページ\)](#)

[パーカッションマップ \(1039 ページ\)](#)

## ステータスバーのツールを表示/非表示にする

たとえば、プロジェクトウィンドウの最小幅を小さくしたい場合などに、ステータスバーに表示するツールを変更できます。

---

手順

- ステータスバーを右クリックして、表示/非表示にするツールを選択します。  
たとえば、現在の選択の概要を非表示にするには、「**選択の概要 (Selection Summary)**」を選択して、その横のチェックマークを外します。

---

結果

現在のプロジェクトおよびコンピューター上のそれ以降のすべてのプロジェクトのステータスバーでそのツールの表示/非表示が切り替わります。

関連リンク

[モードの切り替え \(46 ページ\)](#)

## 選択ツール

Dorico Pro のステータスバーには、楽譜領域内に表示されたアイテムの選択や楽譜の変更に使用できる選択ツールがあります。

### 範囲選択ツール (Marquee Tool)



ドラッグして長方形を描くと、複数の音符や記譜記号を選択できます。

### ハンドツール (Hand Tool)



楽譜領域内のビューを動かすことができます。

---

ヒント

- **[Alt/Opt]+[H]** を押して選択ツールを切り替えることができます。
  - 現在選択していない方のツールを一時的に使用するには、**[Shift]** を押したままマウスをドラッグします。
  - 「**環境設定 (Preferences)**」の「**音符の入力と編集 (Note Input and Editing)**」ページで、以降のすべてのプロジェクトで使用するデフォルトの選択ツールを変更できます。
-

関連リンク

[音符/アイテムの選択 \(460 ページ\)](#)

[範囲選択ツールを使った複数アイテムの選択 \(462 ページ\)](#)

[楽譜領域のビューを移動する \(483 ページ\)](#)

[「環境設定 \(Preferences\)」 ダイアログ \(63 ページ\)](#)

## ビュータイプ

Dorico Pro にはレイアウトを表示する複数の方法があります。

以下のビュータイプを使用できます。

### ギャラリービュー

現在のレイアウトとフローに含まれるすべての譜表を単一の連続した組段に表示します。

ギャラリービューは、プロジェクトの音楽コンテンツに集中できるため、楽譜の入力に最適です。ギャラリービューにはすべての譜表が表示されるため、複数のインストゥルメントが割り当てられたシングルプレーヤーやコンデンシングが有効になったレイアウトに音符を入力する場合に特に便利です。

デフォルトでは、すべての譜表の上のすべての小節に小節番号が表示されます。譜表ラベルもすべての譜表に表示され、スクロールに追従して常に表示されます。

#### 補足

ギャラリービューでは、音符のスペーシングの調整や垂直方向の衝突回避は自動的に行なわれないため、音符やアイテムが重なって見える場合があります。ギャラリービューのデフォルトの譜表間の間隔をレイアウトごとに個別に変更できます。

### ページビュー

印刷または書き出しをしたときに表示されるページ番号付きのレイアウトをそのまま表示します。

このビュータイプは、たとえばページめくりの位置が適切か確認する場合などに便利です。

#### 補足

- レイアウトを切り替えると、ビュータイプはデフォルトの設定にリセットされます。
- 「**環境設定 (Preferences)**」 > 「**全般 (General)**」 > 「**ビュー (View)**」で、それ以降のすべてのプロジェクトに使用するデフォルトのビュータイプを変更できます。

関連リンク

[「環境設定 \(Preferences\)」 ダイアログ \(63 ページ\)](#)

[ギャラリービューまたはページビューへの切り替え \(54 ページ\)](#)

[ギャラリービューでの譜表のスペーシングを変更する \(779 ページ\)](#)

[ページ形式設定 \(742 ページ\)](#)

[コンデンシング \(799 ページ\)](#)

[プレーヤー \(135 ページ\)](#)

[インストゥルメント \(143 ページ\)](#)

## ページビューのページ配置

ステータスバーのページ配置オプションで、ページビューに表示されるレイアウトの楽譜領域でのページ配置方法を変更できます。

見開き (水平) (Spreads Horizontally)



ページを見開きのペアとして表示し、見開きページをそれぞれ左から右に水平方向に並べて配置します。

#### 見開き (垂直) (Spreads Vertically)



ページを見開きのペアとして表示し、見開きページをそれぞれ上から下に垂直方向に並べて配置します。

#### 単一ページ (水平) (Single Pages Horizontally)



各ページを個別に左から右に配置します。

#### 単一ページ (垂直) (Single Pages Vertically)



各ページを個別に上から下に配置します。

## ズームオプション

ステータスバーのズームオプションを使って、楽譜領域のページの表示倍率を変更できます。

#### カスタムの表示倍率 (Custom Zoom)



カスタムの表示倍率を設定できるダイアログを開きます。

#### 表示倍率を設定 (Set Zoom)



リストからプリセットのズーム倍率を選択できます。

#### ズームアウト (Zoom Out)



楽譜領域の音符および記譜記号の表示倍率を低下します。

#### ズームイン (Zoom In)



楽譜領域の音符および記譜記号のサイズを拡大します。

#### ヒント

それ以降のすべてのプロジェクトでレイアウトを開くときに使用するデフォルトのズームレベルを、「環境設定 (Preferences)」 > 「全般 (General)」 > 「ビュー (View)」で変更できます。

#### 関連リンク

[ステータスバー \(42 ページ\)](#)

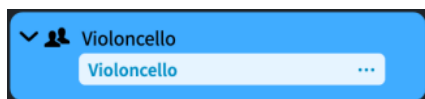
[「環境設定 \(Preferences\)」 ダイアログ \(63 ページ\)](#)

[楽譜領域でのズームイン/ズームアウト \(483 ページ\)](#)

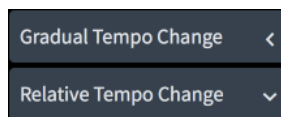
## 展開矢印マーク

展開矢印マークは、オブジェクト、アイテムおよびメニューを垂直方向または水平方向に展開/折りたたみできることを示します。

Dorico Pro では、展開矢印マークは、一般的にパネル内のセクション、詳細設定、およびカード (設定モードの「**プレーヤー (Players)**」パネルのプレーヤーカードなど) の展開/折りたたみに使用されます。



プレーヤーカードの展開矢印マーク



テンポパネルのセクションの展開矢印マーク

#### 関連リンク

- [プレーヤーパネル \(121 ページ\)](#)
- [インストゥルメント \(143 ページ\)](#)
- [Dorico Pro のオプションダイアログ \(30 ページ\)](#)

## ワークスペースの設定

Dorico Pro では、作業スタイルに合わせてワークスペースを設定できます。たとえば複数のタブを開いて、同じウィンドウ内に複数のレイアウトを表示できます。複数のプロジェクトウィンドウに同じプロジェクトを開くこともできます。

#### 関連リンク

- [ナビゲーション \(479 ページ\)](#)
- [ゾーンの表示/非表示の切り替え \(48 ページ\)](#)
- [新規プロジェクトの開始 \(77 ページ\)](#)

## モードの切り替え

さまざまな方法でいつでもモードを切り替えることができます。たとえば、記譜モードで楽譜の入力を始めたあと、設定モードでプロジェクトにプレーヤーを追加する場合などです。

---

#### 手順

- 以下のいずれかの操作を行なって、モードを切り替えます。
  - [Ctrl]/[command]** と **[1]** から **[5]** のいずれかの数字を押します (設定は **[Ctrl]/[command]+[1]**、記譜は **[Ctrl]/[command]+[2]**、浄書は **[Ctrl]/[command]+[3]**、再生は **[Ctrl]/[command]+[4]**、印刷は **[Ctrl]/[command]+[5]**)。
  - ツールバーの対応するボタンをクリックします。
  - 「**ウィンドウ (Window)**」 > **[モード]** を選択します。
  - 記譜モードに切り替えるには、設定モードまたは浄書モードで楽譜領域をダブルクリックします。

#### ヒント

このオプションは「**環境設定 (Preferences)**」 > 「**音符の入力と編集 (Note Input and Editing)**」 > 「**編集 (Editing)**」でオフにできます。

---

#### 関連リンク

- [Dorico のモード \(22 ページ\)](#)
- [プロジェクトウィンドウ \(32 ページ\)](#)
- [ツールバー \(33 ページ\)](#)
- [「環境設定 \(Preferences\)」ダイアログ \(63 ページ\)](#)
- [複数のプロジェクトウィンドウを開く \(53 ページ\)](#)

## レイアウトの切り替え

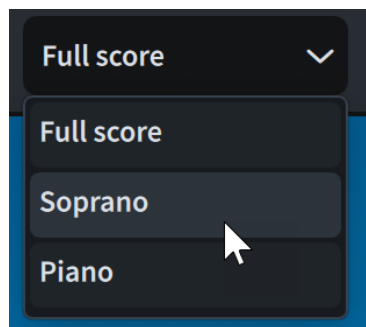
設定モード、記譜モード、浄書モードの楽譜領域、または再生モードのトラックオーバービューで、現在のタブにどのレイアウトを表示するかを変更できます。たとえば、個々のパートレイアウトを確認する場合などに行ないます。

### 補足

レイアウトは、プレーヤーが割り当てられているレイアウト間でのみ切り替えることができます。

### 手順

- 以下のいずれかの操作を行なって、別のレイアウトに切り替えます。
  - 次のレイアウトに切り替えるには、**[Shift]+[Alt/Opt]+[N]** を押すか、「**ウィンドウ (Window)**」 > 「**次のレイアウト (Next Layout)**」を選択します。
  - 前のレイアウトに切り替えるには、**[Shift]+[Alt/Opt]+[P]** を押すか、「**ウィンドウ (Window)**」 > 「**前のレイアウト (Previous Layout)**」を選択します。
  - レイアウトを開くプレーヤーの譜表上またはピアノロール上のアイテムを選択し、**[W]** を押すか、「**ウィンドウ (Window)**」 > 「**カウンターパートのレイアウト (Counterpart Layout)**」を選択します。
  - ツールバーでレイアウトセクターをクリックして、メニューからレイアウトを選択します。



### 結果

選択したレイアウトが楽曲領域に表示されます。直前にタブで開かれていたレイアウトと新しく選択したレイアウトが入れ替わります。

### ヒント

「**環境設定 (Preferences)**」の「**キーボードショートカット (Key Commands)**」ページで、「**中央の選択 (Center Selection)**」にキーボードショートカットを割り当てることができます。このコマンドを実行すると、選択範囲が自動的に表示されます。

### 関連リンク

[レイアウト \(190 ページ\)](#)

[レイアウトへのプレーヤーの割り当て \(193 ページ\)](#)

[ナビゲーション \(479 ページ\)](#)

[ギャラリービューまたはページビューへの切り替え \(54 ページ\)](#)

[トラック概要でフローを切り替える \(660 ページ\)](#)

## ゾーンの表示/非表示の切り替え



たとえば楽譜領域で楽譜を表示するスペースを増やすため、または特定のパネルのオプションにアクセスするために、個々のゾーンまたは同時にすべてのゾーンの表示/非表示を切り替えられます。

### 補足

モードによっては、一部利用できない方法もあります。

---

### 手順

- 以下のいずれかの操作を行なって、左ゾーンの表示/非表示を切り替えます。
    - [Ctrl]/[command]+[7]** を押します。
    - 左側のツールボックスで「**左ゾーンを表示 (Show Left Zone)**」  をクリックします。
    - メインウィンドウの左端にある展開矢印ボタンをクリックします。
    - 「**ウィンドウ (Window)**」 > 「**左ゾーンを表示 (Show Left Zone)**」を選択します。
  - 以下のいずれかの操作を行なって、右ゾーンの表示/非表示を切り替えます。
    - [Ctrl]/[command]+[9]** を押します。
    - メインウィンドウの右端にある展開矢印マークをクリックします。
    - 記譜ツールボックスで、表示するパネルのボタン、または非表示にするパネルのアクティブなボタンをクリックします。
    - 「**ウィンドウ (Window)**」 > 「**右ゾーンを表示 (Show Right Zone)**」を選択します。
  - 以下のいずれかの操作を行なって、下ゾーンの表示/非表示を切り替えます。
    - [Ctrl]/[command]+[8]** を押します。
    - メインウィンドウ最下部の展開矢印マークをクリックします。
    - 「**ウィンドウ (Window)**」 > 「**下ゾーンを表示 (Show Lower Zone)**」を選択します。
  - 以下のいずれかの操作を行なって、すべてのゾーンの表示/非表示を切り替えます。
    - [Ctrl]/[command]+[0]** を押します。
    - ツールバーの「**ゾーンを非表示/再表示 (Hide/Restore Zones)**」  をクリックします。
    - 「**ウィンドウ (Window)**」 > 「**ゾーンを非表示/再表示 (Hide/Restore Zones)**」を選択します。
- 

### 結果

対応するゾーンの表示/非表示が切り替わります。

アクティブになっているゾーンをすべて非表示にすると、ツールバーの「**ゾーンを非表示/再表示 (Hide/Restore Zones)**」ボタンの外観により、以前はアクティブになっていた今は非表示となっているゾーンが区別できます。

### ヒント

- 「**環境設定 (Preferences)**」の「**キーボードショートカット (Key Commands)**」ページで、下ゾーンの特定のパネルの表示にキーボードショートカットを割り当てることができます。
  - それ以降のすべてのプロジェクトで、下ゾーンを表示したときに左右のゾーンを自動的に表示するかどうかは、「**環境設定 (Preferences)**」 > 「**全般 (General)**」 > 「**ウィンドウ (Window)**」で選択できます。
-



例



ゾーンが表示されているときの「ゾーンを非表示/再表示 (Hide/Restore Zones)」ボタン



以前はすべてのゾーンが表示されていたが、今はすべて非表示になっているときの「ゾーンを非表示/再表示 (Hide/Restore Zones)」ボタン

---


関連リンク

- [ゾーンとパネル \(40 ページ\)](#)
- [ツールバー \(33 ページ\)](#)
- [展開矢印マーク \(45 ページ\)](#)
- [プロパティパネル \(826 ページ\)](#)
- [「環境設定 \(Preferences\)」 ダイアログ \(63 ページ\)](#)

## 新規タブを開く

同じプロジェクトウィンドウに複数のタブを開くことができます。この機能を使って複数のレイアウトを表示したり、同じレイアウトを異なるビューで確認したりできます。たとえば、フルスコアのレイアウトを1つのタブではページビューで、別のタブではギャラリービューで表示できます。


各タブには、別のタブやウィンドウで既に開いている別のレイアウト、またはレイアウトの別のビューを表示できます。新規タブを開くと、タブに表示するレイアウトを選択する画面が表示されます。

タブは、ツールバーと楽譜領域の間にあるタブバーに表示されます。タブが表示されていない場合は、ツールバーの「タブを表示 (Show Tabs)」  をクリックします。

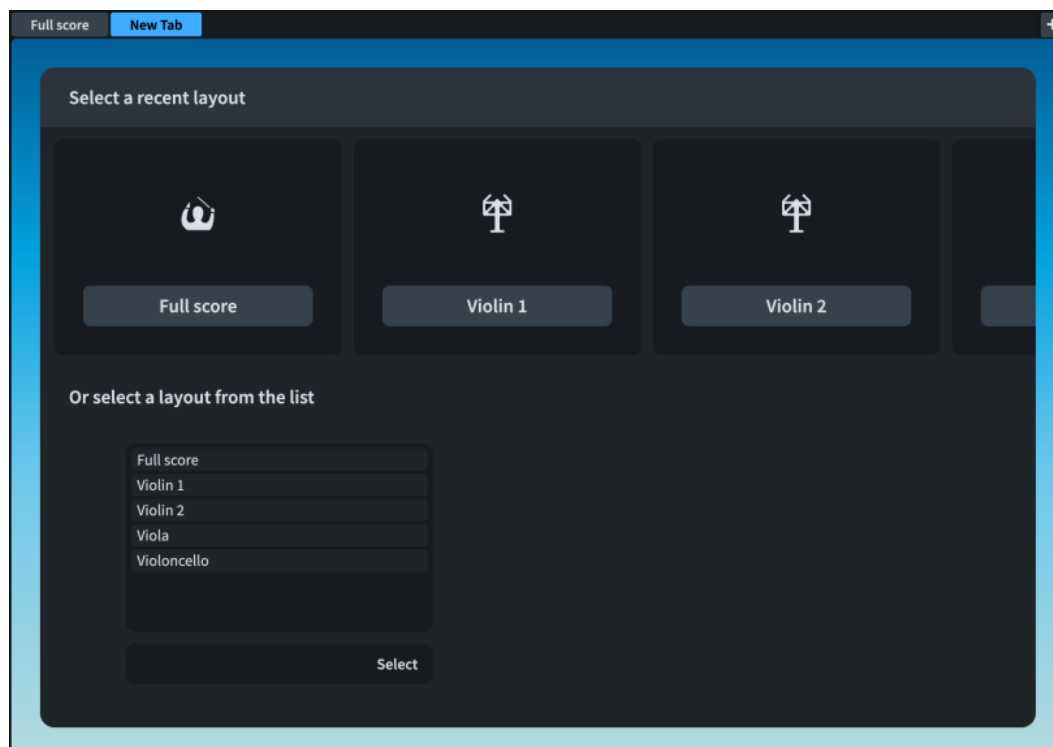
---

手順

1. 以下のいずれかの操作を行なって、新規タブを開きます。

- **[Ctrl]/[command]+[T]** を押します。
- タブバーの右端にある「新規タブ (New Tab)」  をクリックします。
- 「ウィンドウ (Window)」 > 「新規タブ (New Tab)」を選択します。

新規タブを開くと、上部に最近使用したレイアウト、下部にプロジェクト内の他のレイアウトのリストが表示されます。タブバーが非表示になっていた場合は、これで表示されました。



- 以下のいずれかの操作を行なって、新規タブで開くレイアウトを選択します。
  - 上部のアイコンをクリックします。
  - 下部のリストでレイアウトを選択します。
  - ツールバーでレイアウトセレクターをクリックして、レイアウトを選択します。

---

#### 結果

選択したレイアウトがアクティブなタブで開きます。

#### ヒント

同じタブ内でレイアウトを切り替えることもできます。

---

#### 関連リンク

[タブバー \(36 ページ\)](#)

[ツールバー \(33 ページ\)](#)

[レイアウトの切り替え \(47 ページ\)](#)

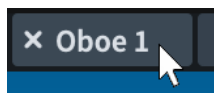
## タブを閉じる

不要になったレイアウトの個別のタブを閉じることができます。また複数のタブを一度に閉じることができます。

---

#### 手順

- 以下のいずれかの操作を行なって、タブを閉じます。
  - 閉じるタブを選択して、**[Ctrl]/[command]+[W]** を押します。
  - 閉じるタブの上にマウスを合わせて、「X」をクリックします。



- 閉じるタブを右クリックし、コンテキストメニューから「**タブを閉じる (Close Tab)**」を選択します。
- 閉じたくないタブを右クリックし、コンテキストメニューから「**他のタブを閉じる (Close Other Tabs)**」を選択します。

#### 補足

ウィンドウに表示されているタブが1つだけの場合、そのタブは閉じることができません。タブが1つだけ開いていてそのタブを非表示にする場合は、メインツールバーで「**タブを表示 (Show Tabs)**」をオフにします。タブは表示されなくなりますが、対応するレイアウトは表示されたままとなります。

---

#### 結果

タブを1つ選択して閉じた場合、選択したタブおよび対応するレイアウトが閉じます。

タブを1つ選択して他のタブを閉じた場合、選択したタブ以外のすべてのタブが閉じます。

## タブの切り替え

異なるタブ間で切り替えて、楽譜領域に異なるレイアウトを表示できます。

---

#### 手順

- 以下のいずれかの操作を行なって、タブを切り替えます。
  - すべての開いているタブを正順に切り替えるには、**[Ctrl]+[Tab]** を押します。
  - すべての開いているタブを逆順に切り替えるには、**[Ctrl]+[Shift]+[Tab]** を押します。
  - 切り替え先のタブをクリックします。

#### ヒント

- 「**環境設定 (Preferences)**」の「**全般 (General)**」ページで、タブとウィンドウを切り替えたときに、選択したアイテムを自動的に表示し続けるかどうかを選択できます。
  - 「**環境設定 (Preferences)**」の「**キーボードショートカット (Key Commands)**」ページで、「**中央の選択 (Center Selection)**」にキーボードショートカットを割り当てることができます。このコマンドを実行すると、選択範囲が自動的に表示されます。
- 

#### 関連リンク

[「環境設定 \(Preferences\)」ダイアログ \(63 ページ\)](#)

## タブの順番の変更

タブバー上でタブを別の位置に移動できます。

---

#### 手順

- タブをクリックして新しい位置までドラッグします。  
他のタブが移動して、ドラッグされたタブがどこに配置されるかを示します。
-

## プロジェクトウィンドウに複数のタブを表示する

プロジェクトウィンドウを分割して、同時に2つのタブを表示できます。分割は垂直または水平方向のいずれかが可能で、異なるレイアウトを上下または左右に並べて表示できます。

---

### 手順

1. 新規タブグループに移動するレイアウトのタブを選択します。
2. 以下のいずれかの操作を行なって、ウィンドウを分割します。
  - 2つのレイアウトを左右に並べて表示するには、「**ウィンドウ (Window)**」 > 「**垂直分割 (Vertical Split)**」を選択します。
  - 2つのレイアウトを上下に並べて表示するには、「**ウィンドウ (Window)**」 > 「**水平分割 Horizontal Split**」を選択します。

---

### 結果

プロジェクトウィンドウが分割され、同時に2つのタブが表示されます。選択したタブが新規タブグループに移動します。

## 別のタブグループへのタブの移動

タブを別のタブグループに移動できます。これによって、たとえば、異なるレイアウトを比較したり、同じレイアウトで2種類のビューを比較したりできます。

### 前提条件

プロジェクトウィンドウに2つ以上のタブを同時に表示しておきます。

---

### 手順

- 移動するタブをクリックし、移動先のタブグループにドラッグします。

## 別のウィンドウへのタブの移動

同じプロジェクトの別のウィンドウにタブを移動して、新規ウィンドウに同じレイアウトを表示できます。これにより、たとえば2つのレイアウトを2つのディスプレイで比較できます。

---

### 補足

- レイアウトは、同じプロジェクトに属している必要があります。タブを異なるプロジェクトのウィンドウに移動しようとしても、レイアウトが属するプロジェクトに新規ウィンドウが作成されません。
- タブが1つしか開いていない場合は、タブを別のウィンドウに移動することができません。

---

### 手順

- 以下のいずれかの操作を行ないます。
  - タブが挿入された状態で新規プロジェクトウィンドウを作成するには、タブをクリックしてタブバーから離れた場所にドラッグして放すか、「**ウィンドウ (Window)**」 > 「**タブを新規ウィンドウへ移動 (Move Tab To New Window)**」を選択します。タブを右クリックして、コンテキストメニューからオプションを選択することもできます。
  - タブを既存のプロジェクトウィンドウに移動するには、タブをクリックしてそのプロジェクトウィンドウのタブバーにドラッグします。

## 複数のプロジェクトウィンドウを開く

同じプロジェクトを複数のプロジェクトウィンドウで開くことができます。これは同時に複数のレイアウトで作業する場合に便利です。また、1つのウィンドウでは記譜モード、別のウィンドウでは再生モードのように、複数のウィンドウで同じプロジェクトを異なるモードで表示できます。

初期設定では、同じプロジェクトに属するすべてのウィンドウに再生ヘッドが表示され、再生中に楽譜に追従するようにビューが移動します。

---

### 手順

- 以下のいずれかの操作を行なって、新規プロジェクトウィンドウを開きます。
  - **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[T]** を押します。
  - 「**ウィンドウ (Window)**」 > 「**新規ウィンドウ (New Window)**」を選択します。

---

### 結果

ウィンドウの複製が開きます。元のウィンドウと同じタブと同じ表示オプションが表示されます。

### ヒント

「**環境設定 (Preferences)**」の「**全般 (General)**」ページで、タブとウィンドウを切り替えたときに、選択したアイテムを自動的に表示し続けるかどうかを選択できます。

---

### 関連リンク

- [モードの切り替え \(46 ページ\)](#)
- [タブの切り替え \(51 ページ\)](#)
- [再生ヘッド \(677 ページ\)](#)
- [再生ヘッドを表示/非表示にする \(679 ページ\)](#)
- [再生ヘッドの追従の有効化/無効化 \(679 ページ\)](#)

## 全画面表示への切り替え

プロジェクトウィンドウを画面全体に表示することで、楽譜のスペースを最大限に広げられます。

オペレーティングシステムのデスクトップ要素 (Windows のタスクバー、macOS のシステムメニューバーや Dock など) を隠すこともできます。

Dorico Pro では、ウィンドウ端のゾーンの表示/非表示を切り替えることもできます。

---

### 手順

- 「**ビュー (View)**」 > 「**全画面表示 (Full Screen)**」を選択します。

---

### 手順終了後の項目

表示をもとに戻すには、「**ビュー (View)**」 > 「**全画面表示 (Full Screen)**」を再度選択します。

### 関連リンク

- [ゾーンの表示/非表示の切り替え \(48 ページ\)](#)
- [楽譜領域でのズームイン/ズームアウト \(483 ページ\)](#)
- [楽譜領域のビューを移動する \(483 ページ\)](#)
- [ステータスバーのツールを表示/非表示にする \(43 ページ\)](#)





## ギャラリービューまたはページビューへの切り替え

設定モードと記譜モードでは、楽譜領域のビュータイプを切り替えられます。たとえば、プロジェクトのフルート奏者がピッコロに持ち替える場合、ビュータイプをギャラリービューに切り替えることでフルートの譜表に加えてピッコロの譜表も表示できます。

### 補足

浄書モードでは、レイアウトは常にページビューで表示されます。

### 手順

- 以下のいずれかの操作を行なって、ギャラリービューまたはページビューに切り替えます。
  - ギャラリービューに切り替えるには、**[Ctrl]/[command]+[Alt/Opt]+[2]** を押すか、ステータスバーの「**ギャラリービュー (Galley View)**」を選択します。
  - ページビューに切り替えるには、**[Ctrl]/[command]+[Alt/Opt]+[1]** を押すか、ステータスバーの「**ページビュー (Page View)**」を選択します。
- 「**ページビュー (Page View)**」を選択した場合は、必要に応じてステータスバーでいずれかのページ配置を選択します。
  - ページを見開きのペアとして表示し、見開きページをそれぞれ左から右に水平方向に並べて配置するには、「**見開き (水平) (Spreads Horizontally)**」  を選択します。
  - ページを見開きのペアとして表示し、見開きページをそれぞれ上から下に垂直方向に並べて配置するには、「**見開き (垂直) (Spreads Vertically)**」  を選択します。
  - 各ページを個別に左から右に配置するには、「**単一ページ (水平) (Single Pages Horizontally)**」  を選択します。
  - 各ページを個別に上から下に配置するには、「**単一ページ (垂直) (Single Pages Vertically)**」  を選択します。

### 結果

楽譜領域のビュータイプが変更されます。

- ページビューでは、デフォルトで音符またはアイテムを含む譜表のみが表示されます。空白のパートが複数関連付けられているプレーヤーは、フルスコアでは最初に関連付けられているインストゥルメントの譜表のみが表示されます。
- ギャラリービューでは、プロジェクトのすべての譜表が表示されます。初期設定では、各譜表の上にガイド小節番号が表示され、各インストゥルメントの上にガイドインストゥルメントラベルが表示されます。プレーヤーに複数のインストゥルメントが割り当てられている場合は、ガイドインストゥルメントラベルにプレーヤー名も表示されます。

### 補足

- ギャラリービューでは、音符のスペーシングの調整や垂直方向の衝突回避は自動的に行なわれないため、音符やアイテムが重なって見える場合があります。ギャラリービューのデフォルトの譜表間の間隔をレイアウトごとに個別に変更できます。
- レイアウトを切り替えると、ビュータイプはデフォルトの設定にリセットされます。
- 「**環境設定 (Preferences)**」 > 「**全般 (General)**」 > 「**ビュー (View)**」で、すべてのプロジェクトに使用するデフォルトのビュータイプを変更できます。
- 「**環境設定 (Preferences)**」の「**キーボードショートカット (Key Commands)**」ページにある「**ビュータイプを切り替え (Toggle View Type)**」にキーボードショートカットを割り当てることができます。このコマンドによりギャラリービューとページビューが切り替わります。

- 「環境設定 (Preferences)」の「キーボードショートカット (Key Commands)」ページで、「中央の選択 (Center Selection)」にキーボードショートカットを割り当てることができます。このコマンドを実行すると、選択範囲が自動的に表示されます。
- 

手順終了後の項目

ギャラリービューでは、インストゥルメントフィルターを使用して特定の譜表のみを表示できます。

関連リンク

[レイアウトの切り替え \(47 ページ\)](#)

[ステータスバー \(42 ページ\)](#)

[ギャラリービューでの譜表のスペーシングを変更する \(779 ページ\)](#)

[「環境設定 \(Preferences\)」ダイアログ \(63 ページ\)](#)

[ガイド小節番号の表示/非表示 \(1098 ページ\)](#)

[プレーヤー名の変更 \(204 ページ\)](#)

[インストゥルメントフィルター \(485 ページ\)](#)

## 優先する基準単位の変更

絶対値を使用する「レイアウトオプション (Layout Options)」のページ余白オプションなど、Dorico Pro 全体で使用されるデフォルトの優先する基準単位を変更できます。これは、「浄書オプション (Engraving Options)」や「記譜オプション (Notation Options)」のオプションのように、譜表サイズに関連するオプションには影響しません。

---

手順

1. **[Ctrl]/[command]+[,]** を押して「環境設定 (Preferences)」を開きます。
  2. カテゴリーリストの「全般 (General)」をクリックします。
  3. 「全般 (General)」セクションで、「優先する基準単位 (Preferred unit of measurement)」メニューから以下のいずれかのオプションを選択します。
    - ポイント (pt)
    - ミリメートル (mm)
    - インチ (in)
    - センチメートル (cm)
  4. 「適用 (Apply)」をクリックしてから「閉じる (Close)」をクリックします。
- 

## ミドル C のナンバリング変換を変更する

ピアノロールエディター、キーボードパネル、ステータスバーの表示など、Dorico Pro 全体でミドル C (MIDI ノート 60) に使用されるナンバリング変換を変更できます。Dorico Pro の初期設定では、MIDI ノート 60 は C4 としてナンバリングされています。

---

手順

1. **[Ctrl]/[command]+[,]** を押して「環境設定 (Preferences)」を開きます。
2. カテゴリーリストの「全般 (General)」をクリックします。
3. 「全般 (General)」セクションの「ミドル C (ノート 60) (Middle C (note 60))」で、以下のいずれかのオプションを選択します。
  - C3
  - C4
  - C5

4. 「適用 (Apply)」をクリックしてから「閉じる (Close)」をクリックします。
- 

関連リンク

[ステータスバー \(42 ページ\)](#)

[ピアノロールエディター \(843 ページ\)](#)

[キーボードパネル \(229 ページ\)](#)

## カラー設定

Dorico Pro では、プロジェクトウィンドウや各レイアウトタイプのページなど、さまざまな状況で使用されるカラーを変更できます。

関連リンク

[注釈 \(740 ページ\)](#)

[音符と休符の表示オプション \(1403 ページ\)](#)

[声部カラーの表示/非表示 \(1859 ページ\)](#)

[音域外の音符のカラーを表示/非表示にする \(1403 ページ\)](#)

[テキストフレームの背景色を変更する \(630 ページ\)](#)

[テキストフレームの枠線の色を変更する \(629 ページ\)](#)

## ウィンドウのカラーテーマを変更する

Dorico Pro 全体で使用されるカラーテーマを変更できます。たとえば、明るい背景に暗いテキストを表示したい場合は「Light」のテーマに切り替えることができます。初期設定では、Dorico Pro は暗い背景に明るいテキストが表示される「Dark」のテーマを使用します。

---

手順

1. **[Ctrl]/[command]+[,]** を押して「環境設定 (Preferences)」を開きます。
  2. カテゴリリストの「全般 (General)」をクリックします。
  3. 「ウィンドウ (Window)」セクションで、「テーマ (Theme)」メニューから以下のいずれかのオプションを選択します。
    - Dark
    - Light
  4. 「適用 (Apply)」をクリックしてから「閉じる (Close)」をクリックします。
- 

結果

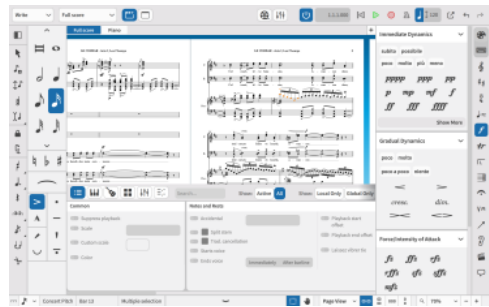
Dorico Pro で使用されるカラーテーマが変更されます。これは現在のプロジェクトにすぐに適用され、設定を変更するまではそれ以降に開くすべてのプロジェクトにそのテーマが使用されます。



例



「Dark」のテーマ



「Light」のテーマ

---

## ページのカラーの変更

ページのカラーをレイアウトごとに変更できます。これにより、たとえばパートレイアウトとフルスコアレイアウトを見分けやすくしたり、楽譜を読みやすくしたりできます。

初期設定では、フルスコアレイアウトとカスタムスコアレイアウトのページは白、パートレイアウトのページはクリーム色です。


手順

1. **[Ctrl]/[command]+[,]** を押して「環境設定 (Preferences)」を開きます。
2. カテゴリリストの「カラー (Colors)」をクリックします。
3. 「ページのカラー (Page Colors)」セクションで、以下のいずれかの操作を行なって、「フルスコアレイアウト (Full score layouts)」、「パートレイアウト (Part layouts)」、または「カスタムスコアレイアウト (Custom score layouts)」のページのカラーを変更します。
  - 対応するカラープレビューをクリックして開いたダイアログでカラーを選択します。
  - 対応する数値フィールドにカラーコードを入力します。
4. 「適用 (Apply)」をクリックしてから「閉じる (Close)」をクリックします。

結果

現在のプロジェクトおよびそれ以降に開くすべてのプロジェクトで対応するタイプのレイアウトのページのカラーが変更されます。これは、レイアウトの書き出しや印刷を行なった際のページのカラーには影響しません。

ヒント

各レイアウトタイプの「リセット (Reset)」をクリックすると、ページのカラーを出荷時の設定にリセットできます。

関連リンク

[レイアウト \(190 ページ\)](#)

[レイアウトの印刷 \(724 ページ\)](#)

[グラフィックファイルとしての書き出し \(728 ページ\)](#)

[テキストフレームの背景色を変更する \(630 ページ\)](#)

## 背景色の変更

楽譜領域の背景色を変更できます。背景には、最大4色のグラデーションまたは単色を使用できます。また、現在のモードを見分けやすいよう、記譜モードと浄書モードの背景色を個別に変更することもできます。

---

### 手順

1. **[Ctrl]/[command]+[,]** を押して「**環境設定 (Preferences)**」を開きます。
2. カテゴリリストの「**カラー (Colors)**」をクリックします。
3. 「**背景色 (Background Colors)**」セクションで、「**記譜モード (Write mode)**」または「**浄書モード (Engrave mode)**」の「**使用 (Use)**」に以下のいずれかのオプションを選択します。
  - **グラデーション (Gradient)**
  - **単色 (Single Color)**
4. 以下のいずれかの操作を行なって、背景色を変更します。
  - 「**グラデーション (Gradient)**」を選択した場合、プリセットの色を使用するには「**プリセット (Preset)**」メニューからその色を選択します。
  - 「**グラデーション (Gradient)**」を選択した場合、カスタマイズした色を使用するには、各カラープレビューをクリックして開いたダイアログでカラーを選択するか、数値フィールドにカラーコードを入力します。
  - 「**単色 (Single Color)**」を選択した場合は、「**ストップ 1 (Stop 1)**」のカラープレビューをクリックして開いたダイアログでカラーを選択するか、数値フィールドにカラーコードを入力します。


---

### 結果

現在のプロジェクトおよびそれ以降に開くすべてのプロジェクトの背景色が変更されます。

---

### ヒント

- 記譜モードに設定した背景色は設定モードにも使用されます。
- 「**リセット (Reset)**」  をクリックすると、背景色を出荷時の設定にリセットできます。

---

## 楽譜領域のカラーを変更する

各譜表の最初の8つの声部のカラーや選択したアイテムのカラーなど、楽譜領域でさまざまな目的に使用されるカラーを変更できます。たとえば、特定の色の組み合わせが他の組み合わせよりも読みやすいと感じる場合などに便利です。

---

### 手順

1. **[Ctrl]/[command]+[,]** を押して「**環境設定 (Preferences)**」を開きます。
2. カテゴリリストの「**カラー (Colors)**」をクリックします。
3. 「**声部カラー (Voice Colors)**」セクションで、以下のいずれかの操作を行なって、各声部のカラーを変更します。
  - 対応するカラープレビューをクリックして開いたダイアログでカラーを選択します。
  - 対応する数値フィールドにカラーコードを入力します。
4. 「**その他のカラー (Other Colors)**」セクションで、以下のいずれかの操作を行なって、各アイテムのカラーを変更します。
  - 対応するカラープレビューをクリックして開いたダイアログでカラーを選択します。

- 対応する数値フィールドにカラーコードを入力します。


5. 「適用 (Apply)」をクリックしてから「閉じる (Close)」をクリックします。

---

#### 結果

現在のプロジェクトおよびそれ以降に開くすべてのプロジェクトで、対応する声部およびアイテムのカラーが変更されます。

#### ヒント

各声部またはアイテムの「リセット (Reset)」をクリックすると、カラーを出荷時の設定にリセットできます。

---

#### 関連リンク

- [「環境設定 \(Preferences\)」ダイアログ \(63 ページ\)](#)
- [注釈 \(740 ページ\)](#)
- [音符と休符の表示オプション \(1403 ページ\)](#)
- [臨時記号のカラーを表示/非表示にする \(1054 ページ\)](#)
- [音符/アイテムの選択 \(460 ページ\)](#)
- [キャレット \(242 ページ\)](#)
- [MIDI 録音 \(290 ページ\)](#)
- [再生ヘッド \(677 ページ\)](#)
- [タブ譜 \(1737 ページ\)](#)
- [リンクされた強弱記号 \(1262 ページ\)](#)
- [リンクされたスラー \(1672 ページ\)](#)

## 色の反転

Dorico Pro で楽譜とページに使用される色を反転できます (初期設定では黒いページに白で楽譜が表示されます)。そのあと、反転したページの色をカスタマイズして、たとえば青い背景に白で楽譜を表示するなどできます。

---

#### 手順


1. **[Ctrl]/[command]+[,]** を押して「環境設定 (Preferences)」を開きます。
  2. カテゴリリストの「カラー (Colors)」をクリックします。
  3. 「ページのカラー (Page Colors)」セクションで、「楽譜の色を反転 (黒地に白) (Invert colors for music (white on black))」をオンにします。
  4. 以下のいずれかの操作を行なって、反転したページの色を変更します。
    - 対応するカラープレビューをクリックして開いたダイアログでカラーを選択します。
    - 対応する数値フィールドにカラーコードを入力します。
  5. 「適用 (Apply)」をクリックしてから「閉じる (Close)」をクリックします。
- 

#### 結果

現在のプロジェクトおよびそれ以降に開くすべてのプロジェクトの楽譜とページの色が反転します。楽譜は常に白で表示されますが、ページには反転したページ背景に対して設定した色が使われます。これは、レイアウトの書き出しや印刷を行なった際の色には影響しません。

「楽譜の色を反転 (黒地に白) (Invert colors for music (white on black))」をオフにすると、楽譜とページの色が反転前の設定に戻ります。

#### ヒント

「リセット (Reset)」  をクリックすると、反転したページの色を出荷時の設定にリセットできます。

---

## アイテムの色を変更する

個々の音符やアイテムの色を変更できます。たとえば、教材用の練習問題を作成する際に特定のアイテムを目立たせたい場合などに行ないます。この操作は現在のレイアウトとフレームチェーンのみに対して、もしくはすべてのレイアウトとフレームチェーンに対して行なえます。

#### 前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。
- 下ゾーンのツールバーで「プロパティ (Properties)」  を選択しておきます。
- 浄書モードの場合は、浄書ツールボックスで「グラフィックの編集 (Graphic Editing)」  を選択しておきます。
- ローカルのプロパティ変更に関して、適切なプロパティ範囲を選択しておきます。

#### 手順

1. 色を変更するアイテムを選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
  2. プロパティパネルの「一般 (Common)」グループで、「カラー (Color)」をオンにします。
  3. カラープレビューをクリックして「色を選択 (Select Color)」 (Windows)/「カラー (Colors)」 (macOS) ダイアログを開きます。
  4. 使用する色を選択するか作成します。
  5. 「OK」をクリックして変更内容を保存し、ダイアログを閉じます。
- 

#### 結果

選択したアイテムの色が変更されます。プロパティ範囲を「ローカル (Locally)」に設定している場合、この変更は現在のレイアウトおよびフレームチェーンのみに影響します。

#### ヒント

テキストベースの記譜記号のパラグラフスタイルを編集するなどして、多くのアイテムのデフォルトカラーを変更できます。

---

#### 関連リンク

- [浄書ツールボックス \(554 ページ\)](#)
- [プロパティ範囲の変更 \(828 ページ\)](#)
- [プロパティ設定を別のレイアウト/フレームチェーンにコピーする \(825 ページ\)](#)
- [「パラグラフスタイル \(Paragraph Styles\)」ダイアログ \(932 ページ\)](#)
- [歌詞のパラグラフスタイル \(1374 ページ\)](#)
- [譜表ラベルのパラグラフスタイル \(1697 ページ\)](#)
- [カスタムの符頭セット \(967 ページ\)](#)
- [カスタムコード記号 \(941 ページ\)](#)
- [カスタムライン \(984 ページ\)](#)
- [カスタムの演奏技法 \(976 ページ\)](#)
- [テキストフレームの背景色を変更する \(630 ページ\)](#)
- [テキストフレームの枠線の色を変更する \(629 ページ\)](#)

## 言語設定

Dorico Pro では、アプリケーション自体や譜表ラベルのインストゥルメント名など、さまざまな状況で使用する言語を変更できます。

関連リンク

[キーボード言語の変更 \(69 ページ\)](#)

[リピート回数の言語の変更 \(1609 ページ\)](#)

[譜表ラベルに表示されるインストゥルメントの移調 \(1690 ページ\)](#)

## アプリケーション言語の変更

たとえばオペレーティングシステムの言語と Dorico Pro で使用する言語が異なる場合、現在のプロジェクトおよびそれ以降に作成するすべてのプロジェクトのユーザーインターフェースで使用する言語を変更できます。

### 補足

アプリケーション言語の変更は、インストゥルメント名や日時トークンに使用される言語には影響しません。

---

### 手順

1. **[Ctrl]/[command]+[,]** を押して「**環境設定 (Preferences)**」を開きます。
  2. カテゴリリストの「**全般 (General)**」をクリックします。
  3. 「**全般 (General)**」セクションで、「**言語 (Language)**」メニューから使用する言語を選択します。
  4. 「**適用 (Apply)**」をクリックしてから「**閉じる (Close)**」をクリックします。
- 

### 結果

現在のプロジェクトおよびそれ以降に作成するすべてのプロジェクトのユーザーインターフェースで使用する言語が変更されます。キーボード言語が「**デフォルト (Default)**」に設定されている場合、キーボード言語も変更されます。

関連リンク

[「環境設定 \(Preferences\)」ダイアログ \(63 ページ\)](#)

[キーボード言語の変更 \(69 ページ\)](#)

## インストゥルメント名の言語の変更

フランス語のスコアを再作成する場合など、インストゥルメント名に使用する言語を変更できます。これは、譜表ラベルとインストゥルメントの変更ラベルに影響します。

---

### 手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[E]** を押して「**浄書オプション (Engraving Options)**」を開きます。
2. カテゴリリストの「**言語 (Language)**」をクリックします。
3. 使用する言語を「**インストゥルメント名の言語 (Instrument names language)**」メニューから選択します。
4. 「**インストゥルメント名をリセット (Reset instrument names)**」をオンまたはオフにします。
5. 「**音名の太文字/小文字: (Case for note names)**」で、以下のいずれかのオプションを選択します。
  - **大文字 (Upper case)**

- 小文字 (Lower case)
- 必要に応じて、「ドイツ語 (German)」を選択している場合は、「ドイツ語のインストゥルメント名に使用する音名 (Note names in German instrument names)」で以下のいずれかのオプションを選択します。
    - 英語 (B flat / B) (English (B flat/B))
    - ドイツ語 (B / H) (German (B/H))
  - 必要に応じて、「ドイツ語 (German)」を選択している場合は、「ドイツ語のインストゥルメント名に使用する臨時記号 (Accidentals in German instrument names)」で以下のいずれかのオプションを選択します。
    - 音楽記号を使用 (Use music symbol)
    - 音名を使用 (Use names)
  - 必要に応じて、「フランス語 (French)」を選択している場合は、「フランス語の C の音名 (Note name for C in French)」で以下のいずれかのオプションを選択します。
    - Do
    - Ut
  - 「適用 (Apply)」をクリックしてから「閉じる (Close)」をクリックします。

---

#### 結果

プロジェクト全体のすべてのインストゥルメント名およびインストゥルメントの変更ラベルの先頭テキストの言語が変更されます。これ以降にプロジェクトに追加されるインストゥルメントには、新しい言語設定が使用されます。

- 「インストゥルメント名をリセット (Reset instrument names)」をオンにした場合、プロジェクト内の既存のインストゥルメント名は、新しい言語設定に従う形でリセットされます。
- 「インストゥルメント名をリセット (Reset instrument names)」をオフにした場合、プロジェクト内の既存のインストゥルメント名はリセットされず、引き続き既存の言語を使用します。

#### ヒント

これ以降に作成するすべてのプロジェクトのインストゥルメント名に使用されるデフォルトの言語は、「環境設定 (Preferences)」の「全般 (General)」ページで変更できます。

---

#### 関連リンク

- [プレーヤーの追加 \(136 ページ\)](#)
- [プレーヤーへのインストゥルメントの追加 \(146 ページ\)](#)
- [インストゥルメントの変更 \(150 ページ\)](#)
- [譜表ラベル \(1684 ページ\)](#)
- [譜表ラベルにインストゥルメント名/プレーヤー名を表示する \(1689 ページ\)](#)
- [譜表ラベルに表示されるインストゥルメントの移調 \(1690 ページ\)](#)
- [デフォルトのフォントファミリーを変更する \(937 ページ\)](#)

## 日時トークンの言語の変更

プロジェクト全体のすべての日時トークンに使用する言語を変更できます。これはたとえば、オペレーティングシステムとは異なる言語規則を使用して日時を表示差せる場合に役立ちます。

---

#### 手順

- [Ctrl]/[command]+[Shift]+[E]** を押して「**浄書オプション (Engraving Options)**」を開きます。
- カテゴリーリストの「**言語 (Language)**」をクリックします。

3. 使用する言語を「日時トークンの言語 (Date and time tokens language)」メニューから選択します。
4. 「適用 (Apply)」をクリックしてから「閉じる (Close)」をクリックします。

関連リンク

[トークン \(617 ページ\)](#)

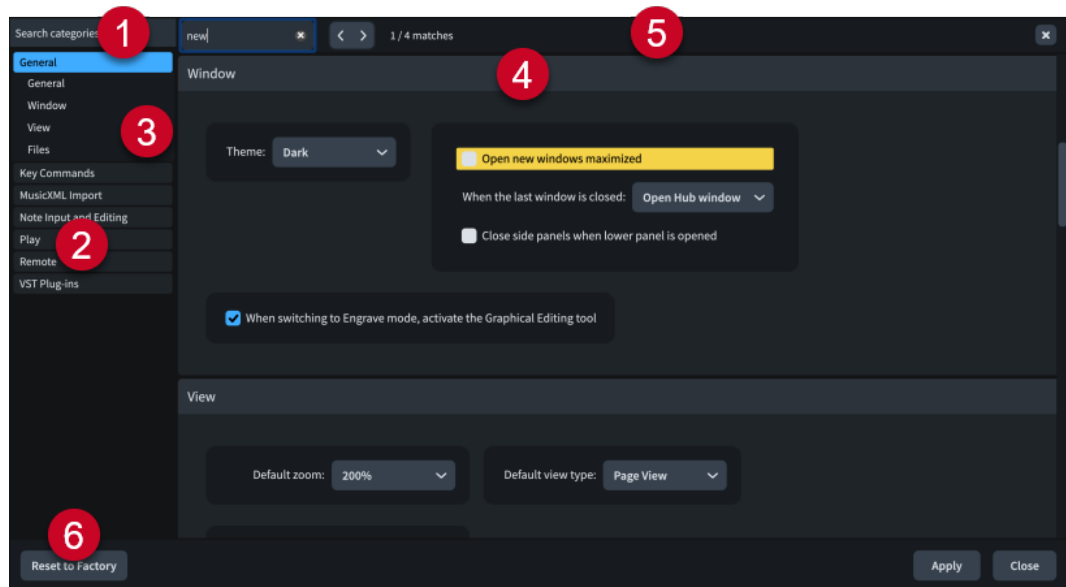
[「浄書オプション \(Engraving Options\)」 ダイアログ \(923 ページ\)](#)

## 「環境設定 (Preferences)」 ダイアログ

「環境設定 (Preferences)」 ダイアログでは、すべてのプロジェクトにおいて Dorico Pro がデフォルトでどのように機能するかを変更できます。

「環境設定 (Preferences)」を開くには、以下のいずれかの操作を行ないます。

- **[Ctrl]/[command]+[,]** を押します。
- 「編集 (Edit)」 > 「環境設定 (Preferences)」 (Windows) または 「Dorico」 > 「環境設定 (Preferences)」 (macOS) を選択します。



「環境設定 (Preferences)」 ダイアログには以下のセクションが含まれます。

### 1 「カテゴリーを検索 (Search categories)」 フィールド

テキストを入力してカテゴリやセクションタイトルをフィルタリングできます。

ヒント

**[Ctrl]/[command]+[L]** を押して「カテゴリーを検索 (Search categories)」フィールドをフォーカスできます。**[Tab]** を押してフォーカスを外すことができます。

### 2 カテゴリーリスト

ダイアログで表示および変更できるオプションのカテゴリーが表示されます。このリストでカテゴリーをクリックすると、利用できるセクションタイトルがリスト内のカテゴリーの下に表示されます。また、オプションがダイアログのメイン部分にページ表示されます。

### 3 セクションタイトル

選択したカテゴリーのページにすべてのセクションのタイトルが表示されます。セクションタイトルをクリックすると、そのセクションを直接開けます。

#### 4 セクション

ページ内のセクションが表示されます。各セクションには複数のオプションが含まれます。多くのオプションが含まれるセクションはサブセクションに分割されます。複数の設定から選択できるオプションは、アクティブな設定が強調表示されます。

##### 補足

「キーボードショートカット (Key Commands)」ページのオプションの配置は、「環境設定 (Preferences)」ダイアログの他のページと大きく異なります。このページの詳細については、後述のセクションを参照してください。

#### 5 ページを検索バー

テキストを入力して、現在選択されているページにあるセクションタイトルおよびオプションを検索して、ヒットした結果を確認できます。ヒットした件数がバーに表示されます。ヒットした結果はページにハイライト表示され、現在のオプションはさらに明るくハイライト表示されます。

**[Ctrl]/[command]+[F]** を押してページを検索バーを表示できます。

このバーには以下のオプションがあります。

- 「ページを検索 (Search pages)」フィールド: 検索するテキストを入力できます。 **[Ctrl]/[command]+[F]** を押して「ページを検索 (Search pages)」フィールドをフォーカスできます。
- 前のマッチ (Previous match) **⏪**: ページ内の前のマッチに移動します。 **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[G]** を押すことでも前のマッチに移動できます。
- 次のマッチ (Next match) **⏩**: ページ内の次のマッチに移動します。 **[Ctrl]/[command]+[G]** を押すことでも次のマッチに移動できます。
- 閉じる (Close) **✕**: バーを閉じて、ハイライトされたすべてのマッチを除外します。 **[Esc]** を押すことでもバーを閉じられます。

#### 6 出荷時の設定にリセット (Reset of Factory)

ダイアログのすべてのオプションを出荷時の設定にリセットできます。

##### 関連リンク

[優先する基準単位の変更 \(55 ページ\)](#)

[数値フィールドの値を変更する \(829 ページ\)](#)

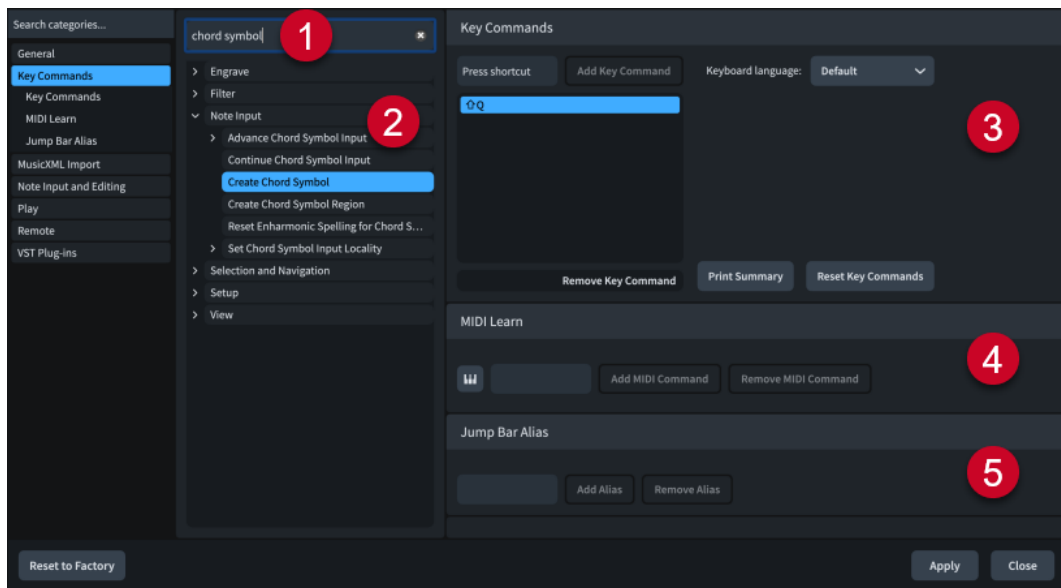
## 「環境設定 (Preferences)」ダイアログの「キーボードショートカット (Key Commands)」ページ

「環境設定 (Preferences)」ダイアログの「キーボードショートカット (Key Commands)」ページでは、キーボードショートカットを割り当てられるすべての機能を確認したり、既存のキーボードショートカットを変更したり、キーボードショートカットがデフォルトで割り当てられていない機能にキーボードショートカットを新たに割り当てたりできます。

特定のリズムグリッド解像度を設定したりすべてのレイアウトを PDF に書き出したりするなど、頻繁に実行する項目や機能にはキーボードショートカットを割り当てておく便利です。

- 「キーボードショートカット (Key Commands)」ページを表示するには、「環境設定 (Preferences)」ダイアログを開き、カテゴリーリストの「キーボードショートカット (Key Commands)」をクリックします。





「キーボードショートカット (Key Commands)」 ページには以下のセクションが含まれます。

### 1 検索フィールド

機能を検索してキーボードショートカットを表示、変更、追加できます。多くの機能は展開矢印マークによって複数の階層に折りたたまれているため、多くの場合、検索フィールドを使うと目的の項目を最も早く見つけられます。

### 2 機能リスト

キーボードショートカットを割り当てることができる機能が表示されます。検索フィールドを使用して、このリストをフィルタリングできます。より詳細なオプションが含まれる項目の横には、展開矢印マークが付いています。

機能にマウスを合わせると、ツールヒントが表示されます。これは名前が長い一部の機能において役立ちます。

### 3 「キーボードショートカット (Key Commands)」 セクション

割り当て済みのキーボードショートカットのリストで選択している機能について、現在のキーボード言語で設定されている既存のキーボードショートカットが表示され、新しいキーボードショートカットを割り当てることができます。

- **キーボード言語 (Keyboard language):** キーボードショートカットに使用するキーボード言語を変更できます。
- **キーボードショートカットを追加 (Add Key Command):** 入力したキーボードショートカットを選択した機能に割り当てます。

#### 補足

- 同じ機能に複数のキーボードショートカットを割り当てることができます。
- 別の機能にすでに割り当てられているキーボードショートカットを入力すると、警告が表示されます。
- **キーボードショートカットを削除 (Remove Key Command):** 選択した機能から、選択しているキーボードショートカットを削除します。
- **概要を印刷 (Print Summary):** Web ブラウザーにオフラインページが開き、現在のキーボードショートカット設定がインタラクティブキーボードに表示されます。
- **キーボードショートカットをリセット (Reset Key Commands):** すべてのキーボードショートカットをデフォルトにリセットします。

### 4 「MIDI Learn」 セクション

MIDI コントローラー、MIDI ノート、および MIDI ノートの組み合わせを、機能の操作に割り当てることができます。

- **MIDI Learn** : Dorico Pro が受信した MIDI 入力データをコマンドとして保存できる状態にします。
- **MIDI コマンドを追加 (Add MIDI Command)**: 選択した機能に、変更または入力した MIDI コントローラーや MIDI ノートを割り当てます。
- **MIDI コマンドを削除 (Remove MIDI Command)**: 選択した機能から、MIDI コマンドを削除します。

## 5 「ジャンプ小節のエイリアス (Jump Bar Alias)」セクション

ジャンプ小節に入力して対応する機能を実行できるエイリアスを割り当てることができます。

- **エイリアスフィールド**: 選択した機能のジャンプ小節のエイリアスを入力できます。
- **エイリアスを追加 (Add Alias)**: 選択した機能のジャンプ小節のエイリアスとして入力した文字を追加します。
- **エイリアスを削除 (Remove Alias)**: 選択した機能から既存のジャンプ小節のエイリアスを削除します。

関連リンク

[Dorico のキーボードショートカット \(29 ページ\)](#)

[キーボードショートカットの割り当て \(68 ページ\)](#)

[MIDI コマンドの割り当て \(69 ページ\)](#)

[カスタムズームレベルにキーボードショートカットを割り当てる \(484 ページ\)](#)

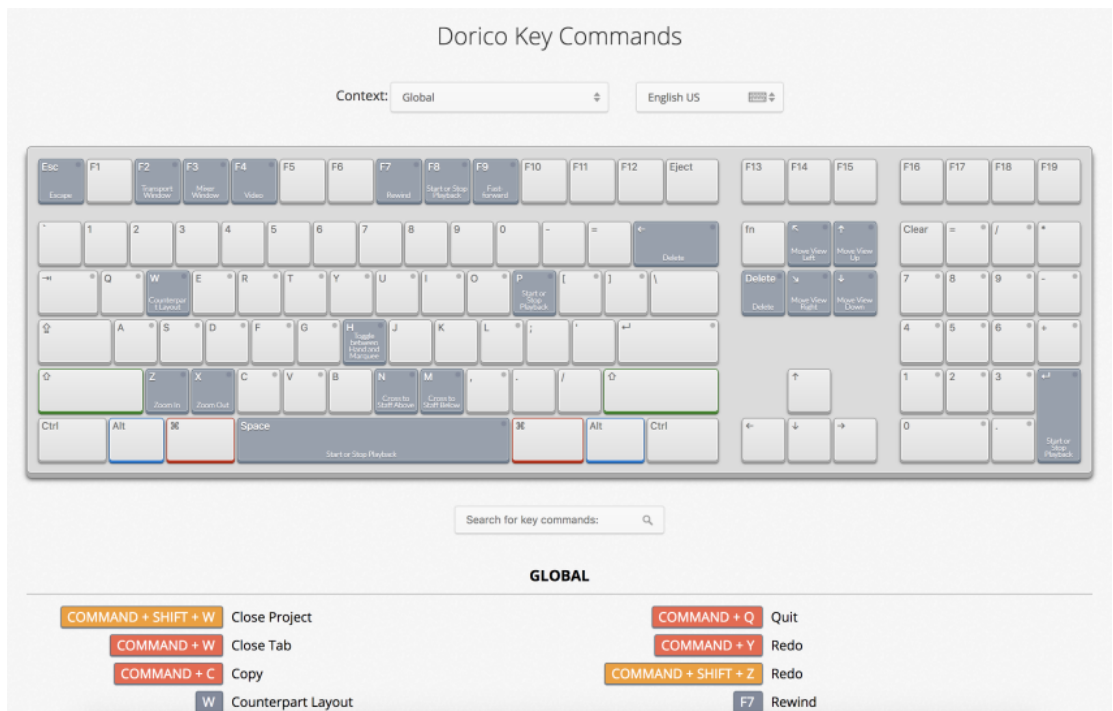
[ジャンプ小節 \(70 ページ\)](#)

## インタラクティブ「Dorico キーボードショートカット (Dorico Key Commands)」マップ

インタラクティブ「Dorico キーボードショートカット (Dorico Key Commands)」マップにはコンピューターのバーチャルキーボードが表示されます。キーボードショートカットが割り当てられたキーは強調表示され、使用している修飾キーによって異なる色が付いています。バーチャルキーボードの下に、選択したキーボード言語のすべてのキーボードショートカットが、全般とモード固有のグループに分かれてリストで表示されます。

「Dorico キーボードショートカット (Dorico Key Commands)」マップを開くには、以下のいずれかの操作を行ないます。

- 「ヘルプ (Help)」 > 「キーボードショートカット (Key Commands)」を選択します。
- 「環境設定 (Preferences)」ダイアログで、カテゴリーリストの「キーボードショートカット (Key Commands)」をクリックしてから、「キーボードショートカット (Key Commands)」セクションの「概要を印刷 (Print Summary)」をクリックします。



「英語 (English US)」を選択時のインタラクティブキーボードショートカットマップ

「Dorico のキーボードショートカット (Dorico Key Commands)」マップが Web ブラウザーで開きます。以下のいずれかの操作を行なえます。

- 使用可能なキーボードショートカットを確認するには、コンテキストを選択します。キーボードショートカットのコンテキストとは、そのキーボードショートカットを使用できるモードのことを指します。「全般 (Global)」のコンテキストに属するキーボードショートカットは、すべてのモードで使用できます。
- 修飾キーと組み合わせてキーボードショートカットとして使用できるキーを強調表示するには、**[Shift]** や **[Ctrl]/[command]+[Alt/Opt]** など、お使いのキーボードの修飾キーを押すか、バーチャルキーボードの修飾キーをクリックします。押したキーまたはクリックしたキーがバーチャルキーボードで強調表示され、各キーに割り当てられた機能が表示されます。
- 特定のキーボードショートカットを検索するには、検索フィールドに 1 つ以上の単語を入力します。
- 使用できるキーボードショートカットの概要を確認するには、バーチャルキーボードの下にリスト表示されたショートカットを確認します。キーボードショートカットはそのショートカットを使用できるコンテキストごとにリスト表示されます。

関連リンク

[キーボード言語の変更 \(69 ページ\)](#)

## 各機能のキーボードショートカットの検索

Dorico Pro で機能またはメニュー項目に割り当てられているキーボードショートカットを検索できます。

手順

1. **[Ctrl]/[command]+[,]** を押して「環境設定 (Preferences)」を開きます。
2. カテゴリーリストの「キーボードショートカット (Key Commands)」をクリックします。
3. 「検索 (Search)」フィールドに、機能の名称を入力します。

入力した内容に応じてフィルタリングされたエントリーが、検索フィールドの下にリスト表示されます。

4. エントリーを展開して、キーボードショートカットを確認する機能を選択します。  
名前が特に長い場合は、マウスを合わせることでツールヒントを表示できます。

---

#### 結果

機能に対してキーボードショートカットが設定されている場合、割り当て済みのキーボードショートカットのリストにキーボードショートカットが表示されます。

#### ヒント

インタラクティブキーボードショートカットマップでも機能のキーボードショートカットを検索できます。

---

## キーボードショートカットの割り当て

たとえば、頻繁に使用するのに、キーボードショートカットがデフォルトで割り当てられていない機能など、多くの機能にキーボードショートカットを割り当てることができます。既存のキーボードショートカットの変更もできます。

---

#### 手順

1. **[Ctrl]/[command]+[,]** を押して「環境設定 (Preferences)」を開きます。
2. カテゴリーリストの「キーボードショートカット (Key Commands)」をクリックします。
3. 機能の名称を検索して選択します。  
名前が特に長い場合は、マウスを合わせることでツールヒントを表示できます。
4. その機能にすでにキーボードショートカットが割り当てられている場合は、「キーボードショートカット (Key Commands)」セクションの「キーボードショートカットを削除 (Remove Key Command)」をクリックします。  
既存のキーボードショートカットを削除せずに新しいショートカットを割り当てると、既存のショートカットと新しいショートカットの両方を使用できます。
5. 「ショートカットを押してください (Press shortcut)」入力フィールドをクリックします。
6. コンピューターキーボードで、割り当てるキーボードショートカットを押します。
7. 「キーボードショートカットを追加 (Add Key Command)」をクリックします。  
押したキーボードショートカットが別の機能にすでに使われている場合は、警告が表示されます。
8. 「適用 (Apply)」をクリックしてから「閉じる (Close)」をクリックします。

---

#### 結果

入力したキーボードショートカットが、選択したメニュー項目または機能に割り当てられたキーボードショートカットのリストに追加されます。割り当てたキーボードショートカットはすぐに使用できます。

#### 関連リンク

[カスタムズームレベルにキーボードショートカットを割り当てる \(484 ページ\)](#)

## MIDI コマンドの割り当て

MIDI キーボードの特定のキーやボタンを、機能の実行やメニュー項目へのアクセスに割り当てることができます。たとえば、コード記号の入力時に MIDI キーで操作できるようになります。

---

### 手順

1. **[Ctrl]/[command]+[,]** を押して「**環境設定 (Preferences)**」を開きます。
  2. カテゴリーリストの「**キーボードショートカット (Key Commands)**」をクリックします。
  3. MIDI コマンドを割り当てるメニュー項目または機能を選択します。  
名前が特に長い場合は、マウスを合わせることでツールヒントを表示できます。
  4. 「**MIDI Learn**」セクションで、「**MIDI Learn**」 をクリックします。
  5. 選択したパラメーターに割り当てる MIDI キーボードのキーまたはボタンを押します。
  6. 「**MIDI コマンドを追加 (Add MIDI Command)**」をクリックします。
  7. 「**適用 (Apply)**」をクリックしてから「**閉じる (Close)**」をクリックします。
- 

## キーボード言語の変更

たとえばアプリケーションの言語がドイツ語に設定されているものの、英語配列のキーボードを使用しているため、英語のキーボードショートカットを使用したい場合などには、キーボードショートカットに使用するキーボード言語を変更できます。

---

### 手順

1. **[Ctrl]/[command]+[,]** を押して「**環境設定 (Preferences)**」を開きます。
2. カテゴリーリストの「**キーボードショートカット (Key Commands)**」をクリックします。
3. キーボードショートカットに使用するキーボード言語を「**キーボード言語 (Keyboard language)**」メニューから選択します。

### 補足

「**デフォルト (Default)**」の場合は、アプリケーション言語に従います。

---

4. 「**適用 (Apply)**」をクリックしてから「**閉じる (Close)**」をクリックします。
- 

### 結果

現在のプロジェクトおよびそれ以降に作成するすべてのプロジェクトのキーボードショートカットで使用するキーボード言語が変更されます。

### 関連リンク

[アプリケーション言語の変更 \(61 ページ\)](#)

## キーボードショートカットの削除

機能のキーボードショートカットは個別に削除できます。

---

### 手順

1. **[Ctrl]/[command]+[,]** を押して「**環境設定 (Preferences)**」を開きます。
2. カテゴリーリストの「**キーボードショートカット (Key Commands)**」をクリックします。
3. 機能の名称を検索して選択します。

4. 「**キーボードショートカット (Key Commands)**」セクションで、「**キーボードショートカットを削除 (Remove Key Command)**」をクリックします。
  5. 「**適用 (Apply)**」をクリックしてから「**閉じる (Close)**」をクリックします。
- 

#### 結果

選択した機能からキーボードショートカットが削除されます。

#### 関連リンク

[ジャンプ小節のエイリアスを削除する \(74 ページ\)](#)

## キーボードショートカットのリセット

プロジェクト内のすべてのキーボードショートカットをデフォルトにリセットできます。

---

#### 手順

1. **[Ctrl]/[command]+[,]** を押して「**環境設定 (Preferences)**」を開きます。
  2. カテゴリリストの「**キーボードショートカット (Key Commands)**」をクリックします。
  3. 「**キーボードショートカット (Key Commands)**」セクションで、「**キーボードショートカットをリセット (Reset Key Commands)**」をクリックします。
  4. 「**適用 (Apply)**」をクリックしてから「**閉じる (Close)**」をクリックします。
- 

#### 結果

すべてのカスタムのキーボードショートカットが削除され、デフォルトのキーボードショートカットに戻ります。

## ジャンプ小節

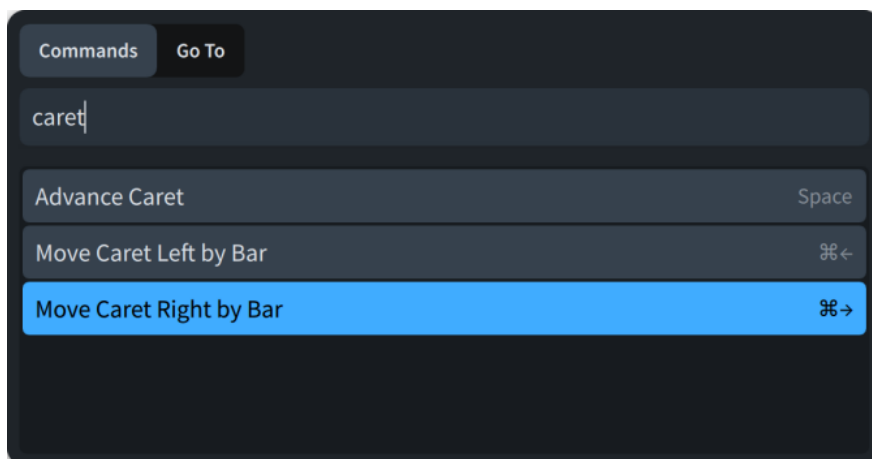
ジャンプ小節とは、コンピューターのキーボードのみを使用してコマンドを実行したり、現在のレイアウト内の任意の場所に移動したりできる一時的な値フィールドです。

- ジャンプ小節を表示するには、設定モード、記譜モード、浄書モード、再生モードで **[J]** を押します。

#### ヒント

「**環境設定 (Preferences)**」の「**キーボードショートカット (Key Commands)**」ページで、「**コマンド (Commands)**」モードと「**移動 (Go To)**」モードでジャンプ小節を表示するキーボードショートカットを割り当てることができます。

---



エントリーの例が入力された「コマンド (Commands)」モードのジャンプ小節

## コマンド (Commands)

「コマンド (Commands)」モードでは、特定のページを選択した状態で「レイアウトオプション (Layout Options)」ダイアログを開くなど、ジャンプ小節を使用して各コマンドを実行できます。

- **[Alt]+[C] (Windows) 又は [Ctrl]+[1] (macOS)** を押すと、ジャンプ小節を「コマンド (Commands)」モードに切り替えることができます。

「コマンド (Commands)」モードのジャンプ小節にテキストを入力しはじめると、入力した文字や単語が含まれる有効なコマンドがメニューに予測表示されます。

コマンドを実行したあとにジャンプ小節を表示すると、テキストが選択された状態で前のエントリーが表示されます。

**[↓]** を押すと、最も頻繁に実行するコマンドが最大5つ表示されます。

### 補足

- ジャンプ小節を使用してコマンドを実行できるのは、対応するアクションを実行できる状況に限られます。たとえば、設定モード固有のアクションを実行できるのは設定モードのみです。
- 特定のコマンドにジャンプ小節のエイリアスを割り当てることができます。これにより、お気に入りのコマンドに短いエントリーを使用できます。
- コマンドに対応するキーボードショートカットまたはジャンプ小節のエイリアスがある場合は、有効なコマンドのメニューに表示されます。

## 移動 (Go To)

「移動 (Go To)」モードでは、ジャンプ小節を使用して、小節、リハーサルマーク、ページ、フローに移動できます。

- **[Alt]+[G] (Windows) 又は [Ctrl]+[2] (macOS)** を押すと、ジャンプ小節を「移動 (Go To)」モードに切り替えることができます。

### 移動の例

小節番号 [n] に移動 (例: 小節番号 32)

リハーサルマーク [n] に移動 (例: リハーサルマーク K)

### ジャンプ小節のエントリー

「b[n]」 (例: 「b32」、「b+32」)

「r[n]」 (例: 「rK」、「rk」)

移動の例	ジャンプ小節のエントリー
ページ番号 [n] に移動 (例: ページ番号 6)	「p[n]」 (例: 「p6」、「p+6」)
フロー番号 [n] に移動 (例: ページ番号 3)	「f[n]」 (例: 「f3」、「f+3」)
次のフローに移動	fn
前のフローに移動	fp

---

例

フロー 3 の 20 小節めに移動するには、「f3b20」と入力します。

---

#### 関連リンク

[ナビゲーション](#) (479 ページ)

[「環境設定 \(Preferences\)」ダイアログの「キーボードショートカット \(Key Commands\)」ページ](#) (64 ページ)

[プロパティパネル](#) (826 ページ)

[ポップオーバー](#) (25 ページ)

[記譜記号の入力](#) (298 ページ)

[Dorico Pro のオプションダイアログ](#) (30 ページ)

## ジャンプ小節を使用して任意の場所に移動する

設定モード、記譜モード、浄書モード、再生モードで、ジャンプ小節を使用して、小節、リハーサルマーク、ページ、フローに移動できます。

#### 手順

1. **[J]** を押してジャンプ小節を表示します。
  2. 必要に応じて、**[Alt]+[G] (Windows)** 又は **[Ctrl]+[2] (macOS)** を押して「移動 (Go To)」モードに切り替えます。
  3. 移動する場所に応じたエントリーを入力します。  
たとえば、フロー 3 の 20 小節めに移動するには「f3b20」と入力します。
  4. **[Return]** を押します。
- 

## ジャンプ小節を使用してコマンドを実行する

設定モード、記譜モード、浄書モード、再生モードで、特定のページを選択した状態で「レイアウトオプション (Layout Options)」ダイアログを開くなど、ジャンプ小節を使用して各コマンドを実行できます。

#### 前提条件

モード固有のコマンドを実行する場合は、そのモードを開いておきます。

#### 手順

1. **[J]** を押してジャンプ小節を表示します。
2. 必要に応じて、**[Alt]+[C] (Windows)** 又は **[Ctrl]+[1] (macOS)** を押して「コマンド (Commands)」モードに切り替えます。



- 以下のいずれかの操作を行なって、実行するコマンドを選択します。
    - 関連するテキストをジャンプ小節に入力します。  
「コマンド (Commands)」モードのジャンプ小節にテキストを入力しはじめると、入力した文字や単語が含まれる有効なコマンドがメニューに予測表示され、**[↑]/[↓]** を押して選択できます。
    - 使用するジャンプ小節のエイリアスをジャンプ小節に入力します。
    - 最も頻繁に実行する最大5つのコマンドを表示するには、**[↓]** を押し、次に **[↑]/[↓]** を押してコマンドを選択します。
  - [Return]** を押します。
- 

## ジャンプ小節のエイリアスを割り当てる

特定のコマンドにジャンプ小節のエイリアスを割り当てることができます。これにより、お気に入りのコマンドに短いエントリーを使用できます。

---

### 手順

- [J]** を押してジャンプ小節を表示します。
- 必要に応じて、**[Alt]+[C] (Windows)** 又は **[Ctrl]+[1] (macOS)** を押して「コマンド (Commands)」モードに切り替えます。
- エイリアスを割り当てるコマンドをジャンプ小節に入力します。

### ヒント

コマンドを正しく入力するために、**[↑]/[↓]** を押して有効なコマンドのメニューからコマンドを選択します。

---

- コマンドの直後に「=」と入力し、そのあとにジャンプ小節のエイリアスとして使用する文字を続けます。  
たとえば、「**休符を削除 (Remove Rests)**」コマンドにジャンプ小節のエイリアス「rr」を割り当てるには、「**Remove Rests=rr**」と入力します。
  - 以下のいずれかの操作を行ないます。
    - コマンドを実行してジャンプ小節のエイリアスを割り当てるには、**[Return]** を押します。
    - コマンドを実行せずにジャンプ小節のエイリアスのみ割り当てるには、**[Alt/Opt]+[Return]** を押します。
- 

### 結果

「=」のあとに入力した文字が、特定のコマンドのジャンプ小節のエイリアスとして割り当てられます。

### ヒント

ジャンプ小節のエイリアスは、「**環境設定 (Preferences)**」の「**キーボードショートカット (Key Commands)**」ページで割り当てることもできます。

---

### 関連リンク

[「環境設定 \(Preferences\)」ダイアログの「キーボードショートカット \(Key Commands\)」ページ \(64 ページ\)](#)

## ジャンプ小節のエイリアスを削除する

特定のコマンドに割り当てたジャンプ小節のエイリアスを削除できます。

---

### 手順

1. **[Ctrl]/[command]+[,]** を押して「**環境設定 (Preferences)**」を開きます。
  2. カテゴリーリストの「**キーボードショートカット (Key Commands)**」をクリックします。
  3. 機能の名称を検索して選択します。
  4. 「**ジャンプ小節のエイリアス (Jump Bar Alias)**」セクションで、「**エイリアスを削除 (Remove Alias)**」をクリックします。
  5. 「**適用 (Apply)**」をクリックしてから「**閉じる (Close)**」をクリックします。
- 

### 結果

選択した機能からジャンプ小節のエイリアスが削除されます。

# プロジェクトとファイルの処理方法

プロジェクトとファイルの処理方法には、プロジェクトおよびその他の形式のファイルを開いて読み込み/書き出しを行なう他に、自動保存とプロジェクトのバックアップも含まれます。

関連リンク

[「プロジェクト情報 \(Project Info\)」 ダイアログ \(81 ページ\)](#)

[ファイルの読み込みと書き出し \(86 ページ\)](#)

[自動保存 \(114 ページ\)](#)

[プロジェクトのバックアップ \(116 ページ\)](#)

[プロジェクトテンプレート \(84 ページ\)](#)

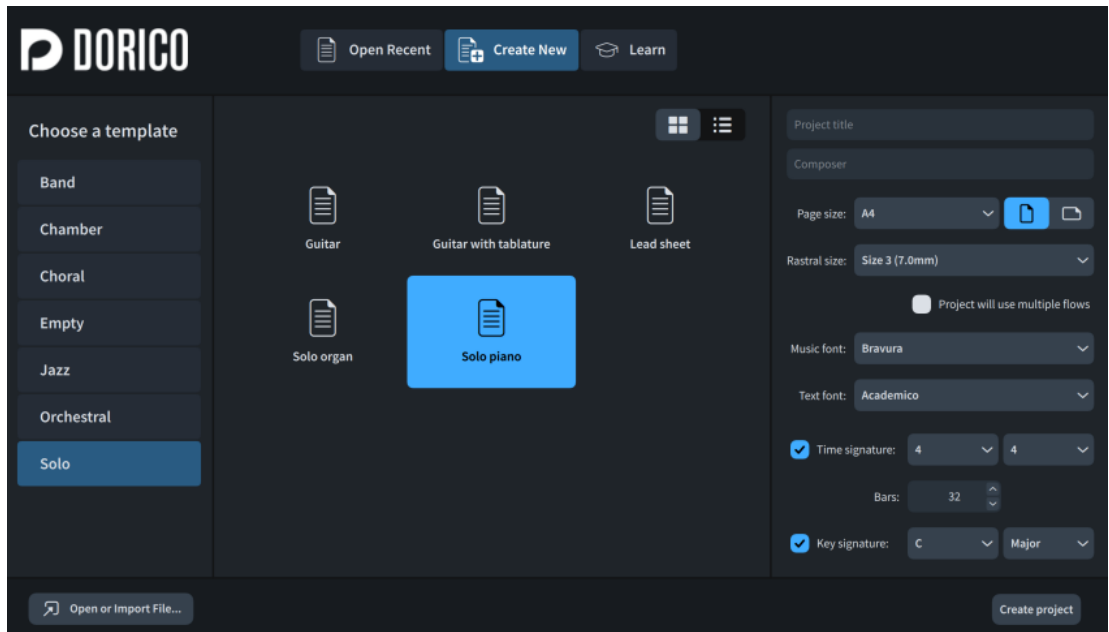
[「プロジェクトの解析 \(Project Statistics\)」 ダイアログ \(117 ページ\)](#)

[ライブラリーマネージャー \(913 ページ\)](#)

## Hub

Hub では、最近使用したプロジェクトを開いたり、新規プロジェクトを開始したりできるほか、チュートリアル、ビデオ、ブログ記事といった最新の学習素材を入手することもできます。Hub は Dorico Pro を起動すると自動的に開きます。

- Hub は「**ウィンドウ (Window)**」 > 「**Hub**」を選択して開くこともできます。





Hub には以下のページがあります。


### 最近使用したファイルを開く (Open Recent)

最近使用したプロジェクトに素早くアクセスできます。リストをスクロールすると、表示されていない最近使用したプロジェクトにアクセスできます。[↑]/[↓] を押すと、最近使用したプロジェクトを順に切り替えることができます。

最近使用したプロジェクトをダブルクリックするか、選択して **[Return]** を押すとそのプロジェクトが開きます。

最近使用したプロジェクトのビュータイプを以下のいずれかから選択できます。

- **グリッドビュー** 
- **リストビュー** 

最近使用したプロジェクトをグリッドビューで表示した場合、各プロジェクトのメニューボタン  をクリックすると、以下のオプションにアクセスできます。



- **最近使用したプロジェクトから削除 (Remove from Recent Projects):** 「最近使用したプロジェクト (Recent Projects)」ページからプロジェクトを削除します。
- **ファイルを収めたフォルダーを開く (Open Enclosing Folder):** エクスプローラー (Windows) または Finder (Mac) を開き、プロジェクトが保存されている場所のフォルダーを表示します。


### 新規作成 (Create New)

プロジェクトテンプレートから新規プロジェクトを開始したり、空白のプロジェクトを選択したりできます。



左側の「**テンプレートを選択 (Choose a template)**」リストでは、プロジェクトテンプレートのカテゴリを選択でき、選択したカテゴリの使用できるプロジェクトテンプレートが中央にリスト表示されます。「**空白 (Empty)**」のプロジェクトテンプレートを選択すると、プレーヤーやフローが設定されていないプロジェクトが作成されます。

プロジェクトテンプレートのビュータイプを以下のいずれかから選択できます。

- **グリッドビュー** 
- **リストビュー** 

各カスタムプロジェクトテンプレートのメニューボタン  をクリックするとそのテンプレートを削除できます。

右側のプロジェクトオプションセクションには以下のオプションがあります。

- **プロジェクトのタイトル (Project title):** プロジェクトのタイトルを入力できます。
- **作曲家 (Composer):** プロジェクトの作曲者を入力できます。
- **ページサイズ (Page size):** フルスコアレイアウトのページサイズを選択できます。ユーザーライブラリーに保存したカスタムページサイズを使用できます。
- **ページの向き:** フルスコアレイアウトのページの向きを「**縦 (Portrait)**」  と「**横 (Landscape)**」  から選択できます。
- **五線のサイズ (Rastral size):** フルスコアレイアウトの譜表サイズを選択できます。
- **プロジェクトに複数のフローを使用 (Project will use multiple flows):** オンにすると、すべてのレイアウトにフロー見出しが表示され、スコアレイアウトの欄外見出しにフロータイトルが表示されます。オフにすると、すべてのレイアウトのフロー見出しが非表示になり、スコアレイアウトの欄外見出しにプロジェクトタイトルが表示されます。
- **音楽フォント (Music font):** プロジェクトで使用する音楽フォントを選択できます。
- **テキストフォント (Text font):** プロジェクト全体でデフォルトとして使用するフォントファミリーを選択できます。
- **拍子記号 (Time signature):** プロジェクトの拍子記号を指定できます。オフにすると、プロジェクトは拍子記号がない状態で開始し、自由拍子として扱われます。
- **小節 (Bars):** プロジェクトに含める小節の数を設定できます。
- **調号 (Key signature):** プロジェクトの調号を指定できます。オフにすると、プロジェクトは調号がない状態で開始し、無調として扱われます。

Hub の一番下にある「**プロジェクトを作成 (Create project)**」を選択すると、選択したプロジェクトテンプレートとプロジェクトオプションを使用して新規プロジェクトが作成されます。プロジェクトテンプレートをダブルクリックして新規プロジェクトを開始することもできます。

## 学習 (Learn)

学習素材にアクセスできます。新しい素材を使用できるようになると通知が表示されます。

- **実践型チュートリアル (Hands-on tutorials):** Dorico のデモプロジェクトで一般的な操作を直接学ぶことができる実践的なチュートリアルが表示されます。
- **ビデオ (Videos):** 最新の Dorico のビデオチュートリアルが表示されます。ビデオチュートリアルをダブルクリックするか、選択して「**今すぐ見る (Watch Now)**」をクリックすると、ビデオが Web ブラウザーで表示されます。  
YouTube の Dorico チャンネルでは、さらに多くのチュートリアルビデオや新機能に関する情報をご覧いただけます。
- **フォーラム (Forum):** Steinberg のユーザーフォーラムのページを表示します。
- **マニュアル (Manual):** ドキュメントのページを表示します。
- **Dorico ブログ (Dorico Blog):** Dorico ブログの最新の記事を表示します。ブログ記事をクリックすると Web ブラウザーで表示されます。

Hub の一番下にある「**ファイルを開く/読み込む (Open or Import File)**」を選択すると、MusicXML ファイル、MIDI ファイル、Dorico プロジェクトファイルを検索して開くことができます。

### 関連リンク

[ツールバー \(33 ページ\)](#)

[プロジェクトテンプレート \(84 ページ\)](#)

[「プロジェクト情報 \(Project Info\)」ダイアログ \(81 ページ\)](#)

[譜表サイズ \(772 ページ\)](#)

[カスタムページサイズ \(1017 ページ\)](#)

## 新規プロジェクトの開始

オーケストラや声楽アンサンブルなどのプロジェクトテンプレートから新しいプロジェクトを開始できます。空白のプロジェクトを開始することもできます。

---

### 手順

1. 必要に応じて、Hub が開いていない場合は、「**ウィンドウ (Window)**」 > 「**Hub**」を選択して Hub を開きます。
2. Hub で「**新規作成 (Create New)**」をクリックして「**新規作成 (Create New)**」ページを表示させます。
3. プロジェクトテンプレートカテゴリーを選択します。  
初期設定では、以下のプロジェクトテンプレートカテゴリーが用意されています。
  - **バンド (Band)**
  - **室内楽 (Chamber)**
  - **合唱 (Choral)**
  - **空白 (Empty)**
  - **ジャズ (Jazz)**
  - **オーケストラ (Orchestral)**
  - **ソロ (Solo)**
4. プロジェクトテンプレートを選択します。
5. プロジェクトオプションのセクションで、必要に応じて情報や設定を追加または変更します。

#### 補足

プロジェクトオプションのセクションは、「空白 (Empty)」のプロジェクトテンプレートには影響を及ぼしません。

- 以下のいずれかの操作を行なって、プロジェクトを新規作成します。
  - 「プロジェクトを作成 (Create project)」をクリックします。
  - プロジェクトテンプレートをダブルクリックします。

#### 結果

選択したプロジェクトテンプレートを使用して新規プロジェクトが作成されます。

#### ヒント

- [Ctrl]/[command]+[N]** を押すか「ファイル (File)」 > 「新規 (New)」を選択することで、新規の空白プロジェクトをいつでも開始できます。
- 「ファイル (File)」 > 「プロジェクトテンプレートから新規作成 (New From Project Template)」 > [プロジェクトテンプレートカテゴリー] > [プロジェクトテンプレート] を選択して、プロジェクトテンプレートから新規プロジェクトを開始することもできます。

#### 手順終了後の項目

プレーヤー/インストゥルメントの追加や削除によってプロジェクトをカスタマイズできます。

#### 関連リンク

- [プロジェクトテンプレート \(84 ページ\)](#)
- [アンサンブルタイプによる大括弧でのグループ化 \(1143 ページ\)](#)
- [プレーヤーの追加 \(136 ページ\)](#)
- [プレーヤーの削除 \(140 ページ\)](#)
- [タイトルの追加 \(1318 ページ\)](#)
- [ライブラリーマネージャー \(913 ページ\)](#)

## プロジェクト/ファイルを開く

Dorico プロジェクトは、すでに開いているプロジェクトに追加して、いつでも開くことができます。たとえば、開きたいプロジェクトが、Hub の最近使用したプロジェクトのリストに表示されていない場合でも開くことができます。MusicXML および MIDI ファイルを開くこともできます。

#### 手順

- 以下のいずれかの操作を行なって、エクスプローラー (Windows) または Finder (Mac) を開きます。
  - Hub で、「ファイルを開く/読み込む (Open or Import File)」をクリックします。
  - 「ファイル (File)」 > 「開く (Open)」を選択します。
  - 「ファイル (File)」 > 「最近使用したプロジェクト (Open Recent)」 > [プロジェクトファイル名] を選択します。
- 開くファイルを探して選択します。
- 「開く (Open)」をクリックします。
- MIDI ファイルを開いた場合は、表示される「MIDI インポートオプション (MIDI Import Options)」ダイアログで必要に応じて設定を変更します。

#### 結果

選択したファイルが開きます。

MusicXML や MIDI ファイルを開くと、MusicXML や MIDI の内容をもとにして Dorico Pro の新規プロジェクトファイルが作成されます。このファイルを Dorico のデフォルトのプロジェクトとして保存できます。

MusicXML ファイルにページサイズ、余白、および譜表サイズの設定が含まれる場合、Dorico Pro はこれらの値を読み込みます。これらの値が含まれない場合は、ファイル内のインストゥルメント数に応じて Dorico Pro が適切な設定を作成します。

#### ヒント

- MusicXML や MIDI ファイルを別のプロジェクトとして開くのではなく、既存のプロジェクトに新しいフローとして読み込むこともできます。
- 最近使用したファイルのフルパスをメニューに表示するかどうかは、「**環境設定 (Preferences)**」 > 「**全般 (General)**」 > 「**ファイル (Files)**」 で設定できます。

#### 関連リンク

[Hub \(75 ページ\)](#)

[「環境設定 \(Preferences\)」 ダイアログ \(63 ページ\)](#)

[MusicXML ファイルの読み込み \(91 ページ\)](#)

[MIDI の読み込み \(94 ページ\)](#)

[「MIDI インポートオプション \(MIDI Import Options\)」 ダイアログ \(95 ページ\)](#)

## Hub から最近使用したプロジェクトを開く

最近使用したプロジェクトを Hub から開くことができます。

#### 手順

1. 必要に応じて、Hub が開いていない場合は、「**ウィンドウ (Window)**」 > 「**Hub**」を選択して Hub を開きます。
2. Hub で「**最近使用したファイルを開く (Open Recent)**」をクリックして「**最近使用したファイルを開く (Open Recent)**」ページを表示させます。
3. 最近使用したファイルの中から開くものをダブルクリックします。

#### 結果

選択した Dorico プロジェクトが開きます。

## 異なるバージョンの Dorico のプロジェクト

現在とは異なるバージョンの Dorico で保存したプロジェクトを開くことができます。その場合には、行なわれる動作についての警告メッセージが表示されます。

警告メッセージの内容は、開こうとしているプロジェクトがどのバージョンの Dorico で保存されているかによって異なります。

- 旧バージョンで保存されたプロジェクトを開く場合は、保存されている旧バージョン番号、およびプロジェクトが現在のバージョンに更新される旨のメッセージが表示されます。
- 現在よりも新しいバージョンで保存されたプロジェクトを開く場合は、プロジェクトがより新しいバージョンで作成されている旨のメッセージが表示されます。また、新しいバージョンのアイテムと記譜記号が表示されない可能性や、プロジェクトを現在のバージョンで保存するとアイテムと記譜記号が削除される可能性があることも表示されます。

上記のどちらの場合でも、プロジェクトを開くことでデータは破損しません。つまり、保存をしなければ内容や形式は影響を受けません。

「環境設定 (Preferences)」 > 「全般 (General)」 > 「ファイル (Files)」で、異なるバージョンのプロジェクトを開く際に表示される警告をオフにできます。同じセクションで、異なるバージョンのプロジェクトは新しい場所に保存することを促すように設定できます。これにより、誤ってプロジェクトを上書きするリスクを低減します。

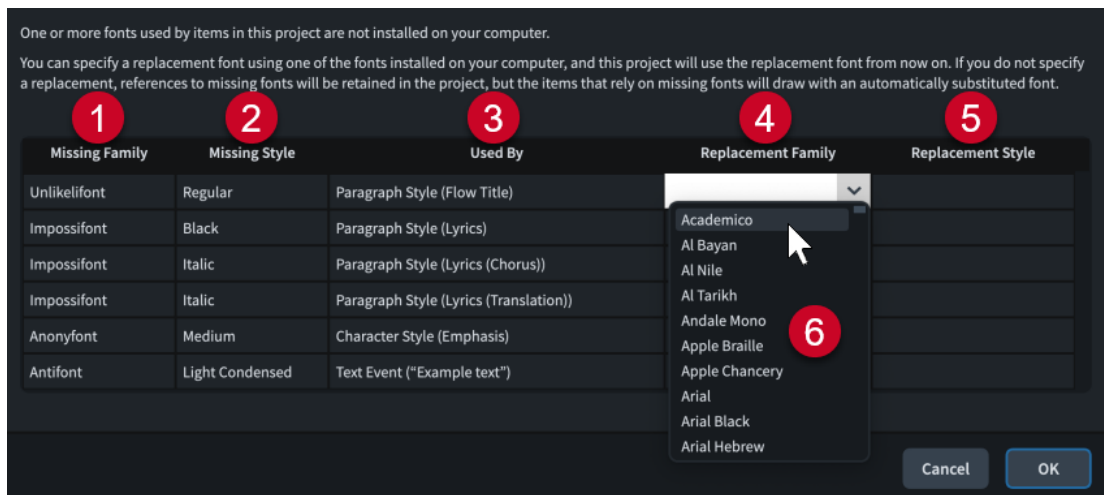
関連リンク

[「環境設定 \(Preferences\)」ダイアログ \(63 ページ\)](#)

## 「存在しないフォント (Missing Fonts)」ダイアログ

「存在しないフォント (Missing Fonts)」ダイアログは、コンピューターにインストールされていないフォントを含むプロジェクトを開くと表示されます。このダイアログでは、コンピューターにインストールされている置換フォントを代替フォントとして選択できます。

「存在しないフォント (Missing Fonts)」ダイアログには、複数の列を含む表が表示されます。これらの列では、フォントスタイル、文字スタイル、パラグラフスタイル、およびテキストアイテムについて、存在しない特定のフォントファミリーとスタイルを確認できます。プロジェクト内でフォントが存在しない場所について、それぞれ個別の行が表示されます。たとえば、あるフォントファミリーの太字スタイルが3つの異なるパラグラフスタイルで使用されている場合、ダイアログにはそれぞれのパラグラフスタイルに対して1行ずつ、合計3行が表示されます。



「存在しないフォント (Missing Fonts)」ダイアログは以下で構成されます。

### 1 存在しないファミリー (Missing Family)

プロジェクトには含まれているものの、コンピューター上には存在しないフォントファミリーのリストが表示されます。


### 2 存在しないスタイル (Missing Style)

プロジェクトには含まれているものの、コンピューター上には存在しない、該当するフォントファミリー内の特定のスタイルのリストが表示されます。

### 3 使用箇所 (Used By)

該当するフォントが使用されているプロジェクト内の場所のリストが表示されます。


### 4 代替ファミリー (Replacement Family)

代替のフォントファミリーを選択できます。代替のフォントファミリーを選択するには、エントリをダブルクリックして、使用するフォントファミリーを入力するか、矢印  をクリックしてメ



ニューからフォントファミリーを選択します。選択すると、そのエントリーにフォントファミリーの名前が表示されます。

#### 5 代替スタイル (Replacement Style)

その代替フォントファミリー内の使用できるスタイルを選択できます。代替のフォントスタイルを選択するには、エントリーをダブルクリックして、使用するフォントスタイルを入力するか、矢印  をクリックしてメニューからフォントスタイルを選択します。選択すると、そのエントリーにスタイルが表示されます。

#### 6 フォント

コンピューターにインストールされているすべてのフォントのリストが表示されます。「代替ファミリー (Replacement Family)」列と「代替スタイル (Replacement Style)」列でエントリーをダブルクリックするとこのメニューが表示されます。

#### ヒント

- コンピューターにインストールされていないフォントを含むプロジェクトを開いたときに「存在しないフォント (Missing Fonts)」ダイアログを表示するかどうかは、「環境設定 (Preferences)」の「全般 (General)」ページで選択できます。
- 列見出しの間をドラッグすることで、「存在しないフォント (Missing Fonts)」ダイアログの列の幅を変更できます。変更した幅は、それ以降のプロジェクトでも保持されます。

#### 関連リンク

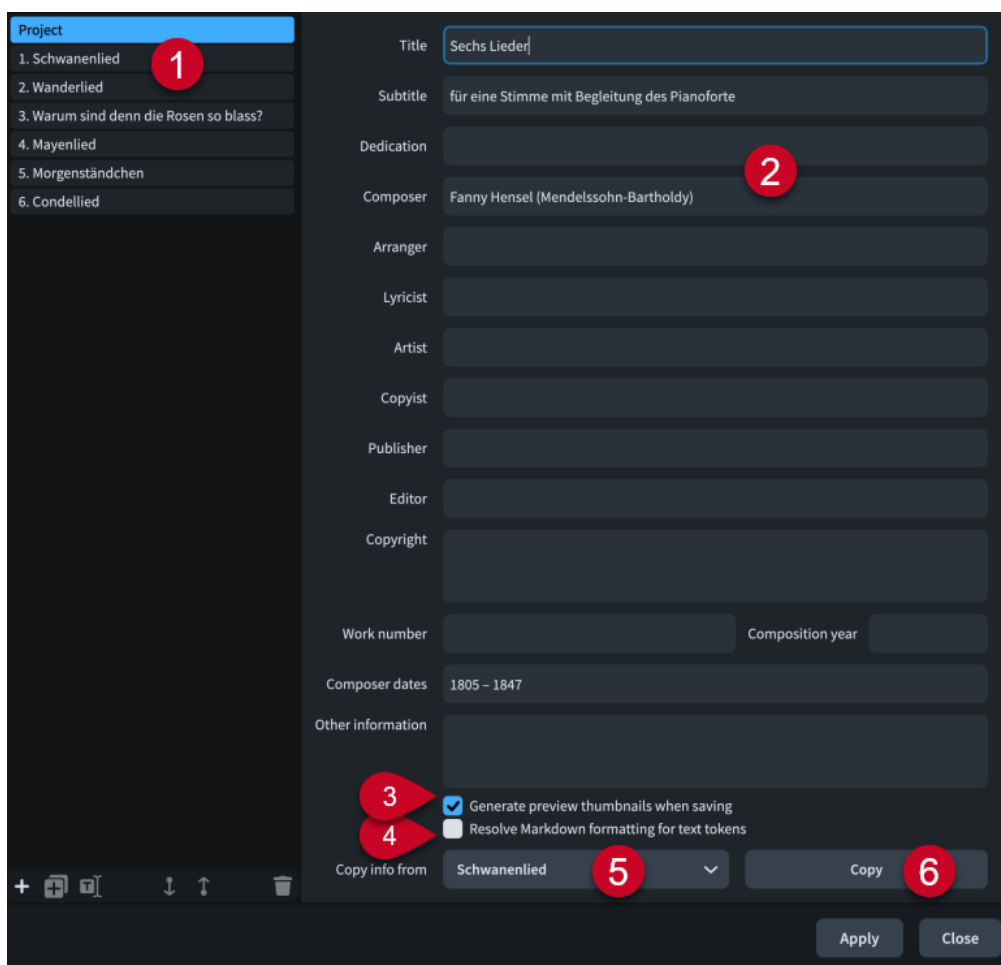
- [「環境設定 \(Preferences\)」ダイアログ \(63 ページ\)](#)
- [「フォントスタイルを編集 \(Edit Font Styles\)」ダイアログ \(930 ページ\)](#)
- [「文字スタイル \(Character Styles\)」ダイアログ \(935 ページ\)](#)
- [「パラグラフスタイル \(Paragraph Styles\)」ダイアログ \(932 ページ\)](#)
- [記譜モードのテキストエディターオプション \(421 ページ\)](#)
- [浄書モードのテキストエディターオプション \(625 ページ\)](#)

## 「プロジェクト情報 (Project Info)」ダイアログ

「プロジェクト情報 (Project Info)」ダイアログでは、タイトル、作曲者、作詞者といった、プロジェクト全体に関する情報と、そのプロジェクト内の各フローに関する情報を個別に指定できます。これは、これらの情報がフローごとに異なる可能性があるためです。そのあと、テキストフレーム内のトークンを使用してこれらのエントリーを参照できます。

「プロジェクト情報 (Project Info)」ダイアログは、どのモードからでも、以下のいずれかの操作を行なって開くことができます。

- **[Ctrl]/[command]+[I]** を押します。
- 「ファイル (File)」 > 「プロジェクト情報 (Project Info)」を選択します。



「プロジェクト情報 (Project Info)」 ダイアログは以下で構成されます。




## 1 フローリスト

プロジェクト内のすべてのフローが含まれています。プロジェクト全体の情報は、一番上に個別のエントリーとして表示されます。フローリストでは、個々のフローまたは複数のフローを選択できます。

### 補足




フローリストでは、設定モードの「**フロー (Flows)**」パネルに表示されるフロー名が使用されますが、フロータイトルを変更した場合はフロー名が「**タイトル (Title)**」フィールドのエントリーと異なる場合があります。

リストの最下部のアクションバーには以下のオプションがあります。

- **新規フロー (New Flow)** : 情報のない新規フローを作成します。デフォルト名は「**新規フロー (New Flow)**」です。
- **フローを複製 (Duplicate Flow)** : 選択したフローの情報がすべて含まれた新規フローを作成します。デフォルト名は「**コピー元 [選択したフロー] (Copy of [selected flow])**」です。
- **フロー名を変更 (Rename Flow)** : フロー名を変更できる「**フロー名を変更 (Rename Flow)**」ダイアログを開きます。

#### 補足

フロータイトルをすでに手動で変更している場合は、フロー名を変更してもフロータイトルは自動的に変更されません。

- **下へ移動 (Move Down)** : 選択したフローを、フローリスト内の1つ下に移動します。これにより、プロジェクト内のフローの順番が変更されます。
- **上へ移動 (Move Up)** : 選択したフローを、フローリスト内の1つ上に移動します。これにより、プロジェクト内のフローの順番が変更されます。
- **フローを削除 (Delete Flow)** : 選択したフローを削除します。

## 2 情報フィールド

現在選択しているフローまたはプロジェクト全体に関する情報を「**作曲家 (Composer)**」や「**作詞者 (Lyricist)**」などの対応するフィールドに入力できます。

作曲者が異なるフローなど、同じフィールドに異なる内容が入力された複数のフローを選択した場合、そのフィールドには「**ミックス (Mixed)**」と表示されます。

以下のマークダウン形式設定を使用して、情報フィールド内の特定の文字のフォントスタイルを変更できます。

- 文字を斜体で表示するには、「**\*Allegro\***」のように文字をシングルアスタリスクでくくります。
- 文字を太字で表示するには、「**\*\*Chaminade\*\***」のように文字をダブルアスタリスクでくくります。
- 文字を太字斜体で表示するには、「**\*\*\*28\*\*\***」のように文字をトリプルアスタリスクでくくります。

#### ヒント

すべてを斜体で表示するなど、情報フィールド全体を同じ形式設定で表示する場合は、対応するパラグラフスタイルを編集することをおすすめします。

## 3 保存時にプレビューのサムネイルを生成 (Generate preview thumbnails when saving)

オンにすると、プロジェクトの保存時に、楽譜領域で開いているレイアウトの以下のプレビューイメージが生成されます。

- 最初のページの PNG ファイル。これは、Hub の「**最近使用したファイルを開く (Open Recent)**」ページに表示されます。
- レイアウト全体の PDF ファイル。

オフにすると、プレビューイメージは生成されません。これにより、ファイルサイズが小さくなり、大規模なプロジェクトの保存にかかる時間を短縮できる場合があります。

## 4 テキストトークンのマークダウン形式を処理 (Resolve Markdown formatting for text tokens)

情報フィールドのマークダウン形式の処理を有効/無効にできます。

## 5 「次の楽譜から情報をコピー (Copy info from)」メニュー

作曲者と作詞者が同じ複数のフローを含むプロジェクトを作成する場合などに、別のフローまたはプロジェクト全体を情報のコピー元として選択できます。

## 6 コピー (Copy)

指定したフロー/プロジェクトから選択したフロー/プロジェクトにすべての情報をコピーします。

#### 補足

- 「**プロジェクト情報 (Project Info)**」で追加した情報は、対応するトークンが存在するページのみ表示されます。たとえば、プロジェクトタイトルの上に献呈を表示するには、「**最初 (First)**」のページテンプレートに献呈のトークンを追加します。

- 1行のフィールド内では改行は指定できません。ただし、「著作権 (Copyright)」や「その他の情報 (Other information)」などの大きなフィールドでは改行を入力でき、それをあとから1行のフィールドにコピーできます。
- 初期設定では、「最初 (First)」のページテンプレートにはプロジェクト情報を参照するトークンがあります。「プロジェクト情報 (Project Info)」ダイアログで個々のフローのための情報しか入力していない場合、それらの情報は「最初 (First)」のページテンプレートを使用するページに自動的に表示されません。

同様に、「プロジェクトに複数のフローを使用 (Project will use multiple flows)」をオフにして新規プロジェクトを Hub から開始した場合、スコアレイアウトの欄外見出しにはフロータイトルかわりにプロジェクトタイトルが表示されます。

必要に応じて、フロー (特定のフローを含む) を参照するように、デフォルトのページテンプレートのトークンを変更することもできます。

---

関連リンク

[トークン \(617 ページ\)](#)

[ページテンプレートの種類 \(573 ページ\)](#)

[フロー名とフロータイトル \(210 ページ\)](#)

[フロー見出しの表示/非表示の切り替え \(762 ページ\)](#)

[前付け \(1318 ページ\)](#)

[フローの再整理 \(189 ページ\)](#)

[「パラグラフスタイル \(Paragraph Styles\)」ダイアログ \(932 ページ\)](#)

[Hub \(75 ページ\)](#)

## プロジェクトテンプレート

プロジェクトテンプレートを使用すると、特定のプレーヤーのセットやプロジェクトライブラリーの設定がすでに含まれた新しいプロジェクトを開始できます。たとえば、オーケストラのプロジェクトテンプレートに含まれるフルスコアレイアウトのページサイズは、室内楽アンサンブルよりも大きくなります。

プロジェクトテンプレートに含まれるプロジェクトライブラリーの設定には、カスタムアイテム、ページテンプレート、フォントスタイルとパラグラフスタイル、大括弧と中括弧のオプション、大きな拍子記号、ページサイズ、再生などがあります。プロジェクトテンプレートには、プロジェクト情報とフローも含めることができます。

Dorico Pro には、以下のデフォルトのプロジェクトテンプレートカテゴリーが用意されています。

### バンド (Band)

ブラスバンドやピットバンドなど、主に木管楽器と金管楽器で構成されるアンサンブルです。

### 室内楽 (Chamber)

弦楽四重奏など、一般的に、プレーヤーが少数しかいない小編成のアンサンブルです。

### 合唱 (Choral)

無伴奏混声四部合唱など、人気の合唱編成などの声部を含むアンサンブルです。

### 空白 (Empty)

空白のプロジェクトテンプレートです。

### ジャズ (Jazz)

ビッグバンドやジャズトリオなど、ジャズの演奏に一般的に使用される人気のアンサンブルです。

### オーケストラ (Orchestral)

弦楽器、木管楽器、金管楽器、打楽器など、ほとんどの西洋楽器を含む大編成のアンサンブルです。

### ソロ (Solo)

ソロオルガン、タブ譜付きのギター、リードシートなど、シングルプレーヤーまたはインストゥルメントのみを含むアンサンブルです。

#### ヒント

カスタムのプロジェクトテンプレートは、新規カテゴリーを含め、どのプロジェクトテンプレートカテゴリーにも保存できます。

---

#### 関連リンク

[アンサンブルタイプによる大括弧でのグループ化 \(1143 ページ\)](#)

[新規プロジェクトの開始 \(77 ページ\)](#)

[カスタムインストゥルメント \(950 ページ\)](#)

[インストゥルメントのスコアの順番 \(963 ページ\)](#)

[ページ形式設定 \(742 ページ\)](#)

[ページテンプレート \(567 ページ\)](#)

## カスタムのプロジェクトテンプレートを保存する


現在のプロジェクトをプロジェクトテンプレートとして保存しておく、それ以降のプロジェクトをそのプロジェクトテンプレートから開始できます。たとえば、同じプレーヤー、ページテンプレート、デフォルト設定を必要とするプロジェクトを頻繁に作成する場合などに便利です。

#### 前提条件

カスタムのプロジェクトテンプレートに使用するすべてのプレーヤー、フロー、プロジェクト情報、およびプロジェクトライブラリーの設定を現在のプロジェクトに含めておきます。

---

#### 手順

1. 「ファイル (File)」 > 「プロジェクトテンプレートとして保存 (Save As Project Template)」を選択して「プロジェクトテンプレートとして保存 (Save As Project Template)」ダイアログを開きます。
  2. 「カテゴリー (Category)」フィールドに、新しいプロジェクトテンプレートを保存するプロジェクトテンプレートカテゴリーを入力します。  
プロジェクトテンプレートカテゴリーを入力しはじめると、入力した文字や単語が含まれる既存のプロジェクトテンプレートカテゴリーがメニューに予測表示されます。そこからいずれかを選択することも、新しいプロジェクトテンプレートカテゴリーを入力することもできます。
  3. 「名前 (Name)」フィールドに、新しいプロジェクトテンプレートの名前を入力します。  
既存のプロジェクトテンプレートと同じ名前を入力すると、警告アイコン  とメッセージが表示されます。
  4. 「既存のフローを保存 (Preserve existing flows)」をオン/オフにします。
  5. 「プロジェクト情報を保存 (Preserve Project Info)」をオン/オフにします。
- 

#### 結果

選択したプロジェクトテンプレートカテゴリーに現在のプロジェクトがプロジェクトテンプレートとして保存され、新規プロジェクトの開始に使用できるようになります。既存のプロジェクトテンプレートと同じ名前を入力した場合は、新しいプロジェクトテンプレートで既存のプロジェクトテンプレートが置き換えられます。

- 「既存のフローを保存 (Preserve existing flows)」をオンにすると、現在のプロジェクトのフローが、フロー内の楽譜も含めてプロジェクトテンプレートに含まれます。
- 「プロジェクト情報を保存 (Preserve Project Info)」をオンにすると、「プロジェクト情報 (Project Info)」ダイアログに入力したすべての情報がプロジェクトテンプレートに含まれます。

関連リンク

[「プロジェクト情報 \(Project Info\)」ダイアログ \(81 ページ\)](#)

[フロー \(187 ページ\)](#)

## プロジェクトテンプレートの削除


使用しなくなったカスタムのプロジェクトテンプレートを削除できます。

補足

出荷時のデフォルトのプロジェクトテンプレートを削除することはできません。

---

手順

1. 必要に応じて、Hub が開いていない場合は、「ウィンドウ (Window)」 > 「Hub」を選択して Hub を開きます。
  2. Hub で「新規作成 (Create New)」をクリックして「新規作成 (Create New)」ページを表示させます。
  3. 削除するプロジェクトテンプレートが含まれているプロジェクトテンプレートカテゴリを選択します。
  4. 削除するプロジェクトテンプレートのメニューボタン  をクリックして「プロジェクトテンプレートを削除 (Remove Project Template)」を選択します。
  5. 表示されるダイアログで「OK」をクリックします。
- 

結果

プロジェクトテンプレートが削除されます。そのカテゴリの最後のプロジェクトテンプレートを削除した場合は、カテゴリも削除されます。

関連リンク

[Hub \(75 ページ\)](#)

## ファイルの読み込みと書き出し

外部ファイルとは、Dorico プロジェクトとは形式が異なるファイルで、MIDI、MusicXML やテンポトラックなどがあります。Dorico Pro では、さまざまな種類のファイルの読み込みと書き込みを行なえます。

これは、たとえば異なる楽譜作成ソフトウェアを使用する誰かとプロジェクトを共有する場合や、プロジェクト中の音符、オーディオ、または拍子記号とテンポ情報を他の形式に変換する場合などに有用です。

関連リンク

[歌詞の書き出し \(1366 ページ\)](#)

[コメントの書き出し \(550 ページ\)](#)

[グラフィックファイルとしての書き出し \(728 ページ\)](#)

[レイアウトの印刷 \(724 ページ\)](#)

[グラフィックスライスの書き出し \(641 ページ\)](#)

[プロジェクトの解析の書き出し \(118 ページ\)](#)  
[ライブラリーマネージャー \(913 ページ\)](#)

## フローの読み込み

個々のフローを既存のプロジェクトに読み込むことができます。たとえば、複数の既存の楽曲を出版用に1つのプロジェクトにまとめたり、好みの設定が保存された空白のプロジェクトファイルを読み込んでそれらの設定を再利用したりできます。

---

### 手順

1. 「**ファイル (File)**」 > 「**読み込み (Import)**」 > 「**フロー (Flows)**」を選択してエクスプローラー (Windows) または Finder (Mac) を開きます。
2. 読み込むフローのプロジェクトファイルの場所まで移動して選択します。
3. 「**開く (Open)**」をクリックして、最初に選択したプロジェクトの「**フローの読み込みオプション (Flow Import Options)**」ダイアログを開きます。
4. 「**フローの読み込みオプション (Flow Import Options)**」ダイアログの「**プレーヤーの処理方法 (Player handling)**」で、以下のいずれかのオプションを選択します。
  - **すべて新規のプレーヤーを作成 (Create All New Players)**
  - **可能な場合既存のプレーヤーとマージ (Merge with Existing Players Where Possible)**
5. 「**フローを読み込む (Import flows)**」リストで、読み込むフローそれぞれのチェックボックスをオンにします。  
リスト最下部には「**すべて選択 (Select All)**」または「**選択を解除 (Select None)**」ボタンもあります。
6. 「**OK**」をクリックすると選択したフローが読み込まれ、ダイアログが閉じます。
7. また、フローの読み込みを行なうプロジェクトを複数選択した場合は、それぞれのプロジェクトに対し手順4から6を繰り返します。プロジェクトごとに「**フローの読み込みオプション (Flow Import Options)**」ダイアログが自動的に開きます。

---

### 結果

選択したフローがプロジェクトに読み込まれます。

- 「**すべて新規のプレーヤーを作成 (Create All New Players)**」を選択している場合、必要なだけの新規プレーヤーが各フローに追加されます。
- 「**可能な場合既存のプレーヤーとマージ (Merge with Existing Players Where Possible)**」を選択している場合、読み込まれたフローと既存のプロジェクト間で共通のプレーヤーはマージされます。たとえば、ピアノ1台からなるフローをピアノとヴィオラからなるプロジェクトに読み込んだ場合、読み込まれたフローは既存のピアノプレーヤーに追加されます。

### 補足

- プロジェクトに読み込んだフローには、プレーヤーは自動的に追加されません。
- フローを既存プロジェクト内の新規フローではなく、個別のプロジェクトとする場合、フローを直接開くこともできます。

---

### 関連リンク

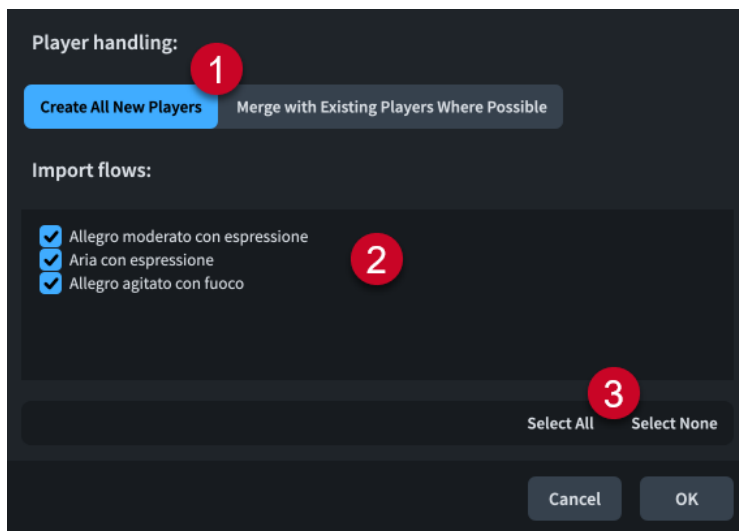
[プロジェクト/ファイルを開く \(78 ページ\)](#)  
[フロー \(187 ページ\)](#)  
[プレーヤーの追加 \(136 ページ\)](#)  
[フローにプレーヤーを割り当てる \(189 ページ\)](#)  
[ライブラリーマネージャー \(913 ページ\)](#)

[ライブラリーの読み込み](#) (915 ページ)

## 「フローの読み込みオプション (Flow Import Options)」 ダイアログ

「フローの読み込みオプション (Flow Import Options)」 ダイアログでは、読み込んだフローのプレイヤーをプロジェクトに既存のプレイヤーにマージするかどうか、および他のプロジェクトの中からどのフローを読み込むかについて指定できます。

- 「フローの読み込みオプション (Flow Import Options)」 ダイアログを開くには、「ファイル (File)」 > 「読み込み (Import)」 > 「フロー (Flows)」 を選択して、エクスプローラー (Windows) または Finder (Mac) から Dorico プロジェクトを開きます。



「フローの読み込みオプション (Flow Import Options)」 ダイアログは以下で構成されます。

### 1 プレーヤーの処理方法 (Player handling)

読み込んだフローをどのようにプレイヤーに割り当てるか指定できます。

- 「すべて新規のプレイヤーを作成 (Create All New Players)」 は読み込んだフローごとに個別のプレイヤーを追加します。
- 「可能な場合既存のプレイヤーとマージ (Merge with Existing Players Where Possible)」 は、プロジェクト中の既存のプレイヤーと互換性のあるプレイヤーが読み込んだフローにいる場合、両者をマージします。

### 2 フローを読み込む (Import flows)

選択したプロジェクト内のすべてのフローのリストが表示されます。チェックボックスをオンにしたフローが読み込み対象となります。

### 3 選択オプション

プロジェクト内のすべてのフローの選択/選択解除ができます。たとえば、すべてのフローの選択を解除したあとに、読み込むフローのチェックボックスを1つだけ選択できます。

## フローの書き出し

プロジェクトから個々のフローを書き出すことができます。たとえば、サイズの大きいプロジェクトから小さい抜粋を個別に保存することなどができます。

### 補足

この手順では、フローが個別の Dorico プロジェクトとして書き出されます。フローを別のファイル形式、たとえば MusicXML や MP3 で書き出す場合は、他の方法が用意されています。




#### 前提条件

書き出すフローにプロジェクト内のすべてのプレーヤーとレイアウト (楽譜のないプレーヤーも含む) を含めるには、「環境設定 (Preferences)」 > 「全般 (General)」 > 「ファイル (Files)」で「フローを書き出す際は除外されたプレーヤーおよびレイアウトを省く (Omit excluded players and layouts when exporting flows)」をオフにしておきます。

---

#### 手順

1. 「ファイル (File)」 > 「書き出し (Export)」 > 「フロー (Flows)」を選択して「フローを書き出し (Export Flows)」ダイアログを開きます。
  2. 「選択したフローをそれぞれ別ファイルで書き出し (Export each selected flow as a separate file)」をオンまたはオフにします。
  3. 「書き出しを行なうフローを選択 (Select flows to export)」リストで、書き出すフローに対応するチェックボックスをオンにします。  
リスト最下部には「すべて選択 (Select All)」または「選択を解除 (Select None)」ボタンもあります。
  4. 「レイアウトをそれぞれ別ファイルで書き出し (Export layouts as separate files)」のオン/オフを切り替えます。
  5. 「レイアウトをそれぞれ別ファイルで書き出し (Export layouts as separate files)」をオンにした場合は、「書き出しを行なうレイアウトを選択 (Select layouts to export)」リストで書き出すレイアウトに対応するチェックボックスをオンにします。  
リスト最下部には「すべて選択 (Select All)」または「選択を解除 (Select None)」ボタンもあります。
  6. 「書き出し先 (Export to)」フィールドの横の「フォルダーを選択 (Choose Folder)」をクリックして、エクスプローラー (Windows) または Finder (Mac) を開きます。
  7. 保存先のフォルダーを探して選択します。
  8. 「選択 (Choose)」をクリックして、「書き出し先 (Export to)」フィールドに新しいパスを指定します。
  9. 「ファイル書き出し用フォルダーを作成 (Create folder for exported files)」をオン/オフにします。
  10. 「OK」をクリックすると、選択したフローとレイアウトが書き出されてダイアログが閉じます。
- 

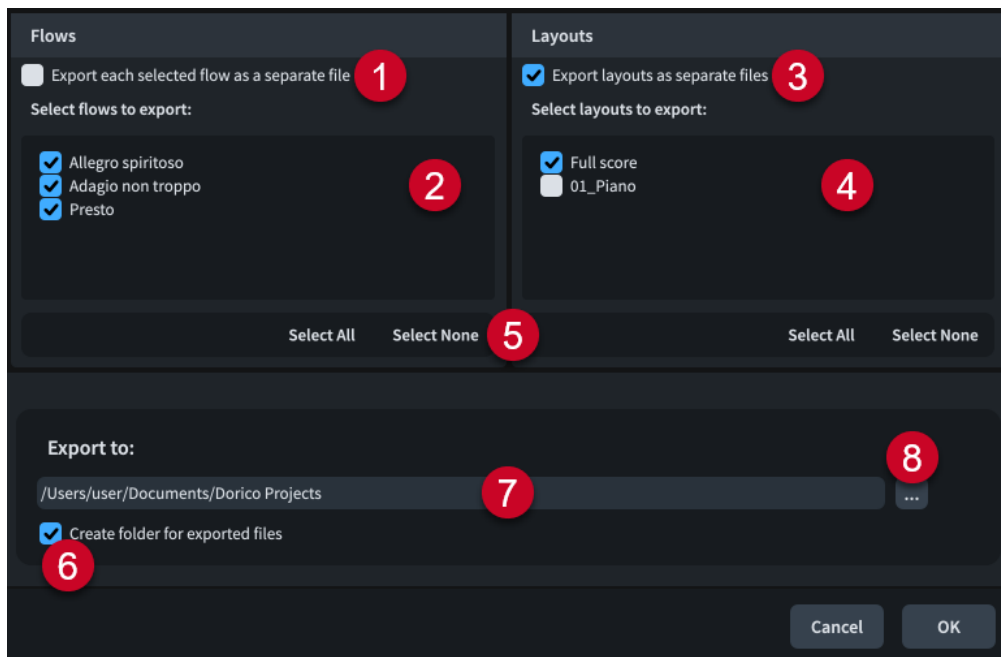
#### 関連リンク

- [フロー \(187 ページ\)](#)
- [MusicXML ファイルの書き出し \(92 ページ\)](#)
- [MIDI の書き出し \(105 ページ\)](#)
- [テンポトラックの書き出し \(109 ページ\)](#)
- [オーディオの書き出し \(110 ページ\)](#)

## 「フローを書き出し (Export Flows)」ダイアログ

「フローを書き出し (Export Flows)」ダイアログでは、個々のフローおよびレイアウトを個別の Dorico ファイルに保存できます。

- 「フローを書き出し (Export Flows)」ダイアログを開くには、「ファイル (File)」 > 「書き出し (Export)」 > 「フロー (Flows)」を選択します。



「フローを書き出し (Export Flows)」ダイアログには、以下のオプションとリストがあります。

- 1 選択したフローをそれぞれ別ファイルで書き出し (Export each selected flow as a separate file)**  
選択したフローすべてを1つのファイルに書き出すのではなく、各フローを個別のファイルに書き出すことができます。
- 2 書き出しを行なうフローを選択 (Select flows to export)**  
プロジェクト内のすべてのフローのリストが表示されます。対応するチェックボックスをオンにしたフローは書き出しされます。
- 3 レイアウトをそれぞれ別ファイルで書き出し (Export layouts as separate files)**  
プロジェクトの各レイアウトを1つのファイルではなく個別のファイルとして書き出すことができます。
- 4 書き出しを行なうレイアウトを選択 (Select layouts to export)**  
プロジェクト内のすべてのレイアウトが表示されます。対応するチェックボックスをオンにしたレイアウトは書き出しされます。「レイアウトをそれぞれ別ファイルで書き出し (Export layouts as separate files)」をオンにした場合のみ、レイアウトを書き出すことができます。
- 5 選択オプション**  
対応するリストのすべてのフロー/レイアウトの選択/選択解除ができます。たとえば、すべてのフローの選択を解除したあとに、書き出すフローのチェックボックスを1つだけ選択できます。
- 6 ファイル書き出し用フォルダーを作成 (Create folder for exported files)**  
選択したフローを書き出す際に、Dorico Proが指定した書き出し先に新規フォルダーを作成するかどうかをコントロールします。「フローの場所 Smyth - String Quintet」のように、自動作成されるフォルダー名は、「フローの場所」のあとにプロジェクトファイル名が続きます。
- 7 「書き出し先 (Export to)」 フィールド**  
書き出すフローの保存先が表示されます。
- 8 フォルダーを選択 (Choose Folder)**  
エクスプローラー (Windows) または Finder (Mac) を開いて、保存先を変更できます。

## MusicXML ファイルの読み込み

MusicXML ファイルは、たとえば異なる楽譜作成ソフトウェアで開始された楽曲の作業を引き継ぐ場合など、個別のフローとして既存の Dorico Pro プロジェクトに読み込まれます。

### 前提条件

「**環境設定 (Preferences)**」の「**MusicXML の読み込み (MusicXML Import)**」ページで、MusicXML ファイルの読み込みに関する、ファイルに適切な環境設定を行なっておきます。

---

### 手順

1. 「**ファイル (File)**」>「**読み込み (Import)**」>「**MusicXML**」を選択してエクスプローラー (Windows) または Finder (Mac) を開きます。
2. 読み込む MusicXML ファイルを探して選択します。
3. 「**開く (Open)**」をクリックして、最初に選択した MusicXML ファイルのための「**フローの読み込みオプション (Flow Import Options)**」ダイアログを開きます。
4. 「**フローの読み込みオプション (Flow Import Options)**」ダイアログの「**プレーヤーの処理方法 (Player handling)**」で、以下のいずれかのオプションを選択します。
  - **すべて新規のプレーヤーを作成 (Create All New Players)**
  - **可能な場合既存のプレーヤーとマージ (Merge with Existing Players Where Possible)**
5. 「**OK**」をクリックすると選択したフローが読み込まれ、ダイアログが閉じます。
6. また、複数の MusicXML ファイルを選択した場合は、必要に応じて各ファイルに手順 4 から 5 を繰り返します。ファイルごとに「**フローの読み込みオプション (Flow Import Options)**」ダイアログが自動的に開きます。

---

### 結果

選択した MusicXML ファイルが新規フローとしてプロジェクトに読み込まれます。

- MusicXML ファイルにページサイズ、余白、および譜表サイズの設定が含まれる場合、Dorico Pro はこれらの値を読み込みます。これらの値が含まれない場合は、ファイル内のインストゥルメント数に応じて Dorico Pro が適切な設定を作成します。
- 「**すべて新規のプレーヤーを作成 (Create All New Players)**」を選択している場合、それぞれの MusicXML ファイルの読み込みに必要なだけの新規プレーヤーが追加されます。
- 「**可能な場合既存のプレーヤーとマージ (Merge with Existing Players Where Possible)**」を選択している場合、読み込まれた MusicXML ファイルと既存のプロジェクト間で共通のプレーヤーはマージされます。たとえば、ピアノ 1 台からなる MusicXML ファイルをピアノとヴィオラからなるプロジェクトに読み込んだ場合、読み込まれた MusicXML ファイルは既存のピアノプレーヤーに追加されます。

### ヒント

MusicXML ファイルを既存プロジェクト内の新規フローではなく、個別のプロジェクトとして開く場合は、MusicXML ファイルを直接開くこともできます。

---

### 関連リンク

- [「フローの読み込みオプション \(Flow Import Options\)」ダイアログ \(88 ページ\)](#)
- [プロジェクト/ファイルを開く \(78 ページ\)](#)
- [「環境設定 \(Preferences\)」ダイアログ \(63 ページ\)](#)
- [フローにプレーヤーを割り当てる \(189 ページ\)](#)

## MusicXML ファイルから読み込まれた無音程打楽器

MusicXML では、無音程打楽器の楽譜はさまざまな方法で表現されます。どのデータを書き出すか、およびどのようにエンコードするかについて、楽譜作成アプリケーションによってそれぞれ方法が異なります。そのため、Dorico Pro に MusicXML を読み込んだときの結果にもかなりの差が生じます。

Dorico Pro はキットに含まれる各インストゥルメントを明確に識別し、動的に五線譜に組み込みます。他の楽譜作成アプリケーションとその MusicXML は、無音程打楽器の楽譜を異なる方法で表現します。たとえば、ドラムセットは実際にはピッチを持つ音符として五線譜上に記譜され、それぞれの譜表位置にどのインストゥルメントが対応するか識別するための注釈情報が追加されます。

このような方法の違いから、MusicXML による表現から Dorico Pro による表現に情報を移し替えることはときに困難であるため、Dorico Pro は読み込み結果の品質向上のためにヒューリスティクスを用います。

通常 Dorico Pro では、Sibelius および Finale から書き出された MusicXML ファイルのドラムセットのインストゥルメントは非常にきれいに読み込まれます。

たとえばスネアドラムは常に符尾が下向きの声部に記譜するなど、ドラムセットの声部の振り分けに一貫性がある場合は特に良い結果が出やすく、正しく読み込まれる見込みが高くなります。声部の振り分けが小節ごとに変わる場合、一部の音符が誤って識別されるか、まったく読み込まれていないかのいずれかである場合があります。

五線譜に記される他の種類の打楽器は、さらに多様な結果をもたらします。ほとんどの場合、Finale はどの打楽器がどの譜表位置にマッピングされるかの情報を含めますが、Sibelius はこれを行いません。その結果、Dorico Pro が思ったとおりのインストゥルメントを選択しない場合もありますが、「**打楽器キットを編集 (Edit Percussion Kit)**」ダイアログを使用するとインストゥルメントを変更できます。

関連リンク

[「打楽器キットを編集 \(Edit Percussion Kit\)」ダイアログ \(157 ページ\)](#)

[打楽器キット内のインストゥルメントの変更 \(163 ページ\)](#)

[打楽器キットへのインストゥルメントの追加 \(161 ページ\)](#)

[打楽器エディター \(844 ページ\)](#)

[MIDI の読み込み \(94 ページ\)](#)

## MusicXML ファイルの書き出し

たとえばソリストのレイアウトの 1 つめのフローのみを書き出す場合、フローとレイアウトを個別の MusicXML ファイルとして書き出せます。

---

手順

1. 「ファイル (File)」 > 「書き出し (Export)」 > 「MusicXML」を選択して、「MusicXML を書き出し (Export MusicXML)」ダイアログを開きます。
2. 以下のいずれかのファイル形式オプションを選択します。
  - 圧縮された XML ファイル (.mxl) を書き出し (Export compressed XML (.mxl))
  - 非圧縮の XML ファイル (.xml) を書き出し (Export uncompressed XML (.xml))
3. 「書き出しを行なうフローを選択 (Select flows to export)」リストで、書き出すフローに対応するチェックボックスをオンにします。

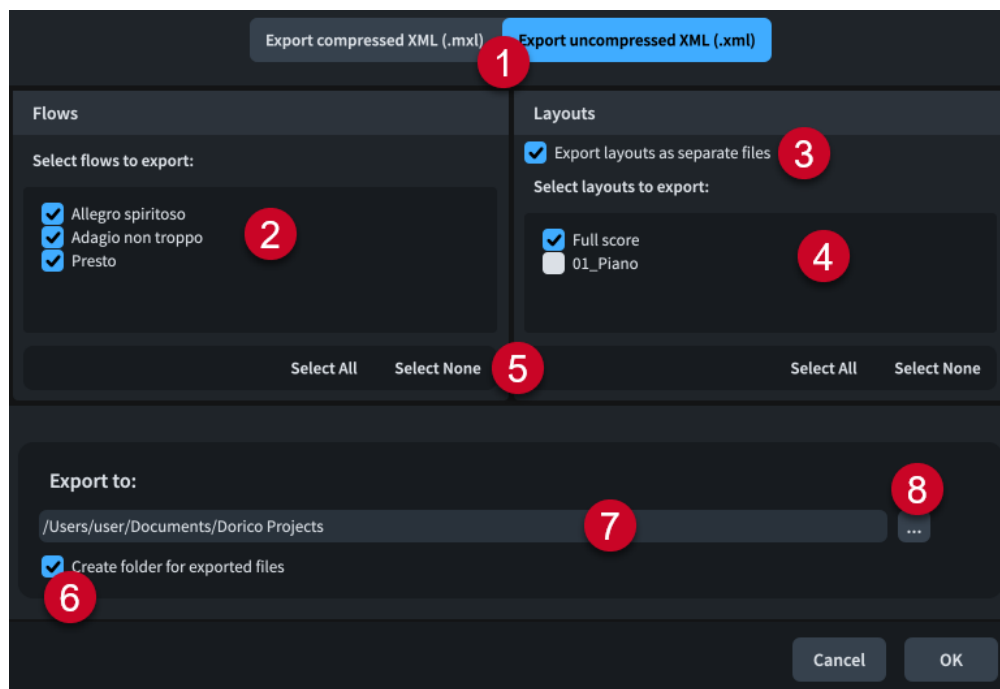
リスト最下部には「すべて選択 (Select All)」または「選択を解除 (Select None)」ボタンもあります。
4. 「レイアウトをそれぞれ別ファイルで書き出し (Export layouts as separate files)」のオン/オフを切り替えます。

5. 「レイアウトをそれぞれ別ファイルで書き出し (Export layouts as separate files)」をオンにした場合は、「書き出しを行なうレイアウトを選択 (Select layouts to export)」リストで書き出すレイアウトに対応するチェックボックスをオンにします。  
リスト最下部には「すべて選択 (Select All)」または「選択を解除 (Select None)」ボタンもあります。
6. 「書き出し先 (Export to)」 フィールドの横の「フォルダーを選択 (Choose Folder)」をクリックして、エクスプローラー (Windows) または Finder (Mac) を開きます。
7. 保存先のフォルダーを探して選択します。
8. 「選択 (Choose)」をクリックして、「書き出し先 (Export to)」フィールドに新しいパスを指定します。
9. 「ファイル書き出し用フォルダーを作成 (Create folder for exported files)」をオン/オフにします。
10. 「OK」をクリックすると、選択したフロー/レイアウトが MusicXML ファイルとして書き出され、ダイアログが閉じます。

## 「MusicXML を書き出し (Export MusicXML)」 ダイアログ

「MusicXML を書き出し (Export MusicXML)」ダイアログでは、個々のフローおよびレイアウトを個別の MusicXML ファイルに保存できます。

- 「MusicXML を書き出し (Export MusicXML)」ダイアログを開くには、「ファイル (File)」 > 「書き出し (Export)」 > 「MusicXML」を選択します。



「MusicXML を書き出し (Export MusicXML)」ダイアログには、以下のオプションとリストがあります。

### 1 ファイル形式オプション

書き出しを行なう MusicXML ファイルの形式を選択できます。圧縮された MusicXML ファイルには非圧縮の MusicXML と同じ情報が含まれますが、ファイルサイズが小さくなります。

### 2 書き出しを行なうフローを選択 (Select flows to export)

プロジェクト内のすべてのフローのリストが表示されます。対応するチェックボックスをオンにしたフローは書き出しされます。

**3 レイアウトをそれぞれ別ファイルで書き出し (Export layouts as separate files)**

プロジェクトの各レイアウトを1つのファイルではなく個別のファイルとして書き出すことができます。

**4 書き出しを行なうレイアウトを選択 (Select layouts to export)**

プロジェクト内のすべてのレイアウトが表示されます。対応するチェックボックスをオンにしたレイアウトは書き出しされます。「レイアウトをそれぞれ別ファイルで書き出し (Export layouts as separate files)」をオンにした場合のみ、レイアウトを書き出すことができます。

**5 選択オプション**

対応するリストのすべてのフロー/レイアウトの選択/選択解除ができます。たとえば、すべてのフローの選択を解除したあとに、書き出すフローのチェックボックスを1つだけ選択できます。

**6 ファイル書き出し用フォルダーを作成 (Create folder for exported files)**

選択したフローを書き出す際に、Dorico Pro が指定した書き出し先に新規フォルダーを作成するかどうかをコントロールします。「フローの場所 Smyth - String Quintet」のように、自動作成されるフォルダー名は、「フローの場所」のあとにプロジェクトファイル名が続きます。

**7 「書き出し先 (Export to)」 フィールド**

書き出すファイルの保存先が表示されます。

**8 フォルダーを選択 (Choose Folder)**

エクスプローラー (Windows) または Finder (Mac) を開いて、保存先を変更できます。

## MIDI の読み込み

MIDI ファイルは、たとえば楽曲のセクションの異なるバージョンに対して作業する場合など、既存の Dorico Pro プロジェクトに読み込めます。個別のフローとして読み込むことも、既存のフローに読み込むこともできます。

---

### 手順

1. 「ファイル (File)」 > 「読み込み (Import)」 > 「MIDI」 を選択してエクスプローラー (Windows) または Finder (Mac) を開きます。
2. 読み込む MIDI ファイルを探して選択します。
3. 「開く (Open)」 をクリックして、最初に選択した MIDI ファイルのための「MIDI インポートオプション (MIDI Import Options)」ダイアログを開きます。
4. 必要に応じて設定を変更します。  
たとえば、トラックの演奏技法の変更、特定のプレーヤーへのトラックの割り当て、クオンタイズオプションのカスタマイズなどを行なえます。
5. 「OK」 をクリックすると、「MIDI インポートオプション (MIDI Import Options)」ダイアログが閉じて、最初に選択した MIDI ファイルが読み込まれます。
6. また、複数の MIDI ファイルを選択した場合は、必要に応じて各ファイルに手順4から5を繰り返します。ファイルごとに「MIDI インポートオプション (MIDI Import Options)」ダイアログが自動的に開きます。

---

### 結果

設定に応じて、選択した MIDI ファイルがプロジェクトに読み込まれます。Dorico Pro は読み込まれた MIDI ノートに対して、正しい異名同音を生成するアルゴリズムを使用します。

MIDI ファイルにマーカーが含まれている場合は、それらも読み込まれます。MIDI ファイルに SMPTE オフセット値が設定されている場合は、その値がフローの開始位置のタイムコード位置の設定に使用されます。

#### ヒント

MIDI ファイルを既存プロジェクト内の新規フローではなく、個別のプロジェクトとして開く場合は、MIDI ファイルを直接開くこともできます。

---

#### 関連リンク

[プロジェクト/ファイルを開く \(78 ページ\)](#)

[音符の再クオンタイズ \(293 ページ\)](#)

[MIDI 録音/インポートでのサスティンペダルコントローラー設定の変更 \(297 ページ\)](#)

[フローにプレーヤーを割り当てる \(189 ページ\)](#)

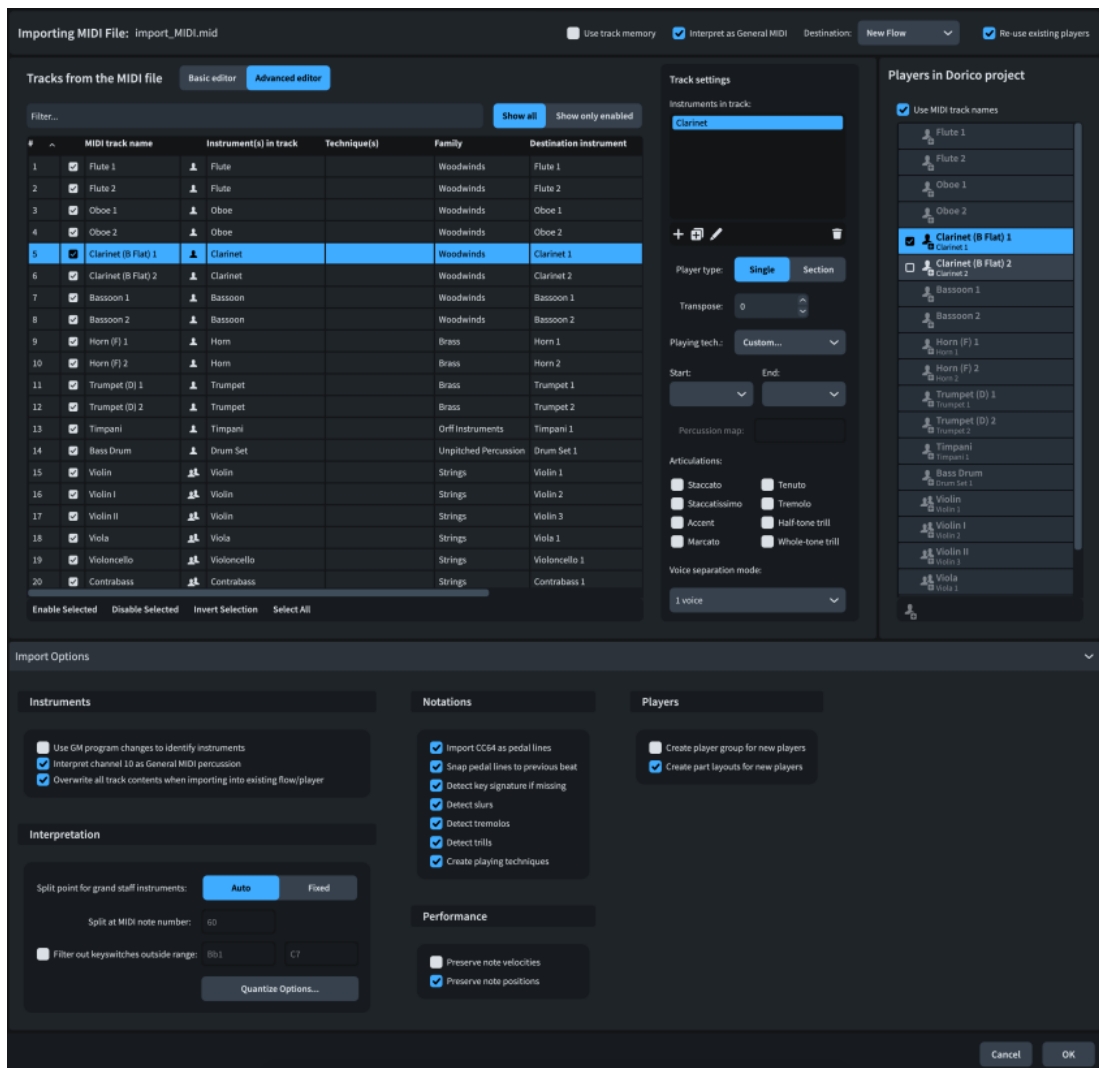
## 「MIDI インポートオプション (MIDI Import Options)」 ダイアログ

「MIDI インポートオプション (MIDI Import Options)」ダイアログでは、MIDI ファイルを読み込んだり開いたりする際に、MIDI データを Dorico プロジェクトに変換するために Dorico Pro が使用する設定をカスタマイズできます。

MIDI インポートの設定はトラックメモリーに保存され、同様のトラックを含む MIDI ファイルを次に開いたり読み込んだりした際に設定を自動的に再利用できます。

「MIDI インポートオプション (MIDI Import Options)」ダイアログを開くには、以下のいずれかの操作を行ないます。

- 「ファイル (File)」 > 「読み込み (Import)」 > 「MIDI」を選択し、エクスプローラー (Windows) または Finder (Mac) から MIDI ファイルを読み込みます。
- 「ファイル (File)」 > 「開く (Open)」を選択し、エクスプローラー (Windows) または Finder (Mac) から MIDI ファイルを開きます。



「MIDI インポートオプション (MIDI Import Options)」ダイアログの上部には以下のオプションがあります。

### インポートする MIDI ファイル (Importing MIDI File)

インポートする、または開く MIDI ファイルのファイル名が表示されます。

### トラックメモリーを使用 (Use track memory)

トラックメモリーの設定を現在の MIDI ファイルに適用したり、現在の MIDI ファイルの設定をトラックメモリーに保存して、それ以降にトラック名が同じ MIDI ファイルを読み込む/開く際に再利用したりできます。

### General MIDI ファイルとして読み込み (Interpret as General MIDI)

トラック開始位置の MIDI プログラムチェンジを使用してインストゥルメントタイプを判断できるようにします。たとえば、10 チャンネルを使用するトラックを、General MIDI ドラムセットを使用する無音程打楽器を含むトラックとして識別できます。

General MIDI 規格に準拠していない MIDI ファイルについてはこのオプションをオフにすることをおすすめします。

### 出力先 (Destination)

MIDI ファイルの読み込み先となるフローを選択できます。MIDI は新規フローとして読み込むか、プロジェクト内の既存のフローに読み込んで、既存のフロー内の特定のトラックを上書きするなどできます。これは MIDI ファイルを読み込む場合にのみ使用できます。



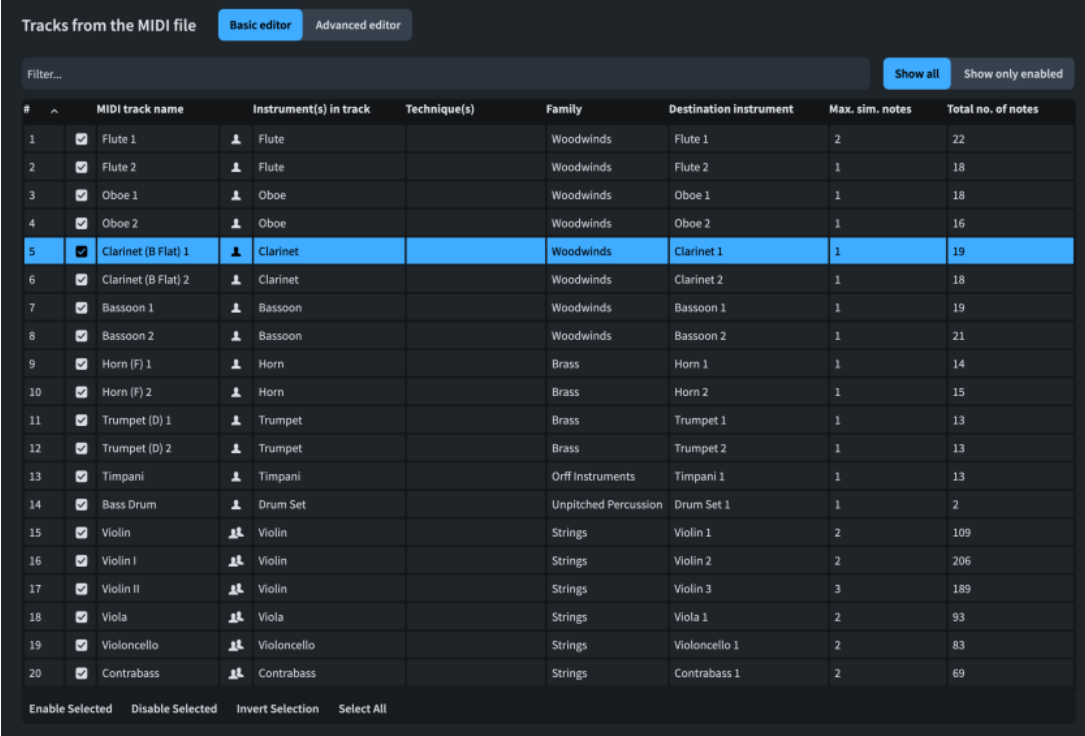
### 既存のプレーヤーを再使用 (Re-use existing players)

MIDI ファイル内のトラックをどのプレーヤーに割り当てるかを指定できます。これは MIDI ファイルを読み込む場合にのみ使用できます。

- オンにすると、「**インポートオプション (Import Options)**」セクションの「**既存のフロー/プレーヤーを読み込む際はトラックの内容をすべて上書き (Overwrite all track contents when importing into existing flow/player)**」の設定に応じて、読み込まれた MIDI ファイルのトラックがプロジェクト内の既存のプレーヤーにマージされるか、それらを上書きします。
- オフにすると、トラックは新規プレーヤーとして読み込まれます。

### MIDI ファイルからのトラック (Tracks from the MIDI file)

読み込んだ、または開いた MIDI ファイルのすべてのトラックが表形式で表示されます。トラックの読み込みを有効/無効にしたり、プレーヤータイプ、インストゥルメント、演奏技法を変更したりできます。





#	^	MIDI track name	Instrument(s) in track	Technique(s)	Family	Destination instrument	Max. sim. notes	Total no. of notes
1	<input checked="" type="checkbox"/>	Flute 1	Flute		Woodwinds	Flute 1	2	22
2	<input checked="" type="checkbox"/>	Flute 2	Flute		Woodwinds	Flute 2	1	18
3	<input checked="" type="checkbox"/>	Oboe 1	Oboe		Woodwinds	Oboe 1	1	18
4	<input checked="" type="checkbox"/>	Oboe 2	Oboe		Woodwinds	Oboe 2	1	16
5	<input checked="" type="checkbox"/>	Clarinet (B Flat) 1	Clarinet		Woodwinds	Clarinet 1	1	19
6	<input checked="" type="checkbox"/>	Clarinet (B Flat) 2	Clarinet		Woodwinds	Clarinet 2	1	18
7	<input checked="" type="checkbox"/>	Bassoon 1	Bassoon		Woodwinds	Bassoon 1	1	19
8	<input checked="" type="checkbox"/>	Bassoon 2	Bassoon		Woodwinds	Bassoon 2	1	21
9	<input checked="" type="checkbox"/>	Horn (F) 1	Horn		Brass	Horn 1	1	14
10	<input checked="" type="checkbox"/>	Horn (F) 2	Horn		Brass	Horn 2	1	15
11	<input checked="" type="checkbox"/>	Trumpet (D) 1	Trumpet		Brass	Trumpet 1	1	13
12	<input checked="" type="checkbox"/>	Trumpet (D) 2	Trumpet		Brass	Trumpet 2	1	13
13	<input checked="" type="checkbox"/>	Timpani	Timpani		Orff Instruments	Timpani 1	1	13
14	<input checked="" type="checkbox"/>	Bass Drum	Drum Set		Unpitched Percussion	Drum Set 1	1	2
15	<input checked="" type="checkbox"/>	Violin	Violin		Strings	Violin 1	2	109
16	<input checked="" type="checkbox"/>	Violin I	Violin		Strings	Violin 2	2	206
17	<input checked="" type="checkbox"/>	Violin II	Violin		Strings	Violin 3	3	189
18	<input checked="" type="checkbox"/>	Viola	Viola		Strings	Viola 1	2	93
19	<input checked="" type="checkbox"/>	Violoncello	Violoncello		Strings	Violoncello 1	2	83
20	<input checked="" type="checkbox"/>	Contrabass	Contrabass		Strings	Contrabass 1	2	69

表の上部には、以下のフィルターコントロールがあります。

- 「**フィルター (Filter)**」フィールド: 名前、インストゥルメント、ファミリーでトラックをフィルタリングできます。
- **トラックの表示**: すべてのトラックを表示するか、読み込みできるトラックのみを表示するかを選択できます。

この表には以下のコラムがあります。

- **#**: トラック番号が表示されます。
- **チェックボックス**: トラックの読み込みを有効/無効にできます。
- **MIDI トラック名 (MIDI track name)**: MIDI ファイル内のトラック名が表示されます。
- **プレーヤータイプ**: トラックのプレーヤータイプが表示されます。アイコンをダブルクリックしてプレーヤータイプを変更できます。アイコンには、以下のオプションの中から現在のプレーヤータイプが表示されます。

- シングルプレーヤー 
- セクションプレーヤー 
- **トラック内のインストゥルメント (Instrument(s) in track):** そのトラックの識別されたインストゥルメントが表示されます。インストゥルメントを変更するには、フィールドをダブルクリックして表示されるインストゥルメントピッカーでインストゥルメントを選択します。1つのトラックに複数のインストゥルメントが必要な場合は、アドバンスドエディターのオプションを使用します。
- **演奏技法 (Technique(s)):** そのトラックの識別された演奏技法が表示されます。演奏技法を変更するには、フィールドをダブルクリックしてメニューから演奏技法を選択します。1つのトラックに複数の演奏技法が必要な場合は、アドバンスドエディターのオプションを使用します。

#### ヒント

- 「**インポートオプション (Import Options)**」セクションで「**スラーを検出 (Detect slurs)**」がオンになっている場合はスラーが自動的に作成されるため、ナチュラルやレガートの演奏技法を指定する必要はありません。
  - 「**インポートオプション (Import Options)**」セクションで「**演奏技法を作成 (Create playing techniques)**」がオンになっている場合は、楽譜内の必要な位置に対応する演奏技法が自動的に入力されます。
- 
- **ファミリー (Family):** トラックのインストゥルメントファミリーが表示されます。複数のインストゥルメントが割り当てられているトラックについては、最初のインストゥルメントのファミリーが表示されます。
  - **目標インストゥルメント (Destination Instrument):** トラックが割り当てられるプロジェクト内のインストゥルメントが表示されます。目標インストゥルメントを変更するには、フィールドをダブルクリックしてメニューからインストゥルメントを選択します。たとえば、複数のトラックを同じインストゥルメントに割り当てる場合などに行ないます。
  - **最大同時音符数 (Max. sim. notes):** トラック内で同時に発音される音符の数が表示されます。これは、各トラックが1つのインストゥルメント、複数のインストゥルメント、あるいは大譜表を用いるインストゥルメントのいずれを表わしているかを識別するのに役立ちます。
  - **合計音符数 (Total no. of notes):** トラック内の音符の総数が表示されます。音符が含まれていないトラックは読み込む必要がないかもしれません。

#### ヒント

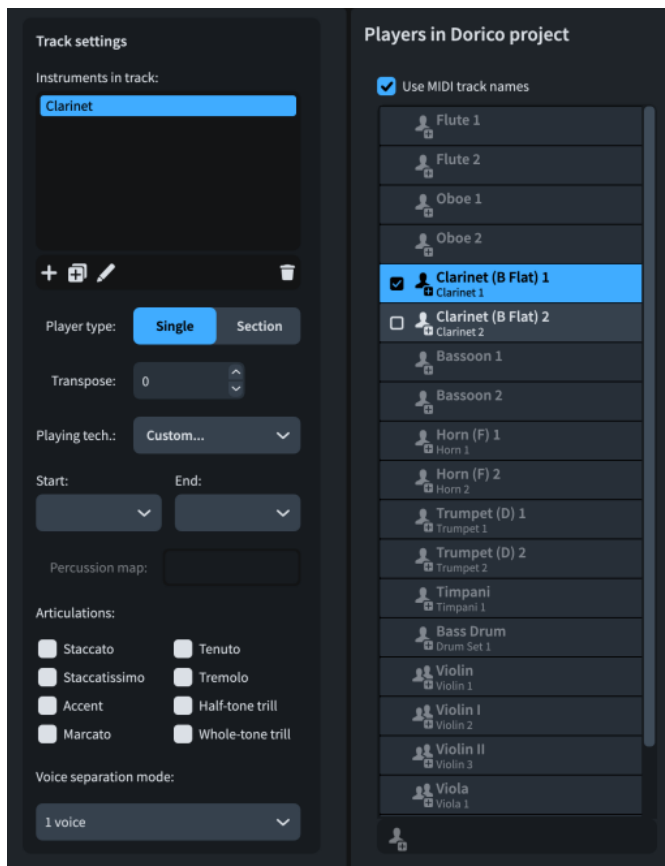
各列の見出しをクリックすると並び順を変更できます。

表の最下部のアクションバーには以下のオプションがあります。

- **選択を有効化 (Enable Selected):** 選択したトラックの読み込みを有効にします。
- **選択を無効化 (Disable Selected):** 選択したトラックの読み込みを無効にします。
- **選択を反転 (Invert Selection):** 選択を入れ替え、それまで選択されていなかったすべてのトラックを含めます。
- **すべて選択 (Select All):** すべてのトラックを選択します。

### 「アドバンスドエディター (Advanced editor)」オプション

選択したトラックをプロジェクト内のプレーヤーにどのようにマッピングするかを制御できる詳細なオプションが用意されています。



「アドバンスドエディター (Advanced editor)」 オプションは、以下のセクションに分かれています。





### トラック設定 (Track settings)

「MIDI ファイルからのトラック (Tracks from the MIDI file)」の表で選択したトラック内のインストゥルメントのリストが表示され、トラックをどのように解釈するかについての詳細を確認したり変更したりできます。

- 「**トラック内のインストゥルメント (Instruments in track)**」 リスト: 選択したトラック内のすべてのインストゥルメントが表示され、それらを変更できます。たとえば、ホルンのアンサンブルトラックの「**最大同時音符数 (Max. sim. notes)**」に合わせて十分なホルンのインストゥルメントを追加し、各インストゥルメントが一度に1つの音だけを演奏するようにできます。

たとえば、ピッコロにはフルートよりも高い音を割り当てるなど、和音はトラック内の各インストゥルメントに分割されます。



リストの最下部のアクションバーには以下のオプションがあります。

- **インストゥルメントを追加 (Add Instrument)** : インストゥルメントピッカーが開き、トラックに新しいインストゥルメントを追加できます。
- **インストゥルメントを複製 (Duplicate Instrument)** : 選択したインストゥルメントを複製します。
- **インストゥルメントを変更 (Change Instrument)** : インストゥルメントピッカーが開き、選択したインストゥルメントを変更できます。
- **インストゥルメントを削除 (Delete Instrument)** : 選択したインストゥルメントを削除します。
- **プレーヤータイプ (Player type)**: トラックのプレーヤータイプを選択できます。
- **移調 (Transpose)**: トラックを指定した数の半ステップ (半音) 分移調できます。

- **演奏技法 (Playing tech.):** 異なる演奏技法を表わす複数のトラックを同じプレーヤーに割り当てる場合などに、トラックの演奏技法を選択できます。
  - **開始 (Start):** トラックの開始位置で使用される演奏技法。
  - **終了 (End):** トラックの終了位置で使用される演奏技法。たとえば、MIDI ファイル内の 2 つのトラックを使用してピチカートとアルコを切り替えるバイオリンパートの場合、「**ピチカート/アルコ (Pizzicato/Arco)**」を選択すると、pizz. と arco の演奏技法が適切な位置に自動的に入力されます。
- **パーカッションマップ (Percussion map):** トラックのパーカッションマップを選択できます。打楽器キットにのみ使用できます。
- **アーティキュレーション (Articulations):** トラック内のすべての音符を入力するアーティキュレーションを選択できます。
- **声部分割モード (Voice separation mode):** 和音を声部にどのように割り当てるかを選択できます。トラックを 1 つのインストゥルメントにマッピングする場合のみ使用できます。1 つのトラックを複数のインストゥルメントに、または複数のトラックを 1 人のプレーヤーにマッピングする場合は、音符が声部に自動的に割り当てられます。
  - **1 声部 (1 voice):** トラック内のすべての楽譜が同じ声部に割り当てられます。
  - **2 声部 (自動) (2 voice (auto)):** トラック内の楽譜が同じ譜表の 2 つの声部に割り当てられます。
  - **2 声部 (固定スプリットポイント) (2 voice (fixed split point)):** トラック内の楽譜が、「**インポートオプション (Import Options)**」セクションで設定したスプリットポイントを使用して、それぞれの譜表にある 2 つの声部に割り当てられます。
  - **2 声部 (エクスプロード) (2 voice (explode)):** トラック内の楽譜が、それぞれの譜表にある 2 つの声部に割り当てられます。このオプションはフレット楽器に使用すると効果的です。
  - **4 声部キーボード (自動) (4 voice keyboard (auto)):** トラック内の楽譜は、2 つの譜表をまたいで 4 つの声部に割り当てられます。低音部や内部和音のあるメロディーなど、一般的なキーボードテキストチャーを自動的に検出できるため、このオプションは大譜表を用いる楽器に使用することをおすすめします。

#### Dorico プロジェクト内のプレーヤー (Players in Dorico project)


プロジェクト内の既存のプレーヤーや読み込んだ MIDI ファイルに必要な新しいプレーヤーなど、トラックが割り当てられるプロジェクト内のプレーヤーのリストが表示されます。各プレーヤーのアイコンは、新しいプレーヤーかどうか、および以下のプレーヤータイプのいずれであるかを示しています。

- シングルプレーヤー 
- セクションプレーヤー 

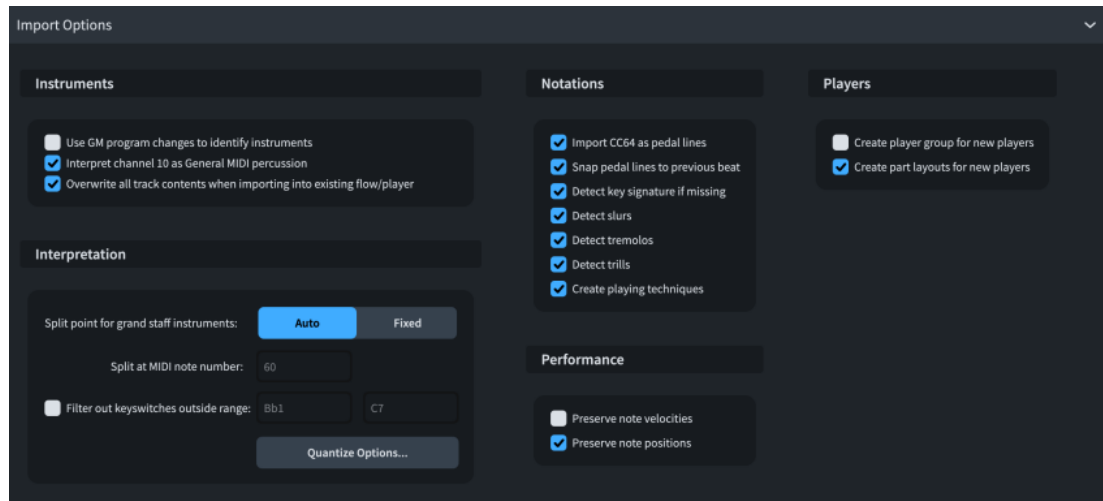
「**トラック設定 (Track settings)**」セクションの「**トラック内のインストゥルメント (Instruments in track)**」リストでインストゥルメントを選択すると、「**Dorico プロジェクト内のプレーヤー (Players in Dorico project)**」リストで現在割り当てられているプレーヤーが強調表示されます。

リスト内のプレーヤーをクリックすると、使用できる別のプレーヤーにインストゥルメントを割り当てることができます。使用できるのは、タイプが同じで同じインストゥルメントが割り当てられたプレーヤーのみです。たとえば、複数のトラックが同じインストゥルメントによる異なる演奏技法を表わしている場合、それらすべてを同じプレーヤーに割り当てることができます。

新しいプレーヤーに割り当てられているインストゥルメントがない場合、そのプレーヤーは自動的に削除されます。

- 「MIDI トラック名を使用 (Use MIDI track names)」をオンにすると、プレーヤー名に MIDI トラック名を使用できます。
- 「トラックに新規プレーヤーを追加 (Add new player for track)」を使用すると、選択したインストゥルメントを新しいプレーヤーに割り当てることができます。これは、同じプレーヤーに複数のインストゥルメントを割り当てている場合のみ使用できます。

## インポートオプション (Import Options)



「インポートオプション (Import Options)」セクションには以下のサブセクションがあります。

### インストゥルメント (Instruments)

読み込んだ MIDI ファイルのインストゥルメントをどのように識別して処理するかを指定するオプションが含まれています。

- **インストゥルメントの識別に GM プログラムチェンジを使用 (Use GM program changes to identify instruments):** インストゥルメントの識別に MIDI プログラムチェンジとトラック名のどちらを使用するかを設定できます。
- **10 チャンネルは General MIDI パーカッションとして読み込み (Interpret channel 10 as General MIDI percussion):** 10 チャンネルを使用したトラックを General MIDI ドラムセット規格に準拠したものとして解釈するかどうかを設定できます。
- **既存のフロー/プレーヤーに読み込む際はトラックの内容をすべて上書き (Overwrite all track contents when importing into existing flow/player):** オンにすると、読み込み先プレーヤーに属する既存のすべての楽譜が読み込んだトラックによって上書きされます。オフにすると、読み込んだトラックは、読み込み先プレーヤーに属する既存の楽譜にマージされます。これは、既存のフローに MIDI を読み込む場合にのみ適用されます。

### 解釈 (Interpretation)

読み込んだ MIDI ファイルのキースイッチと鍵盤楽器の楽譜をどのように解釈するかを指定するオプションが含まれています。

- **大譜表を用いる楽器のスプリットポイント (Split point for grand staff instruments):** 大譜表を用いる楽器の各譜表に音符をどのように割り当てるかを変更できます。
  - **自動 (Auto):** 楽譜の前後関係に従ってスプリットポイントを自動的に決定します。
  - **固定 (Fixed):** 設定したスプリットポイントを使用します。
- **この MIDI ノート番号でスプリット (Split at MIDI note number):** MIDI ノート番号を設定し、その位置で音符を分割して各譜表に割り当てることができます。これは、「大譜

表を用いる楽器のスプリットポイント (Split point for grand staff instruments)」に「固定 (Fixed)」を選択した場合のみ使用できます。

- **範囲外のキースイッチを除外 (Filter out key switches outside range):** MIDI ファイル内の音符に使用されているピッチの範囲を設定できます。設定した範囲よりも高い/低い音符は除外されます。
- **「クオンタイズオプション (Quantize Options)」:** クオンタイズオプションをカスタマイズできる「MIDI クオンタイズオプション (MIDI Quantize Options)」ダイアログを開きます。

#### 補足

「環境設定 (Preferences)」 > 「再生 (Play)」 > 「クオンタイズ (Quantization)」と「MIDI クオンタイズオプション (MIDI Quantize Options)」ダイアログのクオンタイズオプションはリンクされています。

---

### 記譜 (Notations)

ペダル線やスラーなど、読み込んだ MIDI ファイルの記譜の処理方法と検出方法を指定するオプションが含まれています。

#### 補足

- 「環境設定 (Preferences)」 > 「再生 (Play)」 > 「録音 (Recording)」と「MIDI インポートオプション (MIDI Import Options)」ダイアログの記譜設定はリンクされています。
  - 「調号がない場合は検出 (Detect key signature if missing)」をオンにすると、フローの開始位置に単一の調号が自動的に作成されます。このオプションは、変調がなく、調性の中心音がはっきりした楽譜に最も適しています。
- 

### 演奏 (Performance)

MIDI ファイルにおけるオリジナルの演奏を、再生のためにどれだけ保存するかを指定するオプションが含まれています。これは読み込まれた MIDI ノートの記譜方法に影響するものではありません。それについてはクオンタイズオプションにより制御されます。

#### 補足

「環境設定 (Preferences)」 > 「再生 (Play)」 > 「録音 (Recording)」と「MIDI インポートオプション (MIDI Import Options)」ダイアログの演奏設定はリンクされています。

---

### プレーヤー (Players)

プレーヤーとレイアウトの処理方法を指定するオプションが含まれています。

たとえば、オーケストレーションのために MIDI ファイルを既存のプロジェクトに読み込む場合、追加のパートレイアウトを作成することなく、プレーヤーをそれぞれのプレーヤーグループに読み込むことができます。

#### 関連リンク

[MIDI 録音/インポートでのサスティンペダルコントローラー設定の変更 \(297 ページ\)](#)

[MusicXML ファイルから読み込まれた無音程打楽器 \(92 ページ\)](#)

[動作のタイプ \(1033 ページ\)](#)

[「環境設定 \(Preferences\)」ダイアログ \(63 ページ\)](#)

[プレーヤーグループ \(183 ページ\)](#)

[プレーヤー \(135 ページ\)](#)

[インストゥルメント \(143 ページ\)](#)

[レイアウト \(190 ページ\)](#)

[インストゥルメントピッカー \(124 ページ\)](#)

[演奏技法 \(1536 ページ\)](#)

[ペダル線](#) (1516 ページ)  
[調号](#) (1346 ページ)  
[スラー](#) (1655 ページ)  
[トレモロ](#) (1816 ページ)  
[トリル](#) (1438 ページ)  
[連符](#) (1826 ページ)  
[装飾音符](#) (1327 ページ)

## クオンタイズオプション

クオンタイズオプションを使用すると、MIDI ファイルの読み込み、MIDI 録音を使用した音符の入力、または音符の再クオンタイズを行なう際に適用するクオンタイズをカスタマイズできます。

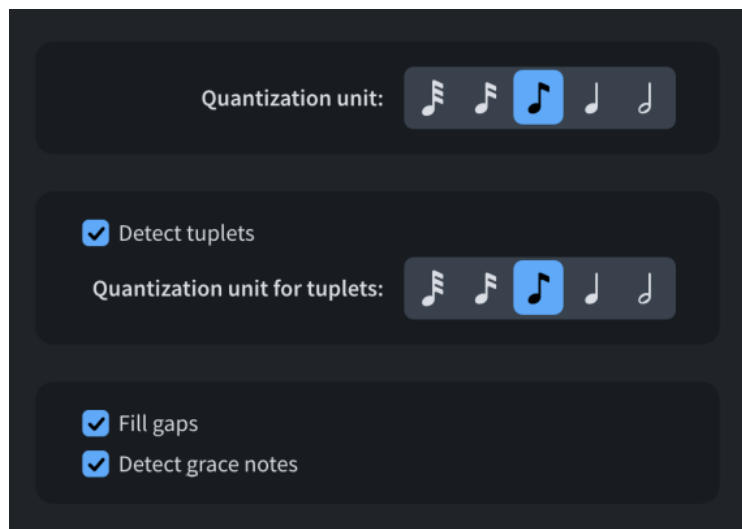
以下のいずれかの操作を行なって、使用できるクオンタイズオプションにアクセスできます。

- 「環境設定 (Preferences)」 > 「再生 (Play)」 > 「クオンタイズ (Quantization)」。
- 「MIDI インポートオプション (MIDI Import Options)」 ダイアログで、「インポートオプション (Import Options)」 セクションの「クオンタイズオプション (Quantize Options)」をクリックします。
- 楽譜領域で 1 つ以上の音符を選択しているときに、「編集 (Edit)」 > 「再クオンタイズ (Requantize)」を選択します。

### 補足

「環境設定 (Preferences)」 > 「再生 (Play)」 > 「クオンタイズ (Quantization)」と「MIDI クオンタイズオプション (MIDI Quantize Options)」ダイアログのクオンタイズオプションはリンクされています。

---



以下のクオンタイズオプションを使用できます。

### クオンタイズの単位 (Quantization unit)

音符をクオンタイズする際の拍の最小単位を設定できます。たとえば、読み込むファイルにおいて意図される音符の最小デュレーションが 8 分音符である場合、「クオンタイズの単位 (Quantization unit)」を 8 分音符に設定します。

### 連符を検出 (Detect tuplets)

拍から外れた音符を連符とみなすかどうか制御できます。読み込む MIDI ファイルに意図された連符が存在しないことがわかっている場合は、「連符を検出 (Detect tuplets)」をオフにすると、音符は連符として読み込まれません。

### 連符のクオンタイズの単位 (Quantization unit for tuplets)

連符の音符をクオンタイズする際の拍の最小単位を設定できます。たとえば、読み込むファイルにおいて意図される連符の音符の最小デュレーションが4分音符である場合、「**連符のクオンタイズの単位 (Quantization unit for tuplets)**」を4分音符に設定します。

### 間隔を埋める (Fill gaps)

Dorico Pro に短い音符の間隔を埋めさせるかどうか指定できます。すでに正確にクオンタイズされている楽曲データを読み込む場合は、「**間隔を埋める (Fill gaps)**」をオフにして、音符と休符がクオンタイズされた通りに記譜されるようにすることをおすすめします。

### 装飾音符を検出 (Detect grace notes)

Dorico Pro に装飾音符を解釈させるかどうか指定できます。オフにすると、装飾音符は標準の音符に変換されます。

関連リンク

[MIDI 録音 \(290 ページ\)](#)

[音符の再クオンタイズ \(293 ページ\)](#)

[連符 \(1826 ページ\)](#)

[装飾音符 \(1327 ページ\)](#)

## Groove Agent SE からドラムセットパターンを読み込む


記譜されたパートレイアウトにパターンを含めたい場合などに、Groove Agent SE パターンをドラムセットトラックに読み込み、音符として表示できます。

前提条件

- プロジェクトにドラムセットを追加しておきます。
- Groove Agent SE のエンドポイントにドラムセットを割り当てておきます。  
ドラムセットに Groove Agent SE を自動的にロードする再生テンプレートを適用するか、Groove Agent SE を手動でロードしてドラムセットを任意のエンドポイントに割り当てることができません。

---

手順

1. 再生モードで、トラック概要にあるドラムセットトラックを選択します。
2. トラックインスペクターの「**ルーティング (Routing)**」セクションで、「**インストゥルメントを編集 (Edit Instrument)**」をクリックして Groove Agent SE ウィンドウを開きます。
3. パッドセクションの上部で、「**Pattern**」を選択してパターンパッドを表示します。
4. 使用するパターンをクリックして、以下のいずれかの場所にドラッグします。
  - 再生モードのトラック概要
  - キーエディターの打楽器エディター

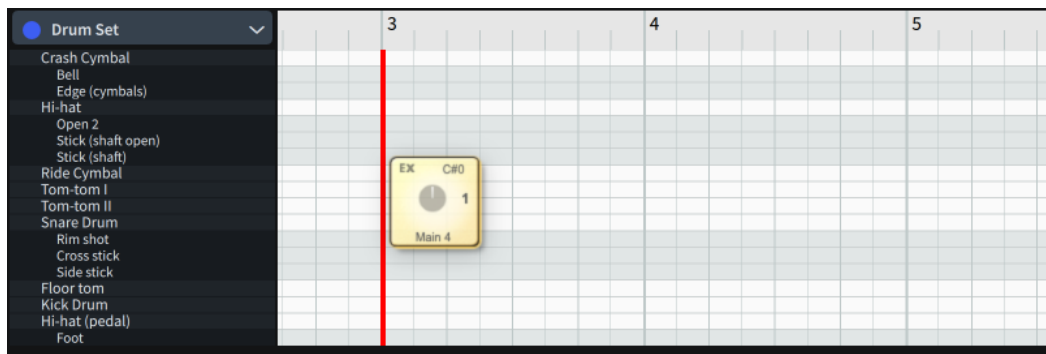
ヒント

パターンパッドをクリックしたままにすると、パターンをプレビューできます。

---

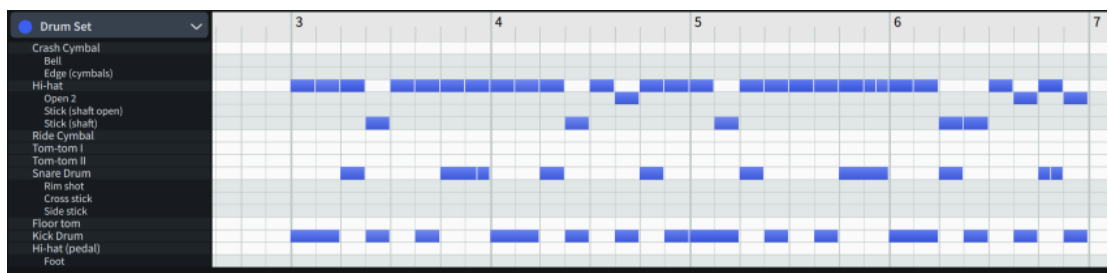
挿入ラインはパターンが始まる場所を示します。





## 結果

選択したパターンの音符が対応するドラムセットに読み込まれます。これらはトラック概要、打楽器エディター、音符の譜表に通常の音符と同じように表示されます。



## ヒント

Groove Agent SE の詳細については、Groove Agent SE のユーザーマニュアルを参照してください。

## 関連リンク

- [打楽器キットとドラムセット \(156 ページ\)](#)
- [再生モードのプロジェクトウィンドウ \(658 ページ\)](#)
- [打楽器エディター \(844 ページ\)](#)
- [再生テンプレート \(701 ページ\)](#)
- [VST/MIDI インストゥルメントを手動でロードする \(667 ページ\)](#)
- [MIDI トリガー領域 \(717 ページ\)](#)
- [ミドルCのナンバリング変換を変更する \(55 ページ\)](#)

## MIDI の書き出し

たとえば DAW でオーディオをさらに細かく編集するために、フローを個別の MIDI ファイルとして書き出せます。Dorico Pro から書き出した MIDI ファイルには、デフォルトでプロジェクト内のマーカーが含まれます。

### 前提条件

- MIDI を書き出すプレーヤーを含むレイアウトを楽譜領域で開いておきます。
- 現在のプロジェクトで再生を有効にしておきます。

### 手順

1. 「ファイル (File)」 > 「書き出し (Export)」 > 「MIDI」 を選択して 「MIDI を書き出し (Export MIDI)」 ダイアログを開きます。
2. 「書き出しを行なうフローを選択 (Select flows to export)」 リストで、書き出すフローに対応するチェックボックスをオンにします。

リスト最下部には「すべて選択 (Select All)」または「選択を解除 (Select None)」ボタンもあります。

3. 「書き出し先 (Export to)」  フィールドの横の「フォルダーを選択 (Choose Folder)」をクリックして、エクスプローラー (Windows) または Finder (Mac) を開きます。
4. 保存先のフォルダーを探して選択します。
5. 「選択 (Choose)」をクリックして、「書き出し先 (Export to)」フィールドに新しいパスを指定します。
6. 「ファイル書き出し用フォルダーを作成 (Create folder for exported files)」をオン/オフにします。
7. 「OK」をクリックすると、選択したフローが MIDI ファイルとして書き出されてダイアログが閉じます。

#### 結果

選択したフローが MIDI ファイルとして書き出されます。このファイルには、楽譜領域で開いているレイアウトに割り当てられているすべてのプレーヤーの MIDI が含まれています。

#### 関連リンク

[再生の有効化/無効化 \(681 ページ\)](#)

[レイアウトの切り替え \(47 ページ\)](#)

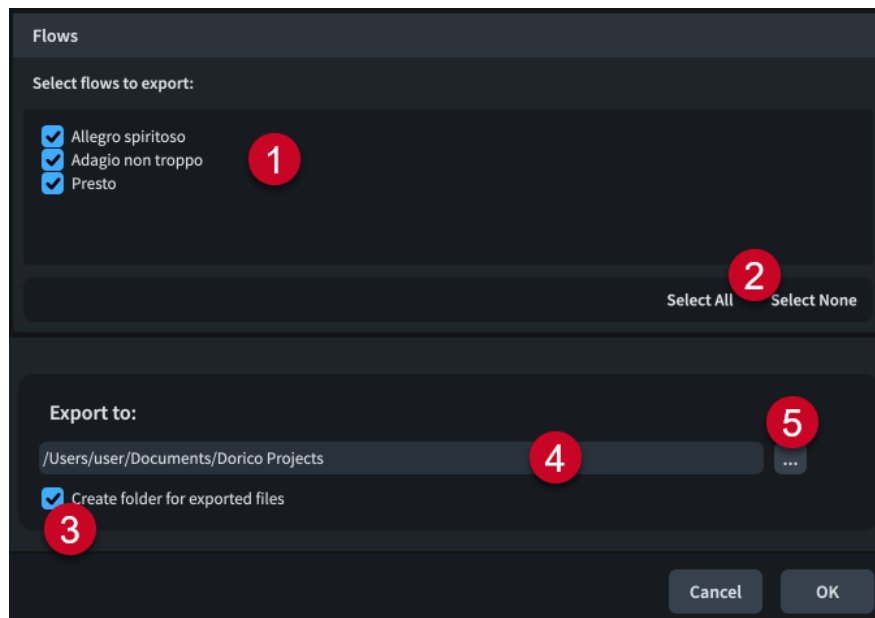
[新規タブを開く \(49 ページ\)](#)

[レイアウトへのプレーヤーの割り当て \(193 ページ\)](#)

## 「MIDI を書き出し (Export MIDI)」 ダイアログ

「MIDI を書き出し (Export MIDI)」ダイアログでは、個々のフローを個別の MIDI ファイルに保存できます。

- 「MIDI を書き出し (Export MIDI)」ダイアログを開くには、「ファイル (File)」 > 「書き出し (Export)」 > 「MIDI」を選択します。



「MIDI を書き出し (Export MIDI)」ダイアログは以下で構成されます。

- 1 書き出しを行なうフローを選択 (Select flows to export)

プロジェクト内のすべてのフローのリストが表示されます。対応するチェックボックスをオンにしたフローは書き出しされます。

## 2 選択オプション

プロジェクト内のすべてのフローの選択/選択解除ができます。たとえば、すべてのフローの選択を解除したあとに、書き出すフローのチェックボックスを1つだけ選択できます。

## 3 ファイル書き出し用フォルダーを作成 (Create folder for exported files)

選択したフローを書き出す際に、Dorico Pro が指定した書き出し先に新規フォルダーを作成するかどうかをコントロールします。「フローの場所 Smyth - String Quintet」のように、自動作成されるフォルダー名は、「フローの場所」のあとにプロジェクトファイル名が続きます。

## 4 「書き出し先 (Export to)」 フィールド

書き出すファイルの保存先が表示されます。

## 5 フォルダーを選択 (Choose Folder)

エクスプローラー (Windows) または Finder (Mac) を開いて、保存先を変更できます。

# テンポトラックの読み込み

たとえば、映画音楽を作曲していて、フィルム長の変更によりテンポと拍子記号の変更が必要になった場合など、既存のプロジェクトの個々のフローや新しいフローにテンポトラックを読み込みます。これによりフローの音符や記譜記号が上書きされることはありません。

---

### 手順

1. 「ファイル (File)」 > 「読み込み (Import)」 > 「Tempo Track」 を選択してエクスプローラー (Windows) または Finder (Mac) を開きます。
2. テンポトラックを読み込む MIDI ファイルを探して選択します。
3. 「開く (Open)」 をクリックして 「テンポトラックの読み込み (Import Tempo Track)」 ダイアログを開きます。
4. 「読み込み先のフロー (Import into flow)」 リストから、テンポトラックを読み込む先のフローを選択します。
5. 「読み込んだ内容で以下を置き換え (Import and replace)」 のセクションで、読み込みに含めるテンポトラックの内容のチェックボックスをそれぞれオンにします。
6. また、「マーカー (Markers as)」 チェックボックスをオンにしている場合は、必要に応じて以下のいずれかのオプションを選択します。
  - マーカー
  - 組段に付くテキスト (System-attached Text)
7. 必要に応じて、「マーカー (Markers as)」 で 「組段テキスト (System Text)」 を選択した場合は、「組段に付くテキストマーカーの周りに境界線を表示 (Show border around system-attached text markers)」 のオンまたはオフにします。
8. 「OK」 をクリックすると、テンポトラックが読み込まれてダイアログが閉じます。

---

### 結果

選択したフローにテンポトラックが読み込まれます。「読み込み先のフロー (Import into flow)」 リストで 「新規フロー (New Flow)」 を選択した場合は、プロジェクトに新しいフローが追加されます。選択した内容がすべて既存の楽譜または新しいフローに適用され、音符やテンポ記号が必要に応じて調整されます。

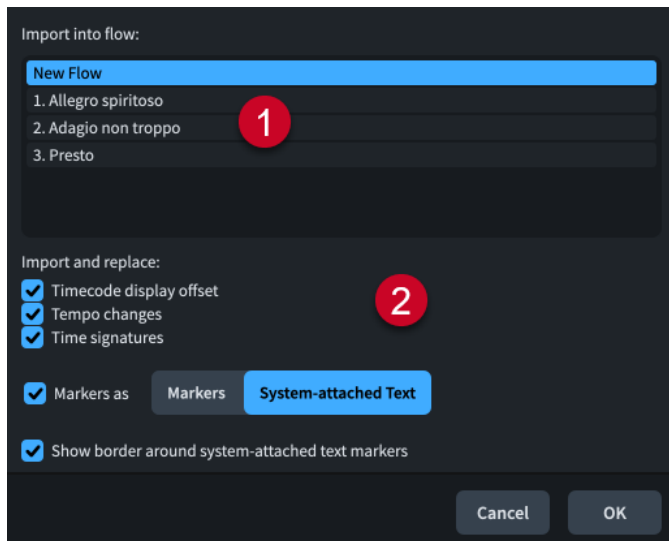
### 関連リンク

[フロー](#) (187 ページ)

## 「テンポトラックの読み込み (Import Tempo Track)」 ダイアログ

「テンポトラックの読み込み (Import Tempo Track)」 ダイアログでは、プロジェクト中の個々のフローにテンポトラックを読み込んで、テンポトラックのどの内容をフローに適用するか制御できます。

- 「テンポトラックの読み込み (Import Tempo Track)」 ダイアログを開くには、「**ファイル (File)**」 > 「**読み込み (Import)**」 > 「**Tempo Track**」を選択して、エクスプローラー (Windows) または Finder (Mac) から MIDI ファイルを開きます。



「テンポトラックの読み込み (Import Tempo Track)」 ダイアログは以下で構成されます。

### 1 読み込み先のフロー (Import into flow)

プロジェクト内のすべてのフローのリストが表示されます。現在選択中のフローは強調表示されます。

補足

テンポトラックは一度に1つのフローにしか読み込めません。

### 2 読み込んだ内容で以下を置き換え (Import and replace)

テンポトラックのどの内容を読み込み、選択したフローに適用するか制御できます。

- 「**タイムコード表示のオフセット (Timecode display offset)**」は、フローの開始位置の初期タイムコードポジションを設定します。
- 「**テンポ変更 (Tempo changes)**」は、フロー中のすべての即時テンポ変更および段階的テンポ変更を MIDI ファイルからのテンポ変更置き換えます。
- 「**拍子記号 (Time signatures)**」は、フロー中のすべての拍子記号を MIDI ファイルからの拍子記号に置き換えます。
- 「**マーカー (Markers as)**」は、MIDI ファイルからのすべてのマーカーを「**マーカー (Markers)**」か「**組段に付くテキスト (System-attached Text)**」のいずれかとしてフローに追加します。  
マーカーを「**マーカー (Markers)**」として読み込むと、フローの既存のマーカーはすべて MIDI ファイルからのマーカーに置き換えられます。一方、マーカーを「**組段に付くテキスト (System-attached Text)**」として読み込むと、既存のマーカーまたは組段に付くテキストアイテムは置き換えられません。
- 「**組段に付くテキストマーカーの周りに境界線を表示 (Show border around system-attached text markers)**」をオンにすると、組段に付くテキストアイテムとして読み込まれた

マーカーに境界線が追加されます。このオプションは「マーカー (Marker as)」で「組段に付くテキスト (System-attached Text)」を選択している場合にのみ使用可能です。

## テンポトラックの書き出し

たとえば、あるフローのテンポ記号と拍子記号を同じプロジェクトの別のフローに適用する場合、フローを個別のテンポトラックとして書き出せます。

---

手順

1. 「ファイル (File)」 > 「書き出し (Export)」 > 「Tempo Track」を選択して、「テンポトラックを書き出し (Export Tempo Track)」ダイアログを開きます。
  2. テンポトラックとして書き出すフローそれぞれのチェックボックスをオンにします。  
リスト最下部には「すべて選択 (Select All)」または「選択を解除 (Select None)」ボタンもあります。
  3. 「書き出し先 (Export to)」  フィールドの横の「フォルダーを選択 (Choose Folder)」をクリックして、エクスプローラー (Windows) または Finder (Mac) を開きます。
  4. 保存先のフォルダーを探して選択します。
  5. 「選択 (Choose)」をクリックして、「書き出し先 (Export to)」フィールドに新しいパスを指定します。
  6. 「ファイル書き出し用フォルダーを作成 (Create folder for exported files)」をオン/オフにします。
  7. 「OK」をクリックすると、選択したフローがテンポトラックとして書き出されてダイアログが閉じます。
- 

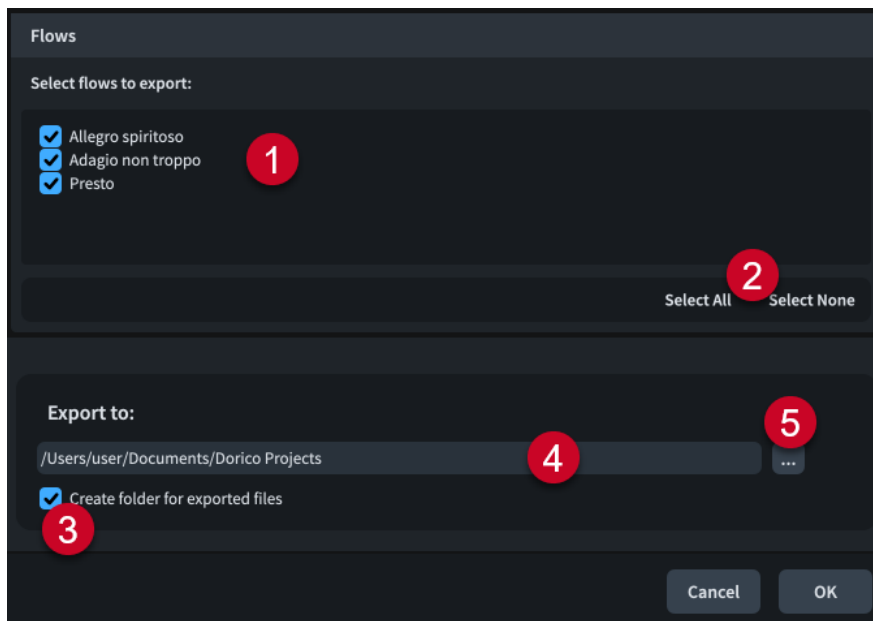
関連リンク

[テンポトラックの読み込み \(107 ページ\)](#)

## 「テンポトラックを書き出し (Export Tempo Track)」ダイアログ

「テンポトラックを書き出し (Export Tempo Track)」ダイアログでは、個々のフローを個別のテンポトラックとして、MIDI ファイル形式で保存できます。

- 「テンポトラックを書き出し (Export Tempo Track)」ダイアログを開くには、「ファイル (File)」 > 「書き出し (Export)」 > 「Tempo Track」を選択します。



「テンポトラックを書き出し (Export Tempo Track)」ダイアログは以下で構成されます。

**1 書き出しを行なうフローを選択 (Select flows to export)**

プロジェクト内のすべてのフローのリストが表示されます。対応するチェックボックスをオンにしたフローは書き出しされます。

**2 選択オプション**

プロジェクト内のすべてのフローの選択/選択解除ができます。たとえば、すべてのフローの選択を解除したあとに、書き出すフローのチェックボックスを1つだけ選択できます。

**3 ファイル書き出し用フォルダーを作成 (Create folder for exported files)**

選択したフローを書き出す際に、Dorico Pro が指定した書き出し先に新規フォルダーを作成するかどうかをコントロールします。「フローの場所 Smyth - String Quintet」のように、自動作成されるフォルダー名は、「フローの場所」のあとにプロジェクトファイル名が続きます。

**4 「書き出し先 (Export to)」フィールド**

書き出すファイルの保存先が表示されます。

**5 フォルダーを選択 (Choose Folder)**

エクスプローラー (Windows) または Finder (Mac) を開いて、保存先を変更できます。

## オーディオの書き出し


プロジェクトを MP3、FLAC、または WAV 形式のオーディオファイルとして書き出せます。また、各フローと各プレーヤーを別々のファイルに書き出すこともできます。たとえば、第2フローのソリストのパートのみのモックアップ音源を共有する場合などにこの機能を利用できます。

前提条件

- オーディオを書き出すプレーヤーを含むレイアウトを楽譜領域で開いておきます。
- 現在のプロジェクトで再生を有効にしておきます。

手順

1. 「ファイル (File)」 > 「書き出し (Export)」 > 「オーディオ (Audio)」を選択して「オーディオを書き出し (Export Audio)」ダイアログを開きます。
2. 「選択したフローをそれぞれ別ファイルで書き出し (Export each selected flow as a separate file)」をオンまたはオフにします。

3. 「書き出しを行なうフローを選択 (Select flows to export)」リストで、オーディオファイルとして書き出すフローのチェックボックスをそれぞれオンにします。  
リスト最下部には「すべて選択 (Select All)」または「選択を解除 (Select None)」ボタンもあります。
4. 「プレーヤーをそれぞれ別ファイルで書き出し (Export players as separate files)」をオンまたはオフにします。
5. また、「プレーヤーをそれぞれ別ファイルで書き出し (Export players as separate files)」を選択した場合は、必要に応じて、「書き出しを行なうプレーヤーを選択 (Select players to export)」リストから書き出しを行なうプレーヤーそれぞれのチェックボックスをオンにします。  
リスト最下部には「すべて選択 (Select All)」または「選択を解除 (Select None)」ボタンもあります。
6. 「書き出し先 (Export to)」フィールドの横の「フォルダーを選択 (Choose Folder)」をクリックして、エクスプローラー (Windows) または Finder (Mac) を開きます。
7. 保存先のフォルダーを探して選択します。
8. 「選択 (Choose)」をクリックして、「書き出し先 (Export to)」フィールドに新しいパスを指定します。
9. 「オーディオの書き出しオプション (Audio Export Options)」セクションで、以下のいずれかのオーディオファイル形式を選択します。
  - MP3 (.mp3)
  - FLAC (.flac)
  - WAV (.wav)
10. 「FLAC (.flac)」または「WAV (.wav)」を選択した場合は、以下のいずれかのビット解像度を選択します。
  - 16 ビット (16-bit)
  - 24 ビット (24-bit)
  - 32 ビット (32-bit) (WAV ファイルのみ)
11. 「WAV (.wav)」を選択した場合は、「Broadcast WAVE」をオン/オフにします。
12. 「リバーブテール (秒) (Reverb tail (s))」数値フィールドの値を変更してリバーブテールのデュレーションを変更します。
13. 「OK」をクリックすると、選択したフロー/プレーヤーが設定したオーディオ書き出しオプションで書き出されてダイアログが閉じます。

---

関連リンク

[再生の有効化/無効化 \(681 ページ\)](#)

[レイアウトの切り替え \(47 ページ\)](#)

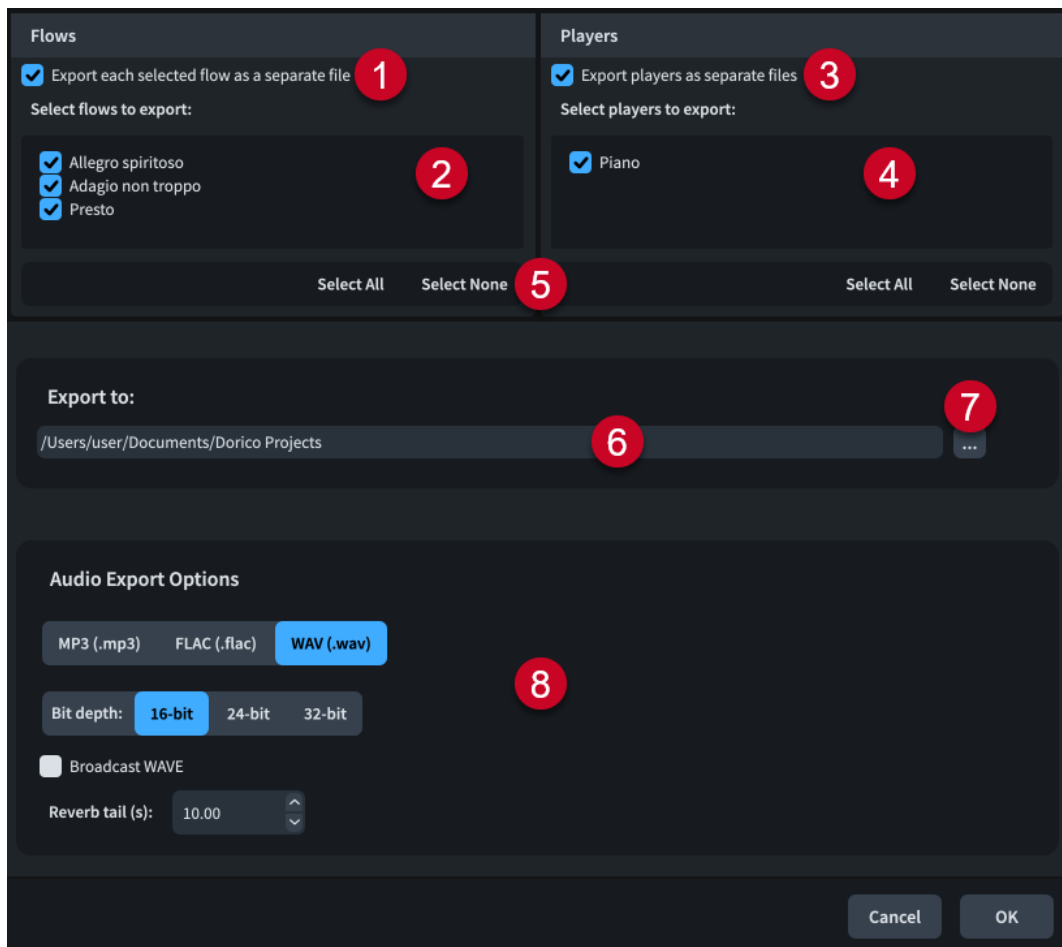
[新規タブを開く \(49 ページ\)](#)

[レイアウトへのプレーヤーの割り当て \(193 ページ\)](#)

## 「オーディオを書き出し (Export Audio)」ダイアログ

「オーディオを書き出し (Export Audio)」ダイアログでは、プロジェクトを MP3、FLAC、または WAV 形式のオーディオファイルとして書き出せます。また、各フローと各プレーヤーを別々のファイルに書き出すこともできます。

- 「オーディオを書き出し (Export Audio)」ダイアログを開くには、「ファイル (File)」 > 「書き出し (Export)」 > 「Audio」を選択します。



「オーディオを書き出し (Export Audio)」ダイアログには、以下のオプションとリストがあります。

- 1 選択したフローをそれぞれ別ファイルで書き出し (Export each selected flow as a separate file)**  
プロジェクトの各フローを1つのオーディオファイルではなく個別のオーディオファイルとして書き出しできます。
- 2 書き出しを行なうフローを選択 (Select flows to export)**  
プロジェクト内のすべてのフローのリストが表示されます。対応するチェックボックスをオンにしたフローは書き出しされます。
- 3 プレーヤーをそれぞれ別ファイルで書き出し (Export players as separate files)**  
プロジェクトの全プレーヤーを1つのオーディオファイルに書き出すのではなく、各プレーヤーを個別のオーディオファイルに書き出しできます。
- 4 書き出しを行なうプレーヤーを選択 (Select players to export)**  
プロジェクト内のすべてのプレーヤーのリストが表示されます。チェックボックスをオンにしたプレーヤーが書き出し対象となります。「プレーヤーをそれぞれ別ファイルで書き出し (Export players as separate files)」をオンにしている場合のみ利用できます。
- 5 選択オプション**  
対応するリストのすべてのフロー/プレーヤーの選択/選択解除ができます。たとえば、すべてのフローの選択を解除したあとに、書き出すフローのチェックボックスを1つだけ選択できます。
- 6 「書き出し先 (Export to)」フィールド**  
書き出すオーディオファイルの保存先が表示されます。
- 7 フォルダーを選択 (Choose Folder)**



エクスプローラー (Windows) または Finder (Mac) を開いて、保存先を変更できます。

## 8 オーディオの書き出しオプション (Audio Export Options)

オーディオファイルの形式と書き出しを制御できる以下のオプションがあります。

- **ファイル形式:** オーディオを「MP3 (.mp3)」、**FLAC (.flac)**、または「WAV (.wav)」ファイルとして書き出すことができます。
- **ビット解像度 (Bit depth):** FLAC ファイルを「16 ビット (16-bit)」または「24 ビット (24-bit)」で、WAV ファイルを「16 ビット (16-bit)」、「24 ビット (24-bit)」、または「32 ビット (32-bit)」で書き出すことができます。
- **Broadcast WAVE:** 開始タイムコードとマーカーを含む Broadcast WAVE 形式でオーディオを書き出すことができます。
- **リバーブテール (秒) (Reverb tail (s)):** リバーブエフェクトが収まるように、書き出されるオーディオの最後に追加する時間を変更できます。

## テキストの書き出し

たとえば、カタログデータベースに入力したり、プロジェクト全体のテキストを校正したりするために、プロジェクトに表示されているすべてのテキストを CSV ファイルに書き出すことができます。

テキストの書き出しには、「**プロジェクト情報 (Project Info)**」ダイアログのすべてのフィールド、テキストフレーム内のテキスト、テキストアイテム、歌詞、テンポ記号、強弱記号などが含まれます。

前提条件

表示されているテキストを書き出すレイアウトを楽譜領域で開いておきます。

---

手順

1. 「**ファイル (File)**」 > 「**書き出し (Export)**」 > 「**テキスト (Text)**」を選択してエクスプローラー (Windows) または Finder (Mac) を開きます。
2. CSV ファイルの名前と保存場所を指定します。
3. 「**保存 (Save)**」をクリックします。

---

結果

楽譜領域で現在開いているレイアウトに表示されているすべてのテキストが書き出され、選択した場所に CSV ファイルとして保存されます。初期設定では、CSV ファイルが CSV ファイル用のデフォルトのアプリケーションで自動的に開きます。

ヒント

書き出したテキスト CSV ファイルを自動的に開くかどうかは、「**環境設定 (Preferences)**」 > 「**全般 (General)**」 > 「**ファイル (Files)**」で変更できます。

---

関連リンク

- [レイアウトの切り替え \(47 ページ\)](#)
- [「環境設定 \(Preferences\)」ダイアログ \(63 ページ\)](#)
- [「プロジェクト情報 \(Project Info\)」ダイアログ \(81 ページ\)](#)
- [ページテンプレートの種類 \(573 ページ\)](#)
- [テキストフレーム \(616 ページ\)](#)
- [テキストアイテム \(1763 ページ\)](#)
- [歌詞 \(1361 ページ\)](#)
- [歌詞の書き出し \(1366 ページ\)](#)
- [演奏技法 \(1536 ページ\)](#)

[強弱記号](#) (1229 ページ)  
[テンポ記号](#) (1745 ページ)  
[リハーサルマーク](#) (1574 ページ)  
[マーカー](#) (1580 ページ)  
[コメント](#) (545 ページ)  
[コメントの書き出し](#) (550 ページ)

## 自動保存

自動保存機能は、まだ保存操作を行っていない新規プロジェクトも含め、現在アクティブなプロジェクトを定期的にバージョンとして保存します。これにより、誤って保存しないままプロジェクトを閉じてしまった場合や、万が一 Dorico Pro やコンピューターがクラッシュした場合でも、大量の作業成果を失う危険性を抑えられます。

自動保存されるプロジェクトは、ユーザーアカウントのアプリケーションデータフォルダー内にある「**AutoSave**」フォルダーに保存されます。この場所は変更できません。

### 補足

- Dorico Pro は、特にサイズの大きいプロジェクトの場合、自動保存実行のために一時的に反応が遅くなる場合があります。
- 自動保存時にはプレビューイメージは生成されません。

## 複数のプロジェクトを開いている場合の自動保存

複数のプロジェクトを開いている場合、自動保存間隔ごとに現在アクティブなプロジェクトのみ自動保存されます。これは、再生のためにアクティブにできるのは一度に1つのプロジェクトのみであるためです。複数のプロジェクトを頻繁に切り替える場合、自動保存間隔は短く設定することをおすすめします。

## 自動保存ファイルの削除

「**AutoSave**」フォルダーに保存してあるすべてのファイルは、対応するプロジェクトを閉じたとき、および Dorico Pro を終了したときに自動的に削除されます。削除された自動保存済みプロジェクトは、コンピューターのごみ箱の中にあります。ファイルを識別できるよう、自動保存されたプロジェクトファイルの名前の最後には [AutoSave] が自動的に追加されます。

### 重要

「**AutoSave**」フォルダーのファイルが削除される際は、自動保存された Dorico プロジェクトだけでなく、フォルダー内のすべてのファイルが削除されます。そのため、「**AutoSave**」フォルダーには手動でファイルを保存しないことが重要です。

### ヒント

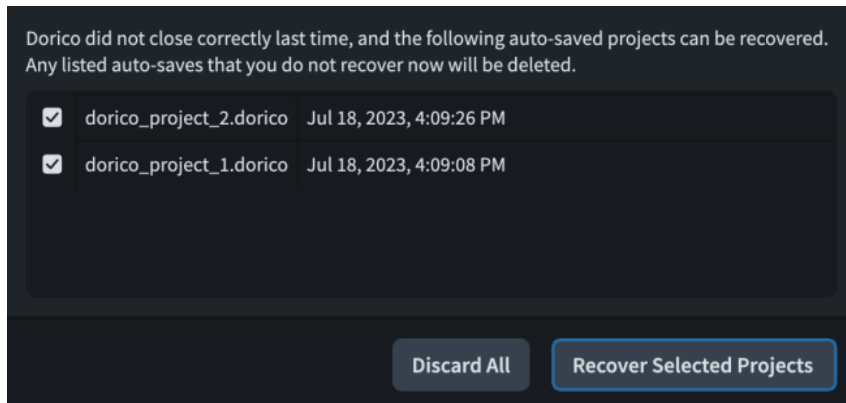
プロジェクトの以前のバージョンにアクセスする場合は、プロジェクトのバックアップを使用します。

### 関連リンク

[プロジェクトのバックアップ](#) (116 ページ)

## 「自動保存したプロジェクトを回復 (Recover Auto-saved Projects)」ダイアログ

「自動保存したプロジェクトを回復 (Recover Auto-saved Projects)」ダイアログでは、誤ってプロジェクトを保存せずに閉じてしまった場合や、Dorico Pro またはコンピューターがクラッシュした場合などに、自動保存されたプロジェクトを個別に回復できます。



「自動保存したプロジェクトを回復 (Recover Auto-saved Projects)」ダイアログには以下が含まれています。

### 自動保存されたプロジェクトのリスト

回復できる自動保存されたプロジェクトがすべて含まれています。各プロジェクトのファイル名と自動保存の日時が表示されます。

回復したいプロジェクトのチェックボックスをオンにできます。

### すべて破棄 (Discard All)

リスト内の自動保存されたプロジェクトをすべて削除してコンピューターのごみ箱に移動します。

### 選択したプロジェクトを回復 (Recover Selected Projects)

選択した自動保存済みプロジェクトを回復して個別のプロジェクトウィンドウで開きます。

## 自動保存したプロジェクトの回復

Dorico Pro がクラッシュした場合、そのとき開いていたプロジェクトの自動保存した一番最近のバージョンを回復できます。

### 手順

1. Dorico Pro を再起動します。
2. Dorico Pro のスプラッシュスクリーンの後に開く「自動保存したプロジェクトを回復 (Recover Auto-saved Projects)」ダイアログで、自動保存したプロジェクトのうち回復するもののチェックボックスをそれぞれオンにします。

### 補足

回復を選択しなかった自動保存済みプロジェクトは、ダイアログを閉じるときすべて恒久的に削除されます。

3. 「選択したプロジェクトを回復 (Recover Selected Projects)」をクリックして、選択した自動保存済みプロジェクトを回復してダイアログを閉じます。

#### 結果

選択した自動保存済みプロジェクトが回復され、個別のプロジェクトウィンドウで開きます。

#### 手順終了後の項目

自動保存したプロジェクトは、必要に応じて任意の場所のフォルダーに新規ファイル名で恒久的に保存できます。

## 自動保存の頻度の変更

Dorico Pro によるプロジェクトの自動保存の頻度を変更できます。初期設定では、現在アクティブなプロジェクトに対する自動保存の間隔は5分です。

---

#### 手順

1. **[Ctrl]/[command]+[,]** を押して「**環境設定 (Preferences)**」を開きます。
  2. カテゴリーリストの「**全般 (General)**」をクリックします。
  3. 「**ファイル (Files)**」セクションで、「**自動保存の間隔 [n] 分 (Auto-save every [n] minutes)**」の値を変更します。
  4. 「**適用 (Apply)**」をクリックしてから「**閉じる (Close)**」をクリックします。
- 

## 自動保存の無効化

たとえば、サイズの大きいプロジェクトでパフォーマンスに大きな影響が生じる場合などに、自動保存を完全に無効化できます。

---

#### 手順

1. **[Ctrl]/[command]+[,]** を押して「**環境設定 (Preferences)**」を開きます。
  2. カテゴリーリストの「**全般 (General)**」をクリックします。
  3. 「**ファイル (Files)**」セクションで、「**自動保存の間隔 [n] 分 (Auto-save every [n] minutes)**」をオフにします。
  4. 「**適用 (Apply)**」をクリックしてから「**閉じる (Close)**」をクリックします。
- 

## プロジェクトのバックアップ

保存操作が行なわれるごとに、Dorico Pro はプロジェクトのバックアップバージョンを保存します。初期設定では、過去5件の保存内容がバックアップとして保管されます。

それぞれのデフォルトの場所は、ユーザーアカウントの「**ドキュメント (Documents)**」フォルダーを初期設定場所とする「**Dorico プロジェクト (Dorico Projects)**」フォルダー内の、「**プロジェクトをバックアップ (Backup Projects)**」フォルダー内に作成される、プロジェクトのファイル名に対応した名前のフォルダーの中になります。

削除されたプロジェクトのバックアップは、コンピューターのごみ箱の中にあります。

## プロジェクトごとのバックアップ数の変更

保存する変更の範囲を広げる場合は、プロジェクトごとに Dorico Pro が保存するバックアップの数を変更できます。

---

### 手順

1. **[Ctrl]/[command]+[,]** を押して「**環境設定 (Preferences)**」を開きます。
  2. カテゴリリストの「**全般 (General)**」をクリックします。
  3. 「**ファイル (Files)**」セクションで、「**プロジェクトごとのバックアップ数 (Number of backups per project)**」の値を変更します。
  4. 「**適用 (Apply)**」をクリックしてから「**閉じる (Close)**」をクリックします。
- 

## バックアップ場所の変更

Dorico Pro がプロジェクトのバックアップの保管に使用するフォルダーを変更できます。初期設定では、Dorico Pro はユーザーアカウントの「**ドキュメント (Documents)**」フォルダーを初期設定場所とする「**Dorico プロジェクト (Dorico Projects)**」フォルダー内の、「**プロジェクトをバックアップ (Backup Projects)**」フォルダーを使用します。

---

### 手順

1. **[Ctrl]/[command]+[,]** を押して「**環境設定 (Preferences)**」を開きます。
  2. カテゴリリストの「**全般 (General)**」をクリックします。
  3. 「**ファイル (Files)**」セクションで、「**プロジェクトのバックアップフォルダー (Project backup folder)**」フィールドの横の「**選択 (Choose)**」をクリックしてエクスプローラー (Windows) または Finder (Mac) を開きます。
  4. プロジェクトのバックアップを保存するフォルダーの場所まで移動して選択します。
  5. 「**フォルダーを選択 (Select Folder)**」 (Windows) / 「**開く (Open)**」 (macOS) をクリックして、「**プロジェクトのバックアップフォルダー (Project backup folder)**」フィールドに新しいパスを指定します。
  6. 「**適用 (Apply)**」をクリックしてから「**閉じる (Close)**」をクリックします。
- 

### 結果

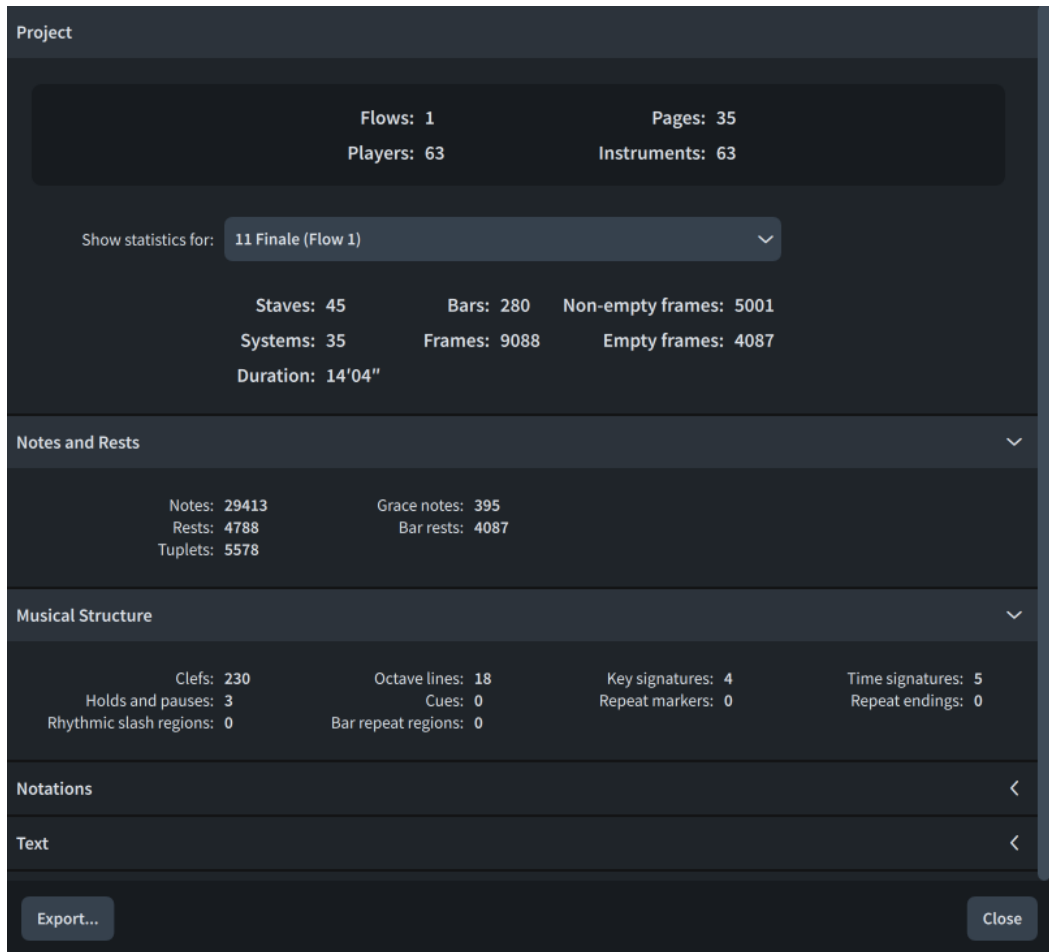
プロジェクトのバックアップのデフォルトのフォルダーが変更されます。指定したフォルダーが存在しない場合、Dorico Pro はこれを作成します。

## 「プロジェクトの解析 (Project Statistics)」 ダイアログ

「**プロジェクトの解析 (Project Statistics)**」ダイアログには、譜表、音符、記譜された小節、空の小節の数など、プロジェクト全体または個々のフローのみの解析が表示され、それを書き出すことができます。

初期設定では、Dorico Pro はフルスコアレイアウトを使用して解析を計算します。フルスコアレイアウトのないプロジェクトの場合、Dorico Pro は楽譜領域で現在開いているレイアウトを使用して解析を計算します。

- 「**プロジェクトの解析 (Project Statistics)**」ダイアログを開くには、いずれかのモードで「**ファイル (File)**」 > 「**プロジェクトの解析 (Project Statistics)**」を選択します。



「プロジェクト (Project)」セクションでは、「解析を表示 (Show statistics for)」メニューを使用して、選択したフローのみの解析を表示できます。

その他のセクションには、音符や記譜項目のさまざまな解析が機能別に分類されて表示されます。各セクションの表示/非表示は、対応するセクションヘッダーをクリックして切り替えることができます。

ダイアログ下部の「書き出し (Export)」をクリックすると、プロジェクトやフローの解析をプレーンテキストファイルに書き出すことができます。

#### 補足

プロジェクトやフローの解析における「フレーム」とは、単一の譜表上の小節を指します。たとえば、2つの譜表を持つ24小節のフローには48のフレームが含まれています。

## プロジェクトの解析の書き出し

たとえば、浄書料金を計算する場合などに、プロジェクト全体または個々のフローのみの解析を書き出すことができます。

#### 前提条件

プロジェクトにフルスコアレイアウトが含まれていない場合は、解析の生成と書き出しに使用するパート/カスタムスコアレイアウトを楽譜領域で開いておきます。

#### 手順

1. 「ファイル (File)」 > 「プロジェクトの解析 (Project Statistics)」を選択して「プロジェクトの解析 (Project Statistics)」ダイアログを開きます。

2. 個々のフローのみの解析を書き出すには、「**プロジェクト (Project)**」セクションの「**解析を表示 (Show statistics for)**」メニューからフローを選択します。
  3. ダイアログ下部の「**書き出し (Export)**」をクリックしてエクスプローラー (Windows) または Finder (Mac) を開きます。
  4. 解析ファイルの名前と保存場所を指定します。
  5. 「**保存 (Save)**」をクリックします。
- 

#### 結果

プロジェクト全体または選択したフローのみの解析がプレーンテキストファイルに書き出され、デフォルトのテキストエディターで自動的に開きます。

#### ヒント

プロジェクトの解析ファイルを表計算アプリケーションで開くこともできます。

---

#### 関連リンク

[ファイルの読み込みと書き出し \(86 ページ\)](#)

[レイアウトの切り替え \(47 ページ\)](#)

[レイアウトの作成 \(192 ページ\)](#)

# 設定モード

設定モードでは、インストゥルメントやそのインストゥルメントを割り当てるプレーヤー、フロー、レイアウト、ビデオなど、プロジェクトの基本的な要素を設定できます。また、たとえばレイアウトに割り当てられたプレーヤーを変更するなど、それらが互いにどのように作用するかも設定できます。

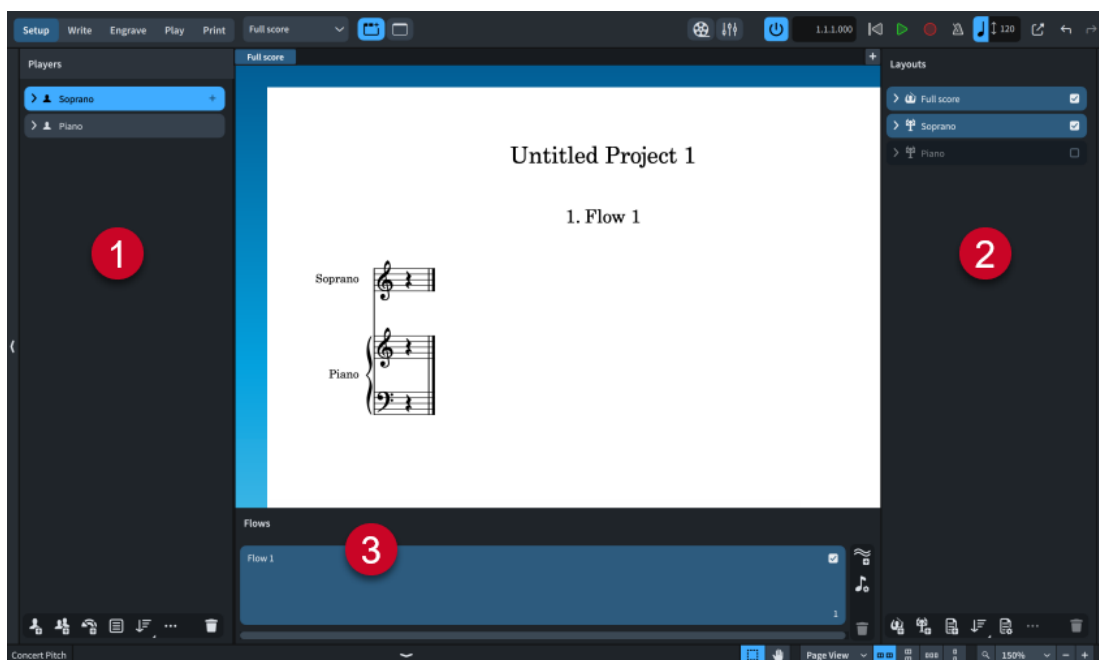
設定モードでは、楽譜領域の楽譜を表示したり、他のタブやレイアウト間で表示を切り替えたりできますが、楽譜領域内のアイテムを選択したり、編集したりすることはできません。

## 設定モードのプロジェクトウィンドウ

設定モードのプロジェクトウィンドウには、プレーヤーやインストゥルメントの追加、プロジェクトのレイアウトやフローの作成を行なうためのすべてのツールと機能を備えたパネルがあります。

設定モードに切り替えるには、以下のいずれかの操作を行ないます。

- **[Ctrl]/[command]+[1]** を押します。
- ツールバーの「設定 (Setup)」をクリックします。
- 「ウィンドウ (Window)」 > 「設定 (Setup)」を選択します。



設定モードには以下のパネルがあります。

### 1 プレーヤー (Players)

プロジェクトのプレーヤー、インストゥルメント、グループのリストを表示します。初期設定では、プレーヤーはすべてのフロー、すべてのフルスコアレイアウト、およびそれぞれのパートレイアウトに割り当てられます。

### 2 レイアウト (Layouts)

プロジェクト内のレイアウトのリストが表示されます。各プレーヤーに対してフルスコアレイアウトとパートレイアウトが1つずつ自動的に作成されますが、レイアウトは必要に応じて作成した



り削除したりできます。初期設定では、レイアウトにはすべてのフローが含まれ、フルスコアレイアウトにはすべてのプレイヤーが含まれます。

### 3 フロー (Flows)

プロジェクト内のフローが左から右へと順番に表示されます。初期設定では、フローにはすべてのプレイヤーが含まれ、すべてのレイアウトにフローが割り当てられます。

3つのパネルを組み合わせることで、プロジェクト内のプレイヤー、レイアウト、フローを使用する方法と場所を制御できます。いずれかのパネルでアイテムを選択すると、そのパネルと選択したアイテムが別の色で強調表示され、他のパネルのカードにチェックボックスが表示されます。これらのチェックボックスをオン/オフにすることで、プレイヤー、レイアウト、フローに内容をどのように割り当てるかを個別に変更できます。

関連リンク

[ツールバー \(33 ページ\)](#)

[プレイヤー、レイアウト、フロー \(133 ページ\)](#)

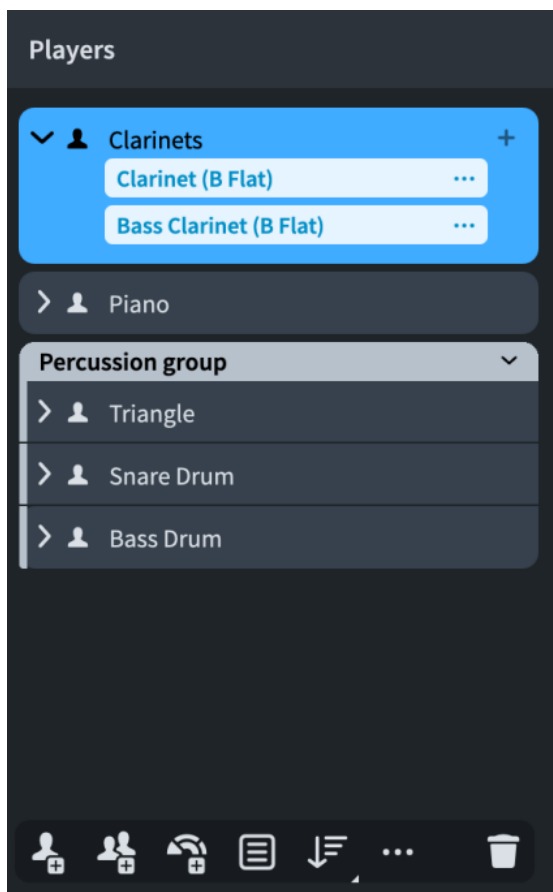
[新規プロジェクトの開始 \(77 ページ\)](#)

## プレイヤーパネル

「**プレイヤー (Players)**」パネルには、プロジェクト内のすべてのプレイヤーとプレイヤーグループがリスト表示されます。このパネルは設定モードのウィンドウの左側にあります。

設定モードの「**プレイヤー (Players)**」パネルの表示/非表示を切り替えるには、以下のいずれかの操作を行ないます。

- **[Ctrl]/[command]+[7]** を押します。
- メインウィンドウの左端にある展開矢印ボタンをクリックします。
- 「**ウィンドウ (Window)**」 > 「**左ゾーンを表示 (Show Left Zone)**」を選択します。



「プレイヤー (Players)」パネルに表示されるプレイヤーの順番によって、すべてのレイアウトで使用されるプレイヤーのデフォルトの順番が設定されます。レイアウトごとにカスタマイズしたプレイヤーの順番を設定することもできます。

「プレイヤー (Players)」パネルでは、各プレイヤーが、そのプレイヤーに割り当てられたインストゥルメントを含むカードとして表示されます。各プレイヤーカードには以下が表示されます。





**1 展開矢印マーク**

プレイヤーカードを展開したり、折りたたんだりします。

**2 プレイヤーのタイプ**

以下のいずれかのプレイヤータイプが表示されます。

- シングルプレイヤー 
- セクションプレイヤー 


**3 プレイヤー名**

プレイヤーの名前が表示されます。初期設定では、プレイヤー名にはそのプレイヤーに割り当てられたすべてのインストゥルメントの名前が含まれます。プレイヤー名を手動で変更することもできます。

#### 4 インストゥルメントの追加アイコン

プレーヤーのインストゥルメントを選択するインストゥルメントピッカーを開きます。

#### 5 インストゥルメントラベル

プレーヤーに割り当てられたインストゥルメントにはそれぞれ独自のインストゥルメントラベルがあります。各インストゥルメントラベルのインストゥルメントメニュー  から、インストゥルメント名の変更や別のプレーヤーへのインストゥルメントの移動などのオプションを含むメニューを開くことができます。

インストゥルメントラベルは青色で表示されます。キットインストゥルメントのラベルは緑色で表示されます。

パネルの最下部のアクションバーには以下のオプションがあります。

#### シングルプレーヤーを追加 (Add Single Player)



プロジェクトにシングルプレーヤーを追加します。また、「レイアウト (Layouts)」パネルにはそのプレーヤーのパートレイアウトも自動的に追加されます。

#### セクションプレーヤーを追加 (Add Section Player)



プロジェクトにセクションプレーヤーを追加します。また、「レイアウト (Layouts)」パネルにはそのプレーヤーのパートレイアウトも自動的に追加されます。

#### アンサンブルを追加 (Add Ensemble)



複数のプレーヤーをプロジェクトに追加します。また、「レイアウト (Layouts)」パネルには各プレーヤーのパートレイアウトも自動的に追加されます。

#### グループを追加 (Add Group)



プロジェクトにプレーヤーグループを追加します。プレーヤーが選択されていない場合は、空白のプレーヤーグループが追加されます。既存のプレーヤーが選択されている場合は、それらがグループ化されます。

#### プレーヤーを並べ替え (Sort Players)



最初に割り当てられていたインストゥルメントと現在のインストゥルメントのスコアの順番に従って、「プレーヤー (Players)」パネルのすべてのプレーヤーをソートします。

「プレーヤーを並べ替え (Sort Players)」をクリックしたままにするか右クリックすると設定を変更できます。Dorico Pro の初期設定では、以下のインストゥルメントのスコアの順番が用意されています。

- **なし (None):** インストゥルメントに関係なく、新規プレーヤーはプレーヤーリストの一番下に追加されます。
- **バンド (Band):** 一般に認められた吹奏楽/コンサートバンドの順番に従ってプレーヤーがソートされます。たとえば、弦楽器は金管楽器と打楽器の間に配置されます。
- **ジャズ (Jazz):** 一般に認められたジャズの順番に従ってプレーヤーがソートされます。たとえば、トランペットはホルンの上に、有音程打楽器はギターの上に配置されます。
- **オーケストラ (Orchestral):** 一般に認められたオーケストラの順番に従ってプレーヤーがソートされます。たとえば、木管楽器は金管楽器や弦楽器の上に配置されます。

作成したカスタムのインストゥルメントのスコアの順番も使用できます。

### プレイヤー設定 (Player Settings)



プレイヤーの名前を変更する場合や譜表の上にコード記号を表示する場合など、選択したプレイヤーの設定やコントロールにアクセスできます。

プレイヤーを右クリックすることでも、プレイヤー設定にアクセスできます。

### プレイヤーを削除 (Delete Player)



選択したプレイヤーやプレイヤーグループをプロジェクトから削除します。キャンセルなどのオプションを含む警告メッセージが表示されます。

#### 関連リンク

[プレイヤー \(135 ページ\)](#)

[プレイヤーグループ \(183 ページ\)](#)

[アンサンブル \(141 ページ\)](#)



[インストゥルメントのスコアの順番 \(963 ページ\)](#)

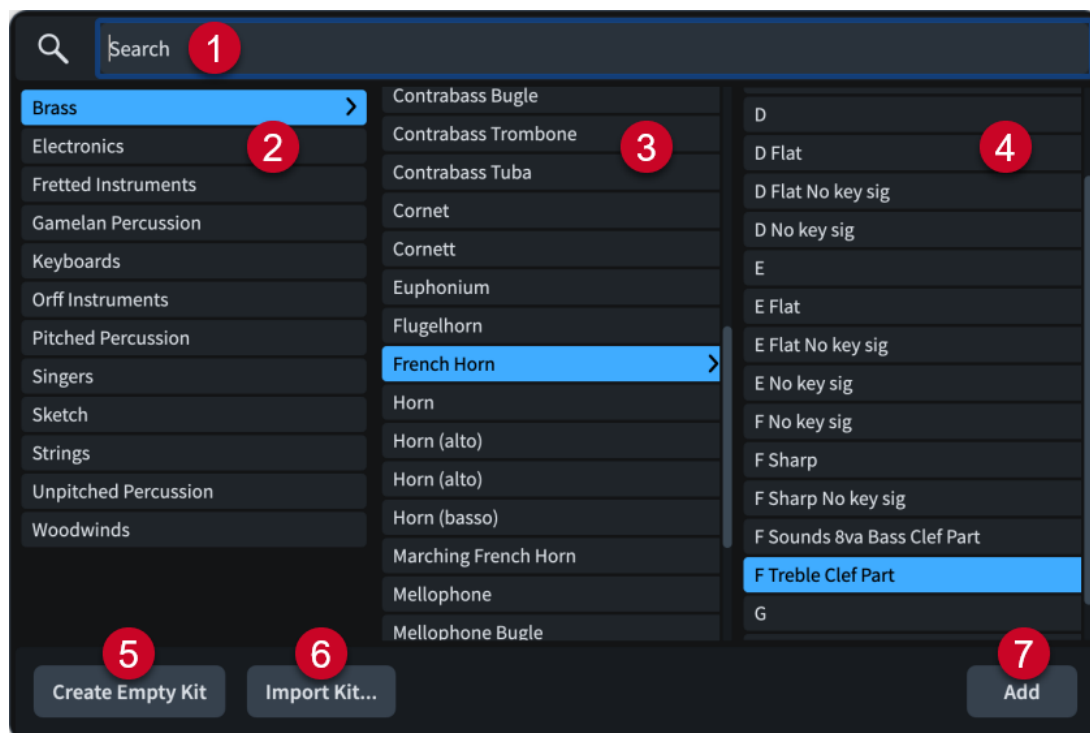
## インストゥルメントピッカー

インストゥルメントピッカーを使用すると、インストゥルメントを見つけてプロジェクトに追加できます。移調音のレイアウトが常にト音記号のバージョンがあるフレンチホルンなど、特定の形式設定とチューニングの要件があるインストゥルメントのバージョンが複数含まれています。

インストゥルメントピッカーはアプリケーション言語を使用します。

設定モードでは、以下のいずれかの操作を行なって、インストゥルメントピッカーを開くことができます。

- 新しいプレイヤーを追加します。
- 「プレイヤー (Players)」パネルで、プレイヤーカードの「インストゥルメントをプレイヤーに追加 (Add Instrument to Player)」 をクリックします。
- 「プレイヤー (Players)」パネルでプレイヤーを選択して **[Shift]+[I]** を押します。
- 「プレイヤー (Players)」パネルで、プレイヤーを選択してアクションバーの「プレイヤー設定 (Player Settings)」 をクリックし、「インストゥルメントをプレイヤーに追加 (Add Instrument to Player)」を選択します。プレイヤーを右クリックして、コンテキストメニューからオプションを選択することもできます。



インストゥルメントピッカーには以下のセクションおよびオプションがあります。

#### 1 検索フィールド

検索するインストゥルメント名を直接入力します。Violoncello の場合は「cello」のように、インストゥルメント名の一部のみでも検索できます。

#### 2 インストゥルメントファミリー列

検索を絞り込むためのインストゥルメントファミリーを表示します。

#### 3 インストゥルメント列

選択したインストゥルメントファミリーのインストゥルメントを表示します。

#### 4 バリエーション列

代替の移調、チューニング、調号オプション、または実音/移調音のレイアウトでの異なる動作など、選択したインストゥルメントのバリエーションが表示されます。バリエーションがないインストゥルメントの場合、この列には何も表示されません。

#### 5 空のキットを作成 (Create Empty Kit)

プレーヤーに空の打楽器キットを追加します。

#### 6 キットを読み込む (Import Kit)

ライブラリーファイルとしてあらかじめ書き出した既存の打楽器キットを読み込みます。

#### 7 追加 (Add)

選択したインストゥルメントをプロジェクトに追加します。

「**検索 (Search)**」フィールドにインストゥルメント名を直接入力するだけでなく、インストゥルメントピッカー内のオプションをクリックして選択したり、**[↑]**/**[↓]** を押して同じ列の別のアイテムを選択したりできます。

**[Tab]** を押すと、インストゥルメントピッカー内で「**検索 (Search)**」フィールド、**インストゥルメント**、**バリエーション**、**インストゥルメントファミリー**の順にフォーカスが切り替わります。また、**[Shift]+[Tab]** を押すと逆方向に切り替わります。

キーボードを使用してインストゥルメントを選択する場合、囲み線がどのインストゥルメントのファミリーまたはインストゥルメントを選択しているかを示します。

#### 関連リンク



- [プレーヤー \(135 ページ\)](#)
- [インストゥルメント \(143 ページ\)](#)
- [カスタムインストゥルメント \(950 ページ\)](#)
- [インストゥルメントファミリー \(960 ページ\)](#)
- [移調楽器 \(146 ページ\)](#)
- [フレット楽器のチューニング \(168 ページ\)](#)
- [打楽器キットとドラムセット \(156 ページ\)](#)
- [カポ \(173 ページ\)](#)
- [プレーヤーの追加 \(136 ページ\)](#)
- [プレーヤーへのインストゥルメントの追加 \(146 ページ\)](#)
- [インストゥルメントの変更 \(148 ページ\)](#)
- [アプリケーション言語の変更 \(61 ページ\)](#)

## アンサンブルピッカー

アンサンブルピッカーを使用すると、複数のプレーヤーを含むアンサンブルを見つけてプロジェクトに追加できます。既存のアンサンブルを選択することも、新規に作成することもできます。

アンサンブルピッカーはアプリケーション言語を使用します。

設定モードでは、以下のいずれかの操作を行なって、アンサンブルピッカーを開くことができます。

- **[Shift]+[E]** を押します。
- 「**プレーヤー (Players)**」パネルで「**アンサンブルを追加 (Add Ensemble)**」 をクリックします。
- 空白のプロジェクトで、プロジェクト開始領域の「**アンサンブルを追加 (Add Ensemble)**」 をクリックします。

アンサンブルピッカーには「**ビルド (Build)**」タブと「**選択 (Choose)**」タブがあります。これらのタブは、アンサンブルピッカーの左上角のオプションを使用して切り替えられます。

### 「ビルド (Build)」タブ



「ビルド (Build)」タブには以下のものがあります。

#### 1 検索フィールド

以下のいずれかの操作を行なって、アンサンブルに含めるインストゥルメントを指定できます。

- 「**String Section**」など、既存のアンサンブルの名前を入力します。
- インストゥルメントの名前または略称を、それぞれコンマで区切って入力します。インストゥルメントの前に数字とスペースを付けることができます。たとえば、バイオリン2人、クラリネット3人、ファゴット1人、チューバ1人、マリimba1人を含むアンサンブルを作成するには「**2 vln, 3 cl,bsn,tuba,marim**」と入力します。
- 対応するオーケストラの省略表現を、区切り用文字を使用して、あるいは区切り用文字なしで入力します。たとえば、フルート2人、ピッコロ1人、オーボエ2人、クラリネット2人、ファゴット2人のあとにホルン4人、トランペット3人、トロンボーン3人、チューバ1人を追加するには、「**2picc.2.2.2 / 4.3.3.1**」と入力します。

金管楽器のみを指定するには、オーケストラの省略表現の前に「**br**」を付けます (例: 「**br4331**」)。



#### 補足

各インストゥルメントタイプに使用できるのは1桁の数字のみです。

## 2 プレーヤーリスト

検索フィールドに入力した内容に基づいて、アンサンブルに現在含まれているインストゥルメントが表示されます。

初期設定では、インストゥルメントはシングルプレーヤーに割り当てられます。リスト内のプレーヤーをダブルクリックしてプレーヤーのタイプを変更できます。アイコンには、以下のオプションの中から現在のプレーヤータイプが表示されます。

- シングルプレーヤー 
- セクションプレーヤー 

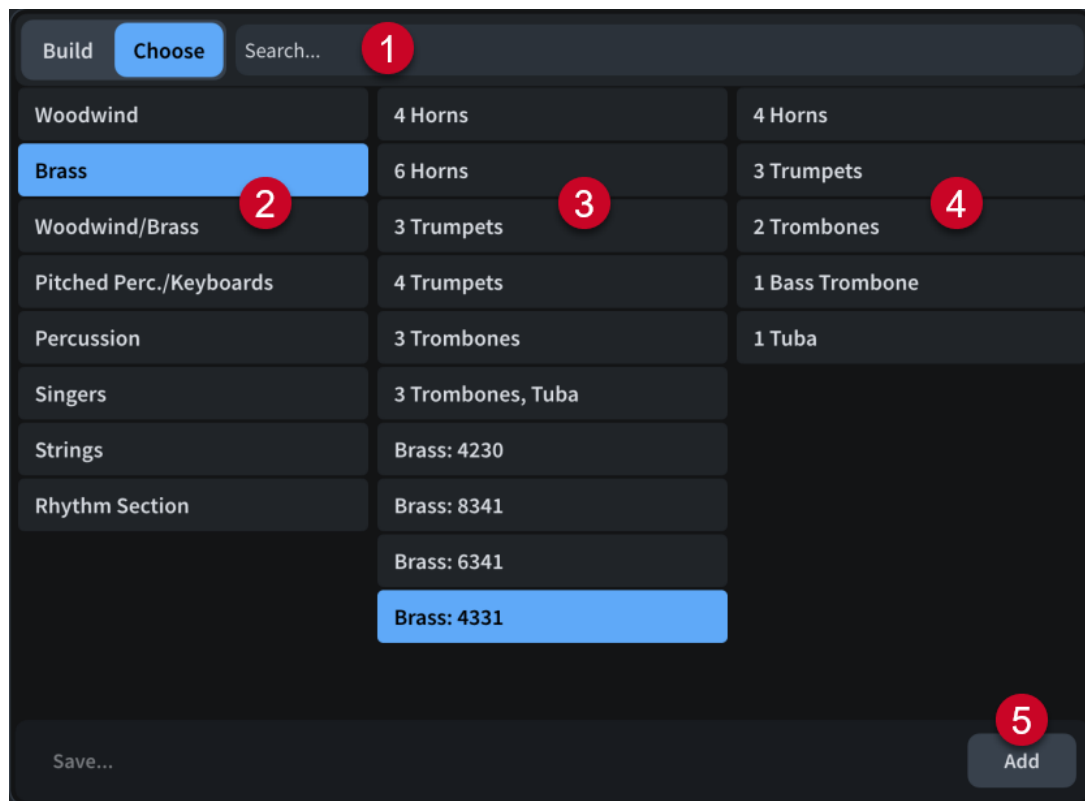
## 3 保存 (Save)

それ以降のプロジェクトで再利用するために、アンサンブルに名前を付けて保存できる「**カスタムのアンサンブルを保存 (Save Custom Ensemble)**」ダイアログを開きます。

## 4 追加 (Add)

カスタムアンサンブルのプレーヤーをプロジェクトに追加します。

## 「選択 (Choose)」 タブ



「選択 (Choose)」 タブには以下のものがあります。

- 1 検索フィールド**  
検索するアンサンブル名を直接入力します。
- 2 アンサンブルカテゴリー列**  
アンサンブル検索を絞り込むためのアンサンブルカテゴリーが表示されます。
- 3 アンサンブル列**  
選択したカテゴリーのアンサンブルが表示されます。
- 4 アンサンブルの内容列**  
選択したアンサンブルに含まれているインストゥルメントが表示されます。
- 5 追加 (Add)**  
選択したアンサンブルのプレーヤーをプロジェクトに追加します。

関連リンク

[アンサンブル \(141 ページ\)](#)

[プレーヤー \(135 ページ\)](#)

[プロジェクトテンプレート \(84 ページ\)](#)

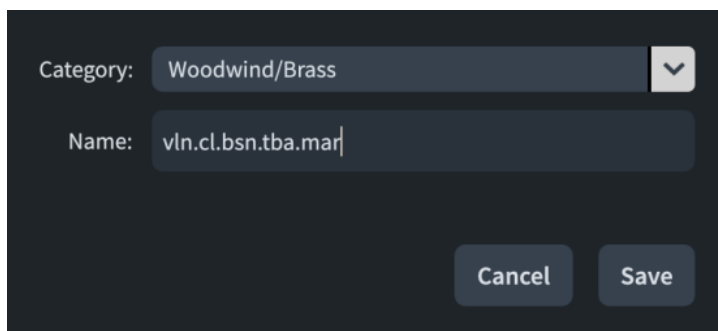
[アプリケーション言語の変更 \(61 ページ\)](#)

## 「カスタムのアンサンブルを保存 (Save Custom Ensemble)」 ダイアログ

「カスタムのアンサンブルを保存 (Save Custom Ensemble)」 ダイアログでは、それ以降のプロジェクトで再利用するために、カスタムアンサンブルに名前を付けて保存できます。

- 設定モードで「カスタムのアンサンブルを保存 (Save Custom Ensemble)」 ダイアログを開くには、アンサンブルピッカーでカスタムアンサンブルを作成して「保存 (Save)」をクリックします。





Category: Woodwind/Brass

Name: vln.cl.bsn.tba.mar

Cancel Save

「カスタムのアンサンブルを保存 (Save Custom Ensemble)」ダイアログには以下のオプションがあります。

#### カテゴリー (Category)

カスタムアンサンブルのアンサンブルカテゴリーを選択できます。

#### 名前 (Name)

カスタムアンサンブルの名前を入力できます。

関連リンク

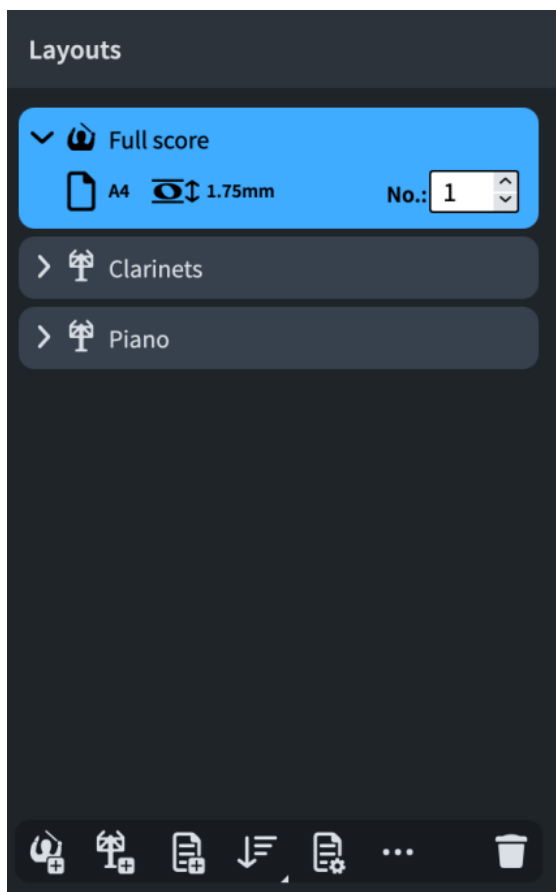
[カスタムアンサンブルの作成と保存 \(142 ページ\)](#)

## 「レイアウト (Layouts)」 パネル (設定モード)

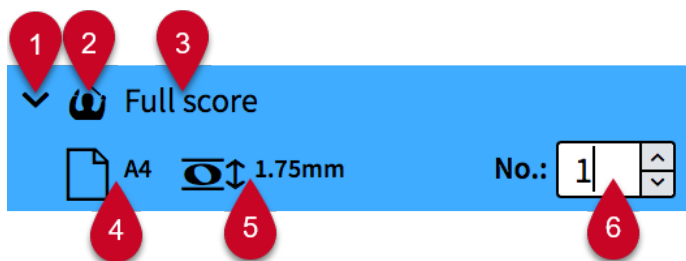
「レイアウト (Layouts)」パネルには、プロジェクト内のすべてのレイアウトがリスト表示されます。設定モードでは、このパネルはウィンドウの右側にあります。

設定モードの「レイアウト (Layouts)」パネルの表示/非表示を切り替えるには、以下のいずれかの操作を行ないます。

- **[Ctrl]/[command]+[9]** を押します。
- メインウィンドウの右端にある展開矢印マークをクリックします。
- 「ウィンドウ (Window)」 > 「右ゾーンを表示 (Show Right Zone)」を選択します。



「レイアウト (Layouts)」パネルでは、各レイアウトがカードとして表示されます。各レイアウトカードには以下が表示されます。






### 1 展開矢印マーク

レイアウトカードを展開したり、折りたたんだりします。

### 2 レイアウトのタイプ

以下のいずれかのレイアウトのタイプが表示されます。

- フルスコアレイアウト 
- パートレイアウト 
- カスタムスコアレイアウト 

### 3 レイアウト名

レイアウト名が表示されます。プレーヤーに割り当てられたインストゥルメントの名前と追加されたレイアウトの種類にしたがって、Dorico Pro が自動的にデフォルト名を追加します。たとえば、プレーヤーにフルートを割り当てると、パートレイアウトは自動的に同じ名前となります。空白のパートレイアウトを追加すると、レイアウト名は「空白のパート譜 (Empty part)」と表示され、複数の空白のパートレイアウトを追加した場合は通し番号が表示されます。

#### 4 ページのサイズと向き

「レイアウトオプション (Layout Options)」の「ページ設定 (Page Setup)」ページで設定したレイアウトのサイズと向きが表示されます。

#### 5 線間の高さ

「レイアウトオプション (Layout Options)」の「ページ設定 (Page Setup)」ページで設定したとおりに、2本の譜表線の間の高さをポイントで表示します。これは、レイアウトの譜表のサイズを示します。

#### 6 レイアウト番号

グラフィックとして書き出す際にファイル名の一部として使用できるレイアウトの一意的番号を設定できます。通常、オーケストラの順番はアルファベット順ではありません。そのため、この機能は書き出したパートレイアウトファイルをオーケストラの順番に整理するのに役立ちます。

レイアウトタイプごとに異なるレイアウト番号のシーケンスがあります。たとえば、フルスコアレイアウトにはパートレイアウトとは別に通し番号が付けられます。

パネルの最下部のアクションバーには以下のオプションがあります。

#### フルスコアレイアウトを追加 (Add Full Score Layout)



プロジェクトにフルスコアレイアウトを追加します。初期設定では、すべてのプレイヤーとフローがレイアウトに含まれます。

#### パートレイアウトを追加 (Add Instrumental Part Layout)



プロジェクトに空白のパートレイアウトを追加します。そのあと、レイアウトに1人以上のプレイヤーを割り当てることができます。初期設定では、プロジェクトで作成されたすべてのフローがパートレイアウトに含まれます。

#### カスタムスコアレイアウトを追加 (Add Custom Score Layout)



プロジェクトに空白のカスタムスコアレイアウトを追加します。そのあと、レイアウトにプレイヤーとフローを割り当てることができます。

#### レイアウトをソート (Sort Layouts)



「レイアウト (Layouts)」パネルのすべてのレイアウトを、フルスコアレイアウト、パートレイアウト、カスタムスコアレイアウトの順番に種類別にソートします。

「レイアウトをソート (Sort Layouts)」をクリックしたままにするか右クリックすると、以下のいずれかのオプションに設定を変更できます。

- **レイアウト番号 (Layout Number):** 各カテゴリ内のレイアウトを、現在のレイアウト番号に従ってソートします。
- **インストゥルメントのスコアの順番 (Instrument Score Order):** 各カテゴリ内のレイアウトを、「プレイヤー (Players)」パネルの対応するプレイヤーの順序に従ってソートします。

#### レイアウトオプション (Layout Options)



選択したレイアウトの「レイアウトオプション (Layout Options)」ダイアログを開きます。

### レイアウト設定 (Layout Settings)



レイアウトの名前を変更する場合など、選択したレイアウトの設定やコントロールにアクセスできます。

レイアウトを右クリックすることでも、レイアウト設定にアクセスできます。

### レイアウトを削除 (Delete Layout)



選択したレイアウトをプロジェクトから削除します。

関連リンク

[レイアウト \(190 ページ\)](#)

[「レイアウトオプション \(Layout Options\)」ダイアログ \(917 ページ\)](#)

[印刷モードの「レイアウト \(Layouts\)」パネル \(720 ページ\)](#)

[ファイルの読み込みと書き出し \(86 ページ\)](#)

[レイアウトへのプレーヤーの割り当て \(193 ページ\)](#)

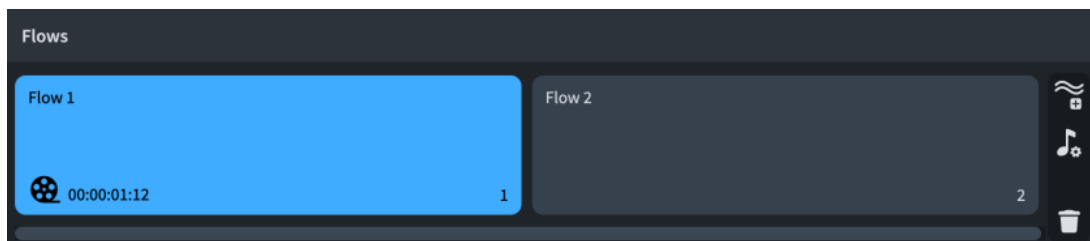
[レイアウトへのフローの割り当て \(193 ページ\)](#)

## フローパネル

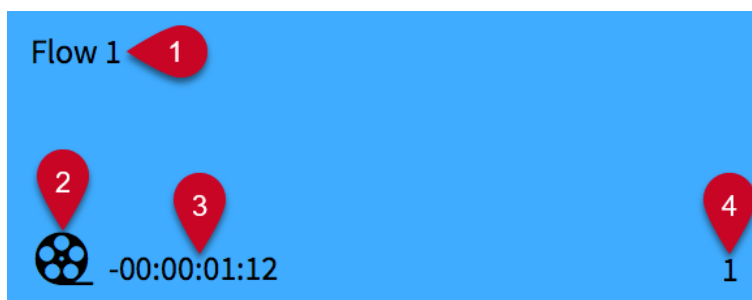
「フロー (Flows)」パネルには、プロジェクト内のすべてのフローが横並びに表示されます。このパネルは設定モードのウィンドウの下にあります。

設定モードの「フロー (Flows)」パネルの表示/非表示を切り替えるには、以下のいずれかの操作を行います。

- **[Ctrl]/[command]+[8]** を押します。
- メインウィンドウ最下部の展開矢印マークをクリックします。
- 「ウィンドウ (Window)」 > 「下ゾーンを表示 (Show Lower Zone)」を選択します。



「フロー (Flows)」パネルでは、各フローがカードとして表示されます。各フローカードには以下が表示されます。



#### 1 フロー名

フロー名を表示します。名前を変更せずに複数のフローを作成すると、新規フローを作成するたびに、名前の後ろに通し番号の数字を追加したフロー名が付けられます。

## 2 フィルムリールアイコン

フローにビデオが添付されていることを示します。

## 3 フロータイムコード

フローの開始タイムコードを表示します。

## 4 フロー番号

フローの通し番号を表示します。新規フローを作成するか読み込むかするたびに通し番号の値が増加します。また、通し番号は、レイアウト内のフローの位置を示します。

「フロー (Flows)」パネルには以下のオプションがあります。

### フローを追加 (Add Flow)



プロジェクトに新規フローを追加します。初期設定では、すべての新規フローはすべてのレイアウトに含まれ、個々のプレーヤーは新規フローに追加されます。

### 記譜オプション (Notation Options)



「記譜オプション (Notation Options)」ダイアログを開きます。各フローの楽譜の記譜法に影響する変更を実施できる複数のオプションが表示されます。

### フローを削除 (Delete Flow)



選択したフローをプロジェクトから削除します。

関連リンク

[フロー](#) (187 ページ)

[ビデオ](#) (211 ページ)

[「記譜オプション \(Notation Options\)」ダイアログ](#) (919 ページ)

# プレーヤー、レイアウト、フロー

Dorico Pro ではプレーヤー、レイアウト、フローがすべて相互につながっています。これらは単一のスコアではなくプロジェクト内にあるため、フルスコアにプレーヤーやフローを表示することなくプロジェクト内に保存することもできます。

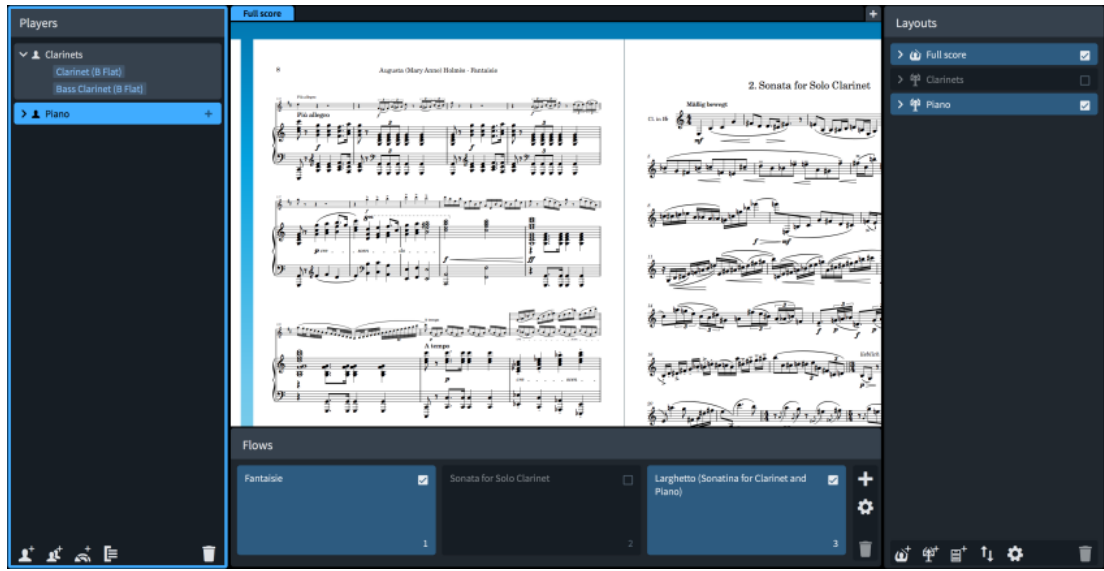
- プレーヤーはレイアウトとフローのあらゆる組み合わせに割り当てることができます。たとえば、フルスコアレイアウトとそのパートレイアウトの両方に 1 人のプレーヤーを割り当てたり、演奏をしないフローからプレーヤーを削除したりできます。初期設定では、プレーヤーはすべてのフルスコアレイアウト、それぞれのパートレイアウト、およびプロジェクトで作成されたすべてのフローに割り当てられます。
- レイアウトにはプレーヤーとフローのあらゆる組み合わせを含めることができます。たとえば、1 つのパートレイアウトにすべての歌手を割り当てておいて、歌のないフローをレイアウトから削除できます。初期設定では、レイアウトにはすべてのフローが含まれ、フルスコアレイアウトにはすべてのプレーヤーが含まれます。
- フローにはプレーヤーのあらゆる組み合わせを含めることができるほか、フローをレイアウトに割り当てたりレイアウトから削除したりできます。初期設定では、フローにはすべてのプレーヤーが含まれ、すべてのレイアウトにフローが割り当てられます。

### 補足

- フローからプレーヤーを削除すると、そのフローで該当するプレーヤーに対してすでに入力した音符は削除されます。

- レイアウトからフローを削除すると、そのフローから該当するレイアウトが自動的に削除されます。また、その逆も同様です。プレイヤーとレイアウト、プレイヤーとフローについても同じです。

設定モードのパネルでいずれかのカードを選択すると、ほかのパネルに含まれるそれぞれのカードにチェックボックスが表示されます。選択カードに対応するカードは強調表示され、チェックボックスがオンになります。それ以外のカードは強調表示されず、チェックボックスはオフのままです。たとえば、「**プレイヤー (Players)**」パネルでプレイヤーカードを選択すると、そのプレイヤーが割り当てられたすべてのフローが「**フロー (Flows)**」パネルで、すべてのレイアウトが「**レイアウト (Layouts)**」パネルで強調表示かつオンになります。



「**プレイヤー (Players)**」パネルでピアノプレイヤーを選択すると、対応するフローとレイアウトが「**フロー (Flows)**」パネルと「**レイアウト (Layouts)**」パネルにそれぞれ表示される

#### 例

3つの楽章に分割された弦楽四重奏と合唱の楽譜があります。3番めの楽章は弦楽四重奏がタチエットになっており、合唱はアカペラで歌います。

この Dorico プロジェクトには3つのフロー（各楽章に1つずつ）、弦楽四重奏の4人のシングルプレイヤー、合唱の4人のセクションプレイヤー、ピアノ譜のもう1人のシングルプレイヤーが含まれています。このプロジェクトでは、以下のレイアウトを使用して楽譜を記譜します。

- 4つのパートレイアウト（弦楽四重奏の各プレイヤーに1つずつ）。各パートレイアウトには3つのフローがすべて含まれますが、3番めのフローには弦楽四重奏のプレイヤーが割り当てられていないため、自動タチエットが表示されます。
- 3つのフロー、弦楽四重奏のプレイヤー、合唱のプレイヤーがすべて含まれた1つのフルスコアレイアウト（ピアノ譜のプレイヤーは含まない）。
- ボーカルスコア用の1つのカスタムスコアレイアウト。これには3つのフロー、合唱のプレイヤー、ピアノ譜のプレイヤーがすべて含まれます。

#### 関連リンク

[「プロジェクト情報 \(Project Info\)」ダイアログ \(81 ページ\)](#)

[フロー \(187 ページ\)](#)

[レイアウト \(190 ページ\)](#)

[レイアウトへのフローの割り当て \(193 ページ\)](#)

[レイアウトへのプレイヤーの割り当て \(193 ページ\)](#)

[フローにプレイヤーを割り当てる \(189 ページ\)](#)

[プレーヤー名、レイアウト名、インストゥルメント名 \(203 ページ\)](#)

[ファイルの読み込みと書き出し \(86 ページ\)](#)

[タチェット \(795 ページ\)](#)

## プレーヤー

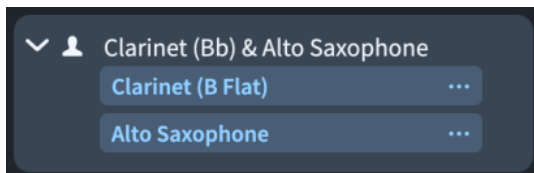
Dorico Pro におけるプレーヤーとは、1 人のミュージシャンまたは同じセクション内の複数のミュージシャンのことを指します。プレーヤーにはインストゥルメントを割り当てることができ、インストゥルメントを追加するにはプロジェクトに少なくとも 1 人のプレーヤーを追加しておく必要があります。

Dorico Pro のプレーヤーには、以下のタイプがあります。

### シングルプレーヤー

1 つ以上のインストゥルメントを演奏できる 1 人のプレーヤーを指します。たとえば、アルトサクソフォンも演奏するクラリネット奏者や、バスドラム、シンバル、トライアングルを演奏する打楽器奏者がソロプレーヤーです。

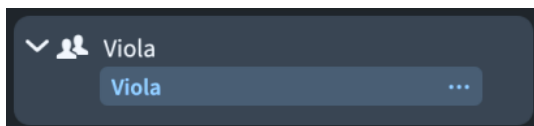
シングルプレーヤーに属するインストゥルメントには、追加の譜表を作成できます。



設定モードの「**プレーヤー (Players)**」パネルのシングルプレーヤー

### セクションプレーヤー

全員が同じインストゥルメントを演奏する複数のプレーヤーを指します。たとえば、オーケストラの第 1 バイオリンセクションの 8 人のバイオリン奏者からなるバイオリンセクションプレーヤーや、混声合唱のソプラノパートのソプラノセクションプレーヤーなどがあります。



設定モードの「**プレーヤー (Players)**」パネルのセクションプレーヤー

### 補足

セクションプレーヤーが持てるインストゥルメントは 1 つだけですが、ディヴィジすることはできます。つまり、セクションプレーヤーを小規模なユニットに分けることができます。これは、一般的に弦楽器で必要とされる機能です。

たとえばソロバイオリンとオーケストラのための協奏曲などにおいて、シングルプレーヤーとセクションプレーヤーのどちらもソリストに指定できます。

Dorico Pro でプレーヤーを追加すると、自動的に以下ようになります。

- パートレイアウトが作成され、そのレイアウトに新しいプレーヤーが割り当てられます。
- プレーヤーが既存のすべてのフルスコアレイアウトに追加されます。フルスコアレイアウトがない場合は、新規のフルスコアレイアウトが作成されます。
- プレーヤーがプロジェクトで作成された既存のすべてのフローに割り当てられます。プロジェクトに読み込んだフローには、プレーヤーは追加されません。

関連リンク

[インストゥルメント \(143 ページ\)](#)

- [プレイヤーグループ \(183 ページ\)](#)
- [アンサンブルの追加 \(141 ページ\)](#)
- [プレイヤー名、レイアウト名、インストゥルメント名 \(203 ページ\)](#)
- [コンデンシング \(799 ページ\)](#)
- [ディヴィジ \(1722 ページ\)](#)
- [インストゥルメントのナンバリング \(144 ページ\)](#)
- [インストゥルメントの変更 \(150 ページ\)](#)
- [追加の譜表 \(1706 ページ\)](#)

## プレイヤーの追加



シングルプレイヤーおよびセクションプレイヤーをプロジェクトに追加できます。シングルプレイヤーは複数のインストゥルメントを持つことができますが、セクションプレイヤーが持てるインストゥルメントは1つだけです。

### 前提条件

追加するカスタムインストゥルメントを作成しておきます。

---

### 手順

- 設定モードで以下のいずれかの操作を行なって、楽器が関連付けられていないプレイヤーを追加し、インストゥルメントピッカーを開きます。
  - シングルプレイヤーを追加するには、**[Shift]+[P]** を押すか、「**プレイヤー (Players)**」パネルまたはプロジェクト開始領域の「**シングルプレイヤーを追加 (Add Single Player)**」 をクリックします。
  - セクションプレイヤーを追加するには、**[Shift]+[Alt/Opt]+[P]** を押すか、「**プレイヤー (Players)**」パネルまたはプロジェクト開始領域の「**セクションプレイヤーを追加 (Add Section Player)**」 をクリックします。
- インストゥルメントピッカーで任意のインストゥルメントを選択します。
- [Return]** を押して、選択したインストゥルメントを追加します。

---

### 結果

シングルプレイヤー/セクションプレイヤーが追加され、選択したインストゥルメントに合わせて自動的に名前が付けられます。「**プレイヤー (Players)**」パネル内のプレイヤーの位置は、現在のインストゥルメントのスコアの順番によって決まります。

プレイヤーは、独自の新しいパートレイアウト、すべてのフルスコアレイアウト、およびプロジェクトで作成されたすべてのフローに割り当てられます。

現在の再生テンプレートに応じて、インストゥルメントのサウンドが自動的に読み込まれます。

### 補足

- プロジェクトに読み込んだフローには、プレイヤーは自動的に追加されません。
- 複数のインストゥルメントをプロジェクトに同時に追加したい場合は、アンサンブルを追加するかプロジェクトテンプレートを使用します。

---

### 手順終了後の項目

- 追加したシングルプレイヤーに複数のインストゥルメントを割り当てるには、シングルプレイヤーに他のインストゥルメントを追加します。
- プレイヤーをソリストに指定できます。
- すべてのレイアウトのプレイヤーのデフォルトの順番を変更したり、カスタマイズしたプレイヤーの順番をレイアウトごとに設定したりできます。



#### 関連リンク


- [プレイヤーパネル \(121 ページ\)](#)
- [インストゥルメントピッカー \(124 ページ\)](#)
- [プレイヤー名、レイアウト名、インストゥルメント名 \(203 ページ\)](#)
- [譜表ラベルにインストゥルメント名/プレイヤー名を表示する \(1689 ページ\)](#)
- [インストゥルメント名の言語の変更 \(61 ページ\)](#)
- [インストゥルメントのナンバリング \(144 ページ\)](#)
- [プレイヤーへのインストゥルメントの追加 \(146 ページ\)](#)
- [カスタムインストゥルメント \(950 ページ\)](#)
- [プロジェクトテンプレート \(84 ページ\)](#)
- [再生テンプレート \(701 ページ\)](#)

## プレイヤーの複製

既存のプレイヤーを複製できます。複製を行なうと、元のプレイヤーと同じインストゥルメントが割り当てられた同じタイプのプレイヤーが追加されます。

---

#### 手順

- 設定モードの「**プレイヤー (Players)**」パネルで、複製するプレイヤーを選択します。
- アクションバーで「**プレイヤー設定 (Player Settings)**」をクリックし、「**プレイヤーを複製 (Duplicate Player)**」を選択します。

---

#### 結果

元のプレイヤーと同じインストゥルメントを使用する新規プレイヤーが追加され、これらのインストゥルメントに合わせて名前が付けられます。追加されたプレイヤーは、現在のインストゥルメントのスコアの順番に応じて、「**プレイヤー (Players)**」パネルの最も数字の大きな一致するプレイヤーの下に配置されます。

元のプレイヤーと新規プレイヤーは、名前が区別されるように自動的に番号付けされます。

新しいプレイヤーは、独自の新しいパートレイアウト、すべてのフルスコアレイアウト、およびプロジェクトで作成されたすべてのフローに割り当てられます。

---

#### 補足

- 元のプレイヤーに属する既存の楽譜は複製されません。
- また、プレイヤーを複製するには、「**プレイヤー (Players)**」パネルでプレイヤーを右クリックし、コンテキストメニューから「**プレイヤーを複製 (Duplicate Player)**」を選択します。

---

#### 関連リンク

- [音符/アイテムのコピーと貼り付け \(497 ページ\)](#)
- [フローの複製 \(188 ページ\)](#)
- [レイアウトの複製 \(195 ページ\)](#)


## デフォルトのプレイヤーの順番の変更

すべてのレイアウトで、プレイヤーの譜表を表示するデフォルトの順番を変更できます。これはたとえば、プロジェクトで通常とは異なるインストゥルメントの順番が必要な場合に役立ちます。

#### 前提条件

使用するカスタムのインストゥルメントのスコアの順番を作成しておきます。

#### 手順

1. 設定モードの「**プレイヤー (Players)**」パネルで、「**プレイヤーを並べ替え (Sort Players)**」 をクリックしたままにするか右クリックします。
2. いずれかの使用できるインストゥルメントのスコアの順番を選択します。  
Dorico Pro の初期設定では、以下のインストゥルメントのスコアの順番が用意されています。
  - なし (None)
  - バンド (Band)
  - ジャズ (Jazz)
  - オーケストラ (Orchestral)
3. 必要に応じて、プレイヤーをクリックして上下にドラッグします。  
挿入ラインはプレイヤーが配置される場所を示します。

#### 結果

デフォルトのプレイヤーの順番が変更されます。すべてのプレイヤーは、最初に割り当てられていたインストゥルメントとインストゥルメントのスコアの順番に従って自動的にソートされます。これは、プレイヤーの追加や削除をあとから行なった場合も同様です。

#### 補足

- これは、カスタマイズしたプレイヤーの順番を設定したレイアウトには影響しません。
- 「**プレイヤー (Players)**」パネルでプレイヤーを手動で移動すると、インストゥルメントのスコアの順番が自動的に「**なし (None)**」に変更されます。これにより、たとえばプレイヤーをあとから追加した場合でもプレイヤーの順番が保持されます。
- また、ステータスバーの「**順番 (Order)**」メニューからインストゥルメントのスコアの順番を選択することもできます。

#### 手順終了後の項目

デフォルトのプレイヤーの順番に一致するようにインストゥルメントの番号を付け直すことができます。

#### 関連リンク

- [プレイヤーパネル \(121 ページ\)](#)
- [ステータスバー \(42 ページ\)](#)
- [インストゥルメント番号の付け直し \(145 ページ\)](#)
- [レイアウトの再整理 \(196 ページ\)](#)
- [インストゥルメントのスコアの順番 \(963 ページ\)](#)

## カスタマイズしたプレイヤーの順番の設定

プレイヤーの譜表が表示される順番をレイアウトごとに変更できます。たとえば、カスタムスコアレイアウトのプレイヤーの順番を、「**プレイヤー (Players)**」パネルのプレイヤーの順番によって設定される、他のレイアウトのデフォルトのプレイヤーの順番とは変えたい場合などに行ないます。

#### 手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[L]** を押して「**レイアウトオプション (Layout Options)**」を開きます。
2. 「**レイアウト (Layouts)**」リストで、カスタマイズしたプレイヤーの順番を設定するレイアウトを選択します。

#### 補足

カスタマイズしたプレイヤーの順番を設定できるのは、一度に1つのレイアウトのみです。初期設定では、楽譜領域で選択されているものと同じレイアウトが選択された状態のダイアログが表示されます。

3. カテゴリーリストの「**プレイヤー (Players)**」をクリックします。
4. 「**プレイヤー (Players)**」セクションで、「**カスタマイズしたプレイヤーの順番を使用する (Uses custom player order)**」をオンにします。
5. リストから、位置を変更するプレイヤーを選択します。
6. 以下のいずれかの操作を行なって、他のプレイヤーに対する位置を変更します。
  - 「**上へ移動 (Move up)**」をクリックします。
  - 「**下へ移動 (Move down)**」をクリックします。
7. 選択したレイアウト内の他のプレイヤーの位置を変更する場合は、手順5から6を繰り返します。
8. 「**適用 (Apply)**」をクリックしてから「**閉じる (Close)**」をクリックします。

#### 結果

選択したレイアウトのプレイヤーの順番が変更されます。これは、デフォルトのプレイヤーの順番より優先されます。

それ以降に「**プレイヤー (Players)**」パネルでプレイヤーの順番に変更を加えても、カスタマイズしたプレイヤーの順番を設定したレイアウトには反映されません。

#### ヒント

「**インストゥルメントのスコアの順番を編集 (Edit Instrument Score Order)**」ダイアログで、カスタムのインストゥルメントのスコアの順番を作成できます。また、作成した順番をデフォルトとして保存し、複数のプロジェクトで使用できるようにすることもできます。

#### 関連リンク

[インストゥルメントのスコアの順番 \(963 ページ\)](#)

[「レイアウトオプション \(Layout Options\)」ダイアログ \(917 ページ\)](#)

## プレイヤーをソリストに指定

たとえばソロバイオリンとオーケストラのための協奏曲などにおいて、シングルプレイヤーとセクションプレイヤーのどちらもソリストに指定できます。1つのプロジェクトに複数のソリストを設定できます。

#### 前提条件

ソリストに指定するプレイヤーを追加しておきます。

#### 手順

1. 設定モードの「**プレイヤー (Players)**」パネルで、ソリストに指定するプレイヤーを選択します。
2. アクションバーで「**プレイヤー設定 (Player Settings)**」をクリックし、「**ソリスト (Soloist)**」を選択します。

#### 結果

選択したプレイヤーがソリストに指定されます。

ソリストとして割り当てられているプレイヤーのインストゥルメントは、自動的に番号付けされません。デフォルトのインストゥルメント名を使用している場合に限り、現在のインストゥルメント言語設定に応じた「ソロ」の先頭テキストが自動的に付与され、譜表ラベルに表示されます。

ソリストは伝統的なスコア上の位置、つまり弦楽器の上に自動的に配置され、他のプレイヤーとは個別の大括弧が付与されます。

「**ソリスト (Soloist)**」を再度選択してメニュー横のチェックマークを消すと、プレイヤーはソリストからそれが属するタイプの標準のプレイヤーに戻ります。

#### ヒント

また、「**プレイヤー (Players)**」パネルでプレイヤーを右クリックし、コンテキストメニューから「**ソリスト (Soloist)**」を選択することでも、プレイヤーをソリストに指定できます。

---

#### 関連リンク

[プレイヤーパネル \(121 ページ\)](#)

[インストゥルメントのナンバリング \(144 ページ\)](#)

[アンサンブルタイプによる大括弧でのグループ化 \(1143 ページ\)](#)

[組段オブジェクトの位置の変更 \(1718 ページ\)](#)

[インストゥルメント名の言語の変更 \(61 ページ\)](#)

[譜表ラベル \(1684 ページ\)](#)

## プレイヤーの削除


プロジェクトからプレイヤーを削除できます。この操作を行なうと、削除したプレイヤーに割り当てられたインストゥルメントもすべて削除されます。また、必要に応じてパートレイアウトを削除することもできます。

#### 重要

インストゥルメントを削除すると、その譜表に入力した楽譜もすべて完全に削除されます。

---

#### 手順

1. 設定モードの「**プレイヤー (Players)**」パネルで、削除するプレイヤーを選択します。
2. 以下のいずれかの操作を行なって、選択したプレイヤーを削除します。
  - **[Backspace]** 又は **[Delete]** を押します。
  - 「**プレイヤー (Players)**」パネルで「**プレイヤーを削除 (Delete Player)**」  をクリックします。
3. 表示される警告メッセージで、以下のいずれかのオプションを選択します。
  - 選択したプレイヤーと、そのプレイヤーに割り当てられたすべてのインストゥルメントを削除し、プロジェクト内のパートレイアウトを残すには、「**プレイヤーのみを削除 (Delete Player Only)**」を選択します。
  - 選択したプレイヤーとそのインストゥルメント、および対応するすべてのパートレイアウトを削除するには、「**プレイヤーとパートレイアウトを削除 (Delete Player and Part Layouts)**」を選択します。

#### 補足

他のプレイヤーも含まれているパートレイアウトは削除されません。

---

#### 結果

選択したプレーヤーと、必要に応じてそのパートレイアウトが削除されます。

#### ヒント

「設定 (Setup)」 > 「空白のプレーヤーを削除 (Delete Empty Players)」を選択すると、フローに楽譜が含まれていないプレーヤーだけを削除できます。

---

#### 関連リンク

- [プレーヤーパネル \(121 ページ\)](#)
- [インストゥルメントの削除 \(149 ページ\)](#)
- [レイアウトの削除 \(197 ページ\)](#)
- [プレーヤーグループの削除 \(186 ページ\)](#)
- [デフォルトレイアウトの復元 \(198 ページ\)](#)
- [レイアウトへのプレーヤーの割り当て \(193 ページ\)](#)

## アンサンブル

アンサンブルとは一般的に一緒に使用される複数のプレーヤーの集合です。たとえばフルート 2 人、オーボエ 2 人、クラリネット 2 人、ファゴット 2 人からなる二管編成セクションなどがあります。Dorico Pro にはあらかじめ定義されたアンサンブルが用意されていますが、カスタムアンサンブルを構築することもできます。

アンサンブルの構成に応じて、シングルプレーヤー、セクションプレーヤー、またはその両方が含まれます。たとえば木管アンサンブルはシングルプレーヤーで構成される一方、弦楽アンサンブルはセクションプレーヤーで構成されます。

アンサンブルを使用すると、プロジェクトに複数のプレーヤーを同時に追加して、楽器編成を素早く構築できます。

#### 関連リンク



- [プレーヤー、レイアウト、フロー \(133 ページ\)](#)
- [プロジェクトテンプレート \(84 ページ\)](#)

## アンサンブルの追加

ストリングスセクションや四部合唱など、アンサンブルを追加することで複数のプレーヤーを同時に追加できます。既存のアンサンブルを選択することも、新規に作成することもできます。

---

#### 手順

- 設定モードで以下のいずれかの操作を行なって、アンサンブルピッカーを開きます。
    - [Shift]+[E]** を押します。
    - 「プレーヤー (Players)」パネルで、「アンサンブルを追加 (Add Ensemble)」 をクリックします。
    - 空白のプロジェクトで、プロジェクト開始領域の「アンサンブルを追加 (Add Ensemble)」 をクリックします。
  - アンサンブルピッカーで追加するアンサンブルを選択するか作成します。
  - それ以降のプロジェクトで再利用したいアンサンブルを新規に作成した場合は、必要に応じて、「保存 (Save)」をクリックして「カスタムのアンサンブルを保存 (Save Custom Ensemble)」ダイアログを開き、アンサンブルを保存します。
  - 「追加 (Add)」をクリックします。
-

#### 結果

選択したアンサンブルのプレーヤーが、アンサンブルタイプに応じてシングルプレーヤーまたはセクションプレーヤーとして「**プレーヤー (Players)**」パネルに追加されます。これらは、プロジェクトで作成されたすべてのフローに割り当てられます。

#### ヒント

プロジェクトテンプレートを使用すると、複数のプレーヤーが存在するプロジェクトを開始できます。



#### 関連リンク

- [プレーヤーパネル \(121 ページ\)](#)
- [アンサンブルピッカー \(126 ページ\)](#)
- [インストゥルメント名の言語の変更 \(61 ページ\)](#)
- [新規プロジェクトの開始 \(77 ページ\)](#)
- [プロジェクトテンプレート \(84 ページ\)](#)
- [ファイルの読み込みと書き出し \(86 ページ\)](#)

## カスタムアンサンブルの作成と保存

たとえば、通常とは異なる楽器編成のアンサンブルの楽譜を頻繁に作成する場合など、アンサンブルピッカーでカスタムアンサンブルを作成し、それ以降のプロジェクトで再利用するために保存しておくことができます。

#### 手順



- 設定モードで以下のいずれかの操作を行なって、アンサンブルピッカーを開きます。
  - [Shift]+[E]** を押します。
  - 「**プレーヤー (Players)**」パネルで、「**アンサンブルを追加 (Add Ensemble)**」 をクリックします。
  - 空白のプロジェクトで、プロジェクト開始領域の「**アンサンブルを追加 (Add Ensemble)**」 をクリックします。
- 「**ビルド (Build)**」をクリックして「**ビルド (Build)**」タブに切り替えます。
- 使用するインストゥルメントを**検索**フィールドに入力します。

たとえば、バイオリン2人、クラリネット3人、ファゴット1人、チューバ1人、マリンバ1人を含むアンサンブルを作成するには「**2 vln, 3 cl,bsn,tuba,marim**」と入力します。

#### ヒント

オーケストラの省略表現を使用してインストゥルメントを指定することもできます。

- 現在のエントリーによって特定されたインストゥルメントを確定して**検索**フィールドをクリアするには、**[Tab]** を押します。
- プレーヤーのタイプを変更するには、リスト内のプレーヤーをダブルクリックします。

各プレーヤーのアイコンは、そのプレーヤーがシングルプレーヤー かセクションプレーヤー かを表わしています。
- 「**保存 (Save)**」をクリックして「**カスタムのアンサンブルを保存 (Save Custom Ensemble)**」ダイアログを開きます。
- 「**カテゴリ (Category)**」メニューからアンサンブルカテゴリを選択します。
- 「**名前 (Name)**」フィールドにアンサンブルの名前を入力します。
- 「**保存 (Save)**」をクリックすると、アンサンブルが保存されて「**カスタムのアンサンブルを保存 (Save Custom Ensemble)**」ダイアログが閉じます。

10. アンサンブルをプロジェクトに追加してアンサンブルピッカーを閉じるには「追加 (Add)」をクリックします。

#### 結果

アンサンブルが保存され、それ以降のプロジェクトに追加できるようになります。アンサンブルピッカーで「追加 (Add)」をクリックした場合は、アンサンブル内のプレーヤーがプロジェクトに追加されます。

#### 関連リンク

[アンサンブルピッカー \(126 ページ\)](#)

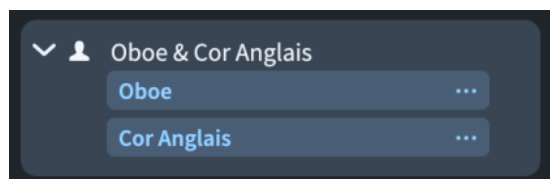
[「カスタムのアンサンブルを保存 \(Save Custom Ensemble\)」ダイアログ \(128 ページ\)](#)

## インストゥルメント

Dorico Pro における、インストゥルメントとは、ピアノ、フルート、バイオリンなど、個々の楽器を指します。またソプラノやテナーなどのボーカルもインストゥルメントと見なされます。

演奏者が楽器を持つと同じように、Dorico Pro ではプレーヤーがインストゥルメントを持ちます。セクションプレーヤーが持てるインストゥルメントは1つだけですが、シングルプレーヤーは複数のインストゥルメントを持つことができます。これにより、オーボエとイングリッシュホルンを持ち替えるプレーヤーのインストゥルメントを切り替える場合などに、インストゥルメントを簡単に変更できます。

これは、インストゥルメントを割り当てる前に、まずプレーヤーまたはアンサンブルを追加する必要があることを意味します。そのあと、必要に応じてプレーヤーやアンサンブルをグループに割り当てることもできます。アンサンブルを追加すると、そのアンサンブルに適したインストゥルメントがプレーヤーに自動的に追加されます。



設定モードの「プレーヤー (Players)」パネルで2つのインストゥルメント (オーボエとイングリッシュホルン) が割り当てられたシングルプレーヤー

各インストゥルメントには独自の譜表が自動的に割り当てられますが、インストゥルメントの変更を許可した場合は、音符が重ならない限り、同じシングルプレーヤーに割り当てられた複数のインストゥルメントの楽譜が1つの譜表に表示されます。初期設定では、すべてのレイアウトでインストゥルメントの変更が許可されており、インストゥルメントの変更ラベルが自動的に表示されます。つまり、プレーヤーに割り当てられているインストゥルメントのうち、一番上のインストゥルメントのみが楽譜領域に自動的に表示されます。すべてのインストゥルメントの譜表はギャラリービューで表示でき、インストゥルメントの変更はレイアウトごとに個別に許可または禁止できます。また、空白の譜表の表示/非表示はレイアウトごとに個別に切り替えることができます。

Dorico Pro ではインストゥルメントの範囲が制限されておらず、各インストゥルメントのすべての音域にあらゆるピッチを記譜できます。ただし、ピアノロールエディターに表示できるのは0~127のMIDIノート範囲のピッチのみです。また、割り当てられたVSTインストゥルメントのサンプル範囲外のピッチを入力した場合、そのピッチは再生されません。

パートレイアウトが常にト音記号のバージョンがあるフレンチホルンなど、特定の形式設定とチューニングの要件があるインストゥルメントのバリエーションが複数あります。

インストゥルメントはいつでも変更でき、プレーヤーへの追加やプレーヤーからの削除、プレーヤー間のインストゥルメントの移動も行なえます。フランス語のスコアを再作成する場合など、インストゥルメント名の言語を変更することもできます。

## ヒント

インストゥルメントは「**インストゥルメントを編集 (Edit Instruments)**」ダイアログで作成や編集を行なうことができ、変更した内容はコンピューター上のそれ以降のすべてのプロジェクトで使用できるようになります。

### 関連リンク

[プレーヤー \(135 ページ\)](#)

[カスタムインストゥルメント \(950 ページ\)](#)

[プレーヤー名、レイアウト名、インストゥルメント名 \(203 ページ\)](#)

[アンサンブルタイプによる大括弧でのグループ化 \(1143 ページ\)](#)

[プレーヤーをソリストに指定 \(139 ページ\)](#)

[デフォルトのプレーヤーの順番の変更 \(137 ページ\)](#)

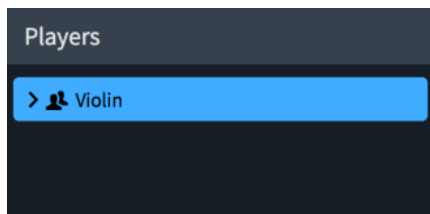
[空白の譜表の表示/非表示を切り替える \(750 ページ\)](#)

[ピアノロールエディター \(843 ページ\)](#)

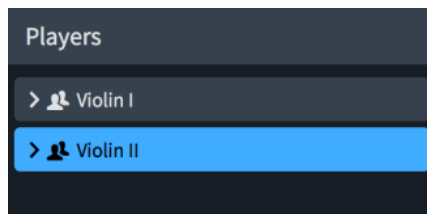
## インストゥルメントのナンバリング

ホルン1とホルン2のように、同じインストゥルメントが複数ある場合には、簡単に識別できるようにインストゥルメントに番号を付けるのが慣例です。Dorico Pro では、1つのプロジェクトに同じタイプのインストゥルメントが複数ある場合、インストゥルメントに自動的に番号が付けられます。

たとえば、プロジェクトにフルートが1つのみの場合には「Flute」と表示されますが、3つある場合は自動的に「Flute 1」、「Flute 2」、「Flute 3」と表示されます。



バイオリンが1つの場合は番号なし



2つめのバイオリンを追加すると両方が自動的にナンバリングされる

インストゥルメントのナンバリングは、プレーヤーではなく個々のインストゥルメントに適用されます。たとえば、2人のフルート奏者とピッコロ奏者からなるアンサンブルで、2番フルートにはピッコロも割り当てられる場合、インストゥルメントには以下のように番号が振られます。

- Flute 1
- Flute 2 & Piccolo 1
- Piccolo 2

## ヒント

それぞれのプレーヤーに割り当てられるインストゥルメントの番号を変更する場合は、個々のインストゥルメントを別のプレーヤーに移動できます。たとえば、2番フルートの持ち替え楽器を1番ピッコロではなく2番ピッコロにする場合、プレーヤー間でピッコロのインストゥルメントを交換できます。

以下の条件が満たされると、プレーヤーに対して自動的にインストゥルメント番号が生成されます。

- インストゥルメント名が同じインストゥルメントがプロジェクトに複数含まれている。
- インストゥルメントの調性が同じである。



- インストゥルメントが割り当てられたプレーヤーが、シングルまたはセクションのどちらか同じタイプである。
- プレーヤーが同じグループに属している。

たとえば、プロジェクト内に2つのフルートがあり、1つがセクションプレーヤーでもう1つがシングルプレーヤーの場合、これらのフルートは自動的にナンバリングされません。同様に、2つのフルートが異なるプレーヤーグループに属している場合も自動的にナンバリングされません。

#### 補足

- ソリストとして割り当てられているプレーヤーのインストゥルメントは、自動的に番号付けされません。
- たとえば、F調のホルンが2つとD調のホルンが2つあり、これらに1～4の番号を付けたい場合などに、同じタイプで調性の異なるインストゥルメントをまとめてナンバリングするかどうかを選択できます。初期設定では、これらは個別にナンバリングされます。

---

#### 関連リンク

[プレーヤー名、レイアウト名、インストゥルメント名 \(203 ページ\)](#)

[インストゥルメント名の変更 \(206 ページ\)](#)

[プレーヤーグループ \(183 ページ\)](#)

[譜表ラベルに表示されるインストゥルメントの移調 \(1690 ページ\)](#)

[インストゥルメントの移動 \(149 ページ\)](#)

[プレーヤーをソリストに指定 \(139 ページ\)](#)

[移調の異なるインストゥルメントの番号の扱いの別個/一緒に切り替える \(1692 ページ\)](#)

[譜表ラベルの番号スタイルの変更 \(1693 ページ\)](#)

[譜表ラベルのコンテンツ \(1688 ページ\)](#)

[プレーヤーラベル \(817 ページ\)](#)

[移調楽器 \(146 ページ\)](#)

## インストゥルメント番号の付け直し

ホルン2と3の番号を入れ替えたい場合などに、デフォルトのプレーヤーの順番に一致するようにインストゥルメントの番号を付け直すことができます。

#### 前提条件

デフォルトのプレーヤーの順番が希望するインストゥルメントのナンバリングと一致するようにしておきます。

---

#### 手順

- 設定モードで、「設定 (Setup)」 > 「インストゥルメント番号を変更 (Rename Instruments)」を選択します。

---

#### 結果

プレーヤーパネルのプレーヤーに順番に応じてインストゥルメントの番号が変更されます。

まだ名前を変更していないプレーヤーについては、プレーヤー名が更新されて新しいインストゥルメント番号に反映されます。

#### 関連リンク

[デフォルトのプレーヤーの順番の変更 \(137 ページ\)](#)

[レイアウトの再整理 \(196 ページ\)](#)

[レイアウト番号の付け直し \(197 ページ\)](#)

[プレーヤー名、レイアウト名、インストゥルメント名 \(203 ページ\)](#)

## 移調楽器

ほとんどのインストゥルメントは実音で音を出しますが、移調楽器は記譜された音とは異なる音を出します。一般的な移調楽器には、クラリネット、ホルン、トランペット、サクソフォン、イングリッシュホルンなどがあります。

B♭クラリネットでCを演奏すると、1ステップ(全音)下のB♭の音が鳴ります。FホルンでCを演奏すると、5音下のFが鳴ります。

オクターブ移調楽器には、ピッコロ(1オクターブ上の音が鳴る)、グロックンシュピール(2オクターブ上の音が鳴る)、ギターとコントラバス(どちらも1オクターブ下の音が鳴る)などがあります。

Dorico Pro ではすべての音符情報が実音で保存され、インストゥルメントの移調に合わせて音符が自動的に移調されます。つまり、非移調レイアウトとは異なり、移調レイアウトでは音符、調号、コード記号が自動的に変更されます。また、インストゥルメントはいつでも変更でき、その場合は正しいピッチが表示されるように楽譜が自動的に調整されます。

個々の音部記号のオクターブ、および音部記号のオクターブ指示記号に従うか無視するかをフローごとに変更することもできます。

また、音部記号/移調をレイアウトごとに個別に上書きすることもできます。

### 補足

- 表記規則によれば、オクターブ移調楽器は、実音レイアウトを含め常に移調音で表示されます。オクターブ指示記号付き音部記号は必要ありません。
- インストゥルメントの代替の移調は、デフォルトの音部記号の設定も含め、「**インストゥルメントを編集 (Edit Instruments)**」ダイアログで作成でき、変更した内容はコンピューター上のそれ以降のすべてのプロジェクトで使用できるようになります。

### 関連リンク

[インストゥルメントピッカー \(124 ページ\)](#)  
[インストゥルメントのナンバリング \(144 ページ\)](#)  
[譜表ラベルに表示されるインストゥルメントの移調 \(1690 ページ\)](#)  
[実音と移調音 \(195 ページ\)](#)  
[レイアウトの移調音/実音の設定 \(194 ページ\)](#)  
[レイアウトの移調テキストの編集 \(1325 ページ\)](#)  
[フレット楽器の移調を変更する \(177 ページ\)](#)  
[異名同音の調号 \(1354 ページ\)](#)  
[インストゥルメントの変更 \(148 ページ\)](#)  
[音部記号/移調の上書きを設定したレイアウト \(198 ページ\)](#)  
[レイアウトの移調に従い音部記号を表示/非表示にする \(1196 ページ\)](#)  
[実音と移調音で異なる音部記号を設定する \(1194 ページ\)](#)  
[オクターブ指示記号付き音部記号 \(1199 ページ\)](#)  
[「インストゥルメントを編集 \(Edit Instruments\)」ダイアログ \(950 ページ\)](#)  
[フレット楽器のチューニング \(168 ページ\)](#)  
[カポ \(173 ページ\)](#)

## プレーヤーへのインストゥルメントの追加

インストゥルメントと打楽器キットの追加は、シングルプレーヤーにもセクションプレーヤーにも行なえます。シングルプレーヤーは複数のインストゥルメントを持つことができますが、セクションプレーヤーが持てるインストゥルメントは1つだけです。

### 前提条件

- 少なくとも1人のプレーヤーを設定しておきます。

- 追加するカスタムインストゥルメントを作成しておきます。

---

#### 手順

1. 設定モードの「**プレイヤー (Players)**」パネルで、インストゥルメントを追加するプレイヤーを選択します。

#### 補足

- インストゥルメントは一度に1人のプレイヤーにのみ追加できます。
- インストゥルメントは、すでにインストゥルメントが1つ割り当てられているセクションプレイヤーには追加できません。

2. 以下のいずれかの操作を行なって、インストゥルメントピッカーを開きます。

- **[Shift]+[I]** を押します。
- プレイヤーのカードでプラス記号 **+** をクリックします。

3. インストゥルメントピッカーで任意のインストゥルメントを選択します。

4. **[Return]** を押して、選択したインストゥルメントを追加します。

---

#### 結果

選択したインストゥルメントが選択したプレイヤーに追加されます。現在の再生テンプレートに応じて、インストゥルメントのサウンドが自動的に読み込まれます。

プレイヤー名をすでに変更していなければ、プレイヤー名が更新されてプレイヤーに割り当てられたすべてのインストゥルメントが含まれます。

#### 補足

- 音符を入力する前は、シングルプレイヤーに割り当てられた最初のインストゥルメントのみがページビューのフルスコアに表示されます。ギャラリービューにはすべてのインストゥルメントの譜表が表示されるため、たとえばインストゥルメントの変更を作成する目的でシングルプレイヤーに割り当てられた他のインストゥルメントに音符を入力する際は、ギャラリービューに切り替えることをおすすめします。
- 複数のプレイヤーをプロジェクトに同時に追加したい場合は、アンサンブルを追加するかプロジェクトテンプレートを使用します。

---

#### 関連リンク

- [プレイヤー \(135 ページ\)](#)
- [プレイヤーパネル \(121 ページ\)](#)
- [インストゥルメントピッカー \(124 ページ\)](#)
- [カスタムインストゥルメント \(950 ページ\)](#)
- [プレイヤーの追加 \(136 ページ\)](#)
- [アンサンブルの追加 \(141 ページ\)](#)
- [プレイヤーをソリストに指定 \(139 ページ\)](#)
- [デフォルトのプレイヤーの順番の変更 \(137 ページ\)](#)
- [インストゥルメントの変更 \(150 ページ\)](#)
- [打楽器キットとドラムセット \(156 ページ\)](#)
- [フレット楽器のチューニング \(168 ページ\)](#)
- [カポ \(173 ページ\)](#)
- [プレイヤー名、レイアウト名、インストゥルメント名 \(203 ページ\)](#)
- [インストゥルメント名の言語の変更 \(61 ページ\)](#)
- [インストゥルメント名の変更 \(206 ページ\)](#)
- [新規プロジェクトの開始 \(77 ページ\)](#)

[ギャラリービューまたはページビューへの切り替え](#) (54 ページ)  
[再生テンプレート](#) (701 ページ)  
[音符の入力](#) (247 ページ)  
[Groove Agent SE からドラムセットパターンを読み込む](#) (104 ページ)

## インストゥルメントの変更

たとえばクラリネットのパートの音程が低いためバスクラリネットに変更する場合やギターチューニングを変更する場合など、譜表にすでに入力された楽譜に影響を与えることなく、インストゥルメントのタイプを変更できます。

### 補足

- 個別の無音程打楽器インストゥルメント以外の打楽器キットは、他のインストゥルメントに変更できません。
- 有音程打楽器インストゥルメントを無音程打楽器インストゥルメントに、またその逆の変更はできません。
- 以下の手順は、フローの途中で演奏者が現在の楽器から別の楽器に変更することを示すインストゥルメントの変更ではなく、インストゥルメントタイプを変更する方法について説明します。

### 前提条件


既存のインストゥルメントを変更するカスタムインストゥルメントを作成しておきます。

### 手順

1. 設定モードの「**プレーヤー (Players)**」パネルで、インストゥルメントを変更するプレーヤーのカードを展開します。

カードには、プレーヤーに割り当てられたインストゥルメントのリストが表示されます。



2. インストゥルメントラベルでインストゥルメントメニュー  をクリックし、「**インストゥルメントを変更 (Change Instrument)**」を選択してインストゥルメントピッカーを開きます。
3. インストゥルメントピッカーで任意のインストゥルメントを選択します。
4. **[Return]** を押して、選択したインストゥルメントを変更します。

### 結果

譜表上の楽譜に影響を与えることなく、選択したインストゥルメントが変更されます。

初期設定では、必要に応じて異なる音部記号が使用されます。つまり、新しい音部記号に応じて音符が正しく記譜されるように、音符の表示が変わる場合があります。

### 手順終了後の項目

オーケストラの表記規則に従って、新しいインストゥルメントを別の位置に移動する必要がある場合など、プレーヤーの順番を変更できます。

### 関連リンク

[プレーヤーパネル](#) (121 ページ)  
[インストゥルメントピッカー](#) (124 ページ)  
[移調楽器](#) (146 ページ)  
[フレット楽器のチューニング](#) (168 ページ)

- [インストゥルメントの変更 \(150 ページ\)](#)
- [インストゥルメント名の言語の変更 \(61 ページ\)](#)
- [譜表ラベルのインストゥルメントの移調を表示/非表示にする \(1690 ページ\)](#)
- [デフォルトのプレーヤーの順番の変更 \(137 ページ\)](#)
- [カスタムインストゥルメント \(950 ページ\)](#)

## インストゥルメントの移動

インストゥルメントに対してすでに入力されている楽譜に影響を与えることなく、個別のインストゥルメントを移動できます。インストゥルメントをプレーヤー間で移動したり、シングルプレーヤーのインストゥルメントリスト内の別の位置に移動したりできます。これは、たとえばスコア内の譜表の順番を変える場合などに便利です。


1人のプレーヤーに割り当てられたインストゥルメントの順序を変更すると、対応するプレーヤー名をすでに変更していなければ、プレーヤー名にも影響します。

前提条件

インストゥルメントの移動先となるプレーヤーを追加しておきます。

---

手順

- 設定モードの「**プレーヤー (Players)**」パネルで、移動するインストゥルメントが割り当てられたプレーヤーのカードを展開します。
- 以下のいずれかの操作を行なってインストゥルメントを移動します。
  - シングルプレーヤーのインストゥルメントの順番を変更するには、1つのインストゥルメントをクリックし、任意の位置にドラッグしてマウスを放します。
  - インストゥルメントを別のプレーヤーに移動するには、1つのインストゥルメントをクリックし、任意のプレーヤーカードにドラッグしてマウスを放します。
  - インストゥルメントを別のプレーヤーに移動するには、インストゥルメントラベルのインストゥルメントメニュー  をクリックし、「**インストゥルメントをプレーヤーに移動 (Move Instrument to Player)**」 > [プレーヤー名] をクリックします。

---

関連リンク

- [プレーヤーパネル \(121 ページ\)](#)
- [プレーヤーの追加 \(136 ページ\)](#)
- [インストゥルメントのスコアの順番 \(963 ページ\)](#)
- [デフォルトのプレーヤーの順番の変更 \(137 ページ\)](#)
- [カスタマイズしたプレーヤーの順番の設定 \(138 ページ\)](#)
- [プレーヤー名の変更 \(204 ページ\)](#)
- [プレーヤー名をリセットする \(205 ページ\)](#)

## インストゥルメントの削除


インストゥルメントが割り当てられたプレーヤーやそのプレーヤーのほかのインストゥルメントを削除することなく、個々のインストゥルメントを削除できます。

**重要**

インストゥルメントを削除すると、その譜表に入力した楽譜もすべて完全に削除されます。

---

#### 手順

1. 設定モードの「**プレーヤー (Players)**」パネルで、削除するインストゥルメントが割り当てられたプレーヤーのカードを展開します。
2. インストゥルメントラベルでインストゥルメントメニュー  をクリックし、「**インストゥルメントを削除 (Delete Instrument)**」を選択します。
3. 「**OK**」をクリックします。

#### 結果

インストゥルメントがプレーヤーから削除されます。

#### ヒント

1人のプレーヤーに割り当てられたインストゥルメントをすべて削除する場合は、プレーヤーを削除してもかまいません。

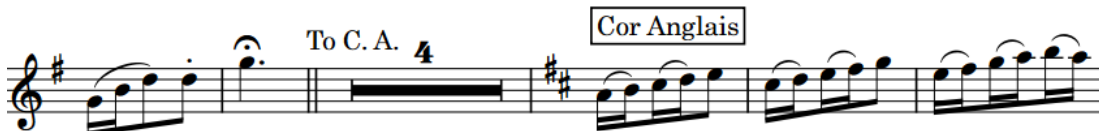
#### 関連リンク

[プレーヤーパネル \(121 ページ\)](#)

[プレーヤーの削除 \(140 ページ\)](#)

## インストゥルメントの変更

インストゥルメントの変更とは、複数のインストゥルメントが割り当てられたプレーヤーが演奏するインストゥルメントを別のインストゥルメントに切り替えることです。インストゥルメントの変更は通常、変更前の最後の音符の後ろと変更後の最初の音符の位置の両方に、テキストラベルを使って表示されます。



#### オーボエからイングリッシュホルンへのインストゥルメント変更

Dorico Pro では、以下の条件が満たされる場合、適切なインストゥルメントの変更ラベルを表示するなど、インストゥルメントの変更が自動的に取扱われます。

- 2つ以上のインストゥルメントが割り当てられたシングルプレーヤーを追加している。
- シングルプレーヤーに割り当てられた2つ以上のインストゥルメントの譜表に音符を入力している。たとえば、オーボエの譜表にオーボエの音符、イングリッシュホルンの譜表にイングリッシュホルンの音符を入力しておきます。
- 同じシングルプレーヤーに割り当てられた異なるインストゥルメントの音符が重なり合っていない。
- レイアウトでインストゥルメントの変更が許可されている。

すべてのインストゥルメントの譜表はギャラリービューで表示でき、インストゥルメントの変更はレイアウトごとに個別に許可または禁止できます。

初期設定では、インストゥルメントの変更は変更前のインストゥルメントの最後の音符のあとに発生し、新しいインストゥルメントのインストゥルメントの変更ラベルがその譜表のキューのあとに表示されます。また、インストゥルメントの変更通知はフルスコアレイアウトでは非表示になります。

インストゥルメントの変更とインストゥルメントの変更ラベルの位置はレイアウトごとに個別に変更できます。

インストゥルメントの変更ラベルには、現在のインストゥルメント名の言語設定に応じて適切な先頭テキストが使用されます。

#### ヒント

譜表やその他のアイテムに対するすべてのインストゥルメント変更ラベルのデフォルトの位置をプロジェクト全体で変更するには、「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**インストゥルメントの変更 (Instrument Changes)**」ページで設定します。

---

#### 関連リンク

- [プレーヤーの追加 \(136 ページ\)](#)
- [プレーヤーへのインストゥルメントの追加 \(146 ページ\)](#)
- [ギャラリービューまたはページビューへの切り替え \(54 ページ\)](#)
- [音符の入力 \(248 ページ\)](#)
- [インストゥルメント名の言語の変更 \(61 ページ\)](#)
- [インストゥルメントの変更 \(148 ページ\)](#)
- [デフォルトの「〜へ」の指示記号/ユニゾン指示記号を変更する \(819 ページ\)](#)

## インストゥルメントの変更の許可/禁止を切り替える

たとえば、スコア内では複数の打楽器をできるだけ少ない譜表に表示し、打楽器パートでは各打楽器の譜表を個別に表示したい場合などに、インストゥルメントの変更をレイアウトごとに許可/禁止できます。

インストゥルメントの変更を禁止すると、1人のシングルプレーヤーに割り当てられた複数のインストゥルメントも含め、選択したレイアウトにすべてのインストゥルメントの譜表が表示されます。

#### ヒント

レイアウト内のインストゥルメントの変更を維持したままでシングルプレーヤーに割り当てられた別のインストゥルメントの音符を入力したい場合は、ギャラリービューに切り替えてプロジェクト内のすべての譜表を表示します。

---

#### 手順

- [Ctrl]/[command]+[Shift]+[L]** を押して「**レイアウトオプション (Layout Options)**」を開きます。
  - 「**レイアウト (Layouts)**」リストから、インストゥルメントの変更を許可または禁止するレイアウトを選択します。  
初期設定では、楽譜領域で選択されているものと同じレイアウトが選択された状態のダイアログが表示されます。他のレイアウトを選択するには、アクションバーの選択オプションを使用するか、複数のレイアウトをまたぐようにクリックしてドラッグするか、**[Shift]** を押しながら隣接するレイアウトをクリックするか、**[Ctrl]/[command]** を押しながら個々のレイアウトをクリックします。
  - カテゴリリストの「**プレーヤー (Players)**」をクリックします。
  - 「**インストゥルメントの変更 (Instrument Changes)**」セクションで、「**インストゥルメントの変更を許可 (Allow instrument changes)**」をオンまたはオフにします。
  - 「**適用 (Apply)**」をクリックしてから「**閉じる (Close)**」をクリックします。
- 

#### 結果

「**インストゥルメントの変更を許可 (Allow instrument changes)**」をオンにすると、選択したレイアウトでインストゥルメントの変更が許可され、オフにすると禁止されます。

#### 補足

インストゥルメントの変更がある同じ譜表に複数のインストゥルメントが表示されるのは、重なっている音符がない場合のみです。重なっている音符がある場合は、複数の譜表が表示されます。

---

#### 関連リンク

[インストゥルメント \(143 ページ\)](#)

[音符の入力 \(248 ページ\)](#)

[空白の譜表の表示/非表示を切り替える \(750 ページ\)](#)

[フローの開始位置でインストゥルメントの変更ラベルを表示/非表示にする \(155 ページ\)](#)

[インストゥルメントの変更 \(148 ページ\)](#)

[「レイアウトオプション \(Layout Options\)」 ダイアログ \(917 ページ\)](#)

## インストゥルメントの変更の位置を変更する

インストゥルメントの変更は、変更前のインストゥルメントの最後の音符のあとに表示するか、変更後のインストゥルメントの最初の音符の前に表示するかをレイアウトごとに個別に設定できます。また、インストゥルメントの変更ラベルのキューに対する位置を変更することもできます。

---

#### 手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[L]** を押して「**レイアウトオプション (Layout Options)**」を開きます。
  2. インストゥルメントの変更の位置を変更するレイアウトを「**レイアウト (Layouts)**」リストから選択します。  
初期設定では、楽譜領域で選択されているものと同じレイアウトが選択された状態のダイアログが表示されます。他のレイアウトを選択するには、アクションバーの選択オプションを使用するか、複数のレイアウトをまたぐようにクリックしてドラッグするか、**[Shift]** を押しながら隣接するレイアウトをクリックするか、**[Ctrl]/[command]** を押しながら個々のレイアウトをクリックします。
  3. カテゴリーリストの「**プレーヤー (Players)**」をクリックします。
  4. 「**インストゥルメントの変更 (Instrument Changes)**」セクションで、「**インストゥルメントの移調の位置 (Instrument transition position)**」に以下のいずれかのオプションを選択します。
    - **変更前のインストゥルメントの最後の音符の後 (After last note in old instrument)**
    - **変更後のインストゥルメントの最初の音符の前 (Before first note in new instrument)**
  5. 「**新しいインストゥルメントの最初の音符より前にキューがある場合、キューの後にインストゥルメントの変更ラベルを表示 (Show instrument change label after cue, if cue precedes first note in new instrument)**」をオン/オフにします。
  6. 「**適用 (Apply)**」をクリックしてから「**閉じる (Close)**」をクリックします。
- 

#### 結果

選択したレイアウトの対応する位置にインストゥルメントの変更が表示されます。

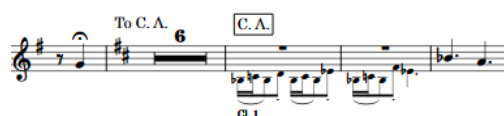
#### ヒント

インストゥルメントの変更が組段の途中で発生し、そのインストゥルメントがその組段で最初に鳴るインストゥルメントの場合は、変更後のインストゥルメントを譜表ラベルに表示した方がいいかもしれません。この設定は、「**レイアウトオプション (Layout Options)**」 > 「**譜表と組段 (Staves and Systems)**」 > 「**譜表ラベル (Staff Labels)**」で変更できます。

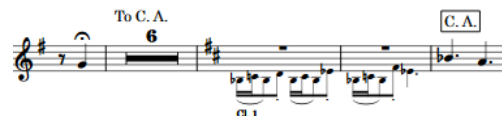
---



例



変更前のインストゥルメントの最後の音符のあとにインストゥルメントの変更を表示し、キューの開始位置にインストゥルメントの変更ラベルを表示



変更後のインストゥルメントの最初の音符の前にインストゥルメントの変更を表示し、キューのあとにインストゥルメントの変更ラベルを表示

関連リンク

[キュー](#) (1208 ページ)

[移調楽器](#) (146 ページ)

## インストゥルメントの変更ラベルのデフォルトのテキストを編集する

インストゥルメントの変更ラベルのデフォルトの先頭テキスト、およびインストゥルメントの変更ラベルにインストゥルメントの正式名称と略称のどちらを表示するかをデフォルト設定をレイアウトごとに個別に変更できます。たとえば、パートレイアウトにはインストゥルメントの正式名称を表示し、フルスコアレイアウトには略称を表示するなどです。

手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[L]** を押して「**レイアウトオプション (Layout Options)**」を開きます。
2. インストゥルメントの変更ラベルのデフォルトの内容を変更するレイアウトを「**レイアウト (Layouts)**」リストから選択します。  
初期設定では、楽譜領域で選択されているものと同じレイアウトが選択された状態のダイアログが表示されます。他のレイアウトを選択するには、アクションバーの選択オプションを使用するか、複数のレイアウトをまたぐようにクリックしてドラッグするか、**[Shift]** を押しながら隣接するレイアウトをクリックするか、**[Ctrl]/[command]** を押しながら個々のレイアウトをクリックします。
3. カテゴリリストの「**プレーヤー (Players)**」をクリックします。
4. 「**インストゥルメントの変更 (Instrument Changes)**」セクションで、「**変更ラベルで使用するインストゥルメント名 (Instrument names to use in change labels)**」に以下のいずれかのオプションを選択します。
  - **正式名称 (Full Names)**
  - **略称 (Short Names)**
5. 「**インストゥルメントの変更通知の先頭テキスト (Prefix for instrument change warnings)**」で以下のいずれかのオプションを選択します。
  - **To**
  - **Take**
  - **カスタム (Custom)**

補足

先頭テキストの「**To**」および「**Take**」は、現在のインストゥルメント名の言語設定に応じて適切な形で表示されます。

6. 「**カスタム (Custom)**」を選択した場合は、必要に応じて以下のフィールドの一方または両方に使用するテキストを入力します。
    - **カスタムの先頭テキスト (Custom prefix)**
    - **カスタムの末尾テキスト (Custom suffix)**
  7. 「**適用 (Apply)**」をクリックしてから「**閉じる (Close)**」をクリックします。
- 

#### 結果

選択したレイアウトのすべてのインストゥルメントの変更ラベルでインストゥルメント名の長さと先頭/末尾テキストが変更されます。

#### 関連リンク

[フローの開始位置でインストゥルメントの変更ラベルを表示/非表示にする \(155 ページ\)](#)  
[インストゥルメント名の言語の変更 \(61 ページ\)](#)  
[譜表ラベル \(1684 ページ\)](#)

## インストゥルメントの変更ラベルのテキストを個別に編集する

たとえば、フロー内の最初のインストゥルメントの変更ラベルにはインストゥルメントの正式名称を表示するなど、インストゥルメントの変更ラベルに表示されるテキストを個別に上書きできます。

#### 前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。
- 下ゾーンのツールバーで「**プロパティ (Properties)**」を選択しておきます。
- 浄書ツールボックスで「**グラフィックの編集 (Graphic Editing)**」を選択しておきます。

#### 手順

1. 浄書モードで、テキストを編集するインストゥルメントの変更ラベルを選択します。
  2. プロパティパネルの「**インストゥルメントの変更 (Instrument Changes)**」グループで、「**カスタムテキスト (Custom text)**」をオンにします。
  3. インストゥルメントの変更ラベルに表示するテキストを値フィールドに入力します。
  4. **[Return]** を押します。
  5. 必要に応じて、「**先頭テキストを非表示 (Hide prefix)**」をオンまたはオフにします。
- 

#### 結果

選択したインストゥルメントの変更ラベルが、入力したテキストを表示するように変更されます。「**先頭テキストを非表示 (Hide prefix)**」をオンにすると、先頭テキストが非表示になります。

「**カスタムテキスト (Custom text)**」をオフにすると、対応するインストゥルメントの変更ラベルがデフォルトのテキストに戻ります。

#### 補足

- プロパティをオフにすると、入力したカスタムテキストは完全に削除されます。
  - インストゥルメントの変更ラベルのデフォルトの先頭テキスト、およびインストゥルメントの変更ラベルにインストゥルメントの正式名称と略称のどちらを表示するかのデフォルト設定をレイアウトごとに個別に変更できます。
- 

#### 関連リンク

[浄書ツールボックス \(554 ページ\)](#)

## フローの開始位置でインストゥルメントの変更ラベルを表示/非表示にする

各レイアウトの各フローの開始位置で個別にインストゥルメントの変更ラベルを表示/非表示にできます。これらのラベルは、譜表ラベルが通常は表示されないパートレイアウトで、複数の楽器を持つプレイヤーに必要な楽器を明示するのに役立ちます。

---

### 手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[L]** を押して「**レイアウトオプション (Layout Options)**」を開きます。
  2. 「**レイアウト (Layouts)**」リストから、フローの開始位置でインストゥルメントの変更ラベルを表示または非表示にするレイアウトを選択します。  
初期設定では、楽譜領域で選択されているものと同じレイアウトが選択された状態のダイアログが表示されます。他のレイアウトを選択するには、アクションバーの選択オプションを使用するか、複数のレイアウトをまたぐようにクリックしてドラッグするか、**[Shift]** を押しながら隣接するレイアウトをクリックするか、**[Ctrl]/[command]** を押しながら個々のレイアウトをクリックします。
  3. カテゴリリストの「**プレイヤー (Players)**」をクリックします。
  4. 「**インストゥルメントの変更 (Instrument Changes)**」セクションで、「**フローの開始位置にインストゥルメントの変更ラベルを表示 (Show instrument change label at start of flow)**」をオン/オフにします。
  5. 「**適用 (Apply)**」をクリックしてから「**閉じる (Close)**」をクリックします。
- 

## インストゥルメントの変更通知を表示/非表示にする

インストゥルメントの変更の前の最後の音符のあとにすべてのインストゥルメントの変更通知を表示するかどうかをレイアウトごとに個別に変更できます。たとえば、打楽器のパートレイアウトには「To Marimba」を表示し、フルスコアでは非表示にするなどできます。

---

### 手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[L]** を押して「**レイアウトオプション (Layout Options)**」を開きます。
  2. 「**レイアウト (Layouts)**」リストで、インストゥルメントの変更通知を表示/非表示にするレイアウトを選択します。  
初期設定では、楽譜領域で選択されているものと同じレイアウトが選択された状態のダイアログが表示されます。他のレイアウトを選択するには、アクションバーの選択オプションを使用するか、複数のレイアウトをまたぐようにクリックしてドラッグするか、**[Shift]** を押しながら隣接するレイアウトをクリックするか、**[Ctrl]/[command]** を押しながら個々のレイアウトをクリックします。
  3. カテゴリリストの「**プレイヤー (Players)**」をクリックします。
  4. 「**インストゥルメントの変更 (Instrument Changes)**」セクションで、「**インストゥルメントの変更通知を表示 (Show instrument change warnings)**」をオン/オフにします。
  5. 「**適用 (Apply)**」をクリックしてから「**閉じる (Close)**」をクリックします。
- 

### 関連リンク

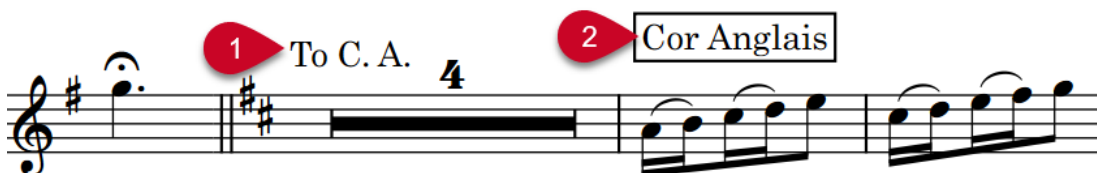
[「レイアウトオプション \(Layout Options\)」ダイアログ \(917 ページ\)](#)  
[インストゥルメントの変更の許可/禁止を切り替える \(151 ページ\)](#)

[デフォルトの「～へ」の指示記号/ユニゾン指示記号を変更する \(819 ページ\)](#)

## インストゥルメントの変更ラベルのパラグラフスタイル

インストゥルメントの変更ラベルとインストゥルメントの変更通知に異なるパラグラフスタイルを設定できます。ラベルタイプごとに枠線の表示/非表示を切り替えるなど、これらのパラグラフスタイルの各種設定は「**パラグラフスタイル (Paragraph Styles)**」ダイアログで編集できます。

初期設定では、インストゥルメントの変更ラベルには枠線が表示されますが、インストゥルメントの変更通知には表示されません。



インストゥルメントの変更ラベルには、以下のパラグラフスタイルが使用されます。

- 1 **インストゥルメントの変更通知 (Instrument Change Warnings)**: インストゥルメントの変更の前の通知ラベルに使用
- 2 **インストゥルメントの変更ラベル (Instrument Change Labels)**: インストゥルメントの変更のあとのラベルに使用

関連リンク

[「パラグラフスタイル \(Paragraph Styles\)」ダイアログ \(932 ページ\)](#)

[インストゥルメントの変更ラベルのテキストを個別に編集する \(154 ページ\)](#)

[レイアウト名の枠線の表示/非表示 \(1325 ページ\)](#)

[テキストアイテムへの枠線の追加 \(1770 ページ\)](#)

[プレーヤーラベル \(817 ページ\)](#)

[ディヴィジ作成のラベル \(1733 ページ\)](#)

## 打楽器キットとドラムセット

打楽器キットとは、1人のプレーヤーによって演奏される無音程打楽器の集まりです。ドラムセットは、ポップスやロック音楽で使用されることの多い、特殊なタイプの打楽器キットです。

### 補足

本書では、打楽器キットという用語は打楽器キットとドラムセットの両方を意味します。

Dorico Pro では打楽器キットを五線譜やグリッドなど異なる方法で表示できます。打楽器キットをドラムセットとして動作させる必要がある場合、それらをドラムセットとして定義できます。たとえば、「**記譜オプション (Notation Options)**」の「**打楽器 (Percussion)**」ページには、ドラムセットにのみ適用する声部の処理を行なうオプションがあります。

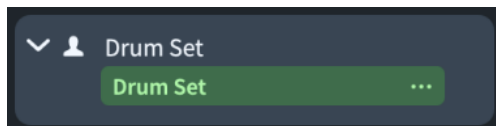
打楽器キットは、以下のいずれかの方法でプロジェクトに追加できます。

- インストゥルメントの追加と同じ方法でプレーヤーに打楽器キットを追加する。
- 1人のプレーヤーに割り当てられた既存の無音程打楽器をキットに組み合わせる。
- プレーヤーに空のキットを追加し、そこに無音程打楽器インストゥルメントを追加する。
- あらかじめ書き出して保存しておいたキットを読み込む。

打楽器は、そのインストゥルメントにすでに追加された楽譜の内容に一切影響しない形でプレーヤー間を移動できます。移動させるインストゥルメントが打楽器キットに組み込まれている場合は、他のプレーヤーに移動させる前にまずインストゥルメントをキットから取り除く必要があります。

個々の打楽器インストゥルメントは、他のインストゥルメントと同様に変更できます。しかし、無音程打楽器は無音程打楽器以外には変更できず、またキットに属する打楽器インストゥルメントは、「**打楽器キットを編集 (Edit Percussion Kit)**」のダイアログ内でしか変更できません。

設定モードの「**プレーヤー (Players)**」パネルでは、打楽器キットインストゥルメントのラベルが緑色で表示されます。



設定モードの「**プレーヤー (Players)**」パネルで打楽器キットが割り当てられたシングルプレーヤー

#### ヒント

打楽器キットは「**インストゥルメントを編集 (Edit Instruments)**」ダイアログで作成や編集を行なうことができ、変更した内容はコンピューター上のそれ以降のすべてのプロジェクトで使用できるようになります。


#### 関連リンク

- [打楽器キットの表示タイプ \(1848 ページ\)](#)
- [無音程打楽器の演奏技法 \(1839 ページ\)](#)
- [打楽器キットの譜表ラベル \(1698 ページ\)](#)
- [プレーヤーへのインストゥルメントの追加 \(146 ページ\)](#)
- [無音程打楽器の音符を入力する \(263 ページ\)](#)
- [Groove Agent SE からドラムセットパターンを読み込む \(104 ページ\)](#)
- [カスタム打楽器キットの作成 \(956 ページ\)](#)

## 「打楽器キットを編集 (Edit Percussion Kit)」ダイアログ

「**打楽器キットを編集 (Edit Percussion Kit)**」ダイアログでは、打楽器キットにどのインストゥルメントを含めるかやキットの表示タイプごとにインストゥルメントをどのように配置するかなど、打楽器キットに対する変更を行なえます。

「**打楽器キットを編集 (Edit Percussion Kit)**」ダイアログを開くには、以下のいずれかの操作を行ないます。

- 空の打楽器キットを追加するか、打楽器キットに既存のインストゥルメントを結合します。
- 設定モードの「**プレーヤー (Players)**」パネルで、打楽器キットが割り当てられたプレーヤーのカードを展開し、キットのインストゥルメントラベルのインストゥルメントメニュー  をクリックして「**打楽器キットを編集 (Edit Percussion Kit)**」を選択します。

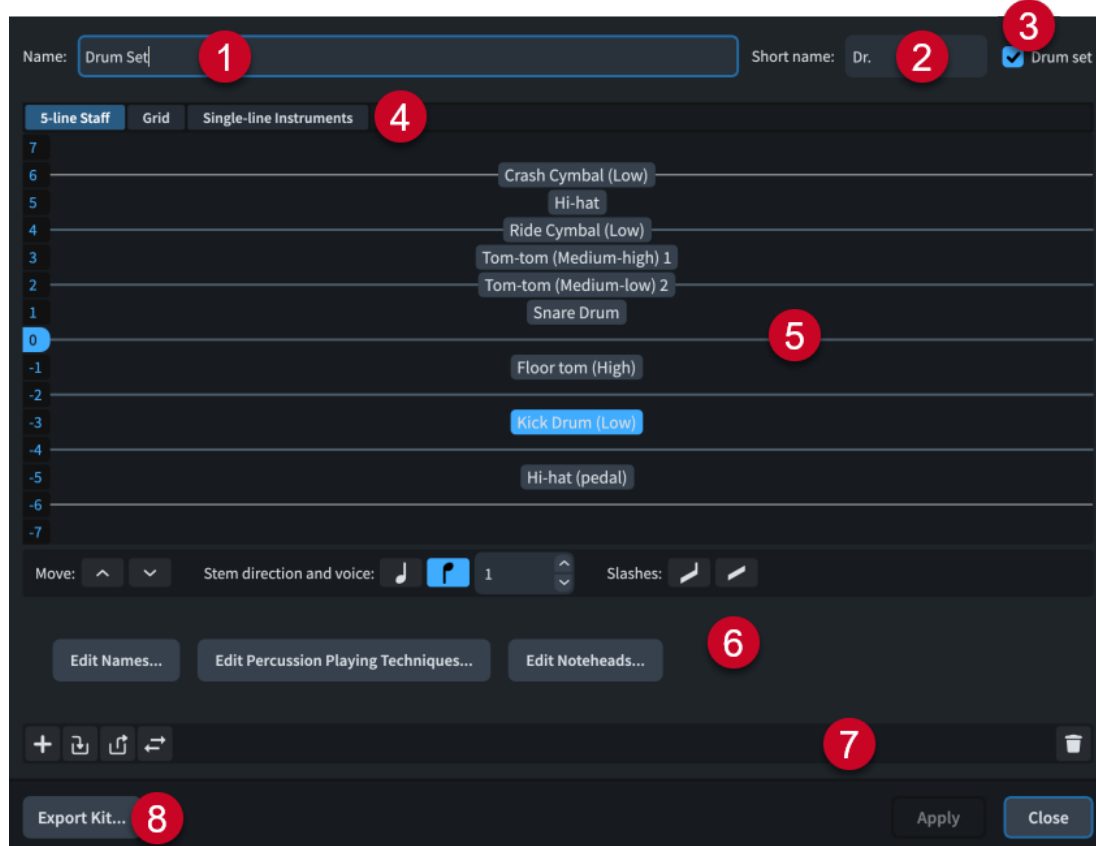
#### ヒント

設定モードの「**プレーヤー (Players)**」パネルでは、打楽器キットインストゥルメントのラベルが緑色で表示されます。

- 「**インストゥルメントを編集 (Edit Instruments)**」ダイアログで、インストゥルメントリストの打楽器キットを選択して、「**インストゥルメント (Instrument)**」セクションの「**打楽器キットを編集 (Edit Percussion Kit)**」をクリックします。

## 補足

この方法はプロジェクトに追加していない打楽器キットにのみ使用できます。



### 1 名前 (Name)

打楽器キットの正式名称の入力または変更ができます。これは、五線譜表示を使用している打楽器キットの**完全な**譜表ラベルで使用されます。

### 2 略称 (Short name)

打楽器キットの略称を入力または変更できます。これは、五線譜表示を使用している打楽器キットの**省略された**譜表ラベルで使用されます。

### 3 ドラムセット (Drum set)

チェックボックスがオンの場合は、打楽器キットはドラムセットとして定義されます。ドラムセットとして定義された打楽器キットは、「**記譜オプション (Notation Options)**」の「**打楽器 (Percussion)**」ページのドラムセットの設定に従います。これには、声部の振り分けやデフォルトの符尾方向などが含まれます。

### 4 表示タイプ

選択した打楽器キットが、打楽器キットの表示タイプごとでどのように表示されるかを編集できます。

- **五線譜 (5-line Staff):** キットのインストゥルメントは五線譜上に表示されます。譜表のそれぞれの線および間にどのインストゥルメントが表示されるか指定できます。キットの名前を示す1つの譜表ラベルが表示されます。
- **グリッド (Grid):** キットのインストゥルメントはグリッド上に表示され、それぞれのインストゥルメントに1本ずつの線が与えられます。各線間の間隔はカスタマイズできます。各インストゥルメントの譜表ラベルは、通常の譜表ラベルより小さなフォントで表示されます。

- **一線譜を使用するインストゥルメント (Single-line Instruments):** キットのインストゥルメントは、それぞれの線上で個別のインストゥルメントとして表示されます。各インストゥルメントには標準サイズの譜表ラベルが表示されます。

## 5 エディター

選択した打楽器キットの表示タイプで、インストゥルメントの現在の配置が表示されます。コントロールを使用して、インストゥルメントの配置およびグリッド表示タイプの線と間隔のレイアウトを変更できます。

## 6 コントロール

選択した打楽器キットの表示タイプのインストゥルメントの配置および符尾の方向を変更できます。また、キットにスラッシュ付き声部を追加することもできます。

- **名前を編集 (Edit Names):** 現在選択しているインストゥルメントの名前を変更できる「**インストゥルメント名を編集 (Edit Instrument Names)**」ダイアログを開きます。






### 補足

すべての表示タイプの打楽器インストゥルメント名の表示が変更されます。打楽器キットの表示タイプによっては、譜表ラベルはインストゥルメント名とは別の情報を使用する場合があります。

- **打楽器の演奏技法を編集 (Edit Percussion Playing Techniques):** 符頭とアーティキュレーションとトレモロとの組み合わせが、現在選択しているインストゥルメントの再生にどのように影響するかを変更できる「**打楽器の演奏技法 (Percussion Instrument Playing Techniques)**」ダイアログを開きます。
- **符頭を編集 (Edit Noteheads):** 五線譜キット表示において、現在選択しているインストゥルメントが使用している符頭を上書きできる「**打楽器の符頭の上書き (Override Percussion Noteheads)**」ダイアログを開きます。

## 7 アクションバー

すべての表示タイプに適用されるオプションが含まれています。

- **新規インストゥルメントを追加 (Add New Instrument) **: インストゥルメントピッカーを開き、キットに追加する新しい無音程打楽器インストゥルメントを選択できます。
- **プレーヤーから既存のインストゥルメントを追加 (Add Existing Instrument From Player) **: キット内ではなく、個別の打楽器インストゥルメントを含むプロジェクト内の他のプレーヤーのリストが表示されます。別のプレーヤーの打楽器インストゥルメントを選択し、その打楽器インストゥルメントを楽譜とともに現在のキットに移動できます。
- **キットからインストゥルメントを削除 (Remove Instrument From Kit) **: 個別のインストゥルメントとして表示されるように、選択したインストゥルメントをキットから削除します。個別のインストゥルメントは他のプレーヤーまたは他のキットインストゥルメントに移動できます。
- **インストゥルメントを変更 (Change Instrument) **: インストゥルメントピッカーを開き、新しい無音程楽器を選択して、楽譜を保持したまま選択したインストゥルメントと置き換えることができます。
- **インストゥルメントを削除 (Delete Instrument) **: インストゥルメントを楽譜ごとキットから削除します。

## 8 キットを書き出す (Export Kit)

別のプロジェクトで使用できるように、打楽器キットをライブラリーファイルとして書き出せます。

#### ヒント

打楽器キットは「**インストゥルメントを編集 (Edit Instruments)**」ダイアログで作成や編集を行なうことができ、変更した内容はコンピューター上のそれ以降のすべてのプロジェクトで使用できるようになります。

---

#### 関連リンク

- [プレーヤーパネル \(121 ページ\)](#)
- [「インストゥルメントを編集 \(Edit Instruments\)」ダイアログ \(950 ページ\)](#)
- [プレーヤーへの空の打楽器キットの追加 \(160 ページ\)](#)
- [キットへの個別の打楽器インストゥルメントの結合 \(161 ページ\)](#)
- [打楽器キットとドラムセット \(156 ページ\)](#)
- [打楽器キットにおける声部 \(1855 ページ\)](#)
- [打楽器キットの譜表ラベル \(1698 ページ\)](#)
- [打楽器キットの表示タイプ \(1848 ページ\)](#)
- [「インストゥルメント名を編集 \(Edit Instrument Names\)」ダイアログ \(207 ページ\)](#)
- [「打楽器の演奏技法 \(Percussion Instrument Playing Techniques\)」ダイアログ \(1840 ページ\)](#)
- [「打楽器の符頭の上書き \(Override Percussion Noteheads\)」ダイアログ \(1842 ページ\)](#)
- [無音程打楽器の演奏技法 \(1839 ページ\)](#)
- [演奏技法固有の符頭 \(1840 ページ\)](#)
- [打楽器キット内のインストゥルメントの符尾の方向/声部を指定する \(1856 ページ\)](#)
- [無音程打楽器の音符を入力する \(263 ページ\)](#)

## プレーヤーへの空の打楽器キットの追加

プレーヤーに空の打楽器キットを追加し、そこに無音程打楽器インストゥルメントを追加できます。

#### 補足

打楽器キットは、すでにインストゥルメントが1つ割り当てられているセクションプレーヤーには追加できません。

---

#### 前提条件

少なくとも1人のプレーヤーを設定しておきます。

---

#### 手順

- 設定モードの「**プレーヤー (Players)**」パネルで、以下のいずれかの操作を行なって「**打楽器キットを編集 (Edit Percussion Kit)**」ダイアログを開きます。
    - プレーヤーを選択し、**[Shift]+[I]** を押してインストゥルメントピッカーで「**空のキットを作成 (Create Empty Kit)**」をクリックします。
    - プレーヤーカード内のプラス記号 **+** をクリックして、インストゥルメントピッカーで「**空のキットを作成 (Create Empty Kit)**」をクリックします。
    - 1人のプレーヤーを選択してから、アクションバーの「**プレーヤー設定 (Player Settings)**」**...** をクリックし、「**空のキットを作成 (Create Empty Kit)**」を選択します。プレーヤーを右クリックして、コンテキストメニューからオプションを選択することもできます。
  - 「**打楽器キットを編集 (Edit Percussion Kit)**」ダイアログで任意の打楽器をキットに追加します。
- 

#### 関連リンク

- [プレーヤーパネル \(121 ページ\)](#)
- [打楽器キットと個々の打楽器インストゥルメント \(1838 ページ\)](#)





- [「打楽器キットを編集 \(Edit Percussion Kit\)」 ダイアログ \(157 ページ\)](#)
- [インストゥルメントピッカー \(124 ページ\)](#)
- [打楽器キットの表示タイプ \(1848 ページ\)](#)
- [インストゥルメント名の言語の変更 \(61 ページ\)](#)

## 打楽器キットへのインストゥルメントの追加

「**打楽器キットを編集 (Edit Percussion Kit)**」ダイアログで、打楽器キットに新しいインストゥルメントを追加できます。

---

### 手順

- 設定モードの「**プレーヤー (Players)**」パネルで、インストゥルメントを追加するキットが割り当てられたプレーヤーのカードを展開します。
  - キットインストゥルメントラベルでインストゥルメントメニュー  をクリックし、「**打楽器キットを編集 (Edit Percussion Kit)**」を選択して「**打楽器キットを編集 (Edit Percussion Kit)**」ダイアログを開きます。
  - 「**新規インストゥルメントを追加 (Add New Instrument)**」  をクリックして、インストゥルメントピッカーを開きます。
  - インストゥルメントピッカーで任意の打楽器インストゥルメントを選択します。
  - [Return]** を押して、選択したインストゥルメントを追加します。
  - 「**閉じる (Close)**」をクリックします。
- 

### 結果

選択したインストゥルメントが打楽器キットに追加されます。

### 関連リンク

- [プレーヤーパネル \(121 ページ\)](#)
- [インストゥルメント名の言語の変更 \(61 ページ\)](#)
- [打楽器キットの表示タイプ \(1848 ページ\)](#)
- [無音程打楽器の音符を入力する \(263 ページ\)](#)

## キットへの個別の打楽器インストゥルメントの結合

プレーヤーに個別の打楽器インストゥルメントが1つ以上含まれている場合、それらを打楽器キットに結合できます。

---

### 手順

- 設定モードの「**プレーヤー (Players)**」パネルで、キットに組み込む打楽器が割り当てられたプレーヤーを選択します。
- アクションバーで「**プレーヤー設定 (Player Settings)**」  をクリックし、「**インストゥルメントでキットを編成 (Combine Instruments into Kit)**」を選択して「**打楽器キットを編集 (Edit Percussion Kit)**」ダイアログを開きます。

### ヒント

プレーヤーを右クリックして、コンテキストメニューからオプションを選択することもできます。

---

- 新規の打楽器キットを編集します。  
たとえば、グリッドまたは五線譜にインストゥルメントが表示される順番を変更できます。
-

#### 結果

プレイヤーに割り当てられたすべてのインストゥルメントを含む新しいキットが作成されます。

#### 補足

プレイヤーに1つ以上のキットインストゥルメントがすでに割り当てられている場合、すべての個別のインストゥルメントとその他のキットが最初のキットに結合されます。



---

## 打楽器キットから個別のインストゥルメントを削除

キット内の別のインストゥルメントに影響を与えることなく打楽器キットからインストゥルメントを個別に削除できます。たとえば、インストゥルメントをある打楽器キットから別のプレイヤーに移動する場合などに行ないます。

---

#### 手順

1. 設定モードの「**プレイヤー (Players)**」パネルで、インストゥルメントを削除するキットが割り当てられたプレイヤーのカードを展開します。
  2. キットインストゥルメントラベルでインストゥルメントメニュー  をクリックし、「**打楽器キットを編集 (Edit Percussion Kit)**」を選択して「**打楽器キットを編集 (Edit Percussion Kit)**」ダイアログを開きます。
  3. キットから削除するインストゥルメントをクリックします。
  4. アクションバーの「**キットからインストゥルメントを削除 (Remove Instrument From Kit)**」  をクリックします。
  5. 「**閉じる (Close)**」をクリックします。
- 

#### 結果

選択したインストゥルメントが打楽器キットから削除されます。これらは同じプレイヤーに属する個別のインストゥルメントとして表示されます。

#### 手順終了後の項目

必要に応じてそのインストゥルメントを別のプレイヤーに移動できます。

#### 関連リンク

[プレイヤーパネル \(121 ページ\)](#)


[インストゥルメントの移動 \(149 ページ\)](#)

## 打楽器キットをドラムセットとして定義

個別の打楽器キットをドラムセットとして定義できます。ドラムセットは、五線譜表示のドラムセットの声部の振り分けに対するフローごとの記譜オプションに従います。

---

#### 手順

1. 設定モードの「**プレイヤー (Players)**」パネルで、ドラムセットとして定義するキットが割り当てられたプレイヤーのカードを展開します。
  2. キットインストゥルメントラベルでインストゥルメントメニュー  をクリックし、「**打楽器キットを編集 (Edit Percussion Kit)**」を選択して「**打楽器キットを編集 (Edit Percussion Kit)**」ダイアログを開きます。
  3. ダイアログの右上にある「**ドラムセット (Drum set)**」をオンにします。
  4. 「**適用 (Apply)**」をクリックしてから「**閉じる (Close)**」をクリックします。
-

#### 結果

選択した打楽器キットがドラムセットとして定義されます。五線譜表示タイプを使用している場合、キット内のインストゥルメントの声部の配置は「**記譜オプション (Notation Options)**」の「**打楽器 (Percussion)**」ページで設定したフローごとの設定に従います。

#### 補足

打楽器キットをドラムセットとして定義しておく必要がなくなった場合は、そのキットの「**打楽器キットを編集 (Edit Percussion Kit)**」ダイアログで「**ドラムセット (Drum set)**」をオフにできます。

---

#### 関連リンク

[プレーヤーパネル \(121 ページ\)](#)

[「記譜オプション \(Notation Options\)」ダイアログ \(919 ページ\)](#)



[「打楽器の演奏技法 \(Percussion Instrument Playing Techniques\)」ダイアログ \(1840 ページ\)](#)

## 打楽器キット内のインストゥルメントの変更

インストゥルメントの既存の楽譜はすべて保持したまま、打楽器キット内の既存のインストゥルメントを変更できます。

---

#### 手順

1. 設定モードの「**プレーヤー (Players)**」パネルで、インストゥルメントを変更するキットが割り当てられたプレーヤーのカードを展開します。
  2. キットインストゥルメントラベルでインストゥルメントメニュー  をクリックし、「**打楽器キットを編集 (Edit Percussion Kit)**」を選択して「**打楽器キットを編集 (Edit Percussion Kit)**」ダイアログを開きます。
  3. 変更するインストゥルメントをクリックします。
  4. アクションバーの「**インストゥルメントを変更 (Change Instrument)**」  をクリックしてインストゥルメントピッカーを開きます。
  5. インストゥルメントピッカーで任意の打楽器インストゥルメントを選択します。
  6. **[Return]** を押して、選択したインストゥルメントを変更します。
  7. 「**閉じる (Close)**」をクリックします。
- 

#### 結果

インストゥルメントがインストゥルメントピッカーで選択したものに変わります。前のインストゥルメントの入力した楽譜はすべて保持されます。

#### 補足

演奏技法固有の符頭を使用して表現された演奏技法は保持されません。

---

#### 関連リンク


[演奏技法固有の符頭 \(1840 ページ\)](#)

[インストゥルメント名の言語の変更 \(61 ページ\)](#)

## 打楽器キット内のインストゥルメントの移動



すべての表示タイプの打楽器キット内で、インストゥルメントの位置を変更し、スコアとパートに表示されるインストゥルメントの順番を変更できます。また、五線譜表示タイプではスラッシュ付き声部の譜表上の位置も変更できます。

### 手順

1. 設定モードの「**プレーヤー (Players)**」パネルで、インストゥルメントの位置を変更するキットが割り当てられたプレーヤーのカードを展開します。
2. キットインストゥルメントラベルでインストゥルメントメニュー  をクリックし、「**打楽器キットを編集 (Edit Percussion Kit)**」を選択して「**打楽器キットを編集 (Edit Percussion Kit)**」ダイアログを開きます。
3. インストゥルメントの順番を変更するキットの表示タイプをクリックします。  
たとえば、そのキットがグリッド表示タイプを使用している場合にインストゥルメントの順番を変更するには「**グリッド (Grid)**」をクリックします。
4. 位置を変更する打楽器インストゥルメントまたはスラッシュ付き声部をクリックします。

### 補足

マウスを使用する場合、一度に移動できるインストゥルメント/スラッシュ付き声部は1つだけです。

5. 以下のいずれかの操作を行なって、選択したインストゥルメント/スラッシュ付き声部の位置を変更します。
  - 上に移動するには、「**上へ移動 (Move Up)**」  をクリックします。
  - 下に移動するには、「**下へ移動 (Move Down)**」  をクリックします。
  - インストゥルメントを個別にクリックして上下にドラッグします (五線譜表示タイプのみ)。
6. 必要に応じて、打楽器キット内の他のインストゥルメントおよび同じ打楽器キットのほかのキット表示タイプにこれらの手順を繰り返します。
7. 「**適用 (Apply)**」をクリックしてから「**閉じる (Close)**」をクリックします。

### 結果

キット内の選択したインストゥルメントまたはスラッシュ付き声部の位置が変更されます。複数のインストゥルメントに同じ譜表上の位置を使用できますが、演奏者が見分けられるよう異なる符頭を使用することをおすすめします。

### 関連リンク

[プレーヤーパネル \(121 ページ\)](#)

[打楽器キットの別のインストゥルメントに音符を移動する \(507 ページ\)](#)


[無音程打楽器の音符を入力する \(263 ページ\)](#)

## グリッド表示の打楽器キット内のインストゥルメントグループの作成

キット内のインストゥルメントを見やすくするために、グリッド表示タイプを使用する打楽器キット内でインストゥルメントグループを作成できます。

グリッド表示の打楽器キット内では、独自のインストゥルメントの名前が譜表ラベルに表示されます。たとえば「Wood Block (High)」、「Wood Block (Medium)」、「Wood Block (Low)」のかわりに「ウッドブロック」と表示するなど、グループを作成してグリッド表示の打楽器キットの譜表ラベルをシンプルにできます。

#### 手順

1. 設定モードの「**プレーヤー (Players)**」パネルで、グリッド表示にグループを作成するキットが割り当てられたプレーヤーのカードを展開します。
2. キットインストゥルメントラベルでインストゥルメントメニュー  をクリックし、「**打楽器キットを編集 (Edit Percussion Kit)**」を選択して「**打楽器キットを編集 (Edit Percussion Kit)**」ダイアログを開きます。
3. ダイアログの一番上にある「**グリッド (Grid)**」をクリックします。
4. グループに含める最初のインストゥルメントをクリックします。
5. グループに含める最後のインストゥルメントを **[Shift]** を押しながらクリックします。

#### 補足

グループに含めることができるのは隣り合うインストゥルメントのみです。

---

6. 「**追加 (Add)**」  をクリックします。
- 

#### 結果

選択したインストゥルメントを含むグループが作成されます。グループにはデフォルト名が付けられますが、変更することもできます。

#### 関連リンク

[プレーヤーパネル \(121 ページ\)](#)

[打楽器キットの表示タイプ \(1848 ページ\)](#)

## グリッド表示の打楽器キット内でのグループ名の変更

グループ名はインストゥルメントラベルとして表示されます。グリッド表示タイプを使用している打楽器キット内のグループの名前を変更できます。

---

#### 手順

1. 設定モードの「**プレーヤー (Players)**」パネルで、グリッド表示グループの名前を変更するキットが割り当てられたプレーヤーのカードを展開します。
  2. キットインストゥルメントラベルでインストゥルメントメニュー  をクリックし、「**打楽器キットを編集 (Edit Percussion Kit)**」を選択して「**打楽器キットを編集 (Edit Percussion Kit)**」ダイアログを開きます。
  3. ダイアログの一番上にある「**グリッド (Grid)**」をクリックします。
  4. 名前を変更するグループをダブルクリックして「**打楽器グリッドのグループ名を編集 (Edit Percussion Grid Group Names)**」ダイアログを開きます。  
グループは、打楽器キットインストゥルメントのリストの左側の列に、色付きのブロックとして表示されます。
  5. 「**打楽器グリッドのグループ名を編集 (Edit Percussion Grid Group Names)**」ダイアログの対応するフィールドに、グループに付ける名前を入力します。
    - **正式名称 (Full Name)**
    - **略称 (Short Name)**
  6. 「**OK**」をクリックして変更内容を保存し、ダイアログを閉じます。
- 

#### 結果

グループ名が変更されます。また、グループの譜表ラベルも変更されます。

## 補足

グリッド表示の打楽器キットのグループの譜表ラベルには、グリッド表示の打楽器キットのグループ化されていないインストゥルメントの譜表ラベルとは異なるパラグラフスタイルが使用されます。

例



グループ化されていないグリッド表示の打楽器キット

ウッドブロックがグループ化されたグリッド表示の打楽器キット



関連リンク

[打楽器キットの譜表ラベル \(1698 ページ\)](#)

## グリッド表示の打楽器キット内でのグループの削除

グリッド表示タイプを使用している打楽器キット内で、グループ内のインストゥルメントを削除することなくグループを削除できます。

手順

1. 設定モードの「**プレーヤー (Players)**」パネルで、グリッド表示からグループを削除するキットが割り当てられたプレーヤーのカードを展開します。
2. キットインストゥルメントラベルでインストゥルメントメニュー  をクリックし、「**打楽器キットを編集 (Edit Percussion Kit)**」を選択して「**打楽器キットを編集 (Edit Percussion Kit)**」ダイアログを開きます。
3. ダイアログの一番上にある「**グリッド (Grid)**」をクリックします。
4. 削除するグループをクリックします。  
グループは、打楽器キットインストゥルメントのリストの左側の列に、色付きのブロックとして表示されます。
5. 「**削除 (Delete)**」  をクリックします。

結果


グループが削除されます。グループ内の各インストゥルメントの個別の譜表ラベルは復元されます。

## 打楽器グリッドの線の間隔の変更

グリッド表示タイプを使用している打楽器キットの線の間隔を変更できます。

手順

1. 設定モードの「**プレーヤー (Players)**」パネルで、グリッド表示の間隔の大きさを変更する打楽器キットが割り当てられたプレーヤーのカードを展開します。

2. キットインストゥルメントラベルでインストゥルメントメニュー  をクリックし、「**打楽器キットを編集 (Edit Percussion Kit)**」を選択して「**打楽器キットを編集 (Edit Percussion Kit)**」ダイアログを開きます。
  3. ダイアログの一番上にある「**グリッド (Grid)**」をクリックします。
  4. 下の間隔を変更するインストゥルメントをクリックします。
  5. 「**間隔 (Gap)**」の値を変更します。
  6. 「**適用 (Apply)**」をクリックしてから「**閉じる (Close)**」をクリックします。
- 

#### 結果


選択したインストゥルメントの下の間隔が変更されます。

## 打楽器キットの書き出し

打楽器キットを .doricolib ファイルとして書き出せます。これにより、キットを 1 から作り直す必要なく再利用できます。

---

#### 手順

1. 設定モードの「**プレーヤー (Players)**」パネルで、打楽器キットを書き出すプレーヤーのカードを展開します。
  2. キットインストゥルメントラベルでインストゥルメントメニュー  をクリックし、「**打楽器キットを編集 (Edit Percussion Kit)**」を選択して「**打楽器キットを編集 (Edit Percussion Kit)**」ダイアログを開きます。
  3. ダイアログ下部の「**キットを書き出す (Export Kit)**」をクリックして、エクスプローラー (Windows) または Finder (Mac) を開きます。
  4. エクスプローラー (Windows) または Finder (Mac) で、ライブラリーファイルの名前と保存場所を指定します。
  5. 「**保存 (Save)**」をクリックします。
- 

#### 結果

キットが書き出され、.doricolib ファイルとして保存されます。

#### ヒント

- あとから .doricolib ファイルを他のプロジェクトに読み込むと、打楽器キットを再利用できます。
  - 打楽器キットは「**インストゥルメントを編集 (Edit Instruments)**」ダイアログで作成や編集を行なうことができ、変更した内容はコンピューター上のそれ以降のすべてのプロジェクトで使用できるようになります。
- 


## 打楽器キットの読み込み

打楽器キットを収める .doricolib ファイルを読み込むことで、キットを 1 から作り直す必要なく再利用できます。

#### 前提条件

プロジェクトにシングルプレーヤーか楽器が関連付けられていないセクションプレーヤーを少なくとも 1 人追加しておきます。

#### 手順

1. 設定モードの「**プレーヤー (Players)**」パネルで、以下のいずれかの方法で、読み込んだ打楽器キットを割り当てるプレーヤーのインストゥルメントピッカーを開きます。
  - プレーヤーを選択して **[Shift]+[I]** を押します。
  - プレーヤーのカードでプラス記号 **+** をクリックします。
  - プレーヤーを選択し、アクションバーの「**プレーヤー設定 (Player Settings)**」  をクリックして「**インストゥルメントをプレーヤーに追加 (Add Instrument to Player)**」を選択します。プレーヤーを右クリックして、コンテキストメニューからオプションを選択することもできます。
2. インストゥルメント選択ダイアログの「**キットを読み込む (Import Kit)**」をクリックして、エクスプローラー (Windows) または Finder (Mac) を開きます。
3. インポートする打楽器キットの .doricolib ファイルを探して選択します。
4. 「**開く (Open)**」をクリックします。

#### 結果

選択した .doricolib ファイルが打楽器キットとして読み込まれます。これはインストゥルメント選択ダイアログを開いたカードのプレーヤーに割り当てられます。

#### ヒント

打楽器キットは「**インストゥルメントを編集 (Edit Instruments)**」ダイアログで作成や編集を行なうことができ、変更した内容はコンピューター上のそれ以降のすべてのプロジェクトで使用できるようになります。

#### 関連リンク

[プレーヤーパネル \(121 ページ\)](#)

[プレーヤーの追加 \(136 ページ\)](#)

[「インストゥルメントを編集 \(Edit Instruments\)」ダイアログ \(950 ページ\)](#)

[カスタム打楽器キットの作成 \(956 ページ\)](#)

## フレット楽器のチューニング

フレット楽器の弦とフレットの数は楽器によって異なります。Dorico Pro でフレット楽器のタブ譜を表示するには、フレット楽器のチューニングに関する情報を指定する必要があります。

Dorico Pro でタブ譜を表示するには以下の情報が必要です。

- インストゥルメントの弦の本数
- 各弦の開放弦のピッチ
- フレット数
- 各弦が始まるフレット番号 (バンジョーの 5 弦など)
- フレット間のピッチの間隔
- カポのフレット番号 (該当する場合)

フレット楽器を追加する場合や既存のインストゥルメントを変更する場合、そのインストゥルメントに使用できるチューニングはインストゥルメントピッカーに表示されます。

また、「**弦とチューニングを編集 (Edit Strings and Tuning)**」ダイアログで、カポの追加を含むフレット楽器のすべての設定をカスタマイズできます。



## ヒント

フレット楽器のチューニングは「**インストゥルメントを編集 (Edit Instruments)**」ダイアログで作成や編集を行なうことができ、変更した内容はコンピューター上のそれ以降のすべてのプロジェクトで使用できるようになります。


## 関連リンク

- [インストゥルメントピッカー \(124 ページ\)](#)
- [インストゥルメントの変更 \(148 ページ\)](#)
- [カポ \(173 ページ\)](#)
- [ミドルCのナンバリング変換を変更する \(55 ページ\)](#)
- [「インストゥルメントを編集 \(Edit Instruments\)」ダイアログ \(950 ページ\)](#)
- [代替チューニングでフレット楽器を作成する \(959 ページ\)](#)
- [コード記号 \(1154 ページ\)](#)
- [コードダイアグラム \(1175 ページ\)](#)
- [タブ譜 \(1737 ページ\)](#)
- [ギターバンド \(1469 ページ\)](#)
- [ギターテクニック \(1485 ページ\)](#)

## 「弦とチューニングを編集 (Edit Strings and Tuning)」ダイアログ

「**弦とチューニングを編集 (Edit Strings and Tuning)**」ダイアログでは、弦とフレットの数、開放弦のピッチ、フレットのスペーシングなどを変更することで個々のフレット楽器のチューニングをカスタマイズできます。また、カポの追加/削除やフレット楽器の移調の変更も行なえます。

「**弦とチューニングを編集 (Edit Strings and Tuning)**」ダイアログを開くには、以下のいずれかの操作を行ないます。

- 設定モードの「**プレーヤー (Players)**」パネルで、フレット楽器が割り当てられたプレーヤーのカードを展開し、フレット楽器ラベルのインストゥルメントメニュー  をクリックして「**弦とチューニングを編集 (Edit Strings and Tuning)**」を選択します。
- 「**インストゥルメントを編集 (Edit Instruments)**」ダイアログで、インストゥルメントリストのフレット楽器を選択して、「**インストゥルメント (Instrument)**」セクションの「**弦とチューニングを編集 (Edit Strings and Tuning)**」をクリックします。



「**弦とチューニングを編集 (Edit Strings and Tuning)**」ダイアログは以下で構成されます。

## 1 インストゥルメント (Instrument)

選択したフレット楽器の名前が表示されます。

## 2 互換性のあるプリセットチューニング (Compatible preset tunings)

選択したフレット楽器と弦の数が同じフレット楽器のプリセットチューニングを選択できます。ダイアログで行なった変更がプリセットチューニングと一致する場合、自動的にそのプリセットチューニングが選択されます。

## 3 弦エディター

フレット楽器の個々の弦またはすべての弦を選択して編集できます。エディターの弦の配置は実際の楽器の弦と一致します。各弦のピッチとフレットの総数が、ナットを表わす垂直線の左側に表示されます。

**[↑]/[↓]** を押して弦楽器を順に切り替えることができます。また、**[Page Up]/[Page Down]** を押して一番上/一番下の弦楽器に移動できます。

## 4 カポ表示

フレット楽器に追加したカポのフレットポジションと範囲を示します。




## 5 コントロール

個々の弦または複数の弦を編集できます。弦エディターで1本以上の弦が選択されている場合に、以下のコントロールを使用できます。

- **開放弦のピッチ (Open pitch):** ミドルCのナンバリング変換設定に適した音符名とオクターブを使用して、その弦の開放弦のピッチを設定できます (ミドルCの場合は「**C4**」など)。必要に応じて、シャープの「**#**」やフラットの「**b**」を追加できます。
- **フレット数 (No. of frets):** 選択した弦のフレット数を設定できます。
- **開始フレット (Starting fret):** 選択した弦の最初のフレットの番号を設定できます。たとえば、バンジョーの5弦は第5フレットから始まります。
- **半ステップチューニング上げ (Tune Up Half-Step):** 選択した弦の開放弦のピッチを半ステップ (半音) 上げます。
- **半ステップチューニング下げ (Tune Down Half-Step):** 選択した弦の開放弦のピッチを半ステップ (半音) 下げます。
- **不規則なフレットの間隔 (Irregular fret spacing):** ダルシマーのように、別の音階に対応するフレットボードを持つ楽器の、半音階以外のフレット配置を設定できます。半ステップは「**1**」、全ステップは「**2**」として、各ステップをコンマで区切って入力します。たとえば、メジャースケールのパターンを設定するには「**2,2,1,2,2,1**」と入力します。

## 6 アクションバー

弦の数と配置を変更できるオプションがあります。

- **弦を追加 (Add String) **: 現在選択している一番下の弦の下に新しい弦を追加します。新しい弦は、現在選択している一番下の弦を複製したものになります。
- **弦を一番上に追加 (Add String at Top) **: フレットボードの一番上に新しい弦を追加します。新しい弦は、一番上の弦を複製したものになります。
- **すべて選択 (Select all)**: すべての弦を一度に選択します。
- **「弦を移動 (Move string)」ボタン**: 現在選択している弦をフレットボード上で上下に移動します。
- **デフォルトにリセット (Reset to Default)**: フレット楽器のすべての弦とそのチューニングを出荷時のデフォルト設定に戻します。
- **弦を削除 (Delete String) **: 選択した弦を削除します。

## 7 「カポと移調 (Capo and Transposition)」セクション

カポとフレット楽器の移調を変更できるオプションが含まれています。

- **カポ (Capo):** フレット楽器にフルカポやパーシャルカポを追加できる「**カポの定義 (Capo Definition)**」ダイアログを開きます。
- **譜表上の記譜におけるミドル C (MIDI ノート 60) の発音 (In staff notation, written middle C (MIDI note 60) sounds as):** 選択したフレット楽器の移調を変更できます。このピッチによって、対応する数の半ステップの音符とコード記号の表記が決まります。

#### 8 チューニングを読み込み (Import Tuning)

エクスプローラー (Windows) または Finder (Mac) を開き、読み込んでフレット楽器に適用する .doricotuning ファイルを選択できます。

#### 9 チューニングを書き出し (Export Tuning)

エクスプローラー (Windows) または Finder (Mac) を開き、フレット楽器の弦とチューニング設定を .doricotuning ファイルとして書き出す場所を選択できます。そのあと、.doricotuning ファイルを別のインストゥルメントまたはプロジェクトに読み込んで別のユーザーと共有できます。

#### ヒント

フレット楽器のチューニングは「**インストゥルメントを編集 (Edit Instruments)**」ダイアログで作成や編集を行なうことができ、変更した内容はコンピューター上のそれ以降のすべてのプロジェクトで使用できるようになります。

---

#### 関連リンク


- [プレーヤーパネル \(121 ページ\)](#)
- [「インストゥルメントを編集 \(Edit Instruments\)」ダイアログ \(950 ページ\)](#)
- [コードダイアグラム \(1175 ページ\)](#)
- [タブ譜 \(1737 ページ\)](#)
- [フレット楽器のチューニング \(168 ページ\)](#)
- [カポ \(173 ページ\)](#)
- [ミドル C のナンバリング変換を変更する \(55 ページ\)](#)

## フレット楽器の開放弦のピッチの変更

インストゥルメントピッカーでインストゥルメントのバリエーションとして選択できない例外的なチューニングがプロジェクトに必要な場合などに、フレット楽器の開放弦のピッチを個別に変更できます。

---

#### 手順

1. 設定モードの「**プレーヤー (Players)**」パネルで、開放弦のピッチを変更するフレット楽器が割り当てられたプレーヤーのカードを展開します。
  2. インストゥルメントラベルでインストゥルメントメニュー  をクリックし、「**弦とチューニングを編集 (Edit Strings and Tuning)**」を選択して「**弦とチューニングを編集 (Edit Strings and Tuning)**」ダイアログを開きます。
  3. 開放弦を変更する弦を選択します。
  4. 「**開放弦のピッチ (Open pitch)**」の値を、たとえば「**G2**」などに変更します。
  5. 必要に応じて、手順 3 と 4 を繰り返してほかの弦の開放弦のピッチを変更します。
  6. 「**OK**」をクリックして変更内容を保存し、ダイアログを閉じます。
- 

#### 結果

選択した弦の開放弦のピッチが変更されます。これは、インストゥルメントのチューニングおよび変更した弦のすべてのフレット位置のピッチに影響します。

新しいチューニングをコードダイアグラムで使用できるようになります。

#### ヒント

「**インストゥルメントを編集 (Edit Instruments)**」ダイアログで、カスタムインストゥルメントや現在のプロジェクトにないインストゥルメントなどの開放弦のピッチを変更することもできます。

---

#### 関連リンク

[プレーヤーパネル \(121 ページ\)](#)

[コードダイアグラム \(1175 ページ\)](#)

[コードダイアグラムを表示/非表示にする \(1177 ページ\)](#)

[「インストゥルメントを編集 \(Edit Instruments\)」ダイアログ \(950 ページ\)](#)

[代替チューニングでフレット楽器を作成する \(959 ページ\)](#)

## フレット楽器のチューニングの書き出し

他のインストゥルメントや他のプロジェクトで再利用できるように、フレット楽器のチューニングを書き出すことができます。フレット楽器のチューニングは .doricotuning ライブラリーファイルとして書き出されます。

---

#### 手順

1. 設定モードの「**プレーヤー (Players)**」パネルで、チューニングを書き出すフレット楽器が割り当てられたプレーヤーのカードを展開します。
  2. インストゥルメントラベルでインストゥルメントメニュー  をクリックし、「**弦とチューニングを編集 (Edit Strings and Tuning)**」を選択して「**弦とチューニングを編集 (Edit Strings and Tuning)**」ダイアログを開きます。
  3. ダイアログ下部の「**チューニングを書き出し (Export Tuning)**」をクリックして、エクスプローラー (Windows) または Finder (Mac) を開きます。
  4. エクスプローラー (Windows) または Finder (Mac) で、ライブラリーファイルの名前と保存場所を指定します。
  5. 「**保存 (Save)**」をクリックします。
- 

#### 結果

選択したフレット楽器のチューニングが書き出され、.doricotuning ライブラリーファイルとして書き出されます。

#### ヒント

フレット楽器のチューニングは「**インストゥルメントを編集 (Edit Instruments)**」ダイアログで作成や編集を行なうことができ、変更した内容はコンピューター上のそれ以降のすべてのプロジェクトで使用できるようになります。

---


#### 手順終了後の項目

ライブラリーファイルを他のプロジェクトに読み込むと、フレット楽器のチューニングを再利用できます。

## フレット楽器のチューニングの読み込み

作成済みのフレット楽器のカスタムチューニングを読み込み、インストゥルメントに適用できます。これにより、チューニングを1から作り直すことなく再利用できます。

### 手順

1. 設定モードの「**プレーヤー (Players)**」パネルで、読み込んだチューニングを適用するフレット楽器が割り当てられたプレーヤーのカードを展開します。
2. インストゥルメントラベルでインストゥルメントメニュー  をクリックし、「**弦とチューニングを編集 (Edit Strings and Tuning)**」を選択して「**弦とチューニングを編集 (Edit Strings and Tuning)**」ダイアログを開きます。
3. ダイアログ下部の「**チューニングを読み込み (Import Tuning)**」をクリックして、エクスプローラー (Windows) または Finder (Mac) を開きます。
4. 読み込む .doricotuning ライブラリーファイルを探して選択します。
5. 「**開く (Open)**」をクリックします。

### 結果

選択した .doricotuning ファイルがフレット楽器に適用されます。読み込んだチューニングをコードダイアグラムで使用できるようになります。

### ヒント

フレット楽器のチューニングは「**インストゥルメントを編集 (Edit Instruments)**」ダイアログで作成や編集を行なうことができ、変更した内容はコンピューター上のそれ以降のすべてのプロジェクトで使用できるようになります。

## カポ

カポとは、演奏者がフレット楽器のネックに取り付け、1つのフレットポジションで弦を押さえるデバイスです。これにより、カポがかかった開放弦の発音上のピッチが高くなり、演奏者は同じフィンガリングとコードシェイプでより高いピッチを出すことができます。

Dorico Pro では、以下のいずれかの操作を行なって、記譜された楽譜にそれぞれ個別にカポを反映できます。

- フレット楽器にカポを追加することで、タブ譜に表示されるピッチを変更できます。Dorico Pro は、カポをタブ譜のフレット番号の0番めのフレットとして扱います。個々のフレット楽器に追加したカポは、「**弦とチューニングを編集 (Edit Strings and Tuning)**」ダイアログと、フレットボードパネルの対応するフレットポジションに、指定した弦をまたいで表示されます。
- フレット楽器の移調を、カポやディチューンしたフレット楽器を反映するように変更できます。また、フレット楽器の移調を音符の譜表や主コード記号に反映することもできます。
- 楽譜のコード記号/ダイアグラム、または使用されるコードダイアグラムのグリッド用にカポを定義し、主コードのみ、カポコードのみ、またはその両方を表示できます。

たとえば、タブ譜にはカポのピッチを表示し、音符の譜表には発音上のピッチを表示するなどできます。また、ボーカルのパートレイアウトでリードシートを作成する場合などに、フレット楽器が含まれていないレイアウトのコード記号に主コードとカポコードを両方表示することもできます。

### 関連リンク

[「弦とチューニングを編集 \(Edit Strings and Tuning\)」ダイアログ \(169 ページ\)](#)

[フレットボードパネル \(231 ページ\)](#)

[コード記号 \(1154 ページ\)](#)

- [コードダイアグラム \(1175 ページ\)](#)
- [タブ譜 \(1737 ページ\)](#)
- [ギターバンド \(1469 ページ\)](#)
- [ギターテクニック \(1485 ページ\)](#)
- [フレット楽器のチューニング \(168 ページ\)](#)
- [コード記号/コードダイアグラムのカポを定義する \(179 ページ\)](#)
- [使用されるコードダイアグラムのグリッドのカポを定義する \(181 ページ\)](#)
- [レイアウト \(190 ページ\)](#)
- [レイアウトの移調音/実音の設定 \(194 ページ\)](#)
- [レイアウトへのプレーヤーの割り当て \(193 ページ\)](#)

## カポコードと主コード

Dorico Pro では、同じコード記号に対して、元のピッチのみ、定義されたカポに基づく発音上のピッチのみ、またはその両方 (主コードの上または下にカポコード) を表示できます。

### 主コード

入力した本来のコード記号です。表示されるピッチは、そのレイアウトが移調音か実音か、レイアウトの主コード記号にフレット楽器の移調が使用されているかどうかによって変わります。たとえば、Bb のトランペットの移調音のパートレイアウトでは、C7 のコード記号が D7 として表示されます。

### カポコード

求められる主コードを生成するために、カポのフレットポジションに応じてフレット楽器で演奏すべきコードです。たとえば、第 2 フレットにカポを付けたギター奏者が Gm7 を演奏すると、発音されるコードは Am7 になります。

初期設定では、メインコードと一緒に表示される場合、カポコードは斜体で表示されます。

### ヒント

「**浄書オプション (Engraving Options)**」 > 「**コード記号 (Chord Symbols)**」 > 「**カポ (Capo)**」で、カポコードを括弧付きで表示したり、カポコード記号と主コード記号の間の垂直方向の間隔を変更したりできます。

### 関連リンク

- [実音と移調音 \(195 ページ\)](#)
- [音部記号/移調の上書きを設定したレイアウト \(198 ページ\)](#)
- [フレット楽器の移調を変更する \(177 ページ\)](#)
- [カポコード記号を表示/非表示にする \(179 ページ\)](#)
- [使用されるコードダイアグラムのグリッドのカポコード記号を表示/非表示にする \(182 ページ\)](#)
- [コード記号の表記の変更 \(1164 ページ\)](#)
- [浄書オプションでコード記号の設定をプロジェクト全体に適用する \(1155 ページ\)](#)
- [コード記号の外観のプリセット \(1156 ページ\)](#)
- [コード記号のフォントスタイル \(1157 ページ\)](#)


## フレット楽器にカポを追加する

個々のフレット楽器にカポを追加できます。Dorico Pro はカポを 0 番目のフレットとして扱うため、これは対応するインストゥルメントのタブ譜に表示されるピッチに影響します。たとえば、ギタープロジェクトでカポが必要なフレットがフローごとに異なる場合、複数のプレーヤーを追加し、それぞれにギターインストゥルメントを割り当てて必要なカポを追加するといいでしょ。

## 補足

これらの手順は音符の譜表のピッチ、楽譜のコード記号/ダイアグラム、または使用されるコードダイアグラムのグリッドには影響しません。

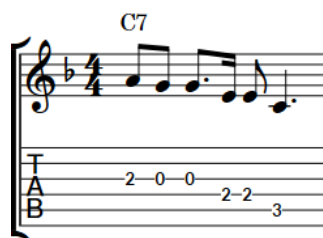
## 手順

1. 設定モードの「**プレーヤー (Players)**」パネルで、カポを追加するフレット楽器が割り当てられたプレーヤーのカードを展開します。
2. インストゥルメントラベルでインストゥルメントメニュー  をクリックし、「**弦とチューニングを編集 (Edit Strings and Tuning)**」を選択して「**弦とチューニングを編集 (Edit Strings and Tuning)**」ダイアログを開きます。
3. 「**カポと移調 (Capo and Transposition)**」セクションで、「**カポ (Capo)**」をクリックして「**カポの定義 (Capo Definition)**」ダイアログを開きます。
4. 「**カポ (Capo)**」で以下のいずれかのオプションを選択します。
  - フルカポ (Full Capo)
  - パーシャルカポ (Partial Capo)
5. 「**フレット (Fret)**」の値を変更することでカポのフレットポジションを変更します。
6. 「**パーシャルカポ (Partial Capo)**」を選択した場合は、必要に応じてカポをかける弦を変更します。
7. 「**OK**」をクリックして変更内容を保存し、「**カポの定義 (Capo Definition)**」ダイアログを閉じます。
8. 「**OK**」をクリックして変更内容を保存し、「**弦とチューニングを編集 (Edit Strings and Tuning)**」ダイアログを閉じます。

## 結果

設定に応じて、選択したインストゥルメントにカポが追加されます。「**弦とチューニングを編集 (Edit Strings and Tuning)**」ダイアログと、選択したインストゥルメントのフレットボードパネルの対応するフレットポジションに、指定した弦をまたいでカポが表示されます。

## 例



カポなし



第3フレットにカポを追加

## 関連リンク

[プレーヤーパネル \(121 ページ\)](#)

[「弦とチューニングを編集 \(Edit Strings and Tuning\)」ダイアログ \(169 ページ\)](#)

[フレットボードパネル \(231 ページ\)](#)

[フレット楽器の移調を変更する \(177 ページ\)](#)

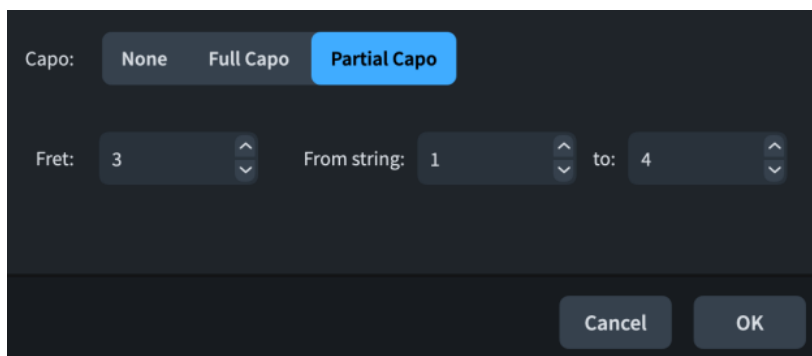
[コード記号/コードダイアグラムのカポを定義する \(179 ページ\)](#)

[使用されるコードダイアグラムのグリッドのカポを定義する \(181 ページ\)](#)

## 「カポの定義 (Capo Definition)」 ダイアログ

「カポの定義 (Capo Definition)」ダイアログを使用すると、フレット楽器にフルカポやパーシャルカポを追加できます。

- 「弦とチューニングを編集 (Edit Strings and Tuning)」ダイアログから「カポの定義 (Capo Definition)」ダイアログを開くには、「カポと移調 (Capo and Transposition)」セクションの「カポ (Capo)」をクリックします。



「カポの定義 (Capo Definition)」ダイアログには以下のオプションがあります。

### カポ (Capo)

以下のいずれかのカポのタイプを選択できます。

- なし (None)
- フルカポ (Full Capo)
- パーシャルカポ (Partial Capo)

### フレット (Fret)

カポのフレットポジションを変更できます。


### 開始弦 [n] 終了弦 [n] (From string [n] to [n])

カポをかける最初と最後の弦を設定できます。「カポ (Capo)」に「パーシャルカポ (Partial Capo)」を選択している場合のみ使用できます。

## フレット楽器からカポを削除する

個々のフレット楽器からカポを削除できます。これは対応するインストゥルメントのタブ譜に表示されるピッチに影響します。

### 手順

1. 設定モードの「プレーヤー (Players)」パネルで、カポを削除するフレット楽器が割り当てられたプレーヤーのカードを展開します。
2. インストゥルメントラベルでインストゥルメントメニュー  をクリックし、「弦とチューニングを編集 (Edit Strings and Tuning)」を選択して「弦とチューニングを編集 (Edit Strings and Tuning)」ダイアログを開きます。
3. 「カポと移調 (Capo and Transposition)」セクションで、「カポ (Capo)」をクリックして「カポの定義 (Capo Definition)」ダイアログを開きます。
4. 「カポ (Capo)」に「なし (None)」を選択します。
5. 「OK」をクリックして変更内容を保存し、「カポの定義 (Capo Definition)」ダイアログを閉じます。



6. 「OK」をクリックして変更内容を保存し、「弦とチューニングを編集 (Edit Strings and Tuning)」ダイアログを閉じます。
- 


## フレット楽器の移調を変更する

追加されたカポを反映したい場合や、フレット楽器の弦がすべてディチューンされている場合などに、個々のフレット楽器の移調を変更できます。これは、フレット楽器の移調に使用するレイアウトごとの設定に応じて、音符の譜表に表示されるピッチや楽譜の主コード記号に影響する場合があります。

### 補足

- インストゥルメントピッカーにはフレット楽器ごとにさまざまなチューニングが用意されています。
  - フレット楽器の弦の開放弦のピッチを変更することもできます。
  - フレット楽器の移調はタブ譜に表示されるピッチ (インストゥルメントのカポを使用) や使用されるコードダイアグラムのグリッドには影響しません。
- 

### 手順

1. 設定モードの「プレイヤー (Players)」パネルで、移調を変更するフレット楽器が割り当てられたプレイヤーのカードを展開します。
  2. インストゥルメントラベルでインストゥルメントメニュー  をクリックし、「弦とチューニングを編集 (Edit Strings and Tuning)」を選択して「弦とチューニングを編集 (Edit Strings and Tuning)」ダイアログを開きます。
  3. 「カポと移調 (Capo and Transposition)」セクションで、「譜表上の記譜におけるミドル C (MIDI ノート 60) の発音 (In staff notation, written middle C (MIDI note 60) sounds as)」のピッチを変更します。  
このピッチによって、対応する数の半ステップの音符とコード記号の表記が決まります。
  4. 「OK」をクリックして変更内容を保存し、ダイアログを閉じます。
- 

### 関連リンク

[プレイヤーパネル \(121 ページ\)](#)

[「弦とチューニングを編集 \(Edit Strings and Tuning\)」ダイアログ \(169 ページ\)](#)

[インストゥルメントピッカー \(124 ページ\)](#)

[「インストゥルメントを編集 \(Edit Instruments\)」ダイアログ \(950 ページ\)](#)

[フレット楽器の開放弦のピッチの変更 \(171 ページ\)](#)

[レイアウトの移調音/実音の設定 \(194 ページ\)](#)

[ミドル C のナンバリング変換を変更する \(55 ページ\)](#)

## フレット楽器の移調を使用する

対応するフレット楽器の移調に応じて、音符の譜表と主コード記号に移調音を表示できます。これは、レイアウトごと、さらには少なくとも 1 つのフレット楽器が割り当てられたプレイヤーごとに個別に設定できます。

たとえば、フレット楽器にカポを追加しており、求められる音を出すために演奏者が演奏すべきピッチを音符の譜表と主コード記号に表示したい場合などに行ないます。

### 手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[L]** を押して「レイアウトオプション (Layout Options)」を開きます。

2. 「レイアウト (Layouts)」 リストで、音符の譜表と主コード記号にフレット楽器の移調を使用するレイアウトを選択します。

初期設定では、楽譜領域で選択されているものと同じレイアウトが選択された状態のダイアログが表示されます。他のレイアウトを選択するには、アクションバーの選択オプションを使用するか、複数のレイアウトをまたぐようにクリックしてドラッグするか、**[Shift]** を押しながら隣接するレイアウトをクリックするか、**[Ctrl]/[command]** を押しながら個々のレイアウトをクリックします。
3. カテゴリーリストの「プレーヤー (Players)」 をクリックします。
4. 「フレット楽器 (Fretted Instruments)」 セクションで、少なくとも1つのフレット楽器が割り当てられたプロジェクト内のプレーヤーごとに「フレット楽器の移調 (Use fretted instrument transposition)」 をオンにします。
5. 以下のいずれかのオプションを選択します。
  - 音符の譜表に使用 (For notation)
  - 音符の譜表と主コード記号に使用 (For notation and main chord symbols)
6. 「適用 (Apply)」 をクリックしてから「閉じる (Close)」 をクリックします。

#### 結果

対応するフレット楽器に設定した移調は、選択したレイアウトの音符の譜表のみ、または音符の譜表と主コード記号の両方に使用されます。

たとえば、カポコード記号を表示するように設定されたカポ付きのフレット楽器には「音符の譜表に使用 (For notation)」 を選択し、ディチューンしたフレット楽器には「音符の譜表と主コード記号に使用 (For notation and main chord symbols)」 を選択するなどできます。

#### 例

フレット楽器の移調 (第3フレットのカポを反映) が音符の譜表にも主コード記号にも使用されていない

フレット楽器の移調が音符の譜表にのみ使用されている

フレット楽器の移調が音符の譜表と主コード記号に使用されている

#### 関連リンク

[「レイアウトオプション \(Layout Options\)」 ダイアログ \(917 ページ\)](#)

[プレーヤー \(135 ページ\)](#)

[カポコードと主コード \(174 ページ\)](#)

[コード記号 \(1154 ページ\)](#)

[音符の譜表とタブ譜を表示または非表示にする \(1739 ページ\)](#)

[カポコード記号を表示/非表示にする \(179 ページ\)](#)

## コード記号/コードダイアグラムのカポを定義する

コード記号やコードダイアグラムのカポをプレーヤーごとに定義できます。これは、カポコード記号のコードダイアグラムシェイプと移調に影響します。たとえば、リードシートを作成する際に、声楽のプレーヤーに主コード記号とカポコード記号の両方を表示するなどできます。

### 補足

これらの手順は、使用されるコードダイアグラムのグリッドや、音符の譜表/タブ譜のピッチには影響しません。

### 手順

1. 設定モードの「**プレーヤー (Players)**」パネルで、コード記号/ダイアグラムのカポを定義するプレーヤーを選択します。
2. アクションバーの「**プレーヤー設定 (Player Settings)**」をクリックし、「**コード記号 (Chord Symbols)**」 > 「**カポコード記号の定義 (Capo Chord Symbol Definition)**」を選択して「**カポコード記号の定義 (Capo Chord Symbol Definition)**」ダイアログを開きます。

### ヒント

プレーヤーを右クリックして、コンテキストメニューからオプションを選択することもできます。

3. 「**カポコード記号の記譜におけるミドル C (ノート 60) の発音 (In capo chord symbols, written middle C (note 60) sounds as)**」のピッチを変更します。  
このピッチによって、対応する数の半ステップのカポコード記号の表記が決まります。
4. 「**OK**」をクリックして変更内容を保存し、ダイアログを閉じます。

### 結果

設定した移調と表記のカポが選択したプレーヤーに設定されます。

## カポコード記号を表示/非表示にする

主コードのみ、カポコードのみ、またはその両方をプレーヤーごとにコード記号に表示できます。たとえば、ギター奏者には両方を表示し、歌手には主コードのみを表示するなどできます。

### 補足

コードダイアグラムには、プレーヤーのカポセットが常に反映されます。

### 手順

1. 設定モードの「**プレーヤー (Players)**」パネルで、コード記号のカポコードの表示/非表示を切り替えるプレーヤーを選択します。
2. アクションバーの「**プレーヤー設定 (Player Settings)**」をクリックして、以下のいずれかのオプションを選択します。
  - 主コードのみを表示するには、「**コード記号 (Chord Symbols)**」 > 「**カポの主コード記号を表示 (Show Main Chord Symbol for Capo)**」を選択します。
  - カポコードのみを表示するには、「**コード記号 (Chord Symbols)**」 > 「**カポの移調したコード記号を表示 (Show Transposed Chord Symbol for Capo)**」を選択します。
  - 主コードの上にカポコードを表示するには、「**コード記号 (Chord Symbols)**」 > 「**カポのコード記号を主コード記号の上に表示 (Show Capo Chord Symbol Above Main)**」を選択します。

- 主コードの下にカポコードを表示するには、「コード記号 (Chord Symbols)」 > 「カポのコード記号を主コード記号の下に表示 (Show Capo Chord Symbol Below Main)」を選択します。

#### ヒント

プレーヤーを右クリックして、コンテキストメニューからこれらのオプションを選択することもできます。

#### 結果

選択したプレーヤーのコード記号を表示するように設定されたインストゥルメントの譜表とレイアウトに従って、主コードとカポコードがコード記号に表示されます。初期設定では、メインコードと一緒に表示される場合、カポコードは斜体で表示されます。

各組段の一番上の譜表の上のみコード記号が表示されるレイアウトでは、コード記号に主コード/カポコードが表示されるかどうかは各組段の一番上のプレーヤーの設定によって決まります。

#### 例

主コードのみ表示      カポコードのみ表示      主コードの上にカポコードを表示      主コードの下にカポコードを表示

#### 関連リンク



- [カポコードと主コード \(174 ページ\)](#)
- [コード記号の位置 \(1157 ページ\)](#)
- [コード記号を表示/非表示にする \(1157 ページ\)](#)
- [レイアウトでコード記号を表示/非表示にする \(1159 ページ\)](#)
- [1つまたは複数の譜表の上にコード記号を表示する \(1160 ページ\)](#)
- [コード記号の垂直方向の配置を変更する \(1161 ページ\)](#)
- [複合コード記号の配置を変更する \(1167 ページ\)](#)
- [空白の譜表の表示/非表示を切り替える \(750 ページ\)](#)
- [コード記号またはコードダイアグラムのみを表示する \(1178 ページ\)](#)
- [コードダイアグラムを表示/非表示にする \(1177 ページ\)](#)
- [浄書オプションでコード記号の設定をプロジェクト全体に適用する \(1155 ページ\)](#)
- [コード記号の外観のプリセット \(1156 ページ\)](#)
- [コード記号のフォントスタイル \(1157 ページ\)](#)
- [コード記号の入力 \(346 ページ\)](#)

## 主コード記号またはカポコード記号のみを表示する

主コードとカポコードの両方を表示するよう設定された譜表に、主コードまたはカポコードのみを表示できます。これにより、たとえば各コード記号が初めて表示される際には両方を表示し、それ以降は主コードのみを表示するなどできます。この操作は現在のレイアウトとフレームチェーンのみに対して、もしくはすべてのレイアウトとフレームチェーンに対して行なえます。

#### 前提条件

- 譜表に主コードまたはカポコードのみを表示するプレーヤーを、その両方を表示するように設定しておきます。
- 下ゾーンを表示しておきます。

- 下ゾーンのツールバーで「プロパティ (Properties)」を選択しておきます。
- 浄書ツールボックスで「グラフィックの編集 (Graphic Editing)」を選択しておきます。
- ローカルのプロパティ変更に関して、適切なプロパティ範囲を選択しておきます。

#### 手順

1. 表示されるコードを変更するコード記号を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「コード記号 (Chord Symbols)」グループで「次のみ表示 (Show only)」をオンにします。
3. 以下のいずれかのオプションを選択します。
  - 主コード
  - カポコード

#### 結果

選択したコード記号に主コードまたはカポコードのみが表示されます。プロパティ範囲を「ローカル (Locally)」に設定している場合、この変更は現在のレイアウトおよびフレームチェーンのみに影響します。

#### 例



すべてのコード記号に主コードとカポコードの両方が表示された状態

一部のコード記号に主コードのみが表示された状態

## 使用されるコードダイアグラムのグリッドのカポを定義する

使用されるコードダイアグラムのグリッドのカポを、レイアウトごとに個別に定義できます。これは、カポコード記号のコードダイアグラムシェイプと移調に影響します。たとえば、リードシートを作成する際に、声部のパートレイアウトの使用されるコードダイアグラムのグリッドに主コード記号とカポコード記号の両方を表示するなどできます。

#### 補足

これらの手順は、音符の譜表/タブ譜の楽譜またはピッチのコード記号/ダイアグラムに影響しません。

#### 手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[L]** を押して「レイアウトオプション (Layout Options)」を開きます。
2. 「レイアウト (Layouts)」リストから、使用されるコードダイアグラムのグリッドにカポを定義するレイアウトを選択します。

初期設定では、楽譜領域で選択されているものと同じレイアウトが選択された状態のダイアログが表示されます。他のレイアウトを選択するには、アクションバーの選択オプションを使用するか、複数のレイアウトをまたぐようにクリックしてドラッグするか、**[Shift]** を押しながら隣接するレ

イアウトをクリックするか、**[Ctrl]/[command]** を押しながら個々のレイアウトをクリックします。

3. カテゴリーリストの「**コード記号とコードダイアグラム (Chord Symbols and Diagrams)**」をクリックします。
  4. 「**コードダイアグラム (Chord Diagrams)**」セクションで、「**移調にカポを使用 (Use capo with transposition)**」のピッチを変更します。  
このピッチによって、対応する数の半ステップのカポコード記号の表記が決まります。
  5. 「**適用 (Apply)**」をクリックしてから「**閉じる (Close)**」をクリックします。
- 

関連リンク

[使用されるコードダイアグラムのグリッド \(1179 ページ\)](#)

[カポコードと主コード \(174 ページ\)](#)

[フレット楽器にカポを追加する \(174 ページ\)](#)

[コード記号の入力 \(346 ページ\)](#)

## 使用されるコードダイアグラムのグリッドのカポコード記号を表示/非表示にする

使用されるコードダイアグラムのグリッドに、主コードのみ、カポコードのみ、またはその両方をレイアウトごとに個別に表示できます。たとえば、ギターのパートレイアウトには両方を表示し、ボーカルのパートレイアウトには主コードのみを表示するなどできます。

### 補足

使用されるコードダイアグラムのグリッドのコードダイアグラムには、レイアウトのカポセットが常に反映されます。

---

手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[L]** を押して「**レイアウトオプション (Layout Options)**」を開きます。
2. 「**レイアウト (Layouts)**」リストから、使用されるコードダイアグラムのグリッドのカポコード記号を表示または非表示にするレイアウトを選択します。  
初期設定では、楽譜領域で選択されているものと同じレイアウトが選択された状態のダイアログが表示されます。他のレイアウトを選択するには、アクションバーの選択オプションを使用するか、複数のレイアウトをまたぐようにクリックしてドラッグするか、**[Shift]** を押しながら隣接するレイアウトをクリックするか、**[Ctrl]/[command]** を押しながら個々のレイアウトをクリックします。
3. カテゴリーリストの「**コード記号とコードダイアグラム (Chord Symbols and Diagrams)**」をクリックします。
4. 「**コードダイアグラム (Chord Diagrams)**」セクションで、「**カポのコード記号 (Capo chord symbols)**」メニューから以下のいずれかのオプションを選択します。
  - 主コードのみを表示するには、「**メインコード記号のみ表示 (Show Only Main Chord Symbol)**」を選択します。
  - カポコードのみを表示するには、「**移調したコード記号のみ表示 (Show Only Transposed Chord Symbol)**」を選択します。
  - 主コードの上にカポコードを表示するには、「**メインコード記号の上に表示 (Show Above Main Chord Symbol)**」を選択します。
  - 主コードの下にカポコードを表示するには、「**メインコード記号の下に表示 (Show Below Main Chord Symbol)**」を選択します。

5. 「適用 (Apply)」をクリックしてから「閉じる (Close)」をクリックします。

#### 結果

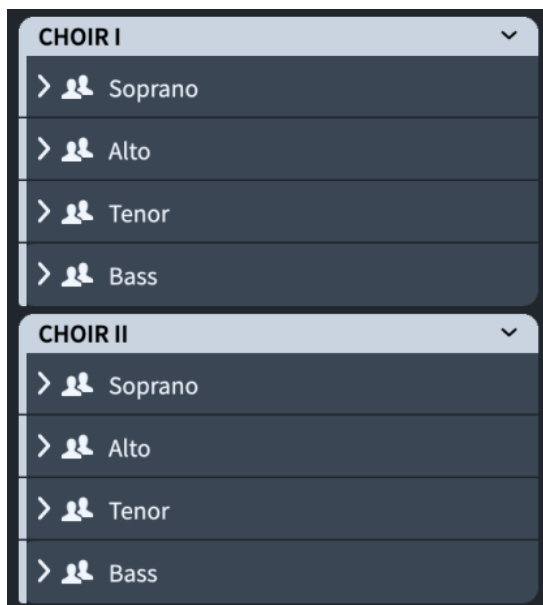
主コード、カポコード、またはその両方が、選択したレイアウトの使用されるコードダイアグラムのグリッドに表示されます。初期設定では、メインコードと一緒に表示される場合、カポコードは斜体で表示されます。

## プレイヤーグループ

プレイヤーグループとは、二部合唱の一方の声部やオフステージアンサンブルなど、1つのまとまりとして扱われるミュージシャンの集合のことです。プレイヤーグループには、各レイアウトに設定された大括弧のグループ化に応じて個別の角括弧を付けることができます。

プレイヤーのグループ化とは、プレイヤーをまとめてデフォルトのプレイヤー順に配置し、グループ外のプレイヤーとは別に通し番号を付け、各レイアウトに設定されたアンサンブルタイプに応じてそれらを括弧で括ることを意味します。

たとえば二部合唱 (SATB/SATB) 用のプロジェクトの場合、初期設定ではすべての声部が同じファミリーに含まれるため、単一の大括弧で結合されます。ただし、各合唱を独自のグループに追加した場合は、それぞれが個別に括弧で括られます。これは、3つの個別のグループを持つブリテンの『戦争レクイエム (War Requiem)』や2つの個別のオフステージ吹奏楽団を必要とするウォルトンの『ベルシャザールの饗宴 (Belshazzar's Feast)』のように、複数のグループを含む楽譜で便利です。



設定モードの「プレイヤー (Players)」パネルの2つの合唱プレイヤーグループ

たとえば、演奏部隊を簡単に分割できるようにする場合や、インストゥルメントの変更に対応できるように複数の打楽器プレイヤーに同じインストゥルメントが割り当てられている場合に、打楽器に対してインストゥルメントのナンバリングが自動的に行われないうる場合などに、プレイヤーグループを必要な数だけ追加できます。

レイアウトごとに、プレイヤーグループに対してプレイヤーグループのラベルを個別に表示することもできます。

#### 関連リンク

[インストゥルメントのナンバリング \(144 ページ\)](#)

[アンサンブルタイプによる大括弧でのグループ化 \(1143 ページ\)](#)

[デフォルトのプレイヤーの順番の変更 \(137 ページ\)](#)


[カスタマイズしたプレイヤーの順番の設定 \(138 ページ\)](#)  
[プレイヤーグループのラベル \(1695 ページ\)](#)  
[プレイヤー名、レイアウト名、インストゥルメント名 \(203 ページ\)](#)  
[プレイヤーパネル \(121 ページ\)](#)

## プレイヤーグループの追加

プレイヤーを括弧でくりたい場合などに、プレイヤーをグループに分けることができます。異なるグループのプレイヤーは、番号付けも個別に行なわれます。

---

### 手順

1. 既存のプレイヤーを含むグループを追加する場合は、設定モードの「**プレイヤー (Players)**」パネルでそれらのプレイヤーを選択します。
  2. 「**プレイヤー (Players)**」パネルで「**グループを追加 (Add Group)**」をクリックします。
- 

### 結果

「**プレイヤー (Players)**」パネルに新しいプレイヤーグループが追加されます。プレイヤーを選択した場合は、それらのプレイヤーがグループに追加されます。プレイヤーを選択しなかった場合、新しいグループは空です。

### 手順終了後の項目

- グループにプレイヤーを追加したり、グループ間でプレイヤーを移動したりできます。
- プレイヤーグループの名前を変更したり、プレイヤーグループのラベルを表示したりできます。

### 関連リンク



[プレイヤーパネル \(121 ページ\)](#)  
[グループへのプレイヤーの追加 \(184 ページ\)](#)  
[グループ間のプレイヤーの移動 \(186 ページ\)](#)  
[プレイヤーグループ名の変更 \(185 ページ\)](#)  
[プレイヤーグループのラベル \(1695 ページ\)](#)

## グループへのプレイヤーの追加

既存のプレイヤーグループに新規プレイヤーを追加できます。

---

### 手順

1. 設定モードの「**プレイヤー (Players)**」パネルで、新規プレイヤーを追加するグループを選択します。
2. 以下のいずれかの操作を行なって新規プレイヤーを追加します。
  - シングルプレイヤーを追加するには、アクションバーで「**シングルプレイヤーを追加 (Add Single Player)**」をクリックします。
  - セクションプレイヤーを追加するには、アクションバーの「**セクションプレイヤーを追加 (Add Section Player)**」をクリックします。

インストゥルメントピッカーが開きます。

### ヒント

また、「**プレイヤー (Players)**」パネルで既存のプレイヤーを選択して **[Shift]+[I]** を押すことでインストゥルメントピッカーを開くこともできます。

---

3. インストゥルメントピッカーで任意のインストゥルメントを選択します。



4. **[Return]** を押して、選択したインストゥルメントを追加します。
- 

#### 結果

選択したグループに、対応するタイプのプレイヤーが追加されます。

#### ヒント

既存のプレイヤーをグループ間で移動させることもできます。

---

#### 関連リンク

- [プレイヤーパネル \(121 ページ\)](#)
- [インストゥルメントピッカー \(124 ページ\)](#)
- [プレイヤーの追加 \(136 ページ\)](#)
- [グループ間のプレイヤーの移動 \(186 ページ\)](#)
- [プレイヤーグループのラベル \(1695 ページ\)](#)
- [インストゥルメント名の言語の変更 \(61 ページ\)](#)

## プレイヤーグループ名の変更

プレイヤーグループを追加後に名前を変更できます。これにより、プレイヤーグループのラベルに表示される名前が変更されます。

---

#### 手順

1. 設定モードの「**プレイヤー (Players)**」パネルで、名前を変更するプレイヤーグループを選択します。
2. アクションバーで「**プレイヤー設定 (Player Settings)**」をクリックし、「**プレイヤーグループ名を変更 (Rename Player Group)**」を選択して「**プレイヤーグループ名を変更 (Rename Player Group)**」ダイアログを開きます。

#### ヒント

プレイヤーグループを右クリックして、コンテキストメニューからオプションを選択することもできます。

---

3. 以下のフィールドに新しい名前を入力するか、既存の名前を編集します。
    - **正式名称 (Full name)**
    - **略称 (Short name)**
  4. 「**OK**」をクリックして変更内容を保存し、ダイアログを閉じます。
- 

#### 結果

選択したプレイヤーグループの対応する名前が変更されます。

初期設定では、プレイヤーグループのラベルにプレイヤーグループの正式名称が表示されます。プレイヤーグループの正式名称が括弧より長い場合は、プレイヤーグループの略称が使われます。

#### 関連リンク

- [プレイヤーパネル \(121 ページ\)](#)
- [プレイヤーグループのラベル \(1695 ページ\)](#)
- [プレイヤー名、レイアウト名、インストゥルメント名 \(203 ページ\)](#)

## プレイヤーグループの削除

たとえば、MIDI ファイルを読み込んだ際に作成したプレイヤーグループが不要になった場合、プレイヤーグループを削除できます。プレイヤーグループを削除する場合、そのグループに含まれるプレイヤーを保持するか、一緒に削除できます。

---

### 手順

1. 設定モードの「**プレイヤー (Players)**」パネルで、削除するプレイヤーグループを選択します。
  2. 以下のいずれかの操作を行なって、選択したプレイヤーグループを削除します。
    - **[Backspace]** 又は **[Delete]** を押します。
    - 「**プレイヤー (Players)**」パネルで「**プレイヤーを削除 (Delete Player)**」  をクリックします。
  3. 表示される警告メッセージで、以下のいずれかのオプションを選択します。
    - 選択したプレイヤーグループを、グループ内のプレイヤーを保持したまま削除するには、「**プレイヤーを保持 (Keep Players)**」を選択します。
    - 選択したプレイヤーグループとその中のプレイヤーの両方を削除するには、「**プレイヤーを削除 (Delete Players)**」を選択します。
- 

## グループ間のプレイヤーの移動

プレイヤーはプレイヤーグループ間で移動できます。たとえば、グループ化されていないプレイヤーを既存のグループに編入したり、あるグループから別のグループにプレイヤーを移動させたりできます。

---

### 手順

1. 設定モードの「**プレイヤー (Players)**」パネルで、移動するプレイヤーを選択します。
  2. 選択したプレイヤーをクリックし、任意の位置にドラッグします。  
挿入ラインはプレイヤーが配置される場所を示します。
- 

### 結果

プレイヤーが新しい位置に移動します。

### ヒント

- また、既存のプレイヤーを既存のグループに追加するには、「**プレイヤー (Players)**」パネルでプレイヤーを右クリックし、コンテキストメニューから「**プレイヤーをグループに追加 (Add Player to Group)**」 > **[グループ]** を選択します。
  - プレイヤーグループに新規プレイヤーを追加することもできます。
- 

### 関連リンク

[グループへのプレイヤーの追加 \(184 ページ\)](#)


## グループからのプレイヤーの削除

プレイヤーをグループから削除できます。

---

### 手順

- 設定モードの「**プレイヤー (Players)**」パネルで、以下のいずれかの操作を行なって、グループからプレイヤーを削除します。

- 複数のプレーヤーを選択してから、クリックしてグループの外側にドラッグします。
  - 1人のプレーヤーを選択してから、アクションバーの「**プレーヤー設定 (Player Settings)**」をクリックし、「**プレーヤーをグループから削除 (Remove Player from Group)**」を選択します。プレーヤーを右クリックして、コンテキストメニューからオプションを選択することもできます。
- 

#### 結果

プレーヤーはグループからは削除されますが、プロジェクト内には個別のプレーヤーとして残ります。

## フロー

フローとは、音楽コンテンツ内で完全に独立している個別の楽譜の範囲のことであり、フローごとに異なるプレーヤーを含めることができるほか、拍子記号や調号も個別に設定できます。1つのプロジェクトに複数のフローを含めることができます。

各プロジェクトの目的に応じて、たとえばアルバム内の1歌曲、ソナタや交響曲の1楽章、ステージミュージカルの1曲め、または数小節からなる短い音階練習曲や初見練習曲をフローとして作成できます。

1人以上のプレーヤーを追加すると、プロジェクトに自動的にフローが追加されます。少なくとも1人のプレーヤーをプロジェクトに追加するまで、フローを追加することはできません。

Dorico Pro でフローを追加すると、自動的に以下ようになります。

- プロジェクト内のすべてのフルスコアとパートレイアウトにフローが割り当てられます。
- すべてのプレーヤーが新規フローに割り当てられます。

初期設定では、すべてのレイアウトにプロジェクト内のすべてのフローが含まれます。フローを割り当てるレイアウトとフローに割り当てるプレーヤーは、必要に応じて変更できます。

#### 重要

フローからプレーヤーを削除すると、そのフローで該当するプレーヤーに対してすでに入力した音符は削除されます。

---

連桁のグループ化や臨時記号の有効範囲ルールなどの記譜オプションは、「**記譜オプション (Notation Options)**」ダイアログでフローごとに個別に変更できます。

#### 関連リンク


- [フローパネル \(132 ページ\)](#)
- [「記譜オプション \(Notation Options\)」ダイアログ \(919 ページ\)](#)
- [プレーヤー \(135 ページ\)](#)
- [レイアウト \(190 ページ\)](#)
- [タレット \(795 ページ\)](#)
- [プレーヤー、レイアウト、フロー \(133 ページ\)](#)
- [フローの読み込み \(87 ページ\)](#)
- [フローの書き出し \(88 ページ\)](#)
- [新規プロジェクトの開始 \(77 ページ\)](#)
- [プロジェクト/ファイルを開く \(78 ページ\)](#)
- [再生時のフロー間隔を変更する \(684 ページ\)](#)
- [フロー見出し \(595 ページ\)](#)

## フローの追加

たとえば複数の楽章からなる大規模な作品を浄書する場合など、プロジェクトには新規フローをいくつでも追加できます。

---

### 手順

- 設定モードで、以下のいずれかの操作を行なってフローを追加します。
  - **[Shift]+[F]** を押します。
  - 「フロー (Flows)」パネルで、「フローを追加 (Add Flow)」をクリックします。

---

### 結果

プロジェクトに新規フローが追加されます。既存のすべてのプレイヤーが新規フローに割り当てられ、新規フローが既存のすべてのフルスコアとパートレイアウトに自動的に割り当てられます。

### 手順終了後の項目

- フロー名は変更できます。
- フローに割り当てるプレイヤーと、フローを割り当てるレイアウトは変更できます。

### 関連リンク

- [フローパネル \(132 ページ\)](#)
- [フローの読み込み \(87 ページ\)](#)
- [フローの書き出し \(88 ページ\)](#)
- [新規プロジェクトの開始 \(77 ページ\)](#)
- [プロジェクト/ファイルを開く \(78 ページ\)](#)
- [フロー名の変更 \(210 ページ\)](#)
- [プレイヤーの追加 \(136 ページ\)](#)
- [フローにプレイヤーを割り当てる \(189 ページ\)](#)
- [レイアウトへのフローの割り当て \(193 ページ\)](#)
- [タイトルの追加 \(1318 ページ\)](#)

## フローの複製

たとえば、元のフローに影響を与えることなくアイデアを試したい場合や、追加した小節線と一緒に音符や記譜記号をコピーしたい場合などにフローを複製できます。

---

### 手順

1. 設定モードの「フロー (Flows)」パネルで、複製するフローを右クリックします。
2. コンテキストメニューから「フローを複製 (Duplicate Flow)」を選択します。

---

### 結果

元のフローのすべての楽譜とプレイヤーを含む新規フローが追加されます。新規フローは、すべてのフルスコアとパートレイアウトに自動的に追加されます。

## フローにプレイヤーを割り当てる

初期設定では、プロジェクトのすべてのプレイヤーがプロジェクトで作成されたすべてのフローに追加されます。たとえば、合唱の楽譜でソリストがそのフローを一切歌わない場合に、フローからプレイヤーを手動で削除したり、フローにプレイヤーを追加したりできます。

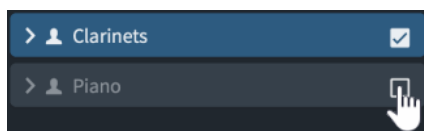
### 補足

フローからプレイヤーを削除すると、そのフローで該当するプレイヤーに対してすでに入力した音符は削除されます。

---

### 手順

1. 設定モードの「**フロー (Flows)**」パネルで、割り当てられたプレイヤーを変更するフローを選択します。
2. 「**プレイヤー (Players)**」パネルで、フローに割り当てる各プレイヤーのカードのチェックボックスをオンにします。



### ヒント

複数のプレイヤーカードのチェックボックスを同時にオン/オフするには、**[Shift]** を押しながらかlickします。

---

### 結果

プレイヤーカードのチェックボックスをオンにした場合は選択したフローにプレイヤーが割り当てられ、チェックボックスをオフにした場合はフローからプレイヤーが除外されます。

### 関連リンク

[フローパネル \(132 ページ\)](#)

[タッチャット \(795 ページ\)](#)

[レイアウトへのフローの割り当て \(193 ページ\)](#)

[レイアウトへのプレイヤーの割り当て \(193 ページ\)](#)

## フローの再整理

読み込んだフローを最後ではなく最初のフローにする必要がある場合には、フローの順番を変更できません。

---



### 手順

1. 設定モードの「**フロー (Flows)**」パネルで、順番を変更するフローを選択します。
  2. 選択したフローをクリックして左右にドラッグします。
- 

### 結果

選択したフローが指定した位置に移動します。初期設定では、フロー番号は「**プロジェクト情報 (Project Info)**」ダイアログおよびレイアウト内の順番に従い自動的に更新されます。

## ヒント

フローの再整理は、「プロジェクト情報 (Project Info)」ダイアログのフローリストでフローを選択して、アクションバーの「下へ移動 (Move Down)」 または 「上へ移動 (Move Up)」 をクリックすることでも行なえます。多数のフローが存在するプロジェクトでは、この方がフローの再整理を容易に行なえるかもしれません。

## 関連リンク

[「プロジェクト情報 \(Project Info\)」ダイアログ \(81 ページ\)](#)

[フロー名とフロータイトル \(210 ページ\)](#)

[フローの読み込み \(87 ページ\)](#)

[フロー見出し \(595 ページ\)](#)


[楽曲フレームチェーン \(610 ページ\)](#)

[トークン \(617 ページ\)](#)

## フローの削除

使用しなくなったフローを削除できます。フローを削除すると、そのフローのすべてのインストゥルメントおよびプレーヤーに関連する楽譜がすべて削除されます。

## 手順

1. 設定モードの「フロー (Flows)」パネルで、削除するフローを選択します。
2. 以下のいずれかの操作を行なって、選択したフローを削除します。
  - **[Backspace]** 又は **[Delete]** を押します。
  - 「フロー (Flows)」パネルで、「フローを削除 (Delete Flow)」 をクリックします。

## 関連リンク

[フローの読み込み \(87 ページ\)](#)

[フローの書き出し \(88 ページ\)](#)

## レイアウト

レイアウトでは、ページ形式および浄書のルールに従って、フローなどの音楽コンテンツを組み合わせることができます。また、レイアウトを使用すると、さまざまな形式での書き出しや印刷に利用できるページ番号付きの楽譜を作成できます。たとえば、パートレイアウトには通常、1人のプレーヤーの楽譜が表示されますが、フルスコアレイアウトにはプロジェクト内のすべてのプレーヤーの楽譜が表示されます。

レイアウトにはプレーヤーとフローのあらゆる組み合わせを含めることができます。レイアウトは各インストゥルメントが演奏する音符など、これらのプレーヤーとフローの音楽コンテンツを共有します。たとえば、フルスコアで音符のピッチを変更すると、対応するパートレイアウトでもその音符のピッチが更新されます。

音符のスペーシング、譜表サイズ、ページサイズ、余白、配置設定 (組段区切りやページめくりの位置) など、各レイアウトのページ形式設定に関するあらゆる側面をレイアウトごとに個別に制御できます。1つのレイアウトでこれらの設定を変更しても他のレイアウトには影響しません。たとえば、パートレイアウトに組段区切りを挿入しても、フルスコアの配置設定は変更されません。

同様に、ローカルプロパティを使用すれば、他のレイアウトに影響を与えることなく1つのレイアウトでのみ多くのアイテムの外観を変更できます。たとえば、フルスコアレイアウトではテキストアイテムを非表示にして、パートレイアウトでは表示させるということができます。

レイアウトのデフォルトのページ形式設定は、ページテンプレートで定義されています。初期設定では、フルスコアレイアウトはパートレイアウトとは異なるページテンプレートセットを使用しますが、各レイアウトに異なるページテンプレートセットを適用することもできます。たとえば、一部のパートレイアウトに異なる欄外見出しが必要な場合や、一貫して短い楽曲フレームが必要な場合などです。

Dorico Pro には以下のレイアウトタイプがあります。

### フルスコア

初期設定では、フルスコアのレイアウトには、プロジェクトのすべてのプレーヤーとすべてのフローが含まれます。初期設定では、フルスコアレイアウトは実音です。

プロジェクトごとにフルスコアレイアウトが1つ自動的に作成されます。

### パート

プレーヤーをプロジェクトに追加すると、パートレイアウトが自動的に作成されます。空のパートレイアウトを作成して、プレーヤーを手動で割り当てることもできます。

初期設定では、パートレイアウトにはすべてのフローが含まれます。また、初期設定ではパートレイアウトは移調音です。

パートレイアウトの形式設定をコピーできます。

### カスタムスコア

カスタムスコアレイアウトには、はじめ、プレーヤーやフローが含まれていません。そのため、スコアを手動で作成して、たとえばすべてのフローではなく1つのフローだけを割り当てたり、ボーカルとピアノのプレーヤーだけを割り当ててボーカルスコアを作成したりできます。初期設定では、カスタムスコアレイアウトは実音です。

### ヒント

- 各プロジェクトには、各タイプのレイアウトを必要なだけいくつでも作成できます。
- レイアウトはどのタイプのもので複製できます。
- プレーヤー、レイアウト、フローは自由に組み合わせることができます。たとえば、演奏者がインストゥルメントの変更を自分で管理できるように、すべての打楽器プレーヤーを1つのパートレイアウトに追加できます。また、大規模なプロジェクトで合唱のリハーサル用にピアノ譜を作成し、そのピアノプレーヤーをボーカルスコアだけに割り当てれば、オーケストラのフルスコアにはその楽譜が表示されません。
- 初期設定では、スコアレイアウトで音符を書き換えると、その他すべてのレイアウトの表記にも影響を及ぼしますが、パートレイアウトで音符を書き換えると、現在のパートレイアウトの表記にのみ影響します。
- 「**レイアウトオプション (Layout Options)**」で設定したオプションを、スコアレイアウトとパートレイアウトそれぞれのデフォルトとして個別に保存できます。これはたとえば、フルスコアとパートレイアウトでは異なるページサイズと譜表サイズが必要となることが多いためです。
- レイアウトを削除しても、プロジェクトから楽譜が削除されることはありません。

---

### 関連リンク

[ページ形式設定](#) (742 ページ)

[パート形式のコピー](#) (822 ページ)

[フロー](#) (187 ページ)

[プレーヤー](#) (135 ページ)

[プレーヤー、レイアウト、フロー](#) (133 ページ)

[ページテンプレート](#) (567 ページ)

[ページテンプレートのセット](#) (569 ページ)

[ページテンプレートの種類](#) (573 ページ)

[レイアウトへのページテンプレートのセットの適用](#) (746 ページ)

[プロパティ](#) (826 ページ)

[ローカルプロパティとグローバルプロパティ](#) (827 ページ)




[「レイアウトオプション\(Layout Options\)」ダイアログ \(917 ページ\)](#)  
[プレーヤー名、レイアウト名、インストゥルメント名 \(203 ページ\)](#)  
[レイアウトの複製 \(195 ページ\)](#)  
[レイアウト番号の付け直し \(197 ページ\)](#)  
[レイアウト名の変更 \(205 ページ\)](#)  
[レイアウト名の枠線の表示/非表示 \(1325 ページ\)](#)  
[レイアウトの切り替え \(47 ページ\)](#)  
[ギャラリービューまたはページビューへの切り替え \(54 ページ\)](#)  
[譜ラベルを表示/非表示にする \(1685 ページ\)](#)  
[アンサンブルタイプによる大括弧でのグループ化 \(1143 ページ\)](#)  
[配置設定 \(784 ページ\)](#)  
[コンデンシング \(799 ページ\)](#)  
[ディヴィジ \(1722 ページ\)](#)  
[音部記号/移調の上書きを設定したレイアウト \(198 ページ\)](#)  
[レイアウトの移調テキストの編集 \(1325 ページ\)](#)  
[音符の書き換え \(523 ページ\)](#)  
[テキストアイテムの表示/非表示 \(1775 ページ\)](#)

## レイアウトの作成

フルスコアレイアウト、カスタムスコアレイアウト、パートレイアウトを各プロジェクトにいくつでも作成できます。初期設定では、各プレーヤーにフルスコアレイアウトとパートレイアウトが1つずつ作成されます。

---

### 手順

- 設定モードの「**レイアウト (Layouts)**」パネルで、以下のレイアウトのタイプから1つをクリックします。
  - **フルスコアレイアウトを追加 (Add Full Score Layout)** 
  - **パートレイアウトを追加 (Add Instrumental Part Layout)** 
  - **カスタムスコアレイアウトを追加 (Add Custom Score Layout)** 

---

### 結果

「**レイアウト (Layouts)**」パネルのレイアウトのリストにレイアウトが追加されます。

### 補足

- レイアウトは、プレーヤーを少なくとも1人割り当てるまでレイアウトセクターには表示されません。
- **[Shift]+[L]** を押すことでも、カスタムスコアレイアウトを新規に追加できます。

---

### 手順終了後の項目

- レイアウトにプレーヤーとフローを割り当てることができます。
- レイアウトリスト内での新しいレイアウトの位置を変更したい場合は、レイアウトの再整理や番号の付け直しを行ないます。
- たとえば、同じプレーヤーの楽譜を、音部記号や移調を変えて異なるレイアウトに表示する場合などに、レイアウトの音部記号や移調を上書きできます。

### 関連リンク

[「レイアウト \(Layouts\)」パネル \(設定モード\) \(129 ページ\)](#)  
[ワークスペースオプション \(34 ページ\)](#)  
[レイアウトの複製 \(195 ページ\)](#)



- [レイアウトの再整理 \(196 ページ\)](#)
- [レイアウト番号の付け直し \(197 ページ\)](#)
- [レイアウトの切り替え \(47 ページ\)](#)
- [ギャラリービューまたはページビューへの切り替え \(54 ページ\)](#)
- [新規タブを開く \(49 ページ\)](#)
- [音部記号/移調の上書きを設定したレイアウト \(198 ページ\)](#)

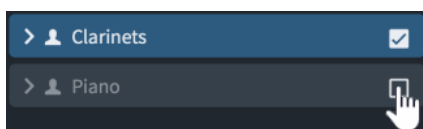
## レイアウトへのプレイヤーの割り当て

初期設定では、フルスコアレイアウトにすべてのプレイヤーが含まれ、各プレイヤーに独自のパートレイアウトが自動的に割り当てられます。たとえば、フルスコアから不要なプレイヤーを削除したい場合や伴奏者のパートにソリストの楽譜を追加したい場合などに、プレイヤーを手動でレイアウトに割り当てたりレイアウトから除外したりできます。

---

### 手順

1. 設定モードの「**レイアウト (Layouts)**」パネルで、割り当てられたプレイヤーを変更するレイアウトを選択します。
2. 「**プレイヤー (Players)**」パネルで、レイアウトに割り当てる各プレイヤーのカードのチェックボックスをオンにします。



### ヒント

複数のプレイヤーカードのチェックボックスを同時にオン/オフするには、**[Shift]** を押しながらかlickします。

---

### 結果

プレイヤーカードのチェックボックスをオンにした場合は選択したレイアウトにプレイヤーが割り当てられ、チェックボックスをオフにした場合はレイアウトからプレイヤーが除外されます。レイアウト名を変更していない場合は、レイアウトに含まれるプレイヤー名を反映する形で自動的に更新されます。

### 関連リンク

- [設定モードのプロジェクトウィンドウ \(120 ページ\)](#)
- [プレイヤー名、レイアウト名、インストゥルメント名 \(203 ページ\)](#)
- [レイアウト名の変更 \(205 ページ\)](#)
- [フローにプレイヤーを割り当てる \(189 ページ\)](#)
- [音部記号/移調の上書きを設定したレイアウト \(198 ページ\)](#)

## レイアウトへのフローの割り当て

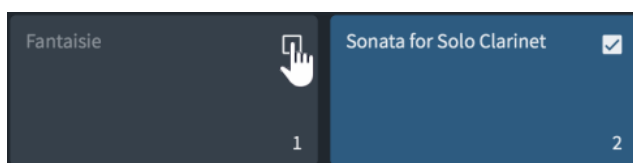
初期設定では、プロジェクトのすべてのフローがすべてのフルスコアレイアウトとパートレイアウトに追加されます。たとえば、プロジェクトのフローに弦楽器への演奏上の指示が含まれており、それを弦楽器のパートレイアウトだけに表示したい場合などに、フローを手動でレイアウトに割り当てたりレイアウトから削除したりできます。

---

### 手順

1. 設定モードの「**レイアウト (Layouts)**」パネルで、割り当てられたフローを変更するレイアウトを選択します。

2. 「フロー (Flows)」パネルで、レイアウトに割り当てる各フローのフローカードのチェックボックスをオンにします。



#### ヒント

複数のフローカードのチェックボックスを同時にオン/オフするには、**[Shift]** を押しながらかlickします。

#### 結果

フローカードのチェックボックスをオンにした場合は選択したレイアウトにフローが割り当てられ、チェックボックスをオフにした場合はレイアウトからフローが除外されます。

Dorico Pro は、レイアウトとそのページテンプレートフレームチェーンに割り当てられたフローを表示するのに必要なページとフレームを自動的に作成します。

#### 関連リンク

- [設定モードのプロジェクトウィンドウ \(120 ページ\)](#)
- [フレームチェーンへのフローの割り当て \(615 ページ\)](#)
- [レイアウトへのページテンプレートのセットの適用 \(746 ページ\)](#)
- [音部記号/移調の上書きを設定したレイアウト \(198 ページ\)](#)

## レイアウトの移調音/実音の設定

プロジェクト内の各レイアウトを移調音にするか実音にするかを変更できます。Dorico Pro の初期設定では、フルスコアレイアウトは実音、パートレイアウトは移調音になります。

たとえば、フルスコアは音符を実音で表示するために移調されず、パートレイアウトは演奏者が求められるピッチで音を出すために演奏する音符を表示するよう移調されるのが一般的です。

#### 手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[L]** を押して「レイアウトオプション (Layout Options)」を開きます。
2. 「レイアウト (Layouts)」リストで、移調/非移調の設定を行なうレイアウトを選択します。  
初期設定では、楽譜領域で選択されているものと同じレイアウトが選択された状態のダイアログが表示されます。他のレイアウトを選択するには、アクションバーの選択オプションを使用するか、複数のレイアウトをまたぐようにクリックしてドラッグするか、**[Shift]** を押しながらかlickするレイアウトをクリックするか、**[Ctrl]/[command]** を押しながらかlickします。
3. カテゴリーリストの「プレーヤー (Players)」をクリックします。
4. 「プレーヤー (Players)」セクションで「移調レイアウト (Transposing layout)」のオン/オフを切り替えます。
5. 「適用 (Apply)」をクリックしてから「閉じる (Close)」をクリックします。

#### 結果

「移調レイアウト (Transposing layout)」をオンにすると選択したレイアウトが移調音になり、オフにすると実音になります。

## ヒント

また、楽譜領域で現在開いているレイアウトの移調は以下の方法でも変更できます。

- レイアウトを移調音にするには、ステータスバーで「**移調音 (Transposed Pitch)**」を選択するか、「**編集 (Edit)**」 > 「**移調音 (Transposed Pitch)**」を選択します。
- レイアウトを実音にするには、ステータスバーで「**実音 (Concert Pitch)**」を選択するか、「**編集 (Edit)**」 > 「**実音 (Concert Pitch)**」を選択します。

## 関連リンク

- [ステータスバー \(42 ページ\)](#)
- [移調楽器 \(146 ページ\)](#)
- [フレット楽器のチューニング \(168 ページ\)](#)
- [選択範囲の移調 \(519 ページ\)](#)
- [ピッチの入力設定の変更 \(238 ページ\)](#)
- [実音と移調音で異なる音部記号を設定する \(1194 ページ\)](#)
- [レイアウトの移調に従い音部記号を表示/非表示にする \(1196 ページ\)](#)
- [音部記号/移調の上書きを設定したレイアウト \(198 ページ\)](#)
- [レイアウトの移調テキストの編集 \(1325 ページ\)](#)

## 実音と移調音

Dorico Pro のレイアウトには実音と移調音を使用できます。これは、移調楽器に属する譜表上のピッチと調号に影響します。

### 実音

楽譜が実音の場合、すべての音符は聴こえる音のとおり記譜されます。つまり、実音の楽譜を読む移調楽器のプレイヤーは楽譜を自分自身で移調する必要があります。たとえば、実音で C と記譜されている場合、B♭ クラリネットの奏者は C を出すためにインストゥルメントでは D を演奏する必要があります。

### 移調音

楽譜が移調音の場合、記譜される音符は、求められる音を出すために各楽器で演奏すべき音符です。たとえば、移調音で D と記譜されている場合、B♭ クラリネットから発せられる音は C です。

移調レイアウトは、インストゥルメントやレイアウトの移調に応じて調号とコード記号を自動的に変更します。移調レイアウトと実音レイアウトで異なる音部記号を使用することもできます。

## 関連リンク

- [選択範囲の移調 \(519 ページ\)](#)
- [異名同音の調号 \(1354 ページ\)](#)
- [オクターブ指示記号付き音部記号 \(1199 ページ\)](#)
- [音部記号/移調の上書きを設定したレイアウト \(198 ページ\)](#)
- [カポコードと主コード \(174 ページ\)](#)
- [レイアウトの移調テキストの編集 \(1325 ページ\)](#)

## レイアウトの複製

既存のレイアウトを複製できます。これにより、プレイヤーとフロー、レイアウトオプション、そして音部記号、ページテンプレート、譜表のスペーシングの上書きなどのカスタマイズが共通になる、同じタイプのレイアウトがもう 1 つ作成されます。

### 手順

1. 設定モードの「**レイアウト (Layouts)**」パネルで、複製するレイアウトを選択します。

2. アクションバーで「**レイアウト設定 (Layout Settings)**」をクリックし、「**レイアウトを複製 (Duplicate Layout)**」を選択します。

#### ヒント

レイアウトを右クリックすることで表示されるコンテキストメニューでも、このオプションを選択できます。

#### 結果

オリジナルのレイアウトの正確なコピーである新規レイアウトが作成されます。これはプレーヤーとフロー、レイアウトオプション、およびカスタマイズが共通になります。初期設定では、このレイアウトはレイアウトリストの一番下に表示されます。

#### 関連リンク

- [レイアウト \(190 ページ\)](#)
- [「レイアウト \(Layouts\)」パネル \(設定モード\) \(129 ページ\)](#)
- [レイアウト番号の付け直し \(197 ページ\)](#)
- [プレーヤー、レイアウト、フロー \(133 ページ\)](#)
- [音部記号/移調の上書きを設定したレイアウト \(198 ページ\)](#)
- [ページの形式変更 \(584 ページ\)](#)
- [譜表のスペーシング \(776 ページ\)](#)
- [プレーヤーの複製 \(137 ページ\)](#)
- [フローの複製 \(188 ページ\)](#)

## レイアウトの再整理

カスタムスコアレイアウトを追加して、フルスコアのすぐ下に表示したい場合に、「**レイアウト (Layouts)**」パネルとレイアウトセクターに表示されるレイアウトの順番を変更できます。


#### 手順


1. 設定モードの「**レイアウト (Layouts)**」パネルで、順番を変更するレイアウトを選択します。
2. 選択したレイアウトをクリックして、上下にドラッグします。

#### 結果

選択したレイアウトが指定した位置に移動します。これはレイアウト番号には影響しません。

#### ヒント

また、「**レイアウト (Layouts)**」パネルで「**レイアウトをソート (Sort Layouts)**」をクリックすることで、タイプに従って自動的にレイアウトをソートすることもできます。これにより、すべてのフルスコアレイアウトは上に、すべてのパートレイアウトは中間に、そしてすべてのカスタムスコアレイアウトは下に配置されます。

「**レイアウトをソート (Sort Layouts)**」をクリックしたままにするか右クリックすると、以下のいずれかのオプションに設定を変更できます。

- **レイアウト番号 (Layout Number)**
- **インストゥルメントのスコアの順番 (Instrument Score Order)**

#### 関連リンク

- [「レイアウト \(Layouts\)」パネル \(設定モード\) \(129 ページ\)](#)
- [デフォルトのプレーヤーの順番の変更 \(137 ページ\)](#)


[インストールメント番号の付け直し \(145 ページ\)](#)

## レイアウト番号の付け直し

設定モードの「**レイアウト (Layouts)**」パネルでは、レイアウトを異なる位置にドラッグした場合などに、すべてのレイアウトのレイアウト番号を現在の位置に従って付け直すことができます。

---

### 手順

1. 設定モードの「**レイアウト (Layouts)**」パネルで、任意のレイアウトを選択します。
2. アクションバーで「**レイアウト設定 (Layout Settings)**」  をクリックし、「**レイアウト番号の付け直し (Renumber Layouts)**」を選択します。

### ヒント

レイアウトを右クリックすることで表示されるコンテキストメニューでも、このオプションを選択できます。

---

### 結果


すべてのレイアウトのレイアウト番号が現在の位置に従って付け直されます。フルスコアレイアウト、カスタムスコアレイアウト、そしてパートレイアウトはそれぞれ別に番号付けされます。

## レイアウトの削除

対応する楽譜をプロジェクトから取り除くことなくレイアウトを削除できます。これによりたとえば、Violin I と Violin II が組み合わさったパートレイアウトのみを使用するために、それぞれ個別のパートレイアウトは削除する、といった操作ができます。

---

### 手順

1. 設定モードの「**レイアウト (Layouts)**」パネルで、削除するレイアウトを選択します。
2. 以下のいずれかの操作を行なって、選択したレイアウトを削除します。
  - **[Backspace]** 又は **[Delete]** を押します。
  - 「**レイアウト (Layouts)**」パネルで「**レイアウトを削除 (Delete Layout)**」  をクリックします。

---

### 結果

プロジェクトから楽譜を一切取り除くことなく、選択したレイアウトが削除されます。

### 手順終了後の項目

初期設定で Dorico Pro に用意されているパートレイアウトは、あとからすべて復元できます。

### 関連リンク

[「レイアウト \(Layouts\)」パネル \(設定モード\) \(129 ページ\)](#)  
[プレーヤー、レイアウト、フロー \(133 ページ\)](#)

## デフォルトレイアウトの復元

いくつかのパートレイアウトを誤って削除してしまった場合など、Dorico Pro に用意されているすべてのデフォルトのパートレイアウトを再作成できます。

### 手順

- 設定モードで、「設定 (Setup)」 > 「デフォルトのパートレイアウトを作成 (Create Default Part Layouts)」を選択します。

### 結果

デフォルトのパートレイアウトのセットが復元され、プロジェクトのすべてのフローを含む単一のパートレイアウトがプレーヤーごとに再作成されます。再作成されたパートレイアウトは、「レイアウト (Layouts)」リストの一番下に追加されます。パートレイアウトの順序は、「プレーヤー (Players)」パネル内の対応するプレーヤーの順序に一致します。

## 音部記号/移調の上書きを設定したレイアウト

デフォルトの音部記号および移調の上書きを使用すると、複数のレイアウトに同じプレーヤーを割り当て、レイアウトごとに異なる音部記号/移調を使用して楽譜を表示できます。プレーヤーの楽譜に変更を加えると、すべてのレイアウトで自動的に更新されます。

一般に、柔軟な楽器編成が求められる吹奏楽団やコンサートバンド、アンサンブルなどの楽譜では、Bb、A、Fといった異なる移調を使用して、同じパートの複数のバージョンを作成する必要があります。これにより、演奏者たちは移調の異なる楽器を一緒に演奏できるようになります。

### 補足

- 移調楽器ごとに音部記号や移調の上書きを指定する必要はありません。インストゥルメントの移調に合わせて音符が自動的に移調され、初期設定では、インストゥルメントピッカーで移調や音部記号の異なるインストゥルメントを選択できます。
- 「インストゥルメントを編集 (Edit Instruments)」ダイアログでは、必要な移調と音部記号を持つカスタムインストゥルメントを作成できます。

### 関連リンク

[レイアウト \(190 ページ\)](#)

[プレーヤー \(135 ページ\)](#)

[移調楽器 \(146 ページ\)](#)

[「インストゥルメントを編集 \(Edit Instruments\)」ダイアログ \(950 ページ\)](#)

[インストゥルメントピッカー \(124 ページ\)](#)

[レイアウトの作成 \(192 ページ\)](#)

[レイアウトへのプレーヤーの割り当て \(193 ページ\)](#)

[レイアウトへのフローの割り当て \(193 ページ\)](#)

[レイアウトの複製 \(195 ページ\)](#)

[パート形式を別のレイアウトにコピーする \(822 ページ\)](#)

[プレーヤーの追加 \(136 ページ\)](#)

[レイアウトのデフォルトの音部記号を上書きする \(200 ページ\)](#)

[レイアウトの移調の上書き \(201 ページ\)](#)


[実音と移調音で異なる音部記号を設定する \(1194 ページ\)](#)

[レイアウトの移調に従い音部記号を表示/非表示にする \(1196 ページ\)](#)

[レイアウトの移調音/実音の設定 \(194 ページ\)](#)

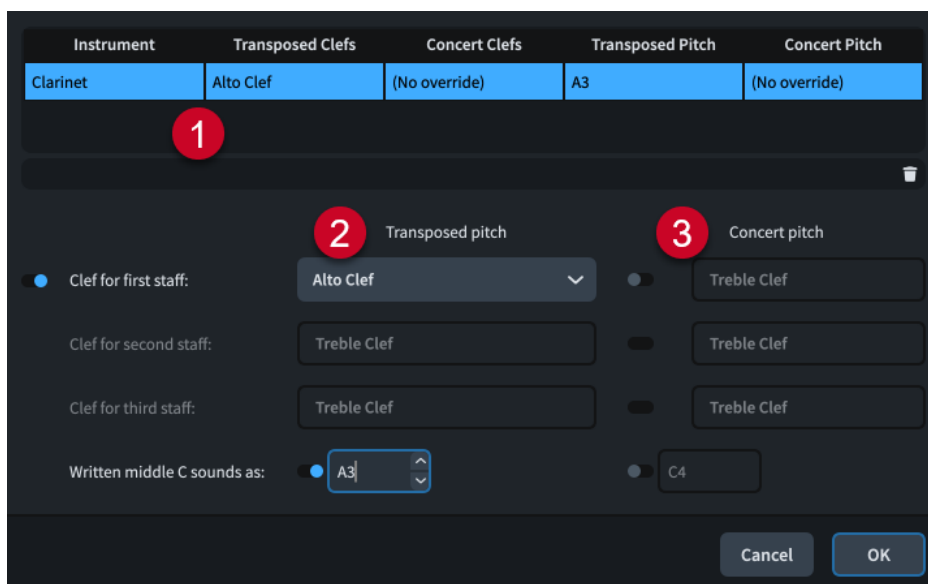
## 「音部記号と移調の上書き (Clef and Transposition Overrides)」 ダイアログ

「音部記号と移調の上書き (Clef and Transposition Overrides)」ダイアログでは、移調とデフォルトの音部記号をレイアウトごとに変更できます。これにより、同じプレイヤーの楽譜を、音部記号や移調を変えて異なるレイアウトで表示できます。

- 設定モードで「音部記号と移調の上書き (Clef and Transposition Overrides)」ダイアログを開くには、「レイアウト (Layouts)」パネルでレイアウトを選択してから、アクションバーの「レイアウト設定 (Layout Settings)」をクリックして「音部記号と移調の上書き (Clef and Transposition Overrides)」を選択します。

### ヒント


- レイアウトを右クリックすることで表示されるコンテキストメニューでも、このオプションを選択できます。
- 「環境設定 (Preferences)」の「キーボードショートカット (Key Commands)」ページで、「音部記号と移調の上書き (Clef and Transposition Overrides)」ダイアログを開く操作にキーボードショートカットを割り当てることができます。



「音部記号と移調の上書き (Clef and Transposition Overrides)」ダイアログには以下が含まれています。

### 1 音部記号/移調の上書きの表

レイアウト内のインストゥルメントが各行に表示されます。最初のコラムにはインストゥルメント名が表示されます。その他のコラムには、各インストゥルメントにそれぞれの種類の上書きが設定されているかどうかが表示されます。

表の下部にあるアクションバーの「上書きを解除 (Remove Overrides)」をクリックすると、選択したインストゥルメントのすべての上書きを削除できます。

### 2 「移調音 (Transposed pitch)」セクション

レイアウトを移調音に設定したときに使用されるデフォルトの音部記号/移調の上書きが表示されます。

- [n] つめの譜表の音部記号 (Clef for [n] staff):** 対応する譜表のデフォルトの音部記号を上書きできます。使用できる音部記号の上書きの数は、そのインストゥルメントに通常含まれている譜表の数によって決まります。
- 記譜上のミドル C の実際の発音 (Written middle C sounds as):** 記譜上のミドル C の発音上のピッチを変更することで、移調を上書きできます。

### 3 「実音 (Concert pitch)」 セクション

レイアウトを実音に設定したときに使用されるデフォルトの音部記号/移調の上書きが表示されません。

- **[n] つめの譜表の音部記号 (Clef for [n] staff):** 対応する譜表のデフォルトの音部記号を上書きできます。使用できる音部記号の上書きの数は、そのインストゥルメントに通常含まれている譜表の数によって決まります。

#### 補足

実音の音部記号を上書きするには、まず、対応する移調音の音部記号を上書きする必要があります。

- **記譜上のミドル C の実際の発音 (Written middle C sounds as):** 記譜上のミドル C の発音上のピッチのオクターブを上書きできます。

#### 関連リンク

[レイアウトの移調の上書き \(201 ページ\)](#)

[レイアウトの移調音/実音の設定 \(194 ページ\)](#)

[「環境設定 \(Preferences\)」ダイアログの「キーボードショートカット \(Key Commands\)」ページ \(64 ページ\)](#)

[ミドル C のナンバリング変換を変更する \(55 ページ\)](#)

## レイアウトのデフォルトの音部記号を上書きする

各インストゥルメントに表示されるデフォルトの音部記号をレイアウトごとに上書きできます。たとえば、楽曲内の同じプレイヤーに対して音部記号の異なる複数のレイアウトを作成して柔軟な楽器編成を行なえます。


#### 補足

デフォルトの音部記号を上書きしても、明示的に入力した音部記号は変更されません。

#### 前提条件

デフォルトの音部記号を上書きするレイアウトを作成し、必要なプレイヤーとフローを割り当てておきます。

#### 手順

1. 設定モードの「**レイアウト (Layouts)**」パネルで、デフォルトの音部記号を上書きするレイアウトを選択します。
2. アクションバーで「**レイアウト設定 (Layout Settings)**」をクリックし、「**音部記号と移調の上書き (Clef and Transposition Overrides)**」を選択して「**音部記号と移調の上書き (Clef and Transposition Overrides)**」ダイアログを開きます。

#### ヒント

レイアウトを右クリックすることで表示されるコンテキストメニューでも、このオプションを選択できます。

3. 表内で、デフォルトの音部記号を上書きするインストゥルメントを選択します。
4. 「**移調音 (Transposed pitch)**」セクションで、デフォルトの音部記号を上書きする譜表をオンにします。
5. 各メニューから使用する音部記号を選択します。
6. 「**実音 (Concert pitch)**」セクションで、デフォルトの音部記号を上書きする譜表をオンにします。



7. 各メニューから使用する音部記号を選択します。
8. 必要に応じて、デフォルトの音部記号を上書きするレイアウト内の他のインストゥルメントにも手順3から7を繰り返します。
9. 「OK」をクリックして変更内容を保存し、ダイアログを閉じます。

#### 結果

選択したレイアウト内で、選択したインストゥルメントの対応する譜表のデフォルトの音部記号が変更されます。

#### 関連リンク

- [移調楽器 \(146 ページ\)](#)
- [「インストゥルメントを編集 \(Edit Instruments\)」ダイアログ \(950 ページ\)](#)
- [「レイアウト \(Layouts\)」パネル \(設定モード\) \(129 ページ\)](#)
- [レイアウトの作成 \(192 ページ\)](#)
- [レイアウトの複製 \(195 ページ\)](#)
- [レイアウトへのプレーヤーの割り当て \(193 ページ\)](#)
- [レイアウトへのフローの割り当て \(193 ページ\)](#)
- [パート形式を別のレイアウトにコピーする \(822 ページ\)](#)
- [プレーヤーの追加 \(136 ページ\)](#)
- [レイアウトの移調音/実音の設定 \(194 ページ\)](#)
- [レイアウトの音部記号/移調の上書きを削除する \(202 ページ\)](#)
- [音部記号とオクターブ線の入力方法 \(358 ページ\)](#)
- [実音と移調音で異なる音部記号を設定する \(1194 ページ\)](#)
- [レイアウトの移調に従い音部記号を表示/非表示にする \(1196 ページ\)](#)


## レイアウトの移調の上書き

各インストゥルメントの移調をレイアウトごとに上書きできます。たとえば、楽曲内の同じプレーヤーに対して移調の異なる複数のレイアウトを作成して柔軟な楽器編成を行なえます。

#### 前提条件

移調を上書きするレイアウトを作成し、必要なプレーヤーとフローを割り当てておきます。

#### 手順

1. 設定モードの「レイアウト (Layouts)」パネルで、移調を上書きするレイアウトを選択します。
2. アクションバーで「レイアウト設定 (Layout Settings)」をクリックし、「音部記号と移調の上書き (Clef and Transposition Overrides)」を選択して「音部記号と移調の上書き (Clef and Transposition Overrides)」ダイアログを開きます。

#### ヒント

レイアウトを右クリックすることで表示されるコンテキストメニューでも、このオプションを選択できます。

3. 表内で、移調を上書きするインストゥルメントを選択します。
4. 以下のセクションのいずれかまたは両方で、「記譜上のミドル C の実際の発音 (Written middle C sounds as)」をオンにします。
  - 移調音 (Transposed pitch)
  - 実音 (Concert pitch)
5. 値フィールドのピッチを変更します。
  - 「移調音 (Transposed Pitch)」には任意のピッチを指定できます。

- 「**実音 (Concert Pitch)**」には、ミドルCの発音上のオクターブのみ指定できます。
6. 必要に応じて、移調を上書きするレイアウト内の他のインストゥルメントにも手順3から5を繰り返します。
  7. 「**OK**」をクリックして変更内容を保存し、ダイアログを閉じます。

#### 結果

選択したレイアウト内で、選択したインストゥルメントの移調が変更されます。レイアウトが移調音に設定されると、調号が自動的に更新されます。

#### 手順終了後の項目

正しい移調を含めたい場合など、選択したレイアウトの名前を変更できます。


#### 関連リンク

- [ミドルCのナンバリング変換を変更する \(55 ページ\)](#)
- [「レイアウト \(Layouts\)」パネル \(設定モード\) \(129 ページ\)](#)
- [レイアウトの作成 \(192 ページ\)](#)
- [レイアウトの複製 \(195 ページ\)](#)
- [レイアウトへのプレイヤーの割り当て \(193 ページ\)](#)
- [レイアウトへのフローの割り当て \(193 ページ\)](#)
- [パート形式を別のレイアウトにコピーする \(822 ページ\)](#)
- [プレイヤーの追加 \(136 ページ\)](#)
- [レイアウト名の変更 \(205 ページ\)](#)
- [調号 \(1346 ページ\)](#)

## レイアウトの音部記号/移調の上書きを削除する


各レイアウトの個々のインストゥルメントのすべての音部記号/移調の上書きを個別に削除できます。

#### 手順

1. 設定モードの「**レイアウト (Layouts)**」パネルで、音部記号/移調の上書きを削除するレイアウトを選択します。
2. アクションバーで「**レイアウト設定 (Layout Settings)**」をクリックし、「**音部記号と移調の上書き (Clef and Transposition Overrides)**」を選択して「**音部記号と移調の上書き (Clef and Transposition Overrides)**」ダイアログを開きます。

#### ヒント

レイアウトを右クリックすることで表示されるコンテキストメニューでも、このオプションを選択できます。

3. 表内で、音部記号/移調の上書きを削除するインストゥルメントを選択します。
4. アクションバーの「**上書きを解除 (Remove Overrides)**」をクリックします。
5. 必要に応じて、音部記号/移調の上書きを削除するレイアウト内の他のインストゥルメントにも手順3と4を繰り返します。
6. 「**OK**」をクリックして変更内容を保存し、ダイアログを閉じます。

#### 結果

選択したレイアウトの選択したインストゥルメントから音部記号/移調の上書きがすべて削除されます。

## プレイヤー名、レイアウト名、インストゥルメント名

Dorico Pro では、状況に応じて同じプレイヤーを 3 種類の名前で呼ぶことができます。これにより、譜表ラベルやパートレイアウトの上部などのさまざまな場所に関連情報を表示できます。

以下の名前はプレイヤーとインストゥルメントに関連付けられます。

### プレイヤー名

「**プレイヤー (Players)**」パネルで各プレイヤーに表示される名前です。譜表ラベルでインストゥルメント名のかわりに使用することもできます。{@playernames@} トークンを使用すると、テキストフレーム内のプレイヤー名を参照できます。

プレイヤー名はインストゥルメントを追加時に自動的に生成され、プレイヤー名を変更しない限りは、対応するインストゥルメント名にリンクされます。

### レイアウト名

「**レイアウト (Layouts)**」パネルで各レイアウトに表示される名前です。初期設定では、「**最初 (First)**」のページテンプレートを使用するパートレイアウトのページの上部に枠線付きでレイアウト名が表示されます。{@layoutname@} トークンを使用すると、テキストフレーム内のレイアウト名を参照できます。

パートレイアウトのレイアウト名は、レイアウト名が変更されるまで対応するプレイヤー名に自動的にリンクされます。

### インストゥルメント名

初期設定では、譜表ラベルで使用されます。つまり、各譜表のインストゥルメントラベルはそのプレイヤーが現在演奏しているインストゥルメントまたは打楽器キットに関連付けられており、そのプレイヤーがフロー内で演奏するすべてのインストゥルメントをリスト表示しているわけではありません。{@stafflabelsfull@} および {@stafflabelsshort@} のトークンを使用すると、テキストフレーム内のインストゥルメント名を参照できます。

たとえば、クラリネット奏者がバスクラリネットも演奏する場合、プレイヤーがクラリネットを演奏する場所の譜表ラベルには自動的に「**Clarinet**」と表示され、プレイヤーがバスクラリネットを演奏する場所の譜表ラベルには自動的に「**Bass Clarinet**」と表示されます。

Dorico Pro のすべてのインストゥルメントにはインストゥルメント名のセットが付随しており、同じインストゥルメントが割り当てられているプロジェクト内の別のプレイヤーとは無関係に、個々のインストゥルメントのインストゥルメント名を変更できます。インストゥルメント名に使用する言語を変更できます。また、インストゥルメント名をデフォルトとして保存することもできます。現在のプロジェクトおよびそれ以降のすべてのプロジェクトでそのインストゥルメントを再び追加すると、常にそのインストゥルメント名が使用されます。

#### 補足

- デフォルトのインストゥルメント名を変更しても、プロジェクト内にすでに存在する同じタイプのインストゥルメントのインストゥルメント名は変更されません。
- インストゥルメントの移調をインストゥルメント名の前後どちらに表示させるかなど、譜表ラベルのインストゥルメント名の表示方法を、インストゥルメント名を変更することなくさまざまに変更できます。
- 異なるインストゥルメント名を持つインストゥルメントを含むコンデンシングされた譜表のプレイヤーラベルには、省略されたインストゥルメント名が使用されます。

#### 関連リンク

[インストゥルメントのナンバリング](#) (144 ページ)

[ページテンプレートの種類](#) (573 ページ)

[トークン](#) (617 ページ)

[譜表ラベル](#) (1684 ページ)

[プレイヤーラベル](#) (817 ページ)


- [打楽器のレジェンド \(1850 ページ\)](#)
- [レイアウトへのプレイヤーの割り当て \(193 ページ\)](#)
- [プレイヤーグループ名の変更 \(185 ページ\)](#)
- [インストゥルメント名の言語の変更 \(61 ページ\)](#)
- [プレイヤーリストを追加する \(1322 ページ\)](#)

## プレイヤー名の変更

プレイヤーのプレイヤー名を変更したり、名前を変更したプレイヤーをデフォルト名にリセットしたりできます。複数のインストゥルメントが割り当てられたプレイヤーについては、ギャラリービューのガイドインストゥルメントラベルにプレイヤー名が表示され、譜表ラベルに表示される場合もあります。プレイヤー名はプレイヤーリストにも表示されます。

---

### 手順

- 設定モードの「**プレイヤー (Players)**」パネルで、名前を変更するプレイヤーを選択します。
- アクションバーで「**プレイヤー設定 (Player Settings)**」をクリックし、「**プレイヤー名を変更 (Rename Player)**」を選択して「**プレイヤー名を変更 (Rename Player)**」ダイアログを開きます。

#### ヒント

プレイヤーを右クリックして、コンテキストメニューからオプションを選択することもできます。

- 以下のフィールドに新しい名前を入力するか、既存の名前を編集します。
  - 正式名称 (Full name)**
  - 略称 (Short name)**
- 「**OK**」をクリックして変更内容を保存し、ダイアログを閉じます。

---

### 結果

選択したプレイヤーの対応する名前が変更されます。対応するパートレイアウト名の変更をすでに行っていないければ、レイアウト名が更新されます。

#### 補足

- すでにレイアウト名を変更している場合、インストゥルメント名を表示する譜表ラベルやパートレイアウト上部に表示される名前が、これの影響を受けることはありません。インストゥルメント名とレイアウト名は個別に変更できます。
- プレイヤー名を変更すると、それ以降はプレイヤーに割り当てられたインストゥルメントまたはインストゥルメント名を変更しても更新されなくなります。

---

### 関連リンク


- [プレイヤーパネル \(121 ページ\)](#)
- [プレイヤーグループ名の変更 \(185 ページ\)](#)
- [プレイヤーへのインストゥルメントの追加 \(146 ページ\)](#)
- [プレイヤーをソリストに指定 \(139 ページ\)](#)
- [譜表ラベルにインストゥルメント名/プレイヤー名を表示する \(1689 ページ\)](#)
- [ギャラリービューまたはページビューへの切り替え \(54 ページ\)](#)
- [プレイヤーリストを追加する \(1322 ページ\)](#)

## プレイヤー名をリセットする

プレイヤーの正式名称と略称の両方を同時にデフォルトにリセットできます。デフォルトのプレイヤー名は、プレイヤーに割り当てられたインストゥルメントまたはインストゥルメント名を変更すると自動的に更新されます。

---

### 手順

1. 設定モードの「**プレイヤー (Players)**」パネルで、名前をリセットするプレイヤーを選択します。
2. **[Return]** を押してプレイヤー名のテキストフィールドを開きます。
3. 「**デフォルトにリセット (Reset to Default)**」  をクリックします。

---

### 結果


対応するプレイヤーの正式名称と略称がどちらもデフォルトにリセットされます。

## レイアウト名の変更

レイアウト名を変更したり、変更したレイアウト名をデフォルト名にリセットしたりできます。たとえば、移調の上書きを設定したレイアウトに適切なインストゥルメントの移調を含める場合などに行ないません。初期設定では、「**最初 (First)**」のページテンプレートを使用するパートレイアウトのページの上部に枠線付きでレイアウト名が表示されます。

---

### 手順

1. 設定モードの「**レイアウト (Layouts)**」パネルで、名前を変更するレイアウトを選択します。
2. **[Return]** を押してレイアウト名のテキストフィールドを開きます。
3. 以下のいずれかの操作を行なって、レイアウトの名前を変更します。
  - 新規レイアウト名を入力するか、既存の名前を編集します。
  - レイアウト名をプレイヤー名に戻すには、「**デフォルトにリセット (Reset to Default)**」  をクリックします。

---

### ヒント

インストゥルメントの移調に臨時記号を含めるには、適切なトークンを入力します (b なら `{@flat@}` など)。

- 
4. **[Return]** を押します。

---

### 結果

選択したレイアウトの名前が変更されるか、デフォルト名に戻ります。

---

### 補足

- レイアウト名の変更は、インストゥルメント名またはプレイヤー名を表示する譜表レベルには影響を及ぼしません。
- パートレイアウト名を変更すると、それ以降は対応するプレイヤー名を変更しても更新されなくなります。

---

### 関連リンク

[「レイアウト \(Layouts\)」パネル \(設定モード\) \(129 ページ\)](#)

[トークン \(617 ページ\)](#)

[ページテンプレートの種類 \(573 ページ\)](#)

[レイアウト名の枠線の表示/非表示 \(1325 ページ\)](#)

[音部記号/移調の上書きを設定したレイアウト \(198 ページ\)](#)  
[譜表ラベルのコンテンツ \(1688 ページ\)](#)

## インストゥルメント名の変更


初期設定では、インストゥルメント名は譜表ラベルと譜表の上に表示されるインストゥルメントの変更ラベルに使用されます。各インストゥルメントに使用されるインストゥルメント名は変更できます。

### 補足

- インストゥルメント名を別の言語で表示するためにインストゥルメント名を変更する場合は、すべてのインストゥルメント名のデフォルトの言語を変更できます。
- インストゥルメントの移調をインストゥルメント名の前後どちらに表示させるかなど、譜表ラベルのインストゥルメント名の表示方法を、インストゥルメント名を変更することなくさまざまに変更できます。
- プレイヤー名とレイアウト名を変更している場合、インストゥルメント名を変更してもこれらの名前は自動的に更新されません。

---

### 手順

1. 設定モードの「**プレイヤー (Players)**」パネルで、名前を変更するインストゥルメントを含むプレイヤーのカードの展開矢印マークをクリックします。  
カードが展開され、プレイヤーに割り当てられたインストゥルメントが表示されます。
2. インストゥルメントラベルでインストゥルメントメニュー  をクリックし、「名前を編集 (Edit Names)」を選択して「**インストゥルメント名を編集 (Edit Instrument Names)**」ダイアログを開きます。
3. いずれかの名前フィールドに新しい名前を入力します。
4. 「**移調を表示 (Show transposition)**」で以下のいずれかのオプションを選択します。
  - 常に表示 (Always)
  - レイアウトオプションに従う (Follow Layout Options)
  - 常に非表示 (Never)
5. 必要に応じて、「**インストゥルメントのデフォルトとして保存 (Save as default for instrument)**」をオンにします。
6. 「**OK**」をクリックして変更内容を保存し、ダイアログを閉じます。

---

### 結果

選択したインストゥルメントのインストゥルメント名が変更されます。対応するプレイヤー名をすでに変更していなければ、プレイヤー名が更新されます。

- 変更をデフォルトとして保存しなかった場合は、選択したインストゥルメントの名前だけが変更されます。現在のプロジェクトおよびそれ以降のプロジェクトにあとから追加される同じタイプのインストゥルメントは、元のデフォルト名を使用します。
- 変更をデフォルトとして保存した場合は、現在のプロジェクトおよびそれ以降のプロジェクトにあとから追加される同じタイプのすべてのインストゥルメントが新しいインストゥルメント名を使用します。名前をリセットしない限り、そのタイプの既存のインストゥルメントには影響しません。

## ヒント

「**インストールを編集 (Edit Instruments)**」ダイアログで、カスタムインストールや現在のプロジェクトにないインストールなどのインストール名を変更することもできます。

## 関連リンク

[プレイヤーパネル \(121 ページ\)](#)

[「インストールを編集 \(Edit Instruments\)」ダイアログ \(950 ページ\)](#)

[譜表ラベルにインストール名/プレイヤー名を表示する \(1689 ページ\)](#)

[譜表ラベルにおけるインストールの移調の外観/位置を変更する \(1691 ページ\)](#)


[インストール名の言語の変更 \(61 ページ\)](#)

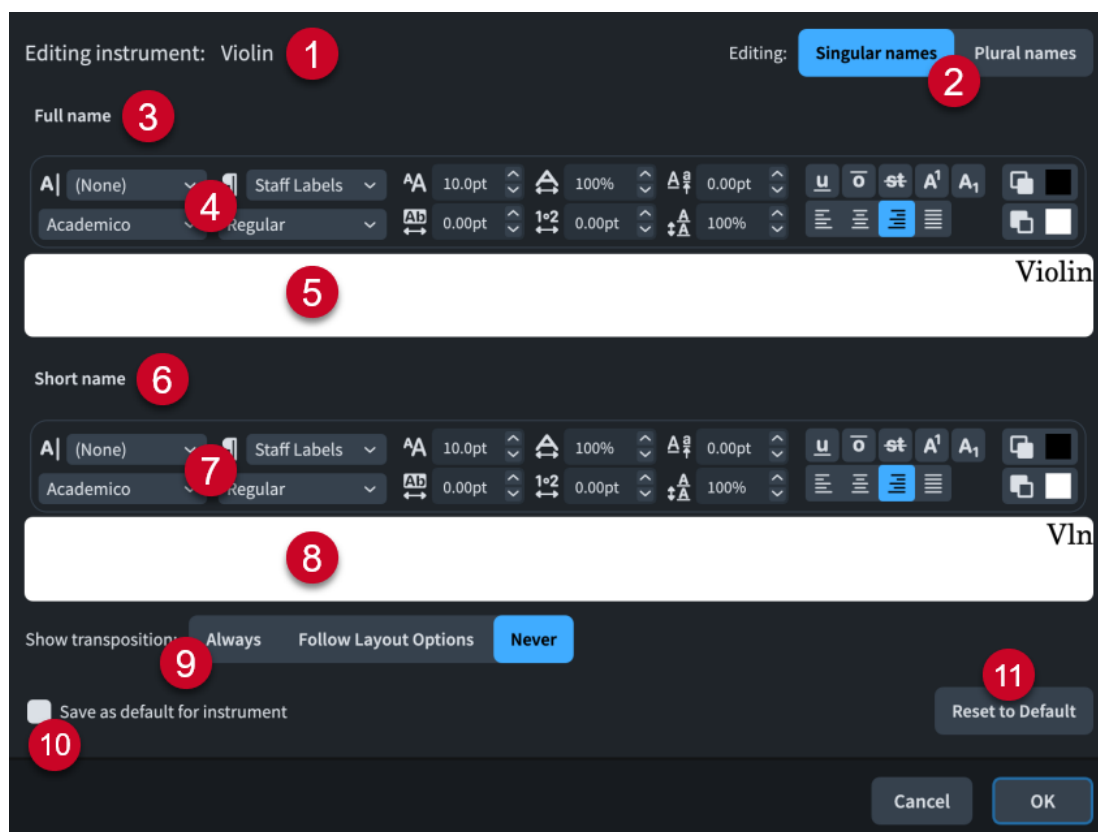
[インストールの変更ラベルのデフォルトのテキストを編集する \(153 ページ\)](#)

## 「インストール名を編集 (Edit Instrument Names)」ダイアログ

「**インストール名を編集 (Edit Instrument Names)**」ダイアログでは、譜表ラベルと譜表の上に表示されるインストールの変更ラベルに使用される各インストール名の内容と形式設定を変更できます。インストールの単数形と複数形ごとに正式名称と略称の両方を編集できます。

「**インストール名を編集 (Edit Instrument Names)**」ダイアログを開くには、以下のいずれかの操作を行います。

- 設定モードの「**プレイヤー (Players)**」パネルでプレイヤーカードを展開し、インストールラベルのインストールメニュー  をクリックして「**名前を編集 (Edit Names)**」を選択します。
- 「**インストールを編集 (Edit Instruments)**」ダイアログで、インストールリストのインストールを選択して、「**譜表ラベル (Staff Labels)**」セクションの「**インストール名を編集 (Edit Instrument Names)**」をクリックします。



「**インストゥルメント名を編集 (Edit Instrument Names)**」ダイアログには以下のオプションとセクションがあります。

**1 編集するインストゥルメント (Editing instrument)**

インストゥルメントの固定された基本の名前を表示します。

**2 編集 (Editing)**

選択したインストゥルメントの「**単数形 (Singular names)**」と「**複数形 (Plural names)**」のどちらを編集するかを切り替えることができます。

「**単数形 (Singular names)**」は譜表に含まれているプレイヤーが1人の場合に使用され、「**複数形 (Plural names)**」は譜表に複数のプレイヤーが含まれている場合に使用されます。

**3 「正式名称 (Full name)」セクション**

インストゥルメントの正式名称の外観を編集するオプションが含まれています。

**4 正式名称のテキストエディターオプション**

インストゥルメントの正式名称の選択部分のフォント、サイズ、形式設定をカスタマイズできます。

**5 正式名称のテキスト編集領域**

完全な譜表ラベルに表示される、選択したインストゥルメントの現在の長い名前が表示されます。インストゥルメント名の任意の部分を選択して、自由に編集できます。たとえば、新しい行にイタリック体で情報を追加できます。ただし、インストゥルメントの変更ラベルのインストゥルメント名は常に1行で表示されます。

譜表ラベルは初期設定では右揃えになっているため、テキスト編集領域の右端に表示されます。

**6 「略称 (Short name)」セクション**

インストゥルメントの略称の外観を編集するオプションが含まれています。

**7 略称のテキストエディターオプション**

インストゥルメントの略称の選択部分のフォント、サイズ、形式設定をカスタマイズできます。

**8 略称のテキスト編集領域**

省略された譜表ラベルに表示される、選択したインストゥルメントの現在の短い名前が表示されます。インストゥルメント名の任意の部分を選択して、自由に編集できます。たとえば、新しい行にイタリック体で情報を追加できます。ただし、インストゥルメントの変更ラベルのインストゥルメント名は常に1行で表示されます。

譜表ラベルは初期設定では右揃えになっているため、テキスト編集領域の右端に表示されます。

**9 移調を表示 (Show transposition)**

選択したインストゥルメントのインストゥルメント名に移調をいつ表示するかを選択できます。B♭クラリネットなどの移調楽器の名前には、移調が含まれているのが一般的です。

以下のオプションから、移調をいつ表示するかを選択できます。

- 「**常に表示 (Always)**」: 「**レイアウトオプション (Layout Options)**」の「**譜表と組段 (Staves and Systems)**」ページで非表示を選択していても、インストゥルメントの移調が表示されません。
- 「**レイアウトオプションに従う (Follow Layout Options)**」: 「**レイアウトオプション (Layout Options)**」のレイアウトごとの設定に応じてインストゥルメントの移調が表示/非表示にされます。
- **常に非表示 (Never)**: 「**レイアウトオプション (Layout Options)**」で表示を選択していても、インストゥルメントの移調は表示されません。

**10 インストゥルメントのデフォルトとして保存 (Save as default for instrument)**

チェックボックスをオンにすると、ダイアログで加えた変更がデフォルトとして保存されます。これは、現在のプロジェクトおよびそれ以降のすべてのプロジェクトに追加する、そのタイプのすべ



ての新規インストゥルメントに影響します。名前をリセットしない限り、そのタイプの既存のインストゥルメントには影響しません。

### 11 デフォルトにリセット (Reset to Default)

選択したインストゥルメントタイプの名前に加えた変更がすべて削除され、現在のデフォルト設定に戻ります。インストゥルメントを追加したあとにインストゥルメントタイプのデフォルト名またはインストゥルメント名の言語設定を変更した場合、名前をリセットすると、新しいデフォルト名および言語設定に変更されます。

#### 補足

単純な例では、インストゥルメント名の水平方向の配置や行間の上書きは、譜表ラベルにのみ使用されます。内側の譜表ラベル、グループ化された譜表ラベル、コンデンシングされた譜表ラベルには使用されません。

#### 関連リンク

[プレイヤーパネル \(121 ページ\)](#)

[「インストゥルメントを編集 \(Edit Instruments\)」 ダイアログ \(950 ページ\)](#)

[「レイアウトオプション \(Layout Options\)」 ダイアログ \(917 ページ\)](#)

[譜表ラベルのパラグラフスタイル \(1697 ページ\)](#)

[隣接する同一のインストゥルメントの譜表ラベルをグループ化する \(1692 ページ\)](#)

[譜表ラベルのインストゥルメントの移調を表示/非表示にする \(1690 ページ\)](#)

[記譜モードのテキストエディターオプション \(421 ページ\)](#)


## インストゥルメント名のリセット

個々のインストゥルメント名に加えたすべての変更をリセットして、そのインストゥルメントタイプの現在のデフォルト設定に戻すことができます。

#### 補足

インストゥルメント名をリセットしても、パートレイアウトの上部に表示される名前は変更されません。パートレイアウトの上部に表示される名前を変更するには、レイアウト名を変更します。

#### 手順

1. 設定モードの「**プレイヤー (Players)**」パネルで、名前をリセットするインストゥルメントを含むプレイヤーのカードの展開矢印マークをクリックします。  
カードが展開され、プレイヤーに割り当てられたインストゥルメントが表示されます。
2. インストゥルメントラベルでインストゥルメントメニュー  をクリックし、「**名前を編集 (Edit Names)**」を選択して「**インストゥルメント名を編集 (Edit Instrument Names)**」ダイアログを開きます。
3. 「**デフォルトにリセット (Reset to Default)**」をクリックします。
4. 「**OK**」をクリックして変更内容を保存し、ダイアログを閉じます。

#### 結果

選択したインストゥルメントのインストゥルメント名が、そのインストゥルメントタイプの現在のデフォルト設定にリセットされます。インストゥルメントを追加したあとにインストゥルメントタイプのデフォルト名またはインストゥルメント名の言語設定を変更した場合、名前をリセットすると、新しいデフォルト名および言語設定に変更されます。

#### ヒント

「環境設定 (Preferences)」の「キーボードショートカット (Key Commands)」ページで、プロジェクト内のすべてのインストゥルメント名をデフォルト設定にリセットする「インストゥルメント名をリセット (Reset Instrument Names)」にキーボードショートカットを割り当てることができます。

---

#### 関連リンク

[プレーヤーパネル \(121 ページ\)](#)

[「環境設定 \(Preferences\)」ダイアログの「キーボードショートカット \(Key Commands\)」ページ \(64 ページ\)](#)

[インストゥルメント名の言語の変更 \(61 ページ\)](#)

## フロー名とフロータイトル

プロジェクトにフローを追加する場合、初期設定では「フロー (Flow)」に通し番号が付いたフロー名となります。Dorico Pro では、フローにはフロー名とフロータイトルがあります。初期設定ではこれらは同じですが、フローのスケッチバージョンを整理したい場合などに、楽譜に表示されるタイトルに影響を与えることなくフロー名とフロータイトルを区別できます。

### フロー名

設定モードの「フロー (Flows)」パネル、または「プロジェクト情報 (Project Info)」ダイアログのフローリストのうちいずれかで設定を行ないます。

### フロータイトル

「プロジェクト情報 (Project Info)」ダイアログの各フローの「タイトル (Title)」フィールドで設定を行ないます。

フロータイトルは、個別に変更を行わない限りは自動的にフロー名と一致します。フロータイトルを変更すると、フロータイトルとフロー名のリンクが解除されます。

レイアウトに表示されるタイトルは、「{@projectTitle@}」と「{@flowTitle@}」のトークンを使用して、「プロジェクト情報 (Project Info)」ダイアログの「タイトル (Title)」フィールドにリンクされています。これにより、楽譜に表示されるタイトルとは異なる名前を使用してフローを整理できます。

#### ヒント

フロー名とフロータイトルはどちらも「プロジェクト情報 (Project Info)」ダイアログで変更できるほか、フロー名は設定モードの「フロー (Flows)」パネルでも変更できます。

---

#### 関連リンク

[トークン \(617 ページ\)](#)

[「プロジェクト情報 \(Project Info\)」ダイアログ \(81 ページ\)](#)

[フローパネル \(132 ページ\)](#)

[「書き出し用ファイル名 \(Export File Names\)」ダイアログ \(731 ページ\)](#)

[タイトルの追加 \(1318 ページ\)](#)

## フロー名の変更

フロー名は設定モードで変更できます。これにより、対応するフローのタイトルが自動的に更新され、「プロジェクト情報 (Project Info)」ダイアログでタイトルを変更するまで維持されます。

---

#### 手順

1. 設定モードの「フロー (Flows)」パネルで、名前を変更するフローカードをダブルクリックしてフロー名のテキストフィールドを開きます。

2. フローの新しい名前を入力するか、既存の名前を編集します。
3. **[Return]** を押します。

#### 結果

フロー名が変更されます。「**プロジェクト情報 (Project Info)**」ダイアログでフローに別の名前を入力していなければ、楽譜領域に表示されるタイトルが新しいフロー名に更新されます。

#### ヒント

フロー名は「**プロジェクト情報 (Project Info)**」ダイアログでも変更できます。

---

## フロータイトルの変更

「**プロジェクト情報 (Project Info)**」ダイアログでフロータイトルを変更できます。一度この操作を行なうと、フロー名を変更してもフロータイトルは自動的に変更されなくなります。

#### 手順

1. **[Ctrl]/[command]+[I]** を押して「**プロジェクト情報 (Project Info)**」ダイアログを開きます。
2. フローリストで、タイトルを変更するフローを選択します。
3. 「**タイトル (Title)**」フィールドに新しいタイトルを入力します。
4. 必要に応じて、プロジェクト内の他のフローに対して手順2と3を繰り返します。
5. 「**OK**」をクリックして変更内容を保存し、ダイアログを閉じます。

#### 結果

選択したフローのタイトルが変更されます。

#### 補足

これにより、フロー名と楽譜領域に表示されるタイトルの間のリンクが解除されます。

---

#### 関連リンク

[「プロジェクト情報 \(Project Info\)」ダイアログ \(81 ページ\)](#)

## ビデオ

Dorico Pro は、プロジェクト内でのビデオの使用とそれに関連する記譜記号 (マーカーやタイムコードなど) をサポートしており、重要なマーカーが設定された位置に基づいて適切なテンポを見つけることができます。

Dorico Pro 内のビデオは独立した「**ビデオ (Video)**」ウィンドウに表示され、楽譜と一緒に再生されます。また、ビデオに含まれているオーディオも再生されます。このオーディオの音量は楽譜の音量とは別に制御できます。

#### ヒント

プロジェクトのフレームレートの設定なども含むこれらの機能は、ビデオを添付しなくても使用できます。

---

#### 関連リンク

[タイムコード \(1586 ページ\)](#)

[マーカー \(1580 ページ\)](#)

[「テンポを検出 \(Find Tempo\)」 ダイアログ \(436 ページ\)](#)

[ビデオオーディオのボリュームの変更 \(215 ページ\)](#)

## サポートされるビデオ形式

Dorico Pro は、2017 年に Cubase と Nuendo に採用されたものと同じビデオエンジンを使用しています。このビデオエンジンは、一般的に使用されているほとんどのビデオ形式をサポートしています。

以下のビデオ形式がサポートされます。

- MOV: H263、H264、Apple ProRes、DV/DVCPro、Avid DNxHR コーデックなど
- MP4: H263、H264 など
- AVI: DV/DVCPro、MJPEG/PhotoJPEG など

23.976、24、24.975、25、29.97、30fps などの一般的なフレームレートはすべて、Dorico Pro で完全にサポートされています。

### 補足

- 可変フレームレートのビデオはサポートされません。
- 将来のバージョンではより多くの形式がサポートされる予定です。

サポートされる形式の詳細情報およびビデオ形式の識別方法と変更方法については、Steinberg のサポートサイトを参照してください。

関連リンク

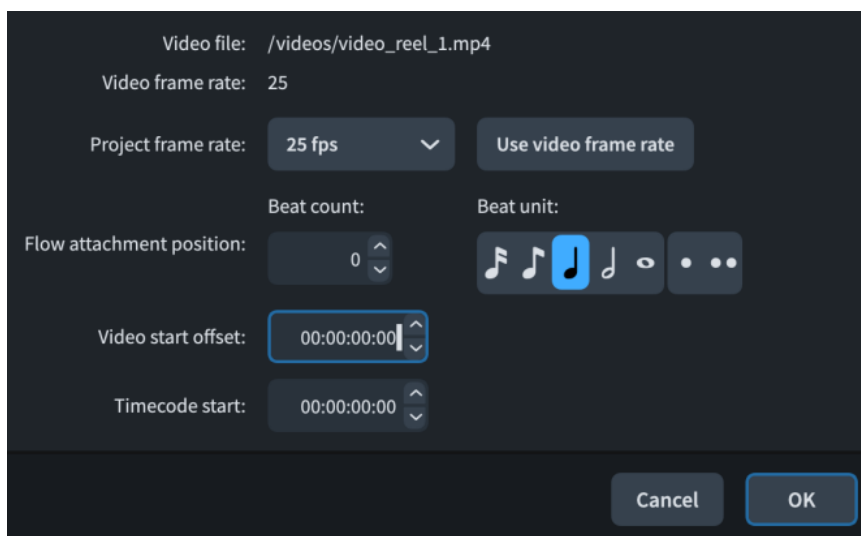
[フレームレート \(216 ページ\)](#)

## 「ビデオのプロパティ (Video Properties)」 ダイアログ

「ビデオのプロパティ (Video Properties)」 ダイアログでは、フレームレートや開始位置など、ビデオに関連する設定を変更できます。

- 設定モードで「ビデオのプロパティ (Video Properties)」 ダイアログを開くには、「フロー (Flows)」 パネルでフローを右クリックして、コンテキストメニューから「ビデオ (Video)」 > 「プロパティ (Properties)」 を選択します。

このダイアログは新しいビデオを追加した際にも自動的に開きます。



「ビデオのプロパティ (Video Properties)」ダイアログには以下のフィールドとオプションがあります。

#### ビデオファイル (Video file)

コンピューター上のビデオファイルの場所を表示します。このフィールドは読み取り専用です。

#### ビデオのフレームレート (Video frame rate)

ビデオファイルのフレームレートを表示します。このフィールドは読み取り専用です。

#### プロジェクトのフレームレート (Project frame rate)

プロジェクトのフレームレートをメニューから選択できます。設定できるフレームレートはプロジェクト全体で1つのみです。

#### ビデオのフレームレートを使用 (Use video frame rate)

プロジェクトのフレームレートをビデオファイルと同じに設定します。

#### フローのアタッチメント位置 (Flow attachment position)

ビデオを添付する位置を設定します。これは、8つの付点4分音符のように、「**拍のカウント (Beat count)**」設定と「**拍の単位 (Beat unit)**」設定を組み合わせることで設定します。

#### ビデオ開始位置のオフセット (Video start offset)

フローのアタッチメント位置に合わせてビデオ内の位置を設定できます。たとえば、ビデオの5秒めを第3小節の先頭に合わせるように設定できます。

#### タイムコードの開始位置 (Timecode start)

ビデオの開始位置のタイムコードを設定できます。これはフローのタイムコードにも影響しますが、フローの開始位置のタイムコードはビデオに合わせて調整されます。たとえば、ビデオの開始位置のタイムコードが02:00:00:00で、4/4拍子のフローの第3小節の先頭までビデオが始まらない場合、フローの開始位置のタイムコードは02:00:00:00より8拍分短くなります。つまり、テンポが60 bpmであればフローの開始位置のタイムコードは01:59:52:00になります。

#### 補足

フローのタイムコードは「**フロー (Flows)**」パネルのフローカードに表示されます。

---


#### 関連リンク

[タイムコード \(1586 ページ\)](#)

[フローパネル \(132 ページ\)](#)

## ビデオの追加

プロジェクト内の各フローにビデオを追加できます。プロジェクトに以前追加したビデオを Dorico Pro が見つけられず、再読み込みする場合もこの手順を実行します。

フローに参照できないビデオが含まれている場合、「**フロー (Flows)**」パネルのフローカードにはビデオアイコンのかわりに警告アイコン  が表示されます。これは、ビデオファイルなしでプロジェクトだけを誰かに送った場合に起こります。

#### 前提条件

少なくとも1人のプレーヤーをプロジェクトに追加しておきます。

---

#### 手順

1. 設定モードの「**フロー (Flows)**」パネルで、ビデオを追加または再読み込みするフローを右クリックします。

2. コンテキストメニューから「**ビデオ (Video)**」 > 「**添付 (Attach)**」を選択すると エクスプローラー (Windows) または Finder (Mac) が開きます。
  3. 追加するビデオファイルを探して選択します。
  4. 「**開く (Open)**」をクリックして「**ビデオのプロパティ (Video Properties)**」ダイアログを開きます。
  5. 必要に応じて設定を変更します。
  6. 「**OK**」をクリックして変更内容を保存し、ダイアログを閉じます。
- 

#### 結果

選択したビデオファイルがフローに追加され、「**ビデオ (Video)**」ウィンドウに表示されます。「**フロー (Flows)**」パネルのフローカードにフィルムリールアイコンが表示され、その横に「**ビデオ開始位置のオフセット (Video start offset)**」と「**タイムコードの開始位置 (Timecode start)**」を組み合わせたタイムコードが表示されます。

ビデオを再読み込みした場合、前の設定はすべて保持されます。

#### 関連リンク

[フローパネル \(132 ページ\)](#)

[プレーヤーの追加 \(136 ページ\)](#)

[タイムコードの開始位置の値を変更する \(1587 ページ\)](#)

## ビデオの開始位置の変更

ビデオが開始される楽譜領域の位置と、その位置に合わせるビデオ内の位置の両方を変更できます。たとえば、ビデオの開始から 5 秒めを楽譜の第 3 小節の先頭に合わせることができます。

---

#### 手順

1. 設定モードで、以下のいずれかの操作を行なって「**ビデオのプロパティ (Video Properties)**」ダイアログを開きます。
    - ビデオをフローに追加します。
    - 「**フロー (Flows)**」パネルで、フローを右クリックし、コンテキストメニューから「**ビデオ (Video)**」 > 「**プロパティ (Properties)**」を選択します。
  2. 以下のオプションのいずれかまたは両方を変更します。
    - **フローのアタッチメント位置 (Flow attachment position)**
    - **ビデオ開始位置のオフセット (Video start offset)**
  3. 「**OK**」をクリックして変更内容を保存し、ダイアログを閉じます。
- 

#### 結果

「**フローのアタッチメント位置 (Flow attachment position)**」の値を変更すると、ビデオが開始される楽譜内の位置が変更されます。

「**ビデオ開始位置のオフセット (Video start offset)**」の値を変更すると、「**フローのアタッチメント位置 (Flow attachment position)**」にあたるビデオ内の位置が変更されます。

たとえば、「**ビデオ開始位置のオフセット (Video start offset)**」を「00:00:05:00」に変更し、「**フローのアタッチメント位置 (Flow attachment position)**」を「8」に変更すると、ビデオの 5 秒めが楽譜の 8 拍めに一致します。

#### 補足

- 最初に設定されている位置は0です。そのため、「フローのアタッチメント位置 (Flow attachment position)」を「8」に設定した場合、拍子記号が4/4であれば、第3小節の1拍めにフローのアタッチメントが行なわれます。
  - 「ビデオ開始位置のオフセット (Video start offset)」を変更すると、ビデオのどの部分が「フローのアタッチメント位置 (Flow attachment position)」に合わさるかが変更されますが、この位置より前のビデオが切り取られるわけではありません。フローの中に収まる限り、その位置より前のビデオ素材も表示されます。
- 

## 「ビデオ (Video)」 ウィンドウを表示/非表示にする

モードに関係なく、「ビデオ (Video)」ウィンドウはいつでも表示/非表示を切り替えられます。たとえば、楽譜領域で作業をしているときに、非表示にして視界に入らないようにできます。

---

#### 手順

- 以下のいずれかの操作を行なって、「ビデオ (Video)」ウィンドウの表示/非表示を切り替えます。
    - **[F4]** を押します。
    - ツールバーの「ビデオを表示 (Show Video)」をクリックします。
    - 「ウィンドウ (Window)」 > 「ビデオ (Video)」を選択します。
- 

#### 関連リンク

[ツールバー](#) (33 ページ)

[マーカートラック](#) (673 ページ)

---

## 「ビデオ (Video)」 ウィンドウのサイズの変更

「ビデオ (Video)」ウィンドウのサイズはいつでも変更できます。

#### 前提条件

「ビデオ (Video)」ウィンドウを表示しておきます。

---

#### 手順

- 以下のいずれかの操作を行なって、「ビデオ (Video)」ウィンドウのサイズを変更します。
    - 角または端をクリックして任意の方向にドラッグします。
    - 形を変えずにサイズを変更するには、**[Shift]** を押しながら角または端をクリックしてドラッグします。
- 

#### 結果

「ビデオ (Video)」ウィンドウのサイズが変更されます。Dorico Pro に新しいサイズと形状が保存され、サイズを再び変更するまで、すべてのプロジェクトに対してこのサイズと形状が使用されます。

---

## ビデオオーディオのボリュームの変更

追加されたビデオに含まれるすべてのオーディオは、プロジェクト内の楽譜と一緒に再生されます。ビデオのボリュームは手動で変更できます。


#### 前提条件

下ゾーンまたはミキサーウィンドウにミキサーを表示しておきます。

---

---

#### 手順

1. ミキサーに**ビデオチャンネル**が表示されていない場合は、ミキサーツールバーで「**ビデオ (Video)**」をクリックします。
  2. 以下のいずれかの操作を行ないます。
    - ビデオオーディオのボリュームを変更するには、**ビデオチャンネルのフェーダー**をクリックして上下にドラッグします。
    - ビデオオーディオをミュートするには、**ビデオチャンネルのミュート**  をクリックします。
- 

#### 結果

プロジェクト内のビデオに含まれるオーディオのボリュームが変更されます。

#### 関連リンク

[ミキサー](#) (883 ページ)

[トラックをミュート/ソロにする](#) (687 ページ)

[インストゥルメントのミュート/ソロ状態の解除](#) (687 ページ)

## ビデオの削除

各フローからビデオを個別に削除できます。

---

#### 手順

1. 設定モードの「**フロー (Flows)**」パネルで、ビデオを削除するフローを右クリックします。
  2. コンテキストメニューから「**ビデオ (Video)**」 > 「**添付解除 (Detach)**」を選択します。
- 

#### 結果

選択したフローからビデオが削除されます。

#### 関連リンク

[フローパネル](#) (132 ページ)

## フレームレート

ビデオのフレームレートとは、画像が動いているという印象を与えるために単位時間ごとに使用される静止画像の数であり、一般的に1秒あたりのフレーム数、つまり fps で表わされます。

画像が動いているという印象を与えるのに必要な1秒あたりのフレーム数は人間の目が動きを処理する速度によって決まり、最も一般的なフレームレートは24 fps 程度です。ただし、最近の主要な映画はより鮮明な映像を生み出す48 fps で公開されています。

Dorico Pro は23.976 fps から60 fps までのフレームレートをサポートしています。たとえば、米国とカナダの放送基準であるNTSCでは29.97 fps が使われています。

フレームレートはタイムコードと密接に関係しており、タイムコードには時間と現在のフレーム位置の両方が含まれています。

23.976、24、24.975、25、29.97、30fps などの一般的なフレームレートはすべて、Dorico Pro で完全にサポートされています。

初期設定では、プロジェクトにもビデオファイルと同じフレームレートが使われますが、別のフレームレートを手動で選択することもできます。



関連リンク

[タイムコード \(1586 ページ\)](#)

## プロジェクトのフレームレートの変更

初期設定では、ビデオのフレームレートがプロジェクトのフレームレートとして使われます。フレームレートの異なる複数のビデオがプロジェクトに含まれている場合など、プロジェクトのフレームレートは必要に応じて変更できます。

### ヒント

フレームレートはプロジェクトにビデオが含まれていなくても変更できます。

---

### 手順

1. 設定モードで、以下のいずれかの操作を行なって「**ビデオのプロパティ (Video Properties)**」ダイアログを開きます。
    - ビデオをフローに追加します。
    - 「**フロー (Flows)**」パネルで、フローを右クリックし、コンテキストメニューから「**ビデオ (Video)**」 > 「**プロパティ (Properties)**」を選択します。
  2. 「**プロジェクトのフレームレート (Project frame rate)**」メニューからプロジェクトに使用するフレームレートを選択します。
  3. 「**OK**」をクリックして変更内容を保存し、ダイアログを閉じます。
- 

### 結果

プロジェクトのフレームレートが変更されます。

# 記譜モード

記譜モードでは、楽譜を入力できます。また、アイテムの位置や音符のピッチを変更したり、音符やアイテムを削除したりして、楽譜を編集できます。ツールボックスとパネルを使用して、最も一般的に使用されるすべての音符および記譜項目を入力できます。

設計により、記譜モードで音符やアイテムの表示位置を動かすことはできません。表示位置の調整は浄書モードでのみ行なえます。

## 記譜モードのプロジェクトウィンドウ

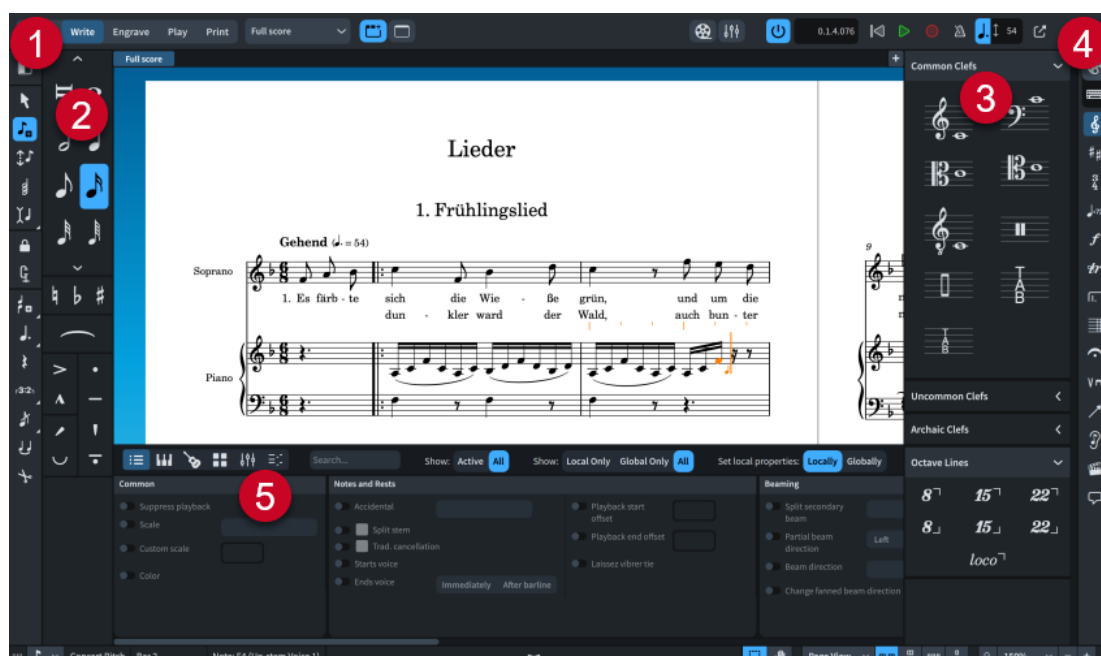
記譜モードのプロジェクトウィンドウには、楽譜を書くのに必要なツールや機能で構成されるツールボックスやパネルが含まれます。

記譜モードに切り替えるには、以下のいずれかの操作を行ないます。

- **[Ctrl]/[command]+[2]** を押します。
- ツールバーの「**記譜 (Write)**」をクリックします。
- 「**ウィンドウ (Window)**」 > 「**記譜 (Write)**」を選択します。
- 設定モードまたは浄書モードで、楽譜領域をダブルクリックします。

### ヒント

このオプションは「**環境設定 (Preferences)**」 > 「**音符の入力と編集 (Note Input and Editing)**」 > 「**編集 (Editing)**」でオフにできます。



記譜モードでは、以下のゾーンとツールボックスが表示されます。

### 1 音符ツールボックス

音符の入力と編集に影響するツールが表示されます。

## 2 左ゾーン

音符パネルが表示されます。音符パネルには、音符の入力で最も一般的に使用される音符のデュレーション、臨時記号、アーティキュレーションが表示されます。

## 3 右ゾーン

現在の記譜ツールボックスの選択に応じてさまざまなパネルを表示できます。右ゾーンのパネルには、強弱記号や演奏技法など、楽譜に追加できる記譜項目がカテゴリ別に表示されます。

## 4 記譜ツールボックス

「パネル (Panels)」と「ポップオーバー (Popovers)」のどちらがアクティブであるかに応じて、パネルボタンまたはポップオーバーボタンが表示されます。

右ゾーンにさまざまな記譜記号のパネルを表示したり、ポップオーバーを開いたり、リハーサルマークやテキストなど特定のアイテムを直接入力したりできます。

## 5 下ゾーン

現在の下ゾーンのツールバーの選択に応じてさまざまなパネルを表示できます。下ゾーンのパネルには現在選択している音符や記譜記号を個別に変更できるプロパティパネルと、音符を入力できるキーボードパネルがあります。

関連リンク

[ツールバー \(33 ページ\)](#)

[下ゾーン \(記譜モード\) \(228 ページ\)](#)

[プロパティパネル \(826 ページ\)](#)

[ミキサーパネル \(883 ページ\)](#)

[プロパティ設定を別のレイアウト/フレームチェーンにコピーする \(825 ページ\)](#)

# 音符ツールボックス

音符ツールボックスのツールを使用すると、音符入力の開始、音符の修正、そして入力する音符のタイプや範囲の変更を行えます。音符ツールボックスは、記譜モードのウィンドウの左側にあります。

### 左ゾーンを表示 (Show Left Zone)



左ゾーンの表示/非表示を切り替えます。

### 選択 (Select)



マウス入力を有効化/無効化します。「**選択 (Select)**」をオンにすると、マウス入力が無効化され、譜表をクリックして音符を入力できなくなります。

#### ヒント

「**環境設定 (Preferences)**」の「**キーボードショートカット (Key Commands)**」ページで、「**マウス入力を無効化 (Disable Mouse Input)**」にキーボードショートカットを割り当てることができます。

### 音符入力を開始 (Start Note Input)



キャレットの表示/非表示を切り替えることで、音符入力を開始/停止します。楽譜領域で音符、休符、またはアイテムが選択されている場合、選択したリズム上の位置から音符入力開始されます。楽譜領域で何も選択していない場合、ビュー内の一番上の譜表のリズム上の一番前の位置から音符入力開始されます。

### ピッチをデュレーションの前に指定 (Pitch Before Duration)



このオプションをオンにすると、音符入力の際、デュレーションを指定するより前にピッチを選択できます。これにより、音符はデュレーションを指定したときのみ入力されるため、音符の入力を中断することなくピッチを試すことができます。

**[K]** を押して「**ピッチをデュレーションの前に指定 (Pitch Before Duration)**」のオン/オフを切り替えることもできます。

### 和音 (Chords)



音符入力の際、リズム上の同じ位置に複数の音符を追加して、和音を構成できます。この機能を使用すると、音符の入力後にカーレットが進まなくなります。和音モードは、音符入力以外の一部の編集にも影響を及ぼします。たとえば音符やアイテムのコピー/貼り付けを、既存の音符や記譜記号を上書きせずに実行できます。

**[Q]** を押して和音の入力を開始/終了することもできます。





### 挿入 (Insert)



音符の入力時に、カーレット以降にある現在の声部の既存の音符を上書きせず、その前に音符を挿入できます。挿入モードは、音符の削除やデュレーションの変更など、音符の入力以外の一部の編集にも影響します。たとえば、挿入モードがオンの状態で音符のデュレーションを短くすると、音符間に休符を残さずに音符同士を近づけます。

挿入モードでは、拍子記号を入力または変更した場合に、小節を埋めるのに必要な拍が自動的に追加されます。

「**挿入 (Insert)**」をクリックしたままにする、または右クリックすると、以下のオプションにアクセスできます。

- **声部 (Voice)** : 挿入モードは選択した声部にのみ影響を与えます。
- **プレーヤー (Player)** : 挿入モードは選択したプレーヤーに属するすべての声部とインストゥルメントに影響を与えます。
- **全般 (Global)** : 挿入モードはフロー内のすべてのプレーヤーに影響を与えます。
- **現在の小節のグローバル調整 (Global Adjustment of Current Bar)** : 挿入モードはフロー内のすべてのプレーヤーに影響を与え、現在の小節のデュレーションを変更し、変更されたデュレーションに合わせて拍子記号を更新します。

**[I]** を押して挿入モードのオン/オフを切り替えることもできます。**[Alt/Opt]+[I]** を押すと、挿入モードの範囲を順に切り替えられます。

### デュレーションをロック



音符のデュレーションを維持したままピッチを変更できます。音符の入力中のみ使用できます。

**[L]** を押して「**デュレーションをロック (Lock Duration)**」のオン/オフを切り替えることもできます。

### デュレーションを強制 (Force Duration)



音符入力中は、選択した明示的なデュレーションで音符/休符を入力できます。音符入力以外では、既存の音符の現在の記譜されたデュレーションが固定されます。たとえば、「**デュレー**

「**デュレーションを強制 (Force Duration)**」をオンにすると、初期設定では、Dorico Pro がタイで結ばれた音符を分割し、4/4 の 2 つめの 4 分音符の拍に、付点 4 分音符を強制的に入力します。

#### 重要

たとえば、音符のデュレーションを強制し、あとから拍子記号の変更や小節線の移動を行なうと、予期しない結果を招くことがあります。

外観をリセットすることで、選択した音符の「**デュレーションを強制 (Force Duration)**」を解除できます。




[O] を押して「**デュレーションを強制 (Force Duration)**」のオン/オフを切り替えることもできます。

### 声部を作成 (Create Voice)



音符入力中は、現在の譜表に新しい声部が作成され、そこに音符を入力できるようになります。音符入力中ではない場合、「**声部を作成 (Create Voice)**」を使用すると、既存の音符の声部を変更できます。

「**声部を作成 (Create Voice)**」をクリックしたままにする、または右クリックすると、以下のオプションにアクセスできます。





- **声部を作成 (Create Voice)** : 現在の譜表に新しい声部を作成します。キーボードショートカット **[Shift]+[V]** を使用してもかまいません。
- **スラッシュ付き声部を作成 (Create Slash Voice)** : クリックする度に新しいスラッシュ付き声部を作成します。たとえば 3 番めのスラッシュ声部は符尾なしになります。キーボードショートカット **[Shift]+[Alt/Opt]+[V]** を使用してもかまいません。
- **次の声部 (Next Voice)** : 譜表上のすべてのアクティブな声部が順に切り替わります。キーボードショートカット **[V]** を使用してもかまいません。

### 付点音符 (Dotted Notes)



音符入力中は、現在選択しているデュレーションに基づき、付点音符/付点休符を入力できます。音符入力中ではない場合、「**付点音符 (Dotted Notes)**」を使用すると、既存の音符/休符に付点を追加または付点を削除できます。

「**付点音符 (Dotted Notes)**」をクリックしたままにする、または右クリックすると、以下のオプションにアクセスできます。

- **1 つの付点** : 音符入力中は、入力する音符/休符に 1 つの付点が付くようになります。音符入力中ではない場合、選択した既存の音符/休符に 1 つの付点が追加されます。
- **2 つの付点** : 音符入力中は、入力する音符/休符に 2 つの付点が付くようになります。音符入力中ではない場合、選択した既存の音符/休符に 2 つの付点が追加されます。
- **3 つの付点** : 音符入力中は、入力する音符/休符に 3 つの付点が付くようになります。音符入力中ではない場合、選択した既存の音符/休符に 3 つの付点が追加されます。
- **4 つの付点** : 音符入力中は、入力する音符/休符に 4 つの付点が付くようになります。音符入力中ではない場合、選択した既存の音符/休符に 4 つの付点が追加されます。

また、[.] を押すか、音符のデュレーションのキーボードショートカットを 2 回押して「**付点音符 (Dotted Notes)**」のオン/オフを切り替えることもできます。**[Alt/Opt]+[.]** を押すと、付点の数を順に切り替えられます。

### 休符 (Rests)



現在選択しているデュレーションで、音符ではなく休符を入力できます。

[.] を押して休符の入力を開始/終了することもできます。

補足

「デュレーションを強制 (Force Duration)」をオンにしていない場合、Dorico Pro は音符に対する位置に応じて、また現在の拍子に従って隣接する休符を自動的に結合します。

---

## 連符 (Tuplets)



現在選択している音符のデュレーションに基づき、キャレット位置または選択しているリズム上の位置に 3 連符を入力します。

「連符 (Tuplets)」をクリックしたままにする、または右クリックすると、以下のオプションにアクセスできます。

- **2:3** : 2 連符 (3 つ分のスペースに 2 つの音符を配置) を入力します。
- **3:2** : 3 連符 (2 つ分のスペースに 3 つの音符を配置) を入力します。
- **4:3** : 4 連符 (3 つ分のスペースに 4 つの音符を配置) を入力します。
- **5:4** : 5 連符 (4 つ分のスペースに 5 つの音符を配置) を入力します。
- **6:4** : 6 連符 (4 つ分のスペースに 6 つの音符を配置) を入力します。
- **7:8** : 7 連符 (8 つ分のスペースに 7 つの音符を配置) を入力します。
- **x:y** : 任意の比率による連符を入力できる、連符のポップオーバーを開きます。

## 装飾音符 (Grace Notes)



キャレットの位置に、標準の音符ではなく装飾音符を入力できます。音符の入力中のみ使用できます。

「装飾音符 (Grace Notes)」をクリックしたままにする、または右クリックすると、以下のオプションにアクセスできます。

- **スラッシュなし装飾音符 (Unslashed Grace Notes)** : スラッシュなし装飾音符を選択します。
- **スラッシュ付き装飾音符 (Slashed Grace Notes)** : スラッシュ付き装飾音符を選択します。

[/] を押して装飾音符の入力を開始/終了することもできます。[Alt/Opt]+[/] を押すことで、装飾音符のスラッシュ付き/スラッシュなしを切り替えられます。

## タイ (Tie)



音符入力中は、次に入力する音符が、同じ譜表の同じ声部に属する同じピッチの前の音符とタイでつながれます。音符入力中ではない場合、このツールを使用して、異なる声部の同じピッチの音符をつなげたり、装飾音符をリズムを持つ音符につなげたりできます。

[T] を押して「タイ (Tie)」をオンにすることもできます。

補足

「タイ (Tie)」をオフにすることはできません。タイを削除するには、「はさみ (Scissors)」を使用する必要があります。

---

## はさみ (Scissors)



音符入力中は、音符と明示的な休符をキャレットの位置で2つに分割します。音符入力中ではない場合、タイのつながりの中のすべてのタイを削除します。

**[U]** を押して「はさみ (Scissors)」をオンにすることもできます。

### 関連リンク

[「環境設定 \(Preferences\)」ダイアログの「キーボードショートカット \(Key Commands\)」ページ \(64 ページ\)](#)

[マウス入力の有効化/無効化 \(236 ページ\)](#)

[付点音符の入力 \(255 ページ\)](#)

[和音の入力 \(278 ページ\)](#)

[装飾音符の入力 \(275 ページ\)](#)

[連符の入力 \(281 ページ\)](#)

[連符のポップオーバー \(282 ページ\)](#)


[拍子記号と弱起の入力方法 \(311 ページ\)](#)

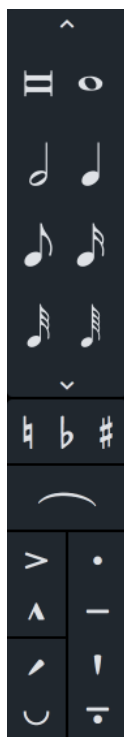
[アイテムの外観のリセット \(476 ページ\)](#)

## 音符パネル

音符パネルには、音符や休符のデュレーションを選択し、臨時記号、スラー、アーティキュレーションを入力できるボタンがあります。このパネルは記譜モードのウィンドウの左側にあります。

音符パネルの表示/非表示を切り替えるには、以下のいずれかの操作を行ないます。

- **[Ctrl]/[command]+[7]** を押します。
- 左側のツールボックスで「左ゾーンを表示 (Show Left Zone)」 をクリックします。
- 「ウィンドウ (Window)」 > 「左ゾーンを表示 (Show Left Zone)」を選択します。



音符パネルの上部には、音符の入力または既存の音符のデュレーション変更のために選択できる音符のデュレーションが含まれます。初期設定では、最も一般的な音符のデュレーションだけが表示されま

す。このセクションの上下にある「すべての音符を表示/非表示 (Show/Hide All Notes)」展開矢印マークをクリックすると、すべての音符のデューレーションを表示できます。

音符パネルの中央部では、臨時記号の有効化/無効化、およびスラーの有効化を実行できます。

音符パネルの下部では、アーティキュレーションを有効化/無効化できます。

関連リンク

[音符の入力 \(248 ページ\)](#)

[臨時記号の入力 \(269 ページ\)](#)

[アーティキュレーションの入力 \(298 ページ\)](#)

[スラーの入力 \(299 ページ\)](#)

[入れ子状のスラーを入力する \(1670 ページ\)](#)

[音符/アイテムの削除 \(496 ページ\)](#)

[臨時記号の削除 \(1052 ページ\)](#)

[アーティキュレーションの削除 \(1065 ページ\)](#)

## 記譜ツールボックス

記譜ツールボックスは、さまざまな記譜記号の入力に使用するパネルやポップオーバーにアクセスできます。このパネルは、記譜モードのウィンドウの右側にあります。

パネル



記譜ツールボックスからパネルにアクセスできます。パネルでは、パネル内の記譜記号をクリックすることで記譜記号を入力できます。

ポップオーバー



記譜ツールボックスからポップオーバーにアクセスできます。ポップオーバーでは、コンピューターのキーボードからエントリーを入力することで記譜記号を入力できます。ポップオーバーは、キャレットがアクティブ、またはアイテムが選択されている一番上の譜表の上で、キャレットの位置または選択している中で一番前にあるアイテムのリズム上の位置に開きます。

補足

ポップオーバーは音符の入力中、または楽譜領域で1つ以上の音符かアイテムが選択されている場合のみ利用できます。

---

## パネルボタン

音部記号 (Clefs)



音部記号とオクターブ線のセクションがある音部記号パネルの表示/非表示を切り替えます。

調号、調性システム、臨時記号 (Key Signatures, Tonality Systems, and Accidentals)



調号、調性システム、臨時記号のセクションがある調号、調性システム、臨時記号パネルの表示/非表示を切り替えます。このパネルでは、カスタムの調性システムの作成と編集も行なえます。



### 拍子記号 (拍子) (Time Signatures (Meter))



さまざまな拍子記号のセクションがある拍子記号 (拍子) パネルの表示/非表示を切り替えます。入れ替え可能な拍子の拍子記号や弱起 (アウフタクト) 付きの拍子記号といったカスタム拍子記号を作成できるセクションもあります。

### テンポ



段階的テンポ変更、メトロノームマーク、テンポの等式など、さまざまなテンポ変更のセクションがあるテンポパネルの表示/非表示を切り替えます。

### 強弱記号 (Dynamics)



局部的強弱記号、段階的強弱記号、カスタムの結合式強弱記号など、さまざまなタイプの強弱記号のセクションがある強弱記号パネルの表示/非表示を切り替えます。

### 装飾音 (Ornaments)



装飾音、アルペジオ記号、グリッサンドライン、ギターテクニックのセクションがある装飾音パネルの表示/非表示を切り替えます。

### 反復記号 (Repeat Structures)



リピート括弧とリピートセグメント、リピートマーカ、単音トレモロと重音トレモロ、小節リピート記号、スラッシュ領域など、さまざまな反復記号のセクションがある反復記号パネルの表示/非表示を切り替えます。

### 小節と小節線 (Bars and Barlines)



小節、小節休符、小節線のセクションがある小節と小節線パネルの表示/非表示を切り替えます。

### 延長記号と休止記号 (Holds and Pauses)



フェルマータ、ブレス記号、中間休止記号のセクションがある延長記号と休止記号パネルの表示/非表示を切り替えます。

### 演奏技法 (Playing Techniques)



さまざまなインストゥルメントファミリーグループのセクションがある演奏技法パネルの表示/非表示を切り替えます。各セクションには、対応するインストゥルメントファミリーの演奏技法が含まれています。

### ライン (Lines)



水平線と垂直線のセクションがあるラインパネルの表示/非表示を切り替えます。

### キュー (Cues)



キューに適した場所を探し、キューを入力できるキューパネルの表示/非表示を切り替えます。

### ビデオ (Video)



「ビデオのプロパティ (Video Properties)」ダイアログの呼び出し、現在のフローにあるマーカの表示や編集、重要なマーカに対する適切なテンポの計算を行なえるビデオパネルの表示/非表示を切り替えます。

### コメント



現在のフローのコメントの表示、編集、および書き出しが行なえるコメントパネルの表示/非表示を切り替えます。

## ポップオーバーおよび直接入力ボタン

### 音部記号 (Clefs)



音部記号やオクターブ線のポップオーバーを開きます。

### 調号、調性システム、臨時記号 (Key Signatures, Tonality Systems, and Accidentals)



調号のポップオーバーを開きます。

### 拍子記号 (拍子) (Time Signatures (Meter))



拍子記号のポップオーバーを開きます。

### テンポ (Tempo)



テンポのポップオーバーを開きます。

### 強弱記号 (Dynamics)



強弱記号のポップオーバーを開きます。

### 装飾音 (Ornaments)



装飾音のポップオーバーを開きます。

### 反復記号 (Repeat Structures)



反復記号のポップオーバーを開きます。

### 小節と小節線 (Bars and Barlines)



小節と小節線のポップオーバーを開きます。

### 延長記号と休止記号 (Holds and Pauses)



延長記号と休止記号のポップオーバーを開きます。

### 演奏技法 (Playing Techniques)



演奏技法のポップオーバーを開きます。

### キュー (Cues)



キューのポップオーバーを開きます。

### リハーサルマーク (Rehearsal Marks)



リハーサルマークを入力します。

### テキスト (Text)



テキストアイテムを入力するためのテキストエディターを開きます。

### 歌詞 (Lyrics)



歌詞のポップオーバーを開きます。

### コード記号 (Chord Symbols)



コード記号のポップオーバーを開きます。

### 音符ツール (Note Tools)



音符ツールのポップオーバーを開きます。

### フィンガリング (Fingering)



フィンガリングのポップオーバーを開きます。

### 数字付き低音 (Figured Bass)



数字付き低音のポップオーバーを開きます。

関連リンク

[記譜モードのプロジェクトウィンドウ \(218 ページ\)](#)

[記譜記号の入力 \(298 ページ\)](#)

- [音符ツールのポップオーバー \(537 ページ\)](#)
- [記譜モードのテキストエディターオプション \(421 ページ\)](#)
- [「ビデオのプロパティ \(Video Properties\)」ダイアログ \(212 ページ\)](#)
- [「コメント \(Comment\)」ダイアログ \(546 ページ\)](#)

## 右ゾーン (記譜モード)

記譜ツールボックスの選択に応じて利用できる記譜アイテムごとに異なるパネルが、記譜モードの右ゾーンに表示されます。右ゾーンのパネルを使用して記譜記号を入力できます。右ゾーンは、記譜モードのウィンドウの右側にあります。

入力する記譜記号を探し、その記譜記号を入力したあとに楽譜領域のサイズを広げたい場合などは、以下のいずれかの操作を行なって右ゾーンの表示/非表示を切り替えられます。

- **[Ctrl]/[command]+[9]** を押します。
- 記譜ツールボックスで、表示するパネルのボタン、または非表示にするパネルのアクティブなボタンをクリックします。
- 「**ウィンドウ (Window)**」 > 「**右ゾーンを表示 (Show Right Zone)**」を選択します。

関連リンク

- [ゾーンの表示/非表示の切り替え \(48 ページ\)](#)
- [音部記号パネル \(361 ページ\)](#)
- [調号、調性システム、臨時記号パネル \(306 ページ\)](#)
- [拍子記号 \(拍子\) パネル \(313 ページ\)](#)
- [テンポパネル \(324 ページ\)](#)
- [強弱記号パネル \(340 ページ\)](#)
- [装飾音パネル \(375 ページ\)](#)
- [反復記号パネル \(442 ページ\)](#)
- [小節と小節線パネル \(331 ページ\)](#)
- [延長記号と休止記号パネル \(368 ページ\)](#)
- [演奏技法パネル \(402 ページ\)](#)
- [ラインパネル \(417 ページ\)](#)
- [キューパネル \(455 ページ\)](#)
- [ビデオパネル \(436 ページ\)](#)
- [コメントパネル \(546 ページ\)](#)

## 下ゾーン (記譜モード)

記譜モードの下ゾーンには、音符の入力や音符/アイテムの編集に使用するさまざまなパネルを表示できます。

下ゾーンの表示/非表示を切り替えるには、以下のいずれかの操作を行ないます。

- **[Ctrl]/[command]+[8]** を押します。
- メインウィンドウ最下部の展開矢印マークをクリックします。
- 「**ウィンドウ (Window)**」 > 「**下ゾーンを表示 (Show Lower Zone)**」を選択します。

下のゾーンの左上にあるパネルセレクターを使用して、対応するパネルを表示できます。

プロパティ (Properties)



外観や位置を変更するなどして、個々の音符や記譜記号を編集できるプロパティパネルを表示します。

### キーボード (Keyboard)



ピアノキーボードレイアウトを使用して音符を入力できるキーボードパネルを表示します。選択した音符のピッチは鍵盤を押さえた状態として表示されます。

### フレットボード (Fretboard)



選択したインストゥルメントタイプに対応するフレットボードレイアウトを使用してフレット楽器の音符を入力できるフレットボードパネルを表示します。

### ドラムパッド (Drum Pads)



ドラムパッドのレイアウトを使用して無音程打楽器の音符を入力できるドラムパッドパネルを表示します。

### ミキサー



プロジェクト内のインストゥルメントによって再生中に出力されるサウンドを、マスター出力と個々のインストゥルメントのチャンネルの両方でコントロールできるミキサーパネルを表示します。

### キーエディター



選択したインストゥルメントに属する音符を連続するピアノロールに表示して編集できるキーエディターパネルを表示します。


#### 関連リンク

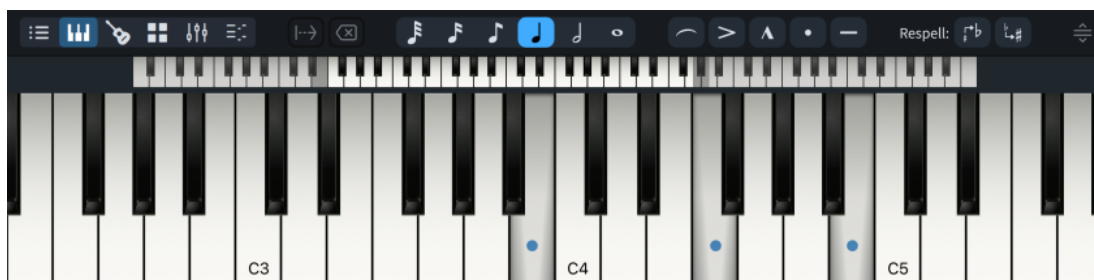
- [ゾーンの表示/非表示の切り替え \(48 ページ\)](#)
- [プロパティパネル \(826 ページ\)](#)
- [キーボードパネル \(229 ページ\)](#)
- [フレットボードパネル \(231 ページ\)](#)
- [ドラムパッドパネル \(233 ページ\)](#)
- [ミキサーパネル \(883 ページ\)](#)
- [キーエディターパネル \(831 ページ\)](#)
- [音符の入力 \(247 ページ\)](#)
- [記譜記号の入力 \(298 ページ\)](#)

## キーボードパネル

キーボードパネルでは、ピアノキーボードレイアウトを使用して音符を入力できます。選択した音符と再生時に発音される音符は鍵盤を押さえた状態として青い丸付きで表示されます。これは記譜モードのウィンドウ下部の下ゾーンに配置されています。

音符の入力中は、キーボードパネルで押した音符が入力されます。音符の入力以外では、最後に選択したインストゥルメントのサウンドで押した音が再生されますが、入力はありません。

- キーボードパネルを表示するには、下ゾーンを表示させ、下ゾーンのツールバーで「**キーボード (Keyboard)**」をクリックします。



ツールバーとキーボードの間にキーボード範囲セクターがあります。明るい色の鍵盤はパネルに表示されている鍵盤を示します。範囲の両端にある暗い色の鍵盤を使用すると、パネルに表示される鍵盤を変更できます。これによりたとえば、表示される鍵盤の数を減らして鍵盤の幅を広げることができます。

キーボードパネルのツールバーには以下のオプションがあります。

#### キャレットを進める (Advance Caret)



音符を入力することなく現在選択されている音符のデュレーションの分だけキャレットを進めます。段階的強弱記号やペダル線などのデュレーションを持つ記譜記号を延長します。音符の入力中のみ使用できます。

**[Space]** を押してキャレットを進めることもできます。

#### 左を削除 (Delete Left)



前の位置の音符を削除してキャレットをその位置に戻します。音符の入力中のみ使用できます。

音符の入力中に **[Backspace]** を押して音符/アイテムを削除することもできます。

#### ヒント

音符入力中ではない場合、**[Backspace]** 又は **[Delete]** を押して音符/アイテムを削除できます。

#### 音符のデュレーションを設定 (Set Note Duration)



音符のデュレーションを選択できます。音符の入力中に入力する次の音符のデュレーションを選択することも、音符の入力以外で既存の音符のデュレーションを変更することもできます。

対応するキーボードショートカットを押すか、左ゾーンの音符パネルで音符のデュレーションをクリックして音符のデュレーションを選択することもできます。

#### スラー (Slur)



現在選択している音符から始まるスラー、または選択した音符にまたがるスラーを入力します。音符の入力中は、音符を入力するとスラーが自動的に延長されます。

**[S]** を押してスラーを入力することもできます。

## アーティキュレーションを設定 (Set Articulation)



アーティキュレーションを有効化/無効化できます。音符の入力中に入力する次の音符に対して行なうことも、既存の音符にアーティキュレーションを追加することもできます。対応するキーボードショートカットを押してアーティキュレーションを有効化/無効化することもできます。

### 補足

音符にアクセントとマルカートの両方、またはスタッカートとテヌートの両方のアーティキュレーションを設定することはできません。

## 上のノート名を使用して書き換え (Respell Using Note Name Above)



選択した音符を上書き換え、上のノート名を使用して異名同音を表示します。たとえば、F#をGbに書き換えます。

## 下のノート名を使用して書き換え (Respell Using Note Name Below)



選択した音符を下書き換え、下のノート名を使用して異名同音を表示します。たとえば、GbをF#に書き換えます。

## 下ゾーンのサイズ変更 (Resize Lower Zone)



下ゾーンの高さを変更できます。

### 関連リンク

- [キャレット \(242 ページ\)](#)
- [音符パネル \(223 ページ\)](#)
- [ゾーンの表示/非表示の切り替え \(48 ページ\)](#)
- [音符の入力 \(248 ページ\)](#)
- [和音の入力 \(278 ページ\)](#)
- [音符/アイテムの削除 \(496 ページ\)](#)
- [音符/休符のデュレーションの選択 \(285 ページ\)](#)
- [スラーの入力 \(299 ページ\)](#)
- [アーティキュレーションの入力 \(298 ページ\)](#)
- [音符の書き換え \(523 ページ\)](#)
- [ミドルCのナンバリング変換を変更する \(55 ページ\)](#)

## フレットボードパネル

フレットボードパネルでは、選択したインストゥルメントタイプに対応するフレットボードレイアウトを使用してフレット楽器の音符を入力したり、選択している一番前の音符のピッチを押さえる弦として青い丸で表示したりできます。これは記譜モードのウィンドウ下部の下ゾーンに配置されています。

音符の入力中は、フレットボードパネルで押した音符が入力されます。音符の入力以外では、最後に選択したインストゥルメントのサウンドで押した音が再生されますが、入力されません。

- フレットボードパネルを表示するには、下ゾーンを表示させ、下ゾーンのツールバーで「**フレットボード (Fretboard)**」をクリックします。



フレットボードパネルのツールバーには以下のオプションがあります。

#### キャレットを進める (Advance Caret)



音符を入力することなく現在選択されている音符のデュレーションの分だけキャレットを進めます。段階的強弱記号やペダル線などのデュレーションを持つ記譜記号を延長します。音符の入力中のみ使用できます。

**[Space]** を押してキャレットを進めることもできます。

#### 左を削除 (Delete Left)



前の位置の音符を削除してキャレットをその位置に戻します。音符の入力中のみ使用できます。

音符の入力中に **[Backspace]** を押して音符/アイテムを削除することもできます。

#### ヒント

音符入力中ではない場合、**[Backspace]** 又は **[Delete]** を押して音符/アイテムを削除できます。

#### 音符のデュレーションを設定 (Set Note Duration)



音符のデュレーションを選択できます。音符の入力中に入力する次の音符のデュレーションを選択することも、音符の入力以外で既存の音符のデュレーションを変更することもできます。

対応するキーボードショートカットを押すか、左ゾーンの音符パネルで音符のデュレーションをクリックして音符のデュレーションを選択することもできます。

#### 関連リンク

[キャレット](#) (242 ページ)

[音符パネル](#) (223 ページ)

[ゾーンの表示/非表示の切り替え](#) (48 ページ)

[音符の入力](#) (248 ページ)

[タブ譜への音符の入力](#) (268 ページ)

[和音の入力](#) (278 ページ)

[音符/アイテムの削除](#) (496 ページ)

[音符/休符のデュレーションの選択](#) (285 ページ)

[フレット楽器のチューニング](#) (168 ページ)

[タブ譜](#) (1737 ページ)


[音符の譜表とタブ譜を表示または非表示にする](#) (1739 ページ)

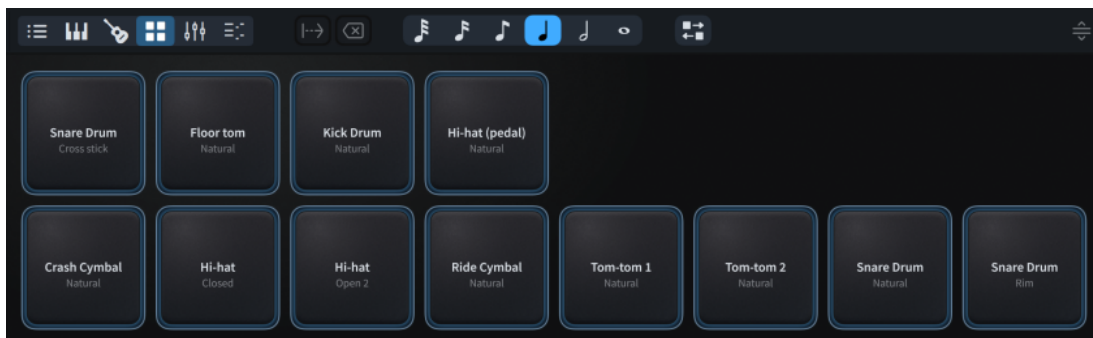


## ドラムパッドパネル

ドラムパッドパネルでは、ドラムパッドのレイアウトを使用して無音程打楽器の音符を入力できます。これは記譜モードのウィンドウ下部の下ゾーンに配置されています。

音符の入力中は、ドラムパッドパネルで押した音符が入力されます。音符の入力以外では、押したインストゥルメントや演奏技法のサウンドが再生されますが、入力されません。

- ドラムパッドパネルを表示するには、下ゾーンを表示させ、下ゾーンのツールバーで「ドラムパッド (Drum Pads)」 をクリックします。



ドラムパッドパネルのツールバーには以下のオプションがあります。

### キャレットを進める (Advance Caret)



音符を入力することなく現在選択されている音符のデュレーションの分だけキャレットを進めます。段階的強弱記号やペダル線などのデュレーションを持つ記譜記号を延長します。音符の入力中のみ使用できます。

**[Space]** を押してキャレットを進めることもできます。

### 左を削除 (Delete Left)



前の位置の音符を削除してキャレットをその位置に戻します。音符の入力中のみ使用できます。

音符の入力中に **[Backspace]** を押して音符/アイテムを削除することもできます。

#### ヒント

音符入力中ではない場合、**[Backspace]** 又は **[Delete]** を押して音符/アイテムを削除できます。

### 音符のデュレーションを設定 (Set Note Duration)



音符のデュレーションを選択できます。音符の入力中に入力する次の音符のデュレーションを選択することも、音符の入力以外で既存の音符のデュレーションを変更することもできます。

対応するキーボードショートカットを押すか、左ゾーンの音符パネルで音符のデュレーションをクリックして音符のデュレーションを選択することもできます。

### ドラムパッドの再配置 (Reorder Drum Pads)



ドラムパッドの位置を入れ替えられます。たとえば、状況に応じて簡単に入力できるように異なる配置を作成できます。

### 下ゾーンのサイズ変更 (Resize Lower Zone)



下ゾーンの高さを変更できます。

関連リンク

[キャレット \(242 ページ\)](#)

[音符パネル \(223 ページ\)](#)

[ゾーンの表示/非表示の切り替え \(48 ページ\)](#)

[無音程打楽器の音符を入力する \(263 ページ\)](#)

[音符/アイテムの削除 \(496 ページ\)](#)

[音符/休符のデュレーションの選択 \(285 ページ\)](#)

[無音程打楽器 \(1838 ページ\)](#)

[打楽器キットとドラムセット \(156 ページ\)](#)

[打楽器キットの表示タイプ \(1848 ページ\)](#)

[打楽器キットにおける声部 \(1855 ページ\)](#)

## 入力と編集

Dorico Pro では、楽譜の入力と編集が区別されています。

### 入力

キャレットが表示されていれば、楽譜を新たに入力できます。音符と記譜記号を入力するにはキャレットを有効にする必要があります。キャレットを有効にするとデュレーション、付点、臨時記号、アーティキュレーションを指定できるため、音符ツールボックスと音符パネルでツールやアイテムを選択すると、入力しようとしている音符または和音に影響します。そのあと、スコアへ音符をクリックして入力するか、コンピューターキーボードで音符の文字名を押して入力するか、MIDI キーボードで音符または和音を演奏して、ピッチを指定します。

キャレットが有効になっている場合、音符と記譜記号はキャレットの位置に入力されます。

楽譜領域で音符や和音が選択されていない場合、キーボードショートカットを押すか音符パネルでクリックしてデュレーションを選択すると、マウス入力が有効になります。譜表上でマウスポインターを移動すると、シャドウ音符が入力する位置に表示され、クリックすると実際に音符が入力されます。

#### 補足

マウス入力を無効にすると、この状況でマウス入力が始まらなくなります。

### 編集 (Editing)

キャレットが表示されていなければ、既存の楽譜を編集できます。楽譜の編集には、音符と記譜記号の移動、コピー/貼り付け、削除などが含まれます。入力と編集はいつでも切り替えることができます。

キャレットが有効になっていない場合、新しいアイテムは、アイテムの入力位置の設定に応じて、楽譜領域で選択されている最初の音符またはアイテムの位置に入力されます。アイテムが選択されていない場合は、マウスポインターに新しいアイテムが付随し、クリックした位置にアイテムが作成されます。

既存の音符と記譜記号を編集するには、楽譜領域でそれらを選択する必要があります。これにより、たとえば音符パネルで新しい音符のデュレーション、臨時記号、またはアーティキュレーションを選択した場合に、選択した音符やアイテムを更新できます。

少し時間を取って、キャラットが表示されている場合と表示されていない場合の Dorico Pro の動作の違いを理解しておくことをおすすめします。キャラットが表示されていない場合、すべての編集機能が楽譜領域で選択したアイテムに対して実行されます。

#### 補足

音符のコピー/貼り付けなど、音符入力以外の一部の編集結果は、挿入モードおよび和音モードによる影響を受ける場合があります。

---

#### 関連リンク

- [アイテムの編集 \(469 ページ\)](#)
- [音符/アイテムの選択 \(460 ページ\)](#)
- [キャラット \(242 ページ\)](#)
- [音符の入力 \(247 ページ\)](#)
- [記譜記号の入力 \(298 ページ\)](#)
- [リズムグリッド \(241 ページ\)](#)
- [挿入モード \(491 ページ\)](#)
- [和音モード \(280 ページ\)](#)
- [キーエディター \(831 ページ\)](#)
- [アイテムの入力位置の設定を変更する \(237 ページ\)](#)
- [段階的強弱記号の入力位置の設定を変更する \(345 ページ\)](#)

## マウス入力の設定の変更

たとえば、ポインターに演奏技法を一度読み込み、入力するたびに選択しなおすことなく複数の場所にその演奏技法を入力したい場合などに、マウス入力の設定を変更できます。

---

#### 手順

1. **[Ctrl]/[command]+[,]** を押して「**環境設定 (Preferences)**」を開きます。
2. カテゴリーリストの「**音符の入力と編集 (Note Input and Editing)**」をクリックします。
3. 「**編集 (Editing)**」セクションで、「**マウスによるアイテムの作成 (Creating items with the mouse)**」に以下のいずれかのオプションを選択します。
  - 楽譜領域内の最初に選択した音符/アイテムの位置にアイテムを入力するには、「**選択位置にアイテムを作成 (Create item at selection)**」を選択します。
  - 楽譜領域の任意の場所をクリックしてアイテムを入力できるように、アイテムをマウスポインターに読み込むには、「**ポインターにアイテムを乗せる (Load pointer with item)**」を選択します。
4. 「**ポインターにアイテムを乗せる (Load pointer with item)**」を選択した場合は、必要に応じて「**マウスによる複数アイテムの作成を許可する (Allow multiple items to be created with the mouse)**」のオン/オフを切り替えます。

#### 補足

このオプションをオンにすると、マウスポインターにアイテムを 1 回読み込めば、アイテムをその都度選択しなおすことなく、そのアイテムを複数回入力できます。

このオプションをオフにすると、マウスポインターに読み込まれたアイテムは一度だけ入力できません。

---

5. 「**適用 (Apply)**」をクリックしてから「**閉じる (Close)**」をクリックします。
-

#### 結果

マウス入力の設定の変更は、現在のプロジェクトおよびそれ以降のすべてのプロジェクトに適用されません。

#### 関連リンク

[「環境設定 \(Preferences\)」 ダイアログ \(63 ページ\)](#)


[記譜記号の入力 \(298 ページ\)](#)

## マウス入力の有効化/無効化

コンピューターキーボードまたは MIDI デバイスだけを使用して音符を入力したい場合などに、マウス入力を有効化/無効化できます。マウス入力を無効にすると、別のアイテムをクリックして音符の入力を終了できます。



---

#### 手順

- 記譜モードの音符ツールボックスで、「**選択 (Select)**」  をオン/オフにします。

---

#### 結果

「**選択 (Select)**」  をオフにすると現在のプロジェクトのマウス入力が有効になり、「**選択 (Select)**」  をオンにすると無効になります。

#### ヒント

以後のすべてのプロジェクトでデフォルトとしてマウス入力を有効にするか無効にするかは、「**環境設定 (Preferences)**」 > 「**音符の入力と編集 (Note Input and Editing)**」 > 「**音符の入力 (Note Input)**」で変更できます。

---

#### 関連リンク

[音符ツールボックス \(219 ページ\)](#)

[「環境設定 \(Preferences\)」 ダイアログ \(63 ページ\)](#)

## マウスによる編集の有効化/無効化

マウスによる音符の編集を有効化/無効化できます。たとえば、マウスでドラッグすることで音符の移調や移動を行ないたい場合などに便利です。

これは、マウスを使用して記譜記号を編集する機能には影響しません。この機能は常に有効です。

---

#### 手順

1. **[Ctrl]/[command]+[,]** を押して「**環境設定 (Preferences)**」を開きます。
2. カテゴリーリストの「**音符の入力と編集 (Note Input and Editing)**」をクリックします。
3. 「**音符の入力 (Note Input)**」セクションで、「**マウスによる音符のピッチとリズム上の位置の編集を有効にする (Enable note pitch and rhythmic position editing using the mouse)**」をオン/オフにします。
4. 「**適用 (Apply)**」をクリックしてから「**閉じる (Close)**」をクリックします。

---

#### 結果

設定の変更は、現在のプロジェクトおよびそれ以降のすべてのプロジェクトに適用されます。

## ヒント

「環境設定 (Preferences)」の「キーボードショートカット (Key Commands)」ページにある「マウスによる音符編集を切り替え (Toggle Mouse Note Editing)」にキーボードショートカットを割り当てることができます。

### 関連リンク

「環境設定 (Preferences)」ダイアログの「キーボードショートカット (Key Commands)」ページ (64 ページ)

個々の音符のピッチの変更 (518 ページ)

既存の音符の上/下に音符を追加 (284 ページ)

音符/アイテムのコピーと貼り付け (497 ページ)

音符/アイテムの位置の移動 (502 ページ)

音符/アイテムを別の譜表に移動する (506 ページ)

## アイテムの入力位置の設定を変更する

Dorico Pro の初期設定では、選択した各譜表上の最初の音符の位置にアイテムが入力されます。音符が休符かに関係なく、選択した各譜表上の同じ位置にアイテムを入力したい場合は、この設定を変更できます。

### 手順

1. **[Ctrl]/[command]+[,]** を押して「環境設定 (Preferences)」を開きます。
2. カテゴリーリストの「音符の入力と編集 (Note Input and Editing)」をクリックします。
3. 「編集 (Editing)」セクションで、「選択されている最初の音符の位置にアイテムを作成 (Create items at position of first selected note)」をオン/オフにします。
4. 「選択されている最初の音符の位置にアイテムを作成 (Create items at position of first selected note)」をオンにした場合は、必要に応じて「選択されている最初の音符の位置に音部記号を作成 (Create clefs at position of first selected note)」をオン/オフにします。
5. 「適用 (Apply)」をクリックしてから「閉じる (Close)」をクリックします。

### 結果

「選択されている最初の音符の位置にアイテムを作成 (Create items at position of first selected note)」をオンにした場合、アイテムは選択されている最初の音符の位置に入力されます。デュレーションを持つアイテムは、選択した最後の音符の位置で終了します。そのため、選択した各譜表上の異なる位置にアイテムが入力されることがあります。

「選択されている最初の音符の位置にアイテムを作成 (Create items at position of first selected note)」をオフにした場合、アイテムは選択されている最初のアイテムの位置に入力されます。デュレーションを持つアイテムは、選択した最後のアイテムの位置で終了します。そのため、音符ではなく休符の位置にアイテムが入力されることがあります。

### 例



小節全体を選択



設定をオンにして入力したオクターブ線



設定をオフにして入力したオクターブ線

関連リンク

[「環境設定 \(Preferences\)」 ダイアログ \(63 ページ\)](#)

[記譜記号の入力 \(298 ページ\)](#)

[音符/アイテムの選択 \(460 ページ\)](#)

[複数の譜表に音符と記譜記号を入力する \(261 ページ\)](#)

[段階的強弱記号の入力位置の設定を変更する \(345 ページ\)](#)

## 音符に基づく記譜記号の入力設定を変更する

音符の入力中に、付点、臨時記号、アーティキュレーションを最後に入力した音符に適用するか、次に入力する音符を入力するかのデフォルトの設定を変更できます。この設定は、ピッチをデュレーションの前に指定して音符を入力する場合に、音符を入力したあと、最後に入力した音符を選択したままにするかどうかにも影響します。

たとえば、ピッチをデュレーションの前に指定して音符を入力するときの設定を「**音符入力後 (After inputting note)**」に変更すると、音符を入力したあとに、最後に入力した音符が選択されたままになります。これにより、MIDI キーボードを使用して音符を入力する際に異名同音表記を変更しやすくなります。デュレーションをピッチの前に指定して音符を入力する場合は、音符に基づく記譜記号の入力設定に関係なく、最後に入力した音符が常に選択されたままになります。

---

手順

1. **[Ctrl]/[command]+[,]** を押して「**環境設定 (Preferences)**」を開きます。
2. カテゴリーリストの「**音符の入力と編集 (Note Input and Editing)**」をクリックします。
3. 「**音符の入力 (Note Input)**」セクションの「**ピッチとデュレーション (Pitch and Duration)**」サブセクションで、「**臨時記号、付点、アーティキュレーションを指定 (Specify accidental, rhythm dot and articulations)**」に以下のいずれかのオプションを選択します。
  - **音符入力後 (After inputting note)**
  - **音符入力前 (Before inputting note)**
4. 「**適用 (Apply)**」をクリックしてから「**閉じる (Close)**」をクリックします。

---

結果

設定の変更は、現在のプロジェクトおよびそれ以降のすべてのプロジェクトに適用されます。「**音符入力前 (Before inputting note)**」を選択すると、ピッチをデュレーションの前に指定して音符を入力する際、入力後に音符の選択は解除されます。

関連リンク

[音符の入力 \(248 ページ\)](#)

[ピッチをデュレーションの前に指定して音符を入力する \(251 ページ\)](#)

[臨時記号の入力 \(269 ページ\)](#)

[付点音符の入力 \(255 ページ\)](#)

[アーティキュレーションの入力 \(298 ページ\)](#)

## ピッチの入力設定の変更

音符の入力/録音を記譜音でするか、演奏音でするかを変更できます。たとえば、移調するパートレイアウトでは、演奏音で音符を録音できます。

実音表示のレイアウトでは、記譜上のピッチと演奏上のピッチは同じです。

---

手順

- 記譜モードで、以下のいずれかのピッチの入力設定を選択します。

- 音符の入力/録音を記譜上のピッチで行なうには、「記譜 (Write)」 > 「ピッチの入力 (Input Pitch)」 > 「記譜上のピッチ (Written Pitch)」を選択します。
  - 音符の入力/録音を演奏上のピッチで行なうには、「記譜 (Write)」 > 「ピッチの入力 (Input Pitch)」 > 「演奏上のピッチ (Sounding Pitch)」を選択します。
- 

#### 結果

記譜/録音したピッチの表示が変更されます。たとえば、ピッチの入力設定が「演奏上のピッチ (Sounding Pitch)」で、Fホルンの移調レイアウトでCを入力した場合、記譜される音符はGになります。

#### 関連リンク

[音符の入力 \(248 ページ\)](#)

[MIDI 録音を使用した音符の入力 \(291 ページ\)](#)

[実音と移調音 \(195 ページ\)](#)

## 音符の入力時/選択時に音符を再生/ミュートする

音符の入力に合わせて音符が再生されるかどうかのデフォルト設定を変更できます。初期設定では、音符は適用されている強弱記号を使用して再生されますが、かわりに固定のボリュームを設定することもできます。

---

#### 手順

1. **[Ctrl]/[command]+[,]** を押して「環境設定 (Preferences)」を開きます。
  2. カテゴリーリストの「音符の入力と編集 (Note Input and Editing)」をクリックします。
  3. 「音符の入力 (Note Input)」セクションの「試聴 (Auditioning)」サブセクションにある「音符の入力中および選択中に音符を再生 (Play notes during note input and selection)」をオン/オフにします。
  4. 適用されている強弱記号のかわりに固定のボリュームを使用して音符を再生するには、「選択した音符の再生に一定のボリュームを使用 (Use fixed volume to play selected notes)」をオンにして数値フィールドの値を変更します。
  5. 「適用 (Apply)」をクリックしてから「閉じる (Close)」をクリックします。
- 

#### 結果

このオプションがオンの場合は、音符の入力時および選択時に音符が再生されます。オフの場合は、音符は再生されません。

「選択した音符の再生に一定のボリュームを使用 (Use fixed volume to play selected notes)」をオンにすると、設定したボリュームで音符が再生されます。オフにすると、適用されている強弱記号を使用して音符が再生されます。

#### 関連リンク

[音符の入力 \(248 ページ\)](#)

[音符とアイテムを個々に選択/選択解除する \(460 ページ\)](#)

[楽譜の再生 \(680 ページ\)](#)

[クリック設定の変更 \(294 ページ\)](#)

[ミキサーパネル \(883 ページ\)](#)

[強弱記号の入力方法 \(337 ページ\)](#)

## 音符入力時/選択時に和音の音符をすべて/個別に再生する

和音のいずれかの音符を選択時に、すべての音符が再生されるか選択した音符のみが再生されるかのデフォルト設定を変更できます。

前提条件

音符の入力時/選択時に音符が再生されることとします。

手順

1. **[Ctrl]/[command]+[,]** を押して「**環境設定 (Preferences)**」を開きます。
2. カテゴリーリストの「**音符の入力と編集 (Note Input and Editing)**」をクリックします。
3. 「**音符の入力 (Note Input)**」セクションの「**試聴 (Auditioning)**」サブセクションにある「**和音のいずれかの音符が選択されたときに和音全体を演奏 (Play all notes in chord when any is selected)**」をオン/オフにします。
4. 「**適用 (Apply)**」をクリックしてから「**閉じる (Close)**」をクリックします。

結果

このオプションがオンの場合は、和音のいずれかの音符が選択されると和音のすべての音符が再生されます。オフの場合は、選択された音符のみが再生されます。

## MIDI thru の有効化/無効化

MIDI thru はいつでも有効/無効にできます。たとえば、MIDI キーボードからサウンドを再生するために音符の入力中は MIDI thru を有効にし、Dorico Pro で生成したサウンドを再生するために再生中は MIDI thru を無効にするなどできます。

手順

1. **[Ctrl]/[command]+[,]** を押して「**環境設定 (Preferences)**」を開きます。
2. カテゴリーリストの「**再生 (Play)**」をクリックします。
3. 「**録音 (Recording)**」サブセクションで、「**MIDI thru を有効にする (Enable MIDI thru)**」をオン/オフにします。
4. 「**適用 (Apply)**」をクリックしてから「**閉じる (Close)**」をクリックします。

結果

設定の変更は、現在のプロジェクトおよびそれ以降のすべてのプロジェクトに適用されます。

ヒント

「**環境設定 (Preferences)**」の「**キーボードショートカット (Key Commands)**」ページにある「**MIDI Thru を切り替え (Toggle MIDI Thru)**」にキーボードショートカットを割り当てることができます。

関連リンク

[「環境設定 \(Preferences\)」ダイアログの「キーボードショートカット \(Key Commands\)」ページ \(64 ページ\)](#)

[音符の入力 \(248 ページ\)](#)

[楽譜の再生 \(680 ページ\)](#)

[MIDI 録音 \(290 ページ\)](#)

[MIDI 入力デバイスの有効化/無効化 \(297 ページ\)](#)



## リズムグリッド

リズムグリッドはデュレーションの単位であり、入力および編集の特定の性質、たとえばアイテムの移動量などに影響を与えます。ただし、入力する音符やアイテムのデュレーションには影響しません。



譜表の上に表示されたリズムグリッド (8分音符に設定)

現在のリズムグリッドの間隔はステータスバーに音価で示されるとともに、キャレットがアクティブな譜表、または音符をドラッグしている譜表の上のルーラーの目盛りによっても示されます。リズムグリッドの長い線は拍の区切りを示し、短い線は分割された拍を示します。

リズムグリッドは以下を制御します。

- キャレットまたはマウスの使用時、およびコピーアンドペーストをする際に入力できる位置。たとえば、リズムグリッドの間隔を 32 分音符に設定した場合、4 分音符に設定した場合よりも多くの位置に音符やアイテムを入力できます。
- **[→]**/**[←]** 使用時のキャレットの移動幅。
- 音符およびアイテムの長さを変更する際の幅。
- 音符およびアイテムの移動幅。
- 音符を分割するデュレーション。

関連リンク

[リズム上の位置](#) (26 ページ)

[キャレット](#) (242 ページ)

[手動でのキャレットの移動](#) (247 ページ)

[キーエディターのリズムグリッドの間隔の変更](#) (839 ページ)

[音符の入力](#) (248 ページ)

[音符をデュレーションで分割する](#) (288 ページ)

[楽譜領域のカラーを変更する](#) (58 ページ)

## リズムグリッドの間隔の変更

リズムグリッドの間隔を変更できます。たとえば、リズムグリッドの間隔を狭めることで、音符を少しずつ短くできるようになります。この間隔はステータスバーに音価のマークで示されるとともに、キャレットの上のルーラーの目盛りで表わされる拍の区切りや分割された拍によっても示されます。

初期設定では、リズムグリッドの間隔は 8 分音符に設定されています。

手順

- 以下のいずれかの操作を行なってリズムグリッドの間隔を変更します。
  - リズムグリッドの間隔を狭めるには **[Alt/Opt]+[ ]** を押します。
  - リズムグリッドの間隔を広げるには **[Alt/Opt]+[@]** を押します。
  - 「記譜 (Write)」 > 「リズムグリッド (Rhythmic Grid)」 > 「グリッドの間隔を狭める (Decrease Grid Resolution)」を選択します。
  - 「記譜 (Write)」 > 「リズムグリッド (Rhythmic Grid)」 > 「グリッドの間隔を広げる (Increase Grid Resolution)」を選択します。
  - 「記譜 (Write)」 > 「リズムグリッド (Rhythmic Grid)」 > 「拍の区切り」を選択します。

- ステータスバーの「リズムグリッド (Rhythmic Grid)」セレクターで値を選択します。

#### 結果

リズムグリッドの間隔を減らすと、音価が短くなりリズムグリッドの間隔が狭くなります。リズムグリッドの間隔を増やすと、音価が長くなりリズムグリッドの間隔が広がります。

#### 関連リンク

- [ステータスバー \(42 ページ\)](#)
- [キーエディターのリズムグリッドの間隔の変更 \(839 ページ\)](#)
- [音符のデュレーションの変更 \(286 ページ\)](#)
- [アイテムの長さの変更 \(470 ページ\)](#)
- [音符/アイテムの位置の移動 \(502 ページ\)](#)

## キャラット

Dorico Pro では、キャラットは五線譜の上から下へと伸びる縦線として表示されます。ただし、打楽器の譜表およびタブ譜では短く表示されます。キャラットは、音符、和音、または記譜アイテムを入力できる位置を示します。これはタイのつながりの途中でも行なえます。

キャラットとは、一般的に、印刷されたテキストの校正に使用されるマークのことで、欠けている文字や文字列などを挿入または追加する位置を示します。ソフトウェアでは、キャラットは何かを挿入する位置を示します。この説明書では、音符の入力中に表示される線をキャラットと呼び、テキストの入力中に表示される線をカーソルと呼びます。

音符を入力している場合、キャラットは自動的に次の位置に進みます。タブ譜に和音や音符を入力している場合は、キャラットは自動的に移動しないため、手動で次の位置に移動させる必要があります。

キャラットの横には、現在選択している声部の符尾の方向とタイプを示す音符記号が表示されます。その声部が新しい場合は一緒にプラス記号が表示されます。



#### キャラット

キャラットの外観は、入力モードと現在選択している声部の番号に応じて変わります。

#### 複数の譜表

キャラットは、音符と記譜記号が入力されるすべての譜表をまたぐように垂直方向に伸びます。これにより、たとえば複数の譜表に同じ強弱記号や演奏技法を同時に入力したり、MIDI キーボードで和音を演奏してこれらの和音の音符を複数の譜表に振り分けたりできます。音符記号とリズムグリッドもそれぞれの譜表に表示されます。



複数の譜表に音符を入力中のキャラット

### 挿入 (Insert)

キャラットのの上にV字、下に逆向きのV字が表示されます。挿入モードの範囲の影響を受ける譜表には、すでにキャラットが伸ばされていない場合は点線が表示されます。挿入モードで音符を挿入すると、既存の音符が上書きされるのではなく、入力したデュレーションの分だけキャラットの後ろの音符が移動します。



「挿入 (声部) (Insert (Voice))」  
が有効なときのキャラット



「挿入 (プレーヤー) (Insert  
(Player))」が有効なときの  
キャラット



「挿入 (グローバル) (Insert  
(Global))」または「挿入 (現在  
の小節のグローバル調整)  
(Insert (Global Adjustment  
of Current Bar))」が有効なと  
きのキャラット

### 補足

挿入モードは、音符のコピー/貼り付け、削除、長さの変更など、音符の入力以外の一部の編集にも影響します。

### 和音

キャラットの左上にプラス記号が表示されます。和音の入力中は、同じ位置に複数の音符を入力できます。



和音を入力中のキャラット

#### 補足

和音モードは、音符やアイテムのコピー/貼り付けや長さの変更など、音符入力以外の一部の編集にも影響を及ぼします。

### デュレーションをロック

キャラットが破線になります。「デュレーションをロック (Lock Duration)」をオンにすると、デュレーションやリズムを変えることなくノートのピッチを変更できます。



「デュレーションをロック (Lock Duration)」をオンにしたときのキャラット

### 装飾音符 (Grace Notes)

キャラットが元の長さよりも短く表示されます。キャラットの位置に装飾音符を入力できます。



装飾音符を入力中のキャラット

### 声部

声部を識別するために、キャラットには以下が表示されます。

- 声部の符尾の方向を示す、符尾が上向きまたは下向きの音符の記号
- 音符を入力する声部の番号 (第2声部以上の場合)
- 左下にプラス記号 (その声部が新しい場合)



符尾が上向きの声部1に音符を入力中のキャラット



新規の符尾が下向きの声部に音符を入力中のキャラット



新規の符尾が上向きの声部2に音符を入力中のキャラット

## スラッシュ付き声部

スラッシュ付き声部を識別するために、キャラットには以下が表示されます。

- スラッシュ付き声部の符尾の方向と有無を示す、符尾が上向き、下向き、または符尾のないスラッシュ音符の記号
- 音符を入力するスラッシュ付き声部の番号 (第2声部以上の場合)
- 左下にプラス記号 (そのスラッシュ付き声部が新しい場合)



符尾が上向きのスラッシュ付き声部に音符を入力中のキャラット



新規の符尾が上向きのスラッシュ付き声部2に音符を入力中のキャラット



新規の符尾なしのスラッシュ付き声部に音符を入力中のキャラット

## 打楽器キット

打楽器キットに音符を入力しているときは、キャラットが通常よりもかなり短く表示されます。現在音符を入力しているキットインストゥルメントの名前がリズムグリッドの上に表示されます。



打楽器キットに音符を入力中のキャラット

## タブ譜

タブ譜に音符を入力しているときは、キャラットが通常よりもかなり短く表示されます。タブ譜でのキャラットは、和音の入力が常に有効であるかのように動作します。つまり、キャラットを進めたり別の譜表線に移動したりする場合は手動で操作する必要があります。



タブ譜に音符を入力中のキャラット

## 関連リンク

- [リズムグリッド \(241 ページ\)](#)
- [和音モード \(280 ページ\)](#)
- [挿入モード \(491 ページ\)](#)
- [和音の入力 \(278 ページ\)](#)
- [挿入モードでの音符の挿入 \(262 ページ\)](#)
- [リズムを変えずに音符のピッチを変更する \(522 ページ\)](#)
- [装飾音符の入力 \(275 ページ\)](#)
- [複数の声部への音符の入力 \(257 ページ\)](#)
- [無音程打楽器の音符を入力する \(263 ページ\)](#)



- [タブ譜への音符の入力 \(268 ページ\)](#)
- [タイ \(1776 ページ\)](#)
- [タイのつながりの分割 \(1786 ページ\)](#)
- [音符をデュレーションで分割する \(288 ページ\)](#)
- [楽譜領域のカラーを変更する \(58 ページ\)](#)

## キャラットの有効化/無効化

キャラットを有効にすると、たとえばタイのつながりの途中で強弱記号を入力する場合などに、キャラットの位置に音符や記譜記号を入力できます。キャラットを無効にすると、音符を入力できないかわりに、楽譜領域でアイテムの選択や編集を行なえます。

---

### 手順

1. 記譜モードで以下のいずれかの操作を行なって、キャラットを有効にして音符入力を開始します。
  - アイテムを選択して **[Shift]+[N]** を押します。
  - 音符ツールボックスの「**音符入力を開始 (Start Note Input)**」  をクリックします。
  - 譜表上の位置をダブルクリックします。
2. 以下のいずれかの操作を行ない、キャラットを無効にして音符の入力を停止します。
  - **[Shift]+[N]**、**[Return]**、または **[Esc]** を押します。
  - マウス入力を無効にしている場合は、楽譜領域の選択可能なアイテムをクリックします。
  - 音符ツールボックスの「**音符入力を開始 (Start Note Input)**」  をクリックします。
  - 別のモードに切り替えます。

---

### 関連リンク


- [手動でのキャラットの移動 \(247 ページ\)](#)
- [マウス入力の有効化/無効化 \(236 ページ\)](#)
- [音符の入力 \(248 ページ\)](#)
- [記譜記号の入力 \(298 ページ\)](#)

## 複数の譜表にキャラットを伸ばす

複数の譜表をまたぐようにキャラットを伸ばすことができます。これにより、音符や記譜記号を複数の譜表に同時に入力でき、MIDI キーボードで演奏した和音の音符を適切な譜表に自動的にエクスポートすることもできます。

---

### 手順


1. 記譜モードで以下のいずれかの操作を行なって、キャラットを有効にします。
  - アイテムを選択して **[Shift]+[N]** を押します。
  - 音符ツールボックスの「**音符入力を開始 (Start Note Input)**」  をクリックします。
  - 譜表上の位置をダブルクリックします。
2. 以下のいずれかの操作を行なって、キャラットを別の譜表まで伸ばします。
  - 上の譜表に伸ばすには、**[Shift]+[↑]** を押します。
  - 下の譜表に伸ばすには、**[Shift]+[↓]** を押します。
3. 必要に応じて、手順 2 を何度でも繰り返します。

関連リンク

[音符ツールボックス \(219 ページ\)](#)


[複数の譜表に音符と記譜記号を入力する \(261 ページ\)](#)

## 手動でのキャレットの移動

通常の音符の入力中は、音符を入力するとキャレットが自動的に移動しますが、手動で移動することもできます。たとえば、「和音 (Chords)」 が有効になっている場合、キャレットは自動的に移動しません。

---

手順

- 記譜モードで以下のいずれかの操作を行なって、キャレットを移動します。
  - キャレットを現在のリズムグリッドの間隔に従う位置、または次/前の音符/休符のいずれか近い方に移動させるには、**[→]/[←]** を押します。
  - 現在選択中の音符の音価に従ってキャレットを次の位置に進めるには、**[Space]** を押すか、キーボードパネル、フレットボードパネル、またはドラムパッドパネルのツールバーにある「**キャレットを進める (Advance Caret)**」 をクリックします。
  - 次/前の小節にキャレットを移動するには、**[Ctrl]/[command]+[→]/[Ctrl]/[command]+[←]** を押します。
  - 上/下の譜表にキャレットを移動するには、**[↑]/[↓]** を押します。
  - 組段の一番上/一番下の譜表にキャレットを移動するには、**[Ctrl]/[command]+[↑]/[Ctrl]/[command]+[↓]** を押します。

---

関連リンク

[和音の入力 \(278 ページ\)](#)

[キーボードパネル \(229 ページ\)](#)

[フレットボードパネル \(231 ページ\)](#)

[ドラムパッドパネル \(233 ページ\)](#)

[リズムグリッド \(241 ページ\)](#)

## 音符の入力

Dorico Pro で音符を入力できるのは、キャレットが有効になっている音符入力時のみです。これにより、音符が誤って譜表に追加されるリスクが低くなります。

また、音符の入力と同時に記譜記号も入力できます。記譜記号はキャレットまたは選択した音符の位置に入力されます。

以下のいずれかのデバイスを使用して、さまざまな方法で音符を入力できます。デバイスはいつでも切り替えることができます。

- MIDI キーボード
- コンピューターキーボード
- マウスまたはタッチパッド
- キーボードパネル、フレットボードパネル、ドラムパッドパネル

---

関連リンク

[音符 \(1388 ページ\)](#)

[音符の入力 \(248 ページ\)](#)

[MIDI 入力中の臨時記号の選択 \(271 ページ\)](#)

[キーボードパネル \(229 ページ\)](#)

- [フレットボードパネル \(231 ページ\)](#)
- [ドラムパッドパネル \(233 ページ\)](#)
- [記譜記号の入力 \(298 ページ\)](#)
- [配置ツール \(495 ページ\)](#)

## 音符の入力

キャレットが有効になっている音符の入力中に、プロジェクトに音符を入力できます。音符は、コンピューターのキーボード、マウス、下ゾーンのパネル、または MIDI キーボードで音符を演奏することによって入力できます。

### 補足

- 以下の手順は、デフォルトの設定である、デュレーションを設定後にピッチを設定する順番での音符の入力について説明します。デュレーションより先にピッチを設定するように指定することもできます。
- これらの手順は、音符を入力する前に付点、アーティキュレーション、および調号に含まれていない臨時記号を選択する方法を説明しています。ただし、これらは音符の入力後でも選択できます。この設定を変更する場合、手順 4～6 の前に手順 7 を実行する必要があります。
- 入力した音符の間には適切なデュレーションの暗黙の休符が自動的に表示されるため、音符の間に休符を入力する必要はありません。同様に、音符は必要に応じて自動的にタイのつながりとして表示されるため、タイを入力する必要はありません。
- また、音符の入力を無効にすることなく、音符と一緒に記譜記号も入力できます。

### 前提条件


- 適切なピッチの入力設定を選択しておきます。
- 適切な音符に基づく記譜記号の入力設定を選択しておきます。
- 音符の入力に使用する MIDI デバイスを接続しておきます。
- 接続された MIDI デバイスからサウンドを再生するには、MIDI thru を有効にしておきます。
- 音符パネルを使用して音符のデュレーションを選択する場合は、左ゾーンを表示させておきます。
- 1 人のプレーヤーに割り当てられた複数のインストゥルメント、またはスコアのページビューでは非表示のインストゥルメントに音符を入力する場合は、ギャラリービューを選択しておきます。
- 楽譜に調号が必要な場合は、その調号を入力しておきます。

### 手順

1. 記譜モードで以下のいずれかの操作を行なって、音符入力を開始します。
  - 譜表上の音符を入力する位置にある音符または休符を選択して、**[Shift]+[N]** を押します。

### 補足

**[Return]** を押すこともできますが、強弱記号などの記譜記号を選択した状態で **[Return]** を押すと、音符の入力は開始せず、選択に対応するポップオーバーが開きます。

- 譜表上の音符を入力する位置にある音符または休符を選択して、音符ツールボックスの「**音符入力を開始 (Start Note Input)**」 をクリックします。
  - 音符を入力する譜表をダブルクリックします。
2. 複数の譜表に同時に音符を入力する場合は、それらの譜表にキャレットを伸ばします。
  3. 以下のいずれかの操作を行なって、音符のデュレーションを選択します。
    - 入力するデュレーションに対応する数字キーをコンピューターのキーボードで押します。




たとえば、4分音符の場合は **[6]** を押します。8分音符の場合は **[5]**、16分音符の場合は **[4]** のように、短いデュレーションを入力するには小さい数字を押します。2分音符の場合は **[7]** のように、長いデュレーションを入力するには大きい数字を押します。

- 音符パネルで、入力するデュレーションをクリックします。
  - キーボードパネル、フレットボードパネル、またはドラムパッドパネルのツールバーで、入力するデュレーションをクリックします。
4. 必要に応じて、使用する付点を選択します。
  5. 臨時記号が調号に含まれていないピッチを入力する場合は、適切な臨時記号を選択します。
  6. 必要に応じて、使用するアーティキュレーションを選択します。
  7. 以下のいずれかの操作を行なって、使用するピッチを入力します。
    - コンピューターのキーボードで対応する文字を押します。


#### ヒント

直前に入力した音符からの間隔が一番小さい音域の音符が自動的に選択されます。ただし、別の音域を強制することもできます。

- 直前に入力した音符の上に音符を入力するには、**[Shift]+[Alt/Opt]** を押しながら音符を表わすアルファベットを押します (例: **[Shift]+[Alt/Opt]+[A]**)。
  - 直前に入力した音符の下に音符を入力するには、**[Ctrl]+[Alt] (Windows) 又は [Ctrl] (macOS)** を押しながら音符を表わすアルファベットを押します (例: **[Ctrl]+[Alt]+[A] (Windows) 又は [Ctrl]+[A] (macOS)**)。
- 
- 音符を入力する位置の譜表をクリックします。  
音符を入力する位置にマウスを合わせると、シャドー符頭が表示されます。
  - キーボードパネル、フレットボードパネル、またはドラムパッドパネルで、入力する音符を演奏します。
  - MIDI キーボードで音符を演奏します。
8. 必要に応じて、以下のいずれかの操作を行なって、音符を入力することなく現在選択されている音符のデュレーションの分だけキャレットを進めます。
    - **[Space]** を押します。
    - キーボードパネル、フレットボードパネル、またはドラムパッドパネルのツールバーで、「**キャレットを進める (Advance Caret)**」  をクリックします。

#### ヒント

別の方向および別の移動幅でキャレットを動かすこともできます。

9. 以下のいずれかの操作を行なって、音符の入力を停止します。
  - **[Esc]** または **[Return]** を押します。
  - 音符ツールボックスで、「**音符入力を開始 (Start Note Input)**」  をクリックします。

#### 結果

初期設定では、音符はキャレットの位置またはクリックした位置に選択したデュレーションで入力され、入力に合わせて再生されます。ピッチは調号に従います。たとえば、G メジャーで **[F]** を押すと自動的に F# が入力されます。

付点またはアーティキュレーションを選択した場合は、それらを無効にするまでその設定で音符が入力されます。ただし、調号に含まれていない臨時記号は、選択したあとに入力する最初の音符にのみ追加されます。

Dorico Pro は、デュレーション、その位置で有効な拍子記号、小節内の音符の位置に応じて、音符を適切に記譜し、連桁で連結します。これには、必要に応じて音符をタイのつながりとして表示することも含まれます。

音符を入力せずにキャレットを進めると、Dorico Pro は音符間の間隔を適切なデュレーションの暗黙の休符で埋めます。

フレット楽器に属する音符の譜表に音符を入力すると、ナットに最も近い位置で演奏できる弦に自動的に音符が割り当てられます。この計算は音符ごとに個別に行なわれるため、複数の音符が同じ弦に割り当てられることがあります。このような場合、タブ譜では音符が隣り合わせに表示され、色は緑になります。これらの音符はあとから個別に選択して弦を独自に割り当てることができます。

#### 補足

- 入力した音符によって、キャレットの横に 4 分音符記号で示されている声部のキャレットの位置にある既存の音符が上書きされます。既存の声部に音符を追加する場合は、和音を入力できます。また、新しい声部に音符を入力することもできます。
- 「**記譜オプション (Notation Options)**」では、デフォルトの連桁、音符、休符のグループ化の設定をフローごとに個別に変更できます。個々の拍子記号内のカスタム連桁グループを指定することもできます。

手順終了後の項目

- 音符は入力後に異なるリズム上の位置や別の譜表に移動できます。
- 符頭に個別に括弧を表示することもできます。

関連リンク

- [音符ツールボックス \(219 ページ\)](#)
- [キーボードパネル \(229 ページ\)](#)
- [フレットボードパネル \(231 ページ\)](#)
- [ドラムパッドパネル \(233 ページ\)](#)
- [ピッチをデュレーションの前に指定して音符を入力する \(251 ページ\)](#)
- [音符に基づく記譜記号の入力設定を変更する \(238 ページ\)](#)
- [ピッチの入力設定の変更 \(238 ページ\)](#)
- [MIDI thru の有効化/無効化 \(240 ページ\)](#)
- [ゾーンの表示/非表示の切り替え \(48 ページ\)](#)
- [ギャラリービューまたはページビューへの切り替え \(54 ページ\)](#)
- [MIDI 入力中の臨時記号の選択 \(271 ページ\)](#)
- [音符の書き換え \(523 ページ\)](#)
- [「記譜オプション \(Notation Options\)」ダイアログ \(919 ページ\)](#)
- [音符パネル \(223 ページ\)](#)
- [リズムグリッド \(241 ページ\)](#)
- [キャレット \(242 ページ\)](#)
- [音符/休符のデュレーションの選択 \(285 ページ\)](#)
- [付点音符の入力 \(255 ページ\)](#)
- [臨時記号の入力 \(269 ページ\)](#)
- [アーティキュレーションの入力 \(298 ページ\)](#)
- [和音の入力 \(278 ページ\)](#)
- [複数の声部への音符の入力 \(257 ページ\)](#)
- [休符の入力 \(271 ページ\)](#)
- [連符の入力 \(281 ページ\)](#)
- [既存の音符の上/下に音符を追加 \(284 ページ\)](#)
- [音符/アイテムの位置の移動 \(502 ページ\)](#)
- [譜表をまたぐ連桁/トレモロの作成 \(1123 ページ\)](#)
- [付点の統合 \(1401 ページ\)](#)
- [音符と休符のグループ化 \(1136 ページ\)](#)

[拍に従う連符グループ \(1113 ページ\)](#)  
[拍の境界をまたぐタイを表示/非表示にする \(1137 ページ\)](#)  
[記譜記号の入力 \(298 ページ\)](#)  
[音符の入力時/選択時に音符を再生/ミュートする \(239 ページ\)](#)  
[タブ譜で音符に割り当てられた弦の変更 \(1740 ページ\)](#)  
[MIDI 入力デバイスの有効化/無効化 \(297 ページ\)](#)  
[暗黙の休符と明示的な休符 \(1641 ページ\)](#)  
[タイ \(1776 ページ\)](#)  
[調号 \(1346 ページ\)](#)  
[配置ツール \(495 ページ\)](#)  
[括弧付きの符頭 \(1406 ページ\)](#)

## 音符の入力中の音域の選択

Dorico Pro では音符の入力中にピッチの音域が自動的に選択されますが、これを上書きして音域を手動で選択できます。

音符の入力中は、直前に入力した音符からの間隔が一番小さい音域の音符が自動的に選択されます。たとえば、F を入力したあと **[A]** を押すと、F の 6 度下ではなく 3 度上に A が入力されます。

この自動音域選択は、以下のいずれかの方法で上書きできます。

- 直前に入力した音符の上に音符を入力するには、**[Shift]+[Alt/Opt]** を押しながら音符を表わすアルファベットを押します (例: **[Shift]+[Alt/Opt]+[A]**)。
- 直前に入力した音符の下に音符を入力するには、**[Ctrl]+[Alt] (Windows) 又は [Ctrl] (macOS)** を押しながら音符を表わすアルファベットを押します (例: **[Ctrl]+[Alt]+[A] (Windows) 又は [Ctrl]+[A] (macOS)**)。

## 和音を入力中の音域の選択

和音の入力中は、キャラットの位置の一番高い音符の上に音符が自動的に入力されます。たとえば、**[A]**、**[E]**、**[A]** の順に押すと、キャラットの位置に A-E-A の和音が入力されます。

かわりに、**[Ctrl]+[Alt] (Windows) 又は [Ctrl] (macOS)** を押しながらノート名を表わすアルファベットを押すことで、最も低い音符よりも下にあるキャラットの位置に音符を入力できます (例: **[Ctrl]+[Alt]+[A] (Windows) 又は [Ctrl]+[A] (macOS)**)。

関連リンク

[個々の音符のピッチの変更 \(518 ページ\)](#)  
[MIDI 入力中の臨時記号の選択 \(271 ページ\)](#)  
[音符の書き換え \(523 ページ\)](#)

## ピッチをデュレーションの前に指定して音符を入力する

ピッチをデュレーションの前に指定してプロジェクトに音符を入力できます。これはつまり、音符の入力を中断することなく音符の入力前にピッチをテストできることを意味します。音符は、コンピューターのキーボード、マウス、下ゾーンのパネル、または MIDI キーボードで音符を演奏することによって入力できます。

Dorico Pro の初期設定では、音符のデュレーションをピッチの前に指定する必要があります。

### 補足

- これらの手順は、音符を入力する際にデュレーションの前にピッチを選択する方法を説明しています。ただし、Dorico Pro のデフォルトの音符入力動作であるデュレーションをピッチの前に指定することもできます。

- これらの手順は、音符を入力する前に付点、アーティキュレーション、および調号に含まれていない臨時記号を選択する方法を説明しています。ただし、これらは音符の入力後でも選択できます。この設定を変更する場合、手順4～6の前に手順7と8を実行する必要があります。
- デュレーションより先にピッチを設定してタブ譜に音符を入力する場合は、音符パネルで音符のデュレーションをクリックして選択する必要があります。
- 入力した音符の間には適切なデュレーションの暗黙の休符が自動的に表示されるため、音符の間に休符を入力する必要はありません。同様に、音符は必要に応じて自動的にタイのつながりとして表示されるため、タイを入力する必要はありません。
- また、音符の入力を無効にすることなく、音符と一緒に記譜記号も入力できます。

#### 前提条件



- 適切なピッチの入力設定を選択しておきます。
- 適切な音符に基づく記譜記号の入力設定を選択しておきます。
- 音符の入力に使用する MIDI デバイスを接続しておきます。
- 接続された MIDI デバイスからサウンドを再生するには、MIDI thru を有効にしておきます。
- 音符パネルを使用して音符のデュレーションを選択する場合は、左ゾーンを表示させておきます。
- 1人のプレーヤーに割り当てられた複数のインストゥルメント、またはスコアのページビューでは非表示のインストゥルメントに音符を入力する場合は、ギャラリービューを選択しておきます。
- 楽譜に調号が必要な場合は、その調号を入力しておきます。

#### 手順

1. 記譜モードで以下のいずれかの操作を行なって、音符入力を開始します。
  - 譜表上の音符を入力する位置にある音符または休符を選択して、**[Shift]+[N]** を押します。

補足

**[Return]** を押すこともできますが、強弱記号などの記譜記号を選択した状態で **[Return]** を押すと、音符の入力は開始せず、選択に対応するポップオーバーが開きます。

  - 譜表上の音符を入力する位置にある音符または休符を選択して、音符ツールボックスの「**音符入力を開始 (Start Note Input)**」 をクリックします。
  - 音符を入力する譜表をダブルクリックします。
2. 以下のいずれかの操作を行なって、「**ピッチをデュレーションの前に指定 (Pitch Before Duration)**」をオンにします。
  - **[K]** を押します。
  - 音符ツールボックスの「**ピッチをデュレーションの前に指定 (Pitch Before Duration)**」 をクリックします。
3. 複数の譜表に同時に音符を入力する場合は、それらの譜表にキュレットを伸ばします。
4. 臨時記号が調号に含まれていないピッチを入力する場合は、適切な臨時記号を選択します。
5. 必要に応じて、使用するアーティキュレーションを選択します。
6. 必要に応じて、使用する付点を選択します。
7. 以下のいずれかの操作を行なってピッチを選択します。
  - コンピューターのキーボードで対応する文字を押します。

#### ヒント

直前に入力した音符からの間隔が一番小さい音域の音符が自動的に選択されます。ただし、別の音域を強制することもできます。

- 直前に入力した音符の上に音符を入力するには、**[Shift]+[Alt/Opt]** を押しながら音符を表わすアルファベットを押します (例: **[Shift]+[Alt/Opt]+[A]**)。
- 直前に入力した音符の下に音符を入力するには、**[Ctrl]+[Alt] (Windows) 又は [Ctrl] (macOS)** を押しながら音符を表わすアルファベットを押します (例: **[Ctrl]+[Alt]+[A] (Windows) 又は [Ctrl]+[A] (macOS)**)。

ピッチをデュレーションの前に指定して音符を入力する場合、これらのキーボードショートカットを複数回押して上または下のオクターブを選択できます。

- 音符を入力する位置の譜表をクリックします。  
音符を入力する位置にマウスを合わせると、シャドー符頭が表示されます。
- キーボードパネル、フレットボードパネル、またはドラムパッドパネルで、入力する音符を演奏します。
- MIDI キーボードで音符を演奏します。


ピッチを選択すると、対応するピッチのシャドー音符がキャレットの位置に表示されます。ピッチは選択したあとに解除できます。

8. 以下のいずれかの操作を行なって、音符のデュレーションを選択して音符を入力します。

- 入力するデュレーションに対応する数字キーをコンピューターのキーボードで押します。  
たとえば、4分音符の場合は **[6]** を押します。8分音符の場合は **[5]**、16分音符の場合は **[4]** のように、短いデュレーションを入力するには小さい数字を押します。2分音符の場合は **[7]** のように、長いデュレーションを入力するには大きい数字を押します。
- 音符パネルで、入力するデュレーションをクリックします。

#### 補足

タブ譜に音符を入力する場合は、音符パネルでデュレーションをクリックする必要があります。

- キーボードパネル、フレットボードパネル、またはドラムパッドパネルのツールバーで、入力するデュレーションをクリックします。
9. 必要に応じて、以下のいずれかの操作を行なって、音符を入力することなく現在選択されている音符のデュレーションの分だけキャレットを進めます。
- **[Space]** を押します。
  - キーボードパネル、フレットボードパネル、またはドラムパッドパネルのツールバーで、「**キャレットを進める (Advance Caret)**」  をクリックします。

#### ヒント

別の方向および別の移動幅でキャレットを動かすこともできます。

10. 以下のいずれかの操作を行なって、音符の入力を停止します。

- **[Esc]** または **[Return]** を押します。
- 音符ツールボックスで、「**音符入力を開始 (Start Note Input)**」  をクリックします。

## 結果

初期設定では、音符はキャレットの位置またはクリックした位置に選択したデュレーションで入力され、入力に合わせて再生されます。ピッチは調号に従います。たとえば、G メジャーで **[F]** を押すと自動的に F# が入力されます。


付点またはアーティキュレーションを選択した場合は、それらを無効にするまでその設定で音符が入力されます。ただし、調号に含まれていない臨時記号は、選択したあとに入力する最初の音符にのみ追加されます。

Dorico Pro は、デュレーション、その位置で有効な拍子記号、小節内の音符の位置に応じて、音符を適切に記譜し、連桁で連結します。これには、必要に応じて音符をタイのつながりとして表示することも含まれます。

音符を入力せずにキャレットを進めると、Dorico Pro は音符間の間隔を適切なデュレーションの暗黙の休符で埋めます。

フレット楽器に属する音符の譜表に音符を入力すると、ナットに最も近い位置で演奏できる弦に自動的に音符が割り当てられます。この計算は音符ごとに個別に行なわれるため、複数の音符が同じ弦に割り当てられることがあります。同様に、MIDI キーボードを使用してデュレーションより先にピッチを設定してタブ譜に和音を入力すると、和音のすべての音符が同じ弦に割り当てられます。このような場合、タブ譜では音符が隣り合わせに表示され、色は緑になります。これらの音符はあとから個別に選択して弦を独自に割り当てることができます。

## 補足

- 入力した音符によって、キャレットの横に 4 分音符記号で示されている声部のキャレットの位置にある既存の音符が上書きされます。既存の声部に音符を追加する場合は、和音を入力できます。また、新しい声部に音符を入力することもできます。
- 音符を入力する際にピッチをデュレーションの前に指定するか後に指定するかは、**[K]** を押すか「**ピッチをデュレーションの前に指定 (Pitch Before Duration)**」 をクリックしていつでも切り替えることができます。デュレーションをピッチの前に指定する方法は、たとえば同じデュレーションの音符を連続して入力する場合に便利です。
- 「**記譜オプション (Notation Options)**」では、デフォルトの連桁、音符、休符のグループ化の設定をフローごとに個別に変更できます。個々の拍子記号内のカスタム連桁グループを指定することもできます。
- 音符を入力する際にピッチをデュレーションの前に指定するか後に指定するかのデフォルト設定は、「**環境設定 (Preferences)**」の「**音符の入力と編集 (Note Input and Editing)**」ページで変更できます。

## 手順終了後の項目

音符は入力後に異なるリズム上の位置や別の譜表に移動できます。

符頭に個別に括弧を表示することもできます。

## 関連リンク

[音符に基づく記譜記号の入力設定を変更する \(238 ページ\)](#)

[ピッチの入力設定の変更 \(238 ページ\)](#)

[MIDI thru の有効化/無効化 \(240 ページ\)](#)

[音符ツールボックス \(219 ページ\)](#)

[キーボードパネル \(229 ページ\)](#)

[フレットボードパネル \(231 ページ\)](#)

[ドラムパッドパネル \(233 ページ\)](#)

[音符の入力 \(248 ページ\)](#)

[音符の入力中の音域の選択 \(251 ページ\)](#)

[MIDI 入力中の臨時記号の選択 \(271 ページ\)](#)

[ゾーンの表示/非表示の切り替え \(48 ページ\)](#)

[ギャラリービューまたはページビューへの切り替え \(54 ページ\)](#)

- [音符パネル \(223 ページ\)](#)
- [リズムグリッド \(241 ページ\)](#)
- [キャレット \(242 ページ\)](#)
- [和音の入力 \(278 ページ\)](#)
- [複数の声部への音符の入力 \(257 ページ\)](#)
- [既存の音符の上/下に音符を追加 \(284 ページ\)](#)
- [記譜記号の入力 \(298 ページ\)](#)
- [MIDI 入力デバイスの有効化/無効化 \(297 ページ\)](#)



## 付点音符の入力


「付点音符 (Dotted Notes)」ツールを使用すると、付点音符の入力や既存の音符への付点の追加を行なえます。最大で4つの付点が付いた音符を入力できます。


### 補足


- 以下の手順は、デフォルトの設定である、デュレーションを設定後にピッチを設定する順番での音符の入力について説明します。デュレーションより先にピッチを設定するように指定することもできます。
- これらの手順は、音符を入力する前に付点を選択する方法を説明しています。ただし、音符の入力後に付点を指定したい場合はこの設定を変更できます。
- 装飾音符に付点を追加することはできません。




### 手順

- 記譜モードで、以下のいずれかの操作を行ないます。
  - 音符の入力を開始します。
  - 付点を追加する既存の音符を選択します。
- 複数の譜表に同時に付点音符を入力する場合は、それらの譜表にキャレットを伸ばします。
- 以下のいずれかの操作を行なって、音符のデュレーションを選択します。
  - 入力するデュレーションに対応する数字キーをコンピューターのキーボードで押します。  
たとえば、4分音符の場合は **[6]** を押します。8分音符の場合は **[5]**、16分音符の場合は **[4]** のように、短いデュレーションを入力するには小さい数字を押します。2分音符の場合は **[7]** のように、長いデュレーションを入力するには大きい数字を押します。
  - 音符パネルで、入力するデュレーションをクリックします。
  - キーボードパネル、フレットボードパネル、またはドラムパッドパネルのツールバーで、入力するデュレーションをクリックします。
- 以下のいずれかの操作を行なって、「付点音符 (Dotted Notes)」をオンにします。
  - [.]** を押します。
  - 任意の音符のデュレーションのキーボードショートカットを2回押します。  
たとえば、付点4分音符の場合は **[6]** をすばやく2回押します。
  - 音符ツールボックスの「付点音符 (Dotted Notes)」 をクリックします。
- 必要に応じて、以下のいずれかの操作を行なって、付点の数を変更します。
  - [Alt/Opt]+[.]** を押して、付点の数を順に切り替えます。
  - 音符ツールボックスの「付点音符 (Dotted Notes)」 をクリックしたままにしてから、入力する付点の数をクリックします。

音符ツールボックスの「付点音符 (Dotted Notes)」 のマークは、現在の付点の数に応じて変化します。最大で4つの付点が付いた音符を入力できます。

6. 必要に応じて、以下のいずれかの操作を行なって「**デュレーションを強制 (Force Duration)**」をオンにします。
  - **[O]** を押します。
  - 音符ツールボックスの「**デュレーションを強制 (Force Duration)**」  をクリックします。

「**デュレーションを強制 (Force Duration)**」  がオンになっていない場合、小節内の位置およびその位置で有効な拍によっては、入力した音符が付点音符ではなくタイでつながれた音符として表示されることがあります。
7. 使用する付点音符を入力します。

「**付点音符 (Dotted Notes)**」  ツールは、別の音符のデュレーションを選択する、またはツールをオフにするまで、有効な状態のままとなります。
8. もう一度 **[.]** を押すか「**付点音符 (Dotted Notes)**」  をクリックして「**付点音符 (Dotted Notes)**」をオフにします。
9. 以下のいずれかの操作を行なって、音符の入力を停止します。
  - **[Esc]** または **[Return]** を押します。
  - 音符ツールボックスで、「**音符入力を開始 (Start Note Input)**」  をクリックします。

#### 結果

音符の入力中は、「**付点音符 (Dotted Notes)**」をオフにするか音符のデュレーションを変更するまで音符が付点音符として入力されます。

複数の既存の音符に付点を追加したことで音符同士が重なる場合、選択した最後の音符が削除されるのを防ぐため、選択した音符のデュレーションが Dorico Pro によって調整されます。

#### 例



8 分音符を含むフレーズの例



全体を選択して付点を追加後の例

#### 関連リンク

- [音符と休符のグループ化 \(1136 ページ\)](#)
- [音符ツールボックス \(219 ページ\)](#)
- [音符パネル \(223 ページ\)](#)
- [キャレット \(242 ページ\)](#)
- [挿入モード \(491 ページ\)](#)
- [和音モード \(280 ページ\)](#)
- [音符/休符のデュレーションの選択 \(285 ページ\)](#)
- [キャレットの有効化/無効化 \(246 ページ\)](#)
- [複数の譜表にキャレットを伸ばす \(246 ページ\)](#)
- [挿入モードでの音符の挿入 \(262 ページ\)](#)
- [音符に基づく記譜記号の入力設定を変更する \(238 ページ\)](#)





## 複数の声部への音符の入力

初期設定では、キャラットの横の符尾が上向きの4分音符記号で示されているように、符尾が上向きの最初の声部に音符が入力されます。音符の入力中は他の声部に直接音符を入力できるほか、必要に応じて声部を切り替えることができます。

また、すでに音符がある譜表上に新しい声部を作成し、その譜表上の別の任意の場所でこれらの声部に音符を入力することもできます。

### 手順

1. 記譜モードで、複数の声部を入力する位置にある譜表上のアイテムを選択します。
2. 以下のいずれかの操作を行なって、音符の入力を開始します。
  - **[Shift]+[N]** を押します。
  - 音符ツールボックスで、「**音符入力を開始 (Start Note Input)**」  をクリックします。
  - 譜表をダブルクリックします。
3. 以下のいずれかの操作を行なって、音符を入力する声部を選択します。
  - 声部を新規作成するには、**[Shift]+[V]** を押すか、音符ツールボックスで「**声部を作成 (Create Voice)**」  をクリックします。

新しい声部が追加されると、キャラットの横の4分音符記号の横にプラス記号が表示されます。この4分音符記号は符尾の方向を表わし、4分音符の横の数字は声部の番号を表わします(存在する場合)。




符尾が下向きの1つめの声部を追加したときのキャラット

### ヒント

必要な回数だけ **[Shift]+[V]** を押しても構いません。たとえば、音符が含まれていない譜表上に新しい声部を作成すると、符尾が下向きの1つめの声部に音符を入力できますが、符尾が上向きの2つめの声部に音符を入力したければ、すぐに別の新しい声部を作成することもできます。

音符が含まれている声部だけが保持されます。

- 既存の声部を選択するには、**[V]** を押すか、音符ツールボックスで「**次の声部 (Next Voice)**」  をクリックして、譜表上のアクティブな声部の中から声部を順に切り替えます。

### 補足

- 声部は何度でも切り替えることができます。
- 1つの譜表に3つ以上の声部がある場合は、設定された順序でのみすべての声部を順に切り替えることができます。たとえば、符尾が上向きの2つの声部と符尾が下向きの2つの声部がある場合の順序は、符尾が上向きの声部1、符尾が下向きの声部1、符尾が下向きの声部2、符尾が上向きの声部2となります。

4. 任意の音符を入力します。
5. 以下のいずれかの操作を行なって、音符の入力を停止します。

- **[Esc]** または **[Return]** を押します。
- 音符ツールボックスで、「**音符入力を開始 (Start Note Input)**」  をクリックします。

#### 結果

キャラットの横に 4 分音符記号で示されている声部に音符が入力されます。

別の声部にすでに音符が含まれている譜表上で新しい声部に音符を入力した場合、同じ位置にすでに存在する音符の符尾の方向は、必要に応じて自動的に変更されます。必要に応じて、別の声部の音符の周りに休符が表示されます。

#### 補足

- 作成しても、音符を入力しなかった声部は削除されます。
- どの音符がどの声部に含まれるかを確認するために声部のカラーを表示できます。さらに、同じ声部の同じリズム上の位置にある単一または複数の音符を選択すると、ステータスバーにピッチが表示され、キーボードパネルに鍵盤を押さえた状態として表示されます。

#### 例



符尾が上向きの声部 1 に音符を入力中のキャラット



符尾が下向きの声部 1 に音符を入力中のキャラット



新規の符尾が上向きの声部 2 に音符を入力中のキャラット

#### 関連リンク




- [キャラット \(242 ページ\)](#)
- [音符ツールボックス \(219 ページ\)](#)
- [音符パネル \(223 ページ\)](#)
- [リズムグリッド \(241 ページ\)](#)
- [音符の入力 \(248 ページ\)](#)
- [ピッチをデレーションの前に指定して音符を入力する \(251 ページ\)](#)
- [特定の声部に小節休符を入力する \(273 ページ\)](#)
- [既存の音符の上/下に音符を追加 \(284 ページ\)](#)
- [既存の音符の声部を変更する \(507 ページ\)](#)
- [声部 \(1858 ページ\)](#)
- [符尾の方向 \(1416 ページ\)](#)
- [複声部における暗黙の休符 \(1642 ページ\)](#)
- [休符の削除 \(1646 ページ\)](#)
- [未使用の声部 \(1864 ページ\)](#)
- [声部のフローごとの記譜オプション \(1859 ページ\)](#)
- [ディヴィジ \(1722 ページ\)](#)
- [コンデンシング \(799 ページ\)](#)
- [ステータスバー \(42 ページ\)](#)
- [キーボードパネル \(229 ページ\)](#)
- [対立する声部での符頭の重なりを許可する/禁止する \(1860 ページ\)](#)
- [追加の声部内の小節休符を表示/非表示にする \(1648 ページ\)](#)
- [スラッシュ領域内の音符を表示/非表示にする \(1632 ページ\)](#)

## スラッシュ付き声部への音符の入力

ピッチを指定せずに正確なリズムを指示したい場合など、複数のスラッシュ付き声部に音符を入力できます。初期設定では、最初のスラッシュ付き声部の符尾は上向きですが、符尾ありまたは符尾なしのスラッシュ付き声部を追加して何度でも切り替えることができます。

すでに音符がある譜表上の新規のスラッシュ付き声部に音符を入力することもできます。譜表のいずれかの場所にスラッシュ付き声部を作成すると、同じ譜表上の別の任意の場所に、そのスラッシュ付き声部の音符を入力できます。

### 手順

1. 記譜モードで、スラッシュ付き声部を入力する位置にある譜表上のアイテムを選択します。
2. 以下のいずれかの操作を行なって、音符の入力を開始します。
  - **[Shift]+[N]** を押します。
  - 音符ツールボックスで、「音符入力を開始 (Start Note Input)」  をクリックします。
  - 譜表をダブルクリックします。
3. 以下のいずれかの操作を行なって、音符を入力するスラッシュ付き声部を選択します。
  - スラッシュ付き声部を新規作成するには **[Shift]+[Alt/Opt]+[V]** を押します。また、音符ツールボックスの「声部を作成 (Create Voice)」  をクリックしたままにしてから、「スラッシュ付き声部を作成 (Create Slash Voice)」  をクリックすることでも作成できます。

新しい声部が追加されると、キャレットの横の音符記号がスラッシュ音符に変わり、その横にプラス記号が表示されます。このスラッシュ音符記号は符尾の方向を表わし、スラッシュ音符記号の横の数字は声部の番号を表わします (存在する場合)。




符尾が下向きの1つめのスラッシュ付き声部を追加したときのキャレット

### ヒント

必要な回数だけ **[Shift]+[Alt/Opt]+[V]** を押しても構いません。たとえば、スラッシュ付き声部に音符が含まれていない譜表上に新しいスラッシュ付き声部を作成すると、符尾が上向きの1つめのスラッシュ付き声部に音符を入力できます。

また、符尾が下向きのスラッシュ付き声部に音符を入力したければ、すぐに2つめの新しいスラッシュ付き声部を作成することも、符尾なしのスラッシュ付き声部に音符を入力したければ、3つめの新しいスラッシュ付き声部を作成することもできます。

音符が含まれている声部だけが保持されます。

- 既存のスラッシュ付き声部を選択するには、**[V]** を押すか、音符ツールボックスで「次の声部 (Next Voice)」  をクリックして、譜表上のアクティブな声部の中から声部を順に切り替えます。
4. 任意の音符を入力します。

スラッシュ付き声部の音符は、ピッチに関係なく譜表上の同じ位置に表示されます。初期設定では、これは譜表の第3線ですが、スラッシュ付き声部が複数ある場合は変化します。

#### 補足

初期設定では、スラッシュ付き声部の音符は再生されません。ただし、スラッシュ付き声部を再生に含めた場合、スラッシュ付き声部の音符は入力時のピッチで再生されます。

5. 以下のいずれかの操作を行なって、音符の入力を停止します。

- **[Esc]** または **[Return]** を押します。
- 音符ツールボックスで、「**音符入力を開始 (Start Note Input)**」  をクリックします。

#### 結果

キャレットの指示記号で示されているように、音符が新しいスラッシュ付き声部に入力されます。キャレットの横のスラッシュ音符記号は、現在選択されている、音符が入力される声部を示すために変化します。

声部は何度でも切り替えることができます。

#### 補足

- 別の声部/スラッシュ付き声部にすでに音符が含まれている譜表上で新しいスラッシュ付き声部に音符を入力した場合、同じ位置にすでに存在する音符の符尾の方向とスラッシュ付き声部の譜表上の位置は、必要に応じて自動的に変更されます。必要に応じて、別の声部の音符の周りに休符が表示されます。
- 1つの譜表にいずれかのタイプの声部が3つ以上ある場合は、設定された順序ですべての声部を順に切り替える必要があります。たとえば、符尾が上向き2つの声部と符尾が下向き2つの声部とスラッシュ付き声部がある場合の順序は、符尾が上向き1、符尾が下向き1、符尾が下向き2、符尾が上向き2、スラッシュ付き声部となります。
- 作成しても、音符を入力しなかった声部は削除されます。

#### 例



符尾が上向きのスラッシュ付き声部1に音符を入力中のキャレット



符尾が下向きのスラッシュ付き声部1に音符を入力中のキャレット



新規の符尾なしのスラッシュ付き声部に音符を入力中のキャレット



新規の符尾が上向きのスラッシュ付き声部2に音符を入力中のキャレット

#### 関連リンク

- [音符ツールボックス \(219 ページ\)](#)
- [スラッシュ付き声部 \(1627 ページ\)](#)
- [スラッシュ符頭 \(1625 ページ\)](#)
- [打楽器キットにスラッシュ符頭の声部を追加する \(1628 ページ\)](#)
- [スラッシュ領域の入力 \(450 ページ\)](#)
- [既存の音符の声部を変更する \(507 ページ\)](#)
- [スラッシュ付き声部を再生に含める/除外する \(1629 ページ\)](#)
- [符尾の方向 \(1416 ページ\)](#)
- [複声部における暗黙の休符 \(1642 ページ\)](#)
- [休符の削除 \(1646 ページ\)](#)

## 複数の譜表に音符と記譜記号を入力する


音符や記譜記号を複数の譜表に同時に入力でき、MIDI キーボードで演奏した和音の音符を適切な譜表に自動的にエクスポートすることもできます。たとえば、ピアノの上下両方の譜表に音符を入力したい場合や複数のインストゥルメントに同じ強弱記号を入力したい場合などに便利です。

複数の譜表への音符と記譜記号の入力が最も便利なのは、単一声部で記譜される有音程インストゥルメントが複数隣接している場合です。

### 前提条件


音符の入力中に和音の個々の音符を複数の譜表にエクスポートする場合は、MIDI キーボードを接続しておきます。和音の個々の音符を個別の譜表に入力できるのは、MIDI キーボードを使用する場合のみです。

### 手順

1. 記譜モードで、複数の譜表に音符または記譜記号を入力する位置にあるアイテムを選択します。
2. 以下のいずれかの操作を行なって、音符の入力を開始します。
  - **[Shift]+[N]** を押します。
  - 音符ツールボックスで、「**音符入力を開始 (Start Note Input)**」  をクリックします。
  - 譜表をダブルクリックします。
3. 以下のいずれかの操作を行なって、キャレットを別の譜表まで伸ばします。
  - 上の譜表に伸ばすには、**[Shift]+[↑]** を押します。
  - 下の譜表に伸ばすには、**[Shift]+[↓]** を押します。
4. 必要に応じて、入力する譜表の数だけ手順3を繰り返します。
5. 任意の音符や記譜記号を入力します。

### 補足

音符はコンピューターキーボードまたは MIDI キーボードを使用して入力する必要があります。マウスを使用すると、音符はクリックした譜表にのみ入力されます。同様に、複数の譜表に記譜記号を入力するには、対応するポップオーバーを使用する必要があります。対応するパネルを使用して入力した記譜記号は、一番上の譜表にのみ入力されます。

6. 以下のいずれかの操作を行なって、音符の入力を停止します。
  - **[Esc]** または **[Return]** を押します。
  - 音符ツールボックスで、「**音符入力を開始 (Start Note Input)**」  をクリックします。

### 結果

入力した音符と記譜記号が、キャレットが伸びているすべての譜表のキャレットの位置に入力されます。大譜表を使用するインストゥルメントの上下両方の譜表にキャレットが伸びている場合は、音符のピッチに応じて、上下どちらかの譜表に音符が入力されます。ただし、これは追加の譜表を持つ大譜表を使用するインストゥルメントには適用されません。

MIDI キーボードを使用して音符を入力すると、入力した和音の個々の音符が各譜表に自動的にエクスポートされます。

## ヒント

和音の音符を複数の譜表にエクスポートするか、すべての音符をすべての譜表に入力するかは、「**音符入力オプション (Note Input Options)**」の「**MIDI 入力 (MIDI Input)**」ページで変更できます。

### 関連リンク

[キャレット \(242 ページ\)](#)

[音符パネル \(223 ページ\)](#)

[音符の入力 \(248 ページ\)](#)

[和音の入力 \(278 ページ\)](#)

[ピッチをデュレーションの前に指定して音符を入力する \(251 ページ\)](#)

[アイテムの入力位置の設定を変更する \(237 ページ\)](#)

[記譜記号の入力 \(298 ページ\)](#)

[「環境設定 \(Preferences\)」ダイアログ \(63 ページ\)](#)

[「音符入力オプション \(Note Input Options\)」ダイアログ \(921 ページ\)](#)

[複数の譜表への楽譜のエクスポート \(510 ページ\)](#)

[「MIDI インポートオプション \(MIDI Import Options\)」ダイアログ \(95 ページ\)](#)

## 挿入モードでの音符の挿入

挿入モードでは、音符を上書きすることなく単一の声部の既存の音符の前に音符を入力できます。この場合、1つ前の位置に新しい音符が入力されると同時に既存の音符が後ろに移動します。

### 補足

- 以下の手順は、デフォルトの設定である、デュレーションを設定後にピッチを設定する順番での音符の入力について説明します。デュレーションより先にピッチを設定するように指定することもできます。
- MIDI キーボードを使用する場合は挿入モードでのみ和音を入力できます。



### 手順

1. 記譜モードで音符を入力します。
2. 以下のいずれかの操作を行なって、挿入モードをオンにします。
  - **[I]** を押します。
  - 音符ツールボックスの「**挿入 (Insert)**」**[I]** をクリックします。

挿入モードでは、キャレットの上にV字、下に逆向きのV字が表示されます。挿入モードの範囲の影響を受ける譜表には、すでにキャレットが伸ばされていない場合は点線が表示されます。



3. 適切な挿入モードの範囲を選択します。
4. 必要に応じて、挿入モードの範囲が「**声部 (Voice)**」**[V]** に設定されている場合、適切な声部が選択された状態になるまで **[V]** を押します。
5. 必要に応じて、挿入モードの範囲が「**プレーヤー (Player)**」**[P]** または「**声部 (Voice)**」**[V]** に設定されており、挿入モードで複数の譜表に一度に音符を入力するには、対象となる譜表すべてにキャレットを伸ばします。

6. 任意の音符を入力します。
7. 必要に応じて、再度 **[I]** を押すか「挿入 (Insert)」  をクリックして挿入モードを無効にし、通常の音符入力に戻ります。
8. 以下のいずれかの操作を行なって、音符の入力を停止します。
  - **[Esc]** または **[Return]** を押します。
  - 音符ツールボックスで、「音符入力を開始 (Start Note Input)」  をクリックします。

#### 結果

キャレットのあとの位置にある既存の音符を上書きすることなく、キャレットの位置またはクリックした位置に音符が入力されます。かわりに、キャレットのあとの既存の音符は挿入した音符の後ろに移動します。

挿入モードの影響を受ける声部や譜表は、挿入モードの範囲によって異なります。

#### 関連リンク

- [キャレット \(242 ページ\)](#)
- [挿入モード \(491 ページ\)](#)
- [挿入モードの範囲 \(492 ページ\)](#)
- [挿入モードの範囲の変更 \(493 ページ\)](#)
- [音符ツールボックス \(219 ページ\)](#)
- [リズムグリッド \(241 ページ\)](#)
- [音符の入力 \(248 ページ\)](#)
- [和音の入力 \(278 ページ\)](#)
- [手動でのキャレットの移動 \(247 ページ\)](#)

## 無音程打楽器の音符を入力する

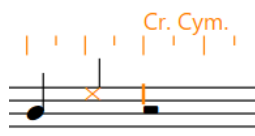
個別の無音程打楽器および打楽器キットのすべての打楽器に対し、個別のインストゥルメントに対し演奏技法固有の符頭を選択することも含めて、あらゆる表示タイプを使用して音符を入力できます。

打楽器キットに音符を入力するときのキャレットは、有音程楽器または個別の打楽器の譜表に音符を入力するときのキャレットよりも短く表示されます。打楽器キットのキャレットは、譜表の高さ全体を占めるのではなく、譜表上の特定の位置に配置されます。

キャレットで現在選択している打楽器またはスラッシュ付き声部の名前と適用される演奏技法は、リズムグリッドディスプレイのすぐ上に表示されます。

#### 補足

- 五線譜の表示タイプを使用している場合は、打楽器キットのスラッシュ付き声部にのみ音符を入力できます。
- 以下の手順は、デフォルトの設定である、デュレーションを設定後にピッチを設定する順番での音符の入力について説明します。デュレーションより先にピッチを設定するように指定することもできます。



五線譜キット表示でのインストゥルメントの音符の追加

#### 前提条件

演奏技法特有の符頭を打楽器に追加して使用する場合は、インストゥルメントごとに使用する演奏技法を「**打楽器の演奏技法 (Percussion Instrument Playing Techniques)**」ダイアログで定義しておきます。


#### 手順

1. 記譜モードで、音符を入力する位置にある無音程打楽器またはキットの譜表上のアイテムを選択します。
2. 記譜モードで以下のいずれかの操作を行なって、音符入力を開始します。

- 譜表上の音符を入力する位置にある音符または休符を選択して、**[Shift]+[N]** を押します。

#### 補足

**[Return]** を押すこともできますが、強弱記号などの記譜記号を選択した状態で **[Return]** を押すと、音符の入力は開始せず、選択に対応するポップオーバーが開きます。

- 譜表上の音符を入力する位置にある音符または休符を選択して、音符ツールボックスの「**音符入力を開始 (Start Note Input)**」 をクリックします。
  - 音符を入力する譜表をダブルクリックします。
3. 打楽器キットに入力する場合は、必要に応じて、以下のいずれかの操作を行なってキット内の別のインストゥルメントまでキャレットを上下に動かします。
    - 上に動かすには **[↑]** を押します。
    - 下に動かすには **[↓]** を押します。
  4. 以下のいずれかの操作を行なって、音符のデュレーションを選択します。
    - 入力するデュレーションに対応する数字キーをコンピューターのキーボードで押します。  
たとえば、4分音符の場合は **[6]** を押します。8分音符の場合は **[5]**、16分音符の場合は **[4]** のように、短いデュレーションを入力するには小さい数字を押します。2分音符の場合は **[7]** のように、長いデュレーションを入力するには大きい数字を押します。
    - 音符パネルで、入力するデュレーションをクリックします。
    - キーボードパネル、フレットボードパネル、またはドラムパッドパネルのツールバーで、入力するデュレーションをクリックします。
  5. 音符を入力する前に、キャレットで現在選択されているインストゥルメントに適した演奏技法を選択します。
    - 演奏技法を上方向に順に切り替えるには、**[Alt/Opt]+[↑]** を押します。
    - 演奏技法を下方向に順に切り替えるには、**[Alt/Opt]+[↓]** を押します。
    - 使用する演奏技法のピッチを MIDI キーボードで演奏します。

#### 補足

演奏技法の MIDI ピッチは、「**環境設定 (Preferences)**」の「**音符の入力と編集 (Note Input and Editing)**」ページで定義できます。


6. 以下のいずれかの操作を行なって、音符を入力します。
  - すべてのキット表示タイプ/個別のインストゥルメント: リズムグリッドの上に表示されるインストゥルメントと演奏技法の音符を入力するには **[Y]** を押します。
  - すべてのキット表示タイプ/個別のインストゥルメント: 音符を入力する譜表上の、音符を入力する位置をクリックします。



- 五線譜表示: 「**環境設定 (Preferences)**」で設定した音部記号の譜表上の位置に従って、コンピューターキーボードの文字を押すか、MIDI キーボードで音符を演奏します。たとえば、「**ト音記号 (Treble G clef)**」が設定されているときに五線譜の第3線に割り当てられたインストゥルメントの音符を入力するには **[B]** を押します。
- グリッドおよび一線譜を使用するインストゥルメントの表示タイプ/個別のインストゥルメント: 現在、線上にキャレットが配置されているインストゥルメントの音符を入力するには、コンピューターキーボードで **[A]** から **[G]** のいずれかの音符名の文字を押すか、MIDI キーボードでいずれかの音符を演奏します。


#### 補足

「**環境設定 (Preferences)**」 > 「**音符の入力と編集 (Note Input and Editing)**」 > 「**音符の入力 (Note Input)**」で、それぞれのキット表示タイプに「**パーカッションマップを使用 (Use percussion map)**」と「**譜表上の位置を使用 (Use staff position)**」のどちらが設定されているかに応じて、MIDI キーボードで演奏される音符の解釈が変わります。

7. 必要に応じて、以下のいずれかの操作を行なって、音符を入力することなく現在選択されている音符のデュレーションの分だけキャレットを進めます。
  - **[Space]** を押します。
  - キーボードパネル、フレットボードパネル、またはドラムパッドパネルのツールバーで、「**キャレットを進める (Advance Caret)**」  をクリックします。

#### ヒント

別の方向および別の移動幅でキャレットを動かすこともできます。

8. 以下のいずれかの操作を行なって、音符の入力を停止します。
  - **[Esc]** または **[Return]** を押します。
  - 音符ツールボックスで、「**音符入力を開始 (Start Note Input)**」  をクリックします。

#### 結果

初期設定では、音符はキャレットの位置またはクリックした位置に選択したデュレーションで入力され、入力に合わせて再生されます。演奏技法を選択した場合、符頭は「**打楽器の演奏技法 (Percussion Instrument Playing Techniques)**」ダイアログまたは「**打楽器の符頭の上書き (Override Percussion Noteheads)**」ダイアログ (五線譜表示の場合のみ) でそれぞれのインストゥルメントおよび演奏技法に対して設定した通りに表示されます。

付点またはアーティキュレーションを選択した場合は、それらを無効にするまでその設定で音符が入力されます。

Dorico Pro は、デュレーション、その位置で有効な拍子記号、小節内の音符の位置に応じて、音符を適切に記譜し、連桁で連結します。これには、必要に応じて音符をタイのつながりとして表示することも含まれます。

音符を入力せずにキャレットを進めると、Dorico Pro は音符間の間隔を適切なデュレーションの暗黙の休符で埋めます。

#### ヒント

「**記譜オプション (Notation Options)**」では、デフォルトの連桁、音符、休符のグループ化の設定をフォローごとに個別に変更できます。個々の拍子記号内のカスタム連桁グループを指定することもできます。

#### 関連リンク

[音符ツールボックス \(219 ページ\)](#)

音符パネル (223 ページ)  
キャレット (242 ページ)  
打楽器キットと個々の打楽器インストゥルメント (1838 ページ)  
打楽器キットとドラムセット (156 ページ)  
プレーヤーへの空の打楽器キットの追加 (160 ページ)  
キットへの個別の打楽器インストゥルメントの結合 (161 ページ)  
無音程打楽器の演奏技法 (1839 ページ)  
演奏技法固有の符頭 (1840 ページ)  
「打楽器の演奏技法 (Percussion Instrument Playing Techniques)」ダイアログ (1840 ページ)  
演奏技法固有の符頭の変更 (1843 ページ)  
打楽器キット内のインストゥルメントの符尾の方向/声部を指定する (1856 ページ)  
打楽器キットにスラッシュ符頭の声部を追加する (1628 ページ)  
「打楽器キットを編集 (Edit Percussion Kit)」ダイアログ (157 ページ)  
Groove Agent SE からドラムセットパターンを読み込む (104 ページ)  
ピッチをデューレーションの前に指定して音符を入力する (251 ページ)  
音符と休符のグループ化 (1136 ページ)  
拍に従う連符グループ (1113 ページ)  
「記譜オプション (Notation Options)」ダイアログ (919 ページ)  
休符の削除 (1646 ページ)  
音符の入力 (248 ページ)

## 打楽器キットの音符入力の設定

無音程打楽器の楽譜を入力するときの動作は、有音程楽器のときとは異なります。無音程打楽器の入力には一般的なあらゆる方法を使用できますが、MIDI キーボードまたはコンピューターキーボードを使用するのが最も効率的です。

- 打楽器の入力に関するオプションは、「環境設定 (Preferences)」 > 「音符の入力と編集 (Note Input and Editing)」 > 「音符の入力 (Note Input)」にあります。

一方は五線譜への入力に関する一連のオプション、もう一方はグリッドと個々のインストゥルメントへの入力に関する一連のオプションです。

メインの選択は MIDI キーボードとコンピューターキーボードによる入力に影響します。

### パーカッションマップを使用 (Use percussion map)

パーカッションマップは、どの MIDI ノートがサウンドライブラリーの特定のパッチのどのサウンドを生成するかを定義します。たとえば、General MIDI パーカッションでは、C2 (ノート 36) がバスドラムを生成し、D2 (ノート 38) がスネアドラムを生成します。

特定のマッピングに詳しい場合は、入力にマッピングを直接使用すると便利かもしれません。

### 譜表上の位置を使用 (Use staff position)

このオプションは、「打楽器キットを編集 (Edit Percussion Kit)」ダイアログで定義した譜表上の位置を使用します。たとえば、ドラムセットでは通常、バスドラムは譜表の第 1 間に配置され、スネアドラムは第 3 間に配置されます。

ト音記号を使用した場合 (それぞれ F4 と C5) またはヘ音記号を使用した場合 (それぞれ A2 と E3) にどうなるかで譜表上の位置を考えることができます。

五線譜の譜表上の位置を解釈するのに使用する音部記号を選択できます。

- ト音記号 (Treble G clef)
- ヘ音記号 (Bass F clef)

「譜表上の位置を使用 (Use staff position)」を選択した場合、MIDI キーボードの 1 オクターブを指定して演奏技法の入力に使用できます。

初期設定では、「演奏技法を入力する MIDI キー (Input techniques from MIDI key)」オプションが MIDI ノート 48 に設定されています。これは、ミドル C (MIDI ノート 60) が C4 としてナンバリングされ

るミドル C のナンバリング変換を使用する場合、C3 となります。「MIDI Learn」 ボタンを押したあと MIDI キーボードで音符を演奏すると、開始ピッチを変更できます。開始ピッチが C3 の場合、それより上の音符は以下のように機能します。

- C3 (48): 前の演奏技法
- C#3 (49): 次の演奏技法
- D3 (50): マッピングされた最初の演奏技法
- Eb3 (51): マッピングされた 2 番めの演奏技法
- E3 (52): マッピングされた 3 番めの演奏技法

以下まで、同じように続きます。

- B3 (59): マッピングされた 10 番めの演奏技法

一般に、打楽器の入力では「**譜表上の位置を使用 (Use staff position)**」に設定することをおすすめします。「**パーカッションマップを使用 (Use percussion map)**」は通常、ドラムセットに音符を入力する場合で、かつ General MIDI パーカッションマップを覚えている場合にのみ役立ちます。

関連リンク

[「環境設定 \(Preferences\)」 ダイアログ \(63 ページ\)](#)

[「打楽器キットを編集 \(Edit Percussion Kit\)」 ダイアログ \(157 ページ\)](#)

[演奏技法固有の符頭の変更 \(1843 ページ\)](#)

[ミドル C のナンバリング変換を変更する \(55 ページ\)](#)

## 打楽器キットの音符の入力中のデフォルトの音符選択

打楽器キットの音符の入力中は、五線譜の表示タイプを使用するキットの譜表上の位置に対応するコンピューターキーボードの文字を押すことができます。たとえば、**[F]** を押して F の間または線に音符を入力できます。

「**環境設定 (Preferences)**」 > 「**音符の入力と編集 (Note Input and Editing)**」 > 「**音符の入力 (Note Input)**」で、打楽器キットへの音符の入力に関するオプションを設定できます。たとえば、譜表上の位置を使用して音符を決定したい場合は、「**キットまたはグリッドへの入力 (Input onto kit or grid)**」で「**譜表上の位置を使用 (Use staff position)**」を選択します。

譜表上の位置を「**ト音記号 (Treble G clef)**」に関連付けるように設定した場合、F は譜表の第 1 間または第 5 線を表わします。つまり、標準のドラムセットの場合は、キックドラムが第 1 間に、ライドシンバルが第 5 線になります。

有音程楽器で音符を入力すると、Dorico Pro はキャレットの現在の位置にどちらが近いかに基づいて、上または下の譜表上の位置を選択します。

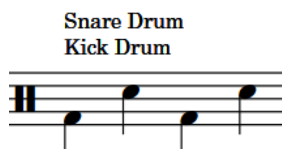
ただし、打楽器キットで音符を入力すると、Dorico Pro はキャレットの現在の位置に最も近い譜表上の位置ではなく、最後に入力した音符と符尾の方向が同じ音符の譜表上の位置を選択します。これにより、打楽器キットで使用される一般的な音符のパターンを簡単に入力できます。

たとえば、標準のドラムセットでキックドラムとスネアドラムの音符を入力するのは一般的なパターンです。キックドラムは第 1 間に、スネアドラムは第 3 間に入力されます。第 3 間は、第 1 間から 5 つめ、第 5 線から 4 つめの譜表上の位置です。

キックドラムは **[F]** を、スネアドラムは **[C]** を押して入力できます。

Dorico Pro でキットの音符を入力する際の符尾の方向のデフォルト設定は、**[F]** と **[C]** 交互に押すと、スネアドラムの入力後に第 5 線の方が近くても、キックドラムとスネアドラムの位置に音符が入力されるようになっています。

これは、キックドラムがスネアドラムと同じ符尾の向きと声部を使用するためです。



#### 補足

Dorico Pro では、譜表上の 1 つの声部にのみ音符が含まれている場合、声部に関係なく、譜表上の音符の位置に応じて符尾の方向が自動的に変更されます。

関連リンク

[符尾の方向 \(1416 ページ\)](#)

## タブ譜への音符の入力

標準の音符入力と同じ方法で、タブ譜に直接音符を入力できます。タブ譜に音符を入力する場合、キャレットは標準の五線譜に音符を入力するときよりも小さく表示され、和音の入力が常に有効であるかのように動作します。つまり、音符を別の位置に入力するにはキャレットを手動で進める必要があります。

#### 補足

以下の手順は、デフォルトの設定である、デュレーションを設定後にピッチを設定する順番での音符の入力について説明します。デュレーションより先にピッチを設定するように指定することもできます。


デュレーションより先にピッチを設定してタブ譜に音符を入力する場合は、音符パネルで音符のデュレーションをクリックして選択する必要があります。

#### 手順

1. 記譜モードで、音符を入力する位置にあるタブ譜上のアイテムを選択します。

#### 補足

現在のレイアウトに音符の譜表とタブ譜の両方が表示されている場合は、音符の譜表上のアイテムを選択し、音符の入力を開始したあとにキャレットをタブ譜に移動する必要があります。

2. 以下のいずれかの操作を行なって、音符の入力を開始します。
  - **[Shift]+[N]** を押します。
  - 音符ツールボックスで、「**音符入力を開始 (Start Note Input)**」  をクリックします。
  - 譜表をダブルクリックします。
3. 以下のいずれかの操作を行なって、音符のデュレーションを選択します。
  - 次に長いデュレーションを選択するには、**^** を押します。
  - 次に短いデュレーションを選択するには、**[-]** を押します。
  - 音符パネルで、入力するデュレーションをクリックします。
  - フレットボードパネルのツールバーで、入力するデュレーションをクリックします。
4. 以下のいずれかの操作を行なって、現在の弦に使用するピッチを入力します。
  - 入力するフレット番号に対応する数字キーを、コンピューターのキーボードまたはテンキーで押します。たとえば、第 6 フレットなら **[6]** を押します。
  - 10 以上のフレット番号の場合は、2 つの数字をすばやく押します。

- コンピューターのキーボードで対応する文字を押します。

#### 補足

文字を使用する場合、対応する弦のナットに最も近いオクターブが自動的に選択されます。

- フレットボードパネルで、対応する弦とフレットポジションをクリックします。
  - MIDI キーボードで音符を演奏します。
5. 以下のいずれかの操作を行なって、キャレットを上下に動かし、同じ位置のさまざまな弦に音符を入力します。
- 上に動かすには **[↑]** を押します。
  - 下に動かすには **[↓]** を押します。
6. 以下のいずれかの操作を行なって、キャレットを別の位置に動かします。
- 現在のリズムグリッドの間隔に従ってキャレットを移動するには、**[→]**/**[←]** を押します。
  - 現在選択中の音符のデュレーションに従ってキャレットを次の位置に進めるには、**[Space]** を押すか、フレットボードパネルのツールバーで「**キャレットを進める (Advance Caret)**」**[→]** をクリックします。
  - 次/前の小節にキャレットを移動するには、**[Ctrl]/[command]+[→]** / **[Ctrl]/[command]+[←]** を押します。

#### 結果

初期設定では、音符はキャレットが表示された弦のキャレットの位置に選択したデュレーションで入力され、入力に合わせて再生されます。音符はキャレットを手動で移動するまでそのキャレットの位置に続けて入力され、同じ弦の前の音符は上書きされます。現在の弦で演奏できない音符を入力しようとすると、その音符を演奏できる最も近い弦に、既存の音符に追加される形で入力されます。

同じ位置で同じ弦に複数の音符を入力した場合、タブ譜では音符が隣り合わせに表示され、色は緑になります。同様に、MIDI キーボードを使用してデュレーションより先にピッチを設定してタブ譜に和音を入力すると、和音のすべての音符が同じ弦に割り当てられます。これらの音符はあとから個別に選択して弦の割り当てを変更できます。

#### 関連リンク

[キャレット \(242 ページ\)](#)

[手動でのキャレットの移動 \(247 ページ\)](#)

[フレットボードパネル \(231 ページ\)](#)

[タブ譜 \(1737 ページ\)](#)

[音符の譜表とタブ譜を表示または非表示にする \(1739 ページ\)](#)

[タブ譜のタイでつながれた音符の外観を変更する \(1741 ページ\)](#)

[タブ譜で音符の囲み線を表示または非表示にする \(1742 ページ\)](#)

[タブ譜で音符に割り当てられた弦の変更 \(1740 ページ\)](#)

[ピッチをデュレーションの前に指定して音符を入力する \(251 ページ\)](#)

## 臨時記号の入力

臨時記号は音符の入力中に入力することも、既存の音符に追加することもできます。また、既存の音符の臨時記号を変更することもできます。

#### 補足

- 調号の一部である臨時記号は自動的に入力されます。たとえば、G メジャーで **[F]** を押すと自動的に F# が入力されます。臨時記号を指定する必要があるのは、たとえば F<sub>b</sub> を入力する場合などに限られます。

これは MIDI キーボードを使用しているときにも当てはまりますが、自動的に選択された音符が期待する音符でない場合は書き換えることもできます。

- これらの手順は、各音符を入力する前に臨時記号を選択する方法を説明しています。ただし、音符の入力後に臨時記号を指定したい場合はこの設定を変更できます。
- 

#### 前提条件

入力するカスタムの臨時記号を、必要に応じてカスタムの調性システムに作成しておきます。

---

#### 手順

1. 記譜モードで、以下のいずれかの操作を行ないます。
  - 音符の入力を開始します。
  - 臨時記号を追加する、または臨時記号を変更する既存の音符を選択します。
2. 以下のいずれかの操作を行なって、入力する臨時記号を選択します。
  - フラットの臨時記号を追加するには **[b]** を押します。
  - シャープの臨時記号を追加するには **#** を押します。
  - ナチュラルの臨時記号を追加するには **[0]** を押します。
  - 音符パネルで、入力する臨時記号をクリックします。

#### ヒント

ダブルシャープ、ダブルフラット、微分音の臨時記号など追加の臨時記号は、調号、調性システム、臨時記号パネルの「**臨時記号 (Accidentals)**」セクションにあります。

---

3. 音符の入力中は、選択した臨時記号を使用して音符を入力します。
- 

#### 結果

選択した既存の音符に臨時記号が追加されます。臨時記号が異なる既存の音符を選択した場合、それらの音符には選択した臨時記号が適用されます。

音符の入力中は、次に入力する音符にのみ選択した臨時記号が入力されます。後続の音符には、その都度臨時記号を選択しなおす必要があります。

#### 補足

- 臨時記号の有効範囲ルールによっては、同じ音域の同じ音符の後続の臨時記号が同じ小節に表示されないことがあります。
  - MIDI デバイスを使用して音符を入力すると、必要に応じて自動的に臨時記号が表示されます。調号とコンテキストに基づいてシャープ、フラット、またはナチュラルが選択されます。音符の表記はあとから変更して、臨時記号の異なる異名同音として表示できます。
- 

#### 関連リンク

[音符パネル \(223 ページ\)](#)

[ゾーンの表示/非表示の切り替え \(48 ページ\)](#)

[臨時記号 \(1051 ページ\)](#)

[音符の入力 \(248 ページ\)](#)

[音符に基づく記譜記号の入力設定を変更する \(238 ページ\)](#)

[音符の書き換え \(523 ページ\)](#)

[個々の音符のピッチの変更 \(518 ページ\)](#)

[臨時記号のサイズの変更 \(1054 ページ\)](#)

[臨時記号の有効範囲ルール \(1060 ページ\)](#)

[調性システムの変更 \(1358 ページ\)](#)

- [カスタムの調性システム \(1003 ページ\)](#)
- [カスタムの臨時記号を作成/編集する \(1005 ページ\)](#)
- [カスタムの調性システムの作成 \(1003 ページ\)](#)

## MIDI 入力中の臨時記号の選択

Dorico Pro は MIDI データを解釈して臨時記号を作成し、プリセットルールに従って音符の表記を決定します。

Dorico Pro では、必要に応じて臨時記号が自動的に表示されます。調号とコンテキストに基づいてシャープまたはフラットが選択されます。

このアルゴリズムには、連続する音符や和音の間隔と調号が反映されます。そのため、Dorico Pro はシャープの付いた調ではシャープの臨時記号を、フラットの付いた調ではフラットの臨時記号を優先的に選択します。臨時記号の表記を変更した場合、スコア上でその音符を再び使用すると、Dorico Pro は常にその表記設定に従います。

調号の範囲外の臨時記号が付いた音符を入力した場合、数字が増えるとシャープが使用され、数字が減るとフラットが使用されます。また、表記も垂直方向に計算されます。つまり、ディミニッシュ 4th ではなくメジャー 3rd のように、できるだけシンプルな間隔が生成されます。

初期設定では、楽譜がどのように展開するかに応じて、臨時記号の表記がさかのぼって変更されます。たとえば、C メジャーで C-E-G# のピッチシーケンスを入力したあと Gb を入力すると、G# は Ab と表記されます。

この設定は無効にできます。

## 臨時記号の自動書き換えの無効化

臨時記号がさかのぼって変更されないように、臨時記号の自動書き換えをオフにできます。

---

手順

- [Ctrl]/[command]+[Shift]+[I]** を押して「**音符入力オプション (Note Input Options)**」を開きます。
  - カテゴリーリストで「**MIDI 入力 (MIDI Input)**」をクリックします。
  - 「**音符の表記をさかのぼって自動調整する (Allow spelling of notes to be adjusted retrospectively)**」をオフにします。
  - 「**適用 (Apply)**」をクリックしてから「**閉じる (Close)**」をクリックします。
- 

## 休符の入力

Dorico Pro は、入力した音符の間隔に、必要に応じて自動的に休符を表示します。ただし、その小節に音符を入力することなくプレーヤーの特定の拍にフェルマータを表示する場合など、休符を手動で入力することもできます。






補足

これらの手順は、休符を入力する前にデュレーションを選択する方法を説明しています。ただし、「**ピッチをデュレーションの前に指定 (Pitch Before Duration)**」がオンのときに休符を入力することもできます。その場合は手順 7 が不要です。

---

手順

- 記譜モードで、休符を入力する位置にある譜表上のアイテムを選択します。
- 以下のいずれかの操作を行なって、音符の入力を開始します。

- **[Shift]+[N]** を押します。
  - 音符ツールボックスで、「**音符入力を開始 (Start Note Input)**」  をクリックします。
  - 譜表をダブルクリックします。
3. 複数の譜表に同時に休符を入力する場合は、それらの譜表にキャレットを伸ばします。
  4. 以下のいずれかの操作を行なって、休符の入力を開始します。
    - **[,]** を押します。
    - 音符ツールボックスの「**休符 (Rests)**」  をクリックします。
  5. 以下のいずれかの操作を行なって、「**デュレーションを強制 (Force Duration)**」をオンにします。
    - **[O]** を押します。
    - 音符ツールボックスの「**デュレーションを強制 (Force Duration)**」  をクリックします。
  6. 使用する休符のデュレーションを選択します。
  7. 以下のいずれかの操作を行なって、休符を入力します。
    - **[Y]** または **[A]** から **[G]** のいずれかの文字を押します。
    - 休符を入力する位置の譜表をクリックします。  
休符を入力する位置にマウスを合わせると、シャドウ休符が表示されます。
    - MIDI キーボードで音符を演奏します。
  8. 必要に応じて、もう一度 **[,]** を押すか「**休符 (Rests)**」  をクリックして休符の入力を終了します。
  9. 以下のいずれかの操作を行なって、音符の入力を停止します。
    - **[Esc]** または **[Return]** を押します。
    - 音符ツールボックスで、「**音符入力を開始 (Start Note Input)**」  をクリックします。

---

#### 結果

選択したデュレーションの休符が入力されます。「**デュレーションを強制 (Force Duration)**」をオンにしていない場合、Dorico Pro は音符に対する位置に応じて、また現在の拍子に従って隣接する休符を自動的に結合します。

#### 関連リンク

[休符 \(1640 ページ\)](#)

[暗黙の休符と明示的な休符 \(1641 ページ\)](#)

[音符と休符のグループ化 \(1136 ページ\)](#)

[音符ツールボックス \(219 ページ\)](#)

[音符パネル \(223 ページ\)](#)

[キャレット \(242 ページ\)](#)

[複数の譜表にキャレットを伸ばす \(246 ページ\)](#)

[音符/休符のデュレーションの選択 \(285 ページ\)](#)

[音符/休符のデュレーションの強制 \(288 ページ\)](#)

[音符の入力 \(248 ページ\)](#)

[ピッチをデュレーションの前に指定して音符を入力する \(251 ページ\)](#)





## 特定の声部に小節休符を入力する

複声部に楽譜を入力した場合、第2声部に間隔があれば、通常は休符が自動的に作成されます。ただし、厳密な対位法による楽譜で第2声部を明示的な小節休符で始めたい場合は、それらの声部に小節休符を入力できます。

単一声部の楽譜では、キャレットを進めると新しい小節に自動的に小節休符が表示されるため、小節休符を入力する必要はありません。空白のすべての小節の小節休符をレイアウトごとに個別に表示/非表示にすることもできます。

### 手順

1. 記譜モードで音符を入力します。
2. 声部の向き表示に正しい声部が表示されるまで **[V]** を押して、適切な第2声部を選択します。  
または、新しい声部に小節休符を入力する場合は、声部の向き表示に正しい声部が表示されるまで **[Shift]+[V]** を押します。
3. 以下のいずれかの操作を行なって小節と小節線のポップオーバーを開きます。
  - **[Shift]+[B]** を押します。
  - 記譜ツールボックスで「ポップオーバー (Popovers)」 をクリックし、「小節と小節線 (Bars and Barlines)」 をクリックします。
4. ポップオーバーに「rest」と入力して小節休符を追加します。
5. **[Return]** を押してポップオーバーを閉じます。
6. **[Ctrl]/[command]+[→]** を押して、小節休符の次の小節の開始位置にキャレットを進めます。
7. 選択した声部の複数の小節に小節休符を表示する場合は、手順3から6を必要な回数だけ繰り返します。

### ヒント

追加の声部に小節休符を表示するように記譜オプションが設定されている場合、小節休符を1つ入力すると、選択した声部のそれ以降の空白の小節すべてに小節休符が表示されます。

### 結果

選択した声部のキャレットの位置に小節休符が入力されます。選択した声部の音符を含む小節内にキャレットがある場合、これらの音符は小節休符で置き換えられます。

### 補足

また、音符の入力中に小節と小節線パネルの「小節休符を挿入 (Insert Bar Rest)」セクションで「小節休符を挿入 (Insert Bar Rest)」をクリックして小節休符を入力することもできます。

### 関連リンク

[小節 \(1073 ページ\)](#)

[小節と小節線のポップオーバー \(329 ページ\)](#)

[空白の小節で小節休符を表示/非表示にする \(1647 ページ\)](#)

[追加の声部内の小節休符を表示/非表示にする \(1648 ページ\)](#)

[休符のフローごとの記譜オプション \(1643 ページ\)](#)

[複数の声部への音符の入力 \(257 ページ\)](#)

[キャレット \(242 ページ\)](#)

## タイの入力

タイを手動で入力して同じピッチの2つの音符を連結できます。これは音符の入力中に行なうことも、既存の2つの音符をタイで連結することもできます。異なる声部の既存の音符同士や、同じインストゥルメントに属する異なる譜表の既存の音符、またリズム上の位置が隣接していない音符同士をタイで連結できます。

たとえば、経過音を記譜するために複声部にまたがるメロディを入力したとして、異なる声部に属する2音をタイでつなぐ必要があるとします。あるいは、和音の前に複数の音符によるフレーズを記譜したとして、そのすべてを延ばしてつなげることで、タイでつながれる音符の数を減らしたいとします。

### ヒント

Dorico Pro は、各拍子の音符のデュレーションに応じて自動的にタイを作成します。たとえば、小節線をまたぐ2つの4分音符の間にタイを入力したい場合、最初の4分音符を入力したい位置に2分音符を入力します。すると、Dorico Pro は自動的に2分音符を2つの4分音符に分割して小節線の両側に配置し、それらをタイで連結します。

### 前提条件

既存の音符のデュレーションを保持する場合は、デュレーションを強制しておきます。たとえば、タイのつながりの中で現在の拍子とは異なる形で分割された拍を指定する場合などです。


また、タイのつながりの最初の音からタイを開始することをおすすめします。タイでつながれた音符は1つの音符になり、強制的なデュレーションを含む設定も最初の音符から始まるためです。

### 手順

1. 記譜モードで、以下のいずれかの操作を行ないます。
  - 音符の入力を開始します。
  - タイを開始する位置にある音符を選択します。2つの特定の音符の間、または装飾音符と通常の音符の間にタイを入力するには、その2つの音符を選択します。

### 補足

2つの音符はピッチが同じである必要がありますが、声部が異なっても、同じインストゥルメントに属する異なる譜表上にあっても構いません。

2. 必要に応じて、音符の入力中に、タイの開始位置にあたる音符を入力します。
3. 以下のいずれかの操作を行なって、タイを入力します。
  - **[T]** を押します。
  - 音符ツールボックスの「**タイ (Tie)**」 をクリックします。
4. 必要に応じて、音符の入力中に、タイの終了位置にあたる音符を入力します。

### 補足

2番目の音符は最初の音符と同じピッチでなければなりません。

### 結果

音符の入力中は、入力した2つの音符がタイで連結されます。

既存の音符を1つ選択した場合は、その音符が同じ声部および譜表上の同じピッチの次の音符とタイで連結されます。既存の音符を2つ選択した場合は、それらのピッチが同じで同じインストゥルメントに属していれば、その2つの音符がタイで連結されます。

#### 補足

- 音符の入力中は、タイの入力後に初めて入力した音符と、同じ声部および譜表上の同じピッチの前の音符がタイで連結されます。これは、間に別のピッチの音符があったとしても同様です。
- その位置で有効な拍子記号、小節内の音符の開始位置、および「**記譜オプション (Notation Options)**」の「**音符のグループ化 (Note Grouping)**」ページの設定によっては、2つの音符の間にタイを入力すると、タイでつながれた2つの4分音符ではなく2分音符が入力されるなど、デュレーションの異なる単一の音符が作成されることがあります。デュレーションを強制することで、音符のグループ化設定を無効にし、記譜されたリズムを固定できます。そうすれば、Dorico Pro は音符が小節内に収まる限り、入力した音符を指定したデュレーションで記譜します。

#### 例



#### 関連リンク

- [音符の入力 \(248 ページ\)](#)
- [音符/休符のデュレーションの強制 \(288 ページ\)](#)
- [拍の境界をまたぐタイを表示/非表示にする \(1137 ページ\)](#)
- [「記譜オプション \(Notation Options\)」ダイアログ \(919 ページ\)](#)
- [音符ツールボックス \(219 ページ\)](#)
- [タイ \(1776 ページ\)](#)
- [タイとスラー \(1777 ページ\)](#)
- [タブ譜のタイでつながれた音符の外観を変更する \(1741 ページ\)](#)
- [タイのスタイルの変更 \(1779 ページ\)](#)
- [音符と休符のグループ化 \(1136 ページ\)](#)
- [拍に従う連符グループ \(1113 ページ\)](#)

## 装飾音符の入力






装飾音符は通常の音符と同じ方法で入力でき、音価、臨時記号、アーティキュレーションを設定できます。

#### 補足

- 以下の手順は、デフォルトの設定である、デュレーションを設定後にピッチを設定する順番での音符の入力について説明します。デュレーションより先にピッチを設定するように指定することもできます。
- 装飾音符に付点を追加することはできません。

#### 手順

1. 記譜モードで、装飾音符を入力する位置にある譜表上のアイテムを選択します。
2. 以下のいずれかの操作を行なって、音符の入力を開始します。
  - **[Shift]+[N]** を押します。


- 音符ツールボックスで、「**音符入力を開始 (Start Note Input)**」  をクリックします。
  - 譜表をダブルクリックします。
3. 複数の譜表に同時に装飾音符を入力する場合は、それらの譜表にキャレットを伸ばします。
  4. 以下のいずれかの操作を行なって、装飾音符の入力を開始します。
    - **[/]** を押します。
    - 音符ツールボックスの「**装飾音符 (Grace Notes)**」  をクリックします。
  5. 入力する音符のデュレーションの番号を押します。たとえば、8分音符の装飾音符を入力するには **[5]** を押します。
  6. 必要に応じて、以下のいずれかの操作を行なって、入力する装飾音符のスラッシュ付き/スラッシュなしを切り替えます。
    - **[Alt/Opt]+[/]** を押します。
    - 音符ツールボックスで「**装飾音符 (Grace Notes)**」  をクリックしたままにしてから、「**スラッシュなし装飾音符 (Unslashed Grace Notes)**」  または「**スラッシュ付き装飾音符 (Slashed Grace Notes)**」  をクリックします。

音符ツールボックスの「**装飾音符 (Grace Notes)**」  が更新され、現在の装飾音符のタイプが表示されます。

7. 使用する装飾音符を入力します。

#### ヒント

同じ位置に入力できる装飾音符の数に制限はありません。

8. もう一度 **[/]** を押すか「**装飾音符 (Grace Notes)**」  をクリックすると、装飾音符の入力が終了して通常の音符入力に戻ります。

#### 結果

入力したピッチがキャレットの位置に装飾音符として入力されます。

#### ヒント

- 入力したあとに装飾音符のタイプを変更することもできます。
- スラッシュが付いた装飾音符と付いていない装飾音符は再生時に区別して処理されます。

#### 関連リンク

[装飾音符 \(1327 ページ\)](#)  
[再生時の装飾音符 \(1334 ページ\)](#)  
[音符ツールボックス \(219 ページ\)](#)  
[音符パネル \(223 ページ\)](#)  
[キーボードパネル \(229 ページ\)](#)  
[フレットボードパネル \(231 ページ\)](#)  
[ドラムパッドパネル \(233 ページ\)](#)  
[キャレット \(242 ページ\)](#)  
[複数の譜表にキャレットを伸ばす \(246 ページ\)](#)  
[音符の入力 \(248 ページ\)](#)  
[音符/休符のデュレーションの選択 \(285 ページ\)](#)  
[タイの入力 \(274 ページ\)](#)  
[臨時記号の入力 \(269 ページ\)](#)  
[アーティキュレーションの入力 \(298 ページ\)](#)  
[装飾音符のタイプを個別に変更する \(1331 ページ\)](#)

- [既存の音符を装飾音符に変換する \(1329 ページ\)](#)  
[装飾音符を標準の音符に変換する \(1329 ページ\)](#)  
[ピッチをデュレーションの前に指定して音符を入力する \(251 ページ\)](#)

## 打楽器キットの装飾音符のランを作成する

短いドラムフィルを示す場合など、打楽器キットのさまざまなインストゥルメントに連続する装飾音符のランを作成できます。

### 手順

1. 記譜モードで、打楽器キットの各インストゥルメントに必要な装飾音符を入力します。

#### 補足

- 打楽器キットにグリッドまたは五線譜の表示タイプが使われている場合、初期設定では、同じ場所の装飾音符は和音として表示されます。
- 装飾音符のランを作成する際は、ランの最後から始めて逆に作業することをおすすめします。

2. ランの最後から 2 番めになる装飾音符を選択します。



3. **[Alt/Opt]+[←]** を 1 回押します。



4. 前の音符の左側に表示する装飾音符を選択します。

5. **[Alt/Opt]+[←]** を 2 回押します。



6. 必要に応じて、ラン内の装飾音符の数だけ手順 4 から 5 を繰り返します。

#### 補足

**[Alt/Opt]+[←]** を押す回数を毎回 1 回ずつ増やす必要があります。

### 結果

選択した位置の装飾音符が広がり、ランとして表示されます。これは、グリッドと五線譜の両方の表示タイプに影響します。

例



五線譜打楽器キット上の4つの装飾音符のラン

関連リンク

[無音程打楽器の音符を入力する \(263 ページ\)](#)

[打楽器キットの表示タイプ \(1848 ページ\)](#)

## 和音の入力

音符の入力と「和音 (Chords)」がどちらも有効になっていれば、音符の入力中に和音を入力できます。音符は、コンピューターのキーボード、マウス、下ゾーンのパネル、または MIDI キーボードで音符を演奏することによって入力できます。



### 補足

- 以下の手順は、デフォルトの設定である、デュレーションを設定後にピッチを設定する順番での音符の入力について説明します。デュレーションより先にピッチを設定するように指定することもできます。

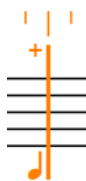
デュレーションより先にピッチを設定して和音を入力する場合は、コンピューターキーボードまたは MIDI キーボードを使用して、手順 5 の前に手順 6 を実行する必要があります。

- MIDI キーボードを使用する場合は挿入モードでのみ和音を入力できます。
- キーボードパネル、フレットボードパネル、または MIDI キーボードを使用している場合、「和音 (Chords)」をオンにしなくても和音を入力できます。

### 手順

- 記譜モードで、和音を入力する位置にある譜表上のアイテムを選択します。
- 以下のいずれかの操作を行なって、音符の入力を開始します。
  - [Shift]+[N]** を押します。
  - 音符ツールボックスで、「音符入力を開始 (Start Note Input)」  をクリックします。
  - 譜表をダブルクリックします。
- 以下のいずれかの操作を行なって、和音の入力を開始します。
  - [Q]** を押します。
  - 音符ツールボックスの「和音 (Chords)」  をクリックします。


和音の入力中はキャレットの上にプラス記号が表示されます。これにより、キャレットの位置に複数の音符を入力できます。




- 複数の譜表に同時に和音を入力する場合は、それらの譜表にキャレットを伸ばします。

- 以下のいずれかの操作を行なって、音符のデュレーションを選択します。
  - 入力するデュレーションに対応する数字キーをコンピューターのキーボードで押します。  
たとえば、4分音符の場合は **[6]** を押します。8分音符の場合は **[5]**、16分音符の場合は **[4]** のように、短いデュレーションを入力するには小さい数字を押します。2分音符の場合は **[7]** のように、長いデュレーションを入力するには大きい数字を押します。
  - 音符パネルで、入力するデュレーションをクリックします。
  - キーボードパネル、フレットボードパネル、またはドラムパッドパネルのツールバーで、入力するデュレーションをクリックします。
- 以下のいずれかの操作を行なって、使用するピッチを入力します。
  - キーボードで対応する文字を押します。

#### ヒント

「和音 (Chords)」 が有効になっている場合、キャレットの位置の一番高い音符の上に音符が自動的に入力されます。



かわりに、**[Ctrl]+[Alt] (Windows) 又は [Ctrl] (macOS)** を押しながらノート名を表わすアルファベットを押すことで、最も低い音符よりも下にあるキャレットの位置に音符を入力できます (例: **[Ctrl]+[Alt]+[A] (Windows) 又は [Ctrl]+[A] (macOS)**)。

- 音符を入力する位置の譜表をクリックします。  
音符を入力する位置にマウスを合わせると、シャドー符頭が表示されます。
  - キーボードパネル、フレットボードパネル、またはドラムパッドパネルで、入力する音符を演奏します。
  - MIDI キーボードで音符を演奏します。
- 必要に応じて、別の位置に和音を入力するために、以下のいずれかの操作を行なってキャレットを進めます。
    - [Space]** を押します。
    - キーボードパネル、フレットボードパネル、またはドラムパッドパネルのツールバーで、「**キャレットを進める (Advance Caret)**」 をクリックします。

和音の入力中は、キャレットを手動で進めるまで、音符は同じ位置の前に入力した音符の上に入力されます。

#### ヒント

別の方向および別の移動幅でキャレットを動かすこともできます。

- 再度 **[Q]** を押すか「和音 (Chords)」 をクリックして和音の入力を終了します。
- 以下のいずれかの操作を行なって、音符の入力を停止します。
  - [Esc]** または **[Return]** を押します。
  - 音符ツールボックスで、「**音符入力を開始 (Start Note Input)**」 をクリックします。

#### 結果

キャレットの位置に複数の音符が入力されます。

- マウスのクリックでピッチを入力する場合は、同じ線の上を再びクリックすることで、和音に同じピッチを2回入力できます。
- キーボードを使ってピッチを入力する場合、繰り返された音符は自動的に1オクターブ上に入力されます。音符の音域は、音符の入力中に音域の選択を強制するか、入力後に音符を移調することで変更できます。

#### 補足

- 和音の入力を終了してすぐ、前のように続けて音符を入力できます。音符は1つの位置に1つずつ入力され、キャレットは自動的に次の位置に進みます。
- 異なる臨時記号の付いた同じ音域の2つのピッチが和音に含まれていることを、オルタードユニゾンと呼びます。「記譜オプション (Notation Options)」の「臨時記号 (Accidentals)」ページの設定に応じて、オルタードユニゾンは1本の符尾または分割された符尾のいずれかで表示されます。
- MIDI キーボードを使用してデュレーションより先にピッチを設定してタブ譜に和音を入力すると、和音のすべての音符が同じ弦に割り当てられます。このような場合、タブ譜では音符が隣り合わせに表示され、色は緑になります。これらの音符はあとから個別に選択して弦を独自に割り当てることができます。


#### 関連リンク

- [「記譜オプション \(Notation Options\)」 ダイアログ \(919 ページ\)](#)
- [音符ツールボックス \(219 ページ\)](#)
- [音符パネル \(223 ページ\)](#)
- [キーボードパネル \(229 ページ\)](#)
- [フレットボードパネル \(231 ページ\)](#)
- [ドラムパッドパネル \(233 ページ\)](#)
- [音符の入力中の音域の選択 \(251 ページ\)](#)
- [キャレット \(242 ページ\)](#)
- [複数の譜表にキャレットを伸ばす \(246 ページ\)](#)
- [手動でのキャレットの移動 \(247 ページ\)](#)
- [オルタードユニゾン \(1058 ページ\)](#)
- [既存の音符の上/下に音符を追加 \(284 ページ\)](#)
- [ピッチをデュレーションの前に指定して音符を入力する \(251 ページ\)](#)
- [音符に基づく記譜記号の入力設定を変更する \(238 ページ\)](#)
- [タブ譜のタイでつながれた音符の外観を変更する \(1741 ページ\)](#)

## 和音モード

和音モードでは、音符の入力方法や、音符の入力以外の編集が楽譜に与える影響が変わります。和音モードをオンにすると、既存の音符を上書きするのではなく、音符を重ねて和音を作成できます。和音の入力中は、キャレットは自動的に進みません。

和音モードの影響を受ける和音の入力以外の編集には、音符のコピー/貼り付けやデュレーションの変更などがあります。たとえば、4つの音符をコピーして、和音モードがオンになっており既存の音符がある譜表に貼り付けた場合、既存の音符は上書きされるのではなく新しい音符と結合されて和音になります。

- 記譜モードで、**[Q]** を押すか音符ツールボックスの「和音 (Chords)」 をクリックすることで和音モードのオン/オフを切り替えることができます。

#### 補足

挿入モードと和音モードを同時に有効にすることはできません。

#### 関連リンク

- [挿入モード \(491 ページ\)](#)
- [キャレット \(242 ページ\)](#)
- [音符/アイテムのコピーと貼り付け \(497 ページ\)](#)
- [複数の譜表への楽譜のエクスポード \(510 ページ\)](#)
- [音符のデュレーションの変更 \(286 ページ\)](#)
- [付点音符の入力 \(255 ページ\)](#)



## 連符の入力




すべてのタイプの連符は連符のポップオーバーを使用して入力できます。4分音符を8分音符の3連符の開始位置に入力するなど、連符はどんなデュレーションの音符でも含めることができます。

### 補足

以下の手順は、デフォルトの設定である、デュレーションを設定後にピッチを設定する順番での音符の入力について説明します。デュレーションより先にピッチを設定するように指定することもできます。

ピッチをデュレーションの前に指定して連符を入力する場合は、連符を指定したあとに入力した最初の音符、または連符の比率に含まれている音価のいずれかに基づいて連符の基準となる音価が決まります。

### 手順


1. 記譜モードで、連符を入力する位置にある譜表上のアイテムを選択します。
2. 以下のいずれかの操作を行なって、音符の入力を開始します。
  - **[Shift]+[N]** を押します。
  - 音符ツールボックスで、「**音符入力を開始 (Start Note Input)**」  をクリックします。
  - 譜表をダブルクリックします。
3. 複数の譜表に同時に連符を入力する場合は、それらの譜表にキャレットを伸ばします。
4. 以下のいずれかの操作を行なって連符のポップオーバーを開きます。
  - **[:]** を押します。
  - 音符ツールボックスで「**連符 (Tuplets)**」  をクリックしたままにして、そのあと「**x:y**」  をクリックします。

キーボードを使って連符を入力すると、指定した連符として音符が自動的に入力されます。

5. 使用する連符の比率と拍の単位をポップオーバーに入力します。  
たとえば8分音符の3連符を記入するには「**3:2e**」、16分音符の5連符を記入するには「**5:4x**」と入力します。

### 補足

拍の単位を指定しない場合、音符パネルで現在選択している音価をベースに連符が入力されます。

6. **[Return]** を押してポップオーバーを閉じます。  
連符が入力されます。
7. 必要に応じて、選択した音符のデュレーションを変更します。  
たとえば、8分音符をもとに連符を入力しておいて、その連符内に4分音符を入力できます。
8. 任意のピッチで入力または再生します。  
キーボードを使って連符を入力すると、指定した連符として音符が自動的に入力されます。
9. 必要に応じて、以下のいずれかの操作を行なってキャレットを進め、別の位置に同じ比率の連符を続けて入力します。
  - **[Space]** を押します。
  - キーボードパネル、フレットボードパネル、またはドラムパッドパネルのツールバーで、「**キャレットを進める (Advance Caret)**」  をクリックします。
10. 以下のいずれかの操作を行なって、連符の入力を終了します。
  - 標準の音符入力に戻るには、**+** を押すか矢印キーでキャレットを移動します。


- 音符の入力を完全に停止するには、**[Esc]** を押します。

#### 結果

入力または再生したピッチは、連符としてキャレットの位置から入力されます。

連符を入力した直後に別のタイプの連符を入力するには、最初のタイプの連符を終了してから 2 つめのタイプを入力する必要があります。最初のタイプを終了しないと、2 つめのタイプが入れ子状の連符として入力されます。

#### ヒント

また、音符ツールボックスの「**連符 (Tuplets)**」 をクリックしたままにしてから使用する連符をクリックすることでも、連符を入力できます。

#### 関連リンク

[連符 \(1826 ページ\)](#)

[入れ子状の連符 \(1827 ページ\)](#)

[既存の音符を連符に変換する \(1828 ページ\)](#)

[連符から標準の音符に変換する \(1829 ページ\)](#)

[音符ツールボックス \(219 ページ\)](#)

[音符パネル \(223 ページ\)](#)

[記譜ツールボックス \(224 ページ\)](#)

[キーボードパネル \(229 ページ\)](#)

[フレットボードパネル \(231 ページ\)](#)

[ドラムパッドパネル \(233 ページ\)](#)

[キャレット \(242 ページ\)](#)

[音符の入力 \(248 ページ\)](#)



[複数の譜表にキャレットを伸ばす \(246 ページ\)](#)

[ピッチをデュレーションの前に指定して音符を入力する \(251 ページ\)](#)

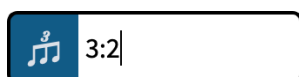
## 連符のポップオーバー

連符のポップオーバーでは、任意の音符のデュレーションに基づく任意の比率の連符を入力できます。以下の表は、さまざまなタイプの連符を入力するために連符のポップオーバーに入力できるエントリーの例です。

記譜モードでは、以下のいずれかの操作を行なって、音符入力中または音符選択中に連符のポップオーバーを開くことができます。

- **[;]** を押します。
- 音符ツールボックスで「**連符 (Tuplets)**」 をクリックしたままにして、そのあと「**x:y**」 をクリックします。
- 「**記譜 (Write)**」 > 「**連符を作成 (Create Tuplet)**」を選択します。

ポップオーバーの左側に表示されたアイコンが、ウィンドウの左側にある音符ツールボックスの対応するボタンと一致します。



エントリーの例が入力された連符のポップオーバー



音符ツールボックスの「**連符 (Tuplets)**」ボタン

キーボードを使って連符を入力すると、以下の操作が行なわれるまで、指定した連符として音符が入力されます。

- **+** を押して、標準の音符入力に戻る
- 矢印キーでキャレットを移動する
- 音符の入力を終了する

### 連符のタイプ

### ポップオーバーエントリー

2つ分のスペースに3つの音符が配置された3連符	「3」、「3:2」、「3/2」、または「3 2」
4つ分のスペースに3つの音符が配置された3連符	「3:4」、「3/4」、または「3 4」
3つ分のスペースに4つの音符が配置された4連符	「4:3」、「4/3」、または「4 3」
2つ分のスペースに5つの音符が配置された5連符	「5:2」、「5/2」、または「5 2」
4つ分のスペースに5つの音符が配置された5連符	「5:4」、「5/4」、または「5 4」
4つ分のスペースに6つの音符が配置された6連符	「6:4」、「6/4」、または「6 4」
4つ分のスペースに7つの音符が配置された7連符	「7:4」、「7/4」、または「7 4」
8つ分のスペースに9つの音符が配置された9連符	「9:8」、「9/8」、または「9 8」
3つ分のスペースに2つの音符が配置された2連符 複合拍子によく使用されます。	「2:3」、「2/3」、または「2 3」
6つ分のスペースに5つの音符が配置された5連符 複合拍子によく使用されます。	「5:6」、「5/6」、または「5 6」
4つ分のスペースに5つの付点4分音符が配置された5連符	「5:4q.」、「5/4q.」、「5 4q.」、または「5:4-6.」

### 補足

数字を使用して拍の単位を指定する場合は、スペースまたはハイフンを使用して連符の比率と拍の単位を区切る必要があります。

このリストにはすべてのエントリーが含まれているわけではありません。このリストは、さまざまな連符を入力するためにエントリーをどのように構成するかを示すことを目的としています。

## 補足

エンタリーで拍の単位を指定しない限り、連符の全体のデュレーションはポップオーバーを開いたときに選択していた音価によって決まります。たとえば、4分音符が選択されている状態で3連符を入力すると、2つ分のスペースに3つの4分音符が配置された3連符が入力されます。

## 連符の拍の単位

連符の拍の単位	ポップオーバーエンタリー
64分音符	「z」または「2」
32分音符	「y」または「3」
16分音符	「x」または「4」
8分音符	「e」または「5」
4分音符	「q」または「6」
2分音符	「h」または「7」
全音符	「w」または「8」
倍全音符	「2w」または「9」
付点	.(ピリオド)

### 関連リンク

[既存の音符を連符に変換する \(1828 ページ\)](#)

[音符/休符のデュレーションの選択 \(285 ページ\)](#)



## 既存の音符の上/下に音符を追加

既存の音符の上/下に音符を追加できます。既存の音符に対する音程に応じて、同時に複数の音符を追加できます。

### 前提条件

マウスを使用する場合は、マウスによる編集を有効にしておきます。

### 手順

1. 記譜モードで、音符を追加する音符を選択します。
2. 以下のいずれかの操作を行なって音符ツールのポップオーバーを開きます。
  - **[Shift]+[I]** を押します。
  - 記譜ツールボックスで「ポップオーバー (Popovers)」 をクリックし、「音符ツール (Note Tools)」 をクリックします。
3. 追加する音符の、選択した音符に対する音程を入力します。

たとえば、選択した音符のマイナーで3度下と4度上に音符を追加するには「-m3,4」と入力します。

4. **[Return]** を押してポップオーバーを閉じます。

#### 結果

指定した音程に従い、選択した音符に音符が追加されます。

#### ヒント

また、**[Alt/Opt]** を押しながら選択した音符を上/下にドラッグすることで、既存の音符の上/下に音符を追加することもできます。

音符をドラッグすると、シャドー符頭が移動先のピッチを示し、影響を受ける領域が強調表示され、その上にリズムグリッドが表示されます。

#### 関連リンク

- [記譜ツールボックス \(224 ページ\)](#)
- [和音の入力 \(278 ページ\)](#)
- [音符ツールのポップオーバー \(537 ページ\)](#)
- [リズムグリッド \(241 ページ\)](#)
- [配置ツール \(495 ページ\)](#)
- [マウスによる編集の有効化/無効化 \(236 ページ\)](#)

## 音符のデュレーション

Dorico Pro では、音符のデュレーションの変更を音符の入力時にも既存の音符に対しても行なえます。

#### 関連リンク



- [Dorico の音符と休符 \(25 ページ\)](#)
- [音符と休符のグループ化 \(1136 ページ\)](#)
- [演奏される音符のデュレーションと記譜された音符のデュレーション \(852 ページ\)](#)

## 音符/休符のデュレーションの選択

音符/休符のデュレーションは、音符入力中でも、既存の音符/休符に対してでも、異なるデュレーションを選択できます。

#### 手順

1. 音符パネルに表示されていないデュレーションを選択するには、音符リストの上下にある「**すべての音符を表示/非表示 (Show/Hide All Notes)**」の展開矢印マークをクリックします。
2. 以下のいずれかの操作を行なって、音符/休符のデュレーションを選択します。
  - 入力するデュレーションに対応する数字キーをコンピューターのキーボードで押します。  
たとえば、4分音符の場合は **[6]** を押します。8分音符の場合は **[5]**、16分音符の場合は **[4]** のように、短いデュレーションを入力するには小さい数字を押します。2分音符の場合は **[7]** のように、長いデュレーションを入力するには大きい数字を押します。
  - 音符パネルで、入力するデュレーションをクリックします。
  - キーボードパネル、フレットボードパネル、またはドラムパッドパネルのツールバーで、入力するデュレーションをクリックします。
3. 必要に応じて、以下のいずれかの操作を行なってデュレーションに付点を追加します。
  - 付点を1つ追加するには、**[.]** を押します。
  - 複数の付点を追加するには、**[Alt/Opt]+[.]** を押して付点の数を順に切り替えます。最大で4つの付点を指定できます。

- 音符ツールボックスの「付点音符 (Dotted Notes)」  をクリックして、表示されている数の付点を追加します。
- 音符ツールボックスの「付点音符 (Dotted Notes)」  をクリックしたままにすると、異なる数の付点を選択できるようになります。

#### 補足

装飾音符に付点を追加することはできません。

#### 関連リンク

- [音符ツールボックス \(219 ページ\)](#)
- [キーボードパネル \(229 ページ\)](#)
- [フレットボードパネル \(231 ページ\)](#)
- [ドラムパッドパネル \(233 ページ\)](#)
- [音符パネル \(223 ページ\)](#)
- [キャレット \(242 ページ\)](#)
- [Dorico のキーボードショートカット \(29 ページ\)](#)
- [音符の入力 \(248 ページ\)](#)

## 音符のデュレーションの変更

音符は入力後にデュレーションの長さを変更できます。

#### 手順

1. 記譜モードで、デュレーションを変更する音符を選択します。

#### 補足

現在選択しているアイテムの終わりまで音符を伸ばしたい場合は、その音符と音符を伸ばす先の位置にあるアイテムの両方を選択します。

2. 以下のいずれかの操作を行なって、デュレーションを変更します。
  - 入力するデュレーションのキーボードショートカットを押します。たとえば、16分音符の場合は **[4]** を押します。
  - 音符パネルで、入力するデュレーションをクリックします。
  - キーボードパネル、フレットボードパネル、またはドラムパッドパネルのツールバーで、入力するデュレーションをクリックします。
  - 音符を現在のリズムグリッドの間隔ずつ伸ばすには、**[Shift]+[Alt/Opt]+[→]** を押します。
  - 音符を現在のリズムグリッドの間隔ずつ縮めるには、**[Shift]+[Alt/Opt]+[←]** を押します。
  - 音符の長さを2倍にするには、**[Ctrl]/[command]+[Shift]+[Alt/Opt]+[→]** を押します。
  - 音符の長さを半分にするには、**[Ctrl]/[command]+[Shift]+[Alt/Opt]+[←]** を押します。
  - 音符を現在のリズムグリッドの間隔ずつ伸ばすには、「記譜 (Write)」 > 「デュレーションを編集 (Edit Duration)」 > 「グリッド値でデュレーションを延長 (Lengthen Duration by Grid Value)」を選択します。
  - 音符を現在のリズムグリッドの間隔ずつ縮めるには、「記譜 (Write)」 > 「デュレーションを編集 (Edit Duration)」 > 「グリッド値でデュレーションを短縮 (Shorten Duration by Grid Value)」を選択します。
  - 音符の長さを2倍にするには、「記譜 (Write)」 > 「デュレーションを編集 (Edit Duration)」 > 「音符のデュレーションを倍にする (Double Note Duration)」を選択します。

- 音符の長さを半分にするには、「記譜 (Write)」 > 「デュレーションを編集 (Edit Duration)」 > 「音符のデュレーションを半分にする (Halve Note Duration)」を選択します。
- 音符をその声部内の次の音符まで伸ばすには、「記譜 (Write)」 > 「デュレーションを編集 (Edit Duration)」 > 「次の音符まで延長 (Extend to Next Note)」を選択します。

#### 補足

この操作は装飾音符には適用されません。

- 単一の音符を現在選択しているアイテムの終了位置まで伸ばすには、「記譜 (Write)」 > 「デュレーションを編集 (Edit Duration)」 > 「選択範囲の終端まで延長 (Extend to End of Selection)」を選択します。
- 同じ声部内の重なり合う音符を短くして重ならないようにするには、「記譜 (Write)」 > 「デュレーションを編集 (Edit Duration)」 > 「次の音符まで短縮 (Shorten to Next Note)」を選択します。

---

#### 結果

選択した音符のデュレーションが変更されます。Dorico Pro は、新しいデュレーション、その位置で有効な拍子記号、小節内の音符の位置に応じて、自動的に音符を適切に記譜し、連桁で連結します。

音符を伸ばすと、間にある休符はそのデュレーションで埋められます。現在選択しているアイテムの終わりまで音符を伸ばしても、間にある音符が削除されることはなく、伸ばした音符と組み合わせて必要な場所に和音が作成されます。

#### ヒント

任意の長さごとに音符のデュレーションを延長/短縮するキーボードショートカットや音符を伸ばすキーボードショートカットを割り当てることができます。これらのキーボードショートカットは「環境設定 (Preferences)」にある「キーボードショートカット (Key Commands)」のページで、「デュレーションを短縮 (Shorten duration by)」、「デュレーションを延長 (Lengthen duration by)」、および「まで延長 (Extend to)」と検索することで見つけられます。

---

#### 関連リンク

[音符パネル \(223 ページ\)](#)

[音符ツールボックス \(219 ページ\)](#)

[キーボードパネル \(229 ページ\)](#)

[フレットボードパネル \(231 ページ\)](#)

[ドラムパッドパネル \(233 ページ\)](#)

[リズムグリッド \(241 ページ\)](#)

[「環境設定 \(Preferences\)」ダイアログの「キーボードショートカット \(Key Commands\)」ページ \(64 ページ\)](#)

[挿入モード \(491 ページ\)](#)

[和音モード \(280 ページ\)](#)

[アイテムの長さの変更 \(470 ページ\)](#)

[演奏される音符のデュレーションと記譜された音符のデュレーション \(852 ページ\)](#)

[既存の音符の声部を変更する \(507 ページ\)](#)

[音符と休符のグループ化 \(1136 ページ\)](#)

[拍の境界をまたぐタイを表示/非表示にする \(1137 ページ\)](#)

## 音符をデュレーションで分割する

音符は、特定のデュレーション、現在のリズムグリッドの間隔、音符の始めからキャレット位置までのデュレーションのいずれかで分割できます。たとえば、長いタイのつながりを連続する 8 分音符に変換するなどできます。

### 手順

1. 記譜モードで、分割する音符を選択します。
2. 以下のいずれかの操作を行なって、選択した音符を分割します。
  - 現在のリズムグリッドの間隔で分割するには、**[Alt/Opt]+[U]** を押すか、「記譜 (Write)」 > 「デュレーションを編集 (Edit Duration)」 > 「リズムグリッドの間隔で分割 (Split by Rhythmic Grid Resolution)」を選択します。
  - 音符の始めからキャレット位置までのデュレーションで分割するには、キャレットを有効にして必要な譜表まで伸ばし、任意の位置にキャレットを移動して **[Alt/Opt]+[U]** を押します。
  - 特定のデュレーションで分割するには、「記譜 (Write)」 > 「デュレーションを編集 (Edit Duration)」 > 「音符のデュレーションで分割 (Split by Note Duration)」 > [音符のデュレーション] を選択します。

### 結果

選択した音符、またはキャレットがかかっている音符が、対応するデュレーションを持つ複数の短い音符に分割されます。選択したデュレーションの倍数が元の音符に正確に収まらない場合は、最後の音符が短くなります。

### 例



長い音符を含むフレーズ



8分音符に分割された符尾が上向きの音符

### 関連リンク

- [リズムグリッド \(241 ページ\)](#)
- [キャレット \(242 ページ\)](#)
- [キャレットの有効化/無効化 \(246 ページ\)](#)
- [手動でのキャレットの移動 \(247 ページ\)](#)
- [複数の譜表にキャレットを伸ばす \(246 ページ\)](#)
- [タイの削除 \(1786 ページ\)](#)
- [タイのつながりの分割 \(1786 ページ\)](#)

## 音符/休符のデュレーションの強制

Dorico Pro は、その位置で有効な拍子記号と小節内の音符/休符の位置に応じて、自動的に音符/休符を適切に記譜し、連桁で連結します。音符/休符のデュレーションを強制して記譜記号を指定できます。

たとえば、6/8 の小節の最初に 2 分音符を入力すると、符点 4 分音符と 8 分音符がタイでつながれて記譜されます。これは、表記規則によれば、6/8 の小節が 8 分音符 3 つからなる 2 つのグループに分割されるためです。これを 2 分音符 (8 分音符 4 つ) に反映するために、Dorico Pro は音符を自動的に分割して正しいグループを表示しますが、音符のデュレーションを強制して、かわりに 2 分音符を表示できません。



#### ヒント



たとえば、6/8 で 4 分音符のグループを 3 つ表示してヘミオラを表わすなど、譜表上のすべての音符のデュレーションを強制して別の拍子に見せたい場合は、それらの譜表だけに拍子記号を入力することで、その拍子に従って音符をグループ化することもできます。そのあと、必要に応じて拍子記号を非表示にできます。

#### 手順

1. 記譜モードで、以下のいずれかの操作を行ないます。
  - 音符の入力を開始します。
  - デュレーションを強制する音符を選択します。

#### ヒント

あとで音符をタイでつなぐ場合は、タイのつながりに入るすべての音符のデュレーションを強制することをおすすめします。

2. デュレーションを強制された休符を入力するには、以下のいずれかの操作を行なって休符の入力を開始します。
  - **[,]** を押します。
  - 音符ツールボックスの「**休符 (Rests)**」 をクリックします。
3. 以下のいずれかの操作を行なって、「**デュレーションを強制 (Force Duration)**」をオンにします。
  - **[O]** を押します。
  - 音符ツールボックスの「**デュレーションを強制 (Force Duration)**」 をクリックします。
4. 使用する音符/休符のデュレーションを選択します。

#### ヒント

タイのつながりを、全体のデュレーションが同じ単一の符頭として表示するには、まずそれらのデュレーションを縮めたあと、任意のデュレーションに変更する必要があります。

5. 音符/休符の入力中に、任意の音符または休符を入力します。

#### 結果

音符/休符の入力中に入力した音符は、小節内の位置に関係なく、その音価全体を持つ音符として記譜されます。あとから音符を移動しても、同じ記譜記号が維持されます。休符は明示的な休符として入力されます。小節線をまたぐ音符はタイでつながれた音符として記譜されます。

既存の音符/休符のデュレーションを強制すると、現在のデュレーションもしくは変更したあとのデュレーションを保持します。

#### ヒント

- デュレーションを強制して休符を入力すると、プロパティパネルの「**音符と休符 (Notes and Rests)**」グループにある「**強制位置およびデュレーション (Force position and duration)**」が自動的にオンになります。このプロパティを使用して休符のデュレーションと位置を強制することもできます。
- 音符入力を停止して再開する場合に「**デュレーションを強制 (Force Duration)**」の以前の状態を保持するかどうかは、「**環境設定 (Preferences)**」 > 「**音符の入力と編集 (Note Input and Editing)**」 > 「**音符の入力 (Note Input)**」で選択できます。

- さまざまな状況で音符をどのようにグループ化するかは、「**記譜オプション (Notation Options)**」の「**音符のグループ化 (Note Grouping)**」ページでプロジェクト全体の設定を行なえます。

例



6/8 のデフォルトの記譜



符尾が下向きの声部の音符を、デューレーションを強制して記譜したもの

関連リンク

- [暗黙の休符と明示的な休符 \(1641 ページ\)](#)
- [音符ツールボックス \(219 ページ\)](#)
- [音符パネル \(223 ページ\)](#)
- [キャレット \(242 ページ\)](#)
- [音符の入力 \(248 ページ\)](#)
- [休符の入力 \(271 ページ\)](#)
- [タイの入力 \(274 ページ\)](#)
- [音符/休符のデューレーションの選択 \(285 ページ\)](#)
- [音符のデューレーションの変更 \(286 ページ\)](#)
- [「記譜オプション \(Notation Options\)」ダイアログ \(919 ページ\)](#)
- [拍に従う連符グループ \(1113 ページ\)](#)
- [音符と休符のグループ化 \(1136 ページ\)](#)
- [拍の境界をまたぐタイを表示/非表示にする \(1137 ページ\)](#)
- [拍子のカスタム連符グループを作成する \(1138 ページ\)](#)
- [明示的な休符を暗黙の休符に変換する \(1643 ページ\)](#)
- [既存の音符の声部を変更する \(507 ページ\)](#)
- [タイのスタイルの変更 \(1779 ページ\)](#)

## MIDI 録音

MIDI 録音は、MIDI デバイスでリアルタイムに音符を演奏することで Dorico Pro に音符を入力する方法です。この方法は、たとえばピッチや音符のデューレーションをあらかじめ計画するのではなく、楽譜を即興で作成したい場合に特に便利です。

Dorico Pro では、任意の MIDI デバイスを使用して MIDI ノートを記録できます。

対位法のピアノ譜などで、同じ位置の複数のパートを個々の声部に自動的に書き起こせます。MIDI 録音とクオンタイズの設定に応じて、スラー、トレモロ、トリル、ペダル線、連符、装飾音符を自動的に検出することもできます。

音符入力以外では、MIDI デバイスで演奏した音符に対して、最後に選択したインストゥルメントのサウンドが使用されます。最後に選択したインストゥルメントは、再生モードでは、最後にクリックしたトラックヘッダーです。記譜モードでは、アイテムの選択、音符入力の開始、または MIDI 録音を最後に行なったインストゥルメントの譜表です。音符入力中は、常に音符を録音しているインストゥルメントのサウンドが使用されます。

## ヒント

「環境設定 (Preferences)」の「再生 (Play)」ページで MIDI thru の有効/無効を切り替えることができます。たとえば、MIDI キーボードでの演奏時に Dorico Pro でサウンドを再生したくない場合などに行ないます。

MIDI デバイスで音符を演奏する際に、Dorico Pro は演奏された音符に対して正しい異名同音を生成するアルゴリズムを使用します。

### 関連リンク

[MIDI 録音の最適化 \(295 ページ\)](#)

[クオンタイズオプション \(103 ページ\)](#)

[「MIDI インポートオプション \(MIDI Import Options\)」ダイアログ \(95 ページ\)](#)

[MIDI thru の有効化/無効化 \(240 ページ\)](#)

## MIDI 録音を使用した音符の入力

MIDI デバイスのリアルタイムの演奏を録音することで音符を入力できます。音符の録音は、実音または移調音のどちらでもできます。


### 前提条件

- 使用する MIDI デバイスを接続しておきます。
- 「環境設定 (Preferences)」の「再生 (Play)」ページで、録音する楽譜に適したクオンタイズオプションと録音オプションを設定しておきます。
- 録音する楽譜の分量に対して十分な小節または空のスペースを入力しておきます。Dorico Pro は小節やスペースを自動的に追加しません。
- 録音中にクリックを再生するには、拍子記号を入力しておきます。拍子記号がない場合、または自由拍子の場合にはクリックは鳴りません。
- 適切なピッチの入力設定を選択しておきます。

### 手順

1. 音符を録音する譜表トラックまたはインストゥルメントトラックで、録音を開始する位置の音符または休符を選択します。この操作は記譜モードおよび再生モードで行なえます。

### 補足

- 再生モードでは、休符は選択できません。つまり、少なくとも1つの音符がすでに含まれているインストゥルメントトラックにのみ録音できます。
  - 音符の入力中に MIDI を録音することもできますが、この場合、大譜表を使用するインストゥルメントの2つの譜表を使用することはできません。
2. 必要に応じて、譜表上の既存の音符を上書きすることなく音符を録音したい場合は、以下のいずれかの操作を行なって和音モードを有効にします。
    - **[Q]** を押します。
    - 音符ツールボックスの「和音 (Chords)」 をクリックします。
  3. 譜表上の特定の声部に録音したい場合は、記譜モードで **[Shift]+[N]** を押して音符の入力を開始したあと、以下のいずれかの操作を行ないます。
    - 録音する声部がすでに譜表上にある場合は、キャレットの横の音符記号が正しい声部を示すまで **[V]** を押します。

- 録音する声部がまだ譜表上にない場合は、キャレットの横の音符記号が正しい声部を示すまで **[Shift]+[V]** を押します。
4. **[Ctrl]/[command]+[R]** を押して録音を開始します。  
録音中は再生ヘッドが赤で表示され、時間とともに移動します。初期設定では、再生ヘッドが選択したアイテムまたはキャレットの位置に到達するまでに1小節のカウントインがあります。
  5. 入力する音符を MIDI デバイスで演奏します。

#### 補足

録音を停止するまで音符は表示されません。

6. **[Space]** 又は **[Enter]** または **[Ctrl]/[command]+[R]** を押して録音を停止します。
- 

#### 結果

MIDI デバイスで演奏した音符が選択した譜表に入力されます。

声部を指定しなかった場合、演奏した内容に応じて音符が声部に録音されます。たとえば、同一のリズムで演奏した音符は単一の声部に録音されます。異なるリズムで演奏した音符は個別の声部に録音されます (1つの譜表に対して最大2つの声部)。

「和音 (Chords)」をオンにした場合、演奏した音符は既存の音符を上書きすることなく、譜表上の最初の声部に統合されます。

記譜される音符のデュレーションはクオンタイズオプションに従いますが、演奏時のデュレーションは再生用に保持されます。

#### 手順終了後の項目

- 演奏した音符が意図したとおりに記譜されない場合は、それらを再クオンタイズできます。
- 演奏時のデュレーションを再生用に保持したくない場合は、再生の上書きをリセットできます。

#### 関連リンク

- [MIDI 録音の最適化 \(295 ページ\)](#)
- [MIDI thru の有効化/無効化 \(240 ページ\)](#)
- [ピッチの入力設定の変更 \(238 ページ\)](#)
- [小節、拍、小節線の入力方法 \(329 ページ\)](#)
- [拍子記号と弱起の入力方法 \(311 ページ\)](#)
- [既存の音符の声部を変更する \(507 ページ\)](#)
- [既存の音符を装飾音符に変換する \(1329 ページ\)](#)
- [再生の上書きのリセット \(854 ページ\)](#)
- [「環境設定 \(Preferences\)」 ダイアログ \(63 ページ\)](#)

## 演奏時に録音しなかった音符を取得する

再生中、MIDI キーボードで音符を演奏し、それらをスコアに記録することなく聴くことができます。非録音時の MIDI 入力データを記録すると、音符を明示的に録音していなくても、演奏した音符を取得してプロジェクトに入力できます。たとえば、アイデアを試すだけのつもりが、あとからそれらを保持することにした場合などです。

#### 前提条件


再生を開始し、再生に合わせて MIDI デバイスで音符を演奏して、再生を停止しておきます。

---

#### 手順

1. 記譜モードで、取得した音符を入力する位置にある、譜表上の音符または休符を選択します。
2. 譜表上の既存の音符を上書きすることなく取得した音符を入力したい場合は、**[Q]** を押して「和音 (Chords)」をオンにします。

3. 以下のいずれかの操作を行なって、演奏した音符を取得します。

- **[Ctrl]/[command]+[Alt/Opt]+[R]** を押します。
- 「**トランスポート (Transport)**」ウィンドウで、「**非録音時の MIDI 入力データを記録 (Retrospective Record)**」  をクリックします。

---

#### 結果

前回の再生中に MIDI デバイスで演奏したすべての音符が、選択した位置を開始点として選択した譜表に入力されます。初期設定では、これらの音符は譜表上の最初の声部に入力され、その声部の既存の音符は上書きされます。「**和音 (Chords)**」をオンにした場合、取得した音符は既存の音符を上書きすることなく、譜表上の最初の声部に統合されます。

#### 補足

非録音時の MIDI 入力データの記録のバッファは再生を開始するたびに消去されるため、直前の再生より前に演奏した音符は取得できません。

---

#### 関連リンク

[楽譜の再生](#) (680 ページ)

[「トランスポート \(Transport\)」ウィンドウ](#) (698 ページ)

## MIDI 録音のリピート

リピート小節線などの反復記号を含むフローに MIDI を録音すると、Dorico Pro はそれぞれのリピート中に演奏された音符を録音し、それらを同じ声部に統合します。

録音間で異なるリズムは、現在の拍子に従って記譜されます。

## 音符の再クオンタイズ

さまざまなクオンタイズオプションを使用して、音符を再クオンタイズできます。たとえば、MIDI の読み込みや MIDI デバイスを使用した音符の録音を行なったあとで、記譜されたリズムを変更する必要が生じた場合などに行ないます。これは、再生時における音符の演奏されるデュレーションには影響しません。

---

#### 手順

1. 再クオンタイズする音符をすべて選択します。この操作は記譜モードおよび再生モードで行なえます。
  2. 「**編集 (Edit)**」 > 「**再クオンタイズ (Requantize)**」を選択して「**再クオンタイズ (Requantize)**」ダイアログを開きます。
  3. 必要に応じてクオンタイズオプションを変更します。
  4. 「**OK**」をクリックして変更内容を保存し、ダイアログを閉じます。
- 

#### 結果

選択したすべての音符の記譜されたデュレーションが、クオンタイズオプションに従って変更されます。これは、再生時の演奏されるデュレーションには影響しません。

#### 関連リンク

[クオンタイズオプション](#) (103 ページ)

[再生の上書きのリセット](#) (854 ページ)

[音符/アイテムの選択](#) (460 ページ)

## クリック設定の変更

MIDI 録音中に常に使用されるメトロノームクリックのサウンド、音量、分割を変更できます。再生中は、メトロノームを有効にした場合のみクリックが鳴ります。

初期設定では、Dorico Pro はメトロノームクリックの拍を複合拍子でのみ分割し、メトロノームクリック音にはクリックを使用します。クリックの音は、各小節の最初の拍、2 拍め以降、分割された拍でそれぞれ異なります。

### 補足

- 拍子記号がない場合、または自由拍子の場合はクリックは鳴りません。
- クリックは DoricoBeep と呼ばれるトーンジェネレーターによって発音されます。クリックに使用するデバイスは、再生モードのテンポトラックを使用して変更できます。

### 手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[P]** を押して「再生オプション (Playback Options)」を開きます。
2. カテゴリーリストの「クリック (Click)」をクリックします。
3. 「メトロノームクリック (Metronome Click)」セクションの「拍の分割 (Beat subdivisions)」で、以下のオプションをオンまたはオフにします。
  - 単純拍子で拍を分割 (Subdivide beats in simple time signatures)
  - 複合拍子で拍を分割 (Subdivide beats in compound time signatures)
4. 「クリック音 (Click sound)」で以下のいずれかのオプションを選択します。
  - クリック (Click) (無音程)
  - ビープ (Beep) (有音程)
  - ウッドブロック (Wood Block)
5. 「ピッチとベロシティー (Pitch and velocity)」で、以下のタイプの拍について、「MIDI ピッチ (MIDI pitch)」または「ベロシティー (Velocity)」あるいはその両方の値を変更します。
  - 1 拍め (First beat)
  - 2 拍め以降 (Subsequent beats)
  - 拍の分割 (Beat subdivisions)
6. 「適用 (Apply)」をクリックしてから「閉じる (Close)」をクリックします。

### 結果

現在のプロジェクトのメトロノームクリックのサウンド、音量、分割の設定が変更されます。

### 関連リンク

- [拍子記号のタイプ \(1796 ページ\)](#)
- [拍子記号と弱起の入力方法 \(311 ページ\)](#)
- [再生テンプレート \(701 ページ\)](#)
- [楽譜の再生 \(680 ページ\)](#)
- [テンポトラック \(672 ページ\)](#)
- [クリックに使用するサウンドを変更する \(672 ページ\)](#)
- [「再生オプション \(Playback Options\)」ダイアログ \(925 ページ\)](#)

## カウントインの長さの変更

プロジェクトごとに、録音を開始する前のカウントインに使用するデフォルトの小節数を変更できます。初期設定では、カウントインは 1 小節です。

### 手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[P]** を押して「再生オプション (Playback Options)」を開きます。
2. カテゴリリストの「クリック (Click)」をクリックします。
3. 「カウントイン (Count-in)」セクションで、「カウントインの小節数 (Number of bars count-in)」の値を変更します。
4. 「適用 (Apply)」をクリックしてから「閉じる (Close)」をクリックします。

### 結果

現在のプロジェクトのカウントインのデフォルトデューレーションが変更されます。

## MIDI 録音の最適化

録音に使用するオペレーティングシステムや MIDI デバイスによっては、録音した音符が意図したデューレーションで、または意図した位置に記譜されないことがあります。MIDI 録音に関する設定を最適化することで、よりよい結果を得られる場合があります。

- 「環境設定 (Preferences)」の「再生 (Play)」ページには、MIDI 録音に影響するオプションがあります。

MIDI デバイスのキーを押してから Dorico Pro が音符を記譜するまでの間にレイテンシーが生じる場合があるため、たとえば 4/4 の拍子記号で 4 分音符を録音するなど、クリックに対して単純なリズムを入力してレイテンシーを確認することをおすすめします。

その結果に応じて、各種設定を変更します。

- 16 分音符が 8 分音符として記譜されるなど、音符が誤ったデューレーションで記譜される場合は、クオンタイズオプションを変更することをおすすめします。
- 入力した音符が記譜されない、あるいは誤って記譜されるなどの場合は、「環境設定 (Preferences)」 > 「再生 (Play)」 > 「録音 (Recording)」で検出された記譜を変更することをおすすめします。

### 補足

「環境設定 (Preferences)」と「MIDI インポートオプション (MIDI Import Options)」ダイアログの記譜設定はリンクされています。

- 音符が拍より前に記譜される場合は、レイテンシーの補正の値を大きくすることをおすすめします。
- 音符が拍より遅れて記譜される場合は、ドロップアウトを起こすことなく安定した再生を行なえる範囲内で、オーディオデバイスのバッファサイズをできるだけ小さくすることをおすすめします。

### 補足

Windows コンピューター内蔵のオーディオデバイスでは、リアルタイムで安定した入力を行なうための十分な低レイテンシーを実現できない場合があります。そのような場合は、ASIO 対応の外付け USB オーディオインターフェースを使用することをおすすめします。

### 関連リンク

[「環境設定 \(Preferences\)」ダイアログ \(63 ページ\)](#)

[クオンタイズオプション \(103 ページ\)](#)

[「MIDI インポートオプション \(MIDI Import Options\)」ダイアログ \(95 ページ\)](#)

[既存の音符を装飾音符に変換する \(1329 ページ\)](#)

[クリックに使用するサウンドを変更する \(672 ページ\)](#)

[MIDI thru の有効化/無効化 \(240 ページ\)](#)

## MIDI レイテンシーの補正の値を変更する

MIDI レイテンシーの補正の値を変更して、MIDI 録音中にキーを押したタイミングと、対応する音符の拍に対する記譜位置の差を補正できます。

### 手順

1. **[Ctrl]/[command]+[,]** を押して「**環境設定 (Preferences)**」を開きます。
2. カテゴリリストの「**再生 (Play)**」をクリックします。
3. 「**録音 (Recording)**」サブセクションで、「**MIDI 入力のレイテンシーの補正 (MIDI input latency compensation)**」の値を変更します。
4. 「**適用 (Apply)**」をクリックしてから「**閉じる (Close)**」をクリックします。

### 結果

レイテンシーの補正の値を大きくすると、キーを押してから記譜するまでの時間が長くなります。これは、録音する音符が拍より前に記譜されたことがある場合に便利です。

レイテンシーの補正の値を小さくすると、キーを押してから記譜するまでの時間が短くなります。これは、録音する音符が拍より後ろに記譜されたことがある場合に便利です。

## オーディオデバイスのバッファサイズの変更

現在のバッファサイズが原因で、MIDI 録音を使用した音符入力拍から大幅に遅れて表示される場合などに、オーディオバッファサイズを変更できます。

### 補足

- MIDI 録音中に演奏した音符が拍より遅れて記譜される場合は、ドロップアウトを起こすことなく安定した再生を行なえる範囲内で、オーディオデバイスのバッファサイズをできるだけ小さくすることをおすすめします。
- Windows コンピューター内蔵のオーディオデバイスでは、リアルタイムで安定した入力を行なうための十分な低レイテンシーを実現できない場合があります。そのような場合は、ASIO 対応の外付け USB オーディオインターフェースを使用することをおすすめします。

### 手順

1. 「**編集 (Edit)**」 > 「**デバイス設定 (Device Setup)**」を選択して「**デバイス設定 (Device Setup)**」ダイアログを開きます。
2. バッファサイズを変更するオーディオデバイスを「**ASIO ドライバー (ASIO Driver)**」メニューから選択します。
3. 「**デバイスコントロールパネル (Device Control Panel)**」をクリックして、選択したオーディオデバイスのデバイス設定ダイアログを開きます。
4. オーディオデバイスの設定ダイアログで、お使いのオペレーティングシステムに応じて以下のいずれかの操作を行ない、バッファサイズを変更します。
  - Windows の場合は、「**オーディオバッファサイズ (Audio buffer size)**」セクションでスライダーを別の位置にドラッグするか、「**手動設定 (User definable)**」をオンにして「**設定バッファサイズ (Selected buffer size)**」フィールドの値を変更します。



- macOS の場合は「**Buffer Size**」メニューからサンプリングレートを選択します。
5. 「OK」 (Windows)/ 「閉じる (Close)」 (macOS) を押してオーディオデバイスの設定ダイアログを閉じます。
  6. 「閉じる (Close)」 をクリックして「デバイス設定 (Device Setup)」 ダイアログを閉じます。
- 

## MIDI 録音/インポートでのサスティンペダルコントローラー設定の変更

MIDI 録音時や MIDI ファイルを開いたりインポートしたりするときに、サスティンペダルコントローラーがペダル線として解釈されるかどうかのデフォルト設定を変更できます。

---

### 手順

1. **[Ctrl]/[command]+[,]** を押して「環境設定 (Preferences)」を開きます。
  2. カテゴリリストの「再生 (Play)」をクリックします。
  3. 「録音 (Recording)」サブセクションで「CC64 をペダル線として読み込む (Import CC64 as pedal lines)」をオン/オフにします。
  4. 「CC64 をペダル線として読み込む (Import CC64 as pedal lines)」をオンにした場合は、必要に応じて「ペダル線を前の拍にスナップする (Snap pedal lines to previous beat)」をオン/オフにします。
  5. 「適用 (Apply)」をクリックしてから「閉じる (Close)」をクリックします。
- 

### 結果

「CC64 をペダル線として読み込む (Import CC64 as pedal lines)」がオンの場合は、MIDI コントローラー CC64 はペダル線として解釈されます。

「ペダル線を前の拍にスナップする (Snap pedal lines to previous beat)」がオンの場合は、ペダル線の開始位置が拍の最初に自動的に移動されます。

---

### 補足

以下のオプションは「MIDI インポートオプション (MIDI Import Options)」ダイアログでも使用可能で、設定内容はこのダイアログと「環境設定 (Preferences)」でリンクされます。

---

### 関連リンク

[「MIDI インポートオプション \(MIDI Import Options\)」ダイアログ \(95 ページ\)](#)

[「環境設定 \(Preferences\)」ダイアログ \(63 ページ\)](#)

---

## MIDI 入力デバイスの有効化/無効化

初期設定では、Dorico Pro は仮想 MIDI ケーブルやアプリケーション間バスを含め、接続されたすべての MIDI デバイスから MIDI 入力を受け入れます。たとえば、MIDI データを絶え間なく出力するデバイスを使用する場合や、特定のデバイスから別のアプリケーションへのルーティングを排他的に維持したい場合など、MIDI デバイスを個別に有効化/無効化できます。

---

### 手順

1. **[Ctrl]/[command]+[,]** を押して「環境設定 (Preferences)」を開きます。
  2. カテゴリリストの「再生 (Play)」をクリックします。
  3. 「MIDI 入力デバイス (MIDI Input Devices)」サブセクションで、各 MIDI 入力デバイスのチェックボックスをオン/オフにします。
-

4. 「適用 (Apply)」をクリックしてから「閉じる (Close)」をクリックします。
- 

## 記譜記号の入力

さまざまな種類の記譜記号を入力できます。音符の入力中に行なうことも、既存の音符や楽譜に追加することもできます。Dorico Pro における記譜記号とは、アーティキュレーション、スラー、強弱記号などのさまざまなアイテムを指す幅広い用語です。

Dorico Pro では、キーボードではポップオーバーを使用して、マウスではパネルを使用して、ほとんどの記譜記号を入力できます。

関連リンク

[ポップオーバー \(25 ページ\)](#)

## アーティキュレーションの入力

音符の入力中にアーティキュレーションの付いた音符を入力したり、音符の入力後にアーティキュレーションを追加したりできます。

### 補足

これらの手順は、音符を入力する前にアーティキュレーションを選択する方法を説明しています。ただし、音符の入力後にアーティキュレーションを指定したい場合はこの設定を変更できます。

---

### 手順

1. 記譜モードで、以下のいずれかの操作を行ないます。
    - 音符の入力を開始します。
    - アーティキュレーションを追加する既存の音符を選択します。
  2. アーティキュレーションの付いた音符を複数の譜表に同時に入力する場合は、それらの譜表にキャレットを伸ばします。
  3. 以下のいずれかの操作を行なって、入力するアーティキュレーションを選択します。
    - 入力するアーティキュレーションのキーボードショートカットを押します。
    - 音符パネルで、入力するアーティキュレーションをクリックします。
    - キーボードパネルツールバーで、入力するアーティキュレーションをクリックします。
  4. 必要に応じて、音符の入力中は、選択したアーティキュレーションを使用して音符または和音を入力します。
- 

### 結果

選択した音符に選択したアーティキュレーションが追加されます。アーティキュレーションは、符頭と連符の角括弧との間または符尾と連符の角括弧の間、つまり連符の角括弧または数や比率よりも音符の近くに配置されます。

音符の入力中は、アーティキュレーションをオフにするまで、入力するすべての音符に選択したアーティキュレーションが追加されます。

### 補足

アーティキュレーションには、同じ音符に追加できない組み合わせがあります。たとえば、スタッカートマークとスタッカティッシモマークはどちらも音符を短く演奏することを指示するため、これらのアーティキュレーションは同じ音符に追加できません。

---

手順終了後の項目

一方の声部にスラーがあり、もう一方の声部にスタッカートがある場合などに、個々のインストゥルメントに対して声部の個別再生を有効にして、異なる声部の異なるサウンドを同時に聴くことができます。

関連リンク

[アーティキュレーション \(1064 ページ\)](#)

[音符の入力 \(247 ページ\)](#)

[音符パネル \(223 ページ\)](#)

[キーボードパネル \(229 ページ\)](#)

[アーティキュレーションのコピーと貼り付け \(1065 ページ\)](#)

[複数の譜表にキャレットを伸ばす \(246 ページ\)](#)

[声部の個別再生の有効化 \(685 ページ\)](#)

## アーティキュレーションのキーボードショートカット

音符パネルでアーティキュレーションをクリックするほかに、コンピューターのキーボードでキーボードショートカットを押すことでも、一般的なアーティキュレーションは入力できます。

キーボードで以下のキーボードショートカットを使って、アーティキュレーションを入力できます。

---

アーティキュレーションのタイプ	キーボードショートカット
アクセント: >	[@]
マルカート: ^	[:]
強勢: '	、
無強勢: `	[*]
スタッカート: ~	[~]
テヌート: -	[_]
スタッカティッシモ: '、'、または'	[{]
テヌートスタッカート: ~	[}]

---

## スラーの入力



スラーは音符の入力中に入力することも、既存の音符に追加することもできます。また、スラーは複数の譜表の既存の音符に同時に追加したり、異なる声部の音符や同じインストゥルメントに属する異なる譜表の音符 (大譜表を用いる楽器の両方の譜表にフレーズがまたがる場合など) に追加したりすることもできます。

手順

1. 記譜モードで、以下のいずれかの操作を行ないます。
  - 音符の入力を開始します。
  - スラーを追加する音符を選択します。


#### ヒント

- 音符を1つだけ選択した場合、その音符と譜表上の同じ声部の次の音符がスラーでつながれます。異なる声部の音符間にスラーを入力するには、最初の音符を選択したあと **[Ctrl]/[command]** を押しながら2つめの音符をクリックするなどして、両方の音符を選択する必要があります。
- ピアノやハーブなど、複数の譜表を使用するインストゥルメントでは、異なる譜表にある2つの音符を選択して、譜表をまたぐスラーを作成できます。ただし、インストゥルメントが異なる場合、譜表をまたぐスラーを作成できません。

2. 音符の入力中に、複数の譜表に音符や記譜記号を入力する場合は、それらの譜表にキャレットを伸ばします。
3. 以下のいずれかの操作を行なって、スラーを入力します。
  - **[S]** を押します。
  - 音符パネルで「スラー (Slur)」  をクリックします。
  - キーボードパネルのツールバーで、「スラー (Slur)」  をクリックします。

#### 補足

既存の音符にスラーを追加した場合はここで終わります。

4. 音符の入力中は、使用する音符を入力します。  
入力する音符間に休符が含まれていたとしても、スラーは自動的に延びていきます。
5. 音符の入力中に以下のいずれかの操作を行ない、現在選択している音符でスラーを終了させます。
  - **[Shift]+[S]** を押します。
  - キーボードパネルのツールバーで、「スラー (Slur)」  をクリックします。


#### 結果

音符の入力中は、スラーはキャレットの位置からではなく、キャレットが伸びているすべての譜表上の現在選択している音符から始まります。音符を入力するとスラーが自動的に延長され、現在選択している音符で終了します。

既存の音符にスラーを追加すると、選択した音符がスラーでつながれます。たとえば、1つのインストゥルメントに属する2つの音符と別のインストゥルメントに属する2つの音符を選択した場合、選択したそれぞれの譜表上に音符をつなぐ2つのスラーが入力されます。同じインストゥルメントに属する異なる譜表上の音符を選択すると、譜表をまたぐスラーが入力されます。

スラーは、選択範囲内の音符の符尾の方向に従い、音符の上または下に配置されます。

#### ヒント

何も選択していない場合、音符パネルまたはキーボードパネルのツールバーで「スラー (Slur)」  を選択し、クリックアンドドラッグで任意の長さのスラーを描くこともできます。

#### 手順終了後の項目

- 一方の声部にスラーがあり、もう一方の声部にスタッカートがある場合などに、個々のインストゥルメントに対して声部の個別再生を有効にして、異なる声部の異なるサウンドを同時に聴くことができます。
- 破線やS字型で表示するなど、個々のスラーのスタイルとカーブ方向を変更できます。

#### 関連リンク

[音符パネル \(223 ページ\)](#)

キーボードパネル (229 ページ)  
ゾーンの表示/非表示の切り替え (48 ページ)  
スラー (1655 ページ)  
入れ子状のスラーを入力する (1670 ページ)  
音符の入力 (248 ページ)  
複数の譜表にキャレットを伸ばす (246 ページ)  
再生時のスラー (1683 ページ)  
声部の個別再生の有効化 (685 ページ)  
譜表および声部をまたぐスラー (1669 ページ)  
スラーのカーブ方向を変更する (1668 ページ)  
スラーのスタイルの変更 (1664 ページ)  
音符/アイテムの位置の移動 (502 ページ)  
アイテムの長さの変更 (470 ページ)



## フィンガリングの入力

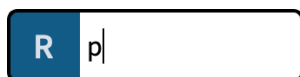
フィンガリングのポップオーバーを使用して、既存の音符にフィンガリングを入力できます。音符の入力中に行なうことも、既存の音符に追加することもできます。

### 補足

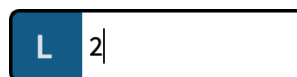
- 複数の位置にある音符に同時にフィンガリングを追加することはできません。また、入力できるフィンガリングの数は、その位置にある音符の数と同じです。たとえば、3つの音符を含む和音の位置には3つのフィンガリングを入力できますが、単一音符の位置に入力できるフィンガリングは1つのみです。
- 複数の声部の音符を選択した場合、フィンガリングは一番上の声部にのみ入力されます。
- 替え指のフィンガリングには2つの数字が含まれていますが、これらは1つのフィンガリングと見なされるため、1つの音符に追加できます。

### 手順

1. 記譜モードで、以下のいずれかの操作を行ないます。
  - 音符の入力を開始します。
  - フィンガリングを追加する単一の譜表に含まれる既存の音符を選択します。  
和音のすべての音符にフィンガリングを追加するには、和音のすべての音符を選択します。
2. 必要に応じて、音符の入力中に音符を1つ以上入力します。
3. 以下のいずれかの操作を行なってフィンガリングのポップオーバーを開きます。
  - **[Shift]+[F]** を押します。
  - 記譜ツールボックスで「ポップオーバー (Popovers)」 をクリックし、「フィンガリング (Fingerings)」 をクリックします。
4. フレット楽器のフィンガリングを入力する場合、必要に応じて以下のいずれかの方法で手を変更します。
  - 右手に切り替えるには、**[↓]** を押します。
  - 左手に切り替えるには、**[↑]** を押します。ポップオーバーのアイコンが更新され、現在の手が表示されます。



右手のフィンガリングを入力中のフィンガリングのポップオーバー



左手のフィンガリングを入力中のフィンガリングのポップオーバー

5. 使用するフィンガリングをポップオーバーに入力します。

例:

- 第3指から第2指への替え指を指定するには「**3-2**」と入力します。
- 和音を指定するには「**1,3,5**」と入力します。
- バルブ式金管楽器で最初の2つのバルブを押さえることを示すには、「**12**」と入力します。
- 右手の親指のフィンガリングは「**p**」、左手の親指のフィンガリングは「**t**」と入力します。
- シフト指示付きのフィンガリングは「**2/**」と入力します。

6. 既存の音符にフィンガリングを追加する場合、以下のいずれかの操作を行なってポップオーバーを移動します。

- ポップオーバーを現在の声部の次の音符/和音に進めるには、**[Space]** を押します。
- ポップオーバーを現在の声部の前の音符/和音に戻すには、**[Shift]+[Space]** を押します。
- ポップオーバーを現在の声部の次の小節にある最初の音符/和音に進めるには、**[Tab]** を押します。
- ポップオーバーを現在の声部の前の小節にある最初の音符/和音に戻すには、**[Shift]+[Tab]** を押します。
- カーソルとポップオーバーを現在の声部の右/左および次/前の音符またはフィンガリングに移動するには、**[→]/[←]** を押します。

7. **[Return]** を押してポップオーバーを閉じます。

結果

選択した音符にフィンガリングが入力されます (音符の入力中も可)。キャレットが表示された声部、または最初に選択した声部内の音符間をポップオーバーが移動します。

関連リンク

[フィンガリング \(1286 ページ\)](#)

[替え指のフィンガリングの位置の変更 \(1288 ページ\)](#)

[バルブ式金管楽器のフィンガリング \(1309 ページ\)](#)

[フィンガリングの削除 \(1295 ページ\)](#)



[コードダイアグラムのフィンガリングの表示/非表示を切り替える \(1182 ページ\)](#)

[コードダイアグラムの親指のフィンガリングを許可する/禁止する \(1184 ページ\)](#)

## フィンガリングのポップオーバー

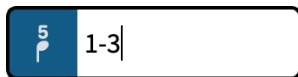
以下の表は、さまざまなタイプのフィンガリングを入力するためにフィンガリングのポップオーバーに入力できるエントリーの例です。フレット楽器とその他の楽器ではフィンガリングのポップオーバーの動作が異なるため、フレット楽器のフィンガリングは別の表に記載しています。

記譜モードでは、音符の選択時またはキャレットの有効時に以下のいずれかの操作を行なって、フィンガリングのポップオーバーを開くことができます。

- **[Shift]+[F]** を押します。
- 記譜ツールボックスで「**ポップオーバー (Popovers)**」 をクリックし、「**フィンガリング (Fingerings)**」 をクリックします。

- 「記譜 (Write)」 > 「フィンガリングを作成 (Create Fingerings)」 を選択します。

フレット楽器以外の楽器のフィンガリングを入力する場合は、ポップオーバーの左側に表示されたアイコンが記譜ツールボックスの対応するボタンと一致します。フレット楽器のフィンガリングを入力する場合は、ポップオーバーの左側に表示されたアイコンが右手と左手のどちらのフィンガリングを入力しているかを示します。



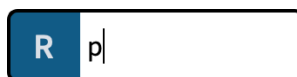
フレット楽器以外の楽器のフィンガリングを入力するためのエントリーの例が入力されたフィンガリングのポップオーバー



左手のフレット楽器のフィンガリングのエントリーの例が入力されたフィンガリングのポップオーバー



記譜ツールボックスの「フィンガリング (Fingering)」 ボタン



右手のフレット楽器のフィンガリングのエントリーの例が入力されたフィンガリングのポップオーバー

## フレット楽器以外

フィンガリングのタイプ	ポップオーバーエントリーの例
個々の音符用の単一のフィンガリング (金管楽器のバルブ番号やトロンボーンのスライドポジションを含む)	「1」、「2」、「3」 など
バルブ式金管楽器	12
和音の各音符用の単一のフィンガリング	1,3,5
鍵盤楽器の場合、音符を演奏する指に応じて Dorico Pro が適切な番号を自動的に指示します。初期設定は以下のとおりです。	
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 上段の譜表は右手</li> <li>● 下段の譜表は左手</li> </ul>	
左手のフィンガリング (フレット楽器以外)	「L2」、「G2」、「S5」、「I2」、または「H2」
右手のフィンガリング (フレット楽器以外)	「R5」、「D5」、または「M5」
親指の指示記号 (フレット楽器以外)	T
個々の音符に対する複数のフィンガリング (モルデントやターンなどの装飾音に使用)	2343

## フィンガリングのタイプ

## ポップオーバーエントリーの例

複数の音符に対する単一のフィンガリング: 隣接する2つの音符に同じフィンガリング番号を入力します。

**1,1**

たとえば、鍵盤楽器では親指で2つの鍵盤を同時に押すことがあります。

代替フィンガリング

**2(3)**

### 補足

代替フィンガリングを角括弧で表示するように選択している場合でも、ポップオーバーでは括弧を使用する必要があります。

編者注によるフィンガリング

**[4]**

### 補足

編者注によるフィンガリングを括弧で表示するように選択している場合でも、ポップオーバーでは角括弧を使用する必要があります。

替え指

**1-3**

フィンガリングのシフト指示 (弦楽器)

**2/**

## フレット楽器

### フィンガリングのタイプ

### ポップオーバーエントリーの例

左手のフィンガリング

「0」、「1」、「2」、「3」、「4」、「5」

左手の親指

**t**

右手のフィンガリング

「1」、「2」、「3」、「4」、「5」

「p」、「i」、「m」、「a」、「e」

右手の親指

「p」、「t」、または「1」

右手の小指

「e」、「x」、「c」、「o」、または「5」

これらのリストにはすべてのエントリーが含まれているわけではなく、ほかにも多くのフィンガリングがあります。このリストは、さまざまなタイプのフィンガリングを入力するためにエントリーをどのように構成するかを示すことを目的としています。



#### 補足

初期設定では、替え指はすぐ隣に表示されますが、据え置きデュレーションを変更することで替え指の位置を変更できます。

フィンガリングのタイプごとの外観と位置は、「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**フィンガリング (Fingering)**」ページで変更できます。

#### 関連リンク

[記譜ツールボックス \(224 ページ\)](#)

[フィンガリング \(1286 ページ\)](#)

[浄書オプションでフィンガリングの設定をプロジェクト全体に適用する \(1287 ページ\)](#)

[「浄書オプション \(Engraving Options\)」ダイアログ \(923 ページ\)](#)

[替え指のフィンガリングの位置の変更 \(1288 ページ\)](#)

[バルブ式金管楽器のフィンガリング \(1309 ページ\)](#)

[コードダイアグラムのフィンガリングの表示/非表示を切り替える \(1182 ページ\)](#)

[コードダイアグラムの親指のフィンガリングを許可する/禁止する \(1184 ページ\)](#)

## 調号の入力方法

調号は、調号のポップオーバーを使用してキーボードで入力することも、「**調号、調性システム、臨時記号 (Key Signatures, Tonality Systems, and Accidentals)**」パネルを使用してマウスで入力することもできます。

#### 補足

特別な調号はパネルからのみ入力でき、ポップオーバーを使用して入力することはできません。



#### 関連リンク

[調号 \(1346 ページ\)](#)

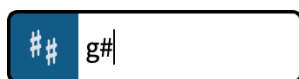
## 調号のポップオーバー

以下の表は、さまざまな調号を入力するために調号のポップオーバーに入力できるエントリーの例です。

記譜モードでは、アイテムの選択時またはキャレットの有効時に以下のいずれかの操作を行なって、調号のポップオーバーを開くことができます。

- **[Shift]+[K]** を押します。
- 記譜ツールボックスで「**ポップオーバー (Popovers)**」をクリックし、「**調号 (Key Signatures)**」をクリックします。
- 既存の調号を選択して **[Return]** を押します。
- 「**記譜 (Write)**」 > 「**調号を作成 (Create Key Signature)**」を選択します。

ポップオーバーの左側に表示されたアイコンが、ウィンドウの右側にある記譜記号ツールボックスの対応するボタンと一致します。



エントリーの例が入力された調号のポップオーバー



記譜ツールボックスの「**調号、調性システム、臨時記号 (Key Signatures, Tonality Systems, and Accidentals)**」ボタン

## 調号のタイプ

オープンキーの調号または無調の調号

メジャーキー (大文字)

マイナーキー (小文字)

シャープの数

### 補足

このように多くのシャープを入力する場合はメジャーキーと見なされます。

フラットの数

### 補足

このように多くのフラットを入力する場合はメジャーキーと見なされます。

## ポップオーバーエントリー

「open」または「atonal」

「C」、「D」、「G#」、「Ab」など

「g」、「d」、「f#」、「bb」など

「3s」、「2#」など

「4f」、「5b」など

このリストにはすべてのエントリーが含まれているわけではなく、他にも多くの調号を入力できます。このリストは、さまざまなタイプの調号を入力するためにエントリーをどのように構成するかを示すことを目的としています。

### 関連リンク



[記譜ツールボックス \(224 ページ\)](#)

[調号 \(1346 ページ\)](#)

[調号のタイプ \(1348 ページ\)](#)

## 調号、調性システム、臨時記号パネル

「調号、調性システム、臨時記号 (Key Signatures, Tonality Systems, and Accidentals)」パネルでは、一般的な調号や特別な調号の作成と入力を行なえます。これは記譜モードの右ゾーンに配置されています。

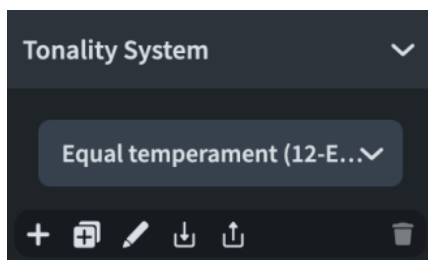
- 記譜ツールボックスで「**パネル (Panels)**」をクリックしたあとに、「**調号、調性システム、臨時記号 (Key Signatures, Tonality Systems, and Accidentals)**」をクリックすることで、「調号、調性システム、臨時記号」パネルの表示/非表示を切り替えられます。

**[Ctrl]/[command]+[9]** を押して右ゾーンの表示/非表示を切り替えることもできます。







「調号、調性システム、臨時記号 (Key Signatures, Tonality Systems, and Accidentals)」パネルには以下のセクションがあります。

### 調性 (Tonality System)

使用する調性システムを選択できるメニューと、「**調性システムを編集 (Edit Tonality System)**」ダイアログを開くオプションがあります。



セクションの最下部のアクションバーには以下のオプションがあります。

- **新規調性システム (New Tonality System)** : カスタムの調性システムを新規作成して「調性システムを編集 (Edit Tonality System)」ダイアログを開きます。
- **調性システムを複製 (Duplicate Tonality System)** : 元のものとは別で編集できる既存の調性システムのコピーを作成し、「調性システムを編集 (Edit Tonality System)」ダイアログを開きます。
- **調性システムを編集 (Edit Tonality System)** : 「調性システムを編集 (Edit Tonality System)」ダイアログを開き、選択した既存の調性システムを編集できます。
- **調性システムを読み込み (Import Tonality System)** : エクスプローラー (Windows) または Finder (Mac) を開き、現在のプロジェクトに読み込む調性システムの .doricolib ファイルを選択できます。
- **調性システムを書き出し (Export Tonality System)** : エクスプローラー (Windows) または Finder (Mac) を開き、選択した調性システムを .doricolib ファイルとして書き出す場所を選択できます。そのあと、.doricolib ファイルを別のプロジェクトに読み込んで別のユーザーと共有できます。
- **調性システムを削除 (Delete Tonality System)** : 選択した調性システムを削除します。

#### 補足

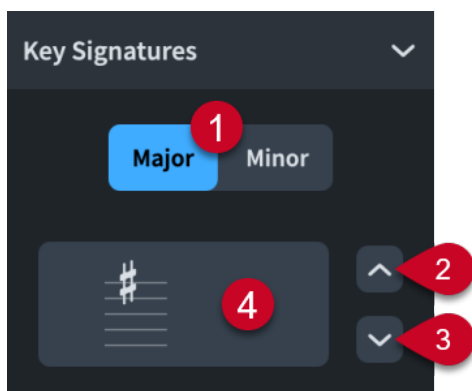
プリセットの調性システム、またはプロジェクト内で現在使用中の調性システムは削除できません。

### フローで使用 (Used in This Flow)

フローで現在使用されているすべての調号が表示されます。

### 調号 (Key Signatures)

調号を作成できます。



「調号 (Key Signatures)」セクションには以下の部分があります。

#### 1 長調 (Major)/短調 (Minor)

調号を「長調 (Major)」または「短調 (Minor)」のいずれかから選択できます。

## 2 シャープ増/フラット減 (More Sharps/Fewer Flats)

クリックするたびに調号にシャープの臨時記号が1つ追加されるか、調号からフラットの臨時記号が1つ削除されます。

## 3 シャープ減/フラット増 (Fewer Sharps/More Flats)

クリックするたびに調号からシャープの臨時記号が1つ削除されるか、調号にフラットの臨時記号が1つ追加されます。

## 4 調号の入力

調号が譜表上でどのように見えるかが表示されます。このボタンをクリックすると、表示されている調号が入力されます。プロジェクト内でなにも選択されていない場合は、調号はマウスポインターに読み込まれます。

### 特別な調号 (Custom Key Signatures)

現在選択している調性システムに対して作成した特別な調号が表示されます。

### 臨時記号 (Accidentals)

現在選択している調性システムで使用できるすべての臨時記号が表示されます。

関連リンク

[記譜ツールボックス \(224 ページ\)](#)

[調号 \(1346 ページ\)](#)

[調性システム \(1357 ページ\)](#)

[カスタムの調性システム \(1003 ページ\)](#)

[「調性システムを編集 \(Edit Tonality System\)」ダイアログ \(1007 ページ\)](#)

[カスタムの調性システムの作成 \(1003 ページ\)](#)



## ポップオーバーを使った調号の入力

調号のポップオーバーを使用して調号を入力できます。音符の入力中に行なうことも、既存の楽譜に追加することもできます。調号を特定の譜表だけに入力することもできます。

### 補足

- 特別な調号はポップオーバーを使用して入力することはできず、パネルからのみ入力できます。
- 移調レイアウトの移調楽器には適切な調号が自動的に表示されるため、移調楽器に別の調号を入力する必要はありません。

### 手順

1. 記譜モードで、以下のいずれかの操作を行ないます。
  - 音符の入力を開始します。
  - 調号を入力する位置にあるアイテムを選択します。特定の譜表に調号を入力するには、それらの譜表だけに属するアイテムを選択します。
2. 音符の入力中に、複数の譜表に音符や記譜記号を入力する場合は、それらの譜表にキュレットを伸ばします。
3. 以下のいずれかの操作を行なって調号のポップオーバーを開きます。
  - **[Shift]+[K]** を押します。
  - 記譜ツールボックスで「**ポップオーバー (Popovers)**」をクリックし、「**調号 (Key Signatures)**」をクリックします。
4. 使用する調号をポップオーバーに入力します。
  - メジャーキーの場合は、大文字または対応するシャープ/フラットの数を入力します。たとえば、Gメジャーなら「**G**」または「**1s**」です。

- マイナーキーの場合は小文字を入力します。たとえば、G マイナーなら「g」です。
  - 無調の調号は「open」と入力します。
5. 以下のいずれかの操作を行なって、調号を入力してポップオーバーを閉じます。
- すべての譜表に調号を入力するには、**[Return]** を押します。
  - 選択した譜表またはカーレットが伸びている譜表にのみ調号を入力するには、**[Alt/Opt]+[Return]** を押します。

#### 結果

音符の入力中、小節の途中であっても、カーレットの位置に調号が入力されます。

楽譜に調号を追加する場合、最初に選択したアイテムの位置に追加されます。既存の調号を選択した場合、その調号が新しい調号に直接置き換わります。

その後ろに入力した音符は、次の調号またはフローの終わりのいずれか早い方の位置まで、入力した調号に従います。MIDI キーボードを使用して音符を入力した場合、調号に基づいて臨時記号が表記されます。

A マイナーやオープンキーの調号など、臨時記号が表示されない調号はガイドで表示されます。

#### 補足

単一の譜表の個別の調号は、移調楽器用ではありません。移調楽器の場合、音符および調号の移調は自動的に行なわれます。

#### 関連リンク

- [調号のポップオーバー \(305 ページ\)](#)
- [MIDI 入力中の臨時記号の選択 \(271 ページ\)](#)
- [調号 \(1346 ページ\)](#)
- [複数の譜表にカーレットを伸ばす \(246 ページ\)](#)
- [音符/アイテムの位置の移動 \(502 ページ\)](#)
- [移調楽器 \(146 ページ\)](#)
- [レイアウトの移調音/実音の設定 \(194 ページ\)](#)
- [音符の書き換え \(523 ページ\)](#)
- [個々の音符のピッチの変更 \(518 ページ\)](#)
- [選択範囲の移調 \(519 ページ\)](#)
- [音符をスケールにマッピング \(535 ページ\)](#)
- [調性システムの変更 \(1358 ページ\)](#)
- [ガイド \(490 ページ\)](#)

## パネルを使った調号の入力

「調号、調性システム、臨時記号 (Key Signatures, Tonality Systems, and Accidentals)」パネルを使用して調号を入力できます。音符の入力中に行なうことも、既存の楽譜に追加することもできます。調号を特定の譜表だけに入力することもできます。



#### 補足

- 以下の手順は、環境設定でマウス入力のデフォルト設定が「**選択位置にアイテムを作成 (Create item at selection)**」に設定されている場合について説明します。
- 移調レイアウトの移調楽器には適切な調号が自動的に表示されるため、移調楽器に別の調号を入力する必要はありません。

#### 前提条件

入力する特別な調号を、必要に応じてカスタムの調性システムに作成しておきます。

#### 手順

1. 記譜モードで、以下のいずれかの操作を行ないます。
  - 音符の入力を開始します。
  - 調号を入力する位置にあるアイテムを選択します。特定の譜表に調号を入力するには、それらの譜表だけに属するアイテムを選択します。
2. 記譜ツールボックスで「パネル (Panels)」をクリックしたあとに、「調号、調性システム、臨時記号 (Key Signatures, Tonality Systems, and Accidentals)」をクリックして、調号、調性システム、臨時記号パネルを表示します。
3. 使用する調号を現在のフローでまだ使用していない場合は、調号、調性システム、臨時記号パネルの「調号 (Key Signatures)」エディターを使用して入力する調号を作成します。
4. 以下のいずれかの操作を行なって、必要な調号を入力します。
  - すべての譜表に調号を入力するには、「調号、調性システム、臨時記号 (Key Signatures, Tonality Systems, and Accidentals)」パネルで入力する調号をクリックします。
  - 選択した譜表またはキュレットがアクティブな譜表にのみ調号を入力するには、調号、調性システム、臨時記号パネルで、**[Alt/Opt]** を押しながらその調号をクリックします。

---

#### 結果

音符の入力中、小節の途中であっても、キュレットの位置に調号が入力されます。

楽譜に調号を追加する場合、最初に選択したアイテムの位置に追加されます。既存の調号を選択した場合、その調号が新しい調号に直接置き換わります。

その後ろに入力した音符は、次の調号またはフローの終わりのいずれか早い方の位置まで、入力した調号に従います。MIDI キーボードを使用して音符を入力した場合、調号に基づいて臨時記号が表記されます。

A マイナーやオープンキーの調号など、臨時記号が表示されない調号はガイドで表示されます。

#### 補足

単一の譜表の個別の調号は、移調楽器用ではありません。移調楽器の場合、音符および調号の移調は自動的に行なわれます。

---

#### 関連リンク

- [記譜ツールボックス \(224 ページ\)](#)
- [調号、調性システム、臨時記号パネル \(306 ページ\)](#)
- [調号 \(1346 ページ\)](#)
- [MIDI 入力中の臨時記号の選択 \(271 ページ\)](#)
- [音符/アイテムの位置の移動 \(502 ページ\)](#)
- [マウス入力の設定の変更 \(235 ページ\)](#)
- [移調楽器 \(146 ページ\)](#)
- [レイアウトの移調音/実音の設定 \(194 ページ\)](#)
- [音符の書き換え \(523 ページ\)](#)
- [個々の音符のピッチの変更 \(518 ページ\)](#)
- [選択範囲の移調 \(519 ページ\)](#)
- [音符をスケールにマッピング \(535 ページ\)](#)
- [カスタムの調性システム \(1003 ページ\)](#)
- [特別な調号 \(1012 ページ\)](#)
- [カスタムの調性システムの作成 \(1003 ページ\)](#)
- [特別な調号を作成/編集する \(1006 ページ\)](#)
- [調性システムの変更 \(1358 ページ\)](#)
- [ガイド \(490 ページ\)](#)

## 拍子記号と弱起の入力方法

拍子記号 (弱起付きの拍子記号を含む) は、拍子記号のポップオーバーを使用してキーボードで入力することも、拍子記号 (拍子) パネルを使用してマウスで入力することもできます。

### 補足

ほとんどのタイプのカスタム拍子記号は拍子記号 (拍子) パネルの「**拍子記号を作成 (Create Time Signature)**」セクションを使用して作成できますが、拍子記号のポップオーバーでしか作成できない拍子記号もあります。たとえば、分割された拍は拍子記号のポップオーバーでしか指定できません。

### 関連リンク

[「環境設定 \(Preferences\)」ダイアログ \(63 ページ\)](#)

[拍子記号 \(1795 ページ\)](#)

[拍子記号のタイプ \(1796 ページ\)](#)

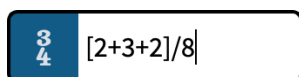
## 拍子記号のポップオーバー

以下の表は、さまざまなタイプの拍子記号を入力するために拍子記号のポップオーバーに入力できるエントリーの例です。

記譜モードでは、アイテムの選択時またはキャレットの有効時に以下のいずれかの操作を行なって、拍子記号のポップオーバーを開くことができます。

- **[Shift]+[M]** を押します。
- 記譜ツールボックスで「**ポップオーバー (Popovers)**」 をクリックし、「**拍子記号 (拍子) (Time Signatures (Meter))**」 をクリックします。
- 既存の拍子記号を選択して **[Return]** を押します。
- 「**記譜 (Write)**」 > 「**拍子記号を作成 (Create Time Signature)**」を選択します。

ポップオーバーの左側に表示されたアイコンが、ウィンドウの右側にある記譜記号ツールボックスの対応するボタンと一致します。



エントリーの例が入力された拍子記号のポップオーバー



記譜ツールボックスの「**拍子記号 (拍子) (Time Signatures (Meter))**」ボタン

## 拍子記号

### 拍子記号のタイプ

単純拍子の拍子記号

たとえば 2/2 (1 小節に 2 つの 2 分音符)、2/4 (1 小節に 2 つの 4 分音符)、6/8 (1 小節に 6 つの 8 分音符)、3/4、5/4 など

### ポップオーバーエントリー

「2/2」、「2/4」、「6/8」、「3/4」、「5/4」など

## 拍子記号のタイプ

6/8+3/4 などの交互拍子の拍子記号

## ポップオーバーエントリー

6/8 + 3/4

補足

プラス記号の両側にスペースを入れる必要があります。

コモンタイム (4/4 に相当)

c

カットコモンタイム (2/2 に相当)

「cutc」、「cut」、または「c」

X で表示された自由拍子の拍子記号

「X」または「x」

表示のない自由拍子の拍子記号

open

補足

自由拍子の位置に拍子記号ガイドが表示されません。

明示的な拍グループを使用した混合拍子の拍子記号

「3+2+2/8」、「3+2/4」など

拍のグループを指定するが拍子記号には表示しない

[2+3+2]/8

たとえば、7/8 の拍子記号が表示されますが、連符は 8 分音符 2+3+2 に分割されます。

異なる拍子間の区切りを表わす破線の小節線が各小節に表示された結合拍子の拍子記号

2/4|6/8

各小節に破線の小節線は表示されていない結合拍子の拍子記号

2/4:6/8

さまざまなスタイル (括弧、スラッシュ、等号、ダッシュ) を使用した入れ替え可能な拍子の拍子記号

「2/4 (6/8)」、「2/4 / 6/8」、「2/4 = 6/8」、または「2/4 - 6/8」

補足

スラッシュ、等号、ダッシュの両側および開始括弧の前にはスペースを入れる必要があります。

## 弱起 (アウフタクト)

弱起付きの拍子記号の例

ポップオーバーエントリー

4 分音符の弱起が付いた 4/4 の拍子記号

4/4,1



弱起付きの拍子記号の例	ポップオーバーエントリー
付点4分音符の弱起が付いた4/4の拍子記号	4/4,1.5
16分音符の弱起が付いた4/4の拍子記号	4/4,0.25
符点8分音符1つ分の弱起が付いた3/4の拍子記号	3/4,0.75
8分音符2つ分の弱起が付いた6/8の拍子記号	6/8,2
4分音符の弱起が付いた2/2の拍子記号	2/2,0.5

## ヒント

コンマのあとの数字は、拍子記号の分母で指定されたリズム単位の分数/倍数を示します。たとえば、1は4/4の4分音符、または6/8の8分音符を示します。

これらのリストにはすべてのエントリーが含まれているわけではなく、ほかにも多くの拍子記号と弱起があります。このリストは、さまざまな拍子記号と弱起を入力するためにエントリーをどのように構成するかを示すことを目的としています。

### 関連リンク

[記譜ツールボックス \(224 ページ\)](#)

[拍子記号 \(1795 ページ\)](#)

[拍子記号のタイプ \(1796 ページ\)](#)

[拍子記号のスタイル \(1804 ページ\)](#)

[ポップオーバーを使った拍子記号の入力 \(315 ページ\)](#)



[ポップオーバーを使った弱起\(アフタクト\)の入力 \(317 ページ\)](#)

[拍子のカスタム連桁グループを作成する \(1138 ページ\)](#)

[入れ替え可能な拍子の拍子記号を終了する \(1813 ページ\)](#)

## 拍子記号 (拍子) パネル

拍子記号 (拍子) パネルでは、さまざまな拍子記号を入力できます。このパネルの「**拍子記号を作成 (Create Time Signature)**」セクションでは、珍しい拍子記号を作成できます。これは記譜モードの右ゾーンに配置されています。

- 記譜ツールボックスで「**パネル (Panels)**」をクリックしたあとに、「**拍子記号 (拍子) (Time Signatures (Meter))**」をクリックすることで、拍子記号 (拍子) パネルの表示/非表示を切り替えられます。

**[Ctrl]/[command]+[9]** を押して右ゾーンの表示/非表示を切り替えることもできます。

拍子記号 (拍子) パネルには以下のセクションがあります。

### フローで使用 (Used in This Flow)

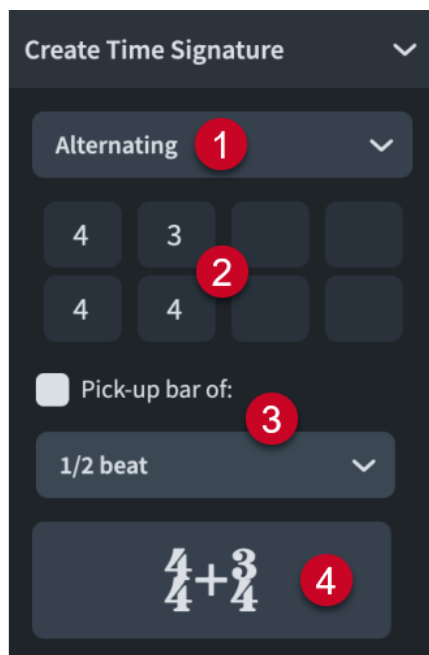
現在のフローで既に使用されている拍子記号が表示されます。

### 一般 (Common)

4/4、3/4、6/8、7/8 などの一般的な拍子記号が表示されます。

### 拍子記号を作成 (Create Time Signature)

交互拍子の拍子記号や結合拍子の拍子記号など、独自の拍子記号をデザインできます。



「拍子記号を作成 (Create Time Signature)」セクションには以下の部分があります。

#### 1 拍子記号のタイプメニュー

以下のいずれかの拍子記号タイプを選択できます。

- 標準拍子 (Regular)
- 混合拍子 (Additive)
- 入れ替え可能な拍子 (Interchangeable)
- 結合拍子 (Aggregate)
- 交互拍子 (Alternating)

#### 2 拍子記号スペース

最大4つの拍子記号を組み合わせることができます。たとえば、標準拍子には1つの拍子記号しか指定できませんが、交互拍子の拍子記号には3つの拍子記号を指定しても構いません。

#### 3 アウフタクトの拍数 (Pick-up bar of)

拍子記号の前に弱起 (アウフタクト) を含めることができます。弱起 (アウフタクト) は完全な小節ではないため、最初の完全な小節の前にいくつかの拍を含めることができます。

弱起 (アウフタクト) の拍数として、以下のいずれかのオプションを選択できます。

- 半拍 (1/2 beat)
- 1拍 (1 beat)
- 2拍 (2 beats)
- 3拍 (3 beats)

#### 4 拍子記号の入力ボタン

拍子記号が表示されたボタンをクリックすると、その拍子記号が入力されます。プロジェクトで何も選択されていない場合は、拍子記号がマウスポインターに読み込まれます。

関連リンク

[記譜ツールボックス \(224 ページ\)](#)

[拍子記号 \(1795 ページ\)](#)

[拍子記号のタイプ \(1796 ページ\)](#)

[拍子記号のスタイル \(1804 ページ\)](#)

[パネルを使った拍子記号の入力 \(316 ページ\)](#)

[パネルを使った弱起 \(アウフタクト\) の入力 \(319 ページ\)](#)

## ポップオーバーを使った拍子記号の入力




拍子記号のポップオーバーを使用して拍子記号を入力できます。音符の入力中に行なうことも、既存の楽譜に追加することもできます。拍子記号を特定の譜表だけに入力することもできます。

### 補足

挿入モードがオンになっていない限り、新しい拍子記号に応じて小節を埋めるための拍が影響を受ける領域の終わりに自動的に追加されることはありません。

---

### 手順

1. 記譜モードで、以下のいずれかの操作を行ないます。
  - 音符の入力を開始します。
  - 拍子記号を入力する位置にあるアイテムを選択します。特定の譜表に拍子記号を入力するには、それらの譜表だけに属するアイテムを選択します。
2. 音符の入力中に、複数の譜表に音符や記譜記号を入力する場合は、それらの譜表にキャレットを伸ばします。
3. 新しい拍子記号の影響を受ける領域の終わりに、必要に応じて拍が自動的に追加されるようにするには、以下のいずれかの操作を行なって挿入モードを有効にします。
  - **[I]** を押します。
  - 音符ツールボックスの「挿入 (Insert)」 をクリックします。
4. 以下のいずれかの操作を行なって拍子記号のポップオーバーを開きます。
  - **[Shift]+[M]** を押します。
  - 記譜ツールボックスで「ポップオーバー (Popovers)」 をクリックし、「拍子記号 (拍子) (Time Signatures (Meter))」 をクリックします。
5. 使用する拍子記号をポップオーバーに入力します。

たとえば、4/4 の拍子記号を入力するには「**4/4**」と入力し、カスタム拍グループを使った 7/8 の拍子記号を入力するには「**[2+2+3]/8**」と入力します。
6. 以下のいずれかの操作を行なって、拍子記号を入力してポップオーバーを閉じます。
  - すべての譜表に拍子記号を入力するには、**[Return]** を押します。
  - 選択した譜表またはキャレットが伸びている譜表にのみ拍子記号を入力するには、**[Alt/Opt]+[Return]** を押します。

### 結果

音符の入力中は、小節の途中であっても、キャレットの位置に拍子記号が入力されます。

楽譜に拍子記号を追加する場合、最初に選択したアイテムの位置に追加されます。既存の拍子記号を選択した場合、その拍子記号が新しい拍子記号に直接置き換わります。

後続のすべての小節は、次の拍子記号またはフローの終わりのいずれか早い方の位置まで、入力した拍子記号に従います。Dorico Pro によって必要に応じて小節が自動的に入力および移動されるため、後続の楽譜の小節は正しくなります。ただし、自由拍子では、小節線の入力と拍の追加を手動で行なう必要があります。

入れ替え可能な拍子の拍子記号に指定されている拍子記号を入力すると、その入れ替え可能な拍子の拍子記号を終了するまで自動的にすべて非表示になります。

#### 関連リンク

- [拍子記号のポップオーバー \(311 ページ\)](#)
- [複数の譜表にキャレットを伸ばす \(246 ページ\)](#)
- [拍子記号 \(1795 ページ\)](#)
- [弱起 \(アウフタクト\) \(1800 ページ\)](#)
- [拍子記号のスタイル \(1804 ページ\)](#)
- [入れ替え可能な拍子の拍子記号の区切り文字のスタイルを個別に変更する \(1807 ページ\)](#)
- [拍子記号のデザインを個別に変更する \(1814 ページ\)](#)
- [ポップオーバーを使った弱起 \(アウフタクト\) の入力 \(317 ページ\)](#)
- [ポップオーバーを使った小節線の入力 \(334 ページ\)](#)
- [ポップオーバーを使った小節/拍の入力 \(332 ページ\)](#)
- [挿入モード \(491 ページ\)](#)
- [入れ替え可能な拍子の拍子記号を終了する \(1813 ページ\)](#)
- [リズム上の位置 \(26 ページ\)](#)
- [音符と休符のグループ化 \(1136 ページ\)](#)

## パネルを使った拍子記号の入力




拍子記号 (拍子) パネルを使用して拍子記号を入力できます。音符の入力中に行なうことも、既存の楽譜に追加することもできます。拍子記号を特定の譜表だけに入力することもできます。

#### 補足

- 以下の手順は、環境設定でマウス入力のデフォルト設定が「**選択位置にアイテムを作成 (Create item at selection)**」に設定されている場合について説明します。
- 挿入モードがオンになっていない限り、新しい拍子記号に応じて小節を埋めるための拍が影響を受ける領域の終わりに自動的に追加されることはありません。

---

#### 手順

- 記譜モードで、以下のいずれかの操作を行ないます。
  - 音符の入力を開始します。
  - 拍子記号を入力する位置にあるアイテムを選択します。特定の譜表に拍子記号を入力するには、それらの譜表だけに属するアイテムを選択します。
- 新しい拍子記号の影響を受ける領域の終わりに、必要に応じて拍が自動的に追加されるようにするには、以下のいずれかの操作を行なって挿入モードを有効にします。
  - [I]** を押します。
  - 音符ツールボックスの「**挿入 (Insert)**」  をクリックします。
- 記譜ツールボックスで、「**パネル (Panels)**」  をクリックしたあとに、「**拍子記号 (拍子) (Time Signatures (Meter))**」  をクリックして拍子記号 (拍子) パネルを表示します。
- 「**フローで使用 (Used in This Flow)**」 セクションまたは「**一般 (Common)**」 セクションで利用できない拍子記号を入力する場合は、「**拍子記号を作成 (Create Time Signature)**」 セクションのメニューから入力する拍子記号の種類を選択します。
- 必要に応じて、使用する拍子記号を所定のスペースに入力します。
- 以下のいずれかの操作を行なって、必要な拍子記号を入力します。
  - すべての譜表に拍子記号を入力するには、拍子記号 (拍子) パネルでその拍子記号をクリックします。
  - 選択した譜表またはキャレットがアクティブな譜表にのみ拍子記号を入力するには、拍子記号 (拍子) パネルで **[Alt/Opt]** を押しながらその拍子記号をクリックします。

## 結果

音符の入力中は、小節の途中であっても、キャレットの位置に拍子記号が入力されます。

楽譜に拍子記号を追加する場合、最初を選択したアイテムの位置に追加されます。既存の拍子記号を選択した場合、その拍子記号が新しい拍子記号に直接置き換わります。

後続のすべての小節は、次の拍子記号またはフローの終わりのいずれか早い方の位置まで、入力した拍子記号に従います。Dorico Pro によって必要に応じて小節が自動的に入力および移動されるため、後続の楽譜の小節は正しくなります。ただし、自由拍子では、小節線の入力と拍の追加を手動で行なう必要があります。

入れ替え可能な拍子の拍子記号に指定されている拍子記号を入力すると、その入れ替え可能な拍子の拍子記号を終了するまで自動的にすべて非表示になります。

## 関連リンク

- [記譜ツールボックス \(224 ページ\)](#)
- [拍子記号 \(拍子\) パネル \(313 ページ\)](#)
- [マウス入力の設定の変更 \(235 ページ\)](#)
- [拍子記号 \(1795 ページ\)](#)
- [弱起 \(アウフタクト\) \(1800 ページ\)](#)
- [拍子記号のスタイル \(1804 ページ\)](#)
- [入れ替え可能な拍子の拍子記号の区切り文字のスタイルを個別に変更する \(1807 ページ\)](#)
- [パネルを使った弱起 \(アウフタクト\) の入力 \(319 ページ\)](#)
- [パネルを使った小節線の入力 \(336 ページ\)](#)
- [ポップオーバーを使った小節/拍の入力 \(332 ページ\)](#)
- [挿入モード \(491 ページ\)](#)
- [入れ替え可能な拍子の拍子記号を終了する \(1813 ページ\)](#)
- [リズム上の位置 \(26 ページ\)](#)
- [音符と休符のグループ化 \(1136 ページ\)](#)

## ポップオーバーを使った弱起 (アウフタクト) の入力



拍子記号のポップオーバーを使用して、弱起 (アウフタクト) を拍子記号の一部として入力できます。音符の入力中に行なうことも、既存の楽譜に追加することもできます。弱起付きの拍子記号を特定の譜表だけに入力することもできます。

### 補足

挿入モードがオンになっていない限り、新しい拍子記号に応じて小節を埋めるための拍が影響を受ける領域の終わりに自動的に追加されることはありません。

## 手順

- 記譜モードで、以下のいずれかの操作を行ないます。
  - 音符の入力を開始します。
  - 弱起を入力する位置にあるアイテムを選択します。特定の譜表に弱起を入力するには、それらの譜表だけに属するアイテムを選択します。
- 音符の入力中に、複数の譜表に音符や記譜記号を入力する場合は、それらの譜表にキャレットを伸ばします。
- 弱起の影響を受ける領域の終わりに、必要に応じて拍が自動的に追加されるようにするには、以下のいずれかの操作を行なって挿入モードを有効にします。
  - [I]** を押します。
  - 音符ツールボックスの「挿入 (Insert)」**[I]** をクリックします。
- 以下のいずれかの操作を行なって拍子記号のポップオーバーを開きます。

- **[Shift]+[M]** を押します。
  - 記譜ツールボックスで「ポップオーバー (Popovers)」 をクリックし、「拍子記号 (拍子) (Time Signatures (Meter))」 をクリックします。
5. 使用する拍子記号と弱起 (アウフタクト) の数をポップオーバーに入力します。  
例:
- 符点 8 分音符 1 つ分の上拍が付いた 3/4 の拍子記号には「**3/4,0.75**」。
  - 4 分音符 1 つ分の上拍が付いた 4/4 の拍子記号には「**4/4,1**」。
  - 8 分音符 2 つ分の弱起が付いた 6/8 の拍子記号には「**6/8,2**」。
- コンマのあとの数字は、拍子記号の分母で指定されたリズム単位の倍数を示します。
6. 以下のいずれかの操作を行なって、弱起 (アウフタクト) を入力してポップオーバーを閉じます。
- すべての譜表に弱起 (アウフタクト) を入力するには、**[Return]** を押します。
  - 選択した譜表またはキュレットが伸びている譜表にのみ弱起 (アウフタクト) を入力するには、**[Alt/Opt]+[Return]** を押します。

#### 結果

音符の入力中は、小節の途中であっても、指定した拍子記号の一部としてキュレットの位置に弱起が入力されます。

楽譜に弱起を追加する場合、最初に選択したアイテムの位置に指定した拍子記号の一部として弱起が追加されます。既存の拍子記号を選択した場合、その拍子記号が新しい弱起付きの拍子記号に直接置き換わります。

後続のすべての小節は、次の拍子記号またはフローの終わりのいずれか早い方の位置まで、入力した拍子記号に従います。Dorico Pro によって必要に応じて小節が自動的に入力および移動されるため、後続の楽譜の小節は正しくなります。ただし、自由拍子では、小節線の入力と拍の追加を手動で行なう必要があります。

入れ替え可能な拍子の拍子記号に指定されている拍子記号を入力すると、その入れ替え可能な拍子の拍子記号を終了するまで自動的にすべて非表示になります。

#### 補足

- 既存の音符に弱起付きの拍子記号を追加した場合、Dorico Pro はその開始位置に自動的に拍を挿入しません。フローの開始位置に弱起を追加すると、そのフローは最初の完全小節からではなく、弱起から開始されます。開始位置に拍を挿入して、既存の音符を後ろにずらすことができます。
- 挿入モードの範囲を「現在の小節のグローバル調整 (Global Adjustment of Current Bar)」に設定すると、フロー内の最初の小節の音符/休符を削除することで弱起 (アウフタクト) の作成や削除を行なえます。また、これによりアウフタクトで始まるフローの最後の小節を短くすることもできます。

#### 関連リンク

[拍子記号のポップオーバー \(311 ページ\)](#)

[弱起 \(アウフタクト\) \(1800 ページ\)](#)

[アウフタクトまたは不規則小節として部分小節を定義する \(1800 ページ\)](#)

[複数の譜表にキュレットを伸ばす \(246 ページ\)](#)

[ポップオーバーを使った拍子記号の入力 \(315 ページ\)](#)

[ポップオーバーを使った小節/拍の入力 \(332 ページ\)](#)

[ポップオーバーを使った小節線の入力 \(334 ページ\)](#)

[リズム上の位置 \(26 ページ\)](#)

[挿入モードでの音符の挿入 \(262 ページ\)](#)

[挿入モード \(491 ページ\)](#)

[挿入モードの範囲 \(492 ページ\)](#)

[入れ替え可能な拍子の拍子記号を終了する \(1813 ページ\)](#)




## パネルを使った弱起 (アウフタクト) の入力

拍子記号 (拍子) パネルを使用して、弱起 (アウフタクト) を拍子記号の一部として入力できます。音符の入力中に行なうことも、既存の楽譜に追加することもできます。拍子記号を特定の譜表だけに入力することもできます。

### 補足

- 以下の手順は、環境設定でマウス入力のデフォルト設定が「**選択位置にアイテムを作成 (Create item at selection)**」に設定されている場合について説明します。
- 挿入モードがオンになっていない限り、新しい拍子記号に応じて小節を埋めるための拍が影響を受ける領域の終わりに自動的に追加されることはありません。

### 手順

1. 記譜モードで、以下のいずれかの操作を行ないます。
  - 音符の入力を開始します。
  - 弱起を入力する位置にあるアイテムを選択します。特定の譜表に弱起を入力するには、それらの譜表だけに属するアイテムを選択します。
2. 弱起の影響を受ける領域の終わりに、必要に応じて拍が自動的に追加されるようにするには、以下のいずれかの操作を行なって挿入モードを有効にします。
  - **[I]** を押します。
  - 音符ツールボックスの「**挿入 (Insert)**」  をクリックします。
3. 記譜ツールボックスで、「**パネル (Panels)**」  をクリックしたあとに、「**拍子記号 (拍子) (Time Signatures (Meter))**」  をクリックして拍子記号 (拍子) パネルを表示します。
4. 「**拍子記号を作成 (Create Time Signature)**」 セクションで、使用する拍子記号の種類をメニューから選択します。
5. 使用する拍子記号を所定のスペースに入力します。
6. 「**アウフタクトの拍数 (Pick-up bar of)**」 をオンにして以下のいずれかのオプションを選択します。
  - **半拍 (1/2 beat)**
  - **1 拍 (1 beat)**
  - **2 拍 (2 beats)**
  - **3 拍 (3 beats)**

### 補足

このパネルではすべての長さの弱起 (アウフタクト) を入力できるわけではありません。たとえば、用意されたオプションでは、6/8 の 8 分音符 1 つ分の上拍を作成することはできません。このような場合は、拍子記号のポップオーバーを使用する必要があります。

7. 以下のいずれかの操作を行なって、弱起 (アウフタクト) を入力します。
  - すべての譜表に弱起 (アウフタクト) を入力するには、「**拍子記号を作成 (Create Time Signature)**」 セクションで、入力した拍子記号のボタンをクリックします。
  - 選択した譜表またはキャレットがアクティブな譜表にのみ弱起 (アウフタクト) を入力するには、「**拍子記号を作成 (Create Time Signature)**」 セクションで、**[Alt/Opt]** を押しながら入力した拍子記号のボタンをクリックします。

#### 結果

音符の入力中は、小節の途中でであっても、指定した拍子記号の一部としてキャレットの位置に弱起が入力されます。

楽譜に弱起を追加する場合、最初に選択したアイテムの位置に指定した拍子記号の一部として弱起が追加されます。既存の拍子記号を選択した場合、その拍子記号が新しい弱起付きの拍子記号に直接置き換わります。

後続のすべての小節は、次の拍子記号またはフローの終わりのいずれか早い方の位置まで、入力した拍子記号に従います。Dorico Pro によって必要に応じて小節が自動的に入力および移動されるため、後続の楽譜の小節は正しくなります。ただし、自由拍子では、小節線の入力と拍の追加を手動で行なう必要があります。

入れ替え可能な拍子の拍子記号に指定されている拍子記号を入力すると、その入れ替え可能な拍子の拍子記号を終了するまで自動的にすべて非表示になります。

#### 補足

- 既存の音符に弱起付きの拍子記号を追加した場合、Dorico Pro はその開始位置に自動的に拍を挿入しません。フローの開始位置に弱起を追加すると、そのフローは最初の完全小節からではなく、弱起から開始されます。開始位置に拍を挿入して、既存の音符を後ろにずらすことができます。
- 挿入モードの範囲を「**現在の小節のグローバル調整 (Global Adjustment of Current Bar)**」に設定すると、フロー内の最初の小節の音符/休符を削除することで弱起 (アウフタクト) の作成や削除を行なえます。また、これによりアウフタクトで始まるフローの最後の小節を短くすることもできます。

#### 関連リンク

[記譜ツールボックス \(224 ページ\)](#)

[拍子記号 \(拍子\) パネル \(313 ページ\)](#)

[弱起 \(アウフタクト\) \(1800 ページ\)](#)

[ポップオーバーを使った弱起 \(アウフタクト\) の入力 \(317 ページ\)](#)

[アウフタクトまたは不規則小節として部分小節を定義する \(1800 ページ\)](#)

[ポップオーバーを使った小節/拍の入力 \(332 ページ\)](#)

[パネルを使った小節線の入力 \(336 ページ\)](#)

[リズム上の位置 \(26 ページ\)](#)

[挿入モードでの音符の挿入 \(262 ページ\)](#)

[挿入モード \(491 ページ\)](#)

[挿入モードの範囲 \(492 ページ\)](#)

[入れ替え可能な拍子の拍子記号を終了する \(1813 ページ\)](#)

[マウス入力の設定の変更 \(235 ページ\)](#)

## テンポ記号の入力方法

テンポ記号はテンポのポップオーバーを使用してキーボードで入力するか、テンポパネルを使用してマウスで入力するか、テンポエディターで入力できます。テキストによる指示とメトロノームマークのいずれか、またはその2つを組み合わせたテンポ記号を入力できます。

テンポのポップオーバーとテンポパネルを使用してテンポの等式を入力することもできます。

#### 関連リンク

[テンポ記号 \(1745 ページ\)](#)

[テンポエディター \(871 ページ\)](#)





## テンポのポップオーバー

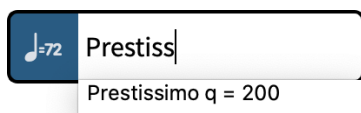
以下の表は、テンポ記号、テンポの等式、およびスウィング再生用のリズムフィールドを入力するためにテンポのポップオーバーに入力できるエントリーの例です。

テンポのポップオーバーにテンポを入力しはじめると、入力した文字や単語が含まれるテンポがメニューに予測表示されます。表示された提案のいずれかを選択するか、独自のテンポをポップオーバーに入力します。

記譜モードでは、アイテムの選択時またはキャレットの有効時に以下のいずれかの操作を行なって、テンポのポップオーバーを開くことができます。

- **[Shift]+[T]** を押します。
- 記譜ツールボックスで「ポップオーバー (Popovers)」 をクリックし、「テンポ (Tempo)」 をクリックします。
- 既存のテンポ記号を選択して **[Return]** を押します。
- 「記譜 (Write)」 > 「テンポを作成 (Create Tempo)」を選択します。

ポップオーバーの左側に表示されたアイコンが、ウィンドウの右側にある記譜記号ツールボックスの対応するボタンと一致します。



記譜ツールボックスの「テンポ (Tempo)」ボタン

エントリーの例が入力されたテンポのポップオーバー

## テンポ記号

テンポ記号の例	ポップオーバーエントリー
Adagio	Adagio
Presto ♩ = 176	「Presto q = 176」または「Presto q=176」
Largo (♩ = 52)	「Largo (q = 52)」または「Largo (q=52)」
♩ = 96-112	「q = 96-112」、「q=96-112」、「6 = 96-112」、または「6=96-112」
♩ = 84	「q. = 84」、「q.=84」、「6. = 84」、または「6.=84」
♩ = 60	「h = 60」、「h=60」、「7 = 60」、または「7=60」
♩ = 120	「e = 120」、「e=120」、「5 = 120」、または「5=120」
rit.	rit.
ritardando	ritardando
rit. と延長線 (プロパティの上書き)	rit....

テンポ記号の例	ポップオーバーエントリー
accel.	<b>accel.</b>
accelerando	<b>accelerando</b>
accel. と延長線 (プロパティの上書き)	<b>accel....</b>
più	<b>più</b>
meno	<b>meno</b>
ルバート	<b>Rubato</b>
Faster, with energy	<b>Faster, with energy</b>

このリストにはすべてのエントリーが含まれているわけではなく、ほかにも多くのメトロノームマークやテンポ記号があり、自由にテンポを入力できます。このリストは、さまざまなタイプのテンポ記号とメトロノームマークを入力するためにエントリーをどのように構成するかを示すことを目的としています。

#### 補足

- テンポのポップオーバーでは大文字と小文字が区別されます。テンポ記号を大文字で始めるには、ポップオーバーに大文字を入力する必要があります。
- 非表示のテンポ記号を入力するには、「(q=96)」のようにポップオーバーエントリーを括弧でくくります。

## メトロノームマークの拍の単位

メトロノームマークの拍の単位	ポップオーバーエントリー
64 分音符	「z」または「2」
32 分音符	「y」または「3」
16 分音符	「x」または「4」
8 分音符	「e」または「5」
4 分音符	「q」または「6」
2 分音符	「h」または「7」
全音符	「w」または「8」
倍全音符	「2w」または「9」
付点	.(ピリオド)

## テンポの等式

### テンポの等式の例

♪ = ♩

### ポップオーバーエントリー

「e = e.」または「e=e.」

♪ = ♪

「q = e」または「q=e」

♪ = ♪

「q. = h」または「q.=h」

このリストにはすべてのエントリーが含まれているわけではなく、ほかにも使用できるすべての拍の単位を使った多くのテンポの等式があります。このリストは、さまざまなテンポの等式を入力するためにエントリーをどのように構成するかを示すことを目的としています。

### 補足

現在のテンポの等式は、連符のデュレーションに対応していません。これは将来のバージョンでサポートされる予定です。

## スウィング再生用のリズムフィール

### リズムフィール

### ポップオーバーエントリー

16分音符の軽いスウィング

light swing 16ths

8分音符の軽いスウィング

light swing 8ths

16分音符のミディアムスウィング

medium swing 16ths

8分音符のミディアムスウィング

medium swing 8ths

16分音符の重いスウィング

heavy swing 16ths

8分音符の重いスウィング

heavy swing 8ths

ストレートなリズムフィール

straight (no swing)

16分音符の 2:1 スウィング (一定)

2:1 swing 16ths (fixed)

8分音符の 2:1 スウィング (一定)

2:1 swing 8ths (fixed)

16分音符の 3:1 スウィング (一定)

3:1 swing 16ths (fixed)

8分音符の 3:1 スウィング (一定)

3:1 swing 8ths (fixed)

### ヒント

テンポのポップオーバーでは、「**リズムフィール (Rhythmic Feel)**」ダイアログで設定したリズムフィールの名前が使用されます。カスタムリズムフィールを作成した場合は、そのリズムフィールの名前をテンポのポップオーバーに入力できます。

関連リンク

[記譜ツールボックス \(224 ページ\)](#)

[テンポ記号 \(1745 ページ\)](#)

[テンポ記号のタイプ \(1746 ページ\)](#)

[テンポ記号の表示/非表示 \(1750 ページ\)](#)

[段階的テンポ変更のスタイルを個別に変更する \(1758 ページ\)](#)

[メトロノームマークの順番の変更 \(1756 ページ\)](#)

[スウィング再生 \(692 ページ\)](#)

[特定のセクション/インストゥルメントにスウィング再生を適用する \(694 ページ\)](#)

[「リズムックフィール \(Rhythmic Feel\)」 ダイアログ \(697 ページ\)](#)

## テンポパネル

テンポパネルには、Dorico Pro で使用できるさまざまなテンポ記号があり、各セクションにまとめられています。これは記譜モードの右ゾーンに配置されています。

- 記譜ツールボックスで「**パネル (Panels)**」をクリックしたあとに、「**テンポ (Tempo)**」をクリックすることで、テンポパネルの表示/非表示を切り替えられます。

**[Ctrl]/[command]+[9]** を押して右ゾーンの表示/非表示を切り替えることもできます。

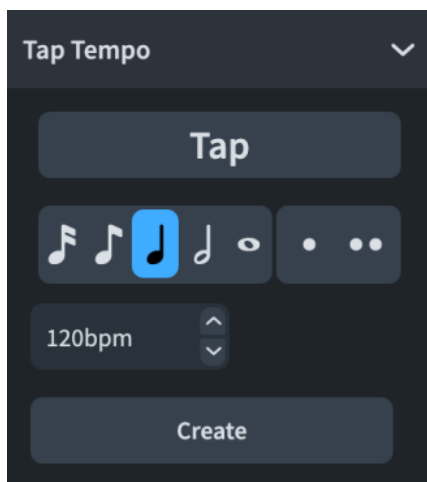
### フローで使用 (Used in This Flow)

テンポのポップオーバーを使用して追加したカスタムテンポ記号を含め、フローですでに使用されているテンポ記号が表示されます。

### タップテンポ入力 (Tap Tempo)

「**タップ**」ボタンをクリックして設定する速度に基づいて固定テンポ変更を作成できます。初期設定では、テキストのないメトロノームマークとして表示されます。メトロノームマークの値は、常に最も近い整数に丸められます。

用意されたオプションを使用して、入力するテンポのベースにする拍の単位を設定できます。



### 固定テンポ変更 (Absolute Tempo Change)

イタリア語のテンポ指示とメトロノームマークの両方を持つさまざまなテンポが表示されます。個々のテンポ記号に対してメトロノームマークを表示するかどうかはあとから選択できます。

一番上のスライダーを調節すると、リストに表示する範囲を変更できます。



### 段階的テンポ変更 (Gradual Tempo Change)

rallentando や accelerando など、指定した時間範囲におけるテンポの変更を示すテンポ記号が表示されます。

段階的テンポ変更には修飾語句を追加できます。使用できる修飾語句はこのセクションの一番上に表示されます。

### 相対テンポ変更 (Relative Tempo Change)

mosso (変動、動きのある) など、前のテンポに対する相対的なテンポの変更を示すテンポ記号が表示されます。相対テンポ変更には、poco meno mosso (今までより少し遅く) のように、変化の度合いを表わす修飾語句が付く場合もあり、これにはメトロノームマークによる指定はありません。

相対テンポ変更には修飾語句を追加できます。使用できる修飾語句はこのセクションの一番上に表示されます。

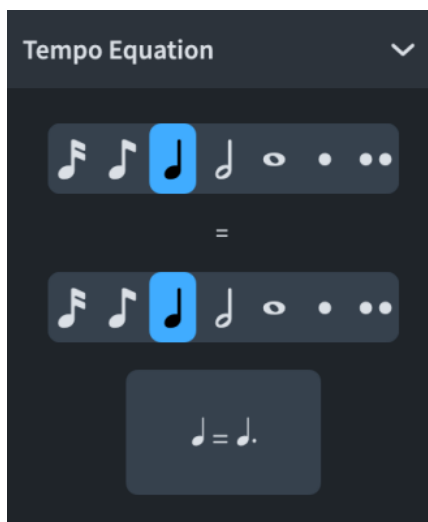
個々のテンポ記号に対して、前のメトロノームマークに対する割合の形でメトロノームマークの相対的な変化を設定できます。

### テンポをリセット (Reset Tempo)

A tempo のように前のテンポに戻したり、Tempo primo のようにあらかじめ指定されたテンポに戻したりする指示を出すテンポ記号が表示されます。

### テンポの等式 (Tempo Equation)

16 分音符から全音符までの拍の単位と最大 2 個の付点を使用して、テンポの等式を入力できます。



関連リンク

[記譜ツールボックス \(224 ページ\)](#)

[テンポ記号 \(1745 ページ\)](#)

[テンポ記号のタイプ \(1746 ページ\)](#)



[メトロノームマークの値の変更 \(1752 ページ\)](#)

[メトロノームマークの小数点以下の値を表示/非表示にする \(1755 ページ\)](#)

## ポップオーバーを使ったテンポ記号の入力

テンポのポップオーバーを使用してテンポ記号を入力できます。音符の入力中に行なうことも、既存の楽譜に追加することもできます。

手順

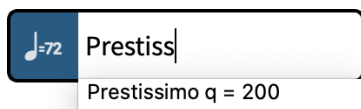
1. 記譜モードで、以下のいずれかの操作を行ないます。
  - 音符の入力を開始します。
  - テンポ記号を入力する位置にあるアイテムを選択します。デュレーションにまたがる段階的テンポ変更を入力するには、必要なデュレーションにまたがるアイテムを選択します。
2. 以下のいずれかの操作を行なってテンポのポップオーバーを開きます。
  - **[Shift]+[T]** を押します。
  - 記譜ツールボックスで「**ポップオーバー (Popovers)**」 をクリックし、「**テンポ (Tempo)**」 をクリックします。

3. 使用するテンポをポップオーバーに入力します。

たとえば、「**q=72**」または「**Allegretto**」と入力します。

テンポのポップオーバーにテンポを入力しはじめると、入力した文字や単語が含まれるテンポがメニューに予測表示されます。表示された提案のいずれかを選択するか、独自のテンポをポップオーバーに入力します。

非表示のテンポ記号を入力するには、「**(q=96)**」のようにエントリーを括弧でくくります。



#### 補足

rit-ar-dan-do のように、段階的テンポ変更の音節を分割し、デュレーション全体に広げて表示する場合は、提案されたエントリをメニューから選択することをおすすめします。有効なフルテキストを持つ段階的テンポ変更だけが自動的に音節に分割されて表示されます。

ハイフンを手動で追加して音節の区切り方を制御するなど、既存の段階的テンポ変更のテキストを変更できます。

#### 4. **[Return]** を押してポップオーバーを閉じます。

#### 結果

音符の入力中は、キャレットの位置にテンポ記号が入力されます。rallentando などの段階的テンポ変更は、4分音符のデフォルトデュレーションでキャレットの位置に入力されます。段階的テンポ変更は音符を入力しても延長されません。

楽譜にテンポ記号を追加する場合、最初に選択したアイテムの位置に追加されます。段階的テンポ変更は選択したアイテムのデュレーションと同じ長さになります。

#### 補足

初期設定では、メトロノームマークの値は、小数点以下を入力した場合でも小数点以下がない整数として表示されます。ただし、入力した正確なメトロノームマークの値は常に再生に反映されます。

#### 手順終了後の項目

段階的テンポ変更の長さは変更できます。

#### 関連リンク

- [テンポ記号 \(1745 ページ\)](#)
- [テンポトラック \(672 ページ\)](#)
- [テンポエディター \(871 ページ\)](#)
- [段階的テンポ変更 \(1757 ページ\)](#)
- [メトロノームマーク \(1752 ページ\)](#)
- [テンポの等式 \(1761 ページ\)](#)
- [アイテムの長さの変更 \(470 ページ\)](#)
- [テンポ記号の表示/非表示 \(1750 ページ\)](#)
- [メトロノームマークの小数点以下の値を表示/非表示にする \(1755 ページ\)](#)
- [テンポのテキストの変更 \(1748 ページ\)](#)
- [段階的テンポ変更のスタイルを個別に変更する \(1758 ページ\)](#)
- [メトロノームマークの順番の変更 \(1756 ページ\)](#)
- [楽譜の再生 \(680 ページ\)](#)
- [テンポモードの変更 \(683 ページ\)](#)

## パネルを使ったテンポ記号の入力



テンポパネルを使用してテンポ記号を入力できます。音符の入力中に行なうことも、既存の楽譜に追加することもできます。

#### 補足

- 以下の手順は、環境設定でマウス入力のデフォルト設定が「**選択位置にアイテムを作成 (Create item at selection)**」に設定されている場合について説明します。
- パネルを使用してメトロノームマークに小数点以下を指定することはできません。小数点以下を指定するには、ポップオーバーを使用するか、既存のテンポ記号のメトロノームマークの値を変更します。

---

#### 手順

1. 記譜モードで、以下のいずれかの操作を行ないます。
  - 音符の入力を開始します。
  - テンポ記号を入力する位置にあるアイテムを選択します。デュレーションにまたがる段階的テンポ変更を入力するには、必要なデュレーションにまたがるアイテムを選択します。
2. 記譜ツールボックスで「パネル (Panels)」をクリックしたあとに、「テンポ (Tempo)」をクリックして、テンポパネルを表示します。
3. テンポパネルで、入力するテンポ記号をクリックします。

#### ヒント

メトロノームマークの計算を自動で行なうには、「**タップテンポ入力 (Tap Tempo)**」セクションの「**タップ (Tap)**」を任意の速度で複数回クリックします。

4. 必要に応じて、用意されたオプションから修飾語句を選択します。

#### 補足

修飾語句は「**段階的テンポ変更 (Gradual Tempo Change)**」または「**相対テンポ変更 (Relative Tempo Change)**」にのみ追加できます。

---

#### 結果

音符の入力中は、キャレットの位置にテンポ記号が入力されます。rallentando などの段階的テンポ変更は、4分音符のデフォルトデュレーションでキャレットの位置に入力されます。段階的テンポ変更は音符を入力しても延長されません。

楽譜にテンポ記号を追加する場合、最初に選択したアイテムの位置に追加されます。段階的テンポ変更は選択したアイテムのデュレーションと同じ長さになります。

#### 手順終了後の項目

段階的テンポ変更の長さは変更できます。

#### 関連リンク

- [記譜ツールボックス \(224 ページ\)](#)
- [マウス入力の設定の変更 \(235 ページ\)](#)
- [テンポ記号 \(1745 ページ\)](#)
- [段階的テンポ変更 \(1757 ページ\)](#)
- [メトロノームマーク \(1752 ページ\)](#)
- [テンポの等式 \(1761 ページ\)](#)
- [メトロノームマークの小数点以下の値を表示/非表示にする \(1755 ページ\)](#)
- [メトロノームマークの値の変更 \(1752 ページ\)](#)
- [段階的テンポ変更のスタイルを個別に変更する \(1758 ページ\)](#)
- [メトロノームマークの順番の変更 \(1756 ページ\)](#)
- [楽譜の再生 \(680 ページ\)](#)
- [テンポモードの変更 \(683 ページ\)](#)



## 小節、拍、小節線の入力方法

小節と小節線は、小節と小節線のポップオーバーを使用してキーボードで入力することも、小節と小節線パネルのオプションを使用してマウスで入力することもできます。小節と小節線のポップオーバーでは拍も入力できます。また、小節と拍はシステムトラックを使用して入力することもできます。

Dorico Pro では楽譜を入力すると必要に応じて自動的に小節が作成されるため、通常、小節を作成する必要はありません。ただし、既存の楽譜をコピーしたり配置したりする場合などに、あらかじめ小節を追加できます。

関連リンク

[小節 \(1073 ページ\)](#)

[小節線 \(1078 ページ\)](#)

[システムトラック \(464 ページ\)](#)

[特定の声部に小節休符を入力する \(273 ページ\)](#)

[再生時の反復 \(689 ページ\)](#)

### 小節と小節線のポップオーバー

以下の表は、小節や拍の追加や削除、またはさまざまな小節線の入力を行なうために小節と小節線のポップオーバーに入力できるエントリーの例です。

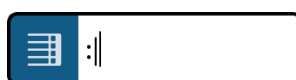
記譜モードでは、アイテムの選択時またはキャレットの有効時に以下のいずれかの操作を行なって、小節や小節線のポップオーバーを開くことができます。

- **[Shift]+[B]** を押します。
- 記譜ツールボックスで「ポップオーバー (Popovers)」 をクリックし、「小節と小節線 (Bars and Barlines)」 をクリックします。
- 「記譜 (Write)」 > 「小節または小節線を作成 (Create Bar or Barline)」を選択します。

ポップオーバーの左側に表示されたアイコンが、ウィンドウの右側にある記譜記号ツールボックスの対応するボタンと一致します。



小節を入力するためのエントリーの例が入力された小節と小節線のポップオーバー



小節線のエントリーの例が入力された小節と小節線のポップオーバー



記譜ツールボックスの「小節と小節線 (Bars and Barlines)」ボタン

### 小節

#### アクションの例

2 小節を追加

14 小節を追加

1 小節を削除

6 小節を削除

小節休符を追加

#### ポップオーバーエントリー

「2」または「+2」

「14」または「+14」

-1

-6

rest

### アクションの例

### ポップオーバーエントリー

フローの終了位置にある空白の小節を削除

**trim**

このリストにはすべてのエントリーが含まれているわけではなく、ポップオーバーを使用して任意の数の小節を追加または削除できます。このリストは、小節の追加と削除、および小節休符の追加を行なうエントリーをどのように構成するかを示すことを目的としています。

## 拍

拍の数に続いて、拍の単位に対応する数字 (8 分音符の場合は「5」) または文字 (2 分音符の場合は「h」) を入力することで追加/削除する拍の数を指定できます。拍の数と拍の単位の両方で数字を使用する場合は、数字の間にスペースまたはハイフンを入力する必要があります。4 分の 3 拍は 3/4 のように、拍子記号の形式で指定することもできます。

### アクションの例

### ポップオーバーエントリー

全音符拍を 1 つ追加

「1w」、「1-8」、「1 8」、または「4/4」

4 分音符拍を 2 つ追加

「2q」、「2-6」、「2 6」、または「2/4」

8 分音符拍を 4 つ追加

「4e」、「4-5」、「4 5」、「4/8」、または「2/4」

4 分音符拍を 2 つ削除

「-2q」、「-2-6」、「-2 6」、または「-2/4」

フローの終了位置にある空白の拍を削除

**trim**

このリストにはすべてのエントリーが含まれているわけではなく、ポップオーバーを使用して任意の数の拍を入力または削除できます。このリストは、拍の入力と削除を行なうエントリーをどのように構成するかを示すことを目的としています。

### 拍の単位

### ポップオーバーエントリー

64 分音符

「z」または「2」

32 分音符

「y」または「3」

16 分音符

「x」または「4」

8 分音符

「e」または「5」

4 分音符

「q」または「6」

2 分音符

「h」または「7」

全音符

「w」または「8」

倍全音符

「2w」または「9」

---

拍の単位	ポップオーバーエントリー
付点	.(ピリオド)

---

## 小節線

---

小節線のタイプ	ポップオーバーエントリー
標準 (縦線)	「 」, 「single」、または「normal」
複縦線	「  」 または 「double」
終止線	「 】」 または 「final」
破線	「:」, 「dash」、または 「dashed」
ティック (上) (Tick (top))	「‘」 または 「tick」
ティック (下) (Tick (bottom))	tickbottom
短線 (中央) (Short (Center))	「,」 または 「short」
短線 (上)	shorttop
太線	thick
三重線	「   」 または 「triple」
反復開始線	「 :」 または 「start」
反復終了線	「: 」 または 「end」
反復終了/反復開始線	「 : 」, 「: : 」, 「end-start」、または 「endstart」

---

関連リンク

[記譜ツールボックス \(224 ページ\)](#)

[特定の声部に小節休符を入力する \(273 ページ\)](#)

[小節 \(1073 ページ\)](#)



[小節線 \(1078 ページ\)](#)

[小節/拍の削除 \(1073 ページ\)](#)

[再生時の反復 \(689 ページ\)](#)

## 小節と小節線パネル

小節と小節線パネルでは、小節、小節休符、およびさまざまなタイプの小節線を入力できます。これは記譜モードの右ゾーンに配置されています。

- 記譜ツールボックスで「パネル (Panels)」をクリックしたあとに、「小節と小節線 (Bars and Barlines)」をクリックすることで、小節と小節線パネルの表示/非表示を切り替えられます。  
[Ctrl]/[command]+[9] を押して右ゾーンの表示/非表示を切り替えることもできます。

小節と小節線パネルには以下のセクションがあります。

#### 小節を挿入 (Insert Bars)

挿入する小節の数と挿入する位置 (フローの終了など) を指定できます。

#### 小節休符を挿入 (Insert Bar Rest)

小節休符を挿入できます。

#### 小節線を引く (Create Barline)

挿入できるさまざまな小節線が含まれています。

関連リンク

[記譜ツールボックス \(224 ページ\)](#)

[再生時の反復 \(689 ページ\)](#)

[ゾーンの表示/非表示の切り替え \(48 ページ\)](#)

## ポップオーバーを使った小節/拍の入力



小節と小節線のポップオーバーを使用して小節や拍を入力できます。音符の入力中に行なうことも、既存の楽譜に追加することも挿入することもできます。たとえば、自由拍子でカデンツァを延長するなどです。

前提条件

小節を入力するには、拍子記号を入力しておきます。

---

手順

1. 記譜モードで、以下のいずれかの操作を行ないます。
  - 音符の入力を開始します。
  - 小節/拍を追加するリズム上の位置にあるアイテムを選択します。特定の譜表に小節/拍を追加するには、それらの譜表だけに属するアイテムを選択します。
2. 音符の入力中に、複数の譜表に音符や記譜記号を入力する場合は、それらの譜表にキャレットを伸ばします。
3. 以下のいずれかの操作を行なって小節と小節線のポップオーバーを開きます。
  - **[Shift]+[B]** を押します。
  - 記譜ツールボックスで「ポップオーバー (Popovers)」 をクリックし、「小節と小節線 (Bars and Barlines)」 をクリックします。
4. 入力する小節/拍の数を入力します。

たとえば、「2」を入力して小節を2つ追加し、「2q」を入力して4分音符を2つ入力できます。
5. 以下のいずれかの操作を行なって、小節/拍を入力してポップオーバーを閉じます。
  - すべての譜表に小節/拍を入力するには、**[Return]** を押します。
  - 選択した譜表またはキャレットが伸びている譜表にのみ小節/拍を入力するには、**[Alt/Opt]+[Return]** を押します。

---

結果

指定した数の小節/拍が入力されます。

音符の入力中は、キャレットが伸びているすべての譜表のキャレットの位置から小節/拍が入力されます。小節の入力中にキャレットが小節の途中にある場合は、作成される最後の小節に正しい数の拍が含まれるように十分な拍が追加されます。

既存の楽譜に小節/拍を追加した場合は、選択した小節線の後ろ、または拍子記号などの選択したその他のアイテムの前に追加されます。

#### ヒント

- 小節は、音符の入力中に音符のデュレーションを選択し (4/4 拍子で全音符など)、**[Space]** を繰り返し押し続けて追加することもできます。
- 「環境設定 (Preferences)」の「キーボードショートカット (Key Commands)」ページで、「フローの終了位置に小節を追加 (Add Bar at End of Flow)」にキーボードショートカットを割り当てることができます。

#### 関連リンク

[小節と小節線のポップオーバー \(329 ページ\)](#)

[小節 \(1073 ページ\)](#)

[複数の譜表にキャレットを伸ばす \(246 ページ\)](#)

[ポップオーバーを使った拍子記号の入力 \(315 ページ\)](#)

[拍子記号のタイプ \(1796 ページ\)](#)

[「環境設定 \(Preferences\)」ダイアログの「キーボードショートカット \(Key Commands\)」ページ \(64 ページ\)](#)



## パネルを使った小節の入力

小節と小節線パネルを使用して小節を入力できます。音符の入力中に行なうことも、既存の楽譜に挿入することもできます。

#### 前提条件

拍子記号を入力しておきます。

#### 手順

1. 記譜モードで、以下のいずれかの操作を行ないます。
  - 音符の入力を開始します。
  - 後ろに新しい小節を入力する位置にある小節線を選択します。
  - 前に新しい小節を入力する位置にある小節線を選択します。
2. 記譜ツールボックスで「パネル (Panels)」をクリックし、「小節と小節線 (Bars and Barlines)」をクリックして小節と小節線パネルを表示します。
3. 小節と小節線パネルの「小節を挿入 (Insert Bars)」セクションで、数値フィールドの数値を変更して入力する小節数を変更します。
4. 小節を入力する位置を以下のオプションから選択します。
  - 「フローの開始 (Start of Flow)」: フローの開始位置に小節が入力されます。
  - 「選択の開始 (Start of Selection)」: 選択した音符または休符の位置から小節が入力されます。
  - 「フローの終了 (End of Flow)」: フローの終了位置に小節が入力されます。

#### 補足

キャレットの位置から小節を入力する場合は、このメニューで「選択の開始 (Start of Selection)」が選択されていることを確認してください。

5. 「小節を挿入 (Insert Bars)」をクリックします。

#### 結果

指定した数の小節が入力されます。音符の入力中はキャレットの位置から小節が入力されます。

「選択の開始 (Start of Selection)」を選択した場合は、選択した小節線の直後、あるいは選択した音符、小節、または拍子記号の直前に小節が入力されます。

関連リンク

[記譜ツールボックス \(224 ページ\)](#)

[小節 \(1073 ページ\)](#)

[パネルを使った拍子記号の入力 \(316 ページ\)](#)

## システムトラックによる小節/拍の入力

次の楽節の前に複数の小節を繰り返す場合など、システムトラックを使用して、既存の楽譜に小節/拍を挿入できます。小節全体を挿入することも、いくつかの拍だけを挿入することもできます。

### 補足

音符の入力中にシステムトラックを使用することはできません。



---

### 前提条件

システムトラックを表示しておきます。

---

### 手順

1. システムトラックで、挿入するデュレーション分の領域を選択します。  
たとえば、2小節挿入する場合は、新しい2小節を入力する位置の直前の2小節をシステムトラックで選択します。
  2. システムトラックの上にある**追加**  ボタンをクリックします。  
**追加**  にマウスポインターを合わせると、ボタンが強調表示されます。
- 

### 結果

システムトラックで選択したデュレーションが、選択部分の終了位置の直後に追加されます。選択部分のあとの既存の楽譜は、挿入した小節/拍の後ろに移動します。

関連リンク

[システムトラック \(464 ページ\)](#)

[システムトラックの表示/非表示の切り替え \(465 ページ\)](#)

[システムトラックを使った小節の選択 \(466 ページ\)](#)

[システムトラックを使った拍の選択 \(466 ページ\)](#)

## ポップオーバーを使った小節線の入力

小節と小節線のポップオーバーを使用して小節線を入力できます。音符の入力中に行なうことも、既存の楽譜に追加することもできます。既存の小節線のタイプを変更することもできます。

### 前提条件

特定の譜表だけに小節線を入力する場合は、それらの譜表に個別の拍子記号を入力しておきます。



---

### 手順

1. 記譜モードで、以下のいずれかの操作を行ないます。
  - 音符の入力を開始します。
  - 小節線を入力する位置にあるアイテムを選択します。特定の譜表に小節線を入力するには、それらの譜表だけに属するアイテムを選択します。

### ヒント

領域の開始位置と終了位置にリピート小節線を同時に追加するには、必要なデュレーションにまたがるアイテムを選択します。

2. 音符の入力中に、複数の譜表に音符や記譜記号を入力する場合は、それらの譜表にキュレットを伸ばします。
3. 以下のいずれかの操作を行なって小節と小節線のポップオーバーを開きます。
  - **[Shift]+[B]** を押します。
  - 記譜ツールボックスで「**ポップオーバー (Popovers)**」 をクリックし、「**小節と小節線 (Bars and Barlines)**」 をクリックします。
4. 使用する小節線をポップオーバーに入力します。  
たとえば、複縦線であれば「||」、反復開始線であれば「|:」と入力します。
5. 以下のいずれかの操作を行なって、小節線を入力してポップオーバーを閉じます。
  - すべての譜表に小節線を入力するには、**[Return]** を押します。
  - 選択した譜表またはキュレットが伸びている譜表にのみ小節線を入力するには、**[Alt/Opt]+[Return]** を押します。

### 補足

小節線の入力は、個別に拍子記号が設定された1つの譜表のみにできます。

### 結果

音符の入力中は、キュレットの位置に小節線が入力されます。

楽譜に小節線を追加する場合、最初に選択したアイテムの位置に追加されます。既存の小節線を選択した場合、その小節線が新しい小節線に直接置き換わります。ただし、既存のリピート小節線の位置にリピート小節線を入力すると、結合された反復開始線または反復終了線が生成されます。

アイテムの範囲を選択した状態で反復開始線を追加すると、選択範囲の終了位置に反復終了線も追加されます。

小節線が収まるように周囲の楽譜が自動的に調整されます。音符のグループ、休符、タイでつながれた音符などはすべて、必要に応じて調整されます。フローの最後の小節の終わりに終止線を入力すると、それ以上音符がない場合、拍子記号に応じてフローが自動的にトリミングされます。

### 補足

既存の複縦線を置き換えるためなどに直接入力した標準の小節線も明示的な小節線と見なされ、長休符を分割します。小節線を削除すると完全にリセットされます。

明示的な縦線が拍子記号のガイドと一緒に表示されます。

### 関連リンク

- [小節と小節線のポップオーバー \(329 ページ\)](#)
- [小節線 \(1078 ページ\)](#)
- [ガイド \(490 ページ\)](#)
- [複数の譜表にキュレットを伸ばす \(246 ページ\)](#)
- [音符の入力 \(248 ページ\)](#)
- [ポップオーバーを使った拍子記号の入力 \(315 ページ\)](#)
- [音符/アイテムの削除 \(496 ページ\)](#)
- [小節/拍の削除 \(1073 ページ\)](#)
- [再生時の反復 \(689 ページ\)](#)

## パネルを使った小節線の入力

小節と小節線パネルを使用して小節線を入力できます。音符の入力中に行なうことも、既存の楽譜に追加することもできます。既存の小節線のタイプを変更することもできます。

### 補足

以下の手順は、環境設定でマウス入力のデフォルト設定が「**選択位置にアイテムを作成 (Create item at selection)**」に設定されている場合について説明します。

### 前提条件



特定の譜表だけに小節線を入力する場合は、それらの譜表に個別の拍子記号を入力しておきます。

### 手順

1. 記譜モードで、以下のいずれかの操作を行ないます。
  - 音符の入力を開始します。
  - 小節線を入力する位置にあるアイテムを選択します。特定の譜表に小節線を入力するには、それらの譜表だけに属するアイテムを選択します。

### ヒント

領域の開始位置と終了位置にリピート小節線を同時に追加するには、必要なデュレーションにまたがるアイテムを選択します。

2. 記譜ツールボックスで「**パネル (Panels)**」をクリックし、「**小節と小節線 (Bars and Barlines)**」をクリックして小節と小節線パネルを表示します。
3. 以下のいずれかの操作を行なって、必要な小節線を入力します。
  - すべての譜表に小節線を入力するには、「**小節線を引く (Create Barline)**」セクションで入力する小節線をクリックします。
  - 選択した譜表またはキャレットがアクティブな譜表にのみ小節線を入力するには、「**小節線を引く (Create Barline)**」セクションで **[Alt/Opt]** を押しながらその小節線をクリックします。

### 補足

小節線の入力は、個別に拍子記号が設定された1つの譜表のみにできます。

### 結果

音符の入力中は、キャレットの位置に小節線が入力されます。

楽譜に小節線を追加する場合、最初に選択したアイテムの位置に追加されます。既存の小節線を選択した場合、その小節線が新しい小節線に直接置き換わります。ただし、既存のリピート小節線の位置にリピート小節線を入力すると、結合された反復開始線または反復終了線が生成されます。

アイテムの範囲を選択した状態で反復開始線を追加すると、選択範囲の終了位置に反復終了線も追加されます。

小節線が収まるように周囲の楽譜が自動的に調整されます。音符のグループ、休符、タイでつながれた音符などはすべて、必要に応じて調整されます。フローの最後の小節の終わりに終止線を入力すると、それ以上音符がない場合、拍子記号に応じてフローが自動的にトリミングされます。



## 補足

既存の複縦線を置き換えるためなどに直接入力した標準の小節線も明示的な小節線と見なされ、長休符を分割します。小節線を削除すると完全にリセットされます。

明示的な縦線が拍子記号のガイドと一緒に表示されます。

### 関連リンク

- [記譜ツールボックス \(224 ページ\)](#)
- [小節線 \(1078 ページ\)](#)
- [小節と小節線のポップオーバー \(329 ページ\)](#)
- [ガイド \(490 ページ\)](#)
- [音符の入力 \(248 ページ\)](#)
- [パネルを使った拍子記号の入力 \(316 ページ\)](#)
- [マウス入力の設定の変更 \(235 ページ\)](#)
- [再生時の反復 \(689 ページ\)](#)
- [リピート小節線による演奏回数の変更 \(691 ページ\)](#)

## 強弱記号の入力方法

強弱記号は、強弱記号のポップオーバーを使用してキーボードで入力することも、強弱記号パネルを使用してマウスで入力することもできます。強弱記号のポップオーバーを使用すると、「**p<f>p**」のように、局部的強弱記号と段階的強弱記号を同時に含む強弱記号フレーズ全体を入力できます。

強弱記号エディターでは、再生には影響し、楽譜には表示されない強弱記号ポイントを入力することもできます。

### 関連リンク

- [強弱記号 \(1229 ページ\)](#)
- [ポップオーバーを使った強弱記号の入力 \(341 ページ\)](#)
- [パネルを使った強弱記号の入力 \(343 ページ\)](#)
- [ニエンテ記号 \(1257 ページ\)](#)
- [既存の強弱記号に修飾語句を追加する \(1242 ページ\)](#)
- [強弱記号エディター \(859 ページ\)](#)

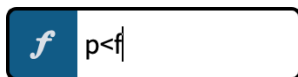
## 強弱記号のポップオーバー

強弱記号のポップオーバーを使用すると、あらゆる種類の強弱記号を入力できます。「**p<f>p**」のように、局部的強弱記号と段階的強弱記号を同時に含む強弱記号フレーズ全体を入力することもできます。

記譜モードでは、アイテムの選択時またはキャラットの有効時に以下のいずれかの操作を行なって、強弱記号のポップオーバーを開くことができます。

- **[Shift]+[D]** を押します。
- 記譜ツールボックスで「ポップオーバー (Popovers)」 をクリックし、「強弱記号 (Dynamics)」 をクリックします。
- 既存の強弱記号を選択して **[Return]** を押します。
- 「記譜 (Write)」 > 「強弱記号を作成 (Create Dynamic)」を選択します。

ポップオーバーの左側に表示されたアイコンが、ウィンドウの右側にある記譜記号ツールボックスの対応するボタンと一致します。



エントリーの例が入力された強弱記号のポップオーバー



記譜ツールボックスの「強弱記号 (Dynamics)」ボタン

## 強弱記号のポップオーバーのエントリー

強弱記号または修飾語句	ポップオーバーエントリー
pianissimo: <i>pp</i>	<b>pp</b>
piano: <i>p</i>	<b>p</b>
mezzo piano: <i>mp</i>	<b>mp</b>
mezzo forte: <i>mf</i>	<b>mf</b>
forte: <i>f</i>	<b>f</b>
fortissimo: <i>ff</i>	<b>ff</b>
区切り用文字なしの fortepiano: <i>fp</i>	<b>fp</b>
区切り用文字付きの fortepiano (例: <i>f-p</i> )	「 <b>f-p</b> 」、 <b>f:p</b> 、または <b>f/p</b> 」
subito	「 <b>subito</b> 」、 <b>sub</b> 、または <b>sub.</b> 」
possibile	「 <b>possibile</b> 」、 <b>poss</b> 、または <b>poss.</b> 」
poco	<b>poco</b>
molto	<b>molto</b>
più	「 <b>piu</b> 」または <b>più</b> 」
meno	<b>meno</b>
mosso	<b>mosso</b>
crescendo (初期設定では < 表示)	<b>&lt;</b>
cresc. テキストのみ (プロパティの上書き)	<b>cresc</b>
cresc. テキストと延長線 (プロパティの上書き)	<b>cresc...</b>
diminuendo (初期設定では > 表示)	<b>&gt;</b>
dim. テキストのみ (プロパティの上書き)	<b>dim</b>

---

強弱記号または修飾語句	ポップオーバーエントリー
-------------	--------------

dim. テキストと延長線 (プロパティの上書き)	<b>dim...</b>
---------------------------	---------------

messa di voce ヘアピン: <> (crescendo から diminuendo)	<>
--	----

messa di voce ヘアピン: >< (diminuendo から crescendo)	><
--	----

messa di voce ヘアピンに似た 1 対のグループ化されたヘアピン	「<>」または「><」
--	-------------

#### 補足

ヘアピンはスペースで区切る必要があります。

小さい丸で始まる/終わる niente のヘアピン	「o<」または「>o」
---------------------------	-------------

「n」の文字で始まる/終わる niente のヘアピン	「n<」または「>n」
-----------------------------	-------------

sforzando: <i>sfz</i>	<b>sfz</b>
-----------------------	------------

rinforzando: <i>rfz</i>	<b>rfz</b>
-------------------------	------------

---

このリストにはすべてのエントリーが含まれているわけではなく、ポップオーバーでは任意の強弱記号の修飾語句を入力できます。このリストは、さまざまなタイプの強弱記号を入力するために、エントリーをどのように構成するかを示すことを目的としています。

#### 補足

- 別個のヘアピンのペアは、messa di voce によるヘアピンとは別に扱われます。たとえば、記譜モードでは、別個のヘアピンにはそれぞれ開始ハンドルと終了ハンドルが表示されますが、messa di voce によるヘアピンは 1 つの中央ハンドルを共有しています。
- ポップオーバーを使わず、ヘアピンや messa di voce によるヘアピンを直接入力できます。
  - クレッシェンドのヘアピンを入力するには、< を押します。
  - ディミヌエンドのヘアピンを入力するには、> を押します。
  - クレッシェンド/ディミヌエンドの messa di voce によるヘアピンを入力するには、**[Shift]+[Alt/Opt]+[,]** を押します。
  - ディミヌエンド/クレッシェンドの messa di voce によるヘアピンを入力するには、**[Shift]+[Alt/Opt]+[.]** を押します。
- すべての段階的強弱記号の外観に関するプロジェクト全体の設定は、「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**強弱記号 (Dynamics)**」ページで変更できます。また、段階的強弱記号の外観を個別に変更することもできます。

---

## 強弱記号のポップオーバーへの修飾語句の入力

poco、molto、subito、espressivo、dolce などの修飾語句を強弱記号のポップオーバーに入力できます。修飾語句は強弱記号の横に斜体フォントで表示されます。ただし、「p」や「f」などの付随する局

部的強弱記号も入力し、「**f molto**」や「**p espressivo**」のように間にスペースを入れる必要があります。

修飾語句のみを表示したい場合は、局部的強弱記号を非表示にできます。

関連リンク

[記譜ツールボックス \(224 ページ\)](#)

[強弱記号 \(1229 ページ\)](#)

[強弱記号の修飾語句 \(1241 ページ\)](#)

[段階的強弱記号 \(1246 ページ\)](#)

[messa di voce ヘアピン \(1255 ページ\)](#)

[ニエンテ記号 \(1257 ページ\)](#)

[強弱記号のグループ \(1260 ページ\)](#)

[局部的強弱記号を表示/非表示にする \(1236 ページ\)](#)

[段階的強弱記号の外観を変更する \(1249 ページ\)](#)



[結合式強弱記号の区切り文字を表示/非表示にする \(1236 ページ\)](#)

[強弱記号 sforzando/rinforzando の外観を変更する \(1238 ページ\)](#)

[修飾語句 subito の外観と位置を変更する \(1243 ページ\)](#)

## 強弱記号パネル

強弱記号パネルには、段階的強弱記号や強弱記号の修飾語句 (poco や possibile など) のように、Dorico Pro で使用できるさまざまな強弱記号が含まれています。これは記譜モードの右ゾーンに配置されています。

- 記譜ツールボックスで「**パネル (Panels)**」をクリックしたあとに、「**強弱記号 (Dynamics)**」をクリックすることで、強弱記号パネルの表示/非表示を切り替えられます。

**[Ctrl]/[command]+[9]** を押して右ゾーンの表示/非表示を切り替えることもできます。

強弱記号パネルには以下のセクションがあります。

### 局部的強弱記号 (Immediate Dynamics)

*pp* や *f* などの強弱記号と subito や possibile などの修飾語句があります。使用できる修飾語句は一番上のセクションにボックスとして表示されます。

修飾語句は強弱記号と一緒に入力する必要があります。

### 段階的強弱記号 (Gradual Dynamics)

◀ や ▶ などの強弱記号と poco や niente などの修飾語句があります。使用できる修飾語句は一番上のセクションにボックスとして表示されます。

修飾語句は強弱記号と一緒に入力する必要があります。

#### 補足

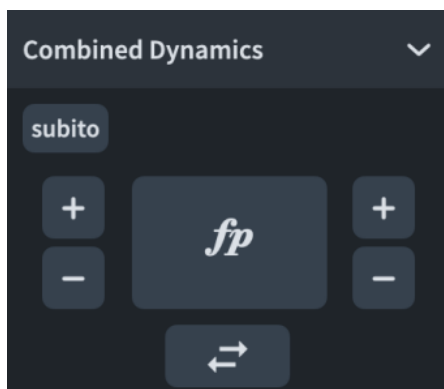
別個のヘアピンのペアは、messa di voce によるヘアピンとは別に扱われます。たとえば、記譜モードでは、別個のヘアピンにはそれぞれ開始ハンドルと終了ハンドルが表示されますが、messa di voce によるヘアピンは1つの中央ハンドルを共有しています。

### アタックの強弱/強度レベル (Force/Intensity of Attack)

*sfz* や *fz* などの強弱記号があります。

### 結合式強弱記号 (Combined Dynamics)

*fffpp* のように、強弱記号のカスタムの組み合わせを作成できます。コントロールを使用すると、それぞれの側の強弱記号を増減したり、順序を入れ替えたりできます。



関連リンク

[記譜ツールボックス \(224 ページ\)](#)

[強弱記号 \(1229 ページ\)](#)

[強弱記号の修飾語句 \(1241 ページ\)](#)

[段階的強弱記号 \(1246 ページ\)](#)

[messa di voce ヘアピン \(1255 ページ\)](#)

[ニエンテ記号 \(1257 ページ\)](#)

[結合式強弱記号の区切り文字を表示/非表示にする \(1236 ページ\)](#)

## ポップオーバーを使った強弱記号の入力

強弱記号のポップオーバーを使用して強弱記号や修飾語句を入力できます。音符の入力中に行なうことも、既存の楽譜に追加することもできます。これには、強弱記号フレーズ全体の入力も含まれます。複声部においては、それぞれの声部に個別に異なる強弱記号を入力して、たとえば大譜表を用いる楽器の各譜表に異なる強弱記号を設定できます。

### ヒント

- タイのつながりの途中に強弱記号を入力するには、音符の入力を開始し、必要な位置にカーレットを移動します。
- また、変更したい強弱記号の位置にカーレットがあるときに以下の手順を実行すれば、音符の入力中に強弱記号を変更することもできます。



### 手順


1. 記譜モードで、以下のいずれかの操作を行ないます。

- 音符の入力を開始します。

#### 補足

声部固有の強弱記号を入力する場合は、カーレットを有効にしておく必要があります。

- 強弱記号を入力する位置にある各譜表上のアイテムを選択します。必要なデューレーションにまたがる強弱記号を入力するには、そのデューレーションにまたがるアイテムを選択します。
2. 音符の入力中に、複数の譜表に音符や記譜記号を入力する場合は、それらの譜表にカーレットを伸ばします。
3. 以下のいずれかの操作を行なって強弱記号のポップオーバーを開きます。
- **[Shift]+[D]** を押します。
  - 記譜ツールボックスで「ポップオーバー (Popovers)」 をクリックし、「強弱記号 (Dynamics)」 をクリックします。

4. 使用する強弱記号をポップオーバーに入力します。  
たとえば、「p」、「p<f>p」、「f」などです。
5. 以下のいずれかの操作を行なって、強弱記号を入力してポップオーバーを閉じます。
  - 選択したインストゥルメントに属するすべての声部/譜表に強弱記号を入力するには、**[Return]** を押します。
  - 音符の入力中に、**[Alt/Opt]+[Return]** を押すことで、キャレットが表示された声部のみに強弱記号を入力します。
6. 必要に応じて、音符の入力中に以下のいずれかの操作を行ない、キャレットを前進させて p< などの開口型の段階的強弱記号を延長します。
  - **[Space]** を押します。
  - キーボードパネル、フレットボードパネル、またはドラムパッドパネルのツールバーで、「**キャレットを進める (Advance Caret)**」  をクリックします。また、音符を続けて入力すると開口型の段階的強弱記号は自動的に延長されます。
7. 必要に応じて、音符の入力中に以下のいずれかの方法で開口型の強弱記号を終了します。
  - **[?]** を押します。
  - 強弱記号のポップオーバーを開き、「f」などの局部的強弱記号を入力します。

#### 結果

指定した強弱記号が入力されます。声部固有の強弱記号を入力しない限り、強弱記号は単一のインストゥルメント (大譜表を用いるインストゥルメントを含む) に属する譜表上のすべての声部に影響します。声部固有の強弱記号は、声部の符尾の方向に関係なく、そのインストゥルメントタイプの譜表のデフォルトの側に配置されます。

隣り合った強弱記号、つまり一緒にまたは連続して入力された強弱記号は自動的にグループ化されます。これは、強弱記号を音符の入力中に入力した場合も、既存の音符に追加した場合も同様です。

音符の入力中は、キャレットが伸びているすべての譜表のキャレットの位置に強弱記号が入力されます。開口型の段階的強弱記号が含まれている場合は、キャレットを進めるか音符を入力すると自動的に延長されます。声部固有の強弱記号は、キャレットの横に4分音符記号で示されている声部に追加されます。

既存の楽譜に追加した強弱記号は、アイテムの入力位置の設定に応じて、選択した各譜表上の音符のみまたはあらゆるアイテムの位置またはデュレーションにまたがるように入力されます。

既存の楽譜に追加した段階的強弱記号は、段階的強弱記号の入力位置の設定に応じて、選択した最後の音符の開始位置または終了位置に追加されます。

#### 補足

- 音符の入力中にポップオーバーに「p<f>p」などの強弱記号のフレーズを入力した場合、それぞれの段階的強弱記号は4分音符分の長さになります。段階的強弱記号および強弱記号のグループの長さはあとから変更できます。
- molto などの一部の修飾語句は、局部的強弱記号の後ろに入力した場合でも前に表示されます。これは、そのテキストの配置の一般的な慣習に習っています。  
  
既存の強弱記号の前後に修飾語句を追加できます。修飾語句のみを表示したい場合は、局部的強弱記号をあとから非表示にすることもできます。
- 別個のヘアピンのペアは、messa di voce によるヘアピンとは別に扱われます。たとえば、記譜モードでは、別個のヘアピンにはそれぞれ開始ハンドルと終了ハンドルが表示されますが、messa di voce によるヘアピンは1つの中央ハンドルを共有しています。
- ポップオーバーを使わず、ヘアピンや messa di voce によるヘアピンを直接入力できます。
  - クレッシェンドのヘアピンを入力するには、**<** を押します。

- ディミヌエンドのヘアピンを入力するには、> を押します。
- クレッシェンド/ディミヌエンドの messa di voce によるヘアピンを入力するには、[Shift]+[Alt/Opt]+[,] を押します。
- ディミヌエンド/クレッシェンドの messa di voce によるヘアピンを入力するには、[Shift]+[Alt/Opt]+[.] を押します。

手順終了後の項目

強弱記号のフレーズ内の強弱記号を移動したり、譜表に対する強弱記号の位置を変更したりできます。

関連リンク

- [強弱記号 \(1229 ページ\)](#)
- [記譜ツールボックス \(224 ページ\)](#)
- [キャレット \(242 ページ\)](#)
- [手動でのキャレットの移動 \(247 ページ\)](#)
- [複数の譜表にキャレットを伸ばす \(246 ページ\)](#)
- [アイテムの入力位置の設定を変更する \(237 ページ\)](#)
- [段階的強弱記号の入力位置の設定を変更する \(345 ページ\)](#)
- [キーボードパネル \(229 ページ\)](#)
- [フレットボードパネル \(231 ページ\)](#)
- [ドラムパッドパネル \(233 ページ\)](#)
- [強弱記号エディター \(859 ページ\)](#)
- [再生時の強弱記号 \(1264 ページ\)](#)
- [段階的強弱記号 \(1246 ページ\)](#)
- [messa di voce ヘアピン \(1255 ページ\)](#)
- [ニエンテ記号 \(1257 ページ\)](#)
- [浄書モードの段階的強弱記号 \(1248 ページ\)](#)
- [段階的強弱記号の外観を変更する \(1249 ページ\)](#)
- [既存の段階的強弱記号にニエンテ記号を追加する \(1258 ページ\)](#)
- [強弱記号のグループ \(1260 ページ\)](#)
- [声部固有の強弱記号 \(1241 ページ\)](#)
- [強弱記号の修飾語句 \(1241 ページ\)](#)
- [修飾語句 subito の外観と位置を変更する \(1243 ページ\)](#)
- [結合式強弱記号の区切り文字を表示/非表示にする \(1236 ページ\)](#)
- [強弱記号レベルを変更する \(1235 ページ\)](#)
- [音符/アイテムの位置の移動 \(502 ページ\)](#)
- [アイテムの長さの変更 \(470 ページ\)](#)
- [連続したヘアピンをひと続きとして表示する \(1250 ページ\)](#)
- [局部的強弱記号を表示/非表示にする \(1236 ページ\)](#)
- [譜表に対するアイテムの位置の変更 \(474 ページ\)](#)

## パネルを使った強弱記号の入力

強弱記号パネルを使用して強弱記号や修飾語句を入力できます。音符の入力中に行なうことも、既存の楽譜に追加することもできます。複声部においては、それぞれの声部に個別に異なる強弱記号を入力して、たとえば大譜表を用いる楽器の各譜表に異なる強弱記号を設定できます。



### 補足

- タイのつながりの途中で強弱記号を入力するには、音符の入力を開始し、必要な位置にキャレットを移動します。
- また、変更したい強弱記号の位置にキャレットがあるときに以下の手順を実行すれば、音符の入力中に強弱記号を変更することもできます。

- 以下の手順は、環境設定でマウス入力のデフォルト設定が「**選択位置にアイテムを作成 (Create item at selection)**」に設定されている場合について説明します。

---

#### 手順

1. 記譜モードで、以下のいずれかの操作を行ないます。
    - 音符の入力を開始します。
- 補足
- 声部固有の強弱記号を入力する場合は、キャレットを有効にしておく必要があります。
- 強弱記号を入力する位置にある各譜表上のアイテムを選択します。必要なデュレーションにまたがる強弱記号を入力するには、そのデュレーションにまたがるアイテムを選択します。
2. 記譜ツールボックスで「**パネル (Panels)**」をクリックしたあとに、「**強弱記号 (Dynamics)**」をクリックして、強弱記号パネルを表示します。
3. 以下のいずれかの操作を行なって、必要な強弱記号を入力します。
    - 選択したインストゥルメントに属するすべての声部/譜表に強弱記号を入力するには、強弱記号パネルでその強弱記号をクリックします。
    - 音符の入力中に、**[Alt/Opt]** を押しながら強弱記号パネルの強弱記号をクリックして、キャレットが表示された声部のみに強弱記号を入力します。

#### 補足

- 強弱記号に表現テキストや修飾テキストを追加する場合は、強弱記号の選択を解除しないでください。
- 声部固有の強弱記号を入力する場合は、*f* などの強弱記号を入力したあと **[Alt/Opt]** を放します。
- 段階的強弱記号のデフォルトのデュレーションは4分音符分の長さです。段階的強弱記号の長さはあとから変更できます。

4. 必要に応じて、強弱記号パネルの「**局部的強弱記号 (Immediate Dynamics)**」セクションまたは「**段階的強弱記号 (Gradual Dynamics)**」セクションで入力する表現テキストまたは修飾テキストをクリックします。

---

#### 結果

指定した強弱記号が入力されます。声部固有の強弱記号を入力しない限り、強弱記号は単一のインストゥルメント (大譜表を用いるインストゥルメントを含む) に属する譜表上のすべての声部に影響します。声部固有の強弱記号は、声部の符尾の方向に関係なく、そのインストゥルメントタイプの譜表のデフォルトの側に配置されます。

隣り合った強弱記号、つまり一緒にまたは連続して入力された強弱記号は自動的にグループ化されます。これは、強弱記号を音符の入力中に入力した場合も、既存の音符に追加した場合も同様です。

音符の入力中は、キャレットの位置に強弱記号が入力されます。段階的強弱記号は、デフォルトの4分音符のデュレーションで入力されます。声部固有の強弱記号は、キャレットの横に4分音符記号で示されている声部に追加されます。

既存の楽譜に追加した強弱記号は、アイテムの入力位置の設定に応じて、選択した各譜表上の音符のみまたはあらゆるアイテムの位置またはデュレーションにまたがるように入力されます。

既存の楽譜に追加した段階的強弱記号は、段階的強弱記号の入力位置の設定に応じて、選択した最後の音符の開始位置または終了位置に追加されます。



## 補足

- molto などの一部の修飾語句は、局部的強弱記号の後ろに入力した場合でも前に表示されます。これは、そのテキストの配置の一般的な慣習に習っています。

既存の強弱記号の前後に修飾語句を追加できます。修飾語句のみを表示したい場合は、局部的強弱記号をあとから非表示にすることもできます。

- 別個のヘアピンのペアは、messa di voce によるヘアピンとは別に扱われます。たとえば、記譜モードでは、別個のヘアピンにはそれぞれ開始ハンドルと終了ハンドルが表示されますが、messa di voce によるヘアピンは1つの中央ハンドルを共有しています。
- 段階的強弱記号は、楽譜領域で何も選択していないときに強弱記号パネルで段階的強弱記号をクリックして入力することもできます。そのあと、クリックして段階的強弱記号を入力し、ドラッグして任意の長さに調節します。

## 手順終了後の項目

強弱記号のフレーズ内の強弱記号を移動したり、譜表に対する強弱記号の位置を変更したりできます。

## 関連リンク

[記譜ツールボックス \(224 ページ\)](#)

[キャレット \(242 ページ\)](#)

[強弱記号 \(1229 ページ\)](#)

[声部 \(1858 ページ\)](#)

[再生時の強弱記号 \(1264 ページ\)](#)

[浄書モードの段階的強弱記号 \(1248 ページ\)](#)

[強弱記号 sforzando/rinforzando の外観を変更する \(1238 ページ\)](#)

[結合式強弱記号の区切り文字を表示/非表示にする \(1236 ページ\)](#)

[強弱記号レベルを変更する \(1235 ページ\)](#)

[局部的強弱記号を表示/非表示にする \(1236 ページ\)](#)

[マウス入力の設定の変更 \(235 ページ\)](#)

## 段階的強弱記号の入力位置の設定を変更する

初期設定では、段階的強弱記号は選択した音符/アイテムのデュレーション全体にまたがるように入力されます。選択した最後の音符の開始位置で段階的強弱記号を終了させたい場合は、この設定を変更できます。

## 手順

1. **[Ctrl]/[command]+[,]** を押して「環境設定 (Preferences)」を開きます。
2. カテゴリーリストの「音符の入力と編集 (Note Input and Editing)」をクリックします。
3. 「編集 (Editing)」セクションで、「複数選択した中で最後の音符の開始位置で段階的強弱記号を終了する (End gradual dynamics at start of last note in multiple selections)」をオン/オフにします。
4. 「適用 (Apply)」をクリックしてから「閉じる (Close)」をクリックします。

## 結果

「複数選択した中で最後の音符の開始位置で段階的強弱記号を終了する (End gradual dynamics at start of last note in multiple selections)」をオンにすると、選択した最後の音符の開始位置で段階的強弱記号が終了します。段階的強弱記号の最後の局部的強弱記号は、選択した最後の音符に連結されます。

「複数選択した中で最後の音符の開始位置で段階的強弱記号を終了する (End gradual dynamics at start of last note in multiple selections)」をオフにすると、選択した最後の音符の終了位置で段階的強弱記号が終了します。段階的強弱記号の最後の局部的強弱記号は、次の音符/休符に連結されます。

例



関連リンク

[「環境設定 \(Preferences\)」ダイアログ \(63 ページ\)](#)

[アイテムの入力位置の設定を変更する \(237 ページ\)](#)

[音符/アイテムの選択 \(460 ページ\)](#)



## コード記号の入力

コード記号のポップオーバーで、コンピューターキーボードや接続された MIDI キーボードを使用してコード記号を入力できます。すべてのインストゥルメントに入力することも、個別のインストゥルメントに入力することもできます。音符の入力中にコード記号のポップオーバーを開くこともできますが、コード記号を入力すると音符の入力が終了します。

前提条件

MIDI デバイスを使用してコード記号を入力する場合は、使用する MIDI デバイスを接続しておきます。

手順

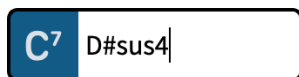
1. 記譜モードで、コード記号を入力する位置にある譜表上のアイテムを選択します。
2. 以下のいずれかの操作を行なってコード記号のポップオーバーを開きます。
  - **[Shift]+[Q]** を押します。
  - 記譜ツールボックスで「ポップオーバー (Popovers)」 をクリックし、「コード記号 (Chord Symbols)」 をクリックします。

補足

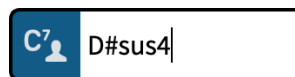
選択した位置よりも前にローカルなコード記号のある譜表上のアイテムを選択した場合、コード記号のポップオーバーを開くと、ローカルなコード記号を入力するモードに自動的に設定されます。

3. 必要に応じて、以下のいずれかの操作を行なってコード記号のタイプを変更します。
  - ローカルなコード記号を入力するには、**[Alt/Opt]+[L]** を押します。
  - グローバルなコード記号を入力するには、**[Alt/Opt]+[G]** を押します。

ポップオーバーのアイコンが更新され、現在のタイプが表示されます。



グローバルなコード記号を入力する際のコード記号のポップオーバー



ローカルなコード記号を入力する際のコード記号のポップオーバー

4. 以下のいずれかの操作を行なって、コード記号のポップオーバーにコード記号を入力します。

- コンピューターキーボードを使用して、適切な文字や数字を入力します。たとえば、コード記号 D#sus4 なら「D#sus4」と入力し、ポリコード記号 Cmaj7/D なら「CM7[D]」と入力します。
- キーボードパネルで和音を演奏します。
- MIDI キーボードを使用して和音を演奏します。

#### ヒント

- ポリコード記号を入力するには、最初の和音を演奏し、鍵盤を押さえたまま 2 番目の和音を演奏します。
- ルート音だけで構成されるコード記号を入力する際は、1 つの音符だけを演奏します。
- 以下のいずれかの操作を行なって、ルート音を指示します。
  - まず 1 本の指でルート音を演奏し、ルート音を押さえたまま和音の残りの音符を演奏します。
  - 和音のすべての音符を同時に演奏し、それらをすべて放したあと、ルート音を再び演奏します。
- 以下のいずれかの操作を行なって、オンコードを指示します。
  - オンコードを一番低い音にして、和音のすべての音符を同時に演奏します。
  - 和音とオンコードを別々に演奏します。オンコード以外の和音の鍵盤を押さえ、それらの鍵盤を押さえたままオンコードを演奏します。

5. 必要に応じて、**[Space]** を押して、その位置で有効な拍子記号に応じてポップオーバーを次の拍に進めます。

#### ヒント

また、拍とは異なる単位でポップオーバーを前後に移動することもできます。

6. ポップオーバーがグローバルに設定されているときに個別にローカルなコード記号を入力する場合、または逆の場合には、**[Alt/Opt]+[Return]** を押してコード記号の入力を確定します。
7. **[Return]** を押してポップオーバーを閉じます。

#### 結果

指定したコード記号が入力されます。現在のレイアウトでコード記号を表示しない設定になっているインストゥルメントに属するアイテムを選択した場合、すべてのインストゥルメントのコード記号を表示するように対応するプレーヤーが自動的に更新されます。

グローバルなコード記号はプロジェクト内のすべてのインストゥルメントに適用され、コード記号を表示するように設定されているすべての譜表に表示されます。ローカルなコード記号は選択したインストゥルメントにのみ適用されます。同じ位置にグローバルなコード記号が存在していても、ローカルなコード記号は常に表示されます。

#### 補足

- コード記号の外観が、ポップオーバーに入力したものと異なる場合があります。たとえば、「D|C7」と入力した場合、「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**コード記号 (Chord Symbols)**」ページの設定によっては、2 つの和音が上下または左右に並んで表示されることがあります。
- MIDI キーボードを使用してコード記号を入力した場合、使用したボイスはコード記号の再生でも保持されます。MIDI キーボードを使用して入力したコード記号のボイスはリセットできません。

手順終了後の項目

特定の譜表の上にあるコード記号を表示/非表示にしたり、コード記号の横のコードダイアグラムを表示/非表示にしたりできます。

関連リンク

[記譜ツールボックス \(224 ページ\)](#)

[キーボードパネル \(229 ページ\)](#)

[コード記号 \(1154 ページ\)](#)

[音符からコード記号を生成する \(355 ページ\)](#)

[コード記号から音符を生成する \(511 ページ\)](#)

[コード記号を表示/非表示にする \(1157 ページ\)](#)

[レイアウトでコード記号を表示/非表示にする \(1159 ページ\)](#)

[コードダイアグラムを表示/非表示にする \(1177 ページ\)](#)

[コード記号領域の入力 \(354 ページ\)](#)

[スラッシュ領域の入力 \(450 ページ\)](#)

[MIDI 入力デバイスの有効化/無効化 \(297 ページ\)](#)

[コードトラック \(674 ページ\)](#)

[コード記号の再生の有効化 \(675 ページ\)](#)

[コード記号のボーシングをリセットする \(676 ページ\)](#)



[コード記号の外観のプリセット \(1156 ページ\)](#)

[「浄書オプション \(Engraving Options\)」ダイアログ \(923 ページ\)](#)

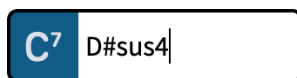
## コード記号のポップオーバー

以下の表は、さまざまなコード記号の構成要素を入力するためにコード記号のポップオーバーに入力できるエントリーの例です。これらの構成要素は自由に組み合わせて入力できます。

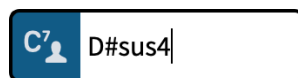
記譜モードでは、アイテムの選択時またはキャレットの有効時に以下のいずれかの操作を行なって、コード記号のポップオーバーを開くことができます。

- **[Shift]+[Q]** を押します。
- 記譜ツールボックスで「**ポップオーバー (Popovers)**」 をクリックし、「**コード記号 (Chord Symbols)**」 をクリックします。
- 既存のコード記号を選択して **[Return]** を押します。
- 「**記譜 (Write)**」 > 「**コード記号を作成 (Create Chord Symbol)**」を選択します。

グローバルなコード記号を入力する場合は、ポップオーバーの左側に表示されたアイコンが記譜ツールボックスの対応するボタンと一致します。ローカルなコード記号を入力する場合は、ポップオーバーの左側のアイコンが小さく表示され、その横にシングルプレイヤーのアイコンが表示されます。



グローバルなコード記号のエントリーの例が入力されたコード記号のポップオーバー



ローカルなコード記号のエントリーの例が入力されたコード記号のポップオーバー



記譜ツールボックスの「**コード記号 (Chord Symbols)**」ボタン

### 補足

複数のタイプのエントリーを組み合わせることで複雑なコード記号を作成できます。その場合、コード記号のポップオーバーにエントリー間にスペースを入れずに続けて入力します。たとえば、以下のコード記号の場合は「**Eblocrian**」と入力します。

## E $\flat$ Loc.

### コード記号のルート

コード記号のルートのタイプ	ポップオーバーエントリー
音符名 (英語表記) C、D $\flat$ 、F $\sharp$ 、B など	「C」、「D $\flat$ 」、「F $\sharp$ 」、「B」 など
音符名 (ドイツ語表記) C、D $\flat$ 、F $\sharp$ 、H など	「C」、「Des」、「Fis」、「H」 など
固定ドソルフエージュ C、D $\flat$ 、F、F $\sharp$ 、B など	「do」、「reb」、「fa」、「fa $\sharp$ 」、「ti」 など
スケールディグリーを表わす Nashville 番号 Cメジャーの場合: C、D $\flat$ 、F $\sharp$ 、B など	「1」、「2 $\flat$ 」、「4 $\sharp$ 」、「7」 など

#### ヒント

MIDI キーボードを使用する場合、以下のいずれかの方法でルート音を指示することもできます。

- まず 1 本の指でルート音を演奏し、ルート音を押さえたまま和音の残りの音符を演奏します。
- 和音のすべての音符を同時に演奏し、それらをすべて放したあと、ルート音を再び演奏します。

### コード記号の臨時記号

臨時記号のタイプ	ポップオーバーエントリー
シャープ	#
フラット	b
ダブルシャープ	「x」または「##」
トリプルシャープ	「x $\sharp$ 」、「#x」、または「###」
ダブルフラット	bb
トリプルフラット	bbb

## コード記号のクオリティ

コード記号のクオリティ	ポップオーバーエントリー
メジャー	「maj」、「M」、「ma」またはルートのあとに何も入力しない。
マイナー	「m」、「min」、または「mi」
ディミニッシュ	「dim」、「di」、または「o」
オーギュメント	「aug」、「au」、「ag」、または「+」
ハーフディミニッシュ	「half-dim」、「halfdim」、または「hd」
6/9	「6/9」、「69」、または「%」

### 補足

メジャーとマイナーを意味する「M」と「m」のエントリーは、大文字と小文字が区別されます。

## コード記号の音程

音程	ポップオーバーエントリー
スケールディグリー	「1」、「2」、「3」など
メジャー 7th	「^7」または「^」
メジャー 9th	「^9」、「maj9」、または「9maj7」

## コード記号のオルタレーション

コード記号のオルタレーションのタイプ	ポップオーバーエントリー
オルタレーション	「b5」、「-5」、「#9」、「+9」、「b10」など
付加音	「add#11」、「add+11」、「addb9」、「add-9」、「addF#」、「addBb」など
サスペンション	「sus4」、「sus9」など
オミット	「omit3」、「no7」など

## オンコードのコード記号

オンコードのコード記号の例	ポップオーバーエントリー
G7/D	「G7/D」、「G7,D」、「Gmaj7/D」、または「Gmaj7,D」
C(b5)/Eb	「CMb5/Eb」、「CMb5,Eb」、「Cmajb5/Eb」、または「Cmajb5,Eb」
Fm/D#	「Fm/D#」、「Fm,D#」、「Fmi/D#」、または「Fmi,D#」

### ヒント

MIDI キーボードを使用する場合、以下のいずれかの方法でオンコードを指示することもできます。

- オンコードを一番低い音にして、和音のすべての音符を同時に演奏します。
- 和音とオンノートを別々に演奏します。オンコード以外の和音の鍵盤を押さえ、それらの鍵盤を押さえたままオンコードを演奏します。

## ポリコード記号

ポリコード記号の例	ポップオーバーエントリー
G/E	「G E」、「G;E」、「Gmaj E」、または「Gmaj;E」
Cmaj7/D	「CM7 D」、「CM7;D」、「Cmaj7 D」、または「Cmaj7;D」
Fm/D#	「Fm D#」、「Fm;D#」、「Fmi D#」、または「Fmi;D#」

### ヒント

MIDI キーボードを使用する場合、最初の和音を演奏し、鍵盤を押さえたまま 2 番目の和音を演奏してポリコード記号を入力することもできます。

## 和音なしの記号

和音なしの記号	ポップオーバーエントリー
和音なし	「N.C.」、「NC」、「no chord」、または「none」

## モーダルコード記号

モーダルコード記号	ポップオーバーエントリー
イオニアン	ionian

モーダルコード記号	ポップオーバーエントリー
ドリアン	dorian
フリジアン	phrygian
リディアン	lydian
ミクソリディアン	mixolydian
エオリアン	aeolian
ロクリアン	locrian
メロディックマイナー	melodicminor
ハーモニックマイナー	harmonicminor
ホールトーン	wholetone
ハーフホールディミニッシュまたはオクタトニック	「diminishedhalfwhole」、 「diminishedsemitonetone」、 「octatonichalfwhole」、または 「octatonicsemitonetone」
ホールハーフディミニッシュまたはオクタトニック	「diminishedwholehalf」、 「diminishedtoneseemitone」、 「octatonicwholehalf」、または 「octatonictonesemitone」

このリストにはすべてのエントリーが含まれているわけではなく、ほかにも多くのコード記号があります。このリストは、さまざまなコード記号の入力に使用できるさまざまな構成要素を示すことを目的としています。

#### 補足

入力されるコード記号の外観は、「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**コード記号 (Chord Symbols)**」ページの設定によって異なります。コード記号のポップオーバーに入力したエントリーの構成は反映されません。たとえば、Cメジャーのコードを入力する際、「C」、「Cmaj」、「CM」のいずれを使用しても同じコード記号が入力されます。

### 括弧付きのコード記号

括弧付きのコード記号の例	ポップオーバーエントリー
(Cmaj7)	(Cmaj7)



## コード記号領域

コード記号領域	ポップオーバーエントリー
新規コード記号領域	reg

関連リンク

[記譜ツールボックス \(224 ページ\)](#)

[コード記号 \(1154 ページ\)](#)

[括弧付きのコード記号 \(1169 ページ\)](#)

[「浄書オプション \(Engraving Options\)」ダイアログ \(923 ページ\)](#)

## コード記号入力中のナビゲーション

コード記号のポップオーバーは、さまざまな間隔を使用して手動で移動できます。これにより、毎回ポップオーバーを閉じて開きなすことなく、異なる位置にコード記号を入力できます。

### コンピューターキーボードによるナビゲーション

#### ポップオーバーのナビゲーション

#### キーボードショートカット

その位置で有効な拍子記号に応じて、ポップオーバーを次の拍に進めます。 **[Space]**

その位置で有効な拍子記号に応じて、ポップオーバーを前の拍に戻します。 **[Shift]+[Space]**

ポップオーバーを次の小節の最初に進める **[Tab]**

ポップオーバーを前の小節の最初に戻す **[Shift]+[Tab]**

以下のうち、最も近い位置にカーソルとポップオーバーを移動する **[→]/[←]**

- 次/前の音符または休符
- 次/前のリズムグリッド位置
- 既存のコード記号のエントリーの次/前の文字

ポップオーバーを次/前のコード記号に移動する。 **[Ctrl]/[command]+[→]/[Ctrl]/[command]+[←]**

### MIDI キーボードによるナビゲーション

MIDI キーボードを使用して和音を入力する場合、初期設定では、和音を演奏したあとにポップオーバーが自動的に次の拍に進みます。この動作は、「**音符入力オプション (Note Input Options)**」の「**MIDI 入力 (MIDI Input)**」ページにある「**MIDI キーボードによるコード記号入力中の進み方 (Advance during chord symbol input via MIDI keyboard)**」オプションを使用して変更できます。

さまざまなナビゲーション動作を実行するように MIDI キーボードの特定のキーやボタンを定義することもできます。「**環境設定 (Preferences)**」の「**キーボードショートカット (Key Commands)**」ページ

にある「MIDI Learn」ボタンを使って、特定のキーを「音符の入力 (Note Input)」 > 「コード記号の入力位置を進める (Advance Chord Symbol Input)」 コマンドに割り当てることができます。

関連リンク

[コード記号の入力 \(346 ページ\)](#)

[「環境設定 \(Preferences\)」 ダイアログの「キーボードショートカット \(Key Commands\)」 ページ \(64 ページ\)](#)

[MIDI コマンドの割り当て \(69 ページ\)](#)

[キーボードショートカットの割り当て \(68 ページ\)](#)

[「音符入力オプション \(Note Input Options\)」 ダイアログ \(921 ページ\)](#)

## MIDI キーボードのコード記号の入力オプション

コード記号の入力中に MIDI キーボードで押したノートが Dorico Pro がどのように解釈するかについて、さまざまな設定を行なえます。

「音符入力オプション (Note Input Options)」の「コード記号 (Chord Symbols)」 ページでは、以下のオプションを使用できます。

- 和音を転回形で演奏した場合にそれを反映するか、ルート位置で演奏したようにコード記号を記譜するか。
- オミットを記譜するかどうか。たとえば、C と E を演奏した場合、「C」または「C(omit5)」として記譜できます。
- 付加音とサスペンションをどのように記譜するか。
- ルート音とオンコードの間の複雑な異名同音の関係をどのように処理するか。

「音符入力オプション (Note Input Options)」の「MIDI 入力 (MIDI Input)」 ページで使用できるオプションには、MIDI キーボードによるコード記号入力の無効化やデフォルトのナビゲーションの動作などがあります。

関連リンク

[「音符入力オプション \(Note Input Options\)」 ダイアログ \(921 ページ\)](#)



[コード記号のボイスをリセットする \(676 ページ\)](#)

## コード記号領域の入力

コード記号を表示する特定の領域を入力できます。たとえば、プロジェクトの大部分でコード記号が必要ないインストゥルメントに、コード記号を表示する必要のある即興のセクションがある場合などに使用します。

---

手順

1. 記譜モードで、以下のいずれかの操作を行ないます。
    - 音符の入力を開始します。
    - コード記号領域を入力する各譜表の、必要なデュレーションにまたがるアイテムを選択します。
  2. 以下のいずれかの操作を行なってコード記号のポップオーバーを開きます。
    - **[Shift]+[Q]** を押します。
    - 記譜ツールボックスで「ポップオーバー (Popovers)」  をクリックし、「コード記号 (Chord Symbols)」  をクリックします。
  3. ポップオーバーに「reg」と入力します。
  4. **[Return]** を押してポップオーバーを閉じます。
-

#### 結果

音符の入力中は、コード記号領域は選択された音符またはアイテムの範囲全体に入力されます。この選択は一般的に最後に入力した音符です。

既存の楽譜にコード記号領域を追加する際は、選択した各譜表の選択したデュレーションにかけて入力されます。

対応するインストゥルメントが割り当てられたプレーヤーは、すべてのコード記号を非表示にするように設定されていても、コード記号領域およびスラッシュ領域にコード記号が表示されるよう自動的に設定されます。

#### ヒント

「記譜 (Write)」 > 「コード記号領域を作成 (Create Chord Symbol Region)」を選択してコード記号領域を入力することもできます。「環境設定 (Preferences)」の「キーボードショートカット (Key Commands)」ページで、このオプションにキーボードショートカットを割り当てることができます。

---

#### 関連リンク

- [コード記号のポップオーバー \(348 ページ\)](#)
- [コード記号領域 \(1162 ページ\)](#)
- [コード記号を表示/非表示にする \(1157 ページ\)](#)
- [スラッシュ領域の入力 \(450 ページ\)](#)
- [「環境設定 \(Preferences\)」ダイアログの「キーボードショートカット \(Key Commands\)」ページ \(64 ページ\)](#)

## 音符からコード記号を生成する

すでに入力されている音符の和声に基づいて、コード記号を自動的に生成できます。どの音符のデュレーションや転回を含めるかなど、計算に反映させる楽譜の前後関係を指定できます。

---

#### 手順

1. 記譜モードで、コード記号の生成元となる音符を選択します。

#### ヒント

複数の譜表の音符を選択できます。

---

2. 「編集 (Edit)」 > 「記譜 (Notations)」 > 「コード記号とコードダイアグラム (Chord Symbols and Diagrams)」 > 「選択からコード記号を生成 (Generate Chord Symbols from Selection)」を選択して「音符からコード記号を生成 (Generate Chord Symbols From Notes)」ダイアログを開きます。このオプションはコンテキストメニューでも選択できます。
  3. 必要に応じて設定を変更します。  
たとえば、コード記号に含める音符のデュレーションの最小値を変更したり、空虚 5 度のコード記号の作成を禁止したりできます。
  4. 「OK」をクリックして変更内容を保存し、ダイアログを閉じます。
- 

#### 結果

選択した音符と設定に基づいてコード記号が生成されます。コード記号は、設定に応じて 2 つ以上または 3 つ以上の音符で構成される和音の位置に入力されます。

選択範囲に含まれているすべてのインストゥルメントにコード記号が表示されるように設定されます。

#### 関連リンク

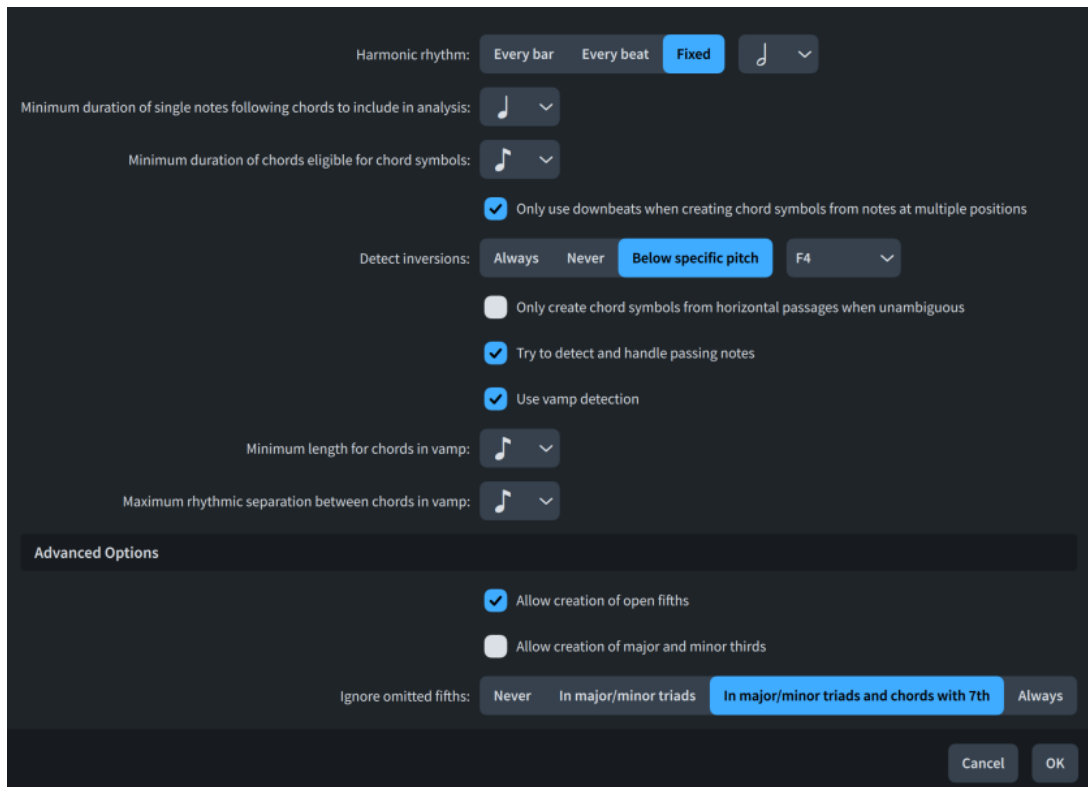
- [コード記号を表示/非表示にする \(1157 ページ\)](#)
- [コード記号から音符を生成する \(511 ページ\)](#)

既存の楽譜に基づくハーブペダルダイアグラムの計算 (413 ページ)

## 「選択からコード記号を生成 (Generate Chord Symbols from Selection)」ダイアログ

「選択からコード記号を生成 (Generate Chord Symbols from Selection)」ダイアログを使用すると、すでに入力されている音符の和声に基づいてコード記号を生成したり、計算に反映させる楽譜の前後関係を指定したりできます。

- 楽譜領域で少なくとも1つの和音を選択しているときに、「編集 (Edit)」 > 「記譜 (Notations)」 > 「コード記号とコードダイアグラム (Chord Symbols and Diagrams)」 > 「選択からコード記号を生成 (Generate Chord Symbols from Selection)」を選択して「選択からコード記号を生成 (Generate Chord Symbols From Selection)」ダイアログを開くことができます。このオプションはコンテキストメニューでも選択できます。



「選択からコード記号を生成 (Generate Chord Symbols from Selection)」ダイアログには以下のオプションがあります。

### 和声リズム (Harmonic rhythm)

生成したコード記号間のリズム間隔の最小値を設定できます。

- 1小節ごと (Every bar):** 少なくとも1小節ごとにコード記号が作成されます。
- 1拍ごと (Every beat):** 現在の拍子記号に応じて、少なくとも1拍ごとにコード記号が作成されます。
- 固定 (Fixed):** 指定した間隔でコード記号が作成されます。

### コード記号の後の単音を解析に含める場合の最小デュレーション (Minimum duration of single notes following chords to include in analysis)

コード記号の計算に含める単一の音符の最も短い音価を設定できます。これにより、設定されたデュレーションより短い経過音を除外できます。

### コード記号に適した和音の最小デュレーション (Minimum duration of chords eligible for chord symbols)

コード記号の計算に含める和音の最も短い音価を設定できます。これにより、設定されたデュレーションより短い一時的な和音を除外できます。

### 複数位置の音符からコード記号を作成する場合は強拍のみを使用 (Only use downbeats when creating chord symbols from notes at multiple positions)

オンにすると、各小節の強拍で始まる音符だけがコード記号の計算に含まれます。

### 転回形を検出 (Detect inversions)

コード記号を計算する際の転回形の扱いを変更できます。

- **常に考慮 (Always):** 転回形が常に反映されます。
- **考慮しない (Never):** 転回形が反映されません。これは特に、複数のインストゥルメントに属する音符からコード記号を計算する際に便利です。
- **特定のピッチを下回る (Below specific pitch):** 特定のピッチを下回る音符に対してのみ転回形が反映されます。

### 曖昧さが無い場合のみ水平方向のパスセージからコード記号を作成 (Only create chord symbols from horizontal passages when unambiguous)

オンにすると、作成されるコードが単純な場合のみ、複数の位置の音からコード記号が作成されます。

### 可能であれば経過音を検出して処理する (Try to detect and handle passing notes)

オンにすると、Dorico Pro はできる限り経過音を検出し、コード記号の計算からそれらを除外します。

### バンプ検出を使用 (Use vamp detection)

オンにすると、Dorico Pro はバンピングでよく使用されるリズムパターンとテクスチャーを検出し、コード記号の計算に反映します。

### バンプの和音の長さの最小値 (Minimum length for chords in vamp)

バンプセクションの和音の音価の最小値を変更できます。

### バンプ内の和音のリズム上の間隔の最大値 (Maximum rhythmic separation between chords in vamp)

バンプセクションの和音間隔の最大値を変更できます。

### 空虚5度の作成を許可 (Allow creation of open fifths)

オンにすると、5度離れた2つの音符のみで構成される和音のコード記号が自動的に作成されます。

### 長3度および短3度の作成を許可 (Allow creation of major and minor thirds)

オンにすると、3度離れた2つの音符のみで構成される和音のコード記号が自動的に作成されます。

### omit 5th を無視 (Ignore omitted fifths)

omit 5th の扱いを変更できます。

- **考慮しない (Never):** omit 5th は無視されません。つまり、利用できる音符に応じて和音が反映されます。
- **メジャー/マイナートライアドである場合 (In major/minor triads):** omit 5th は、3度離れた2つの音符のみで構成される和音の場合のみ無視されます。
- **メジャー/マイナートライアドおよび7thが付く和音である場合 (In major/minor triads and chords with 7th):** omit 5th は、3度離れた2つの音符のみで構成される和音と7thコードを含む和音の場合に無視されます。
- **常に考慮 (Always):** omit 5th は常に無視されます。つまり、コード記号は5thが存在するかのように作成されます。

関連リンク

[コード記号 \(1154 ページ\)](#)

[コード記号の入力 \(346 ページ\)](#)

[コード記号を表示/非表示にする \(1157 ページ\)](#)

[既存の楽譜に基づくハーブペダルダイアグラムの計算 \(413 ページ\)](#)

[拍子記号のタイプ \(1796 ページ\)](#)

[「コード記号から音符を生成 \(Generate Notes From Chord Symbols\)」ダイアログ \(512 ページ\)](#)

## 音部記号とオクターブ線の入力方法

音部記号とオクターブ線は、音部記号とオクターブ線のポップオーバーを使用してキーボードで入力することも、音部記号パネルを使用してマウスで入力することもできます。

音部記号とオクターブ線はどちらも音符のピッチと音域に影響するため、同じポップオーバーとパネルを使用します。

関連リンク



[音部記号 \(1191 ページ\)](#)

[オクターブ線 \(1201 ページ\)](#)

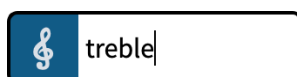
## 音部記号とオクターブ線のポップオーバー

以下の表は、さまざまな音部記号とオクターブ線の入力に使用できる音部記号とオクターブ線のポップオーバーのエントリーの例です。

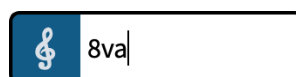
記譜モードでは、アイテムの選択時またはキャレットの有効時に以下のいずれかの操作を行なって、音部記号とオクターブ線のポップオーバーを開くことができます。

- **[Shift]+[C]** を押します。
- 記譜ツールボックスで「ポップオーバー (Popovers)」 をクリックし、「音部記号 (Clefs)」 をクリックします。
- 既存の音部記号またはオクターブ線を選択して **[Return]** を押します。
- 「記譜 (Write)」 > 「音部記号を作成 (Create Clef)」を選択します。

ポップオーバーの左側に表示されたアイコンが、ウィンドウの右側にある記譜記号ツールボックスの対応するボタンと一致します。



音部記号のエントリーの例が入力された音部記号とオクターブ線のポップオーバー



オクターブ線のエントリーの例が入力された音部記号とオクターブ線のポップオーバー



記譜ツールボックスの「音部記号 (Clefs)」ボタン

## 音部記号

### 音部記号のタイプ

ト音記号

ヘ音記号

テノール八音記号

### ポップオーバーエントリー

「g」、「G」、「g2」、「sol」、または「treble」

「f」、「F」、「f4」、「fa」、または「bass」

「ct」、「CT」、「c4」、「ut4」、または「tenor」

音部記号のタイプ	ポップオーバーエントリー
アルト八音記号	「ca」、「CA」、「c3」、「ut3」、または「alto」
ト音記号、1 オクターブ下	「g8ba」、「G8ba」、「g8d」、「G8d」、「treble8ba」、 または「treble8d」
ト音記号、2 オクターブ下	「g15ba」、「G15ba」、「g15d」、「G15d」、 「treble15ba」、または「treble15d」
ト音記号、1 オクターブ上	「g8va」、「G8va」、「g8u」、「G8u」、「treble8va」、 または「treble8u」
ト音記号、2 オクターブ上	「g15ma」、「G15ma」、「g15u」、「G15u」、 「treble15ma」、または「treble15u」
小バイオリン記号	<b>g1</b>
アルト八音記号、1 オクターブ下	「ca8ba」、「CA8ba」、「ca8d」、「CA8d」、 「alto8ba」、または「alto8d」
テノール八音記号、1 オクターブ下	「ct8ba」、「CT8ba」、「ct8d」、「CT8d」、 「tenor8ba」、または「tenor8d」
ヘ音記号、1 オクターブ下	「f8ba」、「F8ba」、「f8d」、「F8d」、「bass8ba」、 または「bass8d」
ヘ音記号、2 オクターブ下	「f15ba」、「F15ba」、「f15d」、「F15d」、 「bass15ba」、または「bass15d」
ヘ音記号、1 オクターブ上	「f8va」、「F8va」、「f8u」、「F8u」、「bass8va」、 または「bass8u」
ヘ音記号、2 オクターブ上	「f15ma」、「F15ma」、「f15u」、「F15u」、 「bass15ma」、または「bass15u」
無音程打楽器	<b>perc</b>
4 弦タブラチュア	<b>tab4</b>
6 弦タブラチュア	<b>tab6</b>
バリトンバス記号	<b>baritonebass</b>
バリトン記号	「baritone」、「c5」、または「ut5」
メゾソプラノ記号	「mezzo」、「c2」、または「ut2」
ソプラノ八音記号	「soprano」、「c1」、または「ut1」
低バス記号	<b>subbass</b>

---

音部記号のタイプ	ポップオーバーエントリー
非表示の記号	<code>invisible</code>

---

#### ヒント

音部記号パネルには、インド太鼓記号や長方形のパーカッション記号などの音部記号もあります。

---

### 音部記号のオクターブシフト

---

オクターブシフトの機能	ポップオーバーエントリー
音符を 1 オクターブ上に移動	<code>+1</code>
音符を 2 オクターブ上に移動	<code>+2</code>
音符を 1 オクターブ下に移動	<code>-1</code>
音符を 2 オクターブ下に移動	<code>-2</code>
実音のオクターブシフトを設定	<code>c</code>
移調音のオクターブシフトを設定	<code>t</code>

---

たとえば、移調音のレイアウトで「`treble+1t`」と入力して 1 オクターブ上げのト音記号を記譜すると、移調音のレイアウトのト音記号以降の音符が、通常のト音記号の音符より 1 オクターブ下がって表示されます。

### オクターブ線

---

オクターブ線の機能	ポップオーバーエントリー
音符を 1 オクターブ上に移動	「 <code>8va</code> 」、 <code>8</code> 、「 <code>8u</code> 」、または「 <code>1u</code> 」
音符を 2 オクターブ上に移動	「 <code>15ma</code> 」、 <code>15</code> 、「 <code>15u</code> 」、または「 <code>2u</code> 」
音符を 3 オクターブ上に移動	「 <code>22ma</code> 」、 <code>22</code> 、「 <code>22u</code> 」、または「 <code>3u</code> 」
音符を 1 オクターブ下に移動	「 <code>8ba</code> 」、 <code>8vb</code> 、「 <code>8d</code> 」、または「 <code>1d</code> 」
音符を 2 オクターブ下に移動	「 <code>15ba</code> 」、 <code>15vb</code> 、「 <code>15d</code> 」、または「 <code>2d</code> 」
音符を 3 オクターブ下に移動	「 <code>22ba</code> 」、 <code>22vb</code> 、「 <code>22d</code> 」、または「 <code>3d</code> 」
Loco の指示	<code>loco</code>



## オクターブ線の機能

オクターブ線の終了

たとえば、音符の入力中にオクターブ線が終了する位置を指定するには「**stop**」と入力します。

## ポップオーバーエントリー

「|」または「**stop**」

関連リンク

[記譜ツールボックス \(224 ページ\)](#)

[音部記号 \(1191 ページ\)](#)

[オクターブ線 \(1201 ページ\)](#)

[音部記号のオクターブを変更する \(1198 ページ\)](#)

[音部記号のオクターブ指示記号に従う/無視する \(1199 ページ\)](#)

## 音部記号パネル

音部記号パネルには、珍しい音部記号や古楽の音部記号を含め、Dorico Pro で使用できるさまざまな音部記号やオクターブ線が含まれています。これは記譜モードの右ゾーンに配置されています。

- 記譜ツールボックスで「**パネル (Panels)**」をクリックしたあとに、「**音部記号 (Clefs)**」をクリックすることで、音部記号パネルの表示/非表示を切り替えられます。

**[Ctrl]/[command]+[9]** を押して右ゾーンの表示/非表示を切り替えることもできます。

音部記号パネルには以下のセクションがあります。

### 一般的な音部記号 (Common Clefs)

ト音記号やバス記号など、最もよく使われる音部記号が含まれています。

### その他の音部記号 (Uncommon Clefs)

非表示の記号、ト音記号 1 オクターブ上/下、インド太鼓記号、小バイオリン記号など、使用頻度の低い音部記号が含まれています。

### 古楽の音部記号 (Archaic Clefs)

メゾソプラノ記号、バリトンバス記号、低バス記号など、現在はほとんど使用されない音部記号が含まれています。

### オクターブ線 (Octave Lines)

最大 3 オクターブ上または下を指示するオクターブ線と loco 線が含まれています。

関連リンク

[記譜ツールボックス \(224 ページ\)](#)

[音部記号 \(1191 ページ\)](#)

[オクターブ線 \(1201 ページ\)](#)

[パネルを使った音部記号の入力 \(363 ページ\)](#)

[パネルを使ったオクターブ線の入力 \(365 ページ\)](#)



## ポップオーバーを使った音部記号の入力

音部記号とオクターブ線のポップオーバーを使用して音部記号を入力できます。音符の入力中に行なうことも、既存の楽譜に追加することもできます。このポップオーバーを使用して既存の音部記号のタイプを変更することもできます。

### 補足

Dorico Pro の多くのインストゥルメントには、デフォルトでレイアウトの移調に従って代替の音部記号を表示する別のバージョンがあります。インストゥルメントを追加または変更する際は、インストゥルメントピッカーから適切なインストゥルメントバージョンを選択できます。

### 手順

1. 記譜モードで、以下のいずれかの操作を行ないます。
  - 音符の入力を開始します。
  - 音部記号を入力する位置にある各譜表上のアイテムを選択します。それ以降の位置に復帰のための音部変更記号を追加するには、必要なデューレーションにまたがるアイテムを選択します。
2. 音符の入力中に、複数の譜表に音符や記譜記号を入力する場合は、それらの譜表にキュレットを伸ばします。
3. 以下のいずれかの操作を行なって音部記号とオクターブ線のポップオーバーを開きます。
  - **[Shift]+[C]** を押します。
  - 記譜ツールボックスで「ポップオーバー (Popovers)」 をクリックし、「音部記号 (Clefs)」 をクリックします。
4. 使用する音部記号のエントリーをポップオーバーに入力します。

例:

  - バス記号には「**bass**」
  - アルト記号には「**alto**」
  - 非表示の記号には「**invisible**」
  - 移調音のレイアウトの1オクターブ上げのト音記号には「**treble+1t**」
5. **[Return]** を押してポップオーバーを閉じます。

### 結果

音符の入力中は、キュレットが伸びているすべての譜表のキュレットの位置に音部記号が入力されます。

既存の楽譜に追加した音部記号は、アイテムの入力位置の設定に応じて、選択した各譜表上の最初に選択した音符またはアイテムの位置に追加されます。選択したアイテムの範囲に音部記号を追加すると、選択範囲の終了位置に復帰のための音部変更記号も追加されます。

音部記号は、次の音部記号またはフローの終わりのいずれか早い方の位置までにある譜表のすべての音符に適用されます。

### 関連リンク

[音部記号 \(1191 ページ\)](#)

[アイテムの入力位置の設定を変更する \(237 ページ\)](#)

[複数の譜表にキュレットを伸ばす \(246 ページ\)](#)

[音部記号の表示/非表示の切り替え \(1195 ページ\)](#)

[実音と移調音で異なる音部記号を設定する \(1194 ページ\)](#)

[レイアウトの移調に従い音部記号を表示/非表示にする \(1196 ページ\)](#)

- [音部記号のオクターブを変更する \(1198 ページ\)](#)
- [音部記号のオクターブ指示記号に従う/無視する \(1199 ページ\)](#)
- [インストゥルメントの変更 \(148 ページ\)](#)
- [プレイヤーへのインストゥルメントの追加 \(146 ページ\)](#)

## パネルを使った音部記号の入力



音部記号パネルを使用して音部記号を入力できます。音符の入力中に行なうことも、既存の楽譜に追加することもできます。

### 補足

- 以下の手順は、環境設定でマウス入力のデフォルト設定が「**選択位置にアイテムを作成 (Create item at selection)**」に設定されている場合について説明します。
- Dorico Pro の多くのインストゥルメントには、デフォルトでレイアウトの移調に従って代替の音部記号を表示する別のバージョンがあります。インストゥルメントを追加または変更する際は、インストゥルメントピッカーから適切なインストゥルメントバージョンを選択できます。

---

### 手順

- 記譜モードで、以下のいずれかの操作を行ないます。
  - 音符の入力を開始します。
  - 音部記号を入力する位置にある各譜表上のアイテムを選択します。それ以降の位置に復帰のための音部変更記号を追加するには、必要なデューレーションにまたがるアイテムを選択します。
- 記譜ツールボックスで「**パネル (Panels)**」 をクリックし、「**音部記号 (Clefs)**」 をクリックして音部記号パネルを表示します。
- 音部記号パネルで入力する音部記号をクリックします。

---

### 結果

音符の入力中は、キャレットの位置に音部記号が入力されます。

既存の楽譜に追加した音部記号は、アイテムの入力位置の設定に応じて、選択した各譜表上の最初に選択した音符またはアイテムの位置に追加されます。選択したアイテムの範囲に音部記号を追加すると、選択範囲の終了位置に復帰のための音部変更記号も追加されます。

音部記号は、次の音部記号またはフローの終わりのいずれか早い方の位置までにある譜表のすべての音符に適用されます。

### 関連リンク

- [記譜ツールボックス \(224 ページ\)](#)
- [音部記号 \(1191 ページ\)](#)
- [マウス入力の設定の変更 \(235 ページ\)](#)
- [音部記号の表示/非表示の切り替え \(1195 ページ\)](#)
- [ユニバーサルインド太鼓記譜法 \(1857 ページ\)](#)




## ポップオーバーを使ったオクターブ線の入力

音部記号とオクターブ線のポップオーバーを使用してオクターブ線を入力できます。音符の入力中に行なうことも、既存の楽譜に追加することもできます。複声部においては、特定の声部にのみオクターブ線を入力することもできます。

---

### 手順

- 記譜モードで、以下のいずれかの操作を行ないます。

- 音符の入力を開始します。
  - オクターブ線を追加する音符を選択します。単一の声部にオクターブ線を追加するには、その声部の音符のみを選択します。
2. 音符の入力中に、複数の譜表に音符や記譜記号を入力する場合は、それらの譜表にキャレットを伸ばします。
  3. 以下のいずれかの操作を行なって音部記号とオクターブ線のポップオーバーを開きます。
    - **[Shift]+[C]** を押します。
    - 記譜ツールボックスで「ポップオーバー (Popovers)」 をクリックし、「音部記号 (Clefs)」 をクリックします。
  4. 使用するオクターブ線のエントリーをポップオーバーに入力します。  
たとえば、音符を 1 オクターブ上げるオクターブ線の場合は「8va」と入力します。
  5. 以下のいずれかの操作を行なって、オクターブ線を入力してポップオーバーを閉じます。
    - 選択した各譜表のすべての声部にオクターブ線を入力するには、**[Return]** を押します。
    - 現在選択している声部だけにオクターブ線を入力するには、**[Alt/Opt]+[Return]** を押します。
  6. 必要に応じて、音符の入力中に以下のいずれかの操作を行ない、キャレットを前進させてオクターブ線を延長します。
    - **[Space]** を押します。
    - キーボードパネル、フレットボードパネル、またはドラムパッドパネルのツールバーで、「キャレットを進める (Advance Caret)」 をクリックします。

また、音符を続けて入力するとオクターブ線は自動的に延長されます。
  7. 必要に応じて、音符の入力中に音部記号とオクターブ線のポップオーバーをもう一度開き、「|」または「stop」を入力するとオクターブ線が停止します。

## 結果

音符の入力中は、キャレットが伸びているすべての譜表のキャレットの位置からオクターブ線が入力されます。オクターブ線を停止すると、オクターブ線はキャレットの位置で終了します。

既存の楽譜に追加したオクターブ線は、アイテムの入力位置の設定に応じて、選択した各譜表上の音符のみまたはあらゆるアイテムのデュレーションにまたがるように入力されます。

オクターブ線が音符を記譜の上または下のどちらで演奏するよう指示しているかによって、オクターブ線は選択範囲の上または下のいずれかに表示されます。

オクターブ線内の音符のピッチは、自動的に調整されます。たとえば、上のオクターブ線に表示される音符は、上のオクターブ線を使用せずに実際よりも 1 オクターブ下に表示されます。

## ヒント

オクターブ線は入力後に長さを変更することもできます。

## 関連リンク

[音部記号とオクターブ線のポップオーバー \(358 ページ\)](#)

[オクターブ線 \(1201 ページ\)](#)

[オクターブ線の表示/非表示の切り替え \(1204 ページ\)](#)

[複数の譜表にキャレットを伸ばす \(246 ページ\)](#)

[アイテムの入力位置の設定を変更する \(237 ページ\)](#)

[アイテムの長さの変更 \(470 ページ\)](#)

[個々の音符のピッチの変更 \(518 ページ\)](#)

[記譜ツールボックス \(224 ページ\)](#)

[キーボードパネル \(229 ページ\)](#)

[フレットボードパネル \(231 ページ\)](#)

[ドラムパッドパネル \(233 ページ\)](#)



## パネルを使ったオクターブ線の入力

音部記号パネルを使用してオクターブ線を入力できます。音符の入力中に行なうことも、既存の楽譜に追加することもできます。複声部においては、特定の声部にのみオクターブ線を入力することもできます。

### 補足

以下の手順は、環境設定でマウス入力のデフォルト設定が「**選択位置にアイテムを作成 (Create item at selection)**」に設定されている場合について説明します。

### 手順

1. 記譜モードで、以下のいずれかの操作を行ないます。
  - 音符の入力を開始します。
  - オクターブ線を追加する音符を選択します。単一の声部にオクターブ線を追加するには、その声部の音符のみを選択します。
2. 記譜ツールボックスで「**パネル (Panels)**」をクリックし、「**音部記号 (Clefs)**」をクリックして音部記号パネルを表示します。
3. 以下のいずれかの操作を行なって、必要なオクターブ線を入力します。
  - 選択した譜表のすべての声部にオクターブ線を入力するには、「**オクターブ線 (Octave Lines)**」セクションでそのオクターブ線をクリックします。
  - 現在選択している声部だけにオクターブ線を入力するには、**[Alt/Opt]** を押しながら「**オクターブ線 (Octave Lines)**」セクションでそのオクターブ線をクリックします。

また、既存の楽譜にオクターブ線を追加する場合は、音部記号パネルでまず使用するオクターブ線をクリックしたあとに、クリックアンドドラッグで任意の長さのオクターブ線を引くこともできます。

### 結果

音符の入力中は、キャレットの位置にオクターブ線が入力されます。これらはデフォルトの4分音符のデュレーションで入力されます。

既存の楽譜に追加したオクターブ線は、アイテムの入力位置の設定に応じて、選択した各譜表上の音符のみまたはあらゆるアイテムのデュレーションにまたがるように入力されます。

オクターブ線が音符を記譜の上または下のどちらで演奏するよう指示しているかによって、オクターブ線は選択範囲の上または下のいずれかに表示されます。

オクターブ線内の音符のピッチは、自動的に調整されます。たとえば、上のオクターブ線に表示される音符は、上のオクターブ線を使用せずに実際よりも1オクターブ下に表示されます。

### ヒント

オクターブ線は入力後に長さを変更することもできます。

### 関連リンク

[記譜ツールボックス \(224 ページ\)](#)

[オクターブ線 \(1201 ページ\)](#)

[アイテムの長さの変更 \(470 ページ\)](#)

[個々の音符のピッチの変更 \(518 ページ\)](#)

[マウス入力の設定の変更 \(235 ページ\)](#)

## 延長記号と休止記号の入力方法

延長記号と休止記号は、記譜モードで延長記号と休止記号のポップオーバーを使用してキーボードで入力することも、延長記号と休止記号パネルを使用してマウスで入力することもできます。

関連リンク



[延長記号と休止記号 \(1335 ページ\)](#)

[中間休止記号を入力するときの正しい配置 \(370 ページ\)](#)

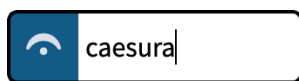
## 延長記号と休止記号のポップオーバー

以下の表は、さまざまな延長記号と休止記号を入力するために延長記号と休止記号のポップオーバーに入力できるエントリーの例です。

記譜モードでは、アイテムの選択時またはキャレットの有効時に以下のいずれかの操作を行なって、延長記号と休止記号のポップオーバーを開くことができます。

- **[Shift]+[H]** を押します。
- 記譜ツールボックスで「ポップオーバー (Popovers)」 をクリックし、「延長記号と休止記号 (Holds and Pauses)」 をクリックします。
- 既存の延長記号または休止記号を選択して **[Return]** を押します。
- 「記譜 (Write)」 > 「延長記号または休止記号を作成 (Create Hold or Pause)」を選択します。

ポップオーバーの左側に表示されたアイコンが、ウィンドウの右側にある記譜記号ツールボックスの対応するボタンと一致します。











エントリーの例が入力された延長記号と休止記号のポップオーバー



記譜ツールボックスの「延長記号と休止記号 (Holds and Pauses)」ボタン

## フェルマータ

フェルマータのタイプ	ポップオーバーエントリー
フェルマータ 	「fer」または「fermata」
非常に長いフェルマータ 	fermataverylong
長いフェルマータ 	fermatalong
短いフェルマータ 	fermatashort
非常に短いフェルマータ 	fermataveryshort
短いフェルマータ (Henze) 	fermatashorthenze
長いフェルマータ (Henze) 	fermatalonghenze
カーリュー (Britten) 	curlw

## 補足

カーリユ記号は元々、Benjamin Britten が日本の能楽に着想を得て作曲した教会上演用寓話カーリユ・リヴァーのために考案したものです。この記号は、異なるテンポの音楽において、音符または休符をタイミングが揃うまで伸ばすようプレイヤーに指示します。

## 中間休止記号

中間休止記号のタイプ	ポップオーバーエントリー
中間休止記号 (Caesura)	「caes」、「caesura」、または「//」
太い中間休止記号 (Thick caesura)	「caesurathick」、「thickcaesura」、または「thick//」
婉曲した中間休止記号 (Curved caesura)	「caesuracurved」、「curvedcaesura」、または「curved//」
短い中間休止記号 (Short caesura)	「caesurashort」、「shortcaesura」、または「short//」
1 本線の中間休止記号 (Single-stroke caesura)	「caesurasingle」、「singlecaesura」、または「single//」

## ブレス記号



ブレス記号のタイプ	ポップオーバーエントリー
ブレス記号 (コンマ) ,	「breathmarkcomma」、「comma」、または「,」 (コンマ)
ブレス記号 (チェックマーク) ✓	breathmarktick
ブレス記号 (上げ弓) ∨	breathmarkupbow
ブレス記号 (Salzedo) ↻	breathmarksalzedo

### 関連リンク

- [記譜ツールボックス \(224 ページ\)](#)
- [延長記号と休止記号 \(1335 ページ\)](#)
- [フェルマータのタイプ \(1336 ページ\)](#)
- [中間休止記号のタイプ \(1338 ページ\)](#)
- [ブレス記号のタイプ \(1337 ページ\)](#)

## 延長記号と休止記号パネル

延長記号と休止記号パネルでは、フェルマータの代替バージョンを含め、Dorico Pro で使用できるさまざまなタイプの延長記号と休止記号を入力できます。これは記譜モードの右ゾーンに配置されています。

- 記譜ツールボックスで「**パネル (Panels)**」をクリックしたあとに、「**延長記号と休止記号 (Holds and Pauses)**」をクリックすることで、延長記号と休止記号パネルの表示/非表示を切り替えられます。

**[Ctrl]/[command]+[9]** を押して右ゾーンの表示/非表示を切り替えることもできます。

延長記号と休止記号パネルには以下のセクションがあります。

- **フェルマータ (Fermatas)**
- **ブレス記号 (Breath Marks)**
- **中間休止記号 (Caesuras)**

### 補足

延長記号と休止記号は今のところ再生時の効果を持ちませんが、将来のバージョンでは効果が与えられることが予定されています。

### 関連リンク

[記譜ツールボックス \(224 ページ\)](#)

[パネルを使った延長記号と休止記号の入力 \(369 ページ\)](#)

[延長記号と休止記号 \(1335 ページ\)](#)

[フェルマータのタイプ \(1336 ページ\)](#)



[中間休止記号のタイプ \(1338 ページ\)](#)

[ブレス記号のタイプ \(1337 ページ\)](#)

## ポップオーバーを使った延長記号と休止記号の入力

延長記号と休止記号のポップオーバーを使用して延長記号と休止記号を入力できます。音符の入力中に行なうことも、既存の楽譜に追加することもできます。

### 手順

1. 記譜モードで、以下のいずれかの操作を行ないます。
  - 音符の入力を開始します。
  - フェルマータまたは中間休止記号を入力する位置にあるアイテムを選択します。
  - ブレス記号を入力する位置にある各譜表上のアイテムを選択します。
2. 音符の入力中に、複数の譜表に音符や記譜記号を入力する場合は、それらの譜表にキャレットを伸ばします。
3. 以下のいずれかの操作を行なって延長記号と休止記号のポップオーバーを開きます。
  - **[Shift]+[H]** を押します。
  - 記譜ツールボックスで「**ポップオーバー (Popovers)**」をクリックし、「**延長記号と休止記号 (Holds and Pauses)**」をクリックします。
4. 使用する延長記号または休止記号をポップオーバーに入力します。  
たとえば、休止記号の場合は「**fermata**」、延長記号の場合は「**caesura**」と入力します。
5. **[Return]** を押してポップオーバーを閉じます。



#### 結果

音符の入力中は、キャレットの位置に、指定した延長記号または休止記号が入力されます。キャレットが伸びているすべての譜表のキャレットの位置にプレス記号が入力されます。

既存の楽譜に追加したプレス記号は、アイテムの入力位置の設定に応じて、選択した各譜表上の最初に選択した音符またはアイテムの位置に追加されます。

既存の楽譜に追加したフェルマータと中間休止記号は、最初に選択したアイテムの位置に入力されます。

- フェルマータは、すべての譜表のフェルマータの終了位置にある音符、和音または休符の位置に表示されます。
- プレス記号は、キャレットまたは選択した音符の右側に表示されます。
- 中間休止記号は、すべての譜表のキャレットまたは選択した音符の左側に表示されます。

#### 関連リンク

[アイテムの入力位置の設定を変更する \(237 ページ\)](#)

[複数の譜表にキャレットを伸ばす \(246 ページ\)](#)

[延長記号と休止記号 \(1335 ページ\)](#)

[再生時の延長記号と休止記号 \(1342 ページ\)](#)

[フェルマータのタイプ \(1336 ページ\)](#)

[プレス記号のタイプ \(1337 ページ\)](#)

[中間休止記号のタイプ \(1338 ページ\)](#)

[延長記号と休止記号の位置 \(1338 ページ\)](#)



## パネルを使った延長記号と休止記号の入力

延長記号と休止記号パネルを使用して延長記号と休止記号を入力できます。音符の入力中に行なうことも、既存の楽譜に追加することもできます。

#### 補足

以下の手順は、環境設定でマウス入力のデフォルト設定が「**選択位置にアイテムを作成 (Create item at selection)**」に設定されている場合について説明します。

#### 手順

1. 記譜モードで、以下のいずれかの操作を行ないます。
  - 音符の入力を開始します。
  - フェルマータまたは中間休止記号を入力する位置にあるアイテムを選択します。
  - プレス記号を入力する位置にある各譜表上のアイテムを選択します。
2. 記譜ツールボックスで「**パネル (Panels)**」をクリックしたあとに、「**延長記号と休止記号 (Holds and Pauses)**」をクリックして、延長記号と休止記号パネルを表示します。
3. 延長記号と休止記号パネルで、入力する延長記号または休止記号をクリックします。

#### 結果

音符の入力中は、キャレットの位置に、指定した延長記号または休止記号が入力されます。

既存の楽譜に追加したプレス記号は、アイテムの入力位置の設定に応じて、選択した各譜表上の最初に選択した音符またはアイテムの位置に追加されます。

既存の楽譜に追加したフェルマータと中間休止記号は、最初に選択したアイテムの位置に入力されます。

- フェルマータは、すべての譜表のフェルマータの終了位置にある音符、和音または休符の位置に表示されます。

- ブレス記号は、キャレットまたは選択した音符の右側に表示されます。
- 中間休止記号は、すべての譜表のキャレットまたは選択した音符の左側に表示されます。

関連リンク

- [記譜ツールボックス \(224 ページ\)](#)
- [延長記号と休止記号 \(1335 ページ\)](#)
- [再生時の延長記号と休止記号 \(1342 ページ\)](#)
- [延長記号と休止記号の位置 \(1338 ページ\)](#)
- [マウス入力の設定の変更 \(235 ページ\)](#)

## 中間休止記号を入力するときの正しい配置

中間休止記号は通常、小節の終了位置、小節線の前に配置されます。Dorico Pro では、中間休止記号はその記号を表示する位置の直後の音符に連結する必要があります。そうすることで、Dorico Pro は中間休止記号を自動的に正しく配置できます。

マウス入力の環境設定を「**ポインターにアイテムを乗せる (Load pointer with item)**」に設定している場合、中間休止記号を小節線の左側に入力するには次の小節の最初の音符をクリックする必要があります。または、小節線を直接クリックします。



正しく入力された中間休止記号の例。点線の連結線が小節線のあとの符頭に連結されており、中間休止記号が小節線の前に正しく配置されていることが分かる



正しく入力されていない中間休止記号の例。小節線の左側をクリックしたことで、中間休止記号がその小節の最後の 8 分音符に連結されてしまっている

正しく入力すると、点線の連結線によって中間休止記号と小節線の直後の符頭が連結されます。

点線の連結線によって中間休止記号と小節線の直後の符頭が連結されない場合は、中間休止記号を削除して入力しなおしてください。中間休止記号が正しく入力されないとスペーシングの問題が生じる場合があります。

関連リンク

- [延長記号と休止記号 \(1335 ページ\)](#)
- [中間休止記号のタイプ \(1338 ページ\)](#)
- [連結線を表示/非表示にする \(478 ページ\)](#)

## 装飾音、アルペジオ記号、グリッサンドライン、ジャズアーティキュレーションの入力方法

アルペジオ記号、グリッサンドライン、ジャズアーティキュレーションなどの装飾音は、装飾音のポップオーバーを使用してキーボードで入力することも、装飾音パネルを使用してマウスで入力することもできます。

装飾音とアルペジオ記号は音符の入力中に入力することも、既存の音符に追加することもできますが、グリッサンドラインを音符の入力中に入力することはできません。グリッサンドラインは既存の音符への追加によってのみ入力できます。

ジャズアーティキュレーションのタイプや長さは装飾音パネルから指定できますが、装飾音ポップオーバーからは指定できません。

関連リンク


- [装飾音 \(1434 ページ\)](#)

- [アルペジオ記号 \(1453 ページ\)](#)
- [グリッサンドライン \(1461 ページ\)](#)
- [ジャズアーティキュレーション \(1495 ページ\)](#)
- [ジャズの装飾音 \(1496 ページ\)](#)
- [ライン \(1551 ページ\)](#)
- [ラインの入力方法 \(416 ページ\)](#)

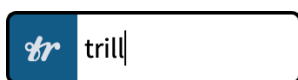
## 装飾音のポップオーバー

以下の表は、さまざまな装飾音、アルペジオ記号、グリッサンドライン、ジャズアーティキュレーションの入力に使用できる、装飾音のポップオーバーのエントリーの例です。

記譜モードでは、アイテムの選択時またはキュレットの有効時に以下のいずれかの操作を行なって、装飾音のポップオーバーを開くことができます。

- **[Shift]+[O]** を押します。
- 記譜ツールボックスで「ポップオーバー (Popovers)」 をクリックし、「装飾音 (Ornaments)」 をクリックします。
- 既存の装飾音を選択して **[Return]** を押します。
- 「記譜 (Write)」 > 「装飾音を作成 (Create Ornament)」を選択します。

ポップオーバーの左側に表示されたアイコンが、ウィンドウの右側にある記譜記号ツールボックスの対応するボタンと一致します。





エントリーの例が入力された装飾音のポップオーバー



記譜ツールボックスの「装飾音 (Ornaments)」ボタン

## 装飾音

装飾音のタイプ	ポップオーバーエントリー
トリル: 	「tr」または「trill」
ショートトリル: 	「shorttr」
モルデント: 	「mor」または「mordent」
ターン: 	「turn」
逆ターン: 	「invturn」または「invertedturn」

## トリル音程

トリルの音程または性質	ポップオーバーエントリー
音程の度数	「1」、「2」、「3」、「4」、「5」、「6」、「7」、「8」
ユニゾン、2度、3度、4度、5度、6度、7度、オクターブ	
メジャー	「M」、「maj」、または「major」
マイナー	「m」、「min」、または「minor」
完全	「p」、「per」、または「perf」
ディミニッシュ	「d」、「dim」、または「diminished」
オーギュメント	「a」、「aug」、または「augmented」

例

完全5度のトリルを入力するには、「tr p5」と入力します。

## ジャズの装飾音

ジャズの装飾音のタイプ	ポップオーバーエントリー
ベンド ◡	「brassbend」
フリップ ト	「flip」
ジャズターン ♪	「jazz」または「shake」
スミア ~	「smear」

## ジャズアーティキュレーション

ジャズアーティキュレーションのタイプ	ポップオーバーエントリー
プロップ(ベンド)	「plop」
プロップ(スムーズ)	「plosmooth」
スクープ	「scoop」
ドイト(ベンド)	「doit」
ドイト(スムーズ)	「doitsmooth」

---

ジャズアーティキュレーションのタイプ	ポップオーバーエントリー
--------------------	--------------

フォール (バンド)	「fall」
------------	--------

フォール (スムーズ)	「fallsmooth」
-------------	--------------

---

#### ヒント

その他の装飾音は装飾音パネルで利用できます。ジャズアーティキュレーションのタイプや長さは装飾音パネルから指定できますが、装飾音ポップオーバーからは指定できません。

---

## アルペジオ記号

---

アルペジオ記号のタイプ	ポップオーバーエントリー
-------------	--------------

上向アルペジオ記号	「arp」、「arpup」、または「arpeggioup」
-----------	-------------------------------

下向アルペジオ記号	「arpdwn」または「arpeggiodwn」
-----------	--------------------------

ノンアルペジオ記号	「nonarp」または「nonarpeggio」
-----------	--------------------------

曲線のアルペジオ記号	slurarp
------------	---------

---

## グリッサンドライン

---

グリッサンドラインのタイプ	ポップオーバーエントリー
---------------	--------------

デフォルトスタイルのグリッサンドライン	「gliss」
---------------------	---------

グリッサンド (直線)	「glissstraight」
-------------	-----------------

グリッサンド (波線)	「glisswavy」
-------------	-------------

---

## ギターテクニック

---

ギターテクニックのタイプ	ポップオーバーエントリー
--------------	--------------

ギターバンド	「bend」
--------	--------

ビブラートバーダイブアンドリターン	「vibbend」
-------------------	-----------

ビブラートバースクープ	「vibscoop」
-------------	------------

ビブラートバーディップ	「vibdip」
-------------	----------

---

### ギターテクニックのタイプ

### ポップオーバーエントリー

ビブラートバーのライン

「wbar」または「w/bar」

#### 補足

ラインを表示するにはデュレーションが必要です。

---

ハンマーオン

「ho」または「hammer」

#### 補足

「C-D」のように、同じ弦上でピッチが上昇する2つ以上の音符を選択する必要があります。

---

プルオフ

「po」または「pull」

#### 補足

「D-C」のように、同じ弦上でピッチが下降する2つ以上の音符を選択する必要があります。

---

ハンマーオンからプルオフ、またはプルオフからハンマーオン (リガード)

「hp」、「hopo」、「hammerpull」、「lig」、または「ligado」

#### 補足

「C-D-C」や「D-C-D」のように、同じ弦上でピッチの方向が入れ替わる3つ以上の音符を選択する必要があります。

---

右手のタッピング

「tap」

プルオフ付きの右手のタッピング

「tappull」

#### 補足

「D-C」のように、同じ弦上でピッチが下降する2つ以上の音符を選択する必要があります。

---

左手のタッピング

「lhtap」

プルオフ付きの左手のタッピング

「lhtappull」

#### 補足

「D-C」のように、同じ弦上でピッチが下降する2つ以上の音符を選択する必要があります。

---

関連リンク

- [記譜ツールボックス \(224 ページ\)](#)
- [ポップオーバーを使ったアルペジオ記号の入力 \(378 ページ\)](#)
- [ポップオーバーを使ったグリッサンドラインの入力 \(380 ページ\)](#)
- [ポップオーバーを使ったジャズアーティキュレーションの入力 \(382 ページ\)](#)
- [ポップオーバーを使ったギターベンドの入力 \(384 ページ\)](#)
- [ビブラートバーダイブの入力 \(387 ページ\)](#)
- [ポップオーバーを使ったビブラートバーのダイブとリターンの入力 \(389 ページ\)](#)
- [ポップオーバーを使ったビブラートバーのスcoopの入力 \(391 ページ\)](#)
- [ポップオーバーを使ったビブラートバーのディップの入力 \(393 ページ\)](#)
- [ハンマーオン/プルオフの入力 \(395 ページ\)](#)
- [タッピングの入力 \(397 ページ\)](#)
- [弦への音符の割り当て \(1397 ページ\)](#)
- [タブ譜で音符に割り当てられた弦の変更 \(1740 ページ\)](#)
- [装飾音 \(1434 ページ\)](#)
- [トリル音程 \(1441 ページ\)](#)
- [アルペジオ記号 \(1453 ページ\)](#)
- [グリッサンドライン \(1461 ページ\)](#)
- [ギターベンド \(1469 ページ\)](#)
- [ギターテクニック \(1485 ページ\)](#)
- [ジャズアーティキュレーション \(1495 ページ\)](#)
- [ジャズの装飾音 \(1496 ページ\)](#)
- [演奏技法のデュレーション \(1543 ページ\)](#)

## 装飾音パネル

装飾音パネルでは、ジャズアーティキュレーション、アルペジオ記号、グリッサンドライン、ギターベンド、ビブラートバーの演奏技法など、さまざまなタイプの装飾音を入力できます。これは記譜モードの右ゾーンに配置されています。

- 記譜ツールボックスで「**パネル (Panels)**」をクリックしたあとに、「**装飾音 (Ornaments)**」をクリックすることで、装飾音パネルの表示/非表示を切り替えられます。

**[Ctrl]/[command]+[9]** を押して右ゾーンの表示/非表示を切り替えることもできます。

装飾音パネルには以下のセクションがあります。

### ジャズ (Jazz)

ベンド、スcoop、フォールなど、ジャズ音楽で一般的に使用される装飾音とピッチオルタレーションがあります。

### バロックと古典派 (Baroque and Classical)

モルデント、ターン、トリルなど、バロック音楽やクラシック音楽で一般的に使用される装飾音があります。

### アルペジオ (Arpeggiation)

さまざまなタイプのアルペジオ記号があります。

補足

音符の入力中にパネルを使ってアルペジオ記号を入力することはできません。

---

### グリッサンド (Glissandi)

さまざまなタイプのグリッサンドラインがあります。

## ギター (Guitar)

ギターバンドやビブラートバーのスクープなど、ギターで一般的に使用される演奏技法やピッチオルタレーションがあります。

関連リンク

[記譜ツールボックス \(224 ページ\)](#)

[パネルを使った装飾音/トリルの入力 \(377 ページ\)](#)

[パネルを使ったアルペジオ記号の入力 \(379 ページ\)](#)

[パネルを使ったグリッサンドラインの入力 \(381 ページ\)](#)

[パネルを使ったジャズアーティキュレーションの入力 \(383 ページ\)](#)



[ギターバンドとギターテクニックの入力方法 \(384 ページ\)](#)

## ポップオーバーを使った装飾音/トリルの入力

装飾音のポップオーバーを使用して装飾音、トリル、ジャズの装飾音を入力できます。音符の入力中に行なうことも、既存の音符に追加することもできます。トリルを入力する際に、短3度などのトリルの音程を指定できます。

---

手順

1. 記譜モードで、以下のいずれかの操作を行ないます。
  - 音符の入力を開始します。
  - 装飾音を入力する位置にある各譜表上のアイテムを選択します。特定のデュレーションを持つトリルを入力するには、必要なデュレーションにまたがるアイテムを選択します。
2. 音符の入力中に、複数の譜表に音符や記譜記号を入力する場合は、それらの譜表にキュレットを伸ばします。
3. 以下のいずれかの操作を行なって装飾音のポップオーバーを開きます。
  - **[Shift]+[O]** を押します。
  - 記譜ツールボックスで「ポップオーバー (Popovers)」 をクリックし、「装飾音 (Ornaments)」 をクリックします。
4. 使用する装飾音のエントリーをポップオーバーに入力します。  
たとえば、短3度の音程を持つトリルの場合は「tr m3」、モルデントの場合は「mor」と入力します。
5. **[Return]** を押してポップオーバーを閉じます。
6. 音符入力中にトリルを入力する場合は、音符を入力するか **[Space]** を押してキュレットを進め、トリルを入力します。

---

結果

音符の入力中は、キュレットが伸びているすべての譜表のキュレットの位置に装飾音が入力されます。トリルはキュレットの位置に入力された音符の音価のデュレーション、またはキュレットを進めたデュレーションにかかるように入力されます。

既存の楽譜に追加した装飾音は、アイテムの入力位置の設定に応じて、選択した各譜表上の最初に選択した音符またはアイテムの位置に追加されます。トリルは、アイテムの入力位置の設定に応じて、選択した各譜表上の音符のみまたはあらゆるアイテムのデュレーションにまたがるように入力されます。

初期設定ではトリルの音程は2度で、状況に応じて長2度か短2度のいずれかになります。トリルの音程を指定した場合、選択範囲の最初の音符にのみ音程は適用されます。ただし、トリルの途中で音程を変更することもできます。



## ヒント

選択した音符ごとに個別にトリルを入力するかどうかは、「環境設定 (Preferences)」 > 「音符の入力と編集 (Note Input and Editing)」 > 「編集 (Editing)」で選択できます。

### 関連リンク

- [装飾音 \(1434 ページ\)](#)
- [トリル \(1438 ページ\)](#)
- [トリル音程 \(1441 ページ\)](#)
- [トリルの音程の変更 \(1443 ページ\)](#)
- [トリルの途中でトリルの音程を変更する \(1444 ページ\)](#)
- [トリルの音程の外観 \(1446 ページ\)](#)
- [ジャズの装飾音 \(1496 ページ\)](#)
- [音符の入力 \(248 ページ\)](#)
- [ポップオーバーを使ったジャズアーティキュレーションの入力 \(382 ページ\)](#)
- [複数の譜表にキャレットを伸ばす \(246 ページ\)](#)
- [アイテムの入力位置の設定を変更する \(237 ページ\)](#)



## パネルを使った装飾音/トリルの入力

装飾音パネルを使用して装飾音、トリル、ジャズの装飾音を入力できます。音符の入力中に行なうことも、既存の音符に追加することもできます。

## 補足

以下の手順は、環境設定でマウス入力のデフォルト設定が「**選択位置にアイテムを作成 (Create item at selection)**」に設定されている場合について説明します。

### 手順

1. 記譜モードで、以下のいずれかの操作を行ないます。
  - 音符の入力を開始します。
  - 装飾音を入力する位置にある各譜表上のアイテムを選択します。特定のデュレーションを持つトリルを入力するには、必要なデュレーションにまたがるアイテムを選択します。
2. 記譜ツールボックスで「**パネル (Panels)**」をクリックし、「**装飾音 (Ornaments)**」をクリックして装飾音パネルを表示します。
3. 装飾音パネルで、入力する装飾音をクリックします。

### 結果

音符の入力中は、キャレットの位置に装飾音が入力されます。トリルは、デフォルトの4分音符のデュレーションで入力されます。

既存の楽譜に追加した装飾音は、アイテムの入力位置の設定に応じて、選択した各譜表上の最初に選択した音符またはアイテムの位置に追加されます。トリルは、アイテムの入力位置の設定に応じて、選択した各譜表上の音符のみまたはあらゆるアイテムのデュレーションにまたがるように入力されます。

## ヒント

- ポップオーバーを使用してトリルを入力する際にトリルの音程を指定できます。
- 選択した音符ごとに個別にトリルを入力するかどうかは、「環境設定 (Preferences)」 > 「音符の入力と編集 (Note Input and Editing)」 > 「編集 (Editing)」で選択できます。

関連リンク

[記譜ツールボックス \(224 ページ\)](#)

[装飾音パネル \(375 ページ\)](#)

[パネルを使ったジャズアーティキュレーションの入力 \(383 ページ\)](#)

[マウス入力の設定の変更 \(235 ページ\)](#)

## ポップオーバーを使ったアルペジオ記号の入力

装飾音のポップオーバーを使用してアルペジオ記号を入力できます。音符の入力中に行なうことも、既存の音符に追加することもできます。複数の声部の音符や、ピアノやハープといった同じインストゥルメントに属する異なる譜表上の音符にかかるようにアルペジオ記号を入力することもできます。

---

手順

1. 記譜モードで、以下のいずれかの操作を行ないます。

- 音符の入力を開始します。
- アルペジオ記号を追加する声部ごとに少なくとも1つの音符を選択します。

補足

- ピアノやハープなど、複数の譜表を使用するインストゥルメントでは、複数の譜表にある音符を選択して、譜表をまたぐアルペジオ記号を作成できます。ただし、インストゥルメントが異なる場合、譜表をまたぐアルペジオ記号を作成できません。
- 選択した声部の選択した位置にあるすべての音符にアルペジオ記号が追加されます。



2. 音符の入力を開始したら、必要に応じて **[Q]** を押して和音の入力を開始します。

補足

アルペジオ記号を入力できるのは和音の入力中のみです。

3. 音符の入力中に、複数の譜表に音符や記譜記号を入力する場合は、それらの譜表にキャレットを伸ばします。

4. 以下のいずれかの操作を行なって装飾音のポップオーバーを開きます。

- **[Shift]+[O]** を押します。
- 記譜ツールボックスで「ポップオーバー (Popovers)」 をクリックし、「装飾音 (Ornaments)」 をクリックします。

5. 使用するアルペジオ記号のエントリーをポップオーバーに入力します。

たとえば、上向アルペジオ記号の場合は「arpup」、下向アルペジオ記号の場合は「arpdown」と入力します。

6. **[Return]** を押してポップオーバーを閉じます。

7. 和音の入力中は、使用する音符を入力します。

---

結果

和音の入力中は、キャレットが伸びているすべての譜表のキャレットの位置にアルペジオ記号が入力されます。

既存の音符にアルペジオ記号を追加した場合は、選択した音符の左側にアルペジオ記号が入力されません。

和音の入力中は、現在の声部のその位置にあるすべての音符のピッチ範囲にかかるように、また、既存の音符にアルペジオ記号を追加した場合は、選択した声部/譜表のすべての音符のピッチ範囲にかかるようにアルペジオ記号が自動的に調整されます。

#### 関連リンク

- [装飾音のポップオーバー \(371 ページ\)](#)
- [アルペジオ記号 \(1453 ページ\)](#)
- [再生時のアルペジオ \(1458 ページ\)](#)
- [音符の入力 \(248 ページ\)](#)
- [和音の入力 \(278 ページ\)](#)
- [複数の譜表にキャレットを伸ばす \(246 ページ\)](#)

## パネルを使ったアルペジオ記号の入力

装飾音パネルを使用して、既存の音符にアルペジオ記号を入力できます。複数の声部の音符や、ピアノやハープといった同じインストゥルメントに属する異なる譜表上の音符にかかるようにアルペジオ記号を入力することもできます。

#### 補足



- 音符の入力中にパネルを使ってアルペジオ記号を入力することはできません。
- 以下の手順は、環境設定でマウス入力のデフォルト設定が「**選択位置にアイテムを作成 (Create item at selection)**」に設定されている場合について説明します。環境設定を「**ポインターにアイテムを乗せる (Load pointer with item)**」に設定している場合、譜表および声部をまたぐアルペジオ記号は作成できません。

#### 手順

1. 記譜モードで、アルペジオ記号を追加する声部ごとに少なくとも1つの音符を選択します。

#### 補足

- ピアノやハープなど、複数の譜表を使用するインストゥルメントでは、複数の譜表にある音符を選択して、譜表をまたぐアルペジオ記号を作成できます。ただし、インストゥルメントが異なる場合、譜表をまたぐアルペジオ記号を作成できません。
- 選択した声部の選択した位置にあるすべての音符にアルペジオ記号が追加されます。

2. 記譜ツールボックスで「**パネル (Panels)**」をクリックし、「**装飾音 (Ornaments)**」をクリックして装飾音パネルを表示します。
3. 「**アルペジオ (Arpeggiation)**」セクションで、使用するアルペジオ記号をクリックします。

#### 結果

選択した音符または和音の左側に、指定したアルペジオ記号が入力されます。アルペジオ記号は、その位置にある選択した声部/譜表のすべての音符のピッチ範囲にかかるように自動的に調整されます。

#### 関連リンク

- [記譜ツールボックス \(224 ページ\)](#)
- [装飾音パネル \(375 ページ\)](#)
- [アルペジオ記号 \(1453 ページ\)](#)
- [再生時のアルペジオ \(1458 ページ\)](#)
- [マウス入力の設定の変更 \(235 ページ\)](#)

## ポップオーバーを使ったグリッサンドラインの入力

装飾音のポップオーバーを使用して、既存の音符の間にグリッサンドラインを入力できます。隣接する音符間にも隣接しない音符間にもグリッサンドラインを入力できます。



### 補足

音符の入力中や譜表の最後の音符にグリッサンドラインを入力することはできません。かわりに、ジャズアーティキュレーションは入力できます。

### 前提条件

グリッサンドにつなげる音符を2つ以上入力しておきます。

### 手順

1. 記譜モードで、グリッサンドラインにつなげる音符を選択します。  
たとえば、装飾音符と通常の音符、声部が異なる2つの音符、または同じインストゥルメントに属する異なる譜表の2つの音符などを選択します。
2. 以下のいずれかの操作を行なって装飾音のポップオーバーを開きます。
  - **[Shift]+[O]** を押します。
  - 記譜ツールボックスで「ポップオーバー (Popovers)」 をクリックし、「装飾音 (Ornaments)」 をクリックします。
3. 使用するグリッサンドラインのエントリーをポップオーバーに入力します。
  - デフォルトスタイルのグリッサンドラインを使用する場合は、「**gliss**」と入力します。
  - 直線のグリッサンドラインを使用するには、「**glissstraight**」と入力します。
  - 波線のグリッサンドラインを使用するには、「**glisswavy**」と入力します。
4. **[Return]** を押してポップオーバーを閉じます。

### 結果

選択したすべての音符の間に、指定したグリッサンドラインが入力されます。

### 補足

- 1つの音符を選択してグリッサンドラインを入力した場合は、選択したノートの位置からグリッサンドラインが始まり、その譜表の同じ声部の次の音符で終わります (休符はまたぎます)。
- グリッサンドラインを入力した場合、周辺の音符や、選択した音符と音符の間にある休符は自動的に調整されません。グリッサンドテキストが表示される場合、テキストが音符や休符に重なる可能性があります。その場合、グリッサンドラインのグリッサンドテキストの表示をオフにするなどの設定を行なうことをおすすめします。
- 初期設定では、グリッサンドラインのテキストはフレット楽器に属する譜表上に表示されません。しかし、グリッサンドラインのテキストを手動で表示させることができます。

### 関連リンク

[装飾音のポップオーバー \(371 ページ\)](#)

[グリッサンドライン \(1461 ページ\)](#)

[グリッサンドのテキストを個別に変更する \(1463 ページ\)](#)

[グリッサンドラインのテキストの表示条件を変更する \(1464 ページ\)](#)

[グリッサンドのスタイルの変更 \(1462 ページ\)](#)

[パネルを使ったジャズアーティキュレーションの入力 \(383 ページ\)](#)

## パネルを使ったグリッサンドラインの入力

装飾音パネルを使用して、既存の音符の間にグリッサンドラインを入力できます。隣接する音符間にも隣接しない音符間にもグリッサンドラインを入力できます。





### 補足

- 以下の手順は、環境設定でマウス入力のデフォルト設定が「**選択位置にアイテムを作成 (Create item at selection)**」に設定されている場合について説明します。環境設定を「**ポインターにアイテムを乗せる (Load pointer with item)**」に設定している場合、クリックした音符とその直後の音符との間にのみグリッサンドラインを入力できます。
- 音符の入力中や譜表の最後の音符にグリッサンドラインを入力することはできません。かわりに、ジャズアーティキュレーションは入力できます。

### 前提条件

グリッサンドにつなげる音符を2つ以上入力しておきます。

### 手順

- 記譜モードで、グリッサンドラインにつなげる音符を選択します。  
たとえば、装飾音符と通常の音符、声部が異なる2つの音符、または同じインストゥルメントに属する異なる譜表の2つの音符などを選択します。
- 記譜ツールボックスで「**パネル (Panels)**」をクリックし、「**装飾音 (Ornaments)**」をクリックして装飾音パネルを表示します。
- 「**グリッサンド (Glissandi)**」セクションで、使用するグリッサンドラインのスタイルをクリックします。
  - グリッサンド (直線) (Glissando (Straight))** 
  - グリッサンド (波線) (Glissando (Wavy))** 

### 結果

選択したすべての音符の間に、指定したグリッサンドラインが入力されます。

### 補足

- 1つの音符を選択してグリッサンドラインを入力した場合は、選択したノートの位置からグリッサンドラインが始まり、その譜表の同じ声部の次の音符で終わります (休符はまたぎます)。
- グリッサンドラインを入力した場合、周辺の音符や、選択した音符と音符の間にある休符は自動的に調整されません。グリッサンドテキストが表示される場合、テキストが音符や休符に重なる可能性があります。その場合、グリッサンドラインのグリッサンドテキストの表示をオフにするなどの設定を行なうことをおすすめします。
- 初期設定では、グリッサンドラインのテキストはフレット楽器に属する譜表上に表示されません。しかし、グリッサンドラインのテキストを手動で表示させることができます。

### 関連リンク

[記譜ツールボックス \(224 ページ\)](#)

[装飾音パネル \(375 ページ\)](#)

[グリッサンドライン \(1461 ページ\)](#)

[グリッサンドのテキストを個別に変更する \(1463 ページ\)](#)

[グリッサンドラインのテキストの表示条件を変更する \(1464 ページ\)](#)

[パネルを使ったジャズアーティキュレーションの入力 \(383 ページ\)](#)

[マウス入力の設定の変更 \(235 ページ\)](#)

## ポップオーバーを使ったジャズアーティキュレーションの入力

装飾音のポップオーバーを使用してジャズアーティキュレーションを入力できます。音符の入力中行なうことも、既存の音符に追加することもできます。

### 補足

フリップやジャズターンなどのジャズの装飾音は、他の装飾音と同じ方法で入力できます。



### 手順

1. 記譜モードで、以下のいずれかの操作を行ないます。

- 音符の入力を開始します。

### ヒント

音符の入力中に、**[Shift]+[→]** または **[Shift]+[←]** を押すことで、キャレットを有効にしたまま直前に入力した音符の前後に音符を追加できます。

- ジャズアーティキュレーションを追加する音符を選択します。
2. ジャズアーティキュレーションの付いた音符を複数の譜表に同時に入力する場合は、それらの譜表にキャレットを伸ばします。
3. 必要に応じて、音符の入力中に音符を1つ以上入力します。
4. 以下のいずれかの操作を行なって装飾音のポップオーバーを開きます。
- **[Shift]+[O]** を押します。
  - 記譜ツールボックスで「**ポップオーバー (Popovers)**」 をクリックし、「**装飾音 (Ornaments)**」 をクリックします。
5. 使用するジャズアーティキュレーションのエントリーをポップオーバーに入力します。たとえば、スクープの場合は「**scoop**」、フォールの場合は「**fall**」と入力します。
6. **[Return]** を押してポップオーバーを閉じます。

### 結果

指定したジャズアーティキュレーションが選択したすべての音符に入力されます。音符の入力中、通常これは最後に入力した音符になります。

### 補足

ポップオーバーを使用すると、すべてのジャズアーティキュレーションは線のスタイルに関するプロジェクト全体の設定に従います。タイプや長さは入力したあとでも変更できます。

パネルを使用すると、ジャズアーティキュレーションを入力するときに線のスタイルを指定できます。

### 手順終了後の項目

個々のインストゥルメントに声部の個別再生を有効にして、異なるジャズアーティキュレーションを異なる声部で同時に鳴らすこともできます。

### 関連リンク

[装飾音のポップオーバー \(371 ページ\)](#)

[ポップオーバーを使った装飾音/トリルの入力 \(376 ページ\)](#)

[複数の譜表にキャレットを伸ばす \(246 ページ\)](#)

[ジャズアーティキュレーション \(1495 ページ\)](#)

[既存のジャズアーティキュレーションのタイプや長さを変更する \(1498 ページ\)](#)

[スムーズのジャズアーティキュレーションの線のスタイルを変更する \(1499 ページ\)](#)

[声部の個別再生の有効化 \(685 ページ\)](#)

[再生効果 \(1046 ページ\)](#)

## パネルを使ったジャズアーティキュレーションの入力

装飾音パネルを使用してジャズアーティキュレーションを入力できます。音符の入力中に行なうことも、既存の音符に追加することもできます。

### 補足

- フリップやジャズターンなどのジャズの装飾音は、他の装飾音と同じ方法で入力できます。
- 以下の手順は、環境設定でマウス入力のデフォルト設定が「**選択位置にアイテムを作成 (Create item at selection)**」に設定されている場合について説明します。



### 手順

1. 記譜モードで、以下のいずれかの操作を行ないます。

- 音符の入力を開始します。

### ヒント

音符の入力中に、**[Shift]+[→]** または **[Shift]+[←]** を押すことで、カーレットを有効にしたまま直前に入力した音符の前後に音符を追加できます。

- ジャズアーティキュレーションを追加する音符を選択します。
- ジャズアーティキュレーションの付いた音符を複数の譜表に同時に入力する場合は、それらの譜表にカーレットを伸ばします。
  - 必要に応じて、音符の入力中に音符を1つ以上入力します。
  - 記譜ツールボックスで「**パネル (Panels)**」をクリックし、「**装飾音 (Ornaments)**」をクリックして装飾音パネルを表示します。
  - 「**ジャズ (Jazz)**」セクションで、使用するジャズアーティキュレーションをクリックします。

### 結果

指定したジャズアーティキュレーションが選択したすべての音符に入力されます。音符の入力中、通常これは最後に入力した音符になります。

### 手順終了後の項目

個々のインストゥルメントに声部の個別再生を有効にして、異なるジャズアーティキュレーションを異なる声部で同時に鳴らすこともできます。

### 関連リンク

[記譜ツールボックス \(224 ページ\)](#)

[装飾音パネル \(375 ページ\)](#)

[パネルを使った装飾音/トリルの入力 \(377 ページ\)](#)

[複数の譜表にカーレットを伸ばす \(246 ページ\)](#)

[マウス入力の設定の変更 \(235 ページ\)](#)

[声部の個別再生の有効化 \(685 ページ\)](#)

[再生効果 \(1046 ページ\)](#)

## ギターバンドとギターテクニクの入力方法

ギターバンド (ベンディングやポストバンドなど)、ビブラートバーの演奏技法 (ディップ、ダイブ、スクープ、ダイブとリターンなど) およびタッピング、ハンマーオン、プルオフの指示記号を、キーボードを使って装飾音のポップオーバーから、またはマウスを使って装飾音パネルから入力できます。

ベンディング、ポストバンドおよびビブラートバーのプリダイブは、プロパティパネルのプロパティを使用しても入力できます。

ギターテクニクは音符の入力中に入力することも、既存の音符に追加することもできますが、ギターバンドを音符の入力中に入力することはできません。ギターバンドは既存の音符への追加によるのみ入力できます。

### 関連リンク

- [装飾音のポップオーバー \(371 ページ\)](#)
- [装飾音パネル \(375 ページ\)](#)
- [ギターバンド \(1469 ページ\)](#)
- [ギタープリバンドとギタープリダイブ \(1472 ページ\)](#)
- [ギターポストバンド \(1473 ページ\)](#)
- [ビブラートバーのダイブとリターン \(1474 ページ\)](#)
- [ビブラートバーの演奏技法 \(1485 ページ\)](#)
- [タッピング \(1486 ページ\)](#)
- [ハンマーオンとプルオフ \(1488 ページ\)](#)

## ポップオーバーを使ったギターバンドの入力

装飾音のポップオーバーを使用して、装飾音符と通常の音符といった既存の音符の間にギターバンドを入力できます。隣接する音符間にも隣接しない音符間にもギターバンドを入力できます。



### 補足

音符の入力中や譜表の最後の音符にギターバンドを入力することはできません。

### 前提条件

ギターバンドにつなげる音符を 2 つ以上入力しておきます。

### 手順

- 記譜モードで、ギターバンドにつなげる音符を 2 つ選択します。  
たとえば、装飾音符と通常の音符、声部が異なる 2 つの音符などを選択します。
- 以下のいずれかの操作を行なって装飾音のポップオーバーを開きます。
  - [Shift]+[O]** を押します。
  - 記譜ツールボックスで「ポップオーバー (Popovers)」 をクリックし、「装飾音 (Ornaments)」 をクリックします。
- ポップオーバーに「bend」と入力します。
- [Return]** を押してポップオーバーを閉じます。

### 結果

選択した音符の間にギターバンドが入力されます。

つなげる音符のピッチの上下によって、タブ譜上のギターバンドは自動的にギターバンドまたはリターンとして表示されます。



#### ヒント

- 1つの音符を選択してギターベンドを入力した場合は、選択したノートの位置からギターベンドが始まり、その譜表の同じ声部の次の音符で終わります (休符はまたぎます)。
- 「環境設定 (Preferences)」の「キーボードショートカット (Key Commands)」ページで、「ギターベンドを作成 (Create Guitar Bend)」にキーボードショートカットを割り当てることができます。

#### 関連リンク

[装飾音のポップオーバー \(371 ページ\)](#)

[ギターベンド \(1469 ページ\)](#)

[ギターのベンディング/プリダイブの入力 \(386 ページ\)](#)

[ギターポストベンドの入力 \(386 ページ\)](#)

[「環境設定 \(Preferences\)」ダイアログの「キーボードショートカット \(Key Commands\)」ページ \(64 ページ\)](#)

## パネルを使ったギターベンドの入力

装飾音パネルを使用して、装飾音符と通常の音符といった既存の音符の間にギターベンドを入力できます。隣接する音符間にも隣接しない音符間にもギターベンドを入力できます。




#### 補足

- 以下の手順は、環境設定でマウス入力のデフォルト設定が「**選択位置にアイテムを作成 (Create item at selection)**」に設定されている場合について説明します。環境設定を「**ポインターにアイテムを乗せる (Load pointer with item)**」に設定している場合、クリックした音符とその直後の音符との間にのみギターベンドを入力できます。
- 音符の入力中や譜表の最後の音符にギターベンドを入力することはできません。

#### 前提条件

ギターベンドにつなげる音符を2つ以上入力しておきます。

#### 手順

1. 記譜モードで、ギターベンドにつなげる音符を2つ選択します。  
たとえば、装飾音符と通常の音符、声部が異なる2つの音符などを選択します。
2. 記譜ツールボックスで「**パネル (Panels)**」をクリックし、「**装飾音 (Ornaments)**」をクリックして装飾音パネルを表示します。
3. 「**ギター (Guitar)**」セクションで「**ギターベンド (Guitar Bend)**」をクリックします。

#### 結果

選択した音符の間にギターベンドが入力されます。

つなげる音符のピッチの上下によって、タブ譜上のギターベンドは自動的にギターベンドまたはリターンとして表示されます。

#### ヒント

- 1つの音符を選択してギターベンドを入力した場合は、選択したノートの位置からギターベンドが始まり、その譜表の同じ声部の次の音符で終わります (休符はまたぎます)。
- 「環境設定 (Preferences)」の「キーボードショートカット (Key Commands)」ページで、「ギターベンドを作成 (Create Guitar Bend)」にキーボードショートカットを割り当てることができます。

関連リンク

[記譜ツールボックス \(224 ページ\)](#)

[装飾音パネル \(375 ページ\)](#)

[ギターベンド \(1469 ページ\)](#)

[マウス入力の設定の変更 \(235 ページ\)](#)

## ギターのベンディング/プリダイブの入力

ベンディングは、フレット楽器に属する既存の音符にのみ入力できます。ベンディングをビブラートバーを使用して演奏することの指定もできます。この演奏技法はプリダイブと呼ばれます。

前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。
- 下ゾーンのツールバーで「プロパティ (Properties)」を選択しておきます。
- 浄書モードの場合は、浄書ツールボックスで「グラフィックの編集 (Graphic Editing)」を選択しておきます。

手順

1. 前にベンディング/プリダイブを入力する音符を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「プリベンド (Guitar Pre-Bends)」グループで、「プリベンドの音程 (Pre-bend interval)」をオンにします。
3. 必要に応じて音程を変更します。
4. 必要に応じて、ベンディングをギタープリダイブに変換する場合は、「ビブラートバープリベンド (Vibrato bar pre-bend)」を有効にして「ギタープリベンド (Guitar Pre-bends)」グループの対応するチェックボックスをオンにします。

結果

指定した音程のベンディングが選択した音符の前に入力されます。「ビブラートバープリベンド (Vibrato bar pre-bend)」と対応するチェックボックスの両方がオンになっている場合は、ギタープリダイブとして表示されます。

関連リンク

[ギタープリベンドとギタープリダイブ \(1472 ページ\)](#)

[ビブラートバーの演奏技法 \(1485 ページ\)](#)

[プロパティパネル \(826 ページ\)](#)

[浄書ツールボックス \(554 ページ\)](#)

## ギターポストベンドの入力

ギターポストベンドは、フレット楽器に属する既存の音符に入力できます。ポストベンドには微分音も指定できます。

前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。
- 下ゾーンのツールバーで「プロパティ (Properties)」を選択しておきます。
- 浄書モードの場合は、浄書ツールボックスで「グラフィックの編集 (Graphic Editing)」を選択しておきます。

#### 手順

1. 後ろにギターポストベンドを入力する音符を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「ギターポストベンド (Guitar Post-bends)」グループで、「ポストベンドの音程 (Post-bend interval)」をオンにします。
3. 以下のいずれかの操作を行ないます。
  - 必要に応じて音程を変更します。
  - ギターポストベンドを微分音のポストベンドに変換するには、「ギターポストベンド (Guitar Post-bends)」グループの「微分音のベンド (Microtone bend)」をオンにします。

#### 結果

指定した音程のギターポストベンドが選択した音符の後ろに入力されます。「微分音のベンド (Microtone bend)」をオンにすると、ベンドが微分音で表示されます。

#### 関連リンク

[ギターポストベンド \(1473 ページ\)](#)

[プロパティパネル \(826 ページ\)](#)

[ポップオーバーを使ったギターベンドの入力 \(384 ページ\)](#)

[浄書ツールボックス \(554 ページ\)](#)

## ビブラートバーダイブの入力

ビブラートバーダイブは音符の入力中に入力することも、既存の音符に追加することもできます。



ビブラートバーのダイブは、ジャズアーティキュレーションのフォールスムーズとビブラートバーの指示記号の組み合わせを使用して記譜されます。



#### 手順

1. 記譜モードで、以下のいずれかの操作を行ないます。
  - 音符の入力を開始します。

#### ヒント

音符の入力中に、**[Shift]+[→]** または **[Shift]+[←]** を押すことで、キャレットを有効にしたまま直前に入力した音符の前後に音符を追加できます。

- ビブラートバーのダイブを追加する音符を選択します。
2. 音符の入力中に、複数の譜表に音符や記譜記号を入力する場合は、それらの譜表にキャレットを伸ばします。
3. 必要に応じて、音符の入力中に音符を 1 つ以上入力します。
4. 以下のいずれかの操作を行なって装飾音のポップオーバーを開きます。
  - **[Shift]+[O]** を押します。
  - 記譜ツールボックスで「ポップオーバー (Popovers)」 をクリックし、「装飾音 (Ornaments)」 をクリックします。
5. ポップオーバーに「fallsmooth」と入力して、ジャズアーティキュレーションのフォールスムーズを入力します。
6. **[Return]** を押してポップオーバーを閉じます。

7. 必要に応じて、音符入力中に、フォールスムーズが適用されている音符の位置にキャレットを戻します。
  8. 以下のいずれかの操作を行なって装飾音のポップオーバーを開きます。
    - **[Shift]+[O]** を押します。
    - 記譜ツールボックスで「ポップオーバー (Popovers)」 をクリックし、「装飾音 (Ornaments)」 をクリックします。
  9. ポップオーバーに「wbar」と入力してビブラートバーの指示記号を入力します。
  10. **[Return]** を押してポップオーバーを閉じます。
  11. 必要に応じて、音符入力中に、音符を入力するか **[Space]** を押してキャレットを進め、ビブラートバーの指示記号を入力します。
- 

#### 結果

ジャズアーティキュレーションのフォールスムーズが選択したすべての音符に入力されます。音符の入力中、通常これは最後に入力した音符になります。

音符の入力中は、キャレットが伸びているすべての譜表のキャレットの位置にビブラートバーの指示が入力されます。

既存の楽譜に追加したビブラートバーの指示は、アイテムの入力位置の設定に応じて、選択した各譜表上の音符のみまたはあらゆるアイテムの位置またはデュレーションにまたがるように入力されます。

初期設定では、ビブラートバーの指示/ラインは譜表より下に配置され、タブ譜ではなく音符の譜表のみに表示されます。

#### 補足

ポップオーバーを使用すると、すべてのジャズアーティキュレーションは線のスタイルに関するプロジェクト全体の設定に従います。タイプや長さは入力したあとでも変更できます。

装飾音パネルを使用して、ジャズアーティキュレーションのフォールスムーズやビブラートバーの指示記号を入力できます。パネルを使用すると、ジャズアーティキュレーションを入力するときに線のスタイルを指定できます。

---

#### 手順終了後の項目

ビブラートバーの指示記号にラインを表示させるには、長さを変更することでデュレーションを与えます。

#### 関連リンク

- [ビブラートバーの演奏技法 \(1485 ページ\)](#)
- [記譜ツールボックス \(224 ページ\)](#)
- [装飾音のポップオーバー \(371 ページ\)](#)
- [装飾音パネル \(375 ページ\)](#)
- [複数の譜表にキャレットを伸ばす \(246 ページ\)](#)
- [アイテムの入力位置の設定を変更する \(237 ページ\)](#)
- [手動でのキャレットの移動 \(247 ページ\)](#)
- [ジャズアーティキュレーション \(1495 ページ\)](#)
- [ポップオーバーを使ったジャズアーティキュレーションの入力 \(382 ページ\)](#)
- [パネルを使ったジャズアーティキュレーションの入力 \(383 ページ\)](#)
- [既存のジャズアーティキュレーションのタイプや長さを変更する \(1498 ページ\)](#)
- [スムーズのジャズアーティキュレーションの線のスタイルを変更する \(1499 ページ\)](#)
- [ジャズアーティキュレーションの削除 \(1500 ページ\)](#)
- [アイテムの長さの変更 \(470 ページ\)](#)
- [演奏技法のデュレーション \(1543 ページ\)](#)

## ポップオーバーを使ったビブラートバーのダイブとリターンの入力

装飾音のポップオーバーを使用して、既存の隣接する音符間にも隣接しない音符間にもビブラートバーのダイブとリターンを入力できます。

### 補足

音符の入力中や譜表の最後の音符にビブラートバーのダイブとリターンを入力することはできません。

### 前提条件



ビブラートバーのダイブとリターンにつなげるために、「D-C-D」のようにピッチ方向が入れ替わる音符を3つ以上入力しておきます。

### 手順

1. 記譜モードで、ビブラートバーのダイブにつなげる音符を2つ選択します。



### 補足

選択する音符は同じ譜表上にあり、「D-C」のようにピッチが下がっている必要があります。

2. 以下のいずれかの操作を行なって装飾音のポップオーバーを開きます。
  - **[Shift]+[O]** を押します。
  - 記譜ツールボックスで「ポップオーバー (Popovers)」 をクリックし、「装飾音 (Ornaments)」 をクリックします。
3. ポップオーバーに「vibbend」と入力してダイブを入力します。
4. **[Return]** を押してポップオーバーを閉じます。
5. ビブラートバーのリターンにつなげる音符を2つ選択します。

### 補足

選択する音符は同じ譜表上にあり、「C-D」のようにピッチが上がっている必要があります。

6. 以下のいずれかの操作を行なって装飾音のポップオーバーを開きます。
  - **[Shift]+[O]** を押します。
  - 記譜ツールボックスで「ポップオーバー (Popovers)」 をクリックし、「装飾音 (Ornaments)」 をクリックします。
7. ポップオーバーに「vibbend」と入力してリターンを入力します。
8. **[Return]** を押してポップオーバーを閉じます。

### 結果

ビブラートバーのダイブはピッチが下がる音符間に、ビブラートバーのリターンはピッチが上がる音符間に、それぞれ入力されます。

ビブラートバーのリターンが開始する音符でビブラートバーのダイブが終了する場合、タブ譜には「V」と表示され、その位置のベンドの音程が表示されます。

ビブラートバーのダイブを連続で上昇または連続で下降する音符 (「E-D-C」など) に入力すると、タブ譜の譜表を越えて突出したラインに各ビブラートバーのダイブのベンドの音程が示される形で記譜されます。

ビブラートバーのダイブとリターンは、つなげる音符のピッチの方向に合わせて、自動的にタブ譜に上向きまたは下向きに入力されます。

関連リンク

[装飾音のポップオーバー \(371 ページ\)](#)

[ビブラートバーのダイブとリターン \(1474 ページ\)](#)

[ビブラートバーの演奏技法 \(1485 ページ\)](#)

[ギターベンド \(1469 ページ\)](#)

[ポップオーバーを使ったギターベンドの入力 \(384 ページ\)](#)

## パネルを使ったビブラートバーのダイブとリターンの入力

装飾音パネルを使用して、既存の隣接する音符間にも隣接しない音符間にもビブラートバーのダイブとリターンを入力できます。

### 補足

- 以下の手順は、環境設定でマウス入力のデフォルト設定が「**選択位置にアイテムを作成 (Create item at selection)**」に設定されている場合について説明します。環境設定を「**ポインターにアイテムを乗せる (Load pointer with item)**」に設定している場合、クリックした音符とその直後の音符との間のみビブラートバーのダイブとリターンを入力できます。
- 音符の入力中や譜表の最後の音符にビブラートバーのダイブとリターンを入力することはできません。

前提条件




ビブラートバーのダイブとリターンにつなげるために、「D-C-D」のようにピッチ方向が入れ替わる音符を3つ以上入力しておきます。

手順

1. 記譜モードで、ビブラートバーのダイブにつなげる音符を2つ選択します。

### 補足

選択する音符は同じ譜表上にあり、「D-C」のようにピッチが下がっている必要があります。

2. 記譜ツールボックスで「**パネル (Panels)**」をクリックし、「**装飾音 (Ornaments)**」をクリックして装飾音パネルを表示します。
3. 「**ギター (Guitar)**」セクションで、「**ビブラートバー付きのギターベンド (Guitar Bend with Vibrato Bar)**」をクリックしてビブラートバーのダイブを入力します。
4. ビブラートバーのリターンにつなげる音符を2つ選択します。

### 補足

選択する音符は同じ譜表上にあり、「C-D」のようにピッチが上がっている必要があります。

5. 「**ビブラートバー付きのギターベンド (Guitar Bend with Vibrato Bar)**」をクリックしてビブラートバーのリターンを入力します。

結果

ビブラートバーのダイブはピッチが下がる音符間に、ビブラートバーのリターンはピッチが上がる音符間に、それぞれ入力されます。

ビブラートバーのリターンが開始する音符でビブラートバーのダイブが終了する場合、タブ譜には「V」と表示され、その位置のベンドの音程が表示されます。

ビブラートバーのダイブを連続で上昇または連続で下降する音符（「E-D-C」など）に入力すると、タブ譜の譜表を越えて突出したラインに各ビブラートバーのダイブのベンドの音程が示される形で記譜されます。

ビブラートバーのダイブとリターンは、つなげる音符のピッチの方向に合わせて、自動的にタブ譜に上向きまたは下向きに入力されます。

関連リンク

[記譜ツールボックス \(224 ページ\)](#)

[装飾音パネル \(375 ページ\)](#)

[ビブラートバーのダイブとリターン \(1474 ページ\)](#)

[ビブラートバーの演奏技法 \(1485 ページ\)](#)

[ギターベンド \(1469 ページ\)](#)

[ビブラートバーダイブの入力 \(387 ページ\)](#)

[マウス入力の設定の変更 \(235 ページ\)](#)

## ポップオーバーを使ったビブラートバーのスクープの入力

装飾音のポップオーバーを使用してビブラートバーのスクープを入力できます。音符の入力中に行なうことも、既存の音符に追加することもできます。

---



手順

1. 記譜モードで、以下のいずれかの操作を行ないます。

- 音符の入力を開始します。

ヒント

音符の入力中に、**[Shift]+[→]** または **[Shift]+[←]** を押すことで、キャレットを有効にしたまま直前に入力した音符の前後に音符を追加できます。

- ビブラートバーのスクープを追加する音符を選択します。
2. ビブラートバーのスクープの付いた音符を複数の譜表に同時に入力する場合は、それらの譜表にキャレットを伸ばします。
3. 必要に応じて、音符の入力中に音符を 1 つ以上入力します。
4. 以下のいずれかの操作を行なって装飾音のポップオーバーを開きます。
- **[Shift]+[O]** を押します。
  - 記譜ツールボックスで「ポップオーバー (Popovers)」 をクリックし、「装飾音 (Ornaments)」 をクリックします。
5. ポップオーバーに「vibscoop」と入力します。
6. **[Return]** を押してポップオーバーを閉じます。
- 

結果

ビブラートバーのスクープが選択された音符に入力されます。音符の入力中、通常これは最後に入力した音符になります。

初期設定では、ビブラートバーのスクープはタブ譜ではなく音符の譜表のみに表示され、音符の左側に配置されます。

手順終了後の項目

ビブラートバーの指示を入力して、ビブラートバーを使用して演奏するビブラートバーのスクープを明確にできます。

関連リンク

[装飾音のポップオーバー \(371 ページ\)](#)

[複数の譜表にキャレットを伸ばす \(246 ページ\)](#)

[ビブラートバーの演奏技法 \(1485 ページ\)](#)

[音符の譜表とタブ譜のギターテクニックの表示/非表示を切り替える \(1491 ページ\)](#)

[ポップオーバーを使ったビブラートバーの指示記号/ラインの入力 \(394 ページ\)](#)

[ギターテクニックの削除 \(1493 ページ\)](#)

## パネルを使ったビブラートバーのスクープの入力

装飾音パネルを使用してビブラートバーのスクープを入力できます。音符の入力中に行なうことも、既存の音符に追加することもできます。

---



### 手順

1. 記譜モードで、以下のいずれかの操作を行ないます。

- 音符の入力を開始します。

#### ヒント

音符の入力中に、**[Shift]+[→]** または **[Shift]+[←]** を押すことで、カーレットを有効にしたまま直前に入力した音符の前後に音符を追加できます。

- ビブラートバーのスクープを追加する音符を選択します。
2. ビブラートバーのスクープの付いた音符を複数の譜表に同時に入力する場合は、それらの譜表にカーレットを伸ばします。
3. 必要に応じて、音符の入力中に音符を1つ以上入力します。
4. 記譜ツールボックスで「**パネル (Panels)**」をクリックし、「**装飾音 (Ornaments)**」をクリックして装飾音パネルを表示します。
5. 「**ギター (Guitar)**」セクションで「**ビブラートバー (スクープ) (Vibrato Bar Scoop)**」をクリックします。

---

### 結果

ビブラートバーのスクープが選択された音符に入力されます。音符の入力中、通常これは最後に入力した音符になります。

初期設定では、ビブラートバーのスクープはタブ譜ではなく音符の譜表のみに表示され、音符の左側に配置されます。

### 手順終了後の項目

ビブラートバーの指示を入力して、ビブラートバーを使用して演奏するビブラートバーのスクープを明確にできます。

### 関連リンク

[記譜ツールボックス \(224 ページ\)](#)

[装飾音パネル \(375 ページ\)](#)

[複数の譜表にカーレットを伸ばす \(246 ページ\)](#)

[ビブラートバーの演奏技法 \(1485 ページ\)](#)

[音符の譜表とタブ譜のギターテクニックの表示/非表示を切り替える \(1491 ページ\)](#)

[パネルを使ったビブラートバーの指示記号/ラインの入力 \(395 ページ\)](#)

[ギターテクニックの削除 \(1493 ページ\)](#)





## ポップオーバーを使ったビブラートバーのディップの入力

装飾音のポップオーバーを使用してビブラートバーのディップを入力できます。音符の入力中に行なうことも、既存の楽譜に追加することもできます。

---

### 手順

1. 記譜モードで、以下のいずれかの操作を行ないます。
  - 音符の入力を開始します。
  - ビブラートバーのディップを入力する位置にある各譜表上のアイテムを選択します。
2. 音符の入力中に、複数の譜表に音符や記譜記号を入力する場合は、それらの譜表にキャレットを伸ばします。
3. 以下のいずれかの操作を行なって装飾音のポップオーバーを開きます。
  - **[Shift]+[O]** を押します。
  - 記譜ツールボックスで「ポップオーバー (Popovers)」 をクリックし、「装飾音 (Ornaments)」 をクリックします。
4. ポップオーバーに「vibdip」と入力します。
5. **[Return]** を押してポップオーバーを閉じます。
6. 必要に応じて、音符入力中に音符を入力するか、**[Space]** を押してキャレットを進めて、ビブラートバーのディップを入力します。

---

### 結果

音符の入力中は、キャレットが伸びているすべての譜表のキャレットの位置にビブラートバーのディップが入力されます。

既存の楽譜に追加したビブラートバーのディップは、アイテムの入力位置の設定に応じて、選択した各譜表上の最初に選択した音符またはアイテムの位置に追加されます。

初期設定では、ビブラートバーのディップは半ステップ単位の音程で、譜表より上に配置され、タブ譜ではなく音符の譜表のみに表示されます。

### 関連リンク

[装飾音のポップオーバー \(371 ページ\)](#)

[アイテムの入力位置の設定を変更する \(237 ページ\)](#)

[複数の譜表にキャレットを伸ばす \(246 ページ\)](#)

[ビブラートバーの演奏技法 \(1485 ページ\)](#)

[ビブラートバーのディップの音程を変更する \(1491 ページ\)](#)

[音符の譜表とタブ譜のギターテクニックの表示/非表示を切り替える \(1491 ページ\)](#)

[ポップオーバーを使ったビブラートバーの指示記号/ラインの入力 \(394 ページ\)](#)

[譜表に対するアイテムの位置の変更 \(474 ページ\)](#)




## パネルを使ったビブラートバーのディップの入力

装飾音パネルを使用してビブラートバーのディップを入力できます。音符の入力中に行なうことも、既存の楽譜に追加することもできます。

---

### 手順

1. 記譜モードで、以下のいずれかの操作を行ないます。
  - 音符の入力を開始します。
  - ビブラートバーのディップを入力する位置にある各譜表上のアイテムを選択します。

2. 記譜ツールボックスで「パネル (Panels)」をクリックし、「装飾音 (Ornaments)」をクリックして装飾音パネルを表示します。
  3. 「ギター (Guitar)」セクションで「ビブラートバー (ディップ) (Vibrato Bar Dip)」をクリックします。
- 

#### 結果

音符の入力中は、キャレットの位置にビブラートバーのディップが入力されます。

既存の楽譜に追加したビブラートバーのディップは、アイテムの入力位置の設定に応じて、選択した各譜表上の最初に選択した音符またはアイテムの位置に追加されます。

初期設定では、ビブラートバーのディップは半ステップ単位の音程で、譜表より上に配置され、タブ譜ではなく音符の譜表のみに表示されます。

#### 関連リンク

[記譜ツールボックス \(224 ページ\)](#)

[装飾音パネル \(375 ページ\)](#)

[アイテムの入力位置の設定を変更する \(237 ページ\)](#)

[ビブラートバーの演奏技法 \(1485 ページ\)](#)

[ビブラートバーのディップの音程を変更する \(1491 ページ\)](#)

[音符の譜表とタブ譜のギターテクニックの表示/非表示を切り替える \(1491 ページ\)](#)



[パネルを使ったビブラートバーの指示記号/ラインの入力 \(395 ページ\)](#)

[譜表に対するアイテムの位置の変更 \(474 ページ\)](#)

## ポップオーバーを使ったビブラートバーの指示記号/ラインの入力

装飾音のポップオーバーを使用してビブラートバーの指示記号/ラインを入力できます。音符の入力中に行なうことも、既存の楽譜に追加することもできます。複数アイテムにわたってビブラートバーの指示記号を入力すると、デュレーションが与えられ、初期設定では破線によるデュレーション線が表示されます。

#### 手順

1. 記譜モードで、以下のいずれかの操作を行ないます。
    - 音符の入力を開始します。
    - ビブラートバーの指示を入力する位置にある各譜表上のアイテムを選択します。ビブラートバーラインを入力する場合は、必要なデュレーションにまたがるアイテムを選択します。
  2. 音符の入力中に、複数の譜表に音符や記譜記号を入力する場合は、それらの譜表にキャレットを伸ばします。
  3. 以下のいずれかの操作を行なって装飾音のポップオーバーを開きます。
    - **[Shift]+[O]** を押します。
    - 記譜ツールボックスで「ポップオーバー (Popovers)」をクリックし、「装飾音 (Ornaments)」をクリックします。
  4. ポップオーバーに「wbar」と入力してビブラートバーの指示記号を入力します。
  5. **[Return]** を押してポップオーバーを閉じます。
  6. 必要に応じて、音符入力中に、音符を入力するか **[Space]** を押してキャレットを進め、ビブラートバーの指示記号を入力します。
- 

#### 結果

音符の入力中は、キャレットが伸びているすべての譜表のキャレットの位置にビブラートバーの指示が入力されます。

既存の楽譜に追加したビブラートバーの指示は、アイテムの入力位置の設定に応じて、選択した各譜表上の音符のみまたはあらゆるアイテムの位置またはデュレーションにまたがるように入力されます。デュレーションを持つビブラートバーの指示は、初期設定で破線によるデュレーション線が表示されます。

初期設定では、ビブラートバーの指示/ラインは譜表より下に配置され、タブ譜ではなく音符の譜表のみに表示されます。

関連リンク

[装飾音のポップオーバー \(371 ページ\)](#)

[ビブラートバーの演奏技法 \(1485 ページ\)](#)

[アイテムの入力位置の設定を変更する \(237 ページ\)](#)

[複数の譜表にキャレットを伸ばす \(246 ページ\)](#)

[アイテムの長さの変更 \(470 ページ\)](#)




[演奏技法のデュレーション \(1543 ページ\)](#)

## パネルを使ったビブラートバーの指示記号/ラインの入力

装飾音パネルを使用してビブラートバーの指示記号/ラインを入力できます。音符の入力中に行なうことも、既存の楽譜に追加することもできます。複数アイテムにわたってビブラートバーの指示記号を入力すると、デュレーションが与えられ、初期設定では破線によるデュレーション線が表示されます。

---

手順

1. 記譜モードで、以下のいずれかの操作を行ないます。
  - 音符の入力を開始します。
  - ビブラートバーの指示を入力する位置にある各譜表上のアイテムを選択します。ビブラートバーラインを入力する場合は、必要なデュレーションにまたがるアイテムを選択します。
2. 記譜ツールボックスで「パネル (Panels)」をクリックし、「装飾音 (Ornaments)」をクリックして装飾音パネルを表示します。
3. 「ギター (Guitar)」セクションで「ビブラートバー (ライン) (Vibrato Bar Line)」をクリックします。

---

結果

音符の入力中は、キャレットの位置にビブラートバーの指示が入力されます。

既存の楽譜に追加したビブラートバーの指示は、アイテムの入力位置の設定に応じて、選択した各譜表上の音符のみまたはあらゆるアイテムの位置またはデュレーションにまたがるように入力されます。デュレーションを持つビブラートバーの指示は、初期設定で破線によるデュレーション線が表示されます。

初期設定では、ビブラートバーの指示/ラインは譜表より下に配置され、タブ譜ではなく音符の譜表のみに表示されます。

関連リンク

[装飾音パネル \(375 ページ\)](#)

[ビブラートバーの演奏技法 \(1485 ページ\)](#)

[アイテムの入力位置の設定を変更する \(237 ページ\)](#)

[アイテムの長さの変更 \(470 ページ\)](#)

[演奏技法のデュレーション \(1543 ページ\)](#)

## ハンマーオン/プルオフの入力

装飾音のポップオーバーを使用して、フレット楽器に属する任意の音符にハンマーオン/プルオフを入力できます。音符の入力中に行なうことも、既存の音符に追加することもできます。複数の音符を選択

した場合、Dorico Pro によって自動的に適切なスラーが入力されます。既存の音符にハンマーオン/プルオフ付きタッピングを追加することもできます。

#### 手順

1. 記譜モードで、以下のいずれかの操作を行ないます。

- 音符の入力を開始します。



#### ヒント

音符の入力中に、**[Shift]+[→]** または **[Shift]+[←]** を押すことで、キャレットを有効にしたまま直前に入力した音符の前後に音符を追加できます。

- ハンマーオン/プルオフを追加する音符を選択します。

#### 補足

- ハンマーオンを入力する場合、「C-D」のように、同じ弦上でピッチが上昇する 2 つ以上の音符を選択する必要があります。
- プルオフまたはプルオフ付きタッピングを入力する場合、「D-C」のように、同じ弦上でピッチが下降する 2 つ以上の音符を選択する必要があります。
- リガードを入力する場合、たとえばハンマーオンからプルオフする場合は「C-D-C」、プルオフからハンマーオンする場合は「D-C-D」のように、同じ弦上でピッチの方向が入れ替わる 3 つ以上の音符を選択する必要があります。

2. 音符の入力中に、複数の譜表に音符や記譜記号を入力する場合は、それらの譜表にキャレットを伸ばします。
3. 必要に応じて、音符の入力中に音符を 1 つ以上入力します。
4. 以下のいずれかの操作を行なって装飾音のポップオーバーを開きます。
  - **[Shift]+[O]** を押します。
  - 記譜ツールボックスで「ポップオーバー (Popovers)」 をクリックし、「装飾音 (Ornaments)」 をクリックします。
5. 使用するハンマーオン/プルオフのエントリーをポップオーバーに入力します。  
たとえばハンマーオンは「**ho**」、ハンマーオンからプルオフは「**hopo**」と入力します。
6. **[Return]** を押してポップオーバーを閉じます。

#### 結果

指定したハンマーオン/プルオフが選択した音符に入力されます。音符の入力中、通常これは最後に入力した音符になります。

同じ弦上の隣接する複数の音符を選択した場合、選択した音符の範囲にスラーが自動的に入力され、その中央にハンマーオン/プルオフの指示記号が配置されます。複数のハンマーオン/プルオフが付いたスラーの場合、それぞれの指示記号は対応する方向の音符間に中央揃えで配置されます。「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**ギターテクニック (Guitar Techniques)**」ページでは、ハンマーオン/プルオフの指示記号が各音符の上に表示されるようにできます。

初期設定では、ハンマーオン/プルオフは音符の譜表とタブ譜の両方に表示され、表示位置は譜表の上です。

#### ヒント

音符を選択し、プロパティパネルの「**ギターテクニック (Guitar Techniques)**」グループで「**演奏技法 (Technique)**」をオンにして、メニューから適切な指示記号を選択することでも、既存の音符にハンマ

ーオン/プルオフを追加できます。ハンマーオン/プルオフの指示記号をスラーの上に中央揃えで表示するには、各スラーで括られた最初の音符以外のすべての音符を選択します。

---

関連リンク

- [装飾音のポップオーバー \(371 ページ\)](#)
- [ハンマーオンとプルオフ \(1488 ページ\)](#)
- [複数の譜表にキャレットを伸ばす \(246 ページ\)](#)
- [譜表に対するギターテクニックの位置の変更 \(1492 ページ\)](#)
- [音符の譜表とタブ譜のギターテクニックの表示/非表示を切り替える \(1491 ページ\)](#)
- [浄書オプションでギターテクニックの設定をプロジェクト全体に適用する \(1489 ページ\)](#)
- [「浄書オプション \(Engraving Options\)」ダイアログ \(923 ページ\)](#)
- [弦への音符の割り当て \(1397 ページ\)](#)
- [タブ譜で音符に割り当てられた弦の変更 \(1740 ページ\)](#)
- [ギターテクニックの削除 \(1493 ページ\)](#)

## タッピングの入力

装飾音のポップオーバーを使用して、フレット楽器に属する任意の音符に右手および左手のタッピングの指示記号を入力できます。音符の入力中に行なうことも、既存の音符に追加することもできます。既存の音符にハンマーオン/プルオフ付きタッピングを追加することもできます。

---

手順

1. 記譜モードで、以下のいずれかの操作を行ないます。

- 音符の入力を開始します。

ヒント

音符の入力中に、**[Shift]+[→]** または **[Shift]+[←]** を押すことで、キャレットを有効にしたまま直前に入力した音符の前後に音符を追加できます。



---

- タッピングの指示記号を追加する音符を選択します。

補足

プルオフ付きタッピングを入力する場合、「D-C」のように、同じ弦上でピッチが下降する2つ以上の音符を選択する必要があります。

---

- 音符の入力中に、複数の譜表に音符や記譜記号を入力する場合は、それらの譜表にキャレットを伸ばします。
  - 必要に応じて、音符の入力中に音符を1つ以上入力します。
  - 以下のいずれかの操作を行なって装飾音のポップオーバーを開きます。
    - **[Shift]+[O]** を押します。
    - 記譜ツールボックスで「ポップオーバー (Popovers)」 をクリックし、「装飾音 (Ornaments)」 をクリックします。
  - 使用するタッピングの指示記号のエントリーをポップオーバーに入力します。  
たとえば、右手のタッピングには「**tap**」と、プルオフ付きの左手のタッピングには「**lhtappull**」と入力します。
  - [Return]** を押してポップオーバーを閉じます。
-

#### 結果

指定したタッピングの指示記号が、選択した音符に入力されます。音符の入力中、通常これは最後に入力した音符になります。

初期設定では、タッピングの指示記号は音符の譜表とタブ譜の両方に表示され、表示位置は譜表の上です。

#### ヒント

音符を選択し、プロパティパネルの「**ギターテクニック (Guitar Techniques)**」グループで「**演奏技法 (Technique)**」をオンにして、メニューから適切な指示記号を選択することでも、既存の音符にタッピングの指示記号を追加できます。

#### 関連リンク

[装飾音のポップオーバー \(371 ページ\)](#)

[タッピング \(1486 ページ\)](#)

[複数の譜表にキャレットを伸ばす \(246 ページ\)](#)

[譜表に対するギターテクニックの位置の変更 \(1492 ページ\)](#)

[音符の譜表とタブ譜のギターテクニックの表示/非表示を切り替える \(1491 ページ\)](#)

[浄書オプションでギターテクニックの設定をプロジェクト全体に適用する \(1489 ページ\)](#)

[弦への音符の割り当て \(1397 ページ\)](#)

[タブ譜で音符に割り当てられた弦の変更 \(1740 ページ\)](#)

[ギターテクニックの削除 \(1493 ページ\)](#)

## 演奏技法、ペダル線、弦の指示記号、ハーブペダルダイアグラムの入力方法

演奏技法は、演奏技法のポップオーバーを使用してキーボードで入力することも、演奏技法パネルを使用してマウスで入力することもできます。

演奏技法のポップオーバーまたは演奏技法パネルを使用して、同じ方法で譜表の外側に弦の指示記号を入力できます。

プロパティパネルの「**弦の指示記号 (String Indicators)**」グループのプロパティを使用して、譜表の内側に弦の指示記号を入力できます。

#### 関連リンク

[演奏技法 \(1536 ページ\)](#)

[ペダル線 \(1516 ページ\)](#)

[ハーブのペダリング \(1506 ページ\)](#)

[弦の指示記号 \(1313 ページ\)](#)

[ポップオーバーを使った演奏技法の入力 \(404 ページ\)](#)

[パネルを使った演奏技法の入力 \(406 ページ\)](#)

[ポップオーバーを使ったペダル線の入力 \(407 ページ\)](#)

[パネルを使ったペダル線の入力 \(409 ページ\)](#)

[ポップオーバーを使ったハーブペダルダイアグラムの入力 \(411 ページ\)](#)

[パネルを使ったハーブペダルダイアグラムの入力 \(412 ページ\)](#)

[ポップオーバーを使用して譜表の外側に弦の指示記号を入力する \(413 ページ\)](#)

[パネルを使用して譜表の外側に弦の指示記号を入力する \(414 ページ\)](#)



[譜表の内側に弦の指示記号を入力する \(415 ページ\)](#)

## 演奏技法のポップオーバー

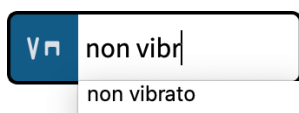
以下の表は、演奏技法、ハーブペダルダイアグラム、ペダル線、リテイク、ペダルの強さの変更指示の入力に使用できる演奏技法のポップオーバーのエントリーの例です。

演奏技法のポップオーバーに演奏技法を入力しはじめると、入力した文字や単語が含まれる有効な演奏技法がメニューに予測表示されます。そこから使用する演奏技法を選択できます。

記譜モードでは、アイテムの選択時またはキャレットの有効時に以下のいずれかの操作を行なって、演奏技法のポップオーバーを開くことができます。

- **[Shift]+[P]** を押します。
- 記譜ツールボックスで「ポップオーバー (Popovers)」  をクリックし、「演奏技法 (Playing Techniques)」  をクリックします。
- 既存の演奏技法を選択して **[Return]** を押します。
- 「記譜 (Write)」 > 「演奏技法を作成 (Create Playing Technique)」を選択します。

ポップオーバーの左側に表示されたアイコンが、ウィンドウの右側にある記譜記号ツールボックスの対応するボタンと一致します。



演奏技法を入力するためのエントリーの例が入力された演奏技法のポップオーバー



ペダル線を入力するためのエントリーの例が入力された演奏技法のポップオーバー



記譜ツールボックスの「演奏技法 (Playing Techniques)」ボタン

## 演奏技法

演奏技法	ポップオーバーエントリー
ビブラート	<b>vibrato</b>
センツァ・ビブラート	<b>senza vibrato</b>
ナトゥラーレ (nat.)	<b>nat</b>
コン・ソルディーノ	<b>con sord</b>
息を強く吹き込む	<b>strong air pressure</b>
ダブルタンギング	<b>double-tongue</b>
下げ弓	<b>downbow</b>
上げ弓	<b>upbow</b>
スル・ポンティチェット	<b>sul pont</b>
スル・タスト	<b>sul tasto</b>

---

演奏技法	ポップオーバーエントリー
ポコ・スル・タスト	<b>pst</b>
ピチカート	<b>pizz</b>
スピッカート	<b>spicc</b>
アルコ	<b>arco</b>
舌を鳴らす (Stockhausen)	<b>tongue click</b>
指を鳴らす (Stockhausen)	<b>finger click</b>
ビブラフォンモーターオン	<b>motor on</b>
ビブラフォンモーターオフ	<b>motor off</b>
オープン	<b>open</b>
ダンブ	<b>damp</b>
ダンブ (大)	<b>damp large</b>
フルバレー	<b>full barre</b>
ハーフバレー	<b>half barre</b>
ストラムアップ	<b>strum up</b>
ストラムダウン	<b>strum down</b>
左手	<b>lh</b>
右手	<b>rh</b>

---

このリストにはすべてのエントリーが含まれているわけではなく、ほかにも多くの有効な演奏技法があります。このリストは、さまざまなタイプの一般的な演奏技法を入力するためにエントリーをどのように構成するかを示すことを目的としています。

演奏技法の正しいエントリーがわからない場合は、演奏技法の一部を入力してみて、ポップオーバーメニューにその演奏技法が表示されるかを確認してください。

#### 補足

- 演奏技法にデュレーションを持たせるには、「**vibrato->**」のように、エントリーの最後に「->」を追加します。音符の入力中に、続けて音符を入力するかキャレットを進めると演奏技法のデュレーションが延長されます。既存の楽譜に複数の演奏技法を追加すると、グループとして追加されません。
- 非表示の演奏技法を入力するには、「**(pizz)**」のようにポップオーバーエントリーを括弧でくくります。



- 演奏技法は特定の例に対応するため、上記のように入力するか、ポップオーバーメニューから選択する必要があります。

## ペダル線

### ペダル線、リテイク、またはペダルの強さの変更 ポップオーバーエントリー 指示のタイプ

サスティンペダル線	<b>ped</b>
サスティンペダルの強さを 1/4 に設定	<b>1/4</b>
サスティンペダルの強さを 1/2 に設定	<b>r</b>
サスティンペダルの強さを 3/4 に設定	<b>3/4</b>
サスティンペダルを完全に踏み込む	<b>1</b>
サスティンペダル線のリテイク	「 <b>^</b> 」、 <b>「notch」</b> 、または <b>「retake」</b>
サスティンペダル線のリテイクを削除	<b>nonotch</b>
サスティンペダル線を終了	<b>*</b>
ソステヌートペダル線	<b>sost</b>
ソステヌートペダル線を終了	<b>s*</b>
ウナコルダペダル線	<b>unacorda</b>
ウナコルダペダル線を終了	<b>u*</b>

## ハーブのペダリング

ハーブのペダリングの例	ポップオーバーエントリー
D、C、B $\flat$ 、E $\flat$ 、F、G、A	「 <b>DCB<math>\flat</math>E<math>\flat</math>FGA</b> 」、 <b>「B<math>\flat</math>E<math>\flat</math>」</b> 、または <b>「--^ ^---</b> 」
D、C $\sharp$ 、B、E、F $\sharp$ 、G $\sharp$ 、A	「 <b>DC<math>\sharp</math>BEF<math>\sharp</math>G<math>\sharp</math>A</b> 」、 <b>「C<math>\sharp</math>F<math>\sharp</math>G<math>\sharp</math>」</b> 、または <b>「-v -vv-</b> 」

### ヒント

パイプ文字は任意です。

## 譜表の外側の弦の指示記号

弦の指示記号の例	ポップオーバーエントリー
1	string1
3	string3

関連リンク

[記譜ツールボックス \(224 ページ\)](#)

[演奏技法 \(1536 ページ\)](#)

[カスタムの演奏技法 \(976 ページ\)](#)

[演奏技法のグループ \(1548 ページ\)](#)

[ペダル線 \(1516 ページ\)](#)

[サスティンペダルのリテイクおよびペダルの強さの変更指示 \(1517 ページ\)](#)

[ハーブのペダリング \(1506 ページ\)](#)

[弦の指示記号 \(1313 ページ\)](#)

[ポップオーバーを使ってリテイクとペダルの強さの変更指示を追加する \(408 ページ\)](#)



[ポップオーバーを使ったハーブペダルダイアグラムの入力 \(411 ページ\)](#)

[ポップオーバーを使用して譜表の外側に弦の指示記号を入力する \(413 ページ\)](#)

[演奏技法の表示/非表示 \(1540 ページ\)](#)

## 演奏技法パネル

演奏技法パネルには、Dorico Pro で使用できるさまざまな演奏技法がインストゥルメントファミリーごとに表示されます。これは記譜モードの右ゾーンに配置されています。ペダル線は「**キーボード (Keyboard)**」セクションにあります。

- 記譜ツールボックスで「**パネル (Panels)**」をクリックしたあとに、「**演奏技法 (Playing Techniques)**」をクリックすることで、演奏技法パネルの表示/非表示を切り替えられます。  
**[Ctrl]/[command]+[9]** を押して右ゾーンの表示/非表示を切り替えることもできます。

演奏技法パネルには以下のセクションがあります。

### 一般 (Common)

ミュート (mute) やレガート (legato) など、他の複数のインストゥルメントファミリーにも適用できる一般的な演奏技法が含まれています。

### 木管楽器 (Wind)

キークリック (key clicks) や笛のような音 (whistle tone) など、通常は木管楽器にのみ使用される演奏技法が含まれています。

### 金管楽器 (Brass)

カップミュート (cup mute) やストップ (stopped) など、通常は金管楽器にのみ使用される演奏技法が含まれています。

### 無音程打楽器 (Unpitched Percussion)

リム (rim) やなぞる (scrape) など、通常は無音程打楽器にのみ使用される演奏技法が含まれています。

### 有音程打楽器 (Pitched Percussion)

ビブラフォン用のモーター・オン (motor on) やハーブペダル (½ Ped.) など、通常は有音程打楽器にのみ使用される演奏技法が含まれています。

### キーボード (Keyboard)

サステインペダル (Ped.)やペダルの踏み込みの強さなど、通常は鍵盤楽器にのみ使用される演奏技法が含まれています。

### 合唱 (Choral)

口を開く (mouth open)や舌を鳴らす (tongue click)など、通常は声にのみ使用する演奏技法が含まれています。

### 弦楽器 (Strings)

コル・レーニョ・バットゥート (col legno battuto)や下げ弓 (down bow)など、通常は弦楽器にのみ使用される演奏技法が含まれています。

### ギター (Guitar)

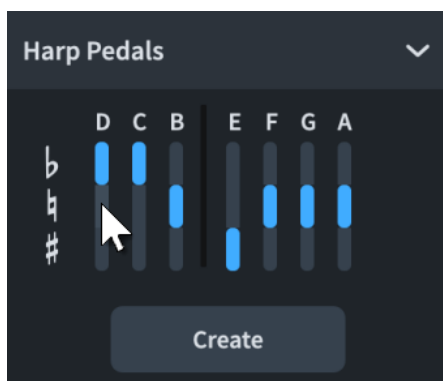
弦の指示記号、ハーフバレー (half barré)、ストラムアップ (strum up)など、通常はギターにのみ使用される演奏技法が含まれています。

### ハープペダル (Harp Pedals)

ハープペダルダイアグラムを作成できます。

左側の臨時記号で表わされている、必要なピッチオルタレーションに対応する列のセクションをクリックすることで、ペダルのピッチ設定を変更できます。

そのあと、「作成 (Create)」をクリックしてハープペダルダイアグラムを入力できます。



### ヒント

- 各セクションのオプションにマウスポインターを合わせると、演奏技法の名前が表示されます。
- 各セクションの下部にあるアクションバーを使用して「演奏技法を編集 (Edit Playing Techniques)」ダイアログにアクセスできます。「演奏技法の外観を編集 (Edit Playing Technique)」ボタンは、楽譜領域で演奏技法が選択されている場合に使用できます。

### 関連リンク

[記譜ツールボックス \(224 ページ\)](#)

[「演奏技法を編集 \(Edit Playing Techniques\)」ダイアログ \(976 ページ\)](#)

[パネルを使用して譜表の外側に弦の指示記号を入力する \(414 ページ\)](#)

[パネルを使ったハープペダルダイアグラムの入力 \(412 ページ\)](#)

[演奏技法 \(1536 ページ\)](#)

[ペダル線 \(1516 ページ\)](#)

[弦の指示記号 \(1313 ページ\)](#)

[ハープのペダリング \(1506 ページ\)](#)

## ポップオーバーを使った演奏技法の入力

演奏技法のポップオーバーを使用して演奏技法を入力できます。音符の入力中に行なうことも、既存の楽譜に追加することもできます。



### 補足

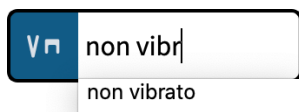
- 音符の入力中にポップオーバーに入力できる演奏技法は1つのみです。既存の楽譜に演奏技法を追加する際は、「->」で区切ると2つの演奏技法を入力できます。
- タイのつながりの途中に演奏技法を入力するには、音符の入力を開始し、必要な位置にcaretを移動します。


### 前提条件

入力するカスタムの演奏技法を作成しておきます。

### 手順

1. 記譜モードで、以下のいずれかの操作を行ないます。
  - 音符の入力を開始します。
  - 演奏技法を入力する位置にある各譜表上のアイテムを選択します。デュレーションを持つ演奏技法や音符ごとの個別の演奏技法を入力するには、必要なデュレーションにまたがるアイテムを選択します。
2. 音符の入力中に、複数の譜表に音符や記譜記号を入力する場合は、それらの譜表にcaretを伸ばします。
3. 以下のいずれかの操作を行なって演奏技法のポップオーバーを開きます。
  - **[Shift]+[P]** を押します。
  - 記譜ツールボックスで「ポップオーバー (Popovers)」 をクリックし、「演奏技法 (Playing Techniques)」 をクリックします。
4. 使用する演奏技法のエントリーをポップオーバーに入力します。  
たとえば、「pizz」または「non vibrato->」と入力します。  
演奏技法のポップオーバーに演奏技法を入力しはじめると、入力した文字や単語が含まれる有効な演奏技法がメニューに予測表示され、そこから使用する演奏技法を選択できます。
  - 演奏技法にデュレーションを持たせるには、最後に「->」を追加します。
  - 非表示の演奏技法を入力するには、「(pizz)」のようにエントリーを括弧でくくります。



5. **[Return]** を押してポップオーバーを閉じます。  
**non vibrato->** のような開口型の演奏技法は、音符の入力中に音符の入力を続けるか、**[Space]** を押したり、キーボードパネル、フレットボードパネル、またはドラムパッドパネルのツールバーで「caretを進める (Advance Caret)」 をクリックしたりしてcaretを進めると、自動的に延長されます。
6. 必要に応じて、音符の入力中に演奏技法のポップオーバーをもう一度開き、以下のいずれかのエントリーを入力すると開口型の演奏技法が停止します。
  - 現在の演奏技法を終了して別の演奏技法を入力するには、新しく演奏技法を入力します。たとえば、「vibrato」と入力します。これにより、現在の演奏技法と次の演奏技法が延長線で結合されます。

- 現在の演奏技法を終了して別の開口型の演奏技法を入力するには、その演奏技法に続けて「->」と入力します。たとえば、「vibrato->」と入力します。これにより、現在の演奏技法と次の演奏技法が延長線で結合されます。
- 別の演奏技法を入力せず現在の演奏技法を終了するには、ポップオーバーに「?」と入力します。これにより、延長線ではなくデュレーション線が付いた状態で現在の演奏技法が残ります。

---

#### 結果

指定した演奏技法が入力されます。初期設定では、これらは声部固有と見なされ、ステップ入力中にキャレットが表示されていた声部または既存の音符に演奏技法を追加するときを選択していた声部にのみ表示されます。これらは、符尾が上向きの声部では譜表の上に、符尾が下向きの声部では譜表の下に自動的に表示されます。

隣り合った演奏技法、つまり一緒にまたは連続して入力された演奏技法は自動的にグループ化されます。これは、演奏技法を音符の入力中に入力した場合も、既存の音符に追加した場合も同様です。

音符の入力中は、キャレットが伸びているすべての譜表のキャレットの位置に演奏技法が入力されます。デュレーションを持つ開口型の演奏技法が含まれている場合は、キャレットを進めるか音符を入力すると自動的に延長されます。

既存の楽譜に追加した演奏技法は、それぞれの再生効果と選択に応じて入力されます。

- 各譜表で1つのアイテムを選択した場合は、各譜表の対応する位置にデュレーションなしの演奏技法が入力されます。
- 各譜表でアイテムの範囲を選択し、アーティキュレーションのタイプが「**単音 (Attribute)**」の演奏技法を入力した場合、演奏技法はアイテムの入力位置の設定に応じて、選択範囲内の音符のみまたはあらゆるアイテムの位置に入力されます。
- 各譜表でアイテムの範囲を選択し、アーティキュレーションのタイプが「**持続 (Direction)**」の演奏技法を入力した場合、デュレーションのある演奏技法はアイテムの入力位置の設定に応じて、選択範囲内の音符のみまたはあらゆるアイテムにまたがるように入力されます。延長線タイプが線を表示するように設定されている演奏技法の場合は、適切な延長線タイプが表示されます。

#### 手順終了後の項目

- 演奏技法グループ内の演奏技法の移動、演奏技法の長さの変更、演奏技法のデュレーション線の表示/非表示を行なえます。
- 個々のインストゥルメントに声部の個別再生を有効にして、異なる演奏技法を異なる声部で同時に鳴らすこともできます。

#### 関連リンク

[演奏技法のグループ](#) (1548 ページ)

[演奏技法の延長線](#) (1542 ページ)

[演奏技法の表示/非表示](#) (1540 ページ)

[再生効果](#) (1046 ページ)

[「再生効果を編集 \(Edit Playback Techniques\)」ダイアログ](#) (1047 ページ)

[アイテムの長さの変更](#) (470 ページ)

[音符/アイテムの位置の移動](#) (502 ページ)

[キャレット](#) (242 ページ)

[手動でのキャレットの移動](#) (247 ページ)

[複数の譜表にキャレットを伸ばす](#) (246 ページ)

[アイテムの入力位置の設定を変更する](#) (237 ページ)

[声部の個別再生の有効化](#) (685 ページ)

[カスタムの演奏技法の作成](#) (982 ページ)

## パネルを使った演奏技法の入力

演奏技法パネルを使用して演奏技法を入力できます。音符の入力中に行なうことも、既存の楽譜に追加することもできます。



### 補足

- パネルを使用する場合、デュレーションを持つ演奏技法を連続で入力することはできません。連続で入力すると、それらの演奏技法は自動的にグループ化されます。デュレーションを持つ演奏技法を連続で入力したい場合は、ポップオーバーを使用します。
- タイのつながりの途中で演奏技法を入力するには、音符の入力を開始し、必要な位置にキャレットを移動します。
- 以下の手順は、環境設定でマウス入力のデフォルト設定が「**選択位置にアイテムを作成 (Create item at selection)**」に設定されている場合について説明します。同じ演奏技法を複数の場所に入力する場合は、マウス入力の環境設定を「**ポインターにアイテムを乗せる (Load pointer with item)**」に変更すると、音符ごとに演奏技法を選択しなおす必要がありません。

### 前提条件

入力するカスタムの演奏技法を作成しておきます。

### 手順

1. 記譜モードで、以下のいずれかの操作を行ないます。
  - 音符の入力を開始します。
  - 演奏技法を入力する位置にある各譜表上のアイテムを選択します。デュレーションを持つ演奏技法や音符ごとの個別の演奏技法を入力するには、必要なデュレーションにまたがるアイテムを選択します。
2. 記譜ツールボックスで「**パネル (Panels)**」をクリックし、「**演奏技法 (Playing Techniques)**」をクリックして演奏技法パネルを表示します。
3. 演奏技法パネルで、入力する演奏技法をクリックします。

### 結果

指定した演奏技法が入力されます。初期設定では、これは声部固有と見なされ、ステップ入力中にキャレットが表示されていた声部または既存の音符に演奏技法を追加するときに選択していた声部にのみ表示されます。これは、符尾が上向きの声部では譜表の上に、符尾が下向きの声部では譜表の下に自動的に表示されます。

音符の入力中は、環境設定を「**ポインターにアイテムを乗せる (Load pointer with item)**」に設定している場合でも、演奏技法がキャレットの位置に入力されます。

既存の楽譜に追加した演奏技法は、それぞれの再生効果と選択に応じて入力されます。

- 各譜表で1つのアイテムを選択した場合は、各譜表の対応する位置にデュレーションなしの演奏技法が入力されます。
- 各譜表でアイテムの範囲を選択し、アーティキュレーションのタイプが「**単音 (Attribute)**」の演奏技法を入力した場合、演奏技法はアイテムの入力位置の設定に応じて、選択範囲内の音符のみまたはあらゆるアイテムの位置に入力されます。
- 各譜表でアイテムの範囲を選択し、アーティキュレーションのタイプが「**持続 (Direction)**」の演奏技法を入力した場合、デュレーションのある演奏技法はアイテムの入力位置の設定に応じて、選択範囲内の音符のみまたはあらゆるアイテムにまたがるように入力されます。延長線タイプが線を表示するように設定されている演奏技法の場合は、適切な延長線タイプが表示されます。

### 手順終了後の項目

- 演奏技法の間に変移線を表示するには、演奏技法をグループ化します。

- 個々のインストゥルメントに声部の個別再生を有効にして、異なる演奏技法を異なる声部で同時に鳴らすこともできます。

関連リンク

[記譜ツールボックス \(224 ページ\)](#)

[マウス入力の設定の変更 \(235 ページ\)](#)

[再生効果 \(1046 ページ\)](#)

[「再生効果を編集 \(Edit Playback Techniques\)」ダイアログ \(1047 ページ\)](#)

[アイテムの入力位置の設定を変更する \(237 ページ\)](#)

[キャレット \(242 ページ\)](#)

[手動でのキャレットの移動 \(247 ページ\)](#)

[アイテムの長さの変更 \(470 ページ\)](#)

[演奏技法をグループ化する \(1549 ページ\)](#)



[声部の個別再生の有効化 \(685 ページ\)](#)

[カスタムの演奏技法の作成 \(982 ページ\)](#)

## ポップオーバーを使ったペダル線の入力

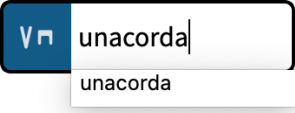
演奏技法のポップオーバーを使用してペダル線を入力できます。音符の入力中に行なうことも、既存の楽譜に追加することもできます。音符の入力中に音符を入力するとペダル線は自動的に延長されるため、適切な位置に到達したときにリテイクおよびペダルの強さの変更指示を入力することもできます。

手順


1. 記譜モードで、以下のいずれかの操作を行ないます。
  - 音符の入力を開始します。
  - ペダル線を入力する各譜表の、必要なデュレーションにまたがるアイテムを選択します。
2. 以下のいずれかの操作を行なって演奏技法のポップオーバーを開きます。
  - **[Shift]+[P]** を押します。
  - 記譜ツールボックスで「**ポップオーバー (Popovers)**」 をクリックし、「**演奏技法 (Playing Techniques)**」 をクリックします。
3. 使用するペダル線のエントリーをポップオーバーに入力します。

たとえば、サステインペダル線であれば「**ped**」と入力します。

演奏技法のポップオーバーにペダル線を入力しはじめると、入力した文字や単語が含まれる有効なペダル線がメニューに予測表示され、そこから使用するペダル線を選択できます。



The screenshot shows a dark blue button with a white icon (a square with a vertical line) and the text 'unacorda'. Below it, a white dropdown menu is open, displaying 'unacorda' in black text.
4. **[Return]** を押してポップオーバーを閉じます。

ペダル線が入力されます。
5. 必要に応じて、音符の入力中に以下のいずれかの操作を行ない、キャレットを前進させてペダル線を延長します。
  - **[Space]** を押します。
  - キーボードパネル、フレットボードパネル、またはドラムパッドパネルのツールバーで、「**キャレットを進める (Advance Caret)**」 をクリックします。

また、音符を続けて入力するとペダル線は自動的に延長されます。

- 必要に応じて、音符の入力中に適切な位置で演奏技法のポップオーバーをもう一度開き、入力するリテイクまたはペダルの強さの変更指示のエントリーをポップオーバーに入力してリテイクまたはペダルの強さの変更指示を入力します。  
たとえば、リテイクの場合は「^」または「**retake**」と入力します。
  - 必要に応じて、音符の入力中に演奏技法のポップオーバーをもう一度開き、適切なエントリーをポップオーバーに入力してペダル線を終了します。  
たとえば、サステインペダル線を終了するには「\*」と入力します。
  - [Return]** を押してポップオーバーを閉じます。
- 

#### 結果

音符の入力中は、キャレットの位置でペダル線が始まり、キャレットの位置で終了します。  
既存の楽譜に追加したペダル線は、アイテムの入力位置の設定に応じて、選択した各譜表上の音符のみまたはあらゆるアイテムのデュレーションにまたがるように入力されます。

#### 補足

リテイクおよび強さの変更指示は、延長線タイプが「**ライン (Line)**」のサステインペダル線にのみ表示されます。

---

#### 手順終了後の項目

たとえば、終端の記号を表示するなど、個々のペダル線に使用される延長タイプを変更できます。

#### 関連リンク

- [サステインペダルのリテイクおよびペダルの強さの変更指示 \(1517 ページ\)](#)
- [ペダル線の位置 \(1523 ページ\)](#)
- [ペダル線の延長タイプを変更する \(1529 ページ\)](#)
- [アイテムの入力位置の設定を変更する \(237 ページ\)](#)
- [音符の入力 \(248 ページ\)](#)
- [記譜ツールボックス \(224 ページ\)](#)
- [キーボードパネル \(229 ページ\)](#)
- [フレットボードパネル \(231 ページ\)](#)
- [ドラムパッドパネル \(233 ページ\)](#)

## ポップオーバーを使ってリテイクとペダルの強さの変更指示を追加する

演奏技法のポップオーバーを使用して、リテイクとペダルの強さの変更指示をサステインペダル線に追加できます。音符の入力中に行なうことも、既存の楽譜に追加することもできます。

#### 補足

ソステヌートまたはウナコルダのペダル線にはリテイクおよびペダルの強さの変更指示を追加できません。リテイクおよびペダルの強さの変更指示は、延長線タイプが「**ライン (Line)**」のサステインペダル線にのみ表示されます。

---

#### 前提条件



サステインペダル線を入力しておきます。

---

#### 手順

- 記譜モードで、以下のいずれかの操作を行ないます。
  - 音符の入力を開始します。



- リテイクまたはペダルの強さの変更指示を入力する位置にある各譜表上のアイテムを選択します。
2. 音符の入力中に、複数の譜表に音符や記譜記号を入力する場合は、それらの譜表にキャレットを伸ばします。
  3. 以下のいずれかの操作を行なって演奏技法のポップオーバーを開きます。
    - **[Shift]+[P]** を押します。
    - 記譜ツールボックスで「ポップオーバー (Popovers)」 をクリックし、「演奏技法 (Playing Techniques)」 をクリックします。
  4. 任意のリテイクまたはペダルの強さの変更指示に対応する文字列をポップオーバーに入力します。たとえば、リテイクの場合は「^」または「retake」と入力し、ペダルの強さを 1/2 に変更するには「1/2」と入力します。
  5. **[Return]** を押してポップオーバーを閉じます。

#### 結果

音符の入力中は、キャレットが伸びているすべての譜表のキャレットの位置にリテイクとペダルの強さの変更指示が入力されます。

音符入力中ではない場合、選択した各譜表の選択した位置にリテイクとペダルの強さの変更指示が入力されます。

#### ヒント

リテイクとペダルの強さの変更指示は、サスティンペダル線の範囲内の音符を選択し、「編集 (Edit)」>「記譜 (Notations)」>「ペダル線 (Pedal Lines)」>「リテイクまたはペダルの強さの変更指示」を選択して入力することもできます。このオプションはコンテキストメニューでも選択できます。

#### 関連リンク

- [サスティンペダルのリテイクおよびペダルの強さの変更指示 \(1517 ページ\)](#)
- [演奏技法のポップオーバー \(399 ページ\)](#)
- [ペダル線の延長タイプを変更する \(1529 ページ\)](#)
- [手動でのキャレットの移動 \(247 ページ\)](#)
- [リテイクとペダルの強さの変更指示の削除 \(1522 ページ\)](#)

## パネルを使ったペダル線の入力

演奏技法パネルを使用してペダル線を入力できます。

#### 補足

- このパネルを使用する場合、音符の入力中にペダル線を入力することはできません。
- 以下の手順は、環境設定でマウス入力のデフォルト設定が「**選択位置にアイテムを作成 (Create item at selection)**」に設定されている場合について説明します。

#### 手順

1. 記譜モードで、ペダル線を入力する各譜表の、必要なデュレーションにまたがるアイテムを選択します。
2. 記譜ツールボックスで「パネル (Panels)」 をクリックし、「演奏技法 (Playing Techniques)」 をクリックして演奏技法パネルを表示します。
3. 演奏技法パネルで、「キーボード (Keyboard)」セクションを展開します。

#### 4. 入力するペダル線をクリックします。

---

##### 結果

既存の楽譜に追加したペダル線は、アイテムの入力位置の設定に応じて、選択した各譜表上の音符のみまたはあらゆるアイテムのデュレーションにまたがるように入力されます。

##### ヒント

または、何も選択していない状態で、演奏技法パネルの「**キーボード (Keyboard)**」セクションで入力するペダル線をクリックし、楽譜領域内でクリックアンドドラッグすると任意の長さのペダル線を入力できます。

---

##### 手順終了後の項目

- たとえば、終端の記号を表示するなど、個々のペダル線に使用される延長タイプを変更できます。
- サスティンペダル線の範囲内でリテイクとペダルの強さの変更指示を追加できます。

##### 補足

リテイクおよび強さの変更指示は、延長線タイプが「**ライン (Line)**」のサスティンペダル線にのみ表示されます。

---

##### 関連リンク

[演奏技法パネル \(402 ページ\)](#)

[サスティンペダルのリテイクおよびペダルの強さの変更指示 \(1517 ページ\)](#)

[アイテムの入力位置の設定を変更する \(237 ページ\)](#)

[ペダル線の延長タイプを変更する \(1529 ページ\)](#)

[マウス入力の設定の変更 \(235 ページ\)](#)

## パネルを使ってリテイクとペダルの強さの変更指示を追加する

演奏技法パネルを使用して、既存のサスティンペダル線にリテイクやペダルの強さの変更指示を追加できます。

##### 補足

ソステヌートまたはウナコルダのペダル線にはリテイクおよびペダルの強さの変更指示を追加できません。リテイクおよびペダルの強さの変更指示は、延長線タイプが「**ライン (Line)**」のサスティンペダル線にのみ表示されます。

---

##### 前提条件

サスティンペダル線を入力しておきます。

---

##### 手順

1. 記譜モードで、リテイクまたはペダルの強さの変更指示を入力する位置にある各譜表上のアイテムを選択します。
  2. 記譜ツールボックスで「**パネル (Panels)**」をクリックし、「**演奏技法 (Playing Techniques)**」をクリックして演奏技法パネルを表示します。
  3. 演奏技法パネルで、「**キーボード (Keyboard)**」セクションを展開します。
  4. 入力するリテイクまたはペダルの強さの変更指示をクリックします。
-

#### 結果

選択した各譜表の選択した位置にリテイクまたはペダルの強さの変更指示が入力されます。

#### ヒント

- または、楽譜領域で何も選択されていない場合は、演奏技法パネルの「**キーボード (Keyboard)**」セクションでリテイクまたはペダルの強さの変更指示をクリックしてから楽譜領域内の位置をクリックすることで、それを入力できます。
- リテイクとペダルの強さの変更指示は、サスティンペダル線の範囲内の音符を選択し、「**編集 (Edit)**」 > 「**記譜 (Notations)**」 > 「**ペダル線 (Pedal Lines)**」 > 「**リテイクまたはペダルの強さの変更指示**」を選択して入力することもできます。このオプションはコンテキストメニューでも選択できます。

#### 関連リンク

[サスティンペダルのリテイクおよびペダルの強さの変更指示 \(1517 ページ\)](#)

[演奏技法パネル \(402 ページ\)](#)

[ペダル線の延長タイプを変更する \(1529 ページ\)](#)



[リテイクとペダルの強さの変更指示の削除 \(1522 ページ\)](#)

## ポップオーバーを使ったハープペダルダイアグラムの入力

演奏技法のポップオーバーを使用してハープペダルダイアグラムを入力できます。音符の入力中に行なうことも、既存の楽譜に追加することもできます。

ハープのペダリングを入力しなかった場合、すべてのハープペダルはナチュラル設定と見なされ、Cメジャーになります。範囲外の音符に色を表示した場合、ハープの現在のペダリングに一致しないピッチ (最も低い2本の弦を除く) は赤で表示されます。

#### 手順

1. 記譜モードで、以下のいずれかの操作を行ないます。
  - ハープの譜表で音符の入力を開始します。
  - ハープの譜表でハープペダルダイアグラムを入力する位置にあるアイテムを選択します。
2. 以下のいずれかの操作を行なって演奏技法のポップオーバーを開きます。
  - **[Shift]+[P]** を押します。
  - 記譜ツールボックスで「**ポップオーバー (Popovers)**」  をクリックし、「**演奏技法 (Playing Techniques)**」  をクリックします。
3. 使用するハープペダルのエントリーを入力します。

例:

  - AメジャーなどでC♯、F♯、G♯のペダルを使用する場合は「**C♯F♯G♯**」または「**-v-|-vv-**」。
  - B♭メジャーなどでB♭とE♭のペダルを使用する場合は「**B♭E♭**」または「**--^|^---**」。
4. **[Return]** を押してポップオーバーを閉じます。

#### 結果

対応するハープペダルダイアグラムが選択した位置に入力されます。音符名を使用したダイアグラムとして表示されるか、ダイアグラムのかわりにガイドが表示されるかはレイアウトごとの設定によって決まります。

音符の入力中は、キャレットの位置にハープペダルダイアグラムが入力されます。

関連リンク

[演奏技法のポップオーバー \(399 ページ\)](#)

[ハープのペダリング \(1506 ページ\)](#)

[レイアウト内のハープのペダリングを表示または非表示にする \(1509 ページ\)](#)

[ハープペダルダイアグラムの外観の変更 \(1507 ページ\)](#)

[音域外の音符のカラーを表示/非表示にする \(1403 ページ\)](#)

[ガイド \(490 ページ\)](#)

## パネルを使ったハープペダルダイアグラムの入力

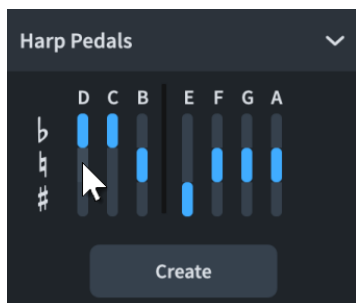
演奏技法パネルを使用してハープペダルダイアグラムを入力できます。

### 補足

- 音符の入力中にパネルを使ってハープペダルダイアグラムを入力することはできません。
- 以下の手順は、環境設定でマウス入力のデフォルト設定が「**選択位置にアイテムを作成 (Create item at selection)**」に設定されている場合について説明します。

### 手順

1. 記譜モードで、ハープの譜表のハープペダルダイアグラムを入力する位置にあるアイテムを選択します。
2. 記譜ツールボックスで「**パネル (Panels)**」をクリックし、「**演奏技法 (Playing Techniques)**」をクリックして演奏技法パネルを表示します。
3. 演奏技法パネルで、「**ハープペダル (Harp Pedals)**」セクションを展開します。
4. 各ペダルについて、左側の臨時記号で表わされている、必要なピッチオルタレーションに対応する列のセクションをクリックします。



5. 「**作成 (Create)**」をクリックします。

### 結果

対応するハープペダルダイアグラムが選択した位置に入力されます。音符名を使用したダイアグラムとして表示されるか、ダイアグラムのかわりにガイドが表示されるかはレイアウトごとの設定によって決まります。

関連リンク

[演奏技法パネル \(402 ページ\)](#)

[ハープのペダリング \(1506 ページ\)](#)

[レイアウト内のハープのペダリングを表示または非表示にする \(1509 ページ\)](#)

[ハープペダルダイアグラムの外観の変更 \(1507 ページ\)](#)

[音域外の音符のカラーを表示/非表示にする \(1403 ページ\)](#)

[ガイド \(490 ページ\)](#)

## 既存の楽譜に基づくハーブペダルダイアグラムの計算

すでに入力されている音符に基づいて適切なハーブペダルダイアグラムを自動的に計算できます。これは、単一のポイント以降、または選択した領域内のいずれかに対して実行できます。

ハーブのペダリングを入力しなかった場合、すべてのハーブペダルはナチュラル設定と見なされ、Cメジャーになります。範囲外の音符に色を表示した場合、ハーブの現在のペダリングに一致しないピッチ (最も低い2本の弦を除く) は赤で表示されます。

### 手順

1. 記譜モードで以下のいずれかの操作を行なって、ハーブのペダリングの計算に使用する領域を選択します。
  - ハーブのペダリングの計算を始める既存の単一の音符を選択します。
  - ハーブのペダリングを計算する音符の範囲を選択します。

### 補足

Dorico Pro では、ハーブのペダリングを計算する際に、ハーブの最も低い2本の弦 (C と D) は無視されます。

2. 「記譜 (Write)」 > 「ハーブペダルを解析 (Calculate Harp Pedals)」を選択します。

### 結果

選択部分の最初にハーブペダルダイアグラムが入力されます。音符名を使用したダイアグラムとして表示されるか、ダイアグラムのかわりにガイドが表示されるかはレイアウトごとの設定によって決まります。



### 関連リンク

[音符からコード記号を生成する \(355 ページ\)](#)


## ポップオーバーを使用して譜表の外側に弦の指示記号を入力する

演奏技法のポップオーバーを使用して、譜表の外側に弦の指示記号を入力できます。音符の入力中に行なうことも、既存の楽譜に追加することもできます。

### 手順

1. 記譜モードで、以下のいずれかの操作を行ないます。
  - 音符の入力を開始します。
  - 譜表の外側の弦の指示記号を入力する位置にある各譜表上のアイテムを選択します。デュレーション線の付いた弦の指示記号を入力するには、必要なデュレーションにまたがるアイテムを選択します。
2. 音符の入力中に、複数の譜表に音符や記譜記号を入力する場合は、それらの譜表にキュレットを伸ばします。
3. 以下のいずれかの操作を行なって演奏技法のポップオーバーを開きます。
  - **[Shift]+[P]** を押します。
  - 記譜ツールボックスで「ポップオーバー (Popovers)」 をクリックし、「演奏技法 (Playing Techniques)」 をクリックします。
4. 使用する弦の指示記号のエントリーをポップオーバーに入力します。

たとえば、単に1弦の指示記号を入力するには「**string1**」と入力し、デュレーションを持つ3弦の指示記号を入力するには「**string3->**」と入力します。

5. **[Return]** を押してポップオーバーを閉じます。  
「string3->」のような開口型の弦の指示記号は、音符の入力中に音符の入力を続けるか、**[Space]** を押したり、キーボードパネル、フレットボードパネル、またはドラムパッドパネルのツールバーで「**キャレットを進める (Advance Caret)**」 をクリックしたりしてキャレットを進めると、自動的に延長されます。
6. 必要に応じて、音符の入力中に演奏技法のポップオーバーをもう一度開き、ポップオーバーに **[?]** と入力すると開口型の弦の指示記号が停止します。  
これにより、デュレーション線が付いた状態で現在の弦の指示記号が残ります。ポップオーバーに別の弦の指示記号を入力することもできますが、そうすると現在の弦の指示記号と次の弦の指示記号がデュレーション線ではなく延長線で結合されます。これは一般的な記譜方法ではありません。

#### 結果

指定した弦の指示記号が入力されます。初期設定では、これらは声部固有と見なされ、ステップ入力中にキャレットが表示されていた声部または既存の音符に弦の指示記号を追加するときに選択していた声部にのみ表示されます。これらは、符尾が上向きの声部では譜表の上に、符尾が下向きの声部では譜表の下に自動的に表示されます。

音符の入力中は、キャレットが伸びているすべての譜表のキャレットの位置に弦の指示記号が入力されます。デュレーションを持つ開口型の弦の指示記号が含まれている場合は、キャレットを進めるか音符を入力すると自動的に延長されます。

既存の楽譜に追加した弦の指示記号は、アイテムの入力位置の設定に応じて、選択した各譜表上の音符のみまたはあらゆるアイテムの位置またはデュレーションにまたがるように入力されます。デュレーションを持つ弦の指示記号は、初期設定で終端にフックのキャップが付いた破線によるデュレーション線に表示されます。

#### 手順終了後の項目

- デュレーションのない弦の指示記号を入力したあとに破線のデュレーション線を表示する場合は、あとから追加できます。
- 弦の指示記号の譜表に対する位置を変更できます。

#### 関連リンク

- [演奏技法のポップオーバー \(399 ページ\)](#)
- [弦の指示記号 \(1313 ページ\)](#)
- [アイテムの長さの変更 \(470 ページ\)](#)
- [アイテムの入力位置の設定を変更する \(237 ページ\)](#)
- [複数の譜表にキャレットを伸ばす \(246 ページ\)](#)
- [譜表に対するアイテムの位置の変更 \(474 ページ\)](#)
- [記譜ツールボックス \(224 ページ\)](#)
- [キーボードパネル \(229 ページ\)](#)
- [フレットボードパネル \(231 ページ\)](#)
- [ドラムパッドパネル \(233 ページ\)](#)

## パネルを使用して譜表の外側に弦の指示記号を入力する



演奏技法パネルを使用して、譜表の外側に弦の指示記号を入力できます。音符の入力中に行なうことも、既存の楽譜に追加することもできます。

#### 補足

- 音符の入力中にパネルを使用してデュレーションを持つ弦の指示記号を入力することはできません。この操作はポップオーバーからのみ行なえます。
- 以下の手順は、環境設定でマウス入力のデフォルト設定が「**選択位置にアイテムを作成 (Create item at selection)**」に設定されている場合について説明します。同じ弦の指示記号を複数の場所

に入力する場合は、マウス入力的环境設定を「**ポインターにアイテムを乗せる (Load pointer with item)**」に変更すると、音符ごとに弦の指示記号を選択しなおす必要がありません。

#### 手順

1. 記譜モードで、以下のいずれかの操作を行ないます。
  - 音符の入力を開始します。
  - 譜表の外側の弦の指示記号を入力する位置にある各譜表上のアイテムを選択します。デュレーション線の付いた弦の指示記号を入力するには、必要なデュレーションにまたがるアイテムを選択します。
2. 記譜ツールボックスで「**パネル (Panels)**」をクリックし、「**演奏技法 (Playing Techniques)**」をクリックして演奏技法パネルを表示します。
3. 演奏技法パネルで、「**ギター (Guitar)**」セクションを展開します。
4. 入力する弦の指示記号をクリックします。

#### 結果

指定した弦の指示記号が入力されます。初期設定では、これは声部固有と見なされ、ステップ入力中にキャレットが表示されていた声部または既存の音符に弦の指示記号を追加するときに選択していた声部にのみ表示されます。これは、符尾が上向きの声部では譜表の上に、符尾が下向きの声部では譜表の下に自動的に表示されます。

音符の入力中は、環境設定を「**ポインターにアイテムを乗せる (Load pointer with item)**」に設定している場合でも、弦の指示記号がキャレットの位置に入力されます。

既存の楽譜に追加した弦の指示記号は、アイテムの入力位置の設定に応じて、選択した各譜表上の音符のみまたはあらゆるアイテムの位置またはデュレーションにまたがるように入力されます。デュレーションを持つ弦の指示記号は、初期設定で終端にフックのキャップが付いた破線によるデュレーション線が表示されます。

#### 手順終了後の項目

- デュレーションのない弦の指示記号を入力したあとに破線のデュレーション線を表示する場合は、あとから追加できます。
- 弦の指示記号の譜表に対する位置を変更できます。

#### 関連リンク

[演奏技法パネル \(402 ページ\)](#)

[マウス入力の設定の変更 \(235 ページ\)](#)


## 譜表の内側に弦の指示記号を入力する


フレット楽器の各音符について、譜表の内側に弦の指示記号を表示できます。この操作は現在のレイアウトとフレームチェーンのみに対して、もしくはすべてのレイアウトとフレームチェーンに対して行なえます。各ピッチを演奏できる弦は自動的に検出されますが、弦を手動で指定することもできます。

#### 補足

これらの手順は、フレット楽器の音符にのみ適用されます。

#### 前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。
- 下ゾーンのツールバーで「**プロパティ (Properties)**」を選択しておきます。

- 浄書モードの場合は、浄書ツールボックスで「**グラフィックの編集 (Graphic Editing)**」を選択しておきます。
- ローカルのプロパティ変更に関して、適切なプロパティ範囲を選択しておきます。

---

#### 手順

1. 横に弦の指示記号を表示する、フレット楽器に属する音符を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「**弦の指示記号 (String Indicators)**」グループで、「**表示 (Show)**」をオンにします。

---

#### 結果

譜表の内側の、選択した音符の横に弦の指示記号が表示されます。プロパティ範囲を「**ローカル (Locally)**」に設定している場合、この変更は現在のレイアウトおよびフレームチェーンのみに影響します。

音符ごとに弦を指定していない限り、弦の指示記号に表示される弦番号は自動的に計算されます。譜表の内側の開放弦の指示記号は、丸の囲み線のない太字の数字0として表示されます。

初期設定では、左手のフィンガリングがない場合には弦の指示記号が符頭の左側に表示され、左手のフィンガリングがある場合には符頭の右側に表示されます。

#### 手順終了後の項目

- 音符を演奏する弦を指定できます。これは、対応する弦の指示記号に表示される番号に影響しません。
- 符頭に対する弦の指示記号の位置を変更できます。
- 開放弦の指示記号のデフォルトの外観を変更できます。

#### 関連リンク

[弦の指示記号 \(1313 ページ\)](#)

[フレット楽器のフィンガリング \(1299 ページ\)](#)

[フレット楽器のチューニング \(168 ページ\)](#)

[弦への音符の割り当て \(1397 ページ\)](#)

[符頭に対する弦の指示記号の位置を変更する \(1317 ページ\)](#)

[開放弦の指示記号の外観を変更する \(1314 ページ\)](#)

[浄書ツールボックス \(554 ページ\)](#)

[プロパティ範囲の変更 \(828 ページ\)](#)

[プロパティ設定を別のレイアウト/フレームチェーンにコピーする \(825 ページ\)](#)

## ラインの入力方法

横棒線と垂直線は、どちらもラインパネルを使用して入力できます。ライン用のポップオーバーはありません。

#### ヒント

再生に影響する固有の記譜記号を表わすラインを入力したい場合は、かわりにこれらの記譜記号を直接入力できます。たとえば、強弱記号、アルペジオ、グリッサンド、トリルはすべて専用の機能が Dorico Pro に用意されています。

---

#### 関連リンク

[ライン \(1551 ページ\)](#)

[強弱記号の入力方法 \(337 ページ\)](#)



[装飾音、アルペジオ記号、グリッサンドライン、ジャズアーティキュレーションの入力方法 \(370 ページ\)](#)

[演奏技法、ペダル線、弦の指示記号、ハーブペダルダイアグラムの入力方法 \(398 ページ\)](#)

[音部記号とオクターブ線の入力方法 \(358 ページ\)](#)

[テンポ記号の入力方法 \(320 ページ\)](#)

[リピートとトレモロの入力方法 \(438 ページ\)](#)

## ラインパネル

ラインパネルには、Dorico Pro で使用できるさまざまなラインが含まれています。これは記譜モードの右ゾーンに配置されています。

- 記譜ツールボックスで「**パネル (Panels)**」をクリックしたあとに、「**ライン (Lines)**」をクリックすることで、ラインパネルの表示/非表示を切り替えられます。

**[Ctrl]/[command]+[9]** を押して右ゾーンの表示/非表示を切り替えることもできます。

ラインパネルには以下のセクションがあります。

### 水平 (Horizontal)

使用できるさまざまな横棒線が含まれています。このセクションの上部のオプションを使用すると、それ以降に入力する横棒線の始めと終わりの連結の種類を設定できます。

横棒線は符頭、小節線、または位置に連結でき、始めと終わりには異なる連結の種類を設定できます。



### 垂直 (Vertical)

使用できるさまざまな垂直線が含まれています。

関連リンク

[記譜ツールボックス \(224 ページ\)](#)

[ライン \(1551 ページ\)](#)

[ラインの構成要素 \(1553 ページ\)](#)

[カスタムライン \(984 ページ\)](#)

## 横棒線の入力

ラインパネルを使用して、既存の音符間に横棒線を入力したり指定したデュレーションにかかるように横棒線を入力したりできます。横棒線は符頭、小節線、または位置に連結でき、開始位置と終了位置にはそれぞれ異なる種類の連結を設定できます。

すべての譜表に適用される、小節線または位置に連結されたラインを入力することもできます。

### 補足

- 横棒線を入力したあとに連結の種類を変更することはできません。
- 符頭に連結された横棒線を入力してグリッサンドを表わしたい場合は、かわりにグリッサンドラインを直接入力できます。
- 以下の手順は、環境設定でマウス入力のデフォルト設定が「**選択位置にアイテムを作成 (Create item at selection)**」に設定されている場合について説明します。

前提条件






入力するカスタムの横棒線を作成しておきます。

## 手順

1. 記譜モードで、以下のいずれかを選択します。
  - 符頭に連結されたラインを入力するには、ラインで連結する音符を選択します。
  - 小節線または位置に連結されたラインを入力するには、入力するラインに必要なデュレーションにまたがるアイテムを選択します。
  - 一方の端が符頭に連結され、もう一方の端が小節線または位置に連結された横棒線を入力するには、連結先の音符と、もう一方の端の位置にある任意のアイテムを選択します。

## ヒント

選択した複数の譜表に横棒線を同時に入力できます。ただし、符頭に連結されたラインで結合できるのは同じプレイヤーに属する音符だけです (これらの音符は同じ声部または譜表上にある必要はありません)。

2. 記譜ツールボックスで「パネル (Panels)」をクリックしたあとに、「ライン (Lines)」をクリックして、ラインパネルを表示します。
3. 「水平 (Horizontal)」のセクションの「開始 (Start)」と「終了 (End)」で、以下のいずれかのオプションを選択します。
  - 符頭に配置 (Attach to notehead) 
  - 小節線に配置 (利用可能な場合) (Attach to barline (where available)) 
  - リズムの位置に配置 (Attach to rhythmic position) 
4. 以下のいずれかの操作を行なって、指定した連結のラインを入力します。
  - 符頭に連結されたライン、あるいは小節線または位置に連結されたラインを選択した譜表だけに入力するには、「水平 (Horizontal)」セクションでそのラインをクリックします。
  - すべての譜表に適用される小節線または位置に連結されたラインを入力するには、**[Alt/Opt]** を押しながら「水平 (Horizontal)」セクションでそのラインをクリックします。

## 結果

指定した連結の横棒線が入力されます。横棒線は、連結の種類と位置に応じて配置されます。

小節線または位置に連結されたラインは、アイテムの入力位置の設定に応じて、選択した各譜表上の音符のみまたはあらゆるアイテムのデュレーションにまたがるように入力されます。

すべての譜表に適用される横棒線は組段オブジェクトに分類されます。そのため、これらのラインは組段オブジェクトの表示と配置に関するレイアウトごとの設定に従います。

## 手順終了後の項目

- 小節線または位置に連結されたラインの配置と譜表上の位置を変更できます。
- ラインにテキストを追加できます。

## 関連リンク

[記譜ツールボックス \(224 ページ\)](#)

[ライン \(1551 ページ\)](#)

[カスタムラインの作成 \(984 ページ\)](#)

[ラインの位置 \(1554 ページ\)](#)

[ラインの長さ \(1560 ページ\)](#)

[組段オブジェクト \(1717 ページ\)](#)

[組段オブジェクトの位置の変更 \(1718 ページ\)](#)

[ラインへのテキストの追加 \(1565 ページ\)](#)

[横棒線の配置の変更 \(1558 ページ\)](#)

[ポップオーバーを使ったグリッサンドラインの入力 \(380 ページ\)](#)

[アイテムの入力位置の設定を変更する](#) (237 ページ)

## 垂直線の入力

ラインパネルを使用して、既存の音符に垂直線を入力できます。複数の声部の音符や、ピアノやハーブといった同じインストゥルメントに属する異なる譜表上の音符にかかるように入力することもできます。

### 補足

- 垂直線を入力してアルペジオを表わしたい場合は、かわりにアルペジオ記号を直接入力できます。
- 以下の手順は、環境設定でマウス入力のデフォルト設定が「**選択位置にアイテムを作成 (Create item at selection)**」に設定されている場合について説明します。環境設定を「**ポインターにアイテムを乗せる (Load pointer with item)**」に設定している場合、譜表および声部をまたぐ垂直線は作成できません。



### 前提条件

入力するカスタムの垂直線を作成しておきます。

### 手順

1. 記譜モードで、垂直線を追加する声部ごとに、音符を少なくとも1つ選択します。

### 補足

- ピアノやハーブなど、複数の譜表を使用するインストゥルメントでは、複数の譜表にある音符を選択して、譜表をまたぐ垂直線を作成できます。ただし、たとえそれらのインストゥルメントが同じプレイヤーに割り振られていても、異なるインストゥルメント間で譜表をまたぐ垂直線を作成することはできません。
  - 選択した声部の選択した位置にあるすべての音符に垂直線が追加されます。
2. 記譜ツールボックスで「**パネル (Panels)**」をクリックしたあとに、「**ライン (Lines)**」をクリックして、ラインパネルを表示します。
  3. 「**垂直 (Vertical)**」セクションで、入力するラインをクリックします。

### 結果

選択した音符の左側に、指定した垂直線が入力されます。垂直線の長さは、選択した声部または譜表のその位置にあるすべての音符の範囲全体にかかるように自動的に調整されます。

### 手順終了後の項目

- 同じ位置に複数のラインがある場合にラインの順序を変更したり、垂直線を音符の右側に表示したりできます。
- 垂直線の長さを変更できます。
- ラインにテキストを追加できます。

### 関連リンク

[記譜ツールボックス](#) (224 ページ)

[ライン](#) (1551 ページ)

[カスタムラインの作成](#) (984 ページ)

[ラインの長さ](#) (1560 ページ)

[垂直線の長さの変更](#) (1561 ページ)

[ラインへのテキストの追加](#) (1565 ページ)

[垂直線を音符の右または左に表示する](#) (1555 ページ)

[垂直線の水平方向の順序を変更する](#) (1556 ページ)

[ポップオーバーを使ったアルペジオ記号の入力 \(378 ページ\)](#)

[マウス入力の設定の変更 \(235 ページ\)](#)



## テキストアイテムの入力

テキストアイテムを使用して、スコア上の特定の位置にテキストを入力できます。1つの譜表のために譜表に付くテキストを入力することも、すべての譜表に適用される組段に付くテキストを入力して、該当するすべてのレイアウトに表示することもできます。

### ヒント

譜表上の位置とは関係なく、特定のページに付くテキストを挿入したい場合は、テキストフレームを使用できます。

### 手順

1. 記譜モードで、以下のいずれかの操作を行ないます。
  - 音符の入力を開始します。
  - テキストを入力する位置にある譜表上のアイテムを選択します。
2. 以下のいずれかの操作を行なってテキストエディターを開きます。
  - 譜表に付くテキストを入力するには、**[Shift]+[X]** を押すか、記譜ツールボックスの「ポップオーバー (Popovers)」 をクリックしたあとに、「テキスト (Text)」 をクリックします。
  - 特定のパラグラフスタイルを適用した譜表に付くテキストを入力するには、「記譜 (Write)」 > 「テキストを作成 (Create Text)」 > 「パラグラフスタイル」を選択します。
  - 組段に付くテキストを入力するには、**[Shift]+[Alt/Opt]+[X]** を押します。
  - 特定のパラグラフスタイルを適用した組段に付くテキストを入力するには、「記譜 (Write)」 > 「組段テキストを作成 (Create System Text)」 > 「パラグラフスタイル」を選択します。
3. 任意のテキストを入力します。
  - ライン区切りを挿入するには、**[Return]** を押します。
  - 音楽記号を挿入するには、テキストアイテムを右クリックして、コンテキストメニューから「音楽テキストを挿入 (Insert Music Text)」を選択し、「音楽テキストを挿入 (Insert Music Text)」ダイアログを開きます。挿入する音楽記号を選択して「OK」をクリックします。
  - Unicode 文字を挿入するには、4文字の16進数コードを入力して、**[Alt/Opt]+[X]** を押します。
4. 必要に応じて、テキストエディターオプションを使用してテキストの形式設定を行ないます。
5. **[Esc]** または **[Ctrl]/[command]+[Return]** を押してテキストエディターを閉じます。

### 結果

音符の入力中は、テキストエディターに入力したテキストがキャレットの位置に入力されます。既存の楽譜にテキストを追加した場合は、最初に選択したアイテムの位置にテキストが入力されます。

パラグラフスタイルの変更や指定を行なわなかった場合、テキストアイテムには「デフォルトのテキスト (Default Text)」のパラグラフスタイルが使用されます。

テキストアイテムは、そのアイテムが適用される譜表の上に自動的に配置され、テキストの垂直位置はプロジェクト全体の設定に従います。

### 補足

- Dorico Pro では、組段に付くテキストは組段オブジェクトに分類されます。そのため、組段に付くテキストは組段オブジェクトの表示と配置に関するレイアウトごとの設定に従います。

- 個々のテキストアイテムやテキストフレームのテキストの段落スタイルを上書きした場合（テキストを太字にするなど）、段落スタイルの対応するパラメーターにあとから加える変更は上書きされたテキストには適用されません。ただし、フォントサイズの上書きは段落スタイルのフォントサイズと結合されます。
- 譜表とその他のアイテムの外側のすべてのテキストアイテムのデフォルトの位置、およびテキストアイテムの衝突をデフォルトで回避するかどうかは、「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**テキスト (Text)**」ページで変更できます。
- 「**環境設定 (Preferences)**」の「**キーボードショートカット (Key Commands)**」ページで、「**テキストを作成 (Create Text)**」と「**組段テキストを作成 (Create System Text)**」（特定の段落スタイルを適用したテキストを入力するためのオプション）にキーボードショートカットを割り当てることができます。

#### 関連リンク

[記譜ツールボックス \(224 ページ\)](#)

[譜表に対するアイテムの位置の変更 \(474 ページ\)](#)

[テキストのタイプ \(1764 ページ\)](#)

[テキストアイテム \(1763 ページ\)](#)

[組段オブジェクト \(1717 ページ\)](#)

[テキストの形式設定 \(929 ページ\)](#)

[テキストフレーム \(616 ページ\)](#)

[「段落スタイル \(Paragraph Styles\)」ダイアログ \(932 ページ\)](#)

[「浄書オプション \(Engraving Options\)」ダイアログ \(923 ページ\)](#)

[「環境設定 \(Preferences\)」ダイアログの「キーボードショートカット \(Key Commands\)」ページ \(64 ページ\)](#)

## 記譜モードのテキストエディターオプション

テキストエディターを使用すると、テキストの追加や形式設定を行なえます。記譜モードでは、テキストアイテムの追加または編集を行なうときにテキストエディターが開きます。



テキストエディターには以下のオプションがあります。

### 1 文字スタイル (Character Style)

段落内の選択したテキストの外観を変更できます。該当の段落に適用されている段落スタイルより優先されます。

### 2 段落スタイル (Paragraph Style)

テキストアイテム全体に適用されている段落スタイルを変更できます。段落スタイルの種類に応じて、テキストの外観、書式、または配置を変更できます。

### 3 フォント (Font)

選択したテキストのフォントファミリーを変更できます。

### 4 フォントスタイル (Font Style)

選択したテキストのフォントスタイルを変更できます。

#### 補足

- 選択したフォントによっては、一部のフォントスタイルを使用できない場合があります。

- フォントスタイルは、以下の標準キーボードショートカットを使用して変更することもできます。
    - 太字は **[Ctrl]/[command]+[B]**
    - 斜体は **[Ctrl]/[command]+[I]**
- 

## 5 フォントサイズ (Font Size)

選択したテキストのサイズを変更できます。

### ヒント

フォントサイズは、以下のキーボードショートカットを使用して変更することもできます。

- **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[.]:** フォントサイズを大きくする
  - **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[,]:** フォントサイズを小さくする
- 

## 6 フォント幅 (Font Stretch)

選択したテキストの幅を広げたり狭めたりできます。

## 7 ベースラインの移動 (Baseline Shift)

選択したテキストのベースラインを上下に少しずつ移動できます。

## 8 文字のスペーシング (Letter Spacing)

選択したテキストの文字間のスペーシングを広げたり狭めたりできます。

## 9 単語のスペーシング (Word Spacing)

選択したテキストの単語間のスペーシングを広げたり狭めたりできます。

## 10 行間 (Leading)

テキストアイテム全体のラインのスペーシングを広げたり狭めたりできます。

## 11 線のタイプ

選択したテキストに、以下のタイプの線を組み合わせて付けられます。

- 下線 (Underline)
- 上線 (Overline)
- 取り消し線 (Strikethrough)

### ヒント

**[Ctrl]/[command]+[U]** を押すことで選択したテキストに下線を付けることもできます。

---

## 12 上付き/下付き

選択したテキストを、ベースラインに対して以下のいずれかの位置に配置できます。

- 上付き (Superscript)
- 下付き (Subscript)

## 13 配置 (Alignment)

その位置に対するテキストアイテムの配置を以下のいずれかから選択できます。

- 左揃え (Align Left)
- 中央揃え (Align Center)
- 右揃え (Align Right)

## 14 文字色 (Foreground Color)

選択したテキストの色を変更できます。

## 15 背景色 (Background Color)

選択したテキストの背景色を変更できます。

#### 補足

個々のテキストアイテムやテキストフレームのテキストのパラグラフスタイルを上書きした場合 (テキストを太字にするなど)、パラグラフスタイルの対応するパラメーターにあとから加える変更は上書きされたテキストには適用されません。ただし、フォントサイズの上書きはパラグラフスタイルのフォントサイズと結合されます。

#### 関連リンク

[テキストのタイプ](#) (1764 ページ)

[テキストアイテム](#) (1763 ページ)

[デフォルトのフォントファミリーを変更する](#) (937 ページ)

[テキストフレームへのテキストの入力](#) (624 ページ)

[テキストの形式設定](#) (929 ページ)

[「パラグラフスタイル \(Paragraph Styles\)」ダイアログ](#) (932 ページ)

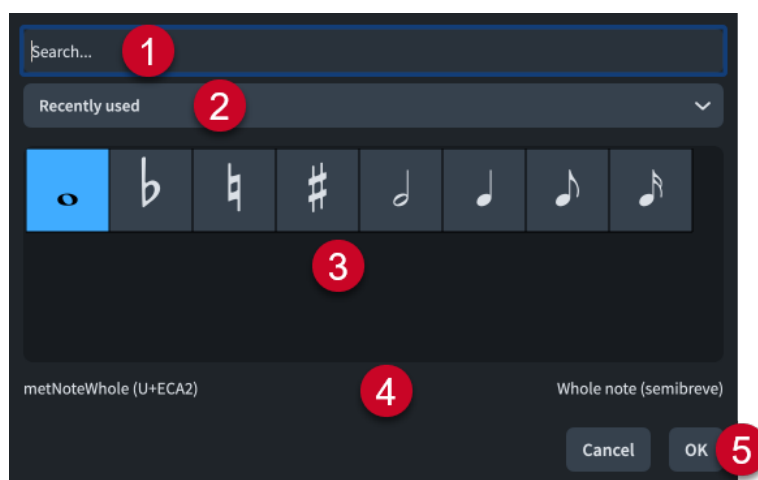
[「文字スタイル \(Character Styles\)」ダイアログ](#) (935 ページ)

[「存在しないフォント \(Missing Fonts\)」ダイアログ](#) (80 ページ)

## 「音楽テキストを挿入 (Insert Music Text)」ダイアログ

「音楽テキストを挿入 (Insert Music Text)」ダイアログを使用すると、臨時記号や音符記号などの音楽記号をテキストアイテムやテキストフレームに追加できます。

- 「音楽テキストを挿入 (Insert Music Text)」ダイアログを開くには、テキストアイテムやテキストフレームのテキストを入力中または編集集中に、右クリックしてコンテキストメニューから「音楽テキストを挿入 (Insert Music Text)」を選択します。



「音楽テキストを挿入 (Insert Music Text)」ダイアログは以下で構成されます。

### 1 検索フィールド

音楽記号を SMuFL 名で検索できます。テキストを入力しはじめると、入力した文字や単語が含まれる有効な音楽記号がメニューに予測表示され、そこから使用する音楽記号を選択できます。

### 2 範囲メニュー

音楽記号セレクターに表示する SMuFL グリフの範囲を選択できます。初期設定では、「最近使用したものの (Recently used)」が選択されます。ここでは、最近のプロジェクトで使用した音楽記号に加え、一般的な臨時記号と音符記号が含まれています。

### 3 音楽記号セレクター

選択した範囲内の使用できる音楽記号、または入力に一致する音楽記号が表示されます。

#### 4 名前

選択した音楽記号の SMuFL 名と説明が表示されます (利用できる場合)。

#### 5 OK

選択した音楽記号がカーソルの位置に挿入され、**音楽テキスト**の文字スタイルが自動的に適用されます。

音楽記号を選択して **[Return]** を押すか、音楽記号をダブルクリックして挿入することもできます。

## テキストアイテム内のテキストの編集

テキストアイテムに表示されるテキストは編集できます。これにより、たとえば個々の単語の置き換えや、書式の変更を行なえます。

---

### 手順

1. 以下のいずれかの操作を行なって、既存のテキストアイテムのテキストエディターを開きます。

- テキストアイテムを選択して **[Return]** を押します。
- テキストアイテムをダブルクリックします。

2. テキストアイテムのテキストを編集します。

たとえば、テキストエディターオプションを使用してテキストの形式設定を行なえます。

### 補足

個々のテキストアイテムやテキストフレームのテキストのパラグラフスタイルを上書きした場合 (テキストを太字にするなど)、パラグラフスタイルの対応するパラメーターにあとから加える変更は上書きされたテキストには適用されません。ただし、フォントサイズの上書きはパラグラフスタイルのフォントサイズと結合されます。

3. **[Esc]** または **[Ctrl]/[command]+[Return]** を押してテキストエディターを閉じます。

---

## 歌詞の入力

歌詞のポップオーバーにテキストを入力して歌詞を入力できます。また、音符ごとに歌詞のポップオーバーを閉じて開き直すことなく、譜表上の次の音符に歌詞のポップオーバーを進めることができます。

---

### 手順

1. 記譜モードで、歌詞の入力を開始する位置の譜表上の音符を選択します。

2. 以下のいずれかの操作を行なって歌詞のポップオーバーを開きます。

- **[Shift]+[L]** を押します。
- 記譜ツールボックスで「**ポップオーバー (Popovers)**」 をクリックし、「**歌詞 (Lyrics)**」 をクリックします。

3. 必要に応じて、以下のいずれかの操作を行なって歌詞のタイプを変更します。

- 歌詞のライン番号を変更するには、**[↓]** を押します。
- 譜表の上に歌詞を入力するには、**[Shift]+[↑]** を押します。
- コーラスのラインを入力するには、**[↑]** を押します。
- 訳詞のラインを入力するには、**[Alt/Opt]+[↓]** を押します。

4. 選択した音符に追加する文字列または音節をポップオーバーに入力します。



- 単一の歌詞に複数の文字列を含めるには、**[Shift]+[Alt/Opt]+[Space]** を押してノーブレイクスペースを入力します。
  - 単一の文字列または音節内にハイフンを含めるには、**[Alt/Opt]+[-]** (ハイフン) を押します。
  - 歌詞にスラーを含めるには、**[\_]** (アンダースコア) を押します。
5. 以下のいずれかの操作を行なって、ポップオーバーを次の音符に進めます。
- 単語全体、または多音節語の最後の音節を入力した場合は、**[Space]** を押します。
  - 多音節語の音節のうち最後の音節以外の1つを入力した場合は、**[-]** (ハイフン) を押します。
  - 音節のあとに延長線またはハイフンを表示しない場合は、**[→]** を押します。

#### ヒント

複数の音符にまたがって歌われる歌詞については、上記のキーボードショートカットを何度か押すことで、歌詞ポップオーバーが次の歌詞を入力する音符に到達させることができます。

6. 歌詞を入力する残りの音符に対して、文字列や音節を引き続きポップオーバーに入力します。
7. **[Return]** または **[Esc]** を押してポップオーバーを閉じます。  
譜表の最後の音符に到達すると、ポップオーバーは自動的に閉じます。

#### 結果

ポップオーバーに入力したテキストが、ポップオーバーの左側のアイコンで示されたタイプの歌詞として入力されます。

**[-]** を押してポップオーバーを次の音符に進めると、最後に入力した歌詞のあとにハイフンが表示されます。これは、複数の音符にまたがる多音節語に使用します。

**[Space]** を押してポップオーバーを進めると、水平方向のスペースや音符がタイのつながりとして表示されるかに応じて、最後に入力した歌詞のあとに間隔または歌詞の延長線が表示されます。これは、多音節語の最後の音節や単音節語に使用します。

#### ヒント

- 歌詞の間に間隔とハイフンのどちらを表示するかは、音節のタイプを変更することであとから変更できます。
- また、たとえば外部のテキストエディターから歌詞をコピーして貼り付けることもできます。



#### 関連リンク

- [記譜ツールボックス \(224 ページ\)](#)
- [歌詞のコピーと貼り付け \(1364 ページ\)](#)
- [歌詞 \(1361 ページ\)](#)
- [歌詞入力中のナビゲーション \(427 ページ\)](#)
- [歌詞のタイプ \(1362 ページ\)](#)
- [歌詞の音節のタイプ \(1363 ページ\)](#)
- [歌詞の位置 \(1368 ページ\)](#)
- [歌詞のライン番号 \(1382 ページ\)](#)
- [歌詞のハイフンと歌詞の延長線 \(1379 ページ\)](#)
- [エリジョンスラー \(1386 ページ\)](#)
- [歌詞テキストの編集 \(1377 ページ\)](#)

## 歌詞のポップオーバー

歌詞のポップオーバーを使用して、コーラスのラインや訳詞のラインを含む歌詞を入力できます。入力する歌詞のタイプはキーボードショートカットを使用していつでも変更できます。

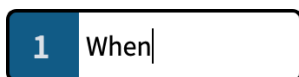
記譜モードでは、アイテムの選択時またはキャレットの有効時に以下のいずれかの操作を行なって、歌詞のポップオーバーを開くことができます。

- **[Shift]+[L]** を押します。
- 記譜ツールボックスで「ポップオーバー (Popovers)」 をクリックし、「歌詞 (Lyrics)」 をクリックします。
- 既存の歌詞を選択して **[Return]** を押します。
- 「記譜 (Write)」 > 「歌詞を作成 (Create Lyrics)」を選択します。

### 歌詞のライン

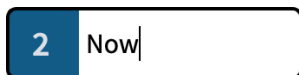
既存の歌詞を変更する場合を除き、ポップオーバーはライン 1 に歌詞を入力できる状態で自動的に開きます。

歌詞のポップオーバーの左側に表示される数字は、歌詞を入力する歌詞のラインを示しています。



ライン 1 にエントリーの例が入力された歌詞のポップオーバー

歌詞のポップオーバーが開いているときに **[↑]** または **[↓]** を押すと、歌詞のライン番号が変更されます。



ライン 2 にエントリーの例が入力された歌詞のポップオーバー

### 譜表の上の歌詞のライン

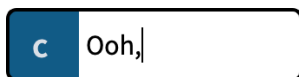
歌詞のポップオーバーが開いているときに **[Shift]+[↑]** を押すと、譜表の上のラインに歌詞を入力できます。

そのあと、**[↑]** と **[↓]** を押すと、譜表の上の歌詞のライン番号を変更できます。

### コーラスのライン

歌詞のポップオーバーが開いているときに **[↑]** を押すと、コーラスのラインを入力できます。この操作は、譜表の上下に歌詞を入力しているときに行なえます。

コーラスのラインの場合はポップオーバーの左側に「**c**」が表示されます。

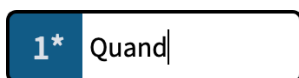


コーラスのラインにエントリーの例が入力された歌詞のポップオーバー

### 訳詞のライン

歌詞のポップオーバーが開いているときに **[Alt/Opt]+[↓]** を押すと、訳詞のラインを入力できます。

ポップオーバーの左側には、訳詞のラインを入力する歌詞のライン番号の横にアスタリスク (\*) が表示されます。



訳詞のラインにエントリーの例が入力された歌詞のポップオーバー

## 歌詞入力中のナビゲーション

歌詞のポップオーバーを閉じて開き直すことなく、歌詞のポップオーバーを移動して新しい歌詞を入力したり既存の歌詞を編集したりできます。

### ポップオーバーのナビゲーション

### キーボードショートカット

現在の文字列を終了し、ポップオーバーを次の音符または和音に進める。 **[Space]**

現在の音節を終了し、ポップオーバーを次の音符または和音に進める。 **[-]** (ハイフン)

延長線またはハイフンを表示せずにポップオーバーを次の音符に進める。 **[→]**

カーソルを次/前の文字に進める。次/前の文字が別の歌詞にある場合は、ポップオーバーがその歌詞に進む。 **[→]/[←]**

歌詞のライン内でポップオーバーを音節から音節に早送り/巻き戻しする。 **[Alt/Opt]+[→]/[Alt/Opt]+[←]**

ポップオーバーを進めずにノーブレイクスペースを追加する。 **[Shift]+[Alt/Opt]+[Space]**

ポップオーバーを進めずに単一の文字列または音節内にハイフンを追加する。 **[Alt/Opt]+[-]** (ハイフン)

文字列または音節内にスラーを追加する。 **[\_]** (アンダースコア)



## 数字付き低音の入力

数字付き低音は、数字付き低音のポップオーバーを使用して入力できます。すべてのインストゥルメントに入力することも、個別のインストゥルメントに入力することもできます。音符の入力中に数字付き低音のポップオーバーを開くこともできますが、数字を入力すると音符の入力が終了します。

### 前提条件

適切な数字付き低音の設定を選択しておきます。

### 手順

1. 記譜モードで、数字付き低音の入力を開始する位置の譜表上のアイテムを選択します。
2. 以下のいずれかの操作を行なって数字付き低音のポップオーバーを開きます。
  - **[Shift]+[G]** を押します。
  - 記譜ツールボックスで「ポップオーバー (Popovers)」 をクリックし、「数字付き低音 (Figured Bass)」 をクリックします。

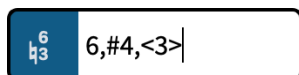
#### 補足

選択した位置よりも前にローカルな数字付き低音がある譜表上のアイテムを選択した場合、数字付き低音のポップオーバーを開くと、ローカルな数字の入力モードに自動的に設定されます。

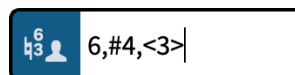
- 必要に応じて、以下のいずれかの操作を行なって入力する数字のタイプを変更します。

- ローカルな数字を入力するには、**[Alt/Opt]+[L]** を押します。
- グローバルな数字を入力するには、**[Alt/Opt]+[G]** を押します。

ポップオーバーのアイコンが更新され、現在のタイプが表示されます。



グローバルな数字を入力するときの数字付き低音のポップオーバー



ローカルな数字を入力するときの数字付き低音のポップオーバー

- 使用する数字を数字付き低音のポップオーバーに入力します。

たとえば全音符の間持続し、2分音符が経過してから3度に解決する4-3のサスペンションには、「4->3d=4r=2」と入力します。括弧付きの数字を入力する場合は、「(#)64(3)」のように任意の数字や臨時記号を括弧で囲みます。

- 必要に応じて、**[Space]** を押して、その位置で有効な拍子記号に応じてポップオーバーを次の拍に進めます。

#### ヒント

また、拍とは異なる単位でポップオーバーを前後に移動することもできます。

- ポップオーバーがグローバルに設定されているときに個別にローカルな数字を入力する場合、または逆の場合には、**[Alt/Opt]+[Return]** を押して数字の入力を確定します。
- [Return]** を押してポップオーバーを閉じます。

#### 結果

指定した数字付き低音が入力されます。現在のレイアウトで数字付き低音を表示しない設定になっているインストゥルメントに属するアイテムを選択した場合、数字付き低音を表示するように自動的にプレイヤーが更新されます。数字を休符の位置に入力した場合など、Dorico Pro が数字の位置のベース音を特定できない場合、数字はガイドとして表示されます。

Dorico Pro は、入力した数字が暗示する音程を、その位置にある最低音との関係から割り出して保存します。このように数字が暗示する和声を意味的に理解することにより、Dorico Pro は異なる譜表上でも、音符の音程の移調や変更が行なわれた場合に、数字を調整して表示できます。

グローバルな数字はプロジェクト内のすべてのインストゥルメントに適用され、数字付き低音を表示するように設定されているすべてのプレイヤーの譜表に表示されます。ローカルな数字は選択したインストゥルメントのみに適用され、初期設定ではインストゥルメントに属する一番下の譜表を参照します。同じ位置にグローバルな数字が存在していても、ローカルな数字は常に表示されます。

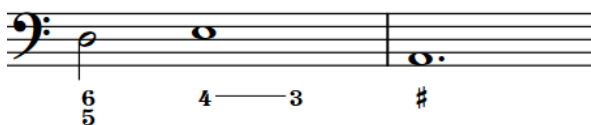
#### 補足

- ポップオーバーエントリーの最初に「**入力内容にそのまま従う (Follow input literally)**」を指示する文字を入力したり、数字付き低音の入力設定を「**入力内容にそのまま従う (Follow input literally)**」に変更したりしない限り、結果として得られる数字の外観は、「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**数字付き低音 (Figured Bass)**」の設定に従います。

- タストソロの指示記号の外観は、「浄書オプション (Engraving Options)」 > 「数字付き低音 (Figured Bass)」 > 「デザイン (Design)」 > 「タストソロ (Tasto Solo)」 の設定および「数字付き低音タストソロ (Figured Bass Tasto Solo)」 パラグラフスタイルの形式設定によって決まります。
- 浄書モードでは、数字の表示位置やホールドの線の表示上の長さを変更できます。

#### 例

数字付き低音のポップオーバーに「4->3d=4r=2」と入力すると、全音符の間持続し、2分音符が経過してから3度に解決する4-3のサスペンションが生成されます。



#### 手順終了後の項目

- レイアウトごとに個別に、特定のプレーヤーに対する数字付き低音の表示と非表示を切り替えられます。
- 複音程 (9 以上の数字) を単音程のように表示できます。
- 個々の休符に数字を表示できます。



#### 関連リンク

- [数字付き低音 \(1268 ページ\)](#)
- [数字付き低音のホールドの線 \(1273 ページ\)](#)
- [数字付き低音の入力設定の変更 \(433 ページ\)](#)
- [数字付き低音入力中の移動 \(432 ページ\)](#)
- [レイアウトで数字付き低音の表示/非表示を切り替える \(1270 ページ\)](#)
- [数字付き低音のホールド/サスペンションラインの表示/非表示を切り替える \(1274 ページ\)](#)
- [数字付き低音のホールドの線の長さを変更する \(1275 ページ\)](#)
- [数字付き低音の解決音を移動する \(1279 ページ\)](#)
- [「浄書オプション \(Engraving Options\)」 ダイアログ \(923 ページ\)](#)
- [「パラグラフスタイル \(Paragraph Styles\)」 ダイアログ \(932 ページ\)](#)
- [数字付き低音に単一の括弧を表示する \(1272 ページ\)](#)
- [数字付き低音のホールドラインに括弧を表示する \(1276 ページ\)](#)
- [数字付き低音の複音程を簡略化して表示する \(1283 ページ\)](#)
- [休符に数字付き低音を表示する \(1271 ページ\)](#)
- [数字付き低音の現在の外観を固定する \(1284 ページ\)](#)

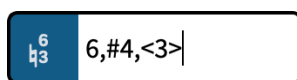
## 数字付き低音のポップオーバー

以下の表は、数字付き低音のさまざまな数字 (および変化記号やサスペンション) を入力するために数字付き低音のポップオーバーに入力できる内容の例です。

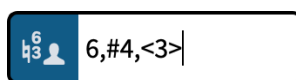
記譜モードでは、音符の選択時またはキャレットの有効時に以下のいずれかの操作を行なって、数字付き低音のポップオーバーを開くことができます。

- **[Shift]+[G]** を押します。
- 記譜ツールボックスで「ポップオーバー (Popovers)」  をクリックし、「数字付き低音 (Figured Bass)」  をクリックします。
- 「記譜 (Write)」 > 「数字付き低音を作成 (Create Figured Bass)」 を選択します。

グローバルな数字付き低音の入力時には、ポップオーバーの左側に表示されたアイコンが記譜ツールボックスの対応するボタンと一致します。ローカルな数字付き低音の入力時には、ポップオーバーの左側のアイコンが小さく表示され、その横にシングルプレイヤーのアイコンが表示されます。



グローバルな数字を入力中の数字付き低音のポップオーバー



ローカルな数字を入力中の数字付き低音のポップオーバー



記譜ツールボックスの「数字付き低音 (Figured Bass)」ボタン

## 数字とサスペンション

### 数字のタイプ

数字 (1~19)

括弧付きの数字または臨時記号

コード記号で指定された数字

Dorico Pro では、コード記号ポップオーバーの入力と同様に入力されたコード記号は、自動的に正しい数字に修正されます。

タストソロ

ホールドのデュレーション

複数の数字

### ヒント

あいまいさを排除するために、数字をコンマで分割できます。

数字を非表示

サスペンション

サスペンションのデュレーション (サスペンションと解決音の数字の間のデュレーション)

ホールドとサスペンション両方のデュレーションを指定

たとえば全音符の間持続し、2分音符が経過してから3度に解決する 4-3 のサスペンション。

### ポップオーバーエントリーの例

「1」、「2」、「3」 ~ 「19」

「(#643)」、「#64(3)」、「(#)643」 など

「Em7」、「Amaj7」、「G/B」 など

「ts」 または 「tasto」

「d=2」 (4分音符の数) または 「d=1/2n」 (ベース音のデュレーションの分数)

「6#42」 または 「6,#4,2」

「<3>」 または 「{3}」

「4->3」、「4\_3」、または 「4~3」

「r=2」 (4分音符の数) または 「r=1/2n」 (ベース音のデュレーションの分数)

「4->3d=4r=2」 または 「4->3d=1nr=1/2n」

## 数字のタイプ

## ポップオーバーエントリーの例

この数字のみ「**浄書オプションに従う (Follow Engraving Options)**」を適用

「R」、「r」、「V」、「v」、または「?」

### 補足

ポップオーバーに最初に入力する必要があります。

この数字のみ「**入力内容にそのまま従う (Follow input literally)**」を適用

「O」、「o」、または「!」

### 補足

ポップオーバーに最初に入力する必要があります。

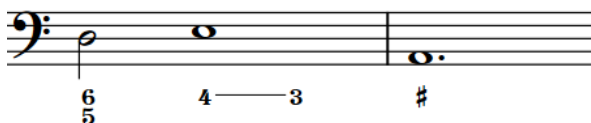
このリストにはすべてのエントリーが含まれているわけではありません。このリストは、さまざまな数字を入力するためにエントリーをどのように構成するかを示すことを目的としています。

### 補足

- ポップオーバーエントリーの最初に「**入力内容にそのまま従う (Follow input literally)**」を指示する文字を入力したり、数字付き低音の入力設定を「**入力内容にそのまま従う (Follow input literally)**」に変更したりしない限り、結果として得られる数字の外観は、「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**数字付き低音 (Figured Bass)**」の設定に従います。
- タストソロの指示記号の外観は、「**浄書オプション (Engraving Options)**」 > 「**数字付き低音 (Figured Bass)**」 > 「**デザイン (Design)**」 > 「**タストソロ (Tasto Solo)**」の設定および「**数字付き低音タストソロ (Figured Bass Tasto Solo)**」パラグラフスタイルの形式設定によって決まります。

### 例

数字付き低音のポップオーバーに「**4->3d=4r=2**」と入力すると、全音符の間持続し、2分音符が経過してから3度に解決する4-3のサスペンションが生成されます。



## 臨時記号と変化記号

### 臨時記号/変化記号のタイプ

### ポップオーバーエントリー

シャープ

「#」または「s」

### ヒント

増3度については、数字なしの単なるシャープを入力できます。

---

臨時記号/変化記号のタイプ	ポップオーバーエントリー
フラット	「b」または「f」
ナチュラル	「N」または「n」
ダブルシャープ	「x」、「##」、または「ds」
トリプルシャープ	「x#」、「#x」、「###」、または「ts」
ダブルフラット	「bb」または「db」
トリプルフラット	「bbb」または「tb」
数字を半ステップ (半音) 上げる	「+」
数字を半ステップ (半音) 下げる	「-」
ディミニッシュの数字	「d」
変化なしの数字	「u」

---

#### 関連リンク

[記譜ツールボックス \(224 ページ\)](#)

[数字付き低音 \(1268 ページ\)](#)

[数字付き低音のホールドの線 \(1273 ページ\)](#)

[数字付き低音のホールド/サスペンションラインの表示/非表示を切り替える \(1274 ページ\)](#)

[数字付き低音のホールドの線の長さを変更する \(1275 ページ\)](#)

[数字付き低音のホールドラインに括弧を表示する \(1276 ページ\)](#)

[数字付き低音に単一の括弧を表示する \(1272 ページ\)](#)

[コード記号のポップオーバー \(348 ページ\)](#)

[「浄書オプション \(Engraving Options\)」ダイアログ \(923 ページ\)](#)

[「パラグラフスタイル \(Paragraph Styles\)」ダイアログ \(932 ページ\)](#)

## 数字付き低音入力中の移動

数字付き低音のポップオーバーは、さまざまな間隔を使用して手動で移動できます。これにより、毎回ポップオーバーを閉じて開きなおすことなく、異なる位置に数字付き低音の数字を入力できます。

---

ポップオーバーのナビゲーション	キーボードショートカット
その位置で有効な拍子記号に応じて、ポップオーバーを次の拍に進めます。	<b>[Space]</b>
その位置で有効な拍子記号に応じて、ポップオーバーを前の拍に戻します。	<b>[Shift]+[Space]</b>
ポップオーバーを次の小節の最初に進める	<b>[Tab]</b>
ポップオーバーを前の小節の最初に戻す	<b>[Shift]+[Tab]</b>



## ポップオーバーのナビゲーション

## キーボードショートカット

以下のうち、最も近い位置にカーソルとポップオーバーを移動する **[→]/[←]**

- 次/前の音符または休符
- 次/前のリズムグリッド位置
- 既存の数字のエントリーの次/前の文字

ポップオーバーを次/前の数字に移動します。 **[Ctrl]/[command]+[→]/[Ctrl]/[command]+[←]**

---

### 関連リンク

[「環境設定 \(Preferences\)」ダイアログの「キーボードショートカット \(Key Commands\)」ページ \(64 ページ\)](#)

## 数字付き低音の入力設定の変更

初期設定では、数字付き低音の入力は「**浄書オプション (Engraving Options)**」の設定に従います。そのため、結果として得られる数字の外観がポップオーバーに入力したものと異なる場合があります。たとえば特定の版の複製作業で、どのように数字を表示させるべきかあらかじめ分かっている場合などに、数字付き低音の入力設定を変更できます。

数字の正確な表示方法が分からない場合や、あとで楽譜に変更を加えるかもしれない場合は、数字付き低音が浄書オプションに従うように設定することをおすすめします。

### 手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[I]** を押して「**音符入力オプション (Note Input Options)**」を開きます。
  2. カテゴリリストの「**数字付き低音 (Figured Bass)**」をクリックします。
  3. 「**ポップオーバーからの入力時 (When inputting via the popover)**」で、以下のいずれかのオプションを選択します。
    - **浄書オプションに従う (Follow Engraving Options)**
    - **入力内容にそのまま従う (Follow input literally)**
  4. 「**適用 (Apply)**」をクリックしてから「**閉じる (Close)**」をクリックします。
- 

### 結果

現在のプロジェクトで数字付き低音の入力設定が変更されます。この設定は、これ以降に入力するすべての数字付き低音に影響しますが、プロジェクトに既に入力されている数字付き低音には影響しません。

### 手順終了後の項目

- 選択した設定に基づいて数字付き低音を入力できます。
- 数字付き低音をリセットすると、入力時の入力設定に関係なく浄書オプションの設定に従うようになります。

### 関連リンク

[浄書オプションで数字付き低音の設定をプロジェクト全体に適用する \(1269 ページ\)](#)

[数字付き低音の現在の外観を固定する \(1284 ページ\)](#)

[数字付き低音のリセット \(1285 ページ\)](#)

[「音符入力オプション \(Note Input Options\)」ダイアログ \(921 ページ\)](#)

## リハーサルマークの入力



マウスやキーボードを使ってリハーサルマークを入力できます。音符の入力中に行なうことも、既存の楽譜にあとから追加することもできます。

### 手順

1. 記譜モードで、以下のいずれかの操作を行ないます。
  - 音符の入力を開始します。
  - リハーサルマークを入力する位置にあるアイテムを選択します。たとえば、小節線や音符などです。

### 補足

複数のアイテムを選択していても、入力できるリハーサルマークは一度に1つのみです。

2. 以下のいずれかの操作を行なって、リハーサルマークを入力します。
  - **[Shift]+[A]** を押します。
  - 記譜ツールボックスの「**ポップオーバー (Popovers)**」 をクリックしたあとに、「**リハーサルマーク (Rehearsal Marks)**」 をクリックします。

### 結果

リハーサルマークは、選択した小節線の位置、あるいは選択したその他のアイテムの位置に入力されます。

リハーサルマークの順序は自動的に更新されるため、既存のリハーサルマークの前や間など、どのような順序で入力しても構いません。

### 手順終了後の項目

リハーサルマークに表示される文字/数字を変更するには、インデックスやシーケンスタイプを変更します。

### 関連リンク

- [記譜ツールボックス \(224 ページ\)](#)
- [リハーサルマーク \(1574 ページ\)](#)
- [リハーサルマークのインデックスの変更 \(1576 ページ\)](#)
- [リハーサルマークのシーケンスタイプの変更 \(1577 ページ\)](#)
- [リハーサルマークに先頭および末尾テキストを追加する \(1578 ページ\)](#)
- [リハーサルマークの囲み線のタイプの変更 \(1575 ページ\)](#)
- [リハーサルマークへの移動 \(482 ページ\)](#)
- [マウス入力の設定の変更 \(235 ページ\)](#)

## マーカー/タイムコードの入力

特定の位置にマーカーを入力できます。プロジェクト全体の設定に応じて、マーカーと一緒にタイムコードも表示できます。

### 手順


1. 記譜モードで、マーカーを入力する位置に再生ヘッドを移動します。
2. **[Shift]+[Alt/Opt]+[M]** を押して「**マーカーを追加 (Add Marker)**」ダイアログを開きます。
3. 「**テキスト (Text)**」フィールドに任意のマーカーテキストを入力します。

- 必要に応じて、「**タイムコード (Timecode)**」フィールドでタイムコードを変更します。
- 「**OK**」をクリックしてマーカーを入力し、ダイアログを閉じます。

#### 結果

「**マーカーを追加 (Add Marker)**」ダイアログで設定したタイムコードの位置にマーカーが入力されます。初期設定では、再生ヘッドの位置になっています。マーカーには入力したテキストが表示され(マーカーテキストを変更していない場合はデフォルトテキスト「Marker」が表示される)、タイムコードにはマーカーの位置が反映されます。

#### ヒント


ビデオパネルの「**マーカー (Markers)**」セクションにある**マーカーを追加**  をクリックするか、再生モードの「**マーカー (Markers)**」トラックを使用してマーカーを入力することもできます。

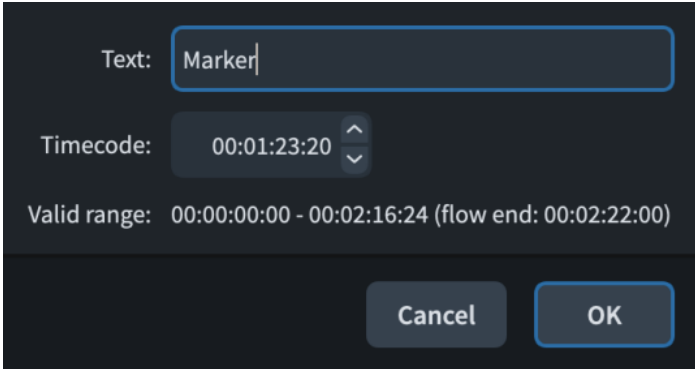
#### 関連リンク

- [マーカー \(1580 ページ\)](#)
- [タイムコード \(1586 ページ\)](#)
- [再生ヘッドの移動 \(678 ページ\)](#)
- [マーカーのタイムコードの表示/非表示 \(1588 ページ\)](#)
- [マーカーのテキストを編集する \(1582 ページ\)](#)
- [マーカーのタイムコードを変更する \(1584 ページ\)](#)
- [ビデオパネル \(436 ページ\)](#)
- [マーカートラック \(673 ページ\)](#)

## 「マーカーを追加 (Add Marker)」ダイアログ

「**マーカーを追加 (Add Marker)**」ダイアログでは、特定のタイムコードにカスタムテキスト付きのマーカーを入力できます。

- 記譜モードでビデオパネルの「**マーカー (Markers)**」セクションにある「**マーカーを追加 (Add Marker)**」  をクリックするか、**[Shift]+[Alt/Opt]+[M]** を押すと「**マーカーを追加 (Add Marker)**」ダイアログが自動的に開きます。



「**マーカーを追加 (Add Marker)**」ダイアログには以下のオプションがあります。

#### テキスト (Text)

マーカーに表示されるカスタムテキストを入力できます。

#### タイムコード (Timecode)

マーカーを入力するタイムコードを指定できます。たとえば、各マーカーのタイムコードがわかっている場合は、各マーカーの最初に再生ヘッドを置くかわりにタイムコードを直接入力できます。

### 有効範囲 (Valid range)

フローのタイムコードの範囲が表示されます。

## ビデオパネル

記譜モードのビデオパネルでは、「**ビデオのプロパティ (Video Properties)**」ダイアログにアクセスして、マーカーおよびタイムコードの入力や編集を行なえます。また、マーカーを重要なマーカーに指定し、それらに適切なテンポを計算することもできます。これは記譜モードの右ゾーンに配置されています。

- 記譜ツールボックスで「**パネル (Panels)**」をクリックしたあとに、「**ビデオ (Video)**」をクリックすることで、ビデオパネルの表示/非表示を切り替えられます。

**[Ctrl]/[command]+[9]** を押して右ゾーンの表示/非表示を切り替えることもできます。

ビデオパネルの「**ビデオ (Video)**」セクションで「**プロパティ (Properties)**」をクリックして、「**ビデオのプロパティ (Video Properties)**」ダイアログを開きます。

ビデオパネルの「**マーカー (Markers)**」セクションには、以下の列からなるマーカーの表があります。

### タイムコード (Timecode)

マーカーのタイムコードが表示されます。フィールドをダブルクリックしてタイムコードを編集できます。

### テキスト (Text)



マーカーのテキストが表示されます。フィールドをダブルクリックしてテキストを編集できます。

### 重要 (Imp.)

重要 (important) の略です。この列のチェックボックスをオンにすると、マーカーが重要であると定義できます。

マーカーを重要であると定義すると、そのマーカーのエントリは表内に太字で表示され、「**テンポを検出 (Find Tempo)**」ダイアログで適切なテンポを検出する際の対象となります。

表の最下部のアクションバーには以下のオプションがあります。

- マーカーを追加** : 再生ヘッドの位置にマーカーを追加します。
- マーカーを削除** : 選択したマーカーを削除します。

### 補足

一度に削除できるマーカーは1つだけです。

関連リンク

[記譜ツールボックス \(224 ページ\)](#)

[「ビデオのプロパティ \(Video Properties\)」ダイアログ \(212 ページ\)](#)

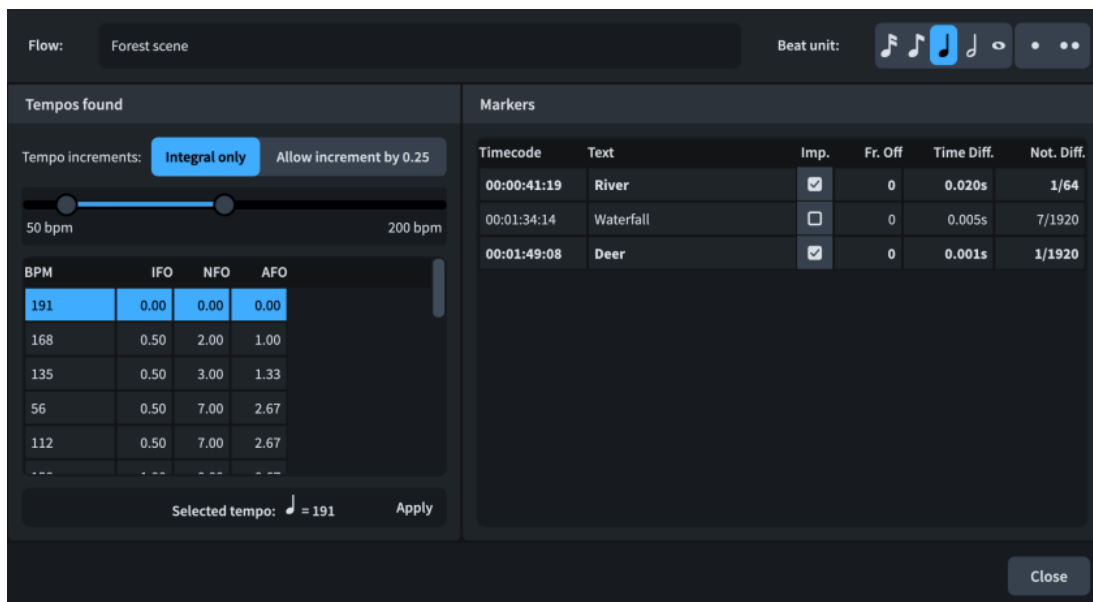
## 「テンポを検出 (Find Tempo)」ダイアログ

「**テンポを検出 (Find Tempo)**」ダイアログでは、マーカーができるだけ強拍に近づくテンポを識別するなどして、重要なマーカーが最もうまく収まるテンポを計算できます。

- 「**テンポを検出 (Find Tempo)**」ダイアログを開くには、記譜モードでビデオパネルの「**マーカー (Markers)**」セクションにある「**テンポを検出 (Find Tempo)**」をクリックします。

## 補足

- 「テンポを検出 (Find Tempo)」 ダイアログでは、単一のフローに含まれるマーカーだけが対象となります。対象となるフローは、対応するフローのアイテムを選択してダイアログを開くことで変更できます。
- 「テンポを検出 (Find Tempo)」 ダイアログを使用するには、フローに少なくとも1つのマーカーを入力し、少なくとも1つのマーカーを重要であると定義しておく必要があります。



「テンポを検出 (Find Tempo)」 ダイアログには、以下のオプションとセクションがあります。

### フロー (Flow)

テンポを設定するフローの名前が表示されます。このフィールドは読み取り専用です。

### 拍の単位 (Beat unit)

テンポの対象となる拍の単位を変更できます。たとえば、フローの拍子記号が6/8の場合、拍の単位を付点4分音符に変更するといいでしょう。

### テンポの増加 (Tempo increments)

精度に応じて提案されたテンポをフィルタリングできます。

- **整数のみ (Integral only):** 整数のテンポ、つまり小数点以下がないテンポだけが提案されます。
- **0.25 ずつの増加を許可 (Allow increment by 0.25):** 小数点以下が0.25、0.5、0.75のテンポの提案を許可します。

### テンポ範囲 (Tempo range)

対象とする最小/最大テンポを設定できます。

### 検出されたテンポ (Tempos found)

拍に対するマーカーの位置にどのように影響するかを確認するために選択できるテンポのリストが表示されます。このリストは、「テンポ範囲 (Tempo range)」や「拍の単位 (Beat unit)」などのオプションを変更すると自動的に更新されます。

このリストには、以下の情報を表示する列があります。

- **BPM:** 1分あたりの拍数 (beats per minute)の略です。メトロノームマークの値に応じてさまざまなテンポが表示されます。

- **IFO**: Important Frames Offの略です。前後いずれかに関わらず、重要なマーカーが重要な拍から外れる平均フレーム数を示します。
- **NFO**: Non-important Frames Offの略です。前後いずれかに関わらず、重要ではないマーカーが重要な拍から外れる平均フレーム数を示します。
- **AFO**: All Frames Offの略です。前後いずれかに関わらず、フロー内のすべてのマーカーが重要な拍から外れる平均フレーム数を示します。

検出されたテンポは、重要なマーカーが拍から外れた平均フレーム数の降順でリストに表示されます。

#### マーカー

「**検出されたテンポ (Tempos found)**」リストで現在選択しているテンポが、フロー内の各マーカーにどのような影響を与えるかがより詳しく表示されます。

- **タイムコード (Timecode)**: 各マーカーの正確なタイムコードが表示されます。
- **テキスト (Text)**: マーカーの識別に役立つ各マーカーのマーカーテキストが表示されません。
- **重要 (Imp.)**: マーカーが重要として定義されているかどうかが表示されます。
- **Fr. Off**: Frames Off の略です。各マーカーが拍から外れる平均フレーム数が表示されません。
- **時間差 (Time Diff.)**: 時間差 (time difference) の略です。マーカーの位置と一番近い拍の位置との間の時間差が小数の秒単位で表示されます。
- **記譜差 (Not. Diff.)**: 記譜差 (notated difference) の略です。マーカーの位置と一番近い拍の位置との間の記譜差が全音符に対する分数で表示されます。

#### 選択したテンポ (Selected tempo)

そのフローに対して現在選択しているテンポが表示されます。

#### 適用 (Apply)

選択したテンポをフローの最初にテンポ記号として入力することで、フローにテンポを適用します。フロー内のその他のテンポ記号は自動的に削除されます。

#### 関連リンク

[マーカーを重要なマーカーに指定する \(1585 ページ\)](#)

[メトロノームマーク \(1752 ページ\)](#)

## リピートとトレモロの入力方法

リピート括弧、リピートマーカー、スラッシュ符頭などのリピートとトレモロは、リピートのポップオーバーを使用してキーボードで入力することも、反復記号パネルを使用してマウスで入力することもできます。

トレモロが反復記号パネルに含まれるのは、トレモロでは単音のトレモロとして個別に、または重音のトレモロとして順々にのいずれかで、音符が反復されるためです。

#### ヒント

リピート小節線を使用してリピートを指示するには、小節線に使用できる入力方法でリピート小節線を入力します。

#### 関連リンク

[小節、拍、小節線の入力方法 \(329 ページ\)](#)

[小節線 \(1078 ページ\)](#)

[小節線のタイプ \(1079 ページ\)](#)

- [リピート括弧 \(1591 ページ\)](#)
- [リピートマーカー \(1598 ページ\)](#)
- [トレモロ \(1816 ページ\)](#)
- [スラッシュ符頭 \(1625 ページ\)](#)
- [小節リピート記号 \(1610 ページ\)](#)
- [通し番号付き小節領域 \(1618 ページ\)](#)
- [再生時の反復 \(689 ページ\)](#)

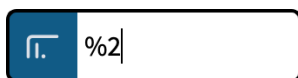
## リピートのポップオーバー

以下の表は、さまざまなトレモロ、リピートマーカー、リピート括弧、小節リピート領域、スラッシュ領域、通し番号付き小節領域を入力するのに、リピートのポップオーバーで利用できるエントリーの例です。

記譜モードでは、アイテムの選択時またはキャレットの有効時に以下のいずれかの操作を行なって、リピートのポップオーバーを開くことができます。

- **[Shift]+[R]** を押します。
- 記譜ツールボックスで「ポップオーバー (Popovers)」 をクリックし、「リピート (Repeats)」 をクリックします。
- 既存のリピートマーカー、スラッシュ領域、または小節リピート記号を選択して **[Return]** を押します。
- 「記譜 (Write)」 > 「リピートを作成 (Create Repeat)」を選択します。

ポップオーバーの左側に表示されたアイコンが、ウィンドウの右側にある記譜記号ツールボックスの対応するボタンと一致します。



エントリーの例が入力されたリピートのポップオーバー



記譜ツールボックスの「反復記号 (Repeat Structures)」ボタン

## リピート括弧

リピート括弧のタイプ	ポップオーバーエントリー
リピート括弧全体	「end」または「ending」
追加のリピート括弧セグメント	add

## リピートマーカー

リピートマーカーのタイプ	ポップオーバーエントリー
D.C.	「dc」、「D.C.」、「da capo」など
D.C. al Fine	「dcalf」、「DC al Fine」、「D.C. al Fine」など
D.C. al Coda	「dcalc」、「DC al Coda」、「D.C. al Coda」など

リピートマーカのタイプ	ポップオーバーエントリー
D.S.	「ds」、「D.S.」、「dal segno」など
D.S. al Fine	「dsalf」、「DS al Fine」、「D.S. al Fine」など
D.S. al Coda	「dsalc」、「DS al Coda」、「D.S. al Coda」など
to Coda	「toc」、「tc」、「to coda」、「To Coda」など
Segno	「s」、「seg」、「segno」など
Fine	「f」、「fin」、「fine」など
Coda	「c」、「co」、「coda」など

このリストには、リピートマーカのすべてのエントリーが含まれているわけではありません。リピートのポップオーバーは柔軟で、入力したいリピートマーカタイプの適当なバージョンや略語を入力すれば、ほとんどの場合認識されます。

## 単音のトレモロ

トレモロのタイプ	ポップオーバーエントリー
1 ストローク	「/」、「\」、または「1」
2 ストローク	「//」、「\\」、または「2」
3 ストローク	「///」、「\\\」、または「3」
4 ストローク	「////」、「\\\\」、または「4」
符尾上の Z マーク (バズロール)	「z」または「zonstem」
リリース付きトレモロ (例: 2 ストローク、リリース付き)	「rel」 (例: 「//rel」、「2rel」)
アタック付きトレモロ (例: 2 ストローク、アタック付き)	「att」 (例: 「//att」、「2att」)
すべてのトレモロを削除	「0」または「clear」

## 重音のトレモロ

トレモロのタイプ	ポップオーバーエントリー
1 ストローク	「/2」、「\2」、または「12」



---

トレモロのタイプ	ポップオーバーエントリー
2 ストローク	「//2」、「\2」、または「22」
3 ストローク	「///2」、「\\2」、または「32」
4 ストローク	「////2」、「\\\\2」、または「42」
すべてのトレモロを削除	「0」または「clear」

---

## スラッシュ領域

---

スラッシュ領域	ポップオーバーエントリー
新規スラッシュ領域	slash

---

## 通し番号付き小節領域

---

通し番号付き小節領域	ポップオーバーエントリー
新規通し番号付き小節領域	「nb」、「num」、「numbars」、または「number bars」

---

## 小節リピート記号

---

小節リピート記号のタイプ	ポップオーバーエントリー
1 小節リピート	「%」または「%1」
2 小節リピート	%2
4 小節リピート	%4
1 小節リピート、2 小節ごとにグループ化	%1,2
1 小節リピート、4 小節ごとにグループ化	%1,4
2 小節リピート、4 小節ごとにグループ化	%2,4

---

### 関連リンク

[記譜ツールボックス \(224 ページ\)](#)

[ポップオーバーを使ったリピート括弧の入力 \(443 ページ\)](#)

[ポップオーバーを使ったリピートマーカーの入力 \(446 ページ\)](#)

[ポップオーバーを使ったトレモロの入力 \(447 ページ\)](#)

[スラッシュ領域の入力 \(450 ページ\)](#)

[小節リピート記号の入力 \(451 ページ\)](#)



[通し番号付き小節領域の入力 \(452 ページ\)](#)

- [小節と小節線のポップオーバー \(329 ページ\)](#)
- [リピート括弧 \(1591 ページ\)](#)
- [リピートマーカー \(1598 ページ\)](#)
- [トレモロ \(1816 ページ\)](#)
- [スラッシュ符頭 \(1625 ページ\)](#)
- [小節リピート記号 \(1610 ページ\)](#)
- [通し番号付き小節領域 \(1618 ページ\)](#)

## 反復記号パネル

反復記号パネルには、リピート括弧、トレモロ、小節リピート記号など、Dorico Pro で使用できるさまざまなリピート記号が含まれています。これは記譜モードの右ゾーンに配置されています。

トレモロが反復記号パネルに含まれるのは、トレモロでは単音のトレモロとして個別に、または重音のトレモロとして順々にのいずれかで、音符が反復されるためです。

- 記譜ツールボックスで「**パネル (Panels)**」をクリックしたあとに、「**リピート記号 (Repeat Structures)**」をクリックすることで、リピート記号パネルの表示/非表示を切り替えられます。  
[Ctrl]/[command]+[9] を押して右ゾーンの表示/非表示を切り替えることもできます。

反復記号パネルには以下のセクションがあります。

### リピート括弧 (Repeat Endings)

新しいリピート括弧を入力したり、既存のリピート括弧に括弧を追加したりできるオプションがあります。

### ジャンプ記号 (Repeat Jumps)

「D.S. al Coda」など、楽曲の特定のポイントにジャンプするようプレーヤーに指示するさまざまなリピートマーカーがあります。

### リピートセクション (Repeat Sections)

「Coda」など、ジャンプ記号と一緒に使用するさまざまなセクションがあります。

### トレモロ (Tremolos)

さまざまなタイプの単音トレモロと重音トレモロがあります。

### スラッシュ符頭 (Rhythm Slashes)

スラッシュ符頭を表示する領域を入力できます。スラッシュ符頭の形式は、現在の拍子記号に合わせて自動的に設定されます。

### 小節リピート記号 (Bar Repeats)

小節を繰り返し記譜することなく、先にある小節が繰り返されることを示す領域を入力できます。

#### ヒント

リピートのポップオーバーを使用すると、さまざまな小節グループによる小節リピート領域を入力できます。

### 番号付き小節

小節数が表示される領域を、追加で記譜することなく入力できます。

#### 関連リンク

- [記譜ツールボックス \(224 ページ\)](#)
- [リピートのポップオーバー \(439 ページ\)](#)

## ポップオーバーを使ったリピート括弧の入力

リピートのポップオーバーを使用してリピート括弧を入力できます。音符の入力中に行なうことも、既存の楽譜に追加することもできます。



### 手順

1. 記譜モードで、以下のいずれかの操作を行ないます。

- 音符の入力を開始します。

#### ヒント

音符の入力中に、**[Shift]+[→]** または **[Shift]+[←]** を押すことで、キャレットを有効にしたまま直前に入力した音符の前後に音符を追加できます。

- 1 番のリピート括弧に含めるアイテムを各小節で少なくとも 1 つ選択します。
2. 以下のいずれかの操作を行なってリピートのポップオーバーを開きます。
- **[Shift]+[R]** を押します。
  - 記譜ツールボックスで「ポップオーバー (Popovers)」 をクリックし、「リピート (Repeats)」 をクリックします。
3. ポップオーバーに「end」または「ending」と入力します。
4. **[Return]** を押してポップオーバーを閉じます。

### 結果

リピート括弧が入力されます。1 番のリピート括弧のセグメントは選択したアイテムの小節に作成され、2 番のリピート括弧のセグメントは次の小節に自動的に作成されます。

終わりのリピート線は、1 番のリピート括弧の終わりに作成されます (ない場合)。

### 関連リンク

[リピートのポップオーバー \(439 ページ\)](#)

[リピート括弧 \(1591 ページ\)](#)

## ポップオーバーを使ったリピート括弧の追加

リピートのポップオーバーを使ってセグメントを追加することで、各リピート括弧構造の中に 3 つ以上の括弧を含めることができます。リピート括弧のセグメントの追加は、音符の入力中に行なうことも、既存の楽譜に追加することもできます。

### 手順

1. 記譜モードで、以下のいずれかの操作を行ないます。

- 音符の入力を開始します。

#### ヒント



音符の入力中に、**[Shift]+[→]** または **[Shift]+[←]** を押すことで、キャレットを有効にしたまま直前に入力した音符の前後に音符を追加できます。

- 追加のリピート括弧に含める小節を選択します。

#### 補足

最後のリピート括弧セグメントの最初の小節から選択する必要があります。

2. 以下のいずれかの操作を行なってリピートのポップオーバーを開きます。

- **[Shift]+[R]** を押します。
  - 記譜ツールボックスで「ポップオーバー (Popovers)」 をクリックし、「リピート (Repeats)」 をクリックします。
3. ポップオーバーに「add」と入力します。
  4. **[Return]** を押してポップオーバーを閉じます。
  5. 必要に応じて、追加する括弧の数だけこれらの手順を繰り返します。

#### 結果

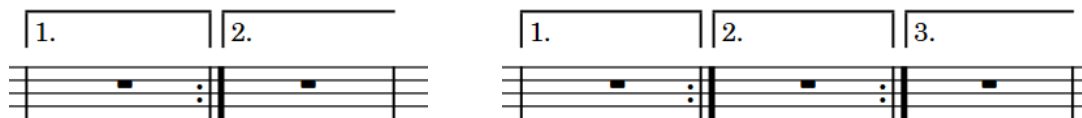
新しいリピート括弧のセグメントが追加されます。前にある既存のリピート括弧のセグメントは終端が閉じ、必要に応じて終わりのリピート線が作成されます。

#### ヒント

リピート括弧を選択し、プロパティパネルの「リピート括弧 (Repeat Endings)」の「括弧の数 (No. endings)」の値を変更して、リピート括弧のセグメントを追加することもできます。

ただし、「括弧の数 (No. endings)」を使用した場合、1小節を含むリピート括弧のセグメントしか追加されず、また自動的にリピート線が入力されたり、位置が変更されたりしません。反復記号は必要に応じて手動で入力する必要があります。

#### 例



括弧が2つの場合のデフォルトのリピート括弧

3番括弧が追加されたリピート括弧

## パネルを使ったリピート括弧の入力




反復記号パネルを使用してリピート括弧を入力できます。音符の入力中に行なうことも、既存の楽譜に追加することもできます。

#### 手順

1. 記譜モードで、以下のいずれかの操作を行ないます。
  - 音符の入力を開始します。

#### ヒント

音符の入力中に、**[Shift]+[→]** または **[Shift]+[←]** を押すことで、カーレットを有効にしたまま直前に入力した音符の前後に音符を追加できます。

- 1番のリピート括弧に含めるアイテムを各小節で少なくとも1つ選択します。
2. 記譜ツールボックスで「パネル (Panels)」 をクリックし、「反復記号 (Repeat Structures)」 をクリックして反復記号パネルを表示します。
  3. 「リピート括弧 (Repeat Endings)」セクションで、「リピート括弧を作成 (Create Repeat Ending)」 をクリックします。

#### 結果

リピート括弧が入力されます。1 番のリピート括弧のセグメントは選択したアイテムの小節に作成され、2 番のリピート括弧のセグメントは次の小節に自動的に作成されます。

終わりのリピート線は、1 番のリピート括弧の終わりに作成されます (ない場合)。

#### 関連リンク

[反復記号パネル \(442 ページ\)](#)

## パネルを使ったリピート括弧の追加

反復記号パネルを使ってセグメントを追加することで、各リピート括弧構造の中に 3 つ以上の括弧を含めることができます。リピート括弧のセグメントの追加は、音符の入力中に行なうことも、既存の楽譜に追加することもできます。

---

#### 手順

1. 記譜モードで、以下のいずれかの操作を行ないます。

- 音符の入力を開始します。



#### ヒント


音符の入力中に、**[Shift]+[→]** または **[Shift]+[←]** を押すことで、キャレットを有効にしたまま直前に入力した音符の前後に音符を追加できます。

- 追加のリピート括弧に含める小節を選択します。

#### 補足

最後のリピート括弧セグメントの最初の小節から選択する必要があります。

2. 記譜ツールボックスで「**パネル (Panels)**」 をクリックし、「**反復記号 (Repeat Structures)**」 をクリックして反復記号パネルを表示します。

3. 「**リピート括弧 (Repeat Endings)**」セクションで、「**リピート括弧にセクションを追加 (Add Section To Repeat Ending)**」 をクリックします。

#### 補足

括弧の数が増えたことでリピート括弧が別のリピート括弧の一部に重なる場合、もう一方のリピート括弧は削除されます。ただし、その反復記号は削除されません。

4. 必要に応じて、追加する括弧の数だけこれらの手順を繰り返します。

---

#### 結果

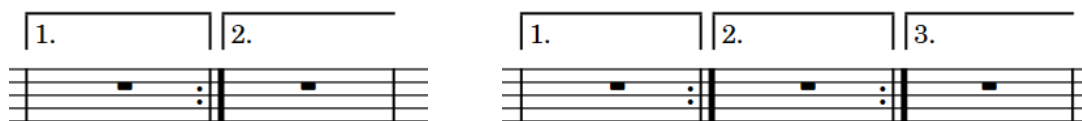
新しいリピート括弧のセグメントが追加されます。前にある既存のリピート括弧のセグメントは終端が閉じ、必要に応じて終わりのリピート線が作成されます。

#### ヒント

リピート括弧を選択し、プロパティパネルの「**リピート括弧 (Repeat Endings)**」の「**括弧の数 (No. endings)**」の値を変更して、リピート括弧のセグメントを追加することもできます。

ただし、「**括弧の数 (No. endings)**」を使用した場合、1 小節を含むリピート括弧のセグメントしか追加されず、また自動的にリピート線が入力されたり、位置が変更されたりしません。反復記号は必要に応じて手動で入力する必要があります。

例



括弧が2つの場合のデフォルトのリPEAT括弧

3番括弧が追加されたリPEAT括弧

## ポップオーバーを使ったリPEATマーカーの入力

リPEATのポップオーバーを使用して、ジャンプ記号やリPEATセクションなどのリPEATマーカーを入力できます。音符の入力中に行なうことも、既存の楽譜に追加することもできます。

手順

1. 記譜モードで、以下のいずれかの操作を行ないます。

- 音符の入力を開始します。



ヒント

音符の入力中に、**[Shift]+[→]** または **[Shift]+[←]** を押すことで、カーレットを有効にしたまま直前に入力した音符の前後に音符を追加できます。

- リPEATマーカーを入力する位置にあるアイテムを選択します。

リPEATジャンプの場合、ジャンプ指示の終了位置を合わせる位置にある小節線を選択することをおすすめします。リPEATセクションの場合、セクションマーカーの開始位置を合わせる位置にある小節線を選択することをおすすめします。

2. 以下のいずれかの操作を行なってリPEATのポップオーバーを開きます。

- **[Shift]+[R]** を押します。
- 記譜ツールボックスで「ポップオーバー (Popovers)」 をクリックし、「リPEAT (Repeats)」 をクリックします。

3. 使用するリPEATマーカーのタイプのエントリをポップオーバーに入力します。

たとえば、コーダセクションを入力する場合は「**coda**」、セーニョを入力する場合は「**\$**」と入力します。

4. **[Return]** を押してポップオーバーを閉じます。

結果

音符の入力中は、カーレットの位置にリPEATマーカーが入力されます。コーダセクションが自動的に作成され、コーダと前にあるアイテムの間に間隔が空けられます。

楽譜にリPEATマーカーを追加すると、最初に選択したアイテムの位置に入力されます。

Fine や D.C. al Coda など、セクションの終わりを示すリPEATマーカーは、選択した位置の右側に揃えられます。

関連リンク

[リPEATのポップオーバー \(439 ページ\)](#)

[リPEATマーカー \(1598 ページ\)](#)

[再生時の反復 \(689 ページ\)](#)

[コーダの前の間隔を変更する \(1606 ページ\)](#)

[リPEATマーカーを表示/非表示にする \(1604 ページ\)](#)

## パネルを使ったリピートマーカの入力

反復記号パネルを使用してリピートマーカを入力できます。音符の入力中に行なうことも、既存の楽譜に追加することもできます。

### 手順

1. 記譜モードで、以下のいずれかの操作を行ないます。

- 音符の入力を開始します。

#### ヒント

音符の入力中に、**[Shift]+[→]** または **[Shift]+[←]** を押すことで、カーレットを有効にしたまま直前に入力した音符の前後に音符を追加できます。

- リピートマーカを入力する位置にあるアイテムを選択します。  
リピートジャンプの場合、ジャンプ指示の終了位置を合わせる位置にある小節線を選択することをおすすめします。リピートセクションの場合、セクションマーカの開始位置を合わせる位置にある小節線を選択することをおすすめします。

2. 記譜ツールボックスで「**パネル (Panels)**」 をクリックし、「**反復記号 (Repeat Structures)**」 をクリックして反復記号パネルを表示します。

3. 以下のいずれかのセクションで、入力するリピートマーカをクリックします。

- **ジャンプ記号 (Repeat Jumps)**
- **リピートセクション (Repeat Sections)**

### 結果

音符の入力中は、カーレットの位置にリピートマーカが入力されます。コーダセクションが自動的に作成され、コーダと前にあるアイテムの間に間隔が空けられます。

楽譜にリピートマーカを追加すると、最初に選択したアイテムの位置に入力されます。

Fine や D.C. al Coda など、セクションの終わりを示すリピートマーカは、選択した位置の右側に揃えられます。

## ポップオーバーを使ったトレモロの入力

リピートのポップオーバーを使用して単音トレモロと重音トレモロの両方を入力できます。音符の入力中に行なうことも、既存の音符に追加することもできます。

### 手順

1. 記譜モードで、以下のいずれかの操作を行ないます。

- 音符の入力を開始します。



#### ヒント

音符の入力中に、**[Shift]+[→]** または **[Shift]+[←]** を押すことで、カーレットを有効にしたまま直前に入力した音符の前後に音符を追加できます。

- トレモロを追加する音符を選択します。

#### 補足

重音のトレモロを入力する場合、1つの符頭により記譜された、同じ声部、同じデュレーションの音符を少なくとも2つ選択する必要があります。選択する音符は連符や譜表をまたぐ音符でも問題ありません。

- 以下のいずれかの操作を行なってリピートのポップオーバーを開きます。
  - [Shift]+[R]** を押します。
  - 記譜ツールボックスで「ポップオーバー (Popovers)」 をクリックし、「リピート (Repeats)」 をクリックします。
- 使用するトレモロのタイプのエントリーをポップオーバーに入力します。  
例:
  - ストロークが2本の単音トレモロを入力するには、「//」と入力します。
  - ストロークが3本の重音トレモロを入力するには、「///2」と入力します。
  - 2ストロークのリリース付き単音トレモロを入力するには、「//rel」と入力します。
- [Return]** を押してポップオーバーを閉じます。

#### 結果

単音のトレモロの場合、指定した数のトレモロストロークで、選択した音符に入力されます。タイでつながれたすべての音符に表示されます。

リリース付きトレモロには、タイでつながれた最後の音符以外のすべての音符に単音トレモロのストロークが表示されます。アタック付きトレモロには、タイでつながれた最初の音符以外のすべての音符に単音トレモロのストロークが表示されます。

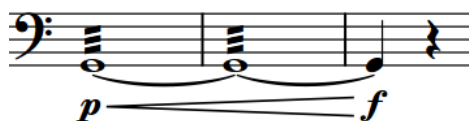
重音のトレモロの場合、指定した数のトレモロストロークで、選択した個々の音符と直後の音符の間、または選択した音符のペアの間に入力されます。重音のトレモロに含まれる音符の記譜されたデュレーションが自動的に更新されます。たとえば、重音のトレモロでまとめられた2つの4分音符は2分音符として表示されます。

連符を選択した場合、重音のトレモロが選択した連符をまたがって入力されます。トレモロストロークは、連符のすべての音符の中央に配置されます。連符の角括弧が非表示になり、各連符の開始位置に、比率を示すガイドが表示されます。

#### 補足

2分音符の重音トレモロの符尾の外観は、「浄書オプション (Engraving Options)」の「トレモロ (Tremolos)」ページの設定に従います。

#### 例



タイのつながりにリリースが追加されたトレモロ

トレモロストローク数が3で連符をまたがる重音のトレモロ

#### 手順終了後の項目

一方の声部にトレモロがあり、もう一方の声部にスラーがある場合などに、個々のインストゥルメントに対して声部の個別再生を有効にして、異なる声部の異なるサウンドを同時に聴くことができます。

#### 関連リンク

[リピートのポップオーバー \(439 ページ\)](#)

[トレモロ \(1816 ページ\)](#)

[再生時のトレモロ \(1823 ページ\)](#)



- [タイのつながりの中のトレモロ \(1818 ページ\)](#)
- [トレモロの削除 \(1821 ページ\)](#)
- [2分音符の重音トレモロの外観に関する設定を変更する \(1820 ページ\)](#)
- [声部の個別再生の有効化 \(685 ページ\)](#)
- [音符/休符のデュレーションの強制 \(288 ページ\)](#)
- [譜表をまたぐ連符/トレモロの作成 \(1123 ページ\)](#)
- [連符 \(1826 ページ\)](#)

## パネルを使ったトレモロの入力

反復記号パネルを使用して単音トレモロと重音トレモロの両方を入力できます。音符の入力中に行なうことも、既存の音符に追加することもできます。

トレモロが反復記号パネルに含まれるのは、トレモロでは単音のトレモロとして個別に、または重音のトレモロとして順々にのいずれかで、音符が反復されるためです。

### 手順

1. 記譜モードで、以下のいずれかの操作を行ないます。

- 音符の入力を開始します。



#### ヒント

音符の入力中に、**[Shift]+[→]** または **[Shift]+[←]** を押すことで、カーレットを有効にしたまま直前に入力した音符の前後に音符を追加できます。

- トレモロを追加する音符を選択します。




#### 補足

重音のトレモロを入力する場合、1つの符頭により記譜された、同じ声部、同じデュレーションの音符を少なくとも2つ選択する必要があります。選択する音符は連符や譜表をまたぐ音符でも問題ありません。

2. 記譜ツールボックスで「**パネル (Panels)**」 をクリックし、「**反復記号 (Repeat Structures)**」 をクリックして反復記号パネルを表示します。

3. 「**トレモロ (Tremolos)**」セクションで、入力するトレモロをクリックします。

例:

- ストロークが2本の単音トレモロを入力するには、「**単音トレモロ (2 ストローク) (Two Strokes Single-note Tremolo)**」 をクリックします。
- ストロークが3本の重音トレモロを入力するには、「**重音トレモロ (3 ストローク) (Three Strokes Multi-note Tremolo)**」 をクリックします。
- 3ストロークのリリース付き単音トレモロを入力するには、「**リリース付きトレモロ (Tremolo With Release)**」 をクリックします。

### 結果

単音のトレモロの場合、指定した数のトレモロストロークで、選択した音符に入力されます。タイでつながれたすべての音符に表示されます。

リリース付きトレモロには、タイでつながれた最後の音符以外のすべての音符に単音トレモロのストロークが表示されます。アタック付きトレモロには、タイでつながれた最初の音符以外のすべての音符に単音トレモロのストロークが表示されます。

重音のトレモロの場合、指定した数のトレモロストロークで、選択した個々の音符と直後の音符の間、または選択した音符のペアの間に入力されます。重音のトレモロに含まれる音符の記譜されたデュレ

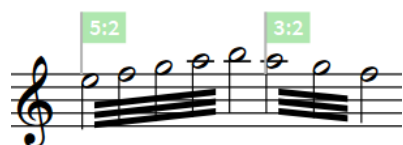
ーションが自動的に更新されます。たとえば、重音のトレモロでまとめられた2つの4分音符は2分音符として表示されます。

連符を選択した場合、重音のトレモロが選択した連符をまたがって入力されます。トレモロストロークは、連符のすべての音符の中央に配置されます。連符の角括弧が非表示になり、各連符の開始位置に、比率を示すガイドが表示されます。

#### 補足

2分音符の重音トレモロの符尾の外観は、「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**トレモロ (Tremolos)**」ページの設定に従います。

例



タイのつながりにリリースが追加されたトレモロ

トレモロストローク数が3で連符をまたがる重音のトレモロ

手順終了後の項目

一方の声部にトレモロがあり、もう一方の声部にスラーがある場合などに、個々のインストゥルメントに対して声部の個別再生を有効にして、異なる声部の異なるサウンドを同時に聴くことができます。

関連リンク

[反復記号パネル \(442 ページ\)](#)

[声部の個別再生の有効化 \(685 ページ\)](#)

[音符/休符のデュレーションの強制 \(288 ページ\)](#)



[譜表をまたぐ連符/トレモロの作成 \(1123 ページ\)](#)

[連符 \(1826 ページ\)](#)

## スラッシュ領域の入力

リピートのポップオーバーを使用してスラッシュ領域を入力できます。

手順

1. 記譜モードで、以下のいずれかの操作を行ないます。
  - 音符の入力を開始します。
  - スラッシュ領域を入力する各譜表で、必要なデュレーションにまたがるアイテムを選択します。
2. 以下のいずれかの操作を行なってリピートのポップオーバーを開きます。
  - **[Shift]+[R]** を押します。
  - 記譜ツールボックスで「**ポップオーバー (Popovers)**」をクリックし、「**リピート (Repeats)**」をクリックします。
3. ポップオーバーに「**slash**」と入力します。
4. **[Return]** を押してポップオーバーを閉じます。

#### 結果

音符の入力中は、スラッシュ領域は選択された音符またはアイテムの範囲全体に入力されます。この選択は一般的に最後に入力した音符です。

既存の楽譜にスラッシュ領域を追加する際は、選択した各譜表の選択したデュレーションにかけて入力されます。

スラッシュ領域は拍子に合うように自動的に作成されます。拍子記号をあとから変更した場合、スラッシュ領域のデュレーションはそのまま維持されますが、スラッシュの外観は自動的に更新されます。

#### ヒント

また、スラッシュ領域は反復記号パネルの「スラッシュ符頭 (Rhythm Slashes)」セクションにある「スラッシュ領域を作成 (Create Slash Region)」をクリックするか、「記譜 (Write)」 > 「スラッシュ領域を作成 (Create Slash Region)」を選択して入力することもできます。「環境設定 (Preferences)」の「キーボードショートカット (Key Commands)」ページで、このオプションにキーボードショートカットを割り当てることができます。

#### 関連リンク

[リピートのポップオーバー \(439 ページ\)](#)

[反復記号パネル \(442 ページ\)](#)

[スラッシュ符頭 \(1625 ページ\)](#)

[スラッシュ領域 \(1629 ページ\)](#)

[スラッシュ付き声部 \(1627 ページ\)](#)

[コード記号領域の入力 \(354 ページ\)](#)

[コード記号を表示/非表示にする \(1157 ページ\)](#)

[アイテムの長さの変更 \(470 ページ\)](#)

[「環境設定 \(Preferences\)」ダイアログの「キーボードショートカット \(Key Commands\)」ページ \(64 ページ\)](#)

## 小節リピート記号の入力



その領域の前の少なくとも 1 つの小節に音符が含まれている場合、小節リピート領域を入力できます。

#### 手順

1. 記譜モードで、小節リピート領域を入力する各譜表の、必要なデュレーションにまたがるアイテムを選択します。

#### 補足

フローの最初の小節には、小節リピート領域を入力できません。

2. 以下のいずれかの操作を行なってリピートのポップオーバーを開きます。
  - **[Shift]+[R]** を押します。
  - 記譜ツールボックスで「ポップオーバー (Popovers)」 をクリックし、「リピート (Repeats)」 をクリックします。
3. 使用する小節リピート領域のタイプのエントリーをポップオーバーに入力します。  
たとえば、「%2,4」と入力すると、前の 2 つの小節が 4 つにグループ化されて繰り返されます。
4. **[Return]** を押してポップオーバーを閉じます。

#### 結果

選択したデュレーションにまたがる小節リピート領域が選択した各譜表に入力され、そこに対応するタイプの小節リピート記号が指定した間隔で表示されます。

#### 補足

- 音符の入力中に小節リピート領域を入力することもできますが、その場合は現在選択している音符を含む小節から小節リピート領域が入力されます。小節リピート記号はほとんどの場合空白の小節に表示されるため、この操作を行なうと意図しない結果になる恐れがあります。
- 1小節リピート領域は、反復記号パネルの「**小節リピート記号 (Bar Repeats)**」セクションにある「**小節リピート領域を作成 (Create Bar Repeat Region)**」をクリックするか、「**記譜 (Write)**」 > 「**小節リピート領域を作成 (Create Bar Repeat Region)**」を選択して入力することもできます。「**環境設定 (Preferences)**」の「**キーボードショートカット (Key Commands)**」ページで、このオプションにキーボードショートカットを割り当てることができます。

#### 手順終了後の項目

小節リピート記号をどのようにグループ化するかを変更できます。

#### 関連リンク

[小節リピート記号 \(1610 ページ\)](#)



[小節リピート記号のグループ化 \(1616 ページ\)](#)

[小節リピート記号のグループ化を変更する \(1617 ページ\)](#)

## 通し番号付き小節領域の入力

リピートのポップオーバーを使用して通し番号付き小節領域を入力できます。

#### 手順

1. 記譜モードで、小節に通し番号を付ける各譜表の、必要なデュレーションにまたがるアイテムを選択します。
2. 以下のいずれかの操作を行なってリピートのポップオーバーを開きます。
  - **[Shift]+[R]** を押します。
  - 記譜ツールボックスで「**ポップオーバー (Popovers)**」 をクリックし、「**リピート (Repeats)**」 をクリックします。
3. ポップオーバーに「**num**」と入力します。
4. **[Return]** を押してポップオーバーを閉じます。

#### 結果

選択したデュレーションにまたがる通し番号付き小節領域が、選択した各譜表に入力されます。

初期設定では、領域のすべての小節の上に小節数が表示されます。通し番号付き小節領域が4小節以上続く場合、範囲の総数が最初の小節のカウントに括弧書きで追加されます。たとえば、通し番号付き小節領域が8小節続く場合は、最初の小節に「1 (-8)」と表示されます。

#### 補足

- 音符の入力中に通し番号付き小節領域を入力することもできますが、この方法では現在選択している音符を含む小節にのみ通し番号付き小節領域が入力されます。
- 通し番号付き小節領域は、反復記号パネルの「**番号付き小節 (Numbered Bars)**」セクションにある「**番号付き小節領域を作成 (Create Numbered Bar Region)**」をクリックするか、「**記譜 (Write)**」 > 「**番号付き小節領域を作成 (Create Numbered Bar Region)**」を選択して入力することもできます。「**環境設定 (Preferences)**」の「**キーボードショートカット (Key Commands)**」ページで、このオプションにキーボードショートカットを割り当てることができます。

- 初期設定では、フルスコアレイアウトには通し番号付き小節領域が表示されず、パートレイアウトには表示されるようになっていますが、通し番号付き小節領域の表示/非表示はレイアウトごとに選択できます。

関連リンク

[リピートのポップオーバー \(439 ページ\)](#)

[反復記号パネル \(442 ページ\)](#)

[通し番号付き小節領域 \(1618 ページ\)](#)

[通し番号付き小節領域のカウント \(1619 ページ\)](#)

[通し番号付き小節領域の表示/非表示を切り替える \(1619 ページ\)](#)

[アイテムの長さの変更 \(470 ページ\)](#)

## キューの入力

キューのポップオーバーを使用してキューを入力できます。

前提条件

すべての元インストゥルメントにアクセスできるように、楽譜領域にフルスコアレイアウトを開いておくことをおすすめします。

手順

1. 記譜モードで、キューを入力する各譜表の、必要なデュレーションにまたがるアイテムを選択します。

補足

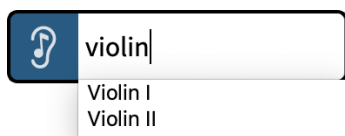
同じ位置に複数のキューを入力することはできません。既存のキューと同じ位置にキューを入力すると、既存のキューは新しいキューで置き換えられます。ただし、別の位置にキューを入力したあと、キュー同士が重なるように移動したり長さを変更したりすることはできます。

2. 以下のいずれかの操作を行なってキューのポップオーバーを開きます。

- **[Shift]+[U]** を押します。
- 記譜ツールボックスで「**ポップオーバー (Popovers)**」 をクリックし、「**キュー (Cues)**」 をクリックします。

3. キューに楽譜を表示するインストゥルメントの名前を入力しはじめます。

ポップオーバーの下にインストゥルメントの候補メニューが現れ、選択できる元インストゥルメントが表示されます。これには、セクションプレーヤーのディヴィジョンや大譜表を用いる楽器の個々の譜表、追加の譜表、オssia譜表などが含まれます。



4. インストゥルメントの候補メニューから、キューに楽譜を表示するインストゥルメント/譜表を選択します。

補足

- プロジェクトに存在するインストゥルメントの名前を入力しなければ、キューは作成されません。

- インストゥルメントの正式名称を自分でポップオーバーに入力した場合、そのインストゥルメントを使用するキューを入力するには **[Return]** を 2 回押す必要があります。
- 同じタイプのインストゥルメントがプロジェクトに複数ある場合、番号を指定しなければ最初のプレーヤーの楽譜が表示されます。たとえば、プロジェクトに Violin I と Violin II があり、キューのポップオーバーに「violin」と入力すると、キューには Violin I の譜表の楽譜が表示されます。

#### 結果

選択したデューレーションにまたがるキューが選択した各譜表に入力され、そこにキューのポップオーバーで選択したインストゥルメント/譜表の楽譜が表示されます。ピッチのある元インストゥルメントのキューは、無音程打楽器の譜表にリズムによるキューとして入力されます。

ページビューでフルスコアレイアウトにキューを入力すると、初期設定では、元インストゥルメントの名前を表示するガイドとしてキューが表示されます。これは、フルスコアレイアウトではキューを表示せず、パートレイアウトでは表示するようにデフォルトで設定されているためですが、キューの表示/非表示はレイアウトごとに選択できます。

#### 関連リンク

[記譜ツールボックス \(224 ページ\)](#)

[キュー \(1208 ページ\)](#)

[リズムによるキュー \(1221 ページ\)](#)

[レイアウト内のキューを表示/非表示にする \(1209 ページ\)](#)

[キューの重ね合わせ \(1216 ページ\)](#)

[アイテムの長さの変更 \(470 ページ\)](#)



[音符/アイテムの位置の移動 \(502 ページ\)](#)

[レイアウトの切り替え \(47 ページ\)](#)

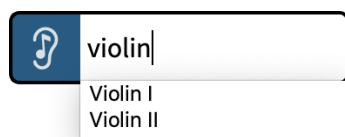
## キューのポップオーバー

キューのポップオーバーでは、お使いのプロジェクトと言語で設定されたインストゥルメントの名前を使用して、プロジェクト内の別のインストゥルメントを参照するキューを入力できます。

記譜モードでは、アイテムの選択時またはキャレットの有効時に以下のいずれかの操作を行なって、キューのポップオーバーを開くことができます。

- **[Shift]+[U]** を押します。
- 記譜ツールボックスで「ポップオーバー (Popovers)」 をクリックし、「キュー (Cues)」 をクリックします。
- キューパネルで「キューを作成 (Create Cue)」をクリックします。
- 既存のキューを選択して **[Return]** を押します。
- 「記譜 (Write)」 > 「キューを作成 (Create Cue)」を選択します。

プロジェクトに存在するインストゥルメントの名前をキューのポップオーバーに入力しはじめると、キューに表示できる元インストゥルメント (出力先インストゥルメントは除く) が表示された候補メニューが現れます。



エントリーの例が入力され、インストゥルメントの候補メニューが表示されたキューのポップオーバー

大譜表や複数の譜表を使用するインストゥルメントの各譜表は「Piano (a)」と「Piano (b)」のように、個別に表示されます。

無音程打楽器のインストゥルメントはそれぞれ個別に表示されます。プロジェクト内にドラムセットがある場合、ドラムセットに含まれるインストゥルメントはキューの候補として個別に表示されます。たとえば、キューにキックドラムだけを表示できます。

#### 補足

- 打楽器キット全体をキューに使用することはできません。キット内の個々のインストゥルメントを選択する必要があります。
- 既存のキューと同じ位置にキューを直接入力すると、既存のキューは新しいキューで上書きされ、既存のキューは削除されます。ただし、別の小節にキューを作成しておいて、あとから移動するか長さを変更すれば、同じ位置に複数のキューを配置できます。

## キューパネル

キューパネルでは、キューを入力したりキューの入力に適した場所を見つけたりできます。これは記譜モードの右ゾーンに配置されています。

- 記譜ツールボックスで「パネル (Panels)」をクリックしたあとに、「キュー (Cues)」をクリックすることで、キューパネルの表示/非表示を切り替えられます。

**[Ctrl]/[command]+[9]** を押して右ゾーンの表示/非表示を切り替えることもできます。

キューパネルには以下のセクションがあります。

### キューを作成 (Create Cue)

「キューを作成 (Create Cue)」ボタンをマウスでクリックしてキューのポップオーバーを開くことができます。

### キューを提案 (Suggest Cues)

プレーヤーの休止の長さに基づいてキューの提案箇所を生成できます。

## キューの提案

キューの提案とは、現在のフロー内でプレーヤーが一定の間演奏していない箇所のうち、Dorico Pro がキューを入力するのに適していると識別した場所のことです。

キューパネルの「キューを提案 (Suggest Cues)」セクションは以下のセクションに分かれており、これらはキューの入力に適した場所を見つけるのに役立ちます。

### 休符時間 (Resting for)

キューを入力するまでのプレーヤーの休止時間を指定できます。

休止時間は小節や拍ではなく絶対時間で指定します。拍子やテンポはフローの中で何度も変更される場合があるほか、楽譜の一部または全体に拍子がないことがあるのに対し、1秒は常に同じ長さであるためです。Dorico Pro はプロジェクトのメトロノームマークを使用して時間を計算します。

絶対時間を指定することで、キューに適した場所を見つけるアプローチの一貫性を確保できます。

### リハーサルマーク (Rehearsal Marks)

休止時間を決定する際にリハーサルマークを考慮/無視できます。

リハーサルマークは楽譜の新しいセクションやその他の目印と同じ位置にあることが多く、これらはキューを追加しなくてもプレーヤーには明らかな場合があります。リハーサルマークは必ずしも音楽構造のガイドとして機能するわけではないため、初期設定では無視されます。

## キュー

休止時間を決定する際に、出力先プレーヤーが演奏する音符の間にすでに存在するキューを考慮/無視できます。

出力先インストゥルメントのエントリーの直前にあるキューは常に無視され、たとえキューを考慮するように設定していても、提案箇所に含まれることはありません。

ただし、キューを考慮するように設定した場合、延長された休符の間プレーヤーが自分の場所を分かりやすく示し、エントリーの直前にないキューは、タイマーをリセットします。

## 更新 (Update)

「**休符時間 (Resting for)**」の長さやリハーサルマークとキューの設定を変更してこのボタンを押すと、これらの設定に基づいてキューの提案が再計算されます。

「**更新 (Update)**」ボタンの下には、キューの提案のリストを前回更新したときにアクティブだったフローとレイアウトの名前が表示されます。これにより、表に表示された提案が適用されるフローとレイアウトを一目で確認できます。

## キューの提案の表

提案されたキューが表に表示されます。この表には以下の列があります。

- 「**インストゥルメント (Instr.)**」: 指定した最小デューレーションより長く休止している出力先インストゥルメント。クリックすると、キューの提案があるインストゥルメントがスコアに登場する順に表示されます。
- 「**小節 (Bar)**」: 休止時間のあとに出力先インストゥルメントの最初のエントリーが含まれている小節。クリックすると、エントリーが昇順、つまり登場が早い小節から順に上から下へと表示されます。
- 「**秒 (Sec.)**」: 「**小節 (Bar)**」列に表示されたエントリーの前に出力先インストゥルメントが休止している時間の長さ(秒)。クリックすると、休止時間の長さが降順、つまり最も長いものから順に上から下へと表示されます。

キューの提案の表で行をクリックすると、その場所に直接移動します。初期設定では、出力先インストゥルメントのエントリーの前に5～10秒に相当するデューレーションがある領域が強調表示されます。強調された領域はキューの長さの具体的な提案ではありませんが、楽譜の前後関係によってはよい目安になります。

キューの提案の表で提案された場所にキューを作成すると、その提案はリストから自動的に削除されます。

表の一番下のアクションバーにある「**無視 (Ignore)**」をクリックすると、キューが適切だとは思わない提案を非表示にできます。

### 補足

あとから「**更新 (Update)**」をクリックしてリストを再生成すると、非表示になっていた提案が再度表示されます。

## キューの提案箇所を強調 (Highlight suggestions)

「**キューの提案箇所を強調 (Highlight suggestions)**」をオンにすると、元インストゥルメントのエントリーの前の強調された領域が表示され、オフにすると非表示になります。

## 「演奏中のインストゥルメント (Playing instruments)」リスト

キューの提案の表で現在選択している出力先インストゥルメントのエントリーの前の5～10秒に演奏しているインストゥルメントが表示されます。このリストは、キューの元インストゥルメントとして使用するインストゥルメントを判断するのに役立ちます。

## 関連リンク

[キューの表示オプション \(1226 ページ\)](#)





[キューの提案の強調表示を表示/非表示にする \(1227 ページ\)](#)

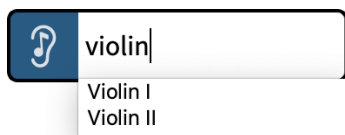


## キューの提案を使用したキューの入力

記譜モードのキューパネルにある「**キューを提案 (Suggest Cues)**」セクションを使用して、キューの入力に適した場所を見つけることができます。そのあと、キューのポップオーバーを使用してキューを入力できます。

### 手順

1. 記譜モードの楽譜領域で、キューに適した場所を見つけるレイアウトを開きます。  
たとえば、楽譜領域でフルスコアレイアウトを開いている場合はすべてのインストゥルメントについてキューに適した場所が提案されますが、単一のパートレイアウトを開いている場合は個々のインストゥルメントについてのみキューに適した場所が提案されます。
2. 記譜ツールボックスで「**パネル (Panels)**」をクリックしたあとに、「**キュー (Cues)**」をクリックして、キューパネルを表示します。
3. 「**キューを提案 (Suggest Cues)**」セクションで、「**休符時間 (Resting for)**」の値を変更して、キューを入力するまでの休符時間を指定します。
4. 「**リハーサルマーク (Rehearsal marks)**」で以下のいずれかのオプションを選択します。
  - **考慮 (Consider)**
  - **無視 (Ignore)**
5. 「**キュー (Cues)**」で以下のいずれかのオプションを選択します。
  - **考慮 (Consider)**
  - **無視 (Ignore)**
6. 「**更新 (Update)**」をクリックします。
7. キューの提案のコンテキストを確認するには、キューの提案の表で行をクリックし、レイアウト内のその位置に直接移動します。  
キューの提案は、5～10秒に相当するデュレーションが強調表示されます。「**キューの提案箇所を強調 (Highlight suggestions)**」をオフにすることで、強調された領域を非表示にすることもできます。
8. キューを入力する各譜表の、必要なデュレーションにまたがるアイテムを選択します。
9. 以下のいずれかの操作を行なってキューのポップオーバーを開きます。
  - **[Shift]+[U]** を押します。
  - 記譜ツールボックスで「**ポップオーバー (Popovers)**」をクリックし、「**キュー (Cues)**」をクリックします。
10. ポップオーバーで、キューに楽譜を表示するインストゥルメントの名前を入力しはじめます。  
ポップオーバーの下にインストゥルメントの候補メニューが表示されます。キューパネルの「**演奏中のインストゥルメント (Playing instruments)**」リストを使用すると、キューに適した元インストゥルメントを選択できます。



11. インストゥルメントの候補メニューから、キューに楽譜を表示するインストゥルメントを選択します。

#### 補足

- プロジェクトに存在するインストゥルメントの名前を入力しなければ、キューは作成されません。
- インストゥルメントの正式名称を自分でポップオーバーに入力した場合、そのインストゥルメントを使用するキューを入力するには **[Return]** を 2 回押す必要があります。
- 同じタイプのインストゥルメントがプロジェクトに複数ある場合、番号を指定しなければ最初のプレーヤーの楽譜がキューとして入力されます。たとえば、プロジェクトに Violin I と Violin II があり、キューのポップオーバーに「**violin**」と入力すると、キューには Violin I の譜表の楽譜が表示されます。

#### 結果

選択したデュレーションにまたがるキューが選択した各譜表に入力され、そこにキューのポップオーバーで選択したインストゥルメント/譜表の楽譜が表示されます。ピッチのある元インストゥルメントのキューは、無音程打楽器の譜表にリズムによるキューとして入力されます。

ページビューでフルスコアレイアウトにキューを入力すると、初期設定では、元インストゥルメントの名前を表示するガイドとしてキューが表示されます。これは、フルスコアレイアウトではキューを表示せず、パートレイアウトでは表示するようにデフォルトで設定されているためですが、キューの表示/非表示はレイアウトごとに選択できます。

#### 関連リンク

[キュー \(1208 ページ\)](#)

[レイアウトの切り替え \(47 ページ\)](#)

[キューの提案の強調表示を表示/非表示にする \(1227 ページ\)](#)

## MIDI トリガー領域の入力

MIDI トリガー領域のポップオーバーを使用して、MIDI トリガー領域を入力できます。

#### 前提条件

適切なミドル C のナンバリング変換設定を選択しておきます。

#### 手順

1. 記譜モードで、以下のいずれかの操作を行ないます。
  - 音符の入力を開始します。
  - MIDI トリガー領域を入力する各譜表の、必要なデュレーションにまたがるアイテムを選択します。
2. **[Shift]+[0]** を押して MIDI トリガー領域のポップオーバーを開きます。
3. ポップオーバーにトリガーする音符を入力します。

たとえば、「**C4,E4,G4**」または「**60,64,67**」と入力するか、MIDI キーボードで C メジャーコードを再生します。ベロシティを指定するには、「**(112)**」のように、エントリーの最後に必要な数字を括弧付きで含めます。

#### ヒント

ポップオーバーを開いたまま音符/コードを試聴できます。

4. **[Return]** を押してポップオーバーを閉じます。

## 結果

音符の入力中は、MIDI トリガー領域は選択された音符またはアイテムの範囲全体に入力されます。この選択は一般的に最後に入力した音符です。

既存の楽譜に MIDI トリガー領域を追加する際は、選択した各譜表の選択したデュレーションにかけて入力されます。既存の MIDI トリガー領域内のデュレーションを選択した場合は、選択したデュレーションの間だけ、新しい MIDI トリガー領域で既存の領域が置き換えられます。

## 関連リンク

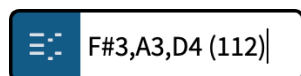
- [MIDI トリガー領域 \(717 ページ\)](#)
- [ミドル C のナンバリング変換を変更する \(55 ページ\)](#)
- [スラッシュ領域の入力 \(450 ページ\)](#)
- [音符/アイテムの位置の移動 \(502 ページ\)](#)
- [アイテムの長さの変更 \(470 ページ\)](#)
- [音符の入力 \(248 ページ\)](#)

## MIDI トリガー領域のポップオーバー

以下の表は、楽譜には表示されない再生用の音符を入力するために MIDI トリガー領域のポップオーバーに入力できるエントリーの例です。

記譜モードでは、アイテムの選択時またはキャレットの有効時に以下のいずれかの操作を行なって、MIDI トリガー領域のポップオーバーを開くことができます。

- **[Shift]+[0]** を押します。
- 既存の MIDI トリガー領域を選択して **[Return]** を押します。
- 「記譜 (Write)」 > 「MIDI トリガー領域を作成 (Create MIDI Trigger Region)」を選択します。



エントリーの例が入力された MIDI トリガー領域のポップオーバー

音符とベロシティー	ポップオーバーエントリー
ピッチとオクターブによる音符	「C0」、「Db1」、「E2」、「F#3」など
補足	
ミドル C のナンバリング変換設定に従います。	
MIDI ノート番号による音符	「12」、「25」、「40」、「54」など
演奏した音符	MIDI キーボードで音符を演奏する
	ヒント
	ベロシティーも設定されます。
ベロシティーを指定する	最後の音符のあとに「(0)」から「(127)」を入力

## 音符/アイテムの選択

Dorico Pro では、音符およびアイテムの個別の選択や、複数の譜表を含む大きな選択範囲の作成など、さまざまな方法でプロジェクト内のアイテムを選択できます。また、音符の入力/選択の際にその音を鳴らすかどうかを変更できます。

関連リンク

[大きな選択範囲](#) (463 ページ)

[システムトラック](#) (464 ページ)

[フィルター](#) (467 ページ)

[選択ツール](#) (43 ページ)

[音符の入力時/選択時に音符を再生/ミュートする](#) (239 ページ)

[音符入力時/選択時に和音の音符をすべて/個別に再生する](#) (240 ページ)

[キーエディターでアイテムを選択する](#) (840 ページ)

## 音符とアイテムを個々に選択/選択解除する

選択した音符にアーティキュレーションを追加したり短い楽節を削除したりするなど、楽譜領域内で既存の音符やその他の記譜項目を個別に選択/選択解除できます。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。

### ヒント

多くの音符やアイテムを選択する場合は、より広範囲な選択方法を使用することをおすすめします。

---

### 手順

1. 以下のいずれかの操作を行なって、楽譜領域内の個々の音符やアイテムを選択します。

- 音符またはアイテムを 1 つクリックします。

### ヒント

選択したいアイテムが別のアイテムの後ろにある場合は、**[Shift] + [Alt/Opt]** を押しながらそのアイテムをクリックします。

- **[Ctrl]/[command]** を押しながら個々の音符またはアイテムをクリックします。
  - **[Shift]** を押しながら隣接する音符またはアイテムをクリックします。
  - 連桁グループに属するすべての音符を選択するには、連桁をクリックします。
  - 和音に属するすべての音符を選択するには、符尾をクリックします。
  - 小節内のすべてを選択するには、その小節内で、譜表の音符、符尾またはアイテム以外の場所をクリックします。
  - 複数の音符またはアイテムを範囲選択します。
  - 既存の選択範囲から別のアイテムに移動します。
  - 楽譜領域で何も選択していない場合、コンピューターキーボードの矢印キーをどれでも押して、現在のレイアウトの一番上の譜表の最初の音符、休符、またはその他のアイテムを選択します。
2. 以下のいずれかの操作を行なって、現在選択されているすべてのアイテムの選択を解除します。
- **[Ctrl]/[command]+[D]** を押します。
  - 「編集 (Edit)」 > 「選択を解除 (Select None)」を選択します。
  - 楽譜領域内の譜表の外側をクリックします。
-

関連リンク

- [範囲選択ツールを使った複数アイテムの選択 \(462 ページ\)](#)
- [キーエディターでアイテムを選択する \(840 ページ\)](#)
- [音符の入力時/選択時に音符を再生/ミュートする \(239 ページ\)](#)
- [楽譜領域内の別のアイテムに移動する \(480 ページ\)](#)
- [動作の取り消し/再実行 \(478 ページ\)](#)
- [フィルター \(467 ページ\)](#)

## 選択の延長

組段やフローの開始位置/終了位置などの隣接するアイテムや音符まで現在の選択を延長できます。

---


手順

1. 記譜モードの楽譜領域で選択範囲を作成します。
  2. 以下のいずれかの操作を行なって選択を延長します。
    - 右側の隣接する音符/アイテムを選択するには、**[Shift]+[→]** を押します。
    - 左側の隣接する音符/アイテムを選択するには、**[Shift]+[←]** を押します。
    - 小節の終了位置まで選択するには、**[Ctrl]/[command]+[Shift]+[→]** を押します。
    - 小節の開始位置まで選択するには、**[Ctrl]/[command]+[Shift]+[←]** を押します。
    - 組段の終了位置まで選択するには、「編集 (Edit)」 > 「組段の終端まで選択 (Select To End Of System)」を選択します。
    - 組段の開始位置まで選択するには、「編集 (Edit)」 > 「組段の開始位置まで選択 (Select To Start Of System)」を選択します。
    - フローの終了位置まで選択するには、「編集 (Edit)」 > 「フローの最後まで選択 (Select To End Of Flow)」を選択します。
    - フローの開始位置まで選択するには、「編集 (Edit)」 > 「フローの開始位置まで選択 (Select To Start Of Flow)」を選択します。
- 

## 同じタイプのアイテムをより多く選択する

同じタイプのアイテムや同じ声部上の音符など、現在の選択を徐々に増加できます。この機能は、強弱記号や歌詞など。複数の異なるアイテムを一度に選択する場合に特に役立ちます。

前提条件

浄書モードの場合は、浄書ツールボックスで「グラフィックの編集 (Graphic Editing)」 を選択しておきます。

---

手順

1. 選択箇所を増やす音符やアイテムを選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。

ヒント

4 つの譜表上の符尾が上向きの声部に含まれる音符のみを選択するなど、複数の譜表や特定の声部上の音符やアイテムを選択できます。

---

2. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[A]** を押して、選択箇所を拡大します。
  3. 必要に応じて、再度 **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[A]** を押して選択箇所をさらに拡大します。
-

#### 結果

元の選択箇所と同じ声部に含まれる同じタイプのアイテムや音符がさらに選択されます。キーボードショートカットを押すたびに、選択されるアイテムの範囲が拡大し、1回めは小節内、2回めは組段内、そして最後はフロー全体に選択範囲が広がります。ほかに選択できるアイテムが小節内に含まれていない場合は、自動的に2回めの拡大範囲に移ります。ギャラリービューには組段が1つしかないため、2回めの拡大でフロー全体が選択範囲になります。

複数の小節や組段にまたがるアイテムは、含まれている最初の小節/組段のアイテムとして選択されません。

#### 補足

以下のアイテムは1つのみ選択すると、Dorico Pro 通常とは異なる方法で選択されます。

- 歌詞: 元の選択した歌詞と同じライン番号、配置、およびラインタイプの歌詞にのみ選択範囲が拡大します。
- 強弱記号: 1回めの拡大範囲は元の選択した強弱記号と同じグループ内および同じ譜表上の強弱記号で、それ以降の拡大範囲はほかのグループ内の強弱記号に広がります。
- テキストアイテム: 元の選択したテキストアイテムと同じパラグラフスタイルを使用している他のテキストアイテムにのみ選択範囲が拡大します。
- 演奏技法: **弦楽器**や**合唱**のような、同じカテゴリーの演奏技法にのみ選択範囲が拡大します。また、上げ弓もしくは下げ弓の演奏技法を選択した場合は、選択範囲はほかの上げ弓もしくは下げ弓の演奏技法にしか拡大しません。これ以外の演奏技法は選択されません。

#### 関連リンク

[浄書ツールボックス](#) (554 ページ)

[歌詞のタイプ](#) (1362 ページ)

[歌詞のライン番号](#) (1382 ページ)

[強弱記号のグループ](#) (1260 ページ)


[テキストアイテムのパラグラフスタイルの変更](#) (1768 ページ)

[「パラグラフスタイル \(Paragraph Styles\)」ダイアログ](#) (932 ページ)

## 範囲選択ツールを使った複数アイテムの選択

範囲選択ツールを使用して、特定の範囲内の複数の音符や記譜記号を一度に選択できます。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。

#### 手順

1. ステータスバーで「**範囲選択ツール (Marquee Tool)**」をクリックします。
2. 楽譜領域をクリックして、選択する範囲を囲むようにドラッグします。  
灰色の長方形により選択する音符と記譜記号が示されます。選択する範囲のいずれかの角をクリックし、対角にドラッグすることをおすすめします。

#### 結果

マウスを放すと、灰色の長方形の範囲に含まれるすべての音符と記譜記号が選択されます。

#### 補足

長方形の範囲内に完全に収まっているアイテムのみが選択されます。ただし、音符またはタイのつながりが部分的に範囲に含まれている場合は、音符またはタイのつながり全体が選択されます。

関連リンク

[ステータスバー \(42 ページ\)](#)

[選択ツール \(43 ページ\)](#)

[選択の延長 \(461 ページ\)](#)


[キーエディターでアイテムを選択する \(840 ページ\)](#)

[変換ツールを使用して値を変更する \(880 ページ\)](#)

## 大きな選択範囲

譜表全体またはフロー全体のコンテンツの選択など、大きな範囲を選択できます。

### 特定の領域内のすべてを選択する

「範囲選択ツール (Marquee Tool)」  を使用すると、指定した領域内のすべてを選択できます。

### フロー内のすべてを選択する

- **[Ctrl]/[command]+[A]** を押します。
- 「編集 (Edit)」 > 「すべて選択 (Select All)」を選択します。

### 単一の譜表上のすべてを選択する

- 譜表の最初の音符を選択して、**[Shift]** を押しながらか譜表の最後の音符を選択します。
- 譜表の最初の音符を選択して、「編集 (Edit)」 > 「組段の終端まで選択 (Select To End Of System)」または「編集 (Edit)」 > 「フローの最後まで選択 (Select To End Of Flow)」を選択します。
- 譜表の最後の音符を選択して、「編集 (Edit)」 > 「組段の開始位置まで選択 (Select To Start Of System)」または「編集 (Edit)」 > 「フローの開始位置まで選択 (Select To Start Of Flow)」を選択します。

### 複数の隣接する譜表上のすべてを選択する

- 選択したい譜表範囲の一番上または一番下の1つの譜表全体を選択して、選択したいすべての譜表が選択されるまで **[Shift]+[↑]** または **[Shift]+[↓]** を押します。
- 選択したい譜表範囲の一番上または一番下の1つの譜表全体を選択して、選択したい譜表範囲の反対側の端の譜表を **[Shift]** を押しながらかクリックします。

### 現在選択しているアイテムと同じタイプをさらに選択する

記譜モードまたは浄書モードで「編集 (Edit)」 > 「さらに選択 (Select More)」 (キーボードショートカット **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[A]**) を使用すると、現在の選択を同じタイプかつ選択中の声部内にあるほかのアイテムへと水平方向に徐々に拡大できます。複数の小節や組段にまたがるアイテムは、含まれている最初の小節/組段のアイテムとして選択されます。

1. 1 回目の拡大は、現在の小節領域内に左右に広がります。4/4 の小節内の全音符を選択するなどして、小節内にほかに選択できるアイテムがない場合は、自動的に 2 回目の拡大範囲に移ります。
2. ページビューでの 2 回目の拡大は、現在の組段領域内に左右に広がります。ギャラリービューには組段が 1 つしかないため、2 回目の拡大でフロー全体が選択範囲になります。
3. ページビューでは、3 回目の拡大でフロー全体が選択範囲になります。

### 拍/小節の範囲内の組段のすべてを選択する

システムトラックを使用して拍/小節の領域を選択したあと、その領域内の組段のすべての譜表上のすべてを選択できます。

システムトラックの選択には、コード記号、調号、拍子記号などの組段オブジェクトが含まれます。

## ヒント

歌詞や強弱記号など、特定のタイプのアイテムのみを選択したい場合は、対応するフィルターを使用できます。

関連リンク

[フィルター \(467 ページ\)](#)

[音符とアイテムを個々に選択/選択解除する \(460 ページ\)](#)

[選択の延長 \(461 ページ\)](#)

[キーエディターでアイテムを選択する \(840 ページ\)](#)

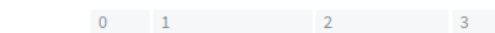
[同じタイプのアイテムをより多く選択する \(461 ページ\)](#)

[動作の取り消し/再実行 \(478 ページ\)](#)

[ヒストグラムツール \(875 ページ\)](#)

## システムトラック

システムトラックとは、記譜モードで各組段の上に表示される半透明のラインです。システムトラックを使用すると、小節と拍の追加や削除を行ったり、組段内のすべての譜表上のすべてのアイテムを選択したりできます。システムトラックの選択には、コード記号、調号、拍子記号などの組段オブジェクトが含まれます。



譜表上のシステムトラックに小節が表示されている例



譜表上のシステムトラックに、現在のリズムグリッドの間隔を反映した拍の単位が表示されている例 ([Alt/Opt] を押すと表示されます)

システムトラックの色は、操作に応じて変化します。

- マウスポインターを合わせると不透明度が上がります。
- システムトラックで領域を選択すると強調表示されます。



マウスポインターを合わせたシステムトラック



領域を選択したシステムトラック

システムトラックで領域を選択すると、以下のオプションを使用できるようになります。





### 1 編集停止位置を設定 (Set Edit Stop Position)

挿入モードの停止位置を設定または削除できます。

### 2 削除 (Delete)

選択した領域を削除できます。

補足

削除にマウスポインターを合わせると、選択した領域の強調色が変わります。

---

### 3 システムトラックの選択

選択した領域全体で組段内のすべての譜表のすべてのアイテム (組段オブジェクトを含む) を選択できます。

### 4 追加 (Add)

システムトラックで選択した範囲と同じデュレーションの小節または拍を追加できます。選択範囲の直後に追加の時間が挿入されます。

補足

別の種類の選択を行なうか、レイアウトを切り替えるとシステムトラックでの選択はクリアされます。ただし、ページビューとギャラリービューを切り替えてもシステムトラックでの選択は保持されません。

---

関連リンク

[システムトラックによる小節/拍の入力 \(334 ページ\)](#)

[システムトラックによる小節/拍の削除 \(1074 ページ\)](#)

[組段オブジェクト \(1717 ページ\)](#)

[リズムグリッド \(241 ページ\)](#)

[挿入モード \(491 ページ\)](#)

## システムトラックの表示/非表示の切り替え

初期設定では、新規プロジェクトにはシステムトラックが表示されますが、記譜モードのシステムトラックの表示/非表示はいつでも切り替えることができます。

---

手順

- 以下のいずれかの操作を行なって、システムトラックの表示/非表示を切り替えます。
    - **[Alt/Opt]+[T]** を押します。
    - 「ビュー (View)」 > 「システムトラック (System Track)」を選択します。
- 

結果

システムトラックの表示/非表示が切り替わります。

#### ヒント

それ以降のすべてのプロジェクトでシステムトラックをデフォルトで非表示にするには、「環境設定 (Preferences)」 > 「全般 (General)」 > 「ビュー (View)」 で設定を行ないます。

---

#### 関連リンク

[「環境設定 \(Preferences\)」 ダイアログ \(63 ページ\)](#)

## システムトラックを使った小節の選択



システムトラックを使用すると、選択した小節全体で組段内のすべての譜表のすべてのアイテム (組段オブジェクトを含む) を選択できます。

#### 前提条件

システムトラックを表示しておきます。

---

#### 手順

1. 記譜モードでシステムトラックの小節をクリックします。
  2. 必要に応じて、以下のいずれかの操作を行なって追加の小節を選択します。
    - **[Shift]** を押しながら、システムトラック上の左右の小節をクリックします。
    - システムトラック上をクリックして左右にドラッグします。
  3. システムトラックで**システムトラックの選択**  をクリックします。選択範囲が狭い場合、システムトラックの上にボタンが表示される場合があります。  
**システムトラックの選択**  にマウスポインターを合わせると、ボタンが塗りつぶされて表示されます。
- 

#### 結果

選択した小節のすべての譜表上のすべてのアイテムが選択され、強調表示されます (組段オブジェクト、記譜記号、ガイドを含む)。

#### 補足

選択範囲を削除した場合、そこに含まれるガイドも削除されます。これによってページレイアウトが影響を受ける可能性があります。たとえば、選択範囲にガイドが含まれるオッサ譜表を削除した場合です。

---

## システムトラックを使った拍の選択

システムトラックを使用すると、選択した拍全体で組段内のすべての譜表のすべてのアイテム (組段オブジェクトを含む) を選択できます。

#### 前提条件

システムトラックを表示しておきます。

---


#### 手順

1. 記譜モードで **[Alt/Opt]** を押したままにします。  
現在のリズムグリッドの間隔に一致するグリッドラインがシステムトラックに表示されます。
2. **[Alt/Opt]** を押したまま、システムトラック上をクリックして左右にドラッグします。

#### 補足

[Shift] を押しながらクリックする操作では、拍の選択は行なえません。

3. システムトラックで**システムトラックの選択**  をクリックします。選択範囲が狭い場合、システムトラックの上にボタンが表示される場合があります。

**システムトラックの選択**  にマウスポインターを合わせると、ボタンが塗りつぶされて表示されます。

#### 結果

選択した拍のすべての譜表上のすべてのアイテムが選択され、強調表示されます (組段オブジェクト、記譜記号、ガイドを含む)。

#### 補足

選択範囲を削除した場合、そこに含まれるガイドも削除されます。これによってページレイアウトが影響を受ける可能性があります。たとえば、選択範囲にガイドが含まれるオッサ譜表を削除した場合です。

#### 関連リンク

- [音符/アイテムのコピーと貼り付け \(497 ページ\)](#)
- [小節内のコンテンツの削除 \(1075 ページ\)](#)
- [システムトラックによる小節/拍の削除 \(1074 ページ\)](#)
- [組段オブジェクト \(1717 ページ\)](#)
- [リズムグリッド \(241 ページ\)](#)

## フィルター

Dorico Pro のフィルターを使用すると、多くのアイテムの中から特定のタイプのアイテムのみを選択できます。Dorico Pro にはすべての記譜項目に対してフィルターが用意されています。

- フィルターを使用するには、「**編集 (Edit)**」 > 「**フィルター (Filter)**」 > [**アイテム**] > [**アイテムのタイプ**] を選択します。フィルターはコンテキストメニューでも選択できます。

アルペジオ記号、コード記号、調号、演奏技法など、すべての重要な記譜項目には固有のフィルターがあります。また、音符のスペーシングの変更もフィルタリングできます。

以下のアイテムには複数のタイプがあるため、複数のフィルターがあります。

#### 音符

音符、装飾音符、和音をフィルタリングできます。臨時記号、ピッチ、和音内の位置に応じて音符をフィルタリングできます。

#### 声部

符尾の方向に応じて声部をフィルタリングできます。スラッシュ付き声部もフィルタリングできます。

#### 強弱記号

すべての強弱記号、あるいは段階的強弱記号または局部的強弱記号だけをフィルタリングできます。

#### テンポ

すべてのテンポ記号、あるいは固定テンポ変更、相対テンポ変更、または段階的テンポ変更だけをフィルタリングできます。

## 歌詞 (Lyrics)

すべての歌詞、あるいは特定のライン番号、タイプ、または譜表に対する位置の歌詞だけをフィルタリングできます。

### 補足

小節線に対するフィルターはありません。また、フィンガリング、連符、アーティキュレーション、トレモロなど、適用される音符の一部と見なされる記譜記号はフィルタリングできません。

### 関連リンク

[歌詞のフィルター \(1366 ページ\)](#)

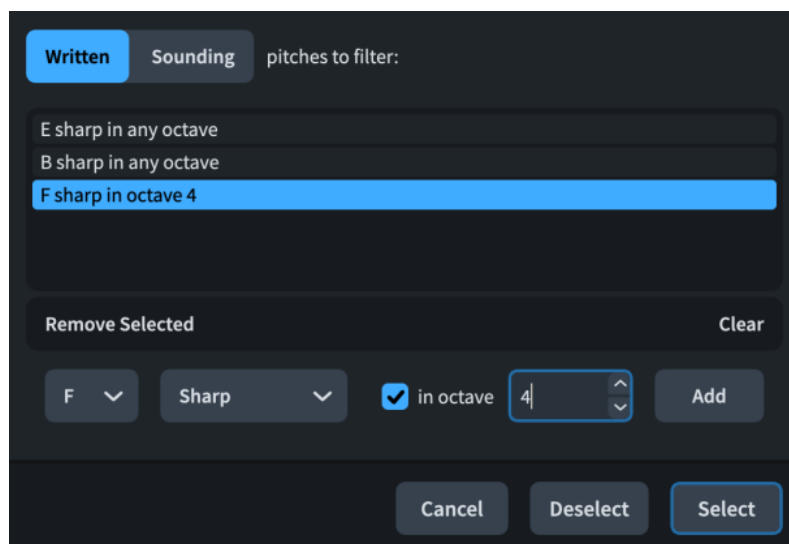
[同じタイプのアイテムをより多く選択する \(461 ページ\)](#)

[既存の音符の声部を変更する \(507 ページ\)](#)

[歌詞のライン番号および歌詞のラインタイプの変更 \(1383 ページ\)](#)

## 「ピッチで音符をフィルター (Filter Notes by Pitch)」 ダイアログ

「ピッチで音符をフィルター (Filter Notes by Pitch)」 ダイアログでは、より大きな選択範囲からフィルタリングする音符をピッチで指定できます。単一のオクターブまたはすべてのオクターブのピッチを指定できます。



「ピッチで音符をフィルター (Filter Notes by Pitch)」 ダイアログは以下で構成されます。

### 移調音/実音 (Written/Sounding) のフィルターする音程 (pitches to filter)

「移調音 (Written)」のピッチと「実音 (Sounding)」のピッチのどちらに応じて音符をフィルタリングするかを選択できます。

### ピッチフィルターリスト

選択範囲に適用されるさまざまなピッチフィルターが表示されます。

### 選択した音程を削除 (Remove Selected)

選択したピッチフィルターのみを削除します。

### クリア (Clear)

リスト内のすべてのピッチフィルターを削除します。

### 音符名メニュー

フィルタリングする音符の名前を選択できます (「E」や「G」など)。

### 臨時記号メニュー

ピッチを指定する臨時記号を選択できます (「Eb」や「G#」など)。

### オクターブを指定 (in octave)

ピッチをフィルタリングするオクターブを選択できます。

- 「オクターブを指定 (in octave)」をオンにすると、フィルターが単一のオクターブにのみ適用されます。値フィールドを使用してオクターブを指定できます。
- 「オクターブを指定 (in octave)」をオフにすると、フィルターがすべてのオクターブに適用されます。

### 追加 (Add)

現在設定されているパラメーターをフィルターとして追加します。

関連リンク

[大きな選択範囲](#) (463 ページ)

## フィルターを選択/選択解除に変更する

用意されたフィルターオプションで指定したアイテムを選択するのか、選択を解除するのかを変更できます。初期設定では、フィルターはアイテムを選択します。つまり、結果として表示される項目には、フィルタリングされたアイテムのみが含まれます。

フィルターを選択解除に設定すると、結果として表示される項目には、フィルタリングされたアイテム以外のすべてが含まれます。

---

### 手順

- 以下のいずれかの操作を行なって、フィルターの動作を変更します。
  - フィルターを選択に変更するには、「編集 (Edit)」 > 「フィルター (Filter)」 > 「選択のみ (Select Only)」を選択します。
  - フィルターを選択解除に変更するには、「編集 (Edit)」 > 「フィルター (Filter)」 > 「選択解除のみ (Deselect Only)」を選択します。

### ヒント

このオプションはコンテキストメニューでも選択できます。

---

## アイテムの編集

Dorico Pro では、アイテムの長さの変更や譜表との位置関係の変更など、多くの記譜記号で編集方法が共通しているものがあります。

関連リンク

[音符/アイテムの選択](#) (460 ページ)

[配置ツール](#) (495 ページ)

[音符/アイテムの位置の移動](#) (502 ページ)

[動作の取り消し/再実行](#) (478 ページ)

## アイテムの長さの変更

デュレーションを持つアイテムは、入力後にリズム上の長さを変更できます。これにより、たとえばオクターブ線の範囲に入る音符を増減できます。

デュレーションを指定せずに入力した数字付き低音または奏法技法 (譜表の外側の弦の指示記号やビブラートバーの指示記号など) の長さを延長すると、デュレーションが付与され、必要に応じてデュレーションまたはホールドの線が表示されます。

キューの長さを変更すると、元インストゥルメントの同じ位置にある内容を反映する形で、キューの表示内容が変化します。

前提条件

適切なリズムグリッドの間隔を選択しています。

手順

1. 記譜モードで、長さを変更するアイテムを選択します。

### 補足

- 複数のアイテムが選択されている場合、それらの長さの変更は、現在のリズムグリッドの間隔によってのみ行なえます。
- スラー、段階的強弱記号、段階的強弱記号のグループ、および小節リピート領域は、一度に1つずつしか長さを変更できません。
- マウスを使用する場合、一度に長さを変更できるアイテムは1つだけです。数字付き低音および演奏技法 (弦の指示記号やビブラートバーのラインなど) の場合、あらかじめデュレーションが付与されている必要があります。
- キーボードを使用して複数の数字付き低音または演奏技法の長さを変更する場合、あらかじめデュレーションが付与されている必要があります。
- 長さを変更できるのは、グループ化されていない演奏技法またはグループ内の最後の演奏技法のみです。
- スラーの変更できる長さは、譜表をまたぐスラーから対応する終端の位置と同じ譜表に含まれる音符まで、または声部をまたぐスラーから対応する終端の位置と同じ声部に含まれる音符までのみです。

2. 以下のいずれかの操作を行なって、選択したアイテムの長さを変更します。

- 現在のリズムグリッドの間隔に従う位置と、次の符頭の位置のうち、いずれか近い方まで延長するには、**[Shift]+[Alt/Opt]+[→]** を押します。
- 現在のリズムグリッドの間隔に従う位置と、前の符頭の位置のうち、いずれか近い方まで短縮するには、**[Shift]+[Alt/Opt]+[←]** を押します。

### 補足

小節リピート領域は、グループのデュレーションが変更されます。

- 1つのアイテムを次の符頭の位置まで延長するには、**[Ctrl]/[command]+[Shift]+[Alt/Opt]+[→]** を押します。
- 1つのアイテムを前の符頭の位置まで短縮するには、**[Ctrl]/[command]+[Shift]+[Alt/Opt]+[←]** を押します。
- 開始位置または終了位置の丸いハンドルをクリックして、任意の位置にドラッグします。

### 補足

演奏技法のグループには、グループの開始位置と終了位置のハンドルのみが表示され、グループ内の各演奏技法には個々のハンドルは表示されません。

### 結果

終端を左右のリズム上の位置に移動させることで、選択したアイテムの長さが変更されます。ほとんどのアイテムの長さは、現在のリズムグリッドの間隔または前後の符頭の位置のいずれか近い方に従い変更されるか、前後の符頭の位置に直接変更されます。

小節リピート領域は、グループのデュレーションが変更されます。通し番号付き小節領域の長さは小節ごとに変更されます。スラーは音符の位置に従い長さが変更されます。

数字付き低音または演奏技法にデュレーションがなかった場合は、デュレーションが付与され、必要に応じてデュレーションまたはホールドの線が表示されます。

スラッシュ領域の一部が他のスラッシュ領域と重なり合う結果になった場合、複数のスラッシュ領域を同じ位置に表示できるように、スラッシュの譜表上の位置が自動的に調整されます。

強弱記号のグループは、グループ内の段階的強弱記号の長さを変更するか、グループ内のその他の強弱記号の位置を移動させると、全体の長さが比率を保って変更されます。これにより、グループ内の段階的強弱記号の相対的なデュレーションが維持されます。

### 補足

- 小節リピート領域の長さの最小値は1小節です。繰り返しの小節数が4小節などで、短縮された領域がそれより短いとき、領域の長さは半分になり、最終的に1小節のリピート領域になります。
- 重なり合うキューの符尾の方向は自動的に調整されないため、手動による変更が必要な場合があります。
- 各譜表のリズム上の各位置には、小節リピート領域またはコード記号領域は1つつしか存在できません。小節リピート領域またはコード記号領域の長さを変更する際に同じタイプの他のアイテムと衝突した場合、既存のアイテムは状況に応じて削除または短縮されます。小節リピート領域の場合、これは他の小節リピート領域のグループ化にも変更を生じる可能性があります。

この動作は元に戻せます。その場合、影響された他の領域の長さは復元されます。ただし、小節リピート領域またはコード記号領域の長さの変更でマウスを使用して、同じタイプの他の領域を完全に上書きした場合、上書きされた領域は完全に削除されます。

- 浄書モードでは、アイテムの表示上の位置や長さを変更できます。

### 例

例においては、フレーズの延長により終端の *p* は右に4分音符2つ分移動していますが、真ん中の *f* は右に4分音符1つ分しか移動していません。これにより、段階的強弱記号の長さが均等なままになります。



元の強弱記号のフレーズ



伸ばした強弱記号のフレーズ

### 関連リンク

[リズムグリッド \(241 ページ\)](#)

[音符のデュレーションの変更 \(286 ページ\)](#)

[リピー括弧のセグメントの長さの変更 \(1593 ページ\)](#)  
[音符/アイテムの位置の移動 \(502 ページ\)](#)  
[アイテムの表示位置の移動 \(652 ページ\)](#)  
[演奏技法のデュレーション線を表示/非表示にする \(1545 ページ\)](#)  
[記譜記号の入力 \(298 ページ\)](#)  
[小節リピー記号のグループ化 \(1616 ページ\)](#)  
[演奏技法の延長線 \(1542 ページ\)](#)  
[演奏技法のデュレーション \(1543 ページ\)](#)  
[ペダル線の開始記号、フック、および延長線 \(1526 ページ\)](#)  
[サスティンペダルのリテイクおよびペダルの強さの変更指示 \(1517 ページ\)](#)  
[キューの重ね合わせ \(1216 ページ\)](#)  
[複声部におけるスラッシュ \(1637 ページ\)](#)  
[浄書モードのオクターブ線 \(1205 ページ\)](#)  
[浄書モードのスラー \(1675 ページ\)](#)  
[譜表および声部をまたぐスラー \(1669 ページ\)](#)  
[強弱記号のグループ \(1260 ページ\)](#)  
[連続したヘアピンをひと続きとして表示する \(1250 ページ\)](#)  
[数字付き低音のホールド/サスペンションラインの表示/非表示を切り替える \(1274 ページ\)](#)

## 既存のアイテムの変更

ポップオーバーが割り当てられているアイテムは、削除して新しくアイテムを入力するかわりに変更することができます。たとえば、8va のオクターブ線を 15va に変更したり、短いフェルマータを長いフェルマータに変更したりできます。

---

### 手順

1. 変更するアイテムまたはアイテムのガイドを選択します。
2. 以下のいずれかの操作を行なってそのアイテム用のポップオーバーを開きます。
  - **[Return]** を押します。
  - アイテムをダブルクリックします。
3. ポップオーバーに入力されている内容を変更します。  
コード記号については、MIDI キーボードで新しい和音を演奏することもできます。
4. **[Return]** を押してポップオーバーを閉じます。

---

### 結果

ポップオーバーに入力した新しいエントリーに従って、選択したアイテムが変更されます。アイテムに応じて変化するパラメーターも異なります。たとえば、延長記号や休止記号だとデュレーションが変化し、強弱記号だとボリュームが変化します。

### 補足

- それまでアイテムに設定されていたすべてのプロパティがリセットされます。
  - フェルマータをプレス記号に変更すると、一番上の譜表のみに変更が適用されます。中間休止記号をプレス記号に変更すると、一番上の譜表にある中間休止記号が配置されている小節の最後にプレス記号が挿入されます。ただし、既存の中間休止記号はすべての譜表に残ります。
  - この方法で演奏技法のポップオーバーを開いた場合、既存の演奏技法は削除されず、新しいエントリーは別の演奏技法として入力されます。
  - *f* を *fp* にするなど、局部的強弱記号を結合式強弱記号に変更した場合、既存の強弱記号は削除されず、新しいエントリーは別の強弱記号として入力されます。この逆も同様です。
-



関連リンク

[ポップオーバー \(25 ページ\)](#)

[プロパティパネル \(826 ページ\)](#)

[既存の歌詞のテキストを変更する \(1377 ページ\)](#)

[キーボードショートカットの割り当て \(68 ページ\)](#)

[強弱記号レベルを変更する \(1235 ページ\)](#)

## 音符/アイテムのサイズの変更

音符やアイテムのサイズは、キューおよび装飾音符のデフォルトの縮尺、カスタムの縮尺、またはデフォルトの縮尺に追加されたカスタムの縮尺を使用して、個別に変更できます。この操作は現在のレイアウトとフレームチェーンのみに対して、もしくはすべてのレイアウトとフレームチェーンに対して行なえます。

### ヒント

- すべての音符、アイテム、譜表を比率を保ったまま拡大/縮小するには、譜表のサイズを変更します。
- 装飾音符やキューを表わすために音符を小さくしたい場合は、サイズ変更ではなく装飾音符またはキューの入力を利用してください。
- すべての音符のサイズに関するプロジェクト全体の設定は、「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**音符 (Notes)**」のページで符頭のデザインを変更することによって変更できます。ただし、音符のサイズを個別に変更する方が自由度は高くなります。
- リハーサルマークやコード記号などテキストベースの記譜記号の多くは、対応するフォントスタイルやパラグラフスタイルを編集することにより、プロジェクト全体でのデフォルトのサイズを変更できます。

### 前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。
- 下ゾーンのツールバーで「**プロパティ (Properties)**」を選択しておきます。
- 浄書モードの場合は、浄書ツールボックスで「**グラフィックの編集 (Graphic Editing)**」を選択しておきます。
- ローカルのプロパティ変更に関して、適切なプロパティ範囲を選択しておきます。

### 手順

1. サイズを変更する音符/アイテムを選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「**一般 (Common)**」グループで、以下のプロパティをオンにします。
  - デフォルトの縮尺サイズを使用するには、「**スケール (Scale)**」をオンにします。
  - カスタムの縮尺サイズを使用するには、「**カスタム尺度 (Custom scale)**」をオンにします。
  - デフォルトの縮尺サイズをもとにしたカスタムの縮尺サイズを使用するには、「**スケール (Scale)**」と「**カスタム尺度 (Custom scale)**」の両方をオンにします。
3. 「**スケール (Scale)**」をオンにした場合、必要に応じて、メニューから以下のいずれかのオプションを選択します。
  - **標準 (Normal)**
  - **装飾音 (Grace)**
  - **キュー (Cue)**
  - **キュー装飾音 (Cue grace)**

4. 「**カスタム尺度 (Custom scale)**」をオンにした場合、必要に応じて、数値フィールドの値を変更します。
- 

#### 結果

選択した音符/アイテムのサイズが変更されます。プロパティ範囲を「**ローカル (Locally)**」に設定している場合、この変更は現在のレイアウトおよびフレームチェーンのみに影響します。

- 「**スケール (Scale)**」をオンにした場合、選択した音符/アイテムが選択したデフォルトの縮尺サイズに変更されます。
- 「**カスタム尺度 (Custom Scale)**」をオンにした場合、選択した音符/アイテムが設定したカスタムのパーセンテージの縮尺サイズに変更されます。
- 「**スケール (Scale)**」と「**カスタム尺度 (Custom Scale)**」を両方オンにした場合、選択した音符/アイテムが選択したデフォルトの縮尺サイズに対するカスタムのパーセンテージの縮尺サイズに変更されます。たとえば、「**スケール (Scale)**」に「**装飾音 (Grace)**」を選択し、「**カスタム尺度 (Custom Scale)**」に「**50**」を設定した場合、選択した音符/アイテムのサイズは装飾音符の半分のサイズになります。

#### 関連リンク

[譜表サイズ \(772 ページ\)](#)  
[デフォルトの譜表サイズの変更 \(747 ページ\)](#)  
[装飾音符 \(1327 ページ\)](#)  
[装飾音符の入力 \(275 ページ\)](#)  
[キュー \(1208 ページ\)](#)  
[キューの入力 \(453 ページ\)](#)  
[符頭セットのデザイン \(1389 ページ\)](#)  
[テキストの形式設定 \(929 ページ\)](#)  
[「浄書オプション \(Engraving Options\)」ダイアログ \(923 ページ\)](#)  
[コードダイアグラムのサイズの変更 \(1190 ページ\)](#)  
[浄書ツールボックス \(554 ページ\)](#)  
[プロパティ範囲の変更 \(828 ページ\)](#)  
[プロパティ設定を別のレイアウト/フレームチェーンにコピーする \(825 ページ\)](#)  
[臨時記号のサイズの変更 \(1054 ページ\)](#)  
[フィンガリングのサイズを変更する \(1292 ページ\)](#)  
[弦の指示記号のサイズを変更する \(1315 ページ\)](#)  
[コード/セーニョ記号のサイズの変更 \(1600 ページ\)](#)  
[スラーの破線/点のサイズを個別に変更する \(1665 ページ\)](#)  
[タイの線/点のサイズの変更 \(1780 ページ\)](#)  
[オッサ譜表のサイズを変更する \(1711 ページ\)](#)  
[大きな拍子記号 \(1801 ページ\)](#)

## 譜表に対するアイテムの位置の変更


音符の符尾の方向をすばやく変更したい場合など、譜表の上下どちらにも配置できるアイテムを反転して、アイテムの譜表に対する位置を変更できます。多くのアイテムでは、現在のレイアウトとフレームチェーンのみに対して、もしくはすべてのレイアウトとフレームチェーンに対してこの操作を行なえます。

#### 補足

この手順はテキストフレーム内のテキストやペダル線には適用されません。

---

#### 前提条件

- 浄書モードの場合は、浄書ツールボックスで「**グラフィックの編集 (Graphic Editing)**」を選択しておきます。
- ローカルのプロパティ変更に関して、適切なプロパティ範囲を選択しておきます。

---

#### 手順

1. 反転するアイテムを選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。

##### 補足

- 音符の入力中はアイテムを反転できません。テキストエディターが開いているときはテキストアイテムを反転できません。
- アーティキュレーション、タイのつながりの中の単一の符頭、単一のフェルマータなど、アイテムの一部を選択したい場合は浄書モードにする必要があります。
- 同じタイプの複数のアイテムを選択するには、大きな選択範囲やフィルターを使用します。

2. **[F]** を押します。

---

#### 結果

選択したアイテムの譜表に対する位置を変更するには、プロパティパネルの対応するグループで「**位置 (Placement)**」、「**位置 (Position)**」、または「**方向 (Direction)**」のプロパティを適切に設定します。プロパティ範囲を「**ローカル (Locally)**」に設定している場合、この変更は譜表に対する位置のプロパティがローカルに設定されているアイテムの現在のレイアウトおよびフレームチェーンのみに影響します。

これらのプロパティをオフにすると、アイテムはデフォルトの位置に配置されます。

##### 補足

- フックの方向が異なる連符の角括弧または複数セグメントによるスラーを同時に複数反転すると、それらすべてに矛盾しない方向が元々設定されていない限り、選択したすべてのアイテムが譜表の上下どちらかに設定されます。
- 多くのアイテムの譜表に対するデフォルトの位置は、「**浄書オプション (Engraving Options)**」の各ページで変更できます。

---

#### 手順終了後の項目

アイテムの表示位置を変更する必要がある場合は、浄書モードでできます。

#### 関連リンク

- [フィルター \(467 ページ\)](#)
- [大きな選択範囲 \(463 ページ\)](#)
- [ローカルプロパティとグローバルプロパティ \(827 ページ\)](#)
- [浄書ツールボックス \(554 ページ\)](#)
- [プロパティ範囲の変更 \(828 ページ\)](#)
- [プロパティ設定を別のレイアウト/フレームチェーンにコピーする \(825 ページ\)](#)
- [タッキングインデックスのプロパティ \(656 ページ\)](#)
- [音符の符尾の方向を個別に変更する \(1418 ページ\)](#)
- [譜表に対する連符の位置の変更 \(1118 ページ\)](#)
- [音符に対するアーティキュレーションの位置を変更する \(1069 ページ\)](#)
- [譜表に対するフィンガリングの位置の変更 \(1290 ページ\)](#)
- [譜表に対する連符の角括弧の位置を変更する \(1832 ページ\)](#)
- [譜表に対するコード記号の位置の変更 \(1162 ページ\)](#)
- [スラーのカーブ方向を変更する \(1668 ページ\)](#)


- [タイのカーブ方向を変更する \(1782 ページ\)](#)
- [ギタープリベンド/プリダイブの方向を変更する \(1478 ページ\)](#)
- [譜表に対するギターテクニックの位置の変更 \(1492 ページ\)](#)
- [テキストフレーム内のテキストの垂直方向の配置の変更 \(631 ページ\)](#)
- [アイテムの表示位置の移動 \(652 ページ\)](#)
- [歌詞の位置 \(1368 ページ\)](#)
- [「浄書オプション \(Engraving Options\)」 ダイアログ \(923 ページ\)](#)

## アイテムの外観のリセット

アイテムに個別に加えたすべての外観の変更をリセットして、デフォルトの設定に戻すことができます。一部のアイテムでは、現在のレイアウトとフレームチェーンのみに対して、もしくはすべてのレイアウトとフレームチェーンに対してこの操作を行なえます。

アイテムの外観に関連するプロパティには、外観のスタイルやタイプを変更するものや poco a poco などのテキストを強弱記号に追加するものが含まれます。

前提条件

- 浄書モードの場合は、浄書ツールボックスで「**グラフィックの編集 (Graphic Editing)**」 を選択しておきます。
- ローカルのプロパティ変更に関して、適切なプロパティ範囲を選択しておきます。

---

手順

1. 外観をリセットするアイテムを選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。

ヒント

同じタイプの複数のアイテムを選択するには、大きな選択範囲やフィルターを使用します。

2. 「**編集 (Edit)**」 > 「**外観をリセット (Reset Appearance)**」を選択します。
- 

結果

選択したアイテムの外観に影響するすべてのプロパティがデフォルトの設定にリセットされます。プロパティの範囲を「**ローカル (Locally)**」に設定している場合、レイアウト固有およびフレームチェーン固有のプロパティは、現在のレイアウトおよびフレームチェーンでのみリセットされます。

関連リンク


- [「浄書オプション \(Engraving Options\)」 ダイアログ \(923 ページ\)](#)
- [「記譜オプション \(Notation Options\)」 ダイアログ \(919 ページ\)](#)
- [浄書ツールボックス \(554 ページ\)](#)
- [ローカルプロパティとグローバルプロパティ \(827 ページ\)](#)
- [プロパティ範囲の変更 \(828 ページ\)](#)
- [プロパティ設定を別のレイアウト/フレームチェーンにコピーする \(825 ページ\)](#)
- [フィルター \(467 ページ\)](#)
- [大きな選択範囲 \(463 ページ\)](#)

## アイテムの位置のリセット

表示位置を個別に変更したアイテムの位置をリセットして、デフォルトの位置に戻すことができます。一部のアイテムでは、現在のレイアウトとフレームチェーンのみに対して、もしくはすべてのレイアウトとフレームチェーンに対してこの操作を行なえます。

アイテムの位置に関連するプロパティには、水平方向/垂直方向のオフセット、拍相対位置、譜表に対する位置が含まれます。

前提条件

- 浄書モードの場合は、浄書ツールボックスで「**グラフィックの編集 (Graphic Editing)**」を選択しておきます。
- ローカルのプロパティ変更に関して、適切なプロパティ範囲を選択しておきます。

手順

1. 位置をリセットするアイテムを選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。

ヒント

同じタイプの複数のアイテムを選択するには、大きな選択範囲やフィルターを使用します。

2. 「**編集 (Edit)**」 > 「**ポジションをリセット (Reset Position)**」を選択します。

結果

選択したアイテムの位置に影響するすべてのプロパティがデフォルトの設定にリセットされます。プロパティの範囲を「**ローカル (Locally)**」に設定している場合、レイアウト固有およびフレームチェーン固有のプロパティは、現在のレイアウトおよびフレームチェーンでのみリセットされます。

## 印刷されない要素を非表示にする

ガイド、選択範囲のハイライト、フレームなど、表示されている要素のうち、印刷されないものを一時的にすべて非表示にできます。これにより、印刷モードに切り替えなくても、印刷や書き出しを行なった際に表示される現在のレイアウトを確認できます。

手順

- **[\] (Windows) 又は ¥ (macOS)** を押したままにします。

結果

現在のレイアウトの印刷されない要素がキーボードショートカットを放すまですべて非表示になります。印刷される要素は、印刷や書き出しを行なった際に表示される通りに表示されます。

ヒント

印刷されない個々の要素を恒久的に表示/非表示にすることもできます。

関連リンク

[注釈 \(740 ページ\)](#)

[レイアウトの印刷 \(724 ページ\)](#)

[グラフィックファイルとしての書き出し \(728 ページ\)](#)

[ガイド \(490 ページ\)](#)

[ガイドの表示/非表示の切り替え \(491 ページ\)](#)

- [システムトラックの表示/非表示の切り替え \(465 ページ\)](#)
- [キューの表示オプション \(1226 ページ\)](#)
- [ガイド小節番号の表示/非表示 \(1098 ページ\)](#)
- [音域外の音符のカラーを表示/非表示にする \(1403 ページ\)](#)
- [声部カラーの表示/非表示 \(1859 ページ\)](#)
- [領域の強調表示の表示/非表示を切り替える \(1612 ページ\)](#)
- [スラッシュ領域の強調表示の表示/非表示を切り替える \(1633 ページ\)](#)
- [ユニゾン範囲のカラーを表示/非表示にする \(1728 ページ\)](#)

## 連結線を表示/非表示にする

記譜モードと浄書モードでは、連結線を表示/非表示にできます。連結線は、表示位置を移動したアイテムを含め、1つの選択したアイテムをリズム上の位置に連結します。

---

### 手順

- 「ビュー (View)」 > 「連結線 (Attachment Lines)」を選択します。

---

### 結果

連結線の表示/非表示が切り替わります。

---

### 例



連結線を表示した状態



連結線を非表示にした情報

---

### 関連リンク


- [十字線の表示/非表示 \(656 ページ\)](#)
- [リズム上の位置 \(26 ページ\)](#)
- [音符/アイテムの位置の移動 \(502 ページ\)](#)
- [アイテムの長さの変更 \(470 ページ\)](#)
- [アイテムの表示位置の移動 \(652 ページ\)](#)


## 動作の取り消し/再実行

一連の編集および選択を逆順に取り消したり再実行したりできます。

---

### 手順

1. 以下のいずれかの操作を行なって動作を取り消します。
  - 必要な回数だけ **[Ctrl]/[command]+[Z]** を押します。
  - ツールバーの「元に戻す (Undo)」  をクリックします。
  - 「編集 (Edit)」 > 「履歴 (History)」を選択して「履歴 (History)」ダイアログを開き、そこまでの動作を取り消したい動作を選択し、「OK」をクリックします。
2. 以下のいずれかの操作を行なって動作を再実行します。
  - 必要な回数だけ **[Ctrl]/[command]+[Y]** を押します。

- ツールバーの「再実行 (Redo)」 をクリックします。
- 「編集 (Edit)」 > 「履歴 (History)」を選択して「履歴 (History)」ダイアログを開き、そこまでの動作を再実行したい動作を選択し、「OK」をクリックします。

#### 結果

選択した動作までに実行したすべての編集と選択が取り消されるか、再実行されます。

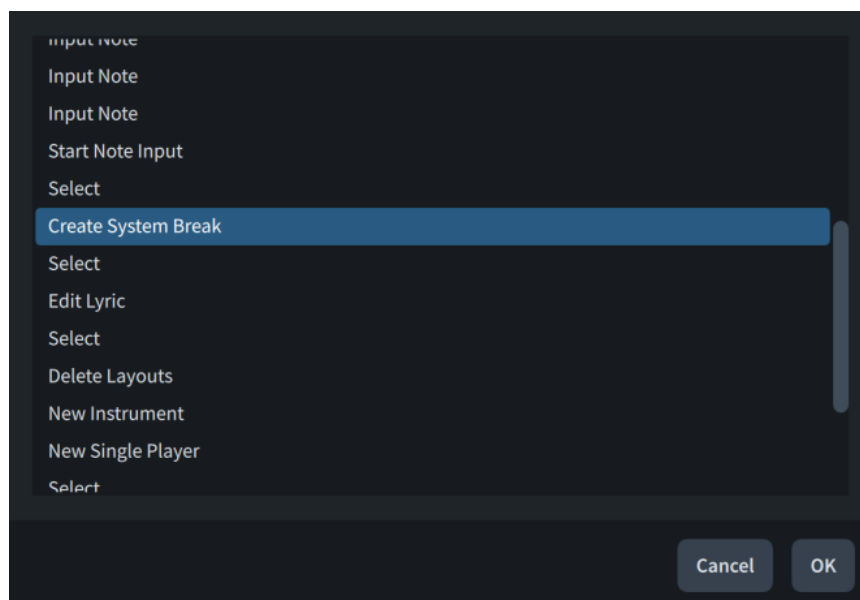
#### 関連リンク

[ツールバー \(33 ページ\)](#)

## 「履歴 (History)」ダイアログ

「履歴 (History)」ダイアログには、現在のセッションで実行したすべての編集と選択が表示され、選択した動作までのすべての動作を取り消したり再実行したりできます。

- 「履歴 (History)」ダイアログを開くには、いずれかのモードで「編集 (Edit)」 > 「履歴 (History)」を選択します。



#### 関連リンク

[動作の取り消し/再実行 \(478 ページ\)](#)

[音符/アイテムの選択 \(460 ページ\)](#)

[アイテムの編集 \(469 ページ\)](#)

## ナビゲーション

別のアイテムに選択を切り替えたり、特定の小節番号やページを表示したりするなど、楽譜領域で現在開いているレイアウト内をさまざまな方法でナビゲーションできます。ナビゲーション方法の多くは複数のモードで機能します。

アイテムを選択している場合、別の音符やアイテムに移動することで、その音符またはアイテムに選択を切り替えることができます。

#### 関連リンク

[ワークスペースの設定 \(46 ページ\)](#)

[ジャンプ小節を使用して任意の場所に移動する \(72 ページ\)](#)

[ジャンプ小節 \(70 ページ\)](#)

[手動でのキャラットの移動 \(247 ページ\)](#)

## 楽譜領域内の別のアイテムに移動する

たとえば、マウスを使わず譜表に沿って別の音符に選択を切り替えるなど、音符やアイテムを選択したあとに、楽譜領域内で別の音符やアイテムに移動できます。

### 補足

浄書モードでは、別のアイテムに移動すると、次または前の同じタイプのアイテムではなく、表示上最も近い位置にあるアイテムに選択が切り替わります。

### 手順

#### 1. 楽譜領域でアイテムを選択します。

- 音符間を移動する場合は音符を選択します。
- リハーサルマークなど、特定のタイプのアイテム間を移動するには、そのタイプのアイテムを選択します。

### 補足

同じ譜表上にあるアイテム間でのみ前または後ろに移動できます。同じタイプであっても、別の譜表上のアイテムに移動することはできません。

#### 2. 以下のいずれかの操作を行なって、別の音符またはアイテムに移動します。

- 同じ声部の次のアイテムまたは音符に移動するには、**[→]** を押します。
- 同じ声部の前のアイテムまたは音符に移動するには、**[←]** を押します。
- 現在選択しているアイテムから上方向に最も近い音符に移動するには、**[↑]** を押します。  
この操作では、まず同じ譜表に存在する音符に移動し、次に上の譜表の一番下の音符/休符に移動します。和音全体が選択されている場合は、選択されている和音の一番下の音符だけが選択された状態になります。
- 現在選択しているアイテムから下方向に最も近い音符に移動するには、**[↓]** を押します。  
この操作では、まず同じ譜表に存在する音符に移動し、次に下の譜表の一番上の音符/休符に移動します。和音全体が選択されている場合は、選択されている和音の一番上の音符だけが選択された状態になります。
- 次の小節の最初の音符/休符に移動するには、**[Ctrl]/[command]+[→]** を押します。
- 前の小節の最初の音符/休符に移動するには、**[Ctrl]/[command]+[←]** を押します。
- 組段の一番上の譜表に移動するには、**[Ctrl]/[command]+[↑]** を押します。
- 組段の一番下の譜表に移動するには、**[Ctrl]/[command]+[↓]** を押します。

#### 3. 以下のいずれかの操作を行なって、同じ位置にある別のタイプのアイテムに選択を切り替えることもできます。

- アイテムを正順で切り替えるには、**[Tab]** を押します。
- アイテムを逆順で切り替えるには、**[Shift]+[Tab]** を押します。

### 補足

組段に付くテキストやリハーサルマークなどの組段オブジェクトに選択を切り替えることはできません。ただし、組段オブジェクトを直接選択して移動することはできます。



- 別のタイプのアイテムに選択を切り替えたあと、必要に応じてそのタイプの別のアイテムに移動します。
- 

関連リンク

[組段オブジェクト \(1717 ページ\)](#)

## フローに移動する

現在のレイアウト内の前または次のフローに移動できます。この場合、そのフローの開始位置が自動的に楽譜領域に表示されます。これは、多くのフローが含まれているレイアウト内を移動するときに特に便利です。

これらの手順は、設定モード、記譜モード、浄書モードで機能します。

---

手順

- 以下のいずれかの操作を行なって、別のフローに移動します。
    - レイアウト内の前のフローに移動するには、「編集 (Edit)」 > 「移動 (Go To)」 > 「前のフローに移動 (Go To Previous Flow)」を選択します。
    - レイアウト内の次のフローに移動するには、「編集 (Edit)」 > 「移動 (Go To)」 > 「次のフローに移動 (Go To Next Flow)」を選択します。
- 

結果

楽譜領域が更新され、対応するフローの開始位置が表示されます。一番上の譜表が自動的に楽譜領域の左上に配置されます。

ヒント

「環境設定 (Preferences)」の「キーボードショートカット (Key Commands)」ページで、「前のフローに移動 (Go To Previous Flow)」と「次のフローに移動 (Go To Next Flow)」のどちらにもキーボードショートカットを割り当てることができます。

---

## ページに移動する

たとえば、楽譜の編集中に変更が必要なページにすばやくジャンプするなど、ページ番号を使用して現在のレイアウト内の指定したページに移動できます。

これらの手順は、設定モード、記譜モード、浄書モードで機能します。

---

手順

- 「編集 (Edit)」 > 「移動 (Go To)」 > 「ページの移動 (Go To Page)」を選択して「ページの移動 (Go To Page)」ダイアログを開きます。
  - 移動先のページ番号を「ページ (Page)」フィールドに入力します。
  - 「OK」をクリックします。
- 

結果

楽譜領域が更新され、対応するページの開始位置が表示されます。ページの上部が自動的に楽譜領域の中央に配置されます。

#### ヒント

- 「環境設定 (Preferences)」の「キーボードショートカット (Key Commands)」ページで、「ページの移動 (Go To Page)」にキーボードショートカットを割り当てることができます。
  - また、別の方法でビューを移動したり、レイアウト内の別のページに移動したりすることもできます。
- 

#### 関連リンク

[「環境設定 \(Preferences\)」ダイアログの「キーボードショートカット \(Key Commands\)」ページ \(64 ページ\)](#)

[ページビューのページ配置 \(44 ページ\)](#)

[楽譜領域のビューを移動する \(483 ページ\)](#)

[楽譜領域でのズームイン/ズームアウト \(483 ページ\)](#)

## 小節への移動

たとえば、楽譜の編集中に変更が必要な小節にすばやくジャンプするなど、現在のレイアウト内の指定した小節に移動できます。

これらの手順は、設定モード、記譜モード、浄書モード、再生モードで機能します。

---

#### 手順

1. **[Ctrl]/[command]+[G]** を押して「**小節に移動 (Go To Bar)**」ダイアログを開きます。
  2. 移動先の小節が含まれているフローを「**フロー (Flow)**」メニューから選択します。
  3. 移動先の小節番号を「**小節 (Bar)**」フィールドに入力します。
  4. 「**OK**」をクリックします。
- 

#### 結果

楽譜領域が更新され、選択した小節が表示されます。一番上の譜表が自動的に楽譜領域の左上に配置されます。

再生モードでは、再生ヘッドがその小節の始めに移動します。再生ヘッドが自動的にルーラーの始めに配置されます。

## リハーサルマークへの移動

たとえば楽譜の編集中に、変更が必要なパッセージにすばやくジャンプするために、現在のレイアウトの任意のフローの指定したリハーサルマークに移動できます。

これらの手順は、設定モード、記譜モード、浄書モードで機能します。

---

#### 手順

1. 「**編集 (Edit)**」 > 「**移動 (Go To)**」 > 「**リハーサルマークに移動 (Go To Rehearsal Mark)**」を選択して、「**リハーサルマークに移動 (Go To Rehearsal Mark)**」ダイアログを開きます。
  2. 移動先のリハーサルマークが含まれているフローを「**フロー (Flow)**」メニューから選択します。
  3. 移動先のリハーサルマークを「**リハーサルマーク (Rehearsal mark)**」フィールドに入力します。
  4. 「**OK**」をクリックします。
- 

#### 結果

楽譜領域が更新され、該当するリハーサルマークの位置が表示されます。


## ヒント

「環境設定 (Preferences)」の「キーボードショートカット (Key Commands)」ページで、「リハーサルマークに移動 (Go To Rehearsal Mark)」にキーボードショートカットを割り当てることができます。

## 楽譜領域のビューを移動する

楽譜領域のビューを移動して、レイアウトの別の部分を表示できます。たとえば、レイアウトをスクロールして各ページを次々表示できます。

### 手順

- 以下のいずれかの操作を行なってビューを移動します。
  - ビューを上下に移動するには、マウスホイールで上下にスクロールするか、タッチパッドで上下にスワイプします。
  - ビューを左右に移動するには、**[Shift]** を押しながらマウスホイールで上下にスクロールするか、タッチパッドで左右にスワイプします。
  - 次のページに移動するには、**[→]** 又は **[↓]** 又は **[Page Down]** を押します。
  - 前のページに移動するには、**[←]** 又は **[↑]** 又は **[Page Up]** を押します。
  - 最初のページに移動するには、**[Ctrl]/[command]+[Home]** を押します。
  - 最後のページに移動するには、**[Ctrl]/[command]+[End]** を押します。
  - ステータスバーで「ハンドツール (Hand Tool)」 をクリックし、楽譜領域で楽譜の境界内の空白部分をクリックしてドラッグします。  
ビューを動かしている間は、マウスポインターが手のアイコンに変わります。

### 結果

楽譜領域のビューが移動します。

## ヒント

- オーバースクロールの最大量、つまりページの端からどこまでビューを移動させるかは、「環境設定 (Preferences)」の「全般 (General)」ページで変更します。
- 「環境設定 (Preferences)」の「キーボードショートカット (Key Commands)」ページで、「中央の選択 (Center Selection)」にキーボードショートカットを割り当てることができます。このコマンドを実行すると、選択範囲が自動的に表示されます。

### 関連リンク

[ステータスバー \(42 ページ\)](#)

[選択ツール \(43 ページ\)](#)

[再生ヘッドの追従の有効化/無効化 \(679 ページ\)](#)



## 楽譜領域でのズームイン/ズームアウト

楽譜領域でのズームレベルを変更できます。たとえば、音符の入力時には全体を見やすくし、外観を調整するには音符や記譜記号を拡大して表示できます。

### 前提条件

ズームイン/ズームアウトを行なう際に特定のアイテムが楽譜領域の中央に常に表示されるようにするには、そのアイテムを選択しておきます。

#### 手順

- 以下のいずれかの操作を行なって、ズームインします。
  - [Z]** 又は **[Ctrl]/[command]+^** を押します。
  - タッチパッドでピンチアウトします。
  - [Ctrl]/[command]** を押しながらマウスホイールで上方向にスクロールします。
  - ステータスバーのズームオプション  を使用します。
- 以下のいずれかの操作を行なって、ズームアウトします。
  - [Ctrl]/[command]+[-]** 又は **[X]** を押します。
  - タッチパッドでピンチインします。
  - [Ctrl]/[command]** を押しながらマウスホイールで下方向にスクロールします。
  - ステータスバーのズームオプション  を使用します。

#### 結果

楽譜領域のズームレベルが変更されます。何かを選択している場合は、Dorico Pro は選択部分をズームの中心とします。何も選択していない場合は、Dorico Pro はビューの中央部分をズームの中心とします。

#### ヒント

- それ以降のすべてのプロジェクトでレイアウトを開くときに使用するデフォルトのズームレベルを、「環境設定 (Preferences)」 > 「全般 (General)」 > 「ビュー (View)」で変更できます。
- 「環境設定 (Preferences)」の「キーボードショートカット (Key Commands)」ページで、「中央の選択 (Center Selection)」にキーボードショートカットを割り当てることができます。このコマンドを実行すると、選択範囲が自動的に表示されます。

#### 関連リンク

- [ステータスバー \(42 ページ\)](#)
- [ズームオプション \(45 ページ\)](#)
- [トラックのズームイン/ズームアウト \(677 ページ\)](#)
- [ワークスペースの設定 \(46 ページ\)](#)

## カスタムズームレベルにキーボードショートカットを割り当てる

複数のカスタムズームレベルにキーボードショートカットを割り当てることができます。たとえば、ステータスバーのプリセットメニューでは利用できないズームレベルを定期的に使用する場合などに便利です。

#### 手順

- [Ctrl]/[command]+[,]** を押して「環境設定 (Preferences)」を開きます。
- カテゴリーリストの「キーボードショートカット (Key Commands)」をクリックします。
- 機能リストで「ビュー (View)」を展開し、「ズーム (Zoom)」を選択します。
- 「キーボードショートカット (Key Commands)」セクションで、キーボードショートカットを割り当てるズームレベルを「パラメーター 'ZoomPercent' (Parameter 'ZoomPercent')」値フィールドに入力します。
- 「ショートカットを押してください (Press shortcut)」入力フィールドをクリックします。
- コンピューターキーボードで、割り当てるキーボードショートカットを押します。
- 「キーボードショートカットを追加 (Add Key Command)」をクリックします。

押したキーボードショートカットが別の機能にすでに使われている場合は、警告が表示されます。

8. 「適用 (Apply)」をクリックします。

機能リストが更新され、「ズーム (Zoom)」は選択されていない状態になります。他のカスタムズームレベルにキーボードショートカットを割り当てるには、機能リストでもう一度「ズーム (Zoom)」に移動する必要があります。

9. 「閉じる (Close)」をクリックします。

#### 結果

押したキーボードショートカットが、選択したズームレベルに割り当てられたキーボードショートカットのリストに追加されます。

機能リストの「ズーム (Zoom)」に展開矢印マークが表示され、その下に新しいズームレベルがリスト表示されます。キーボードショートカットを割り当てた各ズームレベルが個別に表示されます。

#### 関連リンク

[「環境設定 \(Preferences\)」ダイアログの「キーボードショートカット \(Key Commands\)」ページ \(64 ページ\)](#)

[楽譜領域でのズームイン/ズームアウト \(483 ページ\)](#)

## インストゥルメントフィルター

インストゥルメントフィルターを使用すると、選択したインストゥルメントの譜表のみを記譜モードのギャラリービューに表示できます。これは、大規模なプロジェクトで木管楽器や弦楽器などの特定のインストゥルメントセットに集中したい場合に便利です。

インストゥルメントフィルターが有効になっている場合は、非表示の譜表の垂直位置に破線が表示され、表示されている譜表の楽譜のみを選択して編集できます。

インストゥルメントフィルターはレイアウト固有です。

ギャラリービューでフルートとバイオリンのインストゥルメントが含まれるインストゥルメントフィルターを有効にした状態

#### ヒント

「環境設定 (Preferences)」の「キーボードショートカット (Key Commands)」ページで、最大 10 個のインストゥルメントフィルタープリセットにキーボードショートカットを割り当てることができます。

す。これらのコマンドによってフィルタリングされるインストゥルメントは、レイアウトやプロジェクトごとに異なります。

関連リンク

[ギャラリービューまたはページビューへの切り替え \(54 ページ\)](#)

[音符/アイテムの選択 \(460 ページ\)](#)

[アイテムの編集 \(469 ページ\)](#)

[配置ツール \(495 ページ\)](#)

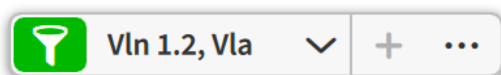
[空白の譜表の表示/非表示を切り替える \(750 ページ\)](#)

[スクラブ再生 \(682 ページ\)](#)

## インストゥルメントフィルターのオーバーレイ

インストゥルメントフィルターのオーバーレイを使用すると、レイアウトにインストゥルメントフィルターを適用したり、新しいインストゥルメントフィルターを追加したりできます。これは記譜モードのギャラリービューにのみ表示されます。

- インストゥルメントフィルターのオーバーレイの表示/非表示を切り替えるには、記譜モードで「**ビュー (View)**」 > 「**インストゥルメントフィルターオーバーレイ (Instrument Filter Overlay)**」を選択します。



インストゥルメントフィルターのオーバーレイには以下のオプションがあります。

### フィルター

選択したインストゥルメントフィルターを有効化/無効化します。レイアウトに少なくとも1つのインストゥルメントフィルターが含まれる場合のみ使用できます。



「フィルター (Filter)」をオフにした状態



「フィルター (Filter)」をオンにした状態

### インストゥルメントフィルターメニュー

Vln 1.2, Vla ▼

現在のレイアウトに適用するインストゥルメントフィルターを選択できます。「**フィルター (Filter)**」がオンになっている場合のみ使用できます。

### インストゥルメントフィルターを追加



選択したアイテムのインストゥルメントを含むインストゥルメントフィルターを追加します。楽譜領域で少なくとも1つのアイテムを選択している場合のみ使用できます。

### インストゥルメントフィルターを管理




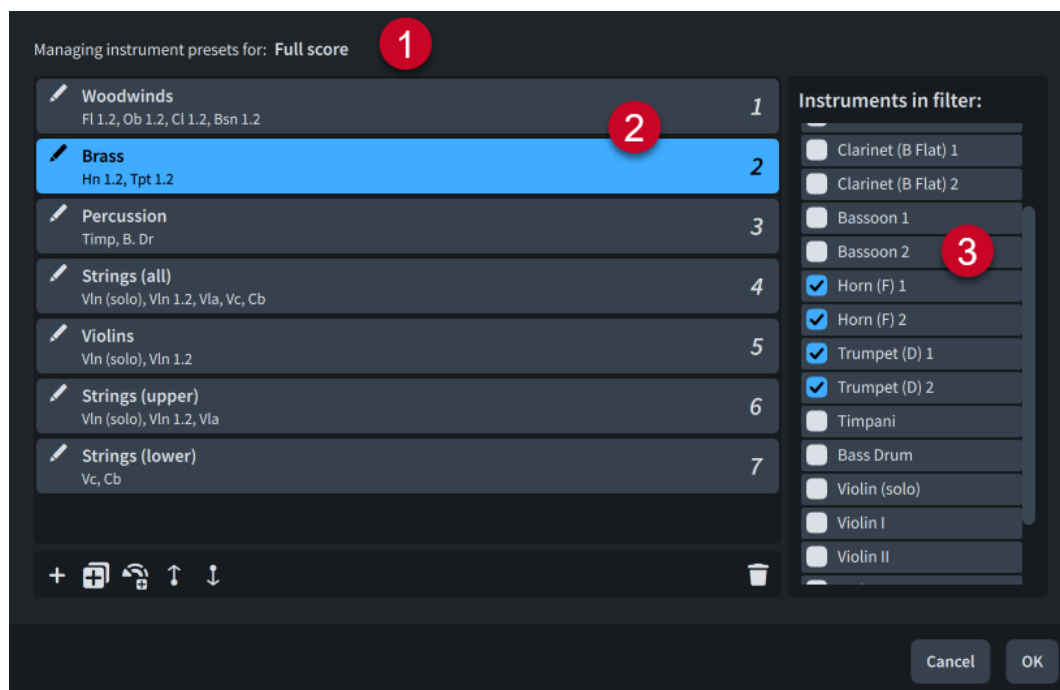
「**Manage Instrument Filters**」ダイアログが開き、現在のレイアウトのインストゥルメントフィルターの追加、編集、削除を行なえます。

## 「インストゥルメントフィルターを管理 (Manage Instrument Filters)」 ダイアログ

「インストゥルメントフィルターを管理 (Manage Instrument Filters)」ダイアログでは、現在のレイアウトのインストゥルメントフィルターの追加、編集、削除を行なえます。

「インストゥルメントフィルターを管理 (Manage Instrument Filters)」ダイアログを開くには、記譜モードで以下のいずれかの操作を行ないます。

- インストゥルメントフィルターのオーバーレイで、「インストゥルメントフィルターを管理 (Manage Instrument Filters)」 をクリックします。
- 「記譜 (Write)」 > 「インストゥルメントの表示/非表示 (Instrument Visibility)」 > 「インストゥルメントフィルタープリセットを編集 (Edit Instrument Filter Presets)」を選択します。



「インストゥルメントフィルターを管理 (Manage Instrument Filters)」ダイアログは以下で構成されます。


### 1 以下のインストゥルメントプリセットを管理中 (Managing instrument presets for)

ダイアログにインストゥルメントフィルターがリストアップされているレイアウトの名前が表示されます。

### 2 インストゥルメントフィルターリスト

そのレイアウトのインストゥルメントフィルターセットが表示されます。各インストゥルメントフィルターには、名前とそこに含まれているインストゥルメントが表示されます。複数のインストゥルメントフィルターに同じインストゥルメントが含まれている場合は警告が表示されます。

最初の 10 個のインストゥルメントフィルターには、リスト内の順番に対応する数字が表示されます。これは、「環境設定 (Preferences)」の「キーボードショートカット (Key Commands)」ページでキーボードショートカットを割り当てることができるインストゥルメントフィルターを示しています。

インストゥルメントフィルターの名前を変更 をクリックすると、各インストゥルメントフィルターの名前を変更できます。

リストの最下部のアクションバーには以下のオプションがあります。

- **フィルタープリセットを追加 (Add Filter Preset)** : 新しい空のインストゥルメントフィルターを追加します。
- **フィルタープリセットを複製 (Duplicate Filter Preset)** : 既存のインストゥルメントフィルターのコピーを作成し、元のインストゥルメントフィルターとは別の設定に編集できます。
- **インストゥルメントファミリーからプリセットを追加 (Add Presets From Instrument Families)** : 木管楽器や金管楽器など、レイアウト内のインストゥルメントファミリーごとに自動的にインストゥルメントファミリーを生成します。
- **上へ移動 (Move Up)** : 選択したインストゥルメントフィルターをリスト内の1つ上に移動します。これにより、キーボードショートカットが変更される場合があります。
- **下へ移動 (Move Down)** : 選択したインストゥルメントフィルターをリスト内の1つ下に移動します。これにより、キーボードショートカットが変更される場合があります。

### 3 「フィルター内のインストゥルメント (Instruments in filter)」 リスト

レイアウト内のインストゥルメントが表示されます。インストゥルメントのチェックボックスをオン/オフすることで、選択したインストゥルメントフィルターに含まれているインストゥルメントを変更できます。


## インストゥルメントフィルターの有効化/無効化

インストゥルメントフィルターの有効化/無効化は、レイアウトごとにいつでも切り替えることができます。たとえば、木管楽器セクションの作業中に木管楽器の譜表だけを表示する場合などに便利です。

#### 前提条件

- ギャレービューを選択しておきます。
- インストゥルメントフィルターのオーバーレイを表示しておきます。
- 使用するインストゥルメントフィルターを追加しておきます。

#### 手順

1. 記譜モードでインストゥルメントフィルターを有効化/無効化するレイアウトを開きます。
2. インストゥルメントフィルターのオーバーレイで、「**フィルター (Filter)**」  をクリックします。



「**フィルター (Filter)**」 をオンにした状態



「**フィルター (Filter)**」 をオフにした状態

3. インストゥルメントフィルターを有効にした場合は、必要に応じてメニューから使用するインストゥルメントフィルターを選択します。

#### 結果

インストゥルメントフィルターが有効化/無効化されます。インストゥルメントフィルターが有効になっている場合は、非表示の譜表の垂直位置に破線が表示され、表示されている譜表の楽譜のみを選択して編集できます。

#### ヒント

- インストゥルメントフィルターの有効化/無効化と選択は、「**記譜 (Write)**」 > 「**インストゥルメントの表示/非表示 (Instrument Visibility)**」メニューから行なうこともできます。
- 「**環境設定 (Preferences)**」の「**キーボードショートカット (Key Commands)**」ページで、「**インストゥルメントフィルターを使用 (Use Instrument Filter)**」にキーボードショートカットを割り当てることができます。



- 「環境設定 (Preferences)」の「キーボードショートカット (Key Commands)」ページで、最大 10 個のインストゥルメントフィルタープリセットにキーボードショートカットを割り当てることができます。これらのコマンドによってフィルタリングされるインストゥルメントは、レイアウトやプロジェクトごとに異なります。
- 

#### 関連リンク

[ギャラリービューまたはページビューへの切り替え \(54 ページ\)](#)

[レイアウトの切り替え \(47 ページ\)](#)

[音符/アイテムの選択 \(460 ページ\)](#)

[アイテムの編集 \(469 ページ\)](#)

[配置ツール \(495 ページ\)](#)

[空白の譜表の表示/非表示を切り替える \(750 ページ\)](#)

[スクラブ再生 \(682 ページ\)](#)

[「環境設定 \(Preferences\)」ダイアログの「キーボードショートカット \(Key Commands\)」ページ \(64 ページ\)](#)

## インストゥルメントフィルターの追加

任意の数のインストゥルメントフィルターを、レイアウトごとに個別に追加できます。

#### 前提条件

- ギャラリービューを選択しておきます。
  - インストゥルメントフィルターのオーバーレイを表示しておきます。
- 

#### 手順

1. 記譜モードでインストゥルメントフィルターを追加するレイアウトを開きます。
  2. インストゥルメントフィルターに含める各インストゥルメントに属するアイテムを少なくとも 1 つ選択します。
  3. インストゥルメントフィルターのオーバーレイで、**インストゥルメントフィルターを追加 +** をクリックします。
- 

#### 結果

楽譜領域で開いているレイアウトに、選択したインストゥルメントを含む新しいインストゥルメントフィルターが追加されます。自動的にレイアウト内のインストゥルメントフィルターが有効になり、新しいインストゥルメントフィルターが選択されます。


#### ヒント

- インストゥルメントフィルターの追加、編集、削除は「**Manage Instrument Filters**」ダイアログでも行なえます。
  - 「環境設定 (Preferences)」の「キーボードショートカット (Key Commands)」ページで、最大 10 個のインストゥルメントフィルタープリセットにキーボードショートカットを割り当てることができます。これらのコマンドによってフィルタリングされるインストゥルメントは、レイアウトやプロジェクトごとに異なります。
-

## インストゥルメントフィルターの名前を変更する

インストゥルメントフィルターの名前を変更したり、名前を変更したインストゥルメントフィルターをデフォルトの名前にリセットしたりできます。たとえば、インストゥルメントフィルターの内容をまとめた短い名前を付けるなどできます。


### 手順

1. 記譜モードで、インストゥルメントフィルターの名前を変更するレイアウトを開きます。
2. 「記譜 (Write)」 > 「インストゥルメントの表示/非表示 (Instrument Visibility)」 > 「インストゥルメントフィルタープリセットを編集 (Edit Instrument Filter Presets)」を選択して「インストゥルメントフィルターを管理 (Manage Instrument Filters)」ダイアログを開きます。
3. 名前を変更するインストゥルメントフィルターの「インストゥルメントフィルターの名前を変更」をクリックします。
4. 以下のいずれかの操作を行なって、インストゥルメントフィルターの名前を変更します。
  - インストゥルメントフィルターの名前を新規に入力するか、既存の名前を編集します。
  - インストゥルメントフィルターの名前をリセットするには、既存の名前を削除します。
5. **[Return]** を押します。

## インストゥルメントフィルターの削除

使用しなくなったインストゥルメントフィルターを各レイアウトから個別に削除できます。

### 手順

1. 記譜モードで、インストゥルメントフィルターを削除するレイアウトを開きます。
2. 「記譜 (Write)」 > 「インストゥルメントの表示/非表示 (Instrument Visibility)」 > 「インストゥルメントフィルタープリセットを編集 (Edit Instrument Filter Presets)」を選択して「Manage Instrument Filters」ダイアログを開きます。
3. 削除するインストゥルメントフィルターを選択します。
4. アクションバーで「フィルタープリセットを削除 (Delete Filter Preset)」をクリックします。

### 結果

楽譜領域で開いているレイアウトから選択したインストゥルメントフィルターが削除されます。

## ガイド

Dorico Pro では、ガイドは臨時記号が付かない調号、非表示のアイテム、リズムフィールの変更など、スコア上に表示できない重要なアイテムや変更指示の位置を示します。

非表示の小節番号や拍子記号など、多くのアイテムにガイドを表示できるため、どのアイテムを示すかに応じてガイドはさまざまな色で表示されます。ガイドは選択でき、たとえば組段区切りのガイドを選択してその位置から譜表サイズを変更するなど、ガイドを使用して非表示のアイテムのプロパティを変更できます。選択したガイドは濃く表示され、選択していないガイドは半透明で表示されます。

ガイドには、非表示のアイテムを識別するためのテキストの概要が表示されます。たとえば、拍子記号のガイドには、分数で表わされた拍子記号と分割された拍が表示されます。

同じ位置に複数のガイドが存在する場合やガイド同士の位置が近い場合は、ガイドが重なって読みづらくなるように、縦に重ねて表示されます。

The image shows a musical score snippet with several annotations above the staff. A purple box labeled 'SYSTEM BREAK' is at the top left, with a blue box below it saying 'Plus lent q = 72'. A green box labeled 'E' is below that. Further right, a red box says '3/4 (q, 1+1+1)', a red box says '2/4 (q, 1+1)', and a red box says '3/4 (q, 1+1+1)'. A green box labeled 'A' is below the last red box. The word 'rall.' is written above the staff on the right. The score itself is in 2/4 time, with a key signature of one sharp (F#). It features a piano part with various notes, rests, and dynamics like 'ff'.

譜表の上に表示されたさまざまなアイテムの複数のガイド (拍子記号のガイドを選択した状態)

#### 補足

初期設定では、印刷やグラフィックファイルの書き出しにはガイドは含まれません。

関連リンク

[注釈 \(740 ページ\)](#)

## ガイドの表示/非表示の切り替え

設定モード、記譜モード、浄書モードでは、すべてのガイドまたは特定のアイテムのガイドをいつでも表示/非表示にできます。

手順

- 以下のいずれかの操作を行なって、ガイドを表示/非表示にします。
  - すべてのガイドを表示/非表示にするには、「ビュー (View)」 > 「ガイド (Signposts)」 > 「ガイドを非表示にする (Hide Signposts)」を選択します。
  - 特定のアイテムのガイドを表示/非表示にするには、「ビュー (View)」 > 「ガイド (Signposts)」 > [アイテムのタイプ] を選択します。

## 挿入モード


挿入モードでは、音符の入力方法や、音符の入力以外の編集が楽譜に与える影響が変わります。挿入モードをオンにすると、新しい音符を入力したり既存の音符を伸ばしたりした際に、音符が上書きされるのではなく、後ろの位置に押し出されます。同様に、挿入モードがオンの状態で音符を削除したりデュレーションを短くしたりすると、音符間に休符を残さずに音符同士を近づけます。

たとえば、挿入モードがオンの状態で4分音符を4つ入力すると、新しい音符が収まるように、後続のすべての音符が4分音符4つ分後ろに押し出されます。

挿入モードの影響を受ける音符の入力以外の編集には、音符のコピー/貼り付け、音符の削除、(付点の追加/削除、または拍子記号の入力による) 音符のデュレーションの変更などがあります。

挿入モードの影響を受ける声部や譜表は、挿入モードの範囲によって異なります。現在の挿入モードの範囲は音符ツールボックスに表示されるとともに、音符入力時にはキャレットに表示されます。

各フローに1か所、挿入モードの停止位置を設定できます。これは、その停止位置以降の音符や記譜記号が、音符の挿入による影響を受けないようにするためのものです。これにより、たとえばフローの開始位置に音符を挿入する場合でも、フローの特定の位置以降の音符や記譜記号の状態を維持できます。停止位置はすべての譜表にまたがる半透明の垂直線として表示されます。

- 記譜モードで、**[I]** を押すか音符ツールボックスの「挿入 (Insert)」 をクリックすることで挿入モードのオン/オフを切り替えることができます。

#### 補足

挿入モードと和音モードを同時に有効にすることはできません。

挿入モードがオンになっていない場合、前の拍子記号を変更した際に、既存の拍子記号の前に拍が自動的に追加されません。挿入モードをオンにすると、最後の小節を埋めるための拍が、既存の拍子記号の前に自動的に追加されます。



挿入モードをオンにせずに 3/4 の拍子記号を入力した場合



挿入モードをオンにして 3/4 の拍子記号を入力した場合


#### 関連リンク

- [挿入モードでの音符の挿入 \(262 ページ\)](#)
- [リズム上の位置 \(26 ページ\)](#)
- [和音モード \(280 ページ\)](#)
- [キャレット \(242 ページ\)](#)
- [システムトラック \(464 ページ\)](#)
- [音符の入力 \(248 ページ\)](#)
- [音符/アイテムのコピーと貼り付け \(497 ページ\)](#)
- [複数の譜表への楽譜のエクスポード \(510 ページ\)](#)
- [音符のデュレーションの変更 \(286 ページ\)](#)
- [付点音符の入力 \(255 ページ\)](#)
- [音符/アイテムの削除 \(496 ページ\)](#)
- [連符から標準の音符に変換する \(1829 ページ\)](#)

## 挿入モードの範囲

挿入モードには、選択した声部のみに影響を与えるものから、すべてのプレーヤーに影響を与え、現在の小節のデュレーションを変更するものまで、さまざまな範囲があります。すべての範囲は、挿入モードの停止位置またはフローの終了位置のいずれかが早く到着する方まで適用されます。

記譜モードでは、以下のいずれかの操作を行なって、挿入モードの範囲を変更できます。

- **[Alt/Opt]+[I]** を押して、挿入モードの範囲を順に切り替えます。
- 音符ツールボックスで「挿入 (Insert)」 をクリックしたままにしてから、使用する範囲をクリックします。
- 「記譜 (Write)」 > 「挿入の範囲 (Insert Scope)」 > **[範囲]** を選択します。

Dorico Pro では、以下の挿入モードの範囲があります。

#### 声部 (Voice)



挿入モードは選択した声部にのみ影響を与えます。音符の入力中は、キャレットに表示されている声部に影響を与えます。音符の入力以外では、選択しているすべての声部に影響を与えます。たとえば複数の譜表にわたって音符や記譜記号をコピーアンドペーストする場合はこれにあたります。

## プレイヤー (Player)



挿入モードは選択したプレイヤーに属するすべての声部とインストゥルメントに影響を与えます。音符の入力中は、挿入モードの範囲内でキャレットが伸びていない譜表に点線が表示されます。

## グローバル (Global)



挿入モードはフロー内のすべてのプレイヤーに影響を与えます。音符の入力中は、挿入モードの範囲内でキャレットが伸びていない譜表に点線が表示されます。

## 現在の小節のグローバル調整 (Global Adjustment of Current Bar)



挿入モードはフロー内のすべてのプレイヤーに影響を与え、現在の小節のデュレーションを変更し、変更されたデュレーションに合わせて拍子記号を更新します。たとえば、音符を入力すると小節のデュレーションが延長され、音符を削除すると短縮されます。

音符の入力中は、挿入モードの範囲内でキャレットが伸びていない譜表に点線が表示されます。

### ヒント

- 挿入モードの範囲を「現在の小節のグローバル調整 (Global Adjustment of Current Bar)」に設定すると、フロー内の最初の小節の音符/休符を削除することで弱起 (アウフタクト) の作成や削除を行なえます。また、これによりアウフタクトで始まるフローの最後の小節を短くすることもできます。
- 挿入モードが拍子記号にどのように影響するかは、「音符入力オプション (Note Input Options)」の「挿入モード (Insert Mode)」ページで変更できます。

### 関連リンク

[キャレット](#) (242 ページ)

[音符/アイテムの削除](#) (496 ページ)

[配置ツール](#) (495 ページ)

[プレイヤー](#) (135 ページ)

[声部](#) (1858 ページ)

[拍子記号](#) (1795 ページ)

[弱起 \(アウフタクト\)](#) (1800 ページ)


[「音符入力オプション \(Note Input Options\)」ダイアログ](#) (921 ページ)

## 挿入モードの範囲の変更

選択中の声部のみへの音符の挿入からすべてのプレイヤーへのリズム上の空白の挿入へと動作を切り替える場合など、挿入モードの範囲を変更できます。

現在の挿入モードの範囲は音符ツールボックスに表示されるとともに、音符入力時にはキャレットに表示されます。

### 手順

- 記譜モードで以下のいずれかの操作を行なって、挿入モードの範囲を変更します。
  - [Alt/Opt]+[I]** を押して、挿入モードの範囲を順に切り替えます。
  - 音符ツールボックスで「挿入 (Insert)」 をクリックしたままにしてから、使用する範囲をクリックします。

- 「記譜 (Write)」 > 「範囲を挿入 (Insert Scope)」 > [範囲] を選択します。

関連リンク

[音符ツールボックス \(219 ページ\)](#)


[キャレット \(242 ページ\)](#)

[挿入モードでの音符の挿入 \(262 ページ\)](#)

## 挿入モードの停止位置の設定

各フローに 1 か所、挿入モードの停止位置を設定できます。これは、その停止位置以降の音符や記譜記号が、音符の挿入による影響を受けないようにするためのものです。これにより、たとえばフローの開始位置に音符を挿入する場合でも、フローの特定の位置以降の音符や記譜記号の状態を維持できます。

手順

1. 記譜モードで以下のいずれかの操作を行なって、挿入モードの停止位置として設定するリズム上の位置を選択します。
  - 楽譜領域でアイテムを選択します。
  - システムトラックで、開始側の小節線を停止位置として設定する小節を選択します。
2. 以下のいずれかの操作を行なって、挿入モードの停止位置を設定します。
  - **[Shift]+[Alt/Opt]+[I]** を押します。
  - システムトラックで「編集停止位置を設定 (Set Edit Stop Position)」 をクリックします。
  - 「記譜 (Write)」 > 「範囲を挿入 (Insert Scope)」 > 「編集停止位置を設定 (Set Edit Stop Position)」を選択します。

結果

選択したリズム上の位置で、そのフローの挿入モードの停止位置が設定されます。これはすべての譜表にまたがる半透明の垂直線として表示されます。

各フローの停止位置は 1 か所しか設定できないため、フローの他の場所に設定されている停止位置は削除されます。

挿入モードがオンのとき、停止位置を越えて押し出された既存の音符は削除されます。

ヒント

停止位置の上のハンドルをクリックして左右にドラッグすることでも、小節線へ停止位置を移動できます。

例



ピアノの 2 つの譜表にまたがる挿入モードの停止位置


関連リンク

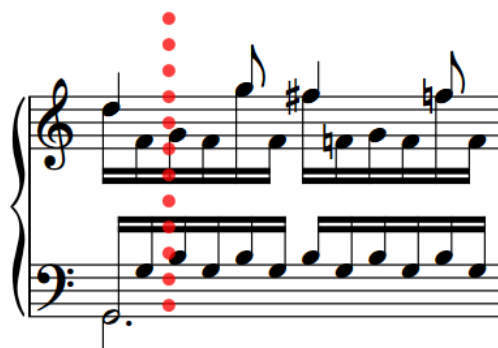
[システムトラック \(464 ページ\)](#)

## 挿入モードの停止位置の削除

挿入モードの停止位置は、設定したあとに削除できます。

手順

- 記譜モードで以下のいずれかの操作を行なって、挿入モードの停止位置を削除します。
  - 挿入モードの停止位置とリズム上同じ位置にあるアイテムを選択し、**[Shift]+[Alt/Opt]+[I]**を押します。
  - システムトラックで、既存の停止位置の上で「**編集停止位置を設定 (Set Edit Stop Position)**」をクリックします。
  - 停止位置の上のハンドルをクリックし、マウスポインターが楽譜の外側に出るまで任意の方向にドラッグしてからマウスを放します。



ヒント

マウスポインターが楽譜の外側に出ると、停止位置は点線になります。

## 配置ツール

Dorico Pro の配置ツールを使用すると、異なる譜表や声部に音符を素早く効率的に割り当てることができます。

配置ツールでは、音符やアイテムを複数の譜表に同時にコピーする、選択した範囲に複数回コピーする、譜表間で音符を移動する、音符の声部を変更するなどの操作を行なえます。また、多くの譜表に音符を展開したり、少ない譜表に音符をリデュースしたりすることもできます。

関連リンク

[フィルター \(467 ページ\)](#)

[移調ツール \(517 ページ\)](#)

[音符/アイテムの選択 \(460 ページ\)](#)

[アーティキュレーションのコピーと貼り付け \(1065 ページ\)](#)

[音符のデュレーションの変更 \(286 ページ\)](#)

[リズムを変えずに音符のピッチを変更する \(522 ページ\)](#)

[音符をデュレーションで分割する \(288 ページ\)](#)

[リズムグリッド \(241 ページ\)](#)

[挿入モード \(491 ページ\)](#)

[和音モード \(280 ページ\)](#)

[コンデンシング \(799 ページ\)](#)

## 音符/アイテムの削除

括弧内の音符を削除することなくリピート括弧だけを削除するなど、プロジェクトに入力した音符やアイテムはそれぞれ個別に削除できます。ただし、記譜モードにしておく必要があります。設定モード、浄書モード、印刷モードでは、音符やアイテムを削除できません。

音符はキーエディターでも削除できますが、その他の記譜項目は削除できません。

### 手順

1. 記譜モードで、削除する音符、アイテム、またはアイテムのガイドを選択します。

#### 補足

- ガイドではなく小節線そのものを直接選択する必要があります。
- 他の譜表にリンクされた強弱記号グループから強弱記号をすべてではなく一部削除した場合、選択した強弱記号はすべてのリンクされた譜表からも削除されます。
- 連符のみを削除した場合、その中の音符は削除されません。その逆も同様です。
- 同じタイプの複数のアイテムを選択するには、大きな選択範囲やフィルターを使用します。

2. **[Backspace]** 又は **[Delete]** を押します。

### 結果

選択したすべての音符/アイテムがプロジェクトから削除されます。選択は、削除したアイテムに対して最も自然かつ近いアイテムに移動します。たとえば音符を削除した場合、選択は同じ声部の最も近い位置の音符に移ります。

挿入モードがオンだった場合、削除したアイテムのあとにあった音符が前に移動して間隔を埋めます。挿入モードがオフだった場合、削除した音符が対応する暗黙の休符に置き換えられます。

### ヒント

マーカーの削除は、ビデオパネルの「**マーカー (Markers)**」セクションで該当のマーカーを選択し、アクションバーの「**削除 (Delete)**」をクリックして行なうこともできます。

スラーの開始位置または終了位置の音符が削除された場合、スラーは自動的に次または前の符頭に再配置されます。スラーがかかる音符が1つだけになった場合、スラーは自動的に削除されます。

音符を削除する際、延長記号と休止記号は選択しなければ自動的に削除されません。それらはその位置に最も近い音符または休符の上に配置されるか、小節内のすべての音符が削除された場合は、小節休符の上に配置されます。

リピート括弧を削除する際、その一部として入力されていたリピート小節線は自動的に削除されません。

小節線を削除すると、その両側にあった小節が1つにまとめられ、同じ拍数を持つ小節になります。このとき、拍子記号は変更されません。これにより、音符、休符および連符のグループが変化する場合があります。縦線を削除したパッセージの開始位置にガイドが表示されます。

拍子記号を削除すると、その位置以降の小節は、スコアのその前にある拍子記号に従う形で、次の拍子記号かフローの終了位置まで小節線が振り直されます。拍子記号のないフローは自由拍子で記譜されますが、音符とアイテムはそれぞれのデュレーションと位置が維持されます。

音部記号および調号を削除すると、音符のピッチは変わりませんが、次の音部記号かフローの最後まで、譜表上の前の音部記号と調号に従う形で (臨時記号を追加するなどして) 自動的に記譜し直されます。調号のないフローは、A マイナーや C メジャーではなく、オープンキーの調号または無調の調号が適用されているかのように扱われます。



オクターブ線を削除すると、削除したオクターブ線が適用されていた音符は、レイアウトの現在の設定に従い、実音または移調音のいずれかで表示されます。

他の譜表にリンクされた強弱記号グループに属する強弱記号をすべてではなく一部削除した場合、選択した強弱記号はすべてのリンクされた譜表からも削除されます。ただし、1つの譜表から強弱記号のグループ全体を選択して削除した場合、他のリンクされた譜表の強弱記号は削除されません。ヘアピンの直前または直後の強弱記号を削除すると、状況に応じてヘアピンの長さが自動的に調整されます。

リハーサルマークを削除すると、それ以降のリハーサルマークは、次に順序の変更がある位置かフローの終了位置のいずれか早い方まで調整されます。たとえば、1つめのリハーサルマークを削除した場合、次のリハーサルマークはシーケンスタイプの選択に従い、アルファベットの A、数字の 1、または小節番号を表示します。

テンポ記号を削除すると、テンポエディターおよび再生モードのテンポトラックからもテンポが削除されます。再生におけるテンポは、1つ前のテンポ記号がある場合はそのテンポに、ない場合はデフォルトのテンポである 120bpm に従います。

手順終了後の項目

位置を変更するために音符/アイテムを削除した場合、別の位置に新しい音符/アイテムを入力できません。

関連リンク

[ガイド](#) (490 ページ)

[アイテムの編集](#) (469 ページ)

[音符/アイテムの選択](#) (460 ページ)

[フィルター](#) (467 ページ)

[フィルターを使用した歌詞の選択](#) (1367 ページ)

[休符の削除](#) (1646 ページ)

[キーエディターで音符を削除する](#) (852 ページ)

[音符と休符のグループ化](#) (1136 ページ)

[既存の音符を連符に変換する](#) (1828 ページ)

[連符から標準の音符に変換する](#) (1829 ページ)

[挿入モード](#) (491 ページ)

[挿入モードの範囲](#) (492 ページ)

[強弱記号のグループ](#) (1260 ページ)

[リンクされた強弱記号](#) (1262 ページ)

[臨時記号の有効範囲ルール](#) (1060 ページ)

[リハーサルマークのシーケンスタイプの変更](#) (1577 ページ)

[音部記号の表示/非表示の切り替え](#) (1195 ページ)

[音符の入力](#) (248 ページ)

[記譜記号の入力](#) (298 ページ)

## 音符/アイテムのコピーと貼り付け

音符や記譜記号などのアイテムをさまざまな方法でコピーして、別の位置や譜表に貼り付けることができます。

前提条件

マウスを使用する場合は、マウスによる編集を有効にしておきます。

手順

1. 記譜モードで、コピーする音符/アイテムを選択します。

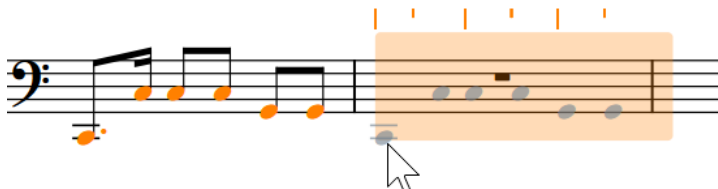
ヒント

同じタイプの複数のアイテムを選択するには、大きな選択範囲やフィルターを使用します。

2. 以下のいずれかの操作を行なって、選択した音符/アイテムを別の位置にコピーします。

- **[Ctrl]/[command]+[C]** を押し、貼り付ける位置を選択してから **[Ctrl]/[command]+[V]** を押します。
- **[Alt/Opt]** を押しながら貼り付ける位置をクリックします。
- **[Alt/Opt]** を押しながら貼り付ける位置および譜表に音符をドラッグします。

音符をドラッグすると、シャドー符頭が移動先の位置を示し、影響を受ける領域が強調表示され、その上にリズムグリッドが表示されます。



- 選択したアイテムの直後にそのものの繰り返しを貼り付けるには、**[R]** を押します。
- 音符/アイテムを上 の譜表にコピーするには、選択して「編集 (Edit)」 > 「特殊な貼り付け (Paste Special)」 > 「上の譜表に複製 (Duplicate to Staff Above)」を選択します。
- 音符/アイテムを下 の譜表にコピーするには、選択して「編集 (Edit)」 > 「特殊な貼り付け (Paste Special)」 > 「下の譜表に複製 (Duplicate to Staff Below)」を選択します。

#### 結果

選択した音符/アイテムが、元の位置から削除されることなくコピーされます。初期設定では、コピーされた範囲内の MIDI CC ポイントも貼り付けられます。

強弱記号やスラーを別の譜表の同じ位置にコピーした場合、初期設定ではコピー元とコピー先の記号が自動的にリンクされます。

コード記号領域を別の譜表にコピーまたは移動すると、対応するプレーヤーはコード記号を表示するように設定されます。

#### ヒント

「環境設定 (Preferences)」の「キーボードショートカット (Key Commands)」ページで、「上の譜表に複製 (Duplicate to Staff Above)」と「下の譜表に複製 (Duplicate to Staff Below)」にキーボードショートカットを割り当てることができます。

#### 関連リンク

- [貼り付け時の MIDI データの自動コピーを無効にする \(501 ページ\)](#)
- [マウスによる編集の有効化/無効化 \(236 ページ\)](#)
- [アーティキュレーションのコピーと貼り付け \(1065 ページ\)](#)
- [歌詞のコピーと貼り付け \(1364 ページ\)](#)
- [キーエディターで音符をコピーアンドペーストする \(851 ページ\)](#)
- [キーエディターでポイントをコピーアンドペーストする \(841 ページ\)](#)
- [強弱記号ポイントを別のインストゥルメントにコピーする \(864 ページ\)](#)
- [MIDI ポイントを別のインストゥルメントにコピーする \(870 ページ\)](#)
- [リズムグリッド \(241 ページ\)](#)
- [フィルター \(467 ページ\)](#)
- [大きな選択範囲 \(463 ページ\)](#)
- [音符とアイテムを個々に選択/選択解除する \(460 ページ\)](#)
- [複数の譜表への楽譜のアップロード \(510 ページ\)](#)
- [コード記号から音符を生成する \(511 ページ\)](#)
- [音符/アイテムを別の譜表に移動する \(506 ページ\)](#)
- [他の譜表まで伸びた音符をリセットする \(1127 ページ\)](#)

- [音符/アイテムの位置の移動 \(502 ページ\)](#)
- [アイテムの長さの変更 \(470 ページ\)](#)
- [音符のデュレーションの変更 \(286 ページ\)](#)
- [音符をデュレーションで分割する \(288 ページ\)](#)
- [貼り付け時の強弱記号とスラーの自動リンクをオフにする \(501 ページ\)](#)
- [リズムを変えずに音符のピッチを変更する \(522 ページ\)](#)
- [コード記号を表示/非表示にする \(1157 ページ\)](#)
- [「環境設定 \(Preferences\)」ダイアログの「キーボードショートカット \(Key Commands\)」ページ \(64 ページ\)](#)
- [リンクされた強弱記号 \(1262 ページ\)](#)
- [リンクされたスラー \(1672 ページ\)](#)
- [楽譜の変換 \(527 ページ\)](#)
- [通し番号付き小節領域 \(1618 ページ\)](#)
- [挿入モード \(491 ページ\)](#)
- [和音モード \(280 ページ\)](#)

## 複数の声部に音符をコピーアンドペーストする

音符は、元の声部とは異なる声部 (スラッシュ付き声部を含む) にコピーアンドペーストできます。たとえば、ある譜表の符尾が上向きの声部から音符をコピーして、別の譜表の符尾が下向きの声部に貼り付けることができます。

---

### 手順

1. 記譜モードで、コピーする音符を選択します。
2. **[Ctrl]/[command]+[C]** を押して選択した音符をコピーします。
3. 音符を貼り付ける譜表で音符の開始位置を選択します。
4. 「編集 (Edit)」 > 「特殊な貼り付け (Paste Special)」 > 「声部に貼り付け (Paste Into Voice)」 > 「既存または新規の声部」を選択します。このオプションはコンテキストメニューでも選択できます。

---

### 結果

選択した音符が選択した譜表および声部に貼り付けられます。初期設定では、コピーされた範囲内の MIDI CC ポイントも貼り付けられます。

## 複数の譜表に音符/アイテムをコピーアンドペーストする

木管楽器をユニゾンで演奏する際にすべての木管楽器の譜表に単一のフレーズをコピーする場合など、音符やその他のアイテムを複数の譜表に同時にコピーアンドペーストできます。

---

### 手順

1. 記譜モードで、複数の譜表にコピーする音符/アイテムを選択します。

#### ヒント

同じタイプの複数のアイテムを選択するには、大きな選択範囲やフィルターを使用します。

2. **[Ctrl]/[command]+[C]** を押して選択した音符/アイテムをコピーします。
3. コピーしたアイテムを貼り付ける各譜表上のアイテムを選択します。

#### 補足

選択した一番上の譜表の一番前にあるアイテムによって、すべての譜表に貼り付けられるアイテムの位置が決まります。

4. **[Ctrl]/[command]+[V]** を押して選択した音符/アイテムを貼り付けます。

#### 結果

選択した音符/アイテムが選択したすべての譜表にコピーされます。初期設定では、コピーされた範囲内の MIDI CC ポイントも貼り付けられます。

強弱記号やスラーを別の譜表の同じ位置にコピーした場合、初期設定ではコピー元とコピー先の記号が自動的にリンクされます。

コード記号領域を別の譜表にコピーまたは移動すると、対応するプレーヤーはコード記号を表示するように設定されます。

#### ヒント

各譜表上で音符/アイテムの範囲を選択した場合、コピーした音符/アイテムも選択した範囲を埋めるように複数回貼り付けられます。

#### 関連リンク

[フィルター \(467 ページ\)](#)

[大きな選択範囲 \(463 ページ\)](#)

[貼り付け時の MIDI データの自動コピーを無効にする \(501 ページ\)](#)

[リンクされた強弱記号 \(1262 ページ\)](#)

[リンクされたスラー \(1672 ページ\)](#)

[他の譜表まで伸びた音符をリセットする \(1127 ページ\)](#)

## 音符/アイテムをコピーアンドペーストして選択範囲を埋める

複数の小節を同じフレーズで埋めたい場合などに、音符や記譜記号などのアイテムを、選択範囲内で一度に複数回コピーアンドペーストできます。

#### 補足

コピーアンドペーストできるのは、選択範囲を埋めるデレクションを持つアイテムだけです。たとえば、段階的強弱記号をコピーアンドペーストして選択範囲を埋めることはできますが、局部的強弱記号ではできません。

#### 手順

1. 記譜モードで、範囲全体にコピーする音符/アイテムを選択します。

#### ヒント

同じタイプの複数のアイテムを選択するには、大きな選択範囲やフィルターを使用します。

2. **[Ctrl]/[command]+[C]** を押して選択した音符/アイテムをコピーします。
3. 選択した音符/アイテムを全体に貼り付ける範囲を選択します。
4. **[Ctrl]/[command]+[V]** を押して選択した音符/アイテムを貼り付けます。

#### 結果

選択した範囲を超えることなく、その範囲に収まる回数だけ、選択した音符/アイテムがコピーされます。初期設定では、コピーされた範囲内の MIDI CC ポイントも貼り付けられます。

強弱記号やスラーを別の譜表の同じ位置にコピーした場合、初期設定ではコピー元とコピー先の記号が自動的にリンクされます。

コード記号領域を別の譜表にコピーまたは移動すると、対応するプレーヤーはコード記号を表示するように設定されます。

#### ヒント

複数の譜表にまたがる範囲を選択した場合は、コピーしたアイテムも複数の譜表に貼り付けられます。

---

#### 関連リンク

[フィルター \(467 ページ\)](#)

[大きな選択範囲 \(463 ページ\)](#)

[音符をデュレーションで分割する \(288 ページ\)](#)

## 貼り付け時の強弱記号とスラーの自動リンクをオフにする

初期設定では、強弱記号とスラーをほかの譜表の同じ位置にコピーすると自動的にリンクされます。この機能はオフにすることで、デフォルトで強弱記号とスラーがリンクされなくなります。

#### 手順

1. **[Ctrl]/[command]+[,]** を押して「**環境設定 (Preferences)**」を開きます。
  2. カテゴリリストの「**音符の入力と編集 (Note Input and Editing)**」をクリックします。
  3. 「**編集 (Edit)**」セクションの「**貼り付け時は強弱記号とスラーを既存のアイテムにリンクさせる (Link dynamics and slurs to existing items when pasting)**」をオフにします。
  4. 「**適用 (Apply)**」をクリックしてから「**閉じる (Close)**」をクリックします。
- 

#### 関連リンク

[「環境設定 \(Preferences\)」ダイアログ \(63 ページ\)](#)

[リンクされた強弱記号 \(1262 ページ\)](#)

[リンクされたスラー \(1672 ページ\)](#)

## 貼り付け時の MIDI データの自動コピーを無効にする

初期設定では、すべての MIDI CC、MIDI ピッチベンド、強弱記号ポイントは、それらが適用される音符をコピーすると一緒にコピーされます。この動作は、コンピューター上のそれ以降のすべてのプロジェクトに対して無効にできます。

#### 手順

1. **[Ctrl]/[command]+[,]** を押して「**環境設定 (Preferences)**」を開きます。
  2. カテゴリリストの「**音符の入力と編集 (Note Input and Editing)**」をクリックします。
  3. 「**音符の入力 (Note Input)**」セクションで、「**楽譜をコピーする際、キーエディターからの MIDI CC、ピッチベンド、強弱記号を含める (Include MIDI CC, pitch bend and dynamics from Key Editor when copying music)**」をオフにします。
  4. 「**適用 (Apply)**」をクリックしてから「**閉じる (Close)**」をクリックします。
-

関連リンク

[「環境設定 \(Preferences\)」 ダイアログ \(63 ページ\)](#)

[音符/アイテムのコピーと貼り付け \(497 ページ\)](#)

[キーエディターで音符をコピーアンドペーストする \(851 ページ\)](#)

## 音符/アイテムの位置の移動

音符およびアイテムは、入力後にリズム上の異なる位置に譜表に沿って左右に移動できます。これにより、たとえば強弱記号の *cresc.* の開始を 1 拍遅らせることや、キューに異なる内容を表示することなどができます。グループに属する強弱記号や演奏技法を個別に移動することもできます。

ディヴィジのパスセージ、追加の譜表、およびオssiaの譜表には、開始位置と終了位置にそれぞれガイドがあり、個別に移動して長さを変更できます。

### 補足

- これらの手順は、小節線、符頭の括弧、グリッサンドライン、符頭に連結された横棒線、フィンガリングおよびフィンガリングスライド、ジャズアーティキュレーション、ギターバンド、ビブラートバーダイブ/リターン、ペダルのリテイクまたは強さの変更指示、トレモロストロークなどのアイテムには適用されません。これらのアイテムのリズム上の位置を変更する場合は、それを元の位置から削除してから別の位置に新規に入力する必要があります。

アルペジオ記号や垂直線は、移動するよりも削除して新規に入力しなおすことをおすすめします。アルペジオ記号や垂直線を休符の位置に移動すると、それらは削除されます。

- マーカーに紐づけられた時間上の位置は固定されているため、楽譜に対するマーカーの位置を移動すると、マーカーの前後のテンポが自動的に変更されます。マーカーの時間上の位置を変更して、たとえば 25 秒から 28 秒の位置に移動する場合は、マーカーのタイムコードを変更する必要があります。

### 前提条件



- 適切なリズムグリッドの間隔を選択しています。
- マウスを使用する場合は、マウスによる編集を有効にしておきます。

### 手順

1. 記譜モードで、移動する音符、アイテム、またはガイドを選択します。

### 補足

- 連符の音符を連符のまま維持する場合は、連符の数や比率を示す数字、角括弧、または連符のガイドも選択する必要があります。選択しなかった場合、移動時に連符の範囲からはずれた音符は、それぞれの音価による標準の音符に変換されます。
- スラー、マーカー、リピート括弧、および小節リピート領域は、それぞれ一度に 1 つずつしか移動できません。
- マウスを使用する場合、一度に移動できるアイテムは 1 つだけです。
- 連符、歌詞、スラッシュ領域、拍子記号、アルペジオ記号、垂直線は、マウスでは移動できません。
- 音部記号は、手動で入力したものしか選択できません。フローの最初にある音部記号や、組段の開始位置に自動的に表示される音部記号は選択できません。
- グループの中の強弱記号を 1 つだけ移動させる場合は、マウスでクリックしてドラッグする必要があります。キーボードショートカットを使用した場合は、グループ全体が移動します。
- 同じグループに属する演奏技法または強弱記号を複数同時に移動すると、それらのグループ化が解除されます。

2. 必要に応じて、音符を選択して移動する際に、通過する既存の音符を上書きしないようにするには、以下のいずれかを有効にします。
- 選択した音符を既存の音符と重ね合わせる場合は、**[Q]** を押すか音符ツールボックスの「和音 (Chords)」 をクリックして、和音モードをオンにします。
  - 選択した音符が既存の音符を通過するようにするには、記譜モードで **[I]** を押すか音符ツールボックスの「挿入 (Insert)」 をクリックして、挿入モードをオンにします。

補足

挿入モードをオンにして音符を移動すると、選択した音符がその上を通過した既存の音符のデュレーションが影響を受けます。

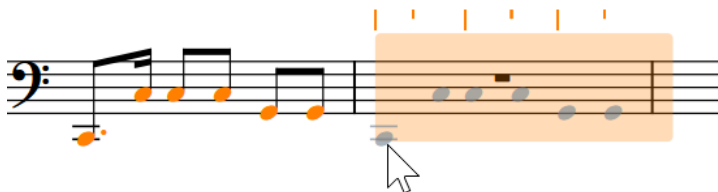
3. 以下のいずれかの操作を行なって、音符、アイテム、またはガイドを移動します。
- 右へ移動させるには **[Alt/Opt]+[→]** を押します。
  - 左に移動するには **[Alt/Opt]+[←]** を押します。

補足

ほとんどのアイテムは、現在のリズムグリッドの間隔に従い移動します。キュー、装飾音符、スラー、横棒線、オクターブ線、ペダル線、リハーサルマーク、リピート括弧、または小節リピート領域を単独で選択している場合は、隣の符頭、小節、または小節線へと移動します。

- アイテムを現在のリズムグリッドの間隔に従って右に移動するには、**[Ctrl]/[command]+[Alt/Opt]+[→]** を押します。
- アイテムを現在のリズムグリッドの間隔に従って左に移動するには、**[Ctrl]/[command]+[Alt/Opt]+[←]** を押します。
- クリックして左右にドラッグします。

音符をドラッグすると、シャドウ符頭が移動先の位置を示し、影響を受ける領域が強調表示され、その上にリズムグリッドが表示されます。



補足

キュー、装飾音符、スラー、横棒線、オクターブ線、ペダル線、リハーサルマーク、リピート括弧、または小節リピート領域は、隣の符頭、小節、または小節線へと移動します。

結果

選択した音符、アイテム、またはガイドが新しい位置に移動します。アイテムは適用されるリズム上の位置に連結線で接続されます。

ほとんどのアイテムは、現在のリズムグリッドの間隔に従い移動します。ただし一部のアイテムは、単独で選択している場合は自動的に隣の符頭、小節、または小節線に移動します。単独のキューは、元のインストゥルメントのリズムに従い移動します。複数のアイテムが選択されている場合は、現在のリズムグリッドの間隔に従いひとまとまりで移動します。

## 補足

テンポ記号や音部記号など多くのアイテムのインスタンスは、各譜表のリズム上の各位置に1つずつしか存在できません。アイテムを移動する際と同じタイプの他のアイテムの上を通過した場合、既存のアイテムは状況に応じて削除または短縮されます。

この動作内容はもとに戻せますが、この過程で削除されたアイテムが復元されるのは、アイテムの移動にキーボードを使用していた場合のみです。

同じ譜表のリズム上の同じ位置に複数のインスタンスを入力できるアイテムには、強弱記号、オクターブ線、キュー、演奏技法、横棒線、スラッシュ領域、テキストアイテムなどがあります。ただし、複数のアイテムをまとめて移動する場合、挿入モードをオンにしていると、選択したアイテムの間に存在する同じ種類のアイテムや、移動の際にその上を通過した既存のアイテムは、状況に応じて削除または短縮されます。

音符は他の音符のデュレーションや配置に応じて自動的に配置されます。

音符と一緒に連符の数や比率を示す数字または角括弧も選択している場合、連符全体が譜表に沿って移動します。連符が小節線をまたぐ場合、連符は自動的に調整され補正されます。ただし小節の途中で、連符を拍の分かれ目で分割する慣習に関する自動調整は行なわれません。小節の途中で拍の分かれ目を表示するには、2つの連符を手動で入力する必要があります。

音部記号、調号、拍子記号などのアイテムは、新しい位置から同じタイプの次のアイテムの位置まで、またはフローの終了位置のいずれか先に到達した方まで効果を及ぼします。移動した拍子記号の前後両側の小節線が、前か次の既存の拍子記号の位置、またはフローの開始位置か終了位置まで自動的に更新されます。

ディヴィジ作成のガイドを移動した場合、ディヴィジのパスセージの外側にあるディヴィジの譜表の楽譜は自動的に非表示になり、ディヴィジのパスセージの前後にあるユニゾンの範囲が自動的に更新されます。

範囲外の音符にカラーが表示される設定でハープペダルダイアグラムを移動した場合、その位置に影響するハープペダルダイアグラムに一致しなくなった音符は赤く表示されます。

延長記号と休止記号の位置は、移動しても変化がないように見える場合があります。たとえばある譜表に小節休符があり、その小節内でフェルマータのリズム上の位置を変更した場合、小節記号は変わらず小節休符の上に表示されます。

通常、スラーのデュレーションは維持されます。ただし、移動先でスラーがまたがる音符のリズムによっては、移動前とはデュレーションが変化する場合があります。

リピート括弧を移動しても、リピート小節線が自動的に入力、削除、または移動されることはありません。

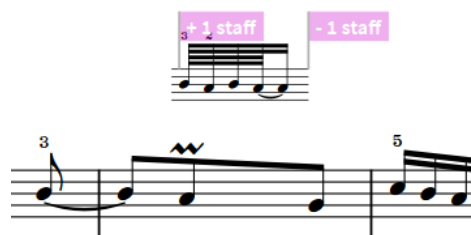
マーカーを移動しても、マーカーの固定された時間上の位置は変化しません。このため、演奏が正しい時間でマーカーの位置に到達するように、マーカーの直前のテンポが自動的に更新されます。たとえばマーカーを右に動かすと、その前にあるテンポが速くなります。マーカーと、その前にあるテンポ変更またはフローの開始位置との間にある段階的テンポ変更は、すべて削除されます。テンポの変更は、フロー内のその他すべてのマーカーの楽譜に対する位置に影響を与えます。



例



ガイドを表示しているオッサア譜表



同じオッサア譜表の始端のガイドを右に、終端のガイドを左に移動したもの

#### 関連リンク

- [リズムグリッド \(241 ページ\)](#)
- [マウスによる編集の有効化/無効化 \(236 ページ\)](#)
- [連結線を表示/非表示にする \(478 ページ\)](#)
- [音符ツールボックス \(219 ページ\)](#)
- [音符のスペーシング \(643 ページ\)](#)
- [和音モード \(280 ページ\)](#)
- [挿入モード \(491 ページ\)](#)
- [音符と休符のグループ化 \(1136 ページ\)](#)
- [連符の角括弧 \(1831 ページ\)](#)
- [連符の数や比率を示す数字 \(1834 ページ\)](#)
- [音符のデュレーションの変更 \(286 ページ\)](#)
- [アイテムの長さの変更 \(470 ページ\)](#)
- [譜表に対するアイテムの位置の変更 \(474 ページ\)](#)
- [音符/アイテムを別の譜表に移動する \(506 ページ\)](#)
- [譜表をまたぐ連符/トレモロの作成 \(1123 ページ\)](#)
- [数字付き低音の解決音を移動する \(1279 ページ\)](#)
- [messa di voce へアピンの中央を移動する \(1256 ページ\)](#)
- [ペダル線の分割 \(1524 ページ\)](#)
- [アイテムの表示位置の移動 \(652 ページ\)](#)
- [キューの重ね合わせ \(1216 ページ\)](#)
- [音域外の音符のカラーを表示/非表示にする \(1403 ページ\)](#)
- [強弱記号のグループ \(1260 ページ\)](#)
- [演奏技法のグループ \(1548 ページ\)](#)
- [追加の譜表を組段全体にわたって表示する \(1708 ページ\)](#)
- [音符/アイテムの削除 \(496 ページ\)](#)
- [ラインの入力方法 \(416 ページ\)](#)
- [装飾音、アルペジオ記号、グリッサンドライン、ジャズアーティキュレーションの入力方法 \(370 ページ\)](#)
- [ギターバンドとギターテクニックの入力方法 \(384 ページ\)](#)
- [音部記号とオクターブ線の入力方法 \(358 ページ\)](#)
- [リピートとトレモロの入力方法 \(438 ページ\)](#)
- [ポップオーバーを使ってリテイクとペダルの強さの変更指示を追加する \(408 ページ\)](#)
- [パネルを使ってリテイクとペダルの強さの変更指示を追加する \(410 ページ\)](#)
- [フィンガリングの入力 \(301 ページ\)](#)
- [フィンガリングスライドを表示/非表示にする \(1307 ページ\)](#)
- [符頭に括弧を表示する \(1408 ページ\)](#)
- [マーカーのタイムコードを変更する \(1584 ページ\)](#)

## 音符/アイテムを別の譜表に移動する

たとえば、MIDI ファイルからキーボードパートを読み込んだあとに、キーボードの譜表の個々の音符を別の譜表に移動するなど、音符およびアイテムをあらゆるタイプの別の譜表に移動できます。

### 補足

- この手順はペダル線や組段オブジェクトには適用されません。
- 譜表をまたぐ連符を作成する場合など、元の譜表との繋がりを残したまま別の譜表に音符を表示させたい場合、音符を別の譜表にまたがせられます。

### 前提条件

マウスを使用する場合は、マウスによる編集を有効にしておきます。

### 手順

1. 記譜モードで、別の譜表に移動する音符またはアイテムを選択します。

### ヒント

同じタイプの複数のアイテムを選択するには、大きな選択範囲やフィルターを使用します。

2. 以下のいずれかの操作を行なって、選択した音符/アイテムを別の譜表に移動します。

- 1つ上の譜表へ移動させるには、**[Alt/Opt]+[N]** を押します。
- 1つ下の譜表へ移動させるには、**[Alt/Opt]+[M]** を押します。
- 音符をクリックして別の譜表にドラッグします。

音符をドラッグすると、シャドー符頭が移動先の位置を示し、影響を受ける領域が強調表示され、その上にリズムグリッドが表示されます。



- 「編集 (Edit)」 > 「特殊な貼り付け (Paste Special)」 > 「上の譜表に移動 (Move to Staff Above)」を選択します。
- 「編集 (Edit)」 > 「特殊な貼り付け (Paste Special)」 > 「下の譜表に移動 (Move to Staff Below)」を選択します。

### ヒント

このオプションはコンテキストメニューでも選択できます。

### 結果

元の譜表から切り取ったものを新しい譜表に貼り付けるという方法で、選択した音符やアイテムが別の譜表に移動します。初期設定では、音符はその譜表でアクティブな最初の声部に貼り付けられます。連符の角括弧、連符の数や比率、または連符のガイドを選択していなくても、連符内の音符は連符のまま移動します。

コード記号領域を別の譜表にコピーまたは移動すると、対応するプレーヤーはコード記号を表示するように設定されます。

#### 関連リンク

- [フィルター \(467 ページ\)](#)
- [大きな選択範囲 \(463 ページ\)](#)
- [リズムグリッド \(241 ページ\)](#)
- [マウスによる編集の有効化/無効化 \(236 ページ\)](#)
- [譜表をまたぐ連桁/トレモロの作成 \(1123 ページ\)](#)
- [音符/アイテムの位置の移動 \(502 ページ\)](#)
- [複数の譜表に音符/アイテムをコピーアンドペーストする \(499 ページ\)](#)
- [音符のデュレーションの変更 \(286 ページ\)](#)
- [個々の音符のピッチの変更 \(518 ページ\)](#)
- [組段オブジェクトの位置の変更 \(1718 ページ\)](#)
- [コード記号を表示/非表示にする \(1157 ページ\)](#)
- [演奏技法、ペダル線、弦の指示記号、ハーブペダルダイアグラムの入力方法 \(398 ページ\)](#)

## 打楽器キットの別のインストゥルメントに音符を移動する

音符の入力後に、同じ打楽器キットの別のインストゥルメントに音符を移動できます。

#### 補足

これらの手順は、一線譜を使用するインストゥルメントキットの表示タイプを使用するレイアウトには適用されません。このようなレイアウトでは、音符を他の譜表にまたぐことを許可したり動かしたりできません。

---

#### 手順

1. 記譜モードで、打楽器キットの別のインストゥルメントに移動する音符を選択します。
  2. 以下のいずれかの操作を行なって、別のインストゥルメントに音符を移動します。
    - 上にあるインストゥルメントに移動させるには、**[Alt/Opt]+[↑]** を押します。
    - 下にあるインストゥルメントに移動させるには、**[Alt/Opt]+[↓]** を押します。
- 

#### 手順終了後の項目

キット内の各インストゥルメントの位置を変更できます。

#### 関連リンク

- [打楽器キット内のインストゥルメントの移動 \(164 ページ\)](#)
- [演奏技法固有の符頭の変更 \(1843 ページ\)](#)
- [打楽器キットの表示タイプ \(1848 ページ\)](#)
- [譜表をまたぐ連桁/トレモロの作成 \(1123 ページ\)](#)

## 既存の音符の声部を変更する

音符の声部は、音符を入力したあとでも変更できます (スラッシュ付き声部の音符を含む)。たとえば、音符の声部を符尾が上向きの声部から符尾が下向きの声部またはスラッシュ付き声部に変更できます。

---

#### 手順





1. 記譜モードで、声部を変更する音符を選択します。

#### ヒント

大きな選択範囲やフィルターを使用して、同じ声部のたくさんの音符を選択します。

---

2. 以下のいずれかの操作を行なって、声部を変更します。

- 選択した音符を新規の標準の声部に変更するには、**[Shift]+[V]**を押すか、音符ツールボックスで「**声部を作成 (Create Voice)**」をクリックします。
- 選択した音符を新規のスラッシュ付き声部に変更するには、**[Shift]+[Alt/Opt]+[V]**を押します。また、音符ツールボックスの「**声部を作成 (Create Voice)**」をクリックしたままにしてから、「**スラッシュ付き声部を作成 (Create Slash Voice)**」をクリックすることでも変更できます。
- 選択した音符を既存の声部に変更するには、**[V]**を押すか、音符ツールボックスで「**次の声部 (Next Voice)**」をクリックして、譜表上のアクティブな声部の中から声部を順に切り替えます。

#### 結果

選択した音符の声部が変更されます。これにより、譜表上で選択した音符や他の音符の符尾の方向が自動的に変更されます。必要に応じて、別の声部の音符の周りに休符が表示されます。

初期設定では、スラッシュ付き声部の音符は再生されません。ただし、スラッシュ付き声部を再生に含めた場合、スラッシュ付き声部の音符は入力時のピッチで再生されます。

#### ヒント

選択した音符の声部の変更は、「**編集 (Edit)**」 > 「**記譜 (Notations)**」 > 「**声部 (Voices)**」 > 「**声部を変更 (Change Voice)**」 > **[声部]** を選択しても行なえます。このオプションはコンテキストメニューでも選択できます。譜表上に声部が1つしかない場合は、選択した音符用に新しい声部を作成できます。

#### 手順終了後の項目

- 休符の削除や非表示、および音符の符尾の方向の変更は、あとから手動で行なえます。
- 声部全体をスラッシュ付き声部に変更することもできます。

#### 関連リンク

- [音符ツールボックス \(219 ページ\)](#)
- [声部カラーの表示/非表示 \(1859 ページ\)](#)
- [複数の声部への音符の入力 \(257 ページ\)](#)
- [スラッシュ付き声部への音符の入力 \(259 ページ\)](#)
- [大きな選択範囲 \(463 ページ\)](#)
- [フィルター \(467 ページ\)](#)
- [複声部における暗黙の休符 \(1642 ページ\)](#)
- [休符の削除 \(1646 ページ\)](#)
- [音符の符尾の方向を個別に変更する \(1418 ページ\)](#)
- [スラッシュ符頭の声部のタイプを変更する \(1627 ページ\)](#)
- [音符のデュレーションの変更 \(286 ページ\)](#)
- [連符 \(1826 ページ\)](#)
- [ガイド \(490 ページ\)](#)

## 声部の内容の入れ替え

2つの声部の内容が空白ではない場合、その内容を入れ替えることができます。

#### 手順

1. 記譜モードで、内容を入れ替える2つの声部に含まれる音符を選択します。
2. 「**編集 (Edit)**」 > 「**記譜 (Notations)**」 > 「**声部 (Voices)**」 > 「**声部の内容を入れ替え (Swap Voice Contents)**」を選択します。このオプションはコンテキストメニューでも選択できます。

#### 結果

声部の内容が入れ替わります。たとえば、元は符尾が上向きの声部に属していた音符は符尾が下向きの声部に移り、元は符尾が下向きの声部に属していた音符は符尾が上向きの声部に移ります。

#### 補足

入れ替わるピッチや符尾の方向によって、音符が重なる場合があります。音符の垂直のスペースを最小限にして楽譜を見やすくするため、Dorico Pro は自動的に音符の符頭が部分的に重なるように音符を配置します。この配置を変更する場合は、声部の順番を変更するか、声部列の並び順を変更します。

#### 例



E が上向き、F が下向きの声部



声部の内容を入れ替え後、E が下向き、F が上向きの声部

#### 関連リンク

[声部の順番の入れ替え \(1862 ページ\)](#)

[声部列の並び順 \(1862 ページ\)](#)

## 譜表の内容の入れ替え

和音のエクспロードで作成した特定の2つの小節のデフォルトの声部をすばやく変更したい場合や、楽曲内の各旋律を担当するプレイヤーを変更したい場合など、2つの譜表の選択した範囲の内容を入れ替えることができます。

#### 手順

1. 記譜モードで、入れ替える2つの譜表の楽譜の範囲を選択します。
2. 「編集 (Edit)」 > 「特殊な貼り付け (Paste Special)」 > 「入れ替え (Swap)」を選択します。このオプションはコンテキストメニューでも選択できます。

#### 結果

選択した譜表の選択したデュレーションの内容が入れ替わります。

#### 関連リンク

[声部の内容の入れ替え \(508 ページ\)](#)

## 少ない譜表への楽譜のリデュース

たとえば合唱用の楽曲をピアノ用の楽譜に再編成するなど、元々記譜された譜表よりも少ない譜表に楽譜をリデュースできます。

#### 前提条件

「音符入力オプション (Note Input Options)」の「特殊な貼り付け (Paste Special)」ページで、適切な声部の振り分け方法を選択しておきます。

---

#### 手順

1. 記譜モードで、リデュースする楽譜を選択します。

#### ヒント

リズムがユニゾンしているセクションとユニゾンしていないセクションは、個別にリデュースを実行することをおすすめします。

2. **[Ctrl]/[command]+[C]** を押して楽譜をコピーします。
3. 選択した楽譜をリデュースする譜表を選択します。
4. 「編集 (Edit)」 > 「特殊な貼り付け (Paste Special)」 > 「リデュース (Reduce)」を選択します。このオプションはコンテキストメニューでも選択できます。

---

#### 結果

選択した楽譜が選択した譜表にリデュースされます。

初期設定では、選択範囲を通してリズムが一致する場合は、楽譜が単一の声部に結合されます。同じピッチの音符は1つの位置に1つだけ貼り付けられるように、ユニゾンの音符は削除されます。また、音部変更記号、オクターブ線、キューも削除されます。選択範囲内で1点でもリズムの相違がある場合は、リズムの維持に必要とされるだけの数の声部が使用されます。

譜表の貼り付け先には、少なくとも1つのインストゥルメントの楽譜が配置されます。リデュースされる楽譜の分割は、選択した譜表の上から下へと順に計算されます。たとえば、5つのインストゥルメントの音符や記譜記号を3つの譜表にリデュースする場合、選択したうちの1番上の譜表には1番めと2番めのインストゥルメントが割り当てられ、2番めの譜表には3番めと4番めのインストゥルメントが割り当てられ、3番めの譜表には5番めのインストゥルメントが割り当てられます。

#### 関連リンク

[「音符入力オプション \(Note Input Options\)」ダイアログ \(921 ページ\)](#)

[音符/アイテムを別の譜表に移動する \(506 ページ\)](#)

[既存の音符の声部を変更する \(507 ページ\)](#)

[コンデンシング \(799 ページ\)](#)

## 複数の譜表への楽譜のエクスプロード

たとえば、密集したピアノの和音の音符をすべての木管楽器の譜表に素早く配置するなど、元々記譜された譜表よりも多くの譜表に楽譜をエクスプロードできます。

#### 前提条件

- 「音符入力オプション (Note Input Options)」の「特殊な貼り付け (Paste Special)」ページで、エクスプロードを実行する楽譜に適切な設定を選択しておきます。
- 譜表をまたいだ音符をすべてデフォルトの譜表にリセットしておきます。

---

#### 手順

1. 記譜モードで、エクスプロードする楽譜を選択します。
  2. **[Ctrl]/[command]+[C]** を押して楽譜をコピーします。
  3. 選択した楽譜をエクスプロードする譜表を選択します。
  4. 「編集 (Edit)」 > 「特殊な貼り付け (Paste Special)」 > 「エクスプロード (Explode)」を選択します。このオプションはコンテキストメニューでも選択できます。
-

## 結果

選択した楽譜が選択した譜表にエクスポートされます。初期設定では、エクスポート先の譜表には、元の和音の音符が少なくとも1つ配置されます。音符は、選択したインストゥルメントの譜表の上から下へと順に割り当てられます。

- 和音に含まれる音符の数がエクスポート先の譜表の数と一致する場合は、各インストゥルメントに1つずつ音符が配置されます。
- 和音に含まれる音符の数がエクスポート先の譜表の数より少ない場合は、複数の譜表に同じ音符が割り当てられます。スラーや強弱記号などの記譜記号は、エクスポート先の各譜表に複製されます。
- 和音に含まれる音符の数がエクスポート先の譜表の数より多い場合は、音符が譜表全体にわたって可能な限り等しく配置されます。和音に含まれる音符の数が奇数の場合、Dorico Pro は上段の譜表に追加の音符を割り当てようとしています。

## 関連リンク

[「音符入力オプション \(Note Input Options\)」ダイアログ \(921 ページ\)](#)

[譜表をまたぐ連符/トレモロの作成 \(1123 ページ\)](#)

[コード記号を表示/非表示にする \(1157 ページ\)](#)

[挿入モード \(491 ページ\)](#)

[和音モード \(280 ページ\)](#)

## コード記号から音符を生成する

すでに入力したコード記号に基づいて、自動的に音符を生成できます。ベース音を演奏するインストゥルメントなどの多くの関連変数に影響を与えることができます。

### 前提条件

「[音符入力オプション \(Note Input Options\)](#)」の「[コード記号からの音符 \(Notes from Chord Symbols\)](#)」ページで、生成する音符に適切な設定を選択しておきます。

### 手順

1. 記譜モードで、コード記号から音符を生成する譜表の、必要なデュレーションにまたがるアイテムを選択します。
2. 「[編集 \(Edit\)](#)」 > 「[記譜 \(Notations\)](#)」 > 「[コード記号とコードダイアグラム \(Chord Symbols and Diagrams\)](#)」 > 「[選択中のコード記号から音符を生成 \(Generate Notes from Chord Symbols in Selection\)](#)」を選択して「[コード記号から音符を生成 \(Generate Notes From Chord Symbols\)](#)」ダイアログを開きます。このオプションはコンテキストメニューでも選択できます。
3. 必要に応じて設定を変更します。  
たとえば、生成される音符のリズムや、各グループのインストゥルメントに割り当てられるピッチの順序などを変更できます。
4. 「**OK**」をクリックして変更内容を保存し、ダイアログを閉じます。

## 結果

選択した範囲内のコード記号と設定に基づいて音符が生成されます。選択した譜表に音符が割り当てられ、設定したインストゥルメントの順序によってボーシングが設定されます。

## ヒント

「[環境設定 \(Preferences\)](#)」の「[キーボードショートカット \(Key Commands\)](#)」ページで、「[選択中のコード記号から音符を生成 \(Generate Notes from Chord Symbols in Selection\)](#)」にキーボードショートカットを割り当てることができます。

関連リンク

[「音符入力オプション \(Note Input Options\)」ダイアログ \(921 ページ\)](#)

[コード記号から音符を生成するためのプロジェクト全体の音符入力オプション \(517 ページ\)](#)

[コード記号を音符として貼り付ける \(517 ページ\)](#)

[音符/アイテムの選択 \(460 ページ\)](#)

[システムトラック \(464 ページ\)](#)

[音符からコード記号を生成する \(355 ページ\)](#)

[「環境設定 \(Preferences\)」ダイアログの「キーボードショートカット \(Key Commands\)」ページ \(64 ページ\)](#)

## 「コード記号から音符を生成 (Generate Notes From Chord Symbols)」ダイアログ

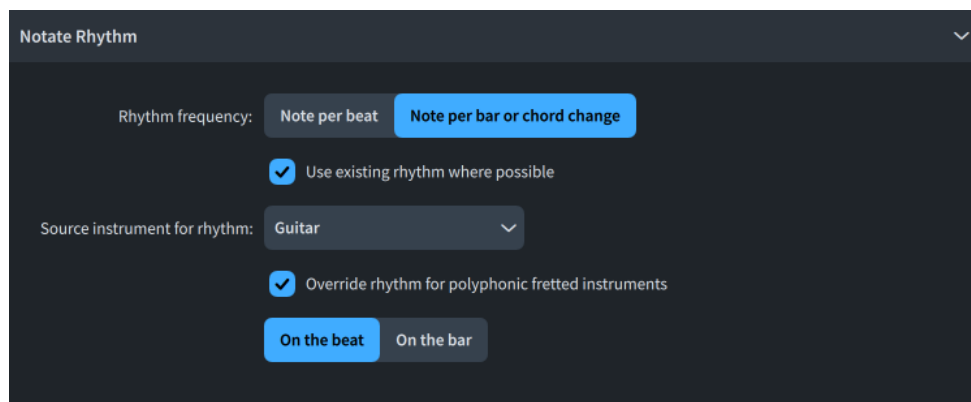
「コード記号から音符を生成 (Generate Notes From Chord Symbols)」ダイアログでは、すでに入力したコード記号の和声に基づいて音符を生成し、ボイスリーディングやベース音を演奏するインストゥルメントなど、多くの関連変数に影響を与えることができます。

- 「コード記号から音符を生成 (Generate Notes From Chord Symbols)」ダイアログを開くには、記譜モードで「編集 (Edit)」>「記譜 (Notations)」>「コード記号とコードダイアグラム (Chord Symbols and Diagrams)」>「選択中のコード記号から音符を生成 (Generate Notes from Chord Symbols in Selection)」を選択します。このオプションはコンテキストメニューでも選択できます。

各セクションの表示/非表示は、対応するセクションヘッダーをクリックして切り替えることができます。

### リズムの記譜 (Notate Rhythm)

「リズムの記譜 (Notate Rhythm)」セクションでは、生成される音符のリズムに影響を与えたり、既存の音符があるインストゥルメントのリズムを使用するかどうかを設定したりできます。



「リズムの記譜 (Notate Rhythm)」セクションには以下のオプションがあります。

#### リズムの頻度 (Rhythm frequency)

生成される音符間のリズム間隔を変更できます。

- 1 拍あたり 1 音符 (Note per beat):** 現在の拍子記号に応じて 1 拍ごとに音符が生成されます。
- 小節またはコード変更あたり 1 音符 (Note per bar or chord change):** 小節ごと、またはコード記号の変更ごと (いずれか早い方) に音符が生成されます。

#### 可能な場合既存のリズムを使用 (Use existing rhythm where possible)

生成される音符に使用するリズムを持つ、既存の音符のあるインストゥルメントを「**リズムの元になるインストゥルメント (Source instrument for rhythm)**」メニューから選択できます。既存のリズムが短い場合は、選択したデュレーションが埋まるようにそのリズムが線



り返されます。少なくとも1つのインストゥルメントに、選択したデュレーション内で開始し、終了する既存の音符がある場合のみ使用できます。

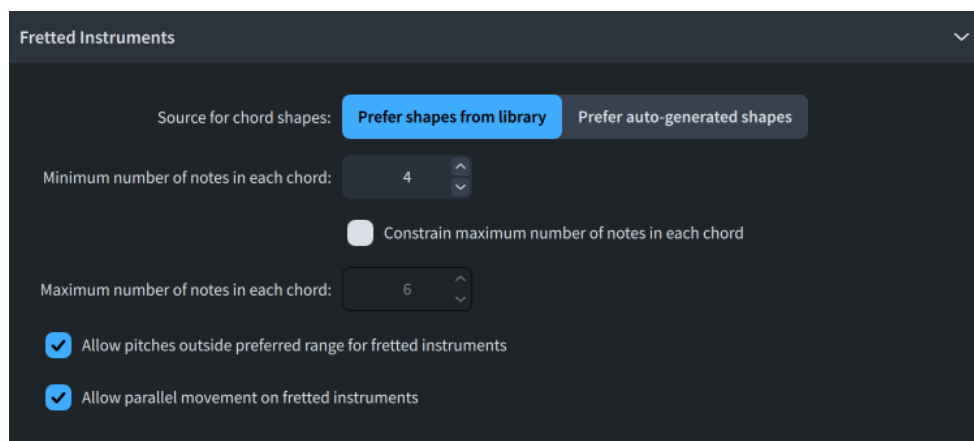
### 多声フレット楽器についてはリズムを上書き (Override rhythm for polyphonic fretted instruments)

フレット楽器の生成されるリズムを上書きし、そのリズムを使用できるオプションの1つに単純化できます。たとえば、アンサンブルのほとんどに複雑なリズムを生成しながら、ギターには4分音符のみを演奏させたい場合などに使用します。選択したアイテムにフレット楽器が少なくとも1つ含まれている場合のみ使用できます。

- **拍に基づく (On the beat):** 現在の拍子記号に応じて1拍ごとに音符が生成されます。
- **小節に基づく (On the bar):** 各小節の開始位置に音符が生成されます。

## フレット楽器 (Fretted Instruments)

「フレット楽器 (Fretted Instruments)」セクションでは、フレット楽器に属する譜表上に生成される音符や、その結果として得られるコードシェイプに影響を与えることができます。選択したアイテムにフレット楽器が少なくとも1つ含まれている場合のみ使用できます。



「フレット楽器 (Fretted Instruments)」セクションには以下のオプションがあります。

### コードの形のソース (Source for chord shapes)

コードシェイプのプライマリーソースを変更できます。

- **ライブラリーからの形を優先 (Prefer shapes from library):** 演奏しやすい一般的なシェイプを優先します。
- **自動生成された形を優先 (Prefer auto-generated shapes):** Dorico Pro ボイスリーディングの強いシェイプを優先します。

### 各コードの音符の最小数 (Minimum number of notes in each chord)

各コードの音符の最小数を設定できます。

### 各コードの音符の最大数を制限 (Constrain maximum number of notes in each chord)

各コードの音符を「各コードの音符の最大数 (Maximum number of notes in each chord)」数値フィールドで設定した数に制限できます。

### フレット楽器の推奨される範囲外のピッチを許可 (Allow pitches outside preferred range for fretted instruments)

「音符入力オプション (Note Input Options)」 > 「コード記号からの音符 (Notes from Chord Symbols)」 > 「コードの音度 (Chord Degrees)」で設定したピッチ範囲を制限する設定を上書きできます。

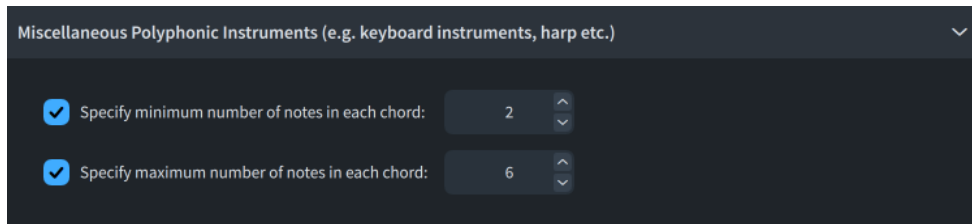
## フレット楽器での平行進行を許可 (Allow parallel movement on fretted instruments)

「音符入力オプション (Note Input Options)」 > 「コード記号からの音符 (Notes from Chord Symbols)」 > 「平行進行と反進行 (Parallelism and Contrary Motion)」で設定した平行進行を制限する設定を上書きできます。

## その他の多声楽器 (鍵盤楽器、ハープなど) (Miscellaneous Polyphonic Instruments (e.g. keyboard instruments, harp etc.))

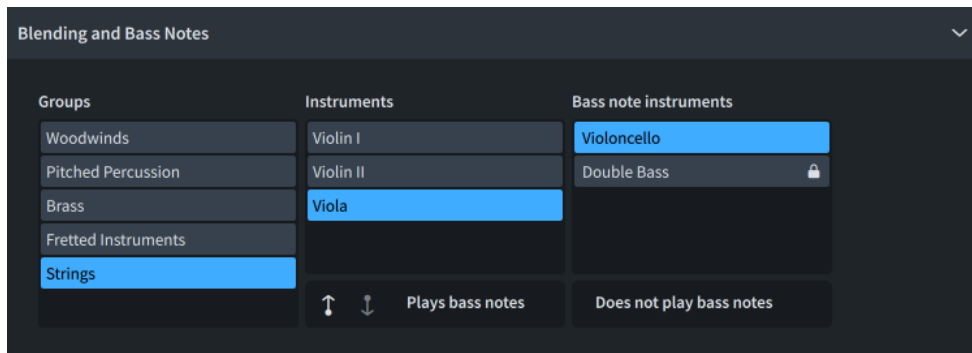
「その他の多声楽器 (鍵盤楽器、ハープなど) (Miscellaneous Polyphonic Instruments (e.g. keyboard instruments, harp etc.))」セクションでは、多声楽器の各コードで生成する音符の最小数と最大数を設定できます。たとえば、選択している多声楽器がマリンバで、演奏者が片手に2本のスティックしか持てないことがわかっている場合、音符の最大数を「4」に設定できます。

選択したアイテムに多声楽器 (ピアノなど) が少なくとも1つ含まれている場合のみ使用できます。



## ブレンディングとベース音 (Blending and Bass Notes)

「ブレンディングとベース音 (Blending and Bass Notes)」セクションでは、ピッチをインストゥルメントに割り当てる順序を指定したり、一番下の音符をどのインストゥルメントに割り当てるかを変更したりできます。たとえば、クラリネット1にフルート2よりも高いピッチを割り当て、バストロンボーンにベース音を演奏させるなどできます。



「ブレンディングとベース音 (Blending and Bass Notes)」セクションには以下のコラムがあります。



### グループ (Groups)

ダイアログを開く前に選択していた譜表に対応するインストゥルメントのグループ (通常はインストゥルメントファミリー) が表示されます。

### インストゥルメント (Instruments)

選択したグループのインストゥルメントが表示されます。リスト内のインストゥルメントの順序は、ピッチが割り当てられる順序を反映しています。つまり、一番上のインストゥルメントには各コードの一番上のピッチが割り当てられ、一番下のインストゥルメントには各コードの一番下のピッチが割り当てられます。

コラムの最下部のアクションバーには以下のオプションがあります。

- **上へ移動 (Move Up)** : 選択したインストゥルメントを1つ上に移動します。
- **下へ移動 (Move Down)** : 選択したインストゥルメントを1つ下に移動します。

- **ベース音を演奏 (Plays bass notes):** 選択したインストゥルメントを「**ベース音のインストゥルメント (Bass note instruments)**」コラムに移動します。

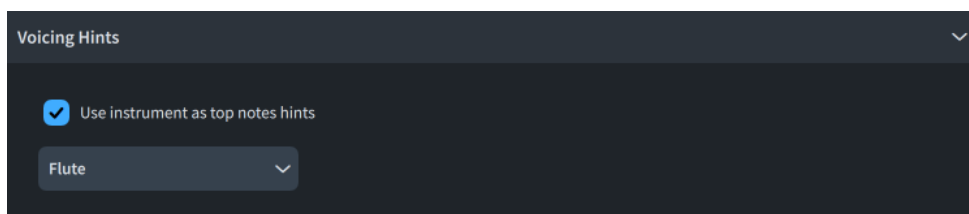
#### ベース音のインストゥルメント (Bass note instruments)

選択したインストゥルメントファミリーの中で、ベース音の演奏に割り当てられたインストゥルメントが表示されます。ベース音とはつまり、ルート音またはオンコード (指定している場合) です。

アクションバーの「**ベース音を演奏しない (Does not play bass notes)**」をクリックすると、選択したロックされていないインストゥルメントを「**インストゥルメント (Instruments)**」コラムに移動できます。

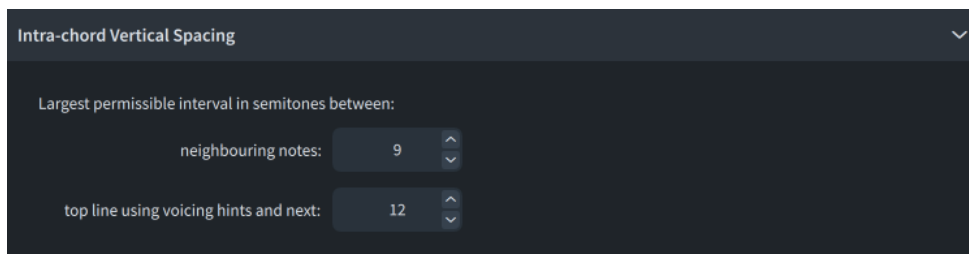
#### ボイスングのヒント (Voicing Hints)

「**ボイスングのヒント (Voicing Hints)**」セクションでは、一番上のパートの基準として使用するインストゥルメントを選択できます。つまり、生成される音符のピッチが、選択したインストゥルメントに属する音符よりも高くはいけないということです。少なくとも1つのインストゥルメントが選択したデュレーション内に既存の音符を持ち、そのピッチの少なくとも一部が対応するコード記号と一致する場合にのみ使用できます。



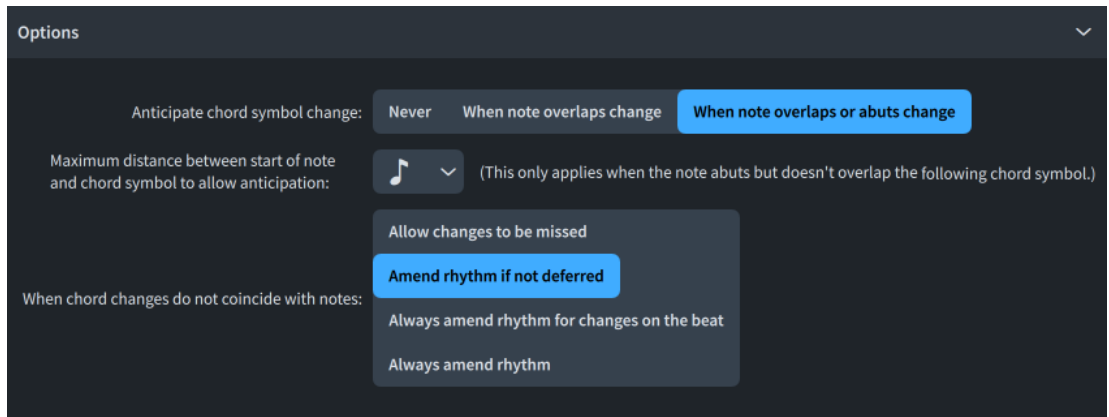
#### コード内の垂直方向のスペーシング (Intra-chord Vertical Spacing)

「**コード内の垂直方向のスペーシング (Intra-chord Vertical Spacing)**」セクションでは、各コードのベース音を除く音符間の最大の音程を設定できます。



#### オプション

「**オプション (Options)**」セクションでは、コード記号と既存の音符が別の位置にある場合の処理方法を指定できます。



「オプション (Options)」セクションには以下のオプションがあります。

### コード記号の変更に先行 (Anticipate chord symbol change)

どのような場合にピッチがコード記号よりも前の位置に来ることを許可するかを変更できます。

- **しない (Never):** ピッチがコード記号よりも前に来ることはありません。
- **音符が変更に重なる場合 (When note overlaps change):** 音符がコード記号の前で始まり、コード記号の後ろで終わる場合、ピッチがコード記号よりも前に来ることがあります。たとえば、次の小節に連結されているオフビートの音符で、その小節の開始位置に新しいコード記号がある場合などです。
- **音符が変更に重なるか隣接する場合 (When note overlaps or abuts change):** 音符がコード記号の前で始まり、コード記号の後ろで終わるか、コード記号と同じ位置で終わる場合、ピッチがコード記号よりも前に来ることがあります。たとえば、オフビートの音符が小節の終了位置で終わり、次の小節の開始位置に新しいコード記号がある場合などです。

### 先行が許可される音符の開始位置とコード記号との最大距離 (Maximum distance between start of note and chord symbol to allow anticipation)

コード記号と隣接して先行する音符の間の最大デュレーションを設定できます。

### コードの変更と同じ位置に音符がない場合 (When chord changes do not coincide with notes)

生成される音符の間にコード記号がある場合の処理方法を指定できます。

- **変更を見逃すことを許可する (Allow changes to be missed):** ピッチ変更は、可能な場合は次の音符まで先送りされ、不可能な場合は完全にスキップされます。
- **保留しない場合はリズムを修正する (Amend rhythm if not deferred):** ピッチ変更を先送りできる次の音符が次のコード記号の位置かそれ以降にある場合、ピッチ変更が次のコード記号の前に来るようにリズムが修正されます。
- **拍の変化に対し常にリズムを修正 (Always amend rhythm for changes on the beat):** コード記号が拍の位置にある場合、リズムは常に修正されます。コード記号が拍以外の位置にある場合、ピッチ変更を先送りできる次の音符が次のコード記号の位置かそれ以降にある場合のみリズムが修正されます。
- **常にリズムを修正する (Always amend rhythm):** 音符は常に分割され、そのピッチは各コード記号の位置で変更される可能性があります。

### ヒント

コード記号から音符を生成した場合の結果に影響するその他のオプションは、「音符入力オプション (Note Input Options)」の「コード記号からの音符 (Notes from Chord Symbols)」ページにあります。

## コード記号から音符を生成するためのプロジェクト全体の音符入力オプション

コード記号から生成した音符のプロジェクト全体の処理に関するオプションは、「**音符入力オプション (Note Input Options)**」の「**コード記号からの音符 (Notes from Chord Symbols)**」ページにあります。

「**コード記号からの音符 (Notes from Chord Symbols)**」ページのオプションには、さまざまな平行音程や進行の種類を許可するかどうかや、特定の状況を避けるためにピッチをどこまで調整するか、さらにはコードの優先する音度や音程などがあります。

関連リンク

[「音符入力オプション \(Note Input Options\)」ダイアログ \(921 ページ\)](#)

[コード記号から音符を生成する \(511 ページ\)](#)

[音符からコード記号を生成する \(355 ページ\)](#)

## コード記号を音符として貼り付ける

すでに入力したコード記号に基づいて、元のコード記号とは異なる位置に音符を生成できます。

手順

1. 記譜モードで、音符として貼り付けるコード記号を選択します。
2. 選択したコード記号をコピーします。
3. コード記号を音符として貼り付ける位置にある各譜表上のアイテムを選択します。
4. 「**編集 (Edit)**」 > 「**記譜 (Notations)**」 > 「**コード記号とコードダイアグラム (Chord Symbols and Diagrams)**」 > 「**コード記号を音符として貼り付け (Paste Chord Symbols as Notes)**」を選択して「**コード記号から音符を生成 (Generate Notes From Chord Symbols)**」ダイアログを開きます。このオプションはコンテキストメニューでも選択できます。
5. 必要に応じて設定を変更します。  
たとえば、生成される音符のリズムや、各グループのインストゥルメントに割り当てられるピッチの順序などを変更できます。
6. 「**OK**」をクリックして変更内容を保存し、ダイアログを閉じます。

結果

コピーしたコード記号と設定に基づいて音符が生成されます。選択した譜表に音符が割り当てられ、設定したインストゥルメントの順序によってボーシングが設定されます。

関連リンク

[大きな選択範囲 \(463 ページ\)](#)

[システムトラック \(464 ページ\)](#)

[フィルター \(467 ページ\)](#)

[「コード記号から音符を生成 \(Generate Notes From Chord Symbols\)」ダイアログ \(512 ページ\)](#)

[コード記号から音符を生成するためのプロジェクト全体の音符入力オプション \(517 ページ\)](#)

[コード記号から音符を生成する \(511 ページ\)](#)

[音符/アイテムのコピーと貼り付け \(497 ページ\)](#)

## 移調ツール

Dorico Pro では、既存の音符のピッチをさまざまな方法で変更できます。

関連リンク

[配置ツール \(495 ページ\)](#)

[移調楽器 \(146 ページ\)](#)

[実音と移調音 \(195 ページ\)](#)

[ピアノロールエディター上の音符の移調 \(849 ページ\)](#)

## 個々の音符のピッチの変更

個々の音符 (装飾音符を含む) を入力したあとに、それらのピッチと音域を、オクターブの分割、譜表上の位置、およびオクターブ単位で上下に変更できます。

前提条件

マウスを使用する場合は、マウスによる編集を有効にしておきます。

手順

1. 記譜モードで、ピッチを変更する音符を選択します。
2. 以下のいずれかの操作を行なって、選択した音符のピッチを上げ下げします。
  - 音符の位置を 1 つ上げるには (C から D など)、**[Alt/Opt]+[↑]** を押します。
  - 音符の位置を 1 つ下げるには (D から C など)、**[Alt/Opt]+[↓]** を押します。
  - 音符をオクターブの分割 1 つ分上に移調するには (平均律 (12-EDO) で半ステップ (半音) や平均律 (24-EDO) で 1/4 音など)、**[Shift]+[Alt/Opt]+[↑]** を押します。
  - 音符をオクターブの分割 1 つ分下に移調するには (平均律 (12-EDO) で半ステップ (半音) や平均律 (24-EDO) で 1/4 音など)、**[Shift]+[Alt/Opt]+[↓]** を押します。
  - 音符を 1 オクターブ上に移調するには、**[Ctrl]/[command]+[Alt/Opt]+[↑]** を押します。
  - 音符を 1 オクターブ下に移調するには、**[Ctrl]/[command]+[Alt/Opt]+[↓]** を押します。
  - 音符を上下に 1 度ずつ移調するには、音符をクリックして上下にドラッグします。
  - 音符をオクターブの分割単位で上下に移調するには、音符を上下にドラッグしはじめたあと、**[Shift]** を押したままにします。
  - 音符をオクターブ単位で上下に移調するには、音符を上下にドラッグしはじめたあと、**[Ctrl]/[command]** を押したままにします。

音符をドラッグすると、シャドー符頭が移動先のピッチを示し、影響を受ける領域が強調表示され、その上にリズムグリッドが表示されます。



結果

選択した音符のピッチまたは音域が変更されます。影響を受ける譜表に表示された数字付き低音は自動的に更新されます。

一番低い弦のナットよりも下で演奏しなければならない音符など、現在そのピッチをフレット楽器で演奏できない場合、その音符はタブ譜上にクエスチョンマークとして表示されます。

補足

**[Alt/Opt]+[↑]** と **[Alt/Opt]+[↓]** を押すと、グリッドおよび五線譜の表示タイプを使用する打楽器キットの音符の譜表上の位置を変更できます。ただし、この操作ではその音符を演奏するインストゥルメントも変更されます。

#### 関連リンク

- [オクターブの均等な分割 \(EDO\) \(1358 ページ\)](#)
- [既存の音符の上/下に音符を追加 \(284 ページ\)](#)
- [音符の書き換え \(523 ページ\)](#)
- [臨時記号の入力 \(269 ページ\)](#)
- [ピアノロールエディター上の音符の移調 \(849 ページ\)](#)
- [マウスによる編集の有効化/無効化 \(236 ページ\)](#)
- [リズムグリッド \(241 ページ\)](#)
- [数字付き低音 \(1268 ページ\)](#)
- [配置ツール \(495 ページ\)](#)
- [楽譜の変換 \(527 ページ\)](#)
- [ピッチの転回 \(528 ページ\)](#)
- [ピッチ/リズムの反転 \(528 ページ\)](#)
- [ピッチ/リズムをローテート \(531 ページ\)](#)
- [音符をピッチにマッピング \(533 ページ\)](#)
- [音符をスケールにマッピング \(535 ページ\)](#)

## 選択範囲の移調

「**移調 (Transpose)**」ダイアログを使用して、フロー全体、または選択した調号も含めた特定の選択範囲を移調できます。

#### ヒント

移調レイアウトの移調楽器に適切な調号が自動的に表示されます。

---

#### 手順

1. 必要に応じて、記譜モードで移調する領域を選択します。

#### 補足

- 調号を移調するには、調号、コード記号、または数字付き低音を含めて選択する必要があります。
  - 何も選択しなかった場合、最後に音符/アイテムを選択したフロー全体が移調します。
- 

2. 「**記譜 (Write)**」 > 「**移調 (Transpose)**」を選択して「**移調 (Transpose)**」ダイアログを開きます。
3. 音程や性質など、移調に必要なパラメーターを調節します。

#### ヒント

- たとえば G $\flat$  メジャーから G メジャーに移動する場合など、「**間隔を算出 (Calculate interval)**」セクションを使用して必要な設定を判断することをおすすめします。
  - 音程が異なると使用できる性質が異なります。たとえば、メジャー 3 度は指定できますがメジャーオクターブは指定できません。そのため、移調パラメーターを手動で設定したい場合には、性質の前に音程を選択することをおすすめします。
- 

4. 必要に応じて、フローまたは選択範囲に含まれる調号を移調する場合は、「**調号を変更する (Transpose key signatures)**」をオンにします。
  5. 「**OK**」をクリックして変更内容を保存し、ダイアログを閉じます。
- 

#### 結果

選択範囲内のすべての音符、または何も選択していない場合はフロー内のすべての音符が、「**移調 (Transpose)**」ダイアログで指定した音程またはオクターブの分割数に従い移調されます。

選択範囲に調号が含まれており、「調号を変更する (Transpose key signatures)」をオンにしていた場合は、選択範囲内のすべての調号も移調されます。

影響を受ける譜表に表示された数字付き低音も合わせて移調されます。

すべての譜表に適用される調号は、すべての譜表を選択していなかった場合であっても、レイアウト中すべての譜表において移調されます。1つの譜表のみに適用される調号は、選択に含まれている場合それ自体は移調しますが、レイアウト中の他の譜表には影響しません。

関連リンク

[大きな選択範囲](#) (463 ページ)

[システムトラック](#) (464 ページ)

[音符とアイテムを個々に選択/選択解除する](#) (460 ページ)

[数字付き低音](#) (1268 ページ)

[異名同音の調号](#) (1354 ページ)

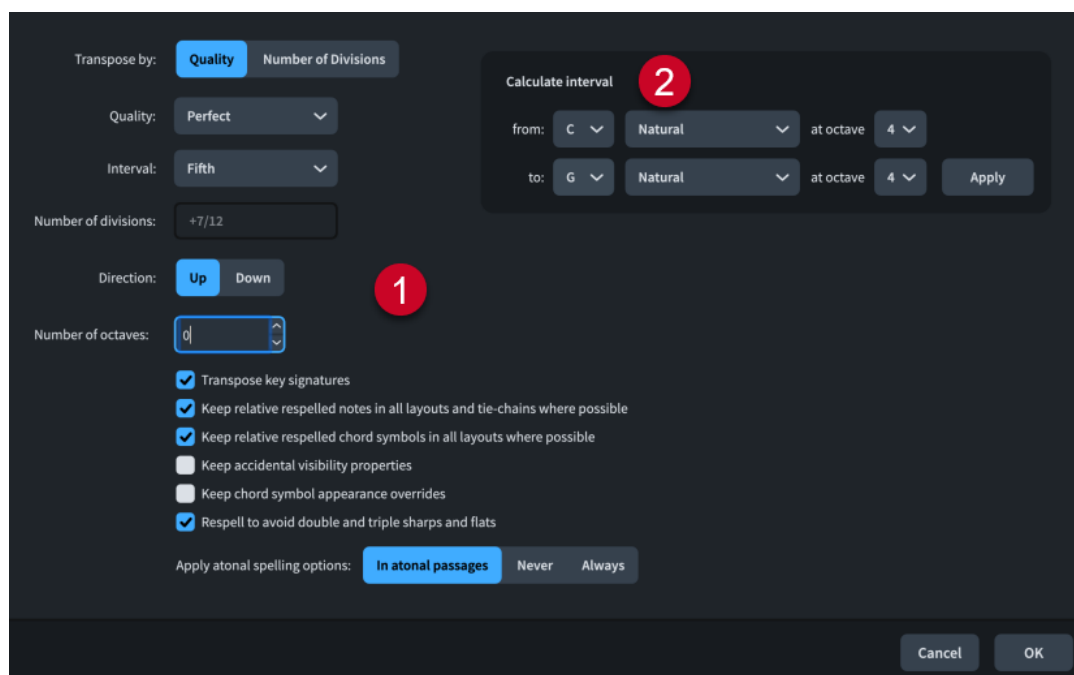
[実音と移調音](#) (195 ページ)

[レイアウトの移調音/実音の設定](#) (194 ページ)

## 「移調 (Transpose)」 ダイアログ

「移調 (Transpose)」ダイアログを使用すると、フロー全体または選択した音符を、調号も含めて移調できます。音程や性質に応じて移調したり、設定したオクターブの分割数の分だけ移調したりできます。

- 記譜モードで「記譜 (Write)」 > 「移調 (Transpose)」を選択すると、「移調 (Transpose)」ダイアログを開けます。



「移調 (Transpose)」ダイアログには以下のセクションがあります。

### 1 移調オプション

実行したい移調を指定できるオプションがあります。たとえば、メジャー3度などの音程の性質で移調するよう選択したり、設定したオクターブの分割数で移調するよう選択したりできます。移調の方向、オクターブを含めるかどうか、および選択範囲を移調する音程と性質または区切りの数を選択できます。



表記規則によれば、音程が異なると使用できる性質が異なります。たとえば、メジャー3度は指定できますがメジャーオクターブは指定できません。そのため、性質の前に音程を選択することをおすすめします。

その他のオプションでは、選択範囲に含まれる調号を移調したり、関連する変更された音符とコード記号を可能な限り保持したり、二重臨時記号や三重臨時記号を回避したりできます。

#### 補足

「ダブルまたはトリプルシャープ/フラットを避けるように書き換え (Respell to avoid double and triple sharps and flats)」を使用できるのは、12-EDO と互換性のある調性システムで楽譜を移調する場合のみです。

## 2 間隔を算出 (Calculate interval)

開始位置の音符と移調後の音符に従って移調オプションを設定できます。たとえば、選択範囲がC<sub>4</sub>からG<sub>4</sub>になるように移調したい場合、そのために必要な音程と性質がわからなければ、「間隔を算出 (Calculate interval)」セクションにこれら2つの音符を入力して「適用 (Apply)」をクリックすると、Dorico Pro が自動的に必要な移調オプションを設定してくれます。

#### 補足

「移調 (Transpose)」ダイアログでは、トリプルシャープよりもシャープが多くなるなど、記譜ができなくなる移調や、選択範囲の位置の調性システムに存在しない微分音の臨時記号が必要になる移調は行なえません。



#### 関連リンク

- [音符ツールのポップオーバー \(537 ページ\)](#)
- [オクターブの均等な分割 \(EDO\) \(1358 ページ\)](#)
- [調性システム \(1357 ページ\)](#)
- [配置ツール \(495 ページ\)](#)
- [楽譜の変換 \(527 ページ\)](#)
- [音符をピッチにマッピング \(533 ページ\)](#)
- [音符をスケールにマッピング \(535 ページ\)](#)

## 音符ツールのポップオーバーで既存の音符を移調する

音符ツールのポップオーバーを使用して、入力したあとの音符のピッチを変更できます。

#### 手順

1. 記譜モードで、移調する音符を選択します。
2. 以下のいずれかの操作を行なって音符ツールのポップオーバーを開きます。
  - **[Shift]+[I]** を押します。
  - 記譜ツールボックスで「ポップオーバー (Popovers)」 をクリックし、「音符ツール (Note Tools)」 をクリックします。
3. 移調するピッチをポップオーバーに入力します。

たとえば、「t3」と入力すると音符が3度上に移調され、「t-min6」と入力すると音符がマイナー6th 下に移調されます。
4. **[Return]** を押してポップオーバーを閉じます。

#### 結果

選択した音符が指定した度数だけ移調されます。影響を受ける譜表に表示された数字付き低音も合わせて移調されます。

関連リンク

[記譜ツールボックス \(224 ページ\)](#)




[音符ツールのポップオーバー \(537 ページ\)](#)

[数字付き低音 \(1268 ページ\)](#)

## リズムを変えずに音符のピッチを変更する

音符を入力したあとにデュレーションを維持したまま音符のピッチを変更できます。たとえば、ピッチを変えてリズムを複製する場合などに便利です。

手順

1. 記譜モードで、ピッチを変更する最初の音符を選択します。
2. 以下のいずれかの操作を行なって、音符の入力を開始します。
  - **[Shift]+[N]** を押します。
  - 音符ツールボックスで、「**音符入力を開始 (Start Note Input)**」  をクリックします。
  - 譜表をダブルクリックします。
3. 複数の譜表の音符のピッチを同時に変更する場合は、それらの譜表にカーレットを伸ばします。
4. 以下のいずれかの操作を行なって、「**デュレーションをロック (Lock Duration)**」をオンにします。
  - **[L]** を押します。
  - 音符ツールボックスの「**デュレーションをロック (Lock Duration)**」  をクリックします。
5. ピッチを入力します。
6. 必要に応じて、もう一度 **[L]** を押すか「**デュレーションをロック (Lock Duration)**」  をクリックして「**デュレーションをロック (Lock Duration)**」を無効にします。

補足

譜表上に存在する最後の音符に到達すると、「**デュレーションをロック (Lock Duration)**」は自動的に無効になります。初期設定では、通常の音符入力の場合、「**デュレーションをロック (Lock Duration)**」を有効にする前に選択していた音符の音価が引き続き使用されます。

結果

リズムを変えることなく、選択した譜表上の既存の音符のピッチが変更されます。たとえ譜表上の音符間に大きな休符があっても、カーレットは音符から音符へと自動的に進みます。

ヒント

「**環境設定 (Preferences)**」 > 「**音符の入力と編集 (Note Input and Editing)**」 > 「**音符の入力 (Note Input)**」 > 「**デュレーションをロック (Lock Duration)**」で、音符のピッチを変更する場合に飛び越える休符の最大数を設定できます。

関連リンク

[カーレット \(242 ページ\)](#)

[複数の譜表にカーレットを伸ばす \(246 ページ\)](#)

[配置ツール \(495 ページ\)](#)

[楽譜の変換 \(527 ページ\)](#)

[音符をピッチにマッピング \(533 ページ\)](#)

[音符をスケールにマッピング \(535 ページ\)](#)

[アーティキュレーションのコピーと貼り付け \(1065 ページ\)](#)

[「環境設定 \(Preferences\)」 ダイアログ \(63 ページ\)](#)

## 音符の書き換え

たとえばフレーズ内のステップ移動を明確に表示したり、和音内のオルタードユニゾン回避したりするために、音符が異名同音で表示されるよう音符の異名同音表記を変更できます。これはすべてのレイアウト、または現在のパートレイアウトのみに対し行なえます。

初期設定では、Dorico Pro は調号とコンテキストに基づいてピッチの表記を自動的に決定するアルゴリズムを使用しています。

Dorico Pro では異名同音表記に臨時記号グリフを2つまで表示できるため、各ピッチには常に少なくとも3つのオプションがあります。つまり、元のピッチを2つ下または2つ上の音符のノート名で表記できれば、最大2つの臨時記号グリフを使用して、同じ音符を4つの方法で表記できます。たとえば、F $\sharp$ は2つの臨時記号グリフを使用しますが、トリプルフラットの臨時記号グリフは1つのため、B $\flat\flat$ はG $\sharp$ の異名同音表記として使用できます。

### 手順

1. 楽譜領域で、臨時記号の表記を書き換えるレイアウトを開きます。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。



#### 補足

初期設定では、スコアレイアウトで音符を書き換えると、その他すべてのレイアウトの表記にも影響を及ぼしますが、パートレイアウトで音符を書き換えると、現在のパートレイアウトの表記にのみ影響します。

2. 書き換える音符を選択します。

#### 補足

タイのつながりの中の個々の符頭の表記を書き換える場合は、浄書モードにする必要があります。

3. 以下のいずれかの操作を行なって、選択した音符を書き換えます。
  - 上に書き換えるには、[Alt/Opt]+^ を押すか、キーボードパネルのツールバーの「上のノート名を使用して書き換え (Respell Using Note Name Above)」  をクリックします。
  - 下に書き換えるには、[Alt/Opt]+[-] を押すか、キーボードパネルのツールバーの「下のノート名を使用して書き換え (Respell Using Note Name Below)」  をクリックします。
  - 自動的に書き換えを行なうには、「記譜 (Write)」 > 「書き換え (Respell)」 > 「音符を自動的に書き換え (Respell Notes Automatically)」を選択して「音符を自動的に書き換え (Respell Notes Automatically)」ダイアログを開きます。
4. 必要に応じて、「音符を自動的に書き換え (Respell Notes Automatically)」ダイアログを開いた場合は、適切に書き換えの設定を変更してから「OK」をクリックし、ダイアログを閉じて選択した音符を書き換えます。

### 結果

選択した音符の異名同音表記が変更されます。

#### ヒント

無調の調号におけるデフォルトの音符の表記は、「音符入力オプション (Note Input Options)」 > 「MIDI 入力 (MIDI Input)」 > 「音符の表記 (Note Spelling)」で変更できます。

例



G シャープ



G シャープを下に書き換え  
た F のトリプルシャープ



G シャープを上書き換え  
た A フラット



G シャープを 2 回上に書き  
換えた B のトリプルフ  
ラット

手順終了後の項目

音符を書き換えをパートレイアウトで行なったが、同じ表記をフルスコアレイアウトにも表示させたく  
なった場合などには、音符の表記を他のレイアウトにコピーできます。

関連リンク

[キーボードパネル \(229 ページ\)](#)

[レイアウトの切り替え \(47 ページ\)](#)

[音符/アイテムの選択 \(460 ページ\)](#)

[臨時記号 \(1051 ページ\)](#)

[MIDI 入力中の臨時記号の選択 \(271 ページ\)](#)

[調号 \(1346 ページ\)](#)

[調性システム \(1357 ページ\)](#)

[カスタムの調性システム \(1003 ページ\)](#)

[調号の入力方法 \(305 ページ\)](#)

[音符の表記を別のレイアウトにコピーする \(526 ページ\)](#)

[音符の表記のリセット \(526 ページ\)](#)

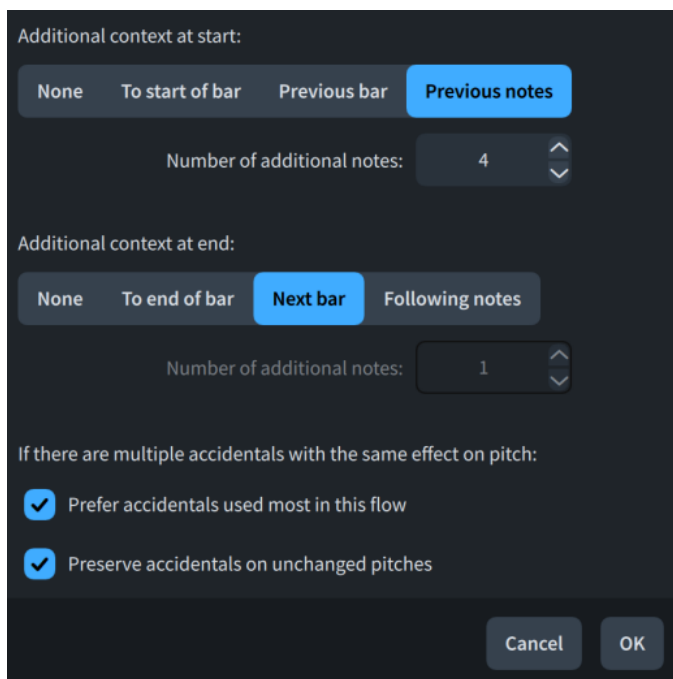
[音符をピッチにマッピング \(533 ページ\)](#)

[音符をスケールにマッピング \(535 ページ\)](#)

## 「音符を自動的に書き換え (Respell Notes Automatically)」 ダイアログ

「音符を自動的に書き換え (Respell Notes Automatically)」 ダイアログでは、一部の音符を上向きに、  
一部の音符を下向きに書き換えるなど、特定の選択範囲内のすべての音符の表記を、楽譜のコンテキス  
トに基づいて簡略化できます。

- 記譜モードの楽譜領域で 1 つ以上の音符を選択している場合、「記譜 (Write)」 > 「書き換え  
(Respell)」 > 「音符を自動的に書き換え (Respell Notes Automatically)」を選択することで「音  
符を自動的に書き換え (Respell Notes Automatically)」 ダイアログを開けます。



「音符を自動的に書き換え (Respell Notes Automatically)」ダイアログには以下のオプションがあります。

#### 開始位置の追加コンテキスト (Additional context at start)

選択した音符の前の、音符の表記の自動計算に反映される楽譜上の追加コンテキストを指定できます。

- なし (None): 選択している音符のみになります。
- 小節の開始位置まで (To start of bar): 選択している最初の小節の開始位置までの音符が含まれます。
- 前の小節 (Previous bar): 前の小節の開始位置までの音符が含まれます。
- 前の音符 (Previous notes): 選択より前の指定した数までの音符が含まれます。
- 追加する音符の数 (Number of additional notes): 反映元として追加する音符の数を指定できます。「前の音符 (Previous notes)」をオンにした場合にのみ利用できます。

#### 終了位置の追加コンテキスト (Additional context at end)

選択した音符の後の、音符の表記の自動計算に反映される楽譜上の追加コンテキストを指定できます。

- なし (None): 選択している音符のみになります。
- 小節の終了位置まで (To end of bar): 選択している最後の小節の終了位置までの音符が含まれます。
- 次の小節 (Next bar): 次の小節の終了位置までの音符が含まれます。
- 後に続く音符 (Following notes): 選択より後の指定した数までの音符が含まれます。
- 追加する音符の数 (Number of additional notes): 反映元として追加する音符の数を指定できます。「後に続く音符 (Following notes)」をオンにした場合にのみ利用できます。

#### フロー中で使用頻度が最も高い臨時記号を優先 (Prefer accidentals used most in this flow)

臨時記号を、フロー内の使用頻度に応じて選択するか、対応するピッチデルタのデフォルトに従い選択するか指定できます。同じピッチデルタを持つ複数の臨時記号が含まれる調性システムで役に立ちます。

### ピッチを変更せず臨時記号を維持 (Preserve accidentals on unchanged pitches)

書き換えされていない音符について、既存の臨時記号が保持されるか、「フロー中で使用頻度が最も高い臨時記号を優先 (Prefer accidentals used most in this flow)」の設定に基づいて選択されるかを指定できます。同じピッチデルタを持つ複数の臨時記号が含まれる調性システムで役に立ちます。

関連リンク

[音符/アイテムの選択](#) (460 ページ)

[音符の書き換え](#) (523 ページ)

[個々の音符のピッチの変更](#) (518 ページ)

[臨時記号の入力](#) (269 ページ)

[MIDI 入力中の臨時記号の選択](#) (271 ページ)

[調性システム](#) (1357 ページ)

[カスタムの調性システム](#) (1003 ページ)

[カスタムの臨時記号](#) (1009 ページ)

## 音符の表記を別のレイアウトにコピーする

もともとは音符の書き換えをパートレイアウトで行なったものの、この表記をフルスコアレイアウトにも同様に表示させたくなくなった場合などには、音符の表記を他のレイアウトにコピーできます。

---

手順

1. 記譜モードで、コピーする音符の表記が含まれるレイアウトを開きます。
2. 書き換える音符を選択します。
3. 「記譜 (Write)」 > 「書き換え (Respell)」 > 「音符の表記をコピー (Propagate Note Spellings)」を選択します。

---

結果

現在のレイアウトで選択されている音符の表記が、その音符が表示される他のすべてのレイアウトにコピーされます。

関連リンク

[レイアウトの切り替え](#) (47 ページ)

[パート形式のコピー](#) (822 ページ)

## 音符の表記のリセット

たとえば今後フルスコアレイアウトで行なう音符の表記の変更を、以前パートレイアウトで表記の上書きを行なった音符にも適用させる場合などには、スコアレイアウトの表記に合うように音符の表記の変更をリセットできます。これは1つのパートレイアウトのみに行なうことも、すべてのレイアウトに行なうこともできます。

---

手順

1. 必要に応じて、音符の表記を1つのパートレイアウトのみでリセットする場合は、楽譜領域にそのレイアウトを開きます。
2. 記譜モードで、表記をリセットする音符を選択します。
3. 以下のいずれかの操作を行なって、音符の表記をリセットします。
  - 「記譜 (Write)」 > 「書き換え (Respell)」 > 「現在のレイアウトで音符の表記をリセット (Reset Note Spellings in Current Layout)」を選択します。

- 「記譜 (Write)」 > 「書き換え (Respell)」 > 「すべてのレイアウトで音符の表記をリセット (Reset Note Spellings in All Layouts)」を選択します。

#### 結果

現在のレイアウトまたはすべてのレイアウトで、選択した音符の表記がリセットされます。スコアの音符の表記に対するリンクが復元され、今後は選択した音符に対しスコアレイアウトで行なうすべての表記の変更は、現在のパートレイアウト、またはすべてのレイアウトに効果を持つようになります。

#### 関連リンク

[レイアウトの切り替え \(47 ページ\)](#)

[音符の書き換え \(523 ページ\)](#)

[選択範囲の移調 \(519 ページ\)](#)

## 楽譜の変換

Dorico Pro にはピッチやリズムを変換するための複数のツールが用意されており、ピッチの反転や転回およびリズムの回転などを行なえます。

Dorico Pro では、音符のピッチやリズムを変更する以下の方法を「楽譜の変換」と呼びます。

#### 転回

前の音符の 5 度上にあった音符を前の音符の 5 度下にするなど、音符間の音程差を強制的に逆にすることで、フレーズのメロディーの起伏を上下逆に入れ替えます。

#### 反転

音符のピッチやリズムおよびアイテムの順番を反転させ、たとえばフレーズの最初の音符が最後の音符になるなど、選択範囲が逆に演奏されるようにします。

#### 回転

音符のピッチやリズムおよびアイテムが、指定したステップ数で前後に移動します。これにより、たとえばフレーズの最初の音符の元のピッチを 2 番めの音符に、2 番めの音符のピッチを 3 番めの音符に、という形に変換されます。

#### 繰り返し

フレーズの開始位置にある指定した数の音符のピッチが、選択範囲の後に続く音符全体にわたって繰り返されます。

#### ピッチのマッピング

すべての C# を Db にマッピングするなど、指定したピッチが他の指定したピッチに変換されます。

#### スケールのマッピング

指定した変換元のスケールのすべての音符が、変換先のスケールのスケールディグリーに従い、対応する音符に変換されます。

#### ヒント

楽譜の変換のデフォルトの動作は「**音符入力オプション (Note Input Options)**」の「**楽譜の変換 (Musical Transformations)**」ページで変更できます。たとえば、元の選択範囲のデュレーションが短くなるような変換を許可するかどうかを設定できます。

#### 関連リンク

[配置ツール \(495 ページ\)](#)

[音符ツールのポップオーバー \(537 ページ\)](#)

[「音符入力オプション \(Note Input Options\)」ダイアログ \(921 ページ\)](#)

[既存の音符の上/下に音符を追加 \(284 ページ\)](#)

[音符ツールのポップオーバーで既存の音符を移調する \(521 ページ\)](#)

## ピッチの転回

選択した音符のピッチを反転できます。これは、前の音符の5度上にあった音符を前の音符の5度下にするなど、音符間の音程差を強制的に逆にすることで、フレーズのメロディーの起伏を上下逆に入れ替えるものです。この変換は「転回」とも呼ばれます。

### 手順

1. 記譜モードで、転回する音符を選択します。
2. 以下のいずれかの操作を行ないます。
  - ピッチの転回のみを行なうには、「記譜 (Write)」 > 「変換 (Transform)」 > 「ピッチ (Pitches)」 > 「ピッチを転回 (Invert Pitches)」を選択して、「ピッチを転回 (Invert Pitches)」ダイアログを開きます。
  - ピッチの反転および転回を行なうには、「記譜 (Write)」 > 「変換 (Transform)」 > 「ピッチ (Pitches)」 > 「ピッチを反転および転回 (Reverse and Invert Pitches)」を選択して、「ピッチを反転および転回 (Reverse and Invert Pitches)」ダイアログを開きます。
  - ピッチの反転および転回とリズムの反転を行なうには、「記譜 (Write)」 > 「変換 (Transform)」 > 「すべて (All)」 > 「ピッチの反転および転回とリズムの反転 (Reverse and Invert Pitches and Reverse Rhythms)」を選択して、「ピッチの反転および転回とリズムの反転 (Reverse and Invert Pitches and Reverse Rhythms)」ダイアログを開きます。
3. 転回に対し必要な設定を変更します。
4. 「OK」をクリックして変更内容を保存し、ダイアログを閉じます。

### 結果

最初のメニュー選択およびダイアログ内の設定に応じて、選択した音符が変換されます。

### ヒント

- ピッチの転回には音符ツールのポップオーバーも使用できます。
- 転回のデフォルトの動作は「音符入力オプション (Note Input Options)」の「楽譜の変換 (Musical Transformations)」ページで変更できます。

### 関連リンク

[「ピッチの反転および転回とリズムの反転 \(Reverse and Invert Pitches and Reverse Rhythms\)」ダイアログ \(529 ページ\)](#)

[音符ツールのポップオーバー \(537 ページ\)](#)

[「音符入力オプション \(Note Input Options\)」ダイアログ \(921 ページ\)](#)

[大きな選択範囲 \(463 ページ\)](#)

[配置ツール \(495 ページ\)](#)

[音符の入力 \(248 ページ\)](#)

## ピッチ/リズムの反転

音符のピッチやリズムおよび譜表に付くアイテムを反転して、選択範囲が逆に演奏されるようにできます。これにより、たとえばフレーズの最初の音符を最後の音符にできます。

### 手順

1. 記譜モードで、ピッチやリズムを反転させる音符や譜表に付くアイテムを選択します。



たとえば音符と一緒に強弱記号も反転させるには、強弱記号を選択に含めます。

- 以下のいずれかの操作を行ないます。
  - ピッチのみを反転させるには、「記譜 (Write)」 > 「変換 (Transform)」 > 「ピッチ (Pitches)」 > 「ピッチを反転 (Reverse Pitches)」を選択します。
  - リズムのみを反転させるには、「記譜 (Write)」 > 「変換 (Transform)」 > 「リズム (Rhythm)」 > 「リズムを反転 (Reverse Rhythms)」を選択します。
  - ピッチとリズムを反転させるには、「記譜 (Write)」 > 「変換 (Transform)」 > 「すべて (All)」 > 「ピッチとリズムを反転 (Reverse Pitches and Rhythms)」を選択します。
  - ピッチの反転および転回を行なうには、「記譜 (Write)」 > 「変換 (Transform)」 > 「ピッチ (Pitches)」 > 「ピッチを反転および転回 (Reverse and Invert Pitches)」を選択して、「ピッチを反転および転回 (Reverse and Invert Pitches)」ダイアログを開きます。
  - ピッチの反転および転回とリズムの反転を行なうには、「記譜 (Write)」 > 「変換 (Transform)」 > 「すべて (All)」 > 「ピッチの反転および転回とリズムの反転 (Reverse and Invert Pitches and Reverse Rhythms)」を選択して、「ピッチの反転および転回とリズムの反転 (Reverse and Invert Pitches and Reverse Rhythms)」ダイアログを開きます。
- 必要に応じて、ピッチの反転および転回を選択した場合、転回に必要な設定を変更します。
- 「OK」をクリックして変更内容を保存し、ダイアログを閉じます。

#### 結果

最初のメニュー選択、および場合によりダイアログ内の設定に応じて、選択した音符および譜表に付くアイテムが変換されます。

#### ヒント

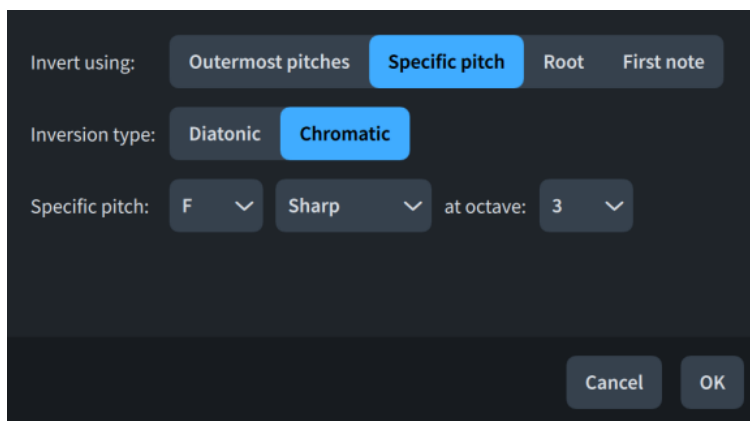
ピッチ/リズムの反転には音符ツールのポップオーバーも使用できます。

## 「ピッチの反転および転回とリズムの反転 (Reverse and Invert Pitches and Reverse Rhythms)」ダイアログ

「ピッチを転回 (Invert Pitches)」、「ピッチを反転および転回 (Reverse and Invert Pitches)」、および「ピッチの反転および転回とリズムの反転 (Reverse and Invert Pitches and Reverse Rhythms)」ダイアログでは、選択した音符のピッチの転回と反転、およびリズムの反転を行なえます。

これらのダイアログを開くには、記譜モードの楽譜領域で1つ以上の音符を選択して、以下の操作を行ないます。

- 「ピッチを転回 (Invert Pitches)」ダイアログを開くには、「記譜 (Write)」 > 「変換 (Transform)」 > 「ピッチ (Pitches)」 > 「ピッチを転回 (Invert Pitches)」を選択します。
- 「ピッチを反転および転回 (Reverse and Invert Pitches)」ダイアログを開くには、「記譜 (Write)」 > 「変換 (Transform)」 > 「ピッチ (Pitches)」 > 「ピッチを反転および転回 (Reverse and Invert Pitches)」を選択します。
- 「ピッチの反転および転回とリズムの反転 (Reverse and Invert Pitches and Reverse Rhythms)」ダイアログを開くには、「記譜 (Write)」 > 「変換 (Transform)」 > 「すべて (All)」 > 「ピッチの反転および転回とリズムの反転 (Reverse and Invert Pitches and Reverse Rhythms)」を選択します。



これらのダイアログには以下のオプションがあります。

#### 転回に使用 (Invert using)

転回の動作を変更できます。

- **一番外側のピッチ (Outermost pitches):** 選択の最高音と最低音の範囲内でピッチを転回します。
- **特定のピッチ (Specific pitch):** 特定のピッチを中心にピッチを転回します。
- **ルート (Root):** その位置で有効なキーのルートを中心にピッチを転回します。オープンキーまたは調号のない楽譜ではCが使用されます。
- **最初の音符 (First note):** 選択の最初の音符を中心にピッチを転回します。

#### 転回タイプ (Inversion type)

転回において音程がどのように扱われるか変更できます。

- **全音階 (Diatonic):** 転回には、その位置で有効な調号のスケールディグリーに従う音程の度数が使用されます。全音階による転回ではピッチ間の音程の関係が保持されるため、たとえば、下では短2度の音程であったものが上では長2度の音程になる場合があります。
- **半音階 (Chromatic):** その位置で有効な調号に関係なく、転回には指定した数の半ステップ (半音) が使用されます。

「転回に使用 (Invert using)」に「一番外側のピッチ (Outermost pitches)」が選択されている場合は使用できません。

#### 特定のピッチ (Specific pitch)

転回を中心になるピッチを指定できます。ミドルCのナンバリング変換設定に応じて音名、臨時記号、およびオクターブを選択できます。利用できる臨時記号は、その位置で有効な調性システムによって変わります。

「転回に使用 (Invert using)」に「特定のピッチ (Specific pitch)」が選択されている場合にのみ使用できます。

#### 最初の音符が和音の場合は、以下を使用 (When first note is a chord, use)

最初の音符が和音の一部である場合、転回を中心として使用するピッチを指定できます。

- **和音の一番上の音符 (Top note of chord):** 和音の最高音が使用されます。
- **和音の一番下の音符 (Bottom note of chord):** 和音の最低音が使用されます。

「転回に使用 (Invert using)」に「最初の音符 (First note)」が選択されている場合にのみ使用できます。

関連リンク

[調性システム \(1357 ページ\)](#)

[調性システムの変更 \(1358 ページ\)](#)

[ミドルCのナンバリング変換を変更する \(55 ページ\)](#)

## ピッチ/リズムをローテート

音符のピッチやリズムおよび譜表に付くアイテムを、指定したステップ数で正順または逆順に回転させられます。これにより、たとえばフレーズの最初の音符の元のピッチを2番めの音符に、2番めの音符のピッチを3番めの音符に、という形で変換できます。

### 手順

1. 記譜モードで、ピッチやリズムを回転させる音符および譜表に付くアイテムを選択します。  
たとえば音符と一緒に強弱記号も回転させるには、強弱記号を選択に含めます。
2. 以下のいずれかの操作を行ないます。
  - ピッチの回転のみを行なうには、「記譜 (Write)」 > 「変換 (Transform)」 > 「ピッチ (Pitches)」 > 「ピッチをローテート (Rotate Pitches)」を選択して、「ピッチをローテート (Rotate Pitches)」ダイアログを開きます。
  - リズムの回転のみを行なうには、「記譜 (Write)」 > 「変換 (Transform)」 > 「リズム (Rhythm)」 > 「リズムをローテート (Rotate Rhythms)」を選択して、「リズムをローテート (Rotate Rhythms)」ダイアログを開きます。
  - ピッチとリズムの回転を行なうには、「記譜 (Write)」 > 「変換 (Transform)」 > 「すべて (All)」 > 「ピッチとリズムをローテート (Rotate Pitches and Rhythms)」を選択して、「ピッチとリズムをローテート (Rotate Pitches and Rhythms)」ダイアログを開きます。
3. 回転に対し必要な設定を変更します。
4. 「OK」をクリックして変更内容を保存し、ダイアログを閉じます。

### 結果

ダイアログ内の設定に応じて、選択した音符および譜表に付くアイテムが回転します。

### ヒント

ピッチ/リズムの回転には音符ツールのポップオーバーも使用できます。

### 関連リンク

[音符ツールのポップオーバー \(537 ページ\)](#)

[大きな選択範囲 \(463 ページ\)](#)

[配置ツール \(495 ページ\)](#)

[音符の入力 \(248 ページ\)](#)

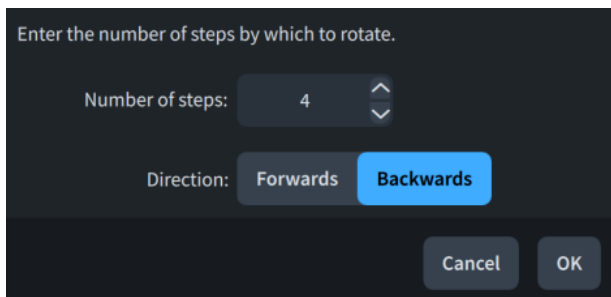
## 「ピッチ/リズムをローテート」ダイアログ

「ピッチをローテート (Rotate Pitches)」、「リズムをローテート (Rotate Rhythms)」、および「ピッチとリズムをローテート (Rotate Pitches and Rhythms)」の各ダイアログでは、選択した音符のピッチやリズムを回転させられます。

これらのダイアログを開くには、記譜モードの楽譜領域で1つ以上の音符を選択して、以下の操作を行ないます。

- 「ピッチをローテート (Rotate Pitches)」ダイアログを開くには、「記譜 (Write)」 > 「変換 (Transform)」 > 「ピッチ (Pitches)」 > 「ピッチをローテート (Rotate Pitches)」を選択します。

- 「リズムをローテート (Rotate Rhythms)」ダイアログを開くには、「記譜 (Write)」 > 「変換 (Transform)」 > 「リズム (Rhythm)」 > 「リズムをローテート (Rotate Rhythms)」を選択します。
- 「ピッチとリズムをローテート (Rotate Pitches and Rhythms)」ダイアログを開くには、「記譜 (Write)」 > 「変換 (Transform)」 > 「すべて (All)」 > 「ピッチとリズムをローテート (Rotate Pitches and Rhythms)」を選択します。



これらのダイアログには以下のオプションがあります。

#### ステップ数 (Number of steps)

回転のステップ数を設定できます。

#### 方向 (Direction)

回転の方向を設定できます。

- **正順 (Forwards):** 正順に回転、つまりピッチ/リズムが右側に移動します。
- **逆順 (Backwards):** 逆順に回転、つまりピッチ/リズムが左側に移動します。

## 音符全体でのピッチの繰り返し

指定した数のピッチを、選択範囲内の後続のすべての音符上で繰り返すことができます。これにより、たとえばパッセージの和声的パターンを変更できます。

#### 手順

1. 記譜モードで、以下の両方を含める形で選択範囲を作ります。
  - ピッチを繰り返す音符
  - ピッチを繰り返す範囲の音符
2. 「記譜 (Write)」 > 「変換 (Transform)」 > 「ピッチ (Pitches)」 > 「ピッチを繰り返し (Repeat Pitches)」を選択して、「ピッチを繰り返し (Repeat Pitches)」ダイアログを開きます。
3. 数値フィールドの値を変更します。
4. 「OK」をクリックして変更内容を保存し、ダイアログを閉じます。

#### 結果

選択の開始位置にある指定した数のピッチが、選択範囲の後に続く音符全体にわたって繰り返されます。

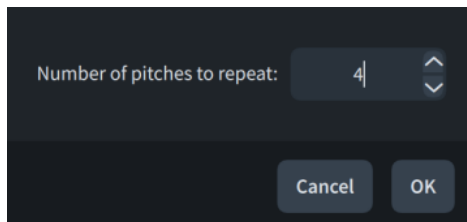
#### ヒント

ピッチの繰り返しには音符ツールのポップオーバーも使用できます。

## 「ピッチを繰り返し (Repeat Pitches)」 ダイアログ

「ピッチを繰り返し (Repeat Pitches)」 ダイアログでは、選択範囲内の後続のすべての音符上で繰り返すピッチの数を設定できます。

- 記譜モードの楽譜領域で1つ以上の音符を選択している場合、「記譜 (Write)」 > 「変換 (Transform)」 > 「ピッチ (Pitches)」 > 「ピッチを繰り返し (Repeat Pitches)」を選択することで「ピッチを繰り返し (Repeat Pitches)」 ダイアログを開けます。



「ピッチを繰り返し (Repeat Pitches)」 ダイアログには、以下のオプションがあります。

### 繰り返すピッチの数 (Number of pitches to repeat)

選択範囲の最後まで繰り返すピッチの、選択の最初の音符から数えての数を設定できます。

## 音符をピッチにマッピング

1回の変換で複数の変換元ピッチを変換先ピッチにマッピングできます。これにより、たとえばすべてのC#、F#、A#をDb、Gb、Bbに変換できます。

### 手順

- 記譜モードで、ピッチをマッピングする音符を選択します。
- 「記譜 (Write)」 > 「変換 (Transform)」 > 「ピッチ (Pitches)」 > 「ピッチをマッピング (Map Pitches)」を選択して、「ピッチをマッピング (Map Pitches)」 ダイアログを開きます。
- 「ピッチをマッピング (Map pitch)」の設定を変更して、変換元のピッチを指定します。
- 「異名同音を含める (Include enharmonic equivalents)」をオンまたはオフにします。
- 「終了位置 (To)」の設定を変更して、変換先のピッチを指定します。
- 「マッピングを追加 (Add mapping)」をクリックします。
- 必要に応じて、マッピングする各ピッチに手順3～6を繰り返します。
- 「OK」をクリックして変更内容を保存し、ダイアログを閉じます。

### 結果

変換元の指定したピッチが、設定に応じて変換先の指定したピッチにマッピングされます。

### ヒント

ピッチのマッピングには音符ツールのポップオーバーも使用できます。

### 関連リンク

- [音符ツールのポップオーバー \(537 ページ\)](#)
- [大きな選択範囲 \(463 ページ\)](#)
- [音符の書き換え \(523 ページ\)](#)
- [配置ツール \(495 ページ\)](#)
- [音符の入力 \(248 ページ\)](#)

## 「ピッチをマッピング (Map Pitches)」 ダイアログ

「ピッチをマッピング (Map Pitches)」 ダイアログでは、1 回の変換で複数のピッチのマッピングを設定できます。これにより、たとえばすべての C $\sharp$ 、F $\sharp$ 、A $\sharp$  を Db、Gb、Bb に変換できます。

- 記譜モードの楽譜領域で 1 つ以上の音符を選択している場合、「記譜 (Write)」 > 「変換 (Transform)」 > 「ピッチ (Pitches)」 > 「ピッチをマッピング (Map Pitches)」を選択することで「ピッチをマッピング (Map Pitches)」 ダイアログを開けます。

Map pitch: F Natural Specify octave: 5

Include enharmonic equivalents

To: A Natural Transform: Up Down **Closest** Specific octave 5

Add mapping Delete mapping

- A sharp at octave 5 to B flat at octave 4
- Every F sharp to closest G flat
- C sharp at octave 5 to D flat at octave 5
- F natural at octave 5 (incl. enharmonic equivs.) to closest A natural**

Cancel OK

「ピッチをマッピング (Map Pitches)」 ダイアログには、以下のオプションがあります。

### ピッチをマッピング (Map pitch)

変換先のピッチにマッピングする変換元のピッチを指定できます。ミドル C のナンバリング変換設定に応じて音名と臨時記号を選択でき、必要に応じてオクターブも指定できます。利用できる臨時記号は、その位置で有効な調性システムによって変わります。

### 異名同音を含める (Include enharmonic equivalents)

オンにすると、変換元に指定したピッチの異名同音がマッピングに含まれます。これにより、たとえば A $\sharp$  と Bb を G にマッピングできます。

オフにすると、変換元に指定したピッチの異名同音はマッピングから除外されます。

### To

変換元のピッチをマッピングする変換先のピッチを指定できます。音名と臨時記号を指定できます。利用できる臨時記号は、その位置で有効な調性システムによって変わります。

### 変換 (Transform)

マッピングに選択するオクターブを指定できます。

- 上 (Up):** 変換先のピッチは変換元のピッチより高くなります。
- 下 (Down):** 変換先のピッチは変換元のピッチより低くなります。
- 一番近い (Closest):** 変換先のピッチには、変換元のピッチからの音程が最小となるオクターブが使用されます。
- 特定のオクターブ (Specific octave):** 変換先のピッチには、数値フィールドに指定されたオクターブが使用されます。ミドル C のナンバリング変換設定に従います。

### マッピングを追加 (Add mapping)

設定したマッピングをマッピングリストに追加します。

### マッピングを削除 (Delete mapping)

選択したマッピングをマッピングリストから削除します。

### マッピングリスト

変換用に設定されたマッピングが表示されます。

#### 関連リンク

[ミドル C のナンバリング変換を変更する \(55 ページ\)](#)

## 音符をスケールにマッピング

指定した変換元のスケールのすべての音を、変換先のスケールの対応する度にマッピングできます。これにより、たとえば同じルートを持つ長調から短調へとパッセージを変換できます。

#### 手順

1. 記譜モードで、ピッチをマッピングする音符を選択します。
2. 「記譜 (Write)」 > 「変換 (Transform)」 > 「ピッチ (Pitches)」 > 「スケールをマッピング (Map Scale)」を選択して、「スケールをマッピング (Map Scale)」ダイアログを開きます。
3. スケールのルートやスケールパターンなど、スケールのマッピングに必要なパラメーターを調整します。
4. 「OK」をクリックして変更内容を保存し、ダイアログを閉じます。

#### 結果

変換元のスケールの指定したピッチが、設定に応じて変換先のスケールの指定したピッチにマッピングされます。

#### ヒント

- スケールのマッピングには音符ツールのポップオーバーも使用できます。
- 転回のデフォルトの動作は「音符入力オプション (Note Input Options)」の「楽譜の変換 (Musical Transformations)」ページで変更できます。

#### 関連リンク

[音符ツールのポップオーバー \(537 ページ\)](#)  
[「音符入力オプション \(Note Input Options\)」ダイアログ \(921 ページ\)](#)  
[大きな選択範囲 \(463 ページ\)](#)  
[音符の書き換え \(523 ページ\)](#)  
[配置ツール \(495 ページ\)](#)  
[音符の入力 \(248 ページ\)](#)

## 「スケールをマッピング (Map Scale)」ダイアログ

「スケールをマッピング (Map Scale)」ダイアログでは、指定した変換元のスケールのすべての音を、変換先のスケールの対応する度にマッピングできます。これにより、たとえば同じルートを持つ長調から短調へとパッセージを変換できます。

- 記譜モードの楽譜領域で1つ以上の音符を選択している場合、「記譜 (Write)」 > 「変換 (Transform)」 > 「ピッチ (Pitches)」 > 「スケールをマッピング (Map Scale)」を選択することで「スケールをマッピング (Map Scale)」ダイアログを開けます。

Use source root:  C Sharp

Use destination root:  D Flat

Source scale pattern: Ionian (Major)

Destination scale pattern: Ionian (Major)

Source scale overrides:

Destination scale overrides:

Direction:  Closest  Up  Down

Snap all pitches to destination scale

Treat enharmonic equivalents as matching source scale

Respell enharmonic equivalents to fit destination scale

Keep relative offsets from source scale

Cancel OK

「スケールをマッピング (Map Scale)」ダイアログには、以下のオプションがあります。

#### 変換元のルートを使用 (Use source root)

オンにすると、変換先のスケールのルートにマッピングする変換元のスケールのルートを指定できます。音名と臨時記号を指定できます。利用できる臨時記号は、その位置で有効な調性システムによって変わります。

オフにすると、その位置で有効な調号から推測されるスケールのルートが使用されます。

#### 変換先のルートを使用 (Use destination root)

オンにすると、変換元のスケールのルートを変換先のスケールのルートにマッピングする変換先のスケールのルートに指定できます。音名と臨時記号を指定できます。利用できる臨時記号は、その位置で有効な調性システムによって変わります。

オフにすると、その位置で有効な調号から推測されるスケールのルートが使用されます。

#### 変換元のスケールパターン (Source scale pattern)

変換元のスケールのスケールのタイプを選択できます。

#### 変換先のスケールパターン (Destination scale pattern)

変換先のスケールのスケールのタイプを選択できます。

#### 変換元のスケールを優先 (Source scale overrides)

プリセットパターンから外れるピッチを指定することで、変換元のスケールをカスタマイズできます。音符はカスタマイズしたスケールパターンに相対的にマッピングされます。たとえば、CメジャーをCハーモニックマイナーにマッピングする際にシャープ6度の変換元スケールの上書きを追加すると、A $\sharp$ はフラット6度として扱われ、A $\flat$ となります。

- フラットの音度を指定するには、**b[n]** と入力します (例: **b2**)。



- シャープの音度を指定するには、#[n]と入力します (例: #6)。

#### 変換先のスケールを優先 (Destination scale overrides)

プリセットパターンから外れるピッチを指定することで、変換先のスケールをカスタマイズできます。音符はカスタマイズしたスケールパターンに相対的にマッピングされます。たとえば、CメジャーをCハーモニックマイナーにマッピングする際にフラット2度の変換先スケールの上書きを追加すると、D<sub>4</sub>がD<sub>b</sub>になります。

- フラットの音度を指定するには、b[n]と入力します (例: b2)。
- シャープの音度を指定するには、#[n]と入力します (例: #6)。

#### 方向 (Direction)

マッピングに選択するオクターブを指定できます。

- **一番近い (Closest):** 変換先のピッチには、変換元のピッチからの音程が最小となるオクターブが使用されます。
- **上 (Up):** 変換先のピッチは変換元のピッチより高くなります。
- **下 (Down):** 変換先のピッチは変換元のピッチより低くなります。

#### すべてのピッチを変換先のスケールにスナップ (Snap all pitches to destination scale)

オンにすると、変換元のスケールの構成音ではない音符も含めて、すべての音符が変換先のスケールの最も近いピッチにスナップされます。オフにすると、変換元のスケールの構成音のみが変換先のスケールにマッピングされます。

#### 異名同音は変換元のスケールに合わせて処理 (Treat enharmonic equivalents as matching source scale)

オンにすると、変換元のスケールの構成音に対する異名同音の音符もマッピングに含まれます。オフにすると、異名同音の表記が変換元のスケールに合致する音符のみが変換先スケールにマッピングされます。

#### 異名同音は変換先のスケールに合わせて書き換え (Respell enharmonic equivalents to fit destination scale)

オンにすると、マッピングに含まれる異名同音の音符は、変換先のスケールに合わせて書き換えられます。オフにすると、異名同音の音符は書き換えられないまま、スケールのマッピングに従い移調されます。

「異名同音は変換元のスケールに合わせて処理 (Treat enharmonic equivalents as matching source scale)」がオンになっている場合にのみ使用できます。

#### 元のスケールの相対オフセットを維持 (Keep relative offsets from source scale)

オンにすると、変換元のスケールの音符間の相対オフセットが維持されます。たとえばCメジャーをDエオリアンにマッピングする場合、B<sub>b</sub>はC<sub>b</sub>にマッピングされます。



オフにすると、音程差が異なる方が変換先のスケールに対して適切な場合は、変換元のスケールの音符間の相対オフセットが変更されます。たとえばCメジャーをDエオリアンにマッピングする場合、B<sub>b</sub>はC<sub>4</sub>にマッピングされます。

## 音符ツールのポップオーバー

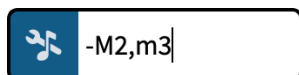
音符ツールのポップオーバーでは、既存の音符の上下への音符の追加、既存の音符の移調、および選択した音符のピッチやリズムの変換を行なえます。

「上/下に音符を追加 (Add Notes Above or Below)」、「移調 (Transpose)」、「ピッチを反転および転回/リズムを反転 (Reverse and Invert Pitches/Reverse Rhythms)」、「ピッチをローテート/リズムをローテート (Rotate Pitches/Rotate Rhythms)」、「ピッチをマッピング (Map Pitches)」、「スケールをマッピング (Map Scale)」、「ピッチを繰り返し (Repeat Pitches)」の各ダイアログで提供される機能の多くは、キーボードから直接アクセスできます。

記譜モードでは、音符の選択時 (音符入力中も含む) に以下のいずれかの操作を行なって、音符ツールのポップオーバーを開くことができます。

- **[Shift]+[I]** を押します。
- 記譜ツールボックスで「ポップオーバー (Popovers)」 をクリックし、「音符ツール (Note Tools)」 をクリックします。
- 「記譜 (Write)」 > 「音程を追加 (Add Intervals)」を選択します。

ポップオーバーの左側に表示されたアイコンが、ウィンドウの右側にある記譜記号ツールボックスの対応するボタンと一致します。



エントリーの例が入力された音符ツールのポップオーバー



記譜ツールボックスの音符ツールボタン

以下の表は、選択範囲の変換、音符の移調、または既存の音符の上/下への音符の追加を行なうために、音符ツールのポップオーバーに入力できるエントリーの例です。

## 音程

音程または性質	ポップオーバーエントリー
音程の度数	「1」、「2」、「3」、「4」、「5」～「15」まで
ユニゾン、2度、3度、4度、5度～2オクターブまで	
メジャー	「M」、「maj」、または「major」
マイナー	「m」、「min」、または「minor」
完全	「p」、「per」、または「perf」
ディミニッシュ	「d」、「dim」、または「diminished」
オーギュメント	「a」、「aug」、または「augmented」
全音階	「diat」または「diatonic」
あらゆる調性システムにおける [n] 個のオクターブ分割	「[n] d」、「[n] div」、または「[n] divisions」
12-EDO における [n] 個の半ステップ (半音)	「[n] s」、「[n] st」、「[n] semi」、または「[n] semitones」
24-EDO における [n] 個の 1/4 音	「[n] q」、「[n] qt」、または「[n] quartertones」

#### 補足

- **5 8 div** のように、指定したオクターブ分割の総数の前に、音程の度数を含める必要があります。これらを組み合わせることで、音符名と臨時記号を任意に指定できます。
- メジャーとマイナーを意味する「**M**」と「**m**」のエントリーは、大文字と小文字が区別されません。

## 音符の追加

追加のタイプ	ポップオーバーエントリー
3 度上に音符を追加	「 <b>3</b> 」または「 <b>3rd</b> 」
4 度下に音符を追加	「 <b>-4</b> 」または「 <b>-4th</b> 」
5 度上の音符名を使用して、オクターブ分割 [n] 個分上に音符を追加	「 <b>5 8 div</b> 」 (あらゆる調性システム) 「 <b>5 8 st</b> 」 (12-EDO) 「 <b>5 16 qt</b> 」 (24-EDO)
6 度下の音符名を使用して、オクターブ分割 [n] 個分下に音符を追加	「 <b>-6 9 div</b> 」 (あらゆる調性システム) 「 <b>-6 9 st</b> 」 (12-EDO) 「 <b>-6 18 qt</b> 」 (24-EDO)
複数の音符を含む和音を追加	「 <b>3,6</b> 」または「 <b>-3,3,4</b> 」
和音の一番上の音符にのみ音符を追加	<b>top</b>
和音の一番下の音符にのみ音符を追加	<b>bottom</b>

#### 補足

- 複数の音符を追加する場合は、音符はスペースではなくコンマで区切る必要があります。
- 音程の性質を指定しない場合、音程の度数はその位置で有効な調号に従います。たとえば、C メジャーの場合、D $\sharp$  の 3 度上に追加するために「**3**」を入力すると、追加される音符は F $\sharp$  になります。音程の性質は、「**maj3**」のように音程の度数の前に含めることで指定できます。

#### 例

- 選択した和音の最低音の長 2 度下と短 3 度上に音符を追加するには、「**-M2,m3 bottom**」と入力します。
- 24-EDO で C $\sharp$  の上に G $\sharp$  を追加するには、「**5 16 qt**」と入力します。

## 移調

移調の例	ポップオーバーエントリー
音符を上 に 3 度移調	<b>t3</b>

移調の例	ポップオーバーエントリー
音符を下に6度移調	<b>t-6</b>
5度上の音符名を使用して、オクターブ分割 [n] 個分上に音符を移調	「 <b>t 5 8 div</b> 」 (あらゆる調性システム) 「 <b>t 5 8 st</b> 」 (12-EDO) 「 <b>t 5 16 qt</b> 」 (24-EDO)
6度下の音符名を使用して、オクターブ分割 [n] 個分下に音符を移調	「 <b>t -6 9 div</b> 」 (あらゆる調性システム) 「 <b>t -6 9 st</b> 」 (12-EDO) 「 <b>t -6 18 qt</b> 」 (24-EDO)
例	
24-EDO で C <sub>4</sub> を 1/4 音 9 個分上に移調するには、E <sub>4</sub> に 「 <b>t 3 9 qt</b> 」、F <sub>4</sub> に 「 <b>t 4 9 qt</b> 」 と入力します。	
転回	ポップオーバーエントリー
転回のタイプ	ポップオーバーエントリー
選択の最高音と最低音の範囲でピッチを転回	「 <b>inv</b> 」、「 <b>invert</b> 」、「 <b>inversion</b> 」、または「 <b>mirror</b> 」
転回を中心になるピッチを指定 たとえば C <sub>4</sub> 、E <sub>b4</sub> 、F <sub>5</sub> 、G <sub>#6</sub> など	「 <b>C4</b> 」、「 <b>eb4</b> 」、「 <b>F5</b> 」、「 <b>g#6</b> 」 など
転回を中心になるオクターブの分割を指定 たとえば、24-EDO の D:4 または A:5	「 <b>d1/24 4</b> 」 または 「 <b>A-3/24 5</b> 」
その位置で有効なキーのルートを転回を中心になるピッチに指定	<b>root</b>
<b>補足</b>	
オープンキーまたは調号のない楽譜では C が使用されます。	
最初の音符を転回を中心になるピッチに指定	<b>first</b>
最初の和音の一番上の音符を転回を中心になるピッチに指定	<b>top</b>
最初の和音の一番下の音符を転回を中心になるピッチに指定	<b>bottom</b>
全音階による転回	「 <b>diatonic</b> 」 または 「 <b>diat</b> 」
半音階による転回	「 <b>chromatic</b> 」 または 「 <b>chrom</b> 」

例

E♭4 を中心にピッチを転回するには、「**inveb4**」と入力します。

## 反転

### 反転のタイプ

### ポップオーバーエントリー

ピッチとリズムを含めて選択を反転

「**retrograde**」、「**ret**」、「**reverse**」、または「**rev**」

ピッチのみ指定

「**pitch**」または「**pt**」

リズムのみ指定

「**rhythm**」または「**rm**」

ピッチを反転および転回

「**ret invert**」、「**rev inv**」など

### ヒント

転回に追加の指定も含まれます。

選択と同じプレイヤーに属する追加のアイテムを「**player**」  
含める

選択と同じ声部に属するアイテムのみ含める 「**voice**」

例

選択した声部のみでピッチとアイテムを反転させるには、「**rev pt voice**」と入力します。

## 回転

### 回転のタイプ

### ポップオーバーエントリー

ピッチとリズムを含めて選択を回転

「**rotate**」または「**rot**」

ピッチのみ指定

「**pitch**」または「**pit**」

リズムのみ指定

「**rhythm**」、「**rhy**」、または「**rm**」

前方へのステップ数を指定

「**1**」、「**2**」、「**3**」、「**4**」など

後方へのステップ数を指定

「**-1**」、「**backwards 2**」、「**bw 3**」、「**prev 4**」など

例

選択した音符のリズムのみ後方に 3 ステップ分回転させるには、「**rot rm bw 3**」と入力します。

## 繰り返し

### 繰り返しのタイプ

### ポップオーバーエントリー

選択範囲にわたって選択のうち最初の 2 音のピッチを繰り返す **repeat 2 pitches**

選択範囲にわたって選択のうち最初の 8 音のピッチを繰り返す **repeat 8 pitches**

このリストにはすべてのエントリーが含まれているわけではなく、繰り返すピッチの数は自由に設定できます。このリストは、エントリーをどのように構成するかを示すことを目的としています。

## ピッチのマッピング

### ピッチのマッピングのタイプ

### ポップオーバーエントリー

変換元と変換先のピッチを指定

**c4=eb4,f4=g4,a4=bb5**

たとえば C4 を Eb4 に、F4 を G4 に、A4 を Bb4 にマッピングする場合。

#### 補足

- 変換元と変換先のピッチはイコールサイン、ピッチのペアはコンマで区切ります。
- オクターブ番号はオプションです。

指定した音符の異名同音を含める

音名とオクターブ (指定している場合) の後に「\*」

変換先のピッチを変換元のピッチより高く指定

**up**

変換先のピッチを変換元のピッチより低く指定

**down**

#### 例

A# と、Bb などの異名同音をそれより低い G にマッピングするには、「a#\*=Gdown」と入力します。

## スケールのマッピング

### スケールのマッピングまたはスケールのタイプ

### ポップオーバーエントリー

スケールのマッピングの構造

「[変換元のスケール] to [変換先のスケール]」(例: 「c M to c m」または「Fmin to Dmaj」)

変換元のスケールの構成音ではないピッチを変換先のスケールの音程的に最も近いピッチにスナップ

**snap**

スケールのマッピングまたはスケールのタイプ	ポップオーバーエントリー
ピッチを上にはスナップすることを指定	「up」または「higher」
ピッチを下にはスナップすることを指定	「down」または「lower」
指定したスケールに合わせて音符を書き換え	「spell [スケール]」 (例: 「spell Cmaj」)
指定したスケールに音符をスナップ	「snap [スケール]」 (例: 「snap cmin」)
スケールのルート	「c」、「Db」、「e」、「f#」、「g」など
オルタレーション	「#4」、「b6」など
メジャー	「maj」または「M」
マイナー	「min」または「m」
イオニアンメジャー	「ion maj」または「ion M」
ハーモニックマイナー	「harm m」または「hmc min」
メロディックマイナー (上行)	「me m」または「mdc min」
ドリアン	「dor」または「drn」
フリジアン	「phryg」、「phry」、または「phr」
リディアン	lyd
ミクソリディアン	「mixlyd」、「mlyd」、「mixo」、「mix」、または「ml」
エオリアンまたはナチュラルマイナー	「aeol m」、「aeo m」、「aln min」、または「nat min」
ロクリアン	loc
スーパーロクリアン (オルタードスケール)	「super loc」、「sup loc」、または「spr loc」
メジャーペンタトニック	「pent maj」、「5tonic M」、または「5ton M」
マイナーペンタトニック	「pent min」、「5tonic m」、「5ton m」
メジャーブルース	「blue maj」または「bls M」
マイナーブルース	「blue min」または「bls m」
ホールトーン	「wholetone」、「whole-tone」、「wtone」、「wton」、「whole」、または「wt」

スケールのマッピングまたはスケールのタイプ	ポップオーバーエントリー
ハーフホールディミニッシュ	「half whole dimin」、 <b>「halfwhole dimin」</b> 、「hw dim」、「half-tone dimin」、「half tone dimin」、「halftone dimin」、「htone dim」、「hton dim」、「half dim」、または「ht dim」
ハーフホールオクタニック	「half whole octa」、「halfwhole octa」、「hw oct」、「half-tone octa」、「half tone octa」、「halftone octa」、「htone oct」、「hton oct」、「half oct」、または「ht oct」
ホールハーフディミニッシュ	「whole half dimin」、「wholehalf dimin」、「wh dim」、「whole tone dimin」、「whole-tone dimin」、「wholetone dimin」、「wtone dim」、「wton dim」、「whole dim」、または「wt dim」
ホールハーフオクタニック	「whole half octa」、「wholehalf octa」、「wh oct」、「whole tone octa」、「whole-tone octa」、「wholetone octa」、「wtone oct」、「wton oct」、「whole oct」、または「wt oct」
ロクリアン <sup>#7</sup> またはハーモニックメジャーモード7	「loc maj mode7」または「harm M mod7」
スーパーロクリアン <sup>#7</sup> またはハーモニックマイナーモード7	「sup loc min mode7」または「spr loc m mod7」

#### 補足

- 「me min」、「me m」、「mdc min」、「mdc m」のように、スケールタイプのエントリーは自由に組み合わせて入力できます。
- メジャーとマイナーを意味する「M」と「m」のエントリーは、大文字と小文字が区別されます。
- 「c M」のように、ルートは「M」や「m」とスペースで区切る必要があります。

#### 例

範囲選択内のすべてのF<sub>b</sub>をE<sub>b</sub>に書き換え、A<sub>b</sub>をA<sub>n</sub>にスナップさせるには、「spell snap Cmaj」と入力します。

#### 関連リンク

[記譜ツールボックス \(224 ページ\)](#)

[大きな選択範囲 \(463 ページ\)](#)

[オクターブの均等な分割 \(EDO\) \(1358 ページ\)](#)

[ミドルCのナンバリング変換を変更する \(55 ページ\)](#)

[既存の音符の上/下に音符を追加 \(284 ページ\)](#)

[音符ツールのポップオーバーで既存の音符を移調する \(521 ページ\)](#)

[ピッチの転回 \(528 ページ\)](#)

[ピッチ/リズムの反転 \(528 ページ\)](#)

[「ピッチの反転および転回とリズムの反転 \(Reverse and Invert Pitches and Reverse Rhythms\)」ダイアログ \(529 ページ\)](#)

[ピッチ/リズムをローテート \(531 ページ\)](#)

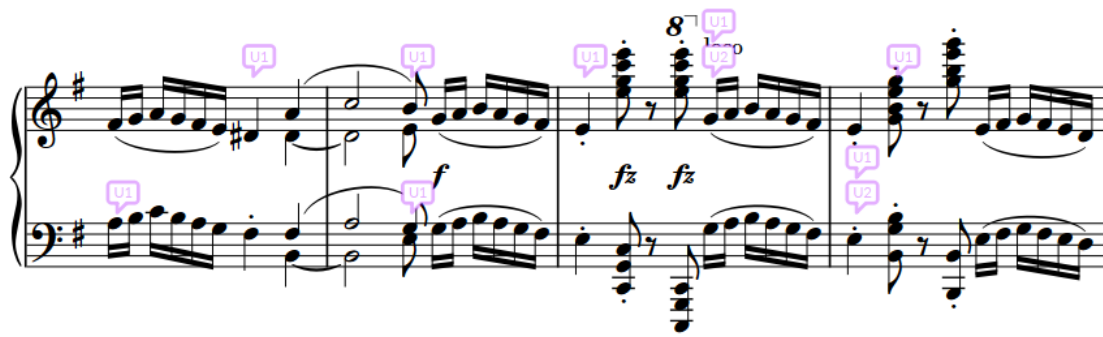


[「ピッチ/リズムをローテート」ダイアログ \(531 ページ\)](#)  
[音符をピッチにマッピング \(533 ページ\)](#)  
[「ピッチをマッピング \(Map Pitches\)」ダイアログ \(534 ページ\)](#)  
[音符をスケールにマッピング \(535 ページ\)](#)  
[「スケールをマッピング \(Map Scale\)」ダイアログ \(535 ページ\)](#)  
[音符全体でのピッチの繰り返し \(532 ページ\)](#)  
[配置ツール \(495 ページ\)](#)  
[音符の入力 \(248 ページ\)](#)

## コメント

コメントを使用すると、楽譜に影響を与えることなくプロジェクト内の正確な位置にメモや指示を追加できます。Dorico Pro では、コメントは注釈として扱われ、初期設定では印刷はされません。

コメントは楽譜の外側に配置されるため、音符のスペーシング、垂直方向のスペーシング、または配置設定に影響しません。ただし、各コメントの対象をはっきり示すために、コメントは特定のアイテムや譜表に添付します。



コメントと返信が表示された楽節

初期設定では、コメントは楽譜領域内に配置されます。コメントは、添付された位置のできるだけ近くに吹き出し記号として表示されます。返信コメントは元のコメントの真下に並んで表示されます。

現在のレイアウト内のすべてのコメントは、記譜モードのコメントパネルにリスト表示されます。コメントパネルまたは楽譜領域でコメントをクリックすると、ビューが自動的に移動して、コメントのある位置がフォーカスされます。

初期設定では、コメントの内容に加え、各コメントには以下が表示されます。

- コメント作成者 (現在のユーザーアカウント名またはカスタム名)  
macOS では、ユーザーアカウント名には長いアカウント名が使用され、Windows では、アカウントに関連付けられているフルネームが使用されます。Dorico Pro がアカウント名を判別できない場合、コメントに使用する名前とイニシャルを追加できるダイアログが表示されます。これらは「**環境設定 (Preferences)**」で変更することもできます。
- コメントが追加された日付
- コメントが適用されたインストゥルメント
- コメントが適用された小節

### 補足

楽譜領域では、作成者のイニシャルだけが表示されます。

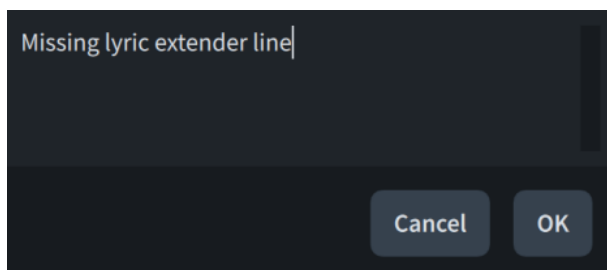
楽譜のコメントを表示/非表示にしたり、コメントパネルのコメント情報を表示/非表示にしたりできます。また、レイアウトの印刷時や書き出し時に、他の表示オプションとともにコメントを含めるかどうかを選択できます。

関連リンク  
[注釈 \(740 ページ\)](#)

## 「コメント (Comment)」 ダイアログ



「コメント (Comment)」 ダイアログでは、テキストをコメントとして入力したり編集したりできます。

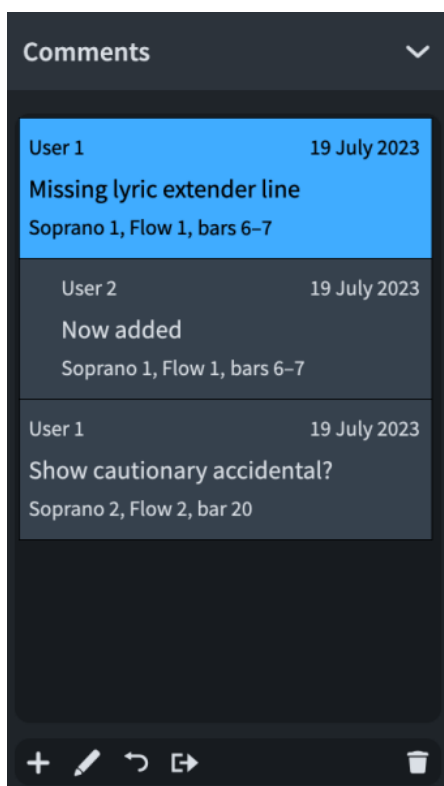
- 「コメント (Comment)」 ダイアログを開くには、楽譜領域またはコメントパネルで、コメントの追加、コメントに返信、または既存のコメントのダブルクリックのいずれかの操作を行ないます。



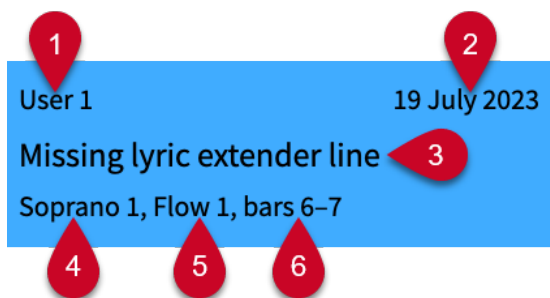
## コメントパネル

コメントパネルには、現在のレイアウト内のすべてのコメントがリスト表示されます。返信コメントは、元のコメントとの関係を示すためにインデントされます。コメントパネルは記譜モードの右ゾーンにあります。

- 「パネル (Panels)」  をクリックしたあとに、記譜ツールボックスの「コメント (Comments)」  をクリックして、コメントパネルを表示/非表示にできます。  
[Ctrl]/[command]+[9] を押して右ゾーンの表示/非表示を切り替えることもできます。



初期設定では、パネル内の各コメントには以下の情報が表示されます。



- 1 **作成者名:** 作成者名には、コメントを追加したときの環境設定に応じて、現在のユーザーアカウント名またはカスタム名が使用されます。
- 2 プロジェクトにコメントが追加された日付
- 3 コメントの内容
- 4 コメントが適用されたインストゥルメント
- 5 コメントが適用されたフロー
- 6 コメントが適用された小節

パネルの最下部のアクションバーには以下のオプションがあります。

#### コメントを作成 (Create Comment)



選択した譜表の選択した位置にコメントを追加します。

#### コメントを編集 (Edit Comment)



選択したコメントを「**コメント (Comment)**」ダイアログで開き、内容を変更できます。

#### コメントに返信 (Reply to Comment)



選択したコメントへの返信コメントを追加します。返信コメントは、コメントパネルではインデントして表示され、楽譜領域では元のコメントの真下に並んで表示されます。

#### コメントを書き出し (Export Comments)



プロジェクト内のすべてのコメントを HTML ファイルとして書き出し、デフォルトの Web ブラウザーで開きます。書き出された HTML ファイルはプロジェクトと同じ場所に自動的に保存されます。

#### コメントを削除 (Delete Comment)



選択したコメントを削除します。

#### 関連リンク

- [記譜ツールボックス \(224 ページ\)](#)
- [コメント情報の表示/非表示 \(549 ページ\)](#)
- [コメントに使用する作成者名の変更 \(550 ページ\)](#)
- [コメントの並べ替え \(550 ページ\)](#)
- [コメントの書き出し \(550 ページ\)](#)

## コメントの追加

プロジェクト内の任意の位置にコメントを追加できます。また、複数の譜表の同じ位置に異なるコメントを追加することもできます。

### 手順


1. 記譜モードで、コメントを追加する位置にある譜表上のアイテムを選択します。コメントを範囲に対して適用する場合は、複数のアイテムを選択します。
2. **[Alt/Opt]+[C]** を押して「コメント (Comment)」ダイアログを開きます。
3. ダイアログにコメントを入力します。
4. 「OK」をクリックすると、ダイアログが閉じてコメントが追加されます。

### 結果

ダイアログに入力したテキストがコメントとして保存されます。

- 楽譜領域では、コメントはイニシャルを含む吹き出し記号として表示されます。
- コメントパネルでは、入力したテキストが追加のコメント情報と一緒に表示されます。

### ヒント

コメントパネルの「コメントを作成 (Create Comment)」 をクリックするか、「記譜 (Write)」 > 「コメントを作成 (Create Comment)」を選択してコメントを追加することもできます。

### 例



楽譜領域のコメント

## コメントへの返信

既存のコメントに返信を追加できます。この機能を使用すると、コメントパネルのコメントリストが整理されるため、別のユーザーと共同で作業を行なう場合に便利です。

### 手順

1. 記譜モードで、返信するコメントを選択します。楽譜領域とコメントパネルのどちらで行なっても構いません。
2. **[Alt/Opt]+[R]** を押して「コメント (Comment)」ダイアログを開きます。
3. ダイアログに返信を入力します。
4. 「OK」をクリックすると、ダイアログが閉じて返信が追加されます。

### 結果

ダイアログに入力したテキストが、選択したコメントへの返信として保存されます。

- 楽譜領域では、返信はイニシャルを含む吹き出し記号として、選択したコメントのすぐ下に表示されます。

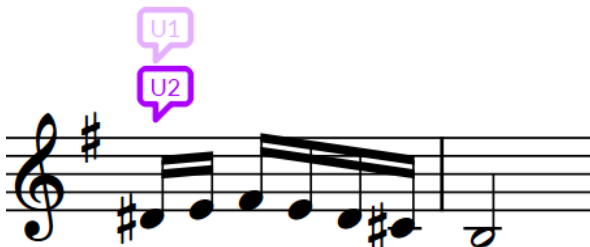
- コメントパネルでは、返信は選択したコメントの下にインデントされて表示されます。

#### ヒント

コメントパネルの「コメントに返信 (Reply to Comment)」をクリックするか、「記譜 (Write)」>「コメントに返答 (Reply to Comment)」を選択してコメントに返信することもできます。

---

例



コメントへの返信

---

## 既存のコメントの編集

文字の誤植の修正や情報の追加を行なう場合など、コメントを追加したあとに既存のコメントの内容を変更できます。

---

手順



1. 編集するコメントをダブルクリックして「コメント (Comment)」ダイアログを開きます。楽譜領域とコメントパネルのどちらで行なっても構いません。
  2. ダイアログでテキストを変更します。
  3. 「OK」をクリックして変更内容を保存し、ダイアログを閉じます。
- 

## コメント情報の表示/非表示

どの情報をコメントに表示するかを個別に変更できます。たとえば、主に自分用のコメントを作成する場合、作成者名を表示する必要はないかもしれません。

---

手順

1. 記譜モードの記譜ツールボックスで、「パネル (Panels)」、「コメント (Comments)」の順にクリックして、コメントパネルを表示します。
  2. コメントパネルを右クリックして、「表示 (Show)」>[情報]を選択します。  
たとえば、作成者名を非表示にするには、「表示 (Show)」>「作成者 (Author)」を選択して、メニューのその項目の横のチェックマークを外します。
- 

結果

現在のプロジェクトおよびコンピューター上のそれ以降のすべてのプロジェクトのすべてのコメントでその情報の表示/非表示が切り替わります。

## コメントに使用する作成者名の変更

コメントに使用する作成者名を、ユーザーアカウント名またはカスタム名に変更できます。この操作は、今後プロジェクトに追加されるコメントに影響するもので、既存のコメントに使用されている作成者名は変更されません。

カスタム名については、コメントパネルに表示されるフルネームと楽譜領域に表示されるイニシャルの両方を指定できます。

---

### 手順



1. **[Ctrl]/[command]+[,]** を押して「**環境設定 (Preferences)**」を開きます。
  2. カテゴリリストの「**全般 (General)**」をクリックします。
  3. 「**コメント (Comments)**」サブセクションで、「**コメントの作成者名: (Author name for comments:)**」を以下のいずれかのオプションから選択します。
    - **ユーザー名 (User Name)**
    - **カスタム名 (Custom Name)**
  4. 「**カスタム名 (Custom Name)**」を選択した場合は、必要に応じて、使用するフルネームを「**フルネーム (Full name)**」フィールドに入力します。
  5. 「**カスタム名 (Custom Name)**」を選択した場合は、必要に応じて、使用するイニシャルを「**イニシャル (Initials)**」フィールドに入力します。
  6. 「**適用 (Apply)**」をクリックしてから「**閉じる (Close)**」をクリックします。
- 

## コメントの並べ替え

コメントパネルにレイアウトが表示される順番を変更できます。初期設定では、コメントはフロー番号と小節番号に従ってソートされます。

---

### 手順

1. 記譜モードの記譜ツールボックスで、「**パネル (Panels)**」、「**コメント (Comments)**」の順にクリックして、コメントパネルを表示します。
  2. コメントパネルを右クリックして、「**並べ替え条件 (Sort By)**」 > **[情報]** を選択します。  
たとえば、インストゥルメントに従ってコメントをソートするには、「**並べ替え条件 (Sort By)**」 > 「**インストゥルメント (Instrument)**」を選択します。
- 

### 結果



現在のプロジェクトおよびコンピューター上のそれ以降のすべてのプロジェクトですべてのコメントの順番が変更されます。

## コメントの書き出し

楽譜領域で現在開いているレイアウトのすべてのフローのすべてのコメントを HTML ファイルに書き出すことができます。これは、たとえばすべてのコメントをまとめて確認したい場合などに便利です。

---

### 手順

1. 記譜モードで、コメントを書き出すレイアウトを開きます。
2. 記譜ツールボックスで「**パネル (Panels)**」、「**コメント (Comments)**」の順にクリックして、コメントパネルを表示します。

### 3. 「コメント (Comments)」セクションのアクションバーで「コメントを書き出し (Export Comments)」をクリックします。

---

#### 結果

楽譜領域で現在開いているレイアウトのすべてのコメントが HTML ファイルとして保存され、デフォルトの Web ブラウザーで開かれます。コメントは表形式で表示され、各列はコメントパネルに現在表示されているコメント情報に対応します。

書き出された HTML ファイルはプロジェクトと同じ場所に自動的に保存されます。そのファイル名にはレイアウト名が含まれます。

#### 関連リンク

[コメント情報の表示/非表示 \(549 ページ\)](#)

[レイアウトの切り替え \(47 ページ\)](#)

[歌詞の書き出し \(1366 ページ\)](#)

[テキストの書き出し \(113 ページ\)](#)

## コメントの表示/非表示

たとえば、記譜中はコメントを非表示にして、浄書中は表示したい場合などに、楽譜内のコメントを表示/非表示にできます。

Dorico Pro では、コメントは注釈として扱われ、初期設定では印刷はされません。

---

#### 手順

- 「**ビュー (View)**」 > 「**コメント (Comments)**」を選択します。
- 

#### 結果

コメントの表示/非表示が切り替わります。表示した場合、コメントは楽譜内に吹き出しとして表示されます。

#### 関連リンク

[コメント情報の表示/非表示 \(549 ページ\)](#)

## フローの分割

特定の位置でフローを分割できます。たとえば、特定の小節以降の楽譜を前の楽譜とは別の新しいフローにしたい場合などに行ないます。

---

#### 手順

1. 記譜モードで、フローを分割する位置にある音符またはアイテムを選択します。
  2. 「**記譜 (Write)**」 > 「**フローを分割 (Split Flow)**」を選択します。
- 

#### 結果

フローが 2 つのフローに分割されます。1 つは既存のフロー、もう 1 つは選択したアイテムの位置から始まる新しいフローです。初期設定では、フルスコアレイアウトの新しいフローはページビューでは新しいページから始まり、ギャラリービューでは別の背景の上に表示されます。

#### 手順終了後の項目

「**記譜オプション (Notation Options)**」ダイアログで、オプションをフローごとに個別に設定できます。

関連リンク

- [フロー \(187 ページ\)](#)
- [フローの追加 \(188 ページ\)](#)
- [フローの複製 \(188 ページ\)](#)
- [フローの削除 \(190 ページ\)](#)
- [「記譜オプション \(Notation Options\)」 ダイアログ \(919 ページ\)](#)
- [フローの終了位置にある空白の小節/拍を削除する \(1075 ページ\)](#)
- [同じページに複数のフローを表示する/表示しない \(760 ページ\)](#)
- [レイアウトの切り替え \(47 ページ\)](#)
- [ギャラリービューまたはページビューへの切り替え \(54 ページ\)](#)



# 浄書モード

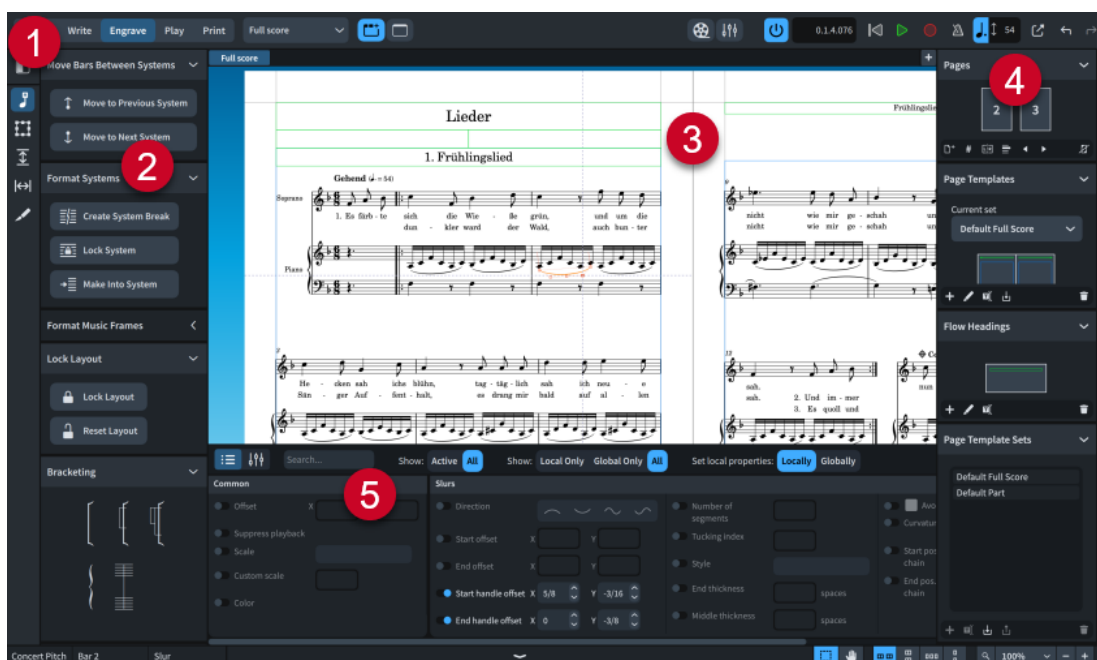
浄書モードでは、アイテムを削除したり、位置を動かしたり、音符のピッチを変更したりすることなく、プロジェクトで使用するすべてのアイテムの操作や変更を行なえます。また、印刷時や書き出し時に使用する、プロジェクトの各レイアウトのページの形式を指定することもできます。

## 浄書モードのプロジェクトウィンドウ

浄書モードのプロジェクトウィンドウには、スコアに含まれるページ、組段、および個別の記譜記号のプロパティの形式を設定するためのツールや機能をすべて使用できるツールボックスとパネルがあります。



浄書モードに切り替えるには、以下のいずれかの操作を行ないます。

- **[Ctrl]/[command]+[3]** を押します。
- ツールバーの「**浄書 (Engrave)**」をクリックします。
- 「**ウィンドウ (Window)**」 > 「**浄書 (Engrave)**」を選択します。





浄書モードのプロジェクトウィンドウには以下のコンテンツが含まれています。

### 1 浄書ツールボックス

左ゾーンにどのパネルを表示するかを設定するオプションと、「**音符のスペーシング (Note Spacing)**」 および「**譜表のスペーシング (Staff Spacing)**」 をオンにするオプションがあります。









### 2 左ゾーン

浄書ツールボックスの現在の選択に応じて、異なるパネルを表示できます。左ゾーンのパネルには、組段とフレームに楽譜をどのように配置するかを制御したり、フレームを挿入したり、フレーム制限を編集したりできる形式設定オプションがあります。

浄書ツールボックスで「音符のスペーシング (Note Spacing)」または「譜表のスペーシング (Staff Spacing)」を選択すると、左ゾーンが自動的に非表示になります。

### 3 楽譜領域

ページビューにレイアウトが表示されます。浄書ツールボックスの現在の選択に応じて、追加の浄書支援がページ上に表示されます。

- フレームの枠線は、「グラフィックスライス (Graphic Slices)」が選択されている場合を除いて常に表示されます。
- 組段密度表示とフレーム密度表示は、「グラフィックの編集 (Graphic Editing)」、「譜表のスペーシング (Staff Spacing)」、または「音符のスペーシング (Note Spacing)」が選択されている場合に表示されます。
- 「フレーム (Frames)」を選択すると、楽曲フレームセレクターを含むフレーム全体が表示されます。
- 「譜表のスペーシング (Staff Spacing)」を選択すると、譜表/組段のスペーシングのハンドル、間隔の寸法、楽曲フレームの余白のハイライトが表示されます。
- 「音符のスペーシング (Note Spacing)」を選択すると、音符のスペーシングのハンドル、組段ハンドル、スペーシングコラムを表わす破線が表示されます。
- 「グラフィックスライス (Graphic Slices)」を選択すると、グラフィックスライスが表示され、その他の浄書支援はすべて非表示になります。

### 4 ページパネル

ページテンプレートやフロー見出しを追加およびカスタマイズするなど、ページの書式設定を制御できます。

### 5 下ゾーン

下ゾーンのツールバーの現在の選択に応じて、プロパティパネルまたはミキサーパネルのいずれかが表示されます。

#### 関連リンク

- [ツールバー \(33 ページ\)](#)
- [プロジェクトウィンドウ \(32 ページ\)](#)
- [楽譜領域 \(38 ページ\)](#)
- [プロパティパネル \(826 ページ\)](#)
- [ミキサーパネル \(883 ページ\)](#)
- [フレーム \(601 ページ\)](#)
- [楽曲フレームセレクター \(612 ページ\)](#)
- [グラフィックスライス \(635 ページ\)](#)
- [組段密度表示 \(566 ページ\)](#)
- [フレーム密度表示 \(567 ページ\)](#)
- [個々の譜表/組段の垂直方向の移動 \(779 ページ\)](#)
- [個々の位置にある音符のスペーシングの調節 \(648 ページ\)](#)
- [十字線の表示/非表示 \(656 ページ\)](#)

## 浄書ツールボックス

浄書ツールボックスでは、左ゾーンに表示するパネルの変更や、音符や譜表のスペーシングの有効化を行なえます。浄書ツールボックスは、浄書モードのウィンドウの左側にあります。

#### 左ゾーンを表示 (Show Left Zone)



左ゾーンの表示/非表示を切り替えます。

## グラフィックの編集 (Graphic Editing)



楽譜領域またはページテンプレートエディターのアイテムの選択や編集を行なえます。組段、フレーム、大括弧、中括弧、小節線の結合などの形式を設定するためのオプションがある形式設定パネルを左ゾーンに表示します。

## フレーム (Frames)



楽譜領域またはページテンプレートエディターのフレームの選択や編集を行なえます。フレームの挿入やフレームの制限の編集を行なえるフレームパネルを左ゾーンに表示します。

## 譜表のスペーシング (Staff Spacing)



個々の譜表と組段を垂直方向に移動できます。

## 音符のスペーシング (Note Spacing)




個々の音符やその他のアイテム (音部記号や調号など) の水平方向の表示位置を編集できます。

## グラフィックスライス (Graphic Slices)



グラフィックスライスの表示、作成、書き出しを行ったり、グラフィックファイルの形式、カラーモード、解像度、書き出しパスを変更したりできるグラフィックスライスパネルを左ゾーンに表示します。

## ヒント

- 初期設定では、浄書モードに切り替えると、自動的に「**グラフィックの編集 (Graphic Editing)**」が選択されます。かわりに、「**環境設定 (Preferences)**」の「**全般 (General)**」ページで最後に選択していたツールを記憶させることもできます。
- 「**環境設定 (Preferences)**」の「**キーボードショートカット (Key Commands)**」ページで、浄書モードのツールにキーボードショートカットを割り当てることができます。


## 関連リンク

- [形式設定パネル \(556 ページ\)](#)
- [フレームパネル \(559 ページ\)](#)
- [グラフィックスライスパネル \(560 ページ\)](#)
- [フレーム \(601 ページ\)](#)
- [フレーム制限 \(633 ページ\)](#)
- [譜表のスペーシング \(776 ページ\)](#)
- [音符のスペーシング \(643 ページ\)](#)
- [グラフィックスライス \(635 ページ\)](#)
- [アイテムの表示位置の移動 \(652 ページ\)](#)
- [ゾーンの表示/非表示の切り替え \(48 ページ\)](#)
- [「環境設定 \(Preferences\)」ダイアログ \(63 ページ\)](#)

## 左ゾーン (浄書モード)

浄書モードの左ゾーンには、浄書ツールボックスの現在の選択に応じて、異なるパネルが表示されます。左ゾーンのパネルには、組段とフレームに楽譜をどのように配置するかを制御したり、フレームを挿入したり、フレーム制限を編集したりできる形式設定オプションがあります。

以下のいずれかの操作を行なって、左ゾーンの表示/非表示を切り替えます。

- **[Ctrl]/[command]+[7]** を押します。
- 左側のツールボックスで「**左ゾーンを表示 (Show Left Zone)**」 をクリックします。
- 「**ウィンドウ (Window)**」 > 「**左ゾーンを表示 (Show Left Zone)**」を選択します。

浄書モードの左ゾーンには、以下のパネルが表示されます。


### 形式設定 (Formatting)

浄書ツールボックスで「**グラフィックの編集 (Graphic Editing)**」 を選択すると表示されます。

### フレーム (Frames)

浄書ツールボックスで「**フレーム (Frames)**」 を選択すると表示されます。

### グラフィックスライス (Graphic Slices)

浄書ツールボックスで「**グラフィックスライス (Graphic Slices)**」 を選択すると表示されます。

### 関連リンク


[フレームパネル \(559 ページ\)](#)

[グラフィックスライスパネル \(560 ページ\)](#)

[ゾーンの表示/非表示の切り替え \(48 ページ\)](#)

## 形式設定パネル

形式設定パネルでは、組段/フレーム区切りを挿入したり大括弧と中括弧を手動で追加したりするなど、ページ上の組段とフレームの形式設定を変更できます。これは浄書モードの左ゾーンに配置されています。

- 形式設定パネルを表示するには、左ゾーンを表示してから、浄書ツールボックスの「**グラフィックの編集 (Graphic Editing)**」 をクリックします。

形式設定パネルには以下のセクションがあります。

### 小節を組段間で移動 (Move Bars Between Systems)

「**小節を組段間で移動 (Move Bars Between Systems)**」では、選択した小節を別の組段に移動できます。

#### 前の組段に移動 (Move to Previous System)



選択した小節を前の組段に移動します。小節を移動した先の組段の開始位置と終了位置には、組段区切りが挿入されます。



[,] を押すことでも、小節を前の組段に移動できます。

#### 次の組段に移動 (Move to Next System)



選択した小節を次の組段に移動します。小節を移動した先の組段の開始位置と終了位置には、組段区切りが挿入されます。

[.] を押すことでも、小節を次の組段に移動できます。

## 組段の形式設定 (Format Systems)

「組段の形式設定 (Format Systems)」セクションでは、楽譜領域で現在開いているレイアウト内の楽譜がどのように組段に配置されるかを変更できます。

### 組段区切りを挿入 (Insert System Break)



選択したアイテムから先の楽譜を強制的に次の組段に移動します。譜表サイズやその他の設定によっては、楽譜が次のページに移動することもあります。

[Shift]+[F] を押すと、組段区切りを挿入できます。

### 組段をロック (Lock System)



選択した組段の形式設定を固定します。ロックした組段は、周囲の音符や記譜記号、組段などの形式設定を変更しても影響を受けません。

### 組段に変換 (Make into System)



選択したアイテムの間のすべての楽譜を強制的に同じ組段に変換します。

## 楽曲フレームの形式設定 (Format Music Frames)

「楽曲フレームの形式設定 (Format Music Frames)」セクションでは、楽譜領域で現在開いているレイアウト内の楽譜がどのようにフレームに配置されるかを変更できます。

### フレーム区切りを挿入 (Insert Frame Break)



選択したアイテムから先の楽譜を強制的に次のフレーム (多くの場合、次のページ) に移動します。これにより、各ページにどの楽譜を表示するかを制御できます。

[Shift]+[F] を押すと、フレーム区切りを挿入できます。

### フレームをロック (Lock Frame)



選択したフレームの形式設定を固定します。ロックしたフレームは、周囲のフレームの形式設定を変更しても影響を受けません。

### フレームに変換 (Make into Frame)



選択したアイテムの間のすべての楽譜を強制的に同じフレームに変換します。このオプションを使うと、楽譜を 1 ページにまとめることができます。

## レイアウトをロック (Lock Layout)

「レイアウトをロック (Lock Layout)」セクションでは、現在のレイアウトのすべての組段とページの固定およびリセットを行なえます。

### レイアウトをロック (Lock Layout)



現在の配置設定を固定するために、現在のレイアウトのすべての組段に組段区切りおよびフレーム区切りを挿入します。

### レイアウトをリセット (Reset Layout)



現在のレイアウトのすべての組段区切りおよびフレーム区切りを解除します。

### 括弧 (Bracketing)

「括弧 (Bracketing)」セクションでは、楽譜領域で現在開いているレイアウト内の譜表を大括弧または中括弧でどのように括るかや、どの譜表を小節線で結合するかを変更できます。

#### 大括弧を挿入 (Insert bracket)



アイテムを選択している譜表を大括弧で結合します。また、初期設定では、大括弧で結合されるグループ全体に小節線が引かれます。

#### 副括弧を挿入 (Insert sub-bracket)



アイテムを選択している譜表を副括弧で結合します。

補足

選択する譜表は同じ大括弧内に含まれている必要があります。

---

#### 小副括弧を挿入 (Insert sub-sub-bracket)



アイテムを選択している譜表を小副括弧で結合します。

補足

選択する譜表は同じ大括弧および副括弧内に含まれている必要があります。

---

#### 中括弧を挿入 (Insert brace)



アイテムを選択している譜表を中括弧で結合します。

## 補足

中括弧と副括弧または中括弧と小副括弧で同時に譜表を結合することはできません。

### 小節線の結合を変更 (Change barline joins)




アイテムを選択している譜表全体の小節線を結合します。

#### 関連リンク

- [ゾーンの表示/非表示の切り替え \(48 ページ\)](#)
- [浄書モードのプロジェクトウィンドウ \(553 ページ\)](#)
- [大括弧と中括弧 \(1140 ページ\)](#)
- [カスタムの譜表のグループ化 \(1148 ページ\)](#)
- [カスタムの大括弧/中括弧のグループを入力する \(1150 ページ\)](#)
- [カスタムの小節線の結合を入力する \(1091 ページ\)](#)
- [フレーム区切り \(792 ページ\)](#)
- [組段区切り \(789 ページ\)](#)
- [ページテンプレート \(567 ページ\)](#)
- [ページ形式設定 \(742 ページ\)](#)
- [配置設定 \(784 ページ\)](#)

## フレームパネル

フレームパネルでは、さまざまな種類のフレームをページに挿入したり、制限を編集したりできます。これは浄書モードの左ゾーンに配置されています。

- フレームパネルを表示するには、左ゾーンを表示してから、浄書ツールボックスの「**フレーム (Frames)**」をクリックします。

フレームパネルには以下のセクションがあります。

### フレームを挿入 (Insert Frames)

「**フレームを挿入 (Insert Frames)**」セクションでは、レイアウト内のページやページテンプレートに新しいフレームを作成できます。

#### 楽曲フレームを挿入 (Insert Music Frame)



楽曲フレームを挿入できます。レイアウト内のページでは、レイアウトフレームチェーンに属する楽曲フレームが挿入されます。ページテンプレートエディターのページテンプレートでは、ページテンプレートフレームチェーンに属するフレームが挿入されます。

#### テキストフレームを挿入 (Insert Text Frame)



テキストやトークンを入力するフレームを挿入できます。

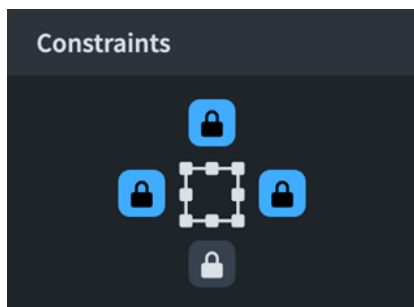
## グラフィックフレームを挿入 (Insert Graphics Frame)



イメージや図を表示するフレームを挿入できます。

## 制限 (Constraints)

「制限 (Constraints)」セクションでは、ページ余白に固定するフレームの辺を指定できます。フレーム制限をロックすると、ページのサイズ、向き、ページ余白が変更されても対応するページ余白に対するフレームの位置が維持されます。



ヘッダーフレームの制限が表示されたフレームパネルの「制限 (Constraints)」セクション

### 関連リンク

[ゾーンの表示/非表示の切り替え \(48 ページ\)](#)

[浄書ツールボックス \(554 ページ\)](#)

[フレーム \(601 ページ\)](#)

[フレーム制限 \(633 ページ\)](#)

[楽曲フレーム \(609 ページ\)](#)

[楽曲フレームチェーン \(610 ページ\)](#)

[テキストフレーム \(616 ページ\)](#)

[グラフィックフレーム \(632 ページ\)](#)

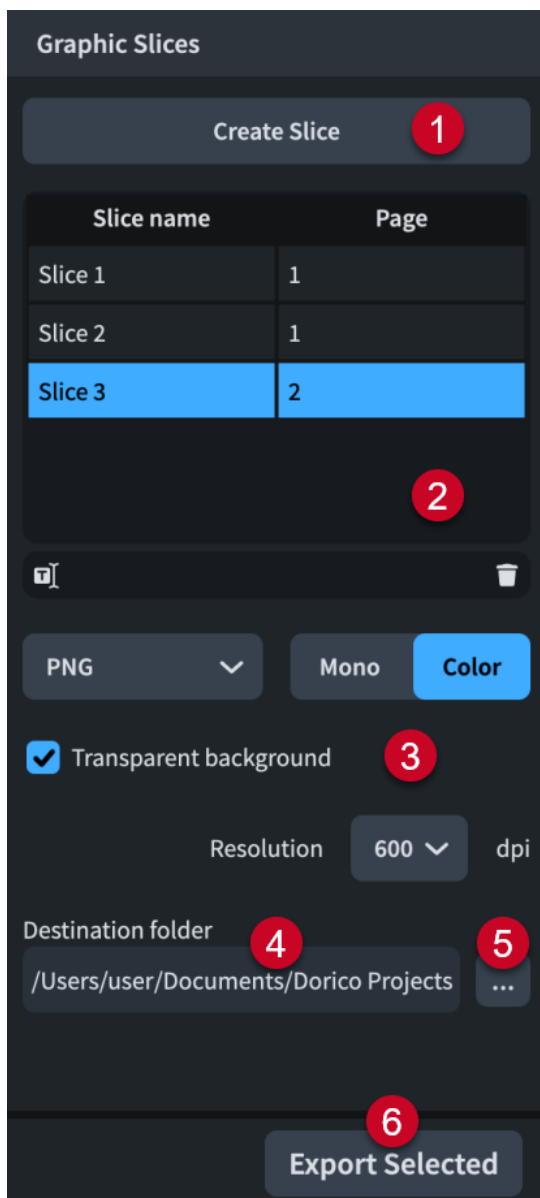
[ページテンプレート \(567 ページ\)](#)

## グラフィックスライスパネル

グラフィックスライスパネルでは、グラフィックスライスの作成や書き出しを行なったり、グラフィックファイルの形式、カラーモード、解像度、書き出しパスを変更したりできます。これは浄書モードの左ゾーンに配置されています。

- グラフィックスライスパネルを表示するには、左ゾーンを表示してから、浄書ツールボックスの「グラフィックスライス (Graphic Slices)」をクリックします。





グラフィックスライスパネルには以下のものがあります。

### 1 スライスを作成 (Create Slice)

グラフィックスライスを作成できます。

### 2 グラフィックスライスの表

現在のフロー内にあるすべてのグラフィックスライスが表示されます。この表には以下のコラムがあります。

- **スライス名 (Slice name):** 対応するグラフィックスライスの現在の名前が表示されます。書き出し時にはファイル名として使用されます。名前を新規に入力するか、既存の名前を編集できます。
- **ページ (Page):** 対応するグラフィックスライスがあるレイアウト内のページ番号が表示されます。

表の最下部のアクションバーには以下のオプションがあります。

- **グラフィックスライス名を変更 (Rename Graphic Slice) **: 選択したグラフィックスライスの名前を変更できます。

- **グラフィックスライスを削除 (Delete Graphic Slice)** : 選択したグラフィックスライスを削除します。

### 3 画像設定

選択したグラフィックスライスのグラフィックファイルの形式やカラーモードを変更できます。  
PNG ファイルおよび TIFF ファイルの場合は、画像解像度と透明度も変更できます。

### 4 「保存先のフォルダー (Destination folder)」 フィールド

書き出すグラフィックスライスの保存先が表示されます。初期設定では、これは Dorico プロジェクトと同じフォルダーです。書き出しパスを変更すると、それ以降に作成するグラフィックスライスには最後に指定した書き出しパスが使用されます。

### 5 フォルダーを選択 (Choose Folder)

エクスプローラー (Windows) または Finder (Mac) を開いて、保存先を変更できます。

### 6 すべて書き出し (Export All)/選択範囲を書き出し (Export Selected)

グラフィックスライスを選択していない場合はすべてのグラフィックスライスが、選択している場合は現在選択しているグラフィックスライスのみが、現在の書き出し設定を使用して書き出されます。

関連リンク

- [浄書ツールボックス \(554 ページ\)](#)
- [グラフィックスライス \(635 ページ\)](#)
- [グラフィックスライスの作成 \(636 ページ\)](#)
- [グラフィックスライスの名前の変更 \(639 ページ\)](#)
- [グラフィックスライスの画像設定の変更 \(639 ページ\)](#)
- [グラフィックスライスの書き出し \(641 ページ\)](#)
- [グラフィックスライスの削除 \(642 ページ\)](#)
- [グラフィックファイルの形式 \(738 ページ\)](#)
- [白黒とカラーのグラフィック処理 \(739 ページ\)](#)
- [画像解像度 \(739 ページ\)](#)
- [ファイルの読み込みと書き出し \(86 ページ\)](#)

## ページパネル

浄書モードのページパネルでは、ページテンプレートやフロー見出しを追加およびカスタマイズするなど、ページの書式設定を制御できます。これは浄書モードの右ゾーンに配置されています。

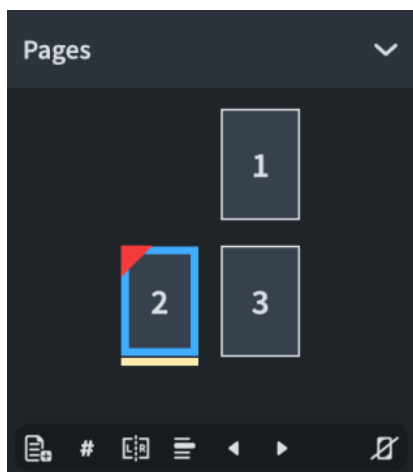
ページパネルの表示/非表示を切り替えるには、以下のいずれかの操作を行ないます。

- **[Ctrl]/[command]+[9]** を押します。
- メインウィンドウの右端にある展開矢印マークをクリックします。
- 「**ウィンドウ (Window)**」 > 「**右ゾーンを表示 (Show Right Zone)**」を選択します。













ページパネルには以下のセクションがあります。

### ページ (Pages)

楽譜で開いているレイアウト内のページが表示され、その中央にはページ番号が表示されます。選択中のページは枠線で強調表示されます。ページの角や端にあるマークは、ページの形式変更があることを示します。

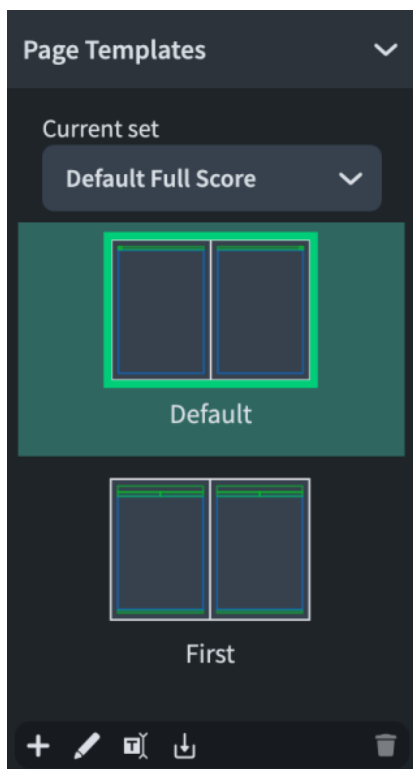


セクションの最下部のアクションバーには以下のオプションがあります。

- **ページを挿入 (Insert Pages)** : 指定したページの前後にページを挿入できます。挿入するページは空白にすることも、ページテンプレートを適用することもできます。
- **ページ番号の変更を挿入 (Insert Page Number Change)**  #: 選択したページ以降のページ番号を変更できます。
- **ページテンプレートの変更を挿入 (Insert Page Template Change)**  : 選択したページまたは選択したページ以降に異なるページテンプレートを割り当てることができます。
- **フロー見出しの変更を挿入 (Insert Flow Heading Change)**  : 選択したページまたは選択したページから先に異なるフロー見出しを割り当てることができます。
- **前ページと入れ替え (Swap with Previous Page)**  : 選択したページのすべてのページ形式変更を前ページと入れ替えます。
- **次ページと入れ替え (Swap with Next Page)**  : 選択したページのすべてのページ形式変更を次ページと入れ替えます。
- **上書きを解除 (Remove Overrides)**  : 選択したページからページテンプレートの上書きを解除します。

### ページテンプレート

楽譜領域で開いているレイアウトに適用中のページテンプレートのセットに含まれるページテンプレートが表示されます。選択中のページテンプレートは枠線で強調表示されます。「ページ (Pages)」セクションでページを選択すると、そのページで使用するページテンプレートが、「ページテンプレート (Page Templates)」セクション内で強調表示されます。「現在のセット (Current set)」メニューでは、楽譜領域で開いているレイアウトに適用されているページテンプレートのセットを表示および変更できます。

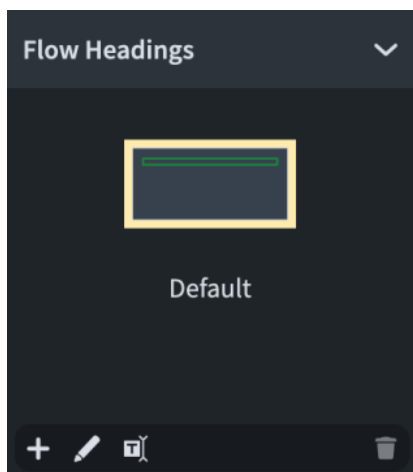


セクションの最下部のアクションバーには以下のオプションがあります。





- **新規ページテンプレート (New Page Template)** : 現在のページテンプレートのセットに新規ページテンプレートを追加できます。
- **ページテンプレートを編集 (Edit Page Template)** : 選択したページテンプレートの形式設定を変更するためのページテンプレートエディターを開きます。ページテンプレートエディターは、「ページテンプレート (Page Templates)」セクションでページテンプレートをダブルクリックして開くこともできます。
- **ページテンプレート名を変更 (Rename Page Template)** : 選択したページテンプレートの名前を変更できます。
- **ページテンプレートを読み込み (Import Page Template)** : プロジェクト内の他のページテンプレートのセットから個々のページテンプレートを読み込むことができます。
- **ページテンプレートを削除 (Delete Page Template)** : 選択したページテンプレートをページテンプレートのセットから削除します。

### フロー見出し (Flow Headings)

楽譜領域で開いているレイアウトに適用中のページテンプレートのセットで利用できるフロー見出しが表示されます。選択中のフロー見出しは枠線で強調表示されます。

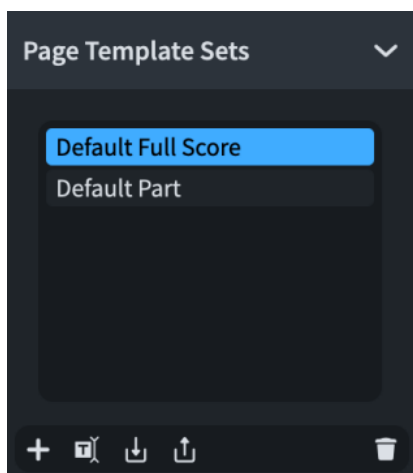


セクションの最下部のアクションバーには以下のオプションがあります。



- **新規フロー見出し (New Flow Heading)** : 現在のページテンプレートのセットに新規フロー見出しを追加できます。
- **フロー見出しを編集 (Edit Flow Heading)** : 選択したフロー見出しの形式設定を変更するためのフロー見出しエディターを開きます。フロー見出しエディターは、「**フロー見出し (Flow Headings)**」セクションでフロー見出しをダブルクリックして開くこともできます。
- **フロー見出しの名前を変更 (Rename Flow Heading)** : 選択したフロー見出しの名前を変更できます。
- **フロー見出しを削除 (Delete Flow Heading)** : 選択したフロー見出しをページテンプレートのセットから削除します。

#### ページテンプレートのセット

プロジェクトで利用可能なページテンプレートのセットのリストが表示されます。



セクションの最下部のアクションバーには以下のオプションがあります。

- **新規ページテンプレートのセット (New Page Template Set)** : リストで選択したページテンプレートのセットに基づき、ページテンプレートのセットを新規作成します。新規ページテンプレートのセットは、「**ページテンプレート (Page Templates)**」セクションの「**現在のセット (Current set)**」メニューにも自動的に追加されます。
- **ページテンプレートのセット名を変更 (Rename Page Template Set)** : 選択したページテンプレートのセットの名前を変更できます。

- **ページテンプレートのセットを読み込み (Import Page Template Set)** : エクスプローラー (Windows) または Finder (Mac) を開き、プロジェクトに読み込むページテンプレートのセットの .doricolib ファイルを選択できます。
- **ページテンプレートのセットを書き出し (Export Page Template Set)** : エクスプローラー (Windows) または Finder (Mac) を開き、選択したページテンプレートのセットを .doricolib ファイルとして書き出す場所を選択できます。そのあと、.doricolib ファイルを別のプロジェクトに読み込んで別のユーザーと共有できます。
- **ページテンプレートのセットを削除 (Delete Page Template Set)** : 選択したページテンプレートのセットをプロジェクトから削除します。

#### 関連リンク

[浄書モードのプロジェクトウィンドウ \(553 ページ\)](#)

[ページテンプレート \(567 ページ\)](#)

[ページテンプレートのセット \(569 ページ\)](#)

[ページテンプレートエディター \(581 ページ\)](#)




[フロー見出し \(595 ページ\)](#)

[フロー見出しエディター \(596 ページ\)](#)

[フレームのコピー \(607 ページ\)](#)

[ページの形式変更 \(584 ページ\)](#)

## 組段密度表示

組段密度表示は、浄書ツールボックスで「グラフィックの編集 (Graphic Editing)」、「譜表のスペーシング (Staff Spacing)」、または「音符のスペーシング (Note Spacing)」が選択されているときに、浄書モードの組段の右側に表示されるハイライトがかかった領域です。組段密度表示は、色とパーセンテージで各組段の水平方向の密度を示します。

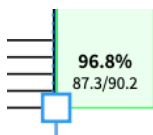
組段密度表示には、以下の色が使われます。

- 緑: 組段の密度が適切。音符には判読に十分な水平方向のスペースがあり、離れ過ぎていません。幅全体に占める割合が 60 ~ 100% の組段は密度が適切であると見なされます。
- 紫: 組段の密度が低い。音符の間隔が広くなりすぎている可能性があります。幅全体に占める割合が 60% 未満の組段は密度が低いと見なされます。
- 赤: 組段の密度が高い。音符の間に十分な水平方向のスペースがなく、音符が詰まり過ぎている可能性があります。幅全体に占める割合が 100% 超の組段は密度が高いと見なされます。

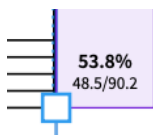
組段の密度はパーセンテージでも表示されます。表示されるパーセンテージは、組段内で使用されているスペースの数を、組段内で使用できるスペースの総数で割って計算されます。スペースの総数は、最初の音部記号/拍子記号/調号の右側のスペースの開始位置から組段の終止線までの間で測定されます。

組段密度表示の色とパーセンテージは、どちらも組段の音符のスペーシングを調節するとリアルタイムで更新されます。

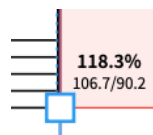
#### 組段の密度が適切



#### 組段の密度が低い



#### 組段の密度が高い






#### 関連リンク

[浄書ツールボックス \(554 ページ\)](#)

[音符のスペーシング \(643 ページ\)](#)

[個々の位置にある音符のスペーシングの調節 \(648 ページ\)](#)  
[歌詞の位置 \(1368 ページ\)](#)  
[浄書モードのプロジェクトウィンドウ \(553 ページ\)](#)  
[余白 \(768 ページ\)](#)

## フレーム密度表示

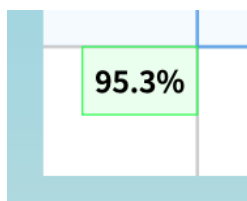
フレーム密度表示は、浄書ツールボックスで「グラフィックの編集 (Graphic Editing)」、「譜表のスペーシング (Staff Spacing)」、または「音符のスペーシング (Note Spacing)」が選択されているときに、浄書モードの楽曲フレームの左下隅の外側に表示されるハイライトがかかった領域です。色とパーセンテージで対応する楽曲フレームの垂直方向の密度を示します。ほとんどの場合、楽曲フレームはページ全体を表わします。

フレーム密度表示には、以下の色が使われます。

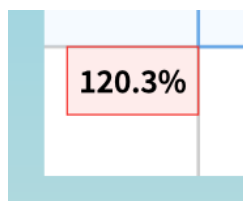
- 緑: フレームの密度が適切。譜表と組段には判読に十分な垂直方向のスペースがあり、離れ過ぎていません。高さ全体に占める割合が 60 ~ 100% のフレームは密度が適切であると見なされます。
- 赤: フレームの密度が高い。譜表と組段の間に十分な水平方向のスペースがなく、詰まり過ぎている可能性があります。高さ全体に占める割合が 100% 超のフレームは密度が高いと見なされます。

フレームの密度はパーセンテージでも表示されます。表示されるパーセンテージは、フレーム内で使用されているスペースの数を、フレーム内で使用できるスペースの総数で割って計算されます。スペースの総数は、楽曲フレームの上部と下部の余白の間の垂直距離を使用して測定されます。

フレームの密度が適切



フレームの密度が高い



### 関連リンク

[浄書ツールボックス \(554 ページ\)](#)  
[レイアウトごとの垂直方向のスペーシングオプション \(776 ページ\)](#)  
[デフォルトの譜表/組段のスペーシングを変更する \(748 ページ\)](#)  
[譜表/組段の両端揃え \(垂直方向\) を変更する \(749 ページ\)](#)  
[浄書モードのプロジェクトウィンドウ \(553 ページ\)](#)  
[組段密度表示 \(566 ページ\)](#)  
[余白 \(768 ページ\)](#)

## ページテンプレート

Dorico Pro のページテンプレートを使用すると、複数のページや異なるレイアウトに共通した配置のフレームを適用することで、一貫性のあるページ形式設定を実現できます。

### 補足

「レイアウトオプション (Layout Options)」では、各レイアウトのページサイズ、余白、ページの向き、および譜表サイズを設定できます。

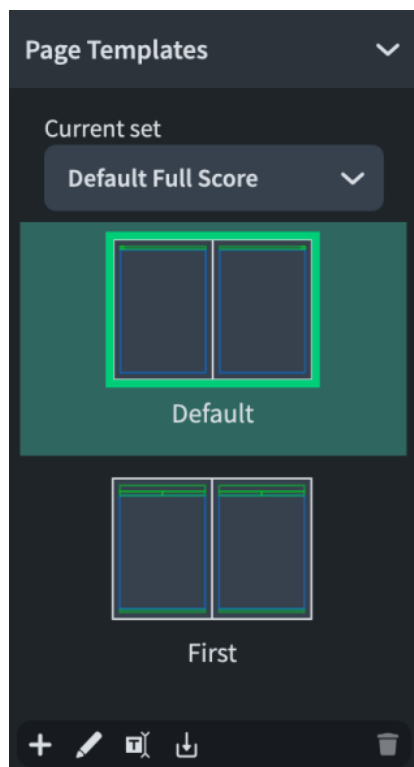
スコアとパートのすべてのページには、ページテンプレートのデフォルト形式設定が引き継がれます。新規フレームの挿入など、ページテンプレートに何らかの変更を加えた場合、ページテンプレート

の優先がページに適用されている場合を除き、このページテンプレートを使用するすべてのページに変更が自動的に反映されます。

Dorico Pro では、各ページテンプレートは左右 1 ページずつの見開きページになっています。通常は偶数ページになる左側のページには、ページテンプレートの左ページの形式設定が使用され、通常は奇数ページになる右側のページには、ページテンプレートの右ページの形式設定が使用されます。ページパネルの「**ページテンプレート (Page Templates)**」セクションとページテンプレートエディターは、どちらも見開きページが左右に並んで表示されます。

Dorico Pro には異なる種類のページテンプレートが用意されています。これは通常、最初のページにはタイトル、作曲者、著作権などの追加情報が含まれ、後続のページとは別に適切なページ形式設定を用意する必要があるためです。Dorico Pro はこの追加情報を表示するためにトークンを使用します。

ページテンプレートは、ページテンプレートのセットに収められています。初期設定では、Dorico Pro にはフルスコアとパートレイアウトに個別のページテンプレートのセットが用意されています。ページテンプレートのセットは、作成するすべてのレイアウトに自動的に適用されます。



浄書モードのページパネルの「**ページテンプレート (Page Templates)**」セクションで、「**デフォルトのフルスコア (Default Full Score)**」のページテンプレートのセットに「**最初 (First)**」と「**デフォルト (Default)**」のページテンプレートが表示されている図

現在のプロジェクトに合わせて、デフォルトのページテンプレートをページテンプレートエディターでカスタマイズできます。各ページテンプレートのセットには、新規にカスタムページテンプレートを作成することもできます。たとえば、タイトルページ用と演奏指示用に作成するなどです。

#### 補足

Dorico Pro では、レイアウト内の個々のページを変更すると、ページ形式変更の一種であるページテンプレートの優先が設定されます。これは、たとえばページテンプレートエディターでの編集ではなく、1つのページのタイトルや欄外見出しを編集した場合などです。ページテンプレートの優先が設定されたページは、ページテンプレートを変更しても更新されず、たとえばレイアウトの短縮により空の状態になったとしても、自動的に削除されません。



関連リンク

- [ページパネル \(562 ページ\)](#)
- [ページテンプレートの種類 \(573 ページ\)](#)
- [ページテンプレートエディター \(581 ページ\)](#)
- [ページの形式変更 \(584 ページ\)](#)
- [ページテンプレートの優先の解除 \(586 ページ\)](#)
- [「レイアウトオプション \(Layout Options\)」ダイアログ \(917 ページ\)](#)
- [フロー見出し \(595 ページ\)](#)
- [「プロジェクト情報 \(Project Info\)」ダイアログ \(81 ページ\)](#)
- [トークン \(617 ページ\)](#)
- [ページへのページテンプレートの割り当て \(590 ページ\)](#)
- [レイアウトへのページテンプレートのセットの適用 \(746 ページ\)](#)
- [ページテンプレートの作成 \(575 ページ\)](#)
- [ページテンプレートのカスタマイズ \(582 ページ\)](#)
- [ページテンプレートの読み込み \(578 ページ\)](#)
- [ページ形式設定 \(742 ページ\)](#)
- [プロジェクトテンプレート \(84 ページ\)](#)

## ページテンプレートのセット

Dorico Pro では、ページテンプレートはページテンプレートのセットの一部として提供されています。ページテンプレートのセットは、プロジェクトにおいて考え得るあらゆる状況で利用できる適切なページ形式設定が揃うように、ページテンプレートとフロー見出しをまとめてグループ化したものです。

初期設定では、新規プロジェクトには以下のページテンプレートのセットが含まれています。

- **デフォルトのフルスコア (Default Full Score):** 初期設定では、フルスコアレイアウトとカスタムスコアレイアウトに使用されます。
- **デフォルトのパート譜 (Default Part):** 初期設定では、パートレイアウトに使用されます。

デフォルトのページテンプレートのセットには、最初のページ用 (**「最初 (First)」**) とそれ以降のページ用 (**「デフォルト (Default)」**) のページテンプレートがあります。各ページテンプレートのセットに含まれるページテンプレートには **「最初 (First)」** を1つ、**「デフォルト (Default)」** を1つ、そして **「カスタム (Custom)」** を複数設定できます。ページテンプレートのセットには、少なくとも **「デフォルト (Default)」** のページテンプレートを含める必要があります。

ページテンプレートのセットには、各フローの開始位置の上にフローのタイトルを自動的に表示できるフロー見出しも含まれています。これは、フローのタイトルの開始位置が前のフローと同じページにある場合も含まれます。デフォルトのページテンプレートのセットには、それぞれ1つのフロー見出しが含まれています。デフォルトのフロー見出しをカスタマイズしたり、新しいフロー見出しを追加したりできます。各ページテンプレートのセットに含まれるフロー見出しには、**「デフォルト (Default)」** を1つと、**「カスタム (Custom)」** を複数設定できます。これには少なくとも **「デフォルト (Default)」** のフロー見出しを含める必要があります。

デフォルトのページテンプレートのセットは、各新規プロジェクトの適切なレイアウトに自動的に適用されます。各レイアウトに異なるページテンプレートのセットを個別に適用できます。また、ページテンプレートのセットを新規に作成してそのページテンプレートをカスタマイズしたり、現在のプロジェクトに合わせてデフォルトのページテンプレートのセットを編集したりすることもできます。

### ヒント

ページテンプレートを読み込むことで、ページテンプレートのセット間でページテンプレートを共有できます。たとえば、**「デフォルトのフルスコア (Default Full Score)」** のページテンプレートのセットでタイトルページ用テンプレートを新たに作成した場合、それを **「デフォルトのパート譜 (Default Part)」** のページテンプレートのセットに読み込めば、そのページテンプレートをパートレイアウトでも使用できます。

また、ページテンプレートのセットを書き出したり読み込んだりして、異なるプロジェクト間でそれらを共有することもできます。

---

#### 関連リンク

- [ページテンプレートの種類 \(573 ページ\)](#)
- [フロー見出し \(595 ページ\)](#)
- [ページテンプレートのセットの読み込み \(570 ページ\)](#)
- [ページテンプレートのセットの書き出し \(571 ページ\)](#)
- [ページテンプレートの読み込み \(578 ページ\)](#)
- [レイアウトへのページテンプレートのセットの適用 \(746 ページ\)](#)

## ページテンプレートのセットの作成


プロジェクト内の既存のページテンプレートのセットを複製して、ページテンプレートのセットを新規に作成できます。

#### 前提条件

右ゾーンを表示しておきます。

---

#### 手順

1. ページパネルの「**ページテンプレートのセット (Page Template Sets)**」セクションで、複製するページテンプレートのセットをクリックします。
  2. アクションバーで「**新規ページテンプレートのセット (New Page Template Set)**」をクリックします。
- 

#### 結果

選択したページテンプレートのセットの複製である新しいページテンプレートのセットが作成されます。作成されたセットは、ページテンプレートのセットのリストにすぐに表示されます。

#### 手順終了後の項目

- ページテンプレートのセットは、名前を変更したり新しいページテンプレートを追加したりできます。
- ページテンプレートのセットをレイアウトに適用できます。
- 他のプロジェクトで使用するために、ページテンプレートのセットを書き出すことができます。

#### 関連リンク

- [ページパネル \(562 ページ\)](#)
- [ゾーンの表示/非表示の切り替え \(48 ページ\)](#)
- [ページテンプレートの作成 \(575 ページ\)](#)
- [レイアウトへのページテンプレートのセットの適用 \(746 ページ\)](#)
- [ページテンプレートのセットの書き出し \(571 ページ\)](#)

## ページテンプレートのセットの読み込み


たとえば作成したページテンプレートのセットを別のコンピューターで使用したい場合や、そのページテンプレートのセットに使用したいページテンプレートが含まれている場合などに、ページテンプレートのセットをプロジェクトに読み込むことができます。ページテンプレートのセットは .doricolib ファイルとして保存されます。

#### 前提条件

右ゾーンを表示しておきます。

---

#### 手順

1. ページパネルの「**ページテンプレートのセット (Page Template Sets)**」のアクションバーで、「**ページテンプレートのセットを読み込み (Import Page Template Set)**」  をクリックしてエクスプローラー (Windows) または Finder (Mac) を開きます。
  2. 読み込むページテンプレートのセットのファイルを探して選択します。
  3. 「**開く (Open)**」をクリックします。
- 

#### 結果

選択したページテンプレートのセットが、その中のすべてのページテンプレートとフロー見出しとともに読み込まれます。これは現在のプロジェクトでのみ利用できるようになります。

#### 手順終了後の項目

- ページテンプレートのセット内の個々のページテンプレートは、プロジェクト内の別のページテンプレートのセットに読み込むことができます。
- ページテンプレートのセットをレイアウトに適用できます。

#### 関連リンク

[ページパネル \(562 ページ\)](#)

[ゾーンの表示/非表示の切り替え \(48 ページ\)](#)

[レイアウトへのページテンプレートのセットの適用 \(746 ページ\)](#)

[ページテンプレートの読み込み \(578 ページ\)](#)

[ページへのページテンプレートの割り当て \(590 ページ\)](#)

[ページテンプレートの種類 \(573 ページ\)](#)

[フロー見出し \(595 ページ\)](#)

## ページテンプレートのセットの書き出し


ページテンプレートのセットを書き出して、他のユーザーに送信したり他のプロジェクトで使用したりできます。初期設定では、作成または編集したページテンプレートのセットは現在のプロジェクトでのみ使用できます。

#### 前提条件

右ゾーンを表示しておきます。

---

#### 手順

1. ページパネルの「**ページテンプレートのセット (Page Template Sets)**」セクションで、書き出すページテンプレートのセットを選択します。
  2. 「**ページテンプレートのセットを書き出し (Export Page Template Set)**」  をクリックしてエクスプローラー (Windows) または Finder (Mac) を開きます。
  3. ページテンプレートのセットのファイルの名前と場所を指定します。
  4. 「**保存 (Save)**」をクリックします。
- 

#### 結果

選択したページテンプレートのセットが書き出され、選択した場所に `.doricolib` ファイルとして書き出されます。これにはページテンプレートのセットのすべてのフロー見出しが含まれています。

#### 補足

グラフィックフレームに読み込まれたグラフィックファイルは、ページテンプレートの書き出しには含まれません。

---

関連リンク

- [ページパネル \(562 ページ\)](#)
- [ゾーンの表示/非表示の切り替え \(48 ページ\)](#)
- [ページテンプレートの読み込み \(578 ページ\)](#)
- [グラフィックフレーム \(632 ページ\)](#)
- [グラフィックフレームへのイメージの読み込み \(633 ページ\)](#)
- [プロジェクトテンプレート \(84 ページ\)](#)

## ページテンプレートのセット名の変更


作成したページテンプレートのセットの名前を変更できます。デフォルトのページテンプレートのセットの名前は変更できません。

前提条件

右ゾーンを表示しておきます。

---

手順

1. ページパネルの「**ページテンプレートのセット (Page Template Sets)**」セクションで、名前を変更するページテンプレートのセットをダブルクリックします。  
または、ページテンプレートのセットを選択し、アクションバーで「**ページテンプレートのセット名を変更 (Rename Page Template Set)**」をクリックしてもかまいません。
  2. 新しい名前を入力します。
  3. **[Return]** を押します。
- 

## ページテンプレートのセットの削除


デフォルトのページテンプレートのセットを含め、不要になったページテンプレートのセットを削除できます。

前提条件

右ゾーンを表示しておきます。

---

手順

1. ページパネルの「**ページテンプレートのセット (Page Template Sets)**」セクションで、削除するページテンプレートのセットをクリックします。
  2. アクションバーで「**ページテンプレートのセットを削除 (Delete Page Template Set)**」をクリックします。
- 

関連リンク

- [ページパネル \(562 ページ\)](#)
- [ゾーンの表示/非表示の切り替え \(48 ページ\)](#)

## ページテンプレートの種類

ページテンプレートのセットにはさまざまな種類のページテンプレートが含まれており、状況に応じて使い分けられます。たとえば、「最初 (First)」のページテンプレートは通常はレイアウト内の楽譜の最初のページに使用されます。

### ヒント

ページパネルの「ページ (Pages)」セクションでページを選択すると、そのページで使用するページテンプレートが、「ページテンプレート (Page Templates)」セクション内で強調表示されます。

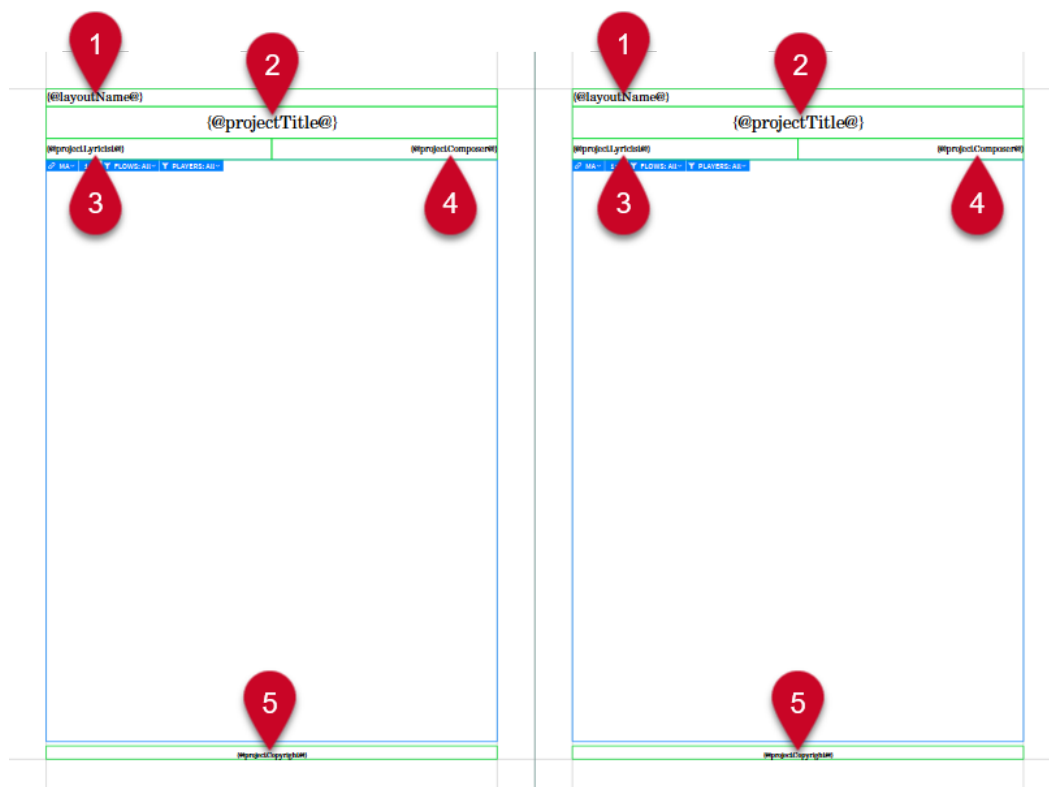
Dorico Pro には、以下のタイプのページテンプレートがあります。

### 最初 (First)

通常、レイアウト内の楽譜の最初のページに使用されるページテンプレートです。これには大きな楽曲フレームが1つと、プロジェクトのタイトルや作曲者などの情報を表示する複数のテキストフレームが含まれています。

### 補足

各ページテンプレートのセットに含めることができる「最初 (First)」のページテンプレートは1つのみです。



ページテンプレートエディターで「最初 (First)」のページテンプレートを開いた例

「最初 (First)」のページテンプレートのテキストフレームには、以下のトークンが含まれます。

- 1 レイアウト名 (「デフォルトのパート譜 (Default Part)」のページテンプレートのセットのみ)
- 2 プロジェクトのタイトル
- 3 プロジェクトの作詞者

#### 4 プロジェクトの作曲者

#### 5 プロジェクトの著作権

##### ヒント

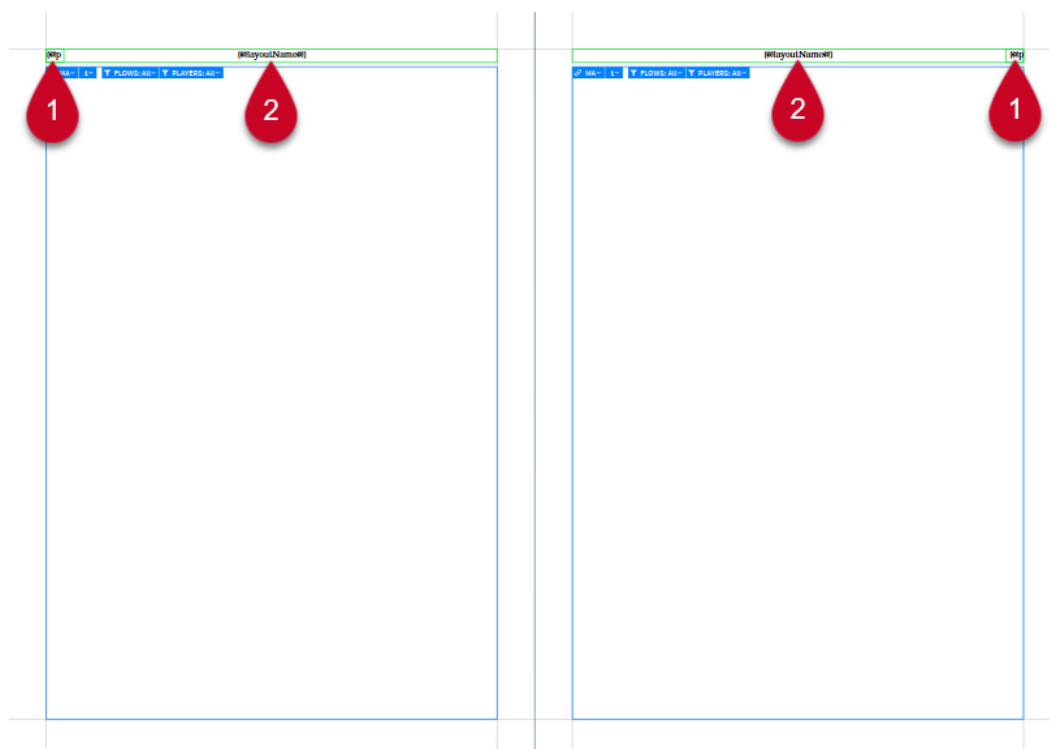
ページテンプレートのトークンに使用されているパラグラフスタイルの形式設定は「**パラグラフスタイル (Paragraph Styles)**」ダイアログで編集できます。たとえば、初期設定では、「**最初 (First)**」のページテンプレートのレイアウト名には「**レイアウト名 (Layout name)**」のパラグラフスタイルが使用されます。

### デフォルト (Default)

通常、楽譜の2ページめ以降に使用されるページテンプレートです。これには大きな楽曲フレームが1つと、欄外見出しおよびページ番号を表示するためのテキストフレームが含まれています。

##### 補足

- 各ページテンプレートのセットに含めることができる「**デフォルト (Default)**」のページテンプレートは1つのみです。
- 以下の状況では、すべてのページに「**デフォルト (Default)**」のページテンプレートが使われます。
  - レイアウトに適用されたページテンプレートのセットに「**最初 (First)**」のページテンプレートが含まれていない。
  - 「**最初 (First)**」のページテンプレートに、「**デフォルト (Default)**」のページテンプレートと同じフレームチェーンに割り当てられた楽曲フレームが含まれていない。



ページテンプレートエディターで「**デフォルト (Default)**」のページテンプレートを開いた例

「**デフォルト (Default)**」のページテンプレートのテキストフレームには、以下のトークンが含まれます。

#### 1 ページ番号

- 2 「**デフォルトのフルスコア (Default Full Score)**」ページテンプレートセット: **フロータイトル (「プロジェクトに複数のフローを使用 (Project will use multiple flows)**」をオフにして Hub から作成したプロジェクトの場合は**プロジェクトのタイトル**)

「**デフォルトのパート譜 (Default Part)**」ページテンプレートセット: **レイアウト名**

#### ヒント

ページテンプレートのトークンに使用されているパラグラフスタイルの形式設定は「**パラグラフスタイル (Paragraph Styles)**」ダイアログで編集できます。たとえば、初期設定では、「**デフォルト (Default)**」のページテンプレートのフロータイトルとレイアウト名には「**ヘッダー (Header)**」のパラグラフスタイルが使用されます。

---

## カスタム (Custom)

あらゆる形式設定を含めることができるページテンプレートです。カスタムページテンプレートを使用すると、すべてのパートレイアウトに同じタイトルページを使用する場合や、各レイアウトの最後のページのみ同じ位置に画像を表示させる場合など、複数のページ (ただしすべてのページではない) に適用するページ形式を作成できます。

#### 関連リンク

- [ページテンプレートエディター \(581 ページ\)](#)
- [ページテンプレートのカスタマイズ \(582 ページ\)](#)
- [「プロジェクト情報 \(Project Info\)」ダイアログ \(81 ページ\)](#)
- [トークン \(617 ページ\)](#)
- [ページパネル \(562 ページ\)](#)
- [ページテンプレートのセット \(569 ページ\)](#)
- [「最初 \(First\)」のページテンプレートをいつ使用するかの変更 \(761 ページ\)](#)
- [「パラグラフスタイル \(Paragraph Styles\)」ダイアログ \(932 ページ\)](#)
- [レイアウト名の枠線の表示/非表示 \(1325 ページ\)](#)
- [フロータイトルの変更 \(211 ページ\)](#)
- [ページの挿入 \(757 ページ\)](#)
- [楽曲フレームセクター \(612 ページ\)](#)
- [ページの形式変更 \(584 ページ\)](#)
- [フロー見出し \(595 ページ\)](#)
- [Hub \(75 ページ\)](#)

## ページテンプレートの作成

ページテンプレートのセット内に新しいページテンプレートを作成できます。たとえば、「**デフォルトのパート譜 (Default Part)**」のページテンプレートのセットでタイトルページ用テンプレートを作成し、それを各パートレイアウトの最初のページに割り当てるなどできます。各ページテンプレートのセットに含まれるページテンプレートには「**最初 (First)**」を1つ、「**デフォルト (Default)**」を1つ、そして「**カスタム (Custom)**」を複数設定できます。

#### ヒント

ページテンプレートを読み込むことで、ページテンプレートのセット間でページテンプレートを共有できます。たとえば、「**デフォルトのフルスコア (Default Full Score)**」のページテンプレートのセットでタイトルページ用テンプレートを新たに作成した場合、それを「**デフォルトのパート譜 (Default Part)**」のページテンプレートのセットに読み込めば、そのページテンプレートをパートレイアウトでも使用できます。

---

#### 前提条件

- 右ゾーンを表示しておきます。

- 新しいページテンプレートを追加するページテンプレートのセットを作成するか読み込んでおきます。

---

#### 手順

1. 浄書モードで、ページテンプレートの追加先となるページテンプレートのセットを使用しているレイアウトを開きます。

#### 補足

楽譜領域にいずれかのレイアウトが開いているときに、ページパネルの「**ページテンプレート (Page Templates)**」セクションの「**現在のセット (Current set)**」メニューでページテンプレートのセットを選択することもできますが、その場合、そのレイアウトに適用されるページテンプレートのセットが変更されます。

2. ページパネルの「**ページテンプレート (Page Templates)**」のアクションバーで、「**新規ページテンプレート (New Page Template)**」**+**をクリックして「**新規ページテンプレート (New Page Template)**」ダイアログを開きます。
3. 「**名前 (Name)**」フィールドに新しいページテンプレートの名前を入力します。
4. 「**もとにするページ (Based on)**」メニューから、新しいページテンプレートのもとにする既存のページテンプレートを選択します。

#### 補足

- 既存のページテンプレートをもとに作成したページテンプレートは、「**もとにするページ (Based on)**」で選択したページテンプレートにリンクされます。たとえば、既存のテキストフレーム内のテキストを変更するなど、ページテンプレート間で共有されているフレームへの変更は、両方のページテンプレートに反映されます。フレームを削除したり新しいフレームを入力したりすると、このリンクが解除されます。
- 「**(なし (None))**」を選択すると、形式設定がされていないページテンプレートが作成されます。

5. 新しいページテンプレートに対し、以下のいずれかのページテンプレートタイプを選択します。
  - **最初 (First)**
  - **デフォルト (Default)**
  - **カスタム (Custom)**

#### 補足

「**最初 (First)**」または「**デフォルト (Default)**」を選択した場合、各ページテンプレートのセットには「**最初 (First)**」と「**デフォルト (Default)**」のページテンプレートをそれぞれ1つしか登録できないため、既存のページテンプレートは新しいページテンプレートによって置き換えられます。

既存のページテンプレートを置き換えずに新しいページテンプレートを作成するには、「**カスタム (Custom)**」を選択します。

6. 「**OK**」をクリックして変更内容を保存し、ダイアログを閉じます。

---

#### 結果

楽譜領域で開いているレイアウトに適用されているページテンプレートのセットに、選択したタイプの新しいページテンプレートが追加されます。

#### 手順終了後の項目

- 新規ページテンプレートはカスタマイズできます。



- 個々のページにページテンプレートを割り当てることができます。
- 新規ページテンプレートは、現在のプロジェクトの他のページテンプレートのセットに読み込むことができます。

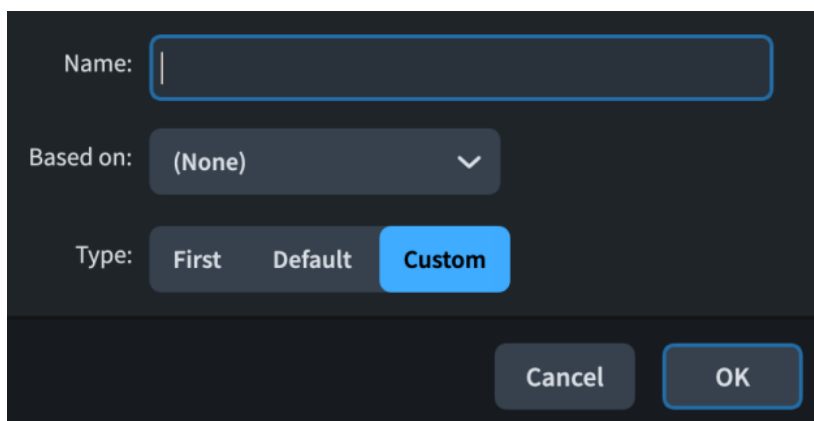
#### 関連リンク

- [ページパネル \(562 ページ\)](#)
- [ゾーンの表示/非表示の切り替え \(48 ページ\)](#)
- [レイアウトの切り替え \(47 ページ\)](#)
- [ページテンプレートのセット \(569 ページ\)](#)
- [ページテンプレートのセットの作成 \(570 ページ\)](#)
- [ページテンプレートのセットの読み込み \(570 ページ\)](#)
- [ページテンプレートのカスタマイズ \(582 ページ\)](#)
- [レイアウトへのページテンプレートのセットの適用 \(746 ページ\)](#)
- [ページへのページテンプレートの割り当て \(590 ページ\)](#)

## 「新規ページテンプレート (New Page Template)」ダイアログ

「新規ページテンプレート (New Page Template)」ダイアログでは、新規ページテンプレートをページテンプレートのセットに追加できます。

- 浄書モードで「新規ページテンプレート (New Page Template)」ダイアログを開くには、ページパネルの「ページテンプレート (Page Template)」セクションにある「新規ページテンプレート (New Page Template)」**+**をクリックします。



「新規ページテンプレート (New Page Template)」ダイアログには以下のオプションがあります。

### 名前 (Name)

新規ページテンプレートの名前を入力できます (「タイトルページ」など)。

### もとにするページ (Based on)

新しいページテンプレートのもとにする既存のページテンプレートを選択できます。「もとにするページ (Based on)」で選択したページテンプレートと同じフレームと形式設定を持つ新しいページテンプレートが作成されます。

#### 補足

既存のページテンプレートをもとに作成したページテンプレートは、「もとにするページ (Based on)」で選択したページテンプレートにリンクされます。たとえば、既存のテキストフレーム内のテキストを変更するなど、ページテンプレート間で共有されているフレームへの変更は、両方のページテンプレートに反映されます。フレームを削除したり新しいフレームを入力したりすると、このリンクが解除されます。

## タイプ (Type)

新しいページテンプレートのタイプを選択できます。

### 補足

「最初 (First)」または「デフォルト (Default)」を選択した場合、各ページテンプレートのセットには「最初 (First)」と「デフォルト (Default)」のページテンプレートをそれぞれ1つしか登録できないため、既存のページテンプレートは新しいページテンプレートによって置き換えられます。

---

### 関連リンク

[ページテンプレートの種類 \(573 ページ\)](#)

[ページパネル \(562 ページ\)](#)

## ページテンプレートの読み込み

たとえば、フルスコア用にカスタムのタイトルページ用テンプレートを作成し、それをパートレイアウトでも使用したい場合などに、プロジェクト内の他のページテンプレートのセットから現在のページテンプレートのセットに個々のページテンプレートを読み込むことができます。

### 前提条件

- 右ゾーンを表示しておきます。
- 現在のプロジェクトにないページテンプレートのセットからページテンプレートを読み込む場合、またはそこにページテンプレートを読み込ませる場合は、そのページテンプレートのセットを読み込んでおきます。


### 手順

1. 浄書モードで、ページテンプレートの読み込み先となるページテンプレートのセットを使用しているレイアウトを開きます。

### 補足

楽譜領域にいずれかのレイアウトが開いているときに、ページパネルの「**ページテンプレート (Page Templates)**」セクションの「**現在のセット (Current set)**」メニューでページテンプレートのセットを選択することもできますが、その場合、そのレイアウトに適用されるページテンプレートのセットが変更されます。

---

2. ページパネルの「**ページテンプレート (Page Templates)**」のアクションバーで、「**ページテンプレートを読み込み (Import Page Template)**」をクリックして「**ページテンプレートを読み込み (Import Page Template)**」ダイアログを開きます。
3. 「**ページテンプレートのセット (Page template set)**」メニューから、読み込むページテンプレートを含むページテンプレートのセットを選択します。
4. 「**読み込むページテンプレート (Page template to import)**」リストで、読み込むページテンプレートを選択します。

### 補足

選択して読み込むことのできるページテンプレートは一度に1つのみです。

---

5. 「**OK**」をクリックすると選択したページテンプレートが読み込まれ、ダイアログが閉じます。
-

#### 結果

楽譜領域で開いているレイアウトに適用中のページテンプレートのセットに、選択したページテンプレートが読み込まれます。これは、そのページテンプレートのセットを使用するすべてのレイアウトで使用できるようになります。

「最初 (First)」または「デフォルト (Default)」のページテンプレートを読み込んだ場合、各ページテンプレートのセットには「最初 (First)」と「デフォルト (Default)」のページテンプレートをそれぞれ1つしか登録できないため、読み込み先のページテンプレートのセット内にある対応するページテンプレートは読み込まれたページテンプレートによって置き換えられます。

読み込み元のページテンプレートのセットで元々割り当てられていたフレームチェーンに関係なく、読み込まれたページテンプレートの楽曲フレームが独自のフレームチェーンに自動的に割り当てられます。

#### 補足

ページテンプレートに対して行なわれるそれ以降の変更は、そのページテンプレートを読み込んだ他のページテンプレートのセットには自動的に反映されません。1つのページテンプレートのセットで行なった変更をそのページテンプレートを含むすべてのページテンプレートのセットに反映させたい場合は、ページテンプレートを再度読み込みます。

#### 手順終了後の項目

- 読み込んだページテンプレートで楽曲フレームが割り当てられているフレームチェーンを変更できます。
- そのページテンプレートのセットを使用しているレイアウト内の個々のページにページテンプレートを割り当てることができます。

#### 関連リンク

[ページパネル \(562 ページ\)](#)

[ゾーンの表示/非表示の切り替え \(48 ページ\)](#)

[レイアウトの切り替え \(47 ページ\)](#)

[ページテンプレート \(567 ページ\)](#)

[ページテンプレートの種類 \(573 ページ\)](#)

[ページへのページテンプレートの割り当て \(590 ページ\)](#)

[ページテンプレートのセット \(569 ページ\)](#)

[ページテンプレートのセットの読み込み \(570 ページ\)](#)

[レイアウトへのページテンプレートのセットの適用 \(746 ページ\)](#)

[楽曲フレームチェーン \(610 ページ\)](#)

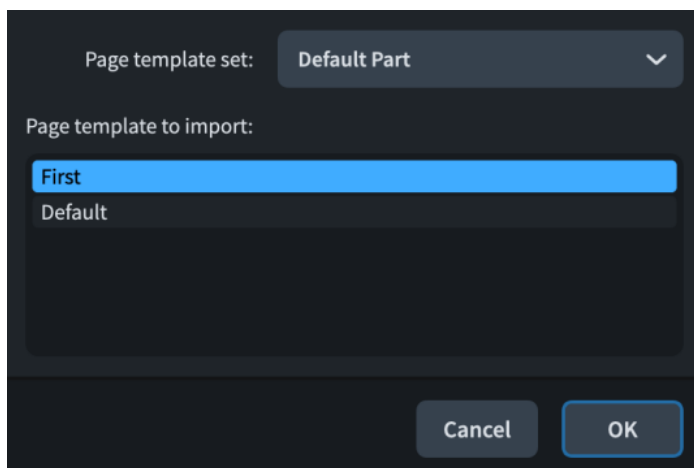
[フレームチェーンへの楽曲フレームの割り当て \(613 ページ\)](#)

[ページテンプレートのカスタマイズ \(582 ページ\)](#)

## 「ページテンプレートを読み込み (Import Page Template)」ダイアログ

「ページテンプレートを読み込み (Import Page Template)」ダイアログを使用すると、プロジェクト内の他のページテンプレートのセットから現在のページテンプレートのセットに個々のページテンプレートを読み込みます。

- 「ページテンプレートを読み込み (Import Page Template)」ダイアログを開くには、浄書モードでページパネルの「ページテンプレート (Page Template)」セクションにある「ページテンプレートを読み込み (Import Page Template)」をクリックします。



「ページテンプレートを読み込み (Import Page Template)」ダイアログは以下で構成されます。

#### 「ページテンプレートのセット (Page template set)」メニュー

ページテンプレートの読み込み元となるページテンプレートのセットを選択できます。選択できるのは、すでに現在のプロジェクトにあるページテンプレートのセットのみです。

#### 読み込むページテンプレート (Page template to import)

選択したページテンプレートのセット内のページテンプレートがリスト表示されます。選択して読み込むことのできるページテンプレートは一度に1つのみです。

#### 関連リンク

[ページパネル \(562 ページ\)](#)

[ページテンプレート \(567 ページ\)](#)

[ページテンプレートの種類 \(573 ページ\)](#)

[ページテンプレートのセット \(569 ページ\)](#)

[ページテンプレートのセットの読み込み \(570 ページ\)](#)

## ページテンプレート名を変更

デフォルトのページテンプレートや独自のカスタムページテンプレートなど、ページテンプレートの名前を変更できます。

#### 前提条件

右ゾーンを表示しておきます。

#### 手順

1. 浄書モードで、名前を変更するページレイアウトを含むページレイアウトセットを使用しているレイアウトを開きます。

#### 補足

楽譜領域にいずれかのレイアウトが開いているときに、ページパネルの「**ページテンプレート (Page Templates)**」セクションの「**現在のセット (Current set)**」メニューでページテンプレートのセットを選択することもできますが、その場合、そのレイアウトに適用されるページテンプレートのセットが変更されます。

2. ページパネルの「**ページテンプレート (Page Templates)**」セクションで、名前を変更するページテンプレートをクリックします。
3. アクションバーで、「**ページテンプレート名を変更 (Rename Page Template)**」をクリックして「**ページテンプレート名を変更 (Rename Page Template)**」ダイアログを開きます。

4. 「名前 (Name)」フィールドに新しい名前を入力します。
  5. 「OK」をクリックして変更内容を保存し、ダイアログを閉じます。
- 

関連リンク

[ページパネル \(562 ページ\)](#)

[ゾーンの表示/非表示の切り替え \(48 ページ\)](#)

[レイアウトの切り替え \(47 ページ\)](#)

## ページテンプレートの削除

ページテンプレートのセットからページテンプレートを削除できます。

### 補足

「**デフォルト (Default)**」のページテンプレートは削除できません。各ページテンプレートのセットには、少なくとも「**デフォルト (Default)**」のページテンプレートを含める必要があります。ページテンプレートを追加して、タイプを「**デフォルト (Default)**」に設定することで、「**デフォルト (Default)**」のページテンプレートを置き換えることができます。

---

前提条件

右ゾーンを表示しておきます。

---

手順

1. 浄書モードで、削除するページレイアウトを含むページレイアウトセットを使用しているレイアウトを開きます。

### 補足

楽譜領域にいずれかのレイアウトが開いているときに、ページパネルの「**ページテンプレート (Page Templates)**」セクションの「**現在のセット (Current set)**」メニューでページテンプレートのセットを選択することもできますが、その場合、そのレイアウトに適用されるページテンプレートのセットが変更されます。

---

2. ページパネルの「**ページテンプレート (Page Templates)**」セクションで、削除するページテンプレートをクリックします。
  3. アクションバーで「**ページテンプレートを削除 (Delete Page Template)**」をクリックします。
- 

結果

選択したページテンプレートが削除されます。

## ページテンプレートエディター

ページテンプレートエディターを使用すると、ページテンプレートの表示や、フレームの入力、削除、内容の変更といった形式変更を行なえます。

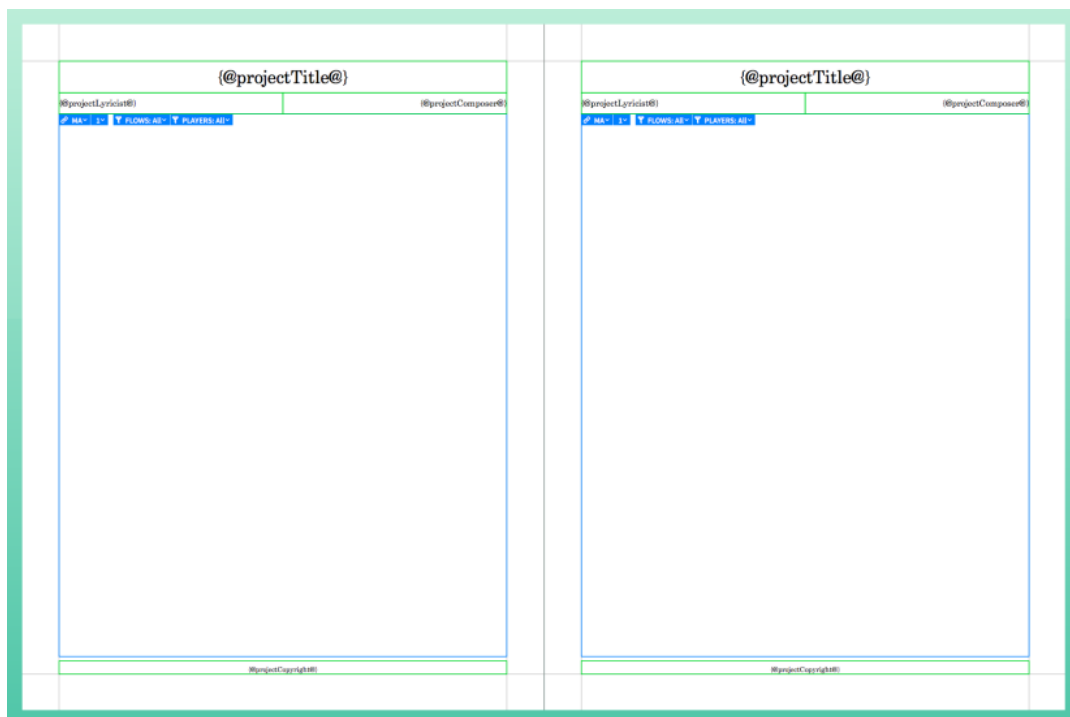
浄書モードでは、以下のいずれかの操作を行なって、ページテンプレートエディターを開くことができます。

- ページパネルの「**ページテンプレート (Page Templates)**」セクションでページテンプレートをダブルクリックします。
- ページパネルの「**ページテンプレート (Page Templates)**」セクションでページテンプレートを選択し、「**ページテンプレートを編集 (Edit Page Template)**」をクリックします。

ページテンプレートエディターでは、追加フレームの挿入や既存フレームの編集/移動など、必要に応じてページテンプレートをカスタマイズできます。また、楽曲フレームが割り当てられているフレームチェーンを変更したり、フレームに割り当てるフローやプレーヤーを変更したりすることもできます。

#### 補足

テキストフレーム内のトークンと楽曲フレーム内の楽譜は、各レイアウトに適した形で自動的に更新されます。ただし、グラフィックフレームはすべてのレイアウトに単一のイメージを表示します。1つのレイアウトでグラフィックフレーム内のイメージを変更すると、ページテンプレートが更新され、すべてのレイアウトに変更が反映されます。



ページテンプレートエディターで開かれ、左右ページを表示するページテンプレートの図

#### 関連リンク

[ページパネル](#) (562 ページ)

[トークン](#) (617 ページ)

[フレーム](#) (601 ページ)

[「プロジェクト情報 \(Project Info\)」ダイアログ](#) (81 ページ)

## ページテンプレートのカスタマイズ

必要に応じて、ページテンプレートエディターでページテンプレートをカスタマイズできます。ページテンプレートを変更すると、そのページテンプレートを使用しているすべてのレイアウトのすべてのページの外観に反映されます。

#### 補足

既存のページテンプレートをもとに作成したページテンプレートは、「もとにするページ (Based on)」で選択したページテンプレートにリンクされます。たとえば、既存のテキストフレーム内のテキストを変更するなど、ページテンプレート間で共有されているフレームへの変更は、両方のページテンプレートに反映されます。フレームを削除したり新しいフレームを入力したりすると、このリンクが解除されます。

#### 前提条件

- 右ゾーンを表示しておきます。
- カスタマイズする新しいページテンプレートを作成しておきます。

---

#### 手順

1. 浄書モードで、カスタマイズするページテンプレートを含むページテンプレートのセットを使用しているレイアウトを開きます。
2. ページパネルの「**ページテンプレート (Page Templates)**」セクションで、カスタマイズするページテンプレートをダブルクリックして、ページテンプレートエディターを開きます。
3. 選択したページテンプレートのいずれかのページのレイアウトを変更します。



たとえば、以下のような操作を行なえます。

- フレームのサイズ/形状の入力、削除、移動、変更。
- 楽曲フレームへの異なるフロー/プレイヤーの割り当て、グラフィックフレームへのイメージの読み込み、テキストフレームへのテキストの入力など、フレームの内容の変更。

#### ヒント

トークンを挿入するには、カーソルがテキストフレーム内にある状態で右クリックし、コンテキストメニューから使用するトークンを選択します。

4. 左右のページのレイアウトを同じにする場合は、どちらのページを変更したかに応じて、楽譜領域の上部にある以下のいずれかの「**ページレイアウトをコピー (Copy Page Layout)**」ボタンをクリックします。

- **左から右にコピー (Left to Right)** 
- **右から左にコピー (Right to Left)** 

#### 補足

- ページテンプレートのレイアウトは、反転されることなくページからページにそのままコピーされます。たとえば、ページ番号用のテキストフレームが外側の端に自動的に配置されることはありません。
- テキストフレームの内容を含め、左右のページ間でコピーしたフレームはリンクされます。フレームを削除したり新しいフレームを入力したりすると、このリンクが解除されます。

5. 「**適用 (Apply)**」をクリックしてから「**閉じる (Close)**」をクリックします。

---

#### 結果

選択したページテンプレートが変更されます。既存のページテンプレートをカスタマイズした場合、そのページテンプレートを使用し、かつページテンプレートの優先が設定されていないすべての既存のページは、それに応じて自動的に更新されます。

#### 関連リンク

- [ページパネル \(562 ページ\)](#)
- [ゾーンの表示/非表示の切り替え \(48 ページ\)](#)
- [レイアウトの切り替え \(47 ページ\)](#)
- [ページテンプレートエディター \(581 ページ\)](#)
- [ページテンプレートのセット \(569 ページ\)](#)
- [ページテンプレートの種類 \(573 ページ\)](#)
- [レイアウトへのページテンプレートのセットの適用 \(746 ページ\)](#)
- [ページへのページテンプレートの割り当て \(590 ページ\)](#)

[フレームの入力 \(603 ページ\)](#)  
[テキストフレームへのテキストの入力 \(624 ページ\)](#)  
[トークン \(617 ページ\)](#)  
[フレームの移動 \(604 ページ\)](#)  
[フレームのサイズ/形状の変更 \(605 ページ\)](#)  
[ページテンプレートの作成 \(575 ページ\)](#)  
[フレームチェーンへの楽曲フレームの割り当て \(613 ページ\)](#)  
[フレームチェーンへのフローの割り当て \(615 ページ\)](#)  
[フレームチェーンへのプレーヤーの割り当て \(616 ページ\)](#)  
[「レイアウトオプション \(Layout Options\)」ダイアログ \(917 ページ\)](#)  
[ページ番号 \(1501 ページ\)](#)

## ページの形式変更

ページの形式変更とは、ページテンプレートのセットによって決まる個々のレイアウトの特定のページの形式やデザインへの変更であり、基本となるページテンプレートには影響しません。たとえば、パートレイアウトの1つのページのフレームを小さくしたり、選択したページから先のページ番号を変更したりする場合に使用します。

ページの形式変更のさまざまなタイプは、浄書モードのページパネルの「**ページ (Pages)**」セクションで個々のページに表示されるマークで識別できます。

### ページテンプレートの優先

個々のページの形式に対する変更はページテンプレートエディターではなく、楽譜領域内で直接行ないます。たとえば、楽曲フレームのサイズ変更、脚注用のテキストフレームの追加、空白ページの挿入などは、すべてページテンプレートの優先となります。

ページテンプレートの優先が設定されたページは、ページテンプレートを変更したときに、その変更内容が自動的に引き継がれません。優先されているページをページテンプレートの形式に戻すには、ページテンプレートの優先を解除する必要があります。

ページテンプレートの優先が設定されたページは、左上角に赤いマークが表示されます。

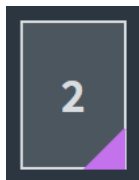


ページテンプレートの優先

### ページ番号の変更

序文ページにローマ数字の番号を付けるといった、デフォルトのページ番号のシーケンスへの変更です。

ページ番号の変更が設定されたページは、ページテンプレートに対して行なわれるそれ以降の変更をすべて引き継ぎます。これらのページは右下角に紫色のマークが表示されます。



ページ番号の変更

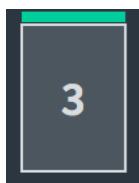
### ページテンプレートの変更

個々のページまたは特定のポイントから先のすべてのページに割り当てられるページテンプレートへの変更です。たとえば、タイトルページ用のページテンプレートを、すべてのパートレイアウトの最初のページに割り当てることができます。

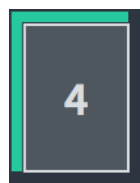


ページテンプレートの変更が設定されたページは、対応するページテンプレートに対して行なわれるそれ以降の変更をすべて引き継ぎます。これらのページには、以下の場所に緑色のマークが表示されます。

- 現在のページのみページテンプレートを変更: 上の端
- 現在のページ以降のページテンプレートを変更: 左上の端



単一のページへのページテンプレートの変更



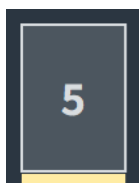
選択したページ以降へのページテンプレートの変更

### フロー見出しの変更

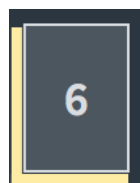
個々のページまたは特定のポイントから先のすべてのページに割り当てられるフロー見出しへの変更です。たとえば、他のページよりも多くの譜表を含むページでフロー見出しの上下の余白を狭くしたい場合などです。

フロー見出しの変更が設定されたページは、ページテンプレートに対して行なわれるそれ以降の変更をすべて引き継ぎます。これらのページには、以下の場所に黄色のマークが表示されます。

- 現在のページのみフロー見出しを変更: 下の端
- 現在のページ以降のフロー見出しを変更: 左と下の端



単一のページへのフロー見出しの変更



選択したページ以降へのフロー見出しの変更

### 補足

- カスタムページテンプレートを使用してレイアウトの途中または最後にページを挿入後、ページテンプレートの優先を解除すると、そのページにはページテンプレートのセットの「**デフォルト (Default)**」のページテンプレートが自動的に割り当てられます。
- 個別のページに対して作成したページの優先をページテンプレートとして保存することはできません。複数のページに同じ形式設定を使用することがわかっている場合は、新規ページテンプレートを作成することをおすすめします。

### 関連リンク

- [ページパネル \(562 ページ\)](#)
- [ページの挿入 \(757 ページ\)](#)
- [ページ番号 \(1501 ページ\)](#)
- [ページテンプレート \(567 ページ\)](#)
- [ページテンプレートエディター \(581 ページ\)](#)
- [ページテンプレートの作成 \(575 ページ\)](#)
- [ページテンプレートのカスタマイズ \(582 ページ\)](#)
- [フロー見出し \(595 ページ\)](#)

[ページの入替え](#) (594 ページ)

## ページテンプレートの優先の解除

個別のページに対して作成した優先を解除し、ページテンプレートの形式に従う状態に戻せます。

レイアウト内のページにページの優先が含まれている場合、ページパネルの「**ページ (Pages)**」セクションで、該当するページの左上角に色付きの三角形が表示されます。ページテンプレートの優先には、ページテンプレートまたはフロー見出しの形式から引き継がれたフレームのサイズ/形状の変更、ページへの追加フレームの入力、新しい空白ページの入力などがあります。


空白ページの優先を解除すると、レイアウトからそのページが削除されます。

前提条件

右ゾーンを表示しておきます。

---

手順

1. 浄書モードで、ページテンプレートの優先を解除するレイアウトを開きます。
2. ページの優先を解除するページを個別に選択する場合は、ページパネルの「**ページ (Pages)**」セクションで該当のページを選択します。  
隣接するページを選択するには **[Shift]** を押しながらクリックし、個別のページを選択するには **[Ctrl]/[command]** を押しながらクリックします。
3. 以下のいずれかの操作を行なってページテンプレートの優先を解除します。
  - 選択したページのみからページの優先を解除するには、「**ページ (Pages)**」セクションのアクションバーで「**上書きを解除 (Remove Overrides)**」をクリックします。
  - すべてのページの優先を解除するには、ページパネルの「**ページ (Pages)**」セクションで右クリックして、コンテキストメニューから「**すべてのページの上書きを解除 (Remove All Page Overrides)**」を選択します。

---

結果

楽譜領域で現在開いているレイアウトの選択したページまたはすべてのページから、ページテンプレートの形式に対して作成したページの優先がすべて解除されます。ページの優先が作成された空白ページが削除されます。

選択したページのみ優先を解除した場合、ページの優先が設定されたレイアウト内のその他のページは影響を受けません。

関連リンク

[ページパネル](#) (562 ページ)

[ゾーンの表示/非表示の切り替え](#) (48 ページ)

[レイアウトの切り替え](#) (47 ページ)

[フレーム](#) (601 ページ)

[「プロジェクト情報 \(Project Info\)」ダイアログ](#) (81 ページ)

[フロー見出しのカスタマイズ](#) (599 ページ)

## ページ番号の変更の挿入

プロジェクト内の各レイアウトで、個々のページ以降のページ番号を変更できます。ページ番号の変更を挿入すると、表示するページ番号やページ番号のスタイルを変更できるほか、レイアウトの最初のページを左右どちらのページにするかを指定することもできます。

たとえば、前付きページには「ii」や「iv」のようなローマ数字を使用し、楽譜ページには「1」や「3」のような数字を使用できます。

#### 補足

- レイアウトの最初のページを偶数に変更すると、そのページが自動的に左側のページになります。これは、偶数ページは常に左側のページに置き、奇数ページは常に右側のページに置くという慣習があるためです。そのため、レイアウトの最初のページが左側に置かれている場合、そのページを1ページと表示することはできず、必ず2ページと表示されます。
- レイアウトを左側のページから開始させる場合、「**レイアウトオプション (Layout Options)**」にあるそれ専用のオプションを使用することをおすすめします。
- フローごとにページ番号を「1」に戻したい場合、「{@page@}」のトークンではなく「{@flowPage@}」のトークンを使用するように、ページテンプレートをカスタマイズできます。


---

#### 前提条件

右ゾーンを表示しておきます。

---

#### 手順

1. 浄書モードで、ページ番号を変更するレイアウトを開きます。
2. ページパネルの「**ページ (Pages)**」セクションで、ページ番号の変更を開始するページを選択します。
3. アクションバーで「**ページ番号の変更を挿入 (Insert Page Number Change)**」をクリックして「**ページ番号の変更 (Page Number Change)**」ダイアログを開きます。
4. 「**開始ページ (From page)**」フィールドに、ページ番号の変更を開始するページの番号を入力します。  
たとえば、現在の3ページのページ番号を変更するには「**3**」を入力します。
5. 「**開始ページ番号 (First page number)**」フィールドに、選択したページに付与する新しいページ番号を入力します。  
たとえば、現在の3ページを5ページに変更するには「**5**」を入力します。
6. 「**シーケンスタイプ (Sequence type)**」で以下のいずれかの数字スタイルを選択します。
  - **数字 (Number)**
  - **ローマ数字 (Roman numeral)**
7. 「**OK**」をクリックして変更内容を保存し、ダイアログを閉じます。

---

#### 結果

選択したページのページ番号が変更されます。これに応じて、次のページ番号の変更がある位置もしくはプロジェクトの終了位置のいずれか早い方まで、後続のすべてのページが変更されます。

---

#### ヒント

「**ページ番号の変更 (Page Number Change)**」ダイアログでは、ページ番号の外観のその他の設定も変更できます。たとえば、サブ番号を大文字または小文字で表示できます。

---

#### 関連リンク


- [ページパネル \(562 ページ\)](#)
- [ゾーンの表示/非表示の切り替え \(48 ページ\)](#)
- [レイアウトの切り替え \(47 ページ\)](#)
- [ガイドページ番号の表示/非表示 \(1505 ページ\)](#)
- [左側のページからレイアウトを始める \(760 ページ\)](#)
- [「レイアウトオプション \(Layout Options\)」ダイアログ \(917 ページ\)](#)
- [ページテンプレート \(567 ページ\)](#)

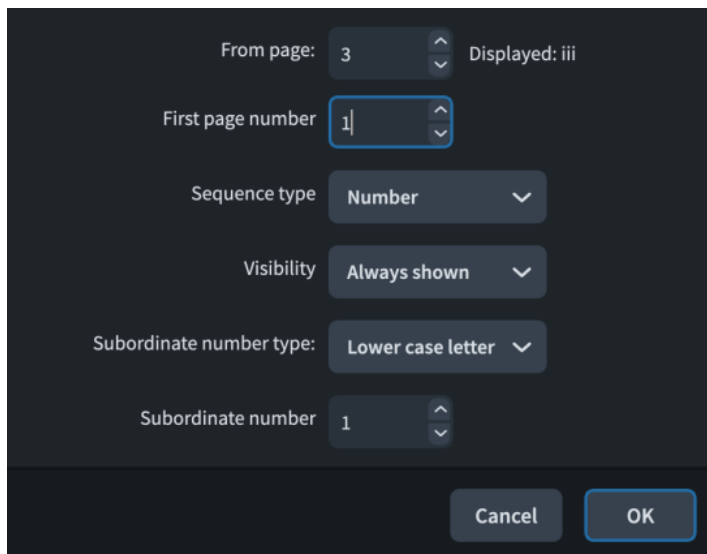
トークン (617 ページ)

## 「ページ番号の変更 (Page Number Change)」ダイアログ

「ページ番号の変更 (Page Number Change)」ダイアログでは、各レイアウトの既存のページに表示されるページ番号を変更できます。ページ番号を非表示にしたり、変更したりできます。

浄書モードで「ページ番号の変更 (Page Number Change)」ダイアログを開くには、ページパネルの「ページ (Pages)」セクションでページを選択して以下のいずれかの操作を行ないます。

- 「ページ (Pages)」セクションで右クリックし、コンテキストメニューから「ページ番号の変更を挿入 (Insert Page Number Change)」を選択します。
- 「ページ番号の変更を挿入 (Insert Page Number Change)」をクリックします。



「ページ番号の変更 (Page Number Change)」ダイアログには以下のオプションがあります。

### 開始ページ (From page)

ページ番号の変更を開始するページを選択できます。この番号は、レイアウト内の位置を示します。

「現在のページ番号 (Displayed)」には、現在選択されているページのページ番号がどのように表示されるかがプレビューされます。レイアウト内にページ番号の変更を挿入している場合、表示されるページ番号と基本のページ番号が異なる場合があります。

### 開始ページ番号 (First page number)

選択したページの新しいページ番号を指定できます。後続のページは、次のページ番号の変更がある位置かプロジェクトの終了位置まで、新しいシーケンスに従います。

### シーケンスタイプ (Sequence type)

選択したページと後続のページで使用する番号のタイプを選択できます。ページ番号のシーケンスタイプには、「数字 (Number)」(5 や 19 など) か「ローマ数字 (Roman numeral)」(iii や iv など) を使用できます。

### 表示タイプ (Visibility)

ページ番号の表示/非表示を指定できます。たとえば、序文ページのページ番号を非表示にするなど、ページ番号の変更が始まるページのページ番号を非表示にするよう指定することもできます。

### サブ番号のタイプ (Subordinate number type)

ページ番号にサブ番号を追加し、タイプを指定できます。

### サブ番号 (Subordinate number)

サブ番号の開始番号を指定できます。

ページ番号の変更を挿入すると、ページパネルの「**ページ (Pages)**」セクションのページの右下角に紫色のマークが表示されます。新しいページ番号は、ページパネルの「**ページ (Pages)**」セクションの各ページにも、適切な数字スタイルで表示されます。

関連リンク

[ページパネル \(562 ページ\)](#)

[ページ番号 \(1501 ページ\)](#)

## ページ番号の変更の解除

個々のページに行なったページ番号の変更を解除して、デフォルトのページ番号に戻すことができます。

ページ番号が変更されている場合、ページパネルの「**ページ (Pages)**」セクションで、該当するページの右下角に色付きの三角形が表示されます。

前提条件

右ゾーンを表示しておきます。

---

手順

1. 浄書モードで、ページ番号の変更を解除するレイアウトを開きます。
2. 個々のページのページ番号の変更を解除する場合は、ページパネルの「**ページ (Pages)**」セクションで該当のページを選択します。  
隣接するページを選択するには **[Shift]** を押しながらかリックし、個別のページを選択するには **[Ctrl]/[command]** を押しながらかリックします。
3. 以下のいずれかの操作を行なってページ番号の変更を解除します。
  - 選択したページのみからページ番号の変更を解除するには、いずれかのページを右クリックして、コンテキストメニューから「**ページ番号の変更を解除 (Remove Page Number Change(s))**」を選択します。
  - すべてのページのページ番号の変更を解除するには、ページパネルの「**ページ (Pages)**」セクションで右クリックして、コンテキストメニューから「**ページ番号の変更をすべて解除 (Remove All Page Number Changes)**」を選択します。

---

結果

楽譜領域で現在開いているレイアウトの選択したページまたはすべてのページのページ番号の変更が解除されます。

すべてのページのページ番号の変更を解除した場合、すべてのページでデフォルトのページ番号のシーケンスが復元されます。

選択したページのみをページ番号の変更を解除した場合、選択したページから次のページ番号の変更がある位置かプロジェクトの終了位置のいずれか早い方まで、デフォルトのページ番号が復元されます。ページ番号の変更があるレイアウト内のその他のページは影響を受けません。

関連リンク

[ページパネル \(562 ページ\)](#)

[ゾーンの表示/非表示の切り替え \(48 ページ\)](#)

[レイアウトの切り替え \(47 ページ\)](#)

[「ページ番号の変更 \(Page Number Change\)」ダイアログ \(588 ページ\)](#)

[ページ番号の変更の挿入 \(586 ページ\)](#)

## ページへのページテンプレートの割り当て


さまざまなページテンプレートを各レイアウトの各ページに割り当てることができます。割り当て先には、個々のページおよび選択したページ以降のすべてのページを選択できます。たとえば、各パートレイアウトの最初のページにタイトルページを表示するなどできます。

### 前提条件

- 右ゾーンを表示しておきます。
- ページに割り当てるカスタムページテンプレートを作成するか読み込んでおきます。

---

### 手順

1. 浄書モードで、ページに割り当てられたページテンプレートを変更するレイアウトを開きます。
2. ページパネルの「**ページ (Pages)**」セクションで、ページテンプレートの割り当てを変更するページをクリックします。
3. アクションバーで「**ページテンプレートの変更を挿入 (Insert Page Template Change)**」をクリックして、「**ページテンプレートの変更を挿入 (Insert Page Template Change)**」ダイアログを開きます。
4. 必要に応じて、「**開始ページ (From page)**」オプションを使用して、ページテンプレートの変更を開始するページを変更します。
5. 「**ページテンプレートを使用 (Use page template)**」メニューから、割り当てるページテンプレートを選択します。
6. 「**範囲 (Range)**」で以下のいずれかのオプションを選択します。
  - 選択したページテンプレートを選択したページにのみ適用する場合は、「**現在のページのみ (Current Page Only)**」を選択します。
  - 選択したページとそれ以降のすべてのページに対して選択したページテンプレートを適用する場合は、「**現在のページ以降 (From This Page Onwards)**」を選択します。
7. 「**OK**」をクリックして変更内容を保存し、ダイアログを閉じます。

---

### 結果

選択したページテンプレートは、選択したページのみに割り当てられるか、選択したページから次の既存のページテンプレート変更位置、またはレイアウト終了位置のいずれか早い方の位置までのすべてのページに割り当てられます。

### 手順終了後の項目

対象範囲内に更新されなかったページがある場合、そのページにはページ形式変更の一種であるページテンプレートの優先が設定されていると考えられます。そのページに割り当てられたページテンプレートを適用させるには、ページテンプレートの優先を解除します。

### 関連リンク

- [ページパネル \(562 ページ\)](#)
- [ゾーンの表示/非表示の切り替え \(48 ページ\)](#)
- [ガイドページ番号の表示/非表示 \(1505 ページ\)](#)
- [レイアウトの切り替え \(47 ページ\)](#)
- [ページテンプレートのセット \(569 ページ\)](#)
- [ページテンプレートの作成 \(575 ページ\)](#)
- [ページテンプレートの読み込み \(578 ページ\)](#)
- [ページの挿入 \(757 ページ\)](#)

## ページテンプレートの変更の解除

たとえばレイアウトの配置設定の変更により、最終ページの楽曲フレームを短縮したカスタムページテンプレートが不要になった場合は、個々のページに割り当てたページテンプレートの変更を解除できます。

ページテンプレートを変更したページは、ページパネルの「**ページ (Pages)**」セクションで、ページの上の端または上と左の端に緑色のマークが表示されます。

前提条件

右ゾーンを表示しておきます。

---

手順

1. 浄書モードで、ページテンプレートの変更を解除するレイアウトを開きます。
  2. 必要に応じて、個々のページのページテンプレートの変更を解除する場合は、ページパネルの「**ページ (Pages)**」セクションで該当のページを選択します。  
隣接するページを選択するには **[Shift]** を押しながらかリックし、個別のページを選択するには **[Ctrl]/[command]** を押しながらかリックします。
  3. 以下のいずれかの操作を行なってページテンプレートの変更を解除します。
    - 選択したページのみからページテンプレートの変更を解除するには、いずれかのページを右クリックして、コンテキストメニューから「**ページテンプレートの変更を解除 (Remove Page Template Change(s))**」を選択します。
    - すべてのページのページテンプレートの変更を解除するには、ページパネルの「**ページ (Pages)**」セクションで右クリックして、コンテキストメニューから「**ページテンプレートの変更をすべて解除 (Remove All Page Template Changes)**」を選択します。
- 

結果

楽譜領域で現在開いているレイアウトの選択したページまたはすべてのページから、ページテンプレートの変更がすべて解除されます。各ページは、レイアウト上の位置およびレイアウトごとの設定に応じて、「**最初 (First)**」または「**デフォルト (Default)**」のページテンプレートが適用された状態に戻ります。

選択したページのみからページテンプレートの変更を解除した場合、ページテンプレートの変更が挿入されたレイアウト内のその他のページは影響を受けません。

関連リンク

[ページパネル \(562 ページ\)](#)

[ゾーンの表示/非表示の切り替え \(48 ページ\)](#)

[レイアウトの切り替え \(47 ページ\)](#)

[「最初 \(First\)」のページテンプレートをいつ使用するかの変更 \(761 ページ\)](#)

[ページテンプレートの種類 \(573 ページ\)](#)

[ページの形式変更 \(584 ページ\)](#)

[配置設定 \(784 ページ\)](#)


## フロー見出しの変更の挿入

フロー見出しの変更を挿入すると、各レイアウトの個々のページで使用されているフロー見出しの形式設定を変更できます。これにより、デフォルトのフロー見出しの上下の余白のみを変更することもできます。

前提条件

- 右ゾーンを表示しておきます。
- フロー見出しの変更で使用するカスタムのフロー見出しを作成しておきます。

#### 手順

1. 浄書モードで、フロー見出しを変更するレイアウトを開きます。
2. ページパネルの「**ページ (Pages)**」セクションで、フロー見出しの変更を挿入するページまたはフロー見出しの変更を開始するページをクリックします。
3. アクションバーで、「**フロー見出しの変更を挿入 (Insert Flow Heading Change)**」をクリックして「**フロー見出しの変更を挿入 (Insert Flow Heading Change)**」ダイアログを開きます。
4. 必要に応じて、「**開始ページ (From page)**」オプションを使用して、フロー見出しの変更を開始するページを変更します。
5. 「**フロー見出しを使用 (Use flow heading)**」メニューから挿入するフロー見出しを選択します。
6. 「**範囲 (Range)**」で以下のいずれかのオプションを選択します。
  - **現在のページのみ (Current Page Only)**
  - **現在のページ以降 (From this Page Onwards)**
7. 必要に応じて、以下のオプションのいずれかまたは両方をオンにし、値を変更して対応するフロー見出しの余白を変更します。
  - **見出しの上側余白 (Heading Top Margin)**
  - **見出しの下側余白 (Heading Bottom Margin)**
8. 「**OK**」をクリックして変更内容を保存し、ダイアログを閉じます。

#### 結果

「**現在のページのみ (Current Page Only)**」を選択した場合、選択したフロー見出しは選択したページのすべてのフロー見出しにのみ適用されます。

「**現在のページ以降 (From This Page Onwards)**」を選択した場合、選択したフロー見出しは選択したページとレイアウト内の後続のすべてのページのすべてのフロー見出し、または次にフロー見出しの変更が挿入されている箇所まで適用されます。


#### 関連リンク

- [レイアウトの切り替え \(47 ページ\)](#)
- [ゾーンの表示/非表示の切り替え \(48 ページ\)](#)
- [ガイドページ番号の表示/非表示 \(1505 ページ\)](#)
- [ページパネル \(562 ページ\)](#)
- [フロー見出し \(595 ページ\)](#)
- [フロー見出しの作成 \(597 ページ\)](#)
- [フロー見出しの表示/非表示の切り替え \(762 ページ\)](#)
- [同じページに複数のフローを表示する/表示しない \(760 ページ\)](#)
- [余白 \(768 ページ\)](#)

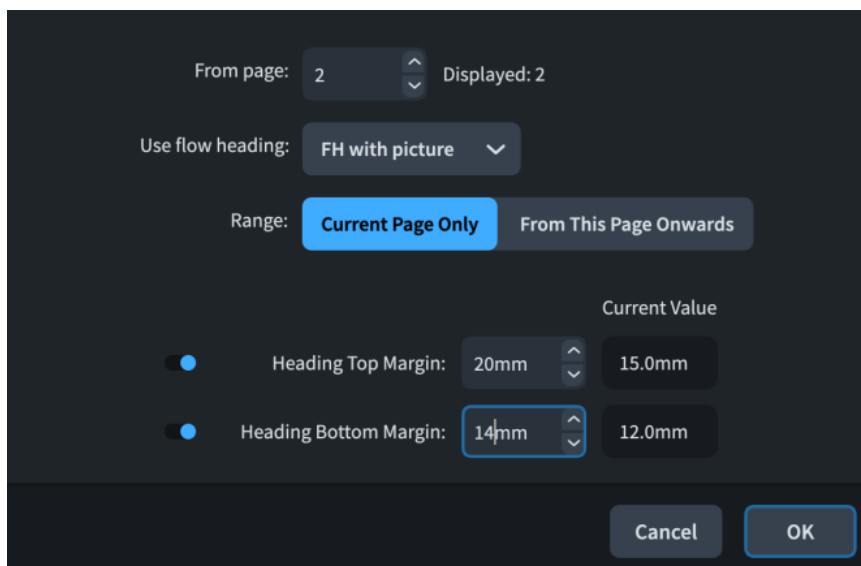
## 「フロー見出しの変更を挿入」ダイアログ

「**フロー見出しの変更を挿入 (Insert Flow Heading Change)**」ダイアログでは、各レイアウト内の指定したページのすべてのフロー見出しに使用されている形式を変更できます。フロー見出しの変更は、個々のページに適用することも、後続のすべてのページに適用することもできます。

浄書モードで「**フロー見出しの変更を挿入 (Insert Flow Heading Change)**」ダイアログを開くには、ページパネルの「**ページ (Pages)**」セクションでページを選択して、以下のいずれかの操作を行いません。

- 「**ページ (Pages)**」セクションを右クリックして、コンテキストメニューから「**フロー見出しの変更を挿入 (Insert Flow Heading Change)**」を選択します。
- 「**フロー見出しの変更を挿入 (Insert Flow Heading Change)**」をクリックします。





「フロー見出しの変更を挿入 (Insert Flow Heading Change)」ダイアログには以下のオプションがあります。

#### 開始ページ (From page)

フロー見出しの形式の変更を開始するページを選択できます。この番号は、レイアウト内の位置を示します。

「現在のページ番号 (Displayed)」には、現在選択されているページのページ番号がどのように表示されるかがプレビューされます。レイアウト内にページ番号の変更を挿入している場合、表示されるページ番号と基本のページ番号が異なる場合があります。

#### フロー見出しを使用 (Use flow heading)

適用するフロー見出しのデザインを指定できます。このメニューには、現在のページテンプレートのセット内のすべてのフロー見出しが含まれています。

#### 範囲 (Range)

フロー見出しの変更を適用する範囲を指定できます。

- 「現在のページのみ (Current Page Only)」は、選択したページにのみフロー見出しの変更を適用します。
- 「現在のページ以降 (From This Page Onwards)」は、選択したページとレイアウト内の後続のすべてのページ、または次にフロー見出しの変更が挿入されている箇所までフロー見出しの変更を適用します。

#### 見出しの上側余白 (Heading Top Margin)

影響を受けるフロー見出しの上部と1つ前のフローの終了位置との間の間隔を、レイアウトのデフォルト設定とは別に設定できます。

#### 見出しの下側余白 (Heading Bottom Margin)

影響を受けるフロー見出しの下部と次のフローの開始位置との間の間隔を、レイアウトのデフォルト設定とは別に設定できます。

フロー見出しの変更を挿入すると、ページパネルの「ページ (Pages)」セクションのページの下の端または下と左の端に黄色いマークが表示されます。

関連リンク

[ページパネル \(562 ページ\)](#)

[フロー見出しの上下の余白を変更する \(769 ページ\)](#)

## フロー見出しの変更の解除

個々のページに割り当てたフロー見出しの変更を解除して、「デフォルト」のフロー見出しを使用する状態に戻すことができます。

フロー見出しを変更したページは、ページパネルの「**ページ (Pages)**」セクションでページの下の方または下と左の端に黄色いマークが表示されます。

前提条件

右ゾーンを表示しておきます。

---

手順

1. 浄書モードで、フロー見出しの変更を解除するレイアウトを開きます。
  2. 個々のページからフロー見出しの変更を解除する場合は、ページパネルの「**ページ (Pages)**」セクションで該当のページを選択します。  
隣接するページを選択するには **[Shift]** を押しながらかlickし、個別のページを選択するには **[Ctrl]/[command]** を押しながらかlickします。
  3. 以下のいずれかの操作を行なってフロー見出しの変更を解除します。
    - 選択したページのみからフロー見出しの変更を解除するには、いずれかのページを右clickして、コンテキストメニューから「**フロー見出しの変更を解除 (Remove Flow Heading Change(s))**」を選択します。
    - すべてのページからフロー見出しの変更を解除するには、ページパネルの「**ページ (Pages)**」セクションで右clickして、コンテキストメニューから「**フロー見出しの変更をすべて解除 (Remove All Flow Heading Changes)**」を選択します。
- 

結果

楽譜領域で現在開いているレイアウトの選択したページまたはすべてのページから、フロー見出しの変更がすべて解除されます。そのレイアウトに適用されているページテンプレートのセットで、ページに使用されているフロー見出しが「デフォルト」のフロー見出しに戻ります。

選択したページのみからフロー見出しの変更を解除した場合、レイアウトにフロー見出しの変更が挿入されたその他のページは影響を受けません。

関連リンク

[レイアウトの切り替え \(47 ページ\)](#)

[ゾーンの表示/非表示の切り替え \(48 ページ\)](#)

[ページパネル \(562 ページ\)](#)

[フロー見出し \(595 ページ\)](#)

## ページの入れ替え

たとえば、ページテンプレートとフロー見出しの変更を4ページに割り当てた後、配置設定の変更により、それらのページの形式変更を5ページに移すことが必要になった場合、隣接するページ間でページの形式変更を入れ替えられます。



前提条件

右ゾーンを表示しておきます。

---

手順

1. 浄書モードで、ページを入れ替えるレイアウトを開きます。
2. ページパネルの「**ページ (Pages)**」セクションで、ページの形式変更を別のページと入れ替えるページを選択します。

- 以下のいずれかの操作を行なって、選択したページのページ形式変更を別のページと入れ替えます。
  - アクションバーで、「前ページと入れ替え (Swap with Previous Page)」  をクリックします。
  - アクションバーで、「次ページと入れ替え (Swap with Next Page)」  をクリックします。

#### 結果

選択したページのすべてのページ形式変更が、レイアウトのページの順序における前または次のページに移動されます。

#### 関連リンク

[ゾーンの表示/非表示の切り替え \(48 ページ\)](#)

[レイアウトの切り替え \(47 ページ\)](#)

[ページの挿入 \(757 ページ\)](#)

[配置設定 \(784 ページ\)](#)

## フロー見出し

フロー見出しを使用すると、最初の組段のすぐ上にフローのタイトルを自動的に表示できます。フロー見出しはページテンプレートとほぼ同じで、テンプレートのように機能します。これにより、同じフロー見出しの形式設定を異なるレイアウトの複数のフローに適用できます。

フロー見出しはページテンプレートのセットの一部です。初期設定では、ページテンプレートのセットごとに1つのフロー見出しがあり、そこにはフロー番号とフロータイトルを表示するトークンが含まれています。新規プロジェクトでは、これは「1. Flow 1」として表示されます。これはすべてのフロー見出しに自動的に使用されます。

初期設定では、フロー見出しには、「**パラグラフスタイル (Paragraph Styles)**」ダイアログで編集できる「**フロータイトル (Flow Title)**」のパラグラフスタイルが使用されます。

フロー見出しに含まれるトークンの変更やフレームの追加、新規フロー見出しの作成、個々のページやページ範囲へのフロー見出しの変更の挿入など、デフォルトのフロー見出しをカスタマイズできます。




フロー見出しのテキストフレームの端を表わす破線

フロー見出しエディターで行なったフロー見出しの変更は、そのフロー見出しを使用しているページに自動的に反映されます。たとえば、フロー見出しエディターでフロー見出しからトークンを削除すると、ページテンプレートの優先が設定されているページ以外の、そのフロー見出しを使用しているすべてのページからそのトークンが削除されます。

フロー見出しは、フロー見出しを適用するフローの最初の組段の上の楽譜フレーム内に自動的に挿入されるため、ほかのフレームのようにページ上の固定の垂直位置はなく、楽譜が移動するとそれに追従します。また、フロー見出しは楽譜フレーム内の垂直方向のスペースも使用します。フロー見出しの変更を挿入することで、レイアウトごとまたはページごとにフロー見出しの上下のスペースの余白を変更できます。

#### 補足

フロー見出しはページテンプレートの楽曲フレームにのみ表示され、レイアウトの楽曲フレームには表示されません。

浄書のツールボックスで「**フレーム (Frames)**」を選択すると、フロー見出しのフレームは、見分けやすいように実線ではなく破線で表示されます。フロー見出しのフレームは他のフレームと同じ方法で移動できますが、この操作を行なうと、ページの形式変更の一種であるページテンプレートの優先が設定されます。

#### 補足

Dorico Pro では、レイアウト内の個々のフロー見出しを変更すると、ページの形式変更の一種であるページテンプレートの優先が設定されます。これには、たとえばフロー見出しエディターではなく、1つのページの1つのフロー見出しからトークンを削除することなども含まれます。ページテンプレートの優先が設定されたページは、ページテンプレートやフロー見出しを編集しても更新されず、たとえばレイアウトの短縮により空の状態になったとしても、自動的に削除されません。

#### 関連リンク

[タチェット \(795 ページ\)](#)

[フロー見出しの表示/非表示の切り替え \(762 ページ\)](#)

[フロー見出しの上下の余白を変更する \(769 ページ\)](#)

[フロー見出しの上の情報の表示/非表示を切り替える \(763 ページ\)](#)

[ページテンプレートの欄外見出しを編集する \(1323 ページ\)](#)

[ページテンプレートの優先の解除 \(586 ページ\)](#)

[余白 \(768 ページ\)](#)

[フレーム \(601 ページ\)](#)

[テキストフレーム \(616 ページ\)](#)

[トークン \(617 ページ\)](#)

[「パラグラフスタイル \(Paragraph Styles\)」ダイアログ \(932 ページ\)](#)


[フロー見出しの変更の挿入 \(591 ページ\)](#)

[タイトルの追加 \(1318 ページ\)](#)

## フロー見出しエディター

フロー見出しエディターを使用して、フロー見出しの形式を表示したり変更したりできます。機能はページテンプレートエディターと似ていますが、何を編集しているかを見分けやすいように、フロー見出しエディターは背景色が異なります。

フロー見出しエディターを開くには、以下のいずれかの操作を行ないます。

- ページパネルの「**フロー見出し (Flow Headings)**」セクションで、フロー見出しをダブルクリックします。
- ページパネルの「**フロー見出し (Flow Headings)**」セクションでフロー見出しを選択し、「**フロー見出しを編集 (Edit Flow Heading)**」をクリックします。

追加フレームの入力、テキストフレームの内容の変更、既存のテキストおよびグラフィックフレームの編集や移動など、フロー見出しのカスタマイズはフロー見出しエディターで行なえます。また、テキストフレーム内のテキストの垂直方向の配置を変更したり、テキストエディターオプションを使ってテキストフレーム内のテキストの外観や水平方向の配置を設定したりできます。

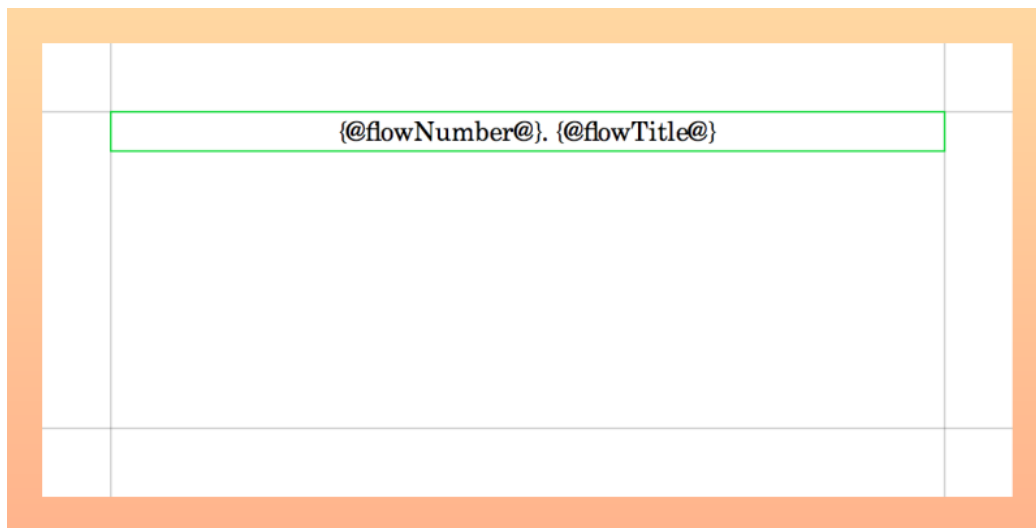
#### 補足

- フロー見出し内に楽曲フレームを入力することはできません。

- フロー見出しのフレームに設定できるのは左右の端の制限のみで、上下の制限は設定できません。これは、フロー見出しに固定の垂直位置がないためです。

Dorico Pro では、フロー見出しの範囲を決める際、エディター内のページ上の一番上のフレームの上部と一番下のフレームの下部が常に使用されるため、フレームはフロー見出しエディター内の任意の場所に配置できます。ただし、結果的に楽曲フレーム内で動かす楽譜が少なくなるよう、フロー見出し全体の高さはできるだけ小さく抑えることをおすすめします。

ページテンプレートとは異なり、フロー見出しは右ページでも左ページでも同じように表示されるため、フロー見出しエディターには1ページのみが表示されます。



フロー見出しエディターで開かれたフロー見出しの例

関連リンク

[ページパネル \(562 ページ\)](#)

[トークン \(617 ページ\)](#)

[浄書モードのテキストエディターオプション \(625 ページ\)](#)

[フロー見出しの表示/非表示の切り替え \(762 ページ\)](#)

[テキストフレーム内のテキストの水平方向の配置の変更 \(631 ページ\)](#)

[「パラグラフスタイル \(Paragraph Styles\)」ダイアログ \(932 ページ\)](#)

## フロー見出しの作成

ページテンプレートセット内に新しいフロー見出しを作成できます。各ページテンプレートのセットに含まれるフロー見出しには、「**デフォルト (Default)**」を1つと、「**カスタム (Custom)**」を複数設定できます。

前提条件


- 右ゾーンを表示しておきます。
- 新しいフロー見出しを追加するページテンプレートのセットを作成するか読み込んでおきます。

手順

1. 浄書モードで、フロー見出しの追加先となるページテンプレートのセットを使用しているレイアウトを開きます。

#### 補足

楽譜領域にいずれかのレイアウトが開いているときに、ページパネルの「**ページテンプレート (Page Templates)**」セクションの「**現在のセット (Current set)**」メニューでページテンプレートのセットを選択することもできますが、その場合、そのレイアウトに適用されるページテンプレートのセットが変更されます。

2. ページパネルで、「**フロー見出し (Flow Headings)**」アクションバーの「**新規フロー見出し (New Flow Heading)**」をクリックして「**新規フロー見出し (New Flow Heading)**」ダイアログを開きます。
3. 「**名前 (Name)**」フィールドに新しいフロー見出しの名前を入力します。
4. 「**もとにするフロー見出し (Based on)**」メニューから、新しいフロー見出しのもとにする既存のフロー見出しを選択します。

#### 補足

- 既存のフロー見出しをベースに作成したフロー見出しは、「**もとにするフロー見出し (Based on)**」で選択したフロー見出しにリンクされます。たとえば、既存のテキストフレーム内のテキストを変更するなど、フロー見出し間で共有されているフレームへの変更は、両方のフロー見出しに反映されます。フレームを削除したり新しいフレームを入力したりすると、このリンクが解除されます。
- 「**(なし (None))**」を選択すると、ページ余白以外の形式設定がされていないフロー見出しが作成されます。

5. 新しいフロー見出しに適用する以下のいずれかのフロー見出しタイプを選択します。
  - **デフォルト (Default)**
  - **カスタム (Custom)**

#### 補足

各ページテンプレートのセットには「**デフォルト (Default)**」のフロー見出しを1つしか登録できないため、「**デフォルト (Default)**」を選択した場合、既存の「**デフォルト (Default)**」のフロー見出しは新しいフロー見出しで置き換えられます。

既存のフロー見出しを置き換えることなく新しいフロー見出しを作成するには、「**カスタム (Custom)**」を選択します。

6. 「**OK**」をクリックして変更内容を保存し、ダイアログを閉じます。

#### 結果

楽譜領域で開いているレイアウトに適用されているページテンプレートのセットに、選択したタイプの新しいフロー見出しが追加されます。

#### 手順終了後の項目

- 新規フロー見出しをカスタマイズできます。
- 個々のページにフロー見出しを割り当てることができます。

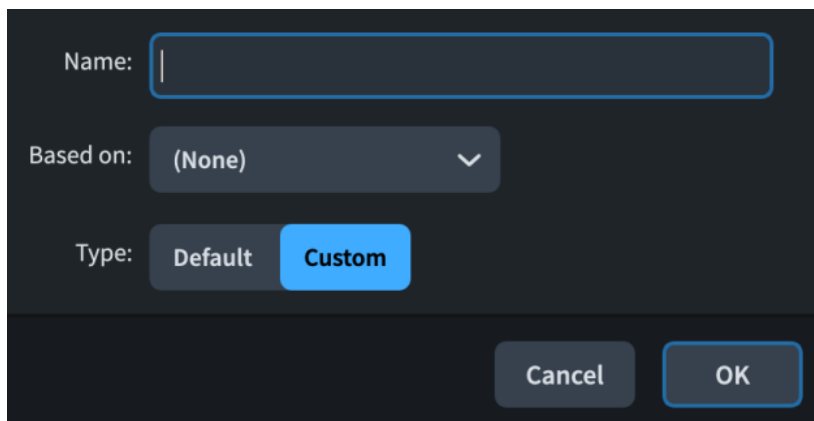
#### 関連リンク

- [レイアウトの切り替え \(47 ページ\)](#)
- [ゾーンの表示/非表示の切り替え \(48 ページ\)](#)
- [ページパネル \(562 ページ\)](#)
- [ページテンプレートのセット \(569 ページ\)](#)
- [フロー見出しの変更の挿入 \(591 ページ\)](#)

## 「新規フロー見出し (New Flow Heading)」ダイアログ

「新規フロー見出し (New Flow Heading)」ダイアログでは、ページテンプレートセットに新規フロー見出しを追加できます。

- 浄書モードで「新規フロー見出し (New Flow Heading)」ダイアログを開くには、ページパネルの「フロー見出し (Flow Headings)」セクションにある「新規フロー見出し (New Flow Heading)」**+**をクリックします。



「新規フロー見出し (New Flow Heading)」ダイアログには以下のオプションがあります。

### 名前 (Name)

新規フロー見出しの名前を入力できます(「フロータイトル+ 作者」など)。

### もとにするページ (Based on)

新しいフロー見出しのもとにする既存のフロー見出しを選択できます。「もとにするページ (Based on)」で選択したフロー見出しと同じフレームと形式設定を持つ新しいフロー見出しが作成されます。

#### 補足

既存のフロー見出しをベースに作成したフロー見出しは、「もとにするフロー見出し (Based on)」で選択したフロー見出しにリンクされます。たとえば、既存のテキストフレーム内のテキストを変更するなど、フロー見出し間で共有されているフレームへの変更は、両方のフロー見出しに反映されます。フレームを削除したり新しいフレームを入力したりすると、このリンクが解除されます。

### タイプ (Type)

新規フロー見出しのタイプを選択できます。

#### 補足

各ページテンプレートのセットには「デフォルト (Default)」のフロー見出しを1つしか登録できないため、「デフォルト (Default)」を選択した場合、既存の「デフォルト (Default)」のフロー見出しは新しいフロー見出しで置き換えられます。

## フロー見出しのカスタマイズ

グラフィックフレームの入力や既存のテキストフレーム内のトークンの変更など、フロー見出しは必要に応じてフロー見出しエディターでカスタマイズできます。フロー見出しを変更すると、そのフロー見出しを使用しているすべてのレイアウトでフロー見出しの外観が変わります。

#### 前提条件

右ゾーンを表示しておきます。

---

#### 手順

1. 浄書モードで、カスタマイズするフロー見出しを含むページテンプレートのセットを使用しているレイアウトを開きます。
  2. ページパネルの「**フロー見出し (Flow Headings)**」セクションで、カスタマイズするフロー見出しをダブルクリックしてフロー見出しエディターを開きます。
  3. フロー見出しのレイアウトを変更します。  
たとえば、グラフィックフレームを入力したり、テキストフレームでテキストの垂直方向の配置を変更したりできます。
  4. 「**適用 (Apply)**」をクリックしてから「**閉じる (Close)**」をクリックします。
- 

#### 関連リンク

[ページパネル \(562 ページ\)](#)  
[ゾーンの表示/非表示の切り替え \(48 ページ\)](#)  
[レイアウトの切り替え \(47 ページ\)](#)  
[ページテンプレートのセット \(569 ページ\)](#)  
[レイアウトへのページテンプレートのセットの適用 \(746 ページ\)](#)  
[フロー見出しの変更の挿入 \(591 ページ\)](#)  
[ページテンプレートの優先の解除 \(586 ページ\)](#)  
[フレームの入力 \(603 ページ\)](#)  
[テキストフレームへのテキストの入力 \(624 ページ\)](#)  
[フレームの移動 \(604 ページ\)](#)  
[フレームのサイズ/形状の変更 \(605 ページ\)](#)  
[テキストフレーム内のテキストの垂直方向の配置の変更 \(631 ページ\)](#)  
[「パラグラフスタイル \(Paragraph Styles\)」ダイアログ \(932 ページ\)](#)  
[「プロジェクト情報 \(Project Info\)」ダイアログ \(81 ページ\)](#)  
[トークン \(617 ページ\)](#)

## フロー見出し名の変更

「デフォルト」のフロー見出しや「カスタム」のフロー見出しなど、フロー見出しの名前を変更できません。

#### 前提条件

右ゾーンを表示しておきます。

---

#### 手順

1. 浄書モードで、名前を変更するフロー見出しを含むページテンプレートのセットを使用しているレイアウトを開きます。


#### 補足

楽譜領域にいずれかのレイアウトが開いているときに、ページパネルの「**ページテンプレート (Page Templates)**」セクションの「**現在のセット (Current set)**」メニューでページテンプレートのセットを選択することもできますが、その場合、そのレイアウトに適用されるページテンプレートのセットが変更されます。

---

2. ページパネルの「**フロー見出し (Flow Headings)**」セクションで、名前を変更するフロー見出しをクリックします。



3. アクションバーで「**フロー見出し名を変更 (Rename Flow Heading)**」をクリックして「**フロー見出しの名前を変更 (Rename Flow Heading)**」ダイアログを開きます。
  4. 「**名前 (Name)**」フィールドに新しい名前を入力します。
  5. 「**OK**」をクリックして変更内容を保存し、ダイアログを閉じます。
- 

関連リンク

- [レイアウトの切り替え \(47 ページ\)](#)
- [ゾーンの表示/非表示の切り替え \(48 ページ\)](#)
- [ページパネル \(562 ページ\)](#)
- [フロー見出し \(595 ページ\)](#)

## フロー見出しの削除

ページテンプレートのセットからフロー見出しを削除できます。

### 補足

「**デフォルト**」のフロー見出しは削除できません。各ページテンプレートのセットには、少なくとも「**デフォルト (Default)**」のフロー見出しを含める必要があります。新しいフロー見出しを追加する際にそのタイプを「**デフォルト (Default)**」に設定することで、「**デフォルト**」のフロー見出しを置き換えることができます。

---

前提条件

右ゾーンを表示しておきます。

---


手順

1. 浄書モードで、削除するフロー見出しを含むページテンプレートのセットを使用しているレイアウトを開きます。

### 補足

楽譜領域にいずれかのレイアウトが開いているときに、ページパネルの「**ページテンプレート (Page Templates)**」セクションの「**現在のセット (Current set)**」メニューでページテンプレートのセットを選択することもできますが、その場合、そのレイアウトに適用されるページテンプレートのセットが変更されます。

---

2. ページパネルの「**フロー見出し (Flow Headings)**」セクションで、削除するフロー見出しをクリックします。
  3. アクションバーで「**フロー見出しを削除 (Delete Flow Heading)**」をクリックします。
- 

結果

選択したフロー見出しが削除されます。フロー見出しを誤って削除した場合、この動作は元に戻せません。

## フレーム

フレームは、楽譜、テキスト、グラフィックをページ上に配置するためのボックスです。ページ余白の内側に収まる限り、フレームのサイズと形状は任意に設定できます。

浄書モードでは、必要に応じてフレームを調節できます。これには、フレームの各辺とページ余白の関係を制御するフレーム制限の定義も含まれます。

- 浄書ツールボックスで「フレーム (Frames)」を選択すると、フレームを編集できます。

Dorico Pro には、以下のタイプのフレームがあります。

### 楽曲フレーム

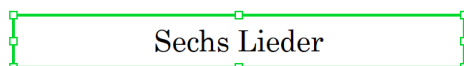
選択したプレーヤーおよびフローの楽譜または空白の譜表が表示されます。



ピアノの楽譜の最初が表示された楽曲フレーム

### テキストフレーム

テキストが表示されます。テキストは直接入力することも、トークンを使用して入力することもできます。



プロジェクトのタイトル「Sechs Lieder」が表示されたテキストフレーム

### グラフィックフレーム

フレームに読み込んださまざまな形式の画像が表示されます。



画像が読み込まれたグラフィックフレーム

例

A screenshot of a page layout in Dorico Pro. The page contains several frames: a title frame with 'A Mme. Aline van Barentzen' and 'ESQUISSES', a text frame with 'Julie Reisserová', and a musical score frame for piano. The score is in 3/4 time and features a tempo of 'Allegro deciso' (♩ = 138). The score is enclosed in a blue frame. The title and text frames are enclosed in green frames. The musical score frame is enclosed in a blue frame. The page also features decorative floral graphics in the corners.

ピアノの楽譜の最初のページです。このページには、楽曲フレーム、タイトル、献呈、作曲者のテキストフレーム、楽曲フレームの上部にフロー見出しのフレーム、上部の角にグラフィックフレームがあります。

関連リンク

[浄書ツールボックス \(554 ページ\)](#)

[浄書モードのプロジェクトウィンドウ \(553 ページ\)](#)

[Dorico のフロー \(23 ページ\)](#)

[Dorico のレイアウト \(27 ページ\)](#)  
[フレーム制限 \(633 ページ\)](#)  
[楽曲フレーム \(609 ページ\)](#)  
[テキストフレーム \(616 ページ\)](#)  
[グラフィックフレーム \(632 ページ\)](#)  
[フレーム区切り \(792 ページ\)](#)  
[トークン \(617 ページ\)](#)  
[ページテンプレート \(567 ページ\)](#)  
[フロー見出し \(595 ページ\)](#)  
[ページ余白の変更 \(745 ページ\)](#)

## フレームの入力

ページテンプレートエディターの個々のページとページテンプレートの両方に、あらゆるサイズと形状のフレームを手動で入力できます。入力できるのは楽曲フレーム、テキストフレーム、グラフィックフレームです。

### 前提条件

- 左ゾーンを表示しておきます。
- 浄書ツールボックスで「**フレーム (Frames)**」を選択しておきます。
- ページテンプレートにフレームを入力する場合は、ページテンプレートエディターでページテンプレートを開いておきます。
- 空白ページにフレームを入力する場合は、そのページを挿入しておきます。

---

### 手順

1. 浄書モードで、フレームパネルの「**フレームを挿入 (Insert Frames)**」セクションで以下のいずれかのフレームタイプを選択します。
  - **楽曲フレームを挿入 (Insert Music Frame)** 
  - **テキストフレームを挿入 (Insert Text Frame)** 
  - **グラフィックフレームを挿入 (Insert Graphics Frame)** 
2. 楽譜領域でクリックアンドドラッグし、選択したフレームタイプを入力します。  
ページ余白の内側に収まる限り、任意のサイズおよび形状のフレームを描画できます。

---

### 結果

マウスを放すと、選択したタイプのフレームがページに挿入されます。

### 手順終了後の項目

- フレームのサイズや形状を変更したり、制限を定義したりできます。
- 楽曲フレームを挿入した場合、フレームに表示する楽譜または空白の譜表を指定できます。
- テキストフレームを挿入した場合、テキストを入力できます。
- グラフィックフレームを挿入した場合、グラフィックファイルを読み込みます。

### 関連リンク

[浄書ツールボックス \(554 ページ\)](#)  
[ゾーンの表示/非表示の切り替え \(48 ページ\)](#)  
[フレームパネル \(559 ページ\)](#)  
[フレーム制限 \(633 ページ\)](#)  
[フレームのサイズ/形状の変更 \(605 ページ\)](#)  
[楽曲フレーム \(609 ページ\)](#)

[テキストフレーム \(616 ページ\)](#)  
[グラフィックフレーム \(632 ページ\)](#)  
[楽曲フレームチェーン \(610 ページ\)](#)  
[楽曲フレームセクター \(612 ページ\)](#)  
[テキストフレームへのテキストの入力 \(624 ページ\)](#)  
[テキストフレームへの枠線の追加 \(628 ページ\)](#)  
[グラフィックフレームへのイメージの読み込み \(633 ページ\)](#)  
[ページテンプレートエディター \(581 ページ\)](#)  
[ページテンプレートの作成 \(575 ページ\)](#)  
[ページの挿入 \(757 ページ\)](#)


## フレームの移動

ページテンプレートを含む各ページ上で、入力した個々のフレームを移動できます。これにより、ページ番号のトークンが記入されたテキストフレームを、ページ外側の角ではなくページの中央に表示させられます。

### 補足

フレームをページ余白にはみだしたり他のページに移動したりはできません。フレームを他のページに表示するには、フレームを他のページにコピーするか、元のページからフレームを削除して新しいページに新しいフレームを作成します。

### 前提条件

- 浄書ツールボックスで「**フレーム (Frames)**」を選択しておきます。
- ページテンプレートでフレームを移動する場合は、ページテンプレートエディターでページテンプレートを開いておきます。

### 手順

1. 浄書モードで、移動するフレームを選択します。

### 補足

マウスを使用する場合、一度に移動できるフレームは1つだけです。

2. 以下のいずれかの操作を行なってフレームを移動します。
  - フレームを通常の幅で上下左右に移動するには、**[Alt/Opt]** を押しながら対応する矢印キーを押します。たとえば **[Alt/Opt]+[←]** を押すと、フレームが左へ移動します。
  - フレームの移動幅を大きくするには、通常のキーボードショートカットに加え **[Ctrl]/[command]** を押します (例: **[Ctrl]/[command]+[Alt/Opt]+[←]**)。
  - フレームの移動幅を中くらいにするには、通常のキーボードショートカットに加え **[Shift]** を押します (例: **[Shift]+[Alt/Opt]+[←]**)。
  - フレームの移動幅を小さくするには、通常のキーボードショートカットに加え **[Ctrl]/[command]+[Shift]** を押します (例: **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[Alt/Opt]+[←]**)。
  - フレームをクリックして任意の方向にドラッグします。

### 結果

選択したフレームが新しい位置に移動します。

## ヒント

プロパティパネルの「**フレーム (Frames)**」グループにあるプロパティを使用してフレームを移動することもできます。

- **高さ (Height)**: 上または下の制限が解除されたフレームに使用できます。
- **幅 (Width)**: 右または左の制限が解除されたフレームに使用できます。
- **左 (Left)/上 (Top)/右 (Right)/下 (Bottom)**: 対応する箇所の制限が解除されたフレームに使用できます。

## 関連リンク

[フレーム制限 \(633 ページ\)](#)

[フレームのコピー \(607 ページ\)](#)

[フレームの入力 \(603 ページ\)](#)

[フレームの削除 \(608 ページ\)](#)

[ページテンプレートの作成 \(575 ページ\)](#)

[音符とアイテムを個々に選択/選択解除する \(460 ページ\)](#)

[大きな選択範囲 \(463 ページ\)](#)


[アイテムの表示位置の移動 \(652 ページ\)](#)

[ページ番号 \(1501 ページ\)](#)

## フレームのサイズ/形状の変更

入力した個々のフレームのサイズと形状を変更できます (ページテンプレートを含む)。

### 前提条件

- 浄書ツールボックスで「**フレーム (Frames)**」を選択しておきます。
- ページテンプレートでフレームのサイズ/形状を変更する場合は、ページテンプレートエディターでページテンプレートを開いておきます。

### 手順

1. 浄書モードで、変更するフレームの端の中央のハンドルを選択します。

#### 補足

一度に選択できるハンドルは、フレームにつき1つです。

2. 以下のいずれかの操作を行なって、ハンドルを移動します。
  - 標準的な幅で上下左右に移動するには、**[Alt/Opt]** を押しながら対応する矢印キーを押します。たとえば、ハンドルを左に移動するには、**[Alt/Opt]+[←]** を押します。
  - 移動幅を大きくするには、通常のキーボードショートカットに加え **[Ctrl]/[command]** を押します (例: **[Ctrl]/[command]+[Alt/Opt]+[←]**)。
  - 移動幅を中くらいにするには、通常のキーボードショートカットに加え **[Shift]** を押します (例: **[Shift]+[Alt/Opt]+[←]**)。
  - 移動幅を小さくするには、通常のキーボードショートカットに加え **[Ctrl]/[command]+[Shift]** を押します (例: **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[Alt/Opt]+[←]**)。
  - ハンドルをクリックして上下左右にドラッグします。

#### 補足

フレームの左右の端のハンドルは左右にのみ移動できます。フレームの上下の端のハンドルは上下にのみ移動できます。たとえば、フレームの幅を広げるには、フレームの右端の中央のハンドルを選択して右に動かします。

- 必要に応じて、動かしたいフレームの他の端に対して手順 1 と 2 を繰り返し、サイズと形状を変更します。

#### 結果

選択したフレームのサイズや形状が変更されます。

#### 補足

- フレームに定義された制限によっては、ページのサイズ、向き、ページ余白に応じて異なるサイズまたは形状でフレームが表示される場合があります。
- プロパティパネルの「**フレーム (Frames)**」グループにあるプロパティを使用してフレームのサイズまたは形状を変更することもできます。
  - 高さ (Height):** 上または下の制限が解除されたフレームに使用できます。
  - 幅 (Width):** 右または左の制限が解除されたフレームに使用できます。
  - 左 (Left)/上 (Top)/右 (Right)/下 (Bottom):** 対応する箇所の制限が解除されたフレームに使用できます。

#### 関連リンク

- [ページテンプレートエディター \(581 ページ\)](#)
- [ページテンプレートの作成 \(575 ページ\)](#)
- [フレーム制限 \(633 ページ\)](#)
- [ページテンプレートのセット \(569 ページ\)](#)
- [ページのサイズと向きの変更 \(744 ページ\)](#)
- [ページ余白の変更 \(745 ページ\)](#)
- [フレーム内に空白の譜表を表示する \(755 ページ\)](#)

## フレームハンドルの選択

フレームの個々のハンドルを選択できます。また、ハンドルが選択された状態とフレーム全体が選択された状態を切り替えることができます。

#### 前提条件

浄書ツールボックスで「**フレーム (Frames)**」を選択しておきます。

#### 手順

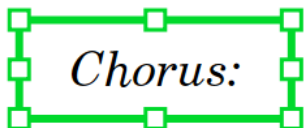
- 浄書モードで、以下のいずれかの操作を行なって、フレームハンドルを選択します。
  - フレームのいずれかのハンドルを選択し、**[→]/[←]/[↑]/[↓]** を押すとフレームの周囲の別のハンドルを選択できます。
  - フレームを選択し、**[Tab]** を押すと左上角のハンドルが選択された状態になり、**[→]/[←]/[↑]/[↓]** を押すとフレームの周囲の別のハンドルを選択できます。
  - フレームのハンドルをクリックします。

#### 補足

一度に選択できるハンドルは、フレームにつき1つです。

2. フレーム全体が選択された状態に戻すには、**[Tab]** を押します。

例



テキストフレーム全体が選択された状態



上部中央のハンドルが選択されたテキストフレーム

関連リンク

[ページテンプレートのカスタマイズ \(582 ページ\)](#)


## フレームのコピー

たとえば、同じフレームを複数のページのまったく同じ位置に表示したい場合などに、個々のフレームを同じレイアウト内の別のページにコピーできます。また、ページ上でフレームを複製したい場合などには、フレームを同じページにコピーすることもできます。

#### 補足

- 以下の手順は、ページテンプレート上のフレームには適用されません。ページテンプレートをカスタマイズする際に、左ページから右ページ、またはその逆にフレームをコピーできます。ただし、異なるページテンプレート間でフレームをコピーすることはできません。
- 別のレイアウトのページにフレームをコピーすることはできません。同じフレームを複数のレイアウトに表示したい場合は、カスタムページテンプレートを作成します。

前提条件

- 右ゾーンを表示しておきます。
- 浄書ツールボックスで「**フレーム (Frames)**」 を選択しておきます。

手順

1. 浄書モードで、フレームを別のページにコピーするレイアウトを開きます。
2. 楽譜領域で、コピーするフレームを選択します。

#### ヒント

フレームは複数ページにわたって配置できます。

3. ページパネルの「**ページ (Pages)**」セクションで、選択したフレームのコピー先となるページを選択します。

隣接するページを選択するには **[Shift]** を押しながらクリックし、個別のページを選択するには **[Ctrl]/[command]** を押しながらクリックします。

4. 「ページ (Pages)」セクションで右クリックし、コンテキストメニューから「**選択したフレームを選択したページにコピー (Copy Selected Frames to Selected Pages)**」を選択します。
- 

#### 結果

選択したすべてのフレームが、選択したページの同じ位置にコピーされます。フレームを同じページにコピーした場合は、コピーしたフレームが元のフレームに完全に重なります。


#### 関連リンク

- [ページパネル \(562 ページ\)](#)
- [ゾーンの表示/非表示の切り替え \(48 ページ\)](#)
- [レイアウトの切り替え \(47 ページ\)](#)
- [ページの形式変更 \(584 ページ\)](#)
- [ページテンプレートの作成 \(575 ページ\)](#)
- [ページテンプレートのカスタマイズ \(582 ページ\)](#)
- [ページテンプレートエディター \(581 ページ\)](#)

## フレームの削除

個々のページとページテンプレートのどちらからでもフレームを削除できます。楽曲フレームを削除すると、ページテンプレートフレームチェーンとフレームの順番によっては、楽譜の表示位置が変わる場合があります。

#### 前提条件

- 浄書ツールボックスで「**フレーム (Frames)**」を選択しておきます。
- ページテンプレートからフレームを削除する場合は、ページテンプレートエディターでページテンプレートを開いておきます。

#### 手順

1. 浄書モードで、削除するフレームを選択します。
  2. **[Backspace]** 又は **[Delete]** を押します。
- 

#### 結果

選択したフレームが削除されます。楽曲フレームを削除すると、同じ楽曲フレームチェーン内の他の楽曲フレームの順番が自動的に更新されます。たとえば、同じ楽曲フレームチェーン内に3つの楽曲フレームがある場合、2番めのフレームを削除すると、3番めのフレームが楽曲フレームチェーンの2番めのフレームになり、それに応じて表示される楽譜も更新されます。

#### 補足

- 個々のページのページテンプレートの楽曲フレームを削除すると、そのページテンプレートフレームチェーンに割り当てられたフローを表示するために必要なページが自動的に追加されます。特定のフローを非表示にする必要がある場合、フレームを削除するよりは、レイアウトまたはページテンプレートフレームチェーンからフローを削除することをおすすめします。
  - 「**最初 (First)**」のページテンプレートからすべての楽曲フレームを削除した場合、それまで自動的に「**最初 (First)**」のページテンプレートを使用していたページには、ページテンプレートのセットの「**デフォルト (Default)**」のページテンプレートが使用されます。さらに「**デフォルト (Default)**」のページテンプレートからもすべての楽曲フレームを削除した場合は、楽譜もページも表示されなくなります。
- 

#### 関連リンク

- [浄書ツールボックス \(554 ページ\)](#)



- ページテンプレートエディター (581 ページ)
- ページテンプレートの作成 (575 ページ)
- 楽曲フレームチェーン (610 ページ)
- レイアウトへのフローの割り当て (193 ページ)
- フレームチェーンへのフローの割り当て (615 ページ)
- 楽曲フレームの順番の変更 (614 ページ)
- フレームの入力 (603 ページ)
- フレームの移動 (604 ページ)
- ページテンプレート (567 ページ)
- ページテンプレートのセット (569 ページ)
- レイアウトへのページテンプレートのセットの適用 (746 ページ)

## 楽曲フレーム

楽曲フレームには、プロジェクト内の楽譜が指定した順番で表示されます。ページテンプレートの楽曲フレームとレイアウトの楽曲フレームを使用して、プロジェクトのどの部分を表示するかを制御できます。

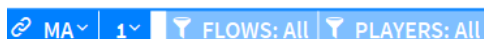
どちらのタイプの楽曲フレームも、選択したプレーヤーやフローのみ、または空白の譜表のみをフィルタリングするなど、プロジェクトに入力した楽譜と記譜記号を楽曲フレームセクターに応じて表示できます。



ページテンプレートの楽曲フレームの例

### ページテンプレートの楽曲フレーム

ページテンプレートの楽曲フレームはページテンプレートにのみ存在しています。つまり、ページテンプレートの楽曲フレームの入力と編集はページテンプレートエディターでのみ行なえます。これはページテンプレートフレームチェーンにのみ割り当てることができます。そのため、レイアウト内の個々のページでは、ページテンプレートの楽曲フレームのフローセクターとプレーヤーセクターはグレー表示されます。



ページテンプレートの楽曲フレームでグレー表示されたフローセクターとプレーヤーセクター

初期設定では、Dorico Pro に用意されたページテンプレートのセットに含まれるページテンプレートには、1つのページテンプレートフレームチェーンに割り当てられたページテンプレートの楽曲フレームが含まれています。このフレームチェーンは、各レイアウト内のすべてのフローのすべてのプレーヤーを表示するように設定されています。初期設定では、これらのページテンプレートはレイアウトタイプに応じてプロジェクト内のすべてのレイアウトのすべてのページに適用されるように設定されています。

ページテンプレートの楽曲フレームは1つのページテンプレートに複数入力できるほか、そのサイズと形状を任意に変更できます。個別のページテンプレートの楽曲フレームを同じページに関連付けたい場合は、それらの楽曲フレームを同じフレームチェーンに割り当てることができます。

## レイアウトの楽曲フレーム

レイアウトの楽曲フレームは、レイアウト内の個々のページにのみ存在しています。つまり、レイアウトの楽曲フレームの入力と編集は楽譜領域の個々のレイアウトでのみ行なえます。レイアウトの楽曲フレームは、ページテンプレートフレームチェーンとレイアウトフレームチェーンの両方に割り当てることができます。ただし、レイアウトフレームをページテンプレートフレームチェーンに割り当てても、ページテンプレートには影響しません。

レイアウトの楽曲フレームは1つのページに複数入力できるほか、そのサイズと形状を任意に変更できます。たとえば、レイアウトの楽曲フレームを使用すると、脚注またはインデックス内の異なるフローから楽譜を一部抜粋して挿入できます。

個別のレイアウトの楽曲フレームを同じページに関連付けたい場合は、それらの楽曲フレームを同じフレームチェーンに割り当てることができます。

### 重要

- レイアウトの楽曲フレームは、ページテンプレートより優先されます。レイアウトページの優先をすべて解除すると、レイアウトの楽曲フレームがすべて削除されます。
- レイアウトの楽曲フレームにはフロー見出しを表示できません。

### 関連リンク

[楽曲フレームセクター \(612 ページ\)](#)

[ページテンプレート \(567 ページ\)](#)

[ページの形式変更 \(584 ページ\)](#)

[ページテンプレートエディター \(581 ページ\)](#)

[フレームの入力 \(603 ページ\)](#)

[フレームのサイズ/形状の変更 \(605 ページ\)](#)

[フロー見出し \(595 ページ\)](#)

[フレーム内に空白の譜表を表示する \(755 ページ\)](#)

## 楽曲フレームチェーン

楽曲フレームチェーンは、楽譜の同じ選択部分をあらかじめ定義した順番で(多くの場合連続で)表示する楽曲フレームの集合のことです。楽曲フレームチェーンは、楽曲フレームを入力したりページテンプレートを読み込んだりすると自動的に作成され、楽曲フレームをいくつでも含めることができます(1つのみでもかまいません)。

楽曲フレームセクターを使用して、各楽曲フレームチェーンに表示するプレーヤーとフローを制御できます。

Dorico Pro にはさまざまなタイプのフレームチェーンがあります。

### ページテンプレートフレームチェーン

ページテンプレートフレームチェーンの作成と詳細な編集は、ページテンプレートエディター内のページテンプレートでのみ行なえます。個々のレイアウト内でページテンプレートフレームチェーンのフローフィルターおよびプレーヤーフィルターを変更することはできません。ページテンプレートに楽曲フレームを作成すると、フレームチェーンが自動的に開始されます。

「MA」のように「M」で始まるフレームチェーンは、ページテンプレートフレームチェーンです。「MA」と「MH」のように、各ページに複数のページテンプレートフレームチェーンを作成できます。

デフォルトのページテンプレートには、レイアウト内のすべてのフローとプレーヤーを表示するよう設定されたフレームチェーンが1つ含まれています。そのため、これらのページテンプレートを使用するすべてのレイアウト内のすべてのフローを表示するのに必要なページとフレームが Dorico Pro によって自動的に作成されます。

#### 補足

- 「**デフォルト (Default)**」のページテンプレートによって、Dorico Pro が自動的に使用するページテンプレートフレームチェーンが決まります。「**最初 (First)**」のページテンプレートに「**デフォルト (Default)**」のページテンプレートと同じフレームチェーンに割り当てられた楽曲フレームが含まれていない場合、Dorico Pro はそれを自動的に使用できないため、かわりにすべてのページに「**デフォルト (Default)**」のページテンプレートが使用されます。
- 同じ楽曲のフレームチェーンに含まれるフレームは同じフローとプレーヤーを表示する必要があります。たとえば、フレームチェーンの最初のフレームにはバイオリンのみを表示し、2 番めのフレームにはすべてのインストゥルメントを表示する、といったことはできません。
- Dorico Pro では、レイアウト内のフローを一度だけでなく何度でも表示させることができます。そのため、ページテンプレートフレームチェーンではなくレイアウトフレームチェーンにフローを表示するなど、特定のレイアウト内のいくつかのフローの形式設定を変更する一方で、これらのフローを一度しか表示させたくない場合、ページテンプレートフレームチェーンの「**フローでフィルター (Filter by Flows)**」リストからこれらのフローを削除する必要があります。これは同じページテンプレートを使用しているすべてのレイアウトに自動的に表示されるフローに影響するため、このような場合には形式設定を変更したいレイアウトに対してページテンプレートを個別に作成することをおすすめします。
- 読み込み元のページテンプレートのセットで元々割り当てられていたフレームチェーンに関係なく、読み込まれたページテンプレートの楽曲フレームが独自のフレームチェーンに自動的に割り当てられます。

## レイアウトフレームチェーン

レイアウトフレームチェーンの作成と編集は、レイアウトの個々のページ上でのみ行なえます。楽曲フレームを作成してレイアウト内のレイアウトフレームチェーンに割り当てた場合、その楽曲フレームはそのレイアウト内のそのページにのみ表示され、独自のフレームチェーンを開始します。楽曲フレームが後続のページに続くようにするには、チェーンを表示するレイアウト内のすべてのページに楽曲フレームを作成し、これらすべてのフレームを同じレイアウトフレームチェーンに割り当てする必要があります。

「LA」のように「L」で始まるフレームチェーンはレイアウトフレームチェーンです。「LA」と「LB」のように、各ページに複数のレイアウトフレームチェーンを作成できます。


#### 補足

- 同じ楽曲のフレームチェーンに含まれるフレームは同じフローとプレーヤーを表示する必要があります。たとえば、フレームチェーンの最初のフレームにはバイオリンのみを表示し、2 番めのフレームにはすべてのインストゥルメントを表示する、といったことはできません。
- レイアウトフレームチェーンにフローを割り当てても、レイアウトに適用されているページテンプレート内のフレームチェーンがこれらのフローを含むように設定されている場合は、ページテンプレートフレームチェーンにもこれらのフローが表示されます。初期設定では、ページテンプレートフレームチェーンはプロジェクト内のすべてのフローを表示するように設定されています。

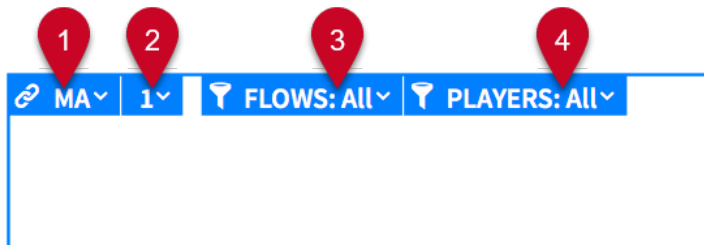
#### 関連リンク

- [ページテンプレート \(567 ページ\)](#)
- [ページテンプレートエディター \(581 ページ\)](#)
- [Dorico のレイアウト \(27 ページ\)](#)
- [ページテンプレートの読み込み \(578 ページ\)](#)
- [フレームチェーンへの楽曲フレームの割り当て \(613 ページ\)](#)
- [フレームチェーンへのフローの割り当て \(615 ページ\)](#)
- [フレームチェーンへのプレーヤーの割り当て \(616 ページ\)](#)
- [フレームの削除 \(608 ページ\)](#)

## 楽曲フレームセクター

浄書ツールボックスで「フレーム (Frames)」を選択している場合、楽曲フレームには、各フレームチェーンに割り当てるフローとプレーヤーを変更するなどして、フレームに表示する楽譜を変更できるセクターが表示されます。

楽曲フレームのセクターを使用すると、フレームチェーンに表示するフローとプレーヤー、および選択した楽曲をページのフレームに表示する順番を制御できます。フレームチェーンにはフレームをいくつでも含めることができます (1 つのみでもかまいません)。



各楽曲フレームには、以下のセクターが表示されます。

### 1 フレームチェーン (Frame Chain)

フレームの現在のフレームチェーンが表示され、フレームが割り当てられているフレームチェーンを変更できます。「M」で始まるフレームチェーンはページテンプレートフレームチェーン、「L」で始まるフレームチェーンはレイアウトフレームチェーンです。

2 番目の文字は、同じタイプの異なるフレームチェーンを識別するためのものです。これは自動的に生成され、フレームチェーンを作成した順番が反映されます。たとえば、「LA」はレイアウト内で作成した最初のレイアウトフレームチェーンで、「LB」は 2 番めに作成したレイアウトフレームチェーンです。

### 2 フレームの順番 (Frame Order)

同じページの複数の楽曲フレームが同じフレームチェーンに割り当てられている場合に、フレーム内に表示される楽譜の順番を指定できます。たとえば、「フレームの順番 (Frame Order)」を「1」にすると、そのフレームはフレームチェーン内の最初のフレームになります。

### 3 フローでフィルター (Filter by Flow)

フレームチェーンに表示するフローを変更したり、楽曲フレームに空白の譜表を表示するように選択したりできます。たとえば、プロジェクトに複数のフローがある場合に、1 つのフローのみ、選択したフロー、またはすべてのフローを選択して表示できます。

### 4 プレーヤーでフィルター (Filter by Player)

フレームチェーンに表示するプレーヤーを変更できます。たとえば、プロジェクトに複数のプレーヤーがいる場合に、1 人のプレーヤーのみ、複数のプレーヤー、またはすべてのプレーヤーを選択して表示できます。

#### 補足

ページテンプレートの楽曲フレームにある「フローでフィルター (Filter by Flow)」セクターと「プレーヤーでフィルター (Filter by Player)」セクターは、ページテンプレートエディター内のページテンプレートでのみ編集できます。

#### 関連リンク

[浄書ツールボックス \(554 ページ\)](#)

[フレーム制限 \(633 ページ\)](#)

[フレームのサイズ/形状の変更 \(605 ページ\)](#)

[フレーム内に空白の譜表を表示する \(755 ページ\)](#)


## フレームチェーンへの楽曲フレームの割り当て

楽曲フレームが属するフレームチェーンを変更できます。これにより、たとえばピアノの二重奏の楽譜などで、左右のページに異なるプレーヤーを表示できます。これはページテンプレートの楽曲フレームとレイアウトの楽曲フレームの両方に当てはまります。


### 補足

- ページに新規楽曲フレームを作成すると、そのタイプに関係なく、常に新規のフレームチェーンが開始されます。
- 「最初 (First)」のページテンプレートに「デフォルト (Default)」のページテンプレートと同じフレームチェーンに割り当てられた楽曲フレームが含まれていない場合、Dorico Pro はそれを自動的に使用できないため、かわりにすべてのページに「デフォルト (Default)」のページテンプレートが使用されます。

### 前提条件

- 浄書ツールボックスで「フレーム (Frames)」を選択しておきます。
- ページテンプレートで楽曲フレームをフレームチェーンに割り当てる場合は、ページテンプレートエディターでページテンプレートを開いておきます。

### 手順

1. 浄書モードで、フレームチェーンを変更する楽曲フレーム内で「フレームチェーン (Frame Chain)」をクリックします。
2. 「フレームチェーン (Frame Chain)」リストで、楽曲フレームを割り当てるフレームチェーンを選択します。

### 補足

- ページテンプレートエディターのフレームにレイアウトフレームチェーンを選択することはできません。
  - 新しいフレームチェーンを作成するには、「リンクを解除 (Unlink)」をクリックします。
3. セレクターの枠外をクリックしてセレクターを閉じます。

### 結果

楽曲フレームが選択したフレームチェーンに割り当てられます。表示するプレーヤーやフローなど、フレームチェーンのすべての設定がフレームに適用されます。

### 手順終了後の項目

フレームチェーンに割り当てられたフローとプレーヤーを変更できます。


### 関連リンク

- [ページテンプレートエディター \(581 ページ\)](#)
- [ページテンプレートの作成 \(575 ページ\)](#)
- [フレームチェーンへのフローの割り当て \(615 ページ\)](#)
- [フレームチェーンへのプレーヤーの割り当て \(616 ページ\)](#)
- [フレーム内に空白の譜表を表示する \(755 ページ\)](#)
- [レイアウトへのページテンプレートのセットの適用 \(746 ページ\)](#)
- [「最初 \(First\)」のページテンプレートをいつ使用するかの変更 \(761 ページ\)](#)

## フレームチェーンから楽曲フレームのリンクを解除する


たとえば、楽曲フレームを削除することなく新規のフレームチェーンに楽曲フレームを割り当てる場合などに、フレームチェーンから楽曲フレームのリンクを解除できます。

### 前提条件

- 浄書ツールボックスで「**フレーム (Frames)**」を選択しておきます。
- ページテンプレート上で楽曲フレームチェーンからフレームのリンクを解除する場合は、ページテンプレートエディターでページテンプレートを開いておきます。

---

### 手順

1. 浄書モードで、リンク解除する楽曲フレーム内で「**フレームチェーン (Frame Chain)**」をクリックします。
2. 「**フレームチェーン (Frame Chain)**」リストの下部にある「**リンクを解除 (Unlink)**」をクリックします。

---

### 結果


前のフレームチェーンから楽曲フレームのリンクが解除されます。リンクを解除したフレームに、新しいフレームチェーンが自動的に作成されます。

- レイアウトフレームチェーンからレイアウトの楽曲フレームのリンクを解除すると、新規のレイアウトフレームチェーンに変更されます。
- ページテンプレートフレームチェーンからレイアウトの楽曲フレームのリンクを解除すると、新規のレイアウトフレームに変更されます。
- ページテンプレートフレームチェーンからページテンプレートの楽曲フレームのリンクを解除すると、新規のページテンプレートフレームチェーンに変更されます。

## 楽曲フレームの順番の変更


1つのページの同じフレームチェーンに同じタイプの楽曲フレームが複数ある場合、フレームに表示する楽譜の順番を変更できます。

### 前提条件

- 浄書ツールボックスで「**フレーム (Frames)**」を選択しておきます。
- ページテンプレートで楽曲フレームの順番を変更する場合は、ページテンプレートエディターでページテンプレートを開いておきます。

---

### 手順

1. 浄書モードで、順番を変更する楽曲フレームのうち1つで「**フレームの順番 (Frame Order)**」をクリックします。
2. 「**フレームの順番 (Frame Order)**」メニューから、このフレームの序数を選択します。
3. セレクターの枠外をクリックしてセレクターを閉じます。

---

### 結果

前にその番号が割り当てられていたフレームと序数を入れ替えることで、選択したフレームのフレームチェーン内の位置が変更されます。たとえば、フレームチェーン内の2番めのフレームの番号を「**1**」に変更すると、元々「**1**」の番号が割り当てられていたフレームのフレームチェーン内の番号が「**2**」になります。


## フレームチェーンへのフローの割り当て

たとえば、一部のフローをページテンプレートフレームチェーンではなくレイアウトフレームチェーンに表示するためにページテンプレートフレームチェーンから除外したい場合など、各フレームチェーンに含めるフローを変更できます。


### 補足

- ページテンプレートフレームチェーンとレイアウトフレームチェーンの両方にフローを割り当てることができます。ただし、レイアウトフレームチェーンに割り当てられたフローは個々のレイアウトでのみ変更でき、ページテンプレートフレームチェーンに割り当てられたフローはページテンプレートエディターでのみ変更できます。
- 割り当てられたフローを変更すると、同じフレームチェーン内のすべてのフレームに影響します。

### 前提条件

- 浄書ツールボックスで「**フレーム (Frames)**」を選択しておきます。
- ページテンプレートの楽曲フレームチェーンに割り当てられたフローを変更する場合は、ページテンプレートエディターでページテンプレートを開いておきます。

### 手順

1. 浄書モードで、割り当てられたフローを変更するフレームチェーンに属する楽曲フレーム内で「**フロー (Flows)**」 **FLOW: All** をクリックします。
2. 「**フローでフィルター (Filter by Flow)**」リストで、以下のいずれかの操作を行なってフレームチェーンに割り当てるフローを選択します。
  - すべてのフローを割り当てるには、「**すべて (All)**」をクリックします。
  - 特定のフローを割り当てるには、「**選択中 (Selected)**」をクリックして割り当てるフローをオンにします。
  - フローを割り当てない場合は、「**空白の譜表 (Blank Staves)**」をクリックします。
3. セレクターの枠外をクリックしてセレクターを閉じます。

### 結果

同じフレームチェーン内のすべてのフレームが更新され、すべてのフロー、選択したフローのみ、または空白の譜表が表示されます。

### 補足

ページテンプレートの楽曲フレームに割り当てられたフローを変更した場合、そのページテンプレートのセットが適用されているレイアウト内のページ数が自動的に更新され、レイアウト内の配置設定が変化することがあります。たとえば、ページテンプレートフレームチェーンに追加のフローを割り当てた場合、そのフローを表示するのに必要な追加のページとフレームが、対応するレイアウトに追加されません。

### 関連リンク

- [ページテンプレートエディター \(581 ページ\)](#)
- [ページテンプレートの作成 \(575 ページ\)](#)
- [ページテンプレートのカスタマイズ \(582 ページ\)](#)
- [配置設定 \(784 ページ\)](#)
- [フレーム内に空白の譜表を表示する \(755 ページ\)](#)
- [レイアウトへのページテンプレートのセットの適用 \(746 ページ\)](#)
- [レイアウトへのフローの割り当て \(193 ページ\)](#)
- [ページの削除 \(759 ページ\)](#)


## フレームチェーンへのプレイヤーの割り当て

たとえば、ピアノの二重奏を記譜する際に一方のピアノを左ページに、もう一方のピアノを右ページに表示する場合など、各フレームチェーンに含めるプレイヤーを変更できます。


### 補足

- ページテンプレートフレームチェーンとレイアウトフレームチェーンの両方にプレイヤーを割り当てることができます。ただし、レイアウトフレームチェーンに割り当てられたプレイヤーは個々のレイアウトでのみ変更でき、ページテンプレートフレームチェーンに割り当てられたプレイヤーはページテンプレートエディターでのみ変更できます。
- 割り当てられたプレイヤーを変更すると、フレームチェーン内のすべてのフレームに影響します。

### 前提条件

- 浄書ツールボックスで「**フレーム (Frames)**」を選択しておきます。
- ページテンプレートの楽曲フレームチェーンに割り当てられたプレイヤーを変更する場合は、ページテンプレートエディターでページテンプレートを開いておきます。

### 手順

1. 浄書モードで、割り当てられたプレイヤーを変更するフレームチェーンに属する楽曲フレーム内で「**プレイヤー (Players)**」 **PLAYERS: All** をクリックします。
2. 「**プレイヤーでフィルター (Filter by Player)**」リストで、楽曲フレームに割り当てるプレイヤーをオンにします。
3. セレクターの枠外をクリックしてセレクターを閉じます。

### 結果

同じフレームチェーン内のすべてのフレームが更新され、選択したプレイヤーが表示されます。

### 補足

- ページテンプレートの楽曲フレームに割り当てられたプレイヤーを変更した場合、そのページテンプレートのセットが適用されているレイアウト内のページ数が自動的に更新され、レイアウト内の配置設定が変化することがあります。たとえば、ページテンプレートフレームチェーンからプレイヤーを削除すると、対応するレイアウトで必要なページとフレームの数が少なくなることがあります。
- 譜表サイズは自動的に変更されません。つまり、フレームチェーン内の小さなフレーム内で譜表が重なる可能性があります。

### 関連リンク

[譜表サイズ \(772 ページ\)](#)

[フレームチェーンへの楽曲フレームの割り当て \(613 ページ\)](#)

[レイアウトへのページテンプレートのセットの適用 \(746 ページ\)](#)

[ページテンプレートエディター \(581 ページ\)](#)

[ページテンプレートの作成 \(575 ページ\)](#)

[配置設定 \(784 ページ\)](#)

## テキストフレーム

テキストフレームを使用すると、トークンを含むテキストを、フローのリズム上の位置とは関係なくページ上に表示できます。

フレームごとのテキストエディターを開くには、以下のいずれかの操作を行ないます。



- 浄書ツールボックスの「**フレーム (Frames)**」を選択し、テキストフレームを選択して **[Return]** を押します。

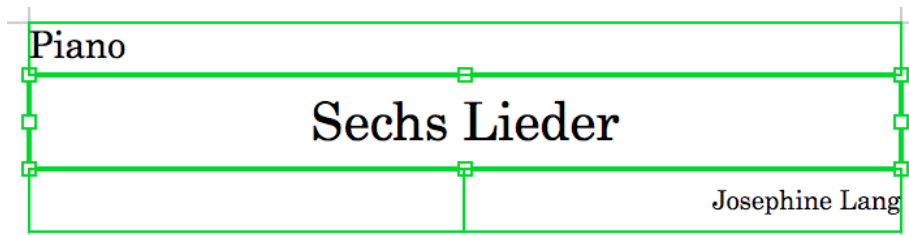
#### ヒント

フレームハンドルの選択とフレーム全体の選択は、**[Tab]** を押して切り替えることができます。

- テキストフレームの内側でダブルクリックします。

#### 例

初期設定では、パートレイアウトの最初のページの上部に4つのテキストフレームがあります。これらのフレームには、レイアウト名、プロジェクトタイトル、プロジェクトの作詞者、プロジェクトの作曲者が表示されます。



プロジェクトタイトルのフレームが選択された、ピアノパートのレイアウトの最初のページで 사용되는テキストフレーム

#### 補足

ページテンプレートではなく個々のページにテキストフレームを追加すると、ページの形式変更の一種であるページテンプレートの優先が設定されます。

#### 関連リンク

- [テキストの形式設定 \(929 ページ\)](#)
- [フレームの入力 \(603 ページ\)](#)
- [「音楽テキストを挿入 \(Insert Music Text\)」ダイアログ \(423 ページ\)](#)
- [フレームのサイズ/形状の変更 \(605 ページ\)](#)
- [ページの形式変更 \(584 ページ\)](#)
- [テキストのタイプ \(1764 ページ\)](#)
- [テキストの書き出し \(113 ページ\)](#)
- [「プロジェクト情報 \(Project Info\)」ダイアログ \(81 ページ\)](#)
- [ページテンプレート \(567 ページ\)](#)

## トークン

トークンは、プロジェクトに保存されたタイトル、作曲者、日時などの情報の代用として使用できるコードです。これにより、プロジェクトに誤った情報や古い情報を表示するリスクを減らすことができます。

たとえば、プロジェクトのタイトルにトークンを使用した場合、「**プロジェクト情報 (Project Info)**」ダイアログでプロジェクトタイトルを何度でも変更でき、そのたびにプロジェクト内のすべてのレイアウトのプロジェクトタイトルが自動的に更新されます。

トークンは「**プロジェクト情報 (Project Info)**」ダイアログの情報を参照でき、プロジェクト全体の情報を参照することも、フローごとの情報を個別に参照することもできます。また、現在の日時やプロジェクトが最後に保存された日時を参照することもできます。

## 補足

- トークンはテキストフレームでのみ使用できます。テキストアイテムではトークンを使用できません。
- フロートークンは、同一ページにあり、テキストフレームの上辺より下にある一番近いフローを参照します。フロートークンが含まれているテキストフレームの上部が組段内の最初の譜表の第5線に揃っているかそれより上にある場合、フロートークンはそのフローを参照します。

**{@flow2title@}**のように、フロートークンが参照するフロー番号を指定することもできます。この場合、トークンの位置に関係なく、常に指定したフローが表示されます。

タイトルページのように楽譜が含まれていないページでフロー情報を参照するトークンを使用するには、トークンでフロー番号を指定する必要があります。たとえば、楽曲フレームが含まれていないタイトルページで **{@flowtitle@}** を使用するとトークンは情報を表示しませんが、**{@flow1title@}** はプロジェクトの最初のフローのタイトルを表示します。

各フローのフロー番号は、設定モードの「**フロー (Flows)**」パネルで確認できます。

- カーソルがテキストフレーム内にある場合、コンテキストメニューから利用できるすべてのトークンにアクセスできます。コンテキストメニュー内のトークンはサブメニューにまとめられています。

Dorico Pro では以下のトークンを使用できます。

## 全般トークン

説明	トークン
プロジェクトファイル名	<b>{@projectfilename@}</b>
プロジェクトの保存場所のパス (プロジェクトファイル名を含む)	<b>{@projectfilepath@}</b>
スマートクォートを使用した、プロジェクト全体のデュレーション (単位: 分および秒)	<b>{@projectDuration@}</b>
ストレートクォートを使用した、プロジェクト全体のデュレーション (単位: 分および秒)	<b>{@projectDurationStraightQuotes@}</b>
プライムを使用した、プロジェクト全体のデュレーション (単位: 分および秒)	<b>{@projectDurationPrimes@}</b>

## プレーヤートークン

説明	トークン
プレーヤーリスト	<b>{@playerlist@}</b>
プレーヤー名	<b>{@playernames@}</b>

## レイアウトトークン

説明	トークン
レイアウト名	{@layoutname@}
設定モードの「 <b>レイアウト (Layouts)</b> 」パネルで設定したレイアウト番号	{@layoutnumber@}
レイアウトの移調	{@layouttransposition@}
補足	
インストゥルメント言語設定を使用します。	

## 譜表ラベルのトークン

譜表ラベル	トークン
現在のレイアウト内のプレーヤーの完全な譜表ラベル	{@staffLabelsFull@}
現在のレイアウト内のプレーヤーの省略された譜表ラベル	{@staffLabelsShort@}

### 補足

- パートレイアウトの名前を表示する代替の方法として、パートレイアウトの最初のページの左上に表示されるデフォルトの {@layoutName@} トークンを使用するかわりに、譜表ラベルのトークンを使用できます。
- 譜表ラベルのトークンは、最初の小節線の前に表示される表示ラベルの外観とまったく同じにはならない可能性があります。ただし、譜表ラベルのトークンには、譜表ラベルへの移調の表示方法に関するレイアウトごとのオプションが反映されます。

## 音楽記号のトークン

音楽記号	トークン
フラット記号: ♭	{@flat@}
シャープ記号: ♯	{@sharp@}
ナチュラル記号: ♮	{@natural@}
ト音記号	{@gClef@}
ヘ音記号	{@fClef@}

音楽記号	トークン
アルト記号 (ハ音記号)	{@cClef@}
フェルマータ (上)	{@U+E4C0@}

### ヒント

- このリストにはすべてのエントリーが含まれているわけではなく、トークン内にはあらゆる SMuFL 記号のコードポイントを入力できます。必要なコードポイントは、オンラインの SMuFL 仕様情報で確認できます。
- テキストフレームに入力された音楽記号のトークンは、自動的に**音楽テキスト**の文字スタイルを使用します。音楽テキストは、初期設定では Bravura Text に設定されています。
- 「**プロジェクト情報 (Project Info)**」ダイアログのフィールドに音楽記号のトークンを含めることができます。たとえば、「**タイトル (Title)**」フィールドに「**B{@flat@} メジャーの交響曲**」と入力すると、対応するタイトルトークンを使用したテキストフレームに表示されるタイトルは「B♭ メジャーの交響曲」となります。
- 「**音楽テキストを挿入 (Insert Music Text)**」ダイアログを使用して、テキストアイテムやテキストフレームに音楽記号を入力することもできます。

### プロジェクト/フロー情報のトークン

「プロジェクト情報 (Project Info)」ダイアログのフィールド	プロジェクトページのトークン	フローページのトークン
タイトル (Title)	{@projecttitle@}	{@flowtitle@}
サブタイトル (Subtitle)	{@projectsubtitle@}	{@flowsubtitle@}
献呈 (Dedication)	{@projectdedication@}	{@flowdedication@}
作曲者 (Composer)	{@projectcomposer@}	{@flowcomposer@}
編曲者 (Arranger)	{@projectarranger@}	{@flowarranger@}
作詞者 (Lyricist)	{@projectlyricist@}	{@flowlyricist@}
アーティスト (Artist)	{@projectartist@}	{@flowartist@}
写譜者 (Copyist)	{@projectcopyist@}	{@flowcopyist@}
出版社 (Publisher)	{@projectpublisher@}	{@flowpublisher@}
編集者 (Editor)	{@projecteditor@}	{@floweditor@}
著作権 (Copyright)	{@projectcopyright@}	{@flowcopyright@}
作品番号 (Work number)	{@projectworknumber@}	{@flowworknumber@}

「プロジェクト情報 (Project Info)」ダイアログのフィールド	プロジェクトページのトークン	フローページのトークン
作曲者の生没年 (Composer dates)	{@projectcomposerdates@}	{@flowcomposerdates@}
作曲年 (Composition year)	{@projectcompositionyear@}	{@flowcompositionyear@}
その他の情報 (Other information)	{@projectotherinfo@}	{@flowotherinfo@}

## フロートークン

フローごとのトークンの機能	トークン
プロジェクト内の位置に応じた、現在のフローのフロー番号	{@flownumber@}
現在のレイアウトでの位置に応じた、現在のフローのフロー番号	{@flowInLayoutNumber@}
小文字のローマ数字 (iii や xvi など) で表示された、現在のフローのフロー番号	{@flowNumberRomanLower@}
大文字のローマ数字 (III や XVI など) で表示された、現在のフローのフロー番号	{@flowNumberRomanUpper@}
スマートクォートを使用した、現在のフローのデュレーション (単位: 分および秒)	{@flowDuration@}
ストレートクォートを使用した、現在のフローのデュレーション (単位: 分および秒)	{@flowDurationStraightQuotes@}
プライムを使用した、現在のフローのデュレーション (単位: 分および秒)	{@flowDurationPrimes@}
指定したフロー「n」のデュレーション (単位: 分および秒、例: {@flow3Duration@})	{@flownDuration@}、 {@flownDurationStraightQuotes@}、または {@flownDurationPrimes@}

## ページ番号のトークン

ページ番号のトークンの機能	トークン
ページ番号	{@page@}
レイアウト内のページの総数	{@pageCount@}

ページ番号のトークンの機能	トークン
現在のフロー内のこのページの番号 (フローの最初のページを 1 とし、表示ページ番号のないページも含む)	{@flowPage@}
現在のフロー内のページの総数	{@flowPageCount@}
指定したフロー「n」が始まる表示ページ番号 (例: {@flow3FirstPage@})	{@flownFirstPage@}

#### 補足

トークン {@flowPage@} および {@flowPageCount@} には、そのトークンが使用されているページの左上角に一番近い楽曲フレームの最初の組段の開始位置で有効になっているフローのみが反映されます。

### 日時のトークン: プロジェクトが最後に保存された日時

日時の説明	日時の例	トークン
日時の標準文字列 (ロケールに依存)	12/31/17 11:10:12	{@projectdate@}
4桁の西暦	2017	{@projectdateyear@}
西暦の下2桁	17	{@projectdateyearshort@}
月の正式名称 (ロケールに依存)	October	{@projectdatemonth@}
月の略称 (ロケールに依存)	Oct	{@projectdatemonthshort@}
月の10進数表記 (01 ~ 12)	10	{@projectdatemonthnum@}
曜日の正式名称 (ロケールに依存)	Friday	{@projectdateday@}
曜日の略称 (ロケールに依存)	Fri	{@projectdatedayshort@}
日付の10進数表記 (1 ~ 31)	24	{@projectdatedaynum@}
ISO 8601 形式の日付	2017-12-31	{@projectdateymd@}
月、日付、年	December 31, 2017	{@projectdatemdy@}
日付、月、年	31 December 2017	{@projectdatedmy@}
時刻表示 (ロケールに依存)	11:10:12	{@projectdatetime@}
時:分 (24時間表記)	23:10	{@projectdatetimeHHMM@}

日時の説明	日時の例	トークン
時:分:秒 (24 時間表記)	13:02:24	{@projectdatetimeHHMMSS@}
時 (24 時間表記)	23	{@projectdatetimehour24@}
時 (12 時間表記)	11	{@projectdatetimehour12@}
分の 10 進数表記 (00 ~ 59)	10	{@projectdatetimeminute@}
秒の 10 進数表記 (00 ~ 59)	44	{@projectdatetimesecond@}

### 日時のトークン: 現在の日時

日時の説明	日時の例	トークン
日時の標準文字列 (ロケールに依存)	12/31/17 11:10:12	{@date@}
4 桁の西暦	2017	{@dateyear@}
西暦の下 2 桁	17	{@dateyearshort@}
月の正式名称 (ロケールに依存)	October	{@datemonth@}
月の略称 (ロケールに依存)	Oct	{@datemonthshort@}
月の 10 進数表記 (01 ~ 12)	10	{@datemonthnum@}
曜日の正式名称 (ロケールに依存)	Friday	{@dateday@}
曜日の略称 (ロケールに依存)	Fri	{@datedayshort@}
日付の 10 進数表記 (1 ~ 31)	24	{@datedaynum@}
ISO 8601 形式の日付	2017-12-31	{@dateymd@}
月、日付、年	December 31, 2017	{@datemdy@}
日付、月、年	31 December 2017	{@datedmy@}
時刻表示 (ロケールに依存)	11:10:12	{@datetime@}
時:分 (24 時間表記)	23:10	{@datetimeHHMM@}
時:分:秒 (24 時間表記)	13:02:24	{@datetimeHHMMSS@}
時 (24 時間表記)	23	{@datetimehour24@}

日時の説明	日時の例	トークン
時 (12 時間表記)	11	{@datetimehour12@}
分の 10 進数表記 (00 ~ 59)	10	{@datetimeminute@}
秒の 10 進数表記 (00 ~ 59)	44	{@datetimesecond@}

#### 関連リンク

[「プロジェクト情報 \(Project Info\)」ダイアログ \(81 ページ\)](#)  
[プレーヤー名、レイアウト名、インストゥルメント名 \(203 ページ\)](#)  
[フロー名とフロータイトル \(210 ページ\)](#)  
[「音楽テキストを挿入 \(Insert Music Text\)」ダイアログ \(423 ページ\)](#)  
[レイアウト番号の付け直し \(197 ページ\)](#)  
[フローの再整理 \(189 ページ\)](#)  
[譜表ラベルに表示されるインストゥルメントの移調 \(1690 ページ\)](#)  
[インストゥルメント名の言語の変更 \(61 ページ\)](#)  
[実音と移調音 \(195 ページ\)](#)  
[レイアウトの移調テキストの編集 \(1325 ページ\)](#)  
[テキストの書き出し \(113 ページ\)](#)  
[「パラグラフスタイル \(Paragraph Styles\)」ダイアログ \(932 ページ\)](#)

## テキストフレームへのテキストの入力

テキストフレームへのテキストの入力、テキストの形式設定、個々のパラグラフやライン区切りの挿入を行なえます。また、あとからテキストを太字ではなく斜体にしたくなった場合など、テキストフレーム内の既存のテキストを編集できます。

#### 前提条件

ページテンプレート上のテキストフレームにテキストを入力する場合、ページテンプレートエディターでページテンプレートを開いておきます。

#### 手順

1. 浄書モードでテキストを入力するテキストフレームをダブルクリックして、テキストエディターを起動します。

#### ヒント

浄書ツールボックスで「**フレーム (Frames)**」を選択した場合は、テキストフレームを選択して **[Return]** を押してもかまいません。

2. 任意のテキストを入力します。
  - ライン区切りを挿入するには、**[Return]** を押します。
  - トークンを挿入するには、テキストフレームを右クリックして、コンテキストメニューから使用するトークンを選択します。
  - 音楽記号を挿入するには、テキストフレームを右クリックして、コンテキストメニューから「**音楽テキストを挿入 (Insert Music Text)**」を選択して「**音楽テキストを挿入 (Insert Music Text)**」ダイアログを開きます。挿入する音楽記号を選択して「**OK**」をクリックします。
  - Unicode 文字を挿入するには、4 文字の 16 進数コードを入力して、**[Alt/Opt]+[X]** を押します。
3. 必要に応じて、テキストエディターオプションを使用してテキストの形式設定を行ないます。



#### ヒント

特定の文や段落を選択すると、選択したテキストのみの形式設定も行なえます。

4. **[Esc]** または **[Ctrl]/[command]+[Return]** を押してテキストエディターを閉じます。

#### 結果

テキストフレームにテキストが入力されます。トークンと音楽記号はカーソルの位置に挿入されます。ライン区切りを挿入すると、カーソルが新しいラインの最初にジャンプします。

#### 補足

個々のテキストアイテムやテキストフレームのテキストのパラグラフスタイルを上書きした場合（テキストを太字にするなど）、パラグラフスタイルの対応するパラメーターにあとから加える変更は上書きされたテキストには適用されません。ただし、フォントサイズの上書きはパラグラフスタイルのフォントサイズと結合されます。

#### 関連リンク

[「音楽テキストを挿入 \(Insert Music Text\)」ダイアログ \(423 ページ\)](#)

[「パラグラフスタイル \(Paragraph Styles\)」ダイアログ \(932 ページ\)](#)

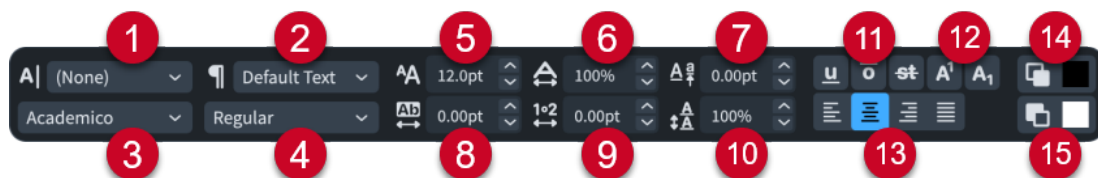
[ページテンプレートエディター \(581 ページ\)](#)

[ページテンプレートの作成 \(575 ページ\)](#)

[ページテンプレートの優先の解除 \(586 ページ\)](#)

## 浄書モードのテキストエディターオプション

テキストエディターを使用すると、テキストの追加や形式設定を行なえます。テキストエディターは、浄書モードでテキストフレームにテキストを入力するかテキストフレームのテキストを編集すると開きます。



テキストエディターには以下のオプションがあります。

### 1 文字スタイル (Character Style)

パラグラフ内の選択したテキストの外観を変更できます。該当のパラグラフに適用されているパラグラフスタイルより優先されます。

### 2 パラグラフスタイル (Paragraph Style)

選択したパラグラフに適用するパラグラフスタイルを変更できます。パラグラフスタイルの種類に応じて、テキストの外観、書式、または配置を変更できます。

### 3 フォント (Font)

選択したテキストのフォントファミリーを変更できます。

### 4 フォントスタイル (Font Style)

選択したテキストのフォントスタイルを変更できます。

#### 補足

- 選択したフォントによっては、一部のフォントスタイルを使用できない場合があります。

- フォントスタイルは、以下の標準キーボードショートカットを使用して変更することもできます。
    - 太字は **[Ctrl]/[command]+[B]**
    - 斜体は **[Ctrl]/[command]+[I]**
- 

## 5 フォントサイズ (Font Size)

選択したテキストのサイズを変更できます。

### ヒント

フォントサイズは、以下のキーボードショートカットを使用して変更することもできます。

- **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[.]**: フォントサイズを大きくする
  - **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[,]**: フォントサイズを小さくする
- 

## 6 フォント幅 (Font Stretch)

選択したテキストの幅を広げたり狭めたりできます。

## 7 ベースラインの移動 (Baseline Shift)

選択したテキストのベースラインを上下に少しずつ移動できます。

## 8 文字のスペーシング (Letter Spacing)

選択したテキストの文字間のスペーシングを広げたり狭めたりできます。

## 9 単語のスペーシング (Word Spacing)

選択したテキストの単語間のスペーシングを広げたり狭めたりできます。

## 10 行間 (Leading)

選択したテキストのラインのスペーシングを広げたり狭めたりできます。

## 11 線のタイプ

選択したテキストに、以下のタイプの線を組み合わせて付けられます。

- 下線 (Underline)
- 上線 (Overline)
- 取り消し線 (Strikethrough)

### ヒント

**[Ctrl]/[command]+[U]** を押すことで選択したテキストに下線を付けることもできます。

---

## 12 上付き/下付き

選択したテキストを、ベースラインに対して以下のいずれかの位置に配置できます。

- 上付き (Superscript)
- 下付き (Subscript)

## 13 配置 (Alignment)

フレームの端に対する選択したパラグラフの配置を以下のいずれかから選択できます。

- 左揃え (Align Left)
- 中央揃え (Align Center)
- 右揃え (Align Right)
- 両端揃え (Justify)

## 14 文字色 (Foreground Color)

選択したテキストの色を変更できます。

## 15 背景色 (Background Color)

選択したテキストの背景色を変更できます。

### 補足

個々のテキストアイテムやテキストフレームのテキストの段落スタイルを上書きした場合 (テキストを太字にするなど)、段落スタイルの対応するパラメーターにあとから加える変更は上書きされたテキストには適用されません。ただし、フォントサイズの上書きは段落スタイルのフォントサイズと結合されます。

### 関連リンク

[テキストアイテムの入力 \(420 ページ\)](#)

[「段落スタイル \(Paragraph Styles\)」ダイアログ \(932 ページ\)](#)

[「文字スタイル \(Character Styles\)」ダイアログ \(935 ページ\)](#)

[「存在しないフォント \(Missing Fonts\)」ダイアログ \(80 ページ\)](#)

[記譜モードのテキストエディターオプション \(421 ページ\)](#)

## テキストフレーム内の段落スタイルを変更する

ページテンプレートも含め、テキストフレーム内の個々の段落に適用される段落スタイルを変更できます。たとえば、ある段落スタイルをセクション見出しに使用し、前付けのボディテキストには別の段落スタイルを使用したい場合などに便利です。

### 前提条件

- 使用するカスタムの段落スタイルを作成しておきます。
- ページテンプレートにあるテキストの段落スタイルを変更する場合は、ページテンプレートエディターでページテンプレートを開いておきます。

### 手順

1. 段落スタイルを変更するテキストフレームをダブルクリックして、テキストエディターを開きます。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。

#### ヒント

浄書ツールボックスで「**フレーム (Frames)**」を選択した場合は、テキストフレームを選択して **[Return]** を押してもかまいません。

2. 段落スタイルを変更するテキストを選択します。

#### ヒント

同じテキストフレーム内の各段落に異なる段落スタイルを設定できます。

3. テキストエディターの段落スタイルメニューから段落スタイルを選択します。
4. **[Esc]** または **[Ctrl]/[command]+[Return]** を押してテキストエディターを閉じます。

### 結果

選択した段落の段落スタイルが変更されます。たとえば、テキストフレームで単語を 1 つ選択した場合、その単語を含む段落全体が変更されます。

### 補足

個々のテキストアイテムやテキストフレームのテキストの段落スタイルを上書きした場合 (テキストを太字にするなど)、段落スタイルの対応するパラメーターにあとから加える変更は上書き

されたテキストには適用されません。ただし、フォントサイズの上書きはパラグラフスタイルのフォントサイズと結合されます。

---

関連リンク

[「パラグラフスタイル \(Paragraph Styles\)」 ダイアログ \(932 ページ\)](#)

[ページテンプレートエディター \(581 ページ\)](#)

[ページテンプレートの作成 \(575 ページ\)](#)

[デフォルトのフォントファミリーを変更する \(937 ページ\)](#)

[ページテンプレートの優先の解除 \(586 ページ\)](#)

[テキストアイテムのパラグラフスタイルの変更 \(1768 ページ\)](#)

[前付け \(1318 ページ\)](#)

## テキストフレームへの枠線の追加

テキストフレームの境界を明確にしたい場合などに、テキストフレームに個別に枠線を追加できます。

前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。
- 下ゾーンのツールバーで「プロパティ (Properties)」を選択しておきます。
- 浄書ツールボックスで「フレーム (Frames)」を選択しておきます。
- ページテンプレートのテキストフレームに枠線を追加する場合は、ページテンプレートエディターでページテンプレートを開いておきます。

手順

1. 浄書モードで、枠線を追加するテキストフレームを選択します。
2. プロパティパネルの「テキスト (Text)」グループで「境界線を表示 (Show border)」をオンにします。

結果

選択したテキストフレームに枠線が追加されます。

ヒント

- デフォルトで枠線を表示するように設定されたパラグラフスタイルを使用すれば、テキストフレームのテキストを囲む枠線を表示できます。ただし、単一のパラグラフを含むテキストフレームには、これのみを行なうことをおすすめします。
- 各パラグラフスタイルがデフォルトで使用する境界線のスタイルは、「パラグラフスタイル (Paragraph Styles)」ダイアログで変更できます。

手順終了後の項目

- テキストフレームの枠線の太さと色を変更できます。
- テキストフレームの枠線と内容との間の余白を変更できます。

関連リンク

[プロパティパネル \(826 ページ\)](#)

[浄書ツールボックス \(554 ページ\)](#)

[ページテンプレートエディター \(581 ページ\)](#)

[テキストアイテムへの枠線の追加 \(1770 ページ\)](#)

[「パラグラフスタイル \(Paragraph Styles\)」 ダイアログ \(932 ページ\)](#)

## テキストフレームの枠線の太さを変更する

テキストフレームの枠線の太さを個別に変更できます。テキストフレームの枠線の太さのデフォルト設定はありません。

### 前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。
- 下ゾーンのツールバーで「プロパティ (Properties)」を選択しておきます。
- 浄書ツールボックスで「フレーム (Frames)」を選択しておきます。
- ページテンプレートのテキストフレームの枠線の太さを変更する場合は、ページテンプレートエディターでページテンプレートを開いておきます。

---

### 手順

1. 浄書モードで、枠線の太さを変更するテキストフレームを選択します。
  2. プロパティパネルの「テキスト (Text)」グループで、「境界線の太さ (Border thickness)」の値を変更します。
- 

### 関連リンク

[テキストアイテムの枠線の太さの変更 \(1772 ページ\)](#)

## テキストフレームの枠線の色を変更する

個々のテキストフレームの枠線の色を変更できます。たとえば、特定のテキストフレームの枠線と背景との間の色のコントラストを強めたい場合などに便利です。

### 前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。
- 下ゾーンのツールバーで「プロパティ (Properties)」を選択しておきます。
- 浄書ツールボックスで「フレーム (Frames)」を選択しておきます。
- ページテンプレートのテキストフレームの枠線の色を変更する場合は、ページテンプレートエディターでページテンプレートを開いておきます。

---


### 手順


1. 浄書モードで、枠線の色を変更するテキストフレームを選択します。
  2. プロパティパネルの「テキスト (Text)」グループで「枠線の色 (Border color)」をオンにします。
  3. カラープレビューをクリックして「色を選択 (Select Color)」 (Windows)/「カラー (Colors)」 (macOS) ダイアログを開きます。
  4. 使用する色を選択するか作成します。
  5. 「OK」をクリックして変更内容を保存し、ダイアログを閉じます。
- 

## テキストフレーム内の余白を変更する

フレームの端とフレーム内のテキストとの間の距離に影響する余白をテキストフレームごとに変更できます。

### 前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。
- 下ゾーンのツールバーで「プロパティ (Properties)」を選択しておきます。

- 浄書ツールボックスで「**フレーム (Frames)**」を選択しておきます。
- ページテンプレートのテキストフレームの余白を変更する場合は、ページテンプレートエディターでページテンプレートを開いておきます。

---

#### 手順

1. 浄書モードで、余白を変更するテキストフレームを選択します。
2. プロパティパネルの「**テキスト (Text)**」グループで「**余白 (Padding)**」をオンにします。
3. 数値フィールドの値を変更します。

---

#### 結果

選択したテキストフレームのすべての端とフレーム内のテキストとの間の余白が変更されます。

## テキストフレームの背景色を変更する

個々のテキストフレームの背景色を変更できます。たとえば、タイトルページにページ全体を埋める背景色付きのテキストを表示したい場合などに便利です。

#### 前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。
- 下ゾーンのツールバーで「**プロパティ (Properties)**」を選択しておきます。
- 浄書ツールボックスで「**フレーム (Frames)**」を選択しておきます。
- ページテンプレートのテキストフレームの背景色を変更する場合は、ページテンプレートエディターでページテンプレートを開いておきます。

---

#### 手順

1. 浄書モードで、背景色を変更するテキストフレームを選択します。
2. プロパティパネルの「**テキスト (Text)**」グループで「**背景色 (Background color)**」をオンにします。
3. カラープレビューをクリックして「**色を選択 (Select Color)**」(Windows)/「**カラー (Colors)**」(macOS) ダイアログを開きます。
4. 使用する色を選択するか作成します。
5. 「**OK**」をクリックして変更内容を保存し、ダイアログを閉じます。

---

#### 結果

選択したテキストフレームの背景色が変更されます。

#### ヒント

テキストエディターのオプションを使用してテキストフレーム内の選択したテキストの背景色を変更したり、パラグラフスタイルを使用して個々のパラグラフの背景色を変更したりできます。

---

#### 関連リンク

[プロパティパネル \(826 ページ\)](#)

[浄書ツールボックス \(554 ページ\)](#)

[ページテンプレートエディター \(581 ページ\)](#)

[「パラグラフスタイル \(Paragraph Styles\)」ダイアログ \(932 ページ\)](#)



[浄書モードのテキストエディターオプション \(625 ページ\)](#)

[カラー設定 \(56 ページ\)](#)

## テキストフレーム内のテキストの垂直方向の配置の変更

テキストフレーム内のテキストの垂直方向の配置を変更できます。この変更はページテンプレートおよび個々のページで行なえます。ページテンプレートでは、選択したテキストフレームの配置はその形式を使用するすべてのページで変更され、個々のページでは、選択したテキストフレームの配置はそのページにおいてのみ変更されます。

### 前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。
- 下ゾーンのツールバーで「プロパティ (Properties)」を選択しておきます。
- 浄書ツールボックスで「フレーム (Frames)」を選択しておきます。
- ページテンプレートのテキストの垂直方向の配置を変更する場合は、ページテンプレートエディターでページテンプレートを開いておきます。

---

### 手順

1. 浄書モードで、テキストの垂直方向の配置を変更するフレームを選択します。
2. プロパティパネルの「テキスト (Text)」グループで、「整列 (垂直方向) (Vertical alignment)」のメニューから以下のいずれかのオプションを選択します。
  - 上 (Top)
  - 中央 (Center)
  - 下 (Bottom)

---

### 結果

選択したテキストフレーム内のテキストの垂直方向の配置が変更されます。

### 補足

テキストの垂直方向の配置の変更は、パラグラフスタイルより優先されるわけではありません。垂直方向の配置を変更したテキストのパラグラフスタイルにあとから変更を加えると、変更がテキストに反映されます。

---



### 関連リンク

- [プロパティパネル \(826 ページ\)](#)
- [浄書ツールボックス \(554 ページ\)](#)
- [ページテンプレートエディター \(581 ページ\)](#)
- [フレームの移動 \(604 ページ\)](#)
- [「パラグラフスタイル \(Paragraph Styles\)」ダイアログ \(932 ページ\)](#)
- [テキストアイテムを組段の開始位置に揃える \(1769 ページ\)](#)

## テキストフレーム内のテキストの水平方向の配置の変更

テキストフレーム内の個々のパラグラフの水平方向の配置を、対応するパラグラフスタイルとは関係なく変更できます。この変更はページテンプレートおよび個々のページで行なえます。ページテンプレートでは、選択したテキストの配置はその形式を使用するすべてのページで変更され、個々のページでは、選択したテキストの配置はそのページにおいてのみ変更されます。


### 前提条件

- 浄書ツールボックスで「グラフィックの編集 (Graphic Editing)」または「フレーム (Frames)」を選択しておきます。
- ページテンプレートのテキストの水平方向の配置を変更する場合は、ページテンプレートエディターでページテンプレートを開いておきます。

#### 手順

1. 浄書モードでテキストフレームをダブルクリックして、そのフレームのテキストエディターを開きます。

#### ヒント

浄書ツールボックスで「フレーム (Frames)」を選択した場合は、テキストフレームを選択して **[Return]** を押してもかまいません。

2. 水平方向の配置を変更するテキストフレーム内のテキストを選択します。

#### ヒント

同じテキストフレーム内の各パラグラフに異なる水平方向の配置を設定できます。

3. テキストエディターで、希望する水平方向の配置を選択します。
4. **[Esc]** または **[Ctrl]/[command]+[Return]** を押してテキストエディターを閉じます。

#### 結果

選択したテキストの水平方向の配置が変更されます。

#### 補足

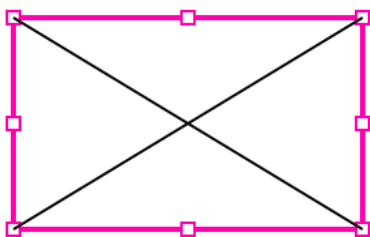
これによって対応するパラグラフスタイルのデフォルトの水平方向の配置が上書きされるため、パラグラフスタイルの水平方向の配置にあとから加える変更は上書きされたテキストには適用されません。

## グラフィックフレーム

グラフィックフレームを使用すると、楽譜と一緒にロゴや装飾用のヘッダー/フッターなどの画像を表示できます。

グラフィックフレームには以下のグラフィックファイル形式を読み込むことができます。

- .jpg または .jpeg
- .png
- .svg



空のグラフィックフレーム



画像が読み込まれたグラフィックフレーム

#### 補足

ページテンプレート上のグラフィックフレームは、すべてのレイアウトにイメージを1つのみ表示できます。1つのレイアウトのページテンプレートでグラフィックフレーム内のイメージを変更すると、ページテンプレートが更新され、すべてのレイアウトに変更が反映されます。



関連リンク

[フレームの入力 \(603 ページ\)](#)

[フレームのサイズ/形状の変更 \(605 ページ\)](#)

## グラフィックフレームへのイメージの読み込み

スコアには、コンピューターまたはサーバーから画像を読み込めます。

前提条件

ページテンプレートまたは個々のページにグラフィックフレームを入力しておきます。

---

手順

1. 浄書モードで、グラフィックフレーム内をダブルクリックしてエクスプローラー (Windows) または Finder (Mac) を開きます。

ヒント

浄書ツールボックスで「**フレーム (Frames)**」を選択している場合は、グラフィックフレームを選択して **[Return]** を押してもかまいません。

---

2. グラフィックフレームに読み込むファイルを探して選択します。
  3. 「**開く (Open)**」をクリックします。
- 

結果

選択した画像がグラフィックフレームに読み込まれます。

補足

ページテンプレート上のグラフィックフレームは、すべてのレイアウトにイメージを1つのみ表示できます。1つのレイアウトのページテンプレートでグラフィックフレーム内のイメージを変更すると、ページテンプレートが更新され、すべてのレイアウトに変更が反映されます。

---

関連リンク

[フレームの入力 \(603 ページ\)](#)

[ページテンプレート \(567 ページ\)](#)

## フレーム制限

Dorico Pro では、制限を設定することでフレームの4辺とそれぞれに対応するページ余白の関係を定義します。

フレーム制限を設定すると、フレームの各辺に対応するページ余白にロックできます。これにより、フレームの比率を維持したまま、ページのサイズ、向き、ページ余白を変更できます。たとえば、1つの楽曲フレームがページの高さや幅の全体を埋めるように配置されている場合、4辺すべてに制限が設定されます。つまり、すべての辺のインセットが0となり、フレームの端とページ余白が接します。ページのサイズや向きを変更すると、常にページを埋めるようにフレームサイズも変更されます。

フレームの1辺の制限を解除する場合 (ページ余白からフレームの1辺のロックを解除する場合)、固定の幅や高さを指定することで、ページのサイズ、向き、余白が変更されてもフレームの辺が調整されないようにできます。

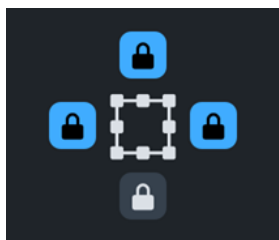
---

例

ヘッダーのテキストフレームをページの幅全体に広げ、ページの一番上に表示したまま、ページのサイズ、向き、余白が変更されてもフレームの高さを固定するとします。

これを実現するには、上および左右の制限をロックし、下の制限を解除してフレームの高さを固定します。

下の制限を解除することで、たとえばページサイズを大きくしてもフレームの高さが高くなることはなく、ページサイズを小さくしてもフレームの高さが低くなることはありません。



ヘッダーのテキストフレームに設定された制限

---

フレームパネルでは、Dorico Pro で使用できるすべてのタイプのフレームに制限を定義できます。初期設定では、すべての新規フレームは4辺の制限がロックされています。上または下の制限を解除してフレームの高さを固定するか、左または右の制限を解除してフレームの幅を固定します。

#### 補足

フレームの上下と左右の各ペアは、少なくともどちらか一方の制限がロックされている必要があります(上と右など)。

---

#### 関連リンク

[フレームパネル](#) (559 ページ)

[フレームの入力](#) (603 ページ)


[ページのサイズと向きの変更](#) (744 ページ)

[ページ余白の変更](#) (745 ページ)

## フレーム制限の定義

たとえば、高さを固定するフレームのみ下の制限を解除するなど、フレームの各辺の制限を個別にロック/解除できます。

#### 前提条件

- 左ゾーンを表示しておきます。
  - 浄書ツールボックスで「**フレーム (Frames)**」を選択しておきます。
  - ページテンプレートでフレーム制限を定義する場合は、ページテンプレートエディターでページテンプレートを開いておきます。
- 

#### 手順

1. 浄書モードで、制限を定義するフレームを選択します。

#### 補足

制限を定義できるフレームは一度に1つだけです。

---

2. フレームパネルの「**制限 (Constraints)**」セクションで、制限をロック/ロック解除するフレームの辺に対応する制限をクリックします。



ロックされた制限



ロックされていない制限

#### 補足

フレームの上下と左右の各ペアは、少なくともどちらか一方の制限がロックされている必要があります(上と右など)。

#### 結果

選択したフレームの制限が変更されます。これは、対応するページ余白にどの辺をロックするかや、ページのサイズ、向き、ページ余白が変更された場合にフレームのサイズや形状が変更されるかどうかに影響します。たとえば、上または下の制限を解除したフレームは高さが固定されます。同様に、右または左の制限を解除したフレームは幅が固定されます。

#### 手順終了後の項目

フレームのサイズや形状を変更できます。

#### 関連リンク

- [浄書ツールボックス \(554 ページ\)](#)
- [ゾーンの表示/非表示の切り替え \(48 ページ\)](#)
- [フレームパネル \(559 ページ\)](#)
- [ページテンプレートエディター \(581 ページ\)](#)
- [ページテンプレートの作成 \(575 ページ\)](#)
- [フレームのサイズ/形状の変更 \(605 ページ\)](#)

## グラフィックスライス

たとえば、楽譜の一部を抜粋したものを保存して演奏上の指示に使用したい場合などに、グラフィックスライスを使用すれば、ページの一部をグラフィックファイルとして書き出すことができます。グラフィックスライスは特定のページ上に固定されたフレームとして存在し、フレームと同じように機能します。

- 浄書ツールボックスで「**グラフィックスライス (Graphic Slices)**」を選択すると、グラフィックスライスの表示、入力、および編集を行なえます。

一度作成したグラフィックスライスは、そのグラフィックスライスが作成されたページ上に保持されます。これにより、グラフィックスライス内の楽譜を変更した場合などに、抜粋を簡単に再度書き出すことができます。

グラフィックスライスは、以下のグラフィックファイル形式で書き出すことができます。

- .pdf
- .png
- .svg
- .tiff

The image shows a musical score with three staves. The top staff is a grand staff with treble and bass clefs. The middle staff is a single treble clef staff. The bottom staff is a single bass clef staff. The score includes various musical notations such as dynamics (p, mf, pp, f), articulations (arco, sul pont.), and performance instructions (ric. col legno battuto). Several red boxes highlight specific notes and gestures: a note in the top staff with a '+' sign and 'ff' dynamic; a note in the middle staff with 'ric. col legno battuto' instruction; a note in the bottom staff with 'pp' dynamic; and a note in the middle staff with 'f' dynamic.

特定の音符とジェスチャーの周りに、演奏上の指示に含めるための複数のグラフィックスライスが配置された楽節

#### 補足

- グラフィックスライスは、浄書ツールボックスで「グラフィックスライス (Graphic Slices)」 を選択したときのみ表示されます。
- グラフィックスライスはレイアウト固有であり、楽譜ではなくページに固定されています。そのため、レイアウト上でページのサイズ、向き、余白を変更すると異なるサイズまたは形状で表示される場合があります。

#### 関連リンク

- [グラフィックスライスパネル \(560 ページ\)](#)
- [グラフィックファイルの形式 \(738 ページ\)](#)
- [グラフィックファイルとしての書き出し \(728 ページ\)](#)
- [フレーム \(601 ページ\)](#)
- [ページのサイズと向きの変更 \(744 ページ\)](#)
- [ページ余白の変更 \(745 ページ\)](#)

## グラフィックスライスの作成

たとえば、いくつかの小節を PNG ファイルとして書き出したい場合などに、各レイアウトのページ上に任意のサイズと形状のグラフィックスライスを個別に作成できます。グラフィックスライスは、ページ余白にはみ出してページの端まで配置できます。

#### 前提条件

- 左ゾーンを表示しておきます。
- 浄書ツールボックスで「グラフィックスライス (Graphic Slices)」 を選択しておきます。

#### 手順

1. グラフィックスライスパネルで「スライスを作成 (Create Slice)」をクリックします。
2. 楽譜領域でクリックアンドドラッグしてグラフィックスライスを作成します。  
ページの内に収まる限り、任意のサイズおよび形状のグラフィックスライスを描画できます。

#### 結果

マウスを放すと、ページ上にグラフィックスライスが作成されます。デフォルト名を持つグラフィックスライスがいくつ存在しているかによって、自動的に「Slice [n]」という名前が付きます。たとえば、2つめのスライスなら「Slice 2」となります。

新しいスライスは、グラフィックスライスパネルのグラフィックスライスの表にページ番号順に追加されます。

#### 手順終了後の項目

- グラフィックスライスはページ上で移動したりサイズまたは形状を変更したりできます。
- すべて、もしくは選択したグラフィックスライスのみをグラフィックファイルとして書き出すことができます。

#### 関連リンク

[浄書ツールボックス \(554 ページ\)](#)

[左ゾーン \(浄書モード\) \(556 ページ\)](#)

[ゾーンの表示/非表示の切り替え \(48 ページ\)](#)

[グラフィックスライスパネル \(560 ページ\)](#)

## グラフィックスライスの移動

作成した個々のグラフィックスライスをページ上で移動できます。

#### 補足

グラフィックスライスをページの端を越えて移動したり他のページに移動したりすることはできません。グラフィックスライスを他のページに表示するには、元のページからグラフィックスライスを削除して、新しいページに新しいグラフィックスライスを作成する必要があります。

#### 前提条件

浄書ツールボックスで「**グラフィックスライス (Graphic Slices)**」を選択しておきます。

#### 手順

1. 移動するグラフィックスライスを選択します。
2. 以下のいずれかの操作を行なってグラフィックスライスを移動します。
  - グラフィックスライスを標準的な幅で上下左右に移動するには、**[Alt/Opt]** を押しながら対応する矢印キーを押します。たとえば、グラフィックスライスを左に移動するには、**[Alt/Opt]+[←]** を押します。
  - グラフィックスライスの移動幅を大きくするには、通常のキーボードショートカットに **[Ctrl]/[command]** を加えて押します。たとえば、グラフィックスライスを左に大きく移動させるには、**[Ctrl]/[command]+[Alt/Opt]+[←]** を押します。
  - アイテムをクリックして任意の方向にドラッグします。

## グラフィックスライスのサイズまたは形状の変更

作成した個々のグラフィックスライスのサイズと形状を変更できます。

#### 前提条件

浄書ツールボックスで「**グラフィックスライス (Graphic Slices)**」を選択しておきます。

#### 手順

1. サイズまたは形状を変更するグラフィックスライスの端の中央のハンドルを選択します。

#### 補足

一度に選択できるハンドルは、グラフィックスライスにつき1つです。

---

2. 以下のいずれかの操作を行なって、ハンドルを移動します。

- 標準的な幅で上下左右に移動するには、**[Alt/Opt]** を押しながら対応する矢印キーを押します。たとえば、ハンドルを左に移動するには、**[Alt/Opt]+[←]** を押します。
- 移動幅を大きくするには、通常のキーボードショートカットに加え **[Ctrl]/[command]** を押します。たとえば、ハンドルを左に大きく移動させるには、**[Ctrl]/[command]+[Alt/Opt]+[←]** を押します。
- ハンドルをクリックして上下左右にドラッグします。

#### 補足

グラフィックスライスの左右の端のハンドルは左右にのみ移動できます。グラフィックスライスの上下の端のハンドルは上下にのみ移動できます。たとえば、グラフィックスライスの幅を広げるには、グラフィックスライスの右端の中央のハンドルを選択して右に動かします。

---

3. 必要に応じて、グラフィックスライスのその他の端に対して手順1と2を繰り返し、希望するサイズと形状になるように動かします。
- 

#### 結果

選択したグラフィックスライスのサイズや形状が変更されます。

#### 補足

- レイアウト上でページのサイズ、向き、余白を変更すると、グラフィックスライスが異なるサイズまたは形状で表示される場合があります。
  - プロパティパネルの「**フレーム (Frames)**」グループにある「**左 (Left)**」、「**上 (Top)**」、「**右 (Right)**」、および「**下 (Bottom)**」のプロパティを使用してグラフィックスライスのサイズまたは形状を変更することもできます。
- 

#### 関連リンク

- [浄書ツールボックス \(554 ページ\)](#)
- [グラフィックスライスパネル \(560 ページ\)](#)
- [グラフィックスライスの作成 \(636 ページ\)](#)
- [グラフィックスライスの書き出し \(641 ページ\)](#)
- [グラフィックスライスの削除 \(642 ページ\)](#)
- [プロパティパネル \(826 ページ\)](#)
- [フレーム制限 \(633 ページ\)](#)
- [ページのサイズと向きの変更 \(744 ページ\)](#)
- [ページ余白の変更 \(745 ページ\)](#)

## グラフィックスライスハンドルの選択

グラフィックスライスの個々のハンドルを選択できます。また、ハンドルが選択された状態とグラフィックスライス全体が選択された状態を切り替えることができます。

#### 前提条件

浄書ツールボックスで「**グラフィックスライス (Graphic Slices)**」を選択しておきます。

#### 手順

1. 以下のいずれかの操作を行なって、グラフィックスライスハンドルを選択します。
  - グラフィックスライスのいずれかのハンドルを選択し、**[→]**/**[←]**/**[↑]**/**[↓]** を押すとグラフィックスライスの周囲の別のハンドルを選択できます。
  - グラフィックスライスを選択し、**[Tab]** を押すと左上角のハンドルが選択された状態になり、**[→]**/**[←]**/**[↑]**/**[↓]** を押すとグラフィックスライスの周囲の別のハンドルを選択できます。
  - グラフィックスライスのハンドルをクリックします。

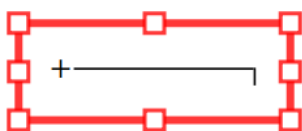
#### 補足

一度に選択できるハンドルは、グラフィックスライスにつき1つです。

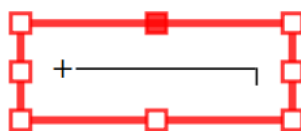
---

2. グラフィックスライス全体が選択された状態に戻すには、**[Tab]** を押します。
- 

#### 例



グラフィックスライス全体が選択された状態



上部中央のハンドルが選択されたグラフィックスライス

---

## グラフィックスライスの名前の変更

書き出し時にファイル名として使用されるグラフィックスライスの名前を変更できます。

#### 前提条件

- 左ゾーンを表示しておきます。
  - 浄書ツールボックスで「**グラフィックスライス (Graphic Slices)**」を選択しておきます。
- 

#### 手順

1. グラフィックスライスパネルで、名前を変更するグラフィックスライスの「**スライス名 (Slice name)**」コラムをダブルクリックします。
  2. テキストフィールドに新しい名前を入力するか、既存の名前を編集します。
  3. **[Return]** を押します。
- 

## グラフィックスライスの画像設定の変更

たとえば、いくつかのグラフィックススライスを PDF ファイルとして書き出し、それ以外を PNG ファイルとして書き出したい場合など、グラフィックススライスのグラフィックファイルの形式、カラーモード、解像度を個別に変更できます。

#### 前提条件

- 左ゾーンを表示しておきます。
- 浄書ツールボックスで「**グラフィックスライス (Graphic Slices)**」を選択しておきます。

#### 手順

1. グラフィックスライスパネルで、画像設定を変更するグラフィックスライスを選択します。
2. メニューからグラフィックファイル形式を選択します。
3. カラーモードを選択します。
  - 「**白黒 (Mono)**」は、グラフィックスライスを白黒で書き出します。
  - 「**カラー (Color)**」は、グラフィックスライスをフルカラーで書き出します。

#### 補足

- グラフィックスライスに色付きまたは完全に透明ではない要素がある場合は、「**カラー (Color)**」を選択する必要があります。「**白黒 (Mono)**」を選択すると、そのような要素は書き出したファイルでは黒く表示されます。
- グラフィックスライスを解像度 72dpi で書き出す場合は、「**カラー (Color)**」を選択することをおすすめします。「**白黒 (Mono)**」を選択すると、線が消える可能性があります。

4. **PNG** または **TIFF** ファイルの場合は、以下の操作を行いません。
  - 「**カラー (Color)**」を選択した場合は、「**透明な背景 (Transparent background)**」をオン/オフにします。
  - 「**解像度 (Resolution)**」メニューから解像度を選択します。

#### ヒント

「**PDF**」と「**SVG**」はベクター形式のため、「**解像度 (Resolution)**」設定はこれらのファイルには影響しません。

---

#### 結果

選択したグラフィックスライスの画像設定が変更されます。

#### 手順終了後の項目

画像設定や書き出しパスの異なるグラフィックスライスを含め、グラフィックスライスは同時に書き出すことができます。

#### 関連リンク

- [グラフィックスライスの作成 \(636 ページ\)](#)
- [グラフィックスライスの名前の変更 \(639 ページ\)](#)
- [グラフィックファイルの形式 \(738 ページ\)](#)
- [白黒とカラーのグラフィック処理 \(739 ページ\)](#)
- [画像解像度 \(739 ページ\)](#)

## グラフィックスライスの書き出しパスの変更

グラフィックスライスの書き出し先フォルダーのパスを指定できます。グラフィックスライスごとに異なる書き出しパスを指定した場合でも、すべてのグラフィックスライスを同時に書き出すことができます。

初期設定では、グラフィックスライスはプロジェクトファイルと同じフォルダーに書き出されます。プロジェクトをまだ保存していない場合、グラフィックスライスは「**Dorico プロジェクト (Dorico Projects)**」フォルダーに保存されます。

#### 前提条件


- 左ゾーンを表示しておきます。



- 浄書ツールボックスで「**グラフィックスライス (Graphic Slices)**」  を選択しておきます。

---

#### 手順

1. グラフィックスライスパネルで、書き出しパスを変更するグラフィックスライスを選択します。
2. 「**保存先のフォルダー (Destination folder)**」 フィールドの横の「**フォルダーを選択 (Choose Folder)**」  をクリックして、エクスプローラー (Windows) または Finder (Mac) を開きます。
3. 保存先のフォルダーを探して選択します。
4. 「**フォルダーを選択 (Select Folder)**」 (Windows) / 「**開く (Open)**」 (macOS) をクリックして、「**保存先のフォルダー (Destination folder)**」 フィールドに新しいパスを指定します。
5. 必要に応じて、書き出しパスを変更する他のグラフィックスライスにも手順 1 から 4 を繰り返します。

---

#### 結果

選択したグラフィックスライスの書き出しパスが変更されます。グラフィックスライスを書き出すと、グラフィックスライスパネルのグラフィックスライスの表に表示された名前がファイル名として使用されます。

#### 補足

使用するオペレーティングシステムが違うユーザーから受け取ったプロジェクトなどでは、指定された書き出しパスにアクセスできない場合があります。その場合、Dorico Pro によって書き出しパスがプロジェクトファイルと同じフォルダーに自動的に変更されます。

---

#### 手順終了後の項目

画像設定や書き出しパスの異なるグラフィックスライスを含め、グラフィックスライスは同時に書き出すことができます。

#### 関連リンク

- [浄書ツールボックス \(554 ページ\)](#)
- [左ゾーン \(浄書モード\) \(556 ページ\)](#)
- [ゾーンの表示/非表示の切り替え \(48 ページ\)](#)
- [グラフィックスライスパネル \(560 ページ\)](#)
- [グラフィックスライスの書き出し \(641 ページ\)](#)
- [グラフィックスライスの名前の変更 \(639 ページ\)](#)

## グラフィックスライスの書き出し

各グラフィックスライスを PDF や PNG などのさまざまなグラフィックファイルとして書き出すことができます。

#### ヒント

画像設定や書き出しパスの異なるグラフィックスライスを同時に書き出すことができます。

---

#### 前提条件

- 左ゾーンを表示しておきます。
- 浄書ツールボックスで「**グラフィックスライス (Graphic Slices)**」  を選択しておきます。

#### 手順

1. 以下のいずれかの操作を行なって、グラフィックスライスパネルで書き出すグラフィックスライスを選択します。
    - すべてのグラフィックスライスを書き出す場合は、グラフィックスライスを選択しません。
    - 特定のグラフィックスライスのみを書き出すには、そのグラフィックスライスを選択します。
  2. 必要に応じて、選択したグラフィックスライスの画像設定を変更します。
  3. 必要に応じて、選択したグラフィックスライスの書き出しパスを変更します。
  4. 「すべて書き出し (Export All)」 / 「選択範囲を書き出し (Export Selected)」 をクリックします。
- 

#### 結果

現在の画像設定および書き出しパスの設定でグラフィックスライスが書き出されます。グラフィックスライスを選択しなかった場合は、表内のすべてのグラフィックスライスが書き出されます。個々のグラフィックスライスを選択した場合は、そのグラフィックスライスのみが書き出されます。

#### ヒント

「環境設定 (Preferences)」の「キーボードショートカット (Key Commands)」ページで、「グラフィックスライスを書き出し (Export Graphic Slices)」にキーボードショートカットを割り当てることができます。

---

#### 関連リンク

[グラフィックスライスの画像設定の変更 \(639 ページ\)](#)

[グラフィックスライスの書き出しパスの変更 \(640 ページ\)](#)

[グラフィックスライスの名前の変更 \(639 ページ\)](#)

[グラフィックファイルとしての書き出し \(728 ページ\)](#)

[ファイルの読み込みと書き出し \(86 ページ\)](#)

[「環境設定 \(Preferences\)」ダイアログの「キーボードショートカット \(Key Commands\)」ページ \(64 ページ\)](#)

## グラフィックスライスの削除

たとえば、レイアウト内の配置設定が変更され、グラフィックスライスの作成元の楽譜が別のページに移動した場合など、グラフィックスライスを個別に削除できます。

#### 前提条件

- 左ゾーンを表示しておきます。
  - 浄書ツールボックスで「グラフィックスライス (Graphic Slices)」  を選択しておきます。
- 

#### 手順

1. グラフィックスライスパネルで、削除するグラフィックスライスを選択します。
  2. アクションバーで「グラフィックスライスを削除 (Delete Graphic Slice)」  をクリックします。
- 

#### 結果

選択したグラフィックスライスが削除されます。

#### ヒント

楽譜領域でグラフィックスライスを選択して **[Backspace]** 又は **[Delete]** を押しても削除できます。

---

関連リンク

- [浄書ツールボックス \(554 ページ\)](#)
- [ゾーンの表示/非表示の切り替え \(48 ページ\)](#)
- [グラフィックスライスパネル \(560 ページ\)](#)
- [グラフィックスライスの作成 \(636 ページ\)](#)
- [グラフィックスライスの移動 \(637 ページ\)](#)
- [配置設定 \(784 ページ\)](#)

## 音符のスペーシング

音符や休符の位置は互いに関連付けられており、それらの間の自動間隔を音符のスペーシングと呼びます。

プロジェクトの音符のスペーシングをさまざまなレベルで変更できます。

- 「**レイアウトオプション (Layout Options)**」 > 「**音符のスペーシング (Note Spacing)**」で、各レイアウトのデフォルトの音符のスペーシングを変更します。
- 個々のレイアウトに含まれる個々のフレームチェーン内の指定したポイントから音符のスペーシングを変更します。
- 個々の位置にある音符のスペーシングおよび個々の声部列のスペーシングを変更します。

ヒント

- Dorico Pro では、ほとんどの場合、個々の音符を移動しなくても適切な結果が得られるため、個々の音符を移動する前に、デフォルトの音符のスペーシングの値を調整したり、特定のセクションの音符のスペーシングを変更したり、譜表サイズを変更したりすることをおすすめします。
- 小節線や拍子記号などのさまざまなアイテムと音符との間の間隔を制御するその他のオプションは、「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**間隔のスペーシング (Spacing Gaps)**」ページにあります。

関連リンク

- [「浄書オプション \(Engraving Options\)」ダイアログ \(923 ページ\)](#)
- [組段密度表示 \(566 ページ\)](#)
- [譜表のスペーシング \(776 ページ\)](#)
- [デフォルトの譜表サイズの変更 \(747 ページ\)](#)
- [最後の組段の両端揃え \(水平方向\) の変更 \(764 ページ\)](#)
- [垂直線の衝突回避の有効化/無効化 \(1556 ページ\)](#)

## デフォルトの音符のスペーシングを変更する

デフォルトの音符のスペーシングをレイアウトごとに個別に変更できます。たとえば、フルスコアレイアウトの音符のスペーシングをパートレイアウトよりも狭くできます。使用できるオプションには、4分音符のデフォルトのスペースの変更や、装飾音符とキューのスペースの比率の変更などがあります。

手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[L]** を押して「**レイアウトオプション (Layout Options)**」を開きます。
2. 音符のスペーシングを変更するレイアウトを「**レイアウト (Layouts)**」リストから選択します。  
初期設定では、楽譜領域で選択されているものと同じレイアウトが選択された状態のダイアログが表示されます。他のレイアウトを選択するには、アクションバーの選択オプションを使用するか、複数のレイアウトをまたぐようにクリックしてドラッグするか、**[Shift]** を押ししながら隣接するレイアウトをクリックするか、**[Ctrl]/[command]** を押ししながら個々のレイアウトをクリックします。

3. カテゴリーリストの「**音符のスペーシング (Note Spacing)**」をクリックします。
  4. オプションの値を任意に変更します。
  5. 「**適用 (Apply)**」をクリックしてから「**閉じる (Close)**」をクリックします。
- 

#### 結果

選択したレイアウトに対するデフォルトの音符のスペーシングが変更されます。

#### 関連リンク

[最後の組段の両端揃え \(水平方向\) の変更 \(764 ページ\)](#)

[歌詞の位置 \(1368 ページ\)](#)

[配置設定 \(784 ページ\)](#)

[レイアウトのロック \(787 ページ\)](#)

## レイアウトごとの音符のスペーシングオプション

Dorico Pro には、デフォルトの音符のスペーシングをレイアウトごとに制御するためのオプションが複数備わっています。また、フローの最後の組段が全体の何 % を超えたら自動的に両端揃えを適用するかも変更できます。

- レイアウトごとの音符のスペーシングのオプションを開くには、「**レイアウトオプション (Layout Options)**」ダイアログを開いて、カテゴリーリストで「**音符のスペーシング (Note Spacing)**」をクリックします。

「**レイアウトオプション (Layout Options)**」の「**音符のスペーシング (Note Spacing)**」には以下のオプションがあります。

### 4分音符のデフォルトのスペーシング (Default space for crotchet/quarter note)

4分音符のデフォルトのスペーシングを設定します。他のデュレーションのスペーシングは比率に合わせて調整されます。値を増やすと音符のスペーシングが広がり、減らすと音符のスペーシングが狭まります。値を変更するとプレビューに反映されます。

### 短音符のスペーシング最小値 (Minimum space for short notes)

デュレーションが短い音符のスペーシングの最小値を設定します。この値はデフォルトのスペーシングの値とは独立して設定できます。

### スペーシングの比率

音価に従って、他の音符との関係に応じて音符のスペーシングを設定します。たとえば、「**スペーシングの比率 (Custom spacing ratio)**」を「**2**」に設定すると、2分音符には4分音符の2倍のスペースが与えられ、8分音符には4分音符の半分のスペースが与えられます。

### 装飾音符のスペーシング (Scale space for grace notes by)

装飾音符のスペーシングを、そのデュレーションの音符に通常使用されるスペーシングに対する割合で設定します。100%を超える値は設定できません。値を増やすと装飾音符のスペーシングが広がり、値を減らすと装飾音符のスペーシングが狭まります。

### キュー音符のスペーシング (Scale space for cue notes by)

キュー音符のスペーシングを、そのデュレーションの音符に通常使用されるスペーシングに対する割合で設定します。100%を超える値は設定できません。値を増やすとキュー音符のスペーシングが広がり、値を減らすとキュー音符のスペーシングが狭まります。

### 歌詞用のスペースを作成 (Make space for lyrics)

音符のスペーシングの計算に歌詞を含めるかどうかを制御します。オフにすると音符のスペーシングの計算から歌詞が除外され、歌詞がそこにはないかのように音符がスペーシングされた結果が生成されます。

このオプションは、間隔の狭い賛美歌などで、歌詞のスペースを手動で設定する場合にのみ注意して使用することをおすすめします。

### フローの最後の組段に両端揃えを適用 [n] % 以上の場合 (Only justify final system in flow when more than [n] % full)

各フローの最後の組段が全体の何 % を超えたらフレームの幅に合わせて両端揃えを適用するかを変更できます。初期設定では、最後の組段が全体の 50% 以下の場合は両端揃えが適用されません。

### 2つの譜表間の連桁にオプティカルスペーシングを使用 (Use optical spacing for beams between staves)

オンにすると、譜表をまたぐ連桁の符尾の間隔が均一になります。この場合、符頭の間隔は均一にならないことがあります。オフにすると、譜表をまたぐ連桁の符頭の間隔が均一になります。この場合、符尾の間隔は均一にならないことがあります。

#### 関連リンク

[「レイアウトオプション\(Layout Options\)」ダイアログ \(917 ページ\)](#)

[譜表をまたぐ連桁をオプティカルスペーシングに変更する \(1125 ページ\)](#)

[譜表をまたぐ連桁/トレモロの作成 \(1123 ページ\)](#)

[歌詞に使用するパラグラフスタイルの変更 \(1376 ページ\)](#)

## 任意の位置から音符のスペーシングを変更する

個々のレイアウトの選択した位置から先の音符のスペーシングの値 (装飾音符とキューの倍率など) を変更できます。

---

#### 手順

1. 浄書モードで、音符のスペーシングを変更するレイアウトを開きます。
2. 音符のスペーシングの変更を適用するフレームチェーン内の、変更を開始する位置のアイテムを選択します。
3. 「浄書 (Engrave)」 > 「音符のスペーシングを変更 (Note Spacing Change)」を選択して「音符のスペーシングの変更 (Note Spacing Change)」ダイアログを開きます。
4. 変更する音符のスペーシングのオプションをオンにします。
5. オンにしたオプションで「変更 (Change)」を選択します。
6. 音符のスペーシングの各オプションの値を任意に変更します。
7. 「OK」をクリックして変更内容を保存し、ダイアログを閉じます。

---

#### 結果

選択したリズム上の位置から次の音符のスペーシングの変更点がある位置かフローの終了位置のいずれか早い方まで、音符のスペーシングが変更されます。これは、選択したアイテムを含むフレームチェーンと、楽譜領域で現在開いているレイアウトに適用されます。

音符のスペーシングを変更した位置には、ガイドが表示されます。

#### 関連リンク

[レイアウトの切り替え \(47 ページ\)](#)

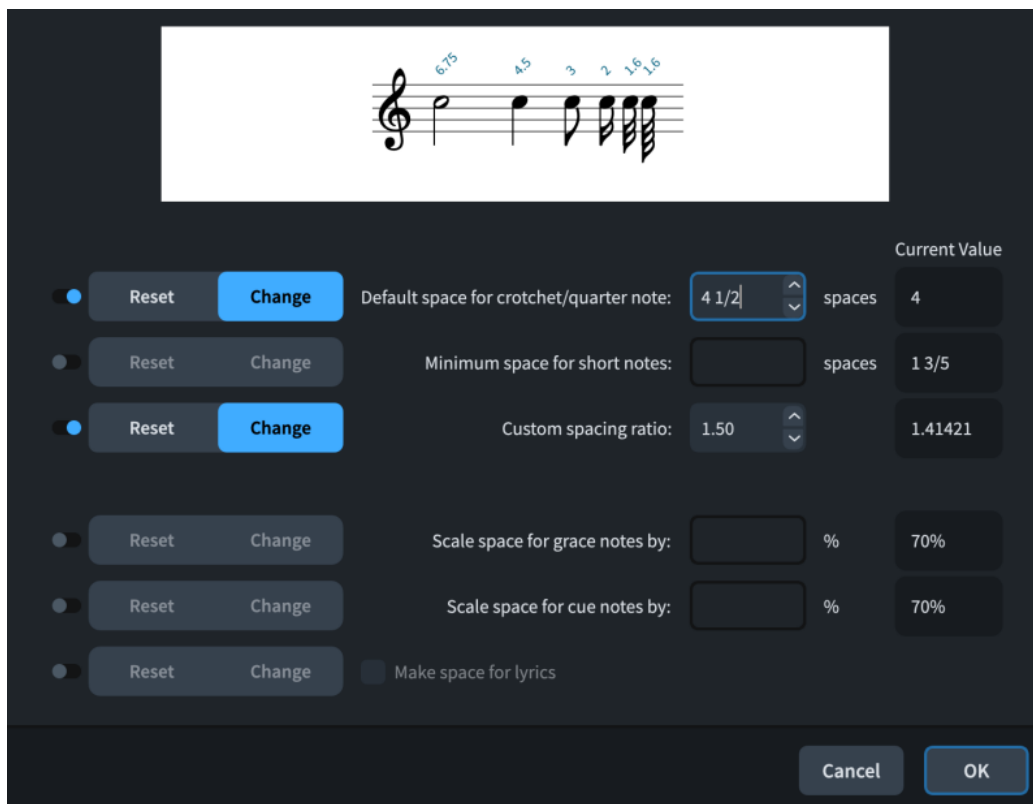
[最後の組段の両端揃え \(水平方向\) の変更 \(764 ページ\)](#)

[選択部分を組段に変換 \(790 ページ\)](#)

## 「音符のスペーシングの変更 (Note Spacing Change)」ダイアログ

「音符のスペーシングの変更 (Note Spacing Change)」ダイアログを使用すると、装飾音符とキューの倍率など、音符のスペーシングや倍率に影響する値を、レイアウトの選択した位置から変更したりリセットしたりできます。

- 浄書モードで「音符のスペーシングの変更 (Note Spacing Change)」ダイアログを開くには、浄書ツールボックスの「グラフィックの編集 (Graphic Editing)」が選択された状態で楽譜領域のアイテムを選択し、「浄書 (Engrave)」 > 「音符のスペーシングの変更 (Note Spacing Change)」を選択します。



「音符のスペーシングの変更 (Note Spacing Change)」ダイアログには以下のオプションがあります。

### 4分音符のデフォルトのスペーシング (Default space for crotchet/quarter note)

4分音符のデフォルトのスペーシングを設定します。他のデュレーションのスペーシングは比率に合わせて調整されます。値を増やすと音符のスペーシングが広がり、減らすと音符のスペーシングが狭まります。値を変更するとプレビューに反映されます。

### 短音符のスペーシング最小値 (Minimum space for short notes)

デュレーションが短い音符のスペーシングの最小値を設定します。この値はデフォルトのスペーシングの値とは独立して設定できます。

### スペーシングの比率

音価に従って、他の音符との関係に応じて音符のスペーシングを設定します。たとえば、「**スペーシングの比率 (Custom spacing ratio)**」を「2」に設定すると、2分音符には4分音符の2倍のスペースが与えられ、8分音符には4分音符の半分のスペースが与えられます。

### 装飾音符のスペーシング (Scale space for grace notes by)

装飾音符のスペーシングを、そのデュレーションの音符に通常使用されるスペーシングに対する割合で設定します。100%を超える値は設定できません。値を増やすと装飾音符のスペーシングが広がり、値を減らすと装飾音符のスペーシングが狭まります。

### キュー音符のスペーシング (Scale space for cue notes by)

キュー音符のスペーシングを、そのデュレーションの音符に通常使用されるスペーシングに対する割合で設定します。100%を超える値は設定できません。値を増やすとキュー音符のスペーシングが広がり、値を減らすとキュー音符のスペーシングが狭まります。

### 歌詞用のスペースを作成 (Make space for lyrics)

音符のスペーシングの計算に歌詞を含めるかどうかを制御します。オフにすると音符のスペーシングの計算から歌詞が除外され、歌詞がそこにはないかのように音符がスペーシングされた結果が生成されます。

このオプションは、間隔の狭い賛美歌などで、歌詞のスペースを手動で設定する場合にのみ注意して使用することをおすすめします。

各オプションにはアクティベーションスイッチがあり、変更を選択したオプションの値のみできます。以下のいずれかのオプションを選択して音符のスペーシングを変更できます。

### リセット (Reset)

「レイアウトオプション (Layout Options)」の「音符のスペーシング (Note Spacing)」で設定した、レイアウトのデフォルト設定に音符のスペーシングをリセットします。

### 変更 (Change)

レイアウトの音符のスペーシングを設定した値に変更します。

#### 関連リンク

[レイアウトごとの音符のスペーシングオプション \(644 ページ\)](#)

[歌詞に使用するパラグラフスタイルの変更 \(1376 ページ\)](#)

## 任意のリズム上の位置から音符のスペーシングをリセットする

「音符のスペーシングの変更 (Note Spacing Change)」ダイアログで行なった音符のスペーシングの値への変更をリセットできます。これは、楽譜領域で現在開いているレイアウトの選択したリズム上の位置から先に適用されます。

---

#### 手順

1. 浄書モードで、特定のリズム上の位置から音符のスペーシングをリセットするレイアウトを開きます。
  2. 音符のスペーシングの変更を適用するフレームチェーン内の、リセットを開始するリズム上の位置のアイテムを選択します。
  3. 「浄書 (Engrave)」 > 「音符のスペーシングを変更 (Note Spacing Change)」を選択して「音符のスペーシングの変更 (Note Spacing Change)」ダイアログを開きます。
  4. リセットしたい音符のスペーシングのオプションをオンにします。
  5. オンにしたオプションで「リセット (Reset)」を選択します。
  6. 「OK」をクリックして変更内容を保存し、ダイアログを閉じます。
- 

#### 結果

選択したリズム上の位置から次の既存の音符のスペーシングの変更点がある位置かフローの終了位置のいずれか早い方まで、オンにしたオプションの音符のスペーシングがレイアウトのデフォルト設定にリセットされます。これは、選択したアイテムを含むフレームチェーンと、楽譜領域で現在開いているレイアウトに適用されます。

音符のスペーシングを変更した位置には、ガイドが表示されます。

## 音符のスペーシングの変更の削除

「**音符のスペーシングの変更 (Note Spacing Change)**」ダイアログで行なった音符のスペーシングの変更を削除し、音符のスペーシングをそのフローの以前の既存の音符のスペーシングの変更またはレイアウトのデフォルト設定に戻すことができます。

### 手順

1. 削除する音符のスペーシングの変更のガイドを選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. **[Backspace]** 又は **[Delete]** を押します。

### 結果

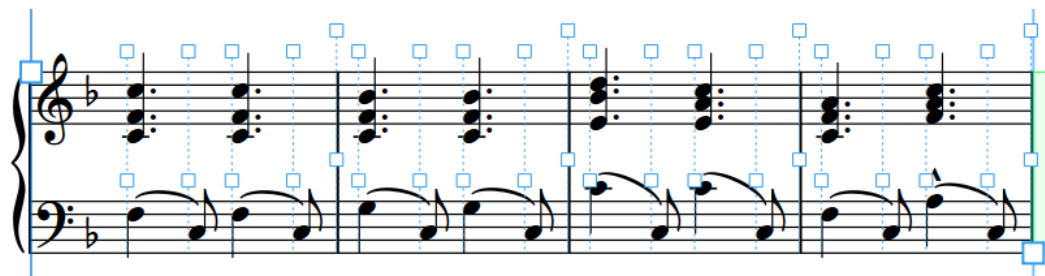
選択した音符のスペーシングの変更が削除されます。音符のスペーシングは、そのフローの以前の既存の音符のスペーシングの変更 (存在する場合)、またはレイアウトのデフォルトの設定に戻ります (以前の既存の音符のスペーシングの変更がない場合)。これは、次の音符のスペーシングの変更がある位置からフローの終了位置のいずれか早い方まで適用されます。

## 個々の位置にある音符のスペーシングの調節

プロジェクト全体の設定とは別に、個々の位置の音符のスペーシングを調節できます。

浄書ツールボックスの「**音符のスペーシング (Note Spacing)**」 をオンにすると、以下が表示されます。

- スペーシングコラムを表わす破線
- 音符のスペーシング用ハンドル: 音符、装飾音符、休符、音部記号、調号、拍子記号など、スペーシング用の各アイテムの四角いハンドルがすべての譜表に表示されます。
- 組段ハンドル: 各組段の始めと終わりに大きな四角いハンドルが表示され、個々の組段の始めと終わりの水平方向の位置を制御できます。組段ハンドルは各組段の左上角と右下角にあります。



「**音符のスペーシング (Note Spacing)**」がオン時に、ハンドルと破線が表示される例

### 前提条件

浄書ツールボックスで「**音符のスペーシング (Note Spacing)**」 を選択しておきます。

### 手順

1. 浄書モードで、スペーシングを調節する位置の破線上にある音符のスペーシングの四角いハンドルを選択します。



2. 以下のいずれかの操作を行なって、ハンドルを移動します。
  - 選択したハンドルの左側のスペースを増やすには、**[Alt/Opt]+[→]** を押します。



- 選択したハンドルの左側のスペースを減らすには、**[Alt/Opt]+[←]** を押します。

#### 補足



- ハンドルの移動幅を大きくするには、**[Ctrl]/[command]** を押しながらキーボードショートカットを押します (例: **[Ctrl]/[command]+[Alt/Opt]+[←]**)。
- ハンドルの移動幅を中くらいにするには、**[Shift]** を押しながらキーボードショートカットを押します (例: **[Shift]+[Alt/Opt]+[←]**)。
- ハンドルの移動幅を小さくするには、**[Ctrl]/[command]+[Shift]** を押しながらキーボードショートカットを押します (例: **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[Alt/Opt]+[←]**)。
- 音符のスペーシングのハンドルの移動はマウスでは行なえず、キーボードのみで行なえます。

#### 結果

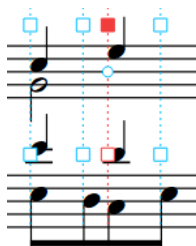
選択した音符のスペーシングのハンドルが移動し、元の位置の左側のスペースが広くまたは狭くなります。この操作は、組段のすべての譜表の選択した位置のスペーシングにも影響します。ハンドルを移動したことが分かるようにハンドルの色が変わります。

音符のスペーシングを調節した各組段の最初または最後に、組段区切りが自動的に挿入されます。

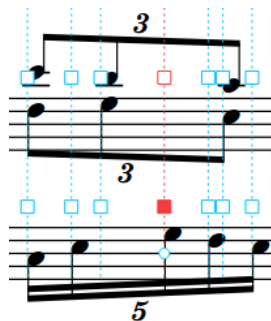
#### 補足

- 音符を元の位置から離し過ぎると、プレーヤーが楽譜を読む上で混乱が生じる恐れがあります。
- 個々の音符/アイテムのスペーシングをそれぞれの位置とは関係なく調節することもできます。
- 「**音符のスペーシング (Note Spacing)**」  をオンにすると、音符のスペーシングのハンドル以外は選択したり編集したりできません。通常の実行や編集を再開するには、浄書ツールボックスの「**グラフィックの編集 (Graphic Editing)**」  をクリックするか記譜モードに戻ります。

#### 例



音符のスペーシングのハンドルを左に動かすと、その位置の左側のスペースが狭くなる



音符のスペーシングのハンドルを右に動かすと、その位置の左側のスペースが広がる

#### 関連リンク

[浄書ツールボックス \(554 ページ\)](#)

[デフォルトの音符のスペーシングを変更する \(643 ページ\)](#)

[任意の位置から音符のスペーシングを変更する \(645 ページ\)](#)

[組段密度表示 \(566 ページ\)](#)

[組段の開始位置/終了位置の移動 \(651 ページ\)](#)

[最後の組段の両端揃え \(水平方向\) の変更 \(764 ページ\)](#)

[垂直線の衝突回避の有効化/無効化 \(1556 ページ\)](#)

[組段区切り](#) (789 ページ)

[ガイド](#) (490 ページ)

## 個々の音符/アイテムのスペーシングをそれぞれの位置とは関係なく調節する

それぞれの声部に応じた音符の表示位置を、それぞれの位置とは関係なく変更できます。これらの手順は、調号、拍子記号、音部記号などの特定の記譜項目にも適用できます。

前提条件

浄書ツールボックスで「**音符のスペーシング (Note Spacing)**」を選択しておきます。

手順

1. 浄書モードで、表示位置を移動する音符/アイテムの位置にある音符のスペーシングの四角いハンドルを選択します。



各声部/アイテムの横に丸いハンドルが表示されます。

2. **[Tab]** を押して丸いハンドルを選択します。



3. 以下のいずれかの操作を行なって、ハンドルを移動します。
  - 標準的な幅で左右に移動するには、**[Alt/Opt]** を押しながら対応する矢印キーを押します。たとえば、ハンドルを左に移動するには、**[Alt/Opt]+[←]** を押します。
  - 移動幅を大きくするには、通常のキーボードショートカットに加え **[Ctrl]/[command]** を押します (例: **[Ctrl]/[command]+[Alt/Opt]+[←]**)。
  - 移動幅を中くらいにするには、通常のキーボードショートカットに加え **[Shift]** を押します (例: **[Shift]+[Alt/Opt]+[←]**)。
  - 移動幅を小さくするには、通常のキーボードショートカットに加え **[Ctrl]/[command]+[Shift]** を押します (例: **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[Alt/Opt]+[←]**)。

### 補足

音符のスペーシングのハンドルの移動はマウスでは行なえず、キーボードのみで行なえます。

結果

その位置の音符のスペーシングを変更することなく、選択した音符/アイテムの表示位置が変更されません。同じ声部列の同じ位置にあるほかの音符も移動します。

個々の音符/アイテムの位置を調節した各組段の最初または最後に、組段区切りが自動的に挿入されます。

例



## 音符のスペーシングの変更を個別に削除する

個々の位置で音符のスペーシングに対して行なった変更を削除し、音符のスペーシングのハンドルを元のデフォルトの位置にリセットできます。

前提条件

浄書ツールボックスで「**音符のスペーシング (Note Spacing)**」を選択しておきます。

手順

1. 浄書モードで、元の位置に復元する音符のスペーシングのハンドルを選択します。
2. **[Backspace]** 又は **[Delete]** を押します。

結果

選択した位置がデフォルトの位置にリセットされます。

### ヒント

また、「**浄書 (Engrave)**」 > 「**音符のスペーシング (Note Spacing)**」メニューからいずれかのオプションを選択すると、選択した組段またはフレーム内のすべての音符のスペーシングの変更、あるいはレイアウト内のすべての音符のスペーシングの変更をリセットすることもできます。

## 組段の開始位置/終了位置の移動

1つの組段にインデントを適用する場合や個々のコーダセクションの前の間隔を広げる場合など、各組段の水平方向の開始位置/終了位置を個別に変更できます。

### 補足

- 譜表ラベルの前のスペースを大きくする場合は、譜表ラベルの付いた組段の最小インデントを変更できます。
- 組段がページの幅全体に広がるように組段の終了位置を変更する場合は、組段の幅が全体の何%を超えたら水平方向の両端揃えを適用するかを変更できます。
- ページ上のすべての組段の幅を同じだけ変更する場合は、楽曲フレームの幅を変更できます。

前提条件

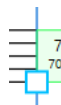
浄書ツールボックスで「**音符のスペーシング (Note Spacing)**」を選択しておきます。

#### 手順

1. 浄書モードで、開始位置/終了位置を変更する組段の開始位置/終了位置にある組段ハンドルを選択します。



組段の開始位置にある組段ハンドル



組段の終了位置にある組段ハンドル

2. 以下のいずれかの操作を行なって、ハンドルを移動します。
  - 標準的な幅で左右に移動するには、**[Alt/Opt]** を押しながらか対応する矢印キーを押します。たとえば、ハンドルを左に移動するには、**[Alt/Opt]+[←]** を押します。
  - これらの移動幅を大きくするには、通常のキーボードショートカットに加え **[Ctrl]/[command]** を押します (例: **[Ctrl]/[command]+[Alt/Opt]+[←]**)。
  - これらの移動幅を中くらいにするには、通常のキーボードショートカットに加え **[Shift]** を押します (例: **[Shift]+[Alt/Opt]+[←]**)。
  - これらの移動幅を小さくするには、通常のキーボードショートカットに加え **[Ctrl]/[command]+[Shift]** を押します (例: **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[Alt/Opt]+[←]**)。

#### 補足

音符のスペーシングのハンドルの移動はマウスでは行なえず、キーボードのみで行なえます。

---

#### 結果

選択した組段の開始位置/終了位置が変更されます。組段ハンドルの移動で組段が広がったか狭くなったかによって、選択した組段上の音符の間隔が広くまたは狭くなります。

移動した組段およびそれ以降の組段の開始位置に組段区切りが自動的に挿入されます。

#### 関連リンク

[浄書ツールボックス \(554 ページ\)](#)

[組段のインデント \(1720 ページ\)](#)

[最後の組段の両端揃え \(水平方向\) の変更 \(764 ページ\)](#)

[最初の組段のインデントの変更 \(1720 ページ\)](#)

[譜表ラベルの付いた組段の最小インデントの変更 \(1687 ページ\)](#)

[リピートマーカの位置 \(1605 ページ\)](#)

[楽曲フレーム \(609 ページ\)](#)

[組段区切り \(789 ページ\)](#)

## アイテムの表示位置の移動

各アイテムは、リズム上の位置や連結された音符を変更することなく、その表示位置を移動できます。これにより、たとえば特定のページの個別のアイテムの位置にオフセットを加えるとき、別の同タイプのアイテムを移動させたり、「**浄書オプション (Engraving Options)**」で設定したデフォルト位置を変更したりせずすみませす。この操作は現在のレイアウトとフレームチェーンのみに対して、もしくはすべてのレイアウトとフレームチェーンに対して行なえます。


テンポ記号や組段に付くテキストなど、組段オブジェクトの個々のインスタンスは、異なる譜表位置に表示されるその他のインスタンスと関係なく個別に移動できます。段階的強弱記号やオクターブ線などデュレーションを持つアイテムについても、それぞれの終端を個別に移動することで、表示上の長さや角度を調整できます。

#### 補足

- これらの手順は、テキストフレーム内のテキスト、譜表上に表示される臨時記号、音符、音部記号、小節線、調号、拍子記号には適用されません。
- 一部のアイテムやハンドルは、特定の方向にしか移動できません。以下に例を示します。
  - アーティキュレーションは上下に移動できますが、左右には移動できません。
  - オクターブ線の終了ハンドルは左右に移動できますが、上下には移動できません。
- マウスを使用する場合、ギターベンドまたはビブラートバーのダイブとリターン全体は上下にしか移動できません。

---

#### 前提条件

- 浄書ツールボックスで「グラフィックの編集 (Graphic Editing)」を選択しておきます。
- ローカルのプロパティ変更に関して、適切なプロパティ範囲を選択しておきます。

---

#### 手順

1. 浄書モードで、移動させる以下のいずれかのアイテムを選択します。
  - アイテム全体、または組段区切り/フレーム区切りをまたぐアイテムの部分
  - 数字付き低音のホールドの線や歌詞の延長線などのアイテムから伸びるライン
  - アイテムの個別のハンドル

#### ヒント

- 選択したアイテムだけではなく、すべてのアイテムにハンドルを表示するには、「浄書 (Engrave)」 > 「ハンドルを表示 (Show Handles)」 > 「常時 (Always)」を選択します。これにより、複数のアイテムの個々のハンドルを選択するのがより簡単になります。
  - **[Tab]** を押して、選択したアイテムのハンドルを順に切り替えられます。
2. 以下のいずれかの操作を行なって、選択したアイテムを移動します。
    - アイテムを標準的な幅で上下左右に移動するには、**[Alt/Opt]** を押しながら対応する矢印キーを押します。たとえば、アイテムを左に移動させるには、**[Alt/Opt]+[←]** を押します。これにより、キーを押すごとに連桁は 1/4 スペース分、それ以外のアイテムは 1/8 スペース分移動します。
    - アイテムの移動幅を大きくするには、通常のキーボードショートカットに **[Ctrl]/[command]** を加えて押します (例: **[Ctrl]/[command]+[Alt/Opt]+[←]**)。これにより、キーを押すごとにアイテムが 1 スペース分移動します。
    - アイテムの移動幅を中くらいにするには、通常のキーボードショートカットに加え **[Shift]** を押します (例: **[Shift]+[Alt/Opt]+[←]**)。これにより、キーを押すごとにアイテムが 1/2 スペース分移動します。
    - アイテムの移動幅を小さくするには、通常のキーボードショートカットに加え **[Ctrl]/[command]+[Shift]** を押します (例: **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[Alt/Opt]+[←]**)。これにより、キーを押すごとにアイテムが 1/32 スペース分移動します。
    - アイテムをクリックして任意の方向にドラッグします。

#### 補足

- 移動を水平方向または垂直方向に制限するには、ドラッグしはじめたあと、**[Shift]** を押したままにします。
- ビブラートバーのスcoopは、マウスを使用しての移動はできません。

#### 結果

選択したアイテムの表示位置が、リズム上の位置や連結された音符を変更することなく変更されます。プロパティ範囲を「ローカル (Locally)」に設定している場合、この変更は現在のレイアウトおよびフレームチェーンのみに影響します。

アイテムは適用される位置に連結線で接続されるため、そのアイテムがどこに属しているかは常に明らかです。

符頭の括弧やジャズアーティキュレーションなど一部のアイテムを移動すると、タイやスラーなど近くにある他のアイテムが、衝突を回避するため自動的に移動します。これにより、音符のスペーシングや配置設定に影響する場合があります。

他の強弱記号とリンクした強弱記号を移動すると、現在のレイアウト内で選択した強弱記号にリンクされているすべての強弱記号が同時に移動します。

演奏技法や数字付き低音など、延長線やホールドの線が付いたアイテムを移動すると、アイテムと線と一緒に移動します。延長線/ホールドの線または延長線/ホールドの線のハンドルを移動すると、延長線/ホールドの線がアイテムとは個別に移動します。解決音の数字を移動すると、数字付き低音のサスペンションと解決音の間のホールドの線の長さが自動的に調整されます。

歌詞のハイフンの長さを変更しても、ハイフンそのもののサイズや形状は変化しません。かわりに、ハンドル同士の距離が増減し、その間にハイフンが表示されます。

初期設定では、プレーヤーラベルを譜表内に配置するとその部分の背景が塗りつぶされるため、プレーヤーラベルと譜表線が重なることはありません。

#### 補足

- ヘアピンの開始ハンドルをキーボード操作で移動すると、ヘアピン全体の垂直位置が変化しますが、角度は変化しません。ヘアピンの角度を変更するには、終了オフセット位置を変更することも必要となります。ヘアピンのハンドルをマウスでドラッグすると、常に角度が変化します。
- 「浄書オプション (Engraving Options)」の対応するページで、ほとんどのオブジェクトのデフォルト位置を変更できます。
- アイテムを移動すると、アイテムの表示上のオフセットを制御するプロパティが自動的に有効になります。このプロパティは、アイテムのプロパティパネルの対応するグループ内か、テキストアイテムや歌詞など一部のアイテムについては「一般 (Common)」グループ内にあります。

オフセットプロパティの一部には、水平オフセット (X 軸) および垂直オフセット (Y 軸) 用の数値フィールドが個別にあります。同様に、長さまたはデュレーションを持つアイテムには、各終端用のオフセットプロパティが個別にあります。

これらのプロパティを使用し、数値フィールドの数値を変更してアイテムを移動させることもできます。オフセットプロパティをオフにすると、選択したアイテムがデフォルト位置にリセットされます。

---

#### 関連リンク

[アイテムの位置のリセット](#) (477 ページ)

[浄書ツールボックス](#) (554 ページ)

[プロパティ範囲の変更](#) (828 ページ)

[プロパティ設定を別のレイアウト/フレームチェーンにコピーする](#) (825 ページ)

[連結線を表示/非表示にする](#) (478 ページ)

[音符/アイテムの選択](#) (460 ページ)

[音符/アイテムの位置の移動](#) (502 ページ)

[数字付き低音の解決音を移動する](#) (1279 ページ)

[アイテムの長さの変更](#) (470 ページ)

[タッキングインデックスのプロパティ](#) (656 ページ)

[演奏技法の垂直の順番を変更する](#) (1541 ページ)

[「浄書オプション \(Engraving Options\)」ダイアログ](#) (923 ページ)

[プロパティパネル](#) (826 ページ)

[配置設定 \(784 ページ\)](#)  
[音符のスペーシング \(643 ページ\)](#)  
[個々の位置にある音符のスペーシングの調節 \(648 ページ\)](#)  
[音部記号の表示位置の移動 \(1193 ページ\)](#)  
[小節線の表示位置の移動 \(1087 ページ\)](#)  
[調号の表示位置の変更 \(1351 ページ\)](#)  
[拍子記号の表示位置の変更 \(1810 ページ\)](#)  
[臨時記号の表示位置の移動 \(1057 ページ\)](#)  
[音符に対するコード記号の配置を変更する \(1160 ページ\)](#)  
[浄書モードのギターバンド \(1480 ページ\)](#)  
[浄書モードにおける符頭の括弧 \(1414 ページ\)](#)  
[歌詞の位置 \(1368 ページ\)](#)  
[歌詞のラインを垂直に移動する \(1372 ページ\)](#)  
[歌詞のハイフンと歌詞の延長線 \(1379 ページ\)](#)  
[浄書モードのオクターブ線 \(1205 ページ\)](#)  
[浄書モードのサスティンペダル線 \(1518 ページ\)](#)  
[浄書モードのスラー \(1675 ページ\)](#)  
[浄書モードのライン \(1573 ページ\)](#)  
[テキストフレーム \(616 ページ\)](#)  
[フレーム \(601 ページ\)](#)

## アイテムのハンドルの選択

浄書モードでは、段階的強弱記号の開始位置を動かさずに終了位置だけを動かしたい場合などに、アイテムの個々のハンドルを選択できます。

### 補足

これらの手順は、フレーム、音符のスペーシング、譜表のスペーシングのハンドルには使用できません。

---

### 手順

- 以下のいずれかの操作を行なってハンドルを選択します。
  - アイテム全体を選択し、目的のハンドルが選択されるまで **[Tab]** を押します。
  - 目的のハンドルをクリックします。

### ヒント

選択したアイテムだけではなく、すべてのアイテムにハンドルを表示するには、「**浄書 (Engrave)**」 > 「**ハンドルを表示 (Show Handles)**」 > 「**常時 (Always)**」を選択します。これにより、複数のアイテムの個々のハンドルを選択するのがより簡単になります。

---

- 必要に応じて、**[Ctrl]/[command]** を押しながらかlickして、別のアイテムのハンドルも選択します。

### 補足

別のアイテムを選択して **[Tab]** を押しても、そのアイテムの次のハンドルを選択することはできません。

---

### 関連リンク

[段階的強弱記号 \(1246 ページ\)](#)

[タイの形状と角度の変更 \(1788 ページ\)](#)

## 十字線の表示/非表示

浄書モードで、アイテム選択時やマウスでアイテムをドラッグする際に現れる十字線の表示/非表示を切り替えられます。十字線があると、アイテムの表示位置を揃えやすくなります。

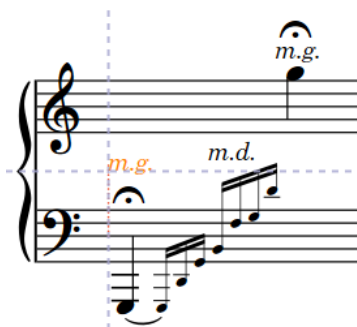
### 手順

- 浄書モードで、以下のいずれかの操作を行ないます。
  - アイテムをドラッグする際の十字線の表示/非表示を切り替えるには、「**浄書 (Engrave)**」 > 「**十字線 (Crosshairs)**」 > 「**ドラッグ時に表示 (Show When Dragging)**」を選択します。
  - 選択したアイテムの十字線の表示/非表示を切り替えるには、「**浄書 (Engrave)**」 > 「**十字線 (Crosshairs)**」 > 「**選択時に表示 (Show When Selected)**」を選択します。

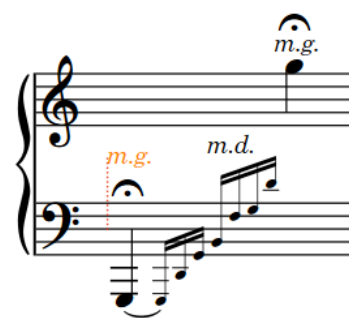
### 結果

状況に合わせて十字線の表示/非表示が切り替わります。

### 例



十字線を表示した場合



十字線を非表示した場合

### 関連リンク

- [アイテムの表示位置の移動 \(652 ページ\)](#)
- [音符とアイテムを個々に選択/選択解除する \(460 ページ\)](#)
- [大きな選択範囲 \(463 ページ\)](#)
- [ガイドの表示/非表示の切り替え \(491 ページ\)](#)
- [印刷されない要素を非表示にする \(477 ページ\)](#)
- [連結線を表示/非表示にする \(478 ページ\)](#)
- [注釈 \(740 ページ\)](#)

## タッキングインデックスのプロパティ

記譜記号のタッキングインデックスは、複数の記譜記号が同じ位置に存在する場合に、垂直スタッキングの順番における他の記譜記号に対する位置を決定します。

出版された楽譜のほとんどにおいて、アイテムが記譜される相互の順番は一定となっています。Dorico Pro は一般的な表記規則を使用して、記譜記号の位置や配置を自動的に決定します。たとえば、スラーと連符の角括弧が同じ位置に存在する場合、Dorico Pro はそれぞれの長さを比較して配置を決定します。スラーが連符の角括弧より長い場合、スラーは連符の角括弧より外側に配置されます。連符の角括弧がスラーより長い場合、スラーは連符の角括弧より内側に配置されます。



ただし、アーティキュレーション、スラー、連符およびオクターブ線の順番と配置に関するルールは、それぞれの長さや音楽的な状況により、多くの変化や例外を生じます。そのため、特定の状況における配置の順番は、自動生成された順番を上書きして手動で変更できます。

この柔軟性を可能とするために、スラー、オクターブ線および連符にはすべて、プロパティパネルのそれぞれに対応するグループ内に「**タッキングインデックス (Tucking index)**」プロパティが用意されています。

#### 補足

- アーティキュレーションは、スタックの順番を算出する際には上記の記譜記号と同様に考慮されますが、タッキングインデックスのプロパティは持ちません。
- 演奏技法には個別のタッキングインデックスがあり、演奏技法の垂直方向の順序を変更できます。

---

「**タッキングインデックス (Tucking index)**」が 0 である場合、アイテムは音符の 1 番近くに配置されます。数字が大きくなるほど、アイテムはスタックの順番の中で音符から離れた位置に配置されます。

#### 関連リンク

[演奏技法の垂直の順番を変更する \(1541 ページ\)](#)

[オクターブ線の垂直スタックの順番を変更する \(1205 ページ\)](#)

# 再生モード

再生モードでは、再生時に楽譜をどのように発音するかを変更できます。たとえば、ミキシングの調節、再生テンプレートの変更、VST インストゥルメントの割り当てなどを行なえます。

## 再生モードのプロジェクトウィンドウ

再生モードのプロジェクトウィンドウには、プロジェクトの再生設定を行なうためのツールと機能がすべて揃っています。再生モードでは、Cubase などの「DAW」と同じような方法でプロジェクトが表示されます。

再生モードに切り替えるには、以下のいずれかの操作を行ないます。

- **[Ctrl]/[command]+[4]** を押します。
- ツールバーの「再生 (Play)」をクリックします。
- 「ウィンドウ (Window)」 > 「再生 (Play)」を選択します。



再生モードのプロジェクトウィンドウには、以下のセクションが含まれます。

### 1 左ゾーン

左ゾーンの上部に、現在の選択に応じてトラックインスペクターまたは「VST と MIDI (VST and MIDI)」パネルが表示されます。

### 2 トラック概要

選択したフロー内のトラックが表示され、インストゥルメントトラックをミュート/ソロにしたり、キーエディターに楽譜を表示する、またはトラックインスペクターでサウンドを編集するトラックを選択したりできます。

### 3 下ゾーン

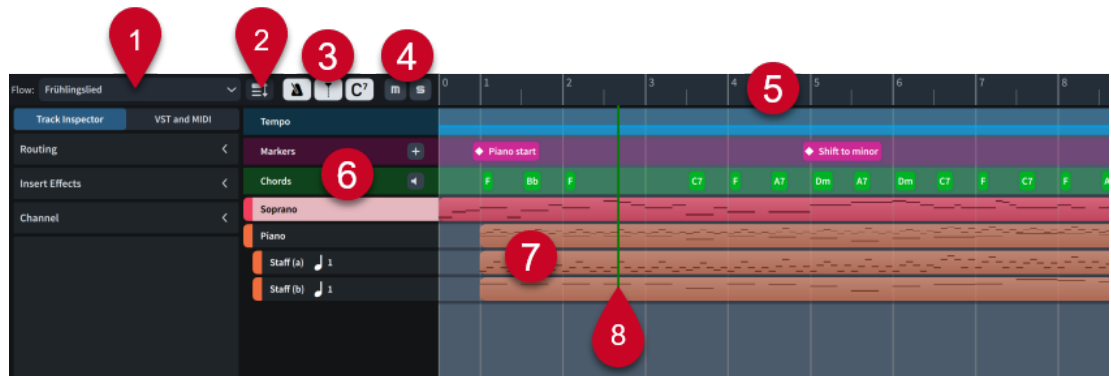
下ゾーンのツールバーの現在の選択に応じて、キーエディターパネルまたは ミキサー パネルのいずれかが表示されます。

関連リンク

- [ツールバー \(33 ページ\)](#)
- [プロジェクトウィンドウ \(32 ページ\)](#)
- [トラックインスペクター \(661 ページ\)](#)
- [「VST と MIDI \(VST and MIDI\)」 パネル \(664 ページ\)](#)
- [キーエディターパネル \(831 ページ\)](#)
- [ミキサーパネル \(883 ページ\)](#)
- [ゾーンの表示/非表示の切り替え \(48 ページ\)](#)

## トラック概要

トラック概要では、選択したレイアウトやフローのトラックを表示したり、インストゥルメントトラックのミュートやソロを実行したりできます。また、キーエディターに楽譜を表示する (ロックされていない場合)、またはトラックインスペクターでサウンドを編集する 1 つのトラックを選択することもできます。トラック概要は再生モードのウィンドウの中心部です。



トラック概要には以下が含まれています。

### 1 フローセレクター

トラック概要に表示するフローを選択できます。表示できるのは一度に 1 つのフローのみです。いずれのフローでも何も選択されていないときのみ使用できます。

### 2 トラックの高さボタン

トラック概要のすべてのトラックに対して、高さを順に切り替えることができます。

### 3 トラックの表示ボタン

各トラックの表示/非表示を切り替えられます。

- **テンポ (Tempo)** : テンポトラックの表示/非表示を切り替えます。
- **マーカー (Markers)** : マーカートラックの表示/非表示を切り替えます。
- **和音 (Chords)** : コードトラックの表示/非表示を切り替えます。

### 4 ミュート /ソロ ボタン

トラックをミュート/ソロにできます。トラックの高さが十分にある場合はトラックヘッダーに、トラックの高さが低い場合はトラック概要の上部に表示されます。トラックヘッダーに表示される場合は対応するトラックに、トラック概要の上部に表示される場合は選択したトラックに適用されます。

### 5 ルーラー

小節番号と拍の区切りが表示されます。

### 6 トラックヘッダー

各トラックの名前が表示され、トラックタイプに応じたオプションが含まれます。

打楽器キットのトラックヘッダーには展開矢印マークがあり、キット内の各インストゥルメントに個別のトラックを表示できます。

## 7 トラック

インストゥルメントトラックなら音符、コード記号トラックならコード記号など、対応する音楽要素の概要が各行に表示されます。

## 8 再生ヘッド

現在の再生位置が表示されます。

### 関連リンク

- [トラック \(669 ページ\)](#)
- [インストゥルメントトラック \(670 ページ\)](#)
- [テンポトラック \(672 ページ\)](#)
- [マーカートラック \(673 ページ\)](#)
- [コードトラック \(674 ページ\)](#)
- [キーエディター \(831 ページ\)](#)
- [キーエディターでインストゥルメントを表示する \(835 ページ\)](#)
- [トラックを表示/非表示にする \(676 ページ\)](#)
- [トラックをミュート/ソロにする \(687 ページ\)](#)
- [再生ヘッド \(677 ページ\)](#)
- [トラックの高さの変更 \(676 ページ\)](#)
- [トラックのズームイン/ズームアウト \(677 ページ\)](#)
- [ゾーンの表示/非表示の切り替え \(48 ページ\)](#)
- [レイアウトの切り替え \(47 ページ\)](#)

## トラック概要でフローを切り替える

再生モードのトラック概要に表示するフローを手動で変更できます。表示できるのは一度に1つのフローのみです。

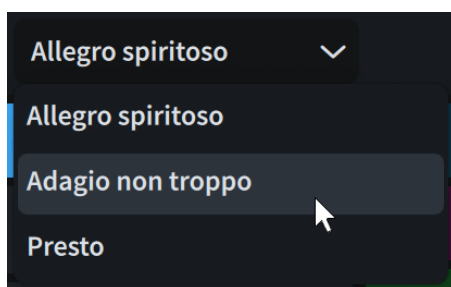
### 前提条件

すべての音符/アイテムの選択を解除しておきます。音符/アイテムが選択されているとフローを切り替えることができません。

---

### 手順

- 再生モードで、トラック概要の一番上にあるフローセレクターをクリックして、メニューからフローを選択します。



---

### 関連リンク

- [音符とアイテムを個々に選択/選択解除する \(460 ページ\)](#)
- [レイアウトの切り替え \(47 ページ\)](#)

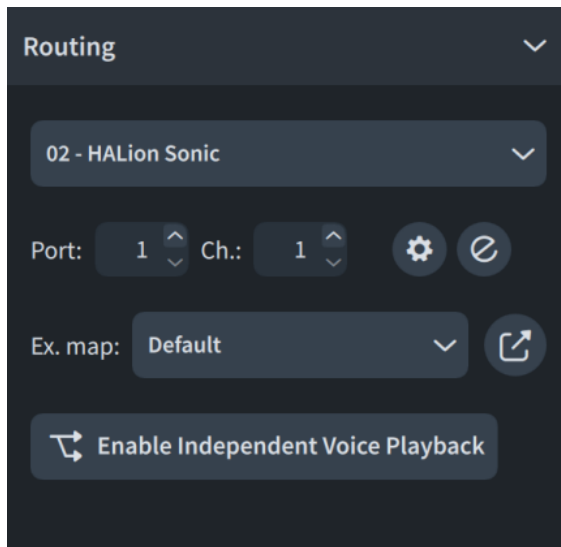
## トラックインスペクター

トラックインスペクターを使用すると、トラック概要で現在選択しているトラックのサウンドを編集できます。これは再生モードの左ゾーンに配置されています。

トラックインスペクターには以下のセクションがあります。

### ルーティング (Routing)

選択したトラックのサウンドルーティングを変更できます。



以下のルーティングのコントロールを使用できます。

#### オーディオプラグインメニュー

02 - HALion Sonic

選択したトラックに使用する VST インストゥルメントまたは MIDI インストゥルメントのプラグインを選択できます。プロジェクトにすでにロードされているプラグインのみ使用できます。

#### 「ポート (Port)」フィールド

使用するポートを入力して、選択するトラックを割り当てるエンドポイントを変更できます。16 チャンネルのポートが複数あるプラグインを使用する場合のみ必要です。

#### 「Ch.」フィールド

ロードした VST インストゥルメントまたは MIDI インストゥルメントで使用するチャンネルを入力して、選択するトラックを割り当てるエンドポイントを変更できます。

#### 補足

- 再生で和音を聴けるようにするには、コードトラックに VST インストゥルメントまたは MIDI インストゥルメントと、チャンネルを割り当てる必要があります。
- コードトラックに選択したチャンネルにサウンドを手動でロードしたあと、プロジェクトに他のインストゥルメントを追加した場合、そのチャンネルに手動でロードしたサウンドが新しいインストゥルメントのサウンドで上書きされます。

#### エンドポイントの設定 (Endpoint Setup)



対応するプラグインの「エンドポイントの設定 (Endpoint Setup)」ダイアログを開きます。

### インストゥルメントを編集 (Edit Instrument)



対応する VST インストゥルメントまたは MIDI インストゥルメントのウィンドウが開き、設定を編集できます。

### Ex. マップ (Ex. map)/Perc. マップ (Perc. map)

選択したトラックを割り当てるエンドポイントのエクスペッションマップまたはパーカッションマップを変更できます。

「Perc. マップ (Perc. map)」は無音程打楽器トラックにのみ使用できます。

### エクスペッションマップを編集 (Edit Expression Map)/パーカッションマップを編集 (Edit Percussion Map)



対応するエクスペッションマップまたはパーカッションマップを選択した状態で「**エクスペッションマップ (Expression Map)**」 / 「**パーカッションマップ (Percussion Map)**」ダイアログを開きます。

### 声部の個別再生を有効化 (Enable Independent Voice Playback)



選択したインストゥルメントトラックの声部の個別再生を有効にできます。クリックすると、そのインストゥルメントに属する各声部がインストゥルメントトラックの下に個別の声部トラックとして表示されます。

現在の再生テンプレートに応じて、プロジェクト全体の対応するインストゥルメントに属するすべての声部を再生できるよう、必要な数の追加チャンネルと追加プラグインが自動的にロードされます。声部の順番に応じて、声部が自動的にエンドポイントに割り当てられます。

### 声部の個別再生を無効化 (Disable Independent Voice Playback)



選択したインストゥルメントトラックの声部の個別再生を無効にし、すべての声部に単一のエンドポイントを使用する状態に戻します。

### 編集を適用 (Edits apply to)

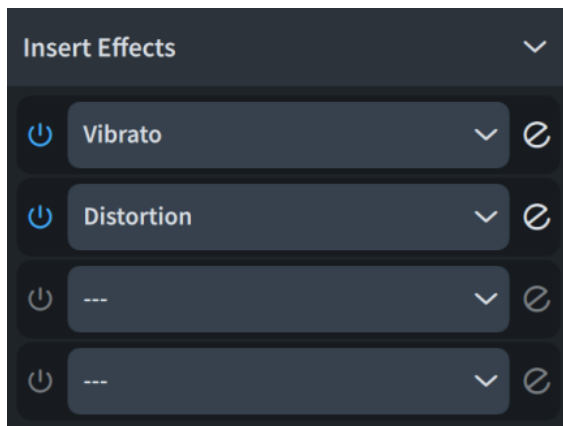
選択した声部のルーティングの変更を、現在のフローにのみ反映するか、プロジェクトのすべてのフローに反映するかを設定できます。

「**このフロー (This flow)**」または「**すべてのフロー (All flows)**」のいずれかを選択した直後に行なう変更のみ適用されます。

声部の個別再生を有効にしたインストゥルメントに属する声部のトラックにのみ使用できません。

### Insert エフェクト (Insert Effects)

選択したインストゥルメントトラックの ミキサー チャンネルの Insert を追加したり管理したりできます。各インストゥルメントトラックの ミキサー チャンネルには 4 つの Insert スロットがあります。



各スロットには以下が含まれています。

#### Insert の有効化



Insert スロットを有効化/無効化します。

#### Insert メニュー



スロットにロードする Insert を選択できます。

#### Insert を編集 (Edit Insert)



対応するエフェクトのウィンドウが開き、設定を編集できます。

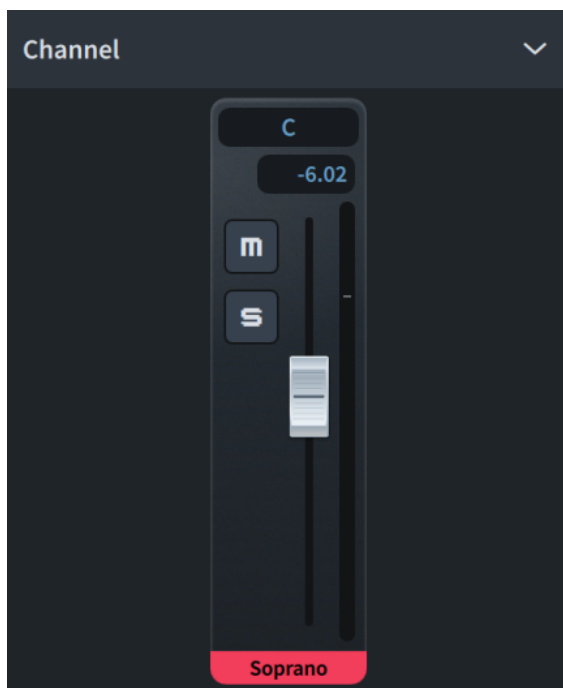
#### ヒント

- ミキサーですべてのチャンネルの Insert にアクセスすることもできます。
- Dorico Pro に含まれるプラグインの詳細については、プラグインリファレンスを参照してください。

---

## チャンネル (Channel)

選択したトラックのミキサーチャンネルストリップが表示され、チャンネルを調節できます。



#### ヒント

ミキサーですべてのチャンネルにアクセスすることもできます。

---

#### 関連リンク

- [トラック概要 \(659 ページ\)](#)
- [インストゥルメントトラック \(670 ページ\)](#)
- [「エンドポイントの設定 \(Endpoint Setup\)」ダイアログ \(711 ページ\)](#)
- [「エクスペッションマップ \(Expression Maps\)」ダイアログ \(1020 ページ\)](#)
- [「パーカッションマップ \(Percussion Maps\)」ダイアログ \(1039 ページ\)](#)
- [ミキサー \(883 ページ\)](#)
- [ミキサーチャンネルストリップ \(888 ページ\)](#)
- [声部の個別再生の有効化 \(685 ページ\)](#)
- [コード記号の再生に使用するサウンドを変更する \(675 ページ\)](#)
- [VST/MIDI インストゥルメントを手動でロードする \(667 ページ\)](#)

## 「VST と MIDI (VST and MIDI)」パネル

「VST と MIDI (VST and MIDI)」パネルには、プロジェクトで使用できる、もしくは使用されている VST インストゥルメントおよび MIDI インストゥルメントが含まれ、各インストゥルメントの設定を編集できます。これは再生モードの左ゾーンに配置されています。

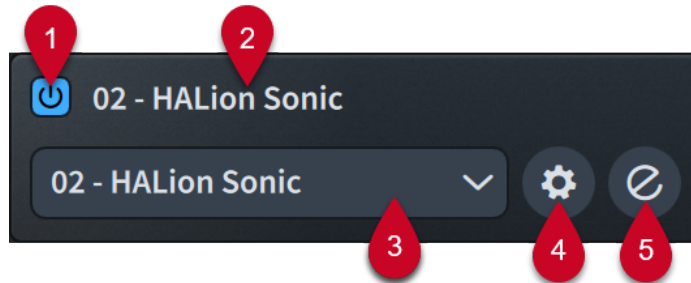
### VST インストゥルメント (VST Instruments)

このパネルの「VST インストゥルメント (VST Instruments)」セクションには、VST インストゥルメントが含まれているプラグインが表示されます。Dorico Pro では、現在の再生テンプレートに応じて、プロジェクトに追加したインストゥルメントに必要なプラグインが自動的にロードされますが、VST インストゥルメントを手動でロードすることもできます。



## 補足





初期設定では、「VST インストゥルメント (VST Instruments)」セクションには、VST 3 インストゥルメントのみが表示されます。VST 2 インストゥルメントも使用できるようにするには、それらを許可する必要があります。初期設定では、Kontakt と NotePerformer のみ許可されています。



各 VST プラグインには以下のセクションが含まれます。

- 1 プラグインを有効化 (Activate Instance)**  
プラグインを有効化/無効化します。
- 2 名前 (Name)**  
プラグインの番号と名前が表示されます。同じプラグインが複数ある場合にプラグインを区別できるように、プラグインは自動的に番号付けされます。
- 3 VST インストゥルメントメニュー**  
プラグインに現在ロードされている VST インストゥルメントが表示され、メニューからは別の VST インストゥルメントを選択できます。
- 4 エンドポイントの設定 (Endpoint Setup)**  
対応するプラグインの「エンドポイントの設定 (Endpoint Setup)」ダイアログを開きます。
- 5 インストゥルメントを編集 (Edit Instrument)**  
VST インストゥルメントウィンドウを開いたり閉じたりします。

セクションの最下部のアクションバーには以下のオプションがあります。

- **追加 (Add)** : 空の新規プラグインを追加します。
- **複製 (Duplicate)** : 選択したプラグインのコピーを作成し、元のプラグインとは別の設定に編集できます。
- **エンドポイントの設定を保存 (Save Endpoint Configuration)** : 「エンドポイントの設定を保存 (Save Endpoint Configuration)」ダイアログを開き、セクション内のすべてのプラグインの現在の状態をカスタムエンドポイント設定として保存できます。
- **削除 (Delete)** : 選択したプラグインを削除します。

## MIDI インストゥルメント

このパネルの「MIDI インストゥルメント (MIDI Instruments)」セクションには、再生中の出力に使用する MIDI デバイスが含まれているプラグインが表示されます。使用できる MIDI デバイスはオペレーティングシステムによって異なります。

- Windows の場合、コンピューターに接続されている任意の MIDI デバイスを選択できます。
- macOS の場合は、コンピューターに接続されている任意の MIDI デバイス、または「Audio MIDI 設定」アプリケーションで設定した他の任意のデバイスを選択できます。これにより、たとえば MIDI デバイスを複数のアプリケーションで使用できます。

## ヒント

Dorico Pro を起動する前に MIDI デバイスをコンピューターに接続することをおすすめします。また、デバイスが認識されない場合は Dorico Pro を再起動することをおすすめします。



各 MIDI プラグインには以下のセクションが含まれます。

### 1 名前 (Name)

プラグインの番号と名前が表示されます。同じプラグインが複数ある場合にプラグインを区別できるように、プラグインは自動的に番号付けされます。




### 2 MIDI インストゥルメントメニュー

プラグインに現在ロードされている MIDI デバイスが表示され、メニューから別の MIDI デバイスを選択できます。

### 3 エンドポイントの設定 (Endpoint Setup)

対応するプラグインの「**エンドポイントの設定 (Endpoint Setup)**」ダイアログを開きます。

セクションの最下部のアクションバーには以下のオプションがあります。

- **追加 (Add)** : 空の新規プラグインを追加します。
- **エンドポイントの設定を保存 (Save Endpoint Configuration)** : 「**エンドポイントの設定を保存 (Save Endpoint Configuration)**」ダイアログを開き、セクション内のすべてのプラグインの現在の状態をカスタムエンドポイント設定として保存できます。
- **削除 (Delete)** : 選択したプラグインを削除します。

## 関連リンク

[再生モードのプロジェクトウィンドウ \(658 ページ\)](#)

[再生テンプレート \(701 ページ\)](#)

[エンドポイント \(710 ページ\)](#)

[「エンドポイントの設定 \(Endpoint Setup\)」ダイアログ \(711 ページ\)](#)

[カスタムエンドポイント設定 \(715 ページ\)](#)

[「エンドポイントの設定を保存 \(Save Endpoint Configuration\)」ダイアログ \(716 ページ\)](#)

[VST/MIDI インストゥルメントを手動でロードする \(667 ページ\)](#)

[VST インストゥルメントの編集 \(669 ページ\)](#)

## VST プラグインを許可する/ブロックする

Dorico Pro で使用する VST 2 インストゥルメントプラグインを個別に許可したり、Dorico Pro で使用できなくするプラグインをブロックしたりできます。許可したプラグインは、その以降すべてのプロジェクトで使用できるようになります。




Dorico Pro では、クラッシュするプラグインや Steinberg 社が Dorico Pro での使用を認定していないプラグインが自動的にブロックされます。初期設定では、Kontakt と NotePerformer のみ許可されています。

## 補足

このアプリケーションは Apple シリコン上でネイティブに実行され、VST 3 プラグインのみをネイティブにサポートします。VST 2 プラグインは Rosetta モードで使用できます。

---

## 手順

1. **[Ctrl]/[command]+[,]** を押して「**環境設定 (Preferences)**」を開きます。
  2. カテゴリリストの「**VST プラグイン (VST Plug-ins)**」をクリックします。
  3. 「**許可された VST 2 プラグイン (Allowed VST2 Plug-ins)**」サブセクションで、以下のいずれかの操作を行なってプラグインを許可します。
    - ブロックされた個々のプラグインを許可するには、「**ブロックされたプラグイン (Blocked Plug-ins)**」リストでそのプラグインを選択して、アクションバーにある「**選択したプラグインを許可 (Allow selected plug-ins)**」 をクリックします。
    - ブロックされたすべてのプラグインを許可するには、「**ブロックされたプラグイン (Blocked Plug-ins)**」リストのアクションバーにある「**すべて許可 (Allow All)**」をクリックします。
    - 「**ブロックされたプラグイン (Blocked Plug-ins)**」リストに含まれていないプラグインを許可するには、「**許可されたプラグイン (Allowed Plug-ins)**」リストのアクションバーにある「**プラグイン名を追加 (Add plug-in name)**」 をクリックし、新しいエントリーにプラグインの名前を入力します。
  4. 以下のいずれかの操作を行なって、プラグインをブロックします。
    - 許可された個々のプラグインをブロックするには、「**許可されたプラグイン (Allowed Plug-ins)**」リストでそのプラグインを選択して、アクションバーにある「**選択したプラグインをブロック (Block selected plug-ins)**」 をクリックします。
    - 許可されたすべてのプラグインをブロックするには、「**許可されたプラグイン (Allowed Plug-ins)**」リストのアクションバーにある「**すべてブロック (Block All)**」をクリックします。
  5. 「**適用 (Apply)**」をクリックしてから「**閉じる (Close)**」をクリックします。
  6. Dorico Pro を終了します。
- 

## 結果

Dorico Pro の次回起動時に、許可した VST プラグインがプログラムで使用できるようになります。

## 関連リンク

[「環境設定 \(Preferences\)」ダイアログ \(63 ページ\)](#)

[トラックインスペクター \(661 ページ\)](#)

[楽譜の再生 \(680 ページ\)](#)

[再生テンプレート \(701 ページ\)](#)

## VST/MIDI インストゥルメントを手動でロードする

Dorico Pro では、プロジェクト内のインストゥルメントや現在の再生テンプレートに応じて、必要なプラグインが自動的にロードされます。ただし、VST/MIDI インストゥルメントを手動でロードすることもできます。新しいプラグインにロードすることも、既存のプラグインにロードして既存の VST/MIDI インストゥルメントを置き換えることもできます。

## 前提条件

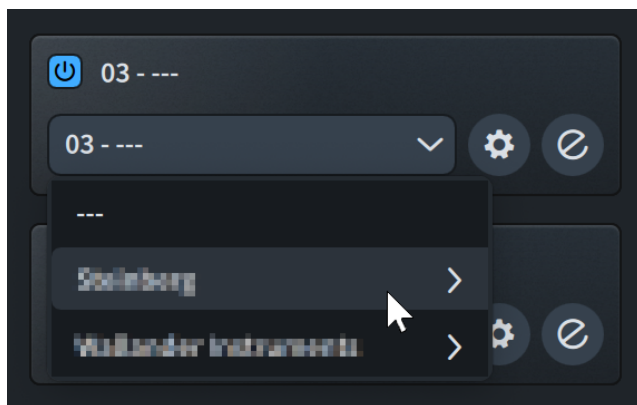
- 使用する VST インストゥルメントをコンピューター上に保存しておきます。
- 使用する MIDI デバイスを接続しておきます。

#### ヒント

Dorico Pro を起動する前に MIDI デバイスをコンピューターに接続することをおすすめします。また、デバイスが認識されない場合は Dorico Pro を再起動することをおすすめします。

#### 手順

1. 再生モードで、左ゾーンの「VST と MIDI (VST and MIDI)」を選択して「VST と MIDI (VST and MIDI)」パネルを表示します。
2. VST/MIDI インストゥルメントを新規プラグインにロードする場合は、「VST と MIDI (VST and MIDI)」パネルの対応するセクションで「追加 (Add)」 をクリックします。
3. 新しい VST/MIDI インストゥルメントをロードするプラグインで、ロードする VST/MIDI インストゥルメントをメニューから選択します。



#### 手順終了後の項目

- チャンネルにサウンドをロードするなどして、VST インストゥルメントを編集できます。
- インストゥルメント/声部やエクスプレッション/パーカッションマップを、ロードした VST/MIDI インストゥルメントのエンドポイントに割り当てることができます。
- VST インストゥルメントとエンドポイントに加えた変更をカスタムエンドポイント設定として保存し、他のプロジェクトで再利用できます。

#### 補足

MIDI インストゥルメントをロードした場合は、フィードバックループを回避するために MIDI 入力の際には無効にすることを強くおすすめします。

#### 関連リンク

- [再生テンプレート \(701 ページ\)](#)
- [再生テンプレートの適用/リセット \(707 ページ\)](#)
- [「VST と MIDI \(VST and MIDI\)」パネル \(664 ページ\)](#)
- [「エンドポイントの設定 \(Endpoint Setup\)」ダイアログ \(711 ページ\)](#)
- [MIDI 入力デバイスの有効化/無効化 \(297 ページ\)](#)
- [エンドポイントへのインストゥルメント/声部の割り当て \(713 ページ\)](#)
- [エンドポイントへのエクスプレッションマップ/パーカッションマップの割り当て \(714 ページ\)](#)
- [カスタムエンドポイント設定を保存する \(715 ページ\)](#)
- [カスタム再生テンプレートを作成する \(708 ページ\)](#)
- [Groove Agent SE からドラムセットパターンを読み込む \(104 ページ\)](#)


## VST インストゥルメントの編集

サードパーティー製サウンドライブラリーを使用している場合などに、VST インストゥルメントにロードしたサウンドとエフェクトを編集できます。

前提条件

編集する VST インストゥルメントを、手動または再生テンプレートを適用してロードしておきます。

手順

1. 再生モードで、左ゾーンの「**VST と MIDI (VST and MIDI)**」を選択して「VST と MIDI (VST and MIDI)」パネルを表示します。
2. 編集する VST インストゥルメントを含むプラグインで、「**インストゥルメントを編集 (Edit Instrument)**」をクリックして VST インストゥルメントウィンドウを開きます。
3. 用意されたオプションを使用して VST インストゥルメントを編集します。  
たとえば、以下のような操作を行なえます。
  - さまざまな種類のギターや「Oo」ボーカルなどのサウンドをチャンネルにロードする。
  - フルーツサウンドの空気量などのコントロールを調節する。
  - ギターのディストーションエフェクトやディレイエフェクトをロードするなど、エフェクトを変更する。

ヒント

- 編集やロードを行なえるサウンドとエフェクトの詳細については、サウンドライブラリーのマニュアルを参照してください。
- 「**環境設定 (Preferences)**」の「**キーボードショートカット (Key Commands)**」ページで、「**選択した譜表に VST プラグインウィンドウを表示 (Show VST Plug-in Window For Selected Staff)**」にキーボードショートカットを割り当てることができます。このキーボードショートカットは、楽譜領域で選択している最初の譜表/声部またはトラック概要で選択したトラックの VST インストゥルメントウィンドウを開きます。

手順終了後の項目

- インストゥルメント/声部やエクスプレッション/パーカッションマップを、VST インストゥルメントのエンドポイントに割り当てることができます。
- VST インストゥルメントとエンドポイントに加えた変更をカスタムエンドポイント設定として保存し、他のプロジェクトで再利用できます。

## トラック

トラックとは、左から右へと時間の流れに沿って行に音楽要素を表わしたものです。トラックを使用すると、プロジェクト内の複数の音楽要素を同時に、かつ個別にコントロールできます。

かつてテープでオーディオミキシングが行なわれ、多重録音により曲の複数のパートが独立して録音および編集され、最終的な楽曲が作成されていた時代に、トラックという用語が生まれました。

Cubase のような近代的なプログラムでは、オーディオ録音やソフトウェアインストゥルメントなど、さまざまな種類のサウンドをトラックに含めることができます。多くの場合、オーディオ録音を含むトラックにはオーディオの波形が表示され、ソフトウェアインストゥルメントを含むトラックでは、ピアノロール上に、水平位置が時間、垂直位置がピッチを示す長方形の音符イベントが表示されます。

Dorico Pro の再生モードでは、以下の種類のトラックが表示されます。

### インストゥルメントトラック

対応するインストゥルメントに属する音符のプレビューが表示されます。単一のプレーヤーに複数の楽器が関連付けられている場合も含めて、プロジェクト内の楽器ごとに個別のインストゥルメントトラックが表示されます。

インストゥルメントトラックを選択すると、キーエディターに楽譜が表示され(ロックされていない場合)、トラックインスペクターにトラックの設定が表示されます。

### テンポトラック

フロー内のテンポ変更のプレビューが表示されます。各プロジェクトにはテンポトラックが1つ含まれています。

テンポトラックを選択すると、キーエディターパネルにテンポエディターが表示され(ロックされていない場合)、トラックインスペクターにトラックの設定が表示されます。

### マーカートラック

フローのマーカがマーカテキストを含め表示されます。各プロジェクトにはマーカートラックが1つ含まれています。

### コードトラック

フロー内のコード記号が表示されます。各プロジェクトにはコードトラックが1つ含まれています。

コードトラックを選択すると、トラックインスペクターにトラックの設定が表示されます。

#### 関連リンク

- [トラック概要 \(659 ページ\)](#)
- [トラックインスペクター \(661 ページ\)](#)
- [キーエディター \(831 ページ\)](#)
- [キーエディターでインストゥルメントを表示する \(835 ページ\)](#)
- [テンポトラック \(672 ページ\)](#)
- [コードトラック \(674 ページ\)](#)
- [マーカートラック \(673 ページ\)](#)
- [トラックの高さの変更 \(676 ページ\)](#)
- [トラックを表示/非表示にする \(676 ページ\)](#)
- [ゾーンの表示/非表示の切り替え \(48 ページ\)](#)
- [ミキサーチャンネル \(886 ページ\)](#)

## インストゥルメントトラック

インストゥルメントトラックを使用すると、対応するインストゥルメントに属する音符をプレビューしたり、キーエディターに表示するインストゥルメントを選択したりできます。

再生モードでは、単一のプレーヤーに複数の楽器が関連付けられている場合も含めて、プロジェクト内の楽器ごとに個別のインストゥルメントトラックが表示されます。インストゥルメントトラックには、各インストゥルメントに設定されたインストゥルメントの正式名称を使用したラベルが付けられます。

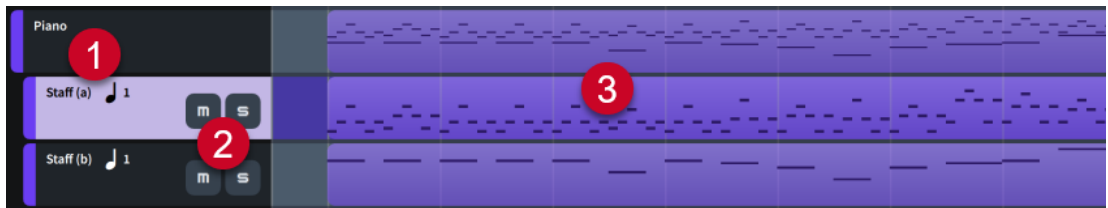
声部の個別再生を有効にした場合、対応するインストゥルメントに属する各声部がインストゥルメントトラックの下に個別の声部トラックとして表示されます。

同様に、打楽器キットのトラックを展開して、キット内の各インストゥルメントに個別のトラックを表示できます。

各インストゥルメントには現在のレイアウトのプレーヤーの順番に応じて自動的に色が付けられるため、インストゥルメントを簡単に見分けられます。この色は、ミキサーやキーエディターを含め、対応するインストゥルメントに一貫して使用されます。

トラック概要でインストゥルメントトラックを選択すると、以下を実行できます。

- そのトラックの音符とデータをキーエディターパネルに表示して編集する (ロックされていない場合)。
- トラックインスペクターを使用してトラックのルーティングを変更する。



下に2つの声部トラックがあるピアノインストゥルメント

各インストゥルメントトラックには以下のセクションが含まれます。

### 1 トラック名

トラックの名前が表示されます。

- インストゥルメントトラックには、インストゥルメントの正式名称が表示されます。
- 声部トラックには、対応する声部の符尾の方向と数が表示されます。複数の譜表を持つインストゥルメントの場合は、対応する声部の譜表も含まれます。

### 2 ミュート **m**/ソロ **s** ボタン

トラックをミュート/ソロにできます。トラックの高さが十分にある場合はトラックヘッダーに、トラックの高さが低い場合はトラック概要の上部に表示されます。トラックヘッダーに表示される場合は対応するトラックに、トラック概要の上部に表示される場合は選択したトラックに適用されます。

### 3 トラックプレビュー

そのインストゥルメントに属する音符のプレビューが表示されます。

関連リンク

- [キーエディター \(831 ページ\)](#)
- [ピアノロールエディター \(843 ページ\)](#)
- [打楽器エディター \(844 ページ\)](#)
- [キーエディターでインストゥルメントを表示する \(835 ページ\)](#)
- [ベロシティエディター \(856 ページ\)](#)
- [強弱記号エディター \(859 ページ\)](#)
- [演奏技法エディター \(855 ページ\)](#)
- [MIDI CC エディター \(866 ページ\)](#)
- [プレーヤー名、レイアウト名、インストゥルメント名 \(203 ページ\)](#)
- [インストゥルメント名の変更 \(206 ページ\)](#)
- [複数の声部への音符の入力 \(257 ページ\)](#)
- [声部 \(1858 ページ\)](#)
- [「エンドポイントの設定 \(Endpoint Setup\)」ダイアログ \(711 ページ\)](#)
- [トラックをミュート/ソロにする \(687 ページ\)](#)
- [声部の個別再生の有効化 \(685 ページ\)](#)
- [エンドポイントへのインストゥルメント/声部の割り当て \(713 ページ\)](#)
- [デフォルトのプレーヤーの順番の変更 \(137 ページ\)](#)
- [カスタマイズしたプレーヤーの順番の設定 \(138 ページ\)](#)
- [トラックの高さの変更 \(676 ページ\)](#)

## テンポトラック

テンポトラックには、選択したフロー内のテンポ変更が表示されます。このトラックは、再生モードのトラック概要の一番上に表示され、表示/非表示を切り替えられます。各プロジェクトにはテンポトラックが1つ含まれています。



テンポトラック

トラック概要でテンポトラックを選択すると、以下を実行できます。

- キーエディターパネルのテンポエディターでテンポ変更の編集と入力を行なう (ロックされていない場合)。
- トラックインスペクターを使用してクリックに使用するサウンドを変更する。

関連リンク

[トラックを表示/非表示にする](#) (676 ページ)

[トラックインスペクター](#) (661 ページ)

[キーエディター](#) (831 ページ)

[テンポエディター](#) (871 ページ)

[キーエディターでインストゥルメントを表示する](#) (835 ページ)

[テンポ記号](#) (1745 ページ)

[テンポ記号の入力方法](#) (320 ページ)

[ガイド](#) (490 ページ)

[クリック設定の変更](#) (294 ページ)

[テンポ記号の表示/非表示](#) (1750 ページ)

[メトロノームマークの小数点以下の値を表示/非表示にする](#) (1755 ページ)

[MIDI の書き出し](#) (105 ページ)

## クリックに使用するサウンドを変更する

デフォルトで用意されていないサウンドを使用したい場合などに、新しいサウンドを手動でロードするなどしてテンポトラックを任意のエンドポイントに割り当てることで、再生時のクリックに使用するサウンドを変更できます。

ヒント

「再生オプション (Playback Options)」 > 「クリック (Click)」 > 「メトロノームクリック (Metronome Click)」で、出荷時のデフォルトのクリック音を選択できます。クリック、ビープ、ウッドブロックのサウンドがデフォルトで用意されています。

前提条件

- テンポトラックを表示しておきます。
- クリックに使用する VST/MIDI インストゥルメントをロードしておきます。

手順

1. 再生モードで、トラック概要にあるテンポトラックを選択します。
2. トラックインスペクターの「ルーティング (Routing)」セクションで、オーディオプラグインメニューからクリックに使用する VST/MIDI インストゥルメントプラグインを選択します。
3. 使用するサウンドがプラグインにまだロードされていない場合は、「インストゥルメントを編集 (Edit Instrument)」  をクリックして対応する VST または MIDI インストゥルメントをウィンドウで開き、使用できるチャンネルに任意のサウンドをロードします。



4. 以下の値フィールドのいずれかまたは両方を使用して、プラグインで必要なエンドポイントを選択します。

- 選択したプラグインの別のポートにテンポトラックを割り当てるには、任意のポートを「**ポート (Port)**」フィールドに入力します。

#### 補足

16チャンネルのポートが複数あるプラグインを使用する場合のみ必要です。

- 選択したポートの別のチャンネルにテンポトラックを割り当てるには、任意のチャンネルを「**Ch.**」フィールドに入力します。

#### 関連リンク

[「再生オプション \(Playback Options\)」ダイアログ \(925 ページ\)](#)

[VST/MIDI インストゥルメントを手動でロードする \(667 ページ\)](#)

[トラックインスペクター \(661 ページ\)](#)

[エンドポイント \(710 ページ\)](#)

[「エンドポイントの設定 \(Endpoint Setup\)」ダイアログ \(711 ページ\)](#)

## マーカートラック

マーカートラックには選択したフロー内のマーカーが表示され、新しいマーカーを入力できます。このトラックは、再生モードのトラック概要の一番上に表示され、表示/非表示を切り替えられます。各プロジェクトにはマーカートラックが1つ含まれています。



マーカートラックには以下のセクションが含まれます。

### 1 マーカーを追加 (Add Marker)

マーカーを入力できる「**マーカーを追加 (Add Marker)**」ダイアログを開きます。

### 2 マーカー

マーカーテキストと一緒にフローの各マーカーの位置が表示されます。

#### 関連リンク

[トラックを表示/非表示にする \(676 ページ\)](#)

[マーカー \(1580 ページ\)](#)

[ビデオ \(211 ページ\)](#)

[マーカーのテキストを編集する \(1582 ページ\)](#)

## マーカートラックでのマーカーの入力

再生モードのマーカートラックに、マーカーを直接入力できます。

#### 前提条件


マーカートラックを表示しておきます。

#### 手順

1. 再生モードで、マーカーを入力する位置に再生ヘッドを移動します。

### 補足

時間がマイナスの位置にはマーカを入力できません。たとえば、ビデオがフローの3小節めから開始される場合、フローの最初のタイムコードはマイナスになります。

2. マーカートラックのヘッダーで、「**マーカを追加 (Add Marker)**」  をクリックして「**マーカを追加 (Add Marker)**」ダイアログを開きます。
3. 「**テキスト (Text)**」フィールドに任意のマーカテキストを入力します。
4. 必要に応じて、「**タイムコード (Timecode)**」フィールドでタイムコードを変更します。
5. 「**OK**」をクリックしてマーカを入力し、ダイアログを閉じます。

### 結果

再生ヘッドの位置にマーカが入力されます。マーカには入力したテキストが表示されます。マーカテキストを変更していない場合はデフォルトテキスト「Marker」が表示されます。

### 例



マーカートラックに表示されたマーカ

### 関連リンク

[再生ヘッドの移動 \(678 ページ\)](#)

[「マーカを追加 \(Add Marker\)」ダイアログ \(435 ページ\)](#)

[マーカのテキストを編集する \(1582 ページ\)](#)

[ビデオの開始位置の変更 \(214 ページ\)](#)

## コードトラック

コードトラックには選択したフローのコード記号が表示され、再生時に対応する和音を聴くことができます。このトラックは、再生モードのトラック概要の一番上に表示され、表示/非表示を切り替えられます。各プロジェクトにはコードトラックが1つ含まれています。

トラック概要でコードトラックを選択している場合、トラックインスペクターを使用してそのルーティングを変更できます。



コードトラックには以下のセクションが含まれます。

- 1 **和音の再生を有効にする (Enable Chords Playback)**  
再生に和音を含めるかどうかを切り替えることができます。
- 2 **和音**  
フローにあるコード記号の位置と名前を示します。

### 関連リンク

[コード記号 \(1154 ページ\)](#)

[トラック概要 \(659 ページ\)](#)

[トラックインスペクター \(661 ページ\)](#)

[VST/MIDI インストゥルメントを手動でロードする \(667 ページ\)](#)

[トラックを表示/非表示にする \(676 ページ\)](#)

## コード記号の再生の有効化

再生にコード記号を含めることができます。コード記号は伸ばした和音として再生され、そのデュレーションは次のコード記号との間隔によって決められます。MIDI キーボードで入力したコード記号はそれを入力した際に演奏したボイスングを使用し、コンピューターキーボードで入力したコード記号はデフォルトのボイスングを使用します。

前提条件

コードトラックを表示しておきます。

---

手順

- 再生モードで、コードトラックのヘッダーにある「**和音の再生を有効にする (Enable Chords Playback)**」 をオンにします。

## コード記号の再生に使用するサウンドを変更する

プロジェクト内のどのインストゥルメントトラックにも使用されていないサウンドを使用したい場合などに、新しいサウンドを手動でロードするなどしてコードトラックを任意のエンドポイントに割り当てることで、コード記号の再生に使用するサウンドを変更できます。

前提条件

- コードトラックを表示しておきます。
- コード記号の再生に使用する VST/MIDI インストゥルメントをロードしておきます。

---

手順

1. 再生モードで、トラック概要にあるコードトラックを選択します。
2. トラックインスペクターの「**ルーティング (Routing)**」セクションで、オーディオプラグインメニューからコード記号の再生に使用する VST/MIDI インストゥルメントプラグインを選択します。
3. 使用するサウンドがプラグインにまだロードされていない場合は、「**インストゥルメントを編集 (Edit Instrument)**」 をクリックして対応する VST または MIDI インストゥルメントをウィンドウで開き、使用できるチャンネルに任意のサウンドをロードします。
4. 以下の値フィールドのいずれかまたは両方を使用して、プラグインに必要なエンドポイントを選択します。
  - 選択したプラグインの別のポートにコードトラックを割り当てるには、任意のポートを「**ポート (Port)**」フィールドに入力します。

補足

16 チャンネルのポートが複数あるプラグインを使用する場合のみ必要です。

- 選択したポートの別のチャンネルにコードトラックを割り当てるには、任意のチャンネルを「**Ch.**」フィールドに入力します。

---

関連リンク

[VST/MIDI インストゥルメントを手動でロードする \(667 ページ\)](#)

[トラックインスペクター \(661 ページ\)](#)

[エンドポイント \(710 ページ\)](#)

[「エンドポイントの設定 \(Endpoint Setup\)」ダイアログ \(711 ページ\)](#)

## コード記号のボイスングをリセットする

MIDI キーボードを使用してコード記号を入力した場合、使用したボイスングはコード記号の再生でも保持されます。たとえば、再生時にそのコード記号のデフォルトのボイスングを聴きたい場合などに、MIDI キーボードを使用して入力したコード記号のボイスングをリセットできます。

---

### 手順

1. 記譜モードで、ボイスングをリセットするコード記号を選択します。
2. 「編集 (Edit)」 > 「記譜 (Notations)」 > 「コード記号とコードダイアグラム (Chord Symbols and Diagrams)」 > 「コード記号により発音されるピッチを消去 (Clear Chord Symbol Played Pitches)」を選択します。このオプションはコンテキストメニューでも選択できます。

---

### 関連リンク

[コード記号の入力 \(346 ページ\)](#)

## トラックを表示/非表示にする




テンポトラック、マーカートラック、コードトラックは、トラック概要の上部でそれぞれ個別に表示/非表示にできます。

### 補足

プレーヤートラックおよびインストゥルメントトラックは、表示/非表示を切り替えることができません。

---

### 手順

- トラック概要の上部で、以下のいずれかの操作を行なってトラックを表示/非表示にします。
  - テンポトラックを表示/非表示にするには、「テンポ (Tempo)」  をオン/オフにします。
  - マーカートラックを表示/非表示にするには、「マーカー (Markers)」  をオン/オフにします。
  - コードトラックを表示/非表示にするには、「和音 (Chords)」  をオン/オフにします。

---

### 関連リンク

[トラック概要 \(659 ページ\)](#)

[トラック \(669 ページ\)](#)

[キーエディターパネル \(831 ページ\)](#)

[ピアノロールエディター \(843 ページ\)](#)

## トラックの高さの変更



より多くのトラックを同時にプレビューしたい場合などに、すべての種類のトラックの高さを変更できます。この場合、トラックの幅は変更されません。

---

### 手順

- 再生モードで、トラック概要の左上にある**トラックの高さボタン**  をクリックすると、高さが順に切り替わります。

#### 補足

トラックの高さを低くすると、**ミュートボタン**  と **ソロボタン**  はトラック概要の上部に表示されます。これらのボタンは、トラックヘッダーに垂直方向のスペースが十分にある場合にのみ表示されます。

#### 関連リンク



[キーエディターの高さの変更 \(837 ページ\)](#)

[キーエディターでのズームイン/ズームアウト \(838 ページ\)](#)

## トラックのズームイン/ズームアウト

より多くの小節を同時にプレビューしたい場合などに、トラック概要のトラックの幅を変更できます。この場合、トラックの高さは変更されません。

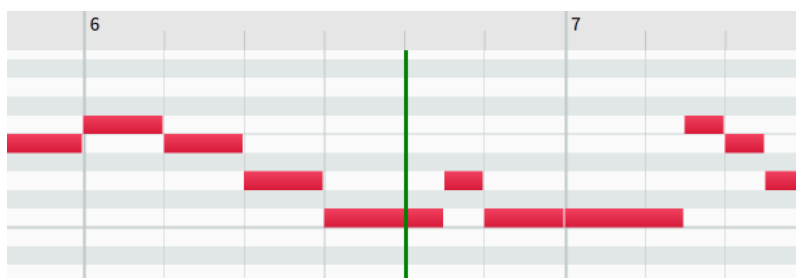
#### 手順

- 以下のいずれかの操作を行なって、水平方向にズームインします。
  - ルーラーをクリックして上にドラッグします。
  - ルーラーで **[Ctrl]/[command]** を押しながら上にスクロールします。
  - トラック概要の下部にある「**ズームイン (Zoom In)**」  をクリックします。
- 以下のいずれかの操作を行なって、水平方向にズームアウトします。
  - ルーラーをクリックして下にドラッグします。
  - ルーラーで **[Ctrl]/[command]** を押しながら下にスクロールします。
  - トラック概要の下部にある「**ズームアウト (Zoom Out)**」  をクリックします。

## 再生ヘッド

再生ヘッドは、再生時に移動して現在の再生位置を示す垂直の線です。

再生ヘッドは、再生モードでは常に表示され、その他のモードでは再生時に表示されます。また、再生ヘッドの現在の位置は「**トランスポート (Transport)**」ウィンドウとツールバーのミニトランスポートの両方に表示されます。他のモードでの再生停止時にも再生ヘッドが表示されるように設定することもできます。



キーエディターの再生ヘッド

Dorico Pro では、再生ヘッドが再生中に楽譜に沿って移動し、常に表示され続けますが、再生ヘッドの追従を無効にして固定表示にすることもできます。再生ヘッドの追従を有効にすると、組段は自動的に画面上の同じ場所に表示され続けます。

再生ヘッドを手動で移動することもできます。

#### 補足

再生ヘッドは印刷モードでは表示されません。

---

#### 関連リンク

[楽譜領域のカラーを変更する \(58 ページ\)](#)

## 再生ヘッドの移動



再生ヘッドは、再生中に楽譜に沿って自動的に移動しますが、すべてのモードで再生ヘッドを手動で移動することもできます。

再生ヘッドは、停止時と再生中の両方で移動できますが、再生中はすべての移動方法が使用できるわけではありません。

初期設定では、再生ヘッドは再生時にのみ表示されますが、再生ヘッドを常に表示するように選択できます。

---

#### 手順

- 以下のいずれかの操作を行なって、再生ヘッドを移動します。
  - 再生ヘッドを進めるには、テンキーの **テンキー [+]** (プラス) を押すか、「**トランスポート (Transport)**」ウィンドウの「**高速早送り (Fast Forward)**」 をクリックします。
  - 再生ヘッドを戻すには、テンキーの **テンキー [-]** (マイナス) を押すか、「**トランスポート (Transport)**」ウィンドウの「**巻き戻し (Rewind)**」 をクリックします。
  - 再生ヘッドをフローの最初に移動するには、テンキーの **テンキー [.]** (ピリオド) を押すか、「**トランスポート (Transport)**」ウィンドウまたはミニトランスポートの「**フローの最初に巻き戻し (Rewind to Beginning of Flow)**」 をクリックします。
  - 再生ヘッドを選択したアイテムの先頭に移動するには、**[Alt/Opt]+[P]** を押します。
  - 再生ヘッドをフレーム単位を進めるには、**[Ctrl]/[command]+テンキー [+]** 又は **[Ctrl]/[command]+[F9]** を押します。
  - 再生ヘッドをフレーム単位で戻すには、**[Ctrl]/[command]+テンキー [-]** 又は **[Ctrl]/[command]+[F7]** を押します。
  - 再生モードまたはキーエディターで、ルーラー上の任意の場所をクリックします。

#### 補足

再生中は、ルーラー上をクリックして再生ヘッドを移動することはできません。

---

#### 関連リンク

[「トランスポート \(Transport\)」ウィンドウ \(698 ページ\)](#)

[ミニトランスポート \(35 ページ\)](#)

[「環境設定 \(Preferences\)」ダイアログ \(63 ページ\)](#)

[フレームレート \(216 ページ\)](#)

## 再生ヘッドを表示/非表示にする

再生停止時の再生ヘッドの表示/非表示を切り替えることができます。これは、たとえばタイムコードやビデオを使用する作業のときに楽譜の位置を合わせるのに役立ちます。初期設定では、再生ヘッドが常に表示される再生モードを除き、再生停止時の再生ヘッドは非表示になっています。

### 手順

1. **[Ctrl]/[command]+[,]** を押して「**環境設定 (Preferences)**」を開きます。
2. カテゴリリストの「**再生 (Play)**」をクリックします。
3. 「**再生ヘッド (Playhead)**」サブセクションで、「**停止時に再生ヘッドを表示 (Show playhead when stopped)**」をオンまたはオフにします。
4. 「**適用 (Apply)**」をクリックしてから「**閉じる (Close)**」をクリックします。

### 結果

「**停止時に再生ヘッドを表示 (Show playhead when stopped)**」をオンにすると再生停止時の再生ヘッドが表示され、オフにすると非表示になります。

### 補足

これは、再生モードと印刷モードには適用されません。再生ヘッドは再生モードでは常に表示され、印刷モードでは表示されません。

## 再生ヘッドの追従の有効化/無効化

再生中にビューを再生ヘッドに追従させるかどうかをプロジェクトウィンドウごとに個別に設定できます。たとえば、楽譜を再生している間、特定の組段を表示し続けたい場合などに便利です。

### 手順

- ステータスバーで、「**再生ヘッドに追従 (Follow playhead)**」をオン/オフにします。

### 結果

「**再生ヘッドに追従 (Follow playhead)**」をオンにすると、再生中の再生ヘッドの追従が有効になり、オフにすると無効になります。

### ヒント

- すべてのプロジェクトで再生ヘッドの追従をデフォルトで有効化/無効化するかは、「**環境設定 (Preferences)**」 > 「**再生 (Play)**」 > 「**再生ヘッド (Playhead)**」で変更できます。
- 「**環境設定 (Preferences)**」の「**キーボードショートカット (Key Commands)**」ページにある「**再生ヘッドに追従を切り替え (Toggle Follow Playhead)**」にキーボードショートカットを割り当てることができます。

### 関連リンク

[ステータスバー \(42 ページ\)](#)

[複数のプロジェクトウィンドウを開く \(53 ページ\)](#)

[楽譜領域のビューを移動する \(483 ページ\)](#)

[「環境設定 \(Preferences\)」ダイアログ \(63 ページ\)](#)

[「環境設定 \(Preferences\)」ダイアログの「キーボードショートカット \(Key Commands\)」ページ \(64 ページ\)](#)

## 楽譜の再生


記譜した楽譜は、プロジェクトの最初または任意の位置から再生できます。どのモードでも、再生のキーボードショートカットを使用できます。

### 前提条件

- 現在のプロジェクトで再生を有効にしておきます。
- プロジェクト内のインストゥルメントのサウンドを含む再生テンプレートをプロジェクトに適用しておきます。
- 声部ごとに異なるサウンドを使用する場合は、そのインストゥルメントの声部の個別再生を有効にしておきます。
- 接続された MIDI デバイスからサウンドを再生したくない場合は、MIDI thru を無効にしておきます。

### 手順

1. 以下のいずれかの操作を行なって、再生を開始します。

- 選択した中で一番前にあるアイテムから再生するには、範囲を選択したあと、**[P]** を押すか、「**トランスポート (Transport)**」ウィンドウの「**選択範囲から再生 (Play From Selection)**」 をクリックするか、「**再生 (Play)**」 > 「**選択範囲から再生 (Play From Selection)**」を選択します。

#### ヒント

- すべてのインストゥルメントを再生するには、単一の音符を選択します。
- 単一の譜表のみを再生するには、譜表上の複数のアイテムを選択します。
- 複数の譜表を再生するには、それらの譜表上のアイテムを選択します。

ミキサーでソロやミュートにされるチャンネルは影響を受けません。



- 再生ヘッドの位置から再生を続行するには、**[Space]** 又は **[Enter]** を押すか、ミニトランスポートの「**再生 (Play)**」 をクリックするか、「**トランスポート (Transport)**」ウィンドウの「**再生ヘッドの位置から再生 (Play From Playhead Position)**」 をクリックするか、「**再生 (Play)**」 > 「**再生ヘッドの位置から再生 (Play From Playhead Position)**」を選択します。
  - 再生ヘッドを移動させ、同時にその新しい位置から再生を始めるには、トラック概要の上部にあるルーラーまたはキーエディターの任意の位置をダブルクリックします。
  - 直前の再生と同じ位置から再生するには、**[Shift]+[Space]** を押すか、「**再生 (Play)**」 > 「**最後に開始した位置から再生 (Play From Last Start Position)**」を選択します。これは、直前の再生位置のアイテムの選択を解除した場合でも機能します。
  - フローの最初から再生を開始するには、**[Shift]+[Alt/Opt]+[Space]** を押すか、「**再生 (Play)**」 > 「**開始位置 (Play From Start of Flow)**」を選択します。
  - プロジェクトの最初から再生を開始するには、「**再生 (Play)**」 > 「**プロジェクトの開始位置 (Play From Start of Project)**」を選択します。
2. 必要に応じて、再生中に再生ヘッドを前後に移動します。
3. メトロノームクリックを有効または無効にするには、「**トランスポート (Transport)**」ウィンドウまたはミニトランスポートの「**クリック (Click)**」 をクリックします。

#### ヒント

「**環境設定 (Preferences)**」の「**キーボードショートカット (Key Commands)**」ページで、「**クリックを有効にする (Enable Click)**」にキーボードショートカットを割り当てることができます。



4. 以下のいずれかの操作を行なって、再生を停止します。

- **[Space]** 又は **[Enter]** または **[P]** を押します。
- **テンキー [0]** (テンキーの 0) を押します。
- ミニトランスポートで、「**停止 (Stop)**」  を押します。
- 「**トランスポート (Transport)**」 ウィンドウで、「**停止 (Stop)**」  をクリックします。
- トラック概要またはキーエディターの上にあるルーラーをダブルクリックします。

#### ヒント

再生の停止時に音に変化する場合は、「**環境設定 (Preferences)**」の「**再生 (Play)**」ページで「**再生を停止するとき、コントローラーをリセットして 'All Notes Off' を送信 (Reset controllers and send 'all notes off' when stopping playback)**」をオフにできます。

#### 関連リンク

[再生テンプレート \(701 ページ\)](#)

[再生テンプレートの適用/リセット \(707 ページ\)](#)

[声部の個別再生の有効化 \(685 ページ\)](#)

[MIDI thru の有効化/無効化 \(240 ページ\)](#)

[VST/MIDI インストゥルメントを手動でロードする \(667 ページ\)](#)

[VST プラグインを許可する/ブロックする \(666 ページ\)](#)

[再生ヘッド \(677 ページ\)](#)

[ミキサー \(883 ページ\)](#)

[トラックをミュート/ソロにする \(687 ページ\)](#)

[再生時の反復 \(689 ページ\)](#)

[延長記号を再生に含める/除外する \(1343 ページ\)](#)

[プリロールの長さの変更 \(684 ページ\)](#)

[再生時のフロー間の間隔を変更する \(684 ページ\)](#)

[クリック設定の変更 \(294 ページ\)](#)

[MIDI トリガー領域 \(717 ページ\)](#)

[トラック概要 \(659 ページ\)](#)

[キーエディターパネル \(831 ページ\)](#)

[「エンドポイントの設定 \(Endpoint Setup\)」ダイアログ \(711 ページ\)](#)

[「トランスポート \(Transport\)」ウィンドウ \(698 ページ\)](#)

[ミニトランスポート \(35 ページ\)](#)

[「環境設定 \(Preferences\)」ダイアログ \(63 ページ\)](#)


[「環境設定 \(Preferences\)」ダイアログの「キーボードショートカット \(Key Commands\)」ページ \(64 ページ\)](#)

[ステータスバー \(42 ページ\)](#)

## 再生の有効化/無効化

再生機能とトランスポート機能をプロジェクトごとに個別に有効化/無効化できます。これにより、たとえば、異なる再生テンプレートを持つプロジェクト間で素材をコピーする際に、サウンドが再ロードされるのを防ぐことができます。

#### 手順

- ツールバーまたは**トランスポート**ウィンドウで、「**プロジェクトの有効化 (Activate Project)**」  をオン/オフにします。

#### 結果

再生機能とトランスポート機能が有効化/無効化されます。

#### ヒント

再生を有効にした場合のデフォルトの動作は、「環境設定 (Preferences)」 > 「再生 (Play)」 > 「プロジェクトの有効化 (Project Activation)」で変更できます。

#### 関連リンク

[ツールバー \(33 ページ\)](#)

[「トランスポート \(Transport\)」 ウィンドウ \(698 ページ\)](#)

[「環境設定 \(Preferences\)」 ダイアログ \(63 ページ\)](#)


## スクラブ再生

スクラブ再生を使用すると、マウスポインターの動きに合わせて、音楽をさまざまなスピードで前方にも後方にも再生できます。これは、特定の位置を見つけて編集する際に役立ちます。

#### 前提条件

- 現在のプロジェクトで再生を有効にしておきます。
- プロジェクト内のインストゥルメントのサウンドを含む再生テンプレートをプロジェクトに適用しておきます。
- 特定のインストゥルメントのみをスクラブ再生するには、該当するインストゥルメントフィルターを有効にするか、対応する譜表で少なくとも1つの音符/アイテムを選択しておきます。


#### 手順

1. 記譜モードで以下のいずれかの操作を行なって、スクラブ再生を有効にします。
  - ツールバーで、「スクラブ再生 (Scrub Playback)」  をオンにします。
  - 「再生 (Play)」 > 「スクラブ再生 (Scrub Playback)」を選択します。
  - すべての譜表をスクラブ再生するには、**[Ctrl]+[Space] (Windows) 又は [Alt/Opt]+[Space] (macOS)** を押したままにします。
  - マウスポインターの下にあるインストゥルメントをソロにするには、**[Ctrl]+[Shift]+[Space] (Windows) 又は [Shift]+[Alt/Opt]+[Space] (macOS)** を押したままにします。
2. 以下のいずれかの操作を行なってスクラブ再生します。
  - 再生する位置やインストゥルメントにマウスポインターを合わせます。
  - すべての譜表をスクラブ再生するには、**[→]/[←]** を押して再生ヘッドを次/前の音符に移動します。

スクラブ再生中は、マウスポインターの位置に再生ヘッドが表示され、マウスポインターがスピーカーアイコンとして表示されます。



3. 以下のいずれかの操作を行なって、スクラブ再生を無効にします。

- **[Esc]** を押します。
- ツールバーで、「スクラブ再生 (Scrub Playback)」  をオフにします。
- 「再生 (Play)」 > 「スクラブ再生 (Scrub Playback)」 を選択します。
- キーボードショートカットを放します。

#### 結果

マウスポインターの位置の音楽が再生されたままになります。再生スピードは、マウスポインターを動かす速さによって決まります。ソロのスクラブ再生中に再生されるインストゥルメントは、マウスポインターが置かれている譜表によって決まります。

#### 補足

- スクラブ再生中は、装飾音符などのリズムのない音符は再生されません。
- リpeatのある楽譜をスクラブ再生すると、楽譜は最初のリpeat回から再生されます。
- 「環境設定 (Preferences)」の「キーボードショートカット (Key Commands)」ページにある「スクラブ再生を切り替え (Toggle Scrub Playback)」にキーボードショートカットを割り当てることができます。

#### 関連リンク

[再生テンプレートの適用/リセット \(707 ページ\)](#)

[トラックをミュート/ソロにする \(687 ページ\)](#)

[インストゥルメントフィルターの有効化/無効化 \(488 ページ\)](#)

[音符とアイテムを個々に選択/選択解除する \(460 ページ\)](#)

[「環境設定 \(Preferences\)」ダイアログの「キーボードショートカット \(Key Commands\)」ページ \(64 ページ\)](#)


## テンポモードの変更

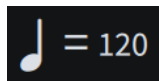
テンポモードは、単一の固定テンポと追従テンポ変更の間でいつでも切り替えられます。たとえば、複数のテンポ変更が含まれるプロジェクトで、MIDI の録音時に単一の固定テンポを使用できます。

#### 前提条件

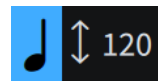
現在のプロジェクトで再生を有効にしておきます。

#### 手順


1. 以下のいずれかの操作を行なって、テンポモードを変更します。
  - ツールバーのテンポモード  をクリックします。
  - 「再生 (Play)」 > 「固定テンポモード (Fixed Tempo Mode)」 を選択します。

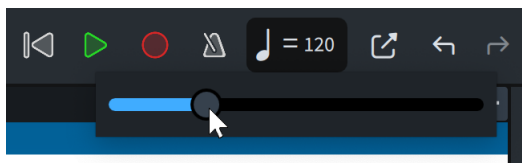


固定テンポモード



追従テンポモード

2. 「固定テンポモード (Fixed Tempo Mode)」  がオンの場合は、ツールバーの「固定テンポモード (Fixed Tempo Mode)」の数字をクリックしてスライダーを表示し、左右にドラッグすることでメトロノームマークの値を変更します。



#### 結果

追従テンポモードでは、再生と録音のテンポがプロジェクトのテンポ記号によって設定されます。

固定テンポモードでは、再生と録音のテンポは「**固定テンポモード (Fixed Tempo Mode)**」メトロノームマークの値で設定した単一のテンポです。

#### 関連リンク

[ツールバー \(33 ページ\)](#)

[テンポ記号 \(1745 ページ\)](#)

[テンポトラック \(672 ページ\)](#)

[テンポエディター \(871 ページ\)](#)

[MIDI 録音 \(290 ページ\)](#)

[楽譜の再生 \(680 ページ\)](#)

[延長記号を再生に含める/除外する \(1343 ページ\)](#)

[「トランスポート \(Transport\)」 ウィンドウ \(698 ページ\)](#)

## プリロールの長さの変更

Dorico Pro においてプリロールとは、各フローの最初の小節に含まれる最初の拍が再生されるよりも前に追加される時間のことです。たとえば、プロジェクト内に装飾音符で開始するフローがあり、再生時に演奏に反映したい場合などに、プロジェクト全体のすべてのフローの前のプリロールの長さを変更できます。

#### 手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[P]** を押して「**再生オプション (Playback Options)**」を開きます。
2. カテゴリリストの「**タイミング (Timing)**」をクリックします。
3. 「**フロー (Flows)**」セクションで、「**フローの前のプリロール (Pre-roll before flow)**」の値を変更します。  
たとえば、単一の装飾音符で始まるフローの場合は、**0.25 秒**あれば十分です。
4. 「**適用 (Apply)**」をクリックしてから「**閉じる (Close)**」をクリックします。

#### 結果

秒数で表わされる、再生時のフローの前のプリロールの長さを変更されます。

#### 関連リンク

[楽譜の再生 \(680 ページ\)](#)

## 再生時のフロー間の間隔を変更する

秒数で表わされる、再生時のすべてのフロー間の間隔を変更できます。たとえば、プロジェクト内のフローをアタッカで演奏するためにフロー間の間隔をなくす場合などです。

#### 手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[P]** を押して「**再生オプション (Playback Options)**」を開きます。
2. カテゴリリストの「**タイミング (Timing)**」をクリックします。

3. 「フロー (Flows)」セクションで、「再生中のフロー間の間隔 (Gap between flows during playback)」の値を変更します。
  4. 「適用 (Apply)」をクリックしてから「閉じる (Close)」をクリックします。
- 

## 再生時のチューニングの変更

ミドル C の上の A を基本とする、再生時に使用されるチューニングを変更できます。たとえば、A=415 Hz とするパロックピッチで楽譜を再生できます。

### 手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[P]** を押して「再生オプション (Playback Options)」を開きます。
  2. カテゴリリストの「チューニング (Tuning)」をクリックします。
  3. 「ミドル C の上の最初の A のピッチ (Pitch of first A above middle C)」の値を変更します。
  4. 「適用 (Apply)」をクリックしてから「閉じる (Close)」をクリックします。
- 

### 結果

プロジェクト全体の音符のチューニングピッチが変更され、再生時に演奏されるピッチに影響します。

### ヒント

現在の再生デバイスのサンプリングレートも再生時のチューニングに影響します。

---

### 関連リンク

- [「環境設定 \(Preferences\)」ダイアログ \(63 ページ\)](#)
- [オーディオデバイスのバッファサイズの変更 \(296 ページ\)](#)
- [ミドル C のナンバリング変換を変更する \(55 ページ\)](#)

## 声部の個別再生の有効化

初期設定では、ディヴィジ譜表を含め、単一のインストゥルメントに属するすべての声部は再生に同じエンドポイントを使用します。個々のインストゥルメントの声部の個別再生を有効にすると、たとえば pizzicato と arco のパートがある弦楽器のディヴィジを再生する際に、それぞれを異なる演奏技法で再生できます。

### 補足

無音程打楽器や打楽器キットで声部の個別再生を有効にすることはできません。

---

### 手順

1. 再生モードのトラック概要で、声部の個別再生を有効にするインストゥルメントトラックを選択します。
  2. トラックインスペクターの「ルーティング (Routing)」セクションで、「声部の個別再生を有効化 (Enable independent voice playback)」 をクリックします。
- 

### 結果

選択したインストゥルメントの声部の個別再生が有効になります。そのインストゥルメントに属する各声部がインストゥルメントトラックの下に個別の声部トラックとして表示されます。

現在の再生テンプレートに応じて、プロジェクト全体の対応するインストゥルメントに属するすべての声部を再生できるよう、必要な数の追加チャンネルと追加プラグインが自動的にロードされます。声部の順番に応じて、声部が自動的にエンドポイントに割り当てられます。

#### 補足

声部の個別再生を有効にした場合、各声部トラックのルーティングとエフェクトのみを変更できます。

---

#### 手順終了後の項目

たとえば、いくつかのフロー内の一部の声部にアンサンブルのサウンドではなくソロのサウンドが必要な場合など、各フローを含む各声部トラックのルーティングとエフェクトを個別に変更できます。

#### 関連リンク

[トラック概要](#) (659 ページ)  
[トラックインスペクター](#) (661 ページ)  
[再生テンプレート](#) (701 ページ)  
[エンドポイント](#) (710 ページ)  
[インストゥルメントトラック](#) (670 ページ)  
[ピアノロールエディター](#) (843 ページ)  
[ペロソティーエディター](#) (856 ページ)  
[強弱記号エディター](#) (859 ページ)  
[MIDI CC エディター](#) (866 ページ)  
[演奏技法エディター](#) (855 ページ)  
[エンドポイントへのインストゥルメント/声部の割り当て](#) (713 ページ)  
[再生効果](#) (1046 ページ)  
[再生時のトレモロ](#) (1823 ページ)  
[再生時のアーティキュレーション](#) (1071 ページ)  
[再生時のスラー](#) (1683 ページ)  
[再生時の強弱記号](#) (1264 ページ)

## 声部の個別再生の無効化

個々のインストゥルメントトラックの声部の個別再生を無効にし、すべての声部に単一のエンドポイントを使用する状態に戻すことができます。

---

#### 手順

1. 再生モードのトラック概要で、声部の個別再生を無効にするインストゥルメントトラックを選択します。

#### 補足

声部トラックではなく、インストゥルメントトラック自体を選択する必要があります。

---

2. トラックインスペクターの「**ルーティング (Routing)**」セクションで、「**声部の個別再生を無効化 (Disable independent voice playback)**」をクリックします。
- 

#### 結果

選択したインストゥルメントの声部の個別再生が無効になります。トラック概要から声部トラックがなくなり、そのインストゥルメントに属するすべての声部が単一のエンドポイントを使用して再生される状態に戻ります。

## トラックをミュート/ソロにする

声部の個別再生を有効にしたインストゥルメントに属するトラック、インストゥルメント、声部を個別にミュート/ソロにできます。この機能はプロジェクトの特定のセクションでの作業時に、限定したインストゥルメントのみを再生する場合に役立ちます。

### 手順

- 以下のいずれかの操作を行なって、トラックをミュートします。
  - ミキサーで、各チャンネルの**ミュートボタン** **m** をクリックします。
  - 再生モードで、トラック概要の各トラックの**ミュートボタン** **m** をクリックします。
- 以下のいずれかの操作を行なって、トラックをソロにします。
  - ミキサーで、各チャンネルの**ソロボタン** **s** をクリックします。
  - 再生モードで、トラック概要の各トラックの**ソロボタン** **s** をクリックします。
  - 選択したインストゥルメントをソロにしてその他のインストゥルメントをミュートするには、ソロにする各インストゥルメントに属する音符を少なくとも1つ選択し、**[Alt/Opt]+[S]** を押すか「再生 (Play)」 > 「ソロ選択中のインストゥルメント (Solo Selected Instruments)」を選択します。

### 結果

対応するトラックがミュート/ソロになります。これは、ミュート/ソロにするトラックを変更するまで再生に影響します。つまり、聴きたいトラックを毎回選択しなおす必要はありません。

### 補足

- トラックをソロにすると、他のすべてのトラックがミュートされます。ミュートされたトラックをソロにすると、自動的にミュートが解除されます。
- トラックまたは譜表の音符やアイテムを選択してから再生を開始することで、一時的に特定のトラックや譜表のみを再生することもできます。

### 例



オンのときの「ミュート (Mute)」



オンのときの「ソロ (Solo)」

### 関連リンク

[トラック概要](#) (659 ページ)

[ミキサー](#) (883 ページ)



[楽譜の再生](#) (680 ページ)

## インストゥルメントのミュート/ソロ状態の解除

たとえば、一部のインストゥルメントをソロにしたあとで、すべてのインストゥルメントを再生する場合に、プロジェクト内のすべてのインストゥルメントのミュート/ソロ状態を解除できます。

### 手順

- 以下のいずれかの操作を行なって、インストゥルメントのミュート/ソロ状態を解除します。

- すべてのインストゥルメントのミュート状態を解除するには、**[Alt/Opt]+[U]** を押すか、ミキサーツールバーの「**ミュート状態をすべて解除する (Deactivate All Mute States)**」  をクリックします。
  - すべてのインストゥルメントのソロ状態を解除するには、**[Shift]+[Alt/Opt]+[S]** を押すか、ミキサーツールバーの「**ソロ状態をすべて解除する (Deactivate All Solo States)**」  をクリックします。
- 

#### 結果

プロジェクト内のすべてのインストゥルメントの対応する状態が解除されます。たとえばミュート状態とソロ状態の両方を解除すると、すべてのインストゥルメントがデフォルトの状態に戻り、再生にすべてのインストゥルメントが含まれるようになります。

#### 関連リンク


[ミキサーウィンドウ \(884 ページ\)](#)

[ミキサーツールバー \(885 ページ\)](#)

## 音符/アイテムを個別にミュートする

音符やアイテムを個別にミュートすることで、それらを削除することなく、特定のリピート回でのみ再生から除外できます。これにより、たとえば、アルペジオなしで和音を聴いたり、複数の強弱記号があるパッセージを単一の音量レベルで聴いたり、特定のテンポ記号の位置からテンポ変更が行なわれないようにしたりできます。

#### 前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。
  - 下ゾーンのツールバーで「**プロパティ (Properties)**」  を選択しておきます。
  - 浄書モードの場合は、浄書ツールボックスで「**グラフィックの編集 (Graphic Editing)**」  を選択しておきます。
- 

#### 手順

1. ミュートする音符/アイテムを選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
  2. プロパティパネルの「**一般 (Common)**」グループで、「**再生を抑制 (Suppress playback)**」をオンにします。
  3. 以下のいずれかのオプションを選択します。
    - 選択した音符/アイテムをすべてのリピート回でミュートするには、「**常時 (Always)**」を選択します。
    - 選択した音符/アイテムを特定のリピート回でのみミュートするには、「**特定の繰り返し時 (On Passes)**」を選択します。
  4. 「**特定の繰り返し時 (On Passes)**」を選択した場合は、「**抑制する繰り返し数 (Suppress on passes)**」をオンにします。
  5. 必要に応じて、選択した音符/アイテムをミュートするリピート回を入力します。
    - リピート回の範囲を指定するには、**1-4** のように最初と最後のリピート回の間ハイフンを入力します。
    - 個別のリピート回や範囲を指定するには、**1,3,5-8** のようにそれぞれのリピート回または範囲をカンマで区切ります。
-



#### 結果

選択したアイテムが常時、または指定したリピート回でミュートされます。

#### ヒント

「環境設定 (Preferences)」の「キーボードショートカット (Key Commands)」ページにある「再生の抑制を切り替え (Toggle Suppress Playback)」にキーボードショートカットを割り当てることができます。

---

#### 関連リンク

[プロパティパネル \(826 ページ\)](#)

[ゾーンの表示/非表示の切り替え \(48 ページ\)](#)

[テンポモードの変更 \(683 ページ\)](#)

[「環境設定 \(Preferences\)」ダイアログの「キーボードショートカット \(Key Commands\)」ページ \(64 ページ\)](#)

## ミュートした音符/アイテムのカラーを表示/非表示にする

再生を抑制した個々の音符/アイテムのカラーを表示/非表示にできます。カラーを表示すると、抑制した音符/アイテムはグレーで表示されます。

---

#### 手順

- 「ビュー (View)」 > 「音符と休符のカラー (Note And Rest Colors)」 > 「抑制された再生 (Suppressed Playback)」を選択します。
- 

#### 関連リンク

[音符と休符の表示オプション \(1403 ページ\)](#)

[休符のカラーを表示/非表示にする \(1644 ページ\)](#)

[声部カラーの表示/非表示 \(1859 ページ\)](#)

[キューの音符のカラーを表示/非表示にする \(1228 ページ\)](#)

## 再生時の反復

リピートジャンプやリピート領域が適切な位置にある場合、Dorico Pro はリピート括弧、リピート小節線、およびリピートマーカを含む反復記号の再生をサポートします。

単一のフロー内に含むことのできる反復記号に上限はなく、いくつ設定しても正しく再生されます。

初期設定では、「D.S. al Coda」などのリピートジャンプの場合を除き、Dorico Pro はリピート小節線の間のセクションを2回再生し、リピートを再生に含めます。

反復記号の再生中にミニトランスポートと「トランスポート (Transport)」ウィンドウに表示される小節/拍のディスプレイおよびタイムディスプレイには、再生ヘッドの位置が反映されます。

初期設定では、強弱記号やテンポ記号はリピート内で反映されます。また、リピートはオーディオまたは MIDI の書き出しにも含まれます。

#### 補足

- リピート構造が不適切で無限に再生されるような場合、再生からリピートが自動的に除外されません。
  - 音符/アイテムを個別にミュートすることで、特定のリピート回でのみ再生から除外できます。
-

#### 関連リンク

[「トランスポート \(Transport\)」 ウィンドウ \(698 ページ\)](#)  
[ミニトランスポート \(35 ページ\)](#)  
[リピート括弧 \(1591 ページ\)](#)  
[リピートマーカー \(1598 ページ\)](#)  
[小節線のタイプ \(1079 ページ\)](#)  
[トレモロ \(1816 ページ\)](#)  
[スラッシュ符頭 \(1625 ページ\)](#)  
[小節リピート記号 \(1610 ページ\)](#)  
[MIDI トリガー領域 \(717 ページ\)](#)  
[音符/アイテムを個別にミュートする \(688 ページ\)](#)

## リピートを再生に含める/除外する

初期設定では、Dorico Pro はすべてのタイプの反復記号のすべてのリピート回を再生します。すべてのリピートを再生に含めるか除外するかをプロジェクト全体で設定できます。たとえば、すべてのリピートを除外すれば、楽譜を通して聴くことができます。

#### 補足

リピート構造が不適切で無限に再生されるような場合、再生からリピートが自動的に除外されます。

---

#### 手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[P]** を押して「再生オプション (Playback Options)」を開きます。
  2. カテゴリリストの「リピート (Repeats)」をクリックします。
  3. 「リピート (Repeats)」セクションで、「反復を再生 (Play repeats)」をオン/オフにします。
  4. 「適用 (Apply)」をクリックしてから「閉じる (Close)」をクリックします。
- 

#### 関連リンク

[「再生オプション \(Playback Options\)」 ダイアログ \(925 ページ\)](#)  
[延長記号を再生に含める/除外する \(1343 ページ\)](#)  
[スラッシュ付き声部を再生に含める/除外する \(1629 ページ\)](#)

## ジャンプ記号でジャンプした後の繰り返しを再生に含める/除外する


初期設定では、Dorico Pro はすべてのタイプの反復記号のすべてのリピート回を再生します。ジャンプ記号でジャンプした後のリピートマーカー、リピート括弧、およびリピート小節線によって指示されるリピートを再生に含めるか除外するかを、プロジェクト全体の設定より優先される形で個別に手動で設定できます。

#### 補足

D.C. al Fine や D.S. al Coda などのジャンプ記号でジャンプした後のリピートのみ、再生に含めるか除外するかを選択できます。

---

#### 前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。
- 下ゾーンのツールバーで「プロパティ (Properties)」 を選択しておきます。
- 浄書モードの場合は、浄書ツールボックスで「グラフィックの編集 (Graphic Editing)」 を選択しておきます。

#### 手順

1. そのあとのリピートを再生に含めるまたは除外するジャンプ記号を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「**リピートマーカー (Repeat Markers)**」グループで、「**繰り返し時にリピートを再生 (Replay repeats)**」をオンにします。
3. 対応するチェックボックスをオン/オフにします。

#### 結果

チェックボックスがオンのときは、選択したジャンプ記号でジャンプした後のリピートが再生に含まれ、オフのときは再生から除外されます。

プロパティがオフのときは、ジャンプ記号でジャンプした後のリピートマーカーが再生に含まれるかどうかは、プロジェクト全体の設定に従います。



#### ヒント

すべてのジャンプ記号についてジャンプした後のリピートをに含めるか除外するかのプロジェクト全体の設定は、「**再生オプション (Playback Options)**」の「**リピート (Repeats)**」ページで変更できます。

## リピート小節線による演奏回数の変更

反復終了線は通常、その前の楽譜を2回演奏することを指示します。反復終了線の演奏回数はそれぞれ個別に変更できます。

#### 前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。
- 下ゾーンのツールバーで「**プロパティ (Properties)**」を選択しておきます。
- 浄書モードの場合は、浄書ツールボックスで「**グラフィックの編集 (Graphic Editing)**」を選択しておきます。

#### 手順

1. 演奏回数を変更する反復終了線を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「**拍子記号 (Time Signatures)**」グループで、「**Play n times**」をオンにします。
3. 数値フィールドの値を変更します。

#### 補足

最小値は「**2**」です。

#### 結果

選択した反復終了線の前の楽譜の演奏回数を変更されます。

再生にリピートが含まれる場合、3回以上再生されるように設定された反復終了線の組段オブジェクトの位置にリピート回数が自動的に表示されます。

## ヒント

リピート回数の外観、内容、位置は、「浄書オプション (Engraving Options)」 > 「リピートマーカー (Repeat Markers)」 > 「リピート回数 (Repeat Count)」で変更できます。

例



演奏回数がデフォルトの2回に設定されているリピート終止線



演奏回数が4回に設定され、リピート回数が表示されているリピート終止線

関連リンク

[リピート回数 \(1607 ページ\)](#)

[小節線のタイプ \(1079 ページ\)](#)

[小節、拍、小節線の入力方法 \(329 ページ\)](#)

[音符/アイテムを個別にミュートする \(688 ページ\)](#)

[ジャンプ記号でジャンプした後の繰り返しを再生に含める/除外する \(690 ページ\)](#)

[リピート括弧でリピート回数の総数を変更する \(1592 ページ\)](#)

[「浄書オプション \(Engraving Options\)」ダイアログ \(923 ページ\)](#)

[浄書ツールボックス \(554 ページ\)](#)

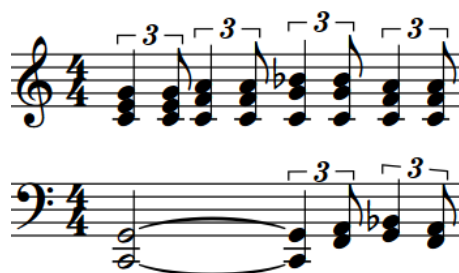
[プロパティパネル \(826 ページ\)](#)

## スウィング再生

スウィングとは、音価の等しい音符が一定のパターンで長くまたは短く再生される演奏スタイルです。一般的に、2つの8分音符が4分音符の3連符とそれに続く8分音符の3連符として演奏されます。



シンプルなストレート記譜でのスウィングフレーズ



2:1 スウィングでの同じスウィングフレーズ

スウィング再生により、たとえ2つめの8分音符が16分音符2つに分割されても、シンプルな記譜を保ったまま、不統一なリズムで楽譜を再生できます。Dorico Proでは、スウィング再生を、プロジェクト全体、特定のセクション、または個別のインストゥルメントのみに適用できます。「リズムフィール (Rhythmic Feel)」ダイアログでデフォルトのスウィングパターンを編集して、好みのリズムフィールをカスタマイズできます。8分音符または16分音符をスウィング再生できます。

学術研究に基づいてミュージシャンがスウィングをレンダリングした結果、Dorico Pro のスウィングパターンはデフォルトでテンポに依存しています。つまり、遅いテンポではスウィングがより強調され、速いテンポではよりストレートに感じられます。「**リズムックフィール (Rhythmic Feel)**」ダイアログで、すべてのテンポで同じスウィング比率を再生するリズムックフィールを設定できます。

## スウィング比率とリズムックフィール

スウィング比率は、拍子単位を使用してスウィングの強さを表わします。たとえば、2:1 のスウィング比率は、連符の最初の音符の長さが 2 番めの音符の 2 倍になり、3 連符のスウィングが作成されることを意味します。

スウィング比率が 1:1 の場合、楽譜はストレートに再生され、スウィング比率が 5:1 の場合、各連符は 6 連符のように演奏されます。6 連符のうち、最初の音符は 6 分割された拍の 5 拍分の長さで、2 番めの音符は残りの 1 拍分の長さで演奏されます。



スウィング比率 1:1



スウィング比率 5:1

Dorico Pro には、以下のリズムックフィールがデフォルトで用意されています。

### 16 分音符の 2:1 スウィング (一定) (2:1 swing 16ths (fixed))

16 分音符の連符の最初の音符を 2 番めの音符の 2 倍の長さにするすることで、2:1 比率の 3 連符が作成されます。これは 3 連符スウィングとも呼ばれます。この比率はデフォルトでテンポにかかわらず維持されます。

### 8 分音符の 2:1 スウィング (一定) (2:1 swing 8ths (fixed))

8 分音符の連符の最初の音符を 2 番めの音符の 2 倍の長さにするすることで、2:1 比率の 3 連符が作成されます。これは 3 連符スウィングとも呼ばれます。この比率はデフォルトでテンポにかかわらず維持されます。

### 16 分音符の 3:1 スウィング (一定) (3:1 swing 16ths (fixed))

16 分音符の連符の最初の音符を 2 番めの音符の 3 倍の長さにするすることで、付点 16 分音符と 32 分音符の比率が作成されます。この比率はデフォルトでテンポにかかわらず維持されます。

### 8 分音符の 3:1 スウィング (一定) (3:1 swing 8ths (fixed))

8 分音符の連符の最初の音符を 2 番めの音符の 3 倍の長さにするすることで、付点 8 分音符と 16 分音符の比率が作成されます。この比率はデフォルトでテンポにかかわらず維持されます。

### 16 分音符の重いスウィング (Heavy swing 16ths)

遅いテンポでは 3:1、速いテンポでは 1.5:1 のテンポによって可変する 16 分音符のスウィング比率が作成されます。

### 8 分音符の重いスウィング (Heavy swing 8ths)

遅いテンポでは 3:1、速いテンポでは 1.5:1 のテンポによって可変する 8 分音符のスウィング比率が作成されます。

### 16 分音符の軽いスウィング (Light swing 16ths)

遅いテンポでは 1.5:1、速いテンポでは 1:1 のテンポによって可変する 16 分音符のスウィング比率が作成されます。

### 8分音符の軽いスウィング (Light swing 8ths)

遅いテンポでは 1.5:1、速いテンポでは 1:1 のテンポによって可変する 8分音符のスウィング比率が作成されます。

### 16分音符のミディアムスウィング (Medium swing 16ths)

遅いテンポでは 2:1、速いテンポでは 1.5:1 のテンポによって可変する 16分音符のスウィング比率が作成されます。

### 8分音符のミディアムスウィング (Medium swing 8ths)

遅いテンポでは 2:1、速いテンポでは 1.5:1 のテンポによって可変する 8分音符のスウィング比率が作成されます。

### ストレート (スウィング無し) (Straight (no swing))

スウィングは作成されません。つまり、すべてのテンポで 8分音符が 1:1 の比率で等しく演奏されます。

使用するスウィング比率は、プロジェクト全体、特定のセクション、および個別のプレーヤーで変更できます。「**リズムックフィール (Rhythmic Feel)**」ダイアログでは、これらの設定を編集してカスタムのスウィング比率を作成できます。

## プロジェクト全体にスウィング再生を適用する

いずれかのデフォルトのスウィング比率またはプロジェクトで作成したカスタムのスウィング比率を使用して、プロジェクト全体にスウィング再生を適用できます。

#### 前提条件

スウィング再生に使用するカスタムリズムックフィールを作成しておきます。

---

#### 手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[P]** を押して「**再生オプション (Playback Options)**」を開きます。
2. カテゴリリストの「**タイミング (Timing)**」をクリックします。
3. 「**リズムックフィール (Rhythmic Feel)**」セクションで、「**デフォルトのリズムックフィール (Default rhythmic feel)**」のメニューから使用するリズムックフィールを選択します。
4. 「**適用 (Apply)**」をクリックしてから「**閉じる (Close)**」をクリックします。

---

#### 結果

選択した比率のスウィングの単位に応じて、プロジェクト内の 8分音符または 16分音符の連符すべてが、選択したスウィング比率で再生されます。これには、8分音符が 2 つの 16分音符に分割されるなど、2 つめの拍が 2 つに分割されるかどうかも含まれます。

#### 関連リンク

[「再生オプション \(Playback Options\)」ダイアログ \(925 ページ\)](#)

## 特定のセクション/インストゥルメントにスウィング再生を適用する

プロジェクトの特定のセクションや個別のインストゥルメントにスウィング再生を適用できます。たとえば、トランペット奏者の 12 小節分のセクションのみでスウィングしたり、1 つのフローのみでスウィング再生したりできます。

#### 前提条件

スウィング再生に使用するカスタムリズムックフィールを作成しておきます。

#### 手順

1. 記譜モードで、以下のいずれかを選択します。

- 特定の位置以降のスウィング再生を有効にするには、スウィング再生または異なるリズムフィールドを開始する小節の先頭のアイテムを1つ選択します。
- セクション内のスウィング再生を有効にしたあとにストレート再生に戻すには、スウィング再生または異なるリズムフィールドを適用するデュレーションにまたがる複数のアイテムを選択します。

#### 補足

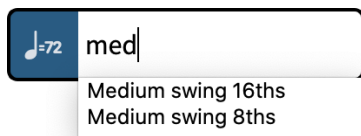
- 1つのインストゥルメントのスウィング再生を有効にするには、そのインストゥルメントにのみ属するアイテムを選択します。
- 小節の先頭以外のアイテムを選択した場合、リズムフィールドの変更は次の小節の最初から適用されます。

2. 以下のいずれかの操作を行なってテンポのポップオーバーを開きます。

- **[Shift]+[T]** を押します。
- 記譜ツールボックスで「ポップオーバー (Popovers)」 をクリックし、「テンポ (Tempo)」 をクリックします。

3. 使用するリズムフィールドのエントリーをポップオーバーに入力します。

テンポのポップオーバーにリズムフィールドを入力しはじめると、入力した文字や単語が含まれる有効なリズムフィールドがメニューに予測表示され、そこから使用するリズムフィールドを選択できます。



#### 補足

プロジェクトに存在するリズムフィールドの名前を入力しなければ、ポップオーバーに入力したテキストがテンポ記号として入力され、スウィング再生は有効になりません。

4. 以下のいずれかの操作を行なって、リズムフィールドの変更を入力し、ポップオーバーを閉じます。

- すべての譜表にリズムフィールドの変更を入力するには、**[Return]** を押します。
- 選択したインストゥルメントにのみリズムフィールドの変更を入力するには、**[Alt/Opt]+[Return]** を押します。

#### 結果

スウィング再生に使用されるリズムフィールドは、選択した最初のアイテムを含む小節の最初から変更されます。小節の先頭以外のアイテムを選択した場合、リズムフィールドの変更は次の小節の最初から適用されます。

複数のアイテムを選択した場合、リズムフィールドは選択した最後のアイテムの位置で自動的にリセットされます。

**[Alt/Opt]+[Return]** を押した場合、リズムフィールドの変更は、アイテム (1つまたは複数) を選択した譜表上のインストゥルメントにのみ適用されます。1つのインストゥルメントに追加されたリズムフィールドは、そのインストゥルメントに属するすべての譜表に適用されます。

入力したリズムフィールの名前を示すガイドが表示されます。すべての譜表に適用されるリズムフィールの変更のガイドは、組段全体の一番上の譜表の上に表示され、1つのインストゥルメントに適用されるリズムフィールの変更のガイドは、そのインストゥルメントの一番上の譜表の上に直接表示されます。

関連リンク

[テンポのポップオーバー \(321 ページ\)](#)

[ガイド \(490 ページ\)](#)

[ガイドの表示/非表示の切り替え \(491 ページ\)](#)

## リズムフィールの変更の削除

特定のセクションや個別のプレーヤーのみに適用したリズムフィールの変更を削除できます。

前提条件

リズムフィールの変更のガイドを表示しておきます。

---

手順

1. 記譜モードで、削除するリズムフィールの変更のガイドを選択します。
2. **[Backspace]** 又は **[Delete]** を押します。

---

結果

リズムフィールの変更が削除されます。影響を受けていた譜表の再生は、次のリズムフィールの変更のガイドまで (存在する場合)、プロジェクト全体の設定に戻ります。

## スウィング再生用のカスタムリズムフィールの作成



デフォルトで用意されていないスウィング比率を使用したい場合に、カスタムリズムフィールを作成してスウィング再生に使用できます。まったく新しいリズムフィールを作成したり、既存のリズムフィールをベースにして新しいリズムフィールを作成したりできます。

---

手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[P]** を押して「再生オプション (Playback Options)」を開きます。
2. カテゴリーリストの「タイミング (Timing)」をクリックします。
3. 「リズムフィール (Rhythmic Feel)」セクションで、「編集 (Edit)」をクリックして「リズムフィール (Rhythmic Feel)」ダイアログを開きます。
4. 以下のいずれかの操作を行なって、新しいリズムフィールを作成します。
  - まったく新しいリズムフィールを作成する場合は、「新規 (New)」 **+** をクリックします。
  - 既存のリズムフィールのコピーを作成する場合は、リズムフィールリストからコピーするリズムフィールを選択し、「選択から新規作成 (New from Selection)」 **+** をクリックします。
5. 「名前 (Name)」フィールドにリズムフィールの名前を入力します。
6. 「遅いテンポ (Low tempo)」スライダーを任意のスウィング比率の位置に移動します。
7. カスタムリズムフィールのスウィング比率をテンポによって変化させる場合は、「テンポにより可変 (Depends on tempo)」をオンにします。
8. 「テンポにより可変 (Depends on tempo)」をオンにした場合は、必要に応じて以下のいずれかまたは両方のオプションの bpm の値を変更します。
  - 遅いテンポ (Low tempo)

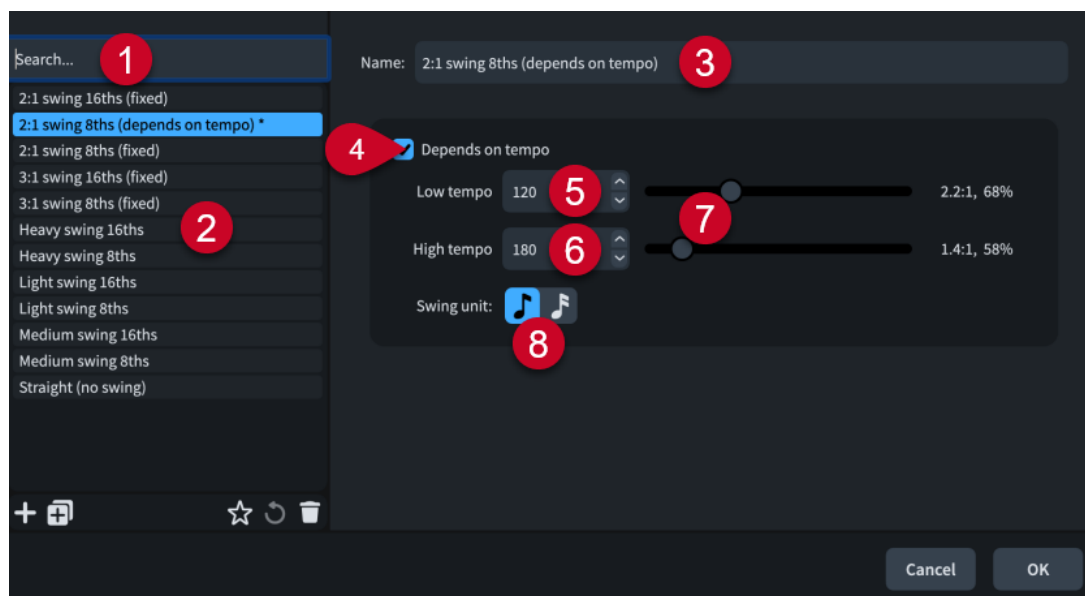


- **速いテンポ (High tempo)**
9. 「テンポにより可変 (Depends on tempo)」をオンした場合は、「速いテンポ (High tempo)」スライダーを任意のスウィング比率の位置に移動します。
  10. 「スウィングの単位 (Swing unit)」で以下のいずれかを選択します。
    - 8分音符 (8th (Quaver)) 
    - 16分音符 (16th (Semiquaver)) 
  11. 「OK」をクリックして変更内容を保存し、ダイアログを閉じます。
  12. 「適用 (Apply)」をクリックしてから「閉じる (Close)」をクリックします。

## 「リズムックフィール (Rhythmic Feel)」 ダイアログ

「リズムックフィール (Rhythmic Feel)」ダイアログでは、スウィング再生に使用されるデフォルトのリズムックフィール設定を編集してカスタムのリズムックフィールを作成できます。

- 「リズムックフィール (Rhythmic Feel)」ダイアログを開くには、「再生オプション (Playback Options)」 > 「タイミング (Timing)」 > 「リズムックフィール (Rhythmic Feel)」の「編集 (Edit)」をクリックします。



「リズムックフィール (Rhythmic Feel)」ダイアログには、以下のオプションとセクションがあります。





### 1 検索フィールド



テキストを入力してリズムックフィールをフィルタリングできます。

### 2 リズムックフィールのリスト

プロジェクトで使用できるリズムックフィールが表示されます。

リストの最下部のアクションバーには以下のオプションがあります。

- **新規 (New)** : デフォルト値で新規のリズムックフィールを作成します。
- **選択から新規作成 (New from Selection)** : リストで選択したリズムックフィールをもとに新規のリズムックフィールを作成します。デフォルトでは値は上書きされませんが、新規のリズムックフィールのオプションは変更できます。
- **デフォルトとして保存 (Save as Default)** : 選択中のリズムックフィールをユーザーライブラリーのデフォルトとして保存し、複数のプロジェクトで使用できるようにします。デフォルトとして保存したリズムックフィールは  として表示されます。

- **出荷時の設定に戻す (Revert to Factory)** : 選択中のリズムフィールドに加えたすべての変更を取り消して、元の設定に戻します。
- **削除 (Delete)** : 選択したリズムフィールドを削除します。

#### 補足

プリセットのリズムフィールドやプロジェクトで現在使用しているリズムフィールドは削除できません。

### 3 名前 (Name)

新規のリズムフィールドの名前を入力したり、既存のリズムフィールドの名前を編集したりできます。

### 4 テンポにより可変 (Depends on tempo)

スウィングのパターンが、すべてのテンポで固定の比率であるか、テンポに応じて変化するかをコントロールします。

- 「テンポにより可変 (Depends on tempo)」をオンにすると、スウィング比率はテンポに応じて変化します。「**速いテンポ (High tempo)**」用のスライダーが追加で表示され、「**遅いテンポ (Low tempo)**」と「**速いテンポ (High tempo)**」の両方の値を変更できます。
- 「テンポにより可変 (Depends on tempo)」をオフにすると、単一のスライダーのスウィング比率の値がすべてのテンポに使用されます。

### 5 遅いテンポ (Low tempo)

設定した値以下のテンポ (1 分間あたりの 4 分音符の数) で、スウィング比率が変化します。使用するスウィング比率は、右にあるスライダーでコントロールします。

### 6 速いテンポ (High tempo)

設定した値以上のテンポ (1 分間あたりの 4 分音符の数) で、スウィング比率が変化します。「**テンポにより可変 (Depends on tempo)**」がオンの場合、使用するスウィング比率は、右にあるスライダーでコントロールします。

### 7 スウィング比率のスライダー

「**遅いテンポ (Low tempo)**」の値以下のテンポと「**速いテンポ (High tempo)**」の値以上のテンポで使用されるスウィング比率を設定します。設定可能な範囲は、1:1 (ストレート) から 5:1 (2 番めの 8 分音符が 6 連符の最後の分割で演奏される) までです。

現在のスウィング比率とスウィングの割合の値が、スライダーの右に表示されます。

### 8 スウィングの単位 (Swing unit)

選択した比率でスウィングさせるデュレーションを選択できます。8 分音符または 16 分音符をスウィング再生できます。

#### 関連リンク

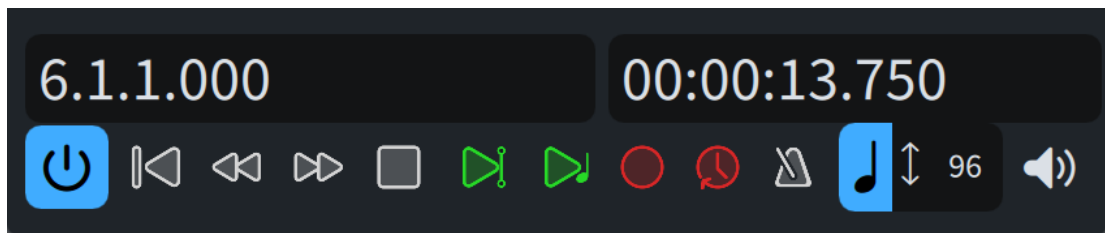
[「再生オプション \(Playback Options\)」 ダイアログ \(925 ページ\)](#)

## 「トランスポート (Transport)」 ウィンドウ

「トランスポート (Transport)」 ウィンドウには、巻き戻しや早送りなど、再生と MIDI 録音に関する機能があります。このウィンドウには、ツールバーにあるよりも高度な再生機能が含まれています。

「トランスポート (Transport)」 ウィンドウの表示/非表示を切り替えるには、以下のいずれかの操作を行ないます。

- **[F2]** を押します。
- ツールバーの「**トランスポートバーを表示 (Show Transport Bar)**」  をクリックします。



トランスポートウィンドウには、以下の情報と機能が含まれます。

#### 小節/拍ディスプレイ

6.1.1.000

現在のフローの小節と拍に対する再生ヘッドの位置が、小節、拍、16分音符、16分音符テンポ 120 の順で表示されます。

#### タイムディスプレイ

以下のいずれかの形式で、再生ヘッドの位置が表示されます。

- 経過時間 (時間、分、秒、ミリ秒の順)
- タイムコード (時間、分、秒、フレームの順)

00:00:42.500

経過時間が表示されたタイムディスプレイ

00:00:42:12

タイムコードが表示されたタイムディスプレイ

タイムディスプレイをクリックすると、表示形式を切り替えられます。

#### プロジェクトの有効化 (Activate Project)



プロジェクトの再生を有効化/無効化します。再生を無効にすると、トランスポート機能と再生機能が無効になります。

#### フローの最初に巻き戻し (Rewind to Beginning of Flow)



フローの最初に再生位置を移動します。

#### 巻き戻し (Rewind)



クリックするたびに、再生ヘッドが1秒ずつ巻き戻しされます。

#### 高速早送り (Fast Forward)



クリックするたびに、再生ヘッドが1秒ずつ早送りされます。

#### 停止 (Stop)



再生を停止します。

#### 再生ヘッドの位置から再生 (Play From Playhead Position)



現在の再生ヘッドの位置から再生を開始します。

### 選択範囲から再生 (Play from Selection)



楽譜領域で選択している最初のアイテムの位置から再生を開始します。

複数の譜表上のアイテムを選択するか、単一の譜表上の複数のアイテムを選択した場合は、アイテムを選択している譜表のみが再生されます。

### 録音 (Record)

MIDI 録音を開始/停止します。



MIDI 録音中以外の「録音 (Record)」



MIDI 録音中の「録音 (Record)」

### 非録音時の MIDI 入力データを記録 (Retrospective Record)



明示的に MIDI 入力データを録音していなかった場合でも、直前の再生中に演奏した MIDI データを取得して、任意の譜表に入力できます。

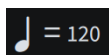
### クリック (Click)



再生および録音中にメトロノームクリックを再生/ミュートします。

### テンポモード

再生と録音の両方に使用されるテンポが表示されます。再生ヘッドの位置に従って値が、モードに従って外観が変化します。

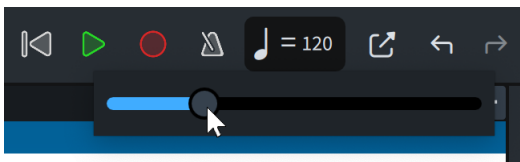


固定テンポモード



追従テンポモード

- テンポモードを切り替えるには、拍の単位をクリックします。
- 固定テンポモードで使用されるメトロノームマークの値は、数字をクリックしてスライダーを表示し、それを左右にドラッグして変更できます。



### スクラブ再生 (Scrub Playback)

スクラブ再生を有効化/無効化します。



スクラブ再生中以外の「スクラブ再生 (Scrub Playback)」



スクラブ再生中の「スクラブ再生 (Scrub Playback)」

#### 関連リンク

- [ツールバー \(33 ページ\)](#)
- [ミニトランスポート \(35 ページ\)](#)
- [楽譜の再生 \(680 ページ\)](#)
- [テンポモードの変更 \(683 ページ\)](#)
- [MIDI 録音 \(290 ページ\)](#)
- [クリックに使用するサウンドを変更する \(672 ページ\)](#)
- [タイムコード \(1586 ページ\)](#)

## トランスポートディスプレイに表示する内容の変更

ツールバーのミニトランスポートとトランスポートウィンドウの両方で、表示をタイムコード、合計経過時間、および再生ヘッドの現在の位置 (小節、拍、ティックで表わされる) で切り替えることができます。

---

#### 手順

- ツールバーのミニトランスポートまたはトランスポートウィンドウのいずれかで、目的の内容が表示されるまでトランスポートディスプレイをクリックします。  
トランスポートウィンドウの場合、右側にあるディスプレイをクリックします。

---

#### 結果

ミニトランスポートディスプレイをクリックするたびに、表示形式が再生ヘッドの位置、経過時間、タイムコードに切り替わります。

トランスポートウィンドウでは、再生ヘッドの位置がウィンドウの左側に常に表示されているため、タイムコードと経過時間のみで切り替わります。

#### ヒント

「環境設定 (Preferences)」の「再生 (Play)」ページで、以後のすべてのプロジェクトのミニトランスポートにデフォルトで表示される内容を変更できます。

---

#### 関連リンク

- [「環境設定 \(Preferences\)」ダイアログ \(63 ページ\)](#)
- [マーカーのタイムコードの表示/非表示 \(1588 ページ\)](#)

## 再生テンプレート

Dorico Pro は、再生テンプレートを使用して VST インストゥルメントおよび MIDI デバイスのサウンドをプロジェクト内のインストゥルメントに割り当てます。

再生テンプレートは、以下の情報を組み合わせて正しい再生を行ないます。

- VST インストゥルメントなどのプラグインによって提供されるインストゥルメントサウンド、アーティキュレーション、再生効果
- これらのサウンドの再生に必要なエクスペッション/パーカッションマップ
- 各インストゥルメントのサウンドに必要なエンドポイント設定

プロジェクト内のプレーヤーにインストゥルメントを追加すると、Dorico Pro が現在の再生テンプレートに応じてそのインストゥルメントのプラグインを自動的にロードし、必要に応じてエクスペッションマップとパーカッションマップの設定を行ないます。また、多くのプラグインは限られた数のサウンドしかロードできないため、Dorico Pro は自動的に必要な数だけプラグインをロードします。

エンドポイントに割り当てられているエクスプレッションマップを変更するなどして、プロジェクト内のインストゥルメントが使用しているサウンドに手動で独自の変更を加えたり、再生テンプレートを上書きしたりできます。そのあと、これらの変更を、独自のカスタム再生テンプレートに含めることができるカスタムエンドポイント設定として保存できます。

また、たとえば他のユーザーと共有するために、カスタム再生テンプレートを書き出すこともできます。再生テンプレートは .dorico\_pt ファイルとして保存されます。

#### 補足

- 再生テンプレートは、コンピューター上で開いた、または作成したすべてのプロジェクトで使用できます。つまり、再生テンプレートに対して行なう変更は、その再生テンプレートを使用しているすべてのプロジェクトに影響します。
- Dorico Pro は、現在の再生テンプレートに含まれているサウンドを使用して、プロジェクトに追加された新しいインストゥルメントのサウンドを自動的にロードします。そのため、すべてのインストゥルメントにサウンドが割り当てられるよう、カスタム再生テンプレートの一番下に代替テンプレートとして出荷時のデフォルトの再生テンプレートを常に含めておくことをおすすめします。
- プロジェクトを保存するとプラグイン内で行なった変更が保存されますが、Dorico Pro には変更が伝えられません。この場合、Dorico Pro は元のサウンドのエクスプレッションマップまたはパーカッションマップを引き続き使用するため、再生時に予期せず低い音が鳴ることがあります。プラグインで変更を行なった場合は、適切なエンドポイントに正しいエクスプレッションマップまたはパーカッションマップを手動で割り当てる必要があります。
- **Silence** の再生テンプレートは、Dorico Pro がサウンドをロードしないようにします。これにより、プロジェクトファイルを大幅に小さくできます。

---

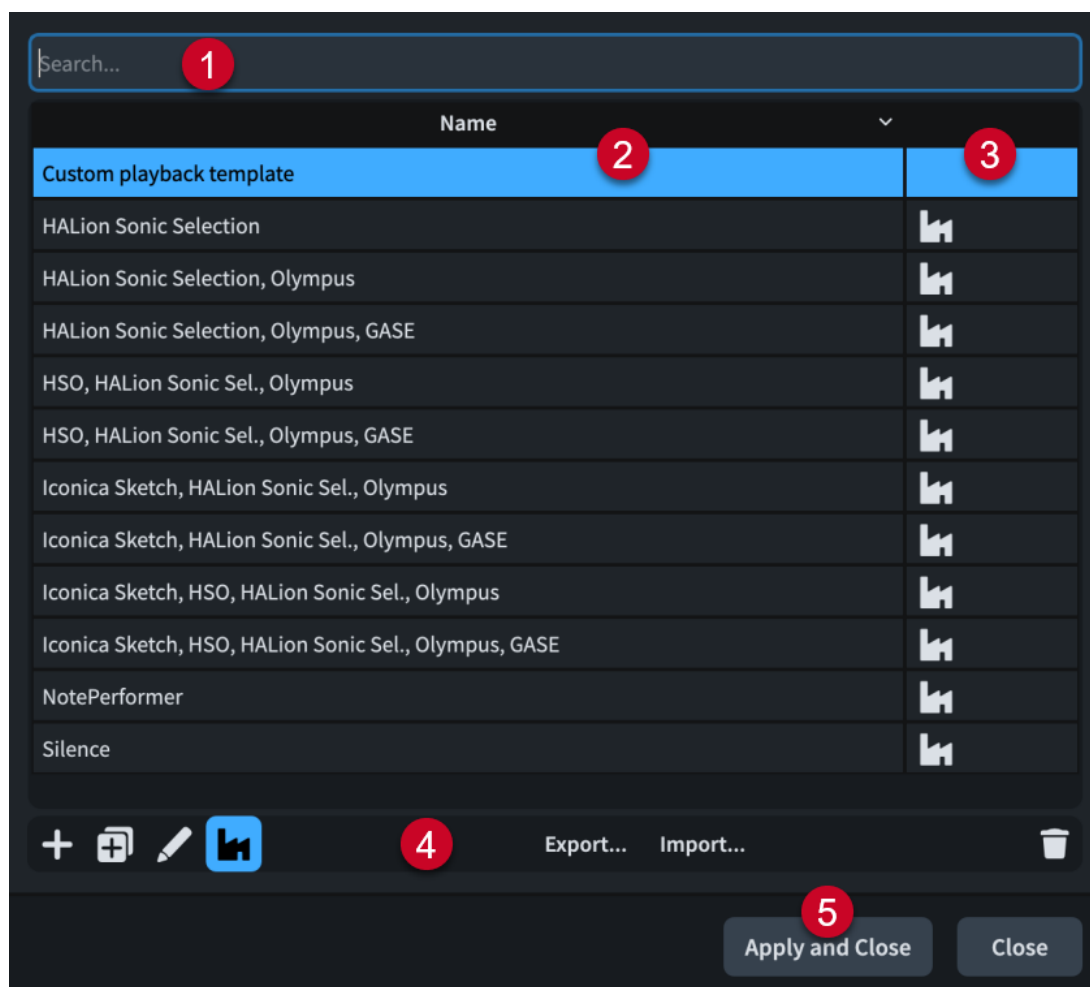
#### 関連リンク

- [「再生テンプレートを編集 \(Edit Playback Template\)」 ダイアログ \(704 ページ\)](#)
- [再生テンプレートの適用/リセット \(707 ページ\)](#)
- [カスタム再生テンプレートを作成する \(708 ページ\)](#)
- [再生テンプレートの書き出し \(710 ページ\)](#)
- [VST/MIDI インストゥルメントを手動でロードする \(667 ページ\)](#)
- [VST インストゥルメントの編集 \(669 ページ\)](#)
- [「エンドポイントの設定 \(Endpoint Setup\)」 ダイアログ \(711 ページ\)](#)
- [エンドポイント \(710 ページ\)](#)
- [エンドポイントへのインストゥルメント/声部の割り当て \(713 ページ\)](#)
- [エンドポイントへのエクスプレッションマップ/パーカッションマップの割り当て \(714 ページ\)](#)
- [カスタムエンドポイント設定を保存する \(715 ページ\)](#)
- [再生の有効化/無効化 \(681 ページ\)](#)
- [MIDI トリガー領域 \(717 ページ\)](#)
- [Groove Agent SE からドラムセットパターンを読み込む \(104 ページ\)](#)

## 「再生テンプレートを適用 (Apply Playback Template)」 ダイアログ

「再生テンプレートを適用 (Apply Playback Template)」 ダイアログを使用すると、現在のプロジェクトに適用されている再生テンプレートの変更や、再生テンプレートの読み込み/書き出しなどを行なえます。また、「再生テンプレートを編集 (Edit Playback Template)」 ダイアログを開くこともできます。

- 「再生テンプレートを適用 (Apply Playback Template)」 ダイアログは、「再生 (Play)」 > 「再生テンプレート (Playback Template)」 を選択すると開きます。



「再生テンプレートを適用 (Apply Playback Template)」ダイアログは以下で構成されます。

#### 1 検索フィールド

テキストを入力して再生テンプレートをフィルタリングできます。

#### 2 「名前 (Name)」列

お使いのコンピューターで使用できる再生テンプレートのリストです。列のヘッダーをクリックしてソート順を変更できます。

#### 補足

Dorico Pro には、インストール済みでライセンスを所有しているサウンドの再生テンプレートのみが表示されます。

#### 3 出荷時のデフォルト列

その行の再生テンプレートが出荷時のデフォルトの再生テンプレートの場合、工場のマークが表示されます。列のヘッダーをクリックしてソート順を変更できます。

#### 4 アクションバー

再生テンプレートに関する以下のオプションがあります。



- **再生テンプレートを追加 (Add Playback Template) **: 「再生テンプレートを編集 (Edit Playback Template)」ダイアログを開き、新しい再生テンプレートを作成できます。
- **再生テンプレートを複製 (Duplicate Playback Template) **: 「再生テンプレートを編集 (Edit Playback Template)」ダイアログを開き、選択した再生テンプレートの複製を元に新しい再生テンプレートを作成できます。

- **再生テンプレートを編集 (Edit Playback Template)** : 「再生テンプレートを編集 (Edit Playback Template)」ダイアログを開き、選択した既存の再生テンプレートを編集できます。

補足

出荷時のデフォルトの再生テンプレートを編集することはできません。

---

- **出荷時設定を表示 (Show Factory)** : 出荷時のデフォルトの再生テンプレートを表に表示するかどうかを切り替えます。
- **書き出し (Export)**: エクスプローラー (Windows) または Finder (Mac) を開き、現在選択している再生テンプレートを .dorico\_pt ファイルとして書き出す場所を選択できます。そのあと、.dorico\_pt ファイルを別のコンピューターの Dorico Pro に読み込んで他のユーザーと共有できます。
- **読み込み (Import)**: エクスプローラー (Windows) または Finder (Mac) を開き、再生テンプレートとして読み込む .dorico\_pt ファイルを選択できます。
- **削除 (Delete)** : 選択した再生テンプレートを削除します。

補足

出荷時のデフォルトの再生テンプレートを削除することはできません。

---

## 5 適用して閉じる (Apply and Close)

選択した再生テンプレートをプロジェクトに適用してダイアログを閉じます。

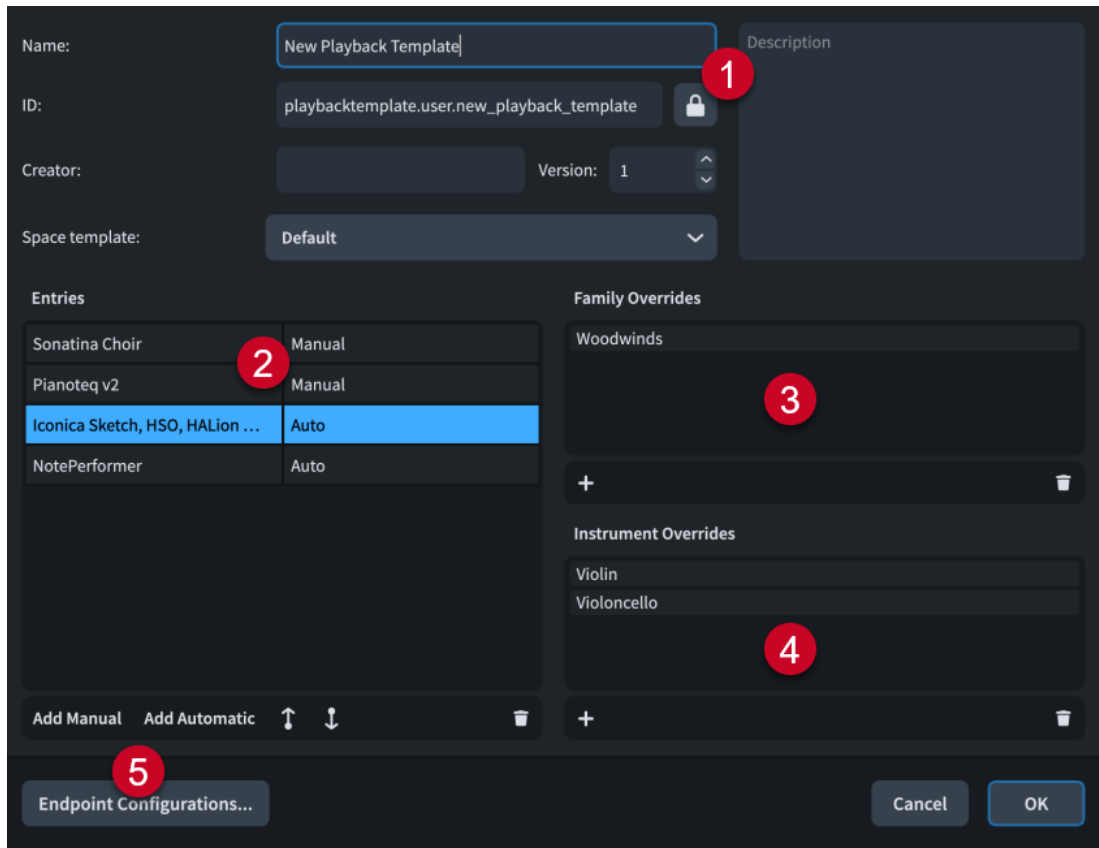
## 「再生テンプレートを編集 (Edit Playback Template)」ダイアログ

「再生テンプレートを編集 (Edit Playback Template)」ダイアログでは、新しいカスタム再生テンプレートの作成や既存のテンプレートの編集を行なえます。カスタムエンドポイント設定と既存の再生テンプレートを自由に組み合わせて使用し、それらをどのような順番で使用するのかを指定できます。

再生テンプレートは、コンピューター上で開いた、または作成したすべてのプロジェクトで使用できます。

- 「再生テンプレートを適用 (Apply Playback Template)」ダイアログから「再生テンプレートを編集 (Edit Playback Template)」ダイアログを開くには、「再生テンプレートを追加 (Add Playback Template)」、「再生テンプレートを複製 (Duplicate Playback Template)」、または「再生テンプレートを編集 (Edit Playback Template)」をクリックします。





「再生テンプレートを編集 (Edit Playback Template)」ダイアログには、以下のセクションとオプションがあります。

## 1 再生テンプレートのデータ

選択したカスタム再生テンプレートに以下の識別情報を指定できます。

- **名前 (Name):** プログラムの「再生テンプレートを適用 (Apply Playback Template)」ダイアログなどに表示される再生テンプレートの名前を設定できます。
- **ID:** 再生テンプレートの固有 ID を設定できます。「ID」フィールドには、「名前 (Name)」フィールドに入力した情報が自動的に入力されます。
- **作成者 (Creator):** 再生テンプレートを他のユーザーと共有する場合に、作成者の名前を付けることができます。
- **バージョン (Version):** 最新のバージョンを識別できるように、再生テンプレートのバージョンを表示できます。たとえば、再生テンプレートに変更を加えるたびに「バージョン (Version)」番号の数字を大きくするなどします。
- **スペーステンプレート (Space template):** 再生テンプレートに使用するスペーステンプレートを選択できます。
- **説明 (Description):** 再生テンプレートに関するその他のあらゆる情報を追加できます。

### 補足

再生テンプレートのデータセクションにある「名前 (Name)」以外のすべてのフィールドは、「情報をロック (Lock Info)」ボタンでロックされています。これらのフィールドの情報を変更するには、このボタンをクリックする必要があります。

## 2 エントリー (Entries)

選択したカスタム再生テンプレートに使用されている、すべてのカスタムエンドポイント設定と既存の再生テンプレートの表です。エントリーは優先順位順に表示され、一番上のエントリーから順




にサウンドが割り当てられます。すべてのインストゥルメントにサウンドが割り当てられるよう、リストの一番下に代替テンプレートとして出荷時のデフォルトの再生テンプレートを常に含めておくことをおすすめします。

ほとんどの場合、「**エントリー (Entries)**」セクションに任意の順序でエントリーをリストしておけば希望通りに再生できます。ただし、カスタム再生テンプレートの複数のエントリーに同じインストゥルメントのサウンドが含まれている場合は、ファミリーの上書きやインストゥルメントの上書きを設定する必要があります。たとえば、最初のエントリーからは木管楽器のサウンドのみを使用し、他のすべてのサウンドは2つめのエントリーから使用するなどです。

右側の列には、その行のエントリーのタイプが表示されます。

- **手動 (Manual):** サウンドを自動的にロードできないエントリー (カスタムエンドポイント設定など)
- **自動 (Auto):** サウンドを自動的にロードできるエントリー (出荷時のデフォルトの再生テンプレート)

セクションの最下部のアクションバーには以下のオプションがあります。

- **手動を追加 (Add Manual):** 再生テンプレートに手動エントリーを追加できます。
- **自動を追加 (Add Automatic):** 再生テンプレートに自動エントリーを追加できます。
- **上へ移動 (Move Up) **: 選択したエントリーを1つ上に移動します。
- **下へ移動 (Move Down) **: 選択したエントリーを1つ下に移動します。
- **削除 (Delete) **: 選択したエントリーを再生テンプレートから削除します。

### 3 ファミリーの上書き (Family Overrides)

選択したエントリーに適用されるファミリーの上書きのリストです。上書きの追加や削除を行なえます。ファミリーの上書きを使用すると、たとえば金管楽器や弦楽器のサウンドも含まれるエントリーから、木管楽器のサウンドだけを使用したい場合などに、使用するインストゥルメントファミリーサウンドを指定できます。



セクションの最下部のアクションバーには以下のオプションがあります。

- **インストゥルメントファミリーを追加 (Add Instrument Family) **: 選択したエントリーに上書きとして適用するインストゥルメントファミリーを選択できます。
- **インストゥルメントファミリーを削除 (Delete Instrument Family) **: 選択したファミリーの上書きを選択したエントリーから削除します。

### 4 インストゥルメントの上書き (Instrument Overrides)

選択したエントリーに適用されるインストゥルメントの上書きのリストです。上書きの追加や削除を行なえます。インストゥルメントの上書きを使用すると、たとえばアンサンブル弦楽器のサウンドも含まれるエントリーから、ソロバイオリンのサウンドだけを使用したい場合などに、使用する個々のインストゥルメントサウンドを指定できます。

セクションの最下部のアクションバーには以下のオプションがあります。

- **インストゥルメントを追加 (Add Instrument) **: 選択したエントリーに上書きとして適用するインストゥルメントを選択できます。
- **インストゥルメントを削除 (Delete Instrument) **: 選択したインストゥルメントの上書きを選択したエントリーから削除します。

### 5 エンドポイントの設定 (Endpoint Configurations)

「**エンドポイントの設定を編集 (Edit Endpoint Configurations)**」ダイアログが開きます。このダイアログでは、カスタムエンドポイント設定の名前の変更や削除を行なえるほか、そこに含まれるプラグインとプレーヤーが表示されます。

関連リンク

[エンドポイント \(710 ページ\)](#)

[「エンドポイントの設定を編集 \(Edit Endpoint Configurations\)」ダイアログ \(717 ページ\)](#)

[スペーステンプレート \(905 ページ\)](#)  
[インストゥルメントファミリー \(960 ページ\)](#)

## 再生テンプレートの適用/リセット

再生に別のサウンドライブラリーを使用したい場合などに、現在のプロジェクトに適用されている再生テンプレートを変更できます。再生テンプレートを再選択すると、テンプレートはデフォルト設定にリセットされます。

### 前提条件

再生に使用するすべてのサウンドをインストールしておきます。

---

### 手順

1. 「再生 (Play)」 > 「再生テンプレート (Playback Template)」を選択して「再生テンプレートを適用 (Apply Playback Template)」ダイアログを開きます。
2. 使用する再生テンプレートを選択します。

#### 補足

Dorico Pro には、インストール済みでライセンスを所有しているサウンドの再生テンプレートのみが表示されます。

---

3. 「適用して閉じる (Apply and Close)」をクリックします。
- 

### 結果

現在のプロジェクトに適用されている再生テンプレートが変更されます。使用中の再生テンプレートを再選択した場合、再生テンプレートがリセットされます。

サウンドは、スコア順にプラグインにロードされます。

#### ヒント

- 「環境設定 (Preferences)」の「再生 (Play)」ページで、以降のすべてのプロジェクトで使用するデフォルトの再生テンプレートを変更できます。新しいサウンドをインストールしたことを Dorico Pro が検出すると、デフォルトの再生テンプレートを更新するためのダイアログが表示されます。
  - 「再生 (Play)」 > 「未割当のインストゥルメントにサウンドをロード (Load Sounds for Unassigned Instruments)」を選択して、サウンドが割り当てられていないインストゥルメントにのみサウンドをロードすることもできます。
- 

### 関連リンク

[「環境設定 \(Preferences\)」ダイアログ \(63 ページ\)](#)  
[再生の有効化/無効化 \(681 ページ\)](#)  
[デフォルトのプレーヤーの順番の変更 \(137 ページ\)](#)  
[Groove Agent SE からドラムセットパターンを読み込む \(104 ページ\)](#)




## カスタム再生テンプレートを作成する

出荷時のデフォルトの再生テンプレート、カスタムエンドポイント設定、およびサウンドを自動的にロードできない出荷時のデフォルト以外の再生テンプレートを組み合わせて、カスタム再生テンプレートを作成できます。

### 前提条件




カスタム再生テンプレートに含めるサードパーティー製サウンドライブラリー用のカスタムエンドポイント設定を保存しておきます。

### 手順


1. 「再生 (Play)」 > 「再生テンプレート (Playback Template)」を選択して「再生テンプレートを適用 (Apply Playback Template)」ダイアログを開きます。
2. 以下のいずれかの操作を行なって「再生テンプレートを編集 (Edit Playback Template)」ダイアログを開いて新しい再生テンプレートを作成します。
  - 空の再生テンプレートを作成するには、アクションバーにある「再生テンプレートを追加 (Add Playback Template)」をクリックします。
  - 既存の再生テンプレートのコピーを作成するには、その再生テンプレートを選択して、アクションバーにある「再生テンプレートを複製 (Duplicate Playback Template)」をクリックします。
3. 「再生テンプレートを編集 (Edit Playback Template)」ダイアログで、「情報をロック (Lock Info)」をクリックしてデータフィールドのロックを解除します。
4. 関連するフィールドに再生テンプレートの情報を入力します。
5. 「エントリー (Entries)」セクションで、使用するカスタムエンドポイント設定や出荷時のデフォルトの再生テンプレートを追加します。
  - カスタムエンドポイント設定または出荷時のデフォルト以外の再生テンプレートを追加するには、「手動を追加 (Add Manual)」をクリックして、メニューから使用するものを選択します。
  - 出荷時のデフォルトの再生テンプレートを追加するには、「自動を追加 (Add Automatic)」をクリックして、メニューから使用するものを選択します。

### ヒント

すべてのインストゥルメントにサウンドが割り当てられるよう、リストの一番下に代替テンプレートとして出荷時のデフォルトの再生テンプレートを常に含めておくことをおすすめします。

6. 必要に応じて、エントリーの順番および再生テンプレートにおける優先順位を変更するには、エントリーを選択して、アクションバーにある以下のいずれかのオプションをクリックします。
  - 選択したエントリーを上へ移動するには、「上へ移動 (Move Up)」をクリックします。
  - 選択したエントリーを下へ移動するには、「下へ移動 (Move Down)」をクリックします。
7. 必要に応じて、すべてのエントリーが正しい順番に並ぶまで、手順6を繰り返します。
8. 必要に応じて、インストゥルメントファミリーの上書きを指定するエントリーを選択します。
9. 「ファミリーの上書き (Family Overrides)」セクションのアクションバーで、「インストゥルメントファミリーを追加 (Add Instrument Family)」をクリックして、メニューから使用するものを選択します。

たとえば、弦楽器のサウンドも含まれるサウンドライブラリーから木管楽器のサウンドのみを使用するには、「木管楽器 (Woodwinds)」を選択します。
10. 必要に応じて、個々のインストゥルメントの上書きを指定するエントリーを選択します。

11. 「**インストゥルメントの上書き (Instrument Overrides)**」セクションのアクションバーで、「**インストゥルメントを追加 (Add Instrument)**」をクリックして、インストゥルメントピッカーで使用するものを選択します。  
たとえば、他の鍵盤楽器のサウンドも含まれるサウンドライブラリーからピアノサウンドのみを使用するには、「**Piano**」を選択します。
  12. 必要に応じて、インストゥルメントファミリーおよびインストゥルメントの上書きを指定する他のエントリーに対して手順 8 から 11 を繰り返します。
  13. 「**OK**」をクリックして変更内容を保存し、ダイアログを閉じます。
- 

#### 結果

新しいカスタム再生テンプレートが作成されます。このカスタム再生テンプレートは、現在のプロジェクトおよびコンピューター上で開いた、または作成した他のすべてのプロジェクトで使用できるようになります。

#### 関連リンク

[「再生テンプレートを適用 \(Apply Playback Template\)」ダイアログ \(702 ページ\)](#)

[「再生テンプレートを編集 \(Edit Playback Template\)」ダイアログ \(704 ページ\)](#)

[エンドポイント \(710 ページ\)](#)

[カスタムエンドポイント設定を保存する \(715 ページ\)](#)

[インストゥルメントファミリー \(960 ページ\)](#)

## 再生テンプレートの読み込み

共同で作業している他のユーザーが書き出したカスタム再生テンプレートを使用する場合などに、再生テンプレートをプロジェクトに読み込むことができます。再生テンプレートは .dorico\_pt ファイルとして保存されます。

#### 手順

1. 「**再生 (Play)**」 > 「**再生テンプレート (Playback Template)**」を選択して「**再生テンプレートを適用 (Apply Playback Template)**」ダイアログを開きます。
  2. 「**読み込み (Import)**」をクリックしてエクスプローラー (Windows) または Finder (Mac) を開きます。
  3. 読み込む再生テンプレートファイルを探して選択します。
  4. 「**開く (Open)**」をクリックします。
- 

#### 結果

選択した再生テンプレートが読み込まれます。この再生テンプレートは、現在のプロジェクトおよびコンピューター上で開いた、または作成したすべてのプロジェクトで使用できるようになります。

読み込まれた再生テンプレートにスペーステンプレートが含まれていた場合、そのスペーステンプレートは自動的にプロジェクトに適用されます。

#### ヒント

Dorico Pro のプロジェクトウィンドウに .dorico\_pt ファイルをドラッグして再生テンプレートを読み込むこともできます。

---

#### 関連リンク

[スペーステンプレート \(905 ページ\)](#)

## 再生テンプレートの書き出し

再生テンプレートを書き出して、他のユーザーに送信したり他のコンピューターで使用したりできます。初期設定では、作成したすべての再生テンプレートをコンピューター上のすべてのプロジェクトで使用できます。

---

### 手順

1. 「再生 (Play)」 > 「再生テンプレート (Playback Template)」を選択して「再生テンプレートを適用 (Apply Playback Template)」ダイアログを開きます。
2. 書き出す再生テンプレートを選択します。
3. 「書き出し (Export)」をクリックしてエクスプローラー (Windows) または Finder (Mac) を開きます。
4. 再生テンプレートファイルの名前と場所を指定します。
5. 「選択 (Choose)」をクリックします。

---

### 結果

選択した再生テンプレートが書き出され、選択した場所に個別の .dorico\_pt ファイルとして保存されます。

選択した再生テンプレートに使用されているスペーステンプレートは書き出しの対象となります。

## エンドポイント

エンドポイントとは、各インストゥルメントに対して正しいサウンドを再生できるようにするための入力と出力の固有の組み合わせを指す言葉です。

Dorico Pro では、各エンドポイントが以下をまとめます。

- VST インストゥルメントまたは MIDI 出力デバイス
- 上記 VST インストゥルメントまたは MIDI 出力デバイスの特定のチャンネル
- 上記チャンネルに割り当てられたパッチまたはプログラム
- 上記パッチまたはプログラムで演奏できるインストゥルメントを示すエクスプレッションマップまたはパーカッションマップ、および提供された再生効果とアーティキュレーション

プロジェクト内の各インストゥルメントは、特定のエンドポイントにリンクされています。エクスプレッションマップまたはパーカッションマップを同じエンドポイントに割り当てることで、Dorico Pro は再生時にそのインストゥルメントに必要なサウンドを生成するためのキースイッチやコントローラースイッチに入力されたアーティキュレーションや演奏技法の変更を解釈できるようになります。

出荷時のデフォルトの再生テンプレートを使用すると、エンドポイントとエクスプレッションマップまたはパーカッションマップは自動的に設定されます。別のプラグインをロードする場合や HALion Sonic SE 内のパッチを変更する場合は、「**エンドポイントの設定 (Endpoint Setup)**」ダイアログで行ないます。

### 補足

たとえば、エクスプレッションマップで強弱記号にモジュレーションホイールを使用することになっているサウンドを、かわりにノートベロシティを使用するサウンドに変更するなど、プラグイン内で行なった変更は Dorico Pro には伝えられません。この場合、Dorico Pro は元のサウンドのエクスプレッションマップまたはパーカッションマップを引き続き使用するため、再生時に予期せず低い音が鳴ることがあります。プラグインで変更を行なった場合は、適切なエンドポイントに正しいエクスプレッションマップまたはパーカッションマップを手動で割り当てる必要があります。


そのあと、他のプロジェクトにそれらを再利用したい場合は、変更をカスタムエンドポイント設定として保存できます。

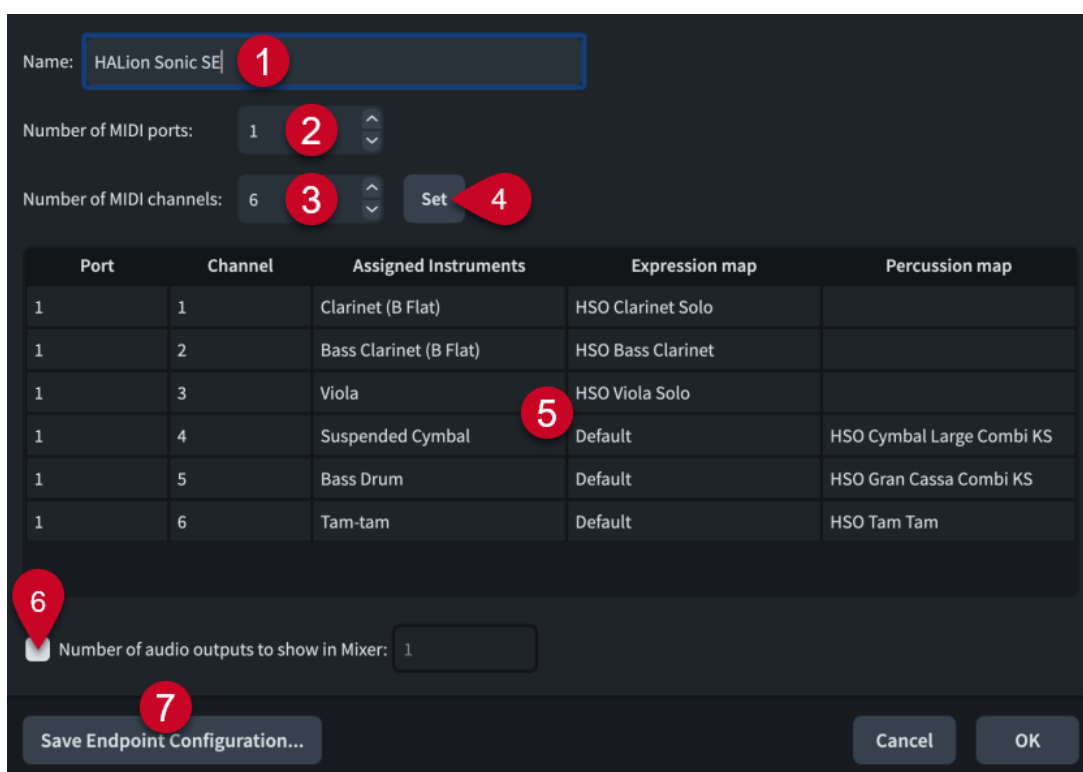
関連リンク

[再生テンプレート \(701 ページ\)](#)

## 「エンドポイントの設定 (Endpoint Setup)」 ダイアログ

「エンドポイントの設定 (Endpoint Setup)」ダイアログでは、対応するプラグインの各エンドポイントにリンクされているエクスプレッションマップおよびパーカッションマップが表示され、これらの設定を変更できます。このダイアログでは、現在の設定を後からカスタム再生テンプレートに含めることができるカスタムエンドポイント設定として保存することもできます。

- 「エンドポイントの設定 (Endpoint Setup)」ダイアログを開くには、「VST と MIDI (VST and MIDI)」パネルの各プラグイン、またはトラックインスペクターの「ルーティング (Routing)」セクションにある「エンドポイントの設定 (Endpoint Setup)」をクリックします。



「エンドポイントの設定 (Endpoint Setup)」ダイアログには、以下のオプションとセクションがあります。

### 1 名前 (Name)

選択したプラグインの名前を変更できます。これは、「VST と MIDI (VST and MIDI)」パネルとミキサーに表示される名前に影響します。

### 2 MIDI ポート数 (Number of MIDI ports)

対応するプラグインで現在使用されている MIDI ポートの数が表示されます。

たとえば、複数のポートを使用するプラグインを使用している場合などに、MIDI ポートの数を変更できます。Dorico Pro の初期設定では、複数の MIDI ポートはロードされません。

### 3 MIDI チャンネル数 (Number of MIDI channels)

対応するプラグインで現在使用されている MIDI チャンネルの数が表示されます。

MIDI チャンネルが1つしかないピアノサンプラーなどのモノティンバープラグインや、16個のMIDI チャンネルと16個のオーディオ出力を持つマルチティンバープラグインなどを使用する場合は、チャンネルの数を変更できます。

#### 4 設定 (Set)

「MIDI ポート数 (Number of MIDI ports)」および「MIDI チャンネル数 (Number of MIDI channels)」数値フィールドで指定したMIDIポートまたはMIDIチャンネルの数をプラグインに設定します。これにより、表内の行数が変更されます。

#### 5 エンドポイント設定の表

対応するプラグインの設定が含まれます。以下のコラムがあります。

- **ポート (Port):** 対応する列のインストゥルメントに使用されるポートが表示されます。

補足

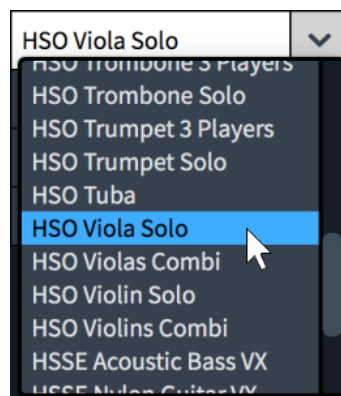
「エンドポイントの設定 (Endpoint Setup)」ダイアログでポートを変更することはできません。ポートはトラックインスペクターで変更する必要があります。

- **チャンネル (Channel):** 対応する列のインストゥルメントに使用されるチャンネルが表示されます。

補足

「エンドポイントの設定 (Endpoint Setup)」ダイアログでチャンネルを変更することはできません。チャンネルはトラックインスペクターで変更する必要があります。

- **割り当てられたインストゥルメント (Assigned Instruments):** 「インストゥルメント名を編集 (Edit Instrument Names)」ダイアログでそのインストゥルメントに設定された対応する列のインストゥルメントの正式名称と、そのインストゥルメント番号が表示されます (存在する場合)。
- **エクスペッションマップ (Expression map):** 対応する列のインストゥルメントに現在割り当てられているエクスペッションマップが表示されます。エクスペッションマップは、ダブルクリックしてメニューから別のエクスペッションマップを選択することで変更できます。



- **パーカッションマップ (Percussion map):** 対応する列のインストゥルメントに現在割り当てられているパーカッションマップが表示されます。パーカッションマップは、ダブルクリックしてメニューから別のパーカッションマップを選択することで変更できます。

#### 6 ミキサーに表示するオーディオ出力の数 (Number of audio outputs to show in Mixer)

Dorico Pro で使用するよりもオーディオ出力の多いプラグインを使用していて、使用しない出力を非表示にしたい場合などに、ミキサーに表示されるオーディオ出力の数を変更できます。

#### 7 エンドポイントの設定を保存 (Save Endpoint Configuration)



現在のエンドポイント設定の名前を入力してカスタムエンドポイント設定として保存できる「**エンドポイントの設定を保存 (Save Endpoint Configuration)**」ダイアログを開きます。

関連リンク

[トラックインスペクター \(661 ページ\)](#)

[「VST と MIDI \(VST and MIDI\)」 パネル \(664 ページ\)](#)

[「エクスペッションマップ \(Expression Maps\)」 ダイアログ \(1020 ページ\)](#)

[「インストゥルメント名を編集 \(Edit Instrument Names\)」 ダイアログ \(207 ページ\)](#)

[ミキサー \(883 ページ\)](#)

## エンドポイントへのインストゥルメント/声部の割り当て

インストゥルメントは、任意のエンドポイントに割り当てることができます。たとえば、複数のポートがあるプラグインをロードし、既存のインストゥルメントのエンドポイントを新しいポートの1つに変更できます。声部の個別再生が有効になっているインストゥルメントの場合は、各声部を異なるエンドポイントに割り当てることができます。

前提条件

- 同じインストゥルメントに属する各声部を異なるエンドポイントに割り当てたい場合は、声部の個別再生を有効にしておきます。
- インストゥルメントを特定のプラグインのエンドポイントに割り当てたい場合は、そのプラグインをロードしておきます。これは、適切な再生テンプレートを適用するか、VST/MIDI インストゥルメントを手動でロードすることで行なえます。

---

手順

1. 再生モードのトラック概要で、エンドポイントの割り当てを変更するインストゥルメント/声部トラックを選択します。
2. 声部トラックを選択した場合は、トラックインスペクターの「**ルーティング (Routing)**」セクションで「**編集を適用 (Edits apply to)**」に以下のいずれかのオプションを選択します。
  - 選択した声部のエンドポイントの割り当てを現在のフローでのみ変更するには、「**このフロー (This flow)**」を選択します。
  - 選択した声部のエンドポイントの割り当てをすべてのフローで変更するには、「**すべてのフロー (All flows)**」を選択します。
3. インストゥルメント/声部を別のプラグインのエンドポイントに割り当てるには、トラックインスペクターの「**ルーティング (Routing)**」セクションにあるオーディオプラグインメニューからそのプラグインを選択します。
4. 以下の値フィールドのいずれかまたは両方を使用してエンドポイントを変更します。
  - 選択したプラグインの別のポートにインストゥルメント/声部を割り当てるには、任意のポートを「**ポート (Port)**」フィールドに入力します。

補足

16 チャンネルのポートが複数あるプラグインを使用する場合のみ必要です。

- 選択したポートの別のチャンネルにインストゥルメント/声部を割り当てるには、任意のチャンネルを「**Ch.**」フィールドに入力します。

---

関連リンク

[トラック概要 \(659 ページ\)](#)

[トラックインスペクター \(661 ページ\)](#)

[インストゥルメントトラック \(670 ページ\)](#)

## エンドポイントへのエクスプレッションマップ/パーカッションマップの割り当て

プロジェクトのエンドポイントにエクスプレッションマップ/パーカッションマップを割り当てることができます。たとえば、カスタムのパーカッションマップを作成して、対応する VST パッチのエンドポイントにリンクできます。


### ヒント

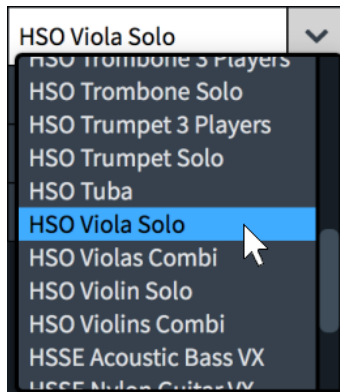
トラックインスペクターの「**ルーティング (Routing)**」セクションでエクスプレッションマップ/パーカッションマップをエンドポイントに割り当てることができます。

### 前提条件

必要なエクスプレッションマップ/パーカッションマップがコンピューター上に存在しない場合は、作成するか読み込んでおきます。

### 手順

1. 再生モードの「VST と MIDI (VST and MIDI)」パネルで、エンドポイントに割り当てられたエクスプレッションマップ/パーカッションマップを変更するプラグインの「**エンドポイントの設定 (Endpoint Setup)**」 をクリックして、「**エンドポイントの設定 (Endpoint Setup)**」ダイアログを開きます。
2. 変更するエクスプレッションマップ/パーカッションマップをダブルクリックします。
3. フィールドの右にある展開矢印マークをクリックします。  
ポップアップメニューが開き、プロジェクトに現在ロードされている同じタイプのマップがすべて表示されます。



4. ポップアップメニューから、使用するエクスプレッションマップ/パーカッションマップを選択します。
5. **[Return]** を押します。
6. 必要に応じて他のエンドポイントに手順 2~5 を繰り返して、割り当てられたエクスプレッションマップ/パーカッションマップを変更します。
7. **[OK]** をクリックして変更内容を保存し、ダイアログを閉じます。

### 関連リンク

[「VST と MIDI \(VST and MIDI\)」パネル \(664 ページ\)](#)

[トラックインスペクター \(661 ページ\)](#)

[エクスプレッションマップ \(1019 ページ\)](#)

## カスタムエンドポイント設定

カスタムエンドポイント設定には、ロードされている VST/MIDI インストゥルメントの数とタイプ、エンドポイントに割り当てられているエクスプレッション/パーカッションマップなど、プロジェクト内のプラグインの現在の状態と設定が保存されます。

現在ロードされているすべてのプラグインまたは単一のプラグインのみの設定を含むカスタムエンドポイント設定を保存できます。

カスタムエンドポイント設定は、コンピューター上で開いた、または作成したすべてのプロジェクトで使用できます。コンピューター上のカスタムエンドポイント設定の表示、名前の変更、削除は、「**エンドポイントの設定を編集 (Edit Endpoint Configurations)**」ダイアログで行なえます。

### カスタムエンドポイント設定を保存する


特定のエンドポイントに割り当てられたインストゥルメントやエクスプレッションマップの変更など、エンドポイント設定に対して行なった上書きを保存できます。これにより、カスタム再生テンプレートにこれらの上書きを使用したり、同じエンドポイント設定を他のプロジェクトに再利用したりできます。

前提条件

- カスタムエンドポイント設定に必要なすべてのインストゥルメントとプラグインを含むプロジェクトを開いておきます。
- 必要なエクスプレッションマップと再生効果の組み合わせを作成しておきます。
- 必要なカスタム演奏技法を作成しておきます。

---

手順

1. 使用するプラグインをロードします。  
これは、再生テンプレートを適用するか、再生モードの「VST と MIDI (VST and MIDI)」パネルでプラグインを手動で追加することで行なえます。
2. 必要に応じてエンドポイントの設定を変更します。  
たとえば、各エンドポイントに割り当てられているインストゥルメントまたはエクスプレッションマップを変更します。
3. 以下のいずれかの操作を行なって「**エンドポイントの設定を保存 (Save Endpoint Configuration)**」ダイアログを開きます。
  - 単一のプラグインのみのカスタムエンドポイント設定を保存するには、そのプラグインの「**エンドポイントの設定 (Endpoint Setup)**」ダイアログを開いて「**エンドポイントの設定を保存 (Save Endpoint Configuration)**」をクリックします。
  - すべての VST インストゥルメントまたは MIDI インストゥルメントのプラグインを含むカスタムエンドポイント設定を保存するには、「VST と MIDI (VST and MIDI)」パネルの対応するセクションのアクションバーにある「**エンドポイントの設定を保存 (Save Endpoint Configuration)**」をクリックします。
4. 「**名前 (Name)**」フィールドにカスタムエンドポイント設定の名前を入力します。

補足

すでに存在する名前を入力した場合やメニューから既存のカスタムエンドポイント設定を選択した場合は、既存のカスタムエンドポイント設定が上書きされます。

- 
5. 「**OK**」をクリックして変更内容を保存し、ダイアログを閉じます。
-

#### 結果

選択したプラグインまたは対応するセクション内のすべてのプラグインの現在の状態がカスタムエンドポイント設定として保存されます。これには、エクスプレッションマップおよびパーカッションマップに含まれているすべてのカスタム演奏技法が含まれます。

#### 手順終了後の項目

カスタム再生テンプレートにカスタムエンドポイント設定を含めることで、エンドポイント設定を他のプロジェクトで使用できます。

#### 関連リンク

[再生テンプレート \(701 ページ\)](#)

[VST/MIDI インストゥルメントを手動でロードする \(667 ページ\)](#)

[エクスプレッションマップのスイッチを追加する/編集する \(1035 ページ\)](#)

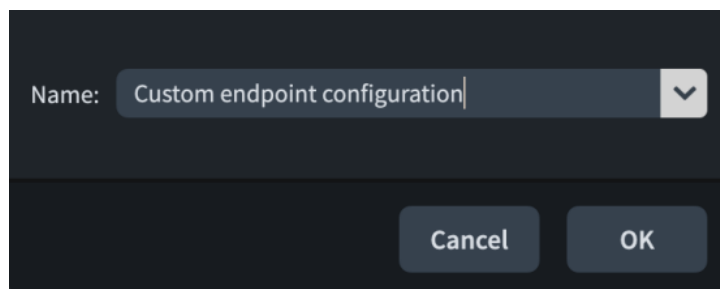
[カスタムの演奏技法 \(976 ページ\)](#)

## 「エンドポイントの設定を保存 (Save Endpoint Configuration)」ダイアログ

「エンドポイントの設定を保存 (Save Endpoint Configuration)」ダイアログでは、プロジェクト内のプラグインの現在の状態と設定を保存できます。カスタムエンドポイント設定を保存すると、その設定を別のプロジェクトで再利用したりカスタム再生テンプレートに含めたりできます。

「エンドポイントの設定を保存 (Save Endpoint Configuration)」ダイアログを開くには、再生モードで以下のいずれかの操作を行ないます。

- 「VST と MIDI (VST and MIDI)」パネルの「**VST インストゥルメント (VST Instruments)**」セクションまたは「**MIDI インストゥルメント (MIDI Instruments)**」セクションのアクションバーにある「**エンドポイントの設定を保存 (Save Endpoint Configuration)**」をクリックします。そのパネルの対応するセクションのすべてのプラグインの現在の状態が保存されます。
- 「**エンドポイントの設定 (Endpoint Setup)**」ダイアログで、「**エンドポイントの設定を保存 (Save Endpoint Configuration)**」をクリックします。選択したプラグインの現在の状態のみが保存されます。



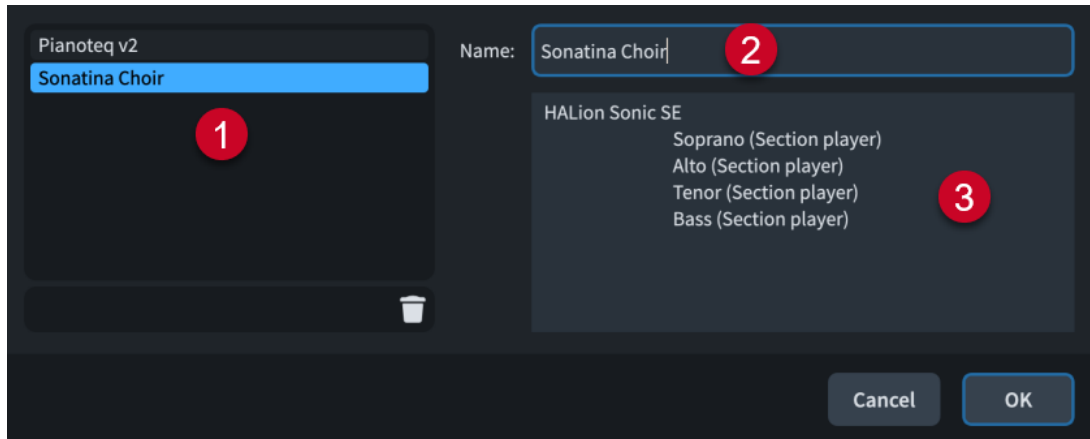
「エンドポイントの設定を保存 (Save Endpoint Configuration)」ダイアログには「**名前 (Name)**」フィールドがあり、保存するエンドポイント設定の名前を入力できます。このフィールドの右端の矢印をクリックすると、既存のカスタムエンドポイント設定を選択してフィールドに名前を入力できます。

すでに存在する名前を入力すると、既存のカスタムエンドポイント設定を上書きできます。既存のカスタムエンドポイント設定を上書きすると、前のバージョンはごみ箱に移されます。

## 「エンドポイントの設定を編集 (Edit Endpoint Configurations)」ダイアログ

「エンドポイントの設定を編集 (Edit Endpoint Configurations)」ダイアログではカスタムエンドポイント設定の名前の変更や削除を行なえるほか、そこに含まれるプラグインとプレーヤーが表示されます。

- 「エンドポイントの設定を編集 (Edit Endpoint Configurations)」ダイアログを開くには、「再生テンプレートを編集 (Edit Playback Template)」ダイアログで「エンドポイントの設定 (Endpoint Configurations)」をクリックします。



「エンドポイントの設定を編集 (Edit Endpoint Configurations)」ダイアログは以下で構成されます。

### 1 エンドポイント設定のリスト

コンピューター上のすべてのエンドポイント設定が表示されます。

リスト下部のアクションバーにある「エンドポイントの設定を削除 (Delete Endpoint Configuration)」をクリックすると、選択したエンドポイント設定をコンピューターから削除できます。

### 2 名前 (Name)

選択したエンドポイント設定の名前を設定できます。この名前は、プログラムの「再生テンプレートを編集 (Edit Playback Template)」ダイアログなどに表示されます。

### 3 プラグインとプレーヤーのリスト

選択したエンドポイント設定に含まれているすべてのプラグインとプレーヤーが表示されます。そのエンドポイント設定に同じプラグインが複数含まれている場合は、それぞれのプラグインが個別にリスト表示されます。

## MIDI トリガー領域

MIDI トリガー領域では、特定の小節の音符を楽譜に表示することなく再生できます。これは、Groove Agent SE のようなパターンベースのソフトウェアインストゥルメントを再生に使用する場合に特に便利です。

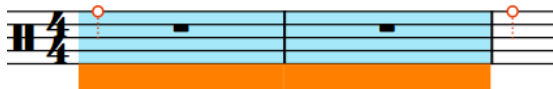


隣接する複数の MIDI トリガー領域

初期設定では、MIDI トリガー領域には第 1 線の下に色付きの実線が付くとともに、色付きの背景で強調表示されます。ズームアウトすると、色付きの背景の不透明度が上がります。これはフルスコアレイアウトをギャラリービューで見るとき特に便利です。このような強調表示は注釈と見なされ、初期設定では印刷されません。また画面上の表示/非表示も切り替えられます。

MIDI トリガー領域で再生される音符の名前は、ミドル C のナンバリング変換設定に応じて色付きの実線の開始位置に表示されます。ベロシティが指定されている場合は、音符名のあとに括弧付きで表示されます。

記譜モードでは、それぞれの領域の開始位置と終了位置にハンドルがあり、これを使用して領域の移動や長さの変更が行なえます。



選択した MIDI トリガー領域のハンドル

ヒント

MIDI トリガー領域と同じ位置にスラッシュ領域を入力できます。

---

関連リンク

- [MIDI トリガー領域の入力 \(458 ページ\)](#)
- [ミドル C のナンバリング変換を変更する \(55 ページ\)](#)
- [音符/アイテムの位置の移動 \(502 ページ\)](#)
- [アイテムの長さの変更 \(470 ページ\)](#)
- [スラッシュ領域 \(1629 ページ\)](#)
- [注釈 \(740 ページ\)](#)

## MIDI トリガー領域の強調表示の表示/非表示を切り替える

MIDI トリガー領域の背景色による強調表示はいつでも表示/非表示を切り替えられます。たとえば記譜中は強調表示をオンにして、浄書中はオフにするといったことができます。

手順

- 「ビュー (View)」 > 「MIDI トリガー領域を強調 (Highlight MIDI Trigger Regions)」を選択します。
-

# 印刷モード

印刷モードでは、レイアウトを印刷したり、PDF や SVG などのグラフィックファイルとして書き出したりできます。

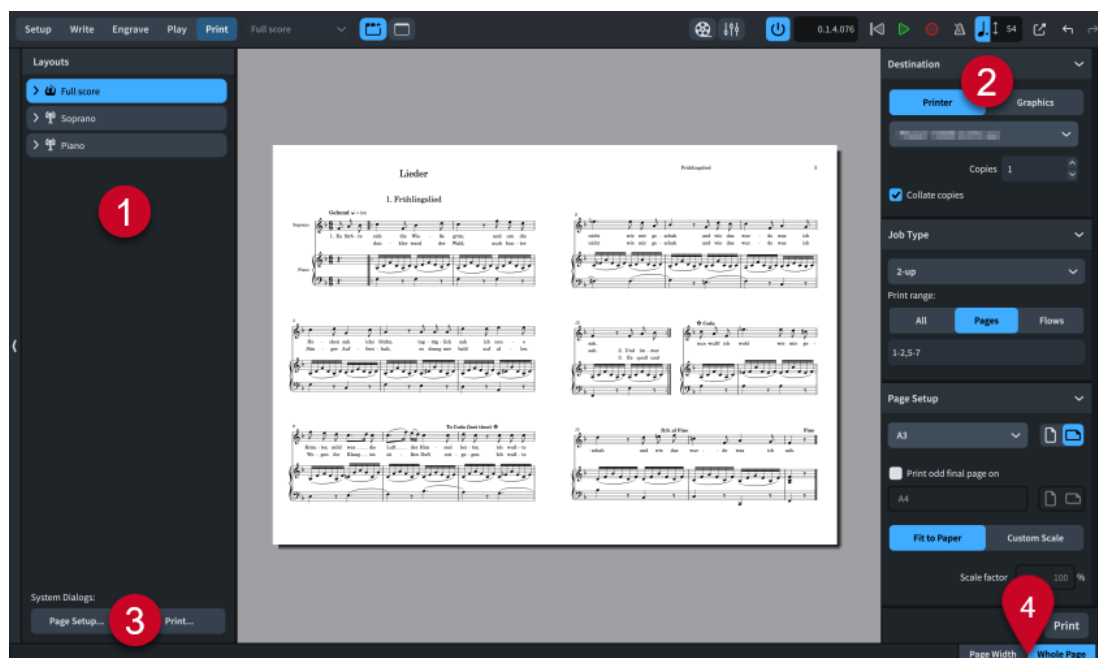
- レイアウトの印刷時に、用紙サイズのほか、両面印刷や冊子印刷などのオプションを指定できます。
- レイアウトの書き出し時にさまざまな画像ファイル形式を指定できるほか、書き出す際のファイル名に含める情報も設定できます。

## 印刷モードのプロジェクトウィンドウ

印刷モードのプロジェクトウィンドウには、印刷プレビュー領域と、レイアウトの印刷と書き出しを行なうために必要なツールと機能がすべて揃った各種のパネルがあります。

印刷モードに切り替えるには、以下のいずれかの操作を行ないます。

- **[Ctrl]/[command]+[5]** を押します。
- ツールバーの「印刷 (Print)」をクリックします。
- 「ウィンドウ (Window)」 > 「印刷 (Print)」を選択します。



印刷モードには以下のパネルとオプションがあります。

### 1 「レイアウト (Layouts)」 パネル

プロジェクトのすべてのレイアウトのリストが表示され、印刷または書き出しを行なうレイアウトを選択できます。

#### 補足

印刷モードでは、ツールバーのレイアウトセクターが無効になります。印刷プレビュー領域に別のレイアウトを表示するには、「**レイアウト (Layouts)**」パネルで選択します。

#### 2 印刷オプションパネル

レイアウトの印刷または書き出しのオプションで構成されています。

#### 3 システムダイアログ (macOS のみ)

macOS 固有の印刷オプションが含まれます。

#### 4 ビューオプション

印刷プレビュー領域でのページの表示方法を変更できます。

- **ページの幅 (Page Width)**: 印刷プレビュー領域の幅に合わせてページが表示されます。ページの向きや形式によっては、ページ全体が表示されない場合があります。
- **全ページ (Whole Page)**: 印刷プレビュー領域にページ全体が表示されます。

#### ヒント

**[Home]** を押して先頭ページに、**[End]** を押して最終ページに直接移動できます。これらのキーボードショートカットは「**環境設定 (Preferences)**」の「**キーボードショートカット (Key Commands)**」ページで変更できます。

#### 関連リンク

[ツールバー \(33 ページ\)](#)

[プロジェクトウィンドウ \(32 ページ\)](#)

[印刷プレビュー領域 \(39 ページ\)](#)

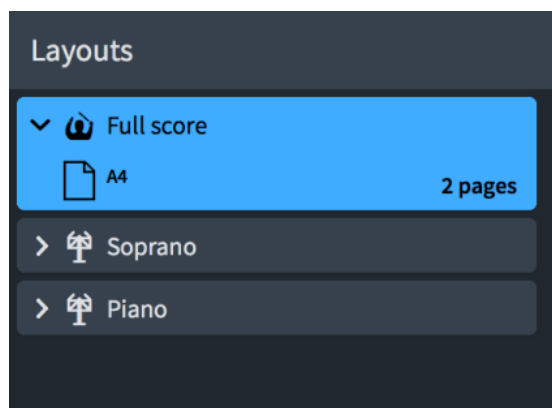
[「環境設定 \(Preferences\)」ダイアログの「キーボードショートカット \(Key Commands\)」ページ \(64 ページ\)](#)

## 印刷モードの「レイアウト (Layouts)」パネル

印刷モードでは、「**レイアウト (Layouts)**」パネルにプロジェクトの全レイアウトがリスト表示されます。ここからレイアウトを選択してプレビュー、印刷、および書き出しを行なえます。このパネルは、印刷モードのウィンドウの左側に配置されています。

印刷モードの「**レイアウト (Layouts)**」パネルは、以下のいずれかの方法で表示/非表示を切り替えられます。

- **[Ctrl]/[command]+[7]** を押します。
- メインウィンドウの左端にある展開矢印ボタンをクリックします。
- 「**ウィンドウ (Window)**」 > 「**左ゾーンを表示 (Show Left Zone)**」を選択します。





「レイアウト (Layouts)」パネルには、プロジェクト内のすべてのレイアウトが表示されます (カードといます)。各レイアウトカードには以下が表示されます。






### 1 展開矢印マーク

レイアウトカードを展開したり、折りたたんだりします。

### 2 レイアウトのタイプ

以下のいずれかのレイアウトのタイプが表示されます。

- フルスコアレイアウト 
- パートレイアウト 
- カスタムスコアレイアウト 

### 3 レイアウト名

レイアウト名が表示されます。プレーヤーに割り当てられたインストゥルメントの名前と追加されたレイアウトの種類にしたがって、Dorico Pro が自動的にデフォルト名を追加します。たとえば、プレーヤーにフルートを割り当てると、パートレイアウトは自動的に同じ名前となります。空白のパートレイアウトを追加すると、レイアウト名は「空白のパート譜 (Empty part)」と表示され、複数の空白のパートレイアウトを追加した場合は通し番号が表示されます。

### 4 ページのサイズと向き

「レイアウトオプション (Layout Options)」の「ページ設定 (Page Setup)」ページで設定したレイアウトのサイズと向きが表示されます。

### 5 レイアウトの長さ

レイアウトのページ数が表示されます。このページ数とページのサイズと向きによって、印刷や書き出しに最適なジョブタイプを決定します。

#### ヒント

2 ページで構成されるレイアウトは、2 ページを 1 ページに集約して印刷することをおすすめします。5 ページあるレイアウトの場合は、見開きで印刷して、最後のページを異なるページサイズで印刷することをおすすめします。12 ページあるレイアウトは、冊子として印刷することをおすすめします。

印刷オプションパネルの「印刷 (Print)」または「書き出し (Export)」をクリックすると、ここで選択した部数のレイアウトの印刷または書き出しが行なわれます。レイアウトの一部を印刷に、一部をグラフィック書き出しに設定している場合、ボタンには「印刷と書き出し (Print and Export)」と表示されます。

#### 関連リンク

[印刷/書き出し用のページ配置 \(733 ページ\)](#)

[冊子印刷 \(735 ページ\)](#)

## 印刷オプションパネル

印刷オプションパネルは、レイアウトの印刷または書き出し用のオプションで構成されています。このパネルは、印刷モードのウィンドウの右側に配置されています。

印刷オプションパネルの表示/非表示を切り替えるには、以下のいずれかの操作を行ないます。

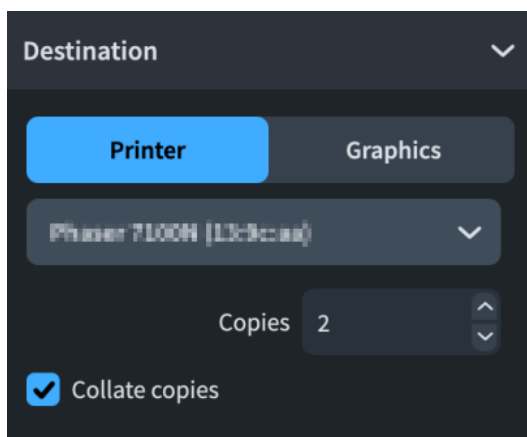
- **[Ctrl]/[command]+[9]** を押します。
- メインウィンドウの右端にある展開矢印マークをクリックします。
- 「**ウィンドウ (Window)**」 > 「**右ゾーンを表示 (Show Right Zone)**」を選択します。

印刷オプションパネルで設定するすべてのオプションはプロジェクトに保存されます。パネルに含まれるオプションは、以下のセクションに分かれています。

#### 出力先 (Destination)

印刷する際の物理プリンターを選択したり、グラフィックファイルを書き出す際のファイルの保存場所を選択できます。

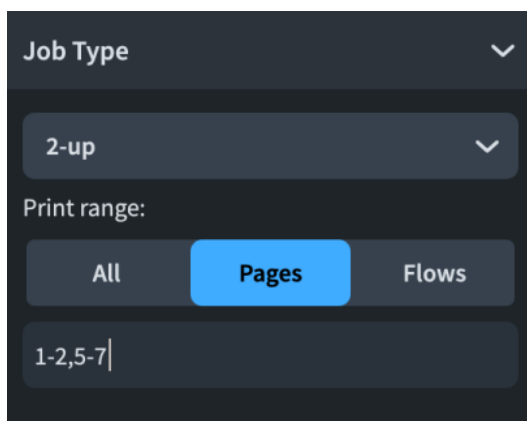
- レイアウトごとに印刷部数を変更することもできます。
- レイアウトをグラフィックファイルとして書き出す場合、保存ファイルの形式、カラーモード、画像解像度、ファイル名、および出力先を指定できます。



#### ジョブタイプ (Job Type)

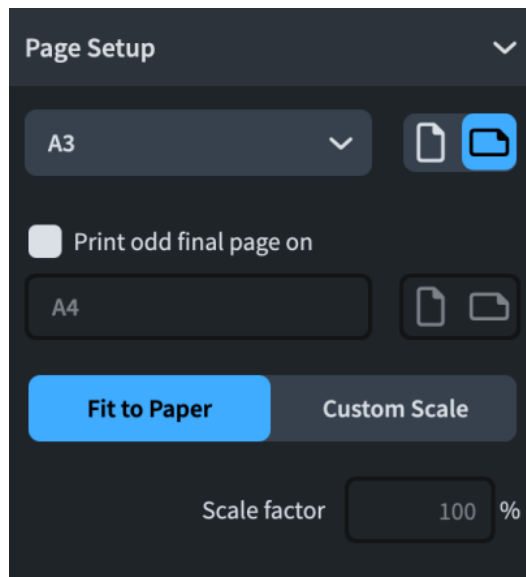
印刷または書き出しを行なうページと、どのように編集するかを選択できます。全ページ、ページの範囲、またはフローの範囲を選択できます。

フローの範囲を PDF に書き出す場合は、各フローを個別の PDF ファイルとして書き出すこともできます。



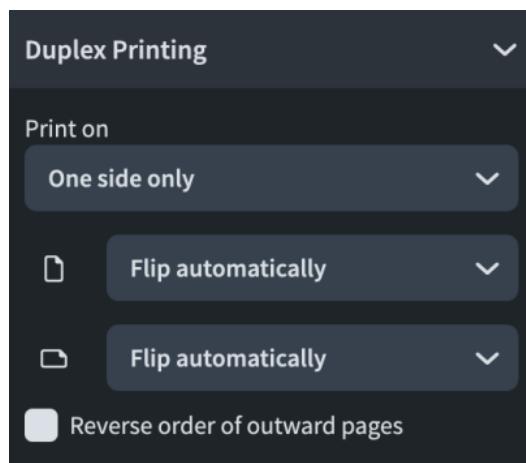
#### ページ設定 (Page Setup)

用紙のサイズと向きを設定できます。印刷または書き出しを行なうイメージの倍率を指定できます。



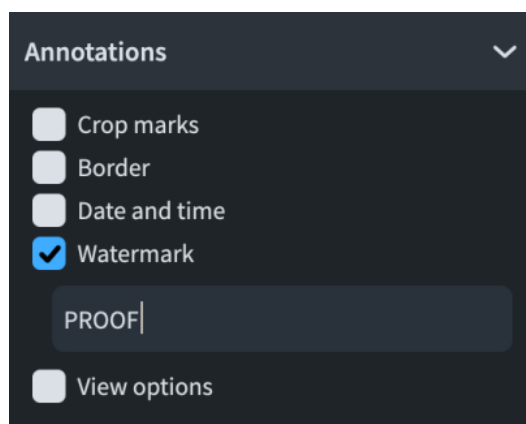
### 両面印刷 (Duplex Printing)

用紙の片面に印刷するか、両面に印刷するかを選択できます。「出力先 (Destination)」セクションで「プリンター (Printer)」を選択している場合のみ表示されます。



### 注釈 (Annotations)

通常、出版社や印刷所で必要とされる、トンボや印刷するイメージを囲む枠線などのオプションをオンにできます。



### 「印刷 (Print)」 ボタン

印刷オプションパネルの設定に基づいて、選択したレイアウトの印刷または書き出しを行います。

選択した設定に応じて、ボタンの表示が以下のいずれかに変更します。

- 印刷 (Print)
- 書き出し (Export)
- 印刷と書き出し (Print and Export)

たとえば、選択したすべてのレイアウトが印刷に設定されている場合は、「印刷 (Print)」が表示されます。レイアウトの一部を印刷に、一部をグラフィック書き出しに設定している場合は、「印刷と書き出し (Print and Export)」と表示されます。

#### 関連リンク

- [印刷モードのプロジェクトウィンドウ \(719 ページ\)](#)
- [グラフィックファイルとしての書き出し \(728 ページ\)](#)
- [プリンター \(733 ページ\)](#)
- [両面印刷 \(735 ページ\)](#)
- [印刷/書き出し用のページ配置 \(733 ページ\)](#)
- [ページサイズと用紙サイズ \(736 ページ\)](#)
- [グラフィックファイルの形式 \(738 ページ\)](#)
- [注釈 \(740 ページ\)](#)

## レイアウトの印刷

個々のレイアウト、または複数のレイアウトをまとめたハードコピーを印刷できます。レイアウトごとに異なる印刷設定を行なえます。たとえば、同じプロジェクトのレイアウトごとに異なる部数を設定したり、異なるプリンターを選択したりできます。

Dorico Pro では、レイアウトの設定に基づいて印刷設定が自動的に行なわれます。そのため、印刷設定の多くはそのままでもレイアウトを適切に印刷できる場合があります。たとえば、A3 用紙を印刷できるプリンターに接続しており、「**レイアウトオプション (Layout Options)**」ダイアログでフルスコアレイアウトのページサイズを A3 に設定している場合、印刷オプションパネルの「**ページ設定 (Page Setup)**」セクションは自動的に「A3」が選択されます。

#### ヒント

- レイアウトを PDF や PNG などグラフィックファイルの形式で保存する場合は、書き出しを行なうことをおすすめします。
- 個別のレイアウトを選択して印刷オプションを設定したあと、すぐに印刷しなくてもかまいません。個々のレイアウトに印刷オプションを設定したら、印刷するすべてのレイアウトを選択して「**印刷 (Print)**」をクリックできます。選択したレイアウトに印刷設定が異なるものが含まれる場合でも、既存の印刷設定が適用されます。

たとえば、フルスコアレイアウトには冊子印刷を **3** 部印刷するように設定し、パートレイアウトには **2** ページを **1** ページに集約したものを **1** 部印刷するように設定できます。そのあとすべてのレイアウトを選択して、設定した値が反映された状態で一緒に印刷できます。

---

#### 手順

1. 「**レイアウト (Layouts)**」パネルで、印刷するレイアウトを選択します。

#### 補足

印刷モードでは、ツールバーのレイアウトセレクターが無効になります。印刷プレビュー領域に別のレイアウトを表示するには、「**レイアウト (Layouts)**」パネルで選択します。

- 印刷オプションパネルの「**出力先 (Destination)**」セクションで、「**部数 (Copies)**」フィールドに印刷部数を入力します。

#### 補足

設定値が異なるレイアウトを選択すると、「**部数 (Copies)**」フィールドが空白になります。

- 「**ページ順に並べる (Collate copies)**」をオン/オフにします。
- 「**出力先 (Destination)**」セクションで「**プリンター (Printer)**」を選択して、メニューからプリンターを選択します。
- 「**ジョブタイプ (Job Type)**」セクションで、メニューから任意のページ構成を選択します。
- 必要に応じて、ページ/フローの範囲を指定します。
- 「**ページ設定 (Page Setup)**」セクションで、メニューから用紙サイズを選択します。
- 印刷する用紙の向きを選択します。
- ジョブタイプに「**見開き (Spreads)**」または「**2 ページを 1 ページに集約 (2-up)**」を選択した場合は、必要に応じて「**最後の奇数ページの設定 (Print odd final page on)**」をオンにして、奇数ページで終わるレイアウトの最終ページの用紙サイズを指定します。
- 最後の奇数ページの用紙サイズと用紙の向きを選択します。
- 以下のいずれかの用紙サイズオプションを選択します。
  - 用紙サイズに合わせる (Fit to Paper)
  - カスタム尺度 (Custom Scale)
- 「**カスタム尺度 (Custom Scale)**」を選択した場合、必要に応じて「**倍率 (Scale factor)**」フィールドに倍率を入力します。
- 「**両面印刷 (Duplex Printing)**」セクションで、「**印刷面 (Print on)**」メニューからいずれかの印刷オプションを選択します。
- 両面印刷オプションを選択した場合、必要に応じてその下の 2 つのメニューで、用紙の裏面の印刷の向きを選択します。
- 「**注釈 (Annotations)**」セクションで、選択したレイアウトに追加する注釈をチェックします。
- 「**印刷 (Print)**」をクリックします。

#### 結果

適用した印刷設定に従って、選択したレイアウトが印刷されます。

移調楽器を含む実音に設定されたパートレイアウトが選択範囲に含まれている場合、警告が表示され、印刷/書き出し前に選択範囲のすべてを移調に切り替えることができます。移調するレイアウトまたは変更を加えずにそのまま続行するレイアウトを選択することもできます。

#### ヒント

- 実音または移調音のフルスコアおよびカスタムスコアのレイアウトを印刷/書き出しする際に警告を表示するかどうかは、「**環境設定 (Preferences)**」 > 「**全般 (General)**」 > 「**ファイル (Files)**」で選択できます。
- 「**環境設定 (Preferences)**」の「**キーボードショートカット (Key Commands)**」ページで、さまざまな印刷/書き込みコマンドのキーボードショートカットを設定できます。

#### 関連リンク

- [「環境設定 \(Preferences\)」 ダイアログ \(63 ページ\)](#)
- [「環境設定 \(Preferences\)」 ダイアログの「キーボードショートカット \(Key Commands\)」 ページ \(64 ページ\)](#)
- [プリンター \(733 ページ\)](#)
- [用紙のサイズと向きの設定 \(737 ページ\)](#)
- [「書き出し用ファイル名 \(Export File Names\)」 ダイアログ \(731 ページ\)](#)
- [印刷/書き出し用のページ配置 \(733 ページ\)](#)
- [印刷オプションパネル \(721 ページ\)](#)
- [両面印刷 \(735 ページ\)](#)
- [注釈 \(740 ページ\)](#)
- [ページのサイズと向きの変更 \(744 ページ\)](#)
- [グラフィックファイルとしての書き出し \(728 ページ\)](#)

## ページ/フローの範囲の指定

初期設定では、選択したレイアウトのすべてのページが印刷/書き出しされます。ページまたはフローの範囲をレイアウトごとに指定できます。

#### 補足

冊子印刷を行なう際は、範囲には全ページしか使用できません。ページやフローの範囲を指定することはできません。

---

#### 手順

1. 「**レイアウト (Layouts)**」 パネルで、ページ/フローの範囲を指定するレイアウトを選択します。
2. 印刷オプションパネルの「**ジョブタイプ (Job Type)**」 セクションで、「**印刷範囲 (Print range)**」 に以下のいずれかのオプションを選択します。
  - ページの範囲を指定するには、「**ページ (Pages)**」 を選択します。
  - フローの範囲を指定するには、「**フロー (Flows)**」 を選択します。
3. 「**ページ (Pages)**」 を選択した場合は、値フィールドに印刷/書き出しするページを入力します。
  - ページの範囲を指定するには、**1-4** のように最初と最後のページ番号の間にハイフンを入力します。
  - 個別のページや範囲を指定するには、**1,3,5-8** のようにそれぞれのページまたは範囲をカンマで区切ります。

#### 補足

複数の選択範囲がある場合、別々のファイルに書き出されます。

---

4. 「**フロー (Flows)**」 を選択した場合は、「**選択 (Choose)**」 をクリックして「**フローを印刷 (Print Flows)**」 ダイアログを開きます。印刷/書き出しするフローを選択して「**OK**」 をクリックします。
- 

#### 結果

選択したレイアウトの印刷/書き出しに設定されているページが変更されます。フローの範囲には、そのフローの全体または一部が表示されるすべてのページが含まれます。

#### 関連リンク

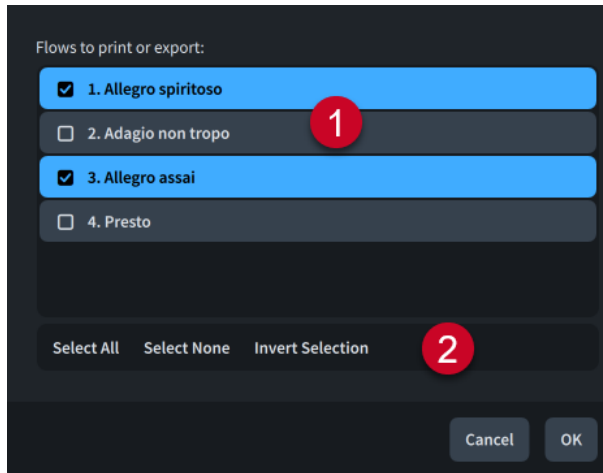
- [印刷オプションパネル \(721 ページ\)](#)
- [「書き出し用ファイル名 \(Export File Names\)」 ダイアログ \(731 ページ\)](#)
- [印刷/書き出し用のページ配置 \(733 ページ\)](#)

フローの書き出し (88 ページ)

## 「フローを印刷 (Print Flows)」 ダイアログ

「フローを印刷 (Print Flows)」 ダイアログでは、選択したレイアウトから印刷/書き出しするフローを選択できます。フローの範囲には、そのフローの全体または一部が表示されるすべてのページが含まれます。

- 「フローを印刷 (Print Flows)」 ダイアログを開くには、印刷モードで印刷オプションパネルの「ジョブタイプ (Job Type)」 セクションにある「選択 (Choose)」 をクリックします。「選択 (Choose)」 が表示されるのは、選択したレイアウトがフロー範囲を印刷/書き出しするように設定されている場合です。



### 1 印刷/書き出しするフロー (Flows to print or export)

選択したレイアウト内のすべてのフローのリストが表示されます。チェックボックスをオンにしたフローが印刷/書き出しのページ範囲に含まれます。

### 2 選択オプション

フローを選択/選択解除できます。以下の選択オプションを使用できます。

- **すべて選択 (Select All):** すべてのフローを選択します。
- **選択を解除 (Select None):** すべてのフローの選択を解除します。
- **選択を反転 (Invert Selection):** 選択を入れ替え、それまで選択されていなかったすべてのフローを含めます。

## 印刷オプションの指定 (macOS のみ)

Dorico Pro では、お使いのオペレーティングシステムの標準印刷オプションにアクセスできます。

### 補足

オペレーティングシステムの標準印刷オプションを使用する場合、印刷オプションパネルの設定は無視されます。macOS 固有の印刷設定はプロジェクトに保存されません。そのため、印刷するたびに設定する必要があります。一方、Dorico Pro の印刷オプションは必ずプロジェクトに保存されます。

### 手順

1. 「レイアウト (Layouts)」 パネルの「OS X ダイアログ (OS X Dialogs)」 セクションで、「ページ設定 (Page Setup)」 をクリックし、macOS 「ページ設定 (Page Setup)」 ダイアログを開きます。
2. 「ページ設定 (Page Setup)」 ダイアログで、用紙サイズを設定します。

3. 「OK」をクリックします。
  4. 「OS X ダイアログ (OS X Dialogs)」セクションで、「印刷 (Print)」をクリックして macOS 「印刷 (Print)」ダイアログを開きます。
  5. 「印刷 (Print)」ダイアログで、任意の印刷オプションを設定します。
- 

## グラフィックファイルとしての書き出し

レイアウトを PDF や PNG などのさまざまなグラフィックファイルとして書き出すことができます。

### ヒント

画像設定や書き出しパスの異なるレイアウトを同時に書き出すことができます。

---

### 手順

1. 「レイアウト (Layouts)」パネルで、書き出すレイアウトを選択します。

#### 補足

印刷モードでは、ツールバーのレイアウトセレクターが無効になります。印刷プレビュー領域に別のレイアウトを表示するには、「レイアウト (Layouts)」パネルで選択します。

---

2. 印刷オプションパネルの「出力先 (Destination)」セクションで、「グラフィック (Graphics)」を選択します。
3. 必要に応じて、選択したレイアウトの画像設定を変更します。
4. 必要に応じて、選択したレイアウトの書き出しパスを変更します。
5. ファイルの命名規則を変更する場合、「ファイル名オプション (File Name Options)」をクリックして「書き出し用ファイル名 (Export File Names)」ダイアログを開きます。
6. 「書き出し用ファイル名 (Export File Names)」ダイアログで、必要に応じて、選択したグラフィックファイル形式のファイルの命名規則を変更します。

#### ヒント

- PNG、SVG、および TIFF ファイルではレイアウトの各ページが別ファイルとしてエクスポートされるため、これらのファイルにはページ番号のトークンを含めることをおすすめします。
  - フローの範囲を個別のファイルとして PDF に書き出す場合は、ファイルが上書きされないようにフロー名かフロー番号を含めることをおすすめします。
- 

7. 必要に応じて、ページ/フローの範囲を指定します。
8. フローの範囲を PDF に書き出す場合は、「ジョブタイプ (Job Type)」セクションで「フローごとに別ファイル (Separate file for each flow)」をオン/オフにします。
9. 「ページ設定 (Page Setup)」セクションで、ページの向きを選択します。
10. 「注釈 (Annotations)」セクションで、選択したレイアウトに追加する注釈をチェックします。

#### 補足

透かしはカラーのグラフィックとして書き出されるレイアウトにのみ含まれます。

---

11. 「書き出し (Export)」をクリックします。
-



#### 結果

選択したレイアウトがグラフィックファイル形式として書き出されます。ファイル名には「**書き出し用ファイル名 (Export File Names)**」ダイアログでグラフィックファイル形式ごとに指定されたファイル名生成用文字列が使用されます。書き出されたファイルは、「**保存先のフォルダー (Destination folder)**」フィールドに指定したフォルダーに保存されます。指定したフォルダーにアクセスできない場合は、プロジェクトファイルと同じフォルダーに保存されます。

書き出されたレイアウトは、「**レイアウトオプション (Layout Options)**」の「**ページ設定 (Page Setup)**」ページでレイアウトに設定されたページサイズを使用します。

移調楽器を含む実音に設定されたパートレイアウトが選択範囲に含まれている場合、警告が表示され、印刷/書き出し前に選択範囲のすべてを移調に切り替えることができます。移調するレイアウトまたは変更を加えずにそのまま続行するレイアウトを選択することもできます。

#### ヒント

- 実音または移調音のフルスコアおよびカスタムスコアのレイアウトを印刷/書き出しする際に警告を表示するかどうかは、「**環境設定 (Preferences)**」 > 「**全般 (General)**」 > 「**ファイル (Files)**」で選択できます。
- 「**環境設定 (Preferences)**」の「**キーボードショートカット (Key Commands)**」ページで、さまざまな印刷/書き込みコマンドのキーボードショートカットを設定できます。

#### 関連リンク

[ページ/フローの範囲の指定 \(726 ページ\)](#)

[ページのサイズと向きの変更 \(744 ページ\)](#)

[「書き出し用ファイル名 \(Export File Names\)」ダイアログ \(731 ページ\)](#)

[注釈 \(740 ページ\)](#)

[「環境設定 \(Preferences\)」ダイアログ \(63 ページ\)](#)

[「環境設定 \(Preferences\)」ダイアログの「キーボードショートカット \(Key Commands\)」ページ \(64 ページ\)](#)

[「レイアウトオプション \(Layout Options\)」ダイアログ \(917 ページ\)](#)

[ページサイズと用紙サイズ \(736 ページ\)](#)

[グラフィックスライス \(635 ページ\)](#)

[フローの書き出し \(88 ページ\)](#)

[プロジェクトの解析の書き出し \(118 ページ\)](#)

## レイアウトの画像設定の変更

たとえば、いくつかのレイアウトを PDF ファイルとして書き出し、それ以外を PNG ファイルとして書き出したい場合など、レイアウトのグラフィックファイルの形式、カラーモード、解像度を個別に変更できます。

#### 手順

1. 「**レイアウト (Layouts)**」リストから、書き出しパスを変更するレイアウトを選択します。
2. 印刷オプションパネルの「**出力先 (Destination)**」セクションで、「**グラフィック (Graphics)**」を選択します。
3. メニューからグラフィックファイル形式を選択します。
4. カラーモードを選択します。
  - 「**白黒 (Mono)**」では、白黒でグラフィックを書き出します。
  - 「**カラー (Color)**」では、フルカラーでグラフィックを書き出します。

#### 補足

- レイアウトに透かしを付けて書き出す必要がある場合、あるいはレイアウトに色付きまたは完全に透明ではない要素がある場合は、「**カラー (Color)**」を選択する必要があります。「**白黒 (Mono)**」を選択すると、そのような要素は書き出したファイルでは黒く表示されます。
- グラフィックファイルを解像度 72dpi で書き出す場合は、「**カラー (Color)**」をおすすめします。「**白黒 (Mono)**」を選択すると、線が消える可能性があります。

#### 5. PNG または TIFF ファイルの場合は、以下の操作を行いません。

- 「**カラー (Color)**」を選択した場合は、「**透明な背景 (Transparent background)**」をオン/オフにします。
- 「**解像度 (Resolution)**」メニューから解像度を選択します。

#### ヒント

「PDF」と「SVG」はベクター形式のため、「**解像度 (Resolution)**」設定はこれらのファイルには影響しません。

---

#### 結果

選択したレイアウトの画像設定が変更されます。また、書き出し時に対応するレイアウトに使用されるファイルの命名規則も変更されます。

#### 関連リンク


- [グラフィックファイルの形式 \(738 ページ\)](#)
- [画像解像度 \(739 ページ\)](#)
- [白黒とカラーのグラフィック処理 \(739 ページ\)](#)
- [PDF ファイルと SVG ファイルでのフォントの埋め込み \(740 ページ\)](#)
- [符頭の表示/非表示 \(1398 ページ\)](#)

## レイアウトの書き出しパスの変更

グラフィックファイルとして書き出すレイアウトの書き出し先フォルダーのパスを指定できます。レイアウトごとに異なる書き出しパスを指定した場合でも、すべてのレイアウトを同時に書き出すことができます。

デフォルトでは、グラフィックファイルはプロジェクトファイルと同じフォルダーに書き出されます。プロジェクトをまだ保存していない場合、グラフィックファイルは「**Dorico プロジェクト (Dorico Projects)**」フォルダーに保存されます。

#### 手順

- 「**レイアウト (Layouts)**」リストから、書き出しパスを変更するレイアウトを選択します。
- 印刷オプションパネルの「**出力先 (Destination)**」セクションで、「**保存先のフォルダー (Destination folder)**」フィールドの横の「**フォルダーを選択 (Choose Folder)**」をクリックして、エクスプローラー (Windows) または Finder (Mac) を開きます。
- 保存先のフォルダーを探して選択します。
- 「**フォルダーを選択 (Select Folder)**」 (Windows) / 「**開く (Open)**」 (macOS) をクリックして、「**保存先のフォルダー (Destination folder)**」フィールドに新しいパスを指定します。
- 必要に応じて、書き出しパスを変更する他のレイアウトにも手順 1 から 4 を繰り返します。
- ファイルの命名規則を変更する場合、「**ファイル名オプション (File Name Options)**」をクリックして「**書き出し用ファイル名 (Export File Names)**」ダイアログを開きます。

7. 「書き出し用ファイル名 (Export File Names)」ダイアログで、必要に応じて、選択したグラフィックファイル形式のファイルの命名規則を変更します。

#### ヒント

PNG、SVG、および TIFF ファイルではレイアウトの各ページが別ファイルとしてエクスポートされるため、これらのファイルには**ページ番号**のトークンを含めることをおすすめします。

---

#### 結果

選択したレイアウトの書き出しパスが変更されます。書き出されたファイルには、「書き出し用ファイル名 (Export File Names)」ダイアログでグラフィックファイル形式ごとに指定されたファイル名生成用文字列が使用されます。

#### 補足

使用するオペレーティングシステムが違うユーザーから受け取ったプロジェクトなどでは、指定された書き出しパスにアクセスできない場合があります。その場合、Dorico Pro によって書き出しパスがプロジェクトファイルと同じフォルダーに自動的に変更されます。

---

## 「書き出し用ファイル名 (Export File Names)」ダイアログ

「書き出し用ファイル名 (Export File Names)」ダイアログでは、グラフィックファイル形式ごとに、ファイル名に含める文字列を指定できます。普遍的な構成要素を使用して、各レイアウトの情報がファイル名に自動的に反映されるようにできます。また、すべてのレイアウトに同じテキストを入力できます。

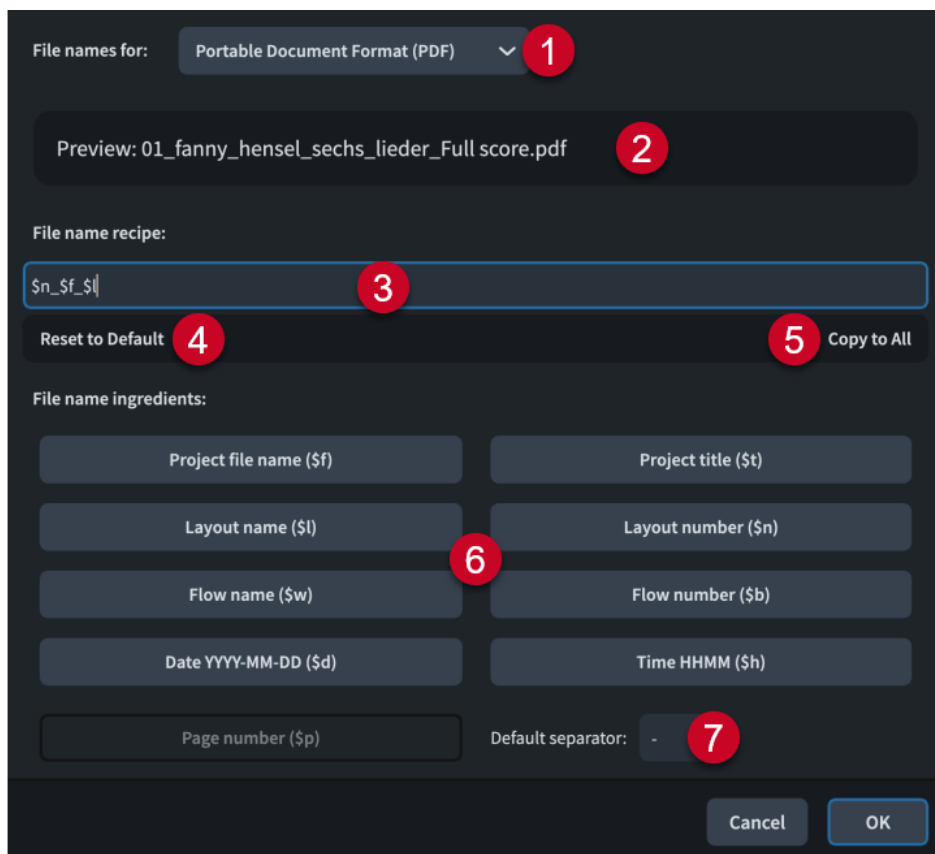
「書き出し用ファイル名 (Export File Names)」ダイアログを開くには、以下のいずれかの操作を行います。

- 印刷モードで、選択しているレイアウトの印刷オプションパネルの「出力先 (Destination)」セクションで「グラフィック (Graphics)」を選択した状態で、「ファイル名オプション (File Name Options)」をクリックします。
- 「環境設定 (Preferences)」 > 「全般 (General)」 > 「ファイルの書き出し (Exporting Files)」で、「編集 (Edit)」をクリックします。

#### 補足

行なった設定はいずれの方法で開くダイアログに反映され、以降のすべてのプロジェクトのデフォルトとして保存されます。

---



「書き出し用ファイル名 (Export File Names)」ダイアログには、以下のオプションが含まれます。

**1 ファイル名を使用する形式 (File names for)**

グラフィックファイル形式を選択します。グラフィックファイル形式ごとに個別のファイル名生成用文字列を設定できます。

**2 プレビュー: (Preview:)**

現在の生成用文字列に基づいたファイル名の例が表示されます。このプレビューには、ツールバーのレイアウトセレクターに表示されているレイアウトが使用されます。

たとえば、フルスコアの PDF ファイル名にデフォルトの生成用文字列が使用されている場合、プレビューは 01 - Full score - Lieder.pdf のようになります。

**3 ファイル名生成用文字列 (File name recipe)**

選択したグラフィックファイル形式の生成用文字列が表示されます。このフィールドに文字を直接入力できます。また、構成要素のボタンをクリックして情報を自動的に追加させることができます。

たとえば、PDF ファイルのデフォルトのファイル名生成用文字列は **\$n - \$l - \$t** です。

**4 デフォルトにリセット (Reset to Default)**

選択したグラフィックファイル形式のファイル名生成用文字列をデフォルトにリセットします。

**5 すべてにコピー (Copy to All)**

現在表示しているファイル名生成用文字列をプロジェクトのすべてのレイアウトにコピーします。

**6 ファイル名の構成要素 (File name ingredients)**

ファイル名生成用文字列に構成要素を簡単に追加できます。これによって各レイアウトの適切な情報が自動的に反映されます。たとえば、構成要素 **\$l** を使用してピアノパートのレイアウトを書き出すと、構成要素の部分が Piano に変換されます。

各構成要素のボタンには、参照元の情報と変数の文字列が表示されます。

ファイル名の構成要素のボタンをクリックすると、ファイル名生成用文字列フィールドの末尾に追加されます。追加した構成要素は、デフォルトの区切り文字で前の構成要素と自動的に区切られません。

#### 補足

PDF ファイルは複数ページの形式のため、ページ番号の構成要素を使用できません。

### 7 デフォルトの区切り文字 (Default separator)

ファイル名生成用文字列の構成要素を区切るのに使用するデフォルトの文字を設定できます。

関連リンク

[グラフィックファイルとしての書き出し \(728 ページ\)](#)

[フロー名とフロータイトル \(210 ページ\)](#)

## プリンター

Dorico Pro プロジェクトのレイアウトは、コンピューターに接続されたプリンターで印刷できます。

プロジェクトのレイアウトごとに、別々のプリンターを選択できます。これによりレイアウトの印刷要件に最適なプリンターを選択できます。プリンターの選択は、印刷オプションパネルの「出力先 (Destination)」セクションで「プリンター (Printer)」が選択されている場合に行なうことができます。

Dorico Pro では、別のプリンターを指定しない限り、オペレーティングシステムで指定されたデフォルトのプリンターが使用されます。この場合、印刷オプションパネルの以下のセクションの設定が変わる可能性があります。

- 「ページ設定 (Page Setup)」セクションでは、使用できる用紙サイズのリストには、選択されたプリンターが対応する用紙サイズのみ表示されます。
- 「両面印刷 (Duplex Printing)」セクションでは、選択されたプリンターが自動両面印刷機能に対応している場合のみ、この機能のオプションが表示されます。

#### 補足

現在選択しているすべてのレイアウトを同じプリンターで印刷するよう設定した場合のみ、「出力先 (Destination)」セクションのプリンターポップアップメニューにプリンター名が表示されます。メニューから新しいプリンターを選択すると、選択したすべてのレイアウトがそのプリンターで印刷されるよう設定されます。

関連リンク

[印刷オプションパネル \(721 ページ\)](#)

[レイアウトの印刷 \(724 ページ\)](#)

## 印刷/書き出し用のページ配置

Dorico Pro には、レイアウトの印刷/書き出しに使用できるページ配置が複数あります。

印刷オプションパネルの「ジョブタイプ (Job Type)」セクションでは、レイアウトをどのように印刷/書き出しするかを指定できます。「ジョブタイプ (Job Type)」セクションのメニューから、以下のジョブタイプのいずれかを選択できます。

### 標準 (Normal)

1 ページを 1 枚の用紙に印刷します。この場合、ページが片面に印刷されます。たとえば、定期的なページめくりが不要で、楽譜を横につなぎ合わせる必要があるパート譜に使用されます。

### 見開き (Spreads)

2 ページを 1 枚の用紙に印刷します。奇数ページは右側に、偶数ページは左側に印刷されます。

印刷するレイアウトが 5 ページなどの場合に、最後の奇数ページの用紙サイズも指定できます。

### 2 ページを 1 ページに集約 (2-up)

2 ページを 1 枚の用紙に印刷します。範囲の最初のページは、最初の用紙の左側に印刷されます。この場合、ページを半分に折り曲げられるため、用紙の端をつなぎ合わせる必要がある数が減り、パート譜の印刷に便利です。

印刷するレイアウトが 5 ページなどの場合に、最後の奇数ページの用紙サイズも指定できます。

### 冊子印刷 (Booklet)

面付けの要件に従って、2 ページを 1 枚の用紙に印刷します。用紙を折り曲げると本のようにページが配置されます。このページ配置は、一般的にパート譜よりページ数が多いスコアや合唱パートで特に役立ちます。

#### 補足

冊子印刷を行なう際は、範囲には全ページしか使用できません。ページやフローの範囲を指定することはできません。

#### 補足

- Dorico Pro では、選択したジョブタイプに応じて、ページの向きが自動的に切り替わります。向きが変更されると、すぐに楽譜領域に表示されます。表示された結果を変更したい場合、「**ページ設定 (Page Setup)**」セクションで向きを設定を上書きできます。
- すべてのジョブタイプは、片面印刷、両面印刷のどちらにも対応しています。
- 「冊子印刷」、「見開き」、「2 ページを 1 ページに集約」は、通常横向きで印刷されます。1 ページを 1 枚に印刷する場合は、レイアウト自体で横向きを使用していない限り、通常縦向きになります。

「**ジョブタイプ (Job Type)**」セクションでは、印刷/書き出しするページも選択できます。

### すべて (All)

選択したレイアウトの全ページの印刷/書き出しを行ないます。

### ページ (Pages)

印刷/書き出しするページの範囲を設定できます。「**ページ (Pages)**」を選択すると、値フィールドが有効になります。

- 範囲を指定するには、**1-4** のように最初と最後のページ番号の間にハイフンを入力します。
- 個別のページや範囲を指定するには、**1,3,5-8** のようにそれぞれのページまたは範囲をカンマで区切ります。

### フロー (Flows)

印刷/書き出しするフローの範囲を設定できます。「**フロー (Flows)**」を選択した場合は、「**選択 (Choose)**」をクリックして「**フローを印刷 (Print Flows)**」ダイアログを開き、印刷/書き出しするフローを選択できます。

関連リンク

- [レイアウトの印刷 \(724 ページ\)](#)
- [グラフィックファイルとしての書き出し \(728 ページ\)](#)
- [用紙のサイズと向きの設定 \(737 ページ\)](#)
- [ページ/フローの範囲の指定 \(726 ページ\)](#)
- [余白 \(768 ページ\)](#)

## 冊子印刷

冊子は、用紙の両面に印刷され、折り曲げると本のようになるドキュメントのことです。冊子印刷を行なうと、印刷されたページを折り曲げて読んだときにプロジェクトでの順序と同じになるように、ページの順番が変更されます。

冊子印刷したレイアウトの製本は、片面印刷や両面印刷した場合より非常に簡単です。たとえば、20 ページのフルスコアを両面印刷した場合、すべてのページをまとめるには用紙のいずれかの端をつなぎ合わせる必要があります。それに対して、同じフルスコアを冊子印刷すると、用紙の中央で折り曲げるだけですべてのページをまとめられます。

冊子印刷を設定すると、印刷されたページの順序が正しく表示されるように、ページの順番が変更されます。たとえば、4 ページのレイアウトを冊子印刷する場合、以下のようなページ配置になります。

- 表面: 左側に 4 ページめ、右側に 1 ページめ
- 裏面: 左側に 2 ページめ、右側に 3 ページめ

冊子印刷するレイアウトのページ数が半端な場合、冊子の最後に空白ページが自動的に配置されます。この場合、奇数ページが右側に表示される規則に従います。たとえば、6 ページのレイアウトを冊子印刷した場合、合計で 8 ページ分が印刷され、冊子の最後の 2 ページが空白ページとなります。空白ページの配置を変更するには、レイアウトにタイトルページなどのページを追加します。

### 補足

- 冊子印刷を行なう際は、範囲には全ページしか使用できません。ページやフローの範囲を指定することはできません。
- 手動での両面印刷で冊子印刷を行なう際に表面側のページの印刷順が間違っている場合は、印刷オプションパネルの「**両面印刷 (Duplex Printing)**」セクションにある「**外側ページの印刷順を逆にする (Reverse order of outward pages)**」をオンにすることで、表面側に印刷されるページの順番が逆になります。

## 両面印刷

Dorico Pro は両面印刷に対応しており、用紙の両面に印刷できます。

自動両面印刷対応のプリンターであれば、Dorico Pro でこの機能を使用できます。用紙の片面にしか印刷できないプリンターであっても、手動の両面印刷オプションを使用できます。

印刷オプションパネルの「**両面印刷 (Duplex Printing)**」セクションにある「**印刷面 (Print on)**」メニューには、以下のオプションが含まれます。

### 片側のみ (One side only)

用紙の片面にのみ印刷します。

### 両側 (手動) (Both sides manually)

用紙の両面に印刷します。プリンターに自動両面印刷機能が搭載されていない場合は、このオプションを使用します。すべての表面側のページがプリンターに送信されたあと、印刷済みのページのまとまりを裏返して、プリンターに戻すことを促すメッセージボックスが表示されます。「**OK**」をクリックして裏面側のページの印刷を続行します。

### 両側 (自動) (Both sides automatically)

自動的に用紙の両面に印刷します。このオプションは、プリンターが自動両面印刷機能に対応している場合にのみ有効になります。

「両面印刷 (Duplex Printing)」セクションの他のメニューでは、用紙の裏面に印刷したときの印刷の反転方向を設定できます。

### 印刷の反転 (縦向き)



縦向きの用紙の裏面に印刷する場合の、印刷の反転方向を設定します。

- 「自動反転 (Flip automatically)」では、プリンターの初期設定を使用して裏面が印刷されます。期待とは異なる向きに反転される場合は、他のいずれかのオプションを使用します。
- 「長辺とじ (Flip long side)」では、ページが横向きに反転されます。
- 「短辺とじ (Flip short side)」では、ページが縦向きに反転されます。

### 印刷の反転 (横向き)



横向きの用紙の裏面に印刷する場合の、印刷の反転方向を設定します。

- 「自動反転 (Flip automatically)」では、プリンターの初期設定を使用して裏面が印刷されます。期待とは異なる向きに反転される場合は、他のいずれかのオプションを使用します。
- 「長辺とじ (Flip long side)」では、ページが横向きに反転されます。
- 「短辺とじ (Flip short side)」では、ページが縦向きに反転されます。

セクションの下部にある「外側ページの印刷順を逆にする (Reverse order of outward pages)」をオンにすると、手動での両面印刷で冊子印刷を行なう際に、表面側に印刷されるページの順番が逆になります。プリンターの種類によっては、このオプションをオンにすることで裏面の印刷用に用紙をプリンターに戻す前に、手動でページの順番を逆にする必要がなくなります。

関連リンク

[レイアウトの印刷 \(724 ページ\)](#)

## ページサイズと用紙サイズ

Dorico Pro では、ページサイズと用紙サイズに別々の設定が使用されます。つまり、任意のページサイズのレイアウトをページサイズと異なるサイズの用紙に印刷できます。

プロジェクトの各レイアウトに対して、「レイアウトオプション (Layout Options)」の「ページ設定 (Page Setup)」ページでレイアウトの寸法を決定するページサイズを定義できます。

レイアウトをグラフィックファイルとして書き出す場合は、常にレイアウトのページサイズが使用されます。レイアウトを印刷する際は、通常、使用するプリンターがサポートする用紙サイズを選択する必要があります。

通常、レイアウトのページサイズと印刷する用紙サイズは同一です。しかし、10" x 13" (パート用の標準ページサイズの1つ) といった、プリンターがサポートしていない特殊なページサイズをレイアウトで定義した場合、レイアウトを異なる用紙サイズに印刷しなくてはならない場合があります。必要に応じて、印刷オプションパネルの「ページ設定 (Page Setup)」セクションで用紙サイズを変更できます。設定したページサイズに対して十分な大きさの用紙をプリンターがサポートしており、ページサイズが標準用紙サイズに合っている限り、メニューに寸法が表示されます。用紙サイズを変更しても、レイアウトのページサイズには影響しないため、楽譜内の配置は変更されません。



特定の用紙サイズを選択していない場合、コンピューターのロケール設定に基づいた用紙サイズが自動的に選択されます。たとえば、これらがヨーロッパの国に設定されていると、A4などのISO規格が使用されます。また、北米の国に設定されていれば、USレターなどの一般的な規格が使用されます。

一般的な規格よりも大きいページサイズを定義した場合、プリンターがサポートする一段階大きい用紙サイズが自動的に選択されます。たとえば、レイアウトのページサイズがA4/USレターよりも大きい場合、A3/タブロイドが使用されます。

レイアウトのページサイズと異なる用紙サイズに印刷する場合、イメージが用紙に合わせて自動的に拡大縮小されます。「**ページ設定 (Page Setup)**」セクションでカスタム尺度の倍率を指定することで、この設定を変更できます。

関連リンク

[「レイアウトオプション \(Layout Options\)」ダイアログ \(917 ページ\)](#)

[カスタムページサイズ \(1017 ページ\)](#)

[レイアウトの印刷 \(724 ページ\)](#)

[グラフィックファイルとしての書き出し \(728 ページ\)](#)

[余白 \(768 ページ\)](#)

## 用紙の向き

用紙の向きとは、楽譜をプレビューおよび印刷をする際の用紙の方向のことです。用紙は横向きまたは縦向きに設定できます。

多くの場合、パート譜は縦向きで印刷されます。これは、一般的な譜面台に一度に楽譜を2、3ページ広げることができるためです。

指揮者用のフルスコアも、縦向きの方が横向きより多くの譜表が1ページに収まるため、縦向きで印刷されるのが一般的です。ただし、小編成のアンサンブルなどのフルスコアでは、ページに含める譜表の数が少ないため横向きで印刷される場合があります。ページの横幅が長ければ各ページに多くの小節が収まり、ページをめくる回数も少なくなります。

Dorico Pro では、用紙の向きに関係なく、ページの向きを設定できます。たとえば、縦向きのページを横向きの用紙に印刷できます。また、「**見開き (Spreads)**」や「**2 ページを 1 ページに集約 (2-up)**」のページ配置を使って、レイアウトの最後の奇数ページの用紙の向きを個別に設定することもできます。

関連リンク

[ページのサイズと向きの変更 \(744 ページ\)](#)

## 用紙のサイズと向きの設定

レイアウトごとに異なる用紙のサイズと向きを設定できます。

### 補足

印刷オプションパネルの「**出力先 (Destination)**」セクションで「**グラフィック (Graphics)**」を選択している場合、用紙の向きのみが変更でき、他のオプションは利用できません。



印刷オプションパネルの「**出力先 (Destination)**」セクションで「**プリンター (Printer)**」を選択している場合、「**ページ設定 (Page Setup)**」セクションには以下のオプションが含まれます。

### 用紙サイズ

いずれかの使用できる用紙サイズをメニューから選択できます。使用可能な用紙サイズは、選択したプリンターの印刷可能な用紙によって異なります。

### 用紙の向き

以下のいずれかの用紙の向きを選択できます。

- 縦 (Portrait) 
- 横 (Landscape) 

#### 最後の奇数ページの設定 (Print odd final page on)

「見開き (Spreads)」および「2 ページを 1 ページに集約 (2-up)」のジョブタイプでのみ設定できます。この設定有効になっている場合、最後の奇数ページに対して、各種用紙サイズや印刷の向きを選択できます。

この設定は、ページ数が奇数のレイアウトを A3 用紙に横向きに印刷する場合に役立ちます。たとえば、5 ページのレイアウトでは、最初の 4 ページは A3 用紙 2 枚に印刷され、5 ページめは 3 枚めの左側に印刷されます。この設定を使用すると、最後の奇数ページを A4 用紙に縦向きで印刷することもできます。

#### 用紙サイズに合わせる (Fit to Paper)

選択した用紙サイズに合わせてページ全体が拡大または縮小されます。たとえば、ページサイズが A4 のレイアウトで、A3 の用紙サイズを選択した場合、レイアウトのページは大きい用紙サイズに合うように拡大されます。

#### カスタム尺度 (Custom Scale)

元のサイズに対する倍率でレイアウトのページが拡大または縮小されます。たとえば、ページサイズが A3 のレイアウトを印刷する場合に、用紙サイズに A4 を選択して、「**カスタム尺度 (Custom Scale)**」を 100 に設定すると、ページの元のサイズが保持されて A4 用紙からはみ出てしまいます。

#### 関連リンク

[印刷/書き出し用のページ配置 \(733 ページ\)](#)

[ページのサイズと向きの変更 \(744 ページ\)](#)

[余白 \(768 ページ\)](#)

## グラフィックファイルの形式

Dorico Pro では、レイアウトの書き出しに複数のグラフィックファイルの形式がサポートされています。

#### PDF

Portable Document Format (ポータブル・ドキュメント・フォーマット) の略称です。レイアウトを PDF ファイルに書き出すと、各レイアウトが固定されたプラットフォーム非依存文書を作成できます。これによってたとえば、Dorico Pro を所有していないユーザーに送信できます。

#### PNG

Portable Network Graphics (ポータブル・ネットワーク・グラフィックス) の略称です。PNG ファイルは可逆圧縮されるため、高画質です。

#### SVG

Scalable Vector Graphics (スケーラブル・ベクター・グラフィックス) の略称です。SVG は XML ベースのテキスト形式であるため、画質を損なうことなく任意のサイズに拡大縮小できます。Dorico Pro は SVG グラフィックをラスター化するのではなく描画命令でレンダリングするため、より高解像度で小さいファイルサイズとなります。

#### TIFF

Tagged Image File Format の略称です。TIFF ファイルは圧縮されないため、ファイルサイズは他の形式より大きくなる可能性はありますが、画質は劣化しません。

#### 関連リンク

[グラフィックファイルとしての書き出し \(728 ページ\)](#)

- [レイアウトの画像設定の変更 \(729 ページ\)](#)
- [グラフィックスライス書き出し \(641 ページ\)](#)
- [グラフィックスライスの画像設定の変更 \(639 ページ\)](#)

## 画像解像度

画像解像度は、画像に含まれるピクセルの数を表わします。ピクセルの数が大きいほど、画像は鮮明になります。

Dorico Pro では、PNG ファイルと TIFF ファイルを書き出す際に別の解像度を選択できます。画像解像度の単位は、dpi (dots per inch) です。

- 72
- 150
- 300
- 600
- 1200

### 補足

解像度 72dpi は画面での表示に適しており、グラフィックを電子メールや Web サイトに埋め込む場合に使用できます。300dpi、600dpi、または 1200dpi を選択すると解像度の高いイメージが保存され、ワードプロセッシングや DTP ドキュメントに掲載する図として使用できます。

---

## 白黒とカラーのグラフィック処理

Dorico Pro では、白黒とカラーのグラフィックの書き出し時に異なる設定が適用されます。グラフィックファイルの用途によって、最適な設定が異なります。

多くの楽譜は白黒のため、黒インクのみを使用し、通常は白または白に近い色の紙に印刷します。一部の教則本では、音部記号を分類する、ピッチに従って音符に色を付けるなど、特定の記譜を強調するためにカラーを使用する場合があります。グラフィックファイルを書き出して、手元のプリンターで印刷する場合、「出力先 (Destination)」セクションで「カラー (Color)」を選択したままにできます。

しかし、グラフィックファイルを PDF 形式で書き出して、プレートセッターで直接印刷したり、ページレイアウトプログラムでさらに制作作業を行ったりする場合は、レイアウトにカラーまたは不透明度が設定された要素が含まれていなければ、「白黒 (Mono)」を選択します。「白黒 (Mono)」を選択すると、Dorico Pro では印刷するイメージに確実に黒インクのみが使用されるよう、別のカラースペースを使用して PDF が書き出されます。「カラー (Color)」を選択すると、レイアウトの黒の要素をリッチブラックとして書き出します。その結果、黒は複数のカラーインクを掛け合わせて作成されます。これにより、プリプレス段階で色分解を行なう際、制作物に問題が発生する可能性があります。

Dorico Pro では、プレートセッターやその他の業務用印刷機械で使用されている CMYK カラーモデルではなく、RGB カラーモデルを使用してカラーが指定されます。レイアウトにカラーオブジェクトがあり、レイアウトを業務用として印刷する場合、Dorico Pro から別のグラフィックアプリケーションに書き出されたグラフィックファイルをポストプロセスして、RGB から CMYK に変換する必要があります。

## PDF ファイルと SVG ファイルでのフォントの埋め込み

PDF ファイルと SVG ファイルでフォントをどのように扱うかは、主にプロジェクトで使用するフォントによって決まります。

### PDF ファイル

Dorico Pro に付属している音楽フォントとテキストフォントおよびそのサブセットは、書き出し中に PDF ファイルに埋め込まれます。別のコンピュータで PDF ファイルを開くと、ドキュメントで使用されているフォントがコンピュータにインストールされていなくても、同じ見た目で表示されます。別のフォントを使用している場合は、そのフォントが埋め込み可能であることを確認してください。

### SVG ファイル

SVG (Scalable Vector Graphics) ファイルには、フォントを直接埋め込むことはできません。符頭、アーティキュレーション、臨時記号といった一部のフォント文字はアウトライン化されるので、元のフォントには依存しません。拍子記号や連符の数字などその他のフォントは、元のフォントへの参照を使用してのみエンコードされます。この仕組みは、譜表ラベル、テンポの指示、強弱記号などの通常のテキストでも同様です。そのため、使用されているフォントがインストールされていないコンピュータの Web ブラウザーでレンダリングした場合、SVG ファイルでは正確な見た目が再現されません。SVG ファイルがどのように表示されるかは、ブラウザやレンダリングソフトウェア、コンピュータにインストールされているフォントによって異なります。

Web サイトに埋め込まれた SVG ファイルを正しく表示するには、SVG ファイルをイラストレーションプログラムで開き、すべてのフォント文字をアウトライン化してから、再度 SVG ファイルに書き出して、そのファイルを埋め込みます。または、Web フォントを使用して、必要なフォントを確実に Web サーバーで表示することもできます。

Dorico Pro から書き出した SVG グラフィックは、完全な SVG 仕様に含まれる機能のサブセットを定義する SVG Tiny 1.1 仕様に適合します。

SVG での Web フォントの使用については、Steinberg Web サイトのサポートを参照してください。

### 関連リンク

[グラフィックファイルとしての書き出し \(728 ページ\)](#)

[レイアウトの画像設定の変更 \(729 ページ\)](#)

[グラフィックスライスの書き出し \(641 ページ\)](#)

[グラフィックスライスの画像設定の変更 \(639 ページ\)](#)

## 注釈

注釈を使って、印刷/書き出しされた文書に対して、印刷された日時などの情報を追加できます。出版社や印刷所は注釈を使用して、印刷イメージを正確に特定したり、登録したり、書き出されたグラフィックファイルを DTP アプリケーションに組み込んだりします。

出版用にレイアウトを印刷/書き出しする場合に、一般的な注釈を追加できます。また、Dorico Pro では、プロジェクトで有効にしたすべての表示オプションを印刷または書き出すことができます。

### 補足

トンボと枠線は、ページサイズが用紙サイズよりも小さい場合にのみ印刷されます。

印刷オプションパネルの「**注釈 (Annotations)**」セクションには、以下のオプションが含まれます。

#### トンボ (Crop marks)

ページの 4 つの角に、短い縦横線を追加します。

### 枠線 (Border)

ページ範囲の端に輪郭線を追加します。

### 日時 (Date and time)

各ページが一番下に印刷した日時を追加します。

### 透かし (Watermark)

各ページの中央部分に大きい半透明のテキストを追加します。現在のバージョンが草稿、校正刷り、精査用のスコアであることを示す場合に便利な機能です。

セクションの一番下の「**透かし (Watermark)**」フィールドに、各ページに表示するテキストを入力できます。

#### ヒント

- 透かしには、「**印刷透かし用フォント (Print Watermark Font)**」のフォントスタイルが使用されます。フォントサイズを変更したい場合など、このフォントの形式設定は「**フォントスタイルを編集 (Edit Font Styles)**」ダイアログで編集できます。
- 透かしは**カラー**のグラフィックとして書き出されるレイアウトにのみ含まれます。

---

### オプションを表示 (View options)

ガイド、コメント、音符や休符のカラーなど、ビューモードでオンになっているオプションを、印刷結果や書き出したグラフィックに追加します。

#### 関連リンク

[ガイド \(490 ページ\)](#)

[コメント \(545 ページ\)](#)

[「フォントスタイルを編集 \(Edit Font Styles\)」ダイアログ \(930 ページ\)](#)

[レイアウトの印刷 \(724 ページ\)](#)

[グラフィックファイルとしての書き出し \(728 ページ\)](#)

[印刷されない要素を非表示にする \(477 ページ\)](#)

# ページ形式設定

Dorico Pro のページ形式設定は、レイアウトの譜表サイズ、ページの余白、適用されるページテンプレート、適用される配置設定の値、組段区切りとフレーム区切り、フレーム余白などのさまざまな要素によって決まります。

Dorico Pro のページ形式設定を決める重要な要素には、以下のようなものがあります。

## 譜表サイズ

譜表サイズとは、譜表の一番上の線から一番下の線までの距離を意味します。最適な譜表サイズはレイアウトの用途と内容により異なります。多くの場合、読みやすいレイアウトを作成する最も簡単な方法は譜表サイズを変更することです。

## 譜表のスペーシング

譜表のスペーシングとは、楽譜の垂直方向のスペーシングです。譜表の高さおよび譜表と組段との間に必要な間隔が含まれます。

## 音符のスペーシング

音符のスペーシングとは、楽譜の水平方向のスペーシングです。音符や休符の相対的な位置関係や、それらの間の自動間隔などが含まれます。

## 配置設定

配置設定とは、ページあたりの組段数の設定など、楽譜のページレイアウトの固定を示す言葉です。

## 組段区切りとフレーム区切り

組段区切りとフレーム区切りを使用すると、各組段に表示する小節の指定や、楽譜を次のフレームに切り替える位置の決定など、よりきめ細かなレイアウト調整を行なえます。

## ページサイズ

ページサイズによって、各レイアウトで楽譜やフレームに使用できるスペースが決まります。

## ページ余白

ページ余白によって、レイアウト内のページの範囲が決まります。フレームはレイアウトの余白によって設定された境界を越えることはできません。この余白は、「**レイアウトオプション (Layout Options)**」の「**ページ設定 (Page Setup)**」ページで変更できます。各ページの各辺の余白のサイズを変更できます。

## ページテンプレート

レイアウトの全ページには、ページテンプレートのレイアウト形式が引き継がれます。ページテンプレートを作成したり何らかの変更を加えたりすると、そのページテンプレートを使用するページに自動で反映されます。最初のページに作曲者名を表示したり、後続のすべてのページの上部の欄外見出しにフロータイトルを表示したりするなど、プロジェクト内のページに情報を表示する場合、ほとんどのケースでは関連するページテンプレートを編集する方法が最も簡単です。

### ヒント

作曲者、台本の作者、フロー/プロジェクトタイトルなどの情報を表示する場合、「**プロジェクト情報 (Project Info)**」ダイアログ内のフィールドを参照するトークンを使用することをおすすめします。デフォルトのページテンプレートには、種類に応じて「**プロジェクト情報 (Project Info)**」ダイアログの異なる情報が表示されます。

## フロー見出し

フロー見出しは、最初の組段のすぐ上に各フローの番号とタイトルを自動的に表示します。フロー見出しには固定の垂直位置はなく、楽譜が移動するとそれに追従します。デフォルトのフロー見出しには、フロー番号とフロータイトルを表示するためのトークンが含まれています。新規プロジェクトでは、これは「1. Flow 1」として表示されます。

フロー見出しはレイアウトごとに表示/非表示を切り替えることができます。追加フレームの入力、テキストフレームの内容の変更、既存のテキストおよびグラフィックフレームの編集や移動など、フロー見出しのカスタマイズはフロー見出しエディターで行なえます。個々のフロー見出しを削除または編集すると、これはページの形式変更の一種であるページテンプレートの上書きと見なされます。

## 楽曲フレームの余白

楽曲フレームの上下には余白があります。楽曲フレームの余白は、フレーム内に表示される音符や記譜記号がページに収まるようにするためのものです。たとえば、楽曲フレームに余白がない場合、フレームの一番上の譜表の第5線がフレームの最上部に配置されます。譜表の上に加線を必要とする音符は、ページの最上部より上に配置される場合があります。レイアウトごとにデフォルトの楽曲フレーム余白を変更でき、個々の楽曲フレームの余白は浄書モードでプロパティパネルのプロパティを使用して変更できます。

## フレーム制限

フレーム制限は、フレームの端をページ余白にロックします。これにより、比率を維持したまま、1つのページテンプレートを用紙サイズの異なるレイアウトに適用できます。

適切に形式設定されたレイアウトを作成するために、これらのコンセプトと、それらを組み合わせてさまざまなコンテキストで使用方法を理解しておくことをおすすめします。

### 関連リンク

- [ライブラリーマネージャー \(913 ページ\)](#)
- [「レイアウトオプション \(Layout Options\)」 ダイアログ \(917 ページ\)](#)
- [譜表サイズ \(772 ページ\)](#)
- [譜表のスペーシング \(776 ページ\)](#)
- [配置設定 \(784 ページ\)](#)
- [組段区切り \(789 ページ\)](#)
- [フレーム区切り \(792 ページ\)](#)
- [フレーム制限 \(633 ページ\)](#)
- [ページテンプレート \(567 ページ\)](#)
- [ページテンプレートの種類 \(573 ページ\)](#)
- [ページテンプレートエディター \(581 ページ\)](#)
- [フロー見出し \(595 ページ\)](#)
- [フロー見出しの表示/非表示の切り替え \(762 ページ\)](#)
- [フロー見出しエディター \(596 ページ\)](#)
- [ページの形式変更 \(584 ページ\)](#)
- [ページテンプレートの優先の解除 \(586 ページ\)](#)
- [タチエット \(795 ページ\)](#)
- [余白 \(768 ページ\)](#)
- [ページサイズと用紙サイズ \(736 ページ\)](#)
- [空白の譜表の表示/非表示を切り替える \(750 ページ\)](#)
- [使用されるコードダイアグラムのグリッドを表示/非表示にする \(1180 ページ\)](#)
- [レイアウト \(190 ページ\)](#)
- [フロー \(187 ページ\)](#)
- [プレーヤー \(135 ページ\)](#)
- [「プロジェクト情報 \(Project Info\)」 ダイアログ \(81 ページ\)](#)
- [プロジェクトテンプレート \(84 ページ\)](#)
- [トークン \(617 ページ\)](#)

## ページのサイズと向きの変更

ページのサイズと向きをレイアウトごとに個別に変更できます。たとえば、フルスコアレイアウトには横向きの大きなページを使用し、パートレイアウトには縦向きの小さなページを使用するなどできます。

### 前提条件

使用するカスタムのページサイズを作成しておきます。

### 手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[L]** を押して「**レイアウトオプション (Layout Options)**」を開きます。
2. ページのサイズや向きを変更するレイアウトを「**レイアウト (Layouts)**」リストから選択します。  
初期設定では、楽譜領域で選択されているものと同じレイアウトが選択された状態のダイアログが表示されます。他のレイアウトを選択するには、アクションバーの選択オプションを使用するか、複数のレイアウトをまたぐようにクリックしてドラッグするか、**[Shift]** を押しながら隣接するレイアウトをクリックするか、**[Ctrl]/[command]** を押しながら個々のレイアウトをクリックします。
3. カテゴリリストの「**ページ設定 (Page Setup)**」をクリックします。
4. 「**ページサイズ (Page Size)**」セクションで、「**サイズ (Size)**」メニューからページサイズを選択します。  
たとえば、「**A3**」や「**Letter**」などの固定ページサイズを選択したり、「**カスタム (Custom)**」を選択して独自のページサイズを定義したりできます。
5. 「**カスタム (Custom)**」を選択した場合は、以下の数値フィールドの値を変更してページの寸法を変更します。
  - 幅 (Width)
  - 高さ (Height)
6. 「**向き (Orientation)**」で以下のいずれかのオプションを選択します。
  - 縦 (Portrait)
  - 横 (Landscape)
7. 「**適用 (Apply)**」をクリックしてから「**閉じる (Close)**」をクリックします。

### 結果

選択したすべてのレイアウトのページのサイズと向きが変更されます。

### 補足

- レイアウトのページサイズを変更しても、印刷モードの印刷オプションパネルでこれらのレイアウトに対して自動的に選択される用紙サイズが変更されない場合があります。たとえば、デフォルトのプリンターではレイアウトに対して選択されたページサイズを印刷できない場合、そのプリンターが対応している最大の用紙サイズが選択されます。同様に、「**レイアウトオプション (Layout Options)**」でページサイズを変更する前に印刷レイアウトのオプションをすでに設定している場合、Dorico Pro は元の印刷オプションを保持しようとします。

同様に、ページの向きは用紙の向きとは関係ありません。横向きのレイアウトを縦向きの用紙に印刷してしまったり、その逆も起こり得るため、印刷や書き出しの前には、印刷モードの印刷オプションパネルでレイアウトのページの向きに合った用紙の向きが設定されていることを確認することをおすすめします。



- ページサイズ、ページの向き、ページ余白などを変更すると、フレーム制限の設定に従ってフレームのサイズや形が異なって表示されることがあります。
- 

#### 関連リンク

- [用紙のサイズと向きの設定 \(737 ページ\)](#)
- [カスタムページサイズの作成 \(1019 ページ\)](#)
- [フレーム制限 \(633 ページ\)](#)
- [レイアウトの印刷 \(724 ページ\)](#)
- [グラフィックファイルとしての書き出し \(728 ページ\)](#)
- [ステータスバーのツールを表示/非表示にする \(43 ページ\)](#)

## ページ余白の変更

らせん綴じにするプロジェクトでレイアウトの余白を広くしたい場合など、ページ余白をレイアウトごとに個別に変更できます。

---

#### 手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[L]** を押して「**レイアウトオプション (Layout Options)**」を開きます。
  2. ページ余白を変更するレイアウトを「**レイアウト (Layouts)**」リストから選択します。  
初期設定では、楽譜領域で選択されているものと同じレイアウトが選択された状態のダイアログが表示されます。他のレイアウトを選択するには、アクションバーの選択オプションを使用するか、複数のレイアウトをまたぐようにクリックしてドラッグするか、**[Shift]** を押しながら隣接するレイアウトをクリックするか、**[Ctrl]/[command]** を押しながら個々のレイアウトをクリックします。
  3. カテゴリリストの「**ページ設定 (Page Setup)**」をクリックします。
  4. 「**ページ余白 (Page Margins)**」セクションの「**ページ余白 (Page margins)**」で、以下のいずれかのオプションを選択します。
    - **共通 (Same)**: 選択したレイアウトのすべてのページに同じ余白を設定します。
    - **個別指定 (Different)**: 選択したレイアウトの左右のページに異なる余白を設定します。
    - **見開き (Mirrored)**: 選択したレイアウトの左右のページに同じ余白の値を使用しますが、ページの内側同士と外側同士が同じ値になります。
  5. 必要に応じて、数値フィールドの値を変更して余白を変更します。
  6. 「**適用 (Apply)**」をクリックしてから「**閉じる (Close)**」をクリックします。
- 

#### 結果

選択したレイアウトのページ余白が変更されます。固定された制限を持つ選択したレイアウト内のフレームは、必要に応じて自動的に移動またはサイズ変更されます。

#### 補足

ページサイズ、ページの向き、ページ余白などを変更すると、フレーム制限の設定に従ってフレームのサイズや形が異なって表示されることがあります。

---

#### 関連リンク

- [余白 \(768 ページ\)](#)
- [最初の組段のインデントの変更 \(1720 ページ\)](#)
- [コードの前の間隔を変更する \(1606 ページ\)](#)
- [譜表ラベルを表示/非表示にする \(1685 ページ\)](#)

[使用されるコードダイアグラムのグリッドを表示/非表示にする \(1180 ページ\)](#)  
[フレーム制限 \(633 ページ\)](#)

## レイアウトへのページテンプレートのセットの適用

たとえば、「**デフォルトのパート譜 (Default Part)**」のページテンプレートのセットの最初のページにはレイアウト名が表示されることから、カスタムスコアレイアウトにこのセットを使用したい場合など、プロジェクトの各レイアウトで使用されるページテンプレートのセットを変更できます。

初期設定では、フルスコアレイアウトとカスタムスコアレイアウトには「**デフォルトのフルスコア (Default Full Score)**」のページテンプレートのセットが使用され、パートレイアウトには「**デフォルトのパート譜 (Default Part)**」のページテンプレートのセットが使用されます。

### 前提条件

現在のプロジェクトにないページテンプレートのセットを使用する場合は、そのページテンプレートのセットを作成するか読み込んでおきます。

---

### 手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[L]** を押して「**レイアウトオプション (Layout Options)**」を開きます。
2. 「**レイアウト (Layouts)**」リストから、ページテンプレートのセットを変更するレイアウトを選択します。  
初期設定では、楽譜領域で選択されているものと同じレイアウトが選択された状態のダイアログが表示されます。他のレイアウトを選択するには、アクションバーの選択オプションを使用するか、複数のレイアウトをまたぐようにクリックしてドラッグするか、**[Shift]** を押しながら隣接するレイアウトをクリックするか、**[Ctrl]/[command]** を押しながら個々のレイアウトをクリックします。
3. カテゴリリストの「**ページ設定 (Page Setup)**」をクリックします。
4. 「**ページテンプレート (Page Template)**」セクションで、「**ページテンプレートのセット (Page template set)**」メニューから使用するページテンプレートのセットを選択します。
5. 「**適用 (Apply)**」をクリックしてから「**閉じる (Close)**」をクリックします。

---

### 結果

選択したページテンプレートのセットが選択したレイアウトに適用されます。

### ヒント

浄書モードで、ページパネルの「**ページテンプレート (Page Templates)**」セクションにある「**現在のセット (Current set)**」メニューからページテンプレートを選択して変更することもできます。この操作によって、楽譜領域で開かれているレイアウトのみのレイアウトオプションが自動的に更新されません。

---

### 手順終了後の項目

そのページテンプレートのセットを使用しているレイアウト内の個々のページにページテンプレートを割り当てることができます。

### 関連リンク

[ページテンプレートのセット \(569 ページ\)](#)  
[「最初 \(First\)」のページテンプレートをいつ使用するかの変更 \(761 ページ\)](#)  
[ページへのページテンプレートの割り当て \(590 ページ\)](#)  
[フレームチェーンへのフローの割り当て \(615 ページ\)](#)

- [ページの形式変更 \(584 ページ\)](#)
- [同じページに複数のフローを表示する/表示しない \(760 ページ\)](#)
- [フロー見出しの表示/非表示の切り替え \(762 ページ\)](#)
- [ページパネル \(562 ページ\)](#)

## デフォルトの譜表サイズの変更

デフォルトの譜表サイズをレイアウトごとに個別に変更できます。たとえば、フルスコアレイアウトでは譜表サイズを小さくしつつ、パートレイアウトでは譜表サイズを大きくすることができます。

### 補足

組段オブジェクトのフォントスタイルのサイズが「**譜表との相対値 (Staff-relative)**」に設定されている場合、インストゥルメントファミリーの大括弧で括られたグループの最上段の譜表の譜表サイズにより、その上に表示される組段オブジェクトのサイズが影響されます。フォントスタイルが「**絶対値 (Absolute)**」に設定されている場合、譜表サイズによる影響は受けません。

---

### 手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[L]** を押して「**レイアウトオプション (Layout Options)**」を開きます。
2. 譜表サイズを変更するレイアウトを「**レイアウト (Layouts)**」リストから選択します。  
初期設定では、楽譜領域で選択されているものと同じレイアウトが選択された状態のダイアログが表示されます。他のレイアウトを選択するには、アクションバーの選択オプションを使用するか、複数のレイアウトをまたぐようにクリックしてドラッグするか、**[Shift]** を押しながら隣接するレイアウトをクリックするか、**[Ctrl]/[command]** を押しながら個々のレイアウトをクリックします。
3. カテゴリーリストの「**ページ設定 (Page Setup)**」をクリックします。
4. 「**線間の高さ (Space Size)**」セクションで、「**五線のサイズ (Rastral size)**」メニューから任意の譜表サイズを選択します。

### 補足

「**カスタム (Custom)**」を選択した場合、カスタム値は「**線間の高さ (Space size)**」のフィールドに、優先する基準単位で設定できます。

「**五線のサイズ (Rastral size)**」が選択されている場合でも、数値を変更することによって「**カスタム (Custom)**」の値を設定できます。

---

5. 必要に応じて、他のレイアウトにも手順 2 から 4 を繰り返します。
  6. 「**適用 (Apply)**」をクリックしてから「**閉じる (Close)**」をクリックします。
- 

### 結果

選択したレイアウト全体で譜表サイズが変更されます。

### ヒント

レイアウト内の選択した位置から先の譜表サイズを変更することも、個々の譜表のサイズを変更することもできます。

---

### 関連リンク

- [譜表サイズ \(772 ページ\)](#)
- [「パラグラフスタイル \(Paragraph Styles\)」ダイアログ \(932 ページ\)](#)

[「フォントスタイルを編集 \(Edit Font Styles\)」 ダイアログ \(930 ページ\)](#)  
[大括弧と中括弧 \(1140 ページ\)](#)  
[組段オブジェクト \(1717 ページ\)](#)

## デフォルトの譜表/組段のスペーシングを変更する

デフォルトの譜表間や組段間の間隔をレイアウトごとに個別に変更できます。たとえば、フルスコアレイアウトではより多くの譜表を配置できるように譜表間の間隔を小さくしたり、パートレイアウトでは演奏者があとで書き込めるように組段間の間隔を大きくしたりできます。

### ヒント

- レイアウトの譜表が非常に近い場合は、譜表サイズを小さくすることで良い結果を得られることもあります。
- Dorico Pro は自動的に余ったスペースを組段オブジェクトや強弱記号などのアイテムに振り分けたり、上下の譜表の音符との衝突を解消したりするため、最適間隔は許容範囲内の最小値に設定することをおすすめします。

---

### 手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[L]** を押して「**レイアウトオプション (Layout Options)**」を開きます。
2. デフォルトの譜表/組段のスペーシングを変更するレイアウトを「**レイアウト (Layouts)**」リストから選択します。  
初期設定では、楽譜領域で選択されているものと同じレイアウトが選択された状態のダイアログが表示されます。他のレイアウトを選択するには、アクションバーの**選択オプション**を使用するか、複数のレイアウトをまたぐようにクリックしてドラッグするか、**[Shift]** を押しながら隣接するレイアウトをクリックするか、**[Ctrl]/[command]** を押しながら個々のレイアウトをクリックします。
3. カテゴリーリストの「**垂直方向のスペーシング (Vertical Spacing)**」をクリックします。
4. 必要に応じて、「**最適間隔 (Ideal Gaps)**」セクションでそれぞれの組み合わせの値を変更します。
5. 「**適用 (Apply)**」をクリックしてから「**閉じる (Close)**」をクリックします。

---

### 結果

譜表間および組段間の組み合わせの最小間隔が変更されます。この設定は、Dorico Pro が譜表/組段の配置に使用できるスペースおよび垂直方向の調整を自動的に行なうフレームの使用率であるかの基準に影響します。

### 関連リンク

[譜表のスペーシング \(776 ページ\)](#)  
[テキストの衝突回避の有効化/無効化 \(1770 ページ\)](#)  
[レイアウトのロック \(787 ページ\)](#)  
[音符のスペーシング \(643 ページ\)](#)  
[最初の組段のインデントの変更 \(1720 ページ\)](#)  
[コードの前の間隔を変更する \(1606 ページ\)](#)  
[譜表ラベルを表示/非表示にする \(1685 ページ\)](#)  
[空白の譜表の表示/非表示を切り替える \(750 ページ\)](#)  
[デフォルトのプレーヤーの順番の変更 \(137 ページ\)](#)

## 譜表/組段の両端揃え (垂直方向) を変更する

Dorico Pro が自動的に譜表間および組段間の垂直方向の調整を行なうフレーム使用率の最小しきい値を変更できます。垂直方向の調整では、フレームの高さに合わせて譜表または組段が等しく配置されます。譜表と組段の垂直方向が調整されるのか、組段のみの垂直方向が調整されるのかを選択することもできます。

---

### 手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[L]** を押して「レイアウトオプション (Layout Options)」を開きます。
2. 譜表間/組段間の垂直方向の自動調整の設定を変更するレイアウトを「レイアウト (Layouts)」リストから選択します。

初期設定では、楽譜領域で選択されているものと同じレイアウトが選択された状態のダイアログが表示されます。他のレイアウトを選択するには、アクションバーの選択オプションを使用するか、複数のレイアウトをまたぐようにクリックしてドラッグするか、**[Shift]** を押しながら隣接するレイアウトをクリックするか、**[Ctrl]/[command]** を押しながら個々のレイアウトをクリックします。
3. カテゴリーリストの「垂直方向のスペーシング (Vertical Spacing)」をクリックします。
4. 「最適間隔 (Ideal Gaps)」セクションの「ディヴィジ譜表が使用する間隔 (Gap to use for divisi staves)」で、以下のいずれかのオプションを選択します。
  - 譜表から譜表まで (Staff to staff)
  - 連合譜表から連合譜表 (Braced staff to braced staff)
5. 「両端揃え (垂直方向) (Vertical Justification)」セクションで、以下のオプションのいずれかまたは両方を変更します。
  - 「譜表間および組段間の距離を調整する [n] % 以上のフレーム使用率の場合 (Justify distance between staves and systems when frame is at least [n]% full)」
  - 「組段間の距離のみを調整する [n] % 以上のフレーム使用率の場合 (Justify distance only between systems when frame is at least [n]% full)」
6. 「単一の段組のフレームがこのしきい値を超えた場合に譜表間の距離を調整する (Justify staves when frame with single system is above this threshold)」をオン/オフにします。
7. 「適用 (Apply)」をクリックしてから「閉じる (Close)」をクリックします。

---


### 結果

選択したレイアウトに含まれる譜表間/組段間の垂直方向の自動調整の設定が変更されます。連合譜表には垂直方向の調整が行なわれません。

例

Musical score for Violin (Vn), Viola (Vi), Soprano (S), and Organ (Org). The score is divided into three systems. The first system contains vocal lines with lyrics. The second system contains instrumental lines. The third system contains instrumental lines. The spacing between systems and sections is adjusted.

譜表間と組段間の間隔を調整したページ

Musical score for Violin (Vn), Viola (Vi), Soprano (S), and Organ (Org). The score is divided into three systems. The first system contains vocal lines with lyrics. The second system contains instrumental lines. The third system contains instrumental lines. The spacing between sections is adjusted, but the spacing between systems remains the same as in the first example.

組段間のみを調整した左と同じページ

関連リンク

[レイアウトごとの垂直方向のスペーシングオプション \(776 ページ\)](#)

[複数の組段を同時に移動する \(782 ページ\)](#)

[フレーム密度表示 \(567 ページ\)](#)

## 空白の譜表の表示/非表示を切り替える

空白の譜表の表示/非表示をレイアウトごとに個別に切り替えることができます。たとえば、指揮者用のフルスコアレイアウトでは空白の譜表を含むすべての譜表を表示し、参照のみに使用するフルスコアレイアウトでは空白の譜表を非表示にできます。

手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[L]** を押して「**レイアウトオプション (Layout Options)**」を開きます。
2. 「**レイアウト (Layouts)**」リストで、空白の譜表を表示/非表示にするレイアウトを選択します。  
初期設定では、楽譜領域で選択されているものと同じレイアウトが選択された状態のダイアログが表示されます。他のレイアウトを選択するには、アクションバーの**選択オプション**を使用するか、複数のレイアウトをまたぐようにクリックしてドラッグするか、**[Shift]** を押しながら隣接するレイアウトをクリックするか、**[Ctrl]/[command]** を押しながら個々のレイアウトをクリックします。
3. カテゴリーリストの「**垂直方向のスペーシング (Vertical Spacing)**」をクリックします。
4. 「**譜表の表示/非表示 (Staff Visibility)**」セクションの「**空白の譜表を非表示 (Hide empty staves)**」で、以下のいずれかのオプションを選択します。
  - **2 番めの組段から (After first system)**
  - **すべての組段 (All systems)**

- 常に表示 (Never)
5. 「複数の譜表を持つインストゥルメントの個々の譜表を非表示にする (Allow individual staves of multi-staff instruments to be hidden)」をオンまたはオフにします。
  6. 必要に応じて、「空白の譜表を非表示」を適用しないプレーヤー (Players excluded from Hide Empty Staves)」で、「空白の譜表を非表示 (Hide empty staves)」の選択に関係なく表示したいインストゥルメントに対応するチェックボックスをオンにします。
  7. 「適用 (Apply)」をクリックしてから「閉じる (Close)」をクリックします。
- 

#### 結果

選択したレイアウト内の空白の譜表が、選択に応じて表示/非表示になります。「複数の譜表を持つインストゥルメントの個々の譜表を非表示にする (Allow individual staves of multi-staff instruments to be hidden)」をオンにすると、ピアノやハープといった複数の譜表を持つインストゥルメントの単一の空白の譜表を、選択したレイアウトで非表示にできます。

#### 補足

- 余分な譜表が追加されたインストゥルメントは、たとえ空白の譜表があっても「複数の譜表を持つインストゥルメントの個々の譜表を非表示にする (Allow individual staves of multi-staff instruments to be hidden)」の影響を受けません。
  - デヴィジ作成を含む組段は、たとえ譜表が空白でも表示されます。
  - 「浄書オプション (Engraving Options)」 > 「コード記号 (Chord Symbols)」 > 「位置 (Position)」でコード記号を譜表間に表示するよう設定した場合は、複数の譜表を持つインストゥルメントの単一の譜表を非表示にできません。
- 

#### 関連リンク

- [追加の譜表 \(1706 ページ\)](#)
- [デヴィジ \(1722 ページ\)](#)
- [コンデンシング \(799 ページ\)](#)
- [レイアウトごとの垂直方向のスペーシングオプション \(776 ページ\)](#)
- [最終フローのあとの空白の譜表を表示/非表示にする \(753 ページ\)](#)
- [デフォルトのプレーヤーの順番の変更 \(137 ページ\)](#)
- [追加の譜表を組段全体にわたって表示する \(1708 ページ\)](#)
- [組段の分割記号を表示/非表示にする \(1716 ページ\)](#)
- [第2括弧の表示/非表示を切り替える \(1146 ページ\)](#)
- [1つの譜表の中括弧を表示/非表示にする \(1144 ページ\)](#)
- [MIDI トリガー領域 \(717 ページ\)](#)
- [インストゥルメントフィルター \(485 ページ\)](#)
- [「浄書オプション \(Engraving Options\)」 ダイアログ \(923 ページ\)](#)

## 組段/フレーム区切りから先の譜表の表示/非表示を切り替える

個々の譜表の表示/非表示を切り替える、またはリセットすることで、組段/フレーム区切りの位置から先の譜表の表示/非表示を手動で変更できます。たとえば、空白の譜表を非表示にしたレイアウトで、特定の空白の譜表をいくつかのセクションに表示したい場合や、記譜された譜表を一部のレイアウトで非表示にしたい場合などに行いません。

#### 手順

1. 組段/フレーム区切りがまだない位置から先の譜表の表示/非表示を手動で変更する場合は、そこから先の譜表の表示/非表示を変更する位置のアイテムを選択します。
2. 以下のいずれかの操作を行なって「譜表の手動表示/非表示 (Manual Staff Visibility)」ダイアログを開きます。

- 譜表の表示/非表示を変更する位置に組段/フレーム区切りのガイドがある場合は、そのガイドを選択して **[Return]** を押すかダブルクリックします。
  - 組段/フレーム区切りがない場合は、「編集 (Edit)」 > 「記譜 (Notations)」 > 「譜表 (Staff)」 > 「譜表の手動表示/非表示 (Manual Staff Visibility)」. このオプションはコンテキストメニューでも選択できます。を選択します。
3. 譜表の表示/非表示を任意に変更します。  
たとえば、個々の譜表を有効にして設定を変更したり、アクションバーのオプションを使用してすべての譜表の設定を同時に変更したりできます。
  4. 「OK」をクリックして変更内容を保存し、ダイアログを閉じます。

---

#### 結果

選択した位置または組段/フレーム区切りのガイドから次の譜表の表示/非表示の変更がある位置、あるいはフローの終了位置のいずれか早い方まで、譜表が空白かどうかに関係なく、譜表の表示/非表示が変更されます。

選択した位置に組段/フレーム区切りのガイドがまだなかった場合は、指定した譜表の表示/非表示設定を持つ組段区切りが選択した位置に挿入されます。

#### 関連リンク

[フレーム区切り \(792 ページ\)](#)

[組段区切り \(789 ページ\)](#)

[譜表のスペーシング \(776 ページ\)](#)

[追加の譜表を組段全体にわたって表示する \(1708 ページ\)](#)

[MIDI トリガー領域 \(717 ページ\)](#)

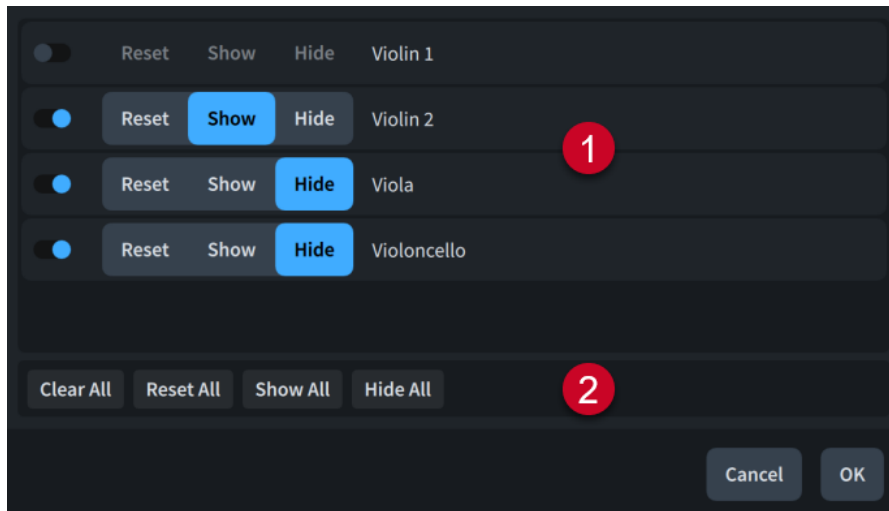
## 「譜表の手動表示/非表示 (Manual Staff Visibility)」ダイアログ

「譜表の手動表示/非表示 (Manual Staff Visibility)」ダイアログでは、組段/フレーム区切り以降の個々の譜表の表示/非表示を手動で切り替えたり、リセットしたりできます。

「譜表の手動表示/非表示 (Manual Staff Visibility)」ダイアログを開くには、記譜モードまたは浄書モードで以下のいずれかの操作を行ないます。

- 楽譜領域でアイテムを選択した状態で「編集 (Edit)」 > 「記譜 (Notations)」 > 「譜表 (Staff)」 > 「譜表の手動表示/非表示 (Manual Staff Visibility)」を選択します。このオプションはコンテキストメニューでも選択できます。
- 組段/フレーム区切りのガイドを選択して **[Return]** を押すか、組段/フレーム区切りのガイドをダブルクリックします。





「譜表の手動表示/非表示 (Manual Staff Visibility)」ダイアログは以下で構成されます。

### 1 譜表リスト

非表示になっている空白の譜表を含め、選択したリズム上の位置にあるすべての譜表が表示されます。譜表リストには、ディヴィジ譜表、コンデンシングされた譜表、および追加の譜表が含まれています。譜表を有効にすると、手動による譜表の表示変更の対象となります。

各譜表に対して、譜表の表示に関する以下のオプションを使用できます。

- **リセット (Reset):** 「レイアウトオプション (Layout Options)」の「縦方向の間隔 (Vertical Spacing)」で設定した、レイアウトのデフォルト設定に譜表の表示をリセットします。
- **表示 (Show):** 譜表が空白かどうかに関係なく、選択した位置から先の譜表を表示します。
- **非表示 (Hide):** 譜表が空白かどうかに関係なく、選択したリズム上の位置から先の譜表を非表示にします。

#### 補足

- メイン譜表とは別にオssia譜表の表示/非表示を切り替えることはできません。
- 譜表の追加やディヴィジ作成などで現在のフローに追加した譜表は、削除したあともリストに表示されます。

### 2 アクションバー

すべての譜表の表示設定を同時に変更できるオプションがあります。

- **すべて消去 (Clear All):** すべての譜表を無効にします。
- **すべてリセット (Reset All):** すべての譜表を有効にして「リセット (Reset)」に設定します。
- **すべて表示 (Show All):** すべての譜表を有効にして「表示 (Show)」に設定します。
- **すべて非表示 (Hide All):** すべての譜表を有効にして「非表示 (Hide)」に設定します。

## 最終フローのあとの空白の譜表を表示/非表示にする

たとえば、録音セッション用のパートレイアウトの形式設定を行なう際に、最後の組段とページ下部との間に空白の譜表を追加で表示する表記規則をエミュレートしたい場合など、最終フローのあとにページを埋める空白の譜表を追加で表示するかどうかをレイアウトごとに設定できます。

#### 手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[L]** を押して「レイアウトオプション (Layout Options)」を開きます。

2. 「レイアウト (Layouts)」リストで、フローの終了位置のあとに空白の譜表を表示/非表示にするレイアウトを選択します。

初期設定では、楽譜領域で選択されているものと同じレイアウトが選択された状態のダイアログが表示されます。他のレイアウトを選択するには、アクションバーの選択オプションを使用するか、複数のレイアウトをまたぐようにクリックしてドラッグするか、**[Shift]** を押しながら隣接するレイアウトをクリックするか、**[Ctrl]/[command]** を押しながら個々のレイアウトをクリックします。
3. カテゴリーリストの「ページ設定 (Page Setup)」をクリックします。
4. 「フロー (Flows)」セクションで、「フレームの余白を空白の譜表で埋める (Fill frame with blank staves)」をオン/オフにします。
5. 「フレームの余白を空白の譜表で埋める (Fill frame with blank staves)」をオンにした場合は、「空白の譜表を最終フローと同じ組段で表示する (Show blank staves in systems identical to final flow)」をオン/オフにします。
6. 以下のいずれかの操作を行なって、空白の譜表の外観をカスタマイズします。
  - 「空白の譜表を最終フローと同じ組段で表示する (Show blank staves in systems identical to final flow)」をオンにした場合、前のフローに従う音部記号を空白の譜表に表示するには「音部記号を含める (Include clefs)」を選択します。
  - 「空白の譜表を最終フローと同じ組段で表示する (Show blank staves in systems identical to final flow)」をオンにした場合、空白の譜表の音部記号を非表示にするには「音部記号を含めない (Exclude clefs)」を選択します。
  - 「空白の譜表を最終フローと同じ組段で表示する (Show blank staves in systems identical to final flow)」をオフにした場合、空白の譜表の譜表線の数を変更するには「空白の譜表の譜表線の数 (Number of staff lines for blank staves)」の値を変更します。

#### 結果

「フレームの余白を空白の譜表で埋める (Fill frame with blank staves)」をオンにすると選択したレイアウトの最終フローのあとに空白の譜表が表示され、オフにすると非表示になります。表示にした場合、空白の譜表は最終フローの最後の組段の下に表示され、最後の組段が両端揃えになっていない場合は、その組段の横幅いっぱい空白の譜表が表示されます。

「空白の譜表を最終フローと同じ組段で表示する (Show blank staves in systems identical to final flow)」をオンにすると、空白の譜表は最終フローの譜表のグループ化に従います (2人のプレーヤーが割り当てられたパートレイアウトに大括弧で括られた2つの譜表を表示するなど)。オフにすると、音部記号のない空白の譜表が1つ表示されます。

#### 補足

空白の譜表に楽譜を入力したり、大括弧/中括弧を変更したりすることはできません。

#### 関連リンク

[レイアウトごとの垂直方向のスペーシングオプション \(776 ページ\)](#)

[最後の組段の両端揃え \(水平方向\) の変更 \(764 ページ\)](#)

[譜表ラベル \(1684 ページ\)](#)

[大括弧と中括弧 \(1140 ページ\)](#)

[カスタムの譜表のグループ化 \(1148 ページ\)](#)


## フレーム内に空白の譜表を表示する

たとえば、教材用の練習問題を作成する際、レイアウト内の1ページを空白の譜表で埋めて生徒が書き込めるようにしたい場合など、個々のフレームチェーンに空白の譜表を表示できます。

### 補足

- ページテンプレートの楽曲フレームとレイアウトの楽曲フレームの両方に、空白の譜表を表示できます。ただし、個々のレイアウトで空白の譜表を表示するように変更できるのはレイアウトの楽曲フレームのみであり、ページテンプレートエディターで空白の譜表を表示するように変更できるのはページテンプレートの楽曲フレームのみです。
- フレーム内に空白の譜表を表示すると、同じフレームチェーン内のすべてのフレームに影響します。
- 空白の譜表に楽譜を入力したり、楽曲フレームに表示された空白の譜表に大括弧/中括弧を表示したりすることはできません。

### 前提条件

- 浄書ツールボックスで「**フレーム (Frames)**」を選択しておきます。
- 空白の譜表を表示する追加の楽曲フレームを入力しておきます。
- 特定の楽曲フレームにのみ空白の譜表を表示するには、そのフレームを個々の楽曲フレームチェーンに割り当てておきます。
- ページテンプレートのフレームに空白の譜表を表示する場合は、ページテンプレートエディターでページテンプレートを開いておきます。

### 手順

1. 空白の譜表を表示する楽曲フレームで、「**フロー (Flows)**」 **FLOWS: All** をクリックします。

### 補足

デフォルトのページテンプレートフレームチェーン (通常は「MA」) に空白の譜表を表示することはおすすめしません。

2. セレクターの下部にある「**空白の譜表 (Blank Staves)**」をクリックします。
3. セレクターの枠外をクリックしてセレクターを閉じます。

### 結果

選択した楽曲フレームと同じフレームチェーン内のすべての楽曲フレームが更新され、空白の譜表が表示されます。ページテンプレートの楽曲フレームに空白の譜表を表示した場合は、同じ楽曲フレームチェーンを使用するページテンプレートが適用されているすべてのページに影響します。

空白の譜表の数は、フレームの高さと楽曲フレームの余白、譜表サイズ、およびレイアウト内の譜表/組段のスペーシングによって決まります。ただし、空白の譜表の数を手動で変更することもできます。

譜表線の数は、「**レイアウトオプション (Layout Options)**」の「**ページ設定 (Page Setup)**」ページにある「**空白の譜表の譜表線の数 (Number of staff lines for blank staves)**」の設定によって決まります。

### 関連リンク

[「レイアウトオプション \(Layout Options\)」 ダイアログ \(917 ページ\)](#)

[浄書ツールボックス \(554 ページ\)](#)

[フレーム \(601 ページ\)](#)

[フレームの入力 \(603 ページ\)](#)



[フレームチェーンへの楽曲フレームの割り当て \(613 ページ\)](#)

[楽曲フレームセレクター \(612 ページ\)](#)  
[ページテンプレートエディター \(581 ページ\)](#)  
[ページテンプレートの作成 \(575 ページ\)](#)  
[ページのサイズと向きの変更 \(744 ページ\)](#)  
[デフォルトの譜表サイズの変更 \(747 ページ\)](#)  
[デフォルトの譜表/組段のスペーシングを変更する \(748 ページ\)](#)  
[デフォルトの楽曲フレームの余白を変更する \(770 ページ\)](#)  
[レイアウトへのフローの割り当て \(193 ページ\)](#)  
[レイアウトへのプレーヤーの割り当て \(193 ページ\)](#)  
[大括弧と中括弧 \(1140 ページ\)](#)

## フレーム内の空白の譜表の数を変更する

たとえば、レイアウトのデフォルトの譜表/スペーシングを変更することなく、デフォルトで表示されるよりも多く空白の譜表を表示したい場合など、個々の楽曲フレームチェーンに表示する空白の譜表の数を変更できます。

前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。
- 下ゾーンのツールバーで「プロパティ (Properties)」を選択しておきます。
- 浄書ツールボックスで「フレーム (Frames)」を選択しておきます。

---

手順

1. 浄書モードで、空白の譜表を表示するように設定されている各楽曲フレームチェーンのうち、空白の譜表の数を変更する楽曲フレームを少なくとも1つ選択します。
2. プロパティパネルの「楽譜 (Music)」グループで、「空白の譜表の数 (Blank staff count)」をオンにします。
3. 数値フィールドの値を変更します。

---

結果

選択した楽曲フレームチェーンのすべての楽曲フレームに表示される空白の譜表の数を変更されます。

関連リンク

[浄書ツールボックス \(554 ページ\)](#)  
[プロパティパネル \(826 ページ\)](#)  
[フレーム内に空白の譜表を表示する \(755 ページ\)](#)  
[最終フローのあとの空白の譜表を表示/非表示にする \(753 ページ\)](#)  
[デフォルトの楽曲フレームの余白を変更する \(770 ページ\)](#)  
[楽曲フレームの余白を個別に変更する \(771 ページ\)](#)  
[譜表/組段の両端揃え \(垂直方向\) を変更する \(749 ページ\)](#)  
[楽曲フレームチェーン \(610 ページ\)](#)  
[フレームの入力 \(603 ページ\)](#)  
[フレームのサイズ/形状の変更 \(605 ページ\)](#)

## ページの挿入


たとえばページをめくりやすくするために空白のページを追加する場合など、プロジェクトの各レイアウトにページを挿入できます。挿入するページは空白にすることも、ページテンプレートを適用することもできます。

### 前提条件

- 右ゾーンを表示しておきます。
- 挿入するページに使用するページテンプレートを作成または読み込んでおきます。

---

### 手順

1. 浄書モードで、ページパネルの「**ページ (Pages)**」セクションのアクションバーで、「**ページを挿入 (Insert Pages)**」をクリックして「**ページを挿入 (Insert Pages)**」ダイアログを開きます。
2. 「**挿入するページ数 (Number of pages to insert)**」フィールドに、挿入するページの数を入力します。
3. 「**ページの位置 (Page position)**」メニューからページを挿入する位置を選択します。  
たとえば、8 ページの後にページを挿入するには、「**ページの後 (After page)**」を選択して「8」を入力します。ページ番号が変更されたページについては、それぞれの表示上のページ番号も表示されます。
4. 必要に応じて、挿入するページにひな形としてページテンプレートを使用する場合は、「**ページテンプレートを使用 (Use page template)**」メニューから選択します。
5. 「**OK**」をクリックして変更内容を保存し、ダイアログを閉じます。

---

### 結果

指定したページ数が選択した位置に挿入されます。挿入されたページはページテンプレートの優先と見なされ、左上角に色付きの三角形がついた状態でページパネルに表示されます。挿入するページにひな形として適用するページテンプレートを選択しなかった場合、挿入されたページは空白になります。レイアウト内の後続のページにページの形式変更がある場合は、それに応じて移動します。たとえば、2 ページにフロー見出しの変更が設定されており、レイアウトの始めに 1 ページ挿入した場合、フロー見出しの変更は 3 ページに移動します。

### 補足

挿入するページにページテンプレートを適用した場合でも、これはページテンプレートの優先と見なされます。ページテンプレートを編集したとき、そのページにも更新が適用されるようにする場合は、ページにページテンプレートの変更を割り当てて、ページの優先を解除することをおすすめします。

---

### 手順終了後の項目

空白ページに情報を追加する場合は、そのページを編集するか、またはプロジェクト内のすべてのパートに使用するタイトル用のページテンプレートを作成している場合などには、ページにページテンプレートを割り当てることもできます。

### 関連リンク

- [ページパネル \(562 ページ\)](#)
- [ゾーンの表示/非表示の切り替え \(48 ページ\)](#)
- [ページの形式変更 \(584 ページ\)](#)
- [ガイドページ番号の表示/非表示 \(1505 ページ\)](#)
- [ページテンプレート \(567 ページ\)](#)
- [ページテンプレートの作成 \(575 ページ\)](#)
- [ページテンプレートの読み込み \(578 ページ\)](#)


[ページへのページテンプレートの割り当て \(590 ページ\)](#)

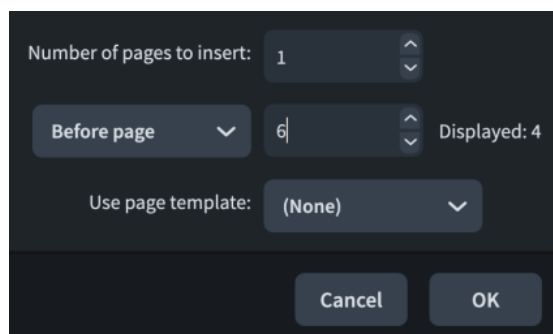
[フローの追加 \(188 ページ\)](#)

[フレーム \(601 ページ\)](#)

## 「ページを挿入 (Insert Pages)」 ダイアログ

「ページを挿入 (Insert Pages)」ダイアログを使用すると、レイアウトの任意の位置にページを挿入できます。挿入するページは空白にすることも、ページテンプレートを適用することもできます。

- 浄書モードで「ページを挿入 (Insert Pages)」ダイアログを開くには、ページパネルで「ページ (Pages)」セクションのアクションバーにある「ページを挿入 (Insert Pages)」をクリックします。



「ページを挿入 (Insert Pages)」ダイアログには以下のオプションがあります。

### 挿入するページ数 (Number of pages to insert)

挿入するページの数を変更できます。

### ページの位置

ページを挿入するレイアウト内の位置を選択できます。

- **ページの前 (Before page):** 選択したページの前にページを挿入します。
- **ページの後 (After page):** 選択したページの後にページを挿入します。
- **レイアウトの最初 (At start of layout):** レイアウトの最初のページの前にページを挿入します。
- **レイアウトの最後 (At end of layout):** レイアウトの最後のページの後にページを挿入します。

「現在のページ番号 (Displayed)」には、現在選択されているページのページ番号がどのように表示されるかがプレビューされます。レイアウト内にページ番号の変更を挿入している場合、表示されるページ番号と基本のページ番号が異なる場合があります。

### ページテンプレートを使用 (Use page template)

挿入するページにひな形としてページテンプレートを適用するかどうか選択できます。

#### 補足

挿入するページにページテンプレートを適用した場合でも、これはページテンプレートの優先と見なされます。ページテンプレートを編集したとき、そのページにも更新が適用されるようにする場合は、ページにページテンプレートの変更を割り当てて、ページの優先を解除することをおすすめします。

### 関連リンク

[ページパネル \(562 ページ\)](#)

[ページテンプレート \(567 ページ\)](#)

[ページの形式変更 \(584 ページ\)](#)

[ページへのページテンプレートの割り当て \(590 ページ\)](#)

[ページテンプレートの優先の解除 \(586 ページ\)](#)

## ページの削除

空白のページやレイアウトに追加した余分なページを削除できます。

Dorico Pro は、レイアウトとそのページテンプレートフレームチェーンに割り当てられたフローを表示するのに必要なページとフレームを自動的に作成します。特定のフレームを非表示にするためにページを削除する場合は、レイアウトまたはページテンプレートフレームチェーンからフレームを削除することをおすすめします。

ページを手動で削除する必要があるのは、空白のページとしてページを挿入した場合と、レイアウトのページに設定したページの優先が必要なくなり現在は空白のページとして表示されている場合のみです。たとえば、レイアウトの最終ページにページの優先が設定されている場合、レイアウトが短くなっても最終ページとそれ以前のページは自動的に削除されません。

前提条件

右ゾーンを表示しておきます。

---


手順

1. 浄書モードで、ページを削除するレイアウトを開きます。
2. ページパネルの「**ページ (Pages)**」セクションで、削除するページを選択します。

隣接するページを選択するには **[Shift]** を押しながらかリックし、個別のページを選択するには **[Ctrl]/[command]** を押しながらかリックします。

補足

削除できるのは、ページの形式変更と見なされるページのみです。

3. すべてのページの形式変更を解除して、選択したページを削除します。
  - 選択したページのうち左上角に赤い三角形が表示されているページがある場合は、「**ページ (Pages)**」セクションのアクションバーで「**上書きを解除 (Remove Overrides)**」をクリックします。
  - 選択したページのうち右下角に紫色の三角形が表示されているページがある場合は、いずれかのページを右クリックして、コンテキストメニューから「**ページ番号の変更を解除 (Remove Page Number Change(s))**」を選択します。
  - 選択したページのうち上辺または上辺と左辺に緑色のマークが表示されているページがある場合は、いずれかのページを右クリックして、コンテキストメニューから「**ページテンプレートの変更を解除 (Remove Page Template Change(s))**」を選択します。
  - 選択したページのうち下辺または下辺と右辺に黄色のマークが表示されているページがある場合は、いずれかのページを右クリックして、コンテキストメニューから「**フロー見出しの変更を解除 (Remove Flow Heading Change(s))**」を選択します。

---

結果

削除するページからページの優先をすべて解除すると、空白のページであれば削除されます。空白のページではない場合は、ページの優先をすべて解除することでデフォルトのページテンプレートに戻ります。

関連リンク

[ページパネル \(562 ページ\)](#)

[ゾーンの表示/非表示の切り替え \(48 ページ\)](#)

- [レイアウトの切り替え \(47 ページ\)](#)
- [フローの削除 \(190 ページ\)](#)
- [ページの形式変更 \(584 ページ\)](#)
- [ページテンプレート \(567 ページ\)](#)
- [レイアウトへのフローの割り当て \(193 ページ\)](#)
- [フレームチェーンへのフローの割り当て \(615 ページ\)](#)
- [楽曲フレームチェーン \(610 ページ\)](#)
- [レイアウトへのページテンプレートのセットの適用 \(746 ページ\)](#)

## 左側のページからレイアウトを始める

奇数ページは常に右側のページに置くという慣習があるため、初期設定ではすべてのレイアウトが右側のページから始まります。ただし、そのレイアウトでページめくりをやすくするために、個々のレイアウトが左側のページから始まるように設定できます。

### 手順

- [Ctrl]/[command]+[Shift]+[L]** を押して「**レイアウトオプション (Layout Options)**」を開きます。
- 左側のページから開始するレイアウトを「**レイアウト (Layouts)**」リストから選択します。  
初期設定では、楽譜領域で選択されているものと同じレイアウトが選択された状態のダイアログが表示されます。他のレイアウトを選択するには、アクションバーの選択オプションを使用するか、複数のレイアウトをまたぐようにクリックしてドラッグするか、**[Shift]** を押しながら隣接するレイアウトをクリックするか、**[Ctrl]/[command]** を押しながら個々のレイアウトをクリックします。
- カテゴリリストの「**ページ設定 (Page Setup)**」をクリックします。
- 「**ページ番号 (Page Numbers)**」セクションで、「**開始ページ番号 (Initial page number)**」の値を偶数に変更します。
- 「**適用 (Apply)**」をクリックしてから「**閉じる (Close)**」をクリックします。

### 結果

開始ページ番号を偶数にすると、選択したレイアウトの最初のページが左側のページに表示されます。

## 同じページに複数のフローを表示する/表示しない

たとえば複数の楽章からなる楽譜で、パートに必要なページ数を減らしたい場合など、スペースがあれば新しいフローを前のフローと同じページに表示させるかどうかを設定できます。初期設定では、パートレイアウトでは同じページに新しいフローが表示されますが、フルスコアレイアウトでは表示されません。

### 手順

- [Ctrl]/[command]+[Shift]+[L]** を押して「**レイアウトオプション (Layout Options)**」を開きます。
- 各ページに複数のフローを表示させるレイアウトを「**レイアウト (Layouts)**」リストから選択します。  
初期設定では、楽譜領域で選択されているものと同じレイアウトが選択された状態のダイアログが表示されます。他のレイアウトを選択するには、アクションバーの選択オプションを使用するか、複数のレイアウトをまたぐようにクリックしてドラッグするか、**[Shift]** を押しながら隣接するレイアウトをクリックするか、**[Ctrl]/[command]** を押しながら個々のレイアウトをクリックします。



3. カテゴリーリストの「**ページ設定 (Page Setup)**」をクリックします。
4. 「**フロー (Flows)**」セクションの「**新規フロー (New flows)**」で、以下のいずれかのオプションを選択します。
  - **常に新規ページに作成 (Always start new page)**
  - **既存ページ上での作成を許可 (Allow on existing page)**
5. 「**適用 (Apply)**」をクリックしてから「**閉じる (Close)**」をクリックします。

---

#### 結果

「**常に新規ページに作成 (Always start new page)**」を選択すると、選択したレイアウトのフローが、常に前のフローの終了位置のあとの次のページの開始位置から始まります。

「**既存ページ上での作成を許可 (Allow on existing page)**」を選択すると、選択したレイアウトのフローが、前のフローのすぐあとに続けて表示されます。十分なスペースがある場合は、同じ楽曲フレーム内に表示されます。選択したレイアウトにフロー見出しを表示するように選択している場合は、フローの開始位置の上にフロー見出しが自動的に表示されます。

#### 補足

フローが自動的に別の楽曲フレームに分割されることはありません。フローを別の楽曲フレームに分割するには、フレーム区切りを手動で挿入する必要があります。

---

#### 関連リンク

[トークン \(617 ページ\)](#)

[フレームの入力 \(603 ページ\)](#)

[配置設定 \(784 ページ\)](#)

[レイアウトへのフローの割り当て \(193 ページ\)](#)

[フローにプレーヤーを割り当てる \(189 ページ\)](#)

[フロー見出しの上の情報の表示/非表示を切り替える \(763 ページ\)](#)

[最終フローのあとの空白の譜表を表示/非表示にする \(753 ページ\)](#)

## 「最初 (First)」のページテンプレートをいつ使用するかの変更

「最初 (First)」のページテンプレートをいつ使用するかをレイアウトごとに個別に変更できます。たとえば、フルスコアレイアウトではすべてのフローの最初に使用し、パートレイアウトではたとえ後続のフローがページの一番上で始まっても最初のフローにのみ使用する場合などに便利です。

#### 補足

「最初 (First)」のページテンプレートに「**デフォルト (Default)**」のページテンプレートと同じフレームチェーンに割り当てられた楽曲フレームが含まれていない場合、Dorico Pro はそれを自動的に使用できないため、かわりにすべてのページに「**デフォルト (Default)**」のページテンプレートが使用されます。

---

#### 手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[L]** を押して「**レイアウトオプション (Layout Options)**」を開きます。
2. 「**レイアウト (Layouts)**」リストで、「**最初 (First)**」のページテンプレートをいつ使用するかを変更するレイアウトを選択します。

初期設定では、楽譜領域で選択されているものと同じレイアウトが選択された状態のダイアログが表示されます。他のレイアウトを選択するには、アクションバーの選択オプションを使用するか、複数のレイアウトをまたぐようにクリックしてドラッグするか、**[Shift]** を押しながら隣接するレ

イアウトをクリックするか、**[Ctrl]/[command]** を押しながら個々のレイアウトをクリックします。

3. カテゴリーリストの「**ページ設定 (Page Setup)**」をクリックします。
  4. 「**フロー (Flows)**」セクションで、「**「最初」のページテンプレートを使用 (Use 'First' page template)**」に以下のいずれかのオプションを選択します。
    - **常になし (Never)**
    - **最初のフローのみ (First flow only)**
    - **ページの一番上で開始するフローすべて (Any flow starting at top of page)**
  5. 「**適用 (Apply)**」をクリックしてから「**閉じる (Close)**」をクリックします。
- 

#### 結果

- 「**常になし (Never)**」を選択した場合、「**最初 (First)**」のページテンプレートは選択したレイアウト内のどのページにも使用されません。
- 「**最初のフローのみ (First flow only)**」を選択した場合、「**最初 (First)**」のページテンプレートはレイアウト内の最初のページに使用され、たとえ後続のフローがページの一番上で始まっているも他のページには使用されません。
- 「**ページの一番上で開始するフローすべて (Any flow starting at top of page)**」を選択すると、「**最初 (First)**」のページテンプレートはフローが一番上で始まるレイアウト内のすべてのページに使用されます。

#### 関連リンク

[「レイアウトオプション \(Layout Options\)」ダイアログ \(917 ページ\)](#)

[ページテンプレートの種類 \(573 ページ\)](#)

[フレームチェーンへの楽曲フレームの割り当て \(613 ページ\)](#)

## フロー見出しの表示/非表示の切り替え

たとえばプロジェクトにフローが1つだけ含まれており、プロジェクトタイトルだけを表示したい場合などに、各レイアウトのフロー見出しを個別に表示/非表示にできます。また、最初のフローの見出しを非表示にして、後続のフローのフロー見出しを表示することもできます。

---

#### 手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[L]** を押して「**レイアウトオプション (Layout Options)**」を開きます。
2. 「**レイアウト (Layouts)**」リストで、フロー見出しを表示または非表示にするレイアウトを選択します。

初期設定では、楽譜領域で選択されているものと同じレイアウトが選択された状態のダイアログが表示されます。他のレイアウトを選択するには、アクションバーの選択オプションを使用するか、複数のレイアウトをまたぐようにクリックしてドラッグするか、**[Shift]** を押しながら隣接するレイアウトをクリックするか、**[Ctrl]/[command]** を押しながら個々のレイアウトをクリックします。
3. カテゴリーリストの「**ページ設定 (Page Setup)**」をクリックします。
4. 「**フロー (Flows)**」セクションで、「**フロー見出しを表示 (Show flow headings)**」に以下のいずれかのオプションを選択します。
  - **常に表示 (Never)**
  - **最初のフロー以外 (Not for first flow)**
  - **すべてのフロー (For all flows)**

5. 「適用 (Apply)」をクリックしてから「閉じる (Close)」をクリックします。

#### 結果

「すべてのフロー (For all flows)」を選択すると、選択したレイアウトの各フローの最初の組段の上にフロー見出しが表示されます。「常になし (Never)」を選択するとフロー見出しが非表示になります。「最初のフロー以外 (Not for first flow)」を選択すると、最初のフローの最初の組段の上のフロー見出しは非表示になりますが、その他のすべてのフローの上には表示されます。

フロー見出しは、各レイアウトに設定された余白に応じて、各フローと1つ前のフローとの間に自動的に配置されます。

#### 補足

- フロー見出しはページテンプレートの楽曲フレームにのみ表示され、レイアウトの楽曲フレームには表示されません。
- 初期設定では、フロー見出しを非表示にしても2ページめ以降の上部に表示されるフロータイトルは非表示になりません。欄外見出しを変更するには、対応するページテンプレートのセットで「デフォルト (Default)」のページテンプレートをカスタマイズします。

#### 関連リンク

- [フロー見出し \(595 ページ\)](#)
- [フロー見出しのカスタマイズ \(599 ページ\)](#)
- [フロー見出しの変更の挿入 \(591 ページ\)](#)
- [同じページに複数のフローを表示する/表示しない \(760 ページ\)](#)
- [フロー見出しの上の情報の表示/非表示を切り替える \(763 ページ\)](#)
- [「プロジェクト情報 \(Project Info\)」ダイアログ \(81 ページ\)](#)
- [ページテンプレートの種類 \(573 ページ\)](#)
- [ページテンプレートの欄外見出しを編集する \(1323 ページ\)](#)
- [「最初 \(First\)」のページテンプレートをいつ使用するかの変更 \(761 ページ\)](#)
- [楽曲フレーム \(609 ページ\)](#)
- [ページテンプレートのカスタマイズ \(582 ページ\)](#)

## フロー見出しの上の情報の表示/非表示を切り替える

新規ページのフロー見出しの上にフロータイトル、ページ番号、フローページ番号が表示された場合、レイアウトごとにこれらの表示/非表示を個別に切り替えられます。印刷される楽譜では、欄外見出しの情報を非表示にすることが一般的です。

#### 手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[L]** を押して「レイアウトオプション (Layout Options)」を開きます。
2. 「レイアウト (Layouts)」リストで、フロー見出しの上の欄外見出しの情報を表示または非表示にするレイアウトを選択します。

初期設定では、楽譜領域で選択されているものと同じレイアウトが選択された状態のダイアログが表示されます。他のレイアウトを選択するには、アクションバーの選択オプションを使用するか、複数のレイアウトをまたぐようにクリックしてドラッグするか、**[Shift]** を押しながら隣接するレイアウトをクリックするか、**[Ctrl]/[command]** を押しながら個々のレイアウトをクリックします。
3. カテゴリーリストの「ページ設定 (Page Setup)」をクリックします。
4. 「フロー (Flows)」セクションの「ヘッダーのフロータイトル (Flow title in header)」で、以下のいずれかのオプションを選択します。

- フロー見出しの上に表示 (Show above flow heading)
  - フロー見出しの上では非表示 (Hide above flow heading)
5. 「ヘッダーのページ番号 (Page number in header)」で以下のいずれかのオプションを選択します。
    - フロー見出しの上に表示 (Show above flow heading)
    - フロー見出しの上では非表示 (Hide above flow heading)
  6. 「ヘッダーのフローページ番号 (Flow page number in header)」で以下のいずれかのオプションを選択します。
    - フロー見出しの上に表示 (Show above flow heading)
    - フロー見出しの上では非表示 (Hide above flow heading)
  7. 「適用 (Apply)」をクリックしてから「閉じる (Close)」をクリックします。

#### 結果

対応する情報がページ上部のフロー見出しの上に表示される際の、表示または非表示が切り替わりません。

#### 補足

欄外見出しの情報を非表示にするには、フロー見出しのフレームを含む楽譜フレームの上部が対応する情報を含んだテキストフレームの上部よりも低い位置に配置される必要があります。楽譜フレームの上部が欄外見出しのテキストフレームと同じ高さに配置されている場合、設定に関係なく、テキストフレーム内の情報は表示されます。

#### 関連リンク

[フレーム \(601 ページ\)](#)

[ページテンプレート \(567 ページ\)](#)

[ページテンプレートの欄外見出しを編集する \(1323 ページ\)](#)

[ページ番号を表示/非表示にする \(1503 ページ\)](#)

## 最後の組段の両端揃え (水平方向) の変更

フローの最後の組段を常にフレームの幅全体に広げるか、特定のフレーム使用率のしきい値を超えた場合にのみそうするかをレイアウトごとに個別に変更できます。Dorico Pro の初期設定では、フローの最後の組段は、フレームの幅全体に占める割合が 50% を超えた場合のみ両端揃えが適用されます。

#### 手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[L]** を押して「レイアウトオプション (Layout Options)」を開きます。
2. フローの最後の組段の両端揃えを変更するレイアウトを「レイアウト (Layouts)」リストから選択します。

初期設定では、楽譜領域で選択されているものと同じレイアウトが選択された状態のダイアログが表示されます。他のレイアウトを選択するには、アクションバーの選択オプションを使用するか、複数のレイアウトをまたぐようにクリックしてドラッグするか、**[Shift]** を押しながら隣接するレイアウトをクリックするか、**[Ctrl]/[command]** を押しながら個々のレイアウトをクリックします。
3. カテゴリーリストの「音符のスペーシング (Note Spacing)」をクリックします。
4. 以下のいずれかの操作を行なって、フローの最後の組段の両端揃えを変更します。

- 常にフローの最後の組段を両端揃えにするには、「フローの最後の組段に両端揃えを適用 [n] % 以上の場合 (Only justify final system in flow when more than [n] % full)」をオフにします。
- 最後の組段が全体の何 % を超えたら両端揃えを適用するかを変更するには、「フローの最後の組段に両端揃えを適用 [n] % 以上の場合 (Only justify final system in flow when more than [n] % full)」の値を変更します。

5. 「適用 (Apply)」をクリックしてから「閉じる (Close)」をクリックします。

#### 結果

選択したレイアウトのフローの最後の組段の自動両端揃えが変更されます。

#### ヒント

組段の開始位置/終了位置を変更することで、デフォルト設定とは別に、個々の組段の幅を変更することもできます。

#### 例



フレーム使用率のしきい値に満たない最後の組段 (調整前)      最後の組段を調整した状態

#### 関連リンク

- [音符のスペーシング \(643 ページ\)](#)
- [組段の開始位置/終了位置の移動 \(651 ページ\)](#)
- [最初の組段のインデントの変更 \(1720 ページ\)](#)
- [コーダの前の間隔を変更する \(1606 ページ\)](#)
- [組段あたりの小節数を固定 \(785 ページ\)](#)
- [最終フローのあとの空白の譜表を表示/非表示にする \(753 ページ\)](#)
- [空白の小節で小節休符を表示/非表示にする \(1647 ページ\)](#)
- [休符の削除 \(1646 ページ\)](#)

## コンデンシングの有効化/無効化

コンデンシングをレイアウトごとに有効化/無効化できます。セクションプレーヤーとディヴィジ譜表のコンデンシング用にそれぞれ個別のオプションがあります。たとえば、大規模なオーケストラや合唱の楽譜を作成する際、フルスコアにはコンデンシングされた声楽の譜表を表示し、カスタムボーカルスコアにはコンデンシングされていない声楽の譜表を表示できます。

同様に、フルスコアではディヴィジ譜表をコンデンシングし、パートレイアウトではディヴィジ譜表を別々に表示することもできます。

#### 重要

プロジェクト内のいずれかのレイアウトでコンデンシングを有効にすると、多くの計算が必要になるため、Dorico Pro の動作が遅くなることがあります。そのため、音符や記譜記号の入力、あるいはフローの追加など、必要な作業の大半を終わらせてからコンデンシングを有効にすることをおすすめします。

#### 前提条件

各インストゥルメントの音符と記譜記号を個別の譜表に入力しておきます。複数のパートの楽譜を同じ譜表に入力している場合は、楽譜をエクスポートできます。

---

#### 手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[L]** を押して「**レイアウトオプション (Layout Options)**」を開きます。
  2. 「**レイアウト (Layouts)**」リストから、コンデンシングを有効または無効にするレイアウトを選択します。  
初期設定では、楽譜領域で選択されているものと同じレイアウトが選択された状態のダイアログが表示されます。他のレイアウトを選択するには、アクションバーの選択オプションを使用するか、複数のレイアウトをまたぐようにクリックしてドラッグするか、**[Shift]** を押しなが隣接するレイアウトをクリックするか、**[Ctrl]/[command]** を押しなが個々のレイアウトをクリックします。
  3. カテゴリーリストの「**プレーヤー (Players)**」をクリックします。
  4. 「**コンデンシング (Condensing)**」セクションで、「**コンデンシングを有効にする (Enable condensing)**」をオンまたはオフにします。
  5. 「**セクションプレーヤー (Section players)**」で以下のいずれかのオプションを選択します。
    - **コンデンシングから除外 (Exclude from condensing)**
    - **ディヴィジをコンデンシングする (Condense divisi)**
    - **ディヴィジおよび隣接するプレーヤーをコンデンシングする (Condense divisi and adjacent players)**
  6. 「**ディヴィジおよび隣接するプレーヤーをコンデンシングする (Condense divisi and adjacent players)**」を選択した場合は、必要に応じて「**隣接するバイオリンセクションプレーヤーをコンデンシングから除外 (Exclude adjacent violin section players from condensing)**」をオン/オフにします。
  7. 「**適用 (Apply)**」をクリックしてから「**閉じる (Close)**」をクリックします。
- 

#### 結果

「**コンデンシングを有効にする (Enable condensing)**」のチェックボックスがオンになっているときは選択したレイアウトのシングルプレーヤーのコンデンシングが有効になり、オフになっているときは無効になります。セクションプレーヤーとディヴィジ譜表のコンデンシングは「**セクションプレーヤー (Section players)**」の選択によって異なります。

「**適用 (Apply)**」をクリックすると、利用できるコンデンシンググループのリストが変更内容に応じて更新されます。

#### 補足

- 記譜モードでは、コンデンシングされた譜表では何も選択できません。浄書モードでは、コンデンシングされた譜表上の音符やアイテムを選択できますが、編集できるのは表示上の要素のみです。
- たとえば間隔の小さい音符の幅に合わせる必要があるなど、コンデンシングされた楽譜に必要なスペーシングは、多くの場合、コンデンシングされていない楽譜とは異なります。そのため、コンデンシングを有効にするとレイアウト内の配置設定が変化することがあります。
- コンデンシングはギャラリービューでは有効になりません。現在のレイアウトでコンデンシングを無効にすることなくすべての譜表を別々に表示するには、ギャラリービューに切り替えます。
- ディヴィジ作成のソロ譜表はコンデンシングされません。
- 「**編集 (Edit)**」 > 「**コンデンシング (Condensing)**」を選択してコンデンシングを有効または無効にすることもできます。「**環境設定 (Preferences)**」の「**キーボードショートカット (Key**

**Commands)」** ページで、このコマンドにキーボードショートカットを割り当てることもできます。この操作によって、楽譜領域で現在開かれているレイアウトのみのレイアウトオプションが自動的に更新されます。

---

#### 手順終了後の項目

- レイアウトごとにカスタムコンデンシンググループを作成し、まとめてコンデンシングする譜表を制御できます。また、コンデンシンググループを個別に含めたり除外したりすることもできます。
- コンデンシング結果をより詳細に制御したい場合は、選択したい位置から先のコンデンシングを手動で変更できます。

#### 関連リンク

[コンデンシング \(799 ページ\)](#)

[コンデンシンググループ \(808 ページ\)](#)

[コンデンシングされた譜表の譜表ラベル \(1699 ページ\)](#)

[任意の位置からコンデンシングオプションを変更する \(810 ページ\)](#)

[「環境設定 \(Preferences\)」ダイアログの「キーボードショートカット \(Key Commands\)」ページ \(64 ページ\)](#)

[ギャラリービューまたはページビューへの切り替え \(54 ページ\)](#)

[音符の入力 \(247 ページ\)](#)

[記譜記号の入力 \(298 ページ\)](#)

[複数の譜表への楽譜のエクスポード \(510 ページ\)](#)

[複数の譜表に音符と記譜記号を入力する \(261 ページ\)](#)

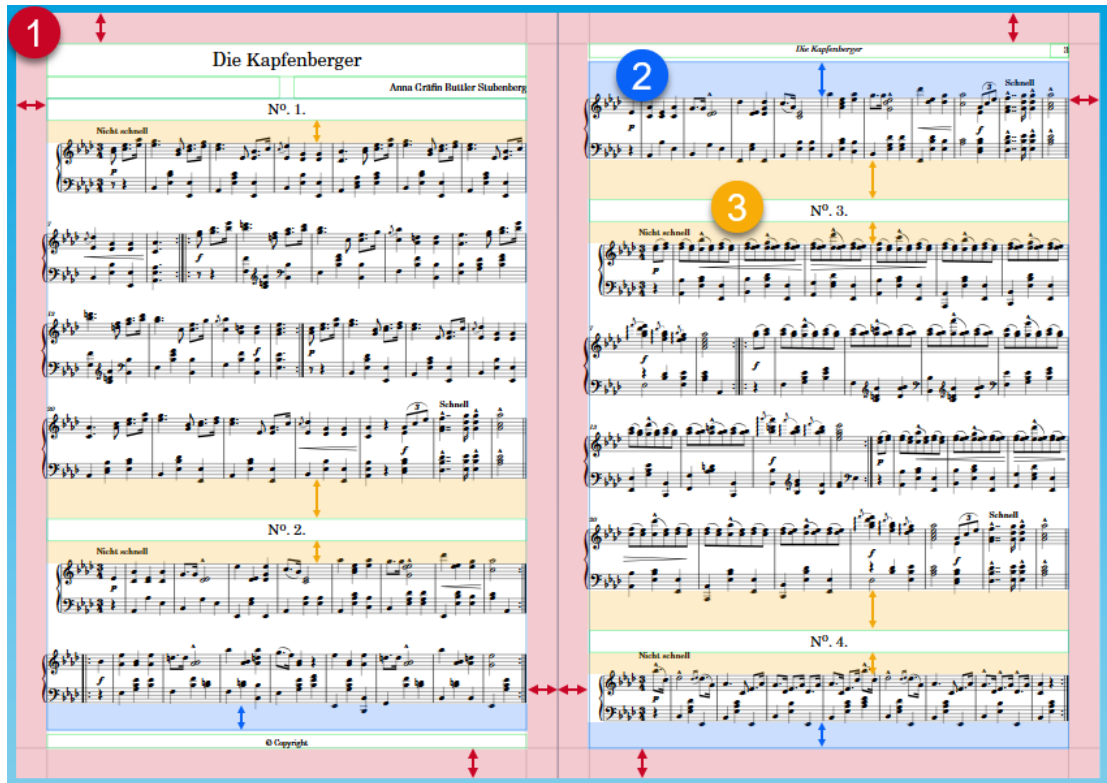
[デフォルトのプレイヤーの順番の変更 \(137 ページ\)](#)

[プレイヤー \(135 ページ\)](#)

[ディヴィジ \(1722 ページ\)](#)

## 余白

余白は、ページ上の楽譜を取り囲むスペーシングを定義するものです。たとえば各ページの4辺や、フロー見出しの上下などです。



Dorico Pro には、以下のタイプの余白があります。

### 1 ページ余白

ページの4辺と楽譜の内容の範囲との間隔です。たとえば水平方向に両端揃えされた組段は、左右のページ余白の間でページ幅いっぱいには伸ばされません。フレームはページ余白を越えては配置できません。

### 2 楽曲フレームの余白

楽曲フレームの上下に設けられる間隔です。

- 楽曲フレームの上側余白は、楽曲フレームの上端と、フレーム内の一番上の譜表の第5線との間隔を設定します。
- 楽曲フレームの下側余白は、楽曲フレームの下端と、フレーム内の一番下の譜表の第1線との間隔を設定します。

### 3 フロー見出しの余白

フロー見出しの上下の間隔です。フロー見出しが楽曲フレームの上部に配置されている場合、楽曲フレームの上側余白は、楽曲フレーム自体の余白よりむしろフロー見出しの下側余白で設定されます。

- フロー見出しの上側余白は、先行するフローがある場合、フロー見出しの上側と先行するフローの第1線との間隔を設定します。
- フロー見出しの下側余白は、フロー見出しの下側と続くフローの第5線との間隔を設定します。



## 補足

一番上の譜表の上および一番下の譜表の下の音符や記譜記号が余白にはみ出します。

---

### 関連リンク

- [楽曲フレーム \(609 ページ\)](#)
- [フロー見出し \(595 ページ\)](#)
- [ページ余白の変更 \(745 ページ\)](#)
- [楽曲フレームの余白を個別に変更する \(771 ページ\)](#)
- [タチェットの上下の余白を変更する \(798 ページ\)](#)
- [ページのサイズと向きの変更 \(744 ページ\)](#)
- [デフォルトの譜表/組段のスペーシングを変更する \(748 ページ\)](#)
- [譜表/組段の両端揃え \(垂直方向\) を変更する \(749 ページ\)](#)
- [最後の組段の両端揃え \(水平方向\) の変更 \(764 ページ\)](#)
- [組段密度表示 \(566 ページ\)](#)
- [フレーム密度表示 \(567 ページ\)](#)

## フロー見出しの上下の余白を変更する

フロー見出しの上下の余白を変更して、1 つ前のフローとフロー見出しとの間の間隔およびフロー見出しと次のフローの開始位置との間隔を制御できます。

### 前提条件

フロー見出しの上下の余白を変更するレイアウトにフロー見出しを表示しておきます。

---

### 手順

- [Ctrl]/[command]+[Shift]+[L]** を押して「**レイアウトオプション (Layout Options)**」を開きます。
  - 「**レイアウト (Layouts)**」リストで、フロー見出しの上下の余白を変更するレイアウトを選択します。  
初期設定では、楽譜領域で選択されているものと同じレイアウトが選択された状態のダイアログが表示されます。他のレイアウトを選択するには、アクションバーの選択オプションを使用するか、複数のレイアウトをまたぐようにクリックしてドラッグするか、**[Shift]** を押しながら隣接するレイアウトをクリックするか、**[Ctrl]/[command]** を押しながら個々のレイアウトをクリックします。
  - カテゴリリストの「**ページ設定 (Page Setup)**」をクリックします。
  - 「**フロー (Flows)**」セクションで、以下のオプションのいずれかまたは両方を変更します。
    - フロー見出しの上側余白 (Flow heading top margin)
    - フロー見出しの下側余白 (Flow heading bottom margin)
  - 「**適用 (Apply)**」をクリックしてから「**閉じる (Close)**」をクリックします。
- 

### 結果

選択したレイアウトのフロー見出しの上下の余白が変更されます。

- 「**フロー見出しの上側余白 (Flow heading top margin)**」は、フロー見出しの上部と1 つ前のフローの終了位置との間の間隔を設定します。
- 「**フロー見出しの下側余白 (Flow heading bottom margin)**」は、フロー見出しの下部と次のフローの開始位置との間の間隔を設定します。

たとえば、下側余白を「0」に設定した場合、フロー見出しの一番下のフレームの下部が、フロー見出しの下にあるフローの最初の組段の第5線に重なります。

## 補足

- 個々のページのフロー見出しの上下の余白を変更するには、フロー見出しの変更を挿入し、その位置で余白を変更します。
- 個々のフロー見出しを上下に移動するには、フロー見出しを適用するフローの最初の組段の組段ハンドルを動かします。フロー見出しのフレームを個別に移動することもできますが、そうするとページテンプレートの上書きが設定されるため、あとでページテンプレートを変更した場合などにページが更新されなくなります。

## 例



上下の余白がデフォルトのフロー見出し



上下の余白を減らしたフロー見出し

## 関連リンク

- [フロー見出し \(595 ページ\)](#)
- [レイアウトごとの垂直方向のスペーシングオプション \(776 ページ\)](#)
- [フロー見出しのカスタマイズ \(599 ページ\)](#)
- [フロー見出しの変更の挿入 \(591 ページ\)](#)
- [個々の譜表/組段の垂直方向の移動 \(779 ページ\)](#)
- [ページの形式変更 \(584 ページ\)](#)
- [使用されるコードダイアグラムのグリッドを表示/非表示にする \(1180 ページ\)](#)
- [タチェットの上下の余白を変更する \(798 ページ\)](#)

## デフォルトの楽曲フレームの余白を変更する

すべての楽曲フレームのデフォルトの余白をレイアウトごとに個別に変更できます。たとえば、譜表の上にとくさんの音符があるパートレイアウトで楽曲フレームの上部の余白を広げたい場合などに便利です。

## 手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[L]** を押して「**レイアウトオプション (Layout Options)**」を開きます。
2. 楽曲フレームの余白を変更するレイアウトを「**レイアウト (Layouts)**」リストから選択します。  
初期設定では、楽譜領域で選択されているものと同じレイアウトが選択された状態のダイアログが表示されます。他のレイアウトを選択するには、アクションバーの選択オプションを使用するか、複数のレイアウトをまたぐようにクリックしてドラッグするか、**[Shift]** を押しながら隣接するレイアウトをクリックするか、**[Ctrl]/[command]** を押しながら個々のレイアウトをクリックします。
3. カテゴリリストの「**ページ設定 (Page Setup)**」をクリックします。
4. 「**楽曲フレームの余白 (Music Frame Margins)**」セクションで、以下のオプションのいずれかまたは両方を変更します。
  - **上 (Top)**

- **下 (Bottom)**

5. 「適用 (Apply)」をクリックしてから「閉じる (Close)」をクリックします。

---

結果

選択したレイアウトのすべての楽曲フレームの余白が変更されます。

- 「上 (Top)」は、楽曲フレームの上端と、フレーム内の一番上の譜表の第 5 線との間隔を設定します。
- 「下 (Bottom)」は、楽曲フレームの下端と、フレーム内の一番下の譜表の第 1 線との間隔を設定します。

たとえば、楽曲フレームの下部の余白を「0」に設定すると、フレーム内の一番下の譜表の第 1 線が楽曲フレームの下端に揃えられます。

補足

- 一番上の譜表の上および一番下の譜表の下の音符や記譜記号が楽曲フレームの余白にはみ出しません。
  - 楽曲フレームの余白をページごとに変更するには、楽曲フレームの余白を個別に変更します。
- 

関連リンク

[ページ余白の変更 \(745 ページ\)](#)



[デフォルトの譜表/組段のスペーシングを変更する \(748 ページ\)](#)

[使用されるコードダイアグラムのグリッドを表示/非表示にする \(1180 ページ\)](#)

## 楽曲フレームの余白を個別に変更する

個々の楽曲フレームの上部/下部の余白を、レイアウトの楽曲フレームの余白の設定とは別に変更できます。

前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。
  - 下ゾーンのツールバーで「プロパティ (Properties)」を選択しておきます。
  - 浄書ツールボックスで「フレーム (Frames)」を選択しておきます。
  - ページテンプレートで楽曲フレームの余白を変更する場合は、ページテンプレートエディターでページテンプレートを開いておきます。
- 

手順

1. 浄書モードで、余白を変更する楽曲フレームを選択します。
  2. プロパティパネルの「楽譜 (Music)」グループで、以下のプロパティを片方または両方ともオンにします。
    - **上余白 (Top padding)**
    - **下余白 (Bottom padding)**
  3. 数値フィールドの値を変更します。
- 

結果

選択した楽曲フレームの上部/下部の余白が変更されます。

- 「上余白 (Top padding)」は、選択した楽曲フレームの上端と、各フレーム内の一番上の譜表の第 5 線との間隔を設定します。

- 「**下余白 (Bottom padding)**」は、選択した楽曲フレームの下端と、各フレーム内の一番下の譜表の第1線との間隔を設定します。

たとえば、下余白を「0」に設定すると、フレーム内の一番下の譜表の第1線が楽曲フレームの下端に揃えられます。

#### 補足

- プロパティをオフにすると、選択した楽曲フレームが、レイアウトの楽曲フレームの余白の設定に戻ります。
- レイアウト内のページのフレームの余白を変更した場合は、そのレイアウトにのみ反映され、ページの形式変更の一種であるページテンプレートの優先が設定されます。ページテンプレートのフレームの余白を変更した場合は、そのページテンプレートを使用しているすべてのレイアウトのすべてのページに反映されます。
- 一番上の譜表の上および一番下の譜表の下の音符や記譜記号が楽曲フレームの余白にはみ出しません。

#### 関連リンク

[ページテンプレートエディター \(581 ページ\)](#)

[ページテンプレートのカスタマイズ \(582 ページ\)](#)

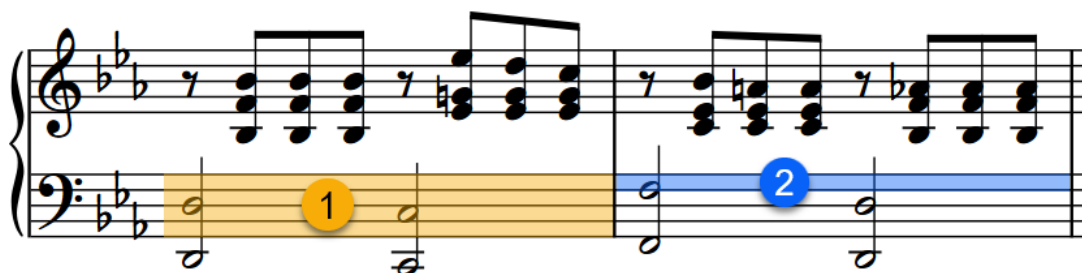
[ページの形式変更 \(584 ページ\)](#)

## 譜表サイズ

譜表サイズとは、譜表の一番上の線から一番下の線までの距離を意味し、ポイントか、あるいはミリメートルなどのサポートされている別の基準単位で表現されます。個々の譜表については、レイアウトのデフォルトの譜表サイズに対する倍率によるサイズを使用できます。最適な譜表サイズはレイアウトの用途により異なります。

たとえば、個々のパートレイアウトは演奏者が読みやすいように音符を十分に大きく表示しなければなりません。非常に密度の高いフルオーケストラのスコアでは譜表サイズを小さくする必要があります。密度の高いスコアで譜表サイズが大きすぎる場合、譜表が重なり合って楽譜が読めないものになってしまいます。

Dorico Pro では、譜表サイズの設定には、五線のサイズと線間の高さのうち、選択中のレイアウトに適切な方を使用できます。



- 1 五線のサイズとは、譜表の一番下の線から一番上の線までの全体のサイズです。
- 2 線間の高さとは、譜表線2本の間の距離です。

「**レイアウトオプション (Layout Options)**」で各レイアウトの譜表サイズを変更するとき、プリセットの五線のサイズからいずれか1つを使用することをおすすめします。これらは伝統的で一般的とされ、楽譜の浄書において広く使用されている譜表サイズに基づいているからです。

#### 補足

譜表のサイズは組段オブジェクトのサイズにも影響を与える場合があります。

---

#### 関連リンク

- [組段オブジェクト \(1717 ページ\)](#)
- [優先する基準単位の変更 \(55 ページ\)](#)
- [デフォルトの譜表サイズの変更 \(747 ページ\)](#)
- [譜表のスペーシング \(776 ページ\)](#)

## 組段/フレーム区切りからの譜表サイズの変更



レイアウト内の組段/フレーム区切りの位置から先のすべての譜表の譜表サイズを変更できます。たとえば、譜表が多いページだけ小さな譜表を使用し、他の譜表が少ないページでは大きな譜表を使用するなどできます。

#### 補足

組段オブジェクトのフォントスタイルのサイズが「**譜表との相対値 (Staff-relative)**」に設定されている場合、インストゥルメントファミリーの大括弧で括られたグループの最上段の譜表の譜表サイズにより、その上に表示される組段オブジェクトのサイズが影響されます。フォントスタイルが「**絶対値 (Absolute)**」に設定されている場合、譜表サイズによる影響は受けません。

---

#### 前提条件

- 譜表サイズの変更を開始する位置に、組段/フレーム区切りを挿入しておきます。
- 組段/フレーム区切りの位置にはガイドが表示されます。
- 下ゾーンを表示しておきます。
- 下ゾーンのツールバーで「**プロパティ (Properties)**」を選択しておきます。
- 浄書ツールボックスで「**グラフィックの編集 (Graphic Editing)**」を選択しておきます。

#### 手順

1. 浄書モードで、譜表サイズの変更を開始する位置の組段/フレーム区切りのガイドを選択します。
  2. プロパティパネルの「**形式 (Format)**」グループで、「**線間の高さ (Space size)**」をオンにします。
  3. 数値フィールドの値を変更します。
- 

#### 結果

次の譜表サイズ変更がある位置かフローの終了位置のいずれか早い方まで、レイアウト内のすべての譜表の譜表サイズが変更されます。

初期設定では、次のフローにはそのレイアウトのデフォルトの譜表サイズが使用されます。

#### 関連リンク

- [浄書ツールボックス \(554 ページ\)](#)
- [デフォルトの譜表サイズの変更 \(747 ページ\)](#)
- [組段区切りの挿入 \(790 ページ\)](#)
- [フレーム区切りの挿入 \(793 ページ\)](#)
- [組段区切りガイドの表示/非表示の切り替え \(791 ページ\)](#)
- [フレーム区切りガイドの表示/非表示 \(795 ページ\)](#)

## 個別のプレイヤーの譜表サイズの変更


各フロー全体の個別のプレイヤーに属するすべての譜表のサイズを、現在のレイアウトでのみ、他のプレイヤーの譜表から独立した形で変更できます。たとえばピアノの伴奏パートには、ソロインストゥルメントが小さな譜表で表示されることがよくあります。

譜表のサイズは、レイアウトの標準の譜表サイズに対する割合で表現される一定の縮尺サイズ、またはカスタム尺度に変更できます。

### ヒント

パッセージの代替バージョンを表現するために譜表サイズを変更する場合は、この機能のかわりに、特定の領域に表示できるオssia譜表を追加します。

### 前提条件

浄書モードの場合は、浄書ツールボックスで「**グラフィックの編集 (Graphic Editing)**」を選択しておきます。

### 手順

1. サイズを変更する譜表からアイテムを1つ選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。

### 補足

譜表のサイズは一度に1つずつしか変更できません。

2. 「**編集 (Edit)**」 > 「**記譜 (Notations)**」 > 「**譜表サイズ (Staff Size)**」 > [譜表サイズ]を選択します。このオプションはコンテキストメニューでも選択できます。
3. 「**カスタムの譜表サイズ (Custom Staff Size)**」を選択した場合、それに応じて開く「**カスタムの譜表サイズ (Custom Staff Size)**」ダイアログで譜表サイズを設定します。

### 結果

選択したプレイヤーに割り当てられたすべての譜表のサイズが、現在のレイアウトでのみ、フロー全体で変更されます。

これは、レイアウト内すべての譜表サイズ変更や、特定の組段/フレーム区切りからの譜表サイズ変更など、他の譜表サイズ変更の方法と組み合わせても使用できます。

### 補足

組段オブジェクトのフォントスタイルのサイズが「**譜表との相対値 (Staff-relative)**」に設定されている場合、インストゥルメントファミリーの大括弧で括られたグループの最上段の譜表の譜表サイズにより、その上に表示される組段オブジェクトのサイズが影響されます。フォントスタイルが「**絶対値 (Absolute)**」に設定されている場合、譜表サイズによる影響は受けません。

例



ピアノパートの上に小さく譜表が付いた例

関連リンク

[「フォントスタイルを編集 \(Edit Font Styles\)」ダイアログ \(930 ページ\)](#)

[大括弧と中括弧 \(1140 ページ\)](#)

[組段オブジェクト \(1717 ページ\)](#)

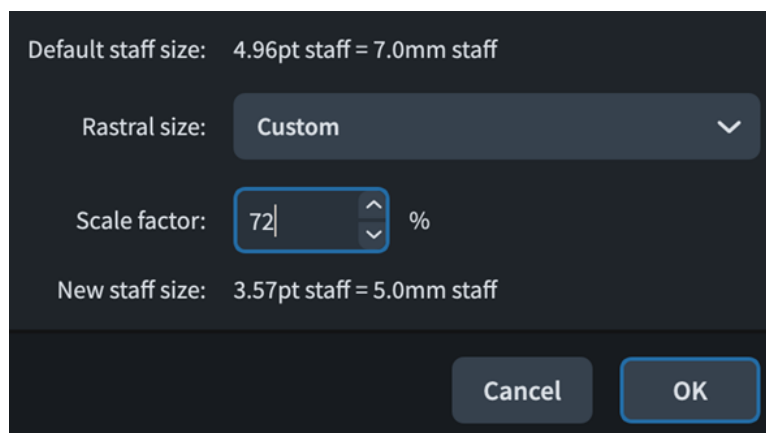
[オssia譜表の追加 \(1711 ページ\)](#)

[浄書ツールボックス \(554 ページ\)](#)

## 「カスタムの譜表サイズ (Custom Staff Size)」ダイアログ

「カスタムの譜表サイズ (Custom Staff Size)」ダイアログでは、個々の譜表のサイズをカスタムの倍率で変更できます。

- 「カスタムの譜表サイズ (Custom Staff Size)」ダイアログを開くには、譜表上でアイテムを 1 つ選択して「編集 (Edit)」 > 「記譜 (Notations)」 > 「譜表サイズ (Staff Size)」 > 「カスタムの譜表サイズ (Custom Staff Size)」を選択します。



「カスタムの譜表サイズ (Custom Staff Size)」のダイアログには以下のオプションがあります。

### デフォルトの譜表サイズ (Default staff size)

現在のレイアウトの譜表のデフォルトのサイズを表示します。このサイズは、「レイアウトオプション (Layout Options)」の「ページ設定 (Page Setup)」ページで設定を行ないます。

デフォルトの譜表サイズは、ポイントと優先する基準単位の両方で表現されます。

### 五線のサイズ (Rastral size)

カスタムの譜表サイズの基礎となる五線のサイズを選択できます。

### 倍率

選択した五線のサイズに対する割合でカスタムの譜表サイズを設定します。

### 新規の譜表サイズ

ダイアログで行なった変更の結果として得られた、選択した譜表の新規の譜表サイズを表示します。

新規の譜表サイズは、ポイントと優先する基準単位の両方で表現されます。

## 譜表のスペーシング

フレーム内の譜表や組段の垂直位置は、譜表のスペーシングと呼ばれます。譜表のスペーシングの計算には、譜表の高さおよび譜表と組段との間に必要な間隔が考慮されます。

プロジェクトの譜表のスペーシングをさまざまなレベルで変更できます。

- 「**レイアウトオプション (Layout Options)**」で、各レイアウトのデフォルトの譜表のスペーシングを変更します。
- 個々の譜表間の譜表のスペーシングを変更します。

### 補足

- Dorico Pro では、ほとんどの場合、個々の譜表を移動しなくても適切な結果が得られるため、個々の譜表を移動する前に、デフォルトの譜表のスペーシングの値を調整したり、レイアウト内の譜表サイズを変更したりすることをおすすめします。
- 譜表を個別に動かす前に、別のページを追加してページの配置を完成させることをおすすめします。個別の譜表のスペーシング変更があるフレームが変更されると、譜表のスペーシングの変更は自動的に削除されます。
- 個別の譜表/組段を垂直に移動させても、配置設定には影響しません。フレーム内に表示される組段数を増加/減少させたい場合は、フレーム区切りを使用したりフレームごとに固定の組段数を設定したりして配置設定を変更できます。

### 関連リンク

[「レイアウトオプション \(Layout Options\)」ダイアログ \(917 ページ\)](#)

[譜表サイズ \(772 ページ\)](#)

[譜表 \(1703 ページ\)](#)

[浄書ツールボックス \(554 ページ\)](#)

[フレーム密度表示 \(567 ページ\)](#)

[デフォルトの譜表/組段のスペーシングを変更する \(748 ページ\)](#)

[テキストの衝突回避の有効化/無効化 \(1770 ページ\)](#)

[ギャラリービューでの譜表のスペーシングを変更する \(779 ページ\)](#)

[デフォルトの譜表サイズの変更 \(747 ページ\)](#)

[余白 \(768 ページ\)](#)

[配置設定 \(784 ページ\)](#)

[フレーム区切り \(792 ページ\)](#)

[選択部分をフレームに変換 \(794 ページ\)](#)

[他の組段への小節移動 \(786 ページ\)](#)

[フレームあたりの組段数の固定 \(786 ページ\)](#)

[音符のスペーシング \(643 ページ\)](#)

## レイアウトごとの垂直方向のスペーシングオプション

Dorico Pro には、デフォルトの垂直方向のスペーシングと譜表の両端揃えをレイアウトごとでコントロールできるオプションが複数備わっています。

- レイアウトごとの垂直方向のスペーシングのオプションを開くには、「**レイアウトオプション (Layout Options)**」ダイアログを開いて、カテゴリーリストで「**垂直方向のスペーシング (Vertical Spacing)**」をクリックします。



「**垂直方向のスペーシング (Vertical Spacing)**」 ページには、以下のセクションとオプションが含まれます。

## 最適間隔 (Ideal Gaps)

譜表や組段などの複数の組み合わせが含まれており、組み合わせごとに使用する間隔を設定できます。Dorico Pro のギャラリービューでは譜表とアイテムの衝突を自動的に解消しないため、ギャラリービューでの譜表間隔のデフォルトの拡大率も設定できます。オプションと一緒に表示される図は、オプションが適用される組み合わせを示します。

Dorico Pro は、設定された最適間隔よりも譜表間隔を狭めないため、許容範囲内の最小値に設定することをおすすめします。設定値が小さければ小さいほど、Dorico Pro が譜表のスペーシングを決定する際に柔軟に対応できます。これはたとえば、強弱記号が含まれている譜表間隔をより広く取るために、強弱記号が含まれていない譜表間隔を狭める場合など、内容の多いフレームで特に役立ちます。また、オプションの設定時にプロジェクト全体を考慮できるため、垂直方向のスペーシングの設定は音符やアイテムの入力後がおすすめです。

譜表や組段の組み合わせによっては、異なる方法で垂直方向の調整が行なわれます。

- 「**譜表から譜表まで (Staff to staff)**」、「**譜表グループから譜表まで Staff group to staff**」、「**譜表から譜表グループ (Staff to staff group)**」、「**譜表グループから譜表グループ (Staff group to staff group)**」、「**組段内間隔 (Inter-system gap)**」、「**タイムコード譜表から譜表まで (Timecode staff to staff)**」

これらの組み合わせの間隔は、垂直方向の調整が行なわれるフレーム内では適用されません。

- 「**連合譜表から連合譜表 (Braced staff to braced staff)**」、「**連合譜表から連合譜表ではない譜表 (Braced staff to unbraced staff)**」、「**オssia譜表から譜表まで (Ossia staff to staff)**」

連合譜表とオssia譜表は垂直に揃えられないため、垂直方向の調整が行なわれるフレーム内でも間隔が常に適用されます。追加の譜表も含まれます。

### 補足

- 「**譜表から譜表まで (Staff to staff)**」の間隔を使用している場合、ディヴィジ譜表は垂直に揃えられます。「**連合譜表から連合譜表 (Braced staff to braced staff)**」の間隔を使用している場合、各ディヴィジセクションの譜表は連合譜表に設定された間隔のみを使用し、垂直には揃えられません。
- レイアウトの譜表が非常に近い場合は、譜表サイズを小さくすることで良い結果を得られることもあります。
- レイアウトの各フレームに含めることのできる組段数を決定する際には、譜表の高さ、譜表間の最小間隔、位置が極端に高い/低い音符と譜表の最大距離、ペダル線やテンポ記号といった垂直方向のスペースを必要とするその他のアイテムなどが反映されます。ただし、この計算は垂直方向のスペーシングが決定する前に実行されるため、最終的には最適な数よりも多いまたは少ない組段数がフレームに割り当てられる場合があります。このような場合、固定の配置設定と組段/フレーム区切りを使用してフレーム内に表示される組段を変更できます。

## 最小値 (Minimum Gaps)

アイテムを伴う譜表の最小間隔に関するオプションが含まれます。

- 「**隣り合う譜表と組段の衝突を自動的に解消する (Automatically resolve collisions between adjacent staves and systems)**」: このオプションがオンの場合は、Dorico Pro が譜表と組段の間にスペースを追加することで衝突を自動的に解消します。オフの場合は、垂直方向のスペーシングで設定した間隔のみが使用されるため譜表や組段は等しく配置されますが、アイテムの衝突が起こる可能性があります。
- 「**内容を伴う譜表間の最小間隔 (Minimum inter-staff gap with content)**」: アイテムが含まれる譜表間で使用可能にするスペースを設定できます。

- 「内容を伴う組段間の最小間隔 (Minimum inter-system gap with content)」: アイテムが含まれる組段間で使用可能にするスペースを設定できます。

#### 補足

最小間隔は配置設定には影響しません。たとえば、「内容を伴う組段間の最小間隔 (Minimum inter-system gap with content)」の値を大きくすると、ページ上の組段の上下のスペースが変更されますが、組段が後ろのページに押し出されることはありません。かわりに、最適間隔を変更できます。

## 両端揃え (垂直方向)

譜表または組段において、自動的に垂直方向の調整が行なわれるフレーム使用率のしきい値の上限を設定するオプションが含まれます。

- 「譜表間および組段間の距離を調整する [n] % 以上のフレーム使用率の場合 (Justify distance between staves and systems when frame is at least [n]% full)」: フレームの使用率がこのしきい値を超えた場合、フレームに含まれるすべての譜表と組段が自動的に垂直方向に調整され、フレームの高さに合わせて等しく配置されます。フレームの使用率がこのしきい値より低い場合は、自動的に調整されず、譜表は最適間隔の設定に従います。これにより、一番下の譜表/組段とフレームの下部との間に間隔が空く場合があります。
- 「組段間の距離のみを調整する [n] % 以上のフレーム使用率の場合 (Justify distance only between systems when frame is at least [n]% full)」: フレームの使用率がこのしきい値を超えた場合、フレームに含まれる組段間の距離のみが調整されます。譜表はレイアウトごとの最適間隔の設定に従います。これにより、非常に混み合ったページでも組段間に十分な距離が保たれます。
- 「単一の段組のフレームがこのしきい値を超えた場合に譜表間の距離を調整する (Justify staves when frame with single system is above this threshold)」: このオプションがオンの場合、単一の組段に含まれる譜表において、設定したしきい値よりを超えるすべての譜表が垂直方向に調整され、フレームの高さに合わせて等しく配置されます。

## 譜表の表示/非表示 (Staff Visibility)

レイアウト内の空白の譜表のうち、どの譜表をどこから非表示にするかを設定するオプションが含まれます。

- 「空白の譜表を非表示 (Hide empty staves)」: 空白の譜表をどこから非表示にするかを選択できます。たとえば、一般的には最初の組段では空白の譜表を含むすべての譜表を表示しますが、これは必ずしも必須ではありません。
- 「複数の譜表を持つインストゥルメントの個々の譜表を非表示にする (Allow individual staves of multi-staff instruments to be hidden)」: 複数の譜表を持つインストゥルメントに含まれる個々の空白の譜表を非表示にするか、複数の譜表を持つインストゥルメントのすべての譜表を常に表示するかを選択できます。
- 「「空白の譜表を非表示」を適用しないプレイヤー (Players excluded from Hide Empty Staves)」: プレイヤーに非表示になるはずの空白の譜表が組段に含まれている場合でも、すべての譜表を常に表示する特定のプレイヤーを選択できます。

#### 関連リンク

[「レイアウトオプション \(Layout Options\)」 ダイアログ \(917 ページ\)](#)

[デフォルトの譜表/組段のスペーシングを変更する \(748 ページ\)](#)

[フレーム密度表示 \(567 ページ\)](#)

[ページ形式設定 \(742 ページ\)](#)

[配置設定 \(784 ページ\)](#)

[余白 \(768 ページ\)](#)

[譜表サイズ \(772 ページ\)](#)

[大括弧と中括弧 \(1140 ページ\)](#)

- [譜表 \(1703 ページ\)](#)
- [オッサア譜表 \(1710 ページ\)](#)
- [タブ譜 \(1737 ページ\)](#)
- [組段/フレーム区切りから先の譜表の表示/非表示を切り替える \(751 ページ\)](#)
- [選択部分を組段に変換 \(790 ページ\)](#)
- [選択部分をフレームに変換 \(794 ページ\)](#)
- [マーカーの垂直位置の変更 \(1581 ページ\)](#)
- [タイムコードの垂直位置を変更する \(1587 ページ\)](#)

## ギャラリービューでの譜表のスペーシングを変更する

設定された最適間隔の拡大率として表示された、ギャラリービューでのレイアウトごとの譜表間の垂直方向の間隔を変更できます。Dorico Pro はギャラリービューではアイテムの衝突を自動的に解消しないため、非常に高い/低い音符が含まれるレイアウトの譜表間の間隔を広げるのは効果的です。

---

### 手順

- [Ctrl]/[command]+[Shift]+[L]** を押して「**レイアウトオプション (Layout Options)**」を開きます。
- ギャラリービューでの譜表間のスペーシングを変更するレイアウトを「**レイアウト (Layouts)**」リストから選択します。  
初期設定では、楽譜領域で選択されているものと同じレイアウトが選択された状態のダイアログが表示されます。他のレイアウトを選択するには、アクションバーの選択オプションを使用するか、複数のレイアウトをまたぐようにクリックしてドラッグするか、**[Shift]** を押しながら隣接するレイアウトをクリックするか、**[Ctrl]/[command]** を押しながら個々のレイアウトをクリックします。
- カテゴリリストの「**垂直方向のスペーシング (Vertical Spacing)**」をクリックします。
- 「**最適間隔 (Ideal Gaps)**」セクションで「**ギャラリービューでの譜表間隔の拡大率 (In galley view, expand ideal staff gaps to)**」の値を変更します。
- 「**適用 (Apply)**」をクリックしてから「**閉じる (Close)**」をクリックします。

---

### 関連リンク

- [インストゥルメントフィルター \(485 ページ\)](#)
- [ギャラリービューまたはページビューへの切り替え \(54 ページ\)](#)
- [レイアウトの切り替え \(47 ページ\)](#)

## 個々の譜表/組段の垂直方向の移動

個々の譜表と組段の垂直方向の位置をプロジェクト全体の設定とは別に動かすことで、オッサア譜表を含む個々の譜表のスペーシングを変更できます。

### 重要

譜表を個別に動かす前に、別のページを追加してページの配置を完成させることをおすすめします。なぜなら、個別の譜表のスペーシング変更があるフレームが変更されると、譜表のスペーシングの変更は自動的に削除されるからです。たとえば、譜表を個別に移動したあとにレイアウトの最初に空白のページを追加すると、レイアウト内の個別の譜表のスペーシングの変更はすべて削除されます。

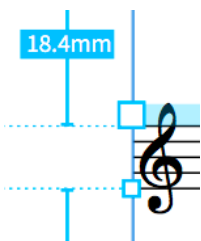
---

#### 補足

個別の譜表/組段を垂直に移動させても、配置設定には影響しません。フレーム内に表示される組段数を増加/減少させたい場合は、フレーム区切りを使用したりフレームごとに固定の組段数を設定したりして配置設定を変更できます。

浄書ツールボックスの「**譜表のスペーシング (Staff Spacing)**」 をオンにすると、以下が表示されます。

- 組段のスペーシングのハンドル: 各組段の一番上の譜表の左上角に表示される大きな四角形のハンドル。組段のスペーシングのハンドルは、組段全体の垂直方向の位置を制御します。
- 譜表のスペーシングのハンドル: 各譜表の左下角に表示される小さな四角形の譜表ハンドル。譜表のスペーシングのハンドルは、個々の譜表の垂直方向の位置を制御します。
- 間隔の寸法: 譜表と組段の間の距離を示すラインと強調表示された数字が、優先する基準単位を使用して表示されます。
- 楽曲フレームの余白のハイライト: 楽曲フレームの余白の範囲を示す楽曲フレームの上下の半透明なハイライト。



浄書モードで「**譜表のスペーシング (Staff Spacing)**」をオンにしたときの組段のスペーシングのハンドル、譜表のスペーシングのハンドル、間隔の寸法

#### 前提条件

浄書ツールボックスで「**譜表のスペーシング (Staff Spacing)**」 を選択しておきます。

#### 手順

1. 浄書モードで、垂直方向に移動する譜表/組段の以下のいずれかを選択します。

- 譜表のスペーシングのハンドル



- 組段のスペーシングのハンドル



#### 補足



- 選択している譜表または組段のスペーシングのハンドルを、**[Tab]** を押して切り替えることができます。
  - マウスを使用する場合、一度に移動できる譜表/組段は1つだけです。
2. 以下のいずれかの操作を行なって、選択した譜表/組段を移動します。
- これらを標準的な幅で上下に移動するには、**[Alt/Opt]** を押しながら対応する矢印キーを押します。たとえば、ハンドルを上を移動させるには、**[Alt/Opt]+[↑]** を押します。

- これらの移動幅を大きくするには、通常のキーボードショートカットに加え **[Ctrl]/[command]** を押します (例: **[Ctrl]/[command]+[Alt/Opt]+[↑]**)。
- これらの移動幅を中くらいにするには、通常のキーボードショートカットに加え **[Shift]** を押します (例: **[Shift]+[Alt/Opt]+[↑]**)。
- これらの移動幅を小さくするには、通常のキーボードショートカットに加え **[Ctrl]/[command]+[Shift]** を押します (例: **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[Alt/Opt]+[↑]**)。
- 譜表/組段のスペーシングのハンドルをクリックして上下にドラッグします。

#### 結果

選択した譜表/組段の垂直方向の位置が変更されます。ハンドルを移動したことが分かるようにハンドルの色が変わります。組段ハンドルを動かすと、組段上部の強調表示された細長い部分と四角いハンドルの色が変わります。

#### 補足

- 「**譜表のスペーシング (Staff Spacing)**」  をオンにすると、譜表または組段のスペーシングのハンドル以外は選択したり編集したりできません。通常の実行や編集を再開するには、浄書ツールボックスの「**グラフィックの編集 (Graphic Editing)**」  をクリックするか記譜モードに戻ります。
- 間隔の寸法の数字をクリックすることで値と単位 (ポイント、ミリメートル、センチメートル、インチ) を変更することもできます。

Dorico Pro で優先的に使用される基準単位は、「**環境設定 (Preferences)**」の「**全般 (General)**」ページで変更できます。

#### 例



デフォルトの位置にある譜表のスペーシングのハンドルの例      2 番目の譜表を上に移動後の例

#### 手順終了後の項目

個々のページの譜表のスペーシングに対して行なった手動の変更を、レイアウト内の別のページにコピーできます。

#### 関連リンク

- [浄書ツールボックス \(554 ページ\)](#)
- [フレーム密度表示 \(567 ページ\)](#)
- [複数の組段を同時に移動する \(782 ページ\)](#)
- [テキストの衝突回避の有効化/無効化 \(1770 ページ\)](#)
- [デフォルトの楽曲フレームの余白を変更する \(770 ページ\)](#)
- [譜表のスペーシングの変更を別のページにコピーする \(783 ページ\)](#)
- [優先する基準単位の変更 \(55 ページ\)](#)
- [余白 \(768 ページ\)](#)
- [配置設定 \(784 ページ\)](#)
- [フレーム区切り \(792 ページ\)](#)

[選択部分をフレームに変換 \(794 ページ\)](#)  
[他の組段への小節移動 \(786 ページ\)](#)  
[フレームあたりの組段数の固定 \(786 ページ\)](#)

## 譜表のスペーシングの変更を個別に削除する

譜表/組段のスペーシングに対して行なった変更を削除し、譜表/組段のスペーシングのハンドルを元のデフォルトの位置にリセットできます。

前提条件

浄書ツールボックスで「**譜表のスペーシング (Staff Spacing)**」を選択しておきます。

---

手順

1. 浄書モードで、元の位置にリセットする譜表/組段のハンドルを選択します。
  2. **[Backspace]** 又は **[Delete]** を押します。
- 

結果

選択した譜表/組段のハンドルが元の位置にリセットされます。

ヒント

また、「**浄書 (Engrave)**」 > 「**譜表のスペーシング (Staff Spacing)**」メニューからいずれかのオプションを選択すると、選択した組段またはフレーム内のすべての譜表のスペーシングの変更、あるいはレイアウト内のすべての譜表のスペーシングの変更をリセットすることもできます。

---

## 複数の組段を同時に移動する

組段同士の間隔を均等に保ったまま複数の組段を同時に移動できます。これは折りたたみ式ドラッグとも呼ばれます。

重要

譜表を個別に動かす前に、別のページを追加してページの配置を完成させることをおすすめします。個別の譜表のスペーシング変更があるフレームが変更されると、譜表のスペーシングの変更は自動的に削除されます。

---

補足

- この方法は複数の組段を近づける場合のみ使用でき、組段同士を離すことはできません。
  - これらの手順はタッチ上での譜表のスペーシングのハンドルには使用できません。
  - 個別の譜表/組段を垂直に移動させても、配置設定には影響しません。フレーム内に表示される組段数を増加/減少させたい場合は、フレーム区切りを使用したりフレームごとに固定の組段数を設定したりして配置設定を変更できます。
- 

前提条件

浄書ツールボックスで「**譜表のスペーシング (Staff Spacing)**」を選択しておきます。

---

手順

1. 浄書モードで、移動する一番上の組段の組段ハンドルを選択します。



#### 補足

マウスを使用する場合、一度に移動できるのは1つの組段の下に連なる組段だけです。

- 以下のいずれかの操作を行なって、選択した組段を移動します。
  - これらを標準的な幅で下に移動するには、**[Alt/Opt]+[J]** を押します。
  - これらの移動幅を大きくするには、**[Ctrl]/[command]+[Alt/Opt]+[J]** を押します。
  - [Alt/Opt]** を押しながら組段ハンドルをクリックして下にドラッグします。

#### 結果

選択した組段から楽曲フレームの一番下までのすべての組段と一緒に移動します。組段同士の間隔は均等なままです。

#### 関連リンク

- [浄書ツールボックス \(554 ページ\)](#)
- [譜表のスペーシング \(776 ページ\)](#)
- [タチェット \(795 ページ\)](#)
- [配置設定 \(784 ページ\)](#)
- [フレーム区切り \(792 ページ\)](#)
- [選択部分をフレームに変換 \(794 ページ\)](#)
- [他の組段への小節移動 \(786 ページ\)](#)
- [フレームあたりの組段数の固定 \(786 ページ\)](#)

## 譜表のスペーシングの変更を別のページにコピーする

個々のページで行なった手動による譜表のスペーシングの変更を、レイアウト内の別のページにコピーできます。

#### 補足

譜表のスペーシングの変更をコピーするには、コピー先のページとコピー元のページで、組段あたりの譜表数とフレームあたりの組段数が同じである必要があります。

#### 手順

- 楽譜領域で、譜表のスペーシングのコピー元となるページにあるアイテムを選択します。
- 「**浄書 (Engrave)**」 > 「**譜表のスペーシング (Staff Spacing)**」 > 「**譜表のスペーシングをコピー (Copy Staff Spacing)**」を選択して「**譜表のスペーシングをコピー (Copy Staff Spacing)**」ダイアログを開きます。
- 必要に応じて、「**開始ページ (From page)**」の値を変更して譜表のスペーシングのコピー元となるページを変更します。  
初期設定では、選択したアイテムが含まれるページが数値フィールドに設定されます。
- 「**ページ指定 (開始) (To page start)**」の値を変更して、譜表のスペーシングのコピー先となる最初のページを変更します。
- 「**ページ指定 (終了) (To page end)**」の値を変更して、譜表のスペーシングのコピー先となる範囲の最後のページを変更します。

6. 「OK」をクリックして変更内容を保存し、ダイアログを閉じます。

関連リンク

[個々の譜表/組段の垂直方向の移動 \(779 ページ\)](#)

## 「譜表のスペーシングをコピー (Copy Staff Spacing)」ダイアログ

「譜表のスペーシングをコピー (Copy Staff Spacing)」ダイアログでは、個々の譜表のスペーシングの変更をどのページからどのページにコピーするかを選択できます。

- 「譜表のスペーシングをコピー (Copy Staff Spacing)」ダイアログを開くには、浄書モードで「浄書 (Engrave)」>「譜表のスペーシング (Staff Spacing)」>「譜表のスペーシングをコピー (Copy Staff Spacing)」を選択します。

### ヒント

「環境設定 (Preferences)」の「キーボードショートカット (Key Commands)」ページで、「譜表のスペーシングをコピー (Copy Staff Spacing)」ダイアログを開く操作にキーボードショートカットを割り当てることができます。

「譜表のスペーシングをコピー (Copy Staff Spacing)」ダイアログには以下のオプションがあります。

#### 開始ページ (From page)

ページ番号を指定して、譜表のスペーシングの変更のコピー元となるページを変更できます。アイテムを選択した状態でダイアログを開くと、数値フィールドにはそのページが自動的に設定されます。

#### ページ指定 (開始) (To page start)

譜表のスペーシングの変更のコピー先となるレイアウト内の最初のページを設定できます。

#### ページ指定 (終了) (To page end)

譜表のスペーシングの変更のコピー先となるレイアウト内の最後のページを設定できます。

たとえば、最初のページに対して行なった譜表のスペーシングの変更を次の3ページ、つまり2ページめ、3ページめ、4ページめにコピーして、5ページめ以降にはコピーしない場合は、「開始ページ (From page)」に「1」、「ページ指定 (開始)」に「2」、「ページ指定 (終了)」に「4」を設定します。

数値フィールドの横には表示ページ番号がプレビューされるため、レイアウト内のページの表示ページ番号を変更していても、譜表のスペーシングの変更のコピー先となるページを識別できます。

関連リンク

[「環境設定 \(Preferences\)」ダイアログの「キーボードショートカット \(Key Commands\)」ページ \(64 ページ\)](#)

## 配置設定

配置設定とは、ページあたりの組段数の設定など、楽譜のページレイアウトの固定を示す言葉です。

各組段および各ページにどれだけの量の楽譜を収めるか計算する際、Dorico Pro は音符のスペーシングや垂直方向のスペーシングなど、多面的にレイアウトを考慮します。これらの設定を変更することで、レイアウトごとにデフォルトの配置設定を変更できます。

Dorico Pro では、組段あたりの小節数と楽曲フレームあたりの組段数について、レイアウトごとに個別に固定した数を設定できます。



他の組段への小節の移動、組段区切りまたはフレーム区切りの挿入、選択範囲からの組段またはフレームの作成、現在のレイアウトでの配置設定のロックまたはリセットなど、よりきめ細かなレベルで配置設定を制御できます。

関連リンク

- [レイアウトごとの音符のスペーシングオプション \(644 ページ\)](#)
- [レイアウトごとの垂直方向のスペーシングオプション \(776 ページ\)](#)
- [組段区切りの挿入 \(790 ページ\)](#)
- [フレーム区切りの挿入 \(793 ページ\)](#)
- [小節内の区切りを許可する/許可しない \(788 ページ\)](#)
- [他の組段への小節移動 \(786 ページ\)](#)
- [レイアウトのロック \(787 ページ\)](#)
- [配置設定のリセット \(788 ページ\)](#)
- [長休符の分割 \(1653 ページ\)](#)
- [最終フローのあとの空白の譜表を表示/非表示にする \(753 ページ\)](#)
- [余白 \(768 ページ\)](#)

## 組段あたりの小節数を固定

各組段に含める固定の小節数を、レイアウトごとに個別に定義できます。これにより、たとえばリードシートを組段あたり 4 小節に指定できます。

---

手順

- [Ctrl]/[command]+[Shift]+[L]** を押して「**レイアウトオプション (Layout Options)**」を開きます。
- 「**レイアウト (Layouts)**」リストで、組段あたりの小節数を固定するレイアウトを選択します。  
初期設定では、楽譜領域で選択されているものと同じレイアウトが選択された状態のダイアログが表示されます。他のレイアウトを選択するには、アクションバーの**選択オプション**を使用するか、複数のレイアウトをまたぐようにクリックしてドラッグするか、**[Shift]** を押しながら隣接するレイアウトをクリックするか、**[Ctrl]/[command]** を押しながら個々のレイアウトをクリックします。
- カテゴリリストの「**譜表と組段 (Staves and Systems)**」をクリックします。
- 「**配置設定 (Casting Off)**」セクションで、「**組段あたりの小節数を固定 (Fixed number of bars per system)**」をオンにします。
- 数値フィールドの値を変更します。
- 「**適用 (Apply)**」をクリックしてから「**閉じる (Close)**」をクリックします。

---

結果

選択したレイアウトの各組段に自動的に配置される小節数が変更されます。いずれかのレイアウトに 2 小節リピート領域または 4 小節リピート領域が含まれている場合、自動的に配置が調整され、フレーズが組段をまたいで分割されるのを防ぎます。

関連リンク

- [小節リピート記号 \(1610 ページ\)](#)
- [組段区切りの挿入 \(790 ページ\)](#)
- [フレーム区切りの挿入 \(793 ページ\)](#)
- [選択部分を組段に変換 \(790 ページ\)](#)
- [最後の組段の両端揃え \(水平方向\) の変更 \(764 ページ\)](#)

## フレームあたりの組段数の固定

各レイアウトの各楽曲フレームに含める固定の組段数を個別に定義できます。デフォルトのページテンプレートには1ページあたり1つの楽曲フレームが含まれているため、通常はフレームあたりの組段数を固定するとページあたりの組段数も固定されます。

---

### 手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[L]** を押して「**レイアウトオプション (Layout Options)**」を開きます。
2. 「**レイアウト (Layouts)**」リストで、フレームあたりの組段数を固定するレイアウトを選択します。初期設定では、楽譜領域で選択されているものと同じレイアウトが選択された状態のダイアログが表示されます。他のレイアウトを選択するには、アクションバーの選択オプションを使用するか、複数のレイアウトをまたぐようにクリックしてドラッグするか、**[Shift]** を押しながら隣接するレイアウトをクリックするか、**[Ctrl]/[command]** を押しながら個々のレイアウトをクリックします。
3. カテゴリリストの「**譜表と組段 (Staves and Systems)**」をクリックします。
4. 「**配置設定 (Casting Off)**」セクションで、「**フレームあたりの組段数を固定 (Fixed number of systems per frame)**」をオンにします。
5. 数値フィールドの値を変更します。
6. 「**フレームの高さに合わせて組段の数を増減する (Scale number of systems by frame height)**」をオン/オフにします。
7. 「**適用 (Apply)**」をクリックしてから「**閉じる (Close)**」をクリックします。

---

### 結果

選択したレイアウトの各楽曲フレームに自動的に配置される組段数が変更されます。

「**フレームの高さに合わせて組段の数を増減する (Scale number of systems by frame height)**」をオンにすると、各フレームに含まれる組段数が楽曲フレームのサイズに応じて調整されます。たとえば、最初のページのようにフレームが小さいページでは、配置設定よりも組段数が少なくなります。

## 他の組段への小節移動



たとえば特定の小節を同じ組段に入れる必要がある場合などは、小節を次または前の組段に移動できます。

### 前提条件

浄書ツールボックスで「**グラフィックの編集 (Graphic Editing)**」 を選択しておきます。

---

### 手順

1. 浄書モードで、別の組段に移動する小節からアイテムを1つ選択します。  
たとえば、次の組段に移動する小節のうち先頭の小節からアイテムを1つ選択、または前の組段に移動する小節のうち最後の小節からアイテムを1つ選択します。
2. 以下のいずれかの操作を行なって、小節を別の組段に移動します。
  - 現在の組段の開始位置から選択位置までのすべての小節を前の組段に移動するには、**[,]** を押すか、形式設定パネルの「**小節を組段間で移動 (Move Bars Between Systems)**」セクションにある「**前の組段に移動 (Move to Previous System)**」 をクリックします。
  - 選択位置から現在の組段の終了位置までのすべての小節を次の組段に移動するには、**[.]** を押すか、形式設定パネルの「**小節を組段間で移動 (Move Bars Between Systems)**」セクションにある「**次の組段に移動 (Move to Next System)**」 をクリックします。

#### 結果

選択した小節が前または次の組段に移動されます。新しい組段それぞれの開始位置と終了位置に組段区切りが挿入されます。

#### 補足

- 初期設定では、組段の開始位置に挿入された組段区切りは、プロパティパネルの「形式 (Format)」グループにある「次の組段区切りまで待機 (Wait for next system break)」がオンになっています。このプロパティは、次の組段区切りまたはフローの終了位置まですべての楽譜を組段に含めるように Dorico Pro に指示するため、後続の組段区切りをあとから削除した場合、間隔が狭い、非常に混み合った組段が作成されることがあります。
- 「環境設定 (Preferences)」 > 「音符の入力と編集 (Note Input and Editing)」 > 「音符の入力 (Note Input)」 > 「区切り (Breaks)」で、別の組段に小節を移動した場合にロックする組段の数を変更できます。

#### 関連リンク

[選択部分をフレームに変換 \(794 ページ\)](#)

[選択部分を組段に変換 \(790 ページ\)](#)

[プロパティパネル \(826 ページ\)](#)

[「環境設定 \(Preferences\)」 ダイアログ \(63 ページ\)](#)


## レイアウトのロック

個別のレイアウト全体の現在の配置設定をロックできます。

#### 前提条件

- 左ゾーンを表示しておきます。
- 浄書ツールボックスで「グラフィックの編集 (Graphic Editing)」を選択しておきます。

#### 手順

1. 浄書モードで、配置設定をロックするレイアウトを開きます。
2. 形式設定パネルの「レイアウトをロック (Lock Layout)」セクションで、「レイアウトをロック (Lock Layout)」をクリックします。

#### 結果

組段区切りおよびフレーム区切りが必要に応じて各組段の開始位置に挿入されることにより、楽譜領域に開いたレイアウトの現在の配置設定がロックされます。

#### 補足

- 初期設定では、組段区切りおよびフレーム区切りは、プロパティパネルの「形式 (Format)」グループにある「次の組段区切りまで待機 (Wait for next system break)」および「次のフレーム区切りまで待機 (Wait for next frame break)」がオンになっています。このプロパティは、次の組段区切り、次のフレーム区切り、またはフローの終了位置まですべての楽譜を組段に含めるように Dorico Pro に指示するため、後続の組段区切りまたはフレーム区切りをあとから削除した場合、間隔が狭く、非常に混み合った組段が作成されることがあります。
- 「環境設定 (Preferences)」の「キーボードショートカット (Key Commands)」ページで、「レイアウトをロック (Lock Layout)」にキーボードショートカットを割り当てることができます。

#### 関連リンク

[浄書ツールボックス \(554 ページ\)](#)

- [形式設定パネル \(556 ページ\)](#)
- [ゾーンの表示/非表示の切り替え \(48 ページ\)](#)
- [レイアウトの切り替え \(47 ページ\)](#)
- [組段区切り \(789 ページ\)](#)
- [フレーム区切り \(792 ページ\)](#)
- [配置設定 \(784 ページ\)](#)
- [プロパティパネル \(826 ページ\)](#)
- [「環境設定 \(Preferences\)」ダイアログの「キーボードショートカット \(Key Commands\)」ページ \(64 ページ\)](#)

## 配置設定のリセット


個別のレイアウトからすべての組段区切りおよびフレーム区切りを削除して、レイアウトのデフォルトの配置設定およびスペーシング設定に戻すことができます。

前提条件

- 左ゾーンを表示しておきます。
- 浄書ツールボックスで「**グラフィックの編集 (Graphic Editing)**」を選択しておきます。

---

手順

1. 浄書モードで、配置設定をリセットするレイアウトを開きます。
2. 形式設定パネルの「**レイアウトをロック (Lock Layout)**」セクションで、「**レイアウトをリセット (Reset Layout)**」をクリックします。

---

結果

楽譜領域に開いたレイアウトのすべての組段区切りおよびフレーム区切りが削除されます。レイアウトはデフォルトの配置設定およびスペーシング設定に従う形に戻ります。

補足

- 初期設定では、組段区切りおよびフレーム区切りは、プロパティパネルの「**形式 (Format)**」グループにある「**次の組段区切りまで待機 (Wait for next system break)**」および「**次のフレーム区切りまで待機 (Wait for next frame break)**」がオンになっています。このプロパティは、次の組段区切り、次のフレーム区切り、またはフローの終了位置まですべての楽譜を組段に含めるように Dorico Pro に指示するため、後続の組段区切りまたはフレーム区切りをあとから削除した場合、間隔が狭く、非常に混み合った組段が作成されることがあります。
- 「**環境設定 (Preferences)**」の「**キーボードショートカット (Key Commands)**」ページで、「**レイアウトをリセット (Reset Layout)**」にキーボードショートカットを割り当てることができます。

---

## 小節内の区切りを許可する/許可しない

小節内に組段区切り/フレーム区切りを挿入することを許可するかどうかを選択できます。たとえば、小節線の位置にのみ区切りを必要とするリードシートの形式設定を行なう場合に小節内の区切りを禁止するといったことができます。

---

手順

1. **[Ctrl]/[command]+[,]** を押して「**環境設定 (Preferences)**」を開きます。
2. カテゴリリストの「**音符の入力と編集 (Note Input and Editing)**」をクリックします。
3. 「**音符の入力 (Note Input)**」セクションの「**区切り (Breaks)**」サブセクションで「**組段区切りおよびフレーム区切りの作成時は小節線にスナップ (Snap system and frame breaks to barlines when creating)**」をオン/オフにします。

#### 4. 「適用 (Apply)」 をクリックしてから 「閉じる (Close)」 をクリックします。

##### 結果

このオプションをオンにすると、小節内の組段区切り/フレーム区切りが禁止され、オフにすると許可されます。

小節内の区切りを禁止すると、挿入した区切りは選択した中で一番前にあるアイテムの前の小節線にスナップします。選択範囲から組段/フレームを作成すると、最初の区切りは選択した中で一番前にあるアイテムの前の小節線にスナップし、2番めの区切りは選択した中で一番後ろにあるアイテムのあとの小節線にスナップします。

##### 関連リンク

[「環境設定 \(Preferences\)」 ダイアログ \(63 ページ\)](#)

[フレーム区切り \(792 ページ\)](#)

[配置設定 \(784 ページ\)](#)

## 組段区切り

組段区切りは、音符や記譜記号が右ページ余白に達して次の組段 (通常は同じページの前の組段の下か、新しいページ) に続ける必要がある場合に発生します。Dorico Pro では、音符が読みやすい適切な間隔になるよう、楽譜は組段全体に自動的に配置されますが、組段区切りは手動でも制御できます。

手動で入力した組段区切りを示すガイドはいつでも表示/非表示にできます。また、組段区切りはレイアウト固有であり、レイアウトごとに異なる位置に挿入できます。



組段区切りのガイドを選択した状態

##### 補足

- 初期設定では、組段/フレーム区切りは最初に選択したアイテムの前の小節線にスナップします。小節内の位置で区切りを許可するかどうかを変更できます。
- 初期設定では、「**組段に変換 (Make into System)**」を使用して作成された組段の開始位置にある組段区切りは、プロパティパネルの「**形式 (Format)**」グループの「**次の組段区切りまで待機 (Wait for next system break)**」がオンになっています。このプロパティがオンになっている場合、その組段区切りから次の組段区切りまたはフローの終了位置のいずれか早い方までの間にあるすべての音符や記譜記号を含む組段が作成されます。

後続の組段区切りをあとから削除した場合、間隔が狭い、非常に混み合った組段が作成されます。たとえば、後続の組段区切りをすべて削除した場合、フローの終わりまでのすべての楽譜が1つの組段にまとめられます。

- 各レイアウトの組段ごとの小節数を固定することによって、組段のコンテンツを制御することもできます。

##### 関連リンク

[音符のスペーシング \(643 ページ\)](#)

[プロパティパネル \(826 ページ\)](#)

[組段あたりの小節数を固定 \(785 ページ\)](#)

[長休符の分割 \(1653 ページ\)](#)

[ガイド \(490 ページ\)](#)


## 組段区切りの挿入

組段区切りはリズム上のどの位置にでも挿入できます。これにより、たとえば楽曲のフレーズが読みやすい形で組段に収まるようになります。

### 前提条件

- 小節内の区切りを許可/禁止しておきます。
- 浄書ツールボックスで「**グラフィックの編集 (Graphic Editing)**」を選択しておきます。
- 長休符の途中で組段区切りを挿入したい場合は、レイアウト内の長休符を非表示にしておくか、長休符を任意の位置で分割しておきます。

### 手順

1. 浄書モードで、そこから次の組段を開始させるリズム上の位置にある音符またはアイテムを選択します。
2. 以下のいずれかの操作を行なって、組段区切りを挿入します。
  - **[Shift]+[S]** を押します。
  - 形式設定パネルの「**組段の形式設定 (Format Systems)**」セクションで、「**組段区切りを作成 (Create System Break)**」をクリックします。

### 結果

選択した中で一番前にあるアイテムのリズム上の位置に組段区切りが挿入されます。小節内の区切りが禁止されている場合は、前の小節線にスナップします。組段区切り後の記譜記号はすべて次の組段に移動します。

### 補足

2小節リピート領域または4小節リピート領域内のフレーズ中に組段区切りを挿入した場合、Dorico Pro は組段区切りを自動的にフレーズの前/後ろに移動しません。つまり、フレーズは組段区切りによって分割されません。

### 関連リンク

[浄書ツールボックス \(554 ページ\)](#)

[形式設定パネル \(556 ページ\)](#)

[小節内の区切りを許可する/許可しない \(788 ページ\)](#)

[長休符を表示/非表示にする \(1649 ページ\)](#)

[長休符の分割 \(1653 ページ\)](#)

[レイアウトのロック \(787 ページ\)](#)

[組段/フレーム区切りから先の譜表の表示/非表示を切り替える \(751 ページ\)](#)


[組段区切り/フレーム区切りの位置の譜表ラベルを表示/非表示にする \(1687 ページ\)](#)

[組段/フレーム区切りからの譜表サイズの変更 \(773 ページ\)](#)

## 選択部分を組段に変換

たとえば、特定の小節を同じ組段に表示したい場合などに、選択した2つの位置の間のすべての音符や記譜記号を強制的に1つの組段に変換できます。

### 前提条件


- 小節内の区切りを許可/禁止しておきます。
- 左ゾーンを表示しておきます。
- 浄書ツールボックスで「**グラフィックの編集 (Graphic Editing)**」を選択しておきます。

#### 手順

1. 浄書モードで、組段を開始する位置のアイテムを選択します。

#### 補足

符頭または小節線を選択することをおすすめします。スラーなどのその他のアイテムを選択すると、意図した位置より前または後ろに組段区切りが挿入されることがあります。

2. **[Ctrl]/[command]** を押しながら以下のいずれかをクリックします。
  - 組段の終了位置にする符頭
  - 次の組段の開始位置にするアイテム
3. 形式設定パネルの「**組段の形式設定 (Format Systems)**」セクションで、「**組段に変換 (Make into System)**」 をクリックします。

#### 結果

選択部分の始めまたは終わりに組段区切りを挿入することで、固定された組段が作成されます。この組段には、選択した2つのアイテムの間のすべての音符や記譜記号が含まれます。

小節内の区切りが禁止されている場合、最初の区切りは選択した中で一番前にあるアイテムの前の小節線にスナップし、2番めの区切りは選択した中で一番後ろにあるアイテムのあとの小節線にスナップします。

小節内の区切りが許可されている場合、組段の内容は何を選択しているかによって変わります。

- 小節線やスラーなどのアイテムを選択した場合、選択した最初のアイテムの開始部分が組段の始めに配置され、選択した最後のアイテムの終わりが次の組段の始めに配置されます。
- 符頭を選択した場合、選択した最後の符頭は次の組段の始めに配置されるのではなく、組段に含まれます。
- タイを選択した場合、タイのつながりのどこを選択したかに関係なく、タイでつながれた最初と最後の音符の間にあるすべての音符や記譜記号が組段に含まれます。

#### 補足

初期設定では、選択部分の始めに挿入された組段区切りは、プロパティパネルの「**形式 (Format)**」グループの「**次の組段区切りまで待機 (Wait for next system break)**」がオンになっています。このプロパティは、次の組段区切りまたはフローの終了位置まですべての楽譜を組段に含めるように Dorico Pro に指示するため、後続の組段区切りをあとから削除した場合、間隔が狭い、非常に混み合った組段が作成されることがあります。

「**次の組段区切りまで待機 (Wait for next system break)**」をオフにすると、後続の楽譜が通常通りに配置されます。

## 組段区切りガイドの表示/非表示の切り替え

組段区切りガイドはいつでも表示/非表示にできます。

#### 手順

- 「**ビュー (View)**」 > 「**ガイド (Signposts)**」 > 「**組段区切り (System Breaks)**」を選択します。

#### 関連リンク

[ガイド \(490 ページ\)](#)

[印刷されない要素を非表示にする \(477 ページ\)](#)

[音符とアイテムを個々に選択/選択解除する \(460 ページ\)](#)

## 組段区切りの削除

挿入した組段区切りを削除できます。

前提条件

組段区切りガイドを表示しておきます。

手順

1. 削除する組段区切りの組段区切りガイドを選択します。
2. **[Backspace]** 又は **[Delete]** を押します。

関連リンク

[配置設定のリセット \(788 ページ\)](#)

## フレーム区切り

フレーム区切りは、音符や記譜記号がフレーム下部で右ページの余白に達し、楽曲フレームチェーンの次のフレームの新しい組段 (通常は次ページ) で続ける必要がある場合に発生します。フレーム内の楽譜は、組段内の適切な間隔と読みやすさを維持するために自動的に調整されますが、たとえばパートレイアウトの特定の位置にページめくりを挿入する場合などは、手動でもフレーム区切りを制御できます。

手動で入力したフレーム区切りを示すガイドはいつでも表示/非表示にできます。また、フレーム区切りはレイアウト固有であり、レイアウトごとに異なる位置に挿入できます。



フレーム区切りのガイドを選択した状態

### 補足

- 初期設定では、組段/フレーム区切りは最初に選択したアイテムの前の小節線にスナップします。小節内の位置で区切りを許可するかどうかを変更できます。
- 初期設定では、「**フレームに変換 (Make into Frame)**」を使用して作成されたフレームの開始位置にあるフレーム区切りは、プロパティパネルの「**形式 (Format)**」グループの「**次のフレーム区切りまで待機 (Wait for next frame break)**」がオンになっています。このプロパティがオンになっている場合、そのフレーム区切りと次のフレーム区切りの間のすべての素材を含むフレームが自動的に作成されます。

後続のフレーム区切りをあとから削除した場合、組段同士の間隔が狭い、または組段が重なった、非常に混み合ったフレームが作成されます。たとえば、後続のフレーム区切りをすべて削除した場合、フローの終わりまでのすべての楽譜が1つのフレームにまとめられます。

- 各レイアウトの楽曲フレームごとの組段の数を固定することによって、楽曲フレームのコンテンツを制御することもできます。

関連リンク

[譜表のスペーシング \(776 ページ\)](#)




- [フレーム \(601 ページ\)](#)
- [楽曲フレームチェーン \(610 ページ\)](#)
- [プロパティパネル \(826 ページ\)](#)
- [フレームあたりの組段数の固定 \(786 ページ\)](#)
- [ガイド \(490 ページ\)](#)

## フレーム区切りの挿入


現在のレイアウトの適切な場所にページめくりを作成するなど、任意の位置にフレーム区切りを挿入できます。

### 前提条件

- 小節内の区切りを許可/禁止しておきます。
- 浄書ツールボックスで「**グラフィックの編集 (Graphic Editing)**」を選択しておきます。
- 長休符の途中でフレーム区切りを挿入したい場合は、レイアウト内の長休符を非表示にしておくか、長休符を任意の位置で分割しておきます。

---

### 手順

- 浄書モードで、そこから次のフレームの開始位置に表示させるリズム上の位置にある音符またはアイテムを選択します。
- 以下のいずれかの操作を行なって、フレーム区切りを挿入します。
  - [Shift]+[F]** を押します。
  - 形式設定パネルの「**楽曲フレームの形式設定 (Format Music Frames)**」セクションで、「**フレーム区切りを作成 (Create Frame Break)**」をクリックします。

---

### 結果

選択した中で一番前にあるアイテムのリズム上の位置にフレーム区切りが挿入されます。小節内の区切りが禁止されている場合は、前の小節線にスナップします。フレーム区切り後の記譜記号はすべて次の楽曲フレームに移動します。

### 補足

2小節リピート領域または4小節リピート領域内のフレーズ中にフレーム区切りを挿入した場合、Dorico Pro はフレーム区切りを自動的にフレーズの前/後ろに移動しません。つまり、フレーズはフレーム区切りによって分割されません。

---


### 関連リンク

- [浄書ツールボックス \(554 ページ\)](#)
- [形式設定パネル \(556 ページ\)](#)
- [小節内の区切りを許可する/許可しない \(788 ページ\)](#)
- [長休符を表示/非表示にする \(1649 ページ\)](#)
- [長休符の分割 \(1653 ページ\)](#)
- [レイアウトのロック \(787 ページ\)](#)
- [組段/フレーム区切りから先の譜表の表示/非表示を切り替える \(751 ページ\)](#)
- [組段区切り/フレーム区切りの位置の譜表ラベルを表示/非表示にする \(1687 ページ\)](#)
- [組段/フレーム区切りからの譜表サイズの変更 \(773 ページ\)](#)

## 選択部分をフレームに変換

たとえば、特定の小節を同じページに表示したい場合などに、選択した2つの位置の間のすべての音符や記譜記号を強制的に1つのフレームに変換できます。

### 前提条件


- 小節内の区切りを許可/禁止しておきます。
- 左ゾーンを表示しておきます。
- 浄書ツールボックスで「グラフィックの編集 (Graphic Editing)」を選択しておきます。

### 手順

1. 浄書モードで、フレームを開始する位置のアイテムを選択します。

#### 補足

符頭または小節線を選択することをおすすめします。スラーなどのその他のアイテムを選択すると、意図した位置より前または後ろにフレーム区切りが挿入されることがあります。

2. **[Ctrl]/[command]** を押しながら以下のいずれかをクリックします。
  - フレームの終了位置にする符頭
  - 次のフレームの開始位置にするアイテム
3. 形式設定パネルの「**楽曲フレームの形式設定 (Format Music Frames)**」セクションで、「**フレームに変換 (Make into Frame)**」 をクリックします。

### 結果

選択部分の始めまたは終わりにフレーム区切りを挿入することで、固定されたフレームが作成されます。このフレームには、選択した2つのアイテムの間のすべての音符や記譜記号が含まれます。

小節内の区切りが禁止されている場合、最初の区切りは選択した中で一番前にあるアイテムの前の小節線にスナップし、2番目の区切りは選択した中で一番後ろにあるアイテムのあとの小節線にスナップします。

小節内の区切りが許可されている場合、フレームの内容は何を選択しているかによって変わります。

- 小節線やスラーなどのアイテムを選択した場合、選択した最初のアイテムの開始部分がフレームの始めに配置され、選択した最後のアイテムの終わりが次のフレームの始めに配置されます。
- 符頭を選択した場合、選択した最後の符頭は次のフレームの始めに配置されるのではなく、選択部分内のフレームに含まれます。
- タイを選択した場合、タイのつながりのどこを選択したかに関係なく、タイでつながれた最初と最後の音符の間のすべての音符や記譜記号がフレームに含まれます。

#### 補足

初期設定では、選択部分の始めに挿入されたフレーム区切りは、プロパティパネルの「**形式 (Format)**」グループの「**次のフレーム区切りまで待機 (Wait for next frame break)**」がオンになっています。このプロパティは、次のフレーム区切りまですべての楽譜をフレームに含めるように Dorico Pro に指示するため、後続のフレーム区切りをあとから削除した場合、組段同士の間隔が狭い、または組段が重なった、非常に混み合ったフレームが作成されることがあります。

「**次のフレーム区切りまで待機 (Wait for next frame break)**」をオフにすると、後続の楽譜が通常通りに配置されます。

## フレーム区切りガイドの表示/非表示

フレーム区切りガイドはいつでも表示/非表示にできます。

---

手順

- 「ビュー (View)」 > 「ガイド (Signposts)」 > 「フレーム区切り (Frame Breaks)」を選択します。
- 

関連リンク

[ガイド \(490 ページ\)](#)

[印刷されない要素を非表示にする \(477 ページ\)](#)

[音符とアイテムを個々に選択/選択解除する \(460 ページ\)](#)

## フレーム区切りの削除

挿入したフレーム区切りを削除できます。

前提条件

フレーム区切りガイドを表示しておきます。

---

手順

1. 削除するフレーム区切りのフレーム区切りガイドを選択します。
  2. **[Backspace]** 又は **[Delete]** を押します。
- 

関連リンク

[配置設定のリセット \(788 ページ\)](#)

## タレット

タレットとは、プレーヤーがフロー全体で何も演奏しないことを表わす指示で、交響曲の楽章や映画スコアのキューなどに使用されます。Dorico Pro では、タレットを自動的に生成できます。

Dorico Pro では、以下の条件が満たされるとパートレイアウトのフローにタレットが表示されます。

- 演奏がないフローからプレーヤーが削除されている。
- パートレイアウトにフローが割り当てられている。
- パートレイアウトのページテンプレートフレームチェーンにフローが割り当てられている。
- パートレイアウトにタレットを表示するように選択している。




## 2. Andante

Tacet

## 3. Menuetto



2 番めのフローでプレーヤーがタチエツトになっているパートレイアウトの抜粋

浄書モードでは、タチエツトは組段のように機能します。つまり、「**譜表のスペーシング (Staff Spacing)**」 がオンになっている場合、譜表のスペーシングのハンドルが独自に表示されます。これにより、個々のタチエツトとそのフロー見出しを上下に動かすことができます。また、タチエツトの最初に組段区切りやフレーム区切りを挿入することもできます。

### 補足

フレームの最初または最後の組段がタチエツトのページで「**譜表のスペーシングをコピー (Copy Staff Spacing)**」や「**フレームをロック (Lock Frame)**」 を使用することはおすすめしません。これは、タチエツトには小節が含まれておらず、フレームコンテンツをロックするための組段区切りやフレーム区切りをタチエツトの終わりに挿入できないためです。

タチエツトに表示されるテキストとタチエツトの上下の余白は、レイアウトごとに個別に変更できません。

タチエツトのプロジェクト全体の外観とデザインは、「**パラグラフスタイル (Paragraph Styles)**」ダイアログで「**タチエツト (Tacets)**」のパラグラフスタイルを編集することで、さらにカスタマイズできます。

### 関連リンク

- [フローにプレーヤーを割り当てる \(189 ページ\)](#)
- [フレームチェーンへのフローの割り当て \(615 ページ\)](#)
- [同じページに複数のフローを表示する/表示しない \(760 ページ\)](#)
- [譜表のスペーシング \(776 ページ\)](#)
- [組段区切り \(789 ページ\)](#)
- [フレーム区切り \(792 ページ\)](#)
- [フロー見出し \(595 ページ\)](#)
- [「パラグラフスタイル \(Paragraph Styles\)」ダイアログ \(932 ページ\)](#)
- [長休符におけるフローの終了位置の「tacet al fine」を表示/非表示にする \(1650 ページ\)](#)

## タチェットの表示/非表示の切り替え

たとえば、いくつかのレイアウトに空白の小節や長休符を表示してプレーヤーがあとからこれらの譜表に音符を追加できるようにしたい場合など、タチェットをレイアウトごとに個別に表示/非表示にできます。

### 前提条件

- 演奏がないフローからプレーヤーが削除されている。
- パートレイアウトにフローが割り当てられている。
- パートレイアウトのページテンプレートフレームチェーンにフローが割り当てられている。

---

### 手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[L]** を押して「**レイアウトオプション (Layout Options)**」を開きます。
2. 「**レイアウト (Layouts)**」リストで、タチェットを表示/非表示にするレイアウトを選択します。  
初期設定では、楽譜領域で選択されているものと同じレイアウトが選択された状態のダイアログが表示されます。他のレイアウトを選択するには、アクションバーの選択オプションを使用するか、複数のレイアウトをまたぐようにクリックしてドラッグするか、**[Shift]** を押しながら隣接するレイアウトをクリックするか、**[Ctrl]/[command]** を押しながら個々のレイアウトをクリックします。
3. カテゴリリストの「**プレーヤー (Players)**」をクリックします。
4. 「**タチェット (Tacets)**」セクションで、「**プレーヤーが割り当てられていないフローにタチェットを表示 (Show tacet for flows where no players are assigned)**」をオンまたはオフにします。
5. 「**適用 (Apply)**」をクリックしてから「**閉じる (Close)**」をクリックします。

---

### 結果

「**プレーヤーが割り当てられていないフローにタチェットを表示 (Show tacet for flows where no players are assigned)**」がオンで、前提条件も満たされている場合、選択したレイアウトにタチェットが表示されます。

オフの場合、プレーヤーが割り当てられていないフローはレイアウトに表示されません。フローにプレーヤーが割り当てられている場合、パートにはフロー内のすべての小節が、そのフローに適した形で空白の小節や長休符に分割されて表示されます。

### ヒント

プロジェクトに短いフローが多く含まれており、それがパートレイアウトでは Tacet という長休符として 1 小節に表示される場合は、すべての小節を表示することでフローの長さを見やすくできます。この操作を行なうには、「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**休符 (Rests)**」ページにある「**フローに「Tacet」を表示する小節数の最小値 (Minimum number of bars in flow to show 'Tacet')**」の値を大きくします。

---

### 関連リンク

[長休符 \(1649 ページ\)](#)

[フローにプレーヤーを割り当てる \(189 ページ\)](#)

[長休符を表示/非表示にする \(1649 ページ\)](#)

[「浄書オプション \(Engraving Options\)」ダイアログ \(923 ページ\)](#)

## タレットのテキストの編集

タレットに表示されるテキストは、レイアウトごとに個別に変更できます。

### 手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[L]** を押して「**レイアウトオプション (Layout Options)**」を開きます。
2. タレットのテキストを編集するレイアウトを「**レイアウト (Layouts)**」リストから選択します。  
初期設定では、楽譜領域で選択されているものと同じレイアウトが選択された状態のダイアログが表示されます。他のレイアウトを選択するには、アクションバーの選択オプションを使用するか、複数のレイアウトをまたぐようにクリックしてドラッグするか、**[Shift]** を押しながら隣接するレイアウトをクリックするか、**[Ctrl]/[command]** を押しながら個々のレイアウトをクリックします。
3. カテゴリリストの「**プレーヤー (Players)**」をクリックします。
4. 「**タレット (Tacets)**」セクションで、表示するテキストを「**タレットのテキスト (Tacet text)**」フィールドに入力します。
5. 「**適用 (Apply)**」をクリックしてから「**閉じる (Close)**」をクリックします。

### 結果

選択したマーカーに表示されるテキストが変更されます。

### ヒント

「**タレット (Tacet)**」パラグラフスタイルを編集することで、タレットの左右の余白、境界線の表示/非表示、境界線の太さを変更できます。

## タレットの上下の余白を変更する

たとえば、いくつかのレイアウトでページめくりをやすくするためにフロー見出しとタレットの間隔を狭くしたい場合など、タレットの上下の余白をレイアウトごとに個別に変更できます。

### 手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[L]** を押して「**レイアウトオプション (Layout Options)**」を開きます。
2. 「**レイアウト (Layouts)**」リストで、タレットの上下の余白を変更するレイアウトを選択します。  
初期設定では、楽譜領域で選択されているものと同じレイアウトが選択された状態のダイアログが表示されます。他のレイアウトを選択するには、アクションバーの選択オプションを使用するか、複数のレイアウトをまたぐようにクリックしてドラッグするか、**[Shift]** を押しながら隣接するレイアウトをクリックするか、**[Ctrl]/[command]** を押しながら個々のレイアウトをクリックします。
3. カテゴリリストの「**プレーヤー (Players)**」をクリックします。
4. 「**タレット (Tacets)**」セクションで、以下のオプションのいずれかまたは両方を変更します。
  - **タレットの上側余白 (Margin above tacet)**
  - **タレットの下側余白 (Margin below tacet)**
5. 「**適用 (Apply)**」をクリックしてから「**閉じる (Close)**」をクリックします。

#### 結果

「**タチエットの**上側余白 (Margin above tacet)」の値を変更すると、タチエットとその前のアイテムの間の最小間隔が増減します。

「**タチエットの**下側余白 (Margin below tacet)」の値を変更すると、タチエットとそのあとのアイテムの間の最小間隔が増減します。

#### ヒント

「**タチエット (Tacet)**」パラグラフスタイルを編集することで、タチエットの左右の余白、境界線の表示/非表示、境界線の太さを変更できます。

---

#### 関連リンク

[フロー見出し \(595 ページ\)](#)

[「パラグラフスタイル \(Paragraph Styles\)」ダイアログ \(932 ページ\)](#)

[余白 \(768 ページ\)](#)

[レイアウトごとの垂直方向のスペーシングオプション \(776 ページ\)](#)

## コンデンシング

コンデンシングとは、複数のプレーヤーの楽譜を通常より少ない譜表に表示する処理のことです。通常は、フルート1と2やホルン1～4など、同じタイプの複数のインストゥルメントが譜表を共有できるようにすることでコンデンシングを行ないます。Dorico Pro では、自動処理によってフルスコアレイアウトなどの一部のレイアウトにはコンデンシングした譜表を表示し、パートレイアウトなどのその他のレイアウトにはコンデンシングしていない譜表を表示できます。

コンデンシングが最もよく使われるのは大規模なオーケストラのスコアです。これは、ページ上の譜表が少ない場合に譜表サイズを大きくし、指揮者にとって読みやすいスコアを作成できるためです。一般にオーケストラに必要なすべての譜表を指揮者用のスコア用紙に収めようとする、譜表サイズは3.5mmにまで小さくなる場合があります。可読性を維持するため、通常、インストゥルメントパートの譜表サイズは7mm以上で作成されます。

複数のプレーヤーの楽譜を同じ譜表に収め、各プレーヤーがどの音符を演奏するのかを明確にすることは容易ではありません。たとえば、コンデンシングされた譜表にラベルの付いていない音符が1つだけ表示されている場合、その音符を演奏するのが1人のプレーヤーなのか全員なのかははっきりしません。コンデンシングされたそれぞれの譜表で、譜表ラベルにプレーヤーを正しく表示することも大切です。

The image shows a musical score for a woodwind section, including Piccolo, Flute 1 & 2, Oboe 1 & 2, Cor Anglais, Clarinet in Bb 1 & 2, and Bassoon 1 & 2. The score is in 3/4 time and features a tempo change to 'allargando.. a tempo'. Condensing annotations are present, such as 'cresc.' and 'f' markings, and some notes are marked with 'a2' and '1' to indicate specific parts of the score.

コンデンスされた譜表とコンデンスされていない譜表を含むオーケストラスコアの木管楽器セクション

コンデンスされた楽譜を作成するためには、数多くの複雑な計算と考慮事項が必要となることから、コンデンスは従来から、時間のかかる難しい作業とされてきました。特に、ほかの楽譜作成ソフトウェアでは、コンデンスされたフルスコアから個別のインストゥルメントパートを作成する際に、楽譜や譜表を手動で複製する必要があります。

Dorico Pro は独自の方法でプレーヤーやレイアウトを扱うため、楽譜や譜表を手動で複製することなく、同じプロジェクト内に個別のインストゥルメントパートとコンデンスされたフルスコアを作成できます。コンデンスされた譜表上の譜表ラベルは譜表上のすべてのプレーヤーを自動的に参照し、プレーヤーラベルにはどの音符がどのプレーヤーに属するのかが表示されます。

コンデンスを有効にしたときに明確な結果を得られるよう、Dorico Pro ではプレーヤーごとに楽譜を個別に入力する必要があります。これにより、ユーザーが楽譜をどのように分割したいかを Dorico Pro が常に正確に把握できるため、Dorico Pro では複雑なインストゥルメントでもコンデンスできます。

コンデンスに際して Dorico Pro が行なう計算と考慮事項、そしてコンデンス結果のカスタマイズにどのようなオプションを使用できるのかを理解しておくことをおすすめします。

#### 補足

- 記譜モードでは、コンデンスされた譜表では何も選択できません。浄書モードでは、コンデンスされた譜表上の音符やアイテムを選択できますが、編集できるのは表示上の要素のみです。

コンデンスされた譜表に対して表示上の編集を行っても、ほとんどの場合元の楽譜には影響しませんが、スラーやタイのスタイル属性のように一部例外もあります。

- ギャラービューではコンデンスが有効にならないため、ギャラービューに切り替えることですべての譜表を個別に表示できます。ギャラービューに切り替えても現在のレイアウトのコンデンスが無効になることはありません。

#### 重要

プロジェクト内のいずれかのレイアウトでコンデンスを有効にすると、多くの計算が必要になるため、Dorico Pro の動作が遅くなることがあります。そのため、音符や記譜記号の入力、あるいはフローの追加など、必要な作業の大半を終わらせてからコンデンスを有効にすることをおすすめします。

関連リンク

[コンデンスの有効化/無効化 \(765 ページ\)](#)



[コンデンスされた譜表の譜表ラベル \(1699 ページ\)](#)  
[ギャラリービューまたはページビューへの切り替え \(54 ページ\)](#)  
[インストールメントのスコアの順番 \(963 ページ\)](#)  
[ディヴィジ \(1722 ページ\)](#)

## コンデンスのフローごとの記譜オプション

「記譜オプション (Notation Options)」の「コンデンス (Condensing)」ページには、コンデンスをフローごとに個別に制御するためのオプションがあります。

「コンデンス (Condensing)」ページには以下のオプションがあります。

### フレーズ全体でのユニゾン方法 (Whole-phrase unison approach)

完全に一致するフレーズをコンデンスされた譜表上でどのように表示するかを選択できます。

- **単一の符尾でのユニゾンを許可 (Allow single-stem unison):** ユニゾンフレーズは単一の符尾を持つ単一の符頭として表示され、任意の数のプレーヤーを表わすことができます。
- **単一の符尾でのユニゾンを禁止 (Prevent single-stem unison):** ユニゾンフレーズはプレーヤーごとに個別の符頭と符尾で表示されます。

### フレーズの一部でのユニゾン方法 (Mid-phrase unison approach)

完全に一致しないフレーズ内の個々のユニゾンの音符をどのように表示するかを選択できます。

- **フレーズの一部でのユニゾンを許可 (Allow mid-phrase unisons):** フレーズの一部でのユニゾンの音符を単一の符尾で表示します。
- **フレーズの一部でのユニゾンを禁止 (Prevent mid-phrase unisons):** フレーズの一部でのユニゾンの音符を個別の符尾で表示します。

### ピッチまたぎの方法 (Pitch crossing approach)

ピッチまたぎが起こるのは、符尾が上向きの声部の音符のピッチが符尾が下向きの声部の音符のピッチよりも低くなる場合です。このオプションは、いくつかの音符のピッチが交差する場合でも複数のプレーヤーで譜表を共有できるようにするか、あるいはフレーズにピッチまたぎが含まれる場合にそのプレーヤーのコンデンスを無効にするかを選択するものです。

- **あらゆるピッチまたぎを許可 (Allow unlimited pitch crossing):** ピッチまたぎの有無に関係なく、コンデンスを常に許可します。
- **ピッチまたぎを制限 (Limit pitch crossing):** ピッチまたぎの数が設定した値よりも少ない領域でのみコンデンスを許可します。

### 領域内でのピッチまたぎの最大数 (Maximum number of pitch crosses in region)

各領域でコンデンスを許可するピッチまたぎの最大数を設定できます。初期設定では、「1」に設定されています。

### 臨時記号の表示/非表示の上書き (Accidental visibility overrides)

コンデンスされていない譜表における臨時記号の表示に関するプロパティ設定を、コンデンスされた譜表にも適用するかどうかを選択できます (既存の臨時記号と、後から表示設定を変更した臨時記号の両方に適用されます)。

- **コンデンスされた譜表にコピー (Propagate to condensed staves):** 臨時記号の表示タイプをコンデンスされた譜表にコピーします。
- **コンデンスされた譜表にコピーしない (Do not propagate to condensed staves):** 臨時記号の表示タイプをコンデンスされた譜表にコピーしません。

### トリル音程

トリルの音程が異なる音符が符尾を共有できるかどうかを選択できます。Dorico Pro では、1つの声部にトリルの音程を1つしか表示できません。

- **音程が同じであることが必要 (Require identical intervals):** トリルの音程が異なる音符は別々の声部にコンデンスされます。
- **音程が同じであることは不要 (Do not require identical intervals):** トリルの音程が異なる音符が符尾を共有できます。

### 音符とコードのアマルガメーション方法 (Amalgamation approach for notes and chords)

プレーヤー同士のリズムが一致する部分と異なる部分が混在する場合に、コンデンスされた譜表上の音符とコードを、符尾が上向きの1つの声部に結合するかどうかを選択できます。

- **アマルガメーションを許可 (Allow amalgamation):** プレーヤー同士のリズムが一致する場合に、符尾が上向きの1つの声部に音符とコードを結合します。
- **アマルガメーションを禁止 (Prevent amalgamation):** プレーヤー同士のリズムが一致しても、音符とコードを結合せず、2つの声部に分かれたままにします。

### スラーのアマルガメーション方法 (Amalgamation approach for slurs)

2つの声部の同じ位置に同じデュレーションのスラーが存在する場合に、それらのスラーを結合するかどうかを選択できます。

- **スラーのアマルガメーションを許可 (Allow amalgamation of slurs):** 一致するスラーが結合され、2つの声部のスラーが単一のスラーとして表示されます。
- **符尾が下向きの声部でのスラーのアマルガメーションを禁止 (Prevent amalgamation for slurs in down-stem voice):** スラーは声部ごとに個別に表示されます。
- **すべてのスラーのアマルガメーションを禁止 (Prevent amalgamation for all slurs):** スラーは声部ごとに個別に表示されます。符尾が上向きの声部に部分的に結合されていた音符は、強制的に符尾が下向きの声部に表示されます。

### 演奏技法のアマルガメーション方法 (Amalgamation approach for playing techniques)

2つの声部の同じ位置に同じ演奏技法が使われている場合に、その演奏技法を結合するかどうかを選択できます。

- **アマルガメーションを許可 (Allow amalgamation):** 2つの声部に対して演奏技法を1つ表示します。演奏技法は、演奏技法のデフォルトの位置に応じて譜表の上または下に表示されます。
- **アマルガメーションを禁止 (Prevent amalgamation):** 譜表の上下両方に演奏技法を表示します。

### 横棒線のアマルガメーション方法 (Amalgamation approach for horizontal lines)

2つの声部の同じ位置に同じラインが使われている場合に、その小節線または位置に連結された横棒線を結合するかどうかを選択できます。

- **アマルガメーションを許可 (Allow amalgamation):** 2つの声部に対して横棒線を1本表示します。
- **アマルガメーションを禁止 (Prevent amalgamation):** 譜表の上下両方に横棒線を表示します。

### 補足

符頭に連結されたラインが結合されることはありません。

### 組段の一部でサイレントのプレイヤーのコンデンシング (Condensing for players inactive for some of the system)

同じ組段内にアクティブのプレイヤーとサイレントのプレイヤーがいて、コンデンシンググループ内のほかのプレイヤーに音符がある場合に、サイレントのプレイヤーをどのようにコンデンシングして表示するかを選択できます。

- **休符を非表示にし、アクティブのプレイヤーをラベル付け (Hide rests and label active player):** アクティブのプレイヤーの楽譜だけが、アクティブのプレイヤー用のプレイヤーラベルが表示された状態でコンデンシングされた譜表上に表示されます。サイレントのプレイヤーの休符は表示されません。
- **休符を表示し、ラベルを非表示 (Show rests and omit labels):** コンデンシングされた譜表上にサイレントのプレイヤーの休符を表示しますが、追加のプレイヤーラベルは表示しません。

### サイレントのプレイヤーの休符を非表示にする場合 (When hiding rests for inactive players)

どのような状況でサイレントのプレイヤーの休符を非表示にするかを選択できます。このオプションは、「組段の一部でサイレントのプレイヤーのコンデンシング (Condensing for players inactive for some of the system)」に「休符を非表示にし、アクティブのプレイヤーをラベル付け (Hide rests and label active player)」を選択した場合にのみ適用されます。

- **小節の開始位置と終了位置にある休符のみを非表示 (Hide rests only at the start or end of bars):** 小節線の位置で範囲が開始または終了する休符のみが非表示になります。出版社によってはこの表記規則を採用しているところがあります。休符の数は増えますが、プレイヤーラベルの数は少なくなります。
- **すべての休符を非表示 (Hide rests at any position):** すべての休符が非表示になります。休符の数は少なくなります。プレイヤーラベルの数は増えます。

### 非表示を許可する休符の範囲の最小値 (Minimum length of range of rests to allow hiding)

その値を超える場合に休符を非表示にするデュレーションのしきい値を設定できます。出版社によっては、音符間の2拍の休符のようにデュレーションの短い休符は表示し、デュレーションの長い休符は非表示にするという表記規則を採用しているところがあります。

### 組段全体でサイレントのプレイヤーのコンデンシング (Condensing for players inactive for the whole system)

サイレントのプレイヤーが組段全体を通してサイレントであり、コンデンシンググループ内のほかのプレイヤーに音符がある場合に、そのサイレントのプレイヤーをどのようにコンデンシングして表示するかを選択できます。

- **アクティブのプレイヤーと合わせる (Pair with active player):** コンデンシングされた譜表上に、少なくとも1人のアクティブプレイヤーと一緒に (ただし異なる声部に) サイレントのプレイヤーを表示します。サイレントのプレイヤーには、必要に応じて休符が表示されます。
- **譜表ラベルに含む (Include in staff label):** コンデンシングされた譜表上の譜表ラベルにはサイレントのプレイヤーの数を含めますが、サイレントのプレイヤーの休符は表示されません。コンデンシングされた譜表にはアクティブのプレイヤーの楽譜だけが表示されます。
- **コンデンシングしない (Do not condense):** 範囲全体にわたって演奏しないプレイヤーは、組段のコンデンシングから除外され、コンデンシングされていない個別の譜表に表示されます。これらの譜表は空白と見なされ、空白の譜表の表示/非表示に関するレイアウトごとの設定に従います。

#### 補足

これらのオプションは選択したフロー全体に適用されます。ただし、コンデンシング方法の変更を使用すれば、選択した位置から先や選択したコンデンシンググループにのみ、それらを上書きできます。

関連リンク

[「記譜オプション \(Notation Options\)」ダイアログ \(919 ページ\)](#)

[空白の譜表の表示/非表示を切り替える \(750 ページ\)](#)

[任意の位置からコンデンスオプションを変更する \(810 ページ\)](#)

[休符 \(1640 ページ\)](#)

[プロパティ範囲の変更 \(828 ページ\)](#)

[臨時記号を表示/非表示にするか括弧を付ける \(1052 ページ\)](#)

## コンデンスの計算と考慮事項

明瞭で読みやすいスコアを作成するために、Dorico Pro は音符のリズムやピッチ、さらにはインストゥルメントのタイプなど、さまざまな要因を考慮してコンデンスの計算を行ないます。

### 重要

プロジェクト内のいずれかのレイアウトでコンデンスを有効にすると、多くの計算が必要になるため、Dorico Pro の動作が遅くなることがあります。そのため、音符や記譜記号の入力、あるいはフローの追加など、必要な作業の大半を終わらせてからコンデンスを有効にすることをおすすめします。

コンデンスの計算には、以下の考慮事項と処理が含まれます。

### インストゥルメントとプレーヤー

プロジェクト内のシングルプレーヤーとセクションプレーヤーは別々にコンデンスされます。コンデンスを有効にすると、類似のインストゥルメントを持つ隣接するプレーヤーは、自動的にコンデンスグループに割り当てられます。

### 補足

- シングルプレーヤーが複数のインストゥルメントを持つ場合は、最初のインストゥルメントのみ対象となります。その他のインストゥルメントは常に別の譜表に表示されます。
- すでに複数の声部にまたがっている楽譜はコンデンス結果が不明瞭になるため、一般に1つの譜表に単一声部で記譜されるインストゥルメントのみコンデンスできます。大譜表を使用するインストゥルメントはコンデンスできません。追加の譜表やオssia譜表が存在する組段では、追加の譜表やオssia譜表があるインストゥルメントはコンデンスできません。
- ディヴィジ譜表は1人のプレーヤー内でのみコンデンスできます。たとえば、2人のセクションバイオリンプレーヤーをまとめてコンデンスできるのは、どちらのプレーヤーも分割されていない場合のみです。
- 無音程打楽器はコンデンスできません。無音程打楽器をフルスコアにどのように表示するかは、利用できる打楽器キットの表示を使って変更できます。

### コンデンスグループ

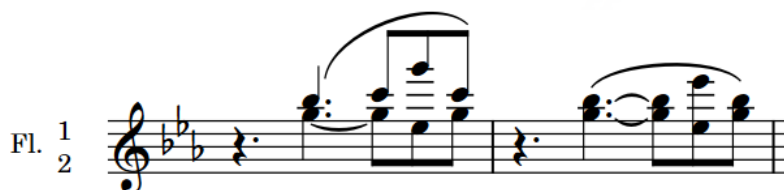
コンデンスグループ内のプレーヤーはまとめてコンデンスされ、それぞれの楽譜と設定した記譜オプションに応じてすべてのプレーヤーが1つの譜表を共有できます。

初期設定では、フルート1と2のように、類似のインストゥルメントが隣接する場合は自動的に同じコンデンスグループに割り当てられます。また、カスタムコンデンスグループを作成し、まとめてコンデンスするプレーヤーを指定することもできます。

### フレーズ

求められるコンデンス結果は1つの曲の途中で変化する楽曲の構造や密度に応じて変化するため、Dorico Pro は各フローを複数のフレーズに分割します。最適なコンデンス結果が得られるよう、各フレーズは個別に計算されます。

Dorico Pro は、休符と休符の間の一連の音符を 1 つのフレーズと見なします。ただし、スラー、段階的強弱記号、デュレーションを持つ演奏技法などのアイテムが休符にかかっている場合、その休符でフレーズが分割されることはありません。コンデンスは、組段区切りまたはフレーム区切りをまたぐフレーズ内でのみ変更できます。



休符で分割された 2 つのフレーズ。最初のフレーズはパートのリズムが異なるため、これらのフレーズはコンデンス結果が異なります。

最適なコンデンス結果を計算するために、コンデンスされた各譜表上のすべてのプレーヤーに属するフレーズは、たとえば複数のフレーズで 1 本の符尾を共有するか、または個別の声部が必要かなどについて、まとめて考慮されます。

### リズムとピッチ

それぞれのフレーズ内で、音符のリズムとピッチが考慮されます。リズムとピッチがどちらも同じ場合、コンデンス結果がユニゾンになることがあります。リズムとピッチがどちらも異なる場合は、コンデンス結果は同じ譜表の異なる声部になる場合も、個別のコンデンスされていない譜表になる場合もあります。

### 記譜

音符だけでなく、アーティキュレーション、強弱記号、スラー、装飾音符、演奏技法、歌詞、装飾音など、その他の記譜記号もすべて考慮されます。たとえば、リズムとピッチが同じ 2 つのパートでスラーが別の音符にかかっている場合、異なるスラーが明確に記譜されるように、これらのパートは個別の声部を持つ共有の譜表にコンデンスされます。また、アーティキュレーションが異なるパートも個別の声部にコンデンスされます。

#### 補足

- 異なるブレス記号を持つプレーヤーを同じ譜表にコンデンスすることはできません。コンデンスされた譜表に表示されるブレス記号は 1 つだけです。
- 音部記号とオクターブ線はコンデンス結果には影響しません。インストゥルメントの音部記号とオクターブ線が異なっても、プレーヤーがまとめてコンデンスされることがあります。コンデンスされた譜表は、その譜表の最初のプレーヤーに属する音部記号とオクターブ線のみを使用します。

### プロパティ

音符の符尾の方向が強制されているかやスラーが反転されているかなど、音符やアイテムのプロパティも考慮されます。プロパティが異なるパートは同じ声部にはコンデンスされません。

### 拍子記号と調号

拍子記号または調号が異なるプレーヤーをまとめてコンデンスすることはできません。

### 配置設定

楽譜は組段ごとに左から右へと一度にコンデンスされます。コンデンスの計算は組段全体で行なわれるため、たとえば組段の始めに個別の譜表に表示されたプレーヤーが、そのあと同じ組段内のコンデンスされた譜表に表示されることはありません。

1 つのフレーズが複数の組段をまたいでいる場合でも、各組段のコンデンス結果が隣接する組段と異なることがあります。このような状況では、フレーズの個々のパートが個別に考慮されます。

そのため、配置設定および組段区切り/フレーム区切りはどのフレーズをまとめて考慮するかに影響し、ひいてはコンデンス結果にも影響します。

#### 補足

たとえば間隔の小さい音符の幅に合わせる必要があるなど、コンデンスされた楽譜に必要なスペーシングは、多くの場合、コンデンスされていない楽譜とは異なります。そのため、コンデンスを有効にするとレイアウト内の配置設定が変化することがあります。

#### ヒント

Dorico Pro によって生成された自動コンデンスが期待と異なる場合は、コンデンス方法の変更を使用して、選択した位置から先のコンデンスや選択したコンデンスグループのコンデンスを手動で変更できます。コンデンス方法の変更を使用して新しいフレーズを開始するだけで、期待するコンデンス結果を実現できることもあります。

#### 関連リンク

[コンデンスグループ \(808 ページ\)](#)

[ディヴィジ \(1722 ページ\)](#)

[プレーヤーの追加 \(136 ページ\)](#)

[既存の音符の声部を変更する \(507 ページ\)](#)

[インストゥルメントの移動 \(149 ページ\)](#)

[アイテムの外観のリセット \(476 ページ\)](#)

[アイテムの位置のリセット \(477 ページ\)](#)

[配置設定 \(784 ページ\)](#)

[配置ツール \(495 ページ\)](#)

## コンデンス結果

コンデンスを実行すると、コンデンスする譜表の各パートに含まれる音符のピッチとリズムに応じて、符尾を共有するパートや個別の声部を持つパートが作成される場合と、コンデンスが行なわれず個々の譜表が維持される場合があります。

最適な結果を得るために、Dorico Pro は各フレーズのパートのコンデンスを個別に計算し、考慮します。また、Dorico Pro はプレーヤーラベルを自動的に表示することで、それぞれの音符がコンデンスされた譜表上のどのパートに属するかを常に明確にします。

コンデンス結果には以下のものがあります。

#### ユニゾン

すべてのプレーヤーのリズムとピッチが同じで、コンデンスする譜表上のすべてのパートが単一の符尾の同じ符頭を共有するフレーズの場合です。



#### 補足

ユニゾンのコンデンス結果を得るには、フレーズが同じ位置で始まっている必要があります。

### 符尾の共有

リズムが同じでピッチが異なり、ピッチが交差しておらず、コンデンスする譜表上の各パートに単一の符尾を共有する個別の符頭があるフレーズの場合です。



#### 補足

符尾を共有するコンデンス結果を得るには、フレーズが同じ位置で始まっている必要があります。

### 譜表を共有

すべてのプレーヤーのリズムとピッチがどちらも異なり、ピッチまたぎの数が設定した値を超えておらず、コンデンスする譜表上のパートが符尾が上向きの声部と下向きの声部に分かれているフレーズの場合です。

フレーズが同じ位置で始まっている場合、同じデュレーションを持つこれらのフレーズ内の個々の音符と連符/連符は、これらのフレーズ内のその他の記譜記号や設定した記譜オプションに応じて、すべて単一の声部に結合されます。



### コンデンスなし

すべてのプレーヤーのリズムとピッチがどちらも異なり、ピッチまたぎの数が設定した値を超えるフレーズの場合、コンデンスは行なわれずパートは個別の譜表に表示されたままになります。



#### 補足

- リズムとピッチに加え、Dorico Pro は最適なコンデンス結果を計算するために、スラーや強弱記号などのその他すべての記譜記号を考慮します。たとえば、リズムとピッチが同じ2つのパートでスラーが別の音符にかかっている場合、異なるスラーが明確に記譜されるように、これらのパートは個別の声部を持つ共有の譜表にコンデンスされます。ただし、音部記号とオクターブ線は考慮されず、コンデンス結果には影響しません。
- コンデンスされた譜表が使用する声部の最大数は常に2つで、1つは符尾が上向きの声部、もう1つは符尾が下向きの声部です。各声部には複数のプレーヤーのパートが含まれる場合があります。

- 自動コンデンスの結果を変更したい場合、コンデンス方法の変更を使用すれば、選択した位置から先の結果を変更できます。コンデンス方法の変更を使用して新しいフレーズを開始するだけで、期待するコンデンス結果を実現できることもあります。

## コンデンスグループ

コンデンスグループには、楽譜を同じ譜表または少ない譜表にコンデンスでき、通常はスコア上で隣接しているプレーヤーが含まれます。コンデンスグループに含まれるプレーヤーは最大で16人です。

通常、コンデンスグループには、同じタイプのインストゥルメントを持つプレーヤーが含まれます。ただし、これには一般的な例外もあります。たとえば、トロンボーンとチューバは別のインストゥルメントですが、オーケストラのスコアでは譜表を共有することが少なくありません。もう1つの例として、ときには交互にペアを作るホルンがあります。つまり、ホルン1と3、ホルン2と4がそれぞれ譜表を共有します。

Dorico Pro は、コンデンスの有効化に関する各レイアウトの現在の設定に従い、移調が同じで同じタイプのインストゥルメントを持つ隣接するプレーヤーのコンデンスグループを自動的に作成します。これらのグループは「**レイアウトオプション (Layout Options)**」 > 「**プレーヤー (Players)**」 > 「**コンデンス (Condensing)**」で確認できます。

たとえば、移調の異なるトランペットをまとめてコンデンスしたい場合などに、カスタムコンデンスグループを作成できます。また、コンデンスから除外するグループを指定することもできます。除外したグループに属するプレーヤーの譜表は常に個別に表示されます。

各レイアウト内で設定したコンデンスグループは、それ以降「**コンデンス方法の変更 (Condensing Change)**」ダイアログで使用できるようになり、選択した位置から先のこれらのコンデンスグループのオプションをそのダイアログで変更できます。

### 補足

すべてがシングルプレーヤーまたはすべてがセクションプレーヤーである場合にのみ、コンデンスグループを作成できます。

### 関連リンク

[コンデンスの有効化/無効化 \(765 ページ\)](#)

[「レイアウトオプション \(Layout Options\)」ダイアログ \(917 ページ\)](#)

[コンデンスされた譜表ラベルの番号を統合する方法の変更 \(1701 ページ\)](#)

[コンデンスされた譜表ラベルの番号をスタックする方法の変更 \(1701 ページ\)](#)

## カスタムコンデンスグループの作成

シングルプレーヤーとセクションプレーヤー両方のカスタムコンデンスグループをレイアウトごとに個別に作成できます。これは、たとえばホルン1と2およびホルン3と4ではなく、ホルン1と3およびホルン2と4をまとめてコンデンスしたい場合などに行ないます。コンデンスグループに含まれるプレーヤーは最大で16人です。


### 補足

すべてがシングルプレーヤーまたはすべてがセクションプレーヤーである場合にのみ、コンデンスグループを作成できます。

### 手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[L]** を押して「**レイアウトオプション (Layout Options)**」を開きます。



2. 「レイアウト (Layouts)」 リストから、カスタムコンデンシンググループを作成するレイアウトを選択します。  
初期設定では、楽譜領域で選択されているものと同じレイアウトが選択された状態のダイアログが表示されます。他のレイアウトを選択するには、アクションバーの選択オプションを使用するか、複数のレイアウトをまたぐようにクリックしてドラッグするか、**[Shift]** を押しながら隣接するレイアウトをクリックするか、**[Ctrl]/[command]** を押しながら個々のレイアウトをクリックします。
  3. カテゴリリストの「プレーヤー (Players)」 をクリックします。
  4. 「コンデンシング (Condensing)」 セクションで、「グループを新規作成 (New Group)」  をクリックして「カスタムのコンデンシングのグループを編集 (Edit Custom Condensing Group)」 ダイアログを開きます。
  5. カスタムコンデンシンググループに含めるプレーヤーを選択します。  
隣接するプレーヤーを選択するには **[Shift]** を押しながらクリックし、個別のプレーヤーを選択するには **[Ctrl]/[command]** を押しながらクリックします。
  6. 「OK」 をクリックして変更内容を保存し、ダイアログを閉じます。
  7. 必要に応じて、手順 4～6 を繰り返してほかのカスタムコンデンシンググループを作成します。
  8. 「適用 (Apply)」 をクリックしてから「閉じる (Close)」 をクリックします。
- 

#### 結果

選択したレイアウトにコンデンシンググループが追加されます。コンデンシンググループは、これらのレイアウトでどのプレーヤーをまとめてコンデンシングするかに影響します。

デフォルトのコンデンシンググループに含まれていたプレーヤーをカスタムコンデンシンググループに含めた場合、そのプレーヤーはデフォルトのコンデンシンググループから削除されます。

#### 補足

その他のコンデンシングの計算と考慮事項および設定した記譜オプションは、特定のリズム上の位置でプレーヤーをコンデンシングするかどうか引き続き影響します。

---

#### 手順終了後の項目

必要に応じて、選択した位置から先のこれらのコンデンシンググループのオプションを変更し、コンデンシング結果を変更できます。

## コンデンシンググループを含める/除外する

たとえば、Dorico Pro によって自動的にコンデンシンググループに追加される 2 つのホルンを常に個別の譜表に表示したい場合など、コンデンシングの計算に含めるまたは除外するコンデンシンググループを個別に指定できます。

---

#### 手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[L]** を押して「レイアウトオプション (Layout Options)」を開きます。
2. 「レイアウト (Layouts)」 リストから、コンデンシングの計算にコンデンシンググループを含めるまたは除外するレイアウトを選択します。  
初期設定では、楽譜領域で選択されているものと同じレイアウトが選択された状態のダイアログが表示されます。他のレイアウトを選択するには、アクションバーの選択オプションを使用するか、複数のレイアウトをまたぐようにクリックしてドラッグするか、**[Shift]** を押しながら隣接するレイアウトをクリックするか、**[Ctrl]/[command]** を押しながら個々のレイアウトをクリックします。

3. カテゴリーリストの「**プレイヤー (Players)**」をクリックします。
  4. 「**コンデンシング (Condensing)**」セクションの「**コンデンシングから除外するグループ (Groups to exclude from condensing)**」リストで、コンデンシングから除外するコンデンシンググループのチェックボックスをオンにします。
  5. 「**適用 (Apply)**」をクリックしてから「**閉じる (Close)**」をクリックします。
- 

#### 結果

チェックボックスをオンにすると、コンデンシンググループはコンデンシングから除外されます。つまり、そのコンデンシンググループに含まれるプレイヤーは常に個別の譜表に表示されます。チェックボックスをオフにすると、コンデンシンググループはコンデンシングに含まれます。

#### 関連リンク

[ディヴィジ](#) (1722 ページ)

## 任意の位置からコンデンシングオプションを変更する


個々のレイアウト内の選択した位置から先について、個々のコンデンシンググループにおけるコンデンシングの記譜オプションの設定を変更できます。たとえば、特定の組段のコンデンシング結果を変更したい場合などに便利です。

#### ヒント

フローごとのデフォルトのコンデンシングオプションの変更、カスタムコンデンシンググループの作成、および選択した位置からの新規フレーズの開始で期待するコンデンシング結果を得られなかった場合にのみ、必要最小限のコンデンシングオプションの変更を行なうことをおすすめします。

---

#### 前提条件

- 現在のレイアウトでコンデンシングを有効にしておきます。
  - 浄書ツールボックスで「**グラフィックの編集 (Graphic Editing)**」を選択しておきます。
- 

#### 手順

1. 浄書モードで、コンデンシング方法を変更するレイアウトを開きます。
2. コンデンシング結果を変更する位置にあるアイテムを選択します。

#### ヒント

アイテムはコンデンシングされた譜表上にある必要はありません。一箇所に存在できるコンデンシング方法の変更は1つのみですが、変更やリセットは複数のコンデンシンググループの異なるオプションに対して行なえます。

---

3. 「**浄書 (Engrave)**」 > 「**コンデンシング方法の変更 (Condensing Change)**」を選択して「**コンデンシング方法の変更 (Condensing Change)**」ダイアログを開きます。
4. コンデンシンググループリストで、コンデンシング方法の変更に含めるコンデンシンググループのチェックボックスをオンにします。  
コンデンシンググループに含めると、選択した位置から新しいフレーズが始まります。
5. コンデンシングオプションを変更するコンデンシンググループを選択します。

#### 補足

オプションを変更またはリセットできるコンデンシンググループは一度に1つのみです。

---

6. 「**記譜オプション (Notation Options)**」セクションで、変更するオプションを選択します。
7. オンにしたオプションで「**変更 (Change)**」を選択します。
8. 有効にしたオプションの設定を必要に応じて変更します。

#### 補足

コンデンシングオプションの設定には、前のコンデンシング方法の変更 (存在する場合) または「**記譜オプション (Notation Options)**」で設定されたそのフローのデフォルト設定が反映されます。

9. 必要に応じて、選択した位置から先のコンデンシングオプションを変更するコンデンシンググループごとに手順5から8を繰り返します。
10. 「**OK**」をクリックして変更内容を保存し、ダイアログを閉じます。

#### 結果

現在のレイアウトの選択した位置から先のコンデンシング結果が変更されます。チェックボックスをオンにした各コンデンシンググループについて、コンデンシング方法の変更の前後のコンデンシング結果が再計算されます。コンデンシング方法の変更の位置は新しいフレーズの始まりとして扱われます。変更した記譜オプションは、これらのオプションを変更またはリセットする次のコンデンシング方法の変更がある位置 (存在する場合)、またはフローの終了位置のいずれか早い方まで対応するコンデンシンググループに適用されます。

コンデンシング方法の変更の位置にはガイドが表示されます。

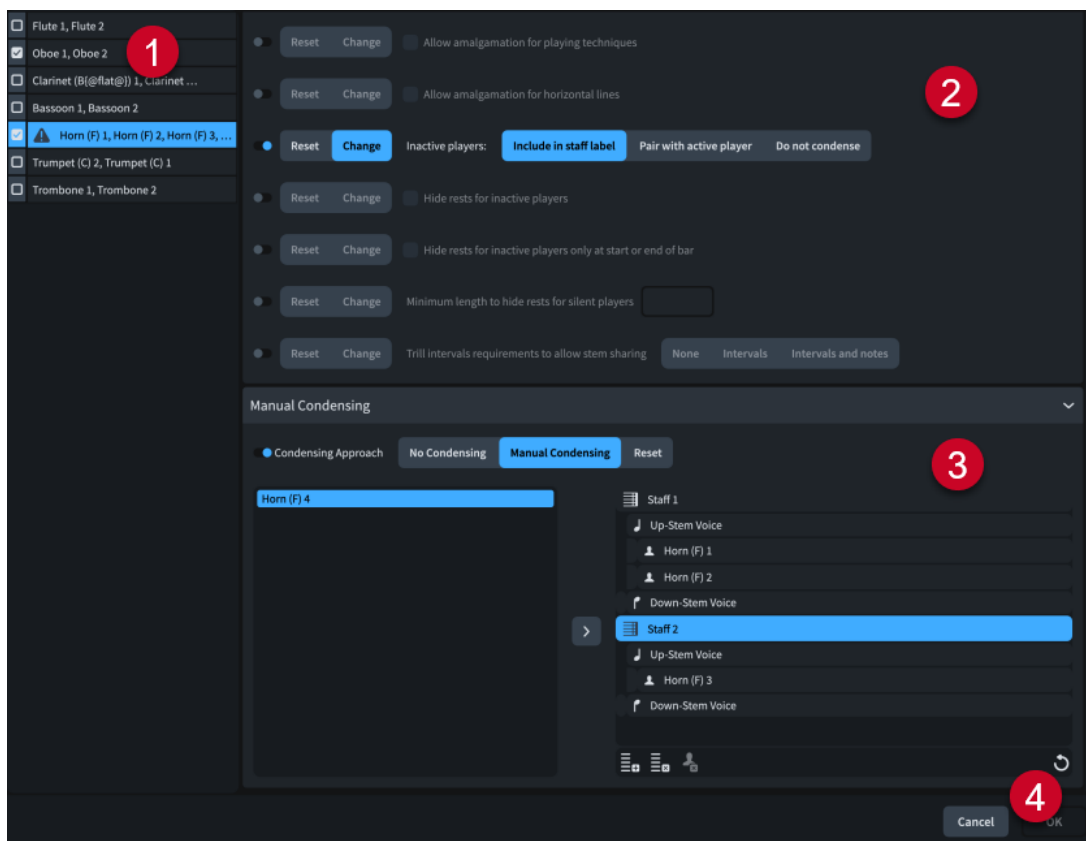
#### 関連リンク

- [浄書ツールボックス \(554 ページ\)](#)
- [レイアウトの切り替え \(47 ページ\)](#)
- [コンデンシングのフローごとの記譜オプション \(801 ページ\)](#)
- [コンデンシング結果 \(806 ページ\)](#)
- [コンデンシンググループ \(808 ページ\)](#)
- [ガイド \(490 ページ\)](#)

## 「コンデンシング方法の変更 (Condensing Change)」ダイアログ

「**コンデンシング方法の変更 (Condensing Change)**」ダイアログを使用すると、レイアウトの選択した位置から先のコンデンシングの記譜オプションを変更したりリセットしたりできます。また、コンデンシンググループ内のプレーヤーを特定の声部や譜表に手動で割り当てることもできます。

- 「**コンデンシング方法の変更 (Condensing Change)**」ダイアログは、浄書モードで浄書ツールボックスの「**グラフィックの編集 (Graphic Editing)**」が選択された状態で楽譜領域のアイテムを選択し、「**浄書 (Engrave)**」 > 「**コンデンシング方法の変更 (Condensing Change)**」を選択すると開きます。




「コンデンスング方法の変更 (Condensing Change)」ダイアログには、以下のセクションとオプションがあります。

### 1 コンデンスンググループリスト

現在のレイアウト内のすべてのコンデンスンググループが表示されます。

コンデンスンググループを有効にするとそのグループがコンデンスング方法の変更に含まれ、コンデンスング方法の変更の位置から新しいフレーズが開始されます。これにより、たとえその位置に休符がなくても、Dorico Pro はコンデンスング方法の変更の前と後ろのコンデンスング結果を個別に再計算できます。

手動コンデンスングを有効にした上で、すべてのプレーヤーを声部または譜表にまだ割り当てていないコンデンスンググループには警告アイコン  が表示されます。

### 2 「記譜オプション (Notation Options)」セクション

「記譜オプション (Notation Options)」ダイアログのすべてのコンデンスングオプションが表示され、コンデンスング方法の変更の位置から先の選択したコンデンスンググループの記譜オプションを変更したりリセットしたりできます。

コンデンスングオプションの設定には、前のコンデンスング方法の変更 (存在する場合) または「記譜オプション (Notation Options)」で設定されたそのフローのデフォルト設定が反映されます。

#### 補足





- 各コンデンスング方法の変更ですべてのオプションを変更する必要はないため、コンデンスングオプションの設定には、先行する複数のコンデンスング方法の変更から設定が累積的に反映される場合があります。
- より簡潔にするために、いくつかの記譜オプションの正確な表記は「コンデンスング方法の変更 (Condensing Change)」ダイアログと「記譜オプション (Notation Options)」ダイアログで異なります。

### 3 「手動でコンデンスング (Manual Condensing)」セクション

選択したコンデンシンググループ内のプレーヤーを特定の声部や譜表に割り当てることができます。

コンデンシンググループの手動コンデンシングを有効にすると、そのグループ内のプレーヤーが「**手動でコンデンシング (Manual Condensing)**」セクションの左側のプレーヤーリストに表示されます。そのあと、プレーヤーを右側のリストの声部または譜表に割り当てることができます。割り当てたプレーヤーはプレーヤーリストから削除されます。

右側のリストの最下部のアクションバーには以下のオプションがあります。

- **譜表を追加 (Add Staff)** : 譜表を追加します。プレーヤーリストの一番上のプレーヤーが、新しい譜表の符尾が上向き声部に自動的に割り当てられます。
- **譜表を削除 (Remove Staff)** : 選択した譜表を削除します。譜表に割り当てられているプレーヤーはプレーヤーリストに戻されます。
- **プレーヤーを削除 (Remove Player)** : 選択したプレーヤーを削除してプレーヤーリストに戻します。
- **クリア (Clear)** : 手動コンデンシングへのすべての変更を削除してすべてのプレーヤーをプレーヤーリストに戻します。

#### 重要

手動コンデンシングの選択については慎重に検討することをおすすめします。Dorico Pro は、たとえあいまいな結果が生成されるとしても、手動コンデンシングの設定に正確に従います。

#### 補足

- 譜表の符尾が上向き声部には、少なくとも1人のプレーヤーを必ず割り当てる必要があります。符尾が下向き声部にはプレーヤーを割り当てることはできません。
- コンデンシンググループ内のプレーヤーの数よりも多い譜表を作成することはできません。
- プレーヤーは単一のコンデンシンググループにのみ割り当てることができます。異なるコンデンシンググループ間でプレーヤーを共有することはできません。
- 組段の途中に挿入され、コンデンシンググループに必要な譜表の数を変更するコンデンシング方法の変更や、別の譜表に切り替わるプレーヤーを含むコンデンシング方法の変更は、次の組段まで効果を発揮しません。

## 4 「OK」 ボタン

変更を確定してダイアログを閉じます。手動コンデンシングが有効になっているすべてのコンデンシンググループのすべてのプレーヤーを声部または譜表に割り当てていないとダイアログは確定できません。

#### 関連リンク

[コンデンシングのフローごとの記譜オプション \(801 ページ\)](#)

[コンデンシング結果 \(806 ページ\)](#)

[コンデンシンググループ \(808 ページ\)](#)

## プレーヤーを手動でコンデンシングする

個々のレイアウト内の選択した位置から先について、各コンデンシンググループ内の声部および譜表へのプレーヤーの割り当てを手動で変更できます。たとえば、特定の組段のコンデンシング結果を変更したい場合などに便利です。

#### 重要

フローごとのデフォルトのコンデンシングオプションの変更、カスタムコンデンシンググループの作成、選択した位置からの新規フレーズの開始、および選択したコンデンシングオプションの上書きで期

待するコンデンス結果を得られなかった場合にのみ、手動によるプレーヤーのコンデンスを行なうことをおすすめします。

このような場合は、手動コンデンスの選択について慎重に検討することをおすすめします。Dorico Pro は、たとえあいまいな結果が生成されとしても、手動コンデンスの設定に正確に従います。たとえば、リズムが大きく異なる 2 人のプレーヤーを同じ譜表の同じ声部に割り当てた場合、生成される譜表では多くの音符がタイで連結され、個別の声部に記譜されていたときよりも読みづらくなります。

#### 前提条件

浄書ツールボックスで「**グラフィックの編集 (Graphic Editing)**」を選択しておきます。

#### 手順

1. 浄書モードで、プレーヤーを手動でコンデンスするレイアウトを開きます。
2. そこから先のコンデンスを手動で変更する位置にあるアイテムを選択します。



#### ヒント


アイテムはコンデンスされた譜表上にある必要はありません。一箇所に存在できるコンデンス方法の変更は 1 つのみですが、変更やリセットは複数のコンデンスグループの異なるオプションに対して行なえます。

3. 「**浄書 (Engrave)**」 > 「**コンデンス方法の変更 (Condensing Change)**」を選択して「**コンデンス方法の変更 (Condensing Change)**」ダイアログを開きます。
4. コンデンスグループリストで、コンデンス方法の変更に含まれるコンデンスグループのチェックボックスをオンにします。  
コンデンスグループに含まれると、選択した位置から新しいフレーズが始まります。
5. コンデンスを手動で変更するコンデンスグループを選択します。


#### 補足

オプションを変更またはリセットできるコンデンスグループは一度に 1 つのみです。

6. 「**手動でコンデンス (Manual Condensing)**」セクションで、「**コンデンス方法 (Condensing Approach)**」を有効にします。
7. 「**手動でコンデンス (Manual Condensing)**」を選択します。
8. プレーヤーリストでプレーヤーを選択します。
9. 以下のいずれかの操作を行なって、プレーヤーを声部や譜表に割り当てます。
  - プレーヤーをクリックして右側のリストにドラッグします。
  - 「**声部に追加 (Add to Voice)**」をクリックします。初期設定では、最初のプレーヤーが最初の譜表の符尾が上向きの声部に割り当てられます。
10. 必要に応じて、次のプレーヤーを別の譜表に割り当てるには、右側のリストの下部にあるアクションバーの「**譜表を追加 (Add Staff)**」をクリックします。  
初期設定では、プレーヤーリストの一番上のプレーヤーが、新しい譜表の符尾が上向きの声部に自動的に割り当てられます。
11. 必要に応じて、以下のいずれかの操作を行なって、引き続き声部または譜表にプレーヤーを割り当てます。
  - プレーヤーをクリックして、右側のリストの任意の声部や譜表にドラッグします。  
挿入ラインはプレーヤーが割り当てられる場所を示します。

- プレイヤーリストでプレイヤーを選択し、右側のリストで割り当て先の声部や譜表を選択して「声部に追加 (Add to Voice)」をクリックします。

#### 補足

- ダイアログを確定して閉じるには、コンデンシンググループ内のすべてのプレイヤーを声部または譜表に割り当てる必要があります。すべてのプレイヤーを割り当てるまで、コンデンシンググループリストのコンデンシンググループの横に警告アイコンが表示されます。
- 譜表の符尾が上向きの声部には、少なくとも 1 人のプレイヤーを必ず割り当てる必要があります。符尾が下向きの声部にのみプレイヤーを割り当てることはできません。
- デヴィジ作成のソロ譜表をコンデンシングすることはできません。

12. 必要に応じて、選択した位置から先を手動でコンデンシングするコンデンシンググループごとに手順 5 から 11 を繰り返します。

13. 「OK」をクリックして変更内容を保存し、ダイアログを閉じます。

#### 結果

現在のレイアウトの選択した位置から先のコンデンシング結果が変更されます。チェックボックスをオンにした各コンデンシンググループについて、コンデンシング方法の変更の前後のコンデンシング結果が再計算されます。コンデンシング方法の変更の位置は新しいフレーズの始まりとして扱われます。手動コンデンシングを変更したコンデンシンググループは、指定した割り当てを変更またはリセットする次のコンデンシング方法の変更がある位置 (存在する場合)、またはフローの終了位置のいずれか早い方までそれらの割り当てに従います。途中で分割数が変わる場合、デヴィジ作成のためにコンデンシング結果がレイアウトのデフォルトに戻ります。

コンデンシング方法の変更の位置にはガイドが表示されます。

#### 関連リンク

[浄書ツールボックス \(554 ページ\)](#)

[レイアウトの切り替え \(47 ページ\)](#)

[コンデンシングのフローごとの記譜オプション \(801 ページ\)](#)

[コンデンシング結果 \(806 ページ\)](#)

[コンデンシンググループ \(808 ページ\)](#)

[任意の位置からコンデンシングオプションを変更する \(810 ページ\)](#)

[デヴィジ \(1722 ページ\)](#)

[ガイド \(490 ページ\)](#)

## 任意の位置からコンデンシング方法の変更をリセットする

コンデンシングに対して行なった変更をフローごとのデフォルトにリセットできます。選択した記譜オプションのみをリセットすることも、個々のレイアウト内の選択した位置から先をリセットすることもできます。

#### 前提条件

浄書ツールボックスで「グラフィックの編集 (Graphic Editing)」を選択しておきます。

#### 手順

1. 浄書モードで、コンデンシング方法の変更をリセットするレイアウトを開きます。
2. コンデンシングをリセットする位置にあるアイテムを選択します。

#### ヒント

アイテムはコンデンシングされた譜表上にある必要はありません。一箇所が存在できるコンデンシング方法の変更は1つのみですが、変更やリセットは複数のコンデンシンググループの異なるオプションに対して行なえます。

3. 「浄書 (Engrave)」 > 「コンデンシング方法の変更 (Condensing Change)」を選択して「コンデンシング方法の変更 (Condensing Change)」ダイアログを開きます。
4. コンデンシンググループリストで、コンデンシング方法の変更を含めるコンデンシンググループのチェックボックスをオンにします。  
コンデンシンググループに含めると、選択した位置から新しいフレーズが始まります。
5. コンデンシングをリセットするコンデンシンググループを選択します。

#### 補足

オプションを変更またはリセットできるコンデンシンググループは一度に1つのみです。

6. 以下のいずれかの操作を行なって、コンデンシングをリセットします。
  - コンデンシングオプションへの以前の変更をリセットするには、「記譜オプション (Notation Options)」セクションで、リセットするオプションを有効にして「リセット (Reset)」を選択します。
  - 以前の手動によるコンデンシング方法の変更をリセットするには、「手動でコンデンシング (Manual Condensing)」セクションで、「コンデンシング方法 (Condensing Approach)」を有効にして「リセット (Reset)」を選択します。
7. 必要に応じて、コンデンシングをリセットするコンデンシンググループごとに手順5と6を繰り返します。
8. 「OK」をクリックして変更内容を保存し、ダイアログを閉じます。

#### 結果

有効にしたオプションのフローごとの記譜オプションに従うようにコンデンシング結果がリセットされます。手動によるコンデンシング方法の変更の場合は、コンデンシング結果が完全にリセットされます。これは、選択した位置から次のコンデンシング方法の変更がある位置かフローの終了位置のいずれか早い方まで適用されます。

コンデンシング方法の変更の位置にはガイドが表示されます。

## コンデンシング方法の変更の削除

手動によるコンデンシング方法の変更を削除して、フロー内の前のコンデンシング方法の変更 (存在する場合) やそのレイアウトのデフォルトのコンデンシング設定に戻すことができます。

#### 手順

1. 削除するコンデンシング方法の変更のガイドを選択します。
2. **[Backspace]** 又は **[Delete]** を押します。

#### 結果

選択したコンデンシング方法の変更が削除されます。コンデンシング結果が、フロー内の前のコンデンシング方法の変更 (存在する場合) またはそのレイアウトのデフォルト設定に戻ります。これは、次のコンデンシング方法の変更がある位置かフローの終了位置のいずれか早い方まで適用されます。



関連リンク  
[フィルター \(467 ページ\)](#)

## プレーヤーラベル

プレーヤーラベルには、コンデンスされた譜表上の音符が属するプレーヤーが表示されます。これは通常、楽譜のコンデンス方法が変化することを示すのに使用されます。たとえば、別々のパートがユニゾン演奏に移行する場合や、個別の符尾を持つプレーヤーの一部が符尾を共有する場合などです。

符尾が上向きの声部ではプレーヤーラベルが譜表の上に配置され、符尾が下向きの声部では譜表の下に表示されます。初期設定では、垂直方向のスペーシングの圧迫感が軽減されるよう、プレーヤーラベルの位置の左側にわずかに水平方向のオフセットが設定されています。

The image shows a musical score snippet for three instruments: Oboe (Ob.), Clarinet in B-flat (Cl. in Bb), and Bassoon (Bsn). Each instrument has two staves (1 and 2). The notes are grouped into measures. Circled numbers 1 and 2 are placed above or below notes to indicate which player (1 or 2) is playing them. Dynamics like 'f' (forte) and 'p' (piano) are also indicated.

各譜表上の楽譜が第1プレーヤー(1)と第2プレーヤー(2)のどちらに属しているかを示すプレーヤーラベル(丸付き)

Dorico Pro では、コンデンスが前のフレーズと異なるフレーズの開始位置および新しい組段の開始位置にプレーヤーラベルが自動的に表示されます。

- シングルプレーヤーにのみ属する音符の場合、インストゥルメント名が同じインストゥルメントを含むコンデンスされた譜表のプレーヤーラベルにはインストゥルメント番号が表示され、インストゥルメント名が異なるインストゥルメントを含むコンデンスされた譜表のプレーヤーラベルには省略されたインストゥルメント名が表示されます。
- 音符がその譜表上のすべてのシングルプレーヤーに属している場合、プレーヤーラベルには「〜へ」を表わす指示記号のあとに譜表上のプレーヤーの数が表示されます (「a 3」など)。
- 音符がその譜表上のすべてのセクションプレーヤーに属している場合、プレーヤーラベルにはユニゾン指示記号が表示されます (「Unis.」など)。
- 音符がその譜表上の複数のプレーヤー (ただし全員ではない) に属している場合、プレーヤーラベルにはインストゥルメント番号または省略されたインストゥルメント名のあとに「〜へ」を表わす指示記号が表示されます (「1.2 a 2」や「Fl. Ob. a2」など)。

### ヒント

- オフセット、区切り文字、「〜へ」の指示記号を含むプレーヤーラベルのデフォルトの外観と位置は、「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**コンデンス (Condensing)**」ページで変更できます。

また、ディヴィジ作成ラベルとプレーヤーラベルのデフォルトのユニゾン指示記号も変更できます。

- プレーヤーラベルには、「**パラグラフスタイル (Paragraph Styles)**」ダイアログで編集できる「**プレーヤーラベル (Player Labels)**」のパラグラフスタイルが使用されます。

#### 関連リンク

- [「パラグラフスタイル \(Paragraph Styles\)」ダイアログ \(932 ページ\)](#)
- [コンデンスされた譜表の譜表ラベル \(1699 ページ\)](#)
- [ディヴィジ作成のラベル \(1733 ページ\)](#)
- [インストゥルメントの変更ラベルのパラグラフスタイル \(156 ページ\)](#)
- [インストゥルメントのナンバリング \(144 ページ\)](#)
- [プレーヤー名、レイアウト名、インストゥルメント名 \(203 ページ\)](#)

## 浄書オプションでプレーヤーラベルの設定をプロジェクト全体に適用する

プロジェクト全体のプレーヤーラベルの外観と配置のオプションは、「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**コンデンス (Condensing)**」ページにあります。

「**コンデンス (Condensing)**」ページのオプションを使用すると、プレーヤーラベルと譜表およびその他のアイテムとの間の正確な距離を設定したり、背景を塗りつぶすかどうかを選択したり、プレーヤー番号をピリオドまたはコンマで区切るかどうかを変更したり、「～へ」を表わす指示記号やユニゾン指示記号として表示するテキストを変更したりできます。

オプションと一緒に表示される図は、オプションを楽譜に適用したときにどのように表示されるかを示します。



#### 関連リンク

- [「浄書オプション \(Engraving Options\)」ダイアログ \(923 ページ\)](#)

## プレーヤーラベルを表示/非表示にする

たとえば、同じページに複数の組段がある場合に組段の最初に自動的に表示されるプレーヤーラベルを非表示にしたい場合など、プレーヤーラベルを個別に表示/非表示にできます。

#### 前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。
- 下ゾーンのツールバーで「**プロパティ (Properties)**」を選択しておきます。
- 浄書ツールボックスで「**グラフィックの編集 (Graphic Editing)**」を選択しておきます。

#### 手順

1. 浄書モードで、表示/非表示を切り替えるプレーヤーラベルを選択します。
2. プロパティパネルの「**プレーヤーラベル (Player Labels)**」グループで、「**非表示 (Hide)**」をオンまたはオフにします。

#### 結果

「**非表示 (Hide)**」をオンにすると選択したプレーヤーラベルが非表示になり、オフにすると表示されます。

非表示にした各プレーヤーラベルの位置にはガイドが表示されます。ただし初期設定では、ガイドは印刷されません。

#### ヒント

プレーヤーラベルのガイドの表示/非表示は、「**ビュー (View)**」 > 「**ガイド (Signposts)**」 > 「**プレーヤーラベル (Player Labels)**」を選択して切り替えられます。

関連リンク

[浄書ツールボックス \(554 ページ\)](#)



[ガイドの表示/非表示の切り替え \(491 ページ\)](#)

[注釈 \(740 ページ\)](#)

## プレーヤーラベルのテキストを編集する

たとえば、デフォルトで表示される形式とは異なる形式で譜表のコンデンスを表わしたい場合などに、プレーヤーラベルに表示されるテキストを個別に上書きできます。

前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。
- 下ゾーンのツールバーで「プロパティ (Properties)」を選択しておきます。
- 浄書ツールボックスで「グラフィックの編集 (Graphic Editing)」を選択しておきます。

---

手順

1. 浄書モードで、テキストを編集するプレーヤーラベルを選択します。
2. プロパティパネルの「プレーヤーラベル (Player Labels)」グループで、「カスタムテキスト (Custom text)」をオンにします。
3. プレーヤーラベルに表示するテキストを値フィールドに入力します。
4. **[Return]** を押します。

---

結果

選択したプレーヤーラベルが、入力したテキストを表示するように変更されます。

「カスタムテキスト (Custom text)」をオフにすると、対応するプレーヤーラベルがデフォルトのテキストに戻ります。

補足

- プロパティをオフにすると、入力したカスタムテキストは完全に削除されます。
- プレーヤーラベルのデフォルトの外観とコンテンツは、「浄書オプション (Engraving Options)」の「コンデンス (Condensing)」ページで変更できます。たとえば、ユニゾンパッセージのプレーヤーラベルに「a3」を含めるかどうかなどを選択できます (例: 「1.2.3 a3」)。

---

関連リンク

[ディヴィジ作成のラベルを編集する \(1733 ページ\)](#)

[アイテムの表示位置の移動 \(652 ページ\)](#)

[「浄書オプション \(Engraving Options\)」ダイアログ \(923 ページ\)](#)

## デフォルトの「~へ」の指示記号/ユニゾン指示記号を変更する

たとえば、ユニゾン指示記号に「tutti」と表示したい場合など、コンデンスされたプレーヤーラベルの「~へ」の指示記号、およびディヴィジ作成ラベルとプレーヤーラベルのユニゾン指示記号に使用されるデフォルトのテキストを変更できます。

初期設定では、「~へ」の指示記号は a、ユニゾン指示記号は unis. になっています。どちらの指示記号も「プレーヤーラベル (Player Labels)」のパラグラフスタイルを使用します。

---

手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[E]** を押して「浄書オプション (Engraving Options)」を開きます。
2. カテゴリーリストの「コンデンス (Condensing)」をクリックします。

3. 「**プレーヤーラベル (Player Labels)**」セクションで、以下のフィールドの一方または両方に使用するテキストを入力します。
  - 「〜へ」を示すテキスト (Text for "to" indication)
  - セクションプレーヤーのユニゾンを示すテキスト (Text for unison indication for section players)
4. 「**適用 (Apply)**」をクリックしてから「**閉じる (Close)**」をクリックします。

#### 結果

プロジェクト全体のすべてのディヴィジ作成ラベルとプレーヤーラベルの「〜へ」の指示記号/ユニゾン指示記号が変更されます。

#### 関連リンク

[プレーヤーラベル \(817 ページ\)](#)

[ディヴィジ作成のラベル \(1733 ページ\)](#)


[「パラグラフスタイル \(Paragraph Styles\)」ダイアログ \(932 ページ\)](#)

[インストゥルメントの変更 \(150 ページ\)](#)

## プレーヤーラベルを 1 行または 2 行で表示する

初期設定では、プレーヤーラベルは 1 行で表示されます。個々のプレーヤーラベルに改行を挿入して、インストゥルメント番号と「a2」の指示を 2 行に表示できます。これにより、多くのインストゥルメント番号が含まれるプレーヤーラベルの水平方向に占めるスペースを削減できます。

#### 前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。
- 下ゾーンのツールバーで「**プロパティ (Properties)**」を選択しておきます。
- 浄書ツールボックスで「**グラフィックの編集 (Graphic Editing)**」を選択しておきます。

#### 手順

1. 浄書モードで、改行を挿入するプレーヤーラベルを選択します。
2. プロパティパネルの「**プレーヤーラベル (Player Labels)**」グループで、「**改行 (Line break)**」をオンまたはオフにします。

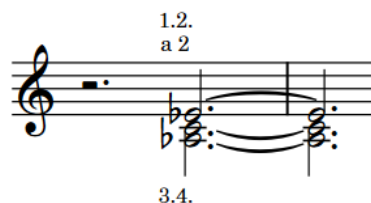
#### 結果

「**改行 (Line break)**」をオンにすると現在のレイアウトの選択したプレーヤーラベルが 2 行で表示され、オフにすると 1 行で表示されます。

#### 例



1 行で表示されたプレーヤーラベル



2 行で表示されたプレーヤーラベル

## プレーヤーラベルの背景の塗りつぶし

Dorico Pro の初期設定では、密度の高いスコアでプレーヤーラベルを譜表内に配置しなければならない場合に、プレーヤーラベルと譜表線が重ならないようプレーヤーラベルの背景が塗りつぶされます。塗りつぶしの余白の変更を含め、すべてのプレーヤーラベルに適用されるデフォルト設定を変更できます。

### 手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[E]** を押して「**浄書オプション (Engraving Options)**」を開きます。
2. カテゴリリストの「**コンデンス (Condensing)**」をクリックします。
3. 「**プレーヤーラベル (Player Labels)**」サブセクションで、「**背景を余白で塗りつぶし (Erase background with padding)**」をオンまたはオフにします。
4. 「**背景を余白で塗りつぶし (Erase background with padding)**」をオンにした場合は、必要に応じて値フィールドの値を変更してプレーヤーラベルの周囲の塗りつぶしの余白を変更します。
5. 「**適用 (Apply)**」をクリックしてから「**閉じる (Close)**」をクリックします。

## コンデンスされた楽譜の色を表示/非表示にする

コンデンスされた楽譜を見分けられるよう、コンデンスされた譜表上の音符と休符をグレーで表示できます。コンデンスされた楽譜を直接選択したり編集したりすることはできません。

コンデンスされた楽譜の色は注釈と見なされ、初期設定では印刷されません。

### 補足

コンデンスされた楽譜の色は、コンデンスを有効にしたレイアウトにのみ表示されます。

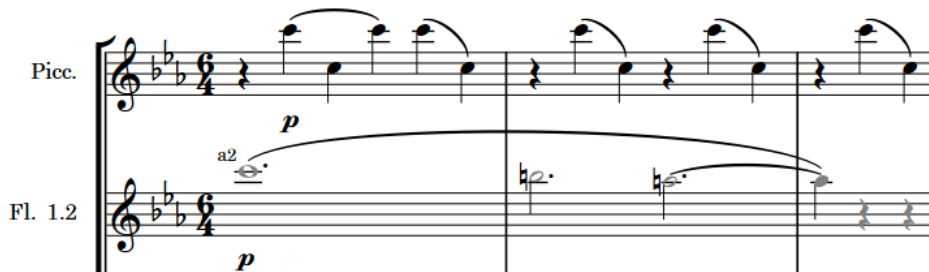
### 手順

- 「**ビュー (View)**」 > 「**音符と休符のカラー (Note And Rest Colors)**」 > 「**コンデンスした楽譜 (Condensed Music)**」を選択します。

### 結果

このメニューの「**コンデンスした楽譜 (Condensed Music)**」にチェックマークがあるときはコンデンスされた譜表上の音符と休符がグレーで表示され、チェックマークがないときは黒で表示されます。

### 例



コンデンスされた楽譜の色を表示した状態。コンデンスされていないピッコロの譜表では音符と休符が黒で表示され、コンデンスされたフルート 1 と 2 の譜表ではグレーで表示されています。

### 関連リンク

[コンデンスの有効化/無効化 \(765 ページ\)](#)

## パート形式のコピー

パート形式のコピーは、特定のパートレイアウトのページのレイアウトを決めるレイアウトオプションと組段の形式をコピーし、それらを別のパートレイアウトに適用します。これにより、似たパートの形式設定を行なう際の時間を短縮できます。

組段の形式設定には、組段区切りとフレーム区切りの位置に加え、音符に必要な水平方向のスペースに影響する音符のスペーシングの変更も含まれます。

Dorico Pro では、レイアウトオプションと組段の形式設定を、コピー元のレイアウトからコピー先のレイアウトへまとめてコピーしたり、別々にコピーしたりできます。たとえば、コピー元のレイアウトの形式設定が主に「**レイアウトオプション (Layout Options)**」の「**配置設定 (Casting Off)**」の設定に依存している場合、コピー先のレイアウトで各組段に組段区切りとフレーム区切りを追加することなく必要な形式設定を作成するには、レイアウトオプションだけをコピーすれば十分でしょう。

また、レイアウト固有のプロパティ設定を、楽譜領域で現在開いているレイアウトから、それらのアイテムが表示される他のすべてのレイアウトにコピーすることもできます。

### 補足

- パート形式のコピーはパートレイアウトにのみ使用できます。フルスコアレイアウトまたはカスタムスコアレイアウトをパート形式のコピー元またはコピー先として使用することはできません。
- 予期しない結果を招くことがあるため、複数の楽曲フレームチェーンを持つレイアウトをコピー元またはコピー先のレイアウトとして使用することはおすすめしません。
- パート形式のコピーには、浄書モードで設定した個々のページへのページの優先は含まれません。


## パート形式を別のレイアウトにコピーする

プロジェクトの複数のパートレイアウトに類似の形式設定を行なう時間を節約したい場合など、すべての形式設定をパートレイアウトからパートレイアウトへとコピーできます。ページサイズや余白のほか、組段区切りやフレーム区切りといったその他のページの形式設定など、レイアウトオプションを含めることができます。

### 補足

- パート形式のコピーはパートレイアウトにのみ使用できます。フルスコアレイアウトまたはカスタムスコアレイアウトをパート形式のコピー元またはコピー先として使用することはできません。
- 予期しない結果を招くことがあるため、複数の楽曲フレームチェーンを持つレイアウトをコピー元またはコピー先のレイアウトとして使用することはおすすめしません。

### 手順

1. 設定モードの「**レイアウト (Layouts)**」パネルで、パート形式のコピー元となるパートレイアウトを選択します。
2. アクションバーで「**レイアウト設定 (Layout Settings)**」をクリックし、「**パート形式をコピーする (Propagate Part Formatting)**」を選択して「**パート形式をコピーする (Propagate Part Formatting)**」ダイアログを開きます。

### ヒント

レイアウトを右クリックすることで表示されるコンテキストメニューでも、このオプションを選択できます。

3. 「次の形式設定からコピー (Copy formatting from)」リストで、パート形式のコピー元となるパートレイアウトを選択します。  
デフォルトでは、ダイアログを開く際に右クリックしたカードが選択されています。
4. 「形式設定のコピー先 (Propagate formatting to)」リストで、パート形式のコピー先となるパートレイアウトを選択します。  
アクションバーで選択オプションを使用する、複数のレイアウトを矩形ドラッグで選択する、隣接するレイアウトを **[Shift]** を押しながらかlickする、個々のレイアウトを **[Ctrl]/[command]** を押しながらかlickする、といった複数の選択方法があります。
5. 「レイアウトオプションを含める (Include layout options)」をオンまたはオフにします。
6. 「組段の形式設定を含める (Include system formatting)」をオンまたはオフにします。
7. 「OK」をクリックすると、選択したレイアウトにパート形式がコピーされ、ダイアログが閉じます。

#### 結果

選択したコピー元のレイアウトから選択したコピー先のレイアウトにパート形式がコピーされます。ただし、浄書モードで設定した個々のページへのページの優先はコピーされません。

- 「レイアウトオプションを含める (Include layout options)」をオンにすると、コピー元レイアウトからコピー先レイアウトへとレイアウトオプションがコピーされます。
- 「組段の形式設定を含める (Include system formatting)」をオンにすると、組段内の小節、ページ内の組段、および音符のスペーシングの変更の配置が、コピー元のレイアウトからコピー先のレイアウトへコピーされます。


#### ヒント

- コピー元のレイアウトの形式設定が主に「レイアウトオプション (Layout Options)」の「配置設定 (Casting Off)」の設定に依存している場合、コピー先のレイアウトで各組段に組段区切りとフレーム区切りを追加することなく非常によく似た形式設定を作成するには、「レイアウトオプションを含める (Include layout options)」だけをオンにすれば十分でしょう。
- 「環境設定 (Preferences)」の「キーボードショートカット (Key Commands)」ページで、「パート形式をコピーする (Propagate Part Formatting)」にキーボードショートカットを割り当てることができます。このキーボードショートカットはどのモードでも使用できます。

## 「パート形式をコピーする (Propagate Part Formatting)」ダイアログ

「パート形式をコピーする (Propagate Part Formatting)」ダイアログでは、ページの形式設定とレイアウトのオプションを、コピー元のレイアウトからコピー先のレイアウトへコピーできます。

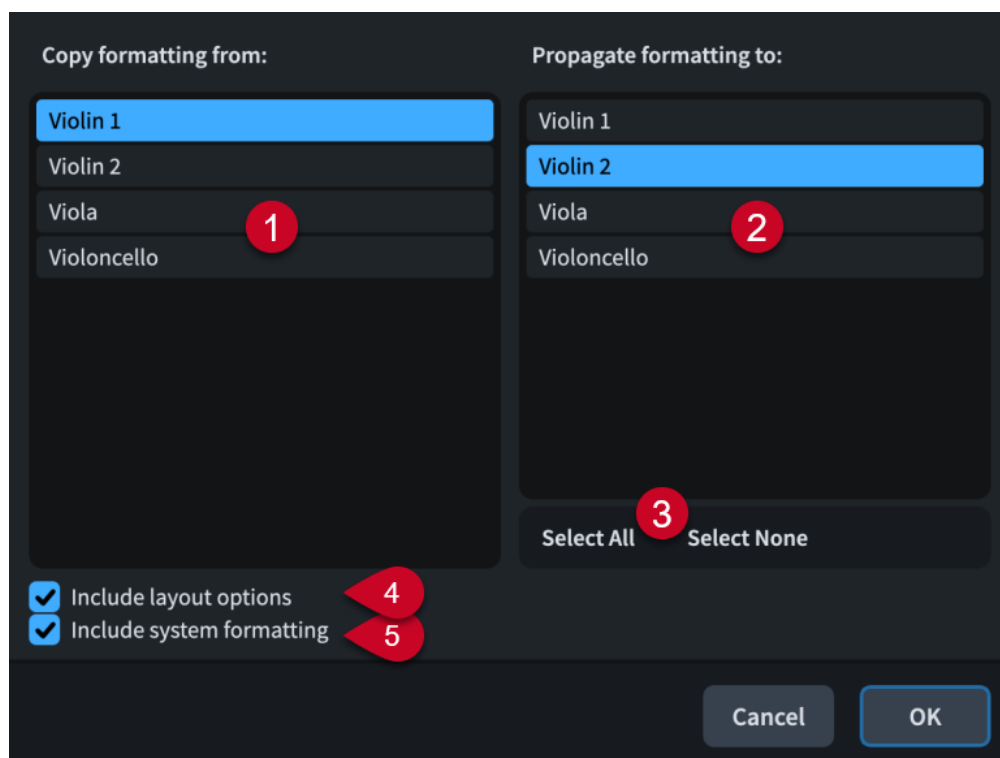
設定モードでは、以下のいずれかの操作を行なって、「パート形式をコピーする (Propagate Part Formatting)」ダイアログを開くことができます。

- 「レイアウト (Layouts)」パネルでパートレイアウトを選択してから、アクションバーの「レイアウト設定 (Layout Settings)」をクリックして「パート形式をコピーする (Propagate Part Formatting)」を選択します。「次の形式設定からコピー (Copy formatting from)」リストには、右クリックしたレイアウトがコピー元のレイアウトとして自動的に選択されます。

#### ヒント

レイアウトを右クリックすることで表示されるコンテキストメニューでも、このオプションを選択できます。

- 「設定 (Setup)」 > 「パート形式をコピーする (Propagate Part Formatting)」を選択します。



「パート形式をコピーする (Propagate Part Formatting)」ダイアログには以下のセクションとオプションがあります。

**1 次の形式設定からコピー (Copy formatting from)**

プロジェクト内のすべてのパートレイアウトが表示されます。コピー元のレイアウトとして選択できるパートレイアウトは1つのみです。

**2 形式設定のコピー先 (Propagate formatting to)**

プロジェクト内のすべてのパートレイアウトが表示されます。複数のパートレイアウトをコピー先のレイアウトとして選択できます。

**3 選択オプション**

「形式設定のコピー先 (Propagate formatting to)」リストですべてのパートレイアウトを選択/選択解除できます。

**4 レイアウトオプションを含める (Include layout options)**

パート形式に関するレイアウトオプションをコピー元のレイアウトからコピー先のレイアウトへコピーできます。これらのオプションには、ページサイズ、ページ余白、デフォルトのページテンプレートのセット、線間の高さ、垂直方向のスペーシング、音符のスペーシング、配置設定、長休符の設定、譜表ラベルなどが含まれます。

**5 組段の形式設定を含める (Include system formatting)**

組段内の小節、ページ内の組段、および音符のスペーシングの変更の配置を、コピー元のレイアウトからコピー先のレイアウトへコピーできます。Dorico Pro では、組段区切り、フレーム区切り、音符のスペーシングの変更をコピーし、必要に応じて追加の組段区切りとフレーム区切りを入力し、コピー先のレイアウトに存在する組段区切り、フレーム区切り、音符のスペーシングの変更を削除することでこれを実行します。

関連リンク

[「レイアウトオプション \(Layout Options\)」ダイアログ \(917 ページ\)](#)


[「レイアウト \(Layouts\)」パネル \(設定モード\) \(129 ページ\)](#)



## プロパティ設定を別のレイアウト/フレームチェーンにコピーする

ローカルプロパティはレイアウトおよびフレームチェーンに固有のものです。つまり、初期設定では、特定のレイアウトに含まれるアイテムのローカルプロパティに変更を加えても、他のレイアウトやフレームチェーンにある同じアイテムには影響しません。音符とアイテムに設定されたプロパティを、それらが表示される他のすべてのレイアウトやフレームチェーンにコピーできます。たとえば、フルスコアレイアウトで段階的強弱記号のスタイルを変更したあと、同じスタイルを持つ段階的強弱記号をパートレイアウトに表示できます。

### 前提条件

浄書モードの場合は、浄書ツールボックスで「**グラフィックの編集 (Graphic Editing)**」を選択しておきます。

---

### 手順

1. 別のレイアウトにプロパティをコピーする音符またはアイテムを選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。

#### 補足

現在のモードで使用できるプロパティのみがコピーされます。

2. 「**編集 (Edit)**」 > 「**プロパティをコピー (Propagate Properties)**」を選択します。
- 

### 結果

選択した音符/アイテムに設定された、現在のモードで使用できるすべてのプロパティが、それらの音符/アイテムが表示されるすべてのレイアウトとフレームチェーンにコピーされます。たとえば、記譜モードでスラーを選択した場合、譜表に対する位置とデザインの設定がコピーされます。浄書モードでスラーを選択した場合は、スラーの終了位置と制御ポイントの位置もコピーされます。

#### ヒント

変更をすべてのレイアウトとフレームチェーンに適用する必要があることがあらかじめわかっている場合は、プロパティ設定を変更する前にプロパティ範囲を変更してもかまいません。

---

### 関連リンク

[浄書ツールボックス \(554 ページ\)](#)

[大きな選択範囲 \(463 ページ\)](#)

[ローカルプロパティとグローバルプロパティ \(827 ページ\)](#)

[アイテムの外観のリセット \(476 ページ\)](#)

[アイテムの位置のリセット \(477 ページ\)](#)

# プロパティ

プロパティとは個々の音符およびアイテムに適用される設定です。プロパティを編集することで、それらの外観や位置を変更できるものです。プロパティにはプロパティパネルからアクセスできます。

プロパティには現在のレイアウトとフレームチェーンのアイテムのみに効果を及ぼす「ローカルプロパティ」と呼ばれるものと、すべてのレイアウトとフレームチェーンのアイテムに効果を及ぼす「グローバルプロパティ」と呼ばれるものがあります。

ほとんどのプロパティには同等の機能を持つデフォルト設定も存在し、これら是对応する音符や記譜記号のすべてのインスタンスの外観や位置を制御します。利用できるデフォルト設定には「**浄書オプション (Engraving Options)**」および「**記譜オプション (Notation Options)**」からアクセスできます。


関連リンク

[「浄書オプション \(Engraving Options\)」ダイアログ \(923 ページ\)](#)

[「記譜オプション \(Notation Options\)」ダイアログ \(919 ページ\)](#)

## プロパティパネル

プロパティパネルでは、個々の音符や記譜記号を編集して外観や位置を変更するためのオプションが利用できます。プロパティパネルは、記譜モードおよび浄書モードのウィンドウ下部の下ゾーンに配置されています。

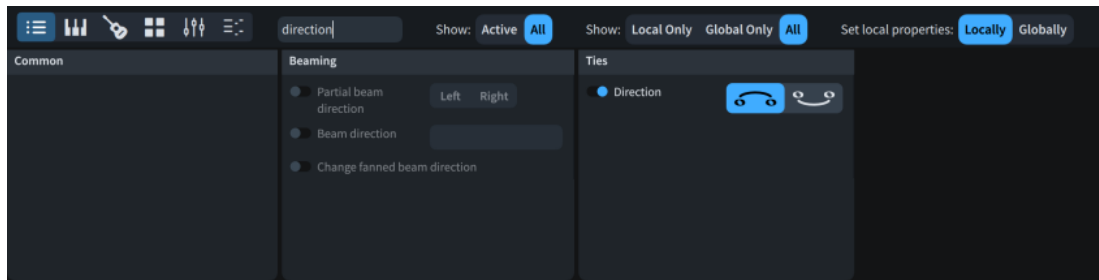
- プロパティパネルを表示するには、下ゾーンを表示してから、下ゾーンツールバーの「**プロパティ (Properties)**」をクリックします。

プロパティパネルには、各記譜項目のプロパティのグループが表示されます。楽譜領域で音符または項目を選択すると、選択した音符または項目の編集に必要なグループおよびオプションがプロパティパネルに表示されます。パネル内のすべてのグループが同時に表示されない場合は、グループを左右にスクロールして表示できます。

記譜モードのプロパティパネルにあるプロパティはすべて浄書モードにもありますが、浄書モードの追加プロパティを使用するとアイテムをより細かく編集できます。

### 補足

- タイプが異なる記譜項目を複数選択した場合、選択した項目すべてに共通するグループのみ表示されます。たとえば、スラーを選択した場合、プロパティパネルには「**一般 (Common)**」および「**スラー (Slurs)**」グループが表示されます。一方、スラーと音符を選択した場合は、「**一般 (Common)**」グループのみ表示されます。
- プロパティの範囲が「**ローカル (Locally)**」に設定されている場合、ローカルのプロパティ変更は現在のレイアウトおよびフレームチェーンにのみ影響します。ローカルのプロパティ変更がすべてのレイアウトおよびフレームチェーンにも及んでほしい場合は、プロパティの範囲を「**グローバル (Globally)**」に設定できます。プロパティの変更を他のレイアウトやフレームチェーンにあとでコピーすることもできます。
- 記譜モードで変更できるのは、音符やアイテム全体のプロパティのみです。たとえば複数の組段をまたいでいるペダル線でも、ペダル線全体のラインのスタイルしか変更できません。浄書モードでは、たとえばタイのつながりのうち1つだけのタイのカーブ方向など、音符やアイテムの個々の部分のみを変更できます。
- アクティベーションスイッチまたはプロパティ名をクリックしてプロパティをオンにできます。



記譜モードのプロパティパネルにキーワードでフィルターをかけた例

プロパティパネルのツールバーには以下のオプションがあります。

### 検索 (Search)

テキストを入力してプロパティをフィルタリングできます。

### 表示 (Show) (プロパティのアクティブステータス)

選択したオプションに応じて、プロパティをフィルタリングできます。

- **オンの項目 (Active):** アクティブなプロパティのみを表示します。
- **すべて (All):** すべてのプロパティを表示します。

### 表示 (Show) (プロパティ範囲)

プロパティの範囲設定に応じて、プロパティをフィルタリングできます。

- **ローカルのみ (Local Only):** ローカルのプロパティのみを表示します。
- **グローバルのみ (Global Only):** グローバルのプロパティのみを表示します。
- **すべて (All):** すべてのプロパティを表示します。

### ローカルプロパティの効果範囲 (Set local properties)

ローカルのプロパティ変更が及ぶ範囲を変更できます。

- **ローカル (Locally):** ローカルのプロパティ変更はローカルにのみ影響します。
- **グローバル (Globally):** ローカルのプロパティ変更はグローバルに影響します。

### 関連リンク

[ゾーンの表示/非表示の切り替え \(48 ページ\)](#)

[プロパティ設定を別のレイアウト/フレームチェーンにコピーする \(825 ページ\)](#)

[優先する基準単位の変更 \(55 ページ\)](#)

[アイテムのハンドルの選択 \(655 ページ\)](#)

[アイテムの外観のリセット \(476 ページ\)](#)

[アイテムの位置のリセット \(477 ページ\)](#)

## ローカルプロパティとグローバルプロパティ

プロパティが効果を及ぼす範囲は、現在のレイアウトとフレームチェーンのアイテムのみとすることも、すべてのレイアウトとフレームチェーンのアイテムとすることもできます。これにより、たとえば段階的強弱記号をパートレイアウトではヘアピンとして表示しつつ、フルスコアレイアウトでは *cresc.* とテキストで表示させるなど、同じアイテムでもレイアウトごとに異なる外観を持たせることができます。

### ローカルプロパティ

ローカルプロパティはレイアウトおよびフレームチェーンに固有のものです。初期設定では、特定のレイアウトに含まれるアイテムのローカルプロパティに変更を加えても、他のレイアウトやフレームチェーンにある同じアイテムには影響しません。このことは、アイテム

の表示上の位置を制御するローカルプロパティにおいて特に重要です。フルスコアとパートレイアウトでは通常、異なる位置にアイテムを配置する必要があるためです。

ローカルプロパティは、設定を変更する前にプロパティパネルのプロパティ範囲を「**グローバル (Globally)**」に変更することで、強制的にグローバルに適用できます。グローバルに設定されたローカルプロパティは、プロパティパネル内では、ローカルに設定されたローカルプロパティよりも太いフォントで表示されます。プロパティ範囲フィルターを使用すると、プロパティパネルにローカルプロパティのみが表示されるようにもできます。

#### 補足

プロパティ範囲を「**グローバル (Globally)**」に設定してローカルプロパティを変更すると、他のレイアウトに含まれる選択中の音符やアイテムのプロパティのいかなるローカル設定も上書きされます。

---

#### グローバルプロパティ

グローバルプロパティは、後から作成された新規レイアウトを含むすべてのレイアウトおよびフレームチェーンのアイテムに効果を及ぼします。これらはプロパティパネル内では、ローカルプロパティより太いフォントで表示されます。プロパティ範囲フィルターを使用すると、プロパティパネルにグローバルプロパティのみが表示されるようにもできます。

#### 関連リンク

[レイアウト \(190 ページ\)](#)


[楽曲フレームチェーン \(610 ページ\)](#)

[プロパティ設定を別のレイアウト/フレームチェーンにコピーする \(825 ページ\)](#)

## プロパティ範囲の変更

たとえばこれから行なうプロパティの変更をすべてのレイアウトおよびフレームチェーンに適用することが必要な場合、ローカルプロパティのプロパティ範囲を変更できます。

#### 前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。
- 下ゾーンのツールバーで「**プロパティ (Properties)**」  を選択しておきます。

---

#### 手順

- プロパティパネルの「**ローカルプロパティの効果範囲 (Set local properties)**」で、以下のいずれかのオプションを選択します。
  - **ローカル (Locally)**
  - **グローバル (Globally)**

---

#### 結果

プロパティ範囲が変更されます。これ以降にローカルプロパティに加えるすべての変更は、「**ローカル (Locally)**」を選択した場合は現在のレイアウトとフレームチェーンのみに適用され、「**グローバル (Globally)**」を選択した場合はすべてのレイアウトとフレームチェーンに適用されます。

#### 補足

- プロパティ範囲には、アイテムの表示上の位置を制御するローカルプロパティも含まれます。一般的にアイテムは、レイアウトごとに異なる表示上の位置に配置されるため、必要なとき以外はプロパティ範囲を「**グローバル (Globally)**」に変更しないことをおすすめします。

- これは、その設定以降に変更されたプロパティにしか適用されません。既存のプロパティのプロパティ範囲を変更する場合は、プロパティ設定を他のレイアウトとフレームチェーンにコピーします。
  - 「環境設定 (Preferences)」の「音符の入力と編集 (Note Input and Editing)」ページで、以降のすべてのプロジェクトで使用するデフォルトのプロパティ範囲を変更できます。
- 

#### 関連リンク

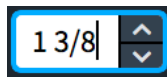
[プロパティ設定を別のレイアウト/フレームチェーンにコピーする \(825 ページ\)](#)

[「環境設定 \(Preferences\)」ダイアログ \(63 ページ\)](#)

## 数値フィールドの値を変更する

数値フィールドの値は、既存の値を倍にしたり半分にしたりするなど、さまざまな方法で変更できます。Dorico Pro では、数値フィールドはプロパティパネルとオプションダイアログで最もよく使用されます。

数値フィールドには上下のボタンが付いています。



プロパティパネルの数値フィールド

#### 前提条件

対応するプロパティ/オプションがオンのときのみ利用できる数値フィールドの場合は、そのプロパティ/オプションをオンにしておきます。

---

#### 手順

- 以下のいずれかの操作を行なって、数値フィールドの値を変更します。
  - 数字を直接入力します。
  - 値を 1/8 ずつ増減するには、上下のボタンをクリックします。
  - 値を 1/32 ずつ増減するには、**[Ctrl]/[command] + [Shift]** を押しながら上下のボタンをクリックします。
  - 値を 1/2 ずつ増減するには、**[Shift]** を押しながら上下のボタンをクリックします。
  - 値を 1 ずつ増減するには、**[Ctrl]/[command]** を押しながら上下のボタンをクリックします。
  - 現在の値を特定の量だけ増やすには、スピンボックスに「+=」と入力し、そのあとに量を入力します。たとえば、現在の値を 2 増やすには「+=2」と入力します。
  - 現在の値を特定の量だけ減らすには、スピンボックスに「-=」と入力し、そのあとに量を入力します。たとえば、現在の値を 3.5 減らすには「-=3.5」と入力します。
  - 現在の値に特定の量を掛けるには、スピンボックスに「\*」と入力し、そのあとに量を入力します。たとえば、現在の値を 3 倍にするには「\*3」と入力します。
  - 現在の値を特定の量で割るには、スピンボックスに「/」と入力し、そのあとに量を入力します。たとえば、現在の値を半分にするには「/2」と入力します。

#### 補足

既存の値を計算のエントリーに置き換える必要があります。

---

#### 関連リンク

[Dorico Pro のオプションダイアログ \(30 ページ\)](#)

[優先する基準単位の変更 \(55 ページ\)](#)

# キーエディター

キーエディターは、複数のコンポーネントで構成される MIDI エディターです。音符やその他の再生アイテム (ノートベロシティ、MIDI CC、テンポを含む) を編集できます。キーエディターには、下ゾーンのキーエディターパネルからアクセスできます。このエディターは、記譜モードのレイアウトや再生モードのトラック概要と一緒に表示できます。

キーエディターには以下のエディターが含まれており、これらをさまざまに組み合わせて表示できます。

- ピアノロールエディター
- 打楽器エディター
- 演奏技法エディター
- ベロシティエディター
- 強弱記号エディター
- MIDI ピッチベンドエディター
- MIDI CC エディター
- テンポエディター

また、キーエディターには各エディターに必要なさまざまなツールとコントロールが表示されます。

関連リンク

[ピアノロールエディター \(843 ページ\)](#)

[打楽器エディター \(844 ページ\)](#)

[演奏技法エディター \(855 ページ\)](#)

[ベロシティエディター \(856 ページ\)](#)

[強弱記号エディター \(859 ページ\)](#)

[MIDI ピッチベンドエディター \(865 ページ\)](#)

[MIDI CC エディター \(866 ページ\)](#)


[テンポエディター \(871 ページ\)](#)

[ヒストグラムツール \(875 ページ\)](#)

[MIDI トリガー領域 \(717 ページ\)](#)

## キーエディターパネル

キーエディターパネルでは、音符を表示して編集できます。有音程楽器は連続するピアノロールで、無音程楽器は打楽器エディターで行ないます。これは記譜モードと再生モードのウィンドウ下部の下ゾーンに配置されています。

- キーエディターパネルを表示するには、下ゾーンを表示してから、下ゾーンツールバーの「**キーエディター (Key Editor)**」をクリックします。

記譜モードでは、楽譜領域のレイアウトと一緒にキーエディターパネルを表示できます。再生モードでは、トラック概要と一緒にキーエディターパネルを表示できます。

初期設定では、キーエディターには譜表でアイテムを選択したインストゥルメントが表示されます。ただし、キーエディターに表示するインストゥルメントを手動で選択することもできます。



- 1 キーエディターパネルツールバー**  
キーエディターで音符やアイテムを選択したり編集したりできるツールが含まれます。
- 2 キーエディタールーラー**  
小節番号が表示され、現在のリズムグリッドの間隔に従って拍の区切りが示されます。
- 3 再生ヘッド**  
現在の再生位置が表示されます。
- 4 ヘッダー**  
各エディターの名前が表示されます。エディターによっては詳細なオプションが表示されることもあります。
- 5 プライマリーエディター**  
最後に選択した項目やキーエディターがロックされているかどうかによって、ピアノロールエディター、打楽器エディター、またはテンポエディターが表示されます。
- 6 演奏技法エディター**  
対応するインストゥルメントまたは声部の演奏技法が使用されている場所が表示されます。キーエディターに単一のインストゥルメント/声部が表示されている場合のみ使用できます。
- 7 追加エディター**  
ピアノロール/打楽器エディターの下に、ベロシティーエディターや MIDI CC エディターといった複数の追加エディターを追加したり閉じたりできます。他のプロジェクトで使用するためにエディターの設定を保存できます。
- 8 エディターを追加 (Add Editor)**  
キーエディターにエディターを追加できます。
- 9 プリセット (Presets)**  
キーエディターの設定を保存、適用、削除できます。
- 10 ズームコントロール**  
ズームを手動で変更でき、音符の幅や高さを調節できます。
- 11 スクロールバー**  
キーエディターを垂直方向および水平方向にスクロールできます。

関連リンク

[ゾーンの表示/非表示の切り替え \(48 ページ\)](#)

[トラック概要 \(659 ページ\)](#)



- [声部 \(1858 ページ\)](#)
- [リズムグリッド \(241 ページ\)](#)
- [キーエディターのリズムグリッドの間隔の変更 \(839 ページ\)](#)
- [キーエディターでエディターを追加する/閉じる \(840 ページ\)](#)
- [キーエディターでインストゥルメントを表示する \(835 ページ\)](#)
- [キーエディター設定 \(881 ページ\)](#)
- [演奏される音符のデュレーションと記譜された音符のデュレーション \(852 ページ\)](#)
- [ヒストグラムツール \(875 ページ\)](#)
- [変換ツール \(879 ページ\)](#)

## キーエディターパネルツールバー

キーエディターパネルツールバーには、キーエディターで音符やアイテムを選択したり編集したりできるツールが含まれます。下ゾーンのキーエディターパネルの上部に配置されています。

### 選択 (Select)



ピアノロールエディターの音符やペロシティーエディターのペロシティーバーなど、キーエディターのアイテムを、選択範囲をクリックアンドドラッグするなどして選択できます。

**[Ctrl]/[command]+[Shift]+[Alt/Opt]+[1]** を押しても**選択**ツールを選択できます。

### 鉛筆 (Draw)



ピアノロールエディターと打楽器エディターで音符を入力できます。音符の終了位置と最小デュレーションは現在のキーエディターのリズムグリッドの間隔に従います。

**[Ctrl]/[command]+[Shift]+[Alt/Opt]+[2]** を押しても**鉛筆**ツールを選択できます。

### ドラムスティック (Drumstick)



無音程打楽器ごとに異なるデュレーションを個別に設定し、打楽器エディターでクリックアンドドラッグすることで、対応するデュレーションの音符を連続で入力できます。

また、音符をクリックして削除することもできます。

打楽器エディターでのみ使用できます。

また、打楽器エディターが表示されているときに **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[Alt/Opt]+[3]** を押しても**ドラムスティック**ツールを選択できます。

### ライン (Line)



2つのポイント間に直線を描くことができます。ピアノロールエディターや打楽器エディターでは使用できません。

### 変換 (Transform)



変換の選択範囲を作成し、その選択範囲に対して変換コントロールを使用できます。ペロシティーエディターと MIDI CC エディターでのみ使用できます。

### 領域を同期 (Sync Region)



プライマリトラックからセカンダリトラックにデータをコピーします。キーエディターに複数のインストゥルメントが表示されている場合に、強弱記号エディターと MIDI CC エディターでのみ使用できます。

### 削除 (Delete)



選択したアイテムを削除します。

**[Backspace]** 又は **[Delete]** を押して選択したアイテムを削除することもできます。

### 演奏されるデュレーション (Played Durations)



音符の記譜されたデュレーションに影響を与えずに、音符の再生の開始位置や終了位置を変更できます。音符の記譜されたデュレーションを示す細い線の上に、演奏されるデュレーションが長方形で表示されます。


### 記譜されたデュレーション (Notated Durations)





音符のデュレーションを変更できます。これによって音符の位置や記譜項目が影響を受けます。音符の記譜された完全なデュレーションが長方形で表示されます。

### 演奏されるデュレーションをロック (Lock Played Durations)



記譜されたデュレーションの変更が演奏されるデュレーションにどのように影響するのかを制御できます。「記譜されたデュレーション (Notated Durations)」 を選択した場合のみ使用できます。

- 「演奏されるデュレーションをロック (Lock Played Durations)」 をオンにすると、対応する音符の新しい記譜上の位置やデュレーションに関係なく、演奏されるデュレーションの元の位置とデュレーションが保持されます。
- 「演奏されるデュレーションをロック (Lock Played Durations)」 をオフにすると、演奏されるデュレーションは対応する音符と一緒に移動し、その音符に対する開始/終了オフセットが保持されます。

### リズムグリッド (Rhythmic Grid)



キーエディターのリズムグリッドの間隔を変更できます。キーエディターのリズムグリッドの間隔は、入力する音符の最小デュレーション、グリッド線の数、入力および編集の特定の操作 (音符を左右にドラッグできる距離など) に影響します。ボタンが更新され、現在のリズムグリッドの間隔が表示されます。

### 演奏技法 (Playing Techniques)



演奏技法エディターの表示/非表示を切り替えます。

### 声部セレクター



ピアノロールで音符を強調表示したり、音符を入力したりする声部を選択できます。現在の選択に応じて自動的に更新されます。

キーエディターに複数のインストゥルメントが表示されている場合は、プライマリインストゥルメントに属する声部のみ使用できます。

### 下ゾーンのサイズ変更 (Resize Lower Zone)



下ゾーンの高さを変更できます。

#### ヒント

- キーエディターで右クリックしたままにすると、クイックツールセレクターのツールにアクセスできます。
- **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[Alt/Opt]+[1]** から **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[Alt/Opt]+[6]** を押してツールを選択することもできます。各キーボードショートカットで選択されるツールは、キーエディターパネルツールバーで現在使用できるツールによって決まります (左から右へカウント)。

#### 関連リンク

- [キーエディターの音符 \(843 ページ\)](#)
- [演奏技法エディター \(855 ページ\)](#)
- [ベロシティーエディター \(856 ページ\)](#)
- [強弱記号エディター \(859 ページ\)](#)
- [MIDI CC エディター \(866 ページ\)](#)


## キーエディターでインストゥルメントを表示する

キーエディターで特定のインストゥルメントを表示したり、プライマリーインストゥルメントを変更したり、キーエディターをロックしてそれらのインストゥルメントを表示したままにしたりできます。たとえば、プロジェクト内のすべての弦楽器の MIDI ポイントを同時に描画したい場合などに便利です。

初期設定では、キーエディターはロックされておらず、楽譜領域かトラック概要のいずれかの現在の選択に従います。

たとえば、最後に選択したのがフルートの音符またはフルートトラックだった場合、ピアノロールエディターにはそのフルートが表示されます。最後に選択したのがテンポ記号またはテンポトラックだった場合、テンポエディターをすでに手動で追加していなければ、キーエディターにはテンポエディターが表示されます。

#### 前提条件

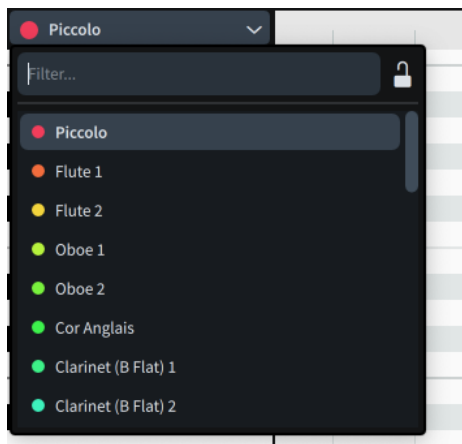
- 下ゾーンを表示しておきます。
- 下ゾーンのツールバーで**キーエディター**  を選択しておきます。
- キーエディターにピアノロールか打楽器エディターが表示されるように、インストゥルメントに属するアイテムを選択しておきます。


#### 補足

テンポエディターがプライマリーエディターのときは、キーエディターにエディターを追加できません。

#### 手順

1. ピアノロール/打楽器エディターのヘッダーで、インストゥルメントメニューをクリックし、プライマリーインストゥルメントとして表示したいインストゥルメントを選択します。

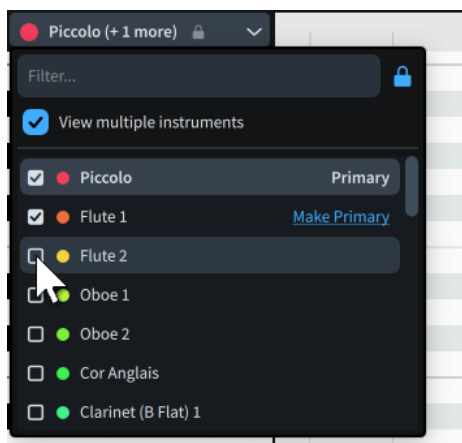


2. キーエディターをロックして、選択したインストゥルメントを表示したままにするには、「**キーエディターをロック (Lock Key Editor)**」  をクリックします。
3. キーエディターに複数のインストゥルメントを同時に表示するには、「**複数のインストゥルメントを表示 (View multiple instruments)**」をオンにします。

#### 補足

キーエディターに複数表示できるのは有音程楽器のみです。無音程打楽器を複数表示したり、有音程楽器と無音程打楽器を表示したりすることはできません。

4. キーエディターに表示する各インストゥルメントをオンにします。



5. 必要に応じて、新しいプライマリーインストゥルメントとして指定するインストゥルメントの横の「**プライマリーにする (Make Primary)**」をクリックします。

#### 結果

キーエディターに選択したインストゥルメントが表示されます。キーエディターをロックした場合 (複数のインストゥルメントを選択した場合も含む)、キーエディターは最後に選択した項目に従わなくなります。

#### ヒント

「**環境設定 (Preferences)**」の「**キーボードショートカット (Key Commands)**」ページで、以下のコマンドにキーボードショートカットを割り当てることができます。

- **キーエディターを選択項目にロック (Lock Key Editor to Selection)**: 楽譜領域で譜表上の音符/アイテムを選択したインストゥルメントをキーエディターに自動的に表示し、キーエディターをロックしてその選択項目を表示したままにできます。

- **キーエディター表示のロックの切り替え (Toggle Key Editor Locked View):** キーエディターをロック/ロック解除します。
- 

手順終了後の項目

- キーエディターに表示されているすべてのインストゥルメントの音符、強弱記号ポイント、MIDI ポイントを表示、入力、編集できます。
- 強弱記号ポイントや MIDI ポイントをプライマリーインストゥルメントからセカンダリーインストゥルメントにコピーできます。


関連リンク

- [ゾーンの表示/非表示の切り替え \(48 ページ\)](#)
- [キーエディターでエディターを追加する/閉じる \(840 ページ\)](#)
- [ピアノロールエディター \(843 ページ\)](#)
- [打楽器エディター \(844 ページ\)](#)
- [強弱記号エディター \(859 ページ\)](#)
- [MIDI CC エディター \(866 ページ\)](#)
- [MIDI ピッチベンドエディター \(865 ページ\)](#)
- [テンポエディター \(871 ページ\)](#)
- [トラック概要 \(659 ページ\)](#)
- [声部の個別再生の有効化 \(685 ページ\)](#)
- [強弱記号ポイントを別のインストゥルメントにコピーする \(864 ページ\)](#)
- [MIDI ポイントを別のインストゥルメントにコピーする \(870 ページ\)](#)



## キーエディターの高さの変更

キーエディター全体の高さ、その中の各エディターの高さを変更できます。たとえば、音符を入力するときはピアノロールエディターを高くし、ノートベロシティーを変更するときはベロシティーエディターを高くするなどできます。

前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。
  - 下ゾーンのツールバーで**キーエディター**  を選択しておきます。
- 

手順

- 以下のいずれかの操作を行ないます。
  - キーエディター全体の高さを変更するには、「**下ゾーンのサイズ変更 (Resize Lower Zone)**」  または下ゾーンの上端をクリックして上下にドラッグします。
  - 個々のエディターの高さを変更するには、エディターの分割線  をクリックして上下にドラッグします。マウスポインターを適切な位置に合わせると、上下の矢印のアイコンに変わります。

ヒント

「**環境設定 (Preferences)**」の「**キーボードショートカット (Key Commands)**」ページで「**下ゾーンサイズを切り替え (Cycle Lower Zone Size)**」にキーボードショートカットを割り当てると、プロジェクトウィンドウの 25%、50%、75% を埋めるように下ゾーンのサイズを順に切り替えることができます。

---

関連リンク


[「環境設定 \(Preferences\)」ダイアログの「キーボードショートカット \(Key Commands\)」ページ \(64 ページ\)](#)

[複数のプロジェクトウィンドウを開く \(53 ページ\)](#)

## キーエディターでのズームイン/ズームアウト





キーエディターのズームレベルを変更できます。たとえば、ピアノロールエディターで垂直方向と水平方向にズームインして、音符の高さを高く、幅を広く表示できます。この場合、キーエディターの高さは変更されません。

前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。
- 下ゾーンのツールバーで**キーエディター**  を選択しておきます。

---

手順

1. 以下のいずれかの操作を行なって、水平方向にズームインします。
  - **[H]** を押します。
  - キーエディター下部の「**ズームイン (Zoom In)**」  をクリックします。
  - キーエディターのルーラーをクリックして上にドラッグします。
  - キーエディターのルーラーで **[Ctrl]/[command]** を押しながら上にスクロールします。
2. 以下のいずれかの操作を行なって、水平方向にズームアウトします。
  - **[G]** を押します。
  - キーエディター下部の「**ズームアウト (Zoom Out)**」  をクリックします。
  - キーエディターのルーラーをクリックして下にドラッグします。
  - キーエディターのルーラーで **[Ctrl]/[command]** を押しながら下にスクロールします。
3. 以下のいずれかの操作を行なって、垂直方向にズームインします。
  - **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[H]** を押します。
  - キーエディターの右側にある「**ズームイン (Zoom In)**」  をクリックします。
  - ピアノロールエディター/打楽器エディターの左側の領域で **[Ctrl]/[command]** を押しながら上にスクロールします。
4. 以下のいずれかの操作を行なって、垂直方向にズームアウトします。
  - **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[G]** を押します。
  - キーエディターの右側にある「**ズームアウト (Zoom Out)**」  をクリックします。
  - ピアノロールの左側のキーボードで **[Ctrl]/[command]** を押しながら下にスクロールします。

---

関連リンク

[キーエディターパネル \(831 ページ\)](#)


[トラックのズームイン/ズームアウト \(677 ページ\)](#)

[ゾーンの表示/非表示の切り替え \(48 ページ\)](#)

## キーエディターのスクロール

キーエディターを任意の方向にスクロールできます。これにより、たとえばピアノロールエディターで高い/低い音符を表示したり、MIDI CC エディターで後ろの小節の MIDI ポイントを表示したりできます。

### 前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。
- 下ゾーンのツールバーで**キーエディター**  を選択しておきます。

---

### 手順


- キーエディターで、以下のいずれかの操作を行なってスクロールします。
  - キーエディターの右端と下部にあるスライダーをクリックしてドラッグします。
  - タッチパッドで任意の方向にスワイプします。
  - マウスホイールを使用して垂直方向にスクロールするには、上下にスクロールします。
  - マウスホイールを使用して水平方向にスクロールするには、**[Shift]** を押しながら上下にスクロールします。

---

## キーエディターのリズムグリッドの間隔の変更


キーエディターで使用するリズムグリッドの間隔を、キーエディター以外で使用するリズムグリッドとは別に変更できます。キーエディターのリズムグリッドの間隔は、入力する音符の最小デュレーション、グリッド線の数、入力および編集の特定の操作 (音符を左右にドラッグできる距離など) に影響します。

### 前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。
- 下ゾーンのツールバーで**キーエディター**  を選択しておきます。
- キーボードショートカットを使用する場合は、最後に選択した項目がキーエディターパネル上にあるようにしておきます。

---

### 手順

- 以下のいずれかの操作を行なって、キーエディターのリズムグリッドの間隔を変更します。
  - キーエディターパネルツールバーの「**リズムグリッド (Rhythmic Grid)**」  をクリックして、任意の間隔を選択します。
  - リズムグリッドの間隔を狭めるには **[Alt/Opt]+[ ]** を押します。
  - リズムグリッドの間隔を広げるには **[Alt/Opt]+[@]** を押します。

---

### 関連リンク


[リズムグリッド \(241 ページ\)](#)

[キーエディターの音符 \(843 ページ\)](#)

## キーエディターでエディターを追加する/閉じる

キーエディターでは、ピアノロールと打楽器エディターを除くすべてのエディターを追加したり閉じたりできます。また、既存のエディターに表示されているエディターの種類を変更することもできます。



### 前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。
- 下ゾーンのツールバーで**キーエディター**  を選択しておきます。
- キーエディターにピアノロールか打楽器エディターが表示されるように、インストゥルメントに属するアイテムを選択しておきます。

### 補足

テンポエディターがプライマリーエディターのときは、キーエディターにエディターを追加できません。

### 手順

- 以下のいずれかの操作を行なって、キーエディターに表示されているエディターを変更します。
  - 新しいエディターを追加するには、キーエディターの左下で、「**エディターを追加 (Add Editor)**」  をクリックします。
  - 既存のエディターに表示されているエディターの種類を変更するには、ヘッダーのメニューを選択して、メニューからエディターを選択します。
  - エディターを閉じるには、ヘッダーの「**エディターを閉じる (Close Editor)**」  をクリックします。


### 手順終了後の項目

他のプロジェクトで使用するためにキーエディター設定を保存できます。



## キーエディターでアイテムを選択する

キーエディターでは、音符やアイテム (MIDI や強弱記号ポイントなど) を同じ方法で選択できます。

### 前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。
- 下ゾーンのツールバーで**キーエディター**  を選択しておきます。
- キーエディターに表示するインストゥルメントを選択しておきます。
- ポイントを選択するエディターを追加しておきます。

### 手順

1. 以下のいずれかの操作を行なって、**選択ツール**を選択します。
  - **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[Alt/Opt]+[1]** を押します。
  - キーエディターパネルツールバーで、「**選択 (Select)**」  をクリックします。
  - キーエディターで右クリックしたままにしてクイックツールセレクターを表示し、マウスポインターを「**選択 (Select)**」  に合わせてマウスを放します。
2. 以下のいずれかの操作を行なって、音符またはアイテムを選択します。
  - 1つの音符またはポイントをクリックします。



- **[Ctrl]/[command]** または **[Shift]** を押しながら複数の音符またはポイントをクリックします。
  - いずれかのエディターをクリックして、選択する範囲を囲むようにドラッグします。  
青い長方形は、マウスを放したときに選択される音符やポイントを示します。選択する範囲のいずれかの角をクリックし、対角にドラッグすることをおすすめします。
- 

## キーエディターでポイントをコピーアンドペーストする



キーエディターでポイントをコピーして貼り付けることができます。別のエディターへのコピーや、同じエディター内での反復コピーを実行することもできます。たとえば、異なる MIDI コントローラー間で MIDI ポイントのパターンをコピーしたい場合などに便利です。

### 補足

この手順は、同じインストゥルメントに属するエディター内またはエディター間でポイントをコピー/ペーストする方法を説明しています。ただし、強弱記号ポイントや MIDI ポイントをインストゥルメント間でコピー/ペーストすることもできます。

---

### 前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。
  - 下ゾーンのツールバーで**キーエディター**  を選択しておきます。
  - キーエディターパネルツールバーで「**選択 (Select)**」  を選択しておきます。
  - キーエディターに表示するインストゥルメントを選択しておきます。
  - ポイントをコピー/ペーストするエディターを追加しておきます。
- 

### 手順

1. 開いているいずれかのエディターで、コピーするポイントを選択します。
  2. 以下のいずれかの操作を行なって、選択したポイントをコピーします。
    - **[Ctrl]/[command]+[C]** を押します。
    - 「**編集 (Edit)**」 > 「**コピー (Copy)**」を選択します。
  3. 選択したポイントを貼り付ける位置に再生ヘッドを移動します。
  4. 選択したポイントを貼り付けるエディターのヘッダーを選択します。
  5. 以下のいずれかの操作を行なって、選択したポイントを貼り付けます。
    - **[Ctrl]/[command]+[V]** を押します。
    - 「**編集 (Edit)**」 > 「**貼り付け (Paste)**」を選択します。
- 

### 結果

選択したポイントが、元の位置から削除されることなく選択した位置やエディターにコピーされます。これは、キーエディターに表示されているすべてのインストゥルメントに適用されます。

### 補足

- ポイントを1つだけ選択した場合でも、記譜モードで入力した段階的強弱記号と結合式/強制強弱記号のポイントがすべてコピーされます。
- ポイントを選択して **[R]** を押すと、そのポイントのすぐあとに続けて反復コピーすることもできます。コピーを繰り返すたびに、最初に選択したポイントで最後に選択したポイントが置き換えられます。

- ポイントを選択して、**[Alt/Opt]** を押しながら貼り付けたい位置までドラッグすることでポイントをコピーすることもできます。
- 



#### 関連リンク

- [キーエディターでインストゥルメントを表示する \(835 ページ\)](#)
- [再生ヘッドの移動 \(678 ページ\)](#)
- [強弱記号ポイントを別のインストゥルメントにコピーする \(864 ページ\)](#)
- [MIDI ポイントを別のインストゥルメントにコピーする \(870 ページ\)](#)
- [強弱記号ポイントの入力 \(860 ページ\)](#)
- [MIDI ポイントの入力 \(868 ページ\)](#)

## キーエディターでポイントを削除する

複数のエディターから選択したポイントを同時に削除できます。

#### 前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。
  - 下ゾーンのツールバーで**キーエディター**  を選択しておきます。
  - キーエディターパネルツールバーで「**選択 (Select)**」  を選択しておきます。
  - キーエディターに表示するインストゥルメントを選択しておきます。
  - ポイントを削除するエディターを追加しておきます。
- 


#### 手順

1. 開いているいずれかのエディターで、削除するポイントを選択します。

#### ヒント

複数のエディターでポイントを同時に選択できます。

---

2. 以下のいずれかの操作を行なって、選択したポイントを削除します。
    - **[Backspace]** 又は **[Delete]** を押します。
    - キーエディターパネルツールバーで、「**削除 (Delete)**」  をクリックします。
- 

#### 結果

選択したポイントが削除されます。

記譜モードで入力した強弱記号に上書きされた強弱記号ポイントを削除すると、これらの強弱記号はデフォルトのポイントに戻ります。記譜モードで入力された強弱記号のポイントを削除すると、対応する強弱記号も削除されます。

テンポポイントを削除すると、レイアウトの対応するテンポ記号やテンポ記号ガイドも削除されます。

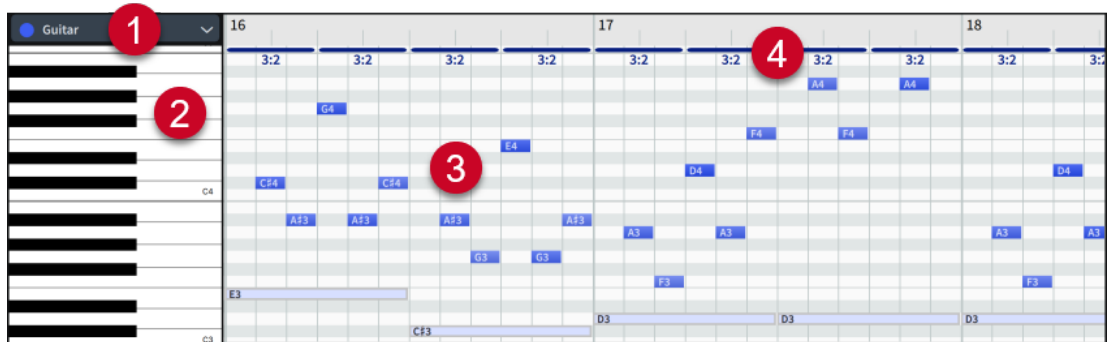
## キーエディターの音符

キーエディターでは、音符は有音程楽器の場合はピアノロールエディターに、無音程打楽器や打楽器キットの場合は打楽器エディターに色付きの長方形として表示されます。

## ピアノロールエディター

ピアノロールエディターには有音程楽器の MIDI ノートがシーケンスで表示されます。これは下ゾーンのキーエディターに配置されています。

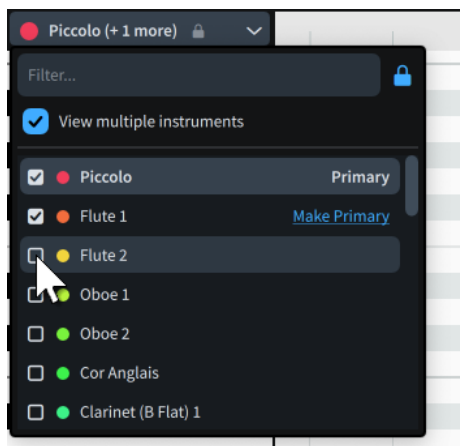
- キーエディターに有音程楽器を表示することで、ピアノロールエディターを表示できます。



ピアノロールエディターは以下で構成されます。

### 1 インストゥルメントメニュー

ピアノロールエディターに表示するインストゥルメントを選択したり、複数のインストゥルメントが表示されているときにプライマリーインストゥルメントを変更したりできます。



### 2 ピアノキーボード

ピッチを参照できます。

### 3 ピアノロール

キーエディターに表示されているインストゥルメントに属する音符が表示されます。音符の水平位置はリズムを、幅はデュレーションを示します。音符の垂直位置はピッチを示します。音符の高さと幅が十分にある場合は、各音符内にピッチも表示されます。

各インストゥルメントには現在のレイアウトのプレイヤーの順番に応じて自動的に色が付けられるため、インストゥルメントを簡単に見分けられます。この色は、ミキサーやキーエディターを含め、対応するインストゥルメントに一貫して使用されます。

複数のインストゥルメントが表示されている場合、プライマリーインストゥルメントに属する音符はピアノロールエディターに濃い実線で表わされ、セカンダリーインストゥルメントに属する音符はグレーの枠線とパステルカラーで表わされます。

## 4 連符

ピアノロールエディター上部のバーと比率は、アクティブな声部の連符を表わします。

ピアノロールエディター上の音符は入力や編集(移動や移調など)を行なえます。これにより、該当するすべてのレイアウトの記譜記号も更新されます。

関連リンク

[演奏される音符のデュレーションと記譜された音符のデュレーション \(852 ページ\)](#)

[キーエディターでインストゥルメントを表示する \(835 ページ\)](#)

[トラック概要 \(659 ページ\)](#)

[ミキサー \(883 ページ\)](#)

[連符 \(1826 ページ\)](#)

[声部 \(1858 ページ\)](#)

[複数の声部への音符の入力 \(257 ページ\)](#)

[既存の音符の声部を変更する \(507 ページ\)](#)

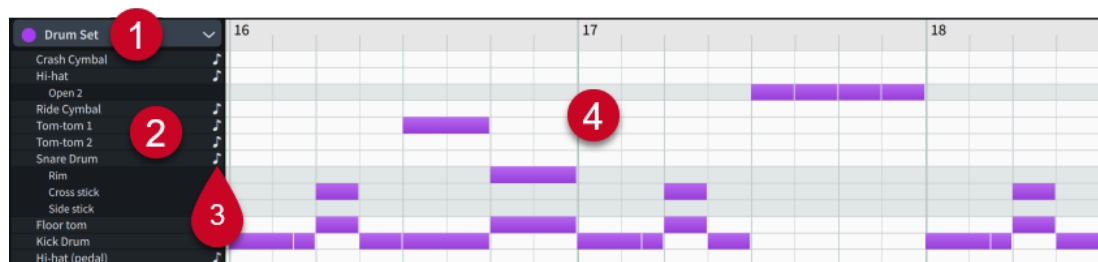
[ミドルCのナンバリング変換を変更する \(55 ページ\)](#)

[MIDI トリガー領域 \(717 ページ\)](#)

## 打楽器エディター

打楽器エディターには無音程打楽器の MIDI ノートが、シーケンスで表示されます。これは下ゾーンのキーエディターに配置されています。

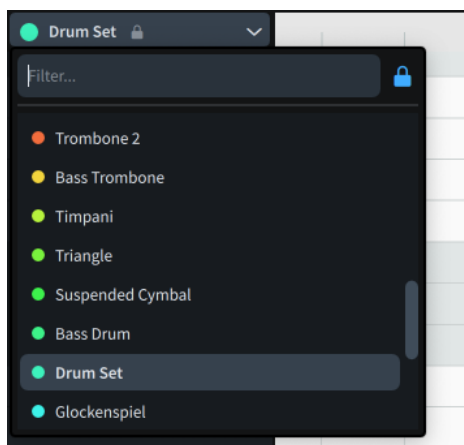
- キーエディターに無音程打楽器や打楽器キットを表示することで打楽器エディターを表示できません。



打楽器エディターは以下で構成されます。

### 1 インストゥルメントメニュー


打楽器エディターに表示するインストゥルメントを選択できます。一度に表示できるのは1つの打楽器キットか個々の打楽器インストゥルメントのみです。



### 2 打楽器インストゥルメント名と演奏技法

打楽器エディターでは、打楽器キットに含まれている場合も含め、無音程打楽器に個別の行があります。対応する無音程打楽器の下に代替演奏技法が表示されます。

### 3 打楽器リズムグリッド (Percussion Rhythmic Grid)

無音程打楽器ごとに異なるデフォルトの音符のデュレーションを個別に設定できます。**ドラムスティック**  ツールを選択している場合のみ使用できます。

### 4 打楽器エディター

キーエディターに表示されているインストゥルメントに属する音符が表示されます。音符の垂直位置は、インストゥルメントと演奏技法を示します (該当する場合)。音符の水平位置はリズムを、幅はデュレーションを示します。

各インストゥルメントには現在のレイアウトのプレーヤーの順番に応じて自動的に色が付けられるため、インストゥルメントを簡単に見分けられます。この色は、ミキサーやキーエディターを含め、対応するインストゥルメントに一貫して使用されます。打楽器キットは、キット全体に対して1つの色が割り当てられます。

関連リンク

[パーカッションマップ \(1039 ページ\)](#)

[キーエディターでインストゥルメントを表示する \(835 ページ\)](#)

[ドラムスティックツールを使用した音符の入力 \(846 ページ\)](#)

[トラック概要 \(659 ページ\)](#)


[無音程打楽器の演奏技法 \(1839 ページ\)](#)

[MIDI トリガー領域 \(717 ページ\)](#)

## キーエディターで音符を入力する




キーエディターで、有音程楽器の場合はピアノロールエディターに、無音程打楽器や打楽器キットの場合は打楽器エディターに音符を入力できます。キーエディターで入力した音符は該当するすべてのレイアウトにも表示されます。

前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。
- 下ゾーンのツールバーで**キーエディター**  を選択しておきます。
- キーエディターに表示するインストゥルメントを選択しておきます。
- インストゥルメントの特定の声部に音符を入力するには、記譜モードでその声部を作成して少なくとも1つの音符を入力しておきます。
- 適切なリズムグリッドの間隔を選択しています。

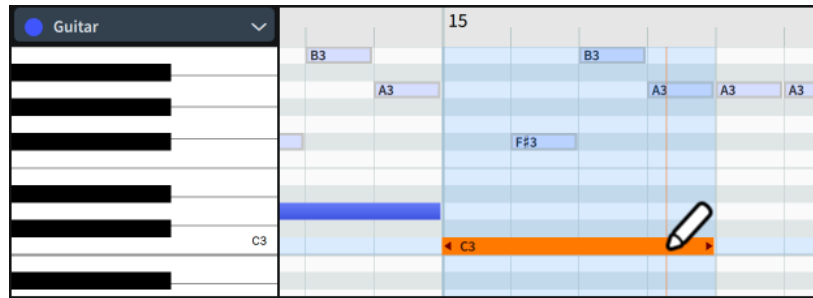
---

手順

1. 特定の声部に音符を入力するには、キーエディターパネルツールバーの声部セクターからその声部を選択します。
2. 以下のいずれかの操作を行なって、**鉛筆**ツールを選択します。
  - **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[Alt/Opt]+[2]** を押します。
  - キーエディターパネルツールバーで、「**鉛筆 (Draw)**」  をクリックします。
  - キーエディターで右クリックしたままにしてクイックツールセクターを表示し、マウスポインターを「**鉛筆 (Draw)**」  に合わせてマウスを放します。
3. 「**リズムグリッド (Rhythmic Grid)**」  をクリックして、使用するデフォルトの音符のデュレーションを選択します。
4. 以下のいずれかの操作を行なって、音符を入力します。

- デフォルトの音符のデュレーションで単一の音符を入力するには、ピアノロール/打楽器エディターで音符を入力する位置をクリックします。
- 任意のデュレーションで音符を入力するには、ピアノロール/打楽器エディターで音符を入力するピッチの位置をクリックし、音符のデュレーションの長さ分を水平方向にドラッグします。

ドラッグするとハイライトが表示され、デュレーションはルーラーと、ピッチはピアノロールエディターのピアノキーボードと、音符は打楽器エディターのインストゥルメント/演奏技法と照らし合わせることができます。



#### 結果

有音程楽器の場合は、ピアノロールの左側にあるピアノキーボードが示すピッチで、キーエディターパネルツールバーの声部セレクターに表示されているアクティブな声部に音符が入力されます。

無音程打楽器のインストゥルメントやキットの場合は、打楽器エディターの対応する行のインストゥルメントに音符が入力されます。

1回クリックすると、キーエディターのリズムグリッドの間隔で設定されたデフォルトの音符のデュレーションで音符が入力されます。クリックアンドドラッグすると、デュレーションはドラッグの幅によって決まります。

手順終了後の項目

音符の記譜されたデュレーションおよび演奏されるデュレーションは、両方変更できます。

#### 関連リンク

[ゾーンの表示/非表示の切り替え \(48 ページ\)](#)

[キーエディターでのズームイン/ズームアウト \(838 ページ\)](#)

[キーエディターの高さの変更 \(837 ページ\)](#)

[キーエディターのリズムグリッドの間隔の変更 \(839 ページ\)](#)

[複数の声部への音符の入力 \(257 ページ\)](#)

[既存の音符の声部を変更する \(507 ページ\)](#)


[声部の個別再生の有効化 \(685 ページ\)](#)

[演奏される音符のデュレーションと記譜された音符のデュレーション \(852 ページ\)](#)




## ドラムスティックツールを使用した音符の入力

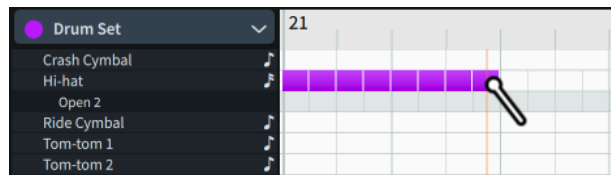
ドラムスティックツールを使用すると、無音程打楽器ごとに異なるデュレーションの音符を個別に入力できます。

前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。
- 下ゾーンのツールバーで**キーエディター**  を選択しておきます。
- キーエディターに表示する無音程打楽器または打楽器キットを選択しておきます。

#### 手順


- 以下のいずれかの操作を行なって、**ドラムスティックツール**を選択します。
  - [Ctrl]/[command]+[Shift]+[Alt/Opt]+[3]** を押します。
  - キーエディターパネルツールバーで、「**ドラムスティック (Drumstick)**」  をクリックします。
  - キーエディターで右クリックしたままにしてクイックツールセレクターを表示し、マウスポインターを「**ドラムスティック (Drumstick)**」  に合わせてマウスを放します。
- 打楽器エディターのヘッダーで、各インストゥルメントの「**打楽器リズムグリッド (Percussion Rhythmic Grid)**」  をクリックして、任意の音符のデュレーションを選択します。  
たとえば、キックドラムには4分音符を、ハイハットには8分音符を設定することができます。
- 以下のいずれかの操作を行なって、音符を入力します。
  - 単一の音符を入力するには、打楽器エディターで音符を入力する位置をクリックします。
  - 複数の音符を入力するには、打楽器エディターでクリックして水平方向にドラッグします。



#### 結果

各インストゥルメントに設定した音符のデュレーションで、クリックするごとに音符が1つ、またはクリックアンドドラッグした領域を埋めるように音符が入力されます。


#### ヒント

「**ドラムスティック (Drumstick)**」  を選択しているときは、音符をクリックして削除することもできます。



## キーエディターで音符を移動する

キーエディターで音符の位置を移動できます。この操作は、該当するすべてのレイアウトで、選択した音符がどのように記譜されるかにも影響します。

#### 前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。
- 下ゾーンのツールバーで**キーエディター**  を選択しておきます。
- キーエディターに表示するインストゥルメントを選択しておきます。
- 適切なリズムグリッドの間隔を選択しています。

#### 手順

- キーエディターパネルツールバーで、「**記譜されたデュレーション (Notated Durations)**」  をクリックして記譜された音符のデュレーションを表示します。
- 「**演奏されるデュレーションをロック (Lock Played Durations)**」  をオン/オフにします。
- ピアノロール/打楽器エディターで、位置を移動する音符を選択します。
- 以下のいずれかの操作を行なって、選択した音符を移動します。
  - 右へ移動させるには **[Alt/Opt]+[→]** を押します。

- 左へ移動させるには **[Alt/Opt]+[←]** を押します。
- クリックして左右にドラッグします。

#### ヒント

ドラッグするとハイライトが表示され、デュレーションはルーラーと、ピッチはピアノロールエディターのピアノキーボードと、音符は打楽器エディターのインストゥルメント/演奏技法と照らし合わせることができます。

#### 結果

選択した音符が新しい位置に移動します。複数の音符を選択した場合、音符はブロックとして一緒に移動します。

「演奏されるデュレーションをロック (Lock Played Durations)」  をオンにした場合、演奏されるデュレーションは移動せず、元の位置が保持されます。

キーボードショートカットを使用すると、現在のリズムグリッドの間隔に従って音符を移動できます。音符をクリックしてドラッグすると、現在のキーエディターのリズムグリッドの間隔に従って音符を移動できます。

#### 関連リンク

[ゾーンの表示/非表示の切り替え \(48 ページ\)](#)

[演奏される音符のデュレーションと記譜された音符のデュレーション \(852 ページ\)](#)

[リズムグリッド \(241 ページ\)](#)

[キーエディターのリズムグリッドの間隔の変更 \(839 ページ\)](#)


[インストゥルメント/演奏技法間で打楽器の音符を移動する \(850 ページ\)](#)

[音符の再クオンタイズ \(293 ページ\)](#)



## キーエディターで音符の長さを変更する

キーエディターで音符の記譜されたデュレーションを変更できます。この操作は、該当するすべてのレイアウトで、選択した音符がどのように記譜されるかにも影響します。

#### 前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。
- 下ゾーンのツールバーで**キーエディター**  を選択しておきます。
- キーエディターに表示するインストゥルメントを選択しておきます。
- 適切なリズムグリッドの間隔を選択しています。

#### 手順

1. キーエディターパネルツールバーで、「**記譜されたデュレーション (Notated Durations)**」  をクリックして記譜された音符のデュレーションを表示します。
2. 「**演奏されるデュレーションをロック (Lock Played Durations)**」  をオン/オフにします。
3. ピアノロール/打楽器エディターで、長さを変更する音符を選択します。
4. 以下のいずれかの操作を行なって、選択した音符の長さを変更します。
  - 音符を現在のリズムグリッドの間隔ずつ伸ばすには、**[Shift]+[Alt/Opt]+[→]** を押します。
  - 音符を現在のリズムグリッドの間隔ずつ縮めるには、**[Shift]+[Alt/Opt]+[←]** を押します。
  - 音符の長さを 2 倍にするには、**[Ctrl]/[command]+[Shift]+[Alt/Opt]+[→]** を押します。
  - 音符の長さを半分にするには、**[Ctrl]/[command]+[Shift]+[Alt/Opt]+[←]** を押します。
  - 選択した音符の右端をクリックし、目的の長さまでドラッグします。



### ヒント

ドラッグするとハイライトが表示され、デュレーションはルーラーと、ピッチはピアノロールエディターのピアノキーボードと、音符は打楽器エディターのインストゥルメント/演奏技法と照らし合わせることができます。

---

### 結果

選択した音符のデュレーションが変更されます。

「演奏されるデュレーションをロック (Lock Played Durations)」 をオンにした場合、演奏されるデュレーションの長さは変更されず、元の位置とデュレーションが保持されます。

キーボードショートカットを使用すると、現在のリズムグリッドの間隔に従って音符の長さを変更できます。音符をクリックしてドラッグすると、現在のキーエディターのリズムグリッドの間隔に従って音符の長さを変更できます。

### 関連リンク

[キーエディターでアイテムを選択する](#) (840 ページ)

[音符のデュレーション](#) (285 ページ)

[演奏される音符のデュレーションと記譜された音符のデュレーション](#) (852 ページ)

[リズムグリッド](#) (241 ページ)

[キーエディターのリズムグリッドの間隔の変更](#) (839 ページ)


[声部の個別再生の有効化](#) (685 ページ)

[音符の再クオンタイズ](#) (293 ページ)

## ピアノロールエディター上の音符の移調

ピアノロールエディター上の音符の位置を垂直方向に移動して、音符を移調できます。この操作は、該当するすべてのレイアウトで、選択した音符がどのように記譜されるかにも影響します。

### 前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。
- 下ゾーンのツールバーで**キーエディター** を選択しておきます。
- キーエディターに表示するインストゥルメントを選択しておきます。

### 手順

1. ピアノロールエディターで、移調する音符を選択します。
2. 以下のいずれかの操作を行なって、音符を移調します。
  - 音符の位置を1つ上げるには (C から D など)、**[Alt/Opt]+[↑]** を押します。
  - 音符の位置を1つ下げるには (D から C など)、**[Alt/Opt]+[↓]** を押します。
  - 音符をオクターブの分割1つ分上に移調するには (平均律 (12-EDO) で半ステップ (半音) や平均律 (24-EDO) で1/4 音など)、**[Shift]+[Alt/Opt]+[↑]** を押します。
  - 音符をオクターブの分割1つ分下に移調するには (平均律 (12-EDO) で半ステップ (半音) や平均律 (24-EDO) で1/4 音など)、**[Shift]+[Alt/Opt]+[↓]** を押します。
  - 音符を1オクターブ上に移調するには、**[Ctrl]/[command]+[Alt/Opt]+[↑]** を押します。
  - 音符を1オクターブ下に移調するには、**[Ctrl]/[command]+[Alt/Opt]+[↓]** を押します。
  - 選択対象をクリックして上下にドラッグします。

#### ヒント

ドラッグするとハイライトが表示され、デュレーションはルーラーと、ピッチはピアノキーボードと照らし合わせることができます。

---

#### 結果

選択した音符が、ピアノロールエディター上の新しいピッチに従い移調されます。

#### 関連リンク

[ゾーンの表示/非表示の切り替え \(48 ページ\)](#)


[オクターブの均等な分割 \(EDO\) \(1358 ページ\)](#)

[移調ツール \(517 ページ\)](#)

## インストゥルメント/演奏技法間で打楽器の音符を移動する

打楽器エディターで、別のインストゥルメントや演奏技法に音符を移動できます。たとえば、ハイハットの音符をかわりにシンバルで演奏したい場合などに便利です。この操作は、該当するすべてのレイアウトで、選択した音符がどのように記譜されるかにも影響します。

#### 前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。
- 下ゾーンのツールバーで**キーエディター**  を選択しておきます。
- キーエディターに表示する無音程打楽器または打楽器キットを選択しておきます。

#### 手順

1. 打楽器エディターで、別のインストゥルメント/演奏技法に移動する音符を選択します。
2. 以下のいずれかの操作を行なって、音符を移動します。
  - 音符を上インストゥルメントに移動するには、**[Alt/Opt]+[↑]** を押します。
  - 音符を下インストゥルメントに移動するには、**[Alt/Opt]+[↓]** を押します。
  - 現在のインストゥルメントの演奏技法を順に切り替えながら音符を上方向に移動するには、**[Shift]+[Alt/Opt]+[↑]** を押します。
  - 現在のインストゥルメントの演奏技法を順に切り替えながら音符を下方向に移動するには、**[Shift]+[Alt/Opt]+[↓]** を押します。
  - クリックして上下にドラッグします。

#### ヒント

ドラッグするとハイライトが表示され、デュレーションはルーラーと、音符はインストゥルメント/演奏技法と照らし合わせることができます。

---

#### 結果

選択した音符が、打楽器エディターの対応する行のインストゥルメント/演奏技法に移動します。

#### 関連リンク



[打楽器エディター \(844 ページ\)](#)

[無音程打楽器の演奏技法 \(1839 ページ\)](#)

## キーエディターで音符をコピーアンドペーストする

ピアノロールと打楽器エディターで、音符をコピーアンドペーストできます。他の有音程楽器や声部にコピーすることも、反復コピーを実行することもできます。

### 前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。
- 下ゾーンのツールバーで**キーエディター**  を選択しておきます。
- キーエディターパネルツールバーで「**選択 (Select)**」  を選択しておきます。
- キーエディターに表示するインストゥルメントを選択しておきます。

---

### 手順

1. ピアノロール/打楽器エディターで、コピーする音符を選択します。
2. 以下のいずれかの操作を行なって、選択した音符をコピーします。
  - **[Ctrl]/[command]+[C]** を押します。
  - 「**編集 (Edit)**」 > 「**コピー (Copy)**」を選択します。
3. 選択した音符を貼り付ける位置に再生ヘッドを移動します。
4. 別のインストゥルメントに音符を貼り付けるには、そのインストゥルメントをプライマリーインストゥルメントにします。
5. 別の声部に音符を貼り付けるには、キーエディターツールバーの声部セレクターからその声部を選択します。
6. 以下のいずれかの操作を行なって、選択した音符を貼り付けます。
  - **[Ctrl]/[command]+[V]** を押します。
  - 「**編集 (Edit)**」 > 「**貼り付け (Paste)**」を選択します。

---

### 結果

選択した音符が、元の位置から削除されることなく選択した位置、インストゥルメント、声部にコピーされます。初期設定では、コピーされた範囲内の MIDI CC ポイントも貼り付けられます。

### ヒント

- 音符を選択して **[R]** を押すと、その音符のすぐあとに続けて反復コピーすることもできます。
- 音符を選択して、**[Alt/Opt]** を押しながら貼り付けたい位置までドラッグすることで音符をコピーすることもできます。

---

### 関連リンク

[再生ヘッドの移動 \(678 ページ\)](#)

[貼り付け時の MIDI データの自動コピーを無効にする \(501 ページ\)](#)

[強弱記号ポイントを別のインストゥルメントにコピーする \(864 ページ\)](#)


[MIDI ポイントを別のインストゥルメントにコピーする \(870 ページ\)](#)

[音符/アイテムのコピーと貼り付け \(497 ページ\)](#)

## キーエディターで音符を削除する




キーエディターで音符を削除できます。これにより、該当するすべてのレイアウトから音符が削除されます。

前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。
- 下ゾーンのツールバーで**キーエディター**  を選択しておきます。
- キーエディターに表示するインストゥルメントを選択しておきます。

---


手順

1. キーエディターパネルツールバーで「**選択 (Select)**」  が選択されている場合は、ピアノロール/打楽器エディターで削除する音符を選択します。
  2. 以下のいずれかの操作を行なって、音符を削除します。
    - **[Backspace] 又は [Delete]** を押します。
    - キーエディターパネルツールバーで、「**削除 (Delete)**」  をクリックします。
    - キーエディターパネルツールバーで、「**ドラムスティック (Drumstick)**」  をクリックし、打楽器エディターで削除する各音符をクリックします。
- 

## 演奏される音符のデュレーションと記譜された音符のデュレーション

キーエディターでは、演奏されるデュレーションまたは記譜されたデュレーションで音符を表示できます。


### 演奏されるデュレーション

キーエディターパネルツールバーで「**演奏されるデュレーション (Played Durations)**」  を選択すると、ピアノロール/打楽器エディターの音符がそれぞれ2つの要素で表示されます。


- 音符の演奏されるデュレーションを示す、明るい色で塗りつぶされた長方形
- 音符の記譜されたデュレーションを示す、暗い色の細い線


これにより、音符の演奏されるデュレーションを変更できます。たとえば、スタッカートの付いた音符は記譜されたデュレーションより短く演奏され、スラーで結ばれた音符は記譜されたデュレーションより長く演奏されます。

### 記譜されたデュレーション

キーエディターパネルツールバーで「**記譜されたデュレーション (Notated Durations)**」  を選択すると、ピアノロール/打楽器エディターの音符が、音符の記譜されたデュレーションに対応する幅を持つ単一の長方形として表示されます。これにより、音符のデュレーションを変更できます。

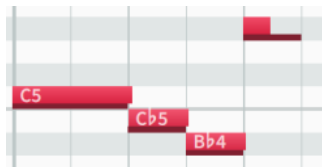
記譜されたデュレーションの変更が演奏されるデュレーションにどのように影響するのかを制御できます。

- 「**演奏されるデュレーションをロック (Lock Played Durations)**」  をオンにすると、対応する音符の新しい記譜上の位置やデュレーションに関係なく、演奏されるデュレーションの元の位置とデュレーションが保持されます。

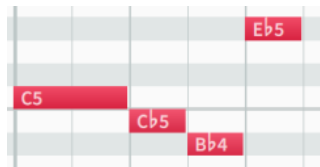
- 「演奏されるデュレーションをロック (Lock Played Durations)」  をオフにすると、演奏されるデュレーションは対応する音符と一緒に移動し、その音符に対する開始/終了オフセットが保持されます。

例

以下の例では、同じフレーズを異なる方法で表示しています。



演奏されるデュレーション



記譜されたデュレーション



スコア上

## ヒント

「環境設定 (Preferences)」の「全般 (General)」ページで、それ以降のすべてのプロジェクトで、ピアノロールエディターに演奏される音符のデュレーションと記譜された音符のデュレーションのどちらをデフォルトで表示するかを選択できます。


## 関連リンク

- [キーエディターパネルツールバー \(833 ページ\)](#)
- [再生時のスラー \(1683 ページ\)](#)
- [再生時のアーティキュレーション \(1071 ページ\)](#)
- [音符のデュレーションの変更 \(286 ページ\)](#)
- [キーエディターで音符の長さを変更する \(848 ページ\)](#)
- [音符の再クオンタイズ \(293 ページ\)](#)
- [クオンタイズオプション \(103 ページ\)](#)
- [「環境設定 \(Preferences\)」ダイアログ \(63 ページ\)](#)


## 音符の演奏されるデュレーションの変更

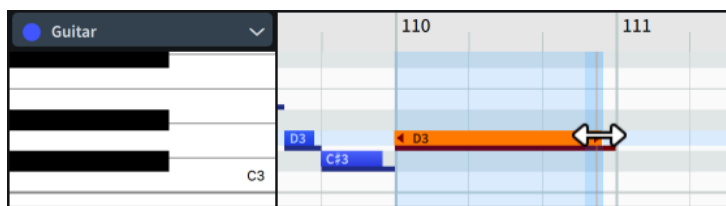
個別の音符の演奏されるデュレーションは、音符の開始位置と終了位置の両方で変更できます。たとえば、音符をより長く演奏させたり、開始を遅らせたりできます。

### 前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。
- 下ゾーンのツールバーで**キーエディター**  を選択しておきます。
- キーエディターに表示するインストゥルメントを選択しておきます。
- プロジェクト内のインストゥルメントのサウンドを含む再生テンプレートをプロジェクトに適用しておきます。

### 手順


1. キーエディターパネルツールバーで、「演奏されるデュレーション (Played Durations)」  をクリックして演奏される音符のデュレーションを表示します。
2. ピアノロール/打楽器エディターで、演奏されるデュレーションを変更する音符を選択します。
3. いずれかの音符の開始位置または終了位置をクリックし、左右にドラッグします。マウスポインターを適切な位置に合わせると、上下の矢印のアイコンに変わります。



#### 結果

選択した音符の演奏されるデュレーションが変更されます。

#### ヒント

「環境設定 (Preferences)」 > 「キーボードショートカット (Key Commands)」 > 「音符の編集 (Note Editing)」で、再生開始/終了オフセットの増減にキーボードショートカットを割り当てることもできます。これらのコマンドは、キーエディターパネルツールバーで「演奏されるデュレーション (Played Durations)」が選択されているときに使用できます。

#### 関連リンク

[キーエディターでアイテムを選択する \(840 ページ\)](#)

[再生テンプレートの適用/リセット \(707 ページ\)](#)

[「環境設定 \(Preferences\)」ダイアログの「キーボードショートカット \(Key Commands\)」ページ \(64 ページ\)](#)

## 再生の上書きのリセット

個々の音符の再生方法に加えた変更はすべて削除できます。たとえば、演奏されるデュレーションを変更した音符の開始位置、長さ、およびベロシティーをデフォルトに戻せます。

再生の上書き情報を削除すると、音符位置が保持された MIDI ファイルから読み込まれた音符の開始位置および終了位置のオフセットも削除されます。

#### 補足

読み込まれた MIDI ファイルや MIDI 録音などの音符に設定されているノートベロシティーは再生に反映されます。かわりに、記譜モードで入力した強弱記号を再生に反映させるには、再生の上書き情報を削除する必要があります。

#### 手順

1. 再生の上書きをリセットする音符を選択します。  
これは、楽譜領域、ピアノロールエディター、打楽器エディター、またはベロシティーエディターで行なえます。
2. 「再生 (Play)」 > 「再生の上書き情報をリセット (Reset Playback Overrides)」を選択します。

#### 結果

選択した音符から再生の上書きがすべて削除されます。

#### 関連リンク

[大きな選択範囲 \(463 ページ\)](#)

[音符とアイテムを個々に選択/選択解除する \(460 ページ\)](#)

[楽譜領域 \(38 ページ\)](#)

[ピアノロールエディター \(843 ページ\)](#)

[打楽器エディター \(844 ページ\)](#)

[音符のベロシティーをリセットする \(858 ページ\)](#)


[MIDI 録音 \(290 ページ\)](#)

[MIDI の読み込み \(94 ページ\)](#)

[プロジェクト/ファイルを開く \(78 ページ\)](#)

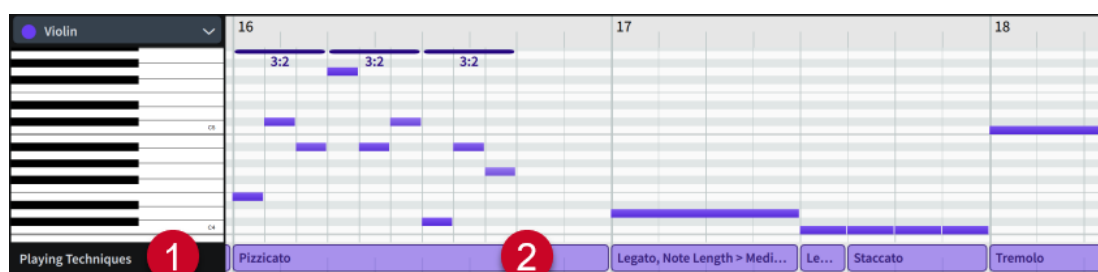
## 演奏技法エディター

演奏技法エディターには、たとえば、演奏技法、スラー、またはアーティキュレーションを入力した結果として、対応するインストゥルメントまたは声部の演奏技法が使用されている場所が表示されます。これは下ゾーンのキーエディターに配置されています。

- 演奏技法エディターの表示/非表示を切り替えるには、キーエディターパネルツールバーの「**演奏技法 (Playing Techniques)**」  をクリックします。

### 補足

演奏技法エディターを表示できるのは、キーエディターに単一のインストゥルメント/声部が表示されている場合のみです。



演奏技法エディターは以下で構成されます。

### 1 エディターヘッダー

エディターの名前が表示されます。

### 2 演奏技法領域

領域内の音符に適用される演奏技法と音符の長さの条件が表示されます。演奏技法領域上にマウスカーソルを合わせると、以下の関連情報を確認できます。

- 再生効果、スイッチ、および適用されているその他のエフェクト (アーティキュレーションの調節など)
- 領域で使用されるエクスペッションマップ
- 領域で使用される VST インストゥルメントまたは MIDI インストゥルメントのチャンネル
- 領域で使用される VST インストゥルメントまたは MIDI インストゥルメント

### 補足

演奏技法エディターで演奏技法を変更することはできません。演奏技法は記譜モードでのみ変更できます。

### 関連リンク

[ゾーンの表示/非表示の切り替え \(48 ページ\)](#)

[演奏技法 \(1536 ページ\)](#)

[演奏技法、ペダル線、弦の指示記号、ハーブペダルダイアグラムの入力方法 \(398 ページ\)](#)

[再生効果 \(1046 ページ\)](#)

[エクスペッションマップ \(1019 ページ\)](#)

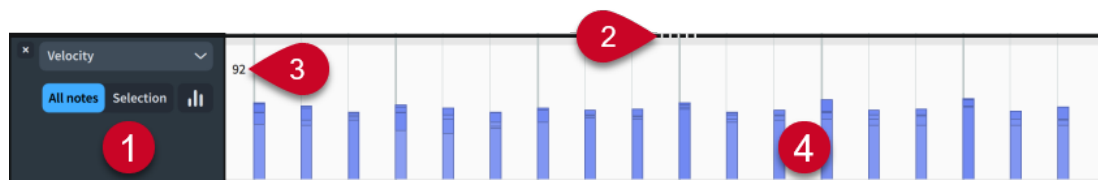
[キーエディターでインストゥルメントを表示する \(835 ページ\)](#)

[インストゥルメント/演奏技法間で打楽器の音符を移動する \(850 ページ\)](#)  
[声部の個別再生の有効化 \(685 ページ\)](#)

## ベロシティーエディター

ベロシティーエディターでは、キーエディターに表示されているインストゥルメント/声部に属する音符のベロシティーを表示して編集できます。これは下ゾーンのキーエディターに配置されています。






- ベロシティーエディターを表示するには、キーエディターにエディターを追加して、エディターメニューから「**ベロシティー (Velocity)**」を選択します。



ベロシティーエディターは以下で構成されます。

### 1 エディターヘッダー

以下のオプションがあります。

- **エディターメニュー:** エディターに表示されている MIDI コントローラーやエディターの種類を変更できます。すでにポイントを入力した MIDI コントローラーは、メニューの最初のレベルに表示されます。
- **ベロシティーの編集範囲:** ベロシティー値を変更する範囲を変更できます。キーエディターパネルツールバーで「**鉛筆 (Draw)**」、「**ライン (Line)**」、または「**変換 (Transform)**」を選択した場合のみ使用できます。
  - 「**すべての音符 (All notes)**」: ベロシティーエディターに表示されているすべての音符のベロシティーを編集できます。
  - 「**選択 (Selection)**」: 選択した音符のベロシティーのみ編集できます。
- **ヒストグラム (Histogram)** : エディターにヒストグラムツールを表示します。
- **数値フィールド:** プライマリーインストゥルメントの選択されている最初の音符/ベロシティーバーのベロシティー値が表示されます。選択されているすべての音符のベロシティー値を数値フィールドで変更したり、エディター上でベロシティーバーをクリックして上下にドラッグしたりできます。キーエディターパネルツールバーで「**選択 (Select)**」を選択した場合のみ使用できます。

### 2 スプリッター

クリックしてドラッグすることで、エディターの高さを変更できます。複数のエディターを開いている場合は、スプリッターの両側のエディターの高さに影響します。

### 3 値の表示

エディターの現在のマウスポインターの位置の値が表示されます。

### 4 ベロシティーバー

ベロシティーは、垂直のバーとしてベロシティーエディターに表示されます。すべての音符には独自のベロシティーバーとベロシティー値があります。和音などで複数の音符が同じ位置にある場合は、すべての音符のベロシティーが値の順に重なって表示されます。

値の大きいベロシティーバーは濃い色で表示されます。

ベロシティーバーは、ベロシティーエディターで直接選択するか、ピアノロールエディター、打楽器エディター、楽譜領域のいずれかで、対応する音符を選択することで選択できます。



#### ヒント

- ベロシティーバーをクリックしてドラッグすると、一時的に値が表示されます。
- ヒストグラムツールや変換ツールを使用してベロシティー値を変更できます。

#### 関連リンク


- [キーエディターパネル \(831 ページ\)](#)
- [キーエディターパネルツールバー \(833 ページ\)](#)
- [ヒストグラムツール \(875 ページ\)](#)
- [変換ツール \(879 ページ\)](#)
- [ゾーンの表示/非表示の切り替え \(48 ページ\)](#)
- [キーエディターでエディターを追加する/閉じる \(840 ページ\)](#)
- [キーエディターでインストゥルメントを表示する \(835 ページ\)](#)
- [音符の入力 \(248 ページ\)](#)
- [複数の声部への音符の入力 \(257 ページ\)](#)
- [キーエディターで音符を入力する \(845 ページ\)](#)
- [声部 \(1858 ページ\)](#)

## 音符のベロシティーの変更

音符のベロシティーを個別に変更できます。和音内の単一の音符のベロシティーを変更することも、一連の音符のベロシティーをまとめて増減することもできます。







多くの場合、ベロシティーは非サスティン楽器の強弱の制御に使用されます。




#### 前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。
- 下ゾーンのツールバーで**キーエディター**  を選択しておきます。
- キーエディターに表示するインストゥルメントを選択しておきます。
- ベロシティーエディターをキーエディターに追加しておきます。

---

#### 手順

1. ベロシティーを変更する方法に応じて、以下のいずれかのツールを選択します。
  - 選択した音符のベロシティーを変更するには、**[Ctrl]/[command]+[Shift]+[Alt/Opt]+[1]** を押すか、キーエディターパネルツールバーの「**選択 (Select)**」  をクリックして**選択ツール**を選択します。
  - 自由な形状を使用してベロシティーを変更するには、**[Ctrl]/[command]+[Shift]+[Alt/Opt]+[2]** を押すか、キーエディターパネルツールバーの「**鉛筆 (Draw)**」  をクリックして**鉛筆ツール**を選択します。
  - 傾きが一定の直線を使用してベロシティーを変更するには、キーエディターパネルツールバーの「**ライン (Line)**」  をクリックして**ラインツール**を選択します。
2. 「**選択 (Select)**」  を選択した場合は、和音の個々の音符など、ベロシティーを変更する音符を選択します。この操作でベロシティーバーも選択されます。
3. **鉛筆**  ツールまたは**ライン**  ツールを選択した場合は、ベロシティーエディターのヘッダーで以下のいずれかのベロシティー編集範囲を選択します。
  - **すべての音符 (All notes)**
  - **選択 (Selection)**
4. ベロシティーエディターで、以下のいずれかの操作を行なってベロシティーを変更します。

- **選択**  ツールを選択した場合は、選択したいいずれかのベロシティーバーの上部をクリックして上下にドラッグします。
  - **鉛筆**  ツールを選択した場合は、任意の範囲に形状を描きます。
  - **ライン**  ツールを選択した場合は、任意の範囲にドラッグでラインを描きます。
- 

#### 結果

影響を受ける音符のベロシティーが変更されます。「**選択 (Selection)**」のベロシティー編集範囲を選択した場合、これは選択したベロシティーバーにのみ適用されます。

#### ヒント


また、変換ツールやヒストグラムツールを使用して、さまざまな方法でベロシティーを大規模に変更することもできます。

---


## 音符のベロシティーをリセットする

音符のベロシティーに加えた変更を削除して、デフォルトのベロシティーにリセットできます。この操作は、インストゥルメントに属するすべての音符、特定の声部のすべての音符、または選択した音符のみに対して実行できます。

#### 前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。
  - 下ゾーンのツールバーで**キーエディター**  を選択しておきます。
  - キーエディターに表示するインストゥルメントを選択しておきます。
  - ベロシティーエディターをキーエディターに追加しておきます。
- 

#### 手順

1. ベロシティーエディターのヘッダーで、「**ヒストグラム (Histogram)**」  をオンにしてヒストグラムツールを表示します。
  2. ヒストグラムツールの上部で、以下のフィルターのいずれかを選択します。
    - **すべての音符 (All notes)**
    - **声部 (Voice)**
    - **選択 (Selection)**
  3. 「**リセット (Reset)**」をクリックします。
- 

#### 結果

選択したフィルターの音符のベロシティーに加えた変更がすべてリセットされます。

#### 補足

選択した音符の演奏されるデュレーションもリセットされます。

---

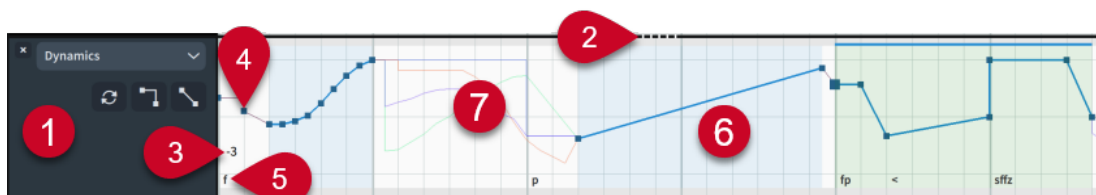
#### 関連リンク

- [ヒストグラムツール \(875 ページ\)](#)
- [キーエディターでアイテムを選択する \(840 ページ\)](#)
- [再生の上書きのリセット \(854 ページ\)](#)

## 強弱記号エディター

強弱記号エディターでは、キーエディターに表示されているインストゥルメント/声部の強弱記号を表示、入力、編集できます。ここでは、記譜モードで入力した強弱記号と強弱記号エディターで入力した強弱記号ポイントの両方が表示されます。これは下ゾーンのキーエディターに配置されています。




- 強弱記号エディターを表示するには、キーエディターにエディターを追加して、エディターメニューから「強弱記号 (Dynamics)」を選択します。



強弱記号エディターは以下で構成されます。

### 1 エディターヘッダー

以下のオプションがあります。

- **エディターメニュー**: エディターに表示されている MIDI コントローラーやエディターの種類を変更できます。すでにポイントを入力した MIDI コントローラーは、メニューの最初のレベルに表示されます。
- **同期 (Sync)** : エディター内のすべてのポイントをプライマリインストゥルメントからセカンダリーインストゥルメントにコピーします。キーエディターに複数のインストゥルメントが表示されている場合のみ使用できます。
- **一定保持ポイントに変換 (Convert to Constant Point)** : 選択したポイントを一定にします。強弱記号エディターで入力したポイントにのみ適用されます。
- **段階的変更ポイントに変換 (Convert to Linear Point)** : 選択したポイントをリニアにします。強弱記号エディターで入力したポイントにのみ適用されます。

### 2 スプリッター

クリックしてドラッグすることで、エディターの高さを変更できます。複数のエディターを開いている場合は、スプリッターの両側のエディターの高さに影響します。

### 3 値の表示

エディターの現在のマウスポインターの位置の値が表示されます。

### 4 強弱記号ポイント

強弱記号の局所的な変化。記譜モードで入力するか、強弱記号エディターで鉛筆ツールを使用して入力します。初期設定では、局所的強弱記号ポイントは一定です。

強弱記号レベルの最大範囲は 8 (最大音量) から -8 (最小音量) です。

- レベル 3 は強弱記号 *fff* に相当します。
- レベル 0 は強弱記号 *mf* に相当します。
- レベル -3 は強弱記号 *ppp* に相当します。

#### 補足

- 強弱記号ポイントをクリックしてドラッグすると、一時的に強弱記号レベルが表示されます。
- キーエディターに表示されているすべてのインストゥルメントに共通するポイントのみ編集できます。
- 強弱記号エディターで入力した強弱記号ポイントはレイアウトに表示されません。

### 5 強弱記号テキスト

記譜モードで入力された強弱記号の強弱記号レベルまたはクレッシェンド/ディミヌエンド記号、つまり記譜項目に対応する強弱記号ポイントを表示します。

## 6 強弱記号領域

複数のポイントを含むハイライトがかかった青色の領域です。鉛筆ツールかラインツールのいずれかを使用して、強弱記号エディターでクリックアンドドラッグすることで入力します。初期設定では、強弱記号エディターで入力した領域内の強弱記号ポイントはリニアになります。

ハイライトがかかった緑色の領域は、記譜モードで入力された段階的強弱記号や結合式/強制強弱記号を表わします (*fp* や *sffz* など)。

エディターの上部にある青色の細いバーは強弱記号グループを表わします。

### 補足

- キーエディターに表示されているすべてのインストゥルメントに共通するポイントのみ編集できます。
- 強弱記号エディターで入力した強弱記号領域は、ヒューマナイズやアクセントの付いた音符の強弱記号の増加など、強弱記号のデフォルトの再生調整を上書きします。ただし、強弱のカーブの設定は強弱記号領域にそのまま適用されます。
- ヒューマナイズやアクセントの付いた音符の強弱記号の増加といった強弱記号のデフォルトの再生調整は、記譜モードで入力した段階的強弱記号内の音符にそのまま適用されます。
- *messa di voce* 領域の開始位置と終了位置はリンクされており、常に同じ値になります。
- 結合式/強制強弱記号のポイントはエンベロープのパラメーターに対応しているため、これらは他の強弱記号ポイントとは異なる動作をします。結合式強弱記号には3つのポイントがあり、強制強弱記号には4つのポイントがあります。

たとえば、強制強弱記号の2つめのポイントの値を変更すると、3つめのポイントも移動します。これは、3つめのポイントが2つめのポイントのデュレーションを制御するためであり、これらは常に同じ値になります。同様に、結合式/強制強弱記号を領域の外に移動することはできません。

## 7 強弱記号の値ライン

キーエディターに複数のインストゥルメントが表示されている場合、各インストゥルメントの値ラインがそれぞれの色で表示されます。

関連リンク

[キーエディターパネル \(831 ページ\)](#)

[ゾーンの表示/非表示の切り替え \(48 ページ\)](#)

[キーエディターでエディターを追加する/閉じる \(840 ページ\)](#)

[キーエディターでインストゥルメントを表示する \(835 ページ\)](#)

[強弱記号 \(1229 ページ\)](#)

[強弱記号の入力方法 \(337 ページ\)](#)

[強弱記号のグループ \(1260 ページ\)](#)


[強弱記号レベルを変更する \(1235 ページ\)](#)

[リズムグリッド \(241 ページ\)](#)

## 強弱記号ポイントの入力



強弱記号エディターで、単一の強弱記号ポイントや強弱記号領域を入力できます。強弱記号エディターで入力した強弱記号ポイントはレイアウトに表示されません。

前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。
- 下ゾーンのツールバーで**キーエディター**  を選択しておきます。

- キーエディターに表示するインストゥルメントを選択しておきます。
  - 強弱記号エディターをキーエディターに追加しておきます。
- 

#### 手順

1. 入力する強弱記号ポイントの種類に応じて、以下のツールのいずれかを選択します。
    - 単一の強弱記号ポイントまたは複数の強弱記号ポイントを含む強弱記号領域を一定間隔ごとに入力するには、**[Ctrl]/[command]+[Shift]+[Alt/Opt]+[2]** を押すか、キーエディターパネルツールバーの「鉛筆 (Draw)」 をクリックして、鉛筆ツールを選択します。
    - なめらかな強弱記号領域を入力するには、キーエディターパネルツールバーの「ライン (Line)」 をクリックしてラインツールを選択します。
  2. 以下のいずれかの操作を行なって、強弱記号ポイントを入力します。
    - 単一の強弱記号ポイントを入力するには、強弱記号エディター内のポイントを追加する位置でクリックします。
    - 複数の強弱記号ポイントを含む強弱記号領域を一定間隔ごとに入力するには、強弱記号エディター内でクリックアンドドラッグします。
    - なめらかな強弱記号領域を入力するには、強弱記号エディター内の領域の開始位置でクリックして、終了位置までドラッグします。
- 

#### 結果

キーエディターに表示されているすべてのインストゥルメントに強弱記号ポイントが入力されます。

- 鉛筆ツールを使用した場合は、クリックした位置それぞれに個別の強弱記号ポイントが入力されます。
- 鉛筆ツールを使用してクリックアンドドラッグした場合は、強弱記号領域内に 32 分音符の間隔で強弱記号ポイントが入力されます。
- ラインツールを使用した場合は、強弱記号領域内のドラッグした範囲の両端に 1 つずつ、合わせて 2 つの強弱記号ポイントが入力されます。

初期設定では、鉛筆ツールを使用して入力した強弱記号ポイントは一定、強弱記号領域内の強弱記号ポイントはリニアになります。

強弱記号領域は、ハイライトがかかった領域として強弱記号エディターに表示されます。

強弱記号エディターで入力した強弱記号ポイントは、再生には反映されますがレイアウトには表示されません。

#### 補足

- 記譜モードで入力した強弱記号の位置に強弱記号ポイント/イベントを入力すると、それらの強弱記号のデフォルトの再生調整は上書きされます。単一の強弱記号ポイントは強弱記号のレベルのみを上書きします。強弱記号領域は、たとえばヒューマナイズやアクセントの付いた音符の強弱記号の増加なども上書きします。ただし、強弱のカーブの設定は強弱記号領域にそのまま適用されません。
  - MIDI CC 1 を使用して強弱記号をコントロールするサウンドライブラリーの場合、CC 1 の MIDI CC エディターには、強弱記号ポイントを含む入力した強弱記号とヒューマナイズを組み合わせた値が表示されます。
-



## 強弱記号ポイントを一定/リニアにする

強弱記号エディターで入力した個々の強弱記号ポイントを一定またはリニアにできます。初期設定では、強弱記号エディターで入力した強弱記号ポイントはリニアになります。



### 補足

これらの手順は、記譜モードで入力した強弱記号のポイントには適用されません。

### 前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。
- 下ゾーンのツールバーで**キーエディター**  を選択しておきます。
- キーエディターパネルツールバーで「**選択 (Select)**」  を選択しておきます。
- キーエディターに表示するインストゥルメントを選択しておきます。
- 強弱記号エディターをキーエディターに追加しておきます。

### 手順

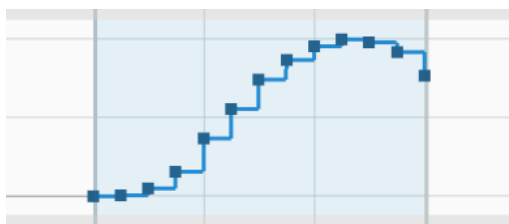
1. 強弱記号エディターで、一定/リニアにする強弱記号ポイントを選択します。
2. 以下のいずれかの操作を行ないます。
  - 選択したポイントを一定にするには、エディターヘッダーの「**一定保持ポイントに変換 (Convert to Constant Point)**」  をクリックします。
  - 選択したポイントをリニアにするには、エディターヘッダーの「**段階的変更ポイントに変換 (Convert to Linear Point)**」  をクリックします。

### 結果

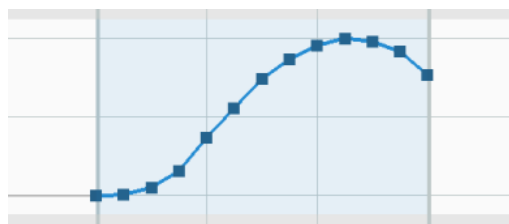
選択した強弱記号ポイントが一定またはリニアになります。

一定ポイントのあとの値ラインは、常に水平に表示されます。次のポイントの値が異なる場合、リニアポイントのあとの値ラインは、ポイント間がなめらかに変移することを示す斜めの線として表示されます。

### 例



強弱記号エディターの一定ポイント





強弱記号エディターのリニアポイント

## 強弱記号ポイントの移動

強弱記号ポイントは個別に移動できます。たとえば、上下に移動して強弱記号のレベルを変更できます。これは、個々の強弱記号を少しでも早いタイミング適用する場合や、特定の既存の強弱記号のボリュームを調節する場合などに行ないます。

### 前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。
- 下ゾーンのツールバーで**キーエディター**  を選択しておきます。
- キーエディターパネルツールバーで「**選択 (Select)**」  を選択しておきます。
- キーエディターに表示するインストゥルメントを選択しておきます。
- 強弱記号エディターをキーエディターに追加しておきます。

### 手順

1. 強弱記号エディターで、移動する強弱記号ポイントを選択します。

#### ヒント

記譜モードで入力された強弱記号を移動するには、開始ポイントのみを選択します。これには、複数のポイントを持つ段階的強弱記号や結合式/強制強弱記号も含まれます。

2. 以下のいずれかの操作を行なって、選択した強弱記号ポイントを移動します。

- ポイントをクリックして任意の方向にドラッグします。

#### 補足

- 移動を水平方向または垂直方向に制限するには、ドラッグしはじめたあと、**[Shift]** を押したままにします。
  - 記譜モードで入力した強弱記号は、一度に水平方向または垂直方向のいずれかにしか移動できません。
- 
- 強弱記号ポイントを現在のリズムグリッドの間隔に従って右に移動するには、**[Ctrl]/[command]+[Alt/Opt]+[→]** を押します。
  - 強弱記号ポイントを現在のリズムグリッドの間隔に従って左に移動するには、**[Ctrl]/[command]+[Alt/Opt]+[←]** を押します。

### 結果

選択した強弱記号ポイントが新しい位置に移動します。左右の移動は楽譜内の位置に影響します。上下の移動は強弱記号のレベルに影響します。

段階的強弱記号の終了ポイントを左右に移動すると、対応する段階的強弱記号のリズム上の長さが変更されます。該当するすべてのレイアウトで、その段階的強弱記号の記譜上の長さが自動的に更新されます。

#### 補足

- リンクされた強弱記号の強弱記号ポイントを移動すると、リンクされたすべての強弱記号に影響します。
- 記譜モードで入力した強弱記号を、1回の操作で既存の強弱記号ポイントを越えてドラッグすることはできません。マウスを放すと、移動した強弱記号ポイントによって既存の強弱記号ポイントの値が変更されます。

関連リンク

[リンクされた強弱記号 \(1262 ページ\)](#)

[段階的強弱記号 \(1246 ページ\)](#)


[強弱記号レベルを変更する \(1235 ページ\)](#)

[アイテムの長さの変更 \(470 ページ\)](#)

## 強弱記号ポイントを別のインストゥルメントにコピーする



キーエディターに複数のインストゥルメントが表示されている場合、プライマリーインストゥルメントからセカンダリーインストゥルメントに強弱記号ポイントをコピーできます。個々のポイントや領域のみをコピーすることも、選択したフローのプライマリーインストゥルメントに属するすべてのポイントをコピーすることもできます。

前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。
- 下ゾーンのツールバーで**キーエディター**  を選択しておきます。
- 強弱記号エディターをキーエディターに追加しておきます。
- キーエディターに複数のインストゥルメントを表示しておきます。

---

手順

1. 個々の強弱記号ポイントまたは領域のみを同期する場合は、キーエディターパネルツールバーの「**領域を同期 (Sync Region)**」  をクリックして「**領域を同期 (Sync Region)**」を選択します。
2. 強弱記号エディターで、以下のいずれかの操作を行ないます。
  - 個々の強弱記号ポイントまたは領域をコピーするには、各強弱記号ポイントまたは領域をクリックするか、複数の強弱記号ポイントと領域をまたぐようにクリックアンドドラッグします。
  - 現在のフローのすべての強弱記号ポイントをコピーするには、エディターヘッダーの「**同期 (Sync)**」  をクリックします。

---

結果

対応する強弱記号ポイントがプライマリーインストゥルメントからセカンダリーインストゥルメントへとコピーされ、キーエディターに表示されているすべてのインストゥルメントで編集できるようになります。

セカンダリーインストゥルメントに属する影響を受ける領域内の既存の強弱記号ポイントは上書きされます。

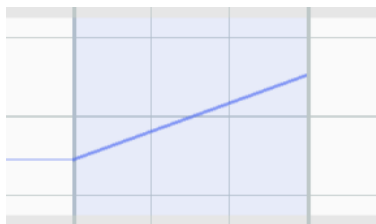
ヒント

キーエディターに複数のインストゥルメントが表示されている場合、すべてのインストゥルメントの強弱記号ポイントを直接入力できます。

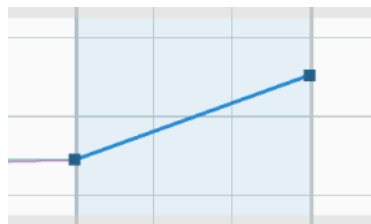
---



例



プライマリーインストゥルメントの強弱記号領域のみ



セカンダリーインストゥルメントにコピーされた強弱記号領域

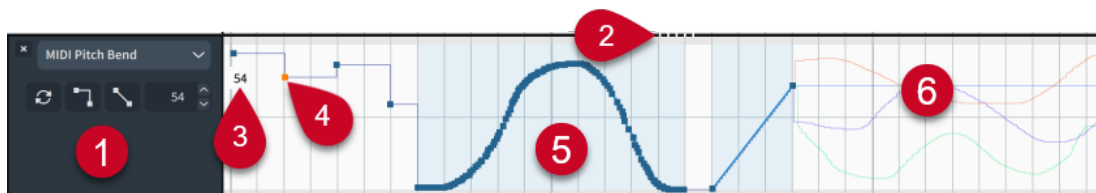
関連リンク

- [キーエディターでエディターを追加する/閉じる \(840 ページ\)](#)
- [キーエディターでインストゥルメントを表示する \(835 ページ\)](#)
- [キーエディターでアイテムを選択する \(840 ページ\)](#)
- [トラック概要でフローを切り替える \(660 ページ\)](#)
- [キーエディターでポイントをコピーアンドペーストする \(841 ページ\)](#)

## MIDI ピッチベンドエディター

MIDI ピッチベンドエディターでは、キーエディターに表示されているインストゥルメントの MIDI ピッチベンドコントローラーデータを表示、入力、編集できます。これは下ゾーンのキーエディターに配置されています。

- MIDI ピッチベンドエディターを表示するには、キーエディターにエディターを追加して、エディターメニューから「MIDI ピッチベンド (MIDI Pitch Bend)」を選択します。



MIDI ピッチベンドエディターは以下で構成されます。

### 1 エディターヘッダー

以下のオプションがあります。

- エディターメニュー:** エディターに表示されている MIDI コントローラーやエディターの種類を変更できます。すでにポイントを入力した MIDI コントローラーは、メニューの最初のレベルに表示されます。
- 同期 (Sync)** : エディター内のすべてのポイントをプライマリーインストゥルメントからセカンダリーインストゥルメントにコピーします。キーエディターに複数のインストゥルメントが表示されている場合のみ使用できます。
- 一定保持ポイントに変換 (Convert to Constant Point)** : 選択したポイントを一定にします。領域内のポイントにのみ適用されます。
- 段階的変更ポイントに変換 (Convert to Linear Point)** : 選択したポイントをリニアにします。領域内のポイントにのみ適用されます。

- **数値フィールド:** 最初に選択した MIDI ポイントの値が表示されます。この値は、数値フィールドに入力するか、エディターでポイントをクリックして上下にドラッグすることで変更できます。MIDI ピッチバンドに使用できる範囲は -100% ~ +100% です。

## 2 スプリッター

クリックしてドラッグすることで、エディターの高さを変更できます。複数のエディターを開いている場合は、スプリッターの両側のエディターの高さに影響します。

## 3 値の表示

エディターの現在のマウスポインターの位置の値が表示されます。

## 4 MIDI ポイント

MIDI ピッチの単一の変化です。鉛筆ツールを使用して入力します。初期設定では、個々の MIDI ポイントは一定です。キーエディターに表示されているすべてのインストゥルメントに共通するポイントのみ編集できます。

## 5 MIDI 領域

複数のポイントを含むハイライトがかかった領域です。鉛筆ツールかラインツールのいずれかを使用して、クリックアンドドラッグすることで入力します。

初期設定では、領域内の MIDI ポイントはリニア、最後のポイントは一定になります。キーエディターに表示されているすべてのインストゥルメントに共通するポイントのみ編集できます。

## 6 MIDI 値ライン

キーエディターに複数のインストゥルメントが表示されている場合、各インストゥルメントの値ラインがそれぞれの色で表示されます。

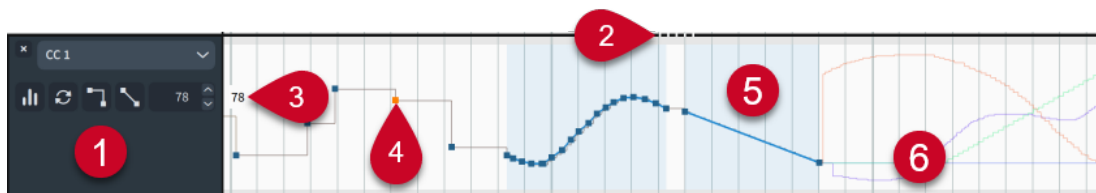
# MIDI CC エディター

MIDI CC エディターでは、キーエディターに表示されているインストゥルメントのあらゆる MIDI コントローラーのデータを表示、入力、編集できます。これは下ゾーンのキーエディターに配置されています。

- MIDI CC エディターを表示するには、キーエディターにエディターを追加して、エディターメニューから MIDI コントローラーを選択します。

### ヒント

- たとえば、2つの MIDI コントローラー間で MIDI ポイントをコピーする場合など、複数の MIDI CC エディターをキーエディターに同時に追加できます。
- 生成された値は、編集できない値ラインとして表示されます。MIDI CC 1 を使用して強弱記号をコントロールするサウンドライブラリーの場合、CC 1 の MIDI CC エディターには、強弱記号ポイントを含む入力した強弱記号とヒューマナイズを組み合わせた値が表示されます。







MIDI CC エディターは以下で構成されます。

## 1 エディターヘッダー

以下のオプションがあります。

- **エディターメニュー:** エディターに表示されている MIDI コントローラーやエディターの種類を変更できます。すでにポイントを入力した MIDI コントローラーは、メニューの最初のレベルに表示されます。

- **ヒストグラム (Histogram)** : エディターにヒストグラムツールを表示します。
- **同期 (Sync)** : エディター内のすべてのポイントをプライマリーインストゥルメントからセカンダリーインストゥルメントにコピーします。キーエディターに複数のインストゥルメントが表示されている場合のみ使用できます。
- **一定保持ポイントに変換 (Convert to Constant Point)** : 選択したポイントを一定にします。領域内のポイントにのみ適用されます。
- **段階的変更ポイントに変換 (Convert to Linear Point)** : 選択したポイントをリニアにします。領域内のポイントにのみ適用されます。
- **数値フィールド**: 最初に選択した MIDI ポイントの値が表示されます。この値は、数値フィールドに入力するか、エディターでポイントをクリックして上下にドラッグすることで変更できます。MIDI CC に使用できる範囲は 0 ~ 127 です。

## 2 スプリッター

クリックしてドラッグすることで、エディターの高さを変更できます。複数のエディターを開いている場合は、スプリッターの両側のエディターの高さに影響します。

## 3 値の表示

エディターの現在のマウスポインターの位置の値が表示されます。

## 4 MIDI ポイント

MIDI 値の単一の変化です。鉛筆ツールを使用して入力します。初期設定では、個々の MIDI ポイントは一定です。キーエディターに表示されているすべてのインストゥルメントに共通するポイントのみ編集できます。

## 5 MIDI 領域

複数のポイントを含むハイライトがかかった領域です。鉛筆ツールがラインツールのいずれかを使用して、クリックアンドドラッグすることで入力します。

初期設定では、領域内の MIDI ポイントはリニア、最後のポイントは一定になります。キーエディターに表示されているすべてのインストゥルメントに共通するポイントのみ編集できます。

## 6 MIDI 値ライン

キーエディターに複数のインストゥルメントが表示されている場合、各インストゥルメントの値ラインがそれぞれの色で表示されます。

### ヒント

- MIDI ポイントをクリックしてドラッグすると、一時的に値が表示されます。
- ヒストグラムツールや変換ツールを使用して MIDI CC の値を変更できます。
- MIDI ファイルを書き出すと MIDI CC データが含まれます。


### 関連リンク

- [キーエディターパネル \(831 ページ\)](#)
- [ヒストグラムツール \(875 ページ\)](#)
- [変換ツール \(879 ページ\)](#)
- [キーエディターでエディターを追加する/閉じる \(840 ページ\)](#)
- [キーエディターでインストゥルメントを表示する \(835 ページ\)](#)
- [MIDI ピッチバンドエディター \(865 ページ\)](#)
- [キーエディターでポイントをコピーアンドペーストする \(841 ページ\)](#)
- [MIDI の書き出し \(105 ページ\)](#)
- [強弱記号 \(1229 ページ\)](#)
- [強弱記号エディター \(859 ページ\)](#)
- [強弱記号の再生オプション \(1265 ページ\)](#)
- [再生時のペダル線 \(1535 ページ\)](#)
- [再生時の強弱記号 \(1264 ページ\)](#)

## MIDI ポイントの入力



MIDI CC エディターと MIDI ピッチバンドエディターで、ピッチバンドを含むあらゆる MIDI コントローラーに MIDI CC ポイントを入力できます。

### 前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。
- 下ゾーンのツールバーで**キーエディター**  を選択しておきます。
- キーエディターに表示するインストゥルメントを選択しておきます。
- 少なくとも 1 つの MIDI CC エディターまたは MIDI ピッチバンドエディターをキーエディターに追加しておきます。

---

### 手順

1. 入力する MIDI ポイントに応じて、以下のツールのいずれかを選択します。
  - 単一の MIDI ポイントまたは複数のポイントを含む MIDI 領域を一定間隔ごとに入力するには、**[Ctrl]/[command]+[Shift]+[Alt/Opt]+[2]** を押すか、キーエディターパネルツールバーの「**鉛筆 (Draw)**」  をクリックして、**鉛筆ツール**を選択します。
  - なめらかな MIDI 領域を入力するには、キーエディターパネルツールバーの「**ライン (Line)**」  をクリックして**ラインツール**を選択します。
2. 以下のいずれかの操作を行なって、MIDI ポイントを入力します。
  - 単一の MIDI ポイントを入力するには、MIDI CC エディターまたは MIDI ピッチバンドエディターで、MIDI ポイントを入力する位置をクリックします。
  - 複数の MIDI ポイントを含む MIDI 領域を一定間隔ごとに入力するには、MIDI CC エディターまたは MIDI ピッチバンドエディター内でクリックアンドドラッグします。
  - なめらかな MIDI 領域を入力するには、MIDI CC エディターまたは MIDI ピッチバンドエディター内の領域の開始位置でクリックして、終了位置までドラッグします。

### ヒント

MIDI ピッチバンドエディターの中央の水平線は、変更されていないピッチを表わしています。

---

### 結果

キーエディターに表示されているすべてのインストゥルメントに MIDI ポイントが入力されます。

- **鉛筆ツール**を使用した場合は、クリックした位置それぞれに個別の MIDI ポイントが入力されます。
- **鉛筆ツール**を使用してクリックアンドドラッグした場合は、MIDI 領域内に短い間隔で MIDI ポイントが入力されます。
- **ラインツール**を使用した場合は、MIDI 領域内のドラッグした範囲の両端に 1 つずつ、合わせて 2 つの MIDI ポイントが入力されます。

初期設定では、単一の MIDI ポイントは一定、領域内の MIDI ポイントはリニア、領域内の最後の MIDI ポイントは一定になります。



MIDI CC エディターと MIDI ピッチバンドエディターでは、MIDI 領域が色付きの背景で強調表示されます。

## MIDI ポイントを一定/リニアにする



領域内の一部のポイントを一定にしたい場合などに、領域内の選択した MIDI ポイントを入力後に一定またはリニアにできます。

初期設定では、MIDI ポイントを個別に入力した場合は一定になり、クリックアンドドラッグで領域として入力した場合はリニアになります。領域内の最後の MIDI ポイントは一定です。

### 前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。
- 下ゾーンのツールバーで**キーエディター**  を選択しておきます。
- キーエディターパネルツールバーで「**選択 (Select)**」  を選択しておきます。
- キーエディターに表示するインストゥルメントを選択しておきます。
- 少なくとも 1 つの MIDI CC エディターまたは MIDI ピッチベンドエディターをキーエディターに追加しておきます。

### 手順

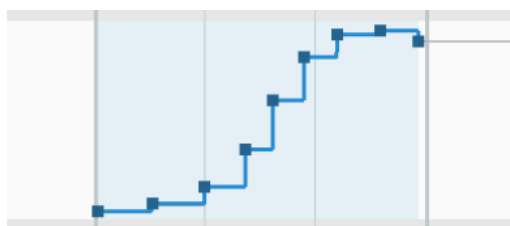
1. MIDI CC エディターまたはピッチベンドエディターで、一定またはリニアにする領域内の MIDI ポイントを選択します。
2. 以下のいずれかの操作を行ないます。
  - 選択したポイントを一定にするには、エディターヘッダーの「**一定保持ポイントに変換 (Convert to Constant Point)**」  をクリックします。
  - 選択したポイントをリニアにするには、エディターヘッダーの「**段階的変更ポイントに変換 (Convert to Linear Point)**」  をクリックします。

### 結果

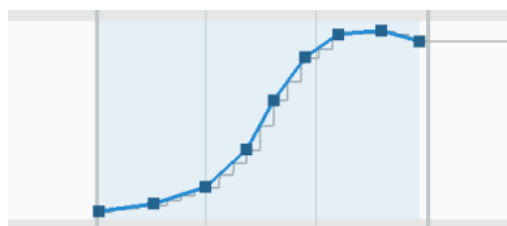
選択した MIDI ポイントが一定またはリニアになります。

一定ポイントのあとの値ラインは、常に水平に表示されます。次のポイントの値が異なる場合、リニアポイントのあとの値ラインは、ポイント間がなめらかに変移することを示す斜めの線として表示されます。

### 例



MIDI CC エディターの一定ポイント




MIDI CC エディターのリニアポイント

## MIDI ポイントの移動

MIDI CC エディターと MIDI ピッチベンドエディターでは、MIDI ポイントを個別に移動できます。たとえば、上下に移動して値を変更できます。

### 前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。

- 下ゾーンのツールバーで**キーエディター**  を選択しておきます。
- キーエディターパネルツールバーで「**選択 (Select)**」  を選択しておきます。
- キーエディターに表示するインストゥルメントを選択しておきます。
- 少なくとも 1 つの MIDI CC エディターまたは MIDI ピッチベンドエディターをキーエディターに追加しておきます。

---

#### 手順

1. MIDI CC エディターまたはピッチベンドエディターで、移動する MIDI ポイントを選択します。

#### 補足

複数のエディターの MIDI ポイントを一度に移動することはできません。

2. 以下のいずれかの操作を行なって、選択した MIDI ポイントを移動します。
  - ポイントをクリックして任意の方向にドラッグします。
  - 上下にのみ移動するには、**[Shift]** を押しながら上下にドラッグします。
  - 左右にのみ移動するには、**[Shift]** を押しながら左右にドラッグします。

#### ヒント


また、**[Alt/Opt]+[→]** / **[Alt/Opt]+[←]** を押しと、ステータスバーに表示されている現在のリズムグリッドの間隔に従って MIDI ポイントを移動できます。

---

## MIDI ポイントを別のインストゥルメントにコピーする



キーエディターに複数のインストゥルメントが表示されている場合、プライマリーインストゥルメントからセカンダリーインストゥルメントに MIDI ポイントをコピーできます。個々のポイントや領域のみをコピーすることも、選択したフローのプライマリーインストゥルメントに属するすべてのポイントをコピーすることもできます。

#### 前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。
- 下ゾーンのツールバーで**キーエディター**  を選択しておきます。
- 少なくとも 1 つの MIDI CC エディターまたは MIDI ピッチベンドエディターをキーエディターに追加しておきます。
- キーエディターに複数のインストゥルメントを表示しておきます。

---

#### 手順

1. 個々の MIDI ポイントまたは領域のみを同期する場合は、キーエディターパネルツールバーの「**領域を同期 (Sync Region)**」  をクリックして「**領域を同期 (Sync Region)**」を選択します。
  2. MIDI CC または MIDI ピッチベンドエディターで、以下のいずれかの操作を行ないます。
    - 個々の MIDI ポイントまたは領域をコピーするには、各 MIDI ポイントまたは領域をクリックするか、複数の MIDI ポイントと領域をまたぐようにクリックアンドドラッグします。
    - 現在のフローのすべての MIDI ポイントをコピーするには、エディターヘッダーの「**同期 (Sync)**」  をクリックします。
-

#### 結果

対応する MIDI ポイントがプライマリーインストゥルメントからセカンダリーインストゥルメントへとコピーされ、キーエディターに表示されているすべてのインストゥルメントで編集できるようになります。

セカンダリーインストゥルメントに属する影響を受ける領域内の既存の MIDI ポイントは上書きされません。

#### ヒント

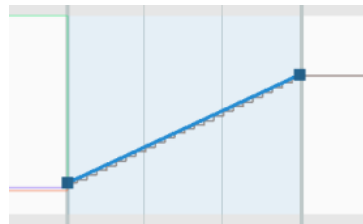
キーエディターに複数のインストゥルメントが表示されている場合、すべてのインストゥルメントの MIDI ポイントを直接入力できます。

---

#### 例



プライマリーインストゥルメントの MIDI 領域のみ



セカンダリーインストゥルメントにコピーされた MIDI 領域

---

#### 関連リンク

[キーエディターでエディターを追加する/閉じる \(840 ページ\)](#)

[キーエディターでインストゥルメントを表示する \(835 ページ\)](#)

[キーエディターでアイテムを選択する \(840 ページ\)](#)

[キーエディターでポイントをコピーアンドペーストする \(841 ページ\)](#)

## テンポエディター

テンポエディターでは、テンポ変更を表示、入力、編集できます。ここでは、記譜モードで入力したテンポ記号とテンポエディターで入力したテンポ変更の両方が表示されます。これは下ゾーンのキーエディターに配置されています。

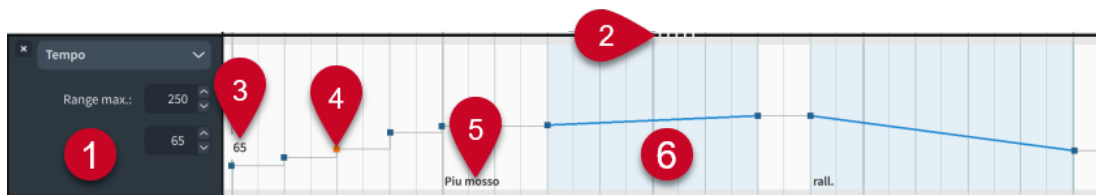
テンポエディターを表示するには、以下のいずれかの操作を行ないます。

- キーエディターにエディターを追加して、エディターメニューから「**テンポ (Tempo)**」を選択します。
- キーエディターがロックされていないときに、再生モードでテンポマークかテンポトラックを選択します。

#### 補足

これにより、テンポエディターがプライマリーエディターとして表示されます。キーエディターでピアノロール/打楽器エディターやその他のエディターの表示に戻るには、楽譜領域でインストゥルメントに属する音符/アイテムを選択する必要があります。

---



テンポエディターは以下で構成されます。

## 1 エディターヘッダー

以下のオプションがあります。

- **エディターメニュー:** エディターに表示されている MIDI コントローラーやエディターの種類を変更できます。すでにポイントを入力した MIDI コントローラーは、メニューの最初のレベルに表示されます。
- **「範囲の最大値 (Range max.)」 数値フィールド:** テンポエディターのメトロノームマークの最大値を設定できます。
- **テンポ数値フィールド:** 最初に選択したテンポポイントのメトロノームマークの値が、小数点以下なしで表示されます。この値は、数値フィールドに入力するか、エディターでポイントをクリックして上下にドラッグすることで変更できます。

## 2 スプリッター

クリックしてドラッグすることで、エディターの高さを変更できます。複数のエディターを開いている場合は、スプリッターの両側のエディターの高さに影響します。

## 3 値の表示

エディターの現在のマウスポインターの位置の値が表示されます。

## 4 テンポポイント

テンポの局所的な変化。記譜モードで入力するか、テンポエディターで鉛筆ツールを使用して入力します。固定テンポ変更には1つの一定ポイントが含まれます。

### ヒント

- テンポエディターをクリックしてドラッグすると、マウスポインターの位置にあるメトロノームマークの値が一時的に表示されます。
- テンポエディターで入力したテンポポイントは、楽譜にはガイドとして表示されます。初期設定では、ガイドは印刷されません。そのため、テンポポイントをテンポ記号としてレイアウトに表示したい場合は、ガイドを表示することをおすすめします。
- テンポエディターに入力したすべてのテンポポイントは、書き出した MIDI ファイルに含まれます。

## 5 テンポ記号テキスト

記譜モードで入力されたテンポ記号のテキスト、つまり記譜項目に対応するテンポポイントが表示されます。

## 6 テンポ領域

テンポエディターでラインツールを使用してクリックアンドドラッグで入力した、開始位置にリニアポイント、終了位置に一定ポイントが入力されたハイライトがかかった領域。

テンポ領域は、記譜モードで入力した *rallentando* のような段階的テンポ変更を表わすこともできます。

関連リンク

[キーエディターパネル \(831 ページ\)](#)

[テンポトラック \(672 ページ\)](#)

[キーエディターでエディターを追加する/閉じる \(840 ページ\)](#)




[キーエディターでインストゥルメントを表示する \(835 ページ\)](#)  
[テンポ記号 \(1745 ページ\)](#)  
[テンポ記号の表示/非表示 \(1750 ページ\)](#)  
[テンポ記号の入力方法 \(320 ページ\)](#)  
[ガイド \(490 ページ\)](#)

## テンポエディターへのテンポ変更の入力



テンポエディターでは、単一のテンポ変更やテンポ領域を入力できます。テンポエディターに入力したテンポ変更は、テンポ変更としてではなく、ガイドとしてレイアウトに表示されます。

### 前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。
- 下ゾーンのツールバーで**キーエディター**  を選択しておきます。
- テンポエディターをキーエディターに追加しておきます。

---

### 手順

1. 入力するテンポ変更の種類に応じて、以下のツールのいずれかを選択します。
  - 一定間隔ごとに単一または複数の固定テンポ変更を入力するには、**[Ctrl]/[command]+[Shift]+[Alt/Opt]+[2]** を押すか、キーエディターパネルツールバーの「**鉛筆 (Draw)**」  をクリックして、**鉛筆ツール**を選択します。
  - テンポ領域を入力するには、キーエディターパネルツールバーの「**ライン (Line)**」  をクリックして**ラインツール**を選択します。
2. 以下のいずれかの操作を行なって、テンポ変更を入力します。
  - 単一の固定テンポ変更を入力するには、テンポエディター内のテンポ変更を追加する位置でクリックします。
  - 一定間隔ごとに複数の固定テンポ変更を入力するには、テンポエディター内でクリックアンドドラッグします。
  - テンポ領域を入力するには、テンポエディター内の領域の開始位置でクリックして、終了位置までドラッグします。

### ヒント

テンポエディターをクリックしてドラッグすると、マウスポインターの位置にあるメトロノームマークの値が一時的に表示されます。

---

### 結果

- **鉛筆ツール**を使用して複数回クリックした場合は、クリックした位置それぞれに個別のテンポ変更が入力されます。
- **鉛筆ツール**を使用してクリックアンドドラッグした場合は、32 分音符の間隔でテンポ変更が入力されます。
- **ラインツール**を使用した場合は、テンポ領域内のドラッグした範囲の両端に1つずつ、合わせて2つのテンポ変更が入力されます。

これにより再生速度が変更されますが、レイアウトにはテンポ変更が表示されません。かわりにガイドとして表示されます。

テンポエディターに入力したテンポ変更は、書き出した MIDI ファイルに含まれます。

関連リンク

[キーエディターパネルツールバー \(833 ページ\)](#)



[ガイド \(490 ページ\)](#)

[テンポ記号の表示/非表示 \(1750 ページ\)](#)

## テンポエディターのテンポ変更の移動

テンポエディターのテンポ変更を別の位置に移動できます。これは、該当するすべてのレイアウトでの位置に影響します。

前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。
- 下ゾーンのツールバーで**キーエディター**  を選択しておきます。
- キーエディターパネルツールバーで「**選択 (Select)**」  を選択しておきます。
- テンポエディターをキーエディターに追加しておきます。

---

手順

1. テンポエディターで、移動するテンポ変更を選択します。
2. メトロノームマークの値を変更することなく選択したテンポ変更を移動するには、**[Shift]** を押しながら左右にドラッグします。

補足

記譜モードで入力したテンポ領域や単一のテンポ変更を、1回の操作で既存のテンポ変更を越えて移動させることはできません。マウスを放すと、移動したテンポ変更によって既存のテンポ変更の値が変更されます。

---

結果

選択したテンポ変更が移動します。選択した複数の固定テンポ変更を移動した場合、互いの相対位置は維持されます。この変更は、移動したテンポ変更が含まれるすべてのレイアウトにも反映されます。



手順終了後の項目

テンポ変更を上下に移動することで、メトロノームマークの値を変更することもできます。

## テンポエディターでのテンポの変更

テンポエディターでは、1分あたりの拍数で表わされる個々のテンポ変更のメトロノームマークの値を変更できます。

前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。
- 下ゾーンのツールバーで**キーエディター**  を選択しておきます。
- キーエディターパネルツールバーで「**選択 (Select)**」  を選択しておきます。
- テンポエディターをキーエディターに追加しておきます。

---

手順

1. テンポエディターで、メトロノームマークの値を変更するテンポ変更を選択します。
2. 選択したテンポ変更の位置を移動することなくメトロノームマークの値を変更するには、**[Shift]** を押しながら上下にドラッグします。

テンポエディターをクリックしてドラッグすると、マウスポインターの位置にあるメトロノームマークの値が一時的に表示されます。

#### 結果

選択したテンポ変更のメトロノームマークの値が相対的に変更されます。この変更は、再生速度やレイアウトに表示されるすべてのテンポ変更のメトロノームマークに影響します。

#### ヒント

選択したテンポ変更のメトロノームマークの値は、テンポエディターのヘッダーにある「**テンポ (Tempo)**」数値フィールドを使用して変更することもできます。

#### 関連リンク

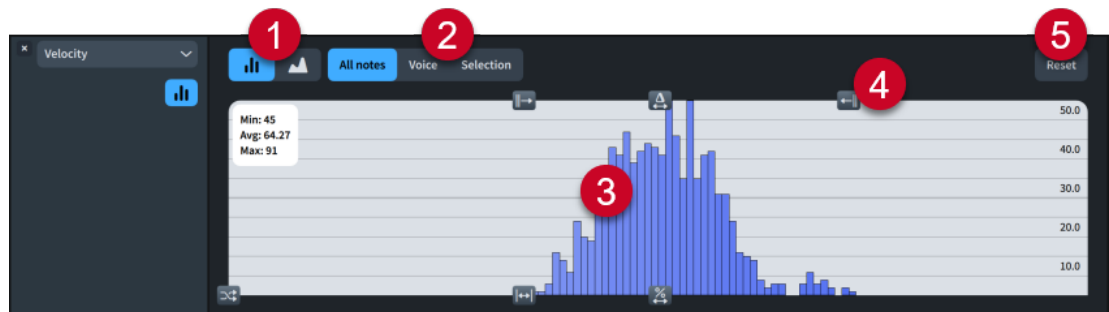
[キーエディターでアイテムを選択する \(840 ページ\)](#)

[メトロノームマークの小数点以下の値を表示/非表示にする \(1755 ページ\)](#)

## ヒストグラムツール



ヒストグラムツールには、ベロシティーと MIDI CC の値がチャートとして表示されます。値は度数分布に応じてグループ化されます。このツールを使用すると、たとえば、すべてのベロシティーの値を比例的に大きくするなど、値を大規模に変更できます (トラック全体など)。

- ベロシティーエディターと MIDI CC エディターにヒストグラムツールを表示するには、それぞれのエディターのヘッダーで「**ヒストグラム (Histogram)**」  をクリックします。



### 1 チャートの形状

ヒストグラムチャートの形状を変更できます。

- バー** : 値がバーとして表示されます。
- 領域** : 値が領域として表示されます。

### 2 ヒストグラムフィルター

ヒストグラムツールに表示される値をフィルタリングできます。

- すべて (All)/すべての音符 (All notes)**: キーエディターに現在表示されているすべてのインストゥルメントのすべての値を表示します。
- 声部 (Voice)**: 選択した声部の音符のみを表示します。ベロシティーエディターでのみ使用できます。
- 選択 (Selection)**: 選択したアイテムの値のみ表示します。

### 3 ヒストグラムチャート

選択したフィルターに応じて値が表示されます。X軸は数値、Y軸は対応する数値の度数分布を表わしています。

### 4 ヒストグラムコントロール

現在表示されている値を変更できます。

## 5 リセット (Reset)

現在表示されているすべての値をリセットします。

### ヒント

値を小さく変更したい場合は、変換ツールを使用できます。

#### 関連リンク

[キーエディターパネル \(831 ページ\)](#)

[ゾーンの表示/非表示の切り替え \(48 ページ\)](#)

[キーエディターでエディターを追加する/閉じる \(840 ページ\)](#)

[キーエディターでインストゥルメントを表示する \(835 ページ\)](#)

[音符のベロシティーの変更 \(857 ページ\)](#)

[声部 \(1858 ページ\)](#)

[複数の声部への音符の入力 \(257 ページ\)](#)

[既存の音符の声部を変更する \(507 ページ\)](#)

[変換ツール \(879 ページ\)](#)

[ベロシティーエディター \(856 ページ\)](#)

[MIDI CC エディター \(866 ページ\)](#)

## ヒストグラムコントロール

ヒストグラムコントロールを使用すると、ベロシティーや MIDI CC の値をさまざまな方法で大規模に変更できます。

- ヒストグラムコントロールには、キーエディターにヒストグラムツールが表示されているときにアクセスできます。

### デルタ (Delta)



値の中心点を表わします。表示されているすべての値を左右に移動させることができます。値の間の明示的な間隔が保持されます。

### スケール (Scale)



値を比例的に拡大縮小します。値の間の比例関係が保持されます。つまり、右に動かすと値の間隔が広がり、左に動かすと狭まります。

### スプレッド (Spread)



中心点から左右両方に値を広げます。

### 下限 (Lower Limit)



最も低い値を表わします。低い値を上げることができます。

### 上限 (Upper Limit)



最も高い値を表わします。高い値を下げるすることができます。

### ランダム化 (Randomize)



ボタンをクリックして上下にドラッグすることで値をランダム化できます。マウスポインターを上を上げるほど、ランダム化の幅が広がり、極端になります。ランダム化には、ベル型に近い標準分布が使用されます。


## ヒストグラムツールを使用して値を変更する

ヒストグラムツールを使用して、ベロシティや MIDI CC の値を大規模に変更できます (トラック全体など)。たとえば、すべてのベロシティの値を比例的に大きくするなどできます。



### ヒント

値を小さく変更したい場合は、変換ツールを使用できます。

### 前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。
- 下ゾーンのツールバーで**キーエディター**  を選択しておきます。
- キーエディターに表示するインストゥルメントを選択しておきます。
- 少なくとも 1 つのベロシティエディターまたは MIDI CC エディターをキーエディターに追加しておきます。


### 手順

1. ヒストグラムツールを使用する各エディターのヘッダーで、「**ヒストグラム (Histogram)**」  をオンにしてヒストグラムツールを表示します。
2. 必要に応じて、各エディターに適したヒストグラムツールフィルターを選択します。
3. 利用できるヒストグラムコントロールを必要に応じて使用します。  
たとえば、「**スケール (Scale)**」  をクリックして右にドラッグすると、現在表示されている値を比例的に大きくできます。


## ヒストグラムツールフィルターの変更

利用できるフィルターを使用して、ヒストグラムツールに表示される値、つまりヒストグラムツールの影響を受ける値を変更できます。たとえば、すでに選択している値にのみヒストグラムツールが影響するようにしたい場合などに行ないます。

### 前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。
- 下ゾーンのツールバーで**キーエディター**  を選択しておきます。
- 少なくとも 1 つのベロシティエディターまたは MIDI CC エディターをキーエディターに追加しておきます。

### 手順


1. ヒストグラムツールを使用する各エディターのヘッダーで、「**ヒストグラム (Histogram)**」  をオンにしてヒストグラムツールを表示します。
2. 各ヒストグラムツールの上部で、以下のフィルターのいずれかを選択します。

- 「すべて (All)」 (MIDI CC エディター) または 「すべての音符 (All notes)」 (ペロシティーエディター)
  - 「声部 (Voice)」 (ペロシティーエディターのみ)
  - 「選択 (Selection)」
- 




## ヒストグラムチャートの形状を変更する

ヒストグラムツールの値の表示方法を、バー表示と領域表示で切り替えることができます。

前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。
- 下ゾーンのツールバーで**キーエディター**  を選択しておきます。
- キーエディターに表示するインストゥルメントを選択しておきます。
- 少なくとも1つのペロシティーエディターまたはMIDI CC エディターをキーエディターに追加しておきます。

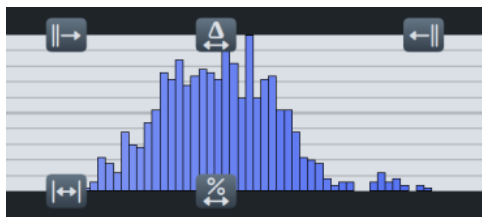
手順

1. ヒストグラムツールを使用する各エディターのヘッダーで、「ヒストグラム (Histogram)」  をオンにしてヒストグラムツールを表示します。
2. 各ヒストグラムツールの上部で、以下のチャート形状のいずれかを選択します。
  - **バー** 
  - **領域** 

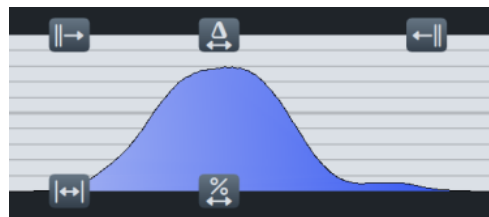
結果

各エディターのヒストグラムチャートの形状が変更されます。

例



バー



領域

関連リンク


[ゾーンの表示/非表示の切り替え \(48 ページ\)](#)

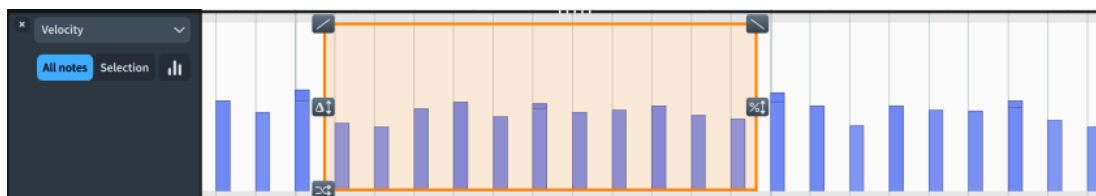
[キーエディターでエディターを追加する/閉じる \(840 ページ\)](#)

[キーエディターでインストゥルメントを表示する \(835 ページ\)](#)

## 変換ツール

変換ツールを使用すると、選択範囲内の連続するベロシティと MIDI CC の値をさまざまな方法で変更できます。たとえば、特定の 2 小節のみ、すべてのベロシティ値を比例的に大きくするなどできます。

- ベロシティエディターと MIDI CC エディターでは、キーエディターパネルツールバーの「**変換 (Transform)**」をクリックし、いずれかのエディターでクリックアンドドラッグして変換の選択範囲を作成することで変換ツールを使用できるようになります。



ベロシティエディターの変換の選択範囲

### ヒント

値を大きく変更したい場合は、ヒストグラムツールを使用できます。

### 関連リンク

- [キーエディターパネル \(831 ページ\)](#)
- [キーエディターパネルツールバー \(833 ページ\)](#)
- [ヒストグラムツール \(875 ページ\)](#)
- [ベロシティエディター \(856 ページ\)](#)
- [MIDI CC エディター \(866 ページ\)](#)

## 変換コントロール

変換コントロールを使用すると、変換の選択範囲内の連続するベロシティと MIDI CC の値をさまざまな方法で変更できます。

- キーエディターで変換の選択範囲を作成すると、変換コントロールにアクセスできるようになります。

### 左に傾ける (Tilt Left)



ボタンをクリックして下にドラッグすることで、斜めの線に従って値を下げるできます。これにより、左の値が右よりも下がります。

### 右に傾ける (Tilt Right)



ボタンをクリックして下にドラッグすることで、斜めの線に従って値を下げるできます。これにより、右の値が左よりも下がります。

### デルタ (Delta)



値の中心点を表わします。表示されているすべての値を上下に移動させることができます。バーの間の明示的な値の間隔が保持されます。

### スケール (Scale)



値を比例的に上下に移動します。バーの間の比例関係が保持されます。つまり、上に動かすとバーの間隔が広がり、下に動かすと狭まります。

### ランダム化 (Randomize)



ボタンをクリックして上にドラッグすることで値をランダム化できます。マウスポインターを上にするほど、ランダム化の幅が広がり、極端になります。ランダム化には、ベル型に近い標準分布が使用されます。

#### 関連リンク

[ヒストグラムコントロール \(876 ページ\)](#)

[音符のベロシティの変更 \(857 ページ\)](#)

## 変換ツールを使用して値を変更する


連続するベロシティや MIDI CC の値を囲むように変換の選択範囲を作成し、変換コントロールを使用して、選択した値をさまざまな方法で変更できます (すべての値を比例的に大きくするなど)。

### ヒント



値を大きく変更したい場合は、ヒストグラムツールを使用できます。

---

#### 前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。
- 下ゾーンのツールバーで**キーエディター**  を選択しておきます。
- キーエディターに表示するインストゥルメントを選択しておきます。
- 少なくとも 1 つのベロシティエディターまたは MIDI CC エディターをキーエディターに追加しておきます。

#### 手順

1. キーエディターパネルツールバーで、「**変換 (Transform)**」  をクリックして変換ツールを選択します。
  2. 値を変更するエディターで、任意の範囲をクリックアンドドラッグします。
  3. 利用できる変換コントロールを必要に応じて使用します。  
たとえば、「**スケール (Scale)**」  をクリックして上にドラッグすると、値を比例的に大きくできます。
- 

#### 関連リンク

[ゾーンの表示/非表示の切り替え \(48 ページ\)](#)

[キーエディターパネルツールバー \(833 ページ\)](#)

[キーエディターでエディターを追加する/閉じる \(840 ページ\)](#)

[キーエディターでインストゥルメントを表示する \(835 ページ\)](#)



## キーエディター設定


キーエディター設定を使用すると、特定の組み合わせのエディターを同時に開くことができます。これは、必要なエディターを手動で追加したり閉じたりするよりもはるかにすばやく行なえます。

たとえば、ペロシティーエディターと強弱記号エディターを、複数の MIDI CC エディターと頻繁に切り替えて表示する場合、これらの組み合わせでキーエディター設定を保存しておいて、必要に応じて各設定を適用できます。

## キーエディター設定の保存



たとえば、ペロシティーエディターと強弱記号エディターと一緒に使用することが多い場合などに、キーエディターのエディター設定を保存できます。コンピューター上のすべてのプロジェクトのキーエディター設定にアクセスできます。

### 前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。
- 下ゾーンのツールバーで**キーエディター**  を選択しておきます。
- キーエディター設定に保存するエディターを追加しておきます。

---

### 手順

1. 以下のいずれかの操作を行なって、キーエディターで現在開いているエディターをキーエディター設定として保存します。
  - 新しいキーエディター設定を保存するには、キーエディターの左下にある「**プリセット (Presets)**」  をクリックして、「**設定を保存 (Save Configuration)**」を選択します。
  - 既存のキーエディター設定を置き換えるには、キーエディターの左下にある「**プリセット (Presets)**」  をクリックして「**設定を置き換え (Replace Configuration)**」を選択し、置き換える設定を選択します。
2. 新しいキーエディター設定を保存した場合は、表示される「**設定名 (Configuration Name)**」ダイアログに設定の名前を入力します。
3. 「**OK**」をクリックして変更内容を保存し、ダイアログを閉じます。

---

### 関連リンク

[ゾーンの表示/非表示の切り替え \(48 ページ\)](#)

[キーエディターでエディターを追加する/閉じる \(840 ページ\)](#)

## キーエディター設定の適応

キーエディター設定をプロジェクトに適用すると、その設定で保存されたエディターがキーエディターに追加され、すでに開いているエディターが置き換えられます。

### 前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。
- 下ゾーンのツールバーで**キーエディター**  を選択しておきます。
- 少なくとも1つのキーエディター設定をコンピューターに保存しておきます。

---

### 手順


1. キーエディターの左下で、「**プリセット (Presets)**」  をクリックします。

2. 適用する設定を選択します。
- 


## キーエディター設定の削除

たとえば、プロジェクトの終了後に特定の設定が必要なくなった場合などに、キーエディター設定を削除できます。

前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。
- 下ゾーンのツールバーで**キーエディター**  を選択しておきます。

手順

1. キーエディターの左下で、「**プリセット (Presets)**」  をクリックします。
  2. 「**設定を削除 (Delete Configuration)**」を選択します。
  3. 削除する設定を選択します。
-

# ミキサー

ミキサーでは、再生時のチャンネルのボリューム、パンニング、サウンドを制御できます。

以下の場所からミキサーにアクセスできます。

- 下ゾーンのミキサーパネル
- ミキサーウィンドウ

関連リンク

[ミキサーウィンドウ \(884 ページ\)](#)


[ゾーンとパネル \(40 ページ\)](#)

[ステージテンプレート \(896 ページ\)](#)

[スペーステンプレート \(905 ページ\)](#)

## ミキサーパネル

ミキサーパネルでは、再生時のチャンネルのボリュームとパンニングを制御できます。ミキサーパネルの高さが十分にある場合は、チャンネルストリップも表示されます。これは記譜モード、浄書モード、再生モードのウィンドウ下部の下ゾーンに配置されています。

- ミキサーパネルを表示するには、下ゾーンを表示してから、下ゾーンツールバーの**ミキサー**  をクリックします。



ミキサーパネルは以下で構成されます。

### 1 ミキサーツールバー

ミックスの編集や、チャンネルの表示/非表示および追加/削除を行なえるツールがあります。

### 2 チャンネルストリップ

Insert をロードしたり EQ を変更したりして、チャンネルのサウンドを変更できます。

### 3 チャンネル

対応するトラックまたは再生時のボリュームとパンポジションを変更できます。インストゥルメント/声部トラックごとにオーディオチャンネルと MIDI チャンネルがあるほか、クリックやマスター出力などに使用する追加チャンネルがあります。

現在表示されているチャンネル以外に利用できるチャンネルがある場合は、ミキサーの左右の端のチャンネルが薄く表示されます。

ミキサーで加えた変更は自動的に保存され、プロジェクトに適用されます。

#### ヒント

プロジェクトのボリュームレベルをコントロールするために、トラックフェーダーを使用する前に強弱記号を入力して、強弱のカーブをプロジェクトに合わせて調整することをおすすめします。

#### 関連リンク

- [ミキサーツールバー \(885 ページ\)](#)
- [ミキサーチャンネル \(886 ページ\)](#)
- [ゾーンとパネル \(40 ページ\)](#)
- [ゾーンの表示/非表示の切り替え \(48 ページ\)](#)
- [強弱記号の再生オプション \(1265 ページ\)](#)
- [強弱記号の入力方法 \(337 ページ\)](#)

## ミキサーウィンドウ

ミキサーウィンドウでは、再生時のチャンネルのボリュームとパンニングを制御できます。また、チャンネルストリップも固定表示されています。

ミキサーウィンドウの表示/非表示を切り替えるには、以下のいずれかの操作を行ないます。

- **[F3]** を押します。
- ツールバーの「ミキサーを表示 (Show Mixer)」 をクリックします。



ミキサーウィンドウは以下で構成されます。

### 1 ミキサーツールバー

ミックスの編集や、チャンネルの表示/非表示および追加/削除を行なえるツールがあります。

### 2 チャンネルストリップ

Insert をロードしたり EQ を変更したりして、チャンネルのサウンドを変更できます。

### 3 チャンネル

対応するトラックまたは再生時のボリュームとパンポジションを変更できます。インストゥルメント/声部トラックごとにオーディオチャンネルと MIDI チャンネルがあるほか、クリックやマスター出力などに使用する追加チャンネルがあります。

現在表示されているチャンネル以外に利用できるチャンネルがある場合は、ミキサーの左右の端のチャンネルが薄く表示されます。

ミキサーで加えた変更は自動的に保存され、プロジェクトに適用されます。

#### ヒント

プロジェクトのボリュームレベルをコントロールするために、トラックフェーダーを使用する前に強弱記号を入力して、強弱のカーブをプロジェクトに合わせて調整することをおすすめします。


#### 関連リンク

- [ツールバー \(33 ページ\)](#)
- [ミキサーツールバー \(885 ページ\)](#)
- [ミキサーチャンネルストリップ \(888 ページ\)](#)
- [トラックをミュート/ソロにする \(687 ページ\)](#)
- [チャンネルのボリュームを変更する \(891 ページ\)](#)
- [強弱記号の再生オプション \(1265 ページ\)](#)
- [強弱記号の入力方法 \(337 ページ\)](#)

## ミキサーウィンドウの表示/非表示の切り替え

ミキサーウィンドウはいつでも表示/非表示を切り替えることができます。たとえば、楽譜領域で作業をしているときに、非表示にして視界に入らないようにできます。

#### 手順

- 以下のいずれかの操作を行なって、ミキサーウィンドウの表示/非表示を切り替えます。
  - [F3]** を押します。
  - ツールバーの「ミキサーを表示 (Show Mixer)」 をクリックします。
  - 「ウィンドウ (Window)」 > 「ミキサー (Mixer)」を選択します。



## ミキサーツールバー

ミキサーツールバーには、ミックスの編集や、チャンネルの表示/非表示および追加/削除を行なえるツールがあります。下ゾーンでもミキサーウィンドウでも、ミキサーの上部に配置されています。

#### チャンネルタイプボタン

チャンネルのタイプに応じて、表示/非表示にするチャンネルを自由に組み合わせて選択できます。

#### すべて無効化 (Deactivate all)

対応するボタンをクリックして、すべてのミュート  とソロ  を解除できます。ミュート状態またはソロ状態のチャンネルがあるかどうかを示します。

#### エフェクトチャンネルを追加 (Add Effects Channel)



FX チャンネルを追加します。

#### エフェクトチャンネルを削除 (Remove Effects Channel)



ミキサーの一番右にある FX チャンネルを削除します。

### ライブステージ (Live Stage)



「ライブステージ (Live Stage)」ダイアログを開きます。

### ライブスペース (Live Space)



「ライブスペース (Live Space)」ダイアログを開きます。

### 下ゾーンのサイズ変更 (Resize Lower Zone)



下ゾーンの高さを変更できます。ミキサーパネルでのみ使用できます。

#### 関連リンク

[「ライブステージ \(Live Stage\)」ダイアログ \(899 ページ\)](#)

[「ライブスペース \(Live Space\)」ダイアログ \(907 ページ\)](#)

[ステージテンプレート \(896 ページ\)](#)

[スペーステンプレート \(905 ページ\)](#)

## ミキサーチャンネル

ミキサーチャンネルを使用すると、そのチャンネルに接続されたソース (インストゥルメントトラックなど) によってサウンドを生成できます。ミキサーパネルとミキサーウィンドウではすべてのチャンネルにアクセスでき、各トラックのトラックインスペクターでは個々のチャンネルにアクセスできます。



ミキサーパネルの各チャンネルには、以下のコントロールとディスプレイがあります。

#### 1 パンコントロール

チャンネルのサウンド/MIDI 出力を、ステレオ再生のステレオスペクトラムでパンニングできます。

#### 2 フェーダーの値

フェーダーの位置に対応する現在のボリュームが値として表示されます。ボリュームレベルを直接入力できます。

- オーディオチャンネルは dB を使用します。
- MIDI チャンネルは 0 ~ 127 の MIDI ボリュームを使用します。

### 3 フェーダー

チャンネルのボリュームレベルをコントロールできます。

### 4 チャンネルメーター

チャンネルの出力ボリュームをリアルタイムに示します。

### 5 ミュート

チャンネルをミュートできます。そのチャンネルがミュート状態かどうかを示します。

### 6 ソロ

チャンネルをソロにできます。そのチャンネルがソロ状態かどうかを示します。

### 7 チャンネル名

チャンネルの名前が表示されます。

インストゥルメントチャンネルには、「**インストゥルメント名を編集 (Edit Instrument Names)**」ダイアログでそのインストゥルメントに設定されたインストゥルメントの正式名称と、そのインストゥルメント番号が表示されます (存在する場合)。

関連リンク

[トラックインスペクター \(661 ページ\)](#)

[「インストゥルメント名を編集 \(Edit Instrument Names\)」ダイアログ \(207 ページ\)](#)

[インストゥルメントのナンバリング \(144 ページ\)](#)

[チャンネル名の変更 \(894 ページ\)](#)

## ミキサーチャンネルのタイプ

ミキサーではさまざまなタイプのチャンネルを使用できます。チャンネルのタイプによって、そのチャンネルで使用できるコントロールが異なります。

### インストゥルメント

プロジェクト内の各インストゥルメント/声部トラックにチャンネルがあります。インストゥルメントチャンネルを表示すると、複数のプラグインにまたがっていても、該当するすべてのチャンネルが含まれます。

さらに、「DoricoBeep」という名前のインストゥルメントチャンネルがあり、このチャンネルを使用するとメトロノームクリックのボリュームをコントロールできます。

### MIDI

プロジェクトのすべての VST インストゥルメントには、VST チャンネルに加えて MIDI チャンネルもあります。MIDI チャンネルでは、各インストゥルメントの MIDI ボリュームと MIDI パンを変更できます。

### ビデオ

ビデオオーディオのボリュームをコントロールできます。

### FX

リバーブなどの Send エフェクトのボリュームをコントロールできます。初期設定では、ミキサーには「Reverb」という名前の FX チャンネルが 1 つ含まれており、Insert として REVerence がロードされています。

FX チャンネルの背景は緑色です。

### ヒント

REVerence の詳細については、プラグインリファレンスを参照してください。

---

## 出力

マスター出力ボリュームをコントロールできます。**出力チャンネル**は常に表示されており、背景は赤色です。

### 関連リンク

[チャンネル名の変更](#) (894 ページ)

[FX チャンネルの追加](#) (893 ページ)

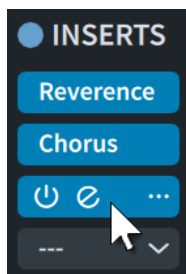
[Insert をチャンネルにロードする](#) (894 ページ)

## ミキサーチャンネルストリップ

ミキサーの各チャンネルには、チャンネルコントロールが含まれる固有のチャンネルストリップがあります。チャンネルストリップは**ミキサー**ウィンドウの上部、および高さが十分にある場合はミキサーパネルの上部に固定表示されています。

各チャンネルストリップには、以下のタイプのコントロールが含まれています。

### Inserts



各チャンネルには、Insert を読み込むことができるスロットが4つ備わっています。メニューから Insert を選択できます。

ヘッダーを使用すると、すべてのチャンネルのセクションの展開/折りたたみを切り替えることができます。

インジケーターには以下の状態があります。

- **無効** : チャンネルに Insert がロードされていません。
- **有効** : 少なくとも1つの Insert がチャンネルにロードされ、Insert が有効になっています。
- **バイパス** : 少なくとも1つの Insert がチャンネルにロードされ、すべての Insert がバイパスされています。

Insert がロードされたスロットでは、以下のコントロールを使用できます。

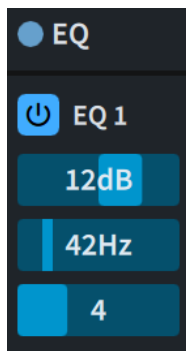
- **Insert を有効にする (Enable Insert)** : Insert スロットを有効にする、またはバイパスします。
- **Insert を編集 (Edit Insert)** : ロードされたプラグインのプラグインウィンドウを開き、設定を編集できます。
- **Insert メニュー (Insert menu)** : プラグインメニューを開き、別のプラグインを選択してその Insert スロットにロードできます。

### ヒント

- Dorico Pro に含まれるプラグインの詳細については、[プラグインリファレンス](#)を参照してください。
- 個々のチャンネルの Insert には、各トラックのトラックインスペクターからアクセスできます。



## EQ



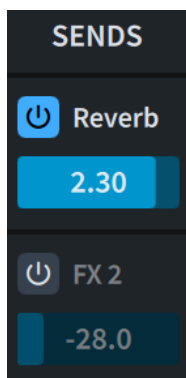
各チャンネルには、デフォルト EQ として 4 つのバンドが用意されています。

インジケーターを使用すると、セクションの有効  と無効  を切り替えることができます。ヘッダーを使用すると、すべてのチャンネルのセクションの展開/折りたたみを切り替えることができます。

各 EQ バンドに以下のコントロールを使用できます。

- **EQ を有効にする (Enable EQ)** : 各バンドを有効にする、またはバイパスします。
- **ゲイン (Gain)**: 各バンドの減衰量/増幅量を dB で設定します。
- **周波数 (Frequency)**: 各バンドの周波数を Hz で設定します。
- **Q**: 帯域幅を制御します。つまり、上下の周波数がどこまで影響を受けるか、およびその度合いを制御します。

## Sends



各チャンネルには、各 FX チャンネルの Send スロットがあります。

ヘッダーを使用すると、すべてのチャンネルのセクションの展開/折りたたみを切り替えることができます。

各 Send スロットに以下のコントロールを使用できます。

- **Send を有効にする (Enable Send)** : 対応する Send スロットを有効にする、またはバイパスします。
- **ゲインスライダー**: 対応する FX チャンネルにポストフェーダーで送信されるサウンドの量を設定します。

### ヒント

ステージテンプレートとスペーステンプレートを使用して、プロジェクト内のすべてのインストゥルメントの Send ゲインを自動的に設定できます。

## 関連リンク

[Insert をチャンネルにロードする \(894 ページ\)](#)

[トラックインスペクター \(661 ページ\)](#)  
[ステージテンプレート \(896 ページ\)](#)  
[スペーステンプレート \(905 ページ\)](#)

## チャンネルの表示/非表示

ミキサーのチャンネルをタイプごとに表示/非表示にできます。たとえば、インストゥルメントチャンネルで作業をする間、MIDI チャンネルを非表示にするなどできます。

### 前提条件

下ゾーンまたは**ミキサー**ウィンドウにミキサーを表示しておきます。

---

### 手順

- ミキサーツールバーで、各チャンネルタイプをオン/オフにします。

---

### 結果

タイプボタンをオンにするとミキサーにそのタイプのチャンネルが表示され、オフにすると非表示になります。

## チャンネルのスクロール

ミキサーに多くのチャンネルが表示されている場合、画面に表示されていないチャンネルをスクロールして表示できます。

### 前提条件

下ゾーンまたは**ミキサー**ウィンドウにミキサーを表示しておきます。

---

### 手順

- ミキサーで、以下のいずれかの操作を行なってチャンネルをスクロールします。
  - マウスホイールで上下にスクロールするか、タッチパッドで上下にスワイプします。
  - チャンネルフェーダー以外のどこかをクリックして左右にドラッグします。

## チャンネルの高さを変更する

ミキサーで、チャンネルとチャンネルストリップの垂直方向のスペースを変更できます。たとえば、Insert をロードする場合や EQ 設定を変更する場合にチャンネルストリップの高さを高くするなどできます。

### 前提条件

下ゾーンまたは**ミキサー**ウィンドウにミキサーを表示しておきます。

---

### 手順

- ミキサーで、チャンネルストリップとチャンネルの間のラインをクリックして上下にドラッグします。  
マウスポインターを適切な位置に合わせると、上下の矢印のアイコンに変わります。



---

関連リンク

- [ミキサーパネル \(883 ページ\)](#)
- [ゾーンの表示/非表示の切り替え \(48 ページ\)](#)
- [ミキサーウィンドウ \(884 ページ\)](#)
- [ミキサーウィンドウの表示/非表示の切り替え \(885 ページ\)](#)
- [ミキサーチャンネル \(886 ページ\)](#)
- [ミキサーチャンネルストリップ \(888 ページ\)](#)

## チャンネルのボリュームを変更する

ミキサーで、個々のチャンネルのボリュームを変更したりリセットしたりできます。たとえば、オーケストラプロジェクトでインストゥルメントのバランスを整える場合などに行ないます。

前提条件

下ゾーンまたはミキサーウィンドウにミキサーを表示しておきます。

---

手順

- ミキサーで、以下のいずれかの操作を行なってチャンネルのボリュームを変更します。
  - ボリュームを上げるには、フェーダーを上ドラッグします。
  - ボリュームを下げるには、フェーダーを下ドラッグします。
  - [Alt/Opt]** を押しながらフェーダーの値をクリックし、新しい値を入力して、**[Return]** を押します。

ヒント

- 出力チャンネルを最大値に設定するには、「inf」と入力します。
  - 出力チャンネルを最小値に設定するには、「-inf」または「-oo」と入力します。
- 
- ボリュームをデフォルト値にリセットするには、フェーダーの値を **[Ctrl]/[command]** を押しながらクリックするかダブルクリックします。



- すべてのチャンネルのボリュームをリセットするには、「再生 (Play)」 > 「デフォルトの出力レベルを適用 (Apply Default Output Level)」を選択します。

---

#### 結果

対応するチャンネルのボリュームが変更されます。

#### ヒント

「環境設定 (Preferences)」の「再生 (Play)」ページで、以降のすべてのプロジェクトのデフォルトの出力レベルを変更できます。初期設定では、大規模なアンサンブルのプロジェクトでクリッピングが発生するのを防ぐために  $-6$  dB に設定されています。

---

#### 関連リンク

[ミキサーパネル \(883 ページ\)](#)

[ミキサーウィンドウ \(884 ページ\)](#)

[「環境設定 \(Preferences\)」ダイアログ \(63 ページ\)](#)

## パンニングチャンネル

個々のチャンネルのパンポジションをステレオスペクトラムで変更できます。たとえば、オーケストラプロジェクトのインストゥルメントのパンポジションを実際のステージ上の位置に合わせたい場合などに行ないます。

#### ヒント

ステージテンプレートを使用して、プロジェクト内のすべてのインストゥルメントのパンポジションを自動的に設定できます。

---

#### 前提条件

下ゾーンまたはミキサーウィンドウにミキサーを表示しておきます。

---

#### 手順

- ミキサーで、以下のいずれかの操作を行なって各チャンネルのパンポジションを変更します。
  - パンコントロールでポジションを直接をクリックするか、クリックして左右にドラッグします。



- **[Alt/Opt]** を押しながらかの値をクリックし、新しい値を入力して、**[Return]** を押します。使用できるパンの範囲は **-100 ~ 100** です。

---

関連リンク

[ミキサーチャンネル \(886 ページ\)](#)

[ステージテンプレート \(896 ページ\)](#)

## FX チャンネルの追加

ミキサーに複数の FX チャンネルを追加できます。たとえば、インストゥルメントファミリーごとに異なるリバーブサウンドを使用したい場合などに便利です。


ミキサーには最大 8 つの FX チャンネルを含めることができます。

前提条件

下ゾーンまたは**ミキサー**ウィンドウにミキサーを表示しておきます。

---

手順

- ミキサーツールバーで、「**エフェクトチャンネルを追加 (Add Effects Channel)**」  をクリックします。

---

結果

新しい FX チャンネルが追加されます。ミキサー内の既存のすべての FX チャンネルの右側に配置されます。

手順終了後の項目

FX チャンネルに Insert をロードしたり、チャンネルストリップを使用して EQ を変更したりできます。

---

関連リンク

[ミキサーパネル \(883 ページ\)](#)

[ミキサーウィンドウ \(884 ページ\)](#)

[ミキサーチャンネル \(886 ページ\)](#)

[ミキサーチャンネルストリップ \(888 ページ\)](#)

[チャンネルの表示/非表示 \(890 ページ\)](#)

[Insert をチャンネルにロードする \(894 ページ\)](#)

[リバーブプラグインの変更 \(896 ページ\)](#)

## FX チャンネルの削除


ミキサーから FX チャンネルを削除できます。たとえば、複数のリバーブサウンドが不要になった場合などに便利です。

### 前提条件

下ゾーンまたは**ミキサー**ウィンドウにミキサーを表示しておきます。

---

### 手順

- ミキサーツールバーで、「**エフェクトチャンネルを削除 (Remove Effects Channel)**」 をクリックします。
- 

### 結果

ミキサーの一番右にある FX チャンネルが削除されます。

## チャンネル名の変更

チャンネル名を変更したり、変更したチャンネル名をデフォルト名にリセットしたりできます。たとえば、さまざまな FX チャンネルを識別するのに役立ちます。

### 前提条件

下ゾーンまたは**ミキサー**ウィンドウにミキサーを表示しておきます。

---

### 手順

1. ミキサーで、変更するチャンネル名をダブルクリックしてチャンネル名のテキストフィールドを開きます。
  2. 以下のいずれかの操作を行なって、チャンネルの名前を変更します。
    - 新規チャンネル名を入力するか、既存の名前を編集します。
    - チャンネルの名前をリセットするには、既存の名前を削除します。
  3. **[Return]** を押します。
- 

## Insert をチャンネルにロードする

MIDI チャンネル以外の各チャンネルに最大 4 つの Insert をロードできます。たとえば、デフォルトの EQ チャンネルストリップを使用するかわりに特定の EQ プラグインをロードしたり、アンプモデリングプラグインをクリーンなギターチャンネルに適用したりできます。

### ヒント

Dorico Pro に含まれるプラグインの詳細については、[プラグインリファレンス](#)を参照してください。

---

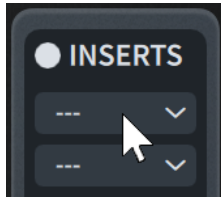
### 前提条件


下ゾーンまたは**ミキサー**ウィンドウにミキサーを表示しておきます。

---

### 手順

1. ミキサーで、いずれかのチャンネルストリップの「**Inserts**」をクリックしてすべての「Inserts」セクションを展開します。
2. Insert スロットをクリックして、ロードするプラグインをメニューから選択します。



3. 新しいプラグインの設定を編集する場合は、「Insert を編集 (Edit Insert)」 をクリックしてプラグインウィンドウを開きます。
4. EQ プラグインをロードした場合は、対応するチャンネルの EQ チャンネルストリップを無効にします。

#### 関連リンク

[ミキサーパネル \(883 ページ\)](#)

[ミキサーウィンドウ \(884 ページ\)](#)

[ミキサーチャンネルストリップ \(888 ページ\)](#)

[クリックに使用するサウンドを変更する \(672 ページ\)](#)



## Insert の有効化/バイパス

Insert の設定に影響を与えることなく、個々の Insert を有効化/バイパスできます。たとえば、特定の Insert を適用するかどうかでチャンネルのサウンドがどのように変化するかを比較できます。

#### 前提条件

下ゾーンまたはミキサーウィンドウにミキサーを表示しておきます。

#### 手順

1. ミキサーで、いずれかのチャンネルストリップの「Inserts」をクリックしてすべての「Inserts」セクションを展開します。
2. 有効化/バイパスする Insert スロットで、以下のいずれかの操作を行ないます。
  - 個々の Insert を有効化/バイパスするには、対応するスロットで「Insert を有効にする (Enable Insert)」 をクリックします。
  - チャンネルのすべての Insert を有効化/バイパスするには、対応するチャンネルストリップで Insert インジケータ  をクリックします。

#### 結果

対応する Insert が有効化/バイパスされます。

- 有効な Insert は青色で表示されます。
- バイパスされた Insert は黄色で表示されます。


## Insert の削除

チャンネルにロードした Insert を個別に削除できます。

#### 前提条件

下ゾーンまたはミキサーウィンドウにミキサーを表示しておきます。

#### 手順

1. ミキサーで、いずれかのチャンネルストリップの「Inserts」をクリックしてすべての「Inserts」セクションを展開します。
  2. Insert を削除するスロットで、Insert メニュー  をクリックしてメニューから「---」を選択します。
- 

## リバーブプラグインの変更

特定のリバーブサウンドを使用したい場合などに、リバーブに使用するプラグインを変更できます。初期設定では、リバーブプラグインの REVerence が最初の FX チャンネルにロードされています。

#### ヒント



Dorico Pro に含まれるプラグインの詳細については、プラグインリファレンスを参照してください。

---

#### 前提条件

- 下ゾーンまたはミキサーウィンドウにミキサーを表示しておきます。
  - FX チャンネルを表示しておきます。
- 

#### 手順

1. ミキサーで、いずれかのチャンネルストリップの「Inserts」をクリックしてすべての「Inserts」セクションを展開します。
  2. FX チャンネルストリップで、REVerence Insert スロットの Insert メニュー  をクリックして、使用するリバーブプラグインをメニューから選択します。
  3. 新しいプラグインの設定を編集する場合は、「Insert を編集 (Edit Insert)」  をクリックしてプラグインウィンドウを開きます。
- 

#### 関連リンク

- [ミキサーウィンドウ \(884 ページ\)](#)
- [ミキサーチャンネルストリップ \(888 ページ\)](#)
- [チャンネルの表示/非表示 \(890 ページ\)](#)
- [スペーステンプレート \(905 ページ\)](#)

## ステージテンプレート

ステージテンプレートを使用すると、上から見たステージを視覚的に表わしたものを使用して、プロジェクト内のすべてのインストゥルメントに適切なステージポジションを同時に設定できるため、このプロセスを楽に行なうことができます。ステージポジションによって、再生時のインストゥルメントのパニングとリバーブの設定が決まります。

ステージテンプレートをプロジェクトに適用すると、ミキサー内のすべてのチャンネルのパニングとリバーブの設定が同時に変更されます。

プロジェクト内のインストゥルメントをステージテンプレートで定義したステージポジションに合わせるために、Dorico Pro はまずグループ内のインストゥルメント、次にグループ化されていないインストゥルメントの順に以下の一連の検討を行いません。

- 1 定義されている場合は、ソリストインストゥルメントが、対応するインストゥルメントタイプのソリストのステージポジションにマッチングされます。



- 2 定義されている場合は、番号付きインストゥルメントが、対応するインストゥルメントタイプの番号付きのステージポジションにマッチングされます。
- 3 定義されている場合は、インストゥルメントが、対応するインストゥルメントタイプの番号のないステージポジションにマッチングされます。
- 4 定義されている場合は、インストゥルメントが、対応するインストゥルメントタイプのインストゥルメントファミリーのステージポジションにマッチングされます。
- 5 ふさわしいステージポジションがないインストゥルメントには、代替位置が使用されます。

可能な場合は、設定モードの対応するプレーヤーグループに対して、ステージテンプレート内のグループが使用されます。

「**ライブステージ (Live Stage)**」ダイアログでは、一部のインストゥルメントの配置を変更するなどして、現在のプロジェクトに適用されているステージテンプレートを上書きできます。そのあと、上書きしたものを新しいステージテンプレートとして保存できます。

また、たとえば他のユーザーと共有するために、カスタムステージテンプレートを書き出すこともできます。ステージテンプレートは `.dorico_stt` ファイルとして保存されます。

#### 補足

- ステージテンプレートは、コンピューター上で開いた、または作成したすべてのプロジェクトで使用できます。ステージテンプレートに加えた変更は、そのステージテンプレートを使用する既存のプロジェクトに追加する新しいインストゥルメントに影響します。
- ステージテンプレートとスペーステンプレートを組み合わせて使用することで、インストゥルメントの配置をさまざまなスペースやリバーブ量で再生できます。

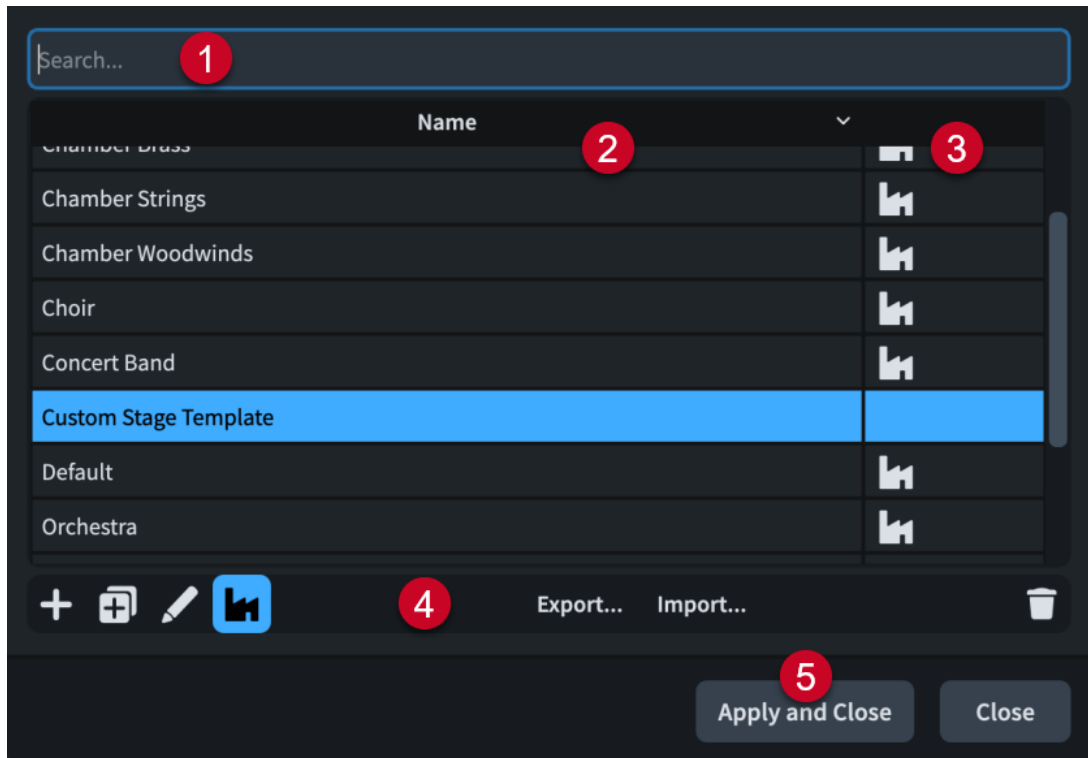
#### 関連リンク

- [スペーステンプレート \(905 ページ\)](#)
- [再生テンプレート \(701 ページ\)](#)
- [プレーヤーをソリストに指定 \(139 ページ\)](#)
- [プレーヤーグループ \(183 ページ\)](#)
- [インストゥルメントファミリー \(960 ページ\)](#)
- [ミキサー \(883 ページ\)](#)

## 「ステージテンプレートを適用 (Apply Stage Template)」ダイアログ

「**ステージテンプレートを適用 (Apply Stage Template)**」ダイアログを使用すると、現在のプロジェクトに適用されているステージテンプレートの変更や、ステージテンプレートの読み込み/書き出しなどを行なえます。また、「**ステージテンプレートを編集 (Edit Stage Template)**」ダイアログを開くこともできます。

- 「**ステージテンプレートを適用 (Apply Stage Template)**」ダイアログは、「**再生 (Play)**」 > 「**ステージテンプレート (Stage Template)**」を選択すると開きます。



「ステージテンプレートを適用 (Apply Stage Template)」ダイアログは以下で構成されます。

1 検索フィールド

テキストを入力してステージテンプレートをフィルタリングできます。

2 「名前 (Name)」列

お使いのコンピュータで使用できるステージテンプレートのリストです。列のヘッダーをクリックしてソート順を変更できます。

3 出荷時のデフォルト列

その行のステージテンプレートが出荷時のデフォルトのステージテンプレートの場合、工場のマークが表示されます。列のヘッダーをクリックしてソート順を変更できます。


4 アクションバー

以下のオプションがあります。


- **ステージテンプレートを追加 (Add Stage Template)** : 「ステージテンプレートを編集 (Edit Stage Template)」ダイアログを開き、新しいステージテンプレートを作成できます。
- **ステージテンプレートを複製 (Duplicate Stage Template)** : 「ステージテンプレートを編集 (Edit Stage Template)」ダイアログを開き、選択したステージテンプレートの複製を元に新しいステージテンプレートを作成できます。
- **ステージテンプレートを編集 (Edit Stage Template)** : 「ステージテンプレートを編集 (Edit Stage Template)」ダイアログを開き、選択した既存のステージテンプレートを編集できます。

補足

出荷時のデフォルトのステージテンプレートを編集することはできません。

- **出荷時設定を表示 (Show Factory)** : 出荷時のデフォルトのステージテンプレートを表に表示するかどうかを切り替えます。
- **書き出し (Export)**: エクスプローラー (Windows) または Finder (Mac) を開き、現在選択しているステージテンプレートを .dorico\_stt ファイルとして書き出す場所を選択できます。そ

のあと、.dorico\_stt ファイルを別のコンピューターの Dorico Pro に読み込んで他のユーザーと共有できます。

- **読み込み (Import):** エクスプローラー (Windows) または Finder (Mac) を開き、ステージテンプレートとして読み込む .dorico\_stt ファイルを選択できます。
- **削除 (Delete) ** 選択したステージテンプレートを削除します。

補足


出荷時のデフォルトのステージテンプレートを削除することはできません。

## 5 適用して閉じる (Apply and Close)

選択したステージテンプレートをプロジェクトに適用してダイアログを閉じます。

## 「ライブステージ (Live Stage)」ダイアログ

「ライブステージ (Live Stage)」ダイアログでは、現在のプロジェクト内のインストゥルメントの配置を変更できます。これは、ミキサーのパンニングおよびリバーブの設定にリアルタイムに反映されません。

- 「ライブステージ (Live Stage)」ダイアログを開くには、ミキサーツールバーの「ライブステージ (Live Stage)」 をクリックします。



「ライブステージ (Live Stage)」ダイアログは、上から見たステージを視覚的に表わしたものです。ステージ後方がダイアログの上部、ステージ前方がダイアログの下部になります。

横軸は、左から右へのパンポジションを決定します。縦軸は、リバーブ用に FX チャンネルに送信されるサウンドの量を決定します。通常、下はリバーブが少なく、上はリバーブが多くなります。

プロジェクト内の各インストゥルメントはステージ上の位置を示す色付きの丸で表わされ、そのあとにインストゥルメントの正式名称が表示されます。インストゥルメントファミリーごとに使われる色が異なります。

インストゥルメントをクリックしてステージの別の位置にドラッグできます。

ダイアログの最下部のアクションバーには以下のオプションがあります。

### 新規ステージテンプレートとして保存 (Save as New Stage Template)

「ライブステージ (Live Stage)」ダイアログのインストゥルメントの現在の配置を新しいカスタムステージテンプレートとして保存し、以降のプロジェクトで使用できるようにします。

### 拡大 (Expand)



比率を維持したままインストゥルメントを外側に動かします。選択したインストゥルメントにのみ、またはインストゥルメントが選択されていない場合はすべてのインストゥルメントに適用されます。

### 縮小 (Contract)



比率を維持したままインストゥルメントを内側に動かします。選択したインストゥルメントにのみ、またはインストゥルメントが選択されていない場合はすべてのインストゥルメントに適用されます。

### 補足

以下の状況では、「ライブステージ (Live Stage)」ダイアログにインストゥルメントが表示されません。

- エクスプレッションマップの設定によってスペーステンプレートを使用できない場合。
- 再生に VST インストゥルメントではなく MIDI インストゥルメントが使われている場合。

### 関連リンク

[ミキサーツールバー \(885 ページ\)](#)

[エクスプレッションマップ \(1019 ページ\)](#)

[パーカッションマップ \(1039 ページ\)](#)

[再生テンプレート \(701 ページ\)](#)


[「VST と MIDI \(VST and MIDI\)」パネル \(664 ページ\)](#)

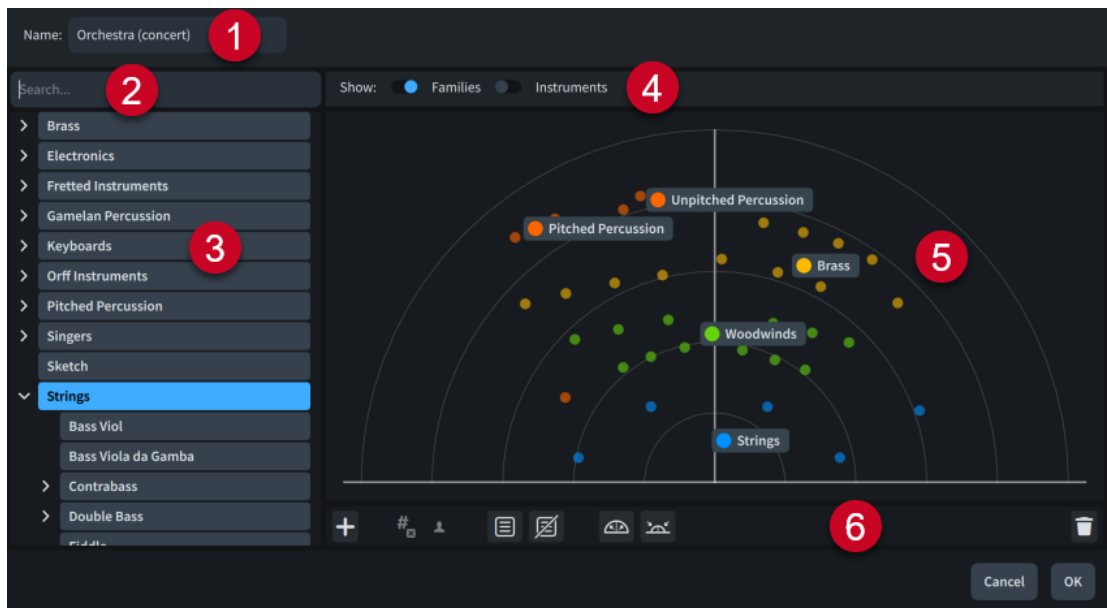
[インストゥルメントファミリー \(960 ページ\)](#)

## 「ステージテンプレートを編集 (Edit Stage Template)」ダイアログ

「ステージテンプレートを編集 (Edit Stage Template)」ダイアログでは、新しいステージテンプレートの作成や既存のテンプレートの編集を行なえます。インストゥルメントファミリー、個々のインストゥルメント、ソリストのステージ上の位置を、プロジェクト内のインストゥルメントとは関係なく定義できます。

以下のいずれかの操作を行なって、「ステージテンプレートを編集 (Edit Stage Template)」ダイアログを開きます。

- 「ライブステージ (Live Stage)」ダイアログで、「新規ステージテンプレートとして保存 (Save as New Stage Template)」をクリックします。
- 「ステージテンプレートを適用 (Apply Stage Template)」ダイアログで、「ステージテンプレートを追加 (Add Stage Template)」、「ステージテンプレートを複製 (Duplicate Stage Template)」、または「ステージテンプレートを編集 (Edit Stage Template)」をクリックします。



「ステージテンプレートを編集 (Edit Stage Template)」ダイアログは以下で構成されます。

#### 1 名前 (Name)

プログラムの「ステージテンプレートを適用 (Apply Stage Template)」ダイアログなどに表示されるステージテンプレートの名前を設定できます。

#### 2 検索フィールド

テキストを入力してインストゥルメントをフィルタリングできます。

#### 3 インストゥルメントリスト

お使いのコンピュータで使用できるすべてのインストゥルメントと検索フィルター (該当する場合) 内のすべてのインストゥルメントが表示されます。

#### 4 表示 (Show)

インストゥルメントファミリーと個々のインストゥルメントの名前の表示/非表示をそれぞれ個別に切り替えられます。名前を非表示にすると対応するカテゴリーの編集も無効になり、色付きの丸が薄くなります。

#### 5 ステージ (Stage)

上から見たステージを視覚的に表わしたものです。ステージ後方がダイアログの上部、ステージ前方がダイアログの下部になります。

横軸は、左から右へのパンポジションを決定します。縦軸は、リバーブ用に FX チャンネルに送信されるサウンドの量を決定します。通常、下はリバーブが少なく、上はリバーブが多くなります。各インストゥルメントとインストゥルメントファミリーはステージ上の位置を示す色付きの丸で表わされ、そのあとにインストゥルメントの正式名称が表示されます。インストゥルメントファミリーの丸は個々のインストゥルメントの丸よりも大きいです。

インストゥルメントファミリーは色分けされており、インストゥルメントファミリーとそこに含まれるインストゥルメントは同じ色を使用します。









同じタイプのインストゥルメントをステージテンプレートに複数追加すると、自動的に番号が付けられます。

ソリストとグループの括弧付きの指示は、インストゥルメント名の末尾に自動的に追加されます。

インストゥルメントをクリックしてステージの別の位置にドラッグできます。

#### 6 アクションバー

以下のオプションがあります。

- **追加 (Add)** : インストゥルメントリストで現在選択しているインストゥルメントまたはインストゥルメントファミリーをステージの中央に追加します。また、インストゥルメントリストのインストゥルメントをクリックして、ステージ上の特定の位置にドラッグすることもできます。
- **番号未設定 (Un-numbered)** : 選択したインストゥルメントをインストゥルメントのナンバリングに含める、または除外します。同じプロジェクトに同じタイプのインストゥルメントが複数存在する場合に、番号の付いた対応するインストゥルメントのステージ上の位置を設定します。
- **ソリスト (Soloist)** : 選択したインストゥルメントをソリストにします。ソリストとして指定した対応するタイプのインストゥルメントのステージ上の位置を設定します。
- **グループを作成 (Create Group)** : ステージ上で選択したインストゥルメントを含むグループを作成します。
- **グループから削除 (Remove From Group)** : 選択したインストゥルメントを対応するグループから削除します。
- **拡大 (Expand)** : 比率を維持したままインストゥルメントを外側に動かします。選択したインストゥルメントにのみ、またはインストゥルメントが選択されていない場合はすべてのインストゥルメントに適用されます。
- **縮小 (Contract)** : 比率を維持したままインストゥルメントを内側に動かします。選択したインストゥルメントにのみ、またはインストゥルメントが選択されていない場合はすべてのインストゥルメントに適用されます。
- **削除 (Delete)** : 選択したインストゥルメントをステージテンプレートから削除します。

## ステージテンプレートの適用/リセット

パンニングやリバーブにインストゥルメントの別の配置を使用する場合など、現在のプロジェクトに適用されたステージテンプレートを変更できます。ステージテンプレートを再選択すると、テンプレートはデフォルト設定にリセットされます。

---

### 手順

1. 「再生 (Play)」 > 「ステージテンプレート (Stage Template)」を選択して「ステージテンプレートを適用 (Apply Stage Template)」ダイアログを開きます。
2. 使用するステージテンプレートを選択します。
3. 「適用して閉じる (Apply and Close)」をクリックします。

---

### 結果

現在のプロジェクトに適用されているステージテンプレートが変更されます。使用中のステージテンプレートを再選択した場合、ステージテンプレートがリセットされます。

---

### ヒント

「環境設定 (Preferences)」の「再生 (Play)」ページで、以降のすべてのプロジェクトで使用するデフォルトのステージテンプレートを変更できます。

---

### 手順終了後の項目

別の演奏空間の音響特性で音楽を聴きたい場合などに、プロジェクトに適用されているスペーステンプレートを変更できます。

### 関連リンク

[スペーステンプレートの適用/リセット \(910 ページ\)](#)

[「環境設定 \(Preferences\)」ダイアログ \(63 ページ\)](#)




## ステージテンプレートの作成

ソリストやインストゥルメントファミリーのステージポジションを指定するなど、他のプロジェクトに適用できる新しいステージテンプレートを作成できます。










### 前提条件

- ステージテンプレートに含めるインストゥルメントを現在のプロジェクトに含めておきます。
- 再生テンプレートを適用するなどして、現在のプロジェクト内のインストゥルメントのサウンドをロードしておきます。
- 下ゾーンまたはミキサーウィンドウにミキサーを表示しておきます。

### 手順

1. ミキサーツールバーで、「ライブステージ (Live Stage)」 をクリックして「ライブステージ (Live Stage)」ダイアログを開きます。
2. 別のステージポジションに移動するインストゥルメントを選択します。
3. 以下のいずれかの操作を行なって、選択したインストゥルメントを移動します。
  - クリックしてドラッグします。
  - 比率を維持したまま外側に動かすには、「拡大 (Expand)」 をクリックします。
  - 比率を維持したまま内側に動かすには、「縮小 (Contract)」 をクリックします。

### ヒント

- 「拡大 (Expand)」 または「縮小 (Contract)」 をクリックしたままにすると、マウスボタンを放すまでインストゥルメントがなめらかに移動します。
  - インストゥルメントを選択していない状態で「拡大 (Expand)」 または「縮小 (Contract)」 をクリックすると、ステージ上のすべてのインストゥルメントに適用されます。
4. 「新規ステージテンプレートとして保存 (Save as New Stage Template)」をクリックして「ステージテンプレートを編集 (Edit Stage Template)」ダイアログを開きます。
  5. 「名前 (Name)」フィールドにステージテンプレートの名前を入力します。
  6. 必要に応じて、使用できるオプションを使ってステージテンプレートを編集します。
    - ステージテンプレートにインストゥルメントを追加するには、インストゥルメントリストのインストゥルメントをクリックしてステージにドラッグします。
    - ステージテンプレートからインストゥルメントを削除するには、そのインストゥルメントを選択して、アクションバーの「削除 (Delete)」 をクリックします。
    - インストゥルメントをソリストにするには、そのインストゥルメントを選択して、アクションバーの「ソリスト (Soloist)」 をクリックします。
    - インストゥルメントのナンバリングにインストゥルメント含めるまたは除外するには、そのインストゥルメントを選択して、アクションバーの「番号未設定 (Un-numbered)」 をクリックします。
    - 新しいグループにインストゥルメントを追加するには、そのインストゥルメントを選択して、アクションバーの「グループを作成 (Create Group)」 をクリックします。
    - グループからインストゥルメントを削除するには、そのインストゥルメントを選択して、アクションバーの「グループから削除 (Remove From Group)」 をクリックします。
  7. 「OK」をクリックして設定を確認し、ダイアログを閉じます。

#### 結果

新しいステージテンプレートが作成されます。このステージテンプレートは、現在のプロジェクトおよびコンピューター上で開いた、または作成した他のすべてのプロジェクトで使用できるようになります。

#### 関連リンク

- [ミキサーツールバー \(885 ページ\)](#)
- [再生テンプレートの適用/リセット \(707 ページ\)](#)
- [プレーヤーの追加 \(136 ページ\)](#)
- [プレーヤーへのインストゥルメントの追加 \(146 ページ\)](#)

## ステージテンプレートの読み込み

共同で作業している他のユーザーが書き出したカスタムステージテンプレートを使用する場合などに、ステージテンプレートをプロジェクトに読み込むことができます。ステージテンプレートは .dorico\_stt ファイルとして保存されます。

---

#### 手順

1. 「再生 (Play)」 > 「ステージテンプレート (Stage Template)」を選択して「ステージテンプレートを適用 (Apply Stage Template)」ダイアログを開きます。
2. 「読み込み (Import)」をクリックしてエクスプローラー (Windows) または Finder (Mac) を開きます。
3. 読み込むステージテンプレートファイルを探して選択します。
4. 「開く (Open)」をクリックします。

---

#### 結果

選択したステージテンプレートが読み込まれます。この再生テンプレートは、現在のプロジェクトおよびコンピューター上で開いた、または作成したすべてのプロジェクトで使用できるようになります。

#### ヒント

Dorico Pro のプロジェクトウィンドウに .dorico\_stt ファイルをドラッグしてステージテンプレートを読み込むこともできます。

---

## ステージテンプレートの書き出し

ステージテンプレートを書き出して、他のユーザーに送信したり他のコンピューターで使用したりできます。初期設定では、作成したすべてのステージテンプレートをコンピューター上のすべてのプロジェクトで使用できます。

---

#### 手順

1. 「再生 (Play)」 > 「ステージテンプレート (Stage Template)」を選択して「ステージテンプレートを適用 (Apply Stage Template)」ダイアログを開きます。
  2. 書き出すステージテンプレートを選択します。
  3. 「書き出し (Export)」をクリックしてエクスプローラー (Windows) または Finder (Mac) を開きます。
  4. ステージテンプレートファイルの名前と場所を指定します。
  5. 「選択 (Choose)」をクリックします。
-



#### 結果

選択したステージテンプレートが書き出され、選択した場所に個別の .dorico\_stt ファイルとして保存されます。

## スペーステンプレート

スペーステンプレートを使用すると、部屋やコンサートホールといったスペースのパンニングやリバーブの設定を定義し、それぞれの空間でプロジェクトがどのように聴こえるかを確認できます。

たとえば、出荷時のデフォルトスペーステンプレートはステージ後方に配置されたインストゥルメントにより多くのリバーブを追加し、遠くで演奏された楽曲がどのように聴こえるかをエミュレートします。

スペーステンプレートをプロジェクトに適用すると、ミキサー内のすべてのチャンネルのパンニングとリバーブの設定が同時に変更されます。

スペーステンプレートは、コンピューター上で開いた、または作成したすべてのプロジェクトで使用できます。たとえば他のユーザーと共有するために、カスタムのスペーステンプレートを書き出すことができます。

スペーステンプレートは .dorico\_spt ファイルとして保存されます。

#### ヒント

スペーステンプレートとステージテンプレートを組み合わせて使用することで、再生時にインストゥルメントをさまざまに配置できます。

#### 関連リンク

[ステージテンプレート](#) (896 ページ)

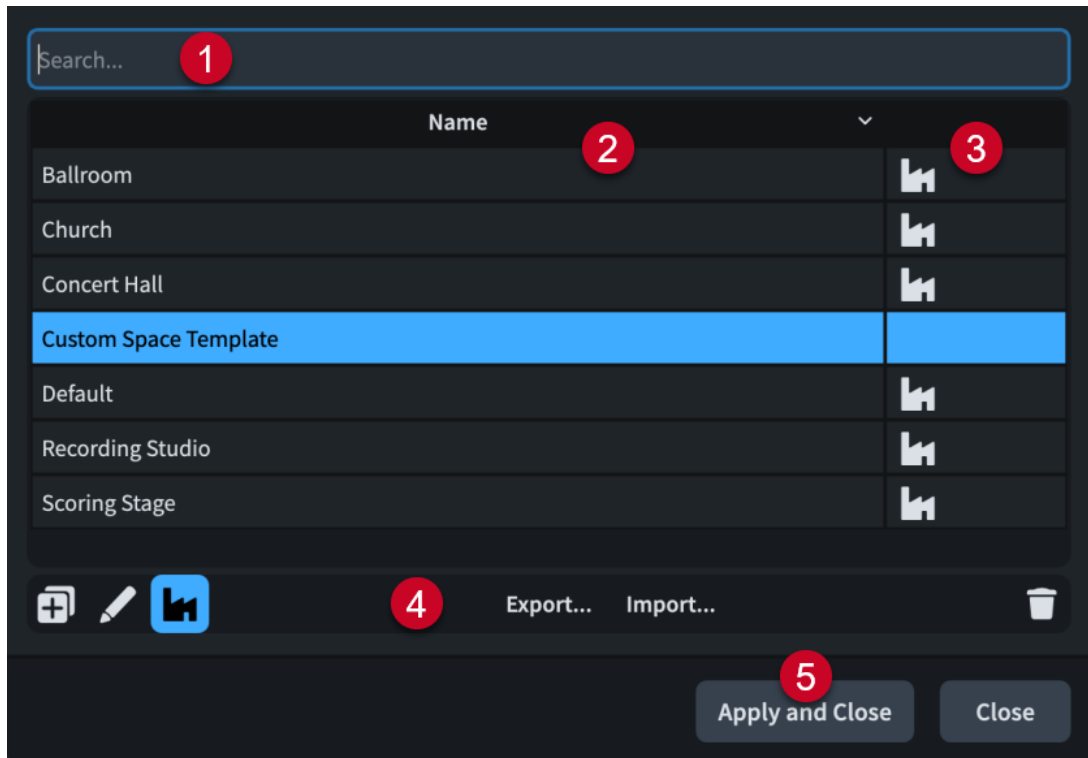
[再生テンプレート](#) (701 ページ)

[ミキサー](#) (883 ページ)

## 「スペーステンプレートを適用 (Apply Space Template)」 ダイアログ

「スペーステンプレートを適用 (Apply Space Template)」ダイアログを使用すると、現在のプロジェクトに適用されているスペーステンプレートの変更や、スペーステンプレートの読み込み/書き出しなどを行なえます。また、「スペーステンプレートを編集 (Edit Space Template)」ダイアログを開くこともできます。

- 「スペーステンプレートを適用 (Apply Space Template)」ダイアログは、「再生 (Play)」 > 「スペーステンプレート (Space Template)」を選択すると開きます。



「スペーステンプレートを適用 (Apply Space Template)」ダイアログは以下で構成されます。

**1 検索フィールド**

テキストを入力してスペーステンプレートをフィルタリングできます。

**2 「名前 (Name)」列**

お使いのコンピューターで利用できるスペーステンプレートのリストです。列のヘッダーをクリックしてソート順を変更できます。

**3 出荷時のデフォルト列**

その行のスペーステンプレートが出荷時のデフォルトのスペーステンプレートの場合、工場のマークが表示されます。列のヘッダーをクリックしてソート順を変更できます。


**4 アクションバー**


以下のオプションがあります。

- **スペーステンプレートを複製 (Duplicate Space Template)** : 「スペーステンプレートを編集 (Edit Space Template)」ダイアログを開き、選択したスペーステンプレートの複製を元に新しいスペーステンプレートを作成できます。
- **スペーステンプレートを編集 (Edit Space Template)** : 「スペーステンプレートを編集 (Edit Space Template)」ダイアログを開き、選択した既存のスペーステンプレートを編集できます。

補足

出荷時のデフォルトのスペーステンプレートを編集することはできません。

- **出荷時設定を表示 (Show Factory)** : 出荷時のデフォルトのスペーステンプレートを表に表示するかどうかを切り替えます。
- **書き出し (Export)**: エクスプローラー (Windows) または Finder (Mac) を開き、現在選択しているスペーステンプレートを .dorico\_spt ファイルとして書き出す場所を選択できます。その後、.dorico\_spt ファイルを別のコンピューターの Dorico Pro に読み込んで他のユーザーと共有できます。

- **読み込み (Import):** エクスプローラー (Windows) または Finder (Mac) を開き、スペーステンプレートとして読み込む .dorico\_spt ファイルを選択できます。
- **削除 (Delete) **: 選択したスペーステンプレートを削除します。

補足


出荷時のデフォルトのスペーステンプレートを削除することはできません。

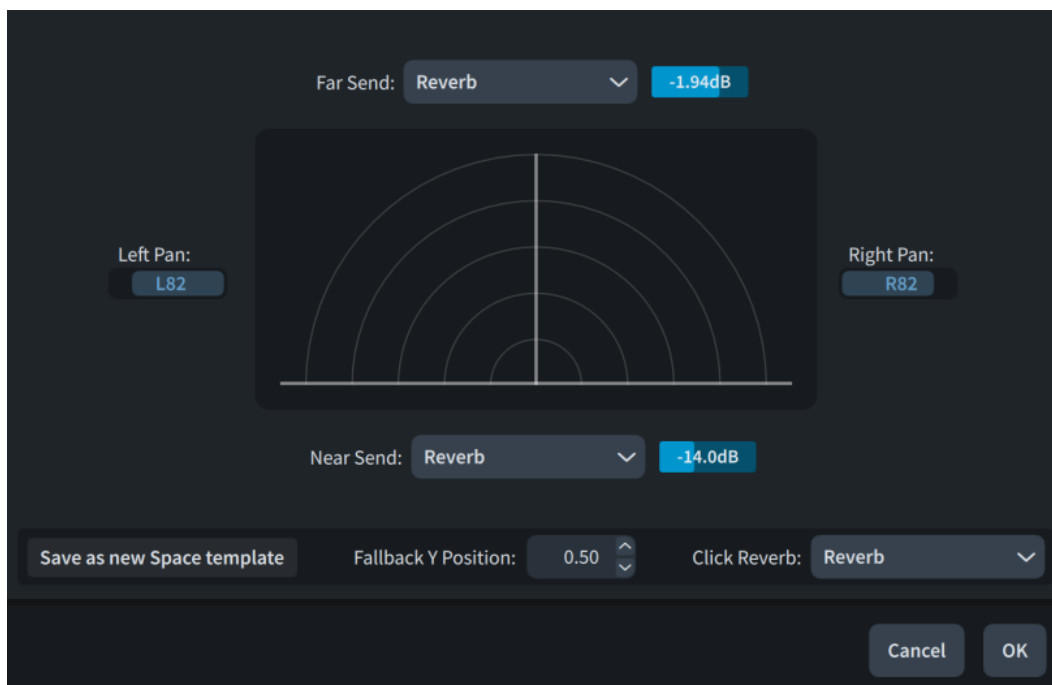
## 5 適用して閉じる (Apply and Close)

選択したスペーステンプレートをプロジェクトに適用してダイアログを閉じます。

## 「ライブスペース (Live Space)」ダイアログ

「ライブスペース (Live Space)」ダイアログでは、現在のプロジェクト内のインストゥルメントの最大パンポジションや FX Send の値を変更できます。

- 「ライブスペース (Live Space)」ダイアログを開くには、ミキサーツールバーの「ライブスペース (Live Space)」 をクリックします。



「ライブスペース (Live Space)」ダイアログには以下のオプションがあります。

### ファーセンド (Far Send)

ステージ後方のインストゥルメントに使用する FX チャンネルを選択できます。ゲインスライダーを使用して、選択した FX チャンネルにポストフェーダーで送信されるサウンドの量を設定します。

### ニアセンド (Near Send)

ステージ前方のインストゥルメントに使用する FX チャンネルを選択できます。ゲインスライダーを使用して、選択した FX チャンネルにポストフェーダーで送信されるサウンドの量を設定します。

### 左パン (Left Pan)

左パンの最大位置を設定します。

### 右パン (Right Pan)

右パンの最大位置を設定します。

### 新規スペーステンプレートとして保存 (Save as New Space Template)

「ライブスペース (Live Space)」ダイアログの現在の設定を新しいカスタムスペーステンプレートとして保存し、以降のプロジェクトで使用できるようにします。

### 代替 Y 位置 (Fallback Y Position)

プロジェクトに適用されているステージテンプレートで定義されていない、プロジェクト内のインストゥルメントのデフォルトのニア/ファーの位置を設定します。

### クリックリバーブ (Click Reverb)

メトロノームクリックに使用する FX チャンネルを選択できます。

#### 補足

メトロノームクリックのセンド値は低い値に固定されています。

---

#### 関連リンク

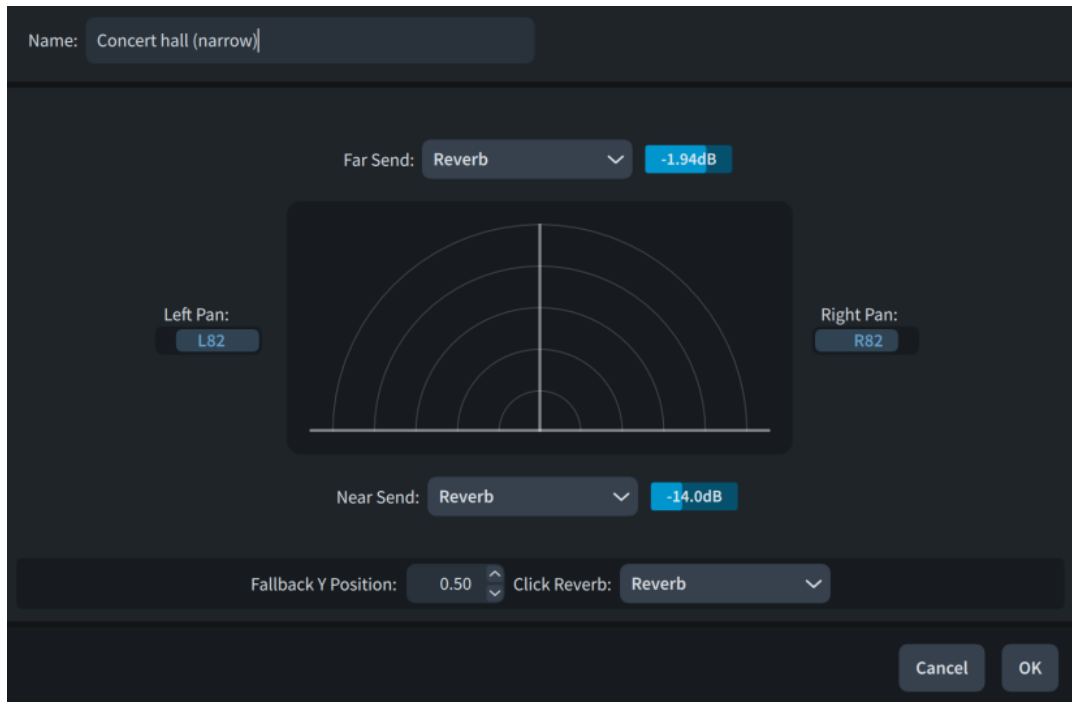
- [ミキサーツールバー \(885 ページ\)](#)
- [ミキサーチャンネルのタイプ \(887 ページ\)](#)
- [リバーブプラグインの変更 \(896 ページ\)](#)
- [FX チャンネルの追加 \(893 ページ\)](#)
- [「ライブステージ \(Live Stage\)」ダイアログ \(899 ページ\)](#)

## 「スペーステンプレートを編集 (Edit Space Template)」ダイアログ

「スペーステンプレートを編集 (Edit Space Template)」ダイアログでは、スペーステンプレートの設定を編集できます。

以下のいずれかの操作を行なって、「スペーステンプレートを編集 (Edit Space Template)」ダイアログを開きます。

- 「ライブスペース (Live Space)」ダイアログで、「新規スペーステンプレートとして保存 (Save as New Space Template)」をクリックします。
- 「スペーステンプレートを適用 (Apply Space Template)」ダイアログで、「スペーステンプレートを複製 (Duplicate Space Template)」または「スペーステンプレートを編集 (Edit Space Template)」をクリックします。



「スペーステンプレートを編集 (Edit Space Template)」ダイアログには以下のオプションがあります。

#### 名前 (Name)

プログラムの「スペーステンプレートを適用 (Apply Space Template)」ダイアログなどに表示されるスペーステンプレートの名前を設定できます。

#### ファーセンド (Far Send)

ステージ後方のインストゥルメントに使用する FX チャンネルを選択できます。ゲインスライダを使用して、選択した FX チャンネルにポストフェーダーで送信されるサウンドの量を設定します。

#### ニアセンド (Near Send)

ステージ前方のインストゥルメントに使用する FX チャンネルを選択できます。ゲインスライダを使用して、選択した FX チャンネルにポストフェーダーで送信されるサウンドの量を設定します。

#### 左パン (Left Pan)

左パンの最大位置を設定します。

#### 右パン (Right Pan)

右パンの最大位置を設定します。

#### 代替 Y 位置 (Fallback Y Position)

プロジェクトに適用されているステージテンプレートで定義されていない、プロジェクト内のインストゥルメントのデフォルトのニア/ファーの位置を設定します。

#### クリックリバーブ (Click Reverb)

メトロノームクリックに使用する FX チャンネルを選択できます。

補足

メトロノームクリックのセンド値は低い値に固定されています。

## スペーステンプレートの適用/リセット

別の演奏空間の音響特性で音楽を聴きたい場合などに、現在のプロジェクトに適用されているスペーステンプレートを変更できます。スペーステンプレートを再選択すると、テンプレートはデフォルト設定にリセットされます。

---

### 手順

1. 「再生 (Play)」 > 「スペーステンプレート (Space Template)」を選択して「スペーステンプレートを適用 (Apply Space Template)」ダイアログを開きます。
  2. 使用するスペーステンプレートを選択します。
  3. 「適用して閉じる (Apply and Close)」をクリックします。
- 

### 結果

現在のプロジェクトに適用されているスペーステンプレートが変更されます。使用中のスペーステンプレートを再選択した場合、スペーステンプレートがリセットされます。

対応するミキサーチャンネルのパンニングと、選択した FX チャンネルに送信したチャンネル出力の量に変更されます。

コンピューターにプラグインがインストールされていれば、FX チャンネルに必要な Insert がロードされます。

### 手順終了後の項目

インストールメントの別の配置を試したい場合など、プロジェクトに適用されたステージテンプレートを変更できます。

### 関連リンク

[ミキサーチャンネル](#) (886 ページ)

[パンニングチャンネル](#) (892 ページ)

[ステージテンプレートの適用/リセット](#) (902 ページ)


## スペーステンプレートの作成

他のプロジェクトに適用できる新しいスペーステンプレートを作成できます。

### 前提条件

- リバースに使用する FX チャンネルを追加し、そこに必要なプラグインをロードしておきます。
  - 下ゾーンまたはミキサーウィンドウにミキサーを表示しておきます。
- 

### 手順

1. ミキサーツールバーで、「ライブスペース (Live Space)」をクリックして「ライブスペース (Live Space)」ダイアログを開きます。
2. 「ファーセンド (Far Send)」メニューから、ステージ後方に配置されたインストールメントのリバースに使用する FX チャンネルを選択します。
3. 「ニアセンド (Near Send)」メニューから、ステージ前方に配置されたインストールメントのリバースに使用する FX チャンネルを選択します。
4. 「ファーセンド (Far Send)」と「ニアセンド (Near Send)」の FX チャンネルに送信されるサウンドの量を変更するには、対応するゲインスライダーをクリックしてドラッグします。
5. 最大パンポジションを変更するには、「左パン (Left Pan)」と「右パン (Right Pan)」のゲインスライダーをクリックしてドラッグします。

6. ステージテンプレートで定義されていないインストゥルメントのデフォルトのニア/ファーの位置を変更するには、「代替 Y 位置 (Fallback Y Position)」の値を変更します。
  7. 「クリックリバーブ (Click Reverb)」メニューから、メトロノームクリックに使用する FX チャンネルを選択します。
  8. 「新規スペーステンプレートとして保存 (Save as New Space Template)」をクリックして「スペーステンプレートを編集 (Edit Space Template)」ダイアログを開きます。
  9. 「名前 (Name)」フィールドにスペーステンプレートの名前を入力します。
  10. 「OK」をクリックして設定を確認し、ダイアログを閉じます。
- 

#### 結果

新しいスペーステンプレートが作成されます。このスペーステンプレートは、現在のプロジェクトおよびコンピューター上で開いた、または作成した他のすべてのプロジェクトで使用できるようになります。

#### 関連リンク

- [ミキサーツールバー \(885 ページ\)](#)
- [FX チャンネルの追加 \(893 ページ\)](#)
- [Insert をチャンネルにロードする \(894 ページ\)](#)
- [リバーブプラグインの変更 \(896 ページ\)](#)

## スペーステンプレートの読み込み

共同で作業している他のユーザーが書き出したカスタムスペーステンプレートを使用する場合などに、スペーステンプレートをプロジェクトに読み込むことができます。スペーステンプレートは .dorico\_spt ファイルとして保存されます。

---

#### 手順

1. 「再生 (Play)」 > 「スペーステンプレート (Space Template)」を選択して「スペーステンプレートを適用 (Apply Space Template)」ダイアログを開きます。
  2. 「読み込み (Import)」をクリックしてエクスプローラー (Windows) または Finder (Mac) を開きます。
  3. 読み込むスペーステンプレートファイルを探して選択します。
  4. 「開く (Open)」をクリックします。
- 

#### 結果

選択したスペーステンプレートが読み込まれます。このスペーステンプレートは、現在のプロジェクトおよびコンピューター上で開いた、または作成したすべてのプロジェクトで使用できるようになります。

#### ヒント

- Dorico Pro のプロジェクトウィンドウに .dorico\_spt ファイルをドラッグしてスペーステンプレートを読み込むこともできます。
  - スペーステンプレートは、それを使用する再生テンプレートと一緒に自動的に読み込まれます。
- 

#### 関連リンク

- [再生テンプレート \(701 ページ\)](#)
- [再生テンプレートの読み込み \(709 ページ\)](#)

## スペーステンプレートの書き出し

スペーステンプレートを書き出して、他のユーザーに送信したり他のコンピューターで使用したりできます。初期設定では、作成したすべてのスペーステンプレートをコンピューター上のすべてのプロジェクトで使用できます。

---

### 手順

1. 「再生 (Play)」 > 「スペーステンプレート (Space Template)」を選択して「スペーステンプレートを適用 (Apply Space Template)」ダイアログを開きます。
2. 書き出すスペーステンプレートを選択します。
3. 「書き出し (Export)」をクリックしてエクスプローラー (Windows) または Finder (Mac) を開きます。
4. スペーステンプレートファイルの名前と場所を指定します。
5. 「選択 (Choose)」をクリックします。

---

### 結果

選択したスペーステンプレートが書き出され、選択した場所に個別の .dorico\_spt ファイルとして保存されます。

## デフォルトのスペーステンプレートの変更

それ以降のすべてのプロジェクトに使用するデフォルトのスペーステンプレートを変更できます。たとえば、すべてのプロジェクトで Dorico Pro がデフォルトで使用するリバーブサウンドとは別のリバーブサウンドを使用したい場合などに便利です。

### 前提条件

カスタムスペーステンプレートを使用する場合は、そのスペーステンプレートを作成するか読み込んでおきます。

---

### 手順

1. **[Ctrl]/[command]+[,]** を押して「環境設定 (Preferences)」を開きます。
2. カテゴリーリストの「再生 (Play)」をクリックします。
3. 「再生テンプレート (Playback Template)」サブセクションで、「スペーステンプレートの上書き (Space template override)」メニューからスペーステンプレートを選択します。
4. 「適用 (Apply)」をクリックしてから「閉じる (Close)」をクリックします。

---

### 関連リンク

- [「環境設定 \(Preferences\)」ダイアログ \(63 ページ\)](#)
- [スペーステンプレートの作成 \(910 ページ\)](#)
- [スペーステンプレートの読み込み \(911 ページ\)](#)



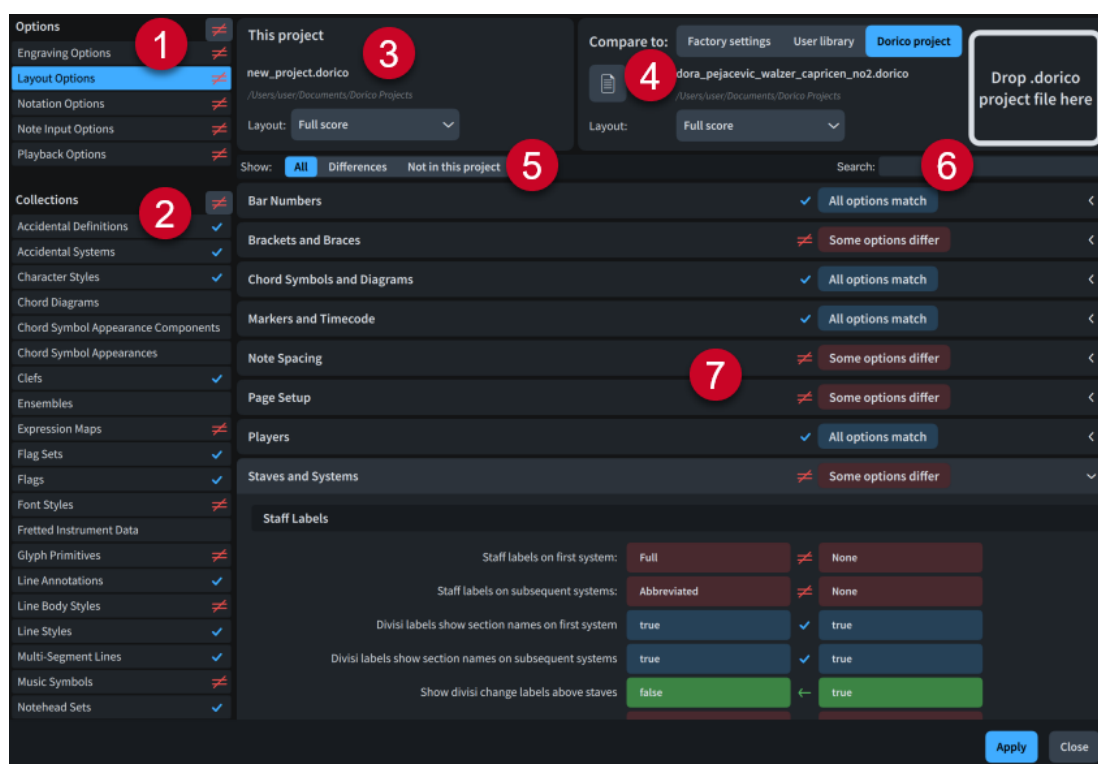
# ライブラリー

Dorico Pro におけるライブラリーとは、コンピューター上のすべてのプロジェクトで使用できる視覚的なアイテムとオプションを包括的にまとめたものです。出荷時の設定、デフォルトとして保存したカスタムアイテム/オプション、現在のプロジェクトのみで使用できるアイテム/オプションが1か所にまとめられています。

## ライブラリーマネージャー

ライブラリーマネージャーでは、現在のプロジェクトのすべての視覚的なアイテムとオプションの概要を確認できるほか、別のプロジェクト、ユーザーライブラリー、または Dorico の出荷時のライブラリーとこれらを比較できます。また、視覚的なアイテムとオプションをこれらの場所から現在のプロジェクトに読み込むことができます。すべてのオプションを読み込むことも、個々のオプションを読み込むこともできます。

- ライブラリーマネージャーを開くには、「ライブラリー (Library)」 > 「ライブラリーマネージャー (Library Manager)」を選択します。



ライブラリーマネージャーは以下で構成されます。

- 1 「オプション (Options)」 リスト  
使用できるすべてのオプションカテゴリーが表示されます。
- 2 「コレクション (Collections)」 リスト  
使用できるすべてのコレクションカテゴリーが表示されます。
- 3 このプロジェクト (This project)  
現在のプロジェクトのファイル名と場所が表示されます。

- 「**記譜オプション (Notation Options)**」を比較する場合は、個々のフローを選択します。
- 「**レイアウトオプション (Layout Options)**」を比較する場合は、個々のレイアウトを選択します。

#### 4 次と比較 (Compare to)

現在のプロジェクトと比較するソースライブラリーを選択できます。

- 「**記譜オプション (Notation Options)**」を比較する場合は、個々のフローを選択します。
- 「**レイアウトオプション (Layout Options)**」を比較する場合は、個々のレイアウトを選択します。


##### ヒント

2つのフルスコアレイアウトなど、似たレイアウト同士を比較することをおすすめします。

以下のいずれかのライブラリーソースを選択できます。

- **出荷時設定 (Factory settings)**: Dorico のデフォルト設定です。
- **ユーザーライブラリー (User library)**: 出荷時のライブラリーに加え、デフォルトとして保存したカスタムのアイテムやオプションが含まれています。
- **Dorico プロジェクト (Dorico project)**: 個々のプロジェクト内の設定です。

「**Dorico プロジェクト (Dorico project)**」を選択した場合は、以下のいずれかの方法で Dorico プロジェクトを開くことができます。

-  をクリックしてエクスプローラー (Windows) または Finder (Mac) を開きます。
- 「**.dorico プロジェクトファイルをここにドロップ (Drop .dorico project file here)**」領域に外部のファイルをドラッグし、マウスを放します。

#### 5 表示 (Show)

ステータスに応じて、選択したカテゴリー内のオプションをフィルタリングできます。

- **すべて (All)**: すべてのオプションを表示します。
- **差異 (Differences)**: 設定がソースライブラリーと異なるオプションのみを表示します。
- **このプロジェクトにはなし (Not in this project)**: ソースライブラリー内に存在し、現在のプロジェクトには存在しないアイテムのみを表示します。コレクションカテゴリーを比較する場合にのみ使用できます。



#### 6 検索フィールド




入力したテキストに応じて、選択したカテゴリー内のオプションをフィルタリングできます。




#### 7 オプションの比較

現在のプロジェクトの選択したカテゴリーのオプションをソースライブラリーと比較できます。フォントスタイルとパラグラフスタイルには、フォントのプレビューが表示されます。ヘッダーをクリックして各セクションの展開/折りたたみを切り替えることができます。

各ライブラリーレベルには、以下のいずれかのステータスが表示されます。

- **すべてのオプションが一致 (All options match)** : 現在のプロジェクトとソースライブラリーですべてのオプションが同じです。
- **一部のオプションが異なります (Some options differ)** : 現在のプロジェクトとソースライブラリーで、一部またはすべてのオプションが異なります。

異なるオプションは  アイコンが付いた状態で赤く表示されます。これらのアイコンにマウスポインターを合わせると、アイコンが  に変わります。  アイコンをクリックすると、ソースライブラリーから現在のプロジェクトにオプションを読み込むことができます。

読み込まれたオプションは、 アイコンが付いた状態で緑色で表示されます。これらのアイコンにマウスポインターを合わせると、アイコンが  に変わります。 アイコンをクリックすると、オプションの読み込みを取り消して元の状態に戻すことができます。

オプションの読み込み/取り消しは以下のライブラリーレベルで行なえます。

- 「オプション (Options)」 / 「コレクション (Collections)」 リストの一番上: 各リストのすべてのカテゴリのすべてのオプション
- 「オプション (Options)」 / 「コレクション (Collections)」 リスト内: 各カテゴリのすべてのオプション
- オプションの比較のセクションヘッダー: そのセクションのすべてのオプション
- オプションの比較内: 個々のオプション

#### 補足

- 2つの Dorico プロジェクトを比較する場合、カスタムアイテムと選択したプロジェクトで使用しているアイテムのみがコレクションに表示されます。
- アイテムを現在のプロジェクトに読み込むと、そのアイテムが依存しているアイテムも自動的に読み込まれます。たとえば、現在のプロジェクトにはないフォントスタイルを使用する演奏技法を読み込んだ場合、演奏技法とフォントスタイルの両方が読み込まれます。

依存するアイテムが異なる設定で現在のプロジェクトに存在する場合、ソースライブラリー内の依存するアイテムが独立したアイテムとして読み込まれます。現在のプロジェクト内のアイテムが上書きされることはありません。

---

#### 関連リンク

[ファイルの読み込みと書き出し \(86 ページ\)](#)

[プロジェクトテンプレート \(84 ページ\)](#)

[Dorico Pro のオプションダイアログ \(30 ページ\)](#)

## ライブラリーの読み込み

視覚的なアイテムとオプションをソースライブラリーから現在のプロジェクトに読み込むことができます。ソースライブラリーのすべてのオプションを読み込むことも、個々のオプションを読み込むこともできます。これにより、たとえば特定のプロジェクトの設定を新しいプロジェクトで再利用できます。ソースライブラリーには、別のプロジェクト、.doricolib ファイル、ユーザーライブラリー、Dorico の出荷時のライブラリーを使用できます。





---

#### 手順


1. 「**ライブラリー (Library)**」 > 「**ライブラリーマネージャー (Library Manager)**」を選択してライブラリーマネージャーを開きます。
2. 「**次と比較 (Compare to)**」セクションで、読み込むソースライブラリーを選択します。
  - Dorico のデフォルト設定を読み込むには、「**出荷時設定 (Factory settings)**」を選択します。
  - 独自のデフォルト設定を読み込むには、「**ユーザーライブラリー (User library)**」を選択します。
  - 別のプロジェクトまたは .doricolib ファイルから設定を読み込むには、「**Dorico プロジェクト (Dorico project)**」を選択して エクスプローラー (Windows) または Finder (Mac) を開き、設定を読み込むプロジェクトまたは .doricolib ファイルを探して選択し、「**開く (Open)**」をクリックします。

#### ヒント

エクスプローラー (Windows) または Finder (Mac) から「次と比較 (Compare to)」セクションにファイルをドラッグすることもできます。

3. 選択したソースライブラリーから、必要に応じてオプションを読み込みます。
  - すべてのカテゴリーのすべてのオプションを読み込むには、「オプション (Options)」 / 「コレクション (Collections)」リストの一番上の  をクリックします。
  - 個々のカテゴリーのすべてのオプションを読み込むには、対応するカテゴリーの  をクリックします。
  - 各カテゴリーの個々のセクションのすべてのオプションを読み込むには、オプション比較の対応するセクションヘッダーの  をクリックします。
  - 個々のオプションを読み込むには、対応するオプションの  をクリックします。
4. 「適用 (Apply)」をクリックしてから「閉じる (Close)」をクリックします。

#### 結果

 アイコンの付いた視覚的なアイテムとオプションが読み込まれ、現在のプロジェクトに適用されます。

## ライブラリーの書き出し

現在のプロジェクトのすべての視覚的なアイテムとオプションを .doricolib フィルとして書き出すことができます。そのあと、.doricolib ファイルを別のプロジェクトに読み込んで別のユーザーと共有できます。

#### 手順

1. 「ライブラリー (Library)」 > 「ライブラリーを書き出す (Export Library)」を選択してエクスプローラー (Windows) または Finder (Mac) を開きます。
2. ライブラリーファイルの名前と保存場所を指定します。
3. 「保存 (Save)」をクリックします。

#### 結果

現在のプロジェクトのすべての視覚的なアイテムとオプションが書き出され、選択した場所に .doricolib ファイルとして保存されます。

- プロジェクトの最初のフローの「記譜オプション (Notation Options)」設定が反映されます。
- フルスコアレイアウトとパートレイアウトの「レイアウトオプション (Layout Options)」設定には、設定モードの「レイアウト (Layouts)」パネルの対応する種類のレイアウトのうち、一番上のレイアウトのものが反映されます。

#### 手順終了後の項目

ライブラリーマネージャーを使用して、.doricolib ファイルを別のプロジェクトに読み込みます。

#### 関連リンク

[ライブラリーマネージャー \(913 ページ\)](#)

[プロジェクトテンプレート \(84 ページ\)](#)


## 「レイアウトオプション (Layout Options)」 ダイアログ

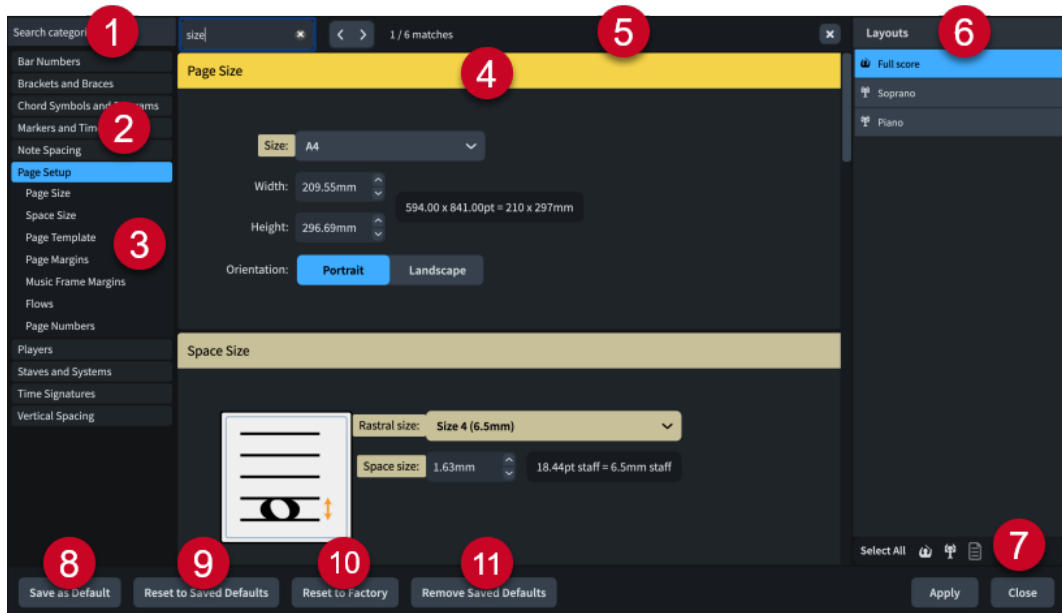
「レイアウトオプション (Layout Options)」 ダイアログでは、各レイアウトのさまざまな設定を個別に変更できます。たとえば、ページサイズ、譜表サイズ、余白などのレイアウトの特性、さらには音符のスペーシングや譜表ラベルといった楽譜の表示方法や配置方法などを変更できます。

オプションダイアログで行なった変更は、設定をデフォルトとして保存しない限り、現在のプロジェクトにのみ適用されます。

「レイアウトオプション (Layout Options)」で設定したオプションは選択しているレイアウトにのみ影響しますが、そのレイアウトのすべてのフローに適用されます。

「レイアウトオプション (Layout Options)」を開くには、以下のいずれかの操作を行います。

- **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[L]** を押します。
- 「ライブラリー (Library)」 > 「レイアウトオプション (Layout Options)」を選択します。
- 設定モードで、「レイアウト (Layouts)」パネルにある「レイアウトオプション (Layout Options)」  をクリックします。



「レイアウトオプション (Layout Options)」 ダイアログには以下のオプションが含まれます。

### 1 「カテゴリーを検索 (Search categories)」 フィールド

テキストを入力してカテゴリやセクションタイトルをフィルタリングできます。

ヒント

**[Ctrl]/[command]+[L]** を押して「カテゴリーを検索 (Search categories)」フィールドをフォーカスできます。**[Tab]** を押してフォーカスを外すことができます。

### 2 カテゴリーリスト

ダイアログで表示および変更できるオプションのカテゴリーが表示されます。このリストでカテゴリーをクリックすると、利用できるセクションタイトルがリスト内のカテゴリーの下に表示されます。また、オプションがダイアログのメイン部分にページ表示されます。

### 3 セクションタイトル

選択したカテゴリーのページにすべてのセクションのタイトルが表示されます。セクションタイトルをクリックすると、そのセクションを直接開けます。

### 4 セクション




ページ内のセクションが表示されます。各セクションには複数のオプションが含まれます。多くのオプションが含まれるセクションはサブセクションに分割されます。複数の設定から選択できるオプションは、アクティブな設定が強調表示されます。

## 5 ページを検索バー

テキストを入力して、現在選択されているページにあるセクションタイトルおよびオプションを検索して、ヒットした結果を確認できます。ヒットした件数がバーに表示されます。ヒットした結果はページにハイライト表示され、現在のオプションはさらに明るくハイライト表示されます。

**[Ctrl]/[command]+[F]** を押してページを検索バーを表示できます。

このバーには以下のオプションがあります。

- 「ページを検索 (Search pages)」 フィールド: 検索するテキストを入力できます。 **[Ctrl]/[command]+[F]** を押して「ページを検索 (Search pages)」 フィールドをフォーカスできます。
- 前のマッチ (Previous match) : ページ内の前のマッチに移動します。 **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[G]** を押すことでも前のマッチに移動できます。
- 次のマッチ (Next match) : ページ内の次のマッチに移動します。 **[Ctrl]/[command]+[G]** を押すことでも次のマッチに移動できます。
- 閉じる (Close) : バーを閉じて、ハイライトされたすべてのマッチを除外します。 **[Esc]** を押すことでもバーを閉じられます。

## 6 「レイアウト (Layouts)」 リスト




プロジェクト内のすべてのレイアウトが含まれています。初期設定では、楽譜領域で選択されているものと同じレイアウトが選択された状態のダイアログが表示されます。

複数のレイアウトを選択するには、以下のいずれかの操作を行います。

- アクションバーにあるいずれかの選択オプションをクリックします。
- **[Ctrl]/[command]** を押しながら複数のレイアウトをクリックします。
- **[Shift]** を押しながら複数の隣り合うレイアウトをクリックします。
- クリックして、複数のレイアウト間をドラッグします。

## 7 アクションバー

「レイアウト (Layouts)」 リストで、タイプに応じてレイアウトを選択できるオプションが含まれます。

- すべて選択 (Select All): タイプに関係なく、すべてのレイアウトが選択されます。
- フルスコアのレイアウトをすべて選択 (Select All Full Score Layouts) : フルスコアのレイアウトのみをすべて選択します。
- パート譜のレイアウトをすべて選択 (Select All Part Layouts) : パート譜のレイアウトのみをすべて選択します。
- カスタムスコアのレイアウトをすべて選択 (Select All Custom Score Layouts) : カスタムスコアのレイアウトのみをすべて選択します。

## 8 デフォルトとして保存 (Save as Default)

新規プロジェクトで選択したレイアウトタイプ用に、ダイアログで設定して適用したすべてのオプションをデフォルトとして保存します。たとえば、フルスコアレイアウトのデフォルト設定に影響を与えることなくパートレイアウトの新しいデフォルト設定を保存できます。1つのレイアウトを選択している場合のみ使用できます。

## 9 保存したデフォルト設定にリセット (Reset to Saved Defaults)

選択したレイアウトのダイアログ内のすべてのオプションをリセットして、そのレイアウトのタイプに応じて保存されたデフォルトに戻します。

## 10 出荷時の設定にリセット (Reset to Factory)

選択したレイアウトのダイアログ内のすべてのオプションをリセットして、そのレイアウトのタイプに応じて出荷時の設定に戻します。これが影響するのは、現在のプロジェクトのみです。保存したデフォルト設定は影響されないため、以後のプロジェクトには保存したデフォルト設定が使用されます。

#### 11 保存したデフォルト設定を削除 (Remove Saved Defaults)

現在のプロジェクトのオプションをリセットすることなく、選択したレイアウトのタイプに前回保存されたデフォルトを削除します。保存したデフォルト設定を削除すると、以後のプロジェクトに選択しているレイアウトのタイプが含まれる際、そのタイプのすべてのレイアウトに出荷時の設定が使用されます。

関連リンク

[Dorico Pro のオプションダイアログ \(30 ページ\)](#)

[レイアウト \(190 ページ\)](#)

[譜表 \(1703 ページ\)](#)

[ページ形式設定 \(742 ページ\)](#)

[コンデンシング \(799 ページ\)](#)

[優先する基準単位の変更 \(55 ページ\)](#)

[数値フィールドの値を変更する \(829 ページ\)](#)

## 「記譜オプション (Notation Options)」ダイアログ

「記譜オプション (Notation Options)」ダイアログでは、楽譜のデフォルトの記譜方法をフローごとに変更できます。たとえば、連符、音符および休符のグループ化、声部、臨時記号、小節線、およびコンデンシングのオプションがあります。


オプションダイアログで行なった変更は、設定をデフォルトとして保存しない限り、現在のプロジェクトにのみ適用されます。

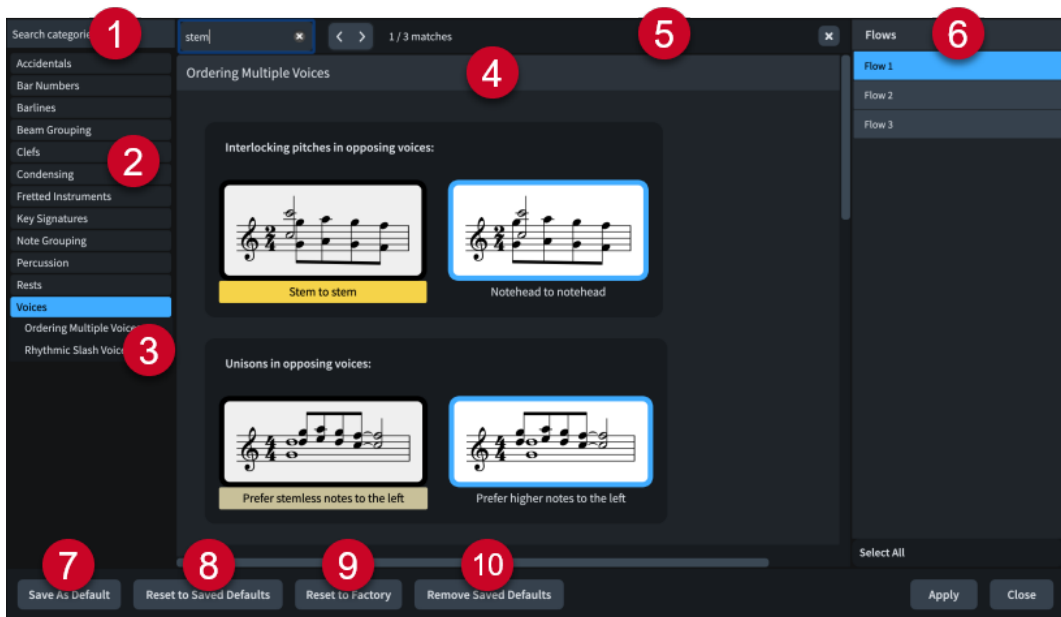
「記譜オプション (Notation Options)」で設定したオプションは選択しているフローにのみ影響しますが、それらのフローが表示されているすべてのレイアウトに適用されます。

### ヒント

音符や記譜記号を個別に変更する場合は、プロパティパネルのプロパティを使用します。

「記譜オプション (Notation Options)」を開くには、以下のいずれかの操作を行ないます。

- **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[N]** を押します。
- 「ライブラリー (Library)」 > 「記譜オプション (Notation Options)」を選択します。
- 設定モードで、「フロー (Flows)」パネルにある「記譜オプション (Notation Options)」  をクリックします。



「記譜オプション (Notation Options)」 ダイアログには以下が含まれています。

#### 1 「カテゴリーを検索 (Search categories)」 フィールド

テキストを入力してカテゴリやセクションタイトルをフィルタリングできます。

ヒント

**[Ctrl]/[command]+[L]** を押して「カテゴリーを検索 (Search categories)」 フィールドをフォーカスできます。**[Tab]** を押してフォーカスを外すことができます。

#### 2 カテゴリーリスト

ダイアログで表示および変更できるオプションのカテゴリーが表示されます。このリストでカテゴリーをクリックすると、利用できるセクションタイトルがリスト内のカテゴリーの下に表示されます。また、オプションがダイアログのメイン部分にページ表示されます。

#### 3 セクションタイトル

選択したカテゴリーのページにすべてのセクションのタイトルが表示されます。セクションタイトルをクリックすると、そのセクションを直接開けます。

#### 4 セクション

ページ内のセクションが表示されます。各セクションには複数のオプションが含まれます。多くのオプションが含まれるセクションはサブセクションに分割されます。複数の設定から選択できるオプションは、アクティブな設定が強調表示されます。

#### 5 ページを検索バー



テキストを入力して、現在選択されているページにあるセクションタイトルおよびオプションを検索して、ヒットした結果を確認できます。ヒットした件数がバーに表示されます。ヒットした結果はページにハイライト表示され、現在のオプションはさらに明るくハイライト表示されます。

**[Ctrl]/[command]+[F]** を押してページを検索バーを表示できます。

このバーには以下のオプションがあります。

- 「ページを検索 (Search pages)」 フィールド: 検索するテキストを入力できます。**[Ctrl]/[command]+[F]** を押して「ページを検索 (Search pages)」 フィールドをフォーカスできます。
- 前のマッチ (Previous match) **◀**: ページ内の前のマッチに移動します。**[Ctrl]/[command]+[Shift]+[G]** を押すことでも前のマッチに移動できます。



- **次のマッチ (Next match) **: ページ内の次のマッチに移動します。 **[Ctrl]/[command]+[G]** を押すことでも次のマッチに移動できます。
- **閉じる (Close) **: バーを閉じて、ハイライトされたすべてのマッチを除外します。 **[Esc]** を押すことでもバーを閉じられます。

## 6 フローリスト

プロジェクト内のすべてのフローが含まれています。初期設定では、楽譜領域でアイテムを選択していたフロー、または設定モードの「**フロー (Flows)**」パネルで選択したフローが選択された状態でダイアログが開きます。

複数のフローを選択するには、以下のいずれかの操作を行ないます。

- プロジェクト内のすべてのフローを選択するには、アクションバーの「**すべて選択 (Select All)**」をクリックします。
- 複数のフローを選択するには **[Ctrl]/[command]** を押しながらかlickします。
- 複数の隣接するフローを選択するには **[Shift]** を押しながらかlickします。
- クリックして、複数のフロー間をドラッグします。

## 7 デフォルトとして保存 (Save as Default)

ダイアログで現在設定され、適用されているすべてのオプションを新しいプロジェクトのデフォルトとして保存します。1つのフローを選択している場合のみ使用できます。

## 8 保存したデフォルト設定にリセット (Reset to Saved Defaults)

選択したフローのダイアログ内のすべてのオプションをリセットして、保存されたデフォルトに戻します。

## 9 出荷時の設定にリセット (Reset of Factory)

選択したフローのダイアログ内のすべてのオプションをリセットして、出荷時の設定に戻します。これが影響するのは、現在のプロジェクトのみです。保存したデフォルト設定は影響されないため、以後のプロジェクトには保存したデフォルト設定が使用されます。

## 10 保存したデフォルト設定を削除 (Remove Saved Defaults)

現在のプロジェクトのオプションをリセットすることなく、最後に保存したデフォルト設定を削除します。保存したデフォルト設定を削除すると、以後のすべてのプロジェクトで出荷時の設定が使用されます。

関連リンク

[フロー \(187 ページ\)](#)

[Dorico Pro のオプションダイアログ \(30 ページ\)](#)

[優先する基準単位の変更 \(55 ページ\)](#)

[数値フィールドの値を変更する \(829 ページ\)](#)

# 「音符入力オプション (Note Input Options)」ダイアログ

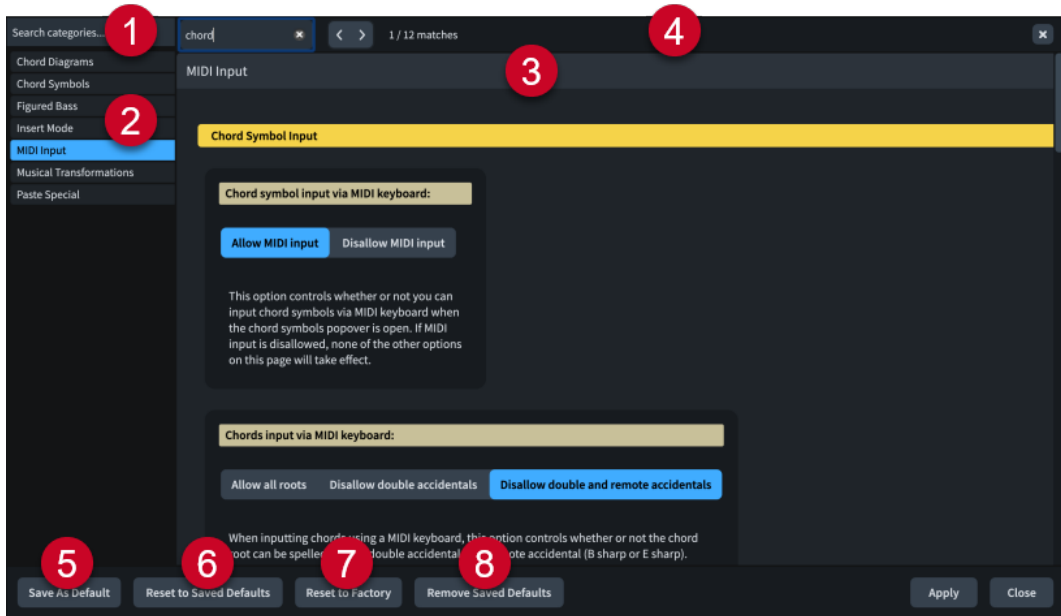
「**音符入力オプション (Note Input Options)**」ダイアログには、入力するデータや MIDI のデフォルトの解釈方法を設定できる複数のオプションがあります。

たとえば、MIDI キーボードを使用して音符を入力する際に、臨時記号と音符をどのように表記するかや、演奏内容に基づいてコード記号に含める項目、あるいは 11th と 13th のコードで 9th を省略するかどうかのように、コードダイアグラムのさまざまな要素をどのように反映するかを設定できるオプションなどがあります。

オプションダイアログで行なった変更は、設定をデフォルトとして保存しない限り、現在のプロジェクトにのみ適用されます。

「**音符入力オプション (Note Input Options)**」を開くには、以下のいずれかの操作を行ないます。

- **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[I]** を押します (どのモードでも使用可)。
- 「ライブラリー (Library)」 > 「音符入力オプション (Note Input Options)」 を選択します。



### 1 「カテゴリーを検索 (Search categories)」 フィールド

テキストを入力してカテゴリやセクションタイトルをフィルタリングできます。

ヒント

**[Ctrl]/[command]+[L]** を押して「カテゴリーを検索 (Search categories)」フィールドをフォーカスできます。**[Tab]** を押してフォーカスを外すことができます。

### 2 カテゴリーリスト

ダイアログで表示および変更できるオプションのカテゴリーが表示されます。このリストでカテゴリーをクリックすると、オプションがダイアログのメイン部分にページ表示されます。

### 3 セクション

ページ内のセクションが表示されます。各セクションには複数のオプションが含まれます。多くのオプションが含まれるセクションはサブセクションに分割されます。複数の設定から選択できるオプションは、アクティブな設定が強調表示されます。

### 4 ページを検索バー

テキストを入力して、現在選択されているページにあるセクションタイトルおよびオプションを検索して、ヒットした結果を確認できます。ヒットした件数がバーに表示されます。ヒットした結果はページにハイライト表示され、現在のオプションはさらに明るくハイライト表示されます。

**[Ctrl]/[command]+[F]** を押してページを検索バーを表示できます。

このバーには以下のオプションがあります。

- 「ページを検索 (Search pages)」フィールド: 検索するテキストを入力できます。**[Ctrl]/[command]+[F]** を押して「ページを検索 (Search pages)」フィールドをフォーカスできます。
- 前のマッチ (Previous match) **⏪**: ページ内の前のマッチに移動します。**[Ctrl]/[command]+[Shift]+[G]** を押すことでも前のマッチに移動できます。
- 次のマッチ (Next match) **⏩**: ページ内の次のマッチに移動します。**[Ctrl]/[command]+[G]** を押すことでも次のマッチに移動できます。
- 閉じる (Close) **✕**: バーを閉じて、ハイライトされたすべてのマッチを除外します。**[Esc]** を押すことでもバーを閉じられます。

#### 5 デフォルトとして保存 (Save as Default)

ダイアログで現在設定され、適用されているすべてのオプションを新しいプロジェクトのデフォルトとして保存します。

#### 6 保存したデフォルト設定にリセット (Reset to Saved Defaults)

ダイアログ内のすべてのオプションを保存したデフォルト設定にリセットできます。

#### 7 出荷時の設定にリセット (Reset of Factory)

ダイアログのすべてのオプションを出荷時の設定にリセットできます。これが影響するのは、現在のプロジェクトのみです。保存したデフォルト設定は影響されないため、以後のプロジェクトには保存したデフォルト設定が使用されます。

#### 8 保存したデフォルト設定を削除 (Remove Saved Defaults)

現在のプロジェクトのオプションをリセットすることなく、最後に保存したデフォルト設定を削除します。保存したデフォルト設定を削除すると、以後のすべてのプロジェクトで出荷時の設定が使用されます。

関連リンク

[Dorico Pro のオプションダイアログ \(30 ページ\)](#)

[コード記号入力中のナビゲーション \(353 ページ\)](#)

[MIDI 入力中の臨時記号の選択 \(271 ページ\)](#)

[挿入モードの範囲 \(492 ページ\)](#)

[楽譜の変換 \(527 ページ\)](#)

[優先する基準単位の変更 \(55 ページ\)](#)

[数値フィールドの値を変更する \(829 ページ\)](#)

## 「浄書オプション (Engraving Options)」 ダイアログ

「浄書オプション (Engraving Options)」 ダイアログでは、すべてのフローとレイアウトのアイテムの外観と位置のプロジェクト全体のデフォルト設定を変更できます。たとえば、記譜項目の線の太さ、延長スタイル、譜表に対するデフォルトの位置、譜表やその他のアイテムからの最小距離などを変更できます。

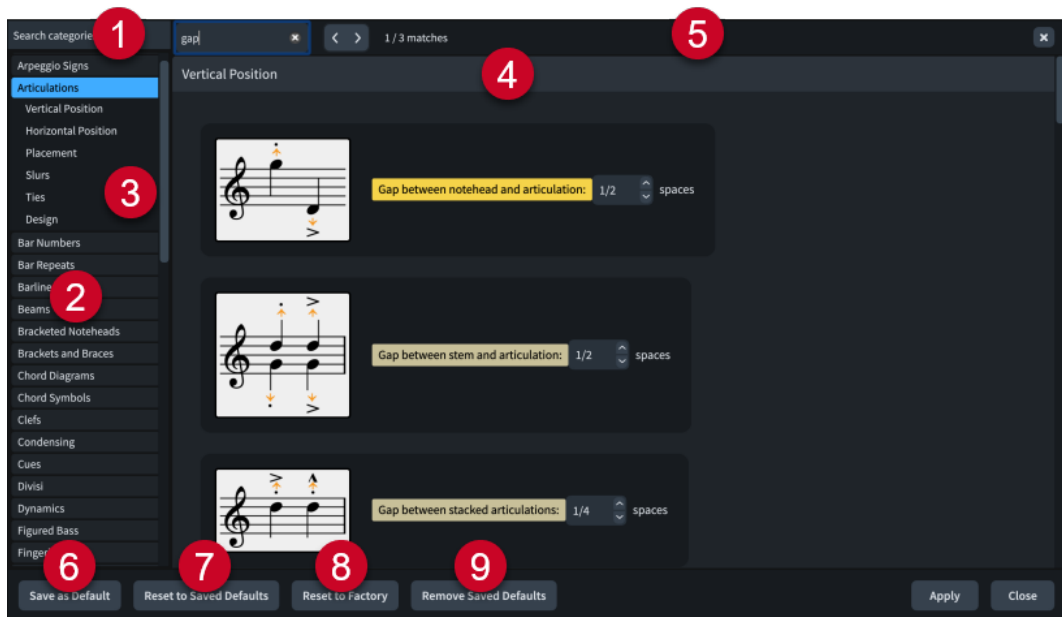
オプションダイアログで行なった変更は、設定をデフォルトとして保存しない限り、現在のプロジェクトにのみ適用されます。

### ヒント

個々の音符や記譜記号を変更する場合は、プロパティパネルのプロパティを使用します。

「浄書オプション (Engraving Options)」を開くには、以下のいずれかの操作を行ないます。

- **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[E]** を押します。
- 「ライブラリー (Library)」 > 「浄書オプション (Engraving Options)」を選択します。



「浄書オプション (Engraving Options)」 ダイアログには以下が含まれています。

#### 1 「カテゴリーを検索 (Search categories)」 フィールド

テキストを入力してカテゴリやセクションタイトルをフィルタリングできます。

ヒント

**[Ctrl]/[command]+[L]** を押して「カテゴリーを検索 (Search categories)」 フィールドをフォーカスできます。**[Tab]** を押してフォーカスを外すことができます。

#### 2 カテゴリーリスト

ダイアログで表示および変更できるオプションのカテゴリーが表示されます。このリストでカテゴリーをクリックすると、利用できるセクションタイトルがリスト内のカテゴリーの下に表示されます。また、オプションがダイアログのメイン部分にページ表示されます。

#### 3 セクションタイトル

選択したカテゴリーのページにすべてのセクションのタイトルが表示されます。セクションタイトルをクリックすると、そのセクションを直接開けます。

#### 4 セクション

ページ内のセクションが表示されます。各セクションには複数のオプションが含まれます。多くのオプションが含まれるセクションはサブセクションに分割されます。複数の設定から選択できるオプションは、アクティブな設定が強調表示されます。



#### 5 ページを検索バー

テキストを入力して、現在選択されているページにあるセクションタイトルおよびオプションを検索して、ヒットした結果を確認できます。ヒットした件数がバーに表示されます。ヒットした結果はページにハイライト表示され、現在のオプションはさらに明るくハイライト表示されます。

**[Ctrl]/[command]+[F]** を押してページを検索バーを表示できます。

このバーには以下のオプションがあります。

- 「ページを検索 (Search pages)」 フィールド: 検索するテキストを入力できます。**[Ctrl]/[command]+[F]** を押して「ページを検索 (Search pages)」 フィールドをフォーカスできます。
- 前のマッチ (Previous match) ◀: ページ内の前のマッチに移動します。**[Ctrl]/[command]+[Shift]+[G]** を押すことでも前のマッチに移動できます。

- **次のマッチ (Next match)** : ページ内の次のマッチに移動します。[Ctrl]/[command]+[G] を押すことでも次のマッチに移動できます。
- **閉じる (Close)** : バーを閉じて、ハイライトされたすべてのマッチを除外します。[Esc] を押すことでもバーを閉じられます。

#### 6 デフォルトとして保存 (Save as Default)

ダイアログで現在設定され、適用されているすべてのオプションを新しいプロジェクトのデフォルトとして保存します。

#### 7 保存したデフォルト設定にリセット (Reset to Saved Defaults)

ダイアログ内のすべてのオプションを保存したデフォルト設定にリセットできます。

#### 8 出荷時の設定にリセット (Reset of Factory)

ダイアログのすべてのオプションを出荷時の設定にリセットできます。これが影響するのは、現在のプロジェクトのみです。保存したデフォルト設定は影響されないため、以後のプロジェクトには保存したデフォルト設定が使用されます。

#### 9 保存したデフォルト設定を削除 (Remove Saved Defaults)

現在のプロジェクトのオプションをリセットすることなく、最後に保存したデフォルト設定を削除します。保存したデフォルト設定を削除すると、以後のすべてのプロジェクトで出荷時の設定が使用されます。

関連リンク

[Dorico Pro のオプションダイアログ \(30 ページ\)](#)

[アイテムの外観のリセット \(476 ページ\)](#)

[アイテムの位置のリセット \(477 ページ\)](#)

[優先する基準単位の変更 \(55 ページ\)](#)

[数値フィールドの値を変更する \(829 ページ\)](#)

## 「再生オプション (Playback Options)」ダイアログ

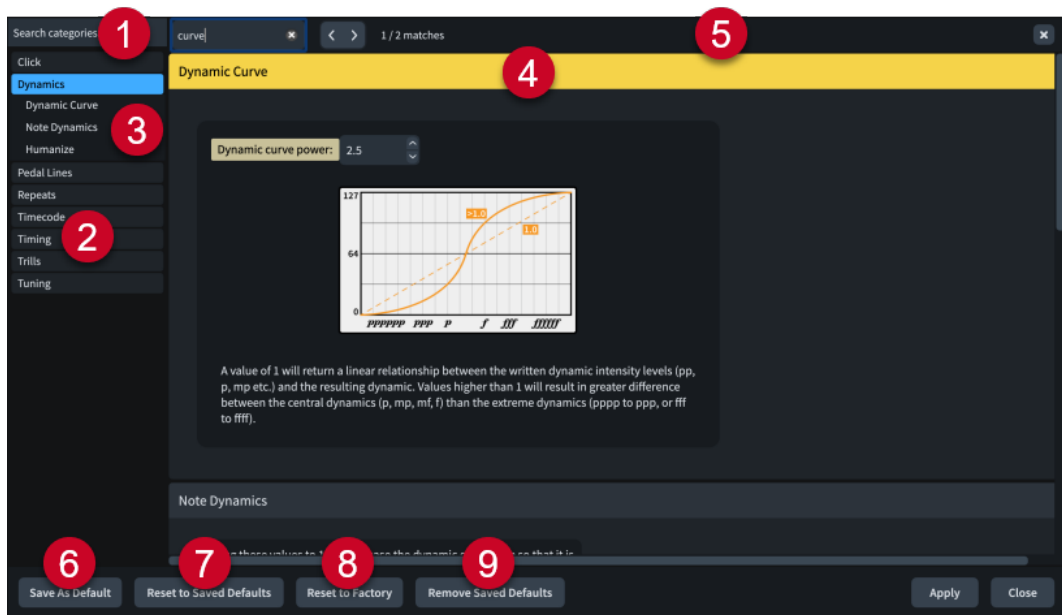
「再生オプション (Playback Options)」ダイアログでは、記譜した楽譜の再生方法を変更できます。これらのオプションは、強弱記号、ペダル線、およびさまざまな記譜記号が再生時にどのように反映されるかなどを変更するもので、エクスプレッションマップやパッチに関係なく再生に影響を与えます。

たとえば、小節の 1 拍めの音符の音量を他の拍の音符と比べて大きくしたり、それぞれのペダルのリテイクが続く長さを変更したり、スタッカティッシモやテヌートなどのさまざまなアーティキュレーションがどれだけ音符のデュレーションに影響するかを変更したりできます。

オプションダイアログで行なった変更は、設定をデフォルトとして保存しない限り、現在のプロジェクトにのみ適用されます。

「再生オプション (Playback Options)」を開くには、以下のいずれかの操作を行ないます。

- [Ctrl]/[command]+[Shift]+[P] を押します。
- 「ライブラリー (Library)」 > 「再生オプション (Playback Options)」を選択します。



「再生オプション (Playback Options)」 ダイアログには以下のセクションが含まれます。

#### 1 「カテゴリーを検索 (Search categories)」 フィールド

テキストを入力してカテゴリやセクションタイトルをフィルタリングできます。

ヒント

[Ctrl]/[command]+[L] を押して「カテゴリーを検索 (Search categories)」 フィールドをフォーカスできます。[Tab] を押してフォーカスを外すことができます。

#### 2 カテゴリーリスト

ダイアログで表示および変更できるオプションのカテゴリーが表示されます。このリストでカテゴリーをクリックすると、利用できるセクションタイトルがリスト内のカテゴリーの下に表示されます。また、オプションがダイアログのメイン部分にページ表示されます。

#### 3 セクションタイトル

選択したカテゴリーのページにすべてのセクションのタイトルが表示されます。セクションタイトルをクリックすると、そのセクションを直接開けます。

#### 4 セクション

ページ内のセクションが表示されます。各セクションには複数のオプションが含まれます。多くのオプションが含まれるセクションはサブセクションに分割されます。複数の設定から選択できるオプションは、アクティブな設定が強調表示されます。



#### 5 ページを検索バー

テキストを入力して、現在選択されているページにあるセクションタイトルおよびオプションを検索して、ヒットした結果を確認できます。ヒットした件数がバーに表示されます。ヒットした結果はページにハイライト表示され、現在のオプションはさらに明るくハイライト表示されます。

[Ctrl]/[command]+[F] を押してページを検索バーを表示できます。

このバーには以下のオプションがあります。

- 「ページを検索 (Search pages)」 フィールド: 検索するテキストを入力できます。[Ctrl]/[command]+[F] を押して「ページを検索 (Search pages)」 フィールドをフォーカスできます。
- 前のマッチ (Previous match) ◀: ページ内の前のマッチに移動します。[Ctrl]/[command]+[Shift]+[G] を押すことでも前のマッチに移動できます。

- **次のマッチ (Next match)** : ページ内の次のマッチに移動します。[Ctrl]/[command]+[G] を押すことでも次のマッチに移動できます。
- **閉じる (Close)** : バーを閉じて、ハイライトされたすべてのマッチを除外します。[Esc] を押すことでもバーを閉じられます。

#### 6 デフォルトとして保存 (Save as Default)

ダイアログで現在設定され、適用されているすべてのオプションを新しいプロジェクトのデフォルトとして保存します。

#### 7 保存したデフォルト設定にリセット (Reset to Saved Defaults)

ダイアログ内のすべてのオプションを保存したデフォルト設定にリセットできます。

#### 8 出荷時の設定にリセット (Reset of Factory)

ダイアログのすべてのオプションを出荷時の設定にリセットできます。これが影響するのは、現在のプロジェクトのみです。保存したデフォルト設定は影響されないため、以後のプロジェクトには保存したデフォルト設定が使用されます。

#### 9 保存したデフォルト設定を削除 (Remove Saved Defaults)

現在のプロジェクトのオプションをリセットすることなく、最後に保存したデフォルト設定を削除します。保存したデフォルト設定を削除すると、以後のすべてのプロジェクトで出荷時の設定が使用されます。

関連リンク

[Dorico Pro のオプションダイアログ \(30 ページ\)](#)

[エクスペリションマップ \(1019 ページ\)](#)

[優先する基準単位の変更 \(55 ページ\)](#)

[数値フィールドの値を変更する \(829 ページ\)](#)

## 音楽フォント

音楽フォントは、音部記号、強弱記号、連符の数や比率を示す数字など、テキスト以外の記譜記号、グリフ、およびその他のアイテムのプロジェクト全体の外観を制御します。

初期設定では、Dorico Pro には以下の SMuFL 準拠フォントが用意されています。

### 音楽フォントのデザイン



### 音楽フォントの名前

Bravura



Finale Ash



Finale Broadway

音楽フォントのデザイン

音楽フォントの名前



Finale Jazz



Finale Maestro



Golden Age



Leipzig



Leland



Petaluma



Sebastian

プロジェクトで使用する音楽フォントは「音楽フォント (Music Fonts)」ダイアログで変更できます。

ヒント

個々のフォントの外観は、「フォントスタイルを編集 (Edit Font Styles)」ダイアログおよび「パラグラフスタイル (Paragraph Styles)」ダイアログで変更できます。

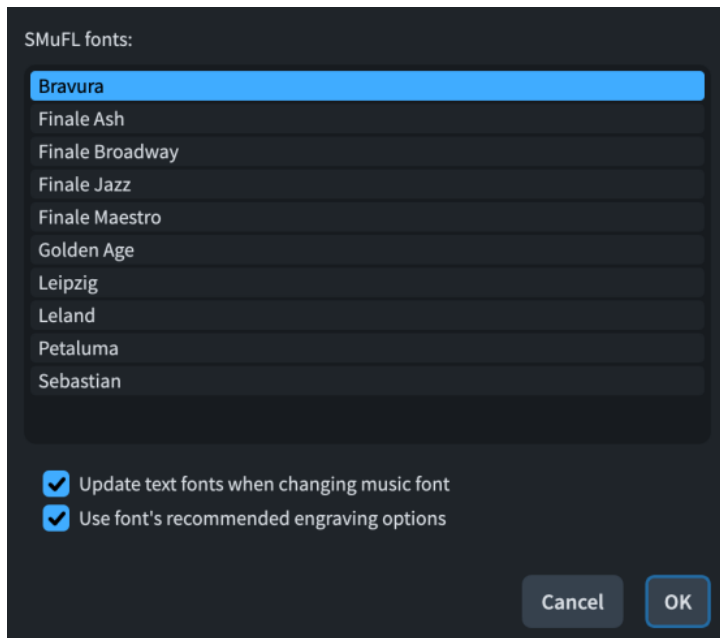
個々の音楽記号の外観は、「音楽記号を編集 (Edit Music Symbol)」ダイアログで変更できます。



## 音楽フォントダイアログ

音楽フォントダイアログでは、プロジェクト全体で記譜記号やグリフに使用するフォントを変更できます。記譜記号やグリフに使用するフォントは SMuFL 準拠である必要があります。

- 音楽フォントダイアログは、「ライブラリー (Library)」 > 「音楽フォント (Music Fonts)」を選択すると開きます。



音楽フォントダイアログには、Dorico Pro が認識できる適切なメタデータを持ち、コンピューターにインストールされているすべての SMuFL フォントが含まれています。

音楽フォントダイアログには以下のオプションもあります。

### 音楽フォントを変更するときはテキストフォントを更新 (Update text fonts when changing music font)

音楽フォントを変更する際にテキストフォントを含めるか除外するかを指定できます。たとえば、このオプションをオフにすると、フローのタイトルや譜表ラベルの外観に影響を与えることなく音符や記譜記号の外観を変更できます。

- Bravura 音楽フォントに対応するテキストフォントは Academico です。
- Petaluma 音楽フォントに対応するテキストフォントは Petaluma Script です。

### フォントのおすすめの浄書オプションを使用 (Use font's recommended engraving options)

フォントにデフォルトで付属する設定を読み込むことができます。

#### 補足

音部変更記号や太字でない連符の数や比率を示す数字など、SMuFL フォントでオプションとして設定されているアイテムは影響を受けません。

## テキストの形式設定

Dorico Pro には、テキストの外観に関するさまざまな設定があり、フォントやテキストの形式設定を、それぞれの機能に応じて異なる場所で行なえます。

- フォントスタイルは、テンポ記号や強弱記号のように、テキストを使用するものの、一般的なテキストとは異なる記譜記号で使用されます。

- パラグラフスタイルは、テキストフレーム内の個別のパラグラフ、または個別のテキストアイテム内のすべてのテキストに適用されます。また、小節番号や譜表ラベルなど、楽譜内に表示されるものの、記譜記号ではないテキストにも使用されます。パラグラフスタイルは、さまざまなタイプのテキストの表示をプロジェクト全体で統一することに使用できます。
- 文字スタイルは個々の文字または単語に適用されます。つまり、同じテキストフレーム内の各単語に異なる文字スタイルを適用できます。

たとえば、プロジェクト内のすべてのテキスト記譜記号に使用するフォントファミリーを「**フォントスタイルを編集 (Edit Font Styles)**」ダイアログで変更し、その他のすべてのテキストを「**パラグラフスタイル (Paragraph Styles)**」ダイアログで変更できます。このダイアログでは、そのフォントがタイトルに使用される場合の個別の変更も行なえます。

コンピューターにインストールされていないフォントを含むプロジェクトを開くと、「**存在しないフォント (Missing Fonts)**」ダイアログが開き、置換フォントを代替フォントとして選択できます。

関連リンク

[デフォルトのフォントファミリーを変更する \(937 ページ\)](#)

[テキストのタイプ \(1764 ページ\)](#)

[テキストフレーム \(616 ページ\)](#)

[記譜モードのテキストエディターオプション \(421 ページ\)](#)

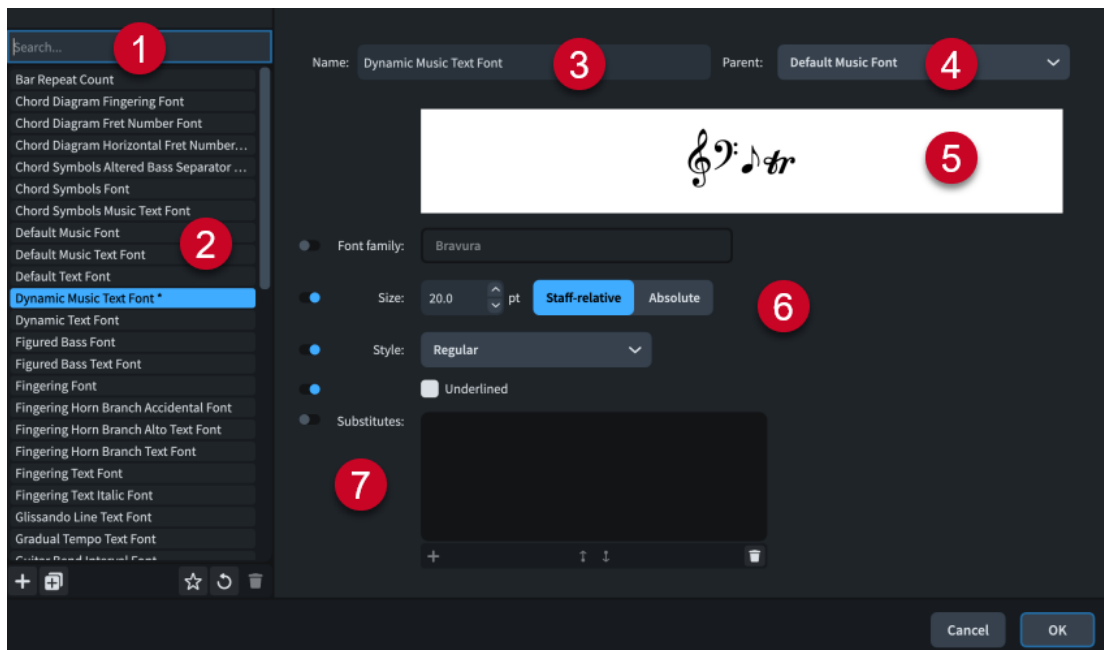
[浄書モードのテキストエディターオプション \(625 ページ\)](#)

[「存在しないフォント \(Missing Fonts\)」ダイアログ \(80 ページ\)](#)

## 「フォントスタイルを編集 (Edit Font Styles)」ダイアログ

「フォントスタイルを編集 (Edit Font Styles)」ダイアログでは、演奏技法、強弱記号、テンポ記号のフォントサイズなど、テキストエディターで編集できないアイテムに使用されているフォントの形式設定を編集できます。

- 「フォントスタイルを編集 (Edit Font Styles)」のダイアログは、「**ライブラリー (Library)**」 > 「**フォントスタイル (Font Styles)**」を選択すると開きます。



「フォントスタイルを編集 (Edit Font Styles)」ダイアログには、以下のセクションとオプションがあります。

### 1 検索フィールド

テキストを入力してフォントスタイルをフィルタリングできます。







#### ヒント

特定のフォントスタイルが見つからない場合は、パラグラフスタイルである可能性があります。

## 2 フォントスタイルリスト

プロジェクト内のすべてのフォントスタイルが表示されます。同じセッションですでに「**フォントスタイルを編集 (Edit Font Styles)**」ダイアログを開いた場合は、そのときに選択したフォントスタイルが保持されています。

リストの最下部のアクションバーには以下のオプションがあります。

- **新規 (New)** : デフォルト値を持つ新しいフォントスタイルを作成します。
- **選択から新規作成 (New from Selection)** : 既存のフォントスタイルのコピーを作成し、元のフォントスタイルとは別の設定に編集できます。初期設定では、新しいフォントスタイルは元のフォントスタイルを親として使用します。
- **デフォルトとして保存 (Save as Default)** : 選択中のフォントスタイルをユーザーライブラリーのデフォルトとして保存し、複数のプロジェクトで使用できるようにします。デフォルトとして保存したフォントスタイルは  として表示されます。
- **出荷時の設定に戻す (Revert to Factory)** : 選択中のフォントスタイルに加えたすべての変更を取り消して、元の設定に戻します。
- **削除 (Delete)** : 選択したフォントスタイルを削除します。

#### 補足

あらかじめ定義されたフォントスタイルや、プロジェクト内で現在使用されているフォントスタイルは削除できません。

## 3 名前 (Name)

新しいフォントスタイルの名前を入力したり、既存のフォントスタイルの名前を編集したりできます。

## 4 元 (Parent)

選択したフォントスタイルに設定を引き継ぐ元のフォントスタイルを選択できます。オンにしたオプションは元スタイルの設定より優先されます。

## 5 フォントプレビュー

選択したフォントスタイルに現在の設定を適用したプレビューが表示されます。

## 6 フォントの外観オプション

選択したフォントスタイルについて、以下のパラメーターを変更できます。

- **フォントファミリー (Font family)**: フォントスタイル全体を設定します。
- **サイズ (Size)**: フォントのサイズを設定します。譜表サイズに応じてフォントサイズを変更するか、設定したサイズを常に維持するかを選択できます。たとえば、フォントサイズに譜表との相対値を指定したアイテムは譜表が小さくなると小さく表示されます。

#### 補足

組段オブジェクトのフォントスタイルのサイズが「**譜表との相対値 (Staff-relative)**」に設定されている場合、インストゥルメントファミリーの大括弧で括られたグループの最上段の譜表の譜表サイズにより、その上に表示される組段オブジェクトのサイズが影響されます。フォントスタイルが「**絶対値 (Absolute)**」に設定されている場合、譜表サイズによる影響は受けません。






- **スタイル (Style)**: 太字や斜体など、フォントのスタイルを設定します。

- **下線 (Underlined)**: フォントスタイルを下線付きにできます。

## 7 代替 (Substitutes)

音楽フォントスタイルの代替フォントスタイルを管理できます。これは、SMuFL の範囲内のすべてのグリフを含まない音楽フォントスタイルを使用する場合に便利です。

リストの最下部のアクションバーには以下のオプションがあります。

- **代替を追加 (Add Substitute)** : 選択したフォントスタイルに新しい代替を追加します。代替フォントスタイルを変更するには、代替をダブルクリックして、使用するフォントスタイルを入力するか、矢印  をクリックしてメニューからフォントスタイルを選択します。
- **上へ移動 (Move Up)** : 選択した代替を代替リストの1つ上に移動します。これにより、代替の順序が変わります。
- **下へ移動 (Move Down)** : 選択した代替を代替リストの1つ下に移動します。これにより、代替の順序が変わります。
- **削除 (Delete)** : 選択した代替を削除します。

### 補足

フォントスタイルへの変更は、パートレイアウトを含むプロジェクト全体に適用されます。

---

#### 関連リンク

[テキストのタイプ](#) (1764 ページ)

[譜表サイズ](#) (772 ページ)

[組段オブジェクト](#) (1717 ページ)

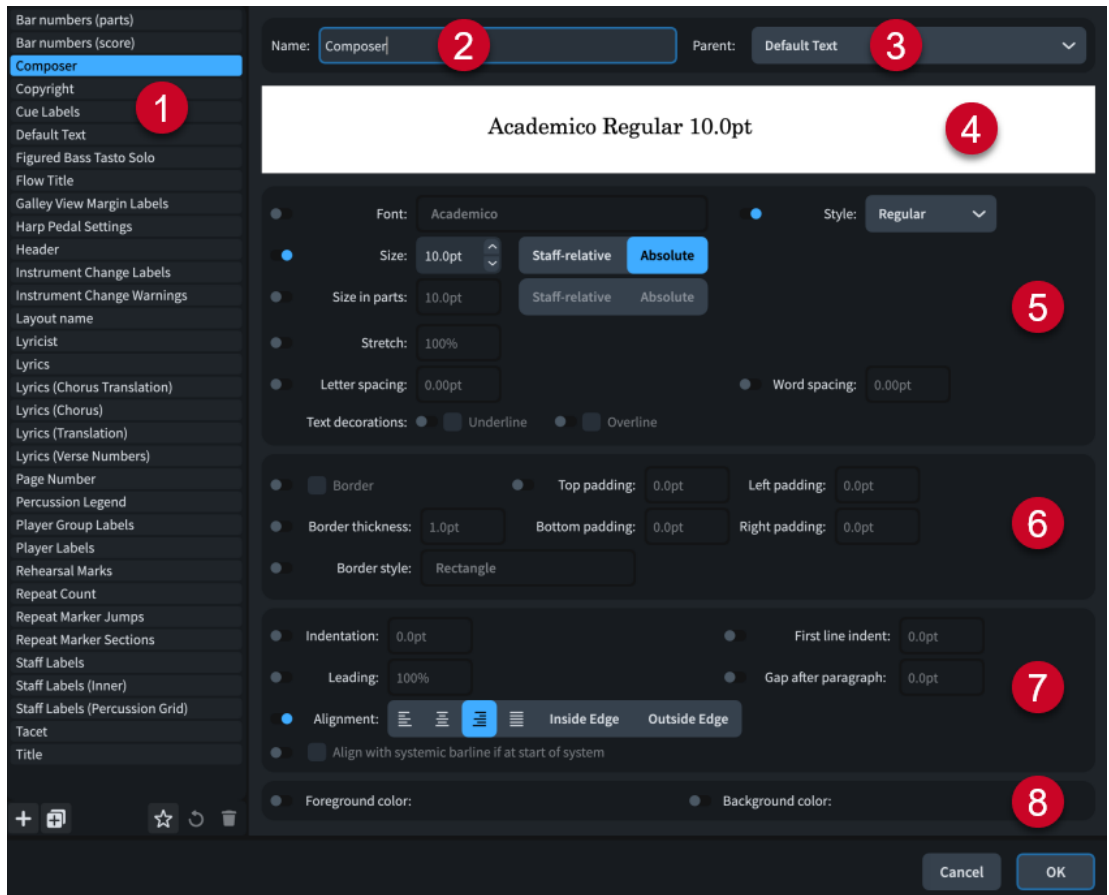
[アンサンブルタイプによる大括弧でのグループ化](#) (1143 ページ)

## 「パラグラフスタイル (Paragraph Styles)」 ダイアログ

「パラグラフスタイル (Paragraph Styles)」ダイアログでは、テキストの既存のパラグラフスタイルを変更したり、新しいスタイルを作成したりできます。パラグラフスタイルは、テキストエディターで選択することで、テキストフレーム内の個々のパラグラフや個別のテキストアイテム内のすべてのテキストに対して、あとから適用できます。

たとえば、レイアウト名のパラグラフスタイルをカスタマイズしてから、適用されるすべてのテキストフレーム内のレイアウト名トークンに、そのレイアウト名のパラグラフスタイルを適用できます。これにより、さまざまなタイプのテキストの表示をプロジェクト全体で統一できます。

- 「パラグラフスタイル (Paragraph Styles)」のダイアログは、「ライブラリー (Library)」 > 「パラグラフスタイル (Paragraph Styles)」を選択すると開きます。



「パラグラフスタイル (Paragraph Styles)」ダイアログには、以下のセクションとオプションがあります。







## 1 パラグラフスタイルリスト

プロジェクト内のすべてのパラグラフスタイルが表示されます。テキストアイテムを選択した状態でダイアログを開くと、選択している最初のアイテムのパラグラフスタイルがパラグラフスタイルリストでデフォルトで選択されます。

### ヒント

特定のパラグラフスタイルが見つからない場合は、フォントスタイルである可能性があります。

リストの最下部のアクションバーには以下のオプションがあります。

- **新規 (New)** : デフォルト値を持つ新しいパラグラフスタイルを作成します。
- **選択から新規作成 (New from Selection)** : 既存のパラグラフスタイルのコピーを作成し、元のパラグラフスタイルとは別の設定に編集できます。初期設定では、新しいパラグラフスタイルは元のパラグラフスタイルを親として使用します。
- **デフォルトとして保存 (Save as Default)** : 選択中のパラグラフスタイルをユーザーライブラリーのデフォルトとして保存し、複数のプロジェクトで使用できるようにします。デフォルトとして保存したパラグラフスタイルは  として表示されます。
- **出荷時の設定に戻す (Revert to Factory)** : 選択中のパラグラフスタイルに加えたすべての変更を取り消して、元の設定に戻します。
- **削除 (Delete)** : 選択したパラグラフスタイルを削除します。

#### 補足

あらかじめ定義されたパラグラフスタイルや、プロジェクト内で現在使用されているパラグラフスタイルは削除できません。

## 2 名前 (Name)

新しいパラグラフスタイルの名前を入力したり、既存のパラグラフスタイルの名前を編集したりできます。

## 3 元 (Parent)

選択したパラグラフスタイルに設定を引き継ぐ元のパラグラフスタイルを選択できます。オンにしたオプションは元スタイルの設定より優先されます。

## 4 フォントプレビュー

選択したパラグラフスタイルに現在の設定を適用したプレビューが表示されます。

## 5 フォントの外観オプション

フォントの変更、太字の設定、フォントサイズの変更、文字や単語のスペーシングの変更など、パラグラフスタイルフォントの外観のパラメーターを変更できます。また、パラグラフスタイル内のフォントに下線や取り消し線を付けることもできます。

## 6 枠線のオプション

そのパラグラフスタイルを使用するテキストにデフォルトで枠線を表示したり、太さ、スタイル、枠線とテキストの間の余白といった枠線の設定を変更したりできます。

#### 補足

- 「**枠線 (Border)**」をオフにすると、テキストアイテムは「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**テキスト (Text)**」ページで設定した枠線と余白のデフォルト値を使用します。
- 単一のパラグラフを含むテキストフレームには、パラグラフスタイルの枠線のみを使用することをおすすめします。一部のパラグラフには枠線を表示し、その他のパラグラフには枠線を表示したくない場合は、個別のテキストフレームを使用することをおすすめします。

## 7 パラグラフのレイアウトオプション

1行めのインデント、ラインのスペーシング、テキストの配置など、パラグラフスタイルのレイアウトを変更できます。

## 8 カラーオプション

パラグラフスタイルの文字色や背景色を変更できます。

#### 関連リンク

[テキストのタイプ](#) (1764 ページ)

[レイアウト名の枠線の表示/非表示](#) (1325 ページ)

[「浄書オプション \(Engraving Options\)」ダイアログ](#) (923 ページ)

[譜表サイズ](#) (772 ページ)



[組段オブジェクト](#) (1717 ページ)

## パラグラフスタイルの作成

たとえば、複数のテキストフレームでテキストに一貫した形式設定を行なう場合などに、パラグラフスタイルを1から新しく作成したり、既存のパラグラフスタイルを複製して設定を編集したりできます。


#### 手順

1. 「**ライブラリー (Library)**」 > 「**パラグラフスタイル (Paragraph Styles)**」を選択して、「**パラグラフスタイル (Paragraph Styles)**」ダイアログを開きます。
2. 以下のいずれかの操作を行なって、新しいパラグラフスタイルを作成します。

- まったく新しいパラグラフスタイルを作成する場合は、アクションバーの「新規 (New)」をクリックします。
  - 既存のパラグラフスタイルのコピーを作成する場合は、パラグラフスタイルリストからコピーするパラグラフスタイルを選択し、アクションバーの「選択から新規作成 (New from Selection)」をクリックします。
3. 「名前 (Name)」フィールドにスタイルの名前を入力します。
  4. 必要に応じて、「元 (Parent)」メニューから利用できるいずれかのスタイルを選択します。



#### 補足

元スタイルを選択した場合、すべてのオプションの設定が自動的に引き継がれた状態で、スライダーはオフになります。パラグラフスタイルのスライダーがオンになっており元スタイルより優先されている場合は、スライダーをオフにすることで元スタイルの設定にリセットできます。

5. 必要に応じて、オプションをオンにして変更します。
6. パラグラフスタイルをそれ以降のすべてのプロジェクトで使用できるようにするには、パラグラフスタイルリストのアクションバーにある「デフォルトとして保存 (Save as Default)」をクリックします。
7. 「OK」をクリックして変更内容を保存し、ダイアログを閉じます。

#### 結果

新しいパラグラフスタイルが作成されます。

「デフォルトとして保存 (Save as Default)」をクリックしてとした場合は、これ以降のコンピューター上のすべてのプロジェクトでそのパラグラフスタイルを使用できるようになります。

#### 関連リンク

[テキストアイテムの入力 \(420 ページ\)](#)

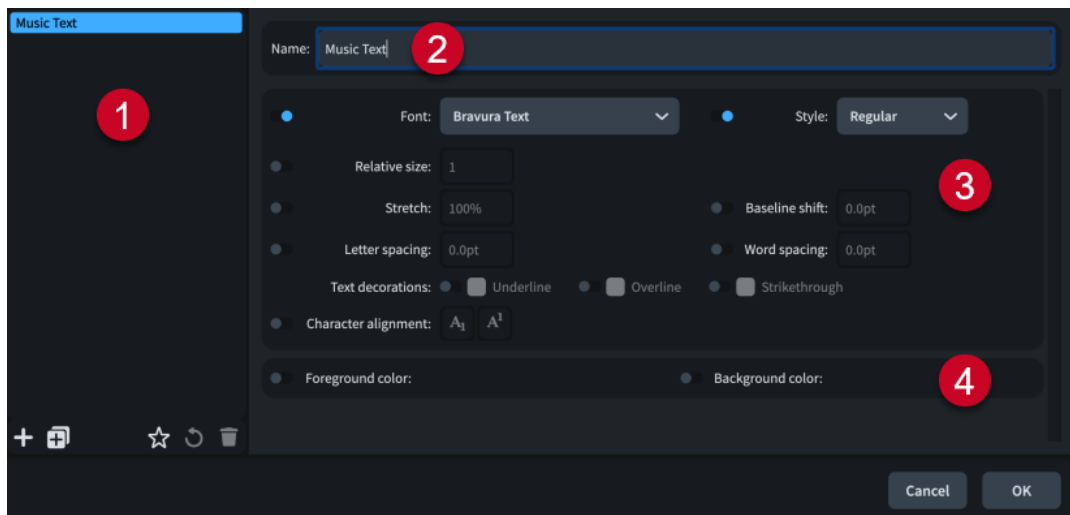
[テキストフレームへのテキストの入力 \(624 ページ\)](#)

## 「文字スタイル (Character Styles)」ダイアログ

「文字スタイル (Character Styles)」ダイアログでは、文字スタイルを変更したり新しいスタイルを作成したりできます。そのあと、テキストエディターでその文字スタイルを選択することで、プロジェクト内のさまざまな場所にある個々の文字や単語にそのスタイルを適用できます。

たとえば、特定の単語の文字間のスペーシングを広げたカスタム文字スタイルを作成したあと、選択した単語にその文字スタイルを適用できます。パラグラフスタイルとは異なり、文字スタイルはテキストフレーム内のテキストアイテムやパラグラフ全体に適用する必要はありません。

- 「文字スタイル (Character Styles)」ダイアログは、「ライブラリー (Library)」 > 「文字スタイル (Character Styles)」を選択すると開きます。



「文字スタイル (Character Styles)」ダイアログには、以下のセクションとオプションがあります。

### 1 文字スタイルリスト

プロジェクト内のすべての文字スタイルが表示されます。

リストの最下部のアクションバーには以下のオプションがあります。

- **新規 (New)** : デフォルト設定で新しい文字スタイルを作成します。
- **選択から新規作成 (New from Selection)** : 既存の文字スタイルのコピーを作成し、元の文字スタイルとは別の設定に編集できます。
- **デフォルトとして保存 (Save as Default)** : 選択中の文字スタイルをユーザーライブラリーのデフォルトとして保存し、複数のプロジェクトで使用できるようにします。デフォルトとして保存した文字スタイルは として表示されます。
- **出荷時の設定に戻す (Revert to Factory)** : 選択中の文字スタイルに加えたすべての変更を取り消して、元の設定に戻します。
- **削除 (Delete)** : 選択した文字スタイルを削除します。

#### 補足

あらかじめ定義された文字スタイルや、プロジェクト内で現在使用されている文字スタイルは削除できません。

### 2 名前 (Name)

新しい文字スタイルの名前を入力したり、既存の段落スタイルの名前を編集したりできます。

### 3 文字スタイルオプション

フォントの変更、太字の設定、フォントサイズの変更、文字や単語のスペーシングの変更など、文字スタイルのパラメーターを変更できます。また、段落スタイル内のフォントに下線や取り消し線を付けたり、文字の垂直方向の配置を変更したりもできます。

### 4 カラーオプション

文字スタイルの文字色や背景色を変更できます。

関連リンク

[テキストのタイプ \(1764 ページ\)](#)



[「音楽テキストを挿入 \(Insert Music Text\)」ダイアログ \(423 ページ\)](#)



## 文字スタイルの作成


文字スタイルを1から新しく作成するか、既存の文字スタイルを複製して設定を編集できます。

### 手順

1. 「ライブラリー (Library)」 > 「文字スタイル (Character Styles)」を選択して、「文字スタイル (Character Styles)」ダイアログを開きます。
2. 以下のいずれかの操作を行なって、新しい文字スタイルを作成します。
  - まったく新しい文字スタイルを作成する場合は、アクションバーの「新規 (New)」  をクリックします。
  - 既存の文字スタイルのコピーを作成する場合は、文字スタイルリストからコピーする文字スタイルを選択し、アクションバーの「選択から新規作成 (New From Selection)」  をクリックします。
3. 「名前 (Name)」フィールドにスタイルの名前を入力します。
4. 必要に応じて、オプションをオンにして変更します。



### 重要

オンにしたオプションだけがテキストに反映されます。オプションをオフにすると、設定がリセットされます。

5. 文字スタイルをそれ以降のすべてのプロジェクトで使用できるようにするには、文字スタイルリストのアクションバーにある「デフォルトとして保存 (Save as Default)」  をクリックします。
6. 「OK」をクリックして変更内容を保存し、ダイアログを閉じます。

### 結果

新しい文字スタイルが作成されます。

「デフォルトとして保存 (Save as Default)」  をクリックして  とした場合は、これ以降のコンピューター上のすべてのプロジェクトでその文字スタイルを使用できるようになります。

### 関連リンク

[テキストアイテムの入力 \(420 ページ\)](#)

[テキストフレームへのテキストの入力 \(624 ページ\)](#)

## デフォルトのフォントファミリーを変更する

デフォルトのフォントおよびパラグラフスタイルのフォントファミリーを変更できます。これは、フォントファミリーが上書きされていないプロジェクト内の他のすべてのフォントスタイルとパラグラフスタイルに影響します。たとえば、すべてのテキストおよびテキストベースの記譜記号 (テキストの演奏技法や段階的強弱記号など) に任意のフォントファミリーを使用したい場合などに行ないます。

### 手順

1. 「ライブラリー (Library)」 > 「フォントスタイル (Font Styles)」を選択して、「フォントスタイルを編集 (Edit Font Styles)」ダイアログを開きます。
2. フォントスタイルリストで、「デフォルトのテキスト用フォント (Default Text Font)」を選択します。
3. 「フォントファミリー (Font family)」メニューから使用するフォントファミリーを選択します。
4. 「OK」をクリックして変更内容を保存し、ダイアログを閉じます。
5. 「ライブラリー (Library)」 > 「パラグラフスタイル (Paragraph Styles)」を選択して、「パラグラフスタイル (Paragraph Styles)」ダイアログを開きます。

6. パラグラフスタイルリストで、「**デフォルトのテキスト (Default Text)**」を選択します。
7. 「**フォント (Font)**」メニューから使用するフォントファミリーを選択します。
8. 「**OK**」をクリックして変更内容を保存し、ダイアログを閉じます。

#### 結果

選択したデフォルトのフォントおよびパラグラフスタイルに使用されているフォントファミリーが変更されます。これは、フォントファミリーが上書きされていないプロジェクト内の他のすべてのフォントスタイルとパラグラフスタイルで使用されているフォントファミリーにも影響します。

#### ヒント

これ以降に作成するすべてのプロジェクトに使用されるデフォルトのフォントファミリーは、「**環境設定 (Preferences)**」の「**全般 (General)**」ページで変更できます。

#### 関連リンク

- [「フォントスタイルを編集 \(Edit Font Styles\)」ダイアログ \(930 ページ\)](#)
- [「パラグラフスタイル \(Paragraph Styles\)」ダイアログ \(932 ページ\)](#)
- [「環境設定 \(Preferences\)」ダイアログ \(63 ページ\)](#)
- [テキストアイテム \(1763 ページ\)](#)

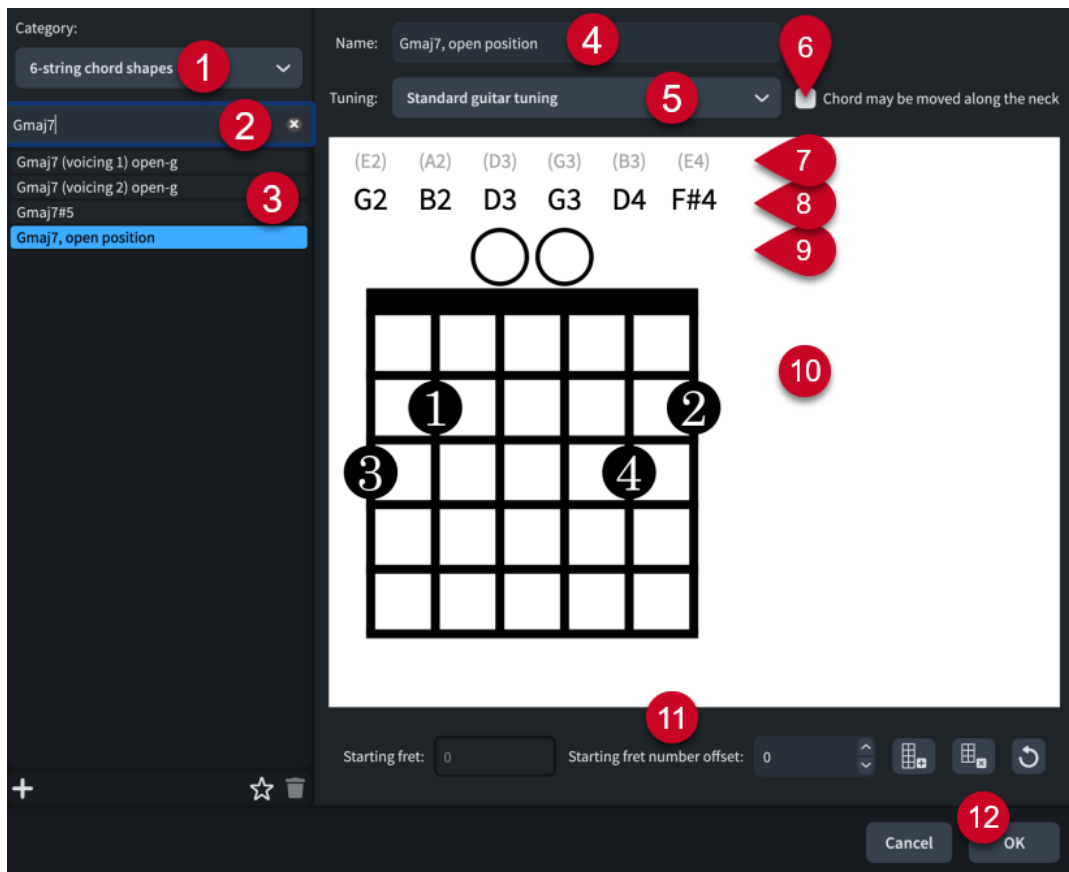
## 「コードダイアグラムの編集 (Edit Chord Diagrams)」ダイアログ

「**コードダイアグラムの編集 (Edit Chord Diagrams)**」ダイアログを使用すると、空白のコードダイアグラムシェイプを新規に作成するか、既存のコードダイアグラムシェイプを編集するかして、コードダイアグラムシェイプを独自にデザインできます。

#### 補足

既存のコードダイアグラムを編集すると、そのコードダイアグラムの複製が変更内容と一緒に保存されます。元のコードダイアグラムは常に保持されます。

- 「**コードダイアグラムの編集 (Edit Chord Diagrams)**」ダイアログは、「**ライブラリー (Library)**」 > 「**コードダイアグラム (Chord Diagrams)**」を選択すると開きます。



「コードダイアグラムの編集 (Edit Chord Diagrams)」 ダイアログには、以下のオプションとセクションがあります。

### 1 「カテゴリー (Category)」メニュー

必要な楽器の弦の本数を選択することで、コードダイアグラムシェイプリストで使用できるシェイプを選択できます。

### 2 検索フィールド

テキストを入力してコードダイアグラムをフィルタリングできます。




### 3 コードダイアグラムシェイプリスト


現在選択しているカテゴリーと検索フィルター (該当する場合) に含まれるすべてのコードダイアグラムシェイプが表示されます。

#### 補足

シェイプは、最もシンプルな使用方法、またはナットに最も近い位置の名前でコードダイアグラムシェイプリストに表示されます。多くのさまざまなコードを生成する移動できるコードダイアグラムシェイプは 1 回だけ表示されます。たとえば、「**E, open position**」シェイプの開放弦をバレーを使って置き換え、ネックにそってシェイプを移動すると複数のメジャーコードを生成できます。そのため、「**F, open position**」のように同じシェイプでフレット位置の異なるコードはリストには表示されません。

リストの最下部のアクションバーには以下のオプションがあります。

- **新規 (New)** : 新しい空白のコードダイアグラムを追加します。
- **デフォルトとして保存 (Save as Default)** : 選択中のコードダイアグラムシェイプをユーザーライブラリーのデフォルトとして保存し、複数のプロジェクトで使用できるようにします。デフォルトとして保存したコードダイアグラムシェイプは  として表示されます。

- **削除 (Delete)** : 選択したコードダイアグラムシェイプを削除します。

#### 補足

プリセットのコードダイアグラムシェイプは削除できません。デフォルトとして保存した独自のコードダイアグラムシェイプを削除するには、「削除 (Delete)」を2回クリックする必要があります。

#### 4 名前 (Name)


ダイアログで編集中のコードダイアグラムのコード名が表示されます。必要に応じて、「movable」や「open-g」など、関連するその他の識別情報を含めることもできます。プリセットのコードダイアグラムおよびデフォルトとして保存したコードダイアグラムの名前は変更できません。

#### 5 チューニング (Tuning)

現在のコードダイアグラムのフレット楽器とチューニングが表示されます。別のチューニングを選択すると、異なるチューニングおよび異なるインストゥルメントで現在のシェイプが生成するコードを確認できます。プロジェクト内のフレット楽器のチューニングを変更したり、カスタムチューニングを読み込んだりすると、このメニューでそれらを選択できるようになります。別のチューニングを選択すると、エディターの開放弦のピッチと現在の弦のピッチが更新されます。

#### 6 コードがネックに沿って移動することを許可 (Chord may be moved along the neck)

たとえば、より高いフレット位置でバレーを使って開放弦を演奏するなど、コードダイアグラムのシェイプを別のフレット位置で再利用できるようにするかどうかを指定できます。

通常、別のフレット位置で4本以上の弦を押さえるコードダイアグラムシェイプは再利用できないため、4本以上の弦を押さえるコード記号に対してこのオプションをオンにすると、Dorico Proでは警告アイコン  が表示されます。

#### 7 開放弦のピッチ

現在選択しているチューニングに応じて、各弦の開放ピッチが参照用に表示されます。

#### 8 現在の弦のピッチ

現在選択しているチューニングに応じて、開放弦または押さえる弦について、各弦の現在のピッチが表示されます。弦のピッチがコードに含まれていない場合は、弦のピッチが赤で表示されます。

#### 9 弦の状態

各弦の現在の使用状態が表示されます。この行をクリックすると、個々の弦の状態を開放と省略の間で切り替えることができます。

- **O**: 開放弦
- **X**: 省略弦
- **記号なし**: 押さえる弦

#### 10 コードダイアグラムシェイプエディター




押さえるフレットの現在の配置が丸を使って表示され、コードダイアグラムシェイプを変更できます。任意の位置をクリックすることで押さえるフレットを移動できます。押さえるフレットの位置は、各弦に1つのみ設定できます。

同じフレットで複数の弦を押さえる場合、そのフレット位置のいずれかの丸をクリックしてバレーの表示/非表示を切り替えることができます。

フィンガリングをダブルクリックして新しい数字を入力することでフィンガリングを変更できます。「0」を入力するとフィンガリングが表示されず、「T」を入力すると一番低い弦の親指のフィンガリングが表示されます。

#### 11 アクションバー

フレットの数編集できるオプションが用意されています。

- **開始フレット (Starting fret):** コードダイアグラムが一番上のフレットのフレット番号を変更します。
- **開始フレット番号のオフセット (Starting fret number offset):** 開始フレット番号のオフセットを変更します。たとえば、バレーを含めるために開始フレットのラベルをコードダイアグラムの第2フレットの横に表示する場合などに使用します。
- **フレットを追加 (Add fret) **: コードダイアグラムが一番下にフレットを追加します。
- **フレットを削除 (Remove fret) **: コードダイアグラムが一番下のフレットを削除します。
- **コードダイアグラムをリセット (Reset Chord Diagram) **: コードダイアグラムに対して行なった変更を削除し、デフォルトのシェイプにリセットします。

## 12 OK

「OK」をクリックすると、このダイアログで行なったすべての変更が保存されます。

### 関連リンク

[「弦とチューニングを編集 \(Edit Strings and Tuning\)」ダイアログ \(169 ページ\)](#)

[フレット楽器の開放弦のピッチの変更 \(171 ページ\)](#)

[フレット楽器のチューニングの読み込み \(173 ページ\)](#)

[コードダイアグラムのフィンガリングの表示/非表示を切り替える \(1182 ページ\)](#)

[コードダイアグラムの親指のフィンガリングを許可する/禁止する \(1184 ページ\)](#)

## カスタムコード記号

コード記号の構成要素またはコード記号全体をカスタマイズできます。特定のコード記号のプロジェクト全体にわたるすべてのインスタンスでも、個別のコード記号のインスタンスでも、どちらも対象にできます。

### ヒント

Dorico Pro には、幅広く揃ったコード記号の外観一式が「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**コード記号 (Chord Symbols)**」ページに用意されています。個々のコード記号をカスタマイズする前には、利用可能なオプションを確認することをおすすめします。

コード記号はさまざまな方法で、さまざまな状況に合わせてカスタマイズできます。

### すべてのコード記号のインスタンスのカスタマイズ

「**プロジェクトにおけるコード記号のデフォルトの外観 (Project Default Chord Symbol Appearances)**」ダイアログでは、特定のコード記号およびコード記号の構成要素に関する、プロジェクト全体のすべてのインスタンスの外観を変更できます。たとえばプロジェクト内のすべての Gmaj7 のコード記号について、構成要素の配置を変更することもできます。

「**プロジェクトにおけるコード記号のデフォルトの外観 (Project Default Chord Symbol Appearances)**」ダイアログ内から「**コード記号要素の編集 (Edit Chord Symbol Component)**」ダイアログを開いた場合、選択した構成要素に加えた変更は、その構成要素を使用するプロジェクト全体のすべてのコード記号に影響を及ぼします。たとえばすべてのメジャー 7th コード記号で、メジャー 7th の三角形の構成要素を小さく表示させることもできます。

### 個別のコード記号のインスタンスのカスタマイズ

「**コード記号の外観を編集 (Edit Chord Symbol Appearance)**」ダイアログでは、個々のコード記号のインスタンスの外観を、同じコード記号の別のインスタンスとは個別に変更できます。たとえば最初の Gmaj7 のコード記号を後続のすべての Gmaj7 のコード記号とは異なる外観を設定することもできます。

「**コード記号の外観を編集 (Edit Chord Symbol Appearances)**」ダイアログ内から「**コード記号要素の編集 (Edit Chord Symbol Component)**」ダイアログを開いた場合、選択した構

成要素に加えた変更は、選択したコード記号にのみ影響を及ぼします。たとえば個別の Gmaj7 のコード記号のインスタンスで maj の要素に編集を加えても、プロジェクト内の Fmaj7 の maj の要素には影響を及ぼしません。

個別のコード記号のインスタンスに加えた変更は、「プロジェクトにおけるコード記号のデフォルトの外観 (Project Default Chord Symbol Appearances)」ダイアログの「個別に上書き (Single Overrides)」リストに表示されます。個別のコード記号のインスタンスに対する上書きを、そのコード記号におけるプロジェクトのデフォルトの外観に設定できます。

#### 関連リンク

[コード記号の外観のプリセット \(1156 ページ\)](#)

[コード記号のフォントスタイル \(1157 ページ\)](#)

[「プロジェクトにおけるコード記号のデフォルトの外観 \(Project Default Chord Symbol Appearances\)」ダイアログ \(942 ページ\)](#)

[「コード記号の外観を編集 \(Edit Chord Symbol Appearance\)」ダイアログ \(944 ページ\)](#)

[「コード記号要素の編集 \(Edit Chord Symbol Component\)」ダイアログ \(946 ページ\)](#)

[個別に上書きされたコード記号をプロジェクトの初期設定として使用する \(949 ページ\)](#)

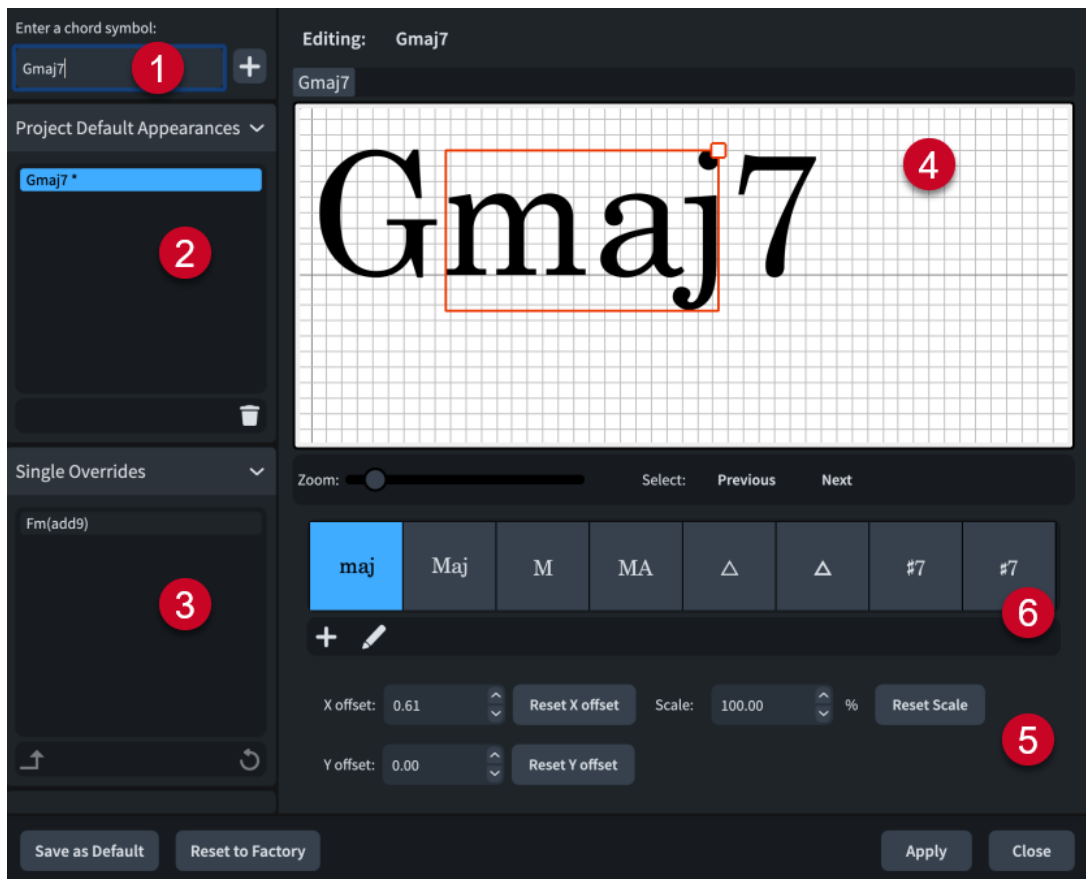
[個別に上書きされたコード記号の外観のリセット \(949 ページ\)](#)

## 「プロジェクトにおけるコード記号のデフォルトの外観 (Project Default Chord Symbol Appearances)」ダイアログ

「プロジェクトにおけるコード記号のデフォルトの外観 (Project Default Chord Symbol Appearances)」ダイアログを使用すると、プロジェクト全体で特定のコード記号のすべてのインスタンスの外観を編集できます。たとえば、他のすべてのメジャー 7th コード記号に関するプロジェクト全体の設定とは別に、プロジェクト内のすべての Gmaj7 のコード記号について、構成要素の配置を変更することもできます。

「プロジェクトにおけるコード記号のデフォルトの外観 (Project Default Chord Symbol Appearances)」ダイアログを開くには、以下のいずれかの操作を行ないます。

- 「ライブラリー (Library)」 > 「コード記号 (Chord Symbols)」を選択します。
- 「浄書オプション (Engraving Options)」 > 「コード記号 (Chord Symbols)」 > 「プロジェクトのデフォルトの外観 (Project Default Appearances)」で「編集 (Edit)」をクリックします。



「プロジェクトにおけるコード記号のデフォルトの外観 (Project Default Chord Symbol Appearances)」ダイアログには以下のセクションがあります。

#### 1 コード記号を入力 (Enter a chord symbol)

プロジェクト全体のデフォルトの外観を編集するコード記号を入力できます。「プロジェクトのデフォルトを追加 (Add Project Default)」**+**をクリックするか、**[Return]**を押して「プロジェクトのデフォルトの外観 (Project Default Appearances)」リストにコード記号を追加すると、エディターでコード記号を編集できるようになります。

#### 2 「プロジェクトのデフォルトの外観 (Project Default Appearances)」リスト

プロジェクト内でプロジェクトのデフォルトの外観が編集されているコード記号が表示されます。コード記号のプロジェクトのデフォルトの外観に加えた変更を削除するには、アクションバーの「削除 (Delete)」**🗑️**をクリックします。

#### 3 「個別に上書き (Single Overrides)」リスト

個別のコード記号のインスタンスについて、外観が上書きされているプロジェクト内のコード記号が表示されます。

個別の上書きを、そのコード記号のプロジェクトのデフォルトの外観に設定するには、アクションバーの「プロジェクトのデフォルトに設定 (Promote 個別に上書き Default)」**↶**をクリックします。

コード記号のプロジェクトのデフォルトの外観に対する個別の上書きをリセットするには、アクションバーの「上書きを解除 (Remove Overrides)」**🔄**をクリックします。

#### 4 エディター

コード記号の構成要素の配置と編集を行なえます。ダイアログ下部のコントロールを使用するか、またはエディター内で要素を選択してから以下のいずれかの操作を行なうと、個々の構成要素を移動できます。

- 項目を移動する標準のキーボードショートカットを押します。たとえば、構成要素を右に移動するには **[Alt/Opt]+[→]**、構成要素を大きく移動するには **[Ctrl]/[command]+[Alt/Opt]+[→]** を押します。
- 各構成要素をクリックしてドラッグします。

#### 補足

コード記号の最初の構成要素は移動できません。

「**スケール (Scale)**」を使用するほかに、エディターで構成要素を選択してから右上角の四角いハンドルをクリックしてドラッグすることでも、構成要素のサイズを変更できます。



## 5 コントロール

- 「**X オフセット (X offset)**」は構成要素を水平に移動させます。値を増やすと構成要素が右に移動し、減らすと左に移動します。
- 「**Y オフセット (Y offset)**」は構成要素を垂直に移動させます。値を増やすと構成要素が上に移動し、減らすと下に移動します。
- 「**スケール (Scale)**」は構成要素のサイズを変更します。値を増やすと構成要素のサイズが比率に合わせて大きくなり、値を減らすと比率に合わせてサイズが小さくなります。
- 「**X オフセットをリセット (Reset X offset)**」は選択した構成要素の水平位置をリセットします。
- 「**Y オフセットをリセット (Reset Y offset)**」は選択した構成要素の垂直位置をリセットします。
- 「**スケールをリセット (Reset Scale)**」は選択した構成要素のサイズをリセットします。

## 6 要素リスト

エディターで選択した構成要素の代替の表示方法を表示します。

アクションバーの対応するボタンをクリックすることで、構成要素の新規作成および既存の要素の編集が行なえます。

- **要素の追加 (Add Component) **
- **要素の編集 (Edit Component) **

いずれかのボタンをクリックすると「**コード記号要素の編集 (Edit Chord Symbol Component)**」ダイアログが開き、コード記号の構成要素を新規作成したり、既存のコード記号の構成要素を編集したりできます。「**プロジェクトにおけるコード記号のデフォルトの外観 (Project Default Chord Symbol Appearances)**」ダイアログ内で要素を編集すると、プロジェクト全体でその要素を使用するすべてのコード記号に影響を及ぼします。

#### 関連リンク

[コード記号の外観のプリセット \(1156 ページ\)](#)

[「コード記号要素の編集 \(Edit Chord Symbol Component\)」ダイアログ \(946 ページ\)](#)

[アイテムの表示位置の移動 \(652 ページ\)](#)

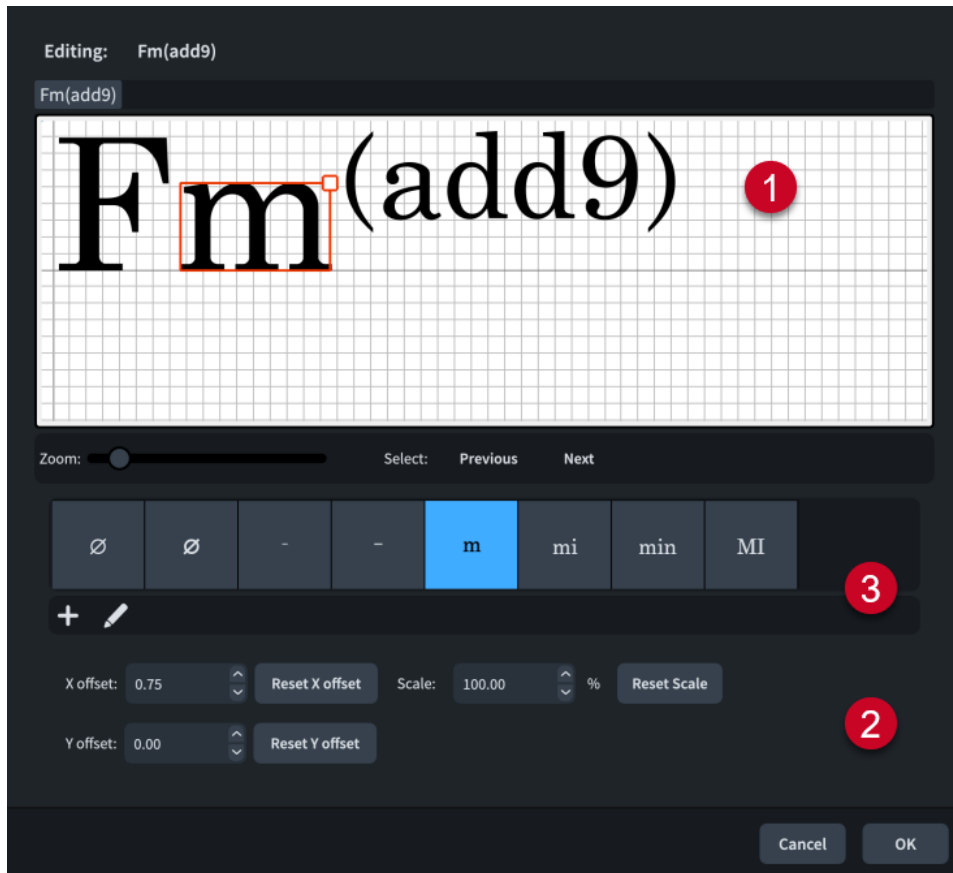
[「浄書オプション \(Engraving Options\)」ダイアログ \(923 ページ\)](#)

## 「コード記号の外観を編集 (Edit Chord Symbol Appearance)」ダイアログ

「**コード記号の外観を編集 (Edit Chord Symbol Appearance)**」ダイアログを使用すると、そのコード記号に対するプロジェクトのデフォルトの外観を変更することなく、個別のコード記号のインスタンスの外観と配置を編集できます。たとえば最初の Gmaj7 のコード記号を後続のすべての Gmaj7 のコード記号とは異なる外観を設定することもできます。



- 「コード記号の外観を編集 (Edit Chord Symbol Appearance)」ダイアログを開くには、浄書モードでカスタマイズするコード記号を選択して **[Return]** を押すか、コード記号をダブルクリックします。



「コード記号の外観を編集 (Edit Chord Symbol Appearance)」ダイアログには以下のセクションがあります。

## 1 エディター

コード記号の構成要素の配置と編集を行なえます。

ダイアログ下部のコントロールを使用するか、またはエディター内で要素を選択してから以下のいずれかの操作を行なうと、個々の構成要素を移動できます。

- 項目を移動する標準のキーボードショートカットを押します。たとえば、構成要素を右に移動するには **[Alt/Opt]+[→]**、構成要素を大きく移動するには **[Ctrl]/[command]+[Alt/Opt]+[→]** を押します。
- 各構成要素をクリックしてドラッグします。

補足

コード記号の最初の構成要素は移動できません。

「**スケール (Scale)**」を使用するほかに、エディターで構成要素を選択してから右上角の四角いハンドルをクリックしてドラッグすることでも、構成要素のサイズを変更できます。

## 2 コントロール



個々の構成要素を移動したりサイズを変更したりできます。またそれらの位置とサイズのリセットも行なえます。

- 「**X オフセット (X offset)**」は構成要素を水平に移動させます。値を増やすと構成要素が右に移動し、減らすと左に移動します。

- 「**Y オフセット (Y offset)**」は構成要素を垂直に移動させます。値を増やすと構成要素が上に移動し、減らすと下に移動します。
- 「**スケール (Scale)**」は構成要素のサイズを変更します。値を増やすと構成要素のサイズが比率に合わせて大きくなり、値を減らすと比率に合わせてサイズが小さくなります。
- 「**X オフセットをリセット (Reset X offset)**」は選択した構成要素の水平位置をリセットします。
- 「**Y オフセットをリセット (Reset Y offset)**」は選択した構成要素の垂直位置をリセットします。
- 「**スケールをリセット (Reset Scale)**」は選択した構成要素のサイズをリセットします。

### 3 要素リスト

アクションバーの対応するボタンをクリックすることで、構成要素の新規作成および既存の要素の編集が行なえます。

- **要素の追加 (Add Component)** 
- **要素の編集 (Edit Component)** 

いずれかのボタンをクリックすると「**コード記号要素の編集 (Edit Chord Symbol Component)**」ダイアログが開き、構成要素を新規作成したり、既存の構成要素を編集したりできます。「**コード記号の外観を編集 (Edit Chord Symbol Appearance)**」ダイアログ内で要素を編集すると、選択したコード記号のみに影響を及ぼします。

関連リンク




[コード記号の外観のプリセット \(1156 ページ\)](#)

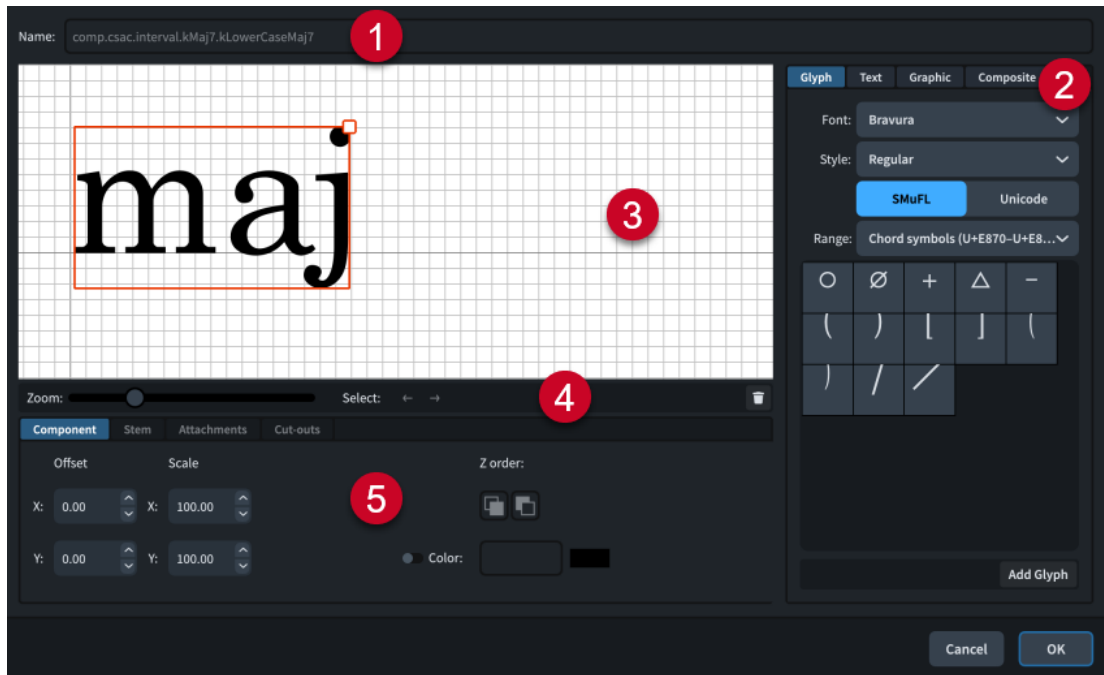
[アイテムの表示位置の移動 \(652 ページ\)](#)

## 「コード記号要素の編集 (Edit Chord Symbol Component)」ダイアログ

「**コード記号要素の編集 (Edit Chord Symbol Component)**」ダイアログでは、プロジェクト全体で特定の要素を使用するすべてのコード記号と、個別のコード記号のインスタンスの両方について、カスタムのコード記号の要素の作成と、既存の要素の編集を行なえます。

「**コード記号要素の編集 (Edit Chord Symbol Component)**」ダイアログを開くには、以下のいずれかの操作を行ないます。

- プロジェクト全体で特定の要素を使用するすべてのコード記号のための要素を編集する場合: 「**プロジェクトにおけるコード記号のデフォルトの外観 (Project Default Chord Symbol Appearances)**」ダイアログを開き、要素リストから編集する要素を選択して、要素リストのアクションバーで「**要素の編集 (Edit Component)**」  をクリックします。要素リスト内の要素をダブルクリックすることもできます。
- プロジェクト全体で特定のコード記号のすべてのインスタンスに使用される要素を新規作成する場合: 「**プロジェクトにおけるコード記号のデフォルトの外観 (Project Default Chord Symbol Appearances)**」ダイアログを開き、要素リストから複製する要素を選択して、要素リストのアクションバーで「**要素の追加 (Add Component)**」  をクリックします。
- 個別のコード記号のインスタンスのみに対する要素を新規作成する場合: 「**コード記号の外観を編集 (Edit Chord Symbol Appearance)**」ダイアログを開き、要素リストから複製する要素を選択して、要素リストのアクションバーで「**要素の追加 (Add Component)**」  をクリックします。



「コード記号要素の編集 (Edit Chord Symbol Component)」ダイアログには以下のセクションがあります。

### 1 名前 (Name)

コード記号の構成要素に対し自動生成された名前が表示されます。この名前は変更できません。

### 2 構成要素セレクター

コード記号の構成要素に追加する要素を選択できます。タイプごとのタブのタイトルをクリックして、さまざまな構成要素を追加できます。

- **グリフ (Glyph):** ♯や♭を追加できます。メニューからさまざまなフォントスタイルまたは太さを選択して、さまざまなスタイルのグリフを使用できます。**SMuFL** または **Unicode** から検索できます。「**グリフを追加 (Add Glyph)**」をクリックして、選択したグリフをコード記号の構成要素に追加します。

補足

すべてのグリフの完全なリストは、SMuFL の Web サイトで参照できます。


- **テキスト (Text):** 数字やその他のテキストが含まれます。数字およびテキストは、利用できる「**プリセットテキスト (Preset text)**」リストから使用するか、メニューからフォントを選択して画面下部のテキストボックスに任意のテキストを入力できます。「**テキストを追加 (Add Text)**」をクリックして、選択または入力したテキストをコード記号の構成要素に追加します。
- **グラフィック (Graphic):** SVG、PNG または JPG 形式で、新規グラフィックファイルを読み込むか、または「**既存から選択 (Select existing)**」リストから既存のグラフィックを選択できます。「**プレビュー (Preview)**」ボックスでグラフィックのプレビューを確認できます。「**グラフィックを追加 (Add Graphic)**」をクリックして、選択したグラフィックをコード記号の構成要素に追加します。
- **組み合わせ (Composite):** リストから組み合わせを選択できます。「**組み合わせを追加 (Add Composite)**」をクリックして、選択した組み合わせをコード記号の構成要素に追加します。

### 3 エディター

コード記号の構成要素を形作る要素の配置と編集を行なます。ダイアログ下部のコントロールを使用して構成要素の配置および編集が行なえます。

### 4 エディターアクションバー

エディターの選択オプションと表示オプションがあります。

- **ズーム (Zoom):** エディターのズームレベルを変更できます。
- **選択 (Select):** 次/前の要素を選択できます。
- **削除 (Delete) **: 選択した要素を削除します。

## 5 コントロール

個々の構成要素を編集できるコントロールが収められています。コントロールは、それが影響する選択した構成要素の性質に従いタブに分けられています。コード記号に対しては、「**要素 (Component)**」タブと「**アタッチメント (Attachments)**」タブを利用できます。

「**要素 (Component)**」タブには以下のオプションがあります。

- **オフセット (Offset):** 選択した要素の位置をコントロールします。「**X**」で水平方向、「**Y**」で垂直方向に移動します。
- **「スケール (Scale)」:** 選択した要素のサイズをコントロールします。グラフィックに対して、「**X**」で幅、「**Y**」で高さをコントロールします。

### 補足

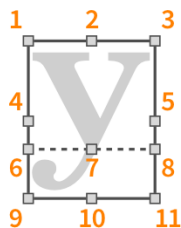
一部の要素は高さや幅を個別に調節できますが、その他の要素は縦横比が保持され、いずれかの値のみで全体のサイズが変わります。

- **「前後の順序 (Z order)」:** 要素が重なった場合、「**前面へ移動 (Bring Forward)**」または「**背面へ移動 (Send Backward)**」を使用してほかの要素に対する選択した要素の前後の順序を入れ替えることができます。
- **カラー (Color):** 選択した要素の色を変更できます。

「**アタッチメント (Attachments)**」タブは、コード記号の構成要素が2つ以上の個別の要素からなる場合のみ利用できます。このタブには以下のオプションがあります。

- **連結元 (Attachment from):** 選択した要素を左側の要素のどこのポイントに連結するかを選択します。「**連結元 (Attachment from)**」は右側のポイントを選択することをおすすめします。
- **連結先 (Attachment to):** 選択した要素のどこのポイントを左側の要素に連結するかを選択します。「**連結先 (Attachment to)**」は左側のポイントを選択することをおすすめします。

グリフおよびグラフィックには8つ、テキストには11の連結ポイントがあります。テキストの方が多いのは、ベースラインより下に伸びる文字用に追加のポイントが必要となるためです。この図の例は、ポイントと要素上の位置の対応を視覚的に把握するためのものです。



「**コード記号要素の編集 (Edit Chord Symbol Component)**」ダイアログでは、アタッチメントポイントに以下の名前が付いています。

- 1 左上 (Top Left)
- 2 中央上 (Top Center)
- 3 右上 (Top Right)
- 4 中央左 (Middle Left)
- 5 中央右 (Middle Right)

- 6 ベースライン左 (Baseline Left) (テキストのみ)
- 7 ベースライン中央 (Baseline Center) (テキストのみ)
- 8 ベースライン右 (Baseline Right) (テキストのみ)
- 9 左下 (Bottom Left)
- 10 中央下 (Bottom Center)
- 11 右下 (Bottom Right)

関連リンク

[コード記号の外観のプリセット \(1156 ページ\)](#)


[「プロジェクトにおけるコード記号のデフォルトの外観 \(Project Default Chord Symbol Appearances\)」ダイアログ \(942 ページ\)](#)

[「コード記号の外観を編集 \(Edit Chord Symbol Appearance\)」ダイアログ \(944 ページ\)](#)

## 個別に上書きされたコード記号をプロジェクトの初期設定として使用する

個別のコード記号のインスタンスの外観に加えた上書きを、そのコード記号に対するプロジェクトのデフォルトの外観に設定できます。

手順

1. 「プロジェクトにおけるコード記号のデフォルトの外観 (Project Default Chord Symbol Appearances)」ダイアログを開くには、「ライブラリー (Library)」 > 「コード記号 (Chord Symbols)」を選択します。
2. 「個別に上書き (Single Overrides)」リストで、プロジェクトのデフォルトに設定する個別の上書きを選択します。
3. 「プロジェクトのデフォルトに設定 (Promote to Project Default)」  をクリックします。

結果

選択したコード記号の設定がプロジェクトの初期設定の外観として使用されるようになります。

補足

この操作は取り消しできません。変更内容を元に戻すには、「プロジェクトのデフォルトの外観 (Project Default Appearances)」リストからコード記号を削除する必要があります。

関連リンク

[カスタムコード記号 \(941 ページ\)](#)

[「プロジェクトにおけるコード記号のデフォルトの外観 \(Project Default Chord Symbol Appearances\)」ダイアログ \(942 ページ\)](#)

[「コード記号の外観を編集 \(Edit Chord Symbol Appearance\)」ダイアログ \(944 ページ\)](#)

## 個別に上書きされたコード記号の外観のリセット

外観を上書きした個別のコード記号のインスタンスの外観をリセットして、そのコード記号に対するプロジェクトのデフォルトの外観に戻すことができます。

手順

1. 「プロジェクトにおけるコード記号のデフォルトの外観 (Project Default Chord Symbol Appearances)」ダイアログを開くには、「ライブラリー (Library)」 > 「コード記号 (Chord Symbols)」を選択します。
2. 「個別に上書き (Single Overrides)」リストで、リセットする個別の上書きを選択します。

3. 「上書きを解除 (Remove Overrides)」  をクリックします。

---

結果

コード記号に対する個別の変更がすべて解除されます。選択したコード記号の外観がプロジェクトの初期設定に戻ります。

## カスタムインストゥルメント

カスタムインストゥルメントを使用すると、必要な設定のインストゥルメントを作成し、複数のプロジェクトで使用できるように保存できます。

カスタムインストゥルメントに使用できる設定には、移調、譜表の数、名前、演奏できる範囲などがあります。

カスタムインストゥルメントは「**インストゥルメントを編集 (Edit Instruments)**」ダイアログ、インストゥルメントファミリーは「**インストゥルメントファミリーを編集 (Edit Instrument Families)**」ダイアログ、インストゥルメントのスコアの順番は「**インストゥルメントのスコアの順番を編集 (Edit Instrument Score Orders)**」ダイアログで作成や編集を行なえます。

インストゥルメントピッカーのカスタムインストゥルメントは、インストゥルメントファミリー別に分類されています。

関連リンク

[インストゥルメント \(143 ページ\)](#)


[インストゥルメントファミリー \(960 ページ\)](#)

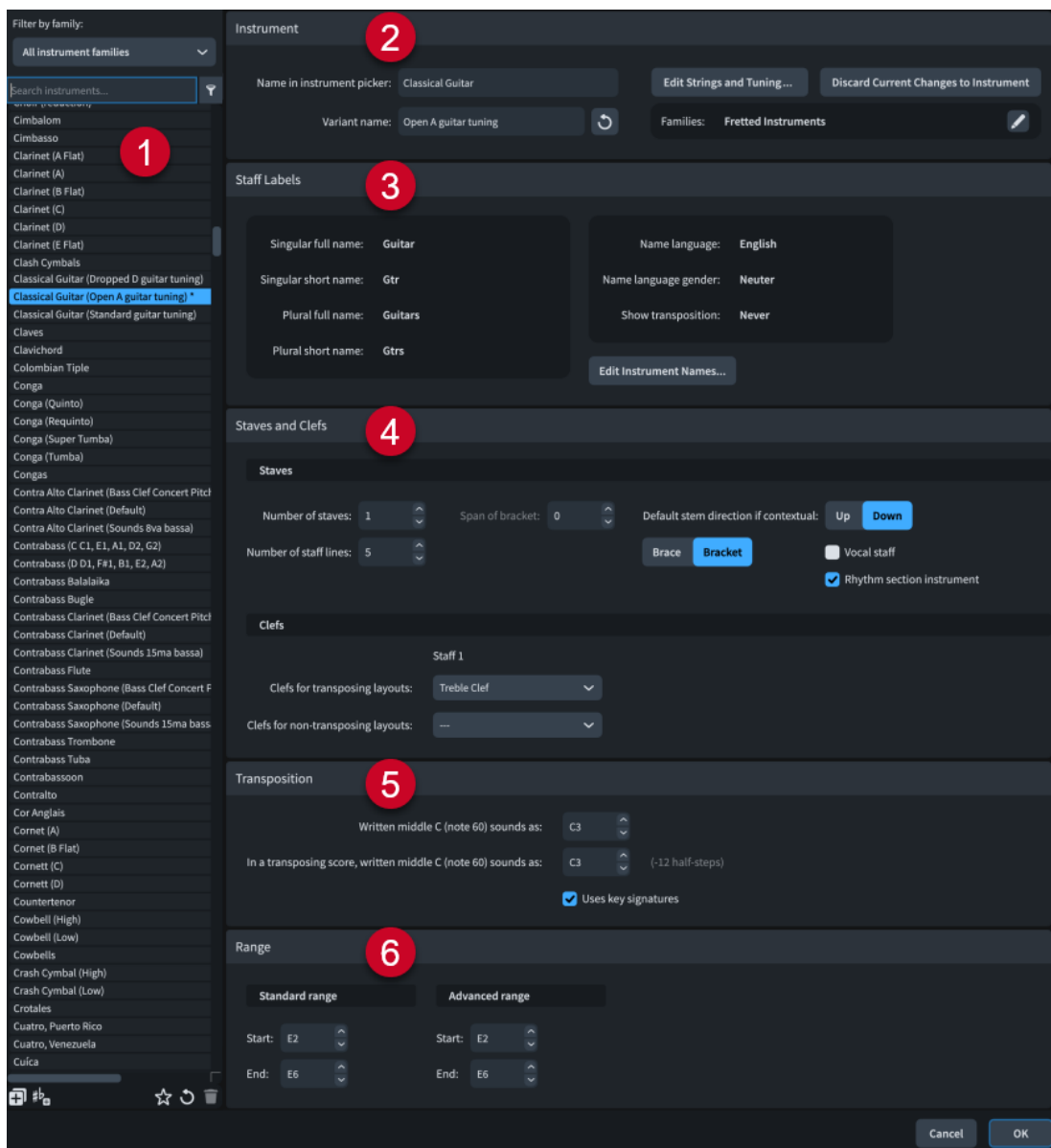
[インストゥルメントのスコアの順番 \(963 ページ\)](#)

## 「インストゥルメントを編集 (Edit Instruments)」ダイアログ

「**インストゥルメントを編集 (Edit Instruments)**」ダイアログでは、既存のインストゥルメントの設定や名前を変更したり、カスタムの定義や名前を使用して新しいインストゥルメントを作成したりできます。変更内容はそれ以降のプロジェクトのデフォルトとして保存できます。

「**インストゥルメントを編集 (Edit Instruments)**」ダイアログを開くには、以下のいずれかの操作を行ないます。

- 「**ライブラリー (Library)**」 > 「**インストゥルメント (Instruments)**」を選択します。
- 特定のインストゥルメントのダイアログを開くには、設定モードの「**プレーヤー (Players)**」パネルでそのインストゥルメントが割り当てられたプレーヤーのカードを展開し、そのインストゥルメントラベルのインストゥルメントメニュー  をクリックして「**インストゥルメントの定義を編集 (Edit Instrument Definition)**」を選択します。




「**インストゥルメントを編集 (Edit Instruments)**」ダイアログには以下のセクションがあります。

## 1 インストゥルメントリスト





選択したインストゥルメントファミリーと検索フィルター (該当する場合) 内のすべてのインストゥルメントが表示されます。

現在のプロジェクト内のインストゥルメントには「(スコア内) ((in score))」と表示されます。「**インストゥルメントを編集 (Edit Instruments)**」ダイアログでインストゥルメントに加えた変更は、プロジェクト内の対応するタイプとバリエーションのすべてのインストゥルメントに影響します。

リストの一番上に以下のオプションがあります。

- **ファミリーでフィルター (Filter by family):** インストゥルメントリストで使用できるインストゥルメントのタイプを選択できます。
- **検索フィールド:** テキストを入力して、選択したインストゥルメントファミリーに含まれているインストゥルメントをフィルタリングできます。
- **プロジェクトのインストゥルメントのみ表示 (Show only project instruments) **: 現在のプロジェクトで使用されているインストゥルメントだけが表示されるように、インストゥルメントリストをフィルタリングできます。

リストの最下部のアクションバーには以下のオプションがあります。

- **選択からインストゥルメントを新規作成 (New Instrument from Selection)** : 既存のインストゥルメントのコピーをベースに新しいインストゥルメントを作成できます。
- **選択からバリエーションを新規作成 (New Variant from Selection)** : 代替の移調など、既存のインストゥルメントの新しいバリエーションを作成できます。
- **デフォルトとして保存 (Save as Default)** : 選択中のインストゥルメントをユーザーライブラリーに保存し、複数のプロジェクトで現在の設定のインストゥルメントを使用できるようにします。デフォルトとして保存したインストゥルメントは  として表示されます。
- **リセット (Reset)** : 選択したインストゥルメントに対して行なったすべての変更を削除し、元の設定に戻します。
- **削除 (Delete)** : 選択したインストゥルメントを削除します。

#### 補足

プリセットのインストゥルメント、またはプロジェクト内で現在使用中のインストゥルメントは削除できません。

## 2 インストゥルメント (Instrument)

このセクションでは、選択したインストゥルメントの識別情報とカテゴリ情報を指定できます。

- **インストゥルメントピッカー名 (Name in instrument picker)**: インストゥルメントピッカーのインストゥルメント列で使用する名前を設定できます。
- **バリエーション名 (Variant name)**: インストゥルメントピッカーのバリエーション列で使用する名前を設定できます。
- **バリエーションの説明をリセット (Reset variant description)** : バリエーション名をデフォルトにリセットします。
- **弦とチューニングを編集 (Edit Strings and Tuning)**: 「弦とチューニングを編集 (Edit Strings and Tuning)」ダイアログを開きます。フレット楽器にのみ使用できます。
- **打楽器の演奏技法を編集 (Edit Percussion Playing Techniques)**: 「打楽器の演奏技法 (Percussion Instrument Playing Techniques)」ダイアログを開きます。プロジェクトに追加していない無音程打楽器にのみ使用できます。
- **打楽器キットを編集 (Edit Percussion Kit)**: 「打楽器キットを編集 (Edit Percussion Kit)」ダイアログを開きます。プロジェクトに追加していない打楽器キットにのみ使用できます。
- **インストゥルメントへの現在の変更を破棄 (Discard Current Changes to Instrument)**: 最後にダイアログを開いてから選択したインストゥルメントに加えたすべての変更を削除します。
- **ファミリー (Families)**: 選択したインストゥルメントが属するインストゥルメントファミリーが表示されます。「編集 (Edit)」  をクリックしてインストゥルメントをインストゥルメントファミリーに追加したりインストゥルメントファミリーから削除したりできます。

#### ヒント

プロジェクトにすでに追加されている打楽器インストゥルメントや打楽器キットは設定モードで編集できます。

## 3 譜表ラベル (Staff Labels)

このセクションには、選択したインストゥルメントのすべてのインストゥルメント名と関連する設定が表示されます。

「インストゥルメント名を編集 (Edit Instrument Names)」をクリックして「インストゥルメント名を編集 (Edit Instrument Names)」ダイアログを開くことができます。

## 4 譜表と音部記号 (Staves and Clefs)



「**譜表 (Staves)**」サブセクションでは、選択したインストゥルメントに対して以下のオプションを使用できます。

- **譜表の数 (Number of staves):** 譜表のデフォルトの数を設定できます。最大値は3です。
- **譜表線の数 (Number of staff lines):** 各譜表に使用する譜表線の数を設定できます。

#### 補足

音部記号は譜表線の数に関係なく、第1線に対して相対的に配置されます。たとえば、一線譜とト音記号を使用した有音程楽器の場合、1本の譜表線がミドルCの上のEとして扱われます。

- **大括弧のスパン (Span of bracket):** 一番上の譜表から下へと中括弧/大括弧でくくる譜表の数を設定できます。2つ以上の譜表を使用するように設定されたインストゥルメントでのみ使用できます。
- **結合タイプ:** 譜表を中括弧と大括弧のどちらで結合するかのデフォルト設定を変更できます。
- **譜表の第3線にある音符の符尾のデフォルトの向き (Default stem direction if contextual):** 符尾の向きの動作が前後関係によって決まる場合、第3線の音符の符尾が上向きになるか下向きになるかを変更できます。
- **声楽の譜表 (Vocal staff):** インストゥルメントを声楽のインストゥルメントとして定義できます。声楽の譜表は小節線で結合されず、強弱記号は自動的にその上に配置されます。
- **リズムセクションのインストゥルメント (Rhythm section instrument):** インストゥルメントをリズムセクションとして定義できます。これは、その譜表にコード記号が表示されるタイミングに影響する場合があります。

「**音部記号 (Clefs)**」サブセクションでは、実音/移調音のレイアウトで各譜表に使用する音部記号を個別に選択できます。

## 5 移調 (Transposition)

このセクションには、選択したインストゥルメントの移調と調号のオプションがあります。無音程打楽器には使用できません。

- **記譜上のミドルC (ノート 60) の実際の発音 (Written middle C (note 60) sounds as):** 実音のレイアウトのオクターブの移調を設定できます。
- **移調スコアにおけるミドルC (ノート 60) の発音 (In a transposing score, written middle C (note 60) sounds as):** 移調音のレイアウトの移調を設定できます。
- **調号を使用 (Uses key signatures):** インストゥルメントに調号を表示するかどうかを設定できます。たとえば、通常、ティンパニの譜表には調号を使用しません。

## 6 音域 (Range)

このセクションでは、ミドルCのナンバリング変換設定に応じて、選択したインストゥルメントで標準的な演奏者と上級奏者が演奏できるピッチ範囲をそれぞれ設定できます。

設定した音域によって、どの音符が音域外と見なされるかが決まります。

関連リンク

[インストゥルメント \(143 ページ\)](#)

[インストゥルメントピッカー \(124 ページ\)](#)

[プレーヤーパネル \(121 ページ\)](#)

[プレーヤーへのインストゥルメントの追加 \(146 ページ\)](#)

[「インストゥルメントファミリーを編集 \(Edit Instrument Families\)」ダイアログ \(960 ページ\)](#)

[「インストゥルメントのスコアの順番を編集 \(Edit Instrument Score Orders\)」ダイアログ \(964 ページ\)](#)

[「弦とチューニングを編集 \(Edit Strings and Tuning\)」ダイアログ \(169 ページ\)](#)

[「打楽器の演奏技法 \(Percussion Instrument Playing Techniques\)」ダイアログ \(1840 ページ\)](#)

[「打楽器キットを編集 \(Edit Percussion Kit\)」ダイアログ \(157 ページ\)](#)



- 「インストゥルメント名を編集 (Edit Instrument Names)」ダイアログ (207 ページ)
- プレーヤー名、レイアウト名、インストゥルメント名 (203 ページ)
- 譜表ラベルにインストゥルメント名/プレーヤー名を表示する (1689 ページ)
- 大括弧と中括弧 (1140 ページ)
- カスタムの譜表のグループ化 (1148 ページ)
- デフォルトの小節線の結合を変更する (1090 ページ)
- 譜表の第 3 線上にある音符のデフォルトの符尾方向を変更する (1418 ページ)
- コード記号を表示/非表示にする (1157 ページ)
- ミドル C のナンバリング変換を変更する (55 ページ)
- 音域外の音符のカラーを表示/非表示にする (1403 ページ)


## カスタムインストゥルメントの作成

移調、名前、譜表、演奏できる音域などのさまざまな設定を使用してカスタムインストゥルメントを作成できます。カスタムインストゥルメントをデフォルトとして保存することで、複数のプロジェクトで使用できるようになります。

---



### 手順

1. 「ライブラリー (Library)」 > 「インストゥルメント (Instruments)」を選択して「インストゥルメントを編集 (Edit Instruments)」ダイアログを開きます。
2. インストゥルメントリストで、新しいインストゥルメントのベースとして複製するインストゥルメントを選択します。
3. アクションバーで「選択からインストゥルメントを新規作成 (New Page Template Set)」をクリックします。
4. 「インストゥルメント (Instrument)」セクションで、以下のフィールドに必要な情報を入力します。
  - インストゥルメントピッカー名 (Name in instrument picker)
  - バリエーション名 (Variant name)
5. 新しいインストゥルメントが属するインストゥルメントファミリーを変更するには、「編集 (Edit)」をクリックし、インストゥルメントファミリーのチェックボックスをオン/オフにします。
6. 「譜表ラベル (Staff Labels)」セクションで、「インストゥルメント名を編集 (Edit Instrument Names)」をクリックして「インストゥルメント名を編集 (Edit Instrument Names)」ダイアログを開きます。
7. いずれかの名前フィールドに新しい名前を入力します。
8. 「移調を表示 (Show transposition)」で以下のいずれかのオプションを選択します。
  - 常に表示 (Always)
  - レイアウトオプションに従う (Follow Layout Options)
  - 常に非表示 (Never)
9. 「OK」をクリックして変更内容を保存し、「インストゥルメント名を編集 (Edit Instrument Names)」ダイアログを閉じます。
10. 「譜表と音部記号 (Staves and Clefs)」セクションの「譜表 (Staves)」サブセクションで、以下のオプションのいずれかまたは両方を変更します。
  - 譜表の数 (Number of staves)
  - 譜表線の数 (Number of staff lines)
11. インストゥルメントに 2 つ以上の譜表がある場合、大括弧/中括弧で結合する譜表を変更するには、「大括弧のスパン (Span of bracket)」の値を変更します。
12. インストゥルメントに 2 つ以上の譜表がある場合、以下のいずれかの結合タイプを選択します。

- 中括弧 (ブレイス) (Brace)
  - 大括弧 (ブラケット) (Bracket)
13. 「**譜表の第3線にある音符の符尾のデフォルトの向き (Default stem direction if contextual)**」で以下のいずれかのオプションを選択します。
- 上 (Up)
  - 下 (Down)
14. 以下のオプションのいずれかまたは両方をオン/オフにします。
- インストゥルメントを声楽のインストゥルメントとして定義するには、「**声楽の譜表 (Vocal staff)**」をオンにします。
  - インストゥルメントをリズムセクションのインストゥルメントとして定義するには、「**リズムセクションのインストゥルメント (Rhythm section instrument)**」をオンにする。
15. 「**音部記号 (Clefs)**」サブセクションで、各譜表に使用する音部記号を以下のメニューから選択します。
- **移調レイアウトの音部記号 (Clefs for transposing layouts)**
  - **移調レイアウトではないレイアウトの音部記号 (Clefs for non-transposing layouts)**
16. 「**移調 (Transposition)**」セクションで、以下の操作を行ないます。
- 実音のレイアウトでオクターブの移調を変更するには、「**記譜上のミドル C (ノート 60) の実際の発音 (Written middle C (note 60) sounds as)**」のピッチを変更します。
  - 移調音のレイアウトで移調を変更するには、「**移調スコアにおけるミドル C (ノート 60) の発音 (In a transposing score, written middle C (note 60) sounds as)**」のピッチを変更します。
17. 「**調号を使用 (Uses key signatures)**」をオン/オフにします。
18. 「**音域 (Range)**」セクションで、必要に応じてピッチの範囲を変更します。
19. インストゥルメントをそれ以降のすべてのプロジェクトで使用できるようにするには、インストゥルメントリストのアクションバーにある「**デフォルトとして保存 (Save as Default)**」をクリックします。
20. 「**OK**」をクリックして変更内容を保存し、「**インストゥルメントを編集 (Edit Instruments)**」ダイアログを閉じます。
- 

#### 結果

現在のプロジェクトに新しいインストゥルメントが作成されます。

「**デフォルトとして保存 (Save as Default)**」をクリックしてとした場合は、これ以降のコンピューター上のすべてのプロジェクトでそのインストゥルメントを使用できるようになります。

#### 手順終了後の項目

- カスタムインストゥルメントをプレーヤーに追加することで、そのインストゥルメントをプロジェクト内で使用できます。
- カスタムインストゥルメントをインストゥルメントファミリーに追加することで、そのインストゥルメントの大括弧のグループ化や組段オブジェクトの位置を定義できます。
- カスタムインストゥルメントをインストゥルメントのスコアの順番に追加することで、スコア上のデフォルトの位置を定義できます。

#### 関連リンク

[譜表ラベル \(1684 ページ\)](#)

[プレーヤー名、レイアウト名、インストゥルメント名 \(203 ページ\)](#)

[「インストゥルメント名を編集 \(Edit Instrument Names\)」ダイアログ \(207 ページ\)](#)

[「弦とチューニングを編集 \(Edit Strings and Tuning\)」ダイアログ \(169 ページ\)](#)

- 「打楽器キットを編集 (Edit Percussion Kit)」ダイアログ (157 ページ)
- インストゥルメントファミリー (960 ページ)
- インストゥルメントのスコアの順番 (963 ページ)
- 符尾の方向 (1416 ページ)
- 音域外の音符のカラーを表示/非表示にする (1403 ページ)
- プレーヤーの追加 (136 ページ)
- プレーヤーへのインストゥルメントの追加 (146 ページ)

## カスタム打楽器キットの作成

カスタム打楽器キットを作成し、デフォルトとして保存することで、これを複数のプロジェクトで使用できるようになります。たとえば、一貫した打楽器セクションを持つコンサートバンドの楽譜を頻繁に作成する場合などに便利です。



---

### 手順

1. 「ライブラリー (Library)」 > 「インストゥルメント (Instruments)」を選択して「インストゥルメントを編集 (Edit Instruments)」ダイアログを開きます。
2. インストゥルメントリストで、新しい打楽器キットのベースとして複製する打楽器キットを選択します。


### ヒント

打楽器キットには、「インストゥルメント (Instrument)」セクションで使用できる「打楽器キットを編集 (Edit Percussion Kit)」ボタンがあります。

3. アクションバーで「選択からインストゥルメントを新規作成 (New Page Template Set)」をクリックします。
4. 「インストゥルメント (Instrument)」セクションで、「インストゥルメントピッカー名 (Name in instrument picker)」フィールドに打楽器キットのインストゥルメントピッカー名を入力します。
5. 新しい打楽器キットが属するインストゥルメントファミリーを変更するには、「編集 (Edit)」をクリックし、インストゥルメントファミリーのチェックボックスをオン/オフにします。
6. 「打楽器キットを編集 (Edit Percussion Kit)」をクリックして「打楽器キットを編集 (Edit Percussion Kit)」ダイアログを開きます。
7. 以下のフィールドに打楽器キットの名前を入力します。
  - 名前 (Name)
  - 略称 (Short name)
8. 使用できるオプションを使用して打楽器キットを編集します。



たとえば、以下のような操作を行なえます。

  - インストゥルメントの追加/削除と順番の変更。
  - インストゥルメントの符尾の方向と声部の変更。
  - グリッド表示タイプへのグループと間隔の追加。
9. 「OK」をクリックして変更内容を保存し、「打楽器キットを編集 (Edit Percussion Kit)」ダイアログを閉じます。
10. 「譜表ラベル (Staff Labels)」セクションで、「インストゥルメント名を編集 (Edit Instrument Names)」をクリックして「インストゥルメント名を編集 (Edit Instrument Names)」ダイアログを開きます。
11. いずれかの名前フィールドに新しい名前を入力します。
12. 「移調を表示 (Show transposition)」で以下のいずれかのオプションを選択します。

- 常に表示 (Always)
  - レイアウトオプションに従う (Follow Layout Options)
  - 常に非表示 (Never)
13. 「OK」をクリックして変更内容を保存し、「**インストゥルメント名を編集 (Edit Instrument Names)**」ダイアログを閉じます。
  14. 「**譜表と音部記号 (Staves and Clefs)**」セクションで、「**譜表線の数 (Number of staff lines)**」の値を変更します。  
たとえば、打楽器キットが五線譜表示を使用しているときに、1本の譜表線のみを表示したい場合などです。
  15. 打楽器キットをそれ以降のすべてのプロジェクトで使用できるようにするには、インストゥルメントリストのアクションバーにある「**デフォルトとして保存 (Save as Default)**」をクリックします。
  16. 「OK」をクリックして変更内容を保存し、「**インストゥルメントを編集 (Edit Instruments)**」ダイアログを閉じます。
- 

#### 結果

現在のプロジェクトに新しい打楽器キットが作成されます。

「**デフォルトとして保存 (Save as Default)**」をクリックしてとした場合は、これ以降のコンピューター上のすべてのプロジェクトでその打楽器キットを使用できるようになります。

#### 関連リンク


- [「打楽器キットを編集 \(Edit Percussion Kit\)」ダイアログ \(157 ページ\)](#)
- [打楽器キットへのインストゥルメントの追加 \(161 ページ\)](#)
- [打楽器キットをドラムセットとして定義 \(162 ページ\)](#)
- [グリッド表示の打楽器キット内でのインストゥルメントグループの作成 \(164 ページ\)](#)
- [打楽器グリッドの線の間隔の変更 \(166 ページ\)](#)
- [打楽器キットの表示タイプ \(1848 ページ\)](#)

## インストゥルメントの譜表の数を変更する

各インストゥルメントに使用される譜表のデフォルトの数を変更したり、譜表を大括弧と中括弧のどちらで結合するかを設定したり、大括弧/中括弧のスパンを設定したりできます。たとえば、通常、オルガンには上の2つの譜表だけが中括弧で結合された3つの譜表が必要です。

---

#### 手順

1. 「**ライブラリー (Library)**」 > 「**インストゥルメント (Instruments)**」を選択して「**インストゥルメントを編集 (Edit Instruments)**」ダイアログを開きます。
2. インストゥルメントリストで、譜表の数を変更するインストゥルメントを選択します。
3. 「**譜表と音部記号 (Staves and Clefs)**」セクションで、「**譜表の数 (Number of staves)**」の値を変更します。
4. 2つ以上の譜表があるインストゥルメントの場合、大括弧/中括弧で結合する譜表を変更するには、「**大括弧のスパン (Span of bracket)**」の値を変更します。
5. 2つ以上の譜表があるインストゥルメントの場合、以下のいずれかの結合タイプを選択します。
  - 中括弧 (ブレイス) (Brace)
  - 大括弧 (ブラケット) (Bracket)
6. 変更内容をそれ以降のすべてのプロジェクトで選択したインストゥルメントのデフォルトにするには、インストゥルメントリストのアクションバーにある「**デフォルトとして保存 (Save as Default)**」をクリックします。

7. 「OK」をクリックして変更内容を保存し、ダイアログを閉じます。
- 

関連リンク

[大括弧と中括弧 \(1140 ページ\)](#)


[アンサンブルタイプによる大括弧でのグループ化 \(1143 ページ\)](#)

[レイアウトごとの垂直方向のスペーシングオプション \(776 ページ\)](#)

## インストゥルメントの代替の移調を作成する


B $\flat$ のクラリネットやAのクラリネットなど、代替の移調を持つ既存のインストゥルメントのバリエーションを作成できます。インストゥルメントのバリエーションはインストゥルメントピッカーのバリエーション列に表示されます。

手順

1. 「ライブラリー (Library)」 > 「インストゥルメント (Instruments)」を選択して「インストゥルメントを編集 (Edit Instruments)」ダイアログを開きます。
2. インストゥルメントリストで、代替の移調を作成するインストゥルメントを選択します。
3. アクションバーで「選択からバリエーションを新規作成 (New Variant from Selection)」をクリックします。
4. 「移調 (Transposition)」セクションで、「移調スコアにおけるミドル C (ノート 60) の発音 (In a transposing score, written middle C (note 60) sounds as)」のピッチを変更します。



ヒント

「インストゥルメント (Instrument)」セクションの「バリエーション名 (Variant name)」は、設定した移調に従って自動的に更新されます。

5. 「音域 (Range)」セクションで、必要に応じてピッチの範囲を変更します。
6. 「譜表ラベル (Staff Labels)」セクションで、「インストゥルメント名を編集 (Edit Instrument Names)」をクリックして「インストゥルメント名を編集 (Edit Instrument Names)」ダイアログを開きます。
7. いずれかの名前フィールドに新しい名前を入力します。
8. 「移調を表示 (Show transposition)」で以下のいずれかのオプションを選択します。
  - 常に表示 (Always)
  - レイアウトオプションに従う (Follow Layout Options)
  - 常に非表示 (Never)
9. 「OK」をクリックして変更内容を保存し、「インストゥルメント名を編集 (Edit Instrument Names)」ダイアログを閉じます。
10. インストゥルメントのバリエーションをそれ以降のすべてのプロジェクトで使用できるようにするには、インストゥルメントリストのアクションバーにある「デフォルトとして保存 (Save as Default)」をクリックします。
11. 「OK」をクリックして変更内容を保存し、「インストゥルメントを編集 (Edit Instruments)」ダイアログを閉じます。

結果

設定した移調と譜表ラベルを持つ新しいインストゥルメントのバリエーションが作成されます。

「デフォルトとして保存 (Save as Default)」 をクリックして  とした場合は、これ以降のコンピューター上のすべてのプロジェクトでそのインストゥルメントのバリエーションを使用できるようになります。

関連リンク

[移調楽器 \(146 ページ\)](#)

[「インストゥルメント名を編集 \(Edit Instrument Names\)」ダイアログ \(207 ページ\)](#)

[譜表ラベルのインストゥルメントの移調を表示/非表示にする \(1690 ページ\)](#)


[音域外の音符のカラーを表示/非表示にする \(1403 ページ\)](#)

[インストゥルメントピッカー \(124 ページ\)](#)

## 代替チューニングでフレット楽器を作成する

ドロップ D や DADGAD など、代替チューニングを持つ既存のフレット楽器のバリエーションを作成できます。インストゥルメントのバリエーションはインストゥルメントピッカーのバリエーション列に表示されます。


手順

1. 「ライブラリー (Library)」 > 「インストゥルメント (Instruments)」を選択して「インストゥルメントを編集 (Edit Instruments)」ダイアログを開きます。
2. インストゥルメントリストで、代替チューニングを作成するフレット楽器を選択します。
3. アクションバーで「選択からバリエーションを新規作成 (New Variant from Selection)」 をクリックします。
4. 「インストゥルメント (Instrument)」セクションで、「弦とチューニングを編集 (Edit Strings and Tuning)」をクリックして「弦とチューニングを編集 (Edit Strings and Tuning)」ダイアログを開きます。
5. 以下のいずれかの操作を行ないます。
  - 使用するチューニングを「互換性のあるプリセットチューニング (Compatible preset tunings)」メニューから選択します。
  - 弦の開放弦のピッチを個別に変更します。
6. 「OK」をクリックして変更内容を保存し、「弦とチューニングを編集 (Edit Strings and Tuning)」ダイアログを閉じます。

ヒント

「インストゥルメント (Instrument)」セクションの「バリエーション名 (Variant name)」は、設定したチューニングに従って自動的に更新されます。



7. 「譜表ラベル (Staff Labels)」セクションで、「インストゥルメント名を編集 (Edit Instrument Names)」をクリックして「インストゥルメント名を編集 (Edit Instrument Names)」ダイアログを開きます。
8. いずれかの名前フィールドに新しい名前を入力します。
9. 「移調を表示 (Show transposition)」で以下のいずれかのオプションを選択します。
  - 常に表示 (Always)
  - レイアウトオプションに従う (Follow Layout Options)
  - 常に非表示 (Never)
10. 「OK」をクリックして変更内容を保存し、「インストゥルメント名を編集 (Edit Instrument Names)」ダイアログを閉じます。
11. 「音域 (Range)」セクションで、必要に応じてピッチの範囲を変更します。

12. チューニングのバリエーションをそれ以降のすべてのプロジェクトで使用できるようにするには、インストゥルメントリストのアクションバーにある「**デフォルトとして保存 (Save as Default)**」をクリックします。
13. 「**OK**」をクリックして変更内容を保存し、「**インストゥルメントを編集 (Edit Instruments)**」ダイアログを閉じます。

---

#### 結果

設定したチューニングと譜表ラベルを持つ新しいフレット楽器のバリエーションが作成されます。

「**デフォルトとして保存 (Save as Default)**」をクリックしてとした場合は、これ以降のコンピューター上のすべてのプロジェクトでそのインストゥルメントのバリエーションを使用できるようになります。

#### 関連リンク

- [フレット楽器のチューニング \(168 ページ\)](#)
- [「弦とチューニングを編集 \(Edit Strings and Tuning\)」ダイアログ \(169 ページ\)](#)
- [インストゥルメントピッカー \(124 ページ\)](#)
- [フレット楽器の開放弦のピッチの変更 \(171 ページ\)](#)
- [フレット楽器の移調を変更する \(177 ページ\)](#)

## インストゥルメントファミリー

インストゥルメントファミリーとは、類似のインストゥルメントのカテゴリーで、通常、スコア上では譜表が大括弧でくくられます。たとえば、バイオリンとチェロは弦楽器ファミリー、フルートとオーボエは木管楽器ファミリーです。

Dorico Pro では、インストゥルメントファミリーはデフォルトでどの譜表が大括弧でくくられるか、組段オブジェクトが表示される場所、スコア内の譜表の順番に影響します。インストゥルメントファミリーは、インストゥルメントピッカーのインストゥルメントを整理するのにも使用されます。

各インストゥルメントは少なくとも1つのインストゥルメントファミリーに含まれている必要がありますが、複数のインストゥルメントファミリーに含めることもできます。たとえば、電子ピアノは「**電子楽器 (Electronics)**」インストゥルメントファミリーと「**キーボード (Keyboards)**」インストゥルメントファミリーの両方に表示されます。

カスタムインストゥルメントファミリーの作成や編集は、「**インストゥルメントファミリーを編集 (Edit Instrument Families)**」ダイアログで行なえます。

インストゥルメントファミリー同士の相対的な位置を決めるには、インストゥルメントのスコアの順番を作成して編集し、それをプロジェクトに適用します。

#### 関連リンク

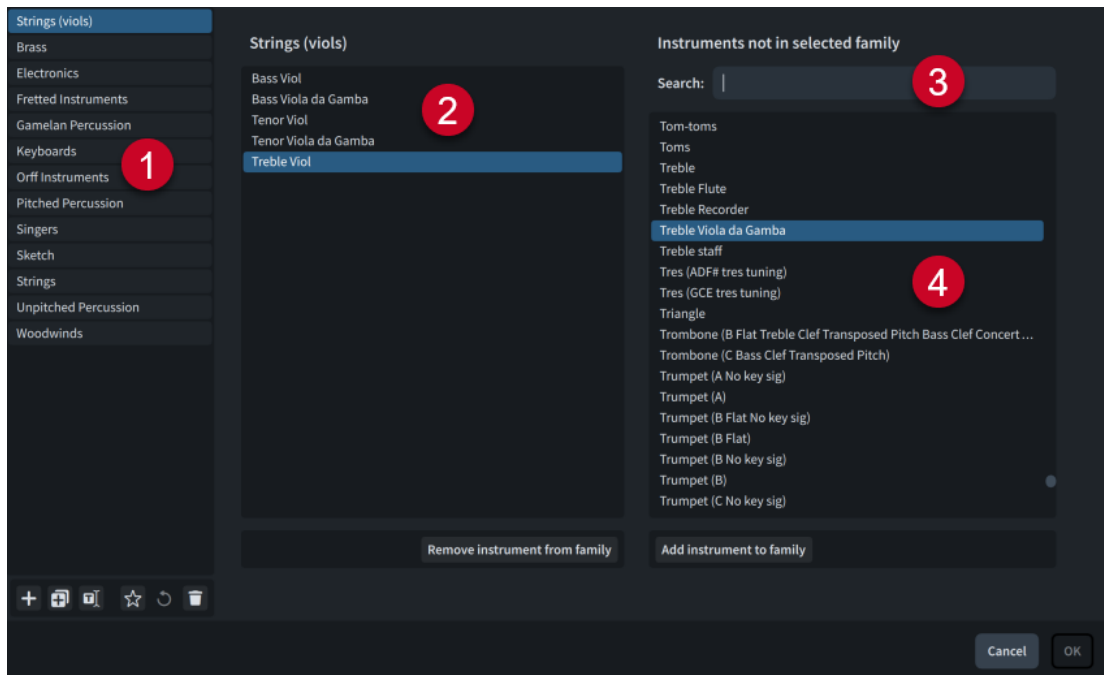
- [アンサンブルタイプによる大括弧でのグループ化 \(1143 ページ\)](#)
- [組段オブジェクト \(1717 ページ\)](#)
- [インストゥルメントピッカー \(124 ページ\)](#)
- [カスタムインストゥルメント \(950 ページ\)](#)
- [インストゥルメントのスコアの順番 \(963 ページ\)](#)
- [デフォルトのプレーヤーの順番の変更 \(137 ページ\)](#)
- [再生テンプレート \(701 ページ\)](#)

## 「インストゥルメントファミリーを編集 (Edit Instrument Families)」ダイアログ

「**インストゥルメントファミリーを編集 (Edit Instrument Families)**」ダイアログでは、プロジェクトのすべてのインストゥルメントファミリーに含まれるインストゥルメントを変更できるほか、カスタムインストゥルメントファミリーの追加、編集、削除を行なえます。変更内容はそれ以降のプロジェクトのデフォルトとして保存できます。



- 「**インストゥルメントファミリーを編集 (Edit Instrument Families)**」ダイアログは、「**ライブラリー (Library)**」 > 「**インストゥルメントファミリー (Instrument Families)**」を選択すると開きます。



「**インストゥルメントファミリーを編集 (Edit Instrument Families)**」ダイアログは以下で構成されます。

## 1 インストゥルメントファミリーリスト

プロジェクト内のすべてのインストゥルメントファミリーが表示されます。

リストの最下部のアクションバーには以下のオプションがあります。

- **新規インストゥルメントファミリー (New Instrument Family)** : 新しい空のインストゥルメントファミリーを追加します。
- **選択から新規作成 (New from Selection)** : 既存のインストゥルメントファミリーのコピーを作成し、元のものとは別の設定に編集できます。
- **名前を変更 (Rename)** : 選択したインストゥルメントファミリーの名前を変更できます。
- **デフォルトとして保存 (Save as Default)** : 選択中のインストゥルメントファミリーをユーザーライブラリーに保存し、複数のプロジェクトで使用できるようにします。デフォルトとして保存したインストゥルメントファミリーは  として表示されます。
- **リセット (Reset)** : 選択したインストゥルメントファミリーに対して行なった変更を削除し、元の設定に戻します。
- **削除 (Delete)** : 選択したインストゥルメントファミリーを削除します。

補足

出荷時のデフォルトのインストゥルメントファミリーを削除することはできません。

## 2 選択したファミリー内のインストゥルメント

選択したインストゥルメントファミリー内のインストゥルメントが表示され、インストゥルメントファミリーからインストゥルメントを削除できます。

#### 補足

各インストゥルメントは少なくとも1つのインストゥルメントファミリーに属している必要があります。そのため、他のどのインストゥルメントファミリーにも属していないインストゥルメントは削除できません。

### 3 「検索 (Search)」 フィールド

テキストを入力して、選択したインストゥルメントファミリーに含まれていないインストゥルメントをフィルタリングできます。

### 4 選択したファミリーに含まれていないインストゥルメント (Instruments not in selected family)

選択したインストゥルメントファミリーに含まれていない、コンピューター上の使用できるインストゥルメントが表示され、インストゥルメントファミリーにインストゥルメントを追加できます。

複数のインストゥルメントを選択するには、以下のいずれかの操作を行ないます。

- **[Ctrl]/[command]** を押しながら個別のインストゥルメントをクリックします。
- **[Shift]** を押しながら隣接するインストゥルメントをクリックします。

#### 補足

「**インストゥルメントファミリーを編集 (Edit Instrument Families)**」ダイアログにはインストゥルメントがアルファベット順に表示されます。これはインストゥルメントのスコアの順番には影響しません。

#### 関連リンク

[インストゥルメントのスコアの順番 \(963 ページ\)](#)

[デフォルトのプレーヤーの順番の変更 \(137 ページ\)](#)

[インストゥルメントピッカー \(124 ページ\)](#)




## カスタムインストゥルメントファミリーの作成


お使いのコンピューターで使用できるすべてのインストゥルメントを含むカスタムインストゥルメントファミリーを作成できます。これにより、たとえばカスタムインストゥルメントの大括弧によるグループ化を定義できます。カスタムインストゥルメントファミリーをデフォルトとして保存することで、複数のプロジェクトで使用できるようになります。

#### 前提条件

追加するカスタムインストゥルメントを作成しておきます。



#### 手順

1. 「**ライブラリー (Library)**」 > 「**インストゥルメントファミリー (Instrument Families)**」を選択して「**インストゥルメントファミリーを編集 (Edit Instrument Families)**」ダイアログを開きます。
2. 以下のいずれかの操作を行なって、新しいインストゥルメントファミリーを作成します。
  - 新しい空のインストゥルメントファミリーを作成するには、インストゥルメントファミリーリストのアクションバーで「**新規 (New)**」  をクリックします。
  - 既存のインストゥルメントファミリーのコピーを作成する場合は、インストゥルメントファミリーリストからコピーするインストゥルメントファミリーを選択し、アクションバーの「**選択から新規作成 (New from Selection)**」  をクリックします。
3. 「**名前を変更 (Rename)**」  をクリックしてインストゥルメントファミリー名のテキストフィールドを開きます。
4. インストゥルメントファミリーの新しい名前を入力するか、既存の名前を編集します。

5. **[Return]** を押します。
  6. 以下のいずれかの操作を行なって、インストゥルメントファミリーに含めるインストゥルメントを変更します。
    - インストゥルメントをインストゥルメントファミリーに追加するには、「**選択したファミリーに含まれていないインストゥルメント (Instruments not in selected family)**」リストで追加するインストゥルメントを選択し、アクションバーの「**インストゥルメントをファミリーに追加 (Add instrument to family)**」をクリックします。
- 
- ヒント
- 「**検索 (Search)**」フィールドにインストゥルメント名を入力すると、リストをフィルタリングできます。
- 
- インストゥルメントをインストゥルメントファミリーから削除するには、**選択したファミリー内のインストゥルメント**リストで削除するインストゥルメントを選択し、アクションバーの「**ファミリーからインストゥルメントを削除 (Remove instrument from family)**」をクリックします。
7. インストゥルメントファミリーをそれ以降のすべてのプロジェクトで使用できるようにするには、インストゥルメントファミリーリストのアクションバーにある「**デフォルトとして保存 (Save as Default)**」をクリックします。
  8. 「**OK**」をクリックして変更内容を保存し、ダイアログを閉じます。

#### 結果

新しいカスタムインストゥルメントファミリーがプロジェクトに追加されます。たとえば、インストゥルメントピッカーのインストゥルメントファミリー列に表示されます。

「**デフォルトとして保存 (Save as Default)**」をクリックしてとした場合は、これ以降のコンピューター上のすべてのプロジェクトでカスタムのインストゥルメントファミリーを使用できるようになります。

#### 手順終了後の項目

スコア上のインストゥルメントファミリーの垂直位置を定義するには、インストゥルメントのスコアの順番を作成して編集します。

#### 関連リンク

[カスタムのインストゥルメントのスコアの順番を作成する \(965 ページ\)](#)

## インストゥルメントのスコアの順番

インストゥルメントのスコアの順番は、プロジェクト全体のすべてのレイアウトの譜表のデフォルトの順番を決定します。楽譜の前後関係に応じて、一般的な表記規則が異なることがあります。たとえば、オーケストラのスコアでは、通常、打楽器の譜表は弦楽器の上に表示されますが、吹奏楽やコンサートバンドのスコアでは弦楽器の下に表示されます。

カスタムインストゥルメントのスコアの順番は、「**インストゥルメントのスコアの順番を編集 (Edit Instrument Score Orders)**」ダイアログで作成や編集を行なえます。カスタムインストゥルメントファミリーを作成している場合は、それらをインストゥルメントのスコアの順番に含めることができます。

プロジェクトに適用されているインストゥルメントのスコアの順番は設定モードで変更できます。これにより、すべてのプレーヤーが最初に割り当てられていたインストゥルメントに従ってソートされます。

Dorico Pro の初期設定では、以下のインストゥルメントのスコアの順番が用意されています。

### バンド (Band)

一般に認められた吹奏楽/コンサートバンドの順番に従ってプレーヤーがソートされます。たとえば、弦楽器は金管楽器と打楽器の間に配置されます。

### ジャズ (Jazz)

一般に認められたジャズの順番に従ってプレーヤーがソートされます。たとえば、トランペットはホルンの上に、有音程打楽器はギターの上に配置されます。

### オーケストラ (Orchestral)

一般に認められたオーケストラの順番に従ってプレーヤーがソートされます。たとえば、木管楽器は金管楽器や弦楽器の上に配置されます。

#### 関連リンク

[インストゥルメントファミリー \(960 ページ\)](#)

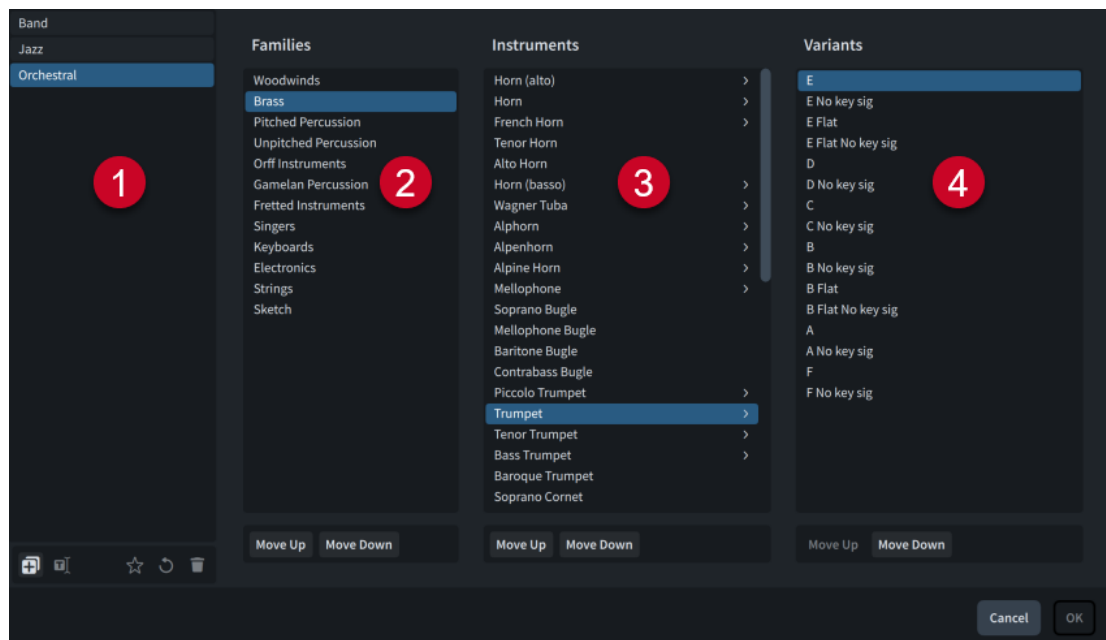
[プレーヤーパネル \(121 ページ\)](#)

[デフォルトのプレーヤーの順番の変更 \(137 ページ\)](#)

## 「インストゥルメントのスコアの順番を編集 (Edit Instrument Score Orders)」ダイアログ

「インストゥルメントのスコアの順番を編集 (Edit Instrument Score Orders)」ダイアログでは、プロジェクトのすべてのインストゥルメントのスコアの順番に含まれるインストゥルメントの順番を変更できるほか、カスタムのインストゥルメントのスコアの順番の追加、編集、削除を行なえます。変更内容はそれ以降のプロジェクトのデフォルトとして保存できます。

- 「インストゥルメントのスコアの順番を編集 (Edit Instrument Score Orders)」ダイアログは、「ライブラリー (Library)」 > 「インストゥルメントのスコアの順番 (Instrument Score Orders)」を選択すると開きます。









「インストゥルメントのスコアの順番を編集 (Edit Instrument Score Orders)」ダイアログは以下で構成されます。

### 1 インストゥルメントのスコアの順番リスト

プロジェクト内のすべてのインストゥルメントのスコアの順番が表示されます。

リストの最下部のアクションバーには以下のオプションがあります。

- **選択から新規作成 (New from Selection)** : 既存のインストゥルメントのスコアの順番のコピーを作成し、元のものとは別の設定に編集できます。
- **名前を変更 (Rename)** : 選択したインストゥルメントのスコアの順番の名前を変更できます。
- **デフォルトとして保存 (Save as Default)** : 選択中のインストゥルメントのスコアの順番をユーザーライブラリーに保存し、複数のプロジェクトで使用できるようにします。デフォルトとして保存したインストゥルメントのスコアの順番は  として表示されます。
- **リセット (Reset)** : 選択したインストゥルメントのスコアの順番に対して行なった変更を削除し、元の設定に戻します。
- **削除 (Delete)** : 選択したインストゥルメントのスコアの順番を削除します。

#### 補足

出荷時のデフォルトのインストゥルメントのスコアの順番やプロジェクトで現在使用中のインストゥルメントのスコアの順番を削除することはできません。

---

## 2 「ファミリー (Families)」列

選択したインストゥルメントのスコアの順番に含まれるインストゥルメントファミリーが、スコア順に表示されます。


#### 補足

別のインストゥルメントファミリーにも属しているインストゥルメントのみを含むインストゥルメントファミリーはリストに表示されません。

---

## 3 「インストゥルメント (Instruments)」列

選択したインストゥルメントファミリーに含まれるインストゥルメントが、スコア順に表示されます。

矢印  は、バリエントがあるインストゥルメントを示します。

## 4 「バリエント (Variants)」列

選択したインストゥルメントのバリエントが、スコア順に表示されます。バリエントがないインストゥルメントの場合、この列には何も表示されません。

インストゥルメントのバリエントには、代替の移調、チューニング、調号オプション、または実音/移調音のレイアウトでの異なる動作などが表示されます。

各列の下部のアクションバーには、以下のコントロールがあります。

- **上へ移動 (Move Up)**: 選択したエントリーを上へ移動し、スコアの順番を上げます。
- **下へ移動 (Move Down)**: 選択したエントリーを下へ移動し、スコアの順番を下げます。

複数のエントリーを選択するには、以下のいずれかの操作を行ないます。

- **[Ctrl]/[command]** を押しながら個別のエントリーをクリックします。
- **[Shift]** を押しながら隣接するエントリーをクリックします。

#### 関連リンク

[デフォルトのプレーヤーの順番の変更 \(137 ページ\)](#)

[インストゥルメントファミリー \(960 ページ\)](#)

[カスタムインストゥルメント \(950 ページ\)](#)

## カスタムのインストゥルメントのスコアの順番を作成する

お使いのコンピューターで使用できるインストゥルメントファミリーを自由に組み合わせて、カスタムのインストゥルメントのスコアの順番を作成できます。これにより、たとえば代替のスコアの順番の規



則に対応できます。カスタムのインストゥルメントのスコアの順番をデフォルトとして保存することで、複数のプロジェクトで使用できるようになります。

前提条件

含めるカスタムインストゥルメントファミリーを作成しておきます。

---


手順

1. 「**ライブラリー (Library)**」 > 「**インストゥルメントのスコアの順番 (Instrument Score Orders)**」を選択して「**インストゥルメントのスコアの順番を編集 (Edit Instrument Score Orders)**」ダイアログを開きます。
2. インストゥルメントのスコアの順番リストで、新しいインストゥルメントのスコアの順番のベースとして複製するインストゥルメントのスコアの順番を選択します。
3. アクションバーで「**選択から新規作成 (New from Selection)**」  をクリックします。
4. 「**名前を変更 (Rename)**」  をクリックしてインストゥルメントのスコアの順番名のテキストフィールドを開きます。
5. インストゥルメントのスコアの順番の新しい名前を入力するか、既存の名前を編集します。
6. **[Return]** を押します。
7. 「**ファミリー (Families)**」列で、スコア上の位置を変更するインストゥルメントファミリーを選択します。

補足

別のインストゥルメントファミリーにも属しているインストゥルメントのみを含むインストゥルメントファミリーはリストに表示されません。

---



8. 以下のいずれかの操作を行ないます。
  - スコアの順番を上げるには、アクションバーの「**上へ移動 (Move Up)**」を必要な回数クリックします。
  - スコアの順番を下げるには、アクションバーの「**下へ移動 (Move Down)**」を必要な回数クリックします。
9. 「**インストゥルメント (Instruments)**」列で、スコア上の位置を変更する選択したインストゥルメントファミリーのインストゥルメントを選択します。
10. 以下のいずれかの操作を行ないます。
  - スコアの順番を上げるには、アクションバーの「**上へ移動 (Move Up)**」を必要な回数クリックします。
  - スコアの順番を下げるには、アクションバーの「**下へ移動 (Move Down)**」を必要な回数クリックします。
11. バリエントがあるインストゥルメントの場合は、必要に応じて「**バリエント (Variants)**」列でスコア上の位置を変更するバリエントを選択します。
12. 以下のいずれかの操作を行ないます。
  - スコアの順番を上げるには、アクションバーの「**上へ移動 (Move Up)**」を必要な回数クリックします。
  - スコアの順番を下げるには、アクションバーの「**下へ移動 (Move Down)**」を必要な回数クリックします。
13. インストゥルメントのスコアの順番をそれ以降のすべてのプロジェクトで使用できるようにするには、インストゥルメントのスコアの順番リストのアクションバーにある「**デフォルトとして保存 (Save as Default)**」  をクリックします。

14. 「OK」をクリックして変更内容を保存し、ダイアログを閉じます。

---

#### 結果

新しいカスタムのインストゥルメントのスコアの順番がプロジェクトに追加されます。

「デフォルトとして保存 (Save as Default)」をクリックしてとした場合は、これ以降のコンピューター上のすべてのプロジェクトでカスタムのインストゥルメントのスコアの順番を使用できるようになります。

#### 手順終了後の項目

インストゥルメントのスコアの順番をプロジェクトに適用できます。これにより、すべてのレイアウトで譜表が表示されるデフォルトの順番が変更されます。

#### 関連リンク

[デフォルトのプレーヤーの順番の変更 \(137 ページ\)](#)

[インストゥルメントファミリー \(960 ページ\)](#)

## カスタムの符頭セット

Dorico Pro では、符頭はセットにグループ化されます。これにより異なるデュレーションに使用される符頭をカスタマイズできます。たとえば、標準の符頭セットは4分音符と2分音符では異なる符頭を使用します。

- 「**符頭セットを編集 (Edit Notehead Sets)**」ダイアログでは、符頭セットの新規作成および既存の符頭セットの編集が行なえます。
- 「**符頭を編集 (Edit Notehead)**」ダイアログでは、それぞれの符頭セットについて、符頭の新規作成および既存の符頭の編集が行なえます。

#### 関連リンク

[符頭セット \(1388 ページ\)](#)

[符頭セットのデザイン \(1389 ページ\)](#)

[「符頭を編集 \(Edit Notehead\)」ダイアログ \(970 ページ\)](#)

[カスタムの符頭セットの作成 \(973 ページ\)](#)

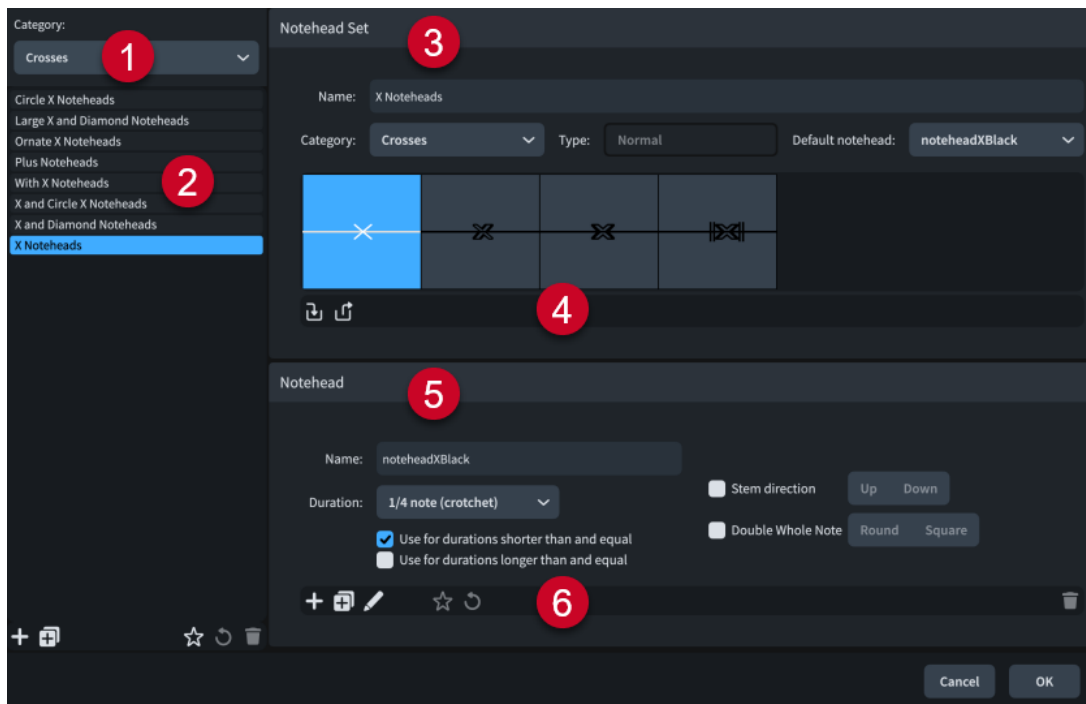
[カスタムの符頭の作成 \(975 ページ\)](#)

[個々の符頭のデザインの変更 \(1394 ページ\)](#)

## 「符頭セットを編集 (Edit Notehead Sets)」ダイアログ

「**符頭セットを編集 (Edit Notehead Sets)**」ダイアログでは、カスタムの符頭セットの追加、編集および削除が行なえます。また、符頭の外観と機能に関するさまざまな設定も、符頭セットごとに変更できます。

- 「**符頭セットを編集 (Edit Notehead Sets)**」ダイアログは、「**ライブラリー (Library)**」 > 「**符頭セット (Notehead Sets)**」を選択すると開きます。





「符頭セットを編集 (Edit Notehead Sets)」ダイアログには以下のセクションとオプションがあります。

## 1 「カテゴリー (Category)」メニュー

メニューから「X 形 (Crosses)」や「菱形 (Diamonds)」などのカテゴリーを選択することで、符頭セットのリストを切り替えられます。このカテゴリーは、メニュー内の符頭セットの場所 (例: 「編集 (Edit)」 > 「記譜 (Notations)」 > 「符頭 (Notehead)」 > 「X 形 (Crosses)」 > 「X 符頭 (X Noteheads)」) に対応します。




## 2 符頭セットリスト

選択中のカテゴリーに属する、プロジェクト中のすべての符頭セットが表示されます。リストの最下部のアクションバーには以下のオプションがあります。

- **新規 (New)** : 新規符頭セットを追加します。初期設定では、新規符頭セットは「標準 (Normal)」タイプになり、「一般 (Common)」カテゴリーに入ります。
- **選択から新規作成 (New from Selection)** : 選択中の符頭セットの複製となる新規符頭セットを追加します。

### 補足

1 つの符頭が複数の符頭セットに使用される場合もあります。ある符頭セットにおいてある符頭を編集した場合、その符頭が設定されているすべての符頭セットにおいて、その符頭の外観に変化が反映されます。

- **デフォルトとして保存 (Save as Default)** : 選択中の符頭セットをユーザーライブラリーに保存し、複数のプロジェクトで使用したりキーボードショートカットを割り当てたりできるようにします。デフォルトとして保存した符頭セットは  として表示されます。
- **出荷時の設定に戻す (Revert to Factory)** : 選択中の符頭セットに加えたすべての変更を取り消して、元の設定に戻します。
- **削除 (Delete)** : 選択した符頭セットを削除します。



補足

プリセットの符頭セットは削除できません。

### 3 「符頭セット (Notehead Set)」 セクション

符頭セットリストで選択されている符頭セットに設定された符頭を表示します。符頭セットに適用される以下のオプションがあります。

- **名前 (Name):** 選択中の符頭セットの名前を新規に入力するか、既存の名前を編集できます。
- **カテゴリー (Category):** 「X 形 (Crosses)」など、符頭セットのカテゴリーを選択できます。このカテゴリーは、メニュー内の符頭セットの場所 (例: 「編集 (Edit)」 > 「記譜 (Notations)」 > 「符頭 (Notehead)」 > 「X 形 (Crosses)」 > 「X 符頭 (X Noteheads)」) に対応します。
- **タイプ (Type):** 符頭セットが「標準 (Normal)」、「ピッチ (Pitched)」、「音度 (Scale Degree)」のいずれであるか表示します。


補足

符頭セットの「タイプ (Type)」は変更できません。特定の「タイプ (Type)」の符頭セットを新規に作成する場合、符頭セットリストからそのタイプの既存の符頭セットを選択して、「**選択部分から新規作成 (New from Selection)**」をクリックする必要があります。

- **デフォルトの符頭 (Default notehead):** 音符の要求に一致する符頭が存在しない場合、Dorico Pro がどの符頭を使用するか選択できます。たとえば全音符より長い音符を入力したとき、そのデュレーションに定義された符頭がなかった場合などがこれに該当します。

### 4 符頭セットのアクションバー

符頭セットを構成する符頭を変更する以下のオプションがあります。

- **符頭を設定に追加 (Add Notehead to Set) **: 符頭セットに新規に符頭を追加します。メニューから任意の符頭を選択できます。

補足

1 つの符頭が複数の符頭セットに使用される場合もあります。ある符頭セットにおいてある符頭を編集した場合、その符頭が設定されているすべての符頭セットにおいて、その符頭の外観に変化が反映されます。

- **符頭を設定から削除 (Remove Notehead from Set) **: 符頭セットから選択した符頭を削除します。

### 5 「符頭 (Notehead)」 セクション








「符頭セット (Notehead Set)」セクションで選択中の符頭に適用される以下のオプションがあります。

- **名前 (Name):** 選択中の符頭の名前を新規に入力するか、既存の名前を編集できます。この名前は「**符頭を設定に追加 (Add Notehead to Set)**」メニューで使用され、固有である必要があります。
- **デュレーション (Duration):** 選択した符頭を使用する基本のデュレーションを選択できます。それから、選択した符頭がこれより短い/長い音符にも使用されるかどうか指定できます。
- **これ以下のデュレーションに使用 (Use for durations shorter than and equal):** 選択した符頭が選択した「**デュレーション (Duration)**」以下のデュレーションの音符にも使用されるかどうか指定できます。
- **これ以上のデュレーションに使用 (Use for durations longer than and equal):** 選択した符頭が選択した「**デュレーション (Duration)**」以上のデュレーションの音符にも使用されるかどうか指定できます。

- **符尾の方向 (Stem direction):** 選択した符頭について、符尾が上向きまたは下向きいずれかの音符のみに使用することを指定できます。これは特に、複数の形状がある符頭において必要な機能です。たとえば、三角形の符頭の三角形は符尾の方向に従い異なる方向を向きます。
- **倍全音符 (Double whole note):** 選択した符頭が「丸 (Round)」か「四角 (Square)」か指定できます。これは「浄書オプション (Engraving Options)」の「音符 (Notes)」ページの「倍全音符 (ブレーベ) の符頭の外観 (Appearance of double whole note (breve) notehead)」によるプロジェクト全体の設定に従い、倍全音符にどの符頭を使用するかを定義します。
- **ピッチ (Pitch):** 選択した符頭が使用される音名と臨時記号を指定します (「ピッチ (Pitched)」タイプの符頭のみ)。
- **音度 (Degree):** 選択した符頭が使用される音度を、1 から 7 の整数で指定します (「音度 (Scale Degree)」タイプの符頭のみ)。

## 6 符頭のアクションバー

新規および既存の符頭を編集できる以下のオプションがあります。

- **新規の符頭 (New Notehead) **: デフォルトの黒玉符頭を基本とする「標準 (Normal)」の符頭を新規作成します。
- **選択から新規作成 (New from Selection) **: 「符頭セット (Notehead Set)」セクションで選択中の符頭の複製となる符頭セットを新規作成します。
- **符頭を編集 (Edit Notehead) **: 「符頭を編集 (Edit Notehead)」ダイアログを開きます。ここでは符頭の外観を編集できます。
- **デフォルトとして保存 (Save as Default) **: 選択中の符頭をユーザーライブラリーに保存し、複数のプロジェクトで使用できるようにします。デフォルトとして保存した符頭は  として表示されます。
- **出荷時の設定に戻す (Revert to Factory) **: 選択中の符頭に加えたすべての変更を取り消して、元の設定と外観に戻します。
- **削除 (Delete) **: 選択した符頭を削除します。

### 補足

プリセットの符頭、またはプロジェクト内で現在使用中の符頭は削除できません。

### 関連リンク

[符頭セット \(1388 ページ\)](#)

[「環境設定 \(Preferences\)」ダイアログの「キーボードショートカット \(Key Commands\)」ページ \(64 ページ\)](#)

[カスタムの符頭セットの作成 \(973 ページ\)](#)

[カスタムの符頭の作成 \(975 ページ\)](#)

[個々の符頭のデザインの変更 \(1394 ページ\)](#)

[符頭デザインのリセット \(1395 ページ\)](#)

[スラッシュ符頭のデザインを個別に変更する \(1626 ページ\)](#)

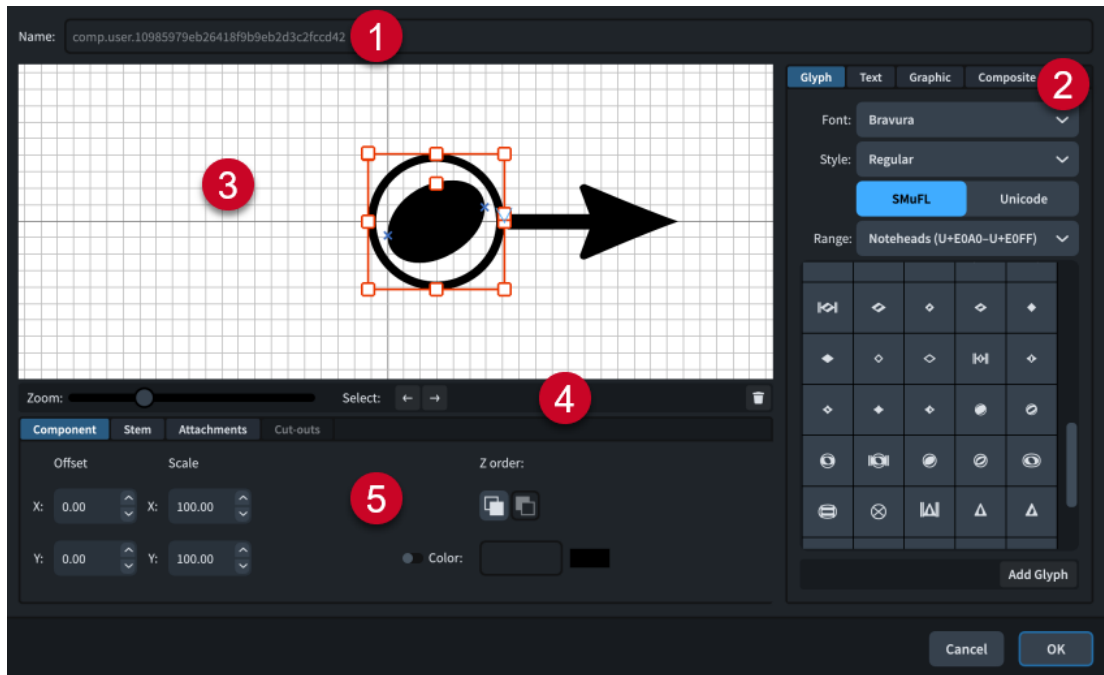
[リズムによるキューのスラッシュ符頭を表示/非表示にする \(1223 ページ\)](#)

[「浄書オプション \(Engraving Options\)」ダイアログ \(923 ページ\)](#)

## 「符頭を編集 (Edit Notehead)」ダイアログ

「符頭を編集 (Edit Notehead)」ダイアログでは、カスタムの符頭のデザインと、既存の符頭の外観や配置の編集を行なえます。

- 「符頭を編集 (Edit Notehead)」ダイアログは、「符頭セットを編集 (Edit Notehead Sets)」ダイアログから開けます。「符頭セット (Notehead Set)」リストからデザインを編集する符頭を選択してダブルクリックするか、「符頭 (Notehead)」セクションのアクションバーにある「符頭を編集 (Edit Notehead)」をクリックします。



「符頭を編集 (Edit Notehead)」ダイアログには以下のセクションとオプションがあります。

### 1 名前 (Name)

プリセットの符頭の保存名、または新規の符頭の自動生成された名前が表示されます。この名前は変更できません。

### 2 構成要素セレクター

符頭に追加する要素を選択できます。タイプごとのタブのタイトルをクリックして、さまざまな構成要素を追加できます。

- **グリフ (Glyph):** ♯や#を追加できます。メニューからさまざまなフォントスタイルまたは太さを選択して、さまざまなスタイルのグリフを使用できます。SMuFL または Unicode から検索できます。「グリフを追加 (Add Glyph)」をクリックして、選択したグリフを符頭に追加します。

#### 補足

すべてのグリフの完全なリストは、SMuFL の Web サイトで参照できます。

- **テキスト (Text):** 数字やその他のテキストが含まれます。数字およびテキストは、利用できる「プリセットテキスト (Preset text)」リストから使用するか、メニューからフォントを選択して画面下部のテキストボックスに任意のテキストを入力できます。「テキストを追加 (Add Text)」をクリックして、選択したオプションまたは入力したテキストを符頭に追加します。
- **グラフィック (Graphic):** SVG、PNG または JPG 形式で、新規グラフィックファイルを読み込むか、または「既存から選択 (Select existing)」リストから既存のグラフィックを選択できます。「プレビュー (Preview)」ボックスでグラフィックのプレビューを確認できます。「グラフィックを追加 (Add Graphic)」をクリックして、選択したグラフィックを符頭に追加します。
- **組み合わせ (Composite):** リストから組み合わせを選択できます。「組み合わせを追加 (Add Composite)」をクリックして、選択した組み合わせを符頭に追加します。



### 3 エディター

符頭を形作る要素の配置と編集を行ないます。要素の配置と編集は、エディター内で要素をクリックしてドラッグするか、ダイアログ下部のコントロールを使用して行なえます。各要素のハンドルを使用してサイズを変更することもできます。

符頭はエディターの中央に配置し、その左端を太い垂直のグリッド線に、その中央を太い水平のグリッド線に揃えることをおすすめします。

#### 4 エディターアクションバー

エディターの選択オプションと表示オプションがあります。

- **ズーム (Zoom):** エディターのズームレベルを変更できます。
- **選択 (Select):** 次/前の要素を選択できます。
- **アタッチメントの表示 (Show Attachments)** : エディターのすべての要素のアタッチメントをすべて表示します。
- **削除 (Delete)** : 選択した要素を削除します。

#### 5 コントロール

個々の構成要素を編集できるコントロールが収められています。コントロールは、それが影響する選択した構成要素の性質に従いタブに分けられています。符頭に関しては、「**要素 (Component)**」、「**符尾 (Stem)**」、および「**アタッチメント (Attachments)**」のタブが利用できます。

「**要素 (Component)**」タブには以下のオプションがあります。

- **オフセット (Offset):** 選択した要素の位置をコントロールします。「**X**」で水平方向、「**Y**」で垂直方向に移動します。
- **「スケール (Scale)」:** 選択した要素のサイズをコントロールします。グラフィックに対して、「**X**」で幅、「**Y**」で高さをコントロールします。



##### 補足

一部の要素は高さや幅を個別に調節できますが、その他の要素は縦横比が保持され、いずれかの値のみで全体のサイズが変わります。

- **「前後の順序 (Z order)」:** 要素が重なった場合、「**前面へ移動 (Bring Forward)**」または「**背面へ移動 (Send Backward)**」を使用してほかの要素に対する選択した要素の前後の順序を入れ替えることができます。
- **カラー (Color):** 選択した要素の色を変更できます。

「**符尾 (Stem)**」のタブには、符頭のどの位置に符尾が接続するかを制御するオプションがあります。それぞれの符頭には複数のアタッチメントポイント (接続位置) を持たせることができます。これは音符の符尾には上向きや下向き、さらにオルタードユニゾンの分割符尾もあり、多くの場合それぞれ接続される符頭の位置が異なるためです。符尾のアタッチメントポイントには、アタッチメントを使用する符尾の方向と、その位置に接続する符尾の部位が示されます。たとえば「**上向き符尾の下端 (Stem up SE)**」は、上向きの符尾の下端が符頭に接続する場所です。

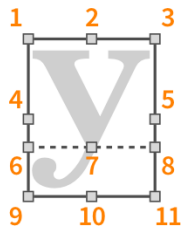
「**符尾 (Stem)**」タブでは、それぞれの符尾のアタッチメントポイントに以下のオプションがあります。

- **X:** アタッチメントポイントを水平方向に移動します。
- **Y:** アタッチメントポイントを垂直方向に移動します。
- **追加 **: 符頭にアタッチメントポイントを追加します。
- **削除 **: 符頭からアタッチメントポイントを削除します。

「**アタッチメント (Attachments)**」タブは、符頭が2つ以上の個別の要素からなる場合のみ利用できます。このタブには以下のオプションがあります。

- **連結元 (Attachment from):** 選択した要素を左側の要素のどこのポイントに連結するかを選択します。「**連結元 (Attachment from)**」は右側のポイントを選択することをおすすめします。
- **連結先 (Attachment to):** 選択した要素のどこのポイントを左側の要素に連結するかを選択します。「**連結先 (Attachment to)**」は左側のポイントを選択することをおすすめします。

グリフおよびグラフィックには 8 つ、テキストには 11 の連結ポイントがあります。テキストの方が多いのは、ベースラインより下に伸びる文字用に追加のポイントが必要となるためです。この図の例は、ポイントと要素上の位置の対応を視覚的に把握するためのものです。



「符頭を編集 (Edit Notehead)」ダイアログでは、アタッチメントポイントに以下の名前が付いています。

- 1 左上 (Top Left)
- 2 中央上 (Top Center)
- 3 右上 (Top Right)
- 4 中央左 (Middle Left)
- 5 中央右 (Middle Right)
- 6 ベースライン左 (Baseline Left) (テキストのみ)
- 7 ベースライン中央 (Baseline Center) (テキストのみ)
- 8 ベースライン右 (Baseline Right) (テキストのみ)
- 9 左下 (Bottom Left)
- 10 中央下 (Bottom Center)
- 11 右下 (Bottom Right)



関連リンク






[オルタードユニゾン \(1058 ページ\)](#)

## カスタムの符頭セットの作成

カスタムの符頭セットを作成して、既存の符頭や新しいカスタム符頭を追加できます。

手順


1. 「ライブラリー (Library)」 > 「符頭セット (Notehead Sets)」を選択して「符頭セットを編集 (Edit Notehead Sets)」ダイアログを開きます。
2. 既存の符頭セットのコピーを作成する場合は、必要に応じて「カテゴリー (Category)」メニューから符頭セットのカテゴリーを選択します。
3. 以下のいずれかの操作を行なって、新しい符頭セットを作成します。
  - 「一般 (Common)」カテゴリーでデフォルトの新しい符頭セットを作成するには、符頭セットリストのアクションバーにある「新規 (New)」をクリックします。
  - 既存の符頭セットのコピーを作成するには、符頭セットリストからコピーする符頭セットを選択し、符頭セットリストのアクションバーにある「選択から新規作成 (New from Selection)」をクリックします。
4. 「符頭セット (Notehead Set)」セクションの「名前 (Name)」フィールドに新しい符頭セットの名前を入力します。
5. 符頭セットのカテゴリーを変更するには、「カテゴリー (Category)」メニューから使用するカテゴリーを選択します。

6. 以下のいずれかの操作を行なって、セットに含める符頭を変更します。
  - 既存の符頭を追加するには、「**符頭セット (Notehead Set)**」セクションのアクションバーにある「**符頭を設定に追加 (Add Notehead to Set)**」をクリックして、メニューから追加する符頭を選択します。
  - デフォルト設定を使用して新しい符頭を作成するには、「**符頭 (Notehead)**」セクションのアクションバーにある「**新規の符頭 (New Notehead)**」をクリックします。
  - 既存の符頭のコピーを作成するには、「**符頭セット (Notehead Set)**」セクションでコピーする符頭を選択し、「**符頭 (Notehead)**」セクションのアクションバーにある「**選択から新規作成 (New from Selection)**」をクリックします。
  - 既存の符頭を編集するには、編集する符頭を選択して「**符頭 (Notehead)**」セクションのアクションバーにある「**符頭を編集 (Edit Notehead)**」をクリックして「**符頭を編集 (Edit Notehead)**」ダイアログを開きます。
  - セットから符頭を削除するには、削除する符頭を選択して「**符頭セット (Notehead Set)**」セクションのアクションバーにある「**符頭を設定から削除 (Remove Notehead from Set)**」をクリックします。
7. 必要に応じて、符頭の外観、名前、設定をカスタマイズします。

たとえば、符尾の方向やその符頭を使用する音符のデュレーションなどを変更できます。また、符頭をダブルクリックして「**符頭を編集 (Edit Notehead)**」ダイアログを開き、符頭の外観を編集することもできます。



#### 補足

複数の符頭セットに使用されている符頭を編集した場合、変更内容はその符頭が含まれているすべての符頭セット内の符頭の外観に影響します。

8. 符頭セットをそれ以降のすべてのプロジェクトで使用できるようにするには、符頭セットリストのアクションバーにある「**デフォルトとして保存 (Save as Default)**」をクリックします。
9. 「**OK**」をクリックして変更内容を保存し、ダイアログを閉じます。

#### 結果

新しいカスタム符頭セットがプロジェクトに追加されます。

「**デフォルトとして保存 (Save as Default)**」をクリックしてとした場合は、これ以降のコンピューター上のすべてのプロジェクトでカスタムの符頭セットを使用できるようになります。

#### 手順終了後の項目

個々の符頭または無音程打楽器の演奏技法固有の符頭にカスタムの符頭セットを使用できます。

#### 関連リンク

[符頭セット \(1388 ページ\)](#)

[「符頭セットを編集 \(Edit Notehead Sets\)」ダイアログ \(967 ページ\)](#)

[「符頭を編集 \(Edit Notehead\)」ダイアログ \(970 ページ\)](#)

[個々の符頭のデザインの変更 \(1394 ページ\)](#)

[演奏技法固有の符頭 \(1840 ページ\)](#)

## カスタムの符頭の作成

たとえば、現代音楽で異なる演奏技法を表わす場合などにカスタムの符頭を作成できます。



### 補足

既存の符頭を編集することもできます。ただし、複数の符頭セットに使用されている符頭を編集した場合、変更内容はその符頭が含まれているすべての符頭セット内の符頭の外観に影響します。


### 前提条件

カスタムの符頭セットにカスタムの符頭を作成する場合は、その符頭セットを作成しておきます。

### 手順



1. 「ライブラリー (Library)」 > 「符頭セット (Notehead Sets)」を選択して「符頭セットを編集 (Edit Notehead Sets)」ダイアログを開きます。
2. 「カテゴリー (Category)」メニューから、使用する符頭セットのカテゴリーを選択します。
3. 符頭セットリストで、カスタムの符頭を作成する符頭セットを選択します。
4. 以下のいずれかの操作を行なって、新しい符頭を作成します。
  - デフォルト設定を使用して新しい符頭を作成するには、「符頭 (Notehead)」セクションのアクションバーにある「新規の符頭 (New Notehead)」をクリックします。
  - 既存の符頭のコピーを作成するには、「符頭セット (Notehead Set)」セクションでコピーする符頭を選択し、「符頭 (Notehead)」セクションのアクションバーにある「選択から新規作成 (New from Selection)」をクリックします。
5. 「符頭セット (Notehead Set)」セクションで符頭をダブルクリックすると「符頭を編集 (Edit Notehead)」ダイアログが開きます。ここでは符頭の外観をカスタマイズできます。

たとえば、右側のオプションを使用して符頭にグリフを追加し、エディターで配置とサイズを変更できます。
6. 「OK」をクリックして変更内容を保存し、「符頭を編集 (Edit Notehead)」ダイアログを閉じます。
7. 「符頭 (Notehead)」セクションの「名前 (Name)」フィールドに新しい符頭の名前を入力します。
8. 用意された符頭オプションを使用して符頭の設定をカスタマイズします。

たとえば、符尾の方向やその符頭を使用する音符のデュレーションなどを変更できます。
9. 符頭をそれ以降のすべてのプロジェクトで使用できるようにするには、「符頭 (Notehead)」セクションのアクションバーにある「デフォルトとして保存 (Save as Default)」をクリックします。
10. 必要に応じて、現在の符頭セットに作成するカスタムの符頭それぞれに、手順 4 から 9 を繰り返します。
11. 「OK」をクリックして変更内容を保存し、「符頭セットを編集 (Edit Notehead Sets)」ダイアログを閉じます。

### 結果

選択した符頭セットに新しいカスタムの符頭が作成されます。

「デフォルトとして保存 (Save as Default)」をクリックしてとした場合は、これ以降のコンピューター上のすべてのプロジェクトでカスタムの符頭を使用できるようになります。

## カスタムの演奏技法

カスタムの演奏技法を使用すると、任意の演奏技法を任意の形で表現できます。たとえば、特定の演奏技法に使用されるデフォルトのグリフがユーザーまたは楽譜を使用するプレーヤーにとって馴染みのないものであった場合は、この機能が活用できます。

カスタムの演奏技法では、既存のグリフ、テキスト、またはユーザーの用意したグラフィックを使用して外観をデザインできるとともに、再生に与える影響や、延長線の表示の有無も指定できます。

カスタムの演奏技法の作成と編集は、「**演奏技法を編集 (Edit Playing Techniques)**」ダイアログおよびその関連するダイアログで行なえます。

カスタムの演奏技法は、記譜モードの演奏技法パネルの、それが割り当てられたカテゴリの中に表示されます。またポップオーバーを使用して、それに割り当てたポップオーバーテキストを入力することも記譜できます。

関連リンク

[カスタムの演奏技法の作成 \(982 ページ\)](#)

[再生効果 \(1046 ページ\)](#)



[ジャズアーティキュレーション \(1495 ページ\)](#)

[演奏技法、ペダル線、弦の指示記号、ハーブペダルダイアグラムの入力方法 \(398 ページ\)](#)

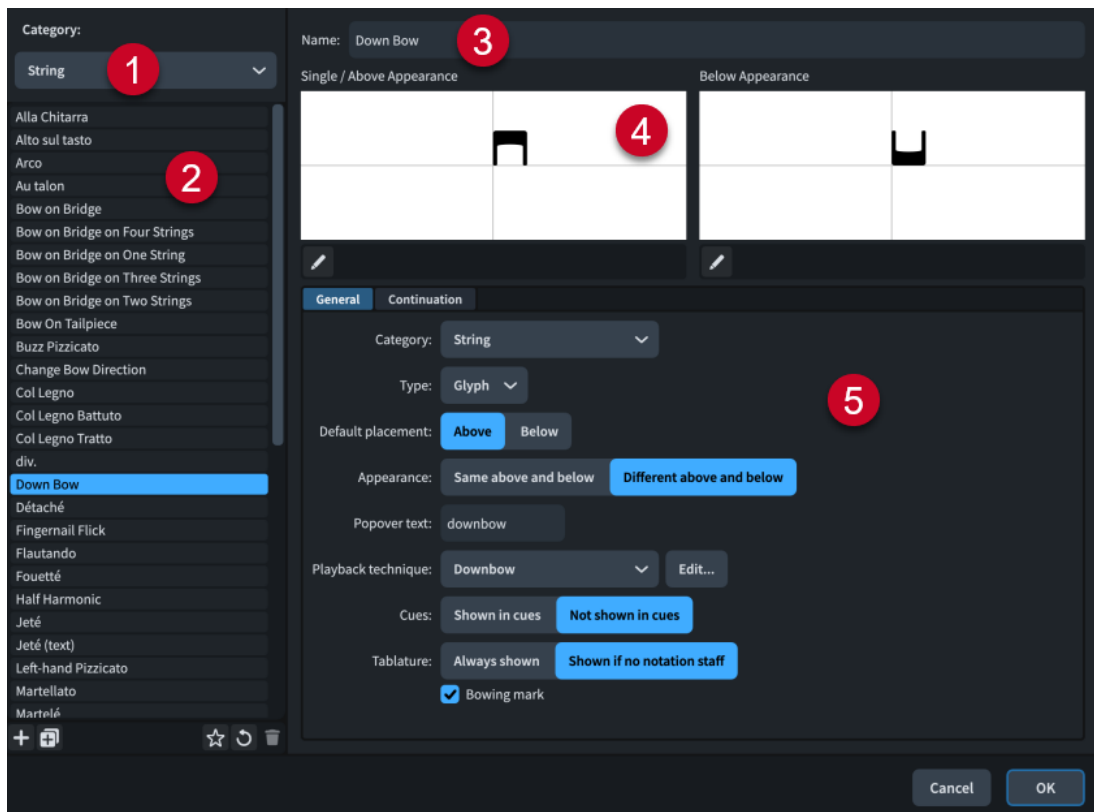
## 「演奏技法を編集 (Edit Playing Techniques)」ダイアログ

「**演奏技法を編集 (Edit Playing Techniques)**」ダイアログでは、プロジェクト内のすべての演奏技法の外観と機能に関するさまざまな設定を変更できるほか、カスタムの演奏技法の追加、編集、削除を行なえます。

「**演奏技法を編集 (Edit Playing Techniques)**」ダイアログを開くには、以下のいずれかの操作を行ないます。

- 「**ライブラリー (Library)**」 > 「**演奏技法 (Playing Techniques)**」を選択します。
- 記譜モードの演奏技法パネルで、いずれかのセクションのアクションバーの「**演奏技法を追加 (Add Playing Technique)**」をクリックします。
- 特定の演奏技法のダイアログを開くには、記譜モードの楽譜領域でその演奏技法を選択して、演奏技法パネルのいずれかのアクションバーの「**演奏技法の外観を編集 (Edit Playing Technique)**」をクリックします。浄書モードで演奏技法をダブルクリックすることもできます。





「演奏技法を編集 (Edit Playing Techniques)」ダイアログには、以下のセクションとオプションがあります。

### 1 「カテゴリー (Category)」メニュー

メニューから「弦 (String)」や「合唱 (Choral)」など、インストゥルメントまたはインストゥルメントファミリーのカテゴリーを選択することで、演奏技法のリストを切り替えられます。これは演奏技法パネルのセクションのタイトルに対応します。

### 2 演奏技法のリスト

選択中のカテゴリーに属する、プロジェクト中のすべての演奏技法が表示されます。

リストの最下部のアクションバーには以下のオプションがあります。

- **新規 (New)** : 空白の演奏技法を新規に追加します。
- **選択から新規作成 (New from Selection)** : 既存の演奏技法のコピーを作成し、元のものとは別の設定に編集できます。
- **デフォルトとして保存 (Save as Default)** : 選択中の演奏技法をユーザーライブラリーのデフォルトとして保存し、複数のプロジェクトで使用できるようにします。デフォルトとして保存した演奏技法は として表示されます。
- **出荷時の設定に戻す (Revert to Factory)** : 選択中の演奏技法に加えたすべての変更を取り消して、元の設定と外観に戻します。
- **削除 (Delete)** : 選択した演奏技法を削除します。

補足

プリセットの演奏技法、またはプロジェクト内で現在使用中の演奏技法は削除できません。

### 3 名前 (Name)

選択中の演奏技法の名前を新規に入力するか、既存の名前を編集できます。

### 4 プレビュー: (Preview:)

演奏技法の現在の外観を表示します。演奏技法の外観が譜表の上下とも同じと設定されている場合、プレビュー領域は1つ表示されます。演奏技法の外観が譜表の上下によって異なる設定されている場合、プレビュー領域は両方の外観を表示できるように分割されます。

プレビューの下のアクションバーから「複合要素を編集 (Edit Composite)」をクリックすると、「演奏技法の外観を編集 (Edit Playing Technique)」ダイアログが開き、演奏技法の外観を編集できます。このボタンはグリフの演奏技法においてのみ使用できます。

## 5 演奏技法のオプション

選択した演奏技法の外観と機能に関するオプションを利用できます。オプションは、それが影響する選択した演奏技法の性質に従いタブに分けられています。

「全般 (General)」タブには以下のオプションがあります。

- **カテゴリ (Category):** 選択した演奏技法のインストゥルメントファミリーのカテゴリを選択できます。これによりたとえば、「弦楽器 (String)」の演奏技法を複製して作成した新規の演奏技法を「木管楽器 (Wind)」のカテゴリに保存できます。
- **タイプ (Type):** 演奏技法のタイプについて「グリフ (Glyph)」か「テキスト (Text)」か選択できます。これによって、プレビューにおける演奏技法の表示方法が変化します。  
「テキスト (Text)」を選んでいる場合、「タイプ (Type)」メニューの隣に「テキスト (Text)」フィールドが表示されます。フィールドには任意のテキストを入力でき、フィールドの隣のメニューから任意のフォントスタイルを選択できます。演奏技法のプレビューは左寄せで表示されます。  
「グリフ (Glyph)」を選択した場合、演奏技法のプレビューは中央寄せで表示されます。「グリフ (Glyph)」を選択することで、「演奏技法の外観を編集 (Edit Playing Technique)」ダイアログで演奏技法の編集もできるようになります。
- **デフォルトの位置 (Default placement):** 演奏技法のデフォルトの配置について、譜表の「上 (Above)」か「下 (Below)」か選択できます。
- **外観 (Appearance):** 演奏技法の外観について、譜表の上下とも同じとするか、上下によって異なるかを選択できます。「上下によって異なる (Different above and below)」を選択した場合、上下の外観を別個に編集できます。
- **ポップオーバーテキスト (Popover text):** 演奏技法を記譜する際にポップオーバーに入力するテキストを設定できます。
- **再生効果 (Playback technique):** 演奏技法の再生効果、つまり、使用されるサンプルサウンドを変化させる動作/スイッチを選択できます。再生効果は、複数の演奏技法が同じものを使用できます。  
リストにはない再生効果が必要な場合は、「編集 (Edit)」をクリックして「再生効果を編集 (Edit Playback Techniques)」ダイアログを開くと、カスタムの再生効果を作成できます。
- **キュー (Cues):** 演奏技法をキューに表示する設定のとき、この演奏技法をキューに表示するかどうかを選択できます。
- **タブ譜 (Tablature):** 演奏技法が常にタブ譜に表示されるか、音符の譜表が表示されないレイアウトにのみ表示されるか選択できます。
- **ボウイング記号 (Bowing mark):** 演奏技法をボウイング記号として定義できます。これは、垂直スタッキングの順番に影響します。

「延長 (Continuation)」タブには以下のオプションがあります。

- **延長タイプ (Continuation type):** デフォルトの延長タイプを選択できます。演奏技法にデュレーションがある場合、デュレーション線を表示するか、何も表示しないか、sim. を表示するかを選択できます。グリフの演奏技法の場合、デュレーション内の各音符に記号を繰り返すこともできます。「ライン (Line)」を選択した場合、デュレーション線のスタイルを変更できます。

#### 補足

これは、グループ化されていない演奏技法とグループ内の最後の演奏技法にのみ適用されます。

- **延長線 (Duration line):** 演奏技法のデフォルトの延長線のスタイルを選択できます。  
**上にあるときの配置 (Alignment above)/下にあるときの配置 (Below):** 演奏技法が譜表の上にあるときと下にあるときの延長線が接続される垂直位置をそれぞれ設定できます。
- **変移線 (Transition line):** 演奏技法のデフォルトの変移線のスタイルを選択できます。

#### 補足

グループ内の演奏技法には常に変移線が表示されます。グループ内の最後の演奏技法にのみデュレーション線を表示できます。

**上にあるときの配置 (Alignment above)/下にあるときの配置 (Below):** 演奏技法が譜表の上にあるときと下にあるときの変移線が接続される垂直位置をそれぞれ設定できます。

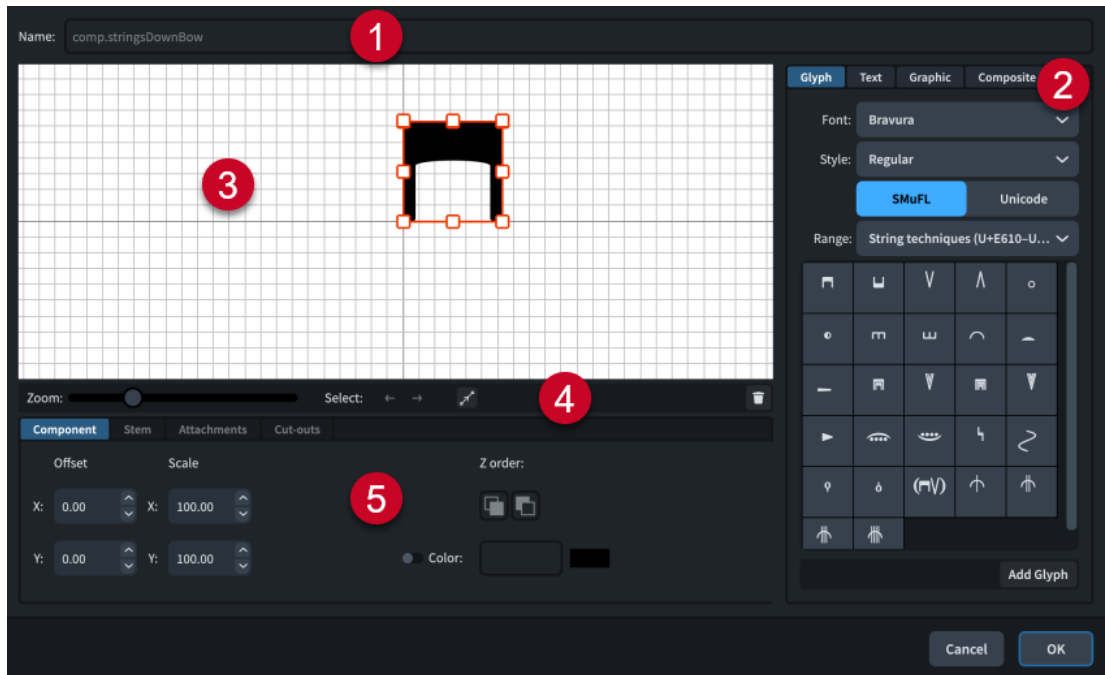
#### 関連リンク

- [「再生効果を編集 \(Edit Playback Techniques\)」ダイアログ \(1047 ページ\)](#)
- [カスタムの演奏技法の作成 \(982 ページ\)](#)
- [演奏技法パネル \(402 ページ\)](#)
- [演奏技法のデュレーション \(1543 ページ\)](#)
- [演奏技法の延長線 \(1542 ページ\)](#)
- [演奏技法の延長線のスタイルを変更する \(1547 ページ\)](#)
- [演奏技法の延長線のキャップを変更する \(1547 ページ\)](#)
- [演奏技法の垂直の順番を変更する \(1541 ページ\)](#)

## 「演奏技法の外観を編集 (Edit Playing Technique)」ダイアログ

「演奏技法の外観を編集 (Edit Playing Technique)」ダイアログでは、カスタムの演奏技法のデザインと、プロジェクト内のすべての演奏技法の外観や配置の編集を行なえます。

- 「演奏技法の外観を編集 (Edit Playing Technique)」ダイアログを開くには、「演奏技法を編集 (Edit Playing Techniques)」ダイアログの中のリストからデザインを編集する演奏技法を選択して、プレビューの下のアクションバーにある「複合要素を編集 (Edit Composite)」をクリックします。これは「タイプ (Type)」が「グリフ (Glyph)」の演奏技法においてのみ行なえます。



「演奏技法の外観を編集 (Edit Playing Technique)」ダイアログには、以下のセクションとオプションがあります。

### 1 名前 (Name)

プリセットの演奏技法の保存名、または新規の演奏技法に自動生成された名前が表示されます。この名前は変更できません。

### 2 構成要素セレクター

演奏技法に追加する要素を選択できます。タイプごとのタブのタイトルをクリックして、さまざまな構成要素を追加できます。

- **グリフ (Glyph):** ♯や#を追加できます。メニューからさまざまなフォントスタイルまたは太さを選択して、さまざまなスタイルのグリフを使用できます。**SMuFL** または **Unicode** から検索できます。「**グリフを追加 (Add Glyph)**」をクリックして、選択したグリフを演奏技法に追加します。

補足

すべてのグリフの完全なリストは、SMuFL の Web サイトで参照できます。



- **テキスト (Text):** 数字やその他のテキストが含まれます。数字およびテキストは、利用できる「**プリセットテキスト (Preset text)**」リストから使用するか、メニューからフォントを選択して画面下部のテキストボックスに任意のテキストを入力できます。「**テキストを追加 (Add Text)**」をクリックして、選択または入力したテキストを演奏技法に追加します。
- **グラフィック (Graphic):** SVG、PNG または JPG 形式で、新規グラフィックファイルを読み込むか、または「**既存から選択 (Select existing)**」リストから既存のグラフィックを選択できます。「**プレビュー (Preview)**」ボックスでグラフィックのプレビューを確認できます。「**グラフィックを追加 (Add Graphic)**」をクリックして、選択したグラフィックを演奏技法に追加します。
- **組み合わせ (Composite):** リストから組み合わせを選択できます。「**組み合わせを追加 (Add Composite)**」をクリックして、選択した組み合わせを演奏技法に追加します。

### 3 エディター

演奏技法の構成要素の配置と編集を行なえます。要素の配置と編集は、エディター内で要素をクリックしてドラッグするか、ダイアログ下部のコントロールを使用して行なえます。各要素のハンドルを使用してサイズを変更することもできます。

#### 4 エディターアクションバー

エディターの選択オプションと表示オプションがあります。

- **ズーム (Zoom):** エディターのズームレベルを変更できます。
- **選択 (Select):** 次/前の要素を選択できます。
- **アタッチメントの表示 (Show Attachments)** : エディターのすべての要素のアタッチメントをすべて表示します。
- **削除 (Delete)** : 選択した要素を削除します。

#### 5 コントロール

個々の構成要素を編集できるコントロールが収められています。コントロールは、それが影響する選択した構成要素の性質に従いタブに分けられています。演奏技法に対しては、「要素 (Component)」タブと「アタッチメント (Attachments)」タブを利用できます。

「要素 (Component)」タブには以下のオプションがあります。

- **オフセット (Offset):** 選択した要素の位置をコントロールします。「X」で水平方向、「Y」で垂直方向に移動します。
- **「スケール (Scale)」:** 選択した要素のサイズをコントロールします。グラフィックに対して、「X」で幅、「Y」で高さをコントロールします。

#### 補足

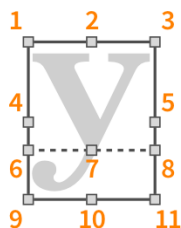
一部の要素は高さと幅を個別に調節できますが、その他の要素は縦横比が保持され、いずれかの値のみで全体のサイズが変わります。

- **「前後の順序 (Z order)」:** 要素が重なった場合、「前面へ移動 (Bring Forward)」または「背面へ移動 (Send Backward)」を使用してほかの要素に対する選択した要素の前後の順序を入れ替えることができます。
- **カラー (Color):** 選択した要素の色を変更できます。

「アタッチメント (Attachments)」タブは、演奏技法が2つ以上の個別の要素からなる場合のみ利用できます。このタブには以下のオプションがあります。

- **連結元 (Attachment from):** 選択した要素を左側の要素のどこのポイントに連結するかを選択します。「連結元 (Attachment from)」は右側のポイントを選択することをおすすめします。
- **連結先 (Attachment to):** 選択した要素のどこのポイントを左側の要素に連結するかを選択します。「連結先 (Attachment to)」は左側のポイントを選択することをおすすめします。

グリフおよびグラフィックには8つ、テキストには11の連結ポイントがあります。テキストの方が多いのは、ベースラインより下に伸びる文字用に追加のポイントが必要となるためです。この図の例は、ポイントと要素上の位置の対応を視覚的に把握するためのものです。



「演奏技法の外観を編集 (Edit Playing Technique)」ダイアログでは、連結ポイントに以下の名前が付いています。

- 1 左上 (Top Left)
- 2 中央上 (Top Center)
- 3 右上 (Top Right)
- 4 中央左 (Middle Left)
- 5 中央右 (Middle Right)
- 6 ベースライン左 (Baseline Left) (テキストのみ)
- 7 ベースライン中央 (Baseline Center) (テキストのみ)
- 8 ベースライン右 (Baseline Right) (テキストのみ)
- 9 左下 (Bottom Left)
- 10 中央下 (Bottom Center)
- 11 右下 (Bottom Right)

関連リンク




[「演奏技法を編集 \(Edit Playing Techniques\)」ダイアログ](#) (976 ページ)

## カスタムの演奏技法の作成

カスタム演奏技法を作成し、延長線のスタイルや再生効果なども選択できます。たとえば、特定の演奏技法に使用されるデフォルトのグリフがユーザーまたは楽譜を使用するプレーヤーにとって馴染みのないものであった場合は、この機能が活用できます。

---

手順

1. 「ライブラリー (Library)」 > 「演奏技法 (Playing Techniques)」を選択して「演奏技法を編集 (Edit Playing Techniques)」ダイアログを開きます。
2. 「カテゴリー (Category)」メニューから、カスタムの演奏技法を作成するためのカテゴリーを選択します。
3. 以下のいずれかの操作を行なって、新規の演奏技法を作成します。
  - 空白の演奏技法を作成するには、演奏技法のリストのアクションバーから「新規 (New)」をクリックします。
  - 既存の演奏技法のコピーを作成するには、演奏技法のリストからコピーする演奏技法を選択して、演奏技法のリストのアクションバーから「選択から新規作成 (New from Selection)」をクリックします。
4. 「名前 (Name)」フィールドに新しい演奏技法の名前を入力します。
5. 「全般 (General)」タブで、「タイプ (Type)」メニューから以下のいずれかのオプションを選択します。
  - グリフ (Glyph)
  - テキスト (Text)
6. 以下のいずれかの操作を行なって、演奏技法の外観をカスタマイズします。
  - テキストの演奏技法については、「テキスト (Text)」フィールドのテキストや、使用するフォントスタイルを変更します。
  - グリフの演奏技法については、カスタマイズする外観の下の「複合要素を編集 (Edit Composite)」をクリックして「演奏技法の外観を編集 (Edit Playing Technique)」ダイアログを開き、外観をカスタマイズします。
7. 必要に応じて、グリフの演奏技法に対し、「全般 (General)」タブの「外観 (Appearance)」から以下のいずれかのオプションを選択します。

- 上下とも同じ (Same above and below)
  - 上下によって異なる (Different above and below)
8. 上記で「上下によって異なる (Different above and below)」を選択した場合は、譜表の反対側のための外観もカスタマイズします。
  9. 演奏技法の再生で使用する再生効果を「再生効果 (Playback technique)」メニューから選択します。
  10. 必要に応じて、現在利用できない再生効果を使用する場合は、「編集 (Edit)」をクリックして「再生効果を編集 (Edit Playback Techniques)」ダイアログを開くと、ここで再生効果を追加および編集できます。

たとえば、一部のサウンドライブラリーでは特定の動作やスイッチを手動でマッピングすることが求められますが、このようなサウンドライブラリーのために、エクスプレッションマップに動作やスイッチを割り当てられる新規の再生効果を作成することが考えられます。
  11. 必要に応じて「全般 (General)」タブのその他のオプションも変更します。
  12. 必要に応じて、演奏技法に延長線を表示させる場合は、「延長 (Continuation)」タブの「延長タイプ (Continuation type)」メニューから「ライン (Line)」を選択します。
  13. 必要に応じて、延長線を表示する演奏技法については、延長線と変移線に使用するスタイルを対応するメニューから選択します。
  14. 必要に応じて、延長線と変移線の配置位置を変更します。
  15. 「OK」をクリックして変更内容を保存し、ダイアログを閉じます。
- 

#### 結果

カスタムの演奏技法が作成されます。これは現在のプロジェクトでのみ利用できます。

#### 手順終了後の項目

- 再生効果を新規作成した場合、そのカスタムの演奏技法を使用するすべてのインストゥルメントのエクスプレッションマップにこれを追加し、サウンドライブラリーに適切な動作/スイッチを割り当てます。
- 他のプロジェクトでも使用できるように、カスタムの演奏技法をデフォルトとして保存できます。
- 演奏技法を入力して楽譜に表示できます。

#### 関連リンク

[ジャズアーティキュレーション \(1495 ページ\)](#)


[演奏技法、ペダル線、弦の指示記号、ハーブペダルダイアグラムの入力方法 \(398 ページ\)](#)

## カスタムの演奏技法をデフォルトとして保存する

初期設定では、カスタムの演奏技法を使用できるのは、それが作成されたプロジェクトの中だけです。しかしデフォルトとして保存することで、これを複数のプロジェクトで使用できるようになります。

---

#### 手順

1. 「ライブラリー (Library)」 > 「演奏技法 (Playing Techniques)」を選択して「演奏技法を編集 (Edit Playing Techniques)」ダイアログを開きます。
  2. 演奏技法のリストで、複数のプロジェクトで使用する演奏技法を選択します。
  3. アクションバーで「デフォルトとして保存 (Save as Default)」をクリックします。
  4. 「OK」をクリックして変更内容を保存し、ダイアログを閉じます。
-

#### 結果

「デフォルトとして保存 (Save as Default)」**☆**が**★**と表示されると、これ以降のコンピューター上のすべてのプロジェクトで演奏技法が使用できるようになります。

#### 関連リンク

[カスタムの演奏技法 \(976 ページ\)](#)

[「演奏技法を編集 \(Edit Playing Techniques\)」ダイアログ \(976 ページ\)](#)

## カスタムライン

カスタムラインでラインの外観を自由自在にデザインでき、保存して複数のプロジェクトで使用できます。

カスタムラインで使用される要素は、Dorico Pro のデフォルトのラインと同じです。さまざまに組み合わせることで、新しい構成要素を作成したり、既存の構成要素を編集したりできます。

- ラインのカスタム注釈には、キャップや中央揃えの注釈を使用でき、ラインのデュレーション全体に繰り返し表示できます。また、ラインのデュレーション全体にわたってハイフン付きテキストを表示できます。
- ラインボディは単線、二重線、くさび線、または繰り返し可能な記号のパターンで構成されます。

「**ラインを編集 (Edit Lines)**」ダイアログではライン、「**ラインボディを編集 (Edit Line Bodies)**」ダイアログではラインボディ、「**ライン注釈を編集 (Edit Line Annotations)**」ダイアログではライン注釈、「**繰り返し可能な記号を編集 (Edit Repeatable Symbols)**」ダイアログでは繰り返し可能な記号をそれぞれ作成および編集できます。

カスタムのラインは、記譜モードのラインパネルの、それが割り当てられたカテゴリーの中に表示されます。

#### 関連リンク

[ラインの構成要素 \(1553 ページ\)](#)

[「ラインを編集 \(Edit Lines\)」ダイアログ \(988 ページ\)](#)

[「ラインボディを編集 \(Edit Line Bodies\)」ダイアログ \(992 ページ\)](#)

[「ライン注釈を編集 \(Edit Line Annotations\)」ダイアログ \(994 ページ\)](#)

[「繰り返し可能な記号を編集 \(Edit Repeatable Symbols\)」ダイアログ \(999 ページ\)](#)

[カスタムラインの作成 \(984 ページ\)](#)

[カスタムのラインボディの作成 \(986 ページ\)](#)

[カスタムのライン注釈の作成 \(987 ページ\)](#)

[カスタムの繰り返し可能な記号の作成 \(988 ページ\)](#)

[ラインの入力方法 \(416 ページ\)](#)

## カスタムラインの作成






ラインのキャップ、注釈、およびラインボディを選択してカスタムラインを作成できます。これは、特定の構成要素を組み合わせたラインを複数回使用したい場合などに役立ちます。カスタムラインをデフォルトとして保存することで、複数のプロジェクトで使用できるようになります。

---

#### 手順

1. 「**ラインを編集 (Edit Lines)**」ダイアログを開くには、「**ライブラリー (Library)**」 > 「**ライン (Lines)**」を選択します。
2. 作成するラインのタイプを「**カテゴリー (Category)**」メニューから選択します。
3. 以下のいずれかの操作を行なって、新しいラインを作成します。





- デフォルト設定を使用した空白の新規ラインを作成するには、ラインリストのアクションバーで「**新規 (New)**」  をクリックします。
  - 既存のラインのコピーを作成する場合は、ラインリストからコピーするラインを選択し、アクションバーの「**選択から新規作成 (New from Selection)**」  をクリックします。
4. 「**名前 (Name)**」 フィールドに新しいラインの名前を入力します。
  5. 新規のラインボディのスタイルを使用したり、既存のスタイルを編集したりするには、「**ラインボディエディター (Line Body Editor)**」  をクリックして「**ラインボディを編集 (Edit Line Bodies)**」 ダイアログを開き、必要な操作を行ないます。
  6. ラインに使用するボディのスタイルを「**ボディスタイル (Body style)**」メニューから選択します。
  7. 利用可能なラインのオプションを使用して、ラインの外観やデフォルトの位置をカスタマイズします。  
たとえば、キャップごとに異なる注釈を選択したり、ラインと譜表やその他のアイテムとの間の最小距離を設定したりできます。
  8. 「**注釈 (Annotation)**」 で以下のいずれかのオプションを選択します。
    - なし (None)
    - **中央位置の注釈 (Center Annotation)**
    - **ハイフン付きのテキスト (Hyphenated Text)**
  9. 「**中央位置の注釈 (Center Annotation)**」 を選択しており、新規のライン注釈のスタイルを使用したり、既存のスタイルを編集したりする場合は、「**ライン注釈エディター (Line Annotation Editor)**」  をクリックして「**ライン注釈を編集 (Edit Line Annotations)**」 ダイアログを開き、必要な操作を行ないます。
  10. 「**中央位置の注釈 (Center Annotation)**」 または「**ハイフン付きのテキスト (Hyphenated Text)**」 を選択している場合は、以下のいずれかの方法で注釈をカスタマイズできます。
    - 「**中央位置の注釈 (Center Annotation)**」 を選択した場合は、「**注釈 (Annotation)**」メニューから使用する注釈を選択します。必要に応じて、その他のオプションを使用してデフォルトの位置やリピートを設定します。
    - 「**ハイフン付きのテキスト (Hyphenated Text)**」 を選択した場合は、「**音節 (Syllables)**」フィールドに使用するテキストを入力します。必要に応じて、その他のオプションを使用して音節のフォントスタイルやデフォルトの位置を変更します。
  11. ラインをそれ以降のすべてのプロジェクトで使用できるようにするには、ラインリストのアクションバーにある「**デフォルトとして保存 (Save as Default)**」  をクリックします。
  12. 「**OK**」 をクリックして変更内容を保存し、ダイアログを閉じます。

---

#### 結果

新規のカスタムラインがプロジェクトに追加され、ラインパネルの対応するセクションで利用可能になります。

「**デフォルトとして保存 (Save as Default)**」  をクリックして  とした場合は、これ以降のコンピューター上のすべてのプロジェクトでカスタムのラインを使用できるようになります。

#### 関連リンク

[ラインの構成要素 \(1553 ページ\)](#)

[カスタムライン \(984 ページ\)](#)

[ラインの入力方法 \(416 ページ\)](#)

[カスタムのライン注釈の作成 \(987 ページ\)](#)

[カスタムの繰り返し可能な記号の作成 \(988 ページ\)](#)

[「ラインを編集 \(Edit Lines\)」 ダイアログ \(988 ページ\)](#)

[「ラインボディを編集 \(Edit Line Bodies\)」 ダイアログ \(992 ページ\)](#)





[「ライン注釈を編集 \(Edit Line Annotations\)」ダイアログ \(994 ページ\)](#)  
[「繰り返し可能な記号を編集 \(Edit Repeatable Symbols\)」ダイアログ \(999 ページ\)](#)  
[扇形連桁 \(1133 ページ\)](#)

## カスタムのラインボディの作成

カスタムのラインボディを作成して、ラインで使用できます。ラインのボディは横棒線、垂直線、記号の繰り返し、破線/点線のパターン、またはくさび線のいずれかを選択できます。

---



### 手順

1. 「**ラインボディを編集 (Edit Line Bodies)**」ダイアログを開くには、「**ライブラリー (Library)**」 > 「**ラインボディ (Line Bodies)**」を選択します。
2. 作成するラインボディのタイプを「**カテゴリー (Category)**」メニューから選択します。
3. 以下のいずれかの操作を行なって、新しいラインボディを作成します。
  - デフォルト設定を使用した空白の新規ラインボディを作成するには、ラインボディリストのアクションバーで「**新規 (New)**」  をクリックします。
  - 既存のラインボディのコピーを作成する場合は、ラインボディリストからコピーするラインボディを選択し、アクションバーの「**選択から新規作成 (New from Selection)**」  をクリックします。
4. 「**名前 (Name)**」フィールドに新しいラインボディの名前を入力します。
5. 利用可能なラインボディのオプションを使用して、ラインボディの外観をカスタマイズします。たとえば、一般的なライン/くさびの幅を変更したり、ラインボディの繰り返し可能な記号を複数追加したりできます。
6. 必要に応じて、「**繰り返し可能な記号 (Repeatable Symbols)**」を選択して新規の繰り返し可能な記号を使用したり、既存の記号を編集したりする場合は、記号セレクトエディターバーで「**編集 (Edit)**」  をクリックして「**繰り返し可能な記号を編集 (Edit Repeatable Symbols)**」ダイアログを開き、必要な操作を行ないます。
7. ラインボディをそれ以降のすべてのプロジェクトで使用できるようにするには、ラインボディリストのアクションバーにある「**デフォルトとして保存 (Save as Default)**」  をクリックします。
8. 「**OK**」をクリックして変更内容を保存し、ダイアログを閉じます。

---

### 結果

新規のカスタムのラインボディがプロジェクトに追加されます。

「**デフォルトとして保存 (Save as Default)**」  をクリックして  とした場合は、これ以降のコンピューター上のすべてのプロジェクトでカスタムのラインボディを使用できるようになります。

### 手順終了後の項目

新規作成したカスタムのラインボディは、「**ラインを編集 (Edit Lines)**」ダイアログおよび個別のラインの両方で使用できます。



### 関連リンク

[「ラインボディを編集 \(Edit Line Bodies\)」ダイアログ \(992 ページ\)](#)  
[カスタムの繰り返し可能な記号の作成 \(988 ページ\)](#)  
[「ラインを編集 \(Edit Lines\)」ダイアログ \(988 ページ\)](#)  
[「繰り返し可能な記号を編集 \(Edit Repeatable Symbols\)」ダイアログ \(999 ページ\)](#)  
[ラインのボディスタイルの変更 \(1563 ページ\)](#)

## カスタムのライン注釈の作成

カスタムのライン注釈を作成して、ラインで使用できます。キャップにはすべての注釈タイプを使用できます。ラインボディの中央の注釈には、音楽記号とテキスト注釈も使用できます。


### 手順

1. 「**ライン注釈を編集 (Edit Line Annotations)**」ダイアログを開くには、「**ライブラリー (Library)**」>「**ライン注釈 (Line Annotations)**」を選択します。
2. 作成するライン注釈のタイプを「**カテゴリー (Category)**」メニューから選択します。
3. 以下のいずれかの操作を行なって、新しいライン注釈を作成します。
  - 空白の新規ライン注釈またはデフォルト設定のライン注釈を作成するには、ライン注釈リストのアクションバーで「**新規 (New)**」をクリックします。
  - 既存のライン注釈のコピーを作成する場合は、ライン注釈リストからコピーするライン注釈を選択し、アクションバーの「**選択から新規作成 (New from Selection)**」をクリックします。

### 補足



既存のライン注釈からコピーしたライン注釈は元のライン注釈にリンクされます。「**ライン注釈を編集 (Edit Line Annotations)**」ダイアログで行なった変更は、元のライン注釈とそのコピーに反映されます。

新しい「**音楽記号 (Music Symbol)**」の注釈を作成した場合、「**ライン注釈を編集 (Edit Line Annotation)**」ダイアログが開きます。

4. 以下のいずれかの方法でライン注釈の外観をカスタマイズできます。
  - **矢印先端、フック、終端線、テキスト**の注釈の場合は、利用可能な注釈オプションを使用できます。たとえば、矢印先端、フック、および終端線の幅を変更したり、テキストのフォントスタイルやアタッチメントを変更したりできます。
  - **音楽記号**の注釈の場合は、「**ライン注釈を編集 (Edit Line Annotation)**」ダイアログで要素の追加や配置の変更を行ったり、「**ライン注釈を編集 (Edit Line Annotations)**」ダイアログで利用可能なライン注釈のオプションを使用したりできます。たとえば、音楽記号のアタッチメントポイントを変更できます。
5. 「**名前 (Name)**」フィールドに新しいライン注釈の名前を入力します。
6. ライン注釈をそれ以降のすべてのプロジェクトで使用できるようにするには、ライン注釈リストのアクションバーにある「**デフォルトとして保存 (Save as Default)**」をクリックします。
7. 「**OK**」をクリックして変更内容を保存し、ダイアログを閉じます。

### 結果

新規のカスタムのライン注釈がプロジェクトに追加されます。

「**デフォルトとして保存 (Save as Default)**」をクリックしてとした場合は、これ以降のコンピューター上のすべてのプロジェクトでカスタムのライン注釈を使用できるようになります。

### 手順終了後の項目

新規作成したカスタムのライン注釈は、「**ラインを編集 (Edit Lines)**」ダイアログおよび個別のラインの両方で使用できます。

### 関連リンク

[「ライン注釈を編集 \(Edit Line Annotations\)」ダイアログ \(994 ページ\)](#)

[「ラインを編集 \(Edit Lines\)」ダイアログ \(988 ページ\)](#)

[「ライン注釈を編集 \(Edit Line Annotation\)」ダイアログ \(997 ページ\)](#)

[ラインのキャップの変更 \(1564 ページ\)](#)



[ラインテキストへの枠線の追加 \(1570 ページ\)](#)

## カスタムの繰り返し可能な記号の作成

カスタムの繰り返し可能な記号を作成して、繰り返し可能な記号を使用するラインボディに追加できます。

---



### 手順

1. 「**繰り返し可能な記号を編集 (Edit Repeatable Symbols)**」ダイアログを開くには、「**ライブラリー (Library)**」 > 「**繰り返し可能な記号 (Edit Repeatable Symbols)**」を選択します。
2. 繰り返し可能な記号リストのアクションバーで「**新規 (New)**」をクリックすると、新規の繰り返し可能な記号が作成され、「**繰り返し可能な記号を編集 (Edit Repeatable Symbols)**」ダイアログが開きます。
3. 繰り返し可能な記号の外観をカスタマイズします。  
たとえば、右側のオプションを使用して繰り返し可能な記号にグリフを追加し、エディターで配置とサイズを変更できます。
4. 「**OK**」をクリックして変更内容を保存し、ダイアログを閉じます。
5. 「**名前 (Name)**」フィールドに新しい繰り返し可能な記号の名前を入力します。
6. 必要に応じて、繰り返し可能な記号の繰り返し位置を移動するには、「**繰り返しのオフセット (Repeat offset)**」の値を変更します。
7. 繰り返し可能な記号をそれ以降のすべてのプロジェクトで使用できるようにするには、繰り返し可能な記号リストのアクションバーにある「**デフォルトとして保存 (Save as Default)**」をクリックします。
8. 「**OK**」をクリックして変更内容を保存し、ダイアログを閉じます。

---

### 結果

新規に作成したカスタムの繰り返し可能な記号がプロジェクトに追加されます。

「**デフォルトとして保存 (Save as Default)**」をクリックしてとした場合は、これ以降のコンピューター上のすべてのプロジェクトでカスタムの繰り返し可能な記号を使用できるようになります。

### 手順終了後の項目

新規に作成したカスタムの繰り返し可能な記号は、繰り返し可能な記号を使用するラインボディに追加できます。

### 関連リンク

[「繰り返し可能な記号を編集 \(Edit Repeatable Symbols\)」ダイアログ \(999 ページ\)](#)

[カスタムのラインボディの作成 \(986 ページ\)](#)

[「ラインを編集 \(Edit Lines\)」ダイアログ \(988 ページ\)](#)

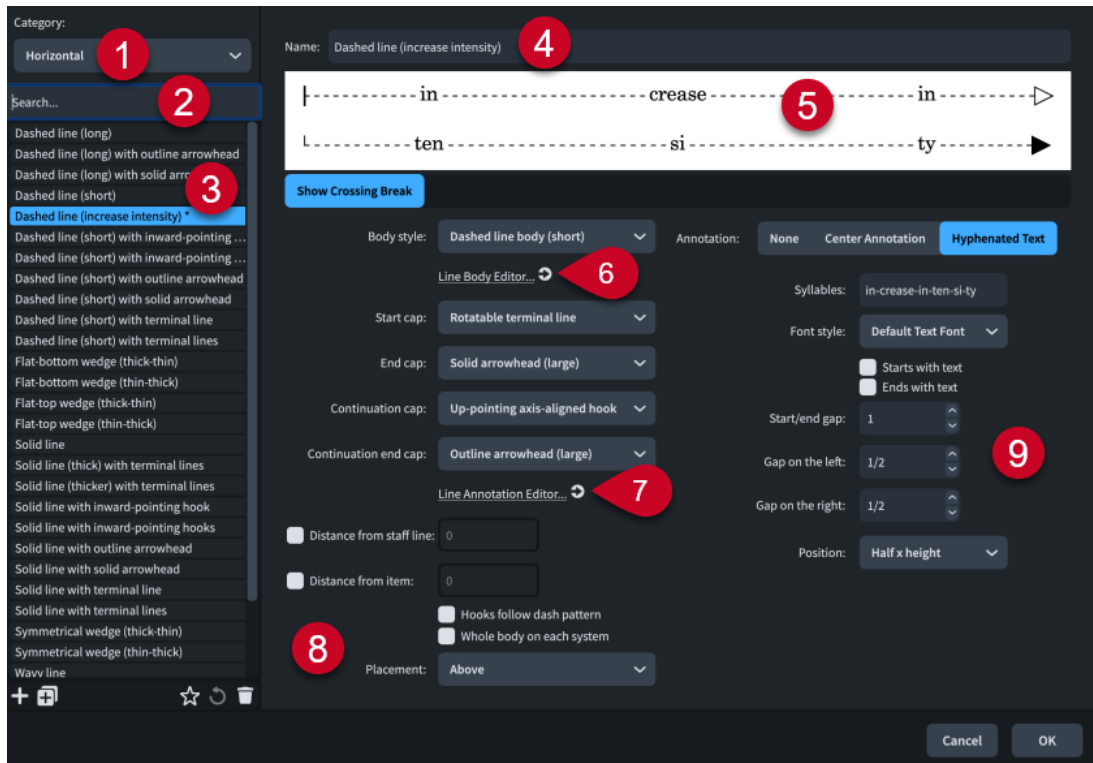
[「繰り返し可能な記号を編集 \(Edit Repeatable Symbol\)」ダイアログ \(1001 ページ\)](#)

[「ラインボディを編集 \(Edit Line Bodies\)」ダイアログ \(992 ページ\)](#)

## 「ラインを編集 (Edit Lines)」ダイアログ

「**ラインを編集 (Edit Lines)**」ダイアログでは、プロジェクトに含まれるすべてのラインの外観やデフォルトの位置を変更したり、カスタムラインを追加、編集、削除したりできます。

- 「**ラインを編集 (Edit Lines)**」ダイアログは、「**ライブラリー (Library)**」 > 「**ライン (Lines)**」を選択すると開きます。



「ラインを編集 (Edit Lines)」ダイアログには、以下のセクションやオプションが含まれます。

#### 1 「カテゴリ (Category)」メニュー

「水平 (Horizontal)」または「垂直 (Vertical)」を選択すると、ラインリストに表示するラインのカテゴリを指定できます。これはラインパネルのセクションに対応します。

#### 2 検索フィールド

入力したテキストに応じて、選択したカテゴリ内のラインをフィルタリングできます。

#### 3 ラインリスト

プロジェクトに含まれるラインのうち、現在選択しているカテゴリと検索フィルター (該当する場合) に属するすべてのものが表示されます。

リストの最下部のアクションバーには以下のオプションがあります。

- **新規 (New)** : デフォルト設定を使用した新しいラインを追加します。
- **選択から新規作成 (New from Selection)** : 既存のラインのコピーを作成し、元のものとは別の設定に編集できます。
- **デフォルトとして保存 (Save as Default)** : 選択中のラインをユーザーライブラリーのデフォルトとして保存し、複数のプロジェクトで使用できるようにします。デフォルトとして保存したラインは として表示されます。
- **出荷時の設定に戻す (Revert to Factory)** : 選択中のラインに加えたすべての変更を取り消して、元の設定と外観に戻します。
- **削除 (Delete)** : 選択したラインを削除します。

補足

プリセットのライン、またはプロジェクト内で現在使用中のラインは削除できません。

#### 4 名前 (Name)

選択中のラインの名前を新規に入力するか、既存の名前を編集できます。

#### 5 プレビュー

ラインの現在の形を表示します。水平のラインの場合、プレビューはオプションの上に表示されます。垂直のラインの場合、プレビューはオプションの右側に表示されます。

横棒線を選択中にプレビューの下にある「区切りをまたぐ形で表示 (Show Crossing Break)」をクリックすると、2つの組段にまたがる形を想定して、ラインが2本表示されます。これにより、延長線のキャップを確認できます。「区切りをまたぐ形で表示 (Show Crossing Break)」がオフの場合は、開始位置と終了位置のキャップのみが表示されたラインが1本表示されます。

## 6 ラインボディエディター (Line Body Editor)

「ラインボディを編集 (Edit Line Bodies)」ダイアログが開き、新しいラインボディを作成したり、既存のラインボディを編集したりできます。

## 7 ライン注釈エディター (Line Annotation Editor)

「ライン注釈を編集 (Edit Line Annotations)」ダイアログが開き、新しいライン注釈を作成したり、既存のライン注釈を編集したりできます。

## 8 ラインのオプション

選択したラインの全体の外観を制御するオプションです。

- **ボディスタイル (Body style)**: ラインに使用されるデフォルトのラインボディのスタイルを選択できます。
- **開始位置のキャップ (Start cap)** (一般/くさび線のラインのみ): 開始位置のキャップに使用する注釈を選択できます。
- **終端のキャップ (End cap)** (一般/くさび線のラインのみ): 終端のキャップに使用する注釈を選択できます。
- **延長線のキャップ (Continuation cap)** (一般/くさび線の横棒線のみ): 延長線の開始位置のキャップに使用する注釈を選択できます。
- **延長線終端のキャップ (Continuation end cap)** (一般/くさび線の横棒線のみ): 延長線終端のキャップに使用する注釈を選択できます。
- **譜表線からの距離 (Distance from staff line)** (横棒線のみ): ラインと譜表の間の最小距離を設定できます。この値は、ラインが譜表の外側に配置された際に適用されます。このオプションがオフの場合は、「浄書オプション (Engraving Options)」にある「ライン (Lines)」ページの設定がラインに適用されます。
- **アイテムからの距離 (Distance from item)** (横棒線のみ): ラインと他のアイテムの間の最小距離を設定できます。この値は、ラインが譜表の外側に配置された際に適用されます。このオプションがオフの場合は、「浄書オプション (Engraving Options)」にある「ライン (Lines)」ページの設定がラインに適用されます。
- **フックにも破線のパターンを適用 (Hooks follow dash pattern)** (破線または点線のラインのみ): フックまたは終端線が十分な長さである場合に、フックまたは終端線のキャップにラインボディのスタイルのパターンが適用されます。破線と間隔の値が複数あるラインのパターンの場合、最初の値が使用されます。このオプションがオフの場合やフックまたは終端がパターンを表示できない場合は、設定された注釈が使用されます。
- **組段ごとにボディ全体を表示 (Whole body on each system)** (一般またはくさび線ボディの横棒線のみ): 複数の組段にまたがるラインについて、各セグメントにラインボディ全体を表示するのか、ラインボディを全セグメントに均等に割り当てるのかを選択できます。このオプションは、ラインに設定された注釈やハイフン付きのテキストにも影響します。
- **衝突を回避 (Avoid collisions)** (垂直線のみ): ラインが衝突を回避するかどうかを設定できます。これは、初期設定では音符のスペーシングに影響します。
- **配置 (Placement)** (横棒線のみ): ラインのデフォルトの位置を「上 (Above)」、「下 (Below)」、「譜表の内側 (Inside staff)」のいずれかから選択できます。

## 9 ライン注釈のオプション

「注釈 (Annotation)」での選択に応じて、選択したラインの注釈またはハイフン付きのテキストの外観、配置、および振り分けを制御できるオプションがあります。

「中央位置の注釈 (Center Annotation)」を選択していると、以下のオプションが使用できます。

- **注釈 (Annotation):** ラインに使用する音楽記号またはテキスト注釈を選択できます。
- **垂直位置 (Vertical position):** ラインに対する注釈の位置を選択して、ラインに中央揃えしたり、ラインの上に配置したりできます。注釈を「内側 (Inside)」または「外側 (Outside)」に配置した場合、ラインに対する注釈の配置は、譜表に対するラインの配置に応じて変化します。
- **オフセット (Offset):** 注釈とラインの間の距離を設定できます。「垂直位置 (Vertical position)」が「中央揃え (Centered)」以外に設定されている注釈にのみ適用されます。
- **繰り返し (Repeat):** 注釈をラインまたはラインセグメントに一度のみ表示するか、ラインのデュレーション全体に複数回表示するか選択できます。注釈の繰り返しの間隔は、一定または変則的になるよう設定できます。
- **繰り返しの距離 (Repeat distance):** 繰り返される各注釈の間隔を設定できます。これは繰り返される注釈にのみ適用されます。
- **配置 (Placement):** ラインのデュレーションに沿って表示される注釈の配置を選択できます。横棒線の場合、「開始 (Start)」または「終了 (End)」を選択すると、ライン全体のうち選択した端にのみ注釈が表示されます。「中央 (Center)」を選択すると、すべてのラインセグメントに表示されます。
- **開始位置/終了位置との間隔 (Start/end gap):** ラインの対応する端と注釈との間隔を設定できます。「配置 (Placement)」が「開始 (Start)」または「終了 (End)」に設定されている注釈にのみ適用されます。
- **常に水平 (Always horizontal):** ラインが垂直または斜めでも、注釈を常に水平方向に保ちます。

「ハイフン付きのテキスト (Hyphenated Text)」を選択していると、以下のオプションが使用できます。

- **音節 (Syllables):** ラインのデュレーション全体に表示するテキストを入力できます。テキストは音節で分割され、ハイフンでつながれます。
- **フォントスタイル (Font style):** ハイフン付きのテキストのフォントスタイルを選択できます。
- **テキストで開始 (Starts with text):** 1 番目の音節をラインの開始位置に強制的に表示させます。
- **テキストで終了 (Ends with text):** 最後の音節をラインの終了位置に強制的に表示させます。
- **開始位置/終了位置との間隔 (Start/end gap):** ラインの対応する端と注釈との間隔を設定できます。「配置 (Placement)」が「開始 (Start)」または「終了 (End)」に設定されている注釈にのみ適用されます。
- **左側の間隔 (Gap on the left):** 各音節と音節の左の線の間隔を設定できます。
- **右側の間隔 (Gap on the right):** 各音節と音節の右の線の間隔を設定できます。
- **位置 (Position):** ラインのボディに対するテキストの垂直位置を選択できます。

#### 関連リンク

[カスタムラインの作成 \(984 ページ\)](#)

[ラインの構成要素 \(1553 ページ\)](#)

[ラインパネル \(417 ページ\)](#)

[横棒線の配置の変更 \(1558 ページ\)](#)

[垂直線の衝突回避の有効化/無効化 \(1556 ページ\)](#)


[「フォントスタイルを編集 \(Edit Font Styles\)」ダイアログ \(930 ページ\)](#)

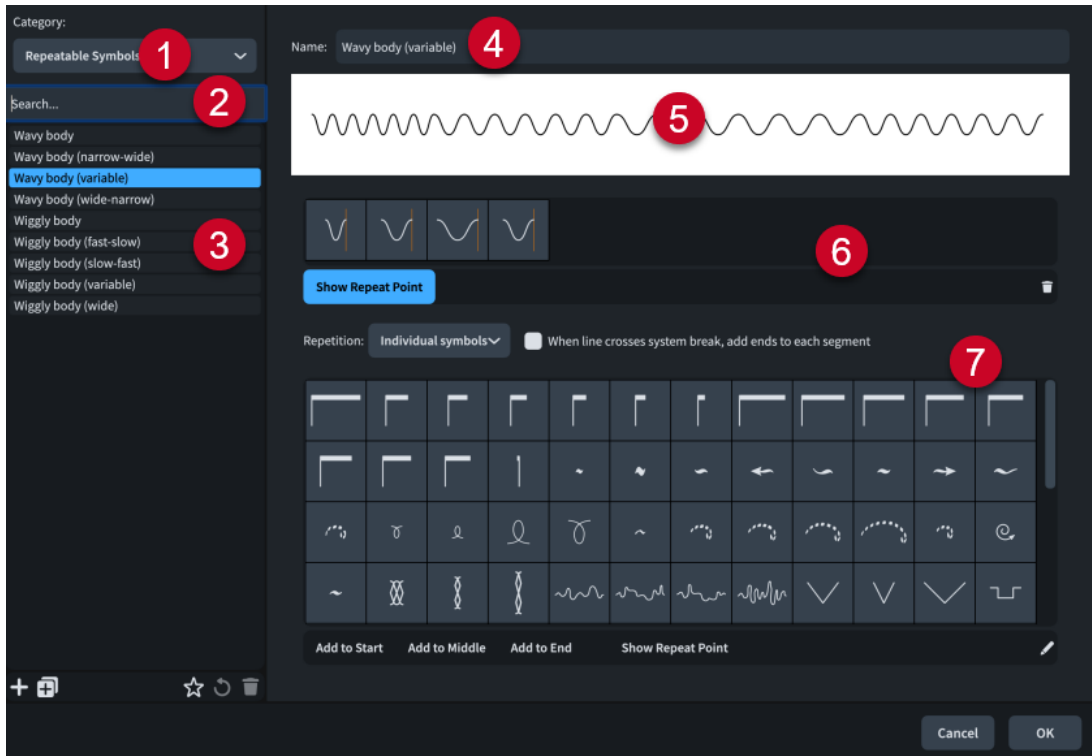
[「浄書オプション \(Engraving Options\)」ダイアログ \(923 ページ\)](#)

## 「ラインボディを編集 (Edit Line Bodies)」 ダイアログ

「ラインボディを編集 (Edit Line Bodies)」 ダイアログでは、プロジェクトに含まれるすべてのラインボディの外観や設定を変更したり、カスタムのラインボディの追加、編集、削除もしたりできます。

「ラインボディを編集 (Edit Line Bodies)」 ダイアログを開くには、以下のいずれかの操作を行いません。

- 「ライブラリー (Library)」 > 「ラインボディ (Line Bodies)」 を選択します。
- 「ラインを編集 (Edit Lines)」 ダイアログで、「ラインボディエディター (Line Body Editor)」  をクリックします。



「ラインボディを編集 (Edit Line Bodies)」 ダイアログには、以下のセクションやオプションが含まれます。

### 1 「カテゴリー (Category)」 メニュー

ラインボディリストに表示するラインボディの種類を選択します。





### 2 検索フィールド

入力したテキストに応じて、選択したカテゴリー内のラインボディをフィルタリングできます。



### 3 ラインボディリスト

プロジェクトに含まれるラインボディのうち、現在選択しているカテゴリーと検索フィルター (該当する場合) に属するすべてのものが表示されます。

リストの最下部のアクションバーには以下のオプションがあります。

- **新規 (New)** : デフォルト設定を使用した新しいラインボディを追加します。
- **選択から新規作成 (New from Selection)** : 既存のラインボディのコピーを作成し、元のものとは別の設定に編集できます。
- **デフォルトとして保存 (Save as Default)** : 選択中のラインボディをユーザーライブラリーに保存し、複数のプロジェクトで使用できるようにします。デフォルトとして保存したラインボディは  として表示されます。



- **出荷時の設定に戻す (Revert to Factory)** : 選択中のラインボディに加えたすべての変更を取り消して、元の設定と外観に戻します。
- **削除 (Delete)** : 選択したラインボディを削除します。

#### 補足

プリセットのラインボディ、またはプロジェクト内で現在使用中のラインボディは削除できません。

#### 4 名前 (Name)

選択中のラインボディの名前を新規に入力するか、既存の名前を編集できます。

#### 5 プレビュー

ラインボディの現在の形を表示します。

#### 6 記号グリッド (繰り返し可能な記号を使用するラインボディのみ)

選択中の繰り返し可能な記号を使用するラインボディに含まれる記号を表示します。開始記号と終了記号は中央位置の記号と離れた位置にそれぞれ「S」と「E」と表示されます。

グリッドの下のアクションバーには以下のオプションがあります。

- **繰り返しの位置を表示 (Show Repeat Point)**: 各記号の後続の記号の開始位置を示す垂直線の表示/非表示を切り替えます。
- **パターンから削除 (Remove from pattern)** : 選択した記号をラインボディから削除します。

#### 7 ラインボディのオプション


選択したラインボディの外観を制御するオプションです。利用できるオプションは、現在のラインボディのカテゴリによって異なります。

一般のラインボディには、以下のオプションを使用できます。

- **スタイル (Style)**: ラインボディのスタイルを選択できます。スタイルは「**実線 (Solid)**」、「**二重線 (Double line)**」、「**破線または点線 (Dashed or Dotted)**」のいずれかを使用できます。
- **線の太さ (Line width)**: ラインボディの太さを設定できます。
- **破線と間隔のパターン (Dash-gap pattern) (破線または点線のみ)**: 値のペアを入力して破線または点線のパターンを指定できます。ペアの1番めの値は、正の数であれば破線の横棒の長さを、負の数であれば点線の点の直径を指定します。2番めの値は、破線の横棒または点線の点の間隔を指定します。長さおよび直径は、整数、分数、または小数を入力して指定できます。各ペアはセミコロンで分ける必要があります。たとえば「**1; 1/2; -1; 1/2**」と入力すると、幅がそれぞれスペース1つ分の横棒と点が半スペース分の間隔を空けて交互に並んだラインボディとなります。
- **ライン同士の間隔 (Line separation) (二重線のみ)**: ラインボディの2本のライン間の間隔を設定できます。

繰り返し可能な記号のラインボディには、以下のオプションを使用できます。

- **繰り返し (Repetition)**: それぞれの記号を個別の記号としてラインに均等に分配するか、**パターン全体**をラインの長さに合うように繰り返すかを選択できます。
- **ラインが組段区切りをまたぐとき、各セグメントに終了パターンを追加 (When line crosses system break, add ends to each segment)**: 各セグメントで開始記号または終了記号を表示します。このオプションがオフの場合は、ライン全体の開始位置と終了位置にのみ表示されます。
- **記号セレクター**: 利用できる繰り返し可能な記号が含まれています。アクションバーには以下のオプションがあります。
  - **開始位置に追加 (Add to Start)**: 選択した記号を開始記号としてラインボディに追加します。開始記号はラインの開始位置にのみ表示され、繰り返されません。

- **中央位置に追加 (Add to Middle):** 選択した記号をラインボディの中央位置に追加します。既存の記号の右隣に追加されます。
- **終了位置に追加 (Add to End):** 選択した記号を終了記号としてラインボディに追加します。終了記号はラインの終了位置にのみ表示され、繰り返されません。
- **繰り返しの位置を表示 (Show Repeat Point):** 各記号の後続の記号の開始位置を示す垂直線の表示/非表示を切り替えます。
- **編集 (Edit) **: 「**繰り返し可能な記号を編集 (Edit Repeatable Symbols)**」ダイアログが開き、繰り返し可能な記号を個別に追加したり編集したりできます。

くさびボディのラインボディには、以下のオプションが使用できます。

- **くさびのタイプ (Wedge type):** 選択したラインボディのくさび形を選択できます。「**平坦な辺が外側 (Flat outside)**」および「**平坦な辺が内側 (Flat inside)**」のくさび線は、譜表での配置に応じて、上下に反転します。「**平坦な辺が上 (Flat top)**」、「**対称 (Symmetrical)**」、「**平坦な辺が下 (Flat bottom)**」のくさび線は、常に設定された通りに表示されます。
- **開始位置の太さ (Start thickness):** くさび線の開始位置の太さを設定できます。
- **中央部の太さ (Middle thickness):** くさび線の中央部で太さが変わるよう設定できます。
- **終端の太さ (End thickness):** くさび線の終端の太さを設定できます。

関連リンク

[カスタムのラインボディの作成 \(986 ページ\)](#)

[ラインの構成要素 \(1553 ページ\)](#)

[「繰り返し可能な記号を編集 \(Edit Repeatable Symbols\)」ダイアログ \(999 ページ\)](#)


[カスタムの繰り返し可能な記号の作成 \(988 ページ\)](#)

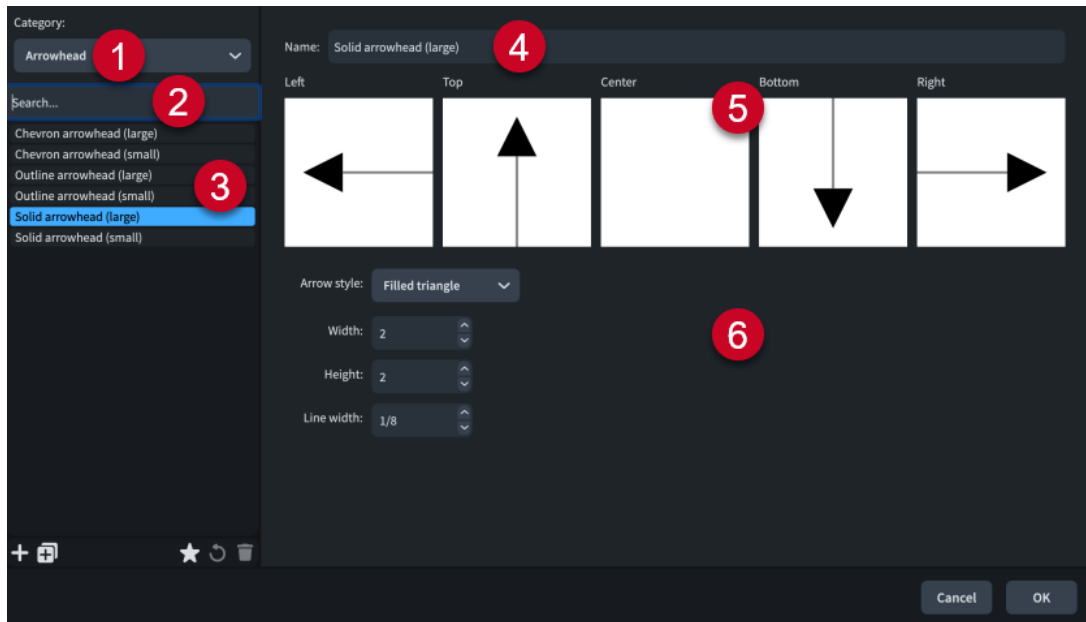
## 「ライン注釈を編集 (Edit Line Annotations)」ダイアログ

「**ライン注釈を編集 (Edit Line Annotations)**」ダイアログでは、プロジェクトに含まれるすべてのライン注釈の外観や設定を変更したり、カスタムのライン注釈の追加、編集、削除もしたりできます。

キャップにはすべての注釈タイプを使用できます。ラインボディの中央の注釈には、音楽記号とテキスト注釈も使用できます。

「**ライン注釈を編集 (Edit Line Annotations)**」ダイアログを開くには、以下のいずれかの操作を行います。

- 「**ライブラリー (Library)**」 > 「**ライン注釈 (Line Annotations)**」を選択します。
- 「**ラインを編集 (Edit Lines)**」ダイアログで、「**ライン注釈エディター (Line Annotation Editor)**」をクリックします。



「ライン注釈を編集 (Edit Line Annotations)」ダイアログには、以下のセクションやオプションが含まれます。

**1 「カテゴリー (Category)」メニュー**

ライン注釈リストに表示するライン注釈の種類を選択します。



**2 検索フィールド**

入力したテキストに応じて、選択したカテゴリー内のライン注釈をフィルタリングできます。

**3 ライン注釈リスト**





プロジェクトに含まれるライン注釈のうち、現在選択しているカテゴリーと検索フィルター (該当する場合) に属するすべてのものが表示されます。

リストの最下部のアクションバーには以下のオプションがあります。

- **新規 (New) **: 空白の新規ライン注釈またはデフォルト設定のライン注釈を作成します音楽記号の場合は、「新規 (New)」を選択すると、新しい音楽記号の注釈をデザインできる「ライン注釈を編集 (Edit Line Annotation)」ダイアログが開きます。
- **選択から新規作成 (New from Selection) **: 既存のライン注釈のコピーを作成し、元のものとは別の設定に編集できます。

補足

既存のライン注釈からコピーしたライン注釈は元のライン注釈にリンクされます。「ライン注釈を編集 (Edit Line Annotations)」ダイアログで行なった変更は、元のライン注釈とそのコピーに反映されます。

- **デフォルトとして保存 (Save as Default) **: 選択中のライン注釈をユーザーライブラリーに保存し、複数のプロジェクトで使用できるようにします。デフォルトとして保存したライン注釈は  として表示されます。
- **出荷時の設定に戻す (Revert to Factory) **: 選択中のライン注釈に加えたすべての変更を取り消して、元の設定と外観に戻します。
- **削除 (Delete) **: 選択したライン注釈を削除します。

## 補足

プリセットのライン注釈、またはプロジェクト内で現在使用中のライン注釈は削除できません。

### 4 名前 (Name)

選択中のライン注釈の名前を新規に入力するか、既存の名前を編集できます。

### 5 プレビュー

ライン注釈の現在の形を設定可能なすべての配置で表示します。

### 6 ライン注釈のオプション

選択したライン注釈の外観を制御するオプションです。利用できるオプションは、現在のライン注釈のカテゴリによって異なります。

矢印先端のライン注釈には、以下のオプションを使用できます。

- **矢印のスタイル (Arrow style):** 矢印先端のスタイルを選択できます。矢印先端には、山形になった2本線、塗りつぶしなしの三角形、または塗りつぶされた三角形のいずれかを選択できます。
- **幅 (Width):** 矢印先端の幅を設定できます。
- **高さ (Height):** 矢印先端の高さを設定できます。
- **線の太さ (Line width):** 矢印先端の線の太さを設定できます。これは、「山形 (Chevron)」と「三角 (白) (Empty triangle)」の矢印先端にのみ適用できます。

フックのライン注釈には、以下のオプションを使用できます。

- **長さ (Length):** フックの長さを設定できます。
- **線の太さ (Line width):** フック部分の線の太さを設定できます。
- **方向 (Direction):** フックが向く方向を設定できます。「内側 (Inward)」または「外側 (Outward)」のフックは、ラインの譜表に対する位置に関係なく、常に譜表側または譜表の反対側に向きます。「上 (Up)」、「下 (Down)」、「左 (Left)」、「右 (Right)」のフックは、常に同じ方向に向きます。
- **回転 (Rotation):** フックをラインに従って回転させるか、常に軸方向 (上下左右のいずれか) に向けさせるかを選択できます。

音楽記号のライン注釈には、以下のオプションを使用できます。

- **記号 (Symbol):** 「編集 (Edit)」をクリックすると「ライン注釈を編集 (Edit Line Annotation)」ダイアログが開き、音楽記号の外観を編集できます。
- **水平方向のアタッチメント位置 (Horizontal attachment):** 垂直線に対する音楽記号のアタッチメント位置を選択できます。
- **垂直方向のアタッチメント位置 (Vertical attachment):** 横棒線に対する音楽記号のアタッチメント位置を選択できます。
- **上の間隔 (Gap above)/下の間隔 (Gap below):** 音楽記号とラインボディとの上下の間隔を設定できます。
- **左側の間隔 (Gap on the left)/右側の間隔 (Gap on the right):** 音楽記号とラインボディとの左右の間隔を設定できます。
- **回転 (Rotation):** 音楽記号をラインに従って回転させるか、常に軸方向 (上下左右のいずれか) に向けさせるかを選択できます。

終端線のライン注釈には、以下のオプションを使用できます。

- **長さ (Length):** 終端線の長さを設定できます。
- **線の太さ (Line width):** 終端線の線の太さを設定できます。

- **回転 (Rotation):** 終端線をラインに従って回転させるか、常に軸方向 (上下左右のいずれか) に向けさせるかを選択できます。

テキストのライン注釈には、以下のオプションを使用できます。

- **テキスト (Text):** テキスト注釈に使用するテキストを入力できます。
- **フォントスタイル (Font style):** テキスト注釈のフォントスタイルを選択できます。
- **水平方向のアタッチメント位置 (Horizontal attachment):** 垂直線に対するテキスト注釈のアタッチメント位置を選択できます。
- **垂直方向のアタッチメント位置 (Vertical attachment):** 横棒線に対するテキスト注釈のアタッチメント位置を選択できます。
- **上の間隔 (Gap above)/下の間隔 (Gap below):** テキスト注釈とラインボディとの上下の間隔を設定できます。
- **左側の間隔 (Gap to the left)/右側の間隔 (Gap to the right):** テキスト注釈とラインボディとの左右の間隔を設定できます。
- **回転 (Rotation):** テキスト注釈をラインに従って回転させるか、常に軸方向 (上下左右のいずれか) に向けさせるかを選択できます。
- **フォントメトリックを無視 (Ignore font metrics):** ラインボディのようなアイテムに対するテキスト注釈の位置や塗りつぶされる背景の計算を行なう際に、外接長方形を使用するか、アセンダー/ディセンダーのフォントメトリックを使用するかを選択できます。
- **背景を塗りつぶし (Erase background):** テキスト注釈の背景を塗りつぶすかどうかを設定できます。
- **枠線 (Border):** テキスト注釈の周りに枠線を表示したり、枠線の太さを設定したりできます。

関連リンク

- [カスタムのライン注釈の作成 \(987 ページ\)](#)
- [ラインの構成要素 \(1553 ページ\)](#)
- [「ラインを編集 \(Edit Lines\)」ダイアログ \(988 ページ\)](#)
- [「フォントスタイルを編集 \(Edit Font Styles\)」ダイアログ \(930 ページ\)](#)
- [ラインテキストへの枠線の追加 \(1570 ページ\)](#)

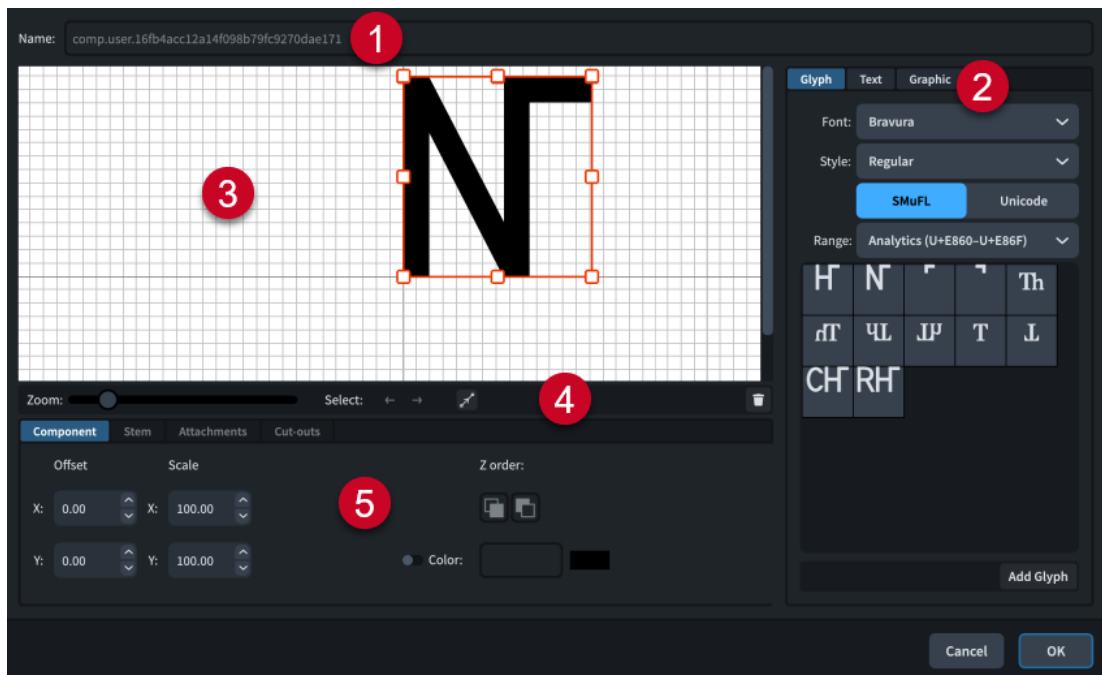
## 「ライン注釈を編集 (Edit Line Annotation)」ダイアログ

「ライン注釈を編集 (Edit Line Annotation)」ダイアログでは、カスタムの音楽記号によるライン注釈をデザインしたり、それらの外観と配置を編集したりできます。

### 補足

既存のライン注釈からコピーしたライン注釈は元のライン注釈にリンクされます。「ライン注釈を編集 (Edit Line Annotations)」ダイアログで行なった変更は、元のライン注釈とそのコピーに反映されません。

- 「ライン注釈を編集 (Edit Line Annotations)」ダイアログで新規の音楽記号注釈を作成するか、既存の音楽記号注釈を選択してオプションから「編集 (Edit)」を選択すると、「ライン注釈を編集 (Edit Line Annotation)」ダイアログが開きます。



「ライン注釈を編集 (Edit Line Annotation)」ダイアログには、以下のセクションやオプションが含まれます。

### 1 名前 (Name)

新規作成された音楽記号の注釈に対し自動生成された名前が表示されます。この名前は変更できません。

### 2 構成要素セレクター

音楽記号の注釈に追加する要素を選択できます。タイプごとのタブのタイトルをクリックして、さまざまな構成要素を追加できます。

- **グリフ (Glyph):** ♯や#を追加できます。メニューからさまざまなフォントスタイルを選択して、さまざまなスタイルのグリフを使用できます。**SMuFL** または **Unicode** から検索できます。「**グリフを追加 (Add Glyph)**」をクリックして、選択したグリフを音楽記号の注釈に追加します。

補足

すべてのグリフの完全なリストは、SMuFL の Web サイトで参照できます。

- **テキスト (Text):** 数字やその他のテキストが含まれます。数字およびテキストは、利用できる「**プリセットテキスト (Preset text)**」リストから使用するか、メニューからフォントを選択して画面下部のテキストボックスに任意のテキストを入力できます。「**テキストを追加 (Add Text)**」をクリックして、選択したオプション、または入力したテキストを音楽記号の注釈に追加します。
- **グラフィック (Graphic):** SVG、PNG または JPG 形式で、新規グラフィックファイルを読み込むか、または「**既存から選択 (Select existing)**」リストから既存のグラフィックを選択できます。「**プレビュー (Preview)**」ボックスでグラフィックのプレビューを確認できます。「**グラフィックを追加 (Add Graphic)**」をクリックして、選択したグラフィックを音楽記号の注釈に追加します。

### 3 エディター

音楽記号の注釈を形作る要素の配置と編集を行ないます。要素の配置と編集は、エディター内で要素をクリックしてドラッグするか、ダイアログ下部のコントロールを使用して行なえます。各要素のハンドルを使用してサイズを変更することもできます。

#### 4 エディターアクションバー

エディターの選択オプションと表示オプションがあります。

- **ズーム (Zoom):** エディターのズームレベルを変更できます。
- **選択 (Select):** 次/前の要素を選択できます。
- **アタッチメントの表示 (Show Attachments)** : エディターのすべての要素のアタッチメントをすべて表示します。
- **削除 (Delete)** : 選択した要素を削除します。

#### 5 コントロール

個々の構成要素を編集できるコントロールが収められています。コントロールは、それが影響する選択した構成要素の性質に従いタブに分けられています。音楽記号の注釈に対しては、「要素 (Component)」タブと「アタッチメント (Attachments)」タブが利用可能です。

「要素 (Component)」タブには以下のオプションがあります。

- **オフセット (Offset):** 選択した要素の位置をコントロールします。「X」で水平方向、「Y」で垂直方向に移動します。
- **「スケール (Scale)」:** 選択した要素のサイズをコントロールします。グラフィックに対して、「X」で幅、「Y」で高さをコントロールします。

#### 補足

一部の要素は高さと幅を個別に調節できますが、その他の要素は縦横比が保持され、いずれかの値のみで全体のサイズが変わります。

- **「前後の順序 (Z order)」:** 要素が重なった場合、「前面へ移動 (Bring Forward)」または「背面へ移動 (Send Backward)」を使用してほかの要素に対する選択した要素の前後の順序を入れ替えることができます。
- **カラー (Color):** 選択した要素の色を変更できます。

「アタッチメント (Attachments)」タブは、音楽記号の注釈が2つ以上の個別の要素からなる場合にのみ利用できます。このタブには以下のオプションがあります。

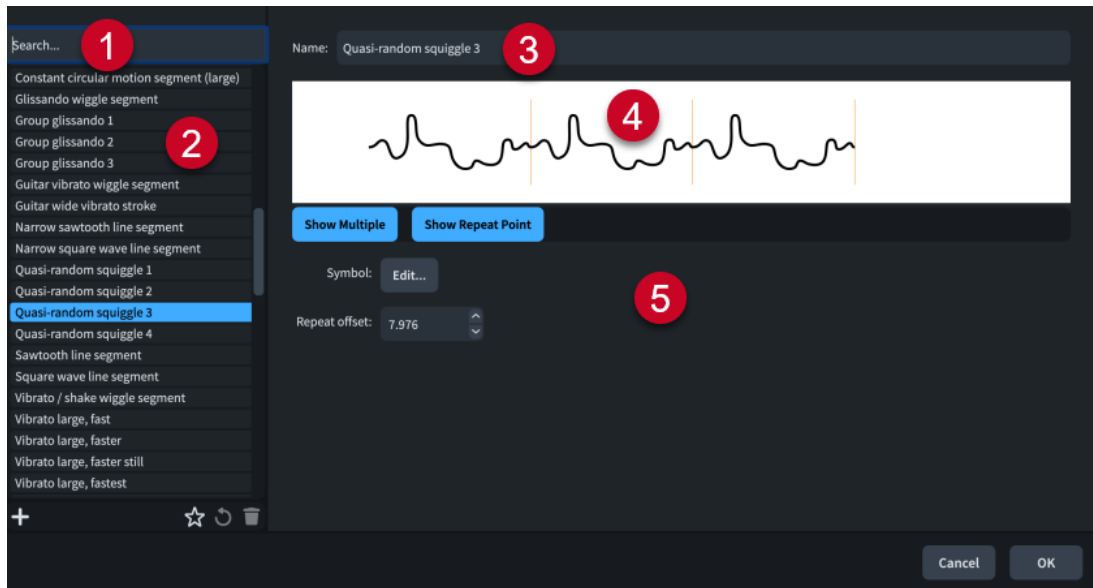
- **連結元 (Attachment from):** 選択した要素を左側の要素のどこのポイントに連結するかを選択します。「連結元 (Attachment from)」は右側のポイントを選択することをおすすめします。
- **連結先 (Attachment to):** 選択した要素のどこのポイントを左側の要素に連結するかを選択します。「連結先 (Attachment to)」は左側のポイントを選択することをおすすめします。

## 「繰り返し可能な記号を編集 (Edit Repeatable Symbols)」ダイアログ

「繰り返し可能な記号を編集 (Edit Repeatable Symbols)」ダイアログでは、プロジェクトに含まれるすべての繰り返し可能な記号の外観や設定を変更したり、カスタムの繰り返し可能な記号を追加、編集、削除したりできます。

「繰り返し可能な記号を編集 (Edit Repeatable Symbols)」ダイアログを開くには、以下のいずれかの操作を行ないます。

- 「ライブラリー (Library)」 > 「繰り返し可能な記号 (Repeatable Symbols)」を選択します。
- 繰り返し可能な記号を使用するラインボディを編集する際に、「ラインボディを編集 (Edit Line Bodies)」ダイアログの記号セレクターアクションバーにある「編集 (Edit)」をクリックします。



「繰り返し可能な記号を編集 (Edit Repeatable Symbols)」ダイアログには、以下のセクションとオプションがあります。






### 1 検索フィールド

テキストを入力して繰り返し可能な記号をフィルタリングできます。

### 2 繰り返し可能な記号のリスト

プロジェクト内のすべての繰り返し可能な記号が含まれています。

リストの最下部のアクションバーには以下のオプションがあります。

- **新規 (New)** : 空白の繰り返し可能な記号を新規作成し、新しい繰り返し可能な記号をデザインできる「繰り返し可能な記号を編集 (Edit Repeatable Symbol)」ダイアログを開きます。
- **デフォルトとして保存 (Save as Default)** : 選択中の繰り返し可能な記号をユーザーライブラリーのデフォルトとして保存し、複数のプロジェクトで使用できるようにします。デフォルトとして保存した繰り返し可能な記号は  として表示されます。
- **出荷時の設定に戻す (Revert to Factory)** : 選択中の繰り返し可能な記号に加えたすべての変更を取り消して、元の設定と外観に戻します。
- **削除 (Delete)** : 選択した繰り返し可能な記号を削除します。

#### 補足

プリセットの繰り返し可能な記号、またはプロジェクト内で現在使用中の繰り返し可能な記号は削除できません。

### 3 名前 (Name)

選択中の繰り返し可能な記号の名前を新規に入力するか、既存の名前を編集できます。

### 4 プレビュー

繰り返し可能な記号の現在の形を表示します。

プレビューの下のアクションバーには以下のオプションがあります。

- **複数を表示 (Show Multiple)**: 繰り返し可能な記号を 1 回のみ表示するか、複数回表示するかを選択して、ラインをプレビューできます。
- **繰り返しの位置を表示 (Show Repeat Point)**: 繰り返し可能な記号 (繰り返しを含む) の後続の記号の開始位置を示す垂直線の表示/非表示を切り替えます。

### 5 ライン注釈のオプション



選択中の繰り返し可能な記号を制御するオプションが含まれます。

- **記号 (Symbol):** 「編集 (Edit)」をクリックすると「繰り返し可能な記号を編集 (Edit Repeatable Symbol)」ダイアログが開き、繰り返し可能な記号の外観を編集できます。
- **繰り返しのオフセット (Repeat offset):** 繰り返し可能な記号に沿った後続の記号の開始位置を設定できます。オフセットは繰り返し可能な記号の左端からスペース単位で指定できます。

関連リンク

[カスタムの繰り返し可能な記号の作成 \(988 ページ\)](#)

[ラインの構成要素 \(1553 ページ\)](#)

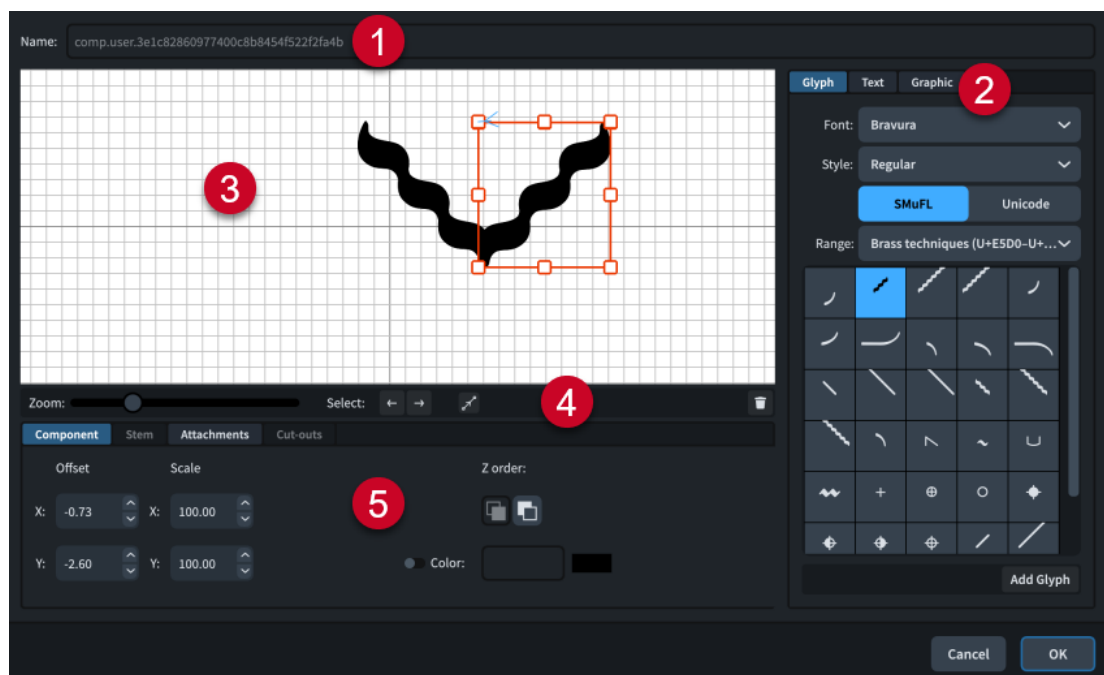
[「ラインを編集 \(Edit Lines\)」ダイアログ \(988 ページ\)](#)

[「ラインボディを編集 \(Edit Line Bodies\)」ダイアログ \(992 ページ\)](#)

## 「繰り返し可能な記号を編集 (Edit Repeatable Symbol)」ダイアログ

「繰り返し可能な記号を編集 (Edit Repeatable Symbol)」ダイアログでは、カスタムの繰り返し可能な記号をデザインしたり、プロジェクトに含まれるすべての繰り返し可能な記号の外観や配置を編集できます。

- 「繰り返し可能な記号を編集 (Edit Repeatable Symbols)」ダイアログで新規の繰り返し可能な記号を作成するか、既存の繰り返し可能な記号を選択してオプションから「編集 (Edit)」を選択すると、「繰り返し可能な記号を編集 (Edit Repeatable Symbol)」ダイアログが開きます。



「繰り返し可能な記号を編集 (Edit Repeatable Symbol)」ダイアログには、以下のセクションとオプションがあります。

### 1 名前 (Name)

プリセットの繰り返し可能な記号の保存名、または新規の繰り返し可能な記号の自動生成された名前が表示されます。この名前は変更できません。

### 2 構成要素セレクター

繰り返し可能な記号に追加する要素を選択できます。タイプごとのタブのタイトルをクリックして、さまざまな構成要素を追加できます。

- **グリフ (Glyph):** ♯や#を追加できます。メニューからさまざまなフォントスタイルまたは太さを選択して、さまざまなスタイルのグリフを使用できます。SMuFL または Unicode から検索

できます。「グリフを追加 (Add Glyph)」をクリックして、選択したグリフを繰り返し可能な記号に追加します。

#### 補足

すべてのグリフの完全なリストは、SMuFL の Web サイトで参照できます。



- **テキスト (Text):** 数字やその他のテキストが含まれます。数字およびテキストは、利用できる「プリセットテキスト (Preset text)」リストから使用するか、メニューからフォントを選択して画面下部のテキストボックスに任意のテキストを入力できます。「テキストを追加 (Add Text)」をクリックして、選択したオプションまたは入力したテキストを繰り返し可能な記号に追加します。
- **グラフィック (Graphic):** SVG、PNG または JPG 形式で、新規グラフィックファイルを読み込むか、または「既存から選択 (Select existing)」リストから既存のグラフィックを選択できます。「プレビュー (Preview)」ボックスでグラフィックのプレビューを確認できます。「グラフィックを追加 (Add Graphic)」をクリックして、選択したグラフィックを繰り返し可能な記号に追加します。

### 3 エディター

繰り返し可能な記号を形作る要素の配置と編集を行いません。要素の配置と編集は、エディター内で要素をクリックしてドラッグするか、ダイアログ下部のコントロールを使用して行なえます。各要素のハンドルを使用してサイズを変更することもできます。

### 4 エディターアクションバー

エディターの選択オプションと表示オプションがあります。

- **ズーム (Zoom):** エディターのズームレベルを変更できます。
- **選択 (Select):** 次/前の要素を選択できます。
- **アタッチメントの表示 (Show Attachments)** : エディターのすべての要素のアタッチメントをすべて表示します。
- **削除 (Delete)** : 選択した要素を削除します。

### 5 コントロール

個々の構成要素を編集できるコントロールが収められています。コントロールは、それが影響する選択した構成要素の性質に従いタブに分けられています。繰り返し可能な記号に対しては、「要素 (Component)」タブと「アタッチメント (Attachments)」タブが利用可能です。

「要素 (Component)」タブには以下のオプションがあります。

- **オフセット (Offset):** 選択した要素の位置をコントロールします。「X」で水平方向、「Y」で垂直方向に移動します。
- **スケール (Scale):** 選択した要素のサイズをコントロールします。グラフィックに対して、「X」で幅、「Y」で高さをコントロールします。

#### 補足

一部の要素は高さや幅を個別に調節できますが、その他の要素は縦横比が保持され、いずれかの値のみで全体のサイズが変わります。

- **前後の順序 (Z order):** 要素が重なった場合、「前面へ移動 (Bring Forward)」または「背面へ移動 (Send Backward)」を使用してほかの要素に対する選択した要素の前後の順序を入れ替えることができます。
- **カラー (Color):** 選択した要素の色を変更できます。

「アタッチメント (Attachments)」タブは、繰り返し可能な記号が 2 つ以上の個別の要素からなる場合のみ利用できます。このタブには以下のオプションがあります。

- **連結元 (Attachment from):** 選択した要素を左側の要素のどこのポイントに連結するかを選択します。「**連結元 (Attachment from)**」は右側のポイントを選択することをおすすめします。
- **連結先 (Attachment to):** 選択した要素のどこのポイントを左側の要素に連結するかを選択します。「**連結先 (Attachment to)**」は左側のポイントを選択することをおすすめします。

## カスタムの調性システム

カスタムの調性システムでは、プロジェクト内で使用できるオクターブの独自の分割数を指定できます。これは伝統的な西洋和声に基づかない楽譜の作成において使用します。Dorico Pro では、カスタムの臨時記号を作成して、各カスタムの調性で使用されるカスタムの調号に組み込むことができます。

「**調性システムを編集 (Edit Tonality System)**」ダイアログでは、カスタムの調性システムを作成および既存の調性システムを編集できます。また、たとえば他のユーザーと共有するために調性システムを書き出すこともできます。調性システムは .doricolib ファイルとして保存されます。

関連リンク

[調性システム \(1357 ページ\)](#)

[オクターブのカスタム分割 \(1008 ページ\)](#)

[カスタムの臨時記号 \(1009 ページ\)](#)





[特別な調号 \(1012 ページ\)](#)


## カスタムの調性システムの作成





カスタムの調性システムを作成できます。これはオクターブを任意の数で分割することも、必要に応じてカスタムの臨時記号や特別な調号をいくつでも追加することもできます。各プロジェクトにはカスタムの調性システムを複数使用できます。

---

手順

1. 記譜モードの記譜ツールボックスで「**パネル (Panels)**」をクリックし、「**調号、調性システム、臨時記号 (Key Signatures, Tonality Systems, and Accidentals)**」をクリックして調号、調性システム、臨時記号パネルを表示します。
2. 「**調性システム (Tonality System)**」セクションで新規調性システムを作成し、以下のいずれかの操作を行なって「**調性システムを編集 (Edit Tonality System)**」ダイアログを開きます。
  - まったく新しい調性システムを作成する場合は、アクションバーの「**新規調性システム (New Tonality System)**」をクリックします。
  - 既存の調性システムのコピーを作成するには、メニューからその調性システムを選択して、アクションバーの「**調性システムを複製 (Duplicate Tonality System)**」をクリックします。
3. 新しいカスタムの調性システムの名前を「**名前 (Name)**」フィールドに入力します。
4. 「**ディヴィジョン (Divisions)**」セクションで、オクターブを等分した最小単位の各音程に割り当てられる数を変更します。

たとえば A~B、C~D、D~E、F~G および G~A の音程には、B~C および E~F の音程とは異なる数を割り当てることが考えられます。
5. 「**臨時記号 (Accidentals)**」のセクションでは、カスタムの臨時記号を新規作成するか、既存の臨時記号を編集します。
  - カスタムの臨時記号を新規作成するには、アクションバーの「**新規臨時記号 (New Accidental)**」をクリックして「**臨時記号を編集 (Edit Accidental)**」ダイアログを開きます。

- 既存の臨時記号のコピーを作成するには、その臨時記号を選択して、アクションバーにある「**臨時記号を複製 (Duplicate Accidental)**」をクリックして「**臨時記号を編集 (Edit Accidental)**」ダイアログを開きます。
  - 既存の臨時記号を編集するには、アクションバーの「**臨時記号を編集 (Edit Accidental)**」をクリックして「**臨時記号を編集 (Edit Accidental)**」ダイアログを開きます。
6. 臨時記号の外観、名前、ピッチデルタをカスタマイズします。
- 補足
- オクターブを等分した最小単位の総数の半分を超えるピッチデルタの値を設定することはおすすめしません。
  - デフォルトの 12-EDO および 24-EDO 調性システムでデフォルトの臨時記号を編集する場合、ピッチデルタを変更することはできません。
- 
7. 「OK」をクリックして変更内容を保存し、「**臨時記号を編集 (Edit Accidental)**」ダイアログを閉じます。
8. 必要に応じて、カスタムの調性システムに必要な臨時記号それぞれに、手順 5 から 7 を繰り返します。
9. 「**特別な調号 (Custom Key Signatures)**」セクションで、特別な調号を新規に追加するか、デフォルトの特別な調号のいずれかを編集します。
- デフォルトの特別な調号のいずれかを編集するには、調号を選択してアクションバーの「**調号を編集 (Edit Key Signature)**」をクリックし、「**特別な調号を編集 (Edit Custom Key Signature)**」ダイアログを開きます。
  - 特別な調号を新規作成するには、アクションバーの「**新規調号 (New Key Signature)**」をクリックして「**特別な調号を編集 (Edit Custom Key Signature)**」ダイアログを開きます。
10. 調号の配置をカスタマイズします。
11. 「OK」をクリックして変更を保存し、「**特別な調号を編集 (Edit Custom Key Signature)**」ダイアログを閉じます。
12. 必要に応じて、カスタムの調性システムに必要な特別な調号それぞれに、手順 9 から 11 を繰り返します。
13. カスタムの調性システムをそれ以降のすべてのプロジェクトで使用できるようにするには、「**デフォルトとして保存 (Save as Default)**」をクリックします。
14. 「OK」をクリックして変更内容を保存し、「**調性システムを編集 (Edit Tonality System)**」ダイアログを閉じます。
- 

#### 結果

プロジェクトに新しくカスタムの調性システムが追加され、「調号、調性システム、臨時記号 (Key Signatures, Tonality Systems and Accidentals)」パネルの「**調性 (Tonality System)**」セクションのメニューで利用できるようになります。

「**デフォルトとして保存 (Save As Default)**」をクリックした場合は、それ以降にコンピューター上で作成するすべてのプロジェクトで使用できるようになります。

#### 手順終了後の項目

- 調性システムを切り替えることで、新しいカスタムの調性システムを楽譜の特定の範囲に適用させることができます。
- たとえば他のユーザーと共有するために、カスタムの調性システムを書き出すことができます。

#### 関連リンク

[調性システムの変更 \(1358 ページ\)](#)

調性システムの書き出し (1360 ページ)

「臨時記号を編集 (Edit Accidental)」ダイアログ (1009 ページ)

「特別な調号を編集 (Edit Custom Key Signature)」ダイアログ (1012 ページ)

調号、調性システム、臨時記号パネル (306 ページ)

## カスタムの臨時記号を作成/編集する







たとえば EDO とは異なる調性システムを使用することで、ピッチを上昇/下降させる量を示す特定の臨時記号のグリフが必要な場合、カスタムの臨時記号を新規作成することも、既存のものを編集することもできます。

前提条件

カスタムの調性システムを使用して臨時記号を作成または編集する場合は、あらかじめそのカスタムの調性システムを作成しておきます。

---

手順

1. 記譜モードの記譜ツールボックスで「パネル (Panels)」をクリックし、「調号、調性システム、臨時記号 (Key Signatures, Tonality Systems, and Accidentals)」をクリックして調号、調性システム、臨時記号パネルを表示します。
2. 「調性 (Tonality System)」セクションで、カスタムの臨時記号を作成または編集する調性システムをメニューから選択します。
3. 「調性システムを編集 (Edit Tonality System)」をクリックして「調性システムを編集 (Edit Tonality System)」ダイアログを開きます。
4. 「臨時記号 (Accidentals)」セクションで、以下のいずれかの操作を行なって「臨時記号を編集 (Edit Accidental)」ダイアログを開きます。
  - カスタムの臨時記号を新規作成するには、アクションバーの「新規臨時記号 (New Accidental)」をクリックします。
  - 既存の臨時記号のコピーを作成するには、その臨時記号を選択して、アクションバーにある「臨時記号を複製 (Duplicate Accidental)」をクリックします。
  - 既存の臨時記号を編集するには、それを選択して、アクションバーの「臨時記号を編集 (Edit Accidental)」をクリックします。
5. 必要に応じて、新しいカスタム臨時記号の名前を「名前 (Name)」フィールドに入力します。既存の臨時記号の名前も編集できます。
6. 必要に応じて、カスタムの臨時記号を新規作成した場合、「ピッチデルタ (Pitch delta)」の値フィールドの値を変更して、オクターブを等分した最小単位による音符のピッチ上昇/下降の数を変更します。

### 補足

- オクターブを等分した最小単位の総数の半分を超えるピッチデルタの値を設定することはおすすめしません。
  - デフォルトの 12-EDO および 24-EDO 調性システムでデフォルトの臨時記号を編集する場合、ピッチデルタを変更することはできません。
- 
7. 臨時記号の外観をカスタマイズします。

たとえば、右側のオプションを使用して臨時記号にグリフを追加し、エディターで配置とサイズを変更できます。
  8. 「OK」をクリックして変更内容を保存し、「臨時記号を編集 (Edit Accidental)」ダイアログを閉じます。

- 必要に応じて、現在の調性システムに作成するカスタムの臨時記号それぞれに、手順4から8を繰り返します。
- 「OK」をクリックして変更内容を保存し、「調性システムを編集 (Edit Tonality System)」ダイアログを閉じます。

---

手順終了後の項目

カスタムの臨時記号は、特別な調号にも組み込みます。

関連リンク

[「臨時記号を編集 \(Edit Accidental\)」ダイアログ \(1009 ページ\)](#)

[カスタムの臨時記号 \(1009 ページ\)](#)

## 特別な調号を作成/編集する






たとえばカスタムの臨時記号の配置を表示するために、すべての調性システムにおいて、特別な調号を新規作成したり、既存のものを編集したりできます。

前提条件

カスタムの調性システムの調号を作成/編集する場合は、そのカスタムの調性システムを作成しておきます。

---

手順

- 記譜モードの記譜ツールボックスで「パネル (Panels)」をクリックし、「調号、調性システム、臨時記号 (Key Signatures, Tonality Systems, and Accidentals)」をクリックして調号、調性システム、臨時記号パネルを表示します。
  - 「調性 (Tonality System)」セクションで、特別な調号を作成または編集する調性システムをメニューから選択します。
  - 「調性システムを編集 (Edit Tonality System)」をクリックして「調性システムを編集 (Edit Tonality System)」ダイアログを開きます。
  - 「特別な調号 (Custom Key Signatures)」セクションで、以下のいずれかの操作を行なって「特別な調号を編集 (Edit Custom Key Signature)」ダイアログを開きます。
    - 特別な調号を新規作成するには、アクションバーの「新規調号 (New Key Signature)」をクリックします。
    - 既存の特別な調号を編集するには、それを選択して、アクションバーの「調号を編集 (Edit Key Signature)」をクリックします。
  - 必要に応じて、新しい特別な調号の名前を「名前 (Name)」フィールドに入力します。既存の特別な調号の名前も編集できます。
  - 調号の配置をカスタマイズします。

たとえば、調号に臨時記号を追加してから、それが適用されるピッチやオクターブを変更できます。また他の音部記号を選択して、調号の配置にどのような影響があるか確認できます。
  - 「OK」をクリックして変更を保存し、「特別な調号を編集 (Edit Custom Key Signature)」ダイアログを閉じます。
  - 必要に応じて、現在の調性システムに作成する特別な調号それぞれに、手順4から7を繰り返します。
  - 「OK」をクリックして変更内容を保存し、「調性システムを編集 (Edit Tonality System)」ダイアログを閉じます。
-

関連リンク

[「特別な調号を編集 \(Edit Custom Key Signature\)」ダイアログ \(1012 ページ\)](#)

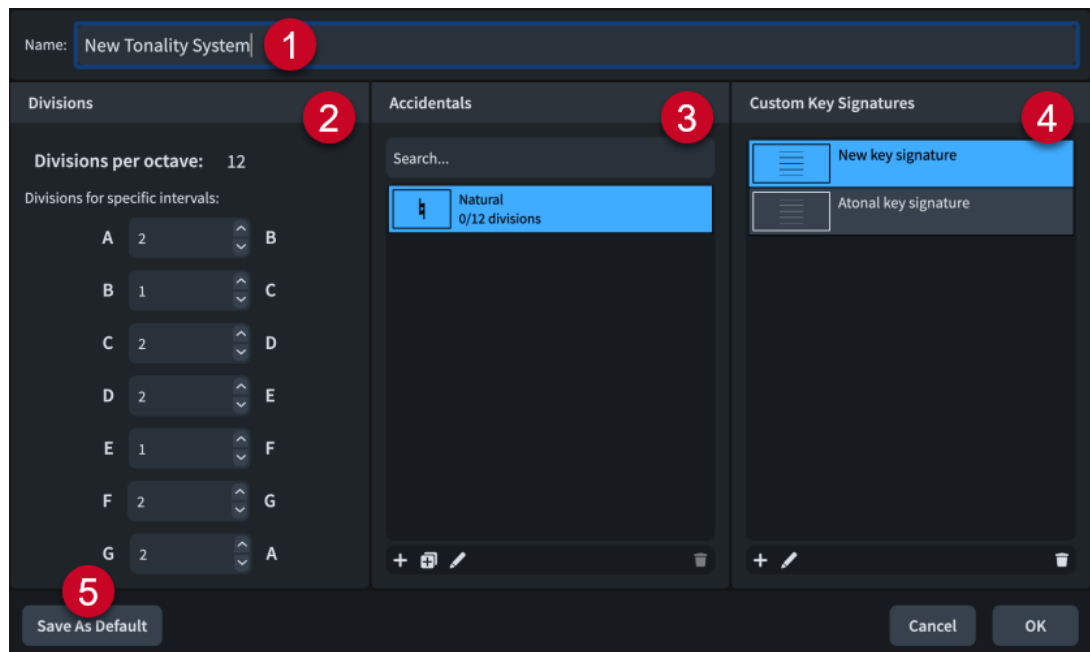
[特別な調号 \(1012 ページ\)](#)

## 「調性システムを編集 (Edit Tonality System)」ダイアログ

「調性システムを編集 (Edit Tonality System)」ダイアログでは、カスタムの調性システムの作成および既存の調性システムの編集が行なえます。

以下のいずれかの操作を行なって、「調性システムを編集 (Edit Tonality System)」ダイアログを開きます。

- 新しい調性システムを作成するには、「調号、調性システム、臨時記号 (Key Signatures, Tonality Systems and Accidentals)」パネルの「調性 (Tonality System)」セクションで「新規調性システム (New Tonality System)」**+**をクリックします。
- 既存の調性システムのコピーを作成するには、「調号、調性システム、臨時記号 (Key Signatures, Tonality Systems and Accidentals)」パネルにある「調性 (Tonality System)」**+**セクションのメニューから調性システムを選択して、「調性システムを複製 (Duplicate Tonality System)」をクリックします。
- 既存の調性システムを編集するには、「調号、調性システム、臨時記号 (Key Signatures, Tonality Systems and Accidentals)」パネルにある「調性 (Tonality System)」**+**セクションのメニューから調性システムを選択して、「調性システムを編集 (Edit Tonality System)」をクリックします。



「調性システムを編集 (Edit Tonality System)」ダイアログには、以下のセクションとオプションがあります。

### 1 名前 (Name)

新規の調性システムの名前を入力するか、作成した既存のカスタム調性システムの名前を編集できます。

### 2 分割 (Divisions)





音程ごとにオクターブの分割をいくつ割り当てることができるかを指定できます。

### 3 臨時記号 (Accidentals)

現在選択中の調性で利用できる臨時記号を、ピッチデルタが一番低いものから順番にリスト表示します。

検索フィールドを使用すると、テキストを入力して臨時記号をフィルタリングできます。

セクションの最下部のアクションバーには以下のオプションがあります。

- **新規臨時記号 (New Accidental)** : 「臨時記号を編集 (Edit Accidental)」ダイアログを開き、新規臨時記号を作成できます。
- **臨時記号を複製 (Duplicate Accidental)** : 「臨時記号を編集 (Edit Accidental)」ダイアログを開き、既存の臨時記号のコピーである新規臨時記号を作成できます。
- **臨時記号を編集 (Edit Accidental)** : 「臨時記号を編集 (Edit Accidental)」ダイアログを開き、選択した既存の臨時記号を編集できます。
- **臨時記号を削除 (Delete Accidental)** : 選択した臨時記号を削除します。




#### 補足

初期設定の調性にあらかじめ定義された臨時記号は削除できません。

## 4 特別な調号 (Custom Key Signatures)

選択した調性システムで現在利用できる特別な調号を表示します。

セクションの最下部のアクションバーには以下のオプションがあります。

- **新規調号 (New Key Signature)** : 「特別な調号を編集 (Edit Custom Key Signature)」ダイアログを開き、特別な調号を新規作成できます。
- **調号を編集 (Edit Key Signature)** : 「特別な調号を編集 (Edit Custom Key Signature)」ダイアログを開き、選択した特別な調号を編集できます。
- **調号を削除 (Delete Key Signature)** : 選択した特別な調号を削除します。

## 5 デフォルトとして保存 (Save As Default)

新規のカスタム調性システムまたはデフォルトの調性システムに対して行なった編集を、ユーザーライブラリーにデフォルトとして保存し、以降のすべてのプロジェクトで使用できるようにします。

関連リンク

[調号、調性システム、臨時記号パネル \(306 ページ\)](#)

[「臨時記号を編集 \(Edit Accidental\)」ダイアログ \(1009 ページ\)](#)

[「特別な調号を編集 \(Edit Custom Key Signature\)」ダイアログ \(1012 ページ\)](#)

## オクターブのカスタム分割

既存の調性システムに対しオクターブの分割の数を変更するか、または新規に調性システムを作成して任意の分割数を設定できます。

「調性システムを編集 (Edit Tonality System)」のダイアログの「分割 (Divisions)」のセクションでは、各音程に割り当てられる分割の数を変更できます。オクターブごとの分割の総数はセクションの最上部に表示され、各音程の分割の割り当て数を変更すると自動的に更新されます。

平均律 (12-EDO) においては、分割の総数は 12 となります。A と B の間には 2 つの分割があり、B と C の間には 1 つの分割があるという具合です。これは西洋音階の標準パターンに従うもので、鍵盤楽器の白鍵と黒鍵のパターンにも一致します。

Dorico Pro では、オクターブは任意の区分に分割できますが、西洋音階の標準の調号を表示させるには、オクターブの均等な分割の数は必ず 12 でなければなりません。

関連リンク

[カスタムの調性システムの作成 \(1003 ページ\)](#)

[特別な調号 \(1012 ページ\)](#)



## カスタムの臨時記号

カスタムの臨時記号には伝統的な臨時記号のグリフのみならず、その他の音楽記号、テキストおよびグラフィックも使用できます。これにより、カスタムの調性システムにおいて特定のピッチデルタを表わす臨時記号を作成できます。

- 現在の調性システムで使用できるすべての臨時記号は、「**調性システムを編集 (Edit Tonality System)**」のダイアログの「**臨時記号 (Accidentals)**」のセクションで確認できます。

「**臨時記号を編集 (Edit Accidental)**」のダイアログでは、カスタムの臨時記号を作成または編集できます。Dorico Pro に付属するデフォルトの調性システムで使用される臨時記号は編集できます。カスタムの調性システムを新規に作成する際はナチュラル記号 1 つの状態から始まり、これは編集も削除も行なえます。




関連リンク

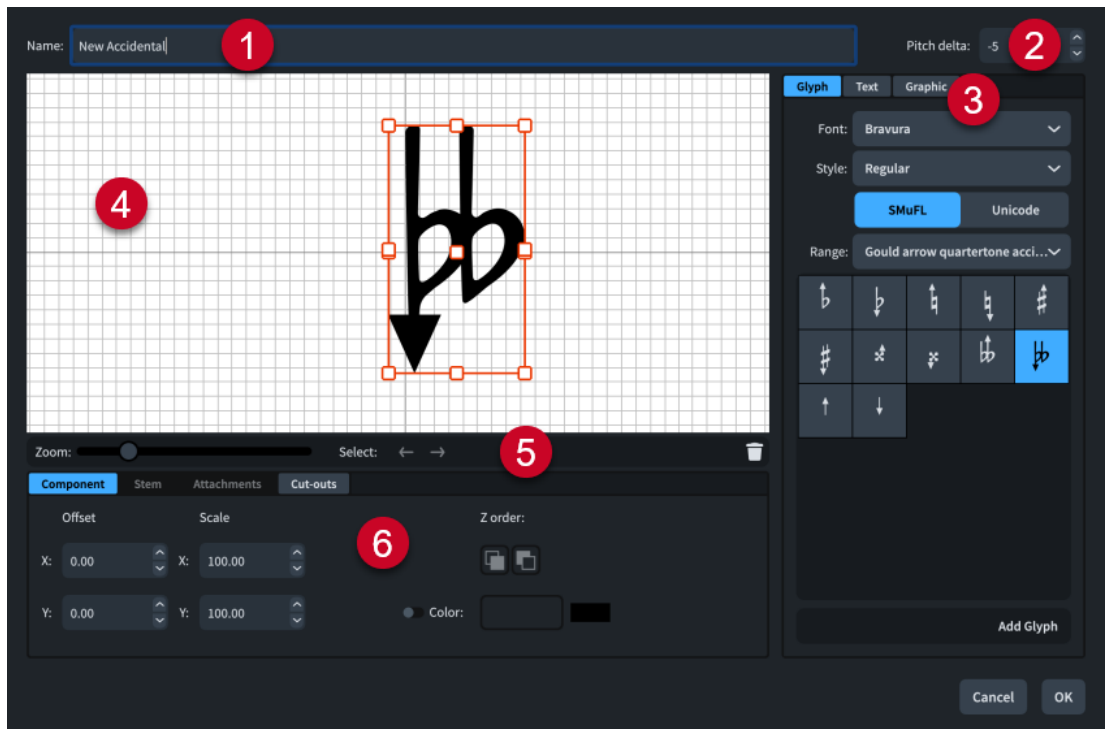
[カスタムの臨時記号を作成/編集する \(1005 ページ\)](#)

[「調性システムを編集 \(Edit Tonality System\)」ダイアログ \(1007 ページ\)](#)

### 「臨時記号を編集 (Edit Accidental)」ダイアログ

「臨時記号を編集 (Edit Accidental)」ダイアログでは、カスタムの臨時記号の新規作成および編集が行なえます。

- 「**調性システムを編集 (Edit Tonality System)**」ダイアログから「**臨時記号を編集 (Edit Accidental)**」ダイアログを開くには、「**臨時記号 (Accidentals)**」セクションのアクションバーにある「**新規臨時記号 (New Accidental)**」、「**臨時記号を複製 (Duplicate Accidental)**」、または「**臨時記号を編集 (Edit Accidental)**」をクリックします。



「臨時記号を編集 (Edit Accidental)」ダイアログには以下のセクションがあります。

- 名前 (Name)**  
臨時記号の名前を入力できます。
- ピッチデルタ (Pitch delta)**

臨時記号が音符のピッチをどれほど上げ下げするかの値を設定できます。たとえば 12-EDO では、ピッチデルタを「1」にすると、音符のピッチを半ステップ (半音) 上昇させます。

#### 補足

オクターブを等分した最小単位の総数の半分を超えるピッチデルタの値を設定することはおすすめしません。

### 3 臨時記号の構成要素セレクター

臨時記号に追加する構成要素を選択できます。タイプごとのタブのタイトルをクリックして、さまざまな構成要素を追加できます。

- **グリフ (Glyph):** ♯ や ♮ を追加できます。メニューからさまざまなフォントスタイルまたは太さを選択して、さまざまなスタイルのグリフを使用できます。SMuFL または Unicode から検索できます。「**グリフを追加 (Add Glyph)**」をクリックして、選択したグリフを臨時記号に追加します。

#### 補足

すべてのグリフの完全なリストは、SMuFL の Web サイトで参照できます。


- **テキスト (Text):** 数字やその他のテキストが含まれます。数字およびテキストは、利用できる「**プリセットテキスト (Preset text)**」リストから使用するか、メニューからフォントを選択して画面下部のテキストボックスに任意のテキストを入力できます。「**テキストを追加 (Add Text)**」をクリックして、選択したオプションまたは入力したテキストを臨時記号に追加します。
- **グラフィック (Graphic):** SVG、PNG または JPG 形式で、新規グラフィックファイルを読み込むか、または「**既存から選択 (Select existing)**」リストから既存のグラフィックを選択できます。「**プレビュー (Preview)**」ボックスでグラフィックのプレビューを確認できます。「**グラフィックを追加 (Add Graphic)**」をクリックして、選択したグラフィックを臨時記号に追加します。

### 4 エディター

臨時記号を形作る構成要素の配置と編集を行ないます。臨時記号の構成要素の編集と配置には、ダイアログ下部のコントロールを使用できます。

### 5 エディターアクションバー

エディターの選択オプションと表示オプションがあります。

- **ズーム (Zoom):** エディターのズームレベルを変更できます。
- **選択 (Select):** 次/前の要素を選択できます。
- **削除 (Delete) **: 選択した要素を削除します。

### 6 コントロール

個々の構成要素を編集できるコントロールが収められています。コントロールは、それが影響する選択した構成要素の性質に従いタブに分けられています。臨時記号に対しては、「**要素 (Component)**」タブ、「**アタッチメント (Attachments)**」タブ、「**切り抜き (Cut-outs)**」タブを利用できます。

「**要素 (Component)**」タブには以下のオプションがあります。

- **オフセット (Offset):** 選択した要素の位置をコントロールします。「**X**」で水平方向、「**Y**」で垂直方向に移動します。
- **スケール (Scale):** 選択した要素のサイズをコントロールします。グラフィックに対して、「**X**」で幅、「**Y**」で高さをコントロールします。

## 補足



一部の要素は高さと幅を個別に調節できますが、その他の要素は縦横比が保持され、いずれかの値のみで全体のサイズが変わります。

- 「**前後の順序 (Z order)**」: 要素が重なった場合、「**前面へ移動 (Bring Forward)**」または「**背面へ移動 (Send Backward)**」を使用してほかの要素に対する選択した要素の前後の順序を入れ替えることができます。
- **カラー (Color)**: 選択した要素の色を変更できます。

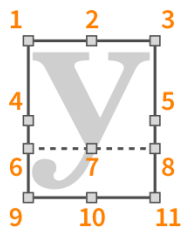
「**アタッチメント (Attachments)**」タブは、臨時記号が2つ以上の個別の要素からなる場合のみ利用できます。このタブには以下のオプションがあります。

- **連結元 (Attachment from)**: 選択した要素を左側の要素のどこのポイントに連結するかを選択します。「**連結元 (Attachment from)**」は右側のポイントを選択することをおすすめします。
- **連結先 (Attachment to)**: 選択した要素のどこのポイントを左側の要素に連結するかを選択します。「**連結先 (Attachment to)**」は左側のポイントを選択することをおすすめします。

「**切り抜き (Cut-outs)**」のタブでは、臨時記号の構成要素の個々の角について、他の臨時記号と重なり合うことができる領域を作成できます。これによりたとえば、密集和音において臨時記号同士をより緊密に配置できます。これは四方の角それぞれに以下のオプションを持ちます。

- **幅 (Width)**: 切り抜き領域の幅を設定します。
- **高さ (Height)**: 切り抜き領域の高さを設定します。
- **追加 (Add)** : 対応する角に切り抜きを追加します。
- **削除 (Delete)** : 対応する角から切り抜きを削除します。

グリフおよびグラフィックには8つ、テキストには11の連結ポイントがあります。テキストの方が多いのは、ベースラインより下に伸びる文字用に追加のポイントが必要となるためです。この図の例は、ポイントと要素上の位置の対応を視覚的に把握するためのものです。



「**臨時記号を編集 (Edit Accidental)**」のダイアログでは、連結ポイントに以下の名前が付いています。

- 1 左上 (Top Left)
- 2 中央上 (Top Center)
- 3 右上 (Top Right)
- 4 中央左 (Middle Left)
- 5 中央右 (Middle Right)
- 6 ベースライン左 (Baseline Left) (テキストのみ)
- 7 ベースライン中央 (Baseline Center) (テキストのみ)
- 8 ベースライン右 (Baseline Right) (テキストのみ)
- 9 左下 (Bottom Left)
- 10 中央下 (Bottom Center)
- 11 右下 (Bottom Right)

関連リンク

[「調性システムを編集 \(Edit Tonality System\)」ダイアログ \(1007 ページ\)](#)

[カスタムの臨時記号を作成/編集する \(1005 ページ\)](#)

## 特別な調号

特別な調号には、伝統的な臨時記号を異なる並びで使用するか、または自作したカスタムの臨時記号を必要に応じた並びで使用できます。

- 現在の調性システムで使用できるすべての調号は、「**調性システムを編集 (Edit Tonality System)**」のダイアログの「**特別な調号 (Custom Key Signatures)**」のセクションで確認できます。

### 補足

Dorico Pro にはじめから入っているデフォルトの調性システムのいずれかを選択して編集する場合、このセクションには編集できる調号はありません。ただし、デフォルトの調性システムの中に調号を新規に作成はできます。

「**特別な調号を編集 (Edit Custom Key Signature)**」のダイアログでは、新規または既存いずれの調性システムにおいても、カスタムの調号を作成または編集できます。これで、「**調号、調性システム、臨時記号 (Key Signatures, Tonality Systems and Accidentals)**」パネルの「**特別な調号 (Custom Key Signatures)**」セクションから調号を入力できます。

関連リンク

[カスタムの調性システムの作成 \(1003 ページ\)](#)

[特別な調号を作成/編集する \(1006 ページ\)](#)



[「調性システムを編集 \(Edit Tonality System\)」ダイアログ \(1007 ページ\)](#)

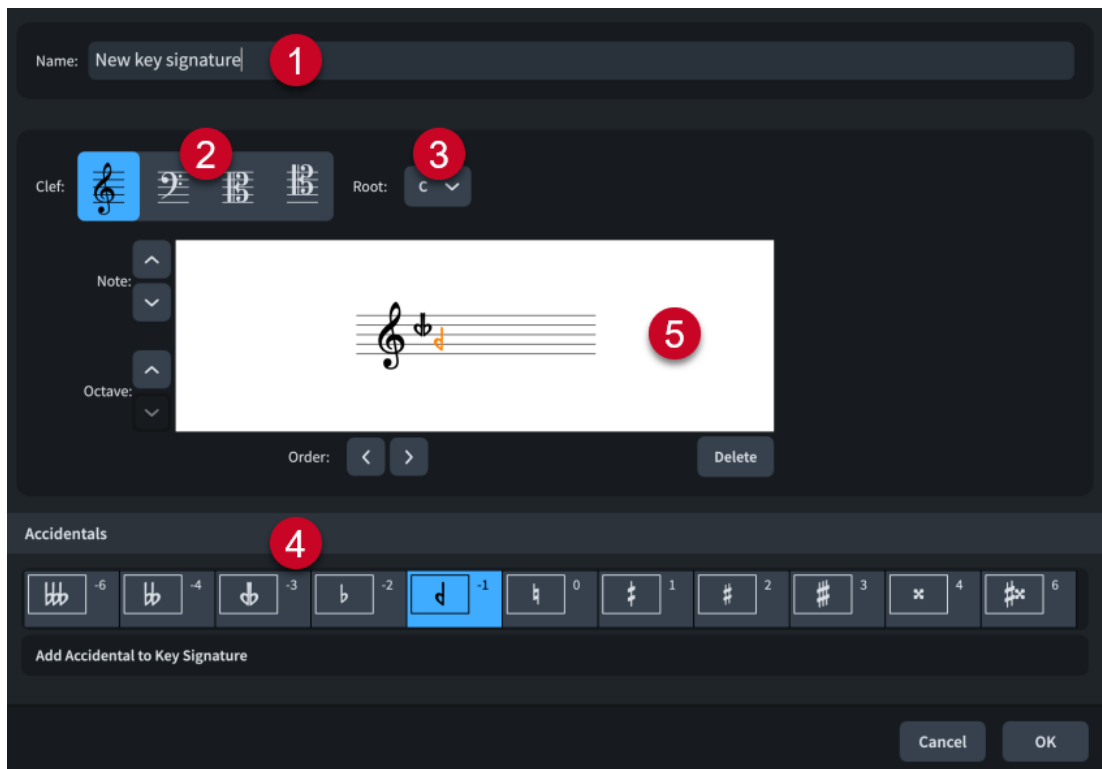
[調号、調性システム、臨時記号パネル \(306 ページ\)](#)

[パネルを使った調号の入力 \(309 ページ\)](#)

## 「特別な調号を編集 (Edit Custom Key Signature)」ダイアログ

「**特別な調号を編集 (Edit Custom Key Signature)**」ダイアログでは、当別な調号の新規作成および編集が行なえます。

- 「**調性システムを編集 (Edit Tonality System)**」ダイアログから「**特別な調号を編集 (Edit Custom Key Signature)**」ダイアログを開くには、「**特別な調号 (Custom Key Signatures)**」セクションのアクションバーにある「**新規調号 (New Key Signature)**」または「**調号を編集 (Edit Key Signature)**」をクリックします。



「特別な調号を編集 (Edit Custom Key Signature)」ダイアログには以下のセクションがあります。

**1 名前 (Name)**

調号の名前を入力できます。

**2 音部記号 (Clef)**

ト音記号、バス記号、アルト記号、テノール記号においてそれぞれ調号がどのように表示されるかを確認できます。調号はこれらの音部記号のいずれについても編集できます。

**3 ルート音 (Root)**

調号の基音をメニューから選択できます。

**4 臨時記号 (Accidentals)**

調性システムからの臨時記号を調号に追加できます。これには「臨時記号を編集 (Edit Accidental)」のダイアログで作成したカスタムの臨時記号も含まれます。選択した臨時記号を調号に追加するには、「調号に臨時記号を追加 (Add Accidental to Key Signature)」をクリックします。

**5 エディター**

「順番 (Order)」の矢印ボタンを使用して臨時記号を任意の順番に変更でき、「音符 (Note)」の矢印ボタンと「オクターブ (Octave)」の矢印ボタンを使用して譜表上の位置を変更できます。

関連リンク

[調号、調性システム、臨時記号パネル \(306 ページ\)](#)

[「調性システムを編集 \(Edit Tonality System\)」ダイアログ \(1007 ページ\)](#)

[「臨時記号を編集 \(Edit Accidental\)」ダイアログ \(1009 ページ\)](#)

[特別な調号を作成/編集する \(1006 ページ\)](#)

## カスタムの調性システムの再生

Dorico Pro はオクターブの分割の数や振り分けがどのようなであっても、カスタムの調性システムを再生できます。

Dorico Pro はすべての音符について、臨時記号の有無にかかわらず適切なピッチデルタを計算し、微分音の再生をフルに実現します。再生に使用されるバーチャルインストゥルメントに応じて、Dorico Pro はさまざまな方法で微分音の再生を行ないます。

- HALion バーチャルインストゥルメントの場合は、Dorico Pro は VST 3 ノートエクスプレッションを使用します。
- NotePerformer などのその他のインストゥルメントの場合は、Dorico Pro は VST 2 ディチューンパラメーターを使用します。

関連リンク

[カスタムの調性システム \(1003 ページ\)](#)

[再生時のチューニングの変更 \(685 ページ\)](#)

## 音楽記号

Dorico Pro における音楽記号とは、符尾の符鉤、音部記号、アーティキュレーション、長休符や拍子記号に使われる太字の数字など、記譜に使われるさまざまな要素を指す幅広い用語です。

Dorico Pro では、音楽記号によっては専用のエディターダイアログがあり、それらの記号のカスタムバージョンを作成したり編集したりできます。それ以外のすべて音楽記号は、「**音楽記号を編集 (Edit Music Symbol)**」ダイアログでプロジェクト全体の外観を編集できます。

関連リンク

[記譜記号の入力 \(298 ページ\)](#)

[「音楽テキストを挿入 \(Insert Music Text\)」ダイアログ \(423 ページ\)](#)

[「臨時記号を編集 \(Edit Accidental\)」ダイアログ \(1009 ページ\)](#)

[「コード記号要素の編集 \(Edit Chord Symbol Component\)」ダイアログ \(946 ページ\)](#)

[「符頭を編集 \(Edit Notehead\)」ダイアログ \(970 ページ\)](#)

[「演奏技法の外観を編集 \(Edit Playing Technique\)」ダイアログ \(979 ページ\)](#)

[「ラインを編集 \(Edit Lines\)」ダイアログ \(988 ページ\)](#)

[「繰り返し可能な記号を編集 \(Edit Repeatable Symbol\)」ダイアログ \(1001 ページ\)](#)

[「ライン注釈を編集 \(Edit Line Annotation\)」ダイアログ \(997 ページ\)](#)

[テンポの等式の矢印を表示/非表示にする \(1762 ページ\)](#)

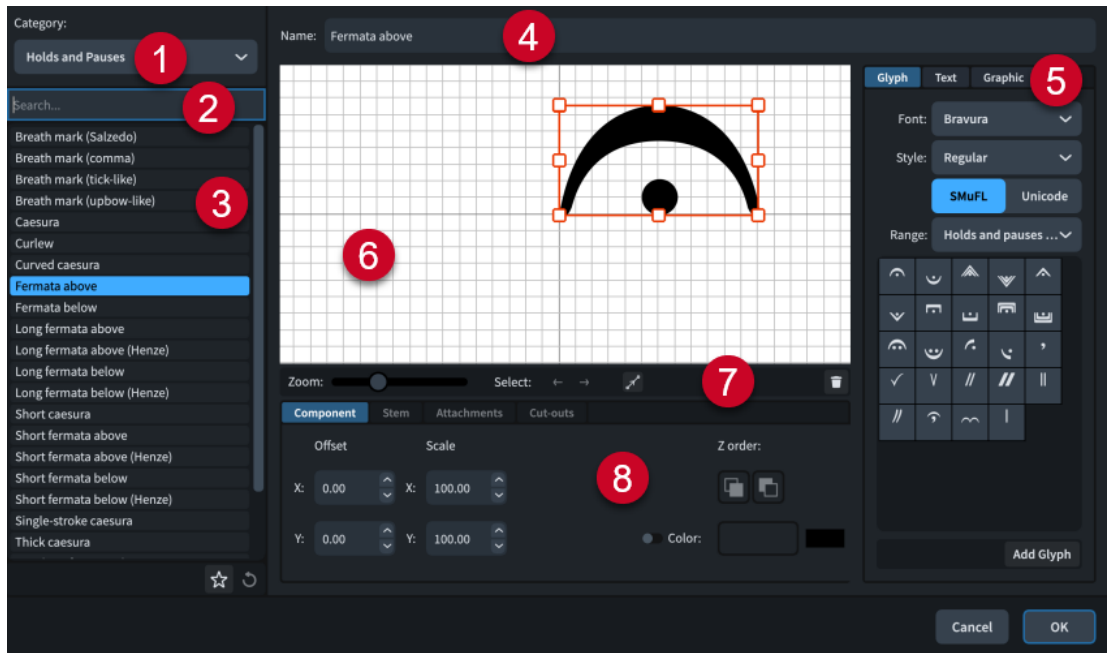
## 「音楽記号を編集 (Edit Music Symbol)」ダイアログ

「**音楽記号を編集 (Edit Music Symbol)**」ダイアログでは、装飾音やアーティキュレーションなどの音楽記号の外観を編集できます。

- 「**音楽記号を編集 (Edit Music Symbol)**」ダイアログは、「**ライブラリー (Library)**」 > 「**音楽記号 (Music Symbols)**」を選択すると開きます。

補足

- 「**音楽記号を編集 (Edit Music Symbol)**」ダイアログでは、既存の音楽記号のみ編集でき、新しい音楽記号は作成できません。楽譜にカスタム記号を追加したい場合は、たとえばカスタムの演奏技法やライン注釈を作成できます。
- コード記号、臨時記号、符頭、ライン、演奏技法には、すべて独自の専用エディターが用意されています。



「音楽記号を編集 (Edit Music Symbol)」ダイアログには、以下のセクションとオプションがあります。

#### 1 「カテゴリー (Category)」メニュー

音楽記号リストに表示する音楽記号の種類を選択します。




#### 2 検索フィールド

テキストを入力して音楽記号をフィルタリングできます。

#### 3 音楽記号リスト

プロジェクトに含まれる音楽記号のうち、現在選択しているカテゴリーと検索フィルター (該当する場合) に属するすべてのものが表示されます。

リストの最下部のアクションバーには以下のオプションがあります。

- **デフォルトとして保存 (Save as Default)** : 現在選択している音楽記号を、現在の状態で今後のすべてのプロジェクトのデフォルトとして保存します。デフォルトとして保存した音楽記号は  として表示されます。
- **出荷時の設定に戻す (Revert to Factory)** : 選択中の音楽記号に加えたすべての変更を取り消して、元の設定と外観に戻します。

#### 4 名前 (Name)

選択した音楽記号のデフォルト名が表示されます。

#### 5 構成要素セレクター

音楽記号に追加する要素を選択できます。タイプごとのタブのタイトルをクリックして、さまざまな構成要素を追加できます。

- **グリフ (Glyph)**:  $\sharp$  や  $\#$  を追加できます。メニューからさまざまなフォントスタイルまたは太さを選択して、さまざまなスタイルのグリフを使用できます。SMuFL または Unicode から検索できます。「グリフを追加 (Add Glyph)」をクリックして、選択したグリフを音楽記号に追加します。

#### 補足

すべてのグリフの完全なリストは、SMuFL の Web サイトで参照できます。

- **テキスト (Text)**: 数字やその他のテキストが含まれます。数字およびテキストは、利用できる「プリセットテキスト (Preset text)」リストから使用するか、メニューからフォントを選択し

て画面下部のテキストボックスに任意のテキストを入力できます。「**テキストを追加 (Add Text)**」をクリックして、選択したオプション、または入力したテキストを音楽記号に追加します。



- **グラフィック (Graphic)**: SVG、PNG または JPG 形式で、新規グラフィックファイルを読み込むか、または「**既存から選択 (Select existing)**」リストから既存のグラフィックを選択できます。「**プレビュー (Preview)**」ボックスでグラフィックのプレビューを確認できます。「**グラフィックを追加 (Add Graphic)**」をクリックして、選択したグラフィックを音楽記号に追加します。

## 6 エディター

音楽記号を形作る要素の配置と編集を行ないます。要素の配置と編集は、エディター内で要素をクリックしてドラッグするか、ダイアログ下部のコントロールを使用して行なえます。各要素のハンドルを使用してサイズを変更することもできます。

## 7 エディターアクションバー

エディターの選択オプションと表示オプションがあります。

- **ズーム (Zoom)**: エディターのズームレベルを変更できます。
- **選択 (Select)**: 次/前の要素を選択できます。
- **アタッチメントの表示 (Show Attachments)** : エディターのすべての要素のアタッチメントをすべて表示します。
- **削除 (Delete)** : 選択した要素を削除します。

## 8 コントロール

個々の構成要素を編集できるコントロールが収められています。コントロールは、それが影響する選択した構成要素の性質に従いタブに分けられています。音楽記号に対しては、「**要素 (Component)**」タブと「**アタッチメント (Attachments)**」タブを利用できます。

「**要素 (Component)**」タブには以下のオプションがあります。

- **オフセット (Offset)**: 選択した要素の位置をコントロールします。「**X**」で水平方向、「**Y**」で垂直方向に移動します。
- **「スケール (Scale)」**: 選択した要素のサイズをコントロールします。グラフィックに対して、「**X**」で幅、「**Y**」で高さをコントロールします。

### 補足

一部の要素は高さや幅を個別に調節できますが、その他の要素は縦横比が保持され、いずれかの値のみで全体のサイズが変わります。

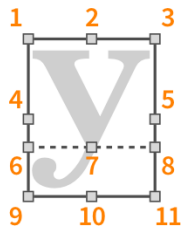
- **「前後の順序 (Z order)」**: 要素が重なった場合、「**前面へ移動 (Bring Forward)**」または「**背面へ移動 (Send Backward)**」を使用してほかの要素に対する選択した要素の前後の順序を入れ替えることができます。
- **カラー (Color)**: 選択した要素の色を変更できます。

「**アタッチメント (Attachments)**」タブは、音楽記号が2つ以上の個別の要素からなる場合のみ利用できます。このタブには以下のオプションがあります。

- **連結元 (Attachment from)**: 選択した要素を左側の要素のどこのポイントに連結するかを選択します。「**連結元 (Attachment from)**」は右側のポイントを選択することをおすすめします。
- **連結先 (Attachment to)**: 選択した要素のどこのポイントを左側の要素に連結するかを選択します。「**連結先 (Attachment to)**」は左側のポイントを選択することをおすすめします。

グリフおよびグラフィックには8つ、テキストには11の連結ポイントがあります。テキストの方が多いのは、ベースラインより下に伸びる文字用に追加のポイントが必要となるためです。この図の例は、ポイントと要素上の位置の対応を視覚的に把握するためのものです。





「音楽記号を編集 (Edit Music Symbol)」ダイアログでは、アタッチメントポイントに以下の名前が付いています。

- 1 左上 (Top Left)
- 2 中央上 (Top Center)
- 3 右上 (Top Right)
- 4 中央左 (Middle Left)
- 5 中央右 (Middle Right)
- 6 ベースライン左 (Baseline Left) (テキストのみ)
- 7 ベースライン中央 (Baseline Center) (テキストのみ)
- 8 ベースライン右 (Baseline Right) (テキストのみ)
- 9 左下 (Bottom Left)
- 10 中央下 (Bottom Center)
- 11 右下 (Bottom Right)

関連リンク

[記譜記号の入力 \(298 ページ\)](#)

[「音楽テキストを挿入 \(Insert Music Text\)」ダイアログ \(423 ページ\)](#)

[カスタムの演奏技法 \(976 ページ\)](#)

[カスタムライン \(984 ページ\)](#)

[カスタムの符頭セット \(967 ページ\)](#)

[特別な調号 \(1012 ページ\)](#)

[カスタムの臨時記号 \(1009 ページ\)](#)

[カスタムコード記号 \(941 ページ\)](#)

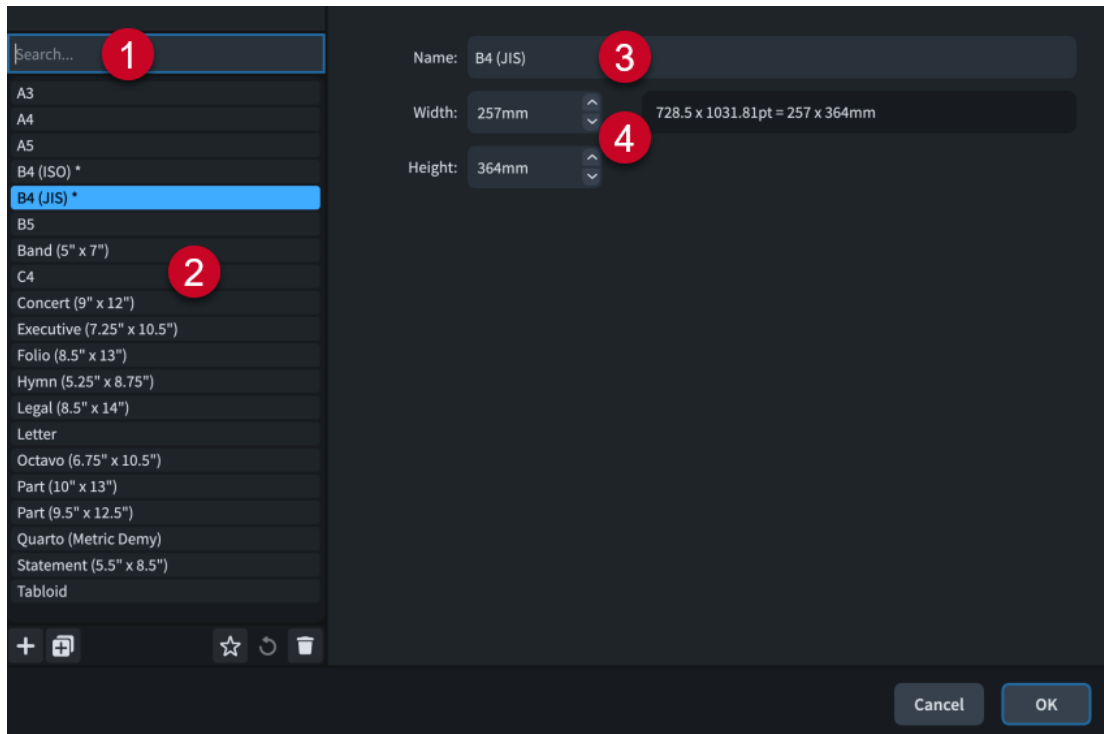
## カスタムページサイズ

カスタムページサイズを使用すると、必要な寸法のページサイズを作成し、複数のプロジェクトで使用できるように保存できます。

### 「ページサイズを編集 (Edit Page Sizes)」ダイアログ

「ページサイズを編集 (Edit Page Sizes)」ダイアログでは、出荷時のデフォルトのページサイズの寸法を編集したり、カスタムページサイズを作成したりできます。

- 「ページサイズを編集 (Edit Page Sizes)」ダイアログは、「ライブラリー (Library)」 > 「ページサイズ (Page Sizes)」を選択すると開きます。



「ページサイズを編集 (Edit Page Sizes)」ダイアログには以下のオプションとセクションがあります。







### 1 検索フィールド

テキストを入力してページサイズをフィルタリングできます。

### 2 ページサイズリスト

プロジェクト内のすべてのページサイズが表示されます。

リストの最下部のアクションバーには以下のオプションがあります。

- **新規 (New)** : デフォルト値を持つ新しいページサイズを作成します。
- **選択から新規作成 (New from Selection)** : 既存のページサイズのコピーを作成し、元のものとは別の設定に編集できます。
- **デフォルトとして保存 (Save as Default)** : 選択中のページサイズをユーザーライブラリーに保存し、複数のプロジェクトで使用できるようにします。デフォルトとして保存したページサイズは  として表示されます。
- **出荷時の設定に戻す (Revert to Factory)** : 選択中のページサイズに加えたすべての変更を取り消して、元の設定に戻します。
- **削除 (Delete)** : 選択したページサイズを削除します。

#### 補足

- 出荷時のデフォルトのページサイズを削除することはできません。
- プロジェクト内のレイアウトに適用されたカスタムページサイズを削除しても、それらのレイアウトは対応する寸法を保持します。

### 3 名前 (Name)

選択したページサイズの名前を新規に入力するか、既存の名前を編集できます。

### 4 寸法

選択したページサイズの「幅 (Width)」と「高さ (Height)」を変更できます。

これに相当する寸法がポイント単位と優先する基準単位で右側に表示されます。

関連リンク

[Hub \(75 ページ\)](#)

[「レイアウトオプション\(Layout Options\)」ダイアログ \(917 ページ\)](#)

[ページサイズと用紙サイズ \(736 ページ\)](#)




[ページのサイズと向きの変更 \(744 ページ\)](#)

## カスタムページサイズの作成

たとえば、別の用紙寸法規格に対応するために、カスタムページサイズを作成できます。

---



手順

1. 「**ライブラリー (Library)**」 > 「**ページサイズ (Page Sizes)**」を選択して「**ページサイズを編集 (Edit Page Sizes)**」ダイアログを開きます。
2. 以下のいずれかの操作を行なって、新しいページサイズを作成します。
  - デフォルト設定を使用して新しいページサイズを作成するには、アクションバーにある「**新規 (New)**」  をクリックします。
  - 既存のページサイズのコピーを作成する場合は、ページサイズリストからコピーするページサイズを選択し、アクションバーの「**選択から新規作成 (New from Selection)**」  をクリックします。
3. 「**名前 (Name)**」フィールドにページサイズの名前を入力します。
4. 以下の数値フィールドの値を変更してページの寸法を変更します。
  - **幅 (Width)**
  - **高さ (Height)**
5. ページサイズをそれ以降のすべてのプロジェクトで使用できるようにするには、ページサイズリストのアクションバーにある「**デフォルトとして保存 (Save as Default)**」  をクリックします。
6. 「**OK**」をクリックして変更内容を保存し、ダイアログを閉じます。

---

結果

新しいカスタムページサイズがプロジェクトに追加されます。

「**デフォルトとして保存 (Save as Default)**」  をクリックして  とした場合は、これ以降のコンピューター上のすべてのプロジェクトと Hub でカスタムページサイズを使用できるようになります。

## エクスプレッションマップ

エクスプレッションマップは、プロジェクトにロードした VST インストゥルメントのパッチやサウンドを適切に使用方法を Dorico Pro に伝えるためのものです。

インストゥルメントの強弱の幅を表現するということは、音符のボリュームやアタックを変更するということです。アタックの強さは音の立ち上がりの特徴とボリュームを左右するため、多くの場合、大きい音にはアタックを強く、静かなサウンドにはアタックを弱くする必要があります。

パッチおよびインストゥルメントは、それぞれが異なるアプローチで再生時に強弱やボリュームを変更します。たとえば、ベロシティのみを変更するパッチのほかに、ベロシティの変更とコントローラーを組み合わせるパッチもあります。

Dorico Pro では、エクスプレッションマップを使用して、プロジェクトの各パッチでサポートされている再生効果を指定することもできます。たとえば、バイオリンのような弦楽器には arco、pizzicato、col legno などのさまざまな演奏技法があり、さらに弾く際の弦の位置も sul ponticello から sul tasto まであります。

Dorico Pro には、各サウンドライブラリーのエクスプレッションマップに加え、さらに以下のエクスプレッションマップがあります。

- **CC11 ダイナミクス (CC11 Dynamics):** 強弱記号の演奏に MIDI コントローラー 11 を使用します。

#### 補足

これはバイオリンやフルートのような、演奏中に強弱を変更できるインストゥルメントにのみ適用されます。

- **デフォルト (Default):** 強弱のボリュームのコントロールに、ノートベロシティを使用します。
- **モジュレーションホイールダイナミクス (Modulation Wheel Dynamics):** 強弱のボリュームのコントロールに、モジュレーションホイールを使用します。
- **1 オクターブ下に移調 (Transpose down 1 octave):** フルレンジキーボードなしでも演奏できるように、記譜された音符より 1 オクターブ高く演奏する一部のインストゥルメントのパッチに使用されます。
- **1 オクターブ上移調 (Transpose up 1 octave):** キーボードの一番下のオクターブを音符ではなくキースイッチに使用できます。ただし、一番下のオクターブは、記譜された音符より 1 オクターブ低く演奏することでフルレンジキーボードなしでも演奏できる一部のベースインストゥルメントのパッチに使用されることもあります。

これらのエクスプレッションマップを使用する再生テンプレートを適用すると、エクスプレッションマップがプロジェクトに自動的に追加されます。

「**エクスプレッションマップ (Expression Maps)**」ダイアログでは、エクスプレッションマップを編集、作成、および読み込み/書き出しできます。エクスプレッションマップは .doricolib ファイルとして保存されます。

#### 補足

Dorico Pro と Cubase ではエクスプレッションマップへのアプローチ方法が異なりますが、ピチカート、ハーモニクス、フラッタータンギングなど、Cubase から読み込まれるスイッチの多くはエクスプレッションマップから Dorico Pro に正しく読み込まれます。

関連リンク

[パーカッションマップ \(1039 ページ\)](#)

[スイッチのタイプ \(1032 ページ\)](#)

[動作のタイプ \(1033 ページ\)](#)


[新しいエクスプレッションマップの作成 \(1034 ページ\)](#)

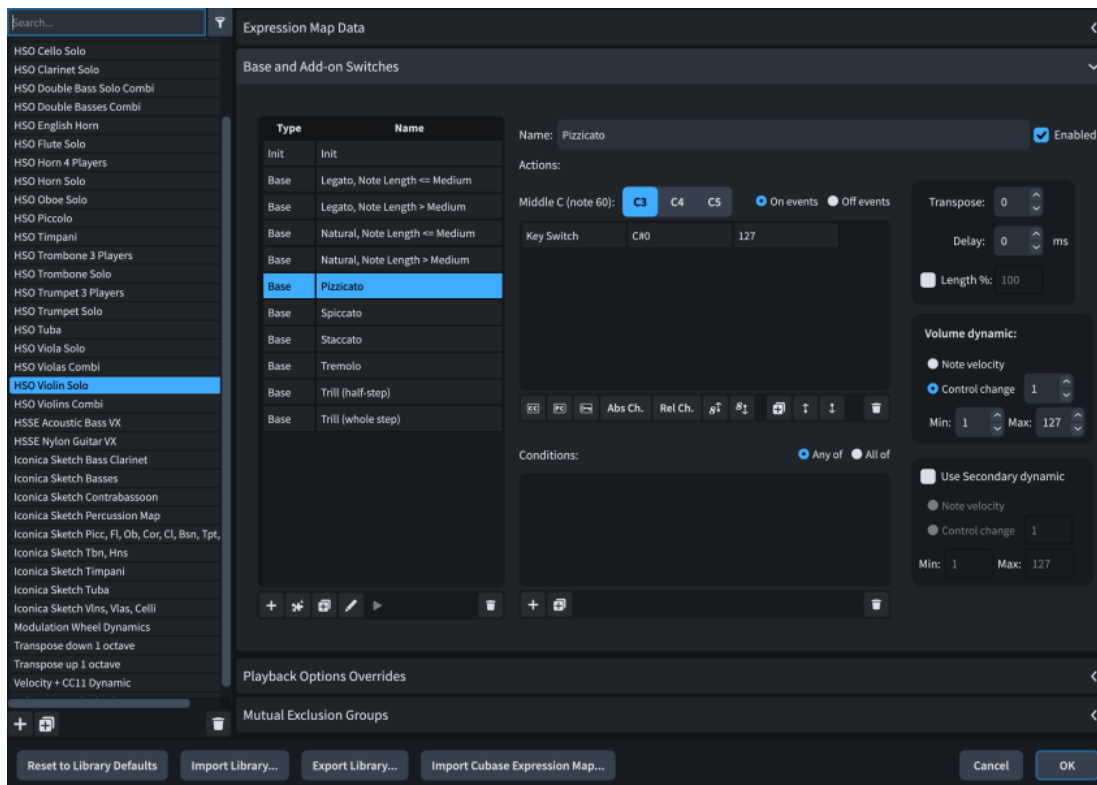
[再生テンプレート \(701 ページ\)](#)

## 「エクスプレッションマップ (Expression Maps)」ダイアログ

「**エクスプレッションマップ (Expression Maps)**」ダイアログでは、新しいエクスプレッションマップを作成したり、既存のエクスプレッションマップを編集したり、エクスプレッションマップを読み込んだり書き出したりできます。Cubase で作成したエクスプレッションマップを読み込むこともできます。

「**エクスプレッションマップ (Expression Maps)**」ダイアログを開くには、以下のいずれかの操作を行います。

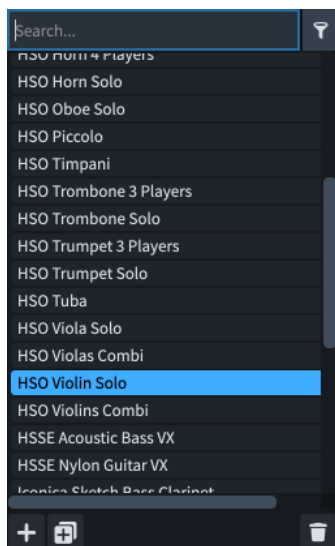
- 「**ライブラリー (Library)**」 > 「**エクスプレッションマップ (Expression Maps)**」を選択します。
- 再生モードのトラック概要でトラックを選択し、トラックインスペクターの「**ルーティング (Routing)**」セクションで「**エクスプレッションマップを編集 (Edit Expression Map)**」をクリックします。



「エクスプレッションマップ (Expression Maps)」 ダイアログには、以下のセクションとオプションがあります。

## エクスプレッションマップのリスト



プロジェクトで現在使用できるエクスプレッションマップが表示されます。



リストの一番上に以下のオプションがあります。

- **検索フィールド:** テキストを入力してエクスプレッションマップをフィルタリングできます。
- **プロジェクトで使用中的エクスプレッションマップのみを表示 (Show only expression maps used in this project)** : 現在のプロジェクトで使用中的エクスプレッションマップのみが表示されるように、エクスプレッションマップのリストをフィルタリングできます。

リストの最下部のアクションバーには以下のオプションがあります。

- **エクスプレッションマップを追加 (Add Expression Map)** : 設定を含まない新しいエクスプレッションマップを追加します。
- **エクスプレッションマップを複製 (Duplicate Expression Map)** : 既存のエクスプレッションマップのコピーを作成し、元のエクスプレッションマップとは別の設定に編集できます。
- **エクスプレッションマップを削除 (Delete Expression Map)** : 選択したエクスプレッションマップを削除します。

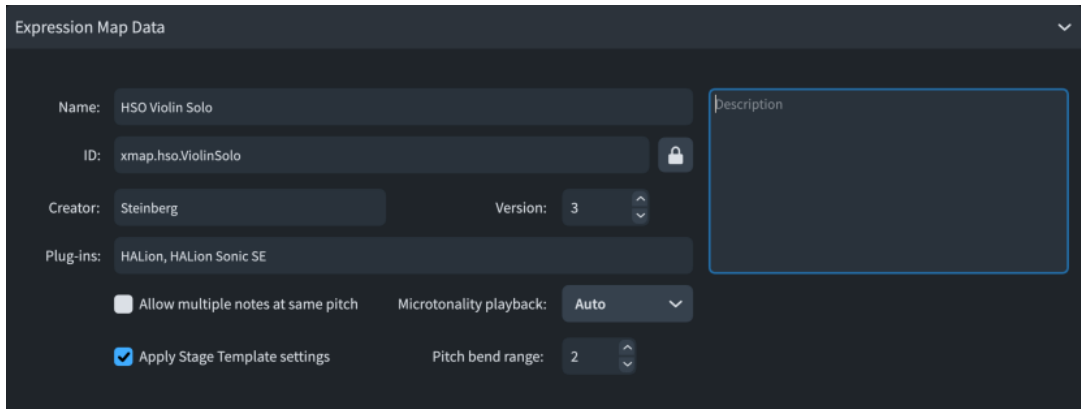
#### 補足

出荷時のデフォルトのエクスプレッションマップやプロジェクトで現在使用中のエクスプレッションマップを削除することはできません。

## エクスプレッションマップデータ (Expression Map Data)

このセクションでは、選択したエクスプレッションマップの識別情報を指定できます。

「**エクスプレッションマップデータ (Expression Map Data)**」セクションは、セクションヘッダーをクリックして表示/非表示を切り替えることができます。



「**エクスプレッションマップデータ (Expression Map Data)**」セクションには以下のオプションがあります。

### 名前 (Name)

「**エンドポイントの設定 (Endpoint Setup)**」ダイアログなど、プログラムで表示されるエクスプレッションマップの名前を設定できます。

### ID

エクスプレッションマップの一意的 ID を設定できます。「ID」フィールドには、文字列を自由に入力できます。

**xmap.user.paulsmith.h50.violinpizz** のように、作成したマップのインストゥルメントとサウンドライブラリーに、自分の名前を含めると使いやすくなります。

### 作成者 (Creator)

他のユーザーとエクスプレッションマップを共有する場合のために、作成者名を指定できます。

### バージョン (Version)

最新版が分かるようにエクスプレッションマップのバージョンを指定できます。

### プラグイン (Plug-ins)

エクスプレッションマップが適用されるプラグイン名のリストを記載できます。プラグインの名前はコマンドで区切られます。このフィールドは空白のままでもかまいません。

### 同じピッチの複数のノートを許可 (Allow multiple notes at same pitch)

声部の個別再生が無効になっている場合に、同じインストゥルメントに属する複数の声部の同じピッチを複数の個別のノートとして扱うかどうかを設定できます。

### ステージテンプレート設定を適用 (Apply Stage Template settings)

ステージテンプレートとスペーステンプレートを、エクスプレッションマップを使用してエンドポイントに適用するかどうかを設定できます。録音にすでに空間特性や反響特性のあるサウンドの場合はこのオプションをオフにすることをおすすめします。

### 微分音の再生 (Microtonality playback)

エクスプレッションマップに使用する微分音の再生方法を選択できます。



### ピッチベンドの範囲 (Pitch bend range)

プラグインがサポートするピッチベンドの範囲を半ステップ単位で設定できます。この範囲は通常、1 ステップか 1 オクターブのいずれかです。

### 説明 (Description)

エクスプレッションマップに関するその他のあらゆる情報を追加できます。

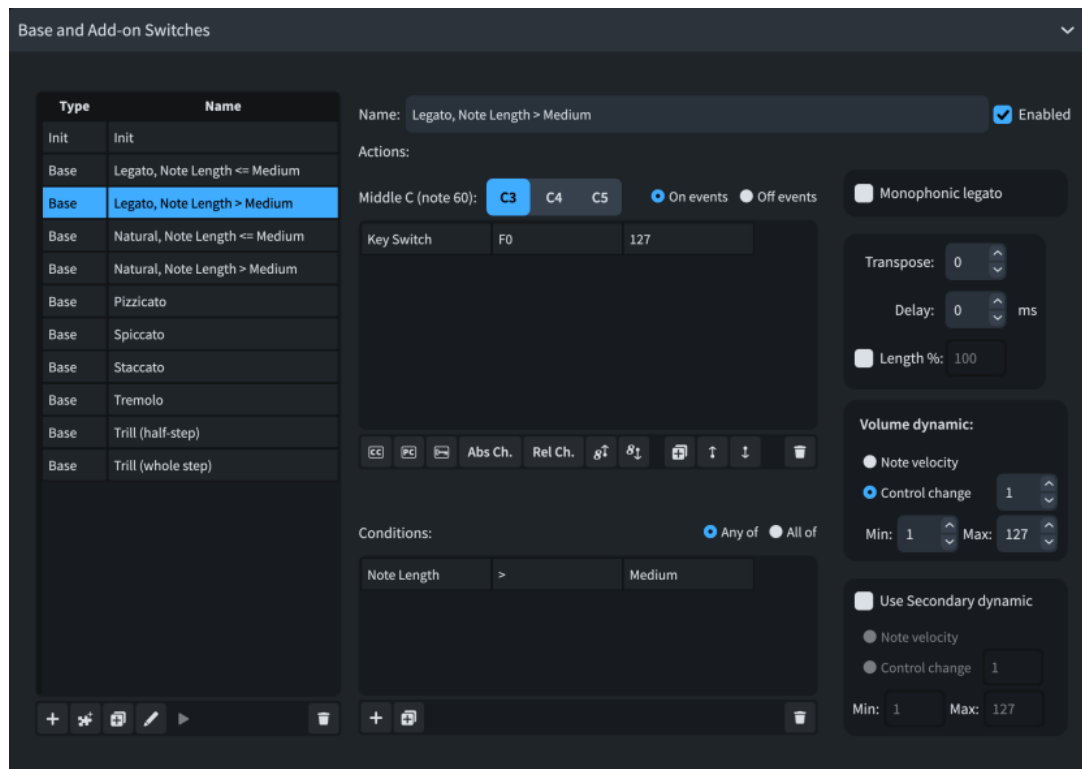
#### 補足

「エクスプレッションマップデータ (Expression Map Data)」セクションの多くのフィールドは「情報をロック (Lock Info)」 ボタンでロックされています。これらのフィールドの情報を変更するには、このボタンをクリックして「情報をロック (Lock Info)」 を解除する必要があります。

## ベーススイッチとアドオンスイッチ (Base and Add-on Switches)

このセクションでは、選択したエクスプレッションマップ内の再生効果のスイッチを表示、編集、コントロールできます。

「ベーススイッチとアドオンスイッチ (Base and Add-on Switches)」セクションは、セクションヘッダーをクリックして表示/非表示を切り替えることができます。



セクションの一番上に以下のオプションがあります。

### 名前 (Name)

スイッチの表で選択したスイッチに表示される名前を変更して、たとえばサウンドライブラリーと同じように表示させることができます。

#### ヒント

名前を変更しても、スイッチの表の対応する列にマウスポインターを合わせると、カスタム名を設定したスイッチによってトリガーされる再生効果を確認できます。

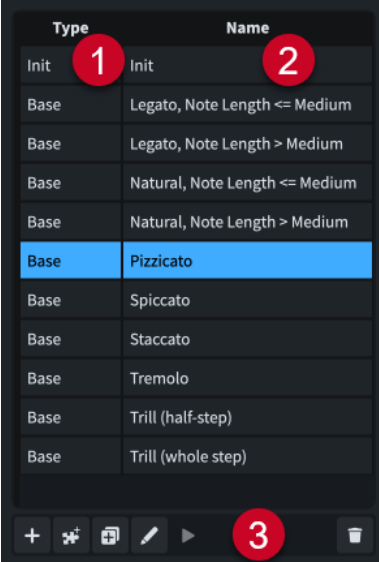
### 有効化 (Enabled)

選択したスイッチをエクスプレッションマップから削除することなく有効/無効にできます。

「ベーススイッチとアドオンスイッチ (Base and Add-on Switches)」セクションには以下も含まれています。

### スイッチの表

選択したエクスプレッションマップのスイッチが表示されます。新しいスイッチを追加したり既存のスイッチを編集したりできます。



Type	Name
Init	Init
Base	Legato, Note Length <= Medium
Base	Legato, Note Length > Medium
Base	Natural, Note Length <= Medium
Base	Natural, Note Length > Medium
Base	Pizzicato
Base	Spiccato
Base	Staccato
Base	Tremolo
Base	Trill (half-step)
Base	Trill (whole step)







The screenshot shows a table with two columns: 'Type' and 'Name'. The 'Type' column has values: Init, Base, Base, Base, Base, Base, Base, Base, Base, Base, Base. The 'Name' column has values: Init, Legato, Note Length <= Medium, Legato, Note Length > Medium, Natural, Note Length <= Medium, Natural, Note Length > Medium, Pizzicato, Spiccato, Staccato, Tremolo, Trill (half-step), Trill (whole step). The 'Pizzicato' row is highlighted in blue. At the bottom, there is a toolbar with icons for adding (+), deleting (trash), editing (pencil), and a play button. Red circles with numbers 1, 2, and 3 point to the 'Type' column header, the 'Name' column header, and the play button respectively.

スイッチの表は以下で構成されます。

- 1 「**タイプ (Type)**」 **コラム**: スwitchのタイプが表示されます。Switchには、以下のタイプがあります。
  - **ベース (Base)**
  - **アドオン (Add-on)**
  - **初期化 (Init)**
- 2 「**名前 (Name)**」 **コラム**: スwitchの名前が表示されます。初期設定では、トリガーされる再生効果または再生効果の組み合わせと同じです。

単純な例では、**Staccato** や **Accent** といった個別の再生効果が各Switchによってトリガーされます。ただし、プラグインによっては再生効果の組み合わせに応じて個別のサンプルが用意されている場合があります。たとえば、**Staccato + Accent** の組み合わせでは、**Staccato** と **Accent** に個別のキースwitchのセットが必要になる場合があります。
- 3 **Switchの表のアクションバー**: 以下のオプションがあります。



- **ベーススイッチを追加 (Add Base Switch)** : 「再生効果の組み合わせ (Playback Technique Combinations)」ダイアログが開き、そのスイッチでトリガーする再生効果を選択することで新しいベーススイッチをエクスプレッションマップに追加できます。
- **演奏技法アドオンスイッチを追加 (Add Technique Add-on Switch)** : 「再生効果の組み合わせ (Playback Technique Combinations)」ダイアログが開き、そのスイッチでトリガーする再生効果を選択することで新しいアドオンスイッチをエクスプレッションマップに追加できます。
- **演奏技法を複製 (Duplicate Technique)** : 既存のスイッチのコピーを作成し、元のスイッチとは別の設定に編集できます。
- **演奏技法を編集 (Edit Technique)** : 「再生効果の組み合わせ (Playback Technique Combinations)」ダイアログを開き、選択したスイッチでトリガーする再生効果の組み合わせを編集できます。  
スイッチの表で既存のスイッチをダブルクリックして、そのスイッチの再生効果を編集することもできます。
- **試聴 (Audition)** : 再生時の効果を確認するために、選択したスイッチと対応する動作を使用して2つのノートを再生できます。プロジェクトで使用されているエクスプレッションマップでのみ使用できます。
- **演奏技法を削除 (Delete Technique)** : 選択したスイッチを削除します。

スイッチの表でスイッチを選択すると、そのコントロールと動作を編集できます。「ベーススイッチとアドオンスイッチ (Base and Add-on Switches)」セクションで使用できるオプションは、スイッチのタイプによって異なります。

#### 補足

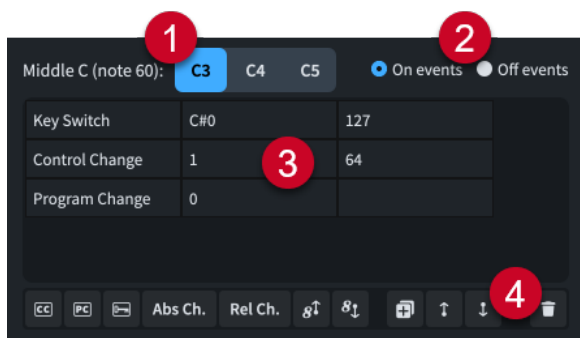
- ほとんどのインストゥルメントには、最も一般的な再生効果である「Natural」が用意されています。Dorico Pro では、すべてのインストゥルメントに「Natural」の再生効果を定義する必要があります。
- スwitchの表では、スイッチを一度に1つしか選択できません。

## 動作内容 (Actions)

選択した再生効果を再現するのに必要な動作が表に表示されます。新しい動作を追加するか、既存の動作を編集するかして、各再生効果をトリガーするスイッチをどのようにコントロールするかを設定できます。

#### 補足










プラグインによっては、スイッチごとに複数のタイプの動作が必要な場合があります。



「動作内容 (Actions)」サブセクションは以下で構成されます。

- 1 **ミドル C (ノート 60) (Middle C (note 60))**: ミドル C のナンバリング変換設定とは関係なく、ミドル C のピッチを選択できます。サウンドライブラリーのマニュアルでそれぞれがミドル C を C3、C4、C5 のいずれと見なすかを確認し、それに応じてこの設定を変更することをおすすめします。
- 2 **イベント発生時 (On events)/イベント非発生時 (Off events)**: 動作がノートの開始位置と終了位置のどちらに影響するかを指定できます。たとえば、再生効果を通常に戻すイベントを、音符の終了位置にのみ適用できます。  
「**イベント発生時 (On events)**」を選択すると、音符の開始部分が影響されます。「**イベント非発生時 (Off events)**」を選択すると、ノートの終了部分が影響されます。
- 3 **動作内容の表**: 以下のコラムがあります。
  - 1 つめのコラム: 動作のタイプが表示されます。動作は、コントロールチェンジ、プログラムチェンジ、キースイッチのいずれかです。
  - 2 つめのコラム: MIDI イベントの最初のパラメーターをコントロールします。キースイッチの場合はピッチを示します。コントロールチェンジの場合は、コントロールチェンジ番号を示します。プログラムチェンジの場合は、プログラム番号を示します。
  - 3 つめのコラム: MIDI イベントの 2 番めのパラメーターをコントロールします。キースイッチの場合はベロシティを示します。コントロールチェンジの場合は、コントロールチェンジの度合いを 0~127 の範囲で示します。プログラムチェンジの場合、2 番めのパラメーターはありません。

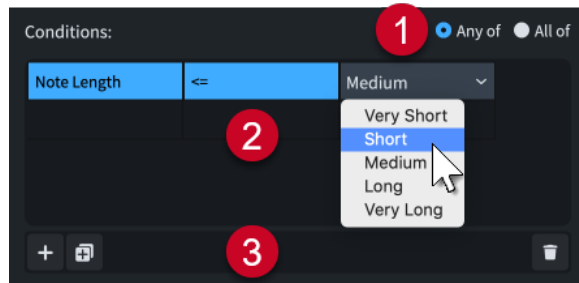
#### 補足

- **動作内容の表**のセルの値は、セルをダブルクリックするか、セルを選択して **[Return]** を押すことで変更できます。
  - **動作内容の表**では、動作を一度に 1 つしか選択できません。
- 
- 4 **動作内容の表のアクションバー**: 以下のオプションがあります。
    - **コントロールチェンジの動作を追加 (Add Control Change Action)** : デフォルト設定のコントロールチェンジの動作を追加します。
    - **プログラムチェンジの動作を追加 (Add Program Change Action)** : デフォルト設定のプログラムチェンジの動作を追加します。
    - **キースイッチノートの動作を追加 (Add Key Switch Note Action)** : デフォルト設定のキースイッチの動作を追加します。
    - **絶対値によるチャンネル変更の動作を追加 (Add Absolute Channel Change Action)**: デフォルト設定の絶対値によるチャンネル変更の動作を追加します。
    - **相対値によるチャンネル変更の動作を追加 (Add Relative Channel Change Action)**: デフォルト設定の相対値によるチャンネル変更の動作を追加します。
    - **1 オクターブ上に移調 (Transpose Up 1 Octave)** : 選択したスイッチのすべてのキースイッチの動作のオクターブを上げます。
    - **1 オクターブ下に移調 (Transpose Down 1 Octave)** : 選択したスイッチのすべてのキースイッチの動作のオクターブを下げます。
    - **動作の複製 (Duplicate Action)** : 既存の動作のコピーを作成し、元の動作とは別の設定に編集できます。
    - **動作を上に移動 (Move Action Up)** : 選択した動作を表内で 1 つ上に移動します。これにより、メッセージシーケンス内の動作の順番が変わります。
    - **動作を下に移動 (Move Action Down)** : 選択した動作を表内で 1 つ下に移動します。これにより、メッセージシーケンス内の動作の順番が変わります。
    - **動作を削除 (Delete Action)** : 選択した動作を削除します。

## 条件 (Conditions)



スイッチの表で選択したベーススイッチをどのような状況で使用するかを決定する条件が表に表示されます。新しい条件を追加したり既存の条件を編集したりできます。ベーススイッチに対してのみ使用できます。

たとえば、短い音符には、長い音符とは別の、アタックの早いレガートサウンドを自動的に使用するようエクスプレッションマップに指示する条件を設定できます。



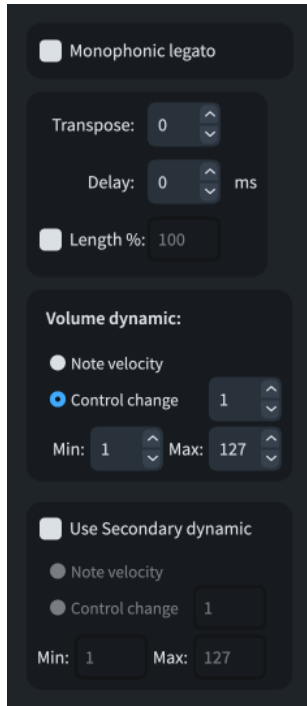
「条件 (Conditions)」サブセクションは以下で構成されます。

- 1 **以下のいずれか (Any of)/以下のすべて (All of):** 1つ以上の条件を満たした場合にスイッチを使用するか、すべての条件を満たした場合にのみスイッチを使用するかを設定できます。
  - 2 **条件の表:** 以下の列があります。
    - 1つめの列: 条件のタイプが表示されます。
    - 2つめの列: 1つめの列の条件のタイプと、3つめの列に設定したノートの高さとの関係、演算子を使用してコントロールします。以下の演算子を使用できます。
      - ==: 次の値と等しい
      - !=: 次の値と等しくない
      - <: 次の値より小さい
      - <=: 次の値以下
      - >: 次の値より大きい
      - >=: 次の値以上
    - 3つめの列: その条件に使用するノートの高さをコントロールします。以下のノートの高さの値を使用できます。
      - **極短 (Very short):** 120bpm の付点 16 分音符 (0.1875 秒)
      - **短 (Short):** 120bpm の付点 8 分音符 (0.375 秒)
      - **中 (Medium):** 120bpm の付点 4 分音符 (0.75 秒)
      - **長 (Long):** 120bpm の付点 2 分音符 (1.5 秒)
      - **極長 (Very long):** それ以上の長さ
- 補足**
- 条件の表のセルの値は、セルをダブルクリックするか、セルを選択して **[Return]** を押すことで変更できます。
  - 条件の表では、条件を一度に 1 つしか選択できません。
- 3 **条件のアクションバー:** 以下のオプションがあります。
    - **演奏技法を追加 (Add Technique) +:** デフォルト設定を使用した新しい演奏技法の条件を追加します。

- **演奏技法を複製 (Duplicate Technique)** : 既存の演奏技法の条件のコピーを作成し、元の演奏技法の条件とは別の設定に編集できます。
- **演奏技法を削除 (Delete Technique)** : 選択した演奏技法の条件を削除します。

## 演奏技法のコントロール

スイッチの表で選択したベーススイッチに影響するコントロールが表示されます。ベーススイッチに対してのみ使用できます。



以下の演奏技法のコントロールを使用できます。

### 単音のレガート (Monophonic legato)

単音のレガートを和音 (2 つ以上の音符を同時に演奏すること) のない楽譜に制限できます。「レガート (Legato)」の再生効果を含むベーススイッチに対してのみ使用できます。

このオプションをオンにすると、和音または複声部が同じエンドポイントによって演奏される場合にレガートの再生効果が自動的に削除されますが、デフォルトのレガート音符の長さは引き続き使用されます。

#### ヒント

デフォルトのレガート音符の長さは「再生オプション (Playback Options)」 > 「タイミング (Timing)」 > 「音符のデュレーション (Note Durations)」で変更できます。

### 移調 (Transpose)

MIDI の移調を半ステップ (半音) 単位で設定できます。

### ディレイ: [n] ミリ秒 (Delay [n] milliseconds)

ディレイをミリ秒単位で設定できます。たとえば、アタック (立ち上がり時間) が遅いサウンドを補正する場合などに使用します。負の値にすると記譜されたタイミングよりも早く音符が発音され、正の値にすると記譜されたよりも遅く発音されます。

### 長さ (%) (Length %)

演奏される音符のデュレーションを変更できます。これにより、デフォルトの値は上書きされます。たとえば、選択したスイッチによって音符間の間隔を短くしたい場合などに行いません。

- 4分音符かそれよりも短い音符の場合、値は音符全体に適用されます。
- 4分音符よりも長い音符の場合、値は全体の長さのうち最後の4分音符にのみ適用されます。

### ボリュームの強弱 (Volume dynamic)

選択したスイッチのボリュームの強弱を「ノートベロシティ (Note velocity)」と「コントロールチェンジ (Control change)」のどちらでコントロールするかを選択できます。

#### 補足

「コントロールチェンジ (Control change)」を選択した場合は、コントローラーを番号で指定する必要があります。どれが適切なコントローラー番号かは、使用する VST インストゥルメントまたは MIDI コントローラーのマニュアルを参照してください。

---

### ボリュームの強弱の「最小値 (Min)」 / 「最大値 (Max)」

サウンドライブラリーに応じて、ノートベロシティまたは MIDI CC を使用して強弱の最小範囲と最大範囲を設定できます。

#### 第2の強弱を使用 (Use Secondary dynamic)

ボリュームの強弱にノートベロシティとコントロールチェンジの両方を使用するサウンドライブラリーに、追加のボリュームコントロールを定義できます。

#### 第2の強弱の「最小値 (Min)」 / 「最大値 (Max)」

サウンドライブラリーに応じて、ノートベロシティまたは MIDI CC を使用して強弱の最小範囲と最大範囲を設定できます。

### 再生オプションの上書き情報 (Playback Options Overrides)

選択したエクスプレッションマップの特定の再生オプションのみ上書きできます。オンにした再生オプションが上書きされます。使用できる再生オプションには、さまざまなアーティキュレーションを持つ音符や音価が指定されないトレモロの音符のデフォルトの長さ、拍の位置やアーティキュレーションが強弱に与える影響などがあります。初期設定では、設定されている値は「再生オプション (Playback Options)」の現在の設定と一致します。

「再生オプションの上書き情報 (Playback Options Overrides)」セクションは、セクションヘッダーをクリックして表示/非表示を切り替えることができます。

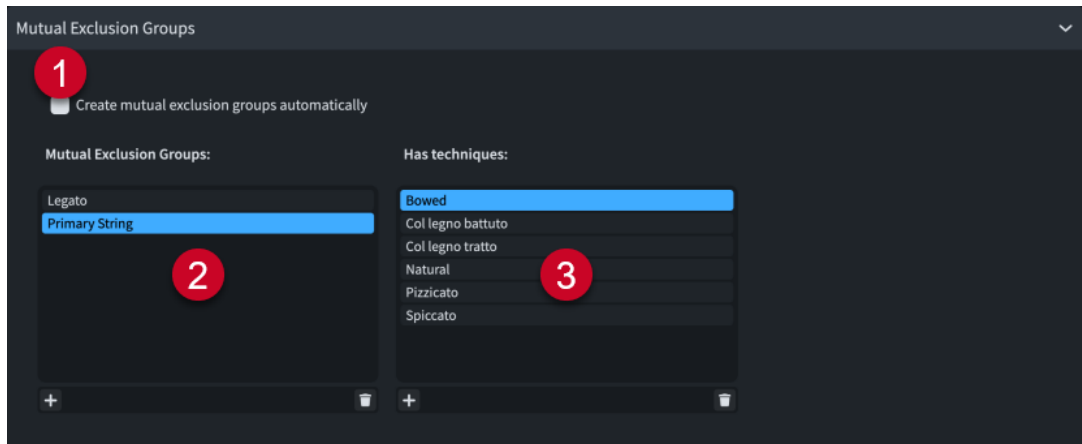
### 両立しない演奏技法のグループ (Mutual Exclusion Groups)

相互に排他的な再生効果、つまり同時に使用できない再生効果を定義できます。たとえば、ビブラートとビブラートなしを同時に演奏することはできません。再生効果を同じ排他グループに入れると、一度に使用できる再生効果はそのうちの1つだけになります。

両立しない演奏技法のグループは、自動的に定義することも、手動で定義することもできます。

両立しない演奏技法のグループは、選択したエクスプレッションマップにのみ適用されます。これにより、たとえば、サウンドライブラリーの1つがあるインストゥルメントの再生効果の特定の組み合わせをサポートしており、別のサウンドライブラリーがサポートしていない場合などに、各エクスプレッションマップに異なる両立しない再生効果のグループを設定できます。

「両立しない演奏技法のグループ (Mutual Exclusion Groups)」セクションは、セクションヘッダーをクリックして表示/非表示を切り替えることができます。





「両立しない演奏技法のグループ (Mutual Exclusion Groups)」セクションには、以下のオプションと  
コラムがあります。

- 1 両立しない演奏技法のグループを自動作成 (Create mutual exclusion groups automatically):  
両立しない演奏技法のグループを自動的に定義できます。

補足

「自動 (Auto)」をオンにすると、手動で作成した両立しない演奏技法のグループは完全に削除され  
ます。



- 2 「両立しない演奏技法のグループ (Mutual Exclusion Groups)」コラム: 両立しない演奏技法のグル  
ープの追加と削除を手動で行なえます。コラムの最下部のアクションバーには以下のオプション  
があります。

- 追加 (Add) : 両立しない演奏技法のグループを新規作成し、グループの名前を入力できるダイ  
アログを開きます。
- 削除 (Delete) : 選択した両立しない演奏技法のグループを削除します。

補足

両立しない演奏技法のグループは一度に1つしか選択できません。

- 3 「次の演奏技法を含む (Has techniques)」コラム: 選択した両立しない演奏技法のグループに含ま  
れる再生効果を変更できます。コラムの最下部のアクションバーには以下のオプションがありま  
す。

- 追加 (Add) : 選択した両立しない演奏技法のグループに追加する再生効果を選択できる「再  
生効果の組み合わせ (Playback Technique Combinations)」ダイアログを開きます。
- 削除 (Delete) : 両立しない演奏技法のグループから選択した再生効果を削除します。

補足

再生効果は一度に1つしか選択できません。

## エクスプレッションマップ/ライブラリーの管理に関するオプション

「エクスプレッションマップ (Expression Maps)」ダイアログの最下部には、エクスプレッションマッ  
プとライブラリーの管理に関する以下のオプションがあります。

### デフォルトのライブラリーにリセット (Reset to Library Defaults)

デフォルトのライブラリーのエクスプレッションマップに加えた変更をすべて元に戻しま  
す。

### ライブラリーを読み込む (Import Library)

エクスプローラー (Windows) または Finder (Mac) を開き、エクスプレッションマップとして読み込む .doricolib ファイルを選択できます。

Dorico と Cubase のエクスプレッションマップを「**エクスプレッションマップ (Expression Maps)**」ダイアログにドラッグして読み込むこともできます。

### ライブラリーを書き出す (Export Library)

エクスプローラー (Windows) または Finder (Mac) を開き、現在選択しているエクスプレッションマップを .doricolib ファイルとして書き出す場所を選択できます。そのあと、.doricolib ファイルを別のプロジェクトに読み込んで別のユーザーと共有できます。

### Cubase エクスプレッションマップを読み込む (Import Cubase Expression Map)

エクスプローラー (Windows) または Finder (Mac) を開き、エクスプレッションマップとして読み込む Cubase の .expressionmap ファイルを選択できます。

#### 補足

多くの場合、読み込んだ Cubase のエクスプレッションマップを Dorico Pro で正常に機能させるためには、編集が必要になります。ただし、スイッチデータは保持されます。

---

#### 関連リンク

[スイッチのタイプ \(1032 ページ\)](#)

[動作のタイプ \(1033 ページ\)](#)

[再生効果 \(1046 ページ\)](#)

[「エンドポイントの設定 \(Endpoint Setup\)」ダイアログ \(711 ページ\)](#)

[「再生効果を編集 \(Edit Playback Techniques\)」ダイアログ \(1047 ページ\)](#)

[トラック概要 \(659 ページ\)](#)

[トラックインスペクター \(661 ページ\)](#)

[声部の個別再生の有効化 \(685 ページ\)](#)

[新しいエクスプレッションマップの作成 \(1034 ページ\)](#)

[エクスプレッションマップのスイッチを追加する/編集する \(1035 ページ\)](#)

[エクスプレッションマップの両立しない演奏技法のグループを追加する/編集する \(1037 ページ\)](#)

[「再生オプション \(Playback Options\)」ダイアログ \(925 ページ\)](#)

[強弱記号の再生オプション \(1265 ページ\)](#)



[再生時のスラー \(1683 ページ\)](#)

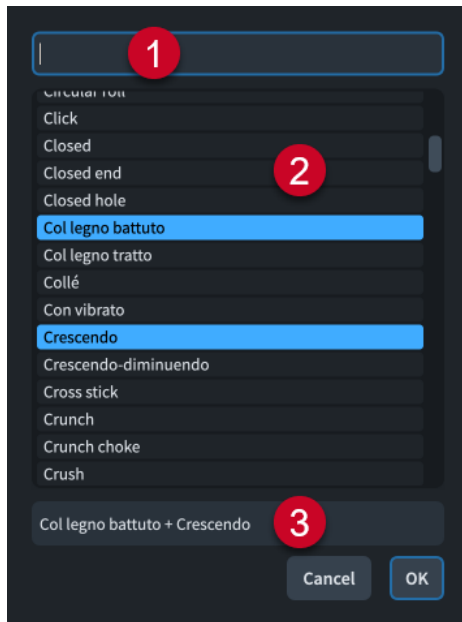
[ミドル C のナンバリング変換を変更する \(55 ページ\)](#)

## 「再生効果の組み合わせ (Playback Technique Combinations)」ダイアログ

「**再生効果の組み合わせ (Playback Technique Combinations)**」ダイアログでは、同時に適用する再生効果の組み合わせを作成できます。再生効果は、楽譜中の演奏技法に必要とされる正しいサウンドを割り当てるために、エクスプレッションマップによって使用されます。

以下のいずれかの操作を行なって、「**再生効果の組み合わせ (Playback Technique Combinations)**」ダイアログを開きます。

- 「**エクスプレッションマップ (Expression Maps)**」ダイアログで、スイッチの表のアクションバーにある「**演奏技法を追加 (Add Technique)**」をクリックします。
- 「**エクスプレッションマップ (Expression Maps)**」ダイアログで、スイッチの表の既存の再生効果を選択し、「**演奏技法 (Techniques)**」セクションのアクションバーにある「**演奏技法を編集 (Edit Technique)**」をクリックします。再生効果をダブルクリックすることもできます。



### 1 検索フィールド

再生効果を検索し、メニューから選択することでその再生効果に移動できます。

### 2 演奏技法のリスト

新しいスイッチに含める再生効果を選択したり、既存のスイッチの再生効果を変更したりできます。

複数の再生効果を選択して組み合わせるには、**[Ctrl]/[command]** を押しながら各効果をクリックします。

### 3 名前 (Name)

選択した再生効果の名前が表示されます。再生効果を複数選択した場合、それぞれの名前が「+」記号で自動的に区切られます。

#### 補足

「再生効果の組み合わせ (Playback Technique Combinations)」ダイアログで再生効果または再生効果の組み合わせの名前を変更することはできません。その再生効果が含まれているスイッチの名前は、「エクスプレッションマップ (Expression Maps)」ダイアログの「ベーススイッチとアドオンスイッチ (Base and Add-on Switches)」セクションで変更できます。個々の再生効果の名前は、「再生効果を編集 (Edit Playback Techniques)」ダイアログで変更できます。

#### 関連リンク

[「エクスプレッションマップ \(Expression Maps\)」ダイアログ \(1020 ページ\)](#)

[「再生効果を編集 \(Edit Playback Techniques\)」ダイアログ \(1047 ページ\)](#)

## スイッチのタイプ

スイッチは、必要な再生効果や再生効果の組み合わせをトリガーするためにエクスプレッションマップで使用されます。Dorico Pro は複数のタイプのスイッチをサポートしています。

### ベース

arco から pizzicato への変更やミュート解除からミュートへの変更など、演奏技法やアーティキュレーションに基本的な変更を加えます。ベーススイッチは相互に排他的であり、前のベーススイッチは新しいベーススイッチで置き換えられます。



## アドオン

既存のベーススイッチに加えて適用されるスイッチです。たとえば、サウンドライブラリーによっては、異なるベーススイッチに加えて同じレガートスイッチを使用できます。アドオンスイッチによってベーススイッチが削除されたり変更されたりすることはありません。アドオンスイッチでトリガーできるのは、単純なキースイッチノートやコントローラーの値のみです。

## 初期化

MIDI コントローラーが常に設定した値で開始するようにするなど、再生開始時に指示を送信するスイッチです。初期設定では、すべてのエクスプレッションマップに空の初期化スイッチが含まれています。初期化スイッチでトリガーできるのは、単純なキースイッチノートやコントローラーの値のみです。

## 関連リンク

[「エクスプレッションマップ \(Expression Maps\)」 ダイアログ \(1020 ページ\)](#)

[エクスプレッションマップのスイッチを追加する/編集する \(1035 ページ\)](#)

[エクスプレッションマップの両立しない演奏技法のグループを追加する/編集する \(1037 ページ\)](#)

## 動作のタイプ

動作はエクスプレッションマップで使用され、必要な再生効果や再生効果の組み合わせをトリガーするために個々のスイッチをどのようにコントロールするかを設定します。サウンドライブラリーごとに異なる動作が必要であることから、Dorico Pro は複数のタイプの動作をサポートしています。

### コントロールチェンジの動作

コントロールチェンジの動作は、MIDI CC イベントを使用してサウンドを調節します。これらは、弦のビブラートの強度を増減するなど、サウンドを段階的に操作できるサウンドライブラリーを使用する場合に特に便利です。

### プログラムチェンジの動作

プログラムチェンジの動作は、MIDI PC イベントを使用して別のサウンドに切り替えます。これらは、再生効果、またはインストゥルメントのサウンドプリセットやエフェクトプリセットの組み合わせごとに個別のプログラムを使用する General MIDI などのサウンドライブラリーを使用する場合に特に便利です。

### キースイッチの動作

キースイッチの動作は、MIDI ノートイベントを使用して別のサウンドに切り替えます。MIDI キーボードで指定したノートを押すと、録音したいノートを演奏すると同時にキースイッチの動作をトリガーできるため、これらは MIDI をライブ録音する場合に特に便利です。通常、キースイッチの動作はノート入力にほとんど使用されないため、MIDI キーボードの一番下のオクターブのノートにマッピングされます。

### 絶対値によるチャンネル変更の動作

絶対値によるチャンネル変更の動作は、明示的に番号付けされた特定のチャンネルに切り替えます。これらは、インストゥルメントごとに個別のプラグインを持つサウンドライブラリーに特に便利です。たとえば、絶対値によるチャンネル変更の動作を使用すれば、ヴィオラセクションのプラグインでチャンネル 1 のナチュラルからチャンネル 2 のピチカートに切り替えることができます。

### 相対値によるチャンネル変更の動作

相対値によるチャンネル変更の動作は、開始チャンネルに対して相対的に番号付けされたチャンネルに切り替えます。これらは、絶対値ではなく相対値のチャンネル番号に従って再生効果を切り替えることができるため、同じプラグイン内に個別の再生効果チャンネルを持つ複数のインストゥルメントが含まれるサウンドライブラリーで特に便利です。たとえば、同じプラグインに 4 つのトランペットインストゥルメントがロードされており、それぞれに異なる再生効果用のチャンネルが 3 つずつある場合、4 つのトランペットすべてに同じスイッ

チを使用したければ、相対値によるチャンネル変更の動作を使用して、元のチャンネルのナチュラルから +1 の相対チャンネルのミュートに切り替えることができます。

相対値のチャンネル番号は、対応するインストゥルメントのエンドポイントの元のチャンネル番号が基準となります。相対値によるチャンネル変更が 0 の場合は、元のチャンネルに戻ります。

#### ヒント

個々のスイッチへの動作の追加は「**エクスプレッションマップ (Expression Maps)**」ダイアログで行なえます。




---

## 新しいエクスプレッションマップの作成

たとえば、エクスプレッションマップが提供されていないサードパーティー製のサウンドライブラリーや MIDI デバイスを使用する場合などに、エクスプレッションマップを 1 から新しく作成したり、既存のエクスプレッションマップを複製して設定を編集したりできます。

---

#### 手順

1. 「**ライブラリー (Library)**」 > 「**エクスプレッションマップ (Expression Maps)**」を選択して、「**エクスプレッションマップ (Expression Maps)**」ダイアログを開きます。
2. 以下のいずれかの操作を行なって、新しいエクスプレッションマップを作成します。
  - 空白のエクスプレッションマップを作成するには、エクスプレッションマップのリストのアクションバーにある「**エクスプレッションマップを追加 (Add Expression Map)**」をクリックします。
  - 既存のエクスプレッションマップのコピーを作成するには、エクスプレッションマップのリストでそのエクスプレッションマップを選択し、アクションバーの「**エクスプレッションマップを複製 (Duplicate Expression Map)**」をクリックします。
3. 「**エクスプレッションマップデータ (Expression Map Data)**」セクションで、「**情報をロック (Lock Info)**」をクリックしてフィールドのロックを解除します。
4. 「**エクスプレッションマップデータ (Expression Map Data)**」セクションで、関連のフィールドにエクスプレッションマップの情報を入力します。
5. 必要に応じて、使用できる他のオプションを変更します。
6. 必要に応じて、「**ベーススイッチとアドオンスイッチ (Base and Add-on Switches)**」セクションで、再生効果または再生効果の組み合わせをトリガーするのに必要な新しいスイッチを追加します。
7. スイッチの表で、動作、条件、またはコントロールを編集するスイッチを選択します。
8. 選択したスイッチの設定を必要に応じて変更します。

たとえば、すべてのスイッチタイプまたはベーススイッチだけに動作を追加したり、選択したベーススイッチのボリュームを「**ノートベロシティ (Note velocity)**」と「**コントロールチェンジ (Control change)**」のどちらでコントロールするかを選択したりできます。
9. 必要に応じて、設定を変更するすべてのスイッチに対して手順 7 と 8 を繰り返します。
10. 「**再生オプションの上書き情報 (Playback Options Overrides)**」セクションで、エクスプレッションマップに上書きする再生オプションをオンにしてそれぞれの値を変更します。
11. 「**両立しない演奏技法のグループ (Mutual Exclusion Groups)**」セクションで、以下のいずれかの操作を行ないます。
  - Dorico Pro によって定義された自動排他グループを使用するには、「**両立しない演奏技法のグループを自動作成 (Create mutual exclusion groups automatically)**」をオンにします。

- 両立しない演奏技法のグループを手動で作成するには、「**両立しない演奏技法のグループを自動作成 (Create mutual exclusion groups automatically)**」をオフにして、両立しない演奏技法のグループを追加するか、編集します。

12. 「OK」をクリックして変更内容を保存し、ダイアログを閉じます。

---

#### 関連リンク

- 「[エクスプレッションマップ \(Expression Maps\)](#)」ダイアログ (1020 ページ)
- 「[エンドポイントの設定 \(Endpoint Setup\)](#)」ダイアログ (711 ページ)
- 「[再生効果の組み合わせ \(Playback Technique Combinations\)](#)」ダイアログ (1031 ページ)
- [エクスプレッションマップの両立しない演奏技法のグループを追加する/編集する](#) (1037 ページ)





## エクスプレッションマップのスイッチを追加する/編集する

個々のエクスプレッションマップの再生効果または再生効果の組み合わせをトリガーするスイッチを新規に作成したり、既存のスイッチを編集したりできます。たとえば、既存のベーススイッチにアドオンスイッチを追加する、ノートの長さの条件を指定した新しいベーススイッチを作成するなどです。

再生効果の組み合わせは、たとえば **Staccato** と **Accent** とは別に、**Staccato + Accent** に異なるキースイッチのセットが必要なエクスプレッションマップに便利です。

---

#### 手順





1. 「**ライブラリー (Library)**」 > 「**エクスプレッションマップ (Expression Maps)**」を選択して、「**エクスプレッションマップ (Expression Maps)**」ダイアログを開きます。
2. エクスプレッションマップのリストから、スイッチを追加する、あるいは既存のスイッチを編集するエクスプレッションマップを選択します。
3. 必要に応じて、「**ベーススイッチとアドオンスイッチ (Base and Add-on Switches)**」セクションのスイッチの表で、以下のいずれかの操作を行なって、再生効果または再生効果の組み合わせをトリガーする新しいスイッチを追加するか、既存のスイッチを編集します。
  - 新しいベーススイッチを追加するには、「**ベーススイッチを追加 (Add Base Switch)**」をクリックします。
  - 新しいアドオンスイッチを追加するには、「**演奏技法アドオンスイッチを追加 (Add Technique Add-on Switch)**」をクリックします。
  - 既存のスイッチのコピーを作成するには、そのスイッチを選択して「**演奏技法を複製 (Duplicate Technique)**」をクリックします。
  - 既存のスイッチによってトリガーされる再生効果を変更するには、その再生効果を選択して「**演奏技法を編集 (Edit Technique)**」をクリックします。
4. 必要に応じて、新しいベーススイッチ/アドオンスイッチを追加した場合、または既存のスイッチを編集した場合は、必要に応じて「**再生効果の組み合わせ (Playback Technique Combinations)**」ダイアログでそのスイッチによってトリガーする再生効果を選択します。

#### ヒント

単一の再生効果を選択することも、複数の再生効果を組み合わせることもできます。複数の再生効果を選択するには、**[Ctrl]/[command]** を押しながら各再生効果をクリックします。

---

5. 必要に応じて、「OK」をクリックすると、選択した再生効果が追加されて「**再生効果の組み合わせ (Playback Technique Combinations)**」ダイアログが閉じます。
6. スイッチの表で、動作、条件、またはコントロールを編集するスイッチを選択します。
7. 「**動作内容 (Actions)**」サブセクションで、イベントタイプを以下のいずれかのオプションから選択します。

- イベント発生時 (On events)
  - イベント非発生時 (Off events)
8. 動作内容の表で、以下のいずれかの操作を行なって、選択したイベントタイプの動作を選択したスイッチに追加します。
- 「コントロールチェンジの動作を追加 (Add Control Change Action)」  をクリックします。
  - 「プログラムチェンジの動作を追加 (Add Program Change Action)」  をクリックします。
  - 「キースイッチノートの動作を追加 (Add Key Switch Note Action)」  をクリックします。
  - 「絶対値によるチャンネル変更の動作を追加 (Add Absolute Channel Change Action)」 をクリックします。
  - 「相対値によるチャンネル変更の動作を追加 (Add Relative Channel Change Action)」 をクリックします。
  - 既存の動作内容を選択して「動作の複製 (Duplicate Action)」  をクリックします。
9. 値を変更するセルをダブルクリックして値を変更します。

#### ヒント



選択したスイッチのすべてのキースイッチの動作のオクターブを変更するには、アクションバーの「1 オクターブ上に移調 (Transpose Up 1 Octave)」  または「1 オクターブ下に移調 (Transpose Down 1 Octave)」  をクリックします。

10. 「ミドル C (ノート 60) (Middle C (note 60))」に以下のいずれかのピッチを選択します。

- C3
- C4
- C5

#### 補足

手順 11～15 はベーススイッチにのみ適用されます。初期化スイッチおよびアドオンスイッチの場合は手順 16 に進みます。

11. 他のスイッチに動作内容を追加するには、手順 6～10 を繰り返します。
12. 条件の表で、以下のいずれかの操作を行なって、選択したベーススイッチに条件を追加します。
- 新しい条件を作成する場合は、アクションバーにある「演奏技法を追加 (Add Technique)」  をクリックします。
  - 既存の条件のコピーを作成するには、その条件を選択して、アクションバーにある「演奏技法を複製 (Duplicate Technique)」  をクリックします。
13. 値を変更するセルをダブルクリックして、メニューからオプションを選択します。
14. 他のベーススイッチに条件を追加するには、手順 12～13 を繰り返します。
15. 以下のいずれかの条件オプションを選択します。
- 少なくとも 1 つの条件を満たした場合にスイッチを使用するには、「以下のいずれか (Any of)」を選択します。
  - すべての条件を満たした場合にスイッチを使用するには、「以下のすべて (All of)」を選択します。
16. 「ベーススイッチとアドオンスイッチ (Base and Add-on Switches)」セクションで、必要に応じてその他の設定を変更します。
- たとえば、選択したベーススイッチのボリュームを「ノートベロシティ (Note velocity)」と「コントロールチェンジ (Control change)」のどちらでコントロールするかなどを選択します。

17. 「OK」をクリックして変更内容を保存し、「エクスプレッションマップ (Expression Maps)」ダイアログを閉じます。
- 

関連リンク

[再生効果 \(1046 ページ\)](#)

[「エクスプレッションマップ \(Expression Maps\)」ダイアログ \(1020 ページ\)](#)

[「再生効果の組み合わせ \(Playback Technique Combinations\)」ダイアログ \(1031 ページ\)](#)




[ミドルCのナンバリング変換を変更する \(55 ページ\)](#)

## エクスプレッションマップの両立しない演奏技法のグループを追加する/編集する

Dorico Pro の初期設定では、両立しない演奏技法のグループは自動的に定義されます。個々のエクスプレッションマップに両立しない演奏技法のグループを手動で新規に作成したり、既存のものを編集したりできます。

---

手順

1. 「ライブラリー (Library)」 > 「エクスプレッションマップ (Expression Maps)」を選択して、「エクスプレッションマップ (Expression Maps)」ダイアログを開きます。
  2. エクスプレッションマップのリストから、両立しない演奏技法のグループを追加する、あるいは既存のグループを編集するエクスプレッションマップを選択します。
  3. 「両立しない演奏技法のグループ (Mutual Exclusion Groups)」セクションで、「両立しない演奏技法のグループを自動作成 (Create mutual exclusion groups automatically)」をオフにします。
  4. 必要に応じて、両立しない演奏技法のグループを新規に追加する場合は、「両立しない演奏技法のグループ (Mutual Exclusion Groups)」コラムのアクションバーにある「追加 (Add)」をクリックします。
  5. 表示されるダイアログに、新しい両立しない演奏技法のグループの名前を入力します。
  6. 「OK」をクリックすると、グループが追加されてダイアログが閉じます。
  7. 「両立しない演奏技法のグループ (Mutual Exclusion Groups)」コラムで、再生効果を変更する両立しない演奏技法のグループを選択します。
  8. 以下のいずれかの操作を行なって、選択した両立しない演奏技法のグループの再生効果を変更します。
    - 両立しない演奏技法のグループに新しい再生効果を追加するには、「次の演奏技法を含む (Has techniques)」コラムのアクションバーにある「追加 (Add)」をクリックして「再生効果の組み合わせ (Playback Technique Combinations)」ダイアログを開き、追加する再生効果を選択して「OK」をクリックします。
    - 両立しない演奏技法のグループから再生効果を削除するには、「次の演奏技法を含む (Has techniques)」コラムでその再生効果を削除し、アクションバーにある「削除 (Delete)」をクリックします。
  9. 「OK」をクリックして変更内容を保存し、「エクスプレッションマップ (Expression Maps)」ダイアログを閉じます。
-

## エクスプレッションマップの読み込み

Cubase から書き出した .expressionmap ファイルなどのエクスプレッションマップをプロジェクトに読み込むことができます。Dorico から書き出したエクスプレッションマップは .doricolib ファイルとして保存されます。

---

### 手順

1. 「**ライブラリー (Library)**」 > 「**エクスプレッションマップ (Expression Maps)**」を選択して、「**エクスプレッションマップ (Expression Maps)**」ダイアログを開きます。
2. 「**ライブラリーを読み込む (Import Library)**」をクリックしてエクスプローラー (Windows) または Finder (Mac) を開きます。
3. 読み込むエクスプレッションマップを探して選択します。
4. 「**開く (Open)**」をクリックします。

---

### 結果

選択したエクスプレッションマップがプロジェクトに読み込まれ、エクスプレッションマップのリストに表示されます。

---

### 補足

- Dorico と Cubase のエクスプレッションマップを「**エクスプレッションマップ (Expression Maps)**」ダイアログにドラッグして読み込むこともできます。
- Dorico Pro と Cubase ではエクスプレッションマップへのアプローチ方法が異なりますが、ピチカート、ハーモニクス、フラッタータンギングなど、Cubase から読み込まれるスイッチの多くはエクスプレッションマップから Dorico Pro に正しく読み込まれます。

## エクスプレッションマップの書き出し

他のプロジェクトで使用するためにエクスプレッションマップを書き出すことができます。エクスプレッションマップは .doricolib ファイルとして保存されます。

---

### 手順

1. 「**ライブラリー (Library)**」 > 「**エクスプレッションマップ (Expression Maps)**」を選択して、「**エクスプレッションマップ (Expression Maps)**」ダイアログを開きます。
2. エクスプレッションマップのリストで、書き出すエクスプレッションマップを選択します。
3. 「**ライブラリーを書き出す (Export Library)**」をクリックしてエクスプローラー (Windows) または Finder (Mac) を開きます。
4. エクスプローラー (Windows) または Finder (Mac) で、ライブラリーファイルの名前と保存場所を指定します。
5. 「**保存 (Save)**」をクリックします。

---

### 結果

選択したエクスプレッションマップが、.doricolib ファイルとして選択した場所に書き出されます。

## パーカッションマップ

無音程打楽器は、無音程のサウンドが別々の MIDI ノートにマッピングされたパッチを使用して再生されます。異なる無音程のサウンドを生成するのに必要なピッチは、デバイス、サウンドライブラリー、メーカーなどによって変わります。また、ピッチと五線譜上の打楽器の位置は関係ありません。

General MIDI パーカッションマップの無音程打楽器の例を以下に示します。

- バスドラム: C2 (MIDI ノート 36、ミドル C の 2 オクターブ下)
- キックドラム: D2 (MIDI ノート 38)
- ハイハット (クローズ): F#2 (MIDI ノート 42)
- カウベル: G#3 (MIDI ノート 56)
- トライアングル (オープン): A5 (MIDI ノート 81)

Dorico Pro では、パーカッションマップを使用して、打楽器の記譜された音符の表現と演奏技法が、そのサウンドの再生に必要なサンプルに紐付けられます。

### 補足

パーカッションマップでは、特定のパッチにどの無音程打楽器および再生効果があるかと、それらを再生する方法が記述されます。たとえば、どの MIDI ノートを演奏するか、特定の演奏技法をトリガーするのにキースイッチとして別の MIDI ノートが必要か、などが記述されます。

Dorico Pro には、HALion Symphonic Orchestra と HALion Sonic SE ファクトリーライブラリーに含まれる無音程打楽器のパーカッションマップのセットが用意されています。プロジェクトに打楽器を追加すると、これらのパーカッションマップが自動的に選択されます。

正確なサウンドを再生するために、「**パーカッションマップ (Percussion Maps)**」ダイアログで、サードパーティー製のサウンドライブラリーまたは MIDI デバイス用のカスタムパーカッションマップを定義できます。

### 関連リンク

[無音程打楽器](#) (1838 ページ)


[ユニバーサルインド太鼓記譜法](#) (1857 ページ)

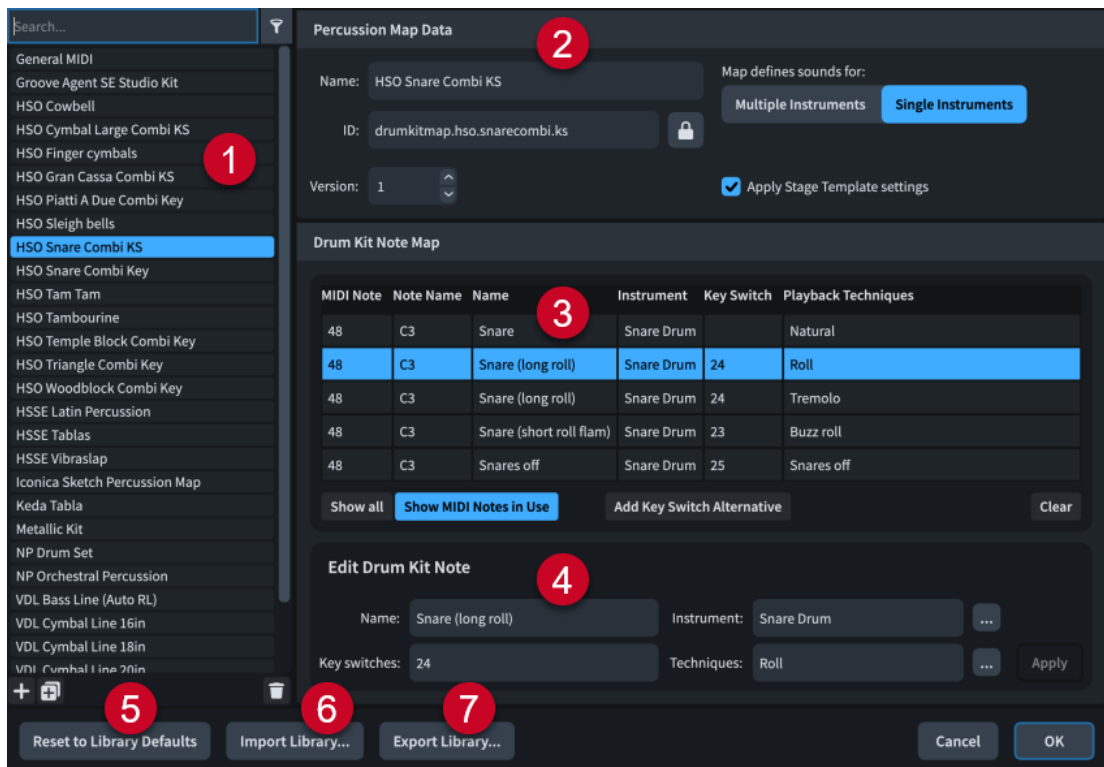
[ミドル C のナンバリング変換を変更する](#) (55 ページ)

## 「パーカッションマップ (Percussion Maps)」ダイアログ

正確なサウンドを再生するために、「**パーカッションマップ (Percussion Maps)**」ダイアログで、サードパーティー製のサウンドライブラリーまたは MIDI デバイス用のカスタムパーカッションマップを定義できます。

「**パーカッションマップ (Percussion Maps)**」ダイアログを開くには、以下のいずれかの操作を行ないます。

- 「**ライブラリー (Library)**」 > 「**パーカッションマップ (Percussion Maps)**」を選択します。
- 再生モードのトラック概要で無音程打楽器のトラックを選択し、トラックインスペクターの「**ルーティング (Routing)**」セクションで「**パーカッションマップを編集 (Edit Percussion Map)**」をクリックします。



「パーカッションマップ (Percussion Maps)」ダイアログは、以下のセクションに分かれています。

## 1 パーカッションマップのリスト

プロジェクトで現在使用できるパーカッションマップが含まれます。

リストの一番上に以下のオプションがあります。

- **検索フィールド**: テキストを入力してパーカッションマップをフィルタリングできます。
- **プロジェクトで使用中的パーカッションマップのみを表示 (Show only percussion maps used in this project)** : 現在のプロジェクトで使用中的パーカッションマップのみが表示されるように、パーカッションマップのリストをフィルタリングできます。

リストの最下部のアクションバーには以下のオプションがあります。

- **パーカッションマップを追加 (Add Percussion Map)** : 設定を含まない新しいパーカッションマップを追加します。
- **パーカッションマップを複製 (Duplicate Percussion Map)** : 既存のパーカッションマップのコピーを作成し、元のパーカッションマップとは別の設定に編集できます。
- **パーカッションマップを削除 (Delete Percussion Map)** : 選択したパーカッションマップを削除します。

補足

出荷時のデフォルトのパーカッションマップやプロジェクトで現在使用中的パーカッションマップを削除することはできません。

## 2 「パーカッションマップデータ (Percussion Map Data)」セクション

選択したパーカッションマップについて、以下の識別情報を指定できます。

- **名前 (Name)**: 「**エンドポイントの設定 (Endpoint Setup)**」ダイアログに表示されるパーカッションマップの名前を指定できます。
- **ID**: パーカッションマップの一意的 ID を設定できます。「ID」フィールドには、文字列を自由に入力できます。





xmap.user.paulsmith.hso.cowbell のように、作成したマップのインストゥルメントとサウンドライブラリーに、自分の名前を含めると使いやすくなります。

- **バージョン (Version):** 最新版が分かるようにパーカッションマップのバージョンを指定できます。
- **マップに定義される音色 (Map defines sounds for):** 現在のパーカッションマップに適切なオプションを選択できます。
  - **マルチインストゥルメント (Multiple Instruments):** マップを作成するパッチに、General MIDI ドラムマップのようにさまざまな打楽器が含まれている場合に、このオプションを選択します。
  - **シングルインストゥルメント (Single Instruments):** マップを作成するパッチに、打楽器が1つのみ (再生効果は複数の場合あり) 含まれている場合に、このオプションを選択します。たとえば、Virtual Drumline のスネアドラムラインパッチや他のスペシャリストのサウンドライブラリーが挙げられます。

使用している VST インストゥルメントに同じ再生効果がマッピングされたパッチが複数ある場合も、このオプションが役立ちます。たとえば、HALion Symphonic Orchestra には、通常の叩いた音を出す大きなシンバルのパッチと、ロール音を出す小さなシンバルのパッチがあります。シングルインストゥルメントのパーカッションマップを作成すると、複数のパッチのサウンドに同じマッピングを使用できます。
- **ステージテンプレート設定を適用 (Apply Stage Template settings):** ステージテンプレートとスペーステンプレートを、パーカッションマップを使用してエンドポイントに適用するかどうかを設定できます。録音にすでに空間特性や反響特性のあるサウンドの場合はこのオプションをオフにすることをおすすめします。

#### 補足

- 「**パーカッションマップデータ (Percussion Map Data)**」 セクションの多くのフィールドは「**情報をロック (Lock Info)**」  ボタンでロックされています。これらのフィールドの情報を変更するには、このボタンをクリックして「**情報をロック (Lock Info)**」  を解除する必要があります。
- 「**エンドポイントの設定 (Endpoint Setup)**」 ダイアログでは、VST インストゥルメントまたは MIDI 出力デバイスの各チャンネルに使用されるパーカッションマップを設定します。

### 3 ドラムキットのノートマップの表

初期設定では、選択したパーカッションマップで使用されているドラムキットのノートが番号順に表示されます。また、この表には以下の列が含まれており、選択したドラムキットのノートに関するデータが表示されます。

- **MIDI ノート (MIDI Note):** MIDI ノートナンバーが表示されます (例: 48)。
- **ノート名 (Note Name):** ミドル C のナンバリング変換設定に応じてノートのピッチとオクターブが表示されます (例: C3)。
- **名前 (Name):** 演奏技法の名前が表示されます (例: Snare (long roll))。
- **インストゥルメント (Instrument):** 無音程打楽器が表示されます (例: Snare Drum)。
- **キースイッチ (Key Switch):** そのノートをトリガーするキースイッチの番号が表示されます (例: 24)。
- **再生効果 (Playback Techniques):** そのノートによってトリガーされる再生効果が表示されます (例: Roll)。

表の一番下には以下のオプションがあります。

- **すべてを表示 (Show all):** 0~127 の MIDI ノートのリストが表示されます。
- **使用中の MIDI ノートを表示 (Show MIDI Notes in Use):** 選択したパーカッションマップで使用されている MIDI ノートのみを表示します。

- **代替キースイッチを追加 (Add Key Switch Alternative):** 選択したドラムキットのノートを複製します。
- **クリア (Clear):** 選択したドラムキットのノートを削除します。

現在選択しているドラムキットのノートのデータは、「**ドラムキットのノートを編集 (Edit Drum Kit Note)**」サブセクションで変更できます。

#### 4 「ドラムキットのノートを編集 (Edit Drum Kit Note)」サブセクション

**ドラムキットのノートマップ**の表で現在選択しているドラムキットのノートの以下のフィールドにデータを指定できます。

- **名前 (Name):** インストゥルメントと再生効果の特定の組み合わせ用の表示名です。たとえば、VST インストゥルメントまたは MIDI 出力デバイスのメーカーマニュアルに記載された名前を入力できます。
- **インストゥルメント (Instrument):** Dorico Pro で作成できるすべての無音程打楽器のリストから、「**ドラムキットのノートマップ (Drum Kit Note Map)**」セクションで選択したドラムキットのノート用のインストゥルメントを選択できます。
- **キースイッチ (Key switches):** このサウンドでインストゥルメントと再生効果の固有の組み合わせをトリガーするために別の MIDI ノートを演奏する必要がある場合は、キースイッチとして使用するキーの MIDI ノートナンバーを指定します。

#### 補足

キースイッチは必須項目ではありません。

- **演奏技法 (Techniques):** 使用できる再生効果のリストから、「**インストゥルメント (Instrument)**」フィールドで選択したインストゥルメントに適用する再生効果を選択できます。

#### 5 デフォルトのライブラリーにリセット (Reset to Library Defaults)

デフォルトのライブラリーのパーカッションマップに加えた変更をすべて元に戻します。

#### 6 ライブラリーを読み込む (Import Library)

エクスプローラー (Windows) または Finder (Mac) を開き、パーカッションマップとして読み込む .doricolib ファイルを選択できます。

#### 7 ライブラリーを書き出す (Export Library)

エクスプローラー (Windows) または Finder (Mac) を開き、現在選択しているパーカッションマップを .doricolib ファイルとして書き出す場所を選択できます。そのあと、.doricolib ファイルを別のプロジェクトに読み込んで別のユーザーと共有できます。

関連リンク

[トラック概要 \(659 ページ\)](#)

[トラックインスペクター \(661 ページ\)](#)

[エンドポイントへのエクスペリションマップ/パーカッションマップの割り当て \(714 ページ\)](#)






[ミドル C のナンバリング変換を変更する \(55 ページ\)](#)

## 新しいパーカッションマップの作成

たとえば、サードパーティー製のサウンドライブラリーや MIDI デバイスを使用する場合などに、正確なサウンドを再生するために、パーカッションマップを 1 から新しく作成したり、既存のパーカッションマップを複製して設定を編集したりできます。

手順

1. 「**ライブラリー (Library)**」 > 「**パーカッションマップ (Percussion Maps)**」を選択して、「**パーカッションマップ (Percussion Maps)**」ダイアログを開きます。

2. 以下のいずれかの操作を行なって、新しいパーカッションマップを作成します。
  - 空白のパーカッションマップを作成するには、アクションバーの「パーカッションマップを追加 (Add Percussion Map)」  をクリックします。
  - 既存のパーカッションマップのコピーを作成するには、パーカッションマップのリストでそのパーカッションマップを選択し、アクションバーの「パーカッションマップを複製 (Duplicate Percussion Map)」  をクリックします。
3. 「パーカッションマップデータ (Percussion Map Data)」 セクションで、「情報をロック (Lock Info)」  をクリックしてフィールドのロックを解除します。
4. 「名前 (Name)」 フィールドに、パーカッションマップに使用する表示名を入力します。  
入力した名前は「エンドポイントの設定 (Endpoint Setup)」 ダイアログに表示されます。
5. 「ID」 フィールドに、任意の一意的識別名を入力します。  
`xmap.user.paulsmith.hso.cowbell` のように、作成したマップのインストゥルメントとサウンドライブラリーに、自分の名前を含めると使いやすくなります。
6. 「マップに定義される音色 (Map defines sounds for)」 に、現在のパーカッションマップに適切なオプションを選択します。
  - マルチインストゥルメント (Multiple Instruments)
  - シングルインストゥルメント (Single Instruments)
7. 「ステージテンプレート設定を適用 (Apply Stage Template settings)」 をオン/オフにします。
8. 「ドラムキットのノートマップ (Drum Kit Note Map)」 セクションで、「すべてを表示 (Show all)」 をクリックしてマッピングされていないノートを表示します。
9. 新しいマッピングを作成する MIDI ノートに対応する行を選択します。
10. 「ドラムキットのノートを編集 (Edit Drum Kit Note)」 サブセクションで、「インストゥルメント (Instrument)」 フィールドの右に表示される  ボタンをクリックして打楽器のリストを含むダイアログを開きます。
11. 選択した MIDI ノートで再生されるサウンドに対応するインストゥルメントを選択します。
12. 「OK」 をクリックします。
13. 「ドラムキットのノートを編集 (Edit Drum Kit Note)」 サブセクションで、「演奏技法 (Techniques)」 フィールドの右に表示される  ボタンをクリックして「再生効果の組み合わせ (Playback Technique Combinations)」 ダイアログを開きます。
14. 選択した MIDI ノートで再生されるサウンドに適した再生効果を選択します。  
たとえば、**[Ctrl]/[command]** を押しながら「Buzz roll」と「Rim」をクリックします。
15. 「OK」 をクリックします。
16. 「ドラムキットのノートを編集 (Edit Drum Kit Note)」 サブセクションの「名前 (Name)」 フィールドに、このインストゥルメントと演奏技法の組み合わせに使用する表示名を入力します。
17. このサウンドのキースイッチに MIDI ノートナンバーが必要な場合は、「キースイッチ (Key switches)」 フィールドに MIDI ノートナンバーを指定します。
18. 「適用 (Apply)」 をクリックします。
19. 必要に応じて、他の MIDI ノートにこれらの手順を繰り返し、プロジェクトに必要なマッピングをすべて作成します。
20. 「OK」 をクリックして変更内容を保存し、ダイアログを閉じます。

---

結果

新しいパーカッションマップが作成されます。

手順終了後の項目

- パーカッションマップは、対応するパッチを提供する VST インストゥルメントまたは MIDI デバイスと同じエンドポイントに割り当てする必要があります。
- 他のプロジェクトで使用するために、パーカッションマップを書き出すことができます。

関連リンク

[パーカッションマップ \(1039 ページ\)](#)

[エンドポイントへのエクスプレッションマップ/パーカッションマップの割り当て \(714 ページ\)](#)

[「エンドポイントの設定 \(Endpoint Setup\)」ダイアログ \(711 ページ\)](#)

## パーカッションマップの読み込み

プロジェクトにパーカッションマップを読み込むことができます。パーカッションマップは .doricolib ファイルとして保存されます。

---

手順

1. 「**ライブラリー (Library)**」 > 「**パーカッションマップ (Percussion Maps)**」を選択して、「**パーカッションマップ (Percussion Maps)**」ダイアログを開きます。
2. 「**ライブラリーを読み込む (Import Library)**」をクリックしてエクスプローラー (Windows) または Finder (Mac) を開きます。
3. 読み込むパーカッションマップを探して選択します。
4. 「**開く (Open)**」をクリックします。

---

結果

選択したパーカッションマップがプロジェクトに読み込まれ、パーカッションマップのリストに表示されます。

## パーカッションマップの書き出し

パーカッションマップを書き出して、他のプロジェクトで使用できます。パーカッションマップは .doricolib ファイルとして保存されます。

---

手順

1. 「**ライブラリー (Library)**」 > 「**パーカッションマップ (Percussion Maps)**」を選択して、「**パーカッションマップ (Percussion Maps)**」ダイアログを開きます。
2. パーカッションマップのリストで、書き出すパーカッションマップを選択します。
3. 「**ライブラリーを書き出す (Export Library)**」をクリックしてエクスプローラー (Windows) または Finder (Mac) を開きます。
4. エクスプローラー (Windows) または Finder (Mac) で、ライブラリーファイルの名前と保存場所を指定します。
5. 「**保存 (Save)**」をクリックします。

---

結果

選択したパーカッションマップが、.doricolib ファイルとして選択した場所に書き出されます。

## アーティキュレーションと単音のトレモロの組み合わせのサウンドの再生を定義する

無音程打楽器の演奏技法固有の符頭について、アーティキュレーションと単音のトレモロの特定の組み合わせにおける再生動作を定義できます。

### 手順

- 以下のいずれかの操作を行なって、「**打楽器の演奏技法 (Percussion Instrument Playing Techniques)**」ダイアログを開きます。
  - 個別の打楽器インストゥルメントの場合、設定モードの「**プレーヤー (Players)**」パネルでインストゥルメントラベルのインストゥルメントメニュー  をクリックして、メニューから「**打楽器の演奏技法を編集 (Edit Percussion Playing Techniques)**」を選択します。
  - 打楽器キットに属する打楽器インストゥルメントの場合、設定モードの「**プレーヤー (Players)**」パネルでキットのインストゥルメントラベルのインストゥルメントメニュー  をクリックし、「**打楽器キットを編集 (Edit Percussion Kit)**」を選択して「**打楽器キットを編集 (Edit Percussion Kit)**」ダイアログを開きます。メイン編集領域で演奏技法を編集するインストゥルメントを選択して、「**打楽器の演奏技法を編集 (Edit Percussion Playing Techniques)**」をクリックします。
  - プロジェクトに追加していない個別の打楽器インストゥルメントの場合、「**インストゥルメントを編集 (Edit Instruments)**」ダイアログで、インストゥルメントリストの打楽器インストゥルメントを選択し、「**インストゥルメント (Instrument)**」セクションの「**打楽器の演奏技法を編集 (Edit Percussion Playing Techniques)**」をクリックします。
- ダイアログ上部のリストで、再生動作を定義する演奏技法固有の符頭を選択します。
- ダイアログの左下のアクションバーにある「**演奏技法を追加 (Add Technique)**」  をクリックします。
- 「**演奏技法の再生効果 (Playback playing technique)**」  フィールドの右にある「**演奏技法を選択 (Choose Playing Techniques)**」をクリックして「**再生効果の組み合わせ (Playback Technique Combinations)**」ダイアログを開きます。
- 使用する再生効果を選択します。

### ヒント

単一の再生効果を選択することも、複数の再生効果を組み合わせることもできます。複数の再生効果を選択するには、**[Ctrl]/[command]** を押しながら各再生効果をクリックします。

- 「**OK**」をクリックすると、選択した再生効果が追加されて「**再生効果の組み合わせ (Playback Technique Combinations)**」ダイアログが閉じます。
- 以下のいずれかのオプションを選択します。
  - 置き換え (Replace)**: 現在の符頭と譜表からの位置の組み合わせに、定義されたデフォルトの演奏技法のかわりに、選択した演奏技法を使用できます。
  - 追加 (Add)**: 現在の符頭と譜表からの位置の組み合わせに、定義されたデフォルトの演奏技法の上に、選択した演奏技法を追加できます。
- 選択できるオプションから、任意のアーティキュレーションおよびトレモロストロークを選択します。
- 「**OK**」をクリックして変更内容を保存し、ダイアログを閉じます。

### 結果

選択した演奏技法の再生での動作が変更されます。

#### 関連リンク

[「打楽器の演奏技法 \(Percussion Instrument Playing Techniques\)」ダイアログ \(1840 ページ\)](#)

[「インストゥルメントを編集 \(Edit Instruments\)」ダイアログ \(950 ページ\)](#)

[新しい演奏技法固有の符頭の作成 \(1843 ページ\)](#)

[「再生効果の組み合わせ \(Playback Technique Combinations\)」ダイアログ \(1031 ページ\)](#)

## 再生効果

再生効果は、楽譜に入力した記譜記号とサウンドライブラリー内の演奏技法/アーティキュレーションをリンクさせて、再生時の適切なサウンドを実現します。それらはエクスプレッションマップおよびパーカッションマップにより、キースイッチやコントロールチェンジなどの適切なコマンドをトリガーするために使用されます。

- 必要に応じて、再生効果は「**エクスプレッションマップ (Expression Maps)**」ダイアログの異なるサウンドライブラリーにマッピングできます。たとえば **Legato** と **Tremolo** など、同時に使用できる既存の再生効果による新しい組み合わせを作成できます。
- 対応するインストゥルメント/声部の演奏技法エディターでは、特定の位置でどの再生効果が使用されているかを確認できます。

演奏技法、トレモロ、ジャズアーティキュレーション、アーティキュレーションなどの記譜記号を入力すると、対応するエクスプレッションマップが適切な再生効果を探します。たとえば、pizz. の演奏技法を入力すると、エクスプレッションマップが**ピチカート**の再生効果を使用して、再生のサウンドがピチカートに切り替えられます。エクスプレッションマップがサウンドを見つけれない場合、適用される再生効果は先に使用したものと同じになるか、ナチュラルな再生効果に復帰します。

Dorico Pro には、以下のタイプの再生効果があります。

#### 単音 (Attribute)

上げ弓の演奏技法やスタカートのアーティキュレーションなど、対応する位置の1つの音符にのみ適用されます。

#### 方向 (Direction)

対応する位置以降、別の再生効果によって置き換えられるまで適用されます (ピチカートのあとにアルコが続くなど)。

#### ヒント

- エクスプレッションマップに既存ではない再生効果を使用する場合、カスタムの演奏技法は自動的に再生に反映されません。適切な再生を行なうためには、それを使用するインストゥルメントごとに、エクスプレッションマップに演奏技法を追加する必要があります。また、カスタムの演奏技法ごとに動作内容を割り当てる必要があります。これは演奏技法をトリガーするスイッチの制御方法を定義するものです。
- 演奏技法を入力してもサウンドに変化が見られないときは、エクスプレッションマップで予期されていない再生効果の組み合わせを使用している場合があります。たとえば、既存の演奏技法をキャンセルしないまま新規の演奏技法を入力した場合、エクスプレッションマップにそれら2つの演奏技法の組み合わせが登録されていない限り、エクスプレッションマップは2つの再生効果を同時に処理できません。

再生効果の衝突を回避するには、同時に使用できない再生効果を、対応するエクスプレッションマップの両立しない演奏技法の同じグループに追加します。または、これらを同時に使用するために、再生効果の組み合わせを作成できます。

- 個々のインストゥルメントで声部の個別再生を有効にして、異なる演奏技法、トレモロ、ジャズアーティキュレーション、またはアーティキュレーションを異なる声部で同時に鳴らすこともできます。

#### 関連リンク

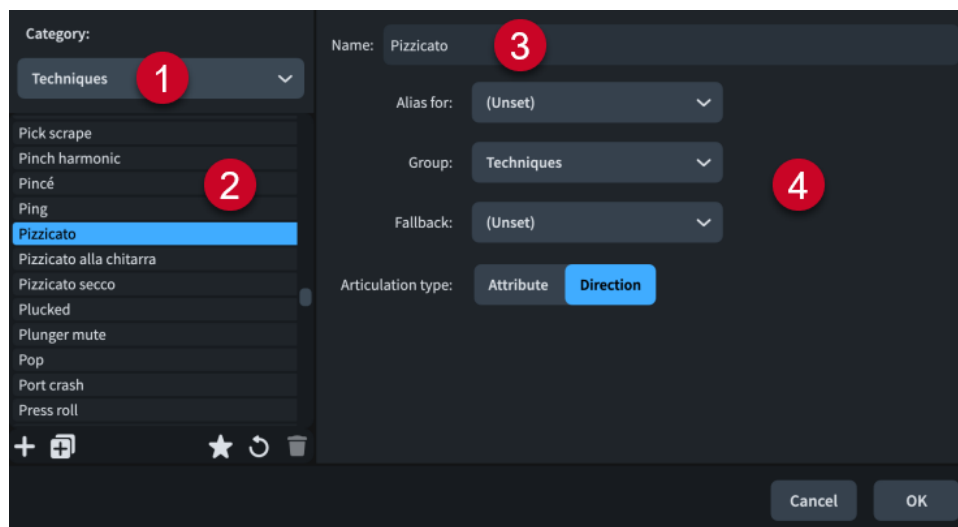
- [エクスプレッションマップ \(1019 ページ\)](#)
- [「エクスプレッションマップ \(Expression Maps\)」 ダイアログ \(1020 ページ\)](#)
- [「再生効果の組み合わせ \(Playback Technique Combinations\)」 ダイアログ \(1031 ページ\)](#)
- [声部の個別再生の有効化 \(685 ページ\)](#)
- [新しいエクスプレッションマップの作成 \(1034 ページ\)](#)
- [エクスプレッションマップの両立しない演奏技法のグループを追加する/編集する \(1037 ページ\)](#)
- [演奏技法エディター \(855 ページ\)](#)
- [演奏技法 \(1536 ページ\)](#)
- [トレモロ \(1816 ページ\)](#)
- [ジャズアーティキュレーション \(1495 ページ\)](#)
- [アーティキュレーション \(1064 ページ\)](#)

## 「再生効果を編集 (Edit Playback Techniques)」 ダイアログ

「再生効果を編集 (Edit Playback Techniques)」ダイアログでは、再生効果の新規作成や、既存のもの  
の編集が行なえます。再生効果は演奏技法、トレモロ、ジャズアーティキュレーション、アーティキュ  
レーションなど、楽譜中の記譜記号に必要とされる正しいサウンドを割り当てるために、エクスプレッ  
ションマップによって使用されます。

「再生効果を編集 (Edit Playback Techniques)」ダイアログを開くには、以下のいずれかの操作を行な  
います。

- 「ライブラリー (Library)」 > 「再生効果 (Playback Techniques)」 を選択します。
- 「演奏技法を編集 (Edit Playing Techniques)」ダイアログの「全般 (General)」タブで、「再生効  
果 (Playback technique)」の横の「編集 (Edit)」をクリックします。



「再生効果を編集 (Edit Playback Techniques)」ダイアログには、以下のセクションとオプションがあ  
ります。

### 1 「カテゴリー (Category)」メニュー






メニューから「演奏技法 (Techniques)」や「強弱記号 (Dynamics)」などカテゴリーを選択する  
ことで、再生効果のリストを切り替えられます。

### 2 再生効果のリスト

選択中のカテゴリーに属する、プロジェクト中のすべての再生効果が表示されます。

リストの最下部のアクションバーには以下のオプションがあります。

- **新規 (New) +**: 空白の再生効果を新規に追加します。

- **選択から新規作成 (New from Selection)** : 既存の再生効果のコピーを作成し、元のものとは別の設定に編集できます。
- **デフォルトとして保存 (Save as Default)** : 選択中の再生効果をユーザーライブラリーのデフォルトとして保存し、複数のプロジェクトで使用できるようにします。デフォルトとして保存した再生効果は  として表示されます。
- **出荷時の設定に戻す (Revert to Factory)** : 選択中の再生効果に加えたすべての変更を取り消して、元の設定に戻します。
- **削除 (Delete)** : 選択した再生効果を削除します。

#### 補足

プリセットの演奏技法、またはプロジェクト内で現在使用中の演奏技法は削除できません。

---

### 3 名前 (Name)

再生効果の名前を編集または入力できます。この名前は「**演奏技法を編集 (Edit Playing Techniques)**」、「**エクスプレッションマップ (Expression Maps)**」、「**再生効果の組み合わせ (Playback Technique Combinations)**」、および「**パーカッションマップ (Percussion Maps)**」ダイアログのリストに表示されます。

### 4 再生オプション

- **エイリアス元 (Alias for)**: 他の再生効果を選択すると、そのサウンドマッピングを選択中の再生効果にも適用できます。
- **グループ (Group)**: 再生効果が属するグループを設定します。
- **代替 (Fallback)**: 選択中の再生効果が使用できない場合代替として使用する、他の再生効果を指定できます。
- **アーティキュレーションのタイプ (Articulation type)**: 再生効果が効果を発揮するデュレーションを設定します。「**単音 (Attribute)**」は、スタッカートのアーティキュレーションのように、演奏技法が付く位置の音符のみが適用範囲となります。これに対し「**持続 (Direction)**」は、ピチカートのように、他の演奏技法によって打ち消されるまでの後続の音符すべてが適用範囲となります。

#### 関連リンク

[「演奏技法を編集 \(Edit Playing Techniques\)」ダイアログ \(976 ページ\)](#)

[「エクスプレッションマップ \(Expression Maps\)」ダイアログ \(1020 ページ\)](#)

[「再生効果の組み合わせ \(Playback Technique Combinations\)」ダイアログ \(1031 ページ\)](#)

[エクスプレッションマップの両立しない演奏技法のグループを追加する/編集する \(1037 ページ\)](#)



# 記譜に関するリファレンス

# はじめに

本書「記譜に関するリファレンス」は、さまざまな記譜記号の一般的な表記規則と、Dorico Pro におけるその外観や配置の個別変更およびデフォルト設定編集を通した変更の方法について説明しています。

また、たとえば譜表をまたいだグリッサンドなどの複雑な記譜記号の入力に関する手引きも、それぞれ対応する章で説明しています。

記譜に関するリファレンスにおける課題で概説するのは、アイテムに対して行なうデフォルトの変更であり、この変更はフローごと、レイアウトごと、またはプロジェクトごとに適用できます。たとえば、ペダル線のスペーシング間隔やプロジェクト全体の外観の変更など、「**浄書オプション (Engraving Options)**」から行なえるプロジェクト全体の変更などです。また、プロパティパネルのプロパティを使用して行なうことが多い、デフォルト設定とは別に行なえる個々の変更についても説明します。

記譜に関する基本的な入力方法については、記譜モードの章を参照してください。

関連リンク

[記譜モード \(218 ページ\)](#)

[「浄書オプション \(Engraving Options\)」ダイアログ \(923 ページ\)](#)

[「レイアウトオプション \(Layout Options\)」ダイアログ \(917 ページ\)](#)

[プロパティパネル \(826 ページ\)](#)

[記譜記号の入力 \(298 ページ\)](#)

# 臨時記号

臨時記号は音符の横に表示され、それぞれのピッチを示します。臨時記号は譜表上に記譜される場合も、テキストに書き出される場合でも同様に音符の横に配置されます。洋式の調性に従う楽譜では通常、臨時記号は音符が調号に合致しないピッチに変更されていることを示します。

Dorico Pro では、それぞれの音符は現在の調号から独立した固有の固定されたピッチを持ち、臨時記号は必要に応じて自動的に表示または非表示になります。たとえば F# を入力したあと、その前の位置に D メジャーの調号を追加した場合、音符は F# になるのではなく F# のままで、ナチュラルの臨時記号が表示されます。しかし D メジャーの調号を最初に入力すると、そのあと臨時記号を指定せずに入力した F はすべて F# として入力されます。



臨時記号の有効範囲ルールには、たとえば同じ小節の同じピッチを持つ後続の音符には同じ臨時記号を繰り返し表示しないなど、さまざまな表記規則が存在します。調号を持たない譜面では、使用する表記規則に応じて一部または全部の音符に臨時記号を付ける必要が生じる場合があります。

臨時記号の有効範囲ルールは、どの場合には臨時記号を表示するか決定し、複雑な和音ではどのように臨時記号を配置するかを制御するために使用できます。

関連リンク

[臨時記号の有効範囲ルール \(1060 ページ\)](#)

[音符の入力 \(248 ページ\)](#)

[臨時記号の入力 \(269 ページ\)](#)

## 浄書オプションで臨時記号の設定をプロジェクト全体に適用する

「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**臨時記号 (Accidentals)**」ページで、臨時記号の外観と位置を設定しプロジェクト全体に適用できます。

「**臨時記号 (Accidentals)**」ページでは、コード内の臨時記号の順番や、符頭と臨時記号、加線と臨時記号、括弧と臨時記号の間隔を詳細に設定できます。

多くのオプションに、オプションを楽譜に適用したときにどのように表示されるかを示す図があります。

関連リンク

[「浄書オプション \(Engraving Options\)」ダイアログ \(923 ページ\)](#)

## 臨時記号の削除

臨時記号は種類に従って削除できます。また、異なる臨時記号を持つ複数の音符を選択して、一度にすべての臨時記号を削除できます。これにより、選択した音符のピッチが変更されます。

### 補足

これらの手順は、臨時記号を伴う音符の後にオクターブの異なるナチュラルの同じ音符に表示されるような親切臨時記号には適用されません。Dorico Pro では、フローごとおよび音符ごとに、親切臨時記号を表示したり、非表示にしたり、括弧を付けたりできます。

### 手順

1. 記譜モードで、臨時記号を削除する音符を複数選択します。
2. 以下のいずれかの操作を行なって、臨時記号を削除します。
  - ナチュラルを削除する場合、**[0]** を押します。
  - フラットを削除する場合、**[-]** を押します。
  - シャープを削除する場合、**^** を押します。
  - 音符パネルで、削除する臨時記号をクリックします。

### 結果

選択した音符から対応する臨時記号が削除されます。これにより音符のピッチが変更されます。たとえば G# からシャープを削除すると G<sub>n</sub> に変化します。

### 補足

- フローに適用された臨時記号の有効範囲ルールの設定によっては、臨時記号を削除することで、同じ小節の同じピッチを持つ後続の音符に臨時記号が表示される場合があります。同じ声部の同じリズム上の位置にある単一または複数の音符を選択すると、ステータスバーにピッチが表示され、キーボードパネルに鍵盤を押さえた状態として表示されます。
- 異なる臨時記号を持つ複数選択された音符から臨時記号を削除する場合は、**[0]** を押すか、音符パネルで「**ナチュラル (Natural)**」をクリックして、すべての音符をナチュラルに戻すことをおすすめします。これは、異なる臨時記号を持つ選択された音符に臨時記号を再入力すると、選択範囲内のすべての音符にその臨時記号が追加されるためです。たとえば、複数選択した音符が 2 つの G# と 2 つの G<sub>b</sub> で構成されている場合、シャープを再入力すると 4 つの G# となります。「**シャープ (Sharp)**」をクリックするか **^** を 2 回押すと、すべての臨時記号が削除されます。

### 関連リンク

- [臨時記号の入力 \(269 ページ\)](#)
- [個々の音符のピッチの変更 \(518 ページ\)](#)
- [音符パネル \(223 ページ\)](#)
- [ステータスバー \(42 ページ\)](#)
- [キーボードパネル \(229 ページ\)](#)

## 臨時記号を表示/非表示にするか括弧を付ける

初期設定で表示される親切臨時記号を含め、個々の臨時記号を表示/非表示にしたり、丸括弧または角括弧付きで表示したりできます。たとえば、臨時記号を丸括弧付きで表示することで、組段やフレーム区切りをまたぐタイのつながりに含まれる音符の親切臨時記号を表示できます。この操作は現在のレイアウトとフレームチェーンのみに対して、もしくはすべてのレイアウトとフレームチェーンに対して行なえます。

## 前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。
- 下ゾーンのツールバーで「プロパティ (Properties)」を選択しておきます。
- 浄書モードの場合は、浄書ツールボックスで「グラフィックの編集 (Graphic Editing)」を選択しておきます。
- ローカルのプロパティ変更に関して、適切なプロパティ範囲を選択しておきます。

## 手順

1. 臨時記号の表示/非表示を切り替える、または臨時記号に括弧を付ける音符を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。

## 補足

浄書モードでは、タイでつながれた個別の符頭のみを選択できます。

2. プロパティパネルの「音符と休符 (Notes and Rests)」グループで、「臨時記号 (Accidental)」をオンにします。
3. メニューから以下のいずれかのオプションを選択します。
  - 非表示 (Hide)
  - 表示 (Show)
  - 丸括弧 (Round brackets)
  - 角括弧 (Square brackets)

## 結果

選択した音符の臨時記号が、表示、非表示、丸括弧付きまたは角括弧付きで表示されます。プロパティ範囲を「ローカル (Locally)」に設定している場合、この変更は現在のレイアウトおよびフレームチェーンのみに影響します。

臨時記号のカラーが表示されている場合、手動で表示した臨時記号は青緑色で表示されます。

## 補足

- 臨時記号を非表示にしても再生時のピッチには影響しません。
- 多くの臨時記号の表示/非表示を切り替える場合は、臨時記号の有効範囲ルールの変更を検討することをおすすめします。
- 「環境設定 (Preferences)」の「キーボードショートカット (Key Commands)」ページにある異なる臨時記号の表示、非表示、括弧付けコマンドに対して、キーボードショートカットを割り当てることができます。

## 手順終了後の項目

また、押さえるピッチを示す通常の符頭とは個別に、菱形の符頭で表示されるアーティフィシャルハーモニクスの臨時記号を表示/非表示にしたり、括弧を付けたりすることもできます。

## 関連リンク

[プロパティパネル \(826 ページ\)](#)

[プロパティ範囲の変更 \(828 ページ\)](#)

[浄書ツールボックス \(554 ページ\)](#)

[臨時記号の有効範囲ルール \(1060 ページ\)](#)

[親切臨時記号を表示/非表示にするか括弧を付ける \(1062 ページ\)](#)

[調号の変更の前の打ち消しのナチュラル記号の表示/非表示を切り替える \(1350 ページ\)](#)

[ハーモニクスの臨時記号を表示/非表示にするか括弧を付ける \(1428 ページ\)](#)

[予告の調号を表示/非表示にする](#) (1353 ページ)

## 臨時記号のサイズの変更

臨時記号のサイズは、それが属する符頭のサイズを変更することなく個別に変更できます。これにより、たとえば、通常の臨時記号よりも小さいサイズで編者注の臨時記号を表示できます。この操作は現在のレイアウトとフレームチェーンのみに対して、もしくはすべてのレイアウトとフレームチェーンに対して行なえます。

前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。
- 下ゾーンのツールバーで「プロパティ (Properties)」を選択しておきます。
- 浄書ツールボックスで「グラフィックの編集 (Graphic Editing)」を選択しておきます。
- ローカルのプロパティ変更に関して、適切なプロパティ範囲を選択しておきます。

---

手順

1. 浄書モードで、サイズを変更する臨時記号を選択します。
2. プロパティパネルの「音符と休符 (Notes and Rests)」グループで、「臨時記号のスケール (Accidental scale)」をオンにします。
3. 数値フィールドの値を変更します。
4. **[Return]** を押します。

---

結果

選択した臨時記号の縮尺サイズが変更されます。たとえば、値を 50 に変更すると、選択した臨時記号の縮尺が標準サイズの半分になります。プロパティ範囲を「ローカル (Locally)」に設定している場合、この変更は現在のレイアウトおよびフレームチェーンのみに影響します。

## 臨時記号のカラーを表示/非表示にする

手動で表示した親切臨時記号や臨時記号をそれぞれ異なる色で表示できます。

臨時記号のカラーは注釈と見なされ、初期設定では印刷されません。

---

手順

- 以下のいずれかの操作を行ないます。
  - 親切臨時記号のカラーを表示/非表示にするには、「ビュー (View)」 > 「音符と休符のカラー (Note And Rest Colors)」 > 「親切臨時記号 (Cautionary Accidentals)」を選択します。
  - 強制臨時記号のカラーを表示/非表示にするには、「ビュー (View)」 > 「音符と休符のカラー (Note And Rest Colors)」 > 「強制臨時記号 (Forced Accidentals)」を選択します。

---

結果

臨時記号のカラーが表示または非表示になります。親切臨時記号はピンクで表示され、強制臨時記号は青緑色で表示されます。

例



親切臨時記号と強制臨時記号両方のカラーを表示

関連リンク

[臨時記号を表示/非表示にするか括弧を付ける \(1052 ページ\)](#)

[親切臨時記号を表示/非表示にするか括弧を付ける \(1062 ページ\)](#)

[楽譜領域のカラーを変更する \(58 ページ\)](#)

[声部カラーの表示/非表示 \(1859 ページ\)](#)

[注釈 \(740 ページ\)](#)

## 臨時記号のスタック

単一の声部における和音、または同じ位置にある複声部の音符に対し複数の臨時記号が必要な場合、臨時記号は和音の左側に複数の列にスタックされます。

複数の臨時記号を持つ和音では、臨時記号は通常以下のようにスタックされます。

1. 一番上の臨時記号は1列目、音符のすぐ左側に配置されます。
2. 一番下の臨時記号は、1番めの臨時記号と重ならない限りは、同じ列に追加されます。
3. 残りの臨時記号は、和音のさらに左に位置する連続した列に交互に追加されます。

Dorico Pro には、列をできるだけ増やさずに臨時記号をスタックするための追加ルールが設定されています。以下に、追加ルールの一部を例示します。

- 音符に近い列ほど、音符から遠い列より多くの臨時記号を含む。
- 1オクターブ離れた音符同士の臨時記号は同じ列にスタックされる。これは、臨時記号の組み合わせにより、6度以上離れた臨時記号にも適用される。
- 同じ列の臨時記号は重なってはいけない。重ならないようにするために必要な臨時記号間の最小間隔は、臨時記号の種類によって異なる。
- 2度離れた臨時記号は隣接する列に配置され、右側の列に高音の臨時記号が配置される。

これらのルールにより、連続する音符や和音の間に必要なスペースが最小限となり、臨時記号がそれぞれの属する符頭に可能な限り接近した状態で表示されます。同時に、臨時記号は和音の左側でCのようなカーブを描くように配置されます。

### 密集和音における臨時記号のスタックのルール

Dorico Pro は、多数の臨時記号を伴う密集和音においては、可読性を確保するために、スタックに特別な計算を使用します。密集和音とみなされるのは、オクターブの範囲に6つ以上の臨時記号が存在する和音です。

密集和音においては、臨時記号は以下のようにスタックされます。

1. 一番上にある臨時記号が音符左の最初の列に配置されます。
2. 次に、一番上の音符より7度以上低い位置の音符の臨時記号が同じ列にスタックされます。残りの音符に対しても、1列目に入る臨時記号がなくなるまでこれを繰り返します。

- 以降の列についても、すべての臨時記号がスタックされるまで手順1と2を繰り返します。
- 列がグループ化され、散りばめられ、再度スタックされます。これにより、調号で臨時記号を配置するときと同様の、臨時記号が交互に配置されたスタックが作成されます。

Dorico Pro の初期設定では、密集和音の臨時記号に使用されるのは格子状配列で、標準のジグザグ配列ではありません。非常に密集度の高い和音では、格子状配列の方が幅が広くなり、列を多く必要とする場合があります。

#### ヒント

すべての臨時記号のデフォルトのスタックをプロジェクト全体で変更するには、「**浄書オプション (Engraving Options)**」 > 「**臨時記号 (Accidentals)**」 > 「**スタック (Stacking)**」で設定を行ないます。たとえば、臨時記号を散りばめることなくスタックし、左下がりの斜線状に表示できます。

#### 関連リンク

[「浄書オプション \(Engraving Options\)」ダイアログ \(923 ページ\)](#)

[臨時記号の列の変更 \(1056 ページ\)](#)

[臨時記号の表示位置の移動 \(1057 ページ\)](#)

## 臨時記号列のカーニング

Dorico Pro には、臨時記号列にカーニングを適用し、和音の左側の列ができるだけ水平方向のスペースを取らないようにする機能があります。

活字印刷の分野では、カーニングは個々の文字の間隔を調整して読みやすくするために使用されます。Dorico Pro では、一般的な楽譜の浄書と同様、カーニングによって臨時記号の位置を周囲と連動させることができます。

#### 例

低い音のあとに臨時記号を伴う高い音が続く場合、臨時記号を低い音の上に配置して、音符のスペーシングを乱さないようにします。

同様に、和音に複数列の臨時記号がある場合、たとえば2列目のフラットをカーニングして3度上の音符に属する1列目のシャープの下に配置することで、臨時記号スタック全体の幅を縮めることができます。これにより、音符のスペーシングを乱さずに臨時記号を適切な位置に配置することもできます。

## 臨時記号の列の変更

個別の臨時記号の列を、臨時記号のスタックに関するプロジェクト全体の設定とは別に変更できます。たとえば、特定の臨時記号をコード内の他の臨時記号よりも符尾に近い位置に表示できます。この操作は現在のレイアウトとフレームチェーンのみに対して、もしくはすべてのレイアウトとフレームチェーンに対して行なえます。

#### 前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。
- 下ゾーンのツールバーで「**プロパティ (Properties)**」を選択しておきます。
- 浄書ツールボックスで「**グラフィックの編集 (Graphic Editing)**」を選択しておきます。
- ローカルのプロパティ変更に関して、適切なプロパティ範囲を選択しておきます。

#### 手順

- 浄書モードで、臨時記号の列を変更する音符または臨時記号を選択します。
- プロパティパネルの「**音符と休符 (Notes and Rests)**」グループで、「**臨時記号列 (Accidental column)**」をオンにします。



### 3. 数値フィールドの値を変更します。

---

#### 結果

選択された臨時記号の列が変更されます。「**臨時記号列 (Accidental column)**」の値が低い臨時記号は符頭により近い位置に、値が高い臨時記号は符頭から遠い位置に配置されます。必要に応じて、Dorico Pro では同じリズム上の位置にある他の臨時記号の列も自動的に変更されます。

プロパティ範囲を「**ローカル (Locally)**」に設定している場合、この変更は現在のレイアウトおよびフレームチェーンのみに影響します。

#### ヒント

すべての臨時記号のデフォルトのスタックをプロジェクト全体で変更するには、「**浄書オプション (Engraving Options)**」 > 「**臨時記号 (Accidentals)**」 > 「**スタック (Stacking)**」で設定を行ないます。

---

#### 関連リンク

[プロパティパネル \(826 ページ\)](#)

[プロパティ範囲の変更 \(828 ページ\)](#)

[浄書ツールボックス \(554 ページ\)](#)

[タッキングインデックスのプロパティ \(656 ページ\)](#)

[「浄書オプション \(Engraving Options\)」ダイアログ \(923 ページ\)](#)

## 臨時記号の表示位置の移動

臨時記号のスペーシングに関するプロジェクト全体の設定とは別に、臨時記号の表示位置を左右に移動できます。これにより、たとえば、単一の密度の高い和音で臨時記号に必要な水平方向のスペーシングを減らすことができます。この操作は現在のレイアウトとフレームチェーンのみに対して、もしくはすべてのレイアウトとフレームチェーンに対して行なえます。

#### 補足

臨時記号のリズム上の位置は移動できません。臨時記号を別の音符に移動させる場合は、それを元の音符から削除してから別の音符に新規に入力するか、既存の音符のピッチを変更する必要があります。

---

#### 前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。
  - 下ゾーンのツールバーで「**プロパティ (Properties)**」  を選択しておきます。
  - 浄書ツールボックスで「**グラフィックの編集 (Graphic Editing)**」  を選択しておきます。
  - ローカルのプロパティ変更に関して、適切なプロパティ範囲を選択しておきます。
- 

#### 手順

1. 浄書モードで、表示位置を変更する臨時記号を選択します。符頭を選択することもできます。
  2. プロパティパネルの「**音符と休符 (Notes and Rests)**」グループで、「**臨時記号 X オフセット (Accidental X offset)**」をオンにします。
  3. 以下のいずれかの操作を行なって、臨時記号の表示位置を移動します。
    - 右に移動させるには、値フィールドの値を増加させます。
    - 左に移動させるには、値フィールドの値を減少させます。
-

#### 結果

選択した臨時記号の表示位置が移動されます。必要に応じて、臨時記号が収まるように、また衝突を回避するために音符のスペーシングが自動的に広げられます。

プロパティ範囲を「**ローカル (Locally)**」に設定している場合、この変更は現在のレイアウトおよびフレームチェーンのみに影響します。

#### 関連リンク

[プロパティパネル \(826 ページ\)](#)

[個々の位置にある音符のスペーシングの調節 \(648 ページ\)](#)

## オルタードユニゾン

D#とDbのように、同じオクターブ内で同じノート名の2つ以上の音符が、同じコード内で異なる臨時記号を持つ場合、音符はオルタードユニゾンとして表示されます。

Dorico Pro の初期設定では、これは分割符尾で記譜されます。分割符尾は、和音本体の符尾から枝分かれした符尾がオルタードユニゾンの符頭を和音につなぐ形で表示されます。これにより、すべての音符には対応する臨時記号が真横に表示されます。

個々のオルタードユニゾンは、単一の符尾で表示することもできます。この場合、符頭同士が隣接した状態で音符が表示され、2つの臨時記号はコードの左側に隣接した状態で表示されます。

また、各フローごとにすべてのオルタードユニゾンのデフォルトの外観を変更するには、「**記譜オプション (Notation Options)**」の「**臨時記号 (Accidentals)**」のページで設定を行ないます。

#### 補足

コードに含まれる音符の音程が2度で、それらの音符のいずれかにオルタードユニゾンがある場合、設定に関わらず、コードは常に符尾が分割されて表示されます。これによって、クラスターコードが分かりやすくなります。

#### 例



単一の符尾



分割された符尾

#### 関連リンク


[和音の入力 \(278 ページ\)](#)


[「記譜オプション \(Notation Options\)」ダイアログ \(919 ページ\)](#)

## オルタードユニゾンの外観を変更する

オルタードユニゾンの外観は、他のオルタードユニゾンが同じ和音内に存在する場合も含めて、フローごとの設定より優先される形で個別に変更できます。この操作は現在のレイアウトとフレームチェーンのみに対して、もしくはすべてのレイアウトとフレームチェーンに対して行なえます。

#### 前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。
- 下ゾーンのツールバーで「**プロパティ (Properties)**」を選択しておきます。

- 浄書モードの場合は、浄書ツールボックスで「**グラフィックの編集 (Graphic Editing)**」を選択しておきます。
- ローカルのプロパティ変更に関して、適切なプロパティ範囲を選択しておきます。

#### 手順

1. 外観を変更するオルタードユニゾンの音符を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「**音符と休符 (Notes and Rests)**」グループで、「**符尾を分割 (Split stem)**」をオンにします。
3. 対応するチェックボックスをオン/オフにします。

#### 結果

チェックボックスがオンのときは選択したオルタードユニゾンの音符は分割符尾で表示され、オフのときは単一の符尾で表示されます。プロパティ範囲を「**ローカル (Locally)**」に設定している場合、この変更は現在のレイアウトおよびフレームチェーンのみに影響します。

#### ヒント

- 「**符尾を分割 (Split stem)**」は音符ごとに個別に適用されます。個別にプロパティを設定することで、同じコード内のオルタードユニゾンをそれぞれ異なる外観にできます。
- 各フローごとにすべてのオルタードユニゾンのデフォルトの外観を変更するには、「**記譜オプション (Notation Options)**」 > 「**臨時記号 (Accidentals)**」 > 「**オルタードユニゾン (Altered unisons)**」で設定を行ないます。

#### 関連リンク

[プロパティパネル \(826 ページ\)](#)

[プロパティ範囲の変更 \(828 ページ\)](#)

[浄書ツールボックス \(554 ページ\)](#)

[「記譜オプション \(Notation Options\)」ダイアログ \(919 ページ\)](#)

## 微分音の臨時記号

微分音の臨時記号は、洋式の調性で一般的に使用される半音階よりも細かい、クォーターシャープやクォーターフラットのようなピッチを示します。

「**平均律 (24-EDO、Stein-Zimmermann) (Equal temperament (24-EDO, Stein-Zimmermann))**」などの微分音の臨時記号を使用する調性を選択すると、微分音の臨時記号を使用できるようになります。

デフォルトの調性は「**平均律 (12-EDO) (Equal temperament (12-EDO))**」であり、「調号、調性システム、臨時記号 (Key Signatures, Tonality Systems and Accidentals)」パネルの「**調性 (Tonality System)**」セクションで確認できます。このオプションが選択されている場合、パネルの「**臨時記号 (Accidentals)**」セクションで使用できる臨時記号は、半音 (セミトーン) の臨時記号 (シャープ、フラット、ダブルフラットなど) のみです。「**平均律 (12-EDO) (Equal temperament (12-EDO))**」には微分音の臨時記号は含まれません。

楽譜の特定のページの調性を変更して、使用できる微分音の臨時記号を変えることができます。オクターブの分割法、調号および臨時記号をカスタマイズして、独自の調性を定義することもできます。

#### 補足

従来の調号を使用しない場合でも、調性を変更して微分音の臨時記号を使用するためには、オープンキーマウスまたは無調の調号を入力する必要があります。

---

#### 関連リンク

- [調性システム \(1357 ページ\)](#)
- [カスタムの調性システム \(1003 ページ\)](#)
- [カスタムの臨時記号 \(1009 ページ\)](#)
- [カスタムの調性システムの再生 \(1014 ページ\)](#)

## 微分音の臨時記号の入力

1/4 音フラットや 3/4 音シャープといった微分音の臨時記号をプロジェクトに入力できます。

#### 前提条件

プロジェクトの、微分音の臨時記号を入力するセクションの調性を、「**平均律 (24-EDO, Stein-Zimmermann) (Equal temperament (24-EDO, Stein-Zimmermann))**」など微分音の臨時記号を使用できる調性に変更しておきます。

---

#### 手順

1. 記譜モードで、微分音の臨時記号を適用する音符を選択します。
  2. 調号、調性システム、臨時記号パネルの「**臨時記号 (Accidentals)**」セクションで、任意の微分音の臨時記号をクリックします。
- 

#### 結果

選択した微分音の臨時記号が、選択した音符の横に表示されます。

#### 関連リンク

- [調性システムの変更 \(1358 ページ\)](#)
- [調号の入力方法 \(305 ページ\)](#)

## 臨時記号の有効範囲ルール

臨時記号の有効範囲ルールは、臨時記号が適用される範囲を決定します。たとえば、小節内、異なるオクターブ、またはその 1 音だけなどです。Dorico Pro では、さまざまな臨時記号の有効範囲ルールを使用できます。

- 使用できる臨時記号の有効範囲ルールは、「**記譜オプション (Notation Options)**」の「**臨時記号 (Accidentals)**」ページで確認できます。

### 一般的な慣習 (Common Practice)

一般的に、臨時記号は同じ小節の同じオクターブ上にある同じピッチのすべての音符に影響します。これは他の臨時記号に上書きされない限り有効です。他の臨時記号に上書きされない場合でも、次の小節に移ると自動的に臨時記号の効果が取り消されます。

慣例として、特定の状況では後続の音符に親切臨時記号を表示します。たとえば G メジャーの調で、F<sub>4</sub> に続く小節に F<sub>4</sub># がある場合、調号にシャープがすでに含まれているとしても、その F には確認のためのシャープ記号が表示されます。

一般的な臨時記号の有効範囲ルールを使用している場合、さまざまな状況で、親切臨時記号を表示/非表示にするか括弧付きで表示するかを選択できます。

Dorico Pro では、一般的な慣習がデフォルトの臨時記号の有効範囲ルールです。

## 新ウィーン楽派 (Second Viennese School)

新ウィーン楽派の臨時記号の有効範囲ルールでは、臨時記号は1つの音符にのみ適用されます。調号に関わらず、すべての音符にナチュラルを含む臨時記号が表示されます。

この臨時記号の有効範囲ルールは、Schoenberg (シェーンベルク) などの新ウィーン楽派の作曲家によって使用されました。

臨時記号の有効範囲ルールを変更するとき、新ウィーン楽派の臨時記号の有効範囲ルールのオプションをカスタマイズできます。たとえば同じ小節内の同じ音符の直後の繰り返しにおいて、臨時記号を再表示するかどうか選択できます。

## モダニスト (Modernist)

モダニストの臨時記号の有効範囲ルールでは、調号のピッチから変更された音符にのみ臨時記号が表示されます。ナチュラルは表示されません。ただし、新ウィーン楽派の有効範囲ルールと同様、表示されている臨時記号は、臨時記号が付いている音符に対してのみ適用されます。

この表記法は、Charles Ives (チャールズ・アイヴズ) や Robert Crumb (ロバート・クラム) によって使用されました。

臨時記号の有効範囲ルールを変更するとき、モダニストの臨時記号の有効範囲ルールのオプションをカスタマイズできます。たとえば、1つの小節内で同じピッチの同じ臨時記号を再表示するかどうかを、後続の音符が直後にある場合と、別の音符を挟んでいる場合について、それぞれ選択できます。同様に、同じ小節および後続の小節内の異なるオクターブの音符の臨時記号を設定するオプションもあります。連桁グループ内の臨時記号の再表示を制御するオプションもあります。

関連リンク

[「記譜オプション \(Notation Options\)」 ダイアログ \(919 ページ\)](#)

[調号の変更の前の打ち消しのナチュラル記号の表示/非表示を切り替える \(1350 ページ\)](#)

## 臨時記号の有効範囲ルールの変更

たとえば、プロジェクト内の特定のフローにはモダニストの臨時記号の有効範囲ルールが適用しているが、その他のフローには一般的な慣習が適用している場合など、臨時記号の有効範囲ルールをフローごとに個別に変更できます。Dorico Pro では、一般的な慣習がデフォルトの臨時記号の有効範囲ルールです。

---

手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[N]** を押して「**記譜オプション (Notation Options)**」を開きます。
2. 「**フロー (Flows)**」リストから、臨時記号の有効範囲ルールを変更するフローを選択します。  
初期設定では、現在のフローのみを選択した状態のダイアログが表示されます。他のフローを選択するには、アクションバーの「**すべて選択 (Select All)**」をクリックするか、複数のフローをまたぐようにクリックしてドラッグするか、**[Shift]** を押しながら隣接するフローをクリックするか、**[Ctrl]/[command]** を押しながら個々のフローをクリックします。
3. カテゴリーリストの「**臨時記号 (Accidentals)**」をクリックします。
4. 「**基本 (Basic)**」セクションの「**臨時記号の有効範囲ルール (Accidental duration rule)**」で、以下のいずれかのオプションを選択します。
  - **一般的な慣習 (Common Practice)**
  - **新ウィーン楽派 (Second Viennese School)**
  - **モダニスト (Modernist)**

5. 必要に応じて、選択した臨時記号の有効範囲ルールのオプションをカスタマイズします。

#### ヒント

「基本 (Basic)」セクションのオプションは、すべての臨時記号の有効範囲ルールに適用できます。

---

6. 「適用 (Apply)」をクリックしてから「閉じる (Close)」をクリックします。
- 

## 親切臨時記号を表示/非表示にするか括弧を付ける

一般的な臨時記号の有効範囲ルールを使用しているフローでは、さまざまな状況で、親切臨時記号を表示/非表示にするか括弧付きで表示するかをデフォルトとして設定しておくことができます。

#### 前提条件

親切臨時記号を表示/非表示にするか括弧付きで表示するフローが一般的な臨時記号の有効範囲ルールを使用していることとします。

---

#### 手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[N]** を押して「記譜オプション (Notation Options)」を開きます。
  2. 「フロー (Flows)」リストから、親切臨時記号を表示/非表示にするか括弧付きで表示するフローを選択します。  
初期設定では、現在のフローのみを選択した状態のダイアログが表示されます。他のフローを選択するには、アクションバーの「すべて選択 (Select All)」をクリックするか、複数のフローをまたぐようにクリックしてドラッグするか、**[Shift]** を押しながら隣接するフローをクリックするか、**[Ctrl]/[command]** を押しながら個々のフローをクリックします。
  3. カテゴリーリストの「臨時記号 (Accidentals)」をクリックします。
  4. 「親切臨時記号 (Cautionary Accidentals)」セクションで、必要に応じて各オプションを変更します。  
たとえば、同じ小節では異なるオクターブの音符に親切臨時記号を表示し、次の小節では非表示にするなどできます。
  5. 「適用 (Apply)」をクリックしてから「閉じる (Close)」をクリックします。
- 

#### 結果

選択したフローで、親切臨時記号が状況に応じて表示/非表示になるか括弧付きで表示されます。

臨時記号の色が表示されている場合、親切臨時記号はピンクで表示されます。

#### ヒント

モダニストの臨時記号の有効範囲ルールを使用しているフローの場合、親切臨時記号のオプションは「臨時記号 (Accidentals)」ページの「モダニストのオプション (Modernist Options)」セクションにあります。

---

#### 関連リンク

[臨時記号のカラーを表示/非表示にする \(1054 ページ\)](#)

## 二重臨時記号の打ち消しの変更

たとえばプロジェクト内の一部のフローに古式の臨時記号打ち消しを使用する必要がある場合など、二重臨時記号の打ち消しの表記規則をフローごとに個別に変更できます。これは、すべての臨時記号の有効範囲ルールと併用できます。

Dorico Pro の初期設定では、近代式の打ち消しを使用されます。

---

### 手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[N]** を押して「**記譜オプション (Notation Options)**」を開きます。
  2. 「**フロー (Flows)**」リストから、二重臨時記号の打ち消しの表記規則を変更するフローを選択します。  
初期設定では、現在のフローのみを選択した状態のダイアログが表示されます。他のフローを選択するには、アクションバーの「**すべて選択 (Select All)**」をクリックするか、複数のフローをまたぐようにクリックしてドラッグするか、**[Shift]** を押しながら隣接するフローをクリックするか、**[Ctrl]/[command]** を押しながら個々のフローをクリックします。
  3. カテゴリーリストの「**臨時記号 (Accidentals)**」をクリックします。
  4. 「**基本 (Basic)**」セクションの「**単一臨時記号による二重臨時記号の打ち消し (Single accidentals cancelling double accidentals)**」で、以下のいずれかのオプションを選択します。
    - 二重臨時記号のあとに来る単一臨時記号の直前にナチュラルを表示するには、「**古式の臨時記号打ち消し (Use archaic cancellation)**」を選択します。
    - ナチュラルを表示せずに、二重臨時記号を単一臨時記号に置き換えるには、「**近代式の臨時記号打ち消し (Use modern cancellation)**」を選択します。
  5. 「**適用 (Apply)**」をクリックしてから「**閉じる (Close)**」をクリックします。
- 

### 結果

選択したフローの二重臨時記号の打ち消しの表記規則が変更されます。

---

### 例



古式の臨時記号打ち消し



近代式の臨時記号打ち消し

---

# アーティキュレーション

アーティキュレーションは、音符および和音の上下に記譜される記号のことを指します。アーティキュレーションを使用すると、音符のアタックや、記譜されたデュレーションに対して実際に音を出す長さを演奏者に指示することができます。

Dorico Pro では、アーティキュレーションは、あらゆるインストゥルメントに共通する形で音符の演奏方法を変化させるものと定義しています。ボウイング指示、ハーモニクスやタンギングなどの指示は、個別のインストゥルメントグループに適用されるため、Dorico Pro では演奏技法と位置付けられています。



アクセント、スタッカート、およびスタッカティッシモなどのアーティキュレーションを含むフレーズ

アーティキュレーションは以下のタイプに分類されます。

## アーティキュレーション (強弱)

音符の最初にかかる強いアタックを示します。アクセントとマルカートがこれにあたります。マルカートは強アクセントとも呼ばれ、Dorico Pro の初期設定では、これらのアーティキュレーションを音符またはタイのつながりの開始位置に表示します。

## アーティキュレーション (デュレーション)

記譜された音符よりも短いデュレーションを示します。スタッカティッシモ、スタッカート、テヌート、スタッカートテヌートがこれにあたります。スタッカートテヌートはルレ (louré) とも呼ばれます。Dorico Pro の初期設定では、音符にタイが付いている場合、デュレーションのアーティキュレーションをタイでつながれた最後の音符の上に表示します。

## アーティキュレーション (強調)

現在の拍子に反する場所での強調や無強調を記号で示します。Dorico Pro の初期設定では、アーティキュレーションを音符またはタイのつながりの開始位置に表示します。

Dorico Pro では、アーティキュレーションは、楽譜の前後関係に従って音符や和音の符頭側または符尾側に自動的に配置されます。音符または和音には、各タイプのアーティキュレーションをそれぞれ1つ選択して表示できます。

## 関連リンク

[アーティキュレーションの入力 \(298 ページ\)](#)

[再生時のアーティキュレーション \(1071 ページ\)](#)

[アーティキュレーションの位置 \(1066 ページ\)](#)

[タイのつながりのアーティキュレーションの位置を変更する \(1067 ページ\)](#)

[スタッカート記号の水平位置の変更 \(1068 ページ\)](#)

[再生効果 \(1046 ページ\)](#)



## 浄書オプションでアーティキュレーションの設定をプロジェクト全体に適用する

「浄書オプション (Engraving Options)」の「アーティキュレーション (Articulations)」ページで、アーティキュレーションの外観と配置を設定し、プロジェクト全体に適用できます。

このページのオプションでは、それぞれのアーティキュレーションの表示位置 (譜表の上にするか、符頭の横にするか) や、タイやスラーに対するアーティキュレーションの位置、さらにアーティキュレーションと音符や他のアーティキュレーションとの間の垂直方向の間隔などを詳細に変更できます。

多くのオプションに、オプションを楽譜に適用したときにどのように表示されるかを示す図があります。

関連リンク

[「浄書オプション \(Engraving Options\)」ダイアログ \(923 ページ\)](#)

[アーティキュレーションを譜表内に表示することを許可する/許可しない \(1071 ページ\)](#)

[アイテムの表示位置の移動 \(652 ページ\)](#)

## アーティキュレーションのコピーと貼り付け

既存のフレーズをコピーして、そのスラー、アーティキュレーション、ジャズアーティキュレーションだけを、音符のピッチに影響を与えることなく別のフレーズに貼り付けることができます。

手順

1. 記譜モードで、コピーするスラー、アーティキュレーション、ジャズアーティキュレーションを含む選択範囲を作成します。
2. **[Ctrl]/[command]+[C]** を押して選択したフレーズをコピーします。
3. アーティキュレーションを貼り付ける最初の音符を選択します。
4. 「編集 (Edit)」>「特殊な貼り付け (Paste Special)」>「アーティキュレーションを貼り付け (Paste Articulations)」を選択します。このオプションはコンテキストメニューでも選択できます。

結果

選択範囲に含まれているスラー、アーティキュレーション、ジャズアーティキュレーションが、選択した音符から先の音符に貼り付けられます。

関連リンク

[大きな選択範囲 \(463 ページ\)](#)

[音符/アイテムのコピーと貼り付け \(497 ページ\)](#)

[リズムを変えずに音符のピッチを変更する \(522 ページ\)](#)

[配置ツール \(495 ページ\)](#)

## アーティキュレーションの削除

記譜モードでは、アーティキュレーションを個別に選択して削除することができないため、アーティキュレーションの付いた音符を選択してからアーティキュレーションを解除する必要があります。

手順

1. 記譜モードで、削除したいアーティキュレーションの付いた音符を選択します。
2. 以下のいずれかの操作を行なって、アーティキュレーションを解除します。
  - 削除するアーティキュレーションのキーボードショートカットを押します。

- 音符パネルで、削除するアーティキュレーションをクリックします。
- 

関連リンク

[音符パネル \(223 ページ\)](#)

[ゾーンの表示/非表示の切り替え \(48 ページ\)](#)

[アーティキュレーションのキーボードショートカット \(299 ページ\)](#)

## アーティキュレーションの位置

アーティキュレーションの位置に関しては音符、譜表、および譜表線に対する配置規則が確立されており、これによりアーティキュレーションは常に見やすい位置に配置されます。スタッカートのようなサイズの小さいアーティキュレーションは、譜表線に対する正確な配置が特に重要です。

### アーティキュレーションの配置

アーティキュレーションは、初期設定で符頭側に配置されますが、以下の場合は例外となります。

- 単一の声部では、使用される音符や和音の符尾の方向に関わらず、マルカートは常に譜表の上に配置されます。複声部では、マルカートは譜表の下に配置される場合もあります。
- 複声部がオンになっている場合、アーティキュレーションは音符か和音の符尾側の末尾に配置されます。これにより、符尾が上向きの音符に付くアーティキュレーションと、符尾が下向きの音符に付くアーティキュレーションが明確になります。
- 音符が第3線またはそのすぐ上やすぐ下の間(第2間または第3間)に位置する場合、第1間の縦幅より小さいアーティキュレーションは、1つ隣の空いているスペースの中央に配置されます。これは通常スタッカートおよびテヌートにのみ適用されます。譜表の中央部にある音符にスタッカートテヌートが付く場合、アーティキュレーションを構成する部分が分割され、それぞれ別のスペースに配置されます。
- アーティキュレーションが譜表内に収まらない場合や、音符が譜表の上下に位置する場合は、アーティキュレーションは譜表の外側に配置されます。
- 音符または和音がタイでつながれ、タイが符頭の上または下に配置される場合、音符または和音の符頭側に配置されるアーティキュレーションは、タイの終端と重ならないように、1/4スペースのオフセットが追加されます。

符頭側のアーティキュレーションは常に符頭に水平方向に中央揃えされます。これは符尾側のアーティキュレーションにも適用されます。ただし、アーティキュレーションがスタッカートまたはスタッカティッシモのみの場合は例外となり、このときアーティキュレーションは符尾に中央揃えされます。

### タイのつながりの中のアーティキュレーション

初期設定では、強弱のアーティキュレーションと強調のアーティキュレーションはタイでつながれた1つめの音符または和音の上に表示され、デュレーションのアーティキュレーションは最後の音符またはコードの上に表示されます。

タイのつながりのどこでアーティキュレーションが表示されるかを個別に変更したり、すべてのタイのつながりの設定をプロジェクト全体で変更したりできます。

関連リンク

[浄書オプションでアーティキュレーションの設定をプロジェクト全体に適用する \(1065 ページ\)](#)

[アーティキュレーションのデフォルトの位置を変更する \(1070 ページ\)](#)

[アーティキュレーションを譜表内に表示することを許可する/許可しない \(1071 ページ\)](#)

[アイテムの表示位置の移動 \(652 ページ\)](#)

[音符に対するアーティキュレーションの位置を変更する \(1069 ページ\)](#)

[スラーに対するアーティキュレーションの位置を変更する \(1069 ページ\)](#)

## アーティキュレーションの順番

複数のアーティキュレーションが同じ音符に付いている場合、符頭または符尾に対する垂直位置と距離はアーティキュレーションのタイプによって異なります。

アーティキュレーションは以下の順番で配置されます。

1. デュレーションのアーティキュレーションは、符頭または符尾に一番近い位置に配置されます。
2. 強弱のアーティキュレーションは、デュレーションのアーティキュレーションの外側に配置されます。
3. 強調のアーティキュレーションは、符頭または符尾から一番遠い位置に配置されます。

### アーティキュレーションとスラーとの相対的な順番

デュレーションのアーティキュレーションは、以下のように配置されます。

- アーティキュレーションが付く音符または和音から開始/終了するスラーの内側
- スラーのカーブの内側
- 連符の角括弧の内側

強弱のアーティキュレーションは以下のように配置されます。

- アーティキュレーションが付く音符または和音から開始/終了するスラーの外側。ただし譜表内に配置できる場合は除く
- スラーとそれが属する音符または符尾との間に重なることなく収まる場合は、スラーのカーブの内側
- 連符の角括弧の外側



強弱と強調のアーティキュレーションはスラーの外側に配置



デュレーションのアーティキュレーションはスラーの内側に配置

## タイのつながりのアーティキュレーションの位置を変更する

タイのつながりのどこでアーティキュレーションが表示されるかを、プロジェクト全体の設定より優先される形で個別に変更できます。初期設定では、強弱のアーティキュレーションと強調のアーティキュレーションはタイでつながれた1つめの音符または和音の上に表示され、デュレーションのアーティキュレーションは最後の音符またはコードの上に表示されます。

前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。
- 下ゾーンのツールバーで「プロパティ (Properties)」を選択しておきます。
- 浄書モードの場合は、浄書ツールボックスで「グラフィックの編集 (Graphic Editing)」を選択しておきます。

手順

1. アーティキュレーションの位置を変更する、タイでつながれた音符/和音を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。

2. プロパティパネルの「**アーティキュレーション (Articulations)**」グループで、位置を変更するアーティキュレーションに対応したヘッダーに属する「**タイのつながりでの位置 (Pos. in tie chain)**」をオンにします。  
たとえば、アクセントの位置を変更するには、「**アーティキュレーション (強弱) (Articulations of force)**」ヘッダーの下にある「**タイのつながりでの位置 (Pos. in tie chain)**」をオンにします。
3. 以下のいずれかのオプションを選択します。
  - **最初の音符 (First note)**
  - **最後の音符 (Last note)**

---

#### 結果

選択したタイのつながりのアーティキュレーションの位置が変更されます。

#### ヒント

「**浄書オプション (Engraving Options)**」 > 「**アーティキュレーション (Articulations)**」 > 「**タイ (Ties)**」では、すべてのタイのつながりに対するそれぞれのアーティキュレーションのデフォルトの位置をプロジェクト全体で変更できます。

---

#### 関連リンク

[プロパティパネル \(826 ページ\)](#)

[浄書ツールボックス \(554 ページ\)](#)

[「浄書オプション \(Engraving Options\)」ダイアログ \(923 ページ\)](#)

## スタッカート記号の水平位置の変更

スタッカートやスタッカティッシモが音符の符尾側にあるときは、初期設定の水平位置をプロジェクト全体で変更できます。初期設定では、スタッカートとスタッカティッシモが符尾側にあるときは符尾を中心にしてアーティキュレーションが配置されます。

ほとんどのアーティキュレーションの水平位置は、符尾か符頭を中央にして配置されます。ただし、アーティキュレーションがスタッカートまたはスタッカティッシモのみで、それが符尾側に配置される場合、水平位置を符頭を中心と符尾との中間に設定することもできます。

---

#### 手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[E]** を押して「**浄書オプション (Engraving Options)**」を開きます。
  2. カテゴリリストの「**アーティキュレーション (Articulations)**」をクリックします。
  3. 「**水平位置 (Horizontal Position)**」セクションの「**符尾側のスタッカートの水平位置 (Horizontal position of staccato on stem side)**」で、以下のいずれかのオプションを選択します。
    - **符頭に中央揃え (Center on notehead)**
    - **符尾に中央揃え (Center on stem)**
    - **符頭を中心と符尾との中間位置 (Half-center)**
  4. 「**適用 (Apply)**」をクリックしてから「**閉じる (Close)**」をクリックします。
-

## 音符に対するアーティキュレーションの位置を変更する

アーティキュレーションの位置は、符頭側と符尾側のどちらにするかを個別に変更できます。この操作は現在のレイアウトとフレームチェーンのみに対して、もしくはすべてのレイアウトとフレームチェーンに対して行なえます。

### 前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。
- 下ゾーンのツールバーで「プロパティ (Properties)」を選択しておきます。
- 浄書モードの場合は、浄書ツールボックスで「グラフィックの編集 (Graphic Editing)」を選択しておきます。
- ローカルのプロパティ変更に関して、適切なプロパティ範囲を選択しておきます。

---

### 手順

1. アーティキュレーションの位置を変更する音符/和音を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「アーティキュレーション (Articulations)」グループで、位置を変更するアーティキュレーションに対応したヘッダーに属する「位置 (Placement)」をオンにします。  
たとえば、アクセントの位置を変更するには、「アーティキュレーション (強弱) (Articulations of force)」ヘッダーの下にある「位置 (Placement)」をオンにします。
3. メニューから以下のいずれかのオプションを選択します。
  - 符頭側 (Notehead side)
  - 符尾側 (Stem side)

---

### 結果

アーティキュレーションが、音符または和音の選択した側に配置されます。プロパティ範囲を「ローカル (Locally)」に設定している場合、この変更は現在のレイアウトおよびフレームチェーンのみに影響します。これにより演奏技法などの他の記号との衝突が起こった場合、すべての記号がはっきりと読みやすくなるように Dorico Pro が自動的に配置を調節します。

## スラーに対するアーティキュレーションの位置を変更する

デュレーションのアーティキュレーションをスラーの終端より内側に配置するか外側に配置するかを、プロジェクト全体の設定とは関係なく個別に変更できます。この操作は現在のレイアウトとフレームチェーンのみに対して、もしくはすべてのレイアウトとフレームチェーンに対して行なえます。

### 補足

これらの手順は、デュレーションのアーティキュレーションにのみ適用されます。強弱や強調のアーティキュレーションには適用されません。

---

### 前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。
- 下ゾーンのツールバーで「プロパティ (Properties)」を選択しておきます。
- 浄書モードの場合は、浄書ツールボックスで「グラフィックの編集 (Graphic Editing)」を選択しておきます。
- ローカルのプロパティ変更に関して、適切なプロパティ範囲を選択しておきます。

---

#### 手順

1. アーティキュレーションの位置を変更する音符/和音を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
  2. プロパティパネルの「**アーティキュレーション (Articulations)**」グループで、「**スラー終端の内側 (Inside slur endpoint)**」をオンにします。
  3. 対応するチェックボックスをオン/オフにします。
- 

#### 結果

チェックボックスをオンにするとデュレーションのアーティキュレーションがスラー終端の内側に配置され、オフにすると外側に配置されます。プロパティ範囲を「**ローカル (Locally)**」に設定している場合、この変更は現在のレイアウトおよびフレームチェーンのみに影響します。

プロパティをオフにすると、アーティキュレーションはスラー終端に対するデュレーションのアーティキュレーションの配置に関するプロジェクト全体の設定に従います。

#### ヒント

プロジェクト全体のスラー終端に対するすべてのアーティキュレーションのデフォルトの配置は、「**浄書オプション (Engraving Options)**」 > 「**アーティキュレーション (Articulations)**」 > 「**スラー (Slurs)**」で変更できます。

---

#### 関連リンク

- [プロパティパネル \(826 ページ\)](#)
- [プロパティ範囲の変更 \(828 ページ\)](#)
- [浄書ツールボックス \(554 ページ\)](#)
- [「浄書オプション \(Engraving Options\)」ダイアログ \(923 ページ\)](#)
- [アーティキュレーションに対する終端の位置 \(1659 ページ\)](#)

## アーティキュレーションのデフォルトの位置を変更する

すべてのアーティキュレーションのデフォルトの位置をタイプに応じて変更できます。たとえば、強調のアーティキュレーションを常に譜表の上に配置し、デュレーションのアーティキュレーションを譜表の上下にかかわらず符頭に隣接して配置できます。

---

#### 手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[E]** を押して「**浄書オプション (Engraving Options)**」を開きます。
  2. カテゴリリストの「**アーティキュレーション (Articulations)**」をクリックします。
  3. 「**位置 (Placement)**」セクションで、各アーティキュレーションタイプについて以下のいずれかのオプションを選択します。
    - **常に上に配置 (Always above)**
    - **自然な位置に配置 (Natural placement)**
  4. 「**適用 (Apply)**」をクリックしてから「**閉じる (Close)**」をクリックします。
- 

#### 結果

対応するタイプのアーティキュレーションのデフォルトの位置がプロジェクト全体で変更されます。「**自然な位置に配置 (Natural placement)**」に設定されたアーティキュレーションは音符の符頭側に配置されます。

#### ヒント

また、符頭/符尾とアーティキュレーションの間、およびスタック状のアーティキュレーションのデフォルトの間隔を、「**アーティキュレーション (Articulations)**」ページの「**垂直位置 (Vertical Position)**」セクションで変更できます。

---

## アーティキュレーションを譜表内に表示することを許可する/許可しない

各タイプのアーティキュレーションを譜表内に表示するかどうかをプロジェクト全体で選択できます。たとえば、すべてのスタッカート記号を譜表の外側に表示したい場合などに使用します。

---

#### 手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[E]** を押して「**浄書オプション (Engraving Options)**」を開きます。
  2. カテゴリリストの「**アーティキュレーション (Articulations)**」をクリックします。
  3. 「**垂直位置 (Vertical Position)**」セクションで「**詳細設定 (Advanced Options)**」をクリックして使用できるオプションを表示します。
  4. 「**譜表に対するアーティキュレーションの位置 (Position of articulations relative to the staff)**」で、各アーティキュレーションタイプについて以下のいずれかのオプションを選択します。
    - **譜表の内側に許可 (Allow inside staff)**
    - **譜表の内側に許可しない (Do not allow inside staff)**
  5. 「**適用 (Apply)**」をクリックしてから「**閉じる (Close)**」をクリックします。
- 

#### 結果

対応するアーティキュレーションタイプの譜表に対する位置がプロジェクト全体で変更されます。

## 再生時のアーティキュレーション

アーティキュレーションは再生時の音符のサウンドに影響します。Dorico Pro では、サウンドライブラリーに各アーティキュレーションのサンプルがあるかどうかによって、アーティキュレーションを反映する形で再生が変化します。

- サウンドライブラリーにアーティキュレーションのサンプルが含まれている場合、再生効果を使用する必要なサンプルがロードされます。また、スタッカートが付いた音符のサウンドは短くなり、アクセントが付いた音符のサウンドは大きくなります。
- サウンドライブラリーにアーティキュレーションのサンプルが含まれていない場合、別のサンプルをロードすることなくアーティキュレーションに応じて音符が調整されます。たとえば、スタッカートが付いた音符は短くなり、アクセントが付いた音符の音量は大きくなります。

アーティキュレーションは音符全体に適用されるため、サンプルはタイのつながりを含む音符の開始位置から再生されます。

#### ヒント

- 「**再生オプション (Playback Options)**」の「**タイミング (Timing)**」ページには、デューレーションのアーティキュレーションの効果の初期設定を変更するためのオプションがあります。「**強弱記号 (Dynamics)**」ページには、強弱のアーティキュレーションの設定を変更するオプションがあります。
  - 一方の声部にスラーがあり、もう一方の声部にスタッカートがある場合などに、個々のインストゥルメントに対して声部の個別再生を有効にして、異なる声部の異なるサウンドを同時に聴くことができます。
-

関連リンク

[再生効果 \(1046 ページ\)](#)

[「再生オプション \(Playback Options\)」 ダイアログ \(925 ページ\)](#)

[声部の個別再生の有効化 \(685 ページ\)](#)



# 小節

小節は通常、規則的な拍数のパターンを示し、これは使用される拍子記号によって決定されます。小節は垂直に引かれた小節線によって隣の小節と区切られ、各小節には固有の小節番号が付けられています。

Dorico Pro では、現在の拍子記号に応じて小節に自動的に番号が付けられ、小節間に小節線が表示されます。

関連リンク

[小節線 \(1078 ページ\)](#)

[小節番号 \(1094 ページ\)](#)

[音符と休符のグループ化 \(1136 ページ\)](#)

[拍子記号 \(1795 ページ\)](#)

[弱起 \(アウフタクト\) \(1800 ページ\)](#)

[小節、拍、小節線の入力方法 \(329 ページ\)](#)

[拍子記号と弱起の入力方法 \(311 ページ\)](#)

[拍子記号の表示/非表示 \(1812 ページ\)](#)

## 小節の長さ



通常、小節のデュレーション、開始位置、終了位置はすべてのプレーヤーに共通します。しかし、中には異なる長さの小節が同時に存在するような楽譜もあります。また、一部のプレーヤーの楽譜に小節がまったく表示されない場合もあります。

小節のデュレーションは、拍子記号を変更するか、自由拍子の楽譜では必要な場所に小節線を入力することで変更できます。たとえば不規則な拍子の楽譜を作成するときに、小節線は音符をグループ分けするためだけに必要で拍数を示す必要がない場合は、楽譜に表示する必要のない拍子記号を非表示にできます。

## 小節/拍の削除

小節と小節線ポップオーバーを使用すると、プロジェクトの楽譜から小節全体および特定の拍を完全に削除できます。

手順

1. 記譜モードで、以下のいずれかを選択します。
  - 削除する最初の小節か、その小節内の最初の音符または休符
  - 拍の削除を開始する位置のアイテム
2. 以下のいずれかの操作を行なって小節と小節線のポップオーバーを開きます。
  - **[Shift]+[B]** を押します。
  - 記譜ツールボックスで「ポップオーバー (Popovers)」 をクリックし、「小節と小節線 (Bars and Barlines)」 をクリックします。
3. ポップオーバーに - (マイナス記号) を入力し、続けて削除する小節数または拍数を入力します。たとえば、6 小節 (選択した小節とそれ以降の 5 小節) を削除するには **-6** を入力し、選択した位置から 4 分音符 2 つ分の拍を削除するには **-2q** を入力します。

#### 4. **[Return]** を押してポップオーバーを閉じます。

##### 結果

指定した数の小節または拍が削除されます。挿入モードがオンになっているときと同様、選択範囲の右側の楽譜が空白を埋める形で左に移動します。

##### 補足

- 選択範囲内のガイドもすべて削除されます。これによってページの形式設定が影響を受ける可能性があります。たとえば、選択範囲にガイドが含まれるオッサ譜表を削除した場合です。
- 現在の拍子記号に従って、小節からすべてではなく一部の拍を削除した場合、その拍の内容だけが削除されます。そのあと、弱起で始まるフローの終端などで小節のデュレーションを短くするには、必要な拍数の拍子記号を入力してからその拍子記号を非表示にするか、小節線を入力してから必要に応じて余分な小節を削除する必要があります。また、挿入モードの範囲を「**現在の小節のグローバル調整 (Global Adjustment of Current Bar)**」に設定して音符/休符を削除することもできます。
- 削除する小節を選択して、「**編集 (Edit)**」 > 「**小節を削除 (Delete Bars)**」を選択することで小節を削除することもできます。

##### 関連リンク

[小節と小節線のポップオーバー \(329 ページ\)](#)

[弱起 \(アウフタクト\) \(1800 ページ\)](#)

[音符/アイテムの削除 \(496 ページ\)](#)

[休符の削除 \(1646 ページ\)](#)

[挿入モード \(491 ページ\)](#)

[ガイド \(490 ページ\)](#)



## システムトラックによる小節/拍の削除

システムトラックを使用すると、プロジェクトから小節全体および選択した拍を完全に削除できます。

##### 前提条件

システムトラックを表示しておきます。

##### 手順

1. 記譜モードのシステムトラックで削除する領域を選択します。
2. システムトラックで「**削除 (Delete)**」  をクリックします。選択範囲が狭い場合、システムトラックの上にボタンが表示される場合があります。  
「**削除 (Delete)**」  にマウスポインターを合わせると、システムトラックの色が変わります。

##### 結果

選択した範囲が削除されます。挿入モードがオンになっているときと同様、選択範囲の右側の楽譜が空白を埋める形で左に移動します。

##### 補足

- 選択範囲内のガイドもすべて削除されます。これによってページの形式設定が影響を受ける可能性があります。たとえば、選択範囲にガイドが含まれるオッサ譜表を削除した場合です。
- 現在の拍子記号に従って、小節からすべてではなく一部の拍を削除した場合、その拍の内容だけが削除されます。そのあと、弱起で始まるフローの終端などで小節のデュレーションを短くするには、必要な拍数の拍子記号を入力してからその拍子記号を非表示にするか、小節線を入力してから

必要に応じて余分な小節を削除する必要があります。また、挿入モードの範囲を「現在の小節のグローバル調整 (Global Adjustment of Current Bar)」に設定して音符/休符を削除することもできます。

- 削除する小節を選択して、「編集 (Edit)」 > 「小節を削除 (Delete Bars)」を選択することで小節を削除することもできます。
- 

関連リンク



[システムトラック](#) (464 ページ)

## フローの終了位置にある空白の小節/拍を削除する

楽譜の終わりに残っている空白の小節や拍を削除することで、フローをトリムできます。

---

手順

1. 記譜モードで、トリミングするフローにあるアイテムを選択します。
  2. 以下のいずれかの操作を行なって小節と小節線のポップオーバーを開きます。
    - **[Shift]+[B]** を押します。
    - 記譜ツールボックスで「ポップオーバー (Popovers)」 をクリックし、「小節と小節線 (Bars and Barlines)」 をクリックします。
  3. ポップオーバーに「trim」と入力します。
  4. **[Return]** を押してポップオーバーを閉じます。
- 

結果

選択したフローの終了位置にある空白の小節/拍が削除されます。

ヒント

「記譜 (Write)」 > 「フローをトリム (Trim Flow)」を選択してフローをトリムすることもできます。

---

関連リンク

[小節と小節線のポップオーバー](#) (329 ページ)

[フローの分割](#) (551 ページ)

[休符の削除](#) (1646 ページ)

## 小節内のコンテンツの削除

小節線や小節自体はそのままの状態にして、小節内のコンテンツだけを削除できます。

---

手順

1. 記譜モードで、削除する小節内のコンテンツを選択します。

ヒント

選択すると、音符、休符、およびその他のアイテムがオレンジ色で強調表示されます。

---

2. **[Backspace]** 又は **[Delete]** を押します。
- 

関連リンク

[大きな選択範囲](#) (463 ページ)

[フィルター \(467 ページ\)](#)

[挿入モード \(491 ページ\)](#)

## 空白の小節の幅を変更する

空白の小節の幅は、浄書モードで個別に変更できます。

前提条件

浄書ツールボックスで「**音符のスペーシング (Note Spacing)**」を選択しておきます。

---

手順

1. 浄書モードで、幅を変更する空白小節の終わりの小節線の位置にある音符のスペーシング用の四角いハンドルを選択します。



2. 以下のいずれかの操作を行なって、スペーシングを調節します。
  - 選択したハンドルの左側のスペースを増やすには、**[Alt/Opt]+[→]** を押します。
  - 選択したハンドルの左側のスペースを減らすには、**[Alt/Opt]+[←]** を押します。

### 補足

- ハンドルの移動幅を大きくするには、**[Ctrl]/[command]** を押しながらキーボードショートカットを押します (例: **[Ctrl]/[command]+[Alt/Opt]+[←]**)。
  - ハンドルの移動幅を中くらいにするには、**[Shift]** を押しながらキーボードショートカットを押します (例: **[Shift]+[Alt/Opt]+[←]**)。
  - ハンドルの移動幅を小さくするには、**[Ctrl]/[command] + [Shift]** を押しながらキーボードショートカットを押します (例: **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[Alt/Opt]+[←]**)。
  - 音符のスペーシングのハンドルの移動はマウスでは行なえず、キーボードのみで行なえます。
- 

結果

選択した空白小節の幅が変更されます。たとえば、小節の右側の小節線のハンドルを左に動かすと、小節の幅が狭くなります。小節の右側の小節線のハンドルを右に動かすと、小節の幅が広がります。

### ヒント

小節数が表示されるプロジェクト全体のすべての単一の空白小節のデフォルトの幅は、「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**休符 (Rests)**」ページで変更できます。

---

関連リンク

[浄書ツールボックス \(554 ページ\)](#)

[音符のスペーシング \(643 ページ\)](#)

[「浄書オプション \(Engraving Options\)」ダイアログ \(923 ページ\)](#)

[空白の小節で小節休符を表示/非表示にする \(1647 ページ\)](#)

[長休符を表示/非表示にする \(1649 ページ\)](#)

[1 小節の小節休符の小節数を表示/非表示にする \(1651 ページ\)](#)

## 小節の分割

各小節の拍数を変更することで、リズムを基準にして小節を分割できます。また、組段またはフレーム区切りをまたいで小節を視覚的に分割することもできます。これは不規則な拍子や多拍子のパッセージを持つ楽譜で必要になる場合があります。

### 拍子記号を新規に挿入して小節を分割する

拍子記号を任意のリズム上の位置で変更することで、小節を2つ以上に分割できます。新しい拍子記号は、次の既存の拍子記号の位置か、フローの終了位置のいずれか先に到達したところまで適用されます。

#### 補足

既存の小節の途中で拍子記号を変更する場合は、混乱を避けるために、前的小節の最初に別の拍子記号を入力して新しいデュレーションを反映することをおすすめします。

### 小節線を新規に挿入して小節を分割する

標準の小節線 (縦線) 以外的小節線を小節の途中のどこかに新規に挿入する場合も、拍子記号に影響を与えずに小節を分割できます。ただし、標準の小節線 (縦線) を既存の小節の途中のどこかに挿入すると、その位置以降の拍子記号がリセットされます。

たとえば、4/4 の小節の3つめの4分音符を選択して新規に小節線を挿入すると、追加した小節線の位置から開始する4/4の小節が作成されます。これにより、小節線の左側に拍子記号が付かない2/4の1小節相当の小節が残りますが、追加した小節線より右の小節は、次の拍子記号の位置かフローの終了位置のいずれか先に到達したところまで、すべて4/4の小節となります。

小節内に手で追加した各小節線 (単線とティックを除く) の位置にガイドが表示されます。



4/4 拍子の 2 小節



最初の 4/4 の途中で標準の小節線が挿入されたため、その位置から新たに 4/4 の小節が開始される

#### 関連リンク

[小節、拍、小節線の入力方法 \(329 ページ\)](#)

[拍子記号と弱起の入力方法 \(311 ページ\)](#)

[組段区切りの挿入 \(790 ページ\)](#)

[フレーム区切りの挿入 \(793 ページ\)](#)

[挿入モード \(491 ページ\)](#)

# 小節線

小節線は譜表を区切る垂直の線で、楽譜を拍子記号に応じて小節に分割します。最もよく使われる小節線は隣接する小節間の縦線ですが、複縦線やリピート小節線などさまざまな種類があります。



移調の複縦線、3本の縦線、終了位置の終止線を含む 12/8 拍子の楽曲の最後の組段

Dorico Pro では、適用中の拍子記号に応じて小節線が自動的に表示されます。たとえば結合拍子では、異なる拍子間に破線の小節線が自動的に表示されます。拍子記号を変更すると、後続の楽譜の小節が正しく区切られるように、必要に応じて小節線が移動します。

初期設定では、フロー内では縦線が使われ、フローの終了位置では終止線が使われます。フロー内およびフローの終わりに使用されるデフォルトの小節線は変更できます。また、初期設定では複縦線が表示される調号の変更位置の小節線も変更できます。

小節線は、大括弧または中括弧で括られた譜表グループをまたいで自動的に延長されます。

## 補足

その本質的なつながりから、Dorico Pro では小節線は拍子記号の一部と見なされます。そのため、直接入力した明示的な小節線は非表示の拍子記号として扱われ、長休符を分割します。

明示的な縦線が拍子記号のガイドと一緒に表示されます。

## 関連リンク

- [小節線のタイプ \(1079 ページ\)](#)
- [小節、拍、小節線の入力方法 \(329 ページ\)](#)
- [譜表グループをまたぐ小節線 \(1088 ページ\)](#)
- [カスタムの譜表のグループ化 \(1148 ページ\)](#)
- [調号の変更位置の小節線を変更する \(1083 ページ\)](#)
- [フロー内のデフォルトの小節線のタイプを変更する \(1081 ページ\)](#)
- [フローの終了位置で使用する初期設定の小節線を変更する \(1082 ページ\)](#)
- [再生時の反復 \(689 ページ\)](#)
- [リピート回数 \(1607 ページ\)](#)
- [小節 \(1073 ページ\)](#)
- [小節番号 \(1094 ページ\)](#)
- [長休符 \(1649 ページ\)](#)
- [ガイド \(490 ページ\)](#)
- [拍子記号 \(1795 ページ\)](#)
- [拍子記号と弱起の入力方法 \(311 ページ\)](#)
- [音符と休符のグループ化 \(1136 ページ\)](#)
- [音符/アイテムの削除 \(496 ページ\)](#)

## 浄書オプションで小節線の設定をプロジェクト全体に適用する

「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**小節線 (Barlines)**」ページで小節線の外観を設定しプロジェクト全体に適用できます。

「**小節線 (Barlines)**」ページのオプションを使用すると、小節線の外観と線の太さを変更したり、楽譜の内容に合わせて小節線を変更したりできます。たとえば、リピート小節線のデフォルトの外観や、コーダの前に表示されるデフォルトの小節線、声楽の譜表やオッサ譜表の小節線を結合するかどうかなどを変更できます。

また、「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**間隔のスペーシング (Spacing Gaps)**」ページで、小節線 (反復終了線を含む) の前後の間隔を変更することもできます。

多くのオプションに、オプションを楽譜に適用したときにどのように表示されるかを示す図がありません。

関連リンク

[「浄書オプション \(Engraving Options\)」ダイアログ \(923 ページ\)](#)

[譜表グループをまたぐ小節線 \(1088 ページ\)](#)

[オッサ譜表の小節線 \(1714 ページ\)](#)

[コーダの前に表示される小節線の変更 \(1604 ページ\)](#)

## 小節線のフローごとの記譜オプション

「**記譜オプション (Notation Options)**」にある「**小節線 (Barlines)**」のページには、小節線の外観をフローごとに設定できるオプションがあります。

たとえば、各フローの途中や終了位置にデフォルトで表示する小節線のタイプ、縦線を譜表間にのみ表示するか譜表をまたいで延長するか、各組段の終端の小節線およびフローの最後の組段の終端の小節線で、譜表をすべて結合するかどうか、といったことを選択できます。

各オプションには、オプションを反映したときの表記例が示されています。

関連リンク

[「記譜オプション \(Notation Options\)」ダイアログ \(919 ページ\)](#)

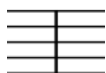
## 小節線のタイプ

Dorico Pro には小節線のタイプが複数あり、それぞれ同じ手順で入力、移動、および削除を行なえます。

### 標準 (縦線)

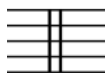
譜表の高さ全体に引かれる標準の縦線です。初期設定では、一線譜の小節線は譜表線の上下に1スペース分突き出します。

明示的な縦線が拍子記号のガイドと一緒に表示されます。



### 複縦線

複縦線は、縦線と同じ太さの2本の線からなり、初期設定では1/2スペースの間隔で配置されます。これは通常、楽譜中に大きな変化があることを示したり、リハーサルマーク、調号の変更やテンポの変更に印を付けたりする際に使用されます。



### 三重線

三重線は、縦線と同じ太さの3本の線からなり、初期設定では1/2スペースの間隔で配置されます。楽曲分析において、構造単位の区切りを示すために縦線のかわりに使用されることがあります。



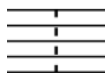
### 終止線

終止線は2本の線からなり、1本は通常の細さ、もう1本は太く描かれます。終止線は楽譜の終わりを示します。



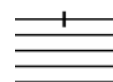
### 破線

破線は通常の小節線と同じ太さですが、線中に間隔があり、破線として表示されます。破線は小節を細かく分割して複雑な拍子記号の楽譜を読みやすくするため、または譜面に元からある小節線と編集上の小節線を区別するために使用されます。

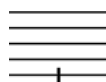


### ティック

ティックは譜表の第1線または第5線上に引かれる短い線です。ティックは単旋聖歌を記譜する際に便利で、息やフレーズ間の短い間、または独特な韻律の構造を持つような楽譜の表記に使用されます。



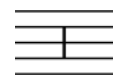
ティック (上)



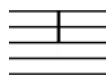
ティック (下)

### 短線

短線は譜表の中央、五線譜の第2線と第4線の間、または譜表の上半分、五線譜の第3線と第5線の間引かれます。五線譜より線の少ない譜表では、短線は譜表の比率に合わせて縮小されます。短線は単旋聖歌を記譜する際に便利で、ティックよりも長いフレーズ間の間を表記するために使用されます。



短線 (中央)



短線 (上)

### 太線

太線は、通常の縦線と太さの違いをわかりやすくするため、初期設定ではスペース半分の太さで表記されます。これにより大きな視覚効果が得られます。





### 反復開始線

反復開始線は、左から順に、太い小節線、通常の小節線、以下のいずれかの点が並んで構成されています。

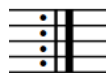
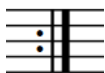
- 2つの点 (五線譜の第2間と第3間に点が1つずつ入る)
- 4つの点 (五線譜の4つの間に点が1つずつ入る)

リピートセクションの開始位置を示します。リピートセクションの終了位置を示す反復終了線とともに使用されます。



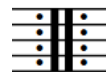
### 反復終了線

反復終了線は反復開始線を鏡写しにしたものです。つまり2つまたは4つの点のあとに通常の小節線、そのあとに太線が続きます。リピートセクションの終了位置を示します。リピートセクションの開始を示す反復開始線とともに使用されます。



### 反復終了/反復開始線

反復終了/反復開始線は反復開始線と反復終了線を組み合わせたもので、2本の縦線の中に1本の太線が挟まれる形のもので、2本の太線を使用し縦線は使用しないものがあります。2つまたは4つの反復点は線の両側に付けられます。反復終了/反復開始線は、反復セクションの直後に別の反復が続く場合に使用されます。



### 関連リンク

[小節、拍、小節線の入力方法 \(329 ページ\)](#)

[再生時の反復 \(689 ページ\)](#)

[リピート回数 \(1607 ページ\)](#)

[譜表グループをまたぐ小節線 \(1088 ページ\)](#)

[ガイド \(490 ページ\)](#)

## フロー内のデフォルトの小節線のタイプを変更する

初期設定では、フロー内の小節の区切りには縦線が使われます。小節を自動的に区切る小節線のタイプを、フローごとに個別に変更できます。たとえば、聖歌の記譜では、多くの場合ほとんどの小節線に単線またはティックが使われます。

---

### 手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[N]** を押して「記譜オプション (Notation Options)」を開きます。

2. デフォルトの小節線タイプを変更するフローを「**フロー (Flows)**」リストから選択します。  
初期設定では、現在のフローのみを選択した状態のダイアログが表示されます。他のフローを選択するには、アクションバーの「**すべて選択 (Select All)**」をクリックするか、複数のフローをまたぐようにクリックしてドラッグするか、**[Shift]** を押しなが隣接するフローをクリックするか、**[Ctrl]/[command]** を押しなが個々のフローをクリックします。
3. カテゴリリストの「**小節線 (Barlines)**」をクリックします。
4. 「**デフォルトの小節線タイプ (Default barline type)**」で以下のいずれかのオプションを選択します。
  - 標準 (Normal)
  - 複縦線 (Double)
  - 破線 (Dashed)
  - 終止線 (Final)
  - ティック (上) (Tick (Top))
  - ティック (下) (Tick (Bottom))
  - 短線 (中央) (Short (Center))
  - 短線 (上) (Short (Top))
  - 太線 (Thick)
  - 反復開始 (Start Repeat)
  - 反復終了 (End Repeat)
  - 反復 (終了 - 開始) (End and Start Repeat)
5. 「**適用 (Apply)**」をクリックしてから「**閉じる (Close)**」をクリックします。

---

#### 結果

選択したフローのデフォルトの小節線タイプが変更されます。リピート括弧のリピート小節線や選択したフローの終止線など、入力した明示的な小節線は上書きされません。

#### 関連リンク

[小節線のタイプ \(1079 ページ\)](#)

[リピート括弧 \(1591 ページ\)](#)

[小節、拍、小節線の入力方法 \(329 ページ\)](#)

## フローの終了位置で使用する初期設定の小節線を変更する

初期設定では、フローの終了位置では終止線が使われます。たとえば、フローの終了位置に複縦線を表示して後続のフローの前に間隔がないよう指示する場合など、各フローの終了位置に自動的に配置される小節線のタイプを個別に選択できます。

---

#### 手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[N]** を押して「**記譜オプション (Notation Options)**」を開きます。
2. 終了位置の小節線のデフォルトを変更するフローを「**フロー (Flows)**」リストから選択します。  
初期設定では、現在のフローのみを選択した状態のダイアログが表示されます。他のフローを選択するには、アクションバーの「**すべて選択 (Select All)**」をクリックするか、複数のフローをまたぐようにクリックしてドラッグするか、**[Shift]** を押しなが隣接するフローをクリックするか、**[Ctrl]/[command]** を押しなが個々のフローをクリックします。
3. カテゴリリストの「**小節線 (Barlines)**」をクリックします。

4. 「フローの終了位置に自動で描く小節線 (Automatic barline at end of flow)」セクションで以下のいずれかのオプションを選択します。
  - 終止線 (Final barline)
  - 複縦線 (Double barline)
  - 縦線 (通常) (Normal barline)
  - 小節線 (破線) (Dashed barline)
  - 小節線 (太線) (Thick barline)
  - 小節線なし (No barline)
5. 「適用 (Apply)」をクリックしてから「閉じる (Close)」をクリックします。

#### 結果

選択されているフローの終了位置のデフォルトの終止線が変更されます。

#### 補足

さまざまなタイプの小節線を入力して終止線を個別に上書きすることはできますが、終止線を個別に削除することはできません。

## 調号の変更位置の小節線を変更する

すべての調号の変更位置にデフォルトで表示される小節線をプロジェクト全体で変更できます。初期設定では、Dorico Pro は調号の変更位置に複縦線を表示します。

#### 手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[E]** を押して「浄書オプション (Engraving Options)」を開きます。
2. カテゴリリストの「小節線 (Barlines)」をクリックします。
3. 「調号 (Key Signatures)」セクションの「小節開始位置の調号の変更 (Changes of key signature at the start of a bar)」で、以下のいずれかのオプションを選択します。
  - 「複縦線を描く (Draw double barline)」
  - 「縦線を描く (Draw single barline)」
4. 「適用 (Apply)」をクリックしてから「閉じる (Close)」をクリックします。

#### 関連リンク

[「浄書オプション \(Engraving Options\)」ダイアログ \(923 ページ\)](#)


[調号の変更の前の打ち消しのナチュラル記号の表示/非表示を切り替える \(1350 ページ\)](#)


## リピート小節線の前に表示される小節線の変更

プロジェクト全体の設定より優先される形で、次の組段の開始位置に反復開始線が続く個々の組段の終わりに表示される小節線を変更できます。これにより、たとえば反復開始線が次に来るいくつかの組段の終わりに通常の小節線を表示し、その他の組段の終わりには複縦線を表示するといったことができます。

これらの手順は、反復開始線と調号の変更が同じ位置にある場合にも適用できます。

#### 前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。
- 下ゾーンのツールバーで「プロパティ (Properties)」 を選択しておきます。

- 浄書モードの場合は、浄書ツールボックスで「**グラフィックの編集 (Graphic Editing)**」を選択しておきます。

#### 手順

1. 小節線のタイプを変更する、反復開始線が次に来る組段の終了位置の小節線を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「**拍子記号 (Time Signatures)**」グループで、「**組段の終端の小節線 (Barline at end of system)**」をオンにします。
3. メニューから以下のいずれかのオプションを選択します。
  - **標準 (Normal)**
  - **複縦線 (Double)**
  - **終止線 (Final)**
  - **破線 (Dashed)**
  - **ティック (上) (Tick (top))**
  - **短線 (中央) (Short (Center))**
  - **太線 (Thick)**
  - **三重線 (Triple)**
  - **短線 (上) (Short (top))**
  - **ティック (下) (Tick (bottom))**
  - **なし (None)**

#### 結果

選択した小節線の位置に表示される小節線のタイプが変更されます。

#### ヒント

反復開始線が次に来る組段の終了位置に表示されるデフォルトの小節線のプロジェクト全体の設定は、「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**小節線 (Barlines)**」ページで変更できます。

#### 関連リンク

[プロパティパネル \(826 ページ\)](#)


[浄書ツールボックス \(554 ページ\)](#)


[組段区切り \(789 ページ\)](#)

## 組段の小節線と大括弧/中括弧を表示/非表示にする

インキピットを使用して楽譜の形式設定を行なう場合などに、個々の組段/フレーム区切りとコーダの位置の組段の小節線と大括弧/中括弧を表示または非表示にできます。

#### 前提条件

- 組段の小節線を表示または非表示にする位置に組段/フレーム区切りまたはコーダを挿入しておきます。
- 組段/フレーム区切りの位置にはガイドが表示されます。
- 下ゾーンを表示しておきます。
- 下ゾーンのツールバーで「**プロパティ (Properties)**」を選択しておきます。

- 浄書モードの場合は、浄書ツールボックスで「グラフィックの編集 (Graphic Editing)」 を選択しておきます。

## 手順

1. 組段の小節線を表示または非表示にする位置の組段/フレーム区切りのガイドまたはコーダを選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。

## 補足

組段/フレーム区切りのガイドのみまたはコーダのみを選択する必要があります。

2. プロパティパネルの「形式 (Format)」グループまたは「リピートマーカー (Repeat Markers)」グループで「組段の小節線を非表示 (Hide systemic barline)」をオンまたはオフにします。

## 結果

選択した組段/フレーム区切りまたはコーダに対応する組段の小節線と大括弧/中括弧が表示または非表示になります。

## 例



組段の小節線を表示した状態



組段の小節線を非表示にした状態

## 関連リンク

- [プロパティパネル \(826 ページ\)](#)
- [浄書ツールボックス \(554 ページ\)](#)
- [リピートとトレモロの入力方法 \(438 ページ\)](#)
- [組段区切りの挿入 \(790 ページ\)](#)
- [フレーム区切りの挿入 \(793 ページ\)](#)
- [ガイドの表示/非表示の切り替え \(491 ページ\)](#)
- [コーダの前の間隔を変更する \(1606 ページ\)](#)

## 単一譜表の組段で組段の小節線を表示/非表示にする

初期設定では、組段の小節線は2つ以上の譜表を持つ組段の開始位置に表示され、単一譜表の組段では非表示になっています。最初の組段に含まれる、または最初の組段より後の単一譜表の組段で組段の小節線をフローごとに個別に表示/非表示にできます。

単一譜表の組段に組段の小節線を表示するのは、手写のリードシートにおける慣習です。通常、この場合は2つめの組段以降の音部記号や調号を非表示にします。

## 手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[N]** を押して「記譜オプション (Notation Options)」を開きます。

2. 「フロー (Flows)」 リストで、最初の組段より後で組段の小節線を表示/非表示にするフローを選択します。  
初期設定では、現在のフローのみを選択した状態のダイアログが表示されます。他のフローを選択するには、アクションバーの「すべて選択 (Select All)」をクリックするか、複数のフローをまたぐようにクリックしてドラッグするか、**[Shift]** を押しながらか隣接するフローをクリックするか、**[Ctrl]/[command]** を押しながらか個々のフローをクリックします。
3. カテゴリーリストの「小節線 (Barlines)」 をクリックします。
4. 「組段の小節線 (Systemic Barline)」 サブセクションの「最初の組段の開始位置の小節線 (Barline at start of first system)」 で、以下のいずれかのオプションを選択します。
  - 1つ以上の譜表で表示 (Show for one or more staves)
  - 2つ以上の譜表で表示 (Show for two or more staves)
5. 「最初の組段以外の組段の開始位置の小節線 (Barline at start of systems following first system)」 で、以下のいずれかのオプションを選択します。
  - 1つ以上の譜表で表示 (Show for one or more staves)
  - 2つ以上の譜表で表示 (Show for two or more staves)
6. 「適用 (Apply)」 をクリックしてから「閉じる (Close)」 をクリックします。

## 関連リンク

[「記譜オプション \(Notation Options\)」 ダイアログ \(919 ページ\)](#)

[使用されるコードダイアグラムのグリッドを表示/非表示にする \(1180 ページ\)](#)

[組段の開始位置にある音部記号を表示/非表示にする \(1197 ページ\)](#)

[組段の開始位置にある調号を表示/非表示にする \(1349 ページ\)](#)

## リピート小節線に羽根を表示/非表示にする

プロジェクトに含まれるすべてのリピート小節線に対して羽根を表示/非表示にできます。

## 手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[E]** を押して「浄書オプション (Engraving Options)」を開きます。
2. カテゴリーリストの「小節線 (Barlines)」 をクリックします。
3. 「リピート (Repeats)」 セクションの「リピート小節線の羽根 (Wings on repeat barlines)」 で、以下のいずれかのオプションを選択します。
  - 羽根を表示 (Show wings)
  - 羽根を表示しない (Do not show wings)
4. 「適用 (Apply)」 をクリックしてから「閉じる (Close)」 をクリックします。

## 関連リンク

[「浄書オプション \(Engraving Options\)」 ダイアログ \(923 ページ\)](#)

[浄書オプションで小節線の設定をプロジェクト全体に適用する \(1079 ページ\)](#)

[譜表グループをまたぐ小節線 \(1088 ページ\)](#)

[アンサンブルタイプによる大括弧でのグループ化 \(1143 ページ\)](#)

[カスタムの譜表のグループ化 \(1148 ページ\)](#)



[大括弧の終端の外観を変更する \(1144 ページ\)](#)

[リピート括弧 \(1591 ページ\)](#)

## ティックの長さを変更する

たとえば、単旋聖歌の中間点を示すためのティックの長さを個別に変更できます。

前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。
- 下ゾーンのツールバーで「プロパティ (Properties)」を選択しておきます。
- 浄書ツールボックスで「グラフィックの編集 (Graphic Editing)」を選択しておきます。

手順

1. 浄書モードで、長さを変更するティックを選択します。
2. プロパティパネルの「拍子記号 (Time Signatures)」グループで、「ティックの調節 (Tick adj.)」をオンにします。
3. 数値フィールドの値を変更します。
  - 「外 (Out)」は譜表の外側のティックの長さを調節します。
  - 「内 (In)」は譜表の内側のティックの長さを調節します。

結果

選択したティックの長さが変更されます。これは、選択したティックのあとに入力されるティックにも影響し、異なる長さが設定された次の既存のティック、拍子記号、またはフローの終わりのいずれか先に到達するところまで適用されます。

関連リンク

[プロパティパネル \(826 ページ\)](#)

[浄書ツールボックス \(554 ページ\)](#)

[小節、拍、小節線の入力方法 \(329 ページ\)](#)

## 小節線の表示位置の移動

隣接する音符、拍子記号、調号、または休符と小節線の間スペースを調節できます。

前提条件

浄書ツールボックスで「音符のスペーシング (Note Spacing)」を選択しておきます。

手順

1. 浄書モードで、位置を移動する小節線の位置にある音符のスペーシングの四角いハンドルを選択します。



2. 以下のいずれかの操作を行なって、ハンドルを移動します。
  - 選択したハンドルの左側のスペースを増やすには、**[Alt/Opt]+[→]** を押します。
  - 選択したハンドルの左側のスペースを減らすには、**[Alt/Opt]+[←]** を押します。

補足

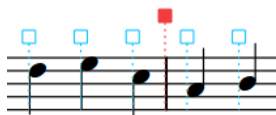
- ハンドルの移動幅を大きくするには、**[Ctrl]/[command]** を押しながらキーボードショートカットを押します (例: **[Ctrl]/[command]+[Alt/Opt]+[←]**)。

- ハンドルの移動幅を中くらいにするには、**[Shift]** を押しながらキーボードショートカットを押します (例: **[Shift]+[Alt/Opt]+[←]**)。
- ハンドルの移動幅を小さくするには、**[Ctrl]/[command] + [Shift]** を押しながらキーボードショートカットを押します (例: **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[Alt/Opt]+[←]**)。
- 音符のスペーシングのハンドルの移動はマウスでは行なえず、キーボードのみで行なえます。

#### 結果

選択した小節線の左右のスペーシングが広くまたは狭くなります。

#### 例



小節線の左のスペーシングを狭くした後の新しい配置の例

#### 関連リンク

[浄書ツールボックス \(554 ページ\)](#)

## 譜表グループをまたぐ小節線

スコア内の特定のインストゥルメントを見つけやすくするために、小節線をインストゥルメントおよび譜表のグループをまたいで延長できます。

### デフォルトの譜表グループをまたぐ小節線

小節線が個別の譜表にのみ表示される場合、それぞれのラインの位置を一目で判別することが非常に難しくなります。ところが、スコアにインストゥルメントグループをまたぐ小節線を引くと、インストゥルメントのファミリーがブロックとして表示されるため、インストゥルメントを判別しやすくなります。

Musical score showing individual bar lines for each instrument. The instruments listed are: Flute, Oboe, Clarinet in Bb, Bassoon, Horn in F1, Horn in F2, Trumpet in Bb, Trombone, Tuba, Tympani, Violin I, Violin II, Viola, Violoncello, and Double Bass. Each instrument has its own staff with a bar line.

個別の小節線

Musical score showing a single bar line spanning across multiple instrument staves. The instruments listed are: Flute, Oboe, Clarinet in Bb, Bassoon, Horn in F1, Horn in F2, Trumpet in Bb, Trombone, Tuba, Tympani, Violin I, Violin II, Viola, Violoncello, and Double Bass. A single bar line is drawn across all staves.

インストゥルメントグループをまたぐ小節線



初期設定では、小節線は大括弧または中括弧で括られた譜表グループをまたいで自動的に延長されます。例外として、声楽の譜表には小節線が自動的に延長されません。大括弧内に含まれる譜表は楽器編成と状況によって異なりますが、通常は木管楽器や弦楽器といった同じファミリーのインストゥルメントの譜表が大括弧で結合されます。

Dorico Pro は、各レイアウトに設定されたアンサンブルタイプに応じて自動的に譜表を括弧でくくります。

## 大譜表を使用するインストゥルメントの小節線

Dorico Pro では、大譜表を使用するインストゥルメントの譜表には中括弧が付くと同時に、譜表間的小節線は自動的に結合されます。譜表に大括弧と中括弧が同時に付くことはないため、大譜表を使用するインストゥルメントは大括弧から除外されます。従って他のいかなる譜表の小節線とも結合されることはありません。

## 譜表間を連結する小節線

「記譜オプション (Notation Options)」の「小節線 (Barlines)」ページでは、縦線を譜表間にのみ表示するか、譜表をまたいで延長するかをフローごとに個別に変更できます。これらは一般的に、古楽の楽譜を活字にする際に、小節で区切られていない元の楽譜への視覚的な影響を最小限に抑えながら、現代の演奏者が読みやすいよう可読性を高めるために使用されます。

The image shows a musical score snippet with three staves. The top staff is a vocal line with lyrics: "sciolt' il bion - do crin d'or del pa - ra - di - - so,". The middle staff is a piano accompaniment line with lyrics: "bion - do crin d'or del pa - - ra - di - so, del pa - ra - di - - so,". The bottom staff is another piano accompaniment line with lyrics: "- do crin d'or, sciolt' il bion - do crin d'or del pa - ra - - - di - so,". Vertical bar lines are present at the end of each measure, and some are extended across the staves to indicate phrasing.

譜表間に表示される小節線

## 小節線のグループ化のカスタマイズ

複数のプレイヤーを手動でグループとしてまとめることで、カスタム的小節線の結合と大括弧のグループを作成できます。プレイヤーグループは、各レイアウトに設定されたアンサンブルタイプに応じて大括弧でくくられます。

カスタム的小節線の結合を入力して、個々の小節線が延長される譜表の範囲を決定することもできます。

関連リンク

[アンサンブルタイプによる大括弧でのグループ化 \(1143 ページ\)](#)

[カスタムの譜表のグループ化 \(1148 ページ\)](#)

[「インストゥルメントを編集 \(Edit Instruments\)」ダイアログ \(950 ページ\)](#)

[インストゥルメントファミリー \(960 ページ\)](#)

[拍子記号が変更される場所ですべての譜表をまたいで小節線を表示する \(1090 ページ\)](#)

[プレイヤーをソリストに指定 \(139 ページ\)](#)

[プレイヤーグループ \(183 ページ\)](#)

[プレイヤーグループのラベル \(1695 ページ\)](#)

[「記譜オプション \(Notation Options\)」ダイアログ \(919 ページ\)](#)

## デフォルトの小節線の結合を変更する

小節線の結合を、大括弧または中括弧で括られた譜表グループをまたいで自動的に延長するか、各インストゥルメントの間で区切るかをレイアウトごとに個別に変更できます。

---

### 手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[L]** を押して「**レイアウトオプション (Layout Options)**」を開きます。
  2. デフォルトの小節線の結合を変更するレイアウトを「**レイアウト (Layouts)**」リストから選択します。  
初期設定では、楽譜領域で選択されているものと同じレイアウトが選択された状態のダイアログが表示されます。他のレイアウトを選択するには、アクションバーの選択オプションを使用するか、複数のレイアウトをまたぐようにクリックしてドラッグするか、**[Shift]** を押しながら隣接するレイアウトをクリックするか、**[Ctrl]/[command]** を押しながら個々のレイアウトをクリックします。
  3. カテゴリリストの「**大括弧と中括弧 (Brackets and Braces)**」を選択します。
  4. 「**括弧 (Bracketing)**」のセクションにある「**小節線の結合 (Barline joins)**」で、以下のいずれかのオプションを選択します。
    - **第 1 括弧に従う (Follow primary brackets)**
    - **インストゥルメントごとに個別に行なう (Separate at each instrument)**
  5. 「**適用 (Apply)**」をクリックしてから「**閉じる (Close)**」をクリックします。
- 

### 関連リンク

- [大括弧と中括弧 \(1140 ページ\)](#)
- [アンサンブルタイプによる大括弧でのグループ化 \(1143 ページ\)](#)
- [カスタムの譜表のグループ化 \(1148 ページ\)](#)

## 拍子記号が変更される場所ですべての譜表をまたいで小節線を表示する

括弧のスタイルに関わらず、個々のレイアウトの拍子記号が変更される場所で、すべての譜表の小節線を結合できます。

### 前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。
- 下ゾーンのツールバーで「**プロパティ (Properties)**」 を選択しておきます。
- 浄書モードの場合は、浄書ツールボックスで「**グラフィックの編集 (Graphic Editing)**」 を選択しておきます。

---

### 手順

1. 譜表の小節線を結合させる拍子記号の変更を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
  2. プロパティパネルの「**拍子記号 (Time Signatures)**」グループで、「**すべての譜表の小節線を結合 (Barline joins all staves)**」をオンにします。
- 

### 結果

選択された拍子記号の変更の位置で、楽譜領域で選択されているレイアウト内のすべての譜表の小節線が結合されます。

関連リンク

[プロパティパネル \(826 ページ\)](#)

[浄書ツールボックス \(554 ページ\)](#)

## カスタムの小節線の結合を入力する

カスタムの小節線の結合を任意の位置に入力できます。これにより、どの譜表が小節線により結合されるか変更できます。

前提条件

- 左ゾーンを表示しておきます。
- 浄書ツールボックスで「**グラフィックの編集 (Graphic Editing)**」を選択しておきます。

---

手順

1. 浄書モードで、その開始位置から変更を適用する組段の、小節線で結合する一番上の譜表のアイテムを選択します。
2. 小節線で結合する一番下の譜表のアイテムを、**[Ctrl]/[command]** を押しながらクリックします。
3. 形式設定パネルで、「**括弧 (Bracketing)**」グループの「**小節線の結合を変更 (Change barline joins)**」をクリックします。

---

結果

アイテムを選択した譜表とその間のすべての譜表が小節線で結合され、次の大括弧と小節線の変更がある位置か、フローの終了位置のいずれか先に到達したところまで適用されます。アイテムを選択していた組段の開始位置にガイドが表示されます。

既存の小節線の結合は、新しい小節線の結合を表示できるように、必要に応じて調整されます。

補足

大括弧と小節線の変更のガイドは、組段の開始位置に適用されるものであるため移動できません。ただし、たとえば組段区切りを移動したような場合は、組段の途中に表示されることもあります。大括弧と小節線の変更のガイドが組段の途中に位置する場合、対応する変化の効果は次の組段の開始位置まで現れません。

---

例

デフォルトの譜表のグループ化によるチェロのディヴィジの譜表

インストゥルメントごとに小節線の結合を分割したチェロのディヴィジの譜表

関連リンク

[ガイド \(490 ページ\)](#)

[浄書ツールボックス \(554 ページ\)](#)

[形式設定パネル \(556 ページ\)](#)

[ゾーンの表示/非表示の切り替え \(48 ページ\)](#)

[大括弧と小節線の変更のリセット \(1152 ページ\)](#)

[大括弧と小節線の変更の削除 \(1153 ページ\)](#)

## 小節線の結合を削除する

個々の小節線の結合は、リズム上の同じ位置にある他の小節線の結合および大括弧/中括弧によるグループ分けの変更とは別個に削除できます。これにより選択した小節線の結合が解除され、それぞれの譜表の個別の小節線として表示されるようになります。

前提条件

浄書ツールボックスで「**グラフィックの編集 (Graphic Editing)**」を選択しておきます。

手順

1. 浄書モードで、削除する小節線の結合を選択します。
2. **[Backspace]** 又は **[Delete]** を押します。

## カスタムの小節線の結合の長さを変更する

カスタムの小節線の結合は、垂直方向の長さを変更して譜表の範囲を変更できます。たとえば小節線の結合の下に新しくプレーヤーを追加して、その譜表まで小節線を延長する場合などに使用できます。

前提条件

浄書ツールボックスで「**グラフィックの編集 (Graphic Editing)**」を選択しておきます。

#### 手順

1. 浄書モードで、長さを変更する小節線の結合の上端か下端いずれかのハンドルを選択します。

#### ヒント

大括弧と小節線の変更は、ガイドの位置から次の既存の変更がある位置かフローの終了位置のいずれか先に到達したところまで適用されるため、1回の変更につき選択する小節線の結合のハンドルは1つだけで構いません。

2. 以下のいずれかの操作を行なって、ハンドルを移動します。
  - 1つ上の譜表へ移動させるには、**[Alt/Opt]+[↑]** を押します。
  - 1つ下の譜表へ移動させるには、**[Alt/Opt]+[↓]** を押します。

#### 結果

選択した小節線の結合の長さが変わって、上か下につながる譜表の範囲が変更されます。これは、対応する大括弧と小節線の変更が適用されるすべての組段の、小節線の結合に含まれる譜表に影響します。

#### 補足

各譜表に小節線の結合は1つしか存在できず、重なり合うこともできません。選択した小節線の結合の長さを変更した結果、一部が他の小節線の結合に重なった場合、他の小節線の結合はそれに合わせて短縮されます。

この動作は元に戻せます。このとき影響された他の小節線の結合の長さは復元されます。

---

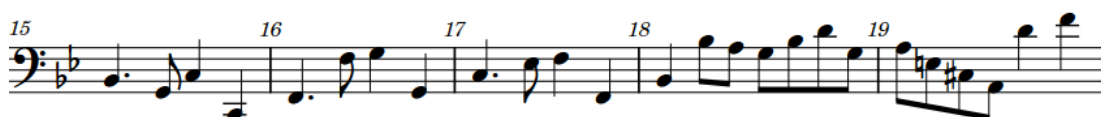
# 小節番号

小節番号は楽譜において重要な参照ポイントとして機能し、楽譜の時間的順序を明確にします。各小節に固有の番号を付けることで、楽譜の特定の部分を正確に参照できるようになり、演奏者はリハーサルやコンサートで容易に楽譜内の場所を見つけることができます。

Dorico Pro では、小節番号が自動的に表示され、初期設定では最も一般的な慣習に従って、すべてのレイアウトの各組段の開始位置に表示されます。小節番号の表示/非表示はレイアウトごとに個別に切り替えることができます。映画音楽のスコアでよく見られるように、すべての小節に表示したり、指定した一定の間隔で表示したりすることもできます。

## ヒント

小節番号に関するオプションの多くは、「**レイアウトオプション (Layout Options)**」の「**小節番号 (Bar Numbers)**」ページにあります。これは、フルスコアレイアウトではすべての小節に小節番号を表示し、パートレイアウトでは各組段の開始位置にのみ表示するなど、レイアウトごとに異なる形で小節番号を表示するのが非常に一般的なためです。



パートレイアウトの各小節に表示される小節番号

## 関連リンク

- [小節番号のパラグラフスタイル \(1098 ページ\)](#)
- [小節番号の位置 \(1100 ページ\)](#)
- [小節番号の変更 \(1104 ページ\)](#)
- [「レイアウトオプション \(Layout Options\)」 ダイアログ \(917 ページ\)](#)
- [小節 \(1073 ページ\)](#)
- [弱起 \(アウフタクト\) \(1800 ページ\)](#)
- [小節線 \(1078 ページ\)](#)
- [トラック概要 \(659 ページ\)](#)

## 浄書オプションで小節番号の設定をプロジェクト全体に適用する

「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**小節番号 (Bar Numbers)**」ページには、プロジェクト全体に適用される小節番号の外観、囲み線、内容に関するオプションがあります。

「**小節番号 (Bar Numbers)**」ページのオプションを使用すると、リピートセクションを小節番号に含めるかどうかの選択、サブ小節番号の大文字/小文字の切り替え、および組段の開始位置に表示される小節番号と音部記号との間隔の最小値の変更を行なえます。小節番号の囲み線の太さ、サイズ、余白の値も変更できます。

## 関連リンク

- [「浄書オプション \(Engraving Options\)」 ダイアログ \(923 ページ\)](#)
- [小節番号の囲み線を表示/非表示にする \(1096 ページ\)](#)
- [小節番号の譜表やその他のオブジェクトからの距離を変更する \(1102 ページ\)](#)
- [小節番号とリピート \(1108 ページ\)](#)

## 小節番号を表示/非表示にする

小節番号の表示/非表示をレイアウトごとに個別に切り替えることができるほか、表示する間隔も指定できます。たとえば、フルスコアのレイアウトではすべての小節に小節番号を表示し、パートのレイアウトでは組段ごとに小節番号を表示する、といった設定ができます。

---

### 手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[L]** を押して「**レイアウトオプション (Layout Options)**」を開きます。
2. 「**レイアウト (Layouts)**」リストから、小節番号を表示または非表示にするレイアウトを選択します。  
初期設定では、楽譜領域で選択されているものと同じレイアウトが選択された状態のダイアログが表示されます。他のレイアウトを選択するには、アクションバーの選択オプションを使用するか、複数のレイアウトをまたぐようにクリックしてドラッグするか、**[Shift]** を押しながら隣接するレイアウトをクリックするか、**[Ctrl]/[command]** を押しながら個々のレイアウトをクリックします。
3. カテゴリリストの「**小節番号 (Bar Numbers)**」を選択します。
4. 「**頻度 (Frequency)**」サブセクションで、「**小節番号を表示 (Show bar numbers)**」に対する以下のいずれかのオプションを選択します。
  - **組段ごと (Every system)**
  - **n 小節ごと (Every n bars)**
  - **1 小節ごと (Every bar)**
  - **なし (None)**
5. 「**n 小節ごと (Every n bars)**」を選択した場合、必要に応じて「**間隔 (Interval)**」の値を変更し、小節番号の表示頻度を設定します。
6. 「**表示/非表示 (Showing and Hiding)**」サブセクションで、必要に応じて各オプションをオン/オフにします。  
たとえば、すべての小節に小節番号が表示される場合に最初の小節番号を非表示にしたり、長休符に小節番号の範囲に加えて標準の小節番号を表示したりできます。
7. 「**適用 (Apply)**」をクリックしてから「**閉じる (Close)**」をクリックします。

---

### 結果

「**なし (None)**」を選択すると選択したレイアウトの小節番号が非表示になり、その他のオプションを選択すると対応する間隔で小節番号が表示されます。

小節番号の表示間隔は「**間隔 (Interval)**」の値に応じて変化します。たとえば間隔を「**10**」にすると、小節番号が 10 小節ごとに表示されます。

---

### ヒント

小節番号が表示されたレイアウトで小節番号を個別に非表示にすることもできます。その場合は、非表示にする小節番号を選択して、プロパティパネルの「**拍子記号 (Time Signatures)**」グループで「**小節番号を非表示 (Hide bar number)**」をオンにします。

---

### 関連リンク

- [小節番号の譜表やその他のオブジェクトからの距離を変更する \(1102 ページ\)](#)
- [小節番号の水平位置の変更 \(1101 ページ\)](#)
- [特定の譜表の上に小節番号を表示する \(1100 ページ\)](#)
- [組段に対する小節番号の位置を変更する \(1103 ページ\)](#)
- [長休符における小節番号の範囲を表示/非表示にする \(1097 ページ\)](#)

[1 小節の小節休符の小節数を表示/非表示にする \(1651 ページ\)](#)

[ガイド小節番号の表示/非表示 \(1098 ページ\)](#)

[小節番号のパラグラフスタイル \(1098 ページ\)](#)

[小節番号の位置 \(1100 ページ\)](#)

[通し番号付き小節領域 \(1618 ページ\)](#)

## 小節番号の囲み線を表示/非表示にする

たとえば、指揮者が見やすいようにフルスコアレイアウトでは小節番号に長方形の囲み線を表示し、ページがそれほど混み合わないパートレイアウトでは囲み線を表示しないなど、必要に応じて小節番号に長方形または円形の囲み線をレイアウトごとに個別に表示できます。

小節番号に囲み線を付けると、背景が自動的に塗りつぶされます。

### 手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[L]** を押して「**レイアウトオプション (Layout Options)**」を開きます。
2. 小節番号の囲み線のタイプを変更するレイアウトを「**レイアウト (Layouts)**」リストから選択します。  
初期設定では、楽譜領域で選択されているものと同じレイアウトが選択された状態のダイアログが表示されます。他のレイアウトを選択するには、アクションバーの選択オプションを使用するか、複数のレイアウトをまたぐようにクリックしてドラッグするか、**[Shift]** を押しながら隣接するレイアウトをクリックするか、**[Ctrl]/[command]** を押しながら個々のレイアウトをクリックします。
3. カテゴリリストの「**小節番号 (Bar Numbers)**」を選択します。
4. 「**外観 (Appearance)**」サブセクションで、「**囲み線のタイプ (Enclosure type)**」を以下のいずれかのオプションから選択します。
  - なし (None)
  - 長方形 (Rectangle)
  - 丸 (Circle)
5. 「**適用 (Apply)**」をクリックしてから「**閉じる (Close)**」をクリックします。

### 結果

選択したレイアウト内のすべての小節番号の囲み線のタイプが変更されます。囲み線のサイズと形状は、余白の値と小節番号のフォントサイズによって決まります。

### ヒント

プロジェクト全体のすべての小節番号の囲み線の太さ、サイズ、余白の値は、「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**小節番号 (Bar Numbers)**」ページで変更できます。

### 例

10

囲み線なし

10

長方形

10

丸



## 関連リンク

[「レイアウトオプション \(Layout Options\)」ダイアログ \(917 ページ\)](#)[「浄書オプション \(Engraving Options\)」ダイアログ \(923 ページ\)](#)[小節番号のパラグラフスタイル \(1098 ページ\)](#)[リハーサルマークの囲み線のタイプの変更 \(1575 ページ\)](#)

## 長休符における小節番号の範囲を表示/非表示にする

長休符における小節番号の範囲を表示/非表示にできます。これにより、たとえばパートレイアウトでプレイヤーが演奏しない小節がわかりやすくなります。空白の小節と併せて小節リピート領域も長休符に統合することを選択している場合、長休符に小節リピート領域を含めることができます。

## 手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[L]** を押して「**レイアウトオプション (Layout Options)**」を開きます。
2. 長休符で小節番号の範囲表示を表示/非表示にするレイアウトを「**レイアウト (Layouts)**」リストから選択します。  
初期設定では、楽譜領域で選択されているものと同じレイアウトが選択された状態のダイアログが表示されます。他のレイアウトを選択するには、アクションバーの選択オプションを使用するか、複数のレイアウトをまたぐようにクリックしてドラッグするか、**[Shift]** を押しながら隣接するレイアウトをクリックするか、**[Ctrl]/[command]** を押しながら個々のレイアウトをクリックします。
3. カテゴリリストの「**小節番号 (Bar Numbers)**」を選択します。
4. 「**表示/非表示 (Showing and Hiding)**」サブセクションで、「**長休符および統合された小節リピート記号の下に小節番号の範囲を表示 (Show ranges of bar numbers under multi-bar rests and consolidated bar repeats)**」をオンまたはオフにします。
5. 「**適用 (Apply)**」をクリックしてから「**閉じる (Close)**」をクリックします。

## 結果

選択したレイアウトでオプションがオンのときは、長休符および統合された小節リピート記号の下に小節番号の範囲が表示され、オフのときは非表示になります。

## ヒント

小節番号の範囲表示の区切り文字と、小節番号の範囲表示の譜表からのデフォルト距離は、「**浄書オプション (Engraving Options)**」 > 「**休符 (Rests)**」 > 「**長休符 (Multi-bar Rests)**」で変更できます。

## 関連リンク

[小節番号を表示/非表示にする \(1095 ページ\)](#)[長休符を表示/非表示にする \(1649 ページ\)](#)[「浄書オプション \(Engraving Options\)」ダイアログ \(923 ページ\)](#)[小節番号のパラグラフスタイル \(1098 ページ\)](#)[通し番号付き小節領域 \(1618 ページ\)](#)

## ガイド小節番号の表示/非表示

ページビューとギャラリービューでそれぞれ個別に、すべての組段のすべての小節でガイド小節番号を表示/非表示にできます。これにより、たとえば譜表が多いスコアで小節番号が確認しやすくなります。ガイド小節番号は印刷されません。

### 手順

- ガイド小節番号の表示/非表示は以下のいずれかの方法で行なえます。
  - ページビューでガイド小節番号を表示/非表示にするには、「**ビュー (View)**」 > 「**小節番号 (Bar Numbers)**」 > 「**ページビュー (Page View)**」を選択します。
  - ギャラリービューでガイド小節番号を表示/非表示にするには、「**ビュー (View)**」 > 「**小節番号 (Bar Numbers)**」 > 「**ギャラリービュー (Galley View)**」を選択します。

### 結果

対応するビュータイプのすべての小節および譜表上のガイド小節番号の表示/非表示が切り替わります。

### 例



The image shows a musical score in page view. The top staff is a treble clef with a 2/4 time signature and a key signature of two flats. The bottom staff is a bass clef with a 2/4 time signature and a key signature of two flats. The score consists of 8 measures, numbered 43 to 50. Guide bar numbers are displayed above the treble staff and below the bass staff for each measure. The first measure (43) has a dynamic marking of *pp* and an *8va* marking with a dashed line. The score is in a common chord style.

ページビューで表示されたガイド小節番号

### 関連リンク

[ガイドページ番号の表示/非表示 \(1505 ページ\)](#)

[ギャラリービューまたはページビューへの切り替え \(54 ページ\)](#)

## 小節番号のパラグラフスタイル

Dorico Pro では、小節番号にパラグラフスタイルを使用するため、レイアウトごとに異なるパラグラフスタイルを使用できます。特に、パートレイアウトには多くの場合、フルスコアレイアウトとは異なる形式の小節番号が必要になります。

初期設定では、小節番号用に以下のパラグラフスタイルが用意されています。

- **小節番号 (パート) (Bar numbers (parts))**: パートレイアウトに使用される
- **小節番号 (スコア) (Bar numbers (score))**: フルスコアレイアウトとカスタムスコアレイアウトに使用される

最初はどちらのパラグラフスタイルも設定は同じですが、各パラグラフスタイルの設定を個別に変更できます。たとえば、パートレイアウトの小節番号には太字の斜体フォントを使用し、フルスコアレイアウトの小節番号にはフォントサイズが非常に大きいプレーンフォントを使用する、といった設定ができます。

そのあと、レイアウトごとに使用するパラグラフスタイルを変更できます。

### 関連リンク

[「パラグラフスタイル \(Paragraph Styles\)」 ダイアログ \(932 ページ\)](#)

## 小節番号の Paragraph スタイルを編集する

たとえば、フォントサイズを大きくしたい場合などに、小節番号に使用される Paragraph スタイルの形式設定を編集できます。初期設定では、フルスコアレイアウトの小節番号用と、パートレイアウトの小節番号用の 2 つの Paragraph スタイルが用意されています。

### 前提条件

デフォルトで用意されているものとは異なる小節番号の Paragraph スタイルを使用する場合は、新しい Paragraph スタイルを作成しておきます。

---

### 手順

1. 「ライブラリー (Library)」 > 「Paragraph スタイル (Paragraph Styles)」を選択して、「Paragraph スタイル (Paragraph Styles)」ダイアログを開きます。
2. Paragraph スタイルのリストから、小節番号に関する以下のいずれかの Paragraph スタイルを選択します。
  - 小節番号 (パート)
  - 小節番号 (スコア)
3. 必要に応じて、「元 (Parent)」メニューから利用できるいずれかのスタイルを選択します。  
元スタイルが選択されている場合、選択した Paragraph スタイルの元スタイルから変更されているすべてのオプションの横に、操作可能なスイッチが表示されます。
4. 選択した Paragraph スタイルの任意のオプションをオンにして変更します。
5. 「OK」をクリックして変更内容を保存し、ダイアログを閉じます。

---

### 結果

選択した小節番号の Paragraph スタイルが変更されます。これは選択したスタイルを使用するすべてのレイアウトの小節番号の外観に影響を与えます。

### ヒント

小節番号の Paragraph スタイルを追加作成して、レイアウトごとに異なる小節番号の Paragraph スタイルを使用できるようにすることもできます。

---

### 関連リンク

[Paragraph スタイルの作成 \(934 ページ\)](#)

## レイアウトで使用する小節番号の Paragraph スタイルの変更

小節番号に使用する Paragraph スタイルは、レイアウトごとに個別に選択できます。初期設定では、フルスコアレイアウトとパートレイアウトでは小節番号に異なる Paragraph スタイルが使用されます。

### 前提条件

一部のレイアウトの小節番号にカスタムの Paragraph スタイルを使用する場合、「Paragraph スタイル (Paragraph Styles)」ダイアログで作成しておきます。

---

### 手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[L]** を押して「レイアウトオプション (Layout Options)」を開きます。
2. 小節番号に使用する Paragraph スタイルを変更するレイアウトを「レイアウト (Layouts)」リストから選択します。

初期設定では、楽譜領域で選択されているものと同じレイアウトが選択された状態のダイアログが表示されます。他のレイアウトを選択するには、アクションバーの選択オプションを使用するか、複数のレイアウトをまたぐようにクリックしてドラッグするか、**[Shift]** を押しながら隣接するレイアウトをクリックするか、**[Ctrl]/[command]** を押しながら個々のレイアウトをクリックします。

3. カテゴリーリストの「**小節番号 (Bar Numbers)**」を選択します。
  4. 「**外観 (Appearance)**」サブセクションで、「**パラグラフスタイル (Paragraph style)**」メニューからパラグラフスタイルを選択します。
  5. 「**適用 (Apply)**」をクリックしてから「**閉じる (Close)**」をクリックします。
- 

#### 結果

選択したパラグラフスタイルが、選択したレイアウトのすべての小節番号に使用されます。

## 小節番号の位置

通常、小節番号は各組段の開始位置の譜表上部に、最初の小節線に揃えて表示されます。

小節番号のデフォルトの位置と表示頻度は、「**レイアウトオプション (Layout Options)**」の「**小節番号 (Bar Numbers)**」ページで、レイアウトごとに個別に変更できます。また、浄書モードで小節番号の位置を個別に変更することもできます。たとえば、フルスコアのレイアウトではすべての小節に小節番号を表示し、パートのレイアウトでは組段ごとに小節番号を表示する、といった設定ができます。

## 特定の譜表の上に小節番号を表示する

どの譜表の上に小節番号を表示するかを変更できます。これにより、各組段の複数の垂直位置に小節番号を表示できます。たとえば、大規模なオーケストラのスコアで、組段の上部と弦楽器セクションの上の両方に小節番号を表示する場合などに便利です。

#### 手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[L]** を押して「**レイアウトオプション (Layout Options)**」を開きます。
  2. 小節番号の垂直位置を変更するレイアウトを「**レイアウト (Layouts)**」リストから選択します。  
初期設定では、楽譜領域で選択されているものと同じレイアウトが選択された状態のダイアログが表示されます。他のレイアウトを選択するには、アクションバーの選択オプションを使用するか、複数のレイアウトをまたぐようにクリックしてドラッグするか、**[Shift]** を押しながら隣接するレイアウトをクリックするか、**[Ctrl]/[command]** を押しながら個々のレイアウトをクリックします。
  3. カテゴリーリストの「**小節番号 (Bar Numbers)**」を選択します。
  4. 「**位置 (Placement)**」サブセクションの「**特定のプレイヤーの上に表示 (Show above specific players)**」リストで、一番上の譜表の上に小節番号を表示するプレイヤーのチェックボックスをオンにします。
  5. 「**適用 (Apply)**」をクリックしてから「**閉じる (Close)**」をクリックします。
- 

#### 結果

選択したレイアウトの小節番号の垂直位置が変更されます。複数のインストゥルメントが割り当てられているプレイヤーについては、一番上のインストゥルメントの譜表の上に小節番号が表示されます。

#### 補足

小節番号と譜表またはその他のオブジェクトとの間の距離を変更できるほか、小節番号が譜表間に収まるように、譜表間の間隔の垂直方向のスペーシング設定も変更できます。

---

#### 関連リンク

[デフォルトの譜表/組段のスペーシングを変更する \(748 ページ\)](#)

[レイアウトごとの垂直方向のスペーシングオプション \(776 ページ\)](#)

[インストゥルメントの移動 \(149 ページ\)](#)

## 小節番号の水平位置の変更

小節番号の水平位置は、レイアウトごとに個別に変更できます。たとえば、フルスコアレイアウトでは小節番号を小節の中央に配置しつつ、パートレイアウトでは小節線上に配置することもできます。

---

#### 手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[L]** を押して「**レイアウトオプション (Layout Options)**」を開きます。
  2. 小節番号の水平位置を変更するレイアウトを「**レイアウト (Layouts)**」リストから選択します。  
初期設定では、楽譜領域で選択されているものと同じレイアウトが選択された状態のダイアログが表示されます。他のレイアウトを選択するには、アクションバーの選択オプションを使用するか、複数のレイアウトをまたぐようにクリックしてドラッグするか、**[Shift]** を押しながら隣接するレイアウトをクリックするか、**[Ctrl]/[command]** を押しながら個々のレイアウトをクリックします。
  3. カテゴリーリストの「**小節番号 (Bar Numbers)**」を選択します。
  4. 「**水平位置 (Horizontal Position)**」サブセクションで、「**水平位置 (Horizontal Position)**」を以下のいずれかのオプションから選択します。
    - 小節の開始位置の小節線に対して左揃えで小節番号を表示するには、「**小節線に左揃え (Left-aligned on barline)**」を選択します。
    - 小節の開始位置の小節線に対して中央揃えで小節番号を表示するには、「**小節線上に配置 (Centered on barline)**」を選択します。
    - 小節の中央に小節番号を表示するには、「**小節の中央に配置 (Centered on bar)**」を選択します。
  5. 「**適用 (Apply)**」をクリックしてから「**閉じる (Close)**」をクリックします。
- 

#### 結果

選択したレイアウトの小節番号の水平位置が変更されます。

#### 関連リンク

[特定の譜表の上に小節番号を表示する \(1100 ページ\)](#)

[アイテムの表示位置の移動 \(652 ページ\)](#)

## 小節番号の譜表やその他のオブジェクトからの距離を変更する

小節番号の譜表からの最小距離、および小節番号のその他のオブジェクトからの最小距離には、それぞれ異なる値をレイアウトごとに個別に設定できます。たとえば、フルスコアレイアウトではパートレイアウトよりも、小節番号を譜表やその他のオブジェクトから遠ざけて配置できます。

### 手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[L]** を押して「**レイアウトオプション (Layout Options)**」を開きます。
2. 小節番号の譜表からの最小距離を変更するレイアウトを「**レイアウト (Layouts)**」リストから選択します。  
初期設定では、楽譜領域で選択されているものと同じレイアウトが選択された状態のダイアログが表示されます。他のレイアウトを選択するには、アクションバーの選択オプションを使用するか、複数のレイアウトをまたぐようにクリックしてドラッグするか、**[Shift]** を押しながら隣接するレイアウトをクリックするか、**[Ctrl]/[command]** を押しながら個々のレイアウトをクリックします。
3. カテゴリーリストの「**小節番号 (Bar Numbers)**」を選択します。
4. 「**位置 (Placement)**」サブセクションで、以下のオプションのいずれかまたは両方を変更します。
  - **譜表からの最小距離 (Minimum distance from staff)**
  - **その他のオブジェクトからの最小距離 (Minimum distance from other objects)**
5. 「**組段幅に合わせて小節番号を整列 (Align bar numbers across width of system)**」をオン/オフにします。
6. 「**衝突を回避 (Avoid collisions)**」をオンまたはオフにします。
7. 「**適用 (Apply)**」をクリックしてから「**閉じる (Close)**」をクリックします。

### 結果

値を大きくすると、小節番号は譜表やその他のオブジェクトから離れた位置に配置されます。上下の配置は「**譜表に対する位置 (Placement relative to staff)**」の設定に従います。値を小さくすると、小節番号は譜表やその他のオブジェクトに近い位置に配置されます。

「**組段幅に合わせて小節番号を整列 (Align bar numbers across width of system)**」がオンになっている場合、小節番号は組段内で自動的に垂直方向に揃えられ、その位置は譜表から最も遠い位置の小節番号によって決定されます。

「**衝突を回避 (Avoid collisions)**」をオフにすると、小節番号と他のアイテムとの衝突は自動的に回避されず、小節番号は設定した最小距離の値を使用して配置されます。これにより、タイやスラーといったその他の記譜記号の存在や音符のピッチに関係なく、譜表のすぐ上またはすぐ下に小節番号を表示できます。

### 補足

- 「**衝突を回避 (Avoid collisions)**」がオンになっている場合、譜表からの最小距離の値よりも遠い位置に小節番号が配置されることがあります。
- ト音記号を使用するパートレイアウトなどで、組段の開始位置の小節番号よりも、組段内の小節番号を譜表により近い位置に表示する場合は、「**組段幅に合わせて小節番号を整列 (Align bar numbers across width of system)**」を無効にすることをおすすめします。「**浄書オプション (Engraving Options)**」にある「**小節番号 (Bar Numbers)**」ページで、組段の開始位置に表示される小節番号と音部記号との間隔の最小値を変更できます。

### 関連リンク

[小節番号を表示/非表示にする \(1095 ページ\)](#)

[浄書オプションで小節番号の設定をプロジェクト全体に適用する \(1094 ページ\)](#)

## 組段に対する小節番号の位置を変更する

小節番号は、レイアウトごとに組段の上または下のいずれかに表示できます。たとえば、フルスコアレイアウトでは小節番号を組段の下に、パートレイアウトでは組段の上に表示できます。

### 補足

これは、特定の譜表の上に表示される小節番号の位置には影響しません。

---

### 手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[L]** を押して「**レイアウトオプション (Layout Options)**」を開きます。
  2. 小節番号の位置を変更するレイアウトを「**レイアウト (Layouts)**」リストから選択します。  
初期設定では、楽譜領域で選択されているものと同じレイアウトが選択された状態のダイアログが表示されます。他のレイアウトを選択するには、アクションバーの選択オプションを使用するか、複数のレイアウトをまたぐようにクリックしてドラッグするか、**[Shift]** を押しながら隣接するレイアウトをクリックするか、**[Ctrl]/[command]** を押しながら個々のレイアウトをクリックします。
  3. カテゴリーリストの「**小節番号 (Bar Numbers)**」を選択します。
  4. 「**位置 (Placement)**」サブセクションの「**組段に対する位置 (Placement relative to system)**」で、以下のいずれかのオプションを選択します。
    - **組段の一番上の譜表の上に表示 (Show above top staff of system)**
    - **組段の一番下の譜表の下に表示 (Show below bottom staff of system)**
  5. 「**適用 (Apply)**」をクリックしてから「**閉じる (Close)**」をクリックします。
- 

### 結果

選択したレイアウトで、組段に対する小節番号の位置が変更されます。

## 組段オブジェクト位置に拍子記号を表示する場所では小節番号を非表示にする

組段オブジェクト位置に拍子記号を表示する場所では、リズム上の同じ位置にある小節番号を非表示にするよう設定できます。これは小節番号が小節線上に配置されている場合、見やすい形で衝突を回避することが困難であるためです。

### 手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[L]** を押して「**レイアウトオプション (Layout Options)**」を開きます。
2. 組段オブジェクト位置に拍子記号を表示する場所では、小節番号を非表示にするレイアウトを「**レイアウト (Layouts)**」リストから選択します。  
初期設定では、楽譜領域で選択されているものと同じレイアウトが選択された状態のダイアログが表示されます。他のレイアウトを選択するには、アクションバーの選択オプションを使用するか、複数のレイアウトをまたぐようにクリックしてドラッグするか、**[Shift]** を押しながら隣接するレイアウトをクリックするか、**[Ctrl]/[command]** を押しながら個々のレイアウトをクリックします。
3. カテゴリーリストの「**小節番号 (Bar Numbers)**」を選択します。
4. 「**表示/非表示 (Showing and Hiding)**」サブセクションで、「**組段オブジェクト位置に拍子記号がある場所では小節番号を表示 (Show bar numbers at time signatures at system object positions)**」をオンまたはオフにします。

5. 「適用 (Apply)」をクリックしてから「閉じる (Close)」をクリックします。

結果

組段オブジェクトの位置に拍子記号を表示する場所での小節番号は、オプションをオンにすると表示され、オフにすると非表示になります。

例



組段オブジェクト位置に拍子記号がある場所に表示されている小節番号



組段オブジェクト位置に拍子記号がある場所で非表示になっている小節番号

関連リンク

[拍子記号 \(1795 ページ\)](#)

[大きな拍子記号 \(1801 ページ\)](#)

## 小節番号の変更

小節番号は連続するシーケンスに従い、各小節には前の小節番号に続く一意の小節番号が付きます。ここで、小節番号のシーケンスは手動で変更でき、サブシーケンスに変更することもできます。

「**小節番号の変更を挿入 (Insert Bar Number Change)**」ダイアログを使用して、小節番号のシーケンスに以下のタイプの変更を加えられます。

### プライマリー (Primary)

メイン小節番号のシーケンス (デフォルトで存在し、プロジェクトの各小節がフローごとに個別の連続したシーケンスに従うもの) に変更を加えます。

### サブ (Subordinate)

小節番号の補助的なシーケンスを追加します。これには数字ではなく文字が使用されます。サブは、楽曲の新しいバージョンを作成して小節を追加したものに、元の小節番号を残す必要がある場合などに役立ちます。

### 選択中の小節は含まない (Don't Include)

選択した小節を現在の小節番号のシーケンスから除外します。すべての小節に小節番号が表示される場合でも、「**選択中の小節は含まない (Don't Include)**」が選択された小節には小節番号が表示されません。

### プライマリーを継続 (Continue Primary)

小節番号のシーケンスを「**プライマリー (Primary)**」シーケンスに戻します。間にある小節はカウントされません。たとえば、「**サブ (Subordinate)**」シーケンスに従う小節セクションのあとに使用します。

関連リンク

[サブ小節番号 \(1105 ページ\)](#)



## 小節番号の変更の追加

小節番号のシーケンスに手動で小節番号の変更を追加できます。たとえば、プロジェクトの2番めのフローを再度小節1から開始するのではなく、1番めのフローから連続したシーケンスとして表示する場合などに使用できます。

---

### 手順

1. 記譜モードまたは浄書モードで、以下のいずれかを選択します。
  - そこから小節番号のシーケンスを変更したい小節内の項目
  - そこから小節番号のシーケンスを変更したい小節の小節番号または小節線
2. 「編集 (Edit)」 > 「記譜 (Notations)」 > 「小節番号 (Bar Numbers)」 > 「小節番号の変更を追加 (Add Bar Number Change)」を選択して「小節番号の変更を挿入 (Insert Bar Number Change)」ダイアログを開きます。このオプションはコンテキストメニューでも選択できます。
3. 「タイプ (Type)」で以下のいずれかのオプションを選択します。
  - プライマリー (Primary)
  - サブ (Subordinate)
  - 選択中の小節は含まない (Don't Include)
  - プライマリーを継続 (Continue Primary)
4. 必要に応じて、「プライマリー (Primary)」または「サブ (Subordinate)」を選択して、対応する数値フィールドの値を変更することにより、小節番号の新しいシーケンスが開始する際の小節番号を指定します。
5. 「OK」をクリックして変更内容を保存し、ダイアログを閉じます。

---

### 結果

選択した項目が含まれる小節、または選択した小節番号か小節線の位置から、小節番号のシーケンスが変更されます。

この変更は、次に小節番号の変更に到達するまで、またはフローの終了位置に達するまで、変更した小節番号以降の小節番号のシーケンスに適用されます。

## 小節番号の変更の削除

追加した小節番号の変更を削除できます。

---

### 手順

1. 記譜モードで、削除する番号の変更を選択します。
2. **[Backspace]** 又は **[Delete]** を押します。

---

### 結果

小節番号の変更が削除されます。後続の小節は、次の小節番号の変更に到達するまで、またはフローの終了位置に到達するまで、1つ前の小節番号に従って変化します。

## サブ小節番号

サブ小節番号はリPEAT括弧にナンバリングする場合や、楽譜に変更を加えたが元の小節番号を変更できない場合などに役立ちます。

たとえば、以前に短いバージョンでリハーサルをしたことがある場合に、楽譜を追加した場所を示すためにサブ小節番号を使用できます。このような状況では、多くの場合プレイヤーはすでに曲の特定の部

分を特定の小節番号に関連付けています。そのため、**10** 小節めのあとに 4 小節を追加する必要がある場合、追加の小節の番号を **10a** から **10d** にすれば、後続の小節の番号は小節を追加する前と同じく **11** から継続します。

サブ小節番号は、リピー括弧に異なる小節番号を付ける場合にも役立ちます。

サブ小節番号は小文字で表示されるのがデフォルトですが、大文字でも小文字でも表示できます。

サブ小節番号のシーケンスでは、プライマリー小節番号とサブ小節番号の文字の両方を表示することも、サブ小節番号の文字のみを表示することもできます。

A square box containing the text "4a" in a serif font.

小文字によるサブ小節番号

A square box containing the text "4A" in a serif font.

大文字によるサブ小節番号

関連リンク

[サブ小節番号の外観を変更する \(1107 ページ\)](#)

## サブ小節番号を追加する

サブ小節番号のシーケンスは、プライマリー小節番号のシーケンスとは独立させて作成できます。これは新しい小節を追加したときに、後続の既存の小節の小節番号を変更したくない場合に役立ちます。

---

手順

1. 記譜モードまたは浄書モードで、以下のいずれかを選択します。
  - そこからサブ小節番号を開始したい小節内の項目
  - そこからサブ小節番号を開始したい小節の小節番号または小節線
2. 「編集 (Edit)」 > 「記譜 (Notations)」 > 「小節番号 (Bar Numbers)」 > 「小節番号の変更を追加 (Add Bar Number Change)」を選択して「小節番号の変更を挿入 (Insert Bar Number Change)」ダイアログを開きます。このオプションはコンテキストメニューでも選択できます。
3. 「タイプ (Type)」に「サブ (Subordinate)」を選択して「サブ (Subordinate)」の数値フィールドをオンにします。
4. サブ小節番号に付随するプライマリー小節番号を変更するには、「プライマリー (Primary)」をオンにして数値フィールドの値を変更します。

これにより、たとえば「6、7、7a」という小節番号のシーケンスを「6、7a、7b」に変更できます。
5. 「サブ (Subordinate)」の数値フィールドの値を変更して、サブ小節番号のシーケンスの 1 文字めを変更します。

対応するアルファベットが数値フィールドの右側に表示されます。たとえば、数値フィールドに **1** を入力すると **a** が表示され、**2** を入力すると **b** が表示され、以降同様に続きます。
6. 「プライマリー小節番号を非表示 (Hide primary bar numbers)」をオン/オフにします。
7. 「OK」をクリックして変更内容を保存し、ダイアログを閉じます。

---

結果

選択した項目が含まれる小節、または選択した小節番号か小節線の位置から、サブ小節番号のシーケンスが開始されます。

- 「プライマリー (Primary)」をオンにして値を変更すると、サブ小節番号と一緒に表示されるプライマリー小節番号が変更されます。

- 「**プライマリー小節番号を非表示 (Hide primary bar numbers)**」をオフにすると、サブ小節番号のシーケンスには番号およびアルファベット文字の両方が表示されます。「**プライマリー小節番号を非表示 (Hide primary bar numbers)**」をオンにすると、アルファベット文字のみが表示されます。

たとえば、「**プライマリー (Primary)**」の値を変更することなく、元々5小節めであった小節からサブ小節番号のシーケンスを開始した場合、シーケンスは4a から始まり、次の小節番号の変更に到達するまで、またはフローの終了位置に到達するまで継続されます。

## プライマリー小節番号のシーケンスに戻す

サブ小節番号のセクションのあと、プライマリー小節番号のシーケンスに戻す場所を指定できます。

---

### 手順

1. 記譜モードまたは浄書モードで、以下のいずれかを選択します。
  - そこからプライマリー小節番号のシーケンスに戻したい小節内の項目
  - そこからプライマリー小節番号シーケンスに戻したい小節の小節番号または小節線
2. 「**編集 (Edit)**」 > 「**記譜 (Notations)**」 > 「**小節番号 (Bar Numbers)**」 > 「**小節番号の変更を追加 (Add Bar Number Change)**」を選択して「**小節番号の変更を挿入 (Insert Bar Number Change)**」ダイアログを開きます。このオプションはコンテキストメニューでも選択できます。
3. 「**タイプ (Type)**」に「**プライマリーを継続 (Continue Primary)**」を選択します。  
「**プライマリー (Primary)**」および「**サブ (Subordinate)**」の数値フィールドの下に、ここからの小節番号を示すテキストが表示されます。たとえば、「**プライマリー番号は5小節目から継続します。**」のように表示されます。
4. 「**OK**」をクリックして変更内容を保存し、ダイアログを閉じます。

---

### 結果

選択した項目が含まれる小節、または選択した小節番号か小節線の位置から、プライマリー小節番号のシーケンスに戻ります。

---

### ヒント

サブ小節番号の変更を追加する場合、順序どおりにする必要はありません。まずプライマリー小節番号のシーケンスに戻してから、サブ小節番号のシーケンスを追加しても構いません。

---

## サブ小節番号の外観を変更する

プロジェクト全体のすべてのサブ小節番号を小文字または大文字にできます。

---

### 手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[E]** を押して「**浄書オプション (Engraving Options)**」を開きます。
  2. カテゴリリストの「**小節番号 (Bar Numbers)**」を選択します。
  3. 「**シーケンス (Sequence)**」サブセクションで、「**サブ小節番号の種類 (Letter case for subordinate bar numbers)**」に対する以下のいずれかのオプションを選択します。
    - 小文字 (Lower case)
    - 大文字 (Upper case)
  4. 「**適用 (Apply)**」をクリックしてから「**閉じる (Close)**」をクリックします。
-

## 小節番号とリピート

Dorico Pro の初期設定では、小節番号のカウントにリピートは含まれません。たとえば、リピートの 1 番括弧が 10 小節めで終わる場合、2 番括弧の始まりは 11 小節めになります。1 つめのセクションが繰り返されることで、実際は 10 小節より多く演奏されているにもかかわらずです。

小節番号のカウントにリピートを含めて、ページに書かれている小節の数ではなく、演奏される小節の総数を小節番号に反映することで、複数回演奏する部分がある楽譜をわかりやすくできます。これにより、各周回の特定の位置を「3 回目の 8 小節め」などと指定するかわりに、具体的な小節番号で指定できます。

2 (12)



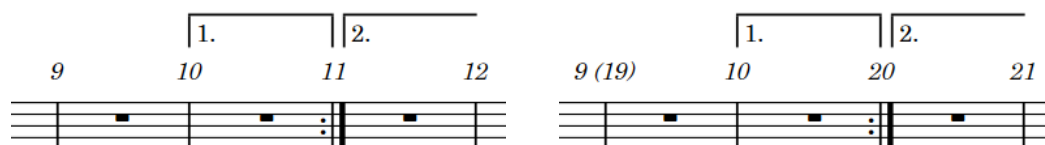
1 回目の小節番号の隣に括弧付きで表示されるリピートの 2 回目の小節番号

Dorico Pro では、再生にリピートが含まれる場合に小節番号のカウントにリピートを自動的に含めることができます。これはリピート括弧や「D.C. al Coda」といったリピートマーカなど、同じ範囲を複数回通して演奏するなどの形態に対しても適用されます。

すべてのプレーヤーが同じ小節番号を参照することが重要であるため、これはプロジェクト全体のすべてのレイアウトに影響します。

小節番号のカウントにリピートを含める場合、記譜上の同じ小節に複数の小節番号が適用されることとなります。これを反映する上で、Dorico Pro の初期設定では、1 回目の小節番号を通常どおり表示し、2 回目以降の小節番号を右側に追加していく形になります。小節番号の表示に使用されるリピートの周回や、リピートの 2 回目以降の小節番号の外観は、レイアウトごとに個別に変更できます。初期設定では、これは括弧付きで表示されます。

例



リピートをカウントせず、1 回目の小節番号のみ表示する小節番号の例

リピートをカウントし、リピートの 2 回目以降の小節番号を 1 回目の小節番号の横に表示する小節番号の例

関連リンク

[リピートの 2 回目以降の小節番号の外観を変更する \(1110 ページ\)](#)

## 小節番号のカウントにリピートを含めるまたは除外する

小節番号のカウントにリピートを含めるか除外するか選択して、プロジェクト全体のすべてのレイアウトに反映できます。初期設定では、リピートは小節番号のカウントから除外されています。

前提条件

再生にリピートを含めておきます。

手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[E]** を押して「**浄書オプション (Engraving Options)**」を開きます。

2. カテゴリーリストの「**小節番号 (Bar Numbers)**」を選択します。
  3. 「**リピート (Repeats)**」サブセクションの「**リピートセクションの小節番号 (Bar numbering for repeated sections)**」で、以下のいずれかのオプションを選択します。
    - **リピートをカウント (Count repeats)**
    - **リピートをカウントしない (Do not count repeats)**
  4. 「**適用 (Apply)**」をクリックしてから「**閉じる (Close)**」をクリックします。
- 

#### 結果

「**リピートをカウント (Count repeats)**」を選択すると小節番号のカウントにリピートが含まれ、「**リピートをカウントしない (Do not count repeats)**」を選択すると除外されます。

#### 関連リンク

[リピートを再生に含める/除外する \(690 ページ\)](#)

## 小節番号の表示に使用するリピートの周回を変更する

リピートが含まれるプロジェクトでは、リピートのどの周回が小節番号の表示に使用されるかをレイアウトごとに個別に変更できます。たとえば、一部のプレイヤーのパートにはすべての周回の小節番号を表示し、他のプレイヤーには最後の周回のみ表示するといったことができます。

#### 補足

これは小節番号のカウント全体には影響せず、どの小節番号を表示するかにのみ影響します。

---

#### 前提条件

小節番号のカウントにリピートセクションを含めておきます。

---

#### 手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[L]** を押して「**レイアウトオプション (Layout Options)**」を開きます。
  2. 小節番号の表示に使用するリピートの周回を変更するレイアウトを「**レイアウト (Layouts)**」リストから選択します。

初期設定では、楽譜領域で選択されているものと同じレイアウトが選択された状態のダイアログが表示されます。他のレイアウトを選択するには、アクションバーの選択オプションを使用するか、複数のレイアウトをまたぐようにクリックしてドラッグするか、**[Shift]** を押しながら隣接するレイアウトをクリックするか、**[Ctrl]/[command]** を押しながら個々のレイアウトをクリックします。
  3. カテゴリーリストの「**小節番号 (Bar Numbers)**」を選択します。
  4. 「**リピート (Repeats)**」サブセクションの「**リピートをカウント (Count repeats)**」で、以下のいずれかのオプションを選択します。
    - **すべてのリピート (All repeats)**
    - **最初のリピートのみ (First repeat only)**
    - **最後のリピートのみ (Last repeat only)**
  5. 「**適用 (Apply)**」をクリックしてから「**閉じる (Close)**」をクリックします。
- 

#### 結果

選択したレイアウトの小節番号の表示に使用するリピートの周回が変更されます。

例



すべてのリピートを表示する小節番号      最初のリピートのみ表示する小節番号      最後のリピートのみ表示する小節番号

---

## リピートの2回め以降の小節番号の外観を変更する

小節番号のカウントにリピートを含めるとき、リピートの2回め以降の小節番号は1回めの小節番号の横に表示されます。これには初期設定では括弧が付きますが、リピートの2回め以降の小節番号の先頭テキストと末尾テキストは、レイアウトごとに個別に変更できます。

前提条件

小節番号のカウントにリピートセクションを含めておきます。

手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[L]** を押して「**レイアウトオプション (Layout Options)**」を開きます。
  2. リピートの2回め以降の小節番号の外観を変更するレイアウトを「**レイアウト (Layouts)**」リストから選択します。  
初期設定では、楽譜領域で選択されているものと同じレイアウトが選択された状態のダイアログが表示されます。他のレイアウトを選択するには、アクションバーの選択オプションを使用するか、複数のレイアウトをまたぐようにクリックしてドラッグするか、**[Shift]** を押しながら隣接するレイアウトをクリックするか、**[Ctrl]/[command]** を押しながら個々のレイアウトをクリックします。
  3. カテゴリーリストの「**小節番号 (Bar Numbers)**」を選択します。
  4. 必要に応じて、「**リピート (Repeats)**」サブセクションで、「**先頭テキスト (Prefix)**」フィールドに任意の先頭テキストを入力します。  
このフィールドの1文字めは、初期設定では半角スペースになっています。これは1回めと2回め以降の小節番号に間隔を作るためです。
  5. 必要に応じて、「**末尾テキスト (Suffix)**」フィールドに任意の末尾テキストを入力します。
  6. 「**適用 (Apply)**」をクリックしてから「**閉じる (Close)**」をクリックします。
- 

結果

選択したレイアウトのリピートの2回め以降の小節番号の外観が変更されます。たとえば、同じ小節上の複数の小節番号を縦線で区切る場合は、「**先頭テキスト (Prefix)**」フィールドに「|」を入力し、「**末尾テキスト (Suffix)**」フィールドには何も入力しません。

例

2 (12)



リピートの2回目以降の小節番号の先頭テキストと末尾テキストに括弧を使用したもの

2 | 12



リピートの2回目以降の小節番号の先頭テキストに縦線を使用したもの

---

# 連符

連符は、音符を符尾で連結してリズムのグループを示すもので、現在の拍子記号の拍節構造に従って変化します。

このように音符がグループ化されると、演奏者は記されたリズムの正確な演奏方法を素早く計算でき、自分のパートや指揮者に合わせやすくなります。

長さが 8 分音符以下の音符または和音を 2 つ以上隣接するように入力すると、現在の拍子と小節内の位置が適切な場合に Dorico Pro が自動的に連符を作成します。



6/8 拍子における複数の連符グループ

Dorico Pro には、4/4 拍子などでは半小節で区切りを入れる、3/4 拍子では 8 分音符をすべて 1 つの連符で結ぶ、連符を含むグループを連符する、といった音楽理論の一般的な慣習に従う、連符のグループ化に関する高度な基本ルールが定義されています。

Dorico Pro では、音符の連符を制御する複数の方法があります。

- 「**記譜オプション (Notation Options)**」の「**連符のグループ化 (Beam Grouping)**」ページでは、プロジェクトのフローごとに連符グループの初期設定を指定できます。
- また、拍子記号の細分化した区切りを制御することで、連符グループを設定できます。
- 手動で音符を連符で連結したり、連符を分割したりできます。

連符の表記規則は正解が 1 つではないため、Dorico Pro にはいくつかのカスタマイズオプションがあります。これらのオプションは「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**連符 (Beams)**」ページにあります。

関連リンク

[音符の入力 \(248 ページ\)](#)

[第 2 連符 \(1127 ページ\)](#)

[連符内の連符 \(1130 ページ\)](#)

[連符内の休符 \(1131 ページ\)](#)

[「浄書オプション \(Engraving Options\)」ダイアログ \(923 ページ\)](#)

## 連符のグループ化に関するフローごとの記譜オプション

「**記譜オプション (Notation Options)**」の「**連符のグループ化 (Beam Grouping)**」のページには、連符のグループ化ルールの初期設定をフローごとに個別に制御できるオプションがあります。

使用できるオプションには、4/4 拍子などでは半小節を連符で結ぶ、3/4 拍子では 8 分音符をすべて 1 つの連符で結ぶ、第 2 連符グループ、ステムレット、および休符の上の連符をどのように処理するかなどが含まれています。

各オプションには、オプションを反映したときの表記例が示されています。



関連リンク

[「記譜オプション \(Notation Options\)」ダイアログ \(919 ページ\)](#)

[付点の統合 \(1401 ページ\)](#)

[連桁の傾斜 \(1119 ページ\)](#)

## 拍に従う連桁グループ

一般的な表記規則に従い、拍が明確で分かりやすくなるように、拍子記号に応じて異なる形で音符が連桁で連結されます。Dorico Pro では、デフォルトの連桁グループは拍子記号によって決定されます。

Dorico Pro には、一般的な表記規則とユーザーが選択した設定に基づいて、一般的な拍子記号に対する連桁のデフォルトが設定されています。たとえば、3/4 と 6/8 の拍子記号には同じ数の拍が含まれますが、これらは異なる拍子を示しているため、異なる形の連桁で連結されます。初期設定では、3/4 拍子の場合、8 分音符のフレーズは各小節内で連桁で連結され、他のデュレーションのフレーズは 4 分音符にグループ化されますが、6/8 拍子の場合には付点 4 分音符にグループ化されます。



3/4 におけるデフォルトの 8 分音符の連桁グループ



6/8 におけるデフォルトの 8 分音符の連桁グループ

Dorico Pro では、5/8 や 7/8 のような変拍子について、その拍子記号において最も一般的な慣習に従って音符がグループ化され、連桁で連結されます。



5/8 におけるデフォルトの連桁グループ



7/8 におけるデフォルトの連桁グループ

拍のグループ化に対するより詳細な制御が必要な状況では、リズムの分割が明示されたカスタムの拍子記号を入力できます。これにより Dorico Pro はこの分割に従って自動的にフレーズを連桁で連結します。たとえば、拍子記号ポップオーバーに「[7]/8」と入力すると、7つの8分音符すべてがグループ化されます。「[2+2+3]/8」と入力すると、7つの8分音符は2、2、3のように分割された連桁にグループ化されます。

### 補足

連桁のグループのデュレーションは、適用中の拍子記号における拍のグループ化、および「[記譜オプション \(Notation Options\)](#)」のフローごとの連桁グループ化の設定に従います。

---

関連リンク

[音符と休符のグループ化 \(1136 ページ\)](#)

[付点の統合 \(1401 ページ\)](#)

[拍子のカスタム連桁グループを作成する \(1138 ページ\)](#)

[ポップオーバーを使った拍子記号の入力 \(315 ページ\)](#)

## 手動で音符に連桁を付ける


同じ声部の音符に手動で連桁を付けられます。これは小節線をまたぐ音符や組段/フレーム区切りをまたぐ音符でも同様です。これはたとえば、現在の拍子における通常の方法とは異なる形でフレーズに連桁を付ける場合に役に立ちます。

連桁は初期設定では小節や組段内にとどまるため、連桁が小節線、組段区切り、またはフレーム区切りをまたぐには、フレーズを強制的に連桁で連結させる必要があります。

### ヒント

- 1つの連桁が複数の譜表をまたがるようにするには、譜表をまたぐ連桁を作成します。
- カスタム連桁グループを使用した拍子記号の入力は、多くの場合、連桁グループをコントロールする最も素早く一貫した方法です。
- 「**記譜オプション (Notation Options)**」の「**連桁のグループ化 (Beam Grouping)**」のページには、連桁のグループ化ルール of 初期設定をフローごとに個別に制御できるオプションがあります。

### 前提条件

浄書モードの場合は、浄書ツールボックスで「**グラフィックの編集 (Graphic Editing)**」を選択しておきます。

### 手順

1. 連桁で連結させる音符を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. 「**編集 (Edit)**」 > 「**記譜 (Notations)**」 > 「**連桁 (Beaming)**」 > 「**連桁を連結 (Beam Together)**」を選択します。このオプションはコンテキストメニューでも選択できます。

### 結果

小節線や組段/フレーム区切りをまたぐ場合でも、同じ声部に属する選択した音符が連桁で連結されます。

新しい連桁グループの左右いずれかに、選択した音符の一部または全部と元々は連桁で連結されていた音符がある場合、別の連桁として改めて連結されるか、連桁なしで表示されます。これは小節内の左右いずれかにいくつの音符が残っているかと、フローの連桁のグループ化の設定によって変わります。

### 補足

- 連桁グループの一部に以前は中央配置の連桁がかかっていたとしても、新しい連桁は中央配置になりません。
- 「**環境設定 (Preferences)**」の「**キーボードショートカット (Key Commands)**」ページで、「**連桁を連結 (Beam Together)**」にキーボードショートカットを割り当てることができます。

### 例



デフォルトの連桁を使用したフレーズ



小節ごとに連桁で連結された音符

### 関連リンク

[浄書ツールボックス \(554 ページ\)](#)

[扇形連桁を作成する \(1134 ページ\)](#)

[連桁が小節線をまたぐことの許可/禁止の切り替え \(1829 ページ\)](#)

[既存の音符の声部を変更する \(507 ページ\)](#)

[中央配置の連桁 \(1121 ページ\)](#)

[譜表をまたぐ連桁/トレモロの作成 \(1123 ページ\)](#)

[拍に従う連桁グループ \(1113 ページ\)](#)


[拍子のカスタム連桁グループを作成する \(1138 ページ\)](#)

[「環境設定 \(Preferences\)」ダイアログの「キーボードショートカット \(Key Commands\)」ページ \(64 ページ\)](#)

## 音符の連桁の解除

連桁グループ内の音符の連桁をすべて解除し、各音符に符尾を付けることができます。これはたとえば、音節ごとに連桁を付ける必要があるボーカルの楽譜を浄書する場合などに便利です。

前提条件

浄書モードの場合は、浄書ツールボックスで「**グラフィックの編集 (Graphic Editing)**」を選択しておきます。

---

手順

1. 連桁を解除する音符をすべて選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. 「**編集 (Edit)**」 > 「**記譜 (Notations)**」 > 「**連桁 (Beaming)**」 > 「**連桁を解除 (Make Unbeamed)**」を選択します。このオプションはコンテキストメニューでも選択できます。

---

結果

選択した音符の連桁が解除され、音符ごとの符尾が表示されます。

ヒント

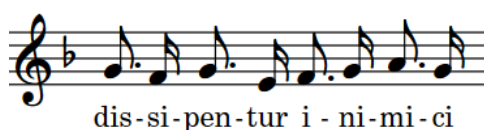
「**環境設定 (Preferences)**」の「**キーボードショートカット (Key Commands)**」ページで、「**連桁を解除 (Make Unbeamed)**」にキーボードショートカットを割り当てることができます。

---

例



デフォルトの連桁を使用したフレーズ




すべての音符の連桁を解除した状態

---

## 連桁グループの分割

連桁は、特定の位置で2つの連桁グループに分割できます。また、連桁グループ内の第2連桁を分割することもできます。

前提条件

浄書モードの場合は、浄書ツールボックスで「**グラフィックの編集 (Graphic Editing)**」を選択しておきます。

#### 手順

1. 連桁を分割する位置の右にある符頭を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. 以下のいずれかの操作を行なって、連桁または第2連桁を分割します。
  - 「編集 (Edit)」 > 「記譜 (Notations)」 > 「連桁 (Beaming)」 > 「連桁を分割 (Split Beam)」を選択します。
  - 「編集 (Edit)」 > 「記譜 (Notations)」 > 「連桁 (Beaming)」 > 「第2連桁を分割 (Split Secondary Beam)」を選択します。

#### ヒント

このオプションはコンテキストメニューでも選択できます。

---

#### 結果

選択したそれぞれの音符の左側で連桁/第2連桁が分割されます。分割後のどちら側でも、音符が2つ以上あり、その音符を連桁に含めることができる場合は、連桁グループが維持されます。

#### ヒント

- 選択した連桁全体を解除し、グループ内のすべての音符に個別に符尾を付けるには、すべての音符の連桁を解除します。
  - 「記譜オプション (Notation Options)」の「連桁のグループ化 (Beam Grouping)」ページでは、連桁と第2連桁をデフォルトでどのように分割するかをフローごとに個別に変更できます。
  - 「環境設定 (Preferences)」の「キーボードショートカット (Key Commands)」ページで、「連桁を分割 (Split Beam)」および「第2連桁を分割 (Split Secondary Beam)」にキーボードショートカットを割り当てることができます。
- 

#### 例



デフォルトの連桁を使用したフレーズ



2番目の16分音符の位置で分割された2つの連桁

---

#### 関連リンク

[連桁のグループ化に関するフローごとの記譜オプション \(1112 ページ\)](#)

[拍に従う連桁グループ \(1113 ページ\)](#)


[浄書ツールボックス \(554 ページ\)](#)

[「環境設定 \(Preferences\)」ダイアログの「キーボードショートカット \(Key Commands\)」ページ \(64 ページ\)](#)

## 連桁グループのリセット

音符や和音の連桁グループに対する変更は、すべてリセットできます。これは、たとえばインポートした MusicXML ファイルに、符尾の符鉤のかわりに連桁線が表示されているなど、不正確な連桁がある場合にも役立ちます。

### 前提条件

浄書モードの場合は、浄書ツールボックスで「**グラフィックの編集 (Graphic Editing)**」を選択しておきます。

---

### 手順

1. リセットする連桁の音符/和音を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
  2. 「**編集 (Edit)**」 > 「**記譜 (Notations)**」 > 「**連桁 (Beaming)**」 > 「**連桁をリセット (Reset Beaming)**」を選択します。このオプションはコンテキストメニューでも選択できます。
- 

### 結果

連桁グループが、現在のフローと拍子記号の初期設定（「**記譜オプション (Notation Options)**」で設定）に戻ります。

### 関連リンク

- [MusicXML ファイルの読み込み \(91 ページ\)](#)
- [「記譜オプション \(Notation Options\)」ダイアログ \(919 ページ\)](#)
- [連桁のグループ化に関するフローごとの記譜オプション \(1112 ページ\)](#)
- [符尾の方向のリセット \(1420 ページ\)](#)

## 連桁の太さを変更する

個々の連桁の太さを変更できます。これは、特定の状況における浄書で役立つことがあります。この操作は現在のレイアウトとフレームチェーンのみに対して、もしくはすべてのレイアウトとフレームチェーンに対して行なえます。

### 前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。
  - 下ゾーンのツールバーで「**プロパティ (Properties)**」を選択しておきます。
  - 浄書ツールボックスで「**グラフィックの編集 (Graphic Editing)**」を選択しておきます。
  - ローカルのプロパティ変更に関して、適切なプロパティ範囲を選択しておきます。
- 

### 手順

1. 浄書モードで、太さを変更する連桁の符頭をすべて選択します。

#### 補足

最良の結果を得るために、各連桁のすべての音符を選択することをおすすめします。

---

2. プロパティパネルの「**連桁 (Beaming)**」グループで「**太さ (Thickness)**」をオンにします。
  3. 数値フィールドの値を変更します。
-

#### 結果

選択した連桁のすべての連桁線の太さが変更されます。プロパティ範囲を「ローカル (Locally)」に設定している場合、この変更は現在のレイアウトおよびフレームチェーンのみに影響します。

#### 関連リンク

- [プロパティパネル \(826 ページ\)](#)
- [プロパティ範囲の変更 \(828 ページ\)](#)
- [浄書ツールボックス \(554 ページ\)](#)
- [連桁線の間隔を変更する \(1130 ページ\)](#)

## 譜表に対する連桁の位置

連桁の譜表に対するデフォルト位置は、連桁グループに属する音符の譜表位置と符尾の方向により決定されます。


これは、譜表の第3線から一番離れた音符が連桁の位置を決定することを意味します。ただしこのルールには例外や、譜表に対する連桁の位置に影響する別の判断基準が存在します。

譜表に対する連桁の位置を変更するには、連桁内の符尾の方向を変更します。そのため Dorico Pro では、譜表に対する連桁の位置の変更は、符尾の変更として分類されています。

## 譜表に対する連桁の位置の変更

譜表の上側と下側のどちらに連桁を表示するかは、符尾の方向を強制的に変更することで指定できます。この操作は現在のレイアウトとフレームチェーンのみに対して、もしくはすべてのレイアウトとフレームチェーンに対して行なえます。

#### 前提条件

- 浄書モードの場合は、浄書ツールボックスで「**グラフィックの編集 (Graphic Editing)**」を選択しておきます。
- ローカルのプロパティ変更に関して、適切なプロパティ範囲を選択しておきます。

---

#### 手順

- 譜表に対する位置を変更する連桁でつながれたフレーズそれぞれについて、音符を1つ以上選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
- 以下のいずれかの操作を行なって、選択した連桁の符尾の方向を強制します。
  - 「**編集 (Edit)**」 > 「**記譜 (Notations)**」 > 「**符尾 (Stem)**」 > 「**符尾を強制的に上向き (Force Stem Up)**」を選択します。
  - 「**編集 (Edit)**」 > 「**記譜 (Notations)**」 > 「**符尾 (Stem)**」 > 「**符尾を強制的に下向き (Force Stem Down)**」を選択します。

#### ヒント

- このオプションはコンテキストメニューでも選択できます。
- [F]** を押して、選択した連桁の譜表に対する位置を変更することもできます。

---

#### 結果

選択した符尾の方向に応じて、連桁が譜表の上側または下側に表示されます。プロパティ範囲を「ローカル (Locally)」に設定している場合、この変更は現在のレイアウトおよびフレームチェーンのみに影響します。

関連リンク

[浄書ツールボックス \(554 ページ\)](#)


[プロパティ範囲の変更 \(828 ページ\)](#)

[プロパティ設定を別のレイアウト/フレームチェーンにコピーする \(825 ページ\)](#)

## 連桁の位置の変更を解除する

譜表に対する連桁の位置に加えた変更を元に戻すと、変更された符尾の方向を元に戻すことができます。これにより、選択した連桁が初期設定の位置に戻ります。

前提条件

浄書モードの場合は、浄書ツールボックスで「**グラフィックの編集 (Graphic Editing)**」を選択しておきます。

手順

1. 譜表に対する位置の変更を元に戻す連桁でつながれたフレーズそれぞれについて、音符を 1 つ以上選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. 「**編集 (Edit)**」 > 「**記譜 (Notations)**」 > 「**符尾 (Stem)**」 > 「**符尾の強制を削除 (Remove Forced Stem)**」を選択します。このオプションはコンテキストメニューでも選択できます。

結果

選択した連桁が譜表に対するデフォルトの位置に戻ります。

## 連桁の傾斜

連桁の傾斜は、連桁グループ内の音符の音程に従って、連桁を水平からどれだけ傾かせるかを制御します。

- フレーズの最後の音符の音程が最初の音符より高い場合、連桁は上向きに傾斜します。
- フレーズの最後の音符の音程が最初の音符より低い場合、連桁は下向きに傾斜します。
- 連桁グループの真ん中がくぼんだ形、つまり連桁の内側の音符が左右外側の音符より連桁に近い場合、初期設定では連桁が水平になります。

すべての音程が同じ場合、または特定のパターンで音程が反復する場合も、連桁は水平になります。

連桁が譜表の内側にある場合、連桁の両端つまり両端にある音符の符尾の先端は、譜表の線にスナップする必要があります。連桁線は譜表線の上に乗せるか、中央揃えにするか、ぶら下げるかのいずれかにできます。Ted Ross 氏は、著書『Teach Yourself the Art and Practice of Music Engraving』において、これら 3 種類の位置をそれぞれ「sit (座る)」、「straddle (またがる)」、および「hang (ぶらさがる)」と説明しています。



傾斜と方向が異なる複数の連桁を含むフレーズ

連桁の傾斜角度は通常、連桁内の音符がパターンを踏んで水平にならない限り、連桁グループの最初と最後の音符の音程差によって決まります。音程差が小さいほど傾斜はゆるく、差が大きいほど傾斜はきつくなります。

ただし、考慮すべきは適切な傾斜角度だけではありません。一番内側の連桁線が一番内側の符頭に近づきすぎないようにし、また連桁そのものも、できるだけ譜表線に対してくさび形にならないように配置する必要があります。くさび形とは水平な譜表線と垂直な符尾、そして傾斜した連桁線によって作られる小さい三角形のことであり、視覚的に混乱の原因となります。

連桁の傾斜を決定することは、適切な傾斜角度、連桁の両端それぞれのスナップ位置、連桁に一番近い音符と一番内側の連桁線の距離を保つ、できるだけくさび型を作らないようにする、という複数の要素のバランスを取りながら決める作業です。

- 「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**連桁 (Beams)**」ページでは、さまざま状況における最適な連桁の傾斜を設定できます。
- デュレーションが異なる音符の符尾の長さの最小値は、「**浄書オプション (Engraving Options)**」>「**音符 (Notes)**」>「**符尾 (Stems)**」で指定できます。
- 連桁の傾斜は個別に変更できます。

関連リンク

[「浄書オプション \(Engraving Options\)」ダイアログ \(923 ページ\)](#)

[連桁内の休符 \(1131 ページ\)](#)

## 連桁の傾斜を個別に変更する

連桁の傾斜や角度は、個別に変更できます。この操作は現在のレイアウトとフレームチェーンのみに対して、もしくはすべてのレイアウトとフレームチェーンに対して行なえます。

前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。
- 下ゾーンのツールバーで「**プロパティ (Properties)**」を選択しておきます。
- 浄書ツールボックスで「**グラフィックの編集 (Graphic Editing)**」を選択しておきます。
- ローカルのプロパティ変更に関して、適切なプロパティ範囲を選択しておきます。

手順

1. 浄書モードで、傾斜を変更する連桁の角にある四角いハンドルを選択します。

### ヒント

選択したアイテムだけではなく、すべてのアイテムにハンドルを表示するには、「**浄書 (Engrave)**」>「**ハンドルを表示 (Show Handles)**」>「**常時 (Always)**」を選択します。これにより、複数のアイテムの個々のハンドルを選択するのがより簡単になります。

先に連桁を選択してからハンドルを選択することもできます。

2. 以下のいずれかの操作を行なって、ハンドルを移動します。
  - 連桁のハンドルを標準的な幅で上下に移動するには、**[Alt/Opt]** を押しながら対応する矢印キーを押します。たとえば、**[Alt/Opt]+[↑]** を押すと、押すごとに連桁のハンドルが 1/4 分のスペース上に移動します。
  - 連桁のハンドルの移動幅を大きくするには、通常のキーボードショートカットに加え **[Ctrl]/[command]** を押します (例: **[Ctrl]/[command]+[Alt/Opt]+[↑]**)。これにより、キーボードショートカットを押すごとに連桁のハンドルが 1 スペース分移動します。
  - 連桁のハンドルの移動幅を中くらいにするには、通常のキーボードショートカットに加え **[Shift]** を押します (例: **[Shift]+[Alt/Opt]+[↑]**)。これにより、キーボードショートカットを押すごとに連桁のハンドルが 1/2 スペース分移動します。



- 連桁のハンドルの移動幅を小さくするには、通常のキーボードショートカットに加え **[Ctrl]/[command]+[Shift]** を押します (例: **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[Alt/Opt]+[↑]**)。これにより、キーボードショートカットを押すごとに連桁のハンドルが 1/32 スペース分移動します。
  - 選択対象をクリックして上下にドラッグします。
3. 必要に応じて手順 1 と 2 を繰り返し、もう一方のハンドルを移動します。

#### 結果

選択した連桁の傾斜が変更されます。プロパティ範囲を「**ローカル (Locally)**」に設定している場合、この変更は現在のレイアウトおよびフレームチェーンのみに影響します。

#### ヒント

- プロパティパネルの「**連桁 (Beaming)**」グループで「**連桁の方向 (Beam direction)**」の設定を変更することでも連桁の傾斜を変更できます。連桁グループに属する符頭を選択しているときプロパティが利用できます。プロパティのオプションはすべて、連桁の終端の譜表線に対する正しい配置を確保しています。
- 「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**連桁 (Beams)**」ページでは、プロジェクト全体のすべての連桁の最適な傾斜を設定できます。

#### 関連リンク

[プロパティパネル \(826 ページ\)](#)

[プロパティ範囲の変更 \(828 ページ\)](#)

[浄書ツールボックス \(554 ページ\)](#)

## 中央配置の連桁

中央配置の連桁は、同じ連桁グループ内の音符の間に配置される連桁です。連桁よりも高い音符の符尾は下向きに、連桁よりも低い音符の符尾は上向きに記譜されます。



連桁が付いたフレーズの音程の幅が大きい場合、標準の連桁であれば、一部の音符が非常に近くなる一方で一部の音符からは非常に遠くなり、符尾が非常に長くなってしまいます。音程の幅が大きいフレーズに中央配置の連桁を使用すると、符頭と連桁の最大距離を縮めることができますが、譜表内に連桁が配置され、譜表の線が見えにくくなる場合もあります。

初期設定では、第 3 線の両側にある音符をつなぐ連桁を中央配置できます。第 3 線のいずれかの側のみの音符を含む連桁用にカスタムの中央配置の連桁を作成することもできます。



音程に高低差があるフレーズの標準の連桁



同じ高低差があるフレーズの中央配置の連桁

#### ヒント

複数の譜表間の連桁を中央配置するには、譜表をまたぐ連桁を作成します。

#### 関連リンク

[譜表に対する連桁の位置の変更 \(1118 ページ\)](#)

[譜表をまたぐ連桁/トレモロの作成 \(1123 ページ\)](#)


## 連桁を中央に配置する

連桁グループ内の音符の間に連桁を中央配置できます。この操作は現在のレイアウトとフレームチェーンのみに対して、もしくはすべてのレイアウトとフレームチェーンに対して行なえます。

#### 補足

これらの手順は、単一の譜表上の連桁にのみ適用されます。複数の譜表間の連桁を中央配置するには、譜表をまたぐ連桁を作成します。

#### 前提条件

- 浄書モードの場合は、浄書ツールボックスで「**グラフィックの編集 (Graphic Editing)**」を選択しておきます。
- ローカルのプロパティ変更に関して、適切なプロパティ範囲を選択しておきます。

#### 手順

1. 中央揃えを行なう連桁それぞれについて、音符を 1 つ以上選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. 以下のいずれかの操作を行なって、中央配置の連桁を作成します。
  - 選択した連桁に含まれる音符が第 3 線の両側にある場合は、「**編集 (Edit)**」 > 「**記譜 (Notations)**」 > 「**符尾 (Stem)**」 > 「**連桁を強制的に中央に配置 (Force Centered Beam)**」を選択します。
  - 選択した連桁に含まれる音符が第 3 線の片側にのみある場合は、「**編集 (Edit)**」 > 「**記譜 (Notations)**」 > 「**符尾 (Stem)**」 > 「**カスタムの連桁の中央配置 (Custom Centered Beam)**」を選択して「**カスタムの連桁の中央配置 (Custom Centered Beam)**」ダイアログを開きます。

#### ヒント

このオプションはコンテキストメニューでも選択できます。

3. 必要に応じて、カスタムで中央配置された連桁を作成してから、選択した連桁に含まれる各音符の符尾の方向を「**カスタムの連桁の中央配置 (Custom Centered Beam)**」ダイアログで変更し、「**OK**」をクリックします。

#### 結果

連桁が選択した連桁グループ内の音符の中央に配置されます。プロパティ範囲を「**ローカル (Locally)**」に設定している場合、この変更は現在のレイアウトおよびフレームチェーンのみに影響します。

複数の連桁の音符を選択した場合、各連桁が個別に中央に配置されます。中央に配置された単一の連桁を作成する場合は、各連桁グループの音符をまとめて連桁でつなぎます。この操作は、連桁を中央に配置する前でも後でも行なえます。

#### 補足

- Dorico Pro では、フレーズの形に基づいて連桁に自動的に角度が付けられますが、連桁の角度や傾斜は手動でも変更できます。
- 「環境設定 (Preferences)」の「キーボードショートカット (Key Commands)」ページで、「連桁を強制的に中央に配置 (Force Centered Beam)」にキーボードショートカットを割り当てることができます。


#### 関連リンク

[手動で音符に連桁を付ける \(1114 ページ\)](#)  
[連桁の傾斜を個別に変更する \(1120 ページ\)](#)  
[符尾の方向のリセット \(1420 ページ\)](#)  
[浄書ツールボックス \(554 ページ\)](#)

## 連桁の中央配置の解除

連桁の中央配置を解除して、フレーズの上下いずれかの初期設定の位置に戻すことができます。

#### 前提条件

浄書モードの場合は、浄書ツールボックスで「グラフィックの編集 (Graphic Editing)」を選択しておきます。

#### 手順

1. 初期設定の位置に戻す中央配置の連桁それぞれについて、音符を 1 つ以上選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. 「編集 (Edit)」 > 「記譜 (Notations)」 > 「符尾 (Stem)」 > 「連桁の中央配置を解除 (Remove Centered Beam)」を選択します。このオプションはコンテキストメニューでも選択できます。

#### 結果

中央に配置された連桁が初期設定の位置に戻ります。


#### ヒント

「環境設定 (Preferences)」の「キーボードショートカット (Key Commands)」ページで、「連桁の中央配置を解除 (Remove Centered Beam)」にキーボードショートカットを割り当てることができます。

## 譜表をまたぐ連桁/トレモロの作成

譜表をまたぐ連桁/トレモロは、通常の連桁/トレモロと同じように動作するほか、幅広いピッチで構成されるフレーズを複数の譜表に表示できます。譜表をまたぐ連桁/トレモロを作成するには、フレーズのすべての音符を 1 つの譜表に入力して、一部の音符を別の譜表に表示されるよう伸ばします。

#### 前提条件

- 1 つの譜表にフレーズを入力しておきます。
- 浄書モードの場合は、浄書ツールボックスで「グラフィックの編集 (Graphic Editing)」を選択しておきます。

#### 手順

1. 別の譜表まで伸ばす音符を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。

#### 補足

音符を他の譜表まで伸ばして配置できるのは、同じプレイヤーに属する場合のみです。

- 以下のいずれかの操作を行なって、音符を別の譜表まで伸ばします。
  - 音符を上 の 譜表に伸ばすには、**[N]** を押します。
  - 音符を下 の 譜表に伸ばすには、**[M]** を押します。
  - 「編集 (Edit)」 > 「記譜 (Notations)」 > 「譜表まで伸ばす (Cross Staff)」 > 「上 の 譜表まで伸ばす (Cross to Staff Above)」を選択します。
  - 「編集 (Edit)」 > 「記譜 (Notations)」 > 「譜表まで伸ばす (Cross Staff)」 > 「下 の 譜表まで伸ばす (Cross to Staff Below)」を選択します。

#### ヒント

このオプションはコンテキストメニューでも選択できます。

#### 結果

選択した音符が別の譜表に表示され、音符が連桁グループに含まれる場合は、譜表をまたぐ連桁が表示されます。音符が属する譜表はこれにより変更されません。

#### 補足

- すでに音符が置かれている譜表に音符を伸ばすと、譜表にもとからあった音符の符尾の方向が変わる場合があります。これは、同じ位置に複数の声部がある場合の処理方法によるものです。従って、音符の符尾の方向を手動で変更しなければならない場合もあります。
- 音符を他の譜表に移動して、他の譜表に属させることもできます。

#### 例



本来の譜表に表示されている音符



一部の音符を他の譜表に伸ばしてできた譜表をまたぐ連桁

#### 手順終了後の項目

譜表をまたぐ連桁/トレモロの符尾の方向が誤っている場合は、符尾の方向をリセットまたは変更できます。

#### 関連リンク

[符尾の方向のリセット \(1420 ページ\)](#)

[音符の符尾の方向を個別に変更する \(1418 ページ\)](#)

[他の譜表まで伸びた音符をリセットする \(1127 ページ\)](#)

[音符/アイテムを別の譜表に移動する \(506 ページ\)](#)

[音符/アイテムの位置の移動 \(502 ページ\)](#)

[他の声部の音符がすでにある譜表に伸びた音符](#) (1864 ページ)

[複声部の音符位置](#) (1861 ページ)

[音符の入力](#) (248 ページ)

[符尾の方向](#) (1416 ページ)

[声部カラーの表示/非表示](#) (1859 ページ)

[トレモロ](#) (1816 ページ)

[浄書ツールボックス](#) (554 ページ)

## 譜表をまたぐ連桁をオプティカルスペーシングに変更する

レイアウトごとに個別に、譜表をまたぐ連桁について符頭のかわりに符尾の間隔を均一するよう変更できます。こうすることで、符頭が等間隔に配置されている場合よりも、譜表をまたぐ連桁のスペーシングが均一であることを認識しやすくなります。

### 手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[L]** を押して「**レイアウトオプション (Layout Options)**」を開きます。

2. 「**レイアウト (Layouts)**」リストで、譜表をまたぐ連桁をオプティカルスペーシングに変更するレイアウトを選択します。

初期設定では、楽譜領域で選択されているものと同じレイアウトが選択された状態のダイアログが表示されます。他のレイアウトを選択するには、アクションバーの選択オプションを使用するか、複数のレイアウトをまたぐようにクリックしてドラッグするか、**[Shift]** を押しながら隣接するレイアウトをクリックするか、**[Ctrl]/[command]** を押しながら個々のレイアウトをクリックします。

3. カテゴリーリストの「**音符のスペーシング (Note Spacing)**」をクリックします。

4. 「**2つの譜表間の連桁にオプティカルスペーシングを使用 (Use optical spacing for beams between staves)**」をオンにします。

5. 「**適用 (Apply)**」をクリックしてから「**閉じる (Close)**」をクリックします。

### 結果

選択したレイアウトで譜表をまたぐ連桁のオプティカルスペーシングが有効になります。

### 例



デフォルトのスペーシングを使用: 符頭間の距離が均一になる



譜表をまたぐ連桁にオプティカルスペーシングを使用: 符尾間の距離が均一になる

### 関連リンク

[音符のスペーシング](#) (643 ページ)

## 譜表が複数ある場合の譜表をまたぐ連桁の配置

インストゥルメントに3つ以上の譜表がある場合、譜表をまたぐ連桁は何通りかが考えられます。たとえば、連桁が一番上と2番目の譜表の間に配置される場合や、2番めと一番下の譜表の間に配置される場合もあります。

連桁がまたがる譜表が2つだけの場合、譜表をまたぐ連桁はこの2つの譜表の間に配置されます。

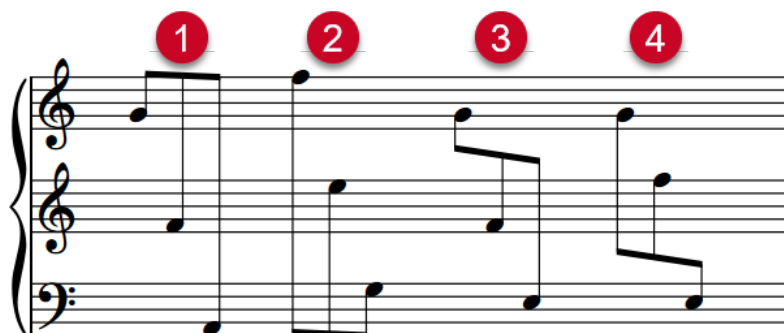


譜表が3つあるインストゥルメントで、上の2つの譜表をまたぐ連桁



譜表が3つあるインストゥルメントで、下の2つの譜表をまたぐ連桁

連桁グループの音符が3つの譜表すべてに乗っている場合、連桁の位置は各譜表の音符の符尾の方向に基づいて決定されます。



- 1 連桁グループのすべての音符の符尾が上向きであれば、連桁が一番上の譜表の上に配置されます。
- 2 連桁グループのすべての音符の符尾が下向きであれば、連桁が一番下の譜表の下に配置されます。
- 3 一番上の譜表の音符の符尾が下向きで、下の2つの譜表の音符の符尾が上向きの場合、連桁が一番上と2番目の譜表の間に配置されます。
- 4 上の2つの譜表の音符の符尾が下向きで、一番下の譜表の音符の符尾が上向きの場合、連桁は2番めと一番下の譜表の間に配置されます。

### 補足

符尾の方向を指定していない場合、連桁を配置したい場所ではなく、音符が入力された譜表の上または下に連桁が配置されることがあります。

連桁を特定の譜表の間に配置するには、連桁グループの音符の符尾の方向を変更します。

### 関連リンク

[音符の符尾の方向を個別に変更する \(1418 ページ\)](#)

## 他の譜表まで伸びた音符をリセットする

他の譜表まで伸びた音符をリセットして、デフォルトの譜表に表示させることができます。予期せぬ連桁を回避するため、譜表をまたぐ音符をコピーして他の譜表に貼り付ける前に、それらの音符をリセットすることをおすすめします。

### 手順

1. リセットする譜表をまたいだ音符を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. 「編集 (Edit)」 > 「記譜 (Notations)」 > 「譜表まで伸ばす (Cross Staff)」 > 「元の譜表にリセット (Reset to Original Staff)」を選択します。このオプションはコンテキストメニューでも選択できます。

### 結果

選択した譜表をまたいだ音符がリセットされてデフォルトの譜表に表示されます。

### ヒント

「環境設定 (Preferences)」の「キーボードショートカット (Key Commands)」ページで、このオプションにキーボードショートカットを割り当てることができます。

## 連桁のでっぱり

連桁の途中で符尾の方向が変わり、これが第2連桁グループの区切りと組み合わせたとき、連桁のでっぱりが生じる場合があります。これは分割の終わりまたはリズム値の変更位置で生じる可能性があります。

連桁のでっぱりは、第2連桁の並び順やリズム上の意味に関するルールに従っておらず、演奏者を混乱させる原因となります。



Dorico Pro ではフレーズ中の音程や符尾を分析して、連桁のでっぱりが発生しないように符尾の方向が調節されます。

## 第2連桁

第2連桁とは、リズムの分割が細かくなった際に、第1連桁と符頭の間に追加される線です。

第1連桁は、連桁グループ内の音符すべてを連結する、一番外側にある連桁線です。連桁グループ内の音符のデュレーションが16分音符以下である場合、第1連桁の線は2本以上になることがあります。

第2連桁は、グループ内の一部の音符だけを連結した追加の連桁線で、これにより連桁が分割され、連桁の拍のグループ分けが明確になります。



第2連桁によって16分音符と8分音符のグループに分割されて表示された64分音符のフレーズ

「記譜オプション (Notation Options)」の「連桁のグループ化 (Beam Grouping)」ページで、第2連桁の分割方法と表示方法をフローごとに設定できます。

関連リンク

[連桁内の休符 \(1131 ページ\)](#)

[「記譜オプション \(Notation Options\)」ダイアログ \(919 ページ\)](#)

[連桁線の間隔を変更する \(1130 ページ\)](#)

## 不完全連桁の方向を変更する

Dorico Pro では、必要に応じて不完全連桁が自動的に入力されます。個々の不完全連桁を符尾のどちら側に表示するかを変更できます。

前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。
- 下ゾーンのツールバーで「プロパティ (Properties)」 を選択しておきます。
- 浄書モードの場合は、浄書ツールボックスで「グラフィックの編集 (Graphic Editing)」 を選択しておきます。

手順

1. 不完全連桁の方向を変更する音符を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「連桁 (Beaming)」グループで「不完全連桁の方向 (Partial beam direction)」をオンにします。
3. 以下のいずれかのオプションを選択します。
  - 左 (Left)
  - 右 (Right)

結果

選択した方向に不完全連桁が表示されます。

例



不完全連桁の方向が左



不完全連桁の方向が右

## 第2連桁の連桁線の数を変更する

第2連桁に表示される連桁線の数を、プロジェクト全体の設定とは別に変更できます。



#### 前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。
- 下ゾーンのツールバーで「プロパティ (Properties)」を選択しておきます。
- 浄書モードの場合は、浄書ツールボックスで「グラフィックの編集 (Graphic Editing)」を選択しておきます。

---

#### 手順

1. 連桁線の数を変更する第2連桁の右側にある音符を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. もしも選択した音符がいずれも第2連桁の既存の分割位置のすぐ後ろにない場合、必要に応じて、以下のいずれかの操作を行なって第2連桁を分割します。
  - プロパティパネルの「連桁 (Beaming)」グループで「第2連桁を分割 (Split secondary beam)」をオンにします。
3. プロパティパネルで、「第2連桁を分割 (Split secondary beam)」メニューから表示させたい連桁線の数に一致する音価を選択します。

#### 補足

音符しか選択していない場合、「連桁 (Beaming)」グループはプロパティパネルにのみ表示されます。

- 「編集 (Edit)」 > 「記譜 (Notations)」 > 「連桁 (Beaming)」 > 「第2連桁を分割 (Split Secondary Beam)」を選択します。このオプションはコンテキストメニューでも選択できます。

---

#### 結果

選択した音符のすぐ左側にある連桁線の数を変更されます。

#### 補足

- このプロパティをオフにすると、選択した音符は連桁線のデフォルトの数を表示するようになります。
- 第2連桁の分割位置に表示される連桁線の本数は、第2連桁の連桁数より少ない数にしか設定できません。たとえば、64分音符で構成される第2連桁を分割する場合、分割位置に表示される連桁線の最大数は、32分音符の音価を示す3本となります。
- 各フローで表示される第2連桁の連桁線のデフォルトの数字を個別に変更するには、「記譜オプション (Notation Options)」にある「連桁のグループ化 (Beam Grouping)」ページで設定を行ないます。

---

#### 関連リンク

[浄書ツールボックス \(554 ページ\)](#)

[「記譜オプション \(Notation Options\)」ダイアログ \(919 ページ\)](#)

[連桁グループのリセット \(1117 ページ\)](#)

## 連符線の間隔を変更する

個々の連符の連符線の間隔を変更できます。これは、特定の状況における浄書で役立つことがあります。この操作は現在のレイアウトとフレームチェーンのみに対して、もしくはすべてのレイアウトとフレームチェーンに対して行なえます。

### 前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。
- 下ゾーンのツールバーで「プロパティ (Properties)」 を選択しておきます。
- 浄書ツールボックスで「グラフィックの編集 (Graphic Editing)」 を選択しておきます。
- ローカルのプロパティ変更に関して、適切なプロパティ範囲を選択しておきます。

### 手順

1. 浄書モードで、連符線の間隔を変更する連符の符頭をすべて選択します。

#### 補足

最良の結果を得るために、各連符のすべての音符を選択することをおすすめします。

2. プロパティパネルの「連符 (Beaming)」グループで「分離 (Separation)」をオンにします。
3. 数値フィールドの値を変更します。

### 結果

選択した連符の連符線の間隔が変更されます。プロパティ範囲を「ローカル (Locally)」に設定している場合、この変更は現在のレイアウトおよびフレームチェーンのみに影響します。

### 関連リンク

[プロパティパネル \(826 ページ\)](#)

[プロパティ範囲の変更 \(828 ページ\)](#)

[連符の太さを変更する \(1117 ページ\)](#)

## 連符内の連符

8分音符のように、連符になる音符が含まれる連符は連符で連結されます。ただし、連符以外の音符も含まれる連符内の連符には、特別な連符のグループ化ルールが適用されます。

第2連符がある連符グループに連符が含まれる場合、初期設定では第2連符が分割され、連符に角括弧が付きます。第1連符は分割されません。連符の角括弧は、必要に応じて個別に表示/非表示にできます。

連符に第1連符しかない場合、初期設定では連符全体がグループから分けられます。ただしこの設定は、「記譜オプション (Notation Options)」の「連符のグループ化 (Beam Grouping)」ページで変更できます。



連符ではない16分音符と連符で連結された16分音符の3連符



連符でない8分音符とは別に連符で連結された8分音符の3連符

関連リンク

[連符 \(1826 ページ\)](#)

[連符の角括弧 \(1831 ページ\)](#)

[連符の数や比率を示す数字 \(1834 ページ\)](#)

## 連符内の休符

連符を休符の上に伸ばすか休符の位置で分割するかなど、休符に対して連符をどのように表示するかについてはさまざまな表記規則があります。

連符内の休符の処理方法を以下の方法で制御できます。

- 「**記譜オプション (Notation Options)**」にある「**連符のグループ化 (Beam Grouping)**」ページでは、連符内にある休符のステムレットの表示方法などを含め、休符に対して第1連符と第2連符をどのように表示するかをフローごとに個別に変更できます。
- 「**浄書オプション (Engraving Options)**」 > 「**音符 (Notes)**」 > 「**符尾 (Stems)**」では、連符グループの開始/終了位置にある休符と、その休符に最も近い連符線の間での最適距離と最小距離を変更できます。

関連リンク

[音符と休符のグループ化 \(1136 ページ\)](#)

[連符の傾斜 \(1119 ページ\)](#)

[「記譜オプション \(Notation Options\)」ダイアログ \(919 ページ\)](#)

[「浄書オプション \(Engraving Options\)」ダイアログ \(923 ページ\)](#)

[不完全連符の方向を変更する \(1128 ページ\)](#)

## ステムレット

ステムレットは連符グループ内で連符から休符に延びる短い符尾です。これを使用すると楽譜が読みやすくなるとともに、連符内の符尾の規則的なパターンを維持できます。

下の例では、すべての音符と休符を連符でつなげて4分音符の長さにまとめることで、音符のシンコペーションを見やすくしています。休符にステムレットが付くことで4分音符の長さの中で音符がどの位置にあるかが明確になります。



ステムレットを使用していないシンコペーション



ステムレットを使用したシンコペーション

ステムレットのデフォルトの外観は各フローで変更でき、個々の連符でステムレットを表示することもできます。


### ヒント

ステムレットの最小の長さ、および休符とステムレットとの間隔のデフォルト値は、「**浄書オプション (Engraving Options)**」 > 「**音符 (Notes)**」 > 「**符尾 (Stems)**」で変更できます。

## 連桁グループ内のステムレットを個別に表示する

ステムレットは、連桁グループ内の休符に個別に表示できます。この場合、フローに設定されたステムレットの表示の初期設定は無視されます。

### 前提条件

浄書モードの場合は、浄書ツールボックスで「グラフィックの編集 (Graphic Editing)」を選択しておきます。

### 手順

1. グループ化する音符と休符のステムレットを選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。  
たとえば、2つの音符の間にある休符にステムレットを表示するには、両方の音符を選択します。連桁でつながれたフレーズの最後にある休符にステムレットを表示するには、連桁内のすべての音符に加え、休符を選択します。
2. 「編集 (Edit)」 > 「記譜 (Notations)」 > 「連桁 (Beaming)」 > 「ステムレット (Stemlets)」 > 「連桁に強制的にステムレットを作成 (Force Stemlet Beam)」を選択します。このオプションはコンテキストメニューでも選択できます。

### 結果

選択した音符は、連桁グループ内にある休符のステムレットにグループ化されます。連桁グループ内にある休符は、自動的に明示的な休符に変更されます。

### 補足

- 選択した連桁グループの連桁をあとからリセットした場合、ステムレットの表示はフローに設定された初期設定に戻ります。
- すべての連桁グループ内にある休符のステムレットを表示するかどうかは、「記譜オプション (Notation Options)」の「連桁のグループ化 (Beam Grouping)」ページでフローごとに個別に選択できます。

### 例



ステムレットなしの連桁



両側の音符を選択した場合のステムレット



連桁グループ内のすべての音符と休符を選択した場合のステムレット

### 関連リンク

[浄書ツールボックス \(554 ページ\)](#)

[「記譜オプション \(Notation Options\)」ダイアログ \(919 ページ\)](#)

[暗黙の休符と明示的な休符 \(1641 ページ\)](#)

[連桁グループのリセット \(1117 ページ\)](#)

## ステムレットを連桁グループ内から個別に削除する

ステムレットは、連桁グループ内の休符から個別に削除できます。この場合、フローに設定されたステムレットの表示の初期設定は無視されます。

前提条件

浄書モードの場合は、浄書ツールボックスで「グラフィックの編集 (Graphic Editing)」を選択しておきます。

手順

1. 休符のステムレットを削除する連桁グループそれぞれについて、音符を1つ以上選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. 「編集 (Edit)」 > 「記譜 (Notations)」 > 「連桁 (Beaming)」 > 「ステムレット (Stemlets)」 > 「連桁にステムレットを作成しない (Suppress Stemlet Beam)」を選択します。このオプションはコンテキストメニューでも選択できます。

結果

選択した連桁内のすべての休符からステムレットが削除されます。連桁に含まれる明示的な休符は、明示的なまま保持されます。

補足

- 連桁からステムレットを削除しても、選択した連桁はフローの初期設定の連桁グループに戻りません。
- 各フローのすべての連桁グループ内にある休符のステムレットを非表示にするには、「記譜オプション (Notation Options)」の「連桁のグループ化 (Beam Grouping)」ページで設定を行ないます。

例



ステムレットのある連桁グループ



ステムレットのない連桁グループ

## 扇形連桁

扇形連桁は、複数の連桁線が反対側の単一の連桁線に向かって広がる場合はアツチェランドを示し、反対側の連桁線に収束する場合はラレンタンドを示します。

1つの扇形連桁内で傾斜方向を複数回変更できます。

連桁には線を2本か3本使用できます。2本より3本の方が大きな速度の変化を表わします。連桁線の収束した部分が最も遅く、広がりきった部分が最も速くなります。

例



3本線のアツチェランドの扇形連桁



2本線のアツチェレランドの扇形連桁



3本線のラレンタンドの扇形連桁




2本線のラレンタンドの扇形連桁

## 扇形連桁を作成する

8分音符、16分音符、32分音符といった連桁を作成できる音符であれば、どのようなグループにでも扇形連桁を作成できます。

### 前提条件

浄書モードの場合は、浄書ツールボックスで「グラフィックの編集 (Graphic Editing)」を選択しておきます。

### 手順

1. 扇形連桁に含める音符を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. 「編集 (Edit)」 > 「記譜 (Notations)」 > 「連桁 (Beaming)」 > 「扇形連桁を作成 (Create Fanned Beam)」 > [向きと線の本数] を選択します。

たとえば、3本線のアツチェレランドの扇形連桁を作成するには、「編集 (Edit)」 > 「記譜 (Notations)」 > 「連桁 (Beaming)」 > 「扇形連桁を作成 (Create Fanned Beam)」 > 「アツチェレランド (三本線) (Accelerando (Three Lines))」を選択します。

### ヒント

このオプションはコンテキストメニューでも選択できます。

### 結果

選択した音符が、元のデュレーションが何であるにかかわらず、ひとつつながりの扇形連桁で連結されます。

### 関連リンク


[浄書ツールボックス \(554 ページ\)](#)

[カスタムライン \(984 ページ\)](#)

## 扇形連桁の方向を変更する

フレーズ内で扇形連桁の方向を変更して、テンポの変更を指示できます。

### 前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。
- 下ゾーンのツールバーで「プロパティ (Properties)」を選択しておきます。
- 浄書ツールボックスで「グラフィックの編集 (Graphic Editing)」を選択しておきます。

手順

1. 浄書モードで、扇形連桁の傾斜方向を変更する位置にある音符の符頭を選択します。フレーズ内の位置は複数選択できます。
  2. プロパティパネルの「連桁 (Beaming)」グループで「扇形連桁の方向を変更 (Change fanned beam direction)」をオンにします。
- 

例



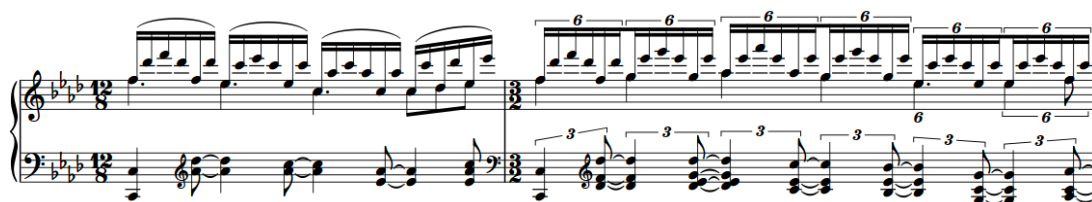
方向を複数回変更した扇形連桁

---

# 音符と休符のグループ化

さまざまなデューレーションによる音符と休符の、さまざまな拍子および前後関係におけるグループ化と記譜の方法については、一般的な表記規則があります。Dorico Pro では、音符は小節に収まるように自動的に調整されて記譜され、フローごとの設定に従ってグループ化されます。

一般的な拍子記号に応じて、さまざまな方法で音符が連桁が連結されます。たとえば、3/4 拍子のように半分に割れない、またはまったく割れない拍子記号においては、小節内のすべての音符を連桁で連結するのが適切な場合があります。



異なる拍子を使用するパッセージ。異なる拍子では音符の連桁のグループ化の形も変わります。拍と小節線をまたぐ音符は自動的にタイでつながれた音符として表示されます。

タイでつながれた音符は、音符と休符のグループ化設定に影響されます。これは、小節内の重要な拍の境界を示すためにタイで連結された音符を分割する方法、および拍の境界をまたいでもよい状況について、さまざまな表記規則が存在するためです。

同様のオプションは付点音符にも適用されます。付点音符は多くの場合、小節の冒頭から始まる場合は付点音符 1 つで記譜されますが、小節の途中から始まる場合は、拍の境界を明確に示すためにタイによる連結で記譜されます。

## ヒント

- 「記譜オプション (Notation Options)」の「音符のグループ化 (Note Grouping)」および「連桁のグループ化 (Beam Grouping)」ページで、音符のグループ化および連桁のグループ化に関するデフォルト設定をフローごとに個別に変更できます。

各オプションには、オプションを反映したときの表記例が示されています。

- 個々の拍子記号内のカスタム連桁グループを指定することもできます。

## 関連リンク

[連桁 \(1112 ページ\)](#)

[拍に従う連桁グループ \(1113 ページ\)](#)

[スラッシュ領域における音符のグループ化 \(1630 ページ\)](#)

[「記譜オプション \(Notation Options\)」ダイアログ \(919 ページ\)](#)

[付点の統合 \(1401 ページ\)](#)

[音符/休符のデューレーションの強制 \(288 ページ\)](#)

[拍子記号のタイプ \(1796 ページ\)](#)

[通し番号付き小節領域 \(1618 ページ\)](#)

[対立する声部での符頭の重なりを許可する/禁止する \(1860 ページ\)](#)



## 拍の境界をまたぐタイを表示/非表示にする

拍の境界をまたぐ音符をタイのつながりとして記譜するか、単一の音符として記譜するかをフローごとに個別に変更できます。これにより、たとえばタイでつながれた2つの4分音符ではなく、半小節にまたがる2分音符として表示するなどできます。

### 手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[N]** を押して「**記譜オプション (Notation Options)**」を開きます。
2. 「**フロー (Flows)**」リストから、拍の境界をまたぐタイを表示または非表示にするフローを選択します。  
初期設定では、現在のフローのみを選択した状態のダイアログが表示されます。他のフローを選択するには、アクションバーの「**すべて選択 (Select All)**」をクリックするか、複数のフローをまたぐようにクリックしてドラッグするか、**[Shift]** を押しながら隣接するフローをクリックするか、**[Ctrl]/[command]** を押しながら個々のフローをクリックします。
3. カテゴリーリストの「**音符のグループ化 (Note Grouping)**」をクリックします。
4. 必要に応じて設定を変更します。  
半小節のある拍子記号とない拍子記号の拍の境界をまたぐタイ、休符が続く音符、シンコペーションリズムパターンのタイには、それぞれ個別のオプションがあります。
5. 「**適用 (Apply)**」をクリックしてから「**閉じる (Close)**」をクリックします。

### 結果

音符は、選択したフローの対応する状況において、タイのつながりまたは単一の音符として記譜されます。

### ヒント

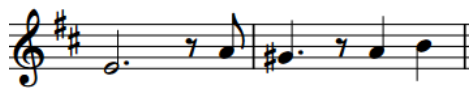
個々の音符/休符のデュレーションを強制して記譜記号を指定することもできます。

### 例

- 「**小節の頭または複数拍の長さを持つ半小節の頭から始まる音符 (Notes starting at the start of the bar or the half-bar of multiple beats in duration)**」は、最初の小節の付点2分音符に影響します。
- 「**拍で始まり、拍の途中で終わった後に休符が続く音符 (Notes starting on a beat followed by a rest in the middle of the beat)**」は、2小節めの付点4分音符に影響します。



半小節/拍の境界で分割された音符



単一の音符として記譜された音符

### 関連リンク

[「記譜オプション \(Notation Options\)」ダイアログ \(919 ページ\)](#)

[拍に従う連符グループ \(1113 ページ\)](#)

[音符/休符のデュレーションの強制 \(288 ページ\)](#)




## 拍子のカスタム連桁グループを作成する

使用中の楽譜の特定の拍子で、デフォルトと異なる連桁のグループ化の設定が必要な場合、拍子記号に対して特定の連桁のグループ化を指定できます。拍子記号に指定したカスタム連桁グループを表示するかを設定できます。拍子記号を特定の譜表だけに入力することもできます。

### 補足

連桁のグループのデュレーションは、適用中の拍子記号における拍のグループ化、および「記譜オプション (Notation Options)」のフローごとの連桁グループ化の設定に従います。たとえば、拍子記号のポップオーバーに「 $[1+1+1+1]/4$ 」と入力すると、4分音符のグループが4つの拍子記号を挿入します。これは半小節の拍子記号を作成するため、半小節の拍子記号の連桁グループオプションが適用されます。

### 手順

1. 記譜モードで、以下のいずれかの操作を行ないます。
  - 音符の入力を開始します。
  - カスタム連桁グループを使った拍子記号を入力する位置にあるアイテムを選択します。単一の譜表にカスタム連桁グループを使った拍子記号を入力するには、その譜表のみに属するアイテムを選択します。
2. カスタム連桁グループを使った拍子記号を特定の複数の譜表に同時に入力する場合は、それらの譜表にキャレットを伸ばします。
3. 新しい拍子記号の影響を受ける領域の終わりに、必要に応じて拍が自動的に追加されるようにするには、以下のいずれかの操作を行なって挿入モードを有効にします。
  - **[I]** を押します。
  - 音符ツールボックスの「挿入 (Insert)」 をクリックします。
4. 以下のいずれかの操作を行なって拍子記号のポップオーバーを開きます。
  - **[Shift]+[M]** を押します。
  - 記譜ツールボックスで「ポップオーバー (Popovers)」 をクリックし、「拍子記号 (拍子) (Time Signatures (Meter))」 をクリックします。
5. ポップオーバーの角括弧に分割した値を入力します。  
たとえば、7/8 の拍子記号を 2+3+2 に分割するには、ポップオーバーに「 $[2+3+2]/8$ 」と入力します。5/4 の拍子記号を 3+2 ではなく 2+3 に分割するには、ポップオーバーに「 $[2+3]/4$ 」と入力します。
6. 以下のいずれかの操作を行なって、拍子記号を入力してポップオーバーを閉じます。
  - すべての譜表に拍子記号を入力するには、**[Return]** を押します。
  - 選択した譜表またはキャレットが伸びている譜表にのみ拍子記号を入力するには、**[Alt/Opt]+[Return]** を押します。

### 結果

指定した拍子記号が入力され、以降の小節においては、指定した分割に従って連桁と拍がグループ化されます。「浄書オプション (Engraving Options)」にある「拍子記号 (Time Signatures)」ページの設定に応じて、拍子記号は 7/8 のような単一の数字、もしくは  $2+3+2/8$  のような拍のグループで表示されます。

#### ヒント

個々の拍子記号の分子の外観は、プロジェクト全体の設定とは別に、単一の数字を表示させるか拍のグループを表示させるかを変更できます。

---

#### 関連リンク

[拍子記号のポップオーバー \(311 ページ\)](#)

[拍子記号のスタイル \(1804 ページ\)](#)

## カットコモン拍子記号の拍のグループ化を変更する

カットコモン拍子記号の拍のグループ化を、フローごとの設定とは別に変更できます。たとえば、2/2 などの一部のカットコモン拍子記号について、4/4 のようなコモン拍子記号と同じ方法で音符と休符をグループ化する場合に行ないます。

#### 前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。
- 下ゾーンのツールバーで「プロパティ (Properties)」を選択しておきます。
- 浄書モードの場合は、浄書ツールボックスで「グラフィックの編集 (Graphic Editing)」を選択しておきます。

---

#### 手順

1. 拍のグループ化を変更するカットコモン拍子記号を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「拍子記号 (Time Signatures)」グループで、「コモンタイムの音符のグループ化を使用 (Use common time note grouping)」をオンまたはオフにします。

---

#### 結果

「コモンタイムの音符のグループ化を使用 (Use common time note grouping)」をオンにすると、選択したカットコモン拍子記号にコモンタイムの拍のグループ化が使用され、オフにするとカットコモンタイムの拍のグループ化が使用されません。

#### ヒント

各フローのすべてのカットコモン拍子記号の拍のグループ化を個別に変更するには、「記譜オプション (Notation Options)」 > 「音符のグループ化 (Note Grouping)」 > 「半小節のある拍子記号 (Time Signatures With Half-bars)」で行ないます。

---

#### 関連リンク

[「記譜オプション \(Notation Options\)」 ダイアログ \(919 ページ\)](#)

[拍子記号のタイプ \(1796 ページ\)](#)

[コモン/カットコモン拍子記号の外観を変更する \(1808 ページ\)](#)

[拍子記号と弱起の入力方法 \(311 ページ\)](#)

[ゾーンの表示/非表示の切り替え \(48 ページ\)](#)

[プロパティパネル \(826 ページ\)](#)

[浄書ツールボックス \(554 ページ\)](#)

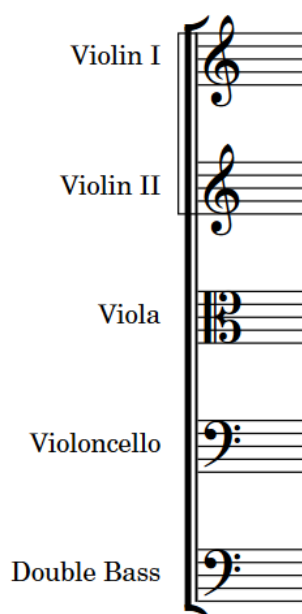
# 大括弧と中括弧

大括弧と中括弧は左側の余白にそれぞれ太い直線と曲線で描画され、インストゥルメントのグループを表わします。

## 大括弧

大括弧は連符と同じ太さの太い黒線で、一般的にインストゥルメントのファミリー別にインストゥルメントをグループ化します。多くの場合、両端がスコア側に向かって羽根のように伸びています。

大括弧は常に組段の小節線の左側に直接配置されます。大括弧に追加して第2括弧が使用された場合、1つめの括弧からスペースを空けて、組段の開始位置からさらに離れた位置に配置されます。



弦楽器のインストゥルメントを大括弧でくくった例。副括弧で2つのバイオリンの譜表がくくられています。

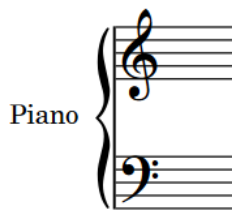
Dorico Pro の初期設定では、大括弧および中括弧でくくられた譜表が小節線によっても連結されます。つまり大括弧でくくられた複数の譜表や中括弧でくくられた複数の譜表は、グループ全体が小節線で連結されます。

## 中括弧

中括弧は波線または曲線で、同じインストゥルメントに属する複数の譜表をくくります。通常はピアノやハーブなどの大譜表を使用するインストゥルメントに使用されます。中括弧は必要に応じて3つ以上の譜表にまたがることもできますが、2つが最も一般的です。

大括弧でくくられたインストゥルメントファミリーの譜表の中で、同じインストゥルメントのグループを表わすために副括弧のかわりに使用される場合もあります。

中括弧は組段の小節線の外側に配置され、副括弧として使用される場合は大括弧の外側に配置されます。



中括弧でピアノの譜表2つをくくった例

#### 補足

- 譜表に大括弧と中括弧が同時に付くことはありません。そのため、中括弧の付いた譜表は大括弧のグループからは除外されます。また、中括弧の付いた譜表に副括弧や小副括弧は表示できません。
- 組段オブジェクトは、大括弧または中括弧によって括られたインストゥルメントファミリーの上のみ表示されます。
- 最後のフローの後ろに表示される場合のみ、空白の譜表に大括弧/中括弧を表示できます。楽曲フレーム内の空白の譜表に大括弧/中括弧を表示することはできません。

#### 関連リンク

[譜表グループをまたぐ小節線](#) (1088 ページ)

[プレーヤーグループ](#) (183 ページ)

[第2括弧](#) (1145 ページ)

[アンサンブルタイプによる大括弧でのグループ化](#) (1143 ページ)

[デフォルトの小節線の結合を変更する](#) (1090 ページ)

[カスタムの譜表のグループ化](#) (1148 ページ)

[「インストゥルメントを編集 \(Edit Instruments\)」ダイアログ](#) (950 ページ)

[インストゥルメントファミリー](#) (960 ページ)

[組段オブジェクト](#) (1717 ページ)

[譜表ラベル](#) (1684 ページ)

[プレーヤーグループのラベル](#) (1695 ページ)

## 浄書オプションで大括弧 (ブラケット) と中括弧 (ブレイス) の設定をプロジェクト全体に適用する

「[浄書オプション \(Engraving Options\)](#)」の「[大括弧 \(ブラケット\) と中括弧 \(ブレイス\) \(Brackets and Braces\)](#)」ページで大括弧と中括弧の外観を設定し、プロジェクト全体に適用できます。

「[大括弧と中括弧 \(Brackets and Braces\)](#)」ページのオプションを使用すると、大括弧の終端の羽根の表示/非表示を切り替えたり、大括弧、中括弧、副括弧、小副括弧、および組段の小節線などのその他のアイテムの間隔を調節したりするなどして、大括弧のデザインを変更できます。また、異なるデザインの中括弧を自動的に適用するためのスパンのしきい値を設定することもでき、平坦な中括弧を表示しないようにすることもできます。

オプションと一緒に表示される図は、オプションを楽譜に適用したときにどのように表示されるかを示します。

#### 関連リンク

[「浄書オプション \(Engraving Options\)」ダイアログ](#) (923 ページ)

## アンサンブルタイプごとの大括弧によるグループ化の変更

レイアウトごとにアンサンブルタイプを変更することで、大括弧にどの譜表を含めるかを変更できます。たとえば、すべての打楽器プレーヤーを含むパートレイアウトの括弧のくくり方をフルスコアレイアウトの打楽器の譜表と変える必要がある場合などに便利です。

初期設定では「オーケストラ (Orchestral)」が選択されています。小アンサンブル用のプロジェクトでは、この設定を変更することをおすすめします。

---

### 手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[L]** を押して「レイアウトオプション (Layout Options)」を開きます。
2. ブラケットのグループ化のアンサンブルタイプを変更するレイアウトを「レイアウト (Layouts)」リストから選択します。  
初期設定では、楽譜領域で選択されているものと同じレイアウトが選択された状態のダイアログが表示されます。他のレイアウトを選択するには、アクションバーの選択オプションを使用するか、複数のレイアウトをまたぐようにクリックしてドラッグするか、**[Shift]** を押しながら隣接するレイアウトをクリックするか、**[Ctrl]/[command]** を押しながら個々のレイアウトをクリックします。
3. カテゴリリストの「大括弧と中括弧 (Brackets and Braces)」を選択します。
4. 「アンサンブルタイプ (Ensemble type)」で以下のいずれかのオプションを選択します。
  - 大括弧なし (No brackets)
  - オーケストラ (Orchestral)
  - 小アンサンブル (Small ensemble)
  - 吹奏楽 (Wind band)
  - ビッグバンド (Big band)
  - 英国式ブラスバンド (British brass band)
5. 「適用 (Apply)」をクリックしてから「閉じる (Close)」をクリックします。

---

### 結果

選択したレイアウトの大括弧のグループ化に関するデフォルトが変更されます。

### ヒント

- 大括弧のグループ内にインストゥルメントが1つしかない場合の大括弧の表示/非表示を切り替えたり、譜表が1つだけ表示されている場合の中括弧の表示/非表示を切り替えたりするなど、「大括弧と中括弧 (Brackets and Braces)」ページには括弧に関するより詳細なオプションが用意されています。
- プレーヤーグループとソリストは、どの譜表が大括弧でくくられるかにも影響します。
- また、そのレイアウトの大括弧のグループ化に関する設定より優先される形で、特定の譜表にカスタムの大括弧/中括弧のグループを設定することもできます。ただし、空白の譜表に大括弧/中括弧を表示したり変更したりすることはできません。

---

### 関連リンク

- [譜表グループをまたぐ小節線 \(1088 ページ\)](#)
- [インストゥルメントファミリー \(960 ページ\)](#)
- [最終フローのあとの空白の譜表を表示/非表示にする \(753 ページ\)](#)
- [フレーム内に空白の譜表を表示する \(755 ページ\)](#)
- [プレーヤーグループ \(183 ページ\)](#)

[プレーヤーをソリストに指定](#) (139 ページ)

[譜表ラベル](#) (1684 ページ)

[プレーヤーグループのラベル](#) (1695 ページ)

## アンサンブルタイプによる大括弧でのグループ化

Dorico Pro では、デフォルトの譜表のグループ化は、レイアウトごとに選択したアンサンブルタイプによって決まります。これは、どの譜表が大括弧でくくられ、小節線で結合されるかに影響します。

「**レイアウトオプション (Layout Options)**」の「**大括弧と中括弧 (Brackets and Braces)**」ページで、以下のアンサンブルタイプから選択できます。

### 大括弧なし (No brackets)

大括弧を使用せずに、すべての譜表が別々に表示されます。大譜表を使用するインストゥルメントには中括弧が表示されます。

これは、「**ソロ (Solo)**」および小編成の「**ジャズ (Jazz)**」プロジェクトテンプレートから開始したプロジェクトのフルスコアレイアウトのデフォルト設定です。

### オーケストラ (Orchestral)

譜表はインストゥルメントファミリーごとに大括弧でくくられます。たとえば、隣接する弦楽器は、隣接する木管楽器とは別の括弧でくくられます。ただし、声部の譜表は小節線で結合されません。

これは、新規プロジェクトおよび「**オーケストラ (Orchestral)**」、「**合唱および声楽 (Choral and Vocal)**」、「**コンサートバンド (Concert band)**」プロジェクトテンプレートから開始したプロジェクト、そしてその他のすべてのプロジェクトテンプレートから開始したプロジェクトのカスタムスコアレイアウトおよびパートレイアウトのデフォルト設定です。

### 小アンサンブル (Small ensemble)

インストゥルメントファミリーに関係なく、中括弧が付く譜表を除いたプロジェクトのすべての譜表が大括弧でくくられます。

これは、「**室内楽 (Chamber)**」および「**ピットバンド (Pit band)**」プロジェクトテンプレートから開始したプロジェクトのフルスコアレイアウトのデフォルト設定です。

### 吹奏楽 (Wind band)

譜表はインストゥルメントタイプごとに大括弧でくくられます。たとえば、フルート1とフルート2は大括弧でくくられますが、ほかの木管楽器とは別になります。

### ビッグバンド (Big band)

譜表はインストゥルメントファミリーごとに大括弧でくくられますが、例外で金管楽器はインストゥルメントタイプごとに大括弧でくくられます。

リズムセクションのインストゥルメントは大括弧でくくられます。

打楽器とティンパニは大括弧でくくられます。

### 英国式ブラスバンド (British brass band)

金管楽器はインストゥルメントタイプごとに大括弧でくくられますが、例外でホルンとトランペットは一緒に大括弧でくくられます。

スコア内のその他すべてのインストゥルメントは、インストゥルメントファミリーごとに大括弧でくくられます。

打楽器とティンパニは個別に大括弧でくくられます。

これは、「**ビッグバンド (Big band)**」プロジェクトテンプレートから開始したプロジェクトのフルスコアレイアウトのデフォルト設定です。

## 補足

- 譜表に大括弧と中括弧が同時に付くことはありません。そのため、ピアノや大譜表を使用するその他のインストゥルメントなどの連合譜表は大括弧から除外されます。またそれらの楽器が大括弧でくくられたグループ内に配置された場合は、別の大括弧でくくられます。
- 初期設定では、大括弧を表示するには、隣接する楽器が少なくとも2つは必要です。「レイアウトオプション (Layout Options)」の「大括弧と中括弧 (Brackets and Braces)」ページで、単一のインストゥルメントに大括弧を表示するかどうかをレイアウトごとに選択できます。
- プレーヤーグループとソリストは、どの譜表が大括弧でくくられるかにも影響します。
- 声部の譜表は、たとえ大括弧でくくられていても小節線では結合されません。
- 組段オブジェクトは、大括弧または中括弧によって括られたインストゥルメントファミリーの上のみ表示されます。

## 関連リンク

[「レイアウトオプション \(Layout Options\)」ダイアログ \(917 ページ\)](#)

[プロジェクトテンプレート \(84 ページ\)](#)

[組段オブジェクト \(1717 ページ\)](#)

[インストゥルメントファミリー \(960 ページ\)](#)

## 1つの譜表の中括弧を表示/非表示にする

1つの譜表の中括弧をレイアウトごとに個別に表示/非表示にできます。たとえば、ピアノ譜で両方の譜表が表示されている場合のみ中括弧を表示するなどできます。

## 手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[L]** を押して「レイアウトオプション (Layout Options)」を開きます。
2. 「レイアウト (Layouts)」リストで、1つの譜表の中括弧を表示/非表示にするレイアウトを選択します。  
初期設定では、楽譜領域で選択されているものと同じレイアウトが選択された状態のダイアログが表示されます。他のレイアウトを選択するには、アクションバーの選択オプションを使用するか、複数のレイアウトをまたぐようにクリックしてドラッグするか、**[Shift]** を押しながら隣接するレイアウトをクリックするか、**[Ctrl]/[command]** を押しながら個々のレイアウトをクリックします。
3. カテゴリーリストの「大括弧と中括弧 (Brackets and Braces)」を選択します。
4. 「中括弧グループの譜表が1つだけ表示される場合 (When only one staff of braced group is shown)」で以下のいずれかのオプションを選択します。
  - 中括弧を描画 (Draw brace)
  - 中括弧を描画しない (Do not draw brace)
5. 「適用 (Apply)」をクリックしてから「閉じる (Close)」をクリックします。

## 大括弧の終端の外観を変更する

大括弧の終端の外観を変更して、プロジェクト全体に適用できます。これにより、たとえば終端に羽根を表示させず何も無い状態にできます。

## 手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[E]** を押して「浄書オプション (Engraving Options)」を開きます。



2. カテゴリーリストの「大括弧と中括弧 (Brackets and Braces)」を選択します。
3. 「デザイン (Design)」セクションの「大括弧の終端のデザイン (Bracket end design)」で、以下のいずれかのオプションを選択します。
  - 羽根付き (Wings) (初期設定)



- 横棒線 (Horizontal line)



- なし (None)



関連リンク

[リピート小節線に羽根を表示/非表示にする \(1086 ページ\)](#)

## 第2括弧

第2括弧は第2レベルの譜表のグループ化です。これらは大括弧の左側に配置され、大括弧でくくられたグループ内の譜表グループにマークを付けることができます。Dorico Pro では、第2括弧を中括弧または副括弧として表示できます。

初期設定では第2括弧は副括弧として表示され、大括弧の外側に細い線の角括弧で表わされます。第2括弧の外観を変更したり、大括弧のグループ内の隣接する同一のインストゥルメントの第2括弧の表示/非表示をレイアウトごとに切り替えたりできます。



副括弧としての第2括弧



中括弧としての第2括弧

### 補足

中括弧に加えて小副括弧を表示することはできません。小副括弧は副括弧にのみ追加できます。

カスタムの大括弧/中括弧のグループを使用すると、選択した位置から先に副括弧を入力したり削除したりできます。

「浄書オプション (Engraving Options)」 > 「大括弧と中括弧 (Brackets and Braces)」 > 「デザイン (Design)」 > 「副括弧 (Sub-brackets)」で、副括弧を組段の小節線まで伸ばすか、あるいは大括弧までにするかなど、第2括弧の位置と外観のさまざまな設定を変更できます。

関連リンク

[「浄書オプション \(Engraving Options\)」ダイアログ \(923 ページ\)](#)

[カスタムの譜表のグループ化 \(1148 ページ\)](#)

## 第2括弧の表示/非表示を切り替える

大括弧のグループ内の隣接する同一のインストゥルメントの第2括弧の表示/非表示をレイアウトごとに個別に切り替えることができます。副括弧によるグループに少なくとも2つの譜表が含まれる場合にのみ第2括弧を表示するよう選択することもできます。

---

手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[L]** を押して「**レイアウトオプション (Layout Options)**」を開きます。
  2. 「**レイアウト (Layouts)**」リストで、第2括弧を表示/非表示にするレイアウトを選択します。  
初期設定では、楽譜領域で選択されているものと同じレイアウトが選択された状態のダイアログが表示されます。他のレイアウトを選択するには、アクションバーの選択オプションを使用するか、複数のレイアウトをまたぐようにクリックしてドラッグするか、**[Shift]** を押しながら隣接するレイアウトをクリックするか、**[Ctrl]/[command]** を押しながら個々のレイアウトをクリックします。
  3. カテゴリーリストの「**大括弧と中括弧 (Brackets and Braces)**」を選択します。
  4. 「**大括弧グループ内の同じ種類の楽器 (Instruments of the same kind within a bracketed group)**」で以下のいずれかのオプションを選択します。
    - 第2括弧を使用 (Use secondary brackets)
    - 第2括弧を使用しない (No secondary brackets)
  5. 「**副括弧グループの譜表が1つだけ表示される場合 (When only one staff of sub-bracketed group is shown)**」で以下のいずれかのオプションを選択します。
    - 副括弧を描画 (Draw sub-bracket)
    - 副括弧を描画しない (Do not draw sub-bracket)
  6. 「**副括弧と第1括弧が一致する場合 (When sub-bracket matches primary bracket)**」で以下のいずれかのオプションを選択します。
    - 副括弧を描画 (Draw sub-bracket)
    - 副括弧を描画しない (Do not draw sub-bracket)
  7. 「**隣り合うバイオリンプレーヤーの副括弧 (Sub-brackets for adjacent violin players)**」で以下のいずれかのオプションを選択します。
    - すべてのバイオリン譜表をまたいで1つの副括弧を表示するには、「**1つ (Single)**」を選択します。
    - バイオリン奏者ごとに個別の副括弧を表示するには、「**分離 (Separate)**」を選択します。
    - 各バイオリン奏者が1つの譜表を使用する場合は1つの副括弧を表示し、ディヴィジセクションのように、少なくとも1人の奏者が複数の譜表を使用する場合はバイオリン奏者ごとに個別の副括弧を表示するには、「**複数の譜表に分離 (Separate for multiple staves)**」を選択します。
  8. 「**適用 (Apply)**」をクリックしてから「**閉じる (Close)**」をクリックします。
-

#### 結果

「第2括弧を使用 (Use secondary brackets)」を選択すると、選択したレイアウトに第2括弧が表示され、「第2括弧を使用しない (No secondary brackets)」を選択すると非表示になります。

「第2括弧を使用 (Use secondary brackets)」と「副括弧を描画しない (Do not draw sub-bracket)」を選択すると、副括弧によるグループに少なくとも2つの譜表が含まれる場合にのみ第2括弧が表示されます。

#### ヒント

カスタムの大括弧/中括弧のグループを使用すると、選択した位置から先に副括弧を表示できます (初期設定では非表示になっているレイアウトを含む)。

---

## 第2括弧を副括弧/中括弧として表示する

第2括弧は大括弧の範囲を超えて表示されるため、大括弧内のグループに含まれる譜表にマークを付けられません。第2括弧は大括弧の外に表示される中括弧、または副括弧として、レイアウトごとに個別に表示できます。

---

#### 手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[L]** を押して「レイアウトオプション (Layout Options)」を開きます。
  2. 第2括弧の外観を変更するレイアウトを「レイアウト (Layouts)」リストから選択します。  
初期設定では、楽譜領域で選択されているものと同じレイアウトが選択された状態のダイアログが表示されます。他のレイアウトを選択するには、アクションバーの選択オプションを使用するか、複数のレイアウトをまたぐようにクリックしてドラッグするか、**[Shift]** を押しながら隣接するレイアウトをクリックするか、**[Ctrl]/[command]** を押しながら個々のレイアウトをクリックします。
  3. カテゴリーリストの「大括弧と中括弧 (Brackets and Braces)」を選択します。
  4. 「第2括弧の外観 (Secondary bracket appearance)」で以下のいずれかのオプションを選択します。
    - 中括弧 (ブレイス) (Brace)
    - 副括弧 (Sub-bracket)
  5. 「適用 (Apply)」をクリックしてから「閉じる (Close)」をクリックします。
- 

#### 結果

選択したレイアウトのすべての第2括弧の外観が変更されます。これには、カスタムの大括弧/中括弧のグループの第2括弧も含まれます。

#### 補足

中括弧に加えて小副括弧を表示することはできないため、副括弧が中括弧として表示されるレイアウトには小副括弧が表示されません。

---

## 小副括弧

小副括弧は譜表のグループ化の第3階層で、副括弧と同じデザインを使用します。これは大括弧と副括弧より外側に位置し、大括弧と副括弧によるグループ内にさらに譜表のグループを作成できます。Dorico Proでは、小副括弧は角括弧の外観しか使用できません。

小副括弧はそれが属する副括弧の外側に延ばすことはできず、中括弧の付く譜表には、中括弧が第1グループまたは第2グループのいずれであっても表示できません。



カスタムの大括弧/中括弧のグループを使用すると、選択した位置から先に小副括弧を入力したり削除したりできます。

「浄書オプション (Engraving Options)」 > 「大括弧と中括弧 (Brackets and Braces)」 > 「デザイン (Design)」 > 「小副括弧 (Sub-sub-brackets)」では、小副括弧の線の太さ、幅およびデザインを変更できます。

## カスタムの譜表のグループ化

Dorico Proでは、デフォルトの括弧設定には含まれない譜表グループがプロジェクトに必要な場合、カスタムの譜表のグループ化を使用して、大括弧、中括弧、副括弧、小副括弧、または小節線で、どの譜表を結合するか変更できます。

デフォルトの譜表グループに対する変更はすべて大括弧と小節線の変更のガイドとして表示されます。これには変更の適用が開始される位置も表示されます。これらは現在のレイアウトの譜表のグループ化にのみ影響します。

大括弧と小節線の変更のガイドが組段の開始位置に配置されている場合、対応する譜表のグループ化の変更は、その組段以降に適用されます。ガイドが組段の途中に配置されている場合、変更は次の組段から適用されます。

Bracket and Barline Change

チェロのディヴィジのパートを分割する小副括弧が追加されたことと、小節線が弦楽器全体ではなく同じインストゥルメントタイプの譜表のみ結合することを示す大括弧と小節線の変更のガイド

#### 補足

- 最良の結果を得るために、大括弧/中括弧のグループ化や小節線の結合の変更は、追加の譜表、オssia譜表、または追加のインストゥルメントを追加してから入力すること、またその際はレイアウト中のすべての譜表を表示しておくことをおすすめします。空白の譜表は、変更を入力したあとに再度非表示にできます。

また、大括弧/中括弧のグループ化や小節線の結合の変更はすべてフローの開始位置に入力しつつ、曲中の変更があれば時系列順に追加することをおすすめします。フローの終わり側から入力を開始することをおすすめしません。

- 最後のフローの後ろに表示される空白の譜表の大括弧/中括弧を変更したり、楽曲フレーム内の空白の譜表に大括弧/中括弧を表示したりすることはできません。
- プレーヤーグループとソリストは、どの譜表が大括弧でくられるかにも影響します。
- 「**インストゥルメントを編集 (Edit Instruments)**」ダイアログで個々のインストゥルメントに表示されるデフォルトの大括弧/中括弧を変更すると、コンピューター上のそれ以降のすべてのプロジェクトで使用できるようになります。

#### 関連リンク

[ガイド \(490 ページ\)](#)

[譜表グループをまたぐ小節線 \(1088 ページ\)](#)

[空白の譜表の表示/非表示を切り替える \(750 ページ\)](#)

[最終フローのあとの空白の譜表を表示/非表示にする \(753 ページ\)](#)

[フレーム内に空白の譜表を表示する \(755 ページ\)](#)

[プレーヤーグループ \(183 ページ\)](#)

[プレーヤーをソリストに指定 \(139 ページ\)](#)

[「インストゥルメントを編集 \(Edit Instruments\)」ダイアログ \(950 ページ\)](#)

## カスタムの大括弧/中括弧のグループを入力する

カスタムの大括弧/中括弧のグループ化の変更はどの位置にでも入力できます。これは大括弧、副括弧、小副括弧および中括弧でどの譜表をグループ化するか変更するものです。

### 補足

最後のフローの後ろに表示される空白の譜表の大括弧/中括弧を変更したり、楽曲フレーム内の空白の譜表に大括弧/中括弧を表示したりすることはできません。

### 前提条件

- 左ゾーンを表示しておきます。
- 浄書ツールボックスで「グラフィックの編集 (Graphic Editing)」を選択しておきます。

### 手順

1. 浄書モードで、その開始位置から変更を適用する組段の、大括弧/中括弧でグループ化する一番上の譜表のアイテムを選択します。
2. 大括弧/中括弧でグループ化する一番下の譜表のアイテムを、**[Ctrl]/[command]** を押しながらかクリックします。
3. 形式設定パネルで、「括弧 (Bracketing)」グループから以下のいずれかをクリックします。

- 大括弧を挿入 (Insert bracket)



- 副括弧を挿入 (Insert sub-bracket)



- 小副括弧を挿入 (Insert sub-sub-bracket)



- 中括弧を挿入 (Insert brace)



### 結果

アイテムを選択した譜表とその間のすべての現在のレイアウトの譜表が選択した大括弧または中括弧で結合されます。これは次の大括弧と小節線の変更がある位置か、フローの終了位置のいずれか先に到達したところまで適用されます。アイテムを選択していた組段の開始位置にガイドが表示されます。

大括弧/中括弧は重なり合えないため、既存の大括弧または中括弧のグループ化がある場合、新しいグループを表示できるように必要に応じて調整されます。

#### 補足

- 大括弧と小節線の変更のガイドは、組段の開始位置に適用されるものであるため移動できません。ただし、たとえば組段区切りを移動したような場合は、組段の途中に表示されることもあります。大括弧と小節線の変更のガイドが組段の途中に位置する場合、対応する変化の効果は次の組段の開始位置まで現れません。
- 第2括弧の外観のレイアウトごとの設定によっては、副括弧が中括弧として表示される場合があります。中括弧に加えて小副括弧を表示することはできないため、副括弧が中括弧として表示されるレイアウトには小副括弧が表示されません。
- 譜表に大括弧と中括弧が同時に付くことはありません。そのため、中括弧の付いた譜表は大括弧のグループからは除外されます。

#### 例



デフォルトの譜表のグループ化によるチェロのディヴィジの譜表

小副括弧が追加されたディヴィジ譜表

#### 関連リンク

[浄書ツールボックス \(554 ページ\)](#)

[形式設定パネル \(556 ページ\)](#)

[ゾーンの表示/非表示の切り替え \(48 ページ\)](#)

[第2括弧を副括弧/中括弧として表示する \(1147 ページ\)](#)

[最終フローのあとの空白の譜表を表示/非表示にする \(753 ページ\)](#)

[フレーム内に空白の譜表を表示する \(755 ページ\)](#)

## カスタムの大括弧/中括弧の長さを変更する

カスタムの大括弧/中括弧は、垂直方向の長さを変更して譜表の範囲を変更できます。たとえば大括弧のグループの下に新しくプレーヤーを追加して、その譜表まで大括弧を延長する場合などに使用できます。

#### 前提条件

浄書ツールボックスで「**グラフィックの編集 (Graphic Editing)**」を選択しておきます。

#### 手順

1. 浄書モードで、長さを変更する大括弧/中括弧の上端か下端いずれかのハンドルを選択します。

#### ヒント

大括弧/中括弧の変更は、ガイドの位置から次の既存の変更がある位置かフローの終了位置のいずれか先に到達したところまで適用されるため、1回の変更につき選択する大括弧/中括弧のハンドルは1つだけで構いません。

2. 以下のいずれかの操作を行なって、ハンドルを移動します。
  - 1つ上の譜表へ移動させるには、**[Alt/Opt]+[↑]** を押します。
  - 1つ下の譜表へ移動させるには、**[Alt/Opt]+[↓]** を押します。
  - ハンドルをクリックして上か下の譜表に向かって上か下にドラッグします。

#### 結果

選択した大括弧/中括弧の長さが変わって、上か下につながる譜表の範囲が変更されます。これは、対応する大括弧と小節線の変更が適用されるすべての組段の、大括弧/中括弧に含まれる譜表に影響します。

#### 補足

各譜表に大括弧/中括弧は1つしか存在できず、重なり合うこともできません。選択した大括弧/中括弧の長さを変更した結果、一部が他の大括弧/中括弧に重なった場合、他の大括弧/中括弧はそれに合わせて短縮されます。

この動作は元に戻せますが、このとき影響された他の大括弧/中括弧の長さを復元できるのは、キーボードを使用して大括弧/中括弧の長さを変更した場合のみです。

## 大括弧と小節線の変更のリセット

大括弧/中括弧のグループ化および小節線の結合のカスタムの変更はリセットできます。これはカスタムのグループ化/結合を使用したパッセージのあとで、それ以降の組段からプロジェクト全体の譜表のグループ化の設定を復元させるものです。

#### 前提条件

浄書ツールボックスで「**グラフィックの編集 (Graphic Editing)**」を選択しておきます。

#### 手順

1. 浄書モードで、譜表のグループ化をリセットする位置にあるアイテムを選択します。
2. 「**浄書 (Engrave)**」 > 「**大括弧と小節線のリセットを作成 (Reset Bracketing)**」を選択します。

#### 結果

大括弧/中括弧のグループ化の変更と小節線の結合の変更のいずれも含む譜表のグループ化が、プロジェクト全体の譜表のグループ化の設定にリセットされます。これはリズム上の選択位置から、次の既存の大括弧と小節線の変更がある位置かフローの終了位置のいずれか先に到達したところまで適用されます。選択したアイテムの位置にガイドが表示されます。

組段の途中でアイテムを選択していた場合、次の組段の開始位置まで譜表のグループ化はリセットされません。



#### ヒント


また、プロパティパネルの「大括弧と小節線の変更 (Bracket and Barline Changes)」グループの「大括弧を変更 (Change bracketing)」および「小節線を変更 (Change barlines)」プロパティを使用すると、大括弧/中括弧のグループ化の変更と小節線の結合の変更を、それぞれ個別にリセットできます。これらのプロパティを「自動 (Auto)」に設定すると、選択した変更の対応する部分がリセットされます。

---

## 大括弧と小節線の変更の削除

たとえば大括弧/中括弧のグループ化をリセットする位置に関して変更を要する場合など、大括弧/中括弧のグループ化および小節線の結合のカスタムの変更は削除できます。

#### 前提条件

浄書モードの場合は、浄書ツールボックスで「グラフィックの編集 (Graphic Editing)」を選択しておきます。

#### 手順

1. 削除する大括弧と小節線の変更のガイドを選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
  2. **[Backspace]** 又は **[Delete]** を押します。
- 

#### 結果

選択した大括弧と小節線の変更が削除されます。対応する組段すべての譜表のグループ化は、その位置より前の大括弧と小節線の変更か、それがいない場合はプロジェクト全体の譜表のグループ化の設定に従います。

#### ヒント

- 浄書モードでは、削除する大括弧/中括弧も選択できます。
  - また個々の小節線の結合は、リズム上の同じ位置にある他の小節線の結合および大括弧/中括弧のグループ化の変更とは個別に削除できます。
- 

#### 関連リンク

[アンサンブルタイプによる大括弧でのグループ化 \(1143 ページ\)](#)

[小節線の結合を削除する \(1092 ページ\)](#)

[浄書ツールボックス \(554 ページ\)](#)

# コード記号

コード記号とは、楽譜上の特定の瞬間における縦のハーモニーを記述するものです。コード記号は、プレイヤーがコード進行に合わせて即興演奏を行なうジャズやポップスでは多く使用されます。

The image shows a musical score in 4/4 time with a key signature of one flat. The top staff is for a clarinet, and the bottom staff is for a piano. Above the clarinet staff, chord symbols are written: C7, G7/D, C7, F, G#dim7 Gm7, F, C7, F, C7. Above the piano staff, the same chord symbols are written: C7, G7/D, C7, F, G#dim7 Gm7, F, C7, F, C7. The clarinet staff contains a melodic line with slurs and triplets. The piano staff contains a bass line with chords and single notes.

クラリネットとピアノの譜表のスラッシュの上にあるコード記号は、記譜されたホルネットのメロディに合わせてプレイヤーが即興で演奏するのを補助します。

コード記号のポップオーバーを使用してコード記号を入力したり、既存の楽譜に基づいてコード記号を自動的に生成したりできます。

Dorico Pro の初期設定では、コード記号はプロジェクト全体において入力された位置で存在します。つまり、コード記号の入力が必要なのは一度だけで、あとは必要に応じて複数の譜表の上に表示したり、すべての譜表で非表示にしたりできるという意味です。ただし、状況によっては同じ位置の異なるプレイヤーに対して異なるコード記号を表示する必要がある場合もあります。このような場合には、ローカルなコード記号を入力できます。

移調レイアウトの移調楽器に適切なコード記号が自動的に表示されます。これには、カポを反映するように移調を変更したフレット楽器が含まれます。また、コード記号にカポを定義して、メインのコード記号のみ、カポのコード記号のみ、または両方を表示することもできます。

コード記号の表示/非表示は特定のインストゥルメントの譜表に対して切り替えることができ、これはプロジェクト全体に反映されます。これは複数のインストゥルメントが同じプレイヤーに割り当てられている場合でも、異なるレイアウトでも同様です。またコード記号をコード記号領域/スラッシュ領域の中でのみ表示させることも、それぞれのコード記号の表示/非表示を切り替えることもできます。

コード記号が入力してあっても、現在のレイアウトにコード記号を表示する設定のプレイヤーがない場合は、コード記号はガイドとして表示されます。

音楽のスタイルに応じて、コード記号の表示に関するさまざまな表記規則が存在します。

Dorico Pro には、コード記号の外観に幅広く対応し選択できるプリセット一式が用意され、各コンポーネントの外観を個別にカスタマイズすることもできます。さらに、Gmaj7 のような各種のコード記号の外観について、あるコード記号に属するすべてのインスタンスにプロジェクト全体で編集を反映させることも、インスタンス単体でカスタマイズすることもできます。

## 関連リンク

[コード記号の入力 \(346 ページ\)](#)

[コード記号の外観のプリセット \(1156 ページ\)](#)

[カスタムコード記号 \(941 ページ\)](#)

[コード記号のフォントスタイル](#) (1157 ページ)  
[コード記号を表示/非表示にする](#) (1157 ページ)  
[コードダイアグラム](#) (1175 ページ)  
[カポ](#) (173 ページ)  
[カポコードと主コード](#) (174 ページ)  
[ガイドの表示/非表示の切り替え](#) (491 ページ)  
[コードトラック](#) (674 ページ)  
[コード記号の再生の有効化](#) (675 ページ)

## コードの構成要素

コード記号はルートとクオリティーによって構成され、これに必要なに応じて音程、オルタレーション、オンコードが加わります。

### ルート

コードのルート音は、ノート名またはスケール上の特定の度数のいずれかによって表現されます。

### クオリティー

メジャー、マイナー、ディミニッシュ、オーギュメント、ハーフディミニッシュ、または6や9などの音を加えることで、コードのタイプを定義します。

### 音程

コード記号には、メジャー 7th や 9th といった追加の音程を1つ以上含められます。コード記号内に記される音程は、テンションとも呼ばれます。

### オルタレーション

通常コードに予測されるものとは異なるコードの構成音を定義します。たとえば、シャープ 5th、フラット 9th、sus や omit があります。

### オンコード

コードの最低音がルート音とは異なる場合、コード記号は Cm7b5/Eb のようにオンコードとして記されます。

## 浄書オプションでコード記号の設定をプロジェクト全体に適用する

「[浄書オプション \(Engraving Options\)](#)」の「[コード記号 \(Chord Symbols\)](#)」ページで、コード記号の外観と位置を設定し、プロジェクト全体に適用できます。

「[コード記号 \(Chord Symbols\)](#)」ページのオプションでは、臨時記号やオルタレーションの順番や配置、およびそのデフォルト位置を含めた、各種コードやコードの構成要素の外観を変更できます。

多くのオプションに、オプションを楽譜に適用したときにどのように表示されるかを示す図があります。

### 関連リンク

[「浄書オプション \(Engraving Options\)」ダイアログ](#) (923 ページ)  
[コード記号の入力](#) (346 ページ)  
[コード記号のポップオーバー](#) (348 ページ)  
[コード記号を表示/非表示にする](#) (1157 ページ)  
[カスタムコード記号](#) (941 ページ)  
[コード記号のフォントスタイル](#) (1157 ページ)

## コード記号の外観のプリセット

コード記号の外観にはさまざまな規則があるため、Dorico Pro では、そのまま使用または編集して使用できる規則のプリセットが提供されています。

たとえば、初期設定のコード記号のプリセットを編集したり、初期設定の外観を変更することなくコード記号を個別に編集したり、コード記号内の要素を個別に編集したりできます。

- コード記号のプリセットは「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**コード記号 (Chord Symbols)**」ページ上部にあります。

コード記号のプリセットの例	コード記号のプリセット名
$B^b\text{maj}7(\sharp_{11}/\sharp_9)/F$	デフォルト (Default)
$B^b\text{maj}7(\sharp_9 \sharp_{11})/F$	Boston
$B^b\text{MA}7(\sharp_{11}/\sharp_9)/F$	Brandt-Roemer
$B^b\Delta^{+11}/F$	Indiana
$B^b\text{Maj}7^{+11}/F$	New York
$\frac{b7\Delta\sharp_{11}/\sharp_9}{4}$	Nashville
$B^b\text{MA}7(\sharp_{11}/\sharp_9)/F$	Jazz Standards
$\frac{B^b\text{maj}7^{+11}}{F}$	Ross
$B^b\text{M}7(\sharp_{11}/\sharp_9)\text{on}F$	日本語 (Japanese)

これらのプリセットは「**コード記号 (Chord Symbols)**」ページにある特定のオプションを組み合わせたものです。これらのオプションはユーザーの要求にあうように個別に調節できます。

- 「**デフォルト (Default)**」を選択すると、できるだけ明確になるよう調節された記号のセットが使用されます。たとえば、「**デフォルト (Default)**」では、メジャー 7th、オーギュメント、ディミニッ

シュ、およびハーフディミニッシュの記号はできるだけ使用しません。新規プロジェクトを作成すると、初期設定で「**デフォルト (Default)**」が使用されます。

- プリセットのオプションを変更すると、自動的に「**カスタム (Custom)**」が選択されます。

関連リンク

[カスタムコード記号 \(941 ページ\)](#)

## コード記号のフォントスタイル

コード記号の構成要素ごとに異なるフォントスタイルを設定できます。フォントサイズを変更してコード記号に含まれる臨時記号を大きく表示するなど、これらのフォントの各種設定は「**フォントスタイルを編集 (Edit Font Styles)**」ダイアログで編集できます。



- 1 **コード記号のフォント (Chord Symbols Font):** コード記号に含まれる B、F などのノート名に使用されます。
- 2 **コード記号の音楽テキスト用フォント (Chord Symbols Music Text Font):** コード記号に含まれる b、# などの臨時記号に使用されます。SMuFL 準拠である必要があります。
- 3 **コード記号とオンコードの区切り用文字フォント (Chord Symbols Altered Bass Separator Font):** オンコードの区切り用文字のテキストに使用されます。

ヒント

「**浄書オプション (Engraving Options)**」 > 「**コード記号 (Chord Symbols)**」 > 「**オンコード (Altered Bass Notes)**」で、オンコードの区切り用文字をスラッシュ、ライン、またはテキストで表示するかを変更できます。

関連リンク

[「フォントスタイルを編集 \(Edit Font Styles\)」ダイアログ \(930 ページ\)](#)

[デフォルトのフォントファミリーを変更する \(937 ページ\)](#)

## コード記号の位置

コード記号が表示されたレイアウトでは、コード記号を表示するように設定されたすべてのインストゥルメントの譜表の上か、各組段の最上段の譜表の上のみのどちらかにコード記号が配置されます。

初期設定では、コード記号は符頭に対して左揃え、組段幅に合わせて垂直方向に揃えて配置されます。

関連リンク

[カポコード記号を表示/非表示にする \(179 ページ\)](#)

[音符/アイテムの位置の移動 \(502 ページ\)](#)

[アイテムの表示位置の移動 \(652 ページ\)](#)

[コード記号領域 \(1162 ページ\)](#)

## コード記号を表示/非表示にする


コード記号は特定の譜表のみ、またはコード記号領域/スラッシュ領域の中のみでプレイヤーごとに表示/非表示を切り替えて、プロジェクト全体に適用できます。初期設定では、コード記号はキー

ボード、ギター、ベースギターなどリズムセクションのインストゥルメントの譜表の上に表示されません。

コード記号を入力した譜表のプレイヤーは、自動的に現在のレイアウトタイプですべてのインストゥルメントのコード記号を表示する設定になります。

---

#### 手順

1. 設定モードの「**プレイヤー (Players)**」パネルで、コード記号の表示/非表示を切り替えるプレイヤーを選択します。
2. アクションバーの「**プレイヤー設定 (Player Settings)**」をクリックして、以下のいずれかのオプションを選択します。
  - プレイヤーに割り当てられたすべてのインストゥルメントの譜表の上にコード記号を表示するには、「**コード記号 (Chord Symbols)**」 > 「**すべてのインストゥルメントに表示 (Show for All Instruments)**」を選択します。
  - プレイヤーに割り当てられたインストゥルメントのうち、リズムセクションのインストゥルメントの譜表の上にのみコード記号を表示するには、「**コード記号 (Chord Symbols)**」 > 「**リズムセクションのインストゥルメントに表示 (Show for Rhythm Section Instruments)**」を選択します。
  - プレイヤーに割り当てられたインストゥルメントの譜表のうち、コード記号領域/スラッシュ領域の中でのみコード記号を表示するには、「**コード記号 (Chord Symbols)**」 > 「**コード記号領域とスラッシュ領域に表示 (Show in Chord Symbol and Slash Regions)**」を選択します。
  - プレイヤーに割り当てられたすべてのインストゥルメントの譜表でコード記号を非表示にするには、「**コード記号 (Chord Symbols)**」 > 「**すべてのインストゥルメントに非表示 (Hide for All Instruments)**」を選択します。

---

#### 結果

選択したプレイヤーのコード記号を表示するレイアウトに関するプロジェクトの設定に従いつつ、選択したプレイヤーに割り当てられたインストゥルメントの譜表で、コード記号の表示/非表示が切り替えられます。

#### ヒント

- プレイヤーを右クリックして、コンテキストメニューからこれらのオプションを選択することもできます。
  - コード記号を各組段の上部に1回だけ表示するようにレイアウトごとに選択できます。
  - コード記号が表示されるレイアウトでは、コード記号の表示/非表示を個別に切り替えることもできます。その場合はコード記号を選択して、プロパティパネルにある「**コード記号 (Chord Symbols)**」のグループで「**非表示 (Hidden)**」をオンにします。非表示にした各コード記号の位置にはガイドが表示されます。ただし初期設定では、ガイドは印刷されません。
- 「**環境設定 (Preferences)**」の「**キーボードショートカット (Key Commands)**」ページで、「**アイテムを表示/非表示 (Hide/Show Item)**」にキーボードショートカットを割り当てることができます。
- リズムセクションに表示するインストゥルメントは「**インストゥルメントを編集 (Edit Instruments)**」ダイアログで定義できます。

---

#### 関連リンク

- [プレイヤーパネル \(121 ページ\)](#)
- [レイアウト \(190 ページ\)](#)
- [コード記号の入力 \(346 ページ\)](#)
- [コード記号領域 \(1162 ページ\)](#)

- [コード記号領域の入力 \(354 ページ\)](#)
- [スラッシュ領域の入力 \(450 ページ\)](#)
- [ガイド \(490 ページ\)](#)
- [コードダイアグラムを表示/非表示にする \(1177 ページ\)](#)
- [コード記号またはコードダイアグラムのみを表示する \(1178 ページ\)](#)
- [1つまたは複数の譜表の上にコード記号を表示する \(1160 ページ\)](#)
- [譜表に対するコード記号の位置の変更 \(1162 ページ\)](#)
- [カポコードと主コード \(174 ページ\)](#)
- [カポコード記号を表示/非表示にする \(179 ページ\)](#)
- [「環境設定 \(Preferences\)」ダイアログの「キーボードショートカット \(Key Commands\)」ページ \(64 ページ\)](#)
- [「レイアウトオプション \(Layout Options\)」ダイアログ \(917 ページ\)](#)
- [コード記号の外観のプリセット \(1156 ページ\)](#)
- [「インストゥルメントを編集 \(Edit Instruments\)」ダイアログ \(950 ページ\)](#)

## レイアウトでコード記号を表示/非表示にする


レイアウトのタイプ別にコード記号の表示/非表示を切り替えられます。初期設定では、コード記号はリズムセクションのインストゥルメントに該当するすべてのレイアウトに表示されます。

### 補足

現在のレイアウトのすべてのインストゥルメントでコード記号が非表示に設定されている場合、一番上の譜表の上にガイドが表示されます。

---

### 手順

1. 設定モードの「**プレイヤー (Players)**」パネルでプレイヤーを選択します。
2. アクションバーの「**プレイヤー設定 (Player Settings)**」をクリックして、以下のいずれかのオプションを選択します。
  - 選択したプレイヤーにすべてのレイアウトでコード記号を表示する場合は、「**コード記号 (Chord Symbols)**」 > 「**フルスコアとパートに表示 (Show in Full Score and Parts)**」を選択します。
  - 選択したプレイヤーにコード記号を表示するのはフルスコアまたはカスタムのスコアレイアウトのみとし、パートレイアウトには表示させない場合は、「**コード記号 (Chord Symbols)**」 > 「**フルスコアにのみ表示 (Show in Full Score Only)**」を選択します。
  - 選択したプレイヤーにコード記号を表示するのはパートレイアウトのみとし、フルスコアまたはカスタムのスコアレイアウトには表示させない場合は、「**コード記号 (Chord Symbols)**」 > 「**パートにのみ表示 (Show in Parts Only)**」を選択します。

### ヒント

プレイヤーを右クリックして、コンテキストメニューからこれらのオプションを選択することもできます。

---

## 1 つまたは複数の譜表の上にコード記号を表示する

コード記号を表示するように設定されたすべてのインストゥルメントの譜表の上にコード記号を表示するか、各組段の最上段の譜表の上にのみ表示するかをレイアウトごとに選択できます。

---

### 手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[L]** を押して「**レイアウトオプション (Layout Options)**」を開きます。
2. コード記号の垂直位置を変更するレイアウトを「**レイアウト (Layouts)**」リストから選択します。初期設定では、楽譜領域で選択されているものと同じレイアウトが選択された状態のダイアログが表示されます。他のレイアウトを選択するには、アクションバーの選択オプションを使用するか、複数のレイアウトをまたぐようにクリックしてドラッグするか、**[Shift]** を押しながら隣接するレイアウトをクリックするか、**[Ctrl]/[command]** を押しながら個々のレイアウトをクリックします。
3. カテゴリリストの「**コード記号とコードダイアグラム (Chord Symbols and Diagrams)**」をクリックします。
4. 「**コード記号 (Chord Symbols)**」セクションで、「**コード記号の表示 (Show chord symbols)**」に以下のいずれかのオプションを選択します。
  - **特定のプレイヤーの譜表の上 (Above specific players' staves)**
  - **組段の一番上の譜表の上 (Above top staff of system)**
5. 「**適用 (Apply)**」をクリックしてから「**閉じる (Close)**」をクリックします。

---

### 関連リンク

- [コード記号の入力 \(346 ページ\)](#)
- [コード記号またはコードダイアグラムのみを表示する \(1178 ページ\)](#)
- [カポコードと主コード \(174 ページ\)](#)
- [カポコード記号を表示/非表示にする \(179 ページ\)](#)

## 音符に対するコード記号の配置を変更する

プロジェクト全体の設定とは別に、音符に対する個々のコード記号の水平方向の配置を変更できます。たとえば、小節線との衝突を回避するために、幅の広いコード記号を中央揃えにできます。この操作は現在のレイアウトとフレームチェーンのみに対して、もしくはすべてのレイアウトとフレームチェーンに対して行なえます。

### 前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。
- 下ゾーンのツールバーで「**プロパティ (Properties)**」 を選択しておきます。
- 浄書モードの場合は、浄書ツールボックスで「**グラフィックの編集 (Graphic Editing)**」 を選択しておきます。
- ローカルのプロパティ変更に関して、適切なプロパティ範囲を選択しておきます。

---

### 手順

1. 配置を変更するコード記号を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「**コード記号 (Chord Symbols)**」グループで「**配置 (Alignment)**」をオンにします。
3. メニューから以下のいずれかの配置オプションを選択します。
  - **左 (Left)**



- 中央 (Center)
- 右 (Right)

#### 結果

選択したコード記号の配置が変更されます。音符のスペーシングは、隣接するコード記号との衝突を回避するために自動的に調整されます。

プロパティ範囲を「ローカル (Locally)」に設定している場合、この変更は現在のレイアウトおよびフレームチェーンのみに影響します。

#### ヒント

「浄書オプション (Engraving Options)」 > 「コード記号 (Chord Symbols)」 > 「位置 (Position)」では、すべてのコード記号のプロジェクト全体のデフォルトの水平方向の配置を変更できます。

#### 例

G#dim7 のコード記号を 3 拍めに左揃えで表示した状態

G#dim7 のコード記号を 3 拍めに中央揃えで表示した状態

G#dim7 のコード記号を 3 拍めに右揃えで表示した状態

## コード記号の垂直方向の配置を変更する

コード記号の垂直方向の位置を、組段幅に合わせて揃えるかどうかを変更できます。また、ポリコード記号のような複数行のコード記号について、1 行のコード記号に対する垂直方向の配置をどうするかも変更できます。

#### 手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[E]** を押して「浄書オプション (Engraving Options)」を開きます。
2. カテゴリリストの「コード記号 (Chord Symbols)」をクリックします。
3. 「位置 (Position)」セクションで、「組段幅に合わせてコード記号を整列 (Align chord symbols across width of system)」をオン/オフにします。
4. 「1 行表記のコード記号に対する複数行表記のコード記号の整列位置 (Alignment of multi-line chord symbols relative to single-line chord symbols)」で以下のいずれかのオプションを選択します。
  - 上 (Top)
  - 中央 (Middle)
  - 下 (Bottom)
5. 「適用 (Apply)」をクリックしてから「閉じる (Close)」をクリックします。

#### 関連リンク

[「浄書オプション \(Engraving Options\)」ダイアログ \(923 ページ\)](#)

[コード記号の外観のプリセット \(1156 ページ\)](#)

[複合コード記号の配置を変更する \(1167 ページ\)](#)

[カポコード記号を表示/非表示にする \(179 ページ\)](#)

## 譜表に対するコード記号の位置の変更

コード記号は、プロジェクト全体の設定より優先される形で、譜表の上または下に個別に表示できます。この操作は現在のレイアウトとフレームチェーンのみに対して、もしくはすべてのレイアウトとフレームチェーンに対して行なえます。

### 前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。
- 下ゾーンのツールバーで「プロパティ (Properties)」 を選択しておきます。
- 浄書モードの場合は、浄書ツールボックスで「グラフィックの編集 (Graphic Editing)」 を選択しておきます。
- ローカルのプロパティ変更に関して、適切なプロパティ範囲を選択しておきます。

### 手順

1. 譜表に対する位置を変更するコード記号を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「コード記号 (Chord Symbols)」グループで「配置 (Placement)」をオンにします。
3. 以下のいずれかのオプションを選択します。
  - 上 (Above)
  - 下 (Below)

### 結果

選択したコード記号の譜表に対する位置が変更されます。プロパティ範囲を「ローカル (Locally)」に設定している場合、この変更は現在のレイアウトおよびフレームチェーンのみに影響します。

### ヒント

- 「レイアウトオプション (Layout Options)」 > 「コード記号とコードダイアグラム (Chord Symbols and Diagrams)」 > 「コード記号 (Chord Symbols)」では、大譜表を用いる楽器の譜表間にコード記号を表示するかどうかをレイアウトごとに選択できます。
- 「浄書オプション (Engraving Options)」 > 「コード記号 (Chord Symbols)」 > 「位置 (Position)」では、すべてのコード記号のプロジェクト全体のデフォルトの位置を変更できます。

### 関連リンク

- [プロパティパネル \(826 ページ\)](#)
- [プロパティ範囲の変更 \(828 ページ\)](#)
- [浄書ツールボックス \(554 ページ\)](#)
- [大きな選択範囲 \(463 ページ\)](#)
- [「レイアウトオプション \(Layout Options\)」ダイアログ \(917 ページ\)](#)

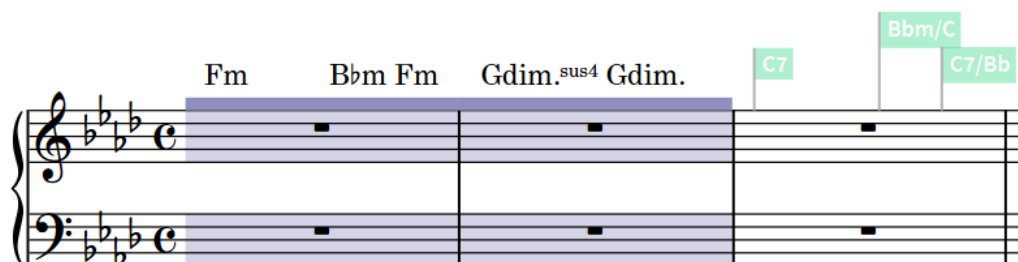
## コード記号領域

コード記号領域は、コード記号を表示するパッセージを指定するのに使用します。プロジェクトの大半ではコード記号を必要としないものの、即興のセクションではコード記号を表示する必要があるというプレーヤーやレイアウトにおいて特に役立ちます。

コード記号領域は、プレーヤーが必要とする範囲のみにコード記号を表示させることができます。これにより、プロジェクト全体にわたってコード記号を表示させ、不要な範囲は手動で非表示にするという作業を省略できます。

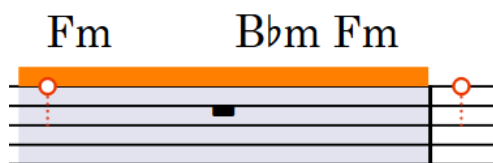
Dorico Pro では、コード記号領域を入力、コピー、または移動すると、対応するプレーヤーは自動的にコード記号領域とスラッシュ領域にコード記号を表示する設定に切り替わります。これは、即興のセクションでは、プレーヤーを支援するためにスラッシュとコード記号の両方を使用するのが一般的なためです。コード記号領域またはスラッシュ領域以外の範囲にあるコード記号はすべて自動的に非表示となり、ガイドで位置が示されます。

初期設定では、コード記号領域には第 5 線の上に色付きの実線が付くとともに、色付きの背景で強調表示されます。ズームアウトすると、色付きの背景の不透明度が上がります。これはフルスコアレイアウトをギャラリービューで見るとき特に便利です。このような強調表示は注釈と見なされ、初期設定では印刷されません。また画面上の表示/非表示も切り替えられます。



コード記号領域と、領域が終了した後に表示されるコード記号のガイド

記譜モードでは、それぞれの領域の開始位置と終了位置にハンドルがあり、これを使用して領域の移動や長さの変更が行なえます。



選択中のコード記号領域のハンドル

関連リンク

- [コード記号領域の入力 \(354 ページ\)](#)
- [スラッシュ領域 \(1629 ページ\)](#)
- [コード記号を表示/非表示にする \(1157 ページ\)](#)
- [ガイドの表示/非表示の切り替え \(491 ページ\)](#)
- [注釈 \(740 ページ\)](#)

## コード記号領域の強調表示を表示/非表示にする

コード記号領域の背景色による強調表示はいつでも表示/非表示を切り替えられます。たとえば記譜中は強調表示をオンにして、浄書中はオフにするといったことができます。

手順

- 「ビュー (View)」 > 「コード記号領域を強調 (Highlight Chord Symbol Regions)」を選択します。

## コード記号の移調

コード記号を入力したあと、音符ごとに個別にコード記号を移調できます。

### ヒント

- 移調レイアウトの移調楽器に適切なコード記号が自動的に表示されます。
- カポを反映させるためにコード記号を移調するのであれば、かわりにカポのコードネームを表示させることができます。

### 手順

1. 記譜モードで、移調するコード記号を選択します。
2. 「記譜 (Write)」 > 「移調 (Transpose)」を選択して「移調 (Transpose)」ダイアログを開きます。
3. 音程や性質など、移調に必要なパラメーターを調節します。

### ヒント

- たとえば Gb メジャーから G メジャーに移動する場合など、「間隔を算出 (Calculate interval)」セクションを使用して必要な設定を判断することをおすすめします。
  - 音程が異なると使用できる性質が異なります。たとえば、メジャー3度は指定できますがメジャーオクターブは指定できません。そのため、移調パラメーターを手動で設定したい場合には、性質の前に音程を選択することをおすすめします。
4. 「OK」をクリックして変更内容を保存し、ダイアログを閉じます。

### 結果

選択したコード記号が移調されます。

### 関連リンク

[「移調 \(Transpose\)」ダイアログ \(520 ページ\)](#)

[実音と移調音 \(195 ページ\)](#)

[レイアウトの移調音/実音の設定 \(194 ページ\)](#)

[カポ \(173 ページ\)](#)

## コード記号の表記の変更

移調楽器のコード記号の異名同音の表記を変更することで、異名同音の表記のシンプルな方を選択したりできます。これは、すべての移調レイアウトと移調が同じすべてのインストゥルメントでコード記号の異名同音の表記を変更します。

### 手順

1. 記譜モードで、コード記号の表記を変更する移調を持つレイアウトを開きます。  
たとえば、Bb のすべてのインストゥルメントのコード記号の表記を変更するには、Bb のインストゥルメントのパートレイアウトを開きます。
2. 表記を変更するコード記号を選択します。
3. **[Return]** を押して、選択したコード記号のコード記号ポップオーバーを開きます。  
ポップオーバーにはコード記号に対応したテキストがすでに入力されています。
4. コードのルート名を変更します。クオリティー、音程、オルタレーションなどの詳細はそのままにします。  
たとえば、Dbmaj13 のルート名のみを変更する場合は、**Db** を **C#** に変更します。

5. **[Return]** を押してポップオーバーを閉じます。
- 

#### 結果

移調レイアウトで移調が同じすべてのインストゥルメントのコード記号の表記が変更されます。たとえば、Bb クラリネットのコード記号の表記を変更すると、Bb トランペットのパートレイアウトのコード記号の表記も変更されます。


#### 関連リンク

- [コード記号のポップオーバー \(348 ページ\)](#)
- [音符の書き換え \(523 ページ\)](#)
- [フレット楽器のチューニング \(168 ページ\)](#)
- [コード記号/コードダイアグラムのカポを定義する \(179 ページ\)](#)
- [カポコード記号を表示/非表示にする \(179 ページ\)](#)

## コード記号をモードとして表示する

個々のコード記号を、対応するモードが存在する場合にモードとして表示できます。

#### 前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。
- 下ゾーンのツールバーで「プロパティ (Properties)」 を選択しておきます。
- 浄書モードの場合は、浄書ツールボックスで「グラフィックの編集 (Graphic Editing)」 を選択しておきます。

#### 手順

1. モードとして表示するコード記号を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
  2. プロパティパネルの「コード記号 (Chord Symbols)」グループで「モードで表示 (Show as mode)」をオンにします。
  3. メニューから目的のコードを選択します。
- 

#### 結果

選択したコード記号の表記が、選択したモードに従って変更されます。これにより、コード記号に含まれる音符は影響を受けません。

#### 関連リンク

- [プロパティパネル \(826 ページ\)](#)
- [浄書ツールボックス \(554 ページ\)](#)

## コード記号の異名同音の表記をリセットする

表記の変更によってコード記号に上書きされた異名同音の表記を削除して、デフォルトの表記に戻すことができます。Bb のように単一の移調を持つインストゥルメントの上書きだけを削除したり、すべてのインストゥルメントの移調の上書きを削除したりできます。

#### 手順

1. 記譜モードで、表記をリセットするコード記号を選択します。
  - 単一のインストゥルメントの移調のコード記号の異名同音の表記だけをリセットするには、その移調を持つインストゥルメントに属する譜表上のコード記号を選択します。たとえば、Bb

のすべてのインストゥルメントのコード記号をリセットするには、Bbのインストゥルメントの譜表上のコード記号を選択します。

- すべてのインストゥルメントの移調のコード記号の異名同音の表記をリセットするには、移調インストゥルメントに属する譜表上のコード記号を選択します。
2. **[Return]** を押し、選択したコード記号のコード記号ポップオーバーを開きます。ポップオーバーにはコード記号に対応したテキストがすでに入力されています。
  3. 以下のいずれかの操作を行なって、コード記号の異名同音をリセットします。
    - 選択した移調を含むインストゥルメントのコード記号の異名同音の表記だけをリセットするには、コード記号のポップオーバーに **[Alt/Opt]+[S]** と入力します。
    - すべてのインストゥルメントの移調のコード記号の異名同音の表記をリセットするには、ポップオーバーに **[Shift]+[Alt/Opt]+[S]** と入力します。
  4. **[Return]** を押し、ポップオーバーを閉じます。

#### 結果

指定した移調を含むインストゥルメントのみ、またはすべての移調楽器について、移調レイアウトで選択したコード記号の異名同音の表記がリセットされます。

## コード記号のルートとクオリティーを表示/非表示にする

コード記号のあとにルートとクオリティーが同じでオンコードが異なるコード記号が続く場合、後続のコード記号のルートとクオリティーを非表示にできます。

#### 前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。
- 下ゾーンのツールバーで「プロパティ (Properties)」 を選択しておきます。
- 浄書モードの場合は、浄書ツールボックスで「グラフィックの編集 (Graphic Editing)」 を選択しておきます。

#### 手順

1. ルートとクオリティーを非表示にするコード記号を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「コード記号 (Chord Symbols)」グループで「ルートおよびクオリティーを隠す (Hide root and quality)」をオンにします。
3. 対応するチェックボックスをオン/オフにします。

#### 結果

チェックボックスをオンにすると選択したコード記号のルートとクオリティーが非表示になり、オフにするとルートとクオリティーが表示されます。

プロパティがオフの場合、コード記号はプロジェクト全体の設定に従います。

#### ヒント

あとに続くコード記号のルートおよびクオリティーが同じ場合でも常にそれらを表示するには、「浄書オプション (Engraving Options)」>「コード記号 (Chord Symbols)」>「オンコード (Altered Bass Notes)」で設定を行ないます。

関連リンク

- [プロパティパネル \(826 ページ\)](#)
- [浄書ツールボックス \(554 ページ\)](#)
- [コード記号の外観のプリセット \(1156 ページ\)](#)
- [大きな選択範囲 \(463 ページ\)](#)

## 複合コード記号の配置を変更する

プロジェクト全体の設定とは別に、個々のポリコード記号やオンコードのコード記号の配置を変更できます。これにより、たとえば一部のポリコード記号を縦に積み重ねて表示し、その他は横に並べて表示するといったことができます。この操作は現在のレイアウトとフレームチェーンのみに対して、もしくはすべてのレイアウトとフレームチェーンに対して行なえます。

前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。
- 下ゾーンのツールバーで「**プロパティ (Properties)**」を選択しておきます。
- 浄書モードの場合は、浄書ツールボックスで「**グラフィックの編集 (Graphic Editing)**」を選択しておきます。
- ローカルのプロパティ変更に関して、適切なプロパティ範囲を選択しておきます。

手順

1. 配置を変更する複合コード記号を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「**コード記号 (Chord Symbols)**」グループで「**複合コードの配置 (Compound chord arrangement)**」をオンにします。
3. メニューから以下のいずれかのオプションを選択します。
  - **斜めに配置 (Diagonal arrangement)**
  - **積み上げて配置 (Stacked arrangement)**
  - **直線上に配置 (Linear arrangement)**

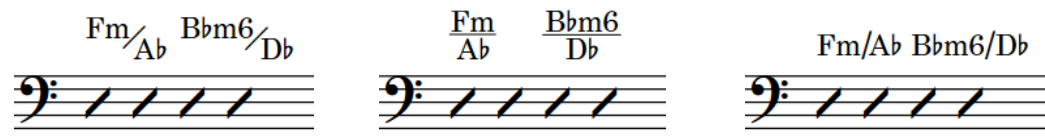
結果

選択した複合コード記号の配置が変更されます。プロパティ範囲を「**ローカル (Locally)**」に設定している場合、この変更は現在のレイアウトおよびフレームチェーンのみに影響します。

ヒント

「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**コード記号 (Chord Symbols)**」ページでは、すべてのポリコード記号とオンコードのコード記号のデフォルトの配置をプロジェクト全体でそれぞれ別個に変更できます。

例



The image shows three musical staves, each with a bass clef and a series of five slanted lines representing notes. Above each staff, two chord symbols are displayed. The first staff shows 'Fm/Ab' and 'Bbm6/Db' with the slash between the notes slanted. The second staff shows 'Fm' and 'Bbm6' stacked vertically above 'Ab' and 'Db' respectively. The third staff shows 'Fm/Ab' and 'Bbm6/Db' with the slash between the notes horizontal.

斜めに配置 (Diagonal arrangement)

積み上げて配置 (Stacked arrangement)

直線上に配置 (Linear arrangement)

#### 関連リンク

- [プロパティパネル \(826 ページ\)](#)
- [プロパティ範囲の変更 \(828 ページ\)](#)
- [浄書ツールボックス \(554 ページ\)](#)
- [大きな選択範囲 \(463 ページ\)](#)
- [コードの構成要素 \(1155 ページ\)](#)
- [コード記号の外観のプリセット \(1156 ページ\)](#)
- [コード記号の入力 \(346 ページ\)](#)
- [コード記号の垂直方向の配置を変更する \(1161 ページ\)](#)

## コード記号の背景の塗りつぶし

コード記号は、たとえば小節線をまたぐときの読みやすさを確保するために、個別に背景を空白で塗りつぶせます。この操作は現在のレイアウトとフレームチェーンのみに対して、もしくはすべてのレイアウトとフレームチェーンに対して行なえます。

#### 前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。
- 下ゾーンのツールバーで「**プロパティ (Properties)**」を選択しておきます。
- 浄書ツールボックスで「**グラフィックの編集 (Graphic Editing)**」を選択しておきます。
- ローカルのプロパティ変更に関して、適切なプロパティ範囲を選択しておきます。

---

#### 手順

1. 浄書モードで、背景を塗りつぶすコード記号を選択します。
2. プロパティパネルの「**コード記号 (Chord Symbols)**」グループで「**背景を塗りつぶし (Erase background)**」をオンにします。

---

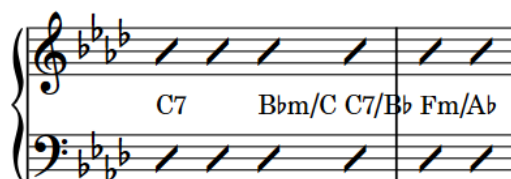
#### 結果

選択したコード記号の背景が塗りつぶされます。プロパティ範囲を「**ローカル (Locally)**」に設定している場合、この変更は現在のレイアウトおよびフレームチェーンのみに影響します。

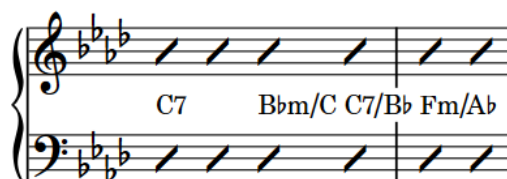
「**背景を塗りつぶし (Erase background)**」をオフにすると、選択したコード記号がデフォルトの背景の塗りつぶしができない状態に戻ります。

---

#### 例



背景が塗りつぶされていないコード記号



背景が塗りつぶされたコード記号

---

#### 関連リンク

- [浄書ツールボックス \(554 ページ\)](#)
- [音符に対するコード記号の配置を変更する \(1160 ページ\)](#)
- [譜表に対するコード記号の位置の変更 \(1162 ページ\)](#)



## コード記号の塗りつぶしの余白を変更する

コード記号の塗りつぶしの余白を個別に変更できます。余白の幅はコード記号の四方それぞれについて個別に変更できます。この操作は現在のレイアウトとフレームチェーンのみに対して、もしくはすべてのレイアウトとフレームチェーンに対して行なえます。

### 前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。
- 下ゾーンのツールバーで「プロパティ (Properties)」を選択しておきます。
- 浄書ツールボックスで「グラフィックの編集 (Graphic Editing)」を選択しておきます。
- ローカルのプロパティ変更に関して、適切なプロパティ範囲を選択しておきます。

### 手順

1. 浄書モードで、塗りつぶしの余白を変更するコード記号を選択します。
2. プロパティパネルの「コード記号 (Chord Symbols)」グループで、「塗りつぶしの余白 (Erasure padding)」のプロパティを片方または両方ともオンにします。
  - 「L」はコード記号の左側の余白の幅を変更します。
  - 「R」はコード記号の右側の余白の幅を変更します。
  - 「上 (T)」はコード記号の上側の余白の幅を変更します。
  - 「下 (B)」はコード記号の下側の余白の幅を変更します。
3. 数値フィールドの値を変更します。

### 結果

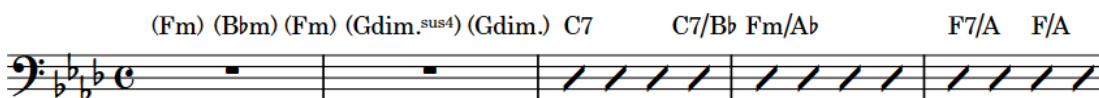
値を大きくすると余白が増え、値を小さくすると余白が減ります。プロパティ範囲を「ローカル (Locally)」に設定している場合、この変更は現在のレイアウトおよびフレームチェーンのみに影響します。

### ヒント

すべてのコード記号のプロジェクト全体のデフォルトの塗りつぶしの余白は、「浄書オプション (Engraving Options)」>「コード記号 (Chord Symbols)」>「デザイン (Design)」で変更できます。ただし、この方法では各辺の余白を個別に変更することはできません。

## 括弧付きのコード記号

コード記号を囲む括弧は、代替のコード変更を指示したり、そのコードが任意であることを示したりするためによく使用されます。Dorico Pro では、外観のプリセットを使用するあらゆるコード記号に括弧を付けることができます。



### 括弧付きのコード記号を含むフレーズ

コード記号の括弧は、コード記号の入力時に追加することも、既存のコード記号に括弧を付けることで追加することもできます。

初期設定では、括弧付きのコード記号の両側に括弧が表示されます。個々の括弧付きのコード記号の左または右の括弧を1つだけ表示することもできます。

#### 補足

- カスタムコード記号、つまり外観を上書きしたコード記号には括弧を表示できません。
- コード記号の括弧のプロジェクト全体のデフォルトの外観は、「**浄書オプション (Engraving Options)**」 > 「**コード記号 (Chord Symbols)**」 > 「**括弧 (Parentheses)**」で変更できます。これには、さまざまな状況における括弧付きのコード記号の中のオルタレーションを囲む括弧の抑制も含まれます。

#### 関連リンク

- [コード記号の入力 \(346 ページ\)](#)
- [コード記号の外観のプリセット \(1156 ページ\)](#)
- [括弧付きの符頭 \(1406 ページ\)](#)
- [数字付き低音に単一の括弧を表示する \(1272 ページ\)](#)
- [カスタムコード記号 \(941 ページ\)](#)

## コード記号に括弧を付ける

たとえば任意のコードを示す場合などに、個々のコード記号を括弧で囲んで表示できます。この操作は現在のレイアウトとフレームチェーンのみに対して、もしくはすべてのレイアウトとフレームチェーンに対して行なえます。

#### 補足

カスタムコード記号、つまり外観を上書きしたコード記号には括弧を表示できません。

#### 前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。
- 下ゾーンのツールバーで「**プロパティ (Properties)**」を選択しておきます。
- 浄書モードの場合は、浄書ツールボックスで「**グラフィックの編集 (Graphic Editing)**」を選択しておきます。
- ローカルのプロパティ変更に関して、適切なプロパティ範囲を選択しておきます。

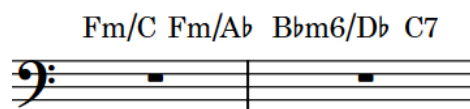
#### 手順

1. 括弧を付けるコード記号を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「**コード記号 (Chord Symbols)**」グループで「**括弧つき (Parenthesized)**」をオンにします。

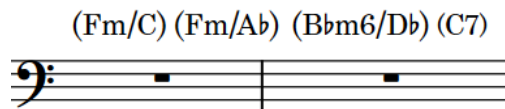
#### 結果

選択したそれぞれのコード記号を囲む括弧が表示されます。プロパティ範囲を「**ローカル (Locally)**」に設定している場合、この変更は現在のレイアウトおよびフレームチェーンのみに影響します。「**括弧つき (Parenthesized)**」をオフにすると、選択したコード記号から括弧が削除されます。

#### 例



括弧なしのコード記号



括弧付きのコード記号

## コード記号に括弧を 1 つだけ表示する

たとえば、2つの括弧付きのコード記号の間のすべてのコード記号が任意であることを示す場合などに、個々の括弧付きのコード記号の左または右の括弧を 1 つだけ表示することもできます。この操作は現在のレイアウトとフレームチェーンのみに対して、もしくはすべてのレイアウトとフレームチェーンに対して行なえます。

### 前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。
- 下ゾーンのツールバーで「プロパティ (Properties)」 を選択しておきます。
- 浄書モードの場合は、浄書ツールボックスで「グラフィックの編集 (Graphic Editing)」 を選択しておきます。
- ローカルのプロパティ変更に関して、適切なプロパティ範囲を選択しておきます。

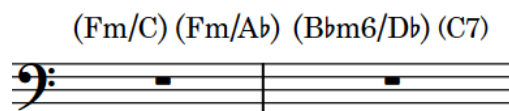
### 手順

1. 括弧を 1 つだけ表示する括弧付きのコード記号を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「コード記号 (Chord Symbols)」グループで「表示する括弧 (Parenthesis to show)」をオンにします。
3. 以下のいずれかのオプションを選択します。
  - 先頭 (Start)
  - 末尾 (End)

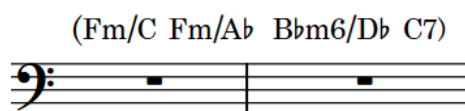
### 結果

選択したコード記号の対応する側の括弧が非表示になり、もう一方の括弧が 1 つだけ残ります。プロパティ範囲を「ローカル (Locally)」に設定している場合、この変更は現在のレイアウトおよびフレームチェーンのみに影響します。

### 例



すべてのコード記号に括弧を表示



最初のコードのはじめと最後のコードの終わりに括弧を表示

### 関連リンク

[プロパティパネル \(826 ページ\)](#)

[プロパティ範囲の変更 \(828 ページ\)](#)

[浄書ツールボックス \(554 ページ\)](#)

[大きな選択範囲 \(463 ページ\)](#)

[タイでつながれた 1 つまたはすべての符頭に括弧を表示する \(1409 ページ\)](#)

## コード記号の括弧のスタイルを変更する

個々のコード記号の括弧のスタイルを変更できます。たとえば、縦に積み重ねたコード記号は高さがあるため、細長い/高い括弧を表示するといったことができます。

前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。
- 下ゾーンのツールバーで「プロパティ (Properties)」を選択しておきます。
- 浄書モードの場合は、浄書ツールボックスで「グラフィックの編集 (Graphic Editing)」を選択しておきます。

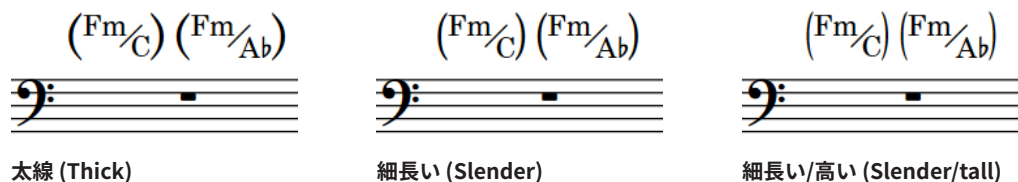
手順

1. 括弧のスタイルを変更する括弧付きのコード記号を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「コード記号 (Chord Symbols)」グループで「括弧のスタイル (Parenthesis style)」をオンにします。
3. メニューから以下のいずれかのオプションを選択します。
  - 太線 (Thick)
  - 細長い (Slender)
  - 細長い/高い (Slender/tall)

結果

選択した括弧付きのコード記号の括弧のスタイルが変更されます。

例



## コード記号の括弧のサイズを変更する

コード記号自体のサイズを変えずにコード記号の括弧のサイズを変更できます。たとえば、高さの異なる隣接するコード記号に同じサイズの括弧を表示する場合などに便利です。この操作は現在のレイアウトとフレームチェーンのみに対して、もしくはすべてのレイアウトとフレームチェーンに対して行なえます。

前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。
- 下ゾーンのツールバーで「プロパティ (Properties)」を選択しておきます。
- 浄書モードの場合は、浄書ツールボックスで「グラフィックの編集 (Graphic Editing)」を選択しておきます。

#### 手順

1. 括弧のサイズを変更する括弧付きのコード記号を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「コード記号 (Chord Symbols)」グループで「括弧の倍率 % (Parenthesis scale %)」をオンにします。
3. 数値フィールドの値を変更します。  
縮尺サイズはコード記号ではなく括弧のグリフに対するパーセンテージで表わされるため、コード記号の高さに関係なく、括弧のサイズを統一できます。

#### 結果

選択したコード記号を囲む括弧のサイズが変更されます。

#### ヒント

「浄書オプション (Engraving Options)」 > 「コード記号 (Chord Symbols)」 > 「括弧 (Parentheses)」では、プロジェクト全体のすべてのコード記号の括弧のデフォルトの高さを変更できます。

#### 関連リンク

[コード記号のフォントスタイル \(1157 ページ\)](#)

[大きな選択範囲 \(463 ページ\)](#)

## コード記号の括弧の表示位置の変更

プロジェクト全体の設定とは別に、個々のコード記号の括弧の表示位置を左右に移動できます。これにより、たとえば特定のコード記号と括弧の間のスペースを広げることができます。この操作は現在のレイアウトとフレームチェーンのみに対して、もしくはすべてのレイアウトとフレームチェーンに対して行なえます。

#### 前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。
- 下ゾーンのツールバーで「プロパティ (Properties)」を選択しておきます。
- 浄書ツールボックスで「グラフィックの編集 (Graphic Editing)」を選択しておきます。
- ローカルのプロパティ変更に関して、適切なプロパティ範囲を選択しておきます。

#### 手順

1. 浄書モードで、括弧の位置を移動する括弧付きのコード記号を選択します。
2. プロパティパネルの「コード記号 (Chord Symbols)」グループで、以下のプロパティを片方または両方ともオンにします。
  - 括弧開きのオフセット (Open parenthesis offset)
  - 括弧閉じのオフセット (Closed parenthesis offset)
3. 以下のいずれかの操作を行なって、対応する括弧の表示位置を移動します。
  - 右に移動させるには、値フィールドの値を増加させます。
  - 左に移動させるには、値フィールドの値を減少させます。

結果

選択した括弧付きのコード記号の対応する括弧の位置が移動します。プロパティ範囲を「**ローカル (Locally)**」に設定している場合、この変更は現在のレイアウトおよびフレームチェーンのみに影響します。

ヒント

「**浄書オプション (Engraving Options)**」 > 「**コード記号 (Chord Symbols)**」 > 「**括弧 (Parentheses)**」では、プロジェクト全体のすべてのコード記号と括弧の間のデフォルトの間隔を変更できます。

---

## MusicXML ファイルから読み込まれたコード記号

コード記号は、MusicXML ファイルから読み込むことができます。ただし、要素の種類として Neapolitan、Italian、French、German、Pedal、Tristan、および Other の値を指定しているコードは読み込まれません。なぜなら、これらのコード記号が表わしている音符を指定する情報がないためです。

関連リンク

[音符からコード記号を生成する \(355 ページ\)](#)

# コードダイアグラム

コードダイアグラムはフレット楽器の弦とフレットのパターンを表わすもので、対応するコードを演奏する際に指で押さえる位置を丸で示します。コードの特定のシェイプをコンパクトに表示でき、特定のボーイングが必要な場合に便利です。

Dorico Pro では、コードダイアグラムはコード記号の一部であり、コード記号を表示しているときはいつでもその下にコードダイアグラムを表示できます。コードダイアグラムを表示するよう設定されているプレーヤーに対し、コード記号のみ、または個々のコード記号のコードダイアグラムを表示できます。

ギターの DADGAD チューニングなどのさまざまなチューニングや弦の配置を含め、あらゆるフレット楽器にコードダイアグラムシェイプを表示できます。たとえば、ベースの譜表の上にスタンダードギターチューニングのコードダイアグラムシェイプを表示したい場合など、下に表示される楽器とは異なるコードダイアグラムシェイプを表示することもできます。

また、フローの開始位置に、フローで使用されるすべてのコード記号のコードダイアグラムをグリッドに表示することもできます。これはポップスやロック音楽のリードシートでよく使用されます。楽譜内のコード記号と一緒に表示されるものとは別に、使用されるコードダイアグラムのグリッドを表示できます。

バンジョーのコードダイアグラムが表示された一連のコード記号

Dorico Pro では、押さえるフレットの相互の位置関係をシェイプと呼びます。演奏できるすべてのシェイプは、新たに作成したコードダイアグラムシェイプを含め、ピッチが一致する他のコードに再利用できます。つまり、別の楽器、別のチューニング、フレットボードの別の位置 (シェイプに含まれる開放弦を別のフレット位置でバレーを使って演奏できる場合) などにシェイプを利用できるということです。

1つのコードに対して、異なる楽器やチューニングのコードダイアグラムシェイプを表示できます。これは、開放弦のピッチと弦の数がそれぞれ異なるためです。

関連リンク

[コード記号 \(1154 ページ\)](#)

[コードダイアグラムを表示/非表示にする \(1177 ページ\)](#)

[コード記号またはコードダイアグラムのみを表示する \(1178 ページ\)](#)

[コードダイアグラムのフィンガリングの表示/非表示を切り替える \(1182 ページ\)](#)

[使用されるコードダイアグラムのグリッド \(1179 ページ\)](#)

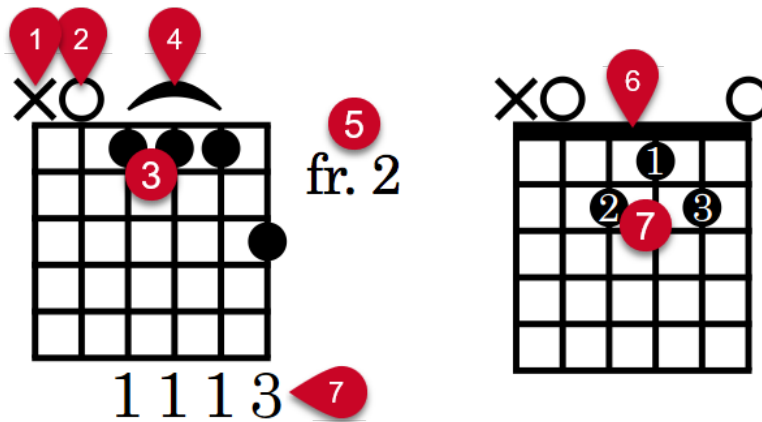
[コードダイアグラムシェイプを変更する \(1185 ページ\)](#)

[新しいコードダイアグラムシェイプを作成する \(1186 ページ\)](#)

[カポ \(173 ページ\)](#)

## コードダイアグラムの構成要素

コードダイアグラムは、対応するコードを演奏するのに必要な弦、フレット位置、指の位置に関する情報を、記号、丸、線を組み合わせて表わします。



- 1 省略弦**  
鳴らさない弦を表わします。
- 2 開放弦**  
開放した状態で鳴らす、つまり押さえずに鳴らす弦を表わします。
- 3 丸**  
弦を押さえるフレット位置を表わします (通常は左手の指を使う)。
- 4 バレー**  
同じ指で複数の弦を押さえることを表わします。通常は、弦をフレットボードに均一に押し付けます。
- 5 開始フレット番号**  
コードダイアグラムの一番上のフレットが第1フレット以外の場合、そのフレット番号を表わします。
- 6 ナット**  
フレットボードの最上部、つまりナットを表わし、一番上のフレットが第1フレットのコードダイアグラムに表示されます。
- 7 フィンガリング**  
弦を押さえる指を指示します。フィンガリングは丸の中か弦の終端に配置できます。

関連リンク

[開始フレット番号の水平位置の変更 \(1189 ページ\)](#)

[コードダイアグラムの向きを変更する \(1190 ページ\)](#)

[「コードダイアグラムの編集 \(Edit Chord Diagrams\)」ダイアログ \(938 ページ\)](#)

[コードダイアグラムのフォントスタイル \(1188 ページ\)](#)

## 浄書オプションでコードダイアグラムの設定をプロジェクト全体に適用する

「浄書オプション (Engraving Options)」の「コードダイアグラム (Chord Diagrams)」ページで、コードダイアグラムの外観と位置を設定し、プロジェクト全体に適用できます。

「浄書オプション (Engraving Options)」の「コードダイアグラム (Chord Diagrams)」ページの各オプションを使用すると、コードダイアグラムに表示されるデフォルトのフレット番号、コード記号に対



するコードダイアグラムの倍率、コードダイアグラム内の各部分の正確な寸法 (弦と線の太さや丸のサイズなど) を変更できます。また、フレット番号の外観と位置も変更できます (ローマ数字で表示するなど)。

オプションと一緒に表示される図は、オプションを楽譜に適用したときにどのように表示されるかを示します。

関連リンク

[「浄書オプション \(Engraving Options\)」 ダイアログ \(923 ページ\)](#)

## コードダイアグラムのプロジェクト全体の音符入力オプション

「音符入力オプション (Note Input Options)」の「コードダイアグラム (Chord Diagrams)」ページには、コードダイアグラムおよびコードダイアグラム内の各構成要素をプロジェクト全体で操作するためのオプションが用意されています。

「コードダイアグラム (Chord Diagrams)」ページには、コードダイアグラムにルート音を含めるかどうか (ベース奏者がいるアンサンブルのギター奏者用にコードダイアグラムのルート音を省略する場合などに便利) や、コード記号に応じて特定のスケールディグリーを含めるかどうか (ドミナント 7th コードで 5th を省略するなど) などのオプションがあります。

関連リンク

[「音符入力オプション \(Note Input Options\)」 ダイアログ \(921 ページ\)](#)

## コードダイアグラムを表示/非表示にする

あらゆるタイプのフレット楽器のコードダイアグラムを、プレーヤーごとにすべてのコード記号と一緒に表示したり、非表示にしたりできます。また、コードダイアグラムを表示するフレット楽器またはチューニングを変更することもできます。


### 補足

コード記号が完全に非表示になっている場合はコードダイアグラムを表示できません。ただし、コード記号のみ、または個々のコード記号のコードダイアグラムを表示できます。

### 前提条件

- コードダイアグラムを表示するコード記号を入力しておきます。
- コードダイアグラムを表示する譜表の上にコード記号が表示されていることとします。
- フレット楽器のカスタムチューニングを使用してコードダイアグラムを表示する場合は、使用するチューニングをインポートしておくか、プロジェクト内のフレット楽器のチューニングを適切に変更しておきます。

### 手順

1. 設定モードの「プレーヤー (Players)」パネルで、コードダイアグラムの表示/非表示を切り替えるプレーヤーを選択します。
2. アクションバーの「プレーヤー設定 (Player Settings)」 をクリックして、以下のいずれかのオプションを選択します。
  - コードダイアグラムを表示するには、「コードダイアグラム (Chord Diagrams)」 > [フレット楽器とチューニング]を選択します。たとえば、DADGAD チューニングのギターにコードダイアグラムを表示するには、「コードダイアグラム (Chord Diagrams)」 > 「D-A-D-G-A-D ギターチューニング (DADGAD guitar tuning)」を選択します。

- コードダイアグラムを非表示にするには、「**コードダイアグラム (Chord Diagrams)**」 > 「**コードダイアグラムなし (No Chord Diagrams)**」を選択します。

#### 結果

選択したプレーヤーのすべてのコード記号と一緒に、選択したフレット楽器とチューニングに適したコードダイアグラムが表示されます。Dorico Pro では、各コードに使用できるシェイプのうち、最もシンプルなものが表示されます。つまり、開放弦が最も多く、バレーの位置が簡単で、指の位置が最もナットに近い形です。

そのコード記号に使用できるコードダイアグラムがない場合は、空のコードダイアグラムが表示されません。

#### ヒント

- プレーヤーを右クリックして、コンテキストメニューからこれらのオプションを選択することで、コードダイアグラムを表示/非表示にすることもできます。
- 空のコードダイアグラムを編集して新しいコードダイアグラムシェイプを保存できます。

#### 例



The image shows two musical staves. The left staff is in G major (one sharp) and contains the notes G4, A4, B4, G4, F#4, E4. Above the notes are the chord symbols Bmaj7, E, and A. The right staff is in the same key and contains the same notes. Above the notes are the chord symbols Bmaj7, E, and A, each with a corresponding fretboard diagram showing the fingerings for each chord.

コード記号を表示し、コードダイアグラムを非表示にした状態

コードダイアグラムを表示した状態 (スタンダードギターチューニング)

#### 関連リンク

- [プレーヤーパネル \(121 ページ\)](#)
- [コード記号の入力 \(346 ページ\)](#)
- [コード記号を表示/非表示にする \(1157 ページ\)](#)
- [フレット楽器のチューニング \(168 ページ\)](#)

## コード記号またはコードダイアグラムのみを表示する

コードダイアグラムを表示するよう設定された譜表に、コード記号のみ、または個々のコード記号のコードダイアグラムのみを表示できます。これにより、たとえば各コードが初めて表示される際には記号とダイアグラムの両方を表示し、それ以降はコード記号のみを表示するなどできます。この操作は現在のレイアウトとフレームチェーンのみに対して、もしくはすべてのレイアウトとフレームチェーンに対して行なえます。

#### 前提条件

- 譜表にコード記号またはコードダイアグラムのみを表示するプレーヤーのコードダイアグラムを表示しておきます。
- 下ゾーンを表示しておきます。
- 下ゾーンのツールバーで「**プロパティ (Properties)**」を選択しておきます。
- 浄書ツールボックスで「**グラフィックの編集 (Graphic Editing)**」を選択しておきます。
- ローカルのプロパティ変更に関して、適切なプロパティ範囲を選択しておきます。

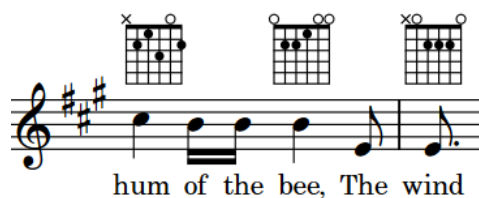
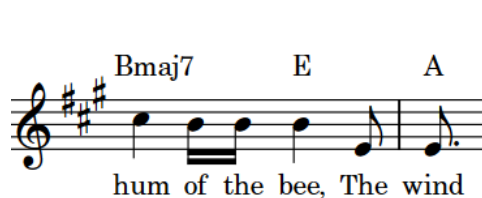
#### 手順

1. 表示される記号/ダイアグラムを変更するコード記号を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「コード記号 (Chord Symbols)」グループで「次のみ表示 (Show only)」をオンにします。
3. 以下のいずれかのオプションを選択します。
  - コード記号 (Chord Symbol)
  - コードダイアグラム (Chord Diagram)

#### 結果

選択したコード記号には、記号またはダイアグラムのみが表示されます。コード記号とコードダイアグラムの両方を含む譜表では、コード記号がコードダイアグラムよりも譜表から遠くに配置されます。プロパティ範囲を「ローカル (Locally)」に設定している場合、この変更は現在のレイアウトおよびフレームチェーンのみに影響します。

#### 例



#### 関連リンク

- [プロパティパネル \(826 ページ\)](#)
- [プロパティ範囲の変更 \(828 ページ\)](#)
- [浄書ツールボックス \(554 ページ\)](#)

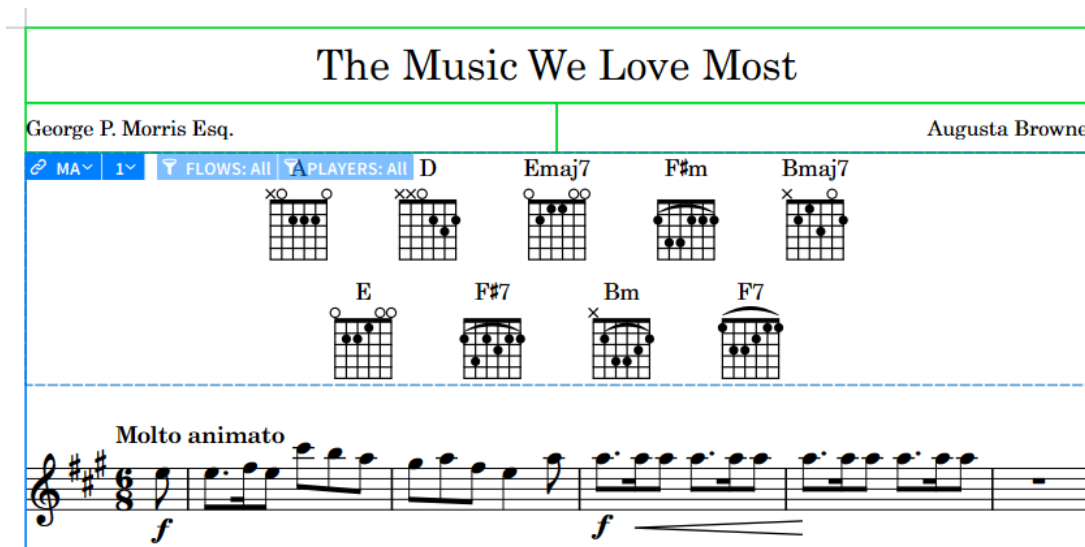
## 使用されるコードダイアグラムのグリッド

使用されるコードダイアグラムのグリッドは、ポップスやロック音楽のリードシートでよく使用されます。通常、垂直方向のスペースを節約するために、楽譜内のコード記号と一緒に表示されるコードダイアグラムのかわりに表示されます。こうすることでコードダイアグラムを大きく表示でき、細部が読みやすくなります。


初期設定では、各フローのすべてのコードダイアグラムが、対応する使用されるコードダイアグラムのグリッドに含まれます。

使用されるコードダイアグラムのグリッド内のコードダイアグラムの順序は、フロー内で最初に登場する順序によって決まります。異なるボイスは個別のコードダイアグラムとして表示されますが、グリッド内に表示されるのはそれぞれ1回のみです。

コード記号を入力したり既存のコードダイアグラムのボイスを変更したりすると、使用されるコードダイアグラムのグリッドが自動的に更新され、新たなコードダイアグラムが表示されます。



使用されるコードダイアグラムのグリッドのフレームの端を示す破線

浄書モードでは、使用されるコードダイアグラムのグリッドがフレームの内側に表示されます。浄書のツールボックスで「フレーム (Frames)」を選択すると、使用されるコードダイアグラムのグリッドのフレームが、実線ではなく破線で表示されます。

使用されるコードダイアグラムのグリッドを、レイアウトごとに個別に表示/非表示にできます。また、コードダイアグラムを個別に含めたり除外したりすることもできます。

#### 補足

- 使用されるコードダイアグラムのグリッドのフレームを選択したり編集したりすることはできません。
- 使用されるコードダイアグラムのグリッド内の個別のコードダイアグラムを選択したり編集したりすることはできません。

## 使用されるコードダイアグラムのグリッドを表示/非表示にする

各レイアウトの各フローで使用されているすべてのコードダイアグラムを含むグリッドの表示/非表示を、個別に切り替えることができます。初期設定では、使用されるコードダイアグラムのグリッドには、スタンダードギターチューニングのコードダイアグラムが表示されますが、これは任意のフレット楽器またはチューニングのコードダイアグラムを表示するように変更できます。

#### 前提条件

- 使用されるコードダイアグラムのグリッドを表示するすべてのページから、ページテンプレートの優先を削除しておきます。
- フレット楽器のカスタムチューニングを使用してコードダイアグラムを表示する場合は、使用するチューニングをインポートしておくか、プロジェクト内のフレット楽器のチューニングを適切に変更しておきます。
- コード記号を入力し、特定のボイスと一緒に表示するコード記号のシェイプを変更しておくことをおすすめします。

#### 補足

使用されるコードダイアグラムのグリッドを表示する場合は、コード記号と一緒に表示されるコードダイアグラムを表示しないのが普通です。また、コードダイアグラムが非表示になっているときはコードダイアグラムシェイプを変更できません。

#### 手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[L]** を押して「**レイアウトオプション (Layout Options)**」を開きます。
2. 「**レイアウト (Layouts)**」リストから、フローの開始位置に使用されるコードダイアグラムのグリッドを表示または非表示にするレイアウトを選択します。  
初期設定では、楽譜領域で選択されているものと同じレイアウトが選択された状態のダイアログが表示されます。他のレイアウトを選択するには、アクションバーの選択オプションを使用するか、複数のレイアウトをまたぐようにクリックしてドラッグするか、**[Shift]** を押しながら隣接するレイアウトをクリックするか、**[Ctrl]/[command]** を押しながら個々のレイアウトをクリックします。
3. カテゴリーリストの「**コード記号とコードダイアグラム (Chord Symbols and Diagrams)**」をクリックします。
4. 「**コードダイアグラム (Chord Diagrams)**」セクションで、「**フローで使用されるコードダイアグラムをフローの開始位置に表示 (Show chord diagrams used at start of flow)**」をオンまたはオフにします。
5. 必要に応じて、使用されるコードダイアグラムのグリッドの設定を変更します。  
たとえば、グリッド内のコードダイアグラムのフレット楽器のチューニング、コードダイアグラムの縮尺サイズ、コードダイアグラム同士またはコードダイアグラムの列の間の距離などを変更できます。
6. 「**適用 (Apply)**」をクリックしてから「**閉じる (Close)**」をクリックします。

---

#### 結果

選択したレイアウトの各フローの開始位置の上に、フロー内で使用されるすべてのコード記号のコードダイアグラムがグリッド表示され、選択したレイアウトの設定に従って配置されます。フロー見出しが表示されている場合、使用されるコードダイアグラムのグリッドはその下に表示されます。

#### 補足

フロー内にコード記号が存在しない場合でも、フローの開始位置には使用されるコードダイアグラムのグリッドの垂直方向のスペースが追加されます。

---

#### 手順終了後の項目

使用されるコードダイアグラムのグリッドをスペースに収めるために必要であれば、ページ、楽曲フレーム、フロー見出しの余白を変更できます。

#### 関連リンク



- [コード記号の入力 \(346 ページ\)](#)
- [コード記号を表示/非表示にする \(1157 ページ\)](#)
- [使用されるコードダイアグラムのグリッドのカポを定義する \(181 ページ\)](#)
- [フレット楽器のチューニング \(168 ページ\)](#)
- [新しいコードダイアグラムシェイプを作成する \(1186 ページ\)](#)
- [単一譜表の組段で組段の小節線を表示/非表示にする \(1085 ページ\)](#)
- [余白 \(768 ページ\)](#)
- [ページテンプレートの優先の解除 \(586 ページ\)](#)

## 使用されるコードダイアグラムのグリッドにコードダイアグラムを含める/除外する

使用されるコードダイアグラムのグリッドにコードダイアグラムシェイプを個別に含めたり除外したりできます。これにより、同じコードにいくつのシェイプを表示するかを制御できます。

初期設定では、各フローのすべてのコードダイアグラムが、対応する使用されるコードダイアグラムのグリッドに含まれます。

前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。
- 下ゾーンのツールバーで「プロパティ (Properties)」を選択しておきます。
- 浄書モードの場合は、浄書ツールボックスで「グラフィックの編集 (Graphic Editing)」を選択しておきます。

---

手順

1. 使用されるコードダイアグラムのグリッドにダイアグラムシェイプを含める/除外するコード記号を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。

補足

フロー内に複数回出現するコードダイアグラムを除外するには、出現するコードダイアグラムをすべて選択する必要があります。

2. プロパティパネルの「コード記号 (Chord Symbols)」グループで「フローの開始位置の使用するコードから除外 (Exclude from chords used at start of flow)」をオン/オフにします。

---

結果

フロー内に出現するそのシェイプのすべてのコードダイアグラムに対してこのプロパティがオンになっている場合、使用されるコードダイアグラムのグリッドから選択したコードダイアグラムが除外されます。

そのシェイプの少なくとも1つのコードダイアグラムに対してこのプロパティがオフになっている場合、使用されるコードダイアグラムのグリッドに選択したコードダイアグラムが含まれます。

関連リンク

- [プロパティパネル \(826 ページ\)](#)
- [浄書ツールボックス \(554 ページ\)](#)
- [コードダイアグラムを表示/非表示にする \(1177 ページ\)](#)
- [コードダイアグラムシェイプを変更する \(1185 ページ\)](#)

## コードダイアグラムのフィンガリングの表示/非表示を切り替える

コード記号と一緒に表示されるコードダイアグラムと、使用中のコードダイアグラムのグリッドで、それぞれ個別に、またレイアウトごとにフィンガリングの表示/非表示を切り替えることができます。フィンガリングを丸の中に表示するか弦の終端に表示するかを選択できます。

---

手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[L]** を押して「レイアウトオプション (Layout Options)」を開きます。
2. 「レイアウト (Layouts)」リストから、コードダイアグラムのフィンガリングを表示または非表示にするレイアウトを選択します。

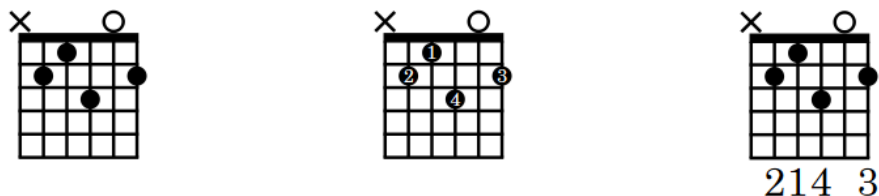
初期設定では、楽譜領域で選択されているものと同じレイアウトが選択された状態のダイアログが表示されます。他のレイアウトを選択するには、アクションバーの選択オプションを使用するか、複数のレイアウトをまたぐようにクリックしてドラッグするか、**[Shift]** を押しなが隣接するレイアウトをクリックするか、**[Ctrl]/[command]** を押しなが個々のレイアウトをクリックします。

3. カテゴリーリストの「コード記号とコードダイアグラム (Chord Symbols and Diagrams)」をクリックします。
4. 「コードダイアグラム (Chord Diagrams)」セクションで、以下のオプションのいずれかまたは両方をオン/オフにします。
  - コード記号と一緒に表示されるコードダイアグラムのフィンガリングの表示/非表示を切り替えるには、「コードダイアグラムにフィンガリングを表示 (Show fingerings in chord diagrams)」をオン/オフにします。
  - 使用中のコードダイアグラムのグリッドにおけるフィンガリングの表示/非表示を切り替えるには、「フローの開始位置のコードダイアグラムにフィンガリングを表示 (Show fingerings in chord diagrams at start of flow)」をオン/オフにします。
5. 「フィンガリングの位置 (Fingerings position)」で以下のいずれかのオプションを選択します。
  - 丸の中 (Inside dot)
  - 弦の終端 (At end of string)
6. 「適用 (Apply)」をクリックしてから「閉じる (Close)」をクリックします。

#### 結果

オプションをオンにすると、選択したレイアウトのコードダイアグラムの対応する位置にフィンガリングが表示され、オフにすると非表示になります。これは、「コードダイアグラムの編集 (Edit Chord Diagram)」ダイアログおよび「コードダイアグラムの編集 (Edit Chord Diagrams)」ダイアログにフィンガリングを表示するかどうかにも影響します。

#### 例



フィンガリングを非表示にした状態    丸の中に表示されたフィンガリング    弦の終端に表示されたフィンガリング

#### 手順終了後の項目

コードダイアグラムの形状を編集する際に、そこに表示されるフィンガリングを変更できます。

#### 関連リンク

- [使用されるコードダイアグラムのグリッド \(1179 ページ\)](#)
- [新しいコードダイアグラムシェイプを作成する \(1186 ページ\)](#)
- [「コードダイアグラムの編集 \(Edit Chord Diagram\)」ダイアログ \(1187 ページ\)](#)
- [「コードダイアグラムの編集 \(Edit Chord Diagrams\)」ダイアログ \(938 ページ\)](#)
- [コードダイアグラムのフォントスタイル \(1188 ページ\)](#)
- [フィンガリング \(1286 ページ\)](#)
- [フィンガリングの表示/非表示 \(1294 ページ\)](#)

## コードダイアグラムの親指のフィンガリングを許可する/禁止する

すべてのコードダイアグラムで一番低い弦に親指のフィンガリングを使用することを許可するかどうかをプロジェクト全体で設定できます。たとえば、親指を使わないとフィンガリングできないコードがプロジェクトに含まれている場合などに便利です。

---

### 手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[I]** を押して「**音符入力オプション (Note Input Options)**」を開きます。
2. カテゴリリストの「**コードダイアグラム (Chord Diagrams)**」をクリックします。
3. 「**フィンガリング (Fingering)**」サブセクションで、「**最低弦のフィンガリングに親指を使用 (Use of thumb when fingering lowest string)**」に以下のいずれかのオプションを選択します。
  - **親指を許可 (Allow thumb)**
  - **親指を禁止 (Disallow thumb)**
4. 「**親指の使用に関する設定を変更した場合、既存のコードダイアグラムのフィンガリングを更新 (Update existing chord diagram fingerings when changing use of thumb)**」をオン/オフにします。

---

### 結果

プロジェクト全体のすべてのコードダイアグラムで、一番低い弦の親指のフィンガリングが許可/禁止されます。

「**親指の使用に関する設定を変更した場合、既存のコードダイアグラムのフィンガリングを更新 (Update existing chord diagram fingerings when changing use of thumb)**」をオンにした場合、既存のコードダイアグラムのフィンガリングとシェイプが変更されます (該当する場合)。

### 関連リンク

- [「音符入力オプション \(Note Input Options\)」ダイアログ \(921 ページ\)](#)
- [「コードダイアグラムの編集 \(Edit Chord Diagrams\)」ダイアログ \(938 ページ\)](#)
- [「コードダイアグラムの編集 \(Edit Chord Diagram\)」ダイアログ \(1187 ページ\)](#)
- [コードダイアグラムのフィンガリングの表示/非表示を切り替える \(1182 ページ\)](#)

## コードダイアグラムのフィンガリングをリセットする

個々のコードダイアログのフィンガリングに対して行なった変更をリセットできます。これにより、その形状の他の変更がリセットされることはありません。

### 前提条件

浄書モードの場合は、浄書ツールボックスで「**グラフィックの編集 (Graphic Editing)**」を選択しておきます。

---

### 手順

1. フィンガリングをリセットするコードダイアグラムを選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
  2. 「**編集 (Edit)**」 > 「**記譜 (Notations)**」 > 「**コード記号とコードダイアグラム (Chord Symbols and Diagrams)**」 > 「**コードダイアグラムのフィンガーナンバリングをリセット (Reset Chord Diagram Finger Numbering)**」を選択します。このオプションはコンテキストメニューでも選択できます。
-




## コードダイアグラムシェイプを変更する

個別の位置に表示されるコードダイアグラムのシェイプは、たとえば異なるボイスイングによるシェイプが必要な場合には変更できます。多くのコードには、演奏するためのシェイプが複数あります。

互換性のあるチューニングを持つインストゥルメントの同じコードのほかのすべてのインスタンスに変更を適用することもできます。

### 前提条件

浄書モードの場合は、浄書ツールボックスで「グラフィックの編集 (Graphic Editing)」を選択しておきます。

### 手順

1. シェイプを変更するコードダイアグラムを選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。

### 補足

コードダイアグラムのシェイプは一度に1つずつしか変更できません。

2. 以下のいずれかの操作を行なって、シェイプを変更します。
  - 選択したコードに使用できるすべてのシェイプを順に切り替えるには、**[Alt/Opt]+[Q]** を押します。
  - 「コードダイアグラムを選択 (Choose Chord Diagram)」ダイアログを開いて、選択したコードに使用できるすべてのシェイプを一度に表示するには、**[Shift]+[Alt/Opt]+[Q]** を押します。
3. 必要に応じて、「コードダイアグラムを選択 (Choose Chord Diagram)」ダイアログで、使用するシェイプを選択します。

### ヒント

求めているシェイプがない場合は、「編集 (Edit)」をクリックして新しいシェイプを作成できます。

4. 「OK」をクリックして変更内容を保存し、ダイアログを閉じます。
5. 互換性のあるチューニングを持つインストゥルメントの同じコードのほかのインスタンスに新しいシェイプを適用するには、「編集 (Edit)」 > 「記譜 (Notations)」 > 「コード記号とコードダイアグラム (Chord Symbols and Diagrams)」 > 「マッチするコード記号に形をコピー (Copy Shape to Matching Chord Symbols)」を選択します。このオプションはコンテキストメニューでも選択できます。

### 結果

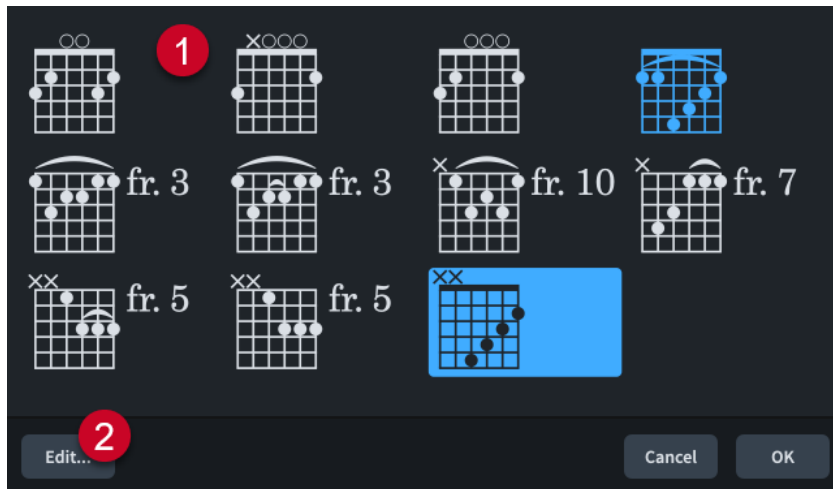
選択したコードダイアグラムのシェイプが変更されます。これは楽譜の同じ位置にあり、同じフレット楽器のチューニングを使用するコードダイアグラムをすべて同時に更新させます。

フローの別の位置に同じコード記号を続けて入力した場合、最後に選択したコードダイアグラムシェイプが自動的に表示されます。

## 「コードダイアグラムを選択 (Choose Chord Diagram)」ダイアログ

「コードダイアグラムを選択 (Choose Chord Diagram)」ダイアログを使用すると、選択したコードに使用できるすべてのコードダイアグラムシェイプを表示し、使用するものを選択できます。

- 「コードダイアグラムを選択 (Choose Chord Diagram)」ダイアログを開くには、記譜モードでコードダイアグラムを選択して **[Shift]+[Alt/Opt]+[Q]** を押します。



「コードダイアグラムを選択 (Choose Chord Diagram)」ダイアログは以下で構成されます。

1 使用できるコードダイアグラム

選択したコードに使用できるすべてのコードダイアグラムシェイプが表示され、選択した位置に表示するシェイプを選択できます。独自に作成したシェイプは異なる色で表示されます。

2 「編集 (Edit)」

表示するフレットの数、押さえるフレットの位置、開始フレット番号の変更を含め、コードダイアグラムのシェイプを編集できる「コードダイアグラムの編集 (Edit Chord Diagram)」ダイアログを開きます。

## 新しいコードダイアグラムシェイプを作成する

別のボイスが必要の場合やバレーを表示する場合などに、既存のコードダイアグラムシェイプを編集して新しいコードダイアグラムシェイプを作成できます。既存のコードダイアグラムシェイプへの変更内容は新しいシェイプとして保存され、既存のシェイプが上書きされることはありません。

### ヒント

複数の新しいコードシェイプを一度に定義したい場合や新しいシェイプをゼロから作成したい場合は、「コードダイアグラムの編集 (Edit Chord Diagrams)」を使用してこれを実行できます。

### 手順

1. 浄書モードで、編集するシェイプのコードダイアグラムをダブルクリックして「コードダイアグラムの編集 (Edit Chord Diagram)」ダイアログを開きます。

### ヒント

「コードダイアグラムの編集 (Edit Chord Diagram)」ダイアログは、「コードダイアグラムを選択 (Choose Chord Diagram)」ダイアログから開くこともできます。

2. 必要に応じて、コードダイアグラムのシェイプと設定を編集します。  
たとえば、開放弦を省略弦に変更したり、弦を押さえるフレットの位置を変更して対応する弦のピッチを変更したり、弦を押さえるフレットの個々の位置のフィンガリングを変更したりできます。
3. フレット開始位置の異なるコードにそのシェイプを使用できるようにするには、「コードがネックに沿って移動することを許可 (Chord may be moved along the neck)」をオンにします。
4. 「保存 (Save)」をクリックし、「閉じる (Close)」をクリックします。

## 結果

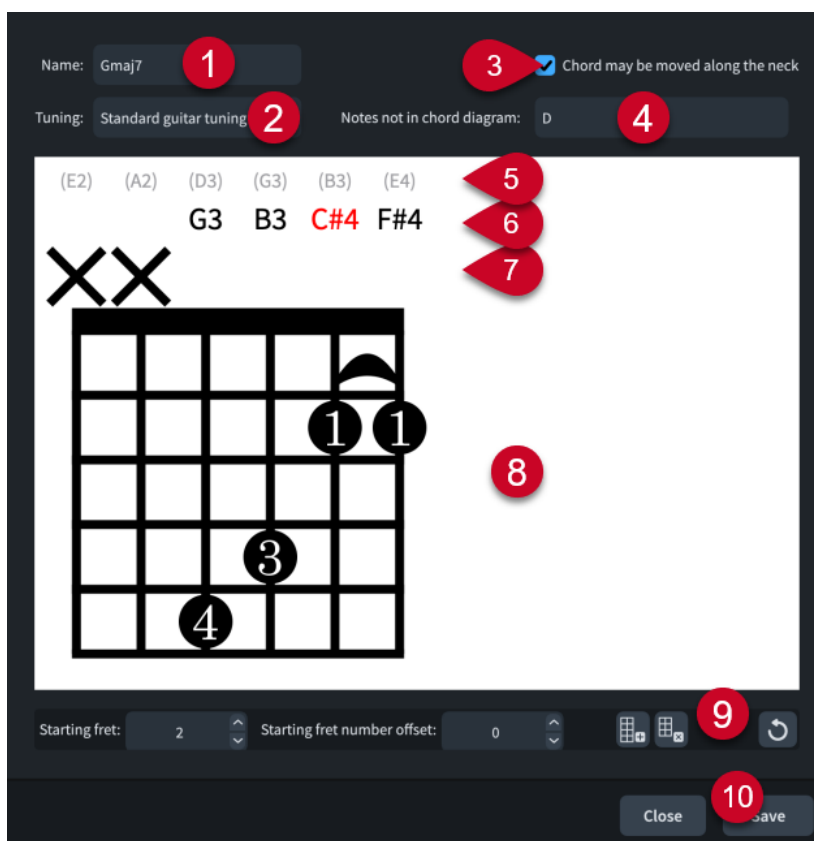
新しいシェイプが保存され、選択したコードダイアグラムに適用されます。新しいシェイプは、そのシェイプを適用できる他のコードにも使用できるようになります。

## 「コードダイアグラムの編集 (Edit Chord Diagram)」 ダイアログ

「コードダイアグラムの編集 (Edit Chord Diagram)」 ダイアログを使用すると、表示するフレットの数、押さえるフレットの位置、開始フレット番号を含め、コードダイアグラムのシェイプを個別に編集できます。

「コードダイアグラムの編集 (Edit Chord Diagram)」 ダイアログを開くには、以下のいずれかの操作を行います。

- 記譜モードで、「コードダイアグラムを選択 (Choose Chord Diagram)」 ダイアログを開いてシェイプを編集するコードダイアグラムを選択し、「編集 (Edit)」 をクリックします。
- 浄書モードで、コードダイアグラムをダブルクリックするか、コードダイアグラムを選択して **[Return]** を押します。



「コードダイアグラムの編集 (Edit Chord Diagram)」 ダイアログには、以下のオプションとセクションがあります。

### 1 名前 (Name)

ダイアログで編集中のコードダイアグラムのコード名が表示されます。この名前は変更できません。

### 2 チューニング (Tuning)

現在のコードダイアグラムのフレット楽器とチューニングが表示されます。

### 3 コードがネックに沿って移動することを許可 (Chord may be moved along the neck)

たとえば、より高いフレット位置でバレーを使って開放弦を演奏するなど、コードダイアグラムのシェイプを別のフレット位置で再利用できるようにするかどうかを指定できます。

#### 4 コードダイアグラムにない音符 (Notes not in chord diagram)

コードの一部でありながら、現在はコードダイアグラムに含まれていないピッチが表示されます。

#### 5 開放弦のピッチ

各弦の開放ピッチが参照用に表示されます。

#### 6 現在の弦のピッチ

開放弦または押さえる弦について、各弦の現在のピッチが表示されます。弦のピッチがコードに含まれていない場合は、弦のピッチが赤で表示されます。

#### 7 弦の状態

各弦の現在の使用状態が表示されます。この行をクリックすると、個々の弦の状態を開放と省略の間で切り替えることができます。

- **O**: 開放弦
- **X**: 省略弦
- **記号なし**: 押さえる弦

#### 8 コードダイアグラムシェイプエディター




押さえるフレットの現在の配置が丸を使って表示され、コードダイアグラムシェイプを変更できます。任意の位置をクリックすることで押さえるフレットを移動できます。押さえるフレットの位置は、各弦に1つのみ設定できます。

同じフレットで複数の弦を押さえる場合、そのフレット位置のいずれかの丸をクリックしてバレーの表示/非表示を切り替えることができます。

フィンガリングをダブルクリックして新しい数字を入力することでフィンガリングを変更できます。「0」を入力するとフィンガリングが表示されず、「T」を入力すると一番低い弦の親指のフィンガリングが表示されます。

#### 9 アクションバー

フレットの数を変更できるオプションが用意されています。

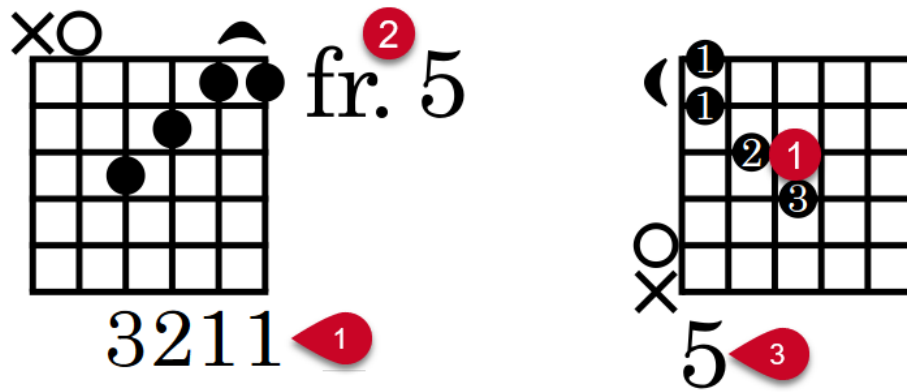
- **開始フレット (Starting fret)**: コードダイアグラムの一番上のフレットのフレット番号を変更します。
- **開始フレット番号のオフセット (Starting fret number offset)**: 開始フレット番号のオフセットを変更します。たとえば、バレーを含めるために開始フレットのラベルをコードダイアグラムの第2フレットの横に表示する場合などに使用します。
- **フレットを追加 (Add fret)** : コードダイアグラムの一番下にフレットを追加します。
- **フレットを削除 (Remove fret)** : コードダイアグラムの一番下のフレットを削除します。
- **コードダイアグラムをリセット (Reset Chord Diagram)** : コードダイアグラムに対して行なった変更を削除し、デフォルトのシェイプにリセットします。

#### 10 保存 (Save)

コードダイアグラムシェイプを保存し、楽譜領域で選択したコードダイアグラムを更新します。保存されたシェイプは、互換性のある他のコードの代替シェイプとしても使用できるようになります。

## コードダイアグラムのフォントスタイル

コードダイアグラムのフィンガリングと開始フレット番号にはさまざまなフォントスタイルがあります。フォントサイズを変更してコードダイアグラムのフィンガリングを小さく表示するなど、これらのフォントの各種設定は「**フォントスタイルを編集 (Edit Font Styles)**」ダイアログで編集できます。



コードダイアグラムには以下のフォントスタイルが使用されます。

- 1 **コードダイアグラムのフィンガリングのフォント (Chord Diagram Fingering Font):** コードダイアグラムのフィンガリングに使用され、丸の中と弦の末端の両方に適用されます。ただし、フォントサイズに関係なく、丸の中のフィンガリングが丸よりも大きく表示されることはありません。
- 2 **コードダイアグラムのフレット番号のフォント (Chord Diagram Fret Number Font):** 垂直のコードダイアグラムの開始フレット番号に使用されます。
- 3 **コードダイアグラムの水平フレット番号のフォント (Chord Diagram Horizontal Fret Number Font):** 水平のコードダイアグラムの開始フレット番号に使用されます。

関連リンク

- [「フォントスタイルを編集 \(Edit Font Styles\)」 ダイアログ \(930 ページ\)](#)
- [コードダイアグラムのフィンガリングの表示/非表示を切り替える \(1182 ページ\)](#)
- [コードダイアグラムの向きを変更する \(1190 ページ\)](#)
- [コードダイアグラムシェイプを変更する \(1185 ページ\)](#)
- [「コードダイアグラムの編集 \(Edit Chord Diagrams\)」 ダイアログ \(938 ページ\)](#)

## 開始フレット番号の水平位置の変更

コードダイアグラムのすべての開始フレット番号をダイアグラムの右側に表示するか左側に表示するかを選択できます。初期設定では、開始フレット番号は右側に表示されます。

手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[E]** を押して「**浄書オプション (Engraving Options)**」を開きます。
2. カテゴリーリストの「**コードダイアグラム (Chord Diagrams)**」をクリックします。
3. 「**フレット番号 (Fret Numbers)**」のセクションの「**水平位置 (Horizontal position)**」で、以下のいずれかのオプションを選択します。
  - 左 (Left)
  - 右 (Right)
4. 「**適用 (Apply)**」をクリックしてから「**閉じる (Close)**」をクリックします。

結果

コードダイアグラムに対する開始フレット番号の位置がプロジェクト全体で変更されます。

ヒント

「**コードダイアグラム (Chord Diagrams)**」ページには、フレット番号の外観と正確な位置を制御するその他のオプションがあります。

## コードダイアグラムのサイズの変更

コード記号に対する縮尺サイズで表わされる、すべてのコードダイアグラムのサイズをプロジェクト全体で変更できます。コード記号のサイズを個別に変更した場合、コードダイアグラムは自動的にその比率に合わせて調整されます。

### 補足

これらの手順は、コード記号と一緒に表示されるコードダイアグラムにのみ適用されます。使用されるコードダイアグラムのグリッドのコードダイアグラムのサイズは、「**レイアウトオプション (Layout Options)**」 > 「**コード記号とコードダイアグラム (Chord Symbols and Diagrams)**」 > 「**コードダイアグラム (Chord Diagrams)**」で変更できます。

---

### 手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[E]** を押して「**浄書オプション (Engraving Options)**」を開きます。
  2. カテゴリーリストの「**コードダイアグラム (Chord Diagrams)**」をクリックします。
  3. 「**デザイン (Design)**」セクションで「**コード記号に対する倍率 (Scale factor relative to chord symbol)**」の値を変更します。
  4. 「**適用 (Apply)**」をクリックしてから「**閉じる (Close)**」をクリックします。
- 

### 結果

コード記号に対するすべてのコードダイアグラムの縮尺サイズがプロジェクト全体で変更されます。

### 関連リンク

[音符/アイテムのサイズの変更 \(473 ページ\)](#)

[使用されるコードダイアグラムのグリッドを表示/非表示にする \(1180 ページ\)](#)

## コードダイアグラムの向きを変更する

すべてのコードダイアグラムのデフォルトの向きをプロジェクト全体で変更できます。たとえば、教材用にコードダイアグラムを水平に表示したい場合などに使用します。初期設定では、コードダイアグラムは垂直に表示されます。

### 手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[E]** を押して「**浄書オプション (Engraving Options)**」を開きます。
  2. カテゴリーリストの「**コードダイアグラム (Chord Diagrams)**」をクリックします。
  3. 「**デザイン (Design)**」のセクションの「**向き (Orientation)**」で、以下のいずれかのオプションを選択します。
    - 垂直 (Vertical)
    - 水平 (Horizontal)
  4. 「**適用 (Apply)**」をクリックしてから「**閉じる (Close)**」をクリックします。
-

# 音部記号

音部記号は、各組段の開始位置にあって譜表上の音符にコンテキストを付与する記号です。つまり、音部記号は譜表のそれぞれの線および間に音階のどの音が当てはまるのかを伝えます。音符に使用される加線を最小限にするために、通常はインストゥルメントの音域に応じて異なる音部記号が使用されます。

一般的な音部記号には以下のものがあります。

- ト音記号は高音部記号も呼ばれ、らせん形の中心がGの音に重なっています。これは通常ミドルCの1つ上のGです。
- バス記号（ヘ音記号）では、2つの点がFの音に対応する線の両側に記されます。これは通常ミドルCの1つ下のFです。
- 八音記号は、太い垂直線とその右側の括弧状の曲線で構成され、曲線の中央がC（通常はミドルC）に対応する線上に配置されます。譜表の第3線に配置された場合は、アルト記号と呼ばれます。譜表の第4線に配置された場合は、テノール記号と呼ばれます。



ト音記号で表示するミドルCの下のE      バス記号で表示するミドルCの下のE      八音(アルト)記号で表示するミドルCの下のE      八音(テノール)記号で表示するミドルCの下のE

Dorico Pro では、音符は使用される音部記号に従って自動的に配置されます。

フローや組段の開始位置にある最初の音部記号は通常のサイズで表示され、組段の途中に表示される音部変更記号は自動的に小さく表示されます。組段の途中に表示される音部変更記号のデフォルトのサイズは、プロジェクト全体で変更できます。



Dorico Pro の多くのインストゥルメントには、デフォルトでレイアウトの移調に従って代替の音部記号を表示する別のバージョンがあります。インストゥルメントを追加または変更する際は、インストゥルメントピッカーから適切なインストゥルメントバージョンを選択できます。

## 補足

- 音部記号は、手動で入力したものしか選択できません。フローの最初にある音部記号や、組段の開始位置に自動的に表示される音部記号は選択できません。
- どのレイアウトにも音部記号を表示させない場合は、不可視の音部記号を入力する必要があります。また、レイアウトの移調に従って個々のレイアウトの音部記号の表示/非表示を切り替えたり、単一譜表の組段の開始位置にある音部記号の表示/非表示を切り替えたりすることもできます。
- 音部記号の変更が新しい組段またはページの開始位置から行なわれる場合、直前の組段の終了位置に親切音部記号が配置されます。Dorico Pro において、組段の最後に表示される音部記号と次の組

段の開始位置に表示される音部記号は、別のアイテムではなく、同じものです。親切音部記号は非表示にできません。

- 「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**間隔のスペーシング (Spacing Gaps)**」ページでは、音部記号も含めたすべてのオブジェクトの最小間隔を変更できます。
- 

#### 関連リンク

[音部記号とオクターブ線の入力方法 \(358 ページ\)](#)

[オクターブ指示記号付き音部記号 \(1199 ページ\)](#)

[インストゥルメントピッカー \(124 ページ\)](#)

[音部記号の表示/非表示の切り替え \(1195 ページ\)](#)

[レイアウトの移調に従い音部記号を表示/非表示にする \(1196 ページ\)](#)

[組段の開始位置にある音部記号を表示/非表示にする \(1197 ページ\)](#)

[予告の調号 \(1352 ページ\)](#)

[親切拍子記号 \(1798 ページ\)](#)

[「浄書オプション \(Engraving Options\)」ダイアログ \(923 ページ\)](#)

## 音部記号を装飾音符のあとに表示

表記規則によれば、音部記号は装飾音符の前に配置されるため、Dorico Pro ではこれがデフォルトになっています。ただし、状況によっては音部記号を装飾音符と通常の音符の間に配置することが必要な場合もあります。

#### 前提条件

浄書モードの場合は、浄書ツールボックスで「**グラフィックの編集 (Graphic Editing)**」を選択しておきます。

#### 手順

1. 装飾音符のあとに表示する音部記号を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
  2. 「**編集 (Edit)**」 > 「**記譜 (Notations)**」 > 「**音部記号 (Clef)**」 > 「**装飾音符の後 (After Grace Notes)**」を選択します。このオプションはコンテキストメニューでも選択できます。
- 

#### 結果

選択した音部記号が通常の音符と装飾音符の間に配置されます。

#### 補足

装飾音符に対する音部記号の位置をリセットするには、位置を元に戻す音部記号を選択して「**編集 (Edit)**」 > 「**記譜 (Notations)**」 > 「**音部記号 (Clef)**」 > 「**音部記号の位置をリセット (Reset Clef Position)**」をクリックします。このオプションはコンテキストメニューでも選択できます。

---



例



装飾音符の前に配置されたト音記号



へ音記号と揃えるために装飾音符のあとに配置されたト音記号

関連リンク

[浄書ツールボックス \(554 ページ\)](#)

## 音部記号の表示位置の移動

個々の音部記号の表示位置を、他のアイテムの位置に影響を与えず変更できます。

前提条件

浄書ツールボックスで「**音符のスペーシング (Note Spacing)**」を選択しておきます。

手順

1. 浄書モードで、移動する音部記号の上にある、音符のスペーシング用の四角いハンドルを選択します。



音部記号の横に丸いハンドルが表示されます。

2. **[Tab]** を押して丸いハンドルを選択します。



3. 以下のいずれかの操作を行なって、ハンドルを移動します。

- 標準的な幅で左右に移動するには、**[Alt/Opt]** を押しながら対応する矢印キーを押します。たとえば、ハンドルを左に移動するには、**[Alt/Opt]+[←]** を押します。
- 移動幅を大きくするには、通常のキーボードショートカットに加え **[Ctrl]/[command]** を押します (例: **[Ctrl]/[command]+[Alt/Opt]+[←]**)。
- 移動幅を中くらいにするには、通常のキーボードショートカットに加え **[Shift]** を押します (例: **[Shift]+[Alt/Opt]+[←]**)。
- 移動幅を小さくするには、通常のキーボードショートカットに加え **[Ctrl]/[command] + [Shift]** を押します (例: **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[Alt/Opt]+[←]**)。

#### 補足


音符のスペーシングのハンドルの移動はマウスでは行なえず、キーボードのみで行なえます。

#### 結果

音部記号の表示位置が左右に移動します。この際、同じ位置にある他のアイテムには影響しません。

#### ヒント

- またプロパティパネルの「音部記号 (Clefs)」グループにある「スペーシングのオフセット (Spacing offset)」を変更することで、音部記号を水平に移動できます。ただしこれは、音部記号周辺の全体的な音符のスペーシングに影響を与えます。

プロパティパネルの「音部記号 (Clefs)」グループにある「スペーシングのオフセット (Spacing offset)」プロパティは、「音符のスペーシング (Note Spacing)」がオンになっているときは使用できません。

- 「浄書オプション (Engraving Options)」の「間隔のスペーシング (Spacing Gaps)」ページで、すべての音部記号の前後のデフォルトの間隔をプロジェクト全体で変更できます。

#### 関連リンク

[音符のスペーシング \(643 ページ\)](#)

[「浄書オプション \(Engraving Options\)」ダイアログ \(923 ページ\)](#)

## 組段の途中にある音部変更記号のデフォルトのサイズを変更する

たとえば、組段の途中に表示される音部変更記号を大きくしたい場合など、プロジェクト全体に対し、組段の途中にあるすべての音部変更記号のデフォルトの倍率を変更できます。

#### 手順

- [Ctrl]/[command]+[Shift]+[E]** を押して「浄書オプション (Engraving Options)」を開きます。
- カテゴリーリストの「音部記号 (Clefs)」をクリックします。
- 「音部記号の変更倍率 (Clef change scale factor)」の値を変更します。
- 「適用 (Apply)」をクリックしてから「閉じる (Close)」をクリックします。

#### 結果

組段の途中にある音部変更記号のサイズがプロジェクト全体で変更されます。フローの最初にある音部記号や、組段の開始位置に自動的に表示される音部記号には影響しません。

#### 関連リンク

[「浄書オプション \(Engraving Options\)」ダイアログ \(923 ページ\)](#)

## 実音と移調音で異なる音部記号を設定する


音部変更記号には、実音レイアウトと移調音レイアウトで異なる音部記号を表示するよう設定できます。たとえば、バスクラリネットの譜表における音部変更記号を、パートレイアウトではト音記号で表示しつつ、フルスコアレイアウトではバス記号で表示するといったことができます。

#### 補足

- これらの手順はユーザーが入力した音部記号にのみ該当します。最初の音部記号や各組段の開始位置に自動的に表示される音部記号は選択できないため、設定もできません。

- Dorico Pro の多くのインストゥルメントには、デフォルトでレイアウトの移調に従って代替の音部記号を表示する別のバージョンがあります。インストゥルメントを追加または変更する際は、インストゥルメントピッカーから適切なインストゥルメントバージョンを選択できます。
- 各レイアウトに表示されるデフォルトの音部記号を上書きすることもできます。

#### 前提条件

浄書モードの場合は、浄書ツールボックスで「**グラフィックの編集 (Graphic Editing)**」を選択しておきます。

#### 手順

1. 実音または移調音のレイアウトにおける表示を変更する音部記号を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. 以下のいずれかのオプションを選択します。
  - 選択した音部記号の実音レイアウトにおける表示を変更するには、「**編集 (Edit)**」 > 「**記譜 (Notations)**」 > 「**音部記号 (Clef)**」 > 「**実音 (Concert Pitch)**」 > [音部記号] を選択します。
  - 選択した音部記号の移調音レイアウトにおける表示を変更するには、「**編集 (Edit)**」 > 「**記譜 (Notations)**」 > 「**音部記号 (Clef)**」 > 「**移調音 (Transposed Pitch)**」 > [音部記号] を選択します。

#### ヒント

このオプションはコンテキストメニューでも選択できます。

#### 結果

選択した音部記号の実音/移調音いずれかに対応する側のレイアウトにおける表示が変更されます。これは次の既存の音部変更記号の位置かフローの終了位置のいずれか先に到達したところまで適用されます。

#### 手順終了後の項目

一部のレイアウトでは音部記号を表示しつつ他では非表示にする場合、レイアウトの移調に従い、各レイアウトの音部記号の表示/非表示を切り替えられます。

#### 関連リンク

[浄書ツールボックス \(554 ページ\)](#)

[プレーヤーへのインストゥルメントの追加 \(146 ページ\)](#)

[インストゥルメントの変更 \(148 ページ\)](#)

[インストゥルメントピッカー \(124 ページ\)](#)

[実音と移調音 \(195 ページ\)](#)

[レイアウトの移調音/実音の設定 \(194 ページ\)](#)

[レイアウトのデフォルトの音部記号を上書きする \(200 ページ\)](#)



[音部記号のオクターブを変更する \(1198 ページ\)](#)

## 音部記号の表示/非表示の切り替え

どの移調のレイアウトでも、音部記号の表示/非表示を個別に切り替えることができます。たとえば、加線を回避するために、フルスコアにのみ一部の音部変更記号が必要な場合などに便利です。この操作は現在のレイアウトとフレームチェーンのみに対して、もしくはすべてのレイアウトとフレームチェーンに対して行なえます。

#### 前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。

- 下ゾーンのツールバーで「プロパティ (Properties)」を選択しておきます。
- 浄書モードの場合は、浄書ツールボックスで「グラフィックの編集 (Graphic Editing)」を選択しておきます。
- ローカルのプロパティ変更に関して、適切なプロパティ範囲を選択しておきます。

---

#### 手順

1. 非表示にする音部記号、または表示する音部記号のガイドを選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「音部記号 (Clefs)」グループで、「非表示 (Hide)」をオンまたはオフにします。

---

#### 結果

「非表示 (Hide)」をオンにすると選択した音部記号が非表示になり、オフにすると表示されます。プロパティ範囲を「ローカル (Locally)」に設定している場合、この変更は現在のレイアウトおよびフレームチェーンのみに影響します。

非表示にした音部記号のそれぞれの位置にはガイドが表示されます。ただし初期設定では、ガイドは印刷されません。

#### ヒント

- 音部記号のガイドの表示/非表示は、「ビュー (View)」 > 「ガイド (Signposts)」 > 「音部記号 (Clefs)」を選択して切り替えられます。
- 「環境設定 (Preferences)」の「キーボードショートカット (Key Commands)」ページで、「アイテムを表示/非表示 (Hide/Show Item)」にキーボードショートカットを割り当てることができます。
- どのレイアウトにも音部記号を表示させない場合は、不可視の音部記号を入力する必要があります。

---

#### 関連リンク

[プロパティパネル \(826 ページ\)](#)

[プロパティ範囲の変更 \(828 ページ\)](#)

[浄書ツールボックス \(554 ページ\)](#)

[音部記号とオクターブ線の入力方法 \(358 ページ\)](#)

[「環境設定 \(Preferences\)」ダイアログの「キーボードショートカット \(Key Commands\)」ページ \(64 ページ\)](#)

[ガイド \(490 ページ\)](#)

## レイアウトの移調に従い音部記号を表示/非表示にする

個々の音部記号を、実音と移調音のレイアウトのどちらか一方にのみ表示するよう設定できます。たとえば一部の移調楽器は、実音のスコアでは加線が多くなりすぎることを避けるため、音部記号の変更が必要となりますが、移調音によるそれぞれのパート譜では、音部記号の変更は必要ありません。

初期設定では、すべての音部記号がすべてのレイアウトに表示されます。

#### ヒント

Dorico Pro の多くのインストゥルメントには、デフォルトでレイアウトの移調に従って代替の音部記号を表示する別のバージョンがあります。インストゥルメントを追加または変更する際は、インストゥルメントピッカーから適切なインストゥルメントバージョンを選択できます。

#### 前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。
- 下ゾーンのツールバーで「プロパティ (Properties)」を選択しておきます。
- 浄書モードの場合は、浄書ツールボックスで「グラフィックの編集 (Graphic Editing)」を選択しておきます。

---

#### 手順

1. レイアウトの移調に従って表示/非表示を切り替える音部記号または音部記号のガイドを選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「音部記号 (Clefs)」グループで、「移調に対して表示 (Show for transposition)」をオンにします。
3. 以下のいずれかのオプションを選択します。
  - 実音 (Concert Pitch)
  - 移調音 (Transposing Pitch)

---

#### 結果

選択した音部記号は、対応する移調のレイアウトにのみ表示されます。音部記号が表示されないレイアウトでは、ガイドで表示されます。

非表示になった音部記号は、音符と譜表のスペーシングに影響を与えません。

#### 関連リンク

[浄書ツールボックス \(554 ページ\)](#)

[インストゥルメントピッカー \(124 ページ\)](#)

[レイアウトの移調音/実音の設定 \(194 ページ\)](#)

[移調楽器 \(146 ページ\)](#)

[音部記号/移調の上書きを設定したレイアウト \(198 ページ\)](#)

[ガイド \(490 ページ\)](#)

## 組段の開始位置にある音部記号を表示/非表示にする

初期設定では、音部記号はすべての組段の開始位置に表示されます。単一譜表の組段の開始位置にある音部記号の表示/非表示の切り替えは、各フローの2つめ以降の組段に対して行なえます。

単一譜表の組段にある音部記号を最初の組段の後に非表示にするのは、手写のリードシートにおける慣習です。通常、この場合は調号も非表示にし、組段の小節線は表示します。

---

#### 手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[N]** を押して「記譜オプション (Notation Options)」を開きます。
2. 「フロー (Flows)」リストで、最初の組段より後で音部記号を表示/非表示にするフローを選択します。

初期設定では、現在のフローのみを選択した状態のダイアログが表示されます。他のフローを選択するには、アクションバーの「すべて選択 (Select All)」をクリックするか、複数のフローをまたぐようにクリックしてドラッグするか、**[Shift]** を押しながら隣接するフローをクリックするか、**[Ctrl]/[command]** を押しながら個々のフローをクリックします。
3. カテゴリーリストの「音部記号 (Clefs)」をクリックします。
4. 「最初の組段以外の組段の開始位置にある音部記号 (Clefs at start of systems following first system)」で、以下のいずれかのオプションを選択します。
  - 音部記号を表示 (Show clefs)

- **音部記号を非表示 (Hide clefs)**

5. 「適用 (Apply)」をクリックしてから「閉じる (Close)」をクリックします。

---

#### 結果

選択したフローの2つめの組段以降で、単一譜表の組段の開始位置にある音部記号が表示/非表示になります。

#### 補足

2つ以上の譜表を含む組段の開始位置にある音部記号は、常に表示されます。

---

#### 関連リンク



[単一譜表の組段で組段の小節線を表示/非表示にする \(1085 ページ\)](#)

[組段の開始位置にある調号を表示/非表示にする \(1349 ページ\)](#)

## 音部記号のオクターブを変更する

各音部記号のオクターブの移調を変更できます。これは、たとえばホルンとバスクラリネットの異なる移調規則に対応する場合などに便利です。音部記号のオクターブは、実音のレイアウトと移調音のレイアウトでそれぞれ変更できます。

#### 前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。
  - 下ゾーンのツールバーで「プロパティ (Properties)」を選択しておきます。
  - 浄書モードの場合は、浄書ツールボックスで「グラフィックの編集 (Graphic Editing)」を選択しておきます。
  - 必要な移調を持つレイアウトを楽譜領域で開いておきます。たとえば、実音の音部記号のオクターブを変更する場合は、実音のレイアウトを開いておきます。
  - 最初の音部記号のオクターブを変更する場合は、各フローの開始位置に音部記号を入力しておくか、必要なレイアウトのデフォルトの音部記号を上書きしておきます。
- 

#### 手順

1. オクターブを変更する音部記号を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
  2. プロパティパネルの「音部記号 (Clefs)」グループで、「オクターブシフト (Octave shift)」をオンにします。
  3. 数値フィールドの値を変更します。
- 

#### 結果

選択した音部記号のオクターブが、同じ移調を持つすべてのレイアウトで変更されます。たとえば、**1**のときは音部記号が1オクターブ上に移動し、**-1**のときは音部記号が1オクターブ下に移動します。

選択した音部記号の譜表の音符のピッチが自動的に調整されます。たとえば、音部記号を1オクターブ上に移動した場合、その音部記号の後ろの音符はオクターブを移動していないときより1オクターブ下に表示されます。

#### ヒント

- 音部記号とオクターブ線のポップオーバーを使用して音部記号を入力する際は、オクターブシフトを指定できます。

- また、たとえばト音記号を1オクターブ上に移動するなどの音部記号のオクターブ指示記号に従うか無視するかを変更することもできます。

#### 関連リンク

- [浄書ツールボックス \(554 ページ\)](#)
- [音部記号とオクターブ線のポップオーバー \(358 ページ\)](#)
- [音部記号/移調の上書きを設定したレイアウト \(198 ページ\)](#)
- [レイアウトのデフォルトの音部記号を上書きする \(200 ページ\)](#)
- [実音と移調音 \(195 ページ\)](#)
- [実音と移調音で異なる音部記号を設定する \(1194 ページ\)](#)

## オクターブ指示記号付き音部記号

オクターブ指示記号付き音部記号は、記譜された音域とは別の音域で演奏することを示します。音部記号の上のオクターブ指示記号は、音符が記譜の内容よりも高い音域で演奏されることを示し、音部記号の下のオクターブ指示記号は、音符が記譜の内容よりも低い音域で演奏されることを示します。

これらの音部記号の中では、唯一1オクターブ下のト音記号がテノールボーカルパート用として今も一般的に使用されています。



従来、音部記号のオクターブ指示記号は移調楽器であることを思い出させるものとして使われていました。しかし、近年では、一部の作曲家達の間でパッセージが広範囲にわたる場合にオクターブ線のかわりとして音部記号のオクターブ指示記号が使われています。そのため、Dorico Pro の初期設定では音部記号のオクターブ指示記号は無視されます。ただし、移調楽器は自動的に正しく移調されます。たとえば、ピッコロに属する音符は、オクターブ指示記号の付いた音部記号があるかどうかに関わらず、再生時のピッチよりも自動的に1オクターブ下に記譜されます。音部記号のオクターブ指示記号に従うか無視するかはフローごとに変更できます。

#### 関連リンク

- [移調楽器 \(146 ページ\)](#)
- [実音と移調音 \(195 ページ\)](#)
- [オクターブ線 \(1201 ページ\)](#)
- [音部記号/移調の上書きを設定したレイアウト \(198 ページ\)](#)
- [音部記号のオクターブ指示記号に従う/無視する \(1199 ページ\)](#)
- [音部記号のオクターブを変更する \(1198 ページ\)](#)
- [音部記号とオクターブ線の入力方法 \(358 ページ\)](#)

## 音部記号のオクターブ指示記号に従う/無視する

従来、音部記号のオクターブ指示記号は移調楽器であることを思い出させるものとして使われていました。しかし、近年では、一部の作曲家達の間でパッセージが広範囲にわたる場合にオクターブ線のかわりとして音部記号のオクターブ指示記号が使われています。音部記号のオクターブ指示記号に従うか無視するかはフローごとに変更できます。

#### 手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[N]** を押して「**記譜オプション (Notation Options)**」を開きます。
2. 「**フロー (Flows)**」リストから、音部記号のオクターブ指示記号に従う/無視するフローを選択します。

初期設定では、現在のフローのみを選択した状態のダイアログが表示されます。他のフローを選択するには、アクションバーの「すべて選択 (Select All)」をクリックするか、複数のフローをまたぐようにクリックしてドラッグするか、**[Shift]** を押しながらか隣接するフローをクリックするか、**[Ctrl]/[command]** を押しながらか個々のフローをクリックします。

3. カテゴリーリストの「音部記号 (Clefs)」をクリックします。
  4. 「オクターブ指示記号付き音部記号 (Clefs with octave indicators)」で以下のいずれかのオプションを選択します。
    - オクターブ指示記号を無視 (Ignore octave indicator)
    - オクターブ指示記号に従う (Respect octave indicator)
  5. 「適用 (Apply)」をクリックしてから「閉じる (Close)」をクリックします。
- 

#### 結果

選択したフローのオクターブ指示記号付き音部記号の処理方法が変更されます。オクターブ指示記号に従う場合、オクターブ指示記号付き音部記号のある譜表の音符のピッチが自動的に調整されます。たとえば、ト音記号を1オクターブ上に移動する指示記号がある場合、音符は音部記号のオクターブ指示記号を無視するときより1オクターブ下に表示されます。

#### 関連リンク

[移調楽器 \(146 ページ\)](#)

[音部記号のオクターブを変更する \(1198 ページ\)](#)

[レイアウトの移調に従い音部記号を表示/非表示にする \(1196 ページ\)](#)

[実音と移調音で異なる音部記号を設定する \(1194 ページ\)](#)



# オクターブ線

オクターブ線は、音符がスコアまたはパートに表示されるよりも高い、または低いピッチで演奏されることを示します。オクターブ線は破線または点線による水平線で、開始位置に斜体の数字が記されています。数字はフレーズのピッチが変更される数を示し、たとえば1オクターブは8、2オクターブは15となります。

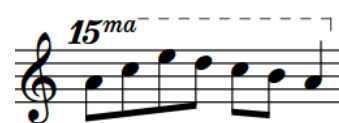
オクターブ線は、記譜よりも高いピッチの演奏を示す場合は譜表の上に、記譜よりも低いピッチの演奏を示す場合は譜表の下に配置されます。



そのままのピッチで演奏されるト音記号のフレーズ



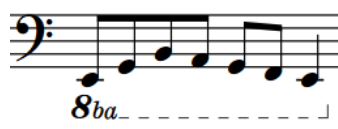
1オクターブ上のオクターブ線が付いたト音記号のフレーズ



2オクターブ上のオクターブ線が付いたト音記号のフレーズ



そのままのピッチで演奏されるバス記号のフレーズ



1オクターブ下のオクターブ線が付いたバス記号のフレーズ



2オクターブ下のオクターブ線が付いたバス記号のフレーズ

Dorico Pro では、オクターブ線が付いているとピッチが自動的に調整されます。オクターブ線の中にある音符の音域を変更する必要はありません。

オクターブ線は水平に伸び、垂直方向のスペースを大きく占めることがあるため、通常は他のすべての記譜記号より外側に配置されます。ただし、スラーや連符の角括弧がオクターブ線より長い場合は、オクターブ線はその内側に配置できます。また、たとえば角度のあるフレーズに合うように、オクターブ線の角度を変更することもできます。

オクターブ線は組段やページの区切りをまたいで続く場合もあります。慣例としては、組段の開始位置ごとに新たに数字を表示して、オクターブ線であることを分かりやすくします。親切オクターブ線番号は通常括弧が付き、必要に応じて末尾テキストが選択できます。

関連リンク

[音部記号とオクターブ線の入力方法 \(358 ページ\)](#)

[オクターブ指示記号付き音部記号 \(1199 ページ\)](#)

[ライン \(1551 ページ\)](#)

## 浄書オプションでオクターブ線の設定をプロジェクト全体に適用する

「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**オクターブ線 (Octave Lines)**」ページで、オクターブ線の外観を設定しプロジェクト全体に適用できます。

このページのオプションでは、延長線や延長ラベルの外観、オクターブ線の開始位置の数字、臨時記号や符頭に対するオクターブ線の位置、および譜表に対する配置を変更できます。

多くのオプションに、オプションを楽譜に適用したときにどのように表示されるかを示す図があります。

関連リンク

[「浄書オプション \(Engraving Options\)」ダイアログ \(923 ページ\)](#)

### オクターブ線の位置

初期設定では、記譜上の音符より高いピッチの演奏を示す場合にはオクターブ線は譜表の上に、記譜上の音符より低いピッチの演奏を示す場合には譜表の下に配置されます。

オクターブ線の位置は記譜モードで移動できます。これらは「**浄書オプション (Engraving Options)**」で設定されたデフォルト位置に配置されます。

オクターブ線の表示位置は浄書モードで移動できますが、適用されるリズム上の位置はこれによって変更されません。

プロジェクト全体のすべてのオクターブ線のデフォルト位置は、「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**オクターブ線 (Octave Lines)**」ページで変更できます。

関連リンク

[「浄書オプション \(Engraving Options\)」ダイアログ \(923 ページ\)](#)

[音部記号とオクターブ線の入力方法 \(358 ページ\)](#)

[音符/アイテムの位置の移動 \(502 ページ\)](#)

[アイテムの表示位置の移動 \(652 ページ\)](#)

[タッキングインデックスのプロパティ \(656 ページ\)](#)

### オクターブ線の数字の配置を音符に対して個別に変更する

個々のオクターブ線が適用される範囲の最初の音符に揃える位置を、オクターブ線の数字の左端、中央、右端から選んで変更できます。この操作は現在のレイアウトとフレームチェーンのみに対して、もしくはすべてのレイアウトとフレームチェーンに対して行なえます。

前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。
- 下ゾーンのツールバーで「**プロパティ (Properties)**」を選択しておきます。
- 浄書モードの場合は、浄書ツールボックスで「**グラフィックの編集 (Graphic Editing)**」を選択しておきます。
- ローカルのプロパティ変更に関して、適切なプロパティ範囲を選択しておきます。

手順

1. 数字の音符に対する配置を変更するオクターブ線を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。

2. プロパティパネルの「オクターブ線 (Octave Lines)」グループで、「L 整列 (L alignment)」をオンにします。
3. メニューから以下のいずれかのオプションを選択します。
  - 左 (Left)
  - 中央 (Center)
  - 右 (Right)

---

#### 結果

選択したオクターブ線の数字の配置が変更されます。たとえば「右 (Right)」を選択した場合、選択したオクターブ線の数字の右端が、オクターブ線が適用される範囲の最初の符頭に揃えられます。プロパティ範囲を「ローカル (Locally)」に設定している場合、この変更は現在のレイアウトおよびフレームチェーンのみに影響します。

#### 関連リンク

[浄書ツールボックス \(554 ページ\)](#)

[プロパティ範囲の変更 \(828 ページ\)](#)

[プロパティ設定を別のレイアウト/フレームチェーンにコピーする \(825 ページ\)](#)

## オクターブ線の数字の配置を臨時記号に対して個別に変更する

プロジェクト全体の設定より優先される形で、それぞれのオクターブ線の開始位置にある数字の配置を、符頭の上または臨時記号の上に変更できます。この操作は現在のレイアウトとフレームチェーンのみに対して、もしくはすべてのレイアウトとフレームチェーンに対して行なえます。

#### 前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。
- 下ゾーンのツールバーで「プロパティ (Properties)」を選択しておきます。
- 浄書モードの場合は、浄書ツールボックスで「グラフィックの編集 (Graphic Editing)」を選択しておきます。
- ローカルのプロパティ変更に関して、適切なプロパティ範囲を選択しておきます。

---

#### 手順

1. 数字の臨時記号に対する配置を変更するオクターブ線を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「オクターブ線 (Octave Lines)」グループで、「L 位置 (L position)」をオンにします。
3. 以下のいずれかのオプションを選択します。
  - 符頭 (Notehead)
  - 臨時記号 (Accidental)

---

#### 結果

選択したオクターブ線の数字の配置が変更されます。たとえば「臨時記号 (Accidental)」を選択した場合、オクターブ線の数字が、オクターブ線が適用される範囲の最初の符頭に付く臨時記号に揃って整列されます。プロパティ範囲を「ローカル (Locally)」に設定している場合、この変更は現在のレイアウトおよびフレームチェーンのみに影響します。

#### ヒント

オクターブ線の数字のデフォルトの配置をプロジェクト全体で変更するには、「**浄書オプション (Engraving Options)**」 > 「**オクターブ線 (Octave Lines)**」 > 「**水平位置 (Horizontal Position)**」で設定を行ないます。

---

## オクターブ線の表示/非表示の切り替え

どの移調のレイアウトでも、オクターブ線の表示/非表示を個別に切り替えることができます。たとえば、加線を回避するために、フルスコアにのみ一部のオクターブ線が必要な場合などに便利です。この操作は現在のレイアウトとフレームチェーンのみに対して、もしくはすべてのレイアウトとフレームチェーンに対して行なえます。

#### 前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。
- 下ゾーンのツールバーで「**プロパティ (Properties)**」を選択しておきます。
- 浄書モードの場合は、浄書ツールボックスで「**グラフィックの編集 (Graphic Editing)**」を選択しておきます。
- ローカルのプロパティ変更に関して、適切なプロパティ範囲を選択しておきます。

#### 手順

1. 非表示にするオクターブ線、または表示するオクターブ線のガイドを選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「**オクターブ線 (Octave Lines)**」グループで、「**非表示 (Hide)**」をオンまたはオフにします。

#### 結果

「**非表示 (Hide)**」をオンにすると選択したオクターブ線が非表示になり、オフにすると表示されます。プロパティ範囲を「**ローカル (Locally)**」に設定している場合、この変更は現在のレイアウトおよびフレームチェーンのみに影響します。

非表示にしたオクターブ線のそれぞれの位置にはガイドが表示されます。ただし初期設定では、ガイドは印刷されません。

#### ヒント

- オクターブ線のガイドの表示/非表示は、「**ビュー (View)**」 > 「**ガイド (Signposts)**」 > 「**オクターブ線 (Octave Lines)**」を選択して切り替えられます。
- 「**環境設定 (Preferences)**」の「**キーボードショートカット (Key Commands)**」ページで、「**アイテムを表示/非表示 (Hide/Show Item)**」にキーボードショートカットを割り当てることができます。

#### 関連リンク

[音部記号 \(1191 ページ\)](#)

[実音と移調音 \(195 ページ\)](#)

[ガイド \(490 ページ\)](#)

[浄書ツールボックス \(554 ページ\)](#)

[ゾーンの表示/非表示の切り替え \(48 ページ\)](#)

[プロパティ範囲の変更 \(828 ページ\)](#)

[プロパティ設定を別のレイアウト/フレームチェーンにコピーする \(825 ページ\)](#)

[「環境設定 \(Preferences\)」ダイアログの「キーボードショートカット \(Key Commands\)」ページ \(64 ページ\)](#)

[注釈 \(740 ページ\)](#)

## 浄書モードのオクターブ線

浄書モードでは、オクターブ線には3つの四角いハンドルが付いています。これらのハンドルを動かすことで、オクターブ線の始端および終端の表示位置の移動、およびオクターブ線のフックの長さの変更が行なえます。



浄書モードのオクターブ線

- 開始位置のハンドルは、オクターブ線始端の表示位置を移動させます。このハンドルは左右に動かします。キーボードを使用しているときは、このハンドルを上下にも動かして、オクターブ線全体を移動できます。
- 終了位置上部のハンドルは、オクターブ線終端の表示位置を移動させます。このハンドルは左右に動かします。
- 終了位置下部のハンドルは、フックの長さを変更します。このハンドルは上下に動かします。

オクターブ線が組段区切りおよびフレーム区切りをまたぐ場合は、区切りの両側のオクターブ線の分割された部分をそれぞれ個別に移動できます。

関連リンク

[アイテムの表示位置の移動 \(652 ページ\)](#)

[アイテムの長さの変更 \(470 ページ\)](#)

[タッキングインデックスのプロパティ \(656 ページ\)](#)

## オクターブ線の垂直スタックの順番を変更する

個々のオクターブ線のタッキングインデックス値を変更して、垂直スタック内での他のオブジェクトに対する位置を変更できます。この操作は現在のレイアウトとフレームチェーンのみに対して、もしくはすべてのレイアウトとフレームチェーンに対して行なえます。

慣例に従い、オクターブ線は他のすべてのオブジェクトより外側に配置されますが、他のオブジェクトの内側に入る状況もあります。たとえばスラーがオクターブ線より長い場合、オクターブ線はスラーの内側に入ります。

前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。
- 下ゾーンのツールバーで「**プロパティ (Properties)**」を選択しておきます。
- 浄書ツールボックスで「**グラフィックの編集 (Graphic Editing)**」を選択しておきます。
- ローカルのプロパティ変更に関して、適切なプロパティ範囲を選択しておきます。

---

手順

1. 浄書モードで、垂直スタック内の位置を変更するオクターブ線を選択します。
2. プロパティパネルの「**オクターブ線 (Octave Lines)**」グループで、「**タッキングインデックス (Tucking index)**」をオンにします。
3. 数値フィールドの値を変更します。

0ではアイテムが音符に1番近い位置に配置されます。数字が大きくなるほど、アイテムはスタックの順番の中で音符から離れた位置に配置されます。

---

#### 結果

選択したオクターブ線の垂直スタックの順番の中での位置が変更されます。プロパティ範囲を「**ローカル (Locally)**」に設定している場合、この変更は現在のレイアウトおよびフレームチェーンのみに影響します。

#### 関連リンク

[浄書ツールボックス \(554 ページ\)](#)

[プロパティ範囲の変更 \(828 ページ\)](#)

[プロパティ設定を別のレイアウト/フレームチェーンにコピーする \(825 ページ\)](#)


[演奏技法の垂直の順番を変更する \(1541 ページ\)](#)

[タッキングインデックスのプロパティ \(656 ページ\)](#)

## オクターブ線の角度の変更

オクターブ線の角度を複数の位置で変更できます。これによりたとえば、ピッチ差の大きいフレーズに沿うようにオクターブ線にコーナーを追加して、垂直方向のスペースを節約できます。

#### 前提条件

浄書モードの場合は、浄書ツールボックスで「**グラフィックの編集 (Graphic Editing)**」を選択しておきます。

---

#### 手順

1. 記譜モードまたは浄書モードで、以下のいずれかを選択します。

- オクターブ線の範囲内の、単一のコーナーを追加する位置にある個々の音符/和音。

#### 補足

オクターブ線の破線がゆがむ場合があるため、隣接する音符を選択することはおすすめしません。

---

- オクターブ線に角度を付ける範囲にまたがる偶数個の隣接する音符。

2. 以下のいずれかの方法で角度を変更します。

- 選択した各音符の位置に単一のコーナーを追加する場合は、「**編集 (Edit)**」 > 「**記譜 (Notations)**」 > 「**オクターブ線 (Octave Line)**」 > 「**コーナーを追加 (Add Corner)**」を選択します。
- 選択した音符の範囲でオクターブ線に角度を付ける場合は、「**編集 (Edit)**」 > 「**記譜 (Notations)**」 > 「**オクターブ線 (Octave Line)**」 > 「**角度をつける (Make Angled)**」を選択します。

#### ヒント

このオプションはコンテキストメニューでも選択できます。

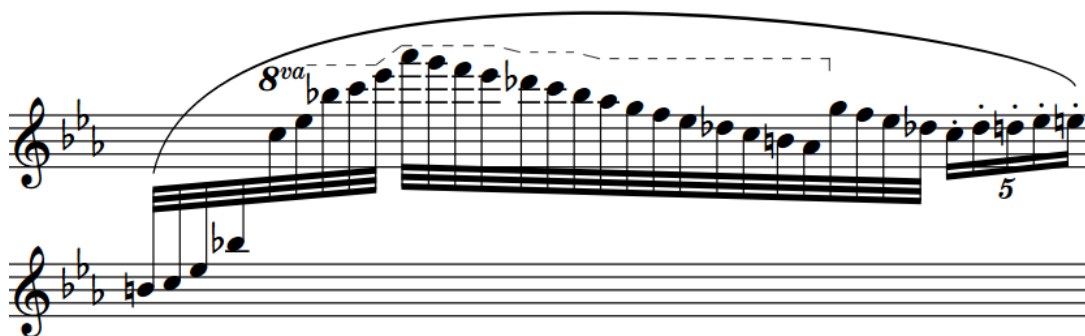
---

#### 結果

個々の音符にコーナーを追加した場合は、Dorico Pro は各選択位置における譜表から最も遠い音符を前の音符/和音の高さと比較して、適切な角度のコーナーを追加します。

選択した音符の範囲でオクターブ線に角度を付けた場合、Dorico Pro は選択した範囲の高さの変化に合うように、オクターブ線の角度を調整します。

例




スラーの下にコンパクトに収まった、複数のコーナーを持つオクターブ線

---

## オクターブ線の角度のリセット

オクターブ線の角度とコーナーをリセットして、1本の水平線に戻せます。

前提条件

浄書モードの場合は、浄書ツールボックスで「グラフィックの編集 (Graphic Editing)」を選択しておきます。

手順

1. オクターブ線の範囲内の、リセットする角度/コーナーの位置の音符を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
  2. 「編集 (Edit)」 > 「記譜 (Notations)」 > 「オクターブ線 (Octave Line)」 > 「コーナー/角度を削除 (Remove Corner/Angle)」を選択します。このオプションはコンテキストメニューでも選択できます。
- 

結果

選択した音符の上/下のオクターブ線の角度およびコーナーがリセットされます。これは、同じオクターブ線の選択されていない音符の上/下の角度には影響しません。

# キュー

キューとは、インストゥルメントのパートに異なるプレーヤーが演奏する楽譜のパスセージが表示されるもので、通常は長い休止に続く演奏部分やソロの前に、演奏を開始する時点プレーヤーに示すためのものです。

キューはまた、プレーヤー間の協調や音程合わせの補助や、プレーヤーによって別のパートの演奏を求める内容の指示にも使用されます。

Dorico Pro では、キューのポップオーバーを使用して簡単に正しい形式のキューを入力できます。キューは自動的に新規の声部に入力され、キューを読むプレーヤーがその音符を演奏しないことを必ず理解できるように、小節休符を伴って表示されます。キューには音部記号が、復帰のための音部記号も含めて、必要に応じて自動的に入力されます。音符や記譜記号はキューに合わせた大きさと表示されます。



ティンパニパートにファゴットの楽譜を表示するキュー

Dorico Pro では動的なキューが参照元の内容にリンクされており、元の内容が変更されるとリアルタイムでキューが更新されます。

キューの中にその楽譜が引用されるインストゥルメントは、元インストゥルメントと呼ばれます。他のインストゥルメントからのキューが書き込まれるパートのインストゥルメントは、出力先インストゥルメントと呼ばれます。

Dorico Pro のキューラベルには、元インストゥルメントの略称が使われます。

初期設定では、キューはフルスコア/カスタムスコアのレイアウトには表示されず、パートレイアウトには表示されます。キューが表示されないレイアウトでは、ガイドで表示されます。

## 補足

- 記譜モードでは、キューに含まれるものは何も選択できません。浄書モードでは、キューの音符やアイテムを選択できますが、編集できるのは表示上の要素のみです。
- キューには、ピアノの上の譜表のように単一の譜表の楽譜が表示されます。複数の譜表の音符や記譜記号を同時に表示したい場合は、それぞれの譜表のキューを個別に入力して重ねる必要があります。
- ピッチのある元インストゥルメントのキューは、無音程打楽器の譜表にリズムによるキューとして入力されます。

## 関連リンク

[キューの入力 \(453 ページ\)](#)

[レイアウト内のキューを表示/非表示にする \(1209 ページ\)](#)

[キューの内容 \(1212 ページ\)](#)

[キューラベル \(1213 ページ\)](#)

[キューの音部変更記号 \(1220 ページ\)](#)

[キューの記譜記号 \(1215 ページ\)](#)

[キューの重ね合わせ \(1216 ページ\)](#)



[キューの休符 \(1218 ページ\)](#)  
[キューのタイ \(1218 ページ\)](#)  
[音符のスペーシング \(643 ページ\)](#)  
[キューの表示オプション \(1226 ページ\)](#)  
[ガイド \(490 ページ\)](#)

## 浄書オプションでキューの設定をプロジェクト全体に適用する

「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**キュー (Cues)**」ページで、キューの外観、コンテンツおよび位置を設定しプロジェクト全体に適用できます。

「**キュー (Cues)**」ページのオプションを使用すると、キューのサイズ、外観、配置および詳細な位置を変更できます。また、すべてのキューに表示する記譜記号の決定、キューのデフォルトのスペーシングの設定、およびリズムによるキューや元インストゥルメントが無音程打楽器のキューの譜表に対するデフォルト位置の設定も行なえます。

また、「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**間隔のスペーシング (Spacing Gaps)**」ページでは、キューの開始位置にある音部記号の前後の間隔も変更できます。

多くのオプションに、オプションを楽譜に適用したときにどのように表示されるかを示す図があります。

関連リンク

[「浄書オプション \(Engraving Options\)」ダイアログ \(923 ページ\)](#)  
[音符のスペーシング \(643 ページ\)](#)  
[既存のキューをリズムによるキューに変換 \(1222 ページ\)](#)

## レイアウト内のキューを表示/非表示にする

キューはどのレイアウトにでも入力できますが、通常はインストゥルメントパートでのみ表示されるものであるため、初期設定ではキューはページビューのフルスコアレイアウトに表示されません。キューを表示するか非表示にするかは、レイアウトごとに切り替えることができます。

ギャラリービューでは、キューは常に表示されます。

手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[L]** を押して「**レイアウトオプション (Layout Options)**」を開きます。
2. 「**レイアウト (Layouts)**」リストから、キューを表示または非表示にするレイアウトを選択します。  
初期設定では、楽譜領域で選択されているものと同じレイアウトが選択された状態のダイアログが表示されます。他のレイアウトを選択するには、アクションバーの選択オプションを使用するか、複数のレイアウトをまたぐようにクリックしてドラッグするか、**[Shift]** を押しながら隣接するレイアウトをクリックするか、**[Ctrl]/[command]** を押しながら個々のレイアウトをクリックします。
3. カテゴリリストの「**プレーヤー (Players)**」をクリックします。
4. 「**キュー (Cues)**」セクションで、「**キューを表示 (Show cues)**」をオンまたはオフにします。
5. 「**適用 (Apply)**」をクリックしてから「**閉じる (Close)**」をクリックします。

結果

選択したレイアウトのチェックボックスがオンになっているときは、すべてのキューが表示され、オフになっているときは非表示になります。

キューが表示されないレイアウトでは、ガイドで表示されます。

#### 補足

- キューが表示されるレイアウトにおいては個々のキューを非表示にできますが、キューが非表示になっているレイアウトで個々のキューを表示させることはできません。
  - キューのガイドの表示/非表示は、「**ビュー (View)**」 > 「**ガイド (Signposts)**」 > 「**キュー (Cues)**」を選択して切り替えられます。
- 

#### 関連リンク

[ガイド \(490 ページ\)](#)

## キューを個別に表示/非表示にする

キューを表示しているレイアウトでは、キューを個別に表示/非表示にできます。この操作は現在のレイアウトとフレームチェーンのみに対して、もしくはすべてのレイアウトとフレームチェーンに対して行なえます。ただし、キューを表示していないレイアウトに、キューを個別に表示させることはできません。

#### 前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。
  - 下ゾーンのツールバーで「**プロパティ (Properties)**」を選択しておきます。
  - 浄書モードの場合は、浄書ツールボックスで「**グラフィックの編集 (Graphic Editing)**」を選択しておきます。
  - ローカルのプロパティ変更に関して、適切なプロパティ範囲を選択しておきます。
- 

#### 手順

1. 楽譜領域で、キューを個別に表示/非表示にするレイアウトを開きます。
  2. 非表示にするキューのラベル、または表示するキューのガイドを選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
  3. プロパティパネルの「**キュー (Cues)**」グループで、「**非表示 (Hide)**」をオンまたはオフにします。
- 

#### 結果

「**非表示 (Hide)**」をオンにすると選択したキューが非表示になり、オフにすると表示されます。プロパティ範囲を「**ローカル (Locally)**」に設定している場合、この変更は現在のレイアウトおよびフレームチェーンのみに影響します。

非表示にした各キューの位置にはガイドが表示されます。ただし初期設定では、ガイドは印刷されません。

#### 関連リンク

[プロパティパネル \(826 ページ\)](#)

[プロパティ範囲の変更 \(828 ページ\)](#)

[浄書ツールボックス \(554 ページ\)](#)

## キューのオクターブを変更する

出力先インストゥルメントの譜表に収まりがよくなるように、キューの表示されるオクターブを変更できます。これは、元インストゥルメントが出力先インストゥルメントとは大幅に異なるオクターブで演奏しているときに有効な場合があります。この操作は現在のレイアウトとフレームチェーンのみに対して、もしくはすべてのレイアウトとフレームチェーンに対して行なえます。

## 前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。
- 下ゾーンのツールバーで「プロパティ (Properties)」を選択しておきます。
- 浄書モードの場合は、浄書ツールボックスで「グラフィックの編集 (Graphic Editing)」を選択しておきます。
- ローカルのプロパティ変更に関して、適切なプロパティ範囲を選択しておきます。

## 手順

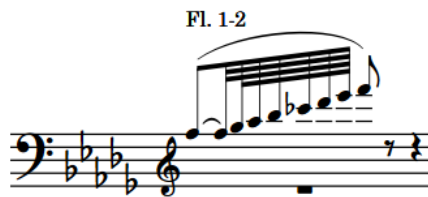
1. オクターブを変更するキューのラベルを選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「キュー (Cues)」グループで、「オクターブシフト (Octave shift)」をオンにします。
3. 数値フィールドの値を変更します。

## 結果

選択したキューのオクターブが変更されます。たとえば、**1**のときはキューが1オクターブ上に移動し、**-1**のときはキューが1オクターブ下に移動します。プロパティ範囲を「ローカル (Locally)」に設定している場合、この変更は現在のレイアウトおよびフレームチェーンのみに影響します。

オクターブの移調がキューラベルに表示されている場合、これは自動的に更新されます。

## 例



オクターブ変更がないキュー



1オクターブ下に移動したキュー

## キューラベルのオクターブ移調を表示/非表示にする

初期設定では、キューの表示オクターブを変化させると、キューラベルにオクターブの移調が表示されます。個々のキューラベルにおけるオクターブの移調の表示/非表示は、プロジェクト全体の設定より優先される形で個別に切り替えられます。

## 前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。
- 下ゾーンのツールバーで「プロパティ (Properties)」を選択しておきます。
- 浄書モードの場合は、浄書ツールボックスで「グラフィックの編集 (Graphic Editing)」を選択しておきます。
- ローカルのプロパティ変更に関して、適切なプロパティ範囲を選択しておきます。

## 手順

1. オクターブの移調を表示または非表示にするキューラベルを選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。

2. プロパティパネルの「**キュー (Cues)**」グループで、「**オクターブ移調を表示 (Show octave transposition)**」をオンまたはオフにします。
  3. 対応するチェックボックスをオン/オフにします。
- 

#### 結果

選択したキューラベルのチェックボックスがオンになっているときはオクターブの移調が表示され、オフになっているときは非表示になります。プロパティ範囲を「**ローカル (Locally)**」に設定している場合、この変更は現在のレイアウトおよびフレームチェーンのみに影響します。

プロパティをオフにすると、キューラベルはプロジェクト全体の設定に戻ります。

#### ヒント

プロジェクト全体のすべてのキューラベルにおけるオクターブの移調の表示/非表示は、「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**キュー (Cues)**」ページで切り替えられます。

---

#### 関連リンク

[プロパティパネル \(826 ページ\)](#)

[プロパティ範囲の変更 \(828 ページ\)](#)

[浄書ツールボックス \(554 ページ\)](#)

[「浄書オプション \(Engraving Options\)」ダイアログ \(923 ページ\)](#)

## キューの内容

個々のキューにはレイアウトごとに異なる内容を表示できます。元インストゥルメントを含むレイアウトに変更を加えない限りは、それぞれ他のレイアウトに影響を与えることも、元の内容を変化させることもありません。

キューに含まれる音符は、元インストゥルメントの音符に動的にリンクされています。元の楽譜に変更を加えると自動的にキューに表示されますが、キューの中では音符のピッチやデュレーションを変更できません。これにより、元インストゥルメントが演奏する音符をキューが忠実に反映することが保証されます。

キューに含まれる楽譜は、元インストゥルメントの対応する楽譜に影響することなく表示内容を変更できます。たとえば、スラーの位置やグリッサンドの角度の調節、キュー内の符尾の長さの変更、および臨時記号の表記変更などが行なえます。また、すべてのレイアウトについて、および個別レイアウトの選択した位置から先について、キューの音符のスペーシングの倍率を変更できます。

#### 補足

キューの表示内容の変更はレイアウト固有のものとなります。たとえば、元インストゥルメントも含まれるフルスコアレイアウト中のキューに変更を加えた場合、キューへの変更は元インストゥルメント中の対応する内容とともに、レイアウト中の同じキューを使用する他のインストゥルメントにも影響を与えます。一方、キューの出力先インストゥルメントしか含まれないパートレイアウトの中でキューに変更を加えた場合、元インストゥルメントのパートレイアウト内の対応する内容に影響はありません。

---

また浄書モードでは、キュー内の音符の異名同音の表記を変更できます。これは通常の音符における異名同音の変更と同じ手順となります。出力先インストゥルメントのパートレイアウト内のキューの音符の表記を変更しても、元インストゥルメントの音符の表記に影響はありません。たとえば、移調楽器レイアウトにおいて二重臨時記号を避けるために、キューの音符の異名同音の表記を変更できます。

## 重要

元インストゥルメントを含むレイアウトでキューの音符の表記を変更した場合は、元インストゥルメントの異名同音の表記も同様に変更されます。

### 関連リンク

[音符の書き換え \(523 ページ\)](#)

[浄書モードのスラー \(1675 ページ\)](#)

[符尾の長さを個別に変更する \(1421 ページ\)](#)

[音符のスペーシング \(643 ページ\)](#)

[「音符のスペーシングの変更 \(Note Spacing Change\)」ダイアログ \(646 ページ\)](#)

[任意の位置から音符のスペーシングを変更する \(645 ページ\)](#)

## キューラベル

キューラベルは、通常は楽譜を引用した元インストゥルメントを示しますが、移調楽器の移調するピッチなど、その他の情報も表示できます。この情報により、アンサンブルのどこから音が出ているか、注意して聴くのはどの種類の音が、演奏者が特定できるようになります。

初期設定では、Dorico Pro のキューラベルは省略されたインストゥルメント名を使用し、インストゥルメントの移調は除外し、オクターブの移調は含め、プレーヤーがキューのあと演奏を開始する位置を示すキュー終端の追加ラベルは表示しません。ジャズのスコアでは、キューに伴う小節休符を表示しないのが慣例となっており、キュー終端に「Play」と表示する追加ラベルを使用する場合があります。また映画音楽でも、プレーヤーが場合によって演奏することを要求されるオプションとしてキューがパートに記されることが多く、キュー終端の追加ラベルが役に立つ場合があります。



「(pizz.)」を含むように編集された、オクターブシフトされたコントラバスのキューのキューラベル

Dorico Pro では、キューラベルに表示する情報やテキストは、プロジェクト全体および個別の設定どちらでも変更できます。

### 関連リンク

[アイテムの表示位置の移動 \(652 ページ\)](#)

[インストゥルメントの変更 \(150 ページ\)](#)

[プレーヤーラベル \(817 ページ\)](#)

[ディヴィジ作成のラベル \(1733 ページ\)](#)

[キューの入力 \(453 ページ\)](#)

## キューラベルに含まれる情報をプロジェクト全体で変更する

キューラベルにテキストとして含まれる情報をプロジェクト全体で変更できます。

### 手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[E]** を押して「**浄書オプション (Engraving Options)**」を開きます。
2. カテゴリリストの「**キュー (Cues)**」をクリックします。
3. 「**キューラベル (Cue Labels)**」のセクションで、以下のいずれかのオプションを変更します。

- ラベルに表示されるインストゥルメント名 (Instrument name in label)
- インストゥルメントの音程または移調 (Instrument pitch or transposition)
- オクターブの移調 (Octave transposition)
- キュー終わりの追加ラベル (Additional label at end of cue)

4. 「適用 (Apply)」をクリックしてから「閉じる (Close)」をクリックします。

---

#### 結果

キューラベルに含まれる情報がプロジェクト全体で変更されます。

#### ヒント

キューラベルは個別にも編集できます。たとえば、2つのインストゥルメントがユニゾンで演奏している場合、一方のインストゥルメント名が表示されているところを、両方表示するようにキューラベルを編集できます。



---

## キューラベルのテキストの編集

キューラベルに表示されるテキストを個別に上書きできます。たとえば、2つのインストゥルメントがユニゾンで演奏している場合、一方のインストゥルメント名が表示されているところを、両方表示するようにキューラベルを変更できます。

また、プロジェクト全体の設定が追加ラベルを表示しない設定になっている場合でも、個々のキューには終了位置に追加ラベルを表示できます。

#### 前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。
  - 下ゾーンのツールバーで「プロパティ (Properties)」を選択しておきます。
  - 浄書モードの場合は、浄書ツールボックスで「グラフィックの編集 (Graphic Editing)」を選択しておきます。
- 

#### 手順

1. テキストを編集するキューラベルを選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
  2. プロパティパネルの「キュー (Cues)」のグループで、以下のプロパティを片方または両方ともオンにします。
    - 開始テキスト (Start text)
    - 終了テキスト (End text)
  3. 対応するキューラベルに表示させるテキストを各フィールドに入力します。  
たとえば、バイオリン奏者2名が同じ譜面を1オクターブ間隔で演奏することを示す場合、「開始テキスト (Start text)」の値フィールドに「Vln.I & Vln.II coll'ottava」と入力します。
  4. **[Return]** を押します。
- 

#### 結果

選択したキューのキューラベルが、入力テキストを表示するように変更されます。

プロパティをオフにすると、選択したキューの対応するキューラベルが元のテキストに戻ります。

#### 補足

プロパティをオフにすると、入力したカスタムテキストは完全に削除されます。

---

#### 関連リンク

[プロパティパネル \(826 ページ\)](#)

[浄書ツールボックス \(554 ページ\)](#)

## キューの記譜記号

音楽的に意義の大きい記譜記号は、演奏者がキューの楽譜を容易に識別できるようになるため、元インストゥルメントから引用してキューに表示すると効果的です。ただし、情報過多で演奏者に負担をかけることを避けるため、キューには一部の記譜記号しか表示されません。

初期設定では、Dorico Pro は以下の記譜記号をキューに表示します。

- アーティキュレーション
- スラー
- 演奏技法
- 装飾音
- 歌詞

キューには強弱記号、フェルマータ、横棒線、テキストも表示できます。ただし、これらはキューの内容を特定するために通常は必要とされないため、初期設定では表示されません。

記譜記号は、キューに表示するには、キュー内容の範囲内に入っている必要があります。たとえば、スラーをキューに表示するには、スラーの開始と終了がキューの範囲内に収まっている必要があります。

同様に、ピチカート記号がキューの第1音より先に入力されていた場合、これはキューに表示されません。しかし、弦楽器のピチカートのサウンドは弓で演奏した場合とは大きく異なるため、この情報が省略されると、キューを読むプレイヤーがこれを識別しづらくなる場合があります。

#### 補足

- 弦楽器プレイヤーのためのボウイング記号のように、元インストゥルメントにとってのみ重要な情報を示す演奏技法は、キューには表示されません。
  - 重要な演奏技法がキュー内容の範囲内でない場合、この情報を対応するキューラベルに含めることをおすすめします。
- 

## キューに表示される記譜記号を変更する

スラーや演奏技法など、個々のキューに表示する記譜記号は、プロジェクト全体の設定より優先される形で個別に変更できます。

#### 前提条件

浄書モードの場合は、浄書ツールボックスで「**グラフィックの編集 (Graphic Editing)**」を選択しておきます。

---

#### 手順

1. 表示する記譜記号を変更するキューのラベルを選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「**キュー (Cues)**」グループで、選択したキューに表示する、または非表示にする記譜記号それぞれのプロパティをオンにします。

3. 対応するチェックボックスをオン/オフにします。

---

#### 結果

チェックボックスをオンにすると対応する記譜記号がキューに表示され、チェックボックスをオフにすると非表示になります。

#### 補足

- 弦楽器プレーヤーのためのボウイング記号のように、元インストゥルメントにとってのみ重要な情報を示す演奏技法は、キューには表示されません。
- すべてのキューに表示される記譜記号に対するプロジェクト全体の設定は、「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**キュー (Cues)**」ページで変更できます。

---

#### 関連リンク

[浄書オプションでキューの設定をプロジェクト全体に適用する \(1209 ページ\)](#)

[「浄書オプション \(Engraving Options\)」ダイアログ \(923 ページ\)](#)

[キューラベルのテキストの編集 \(1214 ページ\)](#)

[浄書ツールボックス \(554 ページ\)](#)

## キューの符尾の方向

キューは通常 1 つだけの声部による旋律を取り上げることから、キューの音符は符尾の方向がすべて同じになるのが普通です。キューは初期設定では小節休符を伴って表示され、これはキューを読むプレーヤーがこの音符を演奏しないことを示しています。

キューが複声部による楽譜で構成される場合、元の音符の符尾の方向が使用されます。1 つの声部によるキューにおいては、Dorico Pro はキュー内のピッチに従ってデフォルトの符尾の方向を決定します。キューの音符の大部分が譜表の第 3 線より下に位置する場合は符尾が下向きになり、キューの音符の大部分が譜表の第 3 線より上に位置する場合は符尾が上向きになります。

---

#### ヒント

声部が 1 つのキューの音符の符尾の方向は、個別に上書きできます。

---

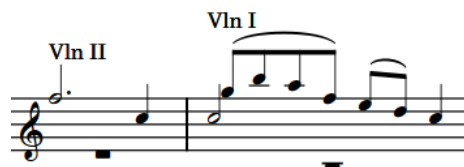
## キューの重ね合わせ

複数の連続するキューをプレーヤーに提示することで、音楽の流れを追いやすくなる場合があります。Dorico Pro は、キューの有用な情報を柔軟にプレーヤーに伝えるために、キューが重なり合うことを認めています。

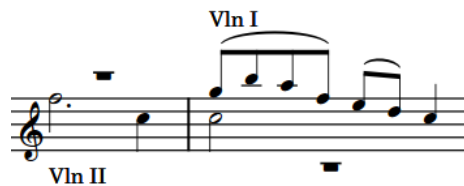
ただし、キューが他のキューと同じリズム上の位置に存在する場合、それぞれの符尾の方向の自動調整は行われません。たとえば、Violin 1 から Violin 2 に受け渡されるメロディーを表示し、この 2 つのキューが重なり合う場合で、どちらのインストゥルメントも符尾が上向きに表示されるのがデフォルトである場合、キューは 2 つとも符尾が上向きの音符で表示されます。

キューの符尾の方向のデフォルトを個別に上書きして、重なり合うキューを読みやすくできます。





2つの重なり合うキューのデフォルトの符尾の方向



下向きになるよう上書きされた符尾の方向 (低い音符を持つ方のキュー)

#### 補足

同じ位置に複数のキューを入力することはできません。ただし、別の位置にキューを入力したあと、キュー同士が重なるように移動したり長さを変更したりすることはできます。

#### 関連リンク

[キューの入力 \(453 ページ\)](#)

[音符/アイテムの位置の移動 \(502 ページ\)](#)

[アイテムの長さの変更 \(470 ページ\)](#)

## キューの符尾の方向を個別に変更する

声部が1つのキューのデフォルトの符尾の方向は個別に上書きできます。たとえば、デフォルトで符尾が下向きのキューを、かわりに上向きの符尾とキュー音符の下の小節休符で表わすことができます。

#### 補足

これらの手順は、小節休符が表示されたキューにのみ適用されます。

#### 前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。
- 下ゾーンのツールバーで「プロパティ (Properties)」を選択しておきます。
- 浄書モードの場合は、浄書ツールボックスで「グラフィックの編集 (Graphic Editing)」を選択しておきます。

#### 手順

1. 符尾の方向を変更するキューのラベルまたはガイドを選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「キュー (Cues)」グループで、「声部の向き (Voice direction)」をオンにします。
3. 以下のいずれかのオプションを選択します。
  - 符尾を強制的に上向き (Force stems up)
  - 符尾を強制的に下向き (Force stems down)

#### 結果

選択したキューのすべての音符の符尾の方向が変更されます。

「声部の向き (Voice direction)」をオフにすると、選択したキューがデフォルトの符尾の方向に戻ります。

関連リンク

[プロパティパネル \(826 ページ\)](#)

[浄書ツールボックス \(554 ページ\)](#)

[キューに伴う小節休符を表示/非表示にする \(1219 ページ\)](#)

## キューのタイ

伸ばされた音符の途中でキューが始まる場合、キューの最初の音につながる形でタイが表示されます。同様に、伸ばされた音符の途中でキューが終わる場合、キューの最後の音から伸びる形でタイが表示されます。

単音のインストゥルメントの場合、これらのタイは通常初期設定で正しく配置されます。しかし、キューに和音が含まれるといった複雑なケースにおいては、これらのタイの配置に調整が必要となる場合があります。

キューの前後に付くタイの編集は、浄書モードで標準のタイと同じ手順で行なえます。

関連リンク

[タイの形状と角度の変更 \(1788 ページ\)](#)

## キューの休符

小節の途中でキューが開始または終了する場合、キューは小節線または次の演奏される内容のいずれか先に来る方に至るまで、キューに合わせた大きさの休符で埋められます。これにより、キューのリズムが拍子にどう当てはまるか、また既存の楽譜とどのような関係になるか、プレーヤーに明確に伝わります。

初期設定では、キューのパスセージ全体に縮小なしの小節休符も表示されます。これにより、キューの音符を演奏者が演奏しないことが明確になります。

縮小なしの小節休符の配置は、キューの音符の符尾の方向に従い自動的に行なわれます。キューの音符の符尾が上向きの場合、小節休符はキューの音符の下に配置されます。キューの音符の符尾が下向きの場合、小節休符はキューの音符の上に配置されます。

キューに伴う小節線を表示しないことも選択できます。これは、一部のジャズスコアや、他のパートを演奏する場合のあるパスセージとしてキューが表示されるスコアなどに適しています。

### ヒント

プロパティパネルの「**音符と休符 (Notes and Rests)**」グループにある「**休符の位置 (Rest pos.)**」を使用して、縮小なしの小節休符の垂直位置を個別に調節できます。

関連リンク


[休符を垂直に移動する \(1645 ページ\)](#)

## キュー周辺の余白を埋める休符を表示/非表示にする

個々のキューの前後の余白を埋める休符を表示または非表示にできます。余白を埋める休符は、キューが小節の途中で開始または終了する場合に小節を埋め、各小節の完全なデュレーションを明確にします。

前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。
- 下ゾーンのツールバーで「**プロパティ (Properties)**」を選択しておきます。

- 浄書モードの場合は、浄書ツールボックスで「グラフィックの編集 (Graphic Editing)」を選択しておきます。

#### 手順

1. 余白を埋める休符を表示または非表示にするキューのラベルまたはガイドを選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「キュー (Cues)」グループで、「キュー周辺の休符を非表示 (Hide rests around cue)」をオンまたはオフにします。

#### 結果

「キュー周辺の休符を非表示 (Hide rests around cue)」がオンのときは選択したキューの前後の余白を埋める休符が非表示となり、オフのときは表示されます。

#### 例



選択したキューの前後の余白を埋める休符を表示した場合



選択したキューの前後の余白を埋める休符を非表示にした場合

#### 関連リンク

[プロパティパネル \(826 ページ\)](#)

[浄書ツールボックス \(554 ページ\)](#)

[暗黙の休符と明示的な休符 \(1641 ページ\)](#)

## キューに伴う小節休符を表示/非表示にする

プロジェクトのフローごとに、すべてのキューに伴う小節休符の表示/非表示を切り替えられます。

#### 手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[N]** を押して「記譜オプション (Notation Options)」を開きます。
2. 「フロー (Flows)」リストから、小節休符を表示または非表示にするフローを選択します。  
初期設定では、現在のフローのみを選択した状態のダイアログが表示されます。他のフローを選択するには、アクションバーの「すべて選択 (Select All)」をクリックするか、複数のフローをまたぐようにクリックしてドラッグするか、**[Shift]** を押しながら隣接するフローをクリックするか、**[Ctrl]/[command]** を押しながら個々のフローをクリックします。
3. カテゴリーリストの「休符 (Rests)」をクリックします。
4. 「追加の声部内の休符 (Rests in Additional Voices)」セクションの「キューの小節休符 (Bar rests in cues)」で、以下のオプションからいずれかを選択します。
  - 小節休符を表示 (Show bar rests)
  - 小節休符を省略 (Omit bar rests)
5. 「適用 (Apply)」をクリックしてから「閉じる (Close)」をクリックします。

## キューの音部変更記号

元インストゥルメントの楽譜の音部が出力先インストゥルメントと異なる場合、Dorico Pro はキューの開始位置に自動的に音部変更記号を入力して、元インストゥルメントが使用する音部に合致させるとともに、キューの終了位置には復帰のための音部変更記号を入力して、出力先インストゥルメントに本来使用されていた音部に合致させます。

複数のキューが隣接する場合、音部変更記号は必要な数だけ作成されます。

- 隣接する2つのキューが、出力先インストゥルメント本来の音部記号とは異なる、同じ音部記号を使用する場合、1つめのキューの開始位置に音部変更記号が1つ、2つめのキューの終了位置に復帰のための音部変更記号が1つ表示されます。
- キューが重なり合い、2つめのキューが1つめとは異なる音部記号を必要とする場合、Dorico Pro は2つめのキューの開始位置に音部変更記号を作成します。
- 隣接する2つのキューがあり、1つめのキューが出力先インストゥルメントとは異なる音部記号を使用し、2つめのキューの音部のプロパティが「なし (None)」に設定されている場合、出力先インストゥルメント本来の音部に復帰するための音部変更記号は、1つめのキューの終了位置に表示されます。

キューに表示される音部記号を上書きできます。

初期設定では、キューの音部変更記号は、標準の音部変更記号と同じように配置されます。プロジェクト全体の小節線に対するすべてのキューの音部変更記号の位置は、「**浄書オプション (Engraving Options)**」 > 「**キュー (Cues)**」 > 「**音部記号 (Clefs)**」で変更できます。たとえば、キューの音部変更記号を小節線の右側に表示したり、キューが組段の開始位置から始まる場合に、表示先のインストゥルメント本来の音部記号に加えてキューの音部変更記号を表示したりできます。

### 補足



キューの途中で元インストゥルメントに発生した音部の変更は、出力先インストゥルメントのキューには表示されません。

## キューに表示される音部記号を個別に変更する

キューに表示される音部記号を、プロジェクト全体の設定とは別に変更できます。

同じキューに対してでも、表示されるレイアウトごとに異なる音部記号を表示できます。たとえば、フルスコアレイアウトではキューにト音記号を表示しつつ、同じキューのパートレイアウトにはヘ音記号を表示させられます。

前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。
- 下ゾーンのツールバーで「**プロパティ (Properties)**」  を選択しておきます。
- 浄書モードの場合は、浄書ツールボックスで「**グラフィックの編集 (Graphic Editing)**」  を選択しておきます。

手順

1. 楽譜領域で、キューに表示される音部記号を変更するレイアウトを開きます。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. 音部記号を変更するキューのラベルを選択します。
3. プロパティパネルで、「**キュー (Cues)**」グループから以下のいずれかのプロパティをオンにします。
  - **コンサートクレフ (Concert clef)**: レイアウトが実音を使用する場合に表示されます。

- **移調クレフ (Transposed clef):** レイアウトが移調音を使用する場合に表示されます。
4. メニューから以下のいずれかの音部記号を選択します。
- **なし (None):** 元インストゥルメントの音部記号のかわりに出力先インストゥルメントの音部記号を使用します。
  - **トレブル (Treble)**
  - **アルト (Alto)**
  - **テナー (Tenor)**
  - **バス記号 (低音部記号) (Bass)**
- 各プロパティには同じ音部記号が使用できます。
- 

#### 結果

選択したキューに表示される音部記号が変更されます。

#### ヒント

キューに使用される音部記号に、もとのインストゥルメントの音部記号を使用するか、表示先のインストゥルメントを使用するかを、プロジェクト全体で変更するには、「**浄書オプション (Engraving Options)**」にある「**キュー (Cues)**」ページで設定を行ないます。

---

#### 関連リンク

[プロパティパネル \(826 ページ\)](#)

[浄書ツールボックス \(554 ページ\)](#)

[「浄書オプション \(Engraving Options\)」ダイアログ \(923 ページ\)](#)

## リズムによるキュー

リズムによるキューは、元インストゥルメントのピッチの有無に関わらずそのリズムのみ表示し、初期設定では譜表の上に配置されます。

リズムによるキューは音部変更記号、臨時記号、および加線を表示しません。また、出力先がオクターブ移調インストゥルメントの場合でも、キューラベルにオクターブの移調は表示されません。デフォルト位置が譜表線の外側となっていることで、ピッチのある音符として読み違えることがなくなります。

既存のキューをリズムによるキューに変更することも、その逆も行なえます。これにより、ピッチのある元インストゥルメントによるキューはリズムのみ表示するようになります。これは、大規模なユニゾンや和音のあるビッグバンドの楽譜のように、複数のインストゥルメントが同時に同じリズムを演奏しつつピッチが異なる場合に有効です。この状況においては、グループのうち1つのインストゥルメントのピッチを表示することは、それが全体を代表するメロディーであると出力先インストゥルメントの演奏者に勘違いさせる恐れがあります。この場合はキューラベルを変更して、キューのリズムを演奏するインストゥルメント全体に関する情報を表示できます。

初期設定では、無音程打楽器を元インストゥルメントとするキューは、リズムによるキューとして入力されます。垂直方向のスペースを節約する場合は、これを無音程打楽器を元インストゥルメントとするキューに変更できます。これによりキューは、初期設定では譜表の第3線に配置されるようになります。



リズムによるキュー



無音程打楽器を元とするキュー

リズムによるキューおよび無音程打楽器を元インストゥルメントとするキューの譜表に対するデフォルトの位置は、「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**キュー (Cues)**」のページにある「**リズムによるキュー (Rhythmic Cues)**」および「**無音程楽器 (Unpitched Instruments)**」のセクションで変更できます。

また、リズムによるキューや無音程打楽器を元インストゥルメントとするキューの譜表に対する位置は、個別に変更もできます。

関連リンク

[キューの入力 \(453 ページ\)](#)


[キューラベルのテキストの編集 \(1214 ページ\)](#)

[「浄書オプション \(Engraving Options\)」ダイアログ \(923 ページ\)](#)

## 既存のキューをリズムによるキューに変換

キューは通常、特定のインストゥルメントが演奏する、ピッチのある楽譜を表示します。しかし、ピッチのある楽譜を表示する既存のキューは、元の楽譜のリズムしか表示しないリズムによるキューに変更できます。これは、たくさんのインストゥルメントが同じ特徴的なリズムと一緒に演奏するようなパッセージの表示に便利です。

前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。
- 下ゾーンのツールバーで「**プロパティ (Properties)**」を選択しておきます。
- 浄書モードの場合は、浄書ツールボックスで「**グラフィックの編集 (Graphic Editing)**」を選択しておきます。

手順

1. リズムによるキューに変更するキューのラベルを選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「**キュー (Cues)**」グループで、「**リズムによるキュー (Rhythmic cue)**」をオンにします。

結果

選択したキューがリズムによるキューとして表示されます。初期設定では、譜表の上に配置されます。

補足

「**リズムによるキュー (Rhythmic cue)**」をオフにすると、選択したキューが標準のキューに戻ります。これには、自動的にリズムによるキューとして入力される、無音程打楽器を元インストゥルメントとするキューも含まれます。

無音程打楽器を元インストゥルメントとするキューにおいて「**リズムによるキュー (Rhythmic cue)**」をオフにした場合は、初期設定ではキューは譜表の第3線に配置されます。

関連リンク


[プロパティパネル \(826 ページ\)](#)

[浄書ツールボックス \(554 ページ\)](#)

## リズムによるキューのスラッシュ符頭を表示/非表示にする

個々のリズムによるキューのスラッシュ符頭や標準の符頭を、プロジェクト全体の設定とは別に表示できます。スラッシュ符頭を表示する場合は、スラッシュ符頭のデザインも変更できます。

前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。
- 下ゾーンのツールバーで「**プロパティ (Properties)**」を選択しておきます。
- 浄書モードの場合は、浄書ツールボックスで「**グラフィックの編集 (Graphic Editing)**」を選択しておきます。

---

手順

1. スラッシュ符頭を表示/非表示にするリズムによるキューのラベルを選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「**キュー (Cues)**」グループで、「**スラッシュ符頭を使用 (Use rhythmic slashes)**」をオンにします。
3. 対応するチェックボックスをオン/オフにします。
4. スラッシュ符頭のデザインを変更するには、「**スラッシュの外観 (Slash appearance)**」をオンにして、メニューから以下のいずれかのオプションを選択します。
  - **標準 (Standard)**
  - **小 (Small)**
  - **特大 (Oversized)**
  - **ミュート (Muted)**

---

結果

「**スラッシュ符頭を使用 (Use rhythmic slashes)**」チェックボックスをオンにすると、選択したリズムによるキューの音符にスラッシュ符頭が使用され、オフにすると標準の符頭が使用されます。

プロパティをオフにすると、リズムによるキューの表示はプロジェクト全体の符頭のデザインの設定に従います。

「**スラッシュの外観 (Slash appearance)**」をオンにすると、選択したリズムによるキューに選択したスラッシュ符頭のデザインが使用されます。オンにしない場合は、リズムによるキューにデフォルトのスラッシュ符頭のデザインが使用されます。

ヒント

デフォルトのスラッシュ符頭のデザインの変更を含め、プロジェクト全体のすべてのリズムによるキューにスラッシュ符頭を表示するかどうかは、「**浄書オプション (Engraving Options)**」 > 「**キュー (Cues)**」 > 「**リズムによるキュー (Rhythmic Cues)**」で設定できます。

---

例



標準の符頭を持つリズムによるキュー



スラッシュ符頭 (小) を持つリズムによるキュー

関連リンク

[プロパティパネル \(826 ページ\)](#)


[浄書ツールボックス \(554 ページ\)](#)

[スラッシュ符頭のデザインを個別に変更する \(1626 ページ\)](#)

## リズムによるキューの譜表上の位置を変更する

個々のリズムによるキューの譜表上の位置は、プロジェクト全体の設定より優先される形で個別に変更できます。初期設定では、リズムによるキューは譜表の上に配置されます。

前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。
- 下ゾーンのツールバーで「**プロパティ (Properties)**」 を選択しておきます。
- 浄書モードの場合は、浄書ツールボックスで「**グラフィックの編集 (Graphic Editing)**」 を選択しておきます。

手順

1. 譜表上の位置を変更するリズムによるキューのラベルを選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「**キュー (Cues)**」グループで、「**距離 (Distance)**」をオンにします。
3. 数値フィールドの値を変更します。

たとえば「0」と入力すると、リズムによるキューは譜表の第5線のすぐ上の間に配置されます。値を大きくするほど、リズムによるキューと譜表との距離は大きくなります。負の値を設定すると、リズムによるキューが譜表の内側または下に配置されます。

結果

選択したキューの位置が、新しい値によって変更されます。

ヒント

すべてのリズムによるキューと譜表第5線との距離のプロジェクト全体のデフォルトは、「**浄書オプション (Engraving Options)**」 > 「**キュー (Cues)**」 > 「**リズムによるキュー (Rhythmic Cues)**」で変更できます。



例



譜表の上のリズムによるキュー



譜表の下のリズムによるキュー

関連リンク

[休符を垂直に移動する \(1645 ページ\)](#)

[「浄書オプション \(Engraving Options\)」 ダイアログ \(923 ページ\)](#)

## 無音程打楽器を元インストゥルメントとするキューの譜表上の位置を変更する

無音程打楽器を元インストゥルメントとするキューの譜表上の位置を、プロジェクト全体の設定より優先される形で個別に変更できます。

初期設定では、リズムによるキューになっていない無音程打楽器を元インストゥルメントとするキューは、譜表の第3線に配置されます。

### 補足

この手順はリズムによるキューには適用されません。

前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。
- 下ゾーンのツールバーで「プロパティ (Properties)」を選択しておきます。
- 浄書モードの場合は、浄書ツールボックスで「グラフィックの編集 (Graphic Editing)」を選択しておきます。

手順

1. 譜表上の位置を変更する無音程打楽器を元インストゥルメントとするキューのラベルを選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「キュー (Cues)」グループで、「無音程音の位置 (Unpitched notes pos.)」をオンにします。
3. 数値フィールドの値を変更します。

結果

選択したキューの譜表上の位置が、新しい値によって変更されます。たとえば、「0」は譜表の第3線、「4」は譜表の第5線、「-4」は譜表の第1線を意味します。

### ヒント

すべての無音程打楽器を元インストゥルメントとするキューの譜表上の位置のプロジェクト全体のデフォルトは、「浄書オプション (Engraving Options)」の「キュー (Cues)」のページで変更できます。

例



譜表の第3線に配置された無音程のキュー (デフォルト) 譜表の高い位置に配置された無音程のキュー

---

## キューの表示オプション

プロジェクト全体でキューを強調表示したり、キューの内容を標準の音符とは異なるカラーで表示したりすることで、作業中のキューの識別を容易に行なえます。

### 補足

キューが表示されないレイアウトでは、ガイドで表示されます。キューのガイドの表示/非表示は、「**ビュー (View)**」 > 「**ガイド (Signposts)**」 > 「**キュー (Cues)**」を選択して切り替えられます。

---

関連リンク

[キューの提案の強調表示を表示/非表示にする \(1227 ページ\)](#)

[キューの音符のカラーを表示/非表示にする \(1228 ページ\)](#)

[ガイド \(490 ページ\)](#)

## キューの強調表示を表示/非表示にする

キューが存在する小節の強調表示を表示/非表示にできます。これにより、キューがどこに追加されているか、およびどのインストゥルメントがキューの元として使用されているかを概観できます。

出力先インストゥルメントの譜表上のキューが含まれる小節は黄色い半透明で強調表示され、元インストゥルメントの譜表上の対応する小節は青い半透明で強調表示されます。

ズームアウトすると、強調表示の不透明度が上がります。これはフルスコアレイアウトをギャラリービューで閲覧するとき特に便利です。

### 補足

ページビューでは、キューによる小節の強調表示は、キューが表示されるレイアウトにしか表示されません。

---

手順

- 「**ビュー (View)**」 > 「**キューを強調 (Highlight Cues)**」を選択します。
- 

結果

キューが含まれる小節の強調表示が表示/非表示になります。

例

A musical score snippet for Fl. 1, Fl. 2, and Ob. 1. The Fl. 1 part has a blue highlight over a measure. The Ob. 1 part has a yellow highlight over a measure. The score is in a key with two flats and a 2/4 time signature.

元の譜表と出力先の譜表に表示されるキューの強調表示

関連リンク



[レイアウト内のキューを表示/非表示にする \(1209 ページ\)](#)

## キューの提案の強調表示を表示/非表示にする

キューが提案されている小節の強調表示を表示/非表示にできます。これにより、キューに適した場所を見つけることができます。

キューの提案は半透明の赤色で強調表示されます。ズームアウトすると、強調表示の不透明度が上がります。これはフルスコアレイアウトをギャラリービューで閲覧するとき特に便利です。

手順

1. 記譜モードで「パネル (Panels)」をクリックしたあとに、記譜ツールボックスの「キュー (Cues)」をクリックして、キューパネルを表示します。
2. 「キューを提案 (Suggest Cues)」セクションで、「キューの提案箇所を強調 (Highlight suggestions)」をオン/オフにします。

結果

キューの提案の強調表示が表示/非表示になります。

例

A musical score snippet for Fl. 1, Fl. 2, Ob. 1, and Ob. 2. The Ob. 1 and Ob. 2 parts have red highlights over measures. The score is in a key with two flats and a 2/4 time signature. Dynamics like *pp* and *cresc.* are visible.

キューの提案の強調表示が表示された状態

関連リンク

[記譜ツールボックス \(224 ページ\)](#)

[キューパネル \(455 ページ\)](#)

[キューの提案 \(455 ページ\)](#)

[キューの提案を使用したキューの入力 \(457 ページ\)](#)

## キューの音符のカラーを表示/非表示にする

キューを識別しやすいように、キューの内容 (音符や休符など) をグレー表示にできます。キューの内容を直接編集することはできません。

キューの音符のカラーは注釈と見なされ、初期設定では印刷されません。

### 補足

キューの音符のカラーは、キューが表示されるレイアウトにしか表示されません。

---

### 手順

- 「ビュー (View)」 > 「音符と休符のカラー (Note And Rest Colors)」 > 「キュー (Cues)」を選択します。
- 

### 結果

キューの音符のカラーの表示/非表示が切り替わります。

---

### 例

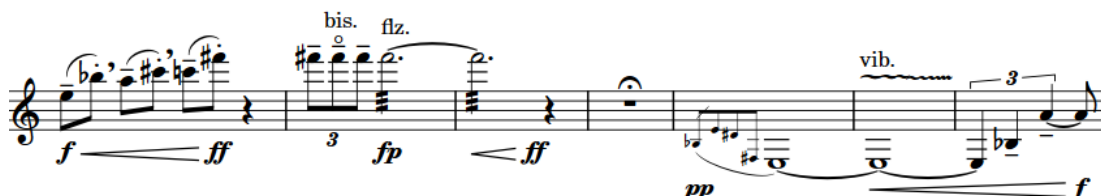


カラー表示されたキューの音符

---

# 強弱記号

強弱記号は音の大きさを表わし、表現テキストと組み合わせることで、楽譜をどのように演奏すべきかを明確にします。強弱記号は音量の瞬間的な変化や、指定のデュレーションによる段階的な変化を指示します。



複数の異なる強弱記号を持つフレーズ

強弱記号に修飾語句を追加して、音量レベルとともにスタイルに関する指示を与えることができます。たとえば *f* *espressivo* は、音量を大きくするだけではなく、感情を込めてパッセージを演奏することを示します。

表現テキストの大部分はイタリック体で記される一方、*ff* や *pp* などの強弱記号はボールドイタリック体のフォントを使用します。

関連リンク

- [強弱記号の入力方法 \(337 ページ\)](#)
- [強弱記号の位置 \(1230 ページ\)](#)
- [段階的強弱記号 \(1246 ページ\)](#)
- [messa di voce ヘアピン \(1255 ページ\)](#)
- [ニエンテ記号 \(1257 ページ\)](#)
- [強弱記号の修飾語句 \(1241 ページ\)](#)
- [声部固有の強弱記号 \(1241 ページ\)](#)
- [強弱記号のグループ \(1260 ページ\)](#)
- [リンクされた強弱記号 \(1262 ページ\)](#)
- [強弱記号エディター \(859 ページ\)](#)
- [テキストの書き出し \(113 ページ\)](#)

## 強弱記号のタイプ

Dorico Pro では、強弱記号はそれぞれの機能に従い異なるグループに分類されます。

### 局部的強弱記号

局部的強弱記号は、それが属する音符から次の強弱記号が現れる位置まで適用され、それ以前の音の強さから局部的に変化させることを指示します。局部的強弱記号には *pp* や *f* などの強弱記号、そして *subito* や *molto* などの強弱記号の修飾語句があります。

### 段階的強弱記号とヘアピン

段階的強弱記号は、指定のデュレーションにわたって徐々にボリュームを変化させることを指示します。これらは通常ヘアピン、または *cresc.* や *dim.* のようなテキストによる指示で表示されます。

段階的強弱記号には、ボリュームの変化を指示する *poco*、*molto*、*poco a poco*、*niente* などの強弱記号の修飾語句が付く場合もあります。

Dorico Pro では、ヘアピンは *messa di voce* によるヘアピンのペアによる表示もできます。状況によっては、個別のヘアピンでペアを作るよりもこの方が簡単です。

#### アタックの強弱/強度レベル

*fz* や *sffz* などの強弱記号は、アクセントのアーティキュレーションと同様、現在の強弱で通常表現されるよりも強いアタックで音符を演奏することを指示します。

#### 結合式強弱記号

*fp* や *p-mf* などの結合式強弱記号は、強弱の突然の変化を指示します。

Dorico Pro では、強弱記号パネルの「**結合式強弱記号 (Combined Dynamics)**」のセクションで、カスタムの結合式強弱記号を作成して、ペアを構成するそれぞれの強弱記号の強度レベルを管理できます。たとえば、*pppf*、*fff-mp* や *ffffpppp* のような強弱記号を作成できます。

#### 補足

結合式強弱記号には、レベル *f* とレベル *p* が1つずつ含まれている必要があります。

---

#### 関連リンク

- [段階的強弱記号 \(1246 ページ\)](#)
- [messa di voce ヘアピン \(1255 ページ\)](#)
- [ニエンテ記号 \(1257 ページ\)](#)
- [強弱記号の修飾語句 \(1241 ページ\)](#)
- [局部的強弱記号を表示/非表示にする \(1236 ページ\)](#)
- [修飾語句 subito の外観と位置を変更する \(1243 ページ\)](#)
- [強弱記号 sforzando/rinforzando の外観を変更する \(1238 ページ\)](#)
- [結合式強弱記号の区切り文字を表示/非表示にする \(1236 ページ\)](#)

## 浄書オプションで強弱記号の設定をプロジェクト全体に適用する

「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**強弱記号 (Dynamics)**」ページで、強弱記号の外観と位置を設定しプロジェクト全体に適用できます。

「**強弱記号 (Dynamics)**」ページのオプションでは、強弱記号および段階的強弱記号の外観や、符頭、小節線、歌詞、および組段の終端に対するデフォルト位置を変更できます。

多くのオプションに、オプションを楽譜に適用したときにどのように表示されるかを示す図があります。

#### 関連リンク

- [「浄書オプション \(Engraving Options\)」ダイアログ \(923 ページ\)](#)

## 強弱記号の位置

初期設定では、強弱記号は音符と並んで読めるように楽器の五線の下、または声楽の譜表の上に配置されます。こうすることにより、譜表の下に配置される歌詞と衝突を避けつつ、同時に読むべき音符に十分近く配置できます。

*pp* や *f* といった局部的強弱記号は、適用される符頭に中央揃えで配置されます。段階的強弱記号の開始位置は、それが開始する拍の符頭に中央揃えで、または同位置の局部的強弱記号の直後に配置されます。段階的強弱記号の終了位置は、それが終了する拍の符頭に中央揃えで、または同位置の局部的強弱記号の直前に配置されます。

譜表に対する強弱記号の位置は、それぞれの機能およびプレイヤーのタイプによって多様に変化します。たとえば、強弱記号は初期設定では楽器の譜表の下、歌の譜表の上に配置されます。これにより、

強弱記号は読みやすさのためにできるだけ譜表に近い位置を維持し、歌の譜表では符頭と歌詞の間に配置されません。ピアノやハーブなど大譜表のインストゥルメントにおいては、強弱記号は通常2つの譜表の間に配置されますが、それぞれの譜表が異なる音の強さで演奏される場合は、それぞれの譜表の上下に配置できます。

強弱記号は総じて、特にヘアピンは非常に読みづらくなるため、譜表内には配置されません。また、連符の角括弧の内側に配置されることも通常ありません。強弱記号はスラーなど符頭に近い位置を維持する必要がある記譜記号よりも外側に配置されますが、符頭から離れて配置されても明確に読み取れるペダル線よりも内側に配置されます。

強弱記号の位置は記譜モードで移動できます。これらは「**浄書オプション (Engraving Options)**」で設定されたデフォルト位置に配置されます。

#### 補足

マウスを使用する場合、強弱記号は符頭への移動と長さ変更のみ行なえます。キーボードを使用する場合、現在のリズムグリッドの間隔に応じて強弱記号の移動と長さ変更を行なえます。

強弱記号の表示位置は浄書モードで移動できます。これにより適用されるリズム上の位置は変更されません。

すべての強弱記号のデフォルト位置や、拍、小節線、組段の終端、譜表、その他のオブジェクトに対する位置のプロジェクト全体の設定は、「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**強弱記号 (Dynamics)**」ページで変更できます。

#### 関連リンク

[「浄書オプション \(Engraving Options\)」ダイアログ \(923 ページ\)](#)

[小節線に対するヘアピンの一般的な配置規則 \(1233 ページ\)](#)

[強弱記号の符頭に対する整列を変更する \(1232 ページ\)](#)

[mesa di voce ヘアピンの中央を移動する \(1256 ページ\)](#)

[譜表に対するアイテムの位置の変更 \(474 ページ\)](#)

[音符/アイテムの位置の移動 \(502 ページ\)](#)

[アイテムの長さの変更 \(470 ページ\)](#)

[アイテムの表示位置の移動 \(652 ページ\)](#)

[浄書モードの段階的強弱記号 \(1248 ページ\)](#)

[段階的強弱記号 \(1246 ページ\)](#)

[mesa di voce ヘアピン \(1255 ページ\)](#)

[ニエンテ記号 \(1257 ページ\)](#)

## 強弱記号の水平方向の拍相対位置を変更する

個々の強弱記号を拍の前または後に配置できます。この操作は現在のレイアウトとフレームチェーンのみに対して、もしくはすべてのレイアウトとフレームチェーンに対して行なえます。

#### 前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。
- 下ゾーンのツールバーで「**プロパティ (Properties)**」を選択しておきます。
- 浄書モードの場合は、浄書ツールボックスで「**グラフィックの編集 (Graphic Editing)**」を選択しておきます。
- ローカルのプロパティ変更に関して、適切なプロパティ範囲を選択しておきます。

#### 手順

1. 拍相対位置を変更する強弱記号を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。

2. プロパティパネルの「強弱記号 (Dynamics)」グループで、「拍相対位置 (Beat-relative position)」をオンにします。
3. 以下のいずれかのオプションを選択します。
  - 前 (Before)
  - 後 (After)

#### 結果

選択した強弱記号の拍に対する位置が変更されます。プロパティ範囲を「ローカル (Locally)」に設定している場合、この変更は現在のレイアウトおよびフレームチェーンのみに影響します。

#### 例



拍の前に配置された強弱記号



拍の後に配置された強弱記号

#### 関連リンク

[強弱記号の背景の塗りつぶし \(1239 ページ\)](#)

[浄書ツールボックス \(554 ページ\)](#)

[プロパティ範囲の変更 \(828 ページ\)](#)

[プロパティ設定を別のレイアウト/フレームチェーンにコピーする \(825 ページ\)](#)



## 強弱記号の符頭に対する整列を変更する

*ff* や *mp* といった局部的強弱記号は、通常は符頭の視覚上の中央位置で水平方向に整列していますが、局部的強弱記号の水平方向の配置は、プロジェクト全体の設定より優先される形で個別に変更できます。この操作は現在のレイアウトとフレームチェーンのみに対して、もしくはすべてのレイアウトとフレームチェーンに対して行なえます。

#### 前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。
- 下ゾーンのツールバーで「プロパティ (Properties)」 を選択しておきます。
- 浄書モードの場合は、浄書ツールボックスで「グラフィックの編集 (Graphic Editing)」 を選択しておきます。
- ローカルのプロパティ変更に関して、適切なプロパティ範囲を選択しておきます。

#### 手順

1. 符頭に対する配置を変更する強弱記号を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「強弱記号 (Dynamics)」グループで、「テキストの整列 (Text alignment)」をオンにします。
3. 以下のいずれかのオプションを選択します。
  - 中央位置を符頭に合わせる (Align optical center with notehead) 
  - 符頭に合わせて左寄せ (Left-align with notehead) 



- 中央位置を符頭の左側に合わせる (Align optical center with left of notehead) 

#### 結果

選択した局部的強弱記号の配置が変更されます。プロパティ範囲を「ローカル (Locally)」に設定している場合、この変更は現在のレイアウトおよびフレームチェーンのみに影響します。


#### ヒント

すべての局部的強弱記号の符頭に対するデフォルトの配置をプロジェクト全体で変更するには、「浄書オプション (Engraving Options)」 > 「強弱記号 (Dynamics)」 > 「水平位置 (Horizontal Position)」で設定を行ないます。

## 強弱記号の整列

たとえばパートレイアウトの組段区切りがフルスコアレイアウトとは異なり、強弱記号の異なるグループの部分同士を整列する必要が生じた場合など、選択した強弱記号の表示位置を、グループ化やグループ解除を要さず個別に整列できます。この操作は現在のレイアウトとフレームチェーンのみに対して、もしくはすべてのレイアウトとフレームチェーンに対して行なえます。

#### 前提条件

- 浄書ツールボックスで「グラフィックの編集 (Graphic Editing)」  を選択しておきます。
- ローカルのプロパティ変更に関して、適切なプロパティ範囲を選択しておきます。

#### 手順

1. 浄書モードで、整列する強弱記号を選択します。
2. 「編集 (Edit)」 > 「記譜 (Notations)」 > 「強弱記号 (Dynamics)」 > 「強弱記号を整列 (Align Dynamics)」を選択します。このオプションはコンテキストメニューでも選択できます。

#### 結果

選択した強弱記号は、選択範囲内で譜表から最も遠かった強弱記号と1列に整列します。プロパティ範囲を「ローカル (Locally)」に設定している場合、この変更は現在のレイアウトおよびフレームチェーンのみに影響します。

#### 関連リンク

- [強弱記号のグループ \(1260 ページ\)](#)
- [浄書ツールボックス \(554 ページ\)](#)
- [アイテムの位置のリセット \(477 ページ\)](#)

## 小節線に対するヘアピンの一般的な配置規則

Dorico Pro では、ヘアピンの終端はその右にある音符の左端に揃えられます。このためヘアピンが小節線をまたいで伸びる場合もあります。

小節の最初の音符で終了するヘアピンは、以下の条件では直前の小節線をまたいで延長されます。

- 次の小節の最初の音に局部的強弱記号が付かない場合。
- 小節線に拍子や調号の変化記号が付くことで、現在の小節の終わりとの次の小節の最初の音符との間隔が広がっている場合。

Dorico Pro は、ヘアピンが少しだけ小節線に重なるのは視覚的に明瞭さを欠くことから、これを避けようとしています。しかしこれは、異なる譜表の一方が下の譜表と結合する小節線を延ばしていない場合、同じ強弱記号でも両方で表示が異なる場合があることを意味します。



下の譜表から下に小節線が伸びていないため、ヘアピンの終端が揃っていない

ヘアピンが次の小節の最初の音符で終了する場合、ヘアピンが小節線をまたぐことの許可と禁止を切り替えられます。小節線をまたぐヘアピンを禁止すると、すべての譜表でヘアピンが同じ長さで表示されるようになります。

## 小節線をまたぐヘアピンの許可/禁止を切り替える

ヘアピンが次の小節の最初の音符で終了するとき、小節線をまたぐことを許可または禁止できます。これによりたとえば、一部の小節線が結合されていない複数の譜表において、すべてのヘアピンが同じ長さで表示されるようになります。この操作は現在のレイアウトとフレームチェーンのみに対して、もしくはすべてのレイアウトとフレームチェーンに対して行なえます。

前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。
- 下ゾーンのツールバーで「プロパティ (Properties)」を選択しておきます。
- 浄書モードの場合は、浄書ツールボックスで「グラフィックの編集 (Graphic Editing)」を選択しておきます。
- ローカルのプロパティ変更に関して、適切なプロパティ範囲を選択しておきます。

手順

1. 小節線をまたぐことの許可/禁止を切り替えるヘアピンを選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「強弱記号 (Dynamics)」のグループで、「小節線との交差 (Barline interaction)」をオンにします。
3. 以下のいずれかのオプションを選択します。
  - 手前で停止 (Stop before)
  - 継続 (Continue)

結果

「継続 (Continue)」を選択すると、選択したヘアピンが小節線をまたげるようになりますが、「手前で停止 (Stop before)」を選択すると、小節線またぎが禁止されます。プロパティ範囲を「ローカル (Locally)」に設定している場合、この変更は現在のレイアウトおよびフレームチェーンのみに影響します。

プロパティをオフにすると、選択中のヘアピンはプロジェクト全体に設定された状態に戻ります。

#### ヒント

「浄書オプション (Engraving Options)」 > 「強弱記号 (Dynamics)」 > 「段階的強弱記号 (Gradual Dynamics)」 > 「ヘアピン (Hairpins)」 > 「詳細設定 (Advanced Options)」では、プロジェクト全体のすべてのヘアピンが小節線をまたぐことの許可/禁止を切り替えることができます。

また、「水平位置 (Horizontal Position)」セクションでは、ヘアピンが小節線をまたぐことが許可される最小距離の変更も行なえます。

---

#### 関連リンク

[浄書ツールボックス \(554 ページ\)](#)

[プロパティ範囲の変更 \(828 ページ\)](#)

[プロパティ設定を別のレイアウト/フレームチェーンにコピーする \(825 ページ\)](#)

[浄書オプションで強弱記号の設定をプロジェクト全体に適用する \(1230 ページ\)](#)

[「浄書オプション \(Engraving Options\)」 ダイアログ \(923 ページ\)](#)

## 強弱記号レベルを変更する

フレーズ内のすべての強弱記号の強弱記号レベルを上げる場合などに、強弱記号のポップオーバーを再度開くことなく、複数の異なる強弱記号の強弱記号レベルを同時に変更できます。

---

#### 手順

1. 記譜モードで、強弱記号レベルを変更する強弱記号を選択します。
2. 以下のいずれかの操作を行なって、強弱記号レベルを変更します。
  - 強弱記号レベルを上げるには、「編集 (Edit)」 > 「記譜 (Notations)」 > 「強弱記号 (Dynamics)」 > 「強弱記号の強度を上げる (Increase Dynamic Intensity)」を選択します。
  - 強弱記号レベルを下げるには、「編集 (Edit)」 > 「記譜 (Notations)」 > 「強弱記号 (Dynamics)」 > 「強弱記号の強度を下げる (Decrease Dynamic Intensity)」を選択します。

#### ヒント

このオプションはコンテキストメニューでも選択できます。

---

#### 結果

選択した強弱記号の強弱記号レベルが変更されます。たとえば、*mf* の強弱記号の強弱記号レベルを上げると *f* になります。

---

#### ヒント

「環境設定 (Preferences)」の「キーボードショートカット (Key Commands)」ページで、これらのオプションにキーボードショートカットを割り当てることができます。

---

#### 関連リンク

[強弱記号の入力方法 \(337 ページ\)](#)

[強弱記号エディター \(859 ページ\)](#)

[既存のアイテムの変更 \(472 ページ\)](#)

[強弱記号の修飾語句 \(1241 ページ\)](#)

[「環境設定 \(Preferences\)」 ダイアログの「キーボードショートカット \(Key Commands\)」ページ \(64 ページ\)](#)

## 局部的強弱記号を表示/非表示にする

たとえば「sim.」など強弱記号の修飾語句を、強弱記号を伴わない形で表示させる場合などには、*f* や *pp* などの局部的強弱記号の表示/非表示を個別に切り替えることができます。この操作は現在のレイアウトとフレームチェーンのみに対して、もしくはすべてのレイアウトとフレームチェーンに対して行なえます。

### 前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。
- 下ゾーンのツールバーで「プロパティ (Properties)」 を選択しておきます。
- 浄書モードの場合は、浄書ツールボックスで「グラフィックの編集 (Graphic Editing)」 を選択しておきます。
- ローカルのプロパティ変更に関して、適切なプロパティ範囲を選択しておきます。

### 手順

1. 非表示にする局部的強弱記号、または表示する局部的強弱記号のガイドを選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「強弱記号 (Dynamics)」グループで、「強弱記号を非表示 (Hide intensity marking)」をオンまたはオフにします。

### 結果

「強弱記号を非表示 (Hide intensity marking)」をオンにすると選択した局部的強弱記号が非表示になり、オフにすると表示されます。プロパティ範囲を「ローカル (Locally)」に設定している場合、この変更は現在のレイアウトおよびフレームチェーンのみに影響します。

同じ位置に他の強弱記号がない場合、非表示になった位置にはガイドが表示されます。ただし初期設定では、ガイドは印刷されません。

### 関連リンク

[強弱記号の修飾語句 \(1241 ページ\)](#)

[浄書ツールボックス \(554 ページ\)](#)

[ゾーンの表示/非表示の切り替え \(48 ページ\)](#)

[プロパティパネル \(826 ページ\)](#)

[プロパティ範囲の変更 \(828 ページ\)](#)

[プロパティ設定を別のレイアウト/フレームチェーンにコピーする \(825 ページ\)](#)

[ガイド \(490 ページ\)](#)

[注釈 \(740 ページ\)](#)


[強弱記号の入力方法 \(337 ページ\)](#)


## 結合式強弱記号の区切り文字を表示/非表示にする

プロジェクト全体の設定とは関係なく、結合式強弱記号のさまざまな区切り文字の表示/非表示を個別に切り替えることができます。たとえば、いくつかの *fp* の強弱記号をスラッシュで区切る場合などです。この操作は現在のレイアウトとフレームチェーンのみに対して、もしくはすべてのレイアウトとフレームチェーンに対して行なえます。

初期設定では、*mf-p* のように、ペア内にメゾの強弱記号が少なくとも 1 つ含まれている結合式強弱記号にのみ区切り文字が表示されます。

### 前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。
- 下ゾーンのツールバーで「プロパティ (Properties)」 を選択しておきます。

- 浄書モードの場合は、浄書ツールボックスで「グラフィックの編集 (Graphic Editing)」 を選択しておきます。
- ローカルのプロパティ変更に関して、適切なプロパティ範囲を選択しておきます。

#### 手順

1. 区切り文字の表示/非表示を切り替える結合式強弱記号を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「強弱記号 (Dynamics)」グループで、「区切り用文字の表示 (Separator shown)」をオンにします。
3. 対応するチェックボックスをオン/オフにします。
4. 区切り文字を表示する場合は、「区切り用文字 (Separator)」をオンにして、メニューから以下のいずれかのオプションを選択します。
  - ハイフン (Hyphen)
  - コロン (Colon)
  - スペース (Space)
  - 斜線 (Slash)

#### 結果

「区切り用文字の表示 (Separator shown)」チェックボックスがオンになっているときは区切り文字が表示され、オフになっているときは非表示になります。表示される区切り文字は、「区切り用文字 (Separator)」で選択したオプションに従います。プロパティ範囲を「ローカル (Locally)」に設定している場合、この変更は現在のレイアウトおよびフレームチェーンのみに影響します。

「区切り用文字の表示 (Separator shown)」と「区切り用文字 (Separator)」をオフにすると、結合式強弱記号の区切り文字はプロジェクト全体の設定に従います。

#### ヒント

結合式強弱記号のデフォルトの区切り文字、および区切り文字をすべての結合式強弱記号に表示するかメゾの場合のみ表示するかに関するプロジェクト全体の設定は、「浄書オプション (Engraving Options)」の「強弱記号 (Dynamics)」ページで設定できます。

#### 関連リンク

[浄書オプションで強弱記号の設定をプロジェクト全体に適用する \(1230 ページ\)](#)

[「浄書オプション \(Engraving Options\)」ダイアログ \(923 ページ\)](#)

[強弱記号のタイプ \(1229 ページ\)](#)

[修飾語句 subito の外観と位置を変更する \(1243 ページ\)](#)

## 強弱記号に括弧を付ける

たとえば元の譜面にはない編者注の強弱記号を指示する場合など、個々の強弱記号を括弧つきで表示できます。この操作は現在のレイアウトとフレームチェーンのみに対して、もしくはすべてのレイアウトとフレームチェーンに対して行なえます。

#### 前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。
- 下ゾーンのツールバーで「プロパティ (Properties)」 を選択しておきます。
- 浄書モードの場合は、浄書ツールボックスで「グラフィックの編集 (Graphic Editing)」 を選択しておきます。

- ローカルのプロパティ変更に関して、適切なプロパティ範囲を選択しておきます。

## 手順

- 括弧を付ける強弱記号を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
- プロパティパネルの「強弱記号 (Dynamics)」グループで、「括弧つき (Parenthesized)」をオンにします。

## 結果

選択したそれぞれの強弱記号を囲む括弧が表示されます。プロパティ範囲を「ローカル (Locally)」に設定している場合、この変更は現在のレイアウトおよびフレームチェーンのみに影響します。

「括弧つき (Parenthesized)」をオフにすると、選択した強弱記号が括弧なしの表示に戻ります。



## 強弱記号 sforzando/rinforzando の外観を変更する

強弱記号 *rfz* と *sfz* の外観を、プロジェクト全体の設定とは関係なく個別に変更できます。たとえば、強弱記号 *sfz* の外観を *sf* に変更する場合などです。この操作は現在のレイアウトとフレームチェーンのみに対して、もしくはすべてのレイアウトとフレームチェーンに対して行なえます。

## 補足

これらの操作は、*sffz* などの別の強度を持つアタック強弱記号の強弱/強度レベルには適用されません。

## 前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。
- 下ゾーンのツールバーで「プロパティ (Properties)」 を選択しておきます。
- 浄書モードの場合は、浄書ツールボックスで「グラフィックの編集 (Graphic Editing)」 を選択しておきます。
- ローカルのプロパティ変更に関して、適切なプロパティ範囲を選択しておきます。

## 手順

- 外観を変更する *rfz* または *sfz* の強弱記号を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
- プロパティパネルの「強弱記号 (Dynamics)」グループで、「リフォルツァンド/スフォルツァンドスタイル (rfz/sfz style)」をオンにします。
- 以下のいずれかのオプションを選択します。
  - sf rf*
  - sfz rfz*

## 結果

選択した *rfz* または *sfz* の強弱記号の外観が変更されます。プロパティ範囲を「ローカル (Locally)」に設定している場合、この変更は現在のレイアウトおよびフレームチェーンのみに影響します。

## ヒント

*rfz* および *sfz* のすべての強弱記号の外観に関するプロジェクト全体のデフォルトは、「浄書オプション (Engraving Options)」の「強弱記号 (Dynamics)」のページで変更できます。

関連リンク

[プロパティパネル \(826 ページ\)](#)

[ゾーンの表示/非表示の切り替え \(48 ページ\)](#)

[浄書オプションで強弱記号の設定をプロジェクト全体に適用する \(1230 ページ\)](#)

[「浄書オプション \(Engraving Options\)」ダイアログ \(923 ページ\)](#)

[強弱記号のタイプ \(1229 ページ\)](#)

[段階的強弱記号の省略 \(1254 ページ\)](#)

[修飾語句 subito の外観と位置を変更する \(1243 ページ\)](#)

## 強弱記号の背景の塗りつぶし

強弱記号は、たとえば小節線をまたぐときの読みやすさを確保するために、個別に背景を空白で塗りつぶせます。この操作は現在のレイアウトとフレームチェーンのみに対して、もしくはすべてのレイアウトとフレームチェーンに対して行なえます。

前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。
- 下ゾーンのツールバーで「プロパティ (Properties)」を選択しておきます。
- 浄書ツールボックスで「グラフィックの編集 (Graphic Editing)」を選択しておきます。
- ローカルのプロパティ変更に関して、適切なプロパティ範囲を選択しておきます。

手順

1. 浄書モードで、背景を塗りつぶす強弱記号を選択します。
2. プロパティパネルの「強弱記号 (Dynamics)」グループで、「背景を塗りつぶし (Erase background)」をオンにします。

結果

選択した強弱記号の背景が削除されます。プロパティ範囲を「ローカル (Locally)」に設定している場合、この変更は現在のレイアウトおよびフレームチェーンのみに影響します。

「背景を塗りつぶし (Erase background)」をオフにすると、選択した強弱記号がデフォルトの背景の塗りつぶしがない状態に戻ります。

補足

これは、ヘアピンと交差した符尾など、ヘアピンには影響しません。

例



背景の塗りつぶしなしの強弱記号



背景の塗りつぶしありの強弱記号

手順終了後の項目

強弱記号の塗りつぶしの余白の幅は、四方それぞれについて変更できます。

関連リンク

[強弱記号の位置](#) (1230 ページ)

[浄書ツールボックス](#) (554 ページ)

[符尾の背景の塗りつぶし](#) (1423 ページ)

[プロパティ範囲の変更](#) (828 ページ)

[プロパティ設定を別のレイアウト/フレームチェーンにコピーする](#) (825 ページ)

[強弱記号の修飾語句](#) (1241 ページ)

## 強弱記号の塗りつぶしの余白を変更する

強弱記号の塗りつぶしの余白を個別に変更できます。余白の幅は強弱記号の四方それぞれについて個別に変更できます。この操作は現在のレイアウトとフレームチェーンのみに対して、もしくはすべてのレイアウトとフレームチェーンに対して行なえます。

背景の塗りつぶしでは、先頭テキストと末尾テキストは局部的強弱記号と別々に扱われ、またテキストのアセンダーとディセンダーが反映されます。これにより、たとえば「espressivo」の場合は「p」の影響で、背景の塗りつぶしが上より下に広く表示されます。このような場合は、影響される端部の余白を変更して、塗りつぶしの外観を対称にできます。

前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。
- 下ゾーンのツールバーで「**プロパティ (Properties)**」を選択しておきます。
- 浄書ツールボックスで「**グラフィックの編集 (Graphic Editing)**」を選択しておきます。
- ローカルのプロパティ変更に関して、適切なプロパティ範囲を選択しておきます。

---

手順

1. 浄書モードで、塗りつぶしの余白を変更する強弱記号を選択します。
2. プロパティパネルの「**強弱記号 (Dynamics)**」グループで、「**塗りつぶしの余白 (Erasure padding)**」の2つのプロパティの一方または両方をオンにします。
  - 「**L**」は強弱記号の左側の余白の幅を変更します。
  - 「**R**」は強弱記号の右側の余白の幅を変更します。
  - 「**上 (T)**」は強弱記号の上側の余白の幅を変更します。
  - 「**下 (B)**」は強弱記号の下側の余白の幅を変更します。
3. 数値フィールドの値を変更します。

---

結果

値を大きくすると余白が増え、値を小さくすると余白が減ります。これは衝突回避で使用される領域にも影響します。プロパティ範囲を「**ローカル (Locally)**」に設定している場合、この変更は現在のレイアウトおよびフレームチェーンのみに影響します。

ヒント

すべての強弱記号の塗りつぶしの余白のデフォルトに関するプロジェクト全体の設定は、「**浄書オプション (Engraving Options)**」 > 「**強弱記号 (Dynamics)**」 > 「**外観 (Appearance)**」で変更できます。ただし、この方法では各辺の余白を個別に変更することはできません。

---



## 声部固有の強弱記号

声部固有の強弱記号は譜表の単一の声部にのみ適用されます。これにより複声部における各声部、または大譜表を用いるインストゥルメントの各譜表に異なる強弱記号を指定したりできます。初期設定では、強弱記号は単一のインストゥルメント (大譜表を用いるインストゥルメントを含む) に属する譜表上のすべての声部に影響します。

声部固有の強弱記号を入力することにより、譜表の複声部に異なる強弱記号を表示したり、ピアノパートでメロディーを担当する声部を強調したりできます。同様に、追加の譜表が含まれるインストゥルメントの各譜表に異なる強弱記号を指定することもできます。声部固有の強弱記号は、再生時に各声部の強弱記号を個別に変化させます。

### 補足

- 声部固有の強弱記号は、音符の入力中など、キャレットがアクティブなときのみ入力できます。声部固有の強弱記号は、キャレットの横に4分音符記号で示されている声部に適用されます。
- 声部固有の強弱記号は、ベロシティーを使用して強弱を制御するサウンドの再生にのみ自動的に影響します。CCなどの別の方法で強弱を制御する再生デバイスを使用している場合、同じインストゥルメントの異なる声部の異なる強弱を聴くには、声部の個別再生を有効にする必要があります。

### 関連リンク

[強弱記号の入力方法 \(337 ページ\)](#)

[キャレット \(242 ページ\)](#)

[声部の個別再生の有効化 \(685 ページ\)](#)

[強弱記号エディター \(859 ページ\)](#)

[追加の譜表 \(1706 ページ\)](#)

## 強弱記号の修飾語句

修飾語句は、強弱記号に単なる音量レベル以上の詳細を追加し、音符やフレーズをどのように演奏するかを指示します。修飾語句には *poco a poco*、*molto* や *subito* などがあります。これらは表現テキストとも呼ばれます。



局部的強弱記号および段階的強弱記号を伴う修飾語句

Dorico Pro では、修飾語句は必ず *p* や *f* などの強弱記号か段階的強弱記号に付随します。

強弱記号の修飾語句の入力は、強弱記号ポップオーバーに局部的強弱記号と併せて入力するか、強弱記号パネルで利用可能なオプションをクリックすることによって行なえます。また、既存の強弱記号に強弱記号の修飾語句を追加することもできます。

局部的強弱記号の前と後ろの両方に修飾語句を追加できます。また、ヘアピンの内側やヘアピンの開始位置の上下に修飾語句を表示することもできます。

### ヒント

- 修飾語句のみを表示したい場合は、局部的強弱記号を非表示にできます。
- *subito* や *possibile* などの修飾語句のデフォルトの外観と位置は、「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**強弱記号 (Dynamics)**」ページで変更できます。

関連リンク

- [強弱記号の入力方法 \(337 ページ\)](#)
- [浄書オプションで強弱記号の設定をプロジェクト全体に適用する \(1230 ページ\)](#)
- [「浄書オプション \(Engraving Options\)」ダイアログ \(923 ページ\)](#)
- [局部的強弱記号を表示/非表示にする \(1236 ページ\)](#)
- [強弱記号の修飾語句の省略 \(1243 ページ\)](#)
- [段階的強弱記号に poco a poco のテキストを追加する \(1253 ページ\)](#)
- [強弱記号 sforzando/rinforzando の外観を変更する \(1238 ページ\)](#)
- [連続したヘアピンをひと続きとして表示する \(1250 ページ\)](#)
- [テキストの書き出し \(113 ページ\)](#)

## 既存の強弱記号に修飾語句を追加する

強弱記号を入力したあと、強弱記号の前後両方に修飾語句を追加できます。たとえば複数のフレーズにわたって強弱記号を繰り返すかわりに、「sim.」を追加できます。

前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。
- 下ゾーンのツールバーで「プロパティ (Properties)」 を選択しておきます。
- 浄書モードの場合は、浄書ツールボックスで「グラフィックの編集 (Graphic Editing)」 を選択しておきます。

---

手順

1. 修飾語句を追加する強弱記号を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「強弱記号 (Dynamics)」のグループで、以下のプロパティを片方または両方もオンにします。
  - 強弱記号の前に修飾語句を追加するには、「先頭テキスト (Prefix)」をオンにします。
  - 強弱記号の後に修飾語句を追加するには、「末尾テキスト (Suffix)」をオンにします。
3. 対応する入力フィールドに追加するテキストを入力します。
4. **[Return]** を押します。

---

結果

入力したテキストが、選択した強弱記号に修飾語句として追加されます。「先頭テキスト (Prefix)」のフィールドに入力したテキストは局部的強弱記号の前に表示され、「末尾テキスト (Suffix)」のフィールドに入力されたテキストは局部的強弱記号の後に表示されます。

修飾語句は、譜表の下に配置されたヘアピンの下、または譜表の上に配置されたヘアピンの上に表示され、ヘアピンの開始位置に揃えられます。

プロパティをオフにすると、選択した強弱記号から対応する修飾語句が削除されます。

補足

プロパティをオフにすると、入力したカスタムテキストは完全に削除されます。

---

手順終了後の項目

ヘアピンに修飾語句を追加した場合、修飾語句はヘアピンの内側に表示させることもできます。

関連リンク

- [浄書ツールボックス \(554 ページ\)](#)
- [ニエンテ記号 \(1257 ページ\)](#)

[強弱記号の入力方法 \(337 ページ\)](#)


[ヘアピンの内側に中央揃えされた修飾語句 \(1244 ページ\)](#)

[段階的強弱記号に poco a poco のテキストを追加する \(1253 ページ\)](#)

## 強弱記号の修飾語句の省略

個々の強弱記号の修飾語句 subito/possibile を、sub. や subito のような省略テキストまたはフルテキストで表示できます。この操作は現在のレイアウトとフレームチェーンのみに対して、もしくはすべてのレイアウトとフレームチェーンに対して行なえます。

前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。
- 下ゾーンのツールバーで「プロパティ (Properties)」 を選択しておきます。
- 浄書モードの場合は、浄書ツールボックスで「グラフィックの編集 (Graphic Editing)」 を選択しておきます。
- ローカルのプロパティ変更に関して、適切なプロパティ範囲を選択しておきます。

---

手順

1. 修飾語句 subito/possibile を省略する強弱記号を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「強弱記号 (Dynamics)」のグループで、以下のプロパティを片方または両方もオンにします。
  - スービトスタイル (Subito style)
  - 使用可能なスタイル (Possibile style)
3. 以下のいずれかのオプションを選択します。
  - 「subito」または「possibile」
  - 「sub.」または「possib.」

---

結果

対応する強弱記号の修飾語句の長さが変更されます。プロパティ範囲を「ローカル (Locally)」に設定している場合、この変更は現在のレイアウトおよびフレームチェーンのみに影響します。

関連リンク

[段階的強弱記号の省略 \(1254 ページ\)](#)

[浄書ツールボックス \(554 ページ\)](#)

[ゾーンの表示/非表示の切り替え \(48 ページ\)](#)

[プロパティパネル \(826 ページ\)](#)

[プロパティ範囲の変更 \(828 ページ\)](#)



[「浄書オプション \(Engraving Options\)」ダイアログ \(923 ページ\)](#)

## 修飾語句 subito の外観と位置を変更する

subito の修飾語句の外観と位置を、プロジェクト全体の設定とは関係なく個別に変更できます。たとえば、修飾語句 subito を強弱記号の左に sub. と表示したり、*fp* sub. を *sfp* と表示したりできます。この操作は現在のレイアウトとフレームチェーンのみに対して、もしくはすべてのレイアウトとフレームチェーンに対して行なえます。

前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。

- 下ゾーンのツールバーで「プロパティ (Properties)」を選択しておきます。
- 浄書モードの場合は、浄書ツールボックスで「グラフィックの編集 (Graphic Editing)」を選択しておきます。
- ローカルのプロパティ変更に関して、適切なプロパティ範囲を選択しておきます。

#### 手順

1. 修飾語句 subito の外観や位置を変更する強弱記号を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルで、「スービトの位置 (Subito position)」をオンにして、以下のいずれかのオプションを選択します。
  - 左 (Left)
  - 右 (Right)
3. 1つ以上の *f* を含む強弱記号を選択した場合は、必要に応じて「スービトフォルテスタイル (Subito forte style)」をオンにして、以下のいずれかのオプションを選択します。
  - *sub.f*
  - *sf*

#### 結果

選択した修飾語句 subito の外観と位置が変更されます。プロパティ範囲を「ローカル (Locally)」に設定している場合、この変更は現在のレイアウトおよびフレームチェーンのみに影響します。

#### ヒント

修飾語句 subito の外観および強弱記号に対する位置のデフォルトは、「浄書オプション (Engraving Options)」の「強弱記号 (Dynamics)」のページで変更できます。

#### 関連リンク

- [浄書オプションで強弱記号の設定をプロジェクト全体に適用する \(1230 ページ\)](#)
- [「浄書オプション \(Engraving Options\)」ダイアログ \(923 ページ\)](#)
- [強弱記号 sforzando/rinforzando の外観を変更する \(1238 ページ\)](#)
- [強弱記号の修飾語句の省略 \(1243 ページ\)](#)
- [プロパティ範囲の変更 \(828 ページ\)](#)
- [プロパティ設定を別のレイアウト/フレームチェーンにコピーする \(825 ページ\)](#)

## ヘアピンの内側に中央揃えされた修飾語句

ヘアピンに追加した poco a poco や molto などの修飾語句は、ヘアピンの内側に、水平垂直の両方向に中央揃えされた形で表示できます。この操作は現在のレイアウトとフレームチェーンのみに対して、もしくはすべてのレイアウトとフレームチェーンに対して行なえます。初期設定では、修飾語句はヘアピンの開始位置の上または下に表示されます。

#### 前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。
- 下ゾーンのツールバーで「プロパティ (Properties)」を選択しておきます。
- 浄書モードの場合は、浄書ツールボックスで「グラフィックの編集 (Graphic Editing)」を選択しておきます。
- ローカルのプロパティ変更に関して、適切なプロパティ範囲を選択しておきます。

#### 手順

1. ヘアピンの内側に中央揃えで修飾語句を表示させるヘアピンを選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「強弱記号 (Dynamics)」のグループで、「修飾子の位置 (Modifier position)」をオンにします。
3. 以下のいずれかのオプションを選択します。
  - 上または下 (Above or Below)
  - 内側 (Inside)

#### 結果

選択したヘアピンの修飾語句が、ヘアピンの内側に中央揃えで表示されます。修飾語句の背景は自動的に白で塗りつぶされ、テキストとヘアピンの線が重ならないようにします。プロパティ範囲を「ローカル (Locally)」に設定している場合、この変更は現在のレイアウトおよびフレームチェーンのみに影響します。

#### ヒント

- ヘアピンに対するすべての修飾語句のデフォルト位置は、「浄書オプション (Engraving Options)」 > 「強弱記号 (Dynamics)」 > 「段階的強弱記号 (Gradual Dynamics)」で変更できます。
- ヘアピンの内側に中央揃えされた修正語句の塗りつぶしの余白は、個別にでもデフォルト設定の変更によっても変更できます。

#### 例



ヘアピンの下の修飾語句 (molto)



ヘアピンの内側に中央揃えされた修飾語句 (molto)

#### 関連リンク

- [既存の強弱記号に修飾語句を追加する \(1242 ページ\)](#)
- [浄書オプションで強弱記号の設定をプロジェクト全体に適用する \(1230 ページ\)](#)
- [「浄書オプション \(Engraving Options\)」ダイアログ \(923 ページ\)](#)
- [強弱記号の塗りつぶしの余白を変更する \(1240 ページ\)](#)
- [連続したヘアピンをひと続きとして表示する \(1250 ページ\)](#)
- [浄書ツールボックス \(554 ページ\)](#)
- [プロパティ範囲の変更 \(828 ページ\)](#)
- [プロパティ設定を別のレイアウト/フレームチェーンにコピーする \(825 ページ\)](#)

## 段階的強弱記号の修飾語句の表示位置を変更する

個々の強弱記号の修飾語句の表示位置は、それらが適用される段階的強弱記号やプロジェクト全体の設定とは別に移動できます。たとえば、特定の修飾語句を他の修飾語句よりもヘアピンから離して表示したい場合などに便利です。この操作は現在のレイアウトとフレームチェーンのみに対して、もしくはすべてのレイアウトとフレームチェーンに対して行なえます。

#### 前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。
- 下ゾーンのツールバーで「プロパティ (Properties)」を選択しておきます。
- 浄書ツールボックスで「グラフィックの編集 (Graphic Editing)」を選択しておきます。
- ローカルのプロパティ変更に関して、適切なプロパティ範囲を選択しておきます。

---

#### 手順

1. 浄書モードで、修飾語句の表示位置を移動する段階的強弱記号を選択します。
2. プロパティパネルの「強弱記号 (Dynamics)」グループで、「修飾子のオフセット (Modifier offset)」をオンにします。
3. 数値フィールドの値を変更します。  
「X」で修飾語句を水平方向、「Y」で垂直方向に移動します。

---

#### 結果

選択した段階的強弱記号の修飾語句の表示位置が移動します。プロパティ範囲を「ローカル (Locally)」に設定している場合、この変更は現在のレイアウトおよびフレームチェーンのみに影響します。

#### ヒント

ヘアピンの内側に中央揃えされたすべての修飾語句のデフォルトの垂直オフセットをプロジェクト全体で変更するには、「浄書オプション (Engraving Options)」 > 「強弱記号 (Dynamics)」 > 「段階的強弱記号 (Gradual Dynamics)」で設定します。

---

#### 関連リンク

[浄書ツールボックス \(554 ページ\)](#)

[プロパティ範囲の変更 \(828 ページ\)](#)

[プロパティ設定を別のレイアウト/フレームチェーンにコピーする \(825 ページ\)](#)

[「浄書オプション \(Engraving Options\)」ダイアログ \(923 ページ\)](#)

## 段階的強弱記号

段階的強弱記号は、指定のデュレーションにわたって徐々にボリュームを変化させることを指示します。これらは通常ヘアピン、または *cresc.* や *dim.* のようなテキストによる指示で表示されます。

個々のヘアピンにより指示される音量の変更は、ヘアピンを構成する 2 本の線の開いた側の距離によって示されます。

ヘアピンは通常一端が閉じ、一端が開いています。ヘアピンが組段かフレームの区切りをまたぐ場合、2 つの別個のヘアピンと間違われないように、閉じた側に小さな隙間ができます。

ヘアピン 2 つがペアとなり、中央に局部的強弱記号を記さないものはメッサ・ディ・ヴォーチェと呼ばれます。



複数の段階的強弱記号を含むフレーズ

Dorico Pro の初期設定では、段階的強弱記号はヘアピンとして表示されます。段階的強弱記号の外観は、個別に変更することも、プロジェクト全体で外観のデフォルトを変更することもできます。たとえば、特に長いクレッシェンドにヘアピンではなく *cresc.* のテキストを使用して表示できます。

段階的強弱記号テキストを以下の方法で表示できます。

- *cresc.* または *dim.*: 省略テキスト、延長線なし
- *cresc...* または *dim...*: 省略テキストに点線による延長線
- *cre-scen-do* または *di-mi-nuen-do*: ハイフンで区切られた正式名称が段階的強弱記号のデュレーション全体に広がる

また、間に局部的強弱記号を挟む形で2つ以上連続する同じ向きのヘアピンを、ひと続きのヘアピンとして表示することもできます。

記譜モードでは、グループ化されていない段階的強弱記号それぞれに、デュレーションを表わす開始ハンドルと終了ハンドルが表示されます。



#### 補足

- 別個のヘアピンのペアは、*messa di voce* によるヘアピンとは別に扱われます。たとえば、記譜モードでは、別個のヘアピンにはそれぞれ開始ハンドルと終了ハンドルが表示されますが、*messa di voce* によるヘアピンは1つの中央ハンドルを共有しています。
- すべての段階的強弱記号の外観および位置に関するプロジェクト全体のデフォルトのオプションは、「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**強弱記号 (Dynamics)**」のページにあります。

#### 関連リンク

- [強弱記号の入力方法 \(337 ページ\)](#)
- [強弱記号のタイプ \(1229 ページ\)](#)
- [messa di voce ヘアピン \(1255 ページ\)](#)
- [ニエンテ記号 \(1257 ページ\)](#)
- [強弱記号の修飾語句 \(1241 ページ\)](#)
- [強弱記号のグループ \(1260 ページ\)](#)
- [浄書モードの段階的強弱記号 \(1248 ページ\)](#)
- [段階的強弱記号の外観を変更する \(1249 ページ\)](#)
- [段階的強弱記号の省略 \(1254 ページ\)](#)
- [「浄書オプション \(Engraving Options\)」ダイアログ \(923 ページ\)](#)
- [アイテムの表示位置の移動 \(652 ページ\)](#)
- [小節線に対するヘアピンの一般的な配置規則 \(1233 ページ\)](#)

[連続したヘアピンをひと続きとして表示する \(1250 ページ\)](#)

[messa di voce ヘアピンの中央を移動する \(1256 ページ\)](#)

[音符/アイテムの位置の移動 \(502 ページ\)](#)

[アイテムの長さの変更 \(470 ページ\)](#)

## 浄書モードの段階的強弱記号

浄書モードでは、各ヘアピンに複数のハンドルがあり、それらを動かして表示上の位置、長さ、角度、および開きの幅を調節できます。

- ヘアピンの開始位置/終了位置にある中央のハンドルは、開始位置と終了位置のオフセット位置を変化させます。中央のハンドルを動かすと、ヘアピンの角度が変更されます。
- ヘアピンの開始位置/終了位置、および messa di voce ヘアピンの中央にある上下一対のハンドルは、対応する側の開きの幅を調節します。これらのハンドルはそれぞれ鏡合わせにリンクされています。一方のハンドルを動かすと、もう一方も同じだけ反対方向に動きます。これによりヘアピンの対称性が維持されます。



浄書モードでヘアピン開始位置中央のハンドルを選択した状態



浄書モードで messa di voce ヘアピンの中央の開きの幅ハンドルを選択した状態

### 補足

- また個々のヘアピンの開きの幅は、プロパティパネルの「強弱記号 (Dynamics)」グループにある「ヘアピン開口部 (Hairpin open aperture)」および「ヘアピン閉口部 (Hairpin closed aperture)」をオンにしても変更できます。

値を大きくすると、対応する開きの幅が広がります。値を小さくすると、対応する開きの幅が狭くなります。

- 別個のヘアピンのペアは、messa di voce によるヘアピンとは別に扱われます。たとえば、記譜モードでは、別個のヘアピンにはそれぞれ開始ハンドルと終了ハンドルが表示されますが、messa di voce によるヘアピンは1つの中央ハンドルを共有しています。

それぞれのヘアピンは個別に移動できます。これによりたとえば、1対のヘアピンの表示上のピークの位置を調整できます。messa di voce ヘアピンの表示上のピークの位置は、中央を動かすことで移動できます。

### 例



組段区切りをまたぐディミヌエンド。開始側が開き、終了側に向かって閉じています。終端が少し開いていることで、組段区切りの向こうまでディミヌエンドが続くことを示しています。



次の組段に入った続きのディミヌエンド。開始側が開き、終了側で閉じています。



関連リンク

- [強弱記号の入力方法 \(337 ページ\)](#)
- [強弱記号のグループ \(1260 ページ\)](#)
- [ニエンテ記号 \(1257 ページ\)](#)
- [messa di voce ヘアピン \(1255 ページ\)](#)
- [messa di voce ヘアピンの中央を移動する \(1256 ページ\)](#)
- [アイテムの表示位置の移動 \(652 ページ\)](#)
- [音符/アイテムの位置の移動 \(502 ページ\)](#)
- [アイテムの長さの変更 \(470 ページ\)](#)
- [音符のスペーシング \(643 ページ\)](#)
- [個々の位置にある音符のスペーシングの調節 \(648 ページ\)](#)

## 段階的強弱記号の外観を変更する

段階的強弱記号の外観は個別に変更できます。たとえば、特に長いクレッシェンドをヘアピンではなくテキストの「cresc.」を使用して表示できます。この操作は現在のレイアウトとフレームチェーンのみに対して、もしくはすべてのレイアウトとフレームチェーンに対して行なえます。

前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。
- 下ゾーンのツールバーで「プロパティ (Properties)」 を選択しておきます。
- 浄書モードの場合は、浄書ツールボックスで「グラフィックの編集 (Graphic Editing)」 を選択しておきます。
- ローカルのプロパティ変更に関して、適切なプロパティ範囲を選択しておきます。

---

手順

1. 外観を変更する段階的強弱記号を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
  2. プロパティパネルの「強弱記号 (Dynamics)」のグループで、「段階的強弱記号のスタイル (Gradual style)」をオンにします。
  3. メニューから以下のいずれかのオプションを選択します。
    - ヘアピン
    - cresc./dim.
    - cresc...
    - cre - scen - do
  4. 必要に応じて、「段階的強弱記号のスタイル (Gradual style)」の設定に従い以下のいずれかの操作を行なって、選択した段階的強弱記号の外観をカスタマイズします。
    - 「ヘアピン (Hairpin)」を選択している場合、「ヘアピン線スタイル (Hairpin line style)」をオンにして、利用できるオプションのいずれかを選択します。
    - 「cresc./dim.」、 「cresc...」 または 「cre - scen - do」 を選択している場合、「ディミヌエンドスタイル (Diminuendo style)」をオンにして、メニューから利用できるオプションのいずれかを選択します。
    - 「cresc...」を選択している場合、「延長線のスタイル (Continuation line style)」をオンにして、利用できるオプションのいずれかを選択します。
    - 「cre - scen - do」を選択した場合は、「最後の音節を線の終端に配置 (Final syllable at end of line)」をオンにして、対応するチェックボックスをオン/オフにします。
-


## 結果

選択中の段階的強弱記号の外観が変更されます。プロパティ範囲を「ローカル (Locally)」に設定している場合、この変更は現在のレイアウトおよびフレームチェーンのみに影響します。

## ヒント

diminuendo と decrescendo のハイフン処理のスタイルを含め、すべての段階的強弱記号の外観に関するプロジェクト全体のデフォルトは、「浄書オプション (Engraving Options)」 > 「強弱記号 (Dynamics)」 > 「段階的強弱記号 (Gradual Dynamics)」で変更できます。

## 例

	<i>cresc.</i>	<i>cresc. ....</i>	<i>cre - scen - do .</i>
ヘアピン	cresc./dim.	cresc....	cre - scen - do

## 関連リンク

[段階的強弱記号の省略 \(1254 ページ\)](#)

[ヘアピンの内側に中央揃えされた修飾語句 \(1244 ページ\)](#)



[既存の段階的強弱記号を messa di voce ヘアピンに変換する \(1257 ページ\)](#)

[既存の段階的強弱記号にニエンテ記号を追加する \(1258 ページ\)](#)

## 連続したヘアピンをひと続きとして表示する

間に局部的強弱記号を挟む形で2つ以上連続する同じ向きのヘアピンは、局部的強弱記号を通過するひと続きのヘアピンとして表示させることもできます。これにより、強弱をそれぞれ個別の変化としてではなく、1つのなめらかな変化として表現できます。この操作は現在のレイアウトとフレームチェーンのみに対して、もしくはすべてのレイアウトとフレームチェーンに対して行なえます。

## 前提条件

- ヘアピンをグループ化しておきます。
- 下ゾーンを表示しておきます。
- 下ゾーンのツールバーで「プロパティ (Properties)」を選択しておきます。
- 浄書ツールボックスで「グラフィックの編集 (Graphic Editing)」を選択しておきます。
- ローカルのプロパティ変更に関して、適切なプロパティ範囲を選択しておきます。

## 手順

1. 浄書モードで、つなげて表示するヘアピンをグループごとに1つ以上選択します。
2. プロパティパネルの「強弱記号 (Dynamics)」のグループで「ヘアピンの延長表示 (Hairpin shown as continuation)」をオンにします。
3. 対応するチェックボックスをオンにします。

## 結果

選択したグループの2つ以上連続する同じ向きのヘアピンがひと続きのヘアピンとして表示されます。プロパティ範囲を「ローカル (Locally)」に設定している場合、この変更は現在のレイアウトおよびフレームチェーンのみに影響します。

## ヒント

間に局部的強弱記号を挟む形で2つ以上連続する同じ向きのヘアピンをデフォルトでひと続きとして表示するかどうかを「**浄書オプション (Engraving Options)**」 > 「**強弱記号 (Dynamics)**」 > 「**段階的強弱記号 (Gradual Dynamics)**」 > 「**ヘアピン (Hairpins)**」で変更できます。

例



ひと続きとして表示されていないヘアピン



ひと続きとして表示されたヘアピン

関連リンク

[浄書オプションで強弱記号の設定をプロジェクト全体に適用する \(1230 ページ\)](#)

[強弱記号のグループ化 \(1261 ページ\)](#)

[「浄書オプション \(Engraving Options\)」ダイアログ \(923 ページ\)](#)

[浄書ツールボックス \(554 ページ\)](#)

[プロパティ範囲の変更 \(828 ページ\)](#)

[プロパティ設定を別のレイアウト/フレームチェーンにコピーする \(825 ページ\)](#)

## ヘアピンの終端の広がりを表示/非表示にする

終端の広がり通常クレッシェンドのヘアピンの終端に表示され、クレッシェンドの終わりに急激に音量を上げることを示します。ヘアピンはいずれも終端の広がり表示/非表示を切り替えられます。

## 補足

終端の広がり実線のヘアピンにしか表示できません。

前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。
- 下ゾーンのツールバーで「**プロパティ (Properties)**」  を選択しておきます。
- 浄書モードの場合は、浄書ツールボックスで「**グラフィックの編集 (Graphic Editing)**」  を選択しておきます。

手順

1. 終端の広がり表示または非表示にするヘアピンを選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「**強弱記号 (Dynamics)**」グループで、「**終端の広がり (Flared end)**」をオンまたはオフにします。

結果

「**終端の広がり (Flared end)**」がオンのときは選択した強弱記号に終端の広がりが表示され、オフのときは非表示になります。

例



終端の広がり为非表示のクレッシェンドのヘアピン



終端の広がりが表示されたクレッシェンドのヘアピン

## ヘアピンの終端の広がりサイズを変更する

個々のヘアピンの終端の広がりの高さと幅を変更できます。この操作は現在のレイアウトとフレームチェーンのみに対して、もしくはすべてのレイアウトとフレームチェーンに対して行なえます。

前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。
- 下ゾーンのツールバーで「プロパティ (Properties)」を選択しておきます。
- 浄書ツールボックスで「グラフィックの編集 (Graphic Editing)」を選択しておきます。
- ローカルのプロパティ変更に関して、適切なプロパティ範囲を選択しておきます。

手順

1. 浄書モードで、終端の広がりサイズを変更する広がり付きのヘアピンを選択します。
2. プロパティパネルの「強弱記号 (Dynamics)」グループで、「広がりサイズ (Flare size)」をオンにします。
3. 以下のいずれかの操作を行なって、選択したヘアピンの広がりサイズを変更します。
  - 終端の広がり幅を変更するには、「幅 (W)」の値を変更します。
  - 終端の広がり高さを変更するには、「高さ (H)」の値を変更します。

結果

選択したヘアピンの終端の広がりサイズが変更されます。プロパティ範囲を「ローカル (Locally)」に設定している場合、この変更は現在のレイアウトおよびフレームチェーンのみに影響します。

- 「幅 (W)」の値を大きくすると、選択した終端の広がり角度が付き始める位置が移動して幅が広くなり、値を小さくすると幅が狭くなります。
- 「高さ (H)」の値を大きくすると、選択した終端の広がりが高くなり、値を小さくすると低くなります。
- これらの値をもう一方の値と別に変更すると、終端の広がり角度が変わります。たとえば、「高さ (H)」の値を変更せずに「幅 (W)」の値を大きくすると、角度が小さくなります。

ヒント

すべての終端の広がりサイズのデフォルトのデザインとサイズをプロジェクト全体で変更するには、「浄書オプション (Engraving Options)」 > 「強弱記号 (Dynamics)」 > 「段階的強弱記号 (Gradual Dynamics)」で設定を行ないます。

関連リンク

- [浄書オプションで強弱記号の設定をプロジェクト全体に適用する \(1230 ページ\)](#)
- [「浄書オプション \(Engraving Options\)」ダイアログ \(923 ページ\)](#)
- [アイテムの表示位置の移動 \(652 ページ\)](#)
- [浄書ツールボックス \(554 ページ\)](#)

[プロパティ範囲の変更 \(828 ページ\)](#)

[プロパティ設定を別のレイアウト/フレームチェーンにコピーする \(825 ページ\)](#)

## 段階的強弱記号に poco a poco のテキストを追加する

段階的強弱記号は、入力後に個別に poco a poco のテキストを追加できます。

前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。
- 下ゾーンのツールバーで「プロパティ (Properties)」 を選択しておきます。
- 浄書モードの場合は、浄書ツールボックスで「グラフィックの編集 (Graphic Editing)」 を選択しておきます。

手順

1. poco a poco を追加する段階的強弱記号を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「強弱記号 (Dynamics)」グループで、「Poco a poco (少しずつ) (Poco a poco (little by little))」をオンにします。

結果

poco a poco は段階的強弱記号のテキストの直後、譜表の下に配置されたヘアピンの下、および譜表の上に配置されたヘアピンの上に表示されます。

「Poco a poco (少しずつ)」をオフにすると、選択した段階的強弱記号から poco a poco のテキストが削除されます。

例



poco a poco を伴う、テキストによる段階的強弱記号



poco a poco を伴う、ヘアピンによる段階的強弱記号

手順終了後の項目

poco a poco のテキストは、ヘアピンの内側に中央揃えで表示することもできます。

関連リンク

[強弱記号の修飾語句 \(1241 ページ\)](#)

[ヘアピンの内側に中央揃えされた修飾語句 \(1244 ページ\)](#)


[段階的強弱記号の省略 \(1254 ページ\)](#)

[浄書ツールボックス \(554 ページ\)](#)

## 段階的強弱記号の省略

cresc. や crescendo のように、個々の段階的強弱記号を省略テキストまたはフルテキストで表示できます。この操作は現在のレイアウトとフレームチェーンのみに対して、もしくはすべてのレイアウトとフレームチェーンに対して行なえます。

前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。
- 下ゾーンのツールバーで「プロパティ (Properties)」 を選択しておきます。
- 浄書モードの場合は、浄書ツールボックスで「グラフィックの編集 (Graphic Editing)」 を選択しておきます。
- ローカルのプロパティ変更に関して、適切なプロパティ範囲を選択しておきます。

手順

1. 省略する段階的強弱記号を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「強弱記号 (Dynamics)」グループで、「省略 (Abbreviate)」をオンにします。
3. 対応するチェックボックスをオン/オフにします。

結果

チェックボックスをオンにすると、選択した段階的強弱記号が省略テキストで表示され、チェックボックスをオフにするとフルテキストで表示されます。プロパティ範囲を「ローカル (Locally)」に設定している場合、この変更は現在のレイアウトおよびフレームチェーンのみに影響します。

ヒント

プロジェクト全体のすべての段階的強弱記号の表示される省略テキストは、「浄書オプション (Engraving Options)」>「強弱記号 (Dynamics)」>「段階的強弱記号 (Gradual Dynamics)」>「線付きのテキスト (Text with Lines)」>「詳細設定 (Advanced Options)」で変更できます。

関連リンク

- [段階的強弱記号の外観を変更する \(1249 ページ\)](#)
- [強弱記号の修飾語句の省略 \(1243 ページ\)](#)
- [浄書ツールボックス \(554 ページ\)](#)
- [ゾーンの表示/非表示の切り替え \(48 ページ\)](#)
- [プロパティパネル \(826 ページ\)](#)
- [プロパティ範囲の変更 \(828 ページ\)](#)
- [「浄書オプション \(Engraving Options\)」ダイアログ \(923 ページ\)](#)

## 段階的強弱記号のスペーシング

Dorico Pro では、常に他の記号から明確に区別されるように、ヘアピンには長さの最小値のデフォルトが設定されています。しかしこれは音符のスペーシングに影響を与えます。

ヘアピンの長さの最小値のデフォルトは3スペースです。ヘアピンがこれより短くなると、アーティキュレーション記号のアクセントと見間違えられる恐れがあります。そのため、ヘアピンの長さが3スペースより短くなるような音符にヘアピンを追加した場合、ヘアピンが最小値の長さを維持できるように音符のスペーシングが変更されます。

「浄書オプション (Engraving Options)」>「強弱記号 (Dynamics)」>「段階的強弱記号 (Gradual Dynamics)」>「ヘアピン (Hairpins)」>「詳細設定 (Advanced Options)」では、プロジェクト全体のすべてのヘアピンの長さの最小値を変更できます。

関連リンク

[浄書オプションで強弱記号の設定をプロジェクト全体に適用する \(1230 ページ\)](#)

[「浄書オプション \(Engraving Options\)」ダイアログ \(923 ページ\)](#)

[浄書モードの段階的強弱記号 \(1248 ページ\)](#)

[mesa di voce ヘアピンの中央を移動する \(1256 ページ\)](#)

## 局部的強弱記号によって切り詰められる段階的強弱記号

ヘアピンは、その入力前か入力後かに関わらず、範囲内に局部的強弱記号が配置された場合、自動的に切り詰められます。

ヘアピンは表示上短くなっても、本来指定された位置への結びつきを維持しています。そのため、ヘアピンの表示を切り詰めている局部的強弱記号が削除されると、ヘアピンはその終了位置または範囲内の次の局部的強弱記号の位置まで延長されます。

例として、2つの強弱記号によって切り詰められているヘアピンが、強弱記号が削除されるに従って本来の長さまで延長される様子を示します。点線による連結線は、ヘアピンと、その本来の終端が結びついているリズム上の位置とのリンクを表示しています。



*p*によって切り詰められている長いヘアピン

*p*が削除されたあとも、*f*によって切り詰められているヘアピン

局部的強弱記号を2つとも削除したことで、本来の長さまで延ばされたヘアピン

関連リンク

[連続したヘアピンをひと続きとして表示する \(1250 ページ\)](#)

[アイテムの長さの変更 \(470 ページ\)](#)

[連結線を表示/非表示にする \(478 ページ\)](#)

## mesa di voce ヘアピン

mesa di voce ヘアピンとは、中央に局部的強弱記号のない1対のヘアピンとして表示される単一の段階的強弱記号アイテムです。これらは、そのデュレーションの間に音量が大きくなって小さくなる、あるいは小さくなって大きくなることを示します。



2つの mesa di voce ヘアピンを含むフレーズ

記譜モードでは、mesa di voce ヘアピンに3つのハンドルが表示されます。開始位置、終了位置、中央に1つずつです。これは、開始位置と終了位置に1つずつハンドルが表示される、グループ化されていない個別のヘアピンとは異なります。



mesa di voce ヘアピンの表示上のピークの位置は、中央を動かすことで移動できます。浄書モードでは、mesa di voce の中央ハンドルを使用して中央の開きの幅を調節できます。

関連リンク

[強弱記号の入力方法 \(337 ページ\)](#)

[強弱記号のグループ \(1260 ページ\)](#)

[浄書モードの段階的強弱記号 \(1248 ページ\)](#)

[音符のスペーシング \(643 ページ\)](#)

## messa di voce ヘアピンの中央を移動する

個々の messa di voce ヘアピンの中央を移動できます。たとえば、ヘアピンのピークを別の音符に合わせたい場合などに行ないます。

前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。
- 下ゾーンのツールバーで「プロパティ (Properties)」 を選択しておきます。
- 浄書モードの場合は、浄書ツールボックスで「グラフィックの編集 (Graphic Editing)」 を選択しておきます。

手順

1. 中央を移動する messa di voce ヘアピンを選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「強弱記号 (Dynamics)」グループで、「メッサ・ディ・ヴォーチェの変化 (Messa di voce inflection)」をオンにします。
3. 以下のいずれかの操作を行なって、選択した messa di voce ヘアピンの中央を移動します。
  - 右に移動するには、左の数値フィールドの値を大きくします。
  - 左に移動するには、左の数値フィールドの値を小さくします。
  - 左の数値フィールドで設定した位置にある装飾音符の左に移動するには、右の数値フィールドの値を小さくします。

ヒント

「1」は4分音符を表わします。

---

結果

選択した messa di voce ヘアピンの中央が移動します。

ヒント

記譜モードでは、messa di voce ヘアピンの中央ハンドルをクリックして左右の符頭にドラッグして移動することもできます。

---

例

たとえば、左の数値フィールドに「1 1/2」を入力し、右の数値フィールドに「-1/2」を入力すると、messa di voce ヘアピンの中央がヘアピンの開始位置の付点4分音符分右側に移動し、その位置にある2つの16分音符の装飾音符の1つめまで左に移動します。





関連リンク

[ゾーンの表示/非表示の切り替え \(48 ページ\)](#)

[プロパティパネル \(826 ページ\)](#)

[装飾音符 \(1327 ページ\)](#)

[小節線の前後に装飾音符を表示する \(1330 ページ\)](#)

[音符/アイテムの位置の移動 \(502 ページ\)](#)

[アイテムの長さの変更 \(470 ページ\)](#)

## 既存の段階的強弱記号を messa di voce ヘアピンに変換する

既存の段階的強弱記号を messa di voce ヘアピンに変換できます。たとえば、一部の小節の強弱記号のフレージングを変えたい場合などに便利です。

手順

1. messa di voce ヘアピンに変換する段階的強弱記号を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「強弱記号 (Dynamics)」グループの「タイプ (Type)」で「メッサ・ディ・ヴォーチェ (Messa di voce)」を選択します。

結果

選択した段階的強弱記号が messa di voce ヘアピンに変換されます。最初の向きは、選択した段階的強弱記号の前の全体的な向きに従います。

ヒント

既存の段階的強弱記号を選択して、強弱記号パネルの「段階的強弱記号 (Gradual Dynamics)」セクションにある対応するボタンをクリックすることで messa di voce ヘアピンに変換することもできます。

また、**[Shift]+[Alt/Opt]+[.]** を押すとクレッシェンド/ディミヌエンドの messa di voce ヘアピンが、**[Shift]+[Alt/Opt]+[.]** を押すとディミヌエンド/クレッシェンドの messa di voce ヘアピンが入力されます。

関連リンク

[ゾーンの表示/非表示の切り替え \(48 ページ\)](#)

[プロパティパネル \(826 ページ\)](#)

[強弱記号パネル \(340 ページ\)](#)

[ポップオーバーを使った強弱記号の入力 \(341 ページ\)](#)

[パネルを使った強弱記号の入力 \(343 ページ\)](#)

[装飾音符 \(1327 ページ\)](#)

## ニエンテ記号

ニエンテ記号は、段階的強弱記号の開始位置または終了位置に付き、音量の変化が静寂から始まるか、静寂で終わることを指示します。

このエフェクトは弦楽器や、歌手が母音で歌唱するときは非常に効果的ですが、常にそのまま演奏できるとは限りません。たとえば、歌手が子音から始まる単語の歌詞を歌う場合、静寂から始めることはできません。リード楽器や金管楽器も、音符を発音する前に一定の空気圧を必要とするため同様です。



ニエンテ記号は、段階的強弱記号のスタイルに応じて以下のいずれかの方法で表示できます。

- ヘアピンの場合、ニエンテ記号は丸、または「n」の文字で表示できます。
- テキストの段階的強弱記号の場合、ニエンテ記号はクレッシェンドには「dal niente」、ディミヌエンドには「al niente」として表示されます。

ニエンテ記号付きの段階的強弱記号は、他の強弱記号と同じ方法で入力できます。また、既存の段階的強弱記号にニエンテ記号を追加することもできます。

例



丸のニエンテ記号



文字のニエンテ記号

*dim. al niente .....*

テキストの段階的強弱記号と一緒に表示されたニエンテ記号

関連リンク

[強弱記号の入力方法 \(337 ページ\)](#)

[ニエンテのヘアピンの外観を変更する \(1259 ページ\)](#)

[浄書モードの段階的強弱記号 \(1248 ページ\)](#)

[アイテムの長さの変更 \(470 ページ\)](#)

[連続したヘアピンをひと続きとして表示する \(1250 ページ\)](#)

## 既存の段階的強弱記号にニエンテ記号を追加する

既存の段階的強弱記号に対するニエンテ記号の追加や削除を行なえます。たとえば、どのディミヌエンドを無音まで小さくするかについて変更したい場合などに便利です。

前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。
- 下ゾーンのツールバーで「プロパティ (Properties)」を選択しておきます。
- 浄書モードの場合は、浄書ツールボックスで「グラフィックの編集 (Graphic Editing)」を選択しておきます。

手順

1. ニエンテ記号を追加する段階的強弱記号を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「強弱記号 (Dynamics)」グループで、「ニエンテ (Niente)」をオンにします。

結果

選択した段階的強弱記号にニエンテ記号が追加されます。

ヒント

- このプロパティをオフにすると、選択した段階的強弱記号からニエンテ記号が削除されます。
- また、既存の段階的強弱記号に対するニエンテ記号の追加や削除は、その記号を選択して、強弱記号パネルの「段階的強弱記号 (Gradual Dynamics)」セクションにある「niente」をクリックして行なうこともできます。

手順終了後の項目

ニエンテのヘアピンの外観を個別に変更できます。たとえば、一部のニエンテのヘアピンには丸を表示し、その他のヘアピンにはテキストを表示したい場合などに便利です。

関連リンク

[浄書ツールボックス \(554 ページ\)](#)

[ゾーンの表示/非表示の切り替え \(48 ページ\)](#)

[プロパティパネル \(826 ページ\)](#)

[強弱記号パネル \(340 ページ\)](#)

## ニエンテのヘアピンの外観を変更する



Dorico Pro では、ニエンテのヘアピンの表示形式は 2 種類あり、表示形式は個別に、プロジェクト全体の設定より優先される形で変更できます。この操作は現在のレイアウトとフレームチェーンのみに対して、もしくはすべてのレイアウトとフレームチェーンに対して行なえます。

前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。
- 下ゾーンのツールバーで「**プロパティ (Properties)**」 を選択しておきます。
- 浄書モードの場合は、浄書ツールボックスで「**グラフィックの編集 (Graphic Editing)**」 を選択しておきます。
- ローカルのプロパティ変更に関して、適切なプロパティ範囲を選択しておきます。

---

手順

1. ニエンテスタイルを変更するヘアピンを選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「**強弱記号 (Dynamics)**」グループで、「**ニエンテスタイル (Niente style)**」をオンにします。
3. 以下のいずれかのオプションを選択します。
  - **ヘアピン記号に丸 (Circle on hairpin)** 
  - **テキスト (Text)** 

---

結果

選択したヘアピンのニエンテスタイルが変更されます。プロパティ範囲を「**ローカル (Locally)**」に設定している場合、この変更は現在のレイアウトおよびフレームチェーンのみに影響します。

ヒント

すべてのニエンテのヘアピンの表示形式をプロジェクト全体で変更するには、「**浄書オプション (Engraving Options)**」 > 「**強弱記号 (Dynamics)**」 > 「**段階的強弱記号 (Gradual Dynamics)**」で設定を行ないます。

ニエンテの丸のサイズ、およびニエンテの丸とヘアピンの間の間隔は、「**浄書オプション (Engraving Options)**」 > 「**強弱記号 (Dynamics)**」 > 「**段階的強弱記号 (Gradual Dynamics)**」 > 「**詳細設定 (Advanced Options)**」で変更できます。

---

例



「ヘアピン記号に丸 (Circle on hairpin)」で表示される  
ニエンテ



「テキスト (Text)」で表示されるニエンテ

関連リンク

[浄書オプションで強弱記号の設定をプロジェクト全体に適用する \(1230 ページ\)](#)

[「浄書オプション \(Engraving Options\)」ダイアログ \(923 ページ\)](#)

[浄書ツールボックス \(554 ページ\)](#)

[ゾーンの表示/非表示の切り替え \(48 ページ\)](#)

[プロパティパネル \(826 ページ\)](#)

[プロパティ範囲の変更 \(828 ページ\)](#)

[プロパティ設定を別のレイアウト/フレームチェーンにコピーする \(825 ページ\)](#)

## 強弱記号のグループ

強弱記号のグループは自動的に垂直位置を揃えられ、グループ単位で移動および編集ができるようになります。グループ内の局部的強弱記号を移動すると、釣り合いを取るために両側のヘアピンの長さが自動的に調整されます。



強弱記号のグループの例



同じグループに属する強弱記号は、真ん中の強弱記号を移動させると、それに付き従う形で調整されます。

1つの強弱記号は、局部的強弱記号と段階的強弱記号のいずれであっても、それ自体がグループとして見なされません。

2つ以上の強弱記号が譜表で水平方向に隣り合い、同時にまたは続けて入力され、局部的強弱記号の間に段階的強弱記号がある場合、これらは自動的にグループ化されます。

グループに属するいずれかの強弱記号が選択されると、グループ全体の強弱記号が強調表示されます。



### 補足

- 強弱記号のグループはプロジェクト全体に適用されます。つまり、レイアウトによって異なる形で強弱記号をグループ化することはできません。ただし、選択した強弱記号の表示をグループと関係なく揃えることはできます。
- 強弱記号を水平方向にグループ化するだけでなく、強弱記号のグループを垂直方向にリンクさせ、複数の譜表に同じ強弱記号を表示できます。これは、複数のインストゥルメントが同時に同じ強弱

記号を演奏するとき、クレッシェンドのピークを後ろの拍に移動したり、*f*を*fff*に変更したりといった変化を、すべての譜表に同様に与える場合に便利です。

---

関連リンク

[リンクされた強弱記号 \(1262 ページ\)](#)

[強弱記号の整列 \(1233 ページ\)](#)

[ポップオーバーを使った強弱記号の入力 \(341 ページ\)](#)

## 強弱記号のグループ化

入力時に自動でグループ化されなかった強弱記号を手動でグループ化できます。グループ化された強弱記号は自動的に垂直位置を揃えられ、グループ単位で移動および編集ができるようになります。

---

手順

1. 記譜モードで、グループ化する強弱記号を選択します。
  2. 「編集 (Edit)」 > 「記譜 (Notations)」 > 「強弱記号 (Dynamics)」 > 「強弱記号のグループ化 (Group Dynamics)」を選択します。このオプションはコンテキストメニューでも選択できます。
- 

結果

選択した強弱記号がグループ化されます。グループの最初の強弱記号が他の譜表にリンクされている場合、グループのすべての強弱記号はリンクされた譜表にも追加されます。これは、それらの強弱記号が出現するすべてのレイアウトに適用されます。

関連リンク

[リンクされた強弱記号 \(1262 ページ\)](#)

## 強弱記号のグループ化の解除/グループからの強弱記号の削除

強弱記号のグループ化を解除して、グループ内のすべての強弱記号をグループ化されていない状態にできます。また、選択した強弱記号のみをグループから削除して、選択していない強弱記号はグループに残すこともできます。

これは、それらの強弱記号が出現するすべてのレイアウトに適用されます。

---

手順

1. 記譜モードで、グループ化を解除する、またはグループから削除する強弱記号を選択します。
2. 以下のいずれかの操作を行ないます。
  - 選択したグループ内のすべての強弱記号のグループ化を解除するには、「編集 (Edit)」 > 「記譜 (Notations)」 > 「強弱記号 (Dynamics)」 > 「強弱記号のグループ化を解除 (Ungroup Dynamics)」を選択します。
  - 選択した強弱記号だけをグループから削除するには、「編集 (Edit)」 > 「記譜 (Notations)」 > 「強弱記号 (Dynamics)」 > 「グループから削除 (Remove from Group)」を選択します。

ヒント

このオプションはコンテキストメニューでも選択できます。

---

## リンクされた強弱記号

複数の譜表で同じ位置にある同じ強弱記号はリンクすることができます。強弱記号を譜表間でコピーアンドペーストした場合、このリンクは自動的に行われます。

リンクされたグループのうち1つの強弱記号を選択すると、リンクに属する他のすべての強弱記号が強調表示されます。リンクされた強弱記号のうち1つを別の位置に移動すると、すべてのリンクされた強弱記号が移動します。



リンクされた2つの強弱記号のうち1番上の強弱記号だけを選択した状態



リンクされたグループの1番上の強弱記号だけを移動すると、もう一方も自動的に移動して新しい位置に揃えられます。

同様に、リンクされた強弱記号のうち1つ、たとえば *p* を *mf* に変更すると、この強弱記号にリンクされたすべての強弱記号が変更されます。リンクされた強弱記号のうち1つに他の強弱記号、たとえばヘアピンがグループ化された場合、リンクされたすべての譜表の同じ位置にヘアピンが追加されます。

譜表のうち1つで、ヘアピンの終端より先に他の局部的強弱記号があった場合、ヘアピンは自動的に切り詰められます。その強弱記号を削除した場合、ヘアピンは次の局部的強弱記号とその本来の長さとのいずれか先に達した方の位置まで自動的に延長されます。



強弱記号がリンクされた2つの譜表。ただし、下の譜表はヘアピンを切り詰める別の局部的強弱記号を含んでいる。



2つめの譜表の1小節めの終わりにあった *mf* を削除した結果、ヘアピンが1番上の譜表と一致する長さまで延長された状態。

### 補足

- 他の譜表にリンクされたグループから一部の強弱記号だけを削除した場合、削除した強弱記号は他のリンクされた譜表からも削除されます。1つの譜表から強弱記号のグループ全体を削除した場合、これは他の譜表のリンクされた強弱記号には影響しません。
- 強弱記号を垂直にリンクできるだけでなく、強弱記号を水平方向にもグループ化できます。これにより強弱記号は自動的に垂直位置を揃えられ、グループ単位で移動および編集ができるようになります。
- 強弱記号のリンクとリンク解除はプロジェクト全体に適用されます。つまり、レイアウトによって異なる形で強弱記号をリンクすることはできません。

関連リンク

[強弱記号のグループ \(1260 ページ\)](#)

[リンクされたスラー \(1672 ページ\)](#)

[貼り付け時の強弱記号とスラーの自動リンクをオフにする \(501 ページ\)](#)

## 強弱記号をリンクする

同一の強弱記号を別の譜表の同じ位置にコピーアンドペーストすると、強弱記号それぞれが自動的にリンクされます。また自動的にリンクされなかった強弱記号および強弱記号のグループは、手動でリンクさせることによって同時編集できるようになります。

### 補足

強弱記号をリンクさせるためには、グループが同一である必要があります。たとえば、2つの強弱記号 *p* がいずれもグループに属していなければリンクできますが、一方がヘアピンとグループ化されている場合はリンクできません。

---

### 手順

1. 記譜モードで、リンクさせる強弱記号を選択します。
2. 「編集 (Edit)」 > 「記譜 (Notations)」 > 「強弱記号 (Dynamics)」 > 「リンク (Link)」を選択します。このオプションはコンテキストメニューでも選択できます。

---

### 結果

選択した強弱記号がリンクします。リンクされた強弱記号のうち1つをあとから変更した場合、リンクされたすべての強弱記号が合わせて変更されます。これは、それらの強弱記号が出現するすべてのレイアウトに適用されます。

関連リンク

[強弱記号のグループ \(1260 ページ\)](#)

[音符/アイテムのコピーと貼り付け \(497 ページ\)](#)

## 強弱記号のリンクの解除

自動的にリンクされたものも含めて、強弱記号のリンクを解除できます。たとえば、段階的強弱記号の長さをそれぞれ個別に変更する場合などに行ないます。

---

### 手順

1. 記譜モードで、リンクを解除するグループの強弱記号を1つ選択します。
2. 「編集 (Edit)」 > 「記譜 (Notations)」 > 「強弱記号 (Dynamics)」 > 「リンクを解除 (Unlink)」を選択します。このオプションはコンテキストメニューでも選択できます。

---

### 結果

リンクされたグループに属するすべての強弱記号のリンクが解除されます。これは、それらの強弱記号が出現するすべてのレイアウトに適用されます。

関連リンク

[貼り付け時の強弱記号とスラーの自動リンクをオフにする \(501 ページ\)](#)

## 強弱記号のフォントスタイル

強弱記号のタイプごとに異なるフォントスタイルを設定できます。フォントサイズを変更して強弱記号を大きく表示するなど、これらのフォントの各種設定は「**フォントスタイルを編集 (Edit Font Styles)**」ダイアログで編集できます。



強弱記号には以下のフォントスタイルが使用されます。

- 1 **強弱に関する音楽テキスト用フォント (Dynamic Music Text Font):** *pf* や *mp* など、強弱記号のグリフに使用されます。SMuFL 準拠である必要があります。
- 2 **強弱テキスト用フォント (Dynamic Text Font):** 強弱記号の修飾語句 (*poco a poco* や *molto* など) と、テキストとして表示される段階的強弱記号に使用されます。

### 補足

フォントスタイルへの変更が、パートレイアウトを含めてプロジェクト全体に適用されます。

### 関連リンク

[「フォントスタイルを編集 \(Edit Font Styles\)」ダイアログ \(930 ページ\)](#)

[強弱記号のタイプ \(1229 ページ\)](#)

[強弱記号の修飾語句 \(1241 ページ\)](#)

[デフォルトのフォントファミリーを変更する \(937 ページ\)](#)

[強弱記号の入力方法 \(337 ページ\)](#)

## 再生時の強弱記号

サスティン楽器と非サスティン楽器の音量設定は、段階的強弱記号の制御の面で異なります。

### サスティン楽器

弦楽器、木管楽器、そして金管楽器はサスティン楽器です。これらの楽器は音を伸ばしながら、その間ずっと音量を制御できるためです。

Dorico Pro は再生時、これらのインストゥルメントに段階的強弱記号を適用します。

### 非サスティン楽器

ピアノ、ハープ、マリンバ、および打楽器インストゥルメントの大部分などの非サスティン楽器は、打音後に音量を制御できません。このため、非サスティン楽器のソフトウェアインストゥルメントは多くの場合、音符の開始位置で設定されるノートベロシティをダイナミクスに使用します。

### ヒント

各ソフトウェアインストゥルメントの設定は、「**エクスプレッションマップ (Expression Maps)**」ダイアログで制御できます。

### 関連リンク

[「エクスプレッションマップ \(Expression Maps\)」ダイアログ \(1020 ページ\)](#)



[強弱記号エディター \(859 ページ\)](#)

[MIDI CC エディター \(866 ページ\)](#)

## 強弱記号の再生オプション

プロジェクト全体のすべてのインストゥルメントの強弱記号が再生時にどのように反映されるかは、「再生オプション (Playback Options)」の「強弱記号 (Dynamics)」ページで変更できます。

### 強弱のカーブ

「再生オプション (Playback Options)」の「強弱記号 (Dynamics)」ページの最上部のグラフには連続曲線が描かれています。この曲線は、強弱記号の *pppppp* から *fffff* までのデフォルト範囲で音量がどのように増加するかを決定します。

強弱のカーブの強度が 1 の場合は直線が生成され、音量の増加は一定となります。*pppp* と *pp* の音量差は *p* と *mf* の音量差と等しくなります。

強弱のカーブの強度が 2 より大きい場合は曲線が生成され、範囲の中央付近の音量の増加率が大きくなります。*pppp* と *pp* の音量差は *p* と *mf* の音量差より大幅に小さくなります。

強弱のカーブの強度が大きくなるほど、範囲の中央付近で音量差が大きくなり、範囲の両端で音量差が小さくなります。

#### ヒント

プロジェクトで使用する強弱記号の範囲が広く、*pppp* や *ffff* のような強弱記号まで使用する場合、範囲の両端における音量差を大きくするために、強弱のカーブの強度は低い方がよい場合があります。

プロジェクトで使用する強弱記号の範囲が狭く、最小が *pp*、最大が *ff* であるような場合、範囲の中央付近における音量差がより目立つように、強弱のカーブの強度は高い方がよい場合があります。また、この例では「-2」から「2」のような、より狭い強弱記号レベルの範囲を指定したい場合もあるかもしれません。

### ヒューマナイズ

「ヒューマナイズ (Humanize)」は、ダイナミクスをランダムに変化させ、生演奏の自然なゆらぎを模倣するものです。

MIDI CC 1 を使用して強弱記号を制御するサウンドライブラリーの場合、MIDI CC 1 エディターでヒューマナイズが強弱記号に与える影響を確認できます。

### 多声楽器 (Polyphonic Instruments)

「多声楽器 (Polyphonic Instruments)」セクションでは、多声部のバランスと、同じインストゥルメントに属する声部間の強弱記号レベルを自動的に調整する対位法による楽曲の規則を有効化/無効化できます。

これらのオプションは、ピアノ、ハーブ、ギター、有音程打楽器など、複数の旋律を同時に演奏できるインストゥルメントに最も有効です。

### 音符の強弱

「強弱 (Dynamics)」ページの「音符の強弱 (Note Dynamics)」セクションでは、再生時の音符の音量が強勢およびアーティキュレーション記号にどれだけ影響されるか設定できます。

関連リンク

[「再生オプション \(Playback Options\)」ダイアログ \(925 ページ\)](#)

[MIDI CC エディター \(866 ページ\)](#)  
[強弱記号エディター \(859 ページ\)](#)  
[強弱記号レベルを変更する \(1235 ページ\)](#)  
[再生効果 \(1046 ページ\)](#)  
[エクスプレッションマップ \(1019 ページ\)](#)

## 音量タイプのための VST エクスプレッションマップ

サードパーティー製サウンドライブラリーを使用する場合、インストゥルメントを段階的強弱記号に反応させるために、エクスプレッションマップの変更または編集が必要となる場合があります。これを行わない場合、サウンドライブラリーは初期設定ではベロシティーを使用します。

エクスプレッションマップのダイナミクスの設定は、インストゥルメントの構成によって左右されます。詳細については、サウンドライブラリーの説明書を参照してください。

Dorico Pro では、以下のデフォルトのエクスプレッションマップが提供されています。

- MIDI チャンネルのエクスプレッションの変化によりダイナミクスを得る「**CC11 ダイナミクス (CC11 Dynamics)**」
- MIDI コントローラー 1 の変化によりダイナミクスを得る「**モジュレーションホイールダイナミクス (Modulation Wheel Dynamics)**」

### ヒント

「**エクスプレッションマップ (Expression Maps)**」ダイアログでは、エクスプレッションマップを編集できます。

---

## ピッチの輪郭強調の有効化/無効化

ピッチの輪郭強調は、演奏者が生み出す強弱の微妙な変化をエミュレートすることで、メロディーをより表情豊かに再生できます。ピッチの輪郭強調の有効/無効をプロジェクト全体で切り替えたり、強弱記号レベルにどの程度影響を与えるかを変更したりできます。

一般的に、演奏者はメロディーのピッチが上がると強弱を強め、ピッチが下がると強弱を弱めます。

ピッチの輪郭強調は、各譜表上の音符のピッチ、デュレーション、他の音符との相対的な位置を個別に反映して強弱記号レベルの変化を計算します。

### 補足

- ピッチの輪郭強調は無音程打楽器には影響しません。
  - フレーズ間のスムーズな移行を実現するために、ピッチの輪郭強調は強弱記号レベルを上げるだけでなく下げることができます。
- 

### 手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[P]** を押して「**再生オプション (Playback Options)**」を開きます。
2. カテゴリーリストの「**強弱記号 (Dynamics)**」をクリックします。
3. 「**ヒューマナイズ (Humanize)**」セクションで、「**ピッチの輪郭強調を使用 (Use pitch contour emphasis)**」をオン/オフにします。
4. 「**ピッチの輪郭強調を使用 (Use pitch contour emphasis)**」をオンにした場合は、必要に応じて以下のオプションの値を変更して、デフォルトの強弱記号レベルへの影響を変更します。
  - **効果の倍率 (Scale effect by)**
  - **記譜された強弱記号に対する変更の最大値 (Maximum change to written dynamic)**

#### 補足

「効果の倍率 (Scale effect by)」が「記譜された強弱記号に対する変更の最大値 (Maximum change to written dynamic)」の値を超えることはありません。

---

5. 「適用 (Apply)」をクリックしてから「閉じる (Close)」をクリックします。
- 

#### 関連リンク

[強弱記号エディター \(859 ページ\)](#)  
[ベロシティーエディター \(856 ページ\)](#)  
[声部の個別再生の有効化 \(685 ページ\)](#)

## 多声部のバランスの有効化/無効化

Dorico Pro は、多声音楽のメロディーとベース音を特定し、それらを残りの伴奏音に対して異なる量で強調できます。対位法による楽曲のルールをプロジェクト全体で有効化/無効化し、強弱記号レベルへの影響度を変更できます。

---

#### 手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[P]** を押して「再生オプション (Playback Options)」を開きます。
  2. カテゴリーリストの「強弱記号 (Dynamics)」をクリックします。
  3. 「多声楽器 (Polyphonic Instruments)」セクションで、「多声楽器の声部の自動バランスを使用 (Use automatic polyphonic instrument voice balancing)」をオン/オフにします。
  4. 「多声楽器の声部の自動バランスを使用 (Use automatic polyphonic instrument voice balancing)」をオンにした場合は、必要に応じて使用できるオプションの値を変更します。
  5. 「適用 (Apply)」をクリックしてから「閉じる (Close)」をクリックします。
- 

#### 関連リンク

[声部の個別再生の有効化 \(685 ページ\)](#)

## 対位法による楽曲の強弱記号ルールの有効化/無効化

多声部のバランスに加え、Dorico Pro は対位法のテーマを特定し、そのテーマとベース音を、残りの伴奏音に対して異なる量で強調できます。対位法による楽曲のルールをプロジェクト全体で有効化/無効化し、強弱記号レベルへの影響度を変更できます。

---

#### 手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[P]** を押して「再生オプション (Playback Options)」を開きます。
  2. カテゴリーリストの「強弱記号 (Dynamics)」をクリックします。
  3. 「多声楽器 (Polyphonic Instruments)」セクションで、「対位法による音楽の規則を使用 (Use rules for contrapuntal music)」をオン/オフにします。
  4. 「対位法による音楽の規則を使用 (Use rules for contrapuntal music)」をオンにした場合は、必要に応じて使用できるオプションの値を変更します。
  5. 「適用 (Apply)」をクリックしてから「閉じる (Close)」をクリックします。
- 

#### 関連リンク

[多声部のバランスの有効化/無効化 \(1267 ページ\)](#)  
[声部の個別再生の有効化 \(685 ページ\)](#)

# 数字付き低音

数字付き低音とは、記譜されているベース音の上の和声を数字で指定する省略表現です。特にバロック音楽や初期のクラシック音楽で、ハープシコードやヴァイオリンなどの伴奏楽器のパートに多く見られます。

数字付き低音には、演奏者に和音の意図を伝える役割がありますが、コード音を使用した即興のアルペジオフレーズなど、解釈による演奏を行なう余地も残されています。

数字付き低音にはアラビア数字、臨時記号およびホールドの水平線を組み合わせて使用し、和音の構成音の低音からの音程と、その長さの両方を指定します。たとえば下図の数字付き低音には、サスペンションが解決する位置や低音が変化しても、コードが変わらない場合が示されています。

タストソロの指示記号は、そのセクションを和声なしで演奏することを演奏者に指示します。



譜表の下に数字付き低音を表示するバスコンティヌオパート

Dorico Pro の初期設定では、数字付き低音は対応する位置にグローバルに存在します。これは数字付き低音を使用するほとんどの楽譜には調性があり、各プレーヤーが同じ和音から得られる音で演奏するためです。したがって数字付き低音の入力が必要なのは一度のみで、場合に応じて複数の譜表の上に表示させることも、一切表示しないこともできます。また、数字付き低音の内容は、譜表ごとに音符に合わせて自動的に調整されます。ただし状況によっては、同じ位置の複数のプレーヤーに対し、それぞれ異なるコードを指定することが必要な場合もあります。このような場合は、ローカルな数字付き低音を入力します。

Dorico Pro は、入力した数字が暗示する音程を、その位置にある最低音との関係から割り出して保存します。このように数字が暗示する和声を意味的に理解することにより、Dorico Pro は異なる譜表上でも、音符の音程の移調や変更が行なわれた場合に、数字を調整して表示できます。

数字付き低音が使用された楽譜を移調すると、Dorico Pro では数字も合わせて移調されます。

Dorico Pro は、初期設定で太字のローマ字フォントの数字付き低音を使用します。数字付き低音に使用するフォントをプロジェクト全体で変更したり、数字付き低音のフォントスタイルの形式設定を編集したりできます。また、タストソロの指示記号に使用される「**数字付き低音タストソロ (Figured Bass Tasto Solo)**」のパラグラフスタイルも編集できます。

数字付き低音はレイアウトごとに個別に、特定のプレーヤーの譜表上で表示と非表示を切り替えられます。またレイアウトごとに個別に、数字付き低音のデフォルトの表示位置を譜表の上にするか下にするかを変更できます。Dorico Pro が通常は数字を表示しない場合 (3rd の音程など) や、休符などで数字のベースノートを認識できない場合は、数字はガイドとして表示されます。

## 補足

数字付き低音は、和声分析で一般的に使用されるローマ数字などの記譜法にはまだ対応していません。これは将来のバージョンでサポートされる予定です。

## 関連リンク

[数字付き低音の入力 \(427 ページ\)](#)

[数字付き低音のホールドの線 \(1273 ページ\)](#)

- [休符に数字付き低音を表示する \(1271 ページ\)](#)
- [数字付き低音に単一の括弧を表示する \(1272 ページ\)](#)
- [数字付き低音の譜表に対する位置の変更 \(1278 ページ\)](#)
- [数字付き低音の外観 \(1281 ページ\)](#)

## 浄書オプションで数字付き低音の設定をプロジェクト全体に適用する

「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**数字付き低音 (Figured Bass)**」ページで、数字付き低音の外観と位置を設定しプロジェクト全体に適用できます。

「**数字付き低音 (Figured Bass)**」ページのオプションでは、衝突回避を含めて、さまざまな状況における数字付き低音のデフォルトの外観と位置を変更できます。たとえば、それぞれの音程に表示する数字と変化記号のデフォルトの組み合わせや、数字の半音上げと半音下げを臨時記号とスラッシュのどちらで表記するか、臨時記号を数字の前後どちらに表示するか、などを設定できます。

太さや丸括弧と角括弧の切り替えなど、タストソクの指示記号と数字付き低音の括弧の外観を変更できます。

また、ホールドラインを表示する状況や、ホールドラインを何本表示するか、どこに配置するかなども設定できます。

「**数字 (Figures)**」セクションの設定は、数字付き低音の入力設定が「**浄書オプションに従う (Follow Engraving Options)**」になっているとき使用されます。

多くのオプションに、オプションを楽譜に適用したときにどのように表示されるかを示す図があります。

関連リンク

- [数字付き低音の入力設定の変更 \(433 ページ\)](#)
- [数字付き低音の臨時記号の衝突回避を変更する \(1280 ページ\)](#)
- [数字付き低音の括弧のスタイルを表示する \(1273 ページ\)](#)
- [「浄書オプション \(Engraving Options\)」ダイアログ \(923 ページ\)](#)

## 音符入力オプションで数字付き低音の設定をプロジェクト全体に適用する

数字付き低音の入力時の処理方法に関するプロジェクト全体の設定は、「**音符入力オプション (Note Input Options)**」の「**数字付き低音 (Figured Bass)**」ページで変更できます。

「**数字付き低音 (Figured Bass)**」ページには、数字付き低音ポップオーバーの入力内容をそのまま使用するオプション、現在の浄書オプションを適用するオプション、または特定の音程やポップオーバー入力をどのように解釈するか指定するためのオプションがあります。

関連リンク

- [「音符入力オプション \(Note Input Options\)」ダイアログ \(921 ページ\)](#)

## レイアウトで数字付き低音の表示/非表示を切り替える

数字付き低音はレイアウトごとに個別に、特定のプレイヤーの譜表上で表示と非表示を切り替えられます。たとえばフルスコアとベースパートのレイアウトでは数字付き低音を表示しながら、他のパートレイアウトでは非表示にできます。

数字付き低音を入力した譜表のプレイヤーは、自動的に現在のレイアウトで数字付き低音を表示する設定になります。

### 手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[L]** を押して「**レイアウトオプション (Layout Options)**」を開きます。
2. 「**レイアウト (Layouts)**」リストで、数字付き低音の表示/非表示を切り替えるレイアウトを選択します。  
初期設定では、楽譜領域で選択されているものと同じレイアウトが選択された状態のダイアログが表示されます。他のレイアウトを選択するには、アクションバーの選択オプションを使用するか、複数のレイアウトをまたぐようにクリックしてドラッグするか、**[Shift]** を押しながら隣接するレイアウトをクリックするか、**[Ctrl]/[command]** を押しながら個々のレイアウトをクリックします。
3. カテゴリリストの「**プレイヤー (Players)**」をクリックします。
4. 「**数字付き低音 (Figured Bass)**」セクションで、プレイヤーごとに数字付き低音の表示のオン/オフを切り替えます。
5. 「**適用 (Apply)**」をクリックしてから「**閉じる (Close)**」をクリックします。

### 結果

チェックボックスがオンになっている場合は、選択中のレイアウトに含まれるプレイヤーに属するすべてのインストゥルメントの上下に数字付き低音が表示され、チェックボックスがオフになっている場合は非表示になります。オンになっているチェックボックスがない場合は、数字付き低音は完全に非表示になります。

### 手順終了後の項目

- 数字付き低音の譜表に対する位置を変更できます。
- 数字付き低音が表示されているレイアウトで、数字付き低音の数字を個別に非表示にできます。

### 関連リンク

[数字付き低音の入力 \(427 ページ\)](#)

[数字付き低音の譜表に対する位置の変更 \(1278 ページ\)](#)

[数字付き低音のホールドの線 \(1273 ページ\)](#)

## 数字付き低音の数字の表示/非表示を個別に切り替える

数字付き低音が表示されているレイアウトで、数字付き低音の数字の表示/非表示を個別に切り替えられます。この操作は現在のレイアウトとフレームチェーンのみに対して、もしくはすべてのレイアウトとフレームチェーンに対して行なえます。ただし、数字付き低音が非表示になっているレイアウトでは、数字の個別表示はできません。

### 前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。
- 下ゾーンのツールバーで「**プロパティ (Properties)**」 を選択しておきます。
- 浄書モードの場合は、浄書ツールボックスで「**グラフィックの編集 (Graphic Editing)**」 を選択しておきます。

- ローカルのプロパティ変更に関して、適切なプロパティ範囲を選択しておきます。

---

#### 手順

1. 非表示にする数字付き低音の数字、または表示する数字のガイドを選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「数字付き低音 (Figured Bass)」グループで、「非表示 (Hidden)」をオン/オフにします。

---

#### 結果

「非表示 (Hidden)」をオンにすると選択した数字付き低音が非表示になり、オフにすると表示されます。プロパティ範囲を「ローカル (Locally)」に設定している場合、この変更は現在のレイアウトおよびフレームチェーンのみに影響します。

非表示にした数字のそれぞれの位置にはガイドが表示されます。ただし初期設定では、ガイドは印刷されません。

#### ヒント

- 数字付き低音のガイドの表示/非表示は、「ビュー (View)」 > 「ガイド (Signposts)」 > 「数字付き低音 (Figured Bass)」を選択して切り替えられます。
- 「環境設定 (Preferences)」の「キーボードショートカット (Key Commands)」ページで、「アイテムを表示/非表示 (Hide/Show Item)」にキーボードショートカットを割り当てることができます。

---

#### 関連リンク

[ガイド \(490 ページ\)](#)

[浄書ツールボックス \(554 ページ\)](#)

[プロパティ範囲の変更 \(828 ページ\)](#)

[「環境設定 \(Preferences\)」ダイアログの「キーボードショートカット \(Key Commands\)」ページ \(64 ページ\)](#)

[注釈 \(740 ページ\)](#)

## 休符に数字付き低音を表示する

通常、数字付き低音はベース音に対する和声を示すため、初期設定では休符の数字付き低音は非表示になります。たとえば、ベースの休符の位置で和声が変わる場合は、数字付き低音を休符に個別に表示できます。この操作は現在のレイアウトとフレームチェーンのみに対して、もしくはすべてのレイアウトとフレームチェーンに対して行なえます。

#### 前提条件

- 休符の位置に数字付き低音を入力しておきます。
- 下ゾーンを表示しておきます。
- 下ゾーンのツールバーで「プロパティ (Properties)」を選択しておきます。
- 浄書モードの場合は、浄書ツールボックスで「グラフィックの編集 (Graphic Editing)」を選択しておきます。
- ローカルのプロパティ変更に関して、適切なプロパティ範囲を選択しておきます。

---

#### 手順

1. 数字付き低音を表示する休符を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。

2. プロパティパネルの「音符と休符 (Notes and Rests)」グループで、「数字付き低音を表示 (Show figured bass)」をオンにします。

#### 結果

選択した休符に数字付き低音が表示されます。プロパティ範囲を「ローカル (Locally)」に設定している場合、この変更は現在のレイアウトおよびフレームチェーンのみに影響します。

「数字付き低音を表示 (Show figured bass)」をオフにすると、選択した休符の数字付き低音が再度非表示になります。

## 数字付き低音に単一の括弧を表示する

括弧付きの数字付き低音の数字のそれぞれに、左または右の括弧を1つだけ表示できます。たとえば、括弧の付いた2つの数字の間のすべての数字が任意であることを示す場合などに行いません。この操作は現在のレイアウトとフレームチェーンのみに対して、もしくはすべてのレイアウトとフレームチェーンに対して行なえます。

#### 前提条件

- 数字付き低音の数字を括弧付きで入力しておきます。
- 下ゾーンを表示しておきます。
- 下ゾーンのツールバーで「プロパティ (Properties)」を選択しておきます。
- 浄書モードの場合は、浄書ツールボックスで「グラフィックの編集 (Graphic Editing)」を選択しておきます。
- ローカルのプロパティ変更に関して、適切なプロパティ範囲を選択しておきます。

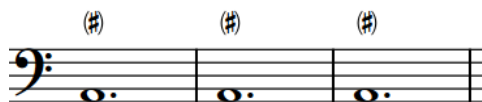
#### 手順

1. 括弧を1つだけ表示する括弧付きの数字を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「数字付き低音 (Figured Bass)」グループで「単一の括弧を非表示 (Hide single bracket)」をオンにします。
3. 以下のいずれかのオプションを選択します。
  - 先頭 (Start)
  - 末尾 (End)

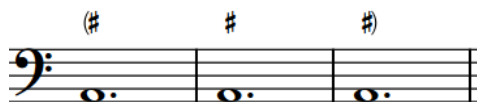
#### 結果

選択した数字の対応する側の括弧が非表示になり、もう一方の括弧が1つだけ残ります。プロパティ範囲を「ローカル (Locally)」に設定している場合、この変更は現在のレイアウトおよびフレームチェーンのみに影響します。

#### 例



すべての数字の両側に括弧を表示



最初の数字のはじめと最後の数字の終わりに括弧を表示



関連リンク

[数字付き低音のホールドラインに括弧を表示する \(1276 ページ\)](#)

[括弧付きの符頭 \(1406 ページ\)](#)

[ゾーンの表示/非表示の切り替え \(48 ページ\)](#)

[プロパティパネル \(826 ページ\)](#)

[プロパティ範囲の変更 \(828 ページ\)](#)

## 数字付き低音の括弧のスタイルを表示する

プロジェクト全体のすべての括弧付きの数字とホールド/サスペンションラインに丸括弧と角括弧のどちらを表示するかを、それぞれ個別に変更できます。

手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[E]** を押して「**浄書オプション (Engraving Options)**」を開きます。
2. カテゴリリストの「**数字付き低音 (Figured Bass)**」をクリックします。
3. 「**デザイン (Design)**」セクションの「**大括弧 (Brackets)**」サブセクションにある「**括弧スタイル (Bracket style)**」で、以下のいずれかのオプションを選択します。
  - **丸括弧 (Round brackets)**
  - **角括弧 (Square brackets)**
4. 「**ホールドラインとサスペンションラインの角括弧のスタイル (Bracket style for hold and suspension lines)**」で以下のいずれかのオプションを選択します。
  - **丸括弧 (Round brackets)**
  - **角括弧 (Square brackets)**
5. 「**適用 (Apply)**」をクリックしてから「**閉じる (Close)**」をクリックします。

## 数字付き低音のホールドの線

数字付き低音のホールドの線は、低音が変化しても和音が変わらないことを表わします。

Dorico Pro の初期設定では、デュレーションを持つ数字にホールドの線が表示されますが、サスペンションと解決音の間または解決音の後にあるホールドの線は非表示になります。サスペンションの数字のホールドの線とサスペンションの線の表示/非表示を個別に切り替えることができます。また、「**浄書オプション (Engraving Options)**」にある「**数字付き低音 (Figured Bass)**」ページでは、ホールドの線が自動的に表示される状況と、ホールドの線の位置および数字をプロジェクト全体で変更できます。



デュレーションのない数字 (選択中)



デュレーションとホールドの線が表示された数字 (選択中)

### ヒント

浄書モードでは、数字の表示位置やホールドの線の表示上の長さを変更できます。

関連リンク

[「浄書オプション \(Engraving Options\)」ダイアログ \(923 ページ\)](#)

浄書モードの数字付き低音 (1278 ページ)

アイテムの表示位置の移動 (652 ページ)

装飾音符 (1327 ページ)

## 数字付き低音のホールド/サスペンションラインの表示/非表示を切り替える

サスペンションの数字と解決音の数字の間のサスペンションラインと解決音の数字の後のホールドラインの表示/非表示を、プロジェクト全体の設定より優先される形で個別に切り替えることができます。

前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。
- 下ゾーンのツールバーで「プロパティ (Properties)」を選択しておきます。
- 浄書モードの場合は、浄書ツールボックスで「グラフィックの編集 (Graphic Editing)」を選択しておきます。

手順

1. ホールド/サスペンションラインを表示/非表示にする数字付き低音を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「数字付き低音 (Figured Bass)」グループで、以下のプロパティを片方または両方ともオンにします。
  - サスペンションと解決音の間のライン (Line between susp. and resolution)
  - 解決後の延長線 (Continue line after resolution)
3. 対応するチェックボックスをオン/オフにします。

結果

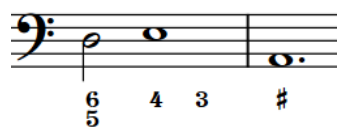
対応するチェックボックスがオンになっているときは選択した数字付き低音のサスペンションのサスペンションの数字と解決音の数字の間や解決音の後のホールドラインが表示され、オフになっているときは非表示になります。

プロパティをオフにすると、ホールド/サスペンションラインは、プロジェクト全体のホールドラインの表示/非表示に関する設定に従います。

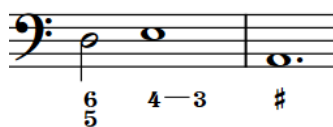
ヒント

「浄書オプション (Engraving Options)」 > 「数字付き低音 (Figured Bass)」 > 「デザイン (Design)」では、さまざまな状況に応じて、数字付き低音のホールド/サスペンションラインの終了位置の変更など、表示/非表示に関するプロジェクト全体のデフォルトを設定できます。

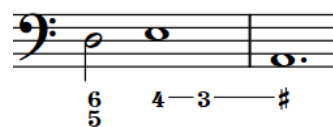
例



サスペンションラインとホールドラインの両方を非表示にした状態



サスペンションと解決音の間のサスペンションラインを表示した状態



サスペンションと解決音の間のサスペンションラインと解決音の後のホールドラインをどちらも表示した状態

関連リンク

- [浄書ツールボックス \(554 ページ\)](#)
- [ゾーンの表示/非表示の切り替え \(48 ページ\)](#)
- [プロパティパネル \(826 ページ\)](#)
- [休符に数字付き低音を表示する \(1271 ページ\)](#)
- [数字付き低音の解決音を移動する \(1279 ページ\)](#)

## 数字付き低音のホールドの線の長さを変更する

数字付き低音は入力後にデュレーションを変更できます。これにより、数字付き低音のホールドの線の長さも変更されます。デュレーションを指定せずに入力した数字は、延長することでデュレーションが与えられ、ホールドの線が表示されるようになります。また、数字付き低音のホールドの線の音符に対する終了位置も変更できます。

前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。
- 下ゾーンのツールバーで「**プロパティ (Properties)**」を選択しておきます。
- 浄書モードの場合は、浄書ツールボックスで「**グラフィックの編集 (Graphic Editing)**」を選択しておきます。

---

手順

1. 長さを変更する数字付き低音の数字を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「**数字付き低音 (Figured Bass)**」グループで「**デュレーション (Duration)**」をオンにします。
3. 以下のいずれかの操作を行なって、選択した数字付き低音の長さを変更します。
  - 長くするには、左の数値フィールドの値を大きくします。
  - 短くするには、左の数値フィールドの値を小さくします。
  - 左の数値フィールドで設定した位置にある装飾音符の左に終了位置を移動するには、右の数値フィールドの値を小さくします。

ヒント

「1」は4分音符を表わします。

4. 以下のいずれかの操作を行ないます。
  - ホールドの線の終了位置を装飾音符をまたいで符頭の右側に配置するには、「**終了位置の数字を通してラインを描画 (Draw line through figures at end)**」をオンにします。
  - ホールドの線の終了位置を符頭の左側の装飾音符の前に配置するには、「**終了位置の数字を通してラインを描画 (Draw line through figures at end)**」をオフにします。

---

結果

選択した数字付き低音のデュレーションと、そのホールドの線の長さを変更されます。

ヒント

また、数字付き低音の長さは、ほかのアイテムと同じ方法で変更できます。

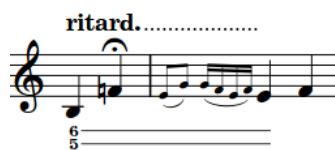
---

例

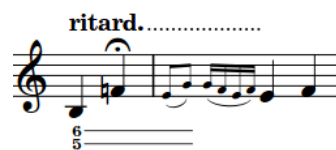
これらの例はすべて全体で2分音符分の長さがあります。つまり、左の数値フィールドに「2」を入力したということです。



「終了位置の数字を通してラインを  
描画 (Draw line through figures at  
end)」をオフにした状態



「終了位置の数字を通してラインを  
描画 (Draw line through figures at  
end)」をオンにした状態



右の数値フィールドに「-1 1/4」を入  
力して「終了位置の数字を通してラ  
インを描画 (Draw line through  
figures at end)」をオンにした状態

関連リンク

[浄書モードの数字付き低音 \(1278 ページ\)](#)

[アイテムの長さの変更 \(470 ページ\)](#)

## 数字付き低音のホールドラインに括弧を表示する

たとえば、編者注のホールドラインを示す場合などに、数字付き低音のホールドラインとサスペンションラインに括弧を個別に表示できます。

前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。
- 下ゾーンのツールバーで「プロパティ (Properties)」を選択しておきます。
- 浄書モードの場合は、浄書ツールボックスで「グラフィックの編集 (Graphic Editing)」を選択しておきます。

手順

1. 括弧を表示する数字付き低音のホールド/サスペンションラインを選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「数字付き低音 (Figured Bass)」グループで、選択に応じて以下のプロパティを片方または両方オンにします。
  - 括弧のサスペンションライン (Bracket sus. lines)
  - 括弧のホールドライン (Bracket hold lines)
3. 各メニューから以下のいずれかのオプションを選択します。
  - 両端 (Both ends)
  - 先頭 (Start)
  - 末尾 (End)

結果

選択した数字付き低音のホールド/サスペンションラインの対応する端に括弧が表示されます。

例



ホールドラインの「両端 (Both ends)」に括弧を表示



サスペンションラインの「先頭 (Start)」とホールドラインの「末尾 (End)」に括弧を表示

手順終了後の項目

数字付き低音のホールド/サスペンションラインの括弧のスタイルを変更して、たとえば丸括弧を表示することもできます。

関連リンク

[浄書ツールボックス \(554 ページ\)](#)

[ゾーンの表示/非表示の切り替え \(48 ページ\)](#)

[プロパティパネル \(826 ページ\)](#)

[数字付き低音の入力 \(427 ページ\)](#)

[数字付き低音の括弧のスタイルを表示する \(1273 ページ\)](#)

## 数字付き低音の位置

数字付き低音は、組段ごとに必要とされる行数に応じて、自動的に行に編成されます。初期設定では、数字が譜表の下にある場合は上の行に、譜表の上にある場合は下の行に整列されます。これは数字付き低音と譜表の間隔を最小化するためです。

数字付き低音の垂直位置は、どの譜表に表示するかの設定と、レイアウトごとの譜表に対する位置の設定により決定されます。

数字付き低音のリズム上の位置の変更は、記譜モードで行ないます。これらは「**浄書オプション (Engraving Options)**」で設定されたデフォルト位置に配置されます。この動作の一部である Dorico Pro のカーニング機能はすべての組段に適用され、すべての数字と変化記号の可読性を保ちます。

数字とホールドの線の表示位置は浄書モードで移動できますが、適用されるリズム上の位置はこれによって変更されません。

「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**数字付き低音 (Figured Bass)**」ページでは、すべての数字のデフォルト位置をプロジェクト全体で変更したり、数字の行間、数字と譜表、および数字とその他のアイテム間の最小距離の値を設定したりできます。

関連リンク

[レイアウトで数字付き低音の表示/非表示を切り替える \(1270 ページ\)](#)

[数字付き低音のホールド/サスペンションラインの表示/非表示を切り替える \(1274 ページ\)](#)

[数字付き低音のホールドの線の長さを変更する \(1275 ページ\)](#)

[数字付き低音の解決音を移動する \(1279 ページ\)](#)

[音符/アイテムの位置の移動 \(502 ページ\)](#)

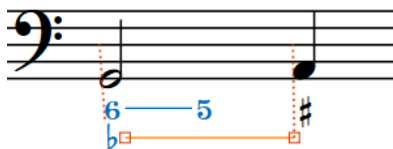
[アイテムの表示位置の移動 \(652 ページ\)](#)

[「浄書オプション \(Engraving Options\)」ダイアログ \(923 ページ\)](#)

## 浄書モードの数字付き低音

浄書モードでは、数字付き低音のホールドの線にはそれぞれ開始位置と終了位置の2か所に四角いハンドルがあります。これらのハンドルを動かして、数字付き低音のホールドの線の表示位置と長さを調節できます。

数字付き低音のホールドの線全体の表示位置を移動することもできます。



浄書モードのホールドの線のハンドル

数字とホールドの線を選択すると、両方を同時に移動できます。ホールドの線またはホールドの線のハンドルを移動すると、数字とは別にホールドの線が移動します。解決音の数字を移動すると、Dorico Pro は自動的にサスペンションと解決音の間のホールドの線の長さを調整します。

### 補足

- 数字付き低音は、同じ位置にあるすべての数字がひとまとめに扱われます。たとえば数字付き低音「6,4」で、「4」とは別に「6」だけ選択および移動することはできません。
- 数字付き低音のホールドの線の長さを変えるために開始/終了位置のハンドルを移動する場合、まずリズム上の長さを変更してから表示上の長さを微調整することをおすすめします。
- 数字、ホールドの線またはホールドの線のハンドルを移動すると、移動した部位に応じて、プロパティパネルの「数字付き低音 (Figured Bass)」のグループにあるさまざまなプロパティが自動的にオンになります。
  - 「メインの数字のオフセット (Main figure offset)」は、数字を移動させます。「X」は水平位置を移動させ、「Y」は垂直位置を移動させます。
  - 「解決音のオフセット (Resolution offset)」は、サスペンションの解決音の数字を移動させます。「X」は水平位置を移動させ、「Y」は垂直位置を移動させます。
  - 「ライン [n] のオフセット (Line [n] offset)」は、数字付き低音の対応する行のホールドの線の開始/終了ハンドルを水平に移動させます。「L」は開始ハンドル (左)、「R」は終了ハンドル (右) を移動させます。
  - 「ライン [n] の Y 方向のオフセット (Line [n] Y offset)」は、数字付き低音の対応する行のホールドの線全体を垂直に移動させます。

## 数字付き低音の譜表に対する位置の変更

数字付き低音の数字の譜表に対するデフォルトの位置は、レイアウトごとに個別に変更できます。

手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[L]** を押して「レイアウトオプション (Layout Options)」を開きます。
2. 「レイアウト (Layouts)」リストから、数字付き低音の譜表に対する位置を変更するレイアウトを選択します。

初期設定では、楽譜領域で選択されているものと同じレイアウトが選択された状態のダイアログが表示されます。他のレイアウトを選択するには、アクションバーの選択オプションを使用するか、複数のレイアウトをまたぐようにクリックしてドラッグするか、**[Shift]** を押しながら隣接するレイアウトをクリックするか、**[Ctrl]/[command]** を押しながら個々のレイアウトをクリックします。

3. カテゴリーリストの「プレイヤー (Players)」をクリックします。
4. 「数字付き低音 (Figured Bass)」セクションの「デフォルトの位置 (Default placement)」で、以下のいずれかのオプションを選択します。
  - 譜表の上 (Above Staff)
  - 譜表の下 (Below Staff)
5. 「適用 (Apply)」をクリックしてから「閉じる (Close)」をクリックします。

#### 結果

選択したレイアウトに含まれるすべての数字付き低音の数字の譜表に対するデフォルトの位置が変更されます。

#### ヒント

数字付き低音の数字を選択して **[F]** を押すことでも、譜表に対する位置を個別に変更できます。プロパティ範囲を「ローカル (Locally)」に設定している場合、この変更は現在のレイアウトおよびフレームチェーンのみに影響します。

#### 例



譜表の下の数字付き低音



譜表の上の数字付き低音

#### 関連リンク

[プロパティ範囲の変更 \(828 ページ\)](#)

## 数字付き低音の解決音を移動する

サスペンションの数字の位置や数字付き低音のサスペンション全体のデュレーションに影響を与えることなく、解決音の数字を移動できます。たとえば、サスペンションを別の音符で解決したい場合などに行ないます。

#### 前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。
- 下ゾーンのツールバーで「プロパティ (Properties)」 を選択しておきます。
- 浄書モードの場合は、浄書ツールボックスで「グラフィックの編集 (Graphic Editing)」 を選択しておきます。

#### 手順

1. 移動する解決音の数字を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「数字付き低音 (Figured Bass)」グループで「解決音の位置 (Resolution pos.)」をオンにします。
3. 以下のいずれかの操作を行なって、選択した解決音の数字を移動します。
  - 右に移動するには、左の数値フィールドの値を大きくします。

- 左に移動するには、左の数値フィールドの値を小さくします。
- 左の数値フィールドで設定した位置にある装飾音符の左に移動するには、右の数値フィールドの値を小さくします。

#### ヒント

「1」は4分音符を表わします。

#### 結果

選択した解決音の数字が移動します。

#### ヒント

記譜モードで、解決音の数字のハンドルをクリックし、現在のリズムグリッドの間隔に従って左右にドラッグすることもできます。

#### 例

たとえば、左の数値フィールドに「1」を入力し、右の数値フィールドに「-1/2」を入力すると、解決音の数字が4分音符分サスペンションの数字の右側に移動し、その位置にある2つの16分音符の装飾音符の1つめまで左に移動します。



#### 関連リンク

- [数字付き低音のホールドの線 \(1273 ページ\)](#)
- [浄書モードの数字付き低音 \(1278 ページ\)](#)
- [音符/アイテムの位置の移動 \(502 ページ\)](#)
- [リズムグリッドの間隔の変更 \(241 ページ\)](#)
- [数字付き低音の入力 \(427 ページ\)](#)

## 数字付き低音の臨時記号の衝突回避を変更する

複数行にわたる数字付き低音について、個々の数字の衝突を Dorico Pro がどのように解決するか、プロジェクト全体のデフォルト設定を変更できます。たとえば一部の出版された楽譜では、行間が広がって高さが増すことがないように、数字付き低音の臨時記号が水平方向にオフセットされます。

#### 手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[E]** を押して「**浄書オプション (Engraving Options)**」を開きます。
2. カテゴリーリストの「**数字付き低音 (Figured Bass)**」をクリックします。
3. 「**垂直位置 (Vertical Position)**」セクションの「**衝突回避の方法 (Collision avoidance approach)**」で、以下のいずれかのオプションを選択します。
  - **行間を広げる (Separate rows vertically)**
  - **臨時記号を移動 (Move accidentals)**
4. 必要に応じて、「**詳細設定 (Advanced Options)**」をクリックして衝突回避の追加オプションを表示し、値を変更します。



5. 「適用 (Apply)」をクリックしてから「閉じる (Close)」をクリックします。

---

#### 結果

数字付き低音の衝突回避の方法が、プロジェクト全体で変更されます。

## 数字付き低音の外観

個々の数字の外観は、数字付き低音の入力設定に応じて、現在の浄書オプションまたはポップオーバー入力のどちらかの内容により決定されます。

数字付き低音を入力する際は、入力した内容を Dorico Pro に解釈させて、数字付き低音の外観に関する現在の浄書オプションを適用することも、入力内容に忠実に従わせることもできます。後者は、既存の楽譜の複製作業などでどのように数字を表示させるべきかあらかじめ分かっている場合などに役立ちます。

数字付き低音の入力設定が「入力内容にそのまま従う (Follow input literally)」になっている状態で入力した個々の数字は、リセットして初期設定に従うようにしたあとで、現在の外観を修正することもできます。

Dorico Pro は、初期設定で太字のローマ字フォントの数字付き低音を使用します。数字付き低音に使用するフォントをプロジェクト全体で変更したり、数字付き低音のフォントスタイルの形式設定を編集したりできます。また、タストソロの指示記号に使用される「数字付き低音タストソロ (Figured Bass Tasto Solo)」のパラグラフスタイルも編集できます。

Dorico Pro が通常は数字を表示しない場合 (3rd の音程など) や、休符などで数字のベースノートを認識できない場合は、数字はガイドとして表示されます。

#### ヒント

プロジェクト全体のデフォルトの数字の外観については、「浄書オプション (Engraving Options)」の「数字付き低音 (Figured Bass)」ページに多数のオプションがあります。たとえば、半音上げの 5 度または 6 度音程にストロークを付ける位置などがあります。

---

#### 関連リンク

[数字付き低音の入力 \(427 ページ\)](#)

[数字付き低音の入力設定の変更 \(433 ページ\)](#)

[数字付き低音のホールドの線 \(1273 ページ\)](#)

[休符に数字付き低音を表示する \(1271 ページ\)](#)

[数字付き低音に単一の括弧を表示する \(1272 ページ\)](#)

[「浄書オプション \(Engraving Options\)」ダイアログ \(923 ページ\)](#)

## 数字付き低音に使用するフォントをプロジェクト全体で変更する

初期設定では、数字付き低音には太字のアラビア数字フォントが使用され、これは拍子記号の数字に近い外観です。たとえば数字付き低音をプレーンフォントで表示する場合など、数字付き低音に使用するフォントをプロジェクト全体で変更できます。

---

#### 手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[E]** を押して「浄書オプション (Engraving Options)」を開きます。
2. カテゴリリストの「数字付き低音 (Figured Bass)」をクリックします。
3. 「デザイン (Design)」セクションの「数字付き低音の外観 (Figured bass appearance)」で、以下のいずれかのオプションを選択します。
  - **太字 (Bold font)**

- プレーンフォント (Plain font)
4. 「プレーンフォント (Plain font)」を選択した場合は、「臨時記号 (Accidentals)」セクションの「半音上げまたは半音下げの数字の外観 (Appearance of raised or lowered figures)」には「常に臨時記号を使用 (Always use accidentals)」を選択してください。  
プレーンフォントには数字付き低音の臨時記号の異なる外観用のグリフが含まれていないため、数字の半音上げ/半音下げの表示には臨時記号しか使用できないためです。
  5. 「適用 (Apply)」をクリックしてから「閉じる (Close)」をクリックします。

#### 結果

プロジェクト全体で数字付き低音のフォントスタイルに使用されるフォントが変更されます。

#### ヒント

- 数字付き低音に使用するフォントスタイルの各種設定は、「フォントスタイルを編集 (Edit Font Styles)」ダイアログで編集できます。
  - 数字付き低音の太字の数字には「数字付き低音のフォント (Figured Bass Font)」が使用されます。
  - 数字付き低音のプレーンの数字には「数字付き低音のテキストフォント (Figured Bass Text Font)」が使用されます。
- タストソコの指示記号には「数字付き低音タストソコ (Figured Bass Tasto Solo)」のパラグラフスタイルが使用されます。
- 太字の数字の外観は、「音楽記号を編集 (Edit Music Symbol)」ダイアログで個別に編集できます。

#### 関連リンク

[「音楽記号を編集 \(Edit Music Symbol\)」ダイアログ \(1014 ページ\)](#)

## 数字付き低音のフォントスタイルの編集

プロジェクト全体のすべての数字付き低音の数字に使用されるフォントスタイルの形式設定に関する設定を編集できます。これによりたとえば、デフォルトの表示を大きくできます。

#### 補足

この手順は、「数字付き低音タストソコ (Figured Bass Tasto Solo)」のパラグラフスタイルを使用するタストソコの指示記号には適用されません。

#### 手順

1. 「ライブラリー (Library)」 > 「フォントスタイル (Font Styles)」を選択して、「フォントスタイルを編集 (Edit Font Styles)」ダイアログを開きます。
2. フォントスタイルリストで、以下のいずれかのフォントスタイルを選択します。
  - 数字付き低音のフォント (Figured Bass Font): 数字付き低音の太字の数字に使用
  - 数字付き低音のテキストフォント (Figured Bass Text Font): 数字付き低音のプレーンの数字に使用
3. 以下のオプションを個別または一括で設定することで、対応するフォント属性を変更できます。
  - フォントファミリー (Font family)
  - サイズ (Size)
  - スタイル (Style)
  - 下線 (Underlined)

#### 補足

「数字付き低音のフォント (Figured Bass Font)」のフォントスタイルには、SMuFL 準拠のフォントファミリーを選択する必要があります。

4. 「数字付き低音のフォント (Figured Bass Font)」を選択した場合は、「代替 (Substitutes)」をオンにし、必要に応じて代替フォントを変更します。
5. 「OK」をクリックして変更内容を保存し、ダイアログを閉じます。

#### 結果

選択した数字付き低音のフォントスタイルの形式設定がプロジェクト全体で変更されます。

#### 関連リンク

[「フォントスタイルを編集 \(Edit Font Styles\)」ダイアログ \(930 ページ\)](#)

[「パラグラフスタイル \(Paragraph Styles\)」ダイアログ \(932 ページ\)](#)

[デフォルトのフォントファミリーを変更する \(937 ページ\)](#)

## 数字付き低音の親切オルタレーションの表示/非表示を切り替える

プロジェクト全体で、オルタレーションと同じ小節のみ、または同じ小節と次の小節で、数字付き低音の親切変化記号および親切臨時記号の表示/非表示を切り替えて曖昧さを回避できます。

#### 手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[E]** を押して「**浄書オプション (Engraving Options)**」を開きます。
2. カテゴリリストの「**数字付き低音 (Figured Bass)**」をクリックします。
3. 「**臨時記号 (Accidentals)**」セクションの「**親切変化記号 (Cautionary alterations)**」で、以下のいずれかのオプションを選択します。
  - 「**非表示 (Do Not Show)**」
  - 「**同じ小節に表示 (Show in Same Bar)**」
  - 「**同じ小節と次の小節に表示 (Show in Same and Following Bar)**」
4. 「**適用 (Apply)**」をクリックしてから「**閉じる (Close)**」をクリックします。

#### 結果

数字付き低音の親切変化記号は、「**非表示 (Do Not Show)**」を選択すると非表示になり、「**同じ小節に表示 (Show in Same Bar)**」または「**同じ小節と次の小節に表示 (Show in Same and Following Bar)**」のいずれかを選択すると、プロジェクト全体の選択に応じた位置に表示されます。

## 数字付き低音の複音程を簡略化して表示する

個別の数字付き低音で、複音程 (9 以上の数字) を単音程のように表示できます。一部の版では複音程を単音程のように表示することが好まれており、この場合は数字が第 1 オクターブを反映するものになり、スタックの順序が乱れて表示されます。

#### 前提条件


- 下ゾーンを表示しておきます。
- 下ゾーンのツールバーで「**プロパティ (Properties)**」 を選択しておきます。
- 浄書モードの場合は、浄書ツールボックスで「**グラフィックの編集 (Graphic Editing)**」 を選択しておきます。



## 数字付き低音のリセット

数字付き低音の数字は、たとえば数字付き低音の入力設定を「**入力内容にそのまま従う (Follow input literally)**」にして入力したものを、個別にリセットできます。リセットされた数字は「**浄書オプション (Engraving Options)**」の設定に従い、設定の変更に合わせて更新されます。

### 前提条件

浄書モードの場合は、浄書ツールボックスで「**グラフィックの編集 (Graphic Editing)**」を選択しておきます。

---

### 手順

1. リセットする数字付き低音の数字を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
  2. 「**編集 (Edit)**」 > 「**記譜 (Notations)**」 > 「**数字付き低音 (Figured Bass)**」 > 「**数字付き低音をリセット (Reset Figured Bass)**」を選択します。
- 

### 結果

選択した数字付き低音の数字が、「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**数字付き低音 (Figured Bass)**」ページの現在の設定に従う形でリセットされます。これにより数字の外観とサスペンションのデュレーションが影響を受けます。

### ヒント

「**環境設定 (Preferences)**」の「**キーボードショートカット (Key Commands)**」ページで、「**数字付き低音をリセット (Reset Figured Bass)**」にキーボードショートカットを割り当てることができます。

---

### 関連リンク

[浄書ツールボックス \(554 ページ\)](#)

[「浄書オプション \(Engraving Options\)」ダイアログ \(923 ページ\)](#)

[数字付き低音の入力 \(427 ページ\)](#)

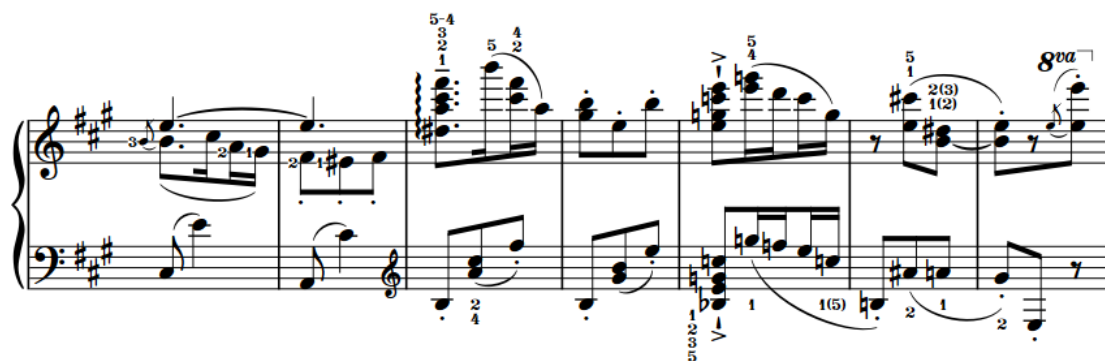
[数字付き低音の入力設定の変更 \(433 ページ\)](#)

[「環境設定 \(Preferences\)」ダイアログの「キーボードショートカット \(Key Commands\)」ページ \(64 ページ\)](#)

# フィンガリング

フィンガリングとは、音符の演奏に推奨される指をプレーヤーに指示するための数字や文字のことで、これは、楽器習得中のプレーヤー向けの楽譜や、難しいパッセージで、特定のフィンガリングのパターンを使用すると音符の演奏が容易になる場合などに効果的です。

フィンガリングは、音符の演奏に 10 本の指すべてを使用する鍵盤楽器の楽譜や、フレット位置と同時に使用されることの多いギター楽譜によく使用されます。しかし、フィンガリングはそれ以外の楽器でも効果的な場合があります。たとえば、弦楽器プレーヤーが音符を伸ばしている間に弦を押さえる指を替えることを指示する場合や、木管楽器プレーヤーのある音符に対し、特殊な音響効果を与えるために、通常とは異なるフィンガリングの使用を指示する場合などです。



ピアノの楽譜には、替え指のフィンガリングや代替フィンガリングを含む複数のフィンガリングが記譜されます。

Dorico Pro は、金管楽器やフレット楽器のためのフィンガリングも作成できます。たとえばトランペットやホルンなどの楽器では、プレーヤーが押下するバルブを指定でき、ダブルホルンにおいては、プレーヤーに使用を求めるホルンの支管を指定できます。フレット楽器の場合は、両手のフィンガリングを入力できます。

Dorico Pro は、フィンガリングの外観に関する一般的な慣習に従い、初期設定では太字のローマ字フォントをフィンガリングに使用します。フィンガリングに使用するフォントをプロジェクト全体で変更したり、フィンガリングのフォントスタイルの形式設定を編集したりできます。

## 関連リンク

- [フィンガリングの入力 \(301 ページ\)](#)
- [フィンガリングのポップオーバー \(302 ページ\)](#)
- [フレット楽器のフィンガリング \(1299 ページ\)](#)
- [バルブ式金管楽器のフィンガリング \(1309 ページ\)](#)
- [フィンガリングスライド \(1305 ページ\)](#)
- [フィンガリングのフォントスタイル \(1295 ページ\)](#)
- [フィンガリングの表示/非表示 \(1294 ページ\)](#)
- [弦の指示記号 \(1313 ページ\)](#)
- [コードダイアグラムのフィンガリングの表示/非表示を切り替える \(1182 ページ\)](#)
- [コードダイアグラムの親指のフィンガリングを許可する/禁止する \(1184 ページ\)](#)

## フィンガリングの一般的な配置規則

フィンガリングは、演奏者が容易かつ明瞭に読めるように、それが属する音符のできるだけ近くに配置されます。

ピアノやハープなど大譜表を用いるインストゥルメントの楽譜においては、右手のフィンガリングは上段の譜表の上、左手のフィンガリングは下段の譜表の下に配置するのが一般的です。しかし、これらのインストゥルメントにおける対位法で記載される密度の高い楽譜については、フィンガリングはそれが属する声部の方向に従い、譜表の間にも配置できます。

フレット楽器のフィンガリングには異なる表記規則が適用されます。これには右手と左手の両方にフィンガリングが必要とされるためです。

### 右手のフィンガリングの位置

初期設定では、右手のフィンガリングはすべて譜表の外側で音符の符頭側に配置されます。つまり符尾の方向に従い譜表の上または下に配置されます。譜表の内側で符頭の音符の横に表示する場合、Dorico Pro は同じ右手のフィンガリングを使用する隣接した音符を自動的に角括弧で結合します。

### 左手のフィンガリングの位置

通常、左手のフィンガリングは譜表の内側の、フィンガリングが適用される音符の左側に配置されます。ただし、臨時記号や付点などの他のアイテムと重ならないようにする必要もあります。Dorico Pro では、左手のフィンガリングには最も適切な位置が自動的に計算されるとともに、デフォルトで背景が白で塗りつぶすことで、譜表線上に配置されたときの可読性を向上させます。

関連リンク

[フレット楽器のフィンガリング \(1299 ページ\)](#)

## 浄書オプションでフィンガリングの設定をプロジェクト全体に適用する

フィンガリングの外観と位置に関するプロジェクト全体の設定は、「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**フィンガリング (Fingering)**」ページで変更できます。

「**フィンガリング (Fingering)**」ページのオプションにより、標準の音符、譜表をまたぐ和音および装飾音符のフィンガリングのフォント、サイズ、外観、配置および詳細な位置を変更できます。これには金管楽器やフレット楽器などインストゥルメントグループごとの詳細設定、およびフィンガリングの囲み線や下線のデザインも含まれます。

そこでは個別のオプションで譜表の内側に表示されるフィンガリングの位置を制御できるとともに、スラー、オクターブ線および連符に対するフィンガリングの位置も変更できます。

多くのオプションに、オプションを楽譜に適用したときにどのように表示されるかを示す図がありません。

関連リンク

[「浄書オプション \(Engraving Options\)」 ダイアログ \(923 ページ\)](#)

## フィンガリングを替え指のフィンガリングに変更する

替え指のフィンガリングは、音符に使用する指を変更することをプレイヤーに指示します。すでに入力してあるフィンガリングは、替え指のフィンガリングに変更できます。

### 前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。
- 下ゾーンのツールバーで「プロパティ (Properties)」を選択しておきます。
- 浄書モードの場合は、浄書ツールボックスで「グラフィックの編集 (Graphic Editing)」を選択しておきます。

---

### 手順

1. 替え指のフィンガリングに変更するフィンガリングを選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「フィンガリングとポジション (Fingering and Positions)」グループで、「替え指 (Substitution)」をオンにします。
3. 替え指に使用するフィンガリングを数値フィールドに入力します。
4. **[Return]** を押します。

---

### 結果

選択したフィンガリングが替え指のフィンガリングとして表示されるようになります。初期設定では替え指を行なうまでの遅延がなく、替え指の位置は元のフィンガリングと同じですが、替え指のフィンガリングの位置は変更できます。


### 関連リンク

- [浄書ツールボックス \(554 ページ\)](#)
- [フィンガリングの入力 \(301 ページ\)](#)
- [フィンガリングのポップオーバー \(302 ページ\)](#)

## 替え指のフィンガリングの位置の変更

替え指のフィンガリングは、初期設定では元のフィンガリングの直後に表示され、これは替え指が同じ音符で行なわれることを意味しますが、替え指が行なわれる位置は個別に変更できます。

### 前提条件

浄書モードの場合は、浄書ツールボックスで「グラフィックの編集 (Graphic Editing)」を選択しておきます。

---

### 手順

1. 替え指の実行まで待機する位置を変更する替え指のフィンガリングを選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. 以下のいずれかの操作を行なって、替え指のフィンガリングの位置を変更します。
  - 記譜モードで、丸いハンドルをクリックして任意の水平位置にドラッグします。
  - 記譜モードまたは浄書モードで、プロパティパネルの「フィンガリングとポジション (Fingering and Positions)」グループで「替え指のオフセット (Substitution offset)」をオンにします。

左側の数値フィールドに4分音符の分数で数値を入力するか、数値フィールドの横の矢印をクリックして、替え指の位置を変更します。値を増やすと後ろの位置に、減らすと前の位置に替え指が移動します。



#### 補足

右側の数値フィールドは、装飾音符の位置に替え指が発生する場合に使用します。

---

#### 結果

替え指のフィンガリングの位置が変更されます。

Dorico Pro では、替え指と同時に発生する他のフィンガリングに対し適切に並ぶように、遅い替え指は自動的に配置されます。

#### 補足

- マウスでハンドルをドラッグする場合、一度に位置を変更できる替え指のフィンガリングは1つだけです。しかし、プロパティパネルの「フィンガリングとポジション (Fingering and Positions)」のグループで「替え指のオフセット (Substitution offset)」を使用すれば、一度に複数の替え指のフィンガリングの位置を変更できます。



即時の替え指にスラーを表示する設定を選択している場合でも、遅い替え指は常に横棒線が表示されます。

- すべての替え指のフィンガリングの符頭に対する配置をプロジェクト全体で変更するには、「浄書オプション (Engraving Options)」 > 「フィンガリング (Fingering)」 > 「位置 (Position)」で設定を行ないます。
- 

## 既存のフィンガリングの変更

フィンガリングは、たとえば他のフィンガリングの方が適切だと判断した場合、入力後でも自由に変更できます。

#### 前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。
  - 下ゾーンのツールバーで「プロパティ (Properties)」  を選択しておきます。
  - 浄書モードの場合は、浄書ツールボックスで「グラフィックの編集 (Graphic Editing)」  を選択しておきます。
- 

#### 手順

- 変更するフィンガリングを選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
  - プロパティパネルの「フィンガリングとポジション (Fingering and Positions)」グループで、「フィンガリングまたはポジション (Finger or position)」の入力フィールドに、任意のフィンガリングを新規に入力します。
  - [Return]** を押します。
- 

#### 結果

選択したフィンガリングが変更されます。

#### ヒント

また既存のフィンガリングは、記譜モードでフィンガリングのポップオーバーを開いても変更できます。ポップオーバーには、選択した音符に付いているフィンガリングが表示されます。

---

#### 関連リンク

[フィンガリングの入力 \(301 ページ\)](#)

[フィンガリングのポップオーバー \(302 ページ\)](#)  
[浄書ツールボックス \(554 ページ\)](#)

## 譜表に対するフィンガリングの位置の変更

Dorico Pro はフィンガリングの位置について自動的に表記規則に従いますが、フレット楽器以外のインストゥルメントのフィンガリングは、プロジェクト全体の設定とは別に譜表の上または下に表示できます。この操作は現在のレイアウトとフレームチェーンのみに対して、もしくはすべてのレイアウトとフレームチェーンに対して行なえます。

表記規則に従うと、鍵盤楽器のフィンガリングは右手の譜表の上、および左手の譜表の下に配置されます。弦楽器および金管楽器のフィンガリングは常に譜表の上に配置されます。

### 補足

これらの手順は、フレット楽器以外のインストゥルメントにのみ適用されます。

### 前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。
- 下ゾーンのツールバーで「プロパティ (Properties)」 を選択しておきます。
- 浄書モードの場合は、浄書ツールボックスで「グラフィックの編集 (Graphic Editing)」 を選択しておきます。
- ローカルのプロパティ変更に関して、適切なプロパティ範囲を選択しておきます。

### 手順

1. 譜表に対する位置を変更するフィンガリングを選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「フィンガリングとポジション (Fingering and Positions)」のグループで、「譜表との相対位置 (Staff-relative position)」をオンにします。
3. 以下のいずれかのオプションを選択します。
  - 上 (Above)
  - 下 (Below)

### 結果

選択したフィンガリングが譜表の上または下に表示されます。プロパティ範囲を「ローカル (Locally)」に設定している場合、この変更は現在のレイアウトおよびフレームチェーンのみに影響します。

### ヒント

- また、浄書モードでフィンガリングを選択して **[F]** を押すことで、譜表に対するフィンガリングの位置を変更することもできます。
- 「浄書オプション (Engraving Options)」にある「フィンガリング (Fingering)」のページでは、譜表に対するフィンガリングの位置が声部の向きに従うようプロジェクト全体で設定できます。

これは、フィンガリングが上段の譜表の上および下段の譜表の下に配置されるだけでは分かりづらい場合がある、複雑な対位法による楽譜に効果的です。

### 関連リンク

[フレット楽器のフィンガリング \(1299 ページ\)](#)  
[「浄書オプション \(Engraving Options\)」ダイアログ \(923 ページ\)](#)  
[浄書ツールボックス \(554 ページ\)](#)

[プロパティ範囲の変更 \(828 ページ\)](#)

[プロパティ設定を別のレイアウト/フレームチェーンにコピーする \(825 ページ\)](#)

## 譜表の内側にフィンガリングを表示する

フレット楽器以外のインストゥルメントのフィンガリングは、個別に譜表の内側の符頭の横に表示位置を変更できます。

### 補足

- これらの手順は、フレット楽器以外のインストゥルメントにのみ適用されます。フレット楽器の左手のフィンガリングは、デフォルトでは譜表の内側に表示されます。
- これらの手順は、替え指のフィンガリングには適用されません。

### 前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。
- 下ゾーンのツールバーで「**プロパティ (Properties)**」を選択しておきます。
- 浄書モードの場合は、浄書ツールボックスで「**グラフィックの編集 (Graphic Editing)**」を選択しておきます。

### 手順

1. 以下のいずれかの操作を行ないます。
  - 記譜モードで、フィンガリングを譜表の内側に表示させる音符を選択します。
  - 浄書モードで、譜表の内側に表示するフィンガリングを選択します。
2. プロパティパネルの「**フィンガリングとポジション (Fingering and Positions)**」グループで、「**符頭の左側 (Position left of notehead)**」をオンにします。

### 結果

選択した音符のフィンガリングが譜表の内側に表示され、符頭の真横に配置されます。初期設定では、フィンガリングが属する音符が譜表線上にある場合、可読性を確保するために譜表線が部分的に消されます。

### ヒント

「**浄書オプション (Engraving Options)**」 > 「**フィンガリング (Fingering)**」 > 「**デザイン (Design)**」 > 「**詳細設定 (Advanced Options)**」では、譜表の内側に表示されるすべてのフィンガリングのプロジェクト全体の塗りつぶしの余白とサイズを変更できます。また、「**位置 (Position)**」セクションでは、プロジェクト全体で音符の左側に表示されるすべてのフィンガリングがどのように衝突を回避するかも変更できます。

### 例



## スラー、オクターブ線および連符の角括弧に対するフィンガリングの位置を変更する

初期設定では、フィンガリングはスラーの弧の内側に配置されますが、スラーの始端と終端では外側に配置されます。スラーに対する個々のフィンガリングの表示位置は、プロジェクト全体の設定より優先される形で個別に変更できます。この操作は現在のレイアウトとフレームチェーンのみに対して、もしくはすべてのレイアウトとフレームチェーンに対して行なえます。

### 前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。
- 下ゾーンのツールバーで「プロパティ (Properties)」を選択しておきます。
- 浄書ツールボックスで「グラフィックの編集 (Graphic Editing)」を選択しておきます。
- ローカルのプロパティ変更に関して、適切なプロパティ範囲を選択しておきます。

---

### 手順

1. 浄書モードで、スラーに対する位置を変更するフィンガリングを選択します。
2. プロパティパネルの「フィンガリングとポジション (Fingering and Positions)」グループで、「スラーとの相対位置 (Slur-relative position)」をオンにします。
3. 以下のいずれかのオプションを選択します。
  - 内側 (Inside)
  - 外側 (Outside)

---

### 結果

選択したフィンガリングのスラー、オクターブ線および連符の角括弧に対する位置が変更されます。プロパティ範囲を「ローカル (Locally)」に設定している場合、この変更は現在のレイアウトおよびフレームチェーンのみに影響します。

### 補足

- フィンガリングがスラーの最初または最後の音符にも付いている場合、フィンガリングはこれらの記譜記号すべての外側に配置されます。
- スラー、オクターブ線および連符の角括弧に対するすべてのフィンガリングの位置に関するプロジェクト全体の設定は、「浄書オプション (Engraving Options)」の「フィンガリング (Fingering)」ページで変更できます。

---

### 関連リンク

[「浄書オプション \(Engraving Options\)」ダイアログ \(923 ページ\)](#)

[浄書ツールボックス \(554 ページ\)](#)

[プロパティ範囲の変更 \(828 ページ\)](#)



[プロパティ設定を別のレイアウト/フレームチェーンにコピーする \(825 ページ\)](#)

## フィンガリングのサイズを変更する

フィンガリングのサイズは、それが属する符頭のサイズを変更することなく個別に変更できます。この操作は現在のレイアウトとフレームチェーンのみに対して、もしくはすべてのレイアウトとフレームチェーンに対して行なえます。

### 前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。

- 下ゾーンのツールバーで「プロパティ (Properties)」を選択しておきます。
- 浄書ツールボックスで「グラフィックの編集 (Graphic Editing)」を選択しておきます。
- ローカルのプロパティ変更に関して、適切なプロパティ範囲を選択しておきます。

---

#### 手順

1. 浄書モードで、サイズを変更するフィンガリングを選択します。
2. プロパティパネルの「フィンガリングとポジション (Fingering and Positions)」グループで、「スケール (Scale)」をオンにします。
3. 数値フィールドの値を変更します。
4. **[Return]** を押します。

---

#### 結果

選択したフィンガリングの縮尺が変更されます。たとえば、値を **50** に変更すると、選択したフィンガリングの縮尺が標準サイズの半分になります。プロパティ範囲を「ローカル (Locally)」に設定している場合、この変更は現在のレイアウトおよびフレームチェーンのみに影響します。

---

#### ヒント

- すべてのフィンガリングのデフォルトのサイズに関するプロジェクト全体の設定は、「フォントスタイルを編集 (Edit Font Styles)」ダイアログの「フィンガリング用フォント (Fingering Font)」のサイズを変更することによって変更できます。
- 装飾音符のフィンガリングのサイズは、「浄書オプション (Engraving Options)」 > 「フィンガリング (Fingering)」 > 「デザイン (Design)」で変更できます。

---

#### 関連リンク

[「フォントスタイルを編集 \(Edit Font Styles\)」ダイアログ \(930 ページ\)](#)

[フィンガリングのフォントスタイル \(1295 ページ\)](#)

## フィンガリングに囲み線/下線を表示する

フレット楽器以外のインストゥルメントのフィンガリングは個別に丸い囲み線または下線を付けて表示できます。



---

#### 補足

これらの手順は、フレット楽器以外のインストゥルメントにのみ適用されます。フレット楽器の場合は、かわりに丸の囲み線の中に表示される弦の指示記号を譜表内に表示できます。

---

#### 前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。
- 下ゾーンのツールバーで「プロパティ (Properties)」を選択しておきます。
- 浄書ツールボックスで「グラフィックの編集 (Graphic Editing)」を選択しておきます。

---

#### 手順

1. 浄書モードで、囲み線/下線を表示するフィンガリングを選択します。
2. プロパティパネルの「フィンガリングとポジション (Fingering and Positions)」グループで、「デコレーション (Decoration)」をオンにします。
3. 以下のいずれかのオプションを選択します。

- 丸 (Circle)
  - 下線 (Underline)
- 

#### 結果

選択したフィンガリングに選択したデコレーションが表示されます。

#### ヒント

「浄書オプション (Engraving Options)」 > 「フィンガリング (Fingering)」 > 「デザイン (Design)」 > 「詳細設定 (Advanced Options)」には、線の太さなどのフィンガリングの装飾について、プロジェクト全体のデフォルトのデザインを決定する設定があります。

---

#### 例



丸で囲まれたフィンガリング



下線付きのフィンガリング

---

#### 関連リンク

[「浄書オプション \(Engraving Options\)」 ダイアログ \(923 ページ\)](#)

[浄書ツールボックス \(554 ページ\)](#)

[弦の指示記号 \(1313 ページ\)](#)

## フィンガリングの表示/非表示

フィンガリングを表示するか非表示にするかは、レイアウトごとに切り替えることができます。たとえば、パートレイアウトではフィンガリングを表示させつつ、フルスコアレイアウトでは非表示にできます。指揮者がフィンガリングの情報を必要とすることはまれなためです。

---

#### 手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[L]** を押して「**レイアウトオプション (Layout Options)**」を開きます。
  2. 「**レイアウト (Layouts)**」リストから、フィンガリングを表示または非表示にするレイアウトを選択します。  
初期設定では、楽譜領域で選択されているものと同じレイアウトが選択された状態のダイアログが表示されます。他のレイアウトを選択するには、アクションバーの選択オプションを使用するか、複数のレイアウトをまたぐようにクリックしてドラッグするか、**[Shift]** を押しながら隣接するレイアウトをクリックするか、**[Ctrl]/[command]** を押しながら個々のレイアウトをクリックします。
  3. カテゴリリストの「**プレイヤー (Players)**」をクリックします。
  4. 「**フィンガリング (Fingering)**」セクションで、「**フィンガリングを表示 (Show fingering)**」をオンまたはオフにします。
  5. 「**適用 (Apply)**」をクリックしてから「**閉じる (Close)**」をクリックします。
-

#### 結果

選択したレイアウトのチェックボックスがオンになっているときはすべてのフィンガリングが表示され、オフになっているときは非表示になります。

#### 関連リンク


[親切フィンガリングの外観を変更する \(1298 ページ\)](#)

[コードダイアグラムのフィンガリングの表示/非表示を切り替える \(1182 ページ\)](#)

## フィンガリングの削除

フィンガリングは入力後に音符から削除できます。ただし、フィンガリングは Dorico Pro の単独のアイテムではなく音符のプロパティであるため、他のアイテムのようにそれ自体を選択して削除することはできません。

#### 前提条件

浄書モードの場合は、浄書ツールボックスで「**グラフィックの編集 (Graphic Editing)**」を選択しておきます。

#### 手順

1. フィンガリングを削除する音符を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. 「**編集 (Edit)**」 > 「**記譜 (Notations)**」 > 「**フィンガリング (Fingering)**」 > 「**フィンガリングをリセット (Reset Fingering)**」を選択します。

#### 結果

選択した音符からすべてのフィンガリングが削除されます。

#### ヒント

「**環境設定 (Preferences)**」の「**キーボードショートカット (Key Commands)**」ページで、「**フィンガリングをリセット (Reset Fingering)**」にキーボードショートカットを割り当てることができます。

#### 関連リンク

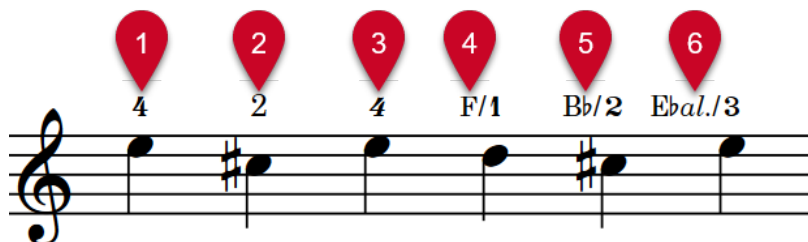
[大きな選択範囲 \(463 ページ\)](#)

[キーボードショートカットの割り当て \(68 ページ\)](#)

[浄書ツールボックス \(554 ページ\)](#)

## フィンガリングのフォントスタイル

フィンガリングのタイプごとに異なるフォントスタイルを設定できます。フォントサイズを変更してフィンガリングを大きく表示するなど、これらのフォントの各種設定は「**フォントスタイルを編集 (Edit Font Styles)**」ダイアログで編集できます。



フィンガリングには以下のフォントスタイルが使用されます。

- 1 **フィンガリング用フォント (Fingering Font):** 太字のフィンガリング (太字斜体のフィンガリングを含む) に使用されます。SMuFL 準拠である必要があります。
- 2 **フィンガリング用テキストフォント (Fingering Text Font):** 標準のフィンガリングに使用されます。
- 3 **フィンガリング用イタリックテキストフォント (Fingering Text Italic Font):** 斜体のフィンガリングに使用されます。
- 4 **「ホルンの支管のフィンガリングのテキストフォント (Fingering Horn Branch Text Font)」:** ホルンの支管の指示記号の音名に使用されます。
- 5 **「ホルンの支管のフィンガリングの臨時記号のフォント (Fingering Horn Branch Accidental Font)」:** ホルンの支管の指示記号の臨時記号に使用されます。SMuFL 準拠である必要があります。
- 6 **「ホルンのアルト支管のフィンガリングのテキストフォント (Fingering Horn Branch Alto Text Font)」:** トリプルホルンの支管の指示記号におけるアルトの省略に使用されます。

#### 補足

フォントスタイルへの変更が、パートレイアウトを含めてプロジェクト全体に適用されます。

---

#### 関連リンク

- [「フォントスタイルを編集 \(Edit Font Styles\)」 ダイアログ \(930 ページ\)](#)
- [フィンガリングのサイズを変更する \(1292 ページ\)](#)
- [弦の指示記号 \(1313 ページ\)](#)
- [開放弦の指示記号の外観を変更する \(1314 ページ\)](#)
- [デフォルトのフォントファミリーを変更する \(937 ページ\)](#)

## フィンガリングに使用するフォントをプロジェクト全体で変更する

初期設定では、フィンガリングは太字のアラビア数字フォントで描かれ、これは拍子記号の数字に近い外観です。プロジェクト全体のフィンガリングに使用されるフォントを変更できます。これはフィンガリングの数字、括弧、角括弧、およびフィンガリング 0 として表示される開放弦の指示記号の外観に影響します。

---

#### 手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[E]** を押して「**浄書オプション (Engraving Options)**」を開きます。
  2. カテゴリーリストの「**フィンガリング (Fingering)**」をクリックします。
  3. 「**デザイン (Design)**」のセクションの「**フィンガリングの外観 (Fingering appearance)**」で、以下のいずれかのオプションを選択します。
    - **太字 (Bold font)**
    - **プレーンフォント (Plain font)**
  4. 「**適用 (Apply)**」をクリックしてから「**閉じる (Close)**」をクリックします。
- 

#### 結果

プロジェクト全体でフィンガリングおよびフィンガリング 0 として表示される開放弦の指示記号に使用するフォントスタイルが変更されます。

#### 補足

- 親指の指示記号、替え指の線とスラー、および金管楽器のバルブの区切り文字に使用するフォントは変更されません。
- フィンガリングに使用するフォントスタイルの各種設定は、「**フォントスタイルを編集 (Edit Font Styles)**」ダイアログで編集できます。





- 太字のフィンガリングは「フィンガリング用フォント (Fingering Font)」を使用します。
- 標準のフィンガリングは「フィンガリング用テキストフォント (Fingering Text Font)」を使用します。

## 個々のフィンガリングを斜体で表示する

フィンガリングは太字の立体フォントで表示されるのが標準ですが、個々のフィンガリングについては斜体による表示もできます。

前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。
- 下ゾーンのツールバーで「プロパティ (Properties)」を選択しておきます。
- 浄書ツールボックスで「グラフィックの編集 (Graphic Editing)」を選択しておきます。

手順

1. 浄書モードで、斜体で表示するフィンガリングを選択します。
2. プロパティパネルの「フィンガリングとポジション (Fingering and Positions)」グループで、「斜体 (Italic)」をオンにします。

結果

選択したフィンガリングが、プロジェクト全体の設定が太字フォントの場合は太字の斜体フォント、プレーンフォントの場合はプレーンの斜体フォントで表示されます。

補足

太字斜体のフィンガリングは連符の数字に極めて似ているため、まぎらわしい場合があります。

## 親切フィンガリング

親切フィンガリングは、先の位置で指定されたフィンガリングが、演奏中の音符にそのまま適用されることをプレーヤーに伝えます。Dorico Pro は、先にフィンガリングを指定した音符の演奏中の位置に他のフィンガリングが追加された場合、自動的に親切フィンガリングを表示します。

初期設定では、親切フィンガリングは括弧に入って表示されます。親切フィンガリングには括弧なしの表示や完全な非表示も選択でき、これはプロジェクト全体に反映されます。また親切フィンガリングの外観は個別に変更でき、これによりたとえば、組段区切りやフレーム区切りをまたぐタイでつながれた音符に、手動で親切フィンガリングを表示できます。



括弧つきで表示される親切フィンガリング (デフォルト)

関連リンク

[フィンガリングの入力 \(301 ページ\)](#)

[フィンガリングのポップオーバー \(302 ページ\)](#)

## 親切フィンガリングの外観を変更する

親切フィンガリングの外観は、プロジェクト全体の設定より優先される形で個別に変更できます。これによりたとえば、特定のフィンガリングについて括弧をなくしたり、非表示にしたりできます。この操作は現在のレイアウトとフレームチェーンのみに対して、もしくはすべてのレイアウトとフレームチェーンに対して行なえます。

### 補足

これらの手順は親切フィンガリングにのみ適用されます。

### 前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。
- 下ゾーンのツールバーで「プロパティ (Properties)」を選択しておきます。
- 浄書ツールボックスで「グラフィックの編集 (Graphic Editing)」を選択しておきます。
- ローカルのプロパティ変更に関して、適切なプロパティ範囲を選択しておきます。

### 手順

1. 浄書モードで、親切フィンガリングの外観を変更する符頭を選択します。

### 補足

フィンガリング自体ではなく、親切フィンガリングが適用される特定の符頭を選択する必要があります。

2. プロパティパネルの「フィンガリングとポジション (Fingering and Positions)」グループで、「親切臨時記号 (Cautionary)」をオンにします。
3. メニューから以下のいずれかのオプションを選択します。
  - デフォルト (Default)
  - 括弧つき (With parentheses)
  - 括弧なし (Without parentheses)
  - 抑制 (Suppress)

### 結果

選択した音符の親切フィンガリングの外観が変更されます。プロパティ範囲を「ローカル (Locally)」に設定している場合、この変更は現在のレイアウトおよびフレームチェーンのみに影響します。

### ヒント

すべての親切フィンガリングのデフォルトの外観をプロジェクト全体で変更するには、「浄書オプション (Engraving Options)」>「フィンガリング (Fingering)」>「代替、編者注および親切フィンガリング (Alternative, Editorial and Cautionary)」で設定を行ないます。

### 関連リンク

[「浄書オプション \(Engraving Options\)」ダイアログ \(923 ページ\)](#)

[浄書ツールボックス \(554 ページ\)](#)

[プロパティ範囲の変更 \(828 ページ\)](#)

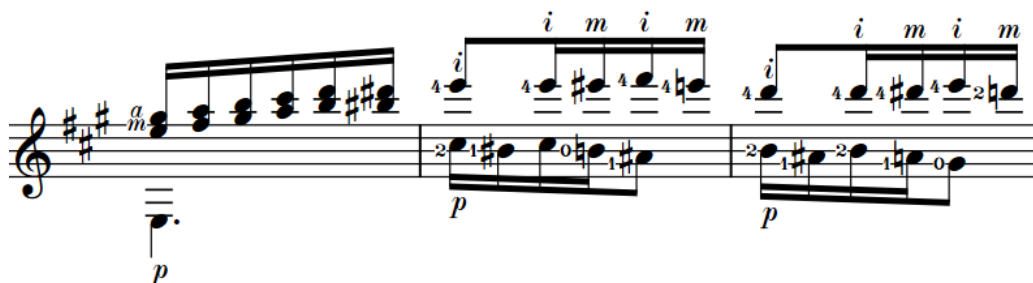
[プロパティ設定を別のレイアウト/フレームチェーンにコピーする \(825 ページ\)](#)

[親切臨時記号を表示/非表示にするか括弧を付ける \(1062 ページ\)](#)

## フレット楽器のフィンガリング

クラシックギターなどのフレット楽器は、楽譜が複雑になることから、両手のフィンガリングの追加指示と浄書オプションが必要になります。

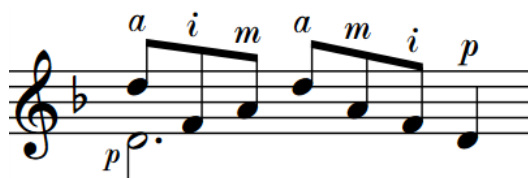
フレット楽器のフィンガリングには、通常のフィンガリングと同じフォントが使われます。



右手と左手のフィンガリングが表示された楽節

### 右手のフィンガリング

右手のフィンガリングは、弦をはじく指 (通常は右手) を演奏者に指示します。初期設定では、右手のフィンガリングはすべて譜表の外側の音符の符頭側に配置され、複声部では声部の符尾の方向に従って配置されます。コード内の複数の音符を同じ指で演奏する場合、その指ではじく複数の音符に対し、1つのフィンガリングを角括弧付きで表示できます。



Dorico Pro の初期設定では、右手の親指のフィンガリングには「p」、右手の小指のフィンガリングには「e」が表示されますが、これらの文字にはさまざまな表記規則があります。すべてのフィンガリングに適用されるこれらのデフォルト設定は、プロジェクト全体で変更できます。

### 左手のフィンガリング

左手のフィンガリングは、弦を押さえる指 (通常は左手) を演奏者に指示します。Dorico Pro では、左手のフィンガリングは譜表の内側の、フィンガリングが適用される音符の左側に配置されます。



譜表の内側で音符の横に表示される場合、左手のフィンガリングは譜表の外側に表示されるフィンガリングよりも小さく表示されます。譜表の内側に表示される左手のフィンガリングのデフォルトの倍率は95%です。これは、「浄書オプション (Engraving Options)」 > 「フィンガリング (Fingering)」 > 「デザイン (Design)」 > 「詳細設定 (Advanced Options)」で変更できます。

### 関連リンク

[フィンガリングの入力 \(301 ページ\)](#)

[フィンガリングのポップオーバー \(302 ページ\)](#)

[フィンガリングのフォントスタイル \(1295 ページ\)](#)

[フレット楽器のフィンガリングに表示される文字を変更する \(1305 ページ\)](#)

[アルペジオ記号にフィンガリングを追加する \(1303 ページ\)](#)  
[フィンガリングスライド \(1305 ページ\)](#)  
[弦の指示記号 \(1313 ページ\)](#)  
[タッピング \(1486 ページ\)](#)  
[ハンマーオンとプルオフ \(1488 ページ\)](#)  
[「浄書オプション \(Engraving Options\)」 ダイアログ \(923 ページ\)](#)

## 右手のフィンガリングの角括弧を表示/非表示にする

同じコード内の複数の音符を右手の同じ指ではじく場合、同じフィンガリングを各音符に1つずつ表示することも、その指ではじく音符にまたがる角括弧を使ってすべての音符に対して1つのフィンガリングを表示することもできます。フィンガリングを各音符に1つずつ表示する場合、それぞれのフィンガリングを譜表の上下どちらに配置するか選択できます。この操作は現在のレイアウトとフレームチェーンのみに対して、もしくはすべてのレイアウトとフレームチェーンに対して行なえます。

### 補足

これらの手順は、フレット楽器の右手のフィンガリングにのみ適用されます。

---

### 前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。
  - 下ゾーンのツールバーで「プロパティ (Properties)」を選択しておきます。
  - 浄書モードの場合は、浄書ツールボックスで「グラフィックの編集 (Graphic Editing)」を選択しておきます。
  - ローカルのプロパティ変更に関して、適切なプロパティ範囲を選択しておきます。
- 

### 手順

1. 右手のフィンガリングの角括弧の表示/非表示を切り替える音符をすべて選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
  2. プロパティパネルの「つま弾くフィンガリング (Plucked Fingering)」のグループで、「垂直位置 (Vertical position)」をオンにします。
  3. メニューから以下のいずれかのオプションを選択します。
    - 角括弧を非表示にして、選択した音符それぞれに個別のフィンガリングを表示するには、「譜表の上 (Above staff)」または「譜表の下 (Below staff)」を選択します。
    - 角括弧を表示して、それぞれの角括弧内のすべての音符に対して1つのフィンガリングを表示するには、「音符の横 (Next to note)」を選択します。
- 

### 結果

選択した右手のフィンガリングの角括弧が表示または非表示になります。「譜表の上 (Above staff)」または「譜表の下 (Below staff)」を選択した場合は、譜表に対する位置も一緒に変更されます。プロパティ範囲を「ローカル (Locally)」に設定している場合、この変更は現在のレイアウトおよびフレームチェーンのみに影響します。

### ヒント

右手のフィンガリングすべての譜表に対するデフォルトの位置は、「浄書オプション (Engraving Options)」 > 「フィンガリング (Fingering)」 > 「位置 (Position)」で変更できます。

---

例



右手のフィンガリングを音符の横に角括弧付きで表示した状態

右手のフィンガリングを譜表の上に表示した状態

右手のフィンガリングを譜表の下に表示した状態

関連リンク

[「浄書オプション \(Engraving Options\)」ダイアログ \(923 ページ\)](#)

[浄書ツールボックス \(554 ページ\)](#)

[プロパティ範囲の変更 \(828 ページ\)](#)

[プロパティ設定を別のレイアウト/フレームチェーンにコピーする \(825 ページ\)](#)

## 左手のフィンガリングの位置を変更する

左手のフィンガリングの位置を個別に変更できます。この操作は現在のレイアウトとフレームチェーンのみに対して、もしくはすべてのレイアウトとフレームチェーンに対して行なえます。初期設定では、左手のフィンガリングは譜表の内側の、フィンガリングが適用される音符の左側に配置されます。

補足

これらの手順は、フレット楽器の左手のフィンガリングにのみ適用されます。

前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。
- 下ゾーンのツールバーで「**プロパティ (Properties)**」を選択しておきます。
- 浄書モードの場合は、浄書ツールボックスで「**グラフィックの編集 (Graphic Editing)**」を選択しておきます。
- ローカルのプロパティ変更に関して、適切なプロパティ範囲を選択しておきます。

手順

1. 位置を変更する左手のフィンガリングを選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「**フィンガリングとポジション (Fingering and Positions)**」グループで、「**止め指のポジション (Stopping finger position)**」をオンにします。
3. メニューから以下のいずれかのオプションを選択します。
  - **譜表の外側 (Outside staff)**
  - **音符の左側 (Left of note)**
  - **音符の右側 (Right of note)**

#### 結果

選択した左手のフィンガリングの位置が変更されます。譜表の外側に表示した場合、初期設定では譜表の上に配置されます。プロパティ範囲を「ローカル (Locally)」に設定している場合、この変更は現在のレイアウトおよびフレームチェーンのみに影響します。

#### ヒント

「浄書オプション (Engraving Options)」 > 「フィンガリング (Fingering)」 > 「位置 (Position)」では、プロジェクト全体で音符の左側に表示されるすべてのフィンガリングがどのように衝突を回避するかを変更できます。

#### 例



譜表の外側 (Outside staff)



音符の左側 (Left of note)



音符の右側 (Right of note)

#### 関連リンク

[フィンガリングの一般的な配置規則 \(1287 ページ\)](#)

[「浄書オプション \(Engraving Options\)」 ダイアログ \(923 ページ\)](#)

[フィンガリングの入力 \(301 ページ\)](#)

## 譜表内の左手のフィンガリングの背景を塗りつぶす

左手のフィンガリングは譜表内の譜表線上に配置されることが多いため、Dorico Pro の初期設定では、左手のフィンガリングの背景が塗りつぶされます。左手のフィンガリングの背景を塗りつぶすかどうかは個別に変更できます。この操作は現在のレイアウトとフレームチェーンのみに対して、もしくはすべてのレイアウトとフレームチェーンに対して行なえます。

#### 補足

これらの手順は、譜表の内側に配置されたフレット楽器の左手のフィンガリングにのみ適用されます。

#### 前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。
- 下ゾーンのツールバーで「プロパティ (Properties)」を選択しておきます。
- 浄書ツールボックスで「グラフィックの編集 (Graphic Editing)」を選択しておきます。
- ローカルのプロパティ変更に関して、適切なプロパティ範囲を選択しておきます。

#### 手順

1. 浄書モードで、背景の塗りつぶしを変更する左手のフィンガリングを選択します。
2. プロパティパネルの「フィンガリングとポジション (Fingering and Positions)」グループで、「背景を塗りつぶす (Erase background)」をオンにします。
3. 対応するチェックボックスをオン/オフにします。

### 結果

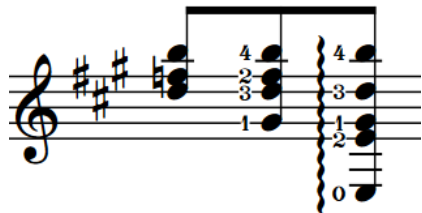
チェックボックスがオンの場合は選択した左手のフィンガリングの背景が塗りつぶされ、オフの場合は塗りつぶされません。プロパティ範囲を「ローカル (Locally)」に設定している場合、この変更は現在のレイアウトおよびフレームチェーンのみに影響します。

プロパティをオフにすると、左手のフィンガリングの表示は背景を塗りつぶすかどうかのプロジェクト全体の設定に従います。

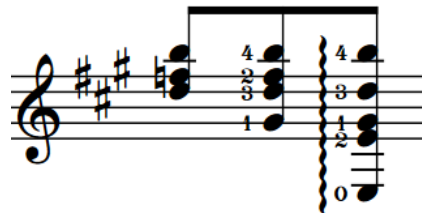
### ヒント

「浄書オプション (Engraving Options)」 > 「フィンガリング (Fingering)」 > 「デザイン (Design)」 > 「詳細設定 (Advanced Options)」 > 「譜表の内側のフィンガリング (Fingerings inside the staff)」では、左手のすべてのフィンガリングの背景の塗りつぶしに関するプロジェクト全体のデフォルト設定を変更できます。

### 例



背景が塗りつぶされた左手のフィンガリング



背景が塗りつぶされていない左手のフィンガリング



## アルペジオ記号にフィンガリングを追加する

右手のどの指でコードをかき鳴らすかを指示するために、アルペジオ記号にフィンガリングを追加できます。初期設定では、フィンガリングはアルペジオ記号の下に配置されます。

### 補足

これらの手順は、フレット楽器のアルペジオ記号にのみ適用されます。

### 前提条件

- フィンガリングを追加するアルペジオ記号を入力しておきます。
- 下ゾーンを表示しておきます。
- 下ゾーンのツールバーで「プロパティ (Properties)」を選択しておきます。
- 浄書モードの場合は、浄書ツールボックスで「グラフィックの編集 (Graphic Editing)」を選択しておきます。

### 手順

1. フィンガリングを追加するフレット楽器のアルペジオ記号を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「つま弾くフィンガリング (Plucked Fingering)」のグループで、「指 (Finger)」をオンにします。
3. 使用するフィンガリングを値フィールドに入力します。  
たとえば、親指の場合は「p」と入力します。

#### 結果

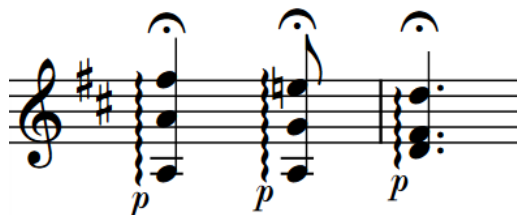
選択したアルペジオ記号に指定したフィンガリングが追加されます。初期設定では、アルペジオ記号の下に配置されます。

#### ヒント

アルペジオ記号のフィンガリングに関するオプションは、「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**フィンガリング (Fingering)**」ページにあります。たとえば、通常のフィンガリングに対するデフォルト倍率のオプションは、「**デザイン (Design)**」セクションの「**詳細設定 (Advanced Options)**」をクリックすると表示されます。

---

#### 例



親指で演奏するアルペジオ記号

---

#### 関連リンク

[装飾音、アルペジオ記号、グリッサンドライン、ジャズアーティキュレーションの入力方法 \(370 ページ\)](#)

[「浄書オプション \(Engraving Options\)」ダイアログ \(923 ページ\)](#)

[浄書ツールボックス \(554 ページ\)](#)

## アルペジオ記号のフィンガリングを譜表内に表示することを許可する/許可しない

初期設定では、アルペジオ記号のフィンガリングは常に譜表の外側に表示されます。アルペジオ記号が譜表内で終わる場合に、アルペジオ記号のフィンガリングを譜表内に表示することを許可するかどうかを選択できます。

#### 補足

これらの手順は、フレット楽器のアルペジオ記号にのみ適用されます。

---

#### 手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[E]** を押して「**浄書オプション (Engraving Options)**」を開きます。
  2. カテゴリーリストの「**フィンガリング (Fingering)**」をクリックします。
  3. 「**位置 (Position)**」セクションの「**垂直位置 (Vertical Position)**」サブセクションにある「**アルペジオ記号のフィンガリングの垂直位置 (Vertical position for arpeggio sign fingering)**」で、以下のいずれかのオプションを選択します。
    - **譜表の外側を強制 (Force outside staff)**
    - **譜表の内側を許可 (Allow in staff)**
  4. 「**適用 (Apply)**」をクリックしてから「**閉じる (Close)**」をクリックします。
-



## フレット楽器のフィンガリングに表示される文字を変更する

親指と小指を示すフィンガリングに表示される文字を変更できます。Dorico Pro の初期設定では、親指にはp、小指にはeが表示されます。

### 手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[E]** を押して「**浄書オプション (Engraving Options)**」を開きます。
2. カテゴリリストの「**フィンガリング (Fingering)**」をクリックします。
3. 「**デザイン (Design)**」セクションの「**右手でつま弾くフィンガリング (Right-hand Plucked Fingering)**」サブセクションにある「**親指の指示記号 (Thumb indicator)**」で、以下のいずれかのオプションを選択します。
  - **P (Pulgar)**
  - **T (Thumb)**
4. 「**小指の指示記号 (Pinky finger indicator)**」で以下のいずれかのオプションを選択します。
  - **E**
  - **Q**
  - **C**
  - **S**
  - **O**
  - 「**X**」
5. 「**適用 (Apply)**」をクリックしてから「**閉じる (Close)**」をクリックします。

### 結果

親指と小指のフィンガリングに使用されている文字がプロジェクト全体で変更されます。

### 関連リンク

[フィンガリングのポップオーバー \(302 ページ\)](#)

## フィンガリングスライド

フィンガリングスライドは、楽器のネックに沿って指を上下にスライドすることを演奏者に指示するもので、フィンガリングの間に斜めの線として記譜されます。

フィンガリングスライドの開始位置の音符をスライド元の音符と呼びます。フィンガリングスライドの終了位置の音符をスライド先の音符と呼びます。



フィンガリングスライドが表示された楽節

スライド元の音符とスライド先の音符の水平距離が十分に近い場合、フィンガリングスライドは、フィンガリングの既存の位置を動かすことなく、それらを直接結合するようにフィンガリング同士の間に表示されます。スライド元の音符とスライド先の音符の水平距離が離れている場合、フィンガリングスラ

イドはスライド先の音符の左側に固定の長さで表示されます。フィンガリングスライドの長さは個別に変更できます。

フィンガリングスライドは、符頭、臨時記号、他のフィンガリングなどの障害物を自動的に回避します。

#### 補足

- Dorico Pro では、開始位置/終了位置のフィンガリングを動かすと、フィンガリングスライドの長さ/角度が自動的に調整されます。
- Dorico Pro でフィンガリングスライドを表示できるのは、フレット楽器に属する譜表のみであり、初期設定では、音符間の間隔が符頭3つ分までの音符間のみです。その他の弦楽器に属する譜表には、弦楽器におけるフィンガリングのシフト指示記号を表示できます。

#### 関連リンク

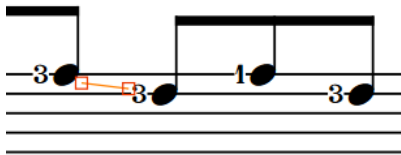
[弦楽器におけるフィンガリングのシフト指示の表示/非表示 \(1310 ページ\)](#)

[グリッサンドライン \(1461 ページ\)](#)

[ジャズアーティキュレーション \(1495 ページ\)](#)

## 浄書モードのフィンガリングスライド

浄書モードでは、結合を行なうフィンガリングスライドにはそれぞれ開始位置と終了位置の2か所に四角いハンドルがあります。これらのハンドルを動かして、結合を行なうフィンガリングスライドの表示位置、長さ、および角度を調節できます。



2つの音符をつなぐスライドのハンドル (浄書モード)

#### 補足

- フィンガリングスライドの長さを変更する場合は、まず「**スライドタイプ (Slide type)**」プロパティを変更するかフィンガリングを移動することをおすすめします。Dorico Pro では、開始位置/終了位置のフィンガリングを動かすと、フィンガリングスライドの長さ/角度が自動的に調整されます。
- フィンガリングスライドのリズム上の位置を移動することはできません。フィンガリングスライドを適用する音符を変更する場合は、元の音符間のフィンガリングスライドを非表示にして、新しい音符間に新しいフィンガリングスライドを表示する必要があります。
- スライド先の音符の前にもみ表示されるフィンガリングスライドは長さが固定されているため、開始位置/終了位置のハンドルはありません。
- 音符同士をつなぐフィンガリングスライド全体を移動することはできません。移動できるのはハンドルのみです。



## フィンガリングスライドを表示/非表示にする

フレット楽器の同一の弦上で左手の同じ指を使って複数の音符を演奏する場合、それらの音符の間にスライドを表示したり、非表示にしたりできます。

### 補足

これらの手順が適用されるのは、フレット楽器のフィンガリングのみであり、初期設定では、音符間の間隔が符頭3つ分までの音符のみです。

### 前提条件

- スライドの開始位置と終了位置の音符に、同じ左手のフィンガリングを入力しておきます。
- スライドの開始位置と終了位置の音符に、同じ弦を指定しておきます。
- 下ゾーンを表示しておきます。
- 下ゾーンのツールバーで「プロパティ (Properties)」を選択しておきます。
- 浄書モードの場合は、浄書ツールボックスで「グラフィックの編集 (Graphic Editing)」を選択しておきます。

### 手順

1. フィンガリングスライドを表示/非表示にするスライド先の音符を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「フィンガリングとポジション (Fingering and Positions)」のグループで、「スライドイン (Slide in)」をオン/オフにします。

### 結果

「スライドイン (Slide in)」をオンにすると選択した音符の前にフィンガリングスライドが表示され、オフにすると非表示になります。

- スライド元の音符とスライド先の音符の間隔が十分に近い場合、フィンガリングスライドはフィンガリング同士を結合する斜めの線として表示されます。
- 間隔が離れている場合、フィンガリングスライドはスライド先の音符の左側に固定の長さの斜めの線として表示されます。

### ヒント

スライドの位置や角度を調節したい場合は、浄書モードでフィンガリングまたはスライド自体の表示位置を動かすことができます。Dorico Pro では、開始位置/終了位置のフィンガリングを動かすと、フィンガリングスライドの長さ/角度が自動的に調整されます。

### 関連リンク

- [浄書ツールボックス \(554 ページ\)](#)
- [フィンガリングの入力 \(301 ページ\)](#)
- [既存のフィンガリングの変更 \(1289 ページ\)](#)
- [弦への音符の割り当て \(1397 ページ\)](#)
- [アイテムの表示位置の移動 \(652 ページ\)](#)

## フィンガリングスライドの長さを変更する

プロジェクト全体の最大距離のしきい値に関係なく、個々のフィンガリングスライドの長さを変更して、スライド元のフィンガリングとスライド先のフィンガリングを結合するスライドとして表示したり、スライド先の音符の前に固定の長さのフィンガリングスライドとして表示したりできます。この操

作は現在のレイアウトとフレームチェーンのみに対して、もしくはすべてのレイアウトとフレームチェーンに対して行なえます。

#### 補足

これらの手順は、フレット楽器のフィンガリングにのみ適用されます。

#### 前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。
- 下ゾーンのツールバーで「プロパティ (Properties)」を選択しておきます。
- 浄書ツールボックスで「グラフィックの編集 (Graphic Editing)」を選択しておきます。
- ローカルのプロパティ変更に関して、適切なプロパティ範囲を選択しておきます。

#### 手順

1. 浄書モードで、長さを変更するフィンガリングスライドを選択します。
2. プロパティパネルの「フィンガリングとポジション (Fingering and Positions)」グループで、「スライドタイプ (Slide type)」をオンにします。
3. 以下のいずれかのオプションを選択します。
  - 開始位置/終了位置のフィンガリングの間にフィンガリングスライドを表示するには、「結合 (Join)」を選択します。
  - スライド先のフィンガリングの前に固定の長さのフィンガリングスライドを表示するには、「スライド先のみ (Destination only)」を選択します。

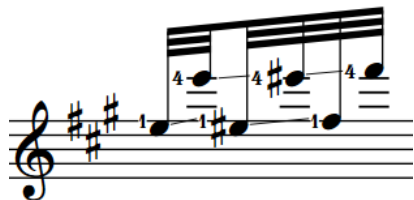
#### 結果

選択したフィンガリングスライドの長さを変更されます。プロパティ範囲を「ローカル (Locally)」に設定している場合、この変更は現在のレイアウトおよびフレームチェーンのみに影響します。

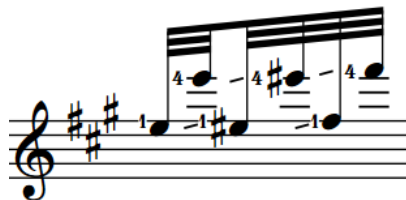
#### ヒント

「浄書オプション (Engraving Options)」 > 「フィンガリング (Fingering)」 > 「フィンガリングスライド (Fingering Slides)」では、その値を超えたら開始位置/終了位置のフィンガリングを結合するかわりに、スライド先の音符の前にのみフィンガリングスライドを表示するデフォルトのしきい値を変更できます。

#### 例



結合 (Join)



スライド先のみ (Destination only)

#### 関連リンク

[フレット楽器のフィンガリング \(1299 ページ\)](#)

[浄書ツールボックス \(554 ページ\)](#)

[プロパティ範囲の変更 \(828 ページ\)](#)

[プロパティ設定を別のレイアウト/フレームチェーンにコピーする \(825 ページ\)](#)  
[「浄書オプション \(Engraving Options\)」 ダイアログ \(923 ページ\)](#)

## バルブ式金管楽器のフィンガリング

トランペットやホルンなどのインストゥルメントにおいては、特定の音を出す上でどのバルブを押下するかを示すために、フィンガリングが使用されます。

バルブ式金管楽器のフィンガリングは、フィンガリングのポップオーバーに、区切り文字なしの数字で入力できます。たとえば、トランペットのC#の音に **12** と入力して、1 番めと 2 番めのバルブを押下するよう指示します。

初期設定では、Dorico Pro は金管楽器の譜表の音符に追加されるフィンガリングを自動的に縦に積み重ねます。初期設定では区切り文字は表示されません。

バルブ式金管楽器のフィンガリングの外観は、「**浄書オプション (Engraving Options)**」 > 「**フィンガリング (Fingering)**」 > 「**金管楽器 (Brass)**」で変更できます。たとえば、バルブ式金管楽器のフィンガリングは、横一列または縦に積み重ねて表示できます。区切り文字の外観も変更でき、また非表示にできます。

バルブ式金管楽器のフィンガリングの各部分に使用されるフォントの形式設定を編集することもできます。

### 関連リンク

[フィンガリングのフォントスタイル \(1295 ページ\)](#)  
[フィンガリングの入力 \(301 ページ\)](#)  
[フィンガリングのポップオーバー \(302 ページ\)](#)  
[「浄書オプション \(Engraving Options\)」 ダイアログ \(923 ページ\)](#)

## ホルンの支管の指示記号の表示

ホルンのフィンガリングに先頭テキストとして支管の指示記号を加えることにより、ダブルホルンおよびトリプルホルンに対し、音符を演奏する支管を指示できます。単に親指 (thumb) の T を表記する場合もあれば、ピッチを明記することにより、どの支管を使用するかより明確に指示する場合があります。

### 補足

支管の指示記号を追加できるのは、F 調のホルンに属する音符だけです。

### 前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。
- 下ゾーンのツールバーで「**プロパティ (Properties)**」  を選択しておきます。
- 浄書モードの場合は、浄書ツールボックスで「**グラフィックの編集 (Graphic Editing)**」  を選択しておきます。

### 手順

1. 支管の指示記号を追加するホルンのフィンガリングを選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「**フィンガリングとポジション (Fingering and Positions)**」グループで、「**ホルンの支管 (Horn branch)**」をオンにします。
3. メニューから以下のいずれかのホルンの支管を選択します。
  - F

- B フラット (B flat)
  - F アルト (F alto)
  - E フラットアルト (E flat alto)
  - サムトリガー (Thumb trigger)
- 

#### 結果

選択したフィンガリングに支管の指示記号が追加されます。

#### ヒント

支管の指示記号の外観は、「浄書オプション (Engraving Options)」>「フィンガリング (Fingering)」>「金管楽器 (Brass)」で変更できます。

---

## 金管楽器のスライドポジションの外観の変更

トロンボーンなどのスライド式金管楽器においては、スライドポジションの表示にはアラビア数字かローマ数字のいずれかを使用できます。初期設定では、Dorico Pro はスライドポジションにアラビア数字を使用します。

#### 補足

プロジェクトにおいてスライドポジションの表示にローマ数字を選択していたとしても、フィンガリングのポップオーバーにスライドポジションを入力する際は、アラビア数字を使用しなければなりません。

---

#### 手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[E]** を押して「浄書オプション (Engraving Options)」を開きます。
  2. カテゴリーリストの「フィンガリング (Fingering)」をクリックします。
  3. 「金管楽器 (Brass)」セクションの「スライド式金管楽器 (Slide brass instruments)」サブセクションにある「スライドポジションの外観 (Slide position appearance)」で、以下のいずれかのオプションを選択します。
    - アラビア数字 (Arabic numerals)
    - ローマ数字 (Roman numerals)
  4. 「適用 (Apply)」をクリックしてから「閉じる (Close)」をクリックします。
- 

#### 結果

スライド式金管楽器のスライドポジションに使用する数字のスタイルがプロジェクト全体で変更されます。

## 弦楽器におけるフィンガリングのシフト指示の表示/非表示

弦楽器インストゥルメントに属する個々のフィンガリングの後のシフト指示の表示/非表示を切り替えることができます。この操作は現在のレイアウトとフレームチェーンのみに対して、もしくはすべてのレイアウトとフレームチェーンに対して行なえます。



シフト指示は、弦楽器プレーヤーが指板の上で指のポジションをシフトさせて、前の音符から指を変えずに高い/低い音符を演奏しなければならない場合の移動方向を指示する斜めの線です。

## 補足

これらの手順は、フィンガリングスライドを表示できるフレット楽器のフィンガリングには適用されません。

---

## 前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。
  - 下ゾーンのツールバーで「プロパティ (Properties)」を選択しておきます。
  - 浄書モードの場合は、浄書ツールボックスで「グラフィックの編集 (Graphic Editing)」を選択しておきます。
  - ローカルのプロパティ変更に関して、適切なプロパティ範囲を選択しておきます。
- 

## 手順

1. 弦楽器の譜表上で、フィンガリングシフトの開始を指示する音符またはフィンガリングを選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
  2. プロパティパネルの「フィンガリングとポジション (Fingering and Positions)」グループで、「次の音符へのシフトを指示 (Indicate shift to next note)」をオンまたはオフにします。
- 

## 結果

シフト指示記号が、プロパティをオンにしたときは表示 (各端の音符にフィンガリングが明記されていない場合を含む)、プロパティをオフにしたときは非表示になります。シフト指示記号は選択した音符とその直後の音符の間に配置されます。プロパティ範囲を「ローカル (Locally)」に設定している場合、この変更は現在のレイアウトおよびフレームチェーンのみに影響します。

---

## ヒント

- 弦楽器のフィンガリングを入力する際に、フィンガリングに弦のシフト指示を表示するように指定できます。
  - シフト指示記号の長さ、太さ、角度および配置は、「浄書オプション (Engraving Options)」 > 「フィンガリング (Fingering)」 > 「弦楽器におけるフィンガリングのシフト (String Fingering Shifts)」で変更できます。
- 

## 例



## 関連リンク

- [フィンガリングの入力 \(301 ページ\)](#)
- [フィンガリングスライド \(1305 ページ\)](#)
- [弦への音符の割り当て \(1397 ページ\)](#)
- [「浄書オプション \(Engraving Options\)」 ダイアログ \(923 ページ\)](#)
- [浄書ツールボックス \(554 ページ\)](#)
- [プロパティ範囲の変更 \(828 ページ\)](#)

## 弦楽器におけるフィンガリングのシフト指示記号の方向を変更する

個々の弦楽器におけるフィンガリングのシフト指示記号が望む向きとは異なる場合、これを変更できません。

前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。
- 下ゾーンのツールバーで「プロパティ (Properties)」 を選択しておきます。
- 浄書モードの場合は、浄書ツールボックスで「グラフィックの編集 (Graphic Editing)」 を選択しておきます。

---

手順

1. 向きを変更するシフト指示記号を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「フィンガリングとポジション (Fingering and Positions)」グループで、「シフト方向 (Shift direction)」をオンにします。
3. 以下のいずれかのオプションを選択します。
  - 上 (Up)
  - 下 (Down)

---

結果

選択したシフト指示記号が上向きまたは下向きに変更されます。

補足

また、音符を演奏する弦を指定しても、弦楽器のシフト指示記号の方向に影響を与られません。

---

## MusicXML ファイルから読み込まれたフィンガリング

Dorico Pro は、MusicXML ファイルのフィンガリング要素を使用して指定されたフィンガリングを読み込みます。

Finale から書き出された MusicXML ファイルであれば、フィンガリングは通常正しく表現されます。しかし Sibelius はフィンガリング要素を使用しないため、Sibelius によって書き出された MusicXML ファイルからは、Dorico Pro はフィンガリングを読み込めません。



# 弦の指示記号

弦の指示記号は、一般的にギター楽譜でどの弦で音符を弾くべきかを指示するために使用され、特に複数の弦で弾くことのできるピッチで役立ちます。

弦の指示記号は、丸の囲み線の中に弦の番号が表示され、弦の指示記号が音符の範囲に適用されることを示す破線を表示することもできます。通常、開放弦のピッチは囲み線なしの0として表示されます。

Dorico Pro では、押さえて弾く音の譜表の内側の弦の指示記号がプレーンフォントで表示され、開放弦の譜表の内側の指示記号にはフィンガリング用フォントを使用してフィンガリング0として表示されます。弦の指示記号の外観を編集する場合は、「演奏技法を編集 (Edit Playing Techniques)」ダイアログで行ないます。



弦の指示記号と左手のフィンガリングが表示されたフレーズ

Dorico Pro には2種類の弦の指示記号があり、それぞれ異なる方法で入力できます。

## 譜表の外側の弦の指示記号

譜表の外側の弦の指示記号は、常に丸の囲み線の中に表示されます。弦の指示記号にデュレーションがある場合は、その弦で複数の音符を演奏することを示す破線のデュレーション線が自動的に表示されます。

Dorico Pro では、譜表の外側の弦の指示記号は演奏技法と見なされます。これらは、適用する音符とは個別に選択したり削除したりできます。また、譜表の外側の弦の指示記号のデュレーション線のスタイルは、演奏技法の延長線と同じ方法で変更できます。



デュレーション線が付いた譜表の外側の弦の指示記号

## 譜表の内側の弦の指示記号

譜表の内側の弦の指示記号は、開放弦を表示する場合を除き、丸の囲み線の中に表示されます。開放弦は、囲み線なしで太字の数字0として表示されます。譜表線と重ならないよう、これらの指示記号の背景は自動的に塗りつぶされます。初期設定では、これらの指示記号は符頭の左側に表示されますが、左手のフィンガリングがある場合は自動的に右側に表示されます。

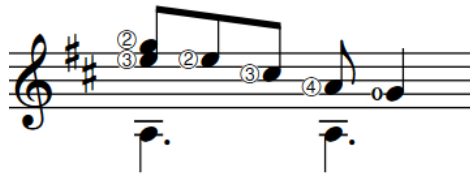
譜表の内側の弦の指示記号に表示される弦の番号は自動的に計算されますが、弦を手動で指定することもできます。

押さえて弾く音の譜表の内側の弦の指示記号は、弦の外側の弦の指示記号を小さくしたものです。そのため、「演奏技法を編集 (Edit Playing Techniques)」ダイアログで弦の指示記号の外観を変更すると、押さえて弾く音の譜表の内側にある弦の指示記号の外観にも影響します。

Dorico Pro では、譜表の内側の弦の指示記号は各音符のプロパティと見なされます。浄書モードでは、各音符とは関係なくそれらの指示記号だけを選択できます。

#### 補足

譜表の内側に弦の指示記号を表示できるのはフレット楽器の音符のみです。



譜表の内側の弦の指示記号 (最後の指示記号は開放弦)

#### 関連リンク

[フレット楽器のフィンガリング \(1299 ページ\)](#)

[演奏技法、ペダル線、弦の指示記号、ハーブペダルダイアグラムの入力方法 \(398 ページ\)](#)

[演奏技法 \(1536 ページ\)](#)

[演奏技法のデュレーション \(1543 ページ\)](#)

[演奏技法の延長線 \(1542 ページ\)](#)

[アイテムの長さの変更 \(470 ページ\)](#)

[「演奏技法を編集 \(Edit Playing Techniques\)」ダイアログ \(976 ページ\)](#)

[フィンガリングのフォントスタイル \(1295 ページ\)](#)

[弦への音符の割り当て \(1397 ページ\)](#)

## 浄書オプションで弦の指示記号の設定をプロジェクト全体に適用する

弦の指示記号の外観と位置に関するプロジェクト全体の設定は、「[浄書オプション \(Engraving Options\)](#)」の「[弦の指示記号 \(String Indicators\)](#)」ページで変更できます。

「[弦の指示記号 \(String Indicators\)](#)」ページのオプションを使用すると、開放弦の指示記号の外観、譜表内の弦の指示記号のサイズ、左手のフィンガリングがある場合に符頭に対する位置を変更するかどうか、弦の指示記号同士や他のアイテムに対する弦の指示記号の正確な位置などを変更できます。

オプションと一緒に表示される図は、オプションを楽譜に適用したときにどのように表示されるかを示します。

#### 関連リンク

[「浄書オプション \(Engraving Options\)」ダイアログ \(923 ページ\)](#)

## 開放弦の指示記号の外観を変更する

すべての開放弦の指示記号の外観をプロジェクト全体で変更できます。初期設定では、譜表の内側の開放弦の指示記号は、左手のフィンガリングと同じように、丸の囲み線のない太字の数字 0 として表示されます。

#### 手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[E]** を押して「[浄書オプション \(Engraving Options\)](#)」を開きます。
2. カテゴリーリストの「[弦の指示記号 \(String Indicators\)](#)」をクリックします。
3. 「[デザイン \(Design\)](#)」セクションの「[開放弦の外観 \(Open string appearance\)](#)」で、以下のいずれかのオプションを選択します。

- **ゼロフィンガリング (Zero fingering)**
- **指示記号が弦番号 (String number as indicator)**
- **指示記号がゼロ (Zero as indicator)**

4. 「適用 (Apply)」をクリックしてから「閉じる (Close)」をクリックします。

#### 結果

譜表の内側のすべての開放弦の指示記号の外観がプロジェクト全体で変更されます。開放弦の指示記号を「ゼロフィンガリング (Zero fingering)」として表示する場合、開放弦の指示記号にはそのプロジェクトのフィンガリングのフォントスタイルセットが使用されます。これは、譜表の外側の弦の指示記号の外観には影響しません。

#### ヒント

すべての弦の指示記号の外観を編集する場合は、「演奏技法を編集 (Edit Playing Techniques)」ダイアログで行ないます。

## 弦の指示記号のサイズを変更する

譜表の内側のすべての弦の指示記号のサイズをプロジェクト全体で変更できます。たとえば、譜表の外側の弦の指示記号に近いサイズで表示したい場合などに使用します。また、装飾音符の弦の指示記号を小さく表示するかどうかも変更できます。

初期設定では、譜表の内側の弦の指示記号は、音符のスペーシングや全体的な可読性への影響を減らすために小さく表示され、装飾音符に表示される場合にはさらに縮小されます。

#### 手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[E]** を押して「浄書オプション (Engraving Options)」を開きます。
2. カテゴリーリストの「弦の指示記号 (String Indicators)」をクリックします。
3. 「デザイン (Design)」セクションで、「譜表の内側にある弦の指示記号の表示倍率 (Scale factor for string indicators inside the staff)」の値を変更します。
4. 「装飾音符の弦の指示記号の倍率を変更する (Scale string indicators on grace notes)」をオン/オフにします。
5. 「適用 (Apply)」をクリックしてから「閉じる (Close)」をクリックします。

#### 結果

譜表の内側の弦の指示記号のサイズがプロジェクト全体で変更されます。「装飾音符の弦の指示記号の倍率を変更する (Scale string indicators on grace notes)」をオンにすると装飾音符の弦の指示記号が小さく表示され、オフにすると常に同じサイズで表示されます。

## 弦の指示記号を削除する

譜表の内側の弦の指示記号は入力後に音符から削除できます。この操作は現在のレイアウトとフレームチェーンのみに対して、もしくはすべてのレイアウトとフレームチェーンに対して行なえます。ただし、譜表の内側の弦の指示記号は単独のアイテムではなく音符のプロパティであるため、他のアイテムのようにそれ自体を選択して削除することはできません。

## 補足

これらの手順は、譜表の内側の弦の指示記号にのみ適用されます。譜表の外側の弦の指示記号は、他のアイテムと同じ方法で削除できます。

## 前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。
- 下ゾーンのツールバーで「プロパティ (Properties)」を選択しておきます。
- 浄書モードの場合は、浄書ツールボックスで「グラフィックの編集 (Graphic Editing)」を選択しておきます。
- ローカルのプロパティ変更に関して、適切なプロパティ範囲を選択しておきます。

## 手順

1. 譜表の内側の弦の指示記号を削除する音符を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「弦の指示記号 (String Indicators)」グループで、「表示 (Show)」をオフにします。

## 結果

譜表の内側の弦の指示記号が選択した音符から削除されます。プロパティ範囲を「ローカル (Locally)」に設定している場合、この変更は現在のレイアウトおよびフレームチェーンのみに影響します。

## 関連リンク

[音符/アイテムの削除 \(496 ページ\)](#)

[譜表の内側に弦の指示記号を入力する \(415 ページ\)](#)

[浄書ツールボックス \(554 ページ\)](#)

[プロパティ範囲の変更 \(828 ページ\)](#)

[プロパティ設定を別のレイアウト/フレームチェーンにコピーする \(825 ページ\)](#)

# 弦の指示記号の位置

初期設定では、譜表の外側の弦の指示記号は譜表の上に配置されます。複声部においては、符尾が上向きの声部の弦の指示記号は譜表の上に、符尾が下向きの声部の弦の指示記号は譜表の下に配置されます。

譜表線と重ならないよう、譜表の内側の弦の指示記号の背景は自動的に削除されます。初期設定では、これらの指示記号は符頭の左側に表示されますが、左手のフィンガリングがある場合は自動的に右側に表示されます。符頭に対する弦の指示記号の位置は個別に変更できます。

譜表の外側の弦の指示記号の位置は記譜モードで移動できます。これらは「**浄書オプション (Engraving Options)**」で設定されたデフォルト位置に配置されます。また、譜表の外側の弦の指示記号の符頭に対する位置は、演奏技法と同じ方法で個別に変更できます。

弦の指示記号の表示位置は浄書モードで移動できますが、適用されるリズム上の位置がこれによって変更されることはありません。

「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**弦の指示記号 (String Indicators)**」ページでは、すべての弦の指示記号のデフォルトの位置をプロジェクト全体で変更できます。

## 関連リンク

[演奏技法の延長線 \(1542 ページ\)](#)

[アイテムの長さの変更 \(470 ページ\)](#)

[音符/アイテムの位置の移動 \(502 ページ\)](#)  
[アイテムの表示位置の移動 \(652 ページ\)](#)  
[譜表に対するアイテムの位置の変更 \(474 ページ\)](#)

## 符頭に対する弦の指示記号の位置を変更する

初期設定では、譜表の内側の弦の指示記号は、左手のフィンガリングがない場合には符頭の左側に表示され、左手のフィンガリングがある場合には符頭の右側に表示されます。譜表の内側の弦の指示記号の符頭に対する位置を、プロジェクト全体の設定とは別に変更できます。この操作は現在のレイアウトとフレームチェーンのみに対して、もしくはすべてのレイアウトとフレームチェーンに対して行なえます。

### 前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。
- 下ゾーンのツールバーで「プロパティ (Properties)」を選択しておきます。
- 浄書モードの場合は、浄書ツールボックスで「グラフィックの編集 (Graphic Editing)」を選択しておきます。
- ローカルのプロパティ変更に関して、適切なプロパティ範囲を選択しておきます。

### 手順

1. 符頭に対する位置を変更する譜表の内側の弦の指示記号を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「弦の指示記号 (String Indicators)」グループで、「符頭に対する位置 (Notehead-relative pos.)」をオンにします。
3. 以下のいずれかのオプションを選択します。
  - 左 (Left)
  - 右 (Right)

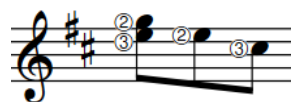
### 結果

選択した弦の指示記号の符頭に対する位置が変更されます。プロパティ範囲を「ローカル (Locally)」に設定している場合、この変更は現在のレイアウトおよびフレームチェーンのみに影響します。

### ヒント

「浄書オプション (Engraving Options)」の「弦の指示記号 (String Indicators)」ページでは、譜表の内側のすべての弦の指示記号の符頭に対するデフォルトの位置をプロジェクト全体で変更できます。使用できるオプションとして、左手のフィンガリングがある場合に符頭に対する位置を自動的に変更するものがあります。

### 例



符頭の左側に表示された弦の指示記号



符頭の右側に表示された弦の指示記号

# 前付け

Dorico Pro において前付けとは、スコアの 1 小節めより前に含まれるすべての情報を幅広く指します。

前付けには、スコアの 1 ページめより前のページに加えられることが多い、音楽に関する情報(タイトルページ、楽器編成リスト、プログラムの目次、および演奏上の指示など)が含まれます。

前付けには、スコアやパートの 1 ページめで楽譜の上に表示される情報(献呈、タイトル、サブタイトル、作曲者、作詞者など)も含まれます。

プロジェクト中では、楽譜から独立した情報はすべてフレーム内に追加する必要があります。フレームは浄書モードで追加および編集できます。これはレイアウト内の個々のページまたはページテンプレートで行なえます。ページテンプレートとは、同じページテンプレートのセットを使用するすべてのレイアウトの複数のページに同じ形式設定を適用できるものです。たとえば最終ページに含まれる組段が共通して少ないことを理由に、すべてのパートレイアウトの最終ページの楽譜フレームを小さくするような場合、ページテンプレートが役に立ちます。

## ヒント

すべてのレイアウトで情報を効率的に統一する方法として、「**プロジェクト情報 (Project Info)**」ダイアログ内のフィールドを参照するトークンを使用することが挙げられます。デフォルトのページテンプレートには、種類に応じて異なる情報が表示されます。

パラグラフスタイルを使用すると、テキストの書式や外観をプロジェクト全体で統一できます。たとえば、タイトルがどこに表示されても特定のフォントスタイルを使用したい場合などに便利です。

## 関連リンク

- [「プロジェクト情報 \(Project Info\)」ダイアログ \(81 ページ\)](#)
- [フロー名とフロータイトル \(210 ページ\)](#)
- [トークン \(617 ページ\)](#)
- [ページテンプレート \(567 ページ\)](#)
- [ページテンプレートのセット \(569 ページ\)](#)
- [ページテンプレートの種類 \(573 ページ\)](#)
- [ページテンプレートの作成 \(575 ページ\)](#)
- [ページテンプレートのカスタマイズ \(582 ページ\)](#)
- [「パラグラフスタイル \(Paragraph Styles\)」ダイアログ \(932 ページ\)](#)
- [フレーム \(601 ページ\)](#)
- [ページ形式設定 \(742 ページ\)](#)
- [フロー見出しの表示/非表示の切り替え \(762 ページ\)](#)
- [レイアウトの移調テキストの編集 \(1325 ページ\)](#)


## タイトルの追加

プロジェクトと各フローにタイトルを個別に入力できます。これにより、たとえばプロジェクトに「Sechs Lieder」、最初のフローに「Schwanenlied」、2 番めのフローに「Wanderlied」といった具合にタイトルを追加できます。

Dorico Pro では、ページテンプレートのトークンを使用して、タイトルが自動的にページに表示されません。

フローが 1 つのみのプロジェクトでは、プロジェクトまたはフローの情報を入力できます。ただし、その場合は適切なトークンを使用していることを確認する必要があります。

#### 手順

1. **[Ctrl]/[command]+[I]** を押して「**プロジェクト情報 (Project Info)**」ダイアログを開きます。
2. 左側のリストで「**プロジェクト (Project)**」を選択します。
3. 右側の「**タイトル (Title)**」フィールドにプロジェクト全体のタイトルを入力します。
4. 左側のリストで、タイトルを追加するフローを選択します。
5. リストの最下部のアクションバーで、「**フロー名を変更 (Rename Flow)**」  をクリックします。
6. フロー名フィールドにタイトルを入力します。
7. **[Return]** を押します。
8. ダイアログ右下の「**適用 (Apply)**」をクリックします。

#### ヒント

- これにより、「**タイトル (Title)**」フィールドのフロータイトルが、フロー名に一致するように更新されます。フロー名とフロータイトルは異なる場合があります、それぞれ別の場所で使用されます。タイトルはトークンを使って参照できますが、フロー名はオーディオを書き出す際になどに使われます。
  - 「**タイトル (Title)**」フィールドにフロータイトルを直接入力することもできますが、そうするとフロータイトルとフロー名間のリンクが削除されます。
- 
9. 必要に応じて、プロジェクトのその他のフローに手順 4 から 8 を繰り返します。

#### ヒント

ダイアログ下部の「**次の楽譜から情報をコピー (Copy info from)**」メニューからコピー元を選択し、「**コピー (Copy)**」をクリックすることで、入力済みのプロジェクト情報をコピーできます。

- 
10. 「**閉じる (Close)**」をクリックします。

#### 結果

プロジェクトと各フローのタイトルが更新されます。1 ページめやフロー見出しなど、対応するトークンが使用されているページに自動的に表示されます。

初期設定では、1 ページめのプロジェクトタイトルのテキストの書式と外観には「**タイトル (Title)**」のパラグラフスタイルが使用され、フロー見出しのテキストの書式と外観には「**フロータイトル (Flow Title)**」のパラグラフスタイルが使用されます。

#### 関連リンク

- [「プロジェクト情報 \(Project Info\)」ダイアログ \(81 ページ\)](#)
- [ページテンプレートの種類 \(573 ページ\)](#)
- [フロー名とフロータイトル \(210 ページ\)](#)
- [フロー見出し \(595 ページ\)](#)
- [トークン \(617 ページ\)](#)
- [「パラグラフスタイル \(Paragraph Styles\)」ダイアログ \(932 ページ\)](#)

## 作曲者の追加

たとえば、異なる作曲者の曲集を編集する場合などに、プロジェクトと各フローに作曲者名を個別に入力できます。

フローが 1 つのみのプロジェクトでは、プロジェクトまたはフローの情報を入力できます。ただし、その場合は適切なトークンを使用していることを確認する必要があります。

Dorico Pro では、「最初 (First)」のページテンプレートのトークンを使用して、プロジェクトの作曲者が 1 ページめに自動的に表示されます。

---

#### 手順

1. **[Ctrl]/[command]+[I]** を押して「プロジェクト情報 (Project Info)」ダイアログを開きます。
2. 左側のリストで「プロジェクト (Project)」を選択します。
3. 右側の「作曲者 (Composer)」フィールドにプロジェクト全体の作曲者を入力します。
4. 必要に応じて、プロジェクトの各フローに手順 2 から 3 を繰り返します。

#### ヒント

ダイアログ下部の「次の楽譜から情報をコピー (Copy info from)」メニューからコピー元を選択し、「コピー (Copy)」をクリックすることで、入力済みのプロジェクト情報をコピーできます。

- 
5. 「適用 (Apply)」をクリックしてから「閉じる (Close)」をクリックします。
- 

#### 結果

プロジェクトと各フローの作曲者名が更新されます。1 ページめなど、対応するトークンが使用されているページに自動的に表示されます。

初期設定では、1 ページめの作曲者名のテキストの書式と外観には「作曲者 (Composer)」のパラグラフスタイルが使用されます。

## 作詞者の追加

たとえば、異なる作詞者の曲集を編集する場合などに、プロジェクトと各フローに作詞者を個別に入力できます。

フローが 1 つのみのプロジェクトでは、プロジェクトまたはフローの情報を入力できます。ただし、その場合は適切なトークンを使用していることを確認する必要があります。

Dorico Pro では、「最初 (First)」のページテンプレートのトークンを使用して、プロジェクトの作詞者が 1 ページめに自動的に表示されます。

---

#### 手順

1. **[Ctrl]/[command]+[I]** を押して「プロジェクト情報 (Project Info)」ダイアログを開きます。
2. 左側のリストで「プロジェクト (Project)」を選択します。
3. 右側の「作詞者 (Lyricist)」フィールドにプロジェクト全体の作詞者を入力します。
4. 必要に応じて、プロジェクトの各フローに手順 2 から 3 を繰り返します。

#### ヒント

ダイアログ下部の「次の楽譜から情報をコピー (Copy info from)」メニューからコピー元を選択し、「コピー (Copy)」をクリックすることで、入力済みのプロジェクト情報をコピーできます。

- 
5. 「適用 (Apply)」をクリックしてから「閉じる (Close)」をクリックします。
- 

#### 結果

プロジェクトと各フローの作詞者名が更新されます。1 ページめなど、対応するトークンが使用されているページに自動的に表示されます。

初期設定では、1 ページめの作詞者名のテキストの書式と外観には「作詞者 (Lyricist)」のパラグラフスタイルが使用されます。



## 著作権情報の追加

たとえば、異なる時期に作曲された曲をまとめた曲集を編集する場合などに、プロジェクトと各フローに著作権情報を個別に入力できます。

フローが1つのみのプロジェクトでは、プロジェクトまたはフローの情報を入力できます。ただし、その場合は適切なトークンを使用していることを確認する必要があります。

Dorico Pro では、「**最初 (First)**」のページテンプレートのトークンを使用して、プロジェクトの著作権が1ページめに自動的に表示されます。

---

### 手順

1. **[Ctrl]/[command]+[I]** を押して「**プロジェクト情報 (Project Info)**」ダイアログを開きます。
2. 左側のリストで「**プロジェクト (Project)**」を選択します。
3. 右側の「**著作権 (Copyright)**」フィールドにプロジェクト全体の著作権情報を入力します。
4. 必要に応じて、プロジェクトの各フローに手順2から3を繰り返します。

### ヒント

ダイアログ下部の「**次の楽譜から情報をコピー (Copy info from)**」メニューからコピー元を選択し、「**コピー (Copy)**」をクリックすることで、入力済みのプロジェクト情報をコピーできます。

5. 「**適用 (Apply)**」をクリックしてから「**閉じる (Close)**」をクリックします。
- 

### 結果

プロジェクトと各フローの著作権情報が更新されます。1ページめなど、対応するトークンが使用されているページに自動的に表示されます。

初期設定では、1ページめの著作権情報のテキストの書式と外観には「**著作権 (Copyright)**」のパラグラフスタイルが使用されます。

### 関連リンク

- 「[プロジェクト情報 \(Project Info\)](#)」ダイアログ (81 ページ)
- [ページテンプレートの種類](#) (573 ページ)
- [トークン](#) (617 ページ)
- 「[パラグラフスタイル \(Paragraph Styles\)](#)」ダイアログ (932 ページ)

## ページテンプレートへの献呈の追加

献呈をページテンプレートに加えることにより、それを複数のレイアウトに表示できます。献呈は通常スコアのタイトルの上に、タイトルより小さなフォントサイズで、斜体で表示されます。

### 前提条件

- 右ゾーンを表示しておきます。
- 「**プロジェクト情報 (Project Info)**」のダイアログのいずれかの「**献呈 (Dedication)**」のフィールドに、献呈を入力しておきます。プロジェクト全体と個々のフローには、それぞれ異なる献呈を入力できます。
- 献呈に新しいパラグラフスタイルを使用する場合は、新しいパラグラフスタイルを作成しておきます。

#### 手順

1. 浄書モードで、献呈を追加するページテンプレートが含まれるページテンプレートのセットを使用するレイアウトを楽譜領域に開きます。

#### 補足

楽譜領域にいずれかのレイアウトが開いているときに、ページパネルの「**ページテンプレート (Page Templates)**」セクションの「**現在のセット (Current set)**」メニューでページテンプレートのセットを選択することもできますが、その場合、そのレイアウトに適用されるページテンプレートのセットが変更されます。

2. ページパネルの「**ページテンプレート (Page Templates)**」セクションで、献呈を追加するページテンプレートをダブルクリックして、ページテンプレートエディターを開きます。
3. タイトルのテキストフレームをダブルクリックして、テキストエディターを開きます。

#### ヒント

浄書ツールボックスで「**フレーム (Frames)**」を選択した場合は、テキストフレームを選択して **[Return]** を押してもかまいません。

4. カーソルをタイトルのトークンの開始位置に配置します。
5. **[Return]** を押し、タイトルのトークンの上に新規行を入力します。
6. タイトルのトークンの上の新規行に、以下のいずれかのトークンを入力します。
  - **{@flowDedication@}** は、フロー用の献呈を表示します。
  - **{@projectDedication@}** は、プロジェクト全体用の献呈を表示します。
7. 必要に応じて、テキストエディターのオプションを使用して献呈のテキストの外観を変更します。
8. **[Esc]** または **[Ctrl]/[command]+[Return]** を押し、テキストエディターを閉じます。

#### 結果

「**プロジェクト情報 (Project Info)**」ダイアログの対応するフィールドに献呈が入力されている場合、選択したページテンプレートの形式を使用するすべてのページのタイトルの上に献呈が表示されます。

#### 関連リンク

- [「プロジェクト情報 \(Project Info\)」ダイアログ \(81 ページ\)](#)
- [ページパネル \(562 ページ\)](#)
- [ゾーンの表示/非表示の切り替え \(48 ページ\)](#)
- [トークン \(617 ページ\)](#)
- [「パラグラフスタイル \(Paragraph Styles\)」ダイアログ \(932 ページ\)](#)
- [浄書モードのテキストエディターオプション \(625 ページ\)](#)
- [ページテンプレート \(567 ページ\)](#)

## プレイヤーリストを追加する

プレイヤーリストのトークンは、どのレイアウトまたはページテンプレートにも追加できます。これはレイアウトに属するすべてのプレイヤーを、各プレイヤーに割り振られたすべてのインストゥルメントを含めて自動的に表示します。

#### 前提条件

- ページテンプレートにプレイヤーリストを追加する場合は、ページテンプレートエディターでページテンプレートを開いておきます。

- プレーヤーリストを新しいテキストフレームに追加する場合は、プレーヤーリストを表示する位置にテキストフレームを入力しておきます。

---

#### 手順

1. プレーヤーリストを追加するテキストフレームをダブルクリックして、テキストエディターを開きます。

#### ヒント

浄書ツールボックスで「**フレーム (Frames)**」を選択した場合は、テキストフレームを選択して**[Return]**を押してもかまいません。

2. **{@playerlist@}**と入力します。
3. **[Esc]** または **[Ctrl]/[command]+[Return]** を押してテキストエディターを閉じます。

---

#### 結果

プレーヤーリストのトークンが追加されます。レイアウトにおいては、これにすべてのプレーヤーのリストが代入されます。これをページテンプレートに追加すると、テキストフレームとトークンが、そのページテンプレートを使用するすべてのレイアウトのすべてのページに自動的に追加されます。

#### 補足

ページテンプレートを編集しても、優先が設定されたページは更新されません。

---

#### 例

{@playerlist@}

テキストフレーム内のプレーヤーリストのトークン

Oboe & Oboe d'Amore  
Piano

レイアウトにおいてプレーヤーが代入されたプレーヤーリストのトークン

---

#### 関連リンク

- [フレームの入力 \(603 ページ\)](#)
- [ページの形式変更 \(584 ページ\)](#)
- [ページテンプレート \(567 ページ\)](#)
- [ページテンプレートの作成 \(575 ページ\)](#)

## ページテンプレートの欄外見出しを編集する

「**デフォルトのパート譜 (Default Part)**」のページテンプレートには、欄外見出しとして各フロー 1 ページめの左上、および 2 ページめ以降の上部に中央揃えてパート名を表示します。たとえば、パートの欄外見出しにフロータイトルを含めたい場合や、フルスコアの欄外見出しからフロータイトルを削除したい場合などに、欄外見出しに表示するテキストを変更できます。

#### 前提条件

右ゾーンを表示しておきます。

#### 手順

1. 浄書モードで、欄外見出しを編集するページテンプレートが含まれるページテンプレートのセットを使用するレイアウトを楽譜領域に開きます。

#### 補足

楽譜領域にいずれかのレイアウトが開いているときに、ページパネルの「**ページテンプレート (Page Templates)**」セクションの「**現在のセット (Current set)**」メニューでページテンプレートのセットを選択することもできますが、その場合、そのレイアウトに適用されるページテンプレートのセットが変更されます。

2. ページパネルの「**ページテンプレート (Page Templates)**」セクションで、欄外見出しのテキストを変更するページテンプレートをダブルクリックして、ページテンプレートエディターを開きます。
3. ヘッダーのテキストフレームをダブルクリックして、テキストエディターを開きます。
4. ヘッダーテキストを変更または削除します。  
たとえば、ヘッダーテキストにパート名とフローのタイトルの両方をダッシュで区切って表示させる場合は、テキストフレームのパート名のトークンの後に `-{@flowTitle@}` と入力します。

#### ヒント

トークンを挿入するには、カーソルがテキストフレーム内にある状態で右クリックし、コンテキストメニューから使用するトークンを選択します。

5. **[Esc]** または **[Ctrl]/[command]+[Return]** を押してテキストエディターを閉じます。

#### 結果

選択したページテンプレートを使用するすべてのレイアウトの欄外見出しのテキストが変更されます。

#### 例

---

`{@layoutName@} - {@flowTitle@}`

テキストフレームに追加されたトークン

---

Violin I - Allegro con moto

パートレイアウトに表示されるトークン

---

#### 関連リンク

- [ページパネル \(562 ページ\)](#)
- [ゾーンの表示/非表示の切り替え \(48 ページ\)](#)
- [ページテンプレート \(567 ページ\)](#)
- [ページテンプレートの種類 \(573 ページ\)](#)
- [ページテンプレートエディター \(581 ページ\)](#)
- [テキストフレーム内のテキストの垂直方向の配置の変更 \(631 ページ\)](#)
- [テキストフレーム内のテキストの水平方向の配置の変更 \(631 ページ\)](#)
- [テキストアイテムのパラグラフスタイルの変更 \(1768 ページ\)](#)
- [フロー見出しの表示/非表示の切り替え \(762 ページ\)](#)

## レイアウトの移調テキストの編集

レイアウトの移調トークンのテキストをレイアウトごとに上書きできます。たとえば、一部のレイアウトに「実音」と表示し、その他のレイアウトには「Cのフルスコア」と表示する場合などに便利です。

### 手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[L]** を押して「**レイアウトオプション (Layout Options)**」を開きます。
2. レイアウトの移調テキストを編集するレイアウトを「**レイアウト (Layouts)**」リストから選択します。  
初期設定では、楽譜領域で選択されているものと同じレイアウトが選択された状態のダイアログが表示されます。他のレイアウトを選択するには、アクションバーの選択オプションを使用するか、複数のレイアウトをまたぐようにクリックしてドラッグするか、**[Shift]** を押しながら隣接するレイアウトをクリックするか、**[Ctrl]/[command]** を押しながら個々のレイアウトをクリックします。
3. カテゴリリストの「**ページ設定 (Page Setup)**」をクリックします。
4. 「**テキストトークン (Text Tokens)**」セクションで、以下のオプションのいずれかまたは両方をオンにします。
  - **実音レイアウト用カスタムテキスト (Custom text for concert layout)**
  - **移調レイアウト用カスタムテキスト (Custom text for transposed layout)**
5. 対応する値フィールドに任意のテキストを入力します。
6. 「**適用 (Apply)**」をクリックしてから「**閉じる (Close)**」をクリックします。

### 関連リンク

- [トークン \(617 ページ\)](#)
- [テキストフレーム \(616 ページ\)](#)
- [テキストフレームへのテキストの入力 \(624 ページ\)](#)
- [レイアウト \(190 ページ\)](#)
- [実音と移調音 \(195 ページ\)](#)
- [レイアウトの移調音/実音の設定 \(194 ページ\)](#)

## レイアウト名の枠線の表示/非表示

すべてのレイアウト名の枠線の表示/非表示をプロジェクト全体で切り替えることができます。初期設定では、「**最初 (First)**」のページテンプレートを使用するパートレイアウトのページの上部に枠線付きでレイアウト名が表示されます。

### 手順

1. 「**ライブラリー (Library)**」 > 「**パラグラフスタイル (Paragraph Styles)**」を選択して、「**パラグラフスタイル (Paragraph Styles)**」ダイアログを開きます。
2. パラグラフスタイルリストで、「**レイアウト名 (Layout name)**」を選択します。
3. 「**枠線 (Border)**」のチェックボックスをオン/オフにします。
4. チェックボックスをオンにした場合は、必要に応じて使用できる枠線のオプションをオンにして変更します。  
たとえば、枠線のスタイルや太さを変更できます。
5. 「**OK**」をクリックして変更内容を保存し、ダイアログを閉じます。

関連リンク

[「パラグラフスタイル \(Paragraph Styles\)」ダイアログ \(932 ページ\)](#)

[プレーヤー名、レイアウト名、インストゥルメント名 \(203 ページ\)](#)

[レイアウト名の変更 \(205 ページ\)](#)

[トークン \(617 ページ\)](#)

[ページテンプレートの種類 \(573 ページ\)](#)

[テキストフレームへの枠線の追加 \(628 ページ\)](#)

[テキストアイテムへの枠線の追加 \(1770 ページ\)](#)

[テキストアイテムの境界線のスタイルの変更 \(1771 ページ\)](#)

# 装飾音符

装飾音符とは、固定したデュレーションを持たず、素早く演奏することを意図された音符です。装飾音符は標準の音符の縮小版であり、通常は符尾にスラッシュを伴って表示されます。

符尾にスラッシュが付いた装飾音符は、アチャカトゥーラまたは短前打音と呼ばれ、多くの場合は非常に速く演奏されます。符尾にスラッシュの付かない装飾音符は、アポジャトゥーラまたは長前打音と呼ばれ、多くの場合は短前打音よりゆっくり演奏されます。バロック音楽においては、アポジャトゥーラは多くの場合、現在の拍子と適用される符頭の音価に基づく特定のデュレーションの間持続させるものと解されます。そのため Dorico Pro では、スラッシュが付いた装飾音符と付いていない装飾音符は再生時に区別して処理されます。

装飾音符は、それが適用される音符 (すぐ右にある音符) の直前の時間に収めるよう意図されているため、リズム上の時間を占めることはありません。

符頭の前には複数の装飾音符が付く場合もあります。同じ符頭に2つ以上の装飾音符が付いており、8分音符や16分音符のような符尾が付く音価の場合、自動的に連符で連結されます。



音符の前の複数の装飾音符

Dorico Pro では、装飾音符は初期設定では標準の符頭の3/5のサイズに縮小されますが、これは音符のスペーシングの設定に影響されます。装飾音符のスペーシングについては、専用に個別のオプションが用意されています。

装飾音符には、標準の音符と同じ手順でスラーやアーティキュレーションなどの記譜記号を追加でき、入力後に移調もできます。

## 関連リンク

[装飾音符の入力 \(275 ページ\)](#)

[装飾音符に対するスラーの位置 \(1657 ページ\)](#)

[個々の音符のピッチの変更 \(518 ページ\)](#)

[アーティキュレーションの入力 \(298 ページ\)](#)

[スラーの入力 \(299 ページ\)](#)

[音符のスペーシング \(643 ページ\)](#)

## 装飾音符の一般的な配置規則

装飾音符の振る舞いは多くの点で標準の音符と同様ですが、符尾の方向、符頭に対する位置、および符尾のスラッシュの位置について、特有の配置規則があります。

装飾音符は、それが拍の手前ではなく拍と同時に演奏されることを意図している場合であっても、常に符頭の前に配置されます。通常は適用される符頭の直前になるように、小節線より後に配置されます。たとえば、3つ以上の装飾音符のグループがあり、小節線とその小節の1拍めとの間の間隔を狭くしたい場合、かわりに小節線の前に装飾音符を表示できます。

装飾音符の符尾のスラッシュは、装飾音符の連桁の始めに表示されます。装飾音符が1つの場合は、スラッシュは符尾および符鉤をまたぐ形で表示されます。



臨時記号が追加されると、標準の音符と同様、臨時記号が読みやすいように音符のスペーシングが再調整されます。

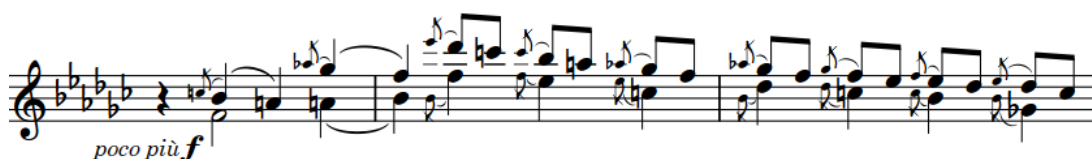
装飾音符にアーティキュレーションが付く場合は、最も読みやすい場所、ほとんどの場合は譜表の外側に追加されます。Dorico Pro は自動的にアーティキュレーションを装飾音符の符尾側に、そして符尾または連桁が譜表の内側にある場合は譜表の外側に配置します。

## 複声部における装飾音符

記譜の一般的な表記規則に従い、装飾音符は譜表に声部が1つのときは、適用される符頭の符尾が下向きであっても、初期設定では符尾は上向きで表示されます。

しかし、譜表に複数の声部がある場合、上向きの声部に属する音符はすべて上向きに、そして下向きの声部はすべて下向きに表示され、これに装飾音符も従います。これは、スラーのカーブ方向にも影響します。

Dorico Pro ではこの調整は自動的に行なわれますが、装飾音符の符尾の方向は手動で変更することもできます。



## 装飾音符に対するスラー

初期設定では、装飾音符からはじまってタイのつながりの音符で終わるスラーは、タイのつながりの最初の音符に終端が付きます。タイのつながりに対するスラーの位置は個別に変更できますが、装飾音符からはじまるスラーも同様です。

すべての装飾音符に対するスラーのデフォルト位置は、複声部における場合も含め、「**浄書オプション (Engraving Options)**」 > 「**スラー (Slurs)**」 > 「**装飾音符 (Grace Notes)**」で変更できます。

「**タイでつながれた音符 (Tied Notes)**」セクションでは、スラーが装飾音符から始まる場合の、タイのつながりに対するスラーのデフォルトの位置を変更できます。

### ヒント

- 装飾音符のスペーシングの倍率は、「**レイアウトオプション (Layout Options)**」の「**音符のスペーシング (Note Spacing)**」ページでレイアウトごとに個別に変更できます。
- 装飾音符とそれが適用される符頭とのデフォルトの距離は、「**浄書オプション (Engraving Options)**」 > 「**音符 (Notes)**」 > 「**装飾音符 (Grace Notes)**」で変更できます。

### 関連リンク

[装飾音符に対するスラーの位置 \(1657 ページ\)](#)

[タイのつながりに対するスラーの位置 \(1656 ページ\)](#)

[音符の符尾の方向を個別に変更する \(1418 ページ\)](#)







[「レイアウトオプション \(Layout Options\)」ダイアログ \(917 ページ\)](#)

[「浄書オプション \(Engraving Options\)」ダイアログ \(923 ページ\)](#)

## 既存の音符を装飾音符に変換する

既存の音符を装飾音符に変換できます。これは、たとえば MIDI 録音を使用して入力した楽譜を編集する場合などに便利です。

### 手順

1. 記譜モードで、装飾音符に変換する音符を選択します。
2. 必要に応じて、以下のいずれかの方法で装飾音符のタイプをスラッシュ付き/スラッシュなしに変更します。
  - **[Alt/Opt]+[/]** を押します。
  - 音符ツールボックスで「装飾音符 (Grace Notes)」を長押ししてから、「スラッシュなし装飾音符 (Unslashed Grace Notes)」または「スラッシュ付き装飾音符 (Slashed Grace Notes)」をクリックします。
3. 以下のいずれかの操作を行ないます。
  - **[/]** を押します。
  - 音符ツールボックスの「装飾音符 (Grace Notes)」をクリックします。

### 結果

選択した音符が、記譜上のデュレーションが同一の装飾音符に変換されます。ただし、付点はすべて削除されます。

初期設定では、スラッシュ付きの装飾音符は各範囲内で選択している最後の音符の後に追加され、スラッシュなしの装飾音符は各範囲内で選択している最初の音符の位置に追加されます。

### ヒント

既存の音符を装飾音符に変換する際のデフォルトの向きは、「環境設定 (Preferences)」 > 「音符の入力と編集 (Note Input and Editing)」 > 「編集 (Editing)」で変更できます。

### 手順終了後の項目

装飾音符のデュレーションを変更できます。

### 関連リンク

[音符ツールボックス \(219 ページ\)](#)

[装飾音符の入力 \(275 ページ\)](#)

[音符のデュレーションの変更 \(286 ページ\)](#)

[装飾音符のタイプを個別に変更する \(1331 ページ\)](#)

[既存の音符を連符に変換する \(1828 ページ\)](#)


[「環境設定 \(Preferences\)」ダイアログ \(63 ページ\)](#)

## 装飾音符を標準の音符に変換する

既存の装飾音符を、それらの元の位置から始まる標準の音符に変換できます。たとえば、フローの開始位置の一連の装飾音符を弱起の標準の音符に変換する場合などに行ないます。

### 手順

1. 記譜モードで、標準の音符に変換する装飾音符を選択します。

2. 選択した装飾音符を変換することで、必要に応じて後続の音符を後ろにずらすには、**[I]** を押して「挿入 (Insert)」モードをオンにします。
3. 「挿入 (Insert)」モードをオンにした場合は、適切な挿入モードの範囲を選択します。
4. 以下のいずれかの操作を行ないます。
  - **[/]** を押します。
  - 音符ツールボックスの「装飾音符 (Grace Notes)」 をクリックします。

#### 結果

選択した装飾音符が、記譜上のデュレーションが同一の標準の音符に変換されます。たとえば、8分音符の装飾音符は標準の8分音符になります。

「挿入 (Insert)」モードがオンになっている場合、追加のデュレーションに対応するため、後続の既存の音符が必要に応じてすべて後ろにずれます。「挿入 (Insert)」モードがオフになっている場合、展開された装飾音符によって後続の音符が上書きされます。

#### 関連リンク

[連符から標準の音符に変換する \(1829 ページ\)](#)



[弱起 \(アウフタクト\) \(1800 ページ\)](#)

[挿入モード \(491 ページ\)](#)

## 小節線の前後に装飾音符を表示する

初期設定では、適用される符頭が小節の最初の音符である場合を含めて、装飾音符は符頭の直前かつ小節線より後に配置されます。個々の装飾音符については小節線より前に配置できます。これによりたとえば、小節の最初の標準の音符が小節線から離れすぎないようにしたり、装飾音符が拍より前に演奏されることを表わしたりできます。

#### 前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。
- 下ゾーンのツールバーで「プロパティ (Properties)」 を選択しておきます。
- 浄書モードの場合は、浄書ツールボックスで「グラフィックの編集 (Graphic Editing)」 を選択しておきます。

#### 手順

1. 小節線に対する位置を変更する装飾音符を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「装飾音符 (Grace Notes)」グループで、「小節線前の装飾音符 (Grace note before barline)」をオンまたはオフにします。

#### 結果

選択したリズム上の位置にある装飾音符が、プロパティをオンにしたときは小節線の前に、プロパティをオフにしたときは小節線の後に配置されます。

#### 補足

これは、選択したリズム上の位置にあるすべての装飾音符に影響します。

#### 関連リンク

[浄書ツールボックス \(554 ページ\)](#)

[小節線 \(1078 ページ\)](#)

## 装飾音符のサイズ

装飾音符は標準の音符を小さくしたもので、デフォルトの設定では標準の音符に対し 3/5 の比率で縮小されます。

装飾音符のデフォルトのサイズをプロジェクト全体で制御するための比率の入力欄は、「**浄書オプション (Engraving Options)**」 > 「**音符 (Notes)**」 > 「**装飾音符 (Grace Notes)**」にあります。

また装飾音符のサイズは、標準の音符と同じ手順で個別に変更できます。

関連リンク

[「浄書オプション \(Engraving Options\)」ダイアログ \(923 ページ\)](#)

[音符/アイテムのサイズの変更 \(473 ページ\)](#)

[装飾音符の入力 \(275 ページ\)](#)

## 装飾音符のスラッシュ

装飾音符の符尾を斜めに横切るスラッシュは、多くの場合は装飾音符の異なるタイプを区別するために使用されます。符尾にスラッシュが付いた装飾音符は、アチャカトゥーラまたは短前打音と呼ばれ、多くの場合は非常に速く演奏されます。符尾にスラッシュの付かない装飾音符は、アポジャトゥーラまたは長前打音と呼ばれ、多くの場合は短前打音よりゆっくり演奏されます。

Dorico Pro では、装飾音符は初期設定では符尾にスラッシュを付けて表示されます。装飾音符にスラッシュを付けるか付けないかの変更は、音符の入力中にも、入力後に装飾音符のタイプを変更することでも行なえます。

### ヒント



プロジェクト全体のすべての装飾音符の符尾のスラッシュのデフォルトの太さ、長さ、位置は、「**浄書オプション (Engraving Options)**」 > 「**音符 (Notes)**」 > 「**装飾音符 (Grace Notes)**」で変更できません。

---



## 装飾音符のタイプを個別に変更する

装飾音符は、入力後にタイプを個別に変更できます。装飾音符はスラッシュ付きの符尾がデフォルトですが、これをスラッシュなしの符尾に変更できます。

前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。
- 下ゾーンのツールバーで「**プロパティ (Properties)**」を選択しておきます。
- 浄書モードの場合は、浄書ツールボックスで「**グラフィックの編集 (Graphic Editing)**」を選択しておきます。




手順

1. タイプを変更する装飾音符を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「**装飾音符 (Grace Notes)**」グループで、「**装飾音符のタイプ (Grace note type)**」から以下のいずれかのオプションを選択します。
  - **スラッシュ付きの符尾** 
  - **スラッシュなしの符尾** 

結果

選択した装飾音符がスラッシュ付きまたはスラッシュなしの符尾で表示されます。

#### ヒント

また、選択した装飾音符のタイプは、**[Alt/Opt]+[/]** を押すか、音符ツールボックスの「装飾音符 (Grace Notes)」 を長押ししてから、「スラッシュなし装飾音符 (Unslashed Grace Notes)」 または「スラッシュ付き装飾音符 (Slashed Grace Notes)」 をクリックして変更することもできます。

## 装飾音符の符尾のスラッシュの位置を変更する

装飾音符のスラッシュの垂直位置は、プロジェクト全体の設定より優先される形で個別に変更できます。この操作は現在のレイアウトとフレームチェーンのみに対して、もしくはすべてのレイアウトとフレームチェーンに対して行なえます。

#### 前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。
- 下ゾーンのツールバーで「プロパティ (Properties)」 を選択しておきます。
- 浄書ツールボックスで「グラフィックの編集 (Graphic Editing)」 を選択しておきます。
- ローカルのプロパティ変更に関して、適切なプロパティ範囲を選択しておきます。

#### 手順

1. 浄書モードで、スラッシュの位置を変更する装飾音符を選択します。
2. プロパティパネルの「装飾音符 (Grace Notes)」のグループで、以下のプロパティを片方または両方オンにします。
  - 符尾の先端からスラッシュを挿入 (Slash inset from stem tip)
  - スラッシュの右側へのオフセット (Slash offset to right)
3. 数値フィールドの値を変更します。

#### 結果

「符尾の先端からスラッシュを挿入 (Slash inset from stem tip)」は、値を大きくすると装飾音符のスラッシュの符尾の先端からの距離が遠くなり、符頭までの距離が近くなります。値を小さくすると符尾の先端までの距離が近くなり、符頭からの距離が遠くなります。

「スラッシュの右側へのオフセット (Slash offset to right)」は、値を大きくすると装飾音符のスラッシュが右に移動し、値を小さくすると左に移動します。

プロパティ範囲を「ローカル (Locally)」に設定している場合、この変更は現在のレイアウトおよびフレームチェーンのみに影響します。

#### ヒント

装飾音符の符尾のスラッシュのデフォルトの位置をプロジェクト全体で変更するには、「浄書オプション (Engraving Options)」 > 「音符 (Notes)」 > 「装飾音符 (Grace Notes)」で設定を行ないます。

#### 関連リンク

[装飾音符の入力 \(275 ページ\)](#)

[浄書ツールボックス \(554 ページ\)](#)

[プロパティ範囲の変更 \(828 ページ\)](#)

## 装飾音符の符尾のスラッシュの長さを個別に変更する

装飾音符の符尾に付くスラッシュの長さは、プロジェクト全体の設定より優先される形で個別に変更できます。この操作は現在のレイアウトとフレームチェーンのみに対して、もしくはすべてのレイアウトとフレームチェーンに対して行なえます。

### 前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。
- 下ゾーンのツールバーで「プロパティ (Properties)」を選択しておきます。
- 浄書ツールボックスで「グラフィックの編集 (Graphic Editing)」を選択しておきます。
- ローカルのプロパティ変更に関して、適切なプロパティ範囲を選択しておきます。

### 手順

1. 浄書モードで、スラッシュの長さを変更する装飾音符を選択します。
2. プロパティパネルの「装飾音符 (Grace Notes)」のグループで、以下のプロパティを片方または両方オンにします。
  - **スラッシュの長さ (Slash length)**
  - **「スラッシュの連桁からの突出 (Slash protrusion from beam)」** (連桁された装飾音符でのみ有効)

### 補足

「スラッシュの長さ (Slash length)」をオンにすると、装飾音符のスラッシュが消えたように見えます。これはプロパティをオンにすることで値が0にリセットされたからです。

3. 対応する数値フィールドの値を変更して、選択したスラッシュの長さや突出を変更します。

### 結果

「スラッシュの長さ (Slash length)」は、単体の装飾音符と連桁された装飾音符のいずれにおいても、値を大きくするとスラッシュが長く、値を小さくすると短くなります。

「スラッシュの連桁からの突出 (Slash protrusion from beam)」は、値を大きくするとスラッシュが装飾音符の連桁の上に伸びる距離が長くなり、値を小さくすると距離が短くなります。

プロパティ範囲を「ローカル (Locally)」に設定している場合、この変更は現在のレイアウトおよびフレームチェーンのみに影響します。

### ヒント

装飾音符の符尾のスラッシュのデフォルトの外観をプロジェクト全体で変更するには、「浄書オプション (Engraving Options)」 > 「音符 (Notes)」 > 「装飾音符 (Grace Notes)」で設定を行ないます。

## 装飾音符の符尾

装飾音符は音符を縮小したものであるため、装飾音符の符尾の長さは、すべての音符の符尾の長さに対するプロジェクト全体の設定によって決定されます。

符尾のデフォルトの長さをプロジェクト全体で変更するには、「浄書オプション (Engraving Options)」 > 「音符 (Notes)」 > 「符尾 (Stems)」で設定を行ないます。

一般的な表記規則に従い、Dorico Pro は初期設定ではどの音部においても装飾音符の符尾を上向きで表示します。これは装飾音符が適用される音符の符尾の方向には左右されません。譜表に複数の声部が

存在する場合、装飾音符の符尾の方向は自動的に変更されますが、個々の装飾音符の符尾の方向は手動で変更できます。また装飾音符の符尾の長さは、通常の符尾と同じ手順で変更できます。

関連リンク  
[符尾 \(1415 ページ\)](#)

## 装飾音符の連桁

Dorico Pro は隣接する複数の装飾音符が 8 分音符かそれ以下のデュレーションである場合、自動的に連桁で連結します。

他のすべての連桁と同様に、装飾音符の連桁は譜表線に対する連桁の配置の一般的な表記規則になるべく従い、くさび形の形成を避けようとします。しかし、装飾音符は標準の音符より小さいため、これにより装飾音符の連桁が極端に傾斜してしまう場合があります。

個々の装飾音符の連桁の傾斜は、通常の連桁と同じ手順で調整できます。また、すべての装飾音符の連桁の傾斜をどのように配置するかプロジェクト全体の設定は、「**浄書オプション (Engraving Options)**」 > 「**連桁 (Beams)**」 > 「**垂直位置 (Vertical Position)**」で変更できます。

### 2 音の連桁された装飾音符のグループにおける連桁の傾斜

音程差の広い隣り合う 2 つの装飾音符が同じ位置で連桁に括られる場合、連桁の角度が非常に急になる場合があります。

このような場合、連桁の傾斜をそのまま変えないか、それとも緩やかな傾斜を使用するか、「**浄書オプション (Engraving Options)**」 > 「**連桁 (Beams)**」 > 「**傾斜 (Slants)**」 > 「**装飾音符 (Grace Notes)**」で選択できます。

関連リンク  
[「浄書オプション \(Engraving Options\)」 ダイアログ \(923 ページ\)](#)  
[連桁 \(1112 ページ\)](#)

## 再生時の装飾音符

スラッシュが付いた装飾音符と付いていない装飾音符は再生時に区別して処理されます。

スラッシュが付いたすべてのデュレーションの装飾音符およびデュレーションが 16 分音符以下のスラッシュなしの装飾音符は、デフォルトで発音される単一のデュレーションでビートの前に再生されません。

デュレーションが 8 分音符以上のスラッシュなしの装飾音符は、ビートに合わせて再生されます。これらの発音されるデュレーションは、その装飾音符が付いている音符のデュレーションの半分です。たとえば、スラッシュなしの 8 分音符の装飾音符が 4 分音符に付いている場合は、どちらの音符も 8 分音符であるように再生されます。

単一かつスラッシュなしの装飾音符を拍に合わせて再生するか拍の前に再生するか、短い前打音として再生されるスラッシュなしの装飾音符の最大デュレーション、および装飾音符の発音上のデフォルトデュレーションは、「**再生オプション (Playback Options)**」 > 「**タイミング (Timing)**」 > 「**装飾音符 (Grace Notes)**」で変更できます。

関連リンク  
[「再生オプション \(Playback Options\)」 ダイアログ \(925 ページ\)](#)  
[装飾音符のスラッシュ \(1331 ページ\)](#)

# 延長記号と休止記号

音楽の一定したリズムの流れが、一時的な静止または一瞬の無音によって中断された後にまた再開する場合、これを示すさまざまな記譜記号が使用されます。最も微妙な効果を生むものとしてはテヌート記号があり、より顕著な効果は延長記号と休止記号によって表わされます。

楽譜中の延長記号や休止記号によって意図される中断のデュレーションは、指定が必須のものではありません。通常、延長記号と休止記号のスタイルの違いによって中断の長短が示されますが、解釈の余地は大幅に残されます。

Dorico Pro には、以下のタイプの延長記号と休止記号があります。

## フェルマータ

フェルマータは、音符がその記譜上の長さより長く伸ばされることを示し、アンサンブル全体に適用されます。Dorico Pro では、フェルマータは対応する位置にグローバルに存在しており、すべての譜表および声部に自動的に表示されます。

これらは「休止記号」とも呼ばれます。



## ブレス記号

ブレス記号はプレーヤーがブレスを取るのに適切な位置、または同様の効果を与えるための演奏方法を示します。ブレス記号は1つの譜表にのみ適用されます。



## 中間休止記号

中間休止記号は、音符をその音価全体まで伸ばしたあと、次に進む前に音の小休止を挟むことを示します。Dorico Pro では、中間休止記号は対応する位置にグローバルに存在しており、すべての譜表に自動的に表示されます。



関連リンク

[延長記号と休止記号の入力方法 \(366 ページ\)](#)

[フェルマータのタイプ \(1336 ページ\)](#)

[ブレス記号のタイプ \(1337 ページ\)](#)

[中間休止記号のタイプ \(1338 ページ\)](#)

[延長記号と休止記号の位置 \(1338 ページ\)](#)

[再生時の延長記号と休止記号 \(1342 ページ\)](#)

## 浄書オプションで延長記号と休止記号の設定をプロジェクト全体に適用する

「浄書オプション (Engraving Options)」の「延長記号と休止記号 (Holds and Pauses)」ページでは、延長記号と休止記号の位置を設定してプロジェクト全体に適用できます。

「延長記号と休止記号 (Holds and Pauses)」ページのオプションを使用すると、複声部におけるフェルマータの配置を含める、延長記号と休止記号のデフォルト位置および配置を変更できます。

オプションと一緒に表示される図は、オプションを楽譜に適用したときにどのように表示されるかを示します。






関連リンク

[「浄書オプション \(Engraving Options\)」ダイアログ \(923 ページ\)](#)

## フェルマータのタイプ

Dorico Pro ではさまざまなタイプのフェルマータが使用できます。フェルマータはそれぞれ休止のデュレーションをおおよそ示しますが、そこには解釈の余地が残されています。


Dorico Pro では、さまざまなタイプのフェルマータが意図されたデュレーションに従って再生に影響します。たとえば、長いフェルマータの場合は短いフェルマータよりも音符が長く延長され、間隔も長くなります。

フェルマータ	説明
非常に短いフェルマータ 	音符が示すリズムよりほんのわずかだけ長く伸ばされることを示します。
短いフェルマータ 	音符が示すリズムより少しだけ長く伸ばされることを示します。
短いフェルマータ (Henze) 	Hans Werner Henze によって使用され、音符が示すリズムより少しだけ長く伸ばされることを示します。
フェルマータ 	音符が示すリズムより長く伸ばされることを示します。
長いフェルマータ 	音符が示すリズムよりだいぶ長く伸ばされることを示します。




## フェルマータ


## 説明

長いフェルマータ (Henze) 

Hans Werner Henze によって使用され、音符が示すリズムよりだいぶ長く伸ばされることを示します。









非常に長いフェルマータ 

音符が示すリズムよりずっと長く伸ばされることを示します。

カーリユー (Britten) 

Benjamin Britten によって使用され、非同期の音楽において音符または休符を次の同期ポイントまで伸ばすことを示します。

フェルマータは2つのスタイルに分けられます。それぞれの意味は重複するため、1つのプロジェクトの中で両方のスタイルを使用することは、プレイヤーを混乱させるおそれがあります。

スタイル (Style)	非常に短いフェルマータ	短いフェルマータ	フェルマータ	長いフェルマータ	非常に長いフェルマータ
標準					
Henze	なし				なし

### 関連リンク

[再生時の延長記号と休止記号 \(1342 ページ\)](#)

[延長記号と休止記号の入力方法 \(366 ページ\)](#)

[既存のアイテムの変更 \(472 ページ\)](#)

[ブレス記号の垂直位置を変更する \(1341 ページ\)](#)

## ブレス記号のタイプ

Dorico Pro ではさまざまなタイプのブレス記号が使用できます。ブレス記号は、プレイヤーがブレスを取るのに適切な位置や、ブレスのような効果を音に与えることを指示します。

コンマ

,

チェックマーク

✓

上げ弓






V

Salzedo



## 中間休止記号のタイプ

Dorico Pro ではさまざまなタイプの中間休止記号が使用できます。すべての中間休止記号は音の中断を指示しますが、楽譜のスタイルに応じて異なるタイプの中間休止記号が必要な場合があります。

中間休止記号 (Caesura)	太い中間休止記号 (Thick caesura)	短い中間休止記号 (Short caesura)	婉曲した中間休止 記号 (Curved caesura)	1 本線の中間休止 記号 (Single- stroke caesura)
				
2本の斜めのスラッシュ	2本の太い斜めのスラッシュ	2本のまっすぐな垂直のスラッシュ	2本の婉曲した斜めのスラッシュ	1本のまっすぐな垂直のスラッシュ

それぞれの中間休止記号で延長や休止の明確な長さを伝えたい場合、レジェンドの追加を検討することをおすすめします。これらの記号は、プレーヤーによって解釈が異なる場合があるからです。

## 延長記号と休止記号の位置

延長記号と休止記号は、単一の声部では初期設定で譜表の上に配置され、すべての譜表のリズム上なるべく近い位置に表示されます。たとえば、ある譜表の小節の最後の拍にフェルマータが付く場合、これは他の空白の譜表の小節休止符の上に表示されます。複声部の譜表については、フェルマータは譜表の下にも逆向きに表示されます。

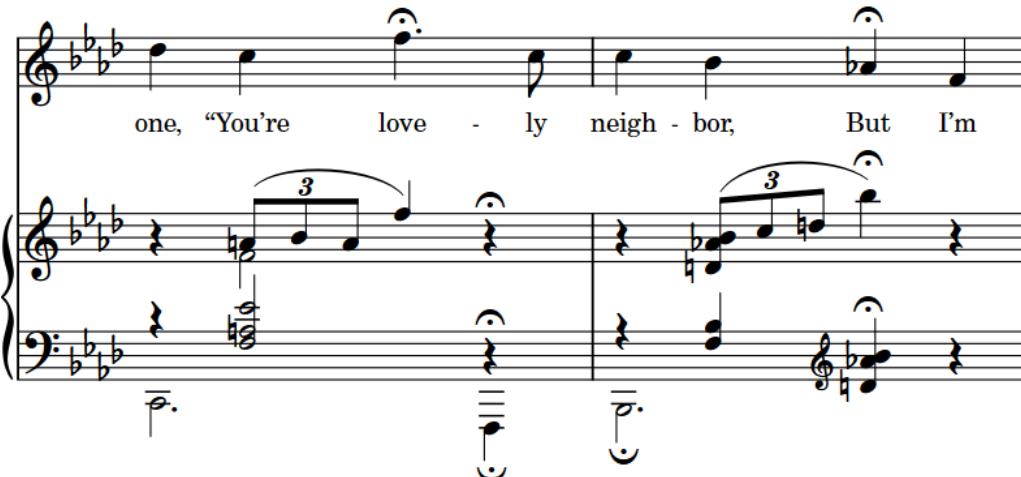
延長記号と休止記号の異なる位置への移動は、記譜モードで行ないます。これらは「**浄書オプション (Engraving Options)**」で設定されたデフォルト位置に配置されます。

延長記号と休止記号の表示位置は浄書モードで移動できますが、これによって記号のリズム上の位置が変更されることはありません。

すべての延長記号と休止記号のデフォルト位置、および延長記号と休止記号の周辺の最小間隔の値に関するプロジェクト全体の設定は、「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**延長記号と休止記号 (Holds and Pauses)**」ページで変更できます。

### フェルマータ

フェルマータは最初の声部列の正面の符頭に中央揃えで上または下に配置され、音符の符尾の方向には影響されません。



フェルマータは楽曲全体のテンポに影響するため、どこにフェルマータが付くか、すべてのプレイヤーが見えるようにする必要があります。そのためフェルマータは、すべての譜表において、フェルマータと同じ位置、またはフェルマータの終了位置にある音符、和音または休符の位置 (小節に音符がない場合は、小節休符の上) に表示されます。

## ブレス記号

初期設定では、ブレス記号は譜表の第5線の上、適用される音符の終了位置に表示されます。つまり、次の音符の直前に表示されます。

ブレス記号は、旋律を中断してブレスを取るために適切な位置をプレイヤー1人またはグループに示すだけで、全体のテンポには影響しないため、それが追加された譜表だけに適用されます。

## 中間休止記号

中間休止記号は譜表の上部に、第5線が記号の中央を通り、第4線に記号の下端が乗る形で配置されます。これは通常、小節の終了位置、小節線の前に配置されます。

中間休止記号は、すべての譜表の同じ位置に自動的に追加されます。これは入力位置の符頭または小節線のすぐ左です。中間休止記号は符頭にリンクされてはならず、音符のスペーシングを調整して一定の間隔を作ります。

関連リンク

[「浄書オプション \(Engraving Options\)」ダイアログ \(923 ページ\)](#)

[再生時の延長記号と休止記号 \(1342 ページ\)](#)

## 延長記号と休止記号の組み合わせ

延長記号と休止記号の種類によっては、他の延長記号や休止記号と同じ位置に表示できないものがあります。

Dorico Pro では、1つの位置に以下のものを表示できます。

- すべての譜表で1種類のフェルマータまたは中間休止記号。たとえば、1つの譜表に短いフェルマータがあるとき、他の譜表の同じ位置に長いフェルマータを同時に置くことはできません。1つの譜表でフェルマータか中間休止記号のタイプを変更すると、自動的にその位置にあるすべての譜表のすべてのタイプが変更されます。特定の位置における休止は、デューレーションが全体で一致しなければならないからです。
- 譜表ごとに1種類のブレス記号またはカーリュウ記号。たとえば、各譜表に種類の異なるブレス記号を表示することはできますが、同じ譜表の同じ位置に異なる2つのブレス記号を表示することはできません。

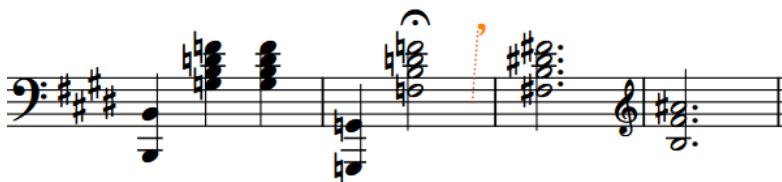
延長記号と休止記号を以下の方法で組み合わせることができます。

- フェルマータは、他の延長記号や休止記号と同じ位置に存在することはできません。ブレス記号やカーリュウ記号はフェルマータを上書きし、フェルマータは対応する譜表に表示されなくなります。中間休止記号とフェルマータは恒久的に入れ替わります。
- 中間休止記号はブレス記号やカーリュウ記号と同じ位置に存在できますが、フェルマータと同じ位置に存在することはできません。
- ブレス記号はカーリュウ記号と同じ位置に存在することはできません。これらは恒久的に入れ替わります。

---

例

フェルマータとブレス記号を同じ音符に表示するには、ブレス記号が異なる位置に存在することを連結線で確認してください。たとえば、隣の音符から移動させたり、キャレットが任意の位置にあるときに入力したりします。



関連リンク

[延長記号と休止記号の入力方法 \(366 ページ\)](#)

[キャレット \(242 ページ\)](#)

[リズム上の位置 \(26 ページ\)](#)

[音符/アイテムの位置の移動 \(502 ページ\)](#)

[連結線を表示/非表示にする \(478 ページ\)](#)

## 譜表ごとのフェルマータの数の変更

譜表に複数の声部がある場合、各譜表の特定の位置に表示されるフェルマータの最大数を変更できます。

前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。
- 下ゾーンのツールバーで「プロパティ (Properties)」 を選択しておきます。
- 浄書モードの場合は、浄書ツールボックスで「グラフィックの編集 (Graphic Editing)」 を選択しておきます。

手順

1. 譜表ごとの最大数を変更するフェルマータを選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「延長記号と休止記号 (Holds and Pauses)」グループで、「譜表ごとの最大フェルマータ (Max. fermatas per staff)」をオンにします。
3. メニューから以下のいずれかのオプションを選択します。
  - 声部につき 1 つ (One per voice)
  - 譜表の片側につき 1 つ (One per each side of staff)
  - 譜表につき 1 つ (One per staff)

結果

選択した位置のフェルマータの表示数を変更されます。

ヒント

1 つの譜表に表示されるフェルマータの最大数に関するプロジェクト全体の設定は、「浄書オプション (Engraving Options)」の「延長記号と休止記号 (Holds and Pauses)」ページで変更できます。

関連リンク

[浄書オプションで延長記号と休止記号の設定をプロジェクト全体に適用する \(1336 ページ\)](#)

[「浄書オプション \(Engraving Options\)」ダイアログ \(923 ページ\)](#)

[浄書ツールボックス \(554 ページ\)](#)

[ゾーンの表示/非表示の切り替え \(48 ページ\)](#)

[プロパティパネル \(826 ページ\)](#)

## フェルマータを小節線の上に配置する

次の小節の開始前に間隔を設けることを示すために、個々のフェルマータを音符ではなく小節線の上に配置できます。

### 補足

「譜表ごとの最大フェルマータ (Max. fermatas per staff)」がオンになっている場合、フェルマータは小節線の上に配置できません。

### 前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。
- 下ゾーンのツールバーで「プロパティ (Properties)」を選択しておきます。
- 浄書モードの場合は、浄書ツールボックスで「グラフィックの編集 (Graphic Editing)」を選択しておきます。

### 手順

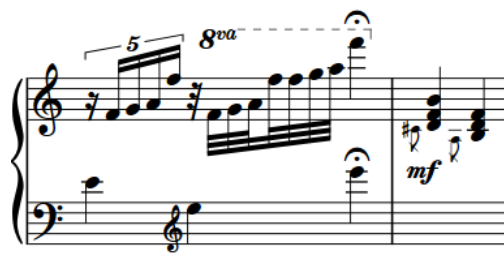
1. 小節線の上に配置するフェルマータを選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「延長記号と休止記号 (Holds and Pauses)」グループで、「小節線に配置 (Attach to barline)」をオンにします。

### 結果

選択したフェルマータは元の小節の終了位置にある小節線の上に配置され、小節線で結合されていない譜表のみで表示されます。楽器編成によっては、組段の一番上のみに表示されます。

「小節線に配置 (Attach to barline)」をオフにすると、選択したフェルマータがデフォルトの位置に戻ります。

### 例



小節内の最後の4分音符に入力されたフェルマータ



小節線上に配置されたフェルマータ

## ブレス記号の垂直位置を変更する

プロジェクト全体のすべてのブレス記号のデフォルトの垂直位置を変更できます。これはたとえば、すべてのブレス記号を譜表のすぐ上に配置したい場合に役立ちます。初期設定では、ブレス記号は符頭の中間の位置に配置されます。

### 手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[E]** を押して「浄書オプション (Engraving Options)」を開きます。
2. カテゴリーリストの「延長記号と休止記号 (Holds and Pauses)」をクリックします。

3. 「垂直位置 (Vertical Position)」セクションの「ブレス記号の垂直位置 (Vertical position of breath mark)」で、以下のいずれかのオプションを選択します。
    - 「最も外側の譜表線の外側 (Outside outermost staff line)」
    - 「符頭の上 (Above notehead)」
    - 「符頭の間 (Halfway between noteheads)」
  4. 「適用 (Apply)」をクリックしてから「閉じる (Close)」をクリックします。
- 

#### 結果

プロジェクト全体のすべてのブレス記号のデフォルトの垂直位置が変更されます。

---

#### 例



最も外側の譜表線の外側に配置されたブレス記号

符頭の上に配置されたブレス記号

符頭の間配置されたブレス記号

---

#### 関連リンク

[「浄書オプション \(Engraving Options\)」ダイアログ \(923 ページ\)](#)

[ブレス記号のタイプ \(1337 ページ\)](#)

[延長記号と休止記号の位置 \(1338 ページ\)](#)

[延長記号と休止記号の入力方法 \(366 ページ\)](#)

[アイテムの表示位置の移動 \(652 ページ\)](#)

## 再生時の延長記号と休止記号

Dorico Pro は音符のデュレーションの変更と間隔の挿入を組み合わせ、あらゆる種類のフェルマータ、ブレス記号、中間休止記号を再生に反映します。

#### 再生時のフェルマータ

フェルマータはその位置にある音符のデュレーションを延ばし、そのあとに間隔を挿入します。延長と間隔のデュレーションはフェルマータの種類に依存し、長いフェルマータの場合は短いフェルマータよりも音符が長く延長され、間隔も長くなります。

#### 再生時のブレス記号

ブレス記号はその前にある音符のデュレーションを短くします。初期設定では、120 bpm で 4 分音符の 50%、影響を受ける音符のデュレーションを最大半分まで短くします。

ブレス記号は再生時に時間を挿入するものではありません。

#### 再生時の中間休止記号

中間休止記号はその位置にある音符と次の位置にある音符の間に間隔を挿入します。初期設定では、その位置の拍のデュレーションの 50% に相当する間隔を挿入します。

中間休止記号は、その位置の音符のデュレーションを延ばすものではありません。

フェルマータと中間休止記号の間隔/延長のデュレーションを個別に変更できます。これには、テンポエディターでの編集も含まれます。

また、「再生オプション (Playback Options)」 > 「タイミング (Timing)」 > 「延長記号 (Pauses)」では、プロジェクト全体のすべての延長記号と休止記号のデフォルトの間隔/延長のデュレーションを変更することもできます。

#### 補足

段階的テンポ変更と重なっているフェルマータと中間休止記号は再生に影響しません。フェルマータ/中間休止記号の前で終わるように段階的テンポ変更を配置することをおすすめします。段階的テンポ変更がフェルマータ/中間休止記号にかかるように表示したい場合は、浄書モードで段階的テンポ変更の表示上の長さを延ばすことができます。

---

#### 関連リンク

- [楽譜の再生 \(680 ページ\)](#)
- [音符の演奏されるデュレーションの変更 \(853 ページ\)](#)
- [段階的テンポ変更 \(1757 ページ\)](#)
- [テンポエディター \(871 ページ\)](#)

## 延長記号を再生に含める/除外する

初期設定では、Dorico Pro はすべての延長記号と休止記号を再生します。たとえば、間隔のない一定の速度で楽譜を再生したい場合などに、プロジェクト全体のすべての延長記号と休止記号を再生に含めたり除外したりできます。

#### 補足

フェルマータと中間休止記号は、固定テンポモードでの再生には影響しません。

---

#### 手順

- [Ctrl]/[command]+[Shift]+[P]** を押して「再生オプション (Playback Options)」を開きます。
  - カテゴリーリストの「タイミング (Timing)」をクリックします。
  - 「延長記号 (Pauses)」セクションで、「延長記号を再生に反映 (Play back pauses)」をオン/オフにします。
  - 「適用 (Apply)」をクリックしてから「閉じる (Close)」をクリックします。
- 


#### 関連リンク


- [楽譜の再生 \(680 ページ\)](#)
- [テンポモードの変更 \(683 ページ\)](#)
- [「再生オプション \(Playback Options\)」ダイアログ \(925 ページ\)](#)
- [スラッシュ付き声部を再生に含める/除外する \(1629 ページ\)](#)
- [リピートを再生に含める/除外する \(690 ページ\)](#)
- [延長記号と休止記号の入力方法 \(366 ページ\)](#)

## 再生時のフェルマータの間隔/延長のデュレーションを変更する

再生時のフェルマータの間隔と延長のデュレーションを、プロジェクト全体の設定とは別に、個別に変更できます。たとえば、1つのフェルマータを、記譜タイプを変更することなく長く延ばしたい場合などに便利です。

#### 前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。
- 下ゾーンのツールバーで「プロパティ (Properties)」を選択しておきます。

- 浄書モードの場合は、浄書ツールボックスで「グラフィックの編集 (Graphic Editing)」を選択しておきます。

---

#### 手順

1. 再生時の間隔/延長のデュレーションを変更するフェルマータを選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「延長記号と休止記号 (Holds and Pauses)」グループで、以下のプロパティを片方または両方ともオンまたはオフにします。
  - 延長のデュレーションに対する割合 (Hold duration %)
  - 間隔のデュレーションの割合 (Gap duration %)
3. 数値フィールドの値を変更します。
4. 選択したフェルマータを間隔なしで再生するには、「ホールドのみ (Hold only)」をオンにします。

---

#### 結果

選択したフェルマータの再生時の間隔/延長のデュレーションが変更されます。

---

#### ヒント

- また、テンポエディターで個々のフェルマータの再生を編集することもできます。
- すべてのフェルマータのデフォルトの再生時の間隔/延長のデュレーションをプロジェクト全体で変更するには、フェルマータのタイプごとに異なる値を設定する場合も含め、「再生オプション (Playback Options)」 > 「タイミング (Timing)」 > 「延長記号 (Pauses)」で設定します。

---

#### 関連リンク

- [プロパティパネル \(826 ページ\)](#)
- [浄書ツールボックス \(554 ページ\)](#)
- [フェルマータのタイプ \(1336 ページ\)](#)
- [テンポエディター \(871 ページ\)](#)

## 再生時の中間休止記号の間隔のデュレーションを変更する

再生時の中間休止記号の間隔のデュレーションを、プロジェクト全体の設定とは別に、個別に変更できます。たとえば、一部の中間休止記号に他の中間休止記号よりも長い間隔が必要な楽譜などに便利です。

#### 前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。
- 下ゾーンのツールバーで「プロパティ (Properties)」を選択しておきます。
- 浄書モードの場合は、浄書ツールボックスで「グラフィックの編集 (Graphic Editing)」を選択しておきます。

---

#### 手順

1. 再生時の間隔のデュレーションを変更する中間休止記号を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
  2. プロパティパネルの「延長記号と休止記号 (Holds and Pauses)」グループで、「間隔のデュレーションの割合 (Gap duration %)」をオン/オフにします。
  3. 数値フィールドの値を変更します。
-



#### 結果

選択した中間休止記号の再生時の間隔のデュレーションが変更されます。

#### ヒント

- また、テンポエディターで個々の中間休止記号の再生を編集することもできます。
  - すべての中間休止記号のデフォルトの再生時の間隔のデュレーションをプロジェクト全体で変更するには、「再生オプション (Playback Options)」 > 「タイミング (Timing)」 > 「延長記号 (Pauses)」 で設定します。
-

# 調号

調号は、スケールのどの音符にシャープまたはフラットが付くかを示すことにより、現在の楽譜のキーを表示する記号です。調号は各組段の適用されるすべての譜表の開始位置に表示されます。

伝統的に、臨時記号は5度圏(サークルオブフィフス)のパターンに従って、シャープを使用する調とフラットを使用する調でそれぞれ異なる形に並べられます。

調号を使用すると、楽譜のどの音符が通常シャープやフラットになるか各組段の開始位置にひとまとめにして表示でき、音符が出現するたびに臨時記号を横に付ける必要がなくなるため、スペースを節約できます。



調号を入力すると、それ以降に入力するすべての音符がその調号に従います。たとえば、Gメジャーの調号を入力したあとで **[F]** を入力すると、自動的に F#が入力されます。

Aマイナーやオープンキーの調号など、臨時記号が表示されない調号はガイドで表示されます。

Dorico Proでは、ティンパニやホルンのように通常は調号を持たないインストゥルメントには「**調号なし (No key sig)**」バージョンがあり、このバージョンのインストゥルメントには調号が表示されません。インストゥルメントを追加または変更する際は、インストゥルメントピッカーから適切なインストゥルメントバージョンを選択できます。どのインストゥルメントに調号を表示するかは、「**インストゥルメントを編集 (Edit Instruments)**」ダイアログで設定できます。

調号のないフローは、AマイナーやCメジャーではなく、オープンキーの調号または無調の調号が適用されているかのように扱われます。

初期設定では、調号はすべての譜表に適用されます。しかし、多調音楽など、状況によっては一部のパートがアンサンブル中の他パートとは異なる、独自の調号を必要とする場合があります。Dorico Proでは、すべての譜表に適用される調号も、1つの譜表だけに適用される調号も入力できます。

Dorico Proでは、調号はプロジェクトを包括する調性システムの一部です。Dorico Proで標準的に使用される調性システムは、12-EDOと24-EDOの2つです。

プロジェクトで調性システムを選択または作成すると、その調性システムに特別な調号やカスタムの臨時記号を作成できます。

## 補足

- 調号は、音符のピッチに関する欠かせない情報を担っているため、非表示にはできません。調号を表示させない場合、オープンキーの調号を入力するか、フローまたはプロジェクトからすべての調号を削除します。
- スコアに移調楽器がある場合、複数の調号を同じ位置に入力する必要はありません。Dorico Proはインストゥルメントの移調を自動で管理します。

関連リンク

[調号の入力方法 \(305 ページ\)](#)

[調号のタイプ \(1348 ページ\)](#)

[調性システム \(1357 ページ\)](#)

[カスタムの調性システム \(1003 ページ\)](#)

[インストゥルメントピッカー \(124 ページ\)](#)

[音符の入力 \(247 ページ\)](#)

[音符/アイテムの削除 \(496 ページ\)](#)

[移調楽器 \(146 ページ\)](#)

[実音と移調音 \(195 ページ\)](#)

[「MIDI インポートオプション \(MIDI Import Options\)」ダイアログ \(95 ページ\)](#)

[「インストゥルメントを編集 \(Edit Instruments\)」ダイアログ \(950 ページ\)](#)

## 浄書オプションで調号の設定をプロジェクト全体に適用する

「**浄書オプション (Engraving Options)**」では、調号の外観とスペーシングを設定してプロジェクト全体に適用できます。

「**調号 (Key Signatures)**」ページのオプションでは、調号の打ち消しスタイルや調号の臨時記号の間隔を変更したり、調号の臨時記号の背景を塗りつぶしたりできます。

「**間隔のスペーシング (Spacing Gaps)**」ページには、小節線と音部記号、調号、拍子記号の間など、調号の周辺のスペーシングに影響するオプションが用意されています。

### ヒント

調号変更位置での小節線の外観を変更するには、「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**小節線 (Barlines)**」ページにあるオプションを使用します。

関連リンク

[「浄書オプション \(Engraving Options\)」ダイアログ \(923 ページ\)](#)

[調号の変更位置の小節線を変更する \(1083 ページ\)](#)

[調号の背景の塗りつぶし \(1355 ページ\)](#)



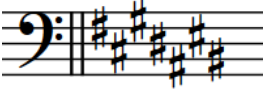
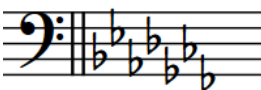
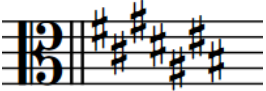
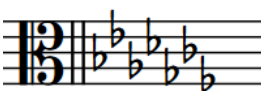
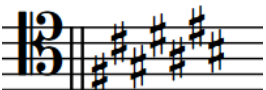
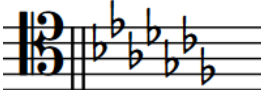
## 調号の配置

Dorico Pro は、調号の配置および外観において、臨時記号を伝統的な 5 度圏の順番で並べることや、音部記号と拍子記号の間に表示することなどの表記規則に自動的に従います。

調号における臨時記号の表示の順番は、シャープの調とフラットの調でそれぞれ異なります。

- シャープの場合: F $\sharp$ 、C $\sharp$ 、G $\sharp$ 、D $\sharp$ 、A $\sharp$ 、E $\sharp$ 、B $\sharp$
- フラットの場合: B $\flat$ 、E $\flat$ 、A $\flat$ 、D $\flat$ 、G $\flat$ 、C $\flat$ 、F $\flat$

Dorico Pro においては、すべての標準的な西洋式の調号の臨時記号は、自動的にこの順番で並べられます。調号の臨時記号には伝統的な配置パターンがあり、現在の音部に従ってすべて譜表の内側に配置されます。臨時記号のパターンはすべての音部で同じですが、テナー記号のシャープの調号においては例外となり、臨時記号を譜表に収めるために他とは異なる上昇型のパターンを使用します。

音部記号 (Clef)	シャープ記号の配置	フラット記号の配置
トレブル (Treble)		
バス記号 (低音部記号) (Bass)		
アルト (Alto)		
テナー (Tenor)		

#### 補足

標準とは異なるカスタムの調号については、「**特別な調号を編集 (Edit Custom Key Signature)**」ダイアログで臨時記号の表示される順番を決定できます。

#### 関連リンク

[特別な調号 \(1012 ページ\)](#)

[調号の変更位置の小節線を変更する \(1083 ページ\)](#)

[調号の位置 \(1350 ページ\)](#)

## 調号のタイプ

Dorico Pro には調号のタイプが複数あり、それぞれ同じ手順で入力、移動、および削除を行なえます。

### 長調と短調の調号

長調の調号はその平行短調の調号と外見上は同じであり、同じく短調の調号はその平行長調と同じ外見になります。たとえば、B $\flat$ メジャーの調号にはフラットが2つあります。これはB $\flat$ メジャーの平行調であるGマイナーの調号とフラット数が同じです。違いとして挙げられる点は、スケールの7度がマイナーの調号で上がるため、Gマイナーの楽譜は一般的にFがシャープになることです。そのため、Gマイナーの調号のあとにF $\sharp$ /G $\flat$ を入力した場合、マイナーの調号の規則に従って、F $\sharp$ と表示されます。



B フラットメジャーの調号における B フラットメジャースケール



G マイナーの調号における G ハーモニックマイナースケール

## オープンキーの調号

オープンキー (無調) の調号は、臨時記号を表示しないため C メジャーまたは A マイナーの調号と同じに見えますが、振る舞いは異なります。

オープンキーの調号においては、臨時記号の表記方法はそのときの旋律の方向に基づきます。旋律が上昇するときはシャープの使用が推奨され、旋律が下降するときはフラットの使用が推奨されます。オープンキーではピッチに序列がないため、同じピッチの表記が、数小節の範囲内であっても、状況によって異なる場合があります。

C メジャーまたは A マイナーの調号では、臨時記号は長調と短調のいずれであるかに基づいて表記されます。たとえば、C メジャーでは旋律が上昇下降いずれの方向であっても、一般的にシャープの使用が推奨されます。同様に A マイナーでは、旋律が上昇下降いずれの方向であっても、G# は導音であるため特に使用が推奨されます。

## 調号なし

一部のインストゥルメントには、楽曲全体の調に関わらず、そのパートに一切の調号を表示しないことが慣例化しているものがあります。このようなインストゥルメントにはティンパニ、打楽器、ホルン、トランペットなどがあり、ときにはハーブもこれに加わります。

これらのインストゥルメントの「**調号なし (No key sig)**」バージョンを追加した場合、ホルンやトランペットのような移調楽器であっても、これらのパートに調号は表示されません。

これらのインストゥルメントにはどのピッチも入力でき、必要に応じて臨時記号も表示されます。

どのインストゥルメントに調号を表示するかは、「**インストゥルメントを編集 (Edit Instruments)**」ダイアログで設定できます。

### 関連リンク

[調号の入力方法 \(305 ページ\)](#)

[インストゥルメントピッカー \(124 ページ\)](#)

[プレーヤーへのインストゥルメントの追加 \(146 ページ\)](#)

[「インストゥルメントを編集 \(Edit Instruments\)」ダイアログ \(950 ページ\)](#)

## 組段の開始位置にある調号を表示/非表示にする

初期設定では、調号はすべての組段の開始位置に表示されます。単一譜表の組段の開始位置にある調号の表示/非表示の切り替えは、各フローの 2 つめ以降の組段に対して個別に行なえます。

単一譜表の組段にある調号を最初の組段の後に非表示にするのは、手写のリードシートにおける慣習です。通常、この場合は音部記号も非表示にし、組段の小節線は表示します。

### 手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[N]** を押して「**記譜オプション (Notation Options)**」を開きます。
2. 「**フロー (Flows)**」リストで、最初の組段より後で調号を表示/非表示にするフローを選択します。  
初期設定では、現在のフローのみを選択した状態のダイアログが表示されます。他のフローを選択するには、アクションバーの「**すべて選択 (Select All)**」をクリックするか、複数のフローをまたぐようにクリックしてドラッグするか、**[Shift]** を押しながら隣接するフローをクリックするか、**[Ctrl]/[command]** を押しながら個々のフローをクリックします。
3. カテゴリーリストの「**調号 (Key Signatures)**」をクリックします。
4. 「**最初の組段以外の組段の開始位置にある調号 (Key signatures at start of systems following first system)**」で、以下のいずれかのオプションを選択します。
  - **調号を表示 (Show key signatures)**

- 調号を非表示 (Hide key signatures)

5. 「適用 (Apply)」をクリックしてから「閉じる (Close)」をクリックします。

#### 結果

選択したフローの2つめの組段以降で、単一譜表の組段の開始位置にある調号が表示/非表示になります。

#### 補足

- 最初の組段の後にある組段区切りでの調号の変更は、常に表示されます。
- 2つ以上の譜表を含む組段の開始位置にある調号は、常に表示されます。

#### 関連リンク

[単一譜表の組段で組段の小節線を表示/非表示にする \(1085 ページ\)](#)

[組段の開始位置にある音部記号を表示/非表示にする \(1197 ページ\)](#)

## 調号の変更の前の打ち消しのナチュラル記号の表示/非表示を切り替える

すべての調号の変更の前の打ち消しのナチュラル記号の表示/非表示をプロジェクト全体で切り替えることができます。打ち消しのナチュラル記号を表示する場合、小節線の前に表示するか後ろに表示するかを選択できます。

#### 手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[E]** を押して「浄書オプション (Engraving Options)」を開きます。
2. カテゴリーリストの「調号 (Key Signatures)」をクリックします。
3. 「調号変更位置のナチュラル: (Cancellation naturals at changes of key signature)」で以下のいずれかのオプションを選択します。
  - 一般的な慣習 (Common Practice)
  - 伝統音楽 (Traditional)
  - ロシア式 (Russian)
4. 「適用 (Apply)」をクリックしてから「閉じる (Close)」をクリックします。

#### 関連リンク

[「浄書オプション \(Engraving Options\)」ダイアログ \(923 ページ\)](#)

[臨時記号の有効範囲ルール \(1060 ページ\)](#)

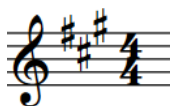
[二重臨時記号の打ち消しの変更 \(1063 ページ\)](#)

[調号の変更位置の小節線を変更する \(1083 ページ\)](#)

## 調号の位置

調号は初期設定では音部記号と拍子記号の間に配置され、調号を必要とするすべての譜表に表示されます。調号は無音程楽器の譜表には表示されません。

調号は楽曲の開始位置および各楽章の開始位置に、楽譜が同じ調のまま継続する場合でも表示されます。拍子記号とは異なり、調号はすべての組段の開始位置に、調号に変化がなくても表示されます。これはフローの終端か、次の調号の変更がある位置の、いずれか先に到達するところまで適用されます。



調号の正しい位置は音部記号と拍子記号の間です。

楽曲か楽章の途中で調号が発生する場合は、小節線の直後に配置されます。調号の変更を行なう場所には複縦線を使用するのが慣例であり、Dorico Pro ではこれがデフォルトになっています。ただし、調号の変更を行なう場所にデフォルトで表示される複縦線は変更できます。



調号の変更に複縦線が使用される例

調号の異なる位置への移動は、記譜モードで行ないます。調号は、「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**調号 (Key Signatures)**」および「**間隔のスペーシング (Spacing Gaps)**」ページの設定に従い配置されます。

個々の調号の表示位置を変更する必要がある場合、これは浄書モードで行なえますが、これにより調号のリズム上の位置が変更されることはありません。

音符や小節線に対する調号のデフォルト位置を調節する場合、「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**間隔のスペーシング (Spacing Gaps)**」ページで間隔のスペーシングに関するプロジェクト全体の値を変更する必要があります。

関連リンク

[予告の調号 \(1352 ページ\)](#)

[調号の配置 \(1347 ページ\)](#)

[「浄書オプション \(Engraving Options\)」ダイアログ \(923 ページ\)](#)

[音符/アイテムの位置の移動 \(502 ページ\)](#)

[調号の表示位置の変更 \(1351 ページ\)](#)

[調号の変更位置の小節線を変更する \(1083 ページ\)](#)

## 調号の表示位置の変更

調号の表示位置は、他のアイテムの位置に影響を与えることなく個別に変更できます。

前提条件

浄書ツールボックスで「**音符のスペーシング (Note Spacing)**」を選択しておきます。

手順

1. 浄書モードで、移動する調号の上にある、音符のスペーシング用の四角いハンドルを選択します。



調号の横に小さい丸いハンドルが表示されます。

2. **[Tab]** を押して丸いハンドルを選択します。



- 以下のいずれかの操作を行なって、ハンドルを移動します。
  - 標準的な幅で左右に移動するには、**[Alt/Opt]** を押しながらか対応する矢印キーを押します。たとえば、ハンドルを左に移動するには、**[Alt/Opt]+[←]** を押します。
  - 移動幅を大きくするには、通常のキーボードショートカットに加え **[Ctrl]/[command]** を押します (例: **[Ctrl]/[command]+[Alt/Opt]+[←]**)。
  - 移動幅を中くらいにするには、通常のキーボードショートカットに加え **[Shift]** を押します (例: **[Shift]+[Alt/Opt]+[←]**)。
  - 移動幅を小さくするには、通常のキーボードショートカットに加え **[Ctrl]/[command]+[Shift]** を押します (例: **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[Alt/Opt]+[←]**)。


#### 補足

音符のスペーシングのハンドルの移動はマウスでは行なえず、キーボードのみで行なえます。

#### 結果

調号の表示位置が水平方向に移動されます。

#### ヒント

浄書のツールボックスで「グラフィックの編集 (Graphic Editing)」 が選択されているときは、プロパティパネルの「調号 (Key Signatures)」グループにある「スペーシングのオフセット (Spacing offset)」を変更しても、調号を水平方向に移動できます。ただし、これは調号のリズム上の位置における全体的な音符のスペーシングに影響し、打ち消しのナチュラル記号もこれに影響されます。

また、「ナチュラル X オフセット (Cancellation naturals X offset)」プロパティを使用すると、後続の調号とは別個に、他のアイテムのスペーシングに影響を与えることなく、打ち消しのナチュラル記号の表示位置を移動できます。

#### 関連リンク

[浄書ツールボックス \(554 ページ\)](#)

[音符のスペーシング \(643 ページ\)](#)

## 予告の調号

調号の変更が組段区切りで発生する場合、スコアでもパートでも、区切り後の組段の開始位置とともに、区切り前の組段の終了位置にも新規の調号が表示されます。

これは「予告の調号」と見なされる場合もあります。プレイヤーが組段の開始位置に調号があることに見慣れてしまい、組段の終了位置に表示して目立たせておかないと、調号の変更に気づかないかもしれないからです。

Dorico Pro において、組段の最後に表示される調号と次の組段の開始位置に表示される調号は、別のアイテムではなく、同じものです。予告の調号は、個別に非表示にしたりフローごとにデフォルトで非表示にしたりできます。

#### ヒント

個別の楽譜の範囲にフローを使用することをおすすめします。Dorico Pro では、フロー間に予告の調号や拍子記号は表示されません。

#### 関連リンク

[フロー \(187 ページ\)](#)

[フローの分割 \(551 ページ\)](#)




- [組段の開始位置にある調号を表示/非表示にする \(1349 ページ\)](#)
- [調号の変更の前の打ち消しのナチュラル記号の表示/非表示を切り替える \(1350 ページ\)](#)
- [組段区切り \(789 ページ\)](#)
- [親切拍子記号 \(1798 ページ\)](#)
- [リピートマーカー \(1598 ページ\)](#)
- [音部記号 \(1191 ページ\)](#)

## 予告の調号を表示/非表示にする

組段区切りの位置で調号の変更が発生した場合、組段の終了位置に表示されている予告の調号を、フローごとの設定とは別に、個別に表示/非表示にできます。これにより、たとえば臨時記号の多い調号を使用する場合に水平方向のスペースを節約できます。この操作は現在のレイアウトとフレームチェーンのみに対して、もしくはすべてのレイアウトとフレームチェーンに対して行なえます。

### 前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。
- 下ゾーンのツールバーで「プロパティ (Properties)」を選択しておきます。
- 浄書モードの場合は、浄書ツールボックスで「グラフィックの編集 (Graphic Editing)」を選択しておきます。
- ローカルのプロパティ変更に関して、適切なプロパティ範囲を選択しておきます。

---

### 手順

1. 表示/非表示にする予告の調号を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「調号 (Key Signatures)」グループで、「組段の終了位置の親切記号 (Cautionary at end of system)」をオンにします。
3. 以下のいずれかのオプションを選択します。
  - 非表示 (Hide)
  - 表示 (Show)

---

### 結果

組段の終了位置にある選択した予告の調号が表示または非表示になります。これは、組段の開始位置にある調号には影響しません。

プロパティ範囲を「ローカル (Locally)」に設定している場合、この変更は現在のレイアウトおよびフレームチェーンのみに影響します。

### ヒント

「記譜オプション (Notation Options)」の「調号 (Key Signatures)」ページでは、予告の調号をデフォルトで表示するか非表示にするかをフローごとに設定できます。

---

### 関連リンク

- [予告の調号 \(1352 ページ\)](#)
- [親切拍子記号 \(1798 ページ\)](#)
- [組段の開始位置にある調号を表示/非表示にする \(1349 ページ\)](#)
- [組段区切り \(789 ページ\)](#)
- [「記譜オプション \(Notation Options\)」ダイアログ \(919 ページ\)](#)
- [浄書ツールボックス \(554 ページ\)](#)
- [ゾーンの表示/非表示の切り替え \(48 ページ\)](#)
- [プロパティ範囲の変更 \(828 ページ\)](#)

[プロパティ設定を別のレイアウト/フレームチェーンにコピーする \(825 ページ\)](#)

## 異名同音の調号

異名同音の調号とは、C#メジャーとDbメジャーのように、名前は異なっても音階を構成するピッチが共通する調号のことです。Dorico Pro は表記規則に従い、移調の際は移調前の調と臨時記号のタイプが同じ調に移行します。ただし、異名同音の調号の方が臨時記号が少ない場合を除きます。

選択した音符を移調するとき、Dorico Pro は移調前の調号と臨時記号のタイプが同じ調を優先的に選択します。インストゥルメントを移調する際に調号を選択する場合、Dorico Pro は現在の実音調と同タイプの臨時記号を用いる調号を優先的に選択します。

ただし、同じタイプの臨時記号を用いる調号よりも、異なるタイプの臨時記号を用いる異名同音の調号に転調した方が、臨時記号の数が少なく済むため好ましい場合もあります。たとえば、C#メジャーはシャープが7つになる一方、Dbメジャーはフラットが5つだけです。つまり、臨時記号が付くことをプレイヤーが記憶しなければならない音符が減るということです。

臨時記号が少ない異名同音調への転調は、ダブルシャープやダブルフラットの使用が抑えられて読みやすくなるという利点もあります。たとえば、楽譜をF#からG#に転調すると、導音はF#と表記する必要がありますが、かわりにAbに転調すると、導音はG#となります。



G#メジャーでは導音にダブルシャープを付ける必要があります



G#の異名同音であるAbメジャーでは導音にダブルシャープを付ける必要はありません

初期設定では、Dorico Pro は臨時記号が少ない場合に異名同音の調号を選択します。この設定は、フローごとに個別に変更できます。

### 調号が移調楽器に与える影響

フルスコアに調号がある場合、移調楽器の楽譜に対しては、そのインストゥルメントの移調の音程と同じ度数で移調が行なわれます。たとえば、Eメジャーのプロジェクトでは、Bbクラリネットのパートの調はF#メジャーになります。Bbクラリネットは記譜上のピッチより1ステップ(全音)低く発音されるからです。

### 調号が表示されないインストゥルメント

一部のインストゥルメントには、楽曲全体の調に関わらず、そのパートに一切の調号を表示しないことが慣例化しているものがあります。このようなインストゥルメントにはティンパニ、打楽器、ホルン、トランペットなどがあり、ときにはハープもこれに加わります。これらのインストゥルメントの「**調号なし (No key sig)**」バージョンを入力した場合、ホルンやトランペットのような移調楽器であっても、これらのパートに調号は表示されません。

これらのインストゥルメントの譜表における楽譜は移調できますが、調号は表示されず、必要に応じて臨時記号が表示されるだけになります。

関連リンク

[「記譜オプション \(Notation Options\)」 ダイアログ \(919 ページ\)](#)

[「移調 \(Transpose\)」 ダイアログ \(520 ページ\)](#)

[選択範囲の移調 \(519 ページ\)](#)

[音符の書き換え \(523 ページ\)](#)

[プレイヤーへのインストゥルメントの追加 \(146 ページ\)](#)

[実音と移調音 \(195 ページ\)](#)

[移調楽器 \(146 ページ\)](#)

## 異名同音の調号を許可する/許可しない

Dorico Pro の初期設定では、調号を含み、移調レイアウトに含まれる選択範囲を移調するときに臨時記号が少なくなる場合は、異名同音の調号が選択されます。この設定はフローごとに個別に変更できます。これはたとえば、すべてのレイアウトにおいて、臨時記号の数に関係なく調号にフラットを含める場合に役立ちます。

---

### 手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[N]** を押して「**記譜オプション (Notation Options)**」を開きます。
2. 「**フロー (Flows)**」リストから、異名同音の調号を許可する/許可しないフローを選択します。  
初期設定では、現在のフローのみを選択した状態のダイアログが表示されます。他のフローを選択するには、アクションバーの「**すべて選択 (Select All)**」をクリックするか、複数のフローをまたぐようにクリックしてドラッグするか、**[Shift]** を押しながら隣接するフローをクリックするか、**[Ctrl]/[command]** を押しながら個々のフローをクリックします。
3. カテゴリーリストの「**臨時記号 (Accidentals)**」をクリックします。
4. 「**移調 (Transposition)**」セクションで「**異名同音の調を優先 (臨時記号を減らす) (Prefer enharmonic equivalent key signatures with fewer accidentals)**」のオン/オフを切り替えます。
5. 「**適用 (Apply)**」をクリックしてから「**閉じる (Close)**」をクリックします。

---

### 結果

このオプションがオンの場合は、臨時記号が少なくなる異名同音の調号が許可され、オフの場合は異名同音の調号が許可されません。これは調号を含み、移調レイアウトに含まれる選択範囲を移調した際の調号に影響します。

## 調号の背景の塗りつぶし

プロジェクト全体で、タイにかかるすべての調号の臨時記号の背景を塗りつぶすことができます。これにより、このような状況における調号の可読性が向上します。

---

### 手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[E]** を押して「**浄書オプション (Engraving Options)**」を開きます。
2. カテゴリーリストの「**調号 (Key Signatures)**」をクリックします。
3. 「**調号の変化記号の背景をこの幅で塗りつぶす (Erase background behind key signature accidentals with erasure of width)**」をオン/オフにします。
4. 必要に応じて、数値フィールドの値を変更します。
5. 「**適用 (Apply)**」をクリックしてから「**閉じる (Close)**」をクリックします。

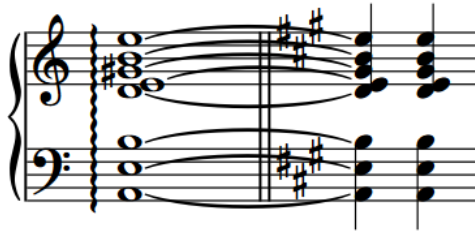
---

### 結果

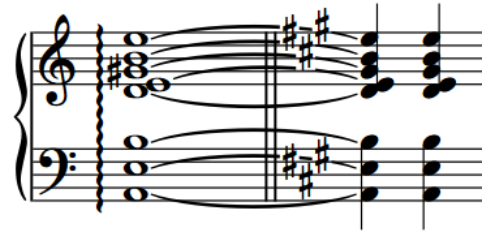
このオプションをオンにすると、プロジェクト全体でタイにかかるすべての調号の臨時記号の背景が塗りつぶされ、オフにすると塗りつぶされません。

各臨時記号の周囲の塗りつぶしの余白は設定した値に従います。

例



調号の臨時記号の背景が塗りつぶされていない状態



調号の臨時記号の背景が塗りつぶされた状態

---

関連リンク

[「浄書オプション \(Engraving Options\)」ダイアログ \(923 ページ\)](#)

[タイ \(1776 ページ\)](#)

[拍子記号の背景の塗りつぶし \(1813 ページ\)](#)

[強弱記号の背景の塗りつぶし \(1239 ページ\)](#)

[演奏技法の背景の塗りつぶし \(1538 ページ\)](#)

[テキストアイテムの背景の塗りつぶし \(1774 ページ\)](#)

# 調性システム

Dorico Pro では、調性システムとは、調性のコンセプトを構成する 3 つの重要な要素を内包する言葉として使用されます。

調性システムを構成する 3 つの要素を以下に挙げます。

- オクターブの均等な分割の数 (EDO)。たとえば、標準的な半音階による西洋音階は 12-EDO を使用します。
- 臨時記号のセット。音符をどれだけ上げ下げするかを記譜できます。これには伝統的な臨時記号のセットかカスタムの臨時記号セットを使用します。これは幅広く取り揃えられた各種セットから選択するか独自に作成できます。
- 調号。これには伝統的な西洋音階の調号か、自作したカスタムの調号が使用できます。

Dorico Pro では、以下の調性システムが各プロジェクトにデフォルトで用意されています。

## 平均律 (12-EDO) (Equal temperament (12-EDO))

半ステップ (半音) を 12 個含みます。



## 平均律 (24-EDO, Gould 矢印) (Equal temperament (24-EDO, Gould arrows))

1/4 音を 24 個含み、1/4 音の臨時記号であるグールド矢印を使用します。



## 平均律 (24-EDO, Stein-Zimmermann) (Equal temperament (24-EDO, Stein-Zimmermann))

1/4 音を 24 個含み、1/4 音の臨時記号である Stein-Zimmermann を使用します。



プロジェクトに登録されている調性システムは、調号、調性システム、臨時記号パネルの「**調性 (Tonality System)**」セクションで確認できます。

関連リンク

[カスタムの調性システム \(1003 ページ\)](#)

[調性システムの変更 \(1358 ページ\)](#)

[カスタムの調性システムの再生 \(1014 ページ\)](#)

[調号、調性システム、臨時記号パネル \(306 ページ\)](#)

[「調性システムを編集 \(Edit Tonality System\)」ダイアログ \(1007 ページ\)](#)

## オクターブの均等な分割 (EDO)

EDO とは、「Equal Division of the Octave (オクターブの均等な分割)」の略です。これはオクターブを均等に分割した断片 (音程) の数になります。Dorico Pro では、オクターブの分割を自由な数に設定でき、調性システムそれぞれに特別な調号およびカスタムの臨時記号を作成できます。

伝統的な西洋和声は、調性システムを表現する方法の 1 つである平均律 (12-EDO) に基づきます。伝統的な C から C までのスケールにおいては、スケールを構成する 7 つの音程に 12 個のステップ (オクターブの均等な 12 分割) が振り分けられるためです。

「**調性システムを編集 (Edit Tonality System)**」ダイアログで 12-EDO 調性システムを編集すると、スケール中の各音程にステップがどう振り分けられているか確認できます。たとえば、音程の A と B の間にはステップが 2 つ割り当てられていますが、B と C の間にはステップが 1 つしかありません。これは、12-EDO におけるそれぞれのステップは半ステップ (半音) を表わし、標準の平均律において A と B の間には 2 つの半ステップがありますが、B と C の間には半ステップが 1 つしかないからです。

調性システムで最小のステップを半ステップ (半音) ではなく 1/4 音にするには、オクターブを分割する数を 12-EDO の倍にしなければなりません。よって、1/4 音の臨時記号を使用するには、24-EDO 調性システムに変更する必要があります。

オクターブを分割する数は自由に選択できますが、標準の西洋式調号を表示させる場合は、オクターブの均等な分割の数は 12 の倍数である必要があります。

EDO においては、伝統的な西洋式のピッチとは異なるピッチを A から G の音名に割り当て、これを明解に表現するための記譜記号を作成するということができます。オクターブを分割する方法には制限がないためです。たとえば、トルコ音楽は伝統的に 53-EDO によって分割され、通常 A から A までの各音程に「9-4-9-9-4-9」の形で分割数が割り当てられます。

## 調性システムの変更



プロジェクトで使用する調性システムは調号の変更位置で切り替えることができ、これには自作したカスタムの調性システムも使用できます。

前提条件

使用するカスタムの調性システムを作成するか読み込んでおきます。

---

手順

1. 記譜モードの記譜ツールボックスで「**パネル (Panels)**」をクリックし、「**調号、調性システム、臨時記号 (Key Signatures, Tonality Systems, and Accidentals)**」をクリックして調号、調性システム、臨時記号パネルを表示します。
2. 楽譜領域で、調性システムを変更する位置のアイテムを 1 つ選択します。
3. アイテムの選択を解除しないまま、調号、調性システム、臨時記号パネルの「**調性 (Tonality System)**」セクションから使用する調性システムを選択します。
4. 調号を新規に入力します。

補足

- 調号を表示させたくない場合、無調の調号を入力できます。
- 「調号、調性システム、臨時記号 (Key Signatures, Tonality Systems and Accidentals)」パネルにある「**フローで使用 (Used in This Flow)**」セクションの調号には元の調性システムが保持されます。調性システムを変更する場合は、ポップオーバーを使用するか「調号、調性システム、臨時記号 (Key Signatures, Tonality Systems and Accidentals)」パネルの「**調号 (Key**

**Signatures)」** セクションを使用するなどして、新しい調号を始めから入力することをおすすめします。

---

#### 結果

入力した調号の位置から、次の調性システムの変更を伴う調号が存在する位置、またはフローの終わりまで、調性システムが変更されます。

「**平均律 (24-EDO, Stein-Zimmermann) (Equal temperament (24-EDO, Stein-Zimmermann))**」のように微分音の臨時記号が使用できる調性システムを選択した場合、調号、調性システム、臨時記号パネルの「**臨時記号 (Accidentals)**」セクションで微分音の臨時記号が利用できるようになります。

#### 関連リンク

[カスタムの調性システム \(1003 ページ\)](#)

[調号の入力方法 \(305 ページ\)](#)

[調号、調性システム、臨時記号パネル \(306 ページ\)](#)




[臨時記号の入力 \(269 ページ\)](#)

[微分音の臨時記号の入力 \(1060 ページ\)](#)

## 調性システムの読み込み

たとえば自分で作成したカスタムの調性システムを別のコンピューターで使用したい場合などに、プロジェクトに調性システムを読み込むことができます。調性システムは .doricolib ファイルとして保存されます。

#### 手順

1. 記譜モードの記譜ツールボックスで「**パネル (Panels)**」をクリックし、「**調号、調性システム、臨時記号 (Key Signatures, Tonality Systems, and Accidentals)**」をクリックして調号、調性システム、臨時記号パネルを表示します。
2. 「**調性 (Tonality System)**」セクションで「**調性システムを読み込み (Import Tonality System)**」をクリックして、エクスプローラー (Windows) または Finder (Mac) を開きます。
3. 読み込む調性システムファイルを探して選択します。
4. 「**開く (Open)**」をクリックします。

#### 結果

選択した調性システムが読み込まれます。これは現在のプロジェクトでのみ利用できるようになります。

#### ヒント

調性システムをそれ以降にコンピューター上で開くすべてのプロジェクトで使用できるようにしたい場合は、「**調性システムを編集 (Edit Tonality System)**」ダイアログでデフォルトとして保存できます。

---

## 調性システムの書き出し

調性システムを書き出して、他のユーザーに送信したり他のプロジェクトで使用したりできます。初期設定では、作成した調性システムは現在のプロジェクトでのみ使用できます。

---

### 手順

1. 記譜モードの記譜ツールボックスで「パネル (Panels)」をクリックし、「調号、調性システム、臨時記号 (Key Signatures, Tonality Systems, and Accidentals)」をクリックして調号、調性システム、臨時記号パネルを表示します。
2. 「調性 (Tonality System)」セクションで、書き出す調性システムをメニューから選択します。
3. 「調性システムを書き出し (Export Tonality System)」をクリックしてエクスプローラー (Windows) または Finder (Mac) を開きます。
4. 調性システムファイルの名前と場所を指定します。
5. 「保存 (Save)」をクリックします。

---

### 結果

選択した調性システムが書き出され、選択した場所に .doricolib ファイルとして書き出されます。

### ヒント

調性システムをそれ以降にコンピューター上で開くすべてのプロジェクトで使用できるようにしたい場合は、「調性システムを編集 (Edit Tonality System)」ダイアログでデフォルトとして保存できます。

---



# 歌詞

Dorico Pro では、歌詞とは歌手によって歌われるすべてのテキストを指します。

The image shows a musical score snippet with three staves. The top staff is for Soprano, the middle for Bass, and the bottom for Bass Continuo. The lyrics are: Soprano: vo - - - lo in frà i be - a - ti in frà i be - a - ti, Cho -; Bass: Pin - do, di Pin - do in frà i be - a - - - ti Cho -; Bass Continuo: # # # 6# / 4

ソプラノのデュエットの歌詞と、バスコンティヌオの伴奏

歌詞は、水平方向の配置を一貫させ、歌詞番号の表示を簡潔で正確にするために、歌詞のラインにまとめられます。歌詞のラインには異なる目的で使用されるいくつかのタイプがあり、ラインタイプによって歌詞の外観も変化します。たとえば、コーラスと訳詞のラインの歌詞は、デフォルトでは斜体フォントで表示されます。

Dorico Pro は、入力済の歌詞を簡単に変更でき、毎回新たに歌詞を再入力する必要がないように設計されています。たとえば歌詞の音節のタイプを変更すると、ハイフンを伴う表示と伴わない表示を切り替えられます。

歌詞の入力時は、歌詞のラインの切り替え、譜表のどの側に歌詞を入力するかの変更、および歌詞スタイルの標準、コーラス、訳詞のうちいずれかへの切り替えのために、キーボードショートカットを使用できます。歌詞のタイプは、歌詞を入力したあとでも変更できます。

複数行の歌詞、コーラスの歌詞および訳詞は、譜表の上下いずれにでも入力できます。歌詞のタイプや歌詞のラインに応じて既存の歌詞をフィルタリングできます。

関連リンク

[歌詞の入力 \(424 ページ\)](#)

[歌詞のライン番号 \(1382 ページ\)](#)

[歌詞のフィルター \(1366 ページ\)](#)

[歌詞のハイフンと歌詞の延長線 \(1379 ページ\)](#)

[歌詞のパラグラフスタイル \(1374 ページ\)](#)

[歌詞の書き出し \(1366 ページ\)](#)

## 浄書オプションで歌詞の設定をプロジェクト全体に適用する

「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**歌詞 (Lyrics)**」ページで、歌詞の外観と位置を設定してプロジェクト全体に適用できます。

「**歌詞 (Lyrics)**」ページのオプションを使用すると、歌詞のデフォルトの外観、スペーシングや位置、加えて歌詞のハイフンと延長線の外観や位置を変更できます。

多くのオプションに、オプションを楽譜に適用したときにどのように表示されるかを示す図があります。

関連リンク

[「浄書オプション \(Engraving Options\)」ダイアログ \(923 ページ\)](#)

[歌詞の位置 \(1368 ページ\)](#)

## 歌詞のタイプ

Dorico Pro では、歌詞はいくつかのタイプに分けられます。

### 歌詞のライン

歌詞のラインは標準の歌詞からなり、歌詞番号を伴って表示できます。これは譜表の上にも下にも表示できます。

### コーラスのライン

コーラスのラインは斜体フォントで表示される歌詞からなり、歌詞のラインの間に配置されます。たとえば、2 行の歌詞があった場合、コーラスのラインはライン 1 とライン 2 の間に表示されます。

コーラスのラインには歌詞番号はありません。

### 訳詞のライン

訳詞のラインは、歌詞のラインまたはコーラスのラインのテキストを異なる言語で表示します。これは、翻訳元となる歌詞のラインまたはコーラスのラインのすぐ下に配置されます。これは斜体フォントで表示されます。

歌詞のラインはコーラスのラインも含め、それぞれが独自の訳詞のラインを持つことができます。

訳詞のラインは、翻訳元となる歌詞のラインの一部であるため、歌詞番号はありません。

すべてのタイプの歌詞は歌詞のポップオーバーを使用して入力できます。ポップオーバーの左側に表示されるアイコンは、現在入力中の歌詞のタイプを示しています。

関連リンク

[歌詞のライン番号 \(1382 ページ\)](#)

[歌詞の入力 \(424 ページ\)](#)

## 個々の歌詞のタイプの変更

個々の歌詞は入力後にタイプを変更できます。たとえば、歌詞はコーラスの歌詞または訳詞に変更できます。

前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。
- 下ゾーンのツールバーで「プロパティ (Properties)」 を選択しておきます。
- 浄書モードの場合は、浄書ツールボックスで「グラフィックの編集 (Graphic Editing)」 を選択しておきます。

手順

1. タイプを変更する歌詞を個別に選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「歌詞 (Lyrics)」グループで、以下のプロパティを片方または両方ともオンまたはオフにします。
  - コーラス (Chorus)
  - 訳詞 (Is translation)

#### 結果

- 「コーラス (Chorus)」をオンにすると、選択した個々の歌詞がコーラスの歌詞に変更されます。
- 「訳詞 (Is translation)」をオンにすると、選択した歌詞は同じライン番号の訳詞に変更されます。たとえば、ライン2の歌詞を選択して「訳詞 (Is translation)」をオンにすると、ライン2が訳詞に変更されます。
- 両方のプロパティをオンにすると、選択した歌詞はコーラスの訳詞に変更されます。
- 両方のプロパティをオフにすると、選択した歌詞が通常の歌詞に変更されます。歌詞のライン番号は、プロパティパネルの「歌詞 (Lyrics)」のグループの「ライン番号 (Line number)」の数字で表示されます。

#### 補足

選択中の歌詞のラインと同じ位置の同じ譜表の側に他のコーラスのラインが存在した場合、これをコーラスのラインに変更すると、2つのラインは衝突してしまいます。これを回避するには、歌詞のライン全体のタイプを変更します。こうすることで自動的に衝突が回避されます。

---

#### 関連リンク

[歌詞を斜体で表示する \(1375 ページ\)](#)

[浄書ツールボックス \(554 ページ\)](#)

## 歌詞の音節のタイプ

歌詞の音節には、単語内の位置に応じていくつかのタイプがあります。歌詞のポップオーバーを進める際に押すキーによって、それぞれの歌詞の音節のタイプを指定できます。

Dorico Pro は、歌詞の入力時にポップオーバーをどのように進めたかに従い、それぞれの歌詞の音節のタイプを定義します。

#### 文字列全体 (Whole word)

歌詞がスペースの後にきて、そのあとにスペースまたはピリオドが続く場合、歌詞は文字列全体であると見なされます。

文字列全体である歌詞には、いずれの側にもハイフンが表示されません。歌詞の後に延長線であれば表示される場合があります。

#### 開始

歌詞がスペースの後にきて、そのあとにハイフンが続く場合、歌詞は多音節語における開始の音節であると見なされます。

開始の音節の後にはハイフンが表示されます。同じラインの次の歌詞までの距離によって、連続したハイフンが表示される場合もあります。

#### 中央

歌詞がハイフンの後にきて、そのあとにもハイフンが続く場合、歌詞は多音節語における中央の音節であると見なされます。

中央の音節の後にはハイフンが表示されます。同じラインの次の歌詞までの距離によって、連続したハイフンが表示される場合もあります。

#### 終了

歌詞がハイフンの後にきて、後にはスペースまたはピリオドが続く場合、歌詞は多音節語における終了の音節であると見なされます。

終了の歌詞の後には延長線が表示される場合があります。

#### 関連リンク

[歌詞の入力 \(424 ページ\)](#)

[歌詞のハイフンと歌詞の延長線](#) (1379 ページ)

[歌詞の位置](#) (1368 ページ)

[歌詞の配置を音符に対して個別に変更する](#) (1370 ページ)

## 既存の歌詞の音節のタイプの変更



歌詞の音節のタイプは、歌詞を入力したあとでも変更できます。

たとえば、**[Space]** を押して歌詞のポップオーバーを次の音符に進めたが、あとからハイフンを付けることにしたような場合、音節のタイプを変更します。

### 補足

音節のタイプを変更すると、選択した歌詞の後 (前ではありません) にハイフンを表示するかどうかを変更されます。したがって、歌詞の前にハイフンを表示させる場合は、その直前の歌詞の音節のタイプを変更する必要があります。

### 前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。
- 下ゾーンのツールバーで「プロパティ (Properties)」 を選択しておきます。
- 浄書モードの場合は、浄書ツールボックスで「グラフィックの編集 (Graphic Editing)」 を選択しておきます。

### 手順

1. 音節のタイプを変更する歌詞を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「歌詞 (Lyrics)」グループで、「音節のタイプ (Syllable type)」メニューから以下のいずれかのオプションを選択します。
  - 文字列全体 (Whole word)
  - 先頭 (Start)
  - 中央 (Middle)
  - 末尾 (End)

### 結果

音節のタイプが「文字列全体 (Whole word)」または「終了 (End)」である歌詞にはスペースが続きます。

音節のタイプが「開始 (Start)」または「中央 (Middle)」である歌詞にはハイフンが続きます。

## 歌詞のコピーと貼り付け

Dorico Pro 内に存在する歌詞のラインと、外部のテキストエディターのどちらからでも、歌詞をコピーアンドペーストできます。これはたとえば、コピー元とは異なるリズムで同じ歌詞を歌うプレイヤーに歌詞のラインをコピーする場合に利用できます。

Dorico Pro の外部からテキストをコピーする場合、たとえば多音節語にはハイフンを追加するなど、適切に音節に分かれた形にテキストの書式を整える必要があります。これにより、各単語および音節ごとに必要となる文字数が正しく特定されるようになり、その結果歌詞の体裁を適切に整えられるようになります。自動的にハイフン処理を行なうツールも利用できますが、必ずしも信頼できる結果になるとは言えません。Dorico Pro はクリップボードにコピーされたテキストをチェックして、音節が正しく入力されるように、シングルスペースや単一のハイフンのみが含まれていることを確認します。

#### 補足

現在のところ、中国語、日本語、韓国語の文字を含む歌詞はコピーアンドペーストできません。これは将来のバージョンでサポートされる予定です。



---

#### 手順

1. コピーする歌詞またはテキストを選択します。これは、Dorico Pro 内で行なうことも Dorico Pro 外で行なうこともできます。

#### 補足

- Dorico Pro 内の既存の歌詞/テキストをコピーする場合は、記譜モードにする必要があります。
- Dorico Pro 内で既存の歌詞を大量に選択する場合は、フィルターを使用して歌詞のラインを選択するか、歌詞を 1 つ選択して **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[A]** を数回押し、歌詞のライン全体の歌詞を選択します。

2. **[Ctrl]/[command]+[C]** を押して選択した歌詞またはテキストをコピーします。
3. 記譜モードで、歌詞をコピーする声部の最初の音符を選択します。
4. 以下のいずれかの操作を行なって歌詞のポップオーバーを開きます。
  - **[Shift]+[L]** を押します。
  - 記譜ツールボックスで「ポップオーバー (Popovers)」 をクリックし、「歌詞 (Lyrics)」 をクリックします。
5. 必要に応じて、以下のいずれかの操作を行なって、歌詞を貼り付ける先の歌詞タイプを変更します。
  - 歌詞のライン番号を変更するには、**[↓]** を押します。
  - 譜表の上の歌詞のラインに変更するには、**[Shift]+[↑]** を押します。
  - コーラスのラインに変更するには、**[↑]** を押します。
  - 訳詞のラインに変更するには、**[Alt/Opt]+[↓]** を押します。
6. **[Ctrl]/[command]+[V]** を押して、コピーした歌詞またはテキストの最初の単語または音節を貼り付けます。

歌詞のポップオーバーは元のテキストに従い、選択した音部の次の音符に自動的に進みます。たとえば、元テキストで音節のあとにハイフンが付く場合、ポップオーバーは **[-]** (ハイフン) が入力されたのと同様に進み、音節のあとには自動的にハイフンが表示されます。
7. 必要に応じて、2 つ以上の音符に適用させる単語または音節については、以下のいずれかの操作を行なって、手動でポップオーバーを進める必要があります。
  - 単語全体または多音節語の最後の音節のあとで、**[Space]** を押します。
  - 多音節語の最後ではない音節のあとで、**[-]** (ハイフン) を押します。
  - 音節のあとに延長線やハイフンをあとに付けない場合は、**[→]** を押します。
8. 単語または音節を 1 つ 1 つ貼り付けるために **[Ctrl]/[command]+[V]** を押し続けます。

#### 結果

選択した歌詞またはテキストが、コピー元の声部に属する、選択した歌詞のラインに貼り付けられます。

## 補足

歌詞または音節は、貼り付けと同時にクリップボードから削除されます。同じ歌詞またはテキストを他の歌詞のラインや譜表に貼り付ける場合は、コピー元を再度コピーする必要があります。

---

### 関連リンク

- [「歌詞を編集 \(Edit Lyrics\)」 ダイアログ \(1378 ページ\)](#)
- [歌詞のライン番号 \(1382 ページ\)](#)
- [大きな選択範囲 \(463 ページ\)](#)
- [歌詞のポップオーバー \(426 ページ\)](#)
- [音符/アイテムのコピーと貼り付け \(497 ページ\)](#)

## 歌詞の書き出し

プロジェクトのすべてのフローのすべての歌詞をプレーンテキストファイルに書き出すことができます。たとえば、プロジェクトで歌われるすべてのテキストのリブレットを作成する場合などに行ないます。

---

### 手順

1. 「**ファイル (File)**」 > 「**書き出し (Export)**」 > 「**歌詞 (Lyrics)**」を選択してエクスプローラー (Windows) または Finder (Mac) を開きます。
  2. テキストファイルの名前と保存場所を指定します。
  3. 「**保存 (Save)**」をクリックします。
- 

### 結果

プロジェクトのすべてのフローのすべての歌詞がプレーンテキストファイルに書き出され、デフォルトのテキストエディターで自動的に開きます。

音節間のハイフンは自動的に削除され、ライン番号やその歌詞が属するインストゥルメントなど、歌詞のコンテキスト情報が追加されます。

### 関連リンク

- [ファイルの読み込みと書き出し \(86 ページ\)](#)
- [歌詞のハイフンと歌詞の延長線 \(1379 ページ\)](#)
- [歌詞のタイプ \(1362 ページ\)](#)
- [歌詞の位置 \(1368 ページ\)](#)
- [コメントの書き出し \(550 ページ\)](#)
- [テキストの書き出し \(113 ページ\)](#)

## 歌詞のフィルター

Dorico Pro では、歌詞フィルターを使用することで、プロジェクト全体または特定の選択範囲における指定したタイプの歌詞すべてを選択できます。

以下の歌詞のフィルターを使用できます。

### すべての歌詞 (All Lyrics)

現在選択されている中から、歌詞のライン番号や譜表の上下に関わらず、すべてのタイプの歌詞を選択します。

### ライン 1 (Line 1)

現在選択されている中から、譜表の上下に関わらず、ライン 1 の歌詞およびライン 1 の訳詞のみを選択します。

### ライン 2 (Line 2)

現在選択されている中から、譜表の上下に関わらず、ライン 2 の歌詞およびライン 2 の訳詞のみ選択します。

### ライン 3 (Line 3)

現在選択されている中から、譜表の上下に関わらず、ライン 3 の歌詞およびライン 3 の訳詞のみ選択します。

### ライン 4 (Line 4)

現在選択されている中から、譜表の上下に関わらず、ライン 4 の歌詞およびライン 4 の訳詞のみ選択します。

### ライン 5 (Line 5)

現在選択されている中から、譜表の上下に関わらず、ライン 5 の歌詞およびライン 5 の訳詞のみ選択します。

### 譜表の上 (Above Staff)

現在選択されている中から譜表の上のすべての歌詞を選択します。これは他のフィルターを使用したあとに追加で使用できます。たとえば、まずライン番号でフィルターをかけたあと、譜表に対する位置で再度フィルターをかけられます。

### 譜表の下 (Below Staff)

現在選択されている中から譜表の下のすべての歌詞を選択します。これは他のフィルターを使用したあとに追加で使用できます。たとえば、まずライン番号でフィルターをかけたあと、譜表に対する位置で再度フィルターをかけられます。

### コーラス (Chorus)

現在選択されている中からすべてのコーラスの歌詞を選択します。

### 訳詞 (Translations)

現在選択されている中からすべての訳詞を選択します。

関連リンク

[フィルター \(467 ページ\)](#)

[大きな選択範囲 \(463 ページ\)](#)

## フィルターを使用した歌詞の選択

歌詞フィルターを使用すると、プロジェクト全体または特定の選択範囲における指定したタイプの歌詞すべてを選択できます。

前提条件

フィルターの設定を「**選択のみ (Select Only)**」に設定しておきます。

---

手順

1. 楽譜領域で、選択する歌詞すべてを含む範囲を選択します。  
たとえば、**[Ctrl]/[command]+[A]** を押してフロー全体を選択します。
2. 「**編集 (Edit)**」 > 「**フィルター (Filter)**」 > 「**歌詞 (Lyrics)**」 > 「**歌詞タイプ**」を選択します。

---

結果

選択範囲の中から指定したタイプのすべての歌詞が選択されます。たとえば、「**編集 (Edit)**」 > 「**フィルター (Filter)**」 > 「**歌詞 (Lyrics)**」 > 「**コーラス (Chorus)**」を選択すると、選択範囲内のすべてのコーラスの歌詞が選択されます。

## 歌詞の位置

Dorico Pro は歌詞の配置と、さまざまな長さの歌詞を収めるための調整を自動的に行いません。これにはメリスマ様式の楽譜における歌詞の水平位置の調整も含まれます。一方で、手動による歌詞の移動や、プロジェクト全体のデフォルト位置の変更もできます。

歌詞の位置は記譜モードで移動できます。これは初期設定では、「**浄書オプション (Engraving Options)**」で設定した位置に配置されます。

個々の歌詞の表示位置は浄書モードで移動できますが、適用されるリズム上の位置がこれによって変更されることはありません。

歌詞のデフォルト位置に関するプロジェクト全体の設定は、「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**歌詞 (Lyrics)**」のページで変更できます。

歌詞のデフォルト設定は、スコアのスペーシングを読みやすくするために最適化されています。プロジェクトの音符のスペーシングを狭くして、各音符の空間を小さくする場合は、この設定を変更します。これにより、浄書モードで編集する量を抑えつつ、分かりやすく読みやすい楽譜にできます。

水平方向のスペースが少ないスコアにおいては、以下の変更を加えることにより、歌詞の外観やリズムに即したスペーシングが改善される場合があります。

- 「**浄書オプション (Engraving Options)**」 > 「**歌詞 (Lyrics)**」 > 「**ハイフン (Hyphens)**」で、歌詞とハイフンとの最小スペースなど、間隔の最小値を小さくします。
- 「**浄書オプション (Engraving Options)**」 > 「**歌詞 (Lyrics)**」 > 「**スペーシング (Spacing)**」で、歌詞の位置調整を行なえる幅を増加させます。

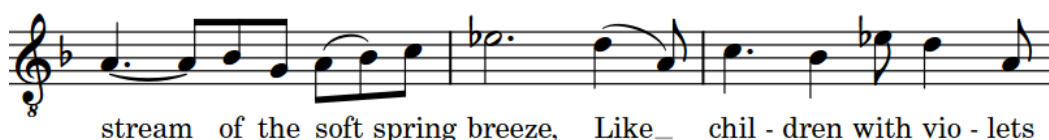
## 音節の位置

通常、歌詞は音符に揃えられます。音節または単語の中で歌われる音符の数により、音符に対する歌詞の配置が決まります。

- それ自体が単語であるか、より長い単語の部分である 1 つの音節が 1 つだけの音符に乗せて歌われる場合、対応する音符に中央揃えで配置されます。ただし、これは単一の符頭を使用して記譜される場合に限りです。1 つの音節がタイでつながれた音符に当てられている場合、タイのつながりの最初の音符の左側に左揃えで配置されます。
- 2 つ以上の音符に乗せて歌われる音節または単語 (メリスマ) は、それが属する最初の音符の左側に左揃えで配置されます。

歌詞の水平方向のスペーシングは、単語または音節が両側の単語または音節と重ならないだけの幅を持つ必要があります。そのため、歌詞を収めるために音符のスペーシングの調整が必要となる場合があります。

Dorico Pro では、歌詞を収めるために音符のスペーシングの変更が大きくなりすぎ、リズムの外観が不均等にならないように、対応する音符に対する歌詞の配置の調整を許可しています。たとえば、短い音符に付いた長い単音節語の後に、長い音符に付いた長い単音節語が続く場合、2 つめの単語が少し右に移動して、両方の単語に十分なスペースを作ります。



このフレーズでは、「breeze」という歌詞が右に移動して、前の音符の「spring」という歌詞が収まるように調整されています。



## 補足

浄書モードで歌詞の表示位置を移動すると、選択した歌詞の自動スペーシングが上書きされます。位置が自動調整された歌詞を移動すると、その位置の音符のスペーシングが変わる場合があります。

「レイアウトオプション (Layout Options)」の「音符のスペーシング (Note Spacing)」ページおよび「音符のスペーシングの変更 (Note Spacing Change)」ダイアログにある「歌詞用のスペースを作成 (Make space for lyrics)」オプションを使用すると、音符のスペーシングの計算に歌詞を反映しないようにできます。ただし、このオプションは注意して使用することをおすすめします。

## 歌詞のラインの配置

通常、歌詞はそのライン番号に従い、その歌詞が適用される譜表の下に、他の歌詞のラインに対して相対的に配置されます。歌詞:たとえば、ライン1の歌詞は1番上に配置されます。これは複数の歌詞のラインが譜表の上にある場合も含まれます。

あるラインの歌詞が1つの組段中に存在しない場合、他の歌詞のラインの間に間隔は追加されません。

個々の歌詞のラインを垂直方向に移動することもできます。浄書モードで歌詞のラインに含まれる任意の歌詞を選択すると、その組段のラインの最初の一語の左下に四角いハンドルが表示されます。これを使用すると、他の歌詞のラインとは個別に歌詞のラインの垂直位置を調節できます。



□ *And for bon - nie*

浄書モードで歌詞のラインの開始位置で四角いハンドルを選択した状態

## 例

3行の歌詞があるが、ある組段においては2行めの歌詞がない場合。この組段では、3行めの歌詞は上に移動し、1行めの歌詞に近づけられます。

次の組段では1行めがなく、しかし2行めと3行めはある場合、歌詞の2行めと3行めが上に移動されます。歌詞の2行めが1行めの位置に取って替わります。

## 関連リンク

[浄書オプションで歌詞の設定をプロジェクト全体に適用する \(1361 ページ\)](#)

[「浄書オプション \(Engraving Options\)」ダイアログ \(923 ページ\)](#)

[歌詞のハイフンと歌詞の延長線 \(1379 ページ\)](#)

[歌詞/ハイフンの間隔を変更する \(1381 ページ\)](#)

[音符/アイテムの位置の移動 \(502 ページ\)](#)

[アイテムの表示位置の移動 \(652 ページ\)](#)

[歌詞のラインを垂直に移動する \(1372 ページ\)](#)

[歌詞のライン番号および歌詞のラインタイプの変更 \(1383 ページ\)](#)

[歌詞のラインの譜表に対する位置の変更 \(1371 ページ\)](#)

[「レイアウトオプション \(Layout Options\)」ダイアログ \(917 ページ\)](#)

[レイアウトごとの音符のスペーシングオプション \(644 ページ\)](#)

[「音符のスペーシングの変更 \(Note Spacing Change\)」ダイアログ \(646 ページ\)](#)

## 歌詞の配置を音符に対して個別に変更する

音符に対する個々の歌詞の水平方向の配置を変更できます。これはたとえば、デフォルトの配置が異なる複数の譜表の同じ位置にある歌詞を強制的に同じ配置にする場合などで役立ちます。この操作は現在のレイアウトとフレームチェーンのみに対して、もしくはすべてのレイアウトとフレームチェーンに対して行なえます。

音符に対する歌詞の配置に初期設定は存在しません。音符のスペーシングの変更を最小化するため、Dorico Pro により自動的に歌詞の水平位置が調整されるためです。初期設定では、単一の符頭に割り当てられた歌詞は中央揃えで配置され、複数の符頭にまたがる歌詞は左揃えで配置されます。

### 補足

歌詞の配置の手動による変更は、選択した歌詞に対する Dorico Pro による自動スペーシングを上書きします。つまり、該当する位置の音符のスペーシングが変化する場合があります。

### 前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。
- 下ゾーンのツールバーで「プロパティ (Properties)」 を選択しておきます。
- 浄書モードの場合は、浄書ツールボックスで「グラフィックの編集 (Graphic Editing)」 を選択しておきます。
- ローカルのプロパティ変更に関して、適切なプロパティ範囲を選択しておきます。

### 手順

1. 配置を変更する歌詞を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「歌詞 (Lyrics)」グループで、「歌詞のテキストを整列 (Lyric text alignment)」をオンにします。
3. メニューから以下のいずれかの配置オプションを選択します。
  - 左 (Left)
  - 中央 (Center)
  - 右 (Right)

### 結果

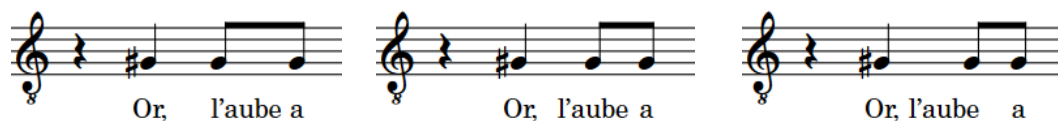
選択した歌詞の配置が変更されます。音符のスペーシングは、隣接する歌詞との衝突を回避するために自動的に調整されます。

プロパティ範囲を「ローカル (Locally)」に設定している場合、この変更は現在のレイアウトおよびフレームチェーンのみに影響します。

### ヒント

- 配置を計算する際に、歌詞の開始/終了位置の表記法を反映させるかどうかは「浄書オプション (Engraving Options)」 > 「歌詞 (Lyrics)」 > 「スペーシング (Spacing)」で変更できます。
- 「浄書オプション (Engraving Options)」 > 「歌詞 (Lyrics)」 > 「配置 (Alignment)」で、すべての歌詞のデフォルトの配置を音節のタイプに応じてプロジェクト全体で変更できます。

例



歌詞「l'aube」を左揃えにした状態

歌詞「l'aube」を中央揃えにした状態

歌詞「l'aube」を右揃えにした状態

関連リンク

[歌詞の音節のタイプ](#) (1363 ページ)

[浄書ツールボックス](#) (554 ページ)

[ゾーンの表示/非表示の切り替え](#) (48 ページ)

[プロパティ範囲の変更](#) (828 ページ)

## 歌詞のラインの譜表に対する位置の変更

歌詞のライン全体を、入力後に譜表の上または下に表示できます。

手順

1. 記譜モードで、譜表に対する位置を変更するラインに属する歌詞を選択します。

ヒント

一定範囲を選択したあとに歌詞フィルターを使用して、ライン番号および譜表に対する位置に従い、各種の歌詞のラインを選択することもできます。

2. 以下のいずれかの譜表に対する位置を選択します。

- 「編集 (Edit)」 > 「記譜 (Notations)」 > 「歌詞 (Lyrics)」 > 「位置 (Placement)」 > 「上 (Above)」を選択します。
- 「編集 (Edit)」 > 「記譜 (Notations)」 > 「歌詞 (Lyrics)」 > 「位置 (Placement)」 > 「下 (Below)」を選択します。

ヒント

このオプションはコンテキストメニューでも選択できます。

結果

選択した歌詞が含まれる歌詞のライン全体の譜表に対する位置が変更されます。

補足

選択中の歌詞のラインを移動させる譜表の側の同じ位置に同じライン番号を持つ歌詞のラインが存在する場合、2つのラインの位置は入れ替わります。たとえば、ライン2の位置を譜表の下から上に変更するときに、すでに譜表の上の同じ位置にライン2がある場合、最新の変更を行なえるように、譜表の上に元からあったライン2は譜表の下に移動されます。

関連リンク

[歌詞のライン番号](#) (1382 ページ)

[歌詞のフィルター](#) (1366 ページ)

## 個々の歌詞の譜表に対する位置の変更

歌詞のラインの譜表に対する位置とは別に、個々の歌詞を譜表の上または下に表示できます。たとえば、同じ譜表の2つの声部のリズムが異なる場合に、各パートの歌詞を明確にできます。

### 前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。
- 下ゾーンのツールバーで「プロパティ (Properties)」を選択しておきます。
- 浄書モードの場合は、浄書ツールボックスで「グラフィックの編集 (Graphic Editing)」を選択しておきます。

### 手順

1. 譜表に対する位置を変更する歌詞を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「歌詞 (Lyrics)」グループで、「ラインの配置 (Line placement)」から以下のいずれかのオプションを選択します。
  - 上 (Above)
  - 下 (Below)

### 結果

選択した歌詞の譜表に対する位置が変更されます。

### 補足

同じ位置の譜表の同じ側にすでに同じライン番号を持つ歌詞のラインが存在する場合、2つのラインは重なり合います。これを防ぐために、たとえば、いずれかの歌詞のラインで使用される歌詞のライン番号を変更できます。

## 歌詞のラインを垂直に移動する

他のレイアウトやプロジェクト全体の設定とは別に、組段ごとに歌詞のラインの表示位置を上下に移動できます。たとえば、ある組段のフレーズの形状の影響で、歌詞のラインが譜表の中間から偏った位置にあるように見える場合、これを修正できます。

### 補足

- 個々の歌詞は上下に移動できません。そのかわり、歌詞のライン番号または譜表に対する位置を変更できます。
- 歌詞の垂直位置を個別に変更する前に、別のページを追加してページレイアウトを完成させておくことをおすすめします。なぜなら歌詞のラインのオフセットは、それが表示されるフレームが変更されると自動的に解除されるからです。たとえば、歌詞のラインを個別に移動したあとにレイアウトの最初に空白のページを追加すると、レイアウト内の歌詞のラインの個別のオフセットはすべて解除されます。

### 前提条件

浄書ツールボックスで「グラフィックの編集 (Graphic Editing)」を選択しておきます。

### 手順

1. 浄書モードで、歌詞のラインの垂直位置を変更する各組段から、以下のいずれかのアイテムを選択します。

- 垂直位置を変更する歌詞のラインに含まれる任意の歌詞
- 垂直位置を変更する歌詞のラインに含まれる最初の歌詞の左下に表示されるハンドル

#### 補足

マウスを使用するときは、歌詞のラインそれぞれの開始位置にあるハンドルを選択する必要があります。

2. 以下のいずれかの操作を行なって、選択した歌詞のラインを上下に移動します。

- これらを標準的な幅で移動するには、**[Alt/Opt]+[↑]/[Alt/Opt]+[↓]** を押します。これにより、キーを押すごとに歌詞のラインが 1/4 スペース分移動します。
- これらの移動幅を大きくするには、**[Ctrl]/[command]+[Alt/Opt]+[↑]/[Ctrl]/[command]+[Alt/Opt]+[↓]** を押します。これにより、キーを押すごとに歌詞のラインが 1 スペース分移動します。
- これらの移動幅を中くらいにするには、**[Shift]+[Alt/Opt]+[↑]/[Shift]+[Alt/Opt]+[↓]** を押します。これにより、キーを押すごとに歌詞のラインが 1/2 スペース分移動します。
- これらの移動幅を小さくするには、**[Ctrl]/[command]+[Shift]+[Alt/Opt]+[↑]/[Ctrl]/[command]+[Shift]+[Alt/Opt]+[↓]** を押します。これにより、キーを押すごとに歌詞のラインが 1/32 スペース分移動します。
- ハンドルをクリックして上下にドラッグします。

#### 結果

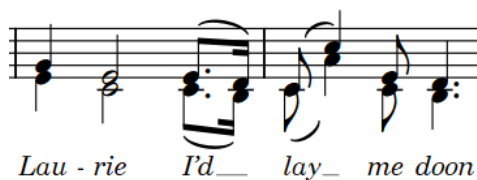
選択した歌詞のラインが選択した組段で上下に移動します。これは同じ組段の他の歌詞のラインの垂直オフセット、または他のレイアウトに含まれる同じ歌詞のラインの垂直オフセットには一切影響しません。

#### ヒント

譜表、他の歌詞のライン、および他のオブジェクトに対する歌詞のデフォルト位置に関するプロジェクト全体の設定は、「**浄書オプション (Engraving Options)**」 > 「**歌詞 (Lyrics)**」 > 「**垂直位置 (Vertical Position)**」で変更できます。

#### 例

この例では、フレーズの形状により、3 番まである歌詞のラインの間にある前の小節のコーラスの垂直位置が、デフォルトの状態では上の譜表の音符に近く、下の譜表からは遠く見えてしまいます。コーラスのラインを下に動かすと、譜表の真ん中に配置されているように見えます。



デフォルトのコーラスの位置



下に移動させたコーラスのライン

関連リンク

[個々の歌詞のライン番号の変更 \(1384 ページ\)](#)

[浄書ツールボックス \(554 ページ\)](#)

[個々の歌詞のタイプの変更 \(1362 ページ\)](#)

## 歌詞のラインの垂直オフセットを解除する

個々の歌詞のラインの垂直オフセットの変更を解除して、デフォルト位置にリセットできます。

前提条件

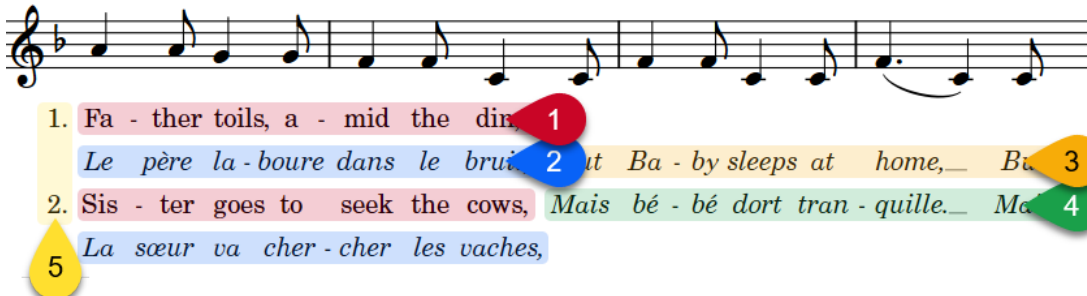
浄書ツールボックスで「**グラフィックの編集 (Graphic Editing)**」を選択しておきます。

手順

1. 浄書モードで、以下のいずれかを選択します。
  - 特定の組段の特定の歌詞のラインのオフセットを解除するには、各組段のそれぞれの歌詞のラインの任意の歌詞を選択します。
  - 特定のフレーム内のすべての歌詞のラインのオフセットを解除するには、各フレーム内の任意の歌詞を選択します。
  - レイアウト内のすべての歌詞のラインのオフセットを解除するには、任意のフレームの任意の歌詞を選択します。
2. 以下のいずれかの操作を行なって歌詞のラインのオフセットを解除します。
  - 現在のレイアウトに含まれるすべての歌詞のラインのオフセットを解除するには、「**浄書 (Engrave)**」 > 「**歌詞のオフセット (Lyric Offsets)**」 > 「**レイアウトをリセット (Reset Layout)**」を選択します。
  - 選択したフレームに含まれるすべての歌詞のラインのオフセットを解除するには、「**浄書 (Engrave)**」 > 「**歌詞のオフセット (Lyric Offsets)**」 > 「**選択したフレームをリセット (Reset Selected Frames)**」を選択します。
  - 選択した組段に含まれる選択した歌詞のラインのみのオフセットを解除するには、「**浄書 (Engrave)**」 > 「**歌詞のオフセット (Lyric Offsets)**」 > 「**選択した組段をリセット (Reset Selected Systems)**」を選択します。

## 歌詞のパラグラフスタイル

歌詞のタイプごとに異なるパラグラフスタイルを設定できます。フォントサイズを変更して歌詞を大きく表示するなど、これらのパラグラフスタイルの各種設定は「**パラグラフスタイル (Paragraph Styles)**」ダイアログで編集できます。



The image shows a musical staff with lyrics in three languages. The lyrics are: 1. Fa - ther toils, a - mid the din, 2. Le père la - boure dans le bruit, 3. at Ba - by sleeps at home, 4. Sis - ter goes to seek the cows, 5. Mais bé - bé dort tran - quille, 6. La sœur va cher - cher les vaches. The lyrics are grouped into five numbered callouts: 1 (Fa - ther toils, a - mid the din), 2 (Le père la - boure dans le bruit), 3 (at Ba - by sleeps at home, Sis - ter goes to seek the cows), 4 (Mais bé - bé dort tran - quille, La sœur va cher - cher les vaches), and 5 (La sœur va cher - cher les vaches).

歌詞には、以下のパラグラフスタイルが使用されます。

- 1 **歌詞 (Lyrics)**: 初期設定では、歌詞のラインと歌詞番号に使用
- 2 **歌詞 (翻訳) (Lyrics (Translation))**: 訳詞のラインに使用

- 3 **歌詞 (コーラス) (Lyrics (Chorus))**: コーラスのラインに使用
- 4 **歌詞 (コーラス翻訳) (Lyrics (Chorus Translation))**: コーラスのラインの訳詞に使用
- 5 **歌詞 (歌詞番号) (Lyrics (Verse Numbers))**: 必要に応じて歌詞番号に使用

関連リンク

[「パラグラフスタイル \(Paragraph Styles\)」ダイアログ \(932 ページ\)](#)

[歌詞のタイプ \(1362 ページ\)](#)

[歌詞番号 \(1384 ページ\)](#)

## 歌詞を斜体で表示する

個々の歌詞について、パラグラフスタイル、歌詞タイプ、または譜表に対する位置を変更しなくても、斜体表示に変更できます。この操作は現在のレイアウトとフレームチェーンのみに対して、もしくはすべてのレイアウトとフレームチェーンに対して行なえます。

### ヒント

- 歌詞がコーラスの歌詞または訳詞であることを示すために斜体表示にする場合は、歌詞タイプの変更がより適切です。
- 「**歌詞を編集 (Edit Lyric)**」ダイアログを使用すると、歌詞の文字を個々に斜体で表示できます。
- プロジェクト全体の標準の歌詞すべてを斜体フォントで表示させる場合は、「**歌詞 (Lyrics)**」のパラグラフスタイルを変更してください。

### 前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。
- 下ゾーンのツールバーで「**プロパティ (Properties)**」を選択しておきます。
- 浄書モードの場合は、浄書ツールボックスで「**グラフィックの編集 (Graphic Editing)**」を選択しておきます。
- ローカルのプロパティ変更に関して、適切なプロパティ範囲を選択しておきます。

### 手順

1. 斜体フォントで表示する歌詞を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「**歌詞 (Lyrics)**」グループで、「**斜体 (Italic)**」をオンにします。

### 結果

選択した歌詞が斜体フォントで表示されます。プロパティ範囲を「**ローカル (Locally)**」に設定している場合、この変更は現在のレイアウトおよびフレームチェーンのみに影響します。

関連リンク

[歌詞のタイプ \(1362 ページ\)](#)

[歌詞のライン番号 \(1382 ページ\)](#)

[歌詞のハイフンと歌詞の延長線 \(1379 ページ\)](#)

[「歌詞を編集 \(Edit Lyric\)」ダイアログ \(1379 ページ\)](#)

[浄書ツールボックス \(554 ページ\)](#)

[プロパティ範囲の変更 \(828 ページ\)](#)

## 歌詞に使用するパラグラフスタイルの変更

個々の歌詞に使用するパラグラフスタイルを変更できます。たとえば、間隔が狭い組段で歌詞のパラグラフスタイルを狭くしたい場合などに便利です。この操作は現在のレイアウトとフレームチェーンのみに対して、もしくはすべてのレイアウトとフレームチェーンに対して行なえます。

### 前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。
- 下ゾーンのツールバーで「プロパティ (Properties)」を選択しておきます。
- 浄書モードの場合は、浄書ツールボックスで「グラフィックの編集 (Graphic Editing)」を選択しておきます。
- ローカルのプロパティ変更に関して、適切なプロパティ範囲を選択しておきます。

---

### 手順

1. パラグラフスタイルを変更する歌詞を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「歌詞 (Lyrics)」グループで、「パラグラフスタイル (Paragraph style)」をオンにします。
3. メニューからパラグラフスタイルを選択します。

---

### 結果

選択した歌詞に使用されているパラグラフスタイルが変更されます。これは、選択した歌詞の後に表示されるハイフンにも影響するほか、歌詞番号に標準の歌詞と同じパラグラフスタイルが使われている場合には、選択した歌詞の前に表示される歌詞番号にも影響します。

プロパティ範囲を「ローカル (Locally)」に設定している場合、この変更は現在のレイアウトおよびフレームチェーンのみに影響します。

### ヒント

歌詞に使用されているパラグラフスタイルの形式設定は「パラグラフスタイル (Paragraph Styles)」ダイアログで編集できます。

---

### 関連リンク

[歌詞のタイプ \(1362 ページ\)](#)

[歌詞のライン番号 \(1382 ページ\)](#)

## 歌詞番号に使用するパラグラフスタイルの変更

プロジェクト全体のすべての歌詞番号に、後に続く歌詞と同じパラグラフスタイルを使用するか、個別のパラグラフスタイルを使用するかを変更できます。これにより、たとえば歌詞番号には太字を使用し、歌詞には標準のフォントを使用するなどできます。初期設定では、歌詞番号には後に続く歌詞と同じパラグラフスタイルが使用されます。

---

### 手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[E]** を押して「浄書オプション (Engraving Options)」を開きます。
2. カテゴリーリストの「歌詞 (Lyrics)」をクリックします。
3. 「歌詞番号 (Verse Numbers)」のセクションの「歌詞番号に使用するパラグラフスタイル (Paragraph style to use for verse number)」で、以下のいずれかのオプションを選択します。
  - 後に続く歌詞と同じ (Same as following lyric)



- デフォルトのパラグラフスタイル (Default paragraph style)

4. 「適用 (Apply)」をクリックしてから「閉じる (Close)」をクリックします。

---

関連リンク

[「浄書オプション \(Engraving Options\)」ダイアログ \(923 ページ\)](#)

[歌詞のパラグラフスタイル \(1374 ページ\)](#)

## 歌詞テキストの編集

歌詞の校正は困難になる場合があります。通常のテキストより間隔が広く、1つの単語であっても横方向に大きく隔たれてしまうことがあるためです。Dorico Pro では、歌詞のライン全体を1つのダイアログに表示させるなど、個々の歌詞のテキストと形式設定を変更できます。

## 既存の歌詞のテキストを変更する

歌詞のテキストはテキストを入力したあとでも、たとえば文字の誤植を訂正するために変更できます。

### 補足

- この手順では、一度に変更できる歌詞は1つだけです。複数の歌詞を一度に編集するには、「**歌詞を編集 (Edit Lyrics)**」ダイアログを使用します。
  - 個々の歌詞の形式設定を変更するには、「**歌詞を編集 (Edit Lyric)**」ダイアログを使用します。ただし、個々の歌詞の形式設定に対して行なった編集は、ポップオーバーを使用してテキストを変更すると削除されます。
- 

### 手順

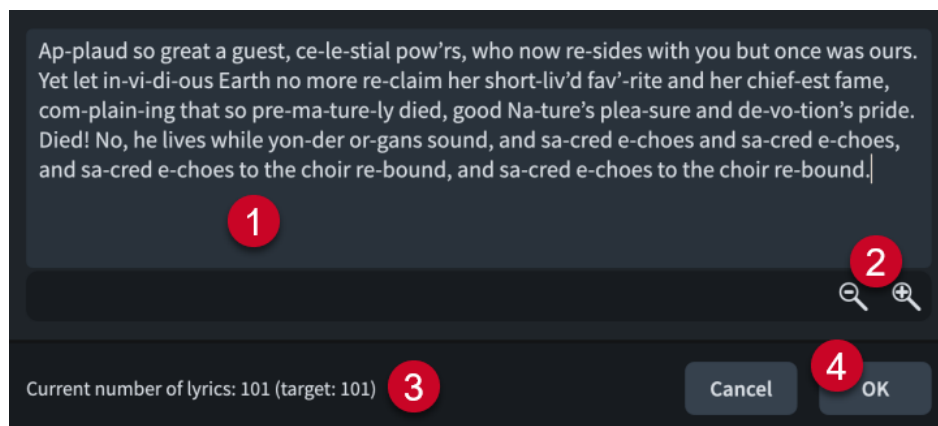
1. 記譜モードで、テキストを変更する歌詞を選択します。
  2. **[Return]** または **[Shift]+[L]** を押して歌詞のポップオーバーを開きます。
  3. 歌詞のポップオーバーで既存のテキストを変更します。
  4. 必要に応じて、他の既存の歌詞も変更する場合は、以下のいずれかの操作を行なってポップオーバーの位置を移動させます。
    - 単語全体、または多音節語の最後の音節を入力してからポップオーバーを次の音符に進めるには、**[Space]** を押します。  
**[Space]** を押すと、ポップオーバーには自動的に既存の歌詞が選択された状態になります。
    - 多音節語の音節のうち1つを入力してからポップオーバーを次の音符に進めるには、**[-]** を押します。
    - カーソルを右に1文字進めるには、**[→]** を押します。
    - カーソルを左に1文字進めるには、**[←]** を押します。  
矢印キーを押し続けると、カーソルは次/前の歌詞/音符に自動的に移動します。
  5. 歌詞の変更を終えたら、**[Return]** または **[Esc]** を押してポップオーバーを閉じます。  
譜表の最後の音符に到達すると、ポップオーバーは自動的に閉じます。
-

## 「歌詞を編集 (Edit Lyrics)」 ダイアログ

「歌詞を編集 (Edit Lyrics)」ダイアログでは、歌詞全体を 1 か所に一定間隔のテキストで表示しながら、確認と編集を行なえます。これにより、各単語または音節が音符と並び、歌詞が水平方向に広く隔たった状態よりも変更作業がやりやすくなります。

- 「歌詞を編集 (Edit Lyrics)」ダイアログを開くには、1 つ以上の歌詞を選択して「編集 (Edit)」 > 「記譜 (Notations)」 > 「歌詞 (Lyrics)」 > 「歌詞のラインを編集 (Edit Line of Lyrics)」を選択します。このオプションはコンテキストメニューでも選択できます。

ダイアログには、選択した歌詞が属する歌詞のラインのすべての歌詞が表示され、文字の誤植の訂正、コンマの追加、単語中のハイフンの位置の変更といった歌詞の編集を行なえます。複数の歌詞を選択してダイアログを開いた場合、Dorico Pro は選択した中で一番上の譜表の一番早い位置にある歌詞が属する歌詞のラインをダイアログに表示します。



「歌詞を編集 (Edit Lyrics)」ダイアログは以下で構成されます。

### 1 テキストエディター

現在のフローで選択した歌詞のラインに含まれるすべての歌詞と、必要に応じてハイフンやスペースも編集できます。たとえば、詩の形式として節の終わりにコンマを追加したり、ハイフンをスペースに置き換えたりできます。

ノーブレイクスペースは中黒として表示されます。ノーブレイクスペースを入力するには、**[Shift]+[Alt/Opt]+[Space]** を押します。

補足

歌詞のデュレーションや位置 (それぞれの歌詞が適用される音符の数など) の追加、削除、変更はできません。

### 2 ズームコントロール

ダイアログ内のテキストのサイズを変更できます。

### 3 現在の歌詞の数 (Current number of lyrics)

テキストエディターに現在表示されている歌詞の数と、歌詞のラインの歌詞の目標数を表示します。目標数とは、フローで選択中の歌詞のラインに既に存在する歌詞 (対応する音符) の数です。

現在の歌詞の数は、ダイアログ内のテキスト変更を加えると自動的に更新されます。Dorico Pro では、現在の歌詞の数と目標数を一致させなければ、ダイアログを確定できません。

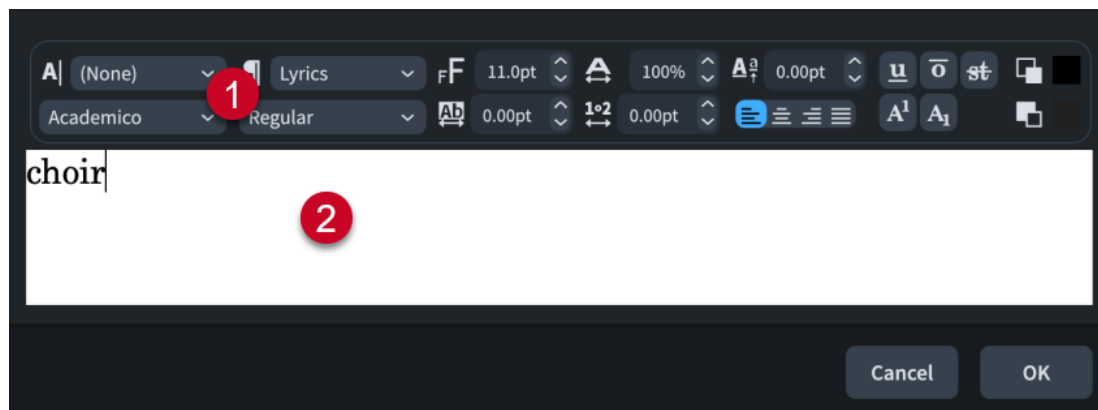
### 4 「OK」 ボタン

変更を確定してダイアログを閉じます。現在の歌詞の数と目標数が一致した場合にのみダイアログを確定できます。

## 「歌詞を編集 (Edit Lyric)」 ダイアログ

「歌詞を編集 (Edit Lyric)」ダイアログを使用すると、1文字ずつ下線を付けるなど、個々の歌詞の形式設定を編集できます。

- 「歌詞を編集 (Edit Lyric)」ダイアログを開くには、歌詞を選択して「編集 (Edit)」>「記譜 (Notations)」>「歌詞 (Lyrics)」>「単一の歌詞を編集 (Edit Single Lyric)」を選択します。このオプションはコンテキストメニューでも選択できます。



「歌詞を編集 (Edit Lyric)」ダイアログは以下で構成されます。

### 1 テキストエディターのオプション

歌詞の選択部分のフォント、サイズ、形式設定をカスタマイズできます。

### 2 テキスト編集領域

歌詞の現在のテキストが表示されます。歌詞は、どの部分でも自由に選択して他の部分とは別個に編集できます。たとえば、一部の文字に下線を付けるなどできます。

関連リンク

[歌詞のパラグラフスタイル \(1374 ページ\)](#)

[記譜モードのテキストエディターオプション \(421 ページ\)](#)

[歌詞に使用するパラグラフスタイルの変更 \(1376 ページ\)](#)

[アイテムの外観のリセット \(476 ページ\)](#)

## 歌詞のハイフンと歌詞の延長線

歌詞のハイフンは、Hal-le-lu-jah のように、個々の歌詞が多音節語を構成する音節であることを示します。歌詞の延長線は、特定の歌詞 (単語または多音節語の最後の音節) が複数の音符にわたって延びることを表わします。



ハイフンと延長線を使用するフレーズ

Dorico Pro では、音節間で **[-]** を押して歌詞のポップオーバーを進めると、自動的に歌詞のハイフンが表示されます。歌詞のハイフンには、直前の歌詞のパラグラフスタイルが使用されます。

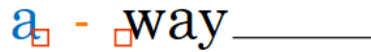
Dorico Pro では、**[Space]** を押して歌詞のポップオーバーを進めると (タイでつながれた音符の場合は 1 回、複数の個別の音符の場合は複数回)、歌詞の延長線が自動的に表示されます。ただしこれは、歌詞の終端と延長線の終了位置との間に十分な水平方向のスペースがある場合に限り、歌詞の延長線の終了位置は、適用する最後の符頭の右端です。

浄書モードにおいては、歌詞のハイフンと歌詞の延長線にはそれぞれ開始位置と終了位置の2か所に四角いハンドルがあります。歌詞のハイフンと歌詞の延長線は全体を動かすことも、ハンドルを個別に動かすこともできます。これにより、歌詞のハイフンと歌詞の延長線の長さを変更できます。

歌詞のハイフンの場合、歌詞のハイフンが表示されるスペースが変わると、結果として表示されるハイフンの数が増減します。歌詞/ハイフンの間隔を変更して、ハイフンをいくつ表示するかを制御できます。



ハンドルが表示された歌詞の延長線



ハンドルが表示された歌詞のハイフン

歌詞の延長線の開始ハンドルは延長元の歌詞に接続され、歌詞のハイフンの開始ハンドルと終了ハンドルはそれぞれの側の歌詞に接続されています。いずれかの歌詞を移動した場合、対応する延長線またはハイフンのハンドルも移動します。

#### 補足

- 歌詞の延長線またはハイフンを上下に移動することはできません。これらの垂直位置は、歌詞のライン番号、歌詞のラインの垂直位置、および「**浄書オプション (Engraving Options)**」のプロジェクト全体の設定によって決定されるためです。
- 歌詞、組段の終了位置、および他の延長線やハイフンに対する歌詞の延長線およびハイフンの配置に関するプロジェクト全体の設定は、「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**歌詞 (Lyrics)**」のページにある「**延長線 (Extender Lines)**」および「**ハイフン (Hyphens)**」のセクションで変更できます。「**ハイフン (Hyphens)**」セクションで、デフォルトの歌詞のハイフンを変更することもできます。

#### 関連リンク

[歌詞の入力 \(424 ページ\)](#)

[歌詞入力中のナビゲーション \(427 ページ\)](#)

[「浄書オプション \(Engraving Options\)」ダイアログ \(923 ページ\)](#)

[歌詞/ハイフンの間隔を変更する \(1381 ページ\)](#)

[歌詞の位置 \(1368 ページ\)](#)

[歌詞のラインを垂直に移動する \(1372 ページ\)](#)

[アイテムの表示位置の移動 \(652 ページ\)](#)

## 日本語のハイフンの表示/非表示を切り替える

プロジェクト全体のすべての歌詞の延長を、延長線として表示するか、各符頭の位置に日本語のハイフンとして表示するかを変更できます。

#### 手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[E]** を押して「**浄書オプション (Engraving Options)**」を開きます。
2. カテゴリーリストの「**歌詞 (Lyrics)**」をクリックします。
3. 「**延長線 (Extender Lines)**」セクションで、「**延長線かわりに日本語のハイフンを使用 (Use Japanese hyphens instead of extender line)**」をオン/オフにします。
4. 「**適用 (Apply)**」をクリックしてから「**閉じる (Close)**」をクリックします。

#### 結果

オンにすると、各符頭の位置に日本語のハイフンが表示されます。オフにすると、延長線が表示されません。

例



日本語のハイフン



歌詞の延長線



関連リンク

[日本語の歌詞でのスラーの表示/非表示 \(1386 ページ\)](#)

## 歌詞/ハイフンの間隔を変更する

ハイフンとハイフンの間隔や歌詞とハイフンの間隔は、プロジェクト全体の設定とは別に、それぞれ個別に変更できます。これにより、たとえば特定の小節に表示するハイフンの数を増やしたり減らしたりできます。

前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。
- 下ゾーンのツールバーで「プロパティ (Properties)」を選択しておきます。
- 浄書ツールボックスで「グラフィックの編集 (Graphic Editing)」を選択しておきます。

手順

1. 浄書モードで、歌詞/ハイフンの間隔を変更する歌詞を選択します。

ヒント

ハイフンは常に歌詞の間に配置されるため、ハイフンの前後で歌詞を 1 つ選択するだけで構いません。

2. プロパティパネルの「歌詞 (Lyrics)」グループで、以下のプロパティを片方または両方ともオンにします。
  - 歌詞とハイフンとの間隔 (Gap between lyrics and hyphens)
  - ハイフンの間隔 (Gap between hyphens)
3. 数値フィールドの値を変更します。

結果

選択した歌詞のハイフンとハイフンの間、または歌詞とハイフンの間、あるいはその両方の間隔が変更されます。

補足

- これらの手順は音符のスペーシングには影響しません。歌詞/ハイフンの間隔に応じて音符のスペーシングを更新するには、「浄書オプション (Engraving Options)」 > 「歌詞 (Lyrics)」 > 「ハイフン (Hyphens)」で「ハイフンの最小許容間隔 (Minimum space to allow for hyphen)」を変更します。
- プロジェクト全体のすべての歌詞/ハイフンの間のデフォルトの間隔は、「浄書オプション (Engraving Options)」 > 「歌詞 (Lyrics)」 > 「ハイフン (Hyphens)」で変更できます。

例



「plan」と「tes」の間の表示された2つのハイフン

両方の間隔を大きくするとハイフンが1つになる

関連リンク

[浄書ツールボックス \(554 ページ\)](#)

[ゾーンの表示/非表示の切り替え \(48 ページ\)](#)

[プロパティパネル \(826 ページ\)](#)

[「浄書オプション \(Engraving Options\)」ダイアログ \(923 ページ\)](#)

[レイアウトごとの音符のスペーシングオプション \(644 ページ\)](#)

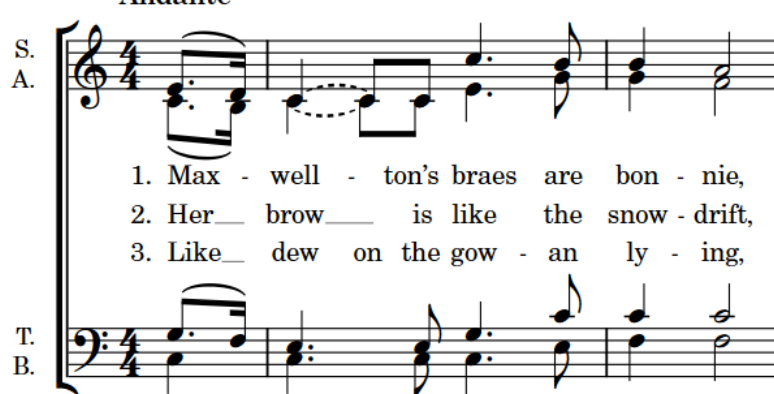
[「音符のスペーシングの変更 \(Note Spacing Change\)」ダイアログ \(646 ページ\)](#)

## 歌詞のライン番号

歌詞のライン番号は、1番と2番の歌詞がある楽曲のように、1つのパッセージにあわせて歌う複数の歌詞がある場合、これを整理するために使用されます。Dorico Proでは、歌詞を入力する際に、または入力後に歌詞のライン番号を変更することにより、歌詞のライン番号を指定できます。

たとえば、ライン3に歌詞を入力したあと、ライン3に別の歌詞を入れるためにこれをライン4に変更する場合、現在のライン3をライン4に変更したあとに新規のラインをライン3として入力できます。歌詞のラインを正しい順番で表示するために、スペーシングが自動的に調整されます。

**Andante**



S.  
A.

1. Max - well - ton's braes are bon - nie,  
2. Her\_\_ brow\_\_ is like the snow - drift,  
3. Like\_\_ dew on the gow - an ly - ing,

T.  
B.

合唱曲の開始位置に表示された3番まである歌詞の3本のライン

Dorico Proでは、同じ譜表の上下いずれにも複数の歌詞のラインが存在できます。歌詞のラインをコーラスのラインまたは訳詞のラインに変更すると、コーラスの歌詞は通常斜体フォントを使用するため、配置と外観の両方が変更されます。

関連リンク

[歌詞番号 \(1384 ページ\)](#)

[歌詞の位置 \(1368 ページ\)](#)

[歌詞を斜体で表示する \(1375 ページ\)](#)

## 歌詞のライン番号および歌詞のラインタイプの変更

歌詞のライン全体のライン番号は、入力したあとでも変更できます。また、歌詞のライン全体をコーラスのラインや訳詞のラインに変更もできます。

たとえば、既存のライン 1 を訳詞のライン 4 に変更したり、ライン 2 をコーラスのラインに変更したりできます。

### ヒント

変更するラインを指定するには、歌詞のラインの音節を 1 つ選択して、プロパティパネルの「歌詞 (Lyrics)」グループにある「ライン番号 (Line number)」の数値フィールドを確認します。または、「浄書オプション (Engraving Options)」の「歌詞 (Lyrics)」ページで、歌詞番号の表示をオンにできます。

### 手順

1. 記譜モードで、歌詞のラインタイプを変更するラインに属する歌詞を選択します。歌詞のラインは譜表の上にも下にも配置できます。

### ヒント

一定範囲を選択したあとに歌詞フィルターを使用して、ライン番号に従い各種の歌詞のラインを選択することもできます。

2. 以下のいずれかの操作を行なって、選択した歌詞のライン番号やラインタイプを変更します。
  - 「編集 (Edit)」 > 「記譜 (Notations)」 > 「歌詞 (Lyrics)」 > 「ライン (Line)」 > [ライン番号] を選択します。
  - 「編集 (Edit)」 > 「記譜 (Notations)」 > 「歌詞 (Lyrics)」 > 「ライン (Line)」 > 「コーラス (Chorus)」を選択します。
  - 「編集 (Edit)」 > 「記譜 (Notations)」 > 「歌詞 (Lyrics)」 > 「訳詞 (Translations)」 > [ライン番号の訳詞] を選択します。
  - 「編集 (Edit)」 > 「記譜 (Notations)」 > 「歌詞 (Lyrics)」 > 「訳詞 (Translations)」 > 「コーラスの訳詞 (Chorus Translation)」を選択します。

### ヒント

このオプションはコンテキストメニューでも選択できます。

### 結果

選択した歌詞のライン全体のライン番号またはタイプが変更されます。

### 補足

選択した歌詞のラインの同じ位置にある他の歌詞のラインに対する配置が変更される場合があります。たとえば 2 行の歌詞があり、ライン 1 をライン 3 に変更した場合、このラインはライン 2 の歌詞の下に表示が変わります。

同じ位置の譜表の同じ側にすでに同じ番号の歌詞のラインが存在する場合、2 つのラインは入れ替わります。たとえば、ライン 2 をライン 1 に変更するとき、同じ位置にすでにライン 1 がある場合、最新の変更を行なえるように、元からあったライン 1 はライン 2 に変更されます。これはコーラスのラインおよび訳詞のラインに関しても同様です。

関連リンク

[歌詞のタイプ \(1362 ページ\)](#)



[歌詞のフィルター \(1366 ページ\)](#)

[「浄書オプション \(Engraving Options\)」ダイアログ \(923 ページ\)](#)

## 個々の歌詞のライン番号の変更

歌詞のライン番号は、入力したあとでも個別に選択して変更できます。

前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。
- 下ゾーンのツールバーで「プロパティ (Properties)」を選択しておきます。
- 浄書モードの場合は、浄書ツールボックスで「グラフィックの編集 (Graphic Editing)」を選択しておきます。

---

手順

1. ライン番号を変更する歌詞を個別に選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「歌詞 (Lyrics)」グループで「ライン番号 (Line number)」の値を変更します。

---

結果

選択した歌詞のライン番号が数値フィールドの値に合わせて変更されます。

補足

選択した歌詞の他の歌詞のラインに対する位置が変更される場合があります。たとえば2行の歌詞があり、ライン1の歌詞をライン3に変更した場合、この歌詞はライン2の歌詞の下に表示が変わりません。

## 歌詞番号

歌詞番号は、共通のパスセージに複数の歌詞のラインが存在するときに、歌詞が歌われる順番を示します。これは一般的には讃美歌や歌の楽譜で使用されます。

作成中の楽譜の種類によっては、歌詞番号は適切ではない場合もあります。そのため Dorico Pro では、歌詞番号の表示/非表示を選択できるようになっています。初期設定では、歌詞番号は表示されません。プロジェクト内のすべての歌詞のラインおよび個々に選択した歌詞いずれにおいても、歌詞番号の表示/非表示を切り替えられます。

プロジェクト全体のすべての歌詞のラインに歌詞番号を表示した場合、初期設定では、そのラインの最初の歌詞の前にのみ歌詞番号が表示され、それ以降の組段で自動的に繰り返されることはありません。そのため、後に続く組段でも歌詞番号を表示させる場合は、個々の歌詞において歌詞番号を表示させる必要があります。

初期設定では、歌詞番号には後に続く歌詞と同じパラグラフスタイルが使用されます。歌詞番号に使用するパラグラフスタイルを変更できます。これにより、たとえば歌詞番号には太字を使用し、歌詞には標準のフォントを使用するなどできます。

補足

訳詞のラインは翻訳元となる歌詞のラインの一部であるため、独自の歌詞番号は持ちません。

---



関連リンク

[歌詞のパラグラフスタイル \(1374 ページ\)](#)

[歌詞番号に使用するパラグラフスタイルの変更 \(1376 ページ\)](#)

## 歌詞番号を表示/非表示にする

個々の歌詞の歌詞番号は、プロジェクト全体の設定より優先される形で表示または非表示に設定できます。たとえば、すべての組段の開始位置に歌詞番号を表示させる場合などはこれを行いません。

前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。
- 下ゾーンのツールバーで「プロパティ (Properties)」を選択しておきます。
- 浄書モードの場合は、浄書ツールボックスで「グラフィックの編集 (Graphic Editing)」を選択しておきます。

---

手順

1. その前に歌詞番号を表示させる、または非表示にする歌詞を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「歌詞 (Lyrics)」のグループで、「歌詞番号を表示 (Show verse number)」をオンまたはオフにします。
3. 対応するチェックボックスをオン/オフにします。

---

結果

チェックボックスがオンのときは選択した歌詞の前に歌詞番号が表示され、オフのときは非表示になります。

プロパティをオフにすると、歌詞は歌詞番号の表示/非表示についてプロジェクト全体の設定に従いません。

ヒント

「浄書オプション (Engraving Options)」の「歌詞 (Lyrics)」ページで、プロジェクト全体の歌詞番号の表示/非表示を切り替えられます。

---

関連リンク

[浄書ツールボックス \(554 ページ\)](#)

[ゾーンの表示/非表示の切り替え \(48 ページ\)](#)

[プロパティ範囲の変更 \(828 ページ\)](#)

[「浄書オプション \(Engraving Options\)」ダイアログ \(923 ページ\)](#)

## 歌詞番号の表記法の変更

プロジェクト全体のすべての歌詞番号に対してピリオドを表示/非表示にできます。

---

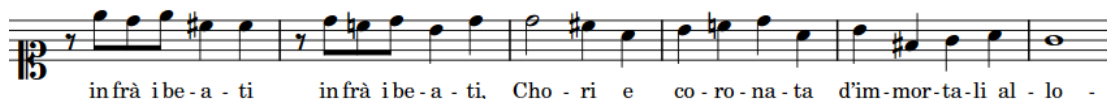
手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[E]** を押して「浄書オプション (Engraving Options)」を開きます。
2. カテゴリーリストの「歌詞 (Lyrics)」をクリックします。
3. 「歌詞番号 (Verse Numbers)」のセクションの「歌詞番号の表記法 (Punctuation for verse numbers)」で、以下のいずれかのオプションを選択します。
  - **ピリオド (ドット) をつける (Append period (full stop))**

- **ピリオド (ドット) をつけない (Do not append period (full stop))**
4. 「適用 (Apply)」をクリックしてから「閉じる (Close)」をクリックします。

## エリジョンスラー

エリジョンスラーは、2つ以上の音節または文字が同じ音符の歌詞に属することを示します。また、結合された歌詞の間で息継ぎをしないよう歌手に指示するために使われることもあります。



複数のエリジョンスラーが含まれるソプラノパート

Dorico Pro では、下線の付いた文字を含む歌詞にエリジョンスラーが自動的に表示されます。

### ヒント

エリジョンされた音節間の間隔と、それに対応するエリジョンスラーのサイズは、「**浄書オプション (graving Options)**」 > 「**歌詞 (Lyrics)**」 > 「**スペーシング (Spacing)**」で変更できます。

### 関連リンク

[歌詞の入力 \(424 ページ\)](#)

[スラー \(1655 ページ\)](#)

## 日本語の歌詞でのスラーの表示/非表示

日本語の歌詞でのスラーの表示/非表示は、個々の歌詞についてプロジェクト全体の設定より優先される形で切り替えられます。この操作は現在のレイアウトとフレームチェーンのみに対して、もしくはすべてのレイアウトとフレームチェーンに対して行なえます。

### 前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。
- 下ゾーンのツールバーで「**プロパティ (Properties)**」を選択しておきます。
- 浄書モードの場合は、浄書ツールボックスで「**グラフィックの編集 (Graphic Editing)**」を選択しておきます。
- ローカルのプロパティ変更に関して、適切なプロパティ範囲を選択しておきます。

### 手順

1. 日本語の歌詞でのスラーを表示する歌詞を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「**歌詞 (Lyrics)**」のグループで、「**日本語の歌詞でのスラーを表示 (Show East Asian elision slur)**」をオンまたはオフにします。
3. 対応するチェックボックスをオン/オフにします。

### 結果

チェックボックスがオンになっているときは選択した歌詞に日本語の歌詞のスラーが表示され、オフになっているときは非表示になります。プロパティ範囲を「**ローカル (Locally)**」に設定している場合、この変更は現在のレイアウトおよびフレームチェーンのみに影響します。

プロパティをオフにすると、歌詞の表示はプロジェクト全体の設定に従います。

ヒント

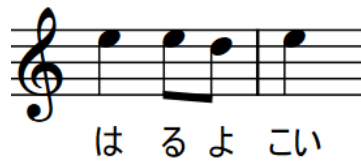
該当するすべての歌詞における日本語の歌詞でのスラーの表示/非表示に対するプロジェクト全体の設定は、「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**歌詞 (Lyrics)**」のページで選択できます。

---

例



日本語の歌詞でのスラーを表示した状態



日本語の歌詞でのスラーを非表示にした状態

---

# 音符

音符とは譜表上に配置し、音程を指示するための記号です。音符は通常、楕円形の符頭で、デュレーションによって黒玉か白玉で表示されますが、他にもさまざまなデザインの符頭が使用できます。

デュレーションによっては、音符は符尾を持つことがあります。符尾はデュレーションを示すために使用されます。

Dorico Pro では、タイで連結された隣接する音符のシーケンスは、個々の音符ではなく、タイのつながり全体のデュレーションを持つ単一の音符と見なされます。音符のグループ化は、通常拍子記号により設定される一般的な拍グループに従って自動的に調整されます。

関連リンク

[音符の入力](#) (248 ページ)

[音符のスペーシング](#) (643 ページ)

[符尾](#) (1415 ページ)

[符頭セット](#) (1388 ページ)

[カスタムの符頭セット](#) (967 ページ)

[個々の符頭のデザインの変更](#) (1394 ページ)

[音符ツールのポップオーバー](#) (537 ページ)

[既存の音符の上/下に音符を追加](#) (284 ページ)

[括弧付きの符頭](#) (1406 ページ)

[タイ](#) (1776 ページ)

[音符と休符のグループ化](#) (1136 ページ)

[拍に従う連符グループ](#) (1113 ページ)

## 浄書オプションで音符の設定をプロジェクト全体に適用する

音符および符頭の外観に関するプロジェクト全体の設定については、「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**音符 (Notes)**」ページからさまざまなオプションが選択できます。

このページのオプションを使用すると、符頭、加線、符尾、符鉤および付点のデザイン、外観および位置を変更できます。また、倍全音符 (二全音符) の外観および装飾音符の標準の音符に対するサイズも変更できます。

多くのオプションに、オプションを楽譜に適用したときにどのように表示されるかを示す図があります。

関連リンク

[「浄書オプション \(Engraving Options\)」ダイアログ](#) (923 ページ)

## 符頭セット

符頭セットは、記譜に際して音符のデュレーションの表現に必要なすべての異なる符頭をひとまとめにした、同種のデザインに属する符頭の集まりです。

標準的な符頭セットには、最低 4 つの符頭が設定されています。

- 4 分音符かそれ以下のデュレーションの音符用の黒玉符頭
- 2 分音符用の白玉符頭

- 全音符用の幅広の白玉符頭
  - 倍全音符用の、幅広の白玉符頭の両側に1本か2本の縦線が付いたもの、または四角形の白い符頭
- ピッチ依存の符頭セットには、音符のデュレーションではなくピッチで変化する符頭も含まれます。
- ピッチの符頭セットには、ピッチごとに異なる符頭が設定されています。  
たとえばピッチ名符頭セットは、それぞれの音符の符頭にアルファベットによる音名と、該当する場合は臨時記号を表示します。
  - 音度の符頭セットには、現在の調号に対するそれぞれの音符の音度ごとに異なる符頭が設定されています。  
たとえば Aikin 7 種の形状の符頭セットは、ピッチごとに形状が異なる符頭を使用します。

#### 補足

- 1つの符頭が複数の符頭セットに使用される場合もあります。ある符頭セットにおいてある符頭を編集した場合、その符頭が設定されているすべての符頭セットにおいて、その符頭の外観に変化が反映されます。
- 符頭セットには同じ種類の符頭しか設定できません。たとえば、標準の符頭はピッチ符頭セットには使用できません。
- 既存の符頭セットまたは既存の符頭のタイプは変更できません。

#### 関連リンク

[ピッチ依存の符頭セットのデザイン \(1393 ページ\)](#)

[カスタムの符頭セット \(967 ページ\)](#)

[カスタムの符頭セットの作成 \(973 ページ\)](#)

[カスタムの符頭の作成 \(975 ページ\)](#)

## 符頭セットのデザイン

Dorico Pro には、個々の符頭に使用できる数種類の符頭セットのデザインが用意されています。

- 少なくとも1つの音符を選択して「編集 (Edit)」>「記譜 (Notations)」>「符頭 (Notehead)」>「符頭のタイプまたはデザイン」>「符頭のデザイン」を選択すると、利用できる符頭のデザインを確認できます。このオプションはコンテキストメニューでも選択できます。

#### 補足

Dorico Pro では、符尾なしの符頭は用意されていません。かわりに、どの符頭デザインにおいても、音符の符尾を非表示にできます。

### 一般的な符頭

#### 符頭セットのデザイン



#### 符頭セットの名称

大きめの符頭 (Larger Noteheads)



デフォルトの符頭 (Default Noteheads)

---

符頭セットのデザイン



符頭セットの名称

丸付き符頭 (大) (Large Circled Noteheads)



丸付き符頭 (Circled Noteheads)



スラッシュ付き符頭 (左下から右上) (Slashed Noteheads (Bottom Left to Top Right))



スラッシュ付き符頭 (左上から右下) (Slashed Noteheads (Top Left to Bottom Right))

---

X 形の符頭

符頭セットのデザイン



符頭セットの名称

丸付き X 符頭 (Circle X Noteheads)



X および菱形の符頭 (大) (Large X and Diamond Noteheads)



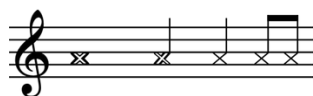
装飾文字の X 符頭 (Ornate X Noteheads)



+ 符頭 (Plus Noteheads)



X 付き符頭 (With X Noteheads)



X 符頭 (X Noteheads)

符頭セットのデザイン



符頭セットの名称

X と丸付き X 符頭 (X and Circle X Noteheads)

X と菱形符頭 (X and Diamond Noteheads)

---

三角形の符頭

---

符頭セットのデザイン



符頭セットの名称

下向き矢印符頭 (大) (Large Arrow Down Noteheads)

上向き矢印符頭 (大) (Large Arrow Up Noteheads)

逆三角形符頭 (Triangle Down Noteheads)

左向き三角形符頭 (Triangle Left Noteheads)

右向き三角形符頭 (Triangle Right Noteheads)

三角形符頭 (Triangle Up Noteheads)

---

菱形の符頭

---

符頭セットのデザイン



符頭セットの名称

菱形符頭 (Diamond Noteheads)

---

符頭セットのデザイン



符頭セットの名称

旧式の菱形符頭 (Old-Style Diamond Noteheads)



菱形符頭 (白) (White Diamond Noteheads)



菱形符頭 (幅広) (Wide Diamond Noteheads)

---

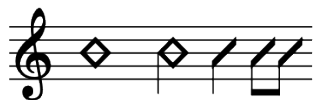
スラッシュ符頭

符頭セットのデザイン



符頭セットの名称

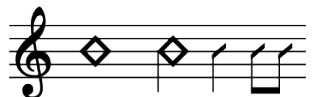
ミュートスラッシュ符頭 (Muted Slash Noteheads)



スラッシュ符頭 (特大) (Oversized Slash Noteheads)



スラッシュ符頭 (Slash Noteheads)

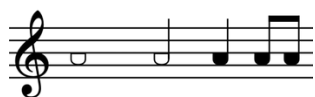


スラッシュ符頭 (小) (Small Slash Noteheads)

---

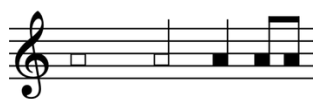
丸と四角の符頭

符頭セットのデザイン



符頭セットの名称

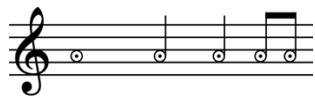
半月形符頭 (Moon Noteheads)



長方形符頭 (Rectangular Noteheads)



### 符頭セットのデザイン



### 符頭セットの名称

点付き白丸符頭 (Round White with Dot Noteheads)

#### 関連リンク

[個々の符頭のデザインの変更](#) (1394 ページ)

[符頭デザインのリセット](#) (1395 ページ)

[符尾の表示/非表示](#) (1422 ページ)

[符頭の表示/非表示](#) (1398 ページ)

[カスタムの符頭セット](#) (967 ページ)

[カスタムの符頭セットの作成](#) (973 ページ)

[カスタムの符頭の作成](#) (975 ページ)

## ピッチ依存の符頭セットのデザイン

ピッチ依存の符頭セットは、音符のピッチに従い異なるデザインまたはカラーの符頭を使用します。Dorico Pro では、数種類のピッチ依存の符頭セットが利用できます。

- 少なくとも1つの音符を選択して「**編集 (Edit)**」 > 「**記譜 (Notations)**」 > 「**符頭 (Notehead)**」 > 「**符頭のタイプまたはデザイン**」 > 「**符頭のデザイン**」を選択すると、利用できる符頭のデザインを確認できます。このオプションはコンテキストメニューでも選択できます。

#### ヒント

「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**音符 (Notes)**」ページでは、すべての符頭にピッチ依存の符頭のデザインを使用することをプロジェクト全体の設定として選択できます。

### 音度による符頭

#### 符頭セットのデザイン



#### 符頭セットの名称

Aikin 7種の形状の符頭 (Aikin 7-shape Noteheads)



Funk 7種の形状の符頭 (Funk 7-shape Noteheads)



Walker 4種の形状の符頭 (Walker 4-shape Noteheads)



Walker 7種の形状の符頭 (Walker 7-shape Noteheads)

## ピッチによる符頭

### 符頭セットのデザイン



### 符頭セットの名称

Figurenotes© の符頭 (Figurenotes© Noteheads)

ピッチ名符頭 (Pitch name noteheads)

### 関連リンク

[符尾の表示/非表示 \(1422 ページ\)](#)

[符頭の表示/非表示 \(1398 ページ\)](#)

[プロジェクト全体でスケールディグリーごとに異なる形状の符頭を表示する \(1396 ページ\)](#)

[プロジェクト全体で符頭にノート名を表示する \(1397 ページ\)](#)

[「浄書オプション \(Engraving Options\)」ダイアログ \(923 ページ\)](#)

[カスタムの符頭セット \(967 ページ\)](#)


## 個々の符頭のデザインの変更

トリルの補助音符を含め、個々の符頭についてデザインを変更できます。たとえば、木管楽器に空気を通す音のように、無音程のサウンドをプレーヤーが発することを示す場合などに、X型の符頭を使用できます。

### 補足

- この手順は、スラッシュ符頭の声部に属する音符には適用されません。
- 無音程打楽器に属する音符の別の演奏技法を表わす場合は、かわりに演奏技法を変更します。
- ハーモニクスやスラッシュ符頭を表わす場合は、かわりに音符をハーモニクスに変換するか、スラッシュ付き声部に変更します。また、スラッシュ領域を入力することもできます。

### 前提条件

浄書モードの場合は、浄書ツールボックスで「**グラフィックの編集 (Graphic Editing)**」を選択しておきます。

### 手順

1. デザインを変更する符頭を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. 「**編集 (Edit)**」 > 「**記譜 (Notations)**」 > 「**符頭 (Notehead)**」 > [符頭のタイプ] > [符頭のデザイン]を選択します。

たとえば、選択した音符の符頭のデザインをX符頭に変更するには、「**編集 (Edit)**」 > 「**記譜 (Notations)**」 > 「**符頭 (Notehead)**」 > 「**X形 (Crosses)**」 > 「**X符頭 (X Noteheads)**」を選択します。

### ヒント

このオプションはコンテキストメニューでも選択できます。

### 結果

選択した音符の符頭のデザインが変更されます。

#### ヒント

- また、プロジェクト全体のすべての符頭のデフォルトのデザインを変更することもできます。
  - 「環境設定 (Preferences)」の「キーボードショートカット (Key Commands)」ページでは、出荷時の符頭のデザインやデフォルトとして保存したカスタム符頭のデザインそれぞれにキーボードショートカットを割り当てることができます。
- 


#### 関連リンク

- [浄書ツールボックス \(554 ページ\)](#)
- [音符/アイテムの選択 \(460 ページ\)](#)
- [浄書オプションでスラッシュ符頭の設定をプロジェクト全体に適用する \(1625 ページ\)](#)
- [スラッシュ符頭 \(1625 ページ\)](#)
- [スラッシュ付き声部 \(1627 ページ\)](#)
- [スラッシュ領域 \(1629 ページ\)](#)
- [既存の音符の声部を変更する \(507 ページ\)](#)
- [ハーモニクス \(1425 ページ\)](#)
- [音符をハーモニクスに変換する \(1426 ページ\)](#)
- [演奏技法固有の符頭 \(1840 ページ\)](#)
- [演奏技法固有の符頭の変更 \(1843 ページ\)](#)
- [スラッシュ符頭のデザインを個別に変更する \(1626 ページ\)](#)
- [リズムによるキューのスラッシュ符頭を表示/非表示にする \(1223 ページ\)](#)
- [符尾の表示/非表示 \(1422 ページ\)](#)
- [符頭の表示/非表示 \(1398 ページ\)](#)
- [カスタムの符頭セット \(967 ページ\)](#)
- [「環境設定 \(Preferences\)」ダイアログの「キーボードショートカット \(Key Commands\)」ページ \(64 ページ\)](#)
- [臨時記号のサイズの変更 \(1054 ページ\)](#)

## 符頭デザインのリセット

個々の音符の符頭デザインをリセットして、デフォルトの符頭デザインに戻すことができます。

#### 前提条件

浄書モードの場合は、浄書ツールボックスで「グラフィックの編集 (Graphic Editing)」を選択しておきます。

---

#### 手順

1. デザインをリセットする符頭を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
  2. 「編集 (Edit)」 > 「記譜 (Notations)」 > 「符頭 (Notehead)」 > 「デフォルトの符頭にリセット (Reset to Default Notehead)」を選択します。このオプションはコンテキストメニューでも選択できます。
- 

#### 関連リンク

- [音符/アイテムの選択 \(460 ページ\)](#)

## デフォルトの符頭デザインの変更

プロジェクト全体のすべての符頭のデフォルトのデザインを変更できます。たとえば教育プロジェクトに関連する譜面の作成で、すべての符頭に音名を表示する場合などにはこれを利用できます。

### 手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[E]** を押して「**浄書オプション (Engraving Options)**」を開きます。
2. カテゴリーリストの「**音符 (Notes)**」をクリックします。
3. 「**符頭 (Noteheads)**」のセクションにある「**符頭のデザイン (Notehead design)**」で、以下のいずれかのオプションを選択します。
  - 「**デフォルトサイズの符頭 (Default size noteheads)**」 (「**大きめの符頭 (Larger noteheads)**」より小さい)
  - **大きめの符頭 (Larger noteheads)** (デフォルト)
  - **ノート名を表示 (Note names)**
  - **Figurenotes© カラー (Figurenotes© colors)**
4. 「**適用 (Apply)**」をクリックしてから「**閉じる (Close)**」をクリックします。

### 結果

プロジェクト全体ですべての音符における符頭のデザインが変更されます。

### 補足

これは、符頭デザインを個別に変更した音符には適用されません。

### 関連リンク

[「浄書オプション \(Engraving Options\)」ダイアログ \(923 ページ\)](#)

[符頭デザインのリセット \(1395 ページ\)](#)

## プロジェクト全体でスケールディグリーごとに異なる形状の符頭を表示する

プロジェクト全体でスケールディグリーごとに異なる符頭のデザインを表示できます。

### 手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[E]** を押して「**浄書オプション (Engraving Options)**」を開きます。
2. カテゴリーリストの「**音符 (Notes)**」をクリックします。
3. 「**符頭 (Noteheads)**」のセクションで、「**音度に基づく変形符頭 (Shaped noteheads based on scale degree)**」から以下のオプションのうちいずれかを選択します。
  - **Walker 4 種の形状 (Walker 4-shape)**
  - **Walker 7 種の形状 (Walker 7-shape)**
  - **Funk 7 種の形状 (Funk 7-shape)**
  - **Aikin 7 種の形状 (Aikin 7-shape)**

### 結果

プロジェクト全体のすべての符頭のデザインが変更され、選択に従いスケールディグリーごとに異なる符頭のデザインを表示するように変更されます。

#### 補足

これは、符頭デザインを個別に変更した音符には適用されません。

---

## プロジェクト全体で符頭にノート名を表示する

たとえば、教材用の練習問題を作成する場合などに、プロジェクト全体のすべての符頭にノート名を文字で表示できます。

---

#### 手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[E]** を押して「**浄書オプション (Engraving Options)**」を開きます。
  2. カテゴリリストの「**音符 (Notes)**」をクリックします。
  3. 「**符頭 (Noteheads)**」のセクションで、「**符頭のデザイン (Notehead design)**」に「**ノート名を表示 (Note names)**」を選択します。
  4. 「**適用 (Apply)**」をクリックしてから「**閉じる (Close)**」をクリックします。
- 

#### 結果

プロジェクト全体のすべての符頭のデザインが、符頭の中にノート名を表示する形に変更されます。

---

#### 補足

これは、符頭デザインを個別に変更した音符には適用されません。

---

#### 手順終了後の項目

プロジェクトでレイアウトの譜表サイズを大きくするとノート名が読みやすくなります。

#### 関連リンク

[個々の符頭のデザインの変更 \(1394 ページ\)](#)

[符頭デザインのリセット \(1395 ページ\)](#)

[譜表サイズ \(772 ページ\)](#)

[デフォルトの譜表サイズの変更 \(747 ページ\)](#)

## 弦への音符の割り当て

弦楽器に属する音符がどの弦で演奏されるかを変更できます。これは、正しいハーモニクスを指定する場合などに役立ちます。音符の多くは、弦を押さえる位置次第では複数の弦で演奏できます。


弦に音符を指定するのは、グリッサンドやフィンガリングシフトに対して効果的です。音符を演奏するための弦とフィンガリングのポジションは、これらの変化の方向に影響するからです。ただし、弦の番号は楽譜に表示されません。そのかわりに弦の指示記号やフィンガリングを入力することにより、弦楽器プレイヤーは演奏するべき弦を把握できます。


#### 補足

バイオリン、チェロ、またはギターなど、弦楽器に属する音符に対してのみ、弦の割り当てを変更できます。

---

#### 前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。
- 下ゾーンのツールバーで「**プロパティ (Properties)**」  を選択しておきます。

- 浄書モードの場合は、浄書ツールボックスで「**グラフィックの編集 (Graphic Editing)**」を選択しておきます。

#### 手順

1. 弦の割り当てを変更する音符を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。

#### 補足

複数の音符を同時に選択する場合は、同じインストゥルメントタイプの譜表の音符しか選択できません。たとえば、バイオリン1とバイオリン2の譜表における複数のCを選択します。

2. プロパティパネルの「**音符と休符 (Notes and Rests)**」グループで、「**弦 (String)**」をオンにします。

3. メニューから使用する弦を選択します。

インストゥルメントの弦番号が表示され、続いてその弦の基本ピッチおよびオクターブ番号が括弧内に表示されます。たとえば、チェロの最低弦は「**4 (C2)**」と表現されます。

#### 補足

メニューで利用できるオプションは、選択したピッチとインストゥルメントのタイプによって変化します。

#### 結果

選択した音符に割り当てられた弦が変更されます。

#### 補足

この操作のあとに音符のピッチを変更した場合、指定した弦では演奏できなくなったすべての音符において「**弦 (String)**」が自動的にオフになります。

#### 関連リンク

[浄書ツールボックス \(554 ページ\)](#)

[グリッサンドライン \(1461 ページ\)](#)

[弦楽器におけるフィンガリングのシフト指示記号の方向を変更する \(1312 ページ\)](#)

[フレット楽器のフィンガリング \(1299 ページ\)](#)

[弦の指示記号 \(1313 ページ\)](#)

[譜表の内側に弦の指示記号を入力する \(415 ページ\)](#)

[音符をハーモニクスに変換する \(1426 ページ\)](#)


[倍音の変更 \(1427 ページ\)](#)

[ミドルCのナンバリング変換を変更する \(55 ページ\)](#)

## 符頭の表示/非表示

どの符頭デザインの音符でも、符頭の表示/非表示を個別に切り替えることができます。たとえば、グリッサンドラインの正確なデュレーションを、符頭なしの符尾を使用して示したい場合などに行ないます。

#### 前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。
- 下ゾーンのツールバーで「**プロパティ (Properties)**」を選択しておきます。

- 浄書ツールボックスで「グラフィックの編集 (Graphic Editing)」を選択しておきます。

#### 手順

1. 浄書モードで、符頭を非表示にする音符を選択します。
2. プロパティパネルの「音符と休符 (Notes and Rests)」グループで、「符頭を非表示 (Hide notehead)」をオンまたはオフにします。

#### 結果

「符頭を非表示 (Hide notehead)」をオンにすると選択した符頭が非表示になり、オフにすると表示されます。

統合された付点で表わされるすべての符頭が非表示になっている場合、この操作で付点も非表示になりますが、臨時記号や加線の表示には影響しません。

非表示の符頭は、表示されている場合と同様に音符のスペーシング計算の対象になります。

#### 例



符頭を表示した状態



中央の符頭を非表示にした状態

#### 関連リンク

- [プロパティパネル \(826 ページ\)](#)
- [ゾーンの表示/非表示の切り替え \(48 ページ\)](#)
- [非表示の符頭の表示/非表示 \(1404 ページ\)](#)
- [加線の表示/非表示の切り替え \(1400 ページ\)](#)
- [符尾の表示/非表示 \(1422 ページ\)](#)
- [臨時記号を表示/非表示にするか括弧を付ける \(1052 ページ\)](#)
- [音符のスペーシング \(643 ページ\)](#)
- [MIDI トリガー領域 \(717 ページ\)](#)

## 加線の幅を個別に変更する

個々の音符の加線の幅を変更できます。たとえばこれにより、短いデュレーションの音符を読み取る状態のまま間隔を詰められます。この操作は現在のレイアウトとフレームチェーンのみに対して、もしくはすべてのレイアウトとフレームチェーンに対して行なえます。

#### 前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。
- 下ゾーンのツールバーで「プロパティ (Properties)」を選択しておきます。
- 浄書ツールボックスで「グラフィックの編集 (Graphic Editing)」を選択しておきます。
- ローカルのプロパティ変更に関して、適切なプロパティ範囲を選択しておきます。

#### 手順

1. 浄書モードで、加線の幅を変更する符頭を選択します。

2. プロパティパネルの「**音符と休符 (Notes and Rests)**」グループで、「**加線 (Ledger line)**」をオンにします。
3. 「**L**」および「**R**」の値を変更します。

#### 結果

「**加線 (Ledger line)**」の「**L**」の値を大きくすると加線の左側が長くなり、値を小さくすると加線の左側が短くなります。

「**加線 (Ledger line)**」の「**R**」の値を大きくすると加線の右側が長くなり、値を小さくすると加線の右側が短くなります。

プロパティ範囲を「**ローカル (Locally)**」に設定している場合、この変更は現在のレイアウトおよびフレームチェーンのみに影響します。

#### ヒント

すべての加線の幅に関するプロジェクト全体の設定は、「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**音符 (Notes)**」ページで変更できます。

#### 関連リンク

[浄書オプションで音符の設定をプロジェクト全体に適用する \(1388 ページ\)](#)

[「浄書オプション \(Engraving Options\)」ダイアログ \(923 ページ\)](#)

[浄書ツールボックス \(554 ページ\)](#)

[プロパティ範囲の変更 \(828 ページ\)](#)

[プロパティ設定を別のレイアウト/フレームチェーンにコピーする \(825 ページ\)](#)

## 加線の表示/非表示の切り替え

個々の音符は加線の表示/非表示を切り替えられます。たとえば音符の相対的な垂直位置でおおよそのピッチを示す場合などに、加線の非表示を使用します。この操作は現在のレイアウトとフレームチェーンのみに対して、もしくはすべてのレイアウトとフレームチェーンに対して行なえます。

#### 前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。
- 下ゾーンのツールバーで「**プロパティ (Properties)**」を選択しておきます。
- 浄書ツールボックスで「**グラフィックの編集 (Graphic Editing)**」を選択しておきます。
- ローカルのプロパティ変更に関して、適切なプロパティ範囲を選択しておきます。

#### 手順

1. 浄書モードで、加線の表示/非表示を切り替える符頭を選択します。

#### 補足

加線を非表示にする場合、同じ声部で声部列の同じ並びに属する他の符頭もすべて選択する必要があります。

2. プロパティパネルの「**音符と休符 (Notes and Rests)**」グループで、「**加線を非表示 (Hide ledger lines)**」をオン/オフにします。

#### 結果

選択した音符の加線が表示または非表示になります。プロパティ範囲を「**ローカル (Locally)**」に設定している場合、この変更は現在のレイアウトおよびフレームチェーンのみに影響します。



和音の構成音の一部のみ「加線を非表示 (Hide ledger lines)」をオフにした場合、選択した音符と譜表の間の、同じ声部で声部列の同じ並びに属するすべての音符に加線が表示されます。

関連リンク  
[声部列の並び順](#) (1862 ページ)

## 付点の統合

付点の統合は、複声部においてリズム上の同じ位置に表示される付点の数を制御します。存在する音符と声部の数、およびそれらの譜表上の位置により、付点の異なる表示数および表示位置が必要となる場合があります。これは、音符のスペーシングにも影響することがあります。

プロジェクト全体の複声部における付点の統合方法は、「浄書オプション (Engraving Options)」>「音符 (Notes)」>「付点 (Rhythm Dots)」で選択できます。付点の統合に関する全般的なオプションと、ユニゾンの音符に関する詳細なオプションが別個に用意されています。

### 付点の統合

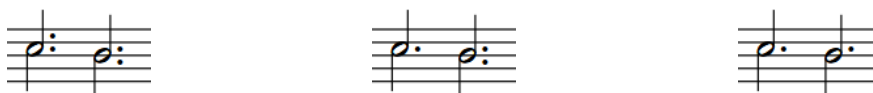


デュレーションに関係なくすべての音符の付点を統合

同じデュレーションの音符のみ付点を統合

付点の統合なし

### ユニゾンの音符における付点の統合



ユニゾンの符頭ごとに1つの付点を表示

線上のユニゾンは符頭ごとに付点を表示するが、間上のユニゾンには1つの付点のみ表示

ユニゾンごとに1つの付点のみ表示

### ヒント

複声部にある付点の統合方法は、個別に変更することもできます。

関連リンク  
[「浄書オプション \(Engraving Options\)」ダイアログ](#) (923 ページ)  
[音符と休符のグループ化](#) (1136 ページ)  
[拍に従う連符グループ](#) (1113 ページ)  
[複声部の音符位置](#) (1861 ページ)  
[声部列の並び順](#) (1862 ページ)

## 付点の統合を個別に変更する

複声部の付点が特定の拍で統合される方法を個別に変更できます。たとえば、非常に密集した和音で付点の表示数を減らすことができます。この操作は現在のレイアウトとフレームチェーンのみに対して、もしくはすべてのレイアウトとフレームチェーンに対して行なえます。

#### 前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。
- 下ゾーンのツールバーで「プロパティ (Properties)」を選択しておきます。
- 浄書ツールボックスで「グラフィックの編集 (Graphic Editing)」を選択しておきます。
- ローカルのプロパティ変更に関して、適切なプロパティ範囲を選択しておきます。

---

#### 手順

1. 浄書モードで、付点の統合を変更する音符を選択します。
2. プロパティパネルの「音符と休符 (Notes and Rests)」グループで、「付点の統合 (Rhythm dot consolidation)」をオンにします。
3. 対応するチェックボックスをオン/オフにします。

---

#### 結果

チェックボックスがオンの場合はあらゆるデュレーションの音符の付点が統合され、チェックボックスがオフの場合は付点は統合されません。プロパティ範囲を「ローカル (Locally)」に設定している場合、この変更は現在のレイアウトおよびフレームチェーンのみに影響します。

プロパティがオフの場合は、付点は音符のデュレーションによって統合が行なわれるプロジェクト全体の設定に従います。

#### ヒント

複声部のすべての付点の統合方法に関するプロジェクト全体の設定は、「浄書オプション (Engraving Options)」の「音符 (Notes)」ページで変更できます。

#### 関連リンク

- [「浄書オプション \(Engraving Options\)」ダイアログ \(923 ページ\)](#)
- [浄書ツールボックス \(554 ページ\)](#)
- [プロパティ範囲の変更 \(828 ページ\)](#)
- [プロパティ設定を別のレイアウト/フレームチェーンにコピーする \(825 ページ\)](#)
- [複声部の音符位置 \(1861 ページ\)](#)
- [声部列の並び順 \(1862 ページ\)](#)
- [対立する声部での符頭の重なりを許可する/禁止する \(1860 ページ\)](#)

## 付点の移動

付点は水平方向に移動できます。この操作は現在のレイアウトとフレームチェーンのみに対して、もしくはすべてのレイアウトとフレームチェーンに対して行なえます。ただし、1つの付点をリズム上の同じ位置にある他の付点から独立して移動することはできません。

#### 前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。
- 下ゾーンのツールバーで「プロパティ (Properties)」を選択しておきます。
- 浄書ツールボックスで「グラフィックの編集 (Graphic Editing)」を選択しておきます。
- ローカルのプロパティ変更に関して、適切なプロパティ範囲を選択しておきます。

---

#### 手順

1. 浄書モードで、移動する付点の位置の符頭を選択します。

2. プロパティパネルの「**音符と休符 (Notes and Rests)**」グループで、「**付点 X (Rhythm dot X)**」をオンにします。
  3. 数値フィールドの値を変更します。
- 

#### 結果

「**付点 X (Rhythm dot X)**」の値を大きくすると、選択した位置のすべての付点が右に移動し、小さくすると左に移動します。プロパティ範囲を「**ローカル (Locally)**」に設定している場合、この変更は現在のレイアウトおよびフレームチェーンのみに影響します。

## 音符と休符の表示オプション

音符と休符を状況に応じて異なる色で表示できます。これにより、作業中に音符と休符を簡単に識別できるようになります。たとえば、声部の色を表示すると、声部に応じて音符と休符が異なる色で表示されます。

#### 関連リンク

[カラー設定 \(56 ページ\)](#)

[キューの音符のカラーを表示/非表示にする \(1228 ページ\)](#)

[休符のカラーを表示/非表示にする \(1644 ページ\)](#)

[声部カラーの表示/非表示 \(1859 ページ\)](#)

[コンデンシングされた楽譜の色を表示/非表示にする \(821 ページ\)](#)

[ユニゾン範囲のカラーを表示/非表示にする \(1728 ページ\)](#)

[ミュートした音符/アイテムのカラーを表示/非表示にする \(689 ページ\)](#)

## 音域外の音符のカラーを表示/非表示にする

音域外と見なされる音符にカラーを表示できます。これにはそのインストゥルメントや声楽のパートが演奏したり歌ったりするには高すぎる/低すぎる音符や、現在のハーブペダルセッティングに合致しない音程などがあります。音域外の音符のカラーが非表示になっている場合、初期設定ではすべての音符が黒く表示されます。

音域外の音符のカラーは注釈と見なされ、初期設定では印刷されません。

#### 補足

音域外の声部と音符のカラーを同時に表示することはできません。

---

#### 手順

- 以下のいずれかの操作を行ないます。
    - 音域外の音符のカラーを表示するには、「**ビュー (View)**」 > 「**音符と休符のカラー (Note And Rest Colors)**」 > 「**音域外の音符 (Notes Out Of Range)**」を選択します。
    - 音域外の音符のカラーを非表示にするには、「**ビュー (View)**」 > 「**音符と休符のカラー (Note And Rest Colors)**」 > 「**なし (None)**」を選択します。
- 

#### 結果

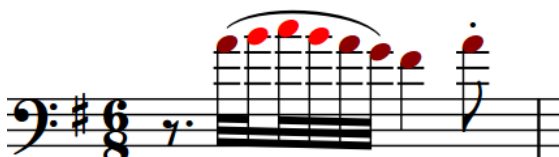
音域外の音符のカラーの表示/非表示が切り替わります。

困難と見なされる音符は暗い赤で表示され、不可能または実質的に不可能な音符は明るい赤で表示されます。

#### 補足

- タブ譜の対応する弦のフレットの範囲外にある音符は、音域外の音符にカラーを表示しない設定であっても、常にクエスチョンマークで表示されます。
- 各インストゥルメントのピッチ範囲は、「**インストゥルメントを編集 (Edit Instruments)**」ダイアログで個別に変更できます。

例



音域外の音符のカラーを表示した例。フレーズ中の3音は明るい赤で、他の音符は暗い赤で表示されている。

手順終了後の項目

音域外の音符のカラーが表示されたことで一部の音符が現在のハーブペダル設定に合わないことが分かった場合、そのパッセージのために新しいペダルダイアグラムを入力するか、適切なハーブペダルダイアグラムを自動作成できます。

関連リンク

[楽譜領域のカラーを変更する \(58 ページ\)](#)

[パネルを使ったハーブペダルダイアグラムの入力 \(412 ページ\)](#)

[既存の楽譜に基づくハーブペダルダイアグラムの計算 \(413 ページ\)](#)

[声部カラーの表示/非表示 \(1859 ページ\)](#)

[注釈 \(740 ページ\)](#)

[「インストゥルメントを編集 \(Edit Instruments\)」ダイアログ \(950 ページ\)](#)

## 非表示の符頭の表示/非表示

非表示の符頭を半透明のグレーで表示できます。これにより、非表示の符頭を簡単に識別して選択できます。

手順

- 「**ビュー (View)**」 > 「**音符と休符のカラー (Note And Rest Colors)**」 > 「**非表示の符頭 (Hidden Noteheads)**」を選択します。

結果

非表示の符頭の表示/非表示が切り替わります。

例



非表示の符頭を表示した状態



非表示の符頭を非表示にした状態

関連リンク  
[符頭の表示/非表示 \(1398 ページ\)](#)

# 括弧付きの符頭

括弧付きの符頭は、音符の演奏が任意であること、編集上の音符であること、リピートのある楽譜のすべてのリピート回で演奏される音符ではないこと、またはピアノで鍵盤を押さえるが完全には押し込まないことを示すために一般的に使用されます。Dorico Pro では、すべての符頭に括弧を表示できます。

各括弧にどの音符が含まれているのかがはっきりわかるように、符頭の括弧は符頭よりわずかに長く上下に伸びています。



符頭の丸括弧と符頭の角括弧が含まれているフレーズ

また、音符の譜表とタブ譜でそれぞれ個別に符頭に括弧を表示することもできます。

初期設定では、括弧付きの符頭はベロシティが低くなるため、標準の音符より再生時の音が小さくなります。

Dorico Pro では、以下の符頭の括弧のタイプを使用できます。

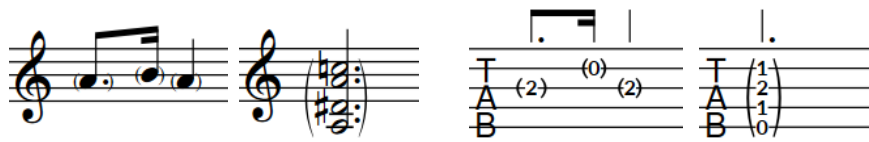
## 符頭の丸括弧

符頭の丸括弧はスラーと外観が似ていますが、垂直に配置されます。

初期設定では、単一の符頭に表示される丸括弧には、音符の譜表ではフォントグリフが使われ、タブ譜では描画曲線が使われます。浄書モードでは、描画曲線を使用した符頭の丸括弧にはハンドルが表示され、形状を変更できます。フォントグリフが使われた符頭の丸括弧には、浄書モードでもハンドルが表示されません。

### 補足

タブ譜では、タイのつながりの2番め以降のすべての音符/コードを囲む丸括弧が自動的に表示されます。タブ譜でタイのつながりのすべての符頭に括弧を表示した場合、自動的に表示されるこれらの符頭の括弧が含まれます。



音符の譜表で単一の符頭に丸括弧を表示した例

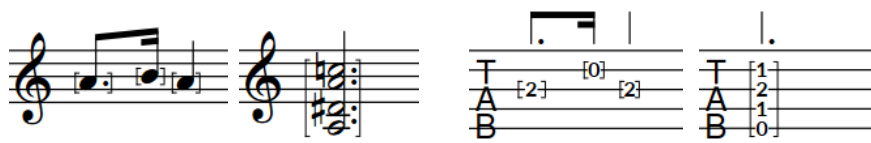
音符の譜表でコードに丸括弧を表示した例

タブ譜で単一の符頭に丸括弧を表示した例

タブ譜でコードに丸括弧を表示した例

## 符頭の角括弧

符頭の角括弧は、垂直の直線の上下に水平のフックが付いた形になっています。角括弧の長さは、括弧が譜表線上で終わってフックが見えなくなるということがないように自動的に調整されます。



音符の譜表で単一の符頭に角括弧を表示した例  
 音符の譜表でコードに角括弧を表示した例

タブ譜で単一の符頭に角括弧を表示した例  
 タブ譜でコードに角括弧を表示した例

#### 関連リンク

[タイでつながれた1つまたはすべての符頭に括弧を表示する \(1409 ページ\)](#)

[浄書モードにおける符頭の括弧 \(1414 ページ\)](#)

[音符をデッドノートとして表示する \(1490 ページ\)](#)

[音符の入力 \(248 ページ\)](#)

[タイ \(1776 ページ\)](#)

[単一の符頭の丸括弧の外観を変更する \(1412 ページ\)](#)

[ギターベンド \(1469 ページ\)](#)

[ギタープリベンドとギタープリダイブ \(1472 ページ\)](#)

[ビブラートバーのダイブとリターン \(1474 ページ\)](#)

[括弧付きのコード記号 \(1169 ページ\)](#)

## 浄書オプションで括弧付きの符頭の設定をプロジェクト全体に適用する

括弧付きの符頭の外観と位置に関するプロジェクト全体の設定は、「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**括弧付きの符頭 (Bracketed Noteheads)**」ページで変更できます。

「**括弧付きの符頭 (Bracketed Noteheads)**」ページのオプションを使用すると、符頭の丸括弧/角括弧と符頭との間のデフォルトの間隔、符頭の括弧の太さと形状、符頭の丸括弧の外観を音符の楽譜とタブ譜の両方について変更できます。

#### 補足

フォントグリフを使用した単一の符頭の丸括弧には浄書モードでもハンドルが表示されません。つまり、長さ、形状、幅を変更することはできません。

また、単一の括弧を使用するコード内の最大の音程や、タブ譜の隣接する弦に単一の括弧を表示するか個別の括弧を表示するかも変更できます。

多くのオプションに、オプションを楽譜に適用したときにどのように表示されるかを示す図があります。

#### 関連リンク

[「浄書オプション \(Engraving Options\)」ダイアログ \(923 ページ\)](#)

## 符頭に括弧を表示する

個々の符頭、コード内の単一の音符、およびコード全体に丸括弧または角括弧を表示できます。たとえば、特定の音符の演奏が任意であることや編集上の変更であることを示したい場合や、無音程打楽器の音符をゴーストノートとして表示したい場合などに使用します。

### 補足

デッドノートを表わすために符頭に括弧を表示したい場合は、かわりにフレット楽器に属する音符をデッドノートとして表示できます。

### 前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。
- 下ゾーンのツールバーで「プロパティ (Properties)」を選択しておきます。
- 浄書モードの場合は、浄書ツールボックスで「グラフィックの編集 (Graphic Editing)」を選択しておきます。

### 手順

1. 括弧を表示する符頭を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。

### 補足

- タイでつながれた個別の符頭 (最初の符頭以外) に括弧を表示するには、浄書モードでそれらの符頭を選択する必要があります。
- コード全体に括弧を表示するには、コード内のすべての音符を選択する必要があります。
- 音符の譜表とタブ譜の両方で括弧を表示するには、両方の譜表で音符を選択する必要があります。

2. プロパティパネルの「括弧付きの符頭 (Bracketed Noteheads)」グループで「括弧スタイル (Bracket style)」をオンにします。

3. 以下のいずれかのオプションを選択します。

- **丸 (Round)**
- **四角 (Square)**

### 結果

選択した音符に各タイプの符頭の括弧が表示されます。タブ譜のみで音符を選択した場合、音符の譜表の対応する音符には括弧が表示されません。逆も同様です。

記譜モードでは、タイでつながれた最初の符頭にのみ括弧が表示されます。浄書モードでは、タイでつながれた符頭も含め、選択した符頭にのみ括弧が表示されます。

コード内のすべての音符を選択した場合、コード内の音符間の間隔があまりに大きいと括弧が自動的に分割されますが、それ以外の場合は各コードに対して単一の括弧が表示されます。コード内の個々の音符を選択した場合、それぞれの音符に独立した括弧が表示されます。

初期設定では、括弧付きの符頭はベロシティが低くなるため、標準の音符より再生時の音が小さくなります。

### ヒント

- 「括弧スタイル (Bracket style)」をオフにすると、選択した音符の括弧が非表示になります。
- 「編集 (Edit)」 > 「記譜 (Notations)」 > 「符頭 (Notehead)」 > 「丸括弧を切り替え (Toggle Round Brackets)」または「編集 (Edit)」 > 「記譜 (Notations)」 > 「符頭 (Notehead)」 > 「角括弧を切



「**り替え (Toggle Square Brackets)**」を選択して符頭の括弧の表示/非表示を切り替えることもできます。このオプションはコンテキストメニューでも選択できます。

「**環境設定 (Preferences)**」の「**キーボードショートカット (Key Commands)**」ページで、これらのオプションにキーボードショートカットを割り当てることができます。

- 括弧付きの無音程打楽器の音符の再生時のボリュームリダクションは、「**再生オプション (Playback Options)**」 > 「**強弱記号 (Dynamics)**」 > 「**音符の強弱 (Note Dynamics)**」で変更できます。

例



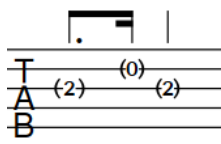
音符の譜表で単一の符頭に丸括弧を表示した例



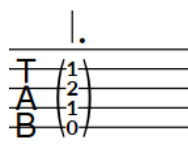
音符の譜表でコードに丸括弧を表示した例



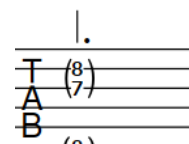
音符の譜表でコードに分割した丸括弧を表示した例



タブ譜で単一の符頭に丸括弧を表示した例



タブ譜でコードに丸括弧を表示した例



タブ譜でコードに分割した丸括弧を表示した例

関連リンク

[浄書ツールボックス \(554 ページ\)](#)

[音符をデッドノートとして表示する \(1490 ページ\)](#)

[タブ譜のタイでつながれた音符の外観を変更する \(1741 ページ\)](#)

[音符の入力 \(248 ページ\)](#)



[ベロシティエディター \(856 ページ\)](#)

[「再生オプション \(Playback Options\)」ダイアログ \(925 ページ\)](#)

## タイでつながれた1つまたはすべての符頭に括弧を表示する

タイでつながれた最初の符頭にのみ括弧を表示するか、タイでつながれたデュレーション全体に表示するかを変更できます。後者は、左の括弧がタイのつながりの最初の符頭に表示され、右の括弧が最後の符頭に表示されます。初期設定では、括弧はタイのつながりの最初の符頭にのみ表示されます。

前提条件

- 必要な音符に括弧を表示しておきます。
- 下ゾーンを表示しておきます。
- 下ゾーンのツールバーで「**プロパティ (Properties)**」を選択しておきます。
- 浄書モードの場合は、浄書ツールボックスで「**グラフィックの編集 (Graphic Editing)**」を選択しておきます。

## 手順

1. タイのつながりに対する符頭の括弧の位置を変更する音符を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「括弧付きの符頭 (Bracketed Noteheads)」グループで「タイのつながりの終了位置までの括弧 (Bracket until end of tie chain)」をオン/オフにします。

## 結果

「タイのつながりの終了位置までの括弧 (Bracket until end of tie chain)」をオンにすると選択したタイのつながりの開始位置と終了位置に括弧が表示され、オフにすると最初の音符またはコードにのみ括弧が表示されます。

括弧付きのコード内の単一の音符に対して「タイのつながりの終了位置までの括弧 (Bracket until end of tie chain)」をオンにすると、最初のコードの括弧が分割されることはありませんが、選択した音符のタイのつながりの終了位置にのみ追加の括弧が表示されます。これと同じようなコードで、別の音符がタイのつながりの終了位置まで括弧でくくられている場合にコード内の単一の音符に対して「タイのつながりの終了位置までの括弧 (Bracket until end of tie chain)」をオフにすると、タイのつながりの終了位置の括弧は分割されます。

タブ譜で音符を選択した場合、2番目の音符/コードに自動的に括弧が表示され、タイでつながれたそれ以降のすべての音符/コードはプロパティ設定に従って更新されます。

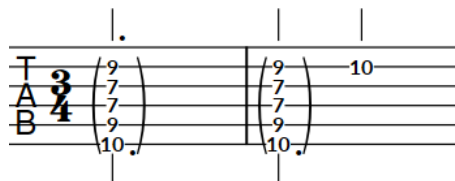
## 例



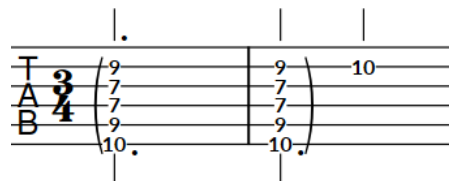
音符の譜表でタイのつながりの最初のコードにのみ括弧が表示された例



音符の譜表でタイのつながりの開始位置と終了位置に括弧が表示された例



タブ譜でタイのつながりの最初のコードにのみ括弧が表示され、2番目のコードに自動的に括弧が表示された例



タブ譜でタイのつながり全体の最初と最後に括弧が表示された例

## 関連リンク

[タイ \(1776 ページ\)](#)

[数字付き低音に単一の括弧を表示する \(1272 ページ\)](#)

[浄書ツールボックス \(554 ページ\)](#)

## コードの括弧の分割

コード内の符頭に付いた括弧を分割できます。初期設定では、コード内の音符間の間隔があまりに大きいと括弧が自動的に分割されますが、それ以外の場合はコード内のすべての音符に対して単一の括弧が表示されます。

### 前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。
- 下ゾーンのツールバーで「プロパティ (Properties)」 を選択しておきます。
- 浄書モードの場合は、浄書ツールボックスで「グラフィックの編集 (Graphic Editing)」 を選択しておきます。

### 手順

1. 括弧を分割する場所のすぐ上にあるコード内の個々の音符を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「括弧付きの符頭 (Bracketed Noteheads)」グループで「括弧を分割 (Break bracket)」をオンにします。

### 結果

選択した音符のすぐ下で括弧が分割されます。

### ヒント

「浄書オプション (Engraving Options)」 > 「括弧付きの符頭 (Bracketed Noteheads)」 > 「垂直方向の範囲 (Vertical Extent)」で、コードの括弧が自動的に分割されるデフォルトの間隔を変更できます。

### 例



単一の丸括弧が付いたコード



分割された丸括弧が付いたコード

### 関連リンク

[和音の入力 \(278 ページ\)](#)

[括弧付きのコード記号 \(1169 ページ\)](#)

## 単一の符頭の丸括弧の外観を変更する

単一の符頭の丸括弧の描画にフォントグリフを使用するか、描画曲線を使用するかを変更できます。浄書モードでは描画曲線を使用した符頭の丸括弧にのみハンドルが表示され、形状を変更できます。

### 手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[E]** を押して「**浄書オプション (Engraving Options)**」を開きます。
2. カテゴリーリストの「**括弧付きの符頭 (Bracketed Noteheads)**」をクリックします。
3. 「**デザイン (Design)**」のセクションの「**単一の符頭に使用される丸括弧の外観 (Round bracket appearance for single noteheads)**」で、以下のいずれかのオプションを選択します。
  - **フォントグリフを使用 (Use font glyph)**
  - **カーブを描画 (Use drawn curve)**
4. 「**適用 (Apply)**」をクリックしてから「**閉じる (Close)**」をクリックします。

### 結果

すべての単一の符頭の丸括弧の外観がプロジェクト全体で変更されます。

### 手順終了後の項目

描画曲線を使用した符頭の丸括弧の長さや形状を個別に変更できます。


## 符頭の丸括弧の形状を変更する

符頭の括弧の幅を広くしたい場合や、括弧の終端がより急な角度で符頭に近づくようにカーブを変更したい場合など、符頭の丸括弧の形状を個別に変更できます。この操作は現在のレイアウトとフレームチェーンのみに対して、もしくはすべてのレイアウトとフレームチェーンに対して行なえます。

### 補足

形状を変更できるのは、描画曲線を使用した単一の符頭の丸括弧のみです。フォントグリフを使用した符頭の丸括弧は形状を変更できません。

### 前提条件

- 浄書ツールボックスで「**グラフィックの編集 (Graphic Editing)**」を選択しておきます。
- ローカルのプロパティ変更に関して、適切なプロパティ範囲を選択しておきます。

### 手順

1. 浄書モードで、形状を変更する符頭の丸括弧の中央のハンドルを選択します。

### ヒント

選択したアイテムだけではなく、すべてのアイテムにハンドルを表示するには、「**浄書 (Engrave)**」 > 「**ハンドルを表示 (Show Handles)**」 > 「**常時 (Always)**」を選択します。これにより、複数のアイテムの個々のハンドルを選択するのがより簡単になります。

2. 以下のいずれかの操作を行なって、選択した符頭の丸括弧の形状を変更します。
  - 符頭の右括弧の幅を広げる、または符頭の左括弧の幅を狭めるには、**[Alt/Opt]+[→]** を押します。
  - 符頭の右括弧の幅を狭める、または符頭の左括弧の幅を広げるには、**[Alt/Opt]+[←]** を押します。
  - 符頭の括弧の終端の角度を大きくするには、**[Alt/Opt]+[↑]** を押します。

- 符頭の括弧の終端の角度を小さくするには、**[Alt/Opt]+[↓]** を押します。

#### ヒント

- ハンドルの移動幅を大きくするには、**[Ctrl]/[command]** を押しながらキーボードショートカットを押します (例: **[Ctrl]/[command]+[Alt/Opt]+[←]**)。
- ハンドルの移動幅を中くらいにするには、**[Shift]** を押しながらキーボードショートカットを押します (例: **[Shift]+[Alt/Opt]+[←]**)。
- ハンドルの移動幅を小さくするには、**[Ctrl]/[command]+[Shift]** を押しながらキーボードショートカットを押します (例: **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[Alt/Opt]+[←]**)。
- 中央のハンドルをクリックしてそれぞれの方向にドラッグすることもできます。

#### 結果

選択した符頭の括弧の形状が変更されます。プロパティ範囲を「ローカル (Locally)」に設定している場合、この変更は現在のレイアウトおよびフレームチェーンのみに影響します。

必要に応じて、衝突を回避するためにタイやスラーなどの近くの別のアイテムが自動的に移動します。これにより、音符のスペーシングや配置設定に影響する場合があります。

#### ヒント

符頭の括弧の中央のハンドルを動かすと、動かした部位に応じて、プロパティパネルの「括弧付きの符頭 (Bracketed Noteheads)」グループにある以下のプロパティが自動的にオンになります。

- 「左丸括弧の中央 (L round br. middle)」は符頭の左括弧の中央のハンドルを移動させます。「X」は水平に移動させて符頭の括弧の幅を変更し、「Y」は垂直に移動させて符頭の括弧のカーブを変更します。
- 「右丸括弧の中央 (R round br. middle)」は符頭の右括弧の中央のハンドルを移動させます。「X」は水平に移動させて符頭の括弧の幅を変更し、「Y」は垂直に移動させて符頭の括弧のカーブを変更します。

これらのプロパティを使用して数値フィールドの数値を変更することにより、符頭の丸括弧の幅と形状を変更することもできます。

プロパティをオフにすると、選択した符頭の括弧が初期設定の形状にリセットされます。

#### 例



符頭の丸括弧の幅を広げた例

符頭の丸括弧の幅を狭めた例

終端の角度を急にした例

終端の角度をなだらかにした例

#### 関連リンク

[符頭に括弧を表示する \(1408 ページ\)](#)

[アイテムの表示位置の移動 \(652 ページ\)](#)

[浄書ツールボックス \(554 ページ\)](#)

[プロパティ範囲の変更 \(828 ページ\)](#)

[スラーの肩のオフセット \(1681 ページ\)](#)

## 浄書モードにおける符頭の括弧

浄書モードでは、符頭の丸括弧に複数のハンドルがあり、それらを個別に動かして表示上の位置、長さ、形状を調節できます。

描画曲線を使用した符頭の丸括弧には、個別に動かすことのできる3つの四角いハンドルが表示されます。上部または下部のハンドルを動かすと、開始ハンドルおよび終了ハンドルに対する相対的な位置を保つために中央ハンドルも移動します。

### 補足

フォントグリフを使用した単一の符頭の丸括弧には浄書モードでもハンドルが表示されません。つまり、長さ、形状、幅を変更することはできません。

符頭の角括弧には、上部と下部に1つずつ、合わせて2つのハンドルが表示されます。



浄書モードの符頭の丸括弧のハンドル



浄書モードの符頭の角括弧のハンドル

- 上部と下部のハンドルは、符頭の括弧のそれぞれの端を動かして表示上の長さを制御します。
- 中央ハンドルは符頭の丸括弧の形状を制御します。中央ハンドルを垂直に動かすと符頭の括弧の終端が符頭に近づく角度が変わり、水平に動かすと符頭の丸括弧の幅が変わります。

これらのハンドルを動かして符頭の括弧の表示上の長さを変えたり、符頭の丸括弧の形状を変えたりできます。必要に応じて、衝突を回避するためにタイやスラーなどの近くの別のアイテムが自動的に移動します。

### ヒント

- 符頭の括弧またはハンドルを移動すると、移動した部位に応じて、プロパティパネルの「**括弧付きの符頭 (Bracketed Noteheads)**」グループにある以下のプロパティが自動的にオンになります。
  - 「**左括弧ボディ (L bracket body)**」は符頭の左括弧を移動させます。「**X**」は水平位置を移動させ、「**Y**」は垂直位置を移動させます。
  - 「**右括弧ボディ (R bracket body)**」は符頭の右括弧を移動させます。「**X**」は水平位置を移動させ、「**Y**」は垂直位置を移動させます。
  - 「**左括弧の範囲 (L bracket extents)**」は符頭の左括弧の高さを制御します。「**T**」は上部のハンドルを動かし、「**B**」は下部のハンドルを動かします。
  - 「**右括弧の範囲 (R bracket extents)**」は符頭の右括弧の高さを制御します。「**T**」は上部のハンドルを動かし、「**B**」は下部のハンドルを動かします。
- 符頭の括弧と他のアイテムとの間の間隔、および符頭の括弧が音符の上下を超える量も含め、すべての符頭の括弧のデフォルトの位置は「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**括弧付きの符頭 (Bracketed Noteheads)**」ページで変更できます。

### 関連リンク

[「浄書オプション \(Engraving Options\)」ダイアログ \(923 ページ\)](#)

# 符尾

符尾とは、2分音符かそれ以下のデュレーションの音符の符頭から延びる垂直の線です。符頭のデザインとの組み合わせにより、それぞれの音符のデュレーションが明確に識別できます。

たとえば、4分音符と8分音符はどちらも黒丸符頭と符尾を持ちますが、8分音符の場合は符尾に符鉤も付きます。16分音符には2つ、32分音符には3つというように符鉤が付いていきます。符尾の長さは Dorico Pro のデフォルトにより決定され、符鉤の増減に合わせて自動的に調整されます。



音符と和音の符尾は、楽譜の浄書における表記規則と楽譜中の位置に従い、上向きまたは下向きになります。たとえば譜表が2つの合唱の楽譜においては、ソプラノとテナーのラインでは符尾は上向き、アルトとバスのラインでは符尾は下向きになります。

関連リンク

[音符と休符のグループ化](#) (1136 ページ)

[オルタードユニゾン](#) (1058 ページ)

[声部](#) (1858 ページ)

[音符の入力](#) (248 ページ)

[連桁グループのリセット](#) (1117 ページ)

## 浄書オプションで符尾の設定をプロジェクト全体に適用する

「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**音符 (Notes)**」ページで、符尾の外観を設定しプロジェクト全体に適用できます。

「**音符 (Notes)**」ページのオプションを使用すると、符尾のデザイン、衝突回避、長さ、および線の太さを変更できます。また、符尾が上向きまたは下向きになる状況の設定や、符尾が短くなる状況の設定、符頭が譜表の第3線上にあるときのデフォルトの符尾の方向の変更が行なえます。



デフォルトの符鉤のデザイン



まっすぐな符鉤のデザイン

多くのオプションに、オプションを楽譜に適用したときにどのように表示されるかを示す図があります。

### 補足

トレモロストロークが付いた符尾には、「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**トレモロ (Tremolos)**」ページで確認できる特定のオプションがあります。たとえば、符尾の端や異なる符尾の符鉤とトレモロストロークとのデフォルト距離の変更などが行なえます。

関連リンク

[「浄書オプション \(Engraving Options\)」 ダイアログ \(923 ページ\)](#)

[浄書オプションでトレモロの設定をプロジェクト全体に適用する \(1817 ページ\)](#)

## 符尾の方向

Dorico Pro では、音符および和音の符尾の方向は、楽譜の浄書における表記規則に基づくルールに従います。

符尾の方向は自動的に決定されますが、音符、和音、または声部全体について、手動で個別に符尾の方向を変更できます。適用されるルールは以下の条件に従います。

- 譜表で有効な声部の数。
- 適用先が音符、和音、または音符の連桁グループのいずれであるか。
- 同じ和音または同じ連桁グループに属する音符が、譜表間で分割されているかどうか。

### 単一の声部の単一の音符

有効な声部が 1 つだけの五線譜においては、単一の音符のデフォルトの符尾の向きは、その譜表上の位置により決定されます。

- 音符が第 3 線より上にある場合、符尾は下向きになります。
- 音符が第 3 線より下にある場合、符尾は上向きになります。
- 音符が譜表の第 3 線上にある場合、譜表の方向は隣接する音符、連桁グループ、または和音により決定されます。両側の符尾の方向が同じである場合、音符の符尾もそれに合わせます。隣接する音符、連桁グループ、または和音の符尾の方向がそれぞれ異なる場合、または隣接する音符、連桁グループ、または和音がない場合、音符はデフォルトの符尾の方向に従います。

デフォルトの符尾の方向はインストゥルメントのタイプに従います。初期設定では、第 3 線上の音符の符尾は、インストゥルメントの譜表では下向きですが、声楽の譜表では歌詞との衝突を避けるため上向きです。

#### ヒント

譜表の第 3 線上の音符および連桁グループ、および譜表の第 3 線上から上下に均等に音符が配置された和音におけるデフォルトの符尾の方向は、「**浄書オプション (Engraving Options)**」 > 「**音符 (Notes)**」 > 「**符尾 (Stems)**」で変更できます。また、符尾の方向がデフォルトの設定に従うか、それとも楽譜の前後関係に従い変化するか選択できます。



4 番めの音符の符尾が上向きであるため、第 3 線上の音符の符尾は上向きになります。



4 番めの音符の符尾が下向きであるため、第 3 線上の音符の符尾は下向きになります。

Dorico Pro の初期設定では、最初に入力された一連の音符は、符尾が上向きの声部として設定されます。これらの音符は他の声部が入力されるまで譜表の唯一の声部として扱われます。

### 複声部の単一の音符

譜表に複数の声部があり、すべての声部に音符が含まれる場合、符尾の向きは声部の符尾の向きによって決定されます。符尾が上向きの声部に含まれる音符の符尾は上を、符尾が下向きの声部に含まれる音符の符尾は下を向きます。通常であれば譜表の位置に基づいて逆の方向に符尾が向く場合でも、声部の符尾の方向が音符に適用されます。



## 補足

符尾が上向き of 異なる声部または符尾が下向き of 異なる声部に含まれる音符の表示順は、それぞれのピッチと「**記譜オプション (Notation Options)**」の「**声部 (Voices)**」ページの設定によって変わります。また、音符の声部ごとに列の並び順を個別に変更することもできます。

音符が1つの声部にしか含まれない状態が1小節以上続くときは、Dorico Pro は自動的に符尾の方向をピッチに基づくデフォルトの方向に変更します。たとえば、譜表に符尾が上向きの声部が1つと符尾が下向きの声部が1つあり、符尾が下向きの声部にのみ音符や休符が含まれている場合、符尾が下向きの声部に含まれる音符の符尾は、譜表上の音符の位置によっては上向きになることがあります。ただし、空白の声部で休符や暗黙の休符を表示した場合、音符の符尾の方向は声部の符尾の方向に従います。



上向きの声部を表わすブルーの音符



下向きの声部を表わすオレンジ色の音符



上向き、下向きの声部が同じ小節内にある場合、符尾の方向は自動的に変わる

## 単一の声部の和音

単一の声部の和音の符尾の方向は、譜表の第3線の上下にある音符のバランスにより決定されます。

- 第3線から一番遠い音符が第3線より高い位置にある場合、和音の符尾は下向きになります。
- 第3線から一番遠い音符が第3線より低い位置にある場合、和音の符尾は上向きになります。
- 譜表の第3線の上下で和音のバランスが均等に取れている場合、譜表の方向は隣接する音符、連桁グループ、または和音により決定されます。両側の符尾の方向が同じである場合、和音の符尾もそれに合わせます。隣接する音符、連桁グループ、または和音の符尾の方向がそれぞれ異なる場合、均等なバランスの和音はデフォルトの符尾の方向に従います。

デフォルトの符尾の方向はインストゥルメントのタイプに従います。初期設定では、第3線上の音符の符尾は、インストゥルメントの譜表では下向きですが、声楽の譜表では歌詞との衝突を避けるため上向きです。

## ヒント

譜表の第3線上の音符および連桁グループ、および譜表の第3線上から上下に均等に音符が配置された和音におけるデフォルトの符尾の方向は、「**浄書オプション (Engraving Options)**」 > 「**音符 (Notes)**」 > 「**符尾 (Stems)**」で変更できます。また、符尾の方向がデフォルトの設定に従うか、それとも楽譜の前後関係に従い変化するか選択できます。

## 単一の声部の連桁グループ

連桁グループの符尾の方向は、連桁グループに属する音符が譜表の第3線の上下に分布するバランスにより決定されます。

- 連桁グループに属する音符の過半数が第3線より上であれば、連桁グループの符尾の方向は下向きになります。
- 連桁グループに属する音符の過半数が第3線より下であれば、連桁グループの符尾の方向は上向きになります。
- 連桁グループに属する音符の数が譜表の第3線の上下で均等な場合、譜表の方向は隣接する音符、連桁グループ、または和音により決定されます。両側の符尾の方向が同じである場合、連桁グループ

ブの符尾もそれに合わせます。隣接する音符、連桁グループ、または和音の符尾の方向がそれぞれ異なる場合、均等なバランスの連桁グループはデフォルトの符尾の方向に従います。

デフォルトの符尾の方向はインストゥルメントのタイプに従います。初期設定では、第3線上の音符の符尾は、インストゥルメントの譜表では下向きですが、声楽の譜表では歌詞との衝突を避けるため上向きです。

#### ヒント

譜表の第3線上の音符および連桁グループ、および譜表の第3線上から上下に均等に音符が配置された和音におけるデフォルトの符尾の方向は、「**浄書オプション (Engraving Options)**」 > 「**音符 (Notes)**」 > 「**符尾 (Stems)**」で変更できます。また、符尾の方向がデフォルトの設定に従うか、それとも楽譜の前後関係に従い変化するか選択できます。

---

#### 関連リンク

- [声部のフローごとの記譜オプション \(1859 ページ\)](#)
- [「記譜オプション \(Notation Options\)」ダイアログ \(919 ページ\)](#)
- [声部列の並び順 \(1862 ページ\)](#)
- [複声部における暗黙の休符 \(1642 ページ\)](#)
- [声部カラーの表示/非表示 \(1859 ページ\)](#)
- [オルタードユニゾン \(1058 ページ\)](#)

## 譜表の第3線上にある音符のデフォルトの符尾方向を変更する

譜表の第3線上にある音符の符尾は、上下いずれの方向にもできます。そのような符尾のデフォルトの方向を変更して、符尾の方向が隣接する音符、連桁グループ、または和音に影響を受けるか、それとも常にデフォルトの方向に従うか選択できます。

---


#### 手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[E]** を押して「**浄書オプション (Engraving Options)**」を開きます。
  2. カテゴリリストの「**音符 (Notes)**」をクリックします。
  3. 「**符尾 (Stems)**」のセクションの「**符尾の方向 (Stem Directions)**」のサブセクションで、「**譜表の第3線上にある音符の符尾の向き (Stem direction for notes on the middle line of the staff)**」の以下のいずれかのオプションを選択します。
    - 前後の音符に合わせる (Determine by context)
    - デフォルトの向きを使用 (Use default direction)
  4. 必要に応じて、「**第3線上の音符のデフォルトの向き (Default stem direction for notes on the middle line of the staff)**」に以下のいずれかのオプションを選択します。
    - 上 (Up)
    - 下 (Down)
  5. 「**適用 (Apply)**」をクリックしてから「**閉じる (Close)**」をクリックします。
- 

## 音符の符尾の方向を個別に変更する

音符の符尾の方向は手動で変更できます。この操作は現在のレイアウトとフレームチェーンのみに対して、もしくはすべてのレイアウトとフレームチェーンに対して行なえます。

#### 前提条件

- 浄書モードの場合は、浄書ツールボックスで「**グラフィックの編集 (Graphic Editing)**」 を選択しておきます。

- ローカルのプロパティ変更に関して、適切なプロパティ範囲を選択しておきます。

#### 手順

1. 符尾の方向を変更する音符を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。

#### 補足

記譜モードでは、タイのつながり全体のみを選択できます。浄書モードでは、タイのつながりに含まれる個別の音符を選択できます。

2. 以下のいずれかの操作を行なって符尾の方向を変更します。

- 「編集 (Edit)」 > 「記譜 (Notations)」 > 「符尾 (Stem)」 > 「符尾を強制的に上向き (Force Stem Up)」を選択します。
- 「編集 (Edit)」 > 「記譜 (Notations)」 > 「符尾 (Stem)」 > 「符尾を強制的に下向き (Force Stem Down)」を選択します。

#### ヒント

このオプションはコンテキストメニューでも選択できます。

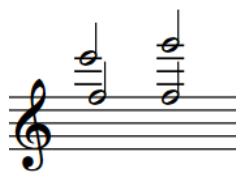
#### 結果

選択した音符の符尾の方向が変更されます。選択した音符はここで指定した符尾の方向に従います。音符のピッチを後から変更し、異なる符尾の方向が通常使用されるピッチにしても符尾の方向は変わりません。プロパティ範囲を「ローカル (Locally)」に設定している場合、この変更は現在のレイアウトおよびフレームチェーンのみに影響します。

#### 補足

- これによって音符が属する声部は変更されません。
- 音符を選択して **[F]** を押すことで符尾の方向を変更することもできます。

#### 例



同じ方向を向くが、異なる声部に属する符尾



同じ方向を向き、同じ声部に属する符尾

#### 関連リンク

[既存の音符の声部を変更する \(507 ページ\)](#)

[譜表に対するアイテムの位置の変更 \(474 ページ\)](#)

[浄書ツールボックス \(554 ページ\)](#)

[プロパティ範囲の変更 \(828 ページ\)](#)

[プロパティ設定を別のレイアウト/フレームチェーンにコピーする \(825 ページ\)](#)


## 声部のデフォルトの符尾の方向を変更する

声部のデフォルトの符尾の方向は、スラッシュ符頭の声部も含めて、入力したあとでも変更できます。

### 補足

これは声部における暗黙の符尾の方向を変更しますが、単一の声部におけるすべての音符の符尾の方向を変更するわけではありません。Dorico Pro では、音符が含まれる声部が1つだけのときは、符尾の方向が自動的に変更されます。

### 前提条件

浄書モードの場合は、浄書ツールボックスで「**グラフィックの編集 (Graphic Editing)**」を選択しておきます。

### 手順

1. 符尾の方向を変更する声部の音符または和音を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. 以下のいずれかの操作を行なって、選択した声部のデフォルトの符尾の方向を変更します。
  - 「**編集 (Edit)**」 > 「**記譜 (Notations)**」 > 「**声部 (Voices)**」 > 「**符尾をデフォルトで上向きにする (Default Stems Up)**」を選択します。
  - 「**編集 (Edit)**」 > 「**記譜 (Notations)**」 > 「**声部 (Voices)**」 > 「**符尾をデフォルトで下向きにする (Default Stems Down)**」を選択します。


### ヒント

このオプションはコンテキストメニューでも選択できます。

## 符尾の方向のリセット

符尾の方向に加えた変更を解除して、デフォルトの方向に復元できます。

### 前提条件

浄書モードの場合は、浄書ツールボックスで「**グラフィックの編集 (Graphic Editing)**」を選択しておきます。

### 手順

1. 符尾の方向の変更を解除する音符を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. 「**編集 (Edit)**」 > 「**記譜 (Notations)**」 > 「**符尾 (Stem)**」 > 「**符尾の強制を削除 (Remove Forced Stem)**」を選択します。このオプションはコンテキストメニューでも選択できます。

### 結果

選択した音符におけるすべて符尾の方向の変更が解除されます。選択した音符の符尾がデフォルトの方向に復元されます。

### 補足

または、符尾の方向を逆方向に変更もできます。ただし、符尾の方向が強制された音符は、たとえば後からピッチを変更しても、符尾の方向が自動的に変更されません。

関連リンク

[連桁グループのリセット \(1117 ページ\)](#)

[譜表をまたぐ連桁/トレモロの作成 \(1123 ページ\)](#)

[MusicXML ファイルの読み込み \(91 ページ\)](#)

## 符尾の長さ


Dorico Pro の初期設定での符尾の長さは、音符の譜表上の位置による符尾の外観に関する一般的な表記規則に従い決定されます。

すべての符尾の長さに関するプロジェクト全体のデフォルト設定は変更でき、また浄書モードでは個々の符尾の長さを変更できます。

## 符尾の長さを個別に変更する

個々の音符の符尾の長さを、プロジェクト全体の設定とは別に変更できます。この操作は現在のレイアウトとフレームチェーンのみに対して、もしくはすべてのレイアウトとフレームチェーンに対して行なえます。

前提条件

- 浄書ツールボックスで「**グラフィックの編集 (Graphic Editing)**」を選択しておきます。
- ローカルのプロパティ変更に関して、適切なプロパティ範囲を選択しておきます。

---

手順

1. 浄書モードで、長さを変更する符尾を選択します。
2. 選択した符尾のハンドルを以下のいずれかの方法で動かし、符尾の長さを変更します。
  - これらを標準的な幅で上下に移動するには、**[Alt/Opt]** を押しながら対応する矢印キーを押します。たとえば、ハンドルを上を移動させるには、**[Alt/Opt]+[↑]** を押します。これにより、キーを押すごとにハンドルが 1/8 スペース分移動します。
  - これらの上下の移動幅を大きくするには、通常のキーボードショートカットに加え **[Ctrl]/[command]** を押します (例: **[Ctrl]/[command]+[Alt/Opt]+[↑]**)。これにより、キーを押すごとにハンドルが 1 スペース分移動します。
  - これらの上下の移動幅を中くらいにするには、通常のキーボードショートカットに加え **[Shift]** を押します (例: **[Shift]+[Alt/Opt]+[↑]**)。これにより、キーを押すごとにハンドルが 1/2 スペース分移動します。
  - これらの上下の移動幅を小さくするには、通常のキーボードショートカットに加え **[Ctrl]/[command]+[Shift]** を押します (例: **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[Alt/Opt]+[↑]**)。これにより、キーを押すごとにハンドルが 1/32 スペース分移動します。
  - アイテムをクリックして上下にドラッグします。

---

結果

選択した符尾の長さが変更されます。たとえば、下向きの符尾の先端を上向きに動かすと符尾が短くなります。プロパティ範囲を「**ローカル (Locally)**」に設定している場合、この変更は現在のレイアウトおよびフレームチェーンのみに影響します。

ヒント

- 符尾の長さを変更すると、プロパティパネルの「**音符と休符 (Notes and Rests)**」グループの「**符尾の調節 (Stem adj.)**」がオンになります。

このプロパティの数値フィールドの数値を変更することでも、符尾の長さを変更できます。ただし、「**音符と休符 (Notes and Rests)**」グループは、符尾ではなく符頭が選択されているときしか利用できません。

プロパティをオフにすると、選択した符尾がデフォルトの長さにリセットされます。

- 符尾のデフォルトの長さをプロジェクト全体で変更するには、「**浄書オプション (Engraving Options)**」 > 「**音符 (Notes)**」 > 「**符尾 (Stems)**」で設定を行ないます。異なる状況の符尾には、それぞれ異なるオプションがあります。

---

#### 関連リンク

[「浄書オプション \(Engraving Options\)」ダイアログ \(923 ページ\)](#)

[浄書ツールボックス \(554 ページ\)](#)

[プロパティ範囲の変更 \(828 ページ\)](#)


[プロパティ設定を別のレイアウト/フレームチェーンにコピーする \(825 ページ\)](#)

## 符尾の表示/非表示

どの符頭デザインの音符でも、符尾は表示/非表示にできます。たとえば、音価が指定されない楽節で明確なリズムを表示したくない場合に符尾を非表示にするなどです。

Dorico Pro では、符尾なしの符頭のデザインを使用するのではなく、符尾を非表示にできるようにしています。これにより、どの符頭のデザインにおいても符尾を非表示にできます。

#### 前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。
- 下ゾーンのツールバーで「**プロパティ (Properties)**」  を選択しておきます。
- 浄書ツールボックスで「**グラフィックの編集 (Graphic Editing)**」  を選択しておきます。

---

#### 手順

1. 浄書モードで、符尾を非表示にする音符を選択します。
2. プロパティパネルの「**音符と休符 (Notes and Rests)**」グループで、「**符尾を非表示 (Hide stem)**」をオン/オフにします。

---

#### 結果

「**符尾を非表示 (Hide stem)**」をオンにすると、選択した音符の符尾と付属する符鉤が非表示になり、オフにすると表示されます。

#### 補足

- 連桁が非表示になるのは、連桁グループのすべての音符の符尾を非表示にした場合のみです。
- 「**環境設定 (Preferences)**」の「**キーボードショートカット (Key Commands)**」ページにある「**符尾の非表示を切り替え (Toggle Hide Stem)**」にキーボードショートカットを割り当てることができます。

例



符尾を表示した状態



符尾を非表示にした状態

---

関連リンク

- [プロパティパネル \(826 ページ\)](#)
- [ゾーンの表示/非表示の切り替え \(48 ページ\)](#)
- [音符とアイテムを個々に選択/選択解除する \(460 ページ\)](#)
- [大きな選択範囲 \(463 ページ\)](#)
- [符頭セットのデザイン \(1389 ページ\)](#)
- [音符の入力 \(248 ページ\)](#)
- [符頭の表示/非表示 \(1398 ページ\)](#)
- [MIDI トリガー領域 \(717 ページ\)](#)
- [「環境設定 \(Preferences\)」 ダイアログ \(63 ページ\)](#)

## 符尾の背景の塗りつぶし

プロジェクト全体で、すべての符尾の背景を塗りつぶすことができます。たとえば、間隔が狭いスコアで譜表の近くにヘアピンが表示される場合でも読みやすさを確保できます。

---

手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[E]** を押して「**浄書オプション (Engraving Options)**」を開きます。
  2. カテゴリーリストの「**音符 (Notes)**」をクリックします。
  3. 「**符尾 (Stems)**」セクションで、「**符尾の背景を塗りつぶす幅 (Erase background behind stems with erasure of width [n] spaces)**」をオン/オフにします。
  4. 必要に応じて、数値フィールドの値を変更します。
  5. 「**適用 (Apply)**」をクリックしてから「**閉じる (Close)**」をクリックします。
- 

結果

このオプションをオンにすると、プロジェクト全体ですべての符尾の背景が塗りつぶされ、オフにすると塗りつぶされません。塗りつぶしの余白は設定した値に従います。

---

例



ヘアピンと交差する符尾の背景が塗りつぶされていない状態



ヘアピンと交差する符尾の背景が塗りつぶされた状態

---

関連リンク

[強弱記号の背景の塗りつぶし \(1239 ページ\)](#)

[演奏技法の背景の塗りつぶし \(1538 ページ\)](#)

[テキストアイテムの背景の塗りつぶし \(1774 ページ\)](#)



# ハーモニクス

ハーモニクスとは、振動している弦の特定の位置に触れ、対応する倍音を鳴らすことで作り出されるピッチのことです。多くの場合、ハーモニクスは弦を押さえて出す音よりもピッチが高く、透明感のある澄んだ音になります。ハーモニクスには、ナチュラルとアーティフィシャルという2つのタイプがあります。

倍音には、倍音列内の順序に応じて番号が振られており、この番号は倍音を作り出す弦の節にも関連しています。たとえば、倍音列内の第2倍音は弦の中間の節、つまり弦をちょうど2つに分割する節に触れることで作り出されます。同じように、第3倍音は弦を3つに分割する節に触れることで作り出されるといった具合です。

## ナチュラルハーモニクス

ナチュラルハーモニクスは、開放弦のいずれかの節に触れ、弦を弓で弾くか指ではじくことで作り出します。作り出されるハーモニクスの発音上のピッチは、倍音列内の対応する倍音と節によって異なります。たとえば、弦の中央の節に触れると第2倍音を作り出され、開放弦のピッチの1オクターブ上の音が鳴ります。

## アーティフィシャルハーモニクス

アーティフィシャルハーモニクスは、(標準の音符を演奏するように)弦を完全に押さえてから、押さえた弦のいずれかの節に触れることで作り出します。作り出されるハーモニクスの発音上のピッチは、倍音列内の対応する倍音と節によって異なります。たとえば、押さえるピッチの4分の1上に相当する節に触れると第4倍音を作り出され、押さえるピッチの2オクターブ上の音が鳴ります。

アーティフィシャルハーモニクスを作り出すには、弦を完全に押さえたうえで、その弦の正しい節に触れる必要があります。アーティフィシャルハーモニクスは、ナチュラルハーモニクスよりも作り出すのが難しい場合があります。





2弦でアーティフィシャルハーモニクスとナチュラルハーモニクスを交互に演奏するバイオリンの楽節 同じ楽節の発音上のピッチ

Dorico Pro は、弦楽器およびフレット楽器のハーモニクスを記譜するための複数の表記規則をサポートしています。これには、ナチュラルハーモニクスとアーティフィシャルハーモニクスの両方が含まれます。標準と菱形の2つの符頭で表わされるアーティフィシャルハーモニクスの場合、第2倍音から第6倍音に対して記譜する触れるピッチの菱形の符頭の正しいピッチが自動的に計算されます。これらのピッチは、対応する再生デバイスにハーモニクス専用のサウンドが含まれている場合、それらのサウンドが再生に反映されます。

## 音符をハーモニクスに変換する

既存の音符をアーティフィシャルハーモニクスやナチュラルハーモニクスに変換できます。ハーモニクスは、発音上のピッチ、触れるピッチ、または押さえるピッチを表わすことができます。

### 前提条件

- ハーモニクスに変換する音符を入力しておきます。ただし、入力するピッチは、どのハーモニクスタイプを使用するかによって異なります。
  - ナチュラルハーモニクスの場合は、発音上のピッチを入力することをおすすめします。
  - アーティフィシャルハーモニクスの場合は、押さえるピッチを入力することをおすすめします。
- 下ゾーンを表示しておきます。
- 下ゾーンのツールバーで「プロパティ (Properties)」を選択しておきます。
- 浄書モードの場合は、浄書ツールボックスで「グラフィックの編集 (Graphic Editing)」を選択しておきます。

---

### 手順

1. ハーモニクスに変換する音符を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「ハーモニクス (Harmonics)」グループで、「タイプ (Type)」をオンにします。
3. 以下のいずれかのオプションを選択します。
  - 人工 (Artificial)
  - 自然 (Natural)

---

### 結果

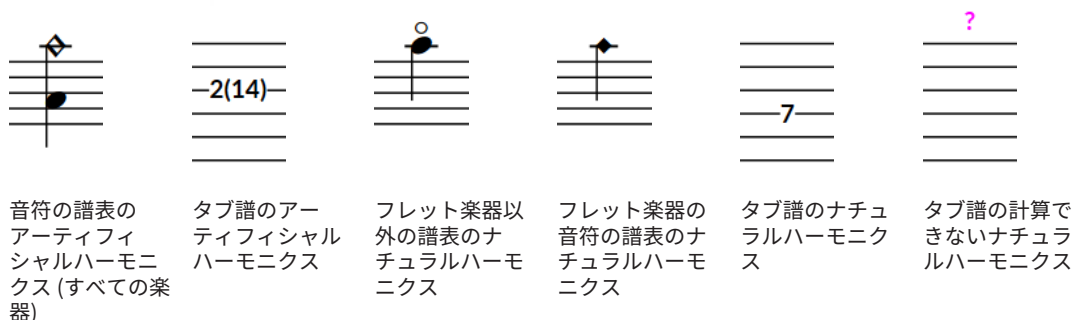
選択した音符が各タイプのハーモニクスに変換されます。対応する再生デバイスにハーモニクス専用のサウンドが含まれている場合、選択した音符は自動的にこれらのサウンドを使用します。それに応じて、演奏時に発音されるアーティフィシャルハーモニクスのピッチも変更されます。

- 初期設定では、アーティフィシャルハーモニクスは第2倍音を表わします。アーティフィシャルハーモニクスは、選択した音符の1オクターブ上に触れるピッチを表わす菱形の符頭を使用して表示されます。タブ譜では、押さえるフレットが左側に表示され、触れるフレットが右側に括弧付きで表示されます。
- 初期設定では、ナチュラルハーモニクスは発音上のピッチを表わします。ナチュラルハーモニクスは、選択した音符の上に丸い記号を使用して表示されます。フレット楽器の音符の譜表では、ナチュラルハーモニクスが黒い菱形符頭として表示されます。タブ譜では、触れるピッチのフレットを計算できるときはそのフレットが表示され、計算できないときはピンクのクエスションマークが表示されます。

---

### 例

以下の例は、さまざまな譜表のナチュラルハーモニクスとアーティフィシャルハーモニクスのデフォルトの外観を示しています。



#### 手順終了後の項目

ハーモニクスの倍音を変更できます。また、ナチュラルハーモニクスの外観とアーティフィシャルハーモニクスのスタイルを変更することもできます。

ハーモニクスを標準の音符に戻す場合は、「**ハーモニクス (Harmonics)**」グループの「**タイプ (Type)**」をオフにします。

#### 関連リンク

[音符の入力 \(248 ページ\)](#)

[浄書ツールボックス \(554 ページ\)](#)

[ハーモニクスの外観/スタイル \(1429 ページ\)](#)

[楽譜領域のカラーを変更する \(58 ページ\)](#)

[弦への音符の割り当て \(1397 ページ\)](#)

[タブ譜 \(1737 ページ\)](#)


## 倍音の変更

初期設定では、ハーモニクスは倍音列内の第2倍音、つまり基音の1オクターブ上の音を表わします。第2倍音よりも上の倍音を使用したい場合などに、ハーモニクスの倍音を個別に変更できます。

#### 補足

Dorico Pro で正しく計算できるのは、第2節から第6節までのアーティフィシャルハーモニクスの倍音のみです。

#### 前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。
- 下ゾーンのツールバーで「**プロパティ (Properties)**」を選択しておきます。
- 浄書モードの場合は、浄書ツールボックスで「**グラフィックの編集 (Graphic Editing)**」を選択しておきます。

#### 手順

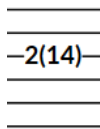
1. 倍音を変更するハーモニクスを選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「**ハーモニクス (Harmonics)**」グループで、「**倍音 (Partial)**」をオンにします。
3. 数値フィールドの値を、希望する倍音を作り出すために触れる弦の節の番号に変更します。

結果

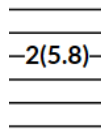
選択したハーモニクスの倍音が変更されます。「標準 (Normal)」タイプを使用しているアーティフィシャルハーモニクスの場合、白い菱形符頭のピッチまたは括弧付きのフレット番号は自動的に更新されます。それに応じて、演奏時に発音されるアーティフィシャルハーモニクスのピッチも変更されます。

例

デフォルトの倍音を使用したアーティフィシャルハーモニクス  
(音符とタブ譜)



第5倍音に変更したアーティフィシャルハーモニクス  
(音符とタブ譜)



## ハーモニクスの臨時記号を表示/非表示にするか括弧を付ける

押さえるピッチの音符の臨時記号の表示/非表示や括弧とは別に、ハーモニクスの臨時記号を個別に表示/非表示にしたり、丸括弧または角括弧付きで表示したりできます。たとえば、臨時記号を丸括弧付きで表示することで、組段やフレーム区切りをまたぐタイのつながりに含まれる音符の親切臨時記号を表示できます。この操作は現在のレイアウトとフレームチェーンのみに対して、もしくはすべてのレイアウトとフレームチェーンに対して行なえます。

前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。
- 下ゾーンのツールバーで「プロパティ (Properties)」 を選択しておきます。
- 浄書モードの場合は、浄書ツールボックスで「グラフィックの編集 (Graphic Editing)」 を選択しておきます。
- ローカルのプロパティ変更に関して、適切なプロパティ範囲を選択しておきます。

手順

1. 臨時記号の表示/非表示を切り替える、または臨時記号に括弧を付けるハーモニクスを選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。

補足

浄書モードでは、タイでつながれた個別の符頭のみを選択できます。

2. プロパティパネルの「ハーモニクス (Harmonics)」グループで、「臨時記号 (Accidental)」をオンにします。
3. メニューから以下のいずれかのオプションを選択します。
  - 非表示 (Hide)

- 表示 (Show)
- 丸括弧 (Round brackets)
- 角括弧 (Square brackets)

#### 結果

選択したハーモニクスの臨時記号が、非表示、表示、丸括弧付きまたは角括弧付きで表示されます。プロパティ範囲を「ローカル (Locally)」に設定している場合、この変更は現在のレイアウトおよびフレームチェーンのみに影響します。

#### 補足

- 臨時記号を非表示にしても再生時のピッチには影響しません。
- 多くの臨時記号の表示/非表示を切り替える場合は、臨時記号の有効範囲ルールの変更を検討することをおすすめします。
- 「環境設定 (Preferences)」の「キーボードショートカット (Key Commands)」ページで、「臨時記号を非表示 (Hide Accidental)」、「臨時記号を表示 (Show Accidental)」、「臨時記号に丸括弧を表示 (Show Accidental in Round Brackets)」、「臨時記号に角括弧を表示 (Show Accidental in Square Brackets)」に対してキーボードショートカットを割り当てることができます。

#### 手順終了後の項目

また、菱形の符頭で表示されるアーティフィシャルハーモニクスの押さえるピッチを表わす標準の符頭の臨時記号を表示/非表示にしたり、臨時記号に括弧を付けたりすることもできます。

#### 関連リンク

[臨時記号を表示/非表示にするか括弧を付ける \(1052 ページ\)](#)

[浄書ツールボックス \(554 ページ\)](#)

[プロパティ範囲の変更 \(828 ページ\)](#)

[プロパティ設定を別のレイアウト/フレームチェーンにコピーする \(825 ページ\)](#)

[臨時記号の有効範囲ルール \(1060 ページ\)](#)

[親切臨時記号を表示/非表示にするか括弧を付ける \(1062 ページ\)](#)

## ハーモニクスの外観/スタイル

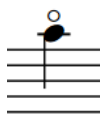
アーティフィシャルハーモニクスとナチュラルハーモニクスはどちらもさまざまな方法で記譜できます。Dorico Pro では、発音上のピッチ、押さえるピッチか触れるピッチのいずれか、あるいは押さえるピッチと触れるピッチの両方を、個々のハーモニクスに対して表示できます。

本書では、アーティフィシャルハーモニクスの「スタイル」、ナチュラルハーモニクスの「外観」という呼び方をします。これは、アーティフィシャルハーモニクスのスタイルがそれぞれ異なる演奏技法の使用を意味するのに対し、ナチュラルハーモニクスの外観は演奏技法とは関係がないためです。

### ナチュラルハーモニクス

#### 上に丸 (Circle above)

音符の符頭側にハーモニクスの丸い記号を表示します。通常は、ハーモニクスの発音上のピッチを表わします。初期設定では、フレット楽器に属さないバイオリンなどの譜表のナチュラルハーモニクスに使用されます。



### 菱形符頭 (Diamond notehead)

音符の符頭を菱形符頭に変更します。4分音符以下の長さの音符の場合は黒い (塗りつぶされた) 菱形符頭が表示され、2分音以上の長さの音符の場合は白い (塗りつぶされていない) 菱形符頭が表示されます。通常は、触れるピッチを表わします。初期設定では、フレット楽器の音符の譜表のナチュラルハーモニクスに使用されます。

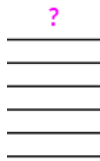


### 菱形符頭 (白) (White diamond notehead)

音符の符頭を菱形符頭に変更します。音符のデュレーションに関係なく、符頭は常に白い菱形で表わされます。通常は、触れるピッチを表わします。



タブ譜では、選択した外観に関係なく、ナチュラルハーモニクスには常に触れるフレットが表示されます。触れるフレットを計算できない場合は、ピンクのクエスチョンマークが表示されます。



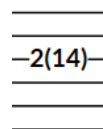
## アーティフィシャルハーモニクス

### 標準 (Normal)

押さえるピッチを表わす符頭と、触れるピッチを表わす符頭の2つの符頭が表示されます。触れるピッチは、倍音に基づいて自動的に計算されます (デフォルトの倍音は第2倍音です)。タブ譜では、押さえるフレットが左側に表示され、触れるフレットが右側に括弧付きで表示されます。これは、すべての譜表のアーティフィシャルハーモニクスのデフォルトの外観です。



音符の譜表の標準アーティフィシャルハーモニクス



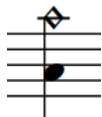
タブ譜の標準アーティフィシャルハーモニクス

### ピンチ (Pinch)

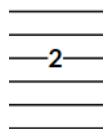
押さえるピッチを表わす符頭と、発音上のピッチを表わす符頭の2つの符頭が表示されます。発音上のピッチは、倍音に基づいて自動的に計算されます (デフォルトの倍音は第2倍音です)。タブ譜では、押さえるフレットだけが表示されます。

## 補足

この記譜方法はフレット楽器を使用する場合にのみ選択します。ピンチは、振動している弦をピックアップの近くの節の位置でつまむ演奏技法で、甲高い音が出ます。



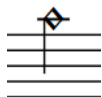
音符の譜表のピンチハーモニクス



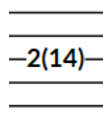
タブ譜のピンチハーモニクス

### 1つの符頭 (演奏上のピッチ) (Single notehead (sounding))

発音上のピッチを表わす1つの符頭が表示されます。タブ譜では、押さえるフレットが左側に表示され、発音上のピッチが右側に括弧付きで表示されます。



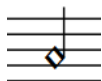
音符の譜表の1つの符頭 (演奏上のピッチ)  
アーティフィシャルハーモニクス



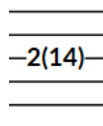
タブ譜の1つの符頭 (音あり) アーティフィ  
シャルハーモニクス

### 1つの符頭 (押さえる位置のピッチ) (Single notehead (stopped))

押さえるピッチを表わす1つの符頭が表示されます。タブ譜では、押さえるフレットが左側に表示され、触れるフレットが右側に括弧付きで表示されます。



音符の譜表の1つの符頭 (押さえる位置のピ  
ッチ) アーティフィシャルハーモニクス



タブ譜の1つの符頭 (押さえる位置のピッチ)  
アーティフィシャルハーモニクス

#### 関連リンク

[「符頭セットを編集 \(Edit Notehead Sets\)」 ダイアログ \(967 ページ\)](#)  
[楽譜領域のカラーを変更する \(58 ページ\)](#)



## ナチュラルハーモニクスの外観を変更する

初期設定では、ナチュラルハーモニクスは、発音上のピッチを示す丸が標準の符頭の上に付いたものとして表示されます。たとえば、触れるピッチを示す白い菱形の符頭として表示するなど、ナチュラルハーモニクスの外観を個別に変更できます。

### 補足

これらの手順は、「**自然 (Natural)**」タイプのハーモニクスにのみ適用されます。

### 前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。
- 下ゾーンのツールバーで「**プロパティ (Properties)**」を選択しておきます。
- 浄書モードの場合は、浄書ツールボックスで「**グラフィックの編集 (Graphic Editing)**」を選択しておきます。

### 手順

1. 外観を変更するナチュラルハーモニクスを選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「**ハーモニクス (Harmonics)**」グループで、「**スタイル (Style)**」をオンにします。
3. メニューから以下のいずれかのオプションを選択します。
  - **上に丸 (Circle above)**
  - **菱形符頭 (Diamond notehead)**
  - **菱形符頭 (白) (White diamond notehead)**

### 結果

選択したナチュラルハーモニクスの外観が変更されます。これには、フレット楽器の音符の譜表に記譜されたナチュラルハーモニクスの外観も含まれます。タブ譜に表示された触れるピッチは、自動的に変更されません。

### 補足

- ナチュラルハーモニクスの外観を変更しても、記譜上のピッチが自動的に変更されることはありません。たとえば、発音上のピッチを「**上に丸 (Circle above)**」で表わすハーモニクスから、触れるピッチを「**菱形符頭 (白) (White diamond notehead)**」で表わすハーモニクスに変更するには、音符のピッチも変更する必要があります。
- Dorico Pro は、「**菱形符頭 (白) (White diamond notehead)**」スタイルのナチュラルハーモニクスを、そのハーモニクスの可能な限り一番下の弦に自動的に割り当てます。必要に応じて別の弦を指定することもできます。
- プロパティパネルの「**ハーモニクス (Harmonics)**」グループで「**位置 (Placement)**」をオンにして任意のオプションを選択すると、ハーモニクスの丸い記号の譜表に対する位置を変更できます。

### 関連リンク

- [音符をハーモニクスに変換する \(1426 ページ\)](#)
- [個々の音符のピッチの変更 \(518 ページ\)](#)
- [弦への音符の割り当て \(1397 ページ\)](#)
- [浄書ツールボックス \(554 ページ\)](#)
- [タブ譜 \(1737 ページ\)](#)



## アーティフィシャルハーモニクスのスタイルの変更

初期設定では、アーティフィシャルハーモニクスは、押さえるピッチを表わす標準の符頭と、触れるピッチを表わす菱形の符頭の2つの符頭で表わされます。たとえば、ピンチハーモニクスであることを示す場合など、アーティフィシャルハーモニクスのスタイルを個別に変更できます。

### 補足

これらの手順は、「人工 (Artificial)」タイプのハーモニクスにのみ適用されます。

---

### 前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。
- 下ゾーンのツールバーで「プロパティ (Properties)」を選択しておきます。
- 浄書モードの場合は、浄書ツールボックスで「グラフィックの編集 (Graphic Editing)」を選択しておきます。

### 手順

1. スタイルを変更するアーティフィシャルハーモニクスを選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「ハーモニクス (Harmonics)」グループで、「スタイル (Style)」をオンにします。
3. メニューから以下のいずれかのオプションを選択します。
  - 標準 (Normal)
  - ピンチ (Pinch)
  - 1つの符頭 (演奏上のピッチ) (Single notehead (sounding))
  - 1つの符頭 (押さえる位置のピッチ) (Single notehead (stopped))

### 結果

選択したアーティフィシャルハーモニクスのスタイルが変更されます。

### 補足

「ピンチ (Pinch)」は、異なる技法を使ってハーモニクスを作り出すことを意味します。

---

# 装飾音

装飾音は、記譜上のピッチに加えて複数の音符を演奏することを示す記号です。これは音楽の装飾に使用されます。たとえばバロック音楽では、トリルやその他の装飾音による装飾が多く施されます。

演奏者がどう音符を演奏するかの特定の記譜方法は時代とともに発展し、さまざまな装飾音パターンを指定するさまざまな装飾記号が生まれています。それでも装飾音においては、演奏者が自身のやり方で音楽を装飾する幾ばくかの自由が与えられています。

Dorico Pro において「装飾音」とは、モルデント、ターン、トリルなどの装飾音記号を指します。



ターン、ショートトリル、延長線付きのトリルを含むフレーズ

## 補足

現在は、トリルのみが再生に反映されます。他の装飾音の再生への反映は将来のバージョンでサポートされる予定です。

## 関連リンク

[装飾音、アルペジオ記号、グリッサンドライン、ジャズアーティキュレーションの入力方法 \(370 ページ\)](#)

[装飾音符 \(1327 ページ\)](#)

[装飾音の位置 \(1436 ページ\)](#)

[トリル \(1438 ページ\)](#)

[再生時のトリル \(1449 ページ\)](#)

## 浄書オプションで装飾音の設定をプロジェクト全体に適用する

「[浄書オプション \(Engraving Options\)](#)」の「[装飾音 \(Ornaments\)](#)」ページで、装飾音とトリルの外観と位置を設定しプロジェクト全体に適用できます。

「[装飾音 \(Ornaments\)](#)」ページのオプションを使用すると、臨時記号、符頭およびトリルの延長線に対するトリルの位置を変更できます。後に続く組段におけるトリルマークのデフォルトの外観や、トリルの音程の外観と再表示の設定を変更したり、装飾音と譜表および符頭との最小距離を設定したりもできます。

多くのオプションに、オプションを楽譜に適用したときにどのように表示されるかを示す図があります。

## 関連リンク

[「浄書オプション \(Engraving Options\)」ダイアログ \(923 ページ\)](#)

## 装飾音の音程の変更



装飾音の音程を記譜上のピッチの上下どちらにでも変更して、装飾音で演奏するピッチを指示できます。装飾音の音程は臨時記号によって表示されます。

装飾音の中には、音程の変化を一定の方向でしか行なえないものがあります。たとえば、ショートトリルでは音程の変化は上方のみ、モルデントでは下方のみとなります。

### 補足

この手順はトリルには適用されません。

### 前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。
- 下ゾーンのツールバーで「プロパティ (Properties)」を選択しておきます。
- 浄書モードの場合は、浄書ツールボックスで「グラフィックの編集 (Graphic Editing)」を選択しておきます。

### 手順

1. 音程を変更する装飾音を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「装飾音 (Ornaments)」グループで、選択した装飾音に応じて以下のプロパティを片方または両方ともオンにします。
  - 上の音程 (Interval above)
  - 下の音程 (Interval below)
3. 数値フィールドの値を任意の音程に変更します。
  - 0 または 4 以上では、臨時記号は表示されません。
  - 1 ではフラットが表示されます。
  - 2 ではナチュラルが表示されます。
  - 3 ではシャープが表示されます。

### 結果

選択した装飾音の音程が変更されます。

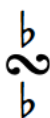
### 補足

- 装飾音のタイプによっては、上下いずれにも臨時記号を表示しないものもあります。
- 装飾音の臨時記号のトリルに対する位置のプロジェクト全体の設定は、「浄書オプション (Engraving Options)」の「装飾音 (Ornaments)」ページで変更できます。

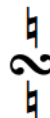
### 例



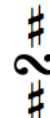
臨時記号なし



上および下のフラット



上および下のナチュラル



上および下のシャープ

関連リンク

[浄書ツールボックス \(554 ページ\)](#)

[トリル音程 \(1441 ページ\)](#)

[ビブラートバーのディップの音程を変更する \(1491 ページ\)](#)

## 装飾音の位置

トリルを含む装飾音は、適用される音符の上に配置されます。複声部においては、符尾が下向きの声部の装飾音は譜表の下にのみ配置されます。

装飾音とトリルは初期設定ではスラーの外側に配置されます。同様に、装飾音はアーティキュレーションより符頭から離れた位置に配置されます。

装飾音の中央は適用される符頭の中央に揃えられます。トリルの整列は異なり、トリル記号の左側が適用される符頭の左端に揃えられます。

Dorico Pro は装飾音をタイプに応じて適切な位置に自動的に配置し、符頭に連結します。

装飾音の位置は記譜モードで移動できます。これらは「**浄書オプション (Engraving Options)**」で設定されたデフォルト位置に配置されます。

装飾音の表示位置は浄書モードで移動できますが、適用されるリズム上の位置がこれによって変更されることはありません。

すべての装飾音とトリルのデフォルト位置に対するプロジェクト全体の設定は、「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**装飾音 (Ornaments)**」ページで変更できます。

関連リンク

[トリル \(1438 ページ\)](#)

[トリル記号の表示/非表示を切り替える \(1438 ページ\)](#)

[音符/アイテムの位置の移動 \(502 ページ\)](#)

[アイテムの表示位置の移動 \(652 ページ\)](#)

## スラーに対する装飾音の位置の変更

装飾音は初期設定ではスラーの外側に配置されます。装飾音のスラーに対する位置は個別に変更できます。この操作は現在のレイアウトとフレームチェーンのみに対して、もしくはすべてのレイアウトとフレームチェーンに対して行なえます。

前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。
- 下ゾーンのツールバーで「**プロパティ (Properties)**」を選択しておきます。
- 浄書ツールボックスで「**グラフィックの編集 (Graphic Editing)**」を選択しておきます。
- ローカルのプロパティ変更に関して、適切なプロパティ範囲を選択しておきます。

---

手順

1. 浄書モードで、スラーに対する位置を変更する装飾音を選択します。
2. プロパティパネルの選択した装飾音に対応するグループで、「**スラーとの相対位置 (Slur-relative position)**」をオンにします。
  - **装飾音 (Ornaments)**
  - **トリル (Trills)**
3. 以下のいずれかのオプションを選択します。
  - **内側 (Inside)**

- 外側 (Outside)
- 

#### 結果

選択した装飾音がスラーの内側または外側に配置されます。プロパティ範囲を「ローカル (Locally)」に設定している場合、この変更は現在のレイアウトおよびフレームチェーンのみに影響します。

## トリルの開始位置の変更

それぞれのトリルの開始位置を符頭もしくは臨時記号に揃えるのかを、プロジェクト全体の設定とは別に設定できます。この操作は現在のレイアウトとフレームチェーンのみに対して、もしくはすべてのレイアウトとフレームチェーンに対して行なえます。

#### 前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。
  - 下ゾーンのツールバーで「プロパティ (Properties)」を選択しておきます。
  - 浄書モードの場合は、浄書ツールボックスで「グラフィックの編集 (Graphic Editing)」を選択しておきます。
  - ローカルのプロパティ変更に関して、適切なプロパティ範囲を選択しておきます。
- 

#### 手順

1. 開始位置を変更するトリルを選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
  2. プロパティパネルの「トリル (Trills)」グループで、「開始位置 (Start position)」をオンにします。
  3. 以下のいずれかのオプションを選択します。
    - 符頭 (Notehead)
    - 臨時記号 (Accidental)
- 

#### 結果

選択したトリルの開始位置が変更されます。プロパティ範囲を「ローカル (Locally)」に設定している場合、この変更は現在のレイアウトおよびフレームチェーンのみに影響します。

#### ヒント

すべてのトリルの開始位置に対するプロジェクト全体の設定は、「浄書オプション (Engraving Options)」の「装飾音 (Ornaments)」のページで変更できます。

---

#### 関連リンク

[浄書ツールボックス \(554 ページ\)](#)

[プロパティ範囲の変更 \(828 ページ\)](#)

[プロパティ設定を別のレイアウト/フレームチェーンにコピーする \(825 ページ\)](#)

[トリルの延長線の表示/非表示を切り替える \(1440 ページ\)](#)

# トリル

トリルは2音を交互に素早く、トレモロのように演奏するもので、バロック、古典派、およびロマン派の音楽において一般的な装飾音です。トリル記号は通常単音に追加され、記譜上の音符とその半ステップまたは1ステップ上の音を演奏することを示し、トリルのデュレーションを示す延長線を表示できます。



延長線付きトリルが複数含まれるフレーズ

その装飾音としての伝統により、演奏者の多くはトリルにトレモロとは異なる解釈を行いません。プレーヤーによってはトリルの記譜上のピッチをより強調してトリル先のピッチは強調しない一方、トレモロは両方の音を均等に演奏します。

最も一般的なトリルは長2度または短2度上の音符ですが、他のトリルの音程も指定できます。

Dorico Pro では、音符の譜表でトリルの音程の自由な指定と外観の変更を行なえ、再生時には演奏に反映されます。

タブ譜では、トリル先のピッチが常に括弧付きのフレット番号として表示されます。



音符の譜表とタブ譜のトリル

関連リンク

[装飾音、アルペジオ記号、グリッサンドライン、ジャズアーティキュレーションの入力方法 \(370 ページ\)](#)

[トリル音程 \(1441 ページ\)](#)

[トリルの開始位置の変更 \(1437 ページ\)](#)

[再生時のトリル \(1449 ページ\)](#)

[タブ譜 \(1737 ページ\)](#)



[「MIDI インポートオプション \(MIDI Import Options\)」ダイアログ \(95 ページ\)](#)

## トリル記号の表示/非表示を切り替える

個々のトリルの開始位置のトリル記号は、表示/非表示を切り替えられます。これにより、このトリルが伸ばされるすべての組段におけるトリル記号の表示/非表示が切り替わります。

前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。

- 下ゾーンのツールバーで「プロパティ (Properties)」を選択しておきます。
- 浄書モードの場合は、浄書ツールボックスで「グラフィックの編集 (Graphic Editing)」を選択しておきます。

---

#### 手順

1. トリル記号を表示/非表示にするトリルを選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「トリル (Trills)」グループで、「トリルマークを表示 (Show trill mark)」をオンにします。
3. 対応するチェックボックスをオン/オフにします。

---

#### 結果

チェックボックスがオンになっているときはトリル記号が表示され、オフになっているときは非表示になります。

プロパティをオフにすると、トリル記号の表示はプロジェクト全体の設定に従います。

#### 関連リンク

- [トリルの音程の外観 \(1446 ページ\)](#)
- [トリルの音程の臨時記号の表示/非表示を切り替える \(1442 ページ\)](#)
- [トリルの延長線で速さの変更指示の表示/非表示を切り替える \(1440 ページ\)](#)
- [トリルの延長線の表示/非表示を切り替える \(1440 ページ\)](#)
- [浄書ツールボックス \(554 ページ\)](#)

## トリルの速さの変更

延長線の波線の高さと波数を変更することにより、トリルに異なる速さを指示できます。これは1つのトリルの途中でも指示できます。

#### 前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。
- 下ゾーンのツールバーで「プロパティ (Properties)」を選択しておきます。
- 浄書モードの場合は、浄書ツールボックスで「グラフィックの編集 (Graphic Editing)」を選択しておきます。

---

#### 手順

1. 速度を変更するトリルを選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「トリル (Trills)」グループで、以下のプロパティを片方または両方ともオンにします。
  - **開始スピード (Start speed)**
  - **終了スピード (End speed)**
3. 各プロパティのメニューから以下のいずれかのオプションを選択します。
  - **遅く (Slow)**
  - **標準 (Normal)**
  - **速く (Fast)**

## 結果

選択したトリルの速さを変更されます。これは延長線の波線の波数と再生速度の両方に影響します。

「開始スピード (Start speed)」だけがオンになっている場合、トリルの延長線全体の速度が変更されます。「終了スピード (End speed)」だけがオンになっている場合、トリルの延長線の後半部分の速度が変更されます。

## 例



開始では遅く終了では速いトリルの延長線



始めから終わりまで通常でトリル

## 手順終了後の項目

トリルの再生速度を個別にカスタマイズできます。

## 関連リンク

[トリルの再生速度の変更 \(1451 ページ\)](#)

[浄書ツールボックス \(554 ページ\)](#)

## トリルの延長線で速さの変更指示の表示/非表示を切り替える

個々のトリルの延長線について、速さの変更指示の表示/非表示を切り替えられます。これによりたとえば、再生時の速さの変化は再現しつつ、延長線の波線の幅は一定で表示できます。

## 前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。
- 下ゾーンのツールバーで「プロパティ (Properties)」を選択しておきます。
- 浄書モードの場合は、浄書ツールボックスで「グラフィックの編集 (Graphic Editing)」を選択しておきます。

## 手順

1. 速さの変更指示を表示/非表示にするトリルを選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「トリル (Trills)」グループで、「速度の描画を抑制 (Suppress drawing speed changes)」をオンまたはオフにします。


## 結果

プロパティをオンにすると速さの変更指示が非表示になり、オフにすると表示されます。


## トリルの延長線の表示/非表示を切り替える

個々のトリルの延長線を表示/非表示にできます。この操作は現在のレイアウトとフレームチェーンのみに対して、もしくはすべてのレイアウトとフレームチェーンに対して行なえます。

## 前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。
- 下ゾーンのツールバーで「プロパティ (Properties)」を選択しておきます。



- 浄書モードの場合は、浄書ツールボックスで「グラフィックの編集 (Graphic Editing)」を選択しておきます。
- ローカルのプロパティ変更に関して、適切なプロパティ範囲を選択しておきます。

#### 手順

1. 延長線を表示/非表示にするトリルを選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「トリル (Trills)」グループで、「トリル線を表示 (Has trill line)」をオンまたはオフにします。
3. 対応するチェックボックスをオン/オフにします。

#### 結果

チェックボックスがオンになっているときはトリルの延長線が表示され、オフになっているときは非表示になります。プロパティ範囲を「ローカル (Locally)」に設定している場合、この変更は現在のレイアウトおよびフレームチェーンのみに影響します。

プロパティをオフにすると、トリルの表示はプロジェクト全体の設定に従います。

#### ヒント

すべてのトリルの延長線の表示/非表示に関するプロジェクト全体の設定は、「浄書オプション (Engraving Options)」の「装飾音 (Ornaments)」ページで変更できます。

また、タイのつながりの中の最後の符頭に対するトリルの延長線の終了位置も変更できます。

#### 関連リンク

[トリルの開始位置の変更 \(1437 ページ\)](#)

[トリルの速さの変更 \(1439 ページ\)](#)

[トリルの再生速度の変更 \(1451 ページ\)](#)

[「浄書オプション \(Engraving Options\)」ダイアログ \(923 ページ\)](#)

[浄書ツールボックス \(554 ページ\)](#)

[プロパティ範囲の変更 \(828 ページ\)](#)

[プロパティ設定を別のレイアウト/フレームチェーンにコピーする \(825 ページ\)](#)

## トリル音程

トリルの音程は、演奏者にどの音符を演奏するか伝えるとともに、Dorico Pro が再生時に使用するピッチにも影響を与えます。たとえば、E の音符にシャープの臨時記号付きのトリルが付く場合、演奏者は E と F ではなく E と F# を使用してトリルを演奏します。



これらのトリルに付く異なる臨時記号は、トリル先の音符の変更を示します。

トリル入力時に音程を指定しない場合、Dorico Pro はトリルが属する声部の一番上の音符、現在の調号、および小節内で前出の臨時記号に基づき、適切な音程を算出します。たとえば、C メジャーにおける E<sub>4</sub> にトリルを入力すると、トリル先は半ステップ/短 2 度の音程による F<sub>4</sub> となります。小節内で前出の F にシャープの臨時記号が付いている場合、E<sub>4</sub> と F#<sub>4</sub> による 1 ステップ/長 2 度のトリル音程になります。

オープンキー/無調の調号においては、Dorico Pro は初期設定では 1 ステップ/長 2 度のトリル音程を演奏します。

ポップオーバーで入力するときにトリルの音程を指定できます。これは同じトリルに含まれる異なる符頭にも指定でき、個々のトリルの音程は入力後にも変更できます。12-EDO では、トリルの音程はメジャーやマイナーなど性質に基づいても記述できます。

トリルの音程にトリルの音程の指示が必要ない場合、トリルの音程はガイドで表示されます。ただし、初期設定ではトリルの音程のガイドは非表示になっています。

## トリルと臨時記号

必要に応じて、Dorico Pro はトリルの音程を明確に示すために臨時記号を表示します。また Dorico Pro は、トリルと同じ小節にあるトリル以降の音符が、トリルの上の音符と音名が同じで臨時記号が異なる場合、自動的にその音符に臨時記号を表示します。

初期設定では、調号の変化記号により上の音符が影響されていない限りは、トリル記号そのものが音程を表わします。小節内で前出の臨時記号により上の音符が影響を受けている場合、トリルは常に音程を表示します。調号の変化記号により変化しているピッチをトリルが変更した場合、後続する同じ音程の音符には自動的に適切な臨時記号が付けられます。現在および次の小節で必要となる親切臨時記号も自動的に表示されます。

## 微分音トリルの音程

24-EDO など、12-EDO 以外の調性システムを使用している場合、譜表上の位置のステップ数で表示される音程の度数としてトリルの音程を指定する必要があります。また、記譜されたピッチからのオクターブの分割の合計数も指定する必要があります。なぜなら、このような場合では、音程の性質のみによる指定では不十分であるためです。

関連リンク

[装飾音、アルペジオ記号、グリッサンドライン、ジャズアーティキュレーションの入力方法 \(370 ページ\)](#)

[トリルの音程の外観 \(1446 ページ\)](#)

[ポップオーバーを使った装飾音/トリルの入力 \(376 ページ\)](#)

[装飾音のポップオーバー \(371 ページ\)](#)

[ガイド \(490 ページ\)](#)

[装飾音の音程の変更 \(1435 ページ\)](#)

[ビブラートのディップの音程を変更する \(1491 ページ\)](#)


## トリルの音程の臨時記号の表示/非表示を切り替える


たとえば、トリルの最初の音符には臨時記号を表示して後続の音符の臨時記号は非表示にしたい場合など、トリルの音程の臨時記号を個々に表示/非表示にできます。この操作は現在のレイアウトとフレームチェーンのみに対して、もしくはすべてのレイアウトとフレームチェーンに対して行なえます。

### 補足

- トリルの音程の臨時記号を表示するには、トリルに臨時記号を必要とする音程がある必要があります。
- この手順で非表示になるのは、トリルの音程に表示される臨時記号のみで、補助音符やハリウッドスタイルのマークは非表示になりません。

前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。
- 下ゾーンのツールバーで「プロパティ (Properties)」 を選択しておきます。

- 浄書モードの場合は、浄書ツールボックスで「**グラフィックの編集 (Graphic Editing)**」を選択しておきます。
- ローカルのプロパティ変更に関して、適切なプロパティ範囲を選択しておきます。

#### 手順

1. 臨時記号の表示/非表示を切り替えるトリルの音程、またはトリルの音程のガイドを選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。

#### 補足

複数の音符にまたがっており、トリルの音程の臨時記号が複数あるトリルでは、それぞれの臨時記号またはガイドを個別に選択する必要があります。トリル全体を選択した場合は、最初のトリルの音程の臨時記号だけが変更されます。

2. プロパティパネルの「**トリル (Trills)**」グループで、「**臨時記号 (Accidental)**」をオンにします。
3. 以下のいずれかのオプションを選択します。
  - **非表示 (Hide)**
  - **表示 (Show)**

#### 結果

「**非表示 (Hide)**」を選択すると、選択したトリルの音程の臨時記号が非表示になり、「**表示 (Show)**」を選択すると表示されます。プロパティ範囲を「**ローカル (Locally)**」に設定している場合、この変更は現在のレイアウトおよびフレームチェーンのみに影響します。

非表示にしたトリルの音程の臨時記号のそれぞれの位置にはガイドが表示されます。ただし、初期設定ではトリルの音程のガイドは非表示になっています。

#### ヒント

「**浄書オプション (Engraving Options)**」 > 「**装飾音 (Ornaments)**」 > 「**トリルの音程 (Trill Intervals)**」では、後続の音符にハリウッドスタイルのトリルの音程を再表示するか非表示にするか選択できます。


#### 関連リンク

- [トリルの音程の外観を変更する \(1447 ページ\)](#)
- [浄書ツールボックス \(554 ページ\)](#)
- [プロパティ範囲の変更 \(828 ページ\)](#)
- [プロパティ設定を別のレイアウト/フレームチェーンにコピーする \(825 ページ\)](#)
- [注釈 \(740 ページ\)](#)
- [ガイドの表示/非表示の切り替え \(491 ページ\)](#)
- [「浄書オプション \(Engraving Options\)」ダイアログ \(923 ページ\)](#)

## トリルの音程の変更

初期設定ではトリルの音程は2度で、状況に応じて長2度か短2度のいずれかになります。装飾音のポップオーバーでトリルを入力する際に音程を指定できるほか、入力後にトリルの音程およびそのデュレーション内に既に存在するトリルの音程の変更を個別に変更することもできます。

#### 前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。
- 下ゾーンのツールバーで「**プロパティ (Properties)**」を選択しておきます。

- 浄書モードの場合は、浄書ツールボックスで「**グラフィックの編集 (Graphic Editing)**」を選択しておきます。

#### 手順

1. 音程を変更するトリル、トリルの音程、またはトリルの音程のガイドを選択します。これは記譜モードおよび浄書モードで実行できますが、浄書モードではトリルの音程かトリルの音程のガイドを選択する必要があります。

#### 補足

複数の音符にまたがっており、音程の変更が複数あるトリルでは、変更するトリルの音程を個別に選択する必要があります。トリルの記号または延長線を選択した場合は、最初のトリルの音程だけが変更されます。

2. プロパティパネルの「**トリル (Trills)**」グループで、「**音程 (Interval)**」をオンにします。
3. 数値フィールドの数値を変更して、譜表上の位置のステップ数で表示される音程を変更します。
4. 以下のいずれかの操作を行なって、音程の性質またはトリルされる音符からのオクターブの分割の総数を変更します。
  - 12-EDO のトリルに対しては、メニューから音程の性質を選択します。
  - その他の調性システムのトリルに対しては、メニューからオクターブの分割の総数を選択します。

どちらも、音程の度数と音程の性質またはオクターブの分割の総数によって、トリルされる音符の名前およびトリル先の音符の臨時記号が決まります。

#### 結果

選択したトリルの音程が変更されます。これは、選択したトリルの音程からそのトリル内の次の音程の変更またはトリルの終わりのどちらか早い方まで適用されます。たとえば、そのデュレーション内に音程の変更がないトリルを選択した場合は、トリル全体の音程が変更されます。

初期設定では、音程が2度のときはトリルの音程は臨時記号として表示され、音程がそれ以外のときは補助音符として表示されます。臨時記号や補助音符が必要ないトリルの音程の位置にはガイドが表示されます。ただし、初期設定ではトリルの音程のガイドは非表示になっています。

#### 関連リンク


[トリルの音程のリセット \(1446 ページ\)](#)

[装飾音のポップオーバー \(371 ページ\)](#)

## トリルの途中でトリルの音程を変更する

既存のトリルの音程は、そのデュレーション中に任意の符頭の位置で変更できます。これによりたとえば、ある小節で音程が短2度のトリルを開始して、隙間なく続けながら次の小節では長2度に変更することなどができます。




#### 手順

1. 記譜モードで、以下のいずれかを選択します。
  - トリルの音程を変更する音符。
  - 譜表上のトリルの音程を指定する位置にあるアイテムまたは休符。
2. 以下のいずれかの操作を行なって、音符の入力を開始します。
  - **[Shift]+[N]** を押します。
  - 音符ツールボックスで、「**音符入力を開始 (Start Note Input)**」をクリックします。

- 譜表をダブルクリックします。
3. **[→]**/**[←]** を押してキャレットを現在のリズムグリッドの間隔に従って動かし、トリルの音程を変更する位置の符頭まで移動します。

#### 補足

トリルの音程は符頭の位置でのみ変更できます。

4. 以下のいずれかの操作を行なって装飾音のポップオーバーを開きます。
  - **[Shift]+[O]** を押します。
  - 記譜ツールボックスで「ポップオーバー (Popovers)」 をクリックし、「装飾音 (Ornaments)」 をクリックします。
5. ポップオーバーにトリルの音程を入力します。たとえば、短3度の場合は「m3」と入力します。
6. **[Return]** を押してポップオーバーを閉じます。
7. 必要に応じて、トリルの他の符頭についても、手順3から6を繰り返してトリルの音程を変更します。
8. 以下のいずれかの操作を行なって、音符の入力を停止します。
  - **[Esc]** または **[Return]** を押します。
  - 音符ツールボックスで、「音符入力を開始 (Start Note Input)」 をクリックします。

#### 結果

該当する符頭の位置でトリルの音程が変更されます。初期設定では、音程がすべて2度である場合はトリル内のすべてのトリルの音程は臨時記号として表示され、異なるトリルの音程が1つ以上ある場合は補助音符として表示されます。

臨時記号や補助音符が必要ないトリルの音程の位置にはガイドが表示されます。ただし、初期設定ではトリルの音程のガイドは非表示になっています。

#### 例



臨時記号として表示された音程変更のあるトリル



補助音符として表示された音程変更のあるトリル

#### 関連リンク

[トリルの音程の外観を変更する \(1447 ページ\)](#)

[装飾音のポップオーバー \(371 ページ\)](#)

[ガイド \(490 ページ\)](#)

[ガイドの表示/非表示の切り替え \(491 ページ\)](#)

[音符ツールボックス \(219 ページ\)](#)

[リズムグリッド \(241 ページ\)](#)

## トリルの音程のリセット

トリルの音程を、初期設定である2度(状況に応じて長2度か短2度のいずれか)にリセットできます。単一のトリル内に含まれる個々のトリルの音程を個別にリセットすることもできます。

### 前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。
- 下ゾーンのツールバーで「プロパティ (Properties)」を選択しておきます。
- 浄書モードの場合は、浄書ツールボックスで「グラフィックの編集 (Graphic Editing)」を選択しておきます。

### 手順

1. 音程をリセットするトリル、トリルの音程、またはトリルの音程のガイドを選択します。これは記譜モードおよび浄書モードで実行できますが、浄書モードではトリルの音程かトリルの音程のガイドを選択する必要があります。

### 補足

複数の音符にまたがっており、音程の変更が複数あるトリルでは、リセットするトリルの音程を個別に選択する必要があります。トリルの記号または延長線を選択した場合は、最初のトリルの音程の変更だけがリセットされます。

2. プロパティパネルの「トリル (Trills)」グループで、「音程 (Interval)」をオフにします。

### 結果

選択したトリルの音程がリセットされます。これは、選択したトリルの音程からそのトリル内の次の音程の変更またはトリルの終わりのどちらか早い方まで適用されます。たとえば、そのデュレーション内に音程の変更がないトリルを選択した場合は、トリル全体の音程がリセットされます。

初期設定では、音程が2度のときはトリルの音程は臨時記号として表示され、音程がそれ以外のときは補助音符として表示されます。臨時記号や補助音符が必要ないトリルの音程の位置にはガイドが表示されます。ただし、初期設定ではトリルの音程のガイドは非表示になっています。

### 関連リンク

[プロパティパネル \(826 ページ\)](#)

[ガイド \(490 ページ\)](#)

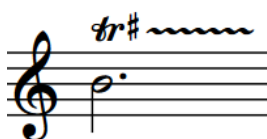
## トリルの音程の外観

音符の譜表でトリルの音程を表示するにはいくつかの異なる方法が使用できます。たとえば臨時記号による表示や、半ステップ(半音)を H.T.、1 ステップ(全音)を W.T. と表示するハリウッドスタイルなどがあります。

Dorico Pro では、音符の譜表のトリルの音程は以下の方法で表示できます。

### 臨時記号 (Accidental)

「tr」記号の上、下、または横に臨時記号を表示してトリルの音程を指示します。これは Dorico Pro における長2度または短2度のトリルの音程の外観の初期設定です。



### ハリウッドスタイル (Hollywood-style)

テキストを使用してトリルの音程を指示します。

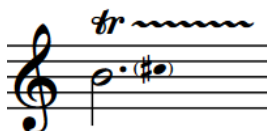
- H.T.: 半ステップ/短2度のトリル
- W.T.: 1ステップ/長2度のトリル



### 補助音符 (Auxiliary note)

括弧つきで符尾なしの小さな符頭を使用してトリルの音程を指示します。これは譜表上で、トリルが適用される1音めの音符のすぐ右側、トリル先のピッチを正しく示す譜表上の位置に表示されます。

補助音符は、長2度または短2度でないすべてのトリルの音程に使用されますが、補助音符の符頭のデザインを上書きしない限り、ユニゾンのトリルについては自動的に非表示になります。



#### 補足

- タブ譜では、トリル先のピッチが常に括弧付きのフレット番号として表示されます。
- 「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**装飾音 (Ornaments)**」ページでは、トリルの音程の外観、位置および再表示に関するデフォルトを設定できます。

#### 関連リンク

[「浄書オプション \(Engraving Options\)」ダイアログ \(923 ページ\)](#)

[装飾音、アルペジオ記号、グリッサンドライン、ジャズアーティキュレーションの入力方法 \(370 ページ\)](#)

## トリルの音程の外観を変更する

音符の譜表のトリルの2度の音程の外観は、プロジェクト全体の設定より優先される形で個別に変更できます。たとえば、一部のトリルに補助音符を表示して、トリル先のピッチに変更があることを分かりやすくすることなどができます。

#### 補足

トリルの音程の外観を変更できるのは、長2度または短2度の音程のトリルだけです。

#### 前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。
- 下ゾーンのツールバーで「**プロパティ (Properties)**」を選択しておきます。
- 浄書モードの場合は、浄書ツールボックスで「**グラフィックの編集 (Graphic Editing)**」を選択しておきます。

#### 手順

1. トリルの音程の外観を変更するトリルを選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「トリル (Trills)」グループで、「外観 (Appearance)」をオンにします。
3. メニューから以下のいずれかのオプションを選択します。
  - 臨時記号 (Accidental)
  - ハリウッドスタイル (Hollywood style)
  - 補助音符 (Auxiliary note)

#### 結果

音符の譜表で選択したトリルの音程の外観が変更されます。これは、タブ譜のトリルの外観には影響しません。

#### ヒント

すべてのトリルの2度の音程のデフォルトの外観をプロジェクト全体で変更するには、「浄書オプション (Engraving Options)」>「装飾音 (Ornaments)」>「トリルの音程 (Trill Intervals)」で設定を行ないます。

#### 手順終了後の項目

補助音符の符頭のデザインを個別に変更できます。たとえば、トリル先の音符がハーモニクスであることを表示できます。

#### 関連リンク

[浄書ツールボックス \(554 ページ\)](#)

[「浄書オプション \(Engraving Options\)」ダイアログ \(923 ページ\)](#)

[浄書オプションで装飾音の設定をプロジェクト全体に適用する \(1434 ページ\)](#)

[個々の符頭のデザインの変更 \(1394 ページ\)](#)

## トリルの音程の指示の位置を変更する

臨時記号や W.T. マークのようなトリルの音程の指示の個々のトリル記号に対する位置を、プロジェクト全体の設定より優先される形に変更できます。この操作は現在のレイアウトとフレームチェーンのみに対して、もしくはすべてのレイアウトとフレームチェーンに対して行なえます。

#### 補足

これは、延びたトリルの下にある後続の音符に付いたトリルの音程の臨時記号の位置には影響しません。

#### 前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。
- 下ゾーンのツールバーで「プロパティ (Properties)」を選択しておきます。
- 浄書モードの場合は、浄書ツールボックスで「グラフィックの編集 (Graphic Editing)」を選択しておきます。
- ローカルのプロパティ変更に関して、適切なプロパティ範囲を選択しておきます。



#### 手順

1. 音程の表示の位置を変更するトリルを選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
  2. プロパティパネルの「トリル (Trills)」グループで、「音程の位置 (Interval position)」をオンにします。
  3. メニューから以下のいずれかのオプションを選択します。
    - 上 (Above)
    - 下 (Below)
    - 右側 (On the right)
    - 上付き (Superscript)
- 

#### 結果

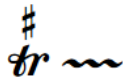
選択したトリル記号に対する音程の指示の位置が変更されます。プロパティ範囲を「ローカル (Locally)」に設定している場合、この変更は現在のレイアウトおよびフレームチェーンのみに影響します。

#### ヒント

音程の指示のトリル記号に対するデフォルトの位置をプロジェクト全体で変更するには、「浄書オプション (Engraving Options)」 > 「装飾音 (Ornaments)」 > 「トリルの音程 (Trill Intervals)」で設定を行ないます。

---

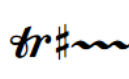
#### 例



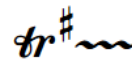
上 (Above)



下 (Below)



右側 (On the right)



上付き (Superscript)

---

#### 関連リンク

[プロパティ範囲の変更 \(828 ページ\)](#)

[プロパティ設定を別のレイアウト/フレームチェーンにコピーする \(825 ページ\)](#)

## 再生時のトリル

Dorico Pro はトリルを再生する際、用意されている場合はサンプリングされたトリルと、複数の音符の発音とを組み合わせ使用します。

- トリルの再生に関する設定は、「再生オプション (Playback Options)」の「トリル (Trills)」ページにあります。

演奏技法が VST エクスプレッションマップに定義されている場合、Dorico Pro は自動的にサンプリングされた半ステップ (半音) および 1 ステップ (全音) のトリルを再生します。これは HALion Symphonic Orchestra のインストゥルメントの多数に該当します。サウンドライブラリーにサンプリングしたトリルが提供されていない場合、またはトリルの音程が 1 ステップより大きい場合、Dorico Pro はトリルを生成します。プロジェクトの一部に生成できしか再現できないトリルの音程が含まれる場合、サンプリングされたトリルを無効化して生成されたトリルを全体に使用することで、再生結果に統一感を出すこともできます。

生成されたトリルを演奏するとき、Dorico Pro はトリルの直前および直後にある装飾音符を組み込んで再生します。トリルの開始音にスラッシュなしの装飾音符 1 つが付くとアポジャトゥーラの効果となる一方、複数の装飾音符が付くとトリルのパターンに一体化されます。トリルの直後の音符に付く装飾音符もまたトリルのパターンに一体化されます。



開始位置と終了位置の両方に装飾音符が付いたトリル

トリル中の速さの変更は再生に反映されます。遅い、通常、および速いトリルのデフォルトの再生速度は、「再生オプション (Playback Options)」の「トリル (Trills)」ページで指定できるとともに、個々のトリルについても再生速度を変更できます。さらに、トリルの延長線における速さの変化指示を非表示にしつつ、再生における速さの変化は保持できます。

現代の演奏上の習慣では、トリルの演奏は通常記譜された音符から始まりますが、バロックと古典派時代の歴史的な演奏上の習慣では、トリルの演奏は通常上 (トリル先) の音符から演奏を開始します。トリルの開始音は個別に変更できるとともに、デフォルトの設定も変更できます。

もう 1 つ、特にロマン派のピアノ音楽において一般的な演奏上の習慣としては、すべてのトリルをアッチェレランド、つまりゆっくり始まってトリル中に徐々に速くしていくことが挙げられます。この設定は、「再生オプション (Playback Options)」の「トリル (Trills)」ページで選択できます。これは速さの変更が指示されていないすべてのトリルに適用されます。

関連リンク

[「再生オプション \(Playback Options\)」ダイアログ \(925 ページ\)](#)

[トリルの速さの変更 \(1439 ページ\)](#)

[トリルの延長線で速さの変更指示の表示/非表示を切り替える \(1440 ページ\)](#)

[トリルの開始音の変更 \(1452 ページ\)](#)

[再生効果 \(1046 ページ\)](#)

[装飾音、アルペジオ記号、グリッサンドライン、ジャズアーティキュレーションの入力方法 \(370 ページ\)](#)

## サンプリングされたトリルと生成されたトリル

サンプリングされたトリルは録音されループ化されたサンプルであり、一方で生成されたトリルは音符を 1 つずつ再生して作成されています。

サンプリングされたトリルは固定的なサウンドを使用するため、トリルの速さの変化や、トリルのパターンに装飾音符や終止音を組み込むなど、トリルの演奏を何らかの形で変化させるパラメーターは通常利用できません。これに対し、生成されたトリルは柔軟性に優れますが、自然でリアルなサウンドにおいてはおよびません。

プロジェクトの一部に生成でしか再現できないトリルの音程が含まれる場合、サンプリングされたトリルを無効化して生成されたトリルを全体に使用することで、再生結果に統一感を出すこともできます。

## 再生時のサンプリングされたトリル使用の有効化/無効化

プロジェクトにおけるサンプリングされたトリルの使用の有効/無効を切り替えられます。これは、プロジェクトの一部に生成でしか再現できないトリルの音程が含まれるため、全体に生成されたトリルのみ使用することが望ましい場合や、トリルの直前/直後の装飾音符をトリルに組み込む必要がある場合などに有効です。

#### 補足

再生に NotePerformer を使用する場合、NotePerformer がリアルなトリルの演奏を再現するために必要な正しいノート情報とコントローラー情報を Dorico Pro が送信できるように、サンプリングされたトリルは無効化することをおすすめします。

---

#### 手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[P]** を押して「再生オプション (Playback Options)」を開きます。
  2. カテゴリーリストの「トリル (Trills)」をクリックします。
  3. 「トリルの再生方法 (Playback approach for trills)」で、以下のいずれかのオプションを選択します。
    - 生成されたトリルのみ (Generated trills only)
    - 可能な場合はサンプルを使用 (Use samples if possible)
  4. 「適用 (Apply)」をクリックしてから「閉じる (Close)」をクリックします。
- 



#### 結果

「可能な場合はサンプルを使用 (Use samples if possible)」を選択するとサンプリングされたトリルが有効化され、「生成されたトリルのみ (Generated trills only)」を選択すると無効化されます。

## トリルの再生速度の変更

トリルの速さを変更すると、トリルの延長線の波線の密度と再生速度の両方が変化しますが、これに加えて、個々のトリルに対し速さの段階ごとの実際の再生速度を変更できます。これによりたとえば、特定のトリルの速い部分をデフォルト設定よりも速く演奏させられます。

#### 前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。
  - 下ゾーンのツールバーで「プロパティ (Properties)」 を選択しておきます。
  - 浄書モードの場合は、浄書ツールボックスで「グラフィックの編集 (Graphic Editing)」 を選択しておきます。
- 

#### 手順

1. 再生速度を変更するトリルを選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
  2. プロパティパネルで、以下のいずれかのうち、選択したトリルに適切なプロパティをオンにします。
    - 遅いトリルスピード (Slow trill speed)
    - 通常トリルスピード (Normal trill speed)
    - 速いトリルスピード (Fast trill speed)
  3. 数値フィールドの値を変更します。
- 

#### 結果

選択したトリルの再生速度が変化します。数値フィールドの数値は、1秒あたりに発音される音符の数に対応します。

#### ヒント

速さの各段階のデフォルトの再生速度は、「再生オプション (Playback Options)」の「トリル (Trills)」ページで変更できます。

生成したトリルの速度をテンポ変更に従わせるか、一定に保つかを変更することもできます。

---

#### 関連リンク

[トリルの速さの変更 \(1439 ページ\)](#)

[トリルの延長線で速さの変更指示の表示/非表示を切り替える \(1440 ページ\)](#)

[浄書ツールボックス \(554 ページ\)](#)

[「再生オプション \(Playback Options\)」 ダイアログ \(925 ページ\)](#)

## トリルの開始音の変更

Dorico Pro の初期設定では、トリルは下の音符から開始します。通常これは記譜されている音符です。しかし、バロックと古典派の音楽における一般的な習慣においては、トリルは上の音符から開始します。トリルの開始音は個別に変更できます。

#### 前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。
- 下ゾーンのツールバーで「プロパティ (Properties)」 を選択しておきます。
- 浄書モードの場合は、浄書ツールボックスで「グラフィックの編集 (Graphic Editing)」 を選択しておきます。

#### 手順

1. 開始音を変更するトリルを選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
  2. プロパティパネルの「トリル (Trills)」グループで、「上の音符から開始 (Start on upper note)」をオンにします。
  3. 対応するチェックボックスをオン/オフにします。
- 

#### 結果

チェックボックスをオンにすると選択したトリルの開始音が上の音符になり、オフにすると下の音符になります。

プロパティをオフにすると、トリルは開始音についてプロジェクト全体の設定に従います。

#### ヒント

すべてのトリルのデフォルトの開始音に対するプロジェクト全体の設定は、「再生オプション (Playback Options)」の「トリル (Trills)」ページで変更できます。

---

# アルペジオ記号

アルペジオ記号とは、和音をアルペジオまたは分散、つまり和音を構成する音符を1つ1つ非常に素早く演奏することを示す垂直の線です。アルペジオ記号は、通常、垂直の波線で表示されます。



アルペジオの演奏は以下のいずれかの方向で行なわれます。

- 上向き: 和音の最低音から開始。
- 下向き: 和音の最高音から開始。

和音をアルペジオで演奏する場合の多くは上向きであるため、上向きのアルペジオ記号の上端には何も表示せず、下向きのアルペジオ記号の下端には矢印を表示するのが最も一般的で、Dorico Pro ではこれがデフォルトの設定になっています。ただし、同じ楽曲中に下向きのアルペジオ記号が使用されている場合は、上向きのアルペジオ記号の上端にも矢印を表示することが習慣として認められています。

Dorico Pro のアルペジオ記号は、その記号が適用される、声部や譜表に含まれるすべての音符の範囲全体にかかるように自動的に調整されます。

関連リンク

[装飾音、アルペジオ記号、グリッサンドライン、ジャズアーティキュレーションの入力方法 \(370 ページ\)](#)

[グリッサンドライン \(1461 ページ\)](#)

[ジャズアーティキュレーション \(1495 ページ\)](#)

[ライン \(1551 ページ\)](#)

## 浄書オプションでアルペジオ記号の設定をプロジェクト全体に適用する

「[浄書オプション \(Engraving Options\)](#)」の「[アルペジオ記号 \(Arpeggio Signs\)](#)」ページで、アルペジオ記号の外観と位置を設定し、プロジェクト全体に適用できます。

このページのオプションを使用すると、アルペジオ記号のデザイン、外観、および詳細な位置を、スラッシュ符頭の声部に音符を表示するかを含めて変更できます。

多くのオプションに、オプションを楽譜に適用したときにどのように表示されるかを示す図があります。

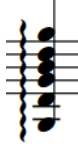
関連リンク

[「浄書オプション \(Engraving Options\)」ダイアログ \(923 ページ\)](#)

## アルペジオ記号のタイプ

アルペジオの異なる向きや演奏技法を伝えるために、アルペジオ記号にはいくつかのタイプがあります。

### アルペジオ (上へ)



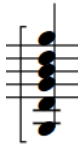
和音を最低音から上向きにアルペジオで演奏することを示す垂直の波線です。

### アルペジオ (下へ)



和音を最高音から下向きにアルペジオで演奏することを示す垂直の波線です。

### ノンアルペジオ



和音を構成するすべての音符をアルペジオではなく同時に演奏することを示す、直線による角括弧です。

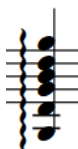
### 曲線のアルペジオ



スラーに似た形状の垂直の曲線です。作曲者によっては、ゆるやかなアルペジオ奏法や部分的なアルペジオ奏法の指示に使うことがあります。

Dorico Pro では、上向きおよび下向きどちらのアルペジオ記号についても、以下の終端のうちいずれかを表示できます。

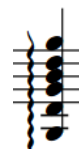
- なし
- 矢印
- 幅広



終端なしの上向きのアルペジオ記号



終端が矢印の上向きのアルペジオ記号




終端が幅広の上向きのアルペジオ記号

## アルペジオ記号のタイプの変更

アルペジオ記号は入力後にタイプを変更できます。

前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。
- 下ゾーンのツールバーで「プロパティ (Properties)」を選択しておきます。
- 浄書モードの場合は、浄書ツールボックスで「グラフィックの編集 (Graphic Editing)」を選択しておきます。

手順

1. タイプを変更するアルペジオ記号を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「アルペジオ (Arpeggios)」グループで、「アルペジオタイプ (Arpeggio type)」メニューから以下のいずれかのオプションを選択します。
  - ノンアルペジオ (Non arpeggio)
  - アルペジオ (上へ) (Up arpeggio)
  - アルペジオ (下へ) (Down arpeggio)
  - 上向アルペジオ (曲線) (Up arpeggio (curve))

結果

選択したアルペジオ記号のタイプが変更されます。

ヒント

装飾音のポップオーバーを開いて入力内容を変更しても、アルペジオタイプを変更できます。



## アルペジオ記号の終端の外観を個別に変更する

初期設定では、下向きのアルペジオ記号には線の下端に矢印の先端が付きますが、上向きのアルペジオ記号には付きません。プロジェクト全体の設定とは別に、アルペジオ記号の終端の外観を個別に設定できます。

補足

これらの手順は、上向きと下向きのアルペジオ記号にのみ適用されます。曲線のアルペジオ記号やノンアルペジオ記号には適用されません。

前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。
- 下ゾーンのツールバーで「プロパティ (Properties)」を選択しておきます。
- 浄書モードの場合は、浄書ツールボックスで「グラフィックの編集 (Graphic Editing)」を選択しておきます。

手順

1. 終端の外観を変更するアルペジオ記号を選択します。記号の向きは問いません。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「アルペジオ (Arpeggios)」のグループで、「記号の終端 (Sign end)」をオンにします。

- メニューから、終端に使用するものを以下のいずれかから選択します。
  - なし (Nothing)
  - 矢印 (Arrow)
  - 幅広 (Swash)

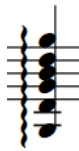
#### 結果

選択したアルペジオ記号の終端の外観が変更されます。

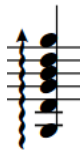
#### ヒント

アルペジオ記号の終端のデフォルトの外観をプロジェクト全体で変更するには、「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**アルペジオ記号 (Arpeggio Signs)**」ページで設定を行ないます。

#### 例



終端なしの上向きのアルペジオ記号



終端が矢印の上向きのアルペジオ記号



終端が幅広の上向きのアルペジオ記号

## アルペジオ記号の長さ

アルペジオ記号の長さは、そのアルペジオ記号が適用される声部または譜表内の音符のピッチの範囲によって決まります。ピッチを変更した場合や、和音への音符の追加または削除を行なった場合は、アルペジオ記号の長さが自動的に調整されます。

浄書モードでは、アルペジオ記号には上部と下部の2か所に四角いハンドルがあります。これらのハンドルを動かして、アルペジオ記号の表示位置と長さを調節できます。たとえば、ピッチの幅の狭い和音ではアルペジオ記号を長くすることで、アルペジオ記号が見やすくなります。

アルペジオ記号が和音の上下端の音符より外に突き出す長さに対するプロジェクト全体の設定は、「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**アルペジオ記号 (Arpeggio Signs)**」ページで変更できます。音符が譜表の線上にあるときと間上にあるときでは、それぞれ異なる値を設定できます。

#### 関連リンク

[アイテムの表示位置の移動 \(652 ページ\)](#)

[音符/アイテムの位置の移動 \(502 ページ\)](#)

## アルペジオ記号の一般的な配置規則

アルペジオ記号は、それが適用される音符および音符の臨時記号の左に配置されますが、装飾音符が付く場合は、装飾音符と標準の音符との間に配置されます。アルペジオ記号は、それが適用される音符と同じ小節に表示されなければならないが、小節線をまたぐ位置には表示されません。

Dorico Pro は、アルペジオ記号が正しい配置で収まるように、音符のスペーシングと譜表のスペーシングを自動的に調整します。



アルペジオ記号は、それが適用される和音のすべての音符の垂直範囲全体をカバーしつつ、両端ともわずかに突き出すように配置されます。ただし、音符の符尾までカバーする必要はありません。Dorico Pro は、和音の音符すべてがカバーされる長さで自動的にアルペジオ記号の作成を行ない、和音の構成音が変更または削除された場合は長さを調整します。

アルペジオで演奏される和音が、ピアノパートにあるような 2 つの譜表にまたがる場合、アルペジオ記号も 2 つの譜表にわたって延長されます。

アルペジオ記号のリズム上の位置は記譜モードで移動できます。これは初期設定では、「**浄書オプション (Engraving Options)**」で設定した位置に配置されます。


アルペジオ記号の表示位置は浄書モードで移動できますが、これにより適用されるリズム上の位置は変更されません。

すべてのアルペジオ記号のデフォルト位置に対するプロジェクト全体の設定は、「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**アルペジオ記号 (Arpeggio Signs)**」ページで変更できます。

## アルペジオ記号を装飾音符の前または後ろに表示する

アルペジオ記号の表示位置は、装飾音符の前または後ろに個別に変更できます。この操作は現在のレイアウトとフレームチェーンのみに対して、もしくはすべてのレイアウトとフレームチェーンに対して行なえます。初期設定では、アルペジオ記号はそれが適用される音符のすぐ左に配置され、装飾音符が付く場合は、装飾音符と標準の音符の間に配置されます。

前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。
- 下ゾーンのツールバーで「**プロパティ (Properties)**」を選択しておきます。
- 浄書モードの場合は、浄書ツールボックスで「**グラフィックの編集 (Graphic Editing)**」を選択しておきます。
- ローカルのプロパティ変更に関して、適切なプロパティ範囲を選択しておきます。

---

手順

1. 装飾音符より前に表示させるアルペジオ記号を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「**アルペジオ (Arpeggios)**」グループで、「**装飾音符前のアルペジオ (Arpeggio before grace notes)**」をオンまたはオフにします。

---

結果

選択したアルペジオ記号が、プロパティをオンにしたときは装飾音符より前に、プロパティをオフにしたときは装飾音符より後に表示されます。プロパティ範囲を「**ローカル (Locally)**」に設定している場合、この変更は現在のレイアウトおよびフレームチェーンのみに影響します。

関連リンク

- [プロパティパネル \(826 ページ\)](#)
- [プロパティ範囲の変更 \(828 ページ\)](#)
- [浄書ツールボックス \(554 ページ\)](#)

## 再生時のアルペジオ

「再生オプション (Playback Options)」の「タイミング (Timing)」ページにある「アルペジオ記号 (Arpeggio Signs)」セクションでは、アルペジオ再生の制御に関する設定を変更してプロジェクト全体に適用できます。

たとえば、アルペジオの速さや、アルペジオが拍の位置で開始するか、それとも拍の位置で終了するかなどを制御できます。

アルペジオのデフォルトの長さは波線のアルペジオ記号と曲線のアルペジオ記号で個別に設定でき、120 bpm での 4 分音符の割合で表わします。アルペジオの長さをそれ自体の記譜上のリズムに対する割合に設定すると、非常にゆっくりな曲においてはアルペジオの再生が通常意図される速さより大幅に遅くなってしまう場合があるため、この場合は上記の割合に設定することをおすすめします。

アルペジオはデフォルトの長さとともに、長さの最小値と最大値も設定でき、これはアルペジオの記譜上の音価に対する割合で表現されます。これは、アルペジオ記号が付いたすべての音符が、記譜されたデュレーションの間に確実に再生されるようにするためです。

### ヒント


個々のアルペジオ記号については、プロパティパネルの「アルペジオ再生 (Arpeggios Playback)」のグループにあるプロパティを使用して、再生オプションのデフォルトを上書きすることもできます。

---

## 拍に対するアルペジオの再生位置を変更する

個々のアルペジオについて、演奏するのは記譜上の位置より前か後か、プロジェクト全体の設定より優先される形で個別に変更できます。

### 前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。
- 下ゾーンのツールバーで「プロパティ (Properties)」 を選択しておきます。
- 浄書モードの場合は、浄書ツールボックスで「グラフィックの編集 (Graphic Editing)」 を選択しておきます。

### 手順

1. 拍に対する再生位置を変更するアルペジオ記号を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「アルペジオ再生 (Arpeggios Playback)」グループで、「再生位置 (Playback position)」をオンにします。
3. 以下のいずれかのオプションを選択します。
  - 拍で開始 (Start on beat)
  - 拍で終了 (End on beat)

### 結果

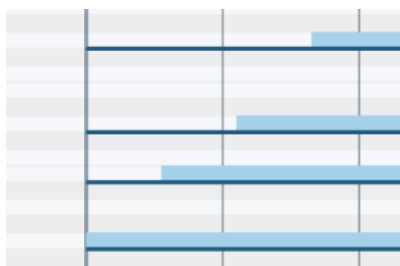
選択したアルペジオの再生時の拍に対する位置が変更されます。

### ヒント

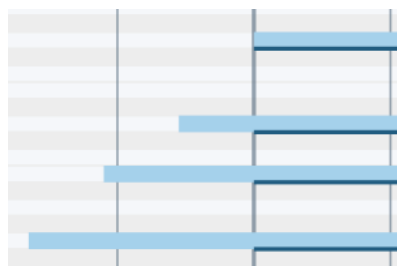
アルペジオの拍に対する再生位置に関するプロジェクト全体の設定は、「再生オプション (Playback Options)」の「タイミング (Timing)」ページで変更できます。

---

例



拍で開始するアルペジオ



拍で終了するアルペジオ

---

関連リンク

[プロパティパネル \(826 ページ\)](#)

[「再生オプション \(Playback Options\)」ダイアログ \(925 ページ\)](#)

## アルペジオの再生時のデュレーションを変更する

個々のアルペジオの再生時のデュレーションは、プロジェクト全体の設定より優先される形で個別に変更できます。

アルペジオのデュレーションは、和音の記譜上のリズムの割合で表現されます。たとえば 4 分音符の和音では、ノートのオフセット値が 1/2 のアルペジオは 8 分音符の長さになり、ノートのオフセット値が 1/8 のアルペジオは 32 分音符の長さになります。

前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。
- 下ゾーンのツールバーで「**プロパティ (Properties)**」を選択しておきます。
- 浄書モードの場合は、浄書ツールボックスで「**グラフィックの編集 (Graphic Editing)**」を選択しておきます。

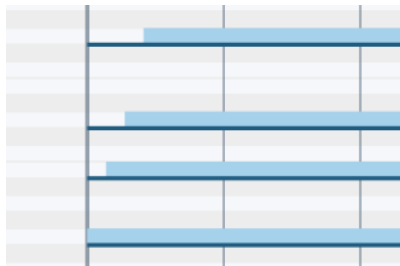
手順

1. 再生時のデュレーションを変更するアルペジオ記号を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
  2. プロパティパネルの「**アルペジオ再生 (Arpeggios Playback)**」グループで、「**ノートのオフセット (Note offset)**」をオンにします。
  3. 数値フィールドの数値を変更して、選択したアルペジオ記号の再生時のデュレーションを変更します。
  4. **[Return]** を押します。
- 

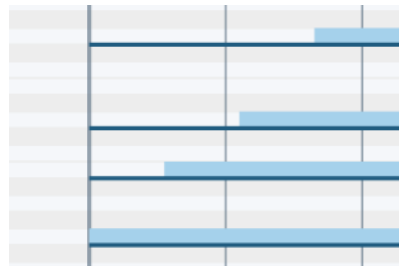
結果

選択したアルペジオの再生時のデュレーションが変更されます。これは選択したアルペジオについて、アルペジオのデュレーションに関するプロジェクト全体の設定を上書きします。

例



ノートのオフセット値が1/8のアルペジオによる和音



ノートのオフセット値が1/2のアルペジオによる和音

# グリッサンドライン

グリッサンドは2つの音符の間の継続的な音程の移行を示し、これはなめらかな移行と半音階による移行、いずれの場合もあります。これは直線と波線のいずれかで表わされ、指示のテキストが付く場合と、テキストが付かない線だけの場合があります。

グリッサンドは符頭の間に配置されるため、その角度は音符間の音程差を反映します。角度が急であるほど、音程差も大きくなります。

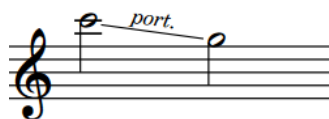
グリッサンドとポルタメントの演奏技法に関しては、さまざまな表記規則が存在します。グリッサンドは上昇下降いずれかに向かう半ステップ(半音)の連続による2音間の半音階スケールを示し、ポルタメントは2音間でなめらかに途切れなく音程を滑らせることを示すと理解される場合もあります。ただし、グリッサンドとポルタメントという言葉は、状況が異なれば意味が入れ替わって使用される場合もあります。

Dorico Pro では、グリッサンドとポルタメントの両方を入力でき、入力後でも容易にスタイルを変更できます。

Dorico Pro のグリッサンドラインは両端の音符を自動的に追従します。つまり、各音符のピッチを変更すると、それに応じてグリッサンドラインの両端の位置が移動します。Dorico Pro はグリッサンドが臨時記号と重ならないよう自動的に配置します。



テキストと波線で示されたグリッサンドの例



テキストと直線で示されたポルタメントの例

グリッサンドは組段区切りやページ区切りをまたぐことができます。組段区切りやページ区切りをまたぐグリッサンドにテキストが表示される場合、テキストはグリッサンドのそれぞれの部分に表示されます。初期設定では、分割された各部分の開始位置と終了位置は、グリッサンド全体の本来の開始位置と終了位置に一致します。

Dorico Pro では、「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**グリッサンド (Glissando Lines)**」ページで、グリッサンドのデフォルト位置の詳細な調整を行なえます。個々のグリッサンドの開始位置または終了位置も、浄書モードで移動できます。

関連リンク

[装飾音、アルペジオ記号、グリッサンドライン、ジャズアーティキュレーションの入力方法 \(370 ページ\)](#)

[グリッサンドのスタイルの変更 \(1462 ページ\)](#)

[浄書モードのグリッサンドライン \(1465 ページ\)](#)

[アルペジオ記号 \(1453 ページ\)](#)

[ジャズアーティキュレーション \(1495 ページ\)](#)

[フィンガリングスライド \(1305 ページ\)](#)

[演奏技法の延長線 \(1542 ページ\)](#)

[ライン \(1551 ページ\)](#)

[個々の音符のピッチの変更 \(518 ページ\)](#)

## 浄書オプションでグリッサンドの設定をプロジェクト全体に適用する

「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**グリッサンド (Glissando Lines)**」ページで、グリッサンドの外観と位置を設定し、プロジェクト全体に適用できます。

「**グリッサンド (Glissando Lines)**」のページのオプションを使用すると、グリッサンドのスタイル、外観、および線の太さを変更できます。また、グリッサンドの終端の符頭に対する詳細な位置も設定できます。

多くのオプションに、オプションを楽譜に適用したときにどのように表示されるかを示す図があります。

関連リンク

[「浄書オプション \(Engraving Options\)」ダイアログ \(923 ページ\)](#)

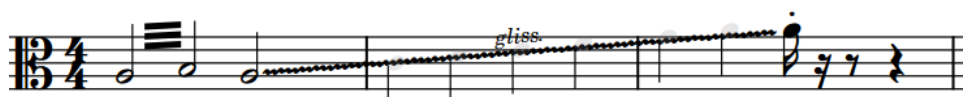
## 空白の小節をまたぐグリッサンド

Dorico Pro では、2つの音符の間でさえあれば、間に休符や他の音符があっても、声部が異なる音符や譜表が異なる音符の間であったとしても、グリッサンドを入力できます。

複数の小節をまたいで延びる非常に長いグリッサンドにおいては、たとえば演奏者がグリッサンドの過程で音程を強調しないことや、演奏者各自のスピードでグリッサンドを行なえることを示すような場合、各小節の開始位置で音程を表示させないのが好ましい場合があります。初期設定では、Dorico Pro は音符や休符を各小節に表示します。

休符の削除によるスペーシングの問題を回避するには、間にある小節に音符を入力し、その音符の符頭や符尾を非表示にすることをおすすめします。

例



複数の小節にまたがるグリッサンドラインの最初と最後の音符の間の音符を非表示にした状態

関連リンク

[装飾音、アルペジオ記号、グリッサンドライン、ジャズアーティキュレーションの入力方法 \(370 ページ\)](#)

[空白の小節で小節休符を表示/非表示にする \(1647 ページ\)](#)



[符頭の表示/非表示 \(1398 ページ\)](#)

[符尾の表示/非表示 \(1422 ページ\)](#)



## グリッサンドのスタイルの変更

グリッサンドは直線または波線で表示できます。グリッサンドの線のスタイルは、プロジェクト全体の設定とは個別に変更できます。

前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。
- 下ゾーンのツールバーで「**プロパティ (Properties)**」を選択しておきます。
- 浄書モードの場合は、浄書ツールボックスで「**グラフィックの編集 (Graphic Editing)**」を選択しておきます。

#### 手順

1. スタイルを変更するグリッサンドを選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「**グリッサンド (Glissando Lines)**」グループで、「**グリッサンドスタイル (Glissando style)**」をオンにします。
3. 以下のいずれかのオプションを選択します。
  - **直線 (Straight line)** 
  - **波線 (Wiggly line)** 

#### 結果

選択したグリッサンドの線のスタイルが変更されます。

#### ヒント

- 「**グリッサンドスタイル (Glissando style)**」をオフにすると、選択したグリッサンドの線がデフォルトのスタイルに戻ります。
- 装飾音のポップオーバーを開いて入力内容を変更しても、グリッサンドスタイルを変更できます。
- 「**浄書オプション (Engraving Options)**」にある「**グリッサンド (Glissando Lines)**」ページで、プロジェクト全体のグリッサンドの線のデフォルトのスタイルを変更できます。

#### 関連リンク

[浄書オプションでグリッサンドの設定をプロジェクト全体に適用する \(1462 ページ\)](#)

[「浄書オプション \(Engraving Options\)」ダイアログ \(923 ページ\)](#)

[浄書ツールボックス \(554 ページ\)](#)

[装飾音のポップオーバー \(371 ページ\)](#)

[既存のアイテムの変更 \(472 ページ\)](#)

## グリッサンドのテキストを個別に変更する

プロジェクト全体の設定とは関係なく、個々のグリッサンドに「gliss.」や「port.」のテキストを付けて表示したり、テキストなしで表示したりできます。この操作は現在のレイアウトとフレームチェーンのみに対して、もしくはすべてのレイアウトとフレームチェーンに対して行なえます。

グリッサンドラインのテキストは、フレット楽器に属する譜表上では自動的に非表示になります。

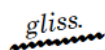
#### 前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。
- 下ゾーンのツールバーで「**プロパティ (Properties)**」を選択しておきます。
- 浄書モードの場合は、浄書ツールボックスで「**グラフィックの編集 (Graphic Editing)**」を選択しておきます。
- ローカルのプロパティ変更に関して、適切なプロパティ範囲を選択しておきます。

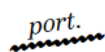
#### 手順

1. テキストを変更するグリッサンドを選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「**グリッサンド (Glissando Lines)**」グループで、「**グリッサンドテキスト (Glissando text)**」をオンにします。
3. メニューから以下のいずれかのオプションを選択します。

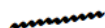
- Gliss.



- Port.



- テキストなし (No text)



---

#### 結果

選択したグリッサンドのテキストが変更されます。プロパティ範囲を「ローカル (Locally)」に設定している場合、この変更は現在のレイアウトおよびフレームチェーンのみに影響します。

#### ヒント

すべてのグリッサンドに表示されるテキストに対するプロジェクト全体の設定は、「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**グリッサンド (Glissando Lines)**」のページで変更できます。

#### 関連リンク

[「浄書オプション \(Engraving Options\)」ダイアログ \(923 ページ\)](#)

[浄書ツールボックス \(554 ページ\)](#)

[プロパティ範囲の変更 \(828 ページ\)](#)

[プロパティ設定を別のレイアウト/フレームチェーンにコピーする \(825 ページ\)](#)


[装飾音、アルペジオ記号、グリッサンドライン、ジャズアーティキュレーションの入力方法 \(370 ページ\)](#)

## グリッサンドラインのテキストの表示条件を変更する

初期設定では、グリッサンドがテキストを収めるには短すぎる場合、グリッサンドテキストは表示されません。個々のグリッサンドについてテキストを常に表示するか、十分なスペースがある場合のみ表示するかを選択できます。この操作は現在のレイアウトとフレームチェーンのみに対して、もしくはすべてのレイアウトとフレームチェーンに対して行なえます。

グリッサンドラインのテキストは、フレット楽器に属する譜表上では自動的に非表示になります。

#### 前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。
- 下ゾーンのツールバーで「**プロパティ (Properties)**」を選択しておきます。
- 浄書モードの場合は、浄書ツールボックスで「**グラフィックの編集 (Graphic Editing)**」を選択しておきます。
- ローカルのプロパティ変更に関して、適切なプロパティ範囲を選択しておきます。

---

#### 手順

1. テキストが表示される状況の設定を変更するグリッサンドを選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「**グリッサンド (Glissando Lines)**」グループで、「**表示中のグリッサンドテキスト (Glissando text shown)**」をオンにします。
3. 以下のいずれかのオプションを選択します。



- 余白が十分な場合に表示 (Show if sufficient space)
- 常に表示 (Always show)

#### 結果

「余白が十分な場合に表示 (Show if sufficient space)」を選択すると、グリッサンドが短すぎる場合はグリッサンドテキストが表示されません。

「常に表示 (Always show)」を選択すると、グリッサンドが短い場合でもグリッサンドテキストが常に表示されます。ただしこれにより、グリッサンドテキストが符頭や符尾など他のアイテムに重なってしまう場合があります。

プロパティ範囲を「ローカル (Locally)」に設定している場合、この変更は現在のレイアウトおよびフレームチェーンのみに影響します。

#### ヒント

符頭間のデフォルトの間隔を広げるにはデフォルトの音符のスペーシングを変更し、個々の符頭の間隔を広げるには浄書モードで個々の位置の音符のスペーシングを調節します。

#### 関連リンク

[音符のスペーシング \(643 ページ\)](#)

[デフォルトの音符のスペーシングを変更する \(643 ページ\)](#)

[個々の位置にある音符のスペーシングの調節 \(648 ページ\)](#)

## 浄書モードのグリッサンドライン

浄書モードでは、グリッサンドにはそれぞれ開始位置と終了位置の2か所に四角いハンドルがあります。これらのハンドルを動かして、グリッサンドラインの表示位置、長さ、および角度を調節できます。

グリッサンドライン全体の表示位置も個別に移動できます。グリッサンドが組段区切りおよびフレーム区切りをまたぐ場合は、区切りの両側のグリッサンドの分割された部分をそれぞれ個別に移動できます。



浄書モードのグリッサンドのハンドル

#### 補足

- グリッサンドのリズム上の位置は移動できません。グリッサンドのリズム上の位置を変更する場合は、それを元の位置から削除してから別の位置に新規にグリッサンドを入力する必要があります。
- グリッサンドのピッチの差が小さいと、線の角度は極めて小さくなる場合があります。ピッチの差が小さいグリッサンドの最小スパンについては、「[浄書オプション \(Engraving Options\)](#)」 > 「[グリッサンド \(Glissando Lines\)](#)」 > 「[垂直位置 \(Vertical Position\)](#)」で、さまざまな状況ごとに値を変更してプロジェクト全体に適用できます。

#### 関連リンク

[浄書オプションでグリッサンドの設定をプロジェクト全体に適用する \(1462 ページ\)](#)

[「浄書オプション \(Engraving Options\)」ダイアログ \(923 ページ\)](#)

[アイテムの表示位置の移動](#) (652 ページ)

## 再生時のグリッサンドライン

グリッサンドラインは、各グリッサンドの開始音と終了音の間にある一連の音符または連続するピッチバンドを使用することで再生に反映されます。

### グリッサンドの再生タイプ

Dorico Pro では、以下のタイプのグリッサンド再生が用意されています。

#### 連続的 (Continuous)

グリッサンドは、MIDI ピッチバンドを使用して、各グリッサンドラインの開始ピッチと終了ピッチの間をなめらかにスライドするように鳴ります。

初期設定では、金管楽器、歌手、電子楽器、弦楽器のインストゥルメントファミリーには連続的なグリッサンド再生が使用されます。

#### 補足

連続的なグリッサンド再生には、サウンドライブラリーのサポートと、連続する音符のみであることに加え、対応するエクスペッションマップに適切なピッチ範囲が設定されていることが必要です。たとえば、HALion Symphonic Orchestra は 1 ステップ (半音 2 つ) の連続するグリッサンド範囲のみをサポートしています。

グリッサンドは、ピッチ範囲がサポートされている範囲よりも広い場合、あるいはインストゥルメントがコードを演奏する場合 (つまり、2 つ以上の音符を同時に演奏する場合)、代替手段として半音階のグリッサンド再生を使用します。

#### 半音階 (Chromatic)

グリッサンドは、各グリッサンドラインの開始ピッチと終了ピッチの間で、通常は半ステップ (半音) の間隔の連続する音符として鳴ります。

- ハープペダルダイアグラムは、ハープのグリッサンド再生で使用されるピッチに影響します。
- ほかのすべてのインストゥルメントは、現在の調性システムに関係なく 12-EDO 半音階スケールを使用します。

半音階のグリッサンド再生は、連続的なグリッサンド再生または全音階のグリッサンド再生を使用しないすべてのインストゥルメントのデフォルトです。

#### 全音階 (White notes)

グリッサンドは、ナチュラルピッチ、つまりキーボードの白鍵で表わされるピッチだけが連続する音符として鳴ります。

全音階のグリッサンド再生は、鍵盤楽器と有音程打楽器のデフォルトです。

## グリッサンド再生のデュレーション

グリッサンドラインがタイチェーンで始まったり終わったりする場合、その再生は最後の符頭から始まり、最初の音符頭で終わります。

初期設定では、グリッサンドはそのデュレーションの途中から鳴り始めます。タイでつながれた音符の場合、これはタイのつながりの最後の符頭のデュレーションです。再生時のグリッサンドラインの開始位置のディレイを変更できます。

関連リンク

[ハープのペダリング](#) (1506 ページ)

- [オクターブの均等な分割 \(EDO\) \(1358 ページ\)](#)
- [ポップオーバーを使ったグリッサンドラインの入力 \(380 ページ\)](#)
- [「エクスペッションマップ \(Expression Maps\)」 ダイアログ \(1020 ページ\)](#)
- [インストゥルメントファミリー \(960 ページ\)](#)

## グリッサンドの再生タイプを変更する

個々のグリッサンドラインの再生タイプを変更できます。これにより、たとえば一部のグリッサンドラインを半音階の音符ではなく全音階の音符を使用して再生するなどできます。初期設定では、Dorico Pro はグリッサンドの再生タイプをインストゥルメントファミリーに応じて自動的に選択します。

### 前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。
- 下ゾーンのツールバーで「プロパティ (Properties)」を選択しておきます。
- 浄書モードの場合は、浄書ツールボックスで「グラフィックの編集 (Graphic Editing)」を選択しておきます。

---

### 手順



1. 再生タイプを変更するグリッサンドを選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「グリッサンド (Glissando Lines)」グループで、「再生タイプ (Playback type)」をオンにします。
3. メニューから以下のいずれかのオプションを選択します。
  - 自動 (Auto)
  - 連続的 (Continuous)
  - 半音階 (Chromatic)
  - 全音階 (White notes)
  - なし (None)

---

## 再生時にグリッサンドの開始を遅らせる

再生時のグリッサンドの開始位置のディレイを変更できます。初期設定では、グリッサンドはそのデュレーションの途中から鳴り始めます。タイでつながれた音符の場合、これはタイのつながりの最後の符頭のデュレーションです。

### 前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。
- 下ゾーンのツールバーで「プロパティ (Properties)」を選択しておきます。
- 浄書モードの場合は、浄書ツールボックスで「グラフィックの編集 (Graphic Editing)」を選択しておきます。

---

### 手順

1. 再生の開始を遅らせるグリッサンドラインを選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「グリッサンド (Glissando Lines)」のグループで、「開始位置のディレイ (Delayed start)」をオンにします。
3. 対応するチェックボックスをオン/オフにします。

4. グリッサンドラインの開始をどれだけ遅らせるかを正確に指定したい場合は、「**ディレイ (Delay)**」をオンにして値フィールドの値を変更します。
- この値は4分音符に対する割合を表わします。たとえば、「**1/2**」と入力するとグリッサンドの開始が8分音符分遅れます。
- 

#### 結果

「**開始位置のディレイ (Delayed start)**」チェックボックスをオンにすると、選択したグリッサンドラインの再生が、そのグリッサンドラインが適用されている最後の符頭のデュレーションの途中から始まります。

「**開始位置のディレイ (Delayed start)**」チェックボックスをオフにすると、選択したグリッサンドラインの再生が、そのグリッサンドラインが適用されている最後の符頭のデュレーションの最初から始まります。

「**ディレイ (Delay)**」も一緒にオンにすると、選択したグリッサンドの再生は設定した値に従います。

「**開始位置のディレイ (Delayed start)**」をオフにすると、グリッサンドラインはグリッサンドラインの再生のプロジェクト全体の設定に従います。

#### 補足

プロジェクト全体のすべてのグリッサンドラインに開始位置のディレイを適用するかどうかは、「**再生オプション (Playback Options)**」の「**グリッサンド (Glissando Lines)**」ページで変更できます。

---

#### 関連リンク

[浄書ツールボックス \(554 ページ\)](#)

[プロパティパネル \(826 ページ\)](#)

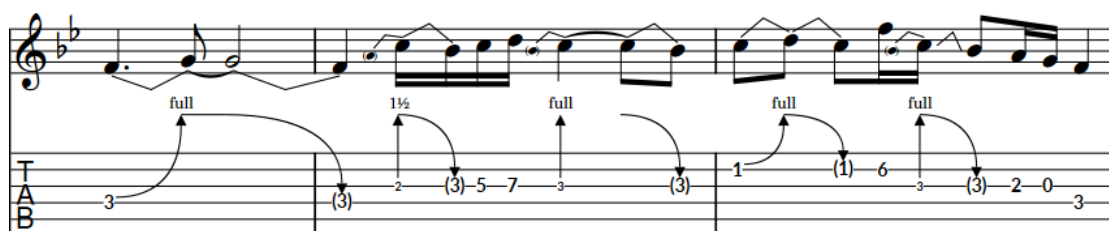
[ゾーンの表示/非表示の切り替え \(48 ページ\)](#)

[「再生オプション \(Playback Options\)」ダイアログ \(925 ページ\)](#)

# ギターベンド

ギターベンドはエレキギターで一般的に使用される演奏技法で、演奏者は音を鳴らしてから弦に力を加えて通常的位置からずらします。ベンドさせると弦の張りが強くなり、特有のピッチの変動が得られます。

ギターベンドの演奏では、多くの場合、ベンドがかかったピッチをしばらく保持したあとで、弦を通常的位置 (ベンドがかかってないピッチ) に戻します。Dorico Pro では、これらの動作をそれぞれギターベンドホールドとリリースと呼びます。



音符の楽譜とタブ譜の両方で表示された、ギターベンド、ギターベンドホールド、ギタープリベンド、リリースを含むフレーズ

1 ステップ (全音) までのベンドの音程で、ギターベンドとリリースが再生に反映されます。

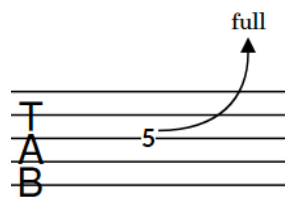
## ギターベンド

ギターベンドは、鳴っている音符のピッチを上げるために、音符を演奏したあとで弦をベンドするよう演奏者に指示します。Dorico Pro では、各ギターベンドは開始ピッチとベンドのピークのピッチを表わす 2 つの音符の結合として表現されます。

音符の譜表では、ギターベンドは開始位置と終了位置の符頭の間に斜めの線を使って記譜されます。タブ譜では、先端が矢印になった上向きの曲線を使って記譜され、矢印の上にベンドの音程が表示されます。終了位置の音符のフレット番号は自動的に非表示になります。



音符の譜表のギターベンド

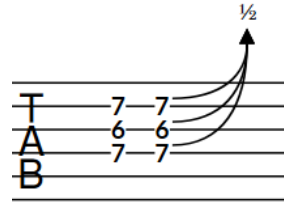


タブ譜のギターベンド

和音を構成する複数の音符にギターベンドを入力した場合、タブ譜では自動的にそれぞれの矢印先端がひとつにまとまって表示されます。

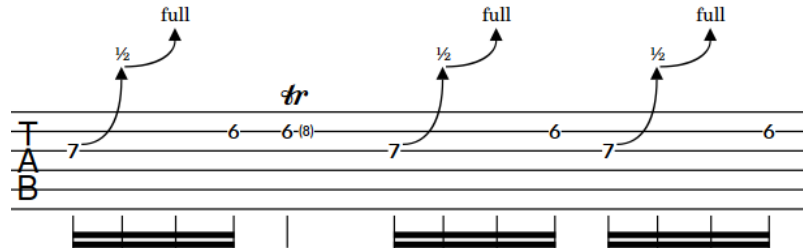


音符の譜表の和音のギターバンド



タブ譜の和音のギターバンド

連続するギターバンドのシーケンスがタブ譜上にバンドランとして記譜されます。浄書モードでは、ギターバンドランはグループとして機能します。

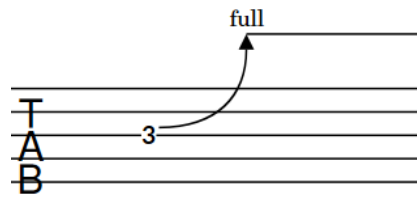


タブ譜のギターバンドラン

### ギターバンドホールド

ギターバンドホールドは、ギターバンドのピークのピッチを保持するよう演奏者に指示します。通常はタイでつながれた音符で表示されます。

タブ譜では、横線を使って記譜されます。ギターバンドホールドは音符の譜表には記譜されません。



タブ譜のギターバンドホールド

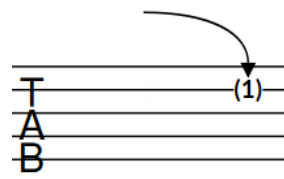
### リリース

リリースは、バンドした弦を通常的位置に戻すことでピッチを下げるよう演奏者に指示します。Dorico Pro では、各リリースはバンドのピークのピッチと終了ピッチを表わす2つの音符を結合します。

音符の譜表では、リリースは開始位置と終了位置の符頭の間に斜めの線を使って記譜されます。タブ譜では、リリースは先端が矢印になった下向きの曲線と、矢印の下に終了ピッチを表わす括弧付きのフレット番号で記譜されます。開始位置の音符のフレット番号は自動的に非表示になります。



音符の譜表のリリース

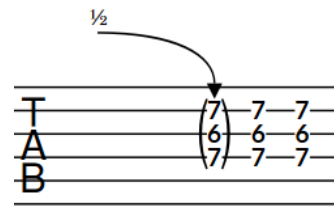


タブ譜のリリース

和音を構成する複数の音符にリリースを入力した場合、タブ譜では先端が矢印になった1本の下向きの曲線として記譜されます。すべての音符でベンドの音程が同じ場合は、終了ピッチは1つの括弧にまとめられます。



音符の譜表の和音のリリース



タブ譜の和音のリリース

#### 補足

- ギターベンドの他にも、Dorico Pro はギタープリベンド/プリダイブ、ギターポストベンド、ビブラートのダイブとリターンといったギターの演奏技法をサポートしています。
- リリースとギターベンドは同じ方法で入力するため、本書では、プロジェクト内のギターベンドアイテムとリリースアイテムの両方をギターベンドと表わします。
- ギターベンドホールドとリリースのフレット番号のデフォルトの外観は、「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**ギターベンド (Guitar Bends)**」ページで変更できます。
- 初期設定では、単一の声部の符尾、符尾の符鉤、および連桁は符尾が上向き状態でタブ譜に表示されるため、ギターベンド、ベンディング、プリダイブ、ダイブ、およびリターンと重なることがあります。そのため、タブ譜にこれらの記譜記号とリズムの両方を表示するプロジェクトについては、「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**タブ譜 (Tablature)**」ページにある「**符尾のデフォルトの向き (Default stem direction)**」を「**下 (Down)**」に変更することをおすすめします。

#### 関連リンク

- [ベンドの音程 \(1475 ページ\)](#)
- [浄書モードのギターベンド \(1480 ページ\)](#)
- [ギターテクニック \(1485 ページ\)](#)
- [ギターベンドとギターテクニックの入力方法 \(384 ページ\)](#)
- [タブ譜 \(1737 ページ\)](#)
- [音符の譜表とタブ譜を表示または非表示にする \(1739 ページ\)](#)
- [括弧付きの符頭 \(1406 ページ\)](#)
- [弦の指示記号 \(1313 ページ\)](#)
- [ライン \(1551 ページ\)](#)

## ギタープリベンドとギタープリダイブ

ギタープリベンドとギタープリダイブはエレキギターで一般的に使用される演奏技法で、音符を演奏する前にあらかじめ弦をベンドして張りを強くするかビブラートバーで弦を緩めるかして鳴りはじめのピッチを変化させます。

The image shows a musical score with a treble clef staff and a guitar tablature staff. The key signature has one sharp (F#) and the time signature is 4/4. The tablature staff has strings T, A, B labeled. The first measure shows a pre-bend on the 2nd string from fret 2 to 3, marked 'full'. The second measure shows a pre-dive on the 2nd string from fret 2 to 1, marked with 1/2 increments. The third measure shows a pre-bend on the 2nd string from fret 2 to 3, marked 'full'.

リリースを含むギタープリベンド、そしてリリースを含む数回のギタープリダイブを使用するフレーズ

Dorico Pro では、ギタープリベンドとギタープリダイブはフレット楽器に属する音符のプロパティであるため、各音符にのみ適用されます。

### ギタープリベンド

ギタープリベンドは、たとえば前のギターバンドの終了位置の音符を繰り返す場合など、音符を演奏する前からピッチが上がっているように弦をベンドしておくことを演奏者に指示します。音が鳴り始めた後はピッチを下げます。

音符の譜表では、ギタープリベンドは開始位置と終了位置の符頭の間に斜めの線を使って記譜されます。ただし、ギターバンドとは異なり、開始位置の補助符頭がプリベンドの一部として自動的に括弧付きで表示されます。タブ譜では、ギタープリベンドは上端が矢印になった垂直の実線に、矢印の上に表示されるベンドの音程、および線の下を開始ピッチを示す小さなフレット番号を使用して記譜されます。

The image shows two examples of guitar pre-bend notation. On the left is a musical staff with a treble clef, showing a note on the 2nd string, 3rd fret, with a pre-bend line starting from the 2nd fret and ending at the 3rd fret. On the right is a guitar tablature with strings T, A, B labeled, showing a vertical line on the 2nd string starting at fret 2 and ending at fret 3, marked 'full'.

音符の譜表のギタープリベンド

タブ譜のギタープリベンド

### ギタープリダイブ

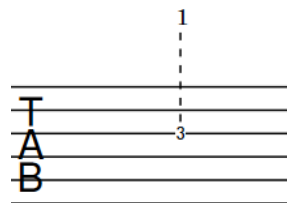
ギタープリダイブは、音符を演奏する前にあらかじめビブラートバーを使用してピッチを下げておくことを指示します。音が鳴り始めた後はピッチを上げます。

音符の譜表では、ギタープリダイブはギタープリベンドと同じ外観になります。タブ譜では、ギタープリダイブは上端が矢印になった垂直の破線に、矢印の上のベンドの音程、および線の下を開始ピッチを示す小さなフレット番号を使用して記譜されます。





音符の譜表のギタープリダイブ



タブ譜のギタープリダイブ

#### 補足

- 連続する複数のギタープリベンド/プリダイブの外観は、「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**ギターベンド (Guitar Bends)**」ページで変更できます。ギタープリベンド/プリダイブの後に続く音符はリストライクと呼ばれます。
- 初期設定では、単一の声部の符尾、符尾の符鉤、および連符は符尾が上向き状態でタブ譜に表示されるため、ギターベンド、ベンディング、プリダイブ、ダイブ、およびリターンと重なることがあります。そのため、タブ譜にこれらの記譜記号とリズムの両方を表示するプロジェクトについては、「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**タブ譜 (Tablature)**」ページにある「**符尾のデフォルトの向き (Default stem direction)**」を「**下 (Down)**」に変更することをおすすめします。

#### 関連リンク

[浄書モードのベンディング/プリダイブ \(1481 ページ\)](#)

[ギターのベンディング/プリダイブの入力 \(386 ページ\)](#)

[タブ譜 \(1737 ページ\)](#)

[「浄書オプション \(Engraving Options\)」ダイアログ \(923 ページ\)](#)

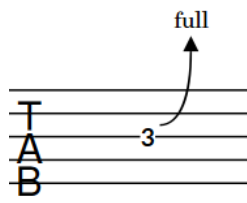
## ギターポストベンド

ギターポストベンドはエレキギターで一般的に使用される演奏技法で、演奏者は音を鳴らしてから弦に力を加えて通常の位置からずらします。ベンドさせると弦の張りが強くなり、特有のピッチの変動が得られます。微分音のポストベンドは、ブルース音楽では特に慣用的に使われています。

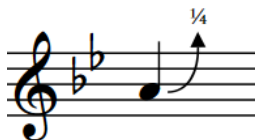
Dorico Pro では、ギターポストベンドはフレット楽器に属する音符のプロパティであるため、各音符にのみ適用されます。音符の譜表とタブ譜のどちらでも同様に、先端が矢印になった上向きの曲線を使って記譜され、矢印の上にベンドの音程が表示されます。



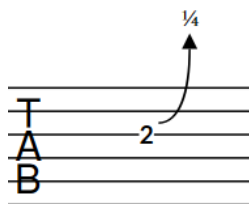
音符の譜表のギターポストベンド



タブ譜のギターポストベンド



音符の譜表の微分音のポストバンド

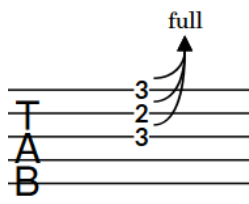


タブ譜の微分音のポストバンド

和音を構成する複数の音符にギターポストバンドを入力すると、自動的にそれぞれの矢印先端がひとつにまとまって表示されます。音符の譜表では、和音の中の音符の譜表位置に従い、適切な数の曲線が表示されます。



音符の譜表の和音のギターポストバンド



タブ譜の和音のギターポストバンド

#### 補足

ギターポストバンドは現在のところ再生には反映されません。これは将来のバージョンでサポートされる予定です。

#### 関連リンク

[浄書モードのギターポストバンド \(1483 ページ\)](#)

[ギターポストバンドの入力 \(386 ページ\)](#)

## ビブラートバーのダイブとリターン

ビブラートバーのダイブとリターンはエレキギターのビブラートバーを使用する演奏技法で、音を鳴らしてからビブラートバーで弦を緩めて、そのあとすぐに張ります。これによりピッチが下がってからまた上がる特徴的なピッチ変動が得られます。

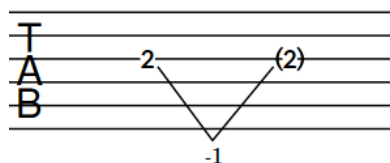
Dorico Pro では、それぞれのビブラートバーのダイブとリターンはビブラートバーバンドのアイテム 2 つから構成され、1 つめのビブラートバーバンドが終了する同じ音符から 2 つめのビブラートバーバンドが開始します。それぞれのビブラートバーバンドは 2 つの音符を繋いでいます。

1 ステップ (全音) までのバンドの音程で、ビブラートバーのダイブとリターンが再生に反映されます。

音符の譜表では、ビブラートバーのダイブとリターンはギターバンドと同じような外観で、開始位置と終了位置の符頭の間に斜めの線を使って記譜されます。タブ譜では、V 字になった 2 本の直線で記譜され、V 字の頂点にバンドの音程が表示されます。中央の音符のフレット番号は非表示となり、終了位置の音符のフレット番号は自動的に括弧つきで表示されます。



音符の譜表のビブラートバーのダイブとリターン

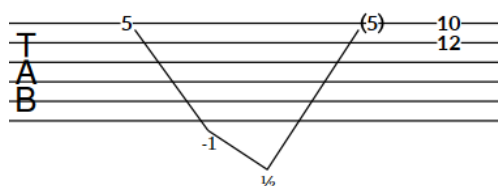


タブ譜のビブラートバーのダイブとリターン

「E-D-C」のように連続で同じピッチの方向に変動するビブラートバーバンドは、タブ譜の譜表を越えて突出したラインに各ビブラートバーバンドの音程が示される形で記譜されます。



音符の譜表の連続するビブラートバーバンド

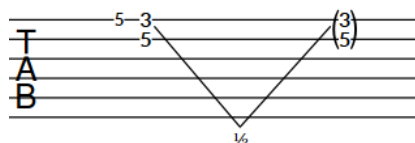


タブ譜の連続するビブラートバーバンド

和音を構成する複数の音符にビブラートバーのダイブとリターンを入力すると、すべての音符でバンドの音程が同じである限り、タブ譜には1本のV字線が表示されます。



音符の譜表の和音をつなぐビブラートバーのダイブとリターン



タブ譜の和音をつなぐビブラートバーのダイブとリターン

#### 関連リンク

[ポップオーバーを使ったビブラートバーのダイブとリターンの入力 \(389 ページ\)](#)

[パネルを使ったビブラートバーのダイブとリターンの入力 \(390 ページ\)](#)

[浄書モードのビブラートバーのダイブとリターン \(1483 ページ\)](#)

[ビブラートバーの演奏技法 \(1485 ページ\)](#)

[括弧付きの符頭 \(1406 ページ\)](#)

[タブ譜 \(1737 ページ\)](#)

## バンドの音程

バンドの音程はギターバンド、プリバンド、プリダイブ、ポストダイブ、およびダイブとリターンが音程を変化させる量を示しており、テキストまたは数字/分数を使用して1ステップを基準に表現されます。大半のバンドの音程はタブ譜にしか表示されませんが、ギターポストバンドは例外で、これは音符の譜表にも音程が表示されます。

たとえば、**full** は1ステップ、**1/2** は半ステップ、**1 1/2** は短3度のギターバンド、プリバンドまたはポストバンドをそれぞれ表わします。

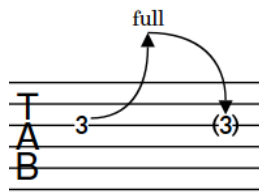
ギタープリダイブおよびビブラートバーのダイブとリターンのバンドの音程は、常に数字/分数で表示されます。たとえば、**1** は1ステップのビブラートバーのダイブとリターンとなります。

## ギターベンド

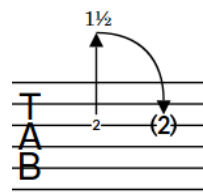
浄書オプションでギターベンド、プリベンド、ポストベンドおよびビブラートバーのダイブとリターンの設定をプロジェクト全体に適用する

微分音のベンドの音程は、 $\frac{3}{4}$ のように、適用中の調性システムに応じた分数で表示されます。微分音のポストベンドのベンドの音程は、 $\frac{1}{4}$ のように表示されます。

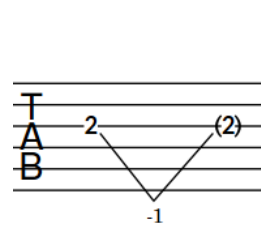
例



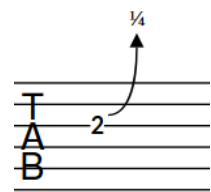
音程が1ステップのギターベンド (full と表示)



音程が短3度のギタープリベンド ( $1\frac{1}{2}$  と表示)



音程が1ステップのビブラートバーのダイブとリターン (-1 と表示)



音程が分数のギターポストベンド ( $\frac{1}{4}$  と表示)

ギターベンド、プリベンド、プリダイブ、ポストダイブのベンドの音程は、対応する記譜記号の矢印またはラインの上に配置されます。ダイブとリターンの場合、音符のピッチ変化の方向に応じて譜表の上または下の「V」の位置にベンドの音程が表示されます。

ギターベンド、プリベンド、プリダイブおよびダイブとリターンについては、ベンドの音程はタブ譜にのみ表示されます。ギターポストベンドの音程は、音符の譜表とタブ譜の両方に表示されます。

### ヒント

ギターベンドの音程のデフォルトの外観は「浄書オプション (Engraving Options)」の「ギターベンド (Guitar Bends)」ページで変更でき、微分音のポストベンドの音程を非表示にすることもできます。

### 関連リンク

[タブ譜 \(1737 ページ\)](#)

[「浄書オプション \(Engraving Options\)」ダイアログ \(923 ページ\)](#)

[ビブラートバーのディップの音程を変更する \(1491 ページ\)](#)

[ギターベンドとギターテクニックの入力方法 \(384 ページ\)](#)

## 浄書オプションでギターベンド、プリベンド、ポストベンドおよびビブラートバーのダイブとリターンの設定をプロジェクト全体に適用する

ギターベンド、プリベンド、ポストベンドおよびビブラートバーのダイブとリターンの外観と位置に関するプロジェクト全体の設定は、「浄書オプション (Engraving Options)」の「ギターベンド (Guitar Bends)」ページで変更できます。

「ギターベンド (Guitar Bends)」ページのオプションを使用すると、音符の譜表とタブ譜の両方について、ギターベンド、プリベンドおよびポストベンドの高さ、最小水平スペーシングの要件、および太さを変更できます。タブ譜については、ベンドの音程、リリース、ホールドラインの外観に関するオプションが複数用意されています。また符頭、連桁および譜表線に対するギターベンド、プリベンド、ポストベンドおよびビブラートバーのダイブとリターンの終端の詳細な位置も設定できます。

多くのオプションに、オプションを楽譜に適用したときにどのように表示されるかを示す図があります。

関連リンク

[「浄書オプション \(Engraving Options\)」 ダイアログ \(923 ページ\)](#)

[ギターテクニック \(1485 ページ\)](#)

## ギターバンドホールドの線を表示/非表示にする

ギターバンドホールドの線は、音符 (通常はタイでつながれた音符) のデュレーションの間、バンドを保持するよう指示します。タブ譜のギターバンドホールドの線を表示/非表示にできます。

### 補足

これらの手順は、ギターバンドにのみ適用されます。ベンディングまたはリリースにホールドの線を表示することはできません。

### 前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。
- 下ゾーンのツールバーで「プロパティ (Properties)」を選択しておきます。
- 浄書モードの場合は、浄書ツールボックスで「グラフィックの編集 (Graphic Editing)」を選択しておきます。

### 手順

1. ホールドの線を表示/非表示にするギターバンドを選択します。この操作は、記譜モードおよび浄書モードの音符の譜表とタブ譜で行なえます。
2. プロパティパネルの「ギターバンド (Guitar Bends)」グループで、「ホールドを表示 (Show hold)」をオン/オフにします。

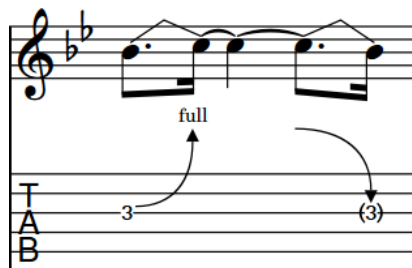
### 結果

「ホールドを表示 (Show hold)」をオンにすると、タブ譜の選択したバンドにホールドの線が表示され、オフにすると非表示になります。

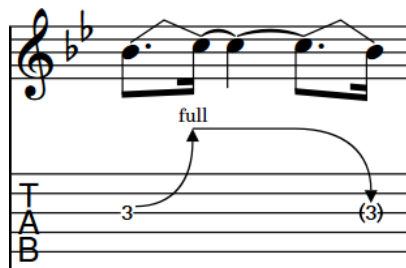
### ヒント

ギターバンドホールドは実線または破線で表示できます。すべてのギターバンドホールドの線のタイプは、「浄書オプション (Engraving Options)」 > 「ギターバンド (Guitar Bends)」 > 「デザイン (Design)」で変更できます。

### 例



ホールドの線为非表示にした状態



ホールドの線を表示した状態

## ギタープリベンド/プリダイブの方向を変更する

ギタープリベンド/プリダイブの方向を個別に変更できます。この操作は現在のレイアウトとフレームチェーンのみに対して、もしくはすべてのレイアウトとフレームチェーンに対して行なえます。初期設定では、単一の声部におけるギターのプリベンド/プリダイブは音符の符頭側に配置されます。複声部においては、音符の符尾側に配置されます。

### 前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。
- 下ゾーンのツールバーで「プロパティ (Properties)」を選択しておきます。
- 浄書モードの場合は、浄書ツールボックスで「グラフィックの編集 (Graphic Editing)」を選択しておきます。
- ローカルのプロパティ変更に関して、適切なプロパティ範囲を選択しておきます。

---

### 手順

1. 向きを変更するギターのプリベンド/プリダイブを選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「ギタープリベンド (Guitar Pre-bends)」グループで、「プリベンドの方向 (Pre-bend direction)」をオンにします。
3. 以下のいずれかのオプションを選択します。
  - 上 (Up)
  - 下 (Down)

---

### 結果

選択したギタープリベンド/プリダイブの方向が変更されます。プロパティ範囲を「ローカル (Locally)」に設定している場合、この変更は現在のレイアウトおよびフレームチェーンのみに影響します。

### ヒント

音符の譜表でギターベンドを選択して **[F]** を押すと、ギターベンドの方向を変更できます。ただし、このキーボードショートカットはギタープリベンド/プリダイブには使用できません。

---

### 関連リンク



- [譜表に対するアイテムの位置の変更 \(474 ページ\)](#)
- [ビブラートバーのディップの音程を変更する \(1491 ページ\)](#)
- [譜表に対するギターテクニックの位置の変更 \(1492 ページ\)](#)
- [浄書ツールボックス \(554 ページ\)](#)
- [プロパティ範囲の変更 \(828 ページ\)](#)
- [プロパティ設定を別のレイアウト/フレームチェーンにコピーする \(825 ページ\)](#)

## プリベンド/プリダイブの臨時記号を表示/非表示にする

たとえば、タブ譜にも音程を明確に表示するレイアウトで水平方向のスペースを節約する場合などに、プリベンド/プリダイブの臨時記号を個別に表示/非表示にできます。この操作は現在のレイアウトとフレームチェーンのみに対して、もしくはすべてのレイアウトとフレームチェーンに対して行なえます。

### 前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。

- 下ゾーンのツールバーで「プロパティ (Properties)」を選択しておきます。
- 浄書モードの場合は、浄書ツールボックスで「グラフィックの編集 (Graphic Editing)」を選択しておきます。
- ローカルのプロパティ変更に関して、適切なプロパティ範囲を選択しておきます。

---

#### 手順

1. 臨時記号の表示/非表示を切り替えるプリバンド/プリダイブを選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「ギタープリバンド (Guitar Pre-bends)」グループで、「プリバンドの臨時記号 (Pre-bend accidental)」をオンにします。
3. 以下のいずれかのオプションを選択します。
  - 非表示 (Hide)
  - 表示 (Show)

---

#### 結果

「非表示 (Hide)」を選択すると、選択したギタープリバンドの臨時記号が非表示になり、「表示 (Show)」を選択すると表示されます。これは、選択したタブ譜のギタープリバンドに表示される音程には影響しません。プロパティ範囲を「ローカル (Locally)」に設定している場合、この変更は現在のレイアウトおよびフレームチェーンのみに影響します。

## ベンディング、プリダイブおよびポストバンドの削除

ベンディング、プリダイブおよびポストバンドは、入力後に音符から削除できます。ただし Dorico Pro では、ギターのベンディング、プリダイブおよびポストバンドは個別のアイテムではなく音符のプロパティとして扱われるため、他のアイテムとは別に選択して削除する必要があります。

---

#### 手順

1. 記譜モードで、ベンディング、プリダイブまたはポストバンドを削除する音符を選択します。
2. 以下のいずれかの操作を行ないます。
  - ベンディング/プリダイブを削除するには、プロパティパネルの「ギタープリバンド (Guitar Pre-bends)」グループで「プリバンドの音程 (Pre-bend interval)」をオフにします。
  - ギターポストバンドを削除するには、プロパティパネルの「ギターポストバンド (Guitar Post-bends)」グループで「ポストバンドの音程 (Post-bend interval)」をオフにします。

---

#### 結果

選択した音符からベンディング、プリダイブ、またはポストバンドが削除されます。

#### 関連リンク

[ギターのベンディング/プリダイブの入力 \(386 ページ\)](#)

[ギターポストバンドの入力 \(386 ページ\)](#)

## 浄書モードのギターベンド

浄書モードでは、ギターベンド、リリース、およびホールドに複数のハンドルがあり、それらを個別に動かすことで、音符の譜表とタブ譜それぞれの表示上の位置や形状を調節できます。

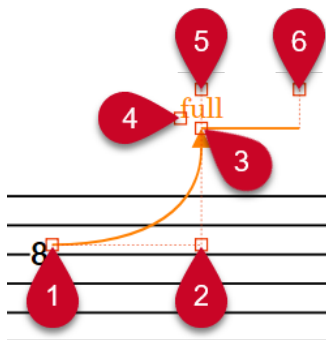
音符の譜表では、ギターベンドとリリースには3つの四角いハンドルがあります。開始ハンドルまたは終了ハンドルを動かすと、開始ハンドルおよび終了ハンドルに対する相対的な位置を保つために中央ハンドルも移動します。



浄書モードの音符の譜表のギターベンドハンドル

### ギターベンドとホールド

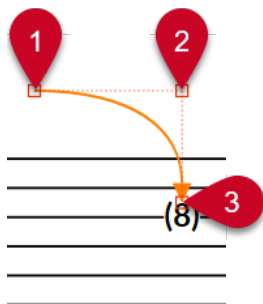
タブ譜のギターベンドとホールドには、以下のハンドルがあります。



- 1 ギターベンドの開始ハンドル
- 2 ギターベンドの中央ハンドル
- 3 ギターベンドの終了ハンドル
- 4 ベンドの音程ハンドル
- 5 ホールドの開始ハンドル
- 6 ホールドの終了ハンドル

### リリース

タブ譜のリリースには、以下のハンドルがあります。



- 1 リリースの開始ハンドル



## 2 リリースの中央ハンドル

## 3 リリースの終了ハンドル

これらのハンドルを動かすと、ギターバンドとリリースの形状の変更、ギターバンドホルドの表示上の長さや角度の変更、およびバンドの音程の移動を行なえます。ギターバンドの終了ハンドルを動かすと、終了ハンドルに対する相対的な位置を保つためにバンドの音程も移動します。

ギターバンドが組段区切りおよびフレーム区切りをまたぐ場合は、区切りの両側のギターバンドの分割された部分をそれぞれ個別に移動できます。

### 補足

- ギターバンドランや、リターンを開始音と同じ音符で終了するギターバンドなど、隣接し合うギターバンドはグループとして機能します。マウスを使用する場合、グループに属するギターバンドのいずれか1つを上下に移動すると、グループ全体が移動します。マウスを使用してグループに属するギターバンドのハンドルを個別に移動すると、隣接するギターバンドが補う形で自動的に調整されます。

キーボードを使用してグループに属する単独のギターバンドまたは単独のハンドルを移動した場合、隣接するギターバンドへの影響はありません。

- ホールド全体を移動することはできません。ハンドルを動かす必要があります。
- ギターバンドのハンドルを移動すると、移動した種類に応じて、プロパティパネルの「**ギターバンド (Guitar Bends)**」グループにある以下のプロパティが自動的にオンになります。
  - 「**開始オフセット (Start offset)**」は、ギターバンドの開始ハンドルおよびリリースハンドルを移動させます。「X」は水平位置を移動させ、「Y」は垂直位置を移動させます。
  - 「**中央オフセット (Mid offset)**」は、ギターバンドの中央ハンドルおよびリリースハンドルを移動させます。「X」は水平位置を移動させ、「Y」は垂直位置を移動させます。
  - 「**終了オフセット (End offset)**」は、ギターバンドの終了ハンドルおよびリリースハンドルを移動させます。「X」は水平位置を移動させ、「Y」は垂直位置を移動させます。
  - 「**音程オフセット (Interval offset)**」は、ギターバンドの音程ハンドルを移動させます。「X」は水平位置を移動させ、「Y」は垂直位置を移動させます。
  - 「**ホールド開始オフセット (Hold start offset)**」は、ギターバンドホルドの開始ハンドルを移動させます。「X」は水平位置を移動させ、「Y」は垂直位置を移動させます。
  - 「**ホールド終了オフセット (Hold end offset)**」は、ギターバンドホルドの終了ハンドルを移動させます。「X」は水平位置を移動させ、「Y」は垂直位置を移動させます。

---

### 関連リンク

[アイテムの表示位置の移動 \(652 ページ\)](#)

[バンドの音程 \(1475 ページ\)](#)

[組段区切り \(789 ページ\)](#)

[フレーム区切り \(792 ページ\)](#)

[ギターバンドとギターテクニックの入力方法 \(384 ページ\)](#)

## 浄書モードのベンディング/プリダイブ

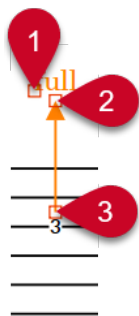
浄書モードでは、ベンディング/プリダイブに複数のハンドルがあり、それらを個別に動かすことで、音符の譜表とタブ譜それぞれの表示上の位置や形状を調節できます。

音符の譜表では、ベンディング/プリダイブには3つの四角いハンドルがあります。開始ハンドルまたは終了ハンドルを動かすと、開始ハンドルおよび終了ハンドルに対する相対的な位置を保つために中央ハンドルも移動します。

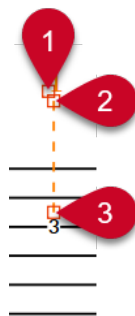


浄書モードの音符の譜表のギタープリベンド/プリダイブハンドル

タブ譜のギタープリベンド/プリダイブには、以下のハンドルがあります。



ギタープリベンドのハンドル



ギタープリダイブのハンドル

- 1 ベンドの音程ハンドル
- 2 ギタープリベンド/プリダイブの終了ハンドル
- 3 ギタープリベンド/プリダイブの開始ハンドル

これらのハンドルを動かすと、音符の譜表のギタープリベンド/プリダイブの形状の変更、タブ譜のプリベンド/プリダイブの表示上の長さや角度の変更、およびベンドの音程の移動を行なえます。ギタープリベンド/プリダイブの終了ハンドルを動かすと、終了ハンドルに対する相対的な位置を保つためにベンドの音程も移動します。

#### 補足

- ギタープリベンド/プリダイブ全体を移動することはできません。ハンドルを動かす必要があります。
- ギタープリベンド/プリダイブのハンドルを移動すると、移動した種類に応じて、プロパティパネルの「**ギタープリベンド (Guitar Pre-bends)**」グループにある以下のプロパティが自動的にオンになります。
  - 「**開始オフセット (Start offset)**」は、ギタープリベンド/プリダイブの開始ハンドルを移動させます。「**X**」は水平位置を移動させ、「**Y**」は垂直位置を移動させます。
  - 「**中央オフセット (Mid offset)**」は、ギタープリベンド/プリダイブの中央ハンドルを移動させます。「**X**」は水平位置を移動させ、「**Y**」は垂直位置を移動させます。
  - 「**終了オフセット (End offset)**」は、ギタープリベンド/プリダイブの終了ハンドルを移動させます。「**X**」は水平位置を移動させ、「**Y**」は垂直位置を移動させます。
  - 「**音程オフセット (Interval offset)**」は、ギタープリベンド/プリダイブの音程ハンドルを移動させます。「**X**」は水平位置を移動させ、「**Y**」は垂直位置を移動させます。

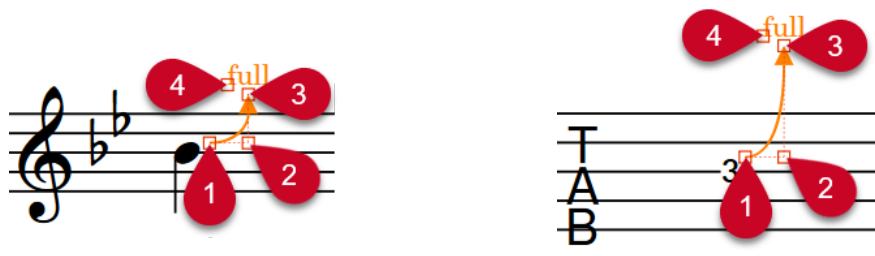
関連リンク

[ギターのベンディング/プリダイブの入力 \(386 ページ\)](#)

## 浄書モードのギターポストベンド

浄書モードでは、ギターポストベンドに複数のハンドルがあり、それらを個別に動かすことで、音符の譜表とタブ譜それぞれの表示上の位置や形状を調節できます。

音符の譜表とタブ譜の両方で、ギターポストベンドには以下のハンドルが表示されます。



- 1 ギターポストベンドの開始ハンドル
- 2 ギターポストベンドの中央ハンドル
- 3 ギターポストベンドの終了ハンドル
- 4 ベンドの音程ハンドル

これらのハンドルを動かすと、ギターポストベンドの形状の変更およびベンドの音程の移動を行なえます。ギターポストベンドの終了ハンドルを動かすと、終了ハンドルに対する相対的な位置を保つためにベンドの音程も移動します。

### 補足

ギターポストベンドのハンドルを移動すると、移動した種類に応じて、プロパティパネルの「**ギターポストベンド (Guitar Post-Bends)**」グループにある以下のプロパティが自動的にオンになります。

- 「**開始オフセット (Start offset)**」は、ギターポストベンドの開始ハンドルを移動させます。「X」は水平位置を移動させ、「Y」は垂直位置を移動させます。
- 「**中央オフセット (Mid offset)**」は、ギターポストベンドの中央ハンドルを移動させます。「X」は水平位置を移動させ、「Y」は垂直位置を移動させます。
- 「**終了オフセット (End offset)**」は、ギターポストベンドの終了ハンドルを移動させます。「X」は水平位置を移動させ、「Y」は垂直位置を移動させます。
- 「**音程オフセット (Interval offset)**」は、ギターポストベンドの音程ハンドルを移動させます。「X」は水平位置を移動させ、「Y」は垂直位置を移動させます。

### 関連リンク

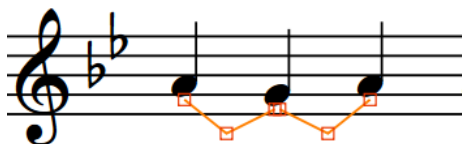
[アイテムの表示位置の移動 \(652 ページ\)](#)

[ギターポストベンドの入力 \(386 ページ\)](#)

## 浄書モードのビブラートバーのダイブとリターン

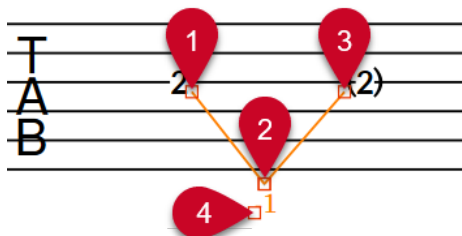
浄書モードでは、それぞれのビブラートバーのダイブとリターンに複数のハンドルがあり、それらを個別に動かして表示上の位置や形状を調節できます。

音符の譜表では、それぞれのビブラートバーのダイブとリターンには3つの四角いハンドルがあり、それらを個別に動かすことができます。開始ハンドルまたは終了ハンドルを動かすと、開始ハンドルおよび終了ハンドルに対する相対的な位置を保つために中央ハンドルも移動します。



浄書モードの音符の譜表に表示されたビブラートバーのダイブとリターンのハンドル

タブ譜では、ビブラートバーのダイブとリターンには以下のハンドルがあります。



- 1 ビブラートバーのダイブ開始ハンドル
- 2 ビブラートバーのダイブ終了ハンドル/ビブラートバーのリターン開始ハンドル
- 3 ビブラートバーのリターン終了ハンドル
- 4 ベンドの音程ハンドル

これらのハンドルを動かすと、ビブラートバーのダイブとリターンの形状または角度の変更およびベンドの音程の移動を行なえます。ビブラートバーのダイブ終了ハンドルまたはビブラートバーのリターン開始ハンドルをマウスで動かすと、どちらのハンドルも一緒に動きます。キーボードを使用してハンドルを動かすと、初期設定ではビブラートバーダイブの終了ハンドルのみが動きます。同じピッチ方向の連続するビブラートバーベンドについても同様です。

ビブラートバーのダイブ終了ハンドルを動かすと、終了ハンドルに対する相対的な位置を保つためにベンドの音程も移動します。

ビブラートバーのダイブとリターンが組段区切りおよびフレーム区切りをまたぐ場合は、区切りの両側に分割された部分をそれぞれ個別に移動できます。

#### 補足

ビブラートバーのダイブとリターンのハンドルを移動すると、移動した種類に応じて、プロパティパネルの「ギターバンド (Guitar Bends)」グループにある以下のプロパティが自動的にオンになります。

- 「開始オフセット (Start offset)」は、ビブラートバーのダイブとリターンの開始ハンドルを移動させます。「X」は水平位置を移動させ、「Y」は垂直位置を移動させます。
- 「中央オフセット (Mid offset)」は、ビブラートバーのダイブとリターンの中央ハンドルを移動させます。「X」は水平位置を移動させ、「Y」は垂直位置を移動させます。
- 「終了オフセット (End offset)」は、ビブラートバーのダイブとリターンの終了ハンドルを移動させます。「X」は水平位置を移動させ、「Y」は垂直位置を移動させます。
- 「音程オフセット (Interval offset)」はビブラートバーのダイブとリターンの音程ハンドルを移動させます。「X」は水平位置を移動させ、「Y」は垂直位置を移動させます。

#### 関連リンク

[ビブラートバーの演奏技法 \(1485 ページ\)](#)

[ギターバンドとギターテクニクの入力方法 \(384 ページ\)](#)

[組段区切り \(789 ページ\)](#)

[フレーム区切り \(792 ページ\)](#)

# ギターテクニック

ギターテクニックとは、ハンマーオン、プルオフ、エレキギターのビブラートバーを使ったピッチ変化など、ギター音楽に関連するさまざまな演奏技法の総称です。

関連リンク

[ギターバンドとギターテクニックの入力方法 \(384 ページ\)](#)

[ギターバンド \(1469 ページ\)](#)

[ギタープリベンドとギタープリダイブ \(1472 ページ\)](#)

[ギターポストベンド \(1473 ページ\)](#)

[ビブラートバーのダイブとリターン \(1474 ページ\)](#)

[ベンドの音程 \(1475 ページ\)](#)

## ビブラートバーの演奏技法

電子フレット楽器 (一般的にはギター) のビブラートバーを使用する演奏技法にはいくつかの種類があります。Dorico Pro で使用できるビブラートバーの演奏技法は、異なるカテゴリに分かれています。

### ビブラートバーのダイブ

ビブラートバーのダイブは、音符を演奏した後にビブラートバーでピッチを下げることで、音が開始してからピッチが下がっていく効果を指示します。

Dorico Pro では、ジャズアーティキュレーションとビブラートバーの指示記号を併せて使用して音符の右側に降下線を表示することで、ビブラートバーのダイブを記譜できます。



### ビブラートバーのスクープ

ビブラートバーのスクープは、音符を演奏する直前にビブラートバーを押し下げ、そのあと素早くビブラートバーを開放することで、音が開始してからピッチが上がる効果を指示します。

Dorico Pro では、ビブラートバーのスクープは音符のプロパティとして扱われるため、単一の音符にのみ適用されます。初期設定では、ビブラートバーのスクープは音符の譜表にのみ表示され、譜表内の符頭の左に配置されます。ビブラートバーのスクープなどのギターテクニックの表示/非表示の切り替えは、音符の譜表のみ、タブ譜のみ、またはその両方に対して設定できます。

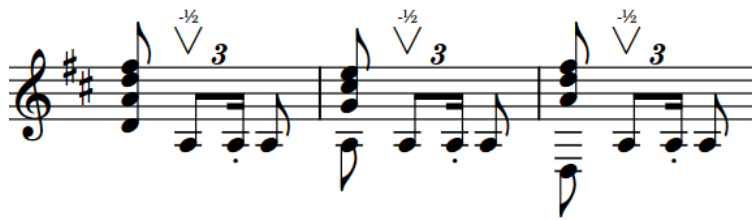


### ビブラートバーのディップ

ビブラートバーのディップは、音符を演奏した後にビブラートバーを使用して、指定した音程でピッチを下げて上げることを指示します。

Dorico Pro では、ビブラートバーのディップは装飾音として扱われます。これらは、適用する音符とは個別に選択したり削除したりできます。ビブラートバーのディップは音符の譜表

とタブ譜の両方に表示され、表示位置は譜表の上です。ビブラートバーのディップの譜表に対する位置は個別に変更できます。



### ビブラートバーの指示記号/ライン

ビブラートバーの指示記号は、ビブラートバーの使用を指示するテキストです。複数の音符に適用する場合、通常は破線で範囲が表示されます。

Dorico Pro では、ビブラートバーの指示記号/ラインは演奏技法として扱われます。デュレーションがある場合はラインが表示されます。これらは、適用する音符とは個別に選択したり削除したりできます。またビブラートバーのラインのデュレーション線のスタイルは、演奏技法の延長線と同じ方法で変更できます。



### 補足

ビブラートバーの演奏技法は現在のところ再生には反映されません。これは将来のバージョンでサポートされる予定です。

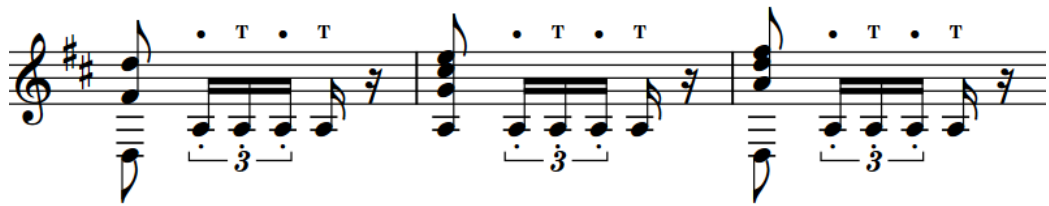
### 関連リンク

- [ギターバンドとギターテクニックの入力方法 \(384 ページ\)](#)
- [ギターのベンディング/プリダイブの入力 \(386 ページ\)](#)
- [ギタープリバンドとギタープリダイブ \(1472 ページ\)](#)
- [ビブラートバーのダイブとリターン \(1474 ページ\)](#)
- [ジャズアーティキュレーション \(1495 ページ\)](#)
- [装飾音 \(1434 ページ\)](#)
- [演奏技法 \(1536 ページ\)](#)
- [演奏技法の延長線 \(1542 ページ\)](#)
- [演奏技法のデュレーション \(1543 ページ\)](#)
- [アイテムの長さの変更 \(470 ページ\)](#)
- [演奏技法の延長線のスタイルを変更する \(1547 ページ\)](#)
- [譜表に対するアイテムの位置の変更 \(474 ページ\)](#)
- [譜表に対するギターテクニックの位置の変更 \(1492 ページ\)](#)
- [音符の譜表とタブ譜のギターテクニックの表示/非表示を切り替える \(1491 ページ\)](#)
- [浄書オプションでギターテクニックの設定をプロジェクト全体に適用する \(1489 ページ\)](#)

## タッピング

タッピングとは、フレット楽器の弦を十分な強さで押すことで、新たに弦を弾かなくても対応するピッチのサウンドを鳴らす奏法です。タッピングの指示記号は、音符ごとに右手と左手のどちらを使用するか指定できます。通常は「T」の文字、「+」記号、またはドットで表示されます。

表記規則によれば、同じ手によるタッピングまたは同じ弦上で異なるピッチの連続した音符に対するタッピングの指示記号は、タッピングフレーズ全体をつなぐスラーとともに記譜されます。これはハンマーオンとプルオフの場合とよく似ていますが、タッピングの指示記号が各音符に表示されるのに対し、ハンマーオンとプルオフの指示記号は通常スラーに中央揃えで表示されます。



右手のタッピングと左手のタッピングを使用するフレーズ

初期設定では、タッピングの指示記号は音符の譜表のみに表示され、表示位置は譜表の上です。タッピングの指示記号の譜表に対する位置は個別に変更できます。またタッピングの指示記号などのギターテクニックの表示/非表示の切り替えは、音符の譜表のみ、タブ譜のみ、またはその両方に対して設定できます。

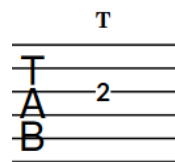
Dorico Pro では、タッピングの指示記号は音符のプロパティと見なされます。タッピングの指示記号には以下の種類があります。

### 右手のタッピング

右手のタッピングの指示記号は、指定されたピッチで弦を右手でタッピングすることを指示します。Dorico Pro の初期設定では、右手のタッピングの指示記号は「T」の文字で表示されます。



音符の譜表の右手のタッピング



タブ譜の右手のタッピング

### ヒント

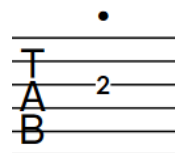
右手のタッピングの指示記号のデフォルトの外観は、「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**ギターテクニック (Guitar Techniques)**」ページで変更できます。

### 左手のタッピング

左手のタッピングの指示記号は、指定されたピッチで弦を左手でタッピングすることを指示します。Dorico Pro では、左手のタッピングの指示記号はドットで表示されます。



音符の譜表の左手のタッピング



タブ譜の左手のタッピング

### 関連リンク

[タッピングの入力 \(397 ページ\)](#)

[浄書オプションでギターテクニックの設定をプロジェクト全体に適用する \(1489 ページ\)](#)

[「浄書オプション \(Engraving Options\)」ダイアログ \(923 ページ\)](#)

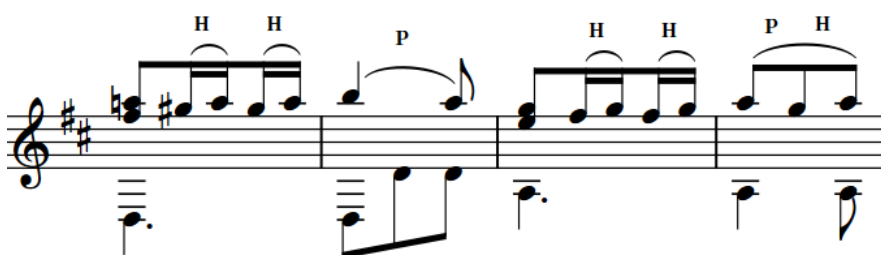
[譜表に対するギターテクニックの位置の変更 \(1492 ページ\)](#)

[アイテムの表示位置の移動 \(652 ページ\)](#)

## ハンマーオンとプルオフ

ハンマーオンとプルオフは、フレット楽器の弦を左手で十分な強さでタッピングしたり、つま弾いたりすることで、新たに弦を弾かなくてもレガート効果とともに対応するピッチのサウンドを鳴らす奏法です。リガードとは、ハンマーオンとプルオフそれぞれ1つ以上を1つのフレーズ内で組み合わせたものです。

ハンマーオンとプルオフは対応する音符をつなぐスラーと組み合わせたり、それぞれ「H」と「P」の文字で記譜されます。Dorico Pro では、ハンマーオン/プルオフの指示記号は自動的にスラーの中央に配置されます。リガードの場合、ハンマーオン/プルオフのそれぞれの指示記号は、音符がまたがる範囲の中央に対応する方向で配置されます。「浄書オプション (Engraving Options)」の「ギターテクニック (Guitar Techniques)」ページでは、ハンマーオン/プルオフの指示記号が各音符の上に表示されるようになります。



ハンマーオン、プルオフ、リガードを使用するフレーズ

初期設定では、ハンマーオン/プルオフは音符の譜表とタブ譜の両方に表示され、表示位置は譜表の上です。ハンマーオン/プルオフの指示記号の譜表に対する位置は個別に変更できます。またハンマーオン/プルオフなどのギターテクニックの表示/非表示の切り替えは、音符の譜表のみ、タブ譜のみ、またはその両方に対して設定できます。

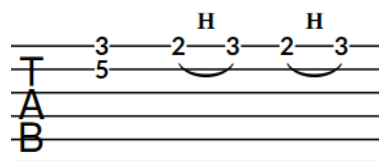
Dorico Pro では、ハンマーオン/プルオフの指示記号は音符のプロパティと見なされます。

### ハンマーオン

ハンマーオンは弦を新たに弾かずに、指定したピッチを左手でタップすることを指示します。ハンマーオンは「C-D」のように、同じ弦上でピッチが上がる2つ以上の音符が必要です。Dorico Pro では、ハンマーオンは「H」の文字で表示されます。



音符の譜表のハンマーオン

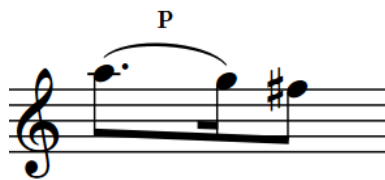


タブ譜のハンマーオン

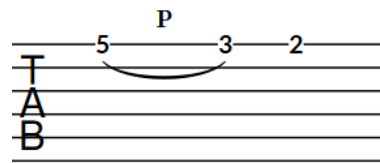
### プルオフ

プルオフは弦を新たに弾かずに、指定したピッチを左手でつま弾くことを指示します。プルオフは「D-C」のように、同じ弦上でピッチが下がる2つ以上の音符が必要です。Dorico Pro では、プルオフは「P」の文字で表示されます。





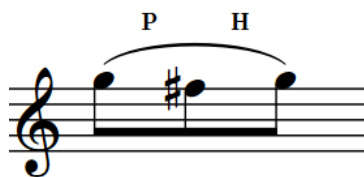
音符の譜表のプルオフ



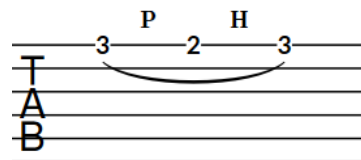
タブ譜のプルオフ

### リガード

リガードは、1つのフレーズ内でハンマーオンとプルオフの両方を行なうことを指示します。リガードは「C-D-C」のように、同じ弦上でピッチの方向が異なる音符が3つ以上必要です。Dorico Proでは、リガードはハンマーオンとプルオフそれぞれ1つ以上で構成されません。



音符の譜表のリガード



タブ譜のリガード

### 関連リンク

- [ハンマーオン/プルオフの入力 \(395 ページ\)](#)
- [譜表に対するギターテクニックの位置の変更 \(1492 ページ\)](#)
- [アイテムの表示位置の移動 \(652 ページ\)](#)
- [フレット楽器のフィンガリング \(1299 ページ\)](#)
- [「浄書オプション \(Engraving Options\)」 ダイアログ \(923 ページ\)](#)

## 浄書オプションでギターテクニックの設定をプロジェクト全体に適用する

「浄書オプション (Engraving Options)」の「ギターテクニック (Guitar Techniques)」ページで、ビブラートバーのディップ、ビブラートバーのスクープ、タッピング、ハンマーオン、プルオフの指示記号の外観と位置を設定し、プロジェクト全体に適用できます。

「ギターテクニック (Guitar Techniques)」ページのオプションでは、タッピング、ハンマーオン、プルオフの指示記号の外観とデフォルト位置、ビブラートバーのディップとビブラートバーのスクープの位置、および各ギターテクニックが音符の譜表のみ、タブ譜のみ、両方のどれに表示されるかを変更できます。

オプションと一緒に表示される図は、オプションを楽譜に適用したときにどのように表示されるかを示します。

### 関連リンク

- [「浄書オプション \(Engraving Options\)」 ダイアログ \(923 ページ\)](#)
- [音符の譜表とタブ譜のギターテクニックの表示/非表示を切り替える \(1491 ページ\)](#)

## 音符をデッドノートとして表示する

フレット楽器に属する個々の音符をデッドノートとして表示できます。デッドノートは音符の譜表ではX形の符頭を使用して表示され、タブ譜ではXで表示されます。

### 前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。
- 下ゾーンのツールバーで「プロパティ (Properties)」を選択しておきます。
- 浄書モードの場合は、浄書ツールボックスで「グラフィックの編集 (Graphic Editing)」を選択しておきます。

### 手順

1. デッドノートとして表示する、フレット楽器に属する音符を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「ギターテクニック (Guitar Techniques)」グループで、「デッドノート (Dead note)」をオンにします。

### 結果

選択した音符がデッドノートとして表示されます。

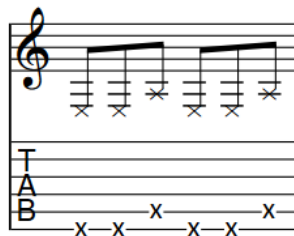
### 補足

デッドノートは現在のところ再生には反映されませんが、これは将来のバージョンにおいて予定されています。

### 例



標準の音符



デッドノート


### 関連リンク

- [浄書ツールボックス \(554 ページ\)](#)
- [タブ譜への音符の入力 \(268 ページ\)](#)
- [括弧付きの符頭 \(1406 ページ\)](#)
- [タブ譜 \(1737 ページ\)](#)

## ビブラートバーのディップの音程を変更する

ビブラートバーのディップの音程を個別に変更できます。初期設定では、ビブラートバーのディップの音程は半ステップになっています。

前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。
- 下ゾーンのツールバーで「プロパティ (Properties)」を選択しておきます。
- 浄書モードの場合は、浄書ツールボックスで「グラフィックの編集 (Graphic Editing)」を選択しておきます。

手順

1. 音程を変更するビブラートバーのディップを選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「装飾音 (Ornaments)」グループで、「上の音程 (Interval above)」の値を変更します。  
たとえば、半ステップの音程には「1」を、1ステップの音程には「2」を、短3度音程には「3」を入力します。

結果

選択したビブラートバーのディップの音程が変更されます。

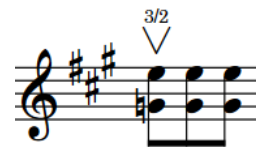
例



半ステップの音程のビブラートバーのディップ



1ステップの音程のビブラートバーのディップ



短3度音程のビブラートバーのディップ

関連リンク

[ポップオーバーを使ったビブラートバーのディップの入力 \(393 ページ\)](#)

[パネルを使ったビブラートバーのディップの入力 \(393 ページ\)](#)

[装飾音の音程の変更 \(1435 ページ\)](#)

[トリル音程 \(1441 ページ\)](#)

## 音符の譜表とタブ譜のギターテクニックの表示/非表示を切り替える

音符の譜表とタブ譜を両方表示する場合、それぞれのギターテクニックを音符の譜表のみ、タブ譜のみ、またはその両方に表示するかを選択して、プロジェクト全体に適用できます。たとえば、タッピング、ハンマーオン、プルオフの指示記号は両方に表示させつつ、ビブラートバーのスクープとディップは音符の譜表のみに表示させる、ということもできます。

音符の譜表とタブ譜のいずれか一方のみが表示されている場合、譜表のタイプに関係なく、ギターテクニックは常に表示されます。

#### 手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[E]** を押して「**浄書オプション (Engraving Options)**」を開きます。
  2. カテゴリリストの「**ギターテクニック (Guitar Techniques)**」をクリックします。
  3. 「**ハンマーオンとプルオフ (Hammer-on and Pull-offs)**」セクションの「**ギターテクニックを表示 (Show guitar techniques)**」で、以下のいずれかのオプションを選択して、タッピング、ハンマーオン、プルオフの指示記号の表示/非表示を切り替えます。
    - **音符の譜表のみ (Notation only)**
    - **音符の譜表とタブ譜 (Notation and tablature)**
    - **タブ譜のみ (Tablature only)**
  4. 「**ビブラートバー (Vibrato Bar)**」セクションの「**ビブラートバー (スcoop) を表示 (Show vibrato bar scoops)**」で、以下のいずれかのオプションを選択します。
    - **音符の譜表のみ (Notation only)**
    - **音符の譜表とタブ譜 (Notation and tablature)**
    - **タブ譜のみ (Tablature only)**
  5. 「**ビブラートバー (ディップ) を表示 (Show vibrato bar dips)**」で、以下のいずれかのオプションを選択します。
    - **音符の譜表のみ (Notation only)**
    - **音符の譜表とタブ譜 (Notation and tablature)**
    - **タブ譜のみ (Tablature only)**
  6. 「**適用 (Apply)**」をクリックしてから「**閉じる (Close)**」をクリックします。
- 

#### 関連リンク

- [「浄書オプション \(Engraving Options\)」ダイアログ \(923 ページ\)](#)
- [ギターバンドとギターテクニックの入力方法 \(384 ページ\)](#)
- [タッピング \(1486 ページ\)](#)
- [ハンマーオンとプルオフ \(1488 ページ\)](#)
- [ビブラートバーの演奏技法 \(1485 ページ\)](#)
- [タブ譜 \(1737 ページ\)](#)
- [音符の譜表とタブ譜を表示または非表示にする \(1739 ページ\)](#)

## 譜表に対するギターテクニックの位置の変更

タッピング、ハンマーオン、プルオフの指示記号は、プロジェクト全体の設定より優先される形で、譜表の上または下に個別に表示位置を変更できます。この操作は現在のレイアウトとフレームチェーンのみに対して、もしくはすべてのレイアウトとフレームチェーンに対して行なえます。

#### 前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。
- 下ゾーンのツールバーで「**プロパティ (Properties)**」 を選択しておきます。
- 浄書モードの場合は、浄書ツールボックスで「**グラフィックの編集 (Graphic Editing)**」 を選択しておきます。
- ローカルのプロパティ変更に関して、適切なプロパティ範囲を選択しておきます。

---

#### 手順

1. ギターテクニックの譜表に対する位置を変更する音符を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「**ギターテクニック (Guitar Techniques)**」グループで、「**演奏技法の配置 (Technique placement)**」をオンにします。
3. 以下のいずれかのオプションを選択します。
  - 上 (Above)
  - 下 (Below)

---

#### 結果

選択した音符のタッピング、ハンマーオン、プルオフの指示記号の譜表に対する位置が変更されます。プロパティ範囲を「**ローカル (Locally)**」に設定している場合、この変更は現在のレイアウトおよびフレームチェーンのみに影響します。

#### ヒント

- ビブラートバーのディップと指示記号/ラインの譜表に対する位置、および音符の譜表のギターベンドの方向は、それぞれを選択しながら **[F]** を押すことで変更できます。
- ハンマーオンとプルオフの指示記号のデフォルト位置は、「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**ギターテクニック (Guitar Techniques)**」ページで、音符の譜表とタブ譜でそれぞれ個別に変更できます。

---

#### 関連リンク

[ギタープリベンド/プリダイブの方向を変更する \(1478 ページ\)](#)

[アイテムの表示位置の移動 \(652 ページ\)](#)

[譜表に対するアイテムの位置の変更 \(474 ページ\)](#)

[「浄書オプション \(Engraving Options\)」ダイアログ \(923 ページ\)](#)

[浄書ツールボックス \(554 ページ\)](#)

[プロパティ範囲の変更 \(828 ページ\)](#)

[プロパティ設定を別のレイアウト/フレームチェーンにコピーする \(825 ページ\)](#)

## ギターテクニックの削除

ビブラートバーのスクープ、タッピング、ハンマーオン、プルオフの指示記号は、入力後に音符から削除できます。ただし、Dorico Pro ではこれらのギターテクニックは個別のアイテムではなく音符のプロパティとして扱われるため、他のアイテムとは別に選択して削除する必要があります。

---

#### 手順

1. 記譜モードで、ギターテクニックを削除する音符を選択します。
2. 以下のいずれかの操作を行なってギターテクニックを削除します。
  - タッピング、ハンマーオン、プルオフの指示記号を削除するには、プロパティパネルの「**ギターテクニック (Guitar Techniques)**」グループにある「**演奏技法 (Technique)**」をオフにします。
  - ギターのビブラートバーのスクープを削除するには、プロパティパネルの「**ギターテクニック (Guitar Techniques)**」グループにある「**ビブラートバー (スクープ) (Vibrato bar scoop)**」をオフにします。

結果

選択した音符からタッピング、ハンマーオン、プルオフの指示記号またはビブラートバーのスクープが削除されます。

# ジャズアーティキュレーション

Dorico Pro におけるジャズアーティキュレーションは、ジャズ特有の装飾音を、特に金管楽器に関して幅広くカバーしています。

これらはジャズアーティキュレーションと呼ばれてはいますが、アーティキュレーションというよりむしろ装飾音として機能します。これらの演奏技法は音符のデュレーションやアタックではなくピッチに変化を与えるためです。このため、これらは Dorico Pro においては装飾音と見なされます。これらは装飾音パネルに収められ、装飾音ポップオーバーを使用しても入力できます。

ジャズアーティキュレーションは、Dorico Pro ではベンドと呼ばれるスラーによく似た曲線と、Dorico Pro ではスムーズと呼ばれる、実線、破線、波線のいずれかによる直線で表示されます。

それぞれの音符は両側、前と後ろに1つずつジャズアーティキュレーションを表示できます。音符の後ろのジャズアーティキュレーションは長さを変更できます。

以下のジャズアーティキュレーションは音符の前に表示されます。

## プロップ

音符に高いピッチからアプローチします。



プロップ (ベンド)



プロップ (スムーズ)

## スクープ/リフト

音符に低いピッチからアプローチします。ベンドによるアプローチはスクープ、スムーズによるアプローチはリフトとなります。



スクープ



リフト (直線)

以下のジャズアーティキュレーションは音符の後ろに表示されます。

## ドイト

音符のあとにピッチが上昇します。



ドイト (ベンド)



ドイト (スムーズ)

## フォール

音符のあとにピッチが下降します。



フォール (バンド)



フォール (スムーズ)

さらに、金管楽器で一般に使用されるその他のジャズの装飾音も、ジャズアーティキュレーションを入力するのと同じ手順で音符に追加できます。

サウンドライブラリーにジャズアーティキュレーションのサンプルが含まれている場合、再生効果を使用した必要なサンプルがロードされます。

関連リンク

[装飾音、アルペジオ記号、グリッサンドライン、ジャズアーティキュレーションの入力方法 \(370 ページ\)](#)

[再生効果 \(1046 ページ\)](#)

[グリッサンドライン \(1461 ページ\)](#)

[アルペジオ記号 \(1453 ページ\)](#)

[フィンガリングスライド \(1305 ページ\)](#)

[ライン \(1551 ページ\)](#)

## ジャズの装飾音

ジャズの装飾音は、通常はジャズ音楽で金管楽器によって使用される記譜記号で、反転やスミアなどがあります。ジャズアーティキュレーションが符頭の横に配置されるのとは異なり、これは譜表の外側に配置されます。

ジャズの装飾音は、ジャズアーティキュレーションより他の装飾音に近い振る舞いをします。装飾音は音符とは個別のアイテムであるため、記譜モードでも音符とは個別に選択でき、ジャズアーティキュレーションが付いている音符にも追加できます。これらはジャズアーティキュレーションと一緒に使用されることがほとんどであるため、Dorico Pro においては装飾音パネルの「**ジャズ (Jazz)**」セクションと一緒に収められています。

ジャズの装飾音の入力方法は、ジャズアーティキュレーションよりも、その他の装飾音と共通します。

Dorico Pro では、以下の装飾音がジャズの装飾音と見なされます。

フリップ (Flip)



スミア (Smear)



ジャズターン (Jazz turn)/シェイク (Shake)



バンド (Bend)



補足

ジャズアーティキュレーションは現在のところ再生には反映されません。

関連リンク

[装飾音 \(1434 ページ\)](#)



[装飾音、アルペジオ記号、グリッサンドライン、ジャズアーティキュレーションの入力方法 \(370 ページ\)](#)

## 浄書オプションでジャズアーティキュレーションの設定をプロジェクト全体に適用する

「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**ジャズアーティキュレーション (Jazz Articulations)**」ページで、ジャズアーティキュレーションの外観と位置を設定しプロジェクト全体に適用できます。

「**ジャズアーティキュレーション (Jazz Articulations)**」ページのオプションでは、バンドのジャズアーティキュレーションのデフォルトの長さ、およびスムーズのジャズアーティキュレーションのデフォルトの線のスタイル、デザイン、そして角度が変更できます。また、符頭、譜表線、付点、およびリズム上の同じ位置にある他の符頭に属するジャズアーティキュレーションに対するジャズアーティキュレーションのデフォルト位置も変更できます。

多くのオプションに、オプションを楽譜に適用したときにどのように表示されるかを示す図があります。

関連リンク

[「浄書オプション \(Engraving Options\)」ダイアログ \(923 ページ\)](#)

## ジャズアーティキュレーションの位置

Dorico Pro では、ジャズアーティキュレーションのそれが属する符頭に対する位置は自動的に調整されます。その際には付点、臨時記号、逆向きの音符などその他の記譜記号もすべて反映されます。

和音中の複数の音符にジャズアーティキュレーションが付く場合、Dorico Pro はそれらをどれだけ符頭に近づけるかと、合計いくつ表示するかを 2 点に基づき、最良の配置を検討します。Dorico Pro は、スペースあたりできるだけ少なくジャズアーティキュレーションを配置しようとしています。逆に言うと、クラスター和音において表示されるジャズアーティキュレーションの数は、符頭の数より少なくなる場合もあります。

これは初期設定では、「**浄書オプション (Engraving Options)**」で設定した位置に配置されます。すべてのジャズアーティキュレーションの他のジャズアーティキュレーションや符頭に対するデフォルト位置に関するプロジェクト全体の設定は、「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**ジャズアーティキュレーション (Jazz Articulations)**」ページで変更できます。

浄書モードでは、スムーズのジャズアーティキュレーションにはそれぞれ開始位置と終了位置の 2 か所に四角いハンドルがあります。これらのハンドルを動かして、ジャズアーティキュレーションの表示位置、長さ、および角度を調節できます。またジャズアーティキュレーション全体の表示位置も個別に移動できます。



浄書モードのドイツスムーズのハンドル

### 補足

- ジャズアーティキュレーションのリズム上の位置は移動できません。ジャズアーティキュレーションを別の音符に移動させる場合は、それを元の音符から削除してから別の音符に新規に入力する必要があります。

- スムーズのジャズアーティキュレーションのハンドルを移動すると、移動した部位に応じて、プロパティパネルの「ジャズアーティキュレーション (Jazz Articulations)」グループにある以下のプロパティが自動的にオンになります。
  - 「前に付く線の外側のオフセット (In far offset)」は、音符の前に表示されるジャズアーティキュレーションの開始位置、つまり音符から離れた側のハンドルを移動させます。「X」は水平位置を移動させ、「Y」は垂直位置を移動させます。
  - 「前に付く線のオフセット (In offset)」は、音符の前に表示されるジャズアーティキュレーションの終了位置、つまり音符に近い側のハンドルを移動させます。「X」は水平位置を移動させ、「Y」は垂直位置を移動させます。
  - 「後ろに付く線のオフセット (Out offset)」は、音符のあとに表示されるジャズアーティキュレーションの開始位置、つまり音符に近い側のハンドルを移動させます。「X」は水平位置を移動させ、「Y」は垂直位置を移動させます。
  - 「後ろに付く線の外側のオフセット (Out far offset)」は、音符のあとに表示されるジャズアーティキュレーションの終了位置、つまり音符から離れた側のハンドルを移動させます。「X」は水平位置を移動させ、「Y」は垂直位置を移動させます。

#### 関連リンク

[装飾音、アルペジオ記号、グリッサンドライン、ジャズアーティキュレーションの入力方法 \(370 ページ\)](#)

[アイテムの表示位置の移動 \(652 ページ\)](#)

[ジャズアーティキュレーションの削除 \(1500 ページ\)](#)

## 既存のジャズアーティキュレーションのタイプや長さを変更する

ジャズアーティキュレーションは、たとえばドイツスムーズを長いドイツバンドに変更するなど、タイプや長さを入力後に変更できます。ジャズアーティキュレーションのタイプや長さは装飾音パネルから指定できますが、装飾音ポップオーバーからは指定できません。

#### 手順

1. 記譜モードで、ジャズアーティキュレーションを変更する音符を選択します。
2. 装飾音パネルで、「ジャズ (Jazz)」セクションから使用するジャズアーティキュレーションをクリックします。

#### 結果

選択した音符に表示されるジャズアーティキュレーションが変更されます。

#### ヒント

ジャズアーティキュレーションのタイプや長さは、プロパティパネルの「ジャズアーティキュレーション (Jazz Articulations)」グループにある「前に付く線 (In)」と「後ろに付く線 (Out)」プロパティを使用して変更できます。

#### 例



ドイツバンド (短)



ドイツバンド (中)





ドイツバンド (長)

## スムーズのジャズアーティキュレーションの線のスタイルを変更する

スムーズのジャズアーティキュレーションの線のスタイルは、プロジェクト全体の設定より優先される形で別個に変更できます。たとえば、選択したフォールスムーズを波線から直線に変更できます。

前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。
- 下ゾーンのツールバーで「プロパティ (Properties)」を選択しておきます。
- 浄書モードの場合は、浄書ツールボックスで「グラフィックの編集 (Graphic Editing)」を選択しておきます。

手順

1. 線のスタイルを変更するスムーズのジャズアーティキュレーションが付いた音符を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。

補足

音符の同じ側にスムーズのジャズアーティキュレーションが付いている音符を選択する必要があります。たとえば、音符の前にスムーズのジャズアーティキュレーションが付いている音符だけを選択します。

2. プロパティパネルの「ジャズアーティキュレーション (Jazz Articulations)」グループで、「前に付く線のスタイル (In line style)」と「後ろに付く線のスタイル (Out line style)」のいずれかまたは両方のメニューから、以下の線のスタイルを選択します。

- 直線 (Straight)
- 波線 (Wavy)
- 破線 (Dashed)

補足

「前に付く線のスタイル (In line style)」は、スムーズのジャズアーティキュレーションが選択した音符の前に付いているときに利用でき、「後ろに付く線のスタイル (Out line style)」は、選択した音符の後ろに付いているときに利用できます。スムーズのジャズアーティキュレーションが選択した音符の両側に付いているときは、両方が利用できます。

結果

選択したスムーズのジャズアーティキュレーションの線のスタイルが変更されます。

ヒント

- ジャズアーティキュレーションを選択して「編集 (Edit)」 > 「外観をリセット (Reset Appearance)」を選択すると、デフォルトの線のスタイルにリセットできます。
- スムーズのジャズアーティキュレーションそれぞれのデフォルトの線のスタイルは、「浄書オプション (Engraving Options)」の「ジャズアーティキュレーション (Jazz Articulations)」ページで個別に変更できます。

例



直線のドイトスムーズ



波線のドイトスムーズ



破線のドイトスムーズ

---

## ジャズアーティキュレーションの削除

ジャズアーティキュレーションは入力後に音符から削除できます。ただし、Dorico Pro ではジャズアーティキュレーションは個別のアイテムではなく音符のプロパティとして扱われるため、他のアイテムとは別を選択して削除する必要があります。

手順

1. 記譜モードで、ジャズアーティキュレーションを削除する音符を選択します。
  2. 装飾音パネルの「ジャズ (Jazz)」セクションで、「削除 (Remove)」をクリックします。
- 

結果

選択した音符からすべてのジャズアーティキュレーションが削除されます。

# ページ番号

ページ番号はそれぞれのページに一意的な番号を与え、他ページに対する相対的な位置を示すために使用されます。スコアおよびパート譜は、新聞や書籍と同様、ページ番号を使用して楽譜の正しい並び順を維持します。

Dorico Pro では1つのプロジェクトに複数のフローを使用できるため、ほとんどの場合手動でページ番号を変更する必要はありません。ただし、1つの楽曲を複数のファイルに分ける場合は、楽章から楽章へページ番号が切れ目なく続くようにするためにページ番号を確認する必要があります。

このような場合、デフォルトのページ番号を変更します。たとえば、スコアにおいて、楽譜の開始ページの前に前付けの4ページを置きつつ、楽譜の開始ページを1ページめと表示させる場合、楽譜の開始ページにページ番号の変更を挿入できます。

Dorico Pro ではページ番号はレイアウト固有であり、ページ番号はレイアウトごとに個別に変更できます。たとえば、スコアではページ番号を変更しながら、パート譜ではデフォルトのページ番号を表示できます。

Dorico Pro ではページ番号をトークンで表示します。

## 補足

ページ番号を表示させるすべてのページには、ページ番号のトークンを含むテキストフレームが必要です。

「**デフォルト (Default)**」のページテンプレートには、ページ番号のトークンが入ったテキストフレームが置かれています。ページテンプレートエディターではページ番号のテキストフレームの位置を変更できます。これによりこのページテンプレートを使用するすべてのページでページ番号の位置が変更されます。また個々のページでも、ページ番号のテキストフレームを移動できます。

またレイアウトごとに、ページ番号の表示に使用される数字のタイプも変更できます。たとえば、前付けにはローマ数字を使用し、楽譜ページにはアラビア数字を使用する場合、ページ番号と同時に数字の種類も変更できます。

## 関連リンク

- [ページテンプレート \(567 ページ\)](#)
- [ページテンプレートの種類 \(573 ページ\)](#)
- [ページテンプレートのカスタマイズ \(582 ページ\)](#)
- [「ページ番号の変更 \(Page Number Change\)」ダイアログ \(588 ページ\)](#)
- [ページ番号の変更の挿入 \(586 ページ\)](#)
- [ページの形式変更 \(584 ページ\)](#)
- [ページ番号の変更の解除 \(589 ページ\)](#)
- [フレームの入力 \(603 ページ\)](#)
- [フレームの移動 \(604 ページ\)](#)
- [トークン \(617 ページ\)](#)

## ページ番号のパラグラフスタイル

ページ番号のパラグラフスタイルは、フォント、サイズ、水平方向の配置など、外観に関わるすべての設定を制御します。既存のページ番号のパラグラフスタイルの編集、および追加のページ番号のパラグラフスタイルの作成は「**パラグラフスタイル (Paragraph Styles)**」ダイアログで行なえます。

- 「**パラグラフスタイル (Paragraph Styles)**」のダイアログは、「**ライブラリー (Library)**」 > 「**パラグラフスタイル (Paragraph Styles)**」を選択すると開きます。

Dorico Pro に初期設定で用意されているページ番号のパラグラフスタイルは1つですが、ページ番号のパラグラフスタイルは他にも作成できます。たとえば、ページ番号をフルスコアレイアウトには太字でページの一番上に中央揃えで表示させながら、パートレイアウトには斜体でページの外側の端に表示させる場合は、既存の「**ページ番号 (Page Number)**」のパラグラフスタイルを基本とする新規パラグラフスタイルを作成して、名前と設定を変更します。

関連リンク

[「パラグラフスタイル \(Paragraph Styles\)」ダイアログ \(932 ページ\)](#)

[浄書モードのテキストエディターオプション \(625 ページ\)](#)

[テキストフレーム内のパラグラフスタイルを変更する \(627 ページ\)](#)

[パラグラフスタイルの作成 \(934 ページ\)](#)

## ページ番号の数字スタイルの変更

ページ番号はアラビア数字でもローマ数字でも表示できます。ページ番号の数字スタイルは、レイアウトごとに個別に変更できます。

手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[L]** を押して「**レイアウトオプション (Layout Options)**」を開きます。
2. ページ番号の数字スタイルを変更するレイアウトを「**レイアウト (Layouts)**」リストから選択します。  
初期設定では、楽譜領域で選択されているものと同じレイアウトが選択された状態のダイアログが表示されます。他のレイアウトを選択するには、アクションバーの選択オプションを使用するか、複数のレイアウトをまたぐようにクリックしてドラッグするか、**[Shift]** を押しながら隣接するレイアウトをクリックするか、**[Ctrl]/[command]** を押しながら個々のレイアウトをクリックします。
3. カテゴリリストの「**ページ設定 (Page Setup)**」をクリックします。
4. 「**ページ番号 (Page Number)**」セクションで、「**使用 (Use)**」メニューから以下のいずれかのオプションを選択します。
  - **数字 (Number)**
  - **ローマ数字 (Roman numeral)**
5. 「**適用 (Apply)**」をクリックしてから「**閉じる (Close)**」をクリックします。

結果

選択したレイアウトで、ページ番号の数字スタイルが変更されます。

## 個々のページにおけるページ番号の数字スタイルの変更

ページ番号はアラビア数字でもローマ数字でも表示できます。個々のページ番号ごとに数字スタイルを変更できます。

前提条件

右ゾーンを表示しておきます。

手順

1. 浄書モードで、ページ番号の数字スタイルを変更するレイアウトを開きます。

2. ページパネルの「**ページ (Pages)**」セクションでページを選択します。
3. 以下のいずれかの操作を行なって、「**ページ番号の変更 (Page Number Change)**」ダイアログを開きます。
  - 「**ページ (Pages)**」セクションで右クリックし、コンテキストメニューから「**ページ番号の変更を挿入 (Insert Page Number Change)**」を選択します。
  - 「**ページ番号の変更を挿入 (Insert Page Number Change)**」**#**をクリックします。
4. 「**ページ番号の変更 (Page Number Change)**」ダイアログで、そこからページ番号の数字スタイルを変更するページの番号を「**開始ページ (From page)**」のフィールドに入力します。
5. 「**シーケンスタイプ (Sequence type)**」の以下のオプションから使用する数字スタイルを選択します。
  - **数字 (Number)**
  - **ローマ数字 (Roman numeral)**
6. 「**OK**」をクリックして変更内容を保存し、ダイアログを閉じます。

---

#### 結果

次のページ番号の変更がある位置かプロジェクトの終了位置のいずれか先に到達したところまで、ページ番号の数字スタイルが変更されます。

#### 関連リンク

[ページパネル \(562 ページ\)](#)

[ゾーンの表示/非表示の切り替え \(48 ページ\)](#)

[レイアウトの切り替え \(47 ページ\)](#)

[ページ番号の変更の挿入 \(586 ページ\)](#)

## ページ番号を表示/非表示にする

レイアウトごとに個別にページ番号を表示/非表示にできます。これは最初のページのページ番号を表示/非表示いずれにするかの設定も行なえます。たとえば、スコアではすべてのページにページ番号を表示しながら、パート譜では最初のページのページ番号を非表示にできます。

#### 補足

ページ番号を表示するには、ページ番号のトークンを含むテキストフレームがページに必要です。デフォルトのページテンプレートセットに含まれる**最初**のページテンプレートは、ページ番号のトークンを含むテキストフレームを持たないため、これらのページテンプレートを使用するページにページ番号を表示させる場合、これを追加します。

---

#### 手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[L]** を押して「**レイアウトオプション (Layout Options)**」を開きます。
2. 「**レイアウト (Layouts)**」リストから、ページ番号を表示または非表示にするレイアウトを選択します。

初期設定では、楽譜領域で選択されているものと同じレイアウトが選択された状態のダイアログが表示されます。他のレイアウトを選択するには、アクションバーの**選択オプション**を使用するか、複数のレイアウトをまたぐようにクリックしてドラッグするか、**[Shift]** を押しながら隣接するレイアウトをクリックするか、**[Ctrl]/[command]** を押しながら個々のレイアウトをクリックします。
3. カテゴリーリストの「**ページ設定 (Page Setup)**」をクリックします。

4. 「**ページ番号 (Page Number)**」セクションで、「**表示タイプ (Visibility)**」メニューから以下のいずれかのオプションを選択します。
    - **常に表示 (Always shown)**
    - **常に非表示 (Always hidden)**
    - **最初のページ以外 (Not on first page)**
  5. 「**適用 (Apply)**」をクリックしてから「**閉じる (Close)**」をクリックします。
- 

#### 結果

- 「**常に表示 (Always shown)**」を選択した場合、選択したレイアウトにおいて、ページ番号トークンが含まれるテキストフレームがあるすべてのページに、ページ番号が表示されます。
- 「**常に非表示 (Always hidden)**」を選択した場合、ページ番号トークンが含まれるテキストフレームがあるページを含めて、選択したレイアウトのすべてのページでページ番号が非表示になります。
- 「**最初のページ以外 (Not on first page)**」を選択した場合、選択したレイアウトの最初のページではページ番号が非表示になりますが、それ以外すべての、ページ番号トークンが含まれるテキストフレームがあるページには表示されます。

#### 補足

フロー見出しの上にページ番号を表示するかどうかのレイアウトごとの設定は、ページ番号がページ上でフロー見出しより高い位置にあるページにページ番号を表示するかどうかに影響します。

---

#### 関連リンク

- [「ページ番号の変更 \(Page Number Change\)」ダイアログ \(588 ページ\)](#)
- [ページ番号の変更の挿入 \(586 ページ\)](#)
- [フレームの入力 \(603 ページ\)](#)
- [フレームの移動 \(604 ページ\)](#)
- [トークン \(617 ページ\)](#)
- [フロー見出し \(595 ページ\)](#)
- [フロー見出しの上の情報の表示/非表示を切り替える \(763 ページ\)](#)

## 個々のページでページ番号の表示/非表示を変更する

個々のページでのページ番号の表示/非表示は、各レイアウトのページ番号表示設定より優先される形で変更できます。

#### 補足

ページ番号を表示するには、ページ番号のトークンを含むテキストフレームがページに必要です。デフォルトのページテンプレートセットに含まれる**最初の**ページテンプレートは、ページ番号のトークンを含むテキストフレームを持たないため、これらのページテンプレートを使用するページにページ番号を表示させる場合、これを追加します。

---

#### 前提条件

右ゾーンを表示しておきます。

---

#### 手順

1. 浄書モードで、ページ番号を表示/非表示にするレイアウトを開きます。
2. ページパネルの「**ページ (Pages)**」セクションでページを選択します。



- 以下のいずれかの操作を行なって、「**ページ番号の変更 (Page Number Change)**」ダイアログを開きます。
  - 「**ページ (Pages)**」セクションで右クリックし、コンテキストメニューから「**ページ番号の変更を挿入 (Insert Page Number Change)**」を選択します。
  - 「**ページ番号の変更を挿入 (Insert Page Number Change)**」**#**をクリックします。
- 「**開始ページ (From page)**」フィールドで、そこからページ番号を表示/非表示にするページの番号を入力します。
- 必要に応じて、「**開始ページ番号 (First page number)**」の値を変更します。  
「**開始ページ番号 (First page number)**」は初期設定では **1** です。ページ番号の表示タイプを変更してもページ番号はそのままにする場合は、既存のページ番号をこのフィールドに入力します。
- 「**表示タイプ (Visibility)**」のメニューから、以下のいずれかのオプションを選択します。
  - 常に表示 (Always shown)
  - 常に非表示 (Always hidden)
  - 最初のページ以外 (Not on first page)
- 「**OK**」をクリックして変更内容を保存し、ダイアログを閉じます。

---

#### 結果

指定したページ番号から、次の設定の異なるページ番号の変更がある位置かプロジェクトの終了位置のいずれか先に到達したところまで、楽譜領域に現在開いているレイアウトでページ番号の表示タイプが変更されます。

---

#### 例

3 ページまでページ番号を表示し、4 ページからページ番号を非表示にする場合は、「**開始ページ (From page)**」に **4**、「**開始ページ番号 (First page number)**」に **4** を入力し、「**表示タイプ (Visibility)**」に「**常に非表示 (Always hidden)**」を選択します。

---

#### 関連リンク

- [ページパネル \(562 ページ\)](#)
- [ゾーンの表示/非表示の切り替え \(48 ページ\)](#)
- [レイアウトの切り替え \(47 ページ\)](#)
- [ページ番号の変更の挿入 \(586 ページ\)](#)
- [フレームの入力 \(603 ページ\)](#)
- [フロー見出しの上の情報の表示/非表示を切り替える \(763 ページ\)](#)
- [ページテンプレート \(567 ページ\)](#)

## ガイドページ番号の表示/非表示

ページビューで各ページの一番上のガイドページ番号を表示/非表示にできます。これにより、たとえば「**最初 (First)**」のページテンプレートを使用するページのページ番号を確認しやすくなります。ガイドページ番号は印刷されません。

---

#### 手順

- 「**ビュー (View)**」 > 「**ページ番号 (Page Numbers)**」を選択します。

---

#### 関連リンク

- [ギャラリービューまたはページビューへの切り替え \(54 ページ\)](#)
- [ガイド小節番号の表示/非表示 \(1098 ページ\)](#)
- [ページテンプレートの種類 \(573 ページ\)](#)

# ハーブのペダリング

ハーブのペダリングとは、ハーブの楽譜を記譜するための特定の要件を指す幅広い用語です。これは主に、近代的なコンサートハーブのチューニングを変更するために必要となることが多いハーブペダルダイアグラムについて使われます。



開始位置にフルハーブペダルダイアグラムが表示され、そのあとに部分的なペダル変更が2つ表示された楽節

各オクターブに12個(CからBの間の各半音階に1つずつ)の鍵盤があるピアノとは異なり、ハーブには各オクターブに7本(CからBの間の各全音階ピッチに1本ずつ)の弦があります。そのため、ハーブではチューニングを変更するために、7つのペダルを使用して機械的操作を行ないます。この操作では、すべてのオクターブの対応する音符のピッチを各ペダルで制御します。これらのペダルは2つのグループにまとめられており、3つのペダルが左足に、4つのペダルが右足にそれぞれ割り当てられています。

各ハーブペダルには3つの位置があります。

1. フラット (最も高い位置): 対応する音符のピッチを半ステップ下げる
2. ナチュラル (中間の位置)
3. シャープ (最も低い位置): 対応する音符のピッチを半ステップ上げる

## 補足

ハーブの最も低い2本の弦(CとD)は、CとDのペダル位置の影響を受けません。

楽譜、または楽譜内の楽節に必要なペダル設定を記譜する方法はいくつかあります。Dorico Proでは、ハーブのペダリングを以下の方法で表示できます。

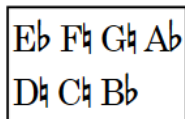
## ダイアグラム



7つのペダルの物理的な位置を示します。縦線は左足ペダルと右足ペダルを分割するもので、横線はナチュラルポジションを表わしています。

- 横線の下側のペダルはシャープが付いた音符を示します。
- 横線の上側のペダルはフラットが付いた音符を示します。

## 音名



7つの全音階ピッチに必要な臨時記号を2行に配置して表示します。右足ペダルは上の行に、左足ペダルは下の行に表示されます。

入力したピッチが現在のハーブペダルダイアグラムに一致しない場合、そのピッチは範囲外であると見なされ、範囲外の音符に色を表示した場合には、そのピッチが赤で表示されます。ハーブのペダリングを入力しなかった場合、すべてのハーブペダルはナチュラル設定と見なされ、Cメジャーになります。

Dorico Proでは、演奏技法のポップオーバーを使用してハーブペダルダイアグラムを入力でき、楽譜全体のフローまたは特定の楽節をもとに正確なハーブペダルダイアグラムを自動的に生成できます。ただし、ハーブペダルダイアグラムを入力して表示できるのはハーブ楽器に属する譜表だけです。ハーブの譜表から別の楽器の譜表に楽譜をコピーすると、ハーブのペダリングは自動的に削除されます。

初期設定では、ハーブのペダリングはフルスコア/カスタムスコアのレイアウトには表示されず、パートレイアウトには表示されます。ハーブのペダリングが非表示になっているレイアウトでは、ハーブペダルダイアグラムの位置にガイドが表示されます。ハーブのペダリングはレイアウトごとに個別に表示/非表示を切り替えられ、またハーブのペダリングを表示するレイアウトでは、ハーブペダルダイアグラムを個別に非表示にできます。一度に1つのペダルだけを変更する必要がある場合など、部分的なハーブのペダリングをいつ表示するかを設定することもできます。

Dorico Proのハーブペダルダイアグラムは、グリッサンドラインで演奏されるピッチに影響します。

## 関連リンク

[ポップオーバーを使ったハーブペダルダイアグラムの入力 \(411 ページ\)](#)

[パネルを使ったハーブペダルダイアグラムの入力 \(412 ページ\)](#)

[既存の楽譜に基づくハーブペダルダイアグラムの計算 \(413 ページ\)](#)

[音域外の音符のカラーを表示/非表示にする \(1403 ページ\)](#)

[再生時のグリッサンドライン \(1466 ページ\)](#)

## 浄書オプションでハーブのペダリングの設定をプロジェクト全体に適用する

「[浄書オプション \(Engraving Options\)](#)」の「[ハーブのペダリング \(Harp Pedaling\)](#)」ページで、ハーブペダルダイアグラムの外観と位置を設定しプロジェクト全体に適用できます。

「[ハーブのペダリング \(Harp Pedaling\)](#)」ページのオプションを使用して、線の太さ、ペダル指示記号、ハーブペダルダイアグラム同士の間隔、音名を使用する場合の左側のペダルの順番、部分的なペダルダイアグラムを表示するペダル変更の最大数を設定できます。また、ハーブペダルダイアグラムと譜表またはその他のオブジェクトとの間隔の正確な値を設定するなど、ハーブペダルダイアグラムのデフォルトの位置も変更できます。

オプションと一緒に表示される図は、オプションを楽譜に適用したときにどのように表示されるかを示します。

## 関連リンク



[「浄書オプション \(Engraving Options\)」ダイアログ \(923 ページ\)](#)

## ハーブペダルダイアグラムの外観の変更

ハーブのペダリングは、ダイアグラムとして、または音名を使用して表示します。プロジェクト全体の設定とは別に、ハーブペダルダイアグラムの外観を個別に設定できます。この操作は現在のレイアウト

とフレームチェーンのみに対して、もしくはすべてのレイアウトとフレームチェーンに対して行なえます。

#### 前提条件

- 現在のレイアウトにハーブのペダリングを表示しておきます。
- 下ゾーンを表示しておきます。
- 下ゾーンのツールバーで「プロパティ (Properties)」を選択しておきます。
- 浄書モードの場合は、浄書ツールボックスで「グラフィックの編集 (Graphic Editing)」を選択しておきます。
- ローカルのプロパティ変更に関して、適切なプロパティ範囲を選択しておきます。

---

#### 手順

1. 外観を変更するハーブペダルダイアグラムを選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「ハーブペダル (Harp Pedals)」グループで、「外観 (Appearance)」をオンにします。
3. 以下のいずれかのオプションを選択します。
  - **ダイアグラム (Diagram)**
  - **音名 (Note Names)**

---

#### 結果

現在のレイアウトの選択したハーブペダルダイアグラムの外観が変更されます。プロパティ範囲を「ローカル (Locally)」に設定している場合、この変更は現在のレイアウトおよびフレームチェーンのみに影響します。

#### ヒント

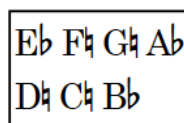
各レイアウトのハーブペダリングのデフォルトの外観は、「レイアウトオプション (Layout Options)」>「プレーヤー (Players)」>「ハーブのペダリング (Harp Pedaling)」で個別に変更できます。

---

#### 例



ダイアグラムとして表示されたハーブのペダリング



音名を使用して表示されたハーブのペダリング

---

#### 関連リンク

[「レイアウトオプション \(Layout Options\)」 ダイアログ \(917 ページ\)](#)

[浄書ツールボックス \(554 ページ\)](#)

[プロパティ範囲の変更 \(828 ページ\)](#)

## レイアウト内のハープのペダリングを表示または非表示にする

ハープのペダリングはどのレイアウトでも入力や計算を行なえますが、通常、ハープのペダリングは演奏者にとってのみ意味があるため、初期設定ではフルスコアレイアウトには表示されません。ハープのペダリングを表示するか非表示にするかは、レイアウトごとに切り替えることができます。

### 手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[L]** を押して「**レイアウトオプション (Layout Options)**」を開きます。
2. 「**レイアウト (Layouts)**」リストから、ハープのペダリングを表示または非表示にするレイアウトを選択します。  
初期設定では、楽譜領域で選択されているものと同じレイアウトが選択された状態のダイアログが表示されます。他のレイアウトを選択するには、アクションバーの選択オプションを使用するか、複数のレイアウトをまたぐようにクリックしてドラッグするか、**[Shift]** を押しながら隣接するレイアウトをクリックするか、**[Ctrl]/[command]** を押しながら個々のレイアウトをクリックします。
3. カテゴリリストの「**プレーヤー (Players)**」をクリックします。
4. 「**ハープのペダリング (Harp Pedaling)**」セクションで、「**ハープのペダリングを表示 (Show harp pedaling)**」をオン/オフにします。
5. 「**適用 (Apply)**」をクリックしてから「**閉じる (Close)**」をクリックします。

### 結果

選択したレイアウトのチェックボックスがオンになっているときはハープのペダリングが表示され、オフになっているときは非表示になります。

ハープのペダリングが非表示になっているレイアウトでは、ハープペダルダイアグラムの位置にガイドが表示されます。



### 補足

- ハープのペダリングが表示されているレイアウトではハープペダルダイアグラムを個別に非表示にできますが、ハープのペダリングが非表示になっているレイアウトでハープペダルダイアグラムを個別に表示することはできません。
- ハープのペダリングのガイドの表示/非表示は、「**ビュー (View)**」 > 「**ガイド (Signposts)**」 > 「**ハープペダル (Harp Pedals)**」を選択して切り替えられます。

## ハープペダルダイアグラムを個別に表示/非表示にする

ハープのペダリングが表示されているレイアウトでハープペダルダイアグラムを個別に表示/非表示にできます。この操作は現在のレイアウトとフレームチェーンのみに対して、もしくはすべてのレイアウトとフレームチェーンに対して行なえます。

### 前提条件

- 現在のレイアウトにハープのペダリングを表示しておきます。
- 下ゾーンを表示しておきます。
- 下ゾーンのツールバーで「**プロパティ (Properties)**」を選択しておきます。
- 浄書モードの場合は、浄書ツールボックスで「**グラフィックの編集 (Graphic Editing)**」を選択しておきます。
- ローカルのプロパティ変更に関して、適切なプロパティ範囲を選択しておきます。

#### 手順

1. 楽譜領域で、ハーブペダルダイアグラムを個別に表示/非表示にするレイアウトを開きます。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. 非表示にするハーブペダルダイアグラム、または表示するハーブペダルダイアグラムのガイドを選択します。
3. プロパティパネルの「**ハーブペダル (Harp Pedals)**」グループで、「**非表示 (Hide)**」をオンまたはオフにします。

#### 結果

「**非表示 (Hide)**」をオンにすると選択したハーブペダルダイアグラムが非表示になり、オフにすると表示されます。プロパティ範囲を「**ローカル (Locally)**」に設定している場合、この変更は現在のレイアウトおよびフレームチェーンのみに影響します。

非表示にした各ハーブペダルダイアグラムの位置にはガイドが表示されます。ただし初期設定では、ガイドは印刷されません。

#### 関連リンク

[浄書ツールボックス \(554 ページ\)](#)

[プロパティ範囲の変更 \(828 ページ\)](#)

[ガイド \(490 ページ\)](#)

[注釈 \(740 ページ\)](#)



## ハーブペダルダイアグラムの枠線を表示または非表示にする

、音名ハーブペダルダイアグラムの枠線は、プロジェクト全体の設定とは別に表示/非表示を切り替えられます。たとえば、垂直方向のスペーシングが非常に狭い組段でハーブペダルダイアグラムの枠線を非表示にすると、少し余白ができます。

#### 補足

これらの手順は、音名を使用したハーブペダルダイアグラムにのみ適用されます。

#### 前提条件

- 現在のレイアウトにハーブのペダリングを表示しておきます。
- 下ゾーンを表示しておきます。
- 下ゾーンのツールバーで「**プロパティ (Properties)**」を選択しておきます。
- 浄書モードの場合は、浄書ツールボックスで「**グラフィックの編集 (Graphic Editing)**」を選択しておきます。

#### 手順

1. 枠線を表示/非表示にする音名ハーブペダルダイアグラムを選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「**ハーブペダル (Harp Pedals)**」グループで、「**枠線 (Border)**」をオンにします。
3. 対応するチェックボックスをオン/オフにします。

#### 結果

チェックボックスがオンになっているときは、選択した音名ハーブペダルダイアグラムの枠線が表示され、オフになっているときは非表示になります。

プロパティをオフにすると、選択したハーブペダルダイアグラムには、枠線の表示/非表示についてのプロジェクト全体の設定が適用されます。

#### ヒント

プロジェクト全体のすべての音名ハーブペダルダイアグラムの枠線の表示/非表示は、「**浄書オプション (Engraving Options)**」 > 「**ハーブペダル (Harp Pedals)**」 > 「**音名 (Note Names)**」で切り替えることができます。

例



枠線を非表示にした音名ハーブペダルダイアグラム



枠線を表示した音名ハーブペダルダイアグラム



## ハーブペダルダイアグラムの枠線の太さを変更する

プロジェクト全体の設定とは別に、音名ハーブペダルダイアグラムの枠線の太さを個別に変更できます。

#### 補足

これらの手順は、音名を使用したハーブペダルダイアグラムにのみ適用されます。

#### 前提条件

- 現在のレイアウトにハーブのペダリングを表示しておきます。
- 下ゾーンを表示しておきます。
- 下ゾーンのツールバーで「**プロパティ (Properties)**」を選択しておきます。
- 浄書ツールボックスで「**グラフィックの編集 (Graphic Editing)**」を選択しておきます。

#### 手順

1. 浄書モードで、枠線の太さを変更する音名ハーブペダルダイアグラムを選択します。
2. プロパティパネルの「**ハーブペダル (Harp Pedals)**」グループで、「**境界線の太さ (Border thickness)**」をオンにします。
3. 数値フィールドの値を変更します。

#### 結果

選択したハーブペダルダイアグラムの枠線の太さを変更されます。

#### ヒント

プロジェクト全体のすべてのハープペダルダイアグラムのデフォルトの枠線の太さは、「**浄書オプション (Engraving Options)**」 > 「**ハープペダル (Harp Pedals)**」 > 「**音名 (Note Names)**」で変更できます。

このページでは、音名ハープペダルダイアグラムの枠線の太さと余白に「**浄書オプション (Engraving Options)**」を使用するか、「**ハープペダルセッティング (Harp Pedal Settings)**」のパラグラフスタイルを使用するかを変更することもできます。パラグラフスタイルを使用すると、各辺の余白を個別に変更できます。



#### 関連リンク

[「パラグラフスタイル \(Paragraph Styles\)」ダイアログ \(932 ページ\)](#)

## ハープペダルダイアグラムの周囲の余白の変更

ハープペダルダイアグラムは、四方それぞれの余白を個別に変更できます。これは、ハープペダルダイアグラムと塗りつぶした背景および枠線との間の距離に影響します。この操作は現在のレイアウトとフレームチェーンのみに対して、もしくはすべてのレイアウトとフレームチェーンに対して行なえます。

#### 前提条件

- 現在のレイアウトにハープのペダリングを表示しておきます。
- 下ゾーンを表示しておきます。
- 下ゾーンのツールバーで「**プロパティ (Properties)**」を選択しておきます。
- 浄書ツールボックスで「**グラフィックの編集 (Graphic Editing)**」を選択しておきます。
- ローカルのプロパティ変更に関して、適切なプロパティ範囲を選択しておきます。

#### 手順

1. 浄書モードで、余白を変更するハープペダルダイアグラムを選択します。
2. プロパティパネルの「**ハープペダル (Harp Pedals)**」グループで、以下のプロパティを個別に、またはまとめてオンにします。
  - **左余白 (Left padding)**
  - **右余白 (Right padding)**
  - **上余白 (Top padding)**
  - **下余白 (Bottom padding)**
3. 数値フィールドの値を変更します。

#### 結果

選択したハープペダルダイアグラムの周囲の余白が変更されます。値を大きくすると余白が増え、値を小さくすると余白が減ります。プロパティ範囲を「**ローカル (Locally)**」に設定している場合、この変更は現在のレイアウトおよびフレームチェーンのみに影響します。

#### ヒント

プロジェクト全体のすべてのハープペダルダイアグラムの周囲のデフォルトの余白は、「**浄書オプション (Engraving Options)**」 > 「**ハープペダル (Harp Pedals)**」 > 「**音名 (Note Names)**」で変更できます。



フォントの各辺に異なる余白が必要な場合は、音名ハーブペダルダイアグラムの枠線の太さと余白に「**ハーブペダルセッティング (Harp Pedal Settings)**」のパラグラフスタイルを使用するように設定できます。

関連リンク

[浄書ツールボックス \(554 ページ\)](#)

[プロパティ範囲の変更 \(828 ページ\)](#)

## ハーブペダルダイアグラムの位置

初期設定では、ハーブペダルダイアグラムは、通常ハーブに表示される 2 つの譜表の間の縦方向の中央位置に配置されます。

ハーブペダルダイアグラムの位置は記譜モードで移動できます。これらは「**浄書オプション (Engraving Options)**」で設定されたデフォルト位置に配置されます。

ハーブペダルダイアグラムの表示位置は浄書モードで移動できますが、適用されるリズム上の位置がこれによって変更されることはありません。

すべてのハーブペダルダイアグラムのデフォルト位置に対するプロジェクト全体の設定は、「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**ハーブのペダリング (Harp Pedaling)**」のページで変更できます。

関連リンク

[浄書オプションでハーブのペダリングの設定をプロジェクト全体に適用する \(1507 ページ\)](#)

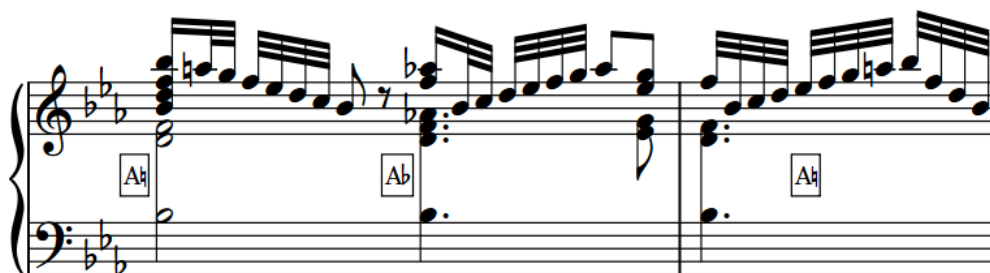
[「浄書オプション \(Engraving Options\)」ダイアログ \(923 ページ\)](#)

[音符/アイテムの位置の移動 \(502 ページ\)](#)

[アイテムの表示位置の移動 \(652 ページ\)](#)

## 部分的なハーブのペダリング

部分的なハーブペダルダイアグラムには、すべてのペダルの設定ではなく、その位置でペダル設定を変更する必要がある音符だけが表示されます。これにより、読まなければならないペダルの数が少なくなり、演奏者がペダル設定の変更を瞬時に把握できるようになります。



複数のクイックペダル変更指示を含むシーケンスの部分的なペダルダイアグラム

個々のハーブペダルダイアグラムについて部分的なハーブのペダリングを有効にできるほか、1 つの場所に表示するペダル変更指示の最大しきい値を設定できます。このしきい値を超えると、すべてのハーブペダルダイアグラムにすべてのペダルが表示されます。これは、演奏者が完全なハーブペダルダイアグラムの音名のパターンに慣れており、部分的なハーブペダルダイアグラムに多くの変更指示が含まれている場合、完全なハーブペダルダイアグラムを読むより難しいことがあるためです。

初期設定では、部分的なハーブペダルダイアグラムの音符は、右足ペダルが上の行、左足ペダルが下の行という形で 2 行に表示されます。

#### 補足

部分的なハーブのペダリングとして表示できるのは、音名を使用したハーブペダルダイアグラムのみです。

---



## 部分的なハーブのペダリングの有効化/無効化

プロジェクト全体の設定とは別に、個々の音名ハーブペダルダイアグラムの部分的なハーブのペダリングを有効/無効にできます。たとえば、デフォルト設定では最大2つのペダル変化指示で部分的なハーブのペダリングが有効になるようにしていても、3つの変化指示を含む特定のハーブペダルダイアログを部分的なペダリングで表示したい場合があります。この操作は現在のレイアウトとフレームチェーンのみに対して、もしくはすべてのレイアウトとフレームチェーンに対して行なえます。

#### 補足

- これらの手順は、音名を使用したハーブペダルダイアグラムにのみ適用されます。
  - フローの最初に配置されたハーブペダルダイアグラムは、完全なハーブペダルダイアグラムとしてのみ表示できます。
- 

#### 前提条件

- 現在のレイアウトにハーブのペダリングを表示しておきます。
  - 下ゾーンを表示しておきます。
  - 下ゾーンのツールバーで「プロパティ (Properties)」を選択しておきます。
  - 浄書モードの場合は、浄書ツールボックスで「グラフィックの編集 (Graphic Editing)」を選択しておきます。
  - ローカルのプロパティ変更に関して、適切なプロパティ範囲を選択しておきます。
- 

#### 手順

1. 部分的なハーブのペダリングを有効/無効にする音名ハーブペダルダイアグラムを選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
  2. プロパティパネルの「ハーブペダル (Harp Pedals)」グループで、「部分的なペダリング (Partial pedaling)」をオンにします。
  3. 対応するチェックボックスをオン/オフにします。
- 

#### 結果

チェックボックスがオンになっているときは、選択した音名ハーブペダルダイアグラムの部分的なハーブのペダリングが有効になり、オフになっているときは無効になります。プロパティ範囲を「ローカル (Locally)」に設定している場合、この変更は現在のレイアウトおよびフレームチェーンのみに影響します。

プロパティをオフにすると、選択したハーブペダルダイアグラムには、部分的なハーブのペダリングについてのプロジェクト全体の設定が適用されます。

#### ヒント

プロジェクト全体の部分的なペダルダイアグラムの有効化/無効化、および部分的なハーブペダルダイアグラムを有効にするペダル変更指示のデフォルトの最大しきい値は、「浄書オプション (Engraving Options)」 > 「ハーブペダル (Harp Pedals)」 > 「音名 (Note Names)」で変更できます。

---

例

A musical score for piano in 3/4 time, featuring a treble and bass clef. The treble clef contains a sequence of notes: a quarter rest, followed by a sixteenth-note triplet (F#, G, A), and a quarter note (B). The bass clef contains a half note (F#) and a quarter note (B). A rectangular box is placed between the staves, containing the following text: Eb F# G# A# / D# C# B#.

A musical score for piano in 3/4 time, identical to the first score. The treble clef contains a sequence of notes: a quarter rest, followed by a sixteenth-note triplet (F#, G, A), and a quarter note (B). The bass clef contains a half note (F#) and a quarter note (B). A rectangular box is placed between the staves, containing the following text: F# A# / C#.

すべてのペダルを表示したハーブペダルダイアグラム      部分的なハーブペダルダイアグラム

---

関連リンク

[レイアウト内のハーブのペダリングを表示または非表示にする \(1509 ページ\)](#)

[ポップオーバーを使ったハーブペダルダイアグラムの入力 \(411 ページ\)](#)

[浄書ツールボックス \(554 ページ\)](#)

[プロパティ範囲の変更 \(828 ページ\)](#)

# ペダル線

ペダル線は演奏者にピアノのどのペダルを使用するか指示し、ペダルを踏み込む深さやペダルを上げて余韻を消すタイミングなど、演奏上の指示も与えられます。



A musical score in 12/8 time, key of D major. The score is written for piano. It features several measures with complex chords and melodic lines. Below the staff, there are three distinct pedal markings: 'una corda' (indicated by a symbol resembling a stylized 'X' with a dot), 'tre corde' (indicated by an asterisk), and 'Sost.' (indicated by a horizontal line with a vertical tick mark at the end). The 'una corda' marking is under the first measure, 'tre corde' is under the second measure, and 'Sost.' is under the third measure.

ほとんどのピアノには2つか3つのペダルがあります。ペダルには以下があります。

## サスティンペダル


サスティンペダルはピアノ弦のダンパーを操作するので、ダンパーペダルとも呼ばれます。またこれは最も一般的に使用されるペダルです。サスティンペダルを踏みこむとダンパーが弦から離れ、弦の余韻が長くなります。サスティンペダルは通常右側にあります。



A musical score in 4/4 time, key of D major. It shows a series of chords in the right hand. Below the staff, there are four 'Sost.' markings, each accompanied by an asterisk. Above the staff, there is a '8va' marking with a dashed line indicating an octave shift.

## ソステヌートペダル

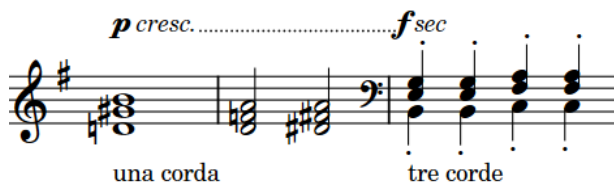
ソステヌートペダルは、現在鍵盤上で押さえられている音符の弦のみ余韻を残せます。これは通常ペダルの並びの真ん中に位置するため、中央のペダルとも呼ばれます。



A musical score in 4/4 time, key of D major. It shows a series of chords in the right hand. Below the staff, there are four 'Sost.' markings, each accompanied by an asterisk. The markings are positioned under the middle of the chord groups.

## ウナコルダペダル

ウナコルダペダルはピアノ内部のアクションの位置をずらし、ハンマーが叩く弦の数を通常より減らします。この動作により、ハンマーが叩く弦が通常の3本から1本だけになることから、「1本の弦」を意味するこの名前が付けられたという歴史的背景があります。これにより音量と音の鋭さが減じられるため、これはソフトペダルとも呼ばれます。



A musical score in 4/4 time, key of D major. It shows a series of chords in the right hand. Below the staff, there are two 'una corda' markings, each accompanied by an asterisk. Above the staff, there is a 'p cresc. .... f sec' marking, indicating a dynamic change from piano to fortissimo.

Dorico Pro では、ピアノのペダル線の記譜と再生に幅広く対応しています。サスティンペダル、ソステヌートペダル、ウナコルダペダルのペダリング指示を作成でき、これは1回のペダリング指示の途中でペダルの強さを変化させるなど、近代的なサスティンペダルのテクニックもサポートします。

開始記号や延長タイプの変更を含め、ペダル線の外観を変更できます。たとえば、あるペダル線には延長線を表示し、またあるペダル線には終端の記号だけを表示するなどできます。

Dorico Pro では、ペダル線はインストゥルメントが鳴らすサウンドを変化させることから、演奏技法と見なされます。そのため、ペダル線は記譜モードの演奏技法パネルに収められ、演奏技法ポップオーバーを使用して入力できます。ただしペダル線には、リテイク、ペダルの強さの変更指示、開始記号、終了記号、延長線など、他の演奏技法にはない独特な追加指示があります。

関連リンク

[演奏技法、ペダル線、弦の指示記号、ハープペダルダイアグラムの入力方法 \(398 ページ\)](#)

[ペダル線の開始記号、フック、および延長線 \(1526 ページ\)](#)

[テキストによるペダル線の記号 \(1532 ページ\)](#)

[再生時のペダル線 \(1535 ページ\)](#)

[演奏技法の延長線 \(1542 ページ\)](#)

[ライン \(1551 ページ\)](#)

[「MIDI インポートオプション \(MIDI Import Options\)」ダイアログ \(95 ページ\)](#)

## 浄書オプションでペダル線の設定をプロジェクト全体に適用する

「浄書オプション (Engraving Options)」の「ペダル線 (Pedal Lines)」ページで、ペダル線の外観と位置を設定し、プロジェクト全体に適用できます。

「ペダル線 (Pedal Lines)」ページのオプションを使用すると、ペダル線のタイプごとに開始位置に表示される記号、組段をまたぐ場合のペダル線の記号の外観、ペダル線の延長線の外観、およびリテイクのノッチの幅を変更できます。また、ペダル線と譜表またはその他のオブジェクトとの間隔に関する詳細な値を設定したり、ペダル線、開始記号、リテイク、ペダル線の終端の、符頭や装飾音符に対するデフォルトの位置を変更したりすることもできます。

多くのオプションに、オプションを楽譜に適用したときにどのように表示されるかを示す図があります。

関連リンク

[「浄書オプション \(Engraving Options\)」ダイアログ \(923 ページ\)](#)

## サスティンペダルのリテイクおよびペダルの強さの変更指示

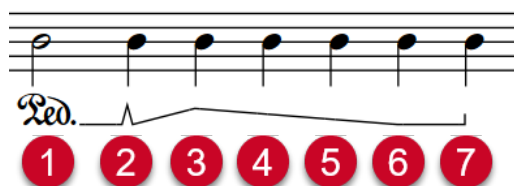
ペダルのリテイクは、プレーヤーがサスティンペダルを上げることによってピアノの弦にダンパーをかけて余韻を消し、そのあと再度ペダルを踏みこむことを示します。ペダルの強さの変更指示は、ペダルを踏みこむ深さの変更を示します。

Dorico Pro では、延長線タイプが「ライン (Line)」のペダル線のリテイクおよび強さの変更指示を明確に表現できます。

補足

ペダルのリテイクおよび強さの変更指示は、サスティンペダル線にのみ追加できます。

例



- 1 Ped. 字形
  - 2 リテイク
  - 3 1/4 踏み込み
  - 4 1/2 踏み込み
  - 5 3/4 踏み込み
  - 6 完全な踏み込み
  - 7 線終了フック
- 

#### 関連リンク

[ペダル線の延長タイプを変更する \(1529 ページ\)](#)

[ペダル線の位置 \(1523 ページ\)](#)

[ペダル線の強さを変更する \(1521 ページ\)](#)

[リテイクとペダルの強さの変更指示の削除 \(1522 ページ\)](#)

[演奏技法、ペダル線、弦の指示記号、ハープペダルダイアグラムの入力方法 \(398 ページ\)](#)

## 浄書モードのサスティンペダル線

浄書モードでサスティンペダル線を選択すると、各ペダル線の開始位置と終了位置、および線上のリテイクまたはペダルの強さの変更指示にハンドルが表示されます。これらのハンドルにより、ペダル線の各部分を個別に移動できるとともに、開始位置、終了位置、および各リテイクまたはペダルの強さの変更指示におけるペダルの強さを変更できます。



#### 浄書モードのリテイクを含むサスティンペダル

ペダル線の開始位置には2つ、リテイクおよびペダルの強さの変更指示には3つ、そしてペダル線の終了位置には3つのハンドルがあります。

#### 補足

- プロパティパネルの「**ペダル線 (Pedal Lines)**」グループまたは「**ペダル線のリテイク (Pedal Line Retakes)**」グループで示す通り、ペダルの強さは必ず **0** 以上 **1** 以下となります。
  - **1** はペダルを完全に踏み込んだ状態です。
  - **0** はまったく踏み込んでいない状態です。
- ソステナートおよびウナコルダペダル線は、開始位置と終了位置にハンドルが1つずつしかなく、これらは開始位置と終了位置の表示位置を移動できますが、水平方向のみになります。

### サスティンペダル線の開始位置

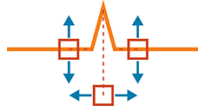
ペダル線の開始位置には2つのハンドルがあります。



- 左側のハンドルはペダル線の開始位置を移動させます。このハンドルは左右に動かせます。

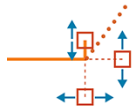
- 右側のハンドルはペダル線の開始レベルを変化させます。このハンドルは上下に動かします。これを変化させると、次のリテイクまたはペダルの強さの変更指示、またはペダル線の終端との関係に従い、ペダル延長線の角度が変わります。

### ペダルの強さの変更指示およびリテイク



- 左側のハンドルは、リテイクまたはペダルの強さの変更指示前のペダルの強さを変化させます。このハンドルは上下に動かします。
- 右側のハンドルは、リテイクまたはペダルの強さの変更指示後のペダルの強さを変化させます。このハンドルは上下に動かします。
- 下のハンドルは、リテイクまたはペダルの強さの変更指示の位置に対応します。このハンドルは左右に動かします。

### サスティンペダル線の終了位置



- 上のハンドルはフックの長さを変化させます。このハンドルは上下に動かします。
- 右側のハンドルはペダル線の終了位置のペダルの強さを変化させます。このハンドルは上下に動かします。
- 下のハンドルはペダル線の終了位置を移動させます。このハンドルは左右に動かします。

#### 関連リンク

[ペダル線の開始記号、フック、および延長線 \(1526 ページ\)](#)



[アイテムの表示位置の移動 \(652 ページ\)](#)

## ペダル線のリテイクタイプの変更

既存のサスティンペダル線上的リテイクをペダルの強さの変更指示に変更、またはその逆に変更できます。

たとえば、ペダルの強さが変更される間にペダルを完全にリリースさせない場合、タイプを「リテイク (Retake)」から「レベルを変更 (Change Level)」に変更します。

#### 前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。
- 下ゾーンのツールバーで「プロパティ (Properties)」 を選択しておきます。
- 浄書ツールボックスで「グラフィックの編集 (Graphic Editing)」 を選択しておきます。

#### 手順

1. 浄書モードで、タイプを変更するリテイクまたはペダルの強さの変更指示を選択します。
2. プロパティパネルの「ペダル線のリテイク (Pedal Line Retakes)」グループで、「リテイクタイプ (Retake type)」をオンにします。
3. 以下のオプションから使用するタイプを選択します。
  - リテイク (Retake)

- **レベルを変更 (Change Level)**

---

結果

ペダル線のリテイクのタイプが変更されます。

補足

タイプ変更後のペダル線のリテイクの外観は、両側にすでに設定されているペダルの強さに従い変化します。たとえば、一方のペダルの強さが **0** に設定されている場合、リテイクのノッチはもう一方にしか表示されません。



---

## ペダル線の全体のレベルを変更する

個々のサスティンペダル線の全体のレベルを変更できます。ペダル線の強さを開始記号の前に「1/2 Ped.」のような先頭テキストで表示できます。これはたとえば、楽曲全体を通してサスティンペダルを半分だけ踏み込むことをピアニストに示す場合に役立ちます。

初期設定では、サスティンペダル線の全体のレベルは完全に踏み込んだ状態です。

前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。
  - 下ゾーンのツールバーで「プロパティ (Properties)」 を選択しておきます。
  - 浄書ツールボックスで「グラフィックの編集 (Graphic Editing)」 を選択しておきます。
- 

手順

1. 浄書モードで、全体のレベルを変更するペダル線を選択します。
  2. プロパティパネルの「ペダル線 (Pedal Lines)」のグループで、「全体のレベル (Global level)」をオンにします。
  3. メニューから以下のいずれかのオプションを選択します。
    - 1/8
    - 1/4
    - 1/2
    - 3/4
- 

結果

選択したペダル線の全体のレベルが変更され、選択した強さが開始記号の前に先頭テキストとして表示されます。

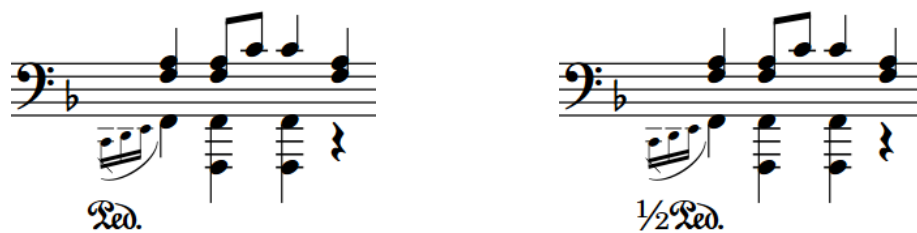
補足

先頭テキストによる強さは、開始記号にフックを使用するペダル線には表示されません。

---



例



デフォルトの完全に踏み込んだ状態の強さのペダル線      半分踏み込んだ状態の強さのペダル線

関連リンク

[ペダル線の開始記号、フック、および延長線 \(1526 ページ\)](#)

[ペダル線の開始記号の外観の変更 \(1527 ページ\)](#)

## ペダル線の強さを変更する

個々のサスティンペダル線の開始位置と終了位置、リテイク、またはペダルの強さの変更指示の位置で強さを変更できます。これはたとえば、特定の位置でペダルの踏み込み量を指定する場合に役立ちます。

### 補足

ペダル線の強さの変更は、延長線タイプが「ライン (Line)」の場合のみ行なえます。

前提条件

浄書ツールボックスで「**グラフィックの編集 (Graphic Editing)**」を選択しておきます。

手順

1. 浄書モードで、ペダル線の強さを変更する個々のペダル線の以下のいずれかのハンドルを選択します。
  - ペダルの開始レベルを変更するには、開始記号にある右側のハンドルを選択します。
  - リテイク/強さの変更指示の直前のペダルの強さを変更するには、リテイク/強さの変更指示の左側のハンドルを選択します。
  - リテイク/強さの変更指示の直後のペダルの強さを変更するには、リテイク/強さの変更指示の右側のハンドルを選択します。
  - ペダルの終了レベルを変更するには、終了フックにある右側のハンドルを選択します。

### ヒント

選択したアイテムだけでなく、すべてのアイテムにハンドルを表示するには、「**浄書 (Engrave)**」 > 「**ハンドルを表示 (Show Handles)**」 > 「**常時 (Always)**」を選択します。これにより、複数のアイテムの個々のハンドルを選択するのがより簡単になります。

2. 以下のいずれかの操作を行なって、ハンドルを移動します。
  - 上に移動させるには、**[Alt/Opt]+[↑]** を押します。
  - 下に移動させるには、**[Alt/Opt]+[↓]** を押します。
  - 強さを 0 (踏み込みなし) にスナップするには、**[Ctrl]/[command]+[Alt/Opt]+[↑]** を押します。

- 強さを1(完全に踏み込み)にスナップするには、**[Ctrl]/[command]+[Alt/Opt]+[↓]**を押します。
- 任意のレベルになるまでハンドルをクリックして上下にドラッグします。

#### 結果

選択した位置にある対応するペダル線のペダルの強さを変更されます。

#### ヒント

ペダル線の強さを変更すると、変更した部位に応じて、プロパティパネルの「**ペダル線 (Pedal Lines)**」のグループにある以下のプロパティがオンになります。

- **開始レベル (Start level)**
- **リテイクの開始レベル (Start level at retake)**
- **リテイクの終了レベル (End level at retake)**
- **終了レベル (End level)**

これらのプロパティを使用して、数値フィールドの数値を変更することにより、対応する位置にあるペダル線の強さを変更することもできます。たとえば、**1**はペダルを完全に踏み込んだ状態、**0**は踏み込まれていない状態です。

プロパティをオフにすると、選択したペダル線の強さがデフォルトにリセットされます。

#### 関連リンク

[浄書ツールボックス \(554 ページ\)](#)

[ペダル線の延長タイプを変更する \(1529 ページ\)](#)

## リテイクとペダルの強さの変更指示の削除

サスティンペダル線を削除したり位置を変更したりせずに、ペダルのリテイクおよび強さの変更指示を削除できます。

#### 手順

1. 記譜モードで、リテイクまたはペダルの強さの変更指示を削除する位置にある各譜表上のアイテムを選択します。
2. 以下のいずれかの操作を行なって、リテイクまたはペダルの強さの変更指示を削除します。
  - 演奏技法のポップオーバーを開いて、ポップオーバーに「**nonotch**」と入力してから、**[Return]**を押します。

#### 補足

「**nonotch**」は1単語で、スペースを入れずに入力します。

- 「**編集 (Edit)**」 > 「**記譜 (Notations)**」 > 「**ペダル線 (Pedal Lines)**」 > 「**リテイクを削除 (Remove Retake)**」を選択します。このオプションはコンテキストメニューでも選択できます。

#### 結果

選択した各譜表の選択した位置にあるリテイクまたはペダルの強さの変更指示が削除されます。対応するサスティンペダル線が、ペダル線の開始位置、または削除位置の1つ前のリテイクやペダルの強さの変更指示の設定値に戻ります。

関連リンク

[演奏技法のポップオーバー \(399 ページ\)](#)

[ポップオーバーを使ってリテイクとペダルの強さの変更指示を追加する \(408 ページ\)](#)

[パネルを使ってリテイクとペダルの強さの変更指示を追加する \(410 ページ\)](#)

[ペダル線のマージ \(1525 ページ\)](#)

## ペダル線の位置

ペダル線のデフォルトの位置は、音符が右手用の上段の譜表にしか記譜されていない場合であっても下段の譜表の下です。オクターブ線、スラー、アーティキュレーションなど、その他すべての記譜記号の外側に配置されます。

1つのペダルを使用するときは、ペダル線はその他すべての記譜記号より外側でありつつ、できるだけ譜表の下端近くに配置されます。

複数のペダルを同時に使用するときは、ペダル線は以下の順番で譜表の下に並びます。

1. サスティンペダル: 譜表に一番近い位置
2. ソステヌートペダル: サスティンペダル線の下
3. ウナコルダペダル: 譜表から一番離れた位置

ペダル線の開始位置を示すグリフ/テキストの開始位置は、それが適用される音符に整列します。ペダル線の終了を示すために線終了フックを使用している場合、フックはそれが適用される音符またはリズム上の位置に整列します。

ペダル線のリズム上の位置は記譜モードで移動できます。これらは「**浄書オプション (Engraving Options)**」で設定されたデフォルト位置に配置されます。

### 補足

リテイクまたはペダルの強さの変更指示の位置を移動することはできません。移動するには、リテイクまたはペダルの強さの変更指示を削除してから、任意の位置に新規に入力します。

ペダル線の表示位置は浄書モードで変更できます。ただしこれは、それが属するリズム上の位置を変更するものではありません。ペダル線は複数同時に移動できますが、上下方向のみです。同様に、ペダル線のハンドルは複数同時に移動できますが、左右方向のみです。

すべてのペダル線のデフォルト位置に対するプロジェクト全体の設定は、「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**ペダル線 (Pedal Lines)**」ページで変更できます。たとえば、ペダル線と譜表間の最小距離、ペダル線と他のペダル線との間の最小距離、符頭および装飾音符に対するペダル線の位置に関する数値を変更できます。

関連リンク

[「浄書オプション \(Engraving Options\)」ダイアログ \(923 ページ\)](#)

[テキストによるペダル線の記号 \(1532 ページ\)](#)

[ペダル線の開始記号、フック、および延長線 \(1526 ページ\)](#)

[サスティンペダルのリテイクおよびペダルの強さの変更指示 \(1517 ページ\)](#)

[アイテムの表示位置の移動 \(652 ページ\)](#)

[音符/アイテムの位置の移動 \(502 ページ\)](#)


[アイテムの長さの変更 \(470 ページ\)](#)

[演奏技法、ペダル線、弦の指示記号、ハープペダルダイアグラムの入力方法 \(398 ページ\)](#)

## 装飾音符に対するペダル線の位置の変更

個々のペダル線の装飾音符に対する開始位置および終了位置は、プロジェクト全体の設定より優先される形で個別に変更できます。

#### 前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。
- 下ゾーンのツールバーで「プロパティ (Properties)」を選択しておきます。
- 浄書モードの場合は、浄書ツールボックスで「グラフィックの編集 (Graphic Editing)」を選択しておきます。

#### 手順

1. 装飾音符に対する位置を変更するペダル線を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルで、「ペダル線 (Pedal Lines)」グループから以下のいずれかのプロパティをオンにします。
  - 装飾音符の前から開始 (Starts before grace notes)
  - 装飾音符の前で終了 (Ends before grace notes)
3. 対応するチェックボックスをオン/オフにします。

#### 結果

チェックボックスをオンにすると、選択したペダル線の対応する部分が装飾音符の前に配置されます。チェックボックスをオフにすると、選択したペダル線の対応する部分が装飾音符の後に配置されます。

#### ヒント

- ペダル線のさらに詳細な位置調整は浄書モードで行なえます。
- すべてのペダル線の装飾音符に対する位置に関するプロジェクト全体の設定は、「浄書オプション (Engraving Options)」の「ペダル線 (Pedal Lines)」のページで変更できます。

#### 例



装飾音符の前に開始/終了するペダル線



装飾音符の後に開始/終了するペダル線


## ペダル線の分割

サスティンペダルは、その範囲内に存在する任意のアイテムの位置で分割して、2本のペダル線を作成できます。

#### 補足

これらの手順は、サスティンペダル線にのみ適用されます。

#### 前提条件

浄書モードの場合は、浄書ツールボックスで「グラフィックの編集 (Graphic Editing)」を選択しておきます。

#### 手順

1. サステインペダル線を分割する位置にある譜表上のアイテムを選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。

#### 補足

ペダル線の分割は一度に1つの譜表でのみ実行できます。

2. 「編集 (Edit)」 > 「記譜 (Notations)」 > 「ペダル線 (Pedal Lines)」 > 「ペダル線を分割 (Split Pedal Line)」を選択します。このオプションはコンテキストメニューでも選択できます。

#### 結果

選択した譜表の選択した位置でペダル線が分割されます。

#### 例



1本のペダル線



2本に分割されたペダル線

#### 手順終了後の項目

ペダル線は両方とも移動、長さの変更および編集が個別に行なえます。

#### 関連リンク

[浄書ツールボックス \(554 ページ\)](#)

[音符/アイテムの位置の移動 \(502 ページ\)](#)

[音符とアイテムを個々に選択/選択解除する \(460 ページ\)](#)

[ペダル線の開始記号、フック、および延長線 \(1526 ページ\)](#)

[ペダル線の延長タイプを変更する \(1529 ページ\)](#)

[テキストによるペダル線の記号 \(1532 ページ\)](#)

[演奏技法、ペダル線、弦の指示記号、ハーブペダルダイアグラムの入力方法 \(398 ページ\)](#)


## ペダル線のマージ

既存のサステインペダル線をマージできます。これによりたとえば、2本のサステインペダル線の間隔を埋めて1本にできます。

#### 補足

これらの手順は、サステインペダル線にのみ適用されます。

## 前提条件

浄書モードの場合は、浄書ツールボックスで「グラフィックの編集 (Graphic Editing)」を選択しておきます。

## 手順

1. 同じ譜表上のマージするサスティンペダル線を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。

## 補足

ペダル線のマージは一度に1つの譜表でのみ実行できます。

2. 「編集 (Edit)」 > 「記譜 (Notations)」 > 「ペダル線 (Pedal Lines)」 > 「ペダル線をマージ (Merge Pedal Lines)」を選択します。このオプションはコンテキストメニューでも選択できます。

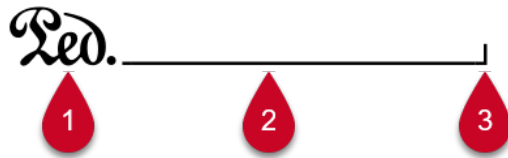
## 結果

選択したペダル線がマージされて1本のペダル線になります。

線の延長タイプのあるサスティンペダル線の場合は、マージされた各ペダル線の開始位置にリテイクが追加されます。

## ペダル線の開始記号、フック、および延長線

通常、ペダル線は開始記号、延長線、および終了フックから構成されます。これにより、演奏者に各種ペダルを踏み込む位置、踏み込み続ける長さ、およびペダルを上げる位置が明確に伝えられます。



- 1 開始記号
- 2 延長線
- 3 終了フック

Dorico Pro では、ペダル線の各部分の外観を、個々のペダル線に対しても、プロジェクト全体のすべてのペダル線に対しても変更できます。たとえば、プロジェクト全体のペダル線には開始記号としてグリフを表示しつつ、個々のペダル線の開始記号にはかわりにテキストを表示させるよう変更できます。

記譜モードでは、ペダル線全体を選択して、ペダル線のタイプに従い、延長線や開始記号など外観に関する設定の大部分を変更できます。

サスティンペダルのみ、浄書モードでサスティンペダルのそれぞれのセグメントを個別に選択し、それぞれのセグメントに異なるプロパティを設定できます。サスティンペダル線は、それが表示される組段それぞれについて別個のセグメントを持ちます。

## ヒント

多数のペダル線の外観を同時に変更する場合、対応するプロジェクト全体の設定を「浄書オプション (Engraving Options)」の「ペダル線 (Pedal Lines)」のページで変更の方が効果的な場合があります。

## 関連リンク

[「浄書オプション \(Engraving Options\)」ダイアログ \(923 ページ\)](#)

浄書モードのサスティンペダル線 (1518 ページ)

演奏技法、ペダル線、弦の指示記号、ハーブペダルダイアグラムの入力方法 (398 ページ)

## ペダル線の開始記号の外観の変更

プロジェクト全体の設定とは別に、ペダル線の開始記号の外観を個別に設定できます。ペダル線の開始記号は、伝統的なペダル線のグリフの各種バリエーション、その他の記号、またはテキストで表示できます。

前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。
- 下ゾーンのツールバーで「プロパティ (Properties)」 を選択しておきます。
- 浄書モードの場合は、浄書ツールボックスで「グラフィックの編集 (Graphic Editing)」 を選択しておきます。

手順

1. 開始記号の外観を変更するペダル線を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。

補足

選択するペダル線は、たとえばサスティンペダル線だけなど、同じタイプのものでなくてはなりません。

2. プロパティパネルの「ペダル線 (Pedal Lines)」のグループで、「記号の外観 (Sign appearance)」をオンにします。
3. メニューからのいずれかのオプションを選択します。  
オプションは、選択したペダル線のタイプによって異なります。

結果

選択したペダル線の開始記号の外観が変更されます。

ヒント

- ウナコルダペダル線の終了記号は、自動的に開始記号と同じになります。
- 「記号の外観 (Sign appearance)」をオフにすると選択したペダル線の開始記号の外観がデフォルトの設定に戻ります。
- すべてのペダル線の開始記号のデフォルトの外観に対するプロジェクト全体の設定は、「浄書オプション (Engraving Options)」の「ペダル線 (Pedal Lines)」ページで変更できます。

例

サスティン  
ペダル線



Ped. 字形  
(Ped. Glyph)



Ped 字形 (Ped  
Glyph)



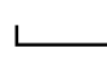
P 字形 (P  
Glyph)



記号  
(Symbol)



Ped. テキスト  
(Ped. Text)



フック  
(Hook)

ソステヌート ペダル線				Sost. テキスト (Sost. text)	ソステヌート テキスト (Sostenuto text)
	Sost. 字形 (Sost. Glyph)	S 字形 (S Glyph)	記号 (Symbol)		
ウナコルダ ペダル線		u.c.			
	記号 (Symbol)	u.c.	ウナコルダ (una corda)		

手順終了後の項目

テキストによる記号の外観が選択されている場合、表示しているテキストは編集できます。

関連リンク

[ペダル線の開始テキストの編集](#) (1533 ページ)

## ペダル線の開始/終了位置のフックのタイプを個別に変更する

ペダル線の開始位置または終了位置に表示するフックのタイプを個別に変更できます。

### 補足

開始フックのタイプを変更できるのは開始記号にフックを表示するペダル線のみであり、終了フックのタイプを変更できるのは延長線を表示するペダル線のみです。

前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。
- 下ゾーンのツールバーで「プロパティ (Properties)」 を選択しておきます。
- 浄書モードの場合は、浄書ツールボックスで「グラフィックの編集 (Graphic Editing)」 を選択しておきます。

手順

1. フックのタイプを変更するペダル線を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「ペダル線 (Pedal Lines)」グループで、以下のプロパティを片方または両方オンにします。
  - 線開始フック (Line start hook)
  - 線終了フック (Line end hook)
3. 各メニューから以下のいずれかのオプションを選択します。
  - フックなし (No Hook)
  - 垂直フック (Vertical Hook)
  - 傾斜フック (Slant Hook)
  - 逆フック (Inverse Hook)



#### 結果

選択したペダル線の開始位置または終了位置のフックのタイプが変更されます。

#### ヒント

プロジェクト全体ですべてのペダル線のデフォルトの外観を変更するには、「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**ペダル線 (Pedal Lines)**」ページで設定を行ないます。

---



#### 例



## ペダル線の延長タイプを変更する

プロジェクト全体の設定とは別に、個々のペダル線に使用される延長タイプを変更できます。これはたとえば、一部のペダル線では破線と終了位置の記号を表示し、他のペダル線では実線と終了フックを表示する場合などで役立ちます。

#### 前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。
  - 下ゾーンのツールバーで「**プロパティ (Properties)**」を選択しておきます。
  - 浄書モードの場合は、浄書ツールボックスで「**グラフィックの編集 (Graphic Editing)**」を選択しておきます。
- 

#### 手順

1. 延長タイプを変更するペダル線を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
  2. プロパティパネルの「**ペダル線 (Pedal Lines)**」グループで、「**延長タイプ (Continuation type)**」をオンにします。
  3. メニューから以下のいずれかの延長タイプを選択します。
    - **ライン (Line)**
    - **終端の記号 (Sign at End)**
    - **終端の記号と破線 (Sign at End and Dashed Line)**
    - **なし (None)**
- 

#### 結果

選択したペダル線の延長タイプが変更されます。

#### ヒント

すべてのペダル線の延長タイプに対するプロジェクト全体の設定は、「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**ペダル線 (Pedal Lines)**」のページで変更できます。ペダル線の種類ごとに異なる延長タイプを選択できます。たとえば、サスティンペダル線にはラインを使用し、ウナコルダペダル線には終端の記号のみ使用するといった具合です。

---

例



関連リンク

- [「浄書オプション \(Engraving Options\)」ダイアログ \(923 ページ\)](#)
- [浄書ツールボックス \(554 ページ\)](#)
- [プロパティパネル \(826 ページ\)](#)
- [サスティンペダルのリテイクおよびペダルの強さの変更指示 \(1517 ページ\)](#)
- [ペダル線の強さを変更する \(1521 ページ\)](#)
- [ポップオーバーを使ったペダル線の入力 \(407 ページ\)](#)
- [ウナコルダペダル線の復元テキストの編集 \(1534 ページ\)](#)

## ペダル延長線の破線および破線の間隔の長さを個別に変更する

破線のペダル延長線の破線および破線の間隔の長さは、プロジェクト全体の設定より優先される形で個別に変更できます。この操作は現在のレイアウトとフレームチェーンのみに対して、もしくはすべてのレイアウトとフレームチェーンに対して行なえます。

### 補足

これらの手順は破線の延長線を使用するペダル線にのみ適用されます。

前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。
- 下ゾーンのツールバーで「**プロパティ (Properties)**」を選択しておきます。
- 浄書ツールボックスで「**グラフィックの編集 (Graphic Editing)**」を選択しておきます。
- ローカルのプロパティ変更に関して、適切なプロパティ範囲を選択しておきます。

手順

1. 浄書モードで、破線の外観を変更するペダル線を選択します。
2. プロパティパネルの「**ペダル線 (Pedal Lines)**」グループで、以下のプロパティを片方または両方オンにします。
  - **破線の長さ (Dash length)**
  - **破線の間隔の長さ (Dash gap length)**
3. 数値フィールドの値を変更します。

結果

「**破線の長さ (Dash length)**」を増やすと、ペダル延長線の破線が長くなり、減らすと短くなります。

「**破線の間隔の長さ (Dash gap length)**」を増やすと、ペダル延長線の破線の間隔が大きくなり、減らすと小さくなります。

プロパティ範囲を「**ローカル (Locally)**」に設定している場合、この変更は現在のレイアウトおよびフレームチェーンのみに影響します。

## ヒント

「**浄書オプション (Engraving Options)**」 > 「**ペダル線 (Pedal Lines)**」 > 「**デザイン (Design)**」 > 「**詳細設定 (Advanced Options)**」で、プロジェクト全体のすべての破線のペダル延長線におけるデフォルトの破線の長さおよび破線の間隔の長さを変更できます。

## 関連リンク

[プロパティ範囲の変更 \(828 ページ\)](#)

[プロパティ設定を別のレイアウト/フレームチェーンにコピーする \(825 ページ\)](#)

## ペダル線の太さを個別に変更する

延長線の太さは、プロジェクト全体の設定より優先される形で個別に変更できます。この操作は現在のレイアウトとフレームチェーンのみに対して、もしくはすべてのレイアウトとフレームチェーンに対して行なえます。

## 前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。
- 下ゾーンのツールバーで「**プロパティ (Properties)**」を選択しておきます。
- 浄書ツールボックスで「**グラフィックの編集 (Graphic Editing)**」を選択しておきます。
- ローカルのプロパティ変更に関して、適切なプロパティ範囲を選択しておきます。

## 手順

1. 浄書モードで、延長線の太さを変更するペダル線を選択します。
2. プロパティパネルの「**ペダル線 (Pedal Lines)**」グループで、「**線の太さ (Line width)**」をオンにします。  
初めてプロパティをオンにする場合、数値は自動的に **0** にリセットされます。
3. 数値フィールドの値を変更します。

## 結果

「**線の太さ (Line width)**」を増やすとペダルの延長線が太くなり、値を減らすと延長線が細くなります。プロパティ範囲を「**ローカル (Locally)**」に設定している場合、この変更は現在のレイアウトおよびフレームチェーンのみに影響します。

## ヒント

すべてのペダル延長線のデフォルトの太さに対するプロジェクト全体の設定は、「**浄書オプション (Engraving Options)**」 > 「**ペダル線 (Pedal Lines)**」 > 「**デザイン (Design)**」で変更できます。



## ペダル線の延長記号に括弧を付ける

プロジェクト全体の設定とは別に、ペダル線の延長記号に付く括弧の有無を切り替えられます。この操作は現在のレイアウトとフレームチェーンのみに対して、もしくはすべてのレイアウトとフレームチェーンに対して行なえます。

ペダル線が組段区切りまたはフレーム区切りをまたぐとき、初期設定では新しい組段の開始位置にペダル線の延長記号が表示されます。

## 前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。

- 下ゾーンのツールバーで「プロパティ (Properties)」を選択しておきます。
- 浄書モードの場合は、浄書ツールボックスで「グラフィックの編集 (Graphic Editing)」を選択しておきます。
- ローカルのプロパティ変更に関して、適切なプロパティ範囲を選択しておきます。

---

#### 手順

1. 延長記号の外観を変更するペダル線を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「ペダル線 (Pedal Lines)」グループで、「括弧内に延長記号を表示 (Show continuation sign in parentheses)」をオンにします。
3. 対応するチェックボックスをオン/オフにします。

---

#### 結果

チェックボックスがオンになっているときは延長記号が括弧付き表示になり、オフになっているときは括弧なし表示になります。プロパティ範囲を「ローカル (Locally)」に設定している場合、この変更は現在のレイアウトおよびフレームチェーンのみに影響します。

プロパティをオフにすると、ペダル線の表示はプロジェクト全体の設定に従います。

#### ヒント

プロジェクト全体ですべてのペダル線の延長記号のデフォルトの外観を変更するには、「浄書オプション (Engraving Options)」>「ペダル線 (Pedal Lines)」>「デザイン (Design)」で設定を行ないます。

## テキストによるペダル線の記号

すべてのタイプのペダル線は、開始記号としてグリフやフックのかわりにテキストを表示できます。テキストの開始記号を持つペダル線の開始位置に表示されるテキスト、新しい組段の開始位置に表示される延長テキスト、およびウナコルダペダル線の終了位置に表示される復元テキストは上書きできます。

すべてのペダル線のデザインに関するプロジェクト全体の設定は、「浄書オプション (Engraving Options)」>「ペダル線 (Pedal Lines)」>「デザイン (Design)」でタイプに従い変更でき、また個々のペダル線の外観は、プロジェクト全体の設定より優先される形で個別に変更できます。

### 記号ではなくテキストによる指示を使用するペダル線

ウナコルダペダル線や、サスティンペダル線のうち開始記号に装飾的な記号ではなく、**Ped.Text** のようなテキストを使用しているものなどについては、ペダル線の開始位置に表示されるテキストを上書きして、任意の演奏指示に変更できます。

### 延長記号/テキスト

ペダル線が後続の組段にまたがって続くとき、延長記号/テキストは初期設定では括弧の中に表示されます。ペダル線が開始記号に記号ではなく、**Ped.Text** のようなテキストを使用している場合は、新しい組段の開始位置に表示されるテキストを書き換えて、任意の演奏指示に変更できます。

### ウナコルダペダル線

ウナコルダペダル記号において、終了位置のペダル上げ指示に相当するのがトレコルデへの復帰指示です。ペダル線の終了位置に表示されるテキスト「tre corde」は上書きして、お好みの演奏指示に置き換えられます。

関連リンク

[ペダル線の開始記号の外観の変更 \(1527 ページ\)](#)

[演奏技法、ペダル線、弦の指示記号、ハープペダルダイアグラムの入力方法 \(398 ページ\)](#)

## ペダル線の開始テキストの編集

開始記号にテキストを使用するペダル線について、開始位置に表示されるテキストを個別に変更できます。

前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。
- 下ゾーンのツールバーで「**プロパティ (Properties)**」を選択しておきます。
- 浄書モードの場合は、浄書ツールボックスで「**グラフィックの編集 (Graphic Editing)**」を選択しておきます。

---

手順

1. 開始テキストを編集するペダル線を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「**ペダル線 (Pedal Lines)**」のグループで、「**テキスト (Text)**」をオンにします。
3. 入力フィールドに任意のテキストを入力します。
4. **[Return]** を押します。

---

結果

選択したペダル線の開始位置に表示されるテキストが変更されます。

「**テキスト (Text)**」をオフにすると、選択したペダル線の開始位置に表示されるデフォルトのテキストが復元されます。

補足

プロパティをオフにすると、入力したカスタムテキストは完全に削除されます。

---

関連リンク

[浄書ツールボックス \(554 ページ\)](#)

## ペダル線の延長テキストの編集

ペダル線が組段区切りまたはフレーム区切りをまたいで継続するときに、後続の組段の開始位置に表示されるテキストを変更できます。

補足

これらの手順は、開始記号にテキストを使用するペダル線にのみ適用されます。

---

前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。
- 下ゾーンのツールバーで「**プロパティ (Properties)**」を選択しておきます。
- 浄書モードの場合は、浄書ツールボックスで「**グラフィックの編集 (Graphic Editing)**」を選択しておきます。

---

#### 手順

1. 延長テキストを編集するペダル線を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
  2. プロパティパネルの「ペダル線 (Pedal Lines)」のグループで、「延長テキスト (Continuation text)」をオンにします。
  3. 入力フィールドに任意のテキストを入力します。
  4. **[Return]** を押します。
- 

#### 結果

選択したペダル線で、後続の組段の開始位置に表示される延長テキストが変更されます。

「延長テキスト (Continuation text)」をオフにすると、選択したペダル線のデフォルトの延長テキストが復元されます。

#### 補足

プロパティをオフにすると、入力したカスタムテキストは完全に削除されます。

---

## ウナコルダペダル線の復元テキストの編集

ウナコルダペダル線において、終了位置のペダル上げ指示に相当するのがトレコルデへの復帰指示です。個々のウナコルダペダル線において、終了位置に表示されるテキスト「tre corde」を任意のテキストに変更できます。

#### 補足

これらの手順は、開始記号にテキストを使用するウナコルダペダル線にのみ適用されます。

---

#### 前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。
  - 下ゾーンのツールバーで「プロパティ (Properties)」を選択しておきます。
  - 浄書モードの場合は、浄書ツールボックスで「グラフィックの編集 (Graphic Editing)」を選択しておきます。
- 

#### 手順

1. 復元テキストを編集するウナコルダペダル線を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
  2. プロパティパネルの「ペダル線 (Pedal Lines)」のグループで、「復元テキスト (Restorative text)」をオンにします。
  3. 入力フィールドに任意のテキストを入力します。
  4. **[Return]** を押します。
- 

#### 結果

選択したウナコルダペダル線の終了位置に表示される復元テキストが変更されます。

「復元テキスト (Restorative text)」をオフにすると、選択したペダル線のデフォルトの復元テキストが復元されます。

#### 補足

プロパティをオフにすると、入力したカスタムテキストは完全に削除されます。

---

## 再生時のペダル線

Dorico Pro では、ペダル線は自動的に再生に反映されます。

3つのピアノペダルは以下の MIDI コントローラーを送信します。

- サステインペダル線は MIDI コントローラー 64 (サステイン) を送信します。
- ソステヌートペダル線は MIDI コントローラー 66 (ソステヌート) を送信します。
- ウナコルダペダル線は MIDI コントローラー 67 (ソフトペダル) を送信します。

Pianoteq や Garritan CFX Concert Grand など一部のピアノ VST インストゥルメントは、サステインペダルの部分的な踏み込みをサポートします。詳細はメーカー説明書を参照してください。

### 再生オプション

Dorico Pro のペダリングの再生方法のオプションは、「**再生オプション (Playback Options)**」の「**ペダル線 (Pedal Lines)**」ページで確認できます。

ペダル線の再生に関する以下のパラメーターを制御できます。

- ペダリング開始時の踏み込みの長さ
- ペダル線の途中のリテイクの長さ
- ペダリング終了時のリリースの長さ
- 開始時の踏み込みおよびリテイクの再生が、対応する位置の音符または和音の開始位置より前になるか後になるか

関連リンク

[「再生オプション \(Playback Options\)」ダイアログ \(925 ページ\)](#)

[MIDI CC エディター \(866 ページ\)](#)

## MusicXML ファイルから読み込まれたペダル線

MusicXML ファイルからは、サステインペダル線を読み込みます。MusicXML が表現できるのはサステインペダルのみで、ペダルの踏み込みの強さは表現できません。

# 演奏技法

演奏技法という言葉は、演奏者が演奏する音符のサウンドに修飾を加えることを伝えるためのさまざまな指示を意味します。演奏技法の例としては、アンブシュアの変更や弓の位置の変更、または楽器にミュートを付けたりペダルを踏み込んだりすることなどがあります。

Dorico Pro には、以下のタイプの演奏技法があります。

## グリフの演奏技法

上げ弓  $\vee$  や下げ弓  $\sqcap$  などの記号を表示する演奏技法です。

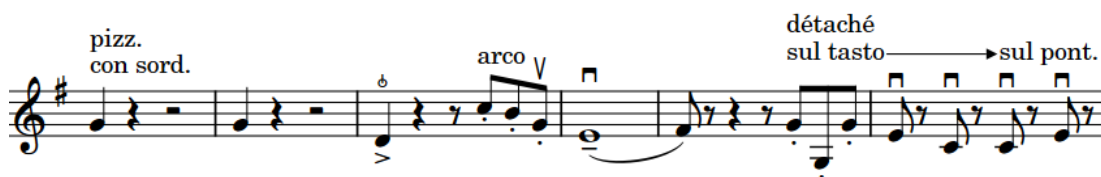
## テキストの演奏技法

pizz. や con sordino などのテキストを表示する演奏技法です。

利用できる演奏技法はすべて記譜モードの演奏技法パネルに、インストゥルメントのファミリーごとにまとめられています。たとえば、ペダル線は演奏技法パネルの「**キーボード (Keyboard)**」のセクションで確認できます。

### 補足

ペダル線にはリテイク、開始記号、延長線など、他の演奏技法にはない固有の追加指示があるため、それらは別個に記載されています。またペダル線は、プロパティパネル内に「**演奏技法 (Playing Techniques)**」のグループから分かれた独自のグループを持ちます。



グリフやテキストの演奏技法 (延長線でグループ化されたテキストの演奏技法を含む) があるフレーズ

演奏技法によってインストゥルメントの再生が変化します。たとえば、pizz. の演奏技法をバイオリンの譜表に追加すると、VST インストゥルメントが鳴らすサウンドを変化させるキースイッチがオンになります。Dorico Pro では、サウンドライブラリーに対応するサンプルが含まれていれば、入力した演奏技法の再生に必要なサウンドが、再生効果を使用して生成されます。

楽譜に一度しか表示されない演奏技法には、それが継続することを意味するものも多数あります。たとえば、ピチカートは通常一度しか表示されませんが、アルコなど次の演奏技法の位置まで適用されます。Dorico Pro では、それがどの音符まで適用されるか演奏者に明確に伝えるために、演奏技法のあとや演奏技法間に延長線を表示できます。また、複数の演奏技法を1つのグループにまとめることもできます。

演奏技法のテキストはプレーンフォントを使用し、強弱記号や表現テキストと見間違えないよう太字も斜体も使用しません。

### ヒント

- 既存のグリフ、テキスト、またはユーザーの用意したグラフィックを使用してカスタムの演奏技法を作成できます。さらに、再生に与える影響や延長線の表示の有無も指定できます。
- 「**フォントスタイルを編集 (Edit Font Styles)**」ダイアログでは、「**演奏技法用フォント (Playing Technique Font)**」のフォントスタイルをいくつかの側面から変更できます。ペダル線は他の演奏技法とは別のフォントスタイルを使用します。



関連リンク

[演奏技法、ペダル線、弦の指示記号、ハーブペダルダイアグラムの入力方法 \(398 ページ\)](#)  
[再生効果 \(1046 ページ\)](#)  
[カスタムの演奏技法 \(976 ページ\)](#)  
[ペダル線 \(1516 ページ\)](#)  
[弦の指示記号 \(1313 ページ\)](#)  
[「フォントスタイルを編集 \(Edit Font Styles\)」 ダイアログ \(930 ページ\)](#)  
[デフォルトのフォントファミリーを変更する \(937 ページ\)](#)  
[「MIDI インポートオプション \(MIDI Import Options\)」 ダイアログ \(95 ページ\)](#)  
[テキストの書き出し \(113 ページ\)](#)

## 浄書オプションで演奏技法の設定をプロジェクト全体に適用する

「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**演奏技法 (Playing Techniques)**」ページで、演奏技法の外観と位置を設定し、プロジェクト全体に適用できます。

「**演奏技法 (Playing Techniques)**」ページのオプションでは、演奏技法と譜表との距離、同じ位置に複数あるテキストによる演奏技法の配置、テキストによる演奏技法のデフォルトの水平オフセット、および演奏技法の延長スタイルを変更できます。装飾音符の演奏技法を小さく表示するかどうかも変更できます。

多くのオプションに、オプションを楽譜に適用したときにどのように表示されるかを示す図があります。

関連リンク

[「浄書オプション \(Engraving Options\)」 ダイアログ \(923 ページ\)](#)  
[カスタムの演奏技法 \(976 ページ\)](#)

## 演奏技法へのテキストの追加

演奏技法を入力したあと、たとえば演奏技法の意図を明確にするためにテキストを追加できます。この操作は現在のレイアウトとフレームチェーンのみに対して、もしくはすべてのレイアウトとフレームチェーンに対して行なえます。

### 補足

この手順はペダル線には適用されません。

---

### 前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。
- 下ゾーンのツールバーで「**プロパティ (Properties)**」  を選択しておきます。
- 浄書モードの場合は、浄書ツールボックスで「**グラフィックの編集 (Graphic Editing)**」  を選択しておきます。
- ローカルのプロパティ変更に関して、適切なプロパティ範囲を選択しておきます。

### 手順

1. テキストを追加する演奏技法を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「**演奏技法 (Playing Techniques)**」グループで「**末尾テキスト (Suffix)**」をオンにします。
3. 入力フィールドに任意のテキストを入力します。

#### 4. **[Return]** を押します。

---

##### 結果

入力したテキストが選択した演奏技法に追加され、演奏技法の後に表示されます。プロパティ範囲を「ローカル (Locally)」に設定している場合、この変更は現在のレイアウトおよびフレームチェーンのみに影響します。

---

##### 例



末尾テキストのない演奏技法



演奏技法に追加された末尾テキスト

---

##### 関連リンク

- [プロパティパネル \(826 ページ\)](#)
- [プロパティ範囲の変更 \(828 ページ\)](#)
- [浄書ツールボックス \(554 ページ\)](#)
- [カスタムの演奏技法 \(976 ページ\)](#)
- [テキストによるペダル線の記号 \(1532 ページ\)](#)

## 演奏技法の背景の塗りつぶし

演奏技法は、たとえば小節線をまたぐときの読みやすさを確保するために、個別に背景を空白で塗りつぶせます。この操作は現在のレイアウトとフレームチェーンのみに対して、もしくはすべてのレイアウトとフレームチェーンに対して行なえます。

##### 前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。
  - 下ゾーンのツールバーで「**プロパティ (Properties)**」 を選択しておきます。
  - 浄書ツールボックスで「**グラフィックの編集 (Graphic Editing)**」 を選択しておきます。
  - ローカルのプロパティ変更に関して、適切なプロパティ範囲を選択しておきます。
- 

##### 手順

1. 浄書モードで、背景を塗りつぶす演奏技法を選択します。
  2. プロパティパネルの「**演奏技法 (Playing Techniques)**」グループで、「**背景を塗りつぶし (Erase background)**」をオンにします。
- 

##### 結果

選択した演奏技法の背景が削除されます。プロパティ範囲を「ローカル (Locally)」に設定している場合、この変更は現在のレイアウトおよびフレームチェーンのみに影響します。

「**背景を塗りつぶし (Erase background)**」をオフにすると、選択した演奏技法がデフォルトの、背景の塗りつぶしがいない状態に戻ります。

例



背景の塗りつぶしなしのテキストの演奏技法



背景の塗りつぶしありのテキストの演奏技法

手順終了後の項目

演奏技法の塗りつぶしの余白の幅は、四方それぞれについて変更できます。

関連リンク

[テキストアイテムの背景の塗りつぶし \(1774 ページ\)](#)

## テキストの演奏技法の塗りつぶしの余白を変更する

演奏記号は個別に塗りつぶしの余白を変更できます。余白の幅は演奏記号の四方それぞれについて個別に変更できます。この操作は現在のレイアウトとフレームチェーンのみに対して、もしくはすべてのレイアウトとフレームチェーンに対して行なえます。

前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。
- 下ゾーンのツールバーで「プロパティ (Properties)」を選択しておきます。
- 浄書ツールボックスで「グラフィックの編集 (Graphic Editing)」を選択しておきます。
- ローカルのプロパティ変更に関して、適切なプロパティ範囲を選択しておきます。

手順

1. 浄書モードで、塗りつぶしの余白を変更するテキストの演奏記号を選択します。
2. プロパティパネルの「演奏技法 (Playing Techniques)」グループで、「塗りつぶしの余白 (Erasure padding)」の2つのプロパティの一方または両方をオンにします。
  - 「L」は演奏技法の左側の余白の幅を変更します。
  - 「R」は演奏技法の右側の余白の幅を変更します。
  - 「上 (T)」は演奏技法の上側の余白の幅を変更します。
  - 「下 (B)」は演奏技法の下側の余白の幅を変更します。
3. 数値フィールドの値を変更します。

結果

値を大きくすると余白が増え、値を小さくすると余白が減ります。プロパティ範囲を「ローカル (Locally)」に設定している場合、この変更は現在のレイアウトおよびフレームチェーンのみに影響します。

ヒント

すべての演奏技法の塗りつぶしの余白のデフォルトに関するプロジェクト全体の設定は、「浄書オプション (Engraving Options)」>「演奏技法 (Playing Techniques)」>「デザイン (Design)」で変更できます。ただし、この方法では各辺の余白を個別に変更することはできません。

## 演奏技法の表示/非表示

演奏技法は個別に表示/非表示にできます。たとえば、エクスプレッションマップが正しい再生をトリガーするために演奏技法の入力が必要だが、演奏技法を楽譜に表示させたくない場合などに、この機能を使用します。この操作は現在のレイアウトとフレームチェーンのみに対して、もしくはすべてのレイアウトとフレームチェーンに対して行なえます。

### 前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。
- 下ゾーンのツールバーで「プロパティ (Properties)」を選択しておきます。
- 浄書モードの場合は、浄書ツールボックスで「グラフィックの編集 (Graphic Editing)」を選択しておきます。
- ローカルのプロパティ変更に関して、適切なプロパティ範囲を選択しておきます。

### 手順

1. 非表示にする演奏技法、または表示させる演奏技法のガイドを選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「演奏技法 (Playing Techniques)」グループで「非表示 (Hidden)」をオン/オフにします。

### 結果

「非表示 (Hidden)」をオンにすると、選択した演奏技法が非表示になり、オフにすると表示されます。プロパティ範囲を「ローカル (Locally)」に設定している場合、この変更は現在のレイアウトおよびフレームチェーンのみに影響します。

非表示にした演奏技法のそれぞれの位置にはガイドが表示されます。ただし初期設定では、ガイドは印刷されません。

### ヒント

- 演奏技法のガイドの表示/非表示は、「ビュー (View)」 > 「ガイド (Signposts)」 > 「演奏技法 (Playing Techniques)」を選択して切り替えられます。
- 「環境設定 (Preferences)」の「キーボードショートカット (Key Commands)」ページで、「アイテムを表示/非表示 (Hide/Show Item)」にキーボードショートカットを割り当てることができます。
- 演奏技法のポップオーバーを使用すると、非表示の演奏技法を入力できます。

### 関連リンク

[プロパティパネル \(826 ページ\)](#)

[プロパティ範囲の変更 \(828 ページ\)](#)

[浄書ツールボックス \(554 ページ\)](#)

[エクスプレッションマップ \(1019 ページ\)](#)

[ガイド \(490 ページ\)](#)

[「環境設定 \(Preferences\)」ダイアログの「キーボードショートカット \(Key Commands\)」ページ \(64 ページ\)](#)

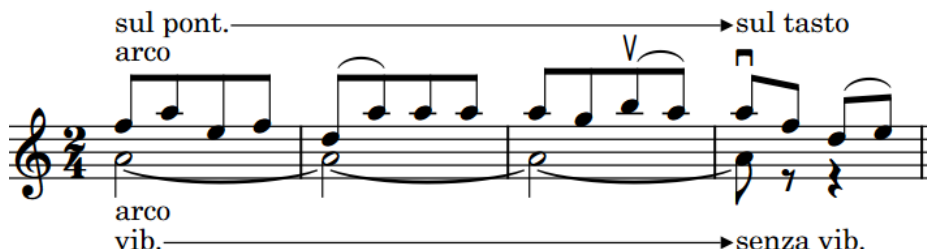
[注釈 \(740 ページ\)](#)

[ポップオーバーを使った演奏技法の入力 \(404 ページ\)](#)

## 演奏技法の位置

初期設定では、演奏技法は、テキストと記号いずれも譜表の上に配置されます。声楽の譜表では、譜表の上かつ強弱記号の下に配置されます。複声部においては、符尾が上向きの声部の演奏技法は譜表の上に、符尾が下向きの声部の演奏技法は譜表の下に自動的に配置されます。

グリフの演奏技法は符頭に対して中央揃え、テキストの演奏技法は符頭に対して左揃えで配置されます。



同じ譜表の2つの声部における演奏技法の配置

演奏技法のリズム上の位置は記譜モードで移動できます。これらは「**浄書オプション (Engraving Options)**」で設定されたデフォルト位置に配置されます。

演奏技法の表示位置は浄書モードで移動できますが、適用されるリズム上の位置がこれによって変更されることはありません。

演奏技法の垂直の順番は、そのスタックカテゴリー内でのみ変更できます。

- すべての演奏技法のデフォルト位置に対するプロジェクト全体の設定は、「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**演奏技法 (Playing Techniques)**」ページで変更できます。
- 「**演奏技法を編集 (Edit Playing Techniques)**」ダイアログで、演奏技法をボウイング記号として定義できます。

関連リンク

[演奏技法の延長線の構成要素 \(1544 ページ\)](#)

[演奏技法のグループ \(1548 ページ\)](#)

[音符/アイテムの位置の移動 \(502 ページ\)](#)

[アイテムの表示位置の移動 \(652 ページ\)](#)

[「浄書オプション \(Engraving Options\)」ダイアログ \(923 ページ\)](#)


## 演奏技法の垂直の順番を変更する


同じ位置に複数の演奏技法がある場合、演奏技法の垂直の順番を各スタックカテゴリー内で変更できます。この操作は現在のレイアウトとフレームチェーンのみに対して、もしくはすべてのレイアウトとフレームチェーンに対して行なえます。

Dorico Pro の演奏技法には、以下の垂直スタックカテゴリーがあります。

1. テキストの/グループ化された演奏技法 (延長線を持つ演奏技法を含む): 譜表から一番離れた位置
2. ボウイング記号: 初期設定では、テキストの/グループ化された演奏技法の内側、フェルマータの外側
3. グリフ演奏技法: 譜表に一番近い位置、フェルマータの内側

前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。
- 下ゾーンのツールバーで「**プロパティ (Properties)**」を選択しておきます。

- 浄書ツールボックスで「グラフィックの編集 (Graphic Editing)」を選択しておきます。
- ローカルのプロパティ変更に関して、適切なプロパティ範囲を選択しておきます。

#### 手順

1. 浄書モードで、垂直の順番を変更する演奏技法を選択します。
2. プロパティパネルの「演奏技法 (Playing Techniques)」グループで、「タッキングインデックス (Tucking index)」をオンにします。
3. 数値フィールドの値を変更します。

#### 結果

選択した演奏技法の順番が、同じ位置で、またはデュレーションに沿って同じスタックカテゴリー内の他の演奏技法と入れ替わります。これは、同じグループ内の他の演奏技法にも影響します。

「タッキングインデックス (Tucking index)」の値が大きい演奏技法が譜表から遠い位置に配置され、値が小さい演奏技法が譜表に近い位置に配置されます。

プロパティ範囲を「ローカル (Locally)」に設定している場合、この変更は現在のレイアウトおよびフレームチェーンのみに影響します。

#### ヒント

- テキストの/グループ化された演奏技法に対するボウイング記号の配置は、「浄書オプション (Engraving Options)」 > 「演奏技法 (Playing Techniques)」 > 「垂直位置 (Vertical Position)」で変更できます。
- 「演奏技法を編集 (Edit Playing Techniques)」ダイアログで、演奏技法をボウイング記号として定義できます。

#### 関連リンク

[プロパティパネル \(826 ページ\)](#)

[プロパティ範囲の変更 \(828 ページ\)](#)

[浄書ツールボックス \(554 ページ\)](#)

[譜表に対するアイテムの位置の変更 \(474 ページ\)](#)

[タッキングインデックスのプロパティ \(656 ページ\)](#)

[フェルマータのタイプ \(1336 ページ\)](#)

[「演奏技法を編集 \(Edit Playing Techniques\)」ダイアログ \(976 ページ\)](#)

## 演奏技法の延長線

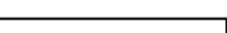
演奏技法の延長線は、演奏技法が適用される音符を正確に伝えるもので、演奏技法間の段階的な移行を示すこともできます。



演奏技法の延長線が複数表示されたフレーズ

Dorico Pro の演奏技法には、以下のタイプの延長線があります。

## デュレーション線


sul tasto 

演奏技法が適用される特定のデュレーションを示します。ほとんどの演奏技法のデュレーション線は、終端にフックのキャップが付いた実線です。

以下の条件が満たされると、演奏技法にデュレーション線が表示されます。

- 演奏技法にデュレーションがある。
- 演奏技法の延長タイプが、線を表示するように設定されている。
- 演奏技法のグループ化が解除されているか、グループ内の最後の演奏技法である。

## 変移線

sul tasto 

線で指定したデュレーションの間に、開始位置の演奏技法を徐々に終了位置の演奏技法へと変えることを意味します。ほとんどの演奏技法の変移線は、終端に矢印のキャップが付いた実線です。

変移線は、グループ内の演奏技法の間に自動的に表示されます。

「演奏技法を編集 (Edit Playing Techniques)」ダイアログでは、各演奏技法の延長タイプを変更したり、デュレーション線および変移線のデフォルトのタイプを指定したりできます。

## 補足

演奏技法の延長線は再生には影響しません。再生時に生成されるサウンドは、演奏技法に関連付けられた再生効果、エクスペリションマップの設定、およびプロジェクトに読み込まれたサウンドライブラリーに依存します。

## 関連リンク

[演奏技法、ペダル線、弦の指示記号、ハープペダルダイアグラムの入力方法 \(398 ページ\)](#)

[カスタムの演奏技法 \(976 ページ\)](#)

[「演奏技法を編集 \(Edit Playing Techniques\)」ダイアログ \(976 ページ\)](#)

[アイテムの長さの変更 \(470 ページ\)](#)

[ライン \(1551 ページ\)](#)

[ラインの構成要素 \(1553 ページ\)](#)

## 演奏技法のデュレーション

Dorico Pro では、1 つの位置から先にはなく、特定の範囲に演奏技法を適用した場合、その演奏技法が明示的なデュレーションを持ちます。デュレーションを持つ演奏技法は、そのデュレーション内の再生にのみ影響し、延長線を表示できます。

記譜モードでは、デュレーションを持つ演奏技法にはデュレーションを表わす開始ハンドルと終了ハンドルが表示されます。



デュレーションを持つ演奏技法の開始ハンドルと終了ハンドル

演奏技法にデュレーションを設定するには、以下のいずれかの操作を行ないます。

- 演奏技法をグループ化する
- 音符の入力中に開口型の演奏技法を入力し、それを延長する
- 音符の範囲に演奏技法を追加する
- 演奏技法を延長する



デュレーションのない弦の指示記号 (選択時)



デュレーションとデュレーション線が表示された弦の指示記号 (選択時)

#### 関連リンク

[演奏技法、ペダル線、弦の指示記号、ハープペダルダイアグラムの入力方法 \(398 ページ\)](#)

[アイテムの長さの変更 \(470 ページ\)](#)

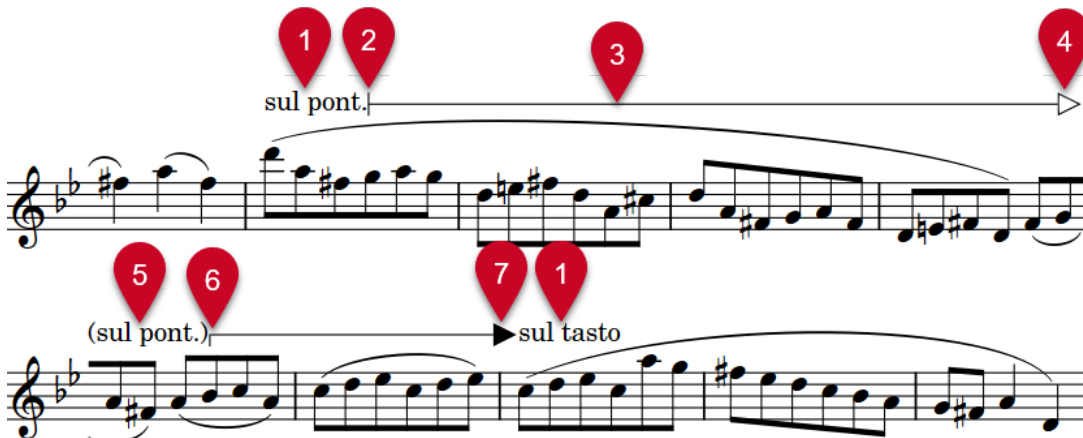
[演奏技法をグループ化する \(1549 ページ\)](#)

[ビブラートバーの演奏技法 \(1485 ページ\)](#)

[弦の指示記号 \(1313 ページ\)](#)

## 演奏技法の延長線の構成要素

Dorico Pro では、演奏技法の延長線は、単一のアイテムとして一緒に機能する複数の要素で構成されています。同じ演奏技法のデュレーション線と変移線に、異なるデフォルトの構成要素がある場合があります。



### 1 演奏技法

後ろに続く線のデフォルトの外観を制御します。

### 2 開始位置のキャップ

演奏技法の延長線の開始位置に表示される記号です。

### 3 ラインのボディ

演奏技法の延長線の主要部分を構成する横線、パターン、またはくさびで、延長線の全長にわたって延びています。

### 4 延長線終端のキャップ

複数の組段をまたいで続く演奏技法の延長線のセグメントの終了位置に表示される記号です。



## 5 演奏技法の延長記号

続きであることがわかるよう、複数の組段をまたいで続く演奏技法の延長線の後続のセグメントの開始位置に、現在の演奏技法が括弧付きで表示されます。演奏技法の延長記号を演奏技法ごとに個別に非表示にすることはできません。

## 6 延長線のキャップ

複数の組段をまたいで続く演奏技法の延長線の後続のセグメントの開始位置に表示される記号。

## 7 終端のキャップ

演奏技法の延長線の終了位置に表示される記号。

関連リンク

[カスタムの演奏技法](#) (976 ページ)

[ライン](#) (1551 ページ)

## 浄書モードの演奏技法の延長線

浄書モードでは、演奏技法の延長線にはそれぞれ開始位置と終了位置の2か所に四角いハンドルがあります。これらのハンドルを動かして、演奏技法の延長線の表示位置、長さ、および角度を調節できます。

演奏技法の延長線が組段区切りおよびフレーム区切りをまたぐ場合は、区切りの両側の演奏技法の延長線の分割された部分をそれぞれ個別に移動できます。



延長線が付いた演奏技法を動かす場合、隣接する演奏技法や同じグループに含まれる延長線なども含め、2つが一緒に移動されます。延長線または延長線のハンドルを動かすと、演奏技法とは別に延長線が移動します。

関連リンク

[アイテムの表示位置の移動](#) (652 ページ)


## 演奏技法のデュレーション線を表示/非表示にする

演奏技法ごとにデュレーション線を個別に表示/非表示にできます。デュレーション線を非表示にする場合は、何も表示しないか `sim.` を表示するかを選択できます。デュレーション線を表示する場合は、線を表示するか、グリフの演奏技法の記号を繰り返すことができます。この操作は現在のレイアウトとフレームチェーンのみに対して、もしくはすべてのレイアウトとフレームチェーンに対して行なえます。

### 補足

これらの手順は演奏技法のデュレーション線にのみ適用され、演奏技法の変移線には適用されません。そのかわり、変移線のスタイルは変更できます。

前提条件

- デュレーション線を表示/非表示にする演奏技法にデュレーションがあることとします。
- 下ゾーンを表示しておきます。
- 下ゾーンのツールバーで「プロパティ (Properties)」 を選択しておきます。
- ローカルのプロパティ変更に関して、適切なプロパティ範囲を選択しておきます。

#### 手順

1. 記譜モードで、デュレーション線を表示/非表示にする演奏技法を選択します。
2. プロパティパネルの「演奏技法 (Playing Techniques)」グループで、「延長タイプ (Continuation type)」をオンにします。
3. メニューから以下のいずれかのオプションを選択します。
  - なし (None)
  - sim.
  - ライン (Line)
  - 記号を繰り返し (Repeat the signs) (グリフの演奏技法のみ)

#### 結果

「なし (None)」を選択すると、選択した演奏技法の後ろのデュレーション線が非表示になります。「sim.」を選択すると、デュレーション線が非表示になり、選択したそれぞれの演奏技法の後ろに sim. と表示されます。

「ライン (Line)」を選択すると、選択した演奏技法の後ろにデュレーション線が表示されます。

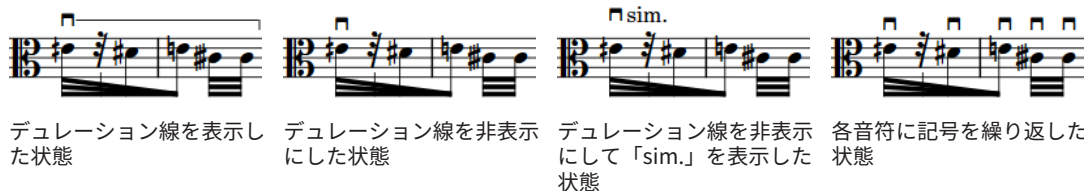
グリフの演奏技法の場合、「記号を繰り返し (Repeat the signs)」を選択すると、デュレーション内の各音符に演奏技法が自動的に繰り返されます。

プロパティ範囲を「ローカル (Locally)」に設定している場合、この変更は現在のレイアウトおよびフレームチェーンのみに影響します。

#### ヒント

「演奏技法を編集 (Edit Playing Techniques)」ダイアログでは、各演奏技法のデフォルトの延長タイプを変更できます。

#### 例



#### 手順終了後の項目

デュレーション線のスタイルを変更できます。

#### 関連リンク



[プロパティパネル \(826 ページ\)](#)

[プロパティ範囲の変更 \(828 ページ\)](#)

## 演奏技法の延長線のスタイルを変更する

たとえば、特定のデュレーション線を波線で表示したい場合などに、演奏技法のデュレーション線および変移線のスタイルを個別に変更できます。キャップを含む線のスタイル全体を変更することも、キャップはそのままボディスタイルだけを変更することもできます。

### 前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。
- 下ゾーンのツールバーで「プロパティ (Properties)」を選択しておきます。
- 浄書ツールボックスで「グラフィックの編集 (Graphic Editing)」を選択しておきます。

### 手順

1. 浄書モードで、スタイルを変更する演奏技法の延長線を選択します。
2. プロパティパネルの「演奏技法 (Playing Techniques)」グループで、以下のいずれかのプロパティをオンにします。
  - キャップを含む線のスタイル全体を変更するには、「線のスタイル (Line style)」をオンにします。
  - キャップはそのままボディスタイルだけを変更するには、「ラインボディスタイル (Line body style)」をオンにします。
3. メニューから使用するスタイルを選択します。

### 結果

選択した演奏技法の延長線のスタイルが変更されます。

### ヒント

「演奏技法を編集 (Edit Playing Techniques)」ダイアログでは、各演奏技法のデュレーション線および変移線のデフォルトのタイプを変更できます。ただし、変更できるのは線のスタイル全体のみです。

### 手順終了後の項目

演奏技法の延長線のキャップを個別に変更できます。

### 関連リンク

[浄書ツールボックス \(554 ページ\)](#)


[「演奏技法を編集 \(Edit Playing Techniques\)」ダイアログ \(976 ページ\)](#)

[ラインのボディスタイルの変更 \(1563 ページ\)](#)

## 演奏技法の延長線のキャップを変更する

演奏技法の延長線のキャップを、ラインボディスタイルとは関係なく個別に変更できます。また、複数の組段をまたぐ演奏技法の延長線の個々のセグメントのキャップを変更することもできます。

### 前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。
- 下ゾーンのツールバーで「プロパティ (Properties)」を選択しておきます。
- 浄書ツールボックスで「グラフィックの編集 (Graphic Editing)」を選択しておきます。

### 手順

1. 浄書モードで、キャップを変更する演奏技法の延長線を選択します。

2. プロパティパネルの「演奏技法 (Playing Techniques)」グループで、以下のプロパティの一方または両方をオンにします。
  - 選択した線の開始位置のキャップを変更するには、「開始位置のキャップ (Start cap)」をオンにします。
  - 選択した線の終了位置のキャップを変更するには、「終端のキャップ (End cap)」をオンにします。
  - それ以降の組段で、選択した線のセグメントの開始位置のキャップを変更するには、「延長線のキャップ (Continuation cap)」をオンにします。
  - それ以降の組段で、選択した線のセグメントの終了位置のキャップを変更するには、「延長線終端のキャップ (Continuation end cap)」をオンにします。
3. 各メニューから使用するスタイルを選択します。

#### 結果

選択した演奏技法の延長線のキャップが変更されます。

#### ヒント

「演奏技法を編集 (Edit Playing Techniques)」ダイアログでは、各演奏技法のデュレーション線および変移線のデフォルトのキャップを変更できます。

#### 手順終了後の項目

演奏技法の延長線のスタイルを個別に変更できます。

#### 関連リンク

[ラインのキャップの変更 \(1564 ページ\)](#)

## 演奏技法のグループ

演奏技法のグループは自動的に垂直位置を揃えられ、グループ単位で移動および編集ができるようになります。グループ内の個々の演奏技法を移動すると、釣り合いを取るために両側の延長線の長さが自動的に調整されます。



演奏技法のグループ



中央の演奏技法を移動して変移線が調整された同じ演奏技法のグループ

2つ以上の演奏技法がデュレーションを挟んで隣り合っており、それらが既存の音符と一緒に追加されるか、音符の入力中に連続して入力された場合、それらの演奏技法は自動的にグループ化されます。

変移線は、グループ内の演奏技法の間に自動的に表示されます。演奏技法グループ内の最後の演奏技法にデュレーションがある場合は、その演奏技法にデュレーション線を表示できます。

グループに属するいずれかの演奏技法が選択されると、グループ全体の演奏技法が強調表示されます。



浄書モードでは、グループ内の演奏技法および延長線を個別に移動できます。グループ内の演奏技法は延長線に連結されており、演奏技法を移動すると隣り合う延長線も自動的に移動します。演奏技法のグループの開始位置には、グループ全体の垂直位置をコントロールするハンドルがあります。

 sul tasto → sul pont.

#### 補足

- 演奏技法のグループ同士をグループ化することはできません。グループ化できるのは、演奏技法同士または単一の演奏技法と既存のグループのみです。
- 演奏技法のグループはプロジェクト全体に適用されます。つまり、レイアウトによって異なる形で演奏技法をグループ化することはできません。ただし、演奏技法の表示位置を、グループとは関係なく、レイアウトごとに個別に移動させることはできます。

#### 関連リンク

[演奏技法、ペダル線、弦の指示記号、ハーブペダルダイアグラムの入力方法 \(398 ページ\)](#)

[演奏技法のデュレーション \(1543 ページ\)](#)

[アイテムの長さの変更 \(470 ページ\)](#)

[音符/アイテムの位置の移動 \(502 ページ\)](#)

[アイテムの表示位置の移動 \(652 ページ\)](#)

## 演奏技法をグループ化する

入力時に自動でグループ化されなかった演奏技法を手動でグループ化できます。グループ化された演奏技法は自動的に垂直位置を揃えられ、演奏技法間には変移線が表示され、グループ単位で移動および編集ができるようになります。

#### 補足

演奏技法のグループ同士をグループ化することはできません。グループ化できるのは、演奏技法同士または単一の演奏技法と既存のグループのみです。

演奏技法のグループ同士をグループ化するには、まずグループ化を解除する必要があります。

#### 手順

1. 記譜モードで、グループ化する演奏技法を選択します。
2. 「編集 (Edit)」 > 「記譜 (Notations)」 > 「演奏技法 (Playing Techniques)」 > 「演奏技法をグループ化 (Group Playing Techniques)」を選択します。このオプションはコンテキストメニューでも選択できます。

#### 結果

選択した演奏技法がグループ化されます。演奏技法のデュレーションはグループ内の次の演奏技法に到達するまで延長され、グループ内の演奏技法間には変移線が表示されます。グループ内の各変移線には、「演奏技法を編集 (Edit Playing Techniques)」ダイアログで変移線の開始位置の演奏技法に対して定義された適切な変移線タイプが使用されます。

関連リンク

[「演奏技法を編集 \(Edit Playing Techniques\)」ダイアログ \(976 ページ\)](#)

[演奏技法の延長線 \(1542 ページ\)](#)

## 演奏技法のグループ化の解除/グループからの演奏技法の削除

演奏技法のグループ化を解除して、グループ内のすべての演奏技法をグループ化されていない状態にできます。また、選択した演奏技法のみをグループから削除して、選択していない演奏技法はグループに残すこともできます。

これは、それらの演奏技法が出現するすべてのレイアウトに適用されます。

---

手順

1. 記譜モードで、グループ化を解除する、またはグループから削除する演奏技法を選択します。
2. 以下のいずれかの操作を行ないます。
  - 選択したグループ内のすべての演奏技法のグループ化を解除するには、「編集 (Edit)」 > 「記譜 (Notations)」 > 「演奏技法 (Playing Techniques)」 > 「演奏技法のグループ化を解除 (Ungroup Playing Techniques)」を選択します。
  - 選択した演奏技法だけをグループから削除するには、「編集 (Edit)」 > 「記譜 (Notations)」 > 「演奏技法 (Playing Techniques)」 > 「グループから演奏技法を削除 (Remove Playing Technique from Group)」を選択します。

ヒント

このオプションはコンテキストメニューでも選択できます。

---

結果

選択した演奏技法またはすべての演奏技法が選択したグループから削除されます。「演奏技法を編集 (Edit Playing Techniques)」ダイアログで演奏技法に設定したとおり、変移線が表示されていた演奏技法にデュレーション線が表示されます。

# ライン

ラインはピアノの楽譜でどちらの手を使うかや弓圧の段階的な変化を伝えるなど、楽譜の中でさまざまな意味を伝えることができます。Dorico Pro では、ラインを使用して音符の間を垂直線、横棒線、または斜めの線でつなぎ、さまざまなスタイルや外観を適用できます。



さまざまな意味を伝える垂直線と横棒線が含まれたフレーズ

## 補足

矢印付きの破線などの汎用的なデザインが使用されていることから、Dorico Pro のラインには固定の音楽的意味はなく、その機能は主に表示上のものです。これはつまり、再生に影響を与えないことを意味します。Dorico Pro では、強弱記号、アルペジオ、グリッサンド、トリルなど、再生に影響する固有の記譜記号については専用の機能が用意されています。

Dorico Pro では、以下の種類のラインを使用できます。

## 横棒線

横棒線は指定したデュレーションにかかります。つまり、ある位置から始まり、それ以降のある位置で終わります。横棒線は弓圧を表わすくさびのように時間の経過に伴う変化を示したり、フーガの主題にまたがる角括弧やメロディが別の譜表に移動する位置を示す音符間の直線のように、音符間のつながりを示したりできます。

初期設定では、横棒線は1つの譜表にのみ適用されます。場合によっては、すべてのパートレイアウトでは横棒線を表示しつつ、フルスコアレイアウトでは組段オブジェクトの位置にのみ横棒線を表示する必要があることがあります。Dorico Pro では横棒線を入力する際、すべての譜表に適用させることも、1つの譜表のみに適用させることもできます。

連結の種類は、横棒線の位置と特定の性質を制御します。横棒線の開始位置と終了位置にはそれぞれ異なる種類の連結を設定できます。たとえば、開始位置ではラインを符頭に連結し、終了位置では小節線に連結するなどです。

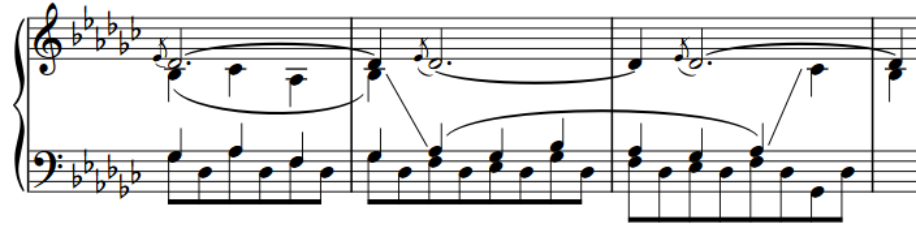
## 補足

横棒線を入力したあとに連結の種類を変更することはできません。

Dorico Pro では、横棒線のそれぞれの終端に以下の種類の連結を設定できます。

### ● 符頭に連結

音符の位置に関係なく、個々の音符に連結されます。つまり、符頭に連結されたラインの終端は、音符のピッチまたは楽譜での位置を変更すると音符と一緒に移動します。符頭に連結されたラインの終端の位置とラインの角度は開始音と終了音のピッチ差によって決まるため、符頭に連結されたラインは斜めになることも水平になることもあります。



ピアノの譜表間でメロディが移動する位置を示す符頭に連結されたラインが2本含まれたフレーズ

- **小節線に連結**

位置に連結され、その位置が小節線の位置と一致する場合は小節線に揃えられます。小節線に連結されたラインは常に水平です。



2つの完全小節にまたがる小節線に連結されたライン

- **位置に連結**

位置に連結され、その位置にある音符、和音、休符に対して相対的に配置されます。

位置に連結されたラインは水平で、初期設定では譜表の上に配置されます。位置に連結されたラインのそれぞれの終端は、その位置にある音符、和音、または休符の左側で始まり右側で終わります。



2つの完全小節にまたがる位置に連結されたライン

**垂直線**

垂直線は単一の位置に存在し、その位置にある音符や和音に対して相対的に配置されます。垂直線は、ピアノの楽譜で特定の音符にどちらの手を使うかを示すなど、特定の瞬間についての詳細を伝えることができます。



右手で弾く音符を示す垂直線

関連リンク

[ラインの入力方法](#) (416 ページ)

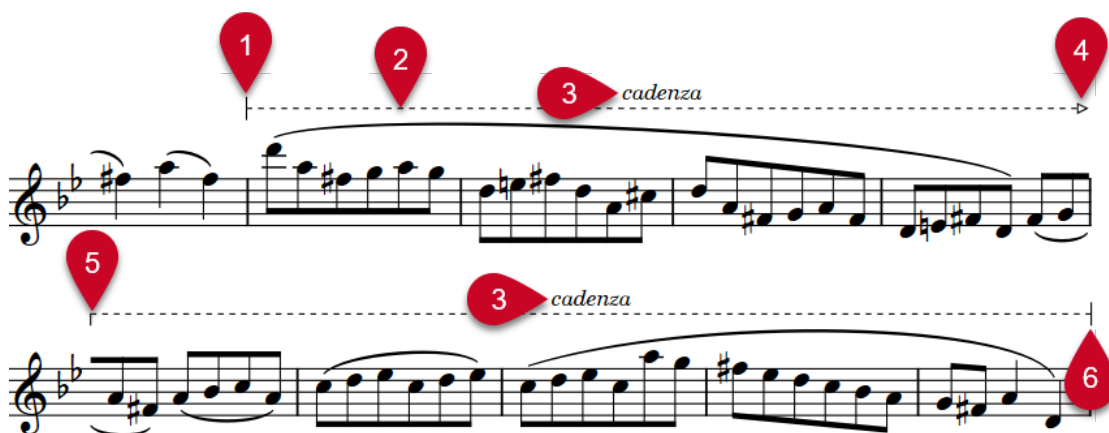
[ラインパネル](#) (417 ページ)



[カスタムライン \(984 ページ\)](#)  
[ラインへのテキストの追加 \(1565 ページ\)](#)  
[横棒線の配置の変更 \(1558 ページ\)](#)  
[アルペジオ記号 \(1453 ページ\)](#)  
[グリッサンドライン \(1461 ページ\)](#)  
[ジャズアーティキュレーション \(1495 ページ\)](#)  
[オクターブ線 \(1201 ページ\)](#)  
[トリル \(1438 ページ\)](#)  
[演奏技法の延長線 \(1542 ページ\)](#)  
[ペダル線 \(1516 ページ\)](#)  
[リピート括弧 \(1591 ページ\)](#)  
[ギターバンド \(1469 ページ\)](#)  
[連符の角括弧 \(1831 ページ\)](#)

## ラインの構成要素

Dorico Pro では、ラインは、単一のアイテムとして一緒に機能する複数の要素で構成されています。



### 1 開始位置のキャップ

ラインの開始位置に表示される記号。キャップには矢印、フック、終端線、音楽記号、またはテキストを使用できます。

### 2 ラインのボディ

ラインの主要部分を構成する横棒線、垂直線、繰り返し可能な記号、破線/点線のパターン、またはくさび線で、ラインの全長または高さ全体にわたって延びています。

### 3 注釈

キャップに追加で表示されるテキストまたは音楽記号です。注釈は、各ラインセグメントの中央に配置するか、ラインの開始位置または終了位置のみに配置するか、繰り返し可能な記号もしくはハイフン付きテキストとしてラインのデュレーション全体にわたって表示できます。初期設定では、垂直線のテキストは下から上に読む形で表示されます。

### 4 延長線終端のキャップ

複数の組段をまたいで続くラインのセグメントの終了位置に表示される記号。キャップには矢印、フック、終端線、音楽記号、またはテキストを使用できます。

### 5 延長線のキャップ

複数の組段をまたいで続くラインの後続のセグメントの開始位置に表示される記号。キャップには矢印、フック、終端線、音楽記号、またはテキストを使用できます。

### 6 終端のキャップ

ラインの終了位置に表示される記号。キャップには矢印、フック、終端線、音楽記号、またはテキストを使用できます。

関連リンク

[ラインの入力方法](#) (416 ページ)

[カスタムライン](#) (984 ページ)

[ラインのボディスタイルの変更](#) (1563 ページ)

[ラインのキャップの変更](#) (1564 ページ)

[ラインへのテキストの追加](#) (1565 ページ)

[横棒線に対するテキストの位置の変更](#) (1567 ページ)

[垂直線に対するテキストの位置の変更](#) (1568 ページ)

[演奏技法の延長線](#) (1542 ページ)

[「ラインを編集 \(Edit Lines\)」ダイアログ](#) (988 ページ)

[「ラインボディを編集 \(Edit Line Bodies\)」ダイアログ](#) (992 ページ)

[「ライン注釈を編集 \(Edit Line Annotations\)」ダイアログ](#) (994 ページ)

[「繰り返し可能な記号を編集 \(Edit Repeatable Symbols\)」ダイアログ](#) (999 ページ)

## 浄書オプションでラインの設定をプロジェクト全体に適用する

横棒線の開始位置と終了位置のデフォルトの間隔、および横棒線とほかのアイテムとの間のデフォルトの間隔に関するオプションは、「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**ライン (Lines)**」ページにあります。

オプションと一緒に表示される図は、オプションを楽譜に適用したときにどのように表示されるかを示します。

関連リンク

[「浄書オプション \(Engraving Options\)」ダイアログ](#) (923 ページ)

[ラインの長さ](#) (1560 ページ)

## ラインの位置

音符と譜表に対するラインの位置は、ラインの種類と、横棒線の場合は連結の種類によって決まりません。

### 符頭に連結された横棒線

符頭に連結されたラインは、連結先の符頭を基準として配置されます。つまり、開始音の右側から始まり、終了音の左側で終わります。これらのラインは両端の音符を自動的に追従します。つまり、各音符のピッチを変更したり位置を移動したりすると、それに応じてラインの両端の位置が移動します。ラインの位置は音符のピッチによって決まるため、譜表の内側に表示されることも外側に表示されることもあります。一方の端のみラインが符頭に連結されている場合、ラインは水平に保たれますが、連結先の音符の譜表上の位置に追従します。

### 小節線に連結された横棒線

初期設定では、小節線に連結された横棒線は譜表の上に配置されます。ラインのデュレーションが小節線の位置と一致する場合は終端が小節線に揃えられます。終端が小節線と一致しない場合、これらのラインは位置に連結されたラインと同じように配置されます。

### 位置に連結された横棒線

初期設定では、位置に連結されたラインは譜表の上に配置されます。位置に連結されたラインのそれぞれの終端は、その位置にある音符、和音、または休符の左側で始まり右側で終わります。

### 垂直線

垂直線は、そのラインが適用される音符および音符の臨時記号の左に配置されますが、装飾音符が付く場合は、装飾音符と標準の音符との間に配置されます。同じ位置に複数の垂直線が存在する場合、最後に追加したラインが一番右、つまり音符または和音のすぐ左に配置されます。

垂直線を音符の右側に表示したり、横棒線の位置を変更して譜表内に表示したりするなど、ラインの配置はさまざまな方法で変更できます。

#### 関連リンク

[垂直線の水平方向の順序を変更する \(1556 ページ\)](#)

[垂直線を装飾音符の前に表示する \(1557 ページ\)](#)

[横棒線の配置の変更 \(1558 ページ\)](#)

[アイテムの表示位置の移動 \(652 ページ\)](#)



[カスタムライン \(984 ページ\)](#)

[ラインの入力方法 \(416 ページ\)](#)

## 垂直線を音符の右または左に表示する

たとえば、選択した垂直線を音符の右側に表示するなど、垂直線を音符のどちら側に表示するかを変更できます。

#### 前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。
- 下ゾーンのツールバーで「プロパティ (Properties)」を選択しておきます。
- 浄書モードの場合は、浄書ツールボックスで「グラフィックの編集 (Graphic Editing)」を選択しておきます。

---

#### 手順

1. 水平方向の位置を変更する垂直線を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「垂直線 (Vertical Lines)」グループで、「表示する側 (Side)」をオンにします。
3. 以下のいずれかのオプションを選択します。
  - 左 (Left)
  - 右 (Right)

---

#### 結果

選択したラインが音符のそれぞれの側に表示されます。

例



音符の左側の垂直線



音符の右側の垂直線



手順終了後の項目

同じ位置にある音符の同じ側に複数の垂直線が存在する場合、垂直線の順序を変更できます。

## 垂直線の水平方向の順序を変更する

同じ位置にある音符の同じ側に複数の垂直線が存在する場合、垂直線の水平方向の順序を変更できます。

前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。
- 下ゾーンのツールバーで「プロパティ (Properties)」を選択しておきます。
- 浄書モードの場合は、浄書ツールボックスで「グラフィックの編集 (Graphic Editing)」を選択しておきます。

手順

1. 順序を変更する垂直線を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「垂直線 (Vertical Lines)」グループで、「列 (Column)」をオンにします。
3. 数値フィールドの値を変更します。

結果

同じ位置の他の垂直線に対する選択した垂直線の順序が変更されます。

「列 (Column)」の値が大きいラインが左側に表示され、値が小さいラインが右側に表示されます。

## 垂直線の衝突回避の有効化/無効化

個々の垂直線の衝突を回避するかどうかを変更できます。これは、水平方向のスペーシングに影響する場合があります。この操作は現在のレイアウトとフレームチェーンのみに対して、もしくはすべてのレイアウトとフレームチェーンに対して行なえます。

前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。
- 下ゾーンのツールバーで「プロパティ (Properties)」を選択しておきます。
- 浄書ツールボックスで「グラフィックの編集 (Graphic Editing)」を選択しておきます。
- ローカルのプロパティ変更に関して、適切なプロパティ範囲を選択しておきます。

#### 手順

1. 浄書モードで、衝突回避を有効化または無効化する垂直線を選択します。
2. プロパティパネルの「垂直線 (Vertical Lines)」グループで「衝突を回避 (Avoid collisions)」をオンにします。
3. 対応するチェックボックスをオン/オフにします。

#### 結果

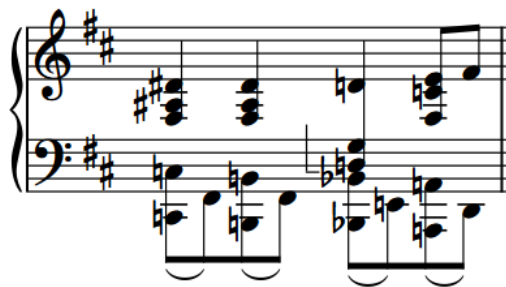
チェックボックスをオンにすると選択した垂直線は衝突を回避し、オフにすると回避しません。プロパティ範囲を「ローカル (Locally)」に設定している場合、この変更は現在のレイアウトおよびフレームチェーンのみに影響します。

このプロパティをオフにすると、垂直線は衝突回避のデフォルト設定に従います。

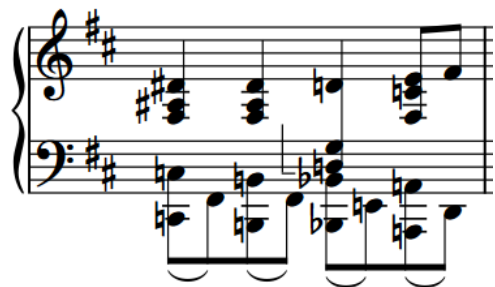
#### ヒント

「ラインを編集 (Edit Lines)」ダイアログでは、各ラインのデフォルトの衝突回避の動作を変更できません。

#### 例



衝突回避を有効にした状態



衝突回避を無効にした状態

#### 手順終了後の項目

ラインが臨時記号にかかるようにするなど、ラインの表示位置を浄書モードで変更できます。


#### 関連リンク


- [プロパティパネル \(826 ページ\)](#)
- [プロパティ範囲の変更 \(828 ページ\)](#)
- [浄書ツールボックス \(554 ページ\)](#)
- [音符のスペーシング \(643 ページ\)](#)
- [「ラインを編集 \(Edit Lines\)」ダイアログ \(988 ページ\)](#)
- [アイテムの表示位置の移動 \(652 ページ\)](#)

## 垂直線を装飾音符の前に表示する

装飾音符の左に表示されるように個々の垂直線を配置できます。初期設定では、垂直線は装飾音符のあと、つまり装飾音符と通常の音符の間に配置されます。

#### 前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。
- 下ゾーンのツールバーで「プロパティ (Properties)」を選択しておきます。

- 浄書モードの場合は、浄書ツールボックスで「グラフィックの編集 (Graphic Editing)」を選択しておきます。

#### 手順

1. 装飾音符の前に表示する垂直線を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「垂直線 (Vertical Lines)」グループで、「装飾音符前のライン (Line before grace notes)」をオンにします。

#### 結果

選択した垂直線が装飾音符の前に配置されます。

「装飾音符前のライン (Line before grace notes)」をオフにすると、選択した垂直線が再び装飾音符のあとに表示されます。

#### 例



装飾音符のあとの垂直線



装飾音符の前の垂直線



## 横棒線の配置の変更

個々の横棒線を譜表の上、下、または内側に表示できます。初期設定では、横棒線は譜表の上に配置されます。

#### 補足

これらの手順は、小節線または位置に連結された横棒線にのみ適用されます。

#### 前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。
- 下ゾーンのツールバーで「プロパティ (Properties)」を選択しておきます。
- 浄書モードの場合は、浄書ツールボックスで「グラフィックの編集 (Graphic Editing)」を選択しておきます。

#### 手順

1. 配置を変更する横棒線を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「横棒線 (Horizontal Lines)」グループで、「配置 (Placement)」をオンにします。
3. メニューから以下のいずれかのオプションを選択します。

- 上 (Above)
  - 下 (Below)
  - 譜表の内側 (Inside staff)
- 

#### 結果

選択した横棒線の配置が変更されます。初期設定では、譜表内の横棒線は譜表の第3線に中央揃えで配置されます。

#### ヒント

**[F]** を押して、選択した横棒線の配置オプションを順に切り替えることもできます。

---

#### 手順終了後の項目

- 譜表の内側に表示されるラインの譜表上の配置を変更できます。
- 譜表の内側に表示されるライン上のテキストの背景を塗りつぶすことができます。

#### 関連リンク

[浄書ツールボックス \(554 ページ\)](#)



[アイテムの表示位置の移動 \(652 ページ\)](#)

[譜表に対するアイテムの位置の変更 \(474 ページ\)](#)

## 譜表内にある横棒線の譜表上の位置を変更する

譜表の内側に表示される横棒線の譜表上の位置を変更できます。たとえば、ラインを斜めに表示したい場合など、ラインの譜表上の開始位置と終了位置をそれぞれ個別に変更することもできます。

#### 前提条件

- 譜表上の位置を変更する横棒線を譜表内に配置し、小節線または位置に連結された終端が少なくとも1つある状態にしておきます。
  - 下ゾーンを表示しておきます。
  - 下ゾーンのツールバーで「プロパティ (Properties)」 を選択しておきます。
  - 浄書モードの場合は、浄書ツールボックスで「グラフィックの編集 (Graphic Editing)」 を選択しておきます。
- 

#### 手順

1. 譜表上の位置を変更する譜表上に配置された横棒線を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
  2. プロパティパネルの「横棒線 (Horizontal Lines)」グループで、以下のプロパティの一方または両方をオンにします。
    - 開始位置 (Start position)
    - 終了位置 (End position)
  3. 数値フィールドの値を変更します。
- 

#### 結果

選択したラインの譜表上の終了位置が、入力した値に応じて変更されます。たとえば、**0** は譜表の第3線、**4** は譜表の第5線、**-4** は譜表の第1線を意味します。

例



譜表上の開始位置/終了位置が異なる譜表内の横棒線

## ラインの長さ

横棒線と垂直線はどちらも適切な長さが自動的に計算されます。

- 横棒線の長さはラインのデュレーションによって決まります。横棒線の配置方法は連結の種類によって異なり、それが表示上の長さに影響する場合があります。たとえば、小節線に連結されたラインは、同じデュレーションを持つ位置に連結されたラインよりも長くなる場合があります。
- 垂直線の長さは、その垂直線が適用される声部または譜表内の音符のピッチの範囲によって決まります。ピッチを変更した場合や、和音への音符の追加または削除を行なった場合は、垂直線の長さが自動的に調整されます。

横棒線と垂直線はどちらも長さを変更できます。たとえば、個々の垂直線をコードの一番上の音符の上まで伸ばしたい場合などに行ないます。

横棒線の開始位置と終了位置のデフォルトの間隔、および横棒線とほかのアイテムとの間のデフォルトの間隔は、「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**ライン (Lines)**」ページで変更できます。

## 横棒線の長さの変更

横棒線は入力後に長さを変更できます。

補足

これらの手順は、小節線または位置に連結された横棒線にのみ適用されます。連結先の音符の長さを変更しない限り、符頭に連結された横棒線の長さを変更することはできません。

手順

1. 記譜モードで長さを変更する横棒線を選択します。

補足

マウスを使用する場合、一度に長さを変更できるラインは1本だけです。

2. 以下のいずれかの操作を行なってラインの長さを変更します。
  - 現在のリズムグリッドの間隔ずつ伸ばすには、**[Shift]+[Alt/Opt]+[→]** を押します。
  - 現在のリズムグリッドの間隔ずつ縮めるには、**[Shift]+[Alt/Opt]+[←]** を押します。
  - 1本のラインの終端を次の符頭にスナップするには、**[Ctrl]/[command]+[Shift]+[Alt/Opt]+[→]** を押します。



- 1本のラインの終端を前の符頭までスナップするには、**[Ctrl]/[command]+[Shift]+[Alt/Opt]+[←]** を押します。

#### 補足

- 複数のラインが選択されている場合は、現在のリズムグリッドの間隔でしかラインの長さを変更できません。
  - キーボードを使用して長さを変更すると、終端のみが動きます。ラインの始端は、ラインを移動させるか、1本のラインの開始位置のハンドルをクリックしてドラッグすることで移動できます。
- 
- 開始位置または終了位置の丸いハンドルをクリックして、任意の位置にドラッグします。
- 

#### 結果

1本のラインの長さが、現在のリズムグリッドの間隔または前後の符頭の位置のいずれか近い方に従い変更されます。

複数のラインの長さが、現在のリズムグリッドの間隔に従い変更されます。

#### ヒント

浄書モードでは、ラインの表示上の位置や長さを変更できます。

---

#### 関連リンク

[横棒線の入力 \(417 ページ\)](#)

[音符/アイテムの位置の移動 \(502 ページ\)](#)

[アイテムの表示位置の移動 \(652 ページ\)](#)

[リズムグリッド \(241 ページ\)](#)

## 垂直線の長さの変更

個々の垂直線の長さを、譜表上の別の位置まで延ばしたり縮めたりできます。この操作は現在のレイアウトとフレームチェーンのみに対して、もしくはすべてのレイアウトとフレームチェーンに対して行なえます。初期設定では、垂直線はそれが適用される声部の音符のピッチ範囲にかかるように自動的に調整されます。

#### 前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。
  - 下ゾーンのツールバーで「**プロパティ (Properties)**」 を選択しておきます。
  - 浄書モードの場合は、浄書ツールボックスで「**グラフィックの編集 (Graphic Editing)**」 を選択しておきます。
  - ローカルのプロパティ変更に関して、適切なプロパティ範囲を選択しておきます。
- 

#### 手順

1. 長さを変更する垂直線を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
  2. プロパティパネルの「**垂直線 (Vertical Lines)**」グループで、以下のプロパティの一方または両方をオンにします。
    - **上部分 (Top position)**
    - **下部分 (Bottom position)**
  3. 数値フィールドの値を変更します。
-

#### 結果

選択したラインの垂直方向の長さを変更されます。値を大きくすると対応する終端が上に1ステップずつ移動し、値を小さくすると下に1ステップずつ移動します。プロパティ範囲を「ローカル (Locally)」に設定している場合、この変更は現在のレイアウトおよびフレームチェーンのみに影響します。

#### ヒント

浄書モードでは、ラインの表示上の位置や長さを変更できます。

---

#### 関連リンク

[アイテムの表示位置の移動 \(652 ページ\)](#)

[垂直線の入力 \(419 ページ\)](#)

[浄書ツールボックス \(554 ページ\)](#)

[プロパティ範囲の変更 \(828 ページ\)](#)

[プロパティ設定を別のレイアウト/フレームチェーンにコピーする \(825 ページ\)](#)

## 横棒線の開始位置/終了位置の変更



初期設定では、位置に連結された横棒線は、音符/臨時記号の前から開始され、そのラインの終了位置にある最後の音符、和音、または休符の直後に終了します。たとえば、臨時記号のかわりに符頭の直前で開始させたい場合や、次の音符、和音、または休符の直前で終了させたい場合など、位置に連結された横棒線の開始位置および終了位置を個別に変更できます。

#### 補足

これらの手順は、位置に連結された横棒線にのみ適用されます。

---

#### 前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。
- 下ゾーンのツールバーで「プロパティ (Properties)」を選択しておきます。
- 浄書モードの場合は、浄書ツールボックスで「グラフィックの編集 (Graphic Editing)」を選択しておきます。

#### 手順

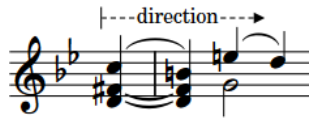
1. 開始位置/終了位置を変更する位置に連結された横棒線を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「横棒線 (Horizontal Lines)」グループで、「水平開始位置 (Horizontal start position)」をオンにします。
3. メニューから以下のいずれかのオプションを選択します。
  - 符頭 (Notehead)
  - 符頭の中央 (Notehead center)
  - 臨時記号 (Accidental)
4. 「横棒線 (Horizontal Lines)」グループで、「水平終了位置 (Horizontal end position)」をオンにします。
5. メニューから以下のいずれかのオプションを選択します。
  - 最後の音符の右側で終了 (End at right-hand side of final note)
  - 最終音の中央で終了 (End on center of final note)

- 次に続く音符の直前で終了 (End immediately before following note)

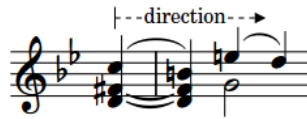
結果

選択した位置に連結された横棒線の開始位置/終了位置が変更されます。

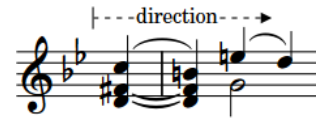
例



符頭の前から開始する横棒線



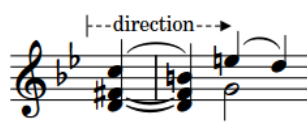
符頭の中央から開始する横棒線



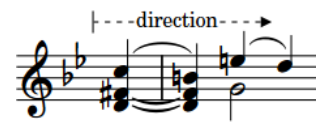
臨時記号の前から開始する横棒線



最後の音符のあとで終了する横棒線



最後の符頭の中央で終了する横棒線





次に続く音符の前で終了する横棒線

## ラインのボディスタイルの変更

キャップを変更することなく、個々のラインのボディスタイルを変更できます。

前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。
- 下ゾーンのツールバーで「プロパティ (Properties)」を選択しておきます。
- 浄書モードの場合は、浄書ツールボックスで「グラフィックの編集 (Graphic Editing)」を選択しておきます。

手順

1. ボディスタイルを変更するラインを選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。

補足

横棒線のみまたは垂直線のみを選択する必要があります。

2. プロパティパネルの「横棒線 (Horizontal Lines)」または「垂直線 (Vertical Lines)」のグループで、「ラインボディスタイル (Line body style)」をオンにします。
3. メニューから使用するスタイルを選択します。

結果

選択したラインのボディスタイルが変更されます。

補足

- これは、選択したラインのキャップには影響しません。

- また、ラインボディ、キャップ、および注釈をカスタマイズして、初期設定で使用するカスタムラインを作成できます。
- 



#### 関連リンク

- [ラインの構成要素 \(1553 ページ\)](#)
- [カスタムライン \(984 ページ\)](#)
- [ラインパネル \(417 ページ\)](#)
- [ラインの入力方法 \(416 ページ\)](#)
- [浄書ツールボックス \(554 ページ\)](#)

## ラインのキャップの変更

ボディスタイルを変更することなく、個々のラインのキャップを変更できます。

#### 前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。
  - 下ゾーンのツールバーで「**プロパティ (Properties)**」を選択しておきます。
  - 浄書モードの場合は、浄書ツールボックスで「**グラフィックの編集 (Graphic Editing)**」を選択しておきます。
- 

#### 手順

1. キャップを変更するラインを選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。

#### 補足

横棒線のみまたは垂直線のみを選択する必要があります。

---

2. プロパティパネルの「**横棒線 (Horizontal Lines)**」または「**垂直線 (Vertical Lines)**」のグループで、以下のプロパティを片方または両方オンにします。
    - 選択したラインの開始位置または下のキャップを変更するには、「**開始位置のキャップ (Start cap)**」をオンにします。
    - 選択したラインの終了位置または上のキャップを変更するには、「**終端のキャップ (End cap)**」をオンにします。
    - それ以降の組段で、選択した横棒線のセグメントの開始位置のキャップを変更するには、「**延長線のキャップ (Continuation cap)**」をオンにします。
    - それ以前の組段で、選択した横棒線のセグメントの終了位置のキャップをラインの終了位置に変更するには、「**延長線終端のキャップ (Continuation end cap)**」をオンにします。
  3. 各メニューから使用するスタイルを選択します。
- 

#### 結果

選択したラインのキャップが変更されます。



#### 補足

- これは、選択したラインのボディスタイルには影響しません。
  - また、ラインボディ、キャップ、および注釈をカスタマイズして、初期設定で使用するカスタムラインを作成できます。
-

## ラインの方向の変更

たとえば、横棒線の矢印を左向きにしたり、垂直線に表示されるテキストの上下を反転させて上から下に読む形にしたりするなど、横棒線と垂直線はどちらも方向を変更できます。

### 前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。
- 下ゾーンのツールバーで「プロパティ (Properties)」を選択しておきます。
- 浄書モードの場合は、浄書ツールボックスで「グラフィックの編集 (Graphic Editing)」を選択しておきます。

### 手順

1. 方向を変更するラインを選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。

#### 補足

横棒線のみまたは垂直線のみを選択する必要があります。

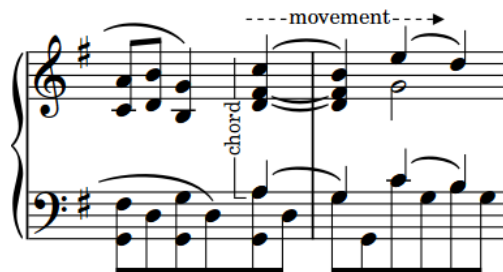
2. プロパティパネルの「横棒線 (Horizontal Lines)」または「垂直線 (Vertical Lines)」のグループで、「反転 (Reverse)」をオンにします。

### 結果

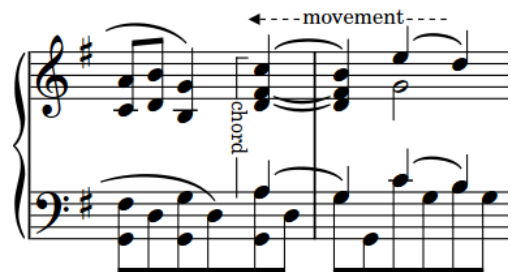
選択したラインの方向が変更されます。垂直線のテキストは上から下に読む形になります。

「反転 (Reverse)」をオフにすると、選択したラインがデフォルトの方向に戻ります。

### 例



デフォルトの方向の横棒線と垂直線




反転した横棒線と垂直線

## ラインへのテキストの追加

横棒線と垂直線は、どちらもテキストを追加できます。これは、たとえばラインの意図を明確にするために行ないます。

### 前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。
- 下ゾーンのツールバーで「プロパティ (Properties)」を選択しておきます。
- 浄書モードの場合は、浄書ツールボックスで「グラフィックの編集 (Graphic Editing)」を選択しておきます。

手順

1. テキストを追加するラインを選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。

補足

横棒線のみまたは垂直線のみを選択する必要があります。

2. プロパティパネルの「横棒線 (Horizontal Lines)」または「垂直線 (Vertical Lines)」のグループで、「テキスト (Text)」をオンにします。
3. 入力フィールドに任意のテキストを入力します。
4. **[Return]** を押します。

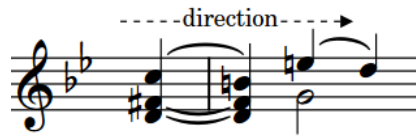
結果

フィールドに入力したテキストが、選択したラインに中央揃えで表示されます。垂直線のテキストは下から上に読む形で表示されます。

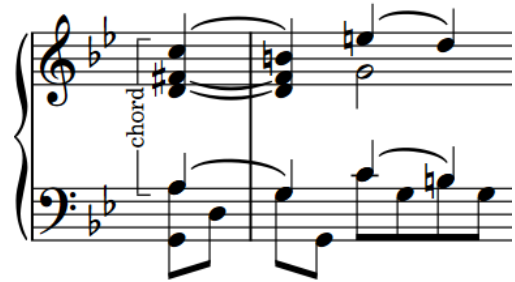
ヒント

また、ラインボディ、キャップ、および注釈をカスタマイズしたり、注釈の表示位置を変更したりして、初期設定で使用するカスタムラインを作成できます。

例



横棒線のテキスト



垂直線のテキスト

手順終了後の項目

- 垂直線のテキストを上から下に読む形で表示したい場合は、ラインを反転できます。
- ラインのテキストの背景を塗りつぶすことができます。

関連リンク

[浄書ツールボックス \(554 ページ\)](#)

[ラインの構成要素 \(1553 ページ\)](#)

[カスタムライン \(984 ページ\)](#)

[ラインの入力方法 \(416 ページ\)](#)

## ラインのテキストのフォントスタイル

ラインのテキストには、ラインの種類に応じてさまざまなフォントスタイルがあります。フォントサイズを変更してラインのテキストを大きく表示するなど、これらのフォントの各種設定は「**フォントスタイルを編集 (Edit Font Styles)**」ダイアログで編集できます。

ラインのテキストには以下のフォントスタイルが使用されます。

- **横棒線のフォント (Horizontal Line Font)**: 横棒線のテキストに使用されます。
- **垂直線のフォント (Vertical Line Font)**: 垂直線のテキストに使用されます。

### 補足

フォントスタイルへの変更が、パートレイアウトを含めてプロジェクト全体に適用されます。

---

### 関連リンク



[「フォントスタイルを編集 \(Edit Font Styles\)」ダイアログ \(930 ページ\)](#)

[デフォルトのフォントファミリーを変更する \(937 ページ\)](#)

## 横棒線に対するテキストの位置の変更

テキストを横棒線の上に表示するなど、横棒線に対するテキストの位置を個別に変更できます。

### 前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。
- 下ゾーンのツールバーで「**プロパティ (Properties)**」を選択しておきます。
- 浄書モードの場合は、浄書ツールボックスで「**グラフィックの編集 (Graphic Editing)**」を選択しておきます。

### 手順

1. テキストの位置を変更する横棒線を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「**横棒線 (Horizontal Lines)**」グループで、「**テキストの位置 (Text position)**」をオンにします。
3. メニューから以下のいずれかのオプションを選択します。
  - **上 (Above)**
  - **中央揃え (Centered)**
  - **下 (Below)**
  - **内側 (Inside)**
  - **外側 (Outside)**

### 結果

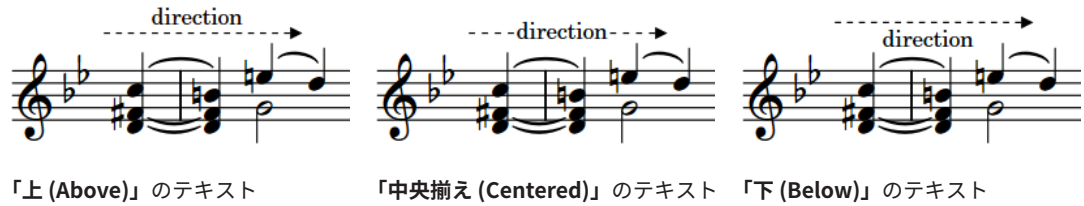
選択した横棒線に対するテキストの位置が変更されます。注釈を「**内側 (Inside)**」または「**外側 (Outside)**」に配置した場合、ラインに対する注釈の配置は、譜表に対するラインの配置に応じて変化します。

### ヒント

「**ラインを編集 (Edit Lines)**」ダイアログで、ラインに対するテキストのデフォルトの配置を変更できます。

---

例



関連リンク

[浄書ツールボックス \(554 ページ\)](#)

[ラインに対するテキストの配置の変更 \(1569 ページ\)](#)

[カスタムの演奏技法の作成 \(982 ページ\)](#)

[「ラインを編集 \(Edit Lines\)」ダイアログ \(988 ページ\)](#)

## 垂直線に対するテキストの位置の変更

テキストを垂直線の左に表示するなど、垂直線に対するテキストの位置を個別に変更できます。

前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。
- 下ゾーンのツールバーで「プロパティ (Properties)」を選択しておきます。
- 浄書モードの場合は、浄書ツールボックスで「グラフィックの編集 (Graphic Editing)」を選択しておきます。

手順

1. テキストの位置を変更する垂直線を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「垂直線 (Vertical Lines)」グループで、「テキストの位置 (Text position)」をオンにします。
3. メニューから以下のいずれかのオプションを選択します。
  - 左 (Left)
  - 中央揃え (Centered)
  - 右 (Right)

結果

選択した垂直線に対するテキストの位置が変更されます。

ヒント

「ラインを編集 (Edit Lines)」ダイアログで、ラインに対するテキストのデフォルトの配置を変更できます。

---



例



「左 (Left)」のテキスト

「中央揃え (Centered)」のテキスト 「右 (Right)」のテキスト

## ラインに対するテキストの配置の変更

個々のラインに対するテキストの配置を変更して、たとえば、テキストを横棒線の開始位置や垂直線の一番上に表示できます。

前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。
- 下ゾーンのツールバーで「プロパティ (Properties)」を選択しておきます。
- 浄書モードの場合は、浄書ツールボックスで「グラフィックの編集 (Graphic Editing)」を選択しておきます。

手順

1. テキストの配置を変更するラインを選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。

補足

横棒線のみまたは垂直線のみを選択する必要があります。

2. プロパティパネルの「横棒線 (Horizontal Lines)」または「垂直線 (Vertical Lines)」のグループで、**テキストの配置 (Text placement)** をオンにします。
3. メニューから以下のいずれかのオプションを選択します。
  - 先頭 (Start)
  - 中央 (Center)
  - 末尾 (End)
4. 「開始 (Start)」または「終了 (End)」を選択しており、ラインの対応する端からのオフセットを変更する場合は、「横棒線 (Horizontal Lines)」または「垂直線 (Vertical Lines)」グループの「開始位置/終了位置との間隔 (Start/end gap)」を有効にして、値フィールドで値を変更します。

結果

選択したラインに対するテキストの配置が変更されます。垂直線の場合は、「開始 (Start)」を選択するとテキストはラインの一番下に配置され、「終了 (End)」を選択するとテキストはラインの一番上に配置されます。

「開始位置/終了位置との間隔 (Start/end gap)」もオンになっている場合は、選択しているラインのテキストと対応する端との間隔が変更されます。

#### ヒント

「**ラインを編集 (Edit Lines)**」ダイアログで、ラインに対するテキストのデフォルトの配置を変更できます。ここでは、ラインのデュレーション全体にテキストを繰り返し表示したり、ハイフン付きのテキストを表示したりすることもできます。

---

#### 関連リンク

[浄書ツールボックス \(554 ページ\)](#)

[ラインの方向の変更 \(1565 ページ\)](#)


[カスタムライン \(984 ページ\)](#)

[「ラインを編集 \(Edit Lines\)」ダイアログ \(988 ページ\)](#)

## 横棒線を強制的に水平にする

個々のラインのテキストが常に水平に表示されるように強制して、たとえば、垂直線のテキストを読みやすくできます。

#### 前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。
- 下ゾーンのツールバーで「**プロパティ (Properties)**」を選択しておきます。
- 浄書モードの場合は、浄書ツールボックスで「**グラフィックの編集 (Graphic Editing)**」を選択しておきます。

#### 手順

1. テキストを水平に保つラインを選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。

#### 補足

横棒線のみまたは垂直線のみを選択する必要があります。

2. プロパティパネルの「**横棒線 (Horizontal Lines)**」または「**垂直線 (Vertical Lines)**」グループで、「**テキストを水平に保つ (Keep text horizontal)**」をオンにします。

#### 結果

ラインが斜めや垂直でも、選択したラインに含まれるテキストは常に水平に表示されます。

#### ヒント


「**ラインを編集 (Edit Lines)**」ダイアログでは、テキストが初期設定で強制的に水平表示されるよう、ラインごとに設定できます。


---

## ラインテキストへの枠線の追加

個々のラインに表示されるテキストに枠線を追加したり、枠線の太さを変更したりできます。これは、ラインに対するテキストの境界を明確にしたい場合などに役立ちます。この操作は現在のレイアウトとフレームチェーンのみに対して、もしくはすべてのレイアウトとフレームチェーンに対して行なえます。

#### 前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。
- 下ゾーンのツールバーで「**プロパティ (Properties)**」を選択しておきます。

- 浄書ツールボックスで「**グラフィックの編集 (Graphic Editing)**」を選択しておきます。
- ローカルのプロパティ変更に関して、適切なプロパティ範囲を選択しておきます。

---

#### 手順

1. 浄書モードで、枠線を追加するテキストが含まれるラインを選択します。

#### 補足

横棒線のみまたは垂直線のみを選択する必要があります。

2. プロパティパネルの「**横棒線 (Horizontal Lines)**」または「**垂直線 (Vertical Lines)**」のグループで、「**境界線の太さ (Border thickness)**」をオンにします。
3. 数値フィールドの値を変更します。

---

#### 結果

選択したラインのテキストに、対応する太さの枠線が追加されます。プロパティ範囲を「**ローカル (Locally)**」に設定している場合、この変更は現在のレイアウトおよびフレームチェーンのみに影響します。

#### ヒント

「**ライン注釈を編集 (Edit Line Annotations)**」ダイアログで、初期設定でテキスト注釈に枠線を追加できます。

---

#### 関連リンク

[カスタムライン \(984 ページ\)](#)

[「ライン注釈を編集 \(Edit Line Annotations\)」ダイアログ \(994 ページ\)](#)

[ラインに対するテキストの配置の変更 \(1569 ページ\)](#)

[テキストアイテムへの枠線の追加 \(1770 ページ\)](#)

[浄書ツールボックス \(554 ページ\)](#)

[プロパティ範囲の変更 \(828 ページ\)](#)

[プロパティ設定を別のレイアウト/フレームチェーンにコピーする \(825 ページ\)](#)

## ラインテキストの背景の塗りつぶし

たとえば、譜表内に表示されるテキストの読みやすさを確保するために、個々のラインに表示されるテキストの背景を塗りつぶすことができます。この操作は現在のレイアウトとフレームチェーンのみに対して、もしくはすべてのレイアウトとフレームチェーンに対して行なえます。

#### 前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。
- 下ゾーンのツールバーで「**プロパティ (Properties)**」を選択しておきます。
- 浄書ツールボックスで「**グラフィックの編集 (Graphic Editing)**」を選択しておきます。
- ローカルのプロパティ変更に関して、適切なプロパティ範囲を選択しておきます。

---

#### 手順

1. 浄書モードで、テキストの背景を塗りつぶすラインを選択します。

#### 補足

横棒線のみまたは垂直線のみを選択する必要があります。

2. プロパティパネルの「横棒線 (Horizontal Lines)」または「垂直線 (Vertical Lines)」のグループで、「背景を塗りつぶし (Erase background)」をオンにします。

#### 結果

選択したラインのテキストの背景が塗りつぶされます。プロパティ範囲を「ローカル (Locally)」に設定している場合、この変更は現在のレイアウトおよびフレームチェーンのみに影響します。

「背景を塗りつぶし (Erase background)」をオフにすると、選択したラインのテキストがデフォルトの背景の塗りつぶしがない状態に戻ります。

#### 例



背景が塗りつぶされていないラインのテキスト



背景が塗りつぶされたラインのテキスト

## ラインテキストの塗りつぶしの余白を変更する

ラインテキストの塗りつぶしの余白を個別に変更できます。余白の幅はラインテキストの四方それぞれについて個別に変更できます。この操作は現在のレイアウトとフレームチェーンのみに対して、もしくはすべてのレイアウトとフレームチェーンに対して行なえます。

#### 前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。
- 下ゾーンのツールバーで「プロパティ (Properties)」を選択しておきます。
- 浄書ツールボックスで「グラフィックの編集 (Graphic Editing)」を選択しておきます。
- ローカルのプロパティ変更に関して、適切なプロパティ範囲を選択しておきます。

#### 手順

1. 浄書モードで、テキストの塗りつぶしの余白を変更するラインを選択します。

#### 補足

横棒線のみまたは垂直線のみを選択する必要があります。

2. プロパティパネルの「横棒線 (Horizontal Lines)」または「垂直線 (Vertical Lines)」のグループで、「塗りつぶしの余白 (Erasure padding)」のプロパティをいずれか、またはまとめてオンにします。
  - 「L」はラインのテキストの左側の余白の幅を変更します。
  - 「R」はラインのテキストの右側の余白の幅を変更します。
  - 「T」はラインのテキストの上側の余白の幅を変更します。
  - 「B」はラインのテキストの下側の余白の幅を変更します。

### 3. 数値フィールドの値を変更します。

#### 結果

値を大きくすると余白が増え、値を小さくすると余白が減ります。プロパティ範囲を「**ローカル (Locally)**」に設定している場合、この変更は現在のレイアウトおよびフレームチェーンのみに影響します。

#### 関連リンク

[浄書ツールボックス \(554 ページ\)](#)

[プロパティ範囲の変更 \(828 ページ\)](#)

[プロパティ設定を別のレイアウト/フレームチェーンにコピーする \(825 ページ\)](#)

## 浄書モードのライン

浄書モードでは、横棒線の開始位置と終了位置、そして垂直線の上部と下部のそれぞれ2か所に四角いハンドルがあります。これらのハンドルを動かして、ラインの表示位置、長さ、および角度を調節できます。

ライン全体の表示位置も個別に移動できます。横棒線が組段区切りおよびフレーム区切りをまたぐ場合は、区切りの両側の横棒線の分割された部分をそれぞれ個別に移動できます。



浄書モードの垂直線と横棒線のハンドル

#### 関連リンク

[ラインの構成要素 \(1553 ページ\)](#)

[カスタムライン \(984 ページ\)](#)

[ラインの位置 \(1554 ページ\)](#)

[横棒線の長さの変更 \(1560 ページ\)](#)

[垂直線の長さの変更 \(1561 ページ\)](#)

[垂直線を音符の右または左に表示する \(1555 ページ\)](#)

[垂直線の水平方向の順序を変更する \(1556 ページ\)](#)

[垂直線の衝突回避の有効化/無効化 \(1556 ページ\)](#)

[横棒線の配置の変更 \(1558 ページ\)](#)

[譜表内にある横棒線の譜表上の位置を変更する \(1559 ページ\)](#)

[アイテムの表示位置の移動 \(652 ページ\)](#)

# リハーサルマーク

リハーサルマークは順に並んだ文字または数字であり、楽譜中の大きな変化を示す基準点として機能します。これらにより、演奏者はリハーサルで容易に全体と合わせられ、楽譜の時系列的な順序を明確にできます。

Dorico Pro では、リハーサルマークは自動的に順序付けされ、一意のインデックスを割り当てることでリハーサルマークの重複がないようにします。



「G」の文字が表示されたリハーサルマーク

Dorico Pro の初期設定では、リハーサルマークは文字で表示されますが、シーケンスタイプは文字、数字、または小節番号に変更できます。3種類のリハーサルマークのシーケンスはすべて同時に使用できます。

目につきやすいように、またリハーサルマークに数字を使用している場合は小節番号と間違えられないように、リハーサルマークは長方形の囲み線付きで表示されます。すべてのリハーサルマークの囲み線の形状とサイズをプロジェクト全体で変更できます。

Dorico Pro では、リハーサルマークは組段オブジェクトとして分類されます。そのため、リハーサルマークは組段オブジェクトの表示と配置に関するレイアウトごとの設定に従います。

関連リンク

[リハーサルマークの入力](#) (434 ページ)

[リハーサルマークのインデックスの変更](#) (1576 ページ)

[リハーサルマークのシーケンスタイプの変更](#) (1577 ページ)

[リハーサルマークの囲み線のタイプの変更](#) (1575 ページ)

[リハーサルマークへの移動](#) (482 ページ)

[「レイアウトオプション \(Layout Options\)」ダイアログ](#) (917 ページ)

[組段オブジェクト](#) (1717 ページ)

[組段オブジェクトの位置の変更](#) (1718 ページ)

[テキストの書き出し](#) (113 ページ)

[テンポ記号](#) (1745 ページ)

[小節番号](#) (1094 ページ)

## 浄書オプションでリハーサルマークの設定をプロジェクト全体に適用する

「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**リハーサルマーク (Rehearsal Marks)**」ページで、リハーサルマークの外観と位置を設定し、プロジェクト全体に適用できます。

たとえば、リハーサルマークのシーケンスタイプ、括弧に入れて表示するかどうか、小節線や組段の開始位置といった別のアイテムに対するデフォルトの位置などを変更できます。リハーサルマークの囲み線の太さ、サイズ、余白の値も変更できます。

多くのオプションに、オプションを楽譜に適用したときにどのように表示されるかを示す図があります。

関連リンク

[「浄書オプション \(Engraving Options\)」ダイアログ \(923 ページ\)](#)

## リハーサルマークの囲み線のタイプの変更

リハーサルマークは通常、長方形、角丸長方形、または丸の囲み線に入って表示されます。リハーサルマークの囲み線のタイプを変更して、プロジェクト全体に適用できます。

手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[E]** を押して「**浄書オプション (Engraving Options)**」を開きます。
2. カテゴリリストから「**リハーサルマーク (Rehearsal Marks)**」をクリックします。
3. 「**囲み線 (Enclosure)**」セクションの「**囲み線のタイプ (Enclosure type)**」で、以下のいずれかのオプションを選択します。
  - **長方形 (Rectangle)**
  - **角丸の長方形 (Rounded rectangle)**
  - **丸 (Circle)**
  - **囲み線なし (No enclosure)**
4. 「**適用 (Apply)**」をクリックしてから「**閉じる (Close)**」をクリックします。

結果

プロジェクト全体のすべてのリハーサルマークの囲み線のタイプが変更されます。囲み線のサイズと形状は、余白の値とリハーサルマークのフォントサイズによって決まります。

ヒント

プロジェクト全体のすべてのリハーサルマークの囲み線の太さ、サイズ、余白の値は、「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**リハーサルマーク (Rehearsal Marks)**」ページで変更できます。

例



長方形の囲み線に入ったり  
ハーサルマーク



角丸長方形の囲み線に入  
たりハーサルマーク



丸の囲み線に入ったりハー  
サルマーク

**B**

囲み線なしのリハーサル  
マーク

関連リンク

[リハーサルマークの入力 \(434 ページ\)](#)

[リハーサルマークのパラグラフスタイルの編集 \(1579 ページ\)](#)

## リハーサルマークの位置

リハーサルマークは見やすいように、楽譜の外側の譜表の上の、他の組段オブジェクトと同じ位置に配置されます。

初期設定では、リハーサルマークは小節線の上や、組段の開始位置の音部記号または調号の右側に配置されます。Dorico Pro では、リハーサルマークは小節の途中の位置でも入力できますが、これは一般的ではありません。

リハーサルマークとテンポ変更がぶつかる場合は、テンポ記号が自動的にリハーサルマークの右側に配置されます。リハーサルマークが正しい位置に表示されるよう、譜表のスペーシングは自動的に調整されます。

リハーサルマークのリズム上の位置は記譜モードで移動できます。これらは「**浄書オプション (Engraving Options)**」で設定されたデフォルト位置に配置されます。



リハーサルマークおよびテンポマークが配置されるように、上の2つの譜表の垂直のスペーシングが広がっている

リハーサルマークの表示位置は浄書モードで移動できますが、適用されるリズム上の位置がこれによって変更されることはありません。

すべてのリハーサルマークのプロジェクト全体のデフォルト位置の変更や、リハーサルマークと譜表およびリハーサルマークとその他のアイテム間の最小距離の値の設定は、「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**リハーサルマーク (Rehearsal Marks)**」ページで行なえます。たとえば、リハーサルマークと右側のテンポ記号の間のデフォルトの配置を変更したり、小節線や組段の開始位置に対するリハーサルマークの位置を変更したりできます。

Dorico Pro では、リハーサルマークは組段オブジェクトに分類され、選択したインストゥルメントファミリーの最初の大括弧の上に表示できます。どのインストゥルメントファミリーの上に組段オブジェクトを表示させるかは、レイアウトごとに個別に変更できます。たとえば、フルスコアのみ各組段の上に複数のリハーサル記号を表示させることなどができます。

### 関連リンク

[リハーサルマークの入力 \(434 ページ\)](#)

[小節、拍、小節線の入力方法 \(329 ページ\)](#)

[浄書オプションでリハーサルマークの設定をプロジェクト全体に適用する \(1574 ページ\)](#)

[「浄書オプション \(Engraving Options\)」ダイアログ \(923 ページ\)](#)

[アイテムの表示位置の移動 \(652 ページ\)](#)

[リハーサルマークの囲み線のタイプの変更 \(1575 ページ\)](#)

[組段オブジェクトの位置の変更 \(1718 ページ\)](#)

## リハーサルマークのインデックスの変更

初期設定では、リハーサルマークのシーケンスは各フローの開始位置でリセットされます。たとえば、同じプロジェクト内で同じ文字のリハーサルマークが複数存在しないようにするために、フローをまた



いでリハーサルマークのシーケンスを継続させる場合、個々のリハーサルマークのインデックス位置を変更できます。

インデックス位置を変更すると、表示される数字または文字が変更されます。たとえば、インデックス位置 1 はリハーサルマーク A または 1 として表示され、インデックス位置 2 は B または 2 として表示される、という具合です。

またリハーサルマークのインデックス位置の変更は、I や O など他の文字や数字と間違いやすい文字の表示を回避するためにも使用できます。

#### 補足

これらの手順は、小節番号のシーケンスタイプを使用するリハーサルマークには適用されません。

---

#### 前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。
- 下ゾーンのツールバーで「プロパティ (Properties)」 を選択しておきます。
- 浄書モードの場合は、浄書ツールボックスで「グラフィックの編集 (Graphic Editing)」 を選択しておきます。

#### 手順

1. インデックス位置を変更するリハーサルマークを選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
  2. プロパティパネルの「リハーサルマーク (Rehearsal Marks)」グループで、「インデックス (Index)」をオンにします。
  3. 数値フィールドの値を変更します。
- 

#### 結果

選択したリハーサルマークが、「インデックス (Index)」の値とシーケンスタイプに従い変化します。同じシーケンスのそれ以降のリハーサルマークは、インデックスを変更しなくても、更新されたインデックスに自動的に従います。たとえば、あるリハーサルマークを A から P に変更した場合、次のリハーサルマークは B から Q に変更されます。

#### ヒント

また、リハーサルマークのシーケンスタイプも変更でき、たとえばリハーサルマーク C を 3 と表示できます。


---


## リハーサルマークのシーケンスタイプの変更

リハーサルマークは、文字、数字、または小節番号で表示できます。個々のリハーサルマークのシーケンスタイプを変更すると、リハーサルマークの補助的なシーケンスを作成できます。

Dorico Pro では、用意された 3 つのリハーサルマークのシーケンスすべてを同時に使用できます。たとえば、文字のリハーサルマークをメインのシーケンスとして表示しつつ、数字を補助的なシーケンスとしてソロラインの開始位置などの別種のタイミングの指示に使用しながら、併せてこれらのセクションの重要な小節番号を強調表示できます。

#### 前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。
- 下ゾーンのツールバーで「プロパティ (Properties)」 を選択しておきます。

- 浄書モードの場合は、浄書ツールボックスで「**グラフィックの編集 (Graphic Editing)**」を選択しておきます。

---

#### 手順

1. シーケンスタイプを変更するリハーサルマークを選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「**リハーサルマーク (Rehearsal Marks)**」グループで、「**シーケンスタイプ (Sequence type)**」をオンにします。
3. メニューから以下のいずれかのオプションを選択します。
  - **文字 (Letters)**
  - **数字 (Numbers)**
  - **小節番号 (Bar numbers)**

---

#### 結果

選択したリハーサルマークに文字、数字、または現在の小節番号が表示されるようになります。フロー内の文字または数字のシーケンスの中でこれが最初である場合、このリハーサルマークは A または 1 を表示します。フロー内の文字または数字のシーケンスにすでに他のリハーサルマークが存在する場合、このリハーサルマークはインデックスに従い次の文字または数字を表示します。

---

#### 補足

- プロジェクト全体のすべてのリハーサルマークで使用するシーケンスタイプは、「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**リハーサルマーク (Rehearsal Marks)**」ページで変更できます。
- リハーサルマークのシーケンスのインデックスは、他のリハーサルマークのシーケンスには影響されず個別に変更できます。ただし、小節番号のシーケンスタイプを使用するリハーサルマークのインデックスは変更できません。

---

#### 関連リンク

- [浄書オプションでリハーサルマークの設定をプロジェクト全体に適用する \(1574 ページ\)](#)
- [リハーサルマークの入力 \(434 ページ\)](#)
- [小節番号の変更の追加 \(1105 ページ\)](#)
- [浄書ツールボックス \(554 ページ\)](#)

## リハーサルマークに先頭および末尾テキストを追加する

リハーサルマークには先頭テキストおよび末尾テキストの両方を個別に追加できます。

#### 前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。
- 下ゾーンのツールバーで「**プロパティ (Properties)**」を選択しておきます。
- 浄書モードの場合は、浄書ツールボックスで「**グラフィックの編集 (Graphic Editing)**」を選択しておきます。

---

#### 手順

1. 先頭テキストまたは末尾テキストを追加するリハーサルマークを選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「**リハーサルマーク (Rehearsal Marks)**」グループで、以下のプロパティを片方または両方ともオンにします。

- 先頭テキスト (Prefix)
  - 末尾テキスト (Suffix)
3. 入力フィールドに任意のテキストを入力します。
  4. **[Return]** を押します。
- 

#### 結果

フィールドに入力したテキストが、先頭テキストまたは末尾テキストとして、選択したリハーサルマークに追加されます。

#### ヒント

「浄書オプション (Engraving Options)」の「リハーサルマーク (Rehearsal Marks)」のページでは、すべてのリハーサルマークにカスタムの先頭テキスト、中間テキスト、末尾テキストを追加してプロジェクト全体に適用できます。これにより、たとえばリハーサルマークのフォントに組み合わせた文字を使用してスタイル化した枠線を表示するなどできます。

---

## リハーサルマークのパラグラフスタイルの編集

リハーサルマークに使用されるパラグラフスタイルの形式設定を編集できます。たとえば、フルスコアレイアウトのリハーサルマークのサイズを、パートレイアウトのリハーサルマークのサイズに影響を与えることなく変更できます。

---

#### 手順

1. 「ライブラリー (Library)」 > 「パラグラフスタイル (Paragraph Styles)」を選択して、「パラグラフスタイル (Paragraph Styles)」ダイアログを開きます。
  2. パラグラフスタイルリストで、「リハーサルマーク (Rehearsal Marks)」を選択します。
  3. 必要に応じて、「元 (Parent)」メニューから利用できるいずれかのスタイルを選択します。  
元スタイルが選択されている場合、選択したパラグラフスタイルの元スタイルから変更されているすべてのオプションの横に、操作可能なスイッチが表示されます。
  4. 必要に応じて、使用できるオプションをオンにして変更します。
  5. 「OK」をクリックして変更内容を保存し、ダイアログを閉じます。
- 

#### 結果

リハーサルマークのパラグラフスタイルの形式設定が変更されます。

#### 関連リンク

[「パラグラフスタイル \(Paragraph Styles\)」ダイアログ \(932 ページ\)](#)

[浄書オプションでリハーサルマークの設定をプロジェクト全体に適用する \(1574 ページ\)](#)

# マーカー

マーカーは時間上の特定の位置に紐づけられたラベルで、ほとんどの場合ビデオに関連して使用されます。これは通常、音楽的な盛り上がりが必要とされる重要な瞬間を示し、多くの場合は作曲者がこれに合わせて楽曲の形を整えるプロセスに使用されます。



タイムコードの譜表上でカスタムのテキストとタイムコードを表示するマーカー

初期設定では、Dorico Pro のマーカーにはデフォルトのテキストマーカーと、マーカーが紐づけられた時間上の位置のタイムコードが表示されます。

Dorico Pro では、どのプロジェクトでもマーカーが使用できます。ほとんどの場合ビデオと一緒に使用されるため、マーカーは記譜モードのビデオパネルに収められています。再生モードには「マーカー (Markers)」トラックもあり、マーカーの表示と新規マーカーの入力が行なえます。

マーカーはプロジェクトに最適なテンポの検出に使用できます。Dorico Pro は、複数の重要なマーカーがそれぞれ拍子の強拍に合うようにできるテンポを算出できます。

各組段の開始位置の上下またはタイムコード譜表(ある場合)の下に、レイアウトごとに個別にマーカーを表示できます。マーカーのタイムコードの表示/非表示を切り替えることもできます。

入力したマーカーはすべて MIDI の書き出し時に自動的にデータに含まれます。

## 関連リンク

- [マーカー/タイムコードの入力 \(434 ページ\)](#)
- [マーカーのテキストを編集する \(1582 ページ\)](#)
- [マーカーの枠線のスタイルを変更する \(1584 ページ\)](#)
- [ビデオパネル \(436 ページ\)](#)
- [マーカーのタイムコードを変更する \(1584 ページ\)](#)
- [マーカーを重要なマーカーに指定する \(1585 ページ\)](#)
- [タイムコード \(1586 ページ\)](#)
- [マーカートラック \(673 ページ\)](#)
- [テキストの書き出し \(113 ページ\)](#)

## 浄書オプションでマーカーの設定をプロジェクト全体に適用する

「浄書オプション (Engraving Options)」の「マーカー (Markers)」ページでは、マーカーのデザイン、位置および外観を設定し、プロジェクト全体に適用できます。

たとえば、マーカーにその位置のタイムコードを表示させるかどうか、マーカーをタイムコードの上下いずれに表示させるか、囲み線の太さ、マーカーのデフォルトの垂直位置などを変更できます。

オプションと一緒に表示される図は、オプションを楽譜に適用したときにどのように表示されるかを示します。

関連リンク

[「浄書オプション \(Engraving Options\)」 ダイアログ \(923 ページ\)](#)

[マーカーの枠線のスタイルを変更する \(1584 ページ\)](#)

## マーカーを表示/非表示にする

初期設定では、マーカーはフルスコアレイアウトに表示され、パートレイアウトでは非表示になっています。各レイアウトはマーカーの表示と非表示を個別に切り替えられます。これによりたとえば、マーカーが有用となる指揮者にはマーカーを表示し、プレーヤーには非表示とするなどできます。

---

手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[L]** を押して「**レイアウトオプション (Layout Options)**」を開きます。
2. 「**レイアウト (Layouts)**」リストから、マーカーを表示または非表示にするレイアウトを選択します。  
初期設定では、楽譜領域で選択されているものと同じレイアウトが選択された状態のダイアログが表示されます。他のレイアウトを選択するには、アクションバーの選択オプションを使用するか、複数のレイアウトをまたぐようにクリックしてドラッグするか、**[Shift]** を押しながら隣接するレイアウトをクリックするか、**[Ctrl]/[command]** を押しながら個々のレイアウトをクリックします。
3. カテゴリリストの「**マーカーおよびタイムコード (Markers and Timecode)**」をクリックします。
4. 「**マーカーを表示 (Show markers)**」をオンまたはオフにします。
5. 「**適用 (Apply)**」をクリックしてから「**閉じる (Close)**」をクリックします。

---

結果

選択したレイアウトでマーカーが表示または非表示になります。

## マーカーの垂直位置の変更

マーカーは組段の上または下に表示することも、個別のタイムコード譜表を使用して、大括弧でくくられた選択したインストゥルメントファミリーのグループの上に表示することもできます。こうすることで、スコア上のマーカーが見やすくなります。マーカーをタイムコード譜表に表示すると、タイムコードも自動的にタイムコード譜表の下に表示されます。

補足

1つの組段に複数のタイムコード譜表を表示することはできません。

---

手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[L]** を押して「**レイアウトオプション (Layout Options)**」を開きます。
2. マーカーの垂直位置を変更するレイアウトを「**レイアウト (Layouts)**」リストから選択します。  
初期設定では、楽譜領域で選択されているものと同じレイアウトが選択された状態のダイアログが表示されます。他のレイアウトを選択するには、アクションバーの選択オプションを使用するか、複数のレイアウトをまたぐようにクリックしてドラッグするか、**[Shift]** を押しながら隣接するレイアウトをクリックするか、**[Ctrl]/[command]** を押しながら個々のレイアウトをクリックします。

3. カテゴリーリストの「マーカーおよびタイムコード (Markers and Timecode)」をクリックします。
4. 「マーカー (Markers)」サブセクションの「垂直位置 (Vertical position)」で、以下のいずれかのオプションを選択します。
  - 組段の上 (Above system)
  - 組段の下 (Below system)
  - タイムコードの譜表 (Timecode staff)
5. 「タイムコードの譜表 (Timecode staff)」を選択した場合は、必要に応じて「タイムコードの譜表を大括弧の上に配置 (Position timecode staff above bracket)」メニューから、タイムコードの譜表をその上に表示させる、大括弧で括られたインストゥルメントファミリーを選択します。
6. 「適用 (Apply)」をクリックしてから「閉じる (Close)」をクリックします。

#### 結果

選択したレイアウトで、マーカーの垂直位置が変更されます。

#### 補足

- マーカーをタイムコードの譜表に表示させる場合、譜表にはデフォルトでタイムコードも表示されます。マーカーを個別の譜表に表示させつつタイムコードは不要である場合は、「タイムコード譜表におけるタイムコードの頻度 (Timecode frequency on timecode staff)」を「表示しない (Never)」に変更する必要があります。

タイムコードの譜表上ではなく、組段の開始位置の上または下に表示されるように、タイムコードの垂直位置を変更することもできます。

- 「レイアウトオプション (Layout Options)」の「垂直方向のスペーシング (Vertical Spacing)」ページで、タイムコードの譜表と他の譜表とのデフォルト距離を変更できます。

#### 手順終了後の項目

- タイムコードの譜表に表示するマーカーとタイムコードに使用されるフォントを編集できます。
- タイムコード譜表上のタイムコードの頻度を変更できます。

#### 関連リンク

- [タイムコードの垂直位置を変更する \(1587 ページ\)](#)
- [タイムコードの表示頻度を変更する \(1589 ページ\)](#)
- [マーカーのタイムコードの表示/非表示 \(1588 ページ\)](#)
- [タイムコードの構成要素の表示/非表示 \(1589 ページ\)](#)
- [アンサンブルタイプごとの大括弧によるグループ化の変更 \(1142 ページ\)](#)
- [インストゥルメントファミリー \(960 ページ\)](#)
- [「レイアウトオプション \(Layout Options\)」 ダイアログ \(917 ページ\)](#)

## マーカーのテキストを編集する

新規マーカーに表示されるデフォルトのテキストはマーカーです。各マーカーに表示されるテキストは個別に変更できます。

#### 前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。
- 下ゾーンのツールバーで「プロパティ (Properties)」を選択しておきます。
- 浄書モードの場合は、浄書ツールボックスで「グラフィックの編集 (Graphic Editing)」を選択しておきます。

#### 手順

1. テキストを変更するマーカーを選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
  2. プロパティパネルの「マーカー (Markers)」グループで、「マーカーのテキスト (Marker text)」をオンにします。
  3. 入力フィールドに任意のテキストを入力します。
  4. **[Return]** を押します。
- 

#### 結果

選択したマーカーに表示されるテキストが変更されます。これは「マーカーテキスト用フォント (Marker Text Font)」のフォントスタイルを使用します。

#### ヒント

「マーカーを追加 (Add Marker)」ダイアログを使用してマーカーを入力する際にもカスタムテキストを入力できます。また、記譜モードのビデオパネルの「マーカー (Markers)」セクションでも、マーカーのテキストを変更できます。

---

#### 関連リンク

- [「マーカーを追加 \(Add Marker\)」ダイアログ \(435 ページ\)](#)
- [浄書ツールボックス \(554 ページ\)](#)

## マーカー/タイムコードのフォントスタイルの編集

すべてのマーカーとタイムコードに使用するフォントスタイルの形式設定に関するプロジェクト全体の設定を編集できます。これによりたとえば、マーカーを太字のイタリックで表示したりできます。マーカーとタイムコードは異なるフォントを使用するため、それぞれ個別に変更できます。

---

#### 手順

1. 「ライブラリー (Library)」 > 「フォントスタイル (Font Styles)」を選択して、「フォントスタイルを編集 (Edit Font Styles)」ダイアログを開きます。
  2. フォントスタイルリストで、以下のいずれかのフォントスタイルを選択します。
    - マーカーテキスト用フォント (Marker Text Font): マーカーに使用します
    - マーカーのタイムコード用フォント (Marker Timecode Font): マーカーに表示するタイムコードに使用します
    - タイムコード用フォント (Timecode Font): タイムコードの譜表に表示するタイムコードに使用します
  3. 以下のオプションを個別または一括で設定することで、対応するフォント属性を変更できます。
    - フォントファミリー (Font family)
    - サイズ (Size)
    - スタイル (Style)
    - 下線 (Underlined)
  4. 必要に応じて、手順2と3を繰り返してもう一方のフォントも変更します。
  5. 「OK」をクリックして変更内容を保存し、ダイアログを閉じます。
-

#### 結果

選択したフォントスタイルの形式設定がプロジェクト全体で変更されます。

#### 関連リンク

[「フォントスタイルを編集 \(Edit Font Styles\)」ダイアログ \(930 ページ\)](#)

## マーカーの枠線のスタイルを変更する

プロジェクト全体のすべてのマーカーに表示される枠線のスタイルを変更して、たとえば長方形のかわりにカプセル型の境界線を使用するなどできます。

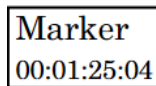
#### 手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[E]** を押して「**浄書オプション (Engraving Options)**」を開きます。
2. カテゴリーリストの「**マーカー (Markers)**」をクリックします。
3. 「**デザイン (Design)**」サブセクションで、「**境界線のスタイル (Border style)**」メニューから以下のいずれかのオプションを選択します。
  - **長方形 (Rectangle)**
  - **角丸の長方形 (Rounded rectangle)**
  - **カプセル (Capsule)**
  - **端が斜めの矩形 (Angled ends rectangle)**
4. 「**適用 (Apply)**」をクリックしてから「**閉じる (Close)**」をクリックします。

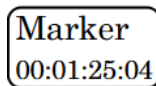
#### 結果

プロジェクト全体のすべての枠線のスタイルが変更されます。

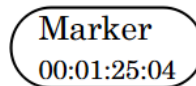
#### 例



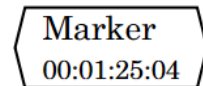
長方形 (Rectangle)



角丸の長方形 (Rounded rectangle)



カプセル (Capsule)



端が斜めの矩形 (Angled ends rectangle)

#### 関連リンク

[「浄書オプション \(Engraving Options\)」ダイアログ \(923 ページ\)](#)

## マーカーのタイムコードを変更する

たとえばビデオが編集されてマーカーの発生する位置が 10 秒遅れたような場合、マーカーの入力後にそれぞれのタイムコードを個別に変更できます。



#### 補足

これによりプロジェクトにおけるマーカーの発生位置が変わるため、楽譜に対するマーカーの位置も移動します。



---

手順

1. 記譜モードで、タイムコードを変更するマーカーが含まれているフローにあるアイテムを選択します。
  2. 記譜ツールボックスで「パネル (Panels)」、「ビデオ (Video)」の順にクリックして、ビデオパネルを表示します。
  3. 「マーカー (Markers)」セクションで、変更するタイムコードをダブルクリックします。
  4. 入力フィールドに任意の新しいタイムコードを入力します。
  5. **[Return]** を押します。
- 

結果

マーカーのタイムコードが変更されます。マーカーはこの新しい時間上の位置を反映して、自動的に楽譜に対する位置を移動します。

関連リンク

[ビデオパネル \(436 ページ\)](#)

[タイムコードの開始位置の値を変更する \(1587 ページ\)](#)

## マーカーを重要なマーカーに指定する

個々のマーカーを重要なマーカーに指定できます。これにより、「テンポを検出 (Find Tempo)」ダイアログで適切なテンポを検出する処理にそのマーカーを反映させられます。

---

手順

1. 記譜モードの記譜ツールボックスで「ビデオ (Video)」をクリックして、ビデオパネルを表示します。
  2. 「マーカー (Markers)」セクションの「重要 (Imp.)」の列から、重要なマーカーに指定するマーカーのチェックボックスをオンにします。
- 

結果

チェックボックスをオンにしたマーカーが重要なマーカーに指定されます。「マーカー (Markers)」セクションの下部にある「テンポを検出 (Find Tempo)」ボタンが利用できるようになります。

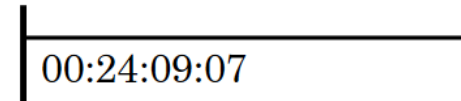
関連リンク

[「テンポを検出 \(Find Tempo\)」ダイアログ \(436 ページ\)](#)

# タイムコード

タイムコードは通常ビデオとの関連において、時間上の正確な位置を示します。これを使用すると、音楽と動画など複数の要素間の正確な同期を行なえるようになり、基準ツールとしても使用できます。

タイムコードは hh:mm:ss:ff の形式で表示されます。これは時間、分、秒、フレームをそれぞれ 2 桁で表わすものです。



タイムコードの譜表に表示されるタイムコード

Dorico Pro では、タイムコードのタイプに以下のいずれかを指定できます。

## ノンドロップフレームのタイムコード

すべてのフレームは前のフレームから順番に番号付けされ、フレーム番号のスキップはありません。

ノンドロップフレームのタイムコードには、末尾テキストとして「**fps**」が表示され、秒とフレームの区切り文字には、「00:00:01:05」のようにコロンが使用されます。

## ドロップフレームのタイムコード

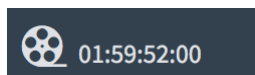
29.97fps と 30fps のフレームレートの差を埋め合わせるためにフレーム番号の一部がスキップされます。10 分ごとを除く毎分ごとに、フレームカウントからタイムコード番号が 2 つ飛ばされます。

ドロップフレームのタイムコードには、末尾テキストとして「**dfps**」が表示され、秒とフレームの区切り文字には、「00:00:01;05」のようにセミコロンが使用されます。

Dorico Pro においてタイムコードはフロー固有のものです。つまり、フローごとに他のフローとは完全に別個のタイムコードを設定できます。タイムコードは「**ビデオのプロパティ (Video Properties)**」ダイアログで設定できます。これはビデオを使用しないフローにも行なえます。

## 補足

設定モードの「**フロー (Flows)**」パネルのフローカードに表示されるタイムコードは、フローの開始位置のタイムコードを反映します。これは「**ビデオのプロパティ (Video Properties)**」ダイアログで設定できるタイムコードにより変化します。たとえば、「**タイムコードの開始位置 (Timecode start)**」を **02:00:00:00** に設定しつつ、「**フローのアタッチメント位置 (Flow attachment position)**」を 4 分音符の 8 拍と設定して、テンポが 60bpm である場合、フローカードに表示されるタイムコードは「01:59:52:00」になります。



初期設定では、タイムコードはマーカーに表示されます。各組段の開始位置の上下またはタイムコード譜表 (ある場合) の下に、レイアウトごとに個別にマーカーを表示できます。マーカーのタイムコードの表示/非表示を切り替えることもできます。

さらに、**トランスポート**ウィンドウに表示するタイムは、初期設定で表示される経過時間からタイムコードに変更できます。

関連リンク

- [マーカー/タイムコードの入力 \(434 ページ\)](#)
- [フレームレート \(216 ページ\)](#)
- [「ビデオのプロパティ \(Video Properties\)」ダイアログ \(212 ページ\)](#)
- [マーカー/タイムコードのフォントスタイルの編集 \(1583 ページ\)](#)
- [トランスポートディスプレイに表示する内容の変更 \(701 ページ\)](#)
- [マーカー \(1580 ページ\)](#)
- [マーカーのタイムコードを変更する \(1584 ページ\)](#)

## タイムコードの開始位置の値を変更する

プロジェクトのフローごとに開始位置のタイムコードを変更できます。たとえばフィルムのリールめに個別のプロジェクトを使用する場合などに、この機能を使用します。開始位置のタイムコードは、ビデオを使用しないプロジェクトでも変更できます。

---

手順

1. 記譜モードで、開始位置のタイムコードの値を変更するフローのアイテムを選択します。
2. 記譜ツールボックスで「パネル (Panels)」、「ビデオ (Video)」の順にクリックして、ビデオパネルを表示します。
3. ビデオパネルで「プロパティ (Properties)」をクリックして、「ビデオのプロパティ (Video Properties)」ダイアログを開きます。
4. 「タイムコードの開始位置 (Timecode start)」の値を変更します。
5. 「OK」をクリックして変更内容を保存し、ダイアログを閉じます。

---

結果

選択したアイテムが属するフローの開始位置のタイムコードが変更されます。

関連リンク

- [ビデオパネル \(436 ページ\)](#)
- [ビデオの開始位置の変更 \(214 ページ\)](#)
- [マーカーのタイムコードを変更する \(1584 ページ\)](#)

## タイムコードの垂直位置を変更する

組段の開始位置の上または下、あるいは個別の一線譜に、レイアウトごとにタイムコードを表示できます。たとえば、フルスコアレイアウトでは個別のタイムコード譜表にタイムコードとマーカーを表示し、パートレイアウトでは組段の開始位置の上にタイムコードのみを表示できます。

補足

組段中の複数の譜表にタイムコードを表示させることはできません。

---

前提条件

タイムコードを個別の譜表に表示する場合は、個別の譜表に表示できるようマーカーの垂直位置を変更しておきます。

---

手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[L]** を押して「レイアウトオプション (Layout Options)」を開きます。

- タイムコードの垂直位置を変更するレイアウトを「**レイアウト (Layouts)**」リストから選択します。  
初期設定では、楽譜領域で選択されているものと同じレイアウトが選択された状態のダイアログが表示されます。他のレイアウトを選択するには、アクションバーの選択オプションを使用するか、複数のレイアウトをまたぐようにクリックしてドラッグするか、**[Shift]** を押しながら隣接するレイアウトをクリックするか、**[Ctrl]/[command]** を押しながら個々のレイアウトをクリックします。
- カテゴリリストの「**マーカおよびタイムコード (Markers and Timecode)**」をクリックします。
- 「**タイムコード (Timecode)**」サブセクションの「**タイムコードを表示 (Show timecode)**」で、以下のいずれかのオプションを選択します。
  - 組段の開始位置の上または下 (Above or below start of system)
  - タイムコード譜表の下 (Below timecode staff)
- 「**組段の開始位置の上または下 (Above or below start of system)**」を選択した場合は、「**組段に対するタイムコードの位置 (Timecode position relative to system)**」で、以下のいずれかのオプションを選択します。
  - 組段の上 (Above system)
  - 組段の下 (Below system)
- 「**組段の開始位置の上または下 (Above or below start of system)**」を選択した場合、タイムコードと譜表の間隔を変更するには「**組段の開始位置のオフセット (Offset at start of system)**」数値フィールドの値を変更します。
- 「**適用 (Apply)**」をクリックしてから「**閉じる (Close)**」をクリックします。

---

#### 結果

選択したレイアウトで、タイムコードの垂直位置が変更されます。

#### 補足

タイムコードが組段の開始位置の上または下に表示されている場合は、「**タイムコード譜表におけるタイムコードの頻度 (Timecode frequency on timecode staff)**」の設定も適用されます。

---

#### 関連リンク

[マーカの垂直位置の変更 \(1581 ページ\)](#)

## マーカのタイムコードの表示/非表示

プロジェクト全体のすべてのマーカのタイムコードの表示/非表示、および表示位置のマーカテキストに対する上/下を切り替えられます。たとえば、重要なタイミングの正確な位置が分かりやすく表示されるようにできます。これはタイムコードを専用の譜表に表示するためのレイアウトごとの設定に対する追加の設定となります。

---

#### 手順

- [Ctrl]/[command]+[Shift]+[E]** を押して「**浄書オプション (Engraving Options)**」を開きます。
- カテゴリリストの「**マーカ (Markers)**」をクリックします。
- 「**マーカのタイムコード (Timecode in markers)**」に対し、以下のいずれかのオプションを選択します。
  - タイムコードを表示 (Show timecode)

- タイムコードを非表示 (Do not show timecode)
4. 必要に応じて、「タイムコードを表示する場合の情報の並び順 (Order of information, if timecode shown)」に対し、以下のいずれかのオプションを選択します。
    - タイムコードの上にテキスト (Text above timecode)
    - テキストの上にタイムコード (Timecode above text)
  5. 「適用 (Apply)」をクリックしてから「閉じる (Close)」をクリックします。
- 

#### 関連リンク

[マーカー \(1580 ページ\)](#)

[マーカーの垂直位置の変更 \(1581 ページ\)](#)

[トランスポートディスプレイに表示する内容の変更 \(701 ページ\)](#)

[マーカーのテキストを編集する \(1582 ページ\)](#)

## タイムコードの構成要素の表示/非表示

時間やフレームといったタイムコードの構成要素をそれぞれ個別に表示/非表示にできます。これは、楽譜に表示されるすべてのタイムコードに影響します。

---

#### 手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[E]** を押して「**浄書オプション (Engraving Options)**」を開きます。
  2. カテゴリリストの「**マーカー (Markers)**」をクリックします。
  3. 「**タイムコードに表示 (Show in timecode)**」の以下のオプションを個別に、またはまとめてオン/オフにします。
    - 時間 (Hours)
    - 分 (Minutes)
    - 秒 (Seconds)
    - フレーム (Frames)
  4. 「**適用 (Apply)**」をクリックしてから「**閉じる (Close)**」をクリックします。
- 

#### 関連リンク

[マーカーを表示/非表示にする \(1581 ページ\)](#)

[マーカーの垂直位置の変更 \(1581 ページ\)](#)

[「浄書オプション \(Engraving Options\)」ダイアログ \(923 ページ\)](#)

## タイムコードの表示頻度を変更する

タイムコードを専用の譜表に表示するレイアウトでは、タイムコードの異なる表示間隔を使用できません。たとえば、フルスコアレイアウトではタイムコードをすべての小節に表示しつつ、パートレイアウトでは組段の開始位置のみに表示する、といった設定ができます。

#### 補足

長休符を使用するレイアウトでは、タイムコードをすべての小節に表示することをおすすめしません。タイムコードが重なり合って判読不能になってしまうためです。長休符を使用するパートレイアウトにタイムコードを表示する場合は、タイムコードの表示を組段の開始位置のみとするか、そのレイアウトで長休符の表示をやめることをおすすめします。

---

前提条件

選択したレイアウトにマーカーを表示しておきます。

---

手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[L]** を押して「**レイアウトオプション (Layout Options)**」を開きます。
  2. タイムコードの表示頻度を変更するレイアウトを「**レイアウト (Layouts)**」リストから選択します。  
初期設定では、楽譜領域で選択されているものと同じレイアウトが選択された状態のダイアログが表示されます。他のレイアウトを選択するには、アクションバーの選択オプションを使用するか、複数のレイアウトをまたぐようにクリックしてドラッグするか、**[Shift]** を押しながら隣接するレイアウトをクリックするか、**[Ctrl]/[command]** を押しながら個々のレイアウトをクリックします。
  3. カテゴリーリストの「**マーカーおよびタイムコード (Markers and Timecode)**」をクリックします。
  4. また、選択したレイアウトがタイムコードを専用の譜表に表示していない場合は、必要に応じて「**垂直位置 (Vertical position)**」を「**タイムコードの譜表 (Timecode staff)**」に設定します。
  5. 「**タイムコード譜表におけるタイムコードの頻度 (Timecode frequency on timecode staff)**」で、以下のいずれかのオプションを選択します。
    - **組段の開始位置 (Start of system)**
    - **1 小節ごと (Every bar)**
    - **常に表示 (Never)**
  6. 「**適用 (Apply)**」をクリックしてから「**閉じる (Close)**」をクリックします。
- 

関連リンク

[マーカーを表示/非表示にする \(1581 ページ\)](#)

[長休符を表示/非表示にする \(1649 ページ\)](#)

# リピート括弧

パッセージを繰り返す楽譜において、リピート括弧は各繰り返しでどの小節が最後に演奏されるかを示します。必要な場合、毎回異なる終わり方にできます。これはボルタ線または1番括弧と2番括弧と呼ばれる場合もありますが、この説明書ではリピート括弧を名称として使用します。

リピート括弧は2つ以上のセグメントから構成され、それぞれのセグメントは異なる終わり方を表わします。リピート括弧を入力すると、Dorico Pro は1つめのセグメントの終わりに反復終了の小節線を自動的に入力します。リピート括弧のセグメントは、上部の実線と、そのセグメントが使用されるリピート回数を示す数字によって明示されます。



3回の繰り返し演奏が2つの括弧に分割されたリピート括弧

Dorico Pro では、リピート括弧にはセグメントをいくつでも作成でき、どのセグメントを何回目のリピートに使用するか制御できます。たとえば、リピート括弧にセグメントを2つ作成して合計4回繰り返す場合、はじめの2回は1つめのリピート括弧のセグメントを、あとの2回は2つめのリピート括弧のセグメントを使用するように指定できます。

Dorico Pro では、リピート括弧は組段オブジェクトとして分類されます。そのため、リピート記号は組段オブジェクトの表示と配置に関するレイアウトごとの設定に従います。

関連リンク

[リピートとトレモロの入力方法 \(438 ページ\)](#)

[「レイアウトオプション \(Layout Options\)」ダイアログ \(917 ページ\)](#)

[組段オブジェクト \(1717 ページ\)](#)

[再生時の反復 \(689 ページ\)](#)

[リピート小節線による演奏回数の変更 \(691 ページ\)](#)

[小節線のタイプ \(1079 ページ\)](#)

[ライン \(1551 ページ\)](#)

## 浄書オプションでリピート括弧の設定をプロジェクト全体に適用する

「浄書オプション (Engraving Options)」の「リピート括弧 (Repeat Endings)」ページでは、リピート括弧のセグメントのデザイン、位置および外観を設定し、プロジェクト全体に適用できます。

「リピート括弧 (Repeat Endings)」ページのオプションを使用すると、リピート括弧の終端、数字とフックの外観、およびリピート括弧のデフォルト位置を変更できます。

多くのオプションに、オプションを楽譜に適用したときにどのように表示されるかを示す図があります。

関連リンク

[「浄書オプション \(Engraving Options\)」ダイアログ \(923 ページ\)](#)

## リピート括弧でリピート回数の総数を変更する

初期設定では、リピート括弧のそれぞれのセグメントが演奏されるのは1回ずつであり、それぞれのセグメントにはそれが演奏されるリピート回数を示す番号が1つずつ表示されます。リピート括弧のリピート回数の総数を増やすことにより、セグメントを2回以上演奏させられるようになります。

### 前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。
- 下ゾーンのツールバーで「プロパティ (Properties)」を選択しておきます。
- 浄書モードの場合は、浄書ツールボックスで「グラフィックの編集 (Graphic Editing)」を選択しておきます。

---

### 手順

1. リピートの総数を変更するリピート括弧を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「リピート括弧 (Repeat Endings)」グループで、「リピート回数 (No. times played)」をオンにします。
3. 数値フィールドの値を変更します。

### 補足

セグメント数より少ないリピート回数は設定できません。

---

### 結果

選択したリピート括弧のリピート回数の総数が増えられます。リピート括弧の最後に閉じられたセグメントには、Dorico Pro により追加されたリピート回数が付与されます。

### 手順終了後の項目

リピート回数の総数を決定すると、それぞれのリピート回数にどのセグメントを使用するかを変更できます。

### 関連リンク

- [再生時の反復 \(689 ページ\)](#)
- [リピート小節線による演奏回数の変更 \(691 ページ\)](#)
- [音符/アイテムを個別にミュートする \(688 ページ\)](#)
- [浄書ツールボックス \(554 ページ\)](#)
- [リピートとトレモロの入力方法 \(438 ページ\)](#)

## リピート括弧のセグメントにリピート回数を振り分ける

リピートの総数をそれぞれのセグメントにどのように振り分けるか、個々のリピート括弧ごとに制御できます。たとえば、全部で6回繰り返すリピート括弧で1～3回めまでの演奏を最初の括弧に含め、4～6回めの演奏を2つめの括弧に含める場合などです。

### 前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。
- 下ゾーンのツールバーで「プロパティ (Properties)」を選択しておきます。
- 浄書ツールボックスで「グラフィックの編集 (Graphic Editing)」を選択しておきます。



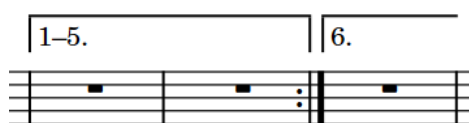
#### 手順

1. 浄書モードで、演奏されるリピート回数を変更するセグメントをリピート括弧の中から個別に選択します。
2. プロパティパネルの「リピート括弧 (Repeat Endings)」のグループで、「リピート括弧のリピート回数 (Times played for segment)」をオンにします。
3. 選択したセグメントを演奏するリピート回数の各番号を、コンマで区切って入力します。  
たとえば、全部で6回繰り返すリピート括弧の2つめのセグメントに対し、「4,5,6」を入力すると、繰り返しの4、5、6回めで演奏されるようになります。

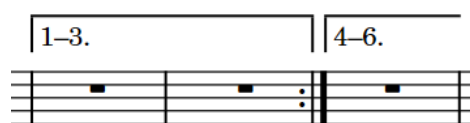
#### 結果

選択したセグメントが演奏されるリピート回数を変更されます。

#### 例



デフォルトのリピート回数の振り分け



カスタムのリピート回数の振り分け

## リピート括弧のセグメントの長さの変更

リピート括弧のセグメントの長さを個別に変更することにより、各セグメントに含まれる小節数を変更できます。

#### 手順

1. 記譜モードで長さを変更するリピート括弧を選択します。

#### 補足

1度に長さを変更できるリピート括弧のセグメントは1つだけです。

2. 長さを変更するセグメントの終端の丸いハンドルを選択します。



真ん中のハンドルが選択され、太い線で表示されています。

3. ハンドルをクリックして左右にドラッグし、前後の小節線にスナップさせます。

#### 補足

セグメントには最低1小節が必要です。

4. 必要に応じて、リピート括弧のそれぞれのセグメントに手順1から3を繰り返します。

#### 結果

選択したセグメントの長さが変更されます。

#### 補足

- これにより反復記号が自動的に入力または移動されることはありません。反復記号は必要に応じて手動で入力および削除する必要があります。
- 1つのリピート括弧の最終セグメントの長さは、以下のキーボードショートカットを使用しても変更できます。
  - 最終セグメントを長くするには、**[Shift]+[Alt/Opt]+[→]** を押します。
  - 最終セグメントを短くするには、**[Shift]+[Alt/Opt]+[←]** を押します。

#### 関連リンク

- [小節、拍、小節線の入力方法 \(329 ページ\)](#)
- [音符/アイテムの削除 \(496 ページ\)](#)
- [アイテムの表示位置の移動 \(652 ページ\)](#)
- [リピート括弧のセグメントの外観を変更する \(1595 ページ\)](#)

## リピート括弧の位置

リピート括弧は譜表の上の、他の組段オブジェクトと同じ位置に配置され、フックは小節線に整列します。リピート括弧は通常他の記譜記号の外側に配置されますが、段階的なテンポ変更など、表示が長い一部のアイテムについては、リピート括弧より上に配置される場合もあります。

リピート括弧のリズム上の位置は記譜モードで移動できます。これは初期設定では、「**浄書オプション (Engraving Options)**」で設定した位置に配置されます。

浄書モードでは、リピート括弧の個々のセグメントの表示位置を他のセグメントとは別個に移動できませんが、これによってそれぞれのリズム上の位置が変更されることはありません。

浄書モードでは、リピート括弧の各セグメントにはそれぞれ開始位置と終了位置の2か所に四角いハンドルがあります。

リピート括弧のセグメントが組段区切りおよびフレーム区切りをまたぐ場合は、区切りの両側のリピート括弧のセグメントの分割された部分をそれぞれ個別に移動できます。



すべてのリピート括弧のデフォルトの外観と位置に対するプロジェクト全体の設定は、「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**リピート括弧 (Repeat Endings)**」ページで変更できます。

Dorico Pro では、リピート括弧は組段オブジェクトに分類され、選択したインストゥルメントファミリーの最初の大括弧の上に表示できます。どのインストゥルメントファミリーの上に組段オブジェクトを表示させるかは、レイアウトごとに個別に変更できます。これによりたとえば、フルスコアのみ各組段の上に複数のリピート括弧を表示させることなどができます。



#### 関連リンク

- [「浄書オプション \(Engraving Options\)」ダイアログ \(923 ページ\)](#)
- [音符/アイテムの位置の移動 \(502 ページ\)](#)
- [アイテムの表示位置の移動 \(652 ページ\)](#)
- [組段オブジェクト \(1717 ページ\)](#)
- [リピートとトレモロの入力方法 \(438 ページ\)](#)

## リピート括弧のテキストの編集

リピート括弧のセグメントに表示されるテキストは、個別にカスタムのテキストに置き換えられます。初期設定では、これにはセグメントが演奏されるリピート回数が表示されます。

### 前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。
- 下ゾーンのツールバーで「プロパティ (Properties)」を選択しておきます。
- 浄書ツールボックスで「グラフィックの編集 (Graphic Editing)」を選択しておきます。

---

### 手順

1. 浄書モードで、テキストを変更するリピート括弧のセグメントを選択します。
2. プロパティパネルの「リピート括弧 (Repeat Endings)」のグループで、「カスタムテキスト (Custom text)」をオンにします。
3. 入力フィールドに任意のテキストを入力します。
4. **[Return]** を押します。

---

### 結果

選択したセグメントに表示されるテキストが変更されます。

「カスタムテキスト (Custom text)」をオフにすると、選択されたリピート括弧のセグメントのデフォルトのテキストを復元します。

### 補足

- プロパティをオフにすると、入力したカスタムテキストは完全に削除されます。
- 「フォントスタイルを編集 (Edit Font Styles)」ダイアログでは、「リピート括弧のフォント (Repeat Endings Font)」の形式設定を編集できます。たとえば、プロジェクト全体のすべてのリピート括弧のテキストを斜体で表示したい場合などに便利です。

---

### 関連リンク

[浄書ツールボックス \(554 ページ\)](#)

[「フォントスタイルを編集 \(Edit Font Styles\)」ダイアログ \(930 ページ\)](#)



[リピート括弧でリピート回数の総数を変更する \(1592 ページ\)](#)

[リピート括弧のセグメントにリピート回数を振り分ける \(1592 ページ\)](#)

## リピート括弧のセグメントの外観を変更する

個々のリピート括弧のセグメントの外観と長さを、他のセグメントやプロジェクト全体の設定とは別に変更できます。

### 前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。
- 下ゾーンのツールバーで「プロパティ (Properties)」を選択しておきます。
- 浄書ツールボックスで「グラフィックの編集 (Graphic Editing)」を選択しておきます。

---

### 手順

1. 浄書モードで、外観を変更するリピート括弧のセグメントを選択します。

#### 補足

最終セグメントのみ、または前のセグメントのみを選択する必要があります。

2. プロパティパネルの「リピート括弧 (Repeat Endings)」グループで、「リピート括弧の終端 (End of line)」をオンにします。
3. メニューから以下のいずれかのオプションを選択します。
  - 閉じずに短く (Open, short)
  - 閉じずに小節いっぱいの長さ (Open, full length)
  - 閉じる (Closed)

#### 結果

選択したリピート括弧のセグメントの外観が変更されます。

#### ヒント

プロジェクト全体のすべてのリピート括弧のセグメントのデフォルトの外観は、「**浄書オプション (Engraving Options)**」 > 「**リピート括弧 (Repeat Endings)**」 > 「**リピート括弧 (Segments)**」で変更できます。

## リピート括弧のフックの長さを変更する

プロジェクト全体の設定とは別に、リピート括弧のフックの長さを変更できます。この操作は現在のレイアウトとフレームチェーンのみに対して、もしくはすべてのレイアウトとフレームチェーンに対して行なえます。

#### 補足

リピート括弧の個々のセグメントでは、フックの長さを個別に変更できません。フックの長さの変更はリピート括弧全体に影響します。

#### 前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。
- 下ゾーンのツールバーで「**プロパティ (Properties)**」を選択しておきます。
- 浄書ツールボックスで「**グラフィックの編集 (Graphic Editing)**」を選択しておきます。
- ローカルのプロパティ変更に関して、適切なプロパティ範囲を選択しておきます。

#### 手順

1. 浄書モードで、長さを変更するリピート括弧のフックを選択します。
2. プロパティパネルの「リピート括弧 (Repeat Endings)」グループで、「**フックの長さ (Hook length)**」をオンにします。
3. 数値フィールドの値を変更します。

#### 結果

数値を大きくするとリピート括弧のフックが長くなります。数値を小さくするとリピート括弧のフックが短くなります。プロパティ範囲を「**ローカル (Locally)**」に設定している場合、この変更は現在のレイアウトおよびフレームチェーンのみに影響します。

#### ヒント

すべてのリピート括弧のフックのデフォルトの長さに対するプロジェクト全体の設定は、「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**リピート括弧 (Repeat Endings)**」ページで変更できます。

---

#### 関連リンク

[「浄書オプション \(Engraving Options\)」ダイアログ \(923 ページ\)](#)

[浄書ツールボックス \(554 ページ\)](#)

[プロパティ範囲の変更 \(828 ページ\)](#)

[プロパティ設定を別のレイアウト/フレームチェーンにコピーする \(825 ページ\)](#)

## MusicXML ファイルのリピート括弧

リピート括弧のすべての設定は MusicXML ファイル形式で読み込みと書き出しを行なえます。

ただし、MusicXML ではリピート括弧の最終セグメントではないセグメントであっても括弧の終端を閉じずに表示できますが、Dorico Pro ではこれを表示できません。

# リピートマーカー

リピートマーカーは音符や記譜記号の繰り返しを示すものですが、リピート括弧とは異なり、多くは楽譜の並びに従って進行せず、異なる位置やセクションにジャンプします。

The image shows a musical score with two systems. The first system has a vocal line with lyrics: "sah. sah. 2. Und im - mer 3. Es quoll und". The piano accompaniment has a repeat sign. The second system has a vocal line with lyrics: "nun wußt' ich wohl wie mir ge - schah". The piano accompaniment has a Coda section marked with a Coda symbol (⊕) and a repeat sign.

組段の途中にあるコーダセクション

Dorico Pro では、リピートマーカーは以下のタイプに分類されます。

## ジャンプ記号

ここからプレーヤーや再生がジャンプすることを指示するもので、D.C. al Coda または D.S. al Fine などがあります。

ジャンプ記号は、そのリズム上の位置に右揃えで配置されます。つまり、テキストや記号は、終端がリズム上の位置に揃えられ、そこから左に向かって配置されます。

## D.C. al Coda

## D.S. al Fine

## リピートセクション

ジャンプ先を指定するセーニョやコーダ、または楽曲の終わりを指定するフィーネなどがあります。Dorico Pro では、組段の途中で始まるコーダセクションは、先行する楽譜と間隔によって自動的に区切られます。組段の開始位置にあるコーダセクションには、同じ幅のインデントが適用されます。

リピートマーカーは、そのリズム上の位置に左揃えで配置されます。つまり、テキストや記号は、始端がリズム上の位置に揃えられ、そこから右に向かって配置されます。



Fine

初期設定では、リピートマーカーは1行で表示されますが、必要に応じて個別に表示を2行に変更して、水平方向の長さを節約できます。またリピートマーカーは、「**パラグラフスタイル (Paragraph Styles)**」ダイアログでフォントサイズを変更するなどパラグラフスタイルをカスタマイズしたり、「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**リピートマーカー (Repeat Markers)**」ページで外観をカスタマイズしたりできます。

関連リンク

[リピートとトレモロの入力方法 \(438 ページ\)](#)

[リピートマーカーを1行または2行で表示する \(1603 ページ\)](#)

[「パラグラフスタイル \(Paragraph Styles\)」ダイアログ \(932 ページ\)](#)

- [再生時の反復 \(689 ページ\)](#)
- [リピート回数 \(1607 ページ\)](#)
- [コーダの前の間隔を変更する \(1606 ページ\)](#)
- [小節線のタイプ \(1079 ページ\)](#)
- [「浄書オプション \(Engraving Options\)」 ダイアログ \(923 ページ\)](#)

## 浄書オプションでリピートマーカーの設定をプロジェクト全体に適用する

「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**リピートマーカー (Repeat Markers)**」ページでは、リピートマーカーのデザイン、位置および外観を設定し、プロジェクト全体に適用できます。

「**リピートマーカー (Repeat Markers)**」ページのオプションを使用すると、リピートマーカーの外観、デザインおよび長さ、コーダセクションの前のデフォルトの間隔、およびそれぞれのデフォルト位置を変更できます。またリピートマーカーの記号とテキストの順番、テキストに対する記号の縮尺、およびリピートマーカーのテキストの大文字/小文字も変更できます。

「**リピートマーカーのプリセット (Repeat Markers Preset)**」セクションでは、外観のプリセットとして以下のものが用意されています。

- **標準 (Standard)**: 現在出版されているロック/ポップスの譜面における最も一般的な表記規則に基づくもので、より短く省略された指示を用います。
- **グールド (Gould)**: Elaine Gould 氏の著書『Behind Bars』における推奨事項に基づくもので、より長く明確な指示を用いるため、クラシックやコンサート音楽に最適です。

### 補足

また Gould 氏は、リピートマーカーを譜表の上ではなく下に配置することを推奨しています。

- **カスタム (Custom)**: ユーザーの好みに合わせて設定を混在させられます。個々のオプションを変更して外観のプリセットを上書きした時点で、このプリセットが自動的に選択されます。

多くのオプションに、オプションを楽譜に適用したときにどのように表示されるかを示す図がありません。

### 関連リンク

- [「浄書オプション \(Engraving Options\)」 ダイアログ \(923 ページ\)](#)
- [譜表に対するリピートマーカーの位置の変更 \(1605 ページ\)](#)

## リピートマーカーのパラグラフスタイル

リピートマーカーはサイズ、スペーシング、配置、その他形式設定オプションなどのフォントの形式設定にパラグラフスタイルを使用します。リピートマーカーは異なるタイプごとに異なる形式設定を必要とするため、初期設定でそれぞれ個別のパラグラフスタイルを持ちます。

Dorico Pro には、リピートマーカーに関する以下のデフォルトのパラグラフスタイルがあります。

- **リピートマーカージャンプ (Repeat Marker Jumps)**: D.C. al Coda または D.S. al Fine など、ジャンプ記号に使用されるデフォルトのパラグラフスタイルです。
- **リピートマーカーセクション (Repeat Marker Sections)**: coda または Fine など、リピートセクションに使用されるデフォルトのパラグラフスタイルです。

初期設定ではこれらのパラグラフスタイルの形式設定は同じですが、「**パラグラフスタイル (Paragraph Styles)**」ダイアログでそれぞれ個別に編集できます。たとえば、ジャンプ記号のサイズを小さくしつつ、リピートセクションはデフォルトのサイズのままにすることが可能です。

#### 補足

「リピートマーカージャンプ (Repeat Marker Jumps)」のパラグラフスタイルは、「リピートマーカーセクション (Repeat Marker Sections)」のスタイルから設定を継承します。「リピートマーカーセクション (Repeat Marker Sections)」のパラグラフスタイルを変更すると、「リピートマーカージャンプ (Repeat Marker Jumps)」のパラグラフスタイルの対応するオプションも、上書きされていない限り同様に変更されます。

---

#### 関連リンク

[「パラグラフスタイル \(Paragraph Styles\)」ダイアログ \(932 ページ\)](#)

[リピートマーカーのテキストの編集 \(1602 ページ\)](#)

[リピートマーカーを 1 行または 2 行で表示する \(1603 ページ\)](#)

## コーダ/セーニョ記号のサイズの変更

コーダ記号とセーニョ記号のデフォルトのサイズを、プロジェクト全体でそれぞれ別個に変更できます。これはリピートマーカーのテキストのサイズに影響しません。

---

#### 手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[E]** を押して「**浄書オプション (Engraving Options)**」を開きます。
  2. カテゴリリストの「**リピートマーカー (Repeat Markers)**」をクリックします。
  3. 「**デザイン (Design)**」セクションで、「**コーダ記号の倍率 (Scale factor for coda symbols)**」の値を変更します。
  4. 「**セーニョ記号の倍率 (Scale factor for segno symbols)**」の値を変更します。
  5. 「**適用 (Apply)**」をクリックしてから「**閉じる (Close)**」をクリックします。
- 

#### 結果

リピートマーカーのテキストに対するコーダ記号とセーニョ記号のサイズがプロジェクト全体で変更されます。

## リピートマーカーの記号を表示/非表示にする

さまざまなタイプのリピートマーカーで、コーダ/セーニョ記号のみ、テキストのみ、またはテキストと記号の両方を表示することを選択できます。リピートマーカーにテキストと記号の両方を表示する場合は、その順番と配置も変更できます。

---

#### 手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[E]** を押して「**浄書オプション (Engraving Options)**」を開きます。
2. カテゴリリストの「**リピートマーカー (Repeat Markers)**」をクリックします。
3. 「**ジャンプ記号 (Repeat Jumps)**」セクションで、以下のオプションに使用できるいずれかの外観を選択します。
  - **ジャンプ記号「To coda」の外観 (Appearance of 'To coda' repeat jumps)**
  - **ジャンプ記号「ダルセーニョ」の外観 (Appearance of dal segno repeat jumps)**
  - **ジャンプ記号中のコーダの外観 (Appearance of coda in repeat jumps)**
4. 「**リピートセクション (Repeat Sections)**」セクションで、「**リピートセクション「コーダ」の外観 (Appearance of coda repeat sections)**」に使用できるいずれかの外観を選択します。



5. 「適用 (Apply)」をクリックしてから「閉じる (Close)」をクリックします。

---

#### 結果

対応するリピートマーカーのコーダ/セーニョ記号がプロジェクト全体で表示/非表示になります。選択によっては、テキストや記号の順番や配置など、対応するマーカーの外観も変更される場合があります。

#### 関連リンク

[「浄書オプション \(Engraving Options\)」ダイアログ \(923 ページ\)](#)

## リピートマーカーのインデックスの変更

個々のリピートマーカーのインデックスは変更できます。たとえばフローに2つの異なるコーダが使用され、プレーヤーがそれぞれを区別できるようにする必要がある場合などに、この機能を使用します。

初期設定では、たとえフロー中に複数のリピートマーカーがあったとしても、同じタイプのリピートマーカーはすべて同じ外観を持ちます。

#### 補足

リピートマーカーの Fine または D.C. については、インデックスを変更できません。

---

#### 前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。
- 下ゾーンのツールバーで「プロパティ (Properties)」を選択しておきます。
- 浄書モードの場合は、浄書ツールボックスで「グラフィックの編集 (Graphic Editing)」を選択しておきます。

#### 手順

1. インデックスを変更するリピートマーカーを選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「リピートマーカー (Repeat Markers)」グループで、選択に応じて以下のプロパティを片方または両方オンにします。
  - マーカーインデックス (Marker index)
  - ジャンプ先のインデックス ('Jump to' index)
3. 数値フィールドの値を変更します。

#### 補足

入力できる数値は1から3までです。

---

#### 結果

「マーカーインデックス (Marker index)」は、選択したリピートマーカーの、他の同じタイプのリピートマーカーに対する順番を変更します。

「ジャンプ先のインデックス ('Jump to' index)」は、選択したリピートマーカーのジャンプ先を変更します。

#### ヒント

複数のリピートマーカーのデフォルトの外観をプロジェクト全体で変更するには、「**浄書オプション (Engraving Options)**」 > 「**リピートマーカー (Repeat Markers)**」 > 「**リピートセクション (Repeat Sections)**」で設定を行ないます。

---

#### 例

フロー中に2つのコーダと2つの異なる D.S. al Coda がある場合、1つめのコーダの「**マーカーインデックス (Marker index)**」には **1** を、2つめには **2** を設定して、1つめの D.S. al Coda の「**ジャンプ先のインデックス ('Jump to' index)**」には **1** を、2つめには **2** を設定することなどが考えられます。

**D.S. % al  $\phi$**

デフォルトのインデックス設定の D.S. al Coda のマーカー

**D.S. %% al  $\phi$  2**

両方のインデックスが2に設定された D.S. al Coda のマーカー

---

#### 関連リンク

[「浄書オプション \(Engraving Options\)」ダイアログ \(923 ページ\)](#)

[再生時の反復 \(689 ページ\)](#)

[浄書ツールボックス \(554 ページ\)](#)

[リピートとトレモロの入力方法 \(438 ページ\)](#)

## リピートマーカーのテキストの編集

個々のリピートマーカーに表示されるテキストを変更できます。これによりたとえば、通常とは異なるリピートマーカーの指示を記譜できます。

#### 前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。
- 下ゾーンのツールバーで「**プロパティ (Properties)**」を選択しておきます。
- 浄書モードの場合は、浄書ツールボックスで「**グラフィックの編集 (Graphic Editing)**」を選択しておきます。

#### 手順

1. テキストを変更するリピートマーカーを選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
  2. プロパティパネルの「**リピートマーカー (Repeat Markers)**」グループで、「**カスタムテキスト (Custom text)**」をオンにします。
  3. 入力フィールドに任意のテキストを入力します。
  4. **[Return]** を押します。
- 

#### 結果

選択したリピートマーカーに表示されるテキストが変更されます。D.C./D.S. リピートジャンプなどで示されるセーニョ記号およびコーダ記号は削除され、カスタムのテキストに置き換えられます。

#### 関連リンク

[浄書オプションでリピートマーカーの設定をプロジェクト全体に適用する \(1599 ページ\)](#)

[浄書ツールボックス \(554 ページ\)](#)

## リピートマーカーを1行または2行で表示する

リピートマーカーの表示を1行とするか2行に分けるかは、レイアウトごとの設定より優先される形で個別に変更できます。これはたとえば、あるパートレイアウトで1つの長いリピートマーカーがページ余白からはみ出してしまうような場合に使用できます。この操作は現在のレイアウトとフレームチェーンのみに対して、もしくはすべてのレイアウトとフレームチェーンに対して行なえます。

### 補足

ワードラップの設定を変更できるのは、D.C. al Fine や D.S. al Coda などのジャンプ記号で、カスタムテキストを使用していないものだけです。

### 前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。
- 下ゾーンのツールバーで「プロパティ (Properties)」 を選択しておきます。
- 浄書ツールボックスで「グラフィックの編集 (Graphic Editing)」 を選択しておきます。
- ローカルのプロパティ変更に関して、適切なプロパティ範囲を選択しておきます。

### 手順

1. 浄書モードで、ワードラップを変更するリピートマーカーを選択します。
2. プロパティパネルの「リピートマーカー (Repeat Markers)」グループで、「ワードラップ (Word wrap)」をオンにします。
3. 対応するチェックボックスをオン/オフにします。

### 結果

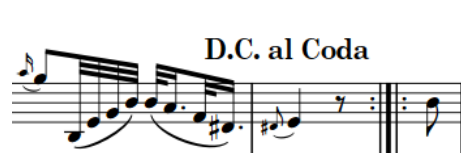
チェックボックスがオンのときは選択したリピートマーカーが2行で表示され、オフのときは1行で表示されます。プロパティ範囲を「ローカル (Locally)」に設定している場合、この変更は現在のレイアウトおよびフレームチェーンのみに影響します。

プロパティをオフにすると、リピートマーカーはワードラップに関してはレイアウトごとの設定に従います。

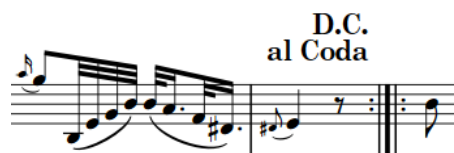
### ヒント

- すべてのリピートマーカーを2行で表示するかどうかについては、「レイアウトオプション (Layout Options)」>「譜表と組段 (Staves and Systems)」>「リピートマーカー (Repeat Markers)」で、レイアウトごとに個別に変更できます。たとえばフルスコアでは1行で表示させ、パートレイアウトでは2行で表示させるなどできます。
- テキストの下に記号を表示するかどうかも含め、プロジェクト全体のすべてのリピートマーカーのテキストと記号の配置は、「浄書オプション (Engraving Options)」の「リピートマーカー (Repeat Markers)」ページで変更できます。

### 例



ワードラップなしのリピートマーカー



ワードラップありのリピートマーカー

関連リンク

- [「レイアウトオプション \(Layout Options\)」 ダイアログ \(917 ページ\)](#)
- [浄書ツールボックス \(554 ページ\)](#)
- [プロパティ範囲の変更 \(828 ページ\)](#)
- [プロパティ設定を別のレイアウト/フレームチェーンにコピーする \(825 ページ\)](#)

## リピートマーカーを表示/非表示にする

リピートマーカーを個別に表示/非表示にできます。たとえば、コーダの記号とテキストを表示することなくコーダセクションを分離したい場合などに便利です。

前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。
- 下ゾーンのツールバーで「**プロパティ (Properties)**」を選択しておきます。
- 浄書モードの場合は、浄書ツールボックスで「**グラフィックの編集 (Graphic Editing)**」を選択しておきます。

手順

1. 非表示にするリピートマーカー、または表示するリピートマーカーのガイドを選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「**リピートマーカー (Repeat Markers)**」グループで、「**非表示 (Hide)**」をオンにします。

結果

「**非表示 (Hide)**」をオンにすると選択したリピートマーカーが非表示になり、オフにすると表示されます。

非表示にしたリピートマーカーのそれぞれの位置にはガイドが表示されます。ただし初期設定では、ガイドは印刷されません。

ヒント

リピートマーカーのガイドの表示/非表示は、「**ビュー (View)**」 > 「**ガイド (Signposts)**」 > 「**リピートマーカー (Repeat Markers)**」を選択して切り替えられます。

関連リンク

- [ガイド \(490 ページ\)](#)
- [浄書ツールボックス \(554 ページ\)](#)
- [ゾーンの表示/非表示の切り替え \(48 ページ\)](#)
- [注釈 \(740 ページ\)](#)
- [リピートとトレモロの入力方法 \(438 ページ\)](#)

## コーダの前に表示される小節線の変更

コーダの前、ジャンプ記号の直後に表示される小節線のデフォルトをプロジェクト全体で変更できます。たとえば、通常の小節線のかわりに複縦線を表示できます。

手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[E]** を押して「**浄書オプション (Engraving Options)**」を開きます。
2. カテゴリーリストの「**小節線 (Barlines)**」をクリックします。

3. 「反復 (Repeats)」セクションの「コーダの前のジャンプ記号と一致する小節線 (Barline coinciding with repeat jump before Coda)」で以下のいずれかのオプションを選択します。
    - 複縦線 (Double barline)
    - 縦線 (Single barline)
  4. 「適用 (Apply)」をクリックしてから「閉じる (Close)」をクリックします。
- 

#### 結果

コーダの前、ジャンプ記号の直後に自動的に表示される小節線がプロジェクト全体で変更されます。

## リピートマーカーの位置

初期設定では、リピートマーカーは譜表の上の、他の組段オブジェクトと同じ位置に配置されます。コーダセクションは、その前の楽譜とは組段の間隔によって区切られます。

リピートマーカーのリズム上の位置は記譜モードで移動できます。これは初期設定では、「**浄書オプション (Engraving Options)**」で設定した位置に配置されます。

リピートマーカーの表示位置は浄書モードで移動できますが、適用されるリズム上の位置がこれによって変更されることはありません。

すべてのリピートマーカーのプロジェクト全体のデフォルト位置の変更、リピートマーカーと譜表や他のアイテムとの最小距離の値の設定、およびコーダセクションの前にある間隔に対するデフォルトの設定は、「**浄書オプション (Engraving Options)**」にある「**リピートマーカー (Repeat Markers)**」ページで行なえます。Dorico Pro では、組段の途中でも新しい組段の開始位置であっても、コーダの開始位置の前には同じ幅の間隔が使用されます。

リピートマーカーの譜表に対するデフォルトの位置は、レイアウトごとに個別に変更できます。

Dorico Pro では、リピートマーカーは組段オブジェクトに分類され、選択したインストゥルメントファミリーの最初の大括弧の上に表示できます。どのインストゥルメントファミリーの上に組段オブジェクトを表示させるかは、レイアウトごとに個別に変更できます。たとえばこれにより、フルスコアのみ各組段の上に複数のリピートマーカーを表示させることができます。

#### 関連リンク

- [リピートとトレモロの入力方法 \(438 ページ\)](#)
- [「浄書オプション \(Engraving Options\)」ダイアログ \(923 ページ\)](#)
- [「レイアウトオプション \(Layout Options\)」ダイアログ \(917 ページ\)](#)
- [組段オブジェクトの位置の変更 \(1718 ページ\)](#)
- [音符/アイテムの位置の移動 \(502 ページ\)](#)
- [アイテムの表示位置の移動 \(652 ページ\)](#)
- [再生時の反復 \(689 ページ\)](#)

## 譜表に対するリピートマーカーの位置の変更

リピートマーカーは譜表の上、下、または上下両方に表示でき、これはレイアウトごとに個別に設定できます。

---

#### 手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[L]** を押して「**レイアウトオプション (Layout Options)**」を開きます。
2. リピートマーカーの譜表に対する位置を変更するレイアウトを「**レイアウト (Layouts)**」リストから選択します。

初期設定では、楽譜領域で選択されているものと同じレイアウトが選択された状態のダイアログが表示されます。他のレイアウトを選択するには、アクションバーの選択オプションを使用するか、複数のレイアウトをまたぐようにクリックしてドラッグするか、**[Shift]** を押しなが隣接するレイアウトをクリックするか、**[Ctrl]/[command]** を押しなが個々のレイアウトをクリックします。

3. カテゴリーリストの「**譜表と組段 (Staves and Systems)**」をクリックします。
4. 「**リピートマーカー (Repeat Markers)**」セクションの「**ジャンプ記号および「Fine」のデフォルト位置 (Default placement for repeat jumps and 'Fine')**」で、以下のいずれかのオプションを選択します。
  - **譜表の上 (Above Staff)**
  - **譜表の下 (Below Staff)**
  - **譜表の上と一番下の譜表の下 (Above and below bottom staff)**
5. 「**適用 (Apply)**」をクリックしてから「**閉じる (Close)**」をクリックします。

---

#### 結果

選択したレイアウトで、譜表に対するすべてのリピートマーカーの位置が変更されます。

## コーダの前の間隔を変更する

個々のコーダセクションの前の間隔を、プロジェクト全体の設定とは別に変更できます。

#### 前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。
- 下ゾーンのツールバーで「**プロパティ (Properties)**」 を選択しておきます。
- 浄書モードの場合は、浄書ツールボックスで「**グラフィックの編集 (Graphic Editing)**」 を選択しておきます。

---

#### 手順

1. 間隔を変更するコーダを選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「**リピートマーカー (Repeat Markers)**」グループで、「**コーダの間隔の幅 (Coda gap width)**」をオンにします。
3. 数値フィールドの値を変更します。

---

#### 結果

選択したコーダセクションの前の間隔が変更されます。

#### ヒント

組段の途中のコーダと、組段の開始位置のコーダの前のデフォルトの間隔を、プロジェクト全体でそれぞれ個別に変更するには、「**浄書オプション (Engraving Options)**」 > 「**リピートマーカー (Repeat Markers)**」 > 「**リピートセクション (Repeat Sections)**」で設定を行ないます。

---

#### 関連リンク

- [組段の開始位置/終了位置の移動 \(651 ページ\)](#)
- [最初の組段のインデントの変更 \(1720 ページ\)](#)
- [組段の小節線と大括弧/中括弧を表示/非表示にする \(1084 ページ\)](#)
- [リピートとトレモロの入力方法 \(438 ページ\)](#)
- [「浄書オプション \(Engraving Options\)」ダイアログ \(923 ページ\)](#)

## リピート回数

反復終了線の位置にあるリピート回数は、楽譜の各セクションを何回演奏するかを演奏者に指示するものです。反復終了線は通常、その前の楽譜を2回演奏することを指示するため、リピート回数はセクションを3回以上演奏する場合に特に役立ちます。

初期設定では、再生にリピートが含まれる場合、3回以上再生されるように設定された反復終了線の組段オブジェクトの位置にリピート回数が表示されます。



そのセクションを4回演奏するように指示するセクションの終了位置のリピート回数

初期設定では、リピート回数は反復終了線に右揃えで配置されます。たとえば、リピート回数をリピートセクションの最初と最後の両方に表示させたい場合や、完全に非表示にしたい場合などに、リピート回数の位置を変更できます。リピートセクションの開始位置に表示されるリピート回数は、反復開始線に左揃えで配置されます。

また、リピートマーカーに使用される言語も変更できます。

### ヒント

- リピート回数の外観、内容、位置は、「**浄書オプション (Engraving Options)**」 > 「**リピートマーカー (Repeat Markers)**」 > 「**リピート回数 (Repeat Count)**」で変更できます。たとえば、カスタムテキストを使用する場合やリピートセクションの最初にリピート回数を表示する場合などに行いません。
- リピート回数には、「**パラグラフスタイル (Paragraph Styles)**」ダイアログで編集できる「**リピート回数 (Repeat Count)**」のパラグラフスタイルが使用されます。

### 関連リンク

- [リピート小節線による演奏回数の変更 \(691 ページ\)](#)
- [再生時の反復 \(689 ページ\)](#)
- [リピートを再生に含める/除外する \(690 ページ\)](#)
- [小節、拍、小節線の入力方法 \(329 ページ\)](#)
- [組段オブジェクト \(1717 ページ\)](#)
- [アプリケーション言語の変更 \(61 ページ\)](#)
- [「浄書オプション \(Engraving Options\)」ダイアログ \(923 ページ\)](#)
- [「パラグラフスタイル \(Paragraph Styles\)」ダイアログ \(932 ページ\)](#)
- [小節リピート記号のカウント \(1612 ページ\)](#)
- [スラッシュ領域のカウント \(1633 ページ\)](#)
- [通し番号付き小節領域のカウント \(1619 ページ\)](#)

## リピート回数の位置を変更する

プロジェクト全体の設定とは別に、リピートセクションに対するリピート回数の位置を個別に変更できます。たとえば、リピートセクションの最初にリピート回数を表示したい場合や、一部のリピート回数

を完全に非表示にしたい場合などに行ないます。この操作は現在のレイアウトとフレームチェーンのみに対して、もしくはすべてのレイアウトとフレームチェーンに対して行なえます。

#### 前提条件

- 再生にリピートを含めておきます。
- 下ゾーンを表示しておきます。
- 下ゾーンのツールバーで「プロパティ (Properties)」を選択しておきます。
- 浄書モードの場合は、浄書ツールボックスで「グラフィックの編集 (Graphic Editing)」を選択しておきます。
- ローカルのプロパティ変更に関して、適切なプロパティ範囲を選択しておきます。

---

#### 手順

1. リピート回数の位置を変更する反復終了線またはリピート回数を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「拍子記号 (Time Signatures)」グループで、「カウントの位置 (Count location)」をオンにします。
3. メニューから以下のいずれかのオプションを選択します。
  - 先頭 (Start)
  - 末尾 (End)
  - どちらもなし (Neither)
  - 両方 (Both)

---

#### 結果

選択したリピート回数の位置が変更されます。リピートセクションの開始位置に表示されるリピート回数は、選択した反復終了線に対応する反復開始線に左揃えで配置されます。

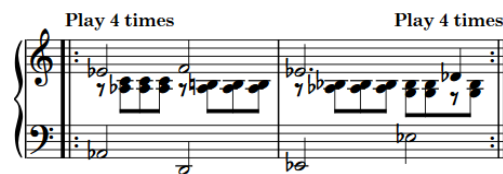
プロパティ範囲を「ローカル (Locally)」に設定している場合、この変更は現在のレイアウトおよびフレームチェーンのみに影響します。

#### ヒント

プロジェクト全体のすべてのリピート回数のデフォルトの位置は、「浄書オプション (Engraving Options)」 > 「リピートマーカー (Repeat Markers)」 > 「リピート回数 (Repeat Count)」で変更できます。

---

#### 例



両方 (Both)



どちらもなし (Neither)

---

#### 関連リンク

[再生時の反復 \(689 ページ\)](#)

[浄書ツールボックス \(554 ページ\)](#)

[ゾーンの表示/非表示の切り替え \(48 ページ\)](#)



[プロパティ範囲の変更 \(828 ページ\)](#)

[プロパティ設定を別のレイアウト/フレームチェーンにコピーする \(825 ページ\)](#)

[アイテムの表示位置の移動 \(652 ページ\)](#)

[「浄書オプション \(Engraving Options\)」 ダイアログ \(923 ページ\)](#)

## リピート回数の言語の変更

すべてのリピート回数に使用されている言語をプロジェクト全体で変更できます。たとえば、ドイツ語のリピート回数を好むアンサンブルのために楽譜を作成する場合などに便利です。

---

### 手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[E]** を押して「**浄書オプション (Engraving Options)**」を開きます。
  2. カテゴリーリストの「**言語 (Language)**」をクリックします。
  3. 使用する言語を「**リピート回数の言語 (Repeat count language)**」メニューから選択します。
  4. 「**適用 (Apply)**」をクリックしてから「**閉じる (Close)**」をクリックします。
- 

### 関連リンク

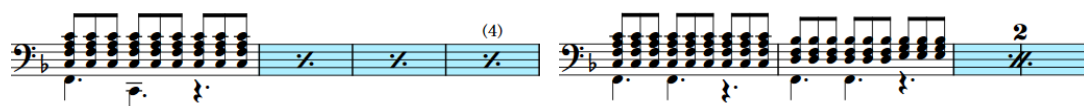
[「浄書オプション \(Engraving Options\)」 ダイアログ \(923 ページ\)](#)

[言語設定 \(61 ページ\)](#)

# 小節リピート記号

小節リピート記号は、同じ内容の記譜を省略し、前の小節の音符や記譜記号を正確に繰り返すことを指示するものです。小節リピート記号は1小節、2小節、または4小節の集合で構成されます。

たとえば、1小節リピート記号は1小節内の音符や記譜記号の繰り返しを示し、領域内のすべての小節がそれぞれ同じ内容を繰り返すことを意味します。4小節リピート記号はその前の4小節に含まれる音符や記譜記号の繰り返しを示します。



1小節リピート領域

2小節リピート領域

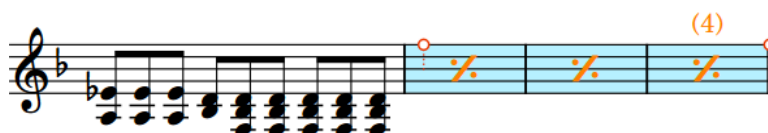


4小節リピート領域

この省略表現の記譜は繰り返しの多い楽譜を読みやすくします。演奏者は繰り返しのフレーズを1度読むだけでよく、あとは単に何回繰り返すか数えれば済みます。小節リピート記号は、通常、同等の内容の完全に記譜された小節より幅が狭くなるため、水平方向のスペースの節約にもなります。

Dorico Pro では、小節リピート記号の表示には小節リピート領域が使用されます。つまり、領域を埋めるために必要な数の小節リピート記号が自動的に表示されます。

記譜モードでは、それぞれの領域の開始位置と終了位置にハンドルがあり、これを使用して領域の移動や長さの変更が行なえます。



初期設定では、小節リピート領域は色付きの背景で強調表示されています。ズームアウトすると、強調表示の不透明度が上がります。これはフルスコアレイアウトをギャラリービューで見るとき特に便利です。このような強調表示は注釈と見なされ、初期設定では印刷されません。また画面上の表示/非表示も切り替えられます。

また、小節リピート領域は隣り合わせても使用できます。たとえば2小節リピート記号を最初のフレーズの繰り返しの使用し、次に4小節リピート記号でこの全体のフレーズを繰り返すことを指示できます。2つの異なる小節リピート領域が隣り合う場合、個々の領域が識別できるように、それぞれ異なる強調色で表示されます。



2つの小節リピート領域が隣り合うフレーズ

## 関連リンク

- [小節リピート記号の入力 \(451 ページ\)](#)
- [リピートのポップオーバー \(439 ページ\)](#)
- [小節リピート記号のカウント \(1612 ページ\)](#)
- [小節リピート記号のグループ化 \(1616 ページ\)](#)
- [通し番号付き小節領域 \(1618 ページ\)](#)
- [スラッシュ領域 \(1629 ページ\)](#)
- [リピート回数 \(1607 ページ\)](#)
- [音符/アイテムの位置の移動 \(502 ページ\)](#)
- [アイテムの長さの変更 \(470 ページ\)](#)
- [長休符を表示/非表示にする \(1649 ページ\)](#)
- [小節線のタイプ \(1079 ページ\)](#)
- [リピート小節線による演奏回数の変更 \(691 ページ\)](#)
- [注釈 \(740 ページ\)](#)

## 浄書オプションで小節リピート記号の設定をプロジェクト全体に適用する

小節リピート記号のプロジェクト全体のデザインおよび外観のオプションは、「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**小節リピート記号 (Bar Repeats)**」ページにあります。

「**小節リピート記号 (Bar Repeats)**」セクションのオプションでは、小節リピート記号のカウントの表示頻度、小節リピート記号のカウントの外観、それから4小節のフレーズが1小節と3小節のリピート記号で構成されるときに小節リピート記号をグループ化する方法について変更できます。

オプションと一緒に表示される図は、オプションを楽譜に適用したときにどのように表示されるかを示します。

## 関連リンク

- [「浄書オプション \(Engraving Options\)」ダイアログ \(923 ページ\)](#)


## 小節リピート領域の繰り返されるフレーズの長さを変更する

小節リピート記号は、繰り返されるフレーズを構成する小節数を入力後個別に変更できます。たとえば、その前の4小節を繰り返す領域を、その前の2小節を繰り返す領域に変更できます。

## 補足

小節リピート領域より前に存在する小節数より大きい小節数は繰り返しに設定できません。たとえば、フローの1小節めが記譜されたそのあとに小節リピート領域が続く場合、繰り返されるフレーズの小節数は大きくできません。

## 前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。
- 下ゾーンのツールバーで「**プロパティ (Properties)**」を選択しておきます。
- 浄書モードの場合は、浄書ツールボックスで「**グラフィックの編集 (Graphic Editing)**」を選択しておきます。

## 手順

1. フレーズの長さを変更する小節リピート領域を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。

2. プロパティパネルの「**小節リピート領域 (Bar Repeat Regions)**」グループで、「**小節数 (No. bars)**」メニューから以下のいずれかのオプションを選択します。

- **1 小節 (One bar)**
- **2 小節 (Two bars)**
- **4 小節 (Four bars)**

---

#### 結果

選択した小節リピート領域において繰り返されるフレーズを構成する小節数を変更されます。これは再生にも反映されます。

#### ヒント

- 小節リピート領域に追加したすべての強弱記号は、繰り返される楽譜の演奏に影響します。
- リピートのポップオーバーを開いて入力内容を変更することで、繰り返されるフレーズの長さを変更することもできます。

---

#### 関連リンク

[プロパティパネル \(826 ページ\)](#)

[浄書ツールボックス \(554 ページ\)](#)

[リピートのポップオーバー \(439 ページ\)](#)

## 領域の強調表示の表示/非表示を切り替える

小節リピート領域および通し番号付き小節領域の背景色による強調表示はいつでも表示/非表示を切り替えられます。たとえば記譜中は強調表示をオンにして、浄書中はオフにするといったことができます。

---

#### 手順

- 「**ビュー (View)**」 > 「**小節リピート領域を強調 (Highlight Bar Repeat Regions)**」を選択します。

---

#### 関連リンク

[通し番号付き小節領域 \(1618 ページ\)](#)

## 小節リピート記号のカウント

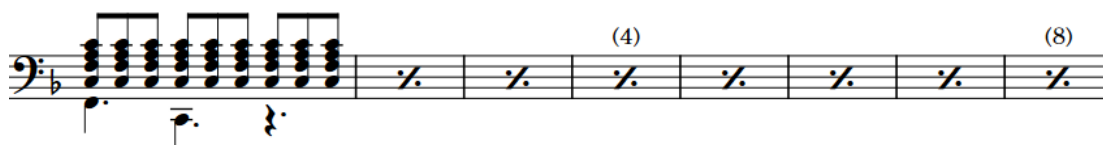
小節リピート記号のカウントは、小節リピート記号の上または下に一定間隔で表示される数字で、いくつかの小節が過ぎたか演奏者が把握することを助けます。上記の間隔は通常、4 小節ごとや 8 小節ごとなど、一般的な音楽フレーズの長さに基づくものです。

---

#### 補足

小節リピート記号のカウントが表示されるのは、1 小節リピート領域だけです。

小節リピート記号は必ず 1 小節以上の完全な形で記譜されたフレーズから始まるため、小節リピート記号のカウントは、小節リピート領域の最初の小節ではなく、直前の記譜された小節を 1 小節めとして開始されます。たとえば、小節リピート領域の 3 小節めにはカウント番号「4」が表示されます。これは、オリジナルの記譜された小節が演奏されるのが 4 回めであるためです。小節リピート領域には、それぞれ独立したカウントが表示されます。



4小節ごとにカウントを表示する小節リピート領域

Dorico Pro では、小節リピート領域それぞれの開始カウント、カウントの表示頻度、カウントを括弧付き、または括弧なしで表示するか非表示にするかを変更できます。また、カウントのフォントスタイルをカスタマイズすることもできます。

#### 補足

小節リピート記号、スラッシュ、および通し番号付き小節領域のカウントは、同じフォントスタイルを使用します。

#### 関連リンク

- [カウントのフォントスタイルを編集する \(1616 ページ\)](#)
- [リピートのポップオーバー \(439 ページ\)](#)
- [小節リピート記号の入力 \(451 ページ\)](#)
- [小節リピート記号のグループ化 \(1616 ページ\)](#)
- [長休符における小節番号の範囲を表示/非表示にする \(1097 ページ\)](#)
- [長休符を表示/非表示にする \(1649 ページ\)](#)
- [リピート回数 \(1607 ページ\)](#)
- [スラッシュ領域のカウント \(1633 ページ\)](#)
- [通し番号付き小節領域のカウント \(1619 ページ\)](#)

## 小節リピート記号の開始カウントを変更する

個々の小節リピート記号について、カウントを開始する数字を変更できます。たとえば、組段の開始位置に来るたびに繰り返しのフレーズを記譜しなおしつつ、カウントはリピート全体で連続したものにできます。

#### 補足

- カウントは小節リピートの1小節め、つまり記譜された小節を起点とします。たとえば、3小節続く1小節リピート領域の開始カウントを5に設定し、カウントの表示が4小節ごとの場合、小節リピート領域の最後の小節に「8」のカウントが表示されます。
- 小節リピート記号のカウントが表示されるのは、1小節リピート領域だけです。

#### 前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。
- 下ゾーンのツールバーで「プロパティ (Properties)」を選択しておきます。
- 浄書モードの場合は、浄書ツールボックスで「グラフィックの編集 (Graphic Editing)」を選択しておきます。

#### 手順

1. 開始カウントを変更する1小節リピート領域を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「小節リピート領域 (Bar Repeat Regions)」グループで、「開始カウント (Count from)」をオンにします。

### 3. 数値フィールドの値を変更します。

#### 結果

選択した小節リピート領域の開始カウンントが変更されます。カウンントの表示頻度が2小節ごと以上の場合、カウンントは異なる小節に表示されます。たとえば開始カウンントを1から2に変更すると、カウンントの表示が4小節ごとの場合、カウンントの表示位置は小節リピート領域の3小節めから2小節めに移動します。

#### 例

The image shows two columns of musical notation in bass clef, 4/4 time. Each column contains three staves. The first staff in each column starts with a bar repeat sign and has a count '(4)' above the fourth measure. The second staff starts with a measure number '5' and has a count '(4)' above the fourth measure. The third staff starts with a measure number '9' and has a count '(4)' above the fourth measure. The right column follows the same pattern but with counts of '(4)', '(8)', and '(12)' respectively.

同じパートレイアウトの複数の組段にある、個別の小節リピート領域。カウンントはデフォルトのまま

同じパートレイアウトの複数の組段にある、個別の小節リピート領域。連続した領域であることを示すためにカウンントが変更されている

## 小節リピート記号のカウンントの表示頻度を変更する

1小節リピート領域のカウンントの表示頻度を、プロジェクト全体の設定より優先される形で個別に変更できます。これにより、たとえば小節リピート領域の8小節ごとにカウンントを表示するよう変更できます。

#### 補足

小節リピート記号のカウンントが表示されるのは、1小節リピート領域だけです。

#### 前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。
- 下ゾーンのツールバーで「プロパティ (Properties)」を選択しておきます。
- 浄書モードの場合は、浄書ツールボックスで「グラフィックの編集 (Graphic Editing)」を選択しておきます。

#### 手順

1. カウンントの表示頻度を変更する1小節リピート記号を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「小節リピート領域 (Bar Repeat Regions)」グループで、「カウンント頻度 (Count frequency)」をオンにします。
3. 数値フィールドの値を変更します。

#### 結果

選択した小節リピート領域のカウンント表示頻度を変更されます。

#### ヒント

すべての小節リピート領域のカウンントのデフォルトの表示頻度に対するプロジェクト全体の設定は、「**浄書オプション (Engraving Options)**」 > 「**小節リピート記号 (Bar Repeats)**」 > 「**小節リピート記号 (Bar Repeats)**」で変更できます。

---

#### 関連リンク

[プロパティパネル \(826 ページ\)](#)

[浄書ツールボックス \(554 ページ\)](#)

[「浄書オプション \(Engraving Options\)」ダイアログ \(923 ページ\)](#)

[長休符における小節番号の範囲を表示/非表示にする \(1097 ページ\)](#)

## 小節リピート記号のカウンントを表示/非表示にするか括弧を付ける

プロジェクト全体の設定より優先される形で、カウンントを表示/非表示にしたり、括弧を付けるかどうかを選択したりできます。この操作は現在のレイアウトとフレームチェーンのみに対して、もしくはすべてのレイアウトとフレームチェーンに対して行なえます。

#### 補足

小節リピート記号のカウンントが表示されるのは、1 小節リピート領域だけです。

---

#### 前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。
  - 下ゾーンのツールバーで「**プロパティ (Properties)**」  を選択しておきます。
  - 浄書モードの場合は、浄書ツールボックスで「**グラフィックの編集 (Graphic Editing)**」  を選択しておきます。
  - ローカルのプロパティ変更に関して、適切なプロパティ範囲を選択しておきます。
- 

#### 手順

1. カウンントを表示/非表示にする、または括弧を付ける 1 小節リピート記号を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
  2. プロパティパネルの「**小節リピート領域 (Bar Repeat Regions)**」グループで、「**カウンントの外観 (Count appearance)**」をオンにします。
  3. メニューから以下のいずれかのオプションを選択します。
    - **括弧つき (With parentheses)**
    - **括弧なし (Without parentheses)**
    - **非表示 (Do Not Show)**
- 

#### 結果

選択した小節リピート領域のカウンントが括弧付き、または括弧なしで表示されるか非表示になります。プロパティ範囲を「**ローカル (Locally)**」に設定している場合、この変更は現在のレイアウトおよびフレームチェーンのみに影響します。

#### ヒント

すべての小節リピート記号のカウンントのデフォルトの外観に対するプロジェクト全体の設定は、「**浄書オプション (Engraving Options)**」 > 「**小節リピート記号 (Bar Repeats)**」 > 「**小節リピート記号 (Bar Repeats)**」で変更できます。

---

関連リンク

[プロパティパネル \(826 ページ\)](#)

[プロパティ範囲の変更 \(828 ページ\)](#)

## カウントのフォントスタイルを編集する

すべての小節リピート記号、スラッシュ、および通し番号付き小節領域のカウントに使用されるフォントスタイルの形式設定は、プロジェクト全体で変更できます。これにより、たとえばカウントの外観を太字や斜体に変更できます。

手順

1. 「ライブラリー (Library)」 > 「フォントスタイル (Font Styles)」を選択して、「フォントスタイルを編集 (Edit Font Styles)」ダイアログを開きます。
2. フォントスタイルリストで、「小節リピート記号のカウント (Bar Repeat Count)」を選択します。
3. 以下のオプションを個別または一括で設定することで、対応するフォント属性を変更できます。
  - フォントファミリー (Font family)
  - サイズ (Size)
  - スタイル (Style)
  - 下線 (Underlined)
4. 「OK」をクリックして変更内容を保存し、ダイアログを閉じます。

結果

小節リピート記号、スラッシュ、および通し番号付き小節領域のカウントに使用されるフォントスタイルの形式設定がプロジェクト全体で変更されます。

関連リンク

[「フォントスタイルを編集 \(Edit Font Styles\)」ダイアログ \(930 ページ\)](#)

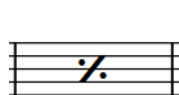
[スラッシュ領域のカウント \(1633 ページ\)](#)

[通し番号付き小節領域のカウント \(1619 ページ\)](#)

## 小節リピート記号のグループ化

小節リピート記号のグループ化は、長くなる小節リピート領域を統合できます。これは規則性の高い楽譜においては、フレーズ全体の表示を簡略化できるため便利です。

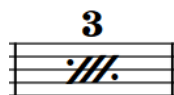
譜表に表示される記号はグループ化の種類によって異なります。2小節リピート記号と4小節リピート記号には、グループにまとめられた小節数を示す数字も表示されます。



1小節リピート記号



2小節リピート記号



3小節リピート記号



4小節リピート記号

小節リピート記号のグループ化は入力時に指定できるとともに、入力後にも変更できます。小節リピート領域の開始位置と終了位置の、記譜された音符や記譜記号に対する位置に従い、Dorico Pro は正確な結果が得られるように自動的に記号の表示を調整します。たとえば1小節の記譜された小節と7小節の1小節リピート記号による8小節のフレーズがあり、小節リピート記号には4小節ごとのグループ化が設定されている場合、小節リピート領域の7小節の表示は自動的に1小節リピート記号、2小節リピート記号、次いで4小節リピート記号という形になります。





4小節ごとのグループ化を設定した1小節リピート記号7小節を使用する8小節フレーズ

#### ヒント

- 長休符を表示する場合、1小節リピート領域の統合を選択することもできます。
- 「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**小節リピート記号 (Bar Repeats)**」ページでは、4小節フレーズを構成するために3小節リピート記号を表示することも選択できます。ただし、1小節と2小節のリピート記号の組み合わせがより一般的です。

#### 関連リンク

[小節リピート記号の入力 \(451 ページ\)](#)

[長休符を表示/非表示にする \(1649 ページ\)](#)

[「浄書オプション \(Engraving Options\)」ダイアログ \(923 ページ\)](#)

## 小節リピート記号のグループ化を変更する

小節リピート記号のグループ化は入力後に変更できます。これにより、たとえば1小節リピート領域を2小節ごとにグループ化させたりできます。

#### 前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。
- 下ゾーンのツールバーで「**プロパティ (Properties)**」を選択しておきます。
- 浄書モードの場合は、浄書ツールボックスで「**グラフィックの編集 (Graphic Editing)**」を選択しておきます。

#### 手順

1. グループ化を変更する小節リピート領域を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「**小節リピート領域 (Bar Repeat Regions)**」グループで、「**この小節数ごとにグループ化 (Group every)**」メニューから以下のいずれかのオプションを選択します。
  - **1小節 (One bar)**
  - **2小節 (Two bars)**
  - **4小節 (Four bars)**

#### 補足

利用できるオプションは、選択した小節リピート領域の長さによって変化します。たとえば3小節の長さの小節リピート領域を選択している場合、メニューから利用できるのは「**1小節 (One bar)**」と「**2小節 (Two bars)**」のみとなります。

#### 結果

選択した小節リピート領域のグループ化が変更されます。Dorico Pro は、一番明確な領域のグループ化の方法を自動的に計算します。たとえば1小節の記譜された小節と7小節の1小節リピート記号による8小節のフレーズがあり、小節リピート記号には4小節ごとのグループ化が設定されている場合、小節リピート領域の7小節の表示は自動的に1小節リピート記号、2小節リピート記号、次いで4小節リピート記号という形になります。

# 通し番号付き小節領域

通し番号付き小節領域を使用すると、追加で記譜することなく特定の領域に小節数を表示できます。これは、繰り返される楽譜を演奏する際に、いくつかの小節が過ぎたかを演奏者が把握できるようにするためのものです。



6小節にまたがる通し番号付き小節領域

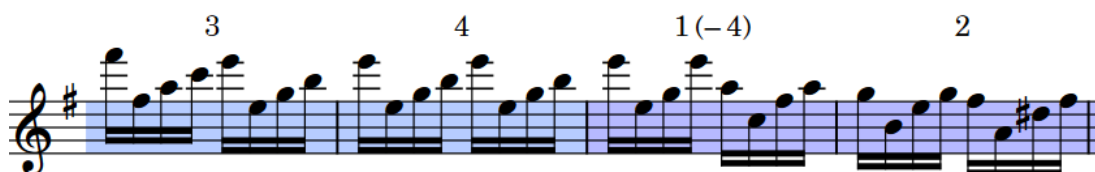
初期設定では、通し番号付き小節領域はフルスコア/カスタムスコアのレイアウトには表示されず、パートレイアウトには表示されます。通し番号付き小節領域を表示するか非表示にするかは、レイアウトごとに切り替えることができます。

記譜モードでは、それぞれの領域の開始位置と終了位置にハンドルがあり、これを使用して領域の移動や長さの変更が行なえます。



初期設定では、通し番号付き小節領域は色付きの背景で強調表示されています。ズームアウトすると、強調表示の不透明度が上がります。これはフルスコアレイアウトをギャラリービューで見るとき特に便利です。このような強調表示は注釈と見なされ、初期設定では印刷されません。また画面上の表示/非表示も切り替えられます。

2つの通し番号付き小節領域が隣り合う場合、個々の領域を識別できるように、それぞれ異なる強調色で表示されます。



2つの隣接する通し番号付き小節領域を含むフレーズ

関連リンク

[通し番号付き小節領域の入力 \(452 ページ\)](#)

[領域の強調表示の表示/非表示を切り替える \(1612 ページ\)](#)

[アイテムの長さの変更 \(470 ページ\)](#)

[小節リピート記号 \(1610 ページ\)](#)

[スラッシュ領域 \(1629 ページ\)](#)

[リピート回数 \(1607 ページ\)](#)

## 浄書オプションで通し番号付き小節領域の設定をプロジェクト全体に適用する

通し番号付き小節領域のプロジェクト全体のデザインおよび外観のオプションは、「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**小節リピート記号 (Bar Repeats)**」ページにあります。

「**番号付き小節領域 (Numbered Bar Regions)**」セクションのオプションを使用すると、譜表に対するデフォルトの位置、配置、頻度、通し番号付き小節領域のカウントの外観を変更できます。これには、各領域の最初の小節の範囲や各組段の最後の小節のカウントなどが含まれます。また、範囲を表示するために必要な小節数の最小値も変更できます。

オプションと一緒に表示される図は、オプションを楽譜に適用したときにどのように表示されるかを示します。

関連リンク

[「浄書オプション \(Engraving Options\)」ダイアログ \(923 ページ\)](#)

## 通し番号付き小節領域の表示/非表示を切り替える

通し番号付き小節領域はどのレイアウトにも入力できますが、通常はパートレイアウトで最も役に立つため、初期設定ではフルスコアレイアウトには表示されません。通し番号付き小節領域を表示するか非表示にするかは、レイアウトごとに切り替えることができます。

---

手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[L]** を押して「**レイアウトオプション (Layout Options)**」を開きます。
2. 「**レイアウト (Layouts)**」リストで、通し番号付き小節領域を表示/非表示にするレイアウトを選択します。  
初期設定では、楽譜領域で選択されているものと同じレイアウトが選択された状態のダイアログが表示されます。他のレイアウトを選択するには、アクションバーの選択オプションを使用するか、複数のレイアウトをまたぐようにクリックしてドラッグするか、**[Shift]** を押しながら隣接するレイアウトをクリックするか、**[Ctrl]/[command]** を押しながら個々のレイアウトをクリックします。
3. カテゴリリストの「**プレーヤー (Players)**」をクリックします。
4. 「**番号付き小節領域 (Numbered Bar Regions)**」セクションで、「**番号付き小節領域に小節数を表示 (Show bar count in numbered bar regions)**」をオン/オフにします。
5. 「**適用 (Apply)**」をクリックしてから「**閉じる (Close)**」をクリックします。

---

結果

選択したレイアウトのチェックボックスがオンになっているときは通し番号付き小節領域が表示され、オフになっているときは非表示になります。

## 通し番号付き小節領域のカウント

通し番号付き小節領域のカウントは、譜表の上または下に一定間隔で表示される数字で、いくつかの小節が過ぎたか演奏者が把握することを助けます。

初期設定では、通し番号付き小節領域のすべての小節の上に小節数が表示されます。また、カウントの表示頻度に関係なく、各組段の最後の小節と各領域の最初と最後の小節にも表示されます。

通し番号付き小節領域が4小節以上続く場合、範囲の総数が最初の小節のカウントに括弧書きで追加されます。たとえば、通し番号付き小節領域が8小節続く場合は、最初の小節に「1 (-8)」と表示されます。



3小節ごとにカウントが表示された通し番号付き小節領域。組段の始めにカウントと範囲が表示され、最後に括弧付きのカウントが表示されている

Dorico Pro では、通し番号付き小節領域それぞれの開始カウント、カウントの表示頻度、譜表に対する位置を変更したり、カウントと範囲を括弧付き、または括弧なしで表示するか非表示にするかを変更したりできます。また、カウントのフォントスタイルをカスタマイズすることもできます。

#### 補足

小節リピート記号、スラッシュ、および通し番号付き小節領域のカウントは、同じフォントスタイルを使用します。

#### 関連リンク

- [通し番号付き小節領域の入力 \(452 ページ\)](#)
- [カウントのフォントスタイルを編集する \(1616 ページ\)](#)
- [リピート回数 \(1607 ページ\)](#)
- [小節リピート記号のカウント \(1612 ページ\)](#)
- [スラッシュ領域のカウント \(1633 ページ\)](#)

## 通し番号付き小節領域の開始カウントの変更

通し番号付き小節領域が始まる数字を個別に変更できます。たとえば、複数の通し番号付き小節領域に連続するカウントを表示する場合などに便利です。

#### 前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。
- 下ゾーンのツールバーで「プロパティ (Properties)」 を選択しておきます。
- 浄書モードの場合は、浄書ツールボックスで「グラフィックの編集 (Graphic Editing)」 を選択しておきます。

#### 手順

1. 開始カウントを変更する通し番号付き小節領域を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「小節リピート領域 (Bar Repeat Regions)」グループで、「開始カウント (Count from)」をオンにします。
3. 数値フィールドの値を変更します。

#### 結果

選択した通し番号付き小節領域の開始カウントが変更されます。カウントの表示頻度が2小節ごとの場合、カウントは異なる小節に表示されます。たとえば開始カウントを1から2に変更すると、カウントの表示が4小節ごとの場合、カウントの表示位置はその領域の4小節めから3小節めに移動します。

## 通し番号付き小節領域のカウントの表示頻度を変更する

通し番号付き小節領域のカウントの表示頻度を、プロジェクト全体の設定より優先される形で個別に変更できます。これにより、たとえば通し番号付き小節領域の8小節ごとにカウントを表示するよう変更できます。

### 前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。
- 下ゾーンのツールバーで「プロパティ (Properties)」を選択しておきます。
- 浄書モードの場合は、浄書ツールボックスで「グラフィックの編集 (Graphic Editing)」を選択しておきます。

### 手順

1. カウントの表示頻度を変更する通し番号付き小節領域を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「小節リピート領域 (Bar Repeat Regions)」グループで、「カウント頻度 (Count frequency)」をオンにします。
3. 数値フィールドの値を変更します。

### 結果

選択した通し番号付き小節領域のカウント表示頻度を変更されます。

### ヒント

また、すべての通し番号付き小節領域のカウントのデフォルトの表示頻度に対するプロジェクト全体の設定は、「浄書オプション (Engraving Options)」 > 「小節リピート記号 (Bar Repeats)」 > 「番号付き小節領域 (Numbered Bar Regions)」で変更できます。



### 関連リンク

- [「浄書オプション \(Engraving Options\)」ダイアログ \(923 ページ\)](#)
- [浄書ツールボックス \(554 ページ\)](#)
- [長休符における小節番号の範囲を表示/非表示にする \(1097 ページ\)](#)

## 通し番号付き小節領域のカウントを表示/非表示にするか括弧を付ける

プロジェクト全体の設定より優先される形で、個々の通し番号付き小節領域に括弧付きまたは括弧なしのカウントを表示できます。また、組段の終了位置、および各領域の最初と最後の小節のカウントを、それぞれ個別に表示/非表示にしたり、括弧を付けたりすることもできます。この操作は現在のレイアウトとフレームチェーンのみに対して、もしくはすべてのレイアウトとフレームチェーンに対して行なえます。

### 前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。
- 下ゾーンのツールバーで「プロパティ (Properties)」を選択しておきます。
- 浄書モードの場合は、浄書ツールボックスで「グラフィックの編集 (Graphic Editing)」を選択しておきます。
- ローカルのプロパティ変更に関して、適切なプロパティ範囲を選択しておきます。

#### 手順

1. カウントを表示/非表示にする、または括弧を付ける通し番号付き小節領域を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「小節リピート領域 (Bar Repeat Regions)」グループで、「カウントの外観 (Count appearance)」をオンにします。
3. メニューから以下のいずれかのオプションを選択します。
  - 括弧なし (Without parentheses)
  - 括弧つき (With parentheses)
4. 「範囲の外観 (Range appearance)」をオンにして、メニューから以下のいずれかのオプションを選択します。
  - 括弧つき (With parentheses)
  - 括弧なし (Without parentheses)
  - 範囲なし (No range)
5. 以下のプロパティを個別または一括で設定することで、対応するカウントの外観を変更できます。
  - 最初の小節に表示 (Show in first bar)
  - 最後の小節に表示 (Show in final bar)
  - 組段の終了位置に表示 (Show at ends of systems)
6. 各メニューから以下のいずれかのオプションを選択します。
  - 括弧つき (With parentheses)
  - 括弧なし (Without parentheses)
  - 非表示 (Do Not Show)

#### 結果

選択した通し番号付き小節領域の対応するカウントと範囲が、括弧付き、または括弧なしで表示されるか非表示になります。プロパティ範囲を「ローカル (Locally)」に設定している場合、この変更は現在のレイアウトおよびフレームチェーンのみに影響します。

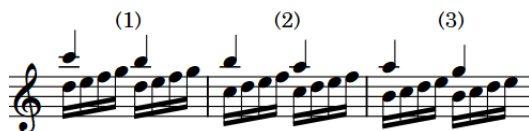
#### ヒント

また、「浄書オプション (Engraving Options)」 > 「小節リピート記号 (Bar Repeats)」 > 「番号付き小節領域 (Numbered Bar Regions)」では、範囲を表示する最小の小節数を含め、すべての通し番号付き小節領域のカウントのデフォルトの外観をプロジェクト全体で変更することもできます。

#### 例



カウントと範囲を括弧なしで表示



範囲を非表示にし、カウントを括弧付きで表示

#### 関連リンク

- [通し番号付き小節領域のカウント \(1619 ページ\)](#)
- [通し番号付き小節領域の入力 \(452 ページ\)](#)
- [プロパティ範囲の変更 \(828 ページ\)](#)

[プロパティ設定を別のレイアウト/フレームチェーンにコピーする \(825 ページ\)](#)

## 通し番号付き小節領域のカウントの譜表に対する位置の変更

通し番号付き小節領域のカウントは、プロジェクト全体の設定より優先される形で、譜表の上または下に個別に表示位置を切り替えられます。この操作は現在のレイアウトとフレームチェーンのみに対して、もしくはすべてのレイアウトとフレームチェーンに対して行なえます。

### 補足

カウントの譜表に対する位置の変更は、領域内のすべてのカウントに影響します。領域内では、カウントのうち1つだけの位置を個別に変更はできません。

### 前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。
- 下ゾーンのツールバーで「**プロパティ (Properties)**」を選択しておきます。
- 浄書モードの場合は、浄書ツールボックスで「**グラフィックの編集 (Graphic Editing)**」を選択しておきます。
- ローカルのプロパティ変更に関して、適切なプロパティ範囲を選択しておきます。

### 手順

1. カウントの譜表に対する位置を変更する通し番号付き小節領域を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「**小節リピート領域 (Bar Repeat Regions)**」グループで、「**譜表との相対位置 (Staff-relative position)**」をオンにします。
3. 以下のいずれかのオプションを選択します。
  - **上 (Above)**
  - **下 (Below)**

### 結果

選択した通し番号付き小節領域のすべてのカウントの譜表に対する位置が変更されます。プロパティ範囲を「**ローカル (Locally)**」に設定している場合、この変更は現在のレイアウトおよびフレームチェーンのみに影響します。

### ヒント

すべての通し番号付き小節領域のカウントのデフォルトの位置に対するプロジェクト全体の設定は、「**浄書オプション (Engraving Options)**」 > 「**小節リピート記号 (Bar Repeats)**」 > 「**番号付き小節領域 (Numbered Bar Regions)**」で変更できます。

## 通し番号付き小節領域のカウントを揃える

初期設定では、通し番号付き小節領域のカウントは、個々のカウントをできるだけ譜表の近くに配置できるよう、組段間では揃っていません。プロジェクト全体のすべての通し番号付き小節領域のカウントを各組段間で垂直方向に揃え、その位置を譜表から一番離れたカウントによって決めるように設定できます。

### 手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[E]** を押して「**浄書オプション (Engraving Options)**」を開きます。
2. カテゴリーリストの「**小節リピート記号 (Bar Repeats)**」を選択します。

3. 「番号付き小節領域 (Numbered Bar Regions)」セクションで、「組段幅に合わせて小節数を整列 (Align bar counts across width of system)」をオンにします。
  4. 「適用 (Apply)」をクリックしてから「閉じる (Close)」をクリックします。
- 

関連リンク

[小節番号の譜表やその他のオブジェクトからの距離を変更する \(1102 ページ\)](#)

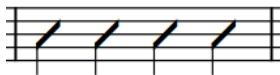


# スラッシュ符頭

スラッシュ符頭は譜表上に記譜される斜線で、明確なリズムやピッチの指定はないまま、演奏者が何かを演奏することを指示するものです。これには多くの場合、演奏者が使用するべき音符の組み合わせを指示するコード記号が併記されます。

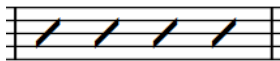
スラッシュ符頭には2種類あります。

## 符尾ありのスラッシュ (Slashes with stems)



符尾ありのスラッシュは通常、演奏するリズムを示して、ピッチは示さないものです。リズム記号とも呼ばれます。

## 符尾なしのスラッシュ (Slashes without stems)



符尾なしのスラッシュは通常、リズムもピッチも示さないものです。スラッシュ記号とも呼ばれます。

Dorico Pro では、スラッシュ領域とスラッシュ符頭の声部を使用することにより、両方の種類のスラッシュ符頭を同時に表示できます。

関連リンク

[スラッシュ領域の入力 \(450 ページ\)](#)

[スラッシュ付き声部への音符の入力 \(259 ページ\)](#)

[スラッシュ領域内の音符を表示/非表示にする \(1632 ページ\)](#)

[スラッシュ付き声部を再生に含める/除外する \(1629 ページ\)](#)

[コード記号 \(1154 ページ\)](#)

## 浄書オプションでスラッシュ符頭の設定をプロジェクト全体に適用する

スラッシュ符頭のプロジェクト全体のデザインおよび外観を設定するオプションは、「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**音符 (Notes)**」ページの「**スラッシュ符頭 (Rhythmic Slashes)**」セクションにあります。これらのオプションはスラッシュ符頭の声部とスラッシュ領域の両方に影響を与えます。

「**音符 (Notes)**」ページの「**スラッシュ符頭 (Rhythmic Slashes)**」セクションにあるオプションでは、符尾ありと符尾なし両方のスラッシュのデザイン、複合拍子においてスラッシュに付点を表示するかどうか、およびスラッシュ領域の小節数の表示頻度、外観および位置を変更できます。たとえば、スラッシュ領域の小節数をすべての小節に表示することを選択できます。

各オプションには、オプションを反映したときの表記例が示されています。

関連リンク

[「浄書オプション \(Engraving Options\)」ダイアログ \(923 ページ\)](#)

## スラッシュ符頭のデザインを個別に変更する

プロジェクト全体のすべてのスラッシュ付き声部とスラッシュ領域のスラッシュ符頭のデザインを変更できます。たとえば、符尾なしのスラッシュに符尾ありのスラッシュとは異なる符頭を使用する場合などに便利です。

### 補足

この手順はリズムによるキューには適用されません。

### 手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[E]** を押して「**浄書オプション (Engraving Options)**」を開きます。
2. カテゴリーリストの「**音符 (Notes)**」をクリックします。
3. 「**スラッシュ符頭 (Rhythmic Slashes)**」セクションの「**符尾ありのスラッシュ (Slashes with stems)**」で、以下のいずれかのオプションを選択します。
  - 標準 (Standard)
  - 小 (Small)
  - 特大 (Oversized)
  - ミュート (Muted)
4. 「**符尾なしのスラッシュ (Slashes without stems)**」で以下のいずれかのオプションを選択します。
  - 標準 (Standard)
  - 小 (Small)
  - 特大 (Oversized)
  - ミュート (Muted)
5. 「**適用 (Apply)**」をクリックしてから「**閉じる (Close)**」をクリックします。

### 結果

プロジェクト全体のすべてのスラッシュ符頭のデザインが変更されます。

### 例



標準 (Standard)

小 (Small)

特大 (Oversized)

ミュート (Muted)

### 手順終了後の項目

対応する符頭セットを編集できます。これにより、たとえば「**標準 (Standard)**」デザインを使用している場合に、長い音符に使われる符頭を変更するなどできます。

### 関連リンク

[「符頭セットを編集 \(Edit Notehead Sets\)」ダイアログ \(967 ページ\)](#)

[リズムによるキューのスラッシュ符頭を表示/非表示にする \(1223 ページ\)](#)

## スラッシュ付き声部

スラッシュ符頭の声部では、スラッシュ符頭で特定のリズムを記譜できます。手動で音符とリズムを入力する点において通常の声部と動作は似ていますが、スラッシュ符頭の声部における音符は、入力したピッチにかかわらず、デフォルトではすべて譜表の第3線に配置されます。

あとから拍子記号を、たとえば3/4から6/8に変更した場合、Dorico Proでは他の音符と同様、拍子に合うようその音符のグループ化が変更されるだけです。スラッシュ符頭の声部においては、スラッシュ領域のようにリズムの表示が変更されることはありません。

### 補足

- スラッシュ符頭の声部の音符は標準の声部に変更することも、その逆も行なえるため、入力したピッチは保持されます。
- 初期設定では、スラッシュ付き声部の音符は再生されません。ただし、スラッシュ付き声部を再生に含めた場合、スラッシュ付き声部の音符は入力時のピッチで再生されます。

スラッシュ符頭の声部は同じ位置に複数表示できます。複声部においてすべてのスラッシュ符頭の声部を調整するために、Dorico Proはそれぞれの譜表上の位置を自動的に変更します。もっとも、スラッシュ符頭の譜表上の位置は手動でも変更できます。

スラッシュ領域およびスラッシュ付き声部は、同じプロジェクトの同じ位置に使用できます。たとえば、リズムを特定したくない場所にスラッシュ領域を入力し、そのあとに正確なリズムを指定したい1小節のスラッシュ付き声部に音符を入力できます。

### 関連リンク

[複声部におけるスラッシュ \(1637 ページ\)](#)

[複声部における暗黙の休符 \(1642 ページ\)](#)

[スラッシュ付き声部への音符の入力 \(259 ページ\)](#)

[既存の音符の声部を変更する \(507 ページ\)](#)

[複数の声部に音符をコピーアンドペーストする \(499 ページ\)](#)


## スラッシュ符頭の声部のタイプを変更する

スラッシュ符頭の声部のタイプは変更できます。たとえば、スラッシュ符頭の声部を符尾ありから符尾なしに変更できます。また、標準の音符にもタイプ変更できます。このときは入力時に指定したピッチが復元されます。同じく標準の音符からスラッシュ符頭への変更も行なえます。

### 補足

これは同じ声部に属するすべての音符に影響を与えます。一部の音符についてスラッシュ符頭の声部のタイプを変更するだけの場合は、かわりにそれらの音符の声部を変更する必要があります。

### 前提条件

浄書モードの場合は、浄書ツールボックスで「**グラフィックの編集 (Graphic Editing)**」を選択しておきます。

### 手順

1. スラッシュのタイプを変更する声部の音符を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. 「**編集 (Edit)**」 > 「**記譜 (Notations)**」 > 「**声部 (Voices)**」 > 「**スラッシュ符頭 (Rhythmic Slashes)**」 > 「**声部のタイプ**」を選択します。

たとえば、標準の声部全体を符尾なしのスラッシュ符頭の声部に変更するには、「編集 (Edit)」 > 「記譜 (Notations)」 > 「声部 (Voices)」 > 「スラッシュ符頭 (Rhythmic Slashes)」 > 「符尾なしのスラッシュ (Slashes without Stems)」を選択します。

#### ヒント

このオプションはコンテキストメニューでも選択できます。

#### 結果

選択した音符と同じフローの同じ声部に属するスラッシュ符頭の声部のタイプが変更されます。

標準の音符をスラッシュ符頭の声部に変更した場合、これはすべて自動的に1本の譜表線上に配置されます。単声部における初期設定では、これは譜表の第3線になります。

スラッシュ符頭を標準の音符に変更した場合、それらの元のピッチが復元され、その譜表上の位置がピッチを反映するようになります。

#### 関連リンク

[浄書ツールボックス \(554 ページ\)](#)

[スラッシュ符頭のデザインを個別に変更する \(1626 ページ\)](#)




## 打楽器キットにスラッシュ符頭の声部を追加する

打楽器キットにスラッシュ符頭の声部を追加できます。たとえば、演奏するインストゥルメントは指定せずに、パッセージに求められるリズムのみ表示できます。同じキットには複数のスラッシュ符頭の声部を追加できます。これには符尾ありおよび符尾なしいずれのスラッシュ符頭の声部も使用できます。

#### 補足

打楽器キットのスラッシュ符頭は、五線譜による表示を使用する場合のみ表示されます。グリッドまたは一線譜によるインストゥルメントの表示においては、これは表示されません。

#### 手順

1. 設定モードの「プレーヤー (Players)」パネルで、スラッシュ符頭の声部を追加する打楽器キットが割り当てられたプレーヤーのカードを展開します。
2. キットインストゥルメントラベルでインストゥルメントメニュー  をクリックし、「打楽器キットを編集 (Edit Percussion Kit)」を選択して「打楽器キットを編集 (Edit Percussion Kit)」ダイアログを開きます。
3. 五線譜エディターの下アクションバーで、追加するスラッシュ符頭の声部のタイプに対応するボタンをクリックします。
  - 符尾ありのスラッシュ (Slashes with stems) 
  - 符尾なしのスラッシュ (Slashes without stems) 

#### 結果

対応するスラッシュ付き声部のタイプがキットに追加されます。初期設定では、譜表の第3線に配置されます。

音符の入力中は、キットの他のインストゥルメントと同様に、キャレットをスラッシュ符頭の声部に移動することも、スラッシュ符頭の声部に音符を入力することもできます。

#### 手順終了後の項目

キット内のスラッシュ付き声部の譜表上の位置を変更できます。

関連リンク

- [打楽器キットとドラムセット \(156 ページ\)](#)
- [打楽器キットの表示タイプ \(1848 ページ\)](#)
- [プレーヤーパネル \(121 ページ\)](#)
- [「打楽器キットを編集 \(Edit Percussion Kit\)」 ダイアログ \(157 ページ\)](#)
- [打楽器キット内のインストゥルメントの移動 \(164 ページ\)](#)

## スラッシュ付き声部を再生に含める/除外する

初期設定では、スラッシュ付き声部の音符は再生されません。スラッシュ付き声部のすべての音符を再生に含めるかどうかをプロジェクト全体で設定できます。

手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[P]** を押して「再生オプション (Playback Options)」を開きます。
2. カテゴリーリストの「リピート (Repeats)」をクリックします。
3. 「スラッシュ符頭 (Rhythm Slashes)」セクションで、「スラッシュ付き声部を再生 (Play slash voices)」をオン/オフにします。
4. 「適用 (Apply)」をクリックしてから「閉じる (Close)」をクリックします。

結果

「スラッシュ付き声部を再生 (Play slash voices)」をオンにすると、プロジェクト全体のスラッシュ付き声部が再生に含められ、オフにすると除外されます。

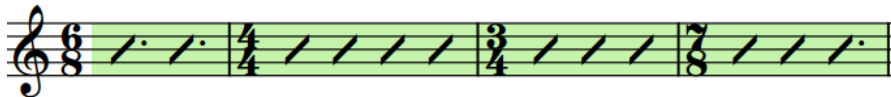
スラッシュ付き声部を再生に含めた場合、スラッシュ付き声部の音符は入力時のピッチで再生されます。

関連リンク

- [「再生オプション \(Playback Options\)」 ダイアログ \(925 ページ\)](#)
- [再生時の反復 \(689 ページ\)](#)
- [延長記号を再生に含める/除外する \(1343 ページ\)](#)
- [スラッシュ付き声部への音符の入力 \(259 ページ\)](#)

## スラッシュ領域

スラッシュ領域は、拍子に適切なスラッシュ符頭を自動的にデュレーション全体に表示します。たとえば、初期設定では、4/4 の小節にはスラッシュが 4 つ、6/8 の小節にはスラッシュが 2 つ表示されます。1 つのスラッシュ領域は異なる拍子にわたって延ばすこともできます。



異なる拍子にわたって表示される 1 つのスラッシュ領域

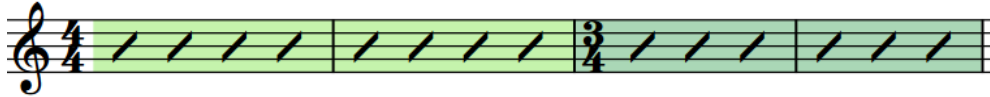
スラッシュ領域は、リズム上の同じ位置に複数同時に存在できます。スラッシュ領域が重なり合うと、Dorico Pro はこれを複声部の状況として扱い、それぞれのスラッシュの譜表上の位置を自動的に変更します。

記譜モードでは、それぞれの領域の開始位置と終了位置にハンドルがあり、これを使用して領域の移動や長さの変更が行なえます。



初期設定では、スラッシュ領域は色付きの背景で強調表示されています。ズームアウトすると、強調表示の不透明度が上がります。これはフルスコアレイアウトをギャラリービューで見るとき特に便利です。このような強調表示は注釈と見なされ、初期設定では印刷されません。また画面上の表示/非表示も切り替えられます。

2つのスラッシュ領域が隣り合う場合、個々の領域を識別できるように、それぞれ異なる強調色で表示されます。



異なる強調色で表示される2つの隣接するスラッシュ領域

スラッシュ領域およびスラッシュ付き声部は、同じプロジェクトの同じ位置に使用できます。たとえば、リズムを特定したくない場所にスラッシュ領域を入力し、そのあとに正確なリズムを指定したい1小節のスラッシュ付き声部に音符を入力できます。

初期設定では、スラッシュ領域と同じ位置にある音符は非表示になりますが、個々のスラッシュ領域と一緒に音符を表示することもできます。

#### ヒント

スラッシュ符頭は、演奏者が使用する音符の組み合わせを示すためにコード記号を伴って記譜されることも多いため、スラッシュ領域またはコード記号領域ではコード記号を表示し、それ以外の場所では非表示にできます。

#### 関連リンク

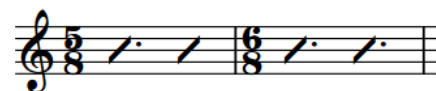
- [スラッシュ領域の入力 \(450 ページ\)](#)
- [コード記号を表示/非表示にする \(1157 ページ\)](#)
- [コード記号領域 \(1162 ページ\)](#)
- [通し番号付き小節領域 \(1618 ページ\)](#)
- [小節リピート記号 \(1610 ページ\)](#)
- [リピート回数 \(1607 ページ\)](#)
- [MIDI トリガー領域 \(717 ページ\)](#)
- [注釈 \(740 ページ\)](#)

## スラッシュ領域における音符のグループ化

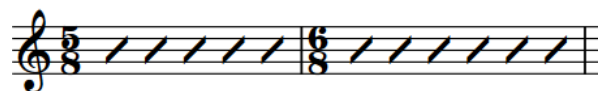
「記譜オプション (Notation Options)」 > 「音符のグループ化 (Note Grouping)」 > 「スラッシュ符頭 (Rhythmic Slashes)」には、各フローのスラッシュ領域におけるスラッシュ符頭のグループ化とデュレーションを個別に制御するオプションがあります。

使用できるオプションには、スラッシュ符頭が拍のグループ化や拍子記号の分母に従うかどうかや、自由拍子におけるスラッシュ符頭のデュレーションの設定などがあります。たとえば、6/8 で付点付きスラッシュ符頭を2つ表示するかわりに、6つのスラッシュ符頭を表示するなどできます。

各オプションには、オプションを反映したときの表記例が示されています。



拍のグループ化に従うスラッシュ符頭



拍子記号の分母に従うスラッシュ符頭

関連リンク


- [「記譜オプション \(Notation Options\)」ダイアログ \(919 ページ\)](#)
- [音符と休符のグループ化 \(1136 ページ\)](#)
- [拍子記号 \(1795 ページ\)](#)

## スラッシュ領域の分割

スラッシュ領域は入力後に分割できます。これによりたとえば、既存のスラッシュ領域の途中にあとから詳細な記譜を行なえます。

---

手順

1. 記譜モードで、分割するスラッシュ領域の分割位置に対してすぐ右側のスラッシュを選択します。
2. 以下のいずれかの操作を行なって、スラッシュ領域を分割します。
  - **[U]** を押します。
  - 音符ツールボックスの「はさみ (Scissors)」 をクリックします。

---

結果

選択したスラッシュのすぐ左側でスラッシュ領域が分割されます。それぞれの領域の開始位置と終了位置にハンドルができ、これを使用してそれぞれの長さを個別に変更できます。

関連リンク

- [音符ツールボックス \(219 ページ\)](#)
- [スラッシュ領域のカウントの表示頻度を変更する \(1635 ページ\)](#)
- [アイテムの長さの変更 \(470 ページ\)](#)
- [音符/アイテムの位置の移動 \(502 ページ\)](#)

## スラッシュ領域の符尾を表示/非表示にする

個々のスラッシュ領域の符尾および連桁 (該当する場合) を表示または非表示にできます。初期設定では、スラッシュ領域のスラッシュは符尾なしで表示されます。

前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。
- 下ゾーンのツールバーで「プロパティ (Properties)」 を選択しておきます。
- 浄書モードの場合は、浄書ツールボックスで「グラフィックの編集 (Graphic Editing)」 を選択しておきます。

---

手順

1. 符尾を表示または非表示にするスラッシュ領域の任意の部分を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
  2. プロパティパネルの「スラッシュ領域 (Slash Regions)」グループで、「スラッシュのタイプ (Slash type)」をオンにします。
  3. 以下のいずれかのオプションを選択します。
    - 符尾あり (With stems)
    - 符尾なし (Without stems)
-

#### 結果

「**符尾なし (Without stems)**」を選択すると、選択したスラッシュ領域の符尾が非表示になり、「**符尾あり (With stems)**」を選択すると表示されます。

たとえば 3/8 のように、現在の拍子に対して適切であれば、符尾だけでなく連符も表示されます。

#### 関連リンク

[プロパティパネル \(826 ページ\)](#)

[浄書ツールボックス \(554 ページ\)](#)

## スラッシュ領域内の音符を表示/非表示にする

スラッシュ領域と同じ位置にある音符を表示または非表示にできます。これはたとえば、再生時に鳴らすための音符を入力しつつ楽譜にはスラッシュ領域のみ表示する場合や、スラッシュ領域に推奨の音符を追加で記譜する場合などに使用できます。

#### 前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。
- 下ゾーンのツールバーで「**プロパティ (Properties)**」を選択しておきます。
- 浄書モードの場合は、浄書ツールボックスで「**グラフィックの編集 (Graphic Editing)**」を選択しておきます。

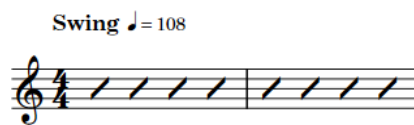
#### 手順

1. 領域内にある他の音符を表示または非表示にするスラッシュ領域の任意の部分を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「**スラッシュ領域 (Slash Regions)**」グループで、「**他の声部を表示 (Show other voices)**」をオンまたはオフにします。

#### 結果

「**他の声部を表示 (Show other voices)**」をオンにすると、選択したスラッシュ領域の領域内にあるすべての音符が表示され、オフにすると非表示になります。

#### 例



領域内の音符が非表示のスラッシュ領域



領域内の音符を表示したスラッシュ領域

## スラッシュ領域の前後の余白を埋める休符を表示/非表示にする

小節の途中から始まるスラッシュ領域の前後の余白を埋める休符は、個別に表示/非表示にできます。これは、たとえば余白の位置に他の音符があり、休符の表示が紛らわしい場合などに使用します。この操作は現在のレイアウトとフレームチェーンのみに対して、もしくはすべてのレイアウトとフレームチェーンに対して行なえます。

初期設定では、Dorico Pro は小節全体のデュレーションが明確になるように、小節の途中で開始または終了するスラッシュ領域の前後に自動的に暗黙の休符を表示します。



#### 前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。
- 下ゾーンのツールバーで「プロパティ (Properties)」を選択しておきます。
- 浄書モードの場合は、浄書ツールボックスで「グラフィックの編集 (Graphic Editing)」を選択しておきます。
- ローカルのプロパティ変更に関して、適切なプロパティ範囲を選択しておきます。

---

#### 手順

1. 余白を埋める休符を表示/非表示にするスラッシュ領域の任意の部分を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「スラッシュ領域 (Slash Regions)」グループで、以下のプロパティを片方または両方ともオンにします。
  - 開始位置より前の休符を非表示 (Hide rests before start)
  - 終了位置より後の休符を非表示 (Hide rests after end)

---

#### 結果

選択したスラッシュ領域の対応する側の余白を埋める休符が非表示になります。たとえば両方のプロパティをオンにすると、選択したスラッシュ領域の前後両方の余白を埋める休符が非表示になります。プロパティ範囲を「ローカル (Locally)」に設定している場合、この変更は現在のレイアウトおよびフレームチェーンのみに影響します。

#### 関連リンク

- [プロパティパネル \(826 ページ\)](#)
- [プロパティ範囲の変更 \(828 ページ\)](#)
- [浄書ツールボックス \(554 ページ\)](#)
- [暗黙の休符と明示的な休符 \(1641 ページ\)](#)

## スラッシュ領域の強調表示の表示/非表示を切り替える

スラッシュ領域の背景色による強調表示はいつでも表示/非表示を切り替えられます。たとえば記譜中は強調表示をオンにして、浄書中はオフにするといったことができます。

---

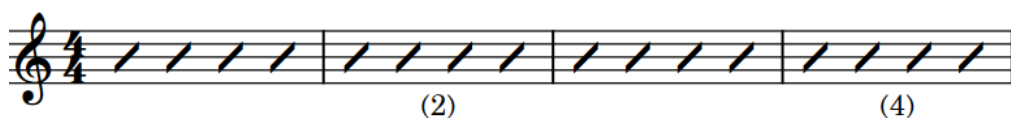
#### 手順

- 「ビュー (View)」 > 「スラッシュ領域を強調 (Highlight Slash Regions)」を選択します。

## スラッシュ領域のカウント

スラッシュ領域のカウントは、スラッシュ領域の上または下に一定間隔で表示される数字で、いくつかの小節が過ぎたか演奏者が把握することを助けます。上記の間隔は通常、4 小節ごとや 8 小節ごとなど、一般的な音楽フレーズの長さに基づくものです。

初期設定では、スラッシュ領域のカウントは 4 小節ごとに譜表の下に括弧付きで表示されます。スラッシュ領域には、それぞれ独立したカウントが表示されます。



2 小節ごとにカウントを表示するスラッシュ領域

Dorico Pro では、スラッシュ領域それぞれの開始カウント、カウントの表示頻度、譜表に対する位置、カウントを括弧付き、または括弧なしで表示するか非表示にするかを変更できます。また、カウントのフォントスタイルをカスタマイズすることもできます。

#### 補足

小節リピータ記号、スラッシュ、および通し番号付き小節領域のカウントは、同じフォントスタイルを使用します。

#### 関連リンク

[カウントのフォントスタイルを編集する](#) (1616 ページ)

[リピータ回数](#) (1607 ページ)

[小節リピータ記号のカウント](#) (1612 ページ)

[通し番号付き小節領域のカウント](#) (1619 ページ)

## スラッシュ領域の開始カウントの変更

個々のスラッシュ領域についてカウントが開始する番号を変更できます。これはたとえば、2つのスラッシュ領域の間に詳細な記譜を行ないつつ、カウントは全体を通して継続的に表示させる場合などに使用します。

#### 前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。
- 下ゾーンのツールバーで「プロパティ (Properties)」 を選択しておきます。
- 浄書モードの場合は、浄書ツールボックスで「グラフィックの編集 (Graphic Editing)」 を選択しておきます。

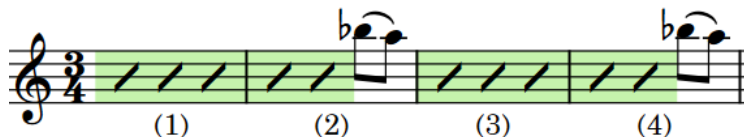
#### 手順

1. 開始カウントを変更するスラッシュ領域を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「スラッシュ領域 (Slash Regions)」グループで、「開始カウント (Count from)」をオンにします。
3. 数値フィールドの値を変更します。

#### 結果

選択したスラッシュ領域の開始カウントが変更されます。カウントの表示頻度が2小節ごと以上の場合、カウントは異なる小節に表示されます。たとえば開始カウントを1から2に変更すると、カウントの表示が4小節ごとの場合、カウントの表示位置はその領域の4小節めから3小節めに移動します。

#### 例





2つめのスラッシュ領域の開始カウントが変更され、1つめのスラッシュ領域からカウントが継続しているように表示するもの。

## スラッシュ領域のカウントの表示頻度を変更する

スラッシュ領域のカウントの表示頻度を、プロジェクト全体の設定より優先される形で個別に変更できます。これにより、たとえばスラッシュ領域の8小節ごとにカウントを表示するよう変更できます。初期設定では、スラッシュ領域のカウントは4小節ごとに表示されます。

### 前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。
- 下ゾーンのツールバーで「プロパティ (Properties)」を選択しておきます。
- 浄書モードの場合は、浄書ツールボックスで「グラフィックの編集 (Graphic Editing)」を選択しておきます。

### 手順

1. カウントの表示頻度を変更するスラッシュ領域を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「スラッシュ領域 (Slash Regions)」グループで、「カウント頻度 (Count frequency)」をオンにします。
3. 数値フィールドの値を変更します。

### 結果

選択したスラッシュ領域のカウント表示頻度が増えます。

### ヒント

スラッシュ領域のデフォルトのカウント頻度をプロジェクト全体で変更するには、「浄書オプション (Engraving Options)」 > 「音符 (Notes)」 > 「スラッシュ符頭 (Rhythmic Slashes)」で設定を行ないます。

### 関連リンク

- [プロパティパネル \(826 ページ\)](#)
- [浄書ツールボックス \(554 ページ\)](#)
- [スラッシュ領域の分割 \(1631 ページ\)](#)
- [長休符における小節番号の範囲を表示/非表示にする \(1097 ページ\)](#)
- [「浄書オプション \(Engraving Options\)」ダイアログ \(923 ページ\)](#)

## スラッシュ領域のカウントを表示/非表示にするか括弧を付ける

プロジェクト全体の設定より優先される形で、スラッシュ領域のカウントを個別に表示/非表示にしたり、括弧を付けるかどうかを選択したりできます。この操作は現在のレイアウトとフレームチェーンのみに対して、もしくはすべてのレイアウトとフレームチェーンに対して行なえます。

### 前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。
- 下ゾーンのツールバーで「プロパティ (Properties)」を選択しておきます。
- 浄書モードの場合は、浄書ツールボックスで「グラフィックの編集 (Graphic Editing)」を選択しておきます。
- ローカルのプロパティ変更に関して、適切なプロパティ範囲を選択しておきます。

#### 手順

1. カウントを表示/非表示にするか括弧を付けるスラッシュ領域の任意の部分を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「スラッシュ領域 (Slash Regions)」グループで、「カウントの外観 (Count appearance)」をオンにします。
3. メニューから以下のいずれかのオプションを選択します。
  - 括弧つき (With parentheses)
  - 括弧なし (Without parentheses)
  - 非表示 (Do Not Show)

#### 結果

選択したスラッシュ領域のカウントが括弧付き、または括弧なしで表示されるか非表示になります。プロパティ範囲を「ローカル (Locally)」に設定している場合、この変更は現在のレイアウトおよびフレームチェーンのみに影響します。

#### ヒント

スラッシュ領域のカウントのデフォルトの外観をプロジェクト全体で変更するには、「浄書オプション (Engraving Options)」 > 「音符 (Notes)」 > 「スラッシュ符頭 (Rhythmic Slashes)」で設定を行ないます。

#### 関連リンク

- [プロパティパネル \(826 ページ\)](#)
- [プロパティ範囲の変更 \(828 ページ\)](#)
- [浄書ツールボックス \(554 ページ\)](#)

## スラッシュ領域のカウントの譜表に対する位置の変更

スラッシュ領域のカウントは、プロジェクト全体の設定より優先される形で、譜表の上または下に個別に表示位置を切り替えられます。この操作は現在のレイアウトとフレームチェーンのみに対して、もしくはすべてのレイアウトとフレームチェーンに対して行なえます。

#### 補足

カウントの譜表に対する位置の変更は、領域内のすべてのカウントに影響します。領域内では、カウントのうち1つだけの位置を個別に変更はできません。

#### 前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。
- 下ゾーンのツールバーで「プロパティ (Properties)」を選択しておきます。
- 浄書モードの場合は、浄書ツールボックスで「グラフィックの編集 (Graphic Editing)」を選択しておきます。
- ローカルのプロパティ変更に関して、適切なプロパティ範囲を選択しておきます。

#### 手順

1. カウントの譜表に対する位置を変更するスラッシュ領域の任意の部分を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「スラッシュ領域 (Slash Regions)」グループで、「カウントの位置 (Count position)」をオンにします。

3. 以下のいずれかのオプションを選択します。

- 上 (Above)
- 下 (Below)

#### 結果

選択したスラッシュ領域のすべてカウントの譜表に対する位置が変更されます。プロパティ範囲を「ローカル (Locally)」に設定している場合、この変更は現在のレイアウトおよびフレームチェーンのみに影響します。

#### ヒント

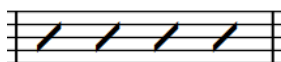
スラッシュ領域のカウントのデフォルトの位置をプロジェクト全体で変更するには、「**浄書オプション (Engraving Options)**」 > 「**音符 (Notes)**」 > 「**スラッシュ符頭 (Rhythmic Slashes)**」で設定を行います。

#### 関連リンク

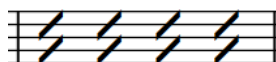
[「浄書オプション \(Engraving Options\)」 ダイアログ \(923 ページ\)](#)

## 複声部におけるスラッシュ

スラッシュ領域とスラッシュ符頭の声部は、リズム上の同じ位置に複数同時に存在できます。スラッシュ符頭の複声部やスラッシュ領域同士が重なったときは、Dorico Pro はすべてのスラッシュがなるべく読みやすいように、自動的にそれぞれの譜表上の位置を変更し、ずらして表示します。



1つのスラッシュ領域



符尾が上向きと符尾が下向きの2つのスラッシュ領域

リズム上の同じ位置にある他のスラッシュに対するスラッシュの位置とオフセットのフローごとのデフォルトは、「**記譜オプション (Notation Options)**」の「**声部 (Voices)**」ページで設定できます。

#### 補足

これらのオプションは、スラッシュ符頭の声部に属する音符とスラッシュ領域に属する音符を含め、すべてのスラッシュ符頭に影響を与えます。

また、スラッシュ符頭のお互いの位置は、符尾/声部の向きや譜表上の位置を変更することによって手で制御できます。

#### 関連リンク

[「記譜オプション \(Notation Options\)」 ダイアログ \(919 ページ\)](#)

[複声部の音符位置 \(1861 ページ\)](#)

[既存の音符の声部を変更する \(507 ページ\)](#)

## スラッシュ領域の声部の向きを変更する

スラッシュ領域の声部の向きは個別に変更できます。複数のスラッシュ領域が重なり合う場合、それぞれの符尾の方向が影響されます。

前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。
- 下ゾーンのツールバーで「プロパティ (Properties)」を選択しておきます。
- 浄書モードの場合は、浄書ツールボックスで「グラフィックの編集 (Graphic Editing)」を選択しておきます。

---

手順

1. 声部の向きを変更するスラッシュ領域を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「スラッシュ領域 (Slash Regions)」グループで、「声部の向き (Voice direction)」をオンにします。
3. 以下のいずれかのオプションを選択します。
  - 上 (Up)
  - 下 (Down)

---

結果

選択したスラッシュ領域の声部の向き、および符尾の向きもこれに従い変更されます。

補足

これによって符尾の方向が変化するのは、スラッシュ領域が譜表の第3線にある場合、および複数のスラッシュ領域が同じリズム位置に存在する場合のみです。たとえば、譜表の第1線にあるスラッシュ領域の声部の向きを「下 (Down)」に変更した場合、他のスラッシュ領域と重なり合っていないければ、符尾の方向は変化しません。

---

## スラッシュ符頭の譜表上の位置を変更する

スラッシュ符頭の譜表上の位置は、スラッシュ符頭の声部およびスラッシュ領域のいずれにおいても変更できます。これによりたとえば、リズム上の同じ位置に他の音符を配置しやすくなります。初期設定では、スラッシュ符頭は譜表の第3線に配置されます。

前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。
- 下ゾーンのツールバーで「プロパティ (Properties)」を選択しておきます。
- 浄書モードの場合は、浄書ツールボックスで「グラフィックの編集 (Graphic Editing)」を選択しておきます。

---

手順

1. 譜表上の位置を変更するスラッシュ符頭を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
  - スラッシュ符頭の声部の音符については、譜表上の位置を変更する音符をそれぞれ選択する必要があります。
  - スラッシュ領域については、譜表上の位置を変更する領域のどの部分を選択しても全体が変更されます。

2. プロパティパネルの、譜表上の位置を変更するスラッシュ符頭のタイプに応じたグループで、「**スラッシュの位置 (Slash pos.)**」をオンにします。
    - スラッシュ符頭の声部の音符である場合は、「**音符と休符 (Notes and Rests)**」グループ
    - スラッシュ領域である場合は、「**スラッシュ領域 (Slash Regions)**」グループ
  3. 数値フィールドの値を変更します。
- 

#### 結果

選択したスラッシュ符頭の譜表上の位置が変更されます。たとえば「**スラッシュの位置 (Slash pos.)**」の値を **4** に変更するとスラッシュ符頭は五線譜の第 5 線に配置され、**-4** にすると第 1 線に配置されます。

スラッシュ符頭に符尾が付いている場合、符尾の方向は自動的に調整されます。

#### 関連リンク

[浄書ツールボックス \(554 ページ\)](#)

[符尾の方向 \(1416 ページ\)](#)









[打楽器キットにスラッシュ符頭の声部を追加する \(1628 ページ\)](#)

# 休符

休符は音が演奏されない時間を表わす記号です。それぞれの音符には同等のデュレーションの休符があり、たとえば、4分音符の休符は16分音符の休符とは異なります。

小節内の音符と休符のデュレーションの合計は、現在の拍子記号で定義される小節のデュレーションと等しくする必要があります。Dorico Pro は自動的に音符間の間隔を適切なデュレーションの暗黙の休符で埋めます。そのため、Dorico Pro では基本的に休符を入力する必要はありません。

デュレーションの等しい音符と休符の対応を以下の表に示します。

デュレーション	音符	休符
2分		
4分		
8分		
16分		

関連リンク

[休符の入力 \(271 ページ\)](#)

[休符の削除 \(1646 ページ\)](#)

[音符の入力 \(248 ページ\)](#)

[連符内の休符 \(1131 ページ\)](#)

[音符と休符のグループ化 \(1136 ページ\)](#)

[複声部における暗黙の休符 \(1642 ページ\)](#)

[休符に数字付き低音を表示する \(1271 ページ\)](#)

## 休符の一般的な配置規則

休符は、休符のデュレーションの開始位置に合わせて配置されます。休符の開始と終了が分かりにくくなるため、拍の中央に休符を配置することはありません。休符は他のアイテムと均等な位置に揃えられます。

唯一の例外として、小節休符は小節の視覚的な中央位置に配置されます。小節内で他の音符と並んで記譜される2分休符および全休符とは配置が異なるため、明確に区別できます。

休符は可能な限り譜表の中に記譜されます。周辺の音符が高音域や低音域にある場合でも、譜表の上や下に休符が移動することはありません。



ただし、複声部の譜表においては、休符は符尾が上向きの声部では譜表の高い位置や譜表の上に、符尾が下向きの声部では譜表の低い位置や譜表の下に配置されます。



複声部における休符の位置の例

複声部の休符は重複させることができません。そのため、複数の声部の同じ位置に同じデュレーションの休符が複数ある場合、休符を統合して1つだけ表示することができます。

休符は複雑な形状のものもあるため、譜表の線や間に対して決まった位置に配置する必要があり、休符の垂直位置を大きく変更することはできません。

関連リンク

[声部 \(1858 ページ\)](#)

[複数の声部への音符の入力 \(257 ページ\)](#)

[譜表をまたぐ連符/トレモロの作成 \(1123 ページ\)](#)

[休符を垂直に移動する \(1645 ページ\)](#)

## 暗黙の休符と明示的な休符

暗黙の休符は入力した音符の間に自動的に表示され、デュレーションは小節内の拍子記号と位置に従います。明示的な休符はデュレーションを強制的に固定して入力、または MusicXML ファイルから取り込んだ休符です。

Dorico Pro では、暗黙の休符は現在の拍子記号に応じて記譜されるため、6/8 拍子と 4/4 拍子では異なる暗黙の休符が表示されます。これはまた、既存の音符や休符の拍子記号を変更した場合にも当てはまります。

Dorico Pro では、入力した音符の周辺に自動的に暗黙の休符が表示されるため、休符を入力する必要はありません。暗黙の休符のデュレーションは、強制的に固定して明示的な休符に変更することもできます。



拍子記号が 6/8 の小節の 4 拍めに入力された 4 分音符の場合、暗黙の付点 4 分休符が小節の始めにある



拍子記号が 4/4 の小節の 4 拍めに入力された 4 分音符の場合、暗黙の 4 分休符および 8 分休符が小節の始めにある

「**声部開始 (Starts voice)**」および「**声部終了 (Ends voice)**」プロパティで、声部の最初の音符以前の休符および最後の音符以降の休符を非表示に設定している場合でも、明示的な休符を抑制することはできません。

プロジェクトの中でどれが暗黙の休符で、どれが明示的な休符であるかは、休符の色で見分けることができます。

関連リンク

[休符の入力 \(271 ページ\)](#)

[音符の入力 \(248 ページ\)](#)

[休符の削除 \(1646 ページ\)](#)

[音符/休符のデュレーションの強制 \(288 ページ\)](#)

[明示的な休符を暗黙の休符に変換する \(1643 ページ\)](#)

[休符のカラーを表示/非表示にする \(1644 ページ\)](#)

## 複声部における暗黙の休符

Dorico Pro では、音符周囲の空白を埋めるために暗黙の休符が自動的に表示されます。これは譜表に複数の声部がある場合も同様です。しかし、複声部では、休符をいつどこに表示するかの詳細な設定が必要になる場合があります。

通常、声部が小節内に複数の音符を含む場合、休符または音符が小節全体に対し表示されます。これにより、小節内のすべての声部の各音符の位置が一目で明らかになります。

譜表に複数の声部がある場合、複数の声部に任意のデュレーションの音符が存在する小節すべてに、暗黙の休符が表示されます。スラッシュ付き声部の音符だけの小節を含め、小節休符は常に譜表の最初の声部に表示されます。

ただし、譜表に複数の声部がある場合、ある声部の最初の音符以前、あるいは最後の音符以降に休符を表示させたくないこともあります。たとえば、1つのメロディーラインを含む小節に経過音を表示するためだけの声部を追加する場合などは、休符を非表示にすると役立ちます。



第2声部は経過音として使用

複声部の内容に応じていつ休符を表示するか選択し、各フローに個別に適用するには、「**記譜オプション (Notation Options)**」の「**休符 (Rests)**」ページで設定を行ないます。

選択した楽節から休符を削除することもできます。

### ヒント

初期設定では、複数の声部の同じ位置に同じデュレーションの休符がある場合、休符が統合されます。

休符の垂直位置を変更すると、複数の休符を個別の位置に表示できます。「**記譜オプション (Notation Options)**」の「**休符 (Rests)**」ページで複声部における休符の統合方法の設定を変更し、フローごとに適用することもできます。



暗黙の休符がある複声部フレーズ



暗黙の休符がない同フレーズ

#### 関連リンク

[「記譜オプション \(Notation Options\)」 ダイアログ \(919 ページ\)](#)

[休符のフローごとの記譜オプション \(1643 ページ\)](#)

[休符を垂直に移動する \(1645 ページ\)](#)

[休符の削除 \(1646 ページ\)](#)

[スラッシュ付き声部 \(1627 ページ\)](#)

## 明示的な休符を暗黙の休符に変換する

暗黙の休符と明示的な休符は振る舞いが異なります。たとえば、明示的な休符の記譜は、小節内の位置または拍子記号が変更されても自動的に更新されません。

#### 手順

1. 記譜モードで、暗黙の休符に変換する明示的な休符を選択します。
2. **[Backspace]** 又は **[Delete]** を押します。

#### 結果

選択した明示的な休符が暗黙の休符に変わります。休符の色を表示するとこれを確認できます。

#### 関連リンク

[休符のカラーを表示/非表示にする \(1644 ページ\)](#)

[休符の削除 \(1646 ページ\)](#)

## 休符のフローごとの記譜オプション

休符の配置方法、記譜方法、および休符が表示される条件をフローごとに制御するオプションは、「**記譜オプション (Notation Options)**」の「**休符 (Rests)**」のページにあります。

たとえば、付点休符が許可されているときに小節の休符を追加の声部内に表示するかどうかを設定したり、楽譜の内容に合わせて初期設定の休符の位置を変更したりできます。異なる声部の同じリズム上の位置にある同じデュレーションの休符を1つの休符に統合するかどうかも変更できます。

各オプションには、オプションを反映したときの表記例が示されています。

#### 関連リンク

[「記譜オプション \(Notation Options\)」 ダイアログ \(919 ページ\)](#)

[声部 \(1858 ページ\)](#)

[声部のフローごとの記譜オプション \(1859 ページ\)](#)

[符尾の方向 \(1416 ページ\)](#)

## 浄書オプションで休符の設定をプロジェクト全体に適用する

「浄書オプション (Engraving Options)」の「休符 (Rests)」ページで休符の外観を設定しプロジェクト全体に適用できます。

「休符 (Rests)」ページのオプションで、休符のスタイル、外観、幅、および詳細な位置を変更できます。また、1小節の小節休符のタセットバーと小節数を表示するかどうかや、フローの終了位置の長休符をどのように表示するかを選択するなど、長休符の外観やデザインを変更することもできます。たとえば、フローの終端まで延びる長休符のデフォルトの外観は tacet al fine を表示しますが、これを小節の数を表示するよう変更できます。

多くのオプションに、オプションを楽譜に適用したときにどのように表示されるかを示す図があります。

関連リンク

[「浄書オプション \(Engraving Options\)」ダイアログ \(923 ページ\)](#)

## 休符のカラーを表示/非表示にする

休符のカラーの表示/非表示を切り替えることで、暗黙の休符と明示的な休符を異なるカラーで表示できます。

休符カラーが表示されている場合、暗黙の休符はグレーで表示され、明示的な休符は黒で表示されます。これらのプロパティで非表示にできるのは暗黙の休符のみのため、「声部開始 (Starts voice)」と「声部終了 (Ends voice)」プロパティをオンにしても休符が非表示にならない場合などに原因を突き止めるときは、この機能が役に立ちます。

手順

- 「ビュー (View)」> 「音符と休符のカラー (Note And Rest Colors)」> 「暗黙の休符カラー (Implicit Rests)」を選択します。

結果

休符カラーの表示/非表示が切り替わります。

例



休符カラーを非表示にした状態



休符カラーを表示した状態

手順終了後の項目

明示的な休符として特定できた休符を削除できます。明示的な休符を削除すると、それに置き換わる暗黙の休符が「声部開始 (Starts voice)」と「声部終了 (Ends voice)」プロパティの効果に従うようになります。

## 休符を垂直に移動する

休符の垂直位置は個別に変更できます。これによりたとえば、全休符がぶら下がる譜表線を変更したり、ある位置にすべての声部の休符を表示したりできます。この操作は現在のレイアウトとフレームチェーンのみに対して、もしくはすべてのレイアウトとフレームチェーンに対して行なえます。

譜表上の2つ以上の声部に同じデュレーションの休符がある場合、休符を垂直に移動すると複数の休符がその位置に表示されます。初期設定では、Dorico Pro は複声部の同じ位置にある同じ長さの休符を統合して自動的に複声部の状況に応じた位置に配置し、衝突を回避します。

### 前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。
- 下ゾーンのツールバーで「プロパティ (Properties)」 を選択しておきます。
- 浄書モードの場合は、浄書ツールボックスで「グラフィックの編集 (Graphic Editing)」 を選択しておきます。
- ローカルのプロパティ変更に関して、適切なプロパティ範囲を選択しておきます。

### 手順


1. 垂直位置を変更する休符、または各声部で休符を表示させたい位置にある休符を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「音符と休符 (Notes and Rests)」グループで、「休符の位置 (Rest pos.)」をオンにします。
3. 数値フィールドの値を変更します。

### 結果

値を増やすと休符が上に移動し、減らすと下に移動します。0 の位置は譜表の第3線にあたります。譜表上の複声部の同じリズム上の位置に同じデュレーションの休符がある場合、複数の休符が表示されるようになります。

プロパティ範囲を「ローカル (Locally)」に設定している場合、この変更は現在のレイアウトおよびフレームチェーンのみに影響します。

### ヒント

- 「休符の位置 (Rest pos.)」をオフにすると、選択した休符がデフォルトの位置に戻ります。
- 各声部の同じ位置にある同じデュレーションの休符をすべて表示するか、すべての声部で1つの休符のみ表示するかは、「記譜オプション (Notation Options)」 > 「休符 (Rests)」 > 「休符の配置 (Rest Positioning)」で選択できます。
- 同じ声部の休符を垂直方向に揃えるかどうかは、「記譜オプション (Notation Options)」 > 「休符 (Rests)」 > 「休符の配置 (Rest Positioning)」で選択できます。
- 浄書モードで「音符のスペーシング (Note Spacing)」 がオンになっている場合、休符の水平位置と周囲のスペーシングを、音符の位置を変更するときと同様に変更できます。

### 関連リンク

[「記譜オプション \(Notation Options\)」 ダイアログ \(919 ページ\)](#)

[音符のスペーシング \(643 ページ\)](#)

[浄書ツールボックス \(554 ページ\)](#)

[プロパティ範囲の変更 \(828 ページ\)](#)

[プロパティ設定を別のレイアウト/フレームチェーンにコピーする \(825 ページ\)](#)

## 休符の削除

暗黙の休符と明示的な休符は、いずれも削除できます。これによりたとえば、経過音の表示に使用される別声部の音符の前後の休符を非表示にできます。

### ヒント

- 対応するデュレーションを削除するために休符を削除したい場合、かわりに小節/拍を削除できません。
- 空白の小節に小節休符を表示したくないという理由で休符を削除する場合は、かわりに小節休符を非表示にできます。
- 対立する声部で同じ位置にある同じ長さの休符を削除したいと思う場合は、「**記譜オプション (Notation Options)**」 > 「**休符 (Rests)**」 > 「**休符の配置 (Rest positioning)**」でこれらの休符を統合できます。

### 手順

1. 記譜モードで、削除する休符を選択します。

### ヒント

休符は個別に選択するか、削除する休符を含んだ大きな選択範囲を使用するかします。

2. 「**編集 (Edit)**」 > 「**休符を削除 (Remove Rests)**」を選択します。

### 結果

選択したすべての休符が削除されます。これは、削除する休符の右隣または左隣の音符または休符に対してプロパティパネルの「**音符と休符 (Notes and Rests)**」グループにある「**声部開始 (Starts voice)**」と「**声部終了 (Ends voice)**」プロパティを自動的にオンにして、選択領域内に休符が表示されないようにするものです。

### 補足

- あとから休符を再度表示できます。これには、削除した休符の右隣または左隣の音符か休符を選択して、プロパティパネルの「**音符と休符 (Notes and Rests)**」グループにある「**声部開始 (Starts voice)**」または「**声部終了 (Ends voice)**」の対応するプロパティをオフにします。
- 「**環境設定 (Preferences)**」の「**キーボードショートカット (Key Commands)**」ページで、「**休符を削除 (Remove Rests)**」にキーボードショートカットを割り当てることができます。
- 休符を削除した位置に、デュレーションを持つ音符や休符などのアイテムがないレイアウトでは、Dorico Pro が水平方向のスペーシングを計算するために使用するものがありません。そのため、このような空白の小節/拍は狭く表示されることがあります。

例



暗黙の休符がある複声部フレーズ



休符を削除したあとの同じフレーズ

---

関連リンク

[「記譜オプション \(Notation Options\)」ダイアログ \(919 ページ\)](#)

[暗黙の休符と明示的な休符 \(1641 ページ\)](#)

[大きな選択範囲 \(463 ページ\)](#)

[小節/拍の削除 \(1073 ページ\)](#)

[空白の小節の幅を変更する \(1076 ページ\)](#)

[音符のスペーシング \(643 ページ\)](#)

[最後の組段の両端揃え \(水平方向\) の変更 \(764 ページ\)](#)

[キューの休符 \(1218 ページ\)](#)

## 空白の小節で小節休符を表示/非表示にする

空白の小節の小節休符をレイアウトごとに個別に表示/非表示にできます。たとえば、フルスコアレイアウトでは小節休符を非表示にして、パートレイアウトでは表示させるということができます。

小節休符は通常、楽譜中の空白の小節に表示され、演奏する内容が何もないことを演奏者に示します。しかし、場合によっては小節休符を非表示にして、空白の小節を完全に空白のままにする方が適切な場合もあります。

たとえばパート数の多いスコアでは、音符がある小節を一目で見分けられるため、空白の小節の小節休符を非表示にした方がよい場合があります。また、音符の演奏以外の行動を演奏者に指示するために文字を書き込むようなレイアウトの場合も、小節休符を非表示にした方がよい場合があります。

---

手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[L]** を押して「**レイアウトオプション (Layout Options)**」を開きます。
2. 空白の小節で小節休符を表示または非表示にするレイアウトを「**レイアウト (Layouts)**」リストから選択します。  
初期設定では、楽譜領域で選択されているものと同じレイアウトが選択された状態のダイアログが表示されます。他のレイアウトを選択するには、アクションバーの選択オプションを使用するか、複数のレイアウトをまたぐようにクリックしてドラッグするか、**[Shift]** を押しながら隣接するレイアウトをクリックするか、**[Ctrl]/[command]** を押しながら個々のレイアウトをクリックします。
3. カテゴリリストの「**プレイヤー (Players)**」をクリックします。
4. 「**小節休符と長休符 (Bar Rests and Multi-bar Rests)**」セクションで、「**空の小節に小節休符を表示 (Show bar rests in empty bars)**」をオン/オフにします。

5. 「適用 (Apply)」をクリックしてから「閉じる (Close)」をクリックします。

#### 結果

選択したレイアウトのチェックボックスがオンになっているときは、すべての空白の小節で小節休符が表示され、オフになっているときは非表示になります。

#### 関連リンク

[長休符を表示/非表示にする \(1649 ページ\)](#)

[キューに伴う小節休符を表示/非表示にする \(1219 ページ\)](#)

## 追加の声部内の小節休符を表示/非表示にする

追加の声部内の音符または明示的な休符をフローごとに表示/非表示にできます。たとえば、対位法による楽譜に明示的な休符を表示することで、各声部が見やすくなります。

#### 手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[N]** を押して「記譜オプション (Notation Options)」を開きます。
2. 「フロー (Flows)」リストから、追加の声部内に小節休符を表示または非表示にするフローを選択します。  
初期設定では、現在のフローのみを選択した状態のダイアログが表示されます。他のフローを選択するには、アクションバーの「すべて選択 (Select All)」をクリックするか、複数のフローをまたぐようにクリックしてドラッグするか、**[Shift]** を押しながら隣接するフローをクリックするか、**[Ctrl]/[command]** を押しながら個々のフローをクリックします。
3. カテゴリーリストの「休符 (Rests)」をクリックします。
4. 「追加の声部内の休符 (Rests in Additional Voices)」セクションの「追加の声部内の小節休符 (Bar rests in additional voices)」で、以下のオプションからいずれかを選択します。
  - 小節休符を表示 (Show bar rests)
  - 小節休符を省略 (Omit bar rests)
5. 必要に応じて、各声部の空白の小節に小節休符を表示するには、「休符の配置 (Rest Positioning)」セクションにある「対立する声部で同じ位置にある同じ長さの休符 (Coincident rests of the same duration in opposing voices)」で「すべての休符をそれぞれの声部で表示 (Show every rest in each voice)」を選択します。
6. 「適用 (Apply)」をクリックしてから「閉じる (Close)」をクリックします。

#### 結果

「小節休符を表示 (Show bar rests)」を選択すると、選択したフローの追加の声部の音符および明示的な休符の間に小節休符が表示され、「小節休符を省略 (Omit bar rests)」を選択すると非表示になります。

#### 補足

- 「小節休符を表示 (Show bar rests)」を選択しても、追加の声部内の最初の音符または明示的な休符の前にある、空白の小節には小節休符が自動的に表示されません。最初の小節から始まらない追加の声部の場合は、最初の小節に小節休符を手動で入力する必要があります。
- 「小節休符を省略 (Omit bar rests)」を選択しても、各譜表の第 1 声部の小節休符は非表示になりません。

#### 関連リンク

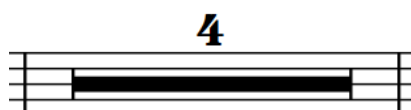
[休符のフローごとの記譜オプション \(1643 ページ\)](#)



[暗黙の休符と明示的な休符 \(1641 ページ\)](#)  
[複数の声部への音符の入力 \(257 ページ\)](#)  
[特定の声部に小節休符を入力する \(273 ページ\)](#)

## 長休符

長休符は 2 つ以上の連続した空白の小節をグループ化して 1 つにまとめます。これは通常タチエツトバーと呼ばれる、譜表の第 3 線上の太い水平線で表示されます。これには、複数の空白小節によって占められる水平方向のスペースが削減され、プレイヤーが楽譜上の位置を把握しやすくなる効果があります。



空白の小節 4 つを示す長休符

### 補足

長休符は、その範囲内に組段に付くテキスト、リハーサルマーク、延長記号や休止記号などのアイテムがあると、その位置で自動的に分割されます。アイテムが長休符の最初の小節の開始位置にある場合、その小節は後に続く長休符と一体のままです。

Dorico Pro では、レイアウトごとに個別に長休符の表示/非表示を切り替えられます。また、その下の小節番号の範囲表示の表示/非表示を切り替えられます。

初期設定では、長休符の小節数は大譜表のインストゥルメントの譜表の間に 1 回だけ表示されます。

長休符のプロジェクト全体の外観、デザイン、幅および内容を設定するオプションは、「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**休符 (Rests)**」ページにあります。

### 関連リンク

[長休符における小節番号の範囲を表示/非表示にする \(1097 ページ\)](#)  
[長休符の分割 \(1653 ページ\)](#)  
[「浄書オプション \(Engraving Options\)」ダイアログ \(923 ページ\)](#)

## 長休符を表示/非表示にする

長休符の表示/非表示はレイアウトごとに個別に切り替えることができます。また、1 小節リピート記号を統合するかどうかを選択できます。たとえば、フルスコアレイアウトでは長休符を非表示にして、パートレイアウトでは表示させるということができます。

### 手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[L]** を押して「**レイアウトオプション (Layout Options)**」を開きます。
2. 「**レイアウト (Layouts)**」リストから、長休符を表示または非表示にするレイアウトを選択します。  
初期設定では、楽譜領域で選択されているものと同じレイアウトが選択された状態のダイアログが表示されます。他のレイアウトを選択するには、アクションバーの選択オプションを使用するか、複数のレイアウトをまたぐようにクリックしてドラッグするか、**[Shift]** を押しながら隣接するレイアウトをクリックするか、**[Ctrl]/[command]** を押しながら個々のレイアウトをクリックします。
3. カテゴリーリストの「**プレイヤー (Players)**」をクリックします。

4. 「**小節休符と長休符 (Bar Rests and Multi-bar rests)**」セクションの「**統合 (Consolidate)**」で、以下のいずれかのオプションを選択します。
  - なし (None)
  - 長休符 (Multi-bar Rests)
  - 長休符と小節リピート記号 (Multi-bar Rests and Bar Repeats)
5. 「**適用 (Apply)**」をクリックしてから「**閉じる (Close)**」をクリックします。

#### 結果

- 「**なし (None)**」を選択した場合、選択したレイアウトに長休符は表示されず、空白の小節が個別に表示されます。
- 「**長休符 (Multi-bar Rests)**」を選択した場合、選択したレイアウトの隣接するすべての空白の小節が、長休符に統合されます。ただし小節リピート記号については、その領域中に一切の音符がなかったとしても、長休符の形に統合はされません。
- 「**長休符と小節リピート記号 (Multi-bar Rests and Bar Repeats)**」を選択した場合、選択したレイアウトの隣接する空白の小節または1小節リピート記号だけの小節のすべてが、長休符の形に統合されます。統合された1小節リピート記号の上にも、長休符の小節数が表示されます。

#### ヒント

1小節の小節休符のタセットバーと小節数の表示/非表示の切り替えは、「**浄書オプション (Engraving Options)**」 > 「**休符 (Rests)**」 > 「**長休符 (Multi-bar Rests)**」で行なえます。

#### 関連リンク

[小節リピート記号 \(1610 ページ\)](#)

[長休符における小節番号の範囲を表示/非表示にする \(1097 ページ\)](#)

[「浄書オプション \(Engraving Options\)」ダイアログ \(923 ページ\)](#)

## 長休符におけるフローの終了位置の「**tacet al fine**」を表示/非表示にする

プロジェクトのすべてのレイアウトのフローの終端まで延びる長休符の外観を変更できます。初期設定では、フローの終端まで延びる長休符は「**tacet al fine**」を小節数の合計の上ではなく、譜表の上に表示します。

#### 手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[E]** を押して「**浄書オプション (Engraving Options)**」を開きます。
2. カテゴリーリストの「**休符 (Rests)**」をクリックします。
3. 「**長休符 (Multi-bar Rests)**」セクションの「**外観 (Appearance)**」サブセクションで、「**フローの終端まで延びる長休符 (Multi-bar rests that extend to the end of the flow)**」から以下のいずれかのオプションを選択します。
  - 「**tacet al fine**」を表示 (Show **tacet al fine**)
  - 小節の数を表示 (Show bar count)
4. 必要に応じて、「**フローの終わりに「tacet al fine」を表示する空白の小節数の最小値 (Minimum number of bars' rest at the end of flow to show 'tacet al fine')**」の値を変更します。
5. 「**適用 (Apply)**」をクリックしてから「**閉じる (Close)**」をクリックします。

#### 結果

長休符のフローの終わりの外観がプロジェクト全体で変更されます。「**フローの終わりに「tacet al fine」を表示する空白の小節数の最小値 (Minimum number of bars' rest at the end of flow to**

show 'tacet al fine')」の値を変更すると、設定した以上の小節数を持つ長休符にのみ tacet al fine が表示されるようになります。

関連リンク

[「浄書オプション \(Engraving Options\)」ダイアログ \(923 ページ\)](#)  
[タレット \(795 ページ\)](#)

## 1 小節の小節休符の小節数を表示/非表示にする

初期設定では、長休符に表示されるのと同じスタイルで 1 小節の小節休符には小節数が表示されません。プロジェクト全体のすべての 1 小節の小節休符で小節数を表示/非表示にできます。

---


手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[E]** を押して「**浄書オプション (Engraving Options)**」を開きます。
  2. カテゴリーリストの「**休符 (Rests)**」をクリックします。
  3. 「**長休符 (Multi-bar Rests)**」セクションの「**外観 (Appearance)**」サブセクションで、「**1 小節分休む場合の小節数の表示: (Bar count for single bar rests)**」から以下のいずれかのオプションを選択します。
    - **小節の数を表示 (Show bar count)**
    - **小節数なし (No bar count)**
  4. 「**適用 (Apply)**」をクリックしてから「**閉じる (Close)**」をクリックします。
- 

## 長休符のタレットバーの幅を変更する

プロジェクト全体の設定とは別に、長休符のタレットバーの幅を個別に変更できます。これにより、長休符の正確な位置を制御できます。たとえば、長休符の終了位置に音部変更記号がある場合などです。

前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。
- 下ゾーンのツールバーで「**プロパティ (Properties)**」 を選択しておきます。
- 浄書ツールボックスで「**グラフィックの編集 (Graphic Editing)**」 を選択しておきます。

---

手順

1. 浄書モードで、幅を変更する長休符を選択します。
  2. プロパティパネルの「**長休符 (Multi-bar Rests)**」グループで、「**タレットバーの幅 (H-bar width delta)**」をオンにします。
  3. 数値フィールドの値を変更します。
- 

結果

選択したタレットバーの幅が変更されます。値を大きくすると幅が広がり、小さくすると狭くなります。

ヒント

タレットバーを小節線間に挿入するか、小節の幅に関係なく固定の幅を使用するかの変更を含め、プロジェクト全体のすべてのタレットバーのデフォルトの幅は、「**浄書オプション (Engraving Options)**」>「**休符 (Rests)**」>「**長休符 (Multi-bar Rests)**」>「**デザイン (Design)**」で変更できます。

---

関連リンク

[浄書ツールボックス \(554 ページ\)](#)


[プロパティパネル \(826 ページ\)](#)

[配置設定 \(784 ページ\)](#)

## 長休符のタセットバーを移動する

プロジェクト全体の設定とは別に、長休符のタセットバーを水平方向に個別に移動できます。これにより、長休符の正確な位置を制御できます。たとえば、長休符の終了位置に音部変更記号がある場合などです。

前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。
- 下ゾーンのツールバーで「**プロパティ (Properties)**」を選択しておきます。
- 浄書ツールボックスで「**グラフィックの編集 (Graphic Editing)**」を選択しておきます。

---

手順

1. 浄書モードで、移動する長休符を選択します。
2. プロパティパネルの「**長休符 (Multi-bar Rests)**」グループで、「**タセットバーの X オフセット (H-bar X offset)**」をオンにします。
3. 数値フィールドの値を変更します。

---

結果

選択したタセットバーが水平方向に移動します。値を増やすとタセットバーが右に移動し、減らすと左に移動します。

ヒント

長休符の開始位置/終了位置にあるアイテムがその水平方向の位置に影響するかどうかを含め、プロジェクト全体のすべてのタセットバーのデフォルトの幅と位置は、「**浄書オプション (Engraving Options)**」 > 「**休符 (Rests)**」 > 「**長休符 (Multi-bar Rests)**」で変更できます。

## 長休符の小節数の位置を変更する

長休符の小節数の位置は、譜表の上または下に変更できます。大譜表を使用するインストゥルメントについては、小節数を譜表の間に一度だけ表示するか、各譜表の上または下に表示するか選択できます。

---

手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[E]** を押して「**浄書オプション (Engraving Options)**」を開きます。
2. カテゴリリストの「**休符 (Rests)**」をクリックします。
3. 「**長休符 (Multi-bar Rests)**」セクションの「**外観 (Appearance)**」サブセクションで、「**単一の譜表のインストゥルメントにおける小節数の位置 (Placement for bar count on single staff instruments)**」から以下のいずれかのオプションを選択します。
  - 上 (Above)
  - 下 (Below)
4. 「**大譜表における小節数の表示: (Bar count on grand staff instruments)**」で、以下のいずれかのオプションを選択します。
  - 譜表間に表示 (Show between staves)

- 各譜表の上または下 (Show above or below each staff)

5. 「適用 (Apply)」をクリックしてから「閉じる (Close)」をクリックします。

## 長休符の小節数に使用するフォントの変更

初期設定では、長休符の小節数は太字のアラビア数字フォントを使用し、これは拍子記号の数字に近い外観です。長休符の小節数に使用されるフォントは、プロジェクト全体で変更できます。

### 手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[E]** を押して「**浄書オプション (Engraving Options)**」を開きます。
2. カテゴリーリストの「**休符 (Rests)**」をクリックします。
3. 「**長休符 (Multi-bar Rests)**」セクションの「**デザイン (Design)**」サブセクションで、「**小節数の外観 (Bar count appearance)**」から以下のいずれかのオプションを選択します。
  - **音楽フォント (Music font)**
  - **プレーンフォント (Plain font)**
4. 「**適用 (Apply)**」をクリックしてから「**閉じる (Close)**」をクリックします。

### 結果

長休符の小節数に使用されるフォントスタイルがプロジェクト全体で変更されます。

### ヒント

長休符の小節数に使用するフォントスタイルのさまざまな設定は「**フォントスタイルを編集 (Edit Font Styles)**」ダイアログで編集できます。これによりたとえばフォントを斜体にしたり、フォントサイズを変更したりできます。

- 音楽フォントの小節数は「**長休符の小節数用フォント (Multi-bar Rest Bar Count Font)**」が使用されますが、これは SMuFL 準拠である必要があります。
- プレーンフォントの小節数は「**長休符の小節数用プレーンフォント (Multi-bar Rest Bar Count Plain Font)**」が使用されます。

### 関連リンク

[「フォントスタイルを編集 \(Edit Font Styles\)」ダイアログ \(930 ページ\)](#)


## 長休符の分割

長休符は、楽譜中に余分な記譜を一切行わずに手動で分割できます。長休符の分割は、フルスコアやパート譜など、プロジェクトのすべてのレイアウトに影響を与えます。

### 補足

長休符は、その範囲内に組段に付くテキスト、リハーサルマーク、延長記号や休止記号などのアイテムがあると、その位置で自動的に分割されます。

### 前提条件

- 長休符を分割する位置の小節にアイテムが存在している、または長休符が非表示になっているレイアウトを楽譜領域に開いておきます。長休符の中での位置は選択できません。
- 浄書ツールボックスで「**グラフィックの編集 (Graphic Editing)**」を選択しておきます。

---

手順

1. 浄書モードで、長休符を分割する位置にあるアイテムを選択します。
  2. 「**浄書 (Engrave)**」 > 「**長休符を分割 (Split Multi-bar Rest)**」を選択します。
- 

結果

すべてのレイアウトのすべての長休符が選択した位置で分割されます。長休符を分割した位置には、ガイドが表示されます。

関連リンク

[浄書ツールボックス \(554 ページ\)](#)

[ガイドの表示/非表示の切り替え \(491 ページ\)](#)

[長休符を表示/非表示にする \(1649 ページ\)](#)

[レイアウトの切り替え \(47 ページ\)](#)

# スラー

スラーは先細の曲線であり、それがつないだ音符をレガートのアーティキュレーションおよびフレージングで演奏することを示します。

スラーは、状況やインストゥルメントにより、ただフレーズを示す以上の意味を持つ場合があります。たとえば木管楽器のプレーヤーに対しては、スラーはフレーズ中のすべての音符をすべて一息で、タンギングやアーティキュレーションの付け直しを行わずに演奏することを示します。弦楽器のプレーヤーに対しては、スラーはフレーズ中のすべての音符をレガートで、一弓で演奏することを示します。歌手に対しては、スラーは同じ音節を2つ以上の音符で歌うことを示します。



譜表上下のスラーおよび譜表をまたぐスラー

Dorico Pro では、スラーの範囲内の音符に基づいてスラーの適切な終端の位置とカーブ方向が自動的に決定されますが、手動で変更することもできます。

入れ子状のスラーをいくつでも入力できます。

## 補足

スラーをタイと混同しないよう注意してください。見た目は似ていますが、タイは同じピッチの音符を一息で演奏することを示します。そういった意味でタイはリズム記号として、スラーはアーティキュレーションとして捉えることができます。

## 関連リンク

- [スラーの入力 \(299 ページ\)](#)
- [入れ子状のスラーを入力する \(1670 ページ\)](#)
- [タイとスラー \(1777 ページ\)](#)
- [譜表および声部をまたぐスラー \(1669 ページ\)](#)
- [エリジョンスラー \(1386 ページ\)](#)
- [再生時のスラー \(1683 ページ\)](#)
- [スラーの終端の位置 \(1658 ページ\)](#)
- [スラーのカーブ方向 \(1667 ページ\)](#)
- [タイのつながりに対するスラーの位置を変更する \(1656 ページ\)](#)
- [浄書オプションでアーティキュレーションの設定をプロジェクト全体に適用する \(1065 ページ\)](#)
- [「MIDI インポートオプション \(MIDI Import Options\)」 ダイアログ \(95 ページ\)](#)

## 浄書オプションでスラーの設定をプロジェクト全体に適用する

「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**スラー (Slurs)**」ページでは、スラーの外観、位置および配置を設定しプロジェクト全体に適用できます。

「**スラー (Slurs)**」ページのオプションを使用すると、スラーの方向、スタイル、高さ、および線の太さを変更できます。また、符頭、符尾、符尾の符鉤、装飾音符およびタイに対するスラーの位置に関する詳細な値を設定し、譜表をまたぐスラーの衝突回避に関する動作を変更できます。

多くのオプションに、オプションを楽譜に適用したときにどのように表示されるかを示す図があります。

関連リンク

[「浄書オプション \(Engraving Options\)」ダイアログ \(923 ページ\)](#)

## スラーの一般的な配置規則

スラーの配置、終端の位置、形状、カーブ方向には、状況に応じてさまざまな表記規則があります。

関連リンク

[スラーの終端の位置 \(1658 ページ\)](#)

[大きなピッチ差をつなぐ短いスラー \(1662 ページ\)](#)

[組段およびフレーム区切りをまたぐスラー \(1660 ページ\)](#)

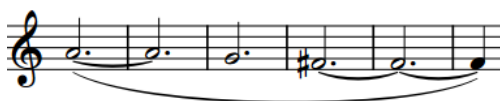
[スラーのカーブ方向 \(1667 ページ\)](#)

## タイのつながりに対するスラーの位置

タイのつながりに対するスラーの位置に関しては、現在使用される楽譜と歴史的な出版物とで異なる表記規則があります。

近代的な表記規則では、タイのつながりの最初の音符からスラーが始まり、タイのつながりの最後の音符で終わります。この表記では、フレーズ全体の長さが演奏者に視覚的にはっきり伝わり、演奏を助けます。Dorico Pro のデフォルトです。

一方、歴史的な出版物においては、スラーはタイのつながりの最初の音符で終わり、タイのつながりの最後の音符から始まる場合があります。この違いにより、スラーが短くなって譜表の上下に広がる幅が抑えられるため、垂直方向のスペースが節約されます。



タイのつながりの最初の音符から始まり最後の音符で終わるスラー




タイのつながりの最後の音符から始まり最初の音符で終わるスラー


## タイのつながりに対するスラーの位置を変更する

タイのつながりに対するスラーの位置は個別に変更できます。これは、装飾音符からはじまるスラーも同様です。たとえば、タイのつながりの最後の音符から始まり、タイのつながりの最初の音符で終わるスラーは短くなり、垂直方向のスペースも少なくて済みます。

前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。
- 下ゾーンのツールバーで「**プロパティ (Properties)**」を選択しておきます。



- 浄書モードの場合は、浄書ツールボックスで「**グラフィックの編集 (Graphic Editing)**」を選択しておきます。

---

#### 手順

1. タイのつながりに対する位置を変更するスラーを選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「**スラー (Slurs)**」グループで、以下のプロパティを片方または両方ともオンにします。
  - **タイのつながりでの開始位置 (Start pos. in tie chain)**
  - **タイのつながりでの終了位置 (End pos. in tie chain)**
3. 各プロパティに以下のいずれかのオプションを選択します。
  - **最初の音符 (First note)**
  - **最後の音符 (Last note)**

---

#### 結果

タイのつながりに対する選択したスラーの位置が変更されます。

#### ヒント

タイのつながりに対するすべてのスラーのデフォルト位置のプロジェクト全体の設定は、「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**スラー (Slurs)**」ページで変更できます。標準の音符間のスラーと装飾音符から始まるスラーとは、異なるオプションが用意されています。

## 装飾音符に対するスラーの位置

スラーが装飾音符から始まり装飾音符の直後の標準の音符で終わる場合、スラーに影響する特定の配置ルールがあります。

ルールは以下になります。

- スラーは符尾ではなく符頭を接続します。
- スラーは装飾音符の比率に合わせて縮小されます。
- スラーは加線を覆い隠してはいけません。
- スラーは、音符の下に配置したとき標準の音符の臨時記号に衝突するような場合は、音符の上に配置されます。

特別な配置ルールそれぞれのパラメーターの値は、「**浄書オプション (Engraving Options)**」 > 「**スラー (Slurs)**」 > 「**装飾音符 (Grace Notes)**」で調節できます。たとえば、装飾音符のスラー右端の、それが接続される縮小なしの標準の符頭に対する垂直および水平方向のオフセットを変更できます。

#### 補足

これらのルールは、スラーが装飾音符の直後の音符を超えた位置にある標準の音符までつながる場合は適用されません。

---

一般的な配置規則に従い、Dorico Pro のデフォルトにおいてスラーは装飾音符の下に下向きのカーブで表示されます。装飾音符から始まるスラーが音符の上に上向きのカーブで表示されるのは、複声部における符尾が上向きの声部のみです。



単一の声部における装飾音符のスラーのカーブ方向



複声部における装飾音符のスラーのカーブ方向

装飾音符のスラーの自動配置に対する変更としては、装飾音符の符尾の方向の変更、スラーの向きの変更、および浄書モードのスラーのハンドルを使用したより精密なスラーの位置調整が行なえます。

関連リンク

[スラーのカーブ方向を変更する \(1668 ページ\)](#)

[音符の符尾の方向を個別に変更する \(1418 ページ\)](#)

[装飾音符の一般的な配置規則 \(1327 ページ\)](#)

[浄書モードのスラー \(1675 ページ\)](#)

[スラーの形状と角度の変更 \(1677 ページ\)](#)

## 譜表線に対するスラーの位置

スラーの終端は譜表線に触れてはならず、またスラーの弧の頂点は譜表線上に来てはなりません。

これが表記規則となっているのは、頂点が譜表線上に来るスラーは、譜表線とスラーのカーブによって三角形のくさび型を形成する場合がありますからです。スラーの頂点が譜表線上にある場合は、頂点が譜表の上か下に出るように高さを調節できます。

### 補足

Dorico Pro は自動的にスラーの終端が譜表線に触れないようにしますが、スラーの頂点を適切に配置するには手動の調節が必要な場合があります。

スラーの終端と譜表線との最小距離の値は、「**浄書オプション (Engraving Options)**」 > 「**スラー (Slurs)**」 > 「**衝突の回避 (Avoiding Collisions)**」で設定できます。スラーの終端のデフォルト位置は、開始位置/終了位置が譜表線に触れることのないように、譜表線に対し上か下に 1/4 スペースの距離となっています。

関連リンク

[「浄書オプション \(Engraving Options\)」ダイアログ \(923 ページ\)](#)

[スラーの高さを変更する \(1680 ページ\)](#)

## スラーの終端の位置

衝突を回避するために、スラーの終端のデフォルト位置は、スラーが音符の符頭側と符尾側どちらに位置するか、譜表線に対する位置、そしてアーティキュレーション、タイ、他のスラーが同じ位置にあるかどうかによって変化します。

### 符頭および符尾に対するスラーの終端の位置

符頭に対するスラーの終端のデフォルト位置は、譜表の間上にある符頭の 1/2 スペース上、および譜表の線上にある符頭の 1/4 スペース上になります。

連符のない音符の符尾側にある場合、スラーは符尾の間に表示され、デフォルトの設定では、スラーの終端は符尾の端から少し距離を取って接続されます。



連桁のない音符の符尾の間のスラー

プロジェクト全体のすべてのスラーの終端の垂直および水平方向のオフセットは、「**浄書オプション (Engraving Options)**」 > 「**スラー (Slurs)**」 > 「**終端の位置 (Endpoint Positioning)**」で変更できます。ただし、スラーの終端は「**衝突の回避 (Avoiding Collisions)**」のセクションの「**衝突回避のためのスラー内側の最小間隔 (Minimum gap inside slur curvature to avoid collisions)**」の値よりも符頭に近づくことができないため、この値も小さくしなければならない場合があります。

### 符尾の向きが異なる音符に対するスラーの終端

Dorico Pro の初期設定では、複数の譜表にまたがる場合も含め、スラーの形状とカーブ方向に上昇または下降するフレーズのピッチの起伏が反映されるように、符尾の向きが異なる音符間のスラーの終端は符頭の近くに配置されます。



スラーの終端が符頭の近くに配置された状態



スラーの終端が符尾の先端近くに配置された状態

スラーの終端を符頭の近くに配置するか符尾の先端近くに配置するかは、「**浄書オプション (Engraving Options)**」 > 「**スラー (Slurs)**」 > 「**終端の位置 (Endpoint Positioning)**」で変更できます。

### アーティキュレーションに対する終端の位置

初期設定では、強弱および強調のアーティキュレーションはスラーの終端より外側に配置されますが、デュレーションのアーティキュレーションは内側に配置され、終端を押し出します。たとえば、アクセント記号や強調記号はスラー両端より外側に配置されますが、スタッカート記号やテヌート記号はスラー両端より内側に表示されます。

スラーは、スラーの途中にある音符のアーティキュレーションより外側に配置されます。

#### ヒント

プロジェクト全体のスラー終端に対するすべてのアーティキュレーションのデフォルトの配置は、「**浄書オプション (Engraving Options)**」 > 「**アーティキュレーション (Articulations)**」 > 「**スラー (Slurs)**」で変更できます。

### タイおよび他のスラーに対するスラーの終端の位置

スラーの終端の、同じ音符で開始するまたは終了するスラーに対するデフォルト位置は、1/4 スペース上になります。

この値は「**浄書オプション (Engraving Options)**」 > 「**スラー (Slurs)**」 > 「**衝突の回避 (Avoiding Collisions)**」で変更できます。

タイでつながれた音符にスラーの表示位置を近づけるには、スラーの終端の符頭に対する位置を調整します。

#### 関連リンク

[「浄書オプション \(Engraving Options\)」ダイアログ \(923 ページ\)](#)

- 浄書モードのスラー (1675 ページ)
- スラーの形状と角度の変更 (1677 ページ)
- 譜表および声部をまたぐスラー (1669 ページ)
- 入れ子状のスラー (1670 ページ)
- 符尾の方向 (1416 ページ)
- アーティキュレーション (1064 ページ)
- スラーに対するアーティキュレーションの位置を変更する (1069 ページ)

## 組段およびフレーム区切りをまたぐスラー

スラーは組段区切りおよびフレーム区切りを自動的にまたぎ、2 つに分割されて区切りの両側に表示されます。

初期設定では、組段区切りまたはフレーム区切りをまたぐスラーの終端は、区切り前後のフレーズのピッチの起伏に応じて、外側の譜表線よりも 1/2 スペース以上外側の適切な位置に配置されます。つまり、これによって区切り後にフレーズが上昇するか下降するかを示します。

区切りで分割されるフレーズに入れ子状のスラーが含まれるような場合など、複数のスラーが同じ組段区切りまたはフレーム区切りをまたぐ場合は、スラーの終端は自動的に揃えて重ねられ、垂直に 1/2 スペース以上の間隔を空けられます。



スラーの前半部分を表示する組段の終わり。右側の終端は次の組段への延長を示しています。



スラーの広範部分を表示する組段の始まり。左側の終端は前の組段から延長してきたことを示しています。

フレーズの起伏に応じてスラーの終端の垂直方向の位置を調整するかどうかは、「**浄書オプション (Engraving Options)**」 > 「**スラー (Slurs)**」 > 「**終端の位置 (Endpoint Positioning)**」で設定できます。

浄書モードでは、スラーのそれぞれの部分を個別に移動および編集できます。これにより、スラーのそれぞれの部分の開始位置または終了位置の高さを、組段ごとに個別に調整できます。

## スラーの衝突回避

Dorico Pro は初期設定では、スラーと弧内のアイテムとの衝突を回避するように、形状と位置を自動的に調整します。

つまりある符頭が、上向きにカーブするスラーの中で他より高い位置にある場合、または下向きにカーブするスラーの中で他より低い位置にある場合、衝突を回避しつつ符頭がスラー内に収まるように、スラーのカーブが調整されます。衝突回避は個々のスラーにおいて手動で無効にできます。

「**浄書オプション (Engraving Options)**」 > 「**スラー (Slurs)**」 > 「**衝突の回避 (Avoiding Collisions)**」では、衝突回避のためにスラーを調整する方法を変更できます。これには、調整におけるスラーの形状の変更と終端の移動のバランスの選択や、左右非対称なスラーを認めるかどうかなどが含まれます。



衝突回避が有効化されたスラー (デフォルト)



衝突回避が無効化されたスラー

## 譜表をまたぐスラーの衝突回避

「浄書オプション (Engraving Options)」 > 「スラー (Slurs)」 > 「衝突の回避 (Avoiding Collisions)」では、譜表をまたぐスラーの衝突回避をオンまたはオフにできます。譜表をまたぐスラーの衝突回避をオンにすると、音符が譜表をまたぐ位置に応じて譜表をまたぐスラーのカーブが調整されます。ほとんどの場合、これによってスラーの形状が改善されます。

### 補足

- 譜表をまたぐスラーの配置は複雑さが増すため、浄書モードにおける手動の調整がさらに必要となる場合があります。
- 譜表間の S 字型スラーは衝突回避を一切行わないため、これらの設定は適用されません。

## フラットの臨時記号を二分するスラー

出版される楽譜における記譜規則に従えば、スラーは垂直方向のスペースを抑えるためにフラットの臨時記号の棒を二分できますが、シャープやナチュラルを二分できません。



「浄書オプション (Engraving Options)」の「スラー (Slurs)」ページでは、スラーによるフラット記号の二分の禁止を選択したり、フラット記号の棒がスラーの上に突き抜ける最大量を変更したりできます。

### 関連リンク

[譜表および声部をまたぐスラー \(1669 ページ\)](#)

[臨時記号 \(1051 ページ\)](#)

## スラーの衝突回避を有効化/無効化する

個々のスラーについて、プロジェクト全体の設定より優先される形で、衝突回避のための自動調整を有効化/無効化できます。この操作は現在のレイアウトとフレームチェーンのみに対して、もしくはすべてのレイアウトとフレームチェーンに対して行なえます。

### 前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。
- 下ゾーンのツールバーで「プロパティ (Properties)」を選択しておきます。
- 浄書ツールボックスで「グラフィックの編集 (Graphic Editing)」を選択しておきます。
- ローカルのプロパティ変更に関して、適切なプロパティ範囲を選択しておきます。

### 手順

1. 浄書モードで、衝突回避を有効化または無効化するスラーを選択します。

2. プロパティパネルの「スラー (Slurs)」グループで「衝突を回避 (Avoid collisions)」をオン/オフにします。
3. 対応するチェックボックスをオン/オフにします。

#### 結果

チェックボックスをオンにすると選択したスラーは衝突を回避し、オフにすると回避しません。プロパティ範囲を「ローカル (Locally)」に設定している場合、この変更は現在のレイアウトおよびフレームチェーンのみに影響します。

このプロパティをオフにすると、スラーはスラーの衝突回避に対するプロジェクト全体の設定に従います。

#### ヒント

プロジェクト全体の譜表をまたぐスラーすべての衝突回避については、「**浄書オプション (Engraving Options)**」 > 「スラー (Slurs)」 > 「**衝突の回避 (Avoiding Collisions)**」で有効化/無効化できます。

またこのセクションでは、衝突回避を行なうスラーの形状および終端の位置に関するデフォルト設定のカスタマイズも行なえます。

#### 関連リンク

[「浄書オプション \(Engraving Options\)」ダイアログ \(923 ページ\)](#)

[浄書ツールボックス \(554 ページ\)](#)

[プロパティ範囲の変更 \(828 ページ\)](#)

[プロパティ設定を別のレイアウト/フレームチェーンにコピーする \(825 ページ\)](#)

## 大きなピッチ差をつなぐ短いスラー

短いスラーが大きなピッチ差をつなぐときは、釣り合いを取るために大きく回転します。これにより、短いスラーの終端が過度に角ばってしまう場合があります。

スラーの制御ポイントのハンドルを動かして、カーブを調整できます。

3つの例のうち、真ん中のスラーが最もスムーズなカーブになっています。右側のスラーはハンドルの調整が不適切なため、カーブが過度に角ばっています。

下段にはハンドルの位置が表示され、それぞれの上段のカーブがどのように作成されているか示しています。



大きなピッチ差をつなぐ短いスラー、調整なし



同じスラーの形状を調整し、カーブをスムーズにしたもの



同じスラーへの調整が不適切で、カーブが過度に角ばっているもの



デフォルトのハンドルの位置



対応するスラーを形成するハンドルの位置



対応するスラーを形成するハンドルの位置

## ヒント

スラーの終端を調整するときは、以下の指針に従うと最良の結果が得られます。

- スラーの低い側の制御ポイントが、その隣の終端のハンドルが示すスラーの幅の外側にはみ出さないこと。
- スラーの高い側の制御ポイントが、終端に対し 90 度より大きい角度をつくらないこと。角度の判断には破線を使用できます。

短いスラーの終端の形状調整には別のやり方もあります。

- 「**浄書オプション (Engraving Options)**」 > 「**スラー (Slurs)**」 > 「**デザイン (Design)**」 > 「**詳細設定 (Advanced Options)**」で「**短いスラーの半分の長さ x 次の分数の値で肩をオフセット (Offset shoulders by fraction of half length of short slur)**」の値を大きくすることで調整し、プロジェクト全体に適用できます。
- 浄書モードのプロパティパネルで「**開始ハンドルオフセット (Start handle offset)**」および「**終了ハンドルオフセット (End handle offset)**」をオンにし、「**X**」の値を変更することで、個別に調整できます。
- 浄書モードのスラーのハンドルを動かすことで、個別に調整できます。

関連リンク

[浄書モードのスラー \(1675 ページ\)](#)

[スラーの肩のオフセット \(1681 ページ\)](#)

[スラーの形状と角度の変更 \(1677 ページ\)](#)

## スラーのスタイル

Dorico Pro ではさまざまなスタイルのスラーが利用でき、それぞれ異なる意味を示すとともに異なる状況で使用されます。

### 実線 (Solid)

これはスラーのデフォルトのスタイルです。先細の実線で表示されるスラーです。先に行くほど細く、中央ほど太くなります。



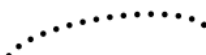
### 破線 (Dashed)

先細の破線で表示されるスラーです。たとえばプレスやボウイングの推奨されるパターンを示すためのオプションのスラーとして使用される場合があります。



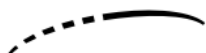
### 点線 (Dotted)

点線で表示されるスラーです。スラー全体の長さによって同サイズの点が等間隔で並びます。



### 前半部分が破線 (Half-dashed start)

スラーの前半が破線で表示され、後半が実線で表示されます。校訂版で、元版ではスラーが不完全な形で記譜されていたことを表現するのに使用されます。



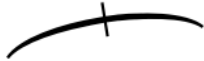
### 後半部分が破線 (Half-dashed end)

スラーの前半が実線で表示され、後半が破線で表示されます。校訂版で、元版ではスラーが不完全な形で記譜されていたことを表現するのに使用されます。



### 編者注 (Editorial)

黒い実線で表示されますが、長さのちょうど半分の位置に短い縦線が、スラーの曲線と垂直に交差しています。スラーが編集者によって追加されたもので、元版にはなかったものであることを示すのに使用されます。



### ヒント

これらのオプションそれぞれの詳細なパラメーターは、「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**スラー (Slurs)**」ページで設定してプロジェクト全体に適用できます。たとえば「**編者注 (Editorial)**」のスラーの短い縦線の長さや幅、点線の点の直径や破線の線の長さ、点線や破線の間隔の大きさなどを変更できます。

---

## スラーのスタイルの変更

個々のスラーは入力後にスタイルを変更できます。これにより、たとえば編者注のスラーを示したり、特定のスラーを破線で表示したりできます。この操作は現在のレイアウトとフレームチェーンのみに対して、もしくはすべてのレイアウトとフレームチェーンに対して行なえます。

### 前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。
- 下ゾーンのツールバーで「**プロパティ (Properties)**」を選択しておきます。
- 浄書モードの場合は、浄書ツールボックスで「**グラフィックの編集 (Graphic Editing)**」を選択しておきます。
- ローカルのプロパティ変更に関して、適切なプロパティ範囲を選択しておきます。

### 手順

1. スタイルを変更するスラーを選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「**スラー (Slurs)**」グループで、「**スタイル (Style)**」をオンにします。
3. メニューから以下のいずれかのオプションを選択します。
  - **実線 (Solid)**
  - **破線 (Dashed)**
  - **点線 (Dotted)**
  - **前半部分が破線 (Half-dashed start)**
  - **後半部分が破線 (Half-dashed end)**
  - **編者注 (Editorial)**

### 結果

選択したスラーのスタイルが変更されます。プロパティ範囲を「**ローカル (Locally)**」に設定している場合、この変更は現在のレイアウトおよびフレームチェーンのみに影響します。



関連リンク

[浄書ツールボックス \(554 ページ\)](#)

[プロパティ範囲の変更 \(828 ページ\)](#)

[プロパティ設定を別のレイアウト/フレームチェーンにコピーする \(825 ページ\)](#)

## スラーの破線/点線のサイズを個別に変更する

破線/点線のスラーの破線の長さや点の大きさは、プロジェクト全体の設定より優先される形で個別に変更できます。この操作は現在のレイアウトとフレームチェーンのみに対して、もしくはすべてのレイアウトとフレームチェーンに対して行なえます。

### 補足

これらの手順は破線/点線のスラーにのみ適用されます。

### 前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。
- 下ゾーンのツールバーで「**プロパティ (Properties)**」を選択しておきます。
- 浄書ツールボックスで「**グラフィックの編集 (Graphic Editing)**」を選択しておきます。
- ローカルのプロパティ変更に関して、適切なプロパティ範囲を選択しておきます。

### 手順

1. 浄書モードで、破線の長さ/点の大きさを変更する破線/点線のスラーを選択します。
2. プロパティパネルの「**スラー (Slurs)**」グループで、以下のいずれかのプロパティをオンにします。
  - 破線のスラーの場合は、「**破線の長さ (Dash length)**」をオンにします。
  - 点線のスラーの場合は、「**点の大きさ (Dot size)**」をオンにします。
3. 数値フィールドの値を変更します。

### 結果

値を大きくすると破線が長く、点が大きくなり、値を小さくすると破線が短く、点が小さくなります。プロパティ範囲を「**ローカル (Locally)**」に設定している場合、この変更は現在のレイアウトおよびフレームチェーンのみに影響します。

### ヒント

「**浄書オプション (Engraving Options)**」 > 「**スラー (Slurs)**」 > 「**デザイン (Design)**」 > 「**詳細設定 (Advanced Options)**」では、プロジェクト全体の破線/点線のスラーの破線/点線のデフォルトのサイズを変更できます。

### 関連リンク



[「浄書オプション \(Engraving Options\)」ダイアログ \(923 ページ\)](#)

## 破線/点線のスラーの間隔の大きさを変更する

破線/点線のスラーの間隔の長さは、プロジェクト全体の設定より優先される形で個別に変更できます。この操作は現在のレイアウトとフレームチェーンのみに対して、もしくはすべてのレイアウトとフレームチェーンに対して行なえます。

### 前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。

- 下ゾーンのツールバーで「プロパティ (Properties)」を選択しておきます。
- 浄書ツールボックスで「グラフィックの編集 (Graphic Editing)」を選択しておきます。
- ローカルのプロパティ変更に関して、適切なプロパティ範囲を選択しておきます。

---

#### 手順

1. 浄書モードで、間隔の長さを変更する破線/点線のスラーを選択します。
2. プロパティパネルの「スラー (Slurs)」グループで、以下のいずれかのプロパティをオンにします。
  - 破線のスラーの場合は、「破線の間隔の長さ (Dash gap length)」をオンにします。
  - 点線のスラーの場合は、「点線の間隔の長さ (Dot gap length)」をオンにします。
3. 数値フィールドの値を変更します。

---

#### 結果

値を大きくすると破線/点線の間隔が大きくなります。値を小さくすると破線/点線の間隔が小さくなります。プロパティ範囲を「ローカル (Locally)」に設定している場合、この変更は現在のレイアウトおよびフレームチェーンのみに影響します。

---

#### ヒント

「浄書オプション (Engraving Options)」 > 「スラー (Slurs)」 > 「デザイン (Design)」 > 「詳細設定 (Advanced Options)」では、プロジェクト全体のすべての破線/点線のスラーの破線/点線の間隔のデフォルトの長さを変更できます。

---

## 個々のスラーの平坦なスラーへの変更

標準として使用されることはあまりありませんが、一部の出版社は、スラーが占める垂直方向のスペースを削減するために平坦なスラーを使用します。個々のスラーは、プロジェクト全体の設定より優先される形で、平坦なスラーに個別に変更できます。この操作は現在のレイアウトとフレームチェーンのみに対して、もしくはすべてのレイアウトとフレームチェーンに対して行なえます。

---

#### 補足

少数の音符をつなぐような短いスラーは、平坦なスラーにすると外見が奇妙になる場合があるため、プロジェクト全体で平坦な曲線スタイルを選択するのは適切ではない場合があります。しかし、プロジェクト中で1、2回だけ平坦なスラーを使用するのもまた風変わりだと考えられます。そのため、プロジェクト中の1つか2つのスラーでのみ曲線スタイルを変更することは避けるようおすすめします。

曲線スタイルを変更するよりも、たとえば個々のスラーの太さの変更、スラーの肩のオフセットの調整、またはスラーの高さのハンドルを使用した高さの調整を浄書モードで行なうことの方がより効果的である場合があります。

---

#### 前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。
- 下ゾーンのツールバーで「プロパティ (Properties)」を選択しておきます。
- 浄書モードの場合は、浄書ツールボックスで「グラフィックの編集 (Graphic Editing)」を選択しておきます。
- ローカルのプロパティ変更に関して、適切なプロパティ範囲を選択しておきます。

#### 手順

1. 曲線スタイルを変更するスラーを選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「スラー (Slurs)」グループで、「**曲線タイプ (Curvature type)**」をオンにします。
3. 以下のいずれかのオプションを選択します。
  - **通常 (曲線) (Normal (curved))**
  - **フラット (Flat)**

#### 結果

選択したスラーの曲線スタイルが変更されます。プロパティ範囲を「**ローカル (Locally)**」に設定している場合、この変更は現在のレイアウトおよびフレームチェーンのみに影響します。

#### ヒント

すべてのスラーの曲線スタイルに関するプロジェクト全体の設定は、「**浄書オプション (Engraving Options)**」 > 「**スラー (Slurs)**」 > 「**デザイン (Design)**」で変更できます。

#### 関連リンク

- [スラーの太さを個別に変更する \(1678 ページ\)](#)
- [スラーの高さを変更する \(1680 ページ\)](#)
- [スラーの肩のオフセットを変更する \(1681 ページ\)](#)
- [浄書ツールボックス \(554 ページ\)](#)
- [プロパティ範囲の変更 \(828 ページ\)](#)
- [プロパティ設定を別のレイアウト/フレームチェーンにコピーする \(825 ページ\)](#)

## スラーのカーブ方向

スラーのカーブは上向き、下向き、または複数セグメントによる S 字型の形状を取ります。Dorico Pro では、スラーの範囲内の音符に基づいてスラーの適切なカーブ方向が自動的に決定されますが、手動で変更することもできます。

1 つの譜表におけるスラーは、スラーでつながれる音符の符尾がすべて上向きである場合を除き、常に上向きにカーブして音符の上に配置されます。符尾がすべて上向きである場合は、スラーは下向きにカーブして音符の下に配置されます。スラーでつながれる音符に上向きと下向きの符尾が混在する場合、スラーは譜表の上に配置され、上向きにカーブします。



符尾の方向に従いスラーの方向が変更する例

プロパティパネルの「スラー (Slurs)」のグループの「**方向 (Direction)**」をオンにすると、スラーのカーブ方向に関する以下のオプションが使用できるようになります。

#### 上 (Up)



スラーのカーブ方向を強制的に上向きにして、音符の上に表示します。

### 下 (Down)



スラーのカーブ方向を強制的に下向きにして、音符の下に表示します。

### 上/下 (Up/Down)



スラーに強制的に2つのセグメントを与え、1つめは上向きのカーブ、2つめは下向きのカーブで逆S字型を形成します。通常これはピアノパートの、たとえばフレーズが下段の譜表から始まり上段の譜表で終わるようなときなどに使用されます。

### 下/上 (Down/Up)



スラーに強制的に2つのセグメントを与え、1つめは下向きのカーブ、2つめは上向きのカーブでS字型を形成します。通常これはピアノパートの、たとえばフレーズが上段の譜表から始まり下段の譜表で終わるようなときなどに使用されます。

### ヒント

- スラーが符尾の方向に従うか、それとも常に音符の上に表示されるかは、「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**スラー (Slurs)**」のページで設定できます。
- 浄書モードで各スラーの四角いハンドルを使用することで、個々のスラーおよびスラーの各セグメントの詳細な形状を調整できます。
- ジャズスコアでは、スラーはときにアーティキュレーションとして扱われるため、すべてのスラーを譜表の上に配置するのが好ましい場合があります。

### 関連リンク

[「浄書オプション \(Engraving Options\)」ダイアログ \(923 ページ\)](#)

[組段およびフレーム区切りをまたぐスラー \(1660 ページ\)](#)

[譜表および声部をまたぐスラー \(1669 ページ\)](#)

[浄書モードのスラー \(1675 ページ\)](#)

[スラーのスタイル \(1663 ページ\)](#)

## スラーのカーブ方向を変更する

個々のスラーのカーブ方向は、プロジェクト全体の設定より優先される形で、上向き、下向き、または複数セグメントによるS字型に変更できます。この操作は現在のレイアウトとフレームチェーンのみに対して、もしくはすべてのレイアウトとフレームチェーンに対して行なえます。





### 前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。
- 下ゾーンのツールバーで「**プロパティ (Properties)**」を選択しておきます。
- 浄書モードの場合は、浄書ツールボックスで「**グラフィックの編集 (Graphic Editing)**」を選択しておきます。
- ローカルのプロパティ変更に関して、適切なプロパティ範囲を選択しておきます。

### 手順

1. カーブ方向を変更するスラーを選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「**スラー (Slurs)**」グループで、「**方向 (Direction)**」をオンにします。

3. 以下のいずれかのオプションを選択します。

- 上 (Up) 
- 下 (Down) 
- 上/下 (Up/Down)  (逆 S 字型)
- 下/上 (Down/Up)  (S 字型)

#### 結果

選択したスラーのカーブ方向が変更されます。プロパティ範囲を「ローカル (Locally)」に設定している場合、この変更は現在のレイアウトおよびフレームチェーンのみに影響します。

#### ヒント

- 浄書モードで各スラーのハンドルを使用することで、スラーおよびスラーの各セグメントの詳細な形状を調整できます。
- スラーのデフォルトのカーブ方向をプロジェクト全体で変更するには、「浄書オプション (Engraving Options)」にある「スラー (Slurs)」ページで設定を行ないます。

#### 関連リンク

[浄書モードのスラー \(1675 ページ\)](#)

[スラーの形状と角度の変更 \(1677 ページ\)](#)

[「浄書オプション \(Engraving Options\)」ダイアログ \(923 ページ\)](#)

[浄書ツールボックス \(554 ページ\)](#)

[プロパティ範囲の変更 \(828 ページ\)](#)

[プロパティ設定を別のレイアウト/フレームチェーンにコピーする \(825 ページ\)](#)

## 譜表および声部をまたぐスラー

譜表をまたぐスラーは、ある譜表から始まって別の譜表で終わります。声部をまたぐスラーは、ある声部から始まって別の声部で終わります。



#### 2つのピアノ譜表をまたぐスラー

Dorico Pro は、譜表および声部をまたぐスラーの配置を標準のスラーの配置と同様に行ないます。これには、譜表をまたぐスラーを調整して衝突を回避することも含まれます。

譜表および声部をまたぐスラーの移動および長さの変更は標準のスラーと同様に行なえますが、その動作は同じではありません。たとえば、声部をまたぐスラーは同じ譜表の別の声部には移動できず、また同じ譜表の別の声部への延長もできません。また、声部をまたぐスラーを、そのスラーの開始位置または終了位置とは異なる声部の音符まで延ばす、または縮めることはできません。

譜表をまたぐスラーの移動および長さの変更は、終端が属するのと同じ譜表上の音符へしか行なえません。たとえば、譜表をまたぐスラーが下段の譜表から始まって上段の譜表で終わるフレーズをつなぐ場合、譜表をまたぐスラーを短縮できるのは上段の譜表の最初の音符までで、下段の譜表の音符までは縮められません。

声部をまたぐスラーにおいて、声部は同じ譜表にあっても、異なる譜表にあっても構いません。

関連リンク

[スラーの入力 \(299 ページ\)](#)

[アイテムの長さの変更 \(470 ページ\)](#)

[スラーの衝突回避 \(1660 ページ\)](#)

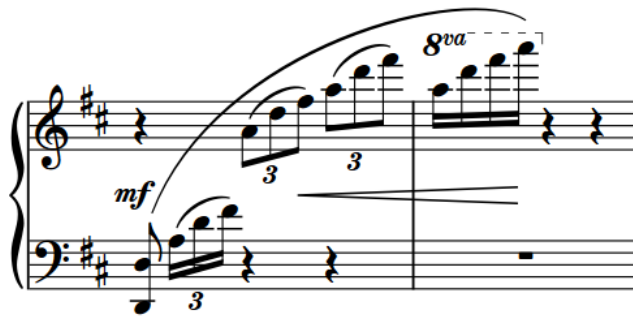
[スラーの終端の位置 \(1658 ページ\)](#)

[音符/アイテムの位置の移動 \(502 ページ\)](#)

## 入れ子状のスラー

入れ子状のスラーでは2つ以上のスラーが同時に使用され、全体にわたるスラーがフレーズの構造を、内側のスラーがフレーズ内のアーティキュレーションを示します。これはスラー内のスラーとも呼ばれます。

全体にわたる外側のスラーの範囲内の音符の符尾の方向、および「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**スラー (Slurs)**」ページの設定に従い、内側のスラーは外側のスラーとは譜表の逆側に表示される場合もあります。



入れ子状のスラーによるフレーズ

入れ子状のスラーの終端同士のデフォルト距離は、「**浄書オプション (Engraving Options)**」 > 「**スラー (Slurs)**」 > 「**衝突の回避 (Avoiding Collisions)**」で変更できます。

入れ子状のスラーは標準のスラーと同様の方法で入力できます。Dorico Pro の初期設定では、衝突を回避するためにこれらの配置が自動的に調整されます。

関連リンク

[スラーの衝突回避 \(1660 ページ\)](#)

[「浄書オプション \(Engraving Options\)」ダイアログ \(923 ページ\)](#)

## 入れ子状のスラーを入力する

入れ子状のスラーは音符の入力中に入力することも、既存の音符に追加することもできます。また、入れ子状のスラーは複数の譜表の既存の音符に同時に追加したり、異なる声部の音符や同じインストゥルメントに属する異なる譜表の音符 (大譜表を用いる楽器の両方の譜表にフレーズがまたがる場合など) に追加したりすることもできます。






---

手順

1. 記譜モードで、以下のいずれかの操作を行ないます。
  - 音符の入力を開始します。
  - 外側のスラーに含める音符を選択します。



#### ヒント

- 音符を1つだけ選択した場合、その音符と譜表上の同じ声部の次の音符がスラーでつながれます。異なる声部の音符間にスラーを入力するには、最初の音符を選択したあと **[Ctrl]/[command]** を押しながら2つめの音符をクリックするなどして、両方の音符を選択する必要があります。
- ピアノやハーブなど、複数の譜表を使用するインストゥルメントでは、複数の譜表にある音符を選択して、譜表をまたぐスラーを作成できます。ただし、インストゥルメントが異なる場合、譜表をまたぐスラーを作成できません。
- 複数の譜表の音符を選択してこれらの譜表に同時にスラーを入力できます。

2. 複数の譜表に同時にスラーを入力する場合は、それらの譜表にキャレットを伸ばします。
3. 以下のいずれかの操作を行なって、外側のスラーを入力または開始します。
  - **[S]** を押します。
  - 音符パネルで「スラー (Slur)」  をクリックします。
  - キーボードパネルのツールバーで、「スラー (Slur)」  をクリックします。
4. 以下のいずれかの操作を行なって、内側のスラーを入力します。
  - 既存の音符に入れ子状のスラーを追加する場合: 外側のスラーの範囲内で、内側のスラーでつなぐ音符を選択して **[S]** を押すか、音符パネルで「スラー (Slur)」  をクリックします。
  - 音符の入力中に外側のスラーと同じ音符で内側のスラーを開始するには、**[S]** を押すか、音符パネルで「スラー (Slur)」  をクリックします。
  - 音符の入力中に、後続の音符で内側のスラーを開始するには、音符を入力するか、内側のスラーを開始する位置にキャレットを手動で移動したあとに **[S]** を押すか、音符パネルで「スラー (Slur)」  をクリックします。

#### 補足

既存の音符に入れ子状のスラーを追加した場合はここで終わります。

5. 音符の入力中は、内側のスラーに含める音符を入力します。  
音符を入力し続けると、入力する音符間に休符が含まれていたとしても、スラーは自動的に延びていきます。
6. 以下のいずれかの操作を行なって、選択中の音符で内側のスラーを終了します。
  - **[Shift]+[S]** を押します。
  - キーボードパネルのツールバーで、「スラー (Slur)」  をクリックします。
7. 音符の入力を続けます。
8. 必要に応じて、他の内側のスラーを開始/終了します。
9. 以下のいずれかの操作を行なって、選択中の音符で外側のスラーを終了します。
  - **[Shift]+[S]** を押します。
  - キーボードパネルのツールバーで、「スラー (Slur)」  をクリックします。

#### 結果

音符の入力中は、スラーはキャレットの位置からではなく、キャレットが伸びているすべての譜表上の現在選択している音符から始まります。音符を入力するとスラーが自動的に延長され、現在選択している音符で終了します。

既存の音符にスラーを追加すると、選択した音符がスラーでつながれます。たとえば、1つのインストゥルメントに属する2つの音符と別のインストゥルメントに属する2つの音符を選択した場合、選択し

それぞれの譜表上に音符をつなぐ2つのスラーが入力されます。同じインストゥルメントに属する異なる譜表上の音符を選択すると、譜表をまたぐスラーが入力されます。

スラーは、選択範囲内の音符の符尾の方向に従い、音符の上または下に配置されます。内側のスラーのカーブ方向は外側のスラーと異なる場合があります。Dorico Proの初期設定では、衝突を回避するためにこれらの配置が自動的に調整されます。

#### ヒント

Dorico Proはスラーが衝突しないように自動的に調整を行ない、短いスラーは長いスラーの内側に配置されるため、外側のスラーと内側のスラーはどのような順番で入力しても構いません。

#### 関連リンク

[スラーの入力 \(299 ページ\)](#)

[スラーのカーブ方向を変更する \(1668 ページ\)](#)

## リンクされたスラー

複数の譜表で同じ位置にある同じデュレーションのスラーは、リンクすることができます。このリンクは、スラーやスラーを含むフレーズを譜表間でコピーアンドペーストした場合、またはスラーを同時に入力した場合は自動的に行なわれます。

スラーがリンクされている場合、リンクのグループ内で1つのスラーを動かすと、すべてのリンクされたスラーが同じように動きます。同様に、リンクのグループ内で1つのスラーの長さを変更すると、すべてのリンクされたスラーの長さが同じように変更されます。ただし、リンクのグループ内で1つのスラーを削除しても、選択したスラーが削除されるだけで、グループ全体は削除されません。

リンクされたスラーは、グループ内のいずれかのスラーが選択されると全体が強調表示されます。



リンクされたスラーのうち一番上のスラーが選択された状態

スラーのリンクおよびリンク解除は手動でも行なえます。

#### 関連リンク

[スラーの入力 \(299 ページ\)](#)

[リンクされた強弱記号 \(1262 ページ\)](#)

[貼り付け時の強弱記号とスラーの自動リンクをオフにする \(501 ページ\)](#)



## スラーのリンク

Dorico Pro は、スラーやスラーを含むフレーズを譜表をまたいでコピーアンドペーストした場合、またはスラーを同時に入力した場合、同じ位置にある同じデュレーションのスラーを自動的にリンクさせます。一方、スラーは手動でもリンクできます。

---

### 手順

1. 記譜モードでリンクさせるスラーを選択します。

#### 補足

リンクできるのは、同じ位置から開始する同じデュレーションのスラーだけです。

2. 「編集 (Edit)」 > 「記譜 (Notations)」 > 「スラー (Slurs)」 > 「リンク (Link)」を選択します。このオプションはコンテキストメニューでも選択できます。

---

### 結果

選択したスラーがリンクします。

## スラーのリンクの解除

自動的にリンクされたものも含めて、スラーのリンクを解除できます。たとえば、スラーの長さをそれぞれ個別に変更する場合などに行ないます。

---

### 手順

1. 記譜モードで、リンクを解除するグループのスラーを1つ選択します。
2. 「編集 (Edit)」 > 「記譜 (Notations)」 > 「スラー (Slurs)」 > 「リンクを解除 (Unlink)」を選択します。このオプションはコンテキストメニューでも選択できます。

---

### 結果

リンクされたグループに属するすべてのスラーのリンクが解除されます。これは、それらのスラーが出現するすべてのレイアウトに適用されます。

## スラーのセグメント

標準的なスラーは1つのセグメントからできています。複数セグメントによるスラーを使用すると、カーブが1つのスラーより複雑な形状を作成できるなど、より精巧な形状が実現します。

スラーにセグメントを追加すると、初期設定ではその長さの中に均等な幅の波状の線が作成されます。そのため、セグメントを増やすほどそれぞれの波の幅は短くなります。



### 8つのセグメントによるスラー

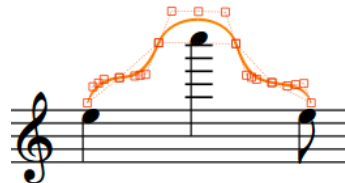
浄書モードでは、それぞれのセグメントに個別に5つの四角いハンドルのセットがあり、表示を変化できます。これにより、通常とは異なる複雑な形状をスラーに与えられます。

#### 補足

- 計画している形状にあるカーブよりも多くのセグメントが必要となる場合があります。多くの場合、大きな角度変化ごとにセグメントが必要となるためです。Dorico Pro では、既存のスラー内のセグメント数を増減できます。
- 複数セグメントによるスラーのハンドルは、隣接するセグメント間でリンクしています。リンクした制御ポイントを動かすと、次または前のセグメントの開始側または終了側の制御ポイントが同じだけ逆方向に移動します。



5つのセグメントによって作成された通常とは異なる形状のスラー



同じスラーに5セグメントすべてのハンドルの位置を表示したもの

## スラーのセグメント数を個別に変更する

たとえば通常とは異なる形状のスラーを作成する場合などに、スラーのセグメント数を個別に変更できます。この操作は現在のレイアウトとフレームチェーンのみに対して、もしくはすべてのレイアウトとフレームチェーンに対して行なえます。

#### 前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。
- 下ゾーンのツールバーで「プロパティ (Properties)」を選択しておきます。
- 浄書ツールボックスで「グラフィックの編集 (Graphic Editing)」を選択しておきます。
- ローカルのプロパティ変更に関して、適切なプロパティ範囲を選択しておきます。

#### 手順

1. 浄書モードで、セグメント数を変更するスラーを選択します。
2. プロパティパネルの「スラー (Slurs)」グループで、「セグメント数 (Number of segments)」をオンにします。
3. 数値フィールドの値を変更します。

#### 結果

値を大きくすると、スラーのセグメント数が増加します。値を小さくすると、スラーのセグメント数が減少します。プロパティ範囲を「ローカル (Locally)」に設定している場合、この変更は現在のレイアウトおよびフレームチェーンのみに影響します。

#### 手順終了後の項目

ハンドルを使用すると、スラーのセグメントの形状をより詳細に調整できます。

#### 補足

複数セグメントによるスラーのハンドルは、隣接するセグメントの対応する種類のハンドルにリンクしています。ハンドルを動かすと、リンクしたハンドルが同じだけ逆方向に移動します。

関連リンク

[スラーの形状と角度の変更 \(1677 ページ\)](#)

[浄書ツールボックス \(554 ページ\)](#)

[プロパティ範囲の変更 \(828 ページ\)](#)

[プロパティ設定を別のレイアウト/フレームチェーンにコピーする \(825 ページ\)](#)

## 浄書モードのスラー

浄書モードでは、各スラーには別個に動かせる5つの四角いハンドルがあります。一部のハンドルは他のハンドルに連動します。つまり1つを動かすと隣接するハンドルの位置にも影響を与える場合があります。



浄書モードでは、スラーには以下のハンドルがあります。

- 1 左の終端
- 2 左の制御ポイント
- 3 スラーの高さ
- 4 右の制御ポイント
- 5 右の終端

たとえば左端のハンドルを動かすと、スラーの開始位置とともに他のハンドルも移動しますが、右端のハンドルは移動しません。しかし、右のコントロールポイントを動かすと、スラーの高さのハンドルのみが同時に移動されます。これにより、スラーの形状に対する精密な制御を実現しつつ、スムーズなカーブの形状が確保されます。

### 補足

複数セグメントによるスラーにおいては、制御ポイントのハンドル間には、他のハンドルとの連動に影響する追加のリンクが存在します。

これらのハンドルを移動してスラーの形状を変化させるには、キーボード、マウス、およびプロパティパネルの「スラー (Slurs)」のグループ下のプロパティを使用できます。スラー全体の形状は変えずに角度のみ変更することもできます。

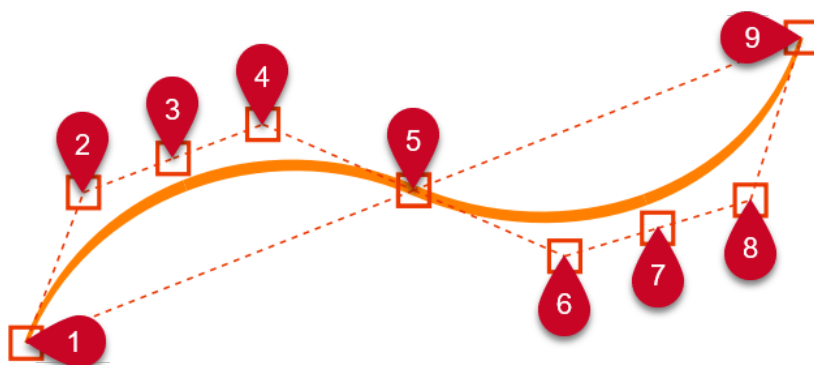
関連リンク

[スラーの高さ \(1679 ページ\)](#)

[スラーの肩のオフセット \(1681 ページ\)](#)

## 浄書モードの複数セグメントによるスラー

浄書モードでは、S字型スラーなど複数セグメントによるスラーの各セグメントには、標準のスラーと同様のハンドルが表示されます。これらによって、複数セグメントによるスラーの各セグメントは、別々のスラーのように別個に編集できますが、一貫した形状を維持するために、特定のハンドルを動かすと他のハンドルも同時に移動します。



浄書モードでは、複数セグメントによるスラーには以下のハンドルがあります。

- 1 左の終端
- 2 左の制御ポイント
- 3 スラーの高さ
- 4 右の制御ポイント
- 5 中央の制御ポイント
- 6 左の制御ポイント
- 7 スラーの高さ
- 8 右の制御ポイント
- 9 右の終端

各ハンドルは標準のスラーと同様に選択して移動できますが、複数セグメントによるスラーのハンドルは隣接するセグメントとリンクしています。リンクした制御ポイントを動かすと、次または前のセグメントの開始側または終了側の制御ポイントが同じだけ逆方向に移動します。これにより鋭角の発生を防ぎ、複数セグメントによるスラーのカーブができるだけスムーズで対称形を保つようにします。

複数セグメントによるスラーでは、右の制御ポイントは隣接するセグメントの左の制御ポイントにリンクしています。隣接するセグメントがない場合、右または左の終端に隣接する制御ポイントは独立して動かせます。たとえば、上図のラベルに従えば、制御ポイント4は制御ポイント6とリンクしていますが、制御ポイント2と8は他の制御ポイントとリンクしていません。

同様に、スラーの高さのハンドルを動かすと、隣接するセグメントのスラーの高さのハンドルが同じだけ逆方向に移動します。たとえば、3セグメントあるスラーの真ん中のセグメントでスラーの高さのハンドルを動かすと、3つあるスラーの高さのハンドルすべてが移動します。

例



左の制御ポイントが選択されています。




選択した左の制御ポイントを左上に動かすと、隣のセグメントの右の制御ポイントが右下に移動します。

## スラーの形状と角度の変更

スラーおよびスラーのハンドルの表示上の位置を動かすことで、個々のスラーの形状や角度を変更できます。これによりたとえば、個々の符頭に対して終端を調整できます。この操作は現在のレイアウトとフレームチェーンのみに対して、もしくはすべてのレイアウトとフレームチェーンに対して行なえます。

スラーの角度を変更することは、たとえば組段区切りの後にくるスラーの開始側の端をデフォルト位置よりも高くする場合に、スラーの回転角度を変化させつつスラーのハンドルの相互の位置関係を保持できるように便利です。

### 前提条件

- 浄書ツールボックスで「**グラフィックの編集 (Graphic Editing)**」を選択しておきます。
- ローカルのプロパティ変更に関して、適切なプロパティ範囲を選択しておきます。

### 手順

1. 浄書モードで以下のいずれかの操作を行なって、移動するスラー全体またはスラーの個々のハンドルを選択します。
  - **[Ctrl]/[command]** を押しながら複数のスラーをクリックします。
  - 複数のスラーの個々のハンドルを、**[Ctrl]/[command]** を押しながらクリックします。
  - スラー全体を選択した状態で **[Tab]** を押すと、最初のハンドルから次のハンドルへと選択が切り替わるので、移動させるハンドルが選択されるまで押し続けます。
  - 移動させるハンドルをクリックします。

### 補足

- スラーの角度を変更するには、スラーの終端のみを選択します。
  - 選択したアイテムだけではなく、すべてのアイテムにハンドルを表示するには、「**浄書 (Engrave)**」 > 「**ハンドルを表示 (Show Handles)**」 > 「**常時 (Always)**」を選択します。これにより、複数のアイテムの個々のハンドルを選択するのがより簡単になります。
2. 以下のいずれかの操作を行なって、スラーまたはハンドルを移動します。
    - これらを標準的な幅で上下左右に移動するには、**[Alt/Opt]** を押しながら対応する矢印キーを押します。たとえば、スラー/ハンドルを左に移動するには、**[Alt/Opt]+[←]** を押します。これにより、キーを押すごとにスラー/ハンドルが 1/8 スペース分移動します。
    - これらの移動幅を大きくするには、通常のキーボードショートカットに加え **[Ctrl]/[command]** を押します (例: **[Ctrl]/[command]+[Alt/Opt]+[←]**)。これにより、キーを押すごとにスラー/ハンドルが 1 スペース分移動します。
    - これらの移動幅を中くらいにするには、通常のキーボードショートカットに加え **[Shift]** を押します (例: **[Shift]+[Alt/Opt]+[←]**)。これにより、キーを押すごとにスラー/ハンドルが 1/2 スペース分移動します。
    - これらの移動幅を小さくするには、通常のキーボードショートカットに加え **[Ctrl]/[command]+[Shift]** を押します (例: **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[Alt/Opt]+[←]**)。これにより、キーを押すごとにスラー/ハンドルが 1/32 スペース分移動します。
    - アイテムをクリックして任意の方向にドラッグします。

### ヒント

移動を水平方向または垂直方向に制限するには、ドラッグしはじめたあと、**[Shift]** を押したままにします。

## 結果

選択したスラーまたはスラーのハンドルが移動します。選択したハンドルおよび移動した方向に応じて、対応するスラーの形状、角度、比例するサイズが変化することがあります。プロパティ範囲を「ローカル (Locally)」に設定している場合、この変更は現在のレイアウトおよびフレームチェーンのみに影響します。

## ヒント

スラーのハンドルを移動すると、移動した部位に応じて、プロパティパネルの「スラー (Slurs)」のグループにある以下のプロパティが自動的にオンになります。

- 「開始オフセット (Start offset)」は、スラーの左側の終端を移動させます。「X」は水平位置を移動させ、「Y」は垂直位置を移動させます。
- 「終了オフセット (End offset)」は、スラーの右側の終端を移動させます。「X」は水平位置を移動させ、「Y」は垂直位置を移動させます。
- 「開始ハンドルオフセット (Start handle offset)」は、スラーの左制御ポイントを移動させます。「X」は水平位置を移動させ、「Y」は垂直位置を移動させます。
- 「終了ハンドルオフセット (End handle offset)」は、スラーの右制御ポイントを移動させます。「X」は水平位置を移動させ、「Y」は垂直位置を移動させます。

たとえば、スラー全体を右上に移動させた場合は、すべてのハンドルが移動されることにより、すべてのプロパティがオンになります。これらのプロパティを使用して、数値フィールドの数値を変更することによっても、個々のスラーの形状を変更できます。

プロパティをオフにすると、選択したスラーの対応するハンドルがデフォルト位置にリセットされます。

## 例



右の終端が選択された、デフォルトの角度のスラー



右の終端を下に移動することで角度が変更されたスラー

## 関連リンク

[スラーの入力 \(299 ページ\)](#)

[スラーの肩のオフセット \(1681 ページ\)](#)

[組段およびフレーム区切りをまたぐスラー \(1660 ページ\)](#)

[アイテムの長さの変更 \(470 ページ\)](#)

[浄書ツールボックス \(554 ページ\)](#)

[プロパティ範囲の変更 \(828 ページ\)](#)

[プロパティ設定を別のレイアウト/フレームチェーンにコピーする \(825 ページ\)](#)

## スラーの太さを個別に変更する

スラーの太さは、プロジェクト全体の設定より優先される形で個別に変更できます。スラーの中央部の太さをスラーの終端とは別に変更することもできます。この操作は現在のレイアウトとフレームチェーンのみに対して、もしくはすべてのレイアウトとフレームチェーンに対して行なえます。

#### 前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。
- 下ゾーンのツールバーで「プロパティ (Properties)」を選択しておきます。
- 浄書ツールボックスで「グラフィックの編集 (Graphic Editing)」を選択しておきます。
- ローカルのプロパティ変更に関して、適切なプロパティ範囲を選択しておきます。

#### 手順

1. 浄書モードで、太さを変更するスラーを選択します。
2. プロパティパネルの「スラー (Slurs)」グループで、以下のプロパティを片方または両方ともオンにします。
  - 終端の太さ (End thickness)
  - 中央部の太さ (Middle thickness)
3. 数値フィールドの値を変更します。

#### 結果

値を大きくすると選択したスラーの対応する部分が太くなり、値を小さくすると細くなります。プロパティ範囲を「ローカル (Locally)」に設定している場合、この変更は現在のレイアウトおよびフレームチェーンのみに影響します。

#### ヒント

- プロパティをオフにすると、選択したスラーの対応する部分が初期設定の太さに戻ります。
- すべてのスラーのデフォルト太さに対するプロジェクト全体の設定は、「浄書オプション (Engraving Options)」の「スラー (Slurs)」ページで変更できます。

#### 関連リンク

[「浄書オプション \(Engraving Options\)」ダイアログ \(923 ページ\)](#)

## スラーの高さ

スラーの高さは、スラーが音符の上下に垂直方向にどれだけ延びるかを決定します。

スラーの高さを増やすと、譜表からより遠くまで延びるようになります。これによりスラーの形状はより丸くなり、より多くの垂直方向のスペースを取るようになります。垂直方向のスペースが限られる状況では、スラーを丸くしてプレーヤーにとって読みやすくすることと、譜表に重ならないようにすることのバランスを取る必要があります。



デフォルトの高さの長いスラー



高さを増やした長いスラー



デフォルトの高さの長く平坦なスラー



高さを増やした長く平坦なスラー

#### ヒント

「**浄書オプション (Engraving Options)**」 > 「**スラー (Slurs)**」 > 「**デザイン (Design)**」 > 「**詳細設定 (Advanced Options)**」では、プロジェクト全体のすべてのスラーのデフォルトの高さを変更できます。短いスラーと長いスラーに個別の設定を使用できます。

浄書モードでは、個々のスラーの高さを変更できます。

#### 関連リンク


[組段およびフレーム区切りをまたぐスラー \(1660 ページ\)](#)

[「浄書オプション \(Engraving Options\)」ダイアログ \(923 ページ\)](#)

## スラーの高さを変更する

たとえば特に長いスラーの高さを抑えるなどの場合に、個々のスラーの高さをプロジェクト全体の設定より優先される形で変更できます。この操作は現在のレイアウトとフレームチェーンのみに対して、もしくはすべてのレイアウトとフレームチェーンに対して行なえます。

#### 前提条件

- 浄書ツールボックスで「**グラフィックの編集 (Graphic Editing)**」を選択しておきます。
- ローカルのプロパティ変更に関して、適切なプロパティ範囲を選択しておきます。

#### 手順

1. 浄書モードで、高さを変更するスラーの中央のハンドル (高さのハンドル) を選択します。

#### ヒント

選択したアイテムだけではなく、すべてのアイテムにハンドルを表示するには、「**浄書 (Engrave)**」 > 「**ハンドルを表示 (Show Handles)**」 > 「**常時 (Always)**」を選択します。これにより、複数のアイテムの個々のハンドルを選択するのがより簡単になります。

2. 以下のいずれかの操作を行なって、ハンドルを移動します。

- これらを標準的な幅で上下に移動するには、**[Alt/Opt]** を押しながら対応する矢印キーを押します。たとえば、ハンドルを上を移動させるには、**[Alt/Opt]+[↑]** を押します。これにより、キーを押すごとにハンドルが 1/8 スペース分移動します。
- これらの上下の移動幅を大きくするには、通常のキーボードショートカットに加え **[Ctrl]/[command]** を押します (例: **[Ctrl]/[command]+[Alt/Opt]+[↑]**)。これにより、キーを押すごとにハンドルが 1 スペース分移動します。
- これらの上下の移動幅を中くらいにするには、通常のキーボードショートカットに加え **[Shift]** を押します (例: **[Shift]+[Alt/Opt]+[↑]**)。これにより、キーを押すごとにハンドルが 1/2 スペース分移動します。
- これらの上下の移動幅を小さくするには、通常のキーボードショートカットに加え **[Ctrl]/[command]+[Shift]** を押します (例: **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[Alt/Opt]+[↑]**)。これにより、キーを押すごとにハンドルが 1/32 スペース分移動します。
- アイテムをクリックして上下にドラッグします。

#### ヒント

移動を水平方向または垂直方向に制限するには、ドラッグしはじめたあと、**[Shift]** を押したままにします。



#### 結果

選択したスラーの高さが変更されます。プロパティ範囲を「ローカル (Locally)」に設定している場合、この変更は現在のレイアウトおよびフレームチェーンのみに影響します。

#### 補足

- すっきりした見た目と釣り合いのとれた曲線を維持するためにスラーの高さを手動で変更する場合、スラーの高さハンドルを上下左右に少し移動する必要があります。
- スラーの高さのハンドルを左右に動かすと、スラー全体の形状に影響を与えます。
- 「浄書オプション (Engraving Options)」 > 「スラー (Slurs)」 > 「デザイン (Design)」 > 「詳細設定 (Advanced Options)」では、プロジェクト全体のすべてのスラーのデフォルトの高さを変更できます。短いスラーと長いスラーに個別の設定を使用できます。

#### 関連リンク

[スラーの形状と角度の変更 \(1677 ページ\)](#)

[浄書ツールボックス \(554 ページ\)](#)

[プロパティ範囲の変更 \(828 ページ\)](#)

[プロパティ設定を別のレイアウト/フレームチェーンにコピーする \(825 ページ\)](#)

## スラーの肩のオフセット

多くの場合、スラーの両端はスラーの弧より急な角度で符頭に近づくため、スラーの肩はスラーのカーブの角度に影響し、終端に向かってスラーが符頭に近づくようになります。

肩のオフセットを大きくするとカーブの始まりの角度がなだらかになり、肩のオフセットを小さくするとカーブの始まりの角度が急になります。よって理想的なカーブのためには、肩のオフセットはスラーの高さとのバランスを取らなければなりません。



初期設定の肩のオフセットが 1/3 の長いスラー



肩のオフセットを 1.5 に上げた長いスラー



肩のオフセットを -1/2 に下げた長いスラー


「浄書オプション (Engraving Options)」 > 「スラー (Slurs)」 > 「デザイン (Design)」 > 「詳細設定 (Advanced Options)」では、プロジェクト全体のすべてのスラーのデフォルトの肩のオフセットを変更できます。短いスラー、長いスラー、平坦なスラーに個別の設定を使用できます。

個々のスラーの肩の調整は、浄書モードで行なえます。

## スラーの肩のオフセットを変更する

スラーの制御ポイントのハンドルを移動して、プロジェクト全体の設定とは別に個別のスラーの肩を調整できます。それぞれの制御ポイントは個別に移動できます。この操作は現在のレイアウトとフレームチェーンのみに対して、もしくはすべてのレイアウトとフレームチェーンに対して行なえます。

#### 前提条件

- 浄書ツールボックスで「グラフィックの編集 (Graphic Editing)」を選択しておきます。
- ローカルのプロパティ変更に関して、適切なプロパティ範囲を選択しておきます。

#### 手順

1. 浄書モードで、肩の調整を行なうスラーの制御ポイントのハンドルの1つを以下のいずれかの操作を行なって選択します。
  - スラー全体を選択した状態で **[Tab]** を押すと、最初のハンドルから次のハンドルへと選択が切り替わるので、移動させるハンドルが選択されるまで押し続けます。
  - 移動させるハンドルをクリックします。
  - 複数のスラーの個々のハンドルを、**[Ctrl]/[command]** を押しながらクリックします。

#### ヒント

選択したアイテムだけではなく、すべてのアイテムにハンドルを表示するには、「**浄書 (Engrave)**」 > 「**ハンドルを表示 (Show Handles)**」 > 「**常時 (Always)**」を選択します。これにより、複数のアイテムの個々のハンドルを選択するのがより簡単になります。

2. 以下のいずれかの操作を行なって、ハンドルを移動します。
  - これらを標準的な幅で上下左右に移動するには、**[Alt/Opt]** を押しながら対応する矢印キーを押します。たとえば、ハンドルを左に移動するには、**[Alt/Opt]+[←]** を押します。これにより、キーを押すごとにハンドルが1/8スペース分移動します。
  - これらの移動幅を大きくするには、通常のキーボードショートカットに加え **[Ctrl]/[command]** を押します (例: **[Ctrl]/[command]+[Alt/Opt]+[←]**)。これにより、キーを押すごとにハンドルが1スペース分移動します。
  - これらの移動幅を中くらいにするには、通常のキーボードショートカットに加え **[Shift]** を押します (例: **[Shift]+[Alt/Opt]+[←]**)。これにより、キーを押すごとにハンドルが1/2スペース分移動します。
  - これらの移動幅を小さくするには、通常のキーボードショートカットに加え **[Ctrl]/[command]+[Shift]** を押します (例: **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[Alt/Opt]+[←]**)。これにより、キーを押すごとにハンドルが1/32スペース分移動します。
  - オートメーションイベントをクリックして任意の方向にドラッグします。

#### ヒント

移動を水平方向または垂直方向に制限するには、ドラッグしはじめたあと、**[Shift]** を押したままにします。

3. 必要に応じて、肩の調整を行なうスラーの他の制御ポイントのハンドルについても、手順1と2を繰り返します。

#### 結果

選択したスラーの肩のオフセットが変更されます。プロパティ範囲を「**ローカル (Locally)**」に設定している場合、この変更は現在のレイアウトおよびフレームチェーンのみに影響します。

#### ヒント

- スラーのハンドルを移動すると、移動した部位に応じて、プロパティパネルの「**スラー (Slurs)**」のグループにある以下のプロパティが自動的にオンになります。
  - 「**開始ハンドルオフセット (Start handle offset)**」は、スラーの左制御ポイントを移動させます。「**X**」は水平位置を移動させ、「**Y**」は垂直位置を移動させます。
  - 「**終了ハンドルオフセット (End handle offset)**」は、スラーの右制御ポイントを移動させます。「**X**」は水平位置を移動させ、「**Y**」は垂直位置を移動させます。

これらのプロパティを使用して、数値フィールドの数値を変更することによっても、個々のスラーの肩のオフセットを変更できます。

プロパティをオフにすると、選択したスラーの対応するハンドルがデフォルト位置にリセットされます。

- 「**浄書オプション (Engraving Options)**」 > 「**スラー (Slurs)**」 > 「**デザイン (Design)**」 > 「**詳細設定 (Advanced Options)**」では、プロジェクト全体のすべてのスラーのデフォルトの肩のオフセットを変更できます。短いスラー、長いスラー、平坦なスラーに個別の設定を使用できます。

関連リンク

[「浄書オプション \(Engraving Options\)」ダイアログ \(923 ページ\)](#)

[浄書モードのスラー \(1675 ページ\)](#)

## 再生時のスラー

スラーはレガートの演奏技法を実行します。初期設定では、これは楽譜上の記譜に影響することなく、MIDI ノートの長さを延長します。

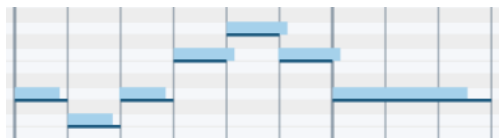
スラーなしの音符が記譜上のデュレーションの 95% の長さで発音されるのに対し、スラーの音符は記譜上のデュレーションの 105% の長さで発音されます。

スラーの最後の音符は、そのあとにスラーがなく、レガートの演奏技法が必要とされないため、記譜上のデュレーションの 95% の長さで発音されます。

例では、スラーが使用されると、明るい色で塗りつぶされた長方形で示される MIDI ノートが長くなるのが示されています。暗い色の細い線は、それぞれの音符の記譜上のデュレーションを示しています。はじめの 3 音はスラーされておらず、MIDI ノートの長さを示す長方形は記譜上のデュレーションより短くなっています。うしろの 4 音はスラーされており、MIDI ノートの長さが記譜上の長さより長くなることにより、レガートされたスラーのサウンドになります。ただし、スラーのフレーズの最後の音符は標準のスラーされていない音符として扱われるため、スラーのグループの最後の音符は長くなっていません。



インストゥルメントの譜表上のフレーズ



ピアノロールエディター上の同じフレーズ

### ヒント

- スラーの音符の発音上のデュレーションのデフォルト値は、「**再生オプション (Playback Options)**」の「**タイミング (Trills)**」のページで変更できます。
- 一方の声部にスラーがあり、もう一方の声部にスタッカートがある場合などに、個々のインストゥルメントに対して声部の個別再生を有効にして、異なる声部の異なるサウンドを同時に聴くことができます。
- 再生時に正しく処理するために、「**エクスペッションマップ (Expression Maps)**」ダイアログで、単旋律レガートを和音のない楽譜に限定できます。

関連リンク

[「再生オプション \(Playback Options\)」ダイアログ \(925 ページ\)](#)

[再生効果 \(1046 ページ\)](#)

[演奏される音符のデュレーションと記譜された音符のデュレーション \(852 ページ\)](#)

[ピアノロールエディター \(843 ページ\)](#)

[声部の個別再生の有効化 \(685 ページ\)](#)

[「エクスペッションマップ \(Expression Maps\)」ダイアログ \(1020 ページ\)](#)

# 譜表ラベル

譜表ラベルは対応する譜表で楽曲を演奏する楽器を特定するために使用され、各組段の最初の小節線の左側に配置されます。譜表ラベルは一般的に複数のプレーヤーを含む楽譜で使用されます。

インストゥルメント名は、各フローの最初の組段の譜表ラベルにおいて完全な形で、以降の組段の譜表ラベルにおいては省略された形で表示するのが通例となっています。省略されたインストゥルメント名を使用すると水平方向のスペースが節約され、各組段により多くの楽譜を書き込めます。



フローの最初の組段の譜表ラベルの例

Dorico Pro の初期設定では、譜表ラベルには各インストゥルメントに設定されたインストゥルメント名が使用されます。各レイアウトでプレーヤーごとにプレーヤー名を表示せずに、譜表ラベルに個別に表示できます。これはたとえば、複数の楽器を演奏する打楽器奏者の場合に役立ちます。

複数のインストゥルメントが割り当てられ、インストゥルメント名を譜表ラベルに表示しているプレーヤーに対し、譜表ラベルはプレーヤーが現在演奏しているインストゥルメントを表示します。プレーヤーが組段の途中でインストゥルメントを変更する場合、新しいインストゥルメント名は最初の音符の位置で譜表の上に表示され、譜表ラベルは次の組段の開始位置から更新されます。

Dorico Pro は、移調楽器の譜表ラベルにインストゥルメントの移調、またはインストゥルメントのピッチを初期設定で表示します。移調楽器とは、記譜上のピッチと発音上のピッチが異なるインストゥルメントです。

パートレイアウトは初期設定では譜表ラベルを表示しません。ほとんどのパートに譜表は1つしか含まれず、それが何のための楽譜であるかはレイアウト名と状況から明らかだからです。初期設定のパートレイアウトでは、レイアウト名は1ページめの左上に表示されます。

インストゥルメントの移調、またはインストゥルメントのピッチを譜表ラベルに表示する条件は変更できます。また、譜表ラベルにおいてインストゥルメントの移調をインストゥルメント名の前後いずれに表示するかも変更できます。

## 補足

- 譜表ラベルのインストゥルメントの数を手動で指定する必要はありません。Dorico Pro は、同じ名前のインストゥルメントが割り当てられた同じタイプのプレーヤーが複数いる場合、自動的にその数を特定します。
- レイアウト名は、譜表ラベルに使用されるインストゥルメント名とは異なります。

- 譜表ラベルは、最初の組段の譜表ラベルなどで、プレーヤーに割り当てられるインストゥルメントをすべて表示することはありません。そのためスコアの冒頭には、楽器の持ち替えをすべて示す完全なインストゥルメントのリストを掲載する必要があります。

## MusicXML ファイルから読み込まれた譜表ラベル

MusicXML ファイルを Cubase から書き出して Dorico Pro に読み込む場合、ファイルの書き出しの前に Cubase の **スコアエディター** でインストゥルメント名を変更し、Dorico Pro が使用する英語のインストゥルメント名と同じにしておくことで、インストゥルメント自動選択の精度を上げられます。

関連リンク

[プレーヤー名、レイアウト名、インストゥルメント名 \(203 ページ\)](#)

[移調楽器 \(146 ページ\)](#)

[インストゥルメントのナンバリング \(144 ページ\)](#)

[インストゥルメント名の変更 \(206 ページ\)](#)

[プレーヤー名の変更 \(204 ページ\)](#)

[ディヴィジの譜表ラベル \(1730 ページ\)](#)

[コンデンシングされた譜表の譜表ラベル \(1699 ページ\)](#)

[譜表ラベルのパラグラフスタイル \(1697 ページ\)](#)

## 浄書オプションで譜表ラベルの設定をプロジェクト全体に適用する

プロジェクト全体の譜表ラベルの外観と配置のオプションは、「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**譜表ラベル (Staff Labels)**」ページにあります。

たとえば、譜表ラベルと組段の小節線との距離や、インストゥルメント番号の数字にアラビア数字とローマ数字のいずれを使用するかなどを変更できます。また、隣接する同一のインストゥルメントの1つのインストゥルメント名について、グループ化して全体の譜表間に1つ中央揃えで表示するか、それとも譜表ごとに1つずつ表示するかや、声楽の譜表ラベルを全大文字と頭文字大文字のいずれで表示するかも指定できます。オssia譜表のラベルおよびコンデンシングされた譜表の譜表ラベルに特化したオプションもあります。

多くのオプションに、オプションを楽譜に適用したときにどのように表示されるかを示す図があります。

### ヒント

「**レイアウトオプション (Layout Options)**」にある「**譜表と組段 (Staves and Systems)**」ページで、組段に表示される譜表ラベルの長さを各レイアウトごとに個別に変更できます。

関連リンク

[「浄書オプション \(Engraving Options\)」ダイアログ \(923 ページ\)](#)

[「レイアウトオプション \(Layout Options\)」ダイアログ \(917 ページ\)](#)

## 譜表ラベルを表示/非表示にする

レイアウトごとに個別に、譜表ラベルにインストゥルメントまたはプレーヤーの正式名称または略称を表示するか、すべての譜表ラベルを完全に非表示にするか選択できます。各フローの最初の組段と、後続するすべての組段には、異なる譜表ラベルの長さを設定できます。

初期設定では、フルスコアレイアウトでは各フローの最初の組段には完全な譜表ラベルが表示され、以降の組段には省略された譜表ラベルが表示されます。パートレイアウトでは、譜表ラベルはどの組段にも表示されません。

#### 手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[L]** を押して「**レイアウトオプション (Layout Options)**」を開きます。
2. 「**レイアウト (Layouts)**」リストから、譜表ラベルの表示/非表示を切り替えるレイアウトを選択します。  
初期設定では、楽譜領域で選択されているものと同じレイアウトが選択された状態のダイアログが表示されます。他のレイアウトを選択するには、アクションバーの選択オプションを使用するか、複数のレイアウトをまたぐようにクリックしてドラッグするか、**[Shift]** を押しながら隣接するレイアウトをクリックするか、**[Ctrl]/[command]** を押しながら個々のレイアウトをクリックします。
3. カテゴリーリストの「**譜表と組段 (Staves and Systems)**」をクリックします。
4. 「**譜表ラベル (Staff Labels)**」セクションの「**最初の組段の譜表ラベル (Staff labels on first system)**」で、以下のいずれかのオプションを選択します。
  - **完全 (Full)**
  - **省略 (Abbreviated)**
  - **なし (None)**
5. 「**次以降の組段の譜表ラベル (Staff labels on subsequent systems)**」で以下のいずれかのオプションを選択します。
  - **完全 (Full)**
  - **省略 (Abbreviated)**
  - **なし (None)**
6. 「**フロー (Flows)**」サブセクションで、「**譜表ラベルを表示 (Show staff labels)**」に以下のいずれかのオプションを選択します。
  - **すべてのフロー (On all flows)**
  - **最初のフローのみ (On first flow only)**
7. 「**適用 (Apply)**」をクリックしてから「**閉じる (Close)**」をクリックします。

---

#### 結果

選択したレイアウトの対応する譜表およびフローで、譜表ラベルの表示/非表示が切り替えられます。

- 「**なし (None)**」を選択すると、譜表ラベルが非表示になります。
- 「**完全 (Full)**」と「**省略 (Abbreviated)**」を選択すると、対応するインストゥルメント名またはプレイヤー名の長さで譜表ラベルが表示されます。

#### ヒント

レイアウト内のほとんどのフローに適した設定を選択した後、必要に応じて他の位置の譜表ラベルの長さを変更することをおすすめします。たとえば、最初のフローの最初の組段にのみ完全な譜表ラベルを表示し、他のすべての組段には省略された譜表ラベルを表示したい場合などに便利です。

---

#### 手順終了後の項目

- 各インストゥルメントの正式名称と略称は変更できます。
- 各レイアウトのプレイヤーごとに、譜表ラベルにインストゥルメント名またはプレイヤー名のどちらを表示するかを個別に変更できます。

#### 関連リンク

[組段区切り/フレーム区切りの位置の譜表ラベルを表示/非表示にする \(1687 ページ\)](#)

- [フローの開始位置でインストゥルメントの変更ラベルを表示/非表示にする \(155 ページ\)](#)
- [最初の組段のインデントの変更 \(1720 ページ\)](#)
- [インストゥルメント名の変更 \(206 ページ\)](#)
- [ディヴィジの譜表ラベル \(1730 ページ\)](#)
- [コンデンシングされた譜表の譜表ラベル \(1699 ページ\)](#)
- [打楽器キットの譜表ラベル \(1698 ページ\)](#)

## 譜表ラベルの付いた組段の最小インデントの変更

水平方向のスペースを最適化するために、譜表ラベルの付いた組段すべての最小インデントをレイアウトごとに個別に変更できます。

### 手順

- [Ctrl]/[command]+[Shift]+[L]** を押して「レイアウトオプション (Layout Options)」を開きます。
- 譜表ラベルの付いた組段の最小インデントを変更するレイアウトを「レイアウト (Layouts)」リストから選択します。  
初期設定では、楽譜領域で選択されているものと同じレイアウトが選択された状態のダイアログが表示されます。他のレイアウトを選択するには、アクションバーの選択オプションを使用するか、複数のレイアウトをまたぐようにクリックしてドラッグするか、**[Shift]** を押しながら隣接するレイアウトをクリックするか、**[Ctrl]/[command]** を押しながら個々のレイアウトをクリックします。
- カテゴリリストの「譜表と組段 (Staves and Systems)」をクリックします。
- 「譜表ラベル (Staff Labels)」セクションで、「譜表ラベルの付いた組段の最小インデント (Minimum indent for systems with staff labels)」の値を変更します。
- 「適用 (Apply)」をクリックしてから「閉じる (Close)」をクリックします。

### 結果

譜表ラベルの付いた組段すべての最小インデントが選択したレイアウトで変更されます。



### 関連リンク

- [最初の組段のインデントの変更 \(1720 ページ\)](#)
- [組段の開始位置/終了位置の移動 \(651 ページ\)](#)

## 組段区切り/フレーム区切りの位置の譜表ラベルを表示/非表示にする

個々の組段区切り/フレーム区切りの位置の譜表ラベルについて、レイアウトごとの設定より優先される形で、インストゥルメント名またはプレーヤー名の表示を完全、省略、なしのいずれかに切り替えられます。これはたとえば、最初のフローの開始位置には完全な譜表ラベルを表示しつつ、後続のフローの開始位置では省略された譜表ラベルを表示する場合や、合唱の楽譜において、複雑なパート、ソロライン、またはディヴィジラインを含む組段にのみ譜表ラベルを表示する場合などに使用します。

### 前提条件

- 譜表ラベルを表示または非表示にする位置に組段/フレーム区切りを挿入しておきます。
- 組段/フレーム区切りの位置にはガイドが表示されます。
- 下ゾーンを表示しておきます。
- 下ゾーンのツールバーで「プロパティ (Properties)」 を選択しておきます。
- 浄書ツールボックスで「グラフィックの編集 (Graphic Editing)」 を選択しておきます。

---

#### 手順

1. 浄書モードで、譜表ラベルの表示/非表示を切り替える位置の組段区切りまたはフレーム区切りのガイドを選択します。
2. プロパティパネルの「形式 (Format)」グループで、「譜表ラベル (Staff labels)」をオンにします。
3. メニューから以下のいずれかのオプションを選択します。
  - 完全 (Full)
  - 省略 (Abbreviated)
  - なし (None)

---

#### 結果

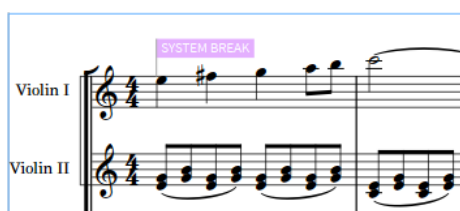
選択した組段区切りまたはフレーム区切りに対応する組段の譜表ラベルの表示/非表示が切り替えられます。組段が楽譜フレームいっぱいに広がるように、水平方向のスペーシングが自動的に調整されます。

- 「なし (None)」を選択すると、譜表ラベルが非表示になります。
- 「完全 (Full)」と「省略 (Abbreviated)」を選択すると、対応するインストゥルメント名またはプレーヤー名の長さで譜表ラベルが表示されます。

プロパティをオフにすると、選択した組段区切りがプロジェクトレイアウトの設定に従う状態に戻ります。

---

#### 例



The image shows a musical score for Violin I and Violin II. The Violin I staff is in the upper part and the Violin II staff is in the lower part. Both staves have their respective labels 'Violin I' and 'Violin II' displayed to the left of the staves. A 'SYSTEM BREAK' label is visible above the Violin I staff.

完全な譜表ラベルが表示された状態



The image shows the same musical score as the previous example, but the labels 'Violin I' and 'Violin II' are not displayed next to the staves. A 'SYSTEM BREAK' label is visible above the Violin I staff.

譜表ラベルが表示されない状態

---

#### 関連リンク

- [プロパティパネル \(826 ページ\)](#)
- [浄書ツールボックス \(554 ページ\)](#)
- [組段区切りの挿入 \(790 ページ\)](#)
- [フレーム区切りの挿入 \(793 ページ\)](#)
- [ガイドの表示/非表示の切り替え \(491 ページ\)](#)

## 譜表ラベルのコンテンツ

譜表ラベルには、各インストゥルメントのインストゥルメント名、または対応するプレーヤーのプレーヤー名を表示できます。譜表ラベルには、それぞれの完全な名称か略称を表示できます。

インストゥルメント番号は、インストゥルメント名を使用する完全な譜表ラベルと省略された譜表ラベルの両方に自動的に表示されます。

- 「完全 (Full)」を選択した譜表ラベルは、インストゥルメントおよびプレーヤーの完全な名称を使用します。



- 「**省略 (Abbreviated)**」を選択した譜表ラベルは、インストゥルメントおよびプレーヤーの略称を使用します。
- 「**なし (None)**」を選択すると、譜表ラベルが非表示になります。

#### 補足

- 各インストゥルメントおよびプレーヤーの正式名称と略称は変更できます。
- すでにレイアウトの名前を変更している場合、インストゥルメント名およびプレーヤー名を変更しても各パートレイアウトの上部に表示される名前の変更されません。レイアウト名は個別に変更できます。
- 「**浄書オプション (Engraving Options)**」 > 「**譜表ラベル (Staff Labels)**」 > 「**大文字/小文字 (Case)**」で、譜表ラベルのすべての略称の後ろにピリオドが表示されるように選択できます。従来は、インストゥルメント名の最後の文字で終わらない略称にのみピリオドが付いていました。

#### 関連リンク

[プレーヤー名、レイアウト名、インストゥルメント名 \(203 ページ\)](#)

[インストゥルメントのナンバリング \(144 ページ\)](#)

[インストゥルメントの変更 \(150 ページ\)](#)

[譜表ラベルのパラグラフスタイル \(1697 ページ\)](#)

[コンデンシングされた譜表ラベルの番号を統合する方法の変更 \(1701 ページ\)](#)

## 譜表ラベルにインストゥルメント名/プレーヤー名を表示する

譜表ラベルにインストゥルメント名またはプレーヤー名のどちらを表示するかを各レイアウトのプレーヤーごとに個別に変更したり、それらをすべての組段に表示するか、または各フローの最初の組段にのみ表示するかを変更したりできます。たとえば、フルスコアレイアウトでは打楽器奏者のプレーヤー名を表示しつつ、打楽器のパートレイアウトではインストゥルメント名を表示できます。

#### 手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[L]** を押して「**レイアウトオプション (Layout Options)**」を開きます。
2. 譜表ラベルの内容を変更するレイアウトを「**レイアウト (Layouts)**」リストから選択します。  
初期設定では、楽譜領域で選択されているものと同じレイアウトが選択された状態のダイアログが表示されます。他のレイアウトを選択するには、アクションバーの選択オプションを使用するか、複数のレイアウトをまたぐようにクリックしてドラッグするか、**[Shift]** を押しながら隣接するレイアウトをクリックするか、**[Ctrl]/[command]** を押しながら個々のレイアウトをクリックします。
3. カテゴリリストの「**譜表と組段 (Staves and Systems)**」をクリックします。
4. 「**譜表ラベル (Staff Labels)**」セクションの「**インストゥルメント名のかわりにプレーヤー名を表示 (Show player name instead of instrument names)**」リストで、譜表ラベルにプレーヤー名を表示する各プレーヤーのチェックボックスをオンにします。
5. 「**プレーヤー名を表示 (Show player names)**」で以下のいずれかのオプションを選択します。
  - **すべての組段 (On all systems)**
  - **最初の組段のみ (On first system only)**
6. 「**適用 (Apply)**」をクリックしてから「**閉じる (Close)**」をクリックします。

#### 結果

チェックボックスがオンになったプレーヤーのプレーヤー名が表示されます。チェックボックスがオフになったプレーヤーにはインストゥルメント名が表示されます。

譜表ラベルの設定に応じて、プレーヤー名の正式名称または略称が使用されます。

「最初の組段のみ (On first system only)」を選択すると、オンにしたプレーヤー名は各フローの最初の組段にのみ表示され、他のすべての組段にはインストゥルメント名が表示されます。

手順終了後の項目

各インストゥルメントおよびプレーヤーの正式名称と略称は変更できます。

関連リンク

[打楽器キットの表示タイプ \(1848 ページ\)](#)

[グリッド表示の打楽器キット内でのグループ名の変更 \(165 ページ\)](#)

[譜表ラベルのパラグラフスタイル \(1697 ページ\)](#)

## 譜表ラベルに表示されるインストゥルメントの移調

インストゥルメントの移調は、音符に従いインストゥルメントが演奏する音と実音とのピッチ差を示します。FホルンやB $\flat$ クラリネットなどの移調楽器には、通常インストゥルメント名やレイアウト名の一部として移調が表示され、これはインストゥルメントの音程とも呼ばれます。

各移調楽器の「**インストゥルメント名を編集 (Edit Instrument Names)**」のダイアログにある「**移調を表示 (Show transposition)**」のオプションの設定によっては、レイアウトで譜表ラベルの移調を非表示に設定していたとしても、譜表ラベルに移調が表示される場合があります。

Dorico Pro では、B $\flat$ クラリネットやB $\flat$ トランペットのような一般的な移調楽器については、譜表ラベルにおけるインストゥルメントの移調の表示/非表示はレイアウト設定に従うように設定されています。

混乱を避けるため、AクラリネットやEトランペットなど一般的ではない移調楽器については、レイアウトでインストゥルメントの移調を非表示に設定したとしても、常に譜表ラベルに移調を表示するように設定されています。

関連リンク

[移調楽器 \(146 ページ\)](#)

[プレーヤー名、レイアウト名、インストゥルメント名 \(203 ページ\)](#)

[インストゥルメント名の言語の変更 \(61 ページ\)](#)

## 譜表ラベルのインストゥルメントの移調を表示/非表示にする

譜表ラベルでインストゥルメントの移調を表示するか非表示にするかは、レイアウトごとに個別に切り替えられます。たとえば、フルスコアレイアウトではインストゥルメントの移調を非表示にして、パートレイアウトでは表示させることができます。

手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[L]** を押して「**レイアウトオプション (Layout Options)**」を開きます。
2. 「**レイアウト (Layouts)**」リストから、譜表ラベルのインストゥルメントの移調を表示または非表示にするレイアウトを選択します。

初期設定では、楽譜領域で選択されているものと同じレイアウトが選択された状態のダイアログが表示されます。他のレイアウトを選択するには、アクションバーの選択オプションを使用するか、複数のレイアウトをまたぐようにクリックしてドラッグするか、**[Shift]** を押しながら隣接するレイアウトをクリックするか、**[Ctrl]/[command]** を押しながら個々のレイアウトをクリックします。

3. カテゴリーリストの「**譜表と組段 (Staves and Systems)**」をクリックします。

4. 「譜表ラベル (Staff Labels)」セクションの「インストゥルメントの音程または移調 (Instrument pitch or transposition)」について、以下のオプションをオンまたはオフにします。
  - 完全な譜表ラベルに表示 (Show in full staff labels)
  - 省略された譜表ラベルに表示 (Show in abbreviated staff labels)
5. 「適用 (Apply)」をクリックしてから「閉じる (Close)」をクリックします。

#### 結果

対応するチェックボックスをオンにすると、選択したレイアウトの対応する長さの譜表ラベルにインストゥルメントの移調が表示され、対応するチェックボックスをオフにすると非表示になります。

#### 補足

各移調楽器の「インストゥルメント名を編集 (Edit Instrument Names)」のダイアログにある「移調を表示 (Show transposition)」のオプションの設定によっては、レイアウトで譜表ラベルの移調を非表示に設定していたとしても、譜表ラベルに移調が表示される場合があります。

## 譜表ラベルにおけるインストゥルメントの移調の外観/位置を変更する

各レイアウトの譜表ラベルにおけるインストゥルメントの移調の外観および位置を個別に変更できます。これはたとえば、パートレイアウトではインストゥルメントの移調を別の行に表示しつつ、フルスコアレイアウトでは同じ行に括弧付きで表示する場合などに役立ちます。

#### 手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[L]** を押して「レイアウトオプション (Layout Options)」を開きます。
2. インストゥルメントの移調の外観および位置を変更するレイアウトを「レイアウト (Layouts)」リストから選択します。

初期設定では、楽譜領域で選択されているものと同じレイアウトが選択された状態のダイアログが表示されます。他のレイアウトを選択するには、アクションバーの選択オプションを使用するか、複数のレイアウトをまたぐようにクリックしてドラッグするか、**[Shift]** を押しながら隣接するレイアウトをクリックするか、**[Ctrl]/[command]** を押しながら個々のレイアウトをクリックします。
3. カテゴリリストの「譜表と組段 (Staves and Systems)」をクリックします。
4. 「譜表ラベル (Staff Labels)」セクションで、「譜表ラベルを完全表示した際のインストゥルメントの音程の位置 (Position of instrument pitch in full staff labels)」の以下のいずれかのオプションを選択します。
  - 先頭 (Start)
  - 末尾 (End)
5. 「先頭 (Start)」を選択した場合は、必要に応じて、「開始位置のピッチとインストゥルメント名の間区切り用文字 (Separator between instrument pitch at start and name)」フィールドに区切り用文字として表示する文字を入力します。
6. 「末尾 (End)」を選択した場合は、必要に応じて、以下のオプションをオン/オフにします。
  - 個別の行に表示 (Show on separate line)
  - 括弧ありで表示 (Show in parentheses)
  - インストゥルメント番号を移調の前に表示 (Show instrument number before transposition)
7. 「適用 (Apply)」をクリックしてから「閉じる (Close)」をクリックします。

## 結果

譜表ラベルにおけるインストゥルメントの移調の外観および位置が選択したレイアウトで変更されます。

## 例

The image displays four columns of musical notation, each with four staves. The first column shows labels 'D-Horn 1', 'D-Horn 2', 'Bb-Trumpet 1', and 'Bb-Trumpet 2'. The second column shows 'Horn 1 in D', 'Horn 2 in D', 'Trumpet 1 in Bb', and 'Trumpet 2 in Bb'. The third column shows 'Horn (D) 1', 'Horn (D) 2', 'Trumpet (Bb) 1', and 'Trumpet (Bb) 2'. The fourth column shows 'Horn 1 in D', 'Horn 2 in D', 'Trumpet 1 in Bb', and 'Trumpet 2 in Bb'. Each staff contains musical notation with a treble clef, a key signature of one sharp (F#), and a common time signature (C).

ハイフンを使用して先頭に  
表示されているインストゥ  
ルメントの移調

別の行で末尾に表示されて  
いるインストゥルメントの  
移調

括弧付きで末尾に表示され  
ているインストゥルメント  
の移調

インストゥルメント番号の  
あとの末尾に表示されてい  
るインストゥルメントの移  
調

## 関連リンク

[インストゥルメント名の言語の変更 \(61 ページ\)](#)

[インストゥルメントのナンバリング \(144 ページ\)](#)

## 移調の異なるインストゥルメントの番号の扱いの別個/一緒に切り替える

たとえば F のホルン 2 本と D のホルン 2 本のように、移調は異なる同種のインストゥルメントが複数あるとき、インストゥルメントの番号付けを別個に扱うか一緒に扱うかをプロジェクト全体のすべての譜表で変更できます。Dorico Pro の初期設定では、移調の異なるインストゥルメントの番号付けは別個に扱われます。

## 手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[E]** を押して「**浄書オプション (Engraving Options)**」を開きます。
2. カテゴリーリストの「**譜表ラベル (Staff Labels)**」をクリックします。
3. 「**番号 (Numbering)**」セクションの「**移調が異なる類似のインストゥルメントの番号付け (Numbering for similar instruments with different transpositions)**」で、以下のいずれかのオプションを選択します。
  - **別個に扱って番号付けする (Number separately)**
  - **一緒に扱って番号付けする (Number together)**
4. 「**適用 (Apply)**」をクリックしてから「**閉じる (Close)**」をクリックします。

## 隣接する同一のインストゥルメントの譜表ラベルをグループ化する

複数の隣接するプレーヤーが同じインストゥルメントに割り当てられている場合、それらをグループ化して全体にはインストゥルメント名を 1 つだけ表示させ、個々の譜表の横にはインストゥルメント番号を表示するようになります。セクションプレーヤーとは別に、シングルプレーヤーのインストゥルメント名をグループ化できます。

初期設定では、すべての譜表には該当するインストゥルメント名を含む譜表ラベルが個別に表示されます。

#### 手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[E]** を押して「**浄書オプション (Engraving Options)**」を開きます。
2. カテゴリーリストの「**譜表ラベル (Staff Labels)**」をクリックします。
3. 「**番号 (Numbering)**」セクションで、「**譜表をグループ化する (Group between staves)**」に以下のいずれかのオプションを一括または個別に選択します。
  - **シングルプレーヤーが担当する同種の楽器が隣接する場合の譜表ラベル (Staff labels for identical adjacent instruments held by single players)**
  - **セクションプレーヤーが担当する同種の楽器が隣接する場合の譜表ラベル (Staff labels for identical adjacent instruments held by section players)**
4. 「**グループ化された譜表ラベルのインストゥルメント名の位置 (Position of instrument names for grouped staff labels)**」で以下のいずれかのオプションを選択します。
  - **インストゥルメント名を垂直方向に中央揃え (Center instrument name vertically)**
  - **インストゥルメント名を最初の譜表に揃える (Align instrument name with first staff)**
5. 「**適用 (Apply)**」をクリックしてから「**閉じる (Close)**」をクリックします。

#### 結果

対応するタイプのプレーヤーが担当するすべての隣接する同種のインストゥルメントに対して、プロジェクト全体のすべてのレイアウトで1つのインストゥルメント名が表示されます。インストゥルメント名は譜表間に中央揃えで表示されるか、最初の譜表に揃えられて表示されます。

#### 例



別の譜表ラベルを使用する2つのバイオリンの譜表

2つのバイオリンの譜表間でグループ化されたインストゥルメント名

グループ化されて最初のバイオリンの譜表に揃えられたインストゥルメント名

## 譜表ラベルの番号スタイルの変更

シングルプレーヤーおよびセクションプレーヤーの譜表ラベルの番号スタイルは個別に変更できます。たとえば、シングルプレーヤーには2のようなアラビア数字を、セクションプレーヤーにはIIのようなローマ数字をそれぞれ設定できます。

#### 手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[E]** を押して「**浄書オプション (Engraving Options)**」を開きます。
2. カテゴリーリストの「**譜表ラベル (Staff Labels)**」をクリックします。
3. 「**番号 (Numbering)**」セクションの「**シングルプレーヤーの番号スタイル (Numbering style for single players)**」で、以下のいずれかのオプションを選択します。

- アラビア数字 (Arabic numerals)
  - ローマ数字 (Roman numerals)
4. 「セクションプレーヤーの番号スタイル (Numbering style for section players)」で、以下のいずれかのオプションを選択します。
- アラビア数字 (Arabic numerals)
  - ローマ数字 (Roman numerals)
5. 「適用 (Apply)」をクリックしてから「閉じる (Close)」をクリックします。
- 

#### 結果

シングルプレーヤーおよびセクションプレーヤーに関連付けられた楽器は、プロジェクト全体で選択された番号スタイルを使用します。

#### 関連リンク

[インストゥルメントのナンバリング \(144 ページ\)](#)

[コンデンシングされた譜表の譜表ラベル \(1699 ページ\)](#)

[コンデンシング \(799 ページ\)](#)

## 声楽の譜表のラベルを全大文字/頭文字大文字で表示する

声楽の譜表ラベルを全大文字または頭文字大文字で表示できます。ヨーロッパの多くの出版社は、声楽の譜表に全大文字の譜表ラベルを使用することを好みますが、これはすべての出版社に共通するわけではありません。

---

#### 手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[E]** を押して「**浄書オプション (Engraving Options)**」を開きます。
  2. カテゴリーリストの「**譜表ラベル (Staff Labels)**」をクリックします。
  3. 「**大文字/小文字 (Case)**」セクションにある「**声楽の譜表のラベル: (Labels for vocal staves)**」で、以下のいずれかのオプションを選択します。
    - **全大文字 (Shown in uppercase)**
    - **頭文字大文字 (Shown in title case)**
  4. 「**適用 (Apply)**」をクリックしてから「**閉じる (Close)**」をクリックします。
- 

#### 結果

プロジェクト全体の声楽の譜表に使用される譜表ラベルが、全大文字または頭文字大文字のいずれかになります。

## プレーヤーグループのラベル

プレーヤーグループのラベルは、譜表ラベルの左側にある縦長の括弧の上に、プレーヤーグループの名前を横向きのテキストとして表示します。これにより、譜表のグループを識別できます。通常、これらのラベルはオーケストラや二部合唱などの大規模な楽譜に使用されます。

The image shows a musical score snippet with three main sections: WOODWINDS, BRASS, and CHOIR. Each section is enclosed in a large vertical bracket on the left. The text 'WOODWINDS', 'BRASS', and 'CHOIR' is written vertically next to their respective brackets. The score includes musical notation for various instruments and voices, with tempo markings such as 'E Un peu animé J = 80' and 'Rit.'. Large numbers '3' and '4' are placed over the staves, likely indicating measure counts or specific points in the music.

譜表ラベルの左側のプレーヤーグループのラベルにオーケストラの各セクションが表示されている

初期設定では、プレーヤーグループのラベルにプレーヤーグループの正式名称が表示されます。プレーヤーグループの正式名称が括弧より長い場合は、プレーヤーグループの略称が使われます。

プレーヤーグループのラベルは、レイアウトごとに個別に表示できます。

### ヒント

- プレーヤーグループのラベルの括弧の外観と位置は、「**浄書オプション (Engraving Options)**」 > 「**譜表ラベル (Staff Labels)**」 > 「**プレーヤーグループのラベル (Player Group Labels)**」で変更できます。
- プレーヤーグループのラベルには、「**パラグラフスタイル (Paragraph Styles)**」ダイアログで編集できる「**プレーヤーグループのラベル (Player Group Labels)**」のパラグラフスタイルが使用されます。

### 関連リンク

[プレーヤーグループ \(183 ページ\)](#)

[プレーヤーグループ名の変更 \(185 ページ\)](#)

[大括弧と中括弧 \(1140 ページ\)](#)

[「パラグラフスタイル \(Paragraph Styles\)」ダイアログ \(932 ページ\)](#)

## プレイヤーグループのラベルを表示/非表示にする

プレイヤーグループのラベルは、レイアウトごとに個別に表示/非表示にできます。たとえば、フルスコアレイアウトの合唱にはプレイヤーグループのラベルを表示し、ボーカルスコアのレイアウトには表示しないといったことができます。

---

### 手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[L]** を押して「**レイアウトオプション (Layout Options)**」を開きます。
2. 「**レイアウト (Layouts)**」リストで、プレイヤーグループのラベルを表示/非表示にするレイアウトを選択します。  
初期設定では、楽譜領域で選択されているものと同じレイアウトが選択された状態のダイアログが表示されます。他のレイアウトを選択するには、アクションバーの選択オプションを使用するか、複数のレイアウトをまたぐようにクリックしてドラッグするか、**[Shift]** を押しながら隣接するレイアウトをクリックするか、**[Ctrl]/[command]** を押しながら個々のレイアウトをクリックします。
3. カテゴリリストの「**譜表と組段 (Staves and Systems)**」をクリックします。
4. 「**譜表ラベル (Staff Labels)**」セクションで、「**プレイヤーグループ名を表示 (Show player group names)**」をオンまたはオフにします。
5. 「**適用 (Apply)**」をクリックしてから「**閉じる (Close)**」をクリックします。

---

### 結果

「**プレイヤーグループ名を表示 (Show player group names)**」がオンのときは選択したレイアウトのプレイヤーグループにプレイヤーグループのラベルが表示され、オフのときは非表示になります。

## プレイヤーグループのラベルの括弧を表示/非表示にする

たとえば、プレイヤーグループのラベルを括弧なしで表示したい場合などに、プロジェクト全体のすべてのプレイヤーグループのラベルの括弧を表示/非表示にできます。

---

### 手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[E]** を押して「**浄書オプション (Engraving Options)**」を開きます。
2. カテゴリリストの「**譜表ラベル (Staff Labels)**」をクリックします。
3. 「**プレイヤーグループのラベル (Player Group Labels)**」セクションの「**プレイヤーグループのラベルの外観 (Appearance of player group labels)**」で、以下のいずれかのオプションを選択します。
  - **大括弧を表示 (Show bracket)**
  - **角括弧を非表示 (Do not show bracket)**
4. 「**適用 (Apply)**」をクリックしてから「**閉じる (Close)**」をクリックします。

## プレイヤーグループ名の括弧に対する位置を変更する

プレイヤーグループのラベルを表示する場合に、プレイヤーグループ名の括弧に対する位置を変更できます。プレイヤーグループ名は、括弧の上に重ねて表示することも、括弧の内側（つまり括弧の右側）に表示することもできます。

---

### 手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[E]** を押して「**浄書オプション (Engraving Options)**」を開きます。



2. カテゴリーリストの「譜表ラベル (Staff Labels)」をクリックします。
3. 「プレイヤーグループのラベル (Player Group Labels)」セクションの「大括弧に対するプレイヤーグループのラベルの位置 (Position of player group label relative to bracket)」で、以下のいずれかのオプションを選択します。
  - 大括弧に重ねる (Superimpose on bracket)
  - 大括弧の内側 (Inside bracket)
4. 「適用 (Apply)」をクリックしてから「閉じる (Close)」をクリックします。

## 譜表ラベルのパラグラフスタイル

譜表ラベルはサイズ、スペーシング、配置、その他形式設定オプションなど、フォントの形式設定にパラグラフスタイルを使用します。インストゥルメント名とインストゥルメントの番号の垂直位置が異なっている場合など、譜表ラベルが複数の分かれた部分で構成されている場合は、それぞれの部分の形式を個別に設定できます。

The image shows a musical score with three staves. The top two staves are for Violins, labeled 'Violin 1' and 'Violin 2'. The bottom staff is for Wood Blocks, labeled 'Wood Block 1' through 'Wood Block 5'. Red circles with numbers 1 through 4 point to specific label elements: 1 points to the 'VIOLINS' group label, 2 points to the 'Violin' instrument name, 3 points to the instrument number, and 4 points to the 'Wood Block' instrument name.

譜表ラベルには、以下のパラグラフスタイルが使用されます。

- 1 **プレイヤーグループのラベル (Player Group Labels):** プレイヤーグループのラベルに使用されます。
- 2 **譜表ラベル (Staff Labels):** インストゥルメント名およびプレイヤー名とインストゥルメントの番号が隣り合って整列している場合にデフォルトで使用されるスタイルです。ディヴィジ譜表上のグループラベル、グリッド表示の打楽器キット内でのグループ、複数ある同一のインストゥルメントの間にグループ化されたインストゥルメント名とプレイヤー名、またはコンデンシングされた譜表の譜表ラベルのプレイヤー番号の間に配置されたインストゥルメント名とプレイヤー名にも使用されます。
- 3 **譜表ラベル (内) (Staff Labels (Inner)):** ディヴィジグループの個別の譜表、複数ある同一のインストゥルメントの間にインストゥルメント名が配置されている場合のインストゥルメントの番号、またはコンデンシングされた譜表ラベルのプレイヤー番号に使用されます。
- 4 **譜表ラベル (打楽器グリッド) (Staff Labels (Percussion Grid)):** グリッド表示の打楽器キット内の各インストゥルメントに使用されます。

それぞれのパラグラフスタイルは「パラグラフスタイル (Paragraph Styles)」ダイアログで個別に編集できます。たとえば、外側の譜表ラベルは左揃え、内側の譜表ラベルは右揃え、という具合に設定できます。

## ヒント

ディヴィジ譜表の譜表ラベルの外観や配置のより詳細な変更は、個別のディヴィジ作成で行なえます。

### 関連リンク

- [「パラグラフスタイル \(Paragraph Styles\)」 ダイアログ \(932 ページ\)](#)
- [ディヴィジの譜表ラベル \(1730 ページ\)](#)
- [ディヴィジ作成のラベル \(1733 ページ\)](#)
- [プレーヤーラベル \(817 ページ\)](#)
- [プレーヤーグループのラベル \(1695 ページ\)](#)
- [インストゥルメントの変更ラベルのパラグラフスタイル \(156 ページ\)](#)
- [打楽器キットの表示タイプ \(1848 ページ\)](#)


## 打楽器キットの譜表ラベル

打楽器キットの譜表に表示される譜表ラベルは、打楽器キットの表示タイプによって異なります。

以下の譜表ラベルは、対応する打楽器キットの表示タイプに表示されます。

### 五線譜

打楽器キットのインストゥルメント名を使用する 1 つのインストゥルメント名

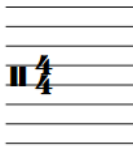
Drum Set 

### グリッド

複数のインストゥルメント名: キットの構成インストゥルメント 1 つにつき 1 つのラベルが、対応するインストゥルメントの譜表の位置に配置されます。

グループ名は、各グループのインストゥルメント名の中に中央揃えで配置されます。

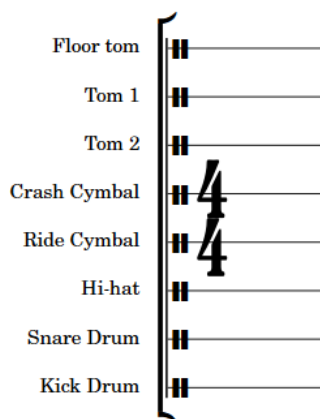
グリッドの各インストゥルメントの譜表ラベルは小さめのフォントと、標準のインストゥルメント用譜表ラベルとは異なるパラグラフスタイルを使用します。グリッドのグループは、譜表ラベルの標準のパラグラフスタイルを使用します。

  
Toms  
Crash Cymbal  
Ride Cymbal  
Hi-hat  
Snare Drum  
Kick Drum

### 一線譜を使用するインストゥルメント

複数のインストゥルメント名: キットの構成インストゥルメント 1 つにつき 1 つのラベルが、対応する一線譜の横に配置されます。

一線譜を使用するインストゥルメントの譜表ラベルは、標準のインストゥルメント用譜表ラベルと同じフォントとパラグラフスタイルを使用します。



打楽器キットのプレーヤー名、レイアウト名、およびインストゥルメント名は、他のプレーヤーやインストゥルメントと同様に変更できます。ただし、打楽器キットの譜表ラベルを変更する際は、打楽器キットの表示タイプによってそれぞれ異なる方法で、キットのインストゥルメント名を変更する必要があります。

- 五線譜: キットの名前を変更するには、設定モードの「**プレーヤー (Players)**」パネルで「**インストゥルメント名を編集 (Edit Instrument Names)**」ダイアログを開くか、「**打楽器キットを編集 (Edit Percussion Kit)**」ダイアログの「**名前 (Name)**」フィールドを使用します。
- グリッド/一線譜を使用するインストゥルメント: 個別のインストゥルメント名を変更するには、設定モードの「**打楽器キットを編集 (Edit Percussion Kit)**」ダイアログの中から「**インストゥルメント名を編集 (Edit Instrument Names)**」ダイアログを開きます。

キットのインストゥルメントで使用できるインストゥルメント名のフィールドとオプションは、標準の有音程楽器と同じです。

#### 補足

グリッド表示の各ラインの小さい譜表ラベルは、「**譜表ラベル (打楽器グリッド) (Staff Labels (Percussion Grid))**」のパラグラフスタイルを使用します。このパラグラフスタイルは、「**パラグラフスタイル (Paragraph Styles)**」のダイアログで編集できます。

#### 関連リンク

- [「インストゥルメント名を編集 \(Edit Instrument Names\)」ダイアログ \(207 ページ\)](#)
- [プレーヤー名、レイアウト名、インストゥルメント名 \(203 ページ\)](#)
- [グリッド表示の打楽器キット内でのグループ名の変更 \(165 ページ\)](#)
- [グリッド表示の打楽器キット内でのインストゥルメントグループの作成 \(164 ページ\)](#)
- [「打楽器キットを編集 \(Edit Percussion Kit\)」ダイアログ \(157 ページ\)](#)
- [無音程打楽器 \(1838 ページ\)](#)
- [打楽器キットの表示タイプ \(1848 ページ\)](#)

## コンデンスされた譜表の譜表ラベル

コンデンスされた譜表の譜表ラベルは、譜表に含まれるすべてのプレーヤーを反映する必要があります。Dorico Pro は自動的に譜表ラベルの同一のインストゥルメント名を統合しますが、必要なプレーヤー番号はすべて常に表示します。

異なる種類のインストゥルメント、または異なる名前前のインストゥルメントが含まれるコンデンスされた譜表には、必要なインストゥルメント名がすべて表示されます。

The image shows a musical score for brass instruments, specifically Horns in F, Trumpets in C, Trombones, and Bass Trombone/Tuba. The score is condensed, with multiple staves for each instrument. The Horns in F section has two staves (1 and 2) and two staves (3 and 4). The Trumpets in C section has two staves (1 and 2). The Trombone section has two staves (1 and 2). The Bass Trombone/Tuba section has one staff. The score includes dynamic markings such as *fp* and *a2*. The key signature is one flat (B-flat), and the time signature is 4/4. The score is written in a condensed format, with multiple staves for each instrument.

コンデンシングされた金管楽器の譜表の譜表ラベル

コンデンシングは頻繁に変化するため、コンデンシングされた譜表の譜表ラベルは組段ごとに変わる場合もあります。コンデンシングされたディヴィジ譜表の譜表ラベルには組段の開始位置のディヴィジョンが反映され、インストゥルメント名が表示されます。プロジェクト全体でインストゥルメント名のかわりにディヴィジグループの名前を表示するよう選択できるほか、コンデンシングされたすべての譜表の譜表ラベルでプレーヤー番号をどのようにスタックして統合するかも変更できます。

また Dorico Pro では、同一の組段内でもコンデンシングが変化する場合があるため、各プレーヤーがコンデンシングされた譜表のどの音符に属するのか識別するために、コンデンシングされた譜表の上または下にもプレーヤーラベルが表示されます。コンデンシングされたディヴィジ譜表には、プレーヤーラベル「div.」に加え、必要な修飾、および各ディヴィジョンの開始と終了を示すように設定されたユニゾン指示記号が表示されます。

#### 補足

隣接する同じインストゥルメントの譜表ラベルのグループ化に関する設定は、コンデンシングされた Flute 1-2 の譜表と単独の Flute 3 の譜表がある場合など、同じインストゥルメントがコンデンシングされた隣接する譜表やコンデンシングされたディヴィジ譜表にも適用されます。

譜表ラベルの番号スタイルの設定は、コンデンシングされた譜表にも適用されます。

#### 関連リンク

[プレーヤーラベル \(817 ページ\)](#)

[ディヴィジ作成のラベル \(1733 ページ\)](#)

[コンデンシング \(799 ページ\)](#)

[コンデンシングの有効化/無効化 \(765 ページ\)](#)

[譜表ラベルの番号スタイルの変更 \(1693 ページ\)](#)

[隣接する同一のインストゥルメントの譜表ラベルをグループ化する \(1692 ページ\)](#)

[デフォルトの「~へ」の指示記号/ユニゾン指示記号を変更する \(819 ページ\)](#)

[プレーヤー名、レイアウト名、インストゥルメント名 \(203 ページ\)](#)

## コンデンシングされた譜表ラベルの番号をスタックする方法の変更

コンデンシングされた譜表のプレーヤー番号をスタックする方法を変更できます。これによりたとえば、プレーヤーが単一の声部にコンデンシングされた組段も含めて、常に番号が垂直にスタックされるように変更できます。

---

### 手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[E]** を押して「**浄書オプション (Engraving Options)**」を開きます。
2. カテゴリーリストの「**譜表ラベル (Staff Labels)**」をクリックします。
3. 「**番号 (Numbering)**」セクションの「**コンデンシングされたプレーヤーのプレーヤー番号 (Player numbers for condensed players)**」で、以下のいずれかのオプションを選択します。
  - 縦 1 列に表示 (Stack vertically)
  - 水平にスタック (Stack horizontally)
4. 「**縦 1 列に表示 (Stack vertically)**」を選択した場合、必要に応じて「**コンデンシングされたプレーヤーのプレーヤー番号を垂直にスタックする場合 (When stacking player numbers for condensed players vertically)**」で以下のいずれかのオプションを選択します。
  - 符尾の割り当てを反映 (Consider stem allocation)
  - 符尾の割り当てを無視 (Ignore stem allocation)
5. 「**適用 (Apply)**」をクリックしてから「**閉じる (Close)**」をクリックします。

---

### 結果

コンデンシングされた譜表のすべての譜表ラベルのプレーヤー番号をスタックする方法が、プロジェクト全体で変更されます。

## コンデンシングされた譜表ラベルの番号を統合する方法の変更

プロジェクト全体のコンデンシングされたすべての譜表の連続したプレーヤー番号を、「1.2.3.4」のように個別にリスト表示するか、「1-4」のように範囲に統合するかを変更できます。

---

### 手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[E]** を押して「**浄書オプション (Engraving Options)**」を開きます。
2. カテゴリーリストの「**コンデンシング (Condensing)**」をクリックします。
3. 「**連続したプレーヤー番号 (Consecutive player numbers)**」で以下のいずれかのオプションを選択します。
  - 個別に表示 (Show individually)
  - 範囲に統合 (Consolidate into range)
4. 「**適用 (Apply)**」をクリックしてから「**閉じる (Close)**」をクリックします。

---

### 関連リンク

[「浄書オプション \(Engraving Options\)」ダイアログ \(923 ページ\)](#)

## コンデンシングされた譜表のラベルにディヴィジグループ名/インストゥルメント名を表示する

初期設定では、コンデンシングされたディヴィジ譜表の譜表ラベルにはインストゥルメント名が表示されます。たとえば、ディヴィジグループ名を使用した方がコンデンシングされた譜表に含まれるプレー

ヤーがわかりやすい場合など、ディヴィジグループが存在するプロジェクト全体のコンデンシングされたすべての譜表ラベルに、インストゥルメント名のかわりにディヴィジグループ名を表示できます。

---

#### 手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[E]** を押して「**浄書オプション (Engraving Options)**」を開きます。
  2. カテゴリーリストの「**譜表ラベル (Staff Labels)**」をクリックします。
  3. 「**番号 (Numbering)**」セクションにある「**コンデンシングされたディヴィジのセクションの譜表ラベル (Staff labels for condensed divisi sections)**」で、以下のいずれかのオプションを選択します。
    - 可能な場合はグループ名を使用 (Use group names if available)
    - インストゥルメント名を使用 (Use instrument name)
  4. 「**適用 (Apply)**」をクリックしてから「**閉じる (Close)**」をクリックします。
- 

#### 結果

コンデンシングされたディヴィジ譜表の譜表ラベルに表示された名前がプロジェクト全体で変更されます。

#### 関連リンク

[ディヴィジ \(1722 ページ\)](#)

[ディヴィジの譜表ラベル \(1730 ページ\)](#)



## 譜表線の太さの変更

譜表線の太さに関するプロジェクト全体の設定を変更できます。

---

### 手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[E]** を押して「**浄書オプション (Engraving Options)**」を開きます。
2. カテゴリーリストの「**譜表 (Staves)**」をクリックします。
3. 「**譜表線 (Staff Lines)**」セクションで、「**譜表線の太さ (Staff line thickness)**」の値を変更します。
4. 「**適用 (Apply)**」をクリックしてから「**閉じる (Close)**」をクリックします。

---

### 結果

譜表線の太さに関するプロジェクト全体の設定が変更されます。「**譜表の線の太さ (Staff line thickness)**」の値を大きくすると譜表の線が太くなり、小さくすると細くなります。

## 譜表の削除

どの位置にある譜表でも、削除することでレイアウトに表示されないようにできます。これはたとえば、楽節の余分な譜表を削除して、通常の譜表の数に戻す場合に役立ちます。

---

### 手順

1. 浄書モードで、削除する譜表上の、削除を開始するリズム上の位置にあるアイテムを選択します。

#### 補足

一度に削除できる譜表は1つだけです。

2. 「**編集 (Edit)**」 > 「**記譜 (Notations)**」 > 「**譜表 (Staff)**」 > 「**譜表を削除 (Remove Staff)**」を選択します。このオプションはコンテキストメニューでも選択できます。

---

### 結果

選択した位置から選択した譜表が削除され、譜表の変更を示すガイドが表示されます。この譜表に対する次の譜表変更のガイドがある位置か、フローの終了位置のいずれか先に到達したところまで、譜表が削除されます。

#### 補足

- 譜表上の音符を削除せずに譜表を削除した場合、その音符はそのまま存在し、再生に含まれます。あとから同じ位置に譜表を追加すると、音符は再度表示されます。
- インストゥルメントから譜表をすべて削除することはできません。最低1つは常に表示されている必要があります。あるレイアウトで特定のインストゥルメントの譜表を一切表示しない場合、かわりにそのレイアウトで空白の譜表を非表示にする設定を利用できます。



例



譜表が3つのピアノの楽譜の2小節めで一番下の譜表が削除された例

---

関連リンク

- [追加の譜表 \(1706 ページ\)](#)
- [追加の譜表の追加 \(1707 ページ\)](#)
- [空白の譜表の表示/非表示を切り替える \(750 ページ\)](#)
- [レイアウトへのプレーヤーの割り当て \(193 ページ\)](#)
- [プレーヤーの削除 \(140 ページ\)](#)
- [インストゥルメントの削除 \(149 ページ\)](#)
- [コンデンシング \(799 ページ\)](#)
- [ディヴィジ \(1722 ページ\)](#)

## 追加の譜表/オssia譜表の削除

追加の譜表とオssia譜表を削除してどのレイアウトにも表示されないようにできます。これは自動的にその内容まで削除するものではありません。これはたとえば、以前に楽節に追加の譜表を加えたものの、必要でなくなった場合に役立ちます。

---

手順

1. 浄書モードで、削除する追加の譜表またはオssia譜表の開始位置/終了位置にあるガイドを選択します。
  2. **[Backspace]** 又は **[Delete]** を押します。
- 

結果

選択した追加の譜表またはオssia譜表が削除され、そのプレーヤーを表示するすべてのレイアウトに表示されなくなります。

補足

譜表上の音符を削除せずに譜表を削除した場合、その音符はそのまま存在し、再生に含まれます。あとから同じ位置に譜表を追加すると、音符は再度表示されます。

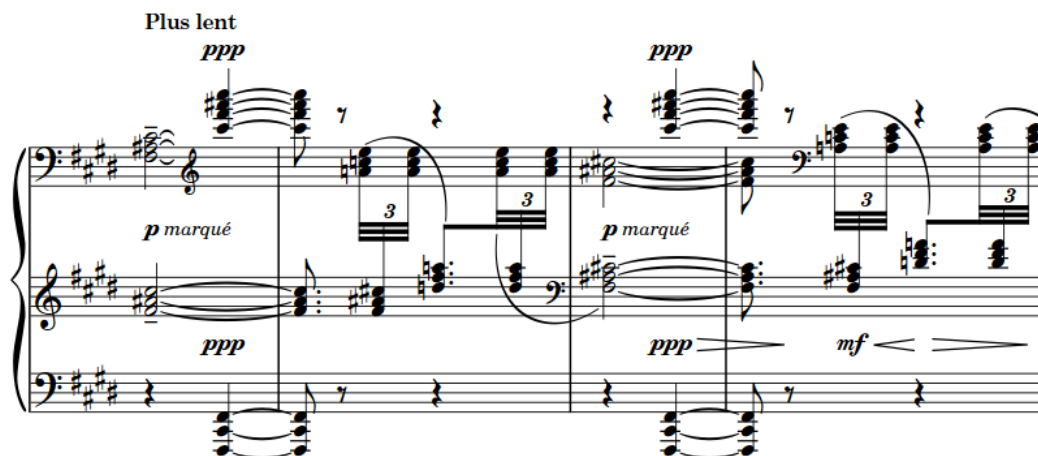
---

関連リンク

- [追加の譜表の追加 \(1707 ページ\)](#)
- [オssia譜表 \(1710 ページ\)](#)
- [オssia譜表の追加 \(1711 ページ\)](#)
- [オssia譜表を表示/非表示にする \(1713 ページ\)](#)

## 追加の譜表

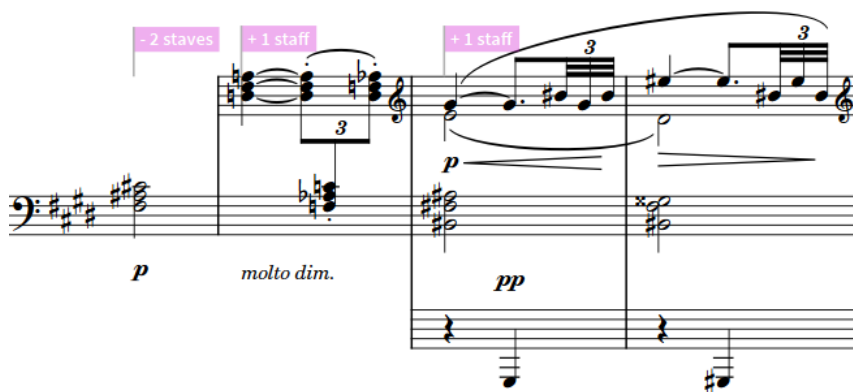
Dorico Pro では、どのインストゥルメントにでも追加の譜表を追加できます。たとえば、あるインストゥルメントの楽譜を通常より多くの譜表に広げることで、複雑な対位法による楽譜を読みやすくできます。



ドビュッシーのピアノ前奏曲「枯葉」からの抜粋で、3つの譜表が使用される例

追加の譜表を追加すると、これはフロー全体にわたって存在するものとなります。しかし、追加の譜表が必要とされるのは短い一部のみである場合が多いため、表示箇所を制御できます。追加の譜表はすぐに終了させることもできます。このあとには、組段の終端まで空白のスペースを入れることも、音符が含まれない場合でも空白の小節で埋めることもできます。

追加の譜表を追加または削除すると自動的にガイドが表示され、その位置で追加または削除された譜表の数を示します。同じ位置で複数の譜表の変更が行なわれた場合、それらはすべて同じガイドに表示されます。



ドビュッシーのピアノ前奏曲「枯葉」からの抜粋で、譜表変更のガイドが3つ使用される例

このガイドは、追加の譜表の開始位置および終了位置の変更で使用でき、これによりたとえば追加の譜表が表示される領域の長さを変更できます。ガイドは追加の譜表の削除にも使用できます。

また Dorico Pro は、譜表の用途によるタイプごとに専用の機能を用いて譜表の数を変更できます。

- 追加の譜表は、シングルプレーヤーに属する標準サイズの譜表です。
- オッシア譜表は、プレーヤーのタイプを問わず追加できる小さいサイズの譜表です。
- ディヴィジ譜表は、セクションプレーヤーに属する標準サイズの譜表です。

#### 補足

追加の譜表がある組段では、インストゥルメントをコンデンシングできません。

#### 関連リンク

[追加の譜表を組段全体にわたって表示する \(1708 ページ\)](#)

[オッシア譜表 \(1710 ページ\)](#)

[ディヴィジ \(1722 ページ\)](#)

[コンデンシング \(799 ページ\)](#)

[声部固有の強弱記号 \(1241 ページ\)](#)

[空白の譜表の表示/非表示を切り替える \(750 ページ\)](#)

[ガイド \(490 ページ\)](#)

## 追加の譜表の追加

シングルプレーヤーに属するインストゥルメントには、譜表の上下いずれにも追加の譜表を追加できます。これは限定された範囲にも、フロー全体にわたっても表示できます。たとえば、一部の複雑なピアノの楽譜においては、楽譜を分かりやすく表示するために2つではなく3つの譜表が必要とされます。

#### ヒント

- ディヴィジのパスセージや代替の演奏を記譜する場合は、この機能ではなく専用のディヴィジ譜表およびオッシア譜表の機能を使用します。
- 「**インストゥルメントを編集 (Edit Instruments)**」ダイアログでは、必要な数の譜表を持つカスタムインストゥルメントを作成できます。

#### 補足

- インストゥルメントの上下にはいくつでも譜表を追加できますが、1度に追加できるのは1つだけです。また、追加の譜表を追加するには、以前に追加した追加の譜表ではなく、インストゥルメントの元の譜表の1つでアイテムを選択する必要があります。
- 追加の譜表を追加できるのは、シングルプレーヤーに割り当てられたインストゥルメントのみです。セクションプレーヤーまたは打楽器キットに属するインストゥルメントには、追加の譜表を追加できません。
- 追加の譜表がある組段では、インストゥルメントをコンデンシングできません。

#### 手順

- 記譜モードで、インストゥルメントの元の譜表の1つの、追加の譜表を追加する位置にあるアイテムを選択します。
- 以下のいずれかの操作を行なって追加の譜表を追加します。
  - 「**編集 (Edit)**」 > 「**記譜 (Notations)**」 > 「**譜表 (Staff)**」 > 「**上に譜表を追加 (Add Staff Above)**」を選択します。
  - 「**編集 (Edit)**」 > 「**記譜 (Notations)**」 > 「**譜表 (Staff)**」 > 「**下に譜表を追加 (Add Staff Below)**」を選択します。

#### ヒント

このオプションはコンテキストメニューでも選択できます。

- 必要に応じて、手順1と2を何度でも繰り返します。

### 結果

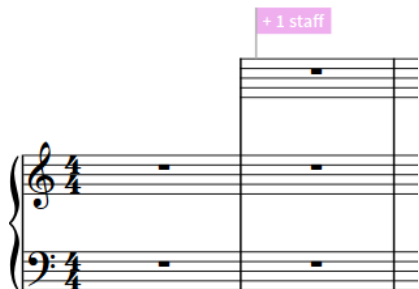
標準サイズの譜表が選択した譜表の上または下に追加されます。これは選択した中の一番前の位置から開始し、フローの終端まで続きます。開始位置には追加された譜表の数を示すガイドが表示されません。

### ヒント

初期設定では、追加の譜表は組段の始端または終端まで伸ばされません。つまり組段の途中で開始または終了します。

追加の譜表がその実際の開始位置または終了位置に関わらず、組段の始端または終端まで自動的に伸びるようにする場合、組段全体にわたって追加の譜表を表示するよう組段ごとに個別に設定できます。

### 例



2 小節めで上の譜表の上に追加の譜表を追加したピアノの楽譜

### 関連リンク

[オssia譜表 \(1710 ページ\)](#)

[最終フローのあとの空白の譜表を表示/非表示にする \(753 ページ\)](#)

[フレーム内に空白の譜表を表示する \(755 ページ\)](#)

[譜表の削除 \(1704 ページ\)](#)

[追加の譜表/オssia譜表の削除 \(1705 ページ\)](#)

[「インストゥルメントを編集 \(Edit Instruments\)」 ダイアログ \(950 ページ\)](#)

## 追加の譜表を組段全体にわたって表示する

初期設定では、追加の譜表はその開始位置から終了位置までの範囲のみに表示されます。この設定は、追加の譜表がどの組段でも幅いっぱいに表示されるように、レイアウトごとに個別に変更できます。

### 手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[L]** を押して「**レイアウトオプション (Layout Options)**」を開きます。
2. 追加の譜表を組段の幅いっぱいに表示させるレイアウトを「**レイアウト (Layouts)**」リストから選択します。  
初期設定では、楽譜領域で選択されているものと同じレイアウトが選択された状態のダイアログが表示されます。他のレイアウトを選択するには、アクションバーの選択オプションを使用するか、複数のレイアウトをまたぐようにクリックしてドラッグするか、**[Shift]** を押しながら隣接するレイアウトをクリックするか、**[Ctrl]/[command]** を押しながら個々のレイアウトをクリックします。
3. カテゴリーリストの「**譜表と組段 (Staves and Systems)**」をクリックします。

4. 「オssiaおよび追加の譜表 (Ossias and Extra Staves)」セクションで、「追加の譜表の開始位置または終了位置では、追加の譜表を組段全体にわたり表示する (Show extra staves across full system when starting or stopping)」をオンにします。
5. 「適用 (Apply)」をクリックしてから「閉じる (Close)」をクリックします。

#### 結果

選択したレイアウトの追加譜表は、どの組段においても常に幅いっぱいに表示されるようになります。オプションをオフにしたレイアウトでは、追加の譜表がそれぞれのガイドの位置で指定されるデュレーション範囲のみに表示されるようになります。

#### 例



組段の幅いっぱいには表示されていない追加の譜表

組段の幅いっぱいに表示された追加の譜表

#### 関連リンク

[音符/アイテムの位置の移動 \(502 ページ\)](#)

[空白の譜表の表示/非表示を切り替える \(750 ページ\)](#)

[ガイド \(490 ページ\)](#)

## オッサア譜表

オッサア譜表は、インストゥルメントのメイン譜表の上下に小さめに表示される譜表です。これはオリジナルのフレーズに代わって演奏できる代替フレーズを表示するものです。たとえば装飾音符に対する提案や、別ソースに由来する記譜、または簡易化されたバージョンなどがあります。

ピアノの左手の譜表の下に簡易化された代替フレーズを表示するオッサア譜表

Dorico Pro ではオッサア譜表をインストゥルメントの譜表の上下に追加できますが、これは指定されたデュレーションに対してのみであり、形式設定は自動で処理されます。オッサア譜表周辺の垂直方向のスペーシングは自動的に調整されます。

オッサア譜表を追加または削除すると自動的にガイドが表示され、その位置で追加または削除された譜表の数を示します。同じ位置で複数の譜表の変更が行なわれた場合、それらはすべて同じガイドに表示されます。

ガイドを表示しているオッサア譜表

初期設定では、オッサア譜表は標準の譜表の3分の2の縮尺になっています。これは固定された譜表サイズではなく倍率であるため、レイアウトごと、セクションごと、そしてプレーヤーごとに設定できる譜表サイズに応じて、オッサア譜表のサイズは自動的に調整されます。

### 補足

- オッサア譜表の記譜内容は再生されません。
- オッサア譜表がある組段では、インストゥルメントをコンデンシングできません。

### 関連リンク

[追加の譜表 \(1706 ページ\)](#)

[追加の譜表/オッサア譜表の削除 \(1705 ページ\)](#)

[オッサア譜表のサイズを変更する \(1711 ページ\)](#)

[オッサアの譜表ラベル \(1714 ページ\)](#)

[譜表冒頭部のオssia譜表を表示/非表示にする \(1712 ページ\)](#)  
[オssia譜表を表示/非表示にする \(1713 ページ\)](#)  
[オssia譜表に対する組段オブジェクトの配置の変更 \(1719 ページ\)](#)  
[コンデンシング \(799 ページ\)](#)

## オssia譜表の追加

オssia譜表はシングルプレーヤーおよびセクションプレーヤーの既存の譜表の上下いずれにも追加できます。大譜表を用いるインストゥルメントについては、譜表が2つまでのオssiaを追加できません。

### 補足

- 打楽器キットのインストゥルメントにはオssia譜表は追加できません。
  - インストゥルメントは譜表の上下にオssiaを表示できますが、片側につき1つのオssiaしか同時に存在できません。
  - オssia譜表がある組段では、インストゥルメントをコンデンシングできません。
- 

### 手順

1. 記譜モードで、上か下にオssia譜表を追加するデュレーションにまたがる譜表上のアイテムを選択します。

### 補足

譜表が2つのオssiaを追加する場合、大譜表の上下両方の譜表上のアイテムを選択する必要があります。

---

2. 以下のいずれかの操作を行なってオssia譜表を追加します。
  - 「編集 (Edit)」 > 「記譜 (Notations)」 > 「譜表 (Staff)」 > 「オssiaを上を作成 (Create Ossia Above)」を選択します。
  - 「編集 (Edit)」 > 「記譜 (Notations)」 > 「譜表 (Staff)」 > 「オssiaを下を作成 (Create Ossia Below)」を選択します。

### ヒント

このオプションはコンテキストメニューでも選択できます。

---

### 結果

選択した譜表の選択した範囲の上か下にオssiaが追加されます。オssiaのパッセージの開始位置に1つ、終了位置にもう1つのガイドが表示されます。

### ヒント

これらのガイドを選択して移動することにより、オssia譜表の開始位置と終了位置を変更できます。

---

## オssia譜表のサイズを変更する

初期設定では、オssia譜表は標準の譜表の3分の2の縮尺になっています。プロジェクト全体に対し、すべてのオssia譜表の倍率を変更できます。

---

### 手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[E]** を押して「**浄書オプション (Engraving Options)**」を開きます。

2. カテゴリーリストの「譜表 (Staves)」をクリックします。
3. 「オssia (Ossias)」セクションで、「オssiaの倍率 (Ossia scale factor)」の値を変更します。
4. 「適用 (Apply)」をクリックしてから「閉じる (Close)」をクリックします。

#### 結果

プロジェクト全体のすべてのレイアウトで、それが属する譜表のサイズに対するオssia譜表の倍率を変更されます。

#### 関連リンク

[譜表サイズ](#) (772 ページ)

## 小節の途中で開始/終了するオssiaの余白を変更する

小節の途中で開始/終了するオssia譜表の左右に延長される譜表線の長さを変更できます。オssia譜表に余白を与えることで、音符、臨時記号、付点その他のアイテムが、譜表線からはみ出さないようにします。

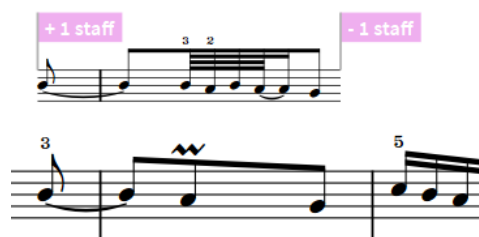
#### 手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[E]** を押して「浄書オプション (Engraving Options)」を開きます。
2. カテゴリーリストの「譜表 (Staves)」をクリックします。
3. 「オssia (Ossias)」セクションで、以下のオプションのいずれかまたは両方を変更します。
  - オssia開始位置の譜表線の延長 (Extend staff lines at start of ossia)
  - オssia終了位置の譜表線の延長 (Extend staff lines at end of ossia)
4. 「適用 (Apply)」をクリックしてから「閉じる (Close)」をクリックします。

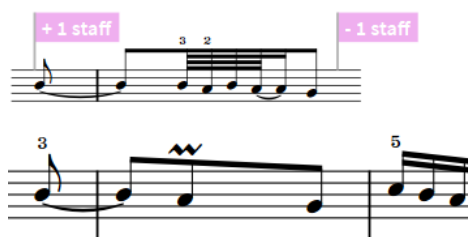
#### 結果

小節の途中で開始/終了するオssia譜表の前後の余白がプロジェクト全体で変更されます。

#### 例



余白なしのオssia譜表



開始位置と終了位置の両方の余白を 3 に設定したオssia譜表

## 譜表冒頭部のオssia譜表を表示/非表示にする

オssiaがシステム区切りまたはフレーム区切りをまたぐとき、譜表冒頭部にオssia譜表を含めるか除外するか、レイアウトごとに個別に設定できます。

固定された譜表冒頭部にオssia譜表を表示するということは、各組段の開始位置で、その音部記号と拍子記号がその他すべての標準の譜表と並んで表示されるということです。これはオssia譜表が追



加のインストゥルメントであるかのように見える場合があるため、固定された譜表冒頭部からはオssia譜表を除外するのが通例となっています。

#### 手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[L]** を押して「レイアウトオプション (Layout Options)」を開きます。
2. 「レイアウト (Layouts)」リストから、譜表冒頭部のオssia譜表を表示または非表示にするレイアウトを選択します。  
初期設定では、楽譜領域で選択されているものと同じレイアウトが選択された状態のダイアログが表示されます。他のレイアウトを選択するには、アクションバーの選択オプションを使用するか、複数のレイアウトをまたぐようにクリックしてドラッグするか、**[Shift]** を押しながら隣接するレイアウトをクリックするか、**[Ctrl]/[command]** を押しながら個々のレイアウトをクリックします。
3. カテゴリーリストの「譜表と組段 (Staves and Systems)」をクリックします。
4. 「オssiaおよび追加の譜表 (Ossias and Extra Staves)」セクションの「組段をまたぐオssia (Ossias crossing a system break)」に対し、以下のいずれかのオプションを選択します。
  - 譜表冒頭部の記号を含める (Include in preamble)
  - 譜表冒頭部の記号を除外する (Exclude from preamble)
5. 「適用 (Apply)」をクリックしてから「閉じる (Close)」をクリックします。

#### 結果

「譜表冒頭部の記号を除外する (Exclude from preamble)」を選択すると、選択したレイアウトのメインの譜表冒頭部においてオssia譜表の譜表冒頭部の記号が非表示になり、「譜表冒頭部の記号を含める (Include in preamble)」を選択すると表示されます。

#### 例



譜表冒頭部にオssiaを含めた例



譜表冒頭部からオssiaを除外した例

## オssia譜表を表示/非表示にする

初期設定では、オssia譜表はすべてのレイアウトに表示されます。オssia譜表を表示するレイアウトは変更できます。これによりたとえば、オssia譜表をパートレイアウトには表示させつつ、フルスコアには表示させないことなどができます。

#### 手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[L]** を押して「レイアウトオプション (Layout Options)」を開きます。

2. 「レイアウト (Layouts)」 リストから、オssia譜表を表示または非表示にするレイアウトを選択します。  
初期設定では、楽譜領域で選択されているものと同じレイアウトが選択された状態のダイアログが表示されます。他のレイアウトを選択するには、アクションバーの選択オプションを使用するか、複数のレイアウトをまたぐようにクリックしてドラッグするか、**[Shift]** を押しながら隣接するレイアウトをクリックするか、**[Ctrl]/[command]** を押しながら個々のレイアウトをクリックします。
3. カテゴリーリストの「譜表と組段 (Staves and Systems)」をクリックします。
4. 「オssiaおよび追加の譜表 (Ossias and Extra Staves)」セクションで、「オssiaを表示 (Show ossias)」をオンまたはオフにします。
5. 「適用 (Apply)」をクリックしてから「閉じる (Close)」をクリックします。

#### 結果

「オssiaを表示 (Show ossias)」がオンのときは選択したレイアウトにオssiaが表示され、オフのときは非表示になります。

## オssia譜表の小節線

オssia譜表をそれが属する譜表に小節線で接続するかどうか、接続するのであればどのタイプの小節線を使用するかについては、異なる表記規則が存在します。

オssiaの開始と終了がいずれも小節線の位置である場合、出版社により異なる以下の一般的な表記規則が存在します。

- 開始位置と終了位置の両方で、小節線がオssiaとメイン譜表を結合する
- 終了位置でのみ、小節線がオssiaとメイン譜表を結合する
- オssiaはメイン譜表に一切結合されない

オssiaをメイン譜表に結合するとき、他の譜表と同じ種類の縦線による小節線を使用する出版社と、破線による小節線を使用する出版社があります。

Dorico Pro では、これらすべての表記規則をカバーするオプションが「**浄書オプション (Engraving Options)**」 > 「**小節線 (Barlines)**」 > 「**オssia (Ossias)**」にあります。

#### 補足

オssiaが、たとえばピアノの右手の譜表の下など、インストゥルメントのメイン譜表の間に挟まれて表示される場合、「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**小節線 (Barlines)**」ページで選択した設定に関わらず、メイン譜表と同じ小節線で結合されます。

#### 関連リンク

[小節線 \(1078 ページ\)](#)

[浄書オプションで小節線の設定をプロジェクト全体に適用する \(1079 ページ\)](#)

[「浄書オプション \(Engraving Options\)」ダイアログ \(923 ページ\)](#)

## オssiaの譜表ラベル

オssiaは通常の譜表と同様に譜表ラベルを表示できますが、唯一異なる点として、オssiaの譜表ラベルは組段の途中であっても、通常は組段内に表示され、最初の小節線の前ではなくオssiaの開始位置の左側に表示されます。

オssiaの譜表ラベルは「**オssiaの譜表ラベル (Ossia Staff Label)**」のフォントスタイルを使用します。これは「**フォントスタイルを編集 (Edit Font Styles)**」ダイアログで編集できます。



初期設定の譜表ラベルが付いたオssia譜表

オssiaの譜表ラベルは、「**浄書オプション (Engraving Options)**」 > 「**譜表 (Staves)**」 > 「**オssia (Ossias)**」で設定された距離に従い配置されます。1つのオssiaと、中括弧で括られた譜表が2つのオssiaには、オプションが個別に用意されています。

関連リンク

[「フォントスタイルを編集 \(Edit Font Styles\)」ダイアログ \(930 ページ\)](#)

[「浄書オプション \(Engraving Options\)」ダイアログ \(923 ページ\)](#)

## オssia譜表の譜表ラベルを表示/非表示にする

オssia譜表の譜表ラベルはレイアウトごとに個別に表示と非表示を切り替えられます。また初期設定の譜表ラベルを表示するか、カスタムのオssiaラベルを入力するか選択できます。

オssia譜表の初期設定の譜表ラベルは `ossia` です。

手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[L]** を押して「**レイアウトオプション (Layout Options)**」を開きます。
2. 「**レイアウト (Layouts)**」リストから、オssia譜表の譜表ラベルを表示または非表示にするレイアウトを選択します。  
初期設定では、楽譜領域で選択されているものと同じレイアウトが選択された状態のダイアログが表示されます。他のレイアウトを選択するには、アクションバーの選択オプションを使用するか、複数のレイアウトをまたぐようにクリックしてドラッグするか、**[Shift]** を押しながら隣接するレイアウトをクリックするか、**[Ctrl]/[command]** を押しながら個々のレイアウトをクリックします。
3. カテゴリーリストの「**譜表と組段 (Staves and Systems)**」をクリックします。
4. 「**オssiaおよび追加の譜表 (Ossias and Extra Staves)**」セクションで、「**オssiaの前にラベルを表示 (Show label before ossia)**」をオンまたはオフにします。
5. また「**オssiaの前にラベルを表示 (Show label before ossia)**」をオンにした場合、譜表ラベルを以下のオプションから選択します。
  - デフォルト (Default)
  - カスタム (Custom)
6. さらに「**カスタム (Custom)**」を選択した場合、任意の譜表ラベルを「**カスタムのオssiaラベル (Custom ossia label)**」フィールドに入力します。
7. 「**適用 (Apply)**」をクリックしてから「**閉じる (Close)**」をクリックします。

#### 結果

選択したレイアウトで譜表ラベルが表示または非表示になります。

#### 関連リンク

[オシアの譜表ラベル \(1714 ページ\)](#)

## 組段の分割記号

組段の分割記号は、同じページに表示される異なる組段の区切りを明確にするために使用されます。通常、最初の小節線の左側に配置された2本の太い斜めの平行線として表示されます。

Dorico Pro では、組段の分割記号の外側の端は楽曲フレームの対応する端に揃えられます。



弦楽四重奏のスコアにおける2つの組段の間の分割記号

組段の分割記号を異なる状況で表示でき、レイアウトごとに個別に外観を変更できます。「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**組段の分割記号 (System Dividers)**」ページですべてのレイアウトにおけるデフォルトの挿入幅をプロジェクト全体で変更することもできます。

## 組段の分割記号を表示/非表示にする

表示に必要なプレーヤーの最小数など、組段の分割記号が表示される状況を、レイアウトごとに個別に変更できます。たとえば、異なる数の譜表を持つ組段の間にのみ組段の分割記号を表示できます。

#### 手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[L]** を押して「**レイアウトオプション (Layout Options)**」を開きます。
2. 「**レイアウト (Layouts)**」リストで、組段の分割記号を表示/非表示にするレイアウトを選択します。  
初期設定では、楽譜領域で選択されているものと同じレイアウトが選択された状態のダイアログが表示されます。他のレイアウトを選択するには、アクションバーの選択オプションを使用するか、複数のレイアウトをまたぐようにクリックしてドラッグするか、**[Shift]** を押しながら隣接するレイアウトをクリックするか、**[Ctrl]/[command]** を押しながら個々のレイアウトをクリックします。
3. カテゴリーリストの「**譜表と組段 (Staves and Systems)**」をクリックします。
4. 「**組段の分割記号 (System Dividers)**」セクションで、「**組段の分割記号を表示 (Show system dividers)**」をオン/オフにします。
5. 「**組段の分割記号を表示 (Show system dividers)**」をオンにした場合は、以下のいずれかのオプションを選択します。
  - 設定した数より多くの譜表が含まれている組段の間にのみ組段の分割記号を表示するには、「**最小譜表数を超える場合 (When min. staves exceeded)**」を選択します。

- 設定した数より多くのプレーヤーが含まれているフロー内のすべての組段の間に組段の分割記号を表示するには、「**最小プレーヤー数を超える場合 (When min. players exceeded)**」を選択します。
  - 譜表の数が異なる組段の間にもみ組段の分割記号を表示するには、「**譜表の数が異なる場合 (When number of staves differs)**」を選択します。
6. 必要に応じて、以下のいずれかの操作を行ないます。
- 「**最小譜表数を超える場合 (When min. staves exceeded)**」を選択した場合は、「**組段の最小譜表数 (Minimum number of staves in system)**」の値を変更します。
  - 「**最小プレーヤー数を超える場合 (When min. players exceeded)**」を選択した場合は、「**プレーヤーの最小数 (Minimum number of players)**」の値を変更します。
7. 「**適用 (Apply)**」をクリックしてから「**閉じる (Close)**」をクリックします。
- 

#### 結果

- 「**組段の分割記号を表示 (Show system dividers)**」をオフにした場合、選択したレイアウトの組段の分割記号が非表示になります。
- 「**組段の分割記号を表示 (Show system dividers)**」をオンにした場合、選択したレイアウトの組段の分割記号が状況に応じて表示されます。

#### 関連リンク

[空白の譜表の表示/非表示を切り替える \(750 ページ\)](#)

## 組段の分割記号の長さを変更する

組段の分割記号の長さをレイアウトごとに個別に変更できます。たとえば、譜表ラベルを省略せずに表示するレイアウトでは長い組段の分割記号を表示するといったことができます。

---

#### 手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[L]** を押して「**レイアウトオプション (Layout Options)**」を開きます。
  2. 「**レイアウト (Layouts)**」リストから、組段の分割記号を表示させるレイアウトを選択します。  
初期設定では、楽譜領域で選択されているものと同じレイアウトが選択された状態のダイアログが表示されます。他のレイアウトを選択するには、アクションバーの選択オプションを使用するか、複数のレイアウトをまたぐようにクリックしてドラッグするか、**[Shift]** を押しながら隣接するレイアウトをクリックするか、**[Ctrl]/[command]** を押しながら個々のレイアウトをクリックします。
  3. カテゴリーリストの「**譜表と組段 (Staves and Systems)**」をクリックします。
  4. 「**組段の分割記号 (System Dividers)**」セクションの「**外観 (Appearance)**」で、以下のいずれかのオプションを選択します。
    - デフォルト (Default)
    - 長 (Long)
    - 最長 (Extra long)
  5. 「**適用 (Apply)**」をクリックしてから「**閉じる (Close)**」をクリックします。
- 

## 組段オブジェクト

組段オブジェクトとは、組段中のすべての譜表に適用され、すべてのレイアウトに表示されますが、フルスコアレイアウトでは必ずしもすべての譜表には表示されないアイテムです。たとえば、テンポ記号

やりハーサルマークはそれぞれのパートですべてのプレーヤーに見えることが大事ですが、オーケストラのフルスコアにおいてすべての譜表に表示された場合、非常に取り散らかった状態になります。

Dorico Pro では、以下のアイテムが組段オブジェクトと見なされます。

- リハーサルマーク
- リピート括弧
- リピートマーカ
- 組段に連結されたテキスト
- テンポ記号
- 譜表の上に表示された拍子記号
- すべての譜表に適用される横線

組段オブジェクトは、すべてのレイアウトに少なくとも 1 回は自動的に表示されます。組段オブジェクトは、複数のインストゥルメントファミリーの上に表示することにより、各組段の複数の位置に表示できます。たとえば、木管楽器、金管楽器、打楽器、および弦楽器ファミリーの上に表示させるなどです。オーケストラのフルスコアでは、これによって組段オブジェクトがページ全体に均等に分散し、これらの重要な記号からどの譜表もそれほど離れていない状態になります。また、一番下の譜表の下にリハーサルマークとリピート括弧を追加で表示することもできます。

#### 補足

- 組段オブジェクトは、大括弧または中括弧によって括られたインストゥルメントファミリーの上のみ表示されます。大括弧のグループ化はレイアウトごとに個別に変更できます。また、カスタムの大括弧/中括弧のグループ化を使用して、特定の譜表をまとめて大括弧または中括弧で括ることもできます。
- 組段オブジェクトのフォントスタイルのサイズが「**譜表との相対値 (Staff-relative)**」に設定されている場合、インストゥルメントファミリーの大括弧で括られたグループの最上段の譜表の譜表サイズにより、その上に表示される組段オブジェクトのサイズが影響されます。フォントスタイルが「**絶対値 (Absolute)**」に設定されている場合、譜表サイズによる影響は受けません。

#### 関連リンク

[アンサンブルタイプによる大括弧でのグループ化 \(1143 ページ\)](#)

[カスタムの譜表のグループ化 \(1148 ページ\)](#)

[インストゥルメントファミリー \(960 ページ\)](#)

[「パラグラフスタイル \(Paragraph Styles\)」ダイアログ \(932 ページ\)](#)

[「フォントスタイルを編集 \(Edit Font Styles\)」ダイアログ \(930 ページ\)](#)

[大括弧と中括弧 \(1140 ページ\)](#)

[リハーサルマーク \(1574 ページ\)](#)

[テンポ記号 \(1745 ページ\)](#)

[リピート括弧 \(1591 ページ\)](#)

[大きな拍子記号 \(1801 ページ\)](#)

[テキストアイテムの入力 \(420 ページ\)](#)

## 組段オブジェクトの位置の変更

組段オブジェクトの表示位置は、レイアウトごとに個別に異なるインストゥルメントファミリーの上に設定できます。組段に付くテキスト、リハーサルマーク、テンポ記号、リピートマーカ、リピート括弧など、多数のアイテムが組段オブジェクトに分類されます。

#### 手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[L]** を押して「**レイアウトオプション (Layout Options)**」を開きます。

2. 組段オブジェクトをその上に表示させるインストゥルメントファミリーを変更するレイアウトを「**レイアウト (Layouts)**」リストから選択します。  
初期設定では、楽譜領域で選択されているものと同じレイアウトが選択された状態のダイアログが表示されます。他のレイアウトを選択するには、アクションバーの選択オプションを使用するか、複数のレイアウトをまたぐようにクリックしてドラッグするか、**[Shift]** を押しながら隣接するレイアウトをクリックするか、**[Ctrl]/[command]** を押しながら個々のレイアウトをクリックします。
  3. カテゴリリストの「**譜表と組段 (Staves and Systems)**」をクリックします。
  4. 「**組段オブジェクト (System Objects)**」セクションで、組段オブジェクトをその上に表示させるインストゥルメントファミリーのチェックボックスをオンにします。
  5. 「**組段オブジェクトを第 1 ソリストの上に表示 (Show system objects above first soloist)**」をオン/オフにします。
  6. 「**一番下の譜表の下にも表示 (Also show below bottom staff)**」の以下のオプションをオン/オフにします。
    - **リピート括弧 (Repeat endings)**
    - **リハーサルマーク (Rehearsal marks)**
  7. 「**適用 (Apply)**」をクリックしてから「**閉じる (Close)**」をクリックします。
- 

#### 結果

選択したレイアウトにそのインストゥルメントファミリーの大括弧または中括弧で括られたグループが含まれる場合、選択した括弧それぞれの一番上の譜表の上に組段オブジェクトが表示されます。

「**一番下の譜表の下にも表示 (Also show below bottom staff)**」のオプションをオンにすると、対応する記譜記号が一番下の譜表の下に追加で表示されます。

#### 補足

組段オブジェクトは、大括弧または中括弧によって括られたインストゥルメントファミリーの上のみ表示されます。大括弧のグループ化はレイアウトごとに個別に変更できます。また、カスタムの大括弧/中括弧のグループ化を使用して、特定の譜表をまとめて大括弧または中括弧で括ることもできます。

---

#### 関連リンク

- [組段オブジェクト \(1717 ページ\)](#)
- [インストゥルメントファミリー \(960 ページ\)](#)
- [プレーヤーをソリストに指定 \(139 ページ\)](#)

## オッサア譜表に対する組段オブジェクトの配置の変更

組段オブジェクトをメイン譜表とオッサア譜表の間に配置するか、またはオッサア譜表の上に配置するかをレイアウトごとに個別に変更できます。

---

#### 手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[L]** を押して「**レイアウトオプション (Layout Options)**」を開きます。
2. 「**レイアウト (Layouts)**」リストから、オッサア譜表に対する組段オブジェクトの配置を変更するレイアウトを選択します。

初期設定では、楽譜領域で選択されているものと同じレイアウトが選択された状態のダイアログが表示されます。他のレイアウトを選択するには、アクションバーの選択オプションを使用するか、複数のレイアウトをまたぐようにクリックしてドラッグするか、**[Shift]** を押しながら隣接するレ

イアウトをクリックするか、**[Ctrl]/[command]** を押しながら個々のレイアウトをクリックします。

3. カテゴリーリストの「**譜表と組段 (Staves and Systems)**」をクリックします。
4. 「**オssiaおよび追加の譜表 (Ossias and Extra Staves)**」セクションの「**譜表の上のオssiaに対する組段オブジェクトの位置 (Position of system objects relative to ossia above staff)**」で以下のいずれかのオプションを選択します。
  - **オssiaの内側 (Inside ossia)**
  - **オssiaの外側 (Outside ossia)**
5. 「**適用 (Apply)**」をクリックしてから「**閉じる (Close)**」をクリックします。

## 組段のインデント

組段のインデントは、楽譜の左側のページ余白と組段の開始位置の間の距離を制御します。伝統的には、パートレイアウトの最初の組段はインデントされますが、現代的な用法においてこれは必ずしも必須ではありません。

表記規則によれば、新しい組段の開始位置にあるコーダセクションもインデントされます。Dorico Pro では、組段の途中でも新しい組段の開始位置であっても、コーダの開始位置の前には同じ幅の間隔が使用されます。



最初の組段がインデントされたバイオリンパート

Dorico Pro では、組段のインデントは譜表ラベルを収めるために自動的に調整されます。たとえば、組段のインデントの最小値より大幅に長い譜表ラベルが組段に存在する場合、Dorico Pro はその組段のインデントを大きくして、譜表ラベルの読みやすさを維持しつつ、左端で切れたり楽譜に衝突したりしないようにします。

譜表ラベルの付いた組段の最小インデントと最初の組段のインデントは、どちらもレイアウトごとに個別に変更できます。個々の組段の開始位置および終了位置のインデントは、どちらもレイアウトごとの設定から独立した形で調整できます。

## 最初の組段のインデントの変更

Dorico Pro の初期設定では、各フローの最初の組段は、パートレイアウトではインデントされます。すべてのフローの最初の組段のインデントは、レイアウトごとに個別に変更できます。

手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[L]** を押して「**レイアウトオプション (Layout Options)**」を開きます。
2. 「**レイアウト (Layouts)**」リストから、最初の組段のインデントを変更するレイアウトを選択します。



初期設定では、楽譜領域で選択されているものと同じレイアウトが選択された状態のダイアログが表示されます。他のレイアウトを選択するには、アクションバーの選択オプションを使用するか、複数のレイアウトをまたぐようにクリックしてドラッグするか、**[Shift]** を押しながら隣接するレイアウトをクリックするか、**[Ctrl]/[command]** を押しながら個々のレイアウトをクリックします。

3. カテゴリーリストの「**譜表と組段 (Staves and Systems)**」をクリックします。
  4. 「**譜表ラベル (Staff Labels)**」セクションで、「**フローの最初の組段のインデント (Indent first system of flow by)**」の値を変更します。
  5. 「**譜表ラベルを表示するときはインデントを適用 (Apply indent when staff labels are shown)**」をオン/オフにします。
  6. 「**適用 (Apply)**」をクリックしてから「**閉じる (Close)**」をクリックします。
- 

#### 結果

選択したレイアウトで、すべてのフローの最初の組段のインデントが変更されます。

「**譜表ラベルを表示するときはインデントを適用 (Apply indent when staff labels are shown)**」をオフにした場合、譜表ラベルの付いた最初の組段が、譜表ラベルに必要なスペースの分だけインデントされます。

#### 関連リンク

[譜表ラベルの付いた組段の最小インデントの変更 \(1687 ページ\)](#)

[コードの前の間隔を変更する \(1606 ページ\)](#)

[譜表ラベルを表示/非表示にする \(1685 ページ\)](#)

[組段の開始位置/終了位置の移動 \(651 ページ\)](#)

[最後の組段の両端揃え \(水平方向\) の変更 \(764 ページ\)](#)

# ディヴィジ

ディヴィジとは、1つの譜表を共有するプレーヤーが、通常は短いパッセージの間複数のラインに分かれ (divide)、そののち一緒 (tutti) に戻るものです。ディヴィジのパッセージは、すべてのラインを1つの譜表に記譜する場合も、複数の譜表にわたって記譜する場合があります。

ディヴィジは、最も一般的にはオーケストラの弦楽器の記譜において使用される技法です。通常、弦楽器セクションには、譜表の数に対して数多くのプレーヤーが参加しているためです。たとえば、通常大規模なオーケストラには第1バイオリンが12人いて、大抵は全員が同じパートを演奏しています。これらのプレーヤーを複数のパートに分割することにより、作曲者はより複雑な対位法による楽曲を作成できます。

Violin I パートを2つのセクションと1つのソロラインに分割するディヴィジ作成の例

分割方法が比較的単純であれば、すべてのパートを同じ譜表に記譜してセクションにラベルを付けることができます。この場合は必要に応じて、各ラインに必要なプレーヤー数を指示できます。パート内でリズムが異なる部分がある場合は、同じ譜表の別々の声部に各パートを入力できます。

一方、分割したラインの内容が大きく異なり、単一の譜表にわかりやすく記譜できない場合は、複数の譜表に分割する必要があります。Dorico Pro では、特定の領域にディヴィジ作成を設定できます。これによりセクションを分割してパートや譜表をいくつでも用いることができるだけでなく、必要に応じてソロラインとグループ譜表に分けることもできます。ディヴィジ作成は、セクションプレーヤーに属するものであれば、どの譜表にでも入力できます。

## 補足

- ディヴィジ作成は、シングルプレーヤーに属する譜表には入力できません。シングルプレーヤーに複数の譜表にわたる楽譜を記譜する場合、追加の譜表をかわりに使用します。
- 組段の譜表の数は、組段の最初のディヴィジ作成によって定義されます。これには、その位置で有効な前の組段でのディヴィジ作成も含まれます。開始位置で既存のディヴィジ作成が有効になっている組段の途中で新しいディヴィジ作成を入力した場合、新しいディヴィジ作成による譜表数の変化は次の組段まで反映されません。

ディヴィジのパッセージが組段の途中で開始/終了する場合、Dorico Pro は自動的に譜表を追加して組段の始端と終端まで延長します。それから、ユニゾン範囲を使用して、セクションがトゥッティになっている領域をその譜表に自動的に複製します。

ディヴィジ作成はすべてのレイアウトに適用されますが、ディヴィジ譜表はレイアウトごとに個別にコンデンシングできます。

## ヒント

複数のシングルプレイヤーのパートを同じ譜表に表示する場合は、コンデンシングを使用します。

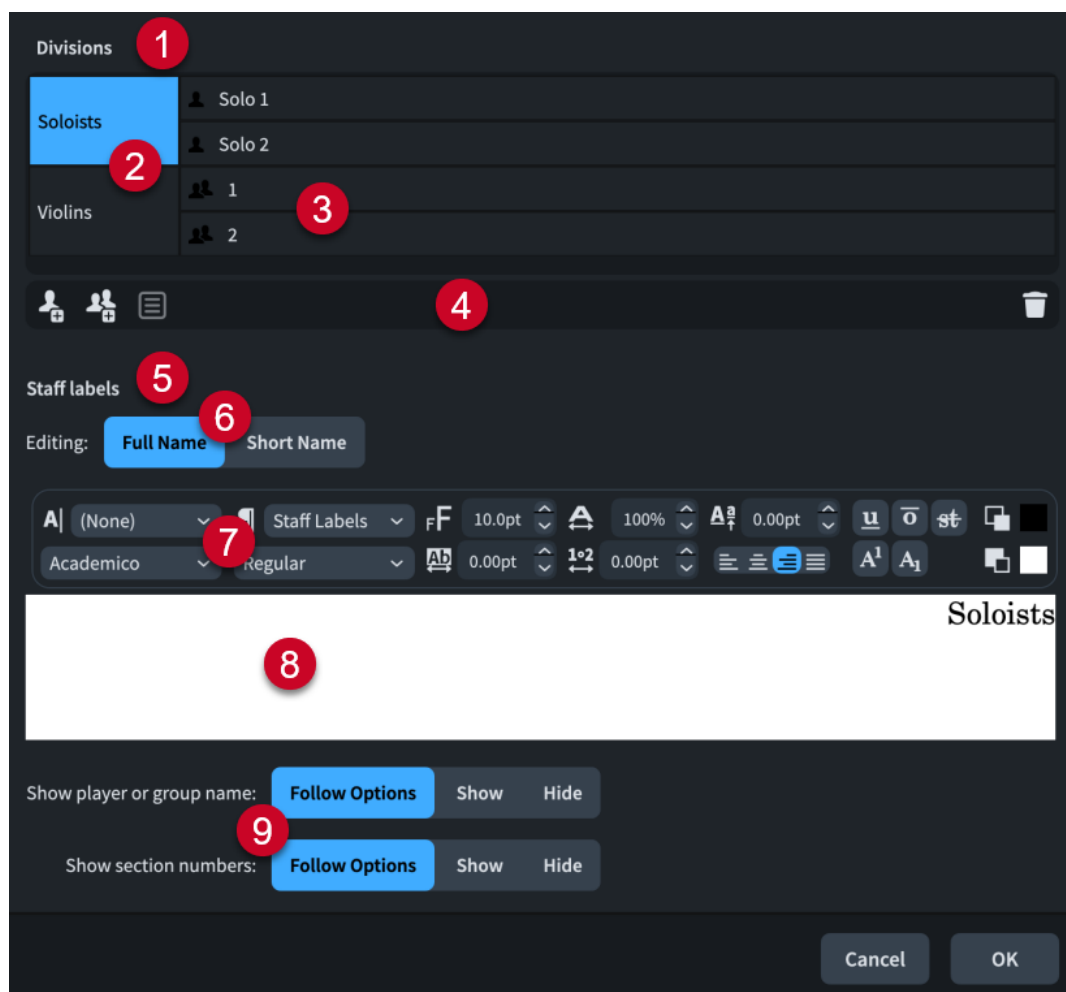
## 関連リンク

- [ユニゾン範囲 \(1727 ページ\)](#)
- [ディヴィジの譜表ラベル \(1730 ページ\)](#)
- [ディヴィジ作成のラベル \(1733 ページ\)](#)
- [追加の譜表 \(1706 ページ\)](#)
- [複数の声部への音符の入力 \(257 ページ\)](#)
- [コンデンシング \(799 ページ\)](#)
- [コンデンシングの有効化/無効化 \(765 ページ\)](#)

## 「ディヴィジを作成 (Change Divisi)」 ダイアログ

「ディヴィジを作成 (Change Divisi)」ダイアログでは、セクションプレイヤーの分割方法を変更するとともに、譜表ラベルの外観とグループ分けを変更できます。

- 「ディヴィジを作成 (Change Divisi)」ダイアログを開くには、セクションプレイヤーの譜表上のアイテムを選択して「編集 (Edit)」 > 「記譜 (Notations)」 > 「譜表 (Staff)」 > 「ディヴィジを作成 (Change Divisi)」を選択します。



「ディヴィジを作成 (Change Divisi)」ダイアログには以下のセクションとオプションがあります。

## 1 ディヴィジョン (Divisions) セクション

選択したセクションプレーヤーの選択した位置における現在のディヴィジョンとグループを表示します。

## 2 グループ





作成したディヴィジョンのグループをすべて表示します。セクションをグループ化してまとめると、譜表のラベルをより柔軟に設定できます。

## 3 分割 (Divisions)

現在ある個々のディヴィジョンを表示します。各ディヴィジョンは個別の譜表に対応します。

## 4 アクションバー

ディヴィジョンの数と編成を変更できるオプションが収められます。

- **ソロのディヴィジョンを追加 (Add Solo Division)** : ソロの譜表を追加します。Dorico Pro は自動的にソロ譜表をセクション譜表の上に追加します。
- **セクションのディヴィジョンを追加 (Add Section Division)** : セクションのディヴィジョンを追加します。Dorico Pro は自動的にセクションのディヴィジョンを既存セクションの下に追加します。
- **グループを追加 (Add Group)** : 選択したソロまたはセクションのディヴィジョンをグループ化します。
- **ディヴィジョンまたはグループを削除 (Delete Division or Group)** : 選択したセクションのディヴィジョンまたはグループを削除します。

### 補足

ディヴィジ上の楽譜を削除せずにディヴィジ作成を削除した場合、楽譜は表示されなくなりますがそのまま存在しています。あとから同じ位置に同じタイプのディヴィジョンを作成すると、楽譜は再度表示されます。

## 5 「譜表ラベル (Staff labels)」 セクション

選択したディヴィジョンまたはグループの現在の譜表ラベルを表示し、譜表ラベルのデフォルトのパラグラフスタイル設定とは別に譜表ラベルを編集できます。

## 6 編集 (Editing)

グループのみで有効です。選択したグループの「正式名称 (Full Name)」と「略称 (Short Name)」の編集を切り替えられます。

「正式名称 (Full Name)」は「完全 (Full)」の譜表ラベルに、「略称 (Short Name)」は「省略 (Abbreviated)」の譜表ラベルに使用されます。

## 7 テキストエディターのオプション

選択したディヴィジまたはグループの譜表ラベルのフォント、サイズおよび形式設定を、対応するパラグラフスタイルの形式設定とは別にカスタマイズできます。

## 8 テキスト編集領域

選択したディヴィジまたはグループの現在の譜表ラベルを表示します。譜表ラベルは、どの部分でも自由に選択して他の部分とは別個に編集できます。たとえば、数字にインストゥルメント名とは異なるフォントを使用できます。

ディヴィジの譜表ラベルは初期設定では右揃えになっているため、テキスト編集領域の右端に表示されます。

## 9 譜表ラベルの表示タイプのオプション

譜表ラベルの表示/非表示の切り替えおよび譜表ラベルのディヴィジセクション番号の表示/非表示の切り替えについて、レイアウトごとの設定とは別に、ディヴィジの譜表ラベルの部分ごとの表示をカスタマイズできます。

- **オプションに従う (Follow Options):** 対応するディヴィジの譜表ラベルの部分は、レイアウトごとの譜表ラベルの設定に従います。
- **表示 (Show):** 対応するディヴィジの譜表ラベルの部分は、レイアウトごとの譜表ラベルの設定にかかわらず常に表示されます。
- **非表示 (Hide):** 対応するディヴィジの譜表ラベルの部分は、レイアウトごとの譜表ラベルの設定にかかわらず常に非表示になります。

#### 関連リンク

[譜表ラベルのパラグラフスタイル \(1697 ページ\)](#)

[ディヴィジの譜表ラベル \(1730 ページ\)](#)

[譜表ラベルを表示/非表示にする \(1685 ページ\)](#)

[記譜モードのテキストエディターオプション \(421 ページ\)](#)

## ディヴィジ作成の入力

ディヴィジ作成は、セクションプレーヤーの譜表であればどれでも入力できます。ディヴィジ作成は、継続するデュレーションにも含める譜表数にも制限はありません。

#### 補足

- ディヴィジ作成は、シングルプレーヤーに属する譜表には入力できません。シングルプレーヤーに複数の譜表にわたる楽譜を記譜する場合、追加の譜表をかわりに使用します。
- ディヴィジ作成は該当するすべてのレイアウトに適用されます。ただし、ディヴィジ作成はレイアウトごとに個別にコンデンスできます。

---

#### 手順

1. 記譜モードで、以下のいずれかの操作を行ないます。
  - 音符の入力を開始します。
  - 分割する位置にある譜表上のアイテムを選択します。
2. 「編集 (Edit)」 > 「記譜 (Notations)」 > 「譜表 (Staff)」 > 「ディヴィジを作成 (Change Divisi)」を選択して、「ディヴィジを作成 (Change Divisi)」ダイアログを開きます。このオプションはコンテキストメニューでも選択できます。
3. 「ディヴィジを作成 (Change Divisi)」ダイアログで、任意のディヴィジを作成します。  
たとえば、プレーヤーを2つのセクションに分割する場合は、「セクションのディヴィジョンを追加 (Add Section Division)」をクリックします。
4. 必要に応じて、譜表ラベルを編集します。
5. 「OK」をクリックします。

---

#### 結果

選択した譜表が、音符入力中はキャレットの位置、音符入力外では選択されたアイテムの位置から、「ディヴィジを作成 (Change Divisi)」ダイアログで指定された数と種類の譜表に分割されます。ディヴィジ作成の位置にガイドが表示されます。

ディヴィジ作成は、選択したアイテムから次にあるディヴィジ作成の位置、またはフローの終了位置のいずれか先に到達したところまで適用されます。これは該当するすべてのレイアウトに表示されます。ディヴィジ作成が組段の途中で行なわれた場合、追加の譜表はすべて自動的に組段全体にわたって表示されます。ここにはユニゾン範囲が自動的に作成され、ディヴィジ作成で追加されたすべての譜表にトゥッティの音符や記譜記号すべてが複製されます。

ディヴィジ作成を行なうと、そのリズム上の位置からコンデンシングのための新しいフレーズが始まります。

#### 補足

組段の譜表の数は、組段の最初のディヴィジ作成によって定義されます。これには、その位置で有効な前の組段でのディヴィジ作成も含まれます。開始位置で既存のディヴィジ作成が有効になっている組段の途中に新しいディヴィジ作成を入力した場合、新しいディヴィジ作成による譜表数の変化は次の組段まで反映されません。

手順終了後の項目

- ディヴィジ作成のさらなる追加、またはディヴィジのパッセージの終了は、どの位置でも行なえます。
- ディヴィジ譜表のコンデンシングを含め、選択したレイアウトのコンデンシングを有効にできます。

関連リンク

[ディヴィジの譜表ラベル \(1730 ページ\)](#)

[コンデンシングの有効化/無効化 \(765 ページ\)](#)

[コンデンシングの計算と考慮事項 \(804 ページ\)](#)

[コンデンシングされた譜表の譜表ラベル \(1699 ページ\)](#)

## 既存のディヴィジ作成を編集する

ディヴィジ作成は入力後に編集できます。たとえば、既存のセクションのディヴィジョンに追加する形でソロラインを設定できます。

手順

1. 記譜モードで、編集を行なう既存のディヴィジ作成のガイドをダブルクリックして、「**ディヴィジを作成 (Change Divisi)**」ダイアログを開きます。
2. 「**ディヴィジを作成 (Change Divisi)**」ダイアログでディヴィジ作成を編集します。
3. 必要に応じて、譜表ラベルを編集します。
4. 「**OK**」をクリックします。

結果

選択したディヴィジ作成が更新されます。

ディヴィジ作成に追加のディヴィジョンを設定した場合、ディヴィジ作成が適用される領域にこれらの譜表が追加されます。

ディヴィジ作成からディヴィジョンを削除した場合、これらの譜表はディヴィジ作成が適用される領域から削除されます。

#### 補足

ディヴィジのセクションを削除しても、それ以前に譜表にあった楽譜が自動的に削除されるわけではありません。削除された譜表は表示されなくなりますが、そこに残された音符はすべて再生されます。あとから譜表を復元すると、音符も同時に復元されます。

削除したディヴィジ譜表の音符を再生したくない場合は、先に譜表からすべての音符を削除することをおすすめします。

関連リンク

[「ディヴィジを作成 \(Change Divisi\)」ダイアログ \(1723 ページ\)](#)

[大きな選択範囲 \(463 ページ\)](#)

## ディヴィジのパスセージを終了させる

ディヴィジのパスセージは、組段の途中を含む任意の位置で終了させて1つの譜表のユニゾンセクションに戻せます。

---

手順

1. 記譜モードで、ディヴィジのパスセージを終了させる位置にあるディヴィジ譜表上のアイテムを選択します。
2. 「編集 (Edit)」 > 「記譜 (Notations)」 > 「譜表 (Staff)」 > 「ユニゾンに戻る (Restore Unison)」を選択します。このオプションはコンテキストメニューでも選択できます。

---

結果

選択した位置に1つのユニゾンセクションを持つデフォルトのディヴィジ作成が入力され、ここまでのディヴィジのパスセージを終了させます。ユニゾンの復元位置にガイドが表示されます。

ユニゾンの復元は、選択したアイテムから次にあるディヴィジ作成の位置、またはフローの終了位置のいずれか先に到達したところまで適用されます。これは該当するすべてのレイアウトに表示されます。

ユニゾンの復元が組段の途中で行なわれた場合、この前のディヴィジ作成で指定されているすべての譜表は、組段の終端まで自動的に継続されます。ここにはユニゾン範囲が自動的に作成され、ディヴィジ作成から継続されるすべての譜表にユニゾンの音符や記譜記号すべてが複製されます。

補足

組段の譜表の数は、組段の最初のディヴィジ作成によって定義されます。これには、その位置で有効な前の組段でのディヴィジ作成も含まれます。開始位置で既存のディヴィジ作成が有効になっている組段の途中で新しいディヴィジ作成を入力した場合、新しいディヴィジ作成による譜表数の変化は次の組段まで反映されません。

---

関連リンク

[ディヴィジ作成のラベル \(1733 ページ\)](#)

## ユニゾン範囲

ユニゾン範囲とは、ディヴィジのパスセージが組段の途中で開始/終了するとき (ユニゾンからディヴィジ、またはその逆に変わるとき)、その前/後ろのすべての譜表に自動的に複製されるトゥッティのパスセージです。これにより、どの時点でもプレーヤーが演奏すべき内容があいまいになることがありません。

楽譜の複製の際、Dorico Pro はセクションの一番上の譜表を複製元に使用し、その譜表のすべての音符と記譜記号をセクションのすべての譜表に複製します。

ユニゾン範囲の各譜表の音符は個別に編集できません。ユニゾン範囲の譜表の音符やアイテムを選択すると、セクションのすべての譜表上で同じ音符やアイテムが選択されます。従って、ユニゾン範囲の音符やアイテムを編集することは、セクションのすべての譜表の音符やアイテムを同時に編集することになります。同様に、ユニゾン範囲の譜表に音符を入力すると、Dorico Pro はセクションのすべての譜表にもその音符を入力します。



ユニゾン範囲 (色で表示) のすべての譜表で同時に選択されている音符とスラー

ディヴィジョンの譜表がユニゾンに復元する位置でメインの譜表とは異なる音部記号を使用している場合、Dorico Pro は自動的に適切な音部記号を入力します。

#### 補足

- 1つの譜表からセクションの他の譜表への複製は複雑な処理であるため、Dorico Pro が自動で行なえる処理には限界があります。これには特にディヴィジ作成より前から始まる、またはディヴィジ作成より後ろで終わる音符や記譜記号が該当します。
- このときディヴィジョンの終了位置における音部変更記号のデフォルトのスペーシングが狭く、直前の音符とすれすれに配置される場合があります。このような場合、その位置の音符のスペーシングを調整することをおすすめします。

#### 関連リンク

[個々の位置にある音符のスペーシングの調節 \(648 ページ\)](#)

## ユニゾン範囲のカラーを表示/非表示にする

ユニゾン範囲の表示カラーを変更して、パッセージをより識別しやすくなります。

ユニゾン範囲がカラー表示されている場合、ユニゾン範囲の音符はグレーで表示されます。Dorico Pro はトゥッティのセクションの複製元の音符を、初期設定ではセクションの一番上の譜表に記譜するため、一番上の譜表の音符は黒いままになります。

ユニゾン範囲のカラーは注釈と見なされ、初期設定では印刷されません。

#### 手順

- 「ビュー (View)」 > 「音符と休符のカラー (Note And Rest Colors)」 > 「ディヴィジのユニゾン範囲 (Divisi Unison Ranges)」 を選択します。

#### 結果

ユニゾン範囲のカラーの表示/非表示が切り替わります。



例

Two systems of musical notation for a vocal part. The first system shows a whole note chord with 'unis.' above and 'pp' below. The second system shows a half note chord with 'unis.' above and 'pp < pp' below. The unison range color is hidden in this state.

ユニゾン範囲のカラーを非表示にした状態

Two systems of musical notation for a vocal part, identical to the first example. The unison range color is visible in this state.

ユニゾン範囲のカラーを表示した状態

関連リンク

[音符と休符の表示オプション \(1403 ページ\)](#)

[注釈 \(740 ページ\)](#)

## 声楽の譜表のディヴィジ

声楽の譜表が分かれて異なるラインが個別の譜表に記されるとき、組段の終わりに矢印を表示して譜表の分割を強調し、ディヴィジョンの終端にも再度矢印を表示して譜表の結合を示すことが一般的です。

A single line of musical notation with a division arrow at the end, indicating a split into two systems.

ons ses faits glo - ri -

Two lines of musical notation with a combination arrow at the end, indicating they join into one system.

ne - lle, soit é - ter -

Two lines of musical notation with a combination arrow at the end, identical to the previous example.

ne - lle, soit é - ter -

譜表が次の組段で2つに分割されることを示す分割の矢印

2つの譜表が次の組段で結合して1つに戻ることを示す分割の矢印

声楽の譜表のディヴィジのパッセージで開始位置と終了位置に表示される矢印は、Dorico Pro では分割の矢印と呼ばれます。Dorico Pro は初期設定ではこの矢印を声楽の譜表に表示しますが、これはプロジェクト全体のすべての譜表で非表示にもできます。

## 声楽の譜表の分割の矢印を表示/非表示にする

声楽の譜表の分割の矢印を、プロジェクト全体で表示または非表示にできます。

手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[E]** を押して「**浄書オプション (Engraving Options)**」を開きます。
2. カテゴリーリストの「**ディヴィジ (Divisi)**」をクリックします。
3. 「**声楽の譜表の組段終端にあるディヴィジの指示 (Indicate divisi at end of system on vocal staves)**」で、以下のいずれかのオプションを選択します。
  - **分割矢印を表示 (Show divide arrows)**
  - **分割矢印を非表示 (Do not show divide arrows)**

4. 「適用 (Apply)」をクリックしてから「閉じる (Close)」をクリックします。
- 

## ディヴィジの譜表ラベル

ディヴィジ譜表の譜表ラベルは、通常の譜表ラベルより詳細な記載が必要なこともよくありますそのため Dorico Pro では、ディヴィジ譜表の譜表ラベルの外観と形式設定については、追加の制御項目が用意されています。

初期設定では、ディヴィジ譜表の譜表ラベルは、テキストの形式設定に通常の譜表と同じパラグラフスタイルを使用し、譜表ラベルのオプションはディヴィジ譜表にも適用されます。一方、ディヴィジ作成における個々の譜表ラベルについては、フォント、スタイル、配置などについて、「**ディヴィジを作成 (Change Divisi)**」ダイアログの設定より優先される形での編集も行なえます。また譜表ラベルの表示/非表示のレイアウトごとの設定とは別に、特定のディヴィジに属する譜表のプレーヤー/グループ名とセクション番号の表示/非表示も切り替えられます。

ディヴィジ作成で譜表のカスタムグループを作成すると、各譜表ラベルとは個別にグループの譜表ラベルを編集できます。グループの譜表ラベルは正式名称と略称のどちらも編集できます。

### 補足

- 個々のディヴィジの譜表ラベルを編集すると、パラグラフスタイルの設定が上書きされます。このあと譜表ラベルのパラグラフスタイルを変更しても、編集されたディヴィジの譜表ラベルは更新されません。
  - ディヴィジ譜表の上には、ディヴィジ作成のラベルをレイアウトごとに表示することもできます。
- 

### 関連リンク

[「ディヴィジを作成 \(Change Divisi\)」ダイアログ \(1723 ページ\)](#)

[譜表ラベル \(1684 ページ\)](#)

[コンデンスされた譜表の譜表ラベル \(1699 ページ\)](#)

[譜表ラベルのパラグラフスタイル \(1697 ページ\)](#)

[ディヴィジ作成のラベル \(1733 ページ\)](#)

## ディヴィジの譜表ラベルの編集

それぞれのディヴィジ作成に表示される譜表ラベルは個別に表示テキストを変更できます。たとえば、プロジェクト中のある1つのディヴィジョンが他とは大きく異なり、より詳細な説明が必要な場合に使用できます。ディヴィジの譜表ラベルを個別に編集する際は、各ラベルのフォントもカスタマイズできます

### 補足

「**ディヴィジを作成 (Change Divisi)**」ダイアログで譜表ラベルに行なった変更は、すべてのレイアウトに適用されます。これは、譜表の上の対応するディヴィジ作成のラベルに表示されるテキストにも影響します。これらのラベルに表示されるテキストを変更している場合でも同様です。

---

### 手順

1. 以下のいずれかの操作を行なって、「**ディヴィジを作成 (Change Divisi)**」ダイアログを開きます。
  - 既存のディヴィジ作成のガイドのうち譜表ラベルを変更するものをダブルクリックします。
  - 新規にディヴィジ作成を入力します。
2. 「**ディヴィジョン (Divisions)**」セクションで、譜表ラベルを編集するグループまたはセクションを選択します。

3. またグループを選択している場合、必要に応じて以下のいずれかのうち編集する譜表ラベルを選択します。
  - 正式名称 (Full Name)
  - 略称 (Short Name)
4. 「譜表ラベル (Staff labels)」セクションで、選択した譜表ラベルを編集します。
5. 「プレイヤー名またはグループ名を表示 (Show player or group name)」および「セクション番号を表示 (Show section numbers)」に対し、以下のいずれかのオプションを選択します。
  - オプションに従う (Follow Options)
  - 表示 (Show)
  - 非表示 (Hide)

#### 補足

「表示 (Show)」と「非表示 (Hide)」は両方とも、すべてのレイアウトにおけるレイアウトごとの譜表ラベルの設定より優先されます。

6. 必要に応じて、ディヴィジ作成の他のセクションまたはグループに対しても、手順2から5を繰り返します。
7. 「OK」をクリックします。

#### 結果

ディヴィジ作成の譜表ラベルの外観、長さおよび挙動が、該当するすべてのレイアウトで変更されます。

#### 関連リンク

[「ディヴィジを作成 \(Change Divisi\)」ダイアログ \(1723 ページ\)](#)

[譜表ラベルを表示/非表示にする \(1685 ページ\)](#)

[コンデンスされた譜表のラベルにディヴィジグループ名/インストゥルメント名を表示する \(1701 ページ\)](#)

## 譜表ラベル内のディヴィジのセクション番号を表示/非表示にする

レイアウトごとに個別に、最初の小節線の前に表示される譜表ラベル内のディヴィジのセクション番号の表示/非表示を切り替えられます。たとえば、パートレイアウトでは譜表ラベル内のディヴィジのセクション番号を表示させ、フルスコアレイアウトでは非表示にできます。

#### 補足

- これらの手順は、「ディヴィジを作成 (Change Divisi)」ダイアログでセクション番号が「オプションに従う (Follow Options)」に設定されているディヴィジ作成にのみ適用されます。
- これらの手順は、譜表ラベルの表示に関するレイアウトごとの設定または「ディヴィジを作成 (Change Divisi)」ダイアログの設定のいずれかに従うディヴィジのグループまたはインストゥルメント名には適用されません。

#### 手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[L]** を押して「レイアウトオプション (Layout Options)」を開きます。
2. 「レイアウト (Layouts)」リストから、ディヴィジのセクション番号を表示または非表示にするレイアウトを選択します。

初期設定では、楽譜領域で選択されているものと同じレイアウトが選択された状態のダイアログが表示されます。他のレイアウトを選択するには、アクションバーの選択オプションを使用するか、複数のレイアウトをまたぐようにクリックしてドラッグするか、**[Shift]** を押しなが隣接するレイアウトをクリックするか、**[Ctrl]/[command]** を押しなが個々のレイアウトをクリックします。

3. カテゴリーリストの「譜表と組段 (Staves and Systems)」をクリックします。
4. 「譜表ラベル (Staff Labels)」セクションで、以下のオプションをオンまたはオフにします。
  - 最初の組段にセクション名を表示 (Show section names on first system)
  - 次以降の組段にセクション名を表示 (Show section names on subsequent systems)
5. 「適用 (Apply)」をクリックしてから「閉じる (Close)」をクリックします。

#### 結果

「最初の組段にセクション名を表示 (Show section names on first system)」をオンにすると、それぞれのディヴィジのパッセージの最初の組段において最初の小節線の前にディヴィジのセクション番号が表示され、オフにすると非表示になります。

「次以降の組段にセクション名を表示 (Show section names on first system)」をオンにすると、ディヴィジのパッセージの後続の組段すべてにおいて最初の小節線の前にディヴィジのセクション番号が表示され、オフにすると非表示になります。

#### 例

Example 1: Musical score showing section numbers and staff labels. The first system (1) has section numbers 1 and 2 for Vln II and Vc. The second system (2) has section numbers 1 and 2 for Vln II and Vc. The third system (3) has section numbers 1 and 2 for Vln II and Vc. The fourth system (4) has section numbers 1 and 2 for Vln II and Vc. The fifth system (5) has section numbers 1 and 2 for Vln II and Vc. The sixth system (6) has section numbers 1 and 2 for Vln II and Vc. The seventh system (7) has section numbers 1 and 2 for Vln II and Vc. The eighth system (8) has section numbers 1 and 2 for Vln II and Vc. The ninth system (9) has section numbers 1 and 2 for Vln II and Vc. The tenth system (10) has section numbers 1 and 2 for Vln II and Vc. The eleventh system (11) has section numbers 1 and 2 for Vln II and Vc. The twelfth system (12) has section numbers 1 and 2 for Vln II and Vc. The thirteenth system (13) has section numbers 1 and 2 for Vln II and Vc. The fourteenth system (14) has section numbers 1 and 2 for Vln II and Vc. The fifteenth system (15) has section numbers 1 and 2 for Vln II and Vc. The sixteenth system (16) has section numbers 1 and 2 for Vln II and Vc. The seventeenth system (17) has section numbers 1 and 2 for Vln II and Vc. The eighteenth system (18) has section numbers 1 and 2 for Vln II and Vc. The nineteenth system (19) has section numbers 1 and 2 for Vln II and Vc. The twentieth system (20) has section numbers 1 and 2 for Vln II and Vc.

ディヴィジのセクション番号と譜表ラベルの両方を表示

Example 2: Musical score showing section numbers and staff labels. The first system (1) has section numbers 1 and 2 for Vln II and Vc. The second system (2) has section numbers 1 and 2 for Vln II and Vc. The third system (3) has section numbers 1 and 2 for Vln II and Vc. The fourth system (4) has section numbers 1 and 2 for Vln II and Vc. The fifth system (5) has section numbers 1 and 2 for Vln II and Vc. The sixth system (6) has section numbers 1 and 2 for Vln II and Vc. The seventh system (7) has section numbers 1 and 2 for Vln II and Vc. The eighth system (8) has section numbers 1 and 2 for Vln II and Vc. The ninth system (9) has section numbers 1 and 2 for Vln II and Vc. The tenth system (10) has section numbers 1 and 2 for Vln II and Vc. The eleventh system (11) has section numbers 1 and 2 for Vln II and Vc. The twelfth system (12) has section numbers 1 and 2 for Vln II and Vc. The thirteenth system (13) has section numbers 1 and 2 for Vln II and Vc. The fourteenth system (14) has section numbers 1 and 2 for Vln II and Vc. The fifteenth system (15) has section numbers 1 and 2 for Vln II and Vc. The sixteenth system (16) has section numbers 1 and 2 for Vln II and Vc. The seventeenth system (17) has section numbers 1 and 2 for Vln II and Vc. The eighteenth system (18) has section numbers 1 and 2 for Vln II and Vc. The nineteenth system (19) has section numbers 1 and 2 for Vln II and Vc. The twentieth system (20) has section numbers 1 and 2 for Vln II and Vc.

ディヴィジのセクション番号は非表示で、譜表ラベルを表示

## ディヴィジ作成のラベル

ディヴィジ作成のラベルは、各ディヴィジ譜表のディヴィジョンを識別するものです。これらのラベルは、組段の途中でディヴィジ作成を行ない、セクションの分割の正確な位置があいまいになってしまう場合に特に有用です。



2つのセクションで構成されるディヴィジ作成を指示するディヴィジ作成のラベル(丸付き)とそれに続くユニゾンの復元

初期設定では、ディヴィジ作成のラベルはディヴィジの譜表ラベルと同じ情報を表示し、各譜表の上に配置されます。また、ディヴィジ作成のラベルはディヴィジ作成の位置に整列して配置されます。ただし例外として、休符の位置にあるユニゾンの復元のラベルは、初期設定では次の音符の位置に表示されます。

ディヴィジのパッセージの終了位置には、「unis.」などのユニゾンラベルが表示されます。

ディヴィジ譜表の上には、ディヴィジ作成のラベルをレイアウトごとに表示または非表示にできます。ディヴィジ作成のラベルとプレーヤーラベルのデフォルトのユニゾン指示記号を変更できるほか、ディヴィジ作成のラベルを個別に編集することもできます。

### ヒント

- ディヴィジ作成のラベルには、「**パラグラフスタイル (Paragraph Styles)**」ダイアログで編集できる「**プレーヤーラベル (Player Labels)**」のパラグラフスタイルが使用されます。
- プロジェクト全体のすべてのディヴィジ作成のラベルのデフォルトの位置は、オフセットや背景の塗りつぶしも含め、「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**ディヴィジ (Divisi)**」ページで変更できます。

### 関連リンク

[「パラグラフスタイル \(Paragraph Styles\)」ダイアログ \(932 ページ\)](#)

[「浄書オプション \(Engraving Options\)」ダイアログ \(923 ページ\)](#)

[ディヴィジの譜表ラベル \(1730 ページ\)](#)

[プレーヤーラベル \(817 ページ\)](#)

[コンデンシングされた譜表の譜表ラベル \(1699 ページ\)](#)



[インストゥルメントの変更ラベルのパラグラフスタイル \(156 ページ\)](#)

[デフォルトの「~へ」の指示記号/ユニゾン指示記号を変更する \(819 ページ\)](#)

## ディヴィジ作成のラベルを編集する

譜表の上に表示される個々のディヴィジの作成ラベルには、カスタムテキストを表示できます。この操作は現在のレイアウトとフレームチェーンのみに対して、もしくはすべてのレイアウトとフレームチェーンに対して行なえます。これはディヴィジ譜表の譜表ラベルの内容には影響しません。

### 前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。
- 下ゾーンのツールバーで「**プロパティ (Properties)**」を選択しておきます。
- 浄書ツールボックスで「**グラフィックの編集 (Graphic Editing)**」を選択しておきます。

- ローカルのプロパティ変更に関して、適切なプロパティ範囲を選択しておきます。

---

#### 手順

1. 浄書モードで、テキストを編集するディヴィジ作成のラベルを選択します。
2. プロパティパネルの「ディヴィジ (Divisi)」グループで、「カスタムテキスト (Custom text)」をオンにします。
3. 入力フィールドに任意のテキストを入力します。
4. **[Return]** を押します。

---

#### 結果

選択したディヴィジ作成のラベルに表示されるテキストが変更されます。プロパティ範囲を「**ローカル (Locally)**」に設定している場合、この変更は現在のレイアウトおよびフレームチェーンのみに影響します。

---

#### ヒント

ディヴィジ作成のラベルとプレーヤーラベルのデフォルトのユニゾン指示記号は、「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**コンデンシング (Condensing)**」ページで変更できます。

---

#### 関連リンク

[「浄書オプション \(Engraving Options\)」ダイアログ \(923 ページ\)](#)

[浄書ツールボックス \(554 ページ\)](#)

[プロパティ範囲の変更 \(828 ページ\)](#)

[プロパティ設定を別のレイアウト/フレームチェーンにコピーする \(825 ページ\)](#)

## 譜表の上のディヴィジ作成のラベルを表示/非表示にする

ディヴィジセクションの譜表の上のセクション番号は、レイアウトごとに個別に表示/非表示にできます。これによりたとえば、ディヴィジ作成が組段の途中で行なわれた場合にどの譜表がディヴィジのどのセクションに対応するのかわかりやすくしたり、譜表間の重み付けの違いを示したりできます。

---

#### 手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[L]** を押して「**レイアウトオプション (Layout Options)**」を開きます。
2. 「**レイアウト (Layouts)**」リストから、譜表の上のディヴィジの作成ラベルを表示または非表示にするレイアウトを選択します。  
初期設定では、楽譜領域で選択されているものと同じレイアウトが選択された状態のダイアログが表示されます。他のレイアウトを選択するには、アクションバーの選択オプションを使用するか、複数のレイアウトをまたぐようにクリックしてドラッグするか、**[Shift]** を押しながら隣接するレイアウトをクリックするか、**[Ctrl]/[command]** を押しながら個々のレイアウトをクリックします。
3. カテゴリーリストの「**譜表と組段 (Staves and Systems)**」をクリックします。
4. 「**譜表ラベル (Staff Labels)**」セクションで、「**譜表の上にディヴィジの作成ラベルを表示 (Show divisi change labels above staves)**」をオンまたはオフにします。
5. 「**適用 (Apply)**」をクリックしてから「**閉じる (Close)**」をクリックします。

---

#### 結果

「**譜表の上にディヴィジの作成ラベルを表示 (Show divisi change labels above staves)**」がオンのときは、ディヴィジョンの譜表の上にセクション番号が表示され、オフのときは非表示になります。

## 補足

これは、各組段の最初の小節線の前の譜表ラベルに、ディヴィジのセクション番号が表示されるかどうかには影響しません。

例



各譜表の上のディヴィジのセクション名を表示



各譜表の上のディヴィジのセクション名を非表示

## 休符の位置のユニゾンラベルを許可する/禁止する

初期設定では、ユニゾンの復元が休符の位置で行なわれる場合、そのラベルは次の音符の位置に表示されます。この設定はレイアウトごとに個別に変更できます。これにより、たとえば休符の位置のユニゾンラベルをパートレイアウトでは許可し、フルスコアレイアウトでは許可しないなどできます。

手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[L]** を押して「**レイアウトオプション (Layout Options)**」を開きます。
2. 「**レイアウト (Layouts)**」リストから、休符の位置のユニゾンラベルを許可または禁止するレイアウトを選択します。  
初期設定では、楽譜領域で選択されているものと同じレイアウトが選択された状態のダイアログが表示されます。他のレイアウトを選択するには、アクションバーの選択オプションを使用するか、複数のレイアウトをまたぐようにクリックしてドラッグするか、**[Shift]** を押しながら隣接するレイアウトをクリックするか、**[Ctrl]/[command]** を押しながら個々のレイアウトをクリックします。
3. カテゴリーリストの「**譜表と組段 (Staves and Systems)**」をクリックします。
4. 「**譜表ラベル (Staff Labels)**」セクションで、「**ディヴィジのユニゾンラベルを音符にスナップ (Snap divisi unison labels to notes)**」をオン/オフにします。
5. 「**適用 (Apply)**」をクリックしてから「**閉じる (Close)**」をクリックします。

## ディヴィジ作成のラベルの背景の塗りつぶし

Dorico Pro の初期設定では、水平オフセットがあっても小節線と重ならないように、ディヴィジ作成のラベルは背景が塗りつぶされています。塗りつぶしの余白の変更を含め、プロジェクト全体のすべてのディヴィジ作成のラベルに適用されるデフォルト設定を変更できます。

手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[E]** を押して「**浄書オプション (Engraving Options)**」を開きます。
2. カテゴリーリストの「**ディヴィジ (Divisi)**」をクリックします。
3. 「**ディヴィジ作成のラベル (Divisi Change Labels)**」サブセクションで、「**背景を余白で塗りつぶし (Erase background with padding)**」をオンまたはオフにします。

4. 「背景を余白で塗りつぶし (Erase background with padding)」をオンにした場合は、必要に応じて値フィールドの値を変更してディヴィジ作成のラベルの周囲の塗りつぶしの余白を変更します。
  5. 「適用 (Apply)」をクリックしてから「閉じる (Close)」をクリックします。
- 

## 再生時のディヴィジ

ディヴィジ譜表の音符はすべて、譜表の数に関係なく再生されます。初期設定では、ディヴィジは1つのセクションプレーヤーに属するため、すべての譜表は同じチャンネルを使用して再生されます。

異なるディヴィジ譜表ごとに異なるサウンドで再生させる場合は、声部の個別再生を有効にします。たとえば1つの譜表はピチカート、もう1つはアルコというような場合です。

関連リンク

[声部の個別再生の有効化 \(685 ページ\)](#)



# タブ譜

タブ譜は五線譜に代わる記譜法で、フレット楽器に使用されます。タブ譜では、楽器の各弦を表わす線の上に配置されたフレット番号としてピッチが表示されます。タブ譜はギターに使用されることが多いため、通常は6本の線が表示されます。

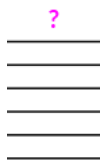
The image shows a musical score for guitar. The top part is a standard musical notation in treble clef, 3/8 time, with a key signature of one sharp (F#). The melody consists of eighth and quarter notes. Below the staff is a guitar tablature with six lines labeled T (Treble), A (Acoustic), and B (Bass). The tablature uses numbers 0-12 to indicate fret positions. Some notes are marked with a '7' and a 'y' (bend) symbol.

音符の楽譜とタブ譜の両方で表示されたギターの楽譜の抜粋

Dorico Pro では、ギターやベースなどのフレット楽器の楽譜を、通常の音符の譜表とタブ譜の両方、あるいはいずれか一方で表示できます。音符や記譜記号は2つの譜表の間でリンクされているため、一方に変更を加えると (音符の入力を含む)、もう一方に自動的に反映されます。

タブ譜では、タイは、タイのつながりの2番め以降のすべての音符/コードを囲む丸括弧として自動的に記譜されます。

そのインストゥルメントの音域外の音符や計算できない音符 (一番低い弦のナットより下にある音符や適切な節が設定されていないナチュラルハーモニクスなど) は、ピンクのクエスチョンマークとしてタブ譜の上に表示されます。2つの音符が同じ弦の同じ位置に割り当てられている場合、これらの音符は隣に並べて表示され、色は緑になります。



タブ譜の計算できない音符

弦とチューニングの設定に応じて、そのインストゥルメントに適したタブ譜が自動的に表示されます。Dorico Pro では、各インストゥルメントタイプのデフォルトのチューニングが保存されており、これらは「**弦とチューニングを編集 (Edit Strings and Tuning)**」ダイアログでカスタマイズできます。

関連リンク

[音符の譜表とタブ譜を表示または非表示にする \(1739 ページ\)](#)

[フレット楽器のチューニング \(168 ページ\)](#)

[タブ譜への音符の入力 \(268 ページ\)](#)

[楽譜領域のカラーを変更する \(58 ページ\)](#)

[ハーモニクス \(1425 ページ\)](#)

[ギターバンド \(1469 ページ\)](#)

[ギターテクニック \(1485 ページ\)](#)

[タイ \(1776 ページ\)](#)

[トリル \(1438 ページ\)](#)

[カポ \(173 ページ\)](#)

## 浄書オプションでタブ譜の設定をプロジェクト全体に適用する

「浄書オプション (Engraving Options)」の「タブ譜 (Tablature)」ページと「譜表 (Staves)」ページには、プロジェクト全体のタブ譜のデザインに関するオプションがあります。

「タブ譜 (Tablature)」ページのオプションでは、符尾の向き、位置、配置、付点の位置、およびタブ譜の和音の囲み線のデフォルト設定を変更できます。タイでつながれた音符のオプションもあります。さまざまな出版社によって定められた表記規則に則った多くのオプションがあります。

「譜表 (Staves)」ページでは、タブ譜の譜表線同士の間隔を制御する倍率を変更できます。

多くのオプションに、オプションを楽譜に適用したときにどのように表示されるかを示す図があります。

関連リンク

[「浄書オプション \(Engraving Options\)」ダイアログ \(923 ページ\)](#)

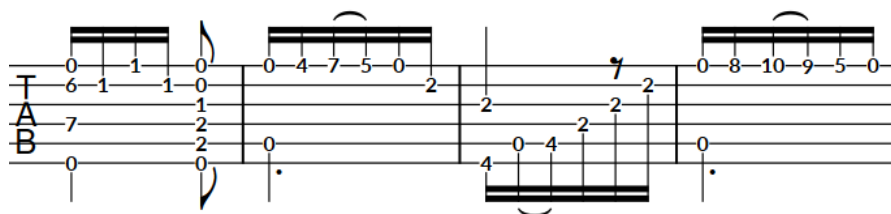
## タブ譜のリズム

音符の譜表とタブ譜の両方を表示する場合、音符の譜表にのみリズムを記譜するのが慣例です。ただし、タブ譜だけを表示する場合はタブ譜にリズムを表示する必要があります。

以下の項目は、タブ譜でリズムを表わすために表示されます。

- 拍子記号
- 符尾、符尾の符鉤、連桁
- 付点

タブ譜にこれらの項目をどのように表示するかは、「浄書オプション (Engraving Options)」の「タブ譜 (Tablature)」ページで変更できます。



タブ譜に表示されたリズム

### 補足

初期設定では、単一の声部の符尾、符尾の符鉤、および連桁は符尾が上向き状態でタブ譜に表示されるため、ギターバンド、ベンディング、プリダイブ、ダイブ、およびリターンと重なることがあります。そのため、タブ譜にこれらの記譜記号とリズムの両方を表示するプロジェクトについては、「浄書オプション (Engraving Options)」の「タブ譜 (Tablature)」ページにある「符尾のデフォルトの向き (Default stem direction)」を「下 (Down)」に変更することをおすすめします。

関連リンク

[タブ譜への音符の入力 \(268 ページ\)](#)

[タブ譜のタイでつながれた音符の外観を変更する \(1741 ページ\)](#)

[タブ譜の付点の配置を変更する \(1744 ページ\)](#)

## 音符の譜表とタブ譜を表示または非表示にする

音符の譜表のみ、タブ譜のみ、またはその両方を、レイアウトごと、および少なくとも1つのフレット楽器が割り当てられたプレーヤーごとに個別に表示できます。たとえば、フルスコアレイアウトには音符の楽譜だけを表示し、ギターのパートレイアウトには音符の譜表とタブ譜を表示するといった具合です。

タブ譜を表示する場合、リズムを表示することも非表示にすることもできます。

---

### 手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[L]** を押して「**レイアウトオプション (Layout Options)**」を開きます。
2. 「**レイアウト (Layouts)**」リストから、タブ譜を表示または非表示にするレイアウトを選択します。  
初期設定では、楽譜領域で選択されているものと同じレイアウトが選択された状態のダイアログが表示されます。他のレイアウトを選択するには、アクションバーの選択オプションを使用するか、複数のレイアウトをまたぐようにクリックしてドラッグするか、**[Shift]** を押しながら隣接するレイアウトをクリックするか、**[Ctrl]/[command]** を押しながら個々のレイアウトをクリックします。
3. カテゴリリストの「**プレーヤー (Players)**」をクリックします。
4. 「**フレット楽器 (Fretted Instruments)**」セクションで、少なくとも1つのフレット楽器が割り当てられたプロジェクト内のプレーヤーごとに以下のいずれかのオプションを選択します。
  - 音符の譜表のみを表示してタブ譜を非表示にするには、「**音符の譜表のみ (Notation only)**」を選択します。
  - 音符の譜表とタブ譜の両方を表示するには、「**音符の譜表とタブ譜 (Notation and tablature)**」を選択します。
  - タブ譜のみを表示して音符の譜表を非表示にするには、「**タブ譜のみ (Tablature only)**」を選択します。
5. 「**音符の譜表とタブ譜 (Notation and tablature)**」または「**タブ譜のみ (Tablature only)**」を選択した場合は、必要に応じて「**タブ譜にリズムを表示 (Show rhythms in tablature)**」をオン/オフにします。
6. 「**適用 (Apply)**」をクリックしてから「**閉じる (Close)**」をクリックします。




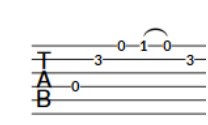
---

### 結果

選択したレイアウトの対応するプレーヤーに対して、音符の譜表とタブ譜が表示または非表示になります。

タブ譜を表示した場合、「**タブ譜にリズムを表示 (Show rhythms in tablature)**」をオンにするとリズムが表示され、オフにすると非表示になります。

例

				
音符の譜表のみ (Notation only)	音符の譜表とタブ譜 (Notation and tablature) (リズムを 表示した場合)	音符の譜表とタブ譜 (Notation and tablature) (リズムを 非表示にした場合)	タブ譜のみ (Tablature only) (リ ズムを表示した場合)	タブ譜のみ (Tablature only) (リ ズムを非表示にした 場合)

関連リンク

[プレーヤー \(135 ページ\)](#)

[フレット楽器のチューニング \(168 ページ\)](#)

[タブ譜への音符の入力 \(268 ページ\)](#)

[ギターバンド \(1469 ページ\)](#)

[ギターテクニック \(1485 ページ\)](#)

[音符の譜表とタブ譜のギターテクニックの表示/非表示を切り替える \(1491 ページ\)](#)

[空白の譜表の表示/非表示を切り替える \(750 ページ\)](#)

[インストゥルメントの変更 \(148 ページ\)](#)



## タブ譜で音符に割り当てられた弦の変更

タブ譜で個々の音符に割り当てられた弦を手動で変更できます。これは、たとえば音符の譜表で音符を入力し、その音符のデフォルトの弦の割り当てを変更したい場合などに便利です。

### 補足

音符がその弦の開放弦のピッチより低いなど、割り当てが不可能な場合には音符に弦を割り当てることはできません。

前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。
- 下ゾーンのツールバーで「プロパティ (Properties)」 を選択しておきます。
- 浄書モードの場合は、浄書ツールボックスで「グラフィックの編集 (Graphic Editing)」 を選択しておきます。

手順

1. タブ譜で、割り当てられた弦を変更する音符のフレット番号を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。

### 補足

音符の譜表で音符を選択するのではなく、タブ譜でフレット番号を選択してください。

2. 以下のいずれかの操作を行なって、割り当てられた弦を変更します。

- 1つ上の弦に移動するには、**[N]** を押します。

- 1つ下の弦に移動するには、**[M]** を押します。
- プロパティパネルの「音符と休符 (Notes and Rests)」グループの「弦 (String)」メニューから弦を選択します。

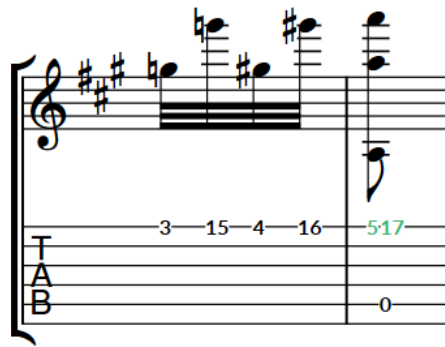
#### 結果

選択した音符に割り当てられた弦が変更されます。キーボードショートカットを使用すると選択した音符の弦が比率を保ったまま変更されますが、「弦 (String)」メニューから弦を選択すると、選択したすべての音符に選択した弦が割り当てられます。

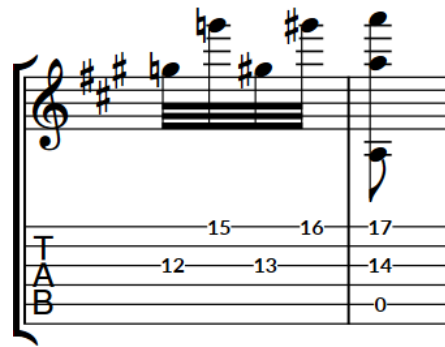
#### 補足

- 割り当てられた弦を変更したことで、その音符が別の音符と同じ弦の同じ位置に割り当てられた場合、これらの音符は隣に並べて表示され、色は緑になります。
- このプロパティをオフにすると、選択した音符はデフォルトの弦にリセットされます。

#### 例



同じ弦に割り当てられた音符



いくつかの音符の弦を変更してフレット間の距離を縮めたあと

#### 関連リンク

[タブ譜への音符の入力 \(268 ページ\)](#)

[浄書ツールボックス \(554 ページ\)](#)

## タブ譜のタイでつながれた音符の外観を変更する

初期設定では、タブ譜のタイでつながれた音符は、後続の小節の開始位置に括弧つきフレット番号として表示されます。プロジェクト全体のすべてのタイでつながれた音符/和音の外観を変更できます。これにより、たとえばフレット番号に加えてタイを表示したり、1つの和音に1つのタイのみを表示したりできます。

#### 手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[E]** を押して「浄書オプション (Engraving Options)」を開きます。
2. カテゴリーリストの「タブ譜 (Tablature)」をクリックします。
3. 「タイ (Ties)」セクションの「タイでつながれたタブ譜の音符 (Tied notes in tablature)」で、以下のいずれかのオプションを選択します。
  - フレット番号を表示、タイあり (Show fret numbers, with ties)
  - 括弧つきフレット番号、タイなし (Parenthesize fret numbers, no ties)

- 括弧つきフレット番号、タイあり (Parenthesize fret numbers, with ties)
  - 小節の最初以外のフレット番号を非表示、タイなし (Hide fret numbers except at start of bar, no ties)
  - フレット番号とタイを非表示 (Hide fret numbers and ties)
4. 「和音に付けるタイの数 (Number of ties in chords)」で以下のいずれかのオプションを選択します。
    - 単一のタイを表示 (Show single tie)
    - 音符の各ペアでタイを表示 (Show ties for each pair of notes)
  5. 「適用 (Apply)」をクリックしてから「閉じる (Close)」をクリックします。
- 

関連リンク

[「浄書オプション \(Engraving Options\)」ダイアログ \(923 ページ\)](#)

[タイ \(1776 ページ\)](#)

[タブ譜 \(1737 ページ\)](#)

[タブ譜のリズム \(1738 ページ\)](#)

## タブ譜で音符の囲み線を表示または非表示にする

タブ譜で、2分音符以上の長さの音符 (つまり、音符の譜表では白い符頭で表示されるデュレーション) のすべての和音の囲み線を表示または非表示にできます。

---

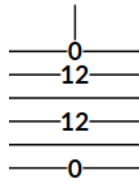
手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[E]** を押して「浄書オプション (Engraving Options)」を開きます。
  2. カテゴリリストの「タブ譜 (Tablature)」をクリックします。
  3. 「囲み線 (Enclosures)」セクションの「2分音符以上の長さの音符または和音の囲み線: (Enclosures for notes and chords longer than a quarter note (crotchet):)」で、以下のいずれかのオプションを選択します。
    - なし (None)
    - 楕円
    - 角丸の長方形
  4. 「適用 (Apply)」をクリックしてから「閉じる (Close)」をクリックします。
- 

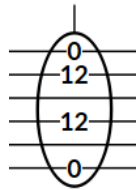
結果

「なし (None)」を選択した場合は、2分音以上の長さの音符の囲み線が非表示になり、「楕円 (Ellipse)」または「角丸の長方形 (Rounded rectangle)」を選択した場合は、それぞれの形状の囲み線が表示されます。

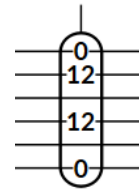
例



なし (None)



楕円



角丸の長方形

関連リンク

[音符をデッドノートとして表示する \(1490 ページ\)](#)

[音符の譜表とタブ譜のギターテクニックの表示/非表示を切り替える \(1491 ページ\)](#)

## タブ譜で単音の囲み線の形状を変更する

2 桁のフレット番号は高さより幅の方が大きくなることが多いなど、全体的な寸法が大きく異なる場合があるため、タブ譜の単音には、和音とは異なる形状の囲み線が必要です。すべての単音に丸の囲み線を表示するか、1 桁のフレット番号に楕円の囲み線を表示するかを設定できます。

手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[E]** を押して「**浄書オプション (Engraving Options)**」を開きます。
2. カテゴリリストの「**タブ譜 (Tablature)**」をクリックします。
3. 「**囲み線 (Enclosures)**」セクションの「**単音の囲み線の形: (Enclosure shape for single notes:)**」で、以下のいずれかのオプションを選択します。
  - **丸を優先 (Prefer circle)**
  - **楕円を許可 (Allow ellipse)**
4. 「**適用 (Apply)**」をクリックしてから「**閉じる (Close)**」をクリックします。

結果

「**丸を優先 (Prefer circle)**」は、フレット番号が 1 桁か 2 桁かに関係なく、すべての単音に丸の囲み線を表示します。

「**楕円を許可 (Allow ellipse)**」は、1 桁のフレット番号に楕円の囲み線を表示しますが、2 桁のフレット番号には丸の囲み線を表示します。

例



丸を優先 (Prefer circle)



楕円を許可 (Allow ellipse)

## タブ譜の付点の配置を変更する

初期設定では、タブ譜の付点は1つの和音に対して1つで、一番上の譜表線の上に表示されます。この配置を変更して、音符の横に複数の付点を表示させることができます。

---

### 手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[E]** を押して「**浄書オプション (Engraving Options)**」を開きます。
  2. カテゴリリストの「**タブ譜 (Tablature)**」をクリックします。
  3. 「**付点 (Rhythm Dots)**」セクションの「**付点の位置: (Position of rhythm dots:)**」で、以下のいずれかのオプションを選択します。
    - **音符の横 (Next to notes)**
    - **譜表の外側 (Outside staff)**
  4. 「**適用 (Apply)**」をクリックしてから「**閉じる (Close)**」をクリックします。
- 

### 関連リンク

[タブ譜のリズム](#) (1738 ページ)

## タブ譜の数字用フォントスタイルの編集

プロジェクト全体のすべてのタブ譜の数字に使用されるフォントの形式設定を編集できます。これによりたとえば、デフォルトの表示を大きくできます。

---

### 手順

1. 「**ライブラリー (Library)**」 > 「**フォントスタイル (Font Styles)**」を選択して、「**フォントスタイルを編集 (Edit Font Styles)**」ダイアログを開きます。
  2. フォントスタイルリストで、「**タブ譜の数字用フォント (Tablature Numbers Font)**」を選択します。
  3. 以下のオプションを個別または一括で設定することで、対応するフォント属性を変更できます。
    - **フォントファミリー (Font family)**
    - **サイズ (Size)**
    - **スタイル (Style)**
    - **下線 (Underlined)**
  4. 「**OK**」をクリックして変更内容を保存し、ダイアログを閉じます。
- 

### 結果

タブ譜の数字に使用するフォントの形式設定がプロジェクト全体で変更されます。

### 関連リンク

[「フォントスタイルを編集 \(Edit Font Styles\)」ダイアログ](#) (930 ページ)



# テンポ記号

テンポ記号は楽譜を演奏する速さを示し、多くの場合テキストによる指示とメトロノームマークの組み合わせで表示されます。これはまたテンポ変更やテンポ指示などとも呼ばれます。

テンポ記号はテキストによる指示、メトロノームマーク、または両者の組み合わせで表示されます。

The image shows a musical score snippet in 3/4 time. The top staff (treble clef) has a tempo marking 'Assez animé ♩ = 144' and a dynamic marking 'gai, léger' above it. The middle staff (piano) has a tempo marking 'Assez animé ♩ = 144' and a dynamic marking 'pp très rythmé, léger' below it. The bottom staff (bass clef) has a dynamic marking 'p' above it. The music consists of a melody in the treble and a rhythmic accompaniment in the bass.

フランス語によるテキスト指示とメトロノームマークからなるテンポ記号

テキストによる指示は伝統的に、largo や allegretto などのイタリア語で表現されますが、英語、フランス語、ドイツ語など他の言語の使用も広く受け入れられるようになってきました。テキストによる指示は単に楽曲を演奏する速さを表現するだけの場合もありますが、その性質を表わす場合もあります。たとえば、grave は遅さとともに重々しさや悲しさの表現を意味し、vivo は速さとともに陽気さや快活さの表現を意味します。

メトロノームマークは楽曲を演奏する速さを表わし、1分あたりの拍数、または「bpm」で表示されます。メトロノームマークは固定の bpm を表示する場合と、可能または許容される値の範囲を示す場合があります。

段階的テンポ変更は、指定された時間範囲で行なわれるテンポ変更を示します。たとえば、延長線が付くものや付かないもの、テキストが音節で分かれてデュレーションにわたって広がるものなど、さまざまな形で表現されます。

テンポ記号はポイントサイズの大きい太字フォントを使用するため、ページ上ではっきりと目立ちます。通常、テンポ記号に斜体フォントは使用されません。フォントサイズを変更してテンポ記号を大きく表示するなど、テンポ記号に使用されるフォントの形式設定を編集できます。

Dorico Pro では、テンポ記号は組段オブジェクトに分類されます。そのため、テンポマークは組段オブジェクトの表示と配置に関するレイアウトごとの設定に従います。

初期設定では、入力したテンポ記号によって再生と MIDI 録音のテンポが設定されますが、たとえば MIDI 録音時に単一の固定テンポを使用したい場合などはテンポモードを変更できます。段階的テンポ変更は再生テンポにも影響し、たとえば最終的に特定の bpm に到達する必要がある場合には、段階的テンポ変更の終了位置の最終的なテンポを変更できます。プロジェクトに一切のテンポ記号を入力しなかった場合、デフォルトの再生テンポは 120bpm になります。

関連リンク

- [テンポ記号の入力方法 \(320 ページ\)](#)
- [テンポ記号のフォントスタイル \(1750 ページ\)](#)
- [テンポトラック \(672 ページ\)](#)
- [テンポエディター \(871 ページ\)](#)
- [組段オブジェクトの位置の変更 \(1718 ページ\)](#)

[テンポモードの変更 \(683 ページ\)](#)

[テキストの書き出し \(113 ページ\)](#)

## 浄書オプションでテンポ記号の設定をプロジェクト全体に適用する

「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**テンポ (Tempo)**」ページで、テンポ記号の外観を設定しプロジェクト全体に適用できます。

「**テンポ (Tempo)**」のページのオプションでは、メトロノームマークに表示する小数点以下の桁数を含めたテンポ記号の外観や、譜表、拍子の変更記号、その他のアイテムに対する位置を変更できます。また、段階的テンポ変更の延長線の外観、太さ、および小節線に対する位置も変更できます。

多くのオプションに、オプションを楽譜に適用したときにどのように表示されるかを示す図があります。

関連リンク

[「浄書オプション \(Engraving Options\)」ダイアログ \(923 ページ\)](#)

[メトロノームマークの小数点以下の値を表示/非表示にする \(1755 ページ\)](#)

## テンポ記号のタイプ

Dorico Pro は、その機能と楽曲に与える影響に従い、テンポ記号を複数のタイプにグループ分けしています。

Dorico Pro のテンポ記号には、以下のタイプがあります。

### 固定テンポ変更 (Absolute Tempo Change)

明確なテンポ変更を示し、多くの場合メトロノームマークを伴って表示されます。たとえば、「Adagio ♩=76」などです。

固定テンポ変更は、テンポのテキストとメトロノームマークを個別に、あるいは一緒に表示できます。

### 段階的テンポ変更 (Gradual Tempo Change)

rallentando (テンポを落とす) や accelerando (テンポを上げる) など、指定した時間範囲におけるテンポの変更を示します。

### 相対テンポ変更 (Relative Tempo Change)

mosso (変動) など、前のテンポに対する相対的なテンポの変更を示します。

相対テンポ変更には、poco meno mosso (今までより少し遅く) のように、変化の度合いを表わす修飾語句が付く場合もあり、これにはメトロノームマークによる指定はありません。ただし、前のメトロノームマークが変化した場合に、前のメトロノームマークに対する割合の形で自動的に更新されるメトロノームマークの相対的な変化を設定できます。

### テンポをリセット (Reset Tempo)

A tempo のようにテンポを前のテンポに戻したり、Tempo primo (楽曲の最初のテンポに戻る) のように、あらかじめ指定されたテンポに戻したりします。

### テンポの等式 (Tempo Equation)

メトロノームマークが基本とする拍の単位の変更を示します。たとえば、拍子記号が 3/4 から 6/8 に変更された場合、♩♩ というテンポの等式により、3/4 拍子では 4 分音符の拍の単位に使用されていたメトロノームマークの値が、6/8 拍子では付点 4 分音符の拍の単位に使用されることが示されます。

関連リンク

[メトロノームマーク \(1752 ページ\)](#)

- [段階的テンポ変更 \(1757 ページ\)](#)
- [テンポの等式 \(1761 ページ\)](#)
- [テンポ記号の入力方法 \(320 ページ\)](#)
- [相対テンポ記号の値の変更 \(1754 ページ\)](#)
- [テンポ記号のフォントスタイル \(1750 ページ\)](#)

## テンポ記号の位置

テンポ記号は通常すべての譜表に適用されるため、譜表の上の他の組段オブジェクトと同じ位置に配置されます。可読性を確保するため、スラー、タイ、オクターブ線などの記譜記号の上に配置され、多くの場合リハーサルマークと整列します。

Dorico Pro の初期設定では、テンポ記号は拍子記号、またはテンポが適用されるリズム上の位置にある符頭か休符に整列します。たとえば、テンポ記号の位置に臨時記号の付いた符頭がある場合、テンポ記号は臨時記号に整列するのが表記規則となっています。

組段の途中に反復記号が置かれ、これが小節線として扱われない場合、テンポ記号はこの反復記号に整列します。

テンポ記号がテキストとメトロノームマークの両方を表示するとき、先にテキストが表示され、そのあとにメトロノームマークが表示されます。

テンポ記号のリズム上の位置は記譜モードで移動できます。これらは「**浄書オプション (Engraving Options)**」で設定されたデフォルト位置に配置されます。

テンポ記号の表示位置は浄書モードで移動できますが、適用されるリズム上の位置がこれによって変更されることはありません。

浄書モードでは、段階的テンポ変更にはそれぞれ開始位置と終了位置の 2 か所に四角いハンドルがあります。これらのハンドルを動かして、段階的テンポ変更の表示位置と長さを調節できます。段階的テンポ変更の角度は変更できません。

段階的テンポ変更が組段区切りおよびフレーム区切りをまたぐ場合は、区切りの両側のオクターブ線の分割された部分をそれぞれ個別に移動できます。

テンポ記号のデフォルト位置および外観に対するプロジェクト全体の設定は、「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**テンポ (Tempo)**」ページで変更できます。

Dorico Pro では、テンポマークは組段オブジェクトに分類され、選択したインストゥルメントファミリーの最初の大括弧の上に表示できます。どのインストゥルメントファミリーの上に組段オブジェクトを表示させるかは、レイアウトごとに個別に変更できます。たとえば、フルスコアのみ各組段の上に複数のテンポ記号を表示させることなどができます。

関連リンク

- [組段オブジェクトの位置の変更 \(1718 ページ\)](#)
- [音符/アイテムの位置の移動 \(502 ページ\)](#)
- [アイテムの表示位置の移動 \(652 ページ\)](#)
- [「浄書オプション \(Engraving Options\)」ダイアログ \(923 ページ\)](#)

## 小節線に対する段階的テンポ変更の線の終了位置を変更する

小節の終了位置に対する段階的テンポ変更の線の右端の位置を、プロジェクト全体の設定とは別に変更できます。この操作は現在のレイアウトとフレームチェーンのみに対して、もしくはすべてのレイアウトとフレームチェーンに対して行なえます。

補足

これはテキストのみのスタイルを使用する段階的なテンポ変更記号の外観に影響しません。

---

#### 前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。
- 下ゾーンのツールバーで「プロパティ (Properties)」を選択しておきます。
- 浄書モードの場合は、浄書ツールボックスで「グラフィックの編集 (Graphic Editing)」を選択しておきます。
- ローカルのプロパティ変更に関して、適切なプロパティ範囲を選択しておきます。

---

#### 手順

1. 終了位置の小節線に対する位置を変更する段階的テンポ変更を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「テンポ (Tempo)」グループで、「小節線との交差 (Barline interaction)」をオンにします。
3. 以下のいずれかのオプションを選択します。
  - 手前で停止 (Stop before)
  - 継続 (Continue)

---

#### 結果

選択した段階的テンポ変更の終了位置が変更されます。プロパティ範囲を「ローカル (Locally)」に設定している場合、この変更は現在のレイアウトおよびフレームチェーンのみに影響します。

#### ヒント

段階的テンポ変更のデフォルトの終了位置をプロジェクト全体で変更するには、「浄書オプション (Engraving Options)」 > 「テンポ (Tempo)」 > 「水平位置 (Horizontal Position)」で設定を行ないます。

---

#### 関連リンク

- [プロパティパネル \(826 ページ\)](#)
- [プロパティ範囲の変更 \(828 ページ\)](#)
- [浄書ツールボックス \(554 ページ\)](#)
- [「浄書オプション \(Engraving Options\)」ダイアログ \(923 ページ\)](#)
- [段階的テンポ変更のスタイルを個別に変更する \(1758 ページ\)](#)
- [メトロノームマークの順番の変更 \(1756 ページ\)](#)

## テンポのテキストの変更

既存のテンポマークのテキストは個別に変更できます。たとえば、フローの最後の *ritardando* に「al fine」を追加する場合などです。

#### 前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。
- 下ゾーンのツールバーで「プロパティ (Properties)」を選択しておきます。
- 浄書モードの場合は、浄書ツールボックスで「グラフィックの編集 (Graphic Editing)」を選択しておきます。

---

#### 手順

1. テンポのテキストを変更するテンポ記号を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。

- プロパティパネルの「テンポ (Tempo)」グループで、「テキスト (Text)」フィールドに任意のテンポのテキストを入力します。
  - [Return]** を押します。
- 

#### 結果

選択したテンポ記号のテンポのテキストが変更されます。

#### ヒント

テンポのポップオーバーを開いて入力内容を変更しても、テンポのテキストを変更できます。

---

#### 関連リンク

- [プロパティパネル \(826 ページ\)](#)
- [浄書ツールボックス \(554 ページ\)](#)
- [既存のアイテムの変更 \(472 ページ\)](#)
- [メトロノームマークの順番の変更 \(1756 ページ\)](#)

## テンポの省略テキストの表示

テンポ記号は個別にカスタムの省略テキストを使用して表示できます。たとえば、長いテンポ記号が一部のパートレイアウトのページ範囲からはみ出してしまう場合、省略形を使用して範囲内に収めることができます。

#### 前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。
  - 下ゾーンのツールバーで「プロパティ (Properties)」 を選択しておきます。
  - 浄書モードの場合は、浄書ツールボックスで「グラフィックの編集 (Graphic Editing)」 を選択しておきます。
  - ローカルのプロパティ変更に関して、適切なプロパティ範囲を選択しておきます。
- 

#### 手順

- 楽譜領域で、テンポの省略テキストを表示するレイアウトを開きます。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
  - 省略テキストで表示するテンポ記号を選択します。
  - プロパティパネルの「テンポ (Tempo)」のグループで、「略語 (Abbreviation)」をオンにします。
  - 入力フィールドに任意のテキストを入力します。
  - 「テンポ (Tempo)」のグループの「省略 (Abbreviate)」をオンにします。
  - 対応するチェックボックスをオンにします。
- 

#### 結果

「略語 (Abbreviation)」がオンで「省略 (Abbreviate)」がオフのとき、または「略語 (Abbreviation)」と、「省略 (Abbreviate)」および対応するチェックボックスの両方がオンになっているとき、選択したテンポ記号と省略テキストが表示されます。

これにより、「略語 (Abbreviation)」のフィールドに入力した省略テキストが削除されないまま、レイアウトごとに省略テキストと完全テキストを切り替えられます。

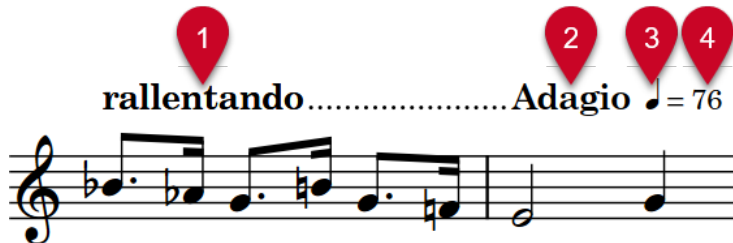
#### 関連リンク

- [プロパティパネル \(826 ページ\)](#)

[プロパティ範囲の変更 \(828 ページ\)](#)  
[浄書ツールボックス \(554 ページ\)](#)

## テンポ記号のフォントスタイル

さまざまなテンポ記号のタイプとテンポ記号の要素のために、さまざまなフォントスタイルがあります。フォントサイズを変更してテンポ記号を大きく表示するなど、これらのフォントの各種設定は「**フォントスタイルを編集 (Edit Font Styles)**」ダイアログで編集できます。



テンポ記号には以下のフォントスタイルが使用されます。

- 1 **段階的テンポテキスト用フォント (Gradual Tempo Text Font)**: 「rallentando」などの段階的テンポ変更で使用されます。
- 2 **即時テンポテキスト用フォント (Immediate Tempo Text Font)**: Adagio などの固定テンポ変更で使用されます。
- 3 **メトロノーム音楽テキスト用フォント (Metronome Music Text Font)**: 「♩」など、メトロノームマークの音価のグリフに使用されます。SMuFL 準拠である必要があります。
- 4 **メトロノームテキスト用フォント (Metronome Text Font)**: =76 など、メトロノームマークの等号と数字に使用されます。

### 補足

フォントスタイルへの変更が、パートレイアウトを含めてプロジェクト全体に適用されます。



### 関連リンク

[「フォントスタイルを編集 \(Edit Font Styles\)」ダイアログ \(930 ページ\)](#)  
[デフォルトのフォントファミリーを変更する \(937 ページ\)](#)

## テンポ記号の表示/非表示

再生速度を変えずに、個々のテンポ記号の各構成要素を表示/非表示にできます。これはすべてのレイアウトにおける外観に影響します。

### 前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。
- 下ゾーンのツールバーで「**プロパティ (Properties)**」を選択しておきます。
- 浄書モードの場合は、浄書ツールボックスで「**グラフィックの編集 (Graphic Editing)**」を選択しておきます。

### 手順

1. 非表示にするテンポ記号、または表示するテンポ記号のガイドを選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。

2. プロパティパネルにある「テンポ (Tempo)」グループで、次のプロパティのオンオフを切り替えます。
    - テキストを表示 (Text shown)
    - メトロノームマークを表示 (Metronome mark shown)
- 

#### 結果

少なくとも1つのプロパティがオンになると、選択したテンポ記号が表示されます。オンのプロパティに応じて、構成要素が表示されます。

どちらのプロパティもオフの場合、選択したテンポ記号は非表示になります。テンポ記号は非表示にしても再生速度に影響を与えるため、非表示のテンポ記号の位置にガイドが表示されます。

#### ヒント

テンポのポップオーバーを使用すると、非表示のテンポ記号を入力できます。

---


#### 関連リンク

- [プロパティパネル \(826 ページ\)](#)
- [浄書ツールボックス \(554 ページ\)](#)
- [テンポ記号の入力方法 \(320 ページ\)](#)
- [ガイド \(490 ページ\)](#)
- [テンポモードの変更 \(683 ページ\)](#)
- [音符/アイテムを個別にミュートする \(688 ページ\)](#)

## テンポ記号に括弧を付ける

たとえば、メトロノームマークが提案であることを示すために、個々の固定テンポ記号を括弧付きで表示できます。

#### 前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。
- 下ゾーンのツールバーで「プロパティ (Properties)」を選択しておきます。
- 浄書モードの場合は、浄書ツールボックスで「グラフィックの編集 (Graphic Editing)」を選択しておきます。

#### 手順

1. 括弧を付ける固定テンポ記号を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
  2. プロパティパネルの「テンポ (Tempo)」グループで、「括弧つき (Parenthesized)」をオンにします。
- 

#### 結果

選択したテンポ記号が括弧付きで表示されます。

- テンポのテキストかメトロノームマークのいずれかのみが表示されている場合は、表示されている要素が括弧付きで表示されます。
- テンポのテキストとメトロノームマークの両方が表示されている場合は、メトロノームマークが括弧付きで表示されます。

## メトロノームマーク

テンポ記号には多くの場合メトロノームマークの値が表示されます。メトロノームマークは楽曲を演奏する速さを表わし、1分あたりの拍数、または bpm で表示されます。たとえば、60bpm は1秒間に1拍を意味します。1分あたりの拍数が増えるほど、演奏が速くなります。

♪ = 176–184

範囲で表示されるメトロノームマーク

メトロノームマークは ♩ = 176 といった単独の数値を指定したり、♩ = 152 ~ 176 のように許容可能な範囲を示したりできます。これは括弧付きで表示することもでき、メトロノームマークが固定テンポではなくガイドとしての意味合いで使用される場合などに有効です。

初期設定では、メトロノームマークは整数として表示され、小数点以下は表示されません。メトロノームマークに小数点以下の値を入力した場合、最も近い整数に丸められます。テンポエディターで入力したメトロノームマークは、初期設定ではガイドとして表示されます。

メトロノームマークに使用されている拍の単位は、通常は拍子に関連しています。たとえば 4/4 におけるメトロノームマークの拍の単位は 4 分音符ですが、6/8 においては付点 4 分音符になります。

Dorico Pro では、メトロノームマークは単独の数値または範囲として表示できます。メトロノームマークのタイプと外観によって、bpm の値は固定テンポを示す場合も、近似値を示す場合もあります。

関連リンク

[テンポ記号の入力方法 \(320 ページ\)](#)

[テンポ記号のフォントスタイル \(1750 ページ\)](#)

[テンポの等式 \(1761 ページ\)](#)

[テンポトラック \(672 ページ\)](#)

[テンポエディター \(871 ページ\)](#)


## メトロノームマークの値の変更

個々の固定テンポ記号におけるメトロノームマークの値や拍の単位は、入力後でも変更できます。

### 補足

この手順は、段階的テンポ変更やテンポのリセット記号、相対テンポ記号には当てはまりません。

前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。
- 下ゾーンのツールバーで「プロパティ (Properties)」 を選択しておきます。
- 浄書モードの場合は、浄書ツールボックスで「グラフィックの編集 (Graphic Editing)」 を選択しておきます。

手順

1. メトロノームマークの値を変更する固定テンポ記号を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「テンポ (Tempo)」グループで、「テンポ (bpm) (Tempo (bpm))」の値を変更します。
3. **[Return]** を押します。



4. 「拍の単位 (Beat unit)」に対し、適切な音符のデュレーションと、該当する場合は付点を選択します。

#### 結果

選択した固定テンポ記号のメトロノームマークの値と拍の単位が変更されます。これは、テンポ記号にメトロノームマークの要素が表示されていない場合であっても、再生時のテンポに影響を与えます。

#### 補足

- 初期設定では、入力した少数はすべて非表示になり、表示されるメトロノームマークの値は最も近い整数として表示されます。ただし、再生時には、メトロノームマークに常に正確な数値が反映されます。
- テンポのポップオーバーを開いて入力内容を変更しても、メトロノームマークの値を変更できません。

#### 関連リンク

[プロパティパネル \(826 ページ\)](#)

[浄書ツールボックス \(554 ページ\)](#)

[既存のアイテムの変更 \(472 ページ\)](#)



## メトロノームマークの値の範囲表示

個々の固定テンポ記号におけるメトロノームマークの値を範囲で表示できます。たとえばこれを使用すると、指定の範囲内のテンポであれば、その楽曲に対し適切であることを指示できます。

#### 補足

この手順は、段階的テンポ変更やテンポのリセット記号、相対テンポ記号には当てはまりません。

#### 前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。
- 下ゾーンのツールバーで「**プロパティ (Properties)**」を選択しておきます。
- 浄書モードの場合は、浄書ツールボックスで「**グラフィックの編集 (Graphic Editing)**」を選択しておきます。

#### 手順

1. メトロノームマークの値を範囲で表示させる固定テンポ記号を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「**テンポ (Tempo)**」グループで、「**テンポ範囲 (bpm) (Tempo range (bpm))**」をオンにします。
3. 数値フィールドの値を変更します。

#### 結果

選択したテンポ記号で、1分あたりの拍数で表現されるテンポ範囲が変更されます。初期設定では、メトロノームマークの範囲の区切り文字にはダッシュ記号が使用されます。

#### 補足

- 「**テンポ (bpm) (Tempo (bpm))**」と「**テンポ範囲 (bpm) (Tempo range (bpm))**」は、どちらがテンポ範囲の最小値でどちらが最大値であるかは決まっていません。Dorico Pro は、メトロノームマークの範囲の1つめの数値に小さい方の値を自動的に使用します。ただし再生の際には、それがテ


テンポ範囲の上限か下限かに関わらず、常に「テンポ (bpm) (Tempo (bpm))」の値が使用されます。

- メトロノームマークの範囲に使用されるデフォルトの区切り文字は、「**浄書オプション (Engraving Options)**」 > 「**テンポ (Tempo)**」 > 「**固定値による変更 (Absolute Changes)**」で変更できます。
- 

## メトロノームマークを近似値で表示する

個々のメトロノームマークを近似値で表示したり、近似値表示の外観を変更したりできます。

前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。
- 下ゾーンのツールバーで「**プロパティ (Properties)**」を選択しておきます。
- 浄書モードの場合は、浄書ツールボックスで「**グラフィックの編集 (Graphic Editing)**」を選択しておきます。

手順

1. 近似値で表示するメトロノームマークを選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
  2. プロパティパネルの「**テンポ (Tempo)**」グループで、「**近似 (Is approximate)**」をオンにします。
  3. 必要に応じて、以下のいずれかの操作を行なって近似値表示の外観を変更します。
    - 「**近似値の外観 (Approximate appearance)**」をオンにして、メニューから使用する近似値の外観を選択します。
    - 「**等号を表示 (Show equals sign)**」をオンにして、対応するチェックボックスをオン/オフにします。
- 

結果

選択したメトロノームマークが近似値で表示されます。

ヒント



近似値によるメトロノームマークすべてのデフォルトの外観に対するプロジェクト全体の設定は、「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**テンポ (Tempo)**」ページで変更できます。

---

## 相対テンポ記号の値の変更

先のテンポ記号に対する割合で表現される相対テンポ記号について、テンポを個別に変更できます。

前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。
- 下ゾーンのツールバーで「**プロパティ (Properties)**」を選択しておきます。
- 浄書モードの場合は、浄書ツールボックスで「**グラフィックの編集 (Graphic Editing)**」を選択しておきます。

手順

1. 値を変更する相対テンポ記号を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「**テンポ (Tempo)**」グループで、「**相対 % (Relative %)**」の値を変更します。

### 3. **[Return]** を押します。

---

#### 結果

相対テンポ記号のテンポが変更されます。たとえば、先のテンポが 100 bpm で、相対テンポ記号を 90 に変更した場合、新しいテンポは 100 bpm の 90 %、つまり 90 bpm になります。

#### 関連リンク



[プロパティパネル \(826 ページ\)](#)

[浄書ツールボックス \(554 ページ\)](#)

## 段階的テンポ変更の終了位置の最終的なテンポの変更

段階的テンポ変更の開始位置のテンポに対する割合の形で、段階的テンポ変更が再生時のテンポに与える影響の大きさを変更できます。

#### 前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。
- 下ゾーンのツールバーで「**プロパティ (Properties)**」 を選択しておきます。
- 浄書モードの場合は、浄書ツールボックスで「**グラフィックの編集 (Graphic Editing)**」 を選択しておきます。

#### 手順

1. 最終的なテンポを変更する段階的テンポ変更を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
  2. プロパティパネルの「**テンポ (Tempo)**」グループで、「**最終的なテンポ % (Final tempo %)**」の値を変更します。
  3. **[Return]** を押します。
- 

#### 結果

選択した段階的テンポ変更の終了位置の最終的なテンポが変更されます。

たとえば、100 bpm で開始する段階的テンポ変更において値を 20 に変更した場合、最終的なテンポは 100 bpm の 20% となるため、20 bpm になります。100 bpm で開始する段階的テンポ変更において値を 120 に変更した場合、最終的なテンポは 100 bpm の 120% となるため、120 bpm になります。

## メトロノームマークの小数点以下の値を表示/非表示にする

プロジェクト全体のすべてのメトロノームマークに表示する小数点以下の最大桁数を変更できます。これはたとえば、映画に合わせて楽譜を作成する場合のメトロノームマークには極めて厳密な数値が必要とされる一方、楽譜に表示するのは小数点以下 1 桁のみとするような場合に役立ちます。

初期設定では、メトロノームマークに小数点は表示されず、小数点以下は最も近い整数に丸められます。ただし、再生時には、メトロノームマークに常に正確な数値が反映されます。

#### 手順



1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[E]** を押して「**浄書オプション (Engraving Options)**」を開きます。
2. カテゴリリストの「**テンポ (Tempo)**」をクリックします。
3. 「**固定値による変更 (Absolute Changes)**」のセクションで、「**テンポを表示する小数点位置 (Number of decimal places to show tempo)**」の値を変更します。

4. 「適用 (Apply)」をクリックしてから「閉じる (Close)」をクリックします。

## メトロノームマークの順番の変更

プロジェクト全体の設定とは別に、個々のテンポ記号のテンポのテキストに対するメトロノームマークの順番を変更できます。たとえば、一部のテンポ記号ではテンポのテキストの前にメトロノームマークを表示し、その他のテンポ記号ではテンポのテキストの後に表示したい場合などに便利です。

### 前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。
- 下ゾーンのツールバーで「プロパティ (Properties)」を選択しておきます。
- 浄書モードの場合は、浄書ツールボックスで「グラフィックの編集 (Graphic Editing)」を選択しておきます。

### 手順

1. メトロノームマークの順番を変更するテンポ記号を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「テンポ (Tempo)」のグループで、「メトロノームマークの順番 (Metronome mark order)」をオンにします。
3. 以下のいずれかのオプションを選択します。
  - 前 (Before)
  - 後 (After)

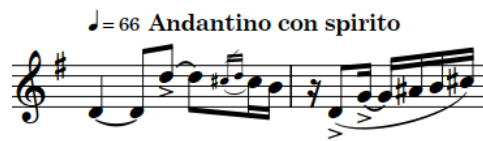
### 結果

選択したテンポ記号のテンポのテキストに対するメトロノームマークの順番が変更されます。

### ヒント

プロジェクト全体のすべてのテンポ記号のテンポのテキストに対するメトロノームマークのデフォルトの順序は、「浄書オプション (Engraving Options)」の「テンポ (Tempo)」ページで変更できます。

### 例



テンポのテキストの前にメトロノームマーク



テンポのテキストの後にメトロノームマーク

### 関連リンク

- [プロパティパネル \(826 ページ\)](#)
- [浄書ツールボックス \(554 ページ\)](#)
- [テンポ記号の入力方法 \(320 ページ\)](#)

## 段階的テンポ変更

段階的テンポ変更は、指定した時間範囲にわたるテンポの変更を示し、テンポを落としていくことを指示する *rallentando*、テンポを上げていくことを指示する *accelerando* などがあります。



破線付きの *rallentando*

Dorico Pro では、段階的テンポ変更は一種のテンポ記号とみなされます。そのためテンポ記号と同じように扱うことができます。

段階的テンポ変更は開始位置と終了位置とで異なるメトロノームマークの値を持つため、個々の段階的テンポ変更の終了位置の最終的なテンポを変更できます。

Dorico Pro では、延長線を表示したり、音節をデュレーション全体に広げたりするなど、段階的テンポ変更をさまざまなスタイルで表示できます。また、段階的テンポ変更は、点線や破線といったいくつかの異なる線のスタイルで表示できます。

### 補足

段階的テンポ変更の角度は変更できません。

### 関連リンク

[テンポ記号の入力方法 \(320 ページ\)](#)

[段階的テンポ変更の終了位置の最終的なテンポの変更 \(1755 ページ\)](#)

[テンポ記号のフォントスタイル \(1750 ページ\)](#)

[アイテムの長さの変更 \(470 ページ\)](#)

[テキストの書き出し \(113 ページ\)](#)

## 段階的テンポ変更 に poco a poco のテキストを個別に追加する

段階的テンポ変更の直後に poco a poco のテキストを追加できます。

### 前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。
- 下ゾーンのツールバーで「プロパティ (Properties)」 を選択しておきます。
- 浄書モードの場合は、浄書ツールボックスで「グラフィックの編集 (Graphic Editing)」 を選択しておきます。

### 手順

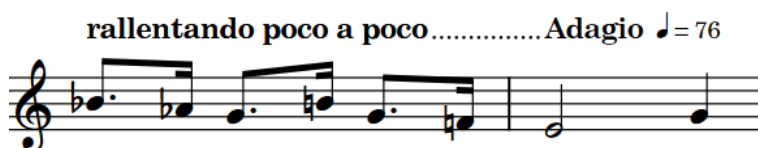
1. poco a poco のテキストを追加する段階的テンポ変更を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「テンポ (Tempo)」グループで、「Poco a poco」をオンにします。

### 結果

選択した段階的テンポ変更のテキストの直後に poco a poco のテキストが表示されます。

「Poco a poco (少しずつ)」をオフにすると、選択した段階的テンポ変更から poco a poco のテキストが取り除かれます。

例



Rallentando に poco a poco のテキストが付いた例

---

## 段階的テンポ変更のスタイルを個別に変更する

プロジェクト全体の設定とは別に、段階的テンポ変更のスタイルを変更できます。段階的なテンポ変更記号の外観は、線のないテキストのみ、線付きのテキスト、またはデュレーション全体に表示されるテキストのいずれかで表示されます。

前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。
- 下ゾーンのツールバーで「プロパティ (Properties)」を選択しておきます。
- 浄書モードの場合は、浄書ツールボックスで「グラフィックの編集 (Graphic Editing)」を選択しておきます。

手順

1. スタイルを変更する段階的テンポ変更を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「テンポ (Tempo)」グループで、「段階的強弱記号のスタイル (Gradual style)」をオンにします。
3. メニューから以下のいずれかのオプションを選択します。
  - rit.
  - rit...
  - rit - ar - dan - do

結果

選択した段階的テンポ変更のスタイルが変更されます。

補足

- ritenuto や accelerando など、有効なフルテキストを持つ段階的テンポ変更だけが音節に分割されて表示されます。パネルを使用して入力するか、ポップオーバー使用時に提案されたエントリをメニューから選択すると、段階的テンポ変更の有効なフルテキストが自動的に適用されます。また、ハイフンを手動で追加して音節の区切り方を制御するなど、既存の段階的テンポ変更のテキストを変更することもできます。
  - 段階的テンポ変更のデフォルトのスタイルをプロジェクト全体で変更するには、「浄書オプション (Engraving Options)」の「テンポ (Tempo)」ページで設定を行ないます。
-

例

**rallentando**

rit.: テキストのみ

**rallentando**.....

rit...: 延長線付きテキスト

**ral . len . tan . do .**

rit - ar - dan - do: テキストの音節を段階的テンポ変更のデュレーション全体に広げる

---

関連リンク

[プロパティパネル \(826 ページ\)](#)

[浄書ツールボックス \(554 ページ\)](#)

[「浄書オプション \(Engraving Options\)」ダイアログ \(923 ページ\)](#)

[テンポ記号の入力方法 \(320 ページ\)](#)

[テンポのテキストの変更 \(1748 ページ\)](#)

## 段階的テンポ変更の線のスタイルを個別に変更する

延長線を使用する段階的テンポ変更の線のスタイルを、プロジェクト全体の設定より優先される形で個別に変更できます。

### 補足

これはテキストのみのスタイルを使用する段階的なテンポ変更記号の外観に影響しません。

---

前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。
  - 下ゾーンのツールバーで「**プロパティ (Properties)**」を選択しておきます。
  - 浄書モードの場合は、浄書ツールボックスで「**グラフィックの編集 (Graphic Editing)**」を選択しておきます。
- 

手順

1. 線のスタイルを変更する段階的テンポ変更を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
  2. プロパティパネルの「**テンポ (Tempo)**」グループで、「**線のスタイル (Line style)**」をオンにします。
  3. メニューから以下のいずれかのオプションを選択します。
    - **実線 (Solid)**
    - **点線 (Dotted)**
    - **破線 (Dashed)**
- 

結果

選択した段階的テンポ変更の線のスタイルが変更されます。

### ヒント

段階的テンポ変更のデフォルトの線のスタイルをプロジェクト全体で変更するには、「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**テンポ (Tempo)**」ページで設定を行ないます。

---


## 段階的テンポ変更の破線と間隔の長さを個別に変更する

個々の段階的テンポ変更の破線における線と間隔の長さは、プロジェクト全体の設定より優先される形で変更できます。この操作は現在のレイアウトとフレームチェーンのみに対して、もしくはすべてのレイアウトとフレームチェーンに対して行なえます。

### 補足

これらの手順は、破線付きの段階的テンポ変更のみに適用されます。

### 前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。
- 下ゾーンのツールバーで「プロパティ (Properties)」を選択しておきます。
- 浄書ツールボックスで「グラフィックの編集 (Graphic Editing)」を選択しておきます。
- ローカルのプロパティ変更に関して、適切なプロパティ範囲を選択しておきます。

### 手順

1. 浄書モードで、破線付きの段階的テンポ変更のうち、破線の長さを変更するものを選択します。
2. プロパティパネルの「テンポ (Tempo)」のグループで、以下のプロパティを片方または両方ともオンにします。
  - 破線の線の長さ (Line dash length)
  - 破線の線の間隔 (Line dash gap)
3. 数値フィールドの値を変更します。

### 結果

「破線の線の長さ (Line dash length)」を大きくすると段階的テンポ変更の破線の線が長くなり、小さくすると線が短くなります。

「破線の線の間隔 (Line dash gap)」を大きくすると段階的テンポ変更の線の間隔が大きくなり、小さくすると間隔が小さくなります。

プロパティ範囲を「ローカル (Locally)」に設定している場合、この変更は現在のレイアウトおよびフレームチェーンのみに影響します。

### ヒント

プロジェクト全体のすべての破線付きの段階的テンポ変更のデフォルトの破線の長さは、「浄書オプション (Engraving Options)」 > 「テンポ (Tempo)」 > 「段階的な変更 (Gradual Changes)」 > 「詳細設定 (Advanced Options)」で変更できます。

たとえば、テキストのあとに続く破線とハイフン付きテキストの間の破線、それぞれのデフォルトの線の長さは個別に変更できます。

### 関連リンク

[プロパティパネル \(826 ページ\)](#)

[プロパティ範囲の変更 \(828 ページ\)](#)

[浄書ツールボックス \(554 ページ\)](#)

[「浄書オプション \(Engraving Options\)」ダイアログ \(923 ページ\)](#)





## 段階的テンポ変更の線の太さを個別に変更する

段階的テンポ変更の延長線の破線および実線の太さは、プロジェクト全体の設定より優先される形で個別に変更できます。この操作は現在のレイアウトとフレームチェーンのみに対して、もしくはすべてのレイアウトとフレームチェーンに対して行なえます。

### 補足

これらの手順は、破線および実線付きの段階的テンポ変更のみに適用されます。

### 前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。
- 下ゾーンのツールバーで「プロパティ (Properties)」を選択しておきます。
- 浄書ツールボックスで「グラフィックの編集 (Graphic Editing)」を選択しておきます。
- ローカルのプロパティ変更に関して、適切なプロパティ範囲を選択しておきます。

### 手順

1. 浄書モードで、太さを変更する段階的テンポ変更を選択します。
2. プロパティパネルの「テンポ (Tempo)」グループで、「線の太さ (Line thickness)」をオンにします。
3. 数値フィールドの値を変更します。

### 結果

値を大きくすると破線および実線が太くなり、値を小さくすると破線および実線が細くなります。プロパティ範囲を「ローカル (Locally)」に設定している場合、この変更は現在のレイアウトおよびフレームチェーンのみに影響します。

### ヒント

すべての段階的テンポ変更の破線および実線の太さに関するプロジェクト全体の設定は、「浄書オプション (Engraving Options)」の「テンポ (Tempo)」ページで変更できます。

## テンポの等式

テンポの等式は、メトロノームマークが基本とする拍の単位の変更を示します。多くの場合、複数の異なる拍子の間で拍動を一定に維持するために使用されます。

たとえば、拍子記号が 6/8 から 3/4 に変更された場合、♩=♩というテンポの等式により、6/8 拍子では付点 4 分音符の拍の単位に使用されていたメトロノームマークの値が、3/4 拍子では 4 分音符の拍の単位に使用されることが示されます。



Dorico Pro では、テンポの等式は一種のテンポ記号とみなされます。そのためテンポ記号と同じように扱うことができます。

#### 補足

現在のテンポの等式は、連符のデュレーションに対応していません。これは将来のバージョンでサポートされる予定です。

---

関連リンク

[テンポ記号の入力方法 \(320 ページ\)](#)

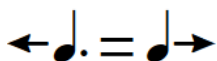
## テンポの等式の矢印を表示/非表示にする

プロジェクト全体のすべてのテンポの等式の両側に矢印を表示したり非表示にしたりできます。たとえば、テンポの等式とメトロノームマークを視覚的により区別したい場合などに便利です。

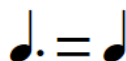
手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[E]** を押して「**浄書オプション (Engraving Options)**」を開きます。
  2. カテゴリリストの「**テンポ (Tempo)**」をクリックします。
  3. 「**固定値による変更 (Absolute Changes)**」セクションの「**テンポの等式 (Tempo equations)**」で、以下のいずれかのオプションを選択します。
    - **矢印を表示 (Show arrows)**
    - **矢印を省略 (Omit arrows)**
  4. 「**適用 (Apply)**」をクリックしてから「**閉じる (Close)**」をクリックします。
- 

例



矢印を表示 (Show arrows)



矢印を省略 (Omit arrows)

---

関連リンク

[「浄書オプション \(Engraving Options\)」ダイアログ \(923 ページ\)](#)

# テキストアイテム

テキストアイテムはフロー内のリズム上の位置に存在し、一般的なテキストを楽譜内に表示できます。

利用可能なテキストエディターオプションを使用して、テキストアイテムのテキストの形式をカスタマイズできます。たとえば、テキストの行ごとに異なるパラグラフスタイルを適用したり、文字ごとに異なる文字スタイルを適用したりできます。



The image shows a musical score snippet in 2/4 time. The piano part is marked *mf*. The score includes various musical notations such as accents (>), slurs, and triplets (3). Below the piano staff, there are text annotations: "cloche\*" in the first measure, and "Red." with a star symbol in the second, third, fourth, and sixth measures. A note below the annotations reads: "\* Il faut bien fair ressortir la cloche dans tout le morceau."

ピアノ譜の下にあるテキストアイテム

Dorico Pro には、以下のタイプのテキストアイテムがあります。

## 譜表に付くテキスト

個々の譜表のみに適用され、それらの譜表にのみ表示されるテキストアイテムです。

## 組段に付くテキスト

該当するすべてのレイアウトに表示されるすべての譜表に適用されるテキストアイテムです。Dorico Pro では、組段に付くテキストは組段オブジェクトに分類されます。そのため、組段に付くテキストは組段オブジェクトの表示と配置に関するレイアウトごとの設定に従います。

## 補足

- トークンはテキストフレームでのみ使用できます。テキストアイテムではトークンを使用できません。
- テンポ記号や強弱記号など、楽譜で頻繁に使用される他の種類のテキストに対する専用の機能も備わっています。

## 関連リンク

[テキストアイテムの入力 \(420 ページ\)](#)

[記譜モードのテキストエディターオプション \(421 ページ\)](#)

[トークン \(617 ページ\)](#)

[組段オブジェクト \(1717 ページ\)](#)

[デフォルトのフォントファミリーを変更する \(937 ページ\)](#)

[「パラグラフスタイル \(Paragraph Styles\)」ダイアログ \(932 ページ\)](#)

[テキストの書き出し \(113 ページ\)](#)

## テキストのタイプ

Dorico Pro では、一般的なテキストはテキストアイテムとして配置でき、譜表に連結か組段に連結、または楽譜ではなくページに固定されるテキストフレーム内に配置されます。テンポ記号や強弱記号など、楽譜で頻繁に使用される他の種類のテキストに対する専用の機能も備わっています。

Dorico Pro には、以下のタイプのテキストがあります。

### テキストアイテム

テキストアイテムは、フロー内のリズム上の位置に配置されます。トークンを除いて、入力したどんなテキストでも表示できます。利用可能なテキストエディターオプションを使用して、テキストアイテムのテキストの形式をカスタマイズできます。たとえば、テキストの行ごとに異なるパラグラフスタイルを適用したり、文字ごとに異なる文字スタイルを適用したりできます。

テキストアイテムには、個別の譜表に適用される「譜表に付くテキスト」と、すべての譜表に適用される「組段に付くテキスト」があります。

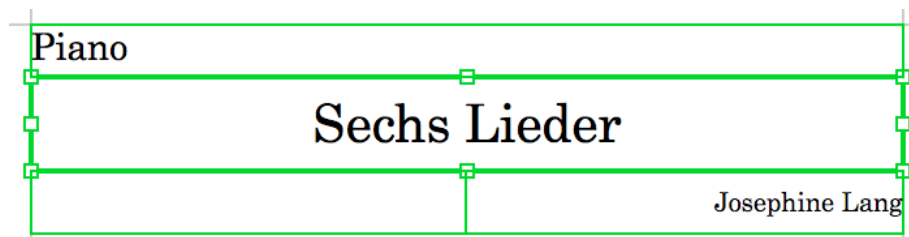


\* Il faut bien faire ressortir la *cloche* dans tout le morceau.

ピアノ譜の下にあるテキストアイテム

### テキストフレーム内のテキスト

テキストフレームは、フロー内のリズム上の位置に関係なく、個別にページに表示されます。トークンを含む、入力したどんなテキストでも表示できます。利用可能なテキストエディターオプションを使用して、テキストフレームのテキストの形式をカスタマイズできます。たとえば、テキストの行ごとに異なるパラグラフスタイルを適用したり、文字ごとに異なる文字スタイルを適用したりできます。



プロジェクトタイトルのフレームが選択された、ピアノパートのレイアウトの最初のページで使用されるテキストフレーム

### テンポ記号

テンポ記号は楽譜を演奏する速さを示し、多くの場合テキストによる指示とメトロノームマークの組み合わせで表示されます。

たとえば、A tempo、Larghetto、ritardando、および accelerando はすべてテンポ記号です。

Assez animé ♩ = 144 gai, léger

Assez animé ♩ = 144 *p*

*pp* très rythmé, léger

フランス語によるテキスト指示とメトロノームマークからなるテンポ記号

### リハーサルマーク

リハーサルマークは順に並んだ文字または数字であり、基準点として機能します。これらは一般的に長方形の囲み線に表示されます。

**G** Poco meno mosso (♩ = c. 100)

*mp*

7 5 3 6 6

「G」の文字が表示されたリハーサルマーク

### 演奏技法

演奏技法という言葉は、演奏者が演奏する音符のサウンドに修飾を加えることを伝えるためのさまざまな指示を意味します。演奏技法の例としては、アンブシュアの変更や弓の位置の変更、または楽器にミュートを付けたりペダルを踏み込んだりすることなどがあります。たとえば、pizzicato、flutter-tongue、con sordino、および snares on はすべて演奏技法です。

pizz. con sord.

arco

détaché sul tasto → sul pont.

### 強弱記号 (Dynamics)

強弱記号は音の大きさを表わし、表現テキストと組み合わせることで、楽譜をどのように演奏すべきかを明確にします。強弱記号は音量の瞬間的な変化や、指定のデュレーションによる段階的な変化を指示します。

たとえば、*pp*、*f*、および crescendo はすべて強弱記号です。

bis. flz.

*f* *ff* *fp* *ff* *pp* *f*

vib.

3

複数の異なる強弱記号を持つフレーズ

### 歌詞

Dorico Pro では、歌詞とは歌手によって歌われるすべてのテキストを指します。歌詞は歌詞のラインにまとめられ、目的に応じてさまざまなタイプの歌詞のラインを使用できます。たとえば、コーラスのラインの歌詞は、デフォルトでは斜体フォントで表示されます。

ソプラノのデュエットの歌詞と、バスソコンティヌオの伴奏

### フィンガリング

フィンガリングとは、音符の演奏に推奨される指をプレーヤーに指示するための数字や文字のことです。

ピアノの楽譜には、替え指のフィンガリングや代替フィンガリングを含む複数のフィンガリングが記譜されます。

### 数字付き低音

数字付き低音とは、記譜されているベース音の上の和声を数字で指定する省略表現です。数字付き低音にはアラビア数字、臨時記号およびホールドの水平線を組み合わせて使用し、和音の構成音の低音からの音程と、その長さの両方を指定します。

譜表の下に数字付き低音を表示するバスソコンティヌオパート

### コード記号

コード記号とは、楽譜上の特定の瞬間における縦のハーモニーを記述するものです。コード記号は、プレーヤーがコード進行に合わせて即興演奏を行なうジャズやポップスでは多く使用されます。

たとえば、Gm7、Dsus4、および C6/9 はすべてコード記号です。

A musical score for Clarinet and Piano in 4/4 time. The top staff is for the Clarinet, and the bottom staff is for the Piano. Above the Clarinet staff, chord symbols are written: C7, G7/D, C7, F, G#dim7 Gm7, F, C7, F, C7. Above the Piano staff, the same chord symbols are written: C7, G7/D, C7, F, G#dim7 Gm7, F, C7, F, C7. The Clarinet part features a melody with eighth and sixteenth notes, including triplets. The Piano part provides harmonic accompaniment with chords and moving lines.

クラリネットとピアノの譜表のスラッシュの上にあるコード記号は、記譜されたコルネットのメロディに合わせてプレーヤーが即興で演奏するのを補助します。

### リピートマーカー

リピートマーカーは、音符や記譜記号を繰り返す必要があることを示します。多くは楽譜の並びに従って進行せず、異なる位置やセクションにジャンプします。

たとえば、D.C. al Coda、D.S.、および Fine はすべてリピートマーカーです。

A musical score showing two examples of Coda sections. The first example shows a vocal line with lyrics: "sah. sah. 2. Und im - mer 3. Es quoll und". The second example shows a vocal line with lyrics: "nun wußt' ich wohl wie mir ge - schah". Both examples include piano accompaniment and a Coda symbol (⊕ Coda) above the vocal line.

組段の途中にあるコーダセクション

### コメント

コメントは、楽譜に影響することなくプロジェクト内の正確な位置に追加できるメモや指示です。Dorico Pro では、コメントは注釈として扱われ、初期設定では印刷はされません。

A musical score showing a piano part with several comments and feedback markers. The comments are represented by purple speech bubbles containing "U1" and "U2". The piano part includes dynamics like "f" and "fz".

コメントと返信が表示された楽節

### 関連リンク

- [トークン \(617 ページ\)](#)
- [テキストの形式設定 \(929 ページ\)](#)
- [デフォルトのフォントファミリーを変更する \(937 ページ\)](#)
- [テキストアイテム内のテキストの編集 \(424 ページ\)](#)
- [テキストフレームへのテキストの入力 \(624 ページ\)](#)
- [テキストの書き出し \(113 ページ\)](#)
- [テキストフレーム \(616 ページ\)](#)

[フロー見出し \(595 ページ\)](#)  
[ページ番号 \(1501 ページ\)](#)  
[タレット \(795 ページ\)](#)  
[テンポ記号 \(1745 ページ\)](#)  
[リハーサルマーク \(1574 ページ\)](#)  
[演奏技法 \(1536 ページ\)](#)  
[強弱記号 \(1229 ページ\)](#)  
[歌詞 \(1361 ページ\)](#)  
[フィンガリング \(1286 ページ\)](#)  
[数字付き低音 \(1268 ページ\)](#)  
[コード記号 \(1154 ページ\)](#)  
[リピートマーカ \(1598 ページ\)](#)  
[コメント \(545 ページ\)](#)  
[譜表ラベル \(1684 ページ\)](#)  
[プレーヤーラベル \(817 ページ\)](#)  
[インストゥルメントの変更 \(150 ページ\)](#)  
[プレーヤーグループのラベル \(1695 ページ\)](#)

## テキストアイテムのパラグラフスタイルの変更

たとえば、それぞれのテキストアイテムに含まれる情報に応じて異なるパラグラフスタイルを使用したい場合など、個々のテキストアイテムに適用されるパラグラフスタイルを変更できます。

---

### 手順

1. 記譜モードで、パラグラフスタイルを変更するテキストアイテムを選択します。
2. 「編集 (Edit)」 > 「記譜 (Notations)」 > 「テキスト (Text)」 > 「パラグラフスタイルを変更 (Change Paragraph Styles)」を選択して「パラグラフスタイルを変更 (Change Paragraph Styles)」ダイアログを開きます。このオプションはコンテキストメニューでも選択できます。
3. 「パラグラフスタイル (Paragraph style)」メニューからパラグラフスタイルを選択します。
4. 「OK」をクリックして変更内容を保存し、ダイアログを閉じます。

---

### 結果

選択したテキストアイテムに適用されるパラグラフスタイルが変更されます。選択したテキストアイテムのフォントサイズ、フォントスタイル、水平方向の配置などの形式設定がパラグラフスタイルに従います。

### 補足

個々のテキストアイテムやテキストフレームのテキストのパラグラフスタイルを上書きした場合 (テキストを太字にするなど)、パラグラフスタイルの対応するパラメーターにあとから加える変更は上書きされたテキストには適用されません。ただし、フォントサイズの上書きはパラグラフスタイルのフォントサイズと結合されます。

---

### 関連リンク

[「パラグラフスタイル \(Paragraph Styles\)」ダイアログ \(932 ページ\)](#)  
[ページテンプレートの種類 \(573 ページ\)](#)  
[ページテンプレートの優先の解除 \(586 ページ\)](#)  
[テキストフレーム内のパラグラフスタイルを変更する \(627 ページ\)](#)  
[同じタイプのアイテムをより多く選択する \(461 ページ\)](#)



## テキストアイテムを組段の開始位置に揃える

パラグラフスタイルの組段の配置設定とは関係なく、組段の開始位置にある個々のテキストアイテムを、最初の音符/休符ではなく組段の小節線に揃えることができます。この操作は現在のレイアウトとフレームチェーンのみに対して、もしくはすべてのレイアウトとフレームチェーンに対して行なえます。

### 前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。
- 下ゾーンのツールバーで「プロパティ (Properties)」を選択しておきます。
- 浄書モードの場合は、浄書ツールボックスで「グラフィックの編集 (Graphic Editing)」を選択しておきます。
- ローカルのプロパティ変更に関して、適切なプロパティ範囲を選択しておきます。

### 手順

1. 組段の開始位置に揃えるテキストアイテムを選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「テキスト (Text)」グループで「組段の開始位置に揃える (Align with system start)」をオンにします。
3. 対応するチェックボックスをオン/オフにします。

### 結果

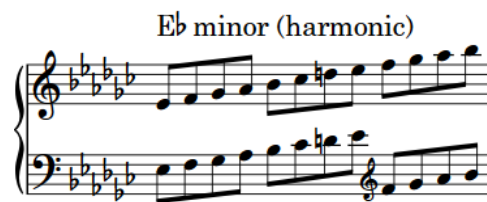
チェックボックスをオンにすると選択したテキストアイテムが組段の開始位置に揃えられ、オフにすると組段の最初の音符/休符に揃えられます。プロパティ範囲を「ローカル (Locally)」に設定している場合、この変更は現在のレイアウトおよびフレームチェーンのみに影響します。

このプロパティをオフにすると、テキストアイテムはパラグラフスタイルの組段の配置設定に従います。

### ヒント

組段の開始位置に対する各パラグラフスタイルのデフォルトの配置は「パラグラフスタイル (Paragraph Styles)」ダイアログで変更できます。

### 例



テキストが組段の最初の音符に揃えられた状態



テキストが組段の開始位置に揃えられた状態

### 関連リンク

- [プロパティパネル \(826 ページ\)](#)
- [プロパティ範囲の変更 \(828 ページ\)](#)
- [浄書ツールボックス \(554 ページ\)](#)
- [テキストアイテムの入力 \(420 ページ\)](#)

[アイテムの表示位置の移動 \(652 ページ\)](#)

[テキストフレーム内のテキストの垂直方向の配置の変更 \(631 ページ\)](#)

## テキストの衝突回避の有効化/無効化

衝突を回避するために個々のテキストアイテムを自動的に動かすかどうかを、プロジェクト全体の設定とは別に変更できます。この操作は現在のレイアウトとフレームチェーンのみに対して、もしくはすべてのレイアウトとフレームチェーンに対して行なえます。

衝突回避がオフになったテキストアイテムは、譜表のスペーシングの自動計算の対象になりません。

### 補足

これらの手順はテキストフレームのテキストには適用されません。

---

### 前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。
  - 下ゾーンのツールバーで「プロパティ (Properties)」を選択しておきます。
  - 浄書ツールボックスで「グラフィックの編集 (Graphic Editing)」を選択しておきます。
  - ローカルのプロパティ変更に関して、適切なプロパティ範囲を選択しておきます。
- 

### 手順

1. 浄書モードで、衝突回避を有効化/無効化するテキストアイテムを選択します。
  2. プロパティパネルの「テキスト (Text)」グループで「衝突を回避 (Avoid collisions)」をオンにします。
  3. 対応するチェックボックスをオン/オフにします。
- 

### 結果

チェックボックスをオンにすると選択したテキストアイテムは衝突を回避し、オフにすると回避しません。プロパティ範囲を「ローカル (Locally)」に設定している場合、この変更は現在のレイアウトおよびフレームチェーンのみに影響します。

このプロパティをオフにすると、テキストアイテムはテキストの衝突回避に対するプロジェクト全体の設定に従います。

### ヒント

プロジェクト全体のすべてのテキストアイテムに対するテキストの衝突回避は、「浄書オプション (Engraving Options)」の「テキスト (Text)」ページで有効化/無効化できます。

---

### 関連リンク

[「浄書オプション \(Engraving Options\)」ダイアログ \(923 ページ\)](#)



[譜表のスペーシング \(776 ページ\)](#)

## テキストアイテムへの枠線の追加

テキストアイテムの境界を明確にしたい場合などに、テキストアイテムに個別に枠線を追加できます。テキストアイテムは、背景を消して枠線を表示できます。

### 前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。

- 下ゾーンのツールバーで「プロパティ (Properties)」を選択しておきます。
- 浄書モードの場合は、浄書ツールボックスで「グラフィックの編集 (Graphic Editing)」を選択しておきます。

---

#### 手順

1. 枠線を追加するテキストアイテムを選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「テキスト (Text)」グループで「枠線 (Border)」をオンにします。

---

#### 結果

選択したテキストアイテムに枠線が追加されます。

---

#### ヒント

- 「**枠線 (Border)**」をオフにすると、選択したテキストアイテムから枠線が削除されます。
- デフォルトで枠線を表示するように設定されたパラグラフスタイルを使用すれば、テキストアイテムに自動的に枠線を表示できます。

---

#### 例

Text

枠線のないテキスト



枠線が表示されたテキスト

---

#### 手順終了後の項目

- テキストアイテムの枠線のスタイルと太さを変更できます。
- テキストアイテムと枠線の各辺の間の余白を変更できます。

#### 関連リンク

[プロパティパネル \(826 ページ\)](#)

[浄書ツールボックス \(554 ページ\)](#)

[「パラグラフスタイル \(Paragraph Styles\)」ダイアログ \(932 ページ\)](#)

[テキストフレームへの枠線の追加 \(628 ページ\)](#)

[テキストフレームの枠線の色を変更する \(629 ページ\)](#)


[レイアウト名の枠線の表示/非表示 \(1325 ページ\)](#)


[インストゥルメントの変更ラベルのパラグラフスタイル \(156 ページ\)](#)

## テキストアイテムの境界線のスタイルの変更

テキストアイテムに表示される境界線のスタイルを個別に変更できます。たとえば、一部のテキストアイテムに長方形の境界線を表示し、その他のテキストアイテムにはカプセル型の境界線を表示するなどできます。この操作は現在のレイアウトとフレームチェーンのみに対して、もしくはすべてのレイアウトとフレームチェーンに対して行なえます。

#### 前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。
- 下ゾーンのツールバーで「プロパティ (Properties)」を選択しておきます。

- 浄書モードの場合は、浄書ツールボックスで「**グラフィックの編集 (Graphic Editing)**」を選択しておきます。
- ローカルのプロパティ変更に関して、適切なプロパティ範囲を選択しておきます。

---

#### 手順

1. 境界線のスタイルを変更するテキストアイテムを選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「**テキスト (Text)**」グループで「**境界線のスタイル (Border style)**」をオンにします。
3. メニューから以下のいずれかのオプションを選択します。
  - **長方形 (Rectangle)**
  - **角丸の長方形 (Rounded rectangle)**
  - **カプセル (Capsule)**
  - **端が斜めの矩形 (Angled ends rectangle)**

---

#### 結果

選択したテキストアイテムの境界線のスタイルが変更されます。プロパティ範囲を「**ローカル (Locally)**」に設定している場合、この変更は現在のレイアウトおよびフレームチェーンのみに影響します。

---

#### ヒント

各パラグラフスタイルがデフォルトで使用する境界線のスタイルは、「**パラグラフスタイル (Paragraph Styles)**」ダイアログで変更できます。

---

#### 例



長方形 (Rectangle)



角丸の長方形 (Rounded rectangle)



カプセル (Capsule)





端が斜めの矩形 (Angled ends rectangle)

---

## テキストアイテムの枠線の太さの変更

個々のテキストアイテムの枠線の太さは、プロジェクト全体の設定より優先される形で変更できます。

#### 前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。
- 下ゾーンのツールバーで「**プロパティ (Properties)**」を選択しておきます。
- 浄書ツールボックスで「**グラフィックの編集 (Graphic Editing)**」を選択しておきます。

---

#### 手順

1. 浄書モードで、枠線の太さを変更するテキストアイテムを選択します。
2. プロパティパネルの「**テキスト (Text)**」グループで、「**境界線の太さ (Border thickness)**」をオンにします。

### 3. 数値フィールドの値を変更します。

---

#### 結果

選択したテキストアイテムを囲む枠線の太さが変更されます。

#### ヒント

プロジェクト全体のすべてのテキストアイテムのデフォルトの境界線の太さは、「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**テキスト (Text)**」ページで変更できます。

---

#### 関連リンク

[「浄書オプション \(Engraving Options\)」ダイアログ \(923 ページ\)](#)

[テキストフレームの枠線の太さを変更する \(629 ページ\)](#)

## テキストアイテムの周囲の余白の変更

テキストアイテムは、四方それぞれの余白を個別に変更できます。これは、テキストと塗りつぶした背景および枠線との間の距離に影響します。この操作は現在のレイアウトとフレームチェーンのみに対して、もしくはすべてのレイアウトとフレームチェーンに対して行なえます。

#### 前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。
  - 下ゾーンのツールバーで「**プロパティ (Properties)**」を選択しておきます。
  - 浄書ツールボックスで「**グラフィックの編集 (Graphic Editing)**」を選択しておきます。
  - ローカルのプロパティ変更に関して、適切なプロパティ範囲を選択しておきます。
- 

#### 手順

1. 浄書モードで、余白を変更するテキストアイテムを選択します。
  2. プロパティパネルの「**テキスト (Text)**」グループで、「**塗りつぶしの余白 (Erasure padding)**」のプロパティを片方または両方ともオンにします。
    - 「**左 (L)**」を指定すると、テキストアイテムと左の辺の間の余白が変更されます。
    - 「**右 (R)**」を指定すると、テキストアイテムと右の辺の間の余白が変更されます。
    - 「**上 (T)**」を指定すると、テキストアイテムと上の辺の間の余白が変更されます。
    - 「**下 (B)**」を指定すると、テキストアイテムと下の辺の間の余白が変更されます。
  3. 余白を変更する辺の数値フィールドの値を変更します。
- 

#### 結果

選択したテキストアイテムの周囲の余白が変更されます。値を大きくすると余白が増え、値を小さくすると余白が減ります。プロパティ範囲を「**ローカル (Locally)**」に設定している場合、この変更は現在のレイアウトおよびフレームチェーンのみに影響します。

#### ヒント

プロジェクト全体のすべてのテキストアイテムのデフォルトの余白は、「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**テキスト (Text)**」ページで変更できます。ただし、この方法では各辺の余白を個別に変更することはできません。

個々のパラグラフスタイルのテキストと枠線の各辺の間のデフォルトの余白は、「**パラグラフスタイル (Paragraph Styles)**」ダイアログで変更できます。ただし、パラグラフスタイルの枠線の余白設定が使用されるのは、対応するパラグラフスタイルの「**枠線 (Border)**」がオンになっている場合のみです。

#### 関連リンク

[プロパティパネル \(826 ページ\)](#)

[プロパティ範囲の変更 \(828 ページ\)](#)

[浄書ツールボックス \(554 ページ\)](#)

[「パラグラフスタイル \(Paragraph Styles\)」ダイアログ \(932 ページ\)](#)

## テキストアイテムの背景の塗りつぶし

たとえば、小節線と重なったテキストを読みやすくするために、テキストアイテムの背景を個別に塗りつぶせます。この操作は現在のレイアウトとフレームチェーンのみに対して、もしくはすべてのレイアウトとフレームチェーンに対して行なえます。

#### 前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。
- 下ゾーンのツールバーで「**プロパティ (Properties)**」を選択しておきます。
- 浄書ツールボックスで「**グラフィックの編集 (Graphic Editing)**」を選択しておきます。
- ローカルのプロパティ変更に関して、適切なプロパティ範囲を選択しておきます。

#### 手順

1. 浄書モードで、背景を塗りつぶすテキストアイテムを選択します。
2. プロパティパネルの「**テキスト (Text)**」グループで「**背景を塗りつぶし (Erase background)**」をオンにします。

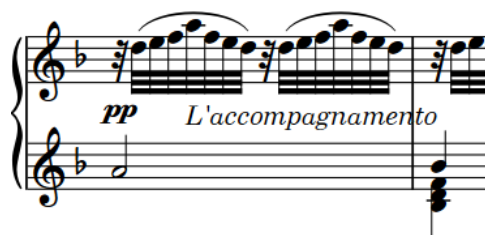
#### 結果

選択したテキストアイテムの背景が塗りつぶされます。プロパティ範囲を「**ローカル (Locally)**」に設定している場合、この変更は現在のレイアウトおよびフレームチェーンのみに影響します。

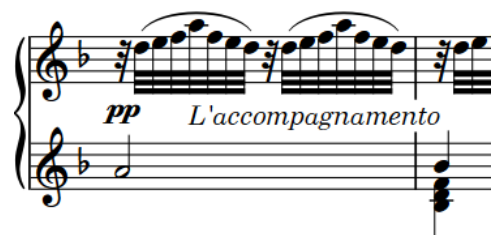
#### ヒント

- テキストアイテムは、背景を消して枠線を表示できます。
- 「**背景を塗りつぶし (Erase background)**」をオフにすると、選択したテキストアイテムは背景が塗りつぶされていないデフォルトの状態に戻ります。

#### 例



背景が塗りつぶされていないテキスト



背景が塗りつぶされたテキスト

手順終了後の項目

テキストアイテムと塗りつぶされる領域の各辺の間の余白を変更できます。


関連リンク

[符尾の背景の塗りつぶし \(1423 ページ\)](#)

## テキストアイテムの表示/非表示

個々のテキストアイテムを表示/非表示にできます。この操作は現在のレイアウトとフレームチェーンのみに対して、もしくはすべてのレイアウトとフレームチェーンに対して行なえます。たとえば、パートレイアウトでは特定のテキストアイテムを表示させ、フルスコアレイアウトでは非表示にできます。

前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。
- 下ゾーンのツールバーで「プロパティ (Properties)」を選択しておきます。
- 浄書モードの場合は、浄書ツールボックスで「グラフィックの編集 (Graphic Editing)」を選択しておきます。
- ローカルのプロパティ変更に関して、適切なプロパティ範囲を選択しておきます。

---

手順

1. 非表示にするテキストアイテム、または表示するテキストアイテムのガイドを選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「テキスト (Text)」グループで、「非表示 (Hide)」をオンまたはオフにします。

---

結果

「非表示 (Hide)」をオンにすると選択したテキストアイテムが非表示になり、オフにすると表示されます。プロパティ範囲を「ローカル (Locally)」に設定している場合、この変更は現在のレイアウトおよびフレームチェーンのみに影響します。

非表示にしたテキストアイテムのそれぞれの位置にはガイドが表示されます。ただし初期設定では、ガイドは印刷されません。

ヒント

- テキストのガイドの表示/非表示は、「ビュー (View)」 > 「ガイド (Signposts)」 > 「テキスト (Text)」を選択して切り替えられます。
- 「環境設定 (Preferences)」の「キーボードショートカット (Key Commands)」ページで、「アイテムを表示/非表示 (Hide/Show Item)」にキーボードショートカットを割り当てることができます。

---

関連リンク

[プロパティパネル \(826 ページ\)](#)

[プロパティ範囲の変更 \(828 ページ\)](#)

[浄書ツールボックス \(554 ページ\)](#)

[ガイド \(490 ページ\)](#)

[「環境設定 \(Preferences\)」ダイアログの「キーボードショートカット \(Key Commands\)」ページ \(64 ページ\)](#)

[注釈 \(740 ページ\)](#)

# タイ

タイとは、同じピッチの2つの音符をつなぐ曲線です。音符がその位置に適用される拍子記号の1小節のデュレーションよりも長い場合、Dorico Pro ではそれらの音符が自動的にタイのつながり、つまりタイで連結された隣接する音符のシーケンスとして表示されます。

一連のタイのつながりは、それを構成するのが2つの音符であろうと10個の音符であろうと、タイで連結されたすべての音符を合計したデュレーションの1音を意味します。演奏者はこの音符を1音として演奏し、タイのつながりのデュレーションの途中で一切の打ち直し、吹き直し、弾き直しは行いません。



ピアノ譜の下段の複数小節にわたるタイのつながり

初期設定では、タブ譜のタイでつながれた音符は、後続の小節の開始位置に括弧つきフレット番号として表示されます。タブ譜にリズムが表示されている場合、同じ小節内のタイは括弧付きの符頭ではなく符尾で示されます。



小節内にいくつかのタイがあり、2つの小節をまたいで 音符の譜表での同じフレーズ  
タイでつながれたコードがあるタブ譜のフレーズ

Dorico Pro では、ほとんどのタイは自動的に作成されます。リズムの記譜は、通常拍子記号により設定される一般的な拍グループに従います。そのため、単一のデュレーションで表記できない音符は自動的にタイのつながりとして記譜されます。たとえば、4/4 拍子の開始位置に付点全音符を入力した場合、この音符は自動的に全音符と次の小節の2分音符がタイでつながれた形で記譜されます。拍子記号が変更された場合は、新しい拍子で正しい拍数が維持されるようにタイのつながりが自動的に調整されます。

Dorico Pro では、衝突を回避するために、前後関係やプロジェクト全体の設定に応じてタイの適切なエンドポイントの位置とカーブ方向が自動的に決定されます。

## 補足

- スラーをタイと混同しないよう注意してください。見た目は似ていますが、タイは同じピッチの音符を一息で演奏することを示します。そういった意味でタイはリズム記号として、スラーはアーティキュレーションとして捉えることができます。
- タイのつながりは単一の音符と見なされるため、記譜モードでは、タイのつながり全体のみを選択できます。ただし、キャレットを有効にしてタイのつながりの中の必要な位置に移動すれば、強弱記号などの記譜記号をタイのつながりの途中に入力することもできます。



浄書モードでは、タイのつながりに含まれる個別の音符とタイを選択してそれらを個別に編集できます。

- 既存の音符をタイでつなぐと、楽譜の前後関係、拍子記号、小節内の音符の開始位置に応じて、タイのつながりの中で音符が統合されたり分割されたりする場合があります。
- アーティキュレーションは、その種類に応じてタイのつながりの開始位置または終了位置に1度だけ表示できます。たとえば、スタッカート記号は終了位置に表示され、アクセント記号は開始位置に表示されます。タイのつながりに対するアーティキュレーションの位置は、プロジェクト全体でも、個々のタイのつながりにおいても変更できます。

関連リンク

[タイの入力 \(274 ページ\)](#)

[拍子記号 \(1795 ページ\)](#)

[拍の境界をまたぐタイを表示/非表示にする \(1137 ページ\)](#)

[タイのつながりのアーティキュレーションの位置を変更する \(1067 ページ\)](#)

[臨時記号を表示/非表示にするか括弧を付ける \(1052 ページ\)](#)

[タブ譜のタイでつながれた音符の外観を変更する \(1741 ページ\)](#)

[括弧付きの符頭 \(1406 ページ\)](#)

[通し番号付き小節領域 \(1618 ページ\)](#)

[キャレット \(242 ページ\)](#)

## 浄書オプションでタイの設定をプロジェクト全体に適用する

「浄書オプション (Engraving Options)」の「タイ (Ties)」ページでは、タイの外観、位置と配置を設定してプロジェクト全体に適用できます。

「タイ (Ties)」ページのオプションでは、タイのデフォルトのカーブ方向、形状、外観、および長さの最小値とともに、符頭やタイのつながりでの他のタイに対する位置を変更できます。

多くのオプションに、オプションを楽譜に適用したときにどのように表示されるかを示す図があります。

関連リンク

[「浄書オプション \(Engraving Options\)」ダイアログ \(923 ページ\)](#)

## タイとスラー

タイとスラーは一見すると似ていますが、意味は異なります。

タイは音符を打音しなおしてはならないことを示します。これは同じピッチの音符をつなげるために使用されます。たとえば、タイは複数の小節にわたって音符を延ばす際に使用されます。1つのタイのつながりには複数の音符が含まれることがありますが、つながりの中の1つ1つのタイは、1つの符頭を譜表上の次の符頭につなげるのみです。

タイでつながれた音符のアーティキュレーションは、タイのつながりの始まりのアタックと、タイのつながりの終わりのリリースにのみ影響します。



タイでつながれた2つの長い音符



スラーが付いた2つのフレーズ

スラーはボウイングや息継ぎなどのアーティキュレーションを示すものであり、通常は異なるピッチの音符をつないでグループ化します。スラーは2つの符頭の間にとれだけピッチ差があってもそれらをつなぐことができます。多くの場合、これはフレーズの形成のしかたを示します。

スラーはまた、アーティキュレーションと同時に使用できます。タイとは異なり、スラーの中のアーティキュレーションはフレーズ全体のサウンドに影響します。たとえば、スラーの中で同じピッチで繰り返される音符に付くスタッカートは、弦楽器でボウイングを同じ方向に行ないつつ、1音ごとにボウイングを止めることを示します。

関連リンク

[スラー](#) (1655 ページ)

## タイのスタイル

Dorico Pro では、それぞれ異なる意味合いを示す数種類のタイのスタイルが利用できます。

### 実線 (Solid)

これはタイのデフォルトのスタイルです。タイは先細りの実線で表示されます。先端は細くなり、中央は太くなります。



### 破線 (Dashed)

タイは先細りの破線で表示されます。たとえばボーカルの楽譜で、一部の歌詞が同じ箇所の他の歌詞より多くの音節を持つために多くの音符を必要とする場合など、オプションや提案のためのタイであることを示すために使用されます。



### 点線 (Dotted)

タイは点線で表示されます。点はタイの全長を通して同じサイズで等間隔に並びます。これもオプションまたは提案のタイであることを示すために使用されます。



### 前半部分が破線 (Half-dashed start)

タイの前半が破線として、後半が実線として表示されます。校訂版で、原典には不完全なタイが記譜されていたことを示すために使用されます。



### 後半部分が破線 (Half-dashed end)

タイの前半が実線として、後半が破線として表示されます。校訂版で、原典には不完全なタイが記譜されていたことを示すために使用されます。



### 編者注 (Editorial)

タイは黒い実線で表示されますが、そのちょうど中央に小さな縦線が交差しています。タイが編集者により追加されたもので、原典には記載されていないことを示すために使用されます。



## タイのスタイルの変更

個々のタイについてスタイルを変更できます。これにより、たとえば部分的に歌詞が異なる音符に破線を表示するなどできます。この操作は現在のレイアウトとフレームチェーンのみに対して、もしくはすべてのレイアウトとフレームチェーンに対して行なえます。初期設定では、すべてのタイは実線で表示されます。

### 前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。
- 下ゾーンのツールバーで「**プロパティ (Properties)**」を選択しておきます。
- 浄書モードの場合は、浄書ツールボックスで「**グラフィックの編集 (Graphic Editing)**」を選択しておきます。
- ローカルのプロパティ変更に関して、適切なプロパティ範囲を選択しておきます。

---

### 手順

1. スタイルを変更するタイを選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。

#### 補足

記譜モードでは、タイのつながり全体のみを選択できます。浄書モードでは、タイのつながりに含まれる個別のタイを選択できます。

2. プロパティパネルの「**タイ (Ties)**」グループで、「**スタイル (Style)**」をオンにします。
3. メニューから以下のいずれかのオプションを選択します。
  - **実線 (Solid)**
  - **破線 (Dashed)**
  - **点線 (Dotted)**
  - **前半部分が破線 (Half-dashed start)**
  - **後半部分が破線 (Half-dashed end)**
  - **編者注 (Editorial)**

---

### 結果

選択したタイのスタイルが変更されます。プロパティ範囲を「**ローカル (Locally)**」に設定している場合、この変更は現在のレイアウトおよびフレームチェーンのみに影響します。

#### ヒント

これらのオプションそれぞれの詳細なパラメーターに関するプロジェクト全体の設定は、「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**タイ (Ties)**」のページで変更できます。たとえば、「**編者注 (Editorial)**」のタイのストロークの長さや幅、点線の点の直径や破線の長さ、点線や破線の間隔の大きさなどを変更できます。

---

### 関連リンク

- [プロパティパネル \(826 ページ\)](#)
- [プロパティ範囲の変更 \(828 ページ\)](#)
- [浄書ツールボックス \(554 ページ\)](#)
- [「浄書オプション \(Engraving Options\)」ダイアログ \(923 ページ\)](#)

## タイの線/点のサイズの変更

破線/点線のタイの線/点のサイズは、プロジェクト全体の設定より優先される形で個別に変更できます。この操作は現在のレイアウトとフレームチェーンのみに対して、もしくはすべてのレイアウトとフレームチェーンに対して行なえます。

### 補足

これらの手順は破線/点線のタイにのみ適用されます。

### 前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。
- 下ゾーンのツールバーで「プロパティ (Properties)」を選択しておきます。
- 浄書モードの場合は、浄書ツールボックスで「グラフィックの編集 (Graphic Editing)」を選択しておきます。
- ローカルのプロパティ変更に関して、適切なプロパティ範囲を選択しておきます。

### 手順

1. 線/点のサイズを変更する破線/点線のタイを選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。

### 補足

記譜モードでは、タイのつながり全体のみを選択できます。浄書モードでは、タイのつながりに含まれる個別のタイを選択できます。

2. プロパティパネルの「タイ (Ties)」グループで、「破線/点線 (Dash/dot)」をオンにします。
3. 数値フィールドの値を変更します。

### 結果

値を増やすと線/点が大きくなり、減らすと小さくなります。プロパティ範囲を「ローカル (Locally)」に設定している場合、この変更は現在のレイアウトおよびフレームチェーンのみに影響します。

### ヒント



「浄書オプション (Engraving Options)」 > 「タイ (Ties)」 > 「デザイン (Design)」 > 「詳細設定 (Advanced Options)」では、プロジェクト全体のすべての破線/点線のタイの破線/点線のデフォルトのサイズを変更できます。

またこのページでは、すべてのタイのスタイルにおける線の太さも変更できます。ただし、タイの太さを個別に変更はできません。

## 破線/点線のタイの間隔の大きさを変更する

破線/点線のタイの間隔の大きさは、プロジェクト全体の設定より優先される形で個別に変更できます。この操作は現在のレイアウトとフレームチェーンのみに対して、もしくはすべてのレイアウトとフレームチェーンに対して行なえます。

### 前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。
- 下ゾーンのツールバーで「プロパティ (Properties)」を選択しておきます。
- 浄書ツールボックスで「グラフィックの編集 (Graphic Editing)」を選択しておきます。

- ローカルのプロパティ変更に関して、適切なプロパティ範囲を選択しておきます。

---

#### 手順

- 浄書モードで、間隔の大きさを変更する個々の破線/点線のタイを選択します。
- プロパティパネルの「**タイ (Ties)**」グループで、「**間隔 (Gap)**」をオンにします。
- 数値フィールドの値を変更します。

---

#### 結果

値を大きくすると破線/点線の間隔が大きくなります。値を小さくすると破線/点線の間隔が小さくなります。プロパティ範囲を「**ローカル (Locally)**」に設定している場合、この変更は現在のレイアウトおよびフレームチェーンのみに影響します。

#### ヒント

「**浄書オプション (Engraving Options)**」 > 「**タイ (Ties)**」 > 「**デザイン (Design)**」 > 「**詳細設定 (Advanced Options)**」では、プロジェクト全体のすべての破線/点線のタイの破線/点線の間隔のデフォルトのサイズを変更できます。

---

#### 関連リンク

- [プロパティパネル \(826 ページ\)](#)
- [プロパティ範囲の変更 \(828 ページ\)](#)
- [浄書ツールボックス \(554 ページ\)](#)
- [拍子記号の背景の塗りつぶし \(1813 ページ\)](#)

## タイのカーブ方向

カーブの方向は、タイの両端それぞれの音符または和音の符尾の方向、和音に含まれる音符の数、および譜表内の声部の数により決定されます。

### 単一の声部における単音のタイ

単一の声部のみ有効でタイが2つの単音を連結する場合、タイのカーブ方向はタイの両側の音符の符尾の方向により決定されます。

- 符尾の方向が一致する場合、タイのカーブは音符から離れる方を向き、符頭側に配置されます。
- 符尾の方向が食い違う場合、初期設定ではタイのカーブは上向きになります。

### 単一の声部における和音のタイ

タイが2つの和音を連結する場合、タイの方向は和音を構成するタイに結ばれた音符の数によって決定されます。

- 偶数の場合、タイはカーブが符頭側を向くものと符尾側を向くものに均等に分かれます。
- 奇数の場合、タイのカーブが符頭側を向くものが1本多くなります。

初期設定では、タイでつながれた音符とタイでつながれていない音符の両方を含む和音のタイは、符尾側に向かってカーブします。

#### ヒント

タイでつながれた音符とタイでつながれていない音符の両方が含まれており、タイでつながれていない音符が符尾から一番離れている場合の和音のデフォルトのタイのカーブ方向は、「**浄書オプション (Engraving Options)**」 > 「**タイ (Ties)**」 > 「**タイの向き (Tie Direction)**」で変更できます。また、タ

イでつながれていない音符のピッチが異なる場合と一致する場合でオプションが個別に用意されています。

---

## 複声部における音符のタイ

タイは符尾側に配置され、カーブの方向は以下の条件に従います。

- 符尾が上向きの声部は、タイのカーブも上向きになります。
- 符尾が下向きの声部は、タイのカーブも下向きになります。
- 複声部でピッチが重なり合ったり入れ違いになったりする場合、単一の声部における和音のタイのルールが適用されます。すべての声部のすべての音符が単一の声部に属するかのよう扱われます。

### ヒント

符尾の方向が食い違う音符間におけるデフォルトのタイのカーブ方向は、「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**タイ (Ties)**」ページで変更できます。

また、タイのカーブ方向は個別にも変更できます。

---

### 関連リンク

[タイの高さ \(1790 ページ\)](#)

[タイの肩のオフセット \(1792 ページ\)](#)

[符尾の背景の塗りつぶし \(1423 ページ\)](#)

## タイのカーブ方向を変更する

タイのつながりの中のものも含めた、タイのカーブ方向を個別に変更できます。この操作は現在のレイアウトとフレームチェーンのみに対して、もしくはすべてのレイアウトとフレームチェーンに対して行なえます。

### 前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。
  - 下ゾーンのツールバーで「**プロパティ (Properties)**」を選択しておきます。
  - 浄書モードの場合は、浄書ツールボックスで「**グラフィックの編集 (Graphic Editing)**」を選択しておきます。
  - ローカルのプロパティ変更に関して、適切なプロパティ範囲を選択しておきます。
- 



### 手順

1. カーブ方向を変更するタイを選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。

#### 補足

記譜モードでは、タイのつながり全体のみを選択できます。浄書モードでは、タイのつながりに含まれる個別のタイを選択できます。

---

2. プロパティパネルの「**タイ (Ties)**」グループで、「**方向 (Direction)**」をオンにします。
  3. 以下のいずれかのオプションを選択します。
    - **上 (Up)** 
    - **下 (Down)** 
-

#### 結果

選択したタイのカーブ方向が変更されます。プロパティ範囲を「ローカル (Locally)」に設定している場合、この変更は現在のレイアウトおよびフレームチェーンのみに影響します。

#### ヒント

タイのつながりおよびタイのつながりに属する個々のタイの詳細な形状は、浄書モードでそれぞれのタイの四角いハンドルを使用して調整できます。

#### 関連リンク

[プロパティパネル \(826 ページ\)](#)

[プロパティ範囲の変更 \(828 ページ\)](#)

[浄書ツールボックス \(554 ページ\)](#)

[タイの形状と角度の変更 \(1788 ページ\)](#)

## 非標準のタイ


通常タイは、同じ譜表の同じピッチにある 2 つの音符を連結します。しかしタイは、組段区切りやフレーム区切り、音部変更記号、または拍子記号をまたぐ場合もあります。Dorico Pro では、これらのタイプのタイはすべて自動的に配置されます。

またタイは、隣接しない音符、声部の異なる音符や、譜表の異なる音符も連結できます。Dorico Pro では、これらのタイプのタイは手動で入力する必要があります。

### 組段区切り/フレーム区切りをまたぐタイ

Dorico Pro では、組段区切り/フレーム区切りをまたぐタイの終端は自動的に配置されます。

その垂直位置は変わらず、両端それぞれが属する符頭に中央揃えで配置されます。その動作も変わらず、記譜モードで組段区切りまたはフレーム区切りをまたぐタイのつながりのうち 1 つを選択すると、タイのつながりに属するすべての音符が選択されます。

区切りの後の組段/フレームの開始位置にある音符の左側に表示されるタイの一部について、適切なカーブを描くために十分な水平方向のスペースが得られない場合があります。この場合、浄書モードの「**音符のスペーシング (Note Spacing)**」を使用して組段/フレームの開始位置の音符のスペースを個別に調整することで、タイのためのスペースを作れます。



組段区切りの前のタイのつながりの開始位置



組段区切りの後の同じタイのつながりの終了位置

### 組段区切り/フレーム区切りをまたぐ、タイでつながれた臨時記号付きの音符

組段区切りおよびページ区切りをまたぐ臨時記号付きの音符をつなぐタイの終端も、自動的に配置されます。

Dorico Pro では、タイでつながれた音符は、拍子記号の指定に合致するよう分かれて記譜されつつも 1 音として扱われるため、区切りの後の組段/フレームの開始位置の音符には、初期設定では親切臨時記号は表示されません。区切りの後の組段/フレームの開始位置の、タイのつながりに属する音符に臨時記号を表示する場合、臨時記号を収めるために音符の位置が変更されます。しかしこの自動配置では、タイの後半部分を適切なカーブで表示するための十分な広さが、音符の左側に得られない場合があります。



組段区切りの前のタイのつながりの  
開始位置



同じタイのつながりの終了位置の、  
親切臨時記号が付いたもの



同じタイのつながりの終了位置の、  
臨時記号の横のタイにスペースを与  
えるために音符のスペーシングを調  
整したもの

## 拍子記号をまたぐタイ

タイは拍子変更記号をまたぐ音符をつなぐ場合、自動的に配置されます。譜表の途中で拍子変更記号をまたぐ音符がタイでつながれる場合、拍子変更記号の上または下の一部がタイによって隠されてしまいます。もっともタイはカーブしているため、拍子記号が完全に読めなくなってしまうことは考えにくいことです。

## 音部変更記号をまたぐタイ

タイは音部変更記号をまたぐ音符をつなぐ場合、自動的に配置されます。音部が異なると同じピッチでも位置が変わるため、音部変更記号をまたぐタイは水平ではなくなります。

その結果、音部記号をまたぐタイはスラーと読み間違えられる場合があり、視覚的、音楽的に混乱を招きやすくなります。この場合、タイでつながれた音符より前か後ろに音部変更記号を移動することをおすすめします。

## 隣接しない音符の間のタイ

直接隣り合う位置になくともピッチが同じ音符間や、装飾音符と標準の音符との間にタイを入力できます。これは、和音の前の複数の音符にタイを入力する場合などに便利です。



タイでつながれた和音を構成する音符



後に続く和音にタイでつながれた音符



後に続く和音にタイでつな  
がれた複数の装飾音符

## 異なる声部間のタイ

同じインストゥルメントに属する異なる声部のピッチが同じ音符間にタイを入力できます。

## 異なる譜表の音符間のタイ

2つのピアノ譜表など、同じインストゥルメントに属する異なる譜表のピッチが同じ音符間にタイを入力できます。

## レセヴィブレタイ

レセヴィブレタイとは、音符を鳴らし続け、止めてはいけなことを指示する短いタイです。これは音符から右側へ少しだけ延ばされますが、もう1つの音符につながることはありません。

レセヴィブレタイはあらゆる音符に追加できます。レセヴィブレタイは、浄書モードで他のタイと同様に編集できます。



関連リンク

[タイの入力](#) (274 ページ)

[臨時記号を表示/非表示にするか括弧を付ける](#) (1052 ページ)

[音符のスペーシング](#) (643 ページ)

## レセヴィブレタイの表示/非表示

レセヴィブレタイはあらゆる音符に追加できます。たとえば、演奏後に止めずに鳴らし続ける音符を指示する場合などに使用します。

前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。
- 下ゾーンのツールバーで「プロパティ (Properties)」 を選択しておきます。
- 浄書モードの場合は、浄書ツールボックスで「グラフィックの編集 (Graphic Editing)」 を選択しておきます。

手順

1. レセヴィブレタイを追加する音符を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「音符と休符 (Notes and Rests)」グループで、「レセヴィブレタイ (Laissez vibrer tie)」をオン/オフにします。

結果

プロパティをオンにすると選択した音符にレセヴィブレタイが追加され、プロパティをオフにすると削除されます。レセヴィブレタイは自動的に配置されます。

ヒント

- レセヴィブレタイの長さや形状は、浄書モードで他のタイと同様に個々に編集できます。また、「浄書オプション (Engraving Options)」 > 「タイ (Ties)」 > 「長さ (Length)」では、プロジェクト全体に含まれるすべてのレセヴィブレタイの長さの最小値のデフォルト値を変更することもできます。
- 「環境設定 (Preferences)」の「キーボードショートカット (Key Commands)」ページにある「レセヴィブレタイを切り替え (Toggle Laissez Vibrer Tie)」にキーボードショートカットを割り当てることができます。

例



レセヴィブレタイなしのフレーズ



レセヴィブレタイありのフレーズ

関連リンク

[プロパティパネル](#) (826 ページ)

[浄書ツールボックス \(554 ページ\)](#)

[タイの形状と角度の変更 \(1788 ページ\)](#)

[拍の境界をまたぐタイを表示/非表示にする \(1137 ページ\)](#)

## タイの削除


タイは、それが属する音符を削除せずに、それだけを削除できます。

### 補足

タイのつながりからタイを削除すると、タイのつながりに属するすべてのタイが削除されます。タイのつながりからタイを1つだけ削除するような場合には、タイのつながりを分割できます。

---

### 手順

1. 記譜モードで、すべてのタイを削除するタイのつながりを選択します。
  2. 以下のいずれかの操作を行なって、すべてのタイを削除します。
    - **[U]** を押します。
    - 音符ツールボックスの「はさみ (Scissors)」 をクリックします。
- 

### 結果

選択したタイのつながりのすべてのタイが削除されます。タイのつながりで連結されていた音符は、それぞれの位置に残ります。

### 関連リンク

[音符ツールボックス \(219 ページ\)](#)

[音符のデュレーションの変更 \(286 ページ\)](#)

[タブ譜のタイでつながれた音符の外観を変更する \(1741 ページ\)](#)

## タイのつながりの分割


たとえばタイのつながりの途中でピッチを変更する場合や、つながりの中のタイを個別に削除する場合など、タイのつながりを特定の位置で分割できます。これによりタイのつながりの中の他のタイが削除されることはありません。



### 補足

期待通りに音符が記譜されなかったためにタイを分割する場合は、別の拍子に従って音符と休符のグループ化のデフォルト設定を変更できます。また、個々の拍子記号のカスタム連桁グループを設定することもできます。

---

### 手順

1. 記譜モードで、タイのつながりを分割する位置で譜表をダブルクリックし、その位置から音符の入力を開始します。
2. 必要に応じて、タイのつながりを分割する位置にキャレットを移動します。
  - 現在のリズムグリッドの間隔に従ってキャレットを移動するには、**[→]**/**[←]** を押します。
  - 現在選択中の音符の音価に従ってキャレットを次の位置に進めるには、**[Space]** を押すか、キーボードパネル、フレットボードパネル、またはドラムパッドパネルのツールバーにある「**キャレットを進める (Advance Caret)**」 をクリックします。

- 次/前の小節にカーレットを移動するには、**[Ctrl]/[command]+[→]** / **[Ctrl]/[command]+[←]** を押します。
3. 以下のいずれかの操作を行なって、タイのつながりを分割します。
    - **[U]** を押します。
    - 音符ツールボックスの「はさみ (Scissors)」 をクリックします。
  4. 同じタイのつながりを複数の個所で分割する場合、タイのつながりを分割する次の位置にカーレットを移動して手順3を繰り返します。
  5. 以下のいずれかの操作を行なって、音符の入力を停止します。
    - **[Esc]** または **[Return]** を押します。
    - 音符ツールボックスで、「音符入力を開始 (Start Note Input)」 をクリックします。

#### 結果

タイのつながりがカーレット位置で分割されます。

#### 関連リンク

- [音符と休符のグループ化 \(1136 ページ\)](#)
- [拍に従う連符グループ \(1113 ページ\)](#)
- [拍子のカスタム連符グループを作成する \(1138 ページ\)](#)
- [音符をデュレーションで分割する \(288 ページ\)](#)
- [音符ツールボックス \(219 ページ\)](#)
- [カーレット \(242 ページ\)](#)
- [手動でのカーレットの移動 \(247 ページ\)](#)
- [リズムグリッド \(241 ページ\)](#)
- [拍子記号の背景の塗りつぶし \(1813 ページ\)](#)
- [調号の背景の塗りつぶし \(1355 ページ\)](#)
- [キーボードパネル \(229 ページ\)](#)
- [フレットボードパネル \(231 ページ\)](#)
- [ドラムパッドパネル \(233 ページ\)](#)

## 浄書モードのタイ

浄書モードでは、各タイには別個に動かせる5つの四角いハンドルがあります。一部のハンドルは他のハンドルに連動します。つまり1つを動かすと隣接するハンドルの位置にも影響を与える場合があります。



浄書モードでは、タイには以下のハンドルがあります。

- 1 左の終端
- 2 左の制御ポイント
- 3 タイの高さ
- 4 右の制御ポイント
- 5 右の終端

たとえば左端のハンドルを動かすと、タイの開始位置とともに他のハンドルも移動しますが、右端のハンドルは移動しません。しかし、右のコントロールポイントを動かすと、タイの高さのハンドルのみが

同時に移動されます。これにより、なめらかにカーブした状態を保持しながら、タイの形状を細かく制御できます。


関連リンク

[浄書モードのスラー \(1675 ページ\)](#)

## タイの形状と角度の変更

タイおよびタイのハンドルの表示上の位置を動かすことで、個々のタイの形状や角度を変更できます。これによりたとえば、個々の符頭に対して終端を調整できます。この操作は現在のレイアウトとフレームチェーンのみに対して、もしくはすべてのレイアウトとフレームチェーンに対して行なえます。

前提条件

- 浄書ツールボックスで「**グラフィックの編集 (Graphic Editing)**」を選択しておきます。
- ローカルのプロパティ変更に関して、適切なプロパティ範囲を選択しておきます。

手順

1. 浄書モードで以下のいずれかの操作を行なって、動かすタイ全体またはタイの個々のハンドルを選択します。
  - **[Ctrl]/[command]** を押しながら複数のタイをクリックします。
  - 複数のタイの個々のハンドルを、**[Ctrl]/[command]** を押しながらクリックします。
  - タイ全体を選択した状態で **[Tab]** を押すと、最初のハンドルから次のハンドルへと選択が切り替わるので、移動させるハンドルが選択されるまで押し続けます。
  - 移動させるハンドルをクリックします。

補足

- タイの角度を変更するには、タイの終端のみを選択します。
  - 選択したアイテムだけではなく、すべてのアイテムにハンドルを表示するには、「**浄書 (Engrave)**」 > 「**ハンドルを表示 (Show Handles)**」 > 「**常時 (Always)**」を選択します。これにより、複数のアイテムの個々のハンドルを選択するのがより簡単になります。
  - タイ全体は左右には動かせず、移動できるのは上下のみです。
- 
2. 以下のいずれかの操作を行なって、タイまたはハンドルを移動します。
    - これらを標準的な幅で上下左右に移動するには、**[Alt/Opt]** を押しながら対応する矢印キーを押します。たとえば、ハンドルを左に移動するには、**[Alt/Opt]+[←]** を押します。これにより、キーを押すごとにタイ/ハンドルが 1/8 スペース分移動します。
    - これらの移動幅を大きくするには、通常のキーボードショートカットに加え **[Ctrl]/[command]** を押します (例: **[Ctrl]/[command]+[Alt/Opt]+[←]**)。これにより、キーを押すごとにハンドルが 1 スペース分移動します。
    - これらの移動幅を中くらいにするには、通常のキーボードショートカットに加え **[Shift]** を押します (例: **[Shift]+[Alt/Opt]+[←]**)。これにより、キーを押すごとにハンドルが 1/2 スペース分移動します。
    - これらの移動幅を小さくするには、通常のキーボードショートカットに加え **[Ctrl]/[command]+[Shift]** を押します (例: **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[Alt/Opt]+[←]**)。これにより、キーを押すごとにハンドルが 1/32 スペース分移動します。
    - タイ全体をクリックして上または下にドラッグします。
    - オートメーションイベントをクリックして任意の方向にドラッグします。

#### ヒント

移動を水平方向または垂直方向に制限するには、ドラッグしはじめたあと、**[Shift]** を押したままにします。

#### 結果

選択したタイまたはタイのハンドルが移動されます。選択したハンドルおよび移動した方向に応じて、対応するタイの形状、角度、比例するサイズが変化することがあります。プロパティ範囲を「**ローカル (Locally)**」に設定している場合、この変更は現在のレイアウトおよびフレームチェーンのみに影響します。

#### ヒント

タイのハンドルを移動すると、移動した部位に応じて、プロパティパネルの「**タイ (Ties)**」のグループにある以下のプロパティが自動的にオンになります。

- 「**開始オフセット (Start offset)**」は、タイの左側の終端を移動させます。「**X**」は水平位置を移動させ、「**Y**」は垂直位置を移動させます。
- 「**終了オフセット (End offset)**」は、タイの右側の終端を移動させます。「**X**」は水平位置を移動させ、「**Y**」は垂直位置を移動させます。
- 「**開始ハンドルオフセット (Start handle offset)**」は、タイの左側の制御ポイントを移動させます。「**X**」は水平位置を移動させ、「**Y**」は垂直位置を移動させます。
- 「**終了ハンドルオフセット (End handle offset)**」は、タイの右側の制御ポイントを移動させます。「**X**」は水平位置を移動させ、「**Y**」は垂直位置を移動させます。

これらのプロパティを使用しても、数値フィールドの数値を変更することにより、個々のタイの形状を変更できます。

プロパティをオフにすると、選択したタイの対応するハンドルがデフォルト位置にリセットされます。

#### 例

左端のハンドルを動かすと、タイの開始位置とともに他のハンドルも移動しますが、右端のハンドルは移動しません。これにより、タイ全体の形状は変更しないまま、角度や幅を変更できます。

左の制御ポイントを動かすとタイの高さハンドルも動きますが、左右の終端や右の制御ポイントの位置には影響を与えません。これにより、なめらかにカーブした状態を保持しながら、タイの形状を細かく制御できます。

## タイの太さの変更

タイの太さは、プロジェクト全体の設定より優先される形で個別に変更できます。タイの中央部の太さをタイの終端とは別に変更することもできます。この操作は現在のレイアウトとフレームチェーンのみに対して、もしくはすべてのレイアウトとフレームチェーンに対して行なえます。

#### 前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。
- 下ゾーンのツールバーで「**プロパティ (Properties)**」 を選択しておきます。
- 浄書ツールボックスで「**グラフィックの編集 (Graphic Editing)**」 を選択しておきます。
- ローカルのプロパティ変更に関して、適切なプロパティ範囲を選択しておきます。

#### 手順

1. 浄書モードで、太さを変更するタイを選択します。

2. プロパティパネルの「**タイ (Ties)**」グループで、以下のプロパティを片方または両方ともオンにします。
  - **終端の太さ (End thickness)**
  - **中央部の太さ (Middle thickness)**
3. 数値フィールドの値を変更します。

#### 結果

値を大きくすると選択したタイの対応する部分が太くなり、値を小さくすると細くなります。プロパティ範囲を「**ローカル (Locally)**」に設定している場合、この変更は現在のレイアウトおよびフレームチェーンのみに影響します。

#### ヒント

- プロパティをオフにすると、選択したタイの対応する部分が初期設定の太さに戻ります。
- すべてのタイのデフォルト太さに対するプロジェクト全体の設定は、「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**タイ (Ties)**」ページで変更できます。

#### 関連リンク

[プロパティパネル \(826 ページ\)](#)

[プロパティ範囲の変更 \(828 ページ\)](#)

[浄書ツールボックス \(554 ページ\)](#)

[「浄書オプション \(Engraving Options\)」ダイアログ \(923 ページ\)](#)

## タイの高さ

タイの高さとは、タイの終端が上下の垂直方向にどれだけ遠くなるかを示します。

タイの終端やカーブの頂点の始まりと終わりが譜表線と重ならないように、Dorico Pro ではタイのカーブの形状、高さ、垂直位置にわずかな変更が自動的に加えられます。これらの変更は小さなものですが、譜表線に対する音符の位置に従いタイの配置が微妙に変化します。



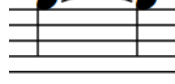
符頭の外側のタイ



音符を半音下に移調すると、タイの頂点が譜表線に接してしまうのを防止するために、タイのカーブが急になります。



この符頭間のタイは、その両端または頂点が譜表線に近づきすぎないように、両端が符頭の垂直方向の中心よりもわずかに上に配置されています。



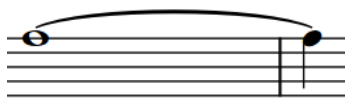
上に移調して譜表線とタイが衝突しなくなると、タイの両端は符頭の垂直方向の中心に配置されるようになります。

「**浄書オプション (Engraving Options)**」 > 「**タイ (Ties)**」 > 「**デザイン (Design)**」 > 「**詳細設定 (Advanced Options)**」では、プロジェクト全体のすべてのタイのデフォルトの高さを変更できます。短いタイと長いタイに個別の設定を使用できます。

浄書モードでは、個々のタイの高さを変更できます。

高さを増すと、タイは終端に対する垂直位置のより離れた位置まで延びるようになります。これによりタイはより丸みを帯びた形状となり、垂直方向のスペースを大きく取るようになります。タイは同じピッチの音符をつなぐことから、ピッチ差のある音符の上に弧を描くスラーのように丸みを帯びる必要は概してありません。

垂直方向のスペースが限られる状況では、タイは丸みの度合いと譜表線に重ならないこととのバランスを取る必要があります。



デフォルトの高さの長いタイ




高さを増した長いタイ

## タイの高さの変更

たとえば、スペースが狭いページで垂直のスペースを節約するために、個々のタイの高さをプロジェクト全体の設定とは別に設定できます。この操作は現在のレイアウトとフレームチェーンのみに対して、もしくはすべてのレイアウトとフレームチェーンに対して行なえます。

前提条件

- 浄書ツールボックスで「グラフィックの編集 (Graphic Editing)」 を選択しておきます。
- ローカルのプロパティ変更に関して、適切なプロパティ範囲を選択しておきます。

手順

1. 浄書モードで、変更するタイの高さハンドル (中央) を選択します。

### ヒント

選択したアイテムだけではなく、すべてのアイテムにハンドルを表示するには、「浄書 (Engrave)」 > 「ハンドルを表示 (Show Handles)」 > 「常時 (Always)」を選択します。これにより、複数のアイテムの個々のハンドルを選択するのがより簡単になります。

2. 以下のいずれかの操作を行なって、ハンドルを移動します。
  - これらを標準的な幅で上下に移動するには、**[Alt/Opt]** を押しながらか対応する矢印キーを押します。たとえば、ハンドルを上を移動させるには、**[Alt/Opt]+[↑]** を押します。これにより、キーを押すごとにハンドルが 1/8 スペース分移動します。
  - これらの上下の移動幅を大きくするには、通常のキーボードショートカットに加え **[Ctrl]/[command]** を押します (例: **[Ctrl]/[command]+[Alt/Opt]+[↑]**)。これにより、キーを押すごとにハンドルが 1 スペース分移動します。
  - これらの上下の移動幅を中くらいにするには、通常のキーボードショートカットに加え **[Shift]** を押します (例: **[Shift]+[Alt/Opt]+[↑]**)。これにより、キーを押すごとにハンドルが 1/2 スペース分移動します。
  - これらの上下の移動幅を小さくするには、通常のキーボードショートカットに加え **[Ctrl]/[command]+[Shift]** を押します (例: **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[Alt/Opt]+[↑]**)。これにより、キーを押すごとにハンドルが 1/32 スペース分移動します。
  - アイテムをクリックして上下にドラッグします。

#### ヒント

移動を水平方向または垂直方向に制限するには、ドラッグしはじめたあと、**[Shift]** を押したままにします。

#### 結果

選択したタイの高さが変更されます。プロパティ範囲を「ローカル (Locally)」に設定している場合、この変更は現在のレイアウトおよびフレームチェーンのみに影響します。

#### 補足

- すっきりした見た目と釣り合いのとれた曲線を維持するためにタイの高さを手動で変更する場合、タイの高さハンドルを上下左右に少し移動する必要があります。
- タイの高さハンドルを水平方向に移動すると、タイ全体の形が影響を受けます。
- 「浄書オプション (Engraving Options)」 > 「タイ (Ties)」 > 「デザイン (Design)」 > 「詳細設定 (Advanced Options)」では、プロジェクト全体のすべてのタイのデフォルトの高さを変更できます。短いタイと長いタイに個別の設定を使用できます。

#### 関連リンク

[プロパティパネル \(826 ページ\)](#)

[プロパティ範囲の変更 \(828 ページ\)](#)

[浄書ツールボックス \(554 ページ\)](#)

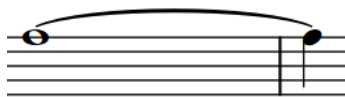
[「浄書オプション \(Engraving Options\)」 ダイアログ \(923 ページ\)](#)

## タイの肩のオフセット

多くの場合、タイの両端はタイの弧より急な角度で符頭に近づくため、タイの肩はタイのカーブの角度に影響し、終端に向かってタイが符頭に近づくようにします。

肩のオフセットを大きくするとカーブの始まりの角度がなだらかになり、肩のオフセットを小さくするとカーブの始まりの角度が急になります。

「浄書オプション (Engraving Options)」 > 「タイ (Ties)」 > 「デザイン (Design)」 > 「詳細設定 (Advanced Options)」では、プロジェクト全体のすべてのタイのデフォルトの肩のオフセットを変更できます。短いタイと長いタイに個別の設定を使用できます。



デフォルトの肩のオフセットの長いタイ



肩のオフセットを上げた長いタイ


また、浄書モードで制御ポイントのハンドルを動かすことにより、タイの肩のオフセットを個別に変更もできます。

## タイの肩のオフセットの変更

タイの肩のオフセットをプロジェクト全体の設定とは別に設定できます。たとえばプロジェクト中に非常に短いまたは非常に長いタイがいくつかある場合は、それらの形状を改善するために肩のオフセットを変更します。この操作は現在のレイアウトとフレームチェーンのみに対して、もしくはすべてのレイアウトとフレームチェーンに対して行なえます。



#### 前提条件

- 浄書ツールボックスで「グラフィックの編集 (Graphic Editing)」を選択しておきます。
- ローカルのプロパティ変更に関して、適切なプロパティ範囲を選択しておきます。

---

#### 手順

1. 浄書モードで、肩の調整を行なうタイの制御ポイントのハンドルの1つを以下のいずれかの操作を行なって選択します。
  - タイ全体を選択し、移動させるハンドルが選択されるまで、**[Tab]** を押して順番にフォーカスを切り替えます。
  - 移動させるハンドルをクリックします。
  - 複数のタイの個々のハンドルを、**[Ctrl]/[command]** を押しながらクリックします。

#### ヒント

選択したアイテムだけではなく、すべてのアイテムにハンドルを表示するには、「浄書 (Engrave)」 > 「ハンドルを表示 (Show Handles)」 > 「常時 (Always)」を選択します。これにより、複数のアイテムの個々のハンドルを選択するのがより簡単になります。

2. 以下のいずれかの操作を行なって、ハンドルを移動します。
  - これらを標準的な幅で上下左右に移動するには、**[Alt/Opt]** を押しながら対応する矢印キーを押します。たとえば、ハンドルを左に移動するには、**[Alt/Opt]+[←]** を押します。これにより、キーを押すごとにハンドルが 1/8 スペース分移動します。
  - これらの移動幅を大きくするには、通常のキーボードショートカットに加え **[Ctrl]/[command]** を押します (例: **[Ctrl]/[command]+[Alt/Opt]+[←]**)。これにより、キーを押すごとにハンドルが 1 スペース分移動します。
  - これらの移動幅を中くらいにするには、通常のキーボードショートカットに加え **[Shift]** を押します (例: **[Shift]+[Alt/Opt]+[←]**)。これにより、キーを押すごとにハンドルが 1/2 スペース分移動します。
  - これらの移動幅を小さくするには、通常のキーボードショートカットに加え **[Ctrl]/[command]+[Shift]** を押します (例: **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[Alt/Opt]+[←]**)。これにより、キーを押すごとにハンドルが 1/32 スペース分移動します。
  - アイテムをクリックして任意の方向にドラッグします。

#### ヒント

移動を水平方向または垂直方向に制限するには、ドラッグしはじめたあと、**[Shift]** を押したままにします。

3. 必要に応じて、肩の調整を行なうタイの他の制御ポイントのハンドルについても、手順 1 と 2 を繰り返します。

---

#### 結果

タイのオフセットのハンドルを互いに離すほど肩のオフセットは小さくなり、近づけるほど肩のオフセットは大きくなります。プロパティ範囲を「ローカル (Locally)」に設定している場合、この変更は現在のレイアウトおよびフレームチェーンのみに影響します。

#### ヒント

- タイのハンドルを移動すると、移動した部位に応じて、プロパティパネルの「タイ (Ties)」のグループにある以下のプロパティが自動的にオンになります。

- 「開始ハンドルオフセット (Start handle offset)」は、タイの左側の制御ポイントを移動させます。「X」は水平位置を移動させ、「Y」は垂直位置を移動させます。
- 「終了ハンドルオフセット (End handle offset)」は、タイの右側の制御ポイントを移動させます。「X」は水平位置を移動させ、「Y」は垂直位置を移動させます。

これらのプロパティを使用しても、数値フィールドの数値を変更することにより、個々のタイの肩のオフセットを変更できます。

プロパティをオフにすると、選択したタイの対応するハンドルがデフォルト位置にリセットされます。

- 「浄書オプション (Engraving Options)」 > 「タイ (Ties)」 > 「デザイン (Design)」 > 「詳細設定 (Advanced Options)」では、プロジェクト全体のすべてのタイのデフォルトの肩のオフセットを変更できます。短いタイと長いタイに個別の設定を使用できます。
- 

#### 関連リンク

[プロパティパネル \(826 ページ\)](#)

[プロパティ範囲の変更 \(828 ページ\)](#)

[浄書ツールボックス \(554 ページ\)](#)

[「浄書オプション \(Engraving Options\)」 ダイアログ \(923 ページ\)](#)

# 拍子記号

拍子記号は楽譜の拍子を示し、それが記譜されてから次の拍子変更記号が出てくるまでは、すべての小節に適用されます。拍子は音楽のリズミ的な律動と、それがどのように拍と小節に分割されるかを示します。

拍子記号は、上の分子とその下の分母という2つの部分で構成されます。これらは分数と同じように配置されるため、同じ数学的表現が使用されます。拍子記号スタイルに関するプロジェクト全体の設定に従い、分子と分母は異なる外観にできます。



## 1 分子

拍子記号の影響下にある各小節の拍数を指定します。拍のデュレーションは分母により指定されます。

## 2 分母

拍子記号の拍のデュレーションを指定します。拍のデュレーションが半分になると分母は倍になります。1は全音符、2は2分音符、4は4分音符、8は8分音符という具合に続きます。

たとえば4/4の拍子記号は、小節が4つの拍で構成され、それぞれの拍は4分音符の長さであることを示しています。4/2の拍子記号は各小節に4つの2分音符を持ち、4/8は各小節に4つの8分音符を持ちます。3/4と6/8はいずれも6つの8分音符を収められますが、3/4は1小節に4分音符の拍を3つ持つ一方で、6/8は付点4分音符の拍を2つ持つものと解釈されます。

小節とは拍子記号に従い分割されたリズムのグループであり、楽譜を大幅に追いやすく読みやすくします。同じ理由により、拍子記号が異なると音符の連桁も変化します。

初期設定では、拍子記号はすべての譜表に適用されます。しかし、多拍子音楽など、状況によっては一部のパートがアンサンブル中の他パートとは異なる、独自の拍子記号を必要とする場合があります。Dorico Proでは拍子記号を入力する際、すべての譜表に適用させることも、1つの譜表のみに適用させることもできます。

拍子記号は、次の拍子変更記号の位置か、フローの終了位置のいずれか先に到達するところまで適用されます。

拍子記号には、従来、譜表線に対して目立つように独特な重厚感のあるフォントが使用され、譜表の高さいっぱいに表示されます。一部の種類の音楽、特に映画音楽では、複数の譜表にわたって表示される大きな拍子記号を使用することが通例となっています。

### 補足

- 拍子記号を入力しなくても音符は入力できます。
- 拍の長さはプロジェクトを通して、拍子記号に関わらずすべての譜表で固定されています。たとえば、ある譜表には2/4の拍子記号、もう1つの譜表には6/8の拍子記号がある場合、2/4の拍子記号における4分音符1つは6/8の拍子記号における4分音符1つに等しく、つまりそれぞれの小節線は一致しないということになります。
- Dorico Proでは、挿入モードがオンになっていない限り、拍子記号を入力した際に小節を埋めるための拍が自動的に追加されることはありません。



「挿入 (Insert)」モードをオンにせず、既存の 4/4 の拍子記号の前に 5/8 の拍子記号を入力した例。5/8 の 2 小節めには 8 分音符が 3 つしかありません。

関連リンク

[拍子記号と弱起の入力方法 \(311 ページ\)](#)

[拍に従う連符グループ \(1113 ページ\)](#)

[音符と休符のグループ化 \(1136 ページ\)](#)

[拍子のカスタム連符グループを作成する \(1138 ページ\)](#)

[小節 \(1073 ページ\)](#)

[挿入モード \(491 ページ\)](#)

## 浄書オプションで拍子記号の設定をプロジェクト全体に適用する

「浄書オプション (Engraving Options)」の「拍子記号 (Time Signatures)」ページでは、大きな拍子記号も含めた拍子記号の外観を設定してプロジェクト全体に適用できます。

このページのオプションでは、プロジェクト全体のすべての分子と分母の外観、拍子なしの拍子記号の外観、および入れ替え可能な拍子の拍子記号の区切り文字を変更できます。

また、たとえば入れ替え可能な拍子の拍子記号同士やそれらの区切り文字との間隔など、拍子記号のデフォルトの間隔も変更できます。

大きな拍子記号は、大括弧のグループごとに 1 つ表示される場合と、組段オブジェクトの位置に表示される場合とで、それぞれ外観と位置を制御するためのセクションが別個に用意されています。これには、組段オブジェクトの位置に表示される拍子記号と同じ位置の他アイテムとの衝突回避の方法も含まれます。

多くのオプションに、オプションを楽譜に適用したときにどのように表示されるかを示す図があります。

関連リンク

[「浄書オプション \(Engraving Options\)」ダイアログ \(923 ページ\)](#)

## 拍子記号のタイプ

拍子記号にはさまざまなタイプがあり、多岐にわたる複雑な拍子を表現できます。

### 補足

Dorico Pro ではアメリカ英語で一般的に使用される拍子の定義を使用しています。どの拍子が単純拍子や複合拍子であるかの定義は、他の言語で異なる場合があります。

### 単純拍子

単純拍子の拍子記号では、各拍が 2 で分割されて均等な音符のグループに分かれます。単純拍子の拍子記号には 2/4 などの単純 2 拍子、3/4 などの単純 3 拍子、または 4/4 などの単純 4 拍子があります。



### 複合拍子

複合拍子の拍子記号では、各拍が3で分割されて均等な付点音符グループに分かれます。たとえば6/8は2つの付点4分音符から構成され、9/4は3つの付点2分音符から構成されま



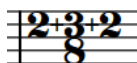
### 変拍子

5/4や7/8などの変拍子の拍子記号は、均等な拍のグループに分割できません。分子が奇数であるため、これらの拍子記号は不均一な拍のグループに分ける必要があります。たとえば、5/4は通常2分音符の拍と付点2分音符の拍からなります。



### 混合拍子

混合拍子の拍子記号は小節がどのような拍のグループに分割されているかを示します。拍のグループを示す分子は、あらゆるタイプの拍子記号に使用できます。たとえば、7/8のかわりに混合拍子の拍子記号2+3+2/8を使用できます。



### 交互拍子

交互拍子の拍子記号は、2つ以上の拍子記号が指定された順番の定期的なパターンで小節ごとに切り替わることを示します。たとえば、8分音符12個のフレーズで強調の形が3+3+2+2となるものは、交互拍子の拍子記号6/8+3/4を使用すると、2つの拍子がより分かりやすく解読できるようになります。



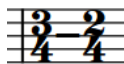
### 入れ替え可能な拍子

入れ替え可能な拍子の拍子記号は、3/4-2/4のように、楽曲中で使用できる拍子記号のセットを楽曲の開始位置で表示するものです。交互拍子の拍子記号とは異なり、入れ替え可能な拍子の拍子記号では固定したパターンは必要ありません。楽曲中のすべての小節は、セットに含まれる拍子のいずれでも、拍子記号を再提示することなく使用できます。

#### 補足

交互拍子の拍子記号とは異なり、固定したパターンが存在しないため、必要に応じて適切な拍子記号を手動で入力する必要があります。入れ替え可能な拍子の拍子記号に指定されている拍子記号を入力すると、その入れ替え可能な拍子の拍子記号を終了するまで自動的にすべて非表示になります。

Dorico Proではこれにさまざまなスタイルを使用でき、プロジェクト全体に設定することも個別の変更も行なえます。



### 結合拍子 (Aggregate)

結合拍子の拍子記号は2/4+3/8+5/4のように、2つ以上の拍子が同じ小節に含まれることを示します。Dorico Proでは、異なる拍子間の分割を示すために、自動的に破線の小節線を表示しますが、ポップオーバーで結合拍子の拍子記号を入力する際には、破線の小節線を表示しないように指定もできます。

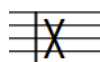


### オープン

自由拍子記号では、拍子、連桁、または拍への制約はありません。音符はいくつでも追加でき、自由に連桁できます。たとえば、カデンツァのパスセージに自由拍子記号を使用する場合などです。

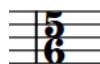
#### 補足

自由拍子では、小節線の入力と拍の追加を手動で行なう必要があります。また、挿入モードをオンにし、範囲をグローバルに設定して音符を入力することで自由拍子の小節を拡張することもできます。



### 2のべき乗ではない分母の拍子

2のべき乗ではない分母の拍子記号とは、5/6などで、これは5つの4分音符からなる6連符全体で全音符と等しくなることを示しています。このような拍子記号の例は、Adèsの楽曲などに見られます。



#### 補足

Boulezなど一部の作曲家は、分子に分数を使用する拍子記号を記譜しています。Dorico Proは現在のところ、分子に分数を使用する拍子記号をサポートしていません。

#### 関連リンク

[拍子記号と弱起の入力方法 \(311 ページ\)](#)

[小節、拍、小節線の入力方法 \(329 ページ\)](#)

[カットコモン拍子記号の拍のグループ化を変更する \(1139 ページ\)](#)

[入れ替え可能な拍子の拍子記号を終了する \(1813 ページ\)](#)

[結合拍子の拍子記号の統合 \(1809 ページ\)](#)

## 親切拍子記号

拍子記号の変更が組段区切りで発生する場合、スコアでもパートでも、区切り後の組段の開始位置とともに、区切り前の組段の終了位置にも新規の拍子記号が表示されます。

これは、拍子記号の変更が有効になる前にそれを演奏者に警告するため、「親切拍子記号」と呼ばれることがあります。

Dorico Proにおいて、組段の最後に表示される拍子記号と次の組段の開始位置に表示される拍子記号は、別のアイテムではなく、同じものです。親切拍子記号は、個別に非表示にしたりフローごとにデフォルトで非表示にしたりできます。

#### ヒント

個別の楽譜の範囲にフローを使用することをおすすめします。Dorico Proでは、フロー間に予告の調号や拍子記号は表示されません。

関連リンク

- [フロー \(187 ページ\)](#)
- [フローの分割 \(551 ページ\)](#)
- [組段区切り \(789 ページ\)](#)
- [予告の調号 \(1352 ページ\)](#)
- [リピートマーカー \(1598 ページ\)](#)
- [音部記号 \(1191 ページ\)](#)

## 親切拍子記号の表示/非表示

組段区切りの位置で拍子記号の変更が発生した場合、組段の終了位置に表示されている親切拍子記号を、フローごとの設定とは別に、個別に表示/非表示にできます。これにより、たとえば混合拍子の拍子記号を使用する場合に水平方向のスペースを節約できます。この操作は現在のレイアウトとフレームチェーンのみに対して、もしくはすべてのレイアウトとフレームチェーンに対して行なえます。

前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。
- 下ゾーンのツールバーで「プロパティ (Properties)」を選択しておきます。
- 浄書モードの場合は、浄書ツールボックスで「グラフィックの編集 (Graphic Editing)」を選択しておきます。
- ローカルのプロパティ変更に関して、適切なプロパティ範囲を選択しておきます。

---

手順

1. 表示/非表示にする親切拍子記号を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「拍子記号 (Time Signatures)」グループで、「組段の終了位置の親切記号 (Cautionary at end of system)」をオンにします。
3. 以下のいずれかのオプションを選択します。
  - 非表示 (Hide)
  - 表示 (Show)

---

結果

組段の終了位置にある選択した親切拍子記号が表示または非表示になります。これは、組段の開始位置にある拍子記号には影響しません。

プロパティ範囲を「ローカル (Locally)」に設定している場合、この変更は現在のレイアウトおよびフレームチェーンのみに影響します。

ヒント

「記譜オプション (Notation Options)」の「拍子記号 (Time Signatures)」ページでは、親切拍子記号をデフォルトで表示するか非表示にするかをフローごとに設定できます。

---

関連リンク

- [プロパティパネル \(826 ページ\)](#)
- [プロパティ範囲の変更 \(828 ページ\)](#)
- [浄書ツールボックス \(554 ページ\)](#)
- [拍子記号の表示/非表示 \(1812 ページ\)](#)
- [組段区切り \(789 ページ\)](#)
- [「記譜オプション \(Notation Options\)」ダイアログ \(919 ページ\)](#)

## 弱起 (アフタクト)

弱起 (アフタクト) は、最初の完全な小節の前に音符を配置するものです。多くの場合、弱起は少数の拍からなり、主要な目的は楽曲を導入することです。



9/8 の楽譜の開始位置にある 4 つの 8 分音符の弱起 (アフタクト)

弱起から始まる楽曲は、通常通り組段の開始位置に拍子記号が配置されます。ただし、拍子記号に従う最初の完全な 1 小節は、最初の小節線の前ではなく後ろになります。そのため、弱起小節は小節番号のカウントには加えられません。小節番号はフロー最初の完全小節からカウントされます。

弱起小節は楽譜の音符/休符の数にリンクされているため、Dorico Pro では弱起小節は拍子記号にリンクされます。ただし、楽譜に表示する必要のない拍子記号は非表示にできます。

### ヒント

- 弱起付きの拍子記号はガイドで示されます。
- 挿入モードの範囲を「現在の小節のグローバル調整 (Global Adjustment of Current Bar)」に設定すると、フロー内の最初の小節の音符/休符を削除することで弱起 (アフタクト) の作成や削除を行なえます。また、これによりアフタクトで始まるフローの最後の小節を短くすることもできます。

### 関連リンク

[拍子記号と弱起の入力方法 \(311 ページ\)](#)

[拍子記号の表示/非表示 \(1812 ページ\)](#)

[挿入モードの範囲 \(492 ページ\)](#)

[ガイド \(490 ページ\)](#)

[小節 \(1073 ページ\)](#)

[小節番号 \(1094 ページ\)](#)

[トラック概要 \(659 ページ\)](#)

[装飾音符を標準の音符に変換する \(1329 ページ\)](#)

## アフタクトまたは不規則小節として部分小節を定義する

拍子記号の開始位置にある明示的な不規則小節をアフタクトとして定義するかどうかを変更できます。これは、小節内の音符がどのように連桁でつながれ、グループ化されるかに影響します。

アフタクトとして定義された不規則小節の音符は小節の終わりから連桁/グループ化されますが、アフタクトとして定義されていない不規則な小節の音符は小節の始まりから連桁/グループ化されます。

### 補足

明示的な不規則小節およびアフタクトの小節は、拍子記号の一部として入力する必要があります。たとえば拍子記号のポップオーバーに **4/4,1.5** と入力して、4/4 の拍子記号と 4 分音符 1.5 個分の拍 (8 分音符 3 個分の拍) のアフタクトを入力します。



#### 前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。
- 下ゾーンのツールバーで「プロパティ (Properties)」を選択しておきます。
- 浄書モードの場合は、浄書ツールボックスで「グラフィックの編集 (Graphic Editing)」を選択しておきます。

#### 手順

1. アウフタクトの定義を変更する明示的な不規則小節で始まる拍子記号または拍子記号のガイドを選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルで、「拍子記号 (Time Signatures)」グループの「1 小節目をアウフタクトとしてグループ化 (Group first bar as pick-up)」をオンにします。
3. 対応するチェックボックスをオン/オフにします。

#### 結果

「1 小節目をアウフタクトとしてグループ化 (Group first bar as pick-up)」とその対応するチェックボックスの両方がオンの場合は、選択した拍子記号の開始位置にある不規則小節がアウフタクトとして定義され、対応するチェックボックスがオフの場合は通常の不規則小節として定義されます。

このプロパティがオフの場合は、Dorico Pro は内部ヒューリスティクスを使用してアウフタクトか通常の不規則小節かを自動的に定義します。

#### 例



コモンタイムのアウフタクトとして定義された不規則小節



アウフタクトではなく通常の不規則小節として定義された不規則小節

## 大きな拍子記号

大きな拍子記号は、譜表に対するサイズが標準よりずっと大きい、スケールアップされた拍子記号です。これはオーケストラのスコアで役に立ちます。譜表サイズが小さいことから拍子記号も標準のままだと小さく、指揮者にとって読みづらくなるからです。

大きな拍子記号は、映画音楽のスコアでも非常によく使用されます。これは、指揮者が録音セッションまでのスコアの準備に多くの時間をかけられることがまれであるためです。大きな拍子記号を使用すると、ページ上で拍子の変更がはっきり見やすくなります。特に拍子が何度も変更される場合に有効です。

Dorico Pro では、大きな拍子記号を以下の配置で表示できます。

- 大括弧のグループごとに1つ
- 譜表の上の組段オブジェクトの位置

### 大括弧のグループごとに1つ表示される拍子記号

譜表ごとに譜表と同じ高さの拍子記号を表示するかわりに、譜表の大括弧によるグループごとに1つの大きな拍子記号を表示できます。大括弧のグループごとに1つ表示される場合、拍子記号は大括弧によ

るグループに属する譜表の数に応じて拡大されます。拍子記号のサイズは、大括弧のグループに4つ以上の譜表が含まれるとき最大になります。1つの譜表に表示される場合、大きな拍子記号は譜表の上下に少しずつはみ出します。これは映画音楽の録音セッション用のパート譜で一般的に使用されるものです。



大括弧のグループごとに1つ表示される「ナローセリフ (Narrow, serif)」の拍子記号

大括弧のグループに属する譜表の数ごとの拍子記号のサイズは、「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**拍子記号 (Time Signatures)**」ページで変更できます。また、大きな拍子記号を表示するときに、金管楽器の大括弧と弦楽器の大括弧にあるすべての譜表 (打楽器、ハープ、ピアノが含まれる場合が多い) を1つの大括弧とみなして扱うか、個別に扱うかを選択できます。

大括弧のグループに表示される大きな拍子記号は、表示倍率が高く、標準の拍子記号のデザインを使用しているときは特に、水平方向のスペースを大きく占める場合があります。そのため、大括弧のグループに大きな拍子記号を表示するレイアウトにおいては、ナローデザインの拍子記号の使用をおすすめします。

### 組段オブジェクトの位置に表示される拍子記号

大括弧のグループごとに大きな拍子記号を1つ表示するのと似た形で、譜表の上の組段オブジェクトの位置のみに拍子記号を表示することもできます。このとき組段ごとの拍子記号の表示位置は、リハーサルマークやテンポ記号など他の組段オブジェクトの位置を制御するのと同じオプションによって制御されます。



組段オブジェクトの位置に表示される「標準 (Normal)」の拍子記号

組段オブジェクトの位置に表示される拍子記号は水平方向のスペースを占めないため、これにナローフォントスタイルを使用する必要はそれほどありません。またこれは、拍子記号の前後の音符間の水平距離も減らします。音符のスペーシングに与える影響が少ないため、この拍子記号の配置法は20世紀以降の現代音楽においてよく使用されるようになりました。

組段オブジェクトの位置に表示する拍子記号に音符による分母のスタイルを使用している場合、音符は分子の下ではなく右に表示されます。

初期設定では、組段オブジェクトの位置の拍子記号は標準の拍子記号の2倍のサイズとなり、同じ位置の他のアイテムは強制的にその右に表示されます。この表示倍率と、同じ位置にある他アイテムのデフォルトの位置は、「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**拍子記号 (Time Signatures)**」ページで変更できます。また、小節線に対する整列方法も変更できます。

関連リンク

[拍子記号と弱起の入力方法 \(311 ページ\)](#)

[大括弧のグループに対する拍子記号の位置を変更する \(1811 ページ\)](#)

- [拍子記号のデザインを個別に変更する \(1814 ページ\)](#)
- [組段オブジェクト位置に拍子記号を表示する場所では小節番号を非表示にする \(1103 ページ\)](#)
- [拍子記号のフォントスタイル \(1815 ページ\)](#)
- [組段オブジェクト \(1717 ページ\)](#)
- [「浄書オプション \(Engraving Options\)」 ダイアログ \(923 ページ\)](#)

## 拍子記号のサイズと位置の変更

拍子記号のサイズは、その垂直位置も含めて、レイアウトごとに個別に変更できます。たとえば、フルスコアレイアウトでは大きな拍子記号を大括弧ごとに中央揃えで表示させつつ、パートレイアウトでは譜表ごとに標準サイズの拍子記号を表示させることができます。

---

### 手順

- [Ctrl]/[command]+[Shift]+[L]** を押して「**レイアウトオプション (Layout Options)**」を開きます。
- 「**レイアウト (Layouts)**」リストから、拍子記号のサイズを変更するレイアウトを選択します。  
初期設定では、楽譜領域で選択されているものと同じレイアウトが選択された状態のダイアログが表示されます。他のレイアウトを選択するには、アクションバーの選択オプションを使用するか、複数のレイアウトをまたぐようにクリックしてドラッグするか、**[Shift]** を押しながら隣接するレイアウトをクリックするか、**[Ctrl]/[command]** を押しながら個々のレイアウトをクリックします。
- カテゴリーリストの「**拍子記号 (Time Signatures)**」をクリックします。
- 「**拍子記号の位置とサイズ (Time signature position and size)**」で以下のいずれかのオプションを選択します。
  - すべての譜表に表示 (Show on every staff)**
  - 大括弧ごとに 1 つ表示 (Show once per bracket)**
  - 組段オブジェクトの位置に表示 (Show at system object positions)**
- 「**適用 (Apply)**」をクリックしてから「**閉じる (Close)**」をクリックします。

---

### 結果

選択したレイアウトの拍子記号のサイズと位置が変更されます。

組段オブジェクトの位置の譜表の上に大きな拍子記号を表示すると、譜表上の水平方向のスペースを一切使用しません。これ以外を選択すると、拍子記号によって水平方向のスペースが占められます。

### 手順終了後の項目

大きな拍子記号を、大括弧のグループに対し垂直方向に中央揃えとするか上揃えとするかを変更できます。これには、金管楽器と弦楽器の間の譜表を、大括弧でくくられた 1 つのグループとして扱うか、個別の譜表として扱うかの選択も含まれます。

### 関連リンク

- [拍子記号の位置 \(1809 ページ\)](#)
- [拍子記号のデザインを個別に変更する \(1814 ページ\)](#)
- [大括弧のグループに対する拍子記号の位置を変更する \(1811 ページ\)](#)
- [組段オブジェクト位置に拍子記号を表示する場所では小節番号を非表示にする \(1103 ページ\)](#)
- [拍子記号の背景の塗りつぶし \(1813 ページ\)](#)
- [「浄書オプション \(Engraving Options\)」 ダイアログ \(923 ページ\)](#)

## 拍子記号のスタイル

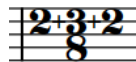
Dorico Pro では、拍子記号をさまざまなスタイルで表示できます。たとえば、分母を数字か音価のいずれかを選択して表示できます。

### 分子スタイル

分子は常に1つか複数の数字であり、小節の拍数の合計を1つの数字で示す場合と、小節のデュレーション合計がどのような拍グループに分割されているかを示す場合があります。



「数字 (Number)」の分子



「拍グループ (Beat group)」の分子

### 分母スタイル

分母は数字かデュレーションに等しい音符として表示するか、まったく表示しないか選択できます。

符頭として表示される場合、分母は小節内の拍1つの長さを示す場合と、音符のデュレーションを示す場合があります。拍の長さを示す場合、分子も同時に変化する場合があります。たとえば、6/8の拍子記号の分子が、6/8の小節が2つの付点4分音符により構成されることを反映して、2に変化する場合があります。



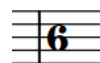
「数字 (Number)」の分母



「音符 (Note)」の分母 (拍の長さ)



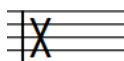
「音符 (Note)」の分母 (音符のデュレーション)



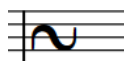
「なし (None)」の分母

### 自由拍子のスタイル

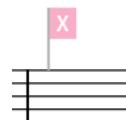
自由拍子記号は、Xまたはペンデレツキの記号で表示するか、記号を使わず非表示にできます。記号を使わない自由拍子記号はガイドで示されます。



「X」のオープンスタイル



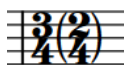
「ペンデレツキの記号 (Penderecki's symbol)」のオープンスタイル



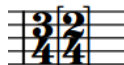
「記号なし (No symbol)」のオープンスタイル

### 入れ替え可能な拍子の拍子記号の区切り文字スタイル

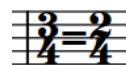
入れ替え可能な拍子の拍子記号にはさまざまな区切り文字スタイルを設定できます。区切り文字のスタイルは、ポップオーバーを使用して入れ替え可能な拍子の拍子記号を入力する際に指定できるほか、入力後に個々に指定することもできます。



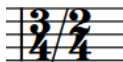
「括弧 (Parentheses)」の区切り文字



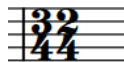
「角括弧 (Brackets)」の区切り文字



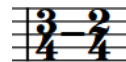
「イコールサイン (Equals sign)」の区切り文字



「斜線 (Slash)」の区切り文字



「スペース (Space)」の区切り文字



「ハイフン (Hyphen)」の区切り文字

すべての拍子記号のスタイルに関するプロジェクト全体の設定は、「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**拍子記号 (Time Signatures)**」ページで、拍子記号のタイプに従い変更できます。また個々の拍子記号のスタイルは、プロジェクト全体の設定より優先される形で個別に変更できます。

関連リンク

[「浄書オプション \(Engraving Options\)」ダイアログ \(923 ページ\)](#)

[ポップオーバーを使った拍子記号の入力 \(315 ページ\)](#)

[拍子記号のデザインを個別に変更する \(1814 ページ\)](#)

[拍子記号のタイプ \(1796 ページ\)](#)

[ガイド \(490 ページ\)](#)

## 拍子記号の分子スタイルの変更

個々の拍子記号の分子に各小節の拍の総数を表示するか、それとも各小節の分割のされ方を表示するか、プロジェクト全体の設定より優先される形で選択できます。

前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。
- 下ゾーンのツールバーで「**プロパティ (Properties)**」を選択しておきます。
- 浄書モードの場合は、浄書ツールボックスで「**グラフィックの編集 (Graphic Editing)**」を選択しておきます。

手順

1. 分子スタイルを変更する拍子記号を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「**拍子記号 (Time Signatures)**」グループで、「**分子スタイル (Numerator style)**」をオンにします。
3. 以下のいずれかのオプションを選択します。
  - **数字 (Number)**
  - **拍グループ (Beat group)**

結果

選択した拍子記号の分子スタイルが変更されます。

ヒント

すべての拍子記号のデフォルトの分子スタイルに関するプロジェクト全体の設定は、「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**拍子記号 (Time Signatures)**」のページで変更できます。

関連リンク

[プロパティパネル \(826 ページ\)](#)

[浄書ツールボックス \(554 ページ\)](#)

[「浄書オプション \(Engraving Options\)」ダイアログ \(923 ページ\)](#)

## 拍子記号の分母スタイルの変更

それぞれの拍子記号の分母スタイルをプロジェクト全体の設定とは別に変更できます。たとえば、分母の数字を音符に置き換えることができます。

### 前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。
- 下ゾーンのツールバーで「プロパティ (Properties)」を選択しておきます。
- 浄書モードの場合は、浄書ツールボックスで「グラフィックの編集 (Graphic Editing)」を選択しておきます。

### 手順

1. 分母スタイルを変更する拍子記号を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「拍子記号 (Time Signatures)」グループで、「分母スタイル (Denominator style)」をオンにします。
3. 以下のいずれかのオプションを選択します。
  - 数字 (Number)
  - 音符 (Note)
  - なし (None)

### 結果

選択した拍子記号の分母スタイルが変更されます。

### ヒント

すべての拍子記号の分母スタイルに関するプロジェクト全体の設定は、「浄書オプション (Engraving Options)」の「拍子記号 (Time Signatures)」のページで変更できます。「音符 (Note)」の分母に拍の長さや音符のデュレーションを表示するかどうかも変更できます。



## 拍子記号の自由拍子のスタイルを個別に変更する


個々の拍子記号の自由拍子のスタイルは、プロジェクト全体の設定より優先される形で個別に変更できます。

### 前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。
- 下ゾーンのツールバーで「プロパティ (Properties)」を選択しておきます。
- 浄書モードの場合は、浄書ツールボックスで「グラフィックの編集 (Graphic Editing)」を選択しておきます。

### 手順

1. スタイルを変更する自由拍子の拍子記号を個別に選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「拍子記号 (Time Signatures)」グループで、「オープンスタイル (Open style)」から以下のいずれかのオプションを選択します。
  - 記号なし (No symbol) 
  - 「X」 

- **ペンデレツキの記号 (Penderecki's symbol)** 

#### 結果

選択した拍子記号の自由拍子のスタイルが変更されます。「記号なし (No symbol)」の自由拍子記号はガイドで表示されます。

#### ヒント

すべての自由拍子の拍子記号のスタイルに関するプロジェクト全体の設定は、「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**拍子記号 (Time Signatures)**」のページで変更できます。

#### 関連リンク

[プロパティパネル \(826 ページ\)](#)

[浄書ツールボックス \(554 ページ\)](#)

[「浄書オプション \(Engraving Options\)」ダイアログ \(923 ページ\)](#)

[ガイド \(490 ページ\)](#)

## 入れ替え可能な拍子の拍子記号の区切り文字のスタイルを個別に変更する

入れ替え可能な拍子の拍子記号に表示される区切り文字は、プロジェクト全体の設定より優先される形で個別に変更できます。

#### 前提条件







- 下ゾーンを表示しておきます。
- 下ゾーンのツールバーで「**プロパティ (Properties)**」を選択しておきます。
- 浄書モードの場合は、浄書ツールボックスで「**グラフィックの編集 (Graphic Editing)**」を選択しておきます。

#### 手順

1. 区切り用文字を変更する入れ替え可能な拍子の拍子記号を個別に選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。

#### 補足

入れ替え可能な拍子の拍子記号では、プロパティパネルの「**拍子記号 (Time Signatures)**」グループの「**区切り用文字 (Separator)**」が自動的にオンになります。

2. 「**区切り用文字 (Separator)**」のメニューから、以下のいずれかのオプションを選択します。
  - **括弧 (Parentheses)** 
  - **角括弧 (Brackets)** 
  - **イコールサイン (Equals sign)** 
  - **斜線 (Slash)** 
  - **スペース (Space)** 
  - **ハイフン (Hyphen)** 

#### 結果

選択した入れ替え可能な拍子の拍子記号の区切り用文字のスタイルが変更されます。

#### ヒント

- ポップオーバーを使用して入れ替え可能な拍子の拍子記号を入力する際に、区切り文字のスタイルを指定できます。
- 「**浄書オプション (Engraving Options)**」にある「**拍子記号 (Time Signatures)**」ページで、プロジェクト全体の入れ替え可能な拍子記号のデフォルトの区切り文字を変更できます。
- 結合拍子の拍子記号は、入れ替え可能な拍子の拍子記号と外観が似ているかもしれませんが、これとは異なる動作をするものです。結合拍子の拍子記号は「+」記号で区切られるのに対し、入れ替え可能な拍子の拍子記号の区切り文字は6種類ありますが、ここに「+」記号は使用できません。

結合拍子の拍子記号では「**区切り用文字 (Separator)**」をオンにして利用できるオプションを選択できますが、このプロパティが効果を持つのは、入れ替え可能な拍子の拍子記号の区切り用文字の外観のみです。

#### 関連リンク

[ポップオーバーを使った拍子記号の入力 \(315 ページ\)](#)

[「浄書オプション \(Engraving Options\)」ダイアログ \(923 ページ\)](#)

## コモン/カットコモンの拍子記号の外観を変更する

個々のコモン/カットコモンの拍子記号を、コモン/カットコモン記号か、分子と分母 (2/2 や 4/4 など) のいずれかで表示できます。

#### 前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。
- 下ゾーンのツールバーで「**プロパティ (Properties)**」を選択しておきます。
- 浄書モードの場合は、浄書ツールボックスで「**グラフィックの編集 (Graphic Editing)**」を選択しておきます。

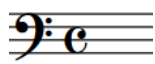
#### 手順

1. 外観を変更するコモン/カットコモンの拍子記号を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「**拍子記号 (Time Signatures)**」グループで、「**コモン/カットコモン (Common/Cut common)**」をオンまたはオフにします。

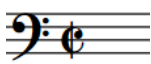
#### 結果

「**コモン/カットコモン (Common/Cut common)**」をオンにすると、選択した拍子記号がコモン/カットコモン記号で表示され、オフにすると分子と分母で表示されます。

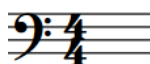
#### 例



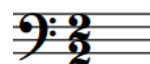
コモンの拍子記号



カットコモンの拍子記号



コモンの拍子記号を 4/4 として表示した状態



カットコモンの拍子記号を 2/2 として表示した状態

#### 関連リンク

[プロパティパネル \(826 ページ\)](#)

[浄書ツールボックス \(554 ページ\)](#)



[カットコモン](#)の拍子記号の拍のグループ化を変更する (1139 ページ)

## 結合拍子の拍子記号の統合

分母が同じ結合拍子の拍子記号を1つの拍子記号に統合できます。拍子の区切りには破線の小節線がそのまま表示されます。これにより、たとえば結合拍子の拍子記号  $4/8+2/8+7/8$  を  $13/8$  と表示できます。

前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。
- 下ゾーンのツールバーで「プロパティ (Properties)」を選択しておきます。
- 浄書モードの場合は、浄書ツールボックスで「グラフィックの編集 (Graphic Editing)」を選択しておきます。

手順

1. 統合する結合拍子の拍子記号を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「拍子記号 (Time Signatures)」グループで、「互換性のある結合拍子を結合 (Combine compatible aggregates)」をオンにします。
3. 対応するチェックボックスをオンにします。

結果

分母がすべて同じであれば、選択した結合拍子の拍子記号が1つの拍子記号に統合されます。統合された分子は、各小節の分母の拍数の総数を示します。

ヒント

プロジェクト全体の分母が同じ結合拍子の拍子記号をデフォルトで統合するには、「浄書オプション (Engraving Options)」>「拍子記号 (Time Signatures)」>「デザイン (Design)」で設定を行ないます。

例



統合されていない結合拍子の拍子記号



統合された結合拍子の拍子記号

関連リンク

[拍子記号のタイプ](#) (1796 ページ)

[「浄書オプション \(Engraving Options\)」ダイアログ](#) (923 ページ)

## 拍子記号の位置

標準の拍子記号は、五線譜の第3線、または一線譜の譜表線がその中央を通過する形で配置されます。大きな拍子記号は、大括弧のグループごとに中央揃えまたは上揃えで配置するか、組段オブジェクトの位置の譜表の上に配置できます。

Dorico Pro では、音部記号、調号、小節線のあとに拍子記号が自動的に配置されます。

拍子記号のリズム上の位置は記譜モードで移動できます。これらは「**浄書オプション (Engraving Options)**」で設定されたデフォルト位置に配置されます。

個々の拍子記号の表示位置は浄書モードで移動できますが、これによって記号のリズム上の位置が変更されることはありません。

プロジェクト全体のすべての拍子記号の水平方向および垂直方向のデフォルト位置は、「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**間隔のスペーシング (Spacing Gaps)**」および「**拍子記号 (Time Signatures)**」ページで変更できます。

拍子記号の位置はレイアウトごとに個別に変更もできます。たとえば、一部のレイアウトでは拍子記号を譜表の上の組段オブジェクトの位置に表示しつつ、他のレイアウトでは大括弧ごとに1つ表示することなどができます。

関連リンク

[組段オブジェクトの位置の変更 \(1718 ページ\)](#)

[大きな拍子記号 \(1801 ページ\)](#)

[親切拍子記号 \(1798 ページ\)](#)

[拍子記号の背景の塗りつぶし \(1813 ページ\)](#)


[「浄書オプション \(Engraving Options\)」ダイアログ \(923 ページ\)](#)

[拍子記号と弱起の入力方法 \(311 ページ\)](#)

## 拍子記号の表示位置の変更

個々の拍子記号の表示位置を、他のアイテムの位置に影響を与えず変更できます。

### 補足

- この手順は、音符ツールボックスで「**グラフィックの編集 (Graphic Editing)**」が選択されているときに動かすことができ、組段オブジェクトの位置に表示される拍子記号には当てはまりません。
- 組段の開始位置に表示される拍子記号は移動できません。移動できるのは、組段の途中か終了位置にある拍子変更記号のみです。

前提条件

浄書ツールボックスで「**音符のスペーシング (Note Spacing)**」を選択しておきます。

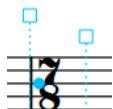
手順

1. 浄書モードで、移動する拍子記号の位置にある、音符のスペーシング用の四角いハンドルを選択します。



拍子記号の横に丸いハンドルが表示されます。

2. **[Tab]** を押して丸いハンドルを選択します。



3. 以下のいずれかの操作を行なって、ハンドルを移動します。

- 標準的な幅で左右に移動するには、**[Alt/Opt]** を押しながら対応する矢印キーを押します。たとえば、ハンドルを左に移動するには、**[Alt/Opt]+[←]** を押します。

- 移動幅を大きくするには、通常のキーボードショートカットに加え **[Ctrl]/[command]** を押します (例: **[Ctrl]/[command]+[Alt/Opt]+[←]**)。
- 移動幅を中くらいにするには、通常のキーボードショートカットに加え **[Shift]** を押します (例: **[Shift]+[Alt/Opt]+[←]**)。
- 移動幅を小さくするには、通常のキーボードショートカットに加え **[Ctrl]/[command]+[Shift]** を押します (例: **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[Alt/Opt]+[←]**)。

#### 補足

音符のスペーシングのハンドルの移動はマウスでは行なえず、キーボードのみで行なえます。

---

#### 結果

拍子記号の表示位置が水平方向に移動されます。

#### ヒント

またプロパティパネルの「拍子記号 (Time Signatures)」グループで「スペーシングのオフセット (Spacing offset)」の値を変更すると、拍子記号を水平に移動できます。ただしこれは、拍子記号周辺の全体的な音符のスペーシングに影響を与えます。

「スペーシングのオフセット (Spacing offset)」の値は、音符のスペーシングの変更から独立していません。

---

#### 関連リンク

- [浄書ツールボックス \(554 ページ\)](#)
- [音符のスペーシング \(643 ページ\)](#)
- [アイテムの表示位置の移動 \(652 ページ\)](#)

## 大括弧のグループに対する拍子記号の位置を変更する

初期設定では、大括弧ごとに1つ表示される拍子記号は、それぞれの大括弧のグループに対し中央揃えで配置されます。大括弧のグループに対する拍子記号の垂直位置はプロジェクト全体のすべてのレイアウトに対し変更できます。たとえば映画音楽のスコアでは、大きな拍子記号の上端をそれぞれの大括弧のグループの上端に揃えて表示するのが一般的です。

大括弧または中括弧で括られた各譜表グループに小さな拍子記号を表示するかわりに、金管楽器と弦楽器の間のすべての譜表に大きな拍子記号を表示するように選択することもできます。通常、このセクションには打楽器、ハーブ、ピアノが含まれます。

---

#### 手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[E]** を押して「浄書オプション (Engraving Options)」を開きます。
2. カテゴリーリストの「拍子記号 (Time Signatures)」をクリックします。
3. 「大括弧を中央にして配置された拍子記号 (Time Signatures Centered on Brackets)」セクションで、「大括弧に対する垂直方向の整列 (Vertical alignment relative to bracket)」に対し、以下のいずれかのオプションを選択します。
  - 上 (Top)
  - 中央 (Middle)
4. 「金管楽器および弦楽器の間のインストゥルメント (Instruments between brass and strings)」で以下のいずれかのオプションを選択します。
  - 単一の大括弧として扱う (Treat as single bracket)

- 個別に扱う (Treat separately)

5. 「適用 (Apply)」をクリックしてから「閉じる (Close)」をクリックします。

---

関連リンク

[拍子記号のサイズと位置の変更 \(1803 ページ\)](#)

[「浄書オプション \(Engraving Options\)」ダイアログ \(923 ページ\)](#)

## 拍子記号の表示/非表示

拍子記号は、プロジェクトから削除することなく表示/非表示を切り替えられます。これにより、現在楽譜領域で開いているレイアウトだけではなく、すべてのレイアウトで表示/非表示が切り替わります。

前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。
- 下ゾーンのツールバーで「プロパティ (Properties)」を選択しておきます。
- 浄書モードの場合は、浄書ツールボックスで「グラフィックの編集 (Graphic Editing)」を選択しておきます。

手順

1. 非表示にする拍子記号、または表示する拍子記号のガイドを選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
  2. プロパティパネルの「拍子記号 (Time Signatures)」グループで、「拍子記号を非表示 (Hide time signature)」をオンまたはオフにします。
- 

結果

「拍子記号を非表示 (Hide time signature)」をオンにすると、選択した拍子記号がすべてのレイアウトで非表示になり、オフにすると表示されます。

非表示にした各拍子記号の位置にはガイドが表示されます。ただし初期設定では、ガイドは印刷されません。

補足

- 非表示の拍子記号は水平方向のスペースを一切取らないため、拍子記号の表示/非表示は音符のスペーシングに影響します。
  - 拍子記号のガイドの表示/非表示は「ビュー (View)」>「ガイド (Signposts)」>「拍子記号 (Time Signatures)」を選択して切り替えられます。
  - 「環境設定 (Preferences)」の「キーボードショートカット (Key Commands)」ページで、「アイテムを表示/非表示 (Hide/Show Item)」にキーボードショートカットを割り当てることができます。
- 

関連リンク

[プロパティパネル \(826 ページ\)](#)

[浄書ツールボックス \(554 ページ\)](#)

[ガイド \(490 ページ\)](#)

[親切拍子記号の表示/非表示 \(1799 ページ\)](#)

[拍子記号と弱起の入力方法 \(311 ページ\)](#)

[注釈 \(740 ページ\)](#)

## 入れ替え可能な拍子の拍子記号を終了する

入れ替え可能な拍子の拍子記号に指定されている拍子記号は、入力し次第すべて自動的に非表示になります。選択した拍子記号から入れ替え可能な拍子の拍子記号を終了して、それらを表示できます。

### 前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。
- 下ゾーンのツールバーで「プロパティ (Properties)」を選択しておきます。
- 浄書モードの場合は、浄書ツールボックスで「グラフィックの編集 (Graphic Editing)」を選択しておきます。

### 手順

1. そこから入れ替え可能な拍子の拍子記号を終了する拍子記号の小節線かガイドを選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「拍子記号 (Time Signatures)」グループで、「相互変換可能範囲を終了 (End interchangeable)」をオンにします。

### 結果

入れ替え可能な拍子の拍子記号が選択した拍子記号の位置で終了します。選択した拍子記号、およびその位置で有効な入れ替え可能な拍子の拍子記号で指定した後続のすべての拍子記号が、次の既存の入れ替え可能な拍子の拍子記号の位置か、フローの終了位置のいずれか先に到達したところまで表示されません。

## 拍子記号の背景の塗りつぶし

プロジェクト全体で、単一の譜表のタイにかかるすべての拍子記号の背景を塗りつぶすことができます。これにより、このような状況における拍子記号の可読性が向上します。

### 手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[E]** を押して「浄書オプション (Engraving Options)」を開きます。
2. カテゴリーリストの「拍子記号 (Time Signatures)」をクリックします。
3. 「デザイン (Design)」セクションで、「譜表内の拍子記号の背景を塗りつぶす幅 (Erase background behind time signature inside staff with erasure of width [n] spaces)」をオン/オフにします。
4. 必要に応じて、数値フィールドの値を変更します。
5. 「適用 (Apply)」をクリックしてから「閉じる (Close)」をクリックします。

### 結果

このオプションをオンにすると、プロジェクト全体で単一の譜表のタイにかかるすべての拍子記号の背景が塗りつぶされ、オフにすると塗りつぶされません。

塗りつぶしの余白は設定した値に従います。

例



背景が塗りつぶされていない拍子記号



背景が塗りつぶされた拍子記号

関連リンク

[「浄書オプション \(Engraving Options\)」 ダイアログ \(923 ページ\)](#)

[タイ \(1776 ページ\)](#)

[調号の背景の塗りつぶし \(1355 ページ\)](#)

[強弱記号の背景の塗りつぶし \(1239 ページ\)](#)

[演奏技法の背景の塗りつぶし \(1538 ページ\)](#)

[テキストアイテムの背景の塗りつぶし \(1774 ページ\)](#)

## 拍子記号のデザインを個別に変更する

使用するフォントスタイルなど、拍子記号のデザインはレイアウトごとに個別に変更できます。たとえば、フルスコアレイアウトの拍子記号にはプレーンフォントを使用しつつ、パートレイアウトには標準の拍子記号用フォントを使用するなどができます。

手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[L]** を押して「**レイアウトオプション (Layout Options)**」を開きます。
2. 「**レイアウト (Layouts)**」リストから、拍子記号のデザインを変更するレイアウトを選択します。  
初期設定では、楽譜領域で選択されているものと同じレイアウトが選択された状態のダイアログが表示されます。他のレイアウトを選択するには、アクションバーの選択オプションを使用するか、複数のレイアウトをまたぐようにクリックしてドラッグするか、**[Shift]** を押しながら隣接するレイアウトをクリックするか、**[Ctrl]/[command]** を押しながら個々のレイアウトをクリックします。
3. カテゴリーリストの「**拍子記号 (Time Signatures)**」をクリックします。
4. 「**拍子記号のデザイン (Time signature design)**」で以下のいずれかのオプションを選択します。
  - **標準 (Normal)**
  - **ナローセリフ (Narrow, serif)**
  - **ナローサンセリフ (Narrow, sans serif)**
  - **プレーンフォント (Plain font)**
5. 「**適用 (Apply)**」をクリックしてから「**閉じる (Close)**」をクリックします。

結果

選択したレイアウトの拍子記号のデザインが変更されます。「**プレーンフォント (Plain font)**」を選択した場合、それ以外のオプションを選んだ場合とは異なるフォントスタイルが拍子記号に使用されます。

## 拍子記号のフォントスタイル

異なる拍子記号のデザインにはそれぞれ異なるフォントスタイルが使用されます。「**フォントスタイルを編集 (Edit Font Styles)**」ダイアログでは、拍子記号に使用されるフォントの形式設定を編集できます。

拍子記号には以下のフォントスタイルが使用されます。

- **拍子記号用フォント (Time Signature Font): 「標準 (Normal)」、「ナローセリフ (Narrow, serif)」、または「ナローサンセリフ (Narrow, sans serif)」**のデザインタイプを使用する、標準の拍子記号と大きな拍子記号に使用されます。SMuFL 準拠のフォントファミリーを使用する必要があります。
- **拍子記号用プレーンフォント (Time Signature Plain Font): 「プレーンフォント (Plain font)」**のデザインタイプを使用する拍子記号に使用されます。どのフォントファミリーでも使用できますが、大きな拍子記号にはナローフォントを使用することをおすすめします。

### 補足

フォントスタイルへの変更が、パートレイアウトを含めてプロジェクト全体に適用されます。

---

### 関連リンク

[「フォントスタイルを編集 \(Edit Font Styles\)」ダイアログ \(930 ページ\)](#)

[大きな拍子記号 \(1801 ページ\)](#)

[デフォルトのフォントファミリーを変更する \(937 ページ\)](#)

# トレモロ

トレモロとは、1本の符尾をまたぐ、または複数の符尾の間に配置される太い斜めの線です。これは単音または複数の音符の連続で、音符を繰り返すことを示すために使用されます。

符頭を1つ1つ記譜せずにトレモロストロークを使用すると、水平方向のスペースが節約できるとともに早いパッセージの読解が容易になります。



トレモロストロークの数は、音符を繰り返す回数とその速さの両方を示します。たとえば音価が指定されたトレモロでは、4分音符の符尾に付く1本のトレモロストロークは2個の8分音符を演奏することを示し、4分音符の符尾に付く3本のトレモロストロークは8個の32分音符を演奏することを示します。



1ストロークの単音トレモロが付いた4分音符と、それを音符で記したものの



3ストロークの単音トレモロが付いた4分音符と、それを音符で記したものの

トレモロには以下の種類があります。

## 単音のトレモロ

1音が繰り返されます。単音トレモロは音符の符尾に配置されます。



単音のトレモロ (2ストローク) が追加された4分音符

## 重音のトレモロ

複数の音符 (通常は2つ) が連続で演奏されます。これはトリルに似ていますが、トリルがGとAなど隣接する2つの音符を素早く交互に演奏することに対し、重音トレモロに使用する音符の制限はなく、ただ楽器の性能の限界が制約となります。

重音のトレモロでまとめられたすべての音符は、それぞれがトレモロ全体のデュレーションを示します。たとえば、重音のトレモロでまとめられた2つの4分音符は2分音符として表示されます。

重音のトレモロは2つ以上の音符の符尾の間に配置されます。



トレモロでまとめられていない4分音符



2つのペアになるように左の4分音符の間に挿入された重音のトレモロ



### 連符のトレモロ

連符中の複数の音符が記譜された並びで繰り返されます。連符のトレモロは連符のすべての音符の間に配置されます。



トレモロなしの2つの異なる連符に含まれる4分音符  
左の連符にかけて挿入される連符の重音のトレモロ

音楽的な状況によって、トレモロの音価は指定される場合と指定されない場合があります。音価が指定されるトレモロと指定されないトレモロに視覚的な違いはないため、作曲家または編曲者が、たとえばスコアの前付けにおける指示やスコア中の指示テキストなどの形で、トレモロの演奏方法を指定する場合も多く見られます。

### 音価が指定されたトレモロ

トレモロストロークの数は、その位置に適用されるテンポと拍子による正確なリズムに対応します。

### 音価が指定されないトレモロ

ストロークの数とリズムの間に関係性はありません。そのかわり、音価が指定されないトレモロはテンポに関わらずできるだけ速く演奏されます。

音価が指定されないトレモロは、多くの場合3本以上のトレモロストロークを使用し、「trem.」のテキスト指示を伴う場合もあります。

#### 関連リンク

- [リピートとトレモロの入力方法 \(438 ページ\)](#)
- [タイのつながりの中のトレモロ \(1818 ページ\)](#)
- [トレモロの速さの変更 \(1820 ページ\)](#)
- [再生時のトレモロ \(1823 ページ\)](#)
- [「MIDI インポートオプション \(MIDI Import Options\)」ダイアログ \(95 ページ\)](#)

## 浄書オプションでトレモロの設定をプロジェクト全体に適用する

「浄書オプション (Engraving Options)」の「トレモロ (Tremolos)」ページで、トレモロの外観と位置を設定しプロジェクト全体に適用できます。

「トレモロ (Tremolos)」ページのオプションでは、トレモロストロークの外観と、符尾の先端、符鉤、符頭および連符に対するトレモロストロークの位置を変更できます。

多くのオプションに、オプションを楽譜に適用したときにどのように表示されるかを示す図があります。

#### 関連リンク

- [「浄書オプション \(Engraving Options\)」ダイアログ \(923 ページ\)](#)

## トレモロの一般的な配置規則

単音トレモロは音符の符尾に配置され、重音トレモロは2つ以上の音符の間に配置されます。重音トレモロが3つ以上の音符にまたがる場合、トレモロストロークはすべての音符の間に配置されます。

トレモロストロークの線は、ストロークの間隔が十分広くなりストロークの数が即座に読み取れるように、連桁よりもわずかに細くなっています。

Dorico Pro では、トレモロストロークと加線や符尾の符鉤との衝突が自動的に回避されます。

譜表の内側のトレモロストロークは、符頭から少なくとも間1つ分の距離を置くとともに、譜表の線および間に対する正しい位置に配置されます。つまり、音符のピッチを変更してもトレモロストロークの位置が変わらない場合もあります。



前2つと後ろ2つの音符のトレモロストロークの位置は同じですが、ピッチはいずれも異なります。

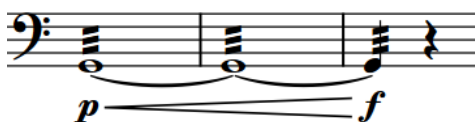
Dorico Pro では、フレーズの方向に関わらず、単音トレモロのストロークの角度は常に同じです。重音トレモロのストロークの角度は、重音トレモロが適用される符尾それぞれの高さにより決定されます。重音トレモロのストロークの角度は、トレモロの始まりおよび終わりの符尾の長さを変更することによって変えられます。

すべてのトレモロストロークのデフォルト位置に対するプロジェクト全体の設定は、「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**トレモロ (Tremolos)**」ページで変更できます。

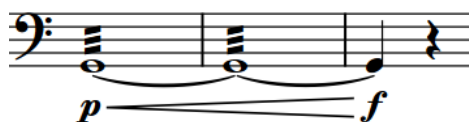
## タイのつながりの中のトレモロ

初期設定では、単音のトレモロはタイでつながれたすべての音符、あるいは最初または最後の音符以外のすべての音符に表示されます。タイでつながれた音符からトレモロストロークを削除すると、タイのつながりに属するすべての音符からトレモロストロークが削除されます。

Dorico Pro では、タイでつながれた最初/最後の音符以外のすべての音符に表示される単音トレモロをそれぞれ「**アタック付きトレモロ**」、「**リリース付きトレモロ**」と呼びます。



タイのつながりに追加された単音のトレモロ



タイのつながりにリリースが追加されたトレモロ

Dorico Pro では、トレモロは初期設定では音価が指定されていると見なされるため、タイのつながりの後続の音符に表示されるトレモロストロークの数は、必要に応じて自動的に調整されます。たとえば、2本のトレモロストロークが付いた8分音符が4分音符にタイでつながれた場合、4分音符には3本のトレモロストロークが付きます。これはトレモロストロークの機能が連桁に類似するためであり、2本のトレモロストロークと8分音符の符鉤1つは、3本のトレモロストロークと等価になります。



タイのつながりで2つめの音符が1つめより長い場合のトレモロストロークのデフォルトの数



2つめの音符のトレモロストロークの数を1つめに合わせて変更したもの

もっとも、個々のトレモロのデュレーションに関わらず、すべての音符に同じ数のトレモロストロークを付けることが必要な状況もあるかもしれません。また、トレモロをタイのつながりの途中から始めたり、途中で終わらせる場合もあります。

個々の音符に表示されるトレモロストロークの数は、浄書モードで個別に変更できます。

関連リンク

[タイ \(1776 ページ\)](#)

[リピートとトレモロの入力方法 \(438 ページ\)](#)

[トレモロの削除 \(1821 ページ\)](#)

## タイのつながりのそれぞれの音符のトレモロストロークの数を変更する

Dorico Pro はタイのつながりの後続の音符に付くトレモロストロークの数を、それぞれのデュレーションに応じて自動的に変更しますが、意図するリズムを表現するために、単音トレモロのストロークの数を音符ごとに手動で変更できます。たとえば、個々のトレモロのデュレーションに関わらず、タイのつながりのすべての音符に同じ数のトレモロストロークを付けることができます。

### ヒント

タイのつながりの最初または最後の音符からトレモロを削除するには、それぞれアタックまたはリリース付きでトレモロを入力します。

### 前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。
- 下ゾーンのツールバーで「プロパティ (Properties)」を選択しておきます。
- 浄書ツールボックスで「グラフィックの編集 (Graphic Editing)」を選択しておきます。

### 手順

1. 浄書モードで、トレモロストロークの数を変更する音符の符頭を選択します。
2. プロパティパネルの「音符と休符 (Notes and Rests)」グループで、「単一符尾のトレモロ (Single stem tremolo)」をオンにします。
3. メニューから以下のいずれかのオプションを選択します。
  - なし (None)
  - 1 ストローク (One stroke)
  - 2 ストローク (Two strokes)
  - 3 ストローク (Three strokes)
  - 4 ストローク (Four strokes)
  - バズロール (Buzz roll)

### 結果

選択した音符のトレモロストロークの表示数が増減されます。

例



タイのつながりで2つめの音符が1つめより長い場合のトレモロストロークのデフォルトの数



2つめの音符のトレモロストロークの数を1つめに合わせて変更したもの

関連リンク

[プロパティパネル \(826 ページ\)](#)

[浄書ツールボックス \(554 ページ\)](#)

## トレモロの速さの変更



トレモロの速さは、入力後でもストロークの数を変更することで変更できます。

手順

1. 記譜モードで、速さを変更するトレモロの付いた音符を選択します。  
反復記号パネルの「**トレモロ (Tremolos)**」のセクションでは、選択した音符に対応するトレモロストロークの数のボタンが強調表示されています。

補足

単音トレモロと重音トレモロは別個に選択します。

2. 反復記号パネルの「**トレモロ (Tremolos)**」のセクションで、新たに選択するトレモロストロークの数のボタンをクリックします。  
たとえば、ストロークが2本の単音トレモロを入力するには「**単音トレモロ (2 ストローク) (Two Strokes Single-note Tremolo)**」をクリックし、ストロークが3本の重音トレモロを入力するには「**重音トレモロ (3 ストローク) (Three Strokes Multi-note Tremolo)**」をクリックします。

結果

選択した音符のトレモロストロークの本数が変更され、トレモロの速さも変化します。

関連リンク

[再生時のトレモロ \(1823 ページ\)](#)

## 2分音符の重音トレモロの外観に関する設定を変更する

2分音符の重音トレモロの記譜に関する慣習は複数あります。たとえば、符尾を結合する線を表示するなど、すべての2分音符の重音トレモロの記譜方法をプロジェクト全体で変更できます。

手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[E]** を押して「**浄書オプション (Engraving Options)**」を開きます。
2. カテゴリリストの「**トレモロ (Tremolos)**」をクリックします。
3. 「**重音のトレモロ (Multi-note Tremolos)**」のセクションで、「**2分音符のトレモロの外観 (Appearance of half note (minim) tremolos)**」から以下のいずれかのオプションを選択します。
  - **すべての線で符尾を結合 (All lines join stems)**

- 最も外側にある線で符尾を結合 (Outermost line joins stems)
- 符尾を結合しない (No lines join stems)

4. 「適用 (Apply)」をクリックしてから「閉じる (Close)」をクリックします。

結果

すべての2分音符の重音トレモロの外観に関するプロジェクト全体の設定が変更されます。

例



すべての線で符尾を結合 (All lines join stems)



最も外側にある線で符尾を結合 (Outermost line joins stems)



符尾を結合しない (No lines join stems)

## トレモロの削除

単音トレモロおよび重音トレモロは、適用される音符に影響することなく、それだけを音符から削除できます。

手順

1. 記譜モードで、トレモロストロークを削除する音符を選択します。
2. 記譜ツールボックスで「パネル (Panels)」をクリックし、「反復記号 (Repeat Structures)」をクリックして反復記号パネルを表示します。
3. 「トレモロ (Tremolos)」セクションで、選択したトレモロのタイプに応じて以下のボタンのいずれかまたは両方をクリックします。
  - 単音トレモロを削除 (Remove Single-note tremolo) 
  - 重音トレモロを削除 (Remove Multi-note tremolo) 

結果

対応するタイプのトレモロストロークが削除されます。

ヒント

リピートのポップオーバーに **0** または **clear** を入力してトレモロを削除することもできます。

関連リンク

[記譜ツールボックス \(224 ページ\)](#)

[反復記号パネル \(442 ページ\)](#)

[リピートのポップオーバー \(439 ページ\)](#)

## トレモロが付いた音符の位置

単音トレモロおよび重音トレモロが付いた音符は、通常の音符と同じ方法で異なる位置に移動できます。ただし、重音トレモロを小節線をまたいで移動させた場合、そのトレモロストロークは自動的に削除されます。

単音トレモロは、小節線を越えて異なる位置に移動しても、トレモロストロークに影響することはありません。音符の移動先の位置と拍子記号によっては、通常の音符と同様、必要に応じてタイのつながりに自動的に書き換えられる場合があります。

### 補足

単音トレモロが付いたタイのつながりを構成する音符がそれぞれ異なるデュレーションとなった場合、それぞれの音符に付くトレモロストロークの数も異なります。タイのつながりに含まれるそれぞれの音符のトレモロストロークの数は、個別に変更できます。

### 関連リンク

[音符/アイテムの位置の移動 \(502 ページ\)](#)

## トレモロストロークの移動

トレモロストロークは表示位置を上下に動かします。この操作は現在のレイアウトとフレームチェーンのみに対して、もしくはすべてのレイアウトとフレームチェーンに対して行なえます。

### 補足

- トレモロストロークは左右には動かさません。
- トレモロストロークは特定の音符に付属するため、リズム上の位置は変更できませんが、トレモロの付いた音符は異なる位置に移動できます。単音トレモロの付いた音符は小節線を越えられますが、重音トレモロの付いた音符が小節線を越えると、自動的にストロークが削除されます。

### 前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。
- 下ゾーンのツールバーで「プロパティ (Properties)」 を選択しておきます。
- 浄書ツールボックスで「グラフィックの編集 (Graphic Editing)」 を選択しておきます。
- ローカルのプロパティ変更に関して、適切なプロパティ範囲を選択しておきます。

### 手順

1. 浄書モードで、表示位置を移動するトレモロストロークを選択します。
2. 以下のいずれかの操作を行なって、トレモロストロークを移動させます。
  - これらを標準的な幅で上下に移動するには、**[Alt/Opt]** を押しながら対応する矢印キーを押します。たとえば、トレモロストロークを上を移動させるには、**[Alt/Opt]+[↑]** を押します。これにより、キーを押すごとにトレモロストロークが 1/8 スペース分移動します。
  - これらの上下の移動幅を大きくするには、通常のキーボードショートカットに加え **[Ctrl]/[command]** を押します (例: **[Ctrl]/[command]+[Alt/Opt]+[↑]**)。これにより、キーを押すごとにトレモロストロークが 1 スペース分移動します。
  - これらの上下の移動幅を中くらいにするには、通常のキーボードショートカットに加え **[Shift]** を押します (例: **[Shift]+[Alt/Opt]+[↑]**)。これにより、キーを押すごとにトレモロストロークが 1/2 スペース分移動します。

- これらの上下の移動幅を小さくするには、通常のキーボードショートカットに加え **[Ctrl]/[command]+[Shift]** を押します (例: **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[Alt/Opt]+[↑]**)。これにより、キーを押すごとにトレモロストロークが 1/32 スペース分移動します。
- アイテムをクリックして上下にドラッグします。

---

#### 結果

選択したトレモロストロークが上下に移動します。プロパティ範囲を「**ローカル (Locally)**」に設定している場合、この変更は現在のレイアウトおよびフレームチェーンのみに影響します。

#### 補足

- 重音トレモロのストロークを移動すると、それが付属する符尾の長さも変更されます。重音トレモロのストロークの角度は、トレモロの始まりおよび終わりの符尾の長さを変更することによって変えられます。
- トレモロストロークの表示位置を動かす際、最初は間違った方向に動いたり、予想より大きい幅で動いたりするように見える場合があります。これは、トレモロストロークを移動して位置が書き直される際に、その位置が一旦リセットされるからです。
- 重音トレモロのストロークの開始位置/終了位置を移動すると、プロパティパネルの「**連桁 (Beaming)**」グループにある以下のプロパティが自動的にオンになります。
  - 「**開始 Y オフセット (Start Y offset)**」は、対応する符尾の先端を動かすことにより、重音トレモロのストロークの開始位置を垂直方向に移動させます。
  - 「**終了 Y オフセット (End Y offset)**」は、対応する符尾の先端を動かすことにより、重音トレモロのストロークの終了位置を垂直方向に移動させます。

単音トレモロのストロークを移動すると、プロパティパネルの「**音符と休符 (Notes and Rests)**」グループにある「**トレモロ Y (Tremolo Y)**」が自動的にオンになります。これは単音トレモロのストロークを垂直に移動させます。

たとえば重音トレモロのストローク全体を上を移動させた場合、両方の符尾のハンドルが移動することにより、両方のプロパティがオンになります。これらのプロパティを使用し、数値フィールドの数値を変更することでもトレモロストロークを移動できます。ただし、プロパティパネルの関連するグループを表示させるには、トレモロストロークではなく符頭を選択する必要があります。

プロパティをオフにすると、選択した符尾のハンドル位置がリセットされ、それに従ってトレモロストロークもデフォルト位置にリセットされます。

---

#### 関連リンク

[プロパティ範囲の変更 \(828 ページ\)](#)

[浄書ツールボックス \(554 ページ\)](#)

[リピートとトレモロの入力方法 \(438 ページ\)](#)

[トレモロの削除 \(1821 ページ\)](#)

[浄書オプションでトレモロの設定をプロジェクト全体に適用する \(1817 ページ\)](#)

## 再生時のトレモロ

トレモロが音価が指定されないトレモロとして解釈されるためのトレモロストロークの最小数を指定することで、音価が指定されないトレモロの再生を制御できます。これには、音符に使用されるトレモロストロークの数と連桁線の数の両方が反映されます。

- これは「**再生オプション (Playback Options)**」の「**タイミング (Timing)**」ページで行なえます。

たとえば、3本のトレモロストロークが必要なようにオプションが設定されている場合、2本のトレモロストロークが付いた8分音符は、8分音符の連符1本も計算に含まれるため、音価が指定されないトレモロとして演奏されます。

また、音価が指定されないトレモロのデフォルトの音符の長さも指定できます。音符のデュレーションは、「**トレモロ (Tremolos)**」セクションで、テンポ 120 の 4 分音符の長さに対する割合として入力します。

トレモロストロークの数は、繰り返される音符の音価を決定します。たとえば、1本のストロークは8分音符を意味し、2本のストロークは16分音符を意味するといった具合に続きます。

サウンドライブラリーに音価が指定されないトレモロ再生のサンプルが含まれている場合、再生効果を使用した必要なサンプルがロードされます。サウンドライブラリーにサンプルが含まれていない場合は、Dorico Pro によってトレモロが生成されます。

#### ヒント

一方の声部にトレモロがあり、もう一方の声部にスラーがある場合などに、個々のインストゥルメントに対して声部の個別再生を有効にして、異なる声部の異なるサウンドを同時に聴くことができます。

---

#### 関連リンク

[再生効果 \(1046 ページ\)](#)

[「再生オプション \(Playback Options\)」 ダイアログ \(925 ページ\)](#)

[声部の個別再生の有効化 \(685 ページ\)](#)

## 再生時のトレモロのデュレーションの変更

再生時の音価が指定されないトレモロの各音符のデフォルトの長さ、再生時にトレモロの音価を指定しないことを示すために必要なトレモロストロークの最小数をどちらも変更できます。

---

#### 手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[P]** を押して「**再生オプション (Playback Options)**」を開きます。
2. カテゴリーリストの「**タイミング (Timing)**」をクリックします。
3. 必要に応じて、「**トレモロ (Tremolos)**」セクションで「**音価が指定されないトレモロを再生するストロークの最少数 (Minimum number of strokes for playback of unmeasured tremolos)**」の数値を変更します。
4. 「**音価が指定されないトレモロのデフォルトの長さ (Default unmeasured tremolo length)**」の数値を変更します。

たとえば、音価が指定されないトレモロの音符のデフォルトの長さを 0.5 秒に設定するには、数値を「**1**」に変更します。

#### ヒント

数値の横のいずれかの矢印の上にマウスを合わせると、現在の割合を小数で示す小さなボックスが表示されます。

---

5. 「**適用 (Apply)**」をクリックしてから「**閉じる (Close)**」をクリックします。
- 

#### 結果

音価が指定されないトレモロの再生時に各音が発音されるデュレーションがプロジェクト全体で変更されます。



「音価が指定されないトレモロを再生するストロークの最少数 (Minimum number of strokes for playback of unmeasured tremolos)」の数値を変更すると、再生時にトレモロが音価が指定されないトレモロとして扱われるために必要なトレモロストロークの最少数を変更されます。

# 連符

連符は、現在の拍に応じた通常の分割とは異なる分割数の拍のことで、連符は、通常の分割パターンで拍内に入る音符よりも多いまたは少ない音符を拍に収める場合に使用されます。



連符は、標準とは異なる形で分割されますが、通常の音符と同じリズムの記譜法を使用するため、デュレーションが異なることを明確に示すために印を付ける必要があります。連符の数や比率を示す数字は連符に含まれる音符の数を示し、連符の角括弧は連符で連結されない連符のデュレーションを示します。

Dorico Pro では、連符はどんなデュレーションの音符でも含めることができるコンテナのように動作します。たとえば、4分音符を8分音符の3連符の開始位置に入力できます。

連符が小節線をまたぐ場合、たとえば6連符を2つの3連符に分割するなど、自動的に正しく記譜されます。連符を分割することなく、小節線をまたがせることもできます。

連符の入力中にキーボードを使用して音符を入力する場合、Dorico Pro では連符の入力または音符の入力を終了するまで、指定した連符の入力が続きます。

連符の角括弧や数と比率を示す数字は、さまざまな組み合わせで表示できます。また、連符の数と比率を示す数字の横に連符の音価を示す音符記号を表示することもできます。

関連リンク

[連符の入力 \(281 ページ\)](#)

[連符の角括弧 \(1831 ページ\)](#)

[連符の数や比率を示す数字 \(1834 ページ\)](#)

[連符が小節線をまたぐことの許可/禁止の切り替え \(1829 ページ\)](#)

[音符/アイテムの位置の移動 \(502 ページ\)](#)

## 浄書オプションで連符の設定をプロジェクト全体に適用する

「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**連符 (Tuplets)**」ページで連符、連符の角括弧、および連符の数や比率の外観を設定しプロジェクト全体に適用できます。

「**連符 (Tuplets)**」ページのオプションでは、譜表や符頭に対する連符の角括弧の外観と角度および連符の角括弧と連符の数や比率を示す数字の位置を変更できます。

多くのオプションに、オプションを楽譜に適用したときにどのように表示されるかを示す図があります。

関連リンク

[「浄書オプション \(Engraving Options\)」 ダイアログ \(923 ページ\)](#)

## 入れ子状の連符

連符がより大きな連符の中に入っているものは入れ子状の連符と呼ばれ、複雑なリズムを表現する際にしばしば用いられます。Dorico Pro では、入れ子状の連符の階層数に制限はありません。

例





入れ子状の連符

## 入れ子状の連符の入力

入れ子状の連符は、空白の譜表に入力することも、既存の連符を選択してその中に入力することもできます。

手順

1. 記譜モードで音符を入力します。
2. 以下のいずれかの操作を行なって連符のポップオーバーを開きます。
  - **[:]** を押します。
  - 音符ツールボックスで「連符 (Tuplets)」 をクリックしたままにして、そのあと「x:y」 をクリックします。

キーボードを使って連符を入力すると、指定した連符として音符が自動的に入力されます。

補足

既存の連符に入れ子状の連符を入力する場合、手順 3 と 4 は飛ばします。

3. 必要に応じて、空白の譜表に入れ子状の連符を入力する場合は、ポップオーバーに外側の連符の比率を入力します。  
たとえば、「3:2q」と入力して 4 分音符の 3 連符を入力します。
4. 必要に応じて、**[Return]** を押してポップオーバーを閉じ、外側の連符の入力を確定します。
5. **[:]** を押して連符のポップオーバーを再度開きます。
6. 内側の連符の比率を入力します。  
たとえば、「5:4e」と入力して 8 分音符の 5 連符を入力します。
7. **[Return]** を押してポップオーバーを閉じ、内側の連符の入力を確定します。
8. 任意の音符を入力します。  
キーボードを使って連符を入力すると、指定した連符として音符が自動的に入力されます。
9. 以下のいずれかの操作を行なって、入れ子状の連符の入力を終了します。
  - 内側の連符の入力を終了して外側の連符の入力を続けるには、**+** を 1 回押します。
  - 両方の連符の入力を終了して標準の音符入力に戻るには、**+** を 2 回押すか矢印キーでキャレットを移動します。
  - 音符の入力を完全に停止するには、**[Esc]** を押します。


結果

音符は入れ子状の連符としてキャレット位置から入力されます。

内側の連符の倍数が外側の連符内にちょうど収まる場合は、連符を手動で停止するまで、指定された入れ子状の連符として音符入力が続けられます。

内側の連符の倍数が外側の連符内に収まらない場合、外側の連符内に収まる最後の音符を入力したところで内側の連符の入力が自動的に停止します。そのあとは手動で停止するまで、外側の連符の入力が続きます。

#### 補足

音符ツールボックスの「連符 (Tuplets)」 を長押ししたあとに、希望する連符をクリックすることで入れ子状の連符を入力できます。ただし、現在選択している音符のデュレーションに従って、クリックした内側の連符が外側の連符に入りきる必要があります。

#### 関連リンク

[連符のポップオーバー \(282 ページ\)](#)

[音符ツールボックス \(219 ページ\)](#)



[音符の入力 \(248 ページ\)](#)

[音符/休符のデュレーションの選択 \(285 ページ\)](#)

## 既存の音符を連符に変換する

既存の音符はどれでも連符に変換できます。これはたとえば、既存のデュレーション範囲内に追加の音符を入れ込む場合に使用できます。

#### 手順


1. 記譜モードで、連符に変換する単一の譜表上の音符を選択します。
2. 以下のいずれかの操作を行なって連符のポップオーバーを開きます。
  - **[:]** を押します。
  - 音符ツールボックスで「連符 (Tuplets)」 をクリックしたままにして、そのあと「x:y」 をクリックします。ポップオーバーには選択内容に基づき提案される比率が自動的に記入されます。
3. 必要に応じて、ポップオーバー内の比率を変更します。たとえば、「3:2」と入力して3連符を入力します。
4. **[Return]** を押してポップオーバーを閉じます。

#### 結果

選択した音符が、ポップオーバーの比率に従い連符に変換されます。たとえば、5つの8分音符を選択してポップオーバーに5:4と入力すると、選択した音符が8分音符の5連符に変わります。

選択した音符が指定した比率の1つの連符に収まる場合、連符は1つだけ作成されます。選択した音符が1つの連符に収まらない場合、必要となる数の連符が自動的に作成されます。

#### ヒント

また、音符ツールボックスの「連符 (Tuplets)」 をクリックしたままにしてから使用する連符をクリックすることでも、既存の音符を連符に変換できます。

#### 関連リンク

[連符の入力 \(281 ページ\)](#)

[既存の音符を装飾音符に変換する \(1329 ページ\)](#)

## 連符から標準の音符に変換する

既存の連符の音符はどれでも標準の音符に変換できます。たとえば、連符の8分音符から標準の8分音符に変換できます。

### 手順

1. 記譜モードで、標準の音符に変換する連符の角括弧、数/比率、またはガイドのみを選択します。

#### 補足

連符の符頭は選択してはいけません。

2. 選択した連符を変換することで、必要に応じて後続の音符を後ろにずらすには、**[I]** を押して「挿入 (Insert)」モードをオンにします。
3. 「挿入 (Insert)」モードをオンにした場合は、適切な挿入モードの範囲を選択します。
4. **[Backspace]** 又は **[Delete]** を押します。

### 結果

選択した連符が削除されます。連符に含まれていたすべての音符がアンスケールされ、記譜上は同じデュレーションの標準の音符として表示されます。たとえば、連符の4分音符は標準の4分音符に変わります。

挿入モードがオンになっている場合、連符内のすべての音符を保持することから必要となる追加のデュレーションを確保するために、後続の既存の音符はすべてリズム上の後ろの位置に押し出されます。挿入モードがオフになっている場合、選択している中で一番前の連符が展開され、後続の音符や連符に上書きされます。

### 関連リンク

[連符の数や比率を示す数字 \(1834 ページ\)](#)

[連符の角括弧 \(1831 ページ\)](#)

[音符の入力 \(248 ページ\)](#)

[装飾音符を標準の音符に変換する \(1329 ページ\)](#)

[挿入モード \(491 ページ\)](#)

[挿入モードの範囲 \(492 ページ\)](#)

## 連符が小節線をまたぐことの許可/禁止の切り替え

連符が小節線をまたぐことを許可できます。たとえば、ルネサンス音楽などでは、記譜に影響を与えることなくティックの小節線をまたいで連符を配置する場合があります。Dorico Pro の初期設定では、連符は小節線をまたぐと自動的に分割され、小節のデュレーションと連符の分割位置が明確に表示されません。

### 前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。
- 下ゾーンのツールバーで「プロパティ (Properties)」 を選択しておきます。
- 浄書モードの場合は、浄書ツールボックスで「グラフィックの編集 (Graphic Editing)」 を選択しておきます。

### 手順

1. 小節線をまたぐことの許可/禁止を切り替える連符の角括弧または数や比率の数字を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。

2. プロパティパネルの「連符 (Tuplets)」グループで、「小節線をまたぐ (Spans barline)」をオンまたはオフにします。

結果

「小節線をまたぐ (Spans barline)」をオンにすると選択した連符が小節線をまたぎ、オフにすると小節線の位置で自動的に分割されます。

例



小節線をまたぎ、2つの3連符として表示される16分音 小節線をまたぐことが許可された同じ6連符の6連符

手順終了後の項目

選択した連符の連桁を連結できます。

関連リンク

[小節線 \(1078 ページ\)](#)

[手動で音符に連桁を付ける \(1114 ページ\)](#)

[連符の角括弧 \(1831 ページ\)](#)

[連符の数や比率を示す数字 \(1834 ページ\)](#)

[浄書ツールボックス \(554 ページ\)](#)

## 連符の連桁

連符の連桁は、連符ではない音符の連桁と同様に、連符の音符を連桁で連結したものです。連符の連桁には、他の種類の連桁と同様の変更を加えることができます。

8分音符の2連符は連桁で括り、連符の数や比率を示す数字だけで記譜できるため、角括弧は必要ありません。



6/8 における 8 分音符での標準的な分割



6/8 の中を 8 分音符で 4 つに分割する

関連リンク

[連桁 \(1112 ページ\)](#)

[連桁内の連符 \(1130 ページ\)](#)

[不完全連桁の方向を変更する \(1128 ページ\)](#)

[連桁の傾斜を個別に変更する \(1120 ページ\)](#)

## 連符の角括弧

連符の角括弧は、連符内の音符を角括弧の中に収めることで3連符の4分音符のように連桁で連結されない連符のデュレーションを示します。

例



4/4 における 4 分音符での標準的な分割



4/4 の中を 4 分音符で 6 つに分割する

連符の角括弧の位置と形は、浄書モードで個別に微調整できます。

連符の角括弧にはそれぞれ 4 つのハンドルがあり、ハンドルを移動することで位置や形を変更できます。



- 連符の角括弧の開始位置/終了位置を設定するには、上部の 2 つのハンドルを動かします。「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**連符 (Tuplets)**」ページで連符の角度の設定が「**常に水平 (Always horizontal)**」に設定されている場合でも、ハンドルを個別に動かして連符の角括弧に角度を付けることができます。
- 連符の角括弧のフックの長さを設定するには、下部の 2 つのハンドルを動かします。片方のハンドルを動かすと、両方のフックの長さが変更されます。

連符の角括弧のデフォルトの位置をプロジェクト全体で変更するには、「**浄書オプション (Engraving Options)**」 > 「**連符 (Tuplets)**」 > 「**水平位置 (Horizontal Position)**」で設定を行ないます。

### 補足

プロパティパネルの「**連符 (Tuplets)**」グループにあるプロパティを使用して、連符の角括弧を個別に編集できます。ただし、「**連符 (Tuplets)**」グループが表示されるのは、連符の数/比率または角括弧を選択した場合のみです。連符内の音符、あるいは連符と連符の数/比率または角括弧内の音符を選択した場合は表示されません。

関連リンク

[「浄書オプション \(Engraving Options\)」ダイアログ \(923 ページ\)](#)


[アイテムの表示位置の移動 \(652 ページ\)](#)


[ライン \(1551 ページ\)](#)

## 連符の大括弧を表示/非表示にする

連符の大括弧を個別に表示/非表示にしたり、連符の数や比率を示す数字とは関係なく表示したりできます。この操作は現在のレイアウトとフレームチェーンのみに対して、もしくはすべてのレイアウトとフレームチェーンに対して行なえます。



前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。
- 下ゾーンのツールバーで「**プロパティ (Properties)**」を選択しておきます。

- 浄書モードの場合は、浄書ツールボックスで「**グラフィックの編集 (Graphic Editing)**」を選択しておきます。
- ローカルのプロパティ変更に関して、適切なプロパティ範囲を選択しておきます。

---

#### 手順

1. 非表示にする連符の角括弧、または角括弧を表示する連符のガイドを選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルで、「**連符 (Tuplets)**」グループにある「**大括弧 (ブラケット)**」を有効化します。
3. 以下のいずれかのオプションを選択します。
  - 「**非表示 (Hidden)**」
  - 「**表示 (Shown)**」

---

#### 結果

選択した連符の角括弧が表示または非表示になります。プロパティ範囲を「**ローカル (Locally)**」に設定している場合、この変更は現在のレイアウトおよびフレームチェーンのみに影響します。

非表示にした各連符の位置、つまり数/比率または角括弧の付いていない連符の位置にガイドが表示されます。

#### 手順終了後の項目

連符の表示を完全に非表示にする場合は、連符の数や比率を示す数字も非表示にする必要があります。

#### 関連リンク

[ガイド \(490 ページ\)](#)

[連符の数や比率を示す数字の表示/非表示 \(1835 ページ\)](#)

[浄書ツールボックス \(554 ページ\)](#)

[プロパティ範囲の変更 \(828 ページ\)](#)

[プロパティ設定を別のレイアウト/フレームチェーンにコピーする \(825 ページ\)](#)

## 譜表に対する連符の角括弧の位置を変更する


連符の角括弧や数と比率を示す数字は、譜表の上または下、もしくは譜表間から、表示位置を個別に選択できます。この操作は現在のレイアウトとフレームチェーンのみに対して、もしくはすべてのレイアウトとフレームチェーンに対して行なえます。

#### 前提条件




- 下ゾーンを表示しておきます。
- 下ゾーンのツールバーで「**プロパティ (Properties)**」を選択しておきます。
- 浄書モードの場合は、浄書ツールボックスで「**グラフィックの編集 (Graphic Editing)**」を選択しておきます。
- ローカルのプロパティ変更に関して、適切なプロパティ範囲を選択しておきます。

---

#### 手順

1. 譜表に対する位置を変更する連符の角括弧と連符の数や比率を示す数字を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「**連符 (Tuplets)**」グループで、「**位置 (Placement)**」をオンにします。
3. 以下のいずれかのオプションを選択します。
  - **上 (Above)** 



- 下 (Below) 
- 上の譜表にまたがる (Cross-staff above) 
- 下の譜表にまたがる (Cross-staff below) 

#### 結果

選択した連符の角括弧の位置が変更されます。プロパティ範囲を「ローカル (Locally)」に設定している場合、この変更は現在のレイアウトおよびフレームチェーンのみに影響します。

#### ヒント

- 「位置 (Placement)」をオフにすると、選択した連符がデフォルトの位置に戻ります。
- **[F]** を押すことで、選択した連符を譜表の上または下に表示するか、上または下の譜表にまたがるように表示するかを切り替えることもできます。
- 声楽の譜表に対する連符の角括弧の位置をプロジェクト全体で変更するには、「浄書オプション (Engraving Options)」 > 「連符 (Tuplets)」 > 「位置 (Placement)」で設定を行ないます。

#### 関連リンク


[タッキングインデックスのプロパティ \(656 ページ\)](#)

[「浄書オプション \(Engraving Options\)」ダイアログ \(923 ページ\)](#)




## 連符の角括弧の終了位置を変更する

個々の音符に対する連符の角括弧の終了位置は、個別に変更できます。この操作は現在のレイアウトとフレームチェーンのみに対して、もしくはすべてのレイアウトとフレームチェーンに対して行なえます。

#### 前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。
- 下ゾーンのツールバーで「プロパティ (Properties)」 を選択しておきます。
- 浄書モードの場合は、浄書ツールボックスで「グラフィックの編集 (Graphic Editing)」 を選択しておきます。
- ローカルのプロパティ変更に関して、適切なプロパティ範囲を選択しておきます。

#### 手順

1. 終了位置を変更する連符の角括弧を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「連符 (Tuplets)」グループで、「終了位置 (End position)」をオンにします。
3. 以下のいずれかのオプションを選択します。
  - 最後の音符の右側で終了 (End at right-hand side of final note) 
  - 次に続く音符の直前で終了 (End immediately before following note) 
  - 最後の連符のグループ位置で終了 (End at position of final tuplet division) 

#### 結果

選択した連符の角括弧の終了位置が変更されます。プロパティ範囲を「ローカル (Locally)」に設定している場合、この変更は現在のレイアウトおよびフレームチェーンのみに影響します。

#### ヒント

- プロパティをオフにすると、選択した連符が初期設定に戻ります。

- すべての連符の数や比率を示す数字の水平位置をプロジェクト全体で変更するには、「**浄書オプション (Engraving Options)**」 > 「**連符 (Tuplets)**」 > 「**水平位置 (Horizontal Position)**」で設定を行ないます。

#### 関連リンク

[「浄書オプション \(Engraving Options\)」ダイアログ \(923 ページ\)](#)

[浄書ツールボックス \(554 ページ\)](#)

[プロパティ範囲の変更 \(828 ページ\)](#)

[プロパティ設定を別のレイアウト/フレームチェーンにコピーする \(825 ページ\)](#)

[アイテムの表示位置の移動 \(652 ページ\)](#)

## 連符の角括弧を強制的に水平にする

個々の連符の角括弧の角度設定を水平に変更すると、その設定をプロジェクト全体の設定より優先させることができます。この操作は現在のレイアウトとフレームチェーンのみに対して、もしくはすべてのレイアウトとフレームチェーンに対して行なえます。

#### 前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。
- 下ゾーンのツールバーで「**プロパティ (Properties)**」を選択しておきます。
- 浄書モードの場合は、浄書ツールボックスで「**グラフィックの編集 (Graphic Editing)**」を選択しておきます。
- ローカルのプロパティ変更に関して、適切なプロパティ範囲を選択しておきます。

#### 手順

1. 角度を変更する連符の角括弧を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「**連符 (Tuplets)**」グループで、「**連符を強制的に水平にする (Force horizontal)**」をオンにします。

#### 結果

プロパティをオンにすると、選択した連符の角括弧が水平になります。プロパティ範囲を「**ローカル (Locally)**」に設定している場合、この変更は現在のレイアウトおよびフレームチェーンのみに影響します。

プロパティをオフにすると、選択した連符の角括弧に、連符の角度に関するプロジェクト全体の設定が再度適用されます。

#### ヒント

すべての連符の角括弧に角度を付けるか、常に水平に表示するかの設定をプロジェクト全体で変更するには、「**浄書オプション (Engraving Options)**」 > 「**連符 (Tuplets)**」 > 「**角括弧 (Brackets)**」で設定を行ないます。

## 連符の数や比率を示す数字

連符の数と比率は非常に似ています。3連符の場合は3というように、ともに連符に含まれる長さの等しい音符の数を示します。しかし連符の比率はさらに、3連符であれば3:2というように、連符のデュレーションに対応する標準の音符の数も表示します。

さらに、連符の比率はユニットの音価を示す音符のグリフを表示することもできます。



比率と音価を示した連符

連符の数や比率を示す数字は、記譜された音符の数をどのように現在のテンポおよび拍子に入れこむかを演奏者に分かりやすく示します。

Dorico Pro では、「**浄書オプション (Engraving Options)**」にある「**連符 (Tuplets)**」ページで、プロジェクト全体の連符の数字と比率の外観 (使用されるフォントなど) を変更できます。この設定より優先される形で個別の連符の外観を変更することもできます。



#### 補足

プロパティパネルの「**連符 (Tuplets)**」グループにあるプロパティを使用して、連符の数や比率を個別に編集できます。ただし、「**連符 (Tuplets)**」グループが表示されるのは、連符の数/比率または角括弧を選択した場合のみです。連符内の音符、あるいは連符と連符の数/比率または角括弧内の音符を選択した場合は表示されません。





## 連符の数や比率を示す数字の表示/非表示

連符の数や比率を示す数字を個別に表示/非表示にしたり、連符の大括弧とは関係なく表示したりできます。この操作は現在のレイアウトとフレームチェーンのみに対して、もしくはすべてのレイアウトとフレームチェーンに対して行なえます。連符の数や比率を示す数字を表示する場合、連符ごとに個別に、プロジェクト全体の設定より優先される形で、異なるタイプを選択できます。

前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。
- 下ゾーンのツールバーで「**プロパティ (Properties)**」を選択しておきます。
- 浄書モードの場合は、浄書ツールボックスで「**グラフィックの編集 (Graphic Editing)**」を選択しておきます。
- ローカルのプロパティ変更に関して、適切なプロパティ範囲を選択しておきます。

手順

1. 数/比率を非表示にする、または変更する連符の角括弧、あるいは数/比率を表示する連符のガイドを選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「**連符 (Tuplets)**」グループで、「**数字 (Number)**」をオンにします。
3. 以下のいずれかのオプションを選択します。
  - なし (None) 
  - 数字 (Number) 
  - 比率 (Ratio) 
  - 比率 + 音符 (Ratio+note) 

結果

選択した連符の、数や比率を示す数字の表示が変更されます。「**なし (None)**」を選択すると、選択した連符の数や比率を表わす数字が非表示になります。プロパティ範囲を「**ローカル (Locally)**」に設定している場合、この変更は現在のレイアウトおよびフレームチェーンのみに影響します。

非表示にした各連符の位置、つまり数/比率または角括弧の付いていない連符の位置にガイドが表示されます。

#### ヒント

- 「**数字 (Number)**」をオフにすると、選択した連符はデフォルトの設定に戻ります。
- すべての連符の数や比率の表示タイプをプロジェクト全体で変更するには、「**浄書オプション (Engraving Options)**」 > 「**連符 (Tuplets)**」 > 「**数字と比率 (Number and Ratio)**」で設定を行いません。

#### 手順終了後の項目

連符の表示を完全に非表示にする場合は、連符の角括弧も非表示にする必要があります。

#### 関連リンク

[連符の大括弧を表示/非表示にする \(1831 ページ\)](#)

[「浄書オプション \(Engraving Options\)」ダイアログ \(923 ページ\)](#)

[浄書ツールボックス \(554 ページ\)](#)

[プロパティ範囲の変更 \(828 ページ\)](#)

[プロパティ設定を別のレイアウト/フレームチェーンにコピーする \(825 ページ\)](#)

## 連符の数字や比率の位置を個別に変更する

連符の表示上またはリズム上の水平方向の中央位置のいずれかに、個々の連符の数字や比率をプロジェクト全体の設定より優先される形で表示できます。この操作は現在のレイアウトとフレームチェーンのみに対して、もしくはすべてのレイアウトとフレームチェーンに対して行なえます。

#### 前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。
- 下ゾーンのツールバーで「**プロパティ (Properties)**」を選択しておきます。
- 浄書モードの場合は、浄書ツールボックスで「**グラフィックの編集 (Graphic Editing)**」を選択しておきます。
- ローカルのプロパティ変更に関して、適切なプロパティ範囲を選択しておきます。

#### 手順

1. 数字や比率の位置を変更する連符、または対象の連符のガイドを選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「**連符 (Tuplets)**」グループで、「**中央 (Center)**」をオンにします。
3. 以下のいずれかのオプションを選択します。
  - **ビジュアル (Visual)**
  - **リズム (Rhythmic)**

#### 結果

選択した連符の数や比率を示す数字の水平位置が変更されます。プロパティ範囲を「**ローカル (Locally)**」に設定している場合、この変更は現在のレイアウトおよびフレームチェーンのみに影響します。

- 「**ビジュアル (Visual)**」は、連符の数や比率を示す数字の位置を、連符の表示上の中央位置にします。
- 「**リズム (Rhythmic)**」は、連符の数や比率を示す数字の位置を、連符のリズム上の中央位置にします (表示上は中央にならない場合があります)。

#### ヒント

- プロパティをオフにすると、連符はプロジェクト全体の設定に戻ります。

- すべての連符の数や比率を示す数字の水平位置をプロジェクト全体で変更するには、「**浄書オプション (Engraving Options)**」 > 「**連符 (Tuplets)**」 > 「**数字と比率 (Number and Ratio)**」で設定を行ないます。

例



視覚的な中央位置



リズム上の中央位置

関連リンク

[連符の角括弧 \(1831 ページ\)](#)

[アイテムの表示位置の移動 \(652 ページ\)](#)

[ガイド \(490 ページ\)](#)

## 連符の数字や比率に使用するフォントの変更

初期設定では、連符の数字や比率はフィンガリングの外観に似た太字で斜体のアラビア数字フォントで描かれます。連符の数字や比率に使用されるフォントをプロジェクト全体で変更できます。これは、音価の指示の外観にも影響します。

手順

- [Ctrl]/[command]+[Shift]+[E]** を押して「**浄書オプション (Engraving Options)**」を開きます。
- カテゴリリストの「**連符 (Tuplets)**」をクリックします。
- 「**数字と比率 (Number and Ratio)**」セクションの「**連符の数字のスタイル (Tuplet digit style)**」で、以下のいずれかのオプションを選択します。
  - ボールド (Bold weight)
  - レギュラー (Regular weight)
  - プレーンフォント (Plain font)
- 「**適用 (Apply)**」をクリックしてから「**閉じる (Close)**」をクリックします。

結果

プロジェクト全体の連符の数字や比率に使用されるフォントが変更されます。

ヒント

フォントサイズなど、連符に使用するフォントスタイルの各種設定は、「**フォントスタイルを編集 (Edit Font Styles)**」ダイアログで編集できます。

- 「**ボールド (Bold weight)**」と「**レギュラー (Regular weight)**」はともに、SMuFL に準拠する必要がある「**連符用フォント (Tuplet Font)**」スタイルに基づきます。
- 「**プレーンフォント (Plain font)**」は、あらゆるテキストフォントを使用できる「**連符のプレーンフォント (Tuplet Plain Font)**」スタイルを使用します。

関連リンク

[「フォントスタイルを編集 \(Edit Font Styles\)」ダイアログ \(930 ページ\)](#)

# 無音程打楽器

無音程打楽器とは、特定のピッチにチューニングされていないすべての打楽器を含む表現です。これにはバスドラム、ギロ、マラカス、シンバル、シェイカーなどが含まれます。

Dorico Pro は無音程打楽器に対する包括的なサポートを提供しています。複数のインストゥルメントの楽譜を打楽器キットにまとめ、レイアウトごとに異なる表示を行なうための柔軟なオプションを備えています。また、打楽器キットはドラムセットとしても定義でき、これにより音符のデフォルトの符尾方向が変更されます。

また無音程打楽器の演奏技法固有の符頭をカスタマイズしたり、新規に作成したりもできます。これにより、打楽器キットのそれぞれのインストゥルメントで、演奏技法ごとに異なる符頭を使用して、音符の演奏方法を指示できます。

関連リンク

- [打楽器キットとドラムセット \(156 ページ\)](#)
- [打楽器キットの表示タイプ \(1848 ページ\)](#)
- [打楽器キットの譜表ラベル \(1698 ページ\)](#)
- [打楽器キットをドラムセットとして定義 \(162 ページ\)](#)
- [無音程打楽器の音符を入力する \(263 ページ\)](#)
- [無音程打楽器の演奏技法 \(1839 ページ\)](#)
- [演奏技法固有の符頭 \(1840 ページ\)](#)
- [符頭に括弧を表示する \(1408 ページ\)](#)
- [打楽器エディター \(844 ページ\)](#)

## 打楽器キットと個々の打楽器インストゥルメント

打楽器キットでは、1人のプレーヤーに同時に割り当てられた複数の無音程打楽器をいくつかの方法で表示できます。キットに組み込まれていない複数の打楽器は、初期設定では現在演奏中のインストゥルメントのみ表示する1本の線上に表示されます。

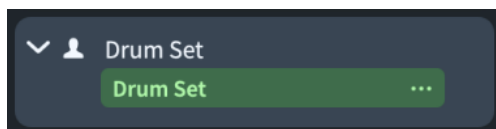
打楽器キットの一般的なものとして、ドラムセットが挙げられます。ドラムセットは、フレームに取り付けられた複数の個別のインストゥルメントによって構成され、記譜は通常、標準の五線譜上に行なわれます。それぞれのインストゥルメントには譜表上の固有の位置や、場合によっては固有の符頭タイプが割り振られます。同様に、Dorico Pro ではボンゴのペアもデフォルトの打楽器キットです。これは2つのボンゴドラムから構成され、通常2線のグリッド上に記譜されます。小さい方が上の線、大きい方が下の線に表示されます。

プレーヤーに割り当てられたインストゥルメントが1つか2つしかない場合は、個々の打楽器を個別に表示の方が適切な場合もあります。ただし、打楽器をキットに組み込むと楽譜表示の柔軟性が向上し、レイアウトごとに個別に変化させられます。また、キットではインストゥルメントのラベルもより強力に制御できます。

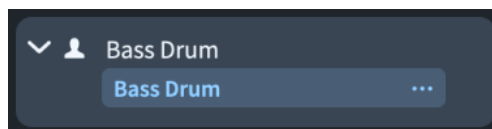
インストゥルメントの変更がオンになっているレイアウトでは、有音程楽器と同様に、無音程打楽器から無音程打楽器へと自動的に切り替わります。

設定モードの「**プレーヤー (Players)**」パネルにあるプレーヤーカードのキットインストゥルメントは緑色で表示されますが、打楽器キットに属さない個々の打楽器インストゥルメントは、他のインストゥルメントと同様水色で表示されます。

例



設定モードの「プレイヤー (Players)」パネルで打楽器キットが割り当てられたシングルプレイヤー



設定モードの「プレイヤー (Players)」パネルで無音程打楽器が割り当てられたシングルプレイヤー

---

関連リンク

[プレイヤーパネル \(121 ページ\)](#)

[インストゥルメント \(143 ページ\)](#)

[打楽器キットとドラムセット \(156 ページ\)](#)

[インストゥルメントの変更の許可/禁止を切り替える \(151 ページ\)](#)

[Groove Agent SE からドラムセットパターンを読み込む \(104 ページ\)](#)

## 無音程打楽器の演奏技法

無音程打楽器の演奏技法は、個別のインストゥルメントおよび打楽器キット内の両方において、異なる符頭のデザインや位置を使用して、さまざまな形で記譜できます。

無音程打楽器の演奏技法は、以下のいずれかの方法で表示できます。

- 標準の譜表線の上下に音符を配置するなど、演奏技法固有の符頭を使用する
- アーティキュレーションまたは単音トレモロを追加する
- 有音程楽器と同じ方法で演奏技法を追加する

たとえば、演奏技法としてハイハットにオープンまたはクローズの演奏技法を追加したり、スネアドラムのサイドスティックの音符には演奏技法固有の X 形の符頭を使用したりできます。

音符の入力中に、無音程打楽器インストゥルメントに対して演奏技法固有の符頭を選択したり、既存の音符の演奏技法固有の符頭を変更したりできます。演奏技法は音符の入力中に入力することも、既存の楽譜に追加することもできます。

関連リンク

[演奏技法 \(1536 ページ\)](#)

[アーティキュレーション \(1064 ページ\)](#)

[トレモロ \(1816 ページ\)](#)

[「打楽器キットを編集 \(Edit Percussion Kit\)」ダイアログ \(157 ページ\)](#)

[無音程打楽器の音符を入力する \(263 ページ\)](#)

[演奏技法固有の符頭の変更 \(1843 ページ\)](#)

[一線譜による打楽器の譜表の上下の距離を変更する \(1846 ページ\)](#)

[アーティキュレーションと単音のトレモロの組み合わせのサウンドの再生を定義する \(1045 ページ\)](#)

[打楽器キットの書き出し \(167 ページ\)](#)

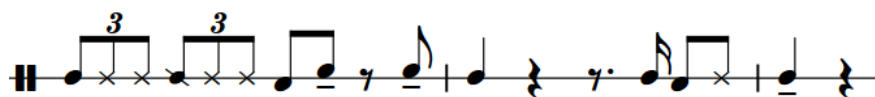
[打楽器キットの読み込み \(167 ページ\)](#)

[演奏技法、ペダル線、弦の指示記号、ハーブペダルダイアグラムの入力方法 \(398 ページ\)](#)

## 演奏技法固有の符頭

演奏技法固有の符頭は符頭のデザインと位置を使用して、無音程打楽器における個々のインストゥルメントおよび打楽器キット内の両方において、さまざまな演奏技法を示します。

たとえば、スネアドラムの音符に付くサイドスティックの音符は、一般的にX形の符頭で記譜されます。他の演奏技法は、一線譜の上または下の譜表位置を使用することもあります。



スネアドラムで使用されるさまざまな演奏技法固有の符頭

無音程打楽器インストゥルメントごとに定義された演奏技法固有の符頭と譜表上の位置のセットは、「**打楽器の演奏技法 (Percussion Instrument Playing Techniques)**」ダイアログで編集できます。

音符の入力中に、無音程打楽器インストゥルメントに対して演奏技法固有の符頭を選択したり、既存の音符の演奏技法固有の符頭を変更したりできます。

関連リンク

[新しい演奏技法固有の符頭の作成 \(1843 ページ\)](#)

[演奏技法固有の符頭の変更 \(1843 ページ\)](#)

[無音程打楽器の音符を入力する \(263 ページ\)](#)

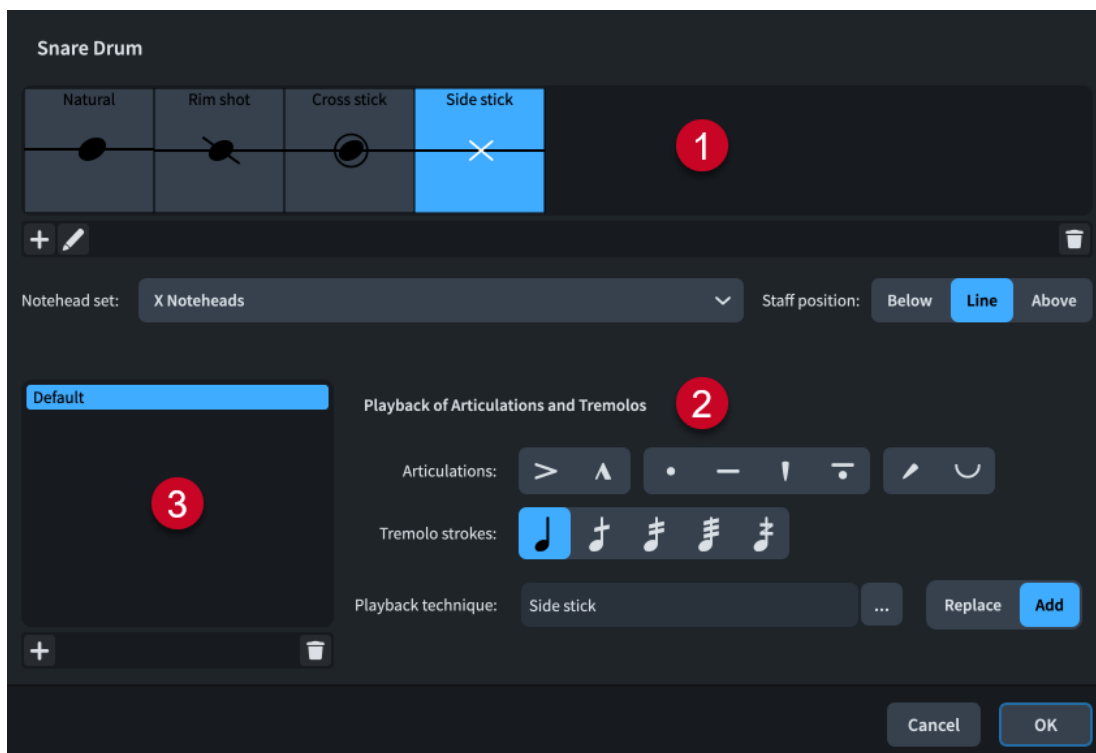
## 「打楽器の演奏技法 (Percussion Instrument Playing Techniques)」ダイアログ

「**打楽器の演奏技法 (Percussion Instrument Playing Techniques)**」ダイアログでは、無音程打楽器ごとに定義された演奏技法固有の符頭セットを編集できます。

以下のいずれかの操作を行なって、「**打楽器の演奏技法 (Percussion Instrument Playing Techniques)**」ダイアログを開きます。

- 個別の打楽器インストゥルメントの場合、設定モードの「**プレーヤー (Players)**」パネルでインストゥルメントラベルのインストゥルメントメニュー  をクリックして、メニューから「**打楽器の演奏技法を編集 (Edit Percussion Playing Techniques)**」を選択します。
- 打楽器キットに属する打楽器インストゥルメントの場合、設定モードの「**プレーヤー (Players)**」パネルでキットのインストゥルメントラベルのインストゥルメントメニュー  をクリックし、「**打楽器キットを編集 (Edit Percussion Kit)**」を選択して「**打楽器キットを編集 (Edit Percussion Kit)**」ダイアログを開きます。メイン編集領域で演奏技法を編集するインストゥルメントを選択して、「**打楽器の演奏技法を編集 (Edit Percussion Playing Techniques)**」をクリックします。
- プロジェクトに追加していない個別の打楽器インストゥルメントの場合、「**インストゥルメントを編集 (Edit Instruments)**」ダイアログで、インストゥルメントリストの打楽器インストゥルメントを選択し、「**インストゥルメント (Instrument)**」セクションの「**打楽器の演奏技法を編集 (Edit Percussion Playing Techniques)**」をクリックします。





### 1 演奏技法固有の符頭のリスト

選択した打楽器インストゥルメントに現在定義されている主要な演奏技法固有の符頭を表示し、それぞれの演奏技法に対応する符頭セットと譜表位置を示します。

無音程打楽器には、新規に演奏技法固有の符頭を追加できます。通常、打楽器インストゥルメントには少なくとも「ナチュラル (Natural)」の演奏技法が定義され、これは通常デフォルトの符頭セットを使用して表示されます。

### 2 アーティキュレーションとトレモロが付いた場合の再生 (Playback of Articulations and Tremolos)

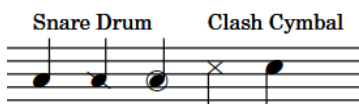
アーティキュレーションとトレモロストロークの組み合わせが、演奏技法の再生にどう影響または上書きするか定義できます。

たとえば、演奏技法固有の符頭にアクセントを追加した場合、まったく別の演奏技法を再生するよう定義できます。

### 3 アーティキュレーションおよびトレモロの上書きのリスト

定義されたアーティキュレーションおよびトレモロの上書きがあればここに表示されます。

例



スネアドラムの演奏技法固有の符頭 3 種類と、クラッシュシンバルの演奏技法固有の符頭 2 種類

関連リンク

[「インストゥルメントを編集 \(Edit Instruments\)」ダイアログ \(950 ページ\)](#)

[演奏技法固有の符頭の変更 \(1843 ページ\)](#)

[新しい演奏技法固有の符頭の作成 \(1843 ページ\)](#)

[演奏技法固有の符頭の外観の上書き \(1845 ページ\)](#)

[アーティキュレーションと単音のトレモロの組み合わせのサウンドの再生を定義する \(1045 ページ\)](#)

[無音程打楽器の音符を入力する \(263 ページ\)](#)

[打楽器キットの書き出し \(167 ページ\)](#)

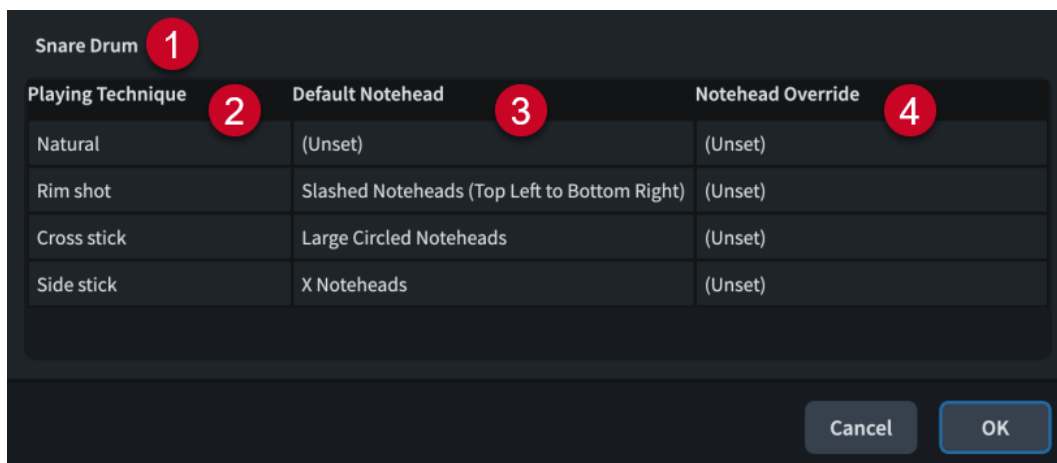
[打楽器キットの読み込み \(167 ページ\)](#)

## 「打楽器の符頭の上書き (Override Percussion Noteheads)」 ダイアログ

「打楽器の符頭の上書き (Override Percussion Noteheads)」 ダイアログは、選択したインストゥルメントに対し「打楽器の演奏技法 (Percussion Instrument Playing Techniques)」 ダイアログで定義された演奏技法固有の符頭をリスト表示し、それぞれの演奏技法にマッピングされた符頭タイプを表示します。ここで、五線譜キット表示においてのみ符頭を上書きできます。

たとえば異なるインストゥルメントにおいては、同じ符頭が異なる演奏技法を示す場合もあります。これらのインストゥルメントを同じ五線譜上に表示すると、混乱をきたす場合があります。そこで五線譜キット表示においてのみ、「打楽器の符頭の上書き (Override Percussion Noteheads)」 ダイアログを使用して、インストゥルメント間で音符の区別を付けられるようにできます。

- 「打楽器の符頭の上書き (Override Percussion Noteheads)」 ダイアログを開くには、「打楽器キットを編集 (Edit Percussion Kit)」 ダイアログでインストゥルメントを選択して、「符頭を編集 (Edit Noteheads)」 をクリックします。



「打楽器の符頭の上書き (Override Percussion Noteheads)」 ダイアログは以下で構成されます。

- 1 インストゥルメント名**  
ダイアログに符頭をリスト表示させている打楽器の名前を表示します。
- 2 演奏技法 (Playing Technique)**  
表の対応する行の符頭に関連付けられた演奏技法を表示します。
- 3 デフォルトの符頭 (Default Notehead)**  
表の対応する行の演奏技法がデフォルトで使用する符頭を表示します。
- 4 符頭の上書き (Notehead Override)**  
表の対応する行の演奏技法が五線譜表示で使用する上書きの符頭を表示します。  
上書きの符頭は、対応するフィールドをクリックして、メニューから他の符頭を選択することで変更できます。

関連リンク

[「打楽器キットを編集 \(Edit Percussion Kit\)」 ダイアログ \(157 ページ\)](#)

[符頭セットのデザイン \(1389 ページ\)](#)

[カスタムの符頭セット \(967 ページ\)](#)

[演奏技法固有の符頭の外観の上書き \(1845 ページ\)](#)

[演奏技法固有の符頭の変更 \(1843 ページ\)](#)

[無音程打楽器の音符を入力する \(263 ページ\)](#)

## 演奏技法固有の符頭の変更

無音程打楽器に属する音符を入力したあとに、その音符の演奏技法固有の符頭を変更できます。たとえば、選択したスネアドラムの音符をサイドスティック奏法に切り替えて、対応する符頭に変更するなどです。

前提条件

演奏技法を変更する無音程打楽器に、「**打楽器の演奏技法 (Percussion Instrument Playing Techniques)**」のダイアログで演奏技法固有の符頭を2つ以上設定しておきます。

手順

1. 記譜モードで、演奏技法固有の符頭を変更する音符を選択します。

### ヒント

五線譜またはグリッド表示を使用して打楽器キットの音符を1つ選択すると、使用中の演奏技法がリズムグリッドの上に表示されます。

2. 以下のいずれかの操作を行なって、選択した無音程打楽器の演奏技法を利用できる中から切り替えます。
  - 上方向に移動させるには、**[Shift]+[Alt/Opt]+[↑]** を押します。
  - 下方向に移動させるには、**[Shift]+[Alt/Opt]+[↓]** を押します。

結果

選択した無音程打楽器の音符の演奏技法が変更されます。符頭のデザインや譜表上の位置も変更される場合があります。

関連リンク

[演奏技法固有の符頭 \(1840 ページ\)](#)

[無音程打楽器の演奏技法 \(1839 ページ\)](#)

[「打楽器の演奏技法 \(Percussion Instrument Playing Techniques\)」ダイアログ \(1840 ページ\)](#)

[無音程打楽器の音符を入力する \(263 ページ\)](#)

[打楽器キットの別のインストゥルメントに音符を移動する \(507 ページ\)](#)

[打楽器エディター \(844 ページ\)](#)

[ドラムスティックツールを使用した音符の入力 \(846 ページ\)](#)

[インストゥルメント/演奏技法間で打楽器の音符を移動する \(850 ページ\)](#)

[アーティキュレーションと単音のトレモロの組み合わせのサウンドの再生を定義する \(1045 ページ\)](#)

[演奏技法 \(1536 ページ\)](#)

[演奏技法、ペダル線、弦の指示記号、ハーブペダルダイアグラムの入力方法 \(398 ページ\)](#)

[符頭に括弧を表示する \(1408 ページ\)](#)

[個々の符頭のデザインの変更 \(1394 ページ\)](#)

[一線譜による打楽器の譜表の上下の距離を変更する \(1846 ページ\)](#)

## 新しい演奏技法固有の符頭の作成

無音程打楽器インストゥルメントについて新規の演奏技法固有の符頭を定義し、保存してプロジェクト内の同種の打楽器インストゥルメントで使用できます。また演奏技法固有の符頭はプロジェクトから書き出し、他のプロジェクトに読み込めます。

前提条件

カスタムの符頭セットを使用する場合は、その符頭セットを作成しておきます。

#### 手順

1. 以下のいずれかの操作を行なって、「**打楽器の演奏技法 (Percussion Instrument Playing Techniques)**」ダイアログを開きます。
  - 個別の打楽器インストゥルメントの場合、設定モードの「**プレーヤー (Players)**」パネルでインストゥルメントラベルのインストゥルメントメニュー  をクリックして、メニューから「**打楽器の演奏技法を編集 (Edit Percussion Playing Techniques)**」を選択します。
  - 打楽器キットに属する打楽器インストゥルメントの場合、設定モードの「**プレーヤー (Players)**」パネルでキットのインストゥルメントラベルのインストゥルメントメニュー  をクリックし、「**打楽器キットを編集 (Edit Percussion Kit)**」を選択して「**打楽器キットを編集 (Edit Percussion Kit)**」ダイアログを開きます。メイン編集領域で演奏技法を編集するインストゥルメントを選択して、「**打楽器の演奏技法を編集 (Edit Percussion Playing Techniques)**」をクリックします。
  - プロジェクトに追加していない個別の打楽器インストゥルメントの場合、「**インストゥルメントを編集 (Edit Instruments)**」ダイアログで、インストゥルメントリストの打楽器インストゥルメントを選択し、「**インストゥルメント (Instrument)**」セクションの「**打楽器の演奏技法を編集 (Edit Percussion Playing Techniques)**」をクリックします。
2. 演奏技法固有の符頭のリストで、「**演奏技法を追加 (Add Playing Technique)**」  をクリックします。
3. 開いたダイアログで、使用する演奏技法を選択します。
4. 「**OK**」をクリックして、選択した演奏技法を新しい演奏技法固有の符頭として追加します。
5. 演奏技法固有の符頭に使用する演奏技法を「**符頭セット (Notehead set)**」メニューから選択します。

#### 補足

「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**音符 (Notes)**」ページで定義されたデフォルトの符頭セットを使用するには、「**符頭セット (Notehead set)**」を「**(未設定) ((Unset))**」のままにします。

6. 「**譜表からの位置 (Staff position)**」で以下のいずれかのオプションを選択します。
  - 下 (Below)
  - ライン (Line)
  - 上 (Above)

#### 結果

選択した無音程打楽器インストゥルメントに演奏技法固有の符頭が新規に追加されます。

#### 関連リンク

[アーティキュレーションと単音のトレモロの組み合わせのサウンドの再生を定義する \(1045 ページ\)](#)

[カスタムの符頭セットの作成 \(973 ページ\)](#)

[「インストゥルメントを編集 \(Edit Instruments\)」ダイアログ \(950 ページ\)](#)

[「浄書オプション \(Engraving Options\)」ダイアログ \(923 ページ\)](#)

[演奏技法、ペダル線、弦の指示記号、ハープペダルダイアグラムの入力方法 \(398 ページ\)](#)


[一線譜による打楽器の譜表の上下の距離を変更する \(1846 ページ\)](#)

## 演奏技法固有の符頭の外観の上書き

五線譜キット表示において、あるインストゥルメントと他のインストゥルメントが同じ譜表位置を共有する場合、それらを明確に区別できるように、演奏技法固有の符頭の外観の上書きが必要な場合があります。

---

### 手順

1. 設定モードの「**プレーヤー (Players)**」パネルで、演奏技法固有の符頭を上書きするキットを割り当てられたプレーヤーのカードを展開します。
  2. キットインストゥルメントラベルでインストゥルメントメニュー  をクリックし、「**打楽器キットを編集 (Edit Percussion Kit)**」を選択して「**打楽器キットを編集 (Edit Percussion Kit)**」ダイアログを開きます。
  3. 符頭を上書きするインストゥルメントを選択します。
  4. 「**符頭を編集 (Edit Noteheads)**」をクリックして、「**打楽器の符頭の上書き (Override Percussion Noteheads)**」ダイアログを開きます。
  5. 「**符頭の上書き (Notehead Override)**」の列で対象となる演奏技法をクリックし、メニューから新規の符頭タイプを選択します。
  6. 「**OK**」をクリックして変更内容を保存し、ダイアログを閉じます。
- 

### 結果

五線譜キット表示において、選択したインストゥルメントの演奏技法固有の符頭が上書きされます。

### 補足

これはグリッドおよび一線譜を使用するインストゥルメントのキット表示タイプにおける演奏技法固有の符頭の外観には影響しません。

---

### 関連リンク

[プレーヤーパネル \(121 ページ\)](#)

[「打楽器キットを編集 \(Edit Percussion Kit\)」ダイアログ \(157 ページ\)](#)

[「打楽器の符頭の上書き \(Override Percussion Noteheads\)」ダイアログ \(1842 ページ\)](#)

[「インストゥルメントを編集 \(Edit Instruments\)」ダイアログ \(950 ページ\)](#)

## 一線譜による打楽器の譜表

個々のインストゥルメントでもキットに含まれるものでも、無音程打楽器に属する音符は、一線譜による打楽器の譜表に表示できます。

初期設定では、音符は譜表線上に配置されますが、演奏技法固有の符頭を使用することで、譜表線の上下に音符を配置できます。

### 関連リンク

[打楽器キットの表示タイプ \(1848 ページ\)](#)

[演奏技法固有の符頭 \(1840 ページ\)](#)

[「打楽器キットを編集 \(Edit Percussion Kit\)」ダイアログ \(157 ページ\)](#)

## 一線譜による打楽器の譜表の上下の距離を変更する

一線譜による打楽器の譜表の上下に配置された演奏技法固有の符頭と譜表線間の距離を変更できます。距離を長くするほど、線上の音符と線の上下の音符との差がより顕著になります。

---

### 手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[E]** を押して「**浄書オプション (Engraving Options)**」を開きます。
  2. カテゴリリストの「**打楽器 (Percussion)**」をクリックします。
  3. 「**一線譜を使用する打楽器 (Single-line Percussion)**」セクションで、「**上下の音符の線からの距離 (Distance of above/below notes from line)**」の値を変更します。
  4. 「**適用 (Apply)**」をクリックしてから「**閉じる (Close)**」をクリックします。
- 

### 関連リンク

[「浄書オプション \(Engraving Options\)」ダイアログ \(923 ページ\)](#)

[無音程打楽器の演奏技法 \(1839 ページ\)](#)

[新しい演奏技法固有の符頭の作成 \(1843 ページ\)](#)

## 一線譜による打楽器の譜表上の音符のデフォルトの符尾方向を変更する

装飾音符も含めて、一線譜による打楽器の譜表上のすべての音符のデフォルトの符尾方向をプロジェクト全体で変更できます。

---

### 手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[E]** を押して「**浄書オプション (Engraving Options)**」を開きます。
  2. カテゴリリストの「**打楽器 (Percussion)**」をクリックします。
  3. 「**一線譜を使用する打楽器 (Single-line Percussion)**」セクションの「**符尾のデフォルトの向き (Default stem direction)**」で、以下のいずれかのオプションを選択します。
    - **上 (Up)**
    - **下 (Down)**
  4. 「**装飾音符は符尾のデフォルトの向きに従う (Grace notes follow default stem direction)**」をオン/オフにします。
  5. 「**適用 (Apply)**」をクリックしてから「**閉じる (Close)**」をクリックします。
- 

### 関連リンク

[「浄書オプション \(Engraving Options\)」ダイアログ \(923 ページ\)](#)

[符尾の方向 \(1416 ページ\)](#)

[譜表の第3線上にある音符のデフォルトの符尾方向を変更する \(1418 ページ\)](#)

[装飾音符 \(1327 ページ\)](#)

## 無音程打楽器のフローごとの記譜オプション

打楽器キットの音符の記譜に関するフローごとに個別の設定は、「**記譜オプション (Notation Options)**」の「**打楽器 (Percussion)**」ページで変更できます。

たとえば、打楽器キットのすべての音符を複声部ではなく単一の声部で記譜することを選択できます。

---

### 関連リンク

[「記譜オプション \(Notation Options\)」ダイアログ \(919 ページ\)](#)

## 打楽器キットの音符の記譜記号

打楽器キットでは、通常の音符と同様に音符に記譜記号を追加してさまざまなリズムを使用できますが、その作用は異なる場合があります。

### アーティキュレーション

打楽器インストゥルメントでは、キットの表示タイプにかかわらず、他のインストゥルメントと同じ方法でアーティキュレーションを追加できます。

ただし、グリッドおよび五線譜の表示では、追加したアーティキュレーションはいずれも、同じ声部の同じ位置にあるすべてのインストゥルメントに適用されます。たとえば、スネアドラムとトムトムの音符がリズム上の同じ位置にあるとして、これにアクセントを追加した場合、これらは初期設定ではいずれも下向きの符尾の声部で表示されるため、アクセントは両方のインストゥルメントに追加されます。

一線譜を使用するインストゥルメントの表示タイプに切り替えると、音符それぞれに適用されるアクセントが確認できます。

### 連符

グリッドおよび五線譜のキット表示タイプに記譜する場合、連符は同じ声部のすべてのインストゥルメントに追加されます。

インストゥルメントごとに個別にクロスリズムを入力する場合は、一線譜を使用するインストゥルメントの表示タイプに切り替えます。グリッドまたは五線譜のキット表示タイプに戻すと、Dorico Pro はリズム上の矛盾を解消しようとします。

- 競合する連符: 連符のうち1つがデュレーションの競合を解消するために追加の声部に移動されません。
- あるインストゥルメントの連符の音符と、もう1つのインストゥルメントの連符ではない音符が、リズム上の同じ位置で開始する場合: 連符ではない音符が連符の一部であるかのように表示されません。これは、この音符の開始位置の位置が連符の開始位置と一致するため、元の記譜内容と発音は同じになるからです。
- あるインストゥルメントの連符の音符ともう1つのインストゥルメントの連符ではない音符がリズム上の同じ位置で開始しない場合、または他の連符ではない音符が連符の途中で開始する場合: 連符ではない音符がデュレーションの競合を解消するために追加の声部に移動されます。

#### 補足

グリッドおよび五線譜のキット表示タイプにおいて連符を削除すると、音符が同じ声部に属するすべてのインストゥルメントから連符が削除されます。

---

### 演奏技法

たとえばクローズのハイハットに+、オープンハイハットに○などのように、演奏技法を入力できます。これは他のインストゥルメントと同様、音符の入力中に行なうことも、既存の楽譜にあとから追加することもできます。

演奏技法は、そこに同じ声部の他のインストゥルメントがある場合でも、選択した音符が属するインストゥルメントのみに追加されます。

### 打楽器のスティッキング

Dorico Pro には現在、打楽器のスティッキングに関する専用の機能は実装されていません。ただし、キットのすべての表示タイプにおいて、打楽器のスティッキングを表現するために歌詞機能を使用できます。

- グリッド/五線譜の表示タイプ: スティックを表示するインストゥルメントの音符を選択します。
- 一線譜を使用するインストゥルメントの表示タイプ: スティックを表示するインストゥルメントに直接歌詞を入力します。

関連リンク

[アーティキュレーションの入力 \(298 ページ\)](#)

[連符の入力 \(281 ページ\)](#)

[個々の音符のピッチの変更 \(518 ページ\)](#)

[演奏技法、ペダル線、弦の指示記号、ハープペダルダイアグラムの入力方法 \(398 ページ\)](#)

[歌詞の入力 \(424 ページ\)](#)

## 打楽器キットにおける強弱記号

強弱記号は他のアイテムとは異なり、グリッドや五線譜の表示タイプと一線譜を使用するインストゥルメントの表示タイプとの間では共有されません。一線譜を使用するインストゥルメントの表示タイプにおいて追加された強弱記号は、グリッドや五線譜の表示に切り替えると表示されなくなります。

一線譜を使用するインストゥルメントの表示においては、大量の異なる強弱記号がリズム上の同じ位置にあることが許容されますが、グリッドおよび五線譜の表示では1か所に集約する必要があり、これが困難であるためです。そのため、グリッドおよび五線譜の表示タイプにおいては、一線譜を使用するインストゥルメントの表示タイプとは別個に強弱記号を追加できます。

関連リンク

[強弱記号の入力方法 \(337 ページ\)](#)

## 打楽器キットの表示タイプ

打楽器キットは3つの異なる表示タイプで表示でき、プロジェクトのレイアウトごとに個別に設定できます。

### 補足

グリッドや五線譜の表示タイプと一線譜を使用するインストゥルメントの表示タイプとの間では、強弱記号は共有されません。一線譜を使用するインストゥルメントの表示タイプにおいて追加された強弱記号は、グリッドや五線譜の表示に切り替えると表示されなくなります。

各表示タイプの外観/構造は「**打楽器キットを編集 (Edit Percussion Kit)**」のダイアログで個別に編集できます。たとえば、五線譜表示でインストゥルメントの並び順を変更しても、これは同じ打楽器キットのグリッド表示のインストゥルメントの並び順に影響しません。

### 五線譜

キットのインストゥルメントは五線譜上に表示されます。譜表のそれぞれの線および間へのインストゥルメントが表示されるか指定できます。キットの名前を示す1つの譜表レベルが表示されます。

「**打楽器キットを編集 (Edit Percussion Kit)**」のダイアログの編集エリアの左側に並ぶ数字は、譜表位置に対応します。たとえば0の位置は五線譜の第3線、1の位置は第3間、-2の位置は第2線といった具合です。

太くて黒い線は5本の譜表線を示し、その上下の灰色の線は加線の位置を示します。各インストゥルメントはそれぞれの譜表位置に表示されます。





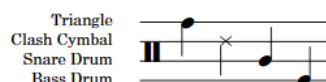
## グリッド

キットのインストゥルメントはグリッド上に表示され、それぞれのインストゥルメントに1本ずつの線が与えられます。各線間の間隔の大きさはカスタマイズできます。各インストゥルメントの譜表ラベルは、通常の譜表ラベルより小さなフォントで表示されます。

「**打楽器キットを編集 (Edit Percussion Kit)**」のダイアログの編集エリアの右側に並ぶ数字は、各楽器の線を隔てる譜表スペースの数に対応します。初期設定では、グリッドのすべてのインストゥルメントは2スペース離れています。

リスト上にインストゥルメントが並ぶ順番は、それらがスコア上に表示される順番に一致します。

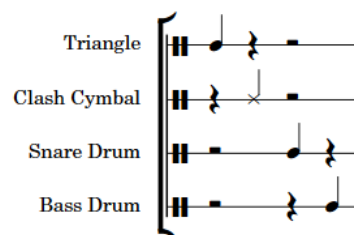
初期設定では、グリッド内の各インストゥルメントにはそれぞれの譜表ラベルが付き、それぞれの線に垂直方向で揃えられますが、隣り合うインストゥルメント同士をグループ化すると、グループごとに1つのラベルを表示させられます。



## 一線譜を使用するインストゥルメント

キットのインストゥルメントは、それぞれの線上で個別のインストゥルメントとして表示されます。各インストゥルメントには標準サイズの譜表ラベルが表示されます。

「**打楽器キットを編集 (Edit Percussion Kit)**」ダイアログの編集領域にはすべてのインストゥルメントが、スコアに表示される順番でリスト表示されます。



## 関連リンク

[打楽器キットとドラムセット \(156 ページ\)](#)

[「打楽器キットを編集 \(Edit Percussion Kit\)」ダイアログ \(157 ページ\)](#)

[「インストゥルメントを編集 \(Edit Instruments\)」ダイアログ \(950 ページ\)](#)

[打楽器キットの譜表ラベル \(1698 ページ\)](#)

[演奏技法固有の符頭の外観の上書き \(1845 ページ\)](#)

[「打楽器の符頭の上書き \(Override Percussion Noteheads\)」ダイアログ \(1842 ページ\)](#)

[「レイアウトオプション \(Layout Options\)」ダイアログ \(917 ページ\)](#)

## 打楽器キットの表示タイプを変更する

打楽器キットの表示タイプは、レイアウトごと、またそれぞれ別個に変更できます。たとえば、フルスコアレイアウトでは五線譜を使用しつつ打楽器のパートレイアウトではグリッドを使用したり、フルスコアレイアウトの中で同時に異なる表示タイプの打楽器キット2つを使用したりできます。

### 手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[L]** を押して「**レイアウトオプション (Layout Options)**」を開きます。
2. 「**レイアウト (Layouts)**」リストから、打楽器キットの表示タイプを変更するレイアウトを選択します。

初期設定では、楽譜領域で選択されているものと同じレイアウトが選択された状態のダイアログが表示されます。他のレイアウトを選択するには、アクションバーの選択オプションを使用するか、

複数のレイアウトをまたぐようにクリックしてドラッグするか、**[Shift]** を押しながらか隣接するレイアウトをクリックするか、**[Ctrl]/[command]** を押しながらか個々のレイアウトをクリックします。

3. カテゴリーリストの「**プレーヤー (Players)**」をクリックします。
4. 「**打楽器 (Percussion)**」セクションで、プロジェクト内の打楽器キットごとに以下のいずれかのオプションを選択します。
  - **五線譜 (5-line Staff)**
  - **グリッド (Grid)**
  - **一線譜を使用するインストゥルメント (Single-line Instruments)**
5. 「**適用 (Apply)**」をクリックしてから「**閉じる (Close)**」をクリックします。

#### 結果

選択したレイアウト内で選択した打楽器キットの表示タイプが変更されます。

## 打楽器のレジェンド

打楽器のレジェンドは、五線譜の表示タイプを使用するとき、譜表内で使用する打楽器のリストを表示するものです。打楽器のレジェンドは、譜表に現れるすべてのインストゥルメントを含めることも、設定範囲内で演奏されるインストゥルメントのみ表示して、特定の位置で演奏するインストゥルメントをプレーヤーに提示することもできます。

The image shows a musical score on a five-line staff. Above the staff, there are labels for percussion instruments: Temple Block 1, Temple Block 2, Temple Block 3, Temple Block 4, Temple Block 5, Suspended Cymbal, Side Drum, and Kick Drum. The score includes a dynamic marking 'f' and various rhythmic notations such as eighth and sixteenth notes, rests, and accents.

演奏される2つのインストゥルメントの打楽器のレジェンド

初期設定では、打楽器のレジェンドは譜表の上に表示されます。打楽器のレジェンドの譜表に対する位置を個別に変更できます。また、打楽器のレジェンドと他のアイテムとの間のプロジェクト全体のデフォルト距離は、「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**打楽器 (Percussion)**」ページでも変更できます。

打楽器レジェンドのフォントサイズやスタイルなど、パラグラフスタイルに関するさまざまな設定は、「**パラグラフスタイル (Paragraph Styles)**」ダイアログで変更できます。

#### 補足

- 打楽器のレジェンドは、その位置で演奏されるインストゥルメントがないか、グリッドの表示タイプを使用するレイアウトの場合は、ガイドとして表示されます。一線譜を使用するインストゥルメントの表示タイプを使用するレイアウトにおいては、打楽器のレジェンドは一切表示されません。
- 打楽器のレジェンドは、その打楽器が追加されたレイアウトにのみ表示されます。複数のレイアウトに打楽器のレジェンドを表示するには、各レイアウトに打楽器を追加する必要があります。
- 打楽器のレジェンドのガイドの表示/非表示は、「**ビュー (View)**」 > 「**ガイド (Signposts)**」 > 「**打楽器のレジェンド (Percussion Legends)**」を選択して切り替えられます。

#### 関連リンク

[譜表に対するアイテムの位置の変更 \(474 ページ\)](#)

- [「浄書オプション \(Engraving Options\)」 ダイアログ \(923 ページ\)](#)
- [「パラグラフスタイル \(Paragraph Styles\)」 ダイアログ \(932 ページ\)](#)
- [無音程打楽器のフローごとの記譜オプション \(1846 ページ\)](#)
- [「打楽器キットを編集 \(Edit Percussion Kit\)」 ダイアログ \(157 ページ\)](#)
- [打楽器キットの表示タイプ \(1848 ページ\)](#)
- [フローの開始位置でインストゥルメントの変更ラベルを表示/非表示にする \(155 ページ\)](#)
- [打楽器キットの譜表ラベル \(1698 ページ\)](#)

## 五線譜キット表示への打楽器のレジェンドの追加

特定の位置に打楽器のレジェンドを追加して、キットに含まれるインストゥルメントを表示できます。打楽器のレジェンドはキット内のすべてのインストゥルメントを表示することも、特定の範囲内で演奏されているインストゥルメントのみ表示することもできます。

### 補足

打楽器のレジェンドは、打楽器キットが五線譜の表示タイプを使用するとき、そのキットが追加されたレイアウトにのみ表示されます。複数のレイアウトに打楽器のレジェンドを表示するには、各レイアウトに打楽器を追加する必要があります。

---

### 手順

1. 記譜モードで、以下のいずれかを選択します。
  - すべてのインストゥルメントの打楽器のレジェンドを追加する譜表上の位置にあるアイテム
  - 演奏されているインストゥルメントの打楽器のレジェンドを表示する範囲の音符またはアイテム
2. 以下のいずれかの操作を行なって打楽器レジェンドを追加します。
  - 「編集 (Edit)」 > 「記譜 (Notations)」 > 「打楽器 (Percussion)」 > 「すべてのインストゥルメントのレジェンド (Legend for All Instruments)」を選択します。
  - 「編集 (Edit)」 > 「記譜 (Notations)」 > 「打楽器 (Percussion)」 > 「演奏されているインストゥルメントのレジェンド (Legend for Sounding Instruments)」を選択します。

### ヒント

このオプションはコンテキストメニューでも選択できます。

---

### 結果

キットに打楽器のレジェンドが追加されます。これは、キットが五線譜の表示タイプを使用するとき、譜表の上に表示されます。これはすべてのインストゥルメントか、選択範囲内の音符で使用されるインストゥルメントのみのいずれかによるリストを、五線譜に表示される順番で上から下まで表示します。

### 関連リンク



- [打楽器キットの表示タイプ \(1848 ページ\)](#)
- [打楽器のレジェンドのテキストの編集 \(1853 ページ\)](#)

## 打楽器のレジェンドのタイプの変更

五線譜表示では、打楽器のレジェンドのタイプを変更して、すべてのインストゥルメントを表示するか、演奏中のインストゥルメントだけ表示するか選択できます。

### 前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。

- 下ゾーンのツールバーで「プロパティ (Properties)」を選択しておきます。
- 浄書モードの場合は、浄書ツールボックスで「グラフィックの編集 (Graphic Editing)」を選択しておきます。

---

#### 手順

1. タイプを変更する打楽器のレジェンドを個別に選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「打楽器のレジェンド (Percussion Legends)」グループで、「レジェンドタイプ (Legend type)」をオンにします。

#### 補足

演奏されているインストゥルメントによる打楽器のレジェンドでは、このプロパティはすでにオンになっています。

3. 以下のいずれかのオプションを選択します。
  - レジェンド (Legend)
  - 演奏上のインストゥルメント (Sounding instruments)

---

#### 結果

選択したレジェンドのタイプが変更されます。

#### 関連リンク

[打楽器のレジェンド \(1850 ページ\)](#)

[打楽器キットの表示タイプ \(1848 ページ\)](#)

[五線譜キット表示への打楽器のレジェンドの追加 \(1851 ページ\)](#)

[浄書ツールボックス \(554 ページ\)](#)

## 演奏されている打楽器インストゥルメントのレジェンドの範囲の変更

演奏されている打楽器インストゥルメントのレジェンドは、その範囲に含まれる位置で演奏されるインストゥルメントのみ表示するため、範囲を変更してレジェンドに含まれるインストゥルメントの数を変更できます。

---

#### 手順

1. 記譜モードで、範囲を変更する演奏されているインストゥルメントによる打楽器のレジェンドを選択します。
2. 以下のいずれかの操作を行なって、現在のリズムグリッドの間隔に従って範囲を変更します。
  - 範囲全体を右に進めるには、**[Alt/Opt]+[→]** を押します。
  - 範囲全体を左に進めるには、**[Alt/Opt]+[←]** を押します。
  - 範囲を延長するには、**[Shift]+[Alt/Opt]+[→]** を押します。
  - 範囲を縮小するには、**[Shift]+[Alt/Opt]+[←]** を押します。

#### 補足

キーボードショートカットを使用すると、終端のみを動して長さを調節できます。

- 開始位置または終了位置の丸いハンドルをクリックして、任意の位置にドラッグします。

#### 結果

選択した演奏されているインストゥルメントによる打楽器のレジェンドの範囲が、現在のリズムグリッドの間隔に従い変更されます。

打楽器のレジェンドに含まれるインストゥルメントは、範囲内で演奏されるインストゥルメントを反映する形で自動的に更新されます。

#### 関連リンク

[リズムグリッド](#) (241 ページ)

## 打楽器のレジェンドにインストゥルメントの略称を表示する

打楽器のレジェンドは初期設定ではインストゥルメントの正式名称を使用しますが、スペース節約のために略称も使用できます。

#### 前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。
- 下ゾーンのツールバーで「プロパティ (Properties)」を選択しておきます。
- 浄書モードの場合は、浄書ツールボックスで「グラフィックの編集 (Graphic Editing)」を選択しておきます。

---

#### 手順

1. インストゥルメント名の長さを変更する打楽器のレジェンドを選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「打楽器のレジェンド (Percussion Legends)」グループで、「略称を使用 (Use short names)」をオンにします。

---

#### 結果

選択した打楽器のレジェンドにインストゥルメントの略称が表示されます。

「略称を使用 (Use short names)」をオフにすると、選択した打楽器レジェンドがインストゥルメントの名前全体を表示するよう戻ります。

#### 関連リンク

[打楽器キットの譜表ラベル](#) (1698 ページ)

[打楽器のレジェンド](#) (1850 ページ)

[打楽器キットの表示タイプ](#) (1848 ページ)

[五線譜キット表示への打楽器のレジェンドの追加](#) (1851 ページ)

[浄書ツールボックス](#) (554 ページ)

## 打楽器のレジェンドのテキストの編集

初期設定では、打楽器のレジェンドには五線譜表示で使用される打楽器のインストゥルメント名が縦に並べて表示されます。打楽器のレジェンドに表示されるテキストを変更して、カスタムテキストを表示できます。

#### 前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。
- 下ゾーンのツールバーで「プロパティ (Properties)」を選択しておきます。
- 浄書モードの場合は、浄書ツールボックスで「グラフィックの編集 (Graphic Editing)」を選択しておきます。

#### 手順

1. 編集する打楽器のレジェンドを選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
  2. プロパティパネルの「**打楽器のレジェンド (Percussion Legends)**」グループで、「**カスタムテキスト (Custom text)**」をオンにします。
  3. 入力フィールドに任意のテキストを入力します。
  4. **[Return]** を押します。
- 

#### 結果

選択した打楽器のレジェンドに表示されるテキストが変更されます。

#### 関連リンク

- [浄書ツールボックス \(554 ページ\)](#)
- [ゾーンの表示/非表示の切り替え \(48 ページ\)](#)
- [プロパティパネル \(826 ページ\)](#)

## 打楽器のレジェンドの背景の塗りつぶし

打楽器のレジェンドは、たとえば小節線をまたぐときの読みやすさを確保するために、個別に背景を空白で塗りつぶせます。この操作は現在のレイアウトとフレームチェーンのみに対して、もしくはすべてのレイアウトとフレームチェーンに対して行なえます。

#### 前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。
  - 下ゾーンのツールバーで「**プロパティ (Properties)**」を選択しておきます。
  - 浄書ツールボックスで「**グラフィックの編集 (Graphic Editing)**」を選択しておきます。
  - ローカルのプロパティ変更に関して、適切なプロパティ範囲を選択しておきます。
- 

#### 手順

1. 浄書モードで、背景を塗りつぶす打楽器のレジェンドを選択します。
  2. プロパティパネルの「**打楽器のレジェンド (Percussion Legends)**」グループで、「**背景を塗りつぶし (Erase background)**」をオンにします。
- 

#### 結果

選択した打楽器のレジェンドの背景が削除されます。プロパティ範囲を「**ローカル (Locally)**」に設定している場合、この変更は現在のレイアウトおよびフレームチェーンのみに影響します。

「**背景を塗りつぶし (Erase background)**」をオフにすると、選択した打楽器のレジェンドがデフォルトの背景の塗りつぶしが無い状態に戻ります。

#### 手順終了後の項目

打楽器のレジェンドの塗りつぶしの余白の幅は、四方それぞれについて変更できます。

#### 関連リンク

- [浄書ツールボックス \(554 ページ\)](#)
- [プロパティパネル \(826 ページ\)](#)
- [プロパティ範囲の変更 \(828 ページ\)](#)
- [プロパティ設定を別のレイアウト/フレームチェーンにコピーする \(825 ページ\)](#)

## 打楽器のレジェンドの塗りつぶしの余白を変更する

打楽器のレジェンドの塗りつぶしの余白を個別に変更できます。余白の幅は打楽器のレジェンドの四方それぞれについて個別に変更できます。この操作は現在のレイアウトとフレームチェーンのみに対して、もしくはすべてのレイアウトとフレームチェーンに対して行なえます。

### 前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。
- 下ゾーンのツールバーで「プロパティ (Properties)」を選択しておきます。
- 浄書ツールボックスで「グラフィックの編集 (Graphic Editing)」を選択しておきます。
- ローカルのプロパティ変更に関して、適切なプロパティ範囲を選択しておきます。

---

### 手順

1. 浄書モードで、塗りつぶしの余白を変更する打楽器のレジェンドを選択します。
2. プロパティパネルの「打楽器のレジェンド (Percussion Legends)」グループで、「塗りつぶしの余白 (Erasure padding)」の2つのプロパティの一方または両方をオンにします。
  - 「L」は打楽器のレジェンドの左側の余白の幅を変更します。
  - 「R」は打楽器のレジェンドの右側の余白の幅を変更します。
  - 「上 (T)」は打楽器のレジェンドの上側の余白の幅を変更します。
  - 「下 (B)」は打楽器のレジェンドの下側の余白の幅を変更します。
3. 数値フィールドの値を変更します。

---

### 結果

値を大きくすると余白が増え、値を小さくすると余白が減ります。プロパティ範囲を「ローカル (Locally)」に設定している場合、この変更は現在のレイアウトおよびフレームチェーンのみに影響します。

## 打楽器キットにおける声部

Dorico Pro は、複数の打楽器が五線譜またはグリッドとして表示される場合、それぞれが異なるリズムを持つ場合でも、楽譜をより少数の声部に自動的にまとめます。初期設定では、楽譜は上向き声部1つと下向き声部1つにまとめられます。

または、「記譜オプション (Notation Options)」の「打楽器 (Percussion)」のページでキットがドラムセットと定義されている場合は、打楽器キットのすべての音符を1つ声部として記譜することも選択できます。これはオーケストラの打楽器で稀に使用される慣習です。

またこのオプションは打楽器キット内の個々の音符およびインストゥルメント全体について、個別に上書きできます。

同じ声部の音符は異なるデュレーションでは記譜できず、初期設定ではかわりにタイを使用して記譜されます。タイを使用しないようにするには、長い方の音符を切り詰めてそれぞれの音符の開始位置のみ表示することを「記譜オプション (Notation Options)」の「打楽器 (Percussion)」ページで選択します。

打楽器キットのインストゥルメントのうちいずれかが連符を使用する場合、他のインストゥルメントの音符が同じ連符の構造を持つか、開始位置が連符の開始位置と同じ単音であるなど競合しない場合は、声部を共有できます。この場合連符ではない単音は、連符の1音めと同じデュレーションの音符として記譜されます。

同じ声部に属する異なるインストゥルメントの音符が競合する場合、Dorico Pro は競合がなくなるまで動的に声部を追加し、そこに残りの音符を記譜します。




#### 関連リンク

- [「打楽器キットを編集 \(Edit Percussion Kit\)」ダイアログ \(157 ページ\)](#)
- [打楽器キットの音符の記譜記号 \(1847 ページ\)](#)
- [打楽器キットをドラムセットとして定義 \(162 ページ\)](#)
- [打楽器キットにスラッシュ符頭の声部を追加する \(1628 ページ\)](#)

## 打楽器キット内のインストゥルメントの符尾の方向/声部を指定する

個々の打楽器キット内の各インストゥルメントの符尾の方向を指定できます。またそれぞれがどの声部に属するか設定でき、打楽器キット内でどのインストゥルメントが声部を共有するか制御できます。

#### 手順

- 設定モードの「**プレーヤー (Players)**」パネルで、符尾方向および声部を指定するインストゥルメントが属するキットを割り当てられたプレーヤーのカードを展開します。
- キットインストゥルメントラベルでインストゥルメントメニュー  をクリックし、「**打楽器キットを編集 (Edit Percussion Kit)**」を選択して「**打楽器キットを編集 (Edit Percussion Kit)**」ダイアログを開きます。
- ダイアログ内で、符尾方向および声部を指定するインストゥルメントを選択します。
- 「**符尾の向きと声部 (Stem direction and voice)**」に対し、以下のいずれかの符尾の方向を選択します。
  - **上向きの符尾** 
  - **下向きの符尾** 
- 「**符尾の向きと声部 (Stem direction and voice)**」の値を変更して声部を指定します。

#### 補足

符尾が上向きの声部と符尾が下向きの声部を切り替えるだけの場合、声部番号はそれぞれ両方の符尾方向に対応するため、声部番号を変更する必要はありません。

- 「**適用 (Apply)**」をクリックしてから「**閉じる (Close)**」をクリックします。

#### 結果

選択したインストゥルメントのデフォルトの符尾方向および声部が変更されます。


#### 関連リンク

- [プレーヤーパネル \(121 ページ\)](#)
- [「打楽器キットを編集 \(Edit Percussion Kit\)」ダイアログ \(157 ページ\)](#)

## 打楽器キットの個々の音符の声部を変更する

ドラムセットを含めた打楽器キットにおいて、個々の音符のデフォルトの声部を上書きできます。

#### 前提条件

浄書モードの場合は、浄書ツールボックスで「**グラフィックの編集 (Graphic Editing)**」  を選択しておきます。

#### 手順

- 声部を上書きする音符を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
- 「**編集 (Edit)**」 > 「**記譜 (Notations)**」 > 「**打楽器 (Percussion)**」 > 「**声部を変更 (Change Voice)**」 > [声部] を選択します。



たとえば、音符を符尾が下向きの 2 番めの声部に変更するには、「編集 (Edit)」 > 「記譜 (Notations)」 > 「打楽器 (Percussion)」 > 「声部を変更 (Change Voice)」 > 「符尾が下向きの声部 2 (Down-stem Voice 2)」を選択します。このオプションはコンテキストメニューでも選択できます。

---

#### 結果

インストゥルメントのデフォルトの声部およびドラムセットの声部の設定より優先される形で、選択した音符の声部が変更されます。

#### ヒント

個別の音符の声部をリセットするには、元に戻す音符を選択し、「編集 (Edit)」 > 「記譜 (Notations)」 > 「打楽器 (Percussion)」 > 「声部を変更 (Change Voice)」 > 「音符の記譜先の声部のリセット (Reset Note Destination Voice)」をクリックします。このオプションはコンテキストメニューでも選択できます。

---

#### 関連リンク

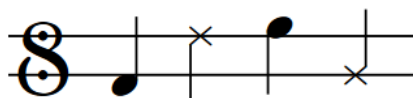
[浄書ツールボックス \(554 ページ\)](#)

## ユニバーサルインド太鼓記譜法

Dorico Pro は、Keda Music Ltd. が開発したユニバーサルインド太鼓記譜法をサポートしています。

ユニバーサルインド太鼓記譜法は主にタブラのために作成されましたが、ナガラ、ドール、ドーク、ムリダンガム、パカワジなど、2 つの面を持つその他のインド太鼓にも適用できます。

タブラ楽器およびタブラ打楽器キットの譜表にはインド太鼓記号が自動的に表示されますが、インド太鼓記号を手動で入力することもできます。



#### 関連リンク

[プレーヤーの追加 \(136 ページ\)](#)

[プレーヤーへのインストゥルメントの追加 \(146 ページ\)](#)

[パネルを使った音部記号の入力 \(363 ページ\)](#)

[打楽器キットとドラムセット \(156 ページ\)](#)

[パーカッションマップ \(1039 ページ\)](#)

# 声部

フルートやトロンボーンなど多くのインストゥルメントでは通常、それぞれの譜表には単一の声部による単一の旋律のみが含まれ、音符は譜表に沿って左から右に読めます。1つの譜表に複数の独立した旋律を表示する場合、各旋律はそれぞれ別個の声部に割り当てることができます。



各譜表にアクティブな声部が2つあるピアノ譜の抜粋

1つの譜表に複数の声部を表示する一般的な例として、ボーカルの譜面があります。ボーカルの譜面では、ソプラノとアルトの旋律が1つの譜表を共有し、テナーとバスの旋律がもう1つの譜表を共有します。各ボーカル旋律をそれぞれの声部で表示して旋律を区別できるようにすると、譜面が読みやすくなり、それぞれのメロディーラインが明瞭になります。

Dorico Pro では、音符は声部に属します。有音程楽器の各譜表には、いくつでも声部を作成できます。声部にはそれぞれカラーが割り当てられ、各カラーを表示できます。これにより、複数の旋律が重なり合うようなプロジェクトでも、どの音符がどの声部に属するか常に把握できます。

Dorico Pro では、声部は符尾が上向きの声部と符尾が下向きの声部に分けられます。符尾が上向きの声部に含まれる音符は符尾が上向きになり、符尾が下向きの声部に含まれる音符は符尾が下向きになります。ただし、音符を含む声部が1つしかない小節では、符尾の方向は譜表に声部が1つしかない場合の方向に自動的に変更されます。初期設定では、譜表の最初の声部は符尾が上向きです。

一般的な表記規則に従って、小節内に音符があるすべての声部には、小節内にそれぞれ休符が表示されます。2つ以上の声部が同じ位置に同じデュレーションの休符を持つ場合、この休符はデフォルトで統合され、2つの個別の休符ではなく1つの休符のみが表示されます。

## 関連リンク

- [複数の声部への音符の入力 \(257 ページ\)](#)
- [既存の音符の声部を変更する \(507 ページ\)](#)
- [声部の内容の入れ替え \(508 ページ\)](#)
- [打楽器キットにおける声部 \(1855 ページ\)](#)
- [スラッシュ付き声部 \(1627 ページ\)](#)
- [既存の音符の上/下に音符を追加 \(284 ページ\)](#)
- [符尾の方向 \(1416 ページ\)](#)
- [声部列の並び順 \(1862 ページ\)](#)
- [未使用の声部 \(1864 ページ\)](#)
- [複声部における暗黙の休符 \(1642 ページ\)](#)
- [休符を垂直に移動する \(1645 ページ\)](#)
- [休符の削除 \(1646 ページ\)](#)
- [再生時の強弱記号 \(1264 ページ\)](#)

## 声部のフローごとの記譜オプション

フローごとに個別に複声部の音符の配置を制御するオプションは、「**記譜オプション (Notation Options)**」の「**声部 (Voices)**」のページにあります。

このページのオプションを選択すると、複声部の状況に応じて音符の位置および並び方を変更し、異なる声部の符頭を重ねる場合を設定できます。

各オプションには、オプションを反映したときの表記例が示されています。

関連リンク

[「記譜オプション \(Notation Options\)」ダイアログ \(919 ページ\)](#)

[休符のフローごとの記譜オプション \(1643 ページ\)](#)

## 声部カラーの表示/非表示

音符を声部にに応じて色づけして、どの音符がどの声部に含まれるか確認できます。声部カラーが非表示の場合、初期設定ではすべての音符が黒く表示されます。

声部カラーは注釈と見なされ、初期設定では印刷されません。

### 補足

音域外の声部と音符のカラーを同時に表示することはできません。

---

### 手順

- 以下のいずれかの操作を行ないます。
    - 声部のカラーを表示するには、「**ビュー (View)**」 > 「**音符と休符のカラー (Note And Rest Colors)**」 > 「**声部カラー (Voice Colors)**」を選択します。
    - 声部のカラーを非表示にするには、「**ビュー (View)**」 > 「**音符と休符のカラー (Note And Rest Colors)**」 > 「**なし (None)**」を選択します。
- 

### 結果

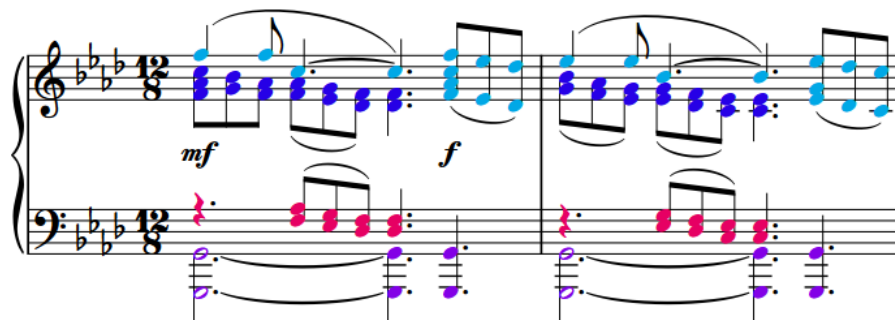
声部のカラーの表示/非表示が切り替わります。各譜表の最初の 8 つの声部には、「**環境設定 (Preferences)**」 > 「**カラー (Colors)**」 > 「**声部カラー (Voice Colors)**」で設定したカラーが使用されます。声部のカラーは後続の声部に自動的に割り当てられます。

### ヒント

個々の音符を選択し、ステータスバーの表示を見て声部を識別することもできます。

---

例



声部カラー

手順終了後の項目

声部カラーを表示することで、音符が間違った声部に含まれているかどうか確認し、修正できます。

関連リンク

[「環境設定 \(Preferences\)」ダイアログ \(63 ページ\)](#)

[楽譜領域のカラーを変更する \(58 ページ\)](#)

[既存の音符の声部を変更する \(507 ページ\)](#)

[符尾の方向 \(1416 ページ\)](#)

[音域外の音符のカラーを表示/非表示にする \(1403 ページ\)](#)

[注釈 \(740 ページ\)](#)

[ステータスバー \(42 ページ\)](#)

## 対立する声部での符頭の重なりを許可する/禁止する

状況に応じて対立する声部のユニゾンの音符の符頭の重なりを許可するかどうかを、フローごとに設定できます。たとえば、付点の有無に関わらずすべての音符の重なりは許可し、2分音符とそれより短い音符の重なりは禁止するといったことができます。

手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[N]** を押して「**記譜オプション (Notation Options)**」を開きます。
2. カテゴリーリストの「**声部 (Voices)**」をクリックします。
3. 「**複声部の並べ替え (Ordering Multiple Voices)**」セクションの「**対立する声部での2分音符と短い音符のユニゾン (Unison half notes (minims) and shorter notes in opposing voices)**」で、以下のいずれかのオプションを選択します。
  - **符頭の重なりを許可 (Allow noteheads to overlap)**
  - **符頭の重複を禁止 (Do not allow noteheads to overlap)**
4. 「**対立する声部での付点付き/付点なしの音符のユニゾン (Unison dotted and undotted notes in opposing voices)**」で、以下のいずれかのオプションを選択します。
  - **符頭の重なりを許可 (Allow noteheads to overlap)**
  - **符頭の重複を禁止 (Do not allow noteheads to overlap)**
5. 「**適用 (Apply)**」をクリックしてから「**閉じる (Close)**」をクリックします。

関連リンク

[「記譜オプション \(Notation Options\)」ダイアログ \(919 ページ\)](#)

[複数の声部への音符の入力 \(257 ページ\)](#)

## 複声部の音符位置

通常、音符はそれぞれ共通の水平位置に上下に連なって配置され、どの音符と一緒に演奏されるか一目で分かるようになっていきます。しかし、音符の水平位置は複声部では異なる場合があります。

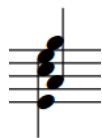
状況によっては、声部ごとの音符の区分を明らかにするために一部の音符をわずかに一方にずらして配置し、声部ごとの列を作る必要があります。たとえば、1つの譜表に声部が3つ以上ある場合や、2つの声部に含まれる音符の音程が2度離れている場合などです。



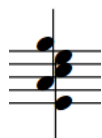
一番上の譜表の拍の一部に複数の声部列があるフレーズ

異なる声部の音符を組み合わせて配置する方法には、以下の2種類があります。

1. 符頭と符頭 (Notehead to notehead): 符頭の水平位置を部分的に重ね合わせます。この並べ方では、音符を寄せる分、符尾と符尾を合わせた音符の配置よりも水平方向に占めるスペースが少なくなります。



2. 符尾と符尾 (Stem to stem): 符頭は重ね合わせないで、符尾の垂直位置を重ね合わせます。この並べ方では、異なる声部の音符 (符頭) が別々の方向を向きます。



Dorico Pro の初期設定では「符頭と符頭 (Notehead to notehead)」が選択されています。これにより、リズムを明確にしたまま、水平方向に占めるスペースを最小化できます。また、異なる声部それぞれの音符の並びと配置も自動的に調整されるため、各音符が水平方向に占めるスペースを最小化しながら音符の明確性と可読性を維持できます。

- 各フローの複声部の音符のデフォルトの順番を個別に変更するには、「記譜オプション (Notation Options)」 > 「声部 (Voices)」で設定を行ないます。
- また、異なる声部の音符同士の最小間隔を変更するには、「浄書オプション (Engraving Options)」 > 「音符 (Notes)」 > 「声部 (Voices)」で設定を行ないます。
- 対となる声部同士の水平方向の配置の順番を手動で入れ替えたり、個々の音符の声部列を変更したりできます。
- 音符の表示位置を移動するには、浄書モードで音符のスペーシングを変更します。各声部列は、同じ位置にある他のアイテムとは個別に動かすことも、同じ位置にあるすべてのアイテムと同時に動かすこともできます。

関連リンク

[符尾の方向 \(1416 ページ\)](#)

[複声部におけるスラッシュ \(1637 ページ\)](#)

[複声部における暗黙の休符 \(1642 ページ\)](#)

[付点の統合 \(1401 ページ\)](#)

[声部のフローごとの記譜オプション \(1859 ページ\)](#)

[「記譜オプション \(Notation Options\)」ダイアログ \(919 ページ\)](#)

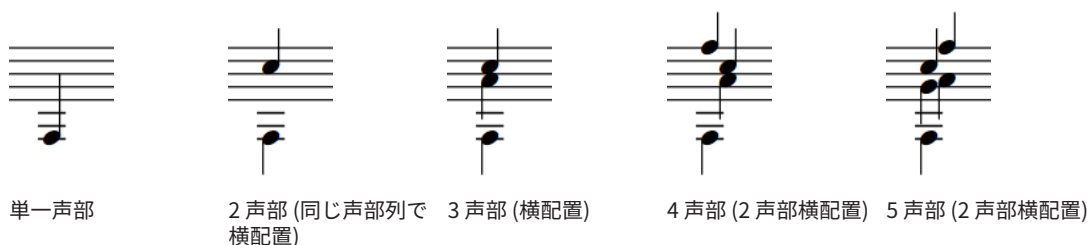
[「浄書オプション \(Engraving Options\)」ダイアログ \(923 ページ\)](#)

[音符のスペーシング \(643 ページ\)](#)

## 声部列の並び順

声部列の並び順は音符の位置を決定するために複数列必要な場合に使用します。たとえば、2つの声部に含まれる音符の音程が2度離れており、それぞれを垂直位置に配置せずに部分的に重なるように配置する場合などに役立ちます。

Dorico Pro では、アクティブな声部の数と音符のピッチに応じて声部の声部列が自動的に変更されます。ピッチの幅が広い声部を左側に、ピッチの幅が狭い声部を右側に表示することでバランスのとれた見た目となります。これは特に、臨時記号が複数ある場合に役立ちます。



声部列の水平方向のスペーシングは、その位置にある他の声部列とは関係なく調節できます。

関連リンク


[対立する声部での符頭の重なりを許可する/禁止する \(1860 ページ\)](#)

[個々の音符/アイテムのスペーシングをそれぞれの位置とは関係なく調節する \(650 ページ\)](#)

## 声部の順番の入れ替え

Dorico Pro では、自動的に符頭と符頭を重ねることで、水平方向に占めるスペースを最小化しながらリズムの明確性を維持しています。対となる声部同士の水平方向の配置の順番は、手動で入れ替えることができます。この操作は現在のレイアウトとフレームチェーンのみに対して、もしくはすべてのレイアウトとフレームチェーンに対して行なえます。

前提条件

- 浄書モードの場合は、浄書ツールボックスで「**グラフィックの編集 (Graphic Editing)**」を選択しておきます。
- ローカルのプロパティ変更に関して、適切なプロパティ範囲を選択しておきます。

---

手順

1. 順番を変更する音符を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
  2. 「**編集 (Edit)**」 > 「**記譜 (Notations)**」 > 「**声部 (Voices)**」 > 「**声部の順番を入れ替え (Swap Voice Order)**」を選択します。このオプションはコンテキストメニューでも選択できます。
-

#### 結果

声部列の並び順を変更することで、選択した音符の声部の順番が変更されます。プロパティ範囲を「**ローカル (Locally)**」に設定している場合、この変更は現在のレイアウトおよびフレームチェーンのみに影響します。

#### 補足

声部の順番をデフォルトに戻すには、声部の順番をもう一度入れ替えるのではなく、プロパティパネルの「**音符と休符 (Notes and Rests)**」グループで「**声部列の並び順 (Voice column index)**」をオフにすることをおすすめします。

---

#### 例



符頭と符頭 (声部反転)



符尾と符尾 (声部反転)

---

#### 関連リンク

- [符尾の方向 \(1416 ページ\)](#)
- [複声部における暗黙の休符 \(1642 ページ\)](#)
- [声部の内容の入れ替え \(508 ページ\)](#)
- [既存の音符の声部を変更する \(507 ページ\)](#)
- [浄書ツールボックス \(554 ページ\)](#)
- [プロパティ範囲の変更 \(828 ページ\)](#)
- [プロパティ設定を別のレイアウト/フレームチェーンにコピーする \(825 ページ\)](#)

## 音符の声部列の変更

選択した声部に含まれるすべての音符の各位置の声部列、つまり水平方向の順序を、フローごとの設定より優先される形で個別に変更できます。この操作は現在のレイアウトとフレームチェーンのみに対して、もしくはすべてのレイアウトとフレームチェーンに対して行なえます。

#### 前提条件

- 下ゾーンを表示しておきます。
  - 下ゾーンのツールバーで「**プロパティ (Properties)**」を選択しておきます。
  - 浄書ツールボックスで「**グラフィックの編集 (Graphic Editing)**」を選択しておきます。
  - ローカルのプロパティ変更に関して、適切なプロパティ範囲を選択しておきます。
- 

#### 手順

1. 浄書モードで、声部列を変更する各声部の音符を少なくとも1つ選択します。
  2. プロパティパネルの「**音符と休符 (Notes and Rests)**」グループで、「**声部列の並び順 (Voice column index)**」をオンにします。
  3. 数値フィールドの値を変更します。
- 

#### 結果

選択した声部の声部列が変更されます。プロパティ範囲を「**ローカル (Locally)**」に設定している場合、この変更は現在のレイアウトおよびフレームチェーンのみに影響します。

このプロパティをオフにすると、選択した声部がフローごとの設定に従ってデフォルトの順序に戻ります。

#### ヒント

手動で声部の順番を変更すると、プロパティパネルの「音符と休符 (Notes and Rests)」グループにある「声部列の並び順 (Voice column index)」プロパティが自動的にオンになります。

手順終了後の項目

声部列の水平方向のスペーシングは、その位置にある他の声部列とは関係なく調節できます。

関連リンク

[複声部の音符位置 \(1861 ページ\)](#)

[声部列の並び順 \(1862 ページ\)](#)

[対立する声部での符頭の重なりを許可する/禁止する \(1860 ページ\)](#)

[個々の音符/アイテムのスペーシングをそれぞれの位置とは関係なく調節する \(650 ページ\)](#)

[浄書ツールボックス \(554 ページ\)](#)

## 未使用の声部

未使用の声部とは、プロジェクトのどこにも音符が存在しない声部のことです。使用されていない声部はプロジェクトを閉じるときに自動的にすべて削除されますが、一度作成した声部を手動で削除することはできません。各譜表には任意の数の声部を作成できます。

#### 補足

声部内の音符をすべて削除しても、すぐに声部が削除されるわけではありません。

プロジェクトを終了してから自動的に削除された声部の音符をあとから入力する場合は、どの位置にでも新しい声部を作成できます。

## 他の声部の音符がすでにある譜表に伸びた音符

既に他の音符がある譜表に音符を伸ばすことで譜表をまたぐ連符を作成すると、既存の音符の符尾の方向が変わる場合があります。これは Dorico Pro が同じ位置にある複声部を同じように扱うためです。

たとえば、ピアノパートに符尾が上向き声部の音符が2つの譜表に含まれる場合、上側の譜表の音符が下側の譜表の音符まで伸びると、両方の声部の音符の符尾の方向が変更されます。この場合では、2つの譜表の音符は結合されるのではなく、符尾が上向きの複声部の音符として扱われます。



ピアノ譜 (2 段譜) にそれぞれ 1 声部ずつ記譜される



上段の声部が下段の声部と交差しているとき、下段の声部の符尾は上向きに変わる

下段に元からあった音符の符尾の方向を変更するには、以下のいずれかの操作を行ないます。

- 下段に元からあった音符を選択して、符尾が下向き声部など、別の声部に変更します。



- 下段に元からあった音符を選択して、符尾の方向を変更します。  
または、上段の音符を恒久的に下段に移動させることもできます。

関連リンク

[譜表をまたぐ連桁/トレモロの作成 \(1123 ページ\)](#)

[音符/アイテムを別の譜表に移動する \(506 ページ\)](#)

[複数の声部への音符の入力 \(257 ページ\)](#)

[既存の音符の声部を変更する \(507 ページ\)](#)

[符尾の方向 \(1416 ページ\)](#)

# 用語集

## 異名同音

G#とAbのように、異なる音度と臨時記号を使用して表記されながら、演奏されるピッチは同じとなる音符のことです。

## 譜表に対する位置

アイテムの譜表に対する垂直位置であり、上と下のいずれかです。

## 和音の入力

入力した音符が直前の音符に続いて後ろに入力されるのではなく、各音符の上に入力されることで和音を作成する音符入力の方式です。音符はキャレットの位置に入力され、キャレットは自動的に進みません。[キャレット](#)、[音符入力](#)、[挿入モード](#)も参照してください。

## C

### CC

「コンティニューアスコントローラー」または「コントロールチェンジ」の略であり、コントローラー番号と値とを結び付ける MIDI メッセージです。個々のコントローラーの値は時間の経過とともに変化し、これによって弦のビブラートの強さを増減するなど、対応するサウンドやエフェクトを段階的に操作できます。エクスプレッションマップを使用すると、各 CC の切り替え先およびコントロール対象となるサウンドやエフェクトをサウンドライブラリーごとに指定できます。Dorico Pro では、各インストゥルメントトラックに 127 個の MIDI CC が用意されており、それぞれに 0 ~ 127 の値が割り当てられています。MIDI CC は MIDI キーボードのノートを使用しないため、MIDI キーボードのすべてのノート範囲をノート入力に使用できます。ただし、このことから録音中に MIDI CC をトリガーするのは困難です。[MIDI](#)、[PC](#) も参照してください。

## E

### EDO

「Equal Division of the Octave」の略語です。1 オクターブがどのように均等に分割されるかを表わす単位で、多くの場合は微分音のスケールや調性システムの定義に使用されます。伝統的な西洋音楽では 12-EDO が使用されます。これはそれぞれのオクターブが 12 個の均等な半ステップ (半音) に分割されるものです。均等な 1/4 音を使用する音楽では、24 EDO が使用されます。[ピッチデルタ](#) も参照してください。

## F

### fps

単位の 1 つで、frames per second の略です。1 秒ごとに発生するビデオフレームの数を示します。

## M

### MIDI

「Musical Instrument Digital Interface」の略語で、電子楽器、コンピューター、バーチャルインストゥルメント間で相互に接続および通信する方法を規定した規格です。Dorico Pro では、MIDI データは 16 のチャンネルのいずれかに送信されます。特定のインストゥルメント、または特定のインストゥルメントの特定のパッチがそれを受信し、応答が返されます。[チャンネル](#)、[パッチ](#)、[CC](#)、[PC](#) も参照してください。

## MusicXML

記譜データの相互変換および保管を、オープンかつ非独占的な形式で行なえるように設計されたファイル形式です。異なる音楽アプリケーション間で楽譜データのやり取りをする場合に役立ちます。

## P

### PC

プログラムチェンジまたはパッチチェンジの略で、対応するプログラムに切り替えることで異なるサウンドにアクセスできる MIDI メッセージです。プログラムにはエフェクトプリセットも含まれているため、これらを使用すれば特定のサウンドにすばやく切り替えることができ、特に生演奏で役立ちます。エクスプレッションマップを使用すると、各 PC の切り替え先のプログラムをサウンドライブラリーごとに指定できます。MIDI、CC、パッチも参照してください。

## S

### SMuFL

Standard Music Font Layoutの略称です。これは記譜に必要なとされるすべての異なる記号を標準レイアウトにマッピングするフォントの仕様です。Dorico Pro では、音部記号や強弱記号のグリフなど、プログラムの特定の領域で正しい記号を判別するために、SMuFL 準拠のフォントが必要です。SMuFL 準拠フォントには Bravura、Petaluma、November 2.0 があります。

### SVG

SVG は「Scalable Vector Graphics」の略で、XML に基づきグラフィックを表示および変更するための方法です。そのコーディング方法により、他の形式と比較して非常に柔軟なグラフィック変更が行なえます。

## V

### VST インストゥルメント

VST は Virtual Studio Technology の略であり、MIDI データをオーディオ出力に変換するデジタルプラグインです。これは既存のスタジオ機材のエミュレーションである場合も、まったく新しく作られたものである場合もあります。

## あ

### アーティキュレーション (サウンドライブラリー)

演奏技法全般を指す用語です。

### アイテム

Dorico Pro において、音符、休符、和音、記譜記号、その他スコア上に表示されるすべての選択可能なオブジェクトの総称です。部位、セグメントも参照してください。

### アウフタクト

楽曲最初の完全小節の前に演奏される音符です。多くの場合、弱起は 1~2 拍からなり、楽曲を導入することがその主要な目的となります。

### アクション (エクスプレッションマップ)

必要な再生効果または再生効果の組み合わせをトリガーするために、個々のスイッチをどのように制御するかを決定するエクスプレッションマップのコントロールです。

### アクション (ハーブ)

各ペダルの位置によって制御される、ハーブの弦のピッチを上下させるメカニズムを意味します。

### アクション (ピアノ)

プレーヤーが鍵盤を押し下げる強さに応じて、ピアノのハンマーが対応する弦を叩く力をさまざまに変化させられるメカニズムを意味します。これによりピアノは大きなダイナミックレンジが利用できるようになり、その正式名称「ピアノフォルテ」もこれに由来しています。

## 値ライン

時間の経過に伴う値の変化を視覚的に表わしたものです。Dorico Pro では、通常キーエディターで使用されます。水平な値ラインは値が一定であることを示し、斜めの値ラインは所定の時間内 (通常は2つのポイントの間) で値がなめらかに変化することを示します。[ポイント \(キーエディター\)](#)、[一定ポイント](#)、[リニアポイント](#)も参照してください。

## アタッチメント

楽譜の中の、アイテムが配置される、またはアイテムが適用されるリズム上の位置です。記譜モードと浄書モードでは、1つの選択したアイテムとリズム上の位置の間に連結線が表示されます。

## アンサンブル

あらかじめ定義されたプレーヤーの集合で、一緒に使用されることが多いインストゥルメントが各プレーヤーに割り当てられます。たとえば弦楽四重奏、木管五重奏、金管五重奏、弦楽合奏、木管二重奏などがあります。

## 暗黙の休符

入力した音符の周りに自動的に表示される休符です。休符の記譜されるデュレーションは、拍子記号と小節内の位置に従って自動的に調整されます。暗黙の休符は、特定の声部の音符間に抑制することができ、その場合は非表示になります。[休符](#)、[明示的な休符](#)、[余白を埋める休符](#)、[長休符](#)も参照してください。

## アーティキュレーション (記譜)

音符をどのように演奏するかを表わす記号です。通常は音の立ち上がり (アタック)、音の終わり (リリース)、または音の長さ (デュレーション) に影響を与えます。たとえば、スタッカート記号やアクセントなどです。

## い

### 移調音

移調音は、実際に鳴るピッチではなく、楽器が演奏するピッチを記譜するものです。プレーヤーが記譜されている音符をそのまま演奏できるように、パート譜は常に移調音で記譜されます。このことは移調楽器では特に重要です。[実音](#)、[インストゥルメントの移調](#)も参照してください。

### 一定ポイント

キーエディター上の値の変化です。次のポイントまで固定の値を設定し続けます。[ポイント \(キーエディター\)](#)、[リニアポイント](#)、[値ライン](#)も参照してください。

### 印刷プレビュー領域

印刷モードのウィンドウの大部分を占める領域です。印刷する、または画像として書き出す内容のプレビューを確認できます。[印刷モード](#)も参照してください。

### 印刷モード

プロジェクト内のレイアウトの印刷や書き出しを行なえる Dorico のモードです。[モード](#)も参照してください。

### インストゥルメント

それが発するサウンドまたは楽曲を表現するために最低1つの譜表を必要とするものすべてを指します。一般的なインストゥルメントにはバイオリン、フルート、チューバ、バスドラムなどがあります。一方、人間の声、コンピューターにより再生されるサンプリングやテープ録音もインストゥルメントになります。

### インストゥルメントの移調

インストゥルメントが演奏するピッチと、それより発せられる音のピッチの間隔差です。多くの場合、インストゥルメント名の一部に含まれます。たとえば、B♭クラリネットがCを演奏すると、発せられる音は実音のB♭になります。[実音](#)、[移調音](#)も参照してください。

## う

### 打ち消しのナチュラル記号

譜表上の調号の変更または単音の直前に配置されるナチュラル記号です。直前の臨時記号がこれ以降に適用しないことを示し、直後に別の臨時記号を入力できます。二重臨時記号のあとに来る単一臨時記

号の前に表示される打ち消しのナチュラル記号は、古式の臨時記号打ち消しと呼ばれます。調号の変更の前の打ち消しのナチュラル記号が小節線の後ろに配置される場合は伝統式と呼ばれ、小節線の前に配置される場合はロシア式と呼ばれます。

## え

### エキスプロード

元となる楽譜をより多くのインストゥルメントに割り当てる処理です。楽譜のエキスプロードは、楽曲のアレンジやオーケストレーションにおける重要な手順となる場合も多く、たとえばピアノの曲を弦楽四重奏にアレンジするときなどに使用されます。[リデュース](#)、[ディヴィジ](#)も参照してください。

### エンドポイント

入力と出力の一意的組み合わせを表わし、これによって各インストゥルメントに正しい音が再生されます。

### エンベロープ

アタック、サスティン、ディケイなどの複数のステージで構成される経時的な音の変化です。強弱記号エディターでは、エンベロープはハイライトがかかった領域と、それぞれがエンベロープ全体の異なるパラメーターを制御する複数の独立したポイントによって表わされます。[ポイント \(キーエディター\)](#)、[一定ポイント](#)、[リニアポイント](#)、[値ライン](#)も参照してください。

## お

### オクターブの分割

1 オクターブの中に存在する 1 ステップであり、その音程はオクターブの分割の総数により変化します。たとえば 12-EDO の場合、オクターブは 12 区画に分割され、それぞれが半ステップ (半音) の音程差を持ちます。[EDO](#)、[ピッチデルタ](#)も参照してください。

### 音符入力

譜表に音符を続けて追加する標準的な方法で、キャレットが有効時に使用できます。それぞれの音符が入力されると、キャレットが自動的に次のリズム上の位置に進みます。音符の入力中は、キャレットの位置に他のアイテムを入力することもできます。[キャレット](#)、[和音の入力](#)、[挿入モード](#)も参照してください。

## か

### カーソル

テキストの入力または編集時に表示される点滅する垂直線です。[キャレット](#)、[マウスポインター](#)も参照してください。

### 楽譜領域

設定モード、記譜モードおよび浄書モードにおいてウィンドウの中央大部分を占める部分で、ここで楽譜の入力と編集を行ないます。

### 歌詞

1 人または複数の歌手によって歌われる (または語られる) ためのテキストです。歌詞は完全な単語としても、または多音節語の一部である個々の音節としても記譜できます。歌詞は、新しい言葉や音節が始まるそれぞれのリズム上の位置に配置されます。通常、歌詞は譜表の下に配置されますが、たとえば短いスコアなどにおいては、譜表の上に配置される場合もあります。

## き

### キーボードショートカット

一緒に押すと設定されたタスクが実行されるキーの組み合わせです。

### 記譜オプション

楽譜の記譜法、特に音符や休符を拍子に合わせてグループ化する方法、臨時記号の範囲のルール、移調オプションなどに関する設定を行なうオプションです。このオプションは「[記譜オプション \(Notation Options\)](#)」ダイアログで、フローごとに個別に設定できます。

## 記譜モード

楽譜の入力に加え、アイテムの位置や音符のピッチの変更、音符やアイテムの削除といった編集を行なえる Dorico のモードです。 [モード](#) も参照してください。

## ギャラリービュー

楽譜を 1 本の、無限の幅に広がる組段として表示する表示オプションです。

## キャレット

キャレットは入力中に表示される、譜表の上下に伸びる垂直の線で、アイテムが入力されるリズム上の位置を示します。Dorico Pro においては、キャレット、カーソル、マウスポインターはそれぞれ関連しつつも目的は異なります。 [リズムグリッド](#)、[音符入力](#)、[カーソル](#)、[マウスポインター](#) も参照してください。

## 休止記号 (延長記号)

音楽の一定したリズムの流れが、一時的な静止または一瞬の無音によって中断された後にまた再開することを示す記譜記号です。「延長記号」、「フェルマータ」、「プレス記号」、「中間休止記号」とも呼ばれます。 [フェルマータ](#) も参照してください。

## 休止記号 (休符)

音が演奏されない時間を表わす記号です。本書では、これを「休符」と呼びます。 [休符](#) も参照してください。

## 休符

音が演奏されない時間を表わす記号です。 [暗黙の休符](#)、[明示的な休符](#)、[余白を埋める休符](#)、[長休符](#)、[休止記号 \(延長記号\)](#) も参照してください。

## く

## クオンタイズ

音楽においては、指定した拍の最も近いものに揃うように、音符の位置とデュレーションを調整することを指します。この処理は、生演奏により自然に生じるリズムとデュレーションの小さな変動を除去します。楽譜上の記譜がより端正になるため、MIDI データの読み込み/書き出しを行なう際に役に立つ場合があります。

## 組段

一緒に演奏される、楽譜の水平方向のまとまりです。印刷される楽譜のほとんどは、ページの幅全体に組段が表示されます。組段には、任意の数の譜表を含めることができます。たとえば、オーケストラのフルスコアでは、通常、組段にオーケストラのすべての楽器の譜表が含まれるため、ページ全体に 1 つの組段しか表示されないことがよくあります。パートレイアウトでは、各組段にはそのプレーヤーに必要な譜表だけ (大抵は 1 つ) が含まれるため、各ページに複数の組段を配置できます。 [組段区切り](#)、[ページ区切り](#)、[配置設定](#) も参照してください。

## 組段オブジェクト

組段のすべての譜表に適用されますが、必ずしもすべての譜表に表示されるわけではないアイテムです。たとえばテンポ記号やリハーサルマークなどがあります。Dorico Pro では、組段オブジェクトを表示するインストゥルメントファミリーを複数選択することにより、組段ごとの複数の位置に組段オブジェクトを表示できます。


## 組段区切り

特定の位置 (通常は小節線) で組段を強制的に終了します。Dorico Pro ではガイドで表示されます。 [ページ区切り](#) も参照してください。

## 組段の形式設定

組段に対する小節の振り分け、およびフレームに対する組段の振り分けです。レイアウト間でパートの形式設定をコピーした場合、Dorico Pro は組段区切りの位置、フレーム区切りの位置、そして音符のスペーシングの変更を組段の形式設定と見なします。

## 組段のスペーシングのハンドル

浄書モードで「[譜表のスペーシング \(Staff Spacing\)](#)」  が有効なとき、各組段の左上角に表示される四角いハンドルです。組段のスペーシングのハンドルは、組段の一番上の譜表の垂直位置を変更し、それに合わせて組段のすべての譜表も移動します。 [譜表のスペーシングのハンドル](#) も参照してください。

## け

### 形式設定

組段あたりの小節数、ページあたりの組段数、および譜表間や組段間の距離を設定します。

### 弦のシフト指示

弦楽器プレーヤーが指を変えずに前の音符より高い音符または低い音符を演奏するために、指板の上でポジションをシフトさせる際の移動方向を指示する斜めの線です。

## こ

### 五線のサイズ

第1線から第5線までの幅で表わされる五線譜のサイズです。「ラストラルサイズ」の呼称は、かつて白紙に五線譜を描くのに使用された道具、ラストラムに由来します。ラストラムは形の固定された器具であるため、人々はその決められたサイズに慣れるようになりました。Dorico Proはこの伝統を引き継ぎ、ラストラムによる譜表サイズを選択できるようにしています。

### コンテキストメニュー

マウスの右クリック、またはタッチパッドのダブルタップで呼び出せるメニューです。メニュー内容は呼び出すときのマウスポインターの位置と何を選択しているかによって変化しますが、ほとんどの場合は「編集 (Edit)」メニューからも呼び出せるものです。

### コンデンシング

複数のプレーヤーの楽譜を通常より少ない譜表に表示する処理のことです。通常は、フルート1と2やホルン1～4など、同じタイプの複数のインストゥルメントが譜表を共有できるようにすることでコンデンシングを行ないます。最もよく使われるのは大規模なオーケストラのスコアです。これは、ページ上の譜表を少なくすることで譜表サイズを大きくし、指揮者にとって読みやすいスコアを作成できるためです。[ディヴィジ](#)、[ピッチまたぎ](#)、[リデュース](#)も参照してください。

## さ

### 再生ヘッド

再生および録音中に楽曲に沿って動いていく垂直の線で、現在のリズム上の位置を表わします。

### 再生モード

再生時に楽譜をどのように発音するかを変更できる Dorico のモードです。たとえば、再生テンプレートの変更や VST インストゥルメントの割り当て、オートメーションの入力、ミキシングの調節などを行なえるほか、再生時に記譜上のデュレーションに影響を与えずに音を発音するデュレーションを変更することもできます。[モード](#)も参照してください。

## し

### 実音

すべての音符が聞こえる音のとおり記譜されます。フルスコアは通常実音で記譜され、これにより和声と旋律が判別しやすくなります。[移調音](#)、[インストゥルメントの移調](#)も参照してください。

### 浄書オプション

記譜記号の外観を設定するオプションです。記号、線の太さ、間隔などを選択できます。これらのオプションはすべてのフローとレイアウトを含むプロジェクト全体に適用され、設定は「[浄書オプション \(Engraving Options\)](#)」ダイアログで行なえます。

### 浄書モード

アイテムを削除したり、位置を動かしたり、音符のピッチを変更したりすることなく、プロジェクトで使用するすべてのアイテムの操作や変更を行なえる Dorico のモードです。また、印刷時や書き出し時に使用する、プロジェクトの各レイアウトのページの形式を指定することもできます。[モード](#)も参照してください。

### 小節

拍子記号で定められた一定の拍数を含む楽譜の区分のことで、その境界は小節線によって区切られています。

## 衝突回避

同じ位置にある複数のアイテムが重なり合わずはっきり読み取れるように、Dorico Pro が行なう自動調整です。これにはスラーのようにアイテムの形状が変化するものと、和音の臨時記号のようにアイテムの垂直位置や水平位置が変化するものがあります。

## シングルプレーヤー

1つまたは複数のインストゥルメントを演奏する (フルート奏者がピッコロに持ち替えるなど)、1人のミュージシャンのことで、[プレーヤー](#)、[セクションプレーヤー](#) も参照してください。

## 親切臨時記号

先の音符に付いた臨時記号を再度表示し、あいまいさを排除するものです。たとえば臨時記号の付いた音符がタイによって次のページに続く場合などに表示されます。

## す

### スコア

[フルスコア](#)、[パート譜](#)、[レイアウト](#)、[プロジェクト](#)を参照してください。

### ストローク

編者注のスラーやタイを二分する短い線です。

### スペーシング

楽譜の書式を整えるために、連続する列の間の水平距離を設定することです。Dorico Pro における水平方向のスペーシングには、音符やその他のアイテム (付点や臨時記号など) のグラフィカルな形状やサイズと、音符のスペーシングの設定値が反映されます。横幅いっぱいの組段には、水平方向の両端揃えが自動的に適用されます。

### スペース

楽譜の浄書における単位で、隣接する2本の譜表線の中心同士の距離に基づきます。ほぼすべての記譜アイテムが、スペースに比例したサイズとなります。たとえば、符頭は通常1スペース分の高さです。

## せ

### 声部

Dorico Pro では、通常同一のインストゥルメントにより演奏されて1つの旋律を形作る、連続した音符、和音、休符、その他の記譜記号を指します。演奏されているピッチ音符やアイテムを異なる声部に割り当てることで、同じ譜表を共有する複数の旋律がより明確に見分けられるようになります。たとえばボーカル譜において、ソプラノのラインには符尾が上向きの声部を、アルトのラインには符尾が下向きの声部を使用するなどです。Dorico Pro では、1つの譜表に使用できる声部の数に制限はありません。また声部の配置および間隔の調整は自動的に行なわれます。[インストゥルメント](#) も参照してください。

### セクションプレーヤー

全員が同じ楽器を演奏し、同じパートレイアウトの楽譜を読む複数のミュージシャンです。たとえば、第1バイオリンセクションのプレーヤーは、それ以外の楽器は演奏できませんが、分かれて別々の音を演奏することはできます。[プレーヤー](#)、[シングルプレーヤー](#) も参照してください。

### セグメント

浄書モードで独立して機能する記譜アイテムの一部です。セグメントは、リピート括弧内の個々の終了括弧のように位置に関係なく存在できます。また、グリッサンドラインのように、1つのアイテムのみが組段区切りまたはフレーム区切りをまたいで分割される場合にも存在できます。[アイテム](#)、[部位](#) も参照してください。

### 設定モード

インストゥルメントやそのインストゥルメントを割り当てるプレーヤー、フロー、レイアウト、ビデオなど、プロジェクトの基本的な要素を設定できる Dorico のモードです。また、たとえばレイアウトに割り当てられたプレーヤーを変更するなど、それらが互いにどのように作用するかも設定できます。[モード](#) も参照してください。



## そ

### 装飾音符

装飾音の表示に使用されることが多い、小さな音符です。これは小節内の拍数に含めては数えられず、前後の音符のデュレーションに食い込む形で発音されます。一般的に、装飾音符の符尾に斜線が引かれているものが「短前打音」で、後に続く音符やコードの位置かその直前でできるだけ短く演奏されます。装飾音符の符尾に斜線が引かれていないものが「長前打音」で、後に続く音符やコードを演奏する前に、その音価の半分の長さ(デュレーション)で演奏されます。

### 挿入モード

音符の入力方法を変更するオプションです。挿入モードがオンの場合は、入力する新しい音符は既存の音符を上書きするのではなく、同じ声部の後続のすべての音符を入力したデュレーションに合わせて後ろに押し下げます。同様に、挿入モードがオンの状態で音符のデュレーションを短くすると、音符間に休符を残さずに音符同士を近づけます。これは、音符の削除、音符のデュレーションの変更、拍子記号の入力など、音符の入力以外の編集にも影響します。[音符入力](#)、[和音の入力](#)も参照してください。

## た

### 大譜表を用いる楽器

通常、中括弧で括られた2つ以上の譜表を使用して音符を表示する楽器を意味します。大譜表を用いる楽器の例としては、ピアノ、オルガン、ハープなどがあります。通常、上段の譜表はト音記号を使用して高い音を指示し、下段の譜表はバス記号を使用して低い音を指示します。

### タッチパッド

触覚センサーを備えたフラットなデバイスで、従来のマウスのかわりとして機能するものです。ラップトップコンピューターに内蔵されることが多いですが、ワイヤレスまたは有線で接続される別個の器具の場合もあります。

### 多拍子

楽曲に同時に複数の拍子が存在することです。たとえばアンサンブル中のあるインストゥルメントは6/8を演奏し、もう1つは7/4を演奏するなどです。

## ち

### チャンネル

MIDIでは、音符、コントローラーその他のデータをどのデバイスのどのサウンドで演奏するかは、チャンネルによって決定されます。Dorico Proでは、各チャンネルに割り当てられたパッチにより提供される演奏技法に応じて、1つの譜表上の音符が別々のチャンネルで演奏されることもあります。[MIDI](#)、[パッチ](#)も参照してください。

### 長休符

複数の隣接する空白小節を小さくまとめるもので、通常は1小節が使用され、譜表上部に休む小節の総数が記されます。長休符は通常、太い水平線の両端に垂直線が付いたH型の記号(タレットバー)で表示されます。過去に出版されたスコアの中には、二全休符と全休符を組み合わせ、最大9小節の長休符を示した例があります。

## て

### ディヴィジ

ディヴィジは分割するまたは分割されるを意味するイタリア語で、プレーヤーが分かれて複数の旋律を演奏するとき使用します。多くは、あるセクション(第1バイオリンなど)で一部のパッセージを分割し、2つの譜表を使用するような場合です。複数の譜表を使うほか、必要に応じて複声部を使用し、同じ譜表にディヴィジのパッセージを記譜することもできます。[トゥッティ](#)、[コンデンシング](#)、[エクスプロード](#)、[リデュース](#)も参照してください。

### デッドノート

フレット楽器で演奏される音符です。この音符は、音をミュートすることで、音程を奏でるのではなく打楽器のような音を出します。通常は、片手を弦の上に軽く置いた状態で演奏します。Dorico Proでは、ギターやバンジョーなどのフレット楽器に属する音のみをデッドノートに指定できます。

### デュレーションをロック

既存の音符に対し、リズムを保ったままピッチのみ変更できる機能です。

### 展開矢印マーク

Dorico Pro のメインウィンドウの四方の端に表示される小さな矢印です。これにより、ツールバーやパネルの表示/非表示を個別に切り替えられます。

### テンポトラック

MIDI データに含まれるタイミングに関する情報で、テンポ、SMPTE オフセット、拍子記号、タイムコード、およびマーカーに影響を与えるものです。MIDI ファイルのそれ以外のデータとは別個に読み込むこともできます。

## と

### トゥッティ

全員を意味するイタリア語です。あるパッセージについて、そのパートまたは譜表を読むすべてのプレイヤーが演奏することを指示します。通常はディヴィジのパッセージの終わりに、あるいは譜表が時にソロを指示し、時にトゥッティのパッセージを指示するような場合に使用されます。[ディヴィジ](#)も参照してください。

### トークン

テキスト文字列内で使用されるコードで、プロジェクト内の何らかの情報 (現在のフローのタイトル、プレイヤー名、ページ番号など) に自動で置き換えられるものです。

### 通し演奏

楽曲のはじめから終わりまで 1 回演奏することです。リピート括弧やコーダのある楽譜など、複数のエンディングが存在する楽譜については、複数回の通し演奏が必要となります。

### ドラムセット

ポップスやロック音楽で使用されることの多い、特殊なタイプの打楽器キットです。多くの場合、ドラムセットは打楽器キットとは異なる声部の配置を使用します。ドラムセットは打楽器キットの一種であり、このマニュアルで打楽器キットと記載されている場合にはドラムセットも含まれます。

### トランスポート

再生と録音に関するすべてのオプションを網羅します。

## は

### 倍音

倍音列内の単一のピッチまたは周波数のことであり、そのピッチは基音のピッチに応じて変化しますが、倍音列内の番号に応じて基音との間隔は常に一定です。たとえば、第 2 倍音は基音の 1 オクターブ上、第 3 倍音は基音の 1 オクターブと 5 度上、第 4 倍音は基音の 2 オクターブ上となります。[倍音列](#)も参照してください。

### 倍音列

基音と呼ばれる単一のピッチに関連して自然に発生する一連の周波数です。基音のピッチを演奏すると、発生する音には倍音列内のさまざまな音が含まれます。追加されるこれらの音は、部分音や倍音と呼ばれます。また、これらをハーモニクスとして演奏することで倍音を個々に鳴らすこともあります。倍音列に含まれる倍音の間隔には一貫したパターンがあり、この間隔は発生する倍音列が高くなるほど狭くなります。たとえば、第 1 倍音と第 2 倍音の間隔は 1 オクターブですが、第 7 倍音と第 8 倍音の間隔は長 2 度程度しかありません。倍音列の最上部では、ほとんどの倍音が微分音となります。[倍音](#)も参照してください。

### 配置設定

楽譜のページレイアウトを整えることです。ページごとの組段数や組段ごとの小節数を定義することが該当します。

### パッチ

MIDI デバイスまたはバーチャルインストルメントの個別のサウンドを示す古い用語です。[チャンネル](#)、[MIDI](#)、[PC](#) も参照してください。

## パネル

メインウィンドウの左右および下部に表示されるツールパレットです。すべてのモードで使用できますが、パレットに表示されるツールはモードごとに異なります。

## 半小節

均等な 4 つの拍に分割できる拍子記号が設定されているとき、小節を均等に 2 分割するリズム上の位置です。Dorico Pro では、特定の連桁のグループ化と音符のグループ化に関する設定が、半小節の存在する小節に適用されます。半小節を持つ拍子記号には、4/4 や 12/8 があります。

## ハンドル

選択可能なアイテムで、線の終端、フレームの角、またはペダル線のリテイクやスラーの制御ポイントなどといった、移動できるポジションを示します。記譜モードではハンドルは丸い形で、それぞれがアイテムのリズム上の位置を示します。浄書モードではハンドルは四角い形で、それぞれがアイテムの表示上の位置を示します。

## パート譜

1 人以上のプレーヤーが演奏するインストゥルメント用の楽譜です。フルスコアではなく個別に表示されます。アンサンブル全体の楽譜を見る必要のない演奏者は、自分の演奏する楽譜だけが読めれば良いため、パート譜を見て演奏します。[フルスコア](#)、[レイアウト](#) も参照してください。

## ひ

### ピッチデルタ

臨時記号により上下する音符のピッチを表わすオクターブの分割数です。たとえば 12-EDO の場合、ピッチデルタ「1」は音符のピッチを半ステップ (半音) 上昇させ、一般的にはシャープ記号 (#) で記譜されます。[EDO](#) も参照してください。

### ピッチまたぎ

符尾が下向きの声部の音符のピッチが符尾が上向きの声部の音符よりも高くなることで、コンデンシングされた譜表など、複数の声部またはパートが含まれる譜表で起こることがあります。[コンデンシング](#) も参照してください。

### ビブラートバー

電気フレット楽器、特にエレキギターに搭載されるデバイスで、演奏者はこれを使用して音符にビブラートを追加したり、ギターバンドのように音符のピッチを調節したりできます。

## 表記

特定のピッチの音符を、アルファベットによる音名と臨時記号を組み合わせで指定する方法です。たとえば標準の 12-EDO ピッチシステムの場合、MIDI ノート 61 は C#、D $\flat$  または B\* と表記できます。通常、同じピッチの音は調性に基づく一定の方法で表記されます。たとえば、MIDI ノート 61 は通常 D メジャーにおいては C# と表記されますが、A $\flat$  メジャーにおいては D $\flat$  と表記されます。[EDO](#)、[MIDI](#) も参照してください。

## ふ

### ファミリー

木管楽器、金管楽器、打楽器、弦楽器など、通常スコア上では大括弧で括られて表示される同属のインストゥルメントを意味します。

### 部位

記譜アイテムの一部です。たとえば音符の部位としては符頭、付点、臨時記号、符尾の先端、連桁などがあります。記譜モードでは、アイテムのどの部分を選択してもそのすべての部位が同時に選択され、加えられた変更はアイテム全体に影響します。浄書モードでは、各部位を個々に選択して、それぞれの位置や外観を微調節できます。[アイテム](#)、[セグメント](#) も参照してください。

### フェルマータ

その位置にあるすべての音符を、表記上の長さよりも長く保持することを指示する音楽記号です。ほとんどの場合は曲線とその下の点の形で描かれますが、曲線のかわりに山形や四角が描かれるものもあります。

## 節

弦の4分の1など、弦に沿って長さを均等に分割する位置です。節の位置で弦に触れる(ただし完全には押さえない)ことで倍音が生成されます。[倍音](#)、[倍音列](#)も参照してください。

## フック

他の線から(ほとんどの場合は直角に)延びる短い線で、線の終端を分かりやすくします。Dorico Proでは、フックはペダル線、オクターブ線、リピート括弧、および連符の角括弧の終端に使用できます。


## 符頭に対する配置

アイテムの符頭に対する水平方向の配置を計算する際、Dorico Proはその位置の最初の声部列の正面の符頭を使用します。正面の符頭とは、符尾の正しい側、つまり上向きの符尾の場合は左側、下向きの符尾の場合は右側にある符頭のことです。符頭に対して配置できるアイテムには、歌詞、コード記号、演奏技法などがあります。

## 符尾の分割

オルタードユニゾンの臨時記号を、それぞれが属する符頭のすぐ横に表示するための表記法です。

## 譜表のスペーシングのハンドル

浄書モードで「[譜表のスペーシング \(Staff Spacing\)](#)」が有効なとき、各譜表の左下角に表示される四角いハンドルです。譜表のスペーシングのハンドルで変更できるのは、1つの譜表の垂直位置のみです。[組段のスペーシングのハンドル](#)も参照してください。

## 譜表冒頭部

通常は楽譜の各組段の最初の音符または休符より前に表示される記譜記号です。通常、譜表冒頭部には音部記号、調号および拍子記号が含まれます。Dorico Proでは、譜表冒頭部は自動的に書き込まれるため、そこに含まれるアイテムはいずれも選択できません。

## プラグイン

他のソフトウェアプログラム内で動作するソフトウェアプログラムです。Dorico ProはVSTインストールメントおよびエフェクト、それからLuaで記述されるスクリプトプラグインをサポートしています。

## フルスコア

スコアの一種で、すべてのプレーヤーとそのインストールメントの楽譜が含まれ、通常は決められた順番で配置されます。この順番は楽曲の楽器編成によって異なります。オーケストラのフルスコアの場合は、一般的にはページの一番上に最高音の木管楽器(ピッコロなど)が配置され、ページの一番下に最低音の弦楽器(コントラバスなど)が配置されます。その間に金管楽器、鍵盤楽器、ボーカル、打楽器が配置されます。

## フレーム

楽譜、テキスト、またはグラフィックを収めてページ上に配置するための、長方形のコンテナを指します。

## プレーヤー

1つ以上のインストールメントを演奏するミュージシャンのことです。プレーヤーは、シングルプレーヤーまたはセクションプレーヤーのいずれかに定義され、フローとレイアウトに割り当てられます。[シングルプレーヤー](#)、[セクションプレーヤー](#)、[フロー](#)、[レイアウト](#)も参照してください。

## プレーヤーグループ

メインアンサンブルのサブセット(オーケストラ内の同属楽器のグループなど)、または個別のグループ(オフステージの吹奏楽団やセカンドオーケストラなど)で構成されるプレーヤーの集合です。フルスコアにおいては、プレーヤーの各グループは個別にラベルが与えられ、インストールメントの順番にまとめてグループ化および番号付けされます。[プレーヤー](#)も参照してください。

## フレット楽器

ほとんどの場合、複数の弦とフレットの付いたネックがあり、片手(通常は左手)でネックのフレット位置の弦を押さえ、もう一方の手(通常は右手)で対応する弦をはじいて演奏するタイプの楽器です。一般的なフレット楽器には、ギター、ウクレレ、バンジョーなどがあります。

## フロー

交響曲の1楽章、アルバム内の1歌曲、ミュージカルの1曲、もしくは音楽理論の練習問題にある練習曲など、独立している楽譜の範囲のことです。フローは、プロジェクト内の他のフローと同じプレーヤーを、または特定のフローだけの別のプレーヤーを含むことができます。[プレーヤー](#)も参照してください。

## プロジェクト

複数のフローおよびレイアウトを格納する Dorico Pro 形式のファイルです。[フロー](#) および [レイアウト](#) も参照してください。

## プロパティ

プロパティパネルから編集できる、プロジェクト内の個々のアイテムおよびアイテムの部位の特性です。プロパティには、ローカルとグローバルの2種類があります。ローカルプロパティはレイアウトおよびフレームチェーンに固有のものです。つまり、初期設定では、特定のレイアウトに含まれるアイテムのローカルプロパティに変更を加えても、他のレイアウトやフレームチェーンにある同じアイテムには影響しません。

## へ

### ヘアピン

一点から広がるまたは一点に合流する、一対の斜線で描かれる強弱記号で、音を徐々に大きくまたは小さくすること、つまりクレッシェンドとディミヌエンドを表わします。

### ペダルの強さの変更指示

ピアノのサステインペダルを 1 (完全に踏み込んだ状態) から 0 (踏み込んでいない状態) の間でどこまで踏み込むかを指定する変更指示です。ペダル線の高さが変化する形で記譜されます。

### ページ区切り

特定の位置 (通常は小節線) で、楽譜のページを強制的に終了します。多くの場合は、パート譜でページをめくる際の利便性を確保するために使用されます。Dorico Pro では、フレーム区切りを使用するとページ区切りの効果が得られます。これはガイドによって表示されます。[組段区切り](#) も参照してください。

### ページビュー

印刷時と同様の、一定の幅と高さのページレイアウトで楽譜を表示する表示オプションです。[ギャラリービュー](#) も参照してください。

## ほ

### ポイント (キーエディター)

キーエディター上の値の変化です。ポイントは四角形として表示され、ドラッグなどで選択や編集を行なえます。ポイントは一定またはリニアになります。[一定ポイント](#)、[リニアポイント](#)、[値ライン](#)も参照してください。

### ポイント (サイズ)

活字印刷における基準単位で、フォントのサイズを表わします。

### ポップオーバー

キーボードショートカットを使用して表示できる一時的な数値フィールドです。テキストエントリを入力することでアイテムを挿入できます。ポップオーバーは記譜モードでの音符入力時または楽譜領域でアイテムを選択時に開くことができます。異なるタイプのアイテムごとに専用のポップオーバーが用意されています。

## ま

### マイナーキー

メジャースケールとは異なる音程パターンを持つ、マイナースケールに基づく調号です。[マイナースケール](#) も参照してください。

### マイナースケール

マイナーキーの音程を含む音符の並びです。マイナースケールには3つのタイプがあります。ナチュラル、ハーモニック、そしてメロディックです。ナチュラルマイナースケールはエオリアンモードの音程パターンに従います。キーボードでいえばAからAまでのすべての白鍵の音符です。ハーモニックマイナースケールもエオリアンモードの音程パターンに従いますが、AハーモニックマイナーにおけるG#のように、スケールの7度にシャープが付きます。メロディックマイナースケールは、上昇時と下

降時で異なる音程パターンに従います。上昇時は(エオリアンモードに対し)6度と7度にシャープが付きますが、下降時はいずれもナチュラルです。[マイナーキー](#)も参照してください。

### マウスポインター

通常はクリックすることで、アイテムやユーザーインターフェースに作用することが可能になる画面上のアイコンです。マウスポインターの位置は通常、外部接続のマウスまたはタッチパッドで制御されます。見た目は状況に応じて変化します。たとえばハイパーリンクの上にマウスポインターを合わせると、手の形になります。ただし、最も一般的な形状は、画面の左上方向を指す矢印です。本書では、カーソルやキャレットと区別するために「マウスポインター」という用語を使用しています。[カーソル](#)、[キャレット](#)、[タッチパッド](#)も参照してください。

## め

### 明示的な休符

手動で入力された休符、あるいは MusicXML ファイルからインポートされた休符のことです。特定の声部の音符間に明示的な休符を抑制することはできません。[休符](#)、[暗黙の休符](#)も参照してください。

## も

### モード

プロジェクトウィンドウで選択できるワークスペースです。スコアを作成するワークフローの異なるフェーズのことを指します。[設定モード](#)、[記譜モード](#)、[浄書モード](#)、[再生モード](#)、[印刷モード](#)も参照してください。

## よ

### 余白

テキストとその囲み線など、2 アイテム間の最小距離または最小間隔です。余白の値は、最小高さや最小幅などの他の設定値とは独立である場合があります。

### 余白を埋める休符

小節の途中で開始/終了するキューの前後の余分なスペースを埋める休符のことです。この休符は、キューのリズムが拍子にどう当てはまるか、またプレーヤーの既存の楽譜とどのような関係になるかを明確に表示します。[暗黙の休符](#)も参照してください。

## り

### リズムグリッド

デュレーションの単位であり、入力および編集の特定の性質、たとえばアイテムの移動量などに影響を与えます。その現在値はステータスバーに音価で示されるとともに、キャレットがアクティブな譜表の上の、拍および拍の分割を表わすルーラーの目盛りによっても示されます。[キャレット](#)も参照してください。

### リズムセクション

ジャズや商業音楽で一般的に見られる楽器の集まりです。通常、リズムセクションにはキーボード、打楽器キット、ギター、ベースギター、コントラバスなどが含まれます。Dorico Pro では、リズムセクションとして定義されたインストゥルメントにはその他のインストゥルメントとは異なるコード記号を表示できます。

### リデュース

複数のインストゥルメントの楽譜を、それより少ない数のインストゥルメントに割り当てる処理のことです。たとえば合唱用の楽曲を、キーボード用の楽譜に再編成するなどです。リデュースにより作成された楽曲はリダクションと呼ばれます。[エキスプロード](#)、[コンデンシング](#)、[ディヴィジ](#)も参照してください。

### リニアポイント

キーエディター上の値の変化です。カーブ上のポイントとして機能し、その位置の値のみを設定して、その位置から次のポイントまでの値をなめらかに変化させることができます。[ポイント \(キーエディター\)](#)、[一定ポイント](#)、[値ライン](#)も参照してください。

## 両端揃え

楽譜のコンテンツをフレームの両端に合わせて、水平および垂直方向に調整します。[フレーム](#)、[両端揃え \(水平方向\)](#)、[両端揃え \(垂直方向\)](#)も参照してください。

### 両端揃え (垂直方向)

譜表や組段をフレームの全高に合わせて、できる限り均等に配置します。フレームに収められた楽譜の高さがフレームの垂直のスペースをすべて必要としない場合、余ったスペースは組段間に均等に分配され、さらに組段内の譜表間にも均等に分配されます。[フレーム](#)、[両端揃え](#)も参照してください。

### 両端揃え (水平方向)

楽譜のコンテンツをフレームの左右の両端に揃えます。組段上の譜表がすべて同じ幅を占めるように、音符のスペーシングを行なったあとに余ったスペースは、組段上のすべての列に均等に分配されます。場合によっては、フロー最後の組段には完全な両端揃えを行わず、フレーム幅の途中で終わらせることもできます。[フレーム](#)、[両端揃え](#)も参照してください。

## れ

### レイアウト

すべてのプレーヤーを含むフルスコアや1人のプレーヤーのみを含むインストゥルメントパートなど、1つまたは複数のフローの1人または複数のプレーヤーの楽譜を、ページ上にどのように配置するかを示したものです。[フロー](#)、[プレーヤー](#)も参照してください。

### レイアウトオプション

ページや譜表サイズなど、個々のレイアウトを設定するためのオプションです。これらのオプションは「[レイアウトオプション \(Layout Options\)](#)」ダイアログで、レイアウトごとに個別に設定できます。[レイアウト](#)も参照してください。

### 列

組段のすべての譜表にわたっての同じ水平位置を表わす垂直の線です。楽譜の正確なスペーシングを目的として、音符と和音の位置決定に使用されます。複数の声部を配置する場合に、リズム上の同じ位置に列を複数使用できます。このとき、一部の声部の音符や和音は、他の声部の音符や和音から水平方向にずらして表示されます。

### 連符

記譜上の標準のデュレーションに対する分数のデュレーションによって演奏されるリズムです。たとえば3連符は、所定の音価で通常は2つの音符を演奏する時間において、その音価の音符を3つ演奏するものです。

## わ

### 和音

リズム上の同じ位置から開始し1つの符尾を共有する、デュレーションが同じ2つ以上の音符の重なりです。

# 索引

## 数字

- 1 桁の数字
  - タブ譜 1743
- 1 ステップ
  - 移調楽器 146, 1354
  - グリッサンドライン 1466, 1467
  - 弦のピッチ 169
  - 調性システム 1357, 1358
  - トリル (「1 ステップのトリル」を参照してください)
  - ピッチバンド 865
  - バンドの音程 1466, 1467, 1475, 1491
- 1 ステップのトリル 1441, 1449
  - 位置 1448
  - 外観 1446
  - 入力 372, 377
  - 非表示 1438, 1442
  - 表示 1438, 1442
- 1 本線の間中休止記号 367, 1338
- 1/2 踏み込みのペダル線 1517, 1518, 1520, 1521
- 1/4 踏み込みのペダル線 1517, 1518, 1520, 1521
- 16 進数 420, 624
- 16 分音符 223, 248, 285, 286
  - 音符の分割 288
  - 休符 271, 1640
  - クオンタイズ 103
  - グリッサンドライン 1467
  - コード 278
  - 弱起 (アウフタクト) 312, 317, 319
  - スウィング再生 323, 692, 693, 696, 697
  - 声部 257
  - 装飾音符 275
  - 挿入モード 262
  - 打楽器 263, 846
  - タブ譜 268
  - トレモロ 447, 449, 1816
  - 拍 330
  - 非表示 1398, 1422
  - 表示 1398, 1422
  - メトロノームマーク 322
  - リズムグリッド 241
  - 連桁 1113, 1138
  - 連符 281, 284
- 2 分音符 223, 248, 285, 286
  - 音符の分割 288, 1137-1139
  - 休符 271, 1640
  - クオンタイズ 103
  - グリッサンドライン 1467
  - コード 278
  - 弱起 (アウフタクト) 312, 317, 319
  - 声部 257
  - 挿入モード 262
  - タイ 1136-1139
  - 打楽器 263, 846
  - タブ譜 268
  - テンポの等式 1761
- 2 分音符 (続き)
  - トレモロ 447, 449, 1816
  - 拍 330
  - 非表示 1398, 1422
  - 表示 1137, 1398, 1422
  - 付点 255, 1136-1139, 1401
  - メトロノームマーク 322
  - リズムグリッド 241
  - 連符 281, 284
- 2 ページを 1 ページに集約の配置 733
- 2 連符 (「連符」を参照してください)
- 3 連符 1826
  - スウィング再生 692, 693
  - 入力 219, 281, 282
- 3/4 踏み込みのペダル線 1517, 1518, 1520, 1521
- 4 分音符 223, 248, 285, 286
  - 音符の分割 288, 1137-1139
  - 休符 271, 1640
  - クオンタイズ 103
  - グリッサンドライン 1467
  - 再生 925, 1028
  - 弱起 (アウフタクト) 312, 317, 319
  - スウィング再生 692, 693
  - 声部 257
  - 装飾音符 275
  - 挿入モード 262
  - タイ 1136-1139
  - 打楽器 263, 846
  - タブ譜 268
  - テンポの等式 1761
  - トレモロ 447, 449, 1816
  - 拍 330
  - 非表示 1398, 1422
  - 表示 1137, 1398, 1422
  - 付点 255, 1136-1139, 1401
  - メトロノームマーク 322
  - リズムグリッド 241
  - 連符 281, 284
  - 和音 278
- 5 連符 (「連符」を参照してください)
- 5th コードダイアグラム 921
- 6 連符 (「連符」を参照してください)
- 7 連符 (「連符」を参照してください)
- 8 分音符 223, 248, 285, 286
  - 音符の分割 288, 1137-1139
  - 休符 271, 1640
  - クオンタイズ 103
  - グリッサンドライン 1467
  - 再生 925, 1028
  - 弱起 (アウフタクト) 312, 317, 319
  - スウィング再生 323, 692, 693, 696, 697
  - 声部 257
  - 装飾音符 275
  - 挿入モード 262
  - タイ 1136-1139
  - 打楽器 263, 846



## 8分音符 (続き)

タブ譜 268  
テンポの等式 1761  
トレモロ 447, 449, 1816  
拍 330  
非表示 1398, 1422  
表示 1137, 1398, 1422  
付点 255, 1136–1139, 1401  
メトロノームマーク 322  
リズムグリッド 241  
連桁 1113, 1138  
連符 281, 284  
和音 278

8連符 (「連符」を参照してください)

9連符 (「連符」を参照してください)

9th コードダイアグラム 921

## A

A用紙サイズ 736, 744, 1017, 1019  
a2 (「プレーヤーラベル」を参照してください)  
Academico フォント 929, 930, 932  
accelerando (「段階的テンポ変更」を参照してください)  
(「テンポ記号」も参照)  
adagio (「テンポ記号」を参照してください)  
Aikin 符頭 1393, 1394  
allegretto (「テンポ記号」を参照してください)  
AmpSimulator 888, 894  
AutoPan 888, 894

## B

B用紙サイズ 736, 744, 1017, 1019  
Boston コード記号 1156  
bpm 1752  
スウィング再生 697  
変更 874, 1752  
Brandt-Roemer コード記号 1156  
Bravura 音楽フォント 929  
Brickwall Limiter 888, 894  
Britten カーリユー (「フェルマータ」を参照してください)  
(「ブレス記号」も参照)  
Broadcast WAVE 形式 111

## C

calando (「段階的テンポ変更」を参照してください) (「テンポ記号」も参照)  
cantabile (「強弱記号の修飾語句」を参照してください)  
CC64  
ペダル線 101, 295, 297  
Chorus 888, 894  
circa  
テンポ記号 1754  
CMYK 処理 739  
Compressor 888, 894  
CSV ファイル 113  
Cubase  
インストゥルメント名 1685  
エクスプレッションマップ 1019, 1038  
譜表ラベル 1685

## D

「Dark」のテーマ 56, 59  
Distortion 888, 894  
DJ-EQ 888, 894  
do  
フランス語の譜表ラベル 61  
dolce (「強弱記号の修飾語句」を参照してください)  
DoricoBeep 294, 661, 672  
サウンド 672  
dpi 739  
DualFilter 888, 894

## E

EDO 1358  
EnvelopeShaper 888, 894  
EQ 888  
変更 894

## F

Finale 音楽フォント 927, 929  
fine  
d.c. al 1598  
tacet al 1650  
サイズ 1599  
小節線 1083  
セクション 1598  
入力 446, 447  
非表示 1604  
表示 1604  
フォント 1599  
FLAC ファイル  
書き出し 110, 111  
Flanger 888, 894  
flz (「演奏技法」を参照してください)  
fps 216  
Funk 符頭 1393, 1394  
FX チャンネル 886–888  
Insert 894  
削除 894  
追加 893  
名前 894  
ボリューム 891  
ミキサー 883, 884  
リバーブ 896

## G

Gate 888, 894  
General MIDI 95, 101, 1019, 1033  
gli altri (「ディヴィジ」を参照してください)  
Golden Age 音楽フォント 927, 929  
Groove Agent  
MIDI トリガー領域 458, 459, 717  
エンドポイント 669, 713  
再生テンプレート 701, 702, 707  
ステージテンプレート 896  
スペーステンプレート 905  
パターン 104, 717  
パンニング 896

## Groove Agent (続き)

- 編集 669
- ミドル C 55
- リバーブ 905
- ロード 667, 701, 707

## H

## HALion Sonic Selection

- エンドポイント 669, 713
- 再生テンプレート 701, 702, 707
- ステージテンプレート 896
- スペーステンプレート 905
- 声部の個別再生 685
- パンニング 896
- 編集 669
- リバーブ 905
- ロード 667, 701, 707

## HALion Symphonic Orchestra

- エンドポイント 669, 713
- 再生テンプレート 701, 702, 707
- ステージテンプレート 896
- スペーステンプレート 905
- 声部の個別再生 685
- パンニング 896
- 編集 669
- リバーブ 905
- ロード 667, 701, 707

## Henze (「フェルマータ」を参照してください)

- HTML ファイル
- コメント 550

## Hub 75

- ビデオチュートリアル 75
- プロジェクトの開始 77
- プロジェクトを開く 78, 79

## Hz

- 再生時のチューニング 685

## I

## Iconica Sketch

- エンドポイント 669, 713
- 再生テンプレート 701, 702, 707
- ステージテンプレート 896
- スペーステンプレート 905
- 声部の個別再生 685
- パンニング 896
- 編集 669
- リバーブ 905
- ロード 667, 701, 707

## Indiana コード記号 1156

## Insert 888

- 削除 895
- 変更 894, 896
- リバーブ 896, 907, 910
- ロード 894

## J

## Jazz Standards コード記号 1156

- JPEG ファイル
- グラフィックフレーム 632

## L

- l.v. タイ (「レセヴィブレタイ」を参照してください)
- largo (「テンポ記号」を参照してください)
- leggiero (「強弱記号の修飾語句」を参照してください)
- Leipzig 音楽フォント 927, 929
- Leland 音楽フォント 927, 929
- lentando (「段階的テンポ変更」を参照してください) (「テンポ記号」.も参照)
- lento (「テンポ記号」を参照してください)
- 「Light」のテーマ 56
- Limiter 888, 894
- Lin One Dither 888, 894
- loco (「オクターブ線」を参照してください)

## M

## macOS

- 印刷 727

## Maximizer 888, 894

## meno (「テンポ記号」を参照してください) (「強弱記号の修飾語句」.も参照)

## Mensurstriche 1089

## messa di voce 1255

- 移動 502, 1230, 1248, 1255, 1256
- 間隔 1230, 1254
- 装飾音符 1256
- タイ 341, 343, 502
- デュレーション 345
- 長さ 1230, 1254
- 入力 337, 340, 341, 343, 1257
- ハンドル 1248, 1255, 1256
- 表示 1257
- 開きの幅 1248

## MIDI

## thru 240

- 値 869, 875, 876, 879

## インストゥルメント 661, 665, 670 (「MIDI インストゥルメント」.も参照)

## インストゥルメントのロード 667, 681, 701, 707

## 上書き 870

## エクスプレッションマップ 1019, 1020, 1034, 1035

## エディター (「MIDI CC エディター」を参照してください) (「MIDI ピッチベンドエディター」.も参照)

## エンドポイント 710, 713, 715

## 音符入力 247, 261, 271

## 書き換え 271

## 書き出し 109

## 重なり合う音符 286

## キーエディター 866

## クオンタイズ 103

## グリッサンドライン 1466, 1467

## コピー 501, 841, 870

## コントローラー (「MIDI コントローラー」を参照してください)

## 再生 670, 710, 1039

## 削除 842

## 順番 1025

## ショートカット 64, 69

## スラー 1683

## ダイアログ 95, 103, 106

## チャンネル 661, 711, 883, 884, 886, 887

## デバイス (「MIDI デバイス」を参照してください)

## MIDI (続き)

- テンポ 672, 683, 871
  - テンポエディター 871
  - テンポトラック 107-109, 672
  - ナビゲーション 69
  - 入力 868, 870
  - ノート範囲 143
  - パーカッションマップ 661, 714, 1039, 1042
  - パターン 104
  - パン 884, 886, 892
  - 範囲 143
  - ピアノロールエディター 843
  - ヒストグラムツール 875, 877
  - ピッチ 42
  - ピッチバンド 866, 1022, 1466, 1467
  - 開く 78
  - ファイル (「MIDI ファイル」を参照してください)
  - フェーダー 884
  - ペダル線 1535
  - ポート 661, 711
  - ボリューム 1266
  - マーカー 673
  - ミキサー 883, 884, 886, 887
  - ミドル C 55
  - 読み込み 94, 95, 103, 104
  - リンク 501
  - リンクの解除 501
  - 臨時記号の表記 271
  - 録音 (「MIDI 録音」を参照してください)
- MIDI CC エディター 717, 865, 866
- 値 869, 875, 877, 879, 880
  - 一定ポイント 869
  - ズーム 838
  - 高さ 837
  - 追加 840, 866
  - 閉じる 840, 866
  - ヒストグラムコントロール 876
  - フィルター 877
  - ペダル線 1535
  - 変換 (「変換ツール」を参照してください) (「ヒストグラムツール」.も参照)
  - 変換コントロール 879
  - ポイントの移動 869
  - ポイントのコピー 841
  - ポイントの削除 842
  - ポイントの選択 840
  - ポイントの入力 868
  - リニアポイント 869
- MIDI thru 240
- MIDI インストゥルメント 661, 665
- インスタンス 665
  - エンドポイント 715
  - ナンバリング 665
  - パネル 664
  - ロード 667, 681, 701, 707
- 「MIDI インポートオプション」ダイアログ 95
- 「MIDI クオンタイズオプション」ダイアログ 103
- MIDI コントローラー 866, 1266
- 値 869, 875-877, 879, 880
  - エディター (「MIDI CC エディター」を参照してください) (「MIDI ピッチバンドエディター」.も参照)
  - 強弱記号 1266
  - コピー 501, 841, 870

## MIDI コントローラー (続き)

- 入力 840, 868, 870
  - ペダル線 1535
  - 変換 (「変換ツール」を参照してください) (「ヒストグラムツール」.も参照)
  - 変換ツール 879
- MIDI チャンネル 883, 884, 886, 887
- MIDI デバイス 297
- アクティビティ 42
  - エクスペッションマップ 1019, 1034, 1035
  - 音符入力の設定 266
  - 音符の表記 921
  - 警告 42
  - コード記号 346, 354, 661, 674, 675, 921
  - 再生テンプレート 701, 702
  - ステージテンプレート 896
  - スペーステンプレート 905
  - 設定 921
  - 打楽器キット 266
  - ナビゲーション 921
  - パーカッションマップ 1039, 1042
  - パンニング 896
  - ポリコード 346
  - 無効化 297, 354
  - 有効化 297, 354
  - リバーブ 905
- MIDI トリガー領域 717
- 移動 502
  - 強調表示 718
  - 長さ 470
  - 入力 458, 459
  - ハンドル 717
  - ピッチ 55
  - 表示オプション 718
  - ベロシティ 458, 459, 717
  - 変更 472
  - ポップオーバー 458, 459
- MIDI ピッチバンドエディター 865, 866
- 値 869, 877, 880
  - ズーム 838
  - 高さ 837
  - 追加 840
  - 閉じる 840
  - 変換 (「変換ツール」を参照してください) (「ヒストグラムツール」.も参照)
  - ポイントの移動 869
  - ポイントのコピー 841
  - ポイントの削除 842
  - ポイントの選択 840
- MIDI ファイル 94
- 演奏技法 101
  - 書き出し 105, 106
  - クオンタイズ 94, 103
  - 再クオンタイズ 293
  - 再生の上書き 854
  - サスティンペダルコントローラー 297
  - スラー 101
  - 装飾音符 103
  - ダイアログ 95, 106
  - 調号 101
  - トリル 101
  - トレモロ 101
  - パーカッションマップ 98

## MIDI ファイル (続き)

開く 78  
 ペダル線 94, 101, 297  
 無音程打楽器 95  
 読み込み 94, 95  
 リピート 689  
 連符 103

## MIDI ポイント

コピー 501  
 リンク 501  
 リンクの解除 501

## MIDI 録音 290, 291

MIDI thru 240  
 オーディオバッファサイズ 295, 296  
 開始 291  
 カウントイン 295  
 重なり合う音符 286  
 クオンタイズ 103, 291  
 クリック設定 294, 672  
 再クオンタイズ 293  
 最適化 295  
 サスティンペダルコントローラー 297  
 スラー 295  
 声部 290, 291  
 設定 295  
 装飾音符 103, 1329  
 ダイアログ 103  
 停止 291  
 デバイス 297 (「MIDI デバイス」.も参照)  
 テンポモード 683  
 トランスポートウィンドウ 698  
 トリル 295  
 トレモロ 295  
 ピッチ 238  
 ピッチの入力 238  
 拍子記号 291  
 非録音時の MIDI 入力データを記録 292  
 ペダル線 295, 297  
 リピート 293  
 レイテンシー 296

## 「MIDI を書き出し」 ダイアログ 106

moderato (「テンポ記号」を参照してください)

## molto

移動 1245  
 強弱記号 337, 340, 1241, 1244  
 中央揃え 1244  
 テンポ記号 320, 321, 324  
 フォントスタイル 1264

## MonoDelay 888, 894

## MonoToStereo 888, 894

morendo (「段階的テンポ変更」を参照してください)  
 (「強弱記号の修飾語句」.も参照)

## MorphFilter 888, 894

mosso (「テンポ記号」を参照してください)

mp (「強弱記号」を参照してください)

## MP3 ファイル

書き出し 110, 111

## MusicXML

ガイド 490  
 書き出し 92, 93  
 コード記号 1174  
 小節線 490  
 ダイアログ 93

## MusicXML (続き)

打楽器 92  
 開く 78  
 譜表ラベル 1685  
 ペダル線 1535  
 読み込み 91  
 リピート括弧 1597  
 連桁のリセット 1117

「MusicXML を書き出し」 ダイアログ 93

## N

## Nashville

コード記号 349, 1155, 1156  
 番号 348

## New York コード記号 1156

## NotePerformer

トリル 1450  
 微分音の再生 1014

## November 音楽フォント 927, 929

## O

Octaver 888, 894

## P

## PDF ファイル 738

書き出し 639, 641, 728, 729, 731  
 カラー 739  
 キーボードショートカット 64  
 グラフィックスライス 639, 641  
 ファイル名 731  
 フォント 740  
 フロー 728, 731  
 プロジェクトプレビュー 81  
 ページサイズ 728  
 レイアウト 728, 729  
 レイアウト番号 197

## Petaluma 音楽フォント 927, 929

## Phaser 888, 894

## PingPongDelay 888, 894

più (「テンポ記号」を参照してください) (「強弱記号の修飾語句」.も参照)

## PNG ファイル 738

解像度 739  
 書き出し 639, 641, 728, 729, 731  
 カラー 739  
 グラフィックスライス 639, 641  
 グラフィックフレーム 632  
 透明 639, 729  
 ファイル名 731  
 プロジェクトプレビュー 81  
 レイアウト 728, 729  
 レイアウト番号 197

## poco a poco

移動 1245  
 強弱記号 337, 340, 1241, 1244, 1253  
 中央揃え 1244  
 テンポ記号 1757  
 フォントスタイル 1264

possibile (「強弱記号の修飾語句」を参照してください)

precipitando (「段階的テンポ変更」を参照してください)  
(「テンポ記号」.も参照)  
presto (「テンポ記号」を参照してください)  
primo  
二重奏 612, 613, 616  
リピート括弧 1591

## R

rallentando (「段階的テンポ変更」を参照してください)  
(「テンポ記号」.も参照)  
REVerence 888, 894, 896, 912  
rfz (「強弱記号」を参照してください)  
ritardando (「段階的テンポ変更」を参照してください)  
(「テンポ記号」.も参照)  
ritenuto (「段階的テンポ変更」を参照してください) (「テ  
ンポ記号」.も参照)  
RoomWorks SE 888, 894  
Ross コード記号 1156  
Rotary 888, 894  
rubato  
表現テキスト 1241, 1242

## S

S 字型スラー 1667, 1668  
Salzedo ブレス記号 (「ブレス記号」を参照してください)  
Sebastian 音楽フォント 927, 929  
secondo  
二重奏 612, 613, 616  
リピート括弧 1591  
Send 888  
削除 895  
ロード 894  
sfz (「強弱記号」を参照してください)  
simile  
演奏技法 1545  
強弱記号 337, 340, 1241  
非表示 1545  
表示 1545  
smorzando (「段階的テンポ変更」を参照してください)  
(「テンポ記号」.も参照)  
SMPTE (「タイムコード」を参照してください) (「マーカ  
ー」.も参照)  
SMuFL 927, 929  
演奏技法 979  
音楽記号 423, 1014  
強弱記号 1264  
コード記号 1157  
数字付き低音 1282  
長休符 1653  
テンポ記号 1750  
トークン 619  
拍子記号 1815  
フィンガリング 1295  
符頭 423, 970  
メトロノームマーク 1750  
ライン 997, 1001  
臨時記号 423, 1009  
連符 1837  
Stein-Zimmermann 臨時記号 306, 1357, 1358  
StereoEnhancer 888, 894

stringendo (「段階的テンポ変更」を参照してください)  
(「テンポ記号」.も参照)  
subito (「強弱記号の修飾語句」を参照してください)  
SuperVision 888, 894  
SVG ファイル 738  
書き出し 639, 641, 728, 729, 731  
カラー 739  
グラフィックスライス 639, 641  
グラフィックフレーム 632  
ファイル名 731  
フォント 740  
レイアウト 728, 729  
レイアウト番号 197

## T

tacet al fine 1644, 1650  
tanto (「テンポ記号」を参照してください)  
thru  
MIDI 240  
TIFF ファイル 738  
解像度 739  
書き出し 639, 641, 728, 729, 731  
カラー 739  
グラフィックスライス 639, 641  
透明 639, 729  
ファイル名 731  
レイアウト 728, 729  
レイアウト番号 197  
ToneBooster 888, 894  
troppo (「テンポ記号」を参照してください)  
Tube Compressor 888, 894  
TXT ファイル  
解析 117, 118  
歌詞 1366

## U

Unicode  
演奏技法 979  
音楽記号 1014  
テキスト 420, 624  
入力 420, 624  
符頭 970  
ライン 997, 1001  
臨時記号 1009  
ut  
フランス語の譜表ラベル 61

## V

VintageCompressor 888, 894  
vivace (「テンポ記号」を参照してください)  
VST Amp Rack 888, 894  
VST Bass Amp 888, 894  
VST インストゥルメント 661, 664  
インスタンス 664  
ウィンドウ 669  
エクスプレッションマップ 661, 714, 1020  
エンドポイント 710, 715  
許可 666  
クリック 672

## VST インストゥルメント (続き)

コード記号 675  
 再生 701, 702, 710, 1019, 1039  
 ステージテンプレート 896  
 スペーステンプレート 905  
 設定 667, 669, 708, 715  
 名前 711  
 ナンバリング 664  
 パーカッションマップ 661, 714  
 パネル 664  
 パンニング 896  
 微分音の再生 1014  
 ブロック 666  
 編集 664, 669  
 ポート 661, 711  
 保存 708, 715  
 無効化 664, 681  
 有効化 664, 681  
 リバープ 905  
 ロード 666, 667, 681, 701, 707  
 「VST と MIDI」 パネル 658, 664  
 VSTDynamics 888, 894

## W

WahWah 888, 894  
 Walker 符頭 1393, 1394  
 WAV ファイル  
 書き出し 110, 111

## X

X 形の符頭 1390, 1394  
 打楽器 263, 846, 1840, 1842, 1843  
 デッドノート 1490  
 リセット 1395

## あ

アーティキュレーション 1064, 1536  
 MIDI インポート 98  
 位置 652, 1065-1071  
 移動 652, 1067-1070  
 演奏技法固有の符頭 1045  
 オルタードユニゾン 1065  
 音符 1067  
 重ね合わせ 1069  
 間隔 1070  
 キーボードショートカット 299  
 記号 1014  
 キット 1847  
 キュー 1215  
 強弱記号 1265  
 形式設定 1014  
 コピー 1065  
 再生 685, 686, 925, 1020, 1045-1047, 1071, 1265  
 削除 1065  
 ジャズ (「ジャズアーティキュレーション」を参照してください)  
 順番 1067  
 浄書オプション 1065  
 衝突回避 1069

## アーティキュレーション (続き)

垂直位置 1070  
 スペーシング 652  
 スラー 1067, 1069, 1659  
 タイ 1067, 1071, 1776  
 タイプ 1064  
 打楽器 1045, 1070, 1839, 1840, 1847  
 デフォルト設定 1065  
 デュレーション 1064, 1071  
 トレモロ 1045  
 入力 229, 238, 298, 299  
 パネル 223  
 反転 1069, 1070  
 ピッチをデュレーションの前に指定 238  
 非表示 1215  
 表示 1215  
 符尾 1067  
 符尾の分割 1065  
 譜表 1071  
 譜表の外側 1071  
 変更 298  
 連符 298

## アーティフィシャルハーモニクス 1425

再生 1425-1427  
 スタイル 1429, 1433  
 倍音 1427  
 ピッチ 1427  
 非表示 1426  
 表示 1426  
 変更 1433  
 臨時記号 1428

## アイテム 234, 460

コピー 497  
 設定 (「プロパティ」を参照してください)  
 選択 234, 460-463, 469, 480  
 選択解除 469  
 変更 472  
 編集 826  
 ほかのアイテムの後ろ 460  
 リセット 476, 477

## 青い選択範囲 1262, 1672

アクセント (「アーティキュレーション」を参照してください)

## 上げ

ジャズアーティキュレーション (「ジャズアーティキュレーション」を参照してください)  
 ペダル線 (「ペダルのリテイク」を参照してください)  
 上げ弓 (「演奏技法」を参照してください)  
 上げ弓プレス記号 (「プレス記号」を参照してください)  
 アコーディオンの音域 976

## 値

MIDI CC 869, 875-877, 879, 880  
 音符 (「音符のデュレーション」を参照してください)  
 相対テンポ変更 1754  
 タイムコード 212, 1587  
 段階的テンポ変更 1755  
 ヒストグラムコントロール 877  
 フェーダー 886, 891  
 フレームレート 212  
 プロパティ 829  
 ベロシティ 856-858, 875-877, 879  
 メトロノームマーク 472, 1752-1755

## 値 (続き)

リズムグリッド [42](#), [241](#), [845](#)  
 レイテンシーの補正 [296](#)

値フィールド [829](#)

## 値ライン

MIDI [866](#), [869](#)  
 強弱記号 [859](#), [862](#)  
 テンポ [672](#), [871](#)

アタッカ [684](#), [1082](#)

## アタック

VST インストゥルメント [669](#)  
 アーティキュレーション [1064](#), [1777](#)  
 強弱記号 [340](#), [1229](#)  
 再生 [1019](#)  
 デイレイ [1028](#)  
 トレモロ [440](#), [447](#), [449](#), [1818](#)

## アタッチメントポイント

アイテム [502](#), [652](#)  
 演奏技法 [979](#)  
 音楽記号 [997](#)  
 記号 [1001](#)  
 コード記号の構成要素 [946](#)  
 ニエンテの丸 [1259](#)  
 符頭 [967](#), [970](#)  
 符尾 [970](#)  
 ライン [417](#), [419](#), [1551](#), [1554](#)  
 ライン注釈 [997](#)  
 臨時記号の構成要素 [1009](#)

## アチャカトゥーラ (「装飾音符」を参照してください)

## 圧 (「演奏技法」を参照してください) (「ライン」も参照)

圧縮された MusicXML [92](#), [93](#)アドオンスイッチ [1024](#), [1032](#)

## アポジャトゥーラ (「装飾音符」を参照してください)

アポストロフィー [621](#)

## アラビア数字

コードダイアグラム [1176](#)  
 フィンガリング [1310](#)  
 フレット番号 [1176](#)  
 ページ番号 [588](#), [1502](#)

## アラビア数字 (Arabic numerals)

譜表ラベル [1693](#)

## アルコ (「演奏技法」を参照してください)

## アルト記号 (「音部記号」を参照してください)

## アルトの省略

ホルンのフィンガリング [1295](#)

アルファチャンネル [639](#), [729](#), [739](#)アルペジオ記号 [1453](#), [1456](#), [1551](#)

位置 [1453](#), [1456](#), [1457](#)  
 移動 [502](#), [506](#), [652](#)  
 外観 [1453](#)–[1455](#)  
 角括弧 [1454](#)  
 記号 [1014](#)  
 曲線 [373](#)  
 形式設定 [1014](#), [1455](#)  
 再生 [1458](#), [1459](#)  
 再生時にミュート [688](#)  
 削除 [496](#)  
 十字線 [656](#)  
 終端 [1455](#)  
 浄書オプション [1453](#)  
 スペーシング [1456](#)  
 スラッシュ符頭 [1453](#)

## アルペジオ記号 (続き)

声部 [378](#), [379](#)  
 装飾音符 [1457](#)  
 タイ [274](#)  
 タイプ [373](#), [1455](#)  
 デフォルト設定 [1453](#)  
 デュレーション [1458](#), [1459](#)  
 長さ [378](#), [379](#), [652](#), [1456](#)  
 入力 [370](#), [373](#), [378](#), [379](#)  
 配置 [1456](#)  
 拍相対再生 [1458](#)  
 パネル [375](#), [379](#)  
 幅広 [1454](#)  
 ハンドル [1456](#)  
 フィルター [467](#)  
 フィンガリング [1287](#), [1303](#), [1304](#)  
 譜表をまたぐ [378](#), [379](#)  
 変更 [472](#)  
 方向 [1454](#)  
 ポップオーバー [373](#), [378](#)

アンサンプル [121](#), [141](#)

角括弧 [1142](#), [1143](#), [1695](#)  
 カスタム [126](#), [128](#), [142](#)  
 グループ (「プレーヤーグループ」を参照してください)

言語 [126](#)

追加 [126](#), [141](#)

ディヴィジ [1722](#), [1723](#)

フィルター [487](#)

譜表のグループ化 [1143](#), [1695](#)

プレーヤーの順番 [137](#), [963](#)

プロジェクトテンプレート [77](#), [84](#)

保存 [128](#), [142](#)

アンサンプルの作成 [126](#), [142](#)アンサンプルピッカー [126](#)

## アンスケール

装飾音符 [1329](#)

連符 [1829](#)

## アンダースコア

強弱記号 [1249](#)

アンビエンス [669](#)アンブモデリング [888](#), [894](#)暗黙の休符 [25](#), [1640](#), [1641](#)

カラー [1644](#)

削除 [1646](#)

声部 [1642](#)

非表示 [1642](#), [1646](#)

表示 [1646](#)

明示的な休符 [1643](#)

## い

## イオニアン

コード記号 [351](#), [1165](#)

スケール [535](#), [542](#)

位置 [26](#)

アーティキュレーション [1065](#)–[1071](#)

アイテム [477](#), [826](#)

新しいアイテム [234](#)

アルペジオ記号 [1456](#), [1457](#)

演奏技法 [474](#), [1541](#)

オクターブ線 [1202](#), [1203](#), [1205](#)

音部記号 [237](#), [1191](#), [1192](#)

## 位置 (続き)

歌詞 1368  
 キュー 1224, 1225  
 休止 1338  
 休符 1640, 1643, 1645  
 強弱記号 345, 1230  
 グリッサンドライン 1462  
 弦の指示記号 1316  
 コード記号 1162  
 再生 677  
 ジャズアーティキュレーション 1497  
 順番 656  
 垂直の順番 656  
 数字付き低音 1277  
 スタッカート 1068  
 ステージ (「ステージテンプレート」を参照してください)  
 スラー 1656, 1658, 1667  
 声部 1861  
 装飾音 1436  
 装飾音符 1327  
 挿入モード 491, 494, 495  
 タイ 1777, 1781, 1790  
 打楽器キット内のインストゥルメント 164  
 タッキングインデックス 656, 1205  
 段階的強弱記号 1255  
 中間休止記号 1339  
 調号 1350  
 停止 491, 494, 495  
 テンポ記号 1747  
 トリルの音程 1448  
 トレモロ 1818  
 入力 234  
 ハープペダルダイアグラム 1513  
 ビデオ 214  
 フィンガリング 1287, 1291  
 フェルマータ 1338  
 複声部の音符 1861  
 付点 1744  
 ブレス記号 1339  
 フレット番号 1189  
 ヘアピン 1255  
 ペダル線 1523  
 変更 474  
 ライン 1554, 1555, 1558, 1559  
 リズム 26  
 リセット 477  
 リハーサルマーク 1576  
 連結線 478  
 1 小節の小節休符  
 小節数 1649  
 タセットバー 1649  
 非表示 1647  
 表示 1647  
 位置に連結されたライン (「ライン」を参照してください)  
 1 番括弧と 2 番括弧 (「リピート括弧」を参照してください)  
 移調 517, 520  
 MIDI インポート 98  
 インストゥルメント (「移調楽器」を参照してください)  
 エクスプレッションマップ 1019, 1021, 1024, 1028  
 オクターブ 518, 519, 1210

## 移調 (続き)

音符 518–522, 533–535, 539, 542, 849, 850  
 音部記号 124, 198–200, 950, 958, 1199, 1220  
 キュー 1210, 1213, 1220  
 弦楽器 173  
 コード記号 173, 174, 177, 179, 181, 182, 194, 519, 520, 1154, 1160, 1164  
 数字付き低音 519, 521  
 スケール 535, 542  
 選択範囲 519  
 ダイアログ 520  
 調号 201, 519, 520, 1346, 1354, 1355  
 トークン 619, 1325  
 ピッチ (「移調音」を参照してください)  
 譜表ラベル 1690  
 フレット楽器 168, 169, 171–173  
 フロー 519, 520  
 ポップオーバー 539  
 臨時記号 520, 1354, 1355  
 レイアウト 42, 190, 194, 195, 199, 201, 205, 619, 1325  
 移調音 195, 517  
 MIDI インポート 98  
 印刷 724  
 インストゥルメントの移調 198, 950, 958, 1690  
 インストゥルメントのナンバリング 1692  
 音部記号 198, 200, 360, 950, 958, 1194, 1196, 1198  
 音符入力 238  
 書き出し 728  
 コード記号 174, 194, 1164, 1165  
 スコアレイアウト 724, 728  
 ステータスバー 42  
 トークン 619, 1325  
 パートレイアウト 190, 194, 724, 728  
 ピッチの入力 238  
 表示 194  
 フィルター 468  
 譜表ラベル 1684, 1690  
 変更 201, 950, 958  
 レイアウト 194, 198, 199, 201, 619, 950, 958, 1325  
 移調楽器 143, 146, 194, 1684  
 移調音 194, 195, 198, 199, 201  
 インストゥルメントの移調 198, 199, 201, 1690, 1691  
 インストゥルメントのナンバリング 1692  
 上書き 198–201  
 音部記号 124, 198–200, 950, 958, 1194, 1196, 1199  
 キュー 1210  
 キューの音域 1210  
 コード記号 174, 1164, 1165  
 実音 194, 195, 198, 199, 201  
 調号 195, 919, 1346, 1348, 1354  
 追加 146, 958  
 譜表ラベル 1684, 1690, 1691  
 フレット楽器 146, 177, 959  
 レイアウト 194, 195, 198–201  
 レイアウト名 205  
 「移調」ダイアログ 519, 520  
 1 線  
 打楽器キット 1848, 1849  
 符尾の方向 1846  
 譜表 1703, 1846  
 一定ポイント 862, 869, 871  
 入力 860, 868, 873



## 一般的な慣習

打ち消しのナチュラル記号 1350  
臨時記号の有効範囲ルール 1060

## 一般的な臨時記号の有効範囲ルール 1061

## 移動 479, 502, 506, 652, 923

messa di voce 502, 1248, 1255, 1256  
MIDI ポイント 869  
subito 1243  
アーティキュレーション 1067-1070  
アクセント 1067  
アルペジオ記号 1456  
インストゥルメント 149, 150, 186, 899, 900, 903  
インストゥルメントの変更 152  
打ち消しのナチュラル記号 1351  
演奏技法 1541, 1545  
オクターブ線 1205  
音符 502, 507, 518, 643, 847, 849, 850, 1401, 1846, 1860, 1862, 1863  
音部記号 152, 502, 506, 1192, 1193  
音符を別の弦に 1740  
音符を別の譜表に 506, 507, 849, 850, 1123, 1127  
カーソル 301, 353, 427, 432  
解決音 1279  
カウント 1607, 1623, 1636  
角括弧 1142, 1143, 1148, 1150-1153, 1171, 1173, 1414  
歌詞 1230, 1370-1372, 1383, 1384  
歌詞の延長線 1379  
歌詞のハイフン 1379, 1381  
括弧 1171, 1173  
キーエディター 839  
ギターバンド 1480, 1481, 1483  
キャレット 247, 281  
キュー 1224  
休符 643, 1645  
強弱記号 502, 863, 1230, 1233, 1243, 1245, 1248, 1256, 1260-1263  
強調記号 1067  
組段 779, 782, 790, 793, 794  
組段区切り 788, 790  
グラフィックスライス 637  
グリッサンドライン 1465  
弦の指示記号 1317, 1541, 1545  
コード記号 1160-1162, 1171, 1173  
コードダイアグラム 1182, 1189  
コメント 550  
再生ヘッド 482, 678, 679, 682  
ジャズアーティキュレーション 1497  
十字線 656  
修飾語句 1245  
小節 786, 790, 792, 793  
小節休符 1645  
小節線 496, 1087  
小節番号 1101, 1102, 1623  
数字付き低音 1273, 1278, 1279  
スタッカート 1067  
スラー 1669, 1677  
スラッシュ 1332  
スラッシュ符頭 1638  
スラッシュ領域のカウント 1636  
選択（「ナビゲーション」を参照してください）  
装飾音 1436  
装飾音符 1329, 1330, 1332

## 移動（続き）

ダイブ 1481, 1483  
打楽器 164, 1846  
タセットバー 1652  
タッチェット 798  
タッピング 1492  
タブ 52  
タブ譜の音符 1740  
段階的強弱記号 502, 1230, 1248  
チャンネル 890  
中括弧 1142, 1143, 1148, 1150-1153  
中間休止記号 1339  
長休符 1652  
調号 152, 1351  
ディヴィジ作成のラベル 1733, 1735  
停止位置 494  
テキスト 631, 652, 923, 1769, 1770  
テヌート 1067  
テンポ記号 874  
通し番号付き小節領域のカウント 1623  
トレモロ 1822  
ナビゲーション（「ナビゲーション」を参照してください）  
パンニング 892  
ハンマーオン 1492  
ピアノロール 839  
ビブラートバー 1483, 1541, 1545  
ビュー 481-483, 679, 839, 890  
拍子記号 1809-1811  
フィンガリング 1182, 1301, 1306, 1307  
フェルマータ 1338, 1341  
付点 1401, 1402, 1862  
符頭の括弧 1412, 1414  
譜表 137-139, 651, 747, 748, 768, 770, 779  
ブルオフ 1492  
フレーム 604, 605, 768, 769  
フレーム区切り 788  
プレーヤー 137-139, 186  
ブレス記号 1339, 1341  
フレット番号 1189  
フロー 189, 793, 794  
フロー見出し 769, 779  
ヘアピン 502, 1230, 1248, 1255, 1256  
ページ 483, 679, 757  
ページの形式変更 594  
ページ番号 582, 604  
ペダル線 101, 1518, 1523  
ホールドの線 1480  
マーカー 1584  
マルカート 1067  
ユニゾンラベル 1733, 1735  
ライン 1555-1559, 1573  
ラインのテキスト 1567-1569, 1696  
リピート回数 1607  
臨時記号 1056, 1057  
レイアウト 196  
連符 506, 1826, 1836  
イニシャル  
コメント 545, 550  
イベント  
マーカー 673  
イベントディスプレイ（「トラック概要」を参照してください）

## 異名同音の表記

MIDI 94, 271, 290  
音符 271, 523, 524, 526  
書き換え 229, 271, 523, 524, 526  
コード記号 174, 1155, 1156, 1164, 1165  
調号 1354, 1355  
ピッチのマッピング 533, 534, 542  
モード 1165  
臨時記号 271, 523, 524, 526

## 入口

インストゥルメントの変更 152, 155, 156  
ラベル 153, 155, 156

## 入れ替え可能な拍子の拍子記号 1796

終了 1813  
入力 311, 313, 315, 316

## 入れ子

スラー 1659, 1670  
連符 1827

## インキピット 1084

イングリッシュホルン（「インストゥルメント」を参照してください）（「移調楽器」も参照）

## 印刷 719, 724

macOS オプション 727  
PDF ファイル 728  
オプション 721  
音符の色 740  
ガイド 740  
歌詞 1366  
キーボードショートカット 64  
コメント 550, 740  
冊子印刷 735  
縮尺サイズ 724  
ジョブタイプ 733  
透かし 740  
声部の色 740  
タイム 740  
縦 733, 737  
注釈 740  
テキスト 113  
トンボ 740  
配置 733  
範囲 724, 726, 727  
日付 740  
部数 724  
プレビュー 39, 477  
フロー 726, 727  
ページサイズ 736, 737  
見開き 733  
向き 737  
用紙サイズ 736  
横 733, 737  
両面 724, 735  
レイアウト 724  
枠線 740

## 印刷オプションパネル 719, 721

印刷プレビュー領域 39  
ナビゲーション 39, 719

## 印刷モード 22, 719

切り替え 46, 719  
縦向き 733  
パネル 40, 719-721  
プリンター 733

## 印刷モード（続き）

ページ設定 737  
横向き 733

## インスタンス

コード記号 941, 1154  
追加 667  
プラグイン 661, 664

## インストゥルメント 24, 143

MIDI 661, 665, 667  
MIDI インポート 95  
MIDI 録音 290  
VST 661, 664, 667  
アンサンブル（「アンサンブル」を参照してください）  
移調 146, 194（「インストゥルメントの移調」も参照）  
移調の変更 148, 201  
移動 149, 186, 899, 900, 903  
エクスペッションマップ 711, 1020  
エンドポイント 710, 711, 713  
エンドポイントへの割り当て 713  
押さえるフィンガリング 1299  
音部記号 124, 148, 199, 200, 202, 950, 954, 1194  
音符の入力 248, 251  
解析 117  
角括弧 1142, 1143  
カスタム（「カスタムインストゥルメント」を参照してください）  
カラー 670, 843, 844, 899, 900  
既存のものの変更 148, 163  
キットから削除 162  
キットへの結合 161  
キューのポップオーバー 454  
強弱記号 859, 1241, 1262, 1264（「強弱記号エディター」も参照）  
空白の譜表 750  
グリッサンドライン 1466  
グループ（「インストゥルメントグループ」を参照してください）  
結合パート 193  
弦楽器 168  
言語 61, 124, 126, 209, 1609  
検索 124, 126, 950  
コード記号 346, 1157  
コピー 137  
コメント 545, 546, 549, 550  
再生 680, 682, 685-688, 701, 702, 704, 707, 710, 713, 1019, 1039  
再生モード 670  
削除 140, 149, 950, 960, 962  
サステイン 1264  
自動ナンバリング 144  
順番 137-139, 149, 164, 183, 963-965  
小節線の結合（「小節線の結合」を参照してください）  
スウィング再生 694  
数字付き低音 427  
スコア上の位置 121, 137, 963-965  
ステージテンプレート（「ステージテンプレート」を参照してください）  
声楽の譜表 950, 954  
ソート 121, 137, 960, 962-965  
ソロ 682, 687, 883, 885  
打楽器 164, 1039, 1848  
打楽器キットへの追加 161

## インストゥルメント (続き)

打楽器のレジェンド 1850, 1852  
 タブ譜 1737, 1739  
 チャンネル 883, 884, 886, 887  
 チューニング 124, 168, 950, 958  
 調号 124, 950, 954, 1348, 1349, 1354, 1355  
 追加 124, 126, 136, 141, 146, 950, 954, 958, 959  
 つま弾くフィンガリング 1299  
 ディヴィジ 1722, 1723, 1725  
 テンプレート 77, 84, 126, 128, 701, 896  
 トラック (「インストゥルメントトラック」を参照してください)  
 トレモロ 447, 449, 1123  
 名前 (「インストゥルメント名」を参照してください)  
 ナンバリング 144, 145, 1692  
 パーカッションマップ 711  
 パートから削除 189, 193  
 パートに追加 193  
 パートレイアウト (「レイアウト」を参照してください)  
 配置ツール 495  
 範囲 950, 954, 1403  
 パンニング 892, 896, 897, 899, 900, 902, 903  
 非サスティン 1264  
 ピッチ (「インストゥルメントの移調」を参照してください)  
 非表示 189, 193, 485  
 表示 189, 193, 485  
 ファミリー (「インストゥルメントファミリー」を参照してください)  
 ファミリーから削除 960, 962  
 ファミリーに追加 960, 962  
 フィルター (「インストゥルメントフィルター」を参照してください)  
 譜表 54, 751, 752, 957, 1241, 1704, 1706-1708, 1848  
 譜表サイズ 774  
 譜表のグループ化 1143  
 譜表の削除 1704, 1705  
 譜表のスペーシング 776  
 譜表の追加 957, 1707  
 譜表の表示 54  
 譜表ラベル 207, 1685, 1688, 1689, 1691, 1692  
 譜表をまたぐ 1123  
 プレーヤー 135  
 プレーヤーパネル 121  
 フレット楽器 168  
 フローに追加 189  
 プロジェクトテンプレート 77, 84  
 ベロシティー 856 (「ベロシティーエディター」も参照)  
 変更 (「インストゥルメントの変更」を参照してください)  
 ポリューム 891, 1241  
 マージ (「コンデンシング」を参照してください) (「リデュース」も参照)  
 ミキサー 883, 884, 886, 887, 891  
 ミュート 687, 883, 885  
 持ち替え 54, 146  
 読み込み 95  
 ラベル 54, 150, 151, 153, 154, 156, 165, 204, 205, 817, 1684, 1688, 1689, 1697, 1699, 1701, 1730, 1733  
 リズムセクション 950, 954, 1143, 1157  
 リバーブ 896, 905, 907, 908, 910, 912

## インストゥルメント (続き)

リピート 688  
 連桁 1123  
 ロード 667, 681, 701, 707  
 インストゥルメントグループ 164, 183  
 削除 166  
 打楽器キット 164, 1698  
 名前を付ける 165  
 フィルター 487  
 ラベル 1695, 1696  
 インストゥルメントチャンネル 883, 884, 886, 887  
 インストゥルメントトラック 669, 670  
 MIDI (「MIDI CC エディター」を参照してください)  
 オートメーション (「MIDI CC エディター」を参照してください)  
 強弱記号 (「強弱記号エディター」を参照してください)  
 ピアノロールエディター 843  
 ベロシティー (「ベロシティーエディター」を参照してください)  
 インストゥルメントの移調 146, 198, 1690  
 音部記号 200, 1196  
 括弧 1691  
 キューラベル (「キューラベル」を参照してください)  
 順番 1691  
 ナンバリング 1692  
 非表示 207, 1690  
 表示 207, 1690  
 復元 202  
 譜表ラベル 207, 1690, 1691  
 変更 124, 148, 199, 201, 950, 958  
 レイアウト 198, 200, 201, 205  
 レイアウト名 205  
 インストゥルメントの色 670  
 MIDI CC エディター 866, 870  
 MIDI ピッチバンドエディター 865, 870  
 演奏技法エディター 855  
 強弱記号エディター 859, 864  
 ステージテンプレート 899, 900  
 打楽器エディター 844  
 ピアノロールエディター 843  
 ベロシティーエディター 856  
 インストゥルメントの音程 (「インストゥルメントの移調」を参照してください)  
 インストゥルメントのスコアの順番 963, 964  
 作成 965  
 名前の変更 964  
 名前を付ける 964  
 ファミリー 960  
 変更 137  
 編集 964  
 「インストゥルメントのスコアの順番を編集」ダイアログ 964  
 インストゥルメントのナンバリング 144, 145, 900, 1691, 1692  
 インストゥルメントの変更 150, 151, 156  
 位置 152  
 キュー 152  
 許可 151  
 禁止 151  
 言語 61, 150, 1609  
 入力 146, 248, 251

## インストゥルメントの変更 (続き)

譜表ラベル 152

ラベル (「インストゥルメントの変更ラベル」を参照してください)

## インストゥルメントの変更ラベル 143, 150, 156

移動 150, 152, 652

カラー 156

キュー 152

サイズ 156

先頭 153

パラグラフスタイル 156

非表示 155

表示 155

フォント 156

フォントスタイル 932

編集 153, 154

末尾 153

枠線 156, 932

## インストゥルメントピッカー 124

名前 950

## インストゥルメントファミリー 124, 960

MIDI インポート 97

アンサンプルピッカー 126

インストゥルメントの追加 950, 954, 958-960, 962

インストゥルメントピッカー 124

インストゥルメントフィルター 487

演奏技法 402, 976, 1536

角括弧 1140, 1142, 1143

組段オブジェクト 1717, 1718

グリッサンドライン 1466

再生テンプレート 704, 708

作成 962

小節線 1088

スコアの順番 (「インストゥルメントのスコアの順番」を参照してください)

ステージテンプレート 899, 900

タイムコード 1581

テンポ記号 1747

名前の変更 960

名前を付ける 960, 962

編集 950, 960

マーカー 1581

リハーサルマーク 1576

リピート括弧 1594

リピートマーカー 1605

和音 514

## 「インストゥルメントファミリーを編集」ダイアログ 960

## インストゥルメントフィルター 124, 126, 485, 486

インストゥルメント 487, 489

キーボードショートカット 485, 487

削除 490

順番 487

追加 489

名前 487, 490

無効化 488

有効化 488

## 「インストゥルメントフィルターを管理」ダイアログ 487

## インストゥルメント名 203, 1684

上付き 207

「エンドポイントの設定」ダイアログ 711

下線 207

カラー 207, 1697

キュー (「キューラベル」を参照してください)

## インストゥルメント名 (続き)

サイズ 1697

再生モード 670, 711, 884

下付き 207

上線 207

省略 206, 207, 817, 950, 1688, 1733

ストレッチ 207

ソロ 139

デフォルトとして保存 207

トークン 619

トラック 670 (「インストゥルメントトラック」も参照)

長さ 207, 1685, 1687

ナンバリング 144, 145, 1688, 1692

配置 207, 1697

非表示 1685, 1687, 1689, 1692

表示 1685, 1687

フォント 1697

譜表ラベル 207, 619, 1685, 1687-1689

プレーヤーラベル 817

ベースラインの移動 207

変更 206, 950

ミキサー 883, 884

リセット 207, 209

枠線 1325

「インストゥルメント名を編集」ダイアログ 207

「インストゥルメントを編集」ダイアログ 950

インターフェース (「ユーザーインターフェース」を参照してください)

インタラクティブキーボードショートカットマップ 66

## インテ

基準単位 55

譜表のスペーシング 779

## インデックス

垂直スタック 656, 1541

声部列 (「声部列の並び順」を参照してください)

トークン 617

リハーサルマーク 1576

## インデント 1720

組段 651, 764, 1685, 1687, 1720

コーダ 651, 1605, 1606, 1720

最後の組段 764

最初の組段 1720

削除 1720

テキスト 932

譜表ラベル 1687

## インド太鼓の記譜 1191, 1857

## う

## ウインドウ

MIDI インストゥルメント 661

VST インストゥルメント 661, 664, 669

再生 53, 679

全画面表示 53

タブ 52

タブの移動 52

トランスポート 698

ビデオ 215

開く 53

複数 49, 52, 53

プロジェクト 32

分割 52

ウィンドウ (続き)  
   ミキサー 884, 885  
   ワークスペース 46  
 上付き  
   インストゥルメント名 207  
   コード記号 1155, 1156  
   テキスト 421, 625, 935  
   トリルの音程 1448  
   譜表ラベル 207  
 上の音符  
   打楽器 263, 1840, 1843  
   トリル 1452  
 上向アルペジオ記号 (「アルペジオ記号」を参照してください)  
 ウクレレ (「フレット楽器」を参照してください)  
 後ろ 479  
   ナビゲーション 353, 427, 432, 480  
   ピッチ 528, 529, 541  
   リズム 528, 529, 541  
 打ち消し  
   調号 1350, 1351  
   ナチュラル 1350, 1351  
   二重臨時記号 1063  
   臨時記号 1060, 1063, 1350  
 ウッドブロック 156, 1838  
   クリック 294, 672  
   追加 136, 146  
 ウナコルダペダル 1516, 1532  
   MIDI コントローラー 1535  
   外観 1534  
   開始記号 1527  
   テキスト 1533, 1534  
   非表示 1534  
 上書き  
   MIDI ポイント 870  
   位置 474  
   移調 124, 198, 199, 201, 202, 360, 950, 958, 1194-1196, 1198, 1204  
   入れ替え 594  
   演奏されるデュレーション 854  
   エンドポイント 715  
   オクターブ線 1204  
   音部記号 124, 198-200, 202, 360, 362, 363, 950, 1194-1196, 1198  
   音符のデュレーション 853, 854  
   楽曲フレーム 609  
   休符 271  
   強弱記号 860, 864  
   コード記号 941, 942, 949  
   コンデンシング 810  
   再生テンプレート 701, 702, 704, 707, 715  
   削除 202, 631, 854  
   小節線 334, 336, 490, 1083  
   ステージテンプレート 902  
   スペーステンプレート 907, 908, 910, 912  
   テキスト 616, 627, 631, 1768  
   パラグラフスタイル 627, 631, 1768  
   フロー見出し 586  
   ページテンプレート (「ページテンプレートの優先」を参照してください)  
   ペロシティー 854  
   レイアウト 198-202  
   連桁 1114, 1115, 1117, 1127

## え

映画 (「ビデオ」を参照してください)  
 エイリアス  
   ジャンプ小節 73, 74  
 エオリアン  
   コード記号 351, 1165  
   スケール 535, 542  
 「エクスペッションマップ」ダイアログ 1020  
 エクスペッションマップ 1019, 1020  
   MIDI 1266  
   移調 1021, 1025, 1028  
   演奏技法 1046, 1540  
   演奏技法を非表示 1540  
   エンドポイント 661, 710, 714, 715  
   書き出し 1038  
   強弱記号 1028  
   再生効果 1020, 1031, 1035  
   作成 1034, 1035, 1037  
   順番 1020  
   条件 1027, 1035  
   スイッチ 1024, 1032, 1035  
   ダイアログ 1020, 1031  
   動作 1025, 1035  
   トリル 1449  
   ピッチ 1020, 1034  
   ファイル形式 1019, 1038  
   フィルター 1020  
   ボリューム 1266  
   読み込み 1038  
   リセット 1030  
   両立しない演奏技法のグループ 1029, 1034, 1037  
   レガート 1028  
 エクスプロード 246, 261, 510  
   MIDI インポート 98  
   音符入力 246, 261  
   コード 261, 510, 511  
   コード記号 511, 512, 517  
   挿入モード 280, 491  
 エスプレッシーヴォ (「強弱記号の修飾語句」を参照してください)  
 エディター 831  
   MIDI CC (「MIDI CC エディター」を参照してください) (「MIDI ピッチバンドエディター」も参照)  
   演奏技法 (「演奏技法エディター」を参照してください)  
   キーエディター (「キーエディター」を参照してください)  
   強弱記号 (「強弱記号エディター」を参照してください)  
   スクロール 839  
   設定 881, 882  
   打楽器 (「打楽器エディター」を参照してください)  
   追加 840, 881  
   テキスト 421, 625  
   テンプレート 881  
   テンポ (「テンポエディター」を参照してください)  
   閉じる 840  
   ドラム (「打楽器エディター」を参照してください)  
   ピアノロール (「ピアノロールエディター」を参照してください)  
   ヒストグラム (「ヒストグラムツール」を参照してください)

## エディター (続き)

ピッチバンド (「MIDI ピッチバンドエディター」を参照してください) (「MIDI CC エディター」も参照)  
フロー見出し 596  
ページテンプレート 581  
ペロシティー (「ペロシティーエディター」を参照してください)  
保存 881

エフェクトチャンネル (「FX チャンネル」を参照してください)

## エリジョンスラー 1386

サイズ 1361, 1386  
入力 424, 427  
幅 1368

エレキギター (「フレット楽器」を参照してください)

## 演奏音

打楽器のレジェンドの範囲 1850, 1852  
デュレーション 852, 1334, 1824 (「演奏されるデュレーション」も参照)  
ピッチ (「発音上のピッチ」を参照してください) (「実音」も参照)

## 演奏回数 1607

言語 1609  
変更 691, 1592

## 演奏技法 1536

MIDI インポート 97, 98, 101  
アタッチメントポイント 979  
位置 1537, 1541, 1545  
移動 502, 506, 528, 531, 652, 1541, 1545  
エクスペッションマップ 1019, 1020, 1046  
エディター (「演奏技法エディター」を参照してください)  
延長線 1537, 1542, 1547-1549  
エンドポイント設定 715  
回転 531  
ガイド 490, 1540  
書き出し 113  
カスタム 976, 982, 983  
括弧 1544  
カラー 60, 979  
ギター 1485  
キュー 1215  
組み合わせ 1031, 1035, 1045  
組段区切り 1545  
グループ化 1542, 1548, 1549  
グループ化の解除 1550  
サイズ 473, 1537  
再生 685, 686, 1019, 1020, 1031, 1035, 1046, 1047  
削除 496  
作成 982, 1843  
識別 42  
十字線 656  
順番 1541  
浄書オプション 1537  
衝突回避 1541  
垂直位置 1541  
水平オフセット 1537  
声部 404, 406, 685, 686  
選択 461  
装飾音符 1537  
タイ 404, 406  
ダイアログ 979, 1047  
タイプ 399, 1536

## 演奏技法 (続き)

打楽器 1039, 1045, 1839, 1840, 1842, 1847  
ディヴィジ 1722  
ディスプレイ 42  
テキスト 1536, 1537  
テキストの追加 1537  
デザイン 976, 979  
デフォルト設定 1537  
デュレーション 470, 1543, 1545, 1549  
トラック (「演奏技法エディター」を参照してください)  
長さ 470, 652, 1542, 1545  
入力 398, 399, 404, 406  
ハーモニクス (「ハーモニクス」を参照してください)  
背景 1538  
背景の塗りつぶし 1538, 1539  
排他グループ 1029  
パネル 402, 406  
反転 528 (「逆行」も参照)  
ハンドル 1543, 1545, 1548  
反復 976, 1545  
非表示 404, 1215, 1540  
表示 1215, 1540  
フィルター 467  
フェルマータ 1541  
フォント 1536  
複製 976, 982, 1545  
符頭 850, 973, 975, 1045, 1840, 1842, 1843, 1845  
譜表に対する位置 474  
フレーム区切り 1545  
変更 472, 850, 1843  
編集 979  
ポップオーバー 399, 404  
ミュート 688  
余白 1539  
読み込み 913  
ライン (「演奏技法の線」を参照してください)  
リセット 976  
演奏技法エディター 855  
非表示 855  
表示 855  
演奏技法固有の符頭 1536, 1838, 1840, 1842  
アーティキュレーション 1045  
外観 1845  
再生 1045  
作成 1843  
入力 263, 846  
変更 850, 1843  
「演奏技法の外観を編集」ダイアログ 979  
演奏技法の線 1542, 1548  
外観 1545, 1547  
キャップ 1547  
組段区切り 1544  
構成要素 1544  
デフォルト設定 1542  
デュレーション 470, 1543, 1545  
非表示 1545, 1547  
表示 1545, 1547, 1549  
変更 1547, 1550  
演奏技法パネル 406, 409  
演奏技法レーン (「演奏技法エディター」を参照してください)  
「演奏技法を編集」ダイアログ 976

演奏されるデュレーション 852, 1334, 1824  
 上書き 853, 854  
 キーボードショートカット 853  
 記譜されたデュレーション 852  
 スラー 1683  
 ツール 833  
 変更 853, 854  
 リセット 854  
 ロック 833, 847, 848, 852  
 演奏上の指示 567, 573, 1318, 1764  
 演奏技法 (「演奏技法」を参照してください)  
 楽譜の抜粋 635  
 追加 420, 575  
 パート 420  
 延長 (「休止」を参照してください)  
 延長記号 1532  
 演奏技法の延長線 1544  
 括弧 1531  
 テキスト 1533  
 ライン 1553  
 延長記号と休止記号パネル 369  
 延長線 984, 988, 1542, 1551  
 演奏技法 1542, 1545, 1547-1549  
 オクターブ線 1202  
 外観 976  
 角度 1518  
 歌詞 427, 1363, 1379, 1380  
 カスタムの演奏技法 982  
 キャップ 1547  
 強弱記号 337, 1229, 1234, 1246, 1249, 1250  
 区切りをまたぐスラー 1660  
 数字付き低音 1273  
 デフォルト設定 976  
 デュレーション 1543  
 テンポ記号 1747, 1757-1759  
 トリル 1438-1440  
 入力 399, 404, 406  
 非表示 1758  
 太さ 1531, 1761  
 ペダル線 1516, 1518, 1526, 1529-1531, 1533, 1534  
 延長線のキャップ 1553  
 編集 994  
 エンドポイント 710  
 移動 470, 502, 652  
 インストゥルメント 713  
 エクスプレッションマップ 661, 711, 714  
 カスタム 716, 717  
 グリッサンドライン 1461, 1462, 1465  
 削除 717  
 声部 713  
 設定 711, 715  
 名前の変更 717  
 パーカッションマップ 661, 711, 714  
 符頭の括弧 1412  
 プラグイン 701  
 変更 661, 713, 714  
 保存 716  
 「エンドポイントの設定」ダイアログ 711  
 「エンドポイントの設定を編集」ダイアログ 717  
 「エンドポイントの設定を保存」ダイアログ 716  
 エンベロープ  
 強弱記号 859, 863

## お

扇形連桁 1133  
 角度 1134  
 作成 1134  
 方向 1133, 1134  
 大きい  
 選択範囲 463  
 拍子記号 (「大きな拍子記号」を参照してください)  
 符頭 1392  
 大きな拍子記号 1801, 1803  
 小節番号 1103  
 垂直位置 1811  
 オーギュメント 537  
 音程 372, 520, 537, 538, 1060, 1269, 1443, 1444  
 コード記号 350, 517, 1155, 1156  
 数字付き低音 1269  
 スケール 535, 542  
 トリル 372, 1443, 1444  
 臨時記号 1060  
 オーケストラ  
 インストゥルメントファミリー 960  
 インストゥルメントフィルター (「インストゥルメントフィルター」を参照してください)  
 キュー (「キュー」を参照してください)  
 順番 137, 138, 149, 183, 197, 963, 964, 1695, 1696  
 省略表現 126  
 ステージテンプレート 897  
 パンニング 892  
 譜表のグループ化 1143, 1695  
 プロジェクトテンプレート 77, 84, 126  
 オーケストレーション (「配置」を参照してください)  
 オーディオ  
 書き出し 110, 111  
 警告 42  
 再生 701, 707  
 ダイアログ 111  
 デバイスの設定 63  
 バッファサイズ 295, 296  
 パンニング 892, 896, 902  
 ビデオ 215  
 ボリューム 215, 883, 884, 891  
 ミキサー 883, 884  
 ミキサーの出力 711  
 リバーブ 905, 910, 912  
 リピート 689  
 「オーディオを書き出し」ダイアログ 111  
 オートメーションレーン (「MIDI CC エディター」を参照してください) (「キーエディター」も参照)  
 オーバースクロール 483  
 オープン  
 弦楽器 (「開放弦」を参照してください)  
 調号 1349  
 拍子記号 311, 315, 316, 1796, 1804, 1806  
 メーター 311, 315, 316, 1595, 1796, 1804, 1806  
 オーボエ (「インストゥルメント」を参照してください)  
 大文字  
 コード記号 1155, 1156  
 小節番号 1107  
 譜表ラベル 61, 1694  
 フロー番号 621  
 リピートマーカーのテキスト 1599  
 ローマ数字 621

- 置き換え 472
  - キーエディター設定 881
  - フォント 80, 930
  - フロー見出し 597, 599
  - ページテンプレート 575, 577
- オクターブ線 1201
  - 位置 656, 1202, 1203
  - 移動 502, 506, 652
  - 外観 1202
  - ガイド 1204
  - 角度 1206, 1207
  - 記号 1014
  - キュー 1210
  - 組段区切り 1205
  - 形式設定 1014
  - サイズ 473
  - 削除 496
  - 十字線 656
  - 浄書オプション 1202
  - 浄書モード 1205
  - スタックの順番 1205
  - 選択 461
  - タイプ 360, 1201
  - タッキングインデックス 656
  - デフォルト設定 1202
  - 長さ 470, 652, 1205
  - 入力 358, 360, 361, 363, 365
  - 配置 1202, 1203
  - パネル 365
  - ハンドル 1205
  - 非表示 1204
  - 表示 1204
  - フィルター 467
  - フィンガリング 1287
  - フック 1205
  - 譜表に対する位置 474
  - フレーム区切り 1205
  - ポップオーバー 358, 360, 363
  - レイアウト 1204
- オクターブの移調 518-520
  - インストゥルメント 146, 950, 954, 958
  - オクターブ線 360, 1201
  - 音部記号 146, 358, 360, 950, 954, 958, 1198, 1199
  - キュー 1210, 1211, 1221
  - 親切臨時記号 1062
  - 数字付き低音 1283
  - スケールのマッピング 535, 542
  - スコア 199, 201
  - 転回 528, 529, 540
  - パート 199, 201
  - ピッチのマッピング 533, 534, 542
  - レイアウト 199, 201
- オクターブの均等な分割 1358
- オクターブの分割 1358
  - EDO 1358
  - 移調 519, 520
  - カスタム 1008
  - 再生 1014, 1022, 1466, 1467
  - 調性システム 1003, 1008
  - 変更 1003, 1008
- オクタトニック
  - コード記号 351
  - スケール 535
- 押さえた状態の鍵盤 229
- 押さえるピッチ 1425
  - ハーモニクス 1429
  - フレットボードパネル 231
- オssia譜表 1710
  - 移動 502, 506
  - ガイド 490, 1710
  - キュー 453
  - 組段オブジェクト 1719
  - コンデンシング 804, 1710
  - サイズ 1711
  - 再生 1710
  - 削除 1705
  - 小節線 1714
  - 垂直方向のスペーシング 748, 776
  - 追加 1711
  - テンポ記号 1719
  - 非表示 1713
  - 表示 1713
  - 譜表のスペーシング 748, 776
  - 譜表冒頭部 1712
  - 譜表ラベル 1714, 1715
  - 余白 1712
  - リピート括弧 1719
- 音
  - 再生 (「クリック」を参照してください)
  - 微分音 (「微分音」を参照してください) (「1/4 音」も参照)
  - 音を消した音符 (「デッドノート」を参照してください)
- オプション 30, 826
  - アイテム 826
  - 音符入力 921
  - 環境設定 63
  - 記譜記号 826, 919
  - 検索 63, 917, 919, 921, 923, 925
  - 再生 925
  - 浄書 923
  - ズーム 42, 45, 483, 484
  - ツールバー 33
  - テキストの形式設定 421, 625
  - トランスポート 33, 35
  - プロパティ 826
  - ページサイズ 737
  - レイアウト 917
  - ワークスペース 33, 34
- オプションを表示 44, 740
  - Hub 75
  - MIDI トリガー領域 718
  - 印刷 740
  - 印刷プレビュー 477, 719
  - ウィンドウ 53
  - 音域外の音符 58, 1403
  - 音符 689, 821, 1403, 1859
  - 書き出し 740
  - 楽譜の移動 481-483, 679
  - 楽譜領域 38, 44, 54
  - カラー 56-60
  - キーエディター 831, 835, 837-840, 878
  - ギャラリービュー 44, 54
  - キュー 1226, 1228
  - 休符 1403, 1644
  - 組段区切りガイド 791
  - グラフィックスライス 635



## オプションを表示 (続き)

言語 61, 69  
 コード記号 179, 180, 182, 1157, 1159, 1160, 1162, 1163, 1178  
 コードダイアグラム 1177-1180, 1182  
 コメント 545, 551  
 コンデンシング 821  
 最近使用したプロジェクト 75  
 再生ヘッド 679, 701  
 システムトラック 465  
 小節番号 1098  
 数字付き低音 1281  
 ズーム 45, 483, 484, 676, 677, 838  
 声部 1858, 1859  
 全画面表示モード 53  
 タイプ 44  
 タイムコード 701  
 打楽器のレジェンド 1850  
 タブ 36, 47, 49, 51  
 ディヴィジ 1728  
 通し番号付き小節領域 1612  
 トラック 676, 677, 838  
 トランスポート 701  
 ハープのペダリング 1403  
 背景色 58  
 パネル 40, 48  
 ピアノロール 831, 835, 837-840, 843  
 ヒストグラムツール 878  
 「ビデオ」ウィンドウ 215  
 非表示 477  
 拍子記号のガイド 1812  
 フレーム区切りガイド 795  
 フロー 660  
 ページのカラー 57  
 ページ配置 42, 44, 54  
 ページビュー 44, 54  
 変更 42, 878  
 ミキサー 883, 885, 890  
 ユニゾン範囲 1728  
 レイアウト 36, 47, 51  
 オフセット 652, 829  
 インストゥルメントの変更 152  
 演奏技法 1537  
 演奏されるデュレーション 833, 847, 848, 852-854  
 音符 (「音符のスペーシング」を参照してください)  
 歌詞のライン 1372, 1374  
 キュー 1224, 1225  
 コード記号 1162, 1173  
 小節番号 1100-1106  
 声部列 1401, 1862, 1863  
 タイムコード 212, 1587  
 長休止符 1651, 1652  
 ディヴィジ作成のラベル 1733  
 テキスト 1769, 1770  
 ビデオ 212  
 付点 1401, 1862  
 フレーム 604, 605  
 プレーヤーラベル 817  
 フレット番号 938, 1186, 1187  
 リセット 477  
 リハーサルマーク 1576  
 臨時記号 1057  
 連符 1836

オプティカルスペーシング  
 譜表をまたぐ連桁 1125  
 重いスウィング 693, 697  
 親指 1299  
 コードダイアグラム 938, 1182, 1184, 1187  
 入力 304  
 フィンガリング 1299, 1305  
 ポップオーバー 302, 304  
 折りたたみ式ドラッグ 782  
 オルガン (「インストゥルメント」を参照してください)  
 オルタードユニゾン 1058  
 アーティキュレーション 1065  
 外観 1058  
 形式設定 1058  
 符尾の分割 1058  
 オルタレーション  
 コード記号 350, 1155, 1156, 1169  
 コードダイアグラム 1177  
 ジャズの装飾音 375  
 数字付き低音 1269  
 オルファ楽器 (「インストゥルメント」を参照してください)  
 音域  
 アコーデオンの 976  
 移調 521, 1199  
 オクターブ線 363, 365, 1201  
 音部記号 362, 363, 1191, 1199  
 音符入力 251  
 キュー 1210, 1213  
 プラグイン 666  
 変更 518, 520, 521  
 音価 (「音符のデュレーション」を参照してください)  
 音価が指定されたトレモロ (「トレモロ」を参照してください)  
 音価が指定されないトレモロ (「トレモロ」を参照してください)  
 音楽記号 1014  
 カスタム 997  
 ダイアログ 1014  
 テキスト 420, 423, 619, 624  
 トークン 619  
 入力 420, 423, 619, 624, 987, 988  
 編集 1014  
 文字スタイル 935  
 ライン 987, 988, 994, 997, 999, 1001  
 「音楽記号を編集」ダイアログ 1014  
 「音楽テキストを挿入」ダイアログ 423  
 音楽フォント 75  
 代替 930  
 音楽フォントダイアログ 929  
 オンコード 351, 354, 1155, 1166  
 区切り文字 1155-1157, 1167  
 入力 346, 351  
 配置 1155, 1167  
 音節  
 位置 1368  
 歌詞 1363, 1368, 1370  
 強弱記号 1249  
 タイプ 1364  
 テンポ記号 1758  
 連桁 1115  
 音程  
 移調 519, 520, 539  
 オクターブの分割 1358

## 音程 (続き)

音符入力 251  
 音符の生成 515, 517  
 簡略化 1283  
 ギターバンド (「バンドの音程」を参照してください)  
 グリッサンドライン 1461  
 コード記号 350, 515, 517, 1155  
 サイズ 515, 517  
 自動保存 116  
 数字付き低音 1269, 1283  
 装飾音 1435  
 追加 278, 284, 539  
 ディップ 1491  
 トリル 372, 376, 1441-1444, 1448  
 ハーモニクス 1425-1427, 1429, 1433  
 ハンドル 1480, 1481, 1483  
 ピッチのマッピング 533, 534, 542  
 ビブラートバーのダイブとリターン 1474  
 微分音 538  
 フレット楽器 169  
 ポップオーバー 538  
 臨時記号 372, 538, 1443  
 音程追加のポップオーバー (「音符ツールのポップオーバー」を参照してください)  
 音符 25, 1388  
 アーティキュレーション 223, 1065, 1067  
 アルペジオ記号 (「アルペジオ記号」を参照してください)  
 アンスケール 1329, 1829  
 移調 517-521, 539, 849  
 1線 1846  
 移動 528, 531, 1401, 1840, 1843, 1860, 1862  
 異名同音の表記 271, 523, 524, 526  
 入れ替え 509  
 上書き 853, 854  
 エクスプロード 510-512, 517  
 演奏されるデュレーション 852-854  
 音域 251, 518, 522  
 音域外 58, 950, 1403, 1740  
 音符のスペーシング 643, 645  
 外観 826, 1388, 1738  
 解析 117  
 回転 531  
 書き換え 523, 524, 526  
 角括弧 (「括弧付きの符頭」を参照してください)  
 囲み線 1742, 1743  
 重ね合わせ 286, 1859, 1860, 1862  
 歌詞を整理 1370  
 加線 1399, 1400  
 加線の非表示 1400  
 括弧 1406, 1408  
 カラー 58, 60, 689, 821, 1393, 1403, 1859  
 キーエディター 831, 843  
 記号 1014  
 既存の音符への追加 284  
 ギタープリバンド 1472  
 ギターバンド 384, 385, 1469  
 ギターポストバンド 386, 1473  
 記譜されたデュレーション 26, 852  
 キュー (「キュー」を参照してください)  
 休符 1641  
 強弱記号 337, 856, 859, 1229 (「強弱記号エディター」も参照)

## 音符 (続き)

強弱記号の整理 1231, 1232  
 金管楽器のフィンガリング 1309  
 グリッサンドライン (「グリッサンドライン」を参照してください)  
 グループ化 1113, 1136  
 形式設定 1014  
 弦楽器 1740  
 弦の指示記号 (「弦の指示記号」を参照してください)  
 弦のフィンガリング 1310, 1312, 1397  
 ゴーストノート 1408  
 コード 278, 280, 355, 356, 511, 512, 517  
 コード記号から生成 511, 512, 517  
 コード記号の配置 1160  
 コードダイアグラム 1176  
 コピー 497, 499, 500, 851, 1065  
 コンデンシング (「コンデンシング」を参照してください)  
 再クオンタイズ 293  
 サイズ 473, 747, 772, 1208, 1209  
 再生 680, 685, 687, 688, 1019  
 再生モード 845  
 削除 492, 496, 852, 1073, 1821  
 試聴 239, 240  
 ジャズアーティキュレーション (「ジャズアーティキュレーション」を参照してください)  
 順番 1862, 1863  
 浄書オプション 1388, 1738  
 水平方向のスペーシング (「音符のスペーシング」を参照してください)  
 スケールのマッピング 535  
 ステムレット 1131  
 スペーシング (「音符のスペーシング」を参照してください)  
 スラー 223, 1065, 1658  
 スラッシュ 1625, 1627  
 スラッシュ符頭 1627  
 スラッシュ領域 1632  
 声部 257, 507, 508  
 声部への貼り付け 499  
 選択 460-462, 469, 480, 840  
 選択解除 469  
 装飾音符 275, 1327, 1329  
 挿入モード 262, 491  
 タイ 26, 274, 1067, 1784  
 第2連桁 1127  
 第3線 1418  
 タイプ 223  
 打楽器エディター 840, 844-848, 850  
 打楽器キット 156, 263, 846, 1838, 1840, 1848, 1855, 1856  
 タブ譜 1738, 1740  
 調号 519, 520, 523, 524, 526  
 デッドノート 1490  
 デフォルト設定 1388, 1738  
 デュレーション 223, 285, 286, 288, 846, 848, 852  
 デュレーションの固定 288, 1137  
 デュレーションをロック 522  
 点線 255, 1113, 1136  
 トリル 1438  
 トリルの音程 1443, 1444  
 トレモロ (「トレモロ」を参照してください)  
 長さ 286, 846, 848

## 音符 (続き)

ナビゲーション 480  
 入力 238, 247, 248, 251, 255, 262, 263, 278, 288, 511, 512, 517, 845, 846  
 パーカッションマップ 1039  
 ハープのペダリング 1506, 1507  
 ハーモニクス (「ハーモニクス」を参照してください)  
 倍音 1425  
 配置 1232  
 速さ 285, 286, 288, 1133, 1745  
 範囲 58, 950, 1403  
 反転 528, 529, 540  
 ハンマーオン 1489  
 ピアノロールエディター 831, 840, 843, 845, 847-849  
 非減衰 1785  
 ピッチ 518, 522  
 ピッチ依存の符頭のデザイン 1393  
 ピッチの変更 518, 522  
 ピッチのマッピング 533  
 非表示 717, 1398, 1404, 1632  
 表記 271, 523, 524, 526  
 表示 1398, 1404, 1632  
 表示位置の移動 (「音符のスペーシング」を参照してください)  
 拍子記号 1806  
 フィルター 467, 468  
 フォント 927, 929  
 複声部の状況 1860, 1864  
 符鉤 1014  
 付点 255, 1139, 1401, 1402, 1862  
 符頭セット 1388  
 符頭のデザイン 967, 970, 1389  
 符尾 (「符尾」を参照してください)  
 符尾の長さ 1421  
 符尾の非表示 1422  
 符尾の方向 507, 1416, 1418, 1420, 1856  
 符尾の方向の変更を解除 1420  
 譜表の上 284, 518, 1123, 1154, 1201, 1221, 1223, 1400, 1710, 1711  
 譜表の下 284, 518, 1123, 1154, 1201, 1221, 1223, 1400, 1710, 1711  
 譜表のスペーシング 748  
 プロパティ 826  
 分割 219, 288, 1786  
 ペダル線 1517, 1523  
 別のインストゥルメントへの移動 507, 850  
 別の弦に移動 1740  
 別の譜表に移動 506, 509, 850, 1123, 1127  
 ベロシティー 856 (「ベロシティーエディター」も参照)  
 変換 527  
 编者注 (「括弧付きの符頭」を参照してください)  
 編集 219, 826  
 ベンディング 386  
 他の譜表まで伸ばす 506, 1123, 1127  
 補助 1446  
 ポップオーバー 537  
 ホルンの支管の指示記号 1309  
 ミュート 687, 688, 1490, 1536  
 ユニゾン 1860  
 ライン (「ライン」を参照してください) (「グリッサンドライン」も参照)  
 リズムグリッド 241

## 音符 (続き)

リズム上の位置の変更 502, 847  
 リセット 854  
 リテイク 1517, 1523  
 臨時記号 223, 269, 518-520, 523, 524, 526, 1051  
 レセヴィブレタイ 1785  
 連桁 1112, 1114  
 連桁の解除 1115  
 連符 1826, 1828  
 ロール (「トレモロ」を参照してください)  
 音部記号 1191  
 位置 237, 1192  
 移調 360, 1194, 1196, 1198, 1199  
 移調楽器 124, 950, 954, 958  
 移動 152, 502, 506, 1192, 1193  
 インストゥルメント 124, 950, 954, 958  
 インストゥルメントの変更 152  
 インド太鼓 363, 1857  
 上書き 124, 200, 362, 363, 950, 954  
 オクターブ指示記号 360, 1198, 1199  
 ガイド 490, 1195, 1196  
 カラー 60  
 間隔 1191, 1193, 1347  
 間隔のスペーシング 1191  
 記号 1014  
 ギター 146, 200, 950, 958, 1199  
 キュー 1209, 1220  
 形式設定 1014  
 サイズ 1194  
 削除 496  
 小節線 1079, 1209  
 小節番号 1094, 1102  
 親切 1191  
 スペーシング 1193  
 装飾音符 1192  
 タイ 1784  
 タイプ 358  
 長休符 1651, 1652  
 調号 1350  
 トークン 619  
 入力 358, 361-363  
 パネル 363  
 非表示 362, 363, 1195-1197  
 表示 1195-1197  
 フィルター 467  
 復元 202, 362, 363, 1208, 1220  
 譜表 199, 200  
 変更 124, 199, 200, 362, 363, 950, 954  
 ポップオーバー 358, 362  
 レイアウト 198-200, 1194-1196  
 「音部記号と移調の上書き」ダイアログ 199  
 音部記号パネル 361, 363  
 音符ツールのポップオーバー 537  
 音符の移調 521  
 音符の追加 284  
 音符ツールボックス 219  
 音符と休符の色 60, 1403, 1644  
 印刷 724, 740  
 音域外の音符 58, 1403, 1737  
 書き出し 728, 740  
 キュー 1228  
 休符 1644  
 コンデンシングされた楽譜 821

- 音符と休符の色 (続き)  
声部 58, 1859  
タブ譜 1737  
反転 59  
非表示 477, 689, 1403, 1859  
符頭セット 1393  
変更 58, 60  
ミュート 689  
ユニゾン範囲 1728
- 音符入力 247, 248, 251, 255, 845  
MIDI 290–292, 295  
オプション 30  
音域の選択 251  
音符の再生 239  
音符の追加 284, 539  
音符のピッチ変更 522  
音符をミュートする 239  
開始 246  
キーボードパネル 229  
キャレット 242, 247  
休符 1641  
弦楽器 231  
コード 242, 278, 511, 512, 517  
声部 257  
装飾音符 275  
挿入モード 242  
タイ 274  
打楽器 104, 263, 266, 267, 846  
タブ譜 251, 268  
デュレーションをロック 522  
ドラムパッドパネル 233  
入力と編集 234  
ピアノキーボード 229  
ピッチ 238  
ピッチの入力 238  
非録音時の MIDI 入力データを記録 292  
複数の譜表 246, 261  
符尾の方向 267  
フレット楽器 231  
フレットボードパネル 231  
マウス入力 236  
リズムグリッド 241  
連符 281
- 「音符入力オプション」ダイアログ 921  
コード記号 354  
コードダイアグラム 1177  
数字付き低音 1269
- 音符の括弧 (「括弧付きの符頭」を参照してください)  
音符のグループ化 25, 1136  
音符入力 25, 26  
カットコモンタイム 1139  
休符 25  
弱起 (アウフタクト) 1800  
スラッシュ符頭 1630  
タイ 274  
拍子記号 26  
ヘミオラ 288  
変更 288, 1137  
メーター 1113, 1138  
連桁 1112–1115, 1117, 1136
- 音符の再クオンタイズ 293, 847, 848, 852
- 音符のスペーシング 554, 643, 644, 646, 852, 1125, 1645, 1652, 1861  
ガイド 490, 645  
歌詞 644, 646, 1368, 1370  
ギターベンド 1476  
ギャレービュー 44  
休符 1646  
組段 566, 764  
コード記号 1160  
個々の音符 648, 650  
小節線 1087  
垂直線 1556  
声部 1401, 1862  
装飾音符 1327  
タイ 1777  
ダイアログ 646  
調号 1351, 1353  
デフォルト 643  
ハンドル 648, 650  
拍子記号 1799  
フィルター 467  
復元 651  
付点 1401, 1862  
符尾 1125  
譜表をまたぐ連桁 1125  
フロー 645  
別のレイアウトへコピー 822  
変更 643, 645, 648, 1556, 1646, 1862  
変更の削除 648  
密度 566  
有効化 554  
ライン 648, 1556  
リセット 647, 648  
両端揃え 566, 764  
臨時記号 1057  
レイアウト 643  
レイアウトオプション 644, 917  
「音符のスペーシングの変更」ダイアログ 646
- 音符のデュレーション 223, 285, 852, 853  
エクスペッションマップ 1020, 1035  
演奏される (「演奏されるデュレーション」を参照してください)  
キーエディター 846, 848  
記譜された (「記譜されたデュレーション」を参照してください)  
強制 288, 1137  
クオンタイズ 103  
グリッサンドライン 1467  
コード 278  
異なる 257  
再生 925, 1028  
スラッシュ領域 1630  
声部 257  
選択 285, 288  
打楽器 263, 846, 848  
タブ譜 268  
テンポの等式 323  
入力 248, 251, 285, 286, 288  
拍の入力 330  
非表示 223  
表示 223  
符点の統合 1401  
分割 288

## 音符のデュレーション (続き)

変換 527  
 変更 286, 848  
 メトロノームマーク 322  
 連符 281, 284

## 音符のピッチ変更 522

## 音符の表記 523, 524

移調 539  
 音符の追加 539  
 書き換えの無効化 921  
 自動的 524  
 リセット 526  
 レイアウト 526

## 音符の譜表 1737

非表示 1739  
 表示 1739

## 音符パネル 218, 223

## 音名 542

MIDI トリガー領域 458, 459, 717  
 大文字/小文字 61  
 言語 61  
 転回 540  
 ピアノロールエディター 843  
 ピッチのマッピング 542  
 符頭 1393, 1397  
 ミドル C 55

## か

## カーソル

歌詞 427, 1377  
 キャレット 242  
 コード記号 353  
 数字付き低音 432  
 テキスト 617, 624  
 フィンガリング 301

## カード

タイムコード 132  
 展開矢印マーク 45  
 プレーヤー 121  
 フロー 132  
 レイアウト 129

## カーニング

数字付き低音 1277, 1280  
 臨時記号 1056

## カーブ

強弱記号 1265

## カーブ方向

ギタープリベンド 1478  
 ギターベンド 474  
 スラー 1656, 1657, 1667, 1668, 1681  
 装飾音符 1657  
 タイ 1777, 1781, 1782, 1790  
 符頭の括弧 1412, 1414

## カーリユール記号 (「フェルマータ」を参照してください)

## 外観

アイテム 826  
 デフォルト設定 917, 919, 923  
 リセット 476

## 改行

テキスト 420, 624  
 譜表ラベル 207, 1691  
 プレーヤーラベル 820

## 改行 (続き)

プロジェクト情報 81  
 リポートマーカ 1603

## 解決音

数字付き低音 1279

## 開始 246

Hub 75  
 MIDI 録音 291  
 入れ替え可能な拍子の拍子記号 311, 315, 316, 1796, 1813  
 音符入力 246, 248, 251  
 再生 680  
 タイムコードの値 1587  
 プレーヤー 37  
 プロジェクト 37, 77  
 領域 37  
 ワークスペース 46

## 開始位置

組段 784, 789  
 再生 678  
 トリル 1437  
 ビデオ 214  
 フレーム 784, 792  
 ページ 784, 792  
 ライン 1562

## 開始記号

ペダル線 1526, 1527, 1532, 1533  
 ライン 994, 1544, 1553

## 開始ページ

左側のページ 760  
 ページ番号 760, 1503

## 開始領域 37

## 解析 117

書き出し 118

## 解像度

画像 739  
 変更 729

## 回転 531

スラー 1677  
 タイ 1788  
 テキスト 1695  
 ピッチ 531, 541  
 ヘアピン 652, 1248  
 リズム 531, 541

## ガイド 490

印刷 724, 740  
 インストゥルメントラベル 54, 204, 205  
 演奏技法 1540  
 オクターブ線 1204  
 オッサ譜表 502, 506, 1710  
 音部記号 1195, 1196  
 音符のスペーシングの変更 645  
 書き出し 728, 740  
 キュー 1208, 1209, 1226-1228  
 強弱記号 1236  
 組段区切り 789, 791  
 コード記号 1154, 1157, 1162  
 コンデンシング方法の変更 810  
 弱起 (アウフタクト) 1800  
 小節 1077  
 小節線 334, 336, 496, 1077, 1078, 1148, 1813  
 小節番号 54, 477, 1098  
 数字付き低音 427, 1268, 1270, 1281

- ガイド (続き)  
大括弧と小節線の変更 1148, 1150  
打楽器のレジェンド 1850  
長休止符 1653  
調号 308, 309, 1346  
追加の譜表 1706  
テキスト 1775  
テンポ記号 1750, 1752, 1754  
トリル 1441-1444  
ハーブのペダリング 1506, 1509  
非表示 477, 491  
表示 491  
拍子記号 1077, 1800, 1804, 1806, 1812, 1813  
副括弧 1150  
譜表 502, 506  
譜表の変更 1706  
フレーム区切り 795  
プレーヤーラベル 818  
ページ番号 477, 1505  
ライン 241, 656  
連符 1831, 1835
- 回復 292  
音符 259, 292, 1629  
バックアップ 116  
ファイル 114-116
- 開放弦 1425  
外観 1314  
弦の指示記号 1314  
コードダイアグラム 938, 1176, 1187  
ハーモニクス 1425  
ピッチ 169, 171
- カウベル (「無音程打楽器」を参照してください) (「演奏技法固有の符頭」も参照)  
カウンターパートのレイアウト 47  
カウント 1612  
tacet al fine 1650  
位置 1623, 1636  
移動 652, 1607, 1623, 1636  
解析 117  
歌詞 1378  
間隔 1611, 1619, 1623, 1625  
休止符 1650, 1651  
言語 1609  
弱起 (アウフタクト) 1800  
小節 452, 1612, 1618, 1619, 1621, 1633, 1650, 1651  
小節線 1607  
小節番号 1097, 1108, 1109, 1800  
小節リピート記号 1611-1615  
スラッシュ符頭 1625, 1633-1635  
タイムコード 1586  
長休止符 1649-1651, 1653  
通し番号付き小節領域 452, 1619-1621  
配置 1623  
範囲 1097, 1619, 1621  
非表示 1607, 1615, 1621, 1635  
譜表に対する位置 1623, 1636  
フレーム 1586  
ページ番号 621  
リピート 691, 1108, 1592, 1607
- カウントイン  
デュレーション 295  
メトロノームクリック 295
- 替え指のフィンガリング 1288  
位置 1288  
外観 1287  
ハンドル 1288  
ライン 1287
- 書き起こし  
MIDI インポート 98, 101  
MIDI 録音 290, 291, 295  
声部 290, 291
- 書き換え  
音符 229, 271, 523, 524, 526, 533-535, 542  
キューに含まれる音符 1212  
コード記号 174, 1164, 1165  
調号 1355  
臨時記号 229, 271, 523, 524, 526
- 書き出し 86, 913  
FLAC ファイル 110, 111  
MIDI 105, 106  
MP3 ファイル 110, 111  
MusicXML ファイル 92, 93, 1597  
PDF 639, 641, 728, 729  
PNG 639, 641, 728, 729  
SVG 639, 641, 728, 729  
TIFF 639, 641, 728, 729  
WAV ファイル 110, 111  
アンサンブル 84, 85, 128  
エクスペクションマップ 1038  
演奏技法 113, 913, 983  
オーディオ 110, 111  
オプション 560, 721, 913, 916  
音符の色 740  
解析 118  
ガイド 740  
書き出し形式 728  
歌詞 1366  
カラーのグラフィック 739  
キーエディター設定 881  
キーボードショートカット 64  
強弱記号 113  
コード記号 913  
コメント 550, 740  
再生テンプレート 710  
白黒のグラフィック 739  
透かし 740  
ステージテンプレート 904  
スペーステンプレート 912  
声部の色 740  
設定 913, 916  
タイム 740  
打楽器キット 167  
注釈 740  
調性システム 913, 1360  
テキスト 113  
テンポ記号 113  
テンポトラック 109  
トンボ 740  
パーカッションマップ 1044  
配置 733  
パス 640, 730  
パラグラフスタイル 913, 916, 932  
日付 740  
ファイル名 639, 731  
フォントスタイル 913, 916, 930

## 書き出し (続き)

符頭 913, 967  
 符尾 110, 111  
 プレーヤー 88  
 フレット楽器のチューニング 172  
 フロー 88, 89, 726-728  
 フロー見出し 571  
 プロジェクトテンプレート 85  
 ページテンプレート 913, 916  
 ページテンプレートのセット 571  
 ページ範囲 726, 727, 733  
 マーカー 113  
 ライブラリー 916  
 ライン 913, 988  
 リハーサルマーク 113  
 リピート 689  
 レイアウト 728  
 枠線 740

「書き出し用ファイル名」ダイアログ 731

## かき鳴らす

アルペジオ (「アルペジオ記号」を参照してください)  
 スラッシュ符頭 259, 1629  
 フィンガリング 1303

## 描く 43, 236, 483, 518, 682, 833, 840

MIDI 868  
 音符 845 (「音符入力」.も参照)  
 強弱記号 860  
 強調表示 284, 497, 502, 506, 518  
 十字線 656  
 スクラブ再生 682  
 選択範囲 840, 880  
 テンポ 672, 871  
 ベロシティー 857  
 マウスによる編集 236  
 リズムグリッド 241, 284, 497, 502, 506, 518

## 角括弧 1140

アルペジオ記号 1454  
 アンサンブルタイプ 84, 1143  
 移動 1173, 1414  
 インストゥルメントの移調 1691  
 インストゥルメントファミリー 960, 962  
 外観 1141, 1144  
 ガイド 490, 1150  
 カウント 1615, 1621, 1635  
 カスタムのグループ化 950, 957, 1148, 1150  
 カポコード記号 174, 1155  
 カポのコード記号 1156  
 記号 1014  
 強弱記号 1237  
 グループ化 183, 558, 960, 1142, 1143, 1148, 1695  
 形式設定 558, 1014  
 サイズ 1172  
 削除 1152, 1153  
 終端 1144  
 小節線 1086, 1088, 1090  
 小節リピート記号 1612, 1615, 1619, 1621  
 小副括弧 1148  
 水平 (「ライン」を参照してください)  
 数字付き低音 429, 1269, 1272, 1273, 1276  
 スラッシュ領域 1635  
 第2括弧 1145, 1147  
 タブ譜 1741  
 ディヴィジ 1142, 1143, 1146, 1147, 1551, 1722

## 角括弧 (続き)

デザイン 1141  
 テンプレート 84  
 通し番号付き小節領域 1619, 1621  
 長さ 950, 957, 1151  
 入力 1150  
 羽根 1144  
 非表示 1084, 1142, 1146, 1148, 1150, 1696  
 表示 1084, 1142, 1146, 1148, 1150, 1696  
 拍子記号 1801, 1803, 1811  
 フィンガリング 1287, 1300  
 副括弧 558, 1145, 1147  
 符頭 (「括弧付きの符頭」を参照してください)  
 太さ 1172  
 譜表 960, 1142, 1143, 1695  
 譜表のスペーシング 748, 776  
 譜表ラベル 1691  
 プレーヤーグループ 183, 1089, 1695, 1696  
 プロジェクトテンプレート 84  
 分割 1150  
 ペダル線 1531  
 ホールドの線 1273, 1276  
 リセット 1152, 1153  
 リピート括弧 1591, 1593, 1595  
 リピート小節線 1086  
 レイアウト 1142  
 連符 1831

## 学習素材 75

## 楽章 23, 187

書き出し 88, 89  
 タレット 795  
 追加 188  
 フロー見出し 595  
 分割 551  
 ページ上に複数 760  
 読み込み 87, 88

## 拡大

テキスト 421

## 角度

扇形連桁 1133, 1134  
 オクターブ線 1206, 1207  
 グリッサンドライン 652, 1461, 1462, 1465  
 弦のシフト指示 1287, 1310  
 ジャズアーティキュレーション 1497  
 スラー 1660, 1677  
 タイ 1788  
 トレモロ 1818  
 フィンガリングスライド 1305  
 ヘアピン 652, 1248  
 ペダル線 1517, 1518, 1521, 1523  
 ライン 417, 652, 1551, 1559, 1573  
 連桁 1119, 1120, 1133, 1134  
 連符の大括弧 652, 1831  
 枠線 932, 1584, 1771

## 確認

印刷プレビュー 39, 477, 719  
 コメント 545

## 楽譜

記号 (「音楽記号」を参照してください)  
 組段に固定 790  
 コンデンシング (「コンデンシング」を参照してください)  
 再生 (「再生」を参照してください)

## 楽譜 (続き)

削除 140, 149, 190, 492, 496, 1073-1075  
 配置 (「配置」を参照してください)  
 抜粋 (「フロー」を参照してください) (「グラフィックスライス」.も参照)  
 フレームに固定 794  
 フレームに割り当て 613  
 変換 (「変換」を参照してください)  
 編集 234

## 楽譜用紙 753, 755, 756

休符 1647, 1649  
 小節線 311, 1081, 1082, 1084, 1085, 1088  
 小節番号 1095  
 調号 308, 309  
 幅 744, 745, 764  
 譜表 136  
 譜表ラベル 1685

## 楽譜領域 38

オプションを表示 44, 54  
 楽譜の移動 481-483, 679  
 再生モード (「トラック概要」を参照してください)  
 ズームオプション 45, 483, 484  
 選択範囲の作成 463  
 ナビゲーション (「ナビゲーション」を参照してください)  
 パネル 48  
 複数のウィンドウ 53  
 フロー見出しエディター 596  
 フローを開く 660  
 ページテンプレートエディター 581  
 ページ配置 44, 54  
 レイアウトを開く 36, 47, 51

## 下限 (「制限」を参照してください)

## 囲み線

弦の指示記号 1314  
 小節番号 1096  
 線の太さ 1096, 1575  
 タブ譜 1738, 1742, 1743  
 テキスト 932, 994, 1570, 1770, 1771, 1773  
 フィンガリング 1293  
 マーカー 1584  
 余白の値 1096, 1575  
 ライン 1570  
 ライン注釈 994  
 リハーサルマーク 1574, 1575, 1578  
 レイアウト名 1325

## 重ね合わせ

アーティキュレーション 1069  
 音符 280, 286, 490, 779, 1401, 1859, 1860, 1862  
 角括弧 1150, 1151  
 キュー 1216  
 強弱記号 1233  
 小節線 1092, 1233  
 小節番号 1102  
 スラー 1660  
 スラッシュ領域 1637  
 声部 1401, 1859, 1860, 1862  
 中括弧 1150, 1151  
 テキスト 490, 779, 1770  
 譜表 744, 747, 748, 772, 779  
 臨時記号 1055, 1056

## 加算的な拍子記号 (「拍子記号」を参照してください)

## 歌詞 1361, 1764

位置 1361, 1368  
 移動 502, 506, 652, 1230, 1370-1372, 1383, 1384  
 印刷 1366  
 エリジョンスラー 424, 427, 1386  
 延長線 (「歌詞の延長線」を参照してください)  
 オフセット 1372, 1374  
 音節のタイプ 427, 1363, 1364  
 音符のスペーシング 644, 646, 1368, 1370  
 外観 1361  
 解析 117  
 カウント 1378  
 書き出し 1366  
 歌詞番号 1374, 1376, 1384, 1385  
 カラー 60, 1374  
 間隔 1361, 1368  
 キュー 1215  
 強弱記号 1230  
 コーラス 426, 1362, 1383  
 コピー 1364  
 コンマ 1370  
 サイズ 1374, 1376, 1379  
 削除 496  
 斜体 1375, 1379  
 十字線 656  
 浄書オプション 1361  
 垂直位置 1230, 1362, 1371, 1372, 1382-1384  
 ズーム 1378  
 スペーシング 644, 646, 1368, 1370, 1372, 1374, 1376, 1379  
 スペース 424, 427, 1378  
 スラー 1386, 1664  
 選択 461, 467, 1367  
 タイ 274, 288, 424, 1368, 1379-1381, 1779  
 タイプ 426, 1362, 1363  
 テキスト 1377-1379  
 デフォルト設定 1361  
 日本語の歌詞でのスラー 1386  
 入力 424, 427  
 ノーブレイクスペース 424, 427, 1378  
 配置 1368, 1370  
 ハイフン (「歌詞のハイフン」を参照してください)  
 パラグラフスタイル 1374, 1376  
 ハンドル 1369, 1372, 1379  
 非表示 1215  
 表記法 1370  
 表示 1215  
 ピリオド 1370  
 フィルター 467, 1366, 1367  
 フォントスタイル 1374, 1376, 1379  
 譜表に対する配置 1371, 1372  
 ブロック 616  
 ページ 616  
 変更 1362, 1377-1379, 1383  
 編集 1377-1379  
 保存 1366  
 ポップオーバー 424, 426, 427  
 メリスマ様式 424, 427, 1368, 1379, 1381  
 訳詞 426, 1362, 1383  
 ライン (「歌詞のライン」を参照してください) (「歌詞の延長線」.も参照)  
 リセット 1374  
 連桁 1115



- 歌詞の延長線 424, 426, 427, 1361-1363, 1379, 1382  
移動 652, 1379  
延長 424  
日本語のハイフン 1380  
入力 424, 427  
ハンドル 1379
- 歌詞のハイフン 1363, 1379  
移動 652, 1379, 1381  
延長 424  
間隔 1381  
日本語 1380  
入力 424  
パラグラフスタイル 1376, 1379  
ハンドル 1379
- 歌詞のライン 426, 1361, 1362, 1382  
位置 1369, 1372  
移動 1372  
オフセット 1372, 1374  
コピー 1364  
削除 496  
追加 424, 426  
ナビゲーション 427  
番号 1382-1384  
変更 1362, 1383, 1384  
リセット 1374
- 歌詞番号 1384  
書き出し 1366  
歌詞のライン番号 1382  
パラグラフスタイル 1374, 1376  
非表示 1385  
表記法 1385  
表示 1385
- 歌手 126, 143 (「声楽の譜表」も参照)
- 頭文字大文字  
譜表ラベル 1694  
リピートマーカのテキスト 1599
- カスタム  
アンサンブル 126, 142  
インストゥルメント (「カスタムインストゥルメント」を参照してください)  
演奏技法 (「カスタムの演奏技法」を参照してください)  
エンドポイント設定 715  
オクターブの分割 1008  
キーボードショートカット 64, 68, 69, 73  
記号 1014  
コード記号 941, 942, 944, 946, 949, 1156  
コードダイアグラム 1186  
コンデンシング 808, 811, 813  
サイズ 473, 747, 772  
再生テンプレート 701, 704, 708  
小節線の結合 1089, 1091, 1092  
ズームレベル 484  
スコアレイアウト (「レイアウト」を参照してください)  
大括弧のグループ化 1148  
打楽器奏法 1840, 1842, 1843  
中括弧のグループ化 1148  
チューニング 169, 171-173, 938, 1177, 1180  
調号 1003, 1006, 1012  
調性システム (「カスタムの調性システム」を参照してください)  
テンポのテキスト 1748
- カスタム (続き)  
トリルの速さ 1451  
符頭 (「カスタムの符頭セット」を参照してください)  
譜表サイズ 775  
譜表のグループ化 1148  
譜表の順番 138  
プレーヤーの順番 138  
フロー見出し 597, 599  
プロジェクトテンプレート 85  
ページサイズ 736, 1017, 1019  
ページテンプレート 573, 575, 577  
マーカー 434, 1582  
用紙サイズ 736  
ライン (「カスタムライン」を参照してください)  
リズムックフィール 696, 697  
リピート括弧 1595  
リピートマーカー 1602  
臨時記号 1003, 1005, 1009  
レイアウト 133
- カスタムインストゥルメント 950  
作成 954, 956, 958, 959  
打楽器キット 956  
入力 124
- カスタムスコアレイアウト (「レイアウト」を参照してください)
- カスタムテキスト 1763  
インストゥルメントの変更 154  
強弱記号 1241  
コンデンシング 819  
打楽器のレジェンド 1853  
ディヴィジ 1733  
プレーヤーラベル 819  
マーカー 435, 1582  
リピート 1607  
リピート括弧 1595  
リピートマーカー 1602
- カスタムの演奏技法 976  
書き出し 913, 983  
再生 1046  
作成 982  
打楽器 1840, 1842, 1843  
デザイン 979  
デフォルトとして保存 983  
入力 404, 406  
編集 979  
読み込み 913, 983
- 「カスタムのコンデンシングのグループを編集」ダイアログ 808
- カスタムの調性システム 1003, 1005, 1009  
オクターブの分割 1008  
書き出し 913, 1360  
再生 1014  
作成 1003  
調号 1006, 1012  
パネル 306  
編集 1003, 1007  
読み込み 913, 1359  
臨時記号 1005, 1009
- カスタムの符頭セット 967  
外観 970  
書き出し 913, 967  
作成 973, 975  
打楽器 1840, 1842, 1843

- カスタムの符頭セット (続き)
  - デザイン 967, 970
  - 編集 967, 970
  - 読み込み 913, 967
- 「カスタムの譜表サイズ」ダイアログ 775
- 「カスタムの連桁の中央配置」ダイアログ 1122
- カスタムライン 984
  - 繰り返し可能な記号 988, 999, 1001
  - 作成 984, 986–988
  - 注釈 987, 994, 997
  - デフォルトとして保存 984, 988
  - 入力 417, 419
  - 編集 988, 1001
  - ボディ 992
- 下線
  - インストゥルメント名 207
  - 歌詞 1379
  - テキスト 421, 625, 930, 932, 935
  - フィンガリング 1293
  - 譜表ラベル 207
- 加線 1388, 1399
  - 幅 1399
  - 非表示 1400
  - 臨時記号 1051
- 画像
  - 解像度 639, 728, 729, 739
  - 書き出し 639, 641, 728, 729
  - 入力 633
  - ビデオ 211
  - フレーム 632
- 肩のオフセット
  - スラー 1681
  - タイ 1792
  - 符頭の括弧 1412
- 片面印刷 724
- 楽器の持ち替え 135
  - 移動 149
  - インストゥルメントの変更 (「インストゥルメントの変更」を参照してください)
  - 音符の入力 248, 251
  - 追加 146
  - 譜表の表示 54
- 楽器編成リスト 618, 1318
  - 追加 1322
  - ページテンプレート 567, 573, 575
- 楽曲フレーム 601, 609
  - 上書き 609
  - 強調表示 553, 779
  - コピー 607
  - 削除 608
  - 順番 614
  - セレクター 612
  - 選択 606
  - 入力 603
  - フレームチェーン 610, 613, 614
  - プレーヤー 616
  - フロー 615
  - ページテンプレート 609
  - 密度 567
  - 余白 567, 768, 770, 771, 779
  - 両端揃え (垂直方向) 776
  - レイアウト 610
  - 楽曲フレームチェーン 610
  - 空白の譜表 755
  - セレクター 612
  - パート形式のコピー 822
  - フレームに割り当て 613
  - フレームのリンクの解除 614
  - プレーヤー 616
  - フロー 615
  - ページテンプレート 578, 609, 610
  - 読み込まれたページテンプレート 578
  - レイアウト 610, 611
- 括弧 1150, 1611
  - アルペジオ記号 1454, 1455
  - 移動 1173, 1414
  - インストゥルメントの移調 1691
  - 演奏技法 1544
  - オクターブ線の数字 1201
  - カウント 1615, 1619, 1621, 1633, 1635
  - カポコード記号 174, 1155, 1156
  - ギターバンド 1469, 1472
  - ギターバンドリリース 1476
  - 強弱記号 1237
  - 形状 1172, 1273, 1276, 1408
  - 弦のシフト指示 1397
  - ゴーストノート (「括弧付きの符頭」を参照してください)
  - コード記号 (「括弧付きのコード記号」を参照してください)
  - サイズ 1172
  - 小節番号 1108, 1110
  - 小節リピート記号 1612, 1615
  - 数字付き低音 429, 1269, 1272, 1273, 1276
  - スタイル 1172
  - スラッシュ領域 1633, 1635
  - タイのつながり 1409, 1741
  - 打楽器の音符 (「括弧付きの符頭」を参照してください)
  - タブ譜 1429, 1469, 1472, 1474
  - 追加 443, 445
  - テンポ記号 1751, 1754
  - 通し番号付き小節領域 1619, 1621
  - トリル 1434, 1446
  - 入力 346, 352, 427, 429, 1052, 1170, 1237, 1272, 1276, 1408, 1428
  - ハーモニクス 1428
  - 反復 (「リピート括弧」を参照してください)
  - 非表示 1171
  - ビブラートバーのダイブとリターン 1474
  - 表示 1171
  - 拍子記号 311, 315, 1804, 1807
  - フィンガリング 301, 302, 1287, 1297, 1298
  - 符頭 (「括弧付きの符頭」を参照してください)
  - 太さ 1172
  - 譜表ラベル 1691
  - フレット番号 1469, 1474
  - ペダル延長記号 1531, 1532
  - メトロノームマーク 1751, 1754
  - 余白 1173
  - リピート回数 1592
  - 臨時記号 1052, 1062, 1428
- 括弧付きのコード記号 1169, 1406
  - 移動 1173
  - カポ 174, 1155, 1156

- 括弧付きのコード記号 (続き)  
サイズ 1169, 1172  
スタイル 1172  
単一 1171  
表示 1170  
余白 1173
- 括弧付きの符頭 1406, 1408, 1490  
移動 652, 1412, 1414  
カーブ 1412  
外観 1412  
間隔 1407, 1446  
ギターバンド 1469, 1472  
形式設定 1412  
形状 1412, 1414  
ゴーストノート 1408  
コード 1406, 1408, 1411, 1741  
再生 1408  
浄書オプション 1407  
スラー 1414  
タイ 1414  
タイのつながり 1409, 1741  
タイプの変更 1408  
打楽器 1408  
タブ譜 1406-1408, 1469, 1474  
タブ譜のタイ 1409, 1741, 1776  
デフォルト設定 1407  
トリル 1446  
長さ 652, 1414  
入力 1408  
幅 1412  
ハンドル 1414  
非表示 1408  
ビブラートバーのダイブとリターン 1474  
描画曲線 1407, 1412  
表示 1408  
フォントグリフ 1407, 1412  
分割 1411
- 合唱  
演奏技法 402  
歌詞 1361  
歌詞番号 1384  
分割の矢印 1729
- 合唱のテンプレート 77, 84, 897  
譜表のグループ化 1143
- カットコモンタイム 1796  
外観 1808  
拍のグループ化 1139
- カップミュート (「演奏技法」を参照してください)
- カテゴリ  
アンサンブル 126, 128, 142  
インストゥルメント 950, 954, 958, 960  
演奏技法 976, 982  
テンプレート 77, 1143  
符頭 967, 973, 1389, 1393  
プロジェクトテンプレート 84  
ライン 417, 984, 986-988, 992, 994, 999, 1551
- カデンツァ 311, 332, 334, 492, 493, 1073, 1796  
組段の分割記号 1716
- 角丸の長方形  
テキストの囲み線 932, 1771  
マーカー 1584  
リハーサルマーク 1575  
粹線 932, 1584, 1771
- カプセル  
粹線 932, 1584, 1771
- カブラー 976
- カポ 173  
位置 179, 1161  
音符の譜表 177  
括弧 174, 1155, 1156  
間隔 174, 1155, 1156  
コード記号 173, 174, 177, 179, 180, 182, 1155, 1156, 1160, 1161  
削除 176, 179  
斜体 174, 1155, 1156  
タブ譜 173, 174, 176  
追加 174, 176  
定義 174, 176, 177, 179, 181  
倍音 174, 176  
配置 1160, 1161  
非表示 179, 180, 182
- 「カポコード記号の定義」ダイアログ 179  
「カポの定義」ダイアログ 176
- ガムラン (「インストゥルメント」を参照してください)
- カラー 56  
「Dark」のテーマ 56  
「Light」のテーマ 56  
MIDI トリガー領域 718  
インストゥルメント 670, 843, 844, 899, 900, 903  
インストゥルメントの変更ラベル 156  
インストゥルメント名 207, 1697  
ウィンドウ 56  
演奏技法 60, 979  
延長 60  
音域 58, 1403  
音楽記号 1014  
音符 58, 60, 689, 1226, 1228, 1859  
音部記号 60  
書き出し 639, 729  
歌詞 60, 1374  
キャレット 58  
キュー 1226-1228  
休符 60, 1644  
強弱記号 60  
グラフィック 639, 729, 739  
コード記号 60, 941, 946, 1163  
コードダイアグラム 1185, 1187  
コーナー 584  
コメント 60  
コンデンシングされた楽譜 821  
再生ヘッド 58  
再生モード 670  
小節番号 60  
小節リピート記号 60, 1612  
白黒 739  
親切臨時記号 58, 1054  
ステージテンプレート 899, 900, 903  
スラー 60  
スラッシュ領域 1629, 1633  
声部 58, 670, 843, 844, 1858, 1859  
装飾音 60  
タブ譜 58, 60, 1403, 1737, 1740  
中間休止記号 60  
テキスト 60, 421, 625, 629, 630, 932, 935  
テンポ記号 60  
トラック 670, 843, 844

## カラー (続き)

トリル 60  
背景 58, 59  
端 584  
反転 59  
ピアノロールエディター 843, 844  
拍子記号 60  
フェルマータ 60  
符頭 60, 970, 1393  
譜表ラベル 207, 1697  
フレーム 630  
プレス記号 60  
ページ 57, 59, 584  
ペダル線 60  
マーカー 60  
ミキサー 887  
ミュート 689  
ユニゾン範囲 1728  
ライン 60, 584, 997, 1001  
リズムグリッド 58  
リセット 57, 58, 60  
リハーサルマーク 60, 1579  
臨時記号 58, 1054  
連符 60

カラー領域 670, 718, 1163, 1226, 1227, 1612, 1629, 1633  
MIDI CC エディター 866  
MIDI ピッチベンドエディター 865  
印刷 740  
演奏技法エディター 855  
書き出し 740  
強弱記号エディター 859  
打楽器エディター 844  
テンポエディター 871, 873  
テンポトラック 672  
ピアノロールエディター 843  
非表示 477  
変換ツール 879

軽いスウィング 693, 697  
軽いバンド (「ギターバンド」を参照してください)

間隔 652, 768, 923  
messa di voce 1230  
アーティキュレーション 1066, 1069-1071  
アイテムの周囲 (「背景の塗りつぶし」を参照してください)  
インストゥルメントの変更 150, 152  
エリジョンスラー 1361, 1386  
演奏技法 1537-1539  
延長線 1368, 1379  
オッサア譜表 748, 776  
音符 (「音符のスペーシング」を参照してください)  
音部記号 1191, 1193, 1347  
音符の生成 517  
カウント 1611, 1619, 1623, 1625  
角括弧 1141  
歌詞 1361, 1368, 1379, 1381  
括弧 1173  
括弧付きの符頭 1407  
カポ 169, 174, 177, 179, 181, 1155, 1156  
ギターテクニック 1489  
ギターバンド 1476  
ギャレービュー 779  
キュー 1224, 1225  
休止 1342-1344

## 間隔 (続き)

休符 1131  
強弱記号 1230, 1236, 1240  
クオンタイズ 103  
組段 749, 1598  
組段のインデント 1687, 1720  
弦の指示記号 1314  
コーダ 651, 1599, 1605, 1606, 1720  
コード記号 517, 1155, 1156, 1168, 1169, 1173  
コードダイアグラム 1180  
再生 684, 1342-1344  
削除 286  
小節 1606, 1720  
小節線 1168, 1239, 1347, 1538, 1539, 1571, 1774, 1854, 1855  
小節番号 1094, 1102, 1623  
数字付き低音 427, 429, 1269, 1274  
ステムレット 1131  
スラー 1656, 1658, 1660, 1665, 1670  
タイ 1355, 1777, 1780, 1813  
打楽器 1846  
打楽器のレジェンド 1854, 1855  
タセットバー 1651, 1652  
タレット 798  
タブ譜 1738  
中括弧 1141  
中間休止記号 1339, 1342-1344  
長休符 1651, 1652  
調号 1347, 1355  
ディヴィジ作成のラベル 1735  
テキスト 923, 932, 934, 935, 1538, 1569, 1769, 1770, 1773, 1774  
テンポ記号 1760  
トリル 1446  
ニエンテの丸 1259  
ハーブのペダリング 1507  
背景の塗りつぶし (「背景の塗りつぶし」を参照してください)  
ハイフン 1368, 1379, 1381  
パラグラフ 932, 934  
拍子記号 1796, 1809, 1813  
フィンガリング 1287  
フィンガリングスライド 1305  
フェルマータ 1342, 1343  
符尾 1125, 1423  
譜表 166, 651, 748, 749, 776, 1598, 1720, 1846  
譜表ラベル 1685, 1687  
フレーム 604, 633, 768-771  
プレス記号 1342, 1343  
フロー見出し 592, 768, 769  
ヘアピン 1248, 1423  
ペダル線 1524, 1525  
変更 639  
補助音符 1446  
余白 768  
ライン 988, 992, 994, 1554, 1556, 1569  
リズムグリッド 42, 241, 839  
リピート小節線 1347  
臨時記号 1347, 1355  
連桁 1119, 1130, 1131  
連符 1826

## 環境設定

- MIDI 297
- 音符入力 238, 251, 921
- カラー 56
- キーボードショートカット 64, 68
- 記譜記号の入力 237, 345
- コメント 549, 550
- サスティンペダルコントローラー 297
- 選択ツール 43
- 存在しないフォント 80
- テーマ 56
- ペダル線 297
- マウス入力 235

「環境設定」ダイアログ 63

完全音程 519–521, 538

## 簡略化

- 数字付き低音 1283
- 拍子記号 1809
- 臨時記号 524

## き

キーエディター 831, 833, 866

MIDI CC (「MIDI CC エディター」を参照してください)

インストゥルメント 835

演奏技法 (「演奏技法エディター」を参照してください)

音符の移調 849, 850

音符の移動 847

音符の削除 852

音符のデュレーション 845, 846, 848, 852

音符の入力 845

キーボードショートカット 48, 835, 837, 838

強弱記号 (「強弱記号エディター」を参照してください)

コピー 841, 851

コントロール 875, 876, 879

再生ヘッド 679

ズーム 831, 838

スクロール 679, 831, 839

スラーの音符 1683

声部 685, 833, 835

設定 840, 881, 882

選択 840

高さ 837

打楽器 (「打楽器エディター」を参照してください)

ツールバー 833

テンポ 871

パネル 831, 833

ピアノロール (「ピアノロールエディター」を参照してください)

ヒストグラム (「ヒストグラムツール」を参照してください) (「変換ツール」.も参照)

ピッチバンド (「MIDI ピッチバンドエディター」を参照してください)

ベロシティ (「ベロシティエディター」を参照してください)

ベロシティバーの選択 880

変換ツール (「変換ツール」を参照してください) (「ヒストグラムツール」.も参照)

リズムグリッド 833, 839

キーエディター (続き)

連符 843

ロック 835

キークリック (「演奏技法」を参照してください)

キースイッチ 1033

MIDI インポート 101

エクスペッションマップ 1019, 1025

パーカッションマップ 1039

キーボード

MIDI 240, 290, 295, 843, 921

音符の入力 247, 248, 290, 291

キーボードショートカットマップ 66

グリッサンドライン 1466

コード記号 346, 921, 950, 1157

サウンド 240, 680, 701

スラッシュ (「スラッシュ符頭」を参照してください)

追加 124, 126, 136

トレモロ 447, 449, 1123

パネル 229

符尾 1125, 1420

譜表をまたぐ 1123, 1125, 1126, 1420

レイアウト 69

連桁 1123, 1125–1127

キーボードショートカット 19, 29, 64, 70

MIDI 69

アーティキュレーション 299

インストゥルメントフィルター 485, 487

演奏されるデュレーション 853

キーエディター 835

キーボードレイアウト 69

ギャラリービュー 54

言語 69

検索 66, 67

検出 67, 70

再生 680

削除 69

下ゾーン 48

浄書モード 554

ズームレベル 484

ソロ 687

定義 63

テキストの形式設定 421, 625

ナビゲーション 39, 481–483

パネル 48

符頭セット 1394

ページビュー 54

マウス入力 219

マップ 66

ミュート 687

リセット 70

割り当て 68, 69, 73

キーボードパネル 229

キーボードショートカット 48

基音

弦のピッチ 169

ハーモニクス 1425

記号

アコーディオンの音域 976

印刷 740

演奏技法 976, 979, 1536

楽譜 1014

カスタム 976, 979, 994, 997, 999

キャレット 242

## 記号 (続き)

コーダ 1600, 1602  
コード (「コード記号」を参照してください) (「コードダイアグラム」.も参照)  
小節休符 1645  
小節リピート記号 1610, 1616, 1617  
セーニョ 1600, 1602  
装飾音 1434  
ダイアログ 1014  
注釈 740, 987, 994, 997  
調号 (「調号」を参照してください)  
テキスト 420, 423, 624  
入力 987, 988  
反復 986, 988, 999, 1001  
ビブラートバー 1485  
吹き出し (「コメント」を参照してください)  
ペダル線 1517, 1526, 1529, 1532  
編集 1014  
ライン 986-988, 994, 997, 999, 1001  
リピート (「リピートマーカ」を参照してください)  
(「リピート小節線」.も参照)  
拍子記号 (「拍子記号」を参照してください)  
奇数ページのレイアウト  
印刷 724, 735  
冊子印刷 735  
ギター 1476, 1485  
アンプモデリング 888, 894, 895  
インストゥルメントファミリー 960  
エフェクト 669, 894  
演奏技法 (「ギターテクニック」を参照してください)  
音域外の音符 169, 1403  
音部記号 146, 200, 950, 958, 1199  
音符入力 268  
音符の弦の変更 1740  
開放弦のピッチ 171  
かき鳴らす 1303  
カポ (「カポ」を参照してください)  
弦楽器 171  
弦の指示記号 (「弦の指示記号」を参照してください)  
コード記号 (「コード記号」を参照してください)  
コードダイアグラム (「コードダイアグラム」を参照してください)  
再生 675, 1469, 1474, 1485, 1490, 1629  
スクープ 391, 392, 1485  
スコア上の位置 137-139, 964  
スコアの順番 138, 964  
スライド 1305  
スラッシュ (「スラッシュ符頭」を参照してください)  
ダイブ 387, 389, 390, 1474, 1481, 1483, 1485  
タッピング 397, 1486  
タブ譜 (「タブ譜」を参照してください)  
チューニング 124, 146, 168, 169, 171, 950, 959  
追加 124, 126, 136, 146  
ディップ 393, 1485  
デッドノート 1490  
ハーモニクス 1425, 1427, 1429  
ハンマーオン 395, 1488  
ビブラートバー (「ビブラートバー」を参照してください)  
フィンガリング 1299  
ブリダイブ (「ギターブリダイブ」を参照してください)

## ギター (続き)

ブリダイブ (「ギターブリダイブ」を参照してください)  
プルオフ 395, 1488  
バンド (「ギターバンド」を参照してください)  
ライン 394, 395, 1469, 1474, 1480, 1481, 1483, 1485  
ギタースライド 1461  
テキスト 1463, 1464  
ギターテクニック 1485, 1486, 1488, 1536  
位置 1489  
移動 652, 1492  
音程 1491  
間隔 1489  
削除 1493  
タブ譜 1491  
デッドノート 1490  
デフォルト設定 1489  
入力 373, 384, 387, 389-395, 397  
パネル 375  
非表示 1491  
表示 1491  
譜表に対する位置 1492  
ポップオーバー 373  
ギターブリダイブ (「ギターブリダイブ」を参照してください)  
ギターブリダイブ 1472  
移動 652, 1481  
形状 1481  
長さ 1481  
ハンドル 1481  
バンドの音程 1475  
方向 1478  
臨時記号 1478  
ギターバンド 1469, 1474  
位置 1476  
移動 652  
延長 1469, 1476, 1477, 1480, 1483  
音程 (「バンドの音程」を参照してください)  
外観 1476  
括弧 1469  
グループ 1469, 1480  
形状 1480, 1483  
コード 1469, 1473  
再生 1469  
削除 496  
十字線 656  
浄書オプション 1476  
スペーシング 1476  
セグメント 1480, 1483  
ダイブ 1474  
高さ 1476  
タブ譜 1738  
デフォルト設定 1476  
長さ 652  
入力 373, 384, 385  
ハンドル 1480, 1483  
微分音 386, 1473, 1475  
太さ 1476  
ブリダイブ 1472  
方向 474  
ホールドの線 1477  
ポストバンド 386, 1473  
ポップオーバー 373, 384, 385

- ギターバンド (続き)
  - ライン 1476
  - ラン 1469, 1480
  - リリース 1469, 1476
- ギターポストバンド 1473
  - 移動 652, 1483
  - 形状 1483
  - コード 1473
  - 削除 1479
  - 入力 386
  - ハンドル 1483
  - 微分音 386, 1473
  - バンドの音程 1475, 1476
- キックドラム (「無音程打楽器」を参照してください)
- キット (「打楽器キット」を参照してください)
- 機能
  - キーボードショートカット 67
  - キーボードショートカットの削除 69
- 記譜オプション 30, 919
  - 休符 1643
  - 検索 919
  - コンデンシング 801, 811
  - 小節線 1079, 1082
  - 声部 1859
  - ダイアログ 919
  - 打楽器キット 1846
  - デフォルトとして保存 919
  - 連桁 1112
- 「記譜オプション」ダイアログ 919
- 記譜記号
  - 位置 826, 923
  - 外観 826, 923
  - キュー 1209, 1215
  - コピー 497, 499, 500
  - ズームオプション 45, 483, 484
  - スタックの順番 656
  - 設定 917, 919, 923
  - 選択 461, 462
  - 打楽器キット 1847
  - タッキングインデックス 656
  - 入力 25, 298
  - パネル 218
  - プロパティ 826
  - 変更 472
  - 編集 826
  - ポップオーバー 25
- 記譜されたデュレーション 852, 853
  - 演奏されるデュレーション 852
  - 再クオンタイズ 293
  - ツール 833
- 記譜ツールボックス 224
- 記譜に関するリファレンス 1050
- 記譜モード 22, 218
  - 「移調」ダイアログ 520
  - 音符入力オプション 921
  - 音符の入力 247
  - ガイド 490
  - 記譜オプション 919
  - 記譜記号の入力 298
  - キャレット 246
  - 切り替え 46, 218
  - 再生ヘッド 679
  - システムトラック 464
- 記譜モード (続き)
  - スペーシング 779
  - 選択 460-463, 466, 480
  - ツールボックス 41, 218, 219, 224
  - テキストエディター 421
  - ナビゲーション (「ナビゲーション」を参照してください)
  - 入力と編集 234
  - パネル 40, 218, 223, 228, 826
  - ポップオーバー 25
- 逆行 528, 529, 541
- キャップ 1542, 1553
  - 演奏技法の延長線 1544, 1547
  - 延長 988, 1553
  - デザイン 994
  - 変更 987, 1547, 1564
  - 編集 994
  - 矢印 1547, 1564
  - ライン 984, 987, 988, 994, 997, 1553
- ギャラリービュー 44, 54
  - インストゥルメントの変更 150
  - インストゥルメントフィルター 486, 487
  - インストゥルメントラベル 54
  - キュー 1209
  - 小節番号 44, 1098
  - 譜表のスペーシング 776, 779
  - 譜表ラベル 44
  - フロー 551
  - ページのドラッグ 483
- キャレット 242
  - 移動 241, 247, 1827
  - 延長 246, 261
  - カラー 58
  - コード 242, 278
  - スラッシュ 259
  - スラッシュ付き声部 242
  - 声部の指示 242, 257, 1241
  - 前進 247
  - 装飾音符 242, 275
  - 挿入モード 242, 262
  - タイプ 242
  - 打楽器キット 263
  - タブ譜 242
  - デュレーションをロック 242
  - 入力と編集 234
  - 複数の譜表 246, 261
  - 無効化 219, 246
  - 有効化 219, 246
  - リズムグリッド 241
- キュー 1208
  - アーティキュレーション 1215
  - 位置 1212, 1224, 1225
  - 移調 1213
  - 移動 502, 506, 652, 1224, 1225
  - インストゥルメント 454
  - インストゥルメントの移調 1213
  - インストゥルメントの変更 152
  - インストゥルメント名 1213
  - 演奏技法 1215
  - オクターブ線 1210
  - 音域 1210
  - 音部記号 1209, 1220
  - 音符の書き換え 1212

## キュー (続き)

外観 1212, 1223  
 ガイド 490, 1208, 1209, 1226-1228  
 重ね合わせ 1216  
 歌詞 1215  
 ギャレービュー 1209  
 休符 919, 1218  
 強弱記号 1215  
 強調表示 1226-1228  
 サイズ 1209  
 削除 496  
 浄書オプション 1209  
 小節休符 919, 1219, 1643  
 小節線 1209, 1220  
 垂直位置 1221, 1224  
 スペーシング 643, 646  
 スラー 1215  
 スラッシュ 1223  
 声部 1216  
 装飾音 1215  
 タイ 1218  
 提案 455, 1227  
 テキスト 1215  
 デフォルト設定 1209  
 内容 1212  
 長さ 470  
 入力 453, 455, 457  
 パネル 455, 457, 1227  
 非表示 1209, 1210  
 表示 1209, 1210  
 表示オプション 1226-1228  
 表示される記譜記号 1215  
 フィルター 467  
 フェルマータ 1215  
 複数 1216  
 符頭 1223  
 符尾の方向 1216, 1217  
 譜表 774  
 譜表上の位置 1225  
 ページビュー 1209  
 ポップオーバー 453, 454  
 無音程楽器 1221  
 ライン 1215  
 ラベル (「キューラベル」を参照してください)  
 リズム (「リズムによるキュー」を参照してください)  
 リズムによるキューに変換 1222  
 急激な増大を示すヘアピン (「広がり付きのヘアピン」を参照してください)  
 休止 1335, 1338  
 位置 1336, 1338  
 移動 502, 652, 1341  
 同じ位置に複数 1339  
 外観 472  
 カラー 60  
 記号 1014  
 形式設定 1014  
 コンデンシング 801, 804  
 再生 682, 1342-1344  
 削除 496  
 十字線 656  
 浄書オプション 1336  
 小節線 1341  
 選択 461, 467

## 休止 (続き)

タイプ 366, 1335, 1343  
 中間休止記号 (「中間休止記号」を参照してください)  
 デフォルト設定 1336, 1338  
 デュレーション 472, 1342-1344  
 入力 366, 368, 369  
 パネル 369  
 1つの譜表 1339  
 フィルター 467  
 フェルマータ 1336, 1340  
 譜表に対する位置 474, 1338  
 プレス記号 (「プレス記号」を参照してください)  
 変更 1339  
 ポップオーバー 366, 368  
 リンク 1339  
 旧バージョン 79  
 キューパネル 455, 1227  
 休符 25, 1640  
 tacet al fine 1650  
 暗黙 1640, 1641, 1643  
 位置 1640, 1643, 1645  
 移動 643, 1645, 1652 (「音符のスペーシング」も参照)  
 埋める 286  
 カウント 1651  
 カラー 60, 1644 (「音符と休符の色」も参照)  
 記号 1014  
 記譜オプション 1643  
 キュー 1218, 1219  
 空白の小節 1647, 1649  
 グループ化 (「音符のグループ化」を参照してください)  
 形式設定 1014  
 コンデンシング 801, 804, 811  
 削除 286, 492, 1073-1075, 1218, 1219, 1646, 1647  
 浄書オプション 1644  
 小節休符 (「小節休符」を参照してください)  
 小節数のフォント 1653  
 数字付き低音 427, 1268, 1271, 1281  
 ステムレット (「ステムレット」を参照してください)  
 スペーシング (「音符のスペーシング」を参照してください)  
 声部 1640, 1642, 1643, 1645, 1648  
 タイプの変更 1643  
 打楽器キット 919  
 タセットバー (「長休符」を参照してください)  
 長休符 (「長休符」を参照してください)  
 ディヴィジ作成のラベル 1735  
 デフォルト設定 1644  
 デュレーション 285  
 デュレーションの強制 271, 288, 1137  
 点線 919  
 統合 919, 1641-1643, 1649  
 入力 219, 229, 248, 271, 273, 288  
 の位置にアイテムを入力 237, 345  
 配置 1640, 1643, 1645  
 幅 1651  
 非表示 1218, 1219, 1632, 1646-1649  
 表示 1218, 1219, 1646-1649  
 復元 1646  
 明示的 1640, 1641, 1643  
 ユニゾンラベル 1735  
 余白 1218, 1632



## 休符 (続き)

リセット [1643](#), [1646](#)  
連桁 [1112](#), [1114](#), [1131](#)

休符のグループ化 (「音符のグループ化」を参照してください)

キューラベル [1213](#)

移動 [652](#)  
オクターブの移調 [1211](#), [1221](#)  
テキスト [1213](#)  
内容 [1213](#)  
譜表に対する位置 [474](#)  
変更 [1214](#)

## 教会

パンニング (「ステージテンプレート」を参照してください)  
リバーブ (「スペーステンプレート」を参照してください)

行間 [627](#), [1768](#)

## 強弱

アーティキュレーション [1064](#)  
強弱記号 [1229](#)  
組段 [790](#)  
水平 [1570](#), [1834](#)  
数字付き低音の外観 [433](#), [1284](#)  
デュレーション (「デュレーションを強制」を参照してください)  
フレーム [794](#)

強弱記号 [1229](#), [1241](#)

messa di voce (「messa di voce」を参照してください)

poco a poco [1244](#), [1253](#)

possibile [1243](#)

rfz [1238](#)

sfz [1238](#)

subito [1243](#)

アーティキュレーション [1265](#)

位置 [1230](#), [1231](#)

移動 [502](#), [506](#), [528](#), [531](#), [652](#), [863](#), [1230](#), [1233](#), [1243](#), [1245](#), [1248](#), [1256](#), [1260-1263](#)

上書き [860](#), [864](#)

エクスペッションマップ [1028](#)

エディター (「強弱記号エディター」を参照してください) (「ペロシティーエディター」も参照)

延長線 [1229](#), [1246](#)

音節 [1249](#)

外観 [1230](#), [1238](#)

回転 [531](#)

ガイド [490](#), [1236](#)

書き出し [113](#)

角括弧 [1237](#)

歌詞 [1230](#)

括弧 [1237](#)

カラー [60](#)

記号 [1014](#)

キュー [1215](#)

強弱 [1229](#)

強弱のカーブ [1265](#)

強度 [472](#), [863](#), [1235](#)

局部的 [1229](#)

区切り用文字 [337](#), [1236](#)

グループ化 [1260](#), [1261](#)

グループ化の解除 [1261](#)

## 強弱記号 (続き)

クレッシェンド (「段階的強弱記号」を参照してください)

形式設定 [1014](#)

結合 [1229](#)

コピー [497](#), [501](#), [841](#), [864](#), [1262](#)

サイズ [473](#), [1264](#)

再生 [239](#), [685](#), [686](#), [689](#), [859](#), [866](#), [1028](#), [1046](#), [1047](#), [1241](#), [1264-1266](#)

再生時にミュート [239](#), [688](#)

削除 [496](#)

サスティン楽器 [1264](#)

十字線 [656](#)

修飾語句 (「強弱記号の修飾語句」を参照してください)

終端の位置 [1233](#)

浄書オプション [1230](#)

小節線 [1232-1234](#), [1239](#)

小節リピート記号 [1611](#)

省略 [1243](#), [1254](#)

スペーシング [1254](#)

声部固有 [341](#), [343](#), [859](#), [860](#), [1241](#)

選択 [461](#), [467](#)

増減 (「messa di voce」を参照してください)

タイ [341](#), [343](#), [502](#), [1230](#)

タイプ [337](#), [1229](#)

大譜表を用いる楽器 [341](#), [343](#), [1241](#)

打楽器キット [1848](#)

段階的 (「段階的強弱記号」を参照してください)

ディミヌエンド (「段階的強弱記号」を参照してください)

テキスト [1249](#), [1264](#)

デフォルト設定 [1230](#)

デュレーション [345](#)

テンポ記号 [1748](#)

トラック (「強弱記号エディター」を参照してください) (「ペロシティーエディター」も参照)

長さ [470](#), [652](#), [863](#), [1243](#), [1248](#)

ニエンテ (「ニエンテ」を参照してください)

入力 [337](#), [340](#), [341](#), [343](#), [860](#), [864](#)

背景 [1239](#), [1423](#)

背景の塗りつぶし [1239](#), [1240](#), [1423](#)

配置 [1230-1233](#), [1260-1263](#)

ハイフン [337](#), [1236](#), [1249](#)

パネル [343](#)

反転 [528](#) (「逆行」も参照)

ハンドル [470](#), [1246](#), [1248](#), [1255](#), [1256](#)

非サスティン楽器 [1264](#)

ひと続きのヘアピン [1250](#)

非表示 [1215](#), [1236](#), [1238](#), [1243](#)

ヒューマナイズ [859](#), [1265](#), [1266](#)

表記規則 [1230](#)

表現テキスト (「強弱記号の修飾語句」を参照してください)

表示 [1215](#), [1236](#)

広がり付きのヘアピン [1251](#), [1252](#)

フィルター [467](#)

フォントスタイル [1264](#)

譜表に対する位置 [474](#)

フレーズ [337](#), [341](#), [1260](#), [1265-1267](#)

ヘアピン (「段階的強弱記号」を参照してください)

ペロシティー [856](#), [857](#), [1235](#), [1265](#), [1266](#)

変更 [472](#), [863](#), [1235](#)

## 強弱記号 (続き)

編集 1235  
 ポップオーバー 337, 341  
 ボリューム 1235, 1264-1266  
 余白 1240, 1423  
 リピート 689  
 リンク 501, 1262, 1263  
 リンクの解除 501, 1263  
 レベル (「強弱記号レベル」を参照してください)

## 強弱記号エディター 337, 856, 859, 1229, 1262

一定ポイント 862  
 高さ 837, 838  
 追加 840  
 閉じる 840  
 非表示 859  
 表示 859  
 ポイントの移動 863  
 ポイントのコピー 841  
 ポイントの削除 842  
 ポイントの選択 840  
 ポイントの入力 860  
 リニアポイント 862

## 強弱記号のグリフ 1229

フォントスタイル 1264

## 強弱記号の修飾語句 1229, 1241, 1745, 1757

poco a poco 1253  
 possibile 1243  
 subito 1243  
 移動 1245  
 外観 1230, 1243  
 中央揃え 1244  
 入力 337, 340, 341, 343, 1242  
 表示 1236  
 フォントスタイル 1264  
 ヘアピン 1244

## 強弱記号パネル 340, 343

## 強弱記号レーン (「強弱記号エディター」を参照してください)

## 強弱記号レベル 337, 340, 341, 343, 1235, 1265

再生 859, 1265, 1266  
 変更 863, 1235  
 リセット 842, 859, 863, 1265-1267

## 強弱のカーブ 1265

## 強制

数字付き低音の外観 1285  
 譜表の表示/非表示 751

## 協奏曲

カデンツァ 492, 493  
 ソリスト 139

## 強調記号 (「アーティキュレーション」を参照してください)

## 強調表示

MIDI 865, 866, 868, 870  
 MIDI トリガー領域 717, 718  
 印刷 740  
 音符 284, 497, 502, 506, 518  
 書き出し 740  
 楽曲フレーム 553, 779  
 キュー 1226-1228  
 強弱記号 859, 860, 862, 864  
 検索のマッチ 63, 917, 919, 921, 923, 925  
 コード記号領域 1162, 1163  
 コメント 551

## 強調表示 (続き)

小節リピート記号 1610, 1612  
 スラッシュ領域 1629, 1633  
 停止位置 494  
 テンポ変更 672, 871, 873  
 通し番号付き小節領域 1612  
 トラック 659, 672  
 非表示 477  
 符鉤 (「ガイド」を参照してください)  
 マウスによる編集 284, 497, 502, 506, 518

## 強度

強弱記号 341, 343, 472, 859, 1229, 1235, 1236, 1265, 1266

許可 (「有効化」を参照してください) (「\*\*\*DELETE\*\*\*」も参照)

曲 (「フロー」を参照してください)

## 曲集 22, 81, 133, 187

作詞者 1320  
 作曲者 1319  
 タイトル 1318  
 著作権 1321

## 曲線のアルペジオ記号 1454

再生 1458, 1459  
 デュレーション 1458, 1459  
 入力 373  
 ポップオーバー 373

## 局所的強弱記号 (「強弱記号」を参照してください)

距離  
 インストゥルメント 896, 899, 900, 903, 905, 907, 908, 910

インストゥルメントの変更ラベル 150, 152

カウント 1623

角括弧 1145, 1148

歌詞 1368, 1372, 1379, 1381, 1770

ギターテクニック 1489

キュー 1224

組段のインデント 1687, 1720

コードダイアグラム 1180

小節番号 1102, 1623

打楽器 1846

中括弧 1145

ディヴィジ作成のラベル 1733

テキスト 923

テキストの枠線 629, 932, 1773

ハイフン 1379, 1381

パンニング 896, 899, 900, 903, 905, 907, 908, 910

フェルマータ 1338

符頭 1125

符尾 1125

譜表 (「譜表のスペーシング」を参照してください)

譜表ラベル 1685, 1687

プレーヤーラベル 817

プレス記号 1339

フロー見出し 769

ページの端 745, 770, 771

余白 745, 768-771

リハーサルマークの囲み線 1575

リバース 896, 899, 900, 903, 905, 907, 908, 910

連桁 1119, 1131

## 切り替え

インストゥルメント (「インストゥルメントの変更」を参照してください)

ウィンドウ 46, 53

- 切り替え (続き)  
 音符 507, 509, 650, 1862  
 音符の順番 1863  
 ギャレービュー 54  
 グラフィックスライズハンドル 638  
 声部 508  
 選択 460, 480, 606, 650  
 タブ 51  
 ハンドル 606, 650, 655  
 ビュータイプ 54  
 譜表 509  
 譜表のスペーシングのハンドル 779  
 フロー 481-483, 660  
 ページ 594  
 ページビュー 54  
 モード 46  
 リハーサルマーク 1576  
 レアウト 33, 47, 51
- 切り取り  
 音符 288  
 小節 1073-1075  
 スラッシュ領域 1631  
 選択範囲 497, 551, 1073-1075  
 タイのつながり 288, 1786  
 拍 492, 1073
- 金管楽器 143  
 移調 124, 146, 198, 950, 958  
 インストゥルメントファミリー 960  
 演奏技法 402  
 角括弧 1143, 1695  
 組段オブジェクト 1718  
 グリッサンドライン 1466, 1467  
 グループ 183  
 コード記号 1157  
 作成 950, 954, 958  
 スライドポジション 1310  
 追加 124, 126, 136, 141, 146  
 パート 198  
 パンニング (「ステージテンプレート」を参照してください)  
 フィンガリング 1286, 1287, 1295, 1309  
 プレーヤーの順番 121, 137, 963, 964  
 プロジェクトテンプレート 84  
 ホルンの支管の指示記号 1295, 1309  
 リバープ (「スペーステンプレート」を参照してください)
- 近代式の臨時記号打ち消し 1063  
 均等な譜表のスペーシング 749
- く
- クイックツールセレクター 833  
 空気音 (「演奏技法」を参照してください) (「菱形の符頭」も参照)  
 空白の小節  
 解析 117  
 キュー 1218  
 休符 (「小節休符」を参照してください)  
 削除 1075  
 長休符 1649  
 入力 332, 333  
 幅 1076
- 空白の小節 (続き)  
 非表示 750, 1647, 1649  
 表示 750, 1647, 1649
- 空白の声部 1864  
 空白の譜表 750, 755  
 組段の分割記号 1716  
 タレット 795  
 追加 136, 141, 146, 756  
 非表示 750-753, 776, 1708  
 表示 750-753, 755, 776, 1708  
 フレーム 612, 755, 756  
 フローのあと 753
- 空白ページ 584, 759  
 削除 28, 586, 759, 1764  
 挿入 757, 758  
 譜表のスペーシングの変更 779
- 空白領域 (「背景の塗りつぶし」を参照してください)  
 グールド  
 リピートマーカー 1599  
 臨時記号 306, 1009, 1357, 1358
- クエスチョンマーク  
 タブ譜 518, 1737  
 ハーモニクス 1426
- クォーテーションマーク  
 歌詞 1370  
 デュレーションのトークン 618, 621
- クオリティー  
 移調 519, 520, 539  
 音程 538, 539  
 コード記号 346, 350, 1155, 1156, 1166
- クオンタイズ 103  
 MIDI インポート 94, 101, 103  
 MIDI 録音 103, 291, 295  
 音符の分割 288  
 再クオンタイズ 293  
 装飾音符 103  
 変更 293  
 連符 103
- 区切り  
 音符 288  
 組段 789  
 再生 684, 1342  
 タイのつながり 288, 1786  
 長休符 1649, 1653  
 フレーム 792  
 ページ 792
- 区切り用文字  
 強弱記号 337, 1236  
 組段 (「組段の分割記号」を参照してください)  
 コード記号 1157, 1167  
 コンデンシング 818  
 小節番号 1097  
 タイムコード 1586  
 デュレーションのトークン 621  
 トークン 618, 621  
 範囲 1097  
 拍子記号 1796, 1804, 1807  
 フィンガリング 1309  
 譜表ラベル 1691  
 プレーヤー番号 818  
 連符 1130, 1138
- くさび形符頭 1391, 1394

- くさび線 417, 1551
  - カスタム 984, 986, 988, 992
  - 入力 417
  - 非表示 1545
  - 表示 1543, 1545, 1547, 1563
- 組み合わせ
  - 再生効果 1031, 1035, 1045
  - トレモロ 1045
  - パートレイアウト 193
- 組段
  - 移動 779, 782, 790, 793
  - インデント 651, 764, 1685, 1687, 1720
  - インデントの変更 1720
  - 音部記号 1194, 1197
  - 開始位置 651
  - 解析 117
  - 歌詞 1369, 1370, 1372, 1382, 1384
  - 数 117, 786
  - 間隔 748, 749, 1598, 1720
  - 区切り (「組段区切り」を参照してください)
  - 組段に変換 790
  - 形式設定 557
  - コードの間隔 1605, 1606
  - コード記号 1160, 1161
  - 固定 784-787
  - コンデンスされた譜表 (「コンデンス」を参照してください)
  - 終了位置 651
  - 小節線 1083-1085
  - 小節番号 1095, 1100, 1103, 1619
  - 垂直位置 (「組段のスペーシング」を参照してください)
  - スペーシング (「組段のスペーシング」を参照してください)
  - セクション 1598
  - 選択 461, 463
  - タイムコード 1587, 1589
  - 高さ 747-749
  - 調号 1349
  - 調性 1357
  - ディヴィジ 1722, 1725
  - テキスト (「組段に付くテキスト」を参照してください)
  - 通し番号付き小節領域 1619
  - トラック (「システムトラック」を参照してください)
  - トリル記号 1438
  - 長さ 651, 764
  - 配置 749, 764
  - 配置設定 784-788
  - 幅 651, 764
  - 譜表 (「譜表」を参照してください)
  - 譜表サイズ 773
  - 譜表冒頭部 1712
  - 譜表ラベル 1685, 1687, 1699, 1720
  - プレーヤーラベル (「プレーヤーラベル」を参照してください)
  - 分割 1598
  - 分割記号 (「組段の分割記号」を参照してください)
  - 密度 (「組段密度表示」を参照してください)
  - 余白 764, 1685, 1687, 1720
  - リセット 788
  - リハーサルマーク 1576
- 組段 (続き)
  - リピート小節線 1083
  - 両端揃え 749, 764
- 組段オブジェクト 1717
  - 位置 1718, 1719
  - インストゥルメントファミリー 960, 962
  - オssia譜表 1719
  - コピー 464
  - サイズ 747, 773, 774
  - 選択 460, 464, 466
  - テキスト 420
  - テンポ記号 1745, 1747
  - 拍子記号 1802, 1809
  - ライン 417, 1551
  - リハーサルマーク 1574, 1576
  - リピート回数 1607
  - リピート括弧 1591, 1594
  - リピートマーカー 1605
  - レイアウト 1717
- 組段区切り 557, 742, 789
  - 移動 788
  - 演奏技法 1545
  - 演奏技法の線 1544
  - オクターブ線 1205
  - 音部記号 1191
  - ガイド 490, 789, 791
  - 角括弧 1084
  - 強弱記号 1248
  - 組段に変換 790
  - グリッサンドライン 1465
  - コンデンス 804
  - 削除 788, 792
  - 自動的 785, 787
  - 小節線 788, 1083, 1084
  - 小節リピート記号 785, 790
  - スラー 1660
  - 挿入 786, 787, 790
  - タイ 1783
  - 調号 1352, 1353
  - ディヴィジ 1722
  - 拍子記号 1798, 1799
  - フィルター 467
  - 譜表サイズ 773
  - 譜表のスペーシング 748
  - 譜表の非表示 751
  - 譜表の表示/非表示 751
  - 譜表ラベル 1687
  - ヘアピン 1248
  - 別のレイアウトへコピー 822, 823
  - ライン 1553, 1573
  - リピート括弧 1594
- 組段に付くテキスト 1763, 1764
  - 移動 652, 1769
  - ガイド 490
  - 書き出し 113
  - 形式設定 421, 424, 627, 932, 1768
  - コピー 464
  - 選択 460, 464, 466
  - テンポトラック 108
  - 入力 420
  - 背景 1774
  - 背景の塗りつぶし 1774
  - 配置 932, 1769

- 組段に付くテキスト (続き)
  - パラグラフスタイル 627, 1768
  - 非表示 1775
  - 表示 1775
  - 複数の位置 1718
  - 譜表 1717, 1718
  - 譜表に対する位置 474, 1719
  - マーカー 108
  - 余白 932, 1773
  - 枠線 932, 1770
- 組段の形式設定 742
  - インデント 1685, 1720
  - 音符のスペーシング (「音符のスペーシング」を参照してください)
  - 組段オブジェクト (「組段オブジェクト」を参照してください)
  - 組段区切り (「組段区切り」を参照してください)
  - 組段の分割記号 (「組段の分割記号」を参照してください)
  - コンデンシング (「コンデンシング」を参照してください)
  - 配置設定 (「配置設定」を参照してください)
  - 譜表ラベル 1685, 1687
  - フレーム区切り (「フレーム区切り」を参照してください)
  - 別のレイアウトへコピー 822
- 組段の小節線 1084, 1085
  - オssia譜表 1714
  - 角括弧 1140, 1141
  - 小副括弧 1148
  - 第2括弧 1145, 1147
  - 中括弧 1140, 1141
  - テキストの配置 932, 1769
  - 非表示 1084, 1085
  - 表示 1084, 1085
  - 副括弧 1145, 1147
- 組段のスペーシング 554, 748, 776
  - デフォルト設定 748, 776
  - ハンドル 650, 779
  - 変更 748, 749, 779
  - 両端揃え 749, 776
- 組段の途中の間隔
  - コーダ 1598, 1605, 1606
- 組段の分割記号 1716
  - 記号 1014
  - 形式設定 1014
  - 幅 1717
  - 非表示 1716
  - 表示 1716
- 組段密度表示 566
- クラシックギター (「フレット楽器」を参照してください)
- グラデーションの背景 58
- グラフ 878
- グラフィック
  - 演奏技法 979
  - 記号 1001
  - コード記号 941, 946
  - ファイル (「グラフィックファイル」を参照してください)
  - 符頭 967, 970
  - ライン 997, 1001
  - 臨時記号 1009
- グラフィックスライス 187, 601, 635
  - 移動 637
  - 書き出し 640, 641
  - 画像解像度 639
  - カラーモード 639
  - 形状 637
  - サイズ 637
  - 削除 642
  - 名前の変更 639
  - 入力 636
  - ハンドル 637
  - 表示 635
  - ファイル形式 635
  - ファイル名 639
- グラフィックスライスパネル 560
- グラフィックファイル 728, 738
  - 書き出し 639-641, 728-730
  - 画像解像度 739
  - カラー 739
  - 形式 632, 635, 738
  - 白黒 739
  - ファイル名 731
  - フォント 740
- グラフィックフレーム 632
  - イメージの読み込み 633
  - コピー 607
  - 選択 606
  - 入力 603
  - ファイル形式 632
  - ページテンプレート 581, 632, 633
- クラリネット (「インストールメント」を参照してください) (「移調楽器」も参照)
- 繰り返し可能な記号 988, 999, 1001
  - カラー 1001
  - ラインボディ 984, 986, 988, 992
- 「繰り返し可能な記号を編集」ダイアログ 1001
- クリック 294, 698
  - MIDI録音 291
  - カウントイン 295
  - 再生 294, 672, 680
  - サウンド 294, 672
  - 設定 294
  - ボリューム 891
  - ミキサー 883, 884
  - 無効化 680
  - 有効化 680
  - リバーブ 907, 908
- グリッサンドライン 1461, 1495, 1551
  - 位置 1462
  - 移動 652, 1465
  - エンドポイント 1461, 1462, 1465
  - 外観 1462
  - 角度 1461, 1462, 1465
  - ギターバンド (「ギターバンド」を参照してください)
  - 組段区切り 1465
  - 形式設定 1462
  - 再生 1022, 1466, 1467, 1506
  - 削除 496
  - 浄書オプション 1462
  - スタイル 1462
  - セグメント 1465
  - 線のスタイル 1462
  - タイのつながり 1466, 1467

- グリッサンドライン (続き)  
タイプ 373  
単音 1495  
テキスト 1463, 1464  
デフォルト設定 1462  
デュレーション 1466, 1467  
長さ 652, 1465  
入力 370, 373, 380, 381, 1462  
ハーブのペダリング 1466, 1467, 1506  
パネル 375, 381  
ハンドル 1465  
非表示 1463, 1464  
表示 1463, 1464  
フィルター 467  
太さ 1462  
フレーム区切り 1465  
変更 472  
方向 1397  
ポップオーバー 373, 380  
臨時記号 1461
- グリッド  
Hub 75  
間隔 166  
グループ 165  
コードダイアグラム 1179, 1180, 1182  
打楽器キット 164-166, 1698, 1848, 1849  
譜表 1698, 1848  
譜表ラベル 1685, 1689  
リズム 241
- クリッピング 891
- グリフ  
演奏技法 976, 979, 982, 1536  
音楽記号 420, 423, 619, 624, 1014  
カスタム 976, 979, 994, 999  
括弧付きの符頭 1407, 1412, 1414  
強弱記号 1264  
繰り返し可能な記号 1001  
形式設定 1014  
コード記号 941, 946  
代替フォント 930  
テキスト 420, 423, 619, 624  
トリル 1434, 1436  
フォント 927, 929, 930, 1264  
符頭 967, 970, 973, 975  
ペダル線 1526  
ライン 997, 1001  
臨時記号 523, 524, 526, 1009
- グループ  
インストゥルメント (「インストゥルメントグループ」を参照してください)  
演奏技法 1542, 1543, 1548, 1549  
音符 (「音符のグループ化」を参照してください)  
角括弧 1140, 1148  
ギターバンド 1469, 1480  
休符 (「音符のグループ化」を参照してください)  
強弱記号 1260-1262  
コンデンシング 804, 808  
小節リピート記号 1611, 1616, 1617  
打楽器キット 157, 164-166, 1698  
タブ 52  
中括弧 1140, 1148  
ディヴィジ 1701, 1725, 1726, 1730  
譜表 1088, 1090-1092, 1148, 1150-1153
- グループ (続き)  
譜表のスペーシング 748, 776  
譜表ラベル 1685, 1692, 1699, 1701  
プレーヤー (「プレーヤーグループ」を参照してください)  
連桁 (「連桁グループ」を参照してください)  
グループ化の解除  
演奏技法 1550  
強弱記号 1261  
クレッシェンド (「段階的強弱記号」を参照してください)  
グローバル  
オプション 30  
音符のスペーシング 643, 645, 648  
キーボードショートカット 66  
コード記号 346, 1154  
数字付き低音 427, 1268  
フェルマータ 1335  
プロパティ 825-828  
ペダルの強さ 1520  
クロススティック (「無音程打楽器」を参照してください)  
(「演奏技法固有の符頭」.も参照)  
黒玉符頭 1388, 1389  
グロッケンシュピール (「インストゥルメント」を参照してください) (「移調楽器」.も参照)
- ## け
- 警告  
MIDI 入力 42  
移調 724, 728  
印刷 724  
インストゥルメントの変更 150, 155, 156  
オーディオエンジン 42  
書き出し 728  
異なるバージョンの Dorico 79  
存在しないフォント 80  
プレーヤーの削除 121, 140
- 計算  
値 829  
解析 117  
コード記号 355, 356, 511, 512, 517  
コンデンシング 804, 806  
スタック 656, 1055  
テンポ記号 436  
ハーブのペダリング 413  
微分音の再生 1014  
形式 (「ファイル形式」を参照してください)  
形式設定 742  
アルペジオ記号 1455  
インストゥルメント 950  
インストゥルメントの変更ラベル 153, 154, 156  
演奏技法 976, 979  
オルタードユニゾン 1058  
音楽記号 1014  
角括弧 558, 1144  
歌詞 1374, 1376, 1379  
記号 999, 1001, 1014  
キャップ 1547, 1564  
キューラベル 1214  
強弱記号 1249, 1264  
組段 557, 822  
グリッサンドライン 1462  
コード記号 941, 942, 944, 946

## 形式設定 (続き)

コードダイアグラム 938, 1186, 1188  
 小節線 558, 1083  
 小節番号 1095, 1098-1100  
 小節リピート記号 1616  
 スラー 1664-1666, 1677, 1678  
 スラッシュ符頭 1223, 1625, 1626  
 装飾音符 1329  
 タイ 1779, 1780, 1788, 1789  
 タイムコード 1583  
 タレット 795, 798  
 タブ譜のフォント 1744  
 段階的強弱記号 1249  
 中括弧 558  
 ディヴィジ作成 1726  
 ディヴィジの譜表ラベル 1730, 1731, 1734  
 テキスト 421, 424, 625, 627, 929, 932, 934, 935, 937, 1764, 1768  
 テンポ記号 1758-1761  
 トレモロ 1820  
 ニエンテのヘアピン 1259  
 ハンドル 655  
 拍子記号 1815  
 ファイル名 731  
 フォント 930  
 符頭 967, 970, 1394, 1395  
 符頭の括弧 1412, 1414  
 譜表ラベル 207, 1685, 1697  
 フレーム 557, 559, 822  
 フレーム制限 633  
 プレーヤーグループのラベル 1695, 1697  
 プレーヤーラベル 819  
 フロー見出し 596, 599  
 ヘアピン 1249  
 ページ 742, 822, 823, 1318  
 ページ形式設定 569, 584, 784  
 ページテンプレート 567, 581, 582  
 ペダル線 1527-1529, 1531  
 マーカー 434, 1582, 1583  
 前付け 1318  
 優先 584  
 ライン 984, 988, 992, 999, 1001, 1547, 1563, 1564  
 リピートマーカー 1599  
 レイアウト 746, 822, 823  
 連符 1829, 1835

形式設定パネル 553, 556

## 傾斜

オクターブ線 1206, 1207  
 ペダル線のフック 1528  
 連桁 1119, 1334

## 形状

括弧 1172, 1273, 1276, 1408  
 ギターバンド 1480, 1481, 1483  
 グラフィックスライス 637  
 コードダイアグラム 513, 938, 1175, 1182, 1184-1187  
 小節番号の囲み線 1096  
 数字付き低音の括弧 1269, 1273, 1276  
 スラー 1660, 1662, 1673, 1675, 1677, 1681  
 タイ 1787, 1788  
 テキストの囲み線 932, 1771  
 複数セグメントによるスラー 1675  
 符頭 967, 1389, 1393

## 形状 (続き)

符頭の括弧 1408, 1412, 1414  
 フレーム 605  
 マーカー 1584  
 リハーサルマークの囲み線 1575, 1578  
 連桁 1117, 1119, 1121-1123, 1127, 1130, 1133, 1420  
 連符の大括弧 1831, 1832, 1834  
 枠線 932, 1096, 1575, 1584, 1771

## 結果 806

コンデンシング 806, 811

## 結合

オッサア譜表 1714  
 小節線 (「小節線の結合」を参照してください)  
 小節線を表示した譜表 1090  
 符尾 1123, 1127, 1420  
 ペダル線 1525  
 連結線 478  
 連桁 1114, 1115, 1123, 1127, 1420  
 結合式強弱記号 (「強弱記号」を参照してください)  
 結合拍子の拍子記号 311, 1796  
 結合 1809  
 入力 311, 313, 315, 316  
 破線の小節線 311, 1796

## 弦楽器 143, 168

インストゥルメントファミリー 960  
 演奏技法 (「演奏技法」を参照してください)  
 音域外の音符 1403, 1740  
 替え指のフィンガリング 1288  
 角括弧 1143, 1695  
 カポ (「カポ」を参照してください)  
 カラー 58  
 組段オブジェクト 1718  
 グリッサンドライン 1466, 1467  
 グループ 183  
 弦番号 1397  
 コード記号 1157  
 コードダイアグラム 938, 1176, 1184, 1187  
 削除 169  
 作成 950, 954, 958  
 スラー (「ハンマーオン」を参照してください)  
 タッピング (「タッピング」を参照してください)  
 チューニング 124, 168, 169, 685, 950, 959, 1397  
 追加 124, 126, 136, 141, 146, 169  
 ハーモニクス 1425  
 範囲 169  
 番号 (「弦の指示記号」を参照してください)  
 パンニング (「ステージテンプレート」を参照してください)  
 ハンマーオン (「ハンマーオン」を参照してください)  
 ピッチ 169, 1397  
 ピッチの変更 169  
 表示 (「弦の指示記号」を参照してください)  
 フィンガリング 1299, 1397 (「弦の指示記号」も参照)  
 フィンガリングのシフト 1310  
 プルオフ (「ハンマーオン」を参照してください)  
 プレーヤーの順番 121, 137, 963, 964  
 フレット楽器 124, 168, 169, 950, 959  
 への音符の割り当て 1397  
 変更 1397, 1740  
 ベンド (「ギターバンド」を参照してください)  
 ボウイング記号 399, 402, 976, 1541

## 弦楽器 (続き)

リセット 1740  
 リバーブ (「スペーステンプレート」を参照してください)

## 言語 61

アプリケーション 61  
 アンサンブル 126  
 インストゥルメント 61, 124, 126, 150, 207, 209  
 キーボードショートカット 29, 66, 69  
 トークン 62  
 日時 62  
 譜表ラベル 61  
 リピート回数 1609

## 検索 63

アンサンブル 126  
 インストゥルメント 124, 950  
 音符 467, 468  
 音符入力オプション 921  
 環境設定 63  
 キーボードショートカット 64, 66, 67  
 記譜オプション 919  
 再生オプション 925  
 浄書オプション 923  
 プロパティ 826  
 レイアウトオプション 917

## 検出

弦楽器 415  
 装飾音符 103  
 転回 356  
 連符 103

## 献呈 81, 1318, 1321

書き出し 113  
 トークン 620

## 弦の指示記号 1299, 1313, 1397

位置 1316  
 移動 502, 506, 652, 1317, 1541, 1545  
 オープン 1314  
 外観 976, 1296  
 弦番号 1397  
 サイズ 1314, 1315  
 削除 1315  
 順番 1541  
 浄書オプション 1314  
 水平位置 1317  
 装飾音符 1315  
 デフォルト設定 1314  
 デュレーション 470, 1542, 1543  
 長さ 1542, 1545  
 入力 398, 399, 402, 413-415  
 パネル 402, 414  
 ハンドル 1545  
 フィンガリング 1314, 1317  
 フォント 976, 1295, 1296, 1313  
 譜表の内側 415, 1313, 1315  
 譜表の外側 413, 414, 1313  
 ポップオーバー 399, 402, 413  
 ライン 413, 414, 470, 1542, 1543

## 弦のシフト指示 1310

角度 1287, 1310  
 入力 301, 302, 1310  
 太さ 1287, 1310  
 方向 1312, 1397

## 弦のピッチ

フレット楽器 171  
 変更 171, 1397

## 鍵盤

記号 (「調号」を参照してください)

## こ

交響曲 (「フロー」を参照してください)

交互拍子の拍子記号 (「拍子記号」を参照してください)

交差するピッチ 801 (「コンデンシング」.も参照)

## 格子状配列

臨時記号 1055

## 校正

親切臨時記号 1054  
 臨時記号 1054

## 構成要素 731

アーティキュレーション 1066  
 演奏技法 979  
 演奏技法の延長線 1544  
 音楽記号 997  
 コード記号 348, 941, 946, 1155  
 コードダイアグラム 1176  
 テンポ記号 1750  
 符頭 967, 970  
 ライン 1553  
 ライン注釈 997  
 臨時記号 1009

## 構造

ドキュメント 17  
 反復 442, 689, 1591, 1598, 1610  
 拍子 311, 1112, 1136, 1630, 1795, 1796

## 後方

再生 (「スクラブ再生」を参照してください)  
 小節の移動 789, 792

## 候補メニュー

演奏技法のポップオーバー 399  
 キューのポップオーバー 454  
 テンポのポップオーバー 321

## ゴーストノート 1406, 1408

ギター (「デッドノート」を参照してください) (「括弧付きの符頭」.も参照)

## コーダ 1598

インデント 651, 1605, 1606, 1720  
 外観 1599  
 角括弧 1084  
 間隔 651, 1605, 1606, 1720  
 組段の途中の間隔 1598, 1605, 1606  
 サイズ 1599, 1600  
 小節線 1084, 1604  
 セクション 1598  
 入力 446, 447  
 非表示 1600, 1604  
 表示 1600, 1604  
 フォント 1599  
 複数 1599, 1601

## コーデック 212

## コード 278, 617

エクスプロード 261, 511  
 音域の選択 251  
 角括弧 1169  
 囲み線 1742  
 括弧 1169



## コード (続き)

括弧付きの符頭 1406, 1408, 1411, 1741  
 ギターバンド 1469, 1473  
 キャレット 242, 247, 278  
 構築 284  
 再生 674, 675, 680, 685, 688  
 識別 42, 355  
 試聴 240  
 数字付き低音 427, 429, 1268  
 スケールのマッピング 535  
 声部 257, 514, 517, 1858  
 選択 460, 461  
 装飾音符 275  
 タイ 274, 1781  
 タイム 1586  
 タブ譜 251, 268, 1738  
 トラック (「コードトラック」を参照してください)  
 入力 219, 261, 278  
 ビブラートバーのダイブとリターン 1474  
 フィンガリング 1303  
 符尾の方向 1417 (「声部」.も参照)  
 ポストバンド 1473  
 ライン 261, 378-381, 417, 419, 509, 510  
 ロール (「アルペジオ記号」を参照してください)

コード記号 278, 1154  
 MIDI での操作 69, 921  
 MIDI 入力 346, 354  
 MusicXML の読み込み 1174  
 位置 1155-1157, 1160-1162, 1167  
 移調 174, 177, 179-182, 194, 519, 520, 1154, 1164  
 移調楽器 174, 194, 1164, 1165  
 移動 502, 652, 1160-1162  
 異名同音の表記 173, 174, 179-182, 921, 1155, 1156, 1164, 1165  
 インストゥルメント 346, 1157, 1160  
 エクスプロード 511, 512, 517  
 オルタレーション 1155, 1156  
 オンコード 346, 1157, 1167  
 音程 350, 517  
 音符のスペーシング 1160  
 外観 941, 942, 944, 946, 1155, 1156  
 外観をリセット 949  
 ガイド 490, 1154, 1162  
 書き出し 913  
 カスタム 941, 942, 944, 946, 949  
 括弧 (「括弧付きのコード記号」を参照してください)  
 カポ 173, 174, 179, 180, 182, 1156  
 カラー 60, 946  
 間隔 174, 1155, 1156  
 強調表示 1163  
 クオリティー 346, 1155, 1156, 1166  
 区切り用文字 1157, 1167  
 組段 1160, 1161  
 グローバル 1154  
 構成要素 (「コード記号の構成要素」を参照してください)  
 コピー 464, 1157, 1159-1161  
 サイズ 473, 1157, 1167, 1172, 1190  
 再生 661, 674-676  
 削除 496, 1157  
 サスペンション 350  
 斜体 174, 1155-1157  
 主 174

## コード記号 (続き)

十字線 656  
 浄書オプション 1155, 1156  
 小節線 1160, 1168  
 省略 350  
 数字付き低音 427, 429  
 スペーシング 1160, 1161  
 スラッシュ領域 1157, 1162, 1629  
 生成 355, 356, 511, 512, 517  
 選択 460, 464, 466, 467  
 ダイアグラム (「コードダイアグラム」を参照してください)  
 ダイアログ 941, 942, 944, 946  
 タイプ 348, 1155, 1156  
 高さ 1161, 1167  
 デフォルト設定 921, 1155, 1156  
 デフォルトとして保存 949  
 転回形 346, 354  
 トラック (「コードトラック」を参照してください)  
 入力 346, 348, 353-356, 921, 1157  
 入力中のナビゲーション 353  
 背景 1168  
 背景の塗りつぶし 1155, 1156, 1168, 1169  
 配置 1155-1157, 1160, 1161, 1167  
 ピッチ 194  
 非表示 354, 1157, 1159, 1160, 1162, 1166, 1178  
 表記 173, 174, 179-182, 921, 1155, 1156, 1164, 1165  
 表示 346, 354, 1157, 1159, 1160, 1162, 1166, 1178  
 表示オプション 1163  
 フィルター 467  
 フォント 1157  
 付加音 350  
 譜表 346, 1157, 1160  
 譜表に対する位置 1162  
 プレーヤー 346, 1157, 1160  
 変更 472, 1155, 1156  
 ボイシング 346, 514, 517, 676  
 ポップオーバー 348, 921  
 ポリコード 346, 351, 1167  
 モーダル 351, 1165  
 余白 1155, 1156, 1169, 1173  
 読み込み 913  
 領域 (「コード記号領域」を参照してください)  
 臨時記号 174, 179, 181, 348, 1155-1157, 1164  
 ルート 346, 349, 1155, 1156, 1166  
 レイアウト 1159  
 ローカル 1154  
 和音なし 351  
 「コード記号の外観を編集」ダイアログ 944  
 コード記号の構成要素 1155  
 アタッチメントポイント 946  
 外観 1155, 1156  
 カスタム 941, 946  
 タイプ 1155, 1156  
 入力 348  
 ハンドル 942, 944, 946  
 ポップオーバー 348  
 「コード記号要素の編集」ダイアログ 946  
 コード記号領域 1162  
 移動 502, 506  
 強調表示 1163  
 長さ 470  
 入力 353, 354

- コード記号領域 (続き)
  - ハンドル 470, 1162
  - 非表示 1157, 1160
  - 表示 1157, 1160
  - ポップオーバー 353
- コードダイアグラム 1154, 1175
  - 親指 938, 1182, 1184, 1187
  - 音符の生成 517
  - 開放弦 938, 1176, 1187
  - カスタム 1186
  - カラー 938, 1185, 1187
  - 間隔 1180
  - 記号 (「コード記号」を参照してください)
  - グリッド 1179, 1180, 1182
  - 形式設定 938, 1186, 1187
  - 形状 517, 938, 1184-1187
  - 構成要素 1176
  - サイズ 1180, 1190
  - シェイプのコピー 1185
  - 浄書オプション 1176
  - 省略弦 938, 1176, 1187
  - 省略された音符 921
  - 垂直 1190
  - 水平 1190
  - チューニング 169, 171, 938, 1180, 1185
  - デフォルト設定 1176, 1177
  - ナット 1176
  - 入力 1177, 1178
  - 入力オプション 1177
  - バレー 938, 1176, 1187
  - 非表示 1177, 1178, 1180, 1182
  - 表示 1177, 1178, 1180, 1182
  - フィンガリング 938, 1176, 1182, 1184, 1186, 1187
  - フォントスタイル 1188
  - フレット番号 938, 1182, 1184, 1186-1189
  - 変更 1185
  - 編集 1186
  - 丸 938, 1176, 1186, 1187
  - 向き 1190
  - ライン 1176
  - リセット 938, 1184, 1187
  - 列 1179, 1180, 1182, 1184
- 「コードダイアグラムの編集」ダイアログ 938, 1187
- 「コードダイアグラムを選択」ダイアログ 1185
- コードトラック 674
  - 非表示 676
  - 表示 676
- コードの括弧 (「括弧付きの符頭」を参照してください) (「括弧付きのコード記号」も参照)
- コーナー
  - オクターブ線 1206, 1207
  - トンボ 740
  - 臨時記号の切り抜き 1009
  - 連桁 1127
- コーラスの歌詞 1362
  - 歌詞を変更 1362
  - パラグラフスタイル 1374
  - ポップオーバー 426
  - ラインを変更 1383
- 古式の臨時記号打ち消し 1063
- 五重奏のテンプレート 77, 84, 897
  - 譜表のグループ化 1143
- 五線のサイズ 772
- 五線譜 1703
  - 打楽器キット 157, 956, 1848, 1849
  - 打楽器のレジェンド 1851
  - 符頭 1842, 1845
- 固定
  - 音符のデュレーション 274, 286, 288, 1137
  - 組段 786, 790
  - 小節 785, 794
  - 数字付き低音 433, 1284
  - 長休符の幅 1651
  - フレーム 794
  - ページ 786, 794
  - レイアウト 787
- 固定テンポ変更 1746
  - 括弧 1751
- 固定テンポモード 683
- 固定フォントサイズ 930, 932
- 古典派
  - 装飾音 375
  - トリル 1449, 1452
- コピー 495, 497, 499, 500
  - MIDI 501, 841, 870
  - アーティキュレーション 1065
  - インストゥルメント 137
  - エクスポード 510-512, 517
  - 演奏技法 1545
  - 音符 497, 499, 500, 851, 1065, 1127
  - 歌詞 1364
  - 強弱記号 497, 501, 841, 864, 1262
  - 組段オブジェクト 464, 1718
  - コード記号 464, 1157, 1159-1161
  - コードダイアグラムシェイプ 1185
  - 小節線 188
  - スラー 501, 1065
  - 声部への音符の貼り付け 499
  - 挿入モード 491
  - ディヴィジ 1727
  - テキスト 63, 497, 607
  - テンポ記号 497, 841
  - トレモロ 1127
  - パート形式 822
  - ピッチ 532, 533, 542
  - 譜表 1727
  - 譜表のスペーシング 783
  - フレーム 567, 570, 573, 578, 582, 590, 607
  - プレーヤー 137
  - フロー 87, 188
  - プロパティ 825
  - ページ形式設定 582, 823
  - ページテンプレート 567, 570, 573, 578, 582, 590
  - ポイント 841
  - リデュース 509
  - レイアウト 195
  - 連桁 1127
  - 和音モード 280
- コマンド
  - ジャンプ小節 71, 72
- コメント 490, 545
  - イニシャル 545, 550
  - 印刷 550, 724, 740
  - インストゥルメント 546, 549
  - 書き出し 550, 728, 740
  - カラー 60

- コメント (続き)  
 削除 496, 546  
 作成者 545, 550  
 順番 550  
 小節番号 546, 548, 549  
 ソート 550  
 ダイアログ 546  
 追加 548  
 ディスプレイ 546, 549  
 パネル 546, 549  
 日付 546, 549  
 非表示 551  
 表示 551  
 フロー 546, 549  
 変更 549  
 返信 548  
 リスト 546, 549  
 「コメント」ダイアログ 546
- 小文字  
 コード記号 1155, 1156  
 小節番号 1107  
 譜表ラベル 61  
 フロータイトル 621  
 リpeatマーカーのテキスト 1599  
 ローマ数字 621
- コモンタイム (「拍子記号」を参照してください)
- 小指 1299  
 入力 304  
 ポップオーバー 304  
 文字 1305
- コルレーニョ (「演奏技法」を参照してください)
- コロン  
 強弱記号 337, 1236  
 連符 1834
- ゴング (「無音程打楽器」を参照してください)
- コンケープの連桁 1119
- コンサートバンド (「バンド」を参照してください) (「プロジェクトテンプレート」も参照)
- コンサートホール  
 パンニング (「ステージテンプレート」を参照してください)  
 リバーブ (「スペーステンプレート」を参照してください)
- コンソルディーノ (「演奏技法」を参照してください)
- コンチェルト  
 楽章 (「フロー」を参照してください)  
 カデンツァ 1796
- コンデンシング 509, 748-750, 799, 801, 810, 1722  
 オッシア譜表 804, 1710  
 ガイド 490  
 ガイドの選択 467  
 カラー 821  
 休符 801, 804, 811  
 グループ (「コンデンシンググループ」を参照してください)  
 グループを除外する 809  
 グループを含める 809  
 計算 804, 806  
 結果 806, 810  
 手動 813  
 声部 804, 806  
 ダイアログ 811  
 打楽器 (「打楽器キット」を参照してください)
- コンデンシング (続き)  
 追加の譜表 804, 1706  
 ディヴィジ 765, 813, 1699  
 デフォルト設定 801, 806, 816  
 トリル 801, 811  
 背景の塗りつぶし 821  
 パラグラフスタイル 817, 1697, 1699  
 ピリオド 818  
 フィルター 467  
 フォント 817, 932, 1697, 1699  
 譜表ラベル 801, 811, 1693, 1697, 1699, 1701  
 フレーズ 804, 806, 810, 811  
 プレーヤーラベル (「プレーヤーラベル」を参照してください)  
 プレーヤーラベルを非表示にする 818  
 プレス記号 804  
 「〜へ」の指示記号 819  
 変更 801, 808, 810, 811, 813, 815  
 変更の削除 816  
 無効化 765  
 有効化 765  
 ユニゾン 806, 817, 819  
 ライン 801  
 ラベル (「プレーヤーラベル」を参照してください)  
 リセット 811, 815
- コンデンシンググループ 808  
 計算 804  
 作成 808  
 手動コンデンシング 813  
 除外 809  
 設定の変更 810, 811, 813  
 デフォルト設定 801  
 含める 809
- 「コンデンシング方法の変更」ダイアログ 811
- コントラバス (「インストゥルメント」を参照してください)
- コントローラー  
 MIDI (「MIDI コントローラー」を参照してください)  
 エクスプレッションマップ 1019
- コントロールチェンジの動作 1025, 1033
- コンプレッサー 912
- コンマ  
 歌詞 1370  
 プレーヤーラベル 818  
 プレス記号 (「プレス記号」を参照してください)

## さ

- 最近使用したプロジェクト 75, 79  
 再実行 33, 478  
 履歴 479  
 最終的なテンポ 1755  
 最初の組段  
 インデント 1720  
 譜表ラベル 1685  
 ページ番号 1503  
 最初のページテンプレート 573  
 置き換え 575, 577  
 カスタマイズ 582  
 形式設定 573, 582  
 ページ番号 1503  
 ページへの割り当て 590, 761

## サイズ 772

messa di voce 1230  
 アルペジオ記号のフィンガリング 1303  
 インストゥルメントの変更ラベル 156  
 インストゥルメント名 1697  
 エリジョンスラー 1361, 1368, 1386  
 演奏技法 473, 1537  
 オーディオバッファ 295, 296  
 オクターブ線 473  
 オシリア譜表 1711  
 音楽記号 1014  
 音符 473, 747, 772, 1208, 1209  
 音部変更記号 1194  
 角括弧 1141-1143, 1148, 1150, 1151, 1172, 1695  
 歌詞 1374, 1376, 1378, 1379  
 括弧 1172  
 間隔 166, 1665, 1780  
 キーエディター 837, 838  
 基準単位 55  
 キュー 1208, 1209  
 強弱記号 473, 1264  
 組段 764  
 組段オブジェクト 747, 773, 774  
 グラフィックスライス 637  
 弦の指示記号 1314, 1315  
 コーダ記号 1600  
 コード記号 473, 1157, 1169, 1172, 1190  
 コードダイアグラム 1180, 1188, 1190  
 五線 772  
 固定 930, 932  
 小節 491, 492, 643, 747, 748, 764, 776, 1073, 1720  
 小節線 1086-1088, 1090  
 小節番号 1096, 1098, 1099  
 数字付き低音 1282  
 スペース 772  
 スラー 1677  
 セーニョ記号 1600  
 装飾音 1014  
 装飾音符 473, 1327, 1331  
 タイ 1788  
 タイトル 596, 932  
 打楽器エディター 837, 838  
 タストソロ 1282  
 タセットバー 1651  
 タブ譜 1744  
 チャンネル 890  
 長休止符 1651  
 ティック 1087  
 テキスト 421, 625, 627, 930, 932, 1768  
 テンポ記号 1750  
 トラック 676, 677, 837, 838  
 ニエンテの丸 1259  
 パラグラフスタイル 932  
 ピアノロールエディター 837, 838  
 左手のフィンガリング 1299  
 「ビデオ」ウィンドウ 215  
 拍子記号 1801, 1803, 1814  
 広がり付きのヘアピン 1252  
 フィンガリング 1188, 1287, 1292, 1295, 1303, 1744  
 フォントスタイル 421, 625, 627, 930, 932, 1768  
 符頭 747, 772, 967, 970, 973, 975, 1208, 1209, 1389, 1394-1396  
 譜表 747, 772-774, 917

## サイズ (続き)

譜表との相対値 930, 932  
 譜表ラベル 1697, 1698  
 フレーム 605, 633  
 プレーヤーグループのラベル 1695, 1697  
 フレット番号 1188  
 フロー見出し 596, 932  
 プロジェクトウィンドウ 43, 53  
 ヘアピン 1230  
 ページ 736, 744, 917, 1017, 1019  
 ページ番号 1501  
 ミキサー 890  
 メトロノームマーク 1750  
 用紙 736, 737  
 ラインのテキスト 1567  
 リハーサルマーク 473, 1575, 1579  
 リピート括弧 1593, 1595  
 リピートマーカー 1599  
 臨時記号 1054, 1157  
 レセヴィブレタイ 1785  
 連桁 1117, 1119, 1130  
 連符 1826, 1837  
 再生 680, 701, 1046, 1722  
 Insert のバイパス 895  
 MIDI thru 240  
 MIDI コントローラー 866  
 アーティキュレーション 685, 686, 925, 1020, 1071  
 アイテムを除外する 688  
 アクセント 1071  
 アルペジオ記号 1458, 1459  
 インストゥルメント 685, 686, 1019, 1039  
 インストゥルメントのサウンド 667, 669, 701, 707  
 上書き 854  
 エクスプレッションマップ 1019, 1020  
 演奏回数 691, 1592  
 演奏技法 685, 686, 1035, 1046, 1047  
 エンドポイント 661, 710, 711, 713-715  
 オーディオの書き出し 110, 111  
 オーディオバッファサイズ 295, 296  
 オシリア譜表 1710  
 オプション (「再生オプション」を参照してください)  
 音符 239, 240, 685, 686  
 音符のデュレーション 852, 925, 1028  
 音符の非表示 1632  
 音符の録音 292  
 開始 680  
 カスタムの調性システム 1014  
 括弧付きの符頭 1408  
 間隔 1343, 1344  
 環境設定 63  
 キーボードパネル 229  
 ギターバンド 1469  
 休止 1342-1344  
 強弱記号 239, 685, 686, 859, 1028, 1241, 1264-1266  
 強弱のカーブ 1265  
 クリック 294, 672, 680, 698, 871  
 グリッサンドライン 1022, 1466, 1467, 1506  
 経過時間 698, 701  
 ゴーストノート 1408  
 コード 240  
 コード記号 661, 674-676  
 固定テンポ 683  
 再生ヘッド (「再生ヘッド」を参照してください)

## 再生 (続き)

サウンド 667, 669, 701, 707  
 サウンドのロード 667, 669, 701, 707  
 サウンドライブラリーの変更 708  
 ジャズアーティキュレーション 1046, 1495  
 小節リピート記号 1611  
 スウィング 692, 694, 696, 697  
 スクラブ再生 682  
 スタッカート 1071  
 ステージテンプレート 896, 897  
 スペーステンプレート 905  
 スラー 299, 685, 686, 925, 1683  
 スラッシュ 507, 1627, 1629, 1632  
 声部 685, 686, 713  
 選択範囲 680  
 装飾音 1434  
 装飾音符 1334  
 ソロ 687, 883  
 タイムコード 698, 701, 1580, 1586  
 打楽器 661, 714, 844, 850, 1039, 1839, 1840, 1842, 1843  
 チャンネル (「チャンネル」を参照してください) (「トラック」.も参照)  
 中間休止記号 1342-1344  
 チューニング 685  
 追従テンポ 683  
 ディヴィジ 1736  
 ディレイ 888, 893, 894, 1028, 1467  
 デッドノート 1490  
 テヌート 1071  
 デフォルト設定 707, 902, 910, 912  
 デフォルトのテンポ 496, 1745  
 テンプレート (「再生テンプレート」を参照してください)  
 テンポ 672, 683, 698, 871, 1343, 1752, 1753, 1755  
 テンポの等式 1761  
 トランスポート 698, 701  
 トリル 1449-1451  
 トレモロ 685, 686, 1045, 1823, 1824  
 ノートベロシティ 856  
 ハーモニクス 1425-1427  
 パッチ 710  
 早送り 678  
 パンニング 892, 896, 897, 902  
 ピッチ 685  
 非表示の譜表 1704  
 ビブラートバーのダイブとリターン 1474  
 微分音 1014, 1022  
 フェーダー 883, 884, 891  
 フェルマータ 1342, 1343  
 複数のウィンドウ 53  
 プラグイン 884  
 プリロール 684  
 プレス記号 1342, 1343  
 フロー 713  
 フロー間の間隔 684  
 ペダル線 1535  
 ベロシティ 856  
 ボリューム 239, 883, 884, 891  
 ボリュームのリセット 891  
 巻き戻し 678  
 マルカート 1071  
 ミキサー (「ミキサー」を参照してください)

## 再生 (続き)

ミュート 687, 688, 883  
 無音の再生テンプレート 701, 702  
 無効化 681  
 メトロノーム 698, 1755  
 メトロノームクリック 672  
 有効化 33, 680, 681  
 ライン 677, 679  
 リズミックフィール 696, 697  
 立体音響 (「ステージテンプレート」を参照してください) (「スペーステンプレート」.も参照)  
 リバース 886, 887, 896, 905, 910, 912  
 リピート 689-691, 1592  
 リピート回数 688-691, 1592  
 両立しない演奏技法のグループ 1037  
 臨時記号 1014  
 レガート 925, 1028, 1683  
 再生オプション 30, 925  
 強弱記号 1265, 1266  
 検索 925  
 スウィング再生 694  
 スラー 1683  
 ダイアログ 925  
 タイミング 1071, 1458  
 デフォルトとして保存 925  
 トリル 1449  
 トレモロ 1823  
 ペダル線 1535  
 リピート 689  
 「再生オプション」ダイアログ 925  
 再生効果 710, 1035, 1046, 1047, 1064, 1536  
 エクスプレッションマップ 1019, 1020  
 エンドポイント 710  
 組み合わせ 1031, 1035  
 再生テンプレート 701  
 削除 1037, 1047  
 作成 1047  
 識別 42  
 代替 1047  
 打楽器 1045  
 単音 1047  
 ディスプレイ 42  
 パーカッションマップ 1039  
 編集 1047  
 方向 1047  
 リセット 1047  
 両立しない演奏技法のグループ 1037  
 「再生効果の組み合わせ」ダイアログ 1031  
 「再生効果を編集」ダイアログ 1047  
 再生テンプレート 701, 702  
 上書き 701  
 エンドポイント設定 664, 711, 715  
 書き出し 710  
 カスタム 701, 704, 708  
 作成 661, 667, 669, 708, 713, 714  
 出荷時のデフォルト 702  
 ステージテンプレート (「ステージテンプレート」を参照してください)  
 スペーステンプレート 704, 710, 905  
 ダイアログ 702, 704  
 代替 704  
 トラックインスペクター 661  
 ファイル形式 701

- 再生テンプレート (続き)
  - 変更 707
  - メトロノームクリック 294, 672
  - 読み込み 709
  - リセット 707
- 再生ヘッド 677
  - 位置 680
  - 移動 482, 678, 679, 682
  - カラー 58
  - 休止 682
  - 再生 680, 698
  - ズーム 677, 838
  - 追従 42, 679
  - トランスポート 698, 701
  - 早送り 678
  - 非表示 679, 682
  - 表示 679, 682
  - 巻き戻し 678
  - リピート 689
- 再生ヘッドに追従 679
  - スクラブ再生 682
- 再生モード 22, 658
  - MIDI インストゥルメント 661, 665, 667, 701, 707
  - VST インストゥルメント 661, 664, 666, 667, 701, 707
  - 「VST と MIDI」 パネル 664
  - ウィンドウの要素 658
  - 上書き 854
  - エクスプレッションマップ 1019, 1031
  - エクスプレッションマップの書き出し 1038
  - 「エンドポイントの設定」 ダイアログ 711
  - 音符の移動 847
  - 音符の削除 852
  - 音符のデュレーション 846, 848, 852, 853
  - 音符の入力 845
  - 切り替え 46, 658
  - 再生 680, 925
  - 再生ヘッド (「再生ヘッド」を参照してください)
  - サウンドのロード 666, 667, 701, 707
  - ズーム 677, 838
  - 打楽器エディター 844
  - チャンネル (「チャンネル」を参照してください) (「トラック」.も参照)
  - ツールボックス 658
  - トラック 669
  - トラック概要 659
  - トランスポート 35, 698
  - パーカッションマップ 1039
  - パネル 40, 658, 661
  - ピアノロールエディター 843
  - ミキサー (「ミキサー」を参照してください)
- 最適化された譜表 748–750 (「コンデンシング」.も参照)
- サイドスティック (「無音程打楽器」を参照してください) (「演奏技法固有の符頭」.も参照)
- 再表示
  - トリルの音程 1434
  - 臨時記号 1060–1062
- 再読み込み
  - ビデオファイル 213
- サウンド (「再生」を参照してください)
- サウンドトラック
  - オーディオ 215
  - ボリューム 215
- サウンドライブラリー 701, 1039
  - エクスプレッションマップ 1020
  - 再生 1019, 1020, 1039
  - サウンドのロード 667, 681, 701, 707
  - 存在しないサウンド 707
  - ディレイ 1028
  - ドキュメント 75
  - トリル 1449
  - パーカッションマップ 1042
  - パンニング (「ステージテンプレート」を参照してください) (「スペーステンプレート」.も参照)
  - 変更 707, 708
- 作詞者 81, 1320
  - 書き出し 113
  - 最初のページ 573, 1318
  - 斜体 81, 932
  - 追加 1320
  - トークン 620
  - フォント 932, 1320
  - 太字 81, 932
- 削除 496, 553
  - FX チャンネル 894
  - Insert 895
  - MIDI ポイント 842
  - アーティキュレーション 1065
  - 移調の上書き 202
  - インストゥルメント 140, 149, 162
  - インストゥルメントの移調 207, 1690
  - インストゥルメントフィルター 490
  - インストゥルメント名 1685, 1687
  - インデント 1720
  - エディター 840
  - エフェクト 895
  - エフェクトチャンネル 894
  - エンドポイント 715, 717
  - オッサ譜表 1705
  - 音符 492, 852, 1073, 1398, 1404
  - 音符間の間隔 286
  - 音部記号 362, 496, 1195–1197
  - 音部記号の上書き 202
  - 音符のスペーシングの変更 648, 651
  - 音符の複製 509
  - カウント 1607, 1651
  - 角括弧 1052, 1062, 1084, 1148, 1152, 1153, 1170, 1171, 1237, 1272, 1276, 1408
  - 重なり合う音符 286
  - 括弧 1052, 1062, 1170, 1171, 1237, 1272, 1276, 1408
  - カポ 176, 179
  - キーエディター設定 882
  - キーボードショートカット 69, 70
  - ギターテクニック 1493
  - ギターポストバンド 1479
  - 休符 286, 1073, 1218, 1219, 1646, 1647
  - 強弱記号 842
  - 空白ページ 28
  - 組段区切り 788, 792
  - 組段のインデント 1720
  - グラフィックスライス 642
  - 弦楽器 169
  - 弦の指示記号 1315
  - コード記号 1157
  - コードダイアグラム 1177, 1178, 1182
  - コメント 546

## 削除 (続き)

コンデンス方法の変更 816  
再生効果 1037, 1047  
再生の上書き 854  
自動保存されたプロジェクト 114, 115  
ジャズアーティキュレーション 1500  
弱起 (アウフタクト) 492  
ジャンプ小節のエイリアス 74  
小節 329, 492, 1073-1075  
小節線 1084, 1090-1092  
小節線の結合 1092  
小節番号の変更 1105  
スクープ 1493  
ステムレット 1133  
声部 1864  
装飾音符 1329  
挿入モード 491  
タイ 507, 1136, 1138, 1139, 1786, 1855, 1856  
タイトル 582, 591, 762  
タイム 491, 492, 1073-1075  
打楽器キットのグループ 166  
タッピング 1493  
タブ譜のタイ 1741  
中央配置の連符 1123  
中括弧 1084, 1148, 1152, 1153  
長休止符の小節数 1651  
停止位置 495  
テンプレート 86, 581, 882  
テンポ記号 842  
トリルの音程 1446  
トレコルデ 1534  
トレモロ 1821  
ニエンテ記号 1258  
拍 330, 492, 1073, 1075  
ピッチのマッピング 534  
ビデオ 216  
拍子記号 496, 1811  
ファイル 75  
フィンガリング 1294, 1295  
フィンガリングスライド 1307  
フェルマータ 1340  
複縦線 1083  
付点 1398, 1401, 1404  
符頭の括弧 1408  
符尾の方向の変更 1420  
譜表 750, 751, 1704, 1705, 1708  
譜表のスペーシングの変更 782  
譜表ラベル 1685, 1687  
フレーム 591, 608, 762  
フレーム区切り 788, 795  
プレーヤー 140, 186, 189, 193  
フロー 190, 193  
フロー番号 596, 599  
フロー見出し 582, 591, 601, 762  
フロー見出しの変更 594  
プロジェクト 75  
プロジェクトテンプレート 86  
ページ 586, 759  
ページテンプレート 581  
ページテンプレートのセット 572  
ページテンプレートの変更 591  
ページテンプレートの優先 586  
ページ番号 582, 1501

## 削除 (続き)

ページ番号の変更 589  
ペダル線 1522  
ペダルの強さの変更指示 1522  
ベロシティの変更 858  
ベンディング 1479  
マーカー 436  
ユニゾンの音符 509  
余分な譜表 1705  
欄外見出し 582  
リズムフィールドの変更 696  
リテイク 1522  
リデュース 509  
臨時記号 1052, 1350  
レイアウト 197  
連符 1115  
連符 1829  
枠線 628, 932, 1325, 1770  
作成 (「入力」を参照してください)  
作成者名 545, 546  
作詞者 1320  
でソート 550  
非表示 549  
表示 549  
変更 550  
サクソフォン (「インストゥルメント」を参照してください) (「移調楽器」も参照)  
下げ弓 (「演奏技法」を参照してください)  
サスティン楽器 1264  
サスティンペダル 1516  
MIDI コントローラー 297, 1535  
MusicXML の読み込み 1535  
延長線 1529  
開始記号 1527  
浄書モード 1518  
テキスト 1532, 1533  
入力 401, 407, 409  
ハンドル 1518  
分割 1524  
ポップオーバー 401, 407  
マージ 1525  
リテイク 408, 410, 1517, 1519  
リテイク/強さの変更指示の削除 1522  
レベルの変更指示 408, 410, 1517, 1520  
サスペンション  
角括弧 1273, 1276  
コード記号 350, 354  
数字付き低音 427, 429, 1269, 1273, 1274, 1278, 1279  
作曲者 75, 81, 1319  
書き出し 113  
最初のページ 573, 1318  
斜体 81, 932  
追加 1319  
トークン 620  
フォント 932, 1319  
太字 81, 932  
フロー見出し 595, 596, 599  
冊子印刷 735  
印刷 733, 735  
両面印刷 735

- サブ小節番号 1105  
 外観 1107  
 追加 1106  
 変更 1106
- サブタイトル 81, 567, 573, 595, 599, 932 (「フロー見出し」.も参照)
- サブページ番号 588  
 数字スタイル 586, 588
- 三角形  
 コード記号 1155, 1156  
 再生 1039  
 打楽器 (「無音程打楽器」を参照してください)  
 符頭 1391, 1394, 1840, 1843  
 ページ 584  
 ライン注釈 994  
 連桁 1119
- 三重小節線 331, 1079, 1081, 1083  
 入力 329, 331, 334, 336
- 三重付点音符 255
- 三重臨時記号  
 移調 520  
 書き換え 523, 524, 526  
 コード記号 354  
 入力 269, 306
- 賛美歌  
 音符のスペーシング 644  
 歌詞 644, 1374  
 ティック 1079, 1081, 1087  
 ページサイズ 1017  
 リピート小節線 1079
- サンプリングされたトリル 1449, 1450  
 無効化 1450  
 有効化 1450
- サンプリングレート 42, 295, 296
- サンプルライブラリー (「サウンドライブラリー」を参照してください)
- し**
- シーケンス  
 再生 682, 689  
 サブ 1105  
 小節番号 1104-1106  
 タイプ 1577  
 譜表ラベル 144, 145, 1692  
 ページ番号 586, 588, 760  
 リハーサルマーク 1576
- シェイク (「ジャズの装飾音」を参照してください)
- 四角  
 角括弧 1144, 1145, 1147, 1148, 1551  
 括弧付きの符頭 1406-1408, 1414  
 数字付き低音の括弧 1269, 1273, 1276  
 符頭 1392  
 臨時記号の括弧 1052, 1428
- 時間  
 タイムコード 1586, 1589  
 トランスポート 35, 698
- 指揮者用のスコア (「コンデンシング」を参照してください) (「レイアウト」.も参照)
- ジグザグ  
 ライン (「ライン」を参照してください)  
 臨時記号 1055
- 指示記号  
 オクターブ 1199  
 音部記号 1199  
 キャレット 1241  
 声部 1241  
 プレーヤー 817  
 ユニゾン 819
- 四重奏のテンプレート 77, 84, 897  
 譜表のグループ化 1143
- システムトラック 464  
 楽譜の削除 1074  
 楽譜の選択 466  
 小節の入力 334  
 停止位置 494, 495  
 拍の入力 334  
 非表示 465, 477
- 下ゾーン 33, 40, 228  
 キーエディター (「キーエディター」を参照してください)  
 キーボードショートカット 48  
 記譜モード 826, 831, 883  
 再生モード 831, 883  
 浄書モード 826, 883  
 設定モード 132  
 非表示 48  
 表示 48  
 プロパティパネル (「プロパティパネル」を参照してください)  
 ミキサーパネル (「ミキサーパネル」を参照してください)
- 下付き  
 インストゥルメント名 207  
 コード記号 1155, 1156  
 テキスト 421, 625, 935  
 譜表ラベル 207
- 下の音符  
 打楽器 263, 1840, 1843  
 トリル 1452
- 下向アルペジオ記号 (「アルペジオ記号」を参照してください)
- 舌を鳴らす (「演奏技法」を参照してください)
- 試聴  
 MIDI デバイス 240, 290, 458  
 音符 239, 240, 290, 458, 682  
 コード 240, 458, 682  
 スクラブ再生 682
- 実音 195  
 印刷 724  
 インストゥルメントの移調 950, 954, 958, 1690  
 音部記号 360, 950, 954, 1194, 1196, 1198, 1220  
 書き出し 728  
 キュー 1220  
 ステータスバー 42  
 トークン 619, 1325  
 ピッチの入力 238  
 表示 194  
 フィルター 468  
 譜表ラベル 1684, 1690  
 レイアウト 190, 194, 619, 724, 728, 1325
- 実線  
 スラー 1663, 1664  
 タイ 1778, 1779



## 実線 (続き)

テンポ記号 1759  
 ライン 1551, 1563

## 室内楽

アンサンブル 84, 126, 128, 141, 896  
 パンニング (「スペーステンプレート」を参照してください)  
 リバーブ (「スペーステンプレート」を参照してください)

## 自動保存 114, 115

音程 116  
 日時 115  
 プロジェクトの回復 115  
 プロジェクトの削除 114  
 無効化 116

## 「自動保存したプロジェクトを回復」ダイアログ 115

## シフト

オクターブ 360, 520, 521, 527, 1198  
 音部記号 360, 1198  
 ピッチ (「回転」を参照してください)  
 リズム (「回転」を参照してください)

## シャープ (「臨時記号」を参照してください)

## ジャズ

アーティキュレーション (「ジャズアーティキュレーション」を参照してください)  
 インストゥルメントファミリー 960  
 音楽フォント 927, 929  
 グリフ 927, 929  
 コード記号 1156  
 バンドのテンプレート 77, 84  
 譜表のグループ化 1143, 1692  
 プレーヤーの順番 121, 137, 963, 964

## ジャズアーティキュレーション 1495, 1496

位置 1497  
 移動 652, 1497  
 外観 1497-1499  
 コピー 1065  
 再生 1046, 1047, 1495  
 削除 1500  
 浄書オプション 1497  
 スムーズ 1495  
 線のスタイル 1499

装飾音 (「ジャズの装飾音」を参照してください)

タイプ 372, 1495, 1498  
 デフォルト設定 1497  
 デュレーション 1498  
 長さ 652, 1497, 1498  
 入力 370, 372, 382, 383  
 パネル 375, 383  
 ハンドル 1497  
 変更 1498  
 ベンド 1495  
 ポップオーバー 372, 382

## ジャズの装飾音 1495, 1496

タイプ 372  
 入力 372, 376, 377  
 ポップオーバー 372

## 斜線

コード記号 1155, 1156, 1167  
 ライン 417, 1133, 1461, 1495  
 臨時記号のスタック 1055

## 斜体

インストゥルメントの変更ラベル 156  
 インストゥルメント名 1697  
 歌詞 1374-1376, 1379  
 強弱記号 1229  
 献呈 81, 932, 1321  
 コード記号 174, 1155-1157  
 コードダイアグラム 1188  
 作詞者 81, 932  
 作曲者 81, 932  
 サブタイトル 81, 932  
 数字付き低音 1281, 1282  
 タイトル 81, 932  
 タストソロ 1281, 1282  
 著作権 81, 932  
 テキスト 421, 625, 932, 935  
 テンポ記号 1750  
 フィンガリング 1188, 1295, 1297  
 譜表ラベル 207, 932, 1697  
 プレーヤーグループのラベル 1695, 1697  
 プロジェクト情報 81, 932  
 マークダウン 81

リハーサルマーク 1579  
 リピート括弧 1595

連符 1837

## 弱起 (アウフタクト) 1796, 1800

ガイド 490  
 小節の変換 492, 1800  
 入力 311, 312, 317, 319, 492  
 拍の削除 330, 492, 1073, 1074

## シャドー音符 234

カラー 58

## ジャンプ

再生 690  
 入力 446, 447  
 反復 1598  
 非表示 1604  
 表示 1604  
 リハーサルマーク 482, 1576

## ジャンプ記号 (「リピートマーカー」を参照してください)

## ジャンプ小節 70

移動 71, 72  
 エイリアス 73, 74  
 エントリー 70  
 コマンド 71, 72  
 表示 72

## ジャンベ (「無音程打楽器」を参照してください)

## 重音のトレモロ (「トレモロ」を参照してください)

終止線 331, 1079, 1081, 1082  
 演奏回数 691, 1592  
 組段の終了位置 1083  
 入力 329, 331, 334, 336, 1082  
 リピート小節線 1083

## 十字線 656

## 修飾キー

キーボードショートカット 66  
 検索 66

## 修飾語句 337, 340, 1241

## 終端線 987, 994, 1553

## 終端の位置

アルペジオ記号 1456  
 オクターブ線 1202, 1203  
 強弱記号 1233

## 終端の位置 (続き)

スラー 1069, 1656, 1658, 1660, 1675, 1677  
タイ 1777, 1787, 1790  
トリル 1437, 1440  
譜表線 1658  
ペダル線 1523  
ライン 1554, 1560, 1562  
リピート括弧 1595  
連符の大括弧 1833

重要なマーカー 436, 1585

終了位置の小節線 1082, 1083

## 縮尺サイズ

印刷 724, 736, 737  
オッサア譜表 1711  
音符 473  
音符のスペーシング 643-646  
音部変更記号 1194  
キュー 643, 644, 646, 1209  
弦の指示記号 1315  
コード記号の構成要素 941, 942, 944, 946  
コードダイアグラム 1180, 1190  
小節線 1079, 1081, 1083  
装飾音符 643, 644, 646, 1327, 1331  
タブ譜 1738  
ニエンテの丸 1259  
フィンガリング 1287, 1292, 1299  
譜表 772, 774-776  
臨時記号 1054

縮小 (「サイズ」を参照してください)

主コード記号 173, 174, 179, 180, 182

移調 177

## 出荷時のデフォルト

再生テンプレート 702  
ステージテンプレート 897  
スペーステンプレート 905

## 出力

オーディオ書き出し 63  
パンニング 897, 899, 900  
プラグイン 711  
ボリューム 891  
ミキサー 711, 883, 884  
リバーブ 905, 907, 908, 910

ジュテ (「演奏技法」を参照してください)

取得 (「回復」を参照してください) (「非録音時の MIDI 入力データを記録」.も参照)

## 順番 656, 963-965

MIDI メッセージ 1025  
アーティキュレーション 1067  
インストゥルメント 139, 144, 145, 149, 164, 204, 205, 963-965, 1691  
インストゥルメントファミリー 960  
インストゥルメントフィルター 487  
エクスプレッションマップ 1020  
演奏技法 1541  
オーケストラ 137-139, 149, 183, 1695, 1696  
音符 1862, 1863  
歌詞 1230  
強弱記号 1230  
弦の指示記号 1541  
コード記号 1167  
コメント 550  
ジャズ 137  
スコア 137-139, 183, 963-965, 1695, 1696

## 順番 (続き)

声部 919, 1401, 1859, 1862  
タブ 51  
調号 1347  
テンポ記号 1756  
動作 1025  
名前 149, 204, 205  
バンド 137  
フェルマータ 1541  
付点 1401, 1862  
譜表ラベル 1691  
フレームチェーン 610, 613, 614  
プレーヤー 137-139, 183, 963-965, 1695, 1696  
プレーヤーグループのラベル 1696  
フロー 81, 189  
ページ 44, 54  
メトロノームマーク 1756  
ライン 1555, 1556  
リハーサルマーク 1576  
リピートマーカー 1600, 1601  
臨時記号 1055, 1056, 1347  
レイアウト 196

## 小音符 473

キュー (「キュー」を参照してください)  
装飾音符 (「装飾音符」を参照してください)  
トリル (「トリル」を参照してください)  
ハーモニクス (「ハーモニクス」を参照してください)  
譜表 (「譜表サイズ」を参照してください)  
連符 1826 (「連符の数字」.も参照)

## 条件

エクスプレッションマップ 1027, 1035

上限 (「制限」を参照してください)

## 詳細設定

非表示 45  
表示 45

## 浄書オプション 30, 923

アーティキュレーション 1065  
アルペジオ記号 1453  
演奏技法 1537  
延長 1336  
オクターブ線 1202  
オッサア譜表 1714  
音楽フォント 929  
音符 1388, 1415  
解析 117  
書き出し 84, 85, 913  
歌詞 1361  
加線 1388  
括弧付きの符頭 1407  
ギターバンド 1476  
キュー 1209  
休止 1336  
休符 1644  
強弱記号 1230  
グリッサンドライン 1462  
検索 923  
コード記号 1155, 1156  
ジャズアーティキュレーション 1497  
詳細設定 45  
小節線 1079, 1714  
小節番号 1094  
小節リピート記号 1611  
数字付き低音 1269

## 浄書オプション (続き)

スラー 1656  
 スラッシュ符頭 1223, 1625, 1626  
 装飾音 1434  
 タイ 1777  
 ダイアログ 923  
 タイムコード 1588, 1589  
 打楽器 1850  
 タブ譜 1738  
 中間休止記号 1336  
 調号 1347  
 テキスト 420  
 デフォルトとして保存 923  
 テンポ記号 1746  
 通し番号付き小節領域 1619  
 トリル 1434  
 トレモロ 1817  
 拍子記号 1796  
 フィンガリング 1287  
 フェルマータ 1336  
 符尾 1388, 1415, 1738  
 譜表ラベル 1685  
 プレス記号 1336  
 プロジェクトテンプレート 84, 85  
 ペダル線 1517  
 マーカー 1580, 1588, 1589  
 ライン 1554  
 リハーサルマーク 1574  
 リピート括弧 1591  
 リピートマーカー 1599  
 臨時記号 1051  
 連符 1826  
 「浄書オプション」ダイアログ 923  
 浄書ツール (「プロパティ」を参照してください) (「デフォルト設定」.も参照)  
 浄書モード 22, 553  
   アイテムの移動 652  
   アイテムの選択 460-462, 480, 554  
   音符のスペーシング 643  
   ガイド 490  
   楽曲フレーム 609  
   キーボードショートカット 554  
   切り替え 46, 553  
   組段区切り 789  
   組段に変換 790  
   グラフィックフレーム 632  
   再生ヘッド 679  
   「浄書オプション」ダイアログ 923  
   ツールボックス 554  
   テキストエディター 625  
   テキストフレーム 616  
   パーセンテージ 566, 567  
   配置設定 784  
   パネル 40, 553, 556, 559, 562, 826  
   譜表のスペーシング 776  
   フレーム 601  
   フレーム区切り 792  
   フレームチェーン 610  
   フレームに変換 794  
   ページ区切り (「フレーム区切り」を参照してください)  
   ページ形式設定 742

## 小数点位置

メトロノームマーク 326, 327, 1752, 1755  
 小節 1073  
   赤 494, 495  
   移動 482, 786, 788-790, 792, 793  
   音符のグループ化 26, 1136, 1138, 1139, 1630  
   カウントイン 295  
   数の固定 785, 786, 790, 794  
   間隔 1606, 1720  
   休符 (「小節休符」を参照してください)  
   休符の配置 1645  
   組段区切り 788, 789  
   グリッサンドライン 1462  
   グループ化 (「小節リピート記号」を参照してください) (「長休符」.も参照)  
   結合 496  
   コード記号 1162  
   コンテンツの削除 1075  
   サイズ 491, 492, 643, 747, 748, 764, 776, 1073, 1720  
   再生 680, 698  
   削除 329, 492, 1073-1075  
   弱起 (アウフタクト) 1800  
   小節休符 (「小節休符」を参照してください)  
   親切臨時記号 1283  
   スペーシング 643, 645, 648, 1076, 1556, 1646  
   スラッシュ符頭 1629, 1630  
   選択 460, 461, 463, 466  
   挿入モード 491  
   タイムコード 1589  
   高さ 747-749, 776  
   長休符 1649  
   ディスプレイ 698, 701  
   デュレーション 1073  
   展開 332, 334, 492, 493  
   長さ 492, 1073  
   ナビゲーション 482  
   入力 329, 331-334, 491  
   配置 764, 1079, 1088, 1645, 1720  
   パネル 331, 333  
   幅 643, 645, 648, 764, 1076, 1646, 1720  
   番号 1095  
   半小節 919, 1136, 1139  
   反復 1591, 1598, 1610  
   ビブラート (「ビブラートバー」を参照してください) (「ギター」.も参照)  
   フレーム 117  
   フレーム区切り 788, 792  
   分割 788-790, 792, 793, 1077  
   ポップオーバー 329, 332  
   連符のグループ化 26, 1136, 1138, 1139  
   連符 1829  
 小節休符 1647  
   移動 1645  
   解析 117  
   カウント 1649  
   キュー 919, 1208, 1218, 1219, 1643  
   削除 1642, 1646  
   スラッシュ 1642  
   声部 1642, 1643, 1648  
   長休符 1649  
   入力 273, 329  
   非表示 750, 1219, 1642, 1643, 1646-1648  
   表示 750, 1219, 1643, 1647, 1648

## 小節数

長休止符 1097, 1653  
 フォントスタイル 1653

## 小節線 1078

移動 496, 1087  
 オッサ譜表 1714  
 音部記号 1079, 1209, 1220  
 外観 1079  
 開始（「組段の小節線」を参照してください）  
 ガイド 334, 336, 490, 496, 1078  
 カウント（「リピート回数」を参照してください）  
 角括弧 1086  
 カスタムの結合 1088, 1091, 1152  
 間隔 1168, 1239, 1347, 1538, 1571, 1774, 1854  
 記号 1014  
 記譜オプション 1079  
 キュー 1209, 1220  
 強弱記号 1232-1234, 1239  
 組段 1084, 1085  
 組段区切り 788, 1083  
 形式設定 558, 1014  
 結合（「小節線の結合」を参照してください）  
 コーダ 1084, 1604  
 コード記号 1160, 1168  
 コピー 188  
 最終（「終止線」を参照してください）  
 削除 496, 1083, 1090-1092  
 三重 331  
 讃美歌スタイル 1079  
 自由拍子 1796  
 終了位置の小節線 1082, 1083  
 縮尺サイズ 1079, 1081  
 浄書オプション 1079  
 小節番号 1101, 1102  
 スペーシング 1079, 1347  
 声楽の譜表 1079, 1088, 1090  
 接続（「小節線の結合」を参照してください）  
 装飾音符 1330  
 タイプ 331, 1079  
 大譜表を用いる楽器 1088, 1090  
 単一 1079, 1081, 1083  
 段階的テンポ変更 1747  
 短線 1079, 1081, 1083  
 中間休止記号 370  
 長休止符 334  
 調号 1079, 1083, 1350  
 ティック 1079, 1081, 1083  
 デフォルト 1081, 1082  
 デフォルト設定 1079  
 長さ 1079, 1087, 1088, 1090-1092  
 二重 1079, 1081, 1083, 1604  
 入力 329, 331, 334, 336, 1077  
 配置 1079, 1088  
 破線 1079, 1081, 1083, 1796, 1809  
 羽根 1086  
 パネル 331, 336  
 反復（「リピート小節線」を参照してください）  
 非表示 311, 1082-1084, 1168, 1239, 1538, 1571, 1774, 1796, 1854  
 拍子記号 1079, 1090, 1809  
 表示なし 311, 1082, 1083, 1796  
 フェルマータ 1341  
 太さ 1079, 1081, 1083

## 小節線（続き）

譜表のグループ化 558, 960, 1088-1090, 1143, 1148  
 譜表をまたぐ 558, 1088, 1090, 1091  
 フレーム区切り 788  
 変更 334, 336, 1079, 1081-1083  
 ポップオーバー 329, 331, 334  
 リセット 1152  
 リハーサルマーク 1576  
 臨時記号 1350  
 連符 1829  
 小節線に連結されたライン（「ライン」を参照してください）  
 小節線の結合 1088-1091, 1148  
 オッサ譜表 1714  
 削除 1092  
 声楽の譜表 1079  
 デフォルト 960, 1090, 1142, 1143  
 長さ 1092  
 入力 558, 1091, 1092  
 非表示 1084, 1085, 1090  
 分割 1092  
 リセット 1152  
 小節線（太線） 331, 1079, 1081-1083  
 入力 329, 331, 334, 336  
 小節と小節線パネル 331, 333, 336  
 「小節に移動」ダイアログ 482  
 小節の時間（「リピート括弧」を参照してください）  
 小節番号 1094  
 位置 1100-1102, 1623  
 移動 652, 1101, 1102  
 音部記号 1094, 1102  
 外観 1095, 1098, 1107, 1109, 1110  
 解析 117  
 ガイド 490, 1098  
 カウント 1619  
 囲み線 1096  
 括弧 1108, 1110  
 カラー 60  
 間隔 1094, 1102  
 ギャレービュー 44  
 組段に対する位置 1103  
 合計（「カウント」を参照してください）  
 コメント 545, 546, 548-550  
 サイズ 1096, 1098, 1099  
 削除 1105  
 サブ 1105-1107  
 シーケンスの変更 1104  
 弱起（アウフタクト） 1800  
 浄書オプション 1094  
 小節線 1101, 1102  
 衝突回避 1102  
 先頭 1110  
 代替 1108  
 長休止符 1095, 1097, 1653  
 デフォルト設定 1094  
 パートレイアウト 1098  
 背景の塗りつぶし 1096  
 配置 1102  
 パラグラフスタイル 1099  
 範囲 1097, 1618（「通し番号付き小節領域」も参照）  
 非表示 1095, 1098, 1103, 1106  
 表示 1095, 1098, 1106  
 拍子記号 1103

## 小節番号 (続き)

- 頻度 1095
- フォント 1098, 1099, 1107
- 複数の位置 1100
- 譜表に対する位置 1100, 1623
- プライマリーシーケンスに戻す 1107
- 変更 1105, 1106
- 末尾 1110
- リハーサルマーク 1577
- リピートセクション 1108, 1109
- リピートの算入 1108
- リピートの除外 1108
- リピートの2回目以降 1108-1110
- レイアウトオプション 1094
- 小節番号のプライマリーシーケンス 1104
- 変更 1105, 1106
- 戻す 1107
- 「小節番号の変更を挿入」ダイアログ 1104
- 小節リピート記号 1610, 1816
- 移動 502, 506
- カウント 1611-1616
- カウントの移動 652
- 数の変更 1613
- 括弧 1612, 1615
- カラー 60
- 間隔 1611
- 記号 1014, 1616
- 強弱記号 1611
- 強調表示 1610, 1612
- 組段区切り 790
- グループ化 1611, 1616, 1617
- 形式設定 1014
- 再生 472, 1611
- 削除 496
- 浄書オプション 1611
- 小節番号 1097
- タイプ 441
- 長休符 1649
- デフォルト設定 1611
- 統合 1649
- 長さ 470
- 入力 441, 442, 451
- 背景の塗りつぶし 1610
- 配置設定 785
- パネル 442
- ハンドル 470
- 表示オプション 1612
- 頻度 1611, 1614
- フィルター 467
- フォントスタイル 1612, 1616
- フレーズの長さ 472, 1611
- フレーム区切り 793
- 変更 472, 1611
- ポップオーバー 441
- 領域 1610
- 上線付きテキスト 421, 625, 932, 935
- インストゥルメント名 207
- 譜表ラベル 207
- 衝突回避
- アーティキュレーション 1069
- 演奏技法 1541
- 音部記号 1094, 1102
- カウント 1623

## 衝突回避 (続き)

- 括弧付きの符頭 1407
- ギャレービュー 779
- 強弱記号 1230, 1232, 1239
- コード記号 1168
- 小節線 1168, 1239
- 小節番号 1094, 1102, 1623
- 数字付き低音 1269, 1280
- スラー 1660, 1661, 1670
- タイ 1355, 1776, 1777, 1790, 1813
- タイトル 768
- 調号 1355
- テキスト 1770
- 拍子記号 1813
- フィンガリング 1287
- 符頭の括弧 1414
- 譜表 748, 749, 776, 779
- フロー見出し 768
- 余白 768
- ライン 988, 1556
- 臨時記号 1055-1057
- 小副括弧 (「第2括弧」を参照してください)
- 情報 (「プロジェクト情報」を参照してください)
- 省略
- インストゥルメント名 203, 206, 207, 490, 817, 950, 1688
- 強弱記号 1229, 1243, 1254
- コード記号 350, 354
- コードダイアグラム 921, 1176, 1177, 1187
- テンポのテキスト 1749
- 日付 622
- 譜表ラベル 157, 1685, 1687, 1688, 1723
- プレーヤーラベル 817
- リピートマーカ 1599
- ショートカット
- MIDI 64, 69
- キーボードショートカット 64, 68
- ジャンプ小節 70
- 除外 133
- 延長記号を再生から 1343
- コードダイアグラム 1182
- コンデンシンググループ 809
- 再生 688
- 小節番号からのリピート回数 1108
- スラッシュ付き声部を再生から 1629
- テンポ変更を再生から 683, 1343
- フローからプレーヤーを 133, 189
- リピートを再生から 690
- レイアウトからプレーヤーを 133, 193
- レイアウトからフローを 133, 193
- 初期化スイッチ 1024, 1032
- ジョブタイプ 721, 733
- 印刷 733
- 選択 733
- ページ範囲 726, 727
- 白
- 音符 1466, 1467
- 符頭 1388, 1389, 1394
- 譜表 59
- ページ 57, 59
- 領域 (「背景の塗りつぶし」を参照してください)
- 白黒 739
- 白黒のグラフィック 739

シロフォン (「インストゥルメント」を参照してください)  
(「移調楽器」.も参照)

新ウィーン楽派の臨時記号の有効範囲ルール 1061

「新規フロー見出し」ダイアログ 599

新規プロジェクト 77

「新規ページテンプレート」ダイアログ 577

シングルプレイヤー 135, 139

MIDI インポート 95

アンサンブル 126, 141, 142

オッサ譜表 1710, 1711

空白の譜表 750

コンデンス 765, 808

追加 136, 141, 142

譜表 751, 752

譜表サイズ 774

譜表の追加 957, 1707

譜表ラベル 1684, 1685

余分な譜表 957, 1706, 1707

シンコペーション

音符の生成 515

コード記号 515

ステムレット 1131

拍のグループ化 1136

親切

臨時記号 (「親切臨時記号」を参照してください)

親切音部記号 1191

親切拍子記号 1798

非表示 1799

表示 1799

親切フィンガリング 1297

外観 1287

括弧 1287, 1298

非表示 1298

表示 1298

親切臨時記号 1060, 1062

一般的な慣習 1062

括弧 1060, 1062

カラー 58, 1054

数字付き低音 1283

タイのつながり 1052, 1428, 1783

トリル 1442

非表示 1052, 1062, 1350, 1428

表示 1052, 1062, 1350, 1428

モダニスト 1061

シンバル (「無音程打楽器」を参照してください)

## す

図

書き出し 639, 641, 728, 729

フレーム 632

吹奏楽 (「バンド」を参照してください) (「プロジェクト  
テンプレート」.も参照)

垂直位置 652, 923

poco a poco 1244

アーティキュレーション 1065, 1067, 1069, 1070

アイテムの反転 474

インストゥルメント 137-139, 963, 964

インストゥルメントの変更ラベル 150

演奏技法 474, 1541

カウント 1623, 1636

歌詞 1230, 1362, 1368, 1371, 1372, 1374, 1382-1384

カポコード記号 179

垂直位置 (続き)

キュー 1221, 1224, 1225

休止 1338

休符 1640, 1643, 1645

強弱記号 1230, 1244, 1245

組段 748, 749, 776

組段オブジェクト 1718, 1719

弦の指示記号 1314, 1541

コード記号 179, 1155-1157, 1160-1162, 1167, 1178

コメント 550

修飾語句 1244

小節番号 1100, 1102, 1103, 1623

数字付き低音 1269, 1270, 1278, 1280

スタックの順番 (「スタックの順番」を参照してくだ  
さい)

スラー 1660, 1667

スラッシュ符頭 1638

装飾音 1436

タイ 1777, 1781, 1790

タイムコード 1580, 1581, 1587

タレット 798

中間休止記号 1339

テキスト 474, 631, 1717-1719, 1770

テンポ記号 1717-1719, 1747

トリル 1436

トレモロ 1818

ハーブペダルダイアグラム 1513

拍子記号 1717, 1718, 1801, 1803, 1809, 1811

フィンガリング 1287, 1300, 1301, 1303, 1304

フェルマータ 1338, 1541

譜表 137-139, 748, 749, 776, 779, 963, 964

譜表ラベルの番号 1701

フレーム 604

プレイヤー 137-139, 963, 964

プレス記号 1339, 1341

フロー見出し 595, 763, 768, 769

ペダル線 1523

変更 474

ボウイング記号 1541

マーカー 1580, 1581

ライン 1541, 1554, 1558, 1559, 1561, 1573

リハーサルマーク 1576, 1717-1719

リピート括弧 1594, 1717-1719

リピートマーカー 1605, 1718, 1719

レイアウト 196

垂直スタックの順番 (「スタックの順番」を参照してくだ  
さい)

垂直線 (「ライン」を参照してください) (「アルペジオ記  
号」.も参照)

垂直なコードダイアグラム 1190

垂直方向のスペーシング

アーティキュレーション 1065

オッサ譜表 1710

歌詞 1372, 1374

括弧付きの符頭 1407, 1408, 1411

組段 (「組段のスペーシング」を参照してください)

コードダイアグラム 1180

打楽器キット 166

タレット 798

テキスト 932, 934

譜表 (「譜表のスペーシング」を参照してください)

フレーム密度表示 567

## 垂直方向の配置

アイテム 656  
演奏技法 1548  
休符 1643, 1645  
強弱記号 1233, 1260-1263  
コード記号 1161  
十字線 656  
テキスト 631  
フィンガリング 1287  
ライン 1548  
スイッチ 1024, 1032  
作成 1034, 1035  
プロパティ 826  
水平位置 652, 923  
poco a poco 1244  
アーティキュレーション 1068  
アルペジオ記号 1456  
インストゥルメントの変更 152  
インストゥルメント名 207  
演奏技法 1537  
音符 566, 643, 1401, 1860-1863  
音部記号 1192, 1193, 1209  
歌詞 1368, 1370  
キュー 1209  
休符 1640, 1646, 1651, 1652  
強弱記号 1230, 1231, 1244, 1245  
組段 651, 764  
弦の指示記号 1317  
コード記号 1157, 1160  
コードダイアグラム 1189  
コンデンシング 817  
修飾語句 1244  
小節線 1079  
小節番号 1101  
数字付き低音 1269, 1280  
スタッカート 1068  
装飾音 1436  
タイ 1777  
タセットバー 1651, 1652  
長休符 1651, 1652  
ディヴィジ作成のラベル 1733  
テキスト 932, 1696, 1769  
テンポ記号 1747  
トリル 1436  
拍子記号 1809  
フィンガリング 1287  
付点 1402  
譜表 764, 1708  
譜表ラベル 207  
フレーム 604  
プレーヤーグループのラベル 1696  
プレーヤーラベル 817  
フレット番号 1189  
ライン 502, 506, 1555-1557, 1562, 1573  
リハーサルマーク 1576  
臨時記号 1055-1057  
連符 1836  
連符の大括弧 1833  
水平なコードダイアグラム 1190  
水平方向のスペーシング (「音符のスペーシング」を参照してください)

## 水平方向の配置

アイテム 656  
インストゥルメント名 207  
歌詞 1368, 1370  
強弱記号 1233, 1260, 1261  
組段 764  
コード記号 1167  
十字線 656  
装飾音 1436  
テキスト 631, 932, 1769  
フィンガリング 1287  
譜表 764  
譜表ラベル 207  
スウィング再生 692, 693  
3連符 693  
カスタムリズムミックフィール 696  
単位 697  
テンポ 697  
比率 693  
編集 697  
ポップオーバー 323  
無効化 696  
有効化 323, 694  
リズムミックフィール 696, 697  
リセット 697  
数字付き低音 1268, 1273, 1274  
位置 1277, 1278  
移調 519, 521  
移動 502, 652, 1273, 1275, 1278, 1279  
インストゥルメント 427  
オクターブ 1283  
カーニング 1280  
外観 1269, 1281, 1284, 1285  
解決音 427, 429, 1274, 1279  
ガイド 427, 490, 1268, 1270, 1281  
角括弧 429, 1269, 1272, 1273, 1276  
括弧 429, 1269, 1272, 1273, 1276  
間隔 1269  
簡略化 1283  
休符 427, 1268, 1271, 1281  
グローバル 427  
固定 433, 1284  
サイズ 1282  
削除 496  
サスペンション 429, 1269, 1273, 1274  
十字線 656  
浄書オプション 1269  
衝突回避 1269, 1280  
親切臨時記号 1283  
垂直位置 1270  
ストローク 1269  
スラッシュ 429, 1269  
装飾音符 1275, 1279  
デフォルト設定 1269  
デュレーション 470, 1273, 1275, 1279  
長さ 470, 652, 1273, 1275, 1278, 1279  
入力 427, 429, 432, 433  
入力オプション 433, 1269, 1284, 1285  
入力中のナビゲーション 432  
配置 1269  
反転 1278  
ハンドル 470, 1273, 1278, 1279  
ピッチ 518

## 数字付き低音 (続き)

非表示 1270  
 表示 427, 1270  
 フォント 1281, 1282  
 譜表 427  
 譜表に対する位置 1278  
 プレーヤー 427, 1270  
 ホールドの線 1269, 1273, 1274  
 ポップオーバー 429  
 リセット 1285  
 臨時記号 431, 1269  
 列 1269, 1277  
 ローカル 427, 1268

## 数字付き低音の複音程 427, 429, 1283

## 数値フィールド 829

## スーパーロクリアンスケール 535, 542

## ズーム 42

MIDI トリガー領域 718  
 オプション 42, 45, 483  
 歌詞 1378  
 キーエディター 831, 837, 838  
 キーボードショートカット 484  
 キュー 1226-1228  
 コード記号 1163  
 小節リピート記号 1612  
 スラッシュ領域 1629, 1633  
 打楽器エディター 837-839  
 通し番号付き小節領域 1612  
 トラック 676, 677, 837, 838  
 ピアノロールエディター 837-839  
 変更 483, 484

## 透かし 740

印刷 724  
 書き出し 728  
 フォントスタイル 930

## スクイーズ (「ジャズの装飾音」を参照してください)

## スクープ

削除 1493  
 ジャズ (「ジャズアーティキュレーション」を参照してください)  
 入力 382, 383, 391, 392  
 ビブラートバー 1485, 1489, 1491  
 ポップオーバー 372, 373

## スクラブ再生 35, 682, 698

## スクロール 483

キーエディター 831, 839  
 再生 679, 682  
 打楽器エディター 839  
 ピアノロールエディター 839  
 ミキサー 890

## スクロールビュー (「ギャラリービュー」を参照してください)

## スケール 1357

EDO 1357, 1358  
 値 (「スケールアップ」を参照してください) (「ヒストグラムツール」も参照)  
 移調 520, 535, 542  
 オクターブの分割 1357, 1358  
 調号 1346, 1348  
 度 517, 1155, 1393, 1396  
 マイナー 535, 542, 1348  
 マッピング 535, 542  
 メジャー 535, 542, 1348

## スケール (続き)

モーダル 535, 542  
 練習曲 (「フロー」を参照してください)

## スケールアップ 876, 877, 879

## スケールディグリー

Nashville 番号 349  
 コード記号 348, 1155, 1156  
 コードダイアグラム 1177  
 トリル 1441, 1443, 1444  
 符頭 1393, 1396  
 ポップオーバー 538  
 マッピング 535

## スケールのマッピング 535, 542

## 「スケールをマッピング」ダイアログ 535

## スコア (「レイアウト」を参照してください)

## スコルダトゥーラ 169, 171

## スタイル

外観 476  
 歌詞の延長線 1380  
 歌詞のハイフン 1380  
 括弧 1172, 1273, 1276, 1408  
 グリッサンドライン 1461, 1462  
 ジャズアーティキュレーション 1499  
 スラー 1663, 1664  
 タイ 1778, 1779  
 中間休止記号 1338  
 テキスト 929, 932, 935  
 テンポ記号 1746, 1757  
 ナンバリング 1693  
 ニエンテのヘアピン 1259  
 拍子記号 1804, 1806, 1808  
 フェルマータ 1336  
 フォント 929, 930  
 プレス記号 1337  
 ページ番号 1501  
 余白 742  
 リセット 476

## スタジオ

パンニング (「ステージテンプレート」を参照してください)  
 リバース (「スペーステンプレート」を参照してください)

## スタッカート (「アーティキュレーション」を参照してください) (「再生効果」も参照)

## スタッカティッシモ (「アーティキュレーション」を参照してください)

## スタックの順番 656

演奏技法 1541  
 オクターブ線 656  
 ガイド 490

## 弦の指示記号 1314, 1541

## コード記号 179, 180, 182, 1155, 1156, 1167

## スラー 656

## フェルマータ 1541

## 譜表ラベルの番号 1701

## 変更 1205

## ボウイング記号 1541

## ライン 1556

## リピートマーカー 1600

## 臨時記号 1055, 1056

## 連符 656

## スティッキング 1847



- ステージテンプレート 896, 897, 905  
   エクスプレッションマップ 1022  
   書き出し 904  
   作成 899, 900, 903  
   出荷時のデフォルト 897  
   ダイアログ 897, 899, 900  
   パーカッションマップ 1039  
   変更 902  
   読み込み 904  
   リセット 902  
 「ステージテンプレートを適用」ダイアログ 897  
 「ステージテンプレートを編集」ダイアログ 900  
 ステータスバー 42  
   選択ツール 43  
   幅 43  
   ビュータイプ 44  
 ステップ入力（「音符入力」を参照してください）  
 ステップによる移動  
   スクラブ再生 682  
 ステムレット 1131, 1132  
   間隔 1131  
   削除 1133  
   長さ 1131  
   表示 1132  
 ステレオパン 884, 886  
   変更 892  
 ストレート再生（「スウィング再生」を参照してください）  
 ストレッチ  
   インストゥルメント名 207  
   音符のスペーシング 643  
   歌詞 1374, 1376, 1379  
   組段 566, 749, 764, 776  
   コードダイアグラム 517  
   テキスト 625, 932, 935  
   譜表ラベル 207  
   ページ 749, 776  
 ストローク  
   数字付き低音 429, 1269  
   スラー 1663, 1664  
   装飾音符 275, 277, 1327, 1331  
   タイ 1778, 1779  
   トレモロ 1816, 1818-1820, 1822  
 スナップピチカート（「演奏技法」を参照してください）  
 スネアドラム（「無音程打楽器」を参照してください）  
 スネアロール（「トレモロ」を参照してください）  
 スピッカート（「演奏技法」を参照してください）  
 スプレッド  
   ヒストグラムコントロール 876, 877, 879  
   ページ配置 54  
 スペーシング 643, 748, 776, 923  
   アーティキュレーション 1065  
   アルペジオ記号 1456  
   音符（「音符のスペーシング」を参照してください）  
   音部記号 1191, 1193  
   歌詞 644, 646, 1368, 1370, 1372, 1374, 1376, 1379, 1381  
   括弧付きの符頭 1407  
   カポ 174, 1155, 1156  
   間隔 643  
   ギターバンド 1476  
   ギャレービュー 44  
   キュー 643, 1209  
   休符（「音符のスペーシング」を参照してください）  
   スペーシング（続き）  
   組段（「組段のスペーシング」を参照してください）  
   （「譜表のスペーシング」.も参照）  
   コード記号 1155, 1156, 1160, 1161, 1167-1169, 1173  
   コードダイアグラム 1176, 1180  
   コンデンシング 765, 799  
   小節 643, 645, 648, 1076, 1556, 1646  
   小節線 1079  
   声部列 1401, 1862, 1863  
   装飾音符 643  
   タイ 1777  
   打楽器 157, 166, 1849  
   タチエツト 798  
   タブ譜 1738  
   段階的強弱記号 1254  
   中間休止記号 370  
   調号 1347  
   テキスト 627, 932, 935, 1768  
   ハイフン 1368, 1379, 1381  
   表記法 1370  
   拍子記号 1809  
   付点 1401, 1862  
   符尾 1125  
   譜表（「譜表のスペーシング」を参照してください）  
   譜表線 157, 166, 1849  
   譜表をまたぐ連桁 1125  
   フレーム密度 567  
   フレット 169  
   フロー見出し 769  
   ミキサ 890  
   リハーサルマーク 1576  
   リピート小節線 1079  
   臨時記号 1055-1057, 1347  
   レイアウトオプション 917  
 スペーステンプレート 896, 905  
   エクスプレッションマップ 1022  
   書き出し 912  
   再生テンプレート 704, 710  
   作成 907, 910  
   出荷時のデフォルト 905  
   ダイアログ 905, 907, 908  
   パーカッションマップ 1039  
   変更 910, 912  
   読み込み 911  
   リセット 910  
 「スペーステンプレートを適用」ダイアログ 905  
 「スペーステンプレートを編集」ダイアログ 908  
 スマートクォート 618, 621  
   譜表ラベル 1685  
 スミア（「ジャズの装飾音」を参照してください）  
 スムーズ  
   MIDI 869  
   強弱記号 862  
   グリッサンドライン 1461, 1466, 1467  
   ジャズアーティキュレーション 1495  
   スラーの形状 1675  
   タイの形状 1787, 1788  
 スラー 1536, 1655, 1777  
   MIDI インポート 101  
   MIDI 録音 295  
   アーティキュレーション 1067, 1069, 1659

## スラー (続き)

アルペジオ記号 (「曲線のアルペジオ記号」を参照してください)  
 位置 656, 1656-1658, 1660, 1667, 1668  
 移動 502, 506, 1677  
 入れ子 1659  
 入れ子状のスラー 1670  
 エリジョン 1386  
 エンドポイント 1658, 1660, 1675, 1677  
 大きなピッチ差 1662  
 カーブ 1656, 1657, 1666-1668, 1681  
 回転 1677  
 角度 1660, 1677  
 重ね合わせ 1660, 1661  
 歌詞 1386, 1664  
 肩のオフセット 1681  
 カラー 60  
 間隔 1656, 1660, 1670  
 間隔の大きさ 1665  
 ギターテクニック 395  
 キュー 1215  
 組段区切り 1660  
 形式設定 1664-1666, 1677, 1678  
 形状 1660, 1662, 1673-1675, 1677, 1681  
 コピー 497, 501, 1065  
 再生 299, 685, 686, 925, 1683  
 削除 496  
 十字線 656  
 浄書オプション 1656  
 浄書モード 1675  
 小節番号 1102  
 衝突回避 1660, 1661, 1670  
 スタイル 1663, 1664  
 スラー内 1670  
 制御ポイント 1675  
 声部をまたぐ 299, 1669  
 セグメント (「スラーのセグメント」を参照してください)  
 選択 461, 480  
 装飾音 1436  
 装飾音符 299, 1327, 1656, 1657  
 タイ 1656, 1659  
 タイとスラー 1777  
 高さ 1679, 1680  
 タッキングインデックス 656  
 短線 1662  
 デフォルト設定 1656  
 デュレーション 1683  
 点線 1663-1665  
 長さ 470, 1656  
 日本語のエリジョン 1386  
 入力 229, 299, 395, 1670  
 破線 1663-1665  
 パネル 223  
 範囲 1662  
 反転 1657, 1667, 1668  
 ハンドル 1662, 1673, 1675  
 ハンマーオン 395, 1488, 1489  
 非表示 1215  
 表示 1215  
 フィルター 467  
 フィンガリング 1287, 1292  
 複数セグメント 1675

## スラー (続き)

符頭の括弧 1414  
 太さ 1656, 1678  
 符尾の符鉤 1656  
 符尾の方向 1659, 1667  
 譜表線 1658  
 譜表をまたぐ 299, 1661, 1669  
 プルオフ 395, 1488, 1489  
 フレーム区切り 1660  
 平坦なスラー 1666  
 編者注 1663, 1664  
 ミュート 688  
 リンク 501, 1672, 1673  
 リンクの解除 501, 1673  
 臨時記号 1661  
 スラーのセグメント 1673, 1675  
 数 1674  
 スライド  
 キーエディター 831  
 ギター 1461  
 ジャズ (「ジャズアーティキュレーション」を参照してください)  
 ズーム 831  
 テンポ 35  
 ピッチ (「グリッサンドライン」を参照してください)  
 (「ピッチベンド」.も参照)  
 フィンガリング (「フィンガリングスライド」を参照してください)  
 スライド先  
 インストゥルメント 1208  
 音符 1305  
 ファイルの書き出し 730  
 スライド元の音符 1305  
 スラッシュ 1625  
 アルペジオ記号 1453  
 音符 (「スラッシュ付き声部」を参照してください)  
 (「トレモロストローク」.も参照)  
 休止 (「中間休止記号」を参照してください)  
 休符 1642  
 強弱記号 337, 1236  
 組段 (「組段の分割記号」を参照してください)  
 コード記号 1155, 1156, 1166  
 三重 1816  
 小節休符 1642  
 数字付き低音 429, 1269  
 声部 (「スラッシュ付き声部」を参照してください)  
 装飾音符 1327, 1331-1334  
 打楽器 1840  
 中間休止記号 (「中間休止記号」を参照してください)  
 トレモロ (「トレモロストローク」を参照してください)  
 二重 1716, 1816  
 拍子記号 1804, 1807  
 フィンガリング 1287  
 符頭 1389, 1392, 1625, 1627, 1840  
 符尾 (「トレモロストローク」を参照してください)  
 符尾なし 1627  
 領域 (「スラッシュ領域」を参照してください)  
 スラッシュ記号 1625  
 スラッシュ付き声部 1627, 1816  
 移動 1638  
 キャレット 242, 259  
 休符 1642

## スラッシュ付き声部 (続き)

再生 1627, 1629  
 浄書オプション 1625  
 小節休符 1642  
 垂直位置 1638  
 打楽器キット 157, 263, 1628  
 デザイン 1626  
 デフォルト設定 1625  
 入力 259  
 複声部の状況 1637  
 付点 1625  
 符尾なし 242, 259  
 符尾の非表示 1422  
 符尾の方向 1420  
 譜表上の位置 1638  
 変更 507, 1627  
 ポップオーバー 441

## スラッシュ符頭 1625, 1627, 1629

アルペジオ記号 1453  
 位置 1636  
 移動 502, 506, 1638  
 音符のグループ化 1136, 1630  
 音符を貼り付ける 499  
 外観 967, 1625, 1626, 1637  
 カウント 1633-1635  
 カウントの移動 652  
 数の変更 1634  
 括弧 1635  
 キャレット 242, 259  
 キュー 1223  
 休符 1632, 1642  
 休符の非表示 1632  
 強調表示 1629, 1633  
 再生 1629  
 削除 496  
 浄書オプション 1223, 1625, 1626  
 小節休符 1642  
 垂直位置 1638  
 声部 259, 507, 1627, 1638  
 タイプ 1627  
 打楽器キット 157, 164, 263, 1628  
 デザイン 967, 1223, 1626  
 デフォルト設定 1223, 1625, 1626  
 入力 259, 442, 450  
 パネル 442  
 ピッチ 259, 1629  
 表示オプション 1633  
 頻度 1635  
 フィルター 467  
 フォントスタイル 1616, 1633  
 付点 1625, 1630  
 符尾 1631  
 符尾なし 242, 259  
 符尾の方向 1420, 1638  
 譜表上の位置 164, 1638  
 譜表に対する位置 1636  
 譜表の上 1223  
 分割 1631  
 ポップオーバー 441, 450  
 領域 1625, 1629, 1633  
 連桁 1631

## スラッシュ領域 1629

位置 1636  
 移動 502, 506, 1638  
 音符のグループ化 1136, 1630  
 カウント 1633, 1635  
 カウントの移動 652  
 重ね合わせ 1637  
 括弧 1635  
 休符 1632  
 休符の非表示 1632  
 強調表示 1629, 1633  
 コード記号 1157, 1162, 1629  
 削除 496  
 浄書オプション 1625  
 垂直位置 1638  
 声部 1627, 1638  
 デザイン 1626  
 デフォルト設定 1625, 1630  
 長さ 470  
 入力 450  
 拍のグループ化 1630  
 ハンドル 470  
 表示オプション 1633  
 フィルター 467  
 フォントスタイル 1616  
 複合拍子の拍子記号 1630  
 複数 1637  
 付点 1625  
 符尾 1631  
 符尾の方向 1638  
 譜表上の位置 1638  
 譜表に対する位置 1636  
 他の音符の非表示 1632  
 他の音符の表示 1632  
 ポップオーバー 441, 450  
 連桁 1631

スラップタンギング (「演奏技法」を参照してください)  
 スルタスト (「演奏技法」を参照してください)  
 スルポンティチェッロ (「演奏技法」を参照してください)  
 スロット 661, 888

## せ

成果 (「結果」を参照してください)  
 声楽の譜表 84, 124, 126, 143, 146  
 インストゥルメントファミリー 960  
 音節ごとに連桁を付ける 1115  
 角括弧 1143, 1695  
 頭文字大文字 1694  
 グリッサンドライン 1466, 1467  
 グループ 183  
 小節線 1079, 1088, 1090  
 全大文字 1694  
 としてインストゥルメントを定義 950, 954  
 パンニング (「ステージテンプレート」を参照してください)  
 譜表のグループ化 1143, 1695  
 譜表ラベル 1685, 1694  
 分割の矢印 1729  
 リバーブ (「スペーステンプレート」を参照してください)

## 制御ポイント

スラー 1675  
タイ 1787, 1788, 1792  
ハンドル 1662, 1681, 1792

## 制限 876, 877, 879

定義 634  
ヒストグラムコントロール 876, 877, 879  
フレーム 633  
フロー見出し 596

## 整数

メトロノームマーク 1755

## 生成

コード記号 355, 356  
コード記号から音符を 511, 512, 517  
ハーブのペダリング 413

## 生成されたトリル 1449, 1450

再生 1450

## 生成用文字列 731

## 声部 257, 1058, 1858

MIDI CC エディター 866  
MIDI インポート 98, 101  
MIDI 録音 290, 291, 293, 295  
VST インストゥルメント 669  
アーティキュレーション 1066  
位置 1861  
演奏技法 404, 406, 855  
エンドポイント 713  
オクターブ線 363, 365  
音符の移動 506  
音符のスペーシング 650  
音符の生成 514, 517  
音符を貼り付ける 499, 851  
重ね合わせ 1401, 1860, 1862  
加線 1400  
カラー 58, 670, 843, 844, 1858, 1859  
キーエディター 685, 835, 845  
記譜オプション 1859  
キャレット 242, 257  
キュー 1208, 1216, 1217  
休符 1640, 1642, 1643, 1645  
強弱記号 341, 343, 859, 1241, 1266, 1267  
切り替え 257  
グリッサンドライン 380, 381  
コード 278, 514, 517  
コード記号の再生 346, 675, 676  
コピー 499, 851  
コンデンスされた譜表 801, 804, 806, 811, 813, 1701  
再生 685, 686, 713  
削除 1864  
識別 42, 1859  
順番 919, 1401, 1862, 1863  
順番の入れ替え 1862  
小節休符 273, 1643, 1648  
新規作成 257, 259, 507  
親切臨時記号 1062  
スクラブ再生 682  
ステータスバー 42  
スペーシング (「音符のスペーシング」を参照してください)  
スラー 1658, 1667, 1669  
スラッシュ 259, 507, 1627, 1637  
スラッシュ符頭 259, 1638

## 声部 (続き)

スラッシュ領域 1632  
選択 460-462, 467, 507, 835, 840, 845  
装飾音符 1327  
挿入モード 262, 491  
ソロ 687  
タイ 274, 1781, 1784  
打楽器キット 156, 157, 162, 1846, 1855, 1856  
追加 257, 259, 507  
ディヴィジ (「ディヴィジ」を参照してください) (「コンデンス」も参照)  
トラック 661, 670, 685  
ドラムセット 156, 162, 1846, 1855, 1856  
トレモロ 1823  
内容の入れ替え 508  
入力 257, 259, 278, 507, 845  
パート (「レイアウト」を参照してください)  
配置 1860-1863  
パンニング 892, 1241  
ピアノロールエディター 835, 843, 845  
ヒストグラムツール 875, 877  
ピッチまたぎ 801, 811  
非表示 1632  
表示 1632  
フィルター 467, 833, 877  
フェルマータ 1338, 1340  
付点 1401, 1862  
符尾 1862, 1863  
符尾の方向 1416, 1420, 1855, 1856, 1858, 1864  
フロー 713  
分割の矢印 1729  
平行進行 514, 517  
ベロシティ 856-858, 875, 877, 1266, 1267  
変更 499, 507, 508, 1627  
方向 1638  
ボリューム 891  
マージ 509  
ミキサー 883, 884, 891  
ミュート 687  
臨時記号のスタックの順番 1055, 1056  
列の並び順 1862  
連桁 1417

声部の色  
印刷 740  
書き出し 740  
非表示 477, 1859  
表示 1859  
変更 58

声部の個別再生 661, 685  
演奏技法 404, 406  
エンドポイントの変更 713  
音符の入力 845  
ピアノロールエディター 843  
無効化 686  
有効化 685

声部列の並び順 1401, 1860-1863  
音符のスペーシング 650  
加線 1400  
順番 1862, 1863  
デフォルト設定 919  
付点 1401, 1862  
リセット 1863

## 声部をまたぐ

アルペジオ記号 378, 379  
スラー 299, 470, 502, 506, 1669  
タイ 274, 1784  
ライン 417, 419

## セーニョ 1598

サイズ 1599  
セクション 1598  
入力 446, 447  
非表示 1600, 1604  
表示 1600, 1604  
フォント 1599  
複数 1599, 1601

## セカンダリーインストゥルメント 835, 864, 868, 870

## セクション

fine 1598  
コーダ 1598  
反復 1598  
非表示 45, 1604  
表示 45, 1604

## セクションプレーヤー 135

MIDI インポート 95  
アンサンブル 126, 141, 142  
オシニア譜表 1710, 1711  
空白の譜表 750  
コンデンシング 765, 808  
追加 136, 141, 142  
ディヴィジ 1722, 1723, 1725  
ディヴィジ作成の編集 1726  
譜表 751, 752  
譜表ラベル 1684  
ユニゾン範囲 1727, 1728

## セグメント

messa di voce 1230  
移動 652  
演奏技法の延長線 1547  
ギターバンド 1480, 1483  
キャップ 1564  
グリッサンドライン 1465  
最終 1595  
スラー 1673, 1674  
長さ 1593, 1595  
フック 1595, 1596  
ヘアピン 1230, 1248  
ライン 1573  
リピート回数 1592  
リピート括弧 443, 445, 1592-1595  
連符 1829

## 絶対値によるチャンネル変更の動作 1033

## 設定 30, 913

MIDI インポート 95  
MIDI 録音 295  
ウィンドウ 46  
エンドポイント 711, 715-717  
オーディオ 63  
オーディオデバイス 63, 295, 296  
音符入力 238, 251, 921  
書き出し 913, 916  
環境設定 63  
キーエディター 840, 881, 882  
キーボードショートカット 68  
記譜記号の入力 237, 345  
共有 913

## 設定 (続き)

個々のアイテム (「プロパティ」を参照してください)  
再生 63, 701  
打楽器キット 157  
打楽器キットの音符の入力 266  
調号 1347  
調性システム 1003, 1358  
デフォルト 63, 917, 919, 921, 923, 925  
ドラムセット 157  
ハーブペダル 1506  
ビデオ 212  
フロー固有 919  
プロジェクト全体 923  
プロパティ 826-828  
プロパティのコピー 825  
マウス入力 235  
読み込み 913, 915  
リセット 913  
両面印刷 724  
臨時記号 1056, 1060, 1347  
レイアウト固有 917  
ワークスペース 46

## 設定モード 22, 120

アンサンブル 141  
インストゥルメント (「インストゥルメント」を参照してください)  
ガイド 490  
切り替え 46, 120  
打楽器 157  
パネル 40, 120, 121, 129, 132  
プレーヤー (「プレーヤー」を参照してください)  
プレーヤーグループ 183  
プレーヤーの追加 141  
フロー (「フロー」を参照してください)  
レイアウト (「レイアウト」を参照してください)

## セット

ドラムセット (「ドラムセット」を参照してください)  
ページテンプレート (「ページテンプレートのセット」を参照してください)

## セレクター

楽譜フレーム 612, 616  
パネル 224, 228, 556  
レイアウト 33, 34

## ゼロ

弦の指示記号 415, 1313, 1314  
コードダイアグラム 938, 1175, 1187  
小節番号 1800  
フィンガリング 1295, 1296, 1314

## 全音符 223, 248, 285, 286

音符の分割 288  
休符 271, 1640, 1651  
グリッサンドライン 1467  
コード 278  
声部 257  
挿入モード 262  
打楽器 263, 846  
タブ譜 268  
トレモロ 447, 449, 1816  
拍 330  
メトロノームマーク 322  
連符 281, 284

## 全画面表示 53

線間の高さ 747, 772-774

## 前進

歌詞のポップオーバー 427  
 キャレット 247  
 コード記号のポップオーバー 353  
 数字付き低音のポップオーバー 432  
 スラー 470  
 ヘアピン 470

## 選択 43, 460, 461, 463, 469, 479

アイテム 234, 460, 461, 463, 480, 554, 840  
 青 1262, 1672  
 音符 43, 239, 240, 460–462, 467, 480, 840  
 音符のスペーシングのハンドル 650  
 歌詞 461, 467, 1367  
 キーエディター 840  
 記譜記号 43, 462, 480  
 記譜モード 219, 460–463, 466, 480  
 強弱記号 461, 467  
 組段オブジェクト 464, 466  
 組段に付くテキスト 464, 466  
 組段のスペーシングのハンドル 779  
 グラフィックスライスハンドル 638  
 コード 240  
 コード記号 464, 466  
 再実行 478, 479  
 再生 680, 698  
 システムトラック 464  
 浄書モード 460–462, 480  
 小節 460, 461, 464, 466  
 ステータスバー 42  
 すべて 462–464, 466  
 声部 461, 467, 507, 835, 840  
 選択の延長 461, 463  
 選択の変更 (「ナビゲーション」を参照してください)  
 選択範囲の移調 519  
 調号 464, 466  
 ツール 42, 43, 219, 833  
 テンポ記号 464, 466  
 トラック 97  
 拍 466  
 パネル 224, 228, 556  
 範囲選択 43, 462, 840, 880  
 ハンドル 655  
 拍子記号 464, 466  
 フィルター 467, 469  
 譜表 463  
 譜表のスペーシングのハンドル 779  
 フレームハンドル 606  
 フロー 463  
 ベロシティーバー 880  
 ポイント 840  
 ほかのアイテムの後ろのアイテム 460  
 元に戻す 478, 479  
 より広く 461, 463  
 リハーサルマーク 464, 466  
 リピート括弧 464, 466  
 選択解除 (「選択」を参照してください)  
 「選択からコード記号を生成」ダイアログ 356  
 範囲選択ツール 43  
 キーエディター 840  
 使用 462, 840, 880

## センチメートル

基準単位 55  
 譜表のスペーシング 779

## センド

ミキサー 883, 884

## 先頭

インストゥルメントの変更ラベル 61, 153, 154  
 強弱記号 1241, 1242  
 コードダイアグラム 1176  
 小節番号 1110  
 非表示 154  
 フィンガリング 1309  
 フレット番号 1176  
 リハーサルマーク 1578

## そ

増減 (「messa di voce」を参照してください)

装飾 (「装飾音」を参照してください)

装飾音 1434

アチャカトゥーラ (「装飾音符」を参照してください)

アポジャトゥーラ (「装飾音符」を参照してください)

位置 1434, 1436

移動 502, 506, 528, 531, 652, 1436

音程 1435

回転 531

カラー 60

記号 1014

キュー 1215

形式設定 1014

サイズ 1014

削除 496

ジャズ 1496 (「ジャズアーティキュレーション」も参照)

十字線 656

浄書オプション 1434

スラー 1436

選択 461

タイプ 371

テキストの枠線 932, 1771

デフォルト設定 1434

トリル (「トリル」を参照してください)

長さ 470

入力 370, 371, 376, 377

配置 1436

パネル 375, 377

反転 528 (「逆行」も参照)

非表示 1215

表示 1215

フィルター 467

譜表に対する位置 474

ページ 584

変更 472

ポップオーバー 371, 376

マーカーの枠線 1584

臨時記号 1435, 1448

装飾音パネル 377, 379, 381

装飾音符 263, 275, 277, 1327

messa di voce 1256

アルペジオ記号 1457

アンスケール 1329

位置 1327, 1330

移調 519

移動 502, 506, 528, 531, 1329, 1330

演奏技法 1537

音域 518

## 装飾音符 (続き)

音部記号 1192  
 外観 1333  
 回転 531  
 ギターバンド 384, 385  
 キャレット 242, 275  
 クオンタイズ 103  
 グリッサンドライン 380, 381  
 弦の指示記号 1315  
 コード 275, 277  
 サイズ 473, 1331  
 再生 684, 1334  
 削除 496, 1329  
 小節線 1330  
 数字付き低音 1275, 1279  
 スクラブ再生 682  
 スケールのマッピング 535  
 スペーシング 643, 646, 1327  
 スラー 299, 1327, 1656, 1657  
 スラッシュ 1327, 1331-1333  
 声部 1327  
 タイ 274, 1784  
 タイプ 1331  
 打楽器 277, 1846  
 デフォルト設定 1327  
 デュレーション 275, 1334  
 トリル 1449  
 入力 103, 219, 275, 1329  
 速さ 1334  
 反転 528, 1327  
 ピッチ 518  
 ピッチのマッピング 533  
 フィンガリング 1287, 1292  
 符尾 1327, 1331, 1333, 1846  
 ヘアピン 1256  
 ペダル線 1517, 1523  
 変換 527, 1329  
 ライン 1557  
 リテイク 1517  
 連桁 1334  
 和音 278  
 相対値によるチャンネル変更の動作 1033  
 相対テンポ変更 1746, 1754  
 挿入 (「入力」を参照してください) (「挿入モード」.も参照)  
 挿入ポイント 242  
 挿入モード 219, 234, 491  
 音符の入力 262  
 キャレット 242, 262  
 停止位置 491, 494, 495  
 範囲 492, 493, 921  
 拍子記号 315-317, 319, 492, 921, 1795  
 無効化 262  
 有効化 219, 262  
 連符 496  
 ソート  
 インストゥルメント 137-139, 960, 962, 964, 965  
 コメント 550  
 プレーヤー 121, 137-139, 960, 962-965  
 フロー 189  
 レイアウト 196, 197

ゾーン 32, 40  
 印刷モード 719-721  
 記譜モード 218, 223, 228, 229, 231, 233, 826, 831, 883  
 再生モード 658, 831, 883  
 下 826  
 浄書モード 553, 556, 562, 826  
 設定モード 120, 121, 129, 132  
 非表示 48  
 表示 48  
 ソステヌートペダル 1516  
 MIDI コントローラー 1535  
 開始記号 1527  
 テキスト 1532, 1533  
 ソナタ (「フロー」を参照してください)  
 ソプラノ記号 (「音部記号」を参照してください)  
 ソリスト 139  
 組段オブジェクト 1718  
 パンニング 900  
 ソルディーノ (「演奏技法」を参照してください)  
 ソルフェージュコード記号 349, 1155, 1156  
 ソロ 883, 884, 1722  
 インストゥルメント 682, 687  
 組段オブジェクト 1718  
 再生 682, 685, 686  
 指示 420, 982  
 スクラブ再生 682  
 声部 687  
 チャンネル 687, 886  
 トラック 687  
 譜表ラベル 139  
 プレーヤー (「ソリスト」を参照してください) (「シングルプレーヤー」.も参照)  
 無効化 687, 883-885  
 存在しないサウンド  
 ロード 707  
 「存在しないフォント」ダイアログ 80

## た

ターン 1434  
 音程 1435  
 ジャズ (「ジャズの装飾音」を参照してください)  
 ページ (「フレーム区切り」を参照してください)  
 タイ 25, 1136, 1776-1778, 1783  
 messa di voce 1256  
 アーティキュレーション 1067, 1071, 1776  
 アクセント 1067  
 位置 1656, 1777, 1781, 1788, 1790  
 演奏技法 404, 406  
 エンドポイント 1787  
 音符のグループ化 288, 1137, 1138  
 音部変更記号 1784  
 カーブ方向 1777, 1781, 1782  
 外観 1778, 1779  
 回転 1788  
 歌詞 274, 288, 424, 1368, 1379-1381, 1779  
 肩のオフセット 1792  
 括弧 1409, 1741  
 括弧付きの符頭 1409, 1741  
 間隔の大きさ 1780  
 ギターバンド 1477  
 キュー 1218

## タイ (続き)

強弱記号 341, 343, 502, 1230, 1256  
 強制 288, 1137  
 区切り 1786  
 組段区切り 1783  
 形式設定 1779, 1780, 1788, 1789  
 形状 1788  
 コード 1741, 1781  
 削除 507, 1136, 1741, 1786, 1855, 1856  
 実線 1778, 1779  
 浄書オプション 1777  
 浄書モード 1787  
 小節のナンバリング (「通し番号付き小節領域」を参照してください)  
 小節番号 1102  
 衝突回避 1776, 1777, 1790  
 親切臨時記号 1052, 1428  
 スタイル 1778, 1779  
 スタッカート 1067  
 スラー 1656, 1659  
 スラーとタイ 1777  
 制御ポイント 1787  
 声部 274, 1781, 1863  
 声部をまたぐ 274, 1784  
 装飾音符 274, 1784  
 タイのつながり (「タイのつながり」を参照してください)  
 高さ 1790, 1791  
 タブ譜 1741, 1776  
 チェーン (「タイのつながり」を参照してください)  
 調号 1355  
 テヌート 1067  
 デフォルト設定 1777  
 点線 1778-1780  
 トレモロ 1818, 1819  
 長さ 1777  
 入力 219, 274  
 背景の塗りつぶし 1355, 1423, 1813  
 拍のグループ化 1136-1139  
 破線 1778-1780  
 幅 1788  
 半小節 919, 1136, 1139  
 反転 1782  
 ハンドル 1787, 1788, 1790-1792  
 半分が破線 1778, 1779  
 非表示 1355, 1813  
 非標準タイプ 1783  
 拍子記号 1776, 1784, 1813  
 符頭の括弧 1414  
 太さ 1789  
 符尾 1418, 1423  
 譜表線 1777, 1790  
 譜表をまたぐ 274, 1784  
 フレーム区切り 1783  
 分割 288, 1136, 1137, 1786  
 ヘアピン 341, 343, 502, 1230  
 ペダル線 408  
 編者注 1778, 1779  
 臨時記号 1052, 1355, 1783  
 隣接しない音符 274, 1784  
 レセヴィブレ 1784, 1785

## 第2声部

小節休符 273, 1648  
 追加 257

## 第2連桁 1127

休符 1131  
 分割 1115  
 変更 1128  
 方向 1128  
 ライン 1128  
 リセット 1128

## ダイアグラム

コード (「コードダイアグラム」を参照してください)  
 ハープのペダリング (「ハープのペダリング」を参照してください) (「ハープペダルダイアグラム」も参照)

ダイアド (「コード」を参照してください) (「コード記号」も参照)

## ダイアログ 30

## 対位法 273

MIDI インポート 98  
 MIDI 録音 290, 291  
 再生 1267  
 小節休符 273, 1648  
 声部 257, 1858

## 第3線

符尾の方向 950, 1416, 1418

## 代替

音楽フォントスタイル 930  
 再生効果 1047  
 再生テンプレート 704  
 リバーブ 907, 908

## 代替フォントスタイル 930

## タイトル 81, 210, 573, 595, 1318

書き出し 113  
 楽章 595  
 最初のページ 573, 582, 1318  
 サイズ 596, 932  
 斜体 81, 932  
 追加 75, 1318  
 テンプレート 595  
 トークン 617  
 パラグラフスタイル 573, 595, 932, 1318

非表示 75, 591, 762, 763

表示 75, 591, 762, 763

ファイル名 731

フォント 573, 595, 932, 1318

太字 81, 932

フロー 210, 595, 1318

フロー見出し 595, 596, 599, 763

プロジェクト 210, 731, 1318

ページテンプレート 573

変更 81, 211

欄外見出し 574, 582, 763

臨時記号 619

## タイトルページ 567, 573, 1318

書き出し 571

追加 575, 590, 757, 758

トークン 617

編集 582

読み込み 570, 578

## 第2括弧 1145, 1148

外観 1141

ガイド 1150



## 第2 括弧 (続き)

カスタムのグループ化 1148, 1150  
 形式設定 558  
 削除 1152, 1153  
 小副括弧 1148  
 中括弧 1147  
 デザイン 1141  
 デフォルト設定 1141  
 長さ 1151  
 入力 1150  
 非表示 1146  
 表示 1146  
 副括弧 1147  
 リセット 1152, 1153

## タイのつながり 1776

アーティキュレーション 1067, 1776  
 アクセント 1067  
 括弧付きの符頭 1409, 1741  
 グリッサンドライン 1466, 1467  
 削除 1786  
 小節のナンバリング (「通し番号付き小節領域」を参照してください)  
 スタッカート 1067  
 スラー 1656  
 選択 1776  
 タブ譜 1741, 1776  
 テヌート 1067  
 トレモロ 1818, 1819  
 符尾の方向 1418  
 分割 288, 1137, 1138, 1786

## タイプ

アーティキュレーション 1496  
 アルペジオ記号 373  
 演奏技法 399, 1536  
 演奏技法の線 1544, 1547  
 延長 366, 1335  
 オクターブ線 360, 1201  
 音節 1363, 1364  
 音符 223  
 音部記号 358  
 外観 476  
 囲み線 1096, 1575  
 歌詞 426, 1362  
 キャレット 242  
 休止 366, 1335  
 強弱記号 337, 1229  
 グリッサンドライン 373  
 コード記号 348, 1155, 1156  
 ジャズアーティキュレーション 372, 1495, 1496, 1498  
 小節線 1079  
 小節リピート記号 441  
 スラッシュ符頭 1627  
 装飾音 371, 1496  
 装飾音符 1331  
 タイ 1778, 1779  
 打楽器のレジェンド 1851  
 中間休止記号 367, 1338  
 調号 305  
 テキスト 1764  
 テンプレート 84  
 テンポ記号 321, 324, 1746  
 トラック 669

## タイプ (続き)

トレモロ 440, 1816  
 拍子記号 311, 1796, 1804, 1807  
 フィンガリング 302, 1309  
 フェルマータ 366, 1336, 1343  
 符頭 967, 1389, 1393  
 符頭セット 1388  
 プレーヤー 95, 135, 139  
 ブレス記号 367, 1337  
 ページテンプレート 573  
 ペダル線 401, 1516  
 ライン 1551, 1553  
 リセット 476  
 リハーサルマーク 1577  
 リピート括弧 439  
 リピートマーカー 439  
 連符 282, 1826  
 ダイブ 1469, 1474, 1485  
 移動 652  
 入力 386, 387, 389, 390  
 ハンドル 1481, 1483  
 ビブラートバー (「ビブラートバー」を参照してください) (「ギターバンド」.も参照)  
 プリダイブ (「ギタープリバンド」を参照してください)  
 ポップオーバー 373  
 大譜表を用いる楽器 143  
 MIDI インポート 101  
 MIDI 録音 291  
 角括弧 950, 957, 1143  
 キューのポップオーバー 454  
 強弱記号 341, 343, 1230, 1241, 1266, 1267  
 コード記号 1157, 1162  
 小節線 1088, 1090  
 スウィング再生 694  
 スコアの順番 963, 964  
 スラー 299  
 声部 242, 257, 1266, 1267, 1858  
 タイ 274  
 中央配置の連桁 1121, 1123, 1125, 1126  
 中括弧 950, 957, 1140  
 長休符 1649, 1652  
 トレモロ 447, 449, 1123, 1127  
 符尾 1125, 1420  
 譜表 749, 950, 957, 1088  
 譜表のグループ化 1143  
 譜表のスペーシング 776  
 譜表の非表示 750-752, 776  
 譜表をまたぐ 1123, 1125-1127, 1420  
 分割ポイント 101  
 両端揃え (垂直方向) 776  
 連桁 1123, 1125-1127, 1420  
 タイム  
 位置 26  
 記号 (「拍子記号」を参照してください)  
 言語 62  
 削除 491, 492, 1073-1075  
 挿入 262, 332-334, 491, 492, 684, 1342  
 ディスプレイ 698, 701  
 トークン 622 (「日時」.も参照)  
 トラック (「テンポトラック」を参照してください) (「テンポエディター」.も参照)  
 トランスポートウィンドウ 698, 701

- タイム (続き)  
ビデオ 214  
マーカー 1580  
レイテンシー 290, 295, 296
- タイムコード 1586  
オフセット 1587  
開始位置の値 1587  
書き出し 111  
構成要素 1589  
垂直位置 1587  
ダイアログ 212  
テキスト 1582, 1588  
テンポ 436  
トランスポートウィンドウ 698, 701  
ドロップフレーム 1586  
入力 434  
ノンドロップフレーム 1586  
パネル 436  
非表示 1588, 1589  
表示 1588, 1589  
頻度 1589  
フォントスタイル 1583  
譜表 1581, 1587  
譜表のスペーシング 748, 776  
フロー 132  
変更 212, 1584, 1587  
マーカー 435, 436, 1588
- ダウンロード 75
- 楕円  
音符の囲み線 1742, 1743  
和音の囲み線 1742
- ダカーポ  
アルコーダ 1598  
アルセーニョ 1598  
アルフィーネ 1598  
サイズ 1599  
入力 446, 447  
非表示 1604  
表示 1604  
フォント 1599  
ワードラップ 1603
- 高さ  
エディター 837  
角括弧 1141-1143, 1148, 1150, 1151, 1172, 1695  
囲み線 1096, 1575  
括弧 1172  
キーエディター 833, 837, 838  
キーボード 229  
ギターバンド 1476  
組段 748, 749, 776  
グラフィックスライス 637  
コード記号 1161, 1167, 1172  
コードダイアグラム 1190  
小節 747-749, 776  
スラー 1679, 1680  
タイ 1790-1792  
打楽器エディター 837, 838  
チャンネル 890  
中括弧 1141, 1144  
トラック 676, 838  
ドラムパッド 233  
ハンドル 1675, 1680, 1787  
ピアノロールエディター 837, 838
- 高さ (続き)  
広がり付きのヘアピン 1252  
符頭の括弧 1414  
譜表 747-749, 768, 770, 772, 776  
フレーム 605, 633  
プレス記号 1341  
ヘアピン 1248, 1252  
ページ 744, 745, 749, 1017, 1019  
ペダル線 1518, 1521  
ミキサー 883, 885, 890  
ライン 1561
- 打楽器  
MIDI 42, 831, 844, 866, 1039  
アーティキュレーション 1070, 1840  
インストゥルメントの変更 146, 150  
演奏技法 1045  
音符入力 104, 263, 266, 267, 845, 846  
キット (「打楽器キット」を参照してください)  
組段オブジェクト 1718  
グループ 183, 1695  
装飾音符 277  
追加 124, 126, 136, 146, 160, 950, 954, 956  
ドラムセット (「ドラムセット」を参照してください)  
トレモロ 1045, 1840  
パート名 203, 205  
パートレイアウト 193, 1849  
パンニング (「ステージテンプレート」を参照してください)  
ピクトグラム 976  
拍子記号 1811  
符頭 850, 1840, 1842, 1843  
符尾の方向 1846  
譜表上の位置 1846  
譜表線 157, 166, 956, 1848, 1849  
譜表ラベル 1689, 1695, 1698  
有音程打楽器 (「インストゥルメント」を参照してください)  
リバーブ (「ステージテンプレート」を参照してください)  
ルーディメンツ 248, 277, 285, 1327, 1816, 1823, 1826, 1846  
レジェンド (「打楽器のレジェンド」を参照してください)  
レセヴィブレタイ 1785  
無音程打楽器 (「無音程打楽器」を参照してください)
- 打楽器エディター 844  
演奏技法 844  
演奏されるデュレーションと記譜されたデュレーション 852  
音符の移動 847, 850  
音符のコピー 851  
音符の削除 852  
音符の選択 840  
音符のデュレーション 846, 848, 852, 853  
音符の入力 845  
再生ヘッド 679  
ズーム 838  
スクロール 679, 839  
高さ 837, 838  
ツール 833  
トラック 669  
ナビゲーション 839

- 打楽器キット 156, 956, 1838  
 Groove Agent 717  
 MIDI 42, 831, 844, 866, 1039  
 一線譜を使用するインストゥルメント 1848  
 インストゥルメントの削除 162  
 インストゥルメントの順番 164  
 インストゥルメントの追加 161  
 インストゥルメントのフィルタリング 157  
 インストゥルメントの変更 163, 950, 956  
 演奏技法 850, 1839, 1840, 1843  
 音符入力 266, 267, 845  
 音符の移動 507  
 音符の入力 104, 263, 846  
 書き出し 167  
 間隔の大きさ 166  
 記譜オプション 1846  
 記譜記号 1847  
 キャレット 263  
 休符 919  
 強弱記号 1848  
 グリッド 164-166, 1848  
 グループ 164-166  
 五線譜 1703, 1848  
 個別のインストゥルメントとキット 1838  
 作成 124, 146, 156, 157, 160, 161, 950, 956  
 スティックング 1847  
 スペーシング 166  
 スラッシュ符頭 1625, 1627-1629, 1632  
 声部 157, 919, 1855, 1856  
 設定 157, 266  
 装飾音符 277  
 トラック 659, 670  
 ドラムセット (「ドラムセット」を参照してください)  
 名前を付ける 157, 164, 165  
 パターン 717  
 ヒット 1627, 1629, 1632  
 拍子記号 1811  
 表示タイプ 157, 1838, 1848, 1849  
 符頭 850, 1840, 1842, 1843, 1845  
 符尾の方向 157, 267, 919, 1855, 1856  
 譜表 157, 1838, 1848, 1849  
 譜表上の位置 164, 266, 1840  
 譜表線 157, 166, 1848, 1849  
 譜表に対するレジェンドの位置 474  
 譜表ラベル 157, 164, 165, 1685, 1698, 1848  
 プレーヤーに追加 124, 146  
 編集領域 157, 1848  
 読み込み 167  
 ルーディメンツ 277, 1327  
 ルーティング 713  
 レジェンド 1850  
 「打楽器キットを編集」ダイアログ 157  
 「打楽器の演奏技法」ダイアログ 1840  
 打楽器のスティッキング 1847  
 「打楽器の符頭の上書き」ダイアログ 1842  
 打楽器のレジェンド 1850  
 位置 1850  
 インストゥルメント名 1853  
 演奏中のインストゥルメント 1852  
 ガイド 490, 1850  
 十字線 656  
 タイプ 1850, 1851  
 追加 1851
- 打楽器のレジェンド (続き)  
 テキスト 1853  
 長さ 1852, 1853  
 背景 1854  
 背景の塗りつぶし 1854, 1855  
 範囲 1850, 1852  
 ハンドル 1852  
 譜表に対する位置 474  
 変更 1851  
 余白 1855  
 レイアウト 1850  
 タグ (「ガイド」を参照してください) (「コメント」も参照)  
 多重録音  
 MIDI 録音 293  
 タストソロ 427, 429, 932, 1268, 1269, 1281, 1282  
 タセットバー (「長休符」を参照してください)  
 タッチェット 23, 795  
 移動 798  
 書き出し 88  
 形式設定 795  
 テキスト 798  
 パラグラフスタイル 795  
 非表示 797, 1649  
 表示 797, 1649  
 太さ 932  
 フローからプレーヤーを削除 189  
 余白 798  
 枠線 932  
 多調 308, 309, 1346  
 タッキングインデックス 656  
 演奏技法 1541  
 歌詞 1230  
 強弱記号 1230  
 弦の指示記号 1541  
 コード記号 179, 180, 182  
 小節番号 1102  
 フェルマータ 1541  
 変更 1205, 1541, 1556  
 ボウイング記号 1541  
 ライン 1556  
 タッピング 1299, 1486  
 移動 652, 1492  
 外観 1489  
 間隔 1489  
 削除 1493  
 タブ譜 1491  
 ドット 1489  
 入力 397  
 非表示 1491  
 表示 1491  
 譜表に対する位置 1492  
 + 記号 1489  
 ポップオーバー 373  
 タップ  
 打楽器 (「装飾音符」を参照してください) (「連符」も参照)  
 タップテンポ入力 324  
 縦線 334, 336, 1079, 1081, 1083  
 縦向き 737, 744  
 ステータスバー 43  
 多拍子 315, 316, 1795

## タブ

移動 52  
 オプションを表示 49  
 切り替え 51  
 グループ 52  
 順番 51  
 閉じる 50  
 バー 36  
 非表示 34  
 表示 34  
 開く 49  
 複数表示 52  
 レイアウト 47, 49, 51

## タブ譜 1737

音域外の音符 518, 1403, 1737, 1740  
 音程 1475  
 音部記号 1191  
 音符入力 251, 268  
 音符の弦の変更 1740  
 音符を別の弦に移動 1740  
 外観 1744  
 開放弦のピッチ 171  
 囲み線 1738, 1742, 1743  
 括弧付きの符頭 1406-1408, 1469, 1474, 1741  
 括弧つきフレット番号 1469, 1474  
 カポ 173, 174, 176  
 カラー 58, 60  
 間隔 1738  
 ギターバンド 1469, 1738  
 キャレット 242  
 クエスチョンマーク 518, 1737  
 弦楽器 169, 171, 248, 251, 1740  
 弦のリセット 1740  
 コード 251, 268, 1409, 1738, 1741  
 サイズ 1744  
 スクープ 1489, 1491  
 スペーシング 1738  
 タイ 1409, 1741, 1776  
 ダイブ 1474, 1483  
 チューニング 168, 169, 172-174, 176  
 デッドノート 1490  
 デフォルトの記譜 248, 251  
 トリル 1438  
 ハーモニクス 1426, 1429  
 番号 1737, 1740, 1744  
 ハンマーオン 1489, 1491  
 非表示 1739  
 表示 1739  
 フォントスタイル 1744  
 付点 1738, 1744  
 符尾 1738, 1739  
 プリバンド (「ギタープリバンド」を参照してください)  
 ブルオフ 1489, 1491  
 フレット 169, 174, 176  
 バンド (「ギターバンド」を参照してください)  
 バンドの音程 1475  
 ホールドの線 1469, 1477  
 ポストバンド (「ギターポストバンド」を参照してください)  
 緑の音符 1737, 1740  
 ライン 1738  
 リズム 1738, 1739

## タブ譜 (続き)

連桁 1739  
 和音 1408  
 タブラの記譜 1857  
 タブロイド 736, 1017  
 ダルセーニョ 1598  
 非表示 1604  
 表示 1604

単位

クオンタイズ 103  
 システムトラック 464  
 スウィング 697  
 スウィング再生 693  
 タイム 212, 698  
 テンポ 324, 436  
 長さ 55  
 拍 212, 324, 436, 472, 1752  
 ビデオ 212  
 メトロノームマーク 472, 1752  
 リズムグリッド 241  
 連符 282

単一の声部の状況 1858  
 アーティキュレーション 1066  
 ギタープリバンド 1478  
 装飾音符 1327  
 タイのカーブ方向 1781  
 符尾の方向 1327, 1416

単音の再生効果 1046, 1047  
 入力 404, 1047

単音のトレモロ (「トレモロ」を参照してください)

単音のレガート 1028, 1683

段階的強弱記号 1229, 1246

messa di voce 1255, 1256  
 poco a poco 1244, 1253  
 位置 1255  
 移動 502, 1230, 1233, 1248, 1255, 1256, 1260, 1262  
 延長線 1249  
 音節 1249  
 外観 1249, 1251, 1252, 1254  
 開始位置 1248  
 回転 652, 1248  
 角度 652, 1248  
 切り詰め 1254, 1255  
 組段区切り 1248  
 グループ化 1260, 1261  
 グループ化の解除 1261  
 再生 1264  
 終了位置 1233, 1248  
 小節線 1233, 1234  
 省略 1254  
 スペーシング 1254  
 線のスタイル 1249  
 装飾音符 1256  
 タイ 341, 343, 502  
 中央揃えされたテキスト 1244  
 デュレーション 345, 470, 1246, 1255, 1260, 1262  
 点線 1249, 1254  
 テンポ記号 1748  
 長さ 345, 470, 1246, 1254, 1255, 1260, 1262  
 ニエンテ (「ニエンテ」を参照してください)  
 入力 337, 340, 341, 343  
 背景 1423  
 配置 1233, 1260-1263

## 段階的強弱記号 (続き)

ハイフン 1249  
 破線 1249  
 幅 1248  
 ハンドル 470, 1248  
 ひと続きのヘアピン 1250  
 開きの幅 1248  
 広がり付きのヘアピン 1251, 1252  
 フォントスタイル 1264  
 方向 337, 1250, 1255, 1265  
 ボリューム 1264  
 リンク 1262, 1263  
 リンクの解除 1263  
 連続 1250, 1255, 1260, 1265

## 段階的テンポ変更 1449, 1746, 1757

poco a poco 1757  
 位置 1747  
 移動 652  
 延長線 1757-1759  
 音節 1758  
 書き出し 113  
 描く 871  
 間隔 1760  
 形式設定 1758-1761  
 最終的なテンポ 1755  
 再生モード 672, 871  
 小節線 1747  
 スタイル 1758, 1761  
 中間休止記号 1342  
 テキスト 1748  
 テンポエディター 871  
 トリル 1451  
 長さ 470, 652  
 入力 321, 324, 326, 327, 873  
 ハイフン 1758  
 破線 1760  
 フェルマータ 1342  
 太さ 1761  
 ポップオーバー 321  
 ライン 1757-1759

単語 (「歌詞」を参照してください) (「テキスト」も参照)

単語のスペーシング 421, 625, 932, 935  
 インストゥルメント名 207  
 歌詞 1374, 1376, 1379  
 譜表ラベル 207

単純拍子 (「拍子記号」を参照してください)

男声四重唱 (「プロジェクトテンプレート」を参照してください)

## 短線

音符 103, 248, 275, 285, 643, 1327  
 強弱記号 1243, 1254  
 再生時の音符 103, 925, 1027, 1334  
 小節線 331, 334, 336, 1079, 1081, 1083  
 スコア (「コンデンシング」を参照してください) (「レイアウト」も参照)  
 ステムレット 1131  
 打楽器の音符 846  
 テンポのテキスト 1749

タンバリン (「無音程打楽器」を参照してください)

ダンピング (「演奏技法」を参照してください)

## ち

## チェーン

タイ 1776  
 フレーム 610

チェロ (「インストゥルメント」を参照してください)

チャンネル 883, 886, 887

FX (「FX チャンネル」を参照してください)

Insert 888, 894, 895

Insert のバイパス 895

MIDI 101, 886, 887

インストゥルメント 713, 886, 887

エクスペリションマップ 661, 711, 714, 1033 (「チャンネル変更の動作」も参照)

エフェクト (「FX チャンネル」を参照してください)

エンドポイント 710

コントロール 886, 888

再生 710

スクロール 890

ストリップ 883, 884, 888

設定 711

ソロ 687

高さ 890

追加 893

名前 894

名前の変更 894

パーカッションマップ 661, 711, 714

パンニング 892, 896

ビデオ 887

非表示 890

表示 890

プラグイン 711

変更 713

ボリューム 891

ミキサー 883, 884, 886-888, 894

ミュート 687

メーター 886

読み込み 101

リバーブ 896, 905

チャンネル変更の動作 661, 711, 714, 1033

中央揃えされたテキスト

小節番号 1101, 1102

フレーム 631

ヘアピン 1244

中央の選択 54

中央配置の連桁 1121

削除 1123

作成 1122

中括弧 1140

外観 1141

ガイド 490, 1150

カスタムのグループ化 950, 957, 1148, 1150

記号 1014

グループ化 1148

形式設定 558, 1014

削除 1152, 1153

第2括弧 1145, 1147

デザイン 1141

長さ 950, 957, 1151

入力 1150

非表示 1084, 1142, 1144, 1146, 1148, 1150

表示 1084, 1142, 1144, 1146, 1148, 1150

譜表のスペーシング 748, 749, 776

- 中括弧 (続き)  
分割 1150  
リセット 1152, 1153
- 中間休止記号 1335, 1338  
位置 370, 1339  
移動 502, 652  
同じ位置に複数 1339  
カーリユー記号 1339  
外観 472  
カラー 60  
間隔 1339  
再生 1342-1344  
削除 496  
タイプ 472, 1338  
段階的テンポ変更 1342  
入力 367-370  
フェルマータ 1339  
プレス記号 1339  
リンク 1339
- 中間テキスト  
リハーサルマーク 1578
- 注釈 545, 740, 1553  
音符/休符の色 58, 60, 689, 821, 1228, 1403, 1644, 1859  
ガイド 490  
カラー 997  
強調表示 718, 1162, 1163, 1226, 1227, 1610, 1612, 1629, 1633  
コメント 545  
声部の色 58, 1859  
装飾音 (「装飾音」を参照してください)  
編集 994, 997  
ライン 984, 987, 994, 997, 1553
- チュートリアル 75
- チューニング  
開放弦のピッチ 171  
書き出し 172  
カスタム 169, 171-173, 938, 1177, 1180  
カポ (「カポ」を参照してください)  
ギター 124, 168, 169, 173, 950, 959  
組段 (「調性システム」を参照してください)  
弦楽器 171  
コードダイアグラム 1180, 1185, 1186  
再生 685  
ダイアログ 169  
フレット楽器 124, 168, 169, 173, 950, 959  
変更 124, 169, 171, 199, 950, 959  
読み込み 173
- チューバ (「インストゥルメント」を参照してください)
- 調  
移調 519, 520  
マイナー 1348  
メジャー 1348
- 長休符 795, 1610, 1649  
tacet al fine 1650  
位置 1652  
1 小節 1649, 1651  
移動 1652  
音部記号 1651, 1652  
外観 1644, 1650, 1651  
ガイド 490, 1653  
記号 1014  
形式設定 1014
- 長休符 (続き)  
小節数のフォント 1653  
小節線 334  
小節番号 1095, 1097  
タレット 795, 797  
調号 1651, 1652  
幅 1651  
番号 1014  
非表示 1649  
表示 1649  
拍子記号 1651, 1652  
譜表 1652  
フローの終端 1650  
分割 1649, 1653  
調号 1346, 1357  
MIDI インポート 101  
位置 308, 1350  
移調 201, 519, 520, 1355  
移調楽器 195, 919, 1354  
移動 152, 502, 506, 1351  
異名同音 1354, 1355  
インストゥルメントの変更 152  
打ち消しのスタイル 1350  
オープン 1349  
オクターブの分割 1008, 1358  
音部記号 1350  
外観 1347  
ガイド 308, 309, 490, 1346  
書き換え 1355  
カスタム 1003, 1006, 1008, 1009, 1012  
間隔 1347  
再生 1014  
削除 496  
浄書オプション 1347  
小節線 1079, 1083, 1350  
スケール 1348  
スペーシング 1347  
選択 460, 464, 466  
タイ 1355  
ダイアログ 1007, 1009, 1012  
タイプ 305, 1348  
多調 308, 309, 1346  
長休符 1651, 1652  
調性システム 1003, 1007, 1357, 1358  
デフォルト設定 1347  
なし 124  
ナチュラル 1350  
入力 305, 306, 308, 309  
背景の塗りつぶし 1355  
パネル 306, 309  
反復開始線 1083  
非表示 124, 148, 305, 308, 309, 950, 954, 1346, 1349, 1353  
表示 1349, 1353  
表示なし 950, 954, 1349  
フィルター 467  
複数 1346  
変更 308, 309, 472, 1083, 1347, 1350  
ポップオーバー 305, 308  
マイナー 1348  
無調 1349  
メジャー 1348

## 調号 (続き)

持たないインストゥルメント 124, 148, 950, 954,  
1346, 1349, 1354  
予告 1352, 1353  
臨時記号 305, 306, 519, 520, 523, 1009, 1051, 1347,  
1350

## 調号、調性システム、臨時記号パネル 306, 309

## 調性システム 1357

オクターブの分割 1008, 1358  
書き出し 913, 1360  
カスタム (「カスタムの調性システム」を参照してく  
ださい)  
再生 1014  
作成 1003  
スケールのマッピング 535, 542  
調号 1006, 1012  
パネル 306, 309  
変更 1358  
読み込み 913, 1359  
臨時記号 1005, 1009

## 「調性システムを編集」ダイアログ 1007

## 長方形

音符 843, 844, 852  
音符の囲み線 1742  
楽譜 (「楽曲フレーム」を参照してください) (「フレ  
ーム」.も参照)  
カラー付き (「ガイド」を参照してください)  
組段の上 (「システムトラック」を参照してください)  
小節番号の囲み線 1096  
テキストの囲み線 932, 1325, 1770, 1771 (「テキスト  
フレーム」.も参照)  
符頭 1392  
マーカー 1584  
リハーサルマークの囲み線 1575  
和音の囲み線 1742  
枠線 932, 1584, 1771

## 直線 1551

引用符 618, 621  
ギターバンド 1469  
グリッサンドライン 1461  
ジャズアーティキュレーション 1499  
デュレーション 618, 621  
ペダル線 1516

## 著作権 81, 1321

書き出し 113  
最初のページ 573  
斜体 81, 932  
追加 1321  
トークン 620  
フォント 932, 1321  
太字 81, 932

## 散りばめ

臨時記号 1055

## つ

## 追加

possibile 1243  
subito 1243  
歌詞番号 1385  
括弧 443, 445, 1592  
クレッシェンド 1254  
声部 257, 1648, 1858

## 追加 (続き)

ディミヌエンド 1254  
プレーヤー番号 818  
フロア 87

## 追加の演奏技法

演奏技法 976  
記号 976  
符頭 967, 1389

## 追加の譜表 1706

オッサア譜表 (「オッサア譜表」を参照してください)  
ガイド 490, 1706  
キュー 453  
コンデンシング 804, 1706  
タイ 274  
追加 1707

## 追従テンポモード 683

## ツール 41

選択 42, 43  
タイムコード 1586  
配置 (「配置」を参照してください)  
編集 (「プロパティ」を参照してください) (「デフォ  
ルト設定」.も参照)

## ツールバー 33

キーエディター 833  
トランスポートオプション 33, 35  
非表示 33  
ミキサー 885  
ワークスペースオプション 33, 34

## ツールボックス 41

音符 218, 219  
キーエディター 833  
記譜記号 218, 224  
浄書 554

## て

## 提案

キュー 455, 1227  
ディヴィジ 799, 1722  
移動 502, 506  
延長 502, 506  
音符の入力 1727  
ガイド 490  
角括弧 1142, 1143, 1146, 1147, 1551, 1722  
カラー 1728  
キュー 453  
空白の譜表を隠す 750-752  
グループ 1701, 1725, 1726, 1730  
コンデンシング 765, 799, 813, 1699, 1701, 1722  
再生 685, 686, 713, 1736  
終了 1727  
声楽の譜表 1729  
ダイアログ 1723  
短縮 502, 506  
テキスト 1733  
トゥッティ 1727  
入力 1723, 1725  
背景の塗りつぶし 1735  
パラグラフスタイル 1697, 1730, 1733  
フォント 1697, 1730, 1733  
譜表 750-752, 1725, 1727  
譜表サイズ 774  
譜表のスペーシング 749

## ディヴィジ (続き)

譜表ラベル 1685, 1699, 1701, 1723, 1730, 1731, 1734  
譜表ラベルを非表示にする 1685  
変更 1723  
変更ラベル 1733-1735  
編集 1726  
矢印 1729  
ユニゾン範囲 1727, 1728  
ユニゾンラベル 819, 1733, 1735  
ラベルを非表示にする 1731, 1734

「ディヴィジを作成」ダイアログ 1723

停止 (「開始」を参照してください)

停止位置 491

移動 494

削除 495

追加 494

ディチューンしたフレット楽器 173, 177, 959

## ティック

演奏されるデュレーション 852-854

小節線 329, 331, 334, 336, 1079, 1081, 1083, 1087

プレス記号 (「プレス記号」を参照してください)

## ディップ 1485

位置 1489

移動 652

音程 1491

間隔 1489

タブ譜 1491

入力 393

非表示 1491

表示 1491

ポップオーバー 373

ディミニッシュ (「オーギュメント」を参照してください) (「音程」.も参照)

ディミヌエンド (「段階的強弱記号」を参照してください)

## ディレイ

Insert 888, 894

インストゥルメントの変更 152

エクスプレッションマップ 1028

グリッサンドの再生 1467

## ティンパニ 143

調号 124

パンニング (「ステージテンプレート」を参照してください)

リバーブ (「スペーステンプレート」を参照してください)

レセヴィブレタイ 1785

ロール (「トレモロ」を参照してください) (「トリル」.も参照)

## データ

エクスプレッションマップ 1020

ライブラリー 913

## テーマ 56

テオルボ (「フレット楽器」を参照してください)

手書きフォント 927, 1578

## テキスト 929, 1763, 1764

移動 502, 631, 652, 923, 1769, 1770

印刷 113

インストゥルメントの変更 (「インストゥルメントの変更ラベル」を参照してください)

インストゥルメント名 (「インストゥルメント名」を参照してください)

上付き 421, 625

## テキスト (続き)

エディター (「テキストエディター」を参照してください)

演奏技法 1536, 1537

音楽記号 420, 423, 619, 624

音楽フォント 927, 929

外観 421, 625, 930, 932, 935

解析 117

ガイド 490, 1775

書き出し 113

重ね合わせ 1770

歌詞 1363, 1377-1379

下線 421, 625, 932

カラー 60, 421, 625, 629, 630, 932, 935

間隔 923

キュー 1215

キューラベル 1213, 1214

行間 1768

強弱記号 (「強弱記号」を参照してください) (「強弱記号の修飾語句」.も参照)

組段に付くテキスト 420, 1717, 1718, 1763

グリッサンドライン 1463, 1464

グリフ 420, 423, 619, 624

形式設定 75, 421, 625, 627, 929, 930, 932, 937, 1768

献呈 1321

コピー 63, 497, 607

コメント (「コメント」を参照してください)

作詞者 81, 573, 1320

作曲者 81, 573, 1319

下付き 421, 625

十字線 656

浄書オプション 420

小節番号 (「小節番号」を参照してください)

上線 421, 625, 932

衝突回避 1770

省略強弱記号 1243, 1254

垂直 (「プレーヤーグループのラベル」を参照してください)

垂直方向の配置 631

水平 1570

水平方向の配置 631, 932, 1769

スタイル 929

ストレッチ 421, 625, 932

スペーシング 421, 625, 627, 932, 935, 1768

全大文字の譜表ラベル 1694

選択 461, 467

存在しないフォント 80

タイトル 81, 573, 1318

タイプ 1764

タイムコード 1582, 1588

打楽器のレジェンド 1853

タレット 795, 798 (「長休符」.も参照)

注釈 994, 1553

著作権 81, 573, 1321

ディヴィジ 1730, 1733, 1735

デフォルト設定 420, 937, 1770

テンポ記号 472, 1745, 1748-1750, 1757

テンポの省略テキスト 1749

トークン (「トークン」を参照してください)

取り消し線 421, 625

入力 420, 603, 624, 1565

パート名 (「レイアウト名」を参照してください)

背景 1538, 1774



## テキスト (続き)

背景色 421, 625, 630, 932, 935  
背景の塗りつぶし 1538, 1572, 1774  
配置 421, 625, 631, 932, 1769  
パラグラフスタイル 627, 932, 934, 1768  
非表示 1215, 1607, 1775  
表現 (「強弱記号の修飾語句」を参照してください)  
表示 1215, 1607, 1775  
フィルター 467  
フィンガリング 1297  
「フォントスタイルを編集」ダイアログ 930  
復元 1532, 1534  
複数の位置 1717, 1718  
譜表からの距離 652  
譜表に対する位置 474  
譜表ラベル (「譜表ラベル」を参照してください) (「プレイヤーグループのラベル」も参照)  
フレーム (「テキストフレーム」を参照してください)  
プレイヤーラベル 817, 819, 820  
フロータイトル 211  
ベースラインの移動 421, 625  
ペダル線 1532-1534  
ヘッダー 573  
編集 424, 624, 1748, 1764  
保存 113  
マーカー 108, 434, 436, 1580, 1582  
前付け 81, 573, 1318-1321  
文字スタイル 935, 937  
余白 629, 932, 1572, 1773  
ライン 994, 1553, 1565, 1567-1572, 1696  
欄外見出し 573  
リセット 627, 1768, 1770  
リハーサルマーク 1574, 1578  
リピート括弧 1595  
リピートマーカー 1599, 1602, 1603  
臨時記号 420, 423, 624  
レイアウト名 203, 1325  
レディング 627, 932, 934  
ワードラップ 820, 1603  
枠線 628, 629, 932, 1325, 1570, 1770-1772

## テキストアイテム 1763, 1764

位置 1717, 1718  
移動 502  
ガイド 1775  
書き出し 113  
カラー 60, 421, 625, 932  
コピー 63, 497  
識別 1764  
十字線 656  
垂直位置 1717, 1718  
選択 461, 467  
入力 420  
非表示 1775  
表示 1775  
フィルター 467  
譜表 1717, 1718  
編集 424

## テキストエディター 421, 424

歌詞 1378, 1379  
記譜モード 421  
コメント 546, 548, 549  
浄書モード 625

## テキストエディター (続き)

テキストフレーム 624  
開く 624

## テキストスタイル 929

テキストのワードラップ  
プレイヤーラベル 820  
リピートマーカー 1603

## テキストフレーム 616, 932, 1325, 1764, 1770, 1771

音楽記号 423  
書き出し 113  
カラー 629, 630  
グリフ 423  
コピー 607  
識別 1764  
垂直方向の配置 631  
水平方向の配置 631  
選択 606  
テキストの入力 624  
テキストの変更 624  
トークン 617  
入力 603  
背景色 630  
配置 631  
パラグラフスタイル 627  
フロー見出し 763  
優先 616  
余白 629  
欄外見出し 763  
臨時記号 423  
枠線 628, 629

## デクレッシェンド (「段階的強弱記号」を参照してください)

## デザイン

演奏技法 976, 979  
音楽記号 997, 1014  
記号 988, 999, 1001  
ギターバンド 1476  
くさび形 992  
スラー 1663, 1664, 1666  
スラッシュ符頭 967, 1223, 1626  
装飾音符のスラッシュ 1331  
拍子記号 1814, 1815  
フィンガリング 1014, 1293  
符頭 967, 970, 973, 975, 1389, 1393-1396  
符尾の符鉤 1014, 1415  
矢印 987, 992, 994, 1547, 1551, 1564  
ライン 976, 984, 986-988, 992, 999, 1001, 1547, 1551, 1563, 1564  
ライン注釈 994, 997

## デタシェ (「演奏技法」を参照してください) (「アーティキュレーション」も参照)

## デッドノート 1490

## テヌート (「アーティキュレーション」を参照してください)

## テノール記号 (「音部記号」を参照してください)

## デバイス

オーディオ 63, 295, 296, 685

## デフォルト設定 21, 30, 63, 826, 913, 917, 919, 921, 923, 925

## MIDI 501

アーティキュレーション 238  
インストゥルメント名 61, 206, 207, 209, 950  
演奏技法 1542

- デフォルト設定 (続き)  
 音符入力オプション 238, 921  
 音符のグループ化 919  
 音符のスペーシング 643, 644  
 書き出し 85, 913, 916  
 重なり合う音符 919  
 キーボードショートカット 29, 64, 68  
 記譜記号の入力 237, 345  
 強弱記号 501  
 共有 913  
 コード記号 1155-1157  
 コードダイアグラム 1176, 1177  
 コンデンシング 801, 811  
 再生 701, 707, 891, 902, 910, 912, 925  
 再生テンプレート 702  
 ジャズアーティキュレーション 1497  
 小節線 1081, 1082  
 スウィング再生 697  
 数字付き低音 433, 1269  
 ステージテンプレート 897  
 スペーステンプレート 905, 912  
 スラー 501  
 声部の順番 919  
 選択ツール 43  
 範囲選択ツール 43  
 ダイアログ 30  
 タブ譜の弦 248, 251  
 テキスト 930, 932, 937, 1770  
 ハンドツール 43  
 パンニング 902  
 ファイル名 731  
 フォントスタイル 937  
 付点 238  
 符頭 1395, 1396  
 譜表のグループ化 1143  
 譜表のスペーシング 748, 776  
 譜表ラベル 61, 206, 207, 209, 950  
 プレーヤーラベル 818  
 フロー 919  
 フロー見出し 595  
 プロジェクトテンプレート 84, 85  
 ページサイズ 1017  
 ボリューム 891  
 マウス入力 235  
 読み込み 913, 915  
 ライブラリー 913  
 ライン 988  
 リセット 913, 917, 919, 921, 923, 925  
 リバース 910, 912  
 リピート回数 1609  
 臨時記号 238, 1051  
 レイアウト 198, 788, 917  
 連桁のグループ化 919, 1117  
 「デフォルト」のフロー見出し 569, 595  
 置き換え 597, 599  
 デフォルトのページテンプレート 569, 573  
 置き換え 575  
 カスタマイズ 577, 582  
 作詞者 1318  
 作曲者 1318  
 タイトル 1318  
 トークン 1318  
 デモプロジェクト 75  
 デュレーション 470, 1543, 1640  
 MIDI 録音のカウントイン 295  
 アーティキュレーション 1064, 1071  
 アルペジオ記号 1458, 1459  
 演奏技法 399, 404, 406, 470, 1543, 1549  
 演奏される 852  
 オーディオ 110, 111  
 音符 26, 223, 285, 286, 288, 845, 846, 848, 852  
 解析 117  
 書き出し 117, 118, 618, 621  
 記譜された 852  
 休符 271, 285, 288, 1137, 1640  
 強弱記号 345, 470, 1246, 1255, 1260, 1262  
 強制 288, 1137  
 グリッサンドライン 1466, 1467  
 ジャズアーティキュレーション 1498  
 小節 26, 492, 1073  
 数字付き低音 470, 1273, 1275, 1279  
 スラー 1683  
 装飾音符 1334  
 打楽器 846  
 ディスプレイ 35, 618, 621, 698  
 トークン 618, 621  
 トレモロ 1823, 1824  
 入力の設定 237, 345  
 ビブラートバーのライン 1485  
 フェルマータ 472  
 プリロール 684  
 フロー 621, 684, 1073-1075  
 プロジェクト 618  
 ペダル線 1535  
 変更 285, 286, 288, 470, 1137  
 横棒線 1560  
 ライン (「デュレーション線」を参照してください)  
 リピート括弧 1593  
 臨時記号 1060, 1061  
 ロック 522  
 デュレーション線 1542, 1551  
 演奏技法 982, 1543, 1548  
 外観 976, 1547  
 弦の指示記号 413, 414, 1313, 1542  
 数字付き低音 1273-1275, 1279  
 デフォルト設定 976  
 入力 399, 404, 406  
 ハンドル 1541, 1543, 1545  
 非表示 470, 1543, 1545, 1547  
 表示 470, 1543, 1545, 1547  
 デュレーションを強制 219, 288  
 音符の入力 288  
 休符の入力 271, 288  
 有効化 219  
 デュレーションをピッチの前に指定して音符を入力 248  
 デュレーションをロック 219, 522  
 デルタ 876, 877, 879  
 展開 470  
 アイテム 470  
 インストゥルメント 899, 900, 903  
 エディター 837, 838  
 オプション 45  
 音符 285, 286, 510, 1329, 1343, 1828, 1829  
 間隔 1343, 1344  
 キーエディター 837, 838  
 キャレット 246, 261

## 展開 (続き)

組段 748, 749, 764, 779  
 弦楽器 169  
 小節 332, 334, 492, 493  
 小節線 1079, 1087, 1088, 1090-1092  
 ステージテンプレート 899, 900, 903  
 スペース 748, 749, 768  
 スラー 1656  
 選択範囲 461, 463  
 装飾音符 1329  
 打楽器グリッド 166  
 中間休止記号 1344  
 ティック 1087  
 デュレーション 285, 286, 470, 1343  
 範囲 169  
 パンニング 899, 900, 903  
 フェルマータ 1343  
 譜表 166, 748, 749, 779, 1848  
 フロー見出し 768, 769  
 ページ 744  
 メニュー 45  
 余白 745, 768-771  
 連符 1828, 1829

## 転回

コード記号 676  
 再生 676  
 数字付き低音 429  
 ピッチ 528, 529, 540

## 転回形

コード記号 346, 354  
 数字付き低音 427, 1268, 1269

## 展開矢印マーク 45

「エクスペリションマップ」ダイアログ 1020  
 プロパティパネル 42

## 電子楽器 124, 960

グリッサンドライン 1466

## 点線 652

アタッチメント 478, 502, 652  
 オクターブ線 1201  
 休符 219, 919  
 強弱記号 1229  
 十字線 656  
 スラー 1663-1665  
 タイ 1778-1780  
 停止位置 495  
 テンポ記号 321, 1757-1759  
 トレモロ 447, 449  
 拍の単位 324  
 符頭 1392  
 ヘアピン 1249  
 ライン 652, 1551

## 伝統音楽

打ち消しのナチュラル記号 1350  
 音楽フォント 927, 929  
 五線のサイズ 772  
 調性システム 1357, 1358

## テンプレート

アンサンブル 126, 128, 141, 142, 896  
 インストゥルメントファミリー 960  
 角括弧 84  
 カテゴリー 77  
 キーエディター 840, 881, 882  
 再生 664, 701

## テンプレート (続き)

削除 86, 581, 882  
 新規プロジェクト 75  
 スコアの順番 964  
 ステージ (「ステージテンプレート」を参照してください)  
 スペース (「スペーステンプレート」を参照してください)  
 タイトル 573, 590, 595, 596  
 テキスト (「パラグラフスタイル」を参照してください) (「フォントスタイル」も参照)  
 譜表 84, 126, 142, 1143  
 譜表のグループ化 1143  
 プレーヤー 126, 128, 141, 142, 896  
 フロー見出し 595, 596  
 プロジェクト (「プロジェクトテンプレート」を参照してください)  
 ページ (「ページテンプレート」を参照してください)  
 ライブラリー 913, 915, 916

## テンポ 1745

bpm 1752  
 MIDI 録音 683  
 描く 871  
 休止 1343  
 クリック設定 294, 672  
 検出 436, 1585  
 固定テンポ 683, 698  
 再生 320, 321, 324, 326, 327, 683, 871, 1343  
 再生時にミュート 688  
 再生モード 672, 871  
 スウィング再生 697  
 追従テンポ 683, 698  
 デフォルト 496, 1745  
 等式 (「テンポの等式」を参照してください)  
 トラック (「テンポトラック」を参照してください)  
 入力 873  
 範囲 1753  
 変更 874  
 変更の削除 842  
 マーク (「テンポ記号」を参照してください)  
 メトロノームマーク 1752  
 録音 683

## テンポエディター 672, 871

ズーム 838  
 高さ 837  
 追加 835, 840  
 テンポの変更 874  
 テンポ変更の移動 874  
 テンポ変更の入力 873  
 閉じる 835, 840  
 ポイントのコピー 841  
 ポイントの削除 842  
 ポイントの選択 840  
 テンポ記号 871, 1745, 1757  
 poco a poco 1757  
 位置 1718, 1746, 1747  
 移動 502, 652, 874, 1756  
 延長線 1745, 1757-1759  
 オシラ譜表 1719  
 外観 1746, 1754  
 ガイド 490, 1750, 1752, 1754  
 書き出し 113  
 括弧 1751, 1754

## テンポ記号 (続き)

カラー 60  
 間隔 1760  
 記号 1014  
 近似値 1754  
 形式設定 1014, 1758-1761  
 検出 436, 1585  
 構成要素 1750, 1754, 1756  
 固定テンポ変更 324, 1746  
 コピー 497, 841  
 サイズ 1750  
 再生 496, 689, 1745, 1753, 1755  
 再生時にミュート 688  
 削除 496  
 十字線 656  
 順番 1756  
 浄書オプション 1746  
 小数点位置 326, 327, 1752, 1755  
 小節線 1747  
 省略 1749  
 垂直位置 1717, 1718  
 スタイル 1758, 1761  
 整数 326, 327, 1755  
 選択 460, 461, 464, 466, 467  
 相対テンポ変更 324, 1746, 1754  
 タイプ 321, 324, 1746  
 段階的テンポ変更 324, 1746, 1755, 1757  
 中間休止記号 1342  
 テキスト 472, 1746, 1748-1750  
 デフォルト設定 1746  
 テンポをリセット 324, 1746  
 等式 (「テンポの等式」を参照してください)  
 トリル 1451  
 長さ 470, 652, 1747  
 入力 320, 324, 326, 327  
 配置 1747  
 ハイフン 1758  
 拍の単位 322, 472, 1752  
 破線 1760  
 パネル 324  
 ハンドル 470, 1747  
 非表示 326, 1750  
 表示 1750  
 ピリオド 1754  
 フィルター 467  
 フェルマータ 1342  
 フォント 1750  
 複数の位置 1717, 1718, 1747  
 譜表 1718  
 変更 472, 1748, 1749, 1752, 1754  
 ポップオーバー 321  
 メトロノームマーク (「メトロノームマーク」を参照してください)  
 矢印 1762  
 ライン 1757-1759  
 リハーサルマーク 1576  
 リピート 689  
 テンポトラック 107-109, 672, 871  
 エディター (「テンポエディター」を参照してください)  
 書き出し 109  
 再生モード (「テンポトラック」を参照してください)  
 (「テンポエディター」も参照)

## テンポトラック (続き)

ダイアログ 108, 109  
 非表示 676, 840, 871  
 表示 676, 840, 871  
 編集 (「テンポエディター」を参照してください)  
 読み込み 107, 108  
 「テンポトラックの読み込み」ダイアログ 108  
 「テンポトラックを書き出し」ダイアログ 109  
 テンポの等式 1761  
 入力 323, 324, 326, 327  
 パネル 324  
 ポップオーバー 323  
 矢印 1762  
 テンポパネル 324  
 テンポ変更 (「テンポ記号」を参照してください)  
 「テンポを検出」ダイアログ 436  
 重要なマーカー 1585

## と

## ドイツ語

譜表ラベル 61  
 リピート回数 1609

ドイト (「ジャズアーティキュレーション」を参照してください)

## 同期

MIDI 870  
 インストゥルメント 833, 864, 870  
 楽譜にビデオを 214  
 キーエディター 833  
 強弱記号 864  
 トラック 833

## 統合 799

音符 280, 507, 1860  
 休符 919, 1641-1643, 1648, 1649  
 結合拍子の拍子記号 1809  
 小節 496  
 小節リピート記号 1649  
 声部 157, 507, 799, 1401, 1855, 1856, 1858, 1860-1863  
 中間休止記号 1339  
 パートレイアウト 193  
 拍子記号 1809, 1811  
 フェルマータ 1339-1341  
 付点 1401  
 符尾 157, 1855, 1856, 1858  
 譜表 (「コンデンシング」を参照してください)  
 譜表ラベル 164, 165, 1685, 1692, 1698, 1699, 1701  
 プレーヤー 184, 193, 799  
 ブレス記号 1339  
 フロー 87

## 動作 1025, 1033

## 等式

テンポ記号 323, 324, 1761  
 トウッティ 1722, 1727  
 復元 1727

## 透明

アイテム 60  
 音符 60, 1398  
 グラフィック 560, 639, 729  
 トウルーブラック 739

- トークン [617](#), [1764](#)  
 SMuFL [619](#)  
 音楽記号 [619](#)  
 音部記号 [619](#)  
 書き出し [113](#)  
 言語 [62](#)  
 最初のページ [573](#)  
 作詞者 [573](#), [620](#), [1320](#)  
 作曲者 [573](#), [620](#), [1319](#)  
 タイトル [210](#), [573](#), [620](#)  
 タイム [622](#)  
 著作権 [573](#), [620](#), [1321](#)  
 入力 [617](#), [624](#)  
 日付 [622](#)  
 ファイル名 [618](#), [731](#)  
 譜表ラベル [619](#)  
 フロー [210](#), [595](#), [596](#), [599](#), [620](#), [621](#), [1318](#)  
 プロジェクト情報 [81](#), [210](#), [573](#), [620](#)  
 ページテンプレート [573](#), [1318](#)  
 ページ番号 [621](#)  
 欄外見出し [574](#)  
 臨時記号 [619](#)  
 レイアウト名 [573](#), [620](#)  
 ローマ数字 [621](#)
- 通し番号付き小節領域 [1097](#), [1618](#)  
 位置 [1623](#)  
 移動 [502](#), [1623](#)  
 カウント [1619](#)–[1621](#)  
 数の変更 [1620](#)  
 括弧 [1619](#), [1621](#)  
 間隔 [1619](#), [1623](#)  
 強調表示 [1612](#)  
 組段 [1619](#)  
 浄書オプション [1619](#)  
 デフォルト設定 [1619](#)  
 長さ [470](#)  
 入力 [452](#)  
 配置 [1623](#)  
 パネル [442](#)  
 ハンドル [470](#), [1618](#)  
 非表示 [1619](#)  
 表示 [1619](#)  
 頻度 [1619](#), [1621](#)  
 フォントスタイル [1616](#), [1619](#)  
 譜表に対する位置 [1623](#)  
 ポップオーバー [441](#)
- ト音記号 (「音部記号」を参照してください)  
 ドキュメント [17](#), [75](#)  
 「特別な調号を編集」ダイアログ [1012](#)  
 閉じる (「開く」を参照してください)  
 ドット  
 ギタータッピング [1486](#), [1489](#)  
 小節線 (「リピート小節線」を参照してください)  
 トムトム (「無音程打楽器」を参照してください)  
 止め指 (「左手のフィンガリング」を参照してください)  
 ドライ  
 リバーブ [896](#)  
 トライアド (「コード」を参照してください) (「コード記号」.も参照)  
 トラック [669](#), [831](#), [883](#)  
 Insert [883](#), [884](#), [888](#), [894](#), [895](#)  
 MIDI (「MIDI CC エディター」を参照してください)  
 MIDI インポート [95](#)
- トラック (続き)  
 インストゥルメント (「インストゥルメントトラック」を参照してください)  
 演奏技法 (「演奏技法エディター」を参照してください)  
 オートメーション (「MIDI CC エディター」を参照してください)  
 音符の入力 [845](#)  
 カラー [670](#), [843](#), [844](#)  
 キーエディター [831](#)  
 強弱記号 (「強弱記号エディター」を参照してください)  
 組段 (「システムトラック」を参照してください)  
 コード (「コードトラック」を参照してください)  
 ズーム [676](#), [677](#), [837](#), [838](#)  
 声部 [670](#), [685](#), [686](#)  
 声部の個別再生 [685](#), [686](#), [713](#)  
 選択 [97](#)  
 ソロ [687](#)  
 タイプ [669](#)  
 タイム (「テンポトラック」を参照してください) (「テンポエディター」.も参照)  
 高さ [676](#), [837](#)  
 打楽器 (「打楽器エディター」を参照してください)  
 追加 [840](#)  
 テンポ (「テンポトラック」を参照してください)  
 名前 [95](#)  
 幅 [677](#), [838](#)  
 ピアノロール (「ピアノロールエディター」を参照してください)  
 非表示 [676](#), [835](#), [840](#)  
 表示 [676](#), [835](#), [840](#)  
 ベロシティー (「ベロシティーエディター」を参照してください)  
 ボリューム [891](#)  
 マーカー [673](#)  
 ミュート [687](#)  
 読み込み [95](#)  
 ルーティング [661](#), [713](#)  
 ロック [835](#)  
 ロック解除 [835](#)  
 ドラッグ [43](#), [236](#), [483](#), [518](#), [682](#), [840](#) (「描く」.も参照)  
 トラックインスペクター [658](#), [661](#)  
 トラック概要 [659](#)  
 MIDI CC (「MIDI CC エディター」を参照してください)  
 MIDI ピッチバンド (「MIDI ピッチバンドエディター」を参照してください) (「MIDI CC エディター」.も参照)  
 オートメーション (「MIDI CC エディター」を参照してください)  
 キーエディター [831](#)  
 強弱記号 (「強弱記号エディター」を参照してください)  
 コードトラック [674](#)  
 テンポエディター [871](#)  
 テンポトラック [672](#) (「テンポエディター」.も参照)  
 ピッチバンド (「MIDI ピッチバンドエディター」を参照してください) (「MIDI CC エディター」.も参照)  
 マーカートラック [673](#)  
 ドラムキット (「打楽器キット」を参照してください) (「ドラムセット」.も参照)

- ドラムセット 156, 157, 1838
  - インストゥルメントのフィルタリング 157
  - 音符の入力 104, 263, 266, 846
  - 書き出し 167
  - キットを定義 162
  - キャレット 263
  - スラッシュ符頭 1625, 1627, 1629, 1632
  - 声部 162, 1855
  - 設定 157, 266
  - 追加 146
  - 名前を付ける 157
  - パターン 104
  - ヒット 1627, 1629, 1632
  - 符頭 1845
  - 符尾の方向 162
  - 読み込み 167
  - レセヴィブレタイ 1785
- ドラムの基礎 (「無音程打楽器」を参照してください)
- ドラムパッドパネル 233
  - キーボードショートカット 48
- ドラムロール (「トレモロ」を参照してください)
- トランスポート 698
  - ウィンドウ 698
  - 基本オプション 33, 35
  - 再生ヘッド 678
  - 再生ヘッドの位置 698, 701
  - 非表示 698
  - 表示 698
  - 無効化 681
  - 有効化 681
  - リピート 689
- トランブルマン (「装飾音」を参照してください)
- トランペット (「インストゥルメント」を参照してください) (「移調楽器」も参照)
- ドリアン
  - コード記号 351, 542, 1165
  - スケール 535
- トリガー
  - MIDI 104, 717
- 取り消し線付きテキスト 421, 625, 932, 935
- トリル 1434, 1438, 1446, 1449, 1816
  - MIDI インポート 98, 101
  - MIDI 録音 295
  - NotePerformer 1450
  - 位置 1436, 1437, 1440
  - 移動 502, 506, 652, 1436
  - 延長線 (「トリル線」を参照してください)
  - 音程 372, 1441-1444, 1446, 1448
  - 音程の削除 1446
  - 外観 1446, 1447
  - 開始位置 1437
  - 開始音 1452
  - ガイド 490, 1441-1444
  - 括弧 1434
  - カラー 60
  - 記号の非表示 1438
  - コンデンシング 801, 811
  - 再生 1046, 1047, 1449-1451
  - 削除 496
  - サンプリング 1450
  - 十字線 656
  - 終了位置 1440
  - 生成 1450
- トリル (続き)
  - 装飾音符 1449
  - タブ譜 1438
  - 長さ 470
  - 入力 372, 376, 377
  - 配置 1437, 1440
  - パネル 375, 377
  - 速さ 1439, 1449, 1451
  - ハリウッドスタイル 1446
  - ハンドル 470
  - ピッチ 1443, 1444, 1452
  - フィルター 467
  - 譜表に対する位置 474
  - 補助音符 1446
  - ポップオーバー 372
  - ライン (「トリル線」を参照してください)
  - リセット 1446
  - 臨時記号 1443, 1446, 1448
- トリル線 1439, 1440
  - 長さ 470, 652
  - 速さ 1439, 1440
  - 非表示 1440
  - 表示 1440
- トリルの音程 1441, 1442, 1448
  - 位置 1448
  - 外観 1434, 1446, 1447
  - ガイド 490, 1442
  - コンデンシング 801, 811
  - 再表示 1434
  - 削除 1446
  - 入力 376
  - ハリウッドスタイル 1446
  - 非表示 1442
  - 微分音 1442-1444
  - 表示 1441, 1442
  - 変更 1443, 1444
  - 補助音符 1446
  - リセット 1446
  - 臨時記号 1443, 1446
- トリルの開始音 1449
- トルコ音楽
  - オクターブの分割 1358
- トレコルデ (「ウナコルダペダル」を参照してください) (「ペダル線」も参照)
- トレモロ 1816
  - MIDI インポート 98, 101
  - MIDI 録音 295
  - アーティキュレーション 1045
  - アタック 440, 447, 449, 1818
  - 位置 1817, 1818, 1822
  - 音価が指定された 1816
  - 音価が指定されない 1816
  - 外観 1817, 1820
  - 角度 1818
  - 記号 1014
  - 形式設定 1014, 1820
  - 再生 685, 686, 1045-1047, 1823, 1824
  - 削除 1821
  - 重音 440, 1816, 1820
  - 浄書オプション 1817
  - ストローク (「トレモロストローク」を参照してください)
  - ストロークの移動 1822

## トレモロ (続き)

- ストロークの数 1819
- 声部 1823
- タイのつながり 1818
- タイプ 440, 1816
- 打楽器 1839, 1840
- 単音 440, 1816
- デフォルト設定 1817
- デュレーション 1823
- 入力 440, 442, 447, 449
- パネル 442, 449
- 速さ 1820
- 譜表をまたぐ 1123, 1127
- ポップオーバー 440, 447
- リリース 440, 447, 449, 1818
- 連桁 1820
- 連符 1816
- トレモロストローク 1627, 1816, 1820
  - 移動 1822
  - 数の変更 1819, 1820
  - 記号 1014
  - 形式設定 1014
- トレモロプラグイン 888, 894
- ドロップ (「ジャズアーティキュレーション」を参照してください)
- ドロップフレームのタイムコード 1586
- トロンボーン (「インストゥルメント」を参照してください)
- トンボ 740
  - 印刷 724
  - 書き出し 728

## な

## 内容

- 演奏技法 1544
  - キュー 1212, 1213, 1215
  - 小節 1075
  - テーブル 1318
  - テンポ記号 1748, 1750, 1756
  - 前付け 1318
  - ライン 1544, 1553
  - リピートマーカー 1599, 1600
- 長さ 470, 652
  - messa di voce 1230, 1254
  - アルペジオ記号 378, 379, 1456
  - インストゥルメント名 153, 154, 206, 950, 1685, 1687
  - 演奏技法 1542, 1545, 1548
  - 延長線 1542, 1545, 1548
  - オーディオ 111
  - オクターブ線 470, 1205
  - 音符 286, 846, 848, 852, 853
  - 音符の演奏されるデュレーション 852, 853
  - 音符の記譜されたデュレーション 852
  - 角括弧 1151, 1414
  - 楽譜 75, 329, 1073-1075, 1342
  - 歌詞の延長線 1379
  - 歌詞のハイフン 1379, 1381
  - ギターバンド 1480, 1481, 1483
  - 休止 1342
  - 強弱記号 345, 470, 863, 1243, 1248, 1254
  - 組段 651, 764

## 長さ (続き)

- 組段の分割記号 1717
- グリッサンドライン 1465
- 弦の指示記号 1542, 1545
- コード記号の括弧 1172
- ジャズアーティキュレーション 1497, 1498
- 小節 75, 311, 329, 492, 1073-1075, 1342
- 小節線 1079, 1087, 1088, 1090-1092
- 小節リピート記号のフレーズ 472, 1611
- 数字付き低音 1273-1275, 1278, 1279
- ステムレット 1131
- スラー 1656, 1669
- 装飾音符のスラッシュ 1333
- タイ 1777
- 打楽器のレジェンド 1852, 1853
- タセットバー 1651
- 単位 55
- 中括弧 1144, 1151
- 長休符 1651
- ディヴィジのパスページ 502, 506
- ティック 1087
- テンポ記号 1747, 1760
- フィンガリングスライド 1307
- フック 652, 1518, 1595, 1596
- 符頭の括弧 1414
- 符尾 1119, 1415, 1421
- 譜表ラベル 1685, 1687, 1688, 1730, 1731
- プレーヤーグループ名 185
- プレーヤー名 204, 1685, 1687
- フロー 35, 75, 117, 329, 618, 621, 698, 1073-1075
- プロジェクト 35, 75, 117, 329, 618, 621, 698, 1073-1075
- ヘアピン 1230, 1234, 1254
- ペダル線 1518, 1523, 1525, 1530
- ホルドの線 1273-1275, 1278, 1279, 1476, 1480
- ライン 417, 419, 470, 1542, 1543, 1545, 1548, 1560-1562, 1573
- リバーブテール 111
- リピート括弧 1593, 1595, 1596
- レセヴィブレタイ 1785
- 連符の大括弧 1831
- なぞる (「演奏技法」を参照してください)
- ナチュラル
  - 括弧 1052, 1062, 1428
  - 調号 1350
  - 入力 269
  - 非表示 1052, 1062, 1063, 1350, 1428
  - 表示 1052, 1062, 1063, 1350, 1428
- ナチュラルハーモニクス 1425
  - 外観 1429, 1432
  - 非表示 1426
  - 表示 1426
- ナチュラルマイナー (「スケール」を参照してください) (「調号」.も参照)
- ナット
  - コードダイアグラム 1176
  - タブ譜 173, 174, 1737
  - フレット楽器 169
- ナビゲーション 70, 479, 480
  - アイテム 480
  - 印刷プレビュー領域 39, 719
  - 音符 480
  - 音符入力 248, 251, 268

## ナビゲーション (続き)

楽譜領域 480  
 歌詞のポップオーバー 427  
 キーエディター 838, 839  
 記譜モード 480  
 キャレット 247  
 グラフィックスライス 638  
 弦楽器 169  
 コード記号のポップオーバー 353  
 再生 678, 680, 682  
 ジャンプ小節 70-72  
 小節 482  
 数字付き低音のポップオーバー 432  
 選択範囲 460, 461, 463, 480  
 打楽器エディター 838, 839  
 パートレイアウト 47, 51, 660  
 ハンドル 606, 638, 650, 655, 779  
 ピアノロール 838, 839  
 フィンガリングのポップオーバー 301  
 フレーム 606  
 フロー 481  
 ページ 481, 483, 679  
 ミキサー 890  
 リズムグリッド 241  
 リハーサルマーク 482  
 レイアウト 47, 51

## 名前

インストゥルメント (「インストゥルメント名」を参照してください)  
 インストゥルメントファミリー 960, 962  
 インストゥルメントフィルター 487, 490  
 グラフィックスライス 639  
 グループ 165, 1730  
 作詞者 1320  
 作曲者 1319  
 打楽器キット 157, 165  
 チャンネル 894  
 トークン 617  
 ドラムセット 157  
 符頭 1393, 1397  
 譜表ラベル (「譜表ラベル」を参照してください) (「インストゥルメント名」.も参照)  
 プレーヤー 203-206, 618, 1688, 1689  
 プレーヤーグループ 183, 185, 1695, 1696  
 フロー 210, 731, 1318  
 フロー見出し 595-597, 599, 600  
 ページテンプレート 577, 580  
 ページテンプレートのセット 572  
 ミキサー 886, 894  
 レイアウト 203, 205, 731

## 名前の変更

インストゥルメント 203, 206, 950  
 インストゥルメントのスコアの順番 964  
 インストゥルメントファミリー 960  
 インストゥルメントフィルター 487, 490  
 エンドポイント 717  
 グラフィックスライス 639  
 グループ 165, 1730  
 タイトル 210, 1318  
 打楽器キット 157, 165  
 チャンネル 894  
 ディヴィジ 1701, 1730, 1733  
 ドラムセット 157

## 名前の変更 (続き)

ファイル 75  
 譜表 203, 206, 950  
 プレーヤー 203-205  
 プレーヤーグループ 185  
 フロー 210, 1318  
 フロー見出し 600  
 ページテンプレート 580  
 ページテンプレートのセット 572  
 レイアウト 203, 205

## 波線

1461, 1495, 1551  
 演奏技法 1547  
 カスタム 984, 988, 992  
 グリッサンドライン 1461, 1462  
 ジャズアーティキュレーション 372, 375, 382, 383, 1495, 1499  
 トリル 1439, 1440  
 入力 378-383, 417  
 非表示 1545  
 表示 1543, 1545, 1563

## に

ニアセンド 907, 908

ニエンテ 1257

移動 1230, 1248

間隔 1259

サイズ 1259

削除 1258

スタイル 1259

テキスト 1257, 1259

デュレーション 345

入力 337, 340, 341, 343, 1258

丸 1257, 1259

二重 829

値 829

オクターブ 517, 537

音符のデュレーション 286

ケーデンス (「装飾音」を参照してください)

小節線 331, 334, 336, 1079, 1081-1083, 1604

スラッシュ 1716, 1816

全音符 223, 248, 251, 257, 261-263, 268, 278, 285, 286, 288

バス (「インストゥルメント」を参照してください) (「移調楽器」.も参照)

ピッチ 517

付点音符 25, 255, 1136

符尾 1058, 1858 (「声部」.も参照)

ライン 992

臨時記号 269, 306, 354, 520, 523, 524, 526, 1063

二重奏 616

設定 612, 613, 616

日時 622

印刷 724

書き出し 728

言語 62

コメント 545, 546, 549, 550

自動保存されたプロジェクト 115

注釈 740

トークン 62, 622

2 のべき乗ではない拍子記号 (「拍子記号」を参照してください)



## に変換

組段 557, 790  
フレーム 557, 794

## 日本語

歌詞のハイフン 1380  
コーダ 1599  
コード記号 1156  
セーニョ 1599  
ページサイズ 1017

## 日本語の歌詞でのスラー 1386

## 入力 234, 237

FX チャンネル 893  
messa di voce 337, 340, 341, 343, 345, 1256, 1257  
MIDI 94, 95, 290, 291, 297, 667, 701, 702, 707  
MIDI トリガー領域 458, 459  
MIDI ポイント 868, 870  
Unicode 420, 624  
VST インストゥルメント 667, 701, 702, 707  
アーティキュレーション 238, 298, 299  
アルペジオ記号 370, 373, 378  
アンサンブル 126, 141, 142  
位置 234  
入れ子状のスラー 1670  
入れ子状の連符 1827  
インストゥルメント 124, 136, 146, 950, 954, 958, 959  
インストゥルメントのスコアの順番 964, 965  
インストゥルメントの変更 248, 251  
インストゥルメントファミリー 960, 962  
インストゥルメントフィルター 489  
エクスプレッションマップ 1034, 1035, 1037  
エディター 840, 881  
エフェクトチャンネル 893  
エリジョンスラー 424, 427  
演奏技法 398, 399, 404, 406, 845, 846, 850, 1843  
扇形連桁 1134  
オクターブ 537  
オクターブ線 358, 360, 361, 363, 365  
オッサ譜表 1711  
音域の選択 251  
音楽記号 982, 987, 988  
オンコードのコード記号 346  
音程 537  
音符 238, 247, 248, 251, 261, 262, 268, 284, 288, 291, 511, 512, 517, 539, 845, 846  
音部記号 358, 361-363  
角括弧 1150 (「括弧」も参照)  
歌詞 424, 427  
カスタムインストゥルメント 124  
カスタム音楽記号 987  
カスタム注釈 987  
カスタムの演奏技法 404, 406, 982  
カスタムの調性システム 1003  
カスタムの符頭 973, 975  
カスタムの臨時記号 269, 1003, 1005  
カスタムページサイズ 1019  
カスタムライン 984, 986-988  
括弧 346, 352, 427, 429, 1052, 1170, 1237, 1272, 1276, 1408, 1428  
括弧付きの符頭 1408  
カボ 174, 176  
間隔 368, 369, 1342-1344  
キーエディター 835, 840, 845, 860, 868, 873, 881

## 入力 (続き)

キーボードショートカット 68  
記号 987  
ギタースクープ 373, 391, 392  
ギターダイブ 373, 387, 389, 390  
ギタータッピング 373, 397  
ギターディップ 373, 393  
ギターのライン 373, 394, 395  
ギタープリダイブ 386  
ギターバンド 373, 384, 385  
ギターバンドホールドの線 1477  
ギターポストバンド 386  
キャレット 242, 246  
キュー 453-455, 457  
休止 366, 368, 369  
休符 219, 229, 248, 271, 288  
強弱記号 337, 340, 341, 343, 345, 860, 864, 1242  
強弱記号の修飾語句 337, 340, 341, 343, 1242  
空白ページ 757, 758  
組段区切り 787, 790  
組段に付くテキスト 420  
グラフィックスライス 636  
グリッサンドライン 370, 373, 380, 381, 1462  
弦楽器 169  
弦の指示記号 398, 402, 413-415  
弦の指示記号の線 470  
コード 219, 278, 284, 539  
コード記号 346, 348, 353-356, 921  
コード記号の括弧 346, 352, 1170  
コード記号領域 353  
コードダイアグラム 1157, 1177, 1178  
コードダイアグラムシェイプ 1186  
コメント 546, 548  
コンデンシンググループ 808  
再生効果 1035, 1047  
再生テンプレート 708, 709  
サウンド 661, 667, 669, 707, 708, 713-715  
ジャズアーティキュレーション 370, 372, 382, 383  
ジャズの装飾音 372, 376, 377  
弱起 (アウフタクト) 311, 312, 317, 319, 492  
小節 329, 331-334  
小節休符 273, 329  
小節線 329, 331, 334, 336, 1091  
小節線の結合 1091  
小節番号のカウント 441, 452  
小節番号の変更 1105, 1106  
小節リピート記号 441, 442, 451  
小副括弧 1150  
スイッチ 1035  
スウィング再生 323  
数字付き低音 427, 429, 432, 433, 1269  
数字付き低音のホールドの線 427, 429, 470, 1273-1275  
スクープ 391, 392  
スコアの順番 964, 965  
ステージテンプレート 897, 899, 900, 903, 904  
ステムレット 1132  
スペーステンプレート 905, 907, 908, 910, 911  
スラー 299, 395, 1670  
スラッシュ付き声部 259, 1628  
スラッシュ符頭 441, 442, 450  
スラッシュ領域 441, 450  
声部 257, 259, 507

## 入力 (続き)

設定 235, 237, 238, 345  
 装飾音 370, 371, 376, 377  
 装飾音符 103, 275, 1329  
 挿入モード 262  
 ソリスト 139  
 タイ 219, 274  
 ダイブ 386, 387, 389, 390  
 タイムコード 434, 1581, 1587  
 打楽器キット 104, 146, 157, 160, 161, 263, 845, 846,  
 850, 950, 956, 1843  
 打楽器キット内のインストゥルメント 161  
 打楽器キットにおける音符 104, 263, 266, 846  
 打楽器のレジェンド 1851  
 タッピング 373, 397  
 タブ譜 268, 1739  
 段階的強弱記号 337, 340, 341, 343, 345  
 段階的テンポ変更 321, 324, 326, 327, 873  
 チャンネル 893  
 中央配置の連桁 1122  
 中括弧 1150  
 中間休止記号 366-369  
 注釈 987  
 長休符 1649  
 調号 305, 306, 308, 309, 1051  
 調性システム 1003, 1358  
 追加のリピート括弧 443, 445  
 ディヴィジ 1725, 1727  
 ディヴィジ譜表の音符 1727  
 ディップ 393  
 テキスト 420, 624, 1565  
 テンポ記号 320, 321, 324, 326, 327, 873  
 テンポの等式 321, 324, 326, 327  
 トークン 617, 624  
 通し番号付き小節領域 441, 452  
 特別な調号 309, 1003, 1006  
 ドラムセット 104, 146  
 トリル 372, 376, 377  
 トリルの音程 1444  
 トレモロ 440, 442, 447, 449  
 ニエンテ 337, 340, 341, 343, 345, 1258  
 入力と編集 234  
 ハープのペダリング 398, 401, 411-413  
 ハーモニクス 1426  
 拍 330, 332, 334  
 パネル 224  
 パラグラフスタイル 934  
 パンニング 897  
 ハンマーオン 373, 395  
 左手のフィンガリング 304  
 ピッチのマッピング 533, 534, 542  
 ビデオ 213  
 ビブラートバー 384, 386, 387  
 ビブラートバーのスクープ 391, 392  
 ビブラートバーのダイブ 389, 390  
 ビブラートバーのディップ 393  
 ビブラートバーのライン 394, 395, 470  
 微分音の臨時記号 1060  
 拍子記号 311, 315, 316  
 ファミリー 960, 962  
 フィンガリング 301  
 フェルマータ 366, 368, 369  
 フォントスタイル 934, 937

## 入力 (続き)

副括弧 1150  
 複数の声部への音符の入力 257  
 付点 238, 248, 251, 255  
 符頭 850, 973, 975, 1843  
 符頭の括弧 1408  
 符尾 257, 1858 (「声部」.も参照)  
 符尾の方向 267  
 譜表 136, 141, 146, 755, 756, 957, 1707, 1711, 1722,  
 1723, 1725  
 プルオフ 373, 395  
 フレーム 603  
 フレーム区切り 787, 793, 794  
 フレームチェーン 613  
 プレーヤー 126, 136, 142  
 プレーヤーグループ 184  
 プレーヤーの順番 964, 965  
 プレーヤーリスト 1322  
 プレス記号 366-369  
 フロー 87, 188, 189, 551  
 フロー見出し 597, 599  
 フロー見出しの変更 591, 592  
 プロジェクトテンプレート 85  
 ページ 757, 758  
 ページサイズ 1019  
 ページテンプレート 575, 577  
 ページテンプレートのセット 570  
 ページテンプレートの変更 590  
 ページ番号の変更 586  
 ペダル線 398, 401, 407-410  
 ベロシティ 857  
 ベンディング 386  
 ホールドの線 470, 1273-1275  
 ポストバンド 386  
 ポップオーバー 25, 224  
 マーカー 434-436, 673  
 マウス入力 235, 236  
 右手のフィンガリング 304  
 無音程打楽器 845, 846, 950, 956  
 メトロノームマーク 320, 326, 327  
 文字スタイル 937  
 ライン 399, 404, 406, 416, 417, 419  
 ラインのテキスト 1565  
 リズミックフィール 321, 694, 696  
 リズムグリッド 241  
 リテイク 407, 408, 410, 1525  
 リハーサルマーク 434  
 リバース 905, 910  
 リピート括弧 439, 442-445  
 リピートマーカー 439, 442, 446, 447  
 両立しない演奏技法のグループ 1037  
 臨時記号 238, 269, 306, 1051  
 レイアウト 192, 195, 198  
 レベルの変更指示 407, 408, 410  
 連桁 248, 1114  
 連符 103, 281, 1827, 1828  
 任意の音符 (「括弧付きの符頭」を参照してください) (「括弧付きのコード記号」.も参照)

## ぬ

塗りつぶした符頭 1389

## の

ノートベロシティ  
MIDI インポート 101, 295

ノート名  
コード記号 349, 351, 941, 1157  
ハーブのペダリング 1506, 1507, 1513  
符頭 1396  
ホルンの支管の指示記号 1295

ノーブレイクスペース 424, 427, 1378

ノッチ  
オクターブ線 1206  
スラー 1663, 1664  
タイ 1778, 1779  
ペダル線 (「ペダルのリテイク」を参照してください)

ノンアルペジオ記号 (「アルペジオ記号」を参照してください)

ノンドロップフレームのタイムコード 1586

## は

バー  
グラフ 878

パーカッションマップ 1039  
MIDI インポート 98  
MIDI ノート 42, 1039  
エンドポイント 661, 710, 714  
音符入力 266  
書き出し 1044  
カスタム 1042  
再生効果 1039  
作成 1042  
ダイアログ 1039  
ファイル形式 1044  
フィルター 1039  
読み込み 1044  
リセット 1039  
リンク 661, 714

「パーカッションマップ」ダイアログ 1039

バージョン  
ファイル 79

パーセンテージ  
音符のデュレーション 1028, 1683  
縮尺サイズ 473, 724, 737, 1172, 1299  
浄書モード 566, 567  
垂直方向のスペーシング 567, 749, 776  
水平方向のスペーシング 566, 644, 764  
テンポ記号 1746, 1754, 1755

パート (「レイアウト」を参照してください)

パート形式 822, 823  
組段の形式設定 822

「パート形式をコピーする」ダイアログ 823

パート名 203, 205

パートレイアウト (「レイアウト」を参照してください)

ハーブ (「インストゥルメント」を参照してください) (「ハーブのペダリング」.も参照)

ハーブディミニッシュ (「スケール」を参照してください) (「音程」.も参照)

ハーブのペダリング 143, 1506  
移動 502, 506, 652  
音域外の音符 1403  
外観 1506, 1507  
ガイド 490, 1506, 1509

ハーブのペダリング (続き)  
グリッサンドライン 1466, 1467, 1506  
計算 413  
再生 1506  
十字線 656  
浄書オプション 1507  
ダイアグラム (「ハーブペダルダイアグラム」を参照してください)  
デフォルト設定 1507  
入力 398, 401, 411-413  
ノート名 1507  
倍音 1513  
背景の塗りつぶし 1512  
非表示 1509  
表示 1509  
フィルター 467  
ポップオーバー 401  
余白 1512  
枠線 1510, 1511

ハーブペダルダイアグラム 1506, 1507  
位置 1513  
表示 1507

ハーブホルディミニッシュ  
コード記号 351  
スケール 535, 542

パームミュート (「演奏技法」を参照してください) (「ギターテクニック」.も参照)

ハーモニクス 1425  
アーティフィシャル 1425  
外観 1429, 1432, 1433  
クエスチョンマーク 1426  
弦番号 1397, 1740  
再生 1425-1427  
スタイル 1429, 1433  
タブ譜 1426, 1429  
ナチュラル 1425  
入力 1426  
倍音 1427  
ピッチ 1427  
非表示 1426  
表示 1426  
符頭 967, 1394, 1426, 1429  
臨時記号 1428

ハーモニクマイナー (「スケール」を参照してください) (「調号」.も参照)

バイオリン (「インストゥルメント」を参照してください)

倍音 1425, 1427  
カポ 174, 176  
ハーブのペダリング 1513, 1514  
非表示 (「背景の塗りつぶし」を参照してください)  
連桁 1128

背景 56  
演奏技法 1538  
カラー 57, 58, 932, 935  
強弱記号 1239  
グラデーション 58  
コード記号 1168  
タイ 1355, 1813  
打楽器のレジェンド 1854  
調号 1355  
ディヴィジ作成のラベル 1735  
テキスト 421, 625, 630, 932, 935, 1538, 1571, 1774

## 背景 (続き)

塗りつぶし 821, 1168, 1239, 1302, 1313, 1355, 1423, 1538, 1571, 1735, 1774, 1813, 1854  
 拍子記号 1813  
 フィンガリング 1302  
 符尾 1423  
 プレーヤーラベル 821  
 ヘアピン 1423  
 ページ 57  
 ライン 1571  
 臨時記号 1355

## 背景

の塗りつぶし 1774  
 演奏技法 1538, 1539  
 強弱記号 1239, 1240  
 弦の指示記号 1313  
 コード記号 1155, 1156, 1168, 1169  
 小節番号 1096  
 小節リピート記号 1610  
 タイ 1355, 1813  
 打楽器のレジェンド 1854, 1855  
 調号 1355  
 デヴィジ作成のラベル 1735  
 テキスト 932, 1538, 1572, 1773, 1774  
 ハープのペダリング 1512  
 拍子記号 1813  
 フィンガリング 1302  
 符尾 1423  
 譜表線 821, 1168, 1239, 1291, 1302, 1538, 1571, 1774, 1854  
 プレーヤーラベル 821  
 ヘアピン 1423  
 余白 932, 1169, 1240, 1423, 1512, 1539, 1572, 1773, 1855  
 ライン 988, 994, 1571, 1572  
 臨時記号 1355

## 排除グループ

エクスプレッションマップ 1020

## 配置 495, 497, 923

MIDI インポート 95  
 アイテム 656  
 アルペジオ記号 1456  
 移調 (「移調」を参照してください)  
 インストゥルメントの変更 148  
 インストゥルメント名 207, 1692  
 エクスプロード 510-512, 517  
 演奏技法 1541, 1545, 1549  
 オクターブ線 1202  
 オクターブ線の数字 1202, 1203  
 音符 1401, 1860-1863 (「声部列の並び順」も参照)  
 音符の変換 (「変換」を参照してください)  
 カウント 1607, 1623  
 楽章 187  
 歌詞 1368, 1370  
 記号 1600  
 休符 1640, 1643, 1645  
 強弱記号 1230-1233, 1260-1263  
 組段 749, 764, 776, 1687, 1720  
 コード記号 355, 356, 511, 512, 517, 1155-1157, 1160, 1161, 1167  
 コピー 497, 499, 500  
 コンデンシング 799, 1701  
 十字線 656  
 小節 764, 1079, 1088, 1720

## 配置 (続き)

小節線 1079, 1088  
 小節番号 1101, 1102, 1623  
 数字付き低音 1269  
 声部 499, 506-508, 1401, 1860-1863  
 装飾音 1436  
 段階的強弱記号 1233  
 調号の臨時記号 1347  
 ツール 495, 527  
 デヴィジ作成のラベル 817, 1733  
 テキスト 421, 625, 631, 932, 935, 1769  
 テンポ記号 1747  
 トリル 1437  
 貼り付け 500  
 拍子記号 1809  
 フィルター 467-469, 485  
 フィンガリング 1287, 1288  
 フェルマータ 1338, 1340, 1341  
 付点 1401, 1862  
 譜表 749, 764, 771, 776, 1687, 1720  
 譜表の入れ替え 509  
 譜表ラベル 207, 1687, 1692, 1697, 1701  
 フレーム 604  
 プレス記号 1341  
 フロー 187  
 ページ 44, 54  
 ページ番号 1501  
 ペダル線 1517, 1518, 1521, 1523-1525  
 ライン 1554, 1562  
 リデュース 509, 799  
 リハーサルマーク 1574  
 リピート回数 1607  
 リピート括弧 1594  
 リピートマーカー 1599, 1600

## 配置設定 645, 646, 784

音符のスペーシング 643-646  
 組段あたりの小節数 785, 790  
 コンデンシング 804  
 小節の移動 786  
 譜表のスペーシング 748, 776  
 フレームあたりの組段数 786, 794  
 フロー 551, 645, 646, 760  
 別のレイアウトへコピー 822  
 リセット 788  
 ロック 785-787

バイパス 888, 895 (「ミュート」も参照)

ハイハット (「無音程打楽器」を参照してください)

## ハイフン

歌詞 424, 427, 1363, 1379-1381  
 間隔 1381  
 強弱記号 337, 1236, 1249, 1253  
 テンポ記号 1758  
 日本語 1380  
 拍子記号 1804, 1807  
 譜表ラベル 1691

ハウススタイル (「ライブラリー」を参照してください)

ハ音記号 (「音部記号」を参照してください)

## 拍

1分あたり 1752  
 音符の生成 512  
 削除 330, 492, 1073-1075  
 弱起 (アウフタクト) (「弱起 (アウフタクト)」を参照してください)

## 拍 (続き)

選択 466  
 相対位置 477  
 挿入モード 491, 492  
 ディスプレイ 698, 701  
 入力 330, 332, 334, 491, 492  
 ポップオーバー 330  
 録音レイテンシー 295, 296

## 拍グループ 25, 1112, 1136

カットコモンタイム 1139  
 スラッシュ符頭 1630  
 タイ 1776  
 定義 311, 1138  
 拍子記号 1804, 1805  
 分子 1804

## 拍の単位 1752

設定 324  
 テンポ記号 322  
 拍の削除 330  
 拍の入力 330  
 メトロノームマーク 472, 1752  
 連符 284

## 拍の変調

連符 1829

## はさみ 219

スラッシュ 1631  
 タイ 1786  
 有効化 219

## 端

カラー (「ページの形式変更」を参照してください)  
 フレーム 595, 601, 605, 606, 628, 629, 633  
 ページ 584, 768  
 余白 768

## 場所

バックアップフォルダー 117

## パス

MIDI ファイル 105, 106  
 MusicXML ファイル 92  
 オーディオ 110  
 グラフィックスライス 640  
 テンポトラック 109  
 バックアップ 117  
 フロー 88  
 プロジェクト 618  
 レイアウト 730

## バス記号 (「音部記号」を参照してください)

## バスドラム (「無音程打楽器」を参照してください)

## 破線 652

アタッチメント 478, 502, 652  
 オクターブ線 1201  
 歌詞 424, 427, 1379-1381  
 ギターバンドホルドの線 1476, 1477  
 弦の指示記号の線 1313, 1543  
 ジャズアーティキュレーション 1499  
 十字線 656  
 浄書モード 648  
 小節線 311, 331, 334, 336, 1079, 1081-1083, 1714, 1796, 1809 (「結合拍子の拍子記号」も参照)  
 数字付き低音 1273  
 スラー 1663-1665  
 タイ 1778-1780  
 テンポ記号 1757-1760  
 ビブラートバーのライン 394, 395, 1485

## 破線 (続き)

譜表間 485  
 譜表ラベル 1691  
 フレーム 595, 1179  
 ヘアピン 1249  
 ペダル延長線 1530  
 ペダル線 1529  
 ライン 417, 652, 986, 988, 992, 1551

## パターン

Groove Agent 104  
 MIDI トリガー領域 458, 459, 717  
 回転 531  
 逆行 528, 529  
 コードダイアグラム 938, 1175, 1185-1187  
 スケール 535, 542  
 転回 528, 529  
 ドラムセット 104  
 反復 497, 532, 533, 542  
 ピッチ 532, 533, 542  
 マッピング 533-535, 542

## 発音上のピッチ 195, 1425

再生 685  
 ハーモニクス 1429  
 ピッチの入力 238  
 レイアウト 194

## バックアップ 116

数 117  
 自動保存 (「自動保存」を参照してください)  
 場所 117

## 撥弦楽器

アルペジオのフィンガリング 1303, 1304  
 弦楽器 1397  
 弦の指示記号 (「弦の指示記号」を参照してください)  
 スライド 1305, 1307  
 タブ譜 (「タブ譜」を参照してください)  
 チューニング 168  
 フィンガリング 301, 1287, 1299  
 ポップオーバー 304

## 抜粋 (「フロー」を参照してください) (「グラフィックスライス」も参照)

## パッチ

エンドポイント 710  
 再生 710, 1019, 1039

## バッファ

オーディオ 295, 296

## 羽根

角括弧 1144  
 小節線 1086

## 羽根つき連符 (「扇形連符」を参照してください)

## パネル 40, 224

MIDI インストゥルメント (「トラックインスペクター」を参照してください)  
 VST インストゥルメント (「トラックインスペクター」を参照してください)  
 アルペジオ記号 375, 379  
 印刷オプション 721  
 印刷モード 719  
 演奏技法 402, 406, 409  
 延長 369  
 オクターブ線 365  
 音符 223  
 音部記号 361, 363, 365  
 キーエディター 831

## パネル (続き)

キーボード 229  
 ギターテクニク 375, 385, 390, 392, 393, 395  
 記譜記号 228  
 記譜モード 218, 223, 228, 826  
 キュー 455, 457, 1227  
 休止 369  
 強弱記号 340, 343  
 グラフィックスライス 560  
 グリッサンドライン 375, 381  
 形式設定 556  
 再生モード 658  
 ジャズアーティキュレーション 375, 383  
 浄書モード 553, 826  
 小節 331, 333  
 小節線 331, 336  
 小節リピート記号 442  
 スラッシュ符頭 442  
 設定モード 120  
 装飾音 375, 377, 379, 381, 383  
 調号 306, 309  
 調性システム 309  
 テンポ 324, 327  
 ドラムパッド 233  
 トレモロ 442, 449  
 非表示 34, 45, 48  
 表示 34, 45, 48, 228, 556  
 拍子記号 313, 316, 319  
 フレーム 559  
 プレーヤー 120, 121  
 フレットボード 231  
 フロー 120, 132  
 プロパティ 826  
 ページ 562  
 ペダル線 402, 409  
 ミキサー 883  
 リピート括弧 442  
 リピートマーカー 442  
 臨時記号 309  
 レイアウト 120, 129, 720

## 幅

messa di voce 1230, 1254  
 ウィンドウ 43, 53  
 エリジョンスラー 1361, 1368, 1386  
 オシニア譜表 1712  
 音符 838  
 音符のデュレーション 643, 852 (「音符のスペーシング」も参照)  
 角括弧 1141, 1145, 1148  
 囲み線 1096, 1575  
 加線 1051, 1399  
 キーエディター 838  
 ギターバンド 1476  
 空白の小節 1076, 1646  
 組段 651, 764, 1720  
 組段の分割記号 1717  
 グラフィック 946, 979, 1009, 1014  
 グラフィックスライス 637  
 鍵盤 229  
 コードダイアグラム 1190  
 小節 643, 648, 764, 1076, 1646, 1720  
 小節線 1079  
 タイ 1777, 1788

## 幅 (続き)

打楽器エディター 838  
 タセットバー 1649, 1651  
 中括弧 1141, 1145  
 長休符 1651  
 テキストの枠線 629, 1570, 1772  
 トラック 677, 838  
 ピアノロールエディター 838  
 拍子記号 1814  
 広がり付きのヘアピン 1252  
 符頭 1391  
 符頭の括弧 1407, 1412  
 フレーム 605, 633  
 ヘアピン 1230, 1234, 1248, 1254  
 ページ 744, 745, 764, 1017, 1019  
 余分な譜表 1708  
 ライン 764, 992  
 ラインの枠線 1570  
 臨時記号 1056  
 レセヴィブレタイ 1785  
 列 80  
 連桁 1117, 1130  
 幅広アルペジオ記号 1454, 1455  
 早送り 678, 682, 698  
 速さ  
 bpm 1752  
 アルペジオ記号 1458, 1459  
 再生 683, 1343, 1745  
 スウィング再生 692, 693, 696, 697  
 装飾音符 1334  
 テンポ記号 1745, 1752, 1755, 1757  
 トリル 1439, 1449, 1451  
 トレモロ 1820  
 ビデオ 216  
 フレームレート 216  
 変更 320, 683, 873, 874, 1343, 1752, 1755  
 連桁 (「扇形連桁」を参照してください)  
 パラグラフスタイル 929, 932, 1098, 1579  
 インストゥルメントの変更ラベル 156  
 インストゥルメント名 1697  
 上書き 627, 631, 1768  
 書き出し 913, 932  
 歌詞 1374, 1376  
 歌詞番号 1374, 1376  
 コンデンシング 817, 1697  
 作詞者 1320  
 削除 932  
 作成 934  
 作曲者 1319  
 小節番号 1098, 1099, 1107  
 水平方向の配置 932  
 存在しないフォント 80  
 ダイアログ 932  
 タイトル 573, 932, 1318  
 打楽器キット 1698  
 タチエット 795  
 著作権 1321  
 ディヴィジ 1697, 1730, 1733  
 テキストの入力 420  
 テキストフレーム 627  
 デフォルト 937  
 デフォルトとして保存 932  
 譜表ラベル 1697, 1698

## パラグラフスタイル (続き)

プレーヤーグループのラベル 1695, 1697  
 プレーヤーラベル 817, 1733  
 フロー見出し 595  
 ページ番号 1501  
 変更 627, 932, 934, 937, 1768  
 読み込み 913, 932  
 リセット 627, 913, 1768  
 リハーサルマーク 1579  
 リピートマーカー 1599  
 枠線 932

「パラグラフスタイル」ダイアログ 932  
 「パラグラフスタイルを変更」ダイアログ 1768  
 バラライカ (「フレット楽器」を参照してください)  
 バランス

ミックス (「ミキサー」を参照してください)

## バリエーション

インストゥルメントファミリー 960, 962  
 順番 964, 965  
 追加 124, 146, 957-959  
 変更 148

## ハリウッドスタイルのトリル

1446  
 位置 1448  
 音程 1448  
 表示 1447

貼り付け (「コピー」を参照してください)

バルトークピチカート (「演奏技法」を参照してください)

## バルブ

フィンガリング 1309

## バレ

外観 1176

## バレエ

1536  
 コードダイアグラム 938, 1176, 1187  
 追加 1186  
 入力 399, 404, 406  
 非表示 1540

## バロック

アポジャトゥーラ 1327, 1334  
 数字付き低音 (「数字付き低音」を参照してください)  
 装飾音 375, 1434  
 チューニング 685  
 トリル 1449, 1452

## 範囲

アルペジオ記号 378, 379, 1456  
 入れ替え 509  
 インストゥルメント 143, 169  
 音符 169, 950, 1022, 1403, 1466, 1467  
 音符のコピー 500  
 カウント 1619-1621  
 カラー 58, 60, 1403  
 キュー 1208  
 グリッサンドライン 1022, 1465-1467  
 弦楽器 169  
 鍵盤 229  
 再生時の強弱記号 1265, 1266  
 ジャンプ小節 70  
 十字線 656  
 小節番号 1097, 1619-1621  
 スラー 1662  
 選択 463  
 挿入モード 492, 493  
 打楽器のレジェンド 1852  
 通し番号付き小節領域 1619-1621

## 範囲 (続き)

ピッチ 169, 950, 1022, 1403, 1466, 1467  
 譜表ラベル 1701  
 フレーム 42  
 プレーヤー番号 1701  
 フロー 726, 727  
 フロー見出しの変更 592  
 プロパティ 827, 828  
 ページ 724, 726, 727  
 ページサイズ 736, 1017, 1019  
 ページテンプレートの変更 590  
 ページ番号の変更 588  
 メトロノームマーク 1752, 1753  
 ユニゾン 1727, 1728  
 用紙サイズ 736  
 ライン 419, 1456, 1560

## 半音階のグリッサンド

1461  
 再生 1466, 1467

## 半月形符頭

## 番号

値フィールド 829  
 移動 652  
 インストゥルメント 139, 144, 145, 817, 900, 1691, 1692  
 解析 117  
 書き出し 117, 118  
 歌詞 1384, 1385  
 歌詞のライン 1382-1384  
 空白の小節 117  
 組段 117, 786  
 組段あたりの小節数 785  
 弦楽器 (「弦の指示記号」を参照してください)  
 コードごとの音符 512  
 コードダイアグラム 938, 1182, 1184, 1186, 1187  
 コンデンシング 817, 1699, 1701  
 小節 (「小節番号」を参照してください)  
 小節線 691, 1592  
 小節リピート記号 1612, 1613  
 数字付き低音 (「数字付き低音」を参照してください)  
 スラーのセグメント 1674  
 スラッシュ符頭 1634  
 スラッシュ領域のカウント 1633  
 タブ譜 (「タブ譜」を参照してください)  
 長休符 1649-1653  
 通し番号付き小節領域 1618-1620  
 ハイフン 1379, 1381  
 バックアップ 117  
 拍子記号 1805  
 フィンガリング 1310  
 譜表 117, 750, 756, 957, 1706, 1707, 1710, 1711  
 譜表線 753, 755, 1848, 1849  
 譜表ラベル 1685, 1691-1693, 1699, 1701  
 プラグイン 661, 664, 665  
 フレームあたりの組段数 786  
 プレーヤーラベル 817  
 フレット (「フレット」を参照してください) (「タブ譜」も参照)  
 フロー (「フロー番号」を参照してください)  
 ページ 588, 1501, 1502  
 リハーサルマーク 1576, 1577  
 リピート 691, 1592  
 レイアウト 197

- 番号 (続き)  
 連桁線 1128  
 連符 1834
- 番号の付け直し  
 インストゥルメント 145  
 インストゥルメントフィルター 487, 490  
 小節 1104-1106  
 フロー 189  
 ページ 586, 588, 589  
 レイアウト 197
- 半小節  
 音符のグループ化 919, 1136, 1139  
 カットコマンドタイム 1139  
 タイ 919, 1136, 1139  
 連桁のグループ化 1112, 1138
- パンジョー (「フレット楽器」を参照してください)
- 反進行 517
- 半ステップ  
 グリッサンドライン 1461, 1466, 1467  
 弦のピッチ 169  
 数字付き低音 431  
 調性システム 1357, 1358  
 トリル (「半ステップのトリル」を参照してください)  
 ハープのペダリング 1506  
 ピッチバンド 865  
 ベンドの音程 1466, 1467, 1475, 1491  
 臨時記号 269, 1051
- 半ステップのトリル 1441, 1449  
 位置 1448  
 外観 1446  
 入力 372, 376, 377  
 非表示 1438, 1442  
 表示 1438, 1442
- パンセ (「装飾音」を参照してください)
- 伴奏  
 再生 1267  
 入力 248, 251, 255, 257, 278  
 和音 278, 1154, 1157, 1175, 1177
- 反転 474, 477, 528, 529, 1418, 1668, 1782  
 アーティキュレーション 1069, 1070  
 印刷 735  
 演奏技法 1541  
 音符 1418, 1420  
 カラー 59  
 ギターテクニック 1492  
 ギターバンド 1478  
 コード記号 1162  
 再生 (「スクラブ再生」を参照してください)  
 数字付き低音 1278  
 スラー 1657, 1667, 1668  
 装飾音符の符尾 1327  
 タイ 1782  
 ピッチ 528, 529, 540, 541  
 フィンガリング 1290  
 符尾 1121-1123, 1127, 1416, 1418, 1420  
 ライン 1558, 1559, 1565  
 リズム 528, 529, 541  
 リセット 477  
 両面印刷 735  
 連桁 1118  
 連符 1832
- バンド 84  
 EQ 888  
 インストゥルメントファミリー 960, 964  
 ステージテンプレート 897  
 打楽器 956 (「打楽器キット」も参照)  
 追加 77, 126  
 譜表のグループ化 964, 1143  
 プレーヤーの順番 121, 137, 963, 964  
 プロジェクトテンプレート 77, 84  
 ページサイズ 1017
- ハンドツール 43  
 ページのドラッグ 483
- ハンドル  
 MIDI トリガー領域 717  
 アルペジオ記号 1456  
 移動 605, 652, 1256  
 演奏技法 1543, 1545, 1548  
 オクターブ線 1205  
 音符のスペーシング 648, 650  
 角括弧 1414  
 歌詞 1369, 1372, 1379  
 ギターバンド 1480, 1481, 1483  
 強弱記号 1246, 1248, 1255, 1256  
 組段のスペーシング 779  
 グラフィックスライス 637, 638  
 グリッサンドライン 1465  
 弦の指示記号 1545  
 コード記号 942, 944, 946, 1162  
 ジャズアーティキュレーション 1497  
 数字付き低音 1273, 1278, 1279  
 スラー 1662, 1673, 1675  
 選択 650, 655  
 タイ 1787, 1788, 1790-1792  
 打楽器のレジェンド 1852  
 デュレーション 470  
 テンポ記号 1747  
 通し番号付き小節領域 1618  
 長さ 470  
 フィンガリング 1288, 1306  
 符頭の括弧 1412, 1414  
 符尾 1421, 1822  
 譜表のスペーシング 779  
 フレーム 605, 606, 612, 616, 633  
 ヘアピン 1248, 1255, 1256  
 ペダル線 1518  
 ベンドの音程 1480, 1481, 1483  
 ライン 1573  
 リピート括弧 1593, 1594  
 リリース 1480, 1483  
 連桁 1120  
 連符の大括弧 1831
- パンニング 884, 886, 892, 896, 897, 899, 900, 903, 907, 908  
 バンピング 356  
 反復 (「コピー」を参照してください) (「リピート」も参照)  
 反復開始線 331, 1079, 1081  
 カウント (「リピート回数」を参照してください)  
 組段区切り 1083  
 調号 1083  
 入力 329, 331, 334, 336  
 リピート回数 689, 1607  
 反復記号パネル 442



反復終了線 [331](#), [1079](#), [1081](#)  
 カウント (「リピート回数」を参照してください)  
 入力 [329](#), [331](#), [334](#), [336](#)  
 リピート回数 [689](#), [691](#), [1592](#), [1607](#)  
 リピート括弧 [1591](#)

半分にする (「二重」を参照してください)

ハンマーオン [1488](#)  
 位置 [1489](#)  
 移動 [652](#), [1492](#)  
 削除 [1493](#)  
 スラー [1488](#)  
 タブ譜 [1491](#)  
 入力 [395](#)  
 非表示 [1491](#)  
 表示 [1491](#)  
 譜表に対する位置 [1492](#)  
 ポップオーバー [373](#)

## ひ

非圧縮の MusicXML [92](#), [93](#)

ピアノ [143](#)

アルペジオ記号 [378](#), [379](#)  
 インストゥルメントファミリー [960](#)  
 押さえる音符 (「括弧付きの符頭」を参照してください)  
 替え指のフィンガリング [1288](#)  
 強弱記号 (「強弱記号」を参照してください)  
 グリッサンドライン [1466](#)  
 コード記号の再生 [675](#)  
 再生 [1535](#)  
 スコア上の位置 [137-139](#), [964](#)  
 スコアの順番 [137-139](#), [964](#)  
 スラー [299](#)  
 声部 [257](#), [1858](#)  
 中括弧 [1144](#)  
 手の指示 (「ライン」を参照してください)  
 トレモロ [447](#), [449](#), [1123](#)  
 二重奏 [612](#), [613](#), [616](#)  
 パンニング (「ステージテンプレート」を参照してください)  
 拍子記号 [1811](#)  
 符尾 [257](#), [1125](#), [1858](#)  
 譜表をまたぐ [1123](#), [1125-1127](#), [1420](#)  
 ペダル線 (「ペダル線」を参照してください)  
 リダクション (「リデュース」を参照してください)  
 (「コンデンシング」.も参照)  
 リテイク [1517](#), [1522](#), [1525](#)  
 リバーブ (「スペーステンプレート」を参照してください)  
 レベルの変更指示 [1517](#), [1522](#)  
 連桁 [1123](#), [1125-1127](#)

ピアノロールエディター [843](#)

演奏されるデュレーションと記譜されたデュレーション [852](#)  
 音符の移調 [849](#)  
 音符の移動 [847](#)  
 音符のコピー [851](#)  
 音符の削除 [852](#)  
 音符の選択 [840](#)  
 音符のデュレーション [845](#), [848](#), [852](#), [853](#)  
 音符の入力 [845](#)  
 再生ヘッド [679](#)

ピアノロールエディター (続き)

ズーム [838](#)  
 スクロール [679](#), [839](#)  
 声部の個別再生 [843](#)  
 高さ [837](#), [838](#)  
 ツール [833](#)  
 トラック [669](#)  
 ナビゲーション [839](#)  
 ピッチ [55](#), [843](#), [845](#), [849](#)  
 ミドル C [55](#)  
 連符 [843](#)

ピーキング [891](#)

非移調レイアウト [194](#)

ビープ (「クリック」を参照してください)

非減衰 (「演奏技法」を参照してください) (「レセヴィブ  
 レタイ」.も参照)

非サステイン楽器 [1264](#)

ベロシティー [856](#) (「ベロシティーエディター」.も参  
 照)

菱形の符頭 [1390](#), [1391](#), [1394](#), [1536](#)

打楽器 [1840](#), [1843](#)

ハーモニクス [1426](#), [1429](#), [1432](#), [1433](#)

リセット [1395](#)

臨時記号 [1428](#)

ヒストグラムツール [875](#), [876](#), [879](#)

値の変更 [857](#), [877](#)

グラフの種類 [878](#)

コントロール [876](#), [877](#)

非表示 [875](#)

表示 [875](#)

フィルター [877](#)

棒グラフ [878](#)

領域グラフ [878](#)

左ゾーン [40](#), [41](#)

印刷モード [720](#)

記譜モード [223](#)

浄書モード [556](#), [559](#), [560](#)

設定モード [121](#)

非表示 [48](#)

表示 [48](#)

左手のフィンガリング [1299](#)

位置 [1287](#), [1301](#)

弦の指示記号 [1314](#)

サイズ [1299](#)

浄書オプション [1287](#)

スライド [1305](#), [1307](#)

タッピング (「タッピング」を参照してください)

デフォルト設定 [1287](#)

入力 [301](#), [304](#)

背景の塗りつぶし [1302](#)

ハンマーオン (「ハンマーオン」を参照してください)

プルオフ (「ハンマーオン」を参照してください)

ポップオーバー [304](#)

文字 [1305](#)

左パン [907](#), [908](#)

左フック (「ライン」を参照してください)

左ページ [567](#), [573](#)

から開始 [760](#)

形式設定 [581](#), [612](#), [613](#), [616](#)

二重奏 [612](#), [613](#), [616](#)

ピチカート (「演奏技法」を参照してください)

ビッグバンド (「バンド」を参照してください) (「ジャ  
 ズ」.も参照)

- ピッコロ (「インストゥルメント」を参照してください)  
(「移調楽器」.も参照)
- ピッチ  
 MIDI 42, 831, 843, 844, 865, 866, 1019, 1039, 1466  
 MIDI トリガー領域 458, 459, 717  
 移調 (「移調」を参照してください) (「移調音」.も参照)  
 移調音 146, 195, 198, 199, 201, 950, 958, 959  
 インストゥルメント 146, 148, 198–201, 950  
 エクスプレッションマップ 1020, 1034  
 オクターブ線 363, 365, 1201  
 音部記号 198–200, 362, 363, 950, 1191  
 音符入力 251, 269  
 回転 531, 541  
 開放弦 169, 171  
 ギターテクニック 1491  
 ギターの弦 171  
 キュー 1213  
 クリック 294, 672  
 弦楽器 169, 171, 938, 1186, 1187, 1397, 1506  
 弦の変更 1740  
 交差 801, 811  
 コードダイアグラム 938, 1186, 1187  
 再生 685  
 識別 42  
 実音 195  
 ジャズアーティキュレーション 1495  
 スラッシュ符頭 259, 1629  
 装飾音 1435  
 調号 1346  
 ディスプレイ 42  
 ティップ 1491  
 トリル 1441, 1443, 1444, 1447, 1449, 1452  
 入力 238  
 ハーモニクス 1425–1427  
 倍音 1425, 1427  
 範囲 950, 1022, 1403, 1466, 1467  
 反転 528, 529, 540  
 反復 532, 533, 542  
 ピアノロールエディター 843, 849  
 微分音 538, 1059, 1357  
 フィルター 467, 468  
 符頭 1388, 1393, 1396, 1397  
 フレット楽器の弦 171  
 変更 55, 171, 517–522, 849  
 ベンド (「ピッチベンド」を参照してください)  
 ポップオーバー 537  
 マッピング 533, 535  
 ミドル C 55  
 メトロノームクリック 294, 672  
 輪郭強調 1266  
 臨時記号 269, 519, 520, 523, 524, 526, 1051
- ピッチデルタ 1009  
 調性システム 1007  
 微分音の再生 1014  
 変更 1005  
 臨時記号 1005
- ピッチのスナップ  
 スケール 535, 542  
 ピッチ 533, 534, 542
- ピッチの入力 238  
 ピッチのマッピング 533, 534, 542  
 ピッチの輪郭強調 1266
- ピッチベンド 1461, 1469  
 MIDI コントローラー 865, 868  
 エクスプレッションマップ 1022  
 ギター (「ギターベンド」を参照してください)  
 グリッサンドライン 1022, 1466, 1467  
 微分音 1022
- 「ピッチを繰り返す」ダイアログ 533  
 ピッチをデュレーションの前に指定 251  
 アーティキュレーション 238  
 付点 238  
 有効化 219  
 臨時記号 238
- 「ピッチを転回」ダイアログ 529  
 「ピッチを反転および転回」ダイアログ 529  
 「ピッチをマッピング」ダイアログ 534  
 ヒット 1632  
 ビット解像度 110, 111  
 ピットバンド (「バンド」を参照してください) (「プロジェクトテンプレート」.も参照)  
 ビデオ 75, 211  
 ウィンドウ 215  
 オーディオ 215, 883, 884, 886, 890  
 開始位置 214  
 形式 212  
 サイズ 215  
 再読み込み 213  
 探す 213  
 削除 216  
 ダイアログ 212  
 タイムコード 1586, 1587  
 チャンネル 883, 884, 886, 890  
 チュートリアル 75  
 追加 213  
 同期 214  
 パネル 436  
 非表示 215  
 フレームレート 216, 217  
 フロー 132  
 ボリューム 215  
 マーカー 673, 1580  
 ミキサー 883, 884, 886, 890
- 「ビデオのプロパティ」ダイアログ 212  
 非表示 48, 477, 491, 496, 879, 1226, 1227, 1612, 1633, 1775  
 fine 1604  
 MIDI CC エディター 840, 866  
 MIDI ピッチベンドエディター 840  
 VST インストゥルメント 664  
 アーティキュレーション 1215  
 アルペジオ記号 1453  
 入れ替え可能な拍子の拍子記号 1796  
 インストゥルメントの移調 207, 1690  
 インストゥルメントの変更 151, 154  
 インストゥルメントの変更ラベル 155  
 インストゥルメント名 1685, 1687, 1689, 1692  
 エリジョンスラー 1386  
 演奏技法 404, 1215, 1540, 1545  
 演奏技法エディター 855  
 延長線 1545, 1547  
 オクターブ線 1204  
 オシニア譜表 1712, 1713  
 音符 717, 973, 1398, 1400, 1404, 1422, 1632  
 音部記号 362, 363, 1195–1197

## 非表示 (続き)

音符の色 477, 740, 1403  
 開始ページ番号 1503  
 ガイド 477, 491, 791, 795  
 カウント 1097, 1607, 1615, 1621, 1635, 1651  
 角括弧 1052, 1062, 1142, 1146, 1148, 1150-1153,  
 1170, 1171, 1237, 1272, 1276, 1408, 1696  
 歌詞 1215  
 歌詞番号 1385  
 加線 1400  
 括弧 1052, 1062, 1170, 1171, 1237, 1272, 1276, 1408  
 カポ 179, 180, 182  
 カラー 689, 718, 821, 1054, 1226-1228, 1403, 1612,  
 1633, 1644, 1728, 1859  
 記号 1195, 1204, 1540, 1600  
 ギターテクニック 1491  
 ギタープリベンドの臨時記号 1478  
 ギターベンドの音程 1476  
 ギターベンドホールドの線 1477  
 キャップ 1547  
 キャレット 246  
 キュー 1209, 1210  
 キューの色 1228  
 休符 1218, 1219, 1642, 1646-1649  
 休符の色 1644  
 キューラベルのオクターブ移調 1211  
 強弱記号 1215, 1236, 1238, 1243  
 強弱記号エディター 840, 859  
 強調表示 477  
 空白の譜表 750  
 区切り用文字 1236  
 組段の小節線 1084, 1085  
 組段の分割記号 1716  
 グラフィックスライズ 635  
 グリッサンドラインのテキスト 1463, 1464  
 弦の指示記号 415, 470  
 コーダ 1600, 1604  
 コード記号 354, 1157, 1159, 1160, 1162, 1166, 1178  
 コード記号の括弧 1170, 1171  
 コード記号のクオリティー 1166  
 コード記号のルート 1155, 1156, 1166  
 コードダイアグラム 1177, 1178, 1180, 1182  
 コードダイアグラムのフィンガリング 938, 1182,  
 1187  
 コメント 551  
 コンデンシングの色 477, 821  
 再生ヘッド 679, 682  
 システムトラック 465, 477  
 ジャンプ小節 72  
 小数点位置 1755  
 小節休符 1219, 1642, 1643, 1646-1648  
 小節線 311, 1079, 1082-1085, 1168, 1239, 1538,  
 1571, 1774, 1796, 1854  
 小節番号 1095, 1097, 1098, 1103, 1106, 1651  
 小節リピート記号のカウント 1615  
 親切拍子記号 1799  
 親切臨時記号 1052, 1062, 1283, 1350, 1428  
 数字付き低音 429, 1269-1271, 1273, 1274  
 数字付き低音の括弧 1272, 1276  
 ステータスバーのツール 43  
 スラッシュ領域のカウント 1635  
 声部の色 477, 740, 1859  
 セーニヨ 1600, 1604

## 非表示 (続き)

先頭 154  
 装飾音 1215  
 ゾーン 34, 48  
 タイ 1137, 1355, 1741, 1813  
 第2括弧 1146  
 タイムコード 1588, 1589  
 ダカーポ 1604  
 打楽器のレジェンドのガイド 1850  
 タレット 797  
 タブ 34  
 タブ譜 1739  
 ダルセーニヨ 1604  
 チャンネル 890  
 中括弧 1142, 1144, 1146, 1148, 1150-1153  
 長休符 1649  
 調号 124, 148, 305, 308, 309, 950, 1346, 1349, 1352,  
 1353, 1355  
 長方形 1096, 1575  
 ツールバー 33  
 ディヴィジの色 477, 1728  
 ディヴィジ譜表 750-752  
 ディヴィジのラベル 1685, 1723, 1731, 1734  
 テキスト 1215, 1775  
 テキストの枠線 628, 932, 1325, 1570, 1770  
 デッドノート 1490  
 テンポエディター 840  
 テンポ記号 326, 1750, 1758  
 通し番号付き小節領域 1619, 1621  
 トラック 676, 835  
 トランスポートウィンドウ 698  
 トリル記号 1434, 1438  
 トリルの延長線 1440  
 トリルの音程 1442  
 トレコルデ 1534  
 ニエンテ 1258  
 ハープのペダリング 1509, 1514  
 ハーモニクス 1426  
 背景 1168, 1239, 1355, 1423, 1538, 1571, 1774,  
 1813, 1854  
 ハイフン 1236  
 羽根 1144  
 パネル 34, 42, 45, 48, 121, 129  
 番号 1741  
 ヒストグラムツール 875  
 「ビデオ」ウィンドウ 215  
 ビブラートバーのライン 470  
 拍子記号 492, 1799, 1811-1813  
 広がり付きのヘアピン 1251  
 フィンガリング 1182, 1294, 1298  
 フィンガリングスライド 1307  
 フェルマータ 1215, 1340  
 副括弧 1146  
 符鉤 1114, 1115, 1117, 1422  
 付点 1398, 1401, 1404, 1625  
 符頭の括弧 1408  
 符尾 1422, 1423, 1631  
 譜表 133, 189, 193, 485, 488, 750-752, 1704, 1708,  
 1739  
 譜表線 821, 1168, 1239, 1302, 1538, 1571, 1735,  
 1774, 1854  
 譜表ラベル 1685, 1687, 1723, 1730, 1731, 1734  
 部分的なハープのペダリング 1514

## 非表示 (続き)

プレーヤー 189, 193  
 プレーヤーグループのラベル 1696  
 プレーヤーラベル 818  
 フロー 193, 615, 795  
 フロータイトル 763, 1323  
 フローパネル 132  
 フロー番号 599  
 フローページ番号 763  
 フロー見出し 75, 591, 762  
 分割の矢印 1729  
 ページ番号 588, 763, 1503-1505  
 ペダル線 1527-1529  
 「〜へ」の指示記号 818  
 ベロシティーエディター 840, 856  
 ベンドの音程 1475, 1476  
 ホールドの線 1273, 1274, 1477  
 マーカー 1581  
 丸 1096, 1258, 1575  
 ミキサー 883-885, 890  
 ミキサーのオーディオ出力 711  
 メトロノームマーク 326, 1750, 1755  
 矢印 1762  
 ユニゾンラベル 1734  
 予告の調号 1353  
 余白 477  
 余白を埋める休符 1218, 1632  
 ライン 470, 477, 1274, 1545, 1547, 1696, 1758  
 ラインのテキスト 1565  
 欄外見出し 763  
 リピート回数 1607  
 リピートマーカー 1604  
 臨時記号 1051, 1052, 1062, 1063, 1350, 1428, 1442, 1478  
 臨時記号のカラー 1054  
 レセヴィブレタイ 1785  
 連結線 478  
 連桁 1422, 1631  
 連符 1826, 1831, 1835  
 枠線 477, 628, 932, 1096, 1325, 1510, 1570, 1575, 1770  
 ビブラート (「演奏技法」を参照してください)  
 ビブラートバー 1469, 1474, 1485  
   位置 1476  
   移動 652, 1481, 1483  
   音程 1475, 1491  
   外観 1476  
   コード 1474  
   再生 1474  
   削除 496, 1493  
   スクープ 1485  
   ダイブ 1474, 1483, 1485  
   ディップ 393, 1485, 1491  
   デュレーション 470, 1543  
   長さ 470  
   入力 386, 387, 389, 390, 394, 395  
   ハンドル 1481, 1483  
   プリダイブ (「ギタープリベンド」を参照してください)  
   ライン 394, 395, 470, 1485, 1543  
   リターン 1474, 1483, 1485  
 ビブラートプラグイン 888, 894

ビブラフォン (「インストゥルメント」を参照してください) (「大譜表を用いる楽器」も参照)

微分音 1003, 1059  
   EDO 1358  
   MIDI ピッチ 42  
   移調 539  
   オクターブの分割 1008  
   音程 538, 539  
   カスタムの調性システム 1003  
   ギターベンド 386, 1473, 1475  
   再生 1014, 1022  
   識別 42  
   調号 1012  
   トリル 1442-1444  
   入力 1060  
   臨時記号 1009  
 ビューオプション  
   ガイド 491  
   キュー 1226, 1227  
   小節リピート記号 1612  
   スラッシュ領域 1633  
   ページ番号 1505  
   ライン 478  
   臨時記号 1054  
   連結線 478  
 ヒューマナイズ  
   音符のデュレーション 925  
   強弱記号 859, 1265, 1266

## 表

MIDI インポート 97  
 エンドポイントの設定 711  
 音部記号と移調の上書き 199  
 書き出し 113  
 キュー 455  
 グラフィックスライス 560  
 コメント 550  
 条件 1027  
 スイッチ 1024  
 テキスト 113  
 動作 1025  
 トラック 97  
 内容 (「前付け」を参照してください)  
 パーカッションマップ 1039  
 フォント 80  
 マーカー 436

## 秒

タイムコード 1586, 1589  
 デュレーションのトークン 618, 621  
 トランスポート 35, 698

## 表記

音符 271, 523, 524, 526  
 コード記号 173, 174, 1154, 1164  
 臨時記号 271, 523, 524, 526

## 表記規則

アルペジオ記号 1456  
 アンサンブル 84  
 演奏技法 1541  
 歌詞 1368  
 キュー 1208  
 休止 1338  
 休符 1640  
 強弱記号 1230  
 声部 1861

## 表記規則 (続き)

装飾音 1436  
装飾音符 1327  
中間休止記号 1339  
調号 1347, 1350  
テンポ記号 1747  
トリル 1436  
トレモロ 1818  
ハーブのペダリング 1513  
フィンガリング 1287  
フェルマータ 1338  
ブレス記号 1339  
ペダル線 1523  
ミドル C 55  
リハーサルマーク 1576  
臨時記号 1051, 1060, 1347, 1357

## 表記法

歌詞 1370  
歌詞番号 1385  
タイムコード 1586  
デュレーション 618, 621

表現テキスト (「強弱記号の修飾語句」を参照してください)

## 表示

MIDI 入力 42  
オーディオエンジン 42  
親指 302  
音部記号 1199  
組段密度 566  
弦のフィンガリング 1310, 1312, 1397  
コンデンシング 817  
ディヴィジ 1733  
テンポ (「テンポ記号」を参照してください)  
トリルの音程 1441, 1448  
フィンガリング 302, 1309  
フレーム密度 567  
ホルンの支管 1309

表示位置の調整 652

表示オプション 32, 44

印刷プレビュー 39  
楽譜領域 38, 44, 54  
画像解像度 739  
キーエディター 831  
言語 61  
再生 701  
ゾーン 40  
タイム 35, 622, 701  
打楽器エディター 844  
タブ 49  
トランスポート 35  
パネル 40, 48  
ピアノロール 831, 843  
日付 622  
フレーム 581, 596, 610, 742  
プロジェクトウィンドウ 36  
ページ 742  
レイアウト 36

拍子記号 1795, 1796

MIDI 録音 291  
位置 315, 316, 1718, 1803, 1809, 1811  
移動 502, 506, 652, 1809-1811  
入れ替え可能な拍子 1796, 1813  
大きい 1801

## 拍子記号 (続き)

オープン 1796, 1804, 1806  
音符のグループ化 26, 1113, 1136, 1139, 1630  
外観 1796, 1814  
ガイド 490, 1077, 1804, 1806, 1812  
カスタム 1796  
括弧 311, 315, 1804, 1807  
カットコモン 311, 313, 1808  
カラー 60  
間隔のスペーシング 1809  
記号 1014  
休符のグループ化 1113, 1136, 1139  
区切り用文字 1796, 1804, 1807  
組段オブジェクト 1802  
クリック 291  
形式設定 1014  
結合拍子 1796, 1809  
交互拍子 1796  
コモン 311, 313, 1808  
混合拍子 1796  
サイズ 1801, 1803, 1811, 1814  
削除 496  
弱起 (アウフタクト) 312, 317, 319, 1796, 1800  
浄書オプション 1796  
小節線 1078, 1079, 1090, 1809  
小節番号 1103  
垂直位置 1717, 1718, 1801, 1803, 1811  
スタイル 1804, 1807  
スラッシュ符頭 1625, 1630  
選択 460, 464, 466  
挿入モード 262, 491-493, 921  
タイ 1776, 1784, 1813  
大括弧のグループ 1801  
タイプ 311, 1796  
多拍子 315-317, 319, 1795  
単純拍子 1796  
長休符 1651, 1652  
デザイン 1811, 1814, 1815  
デフォルト設定 1796  
2 のべき乗ではない分母の拍子 1796  
入力 311, 315, 316  
背景の塗りつぶし 1813  
拍グループ 26, 919, 1805  
破線の小節線 1796, 1809  
パネル 313  
非表示 492, 1799, 1811-1813  
表示 1799, 1812, 1813  
フィルター 467  
フォントスタイル 1814, 1815  
複合拍子 1796  
複数の位置 1717, 1718  
符頭 1806  
譜表 1718, 1801, 1803  
譜表の上 1802  
分子 1795, 1796, 1804, 1805  
分母 1795, 1796, 1804, 1806  
変更 262, 472, 491-493, 1077  
変拍子 1796  
ポップオーバー 311  
予告 1798, 1799  
連桁のグループ化 26, 919, 1113, 1138  
拍子記号の幅を狭める 1814  
拍子記号 (拍子) パネル 313

- 表示タイプ 157  
 強弱記号 1848  
 打楽器キット 1838, 1848  
 変更 1849  
 編集領域 157, 1848
- 開きの幅  
 messa di voce 1248, 1255, 1256  
 ヘアピン 1246, 1248, 1255, 1256
- 開く 78  
 MIDI ファイル 78, 95  
 MusicXML ファイル 78  
 VST インストゥルメント 669  
 ウィンドウ 53, 669  
 エディター 840, 881  
 キーエディター 831, 840, 881  
 サウンドライブラリー 669  
 自動保存ファイル 115  
 ゾーン 48  
 タブ 49, 50  
 テンプレート 77  
 ドキュメント 75  
 トランスポートウィンドウ 698  
 パネル 48  
 「ビデオ」ウィンドウ 215  
 ビデオチュートリアル 75  
 ファイル 78, 115  
 フロー 660  
 フロー見出しエディター 599  
 プロジェクト 77-79, 115  
 プロパティパネル 48, 228, 826  
 ページテンプレートエディター 582  
 ミキサー 883-885  
 レイアウト 47
- ピリオド  
 possibile 1243  
 subito 1243  
 歌詞 1363, 1370, 1385  
 歌詞番号 1385  
 休符 455  
 強弱記号 1243, 1254  
 テンポ記号 1754  
 付点 219, 255  
 譜表ラベル 1688  
 プレーヤーラベル 818  
 リピートマーカー 1599
- 比率  
 音符のスペーシング 644, 646  
 スウィング再生 693  
 装飾音符 1331  
 連符 1834-1837
- 広がり付きのヘアピン 1251  
 サイズ 1252
- 非録音時の MIDI 入力データを記録 292, 698  
 ピンチハーモニクス 1429, 1433
- 頻度  
 再生時のピッチ 685  
 自動保存 116  
 小節番号 1095, 1621  
 小節リピート記号のカウント 1611, 1614  
 スラッシュ領域のカウント 1635  
 タイムコード 1589  
 通し番号付き小節領域のカウント 1619, 1621
- 頻度 (続き)  
 トリル 1439  
 ハーモニクス 1425
- ふ
- ファーストステップ 75  
 ファーセンド 907, 908  
 ファイル 86  
 書き出し 86, 113, 639-641, 728-730  
 異なるバージョンの Dorico 79  
 存在しないフォント 80  
 ビデオ 213  
 開く 78  
 フレームへの読み込み 633  
 読み込み 86
- ファイル形式 738  
 CSV 113  
 MIDI 94  
 MusicXML 91  
 PDF 738  
 エクスプレッションマップ 1019, 1038  
 オーディオ 110, 111  
 グラフィックスライス 635  
 グラフィックファイル 738  
 再生テンプレート 701  
 調性システム 1003  
 パーカッションマップ 1044  
 バックアップ 116  
 ビデオ 212  
 フレーム 632
- ファイル名 731  
 グラフィックスライス 639  
 構成要素 731  
 生成用文字列 731  
 設定 731  
 トークン 618
- ファゴット (「インストゥルメント」を参照してください)  
 ファミリー  
 インストゥルメント (「インストゥルメントファミリー」を参照してください)  
 フォント 80, 937
- フィードバック  
 コメント (「コメント」を参照してください)
- フィル 263, 275, 277 (「装飾音符」.も参照)  
 フィルター 467, 485  
 EQ 888, 894, 895  
 Insert 888, 894, 895  
 アンサンブル 126, 141, 142  
 インストゥルメント 124, 126, 485 (「インストゥルメントフィルター」.も参照)  
 エクスプレッションマップ 1020  
 エフェクト 888, 894, 895  
 オプション 917, 919, 921, 923, 925  
 音符 467, 468  
 歌詞 467, 1366, 1367  
 楽曲フレーム 612  
 キーエディター 877  
 キースイッチ 101  
 強弱記号 467  
 周波数 888, 894, 895  
 声部 467, 833, 877  
 選択 469

- フィルター (続き)  
選択解除 469  
打楽器 157  
テキストアイテム 467  
テンポ記号 467  
ドラム 157  
パーカッションマップ 1039  
ハーブのペダリング 467  
ヒストグラムツール 877  
ピッチ 467, 468  
符尾の方向 467  
譜表 (「インストゥルメントフィルター」を参照してください)  
フレームチェーン 613, 615, 616  
プレーヤー 616  
フロー 615  
プロパティ 826  
ミキサー 888, 890, 894, 895  
臨時記号 467, 468, 1007
- フィンガータッピング (「タッピング」を参照してください)
- フィンガリング 1286  
MusicXML の読み込み 1312  
アルペジオ記号 1303, 1304  
位置 1182, 1287, 1291, 1300, 1301  
移動 652, 1182, 1301  
オクターブ線 1287  
親指の文字 938, 1182, 1184, 1187, 1305  
外観 1188, 1287, 1293, 1295-1297  
替え指 1288  
角括弧 1287, 1300  
囲み線 1293  
下線 1293  
括弧 301, 302, 1287, 1297, 1298  
間隔 1287  
記号 1014  
区切り用文字 1309  
形式設定 1014  
弦楽器 1397  
弦の指示記号 1314, 1317  
弦のシフト指示 1310, 1312  
コードダイアグラム 938, 1175, 1176, 1182, 1184, 1186, 1187  
小指の文字 1305  
サイズ 1188, 1287, 1292, 1295  
削除 1294, 1295  
斜体 1297  
浄書オプション 1287  
衝突回避 1287  
数字スタイル 1310  
スラー 1287, 1292  
スライド (「フィンガリングスライド」を参照してください)  
スライドポジション 1310  
装飾音符 1287, 1292  
タイプ 302, 1309  
タッピング (「タッピング」を参照してください)  
デザイン 1293  
デフォルト設定 1287  
入力 301, 302  
背景 1302  
背景の塗りつぶし 1302  
配置 1287, 1288
- フィンガリング (続き)  
バルブ式金管楽器 1309  
反転 1290  
ハンドル 1288  
ハンマーオン (「ハンマーオン」を参照してください)  
非表示 1182, 1294, 1298  
表示 1294, 1298  
フォント 1188, 1295-1297  
フォントスタイル 1297  
譜表に対する位置 1290  
譜表の内側 1291  
譜表をまたぐ和音 1287  
ブルオフ (「ハンマーオン」を参照してください)  
フレット楽器 1299 (「タッピング」.も参照)  
変更 938, 1184, 1187, 1289  
ポップオーバー 301, 302  
ホルンの支管の指示記号 1309  
丸 1293  
文字 1305  
予告 1297  
リセット 477  
連符 1287  
枠線 1293
- フィンガリングスライド 1305  
移動 652, 1306  
削除 1307  
長さ 1307  
ハンドル 1305, 1306  
非表示 1307  
表示 1307  
リセット 1306
- フーガ  
再生 1267  
声部 257  
分析 60, 1551
- フェーダー 883, 884, 886  
移動 891  
リセット 891
- 笛のような音 (「演奏技法」を参照してください) (「菱形の符頭」.も参照)
- フェルマータ 1335, 1336  
位置 1338  
移動 502, 652, 1341  
上書き 1339  
演奏技法 1541  
同じ位置に複数 1339  
カーリユー記号 1339  
外観 472  
カラー 60  
キュー 1215  
再生 1342, 1343  
削除 496, 1340  
十字線 656  
小節線 1341  
声部 1340  
タイプ 472, 1336, 1339  
段階的テンポ変更 1342  
中間休止記号 1339  
デュレーション 472, 1336, 1343  
入力 366, 368, 369  
1つの譜表 1339  
非表示 1215, 1340  
表示 1215, 1340

- フェルマータ (続き)  
 符尾 1338  
 譜表ごとの数 1340  
 譜表に対する位置 474  
 プレス記号 1339  
 変更 1339  
 ボウイング記号 1541  
 リンク 1339, 1340
- フォーラム 75
- フォール (「ジャズアーティキュレーション」を参照してください)
- フォルダー  
 書き出しパス 640, 730  
 バックアップ 116, 117
- フォルツァンド (「強弱記号」を参照してください)
- フォルテ (「強弱記号」を参照してください)
- フォントスタイル 929, 930, 932, 1764  
 PDF ファイル 740  
 SVG ファイル 740  
 インストゥルメントの変更ラベル 156  
 インストゥルメント名 1697  
 演奏技法 1541  
 オシアの譜表ラベル 1714  
 音符 927, 929  
 書き出し 913, 930  
 楽譜 927, 929  
 歌詞 1362, 1374–1376, 1379  
 歌詞番号 1374, 1376  
 記譜記号 927, 929  
 強弱記号 1264  
 グリフ 927, 929, 1264  
 献呈 1321  
 弦の指示記号 976, 1295, 1296, 1313  
 コード記号 1157  
 コードダイアグラム 1188  
 コンデンシング 817, 932, 1697, 1699  
 サイズ 930, 932  
 作詞者 1320  
 作曲者 1319  
 小節番号 (「パラグラフスタイル」を参照してください)  
 小節リピート記号 1612, 1616  
 数字付き低音 1281, 1282  
 スラッシュ符頭 1616, 1633  
 存在しないフォント 80  
 ダイアログ 930  
 代替 930  
 タイトル 573, 595, 932, 1318  
 タイムコード 1583  
 打楽器キット 1698  
 タストソロ 1281, 1282  
 タブ譜 1744  
 長休符 1653  
 著作権 1321  
 ディヴィジ 1697, 1733  
 ディヴィジの譜表ラベル 1730  
 デフォルト 937  
 テンポ記号 1750  
 通し番号付き小節領域 1616, 1619  
 パラグラフスタイル (「パラグラフスタイル」を参照してください)  
 拍子記号 1814, 1815  
 ファミリー 937
- フォントスタイル (続き)  
 フィンガリング 1188, 1295–1297  
 譜表ラベル 1697, 1698  
 プレーヤーグループのラベル 1695, 1697  
 プレーヤーラベル 817, 1733  
 フロー見出し 595, 932  
 ページ番号 1501  
 変更 930, 937  
 マーカー 1583  
 文字スタイル 935  
 読み込み 913, 930  
 ラインのテキスト 1567  
 リセット 913, 930, 932  
 リハーサルマーク (「パラグラフスタイル」を参照してください)  
 リピートマーカー 1599  
 レイアウト名 1325  
 連符 1837  
 枠線 932, 1325
- 「フォントスタイルを編集」ダイアログ 930
- 付加音  
 コード記号 350
- 深さ  
 入れ子状のスラー 1670  
 入れ子状の連符 1827  
 オーディオ 892
- 吹き出し  
 コメント (「コメント」を参照してください)
- 副括弧 (「第2括弧」を参照してください)
- 復元  
 音部記号 362, 363, 1208, 1220  
 テキスト 1532, 1534  
 ペダル線 1532, 1534
- 複合拍子の拍子記号 1796  
 音符のグループ化 1136, 1630  
 スラッシュ符頭 1625, 1630  
 入力 311, 313, 315, 316  
 連桁のグループ化 1112, 1630
- 複数  
 楽章 187  
 キュー 1216  
 組段あたりの小節番号 1100  
 コーダ 1599, 1601  
 セーニョ 1599, 1601  
 バウンスロール (「トレモロ」を参照してください)  
 譜表の入力 246, 261  
 ページ上のフロー 760
- 複数セグメントによるスラー 1673–1675
- 複数の譜表を使用するインストゥルメント 1706  
 キューのポップオーバー 454  
 スラー 299  
 トレモロ 1123, 1127  
 幅 1708  
 符尾 1125, 1420  
 譜表の削除 1704, 1705  
 譜表の追加 957, 1707  
 譜表の非表示 750–752, 776  
 譜表をまたぐ 1123, 1125–1127, 1420  
 連桁 1123, 1125–1127, 1420
- 複数貼り付け 499, 500
- 複製  
 MIDI 841, 870  
 アイテム 497, 499, 500



## 複製 (続き)

インストゥルメント 950, 954, 958, 959  
 エクスプレッションマップ 1034  
 エクスプロード 510  
 演奏技法 976, 982, 1545  
 音符 497, 499, 500, 851  
 強弱記号 497, 864  
 コピー (「コピー」を参照してください)  
 再生テンプレート 708  
 スイッチ 1035  
 調号 1352  
 テンポ記号 497, 841, 1718  
 パーカッションマップ 1042  
 パラグラフスタイル 934  
 ピッチ 532, 533, 542  
 拍子記号 1798  
 符頭 973, 975  
 フレーム 607  
 プレーヤー 137  
 フロー 188  
 フロー見出し 570, 571  
 ページテンプレート 570, 571, 575, 578  
 ポイント 841, 864, 870  
 文字スタイル 937  
 リハーサルマーク 1718  
 リピート括弧 1718  
 レイアウト 195

## 複声部の状況 1858

アーティキュレーション 1066  
 音符 1864  
 音符位置 1861  
 音符の入力 257  
 ギタープリベンド 1478  
 キュー 1216  
 休符 1640, 1642, 1643, 1645  
 強弱記号 474, 1241  
 スラー 1657  
 スラッシュ 1632, 1637  
 声部列の並び順 1862  
 装飾音 474, 1436  
 装飾音符 1327, 1657  
 タイ 1782  
 フェルマータ 1338, 1340  
 符点の統合 1401  
 符尾の方向 1327, 1416, 1864

## 含める (「除外」を参照してください)

## 符鉤

音符 1114, 1115, 1117, 1415  
 記号 1014  
 形式設定 1014  
 デザイン 1415  
 非表示 1114, 1422  
 表示 1115, 1422  
 符尾 1114, 1115, 1117, 1415  
 譜表の上 (「ガイド」を参照してください)  
 マーカー (「マーカー」を参照してください)  
 リセット 1117

## 節 1425

変更 1427

## 部数

複数印刷 724

## フック

演奏技法 1542, 1545  
 オクターブ線 1205  
 長さ 1595, 1596  
 太さ 994  
 ペダル線 1517, 1518, 1521, 1526, 1528  
 ライン 987, 994  
 リピート括弧 1595, 1596  
 連符 1831  
 付点 255, 1136, 1138  
 位置 1744  
 移動 1401, 1402, 1862  
 音符 (「付点音符」を参照してください)  
 音符の分割 288  
 数 255, 285  
 カットコモン の拍子記号 1139  
 削除 1398, 1404  
 ジャズアーティキュレーション 1497  
 スラッシュ符頭 1625, 1630  
 声部 1401, 1860, 1862  
 挿入モード 491  
 タブ譜 1738, 1744  
 統合 1401  
 トレモロ 447, 449  
 入力 238, 248, 251, 255, 285  
 ピッチをデュレーションの前に指定 238  
 非表示 1398, 1401, 1404, 1625  
 表示 1401, 1625  
 複合拍子の拍子記号 1625, 1630  
 和音モード 280  
 付点音符 255, 1136  
 音符のグループ化 25, 1136, 1137, 1139, 1630  
 強制 288, 1137  
 三重 255  
 スウィング再生 692, 693  
 スラッシュ符頭 1630  
 声部 1860  
 テンポの等式 1761  
 統合 1401, 1860  
 トレモロ 447, 449  
 二重 255  
 入力 219, 255  
 付点の移動 1402  
 符頭 1389  
 Aikin 1393  
 Funk 1393  
 Walker 1393  
 X形 1390  
 アーティキュレーション 1069-1071  
 アタッチメントポイント 967, 970  
 円形 1389  
 演奏技法 850, 1840, 1842, 1843  
 大きい 1392  
 解析 117  
 角括弧 (「括弧付きの符頭」を参照してください)  
 重ね合わせ 1860  
 カスタム 967, 970, 973, 975  
 加線 1400  
 括弧 (「括弧付きの符頭」を参照してください)  
 カラー 60, 1393  
 キュー (「キュー」を参照してください)  
 強弱記号 502, 1230  
 くさび形 1391

## 符頭 (続き)

形状 967, 970, 1389, 1393, 1394, 1396 (「符頭セット」.も参照)  
 五線譜 1842  
 サイズ 473, 747, 772, 967, 970, 973, 975, 1208, 1209, 1389, 1394-1396  
 作成 973, 975  
 三角 1391  
 四角 1392  
 スタッカートの位置 1068  
 スラッシュ 1392, 1625, 1627, 1840  
 セット (「符頭セット」を参照してください)  
 ダイアログ 967, 970  
 タイプ 1389  
 打楽器 263, 846, 850, 1840, 1842, 1843, 1845  
 長方形 1392  
 デザイン 967, 970, 1389, 1393-1395  
 デフォルトのデザイン 1396  
 点線 1392  
 ノート名 1393, 1397  
 ハーモニクス 967, 1426, 1429  
 半月 1392  
 菱形 967, 1390, 1391, 1426, 1429  
 ピッチ依存 1393  
 非表示 973, 1398, 1404  
 表示 1398, 1404  
 拍子記号 1806  
 フェルマータ 1338  
 複製 973, 975  
 符尾なし 1422  
 ヘアピン 502, 1230  
 変更 1394-1397  
 編集 967, 970, 1394  
 ミュート 1392  
 無音程打楽器 1840, 1842  
 矢印 1391  
 読み込み 913  
 ライン 1562  
 リセット 967, 1395

舞踏室

パンニング (「ステージテンプレート」を参照してください)  
 リバース (「スペーステンプレート」を参照してください)

符頭セット 967, 970, 1388, 1389, 1393, 1394, 1396  
 音度 1393  
 カスタム 967, 973  
 加線 1400  
 カラー 1393  
 作成 973  
 ダイアログ 967  
 タイプ 1388  
 デザイン 1389, 1393  
 ピッチ依存 1393  
 複製 973  
 読み込み 913  
 リセット 913, 967, 1395

「符頭セットを編集」ダイアログ 967  
 符頭に連結されたライン (「ライン」を参照してください)  
 不透明度 490, 639, 729, 739  
 「符頭を編集」ダイアログ 970

## 太さ

角括弧 1141, 1145, 1172  
 括弧 1172  
 ギターベンド 1476  
 グリッサンドライン 1462  
 弦のシフト指示 1310  
 コード記号 1155, 1156, 1172  
 コードダイアグラム 1176  
 小節線 1079  
 小節番号 1096, 1098  
 数字付き低音の括弧 1269  
 スラー 1656, 1665, 1678  
 装飾音符のスラッシュ 1331  
 タイ 1777, 1780, 1789  
 タチエット 932  
 段階的テンポ変更 1761  
 テキストの枠線 629, 1570, 1772  
 拍子記号 1814  
 フォント 941, 946, 970, 979, 1001, 1009, 1014  
 フック 994  
 符頭の括弧 1407  
 符尾 1415  
 譜表線 1704  
 ペダル線 1531  
 ライン 923, 992, 1155, 1156  
 ラインの枠線 1570  
 リハーサルマーク 1575, 1579  
 連符 1117, 1130  
 連符の数や比率を示す数字 1837  
 枠線 629, 932, 1511, 1570, 1772

太字 421, 625, 929, 930, 932, 935, 1764  
 インストゥルメントの変更ラベル 156  
 歌詞 1374, 1376  
 献呈 81, 932  
 コード記号 1157  
 作詞者 81, 932  
 作曲者 81, 932  
 サブタイトル 81, 932  
 数字付き低音 1281, 1282  
 タイトル 81, 932  
 タストソロ 1281, 1282  
 テンポ記号 1750  
 ニエンテ記号 1259  
 フィンガリング 1287, 1295, 1296  
 プロジェクト情報 81, 932  
 マークダウン 81  
 リハーサルマーク 1579  
 リピート括弧 1595  
 連符 1837

符尾 1112, 1415  
 アーティキュレーション 1069, 1070  
 アタッチメントポイント 970  
 一線譜の方向 1846  
 オーディオ 110, 111  
 オルタードユニゾン 1058  
 カスタムの符頭 970  
 間隔 1125 (「音符のスペーシング」.も参照)  
 記号 1014  
 キュー 1216  
 形式設定 1014  
 結合 (「声部」を参照してください)  
 重音のトレモロ 1820  
 浄書オプション 1415

## 符尾 (続き)

スタッカートの位置 1068  
 ステムレット (「ステムレット」を参照してください)  
 スラー 1656, 1658  
 スラッシュ 1816  
 スラッシュ符頭 1627, 1631, 1638  
 声部 257, 507, 1416, 1420, 1858, 1862, 1863  
 装飾音符 1331, 1333  
 タイ 1418, 1423  
 第3線での方向 1418  
 打楽器キット 157, 162, 267, 919, 1855, 1856  
 タブ譜 1738, 1739  
 デフォルト設定 1415  
 デュレーション 223, 248, 285, 286, 288  
 トレモロ 1816, 1819, 1822  
 トレモロの削除 1821  
 長さ 1119, 1333, 1415, 1421  
 二重 257, 1058, 1858 (「声部」.も参照)  
 入力 257, 1858 (「声部」.も参照)  
 背景 1423  
 背景の塗りつぶし 1423  
 反転 1121-1123, 1127, 1416, 1418, 1420  
 ハンドル 1421, 1822  
 非表示 1422, 1423  
 表示 1422  
 フェルマータ 1338  
 符鉤 1014, 1415  
 符鉤のデザイン 1415  
 符頭 970  
 太さ 1415  
 符尾の分割 1058  
 譜表をまたぐ 1123, 1127, 1420  
 方向 (「符尾の方向」を参照してください)  
 余白 1423  
 リセット 1117, 1420  
 連桁 1115, 1119, 1125  
 連桁の位置 1126  
 連桁の解除 1115  
 符尾が上向きの声部 (「声部」を参照してください)  
 符尾が下向きの声部 (「声部」を参照してください)  
 符尾なし  
 スラッシュ符頭 242, 259, 1627  
 符頭 1422  
 符尾の分割 1058  
 アーティキュレーション 1065  
 外観 1058  
 符尾の方向 1416  
 1線 1846  
 ギタープリベンド 1478  
 キュー 1216, 1217  
 コード 1417  
 コンデンシング 801, 811, 813  
 スラー 1659, 1667  
 スラッシュ符頭 1420, 1638  
 声部 507, 1416, 1420, 1858  
 装飾音符 1327, 1333, 1846  
 タイ 1418  
 第3線 950, 1416, 1418  
 打楽器 1846  
 打楽器キット 157, 162, 267, 919, 1855, 1856  
 タブ譜 1738  
 単一の声部の状況 1416, 1420  
 中央配置の連桁 1122

## 符尾の方向 (続き)

デフォルト設定 950, 1418, 1846  
 ドラムセット 162  
 ピッチまたぎ 801, 811  
 フィルター 467  
 複声部の状況 1416  
 譜表に対する位置 1118  
 譜表の第3線にある音符 1416, 1418  
 譜表をまたぐ連桁 1123, 1420  
 変更 507, 1217, 1418, 1420, 1638  
 他の譜表まで伸びた音符 1123, 1127, 1864  
 リセット 1119, 1420  
 連桁グループ 1417  
 連桁の位置 1118, 1126  
 譜表 1703  
 VST インストゥルメント 669  
 アーティキュレーション 1071  
 アイテムのコピー 497, 499  
 移調楽器 146, 198, 199, 201, 950  
 1線 1581, 1587, 1589, 1698, 1703, 1848  
 移動 651, 747, 748, 768, 770, 771, 779  
 インストゥルメントの変更 150, 153, 154  
 インストゥルメントの変更ラベル 155  
 インデント 651, 764, 1685, 1687, 1720  
 エクスプロード 510-512, 517  
 大きな拍子記号 1803  
 オッシアの追加 1711  
 オッシア譜表 (「オッシア譜表」を参照してください)  
 音符 506, 1737, 1739  
 音部記号 199, 200, 1199  
 音符入力 246, 261  
 音符を伸ばす 1123, 1127  
 解析 117  
 角括弧 84, 1142, 1143, 1150, 1151, 1695  
 楽譜用紙 (「空白の譜表」を参照してください) (「空白の譜表」.も参照)  
 数 117, 750, 753, 756, 786, 957, 1706, 1707, 1710, 1711  
 カラー 59  
 間隔 651, 749, 1598, 1599, 1720  
 ギャレービュー 54  
 キュー 1221, 1225  
 休止 1338  
 強弱記号 341, 343, 474, 1241  
 強弱記号のリンク 501, 1262  
 空白 (「空白の譜表」を参照してください) (「空白の譜表」.も参照)  
 組段オブジェクト 1717-1719  
 組段区切り 789  
 組段の分割記号 1716  
 グリッサンドライン 380, 381  
 グリッド 1698, 1848  
 グループ 183, 960, 1089, 1143 (「譜表のグループ化」.も参照)  
 言語 61  
 弦の指示記号 (「弦の指示記号」を参照してください)  
 コード記号 194, 346, 1157, 1160-1162  
 五線譜 1698, 1703, 1848  
 固定 784-787  
 コピー 1727  
 コメント 545, 546, 549  
 コンデンシング (「コンデンシング」を参照してください)  
 サイズ (「譜表サイズ」を参照してください)

## 譜表 (続き)

再生 680  
 削除 1704, 1705  
 弱起 (アウフタクト) (「弱起 (アウフタクト)」を参照してください)  
 順番 137-139, 960, 963, 964  
 小節休符 (「小節休符」を参照してください)  
 小節線 558, 1088, 1090, 1714  
 小節線の結合のリセット 1152  
 小節番号 1098, 1100  
 衝突回避 748, 749, 776, 779  
 白 59  
 垂直方向のスペーシング (「譜表のスペーシング」を参照してください)  
 スウィング再生 694  
 数字付き低音 427, 1268  
 スペーシング (「譜表のスペーシング」を参照してください)  
 スラー 1669, 1672  
 スラーのリンク 501  
 声楽 1729  
 声部 257  
 全大文字の譜表ラベル 1694  
 選択 463  
 線の太さ 1704 (「譜表線」.も参照)  
 タイ 274, 1784, 1790  
 ダイアログ 775  
 大括弧/中括弧のグループ化のリセット 1152, 1153  
 タイムコード 1581, 1587, 1589  
 高さ 747-749, 768, 770-772  
 打楽器 1848, 1849  
 タレット 795  
 タブ譜 1737, 1739  
 中括弧 1150, 1151  
 長休符 1652  
 調号 308, 309, 1346  
 追加 136, 141, 146, 755, 756, 950, 957, 1706, 1707, 1722, 1723, 1725  
 ディヴィジ 1722, 1723, 1725-1727, 1730, 1733, 1736  
 ディヴィジのラベル 1734, 1735  
 ディヴィジを終了 1727  
 テキスト 420, 1717, 1718  
 テンポ記号 1717, 1718  
 トレモロ 1123, 1127  
 内容の入れ替え 509  
 名前 (「譜表ラベル」を参照してください) (「インストゥルメント名」.も参照)  
 名前の変更 206, 950  
 配置設定 784-787  
 配置ツール 495  
 幅 764, 1708  
 非表示 133, 189, 193, 485, 486, 488, 489, 750-753, 1704, 1708, 1739  
 表示 54, 189, 193, 485, 486, 488, 490, 750-753, 755, 756, 1708  
 拍子記号 315-317, 319, 1717, 1718, 1795, 1801-1803, 1809, 1811  
 フィルター (「インストゥルメントフィルター」を参照してください) (「フィルター」.も参照)  
 フィンガリング 1291, 1302, 1304  
 フェルマータ 1340  
 複数に入力 237, 246, 261

## 譜表 (続き)

複数の声部 257, 799  
 符尾の長さ 1421  
 符尾の方向 1418, 1846  
 譜表冒頭部 1712  
 譜表ラベル (「譜表ラベル」を参照してください)  
 プレーヤーラベル (「プレーヤーラベル」を参照してください)  
 ブレス記号 1341  
 分割 446, 447, 1598  
 分割記号 (「組段の分割記号」を参照してください) (「分割の矢印」.も参照)  
 分割の矢印 1729  
 ページビュー 54  
 マーカー 1581  
 メトロノームマーク 1717, 1718  
 ユニゾン範囲 1727, 1728  
 余白 764, 768, 770, 771, 1685, 1687, 1720  
 ラスタライズ (「譜表サイズ」を参照してください)  
 ラベル (「譜表ラベル」を参照してください)  
 リデュース 509, 799  
 リハーサルマーク 1717, 1718  
 リピート括弧 1717, 1718  
 リピートマーカー 1605  
 レイアウトオプション 747  
 連桁 1123, 1125-1127  
 譜表サイズ 737, 747, 772  
 MusicXML ファイル 91  
 オシリア譜表 1711  
 カスタム 775  
 個々の譜表 774  
 五線のサイズ 772  
 線間の高さ 772  
 ダイアログ 775  
 変更 747, 773-775  
 レイアウト 747, 772-774  
 譜表上の位置  
 音符入力 266  
 キュー 1221, 1224, 1225  
 打楽器 850, 1839, 1840, 1843, 1846  
 打楽器キット 164, 266  
 ライン 1456, 1559-1561  
 譜表線  
 オシリア譜表 1712  
 数 157, 753, 755, 950, 954, 956, 1848, 1849  
 弦の指示記号 1313  
 スペーシング 157, 166, 1849  
 スラー 1658  
 タイ 1790  
 打楽器 157, 166, 956, 1849  
 タブ譜 169, 1737  
 テキスト 1538, 1571, 1774  
 塗りつぶし 821, 1168, 1239, 1291, 1302, 1313, 1538, 1571, 1774, 1854  
 フィンガリング 1302  
 太さ 1704  
 符尾の方向 1418, 1846  
 プレーヤーラベル 821  
 譜表に対する位置  
 アーティキュレーション 1069-1071  
 演奏技法 474  
 オクターブ線 474, 1202  
 歌詞 1371

## 譜表に対する位置 (続き)

ギターブリベンド 1478  
 ギターベンド 474  
 キューラベル 474  
 強弱記号 474, 1230  
 弦の指示記号 413-415, 1313, 1316  
 小節番号 1103  
 数字付き低音 1278  
 スラー 1668  
 スラッシュ領域のカウント 1636  
 装飾音 474  
 打楽器のレジェンド 474  
 タッピング 1492  
 長休符 1652  
 テキスト 474  
 通し番号付き小節領域のカウント 1623  
 トリル 474  
 ハーモニクス 1432  
 ハンマーオン 1492  
 左手のフィンガリング 1301  
 フィンガリング 1287, 1290, 1291, 1300, 1304  
 フェルマータ 474  
 プルオフ 1492  
 プレーヤーラベル 817  
 ペダル線 1523  
 変更 474  
 リズムによるキュー 1224  
 リセット 477  
 リピートマーカー 1605  
 連桁 1118  
 連符の大括弧 1832

## 譜表に対する配置

歌詞 1372  
 ライン 1558, 1559  
 リハーサルマーク 1576

## 譜表に対するフォントサイズ 930, 932

## 譜表に付くテキスト 1763, 1764

移動 528, 531, 652, 1769  
 回転 531  
 ガイド 490  
 書き出し 113  
 形式設定 421, 424, 627, 932, 1768  
 選択 460  
 入力 420  
 背景 1774  
 背景の塗りつぶし 1774  
 配置 932, 1769  
 パラグラフスタイル 627, 1768  
 反転 528 (「逆行」.も参照)  
 非表示 1775  
 表示 1775  
 譜表に対する位置 474  
 余白 932, 1773  
 枠線 932, 1770

譜表の共有 (「コンデンシング」を参照してください) (「デ  
ィヴィジ」.も参照)

## 譜表のグループ化 183, 960, 1142, 1143, 1148

アンサンブルタイプ 960, 1142, 1143  
 インストゥルメントファミリー 960  
 角括弧 1148, 1150, 1151  
 カスタム 1148  
 小節線の結合 1088, 1090-1092, 1148  
 中括弧 1148, 1150, 1151

## 譜表のグループ化 (続き)

デフォルト設定 84, 1142, 1143  
 プレーヤーグループ 183  
 変更 1142  
 リセット 1152, 1153

譜表の下書きを作る (「譜表の草案を作る」を参照してく  
ださい)

## 譜表の手動表示/非表示 751, 752

## 譜表のスペーシング 554, 747, 776

ギャレービュー 776, 779  
 組段 566  
 組段の移動 782  
 組段密度 566  
 コピー 783, 784  
 コンデンシング 765, 799  
 最後の組段 764  
 水平 566, 764  
 ディヴィジ 749  
 テキストの衝突回避 1770  
 デフォルト設定 748, 776  
 ハンドル 779  
 復元 782  
 譜表の非表示 750-752  
 フロー見出し 769  
 変更 748, 749, 776, 779  
 密度 567  
 有効化 554  
 リハーサルマーク 1576  
 両端揃え 567, 749, 764, 776  
 レイアウト 748  
 レイアウトオプション 917

## 「譜表のスペーシングをコピー」ダイアログ 784

## 譜表の草案を作る 124, 126

## 譜表冒頭部 1318

オシシア譜表 1712  
 音部記号 1197  
 小節線 1084, 1085  
 調号 1349  
 ページテンプレート 567

## 譜表ラベル 203, 1684

Cubase 1685  
 MusicXML の読み込み 1685  
 移調楽器 1684, 1690-1692  
 インストゥルメントの変更 152  
 インストゥルメントの変更ラベル 155  
 インストゥルメント名 61, 164, 165, 203, 206, 207,  
 209, 619, 950, 1685, 1688, 1689, 1701  
 インデント 1687, 1697, 1720  
 上付き 207  
 オシシア譜表 1714, 1715  
 改行 1691  
 角括弧 1695, 1696  
 下線 207  
 括弧 1691  
 カラー 207, 1697  
 間隔 1685  
 ギャレービュー 44  
 区切り用文字 1691  
 組段 1687  
 グループ化 164, 165, 1692, 1695, 1698, 1699, 1701  
 形式設定 1685  
 言語 61

## 譜表ラベル (続き)

コンデンスされた譜表 801, 811, 817, 1693,  
 1697, 1699, 1701  
 最初の組段 1685, 1720  
 サイズ 1697, 1698  
 下付き 207  
 斜体 207, 932  
 浄書オプション 1685  
 上線 207  
 ストレッチ 207  
 スマートクォート 1685  
 全大文字 1694  
 ソロ 139  
 打楽器 157, 164, 165, 1689, 1698, 1848, 1853  
 デヴィジ 819, 1699, 1701, 1723, 1730, 1731,  
 1733-1735  
 デフォルト設定 84, 1685  
 トークン 619  
 長さ 1685, 1687, 1688  
 ナンバリング 144, 145, 1685, 1688, 1692, 1693,  
 1699, 1701  
 配置 207, 1687, 1697  
 パラグラフスタイル 932, 1697  
 非表示 1685, 1687  
 表示 1685, 1687  
 ピリオド 1688  
 フォント 932, 1697  
 プレーヤーグループ (「プレーヤーグループのラベ  
 ル」を参照してください)  
 プレーヤー名 204, 1688, 1689  
 プレーヤーラベル 817  
 フロー 1685  
 プロジェクトテンプレート 84  
 ベースラインの移動 207  
 変更 206, 950, 1688-1694, 1701  
 ユニゾン 819, 1733-1735  
 リセット 209

## 譜表をまたぐ

アルペジオ記号 378, 379  
 重なり合う音符 1860  
 スペース 1125  
 スラー 299, 470, 502, 506, 1661, 1669  
 タイ 274, 1784  
 トレモロ 1123, 1127  
 フィンガリング 1287  
 符尾 1123, 1127, 1420  
 ライン 417, 419  
 リセット 1127  
 連桁 1123, 1125-1127, 1420

## プライマリー

インストゥルメント 835, 864, 868, 870  
 連桁 1127

## プライム 618, 621

## プラグイン 701

インスタンス 661, 664  
 ウィンドウ 669  
 エクスプレッションマップ 661, 714, 1020  
 エンドポイント 661, 701, 710, 713, 714  
 許可 666  
 再生 661, 664, 701, 884  
 設定 704, 711, 713, 715-717  
 パーカッションマップ 661, 714  
 開く 669

## プラグイン (続き)

ブロック 666  
 変更 669, 701, 896  
 保存 715, 716  
 ミキサー 711, 884, 888  
 リバーブ 896, 907, 910  
 リファレンス 75  
 ロード 667, 681, 701, 707, 893, 894, 896, 907, 910  
 フラジオレット (「ハーモニクス」を参照してください)  
 + 記号  
 キャレット 242  
 コード記号 1155, 1156  
 タッピング 1486, 1489  
 拍子記号 311, 1796  
 ミュート (「演奏技法」を参照してください)  
 リムショット (「演奏技法」を参照してください) (「演  
 奏技法固有の符頭」.も参照)  
 ブラスバンド (「バンド」を参照してください) (「プロジ  
 ェクトテンプレート」.も参照)  
 フラッタータンギング (「演奏技法」を参照してください)  
 フラット  
 スラー 1666  
 中括弧 1141  
 臨時記号 (「臨時記号」を参照してください)  
 連桁 1119, 1120  
 フランス語  
 譜表ラベル 61  
 リpeat回数 1609  
 フリジアン  
 コード記号 351, 1165  
 スケール 535, 542  
 プリセット 30  
 インストゥルメントフィルター 487  
 エフェクト 1033  
 書き出し 913  
 コード記号 1156  
 ズーム 45  
 背景色 58  
 譜表サイズ 772  
 ページサイズ 1017  
 読み込み 913  
 リpeatマーカー 1599  
 プリダイブ (「ギタープリベンド」を参照してください)  
 フリップ (「ジャズの装飾音」を参照してください)  
 プリベンド (「ギタープリベンド」を参照してください)  
 プリロール 684  
 デュレーション 684  
 フロー 684  
 振り分け  
 値 875  
 オクターブごとの分割 1008  
 強弱記号 1249  
 組段あたりの小節数 785  
 小節の拍 1138  
 フレームあたりの組段数 786  
 フレームあたりの譜表数 749  
 ベロシティ 875  
 プリンター 733  
 選択 724  
 ブルースギターのポストベンド 1473  
 フルート (「インストゥルメント」を参照してください)  
 プルオフ (「ハンマーオン」を参照してください)

- フルスコアレイアウト（「レイアウト」を参照してください）
- フレーズ 804, 806
- 強弱記号 341, 1260, 1265–1267
  - コード記号領域 1162
  - コンデンシング 804, 806, 811
  - 小節リピート記号 472, 1611
  - スラー 1655
  - ブレス記号 1341
  - 分割 810, 811
- フレーム 601, 1770
- 移動 604, 605, 633, 634, 768, 769
  - 音楽記号 423
  - 解析 117
  - 書き出し（「グラフィックスライス」を参照してください）
  - 楽譜（「楽曲フレーム」を参照してください）
  - カラー 629, 630
  - 間隔 604, 633, 768–771
  - 空白の譜表 612, 755, 756
  - 区切り 742, 792
  - 組段 749, 764, 786
  - グラフィック（「グラフィックフレーム」を参照してください）
  - 形式設定 559
  - 形状 605, 634
  - コードダイアグラム 1179, 1180, 1182
  - コピー 567, 570, 573, 578, 582, 590, 599, 607
  - サイズ 42, 605, 633, 634
  - 削除 608
  - 順番 614
  - 小節 117
  - 制限 633, 634, 768
  - 選択 554
  - 選択部分から作成 794
  - タイムコード 1586, 1589
  - 高さ 633
  - テキスト（「テキストフレーム」を参照してください）
  - デュレーション 35, 698, 1586, 1589
  - トークン 617
  - トランスポート 35, 698
  - 入力 603
  - 端 633
  - 破線 595, 1179
  - 幅 633
  - 範囲 42
  - ハンドル 606, 616, 638
  - 非表示 477
  - 譜表 749, 764
  - プレーヤー 616
  - フロー 615
  - フロー見出し 595, 763, 768, 769
  - フロー見出しエディター 596
  - ページテンプレートエディター 581
  - 編集 554, 584
  - 密度 567
  - 余白 629, 742, 768, 770, 771
  - 欄外見出し 763
  - リセット 586
  - 枠線 628
- フレーム区切り 557, 742, 784, 792
- 移動 788
  - 演奏技法 1545
- フレーム区切り（続き）
- オクターブ線 1205
  - 音部記号 1191
  - ガイド 490, 795
  - 角括弧 1084
  - グリッサンドライン 1465
  - コンデンシング 804
  - 削除 788, 795
  - 小節線 788, 1084
  - 小節リピート記号 793
  - スラー 1660
  - 挿入 786, 787, 793
  - タイ 1783
  - 調号 1352, 1353
  - ディヴィジ 1722
  - 左に最初のページ 760
  - 拍子記号 1798, 1799
  - フィルター 467
  - 譜表サイズ 773
  - 譜表のスペーシング 748
  - 譜表の非表示 751
  - 譜表の表示/非表示 751
  - 譜表ラベル 1687
  - 別のレイアウトへコピー 822, 823
  - ライン 1573
  - リピート括弧 1594
- フレーム使用率のしきい値
- 両端揃え (垂直方向) 749, 776
  - 両端揃え (水平方向) 764
- フレームチェーン
- 音符のスペーシング 645, 647
  - 音符のスペーシングのリセット 647
  - 楽譜（「楽曲フレームチェーン」を参照してください）
  - 空白の譜表 755
  - 順番 614
  - 追加 613
  - フレーム 613
  - プレーヤー 616
  - フロー 615
  - プロパティ 825–828
  - ページテンプレート 610
  - リンク 613
  - リンクの解除 614
  - レイアウト 611
- フレームパネル 559
- フレーム密度表示 567
- フレームレート 216
- ダイアログ 212
  - トランスポートウィンドウ 698, 701
  - ドロップフレームのタイムコード 1586
  - ノンドロップフレームのタイムコード 1586
  - 変更 212, 217
- プレーヤー 23, 133, 135
- MIDI インポート 95
  - MIDI の書き出し 105, 106
  - アンサンブル 121, 141
  - 移調 146, 198, 199, 201, 950
  - 移調の変更 148, 201
  - 移動 137, 138, 186
  - インストゥルメント 24, 54, 143, 146, 148, 950
  - インストゥルメントの順番 149
  - インストゥルメントのナンバリング 144, 145
  - インストゥルメントの変更ラベル 155

## プレイヤー (続き)

インストゥルメントファミリー 960  
 オーディオの書き出し 110  
 オクターブ線 1204  
 オシニア譜表 1710  
 オシニア譜表の追加 1711  
 音部記号 198, 200, 1194-1196  
 カード 121  
 解析 117  
 書き出し 88  
 角括弧 1142, 1143, 1695  
 カラー 670, 843, 844  
 間のインストゥルメントの移動 149  
 空白の譜表 750  
 組段の分割記号 1716  
 グループ (「プレイヤーグループ」を参照してください)  
 グループから削除 186  
 グループ間の移動 186  
 結合パート 193  
 コード記号 346, 1157  
 コピー 137  
 コンデンス 765, 799, 808  
 削除 140, 149, 186  
 シングルプレイヤー 121, 135, 136  
 スウィング再生 694, 696  
 数字付き低音 427, 1270  
 スコア上の位置 121, 137, 138, 963-965  
 セクションプレイヤー 121, 135, 136  
 ソート 121, 137, 963-965  
 ソリスト 139  
 ソロ 687, 883  
 打楽器キット 160, 161  
 タブ譜 1737, 1739  
 追加 124, 126, 136, 141, 142, 146, 184  
 追加の譜表 1706  
 ディヴィジ 1722, 1723, 1725  
 ディヴィジ作成の編集 1726  
 トークン 618  
 名前の変更 204  
 名前を付ける 203-206, 1688, 1689  
 パートレイアウト (「レイアウト」を参照してください)  
 パネル 120, 121  
 パンニング 892, 896  
 ピッチ 146, 198-201  
 非表示 189, 193  
 表示 189, 193  
 フィルター 616  
 複数のインストゥルメント 54, 146, 204, 205, 1689  
 複製 137  
 譜表 751, 752, 957, 1704, 1707  
 譜表サイズ 774  
 譜表の削除 1704, 1705  
 譜表の追加 957, 1707  
 譜表ラベル 1688, 1689  
 フレームチェーン 612, 616  
 プレイヤー名 204, 205  
 フロー 133, 189  
 フローから削除 189  
 フローに追加 189  
 保存 128  
 ボリューム 891, 1241

## プレイヤー (続き)

マージ 87, 88, 91, 94, 95, 98, 101  
 ミュート 687, 883  
 ユニゾン範囲 1727, 1728  
 読み込み 87, 88  
 リスト 203, 575, 618, 1322  
 リバース (「スペーステンプレート」を参照してください)  
 レイアウト 133, 193, 205  
 プレイヤーカード 121, 133  
 展開矢印マーク 45  
 プレイヤーグループ 121, 183  
 MIDI インポート 101  
 アンサンブル 126  
 削除 186  
 作成 101, 184  
 大括弧のグループ化 1089  
 名前を付ける 185  
 パンニング 900  
 フィルター 487  
 プレイヤーの移動 186  
 プレイヤーの削除 186  
 プレイヤーの追加 184  
 ラベル (「プレイヤーグループのラベル」を参照してください)  
 プレイヤーグループのラベル 1684, 1695  
 角括弧 1696  
 テキストの位置 1696  
 非表示 1696  
 表示 1696  
 フォント 1695, 1697  
 「プレイヤーグループ名を変更」ダイアログ 185  
 プレイヤーパネル 120, 121  
 プレイヤー番号 (「プレイヤーラベル」を参照してください)  
 プレイヤー名 203  
 インストゥルメントトラック 670  
 グループ (「プレイヤーグループのラベル」を参照してください)  
 トークン 618  
 長さ 1685, 1687  
 非表示 1685, 1687  
 表示 1685, 1687  
 譜表ラベル 1685, 1687-1689  
 変更 204  
 リセット 204, 205  
 「プレイヤー名を変更」ダイアログ 204  
 プレイヤーラベル 150, 817, 818  
 位置 817  
 移動 652  
 ガイド 818  
 区切り用文字 818  
 浄書オプション 818  
 デフォルト設定 818  
 背景 821, 1735  
 背景の塗りつぶし 821, 1735  
 配置 817, 1733  
 パラグラフスタイル 817, 1733  
 非表示 155, 818, 1696  
 表示 155, 818, 1696  
 ピリオド 818  
 フォント 817, 1733  
 譜表ラベル 1684, 1689, 1695, 1699, 1701



- プレーヤーラベル (続き)  
「〜へ」の指示記号 819  
変更 818, 819  
ユニゾン 817, 819  
ライン 820  
ワードラップ 820
- プレーンフォント 929, 930, 932, 1764  
演奏技法 1536  
弦の指示記号 1313  
コード記号 1157  
小節番号 1098  
数字付き低音 1281, 1282  
タストソロ 1281, 1282  
タブ譜 1744  
長休符 1653  
テンポ記号 1750  
ニエンテ記号 1259  
拍子記号 1814, 1815  
フィンガリング 1188, 1295, 1296  
リハーサルマーク 1579  
連符 1837
- プレス記号 1335-1337  
位置 1339  
移動 502, 506, 652, 1341  
同じ位置に複数 1339  
カーリユー記号 1339  
外観 472  
カラー 60  
コンデンシング 804  
再生 1342, 1343  
削除 496  
垂直位置 1341  
タイプ 472, 1337  
中間休止記号 1339  
入力 367-369  
フェルマータ 1339
- フレット 168, 1737  
位置 169, 1189  
音域外の音符 1740  
音程 169  
音符入力 231, 268  
音符の生成 517  
開始番号 938, 1176, 1186-1188  
角括弧 (「括弧付きの符頭」を参照してください)  
括弧 (「括弧付きの符頭」を参照してください)  
カポ (「カポ」を参照してください)  
弦番号 1397  
コードダイアグラム (「コードダイアグラム」を参照してください)  
サイズ 1188, 1744  
削除 169, 938, 1187  
スペーシング 169  
追加 169, 268, 938, 1187  
番号 1189  
フォントスタイル 1188, 1744  
変更 1740
- フレット楽器 168  
アルペジオのフィンガリング 1303, 1304  
移調 146, 169, 174, 176, 177, 959  
インストゥルメントファミリー 960  
親指 938, 1182, 1184, 1187  
音符入力 231  
音符の生成 512
- フレット楽器 (続き)  
開放弦のピッチ 171  
カポ (「カポ」を参照してください)  
ギターテクニック (「ギターテクニック」を参照してください)  
ギターバンド 1469  
グリッサンドライン 1466, 1467  
弦楽器 168, 169, 171, 173, 1397  
弦の指示記号 (「弦の指示記号」を参照してください)  
コード記号 174, 177, 1164  
コードダイアグラム 938, 1175, 1177  
作成 950, 954, 959  
スコアの順番 963, 964  
スライド 1305, 1307, 1466, 1467  
タブ譜 (「タブ譜」を参照してください)  
チューニング 148, 168, 169, 173, 174, 177, 959, 1164  
チューニングの書き出し 172  
チューニングの変更 124, 148, 169, 171, 950, 959  
チューニングの読み込み 173  
追加 124, 146  
ディチューン 173, 177, 959  
ハーモニクス 1425-1427, 1429  
パンニング (「ステージテンプレート」を参照してください)  
ピンチハーモニクス 1433  
フィンガリング 301, 1287, 1299  
フレット 169  
ポップオーバー 304  
リバーブ (「スペーステンプレート」を参照してください)
- フレットボードパネル 231  
キーボードショートカット 48
- レビュー  
印刷レビュー 39, 719  
演奏技法 976  
音符のスペーシング 644, 646  
画像 81, 114  
カラー 57, 58  
ファイル名 731  
フォントスタイル 930, 932  
プロジェクト 81, 114  
ライン 988, 994, 999
- 触れるピッチ 1425  
ハーモニクス 1429
- ブレンディング 514  
フロアタム (「無音程打楽器」を参照してください)  
フロア 23, 133, 187  
MIDI インポート 94, 95  
MusicXML ファイル 93  
PDF ファイル 728, 731  
アタッカ 684  
移調 519, 520  
移動 481, 793, 794  
印刷 726, 727  
インストゥルメントの変更ラベル 155  
インデント 651, 1720  
オーディオ 110, 111  
音符のスペーシング 645, 646  
カード 132  
解析 117  
書き出し 88, 89, 726, 727  
間隔 684  
記譜オプション 919

- フロー (続き)
- 切り替え 660
  - 空白の小節の削除 1075
  - 組段 764
  - 組段の分割記号 1716
  - コードダイアグラム 1179, 1180, 1182
  - コピー 87, 188
  - コメント 546, 549
  - コンデンシングオプション 801, 811
  - 再生 684, 713
  - 作詞者 81, 1320
  - 削除 190
  - 作曲者 81, 1319
  - 終了位置の小節線 1082
  - 順番 81, 189
  - 声部 713
  - 選択 463
  - ソート 189
  - タイトル 75, 81, 113, 210, 211, 573, 595, 763, 1318
  - タイムコード 132
  - タレット 795, 797
  - 調号 1346
  - 著作権 81, 1321
  - 追加 188, 551
  - デフォルト設定 919
  - デュレーション 621, 1073-1075
  - テンポトラック 107
  - トークン 620, 621
  - トリミング 329, 334, 336, 1075
  - ナビゲーション 481
  - 名前 81, 113, 210, 731, 1318
  - 配置設定 645, 646 (「配置設定」.も参照)
  - パネル 132
  - 番号 (「フロー番号」を参照してください)
  - ビデオ 132, 211, 213, 214
  - 非表示 193, 615
  - 表示 193
  - 開く 660
  - 複製 188
  - 譜表サイズ 774
  - 譜表ラベル 1685
  - プリロール 684
  - フレームチェーン 612, 615
  - プレーヤー 133, 189
  - プレーヤーの削除 189
  - プレーヤーの追加 189
  - プロジェクトテンプレート 84, 85
  - 分割 551, 760
  - ページ上に複数 760
  - ページテンプレート 761
  - ページ番号 621, 763
  - マージ 87, 94, 95, 760
  - 見出し (「フロー見出し」を参照してください)
  - 読み込み 87, 88, 91, 94, 95
  - 欄外見出し 1323
  - リハーサルマーク 1576
  - 両端揃え 764
  - 臨時記号の有効範囲ルール 1060, 1061
  - レイアウト 133
  - レイアウトから削除 193
  - レイアウトに追加 193
- フローカード 133
- フロータイトル 81, 210, 211
- 書き出し 113
  - 追加 1318
- フローのトリミング 329, 1075
- 「フローの読み込みオプション」ダイアログ 88
- フローパネル 120, 132
- フロー番号 189
- 削除 599
  - トークン 621
  - 非表示 599
  - フロー見出し 595, 596, 599
  - 変更 81, 189
- フロー見出し 81, 567, 569, 573, 595, 599, 932
- 移動 757, 769, 779
  - 書き出し 113, 571
  - カスタム 596, 597, 599
  - 間隔 768, 769, 1180
  - コードダイアグラム 1179, 1180, 1182
  - サイズ 596, 932
  - 削除 601
  - 新規追加 597, 599
  - 制限 596
  - 挿入 592
  - タイトル 763
  - テキストの配置 631
  - デフォルト 595, 597, 599
  - 名前を付ける 600
  - 配置 599
  - パネル 562
  - パラグラフスタイル 595
  - 非表示 75, 591, 762
  - 表示 75, 591, 762
  - フォント 595
  - フレーム 595
  - フロータイトル 763
  - ページテンプレート 761
  - ページ番号 763, 1503
  - 変更 591, 592, 599
  - 変更の解除 594
  - 編集 596, 599
  - もとにするページ 599
  - 優先の解除 586
  - 余白 768, 769, 1180
  - 読み込み 570
  - リセット 599, 913
  - リンク 599
- フロー見出しエディター 596, 599
- 「フロー見出しの変更を挿入」ダイアログ 592
- フロー名 81, 210, 731
- 追加 1318
- 「フローを書き出し」ダイアログ 89
- ブログ 75
- プログラムチェンジの動作 1019, 1025, 1033
- プロジェクト 22, 81, 86, 133
- Hub 75
  - MIDI ファイル 105, 106
  - MusicXML ファイル 92, 93
  - PDF ファイル 728, 738
  - イメージの追加 633
  - ウィンドウ 32
  - オーディオ 110
  - 開始 77
  - 開始領域 37

## プロジェクト (続き)

解析 117  
 回復 115  
 書き出し 92, 93, 105, 106, 109  
 楽章 187  
 異なるバージョンの Dorico 79  
 最近 79  
 作詞者 1320  
 作曲家 1319  
 自動保存 114, 115  
 設定 30, 913, 917, 919, 921, 923, 925  
 全画面表示モード 53  
 存在しないフォント 80  
 タイトル 75, 211, 573, 595, 1318  
 タブ 52  
 著作権 1321  
 デフォルトのフォントスタイル 937  
 デュレーション 618  
 テンプレート (「プロジェクトテンプレート」を参照してください)  
 トークン 618, 620  
 バックアップ 116, 117  
 バックアップの場所 117  
 ビデオ 211, 213  
 開く 53, 78, 79, 115  
 ファイルパス 117, 618, 730  
 フォントスタイル 937  
 複数のウィンドウ 53  
 フレームレート 217  
 プレビュー 81  
 フロー 87-89, 187, 188, 211, 551  
 フローの書き出し 88, 89  
 フローの分割 551  
 フローの読み込み 87, 88, 91  
 マージ 87, 913  
 レイアウト (「レイアウト」を参照してください)  
 ワークスペース 46  
 プロジェクトウィンドウ 32  
 Dark 56, 59  
 Light 56  
 印刷モード 719  
 記譜モード 218  
 再生モード 658  
 浄書モード 553  
 設定モード 120  
 テーマ 56  
 幅 43, 53  
 複数開く 53  
 分割 52  
 プロジェクト情報 81  
 書き出し 84, 85, 113  
 作詞者 1320  
 作曲家 1319  
 タイトル 1318  
 著作権 1321  
 トークン 81, 210, 573, 620  
 フロータイトル 210, 1318  
 プロジェクトテンプレート 84, 85  
 ページテンプレート 573, 1318  
 「プロジェクト情報」ダイアログ 81  
 プロジェクトテンプレート 77, 84  
 Hub 75  
 MIDI インポート 95

## プロジェクトテンプレート (続き)

カテゴリー 84  
 削除 86  
 プロジェクトの開始 77  
 保存 85  
 「プロジェクトテンプレートとして保存」ダイアログ 85  
 「プロジェクトにおけるコード記号のデフォルトの外観」ダイアログ 942  
 「プロジェクトの解析」ダイアログ 117, 118  
 プロップ (「ジャズアーティキュレーション」を参照してください)  
 プロパティ 826  
 値 829  
 音符 826  
 記譜記号 826  
 グローバル 827, 828  
 検索 826  
 選択したアイテム 826  
 範囲 826-828  
 ビデオ 212  
 別のレイアウトへコピー 825  
 ローカル 827, 828  
 プロパティパネル 826  
 キーボードショートカット 48  
 記譜モード 218, 228  
 展開矢印マーク 42  
 分  
 タイムコード 1586, 1589  
 デュレーションのトークン 618, 621  
 トランスポート 35, 698  
 分割  
 PDF ファイル 728  
 音符 219, 288, 507, 510, 919, 1136-1139, 1630, 1786, 1855, 1856  
 角括弧 1150, 1411  
 カットコモンタイム 1139  
 休符 271, 288, 1137, 1139, 1642  
 小節 788-790, 792, 793, 1077, 1136, 1138, 1139, 1630, 1796, 1809  
 小節線の結合 1090-1092  
 スラッシュ領域 1630, 1631  
 声部 507, 510, 1855, 1856  
 タイ 288, 919, 1136-1138, 1786  
 中括弧 1150  
 長休符 1649, 1653  
 テンポの等式 1761  
 拍子記号 311, 1138, 1804, 1805  
 符頭の括弧 1411  
 譜表 446, 447, 789, 790, 792, 793, 799, 1598, 1722, 1725  
 フレーズ 507, 810, 811, 1722, 1725  
 プレーヤーラベル 820  
 フロー 551, 726-728  
 プロジェクトウィンドウ 52  
 ペダル線 1524  
 リピートマーカのテキスト 1603  
 連桁 919, 1112, 1115, 1127, 1131, 1136, 1138, 1139  
 連符 1829  
 分割記号 (「組段の分割記号」を参照してください)  
 分割の矢印 1716, 1729  
 分割ポイント 101

## 分子

スタイル 1804, 1805  
拍子記号 1795, 1796

## 分数

アルペジオ記号 1458, 1459  
ギターバンド 1475  
グリッサンドライン 1467  
コード記号 1155, 1156  
数字付き低音 429  
テンポ記号 326, 327, 436, 1752, 1755  
トレモロ 1823, 1824  
拍子記号 311, 1795, 1796  
フィンガリング 1288  
ライン 992

## 分析

コード 355  
三重小節線 1079  
フーガ 60, 1267, 1551  
和声 1268, 1551

## 文頭の1文字目のみ大文字

リピーターマークのテキスト 1599

## 分母

スタイル 1804, 1806  
拍子記号 1795, 1796

## へ

ヘアピン（「段階的強弱記号」を参照してください）

## 平行

音程 512, 517  
コード 512, 517  
進行 512, 517  
ライン 1112, 1127, 1338, 1461, 1542, 1716

## ページ

移動 481, 594, 757  
入れ替え 594  
印刷 726, 727, 733, 737  
オプションを表示 42  
解析 117  
書き出し 641, 726-728, 733  
歌詞 616  
カラー 57, 59  
空白の譜表を隠す 751  
区切り（「フレーム区切り」を参照してください）  
グラフィックスライス 635, 637  
形式設定 584, 1318  
コピー 567, 570, 573, 578, 590  
サイズ（「ページサイズ」を参照してください）  
削除 586, 759  
順番 614  
設定 737  
選択部分から作成 794  
総数 117, 621  
ターン（「フレーム区切り」を参照してください）  
高さ 744, 745, 749  
長方形（「フレーム」を参照してください）（「グラフィックスライス」.も参照）  
追加 757, 758  
テンプレート（「ページテンプレート」を参照してください）（「フロー見出し」.も参照）  
トークン 621  
ドラッグ 483  
ナビゲーション 481, 483

## ページ（続き）

二重奏 612, 613, 616  
背景色 58, 59  
配置 44, 54  
端（「ページ余白」を参照してください）  
抜粋（「グラフィックスライス」を参照してください）  
パネル 562  
幅 744, 745, 764  
範囲 733  
番号（「ページ番号」を参照してください）  
左 567, 573, 581  
ビューの変更 54  
複数のフロー 760  
譜表のスペーシング 783  
フレーム（「フレーム」を参照してください）  
フロー見出し（「フロー見出し」を参照してください）  
フロー見出しの割り当て 591  
ページテンプレート（「ページテンプレート」を参照してください）（「フロー見出し」.も参照）  
ページテンプレートの割り当て 590  
編集 584, 586  
右 567, 573, 581  
密度 567, 747, 749, 772, 773  
見開き 567, 573, 581  
向き 744  
余白 742, 745, 768-771  
リセット 759  
レイアウト 567, 581, 742, 784, 786  
ロック 787  
ページ区切り（「フレーム区切り」を参照してください）  
ページ形式設定 742  
楽譜用紙 755, 756  
空白の譜表 750, 753, 755, 756  
組段 651, 748, 786  
組段あたりの小節数 785  
組段に変換 790  
組段の移動 782  
形式設定 569, 584  
献呈 1321  
固定 784-787, 794, 822, 823, 825  
コピー 783  
タイトル 567, 595  
タチエット 797  
長休符 1653  
ディヴィジ 1722, 1723  
テキスト 929, 930, 932, 935, 937, 1770  
配置設定 784  
左ページ 760  
複数のフロー 760  
譜表 751, 752  
譜表サイズ 772  
譜表のスペーシング 748, 776, 783, 1770  
フレーム制限 633  
フレームに変換 794  
フロー見出し 591, 594, 595, 742  
ページサイズ 744  
ページテンプレート 567, 569, 573, 581, 582, 591, 746  
リセット 586, 591, 594, 788  
ロック 787  
ページサイズ 736, 737, 1017  
MusicXML ファイル 91  
書き出し 913

- ページサイズ (続き)
  - カスタム 1017, 1019
  - グラフィックファイル 728
  - 新規プロジェクト 75
  - 変更 744, 1017
  - 読み込み 913
  - リセット 913, 1017
  - レイアウトオプション 917
- ページテンプレート 28, 567, 573, 581
  - 移動 757
  - 書き出し 85, 571, 913, 916
  - カスタム 573, 575, 577
  - 楽曲フレーム 609
  - 楽曲フレームの余白 771
  - グラフィックフレーム 581, 632, 633
  - 献呈 1321
  - コピー 567, 570, 573, 578, 590
  - 最初 573, 761
  - 削除 581
  - 作曲者 573
  - セット (「ページテンプレートのセット」を参照してください)
  - タイトル 573
  - タイプ 573
  - 追加 575, 577
  - テキストの配置 631
  - デフォルト 573
  - 名前を付ける 580
  - パネル 562
  - フレーム 603–605
  - フレーム制限 633
  - フレームチェーン 578, 610, 613, 614
  - フロー見出し (「フロー見出し」を参照してください)
  - フロー見出しの変更の解除 594
  - プロジェクトテンプレート 84
  - ページ番号 574, 604, 1501
  - ページへの割り当て 590, 761
  - 変更の解除 591
  - 編集 581, 582
  - 保存 85, 571
  - もとにするページ 575, 577, 582
  - 優先 (「ページテンプレートの優先」を参照してください)
  - 読み込み 578, 579, 913, 915
  - 欄外見出し 1323
  - リセット 913
  - リンク 575, 577, 582
  - レイアウトのコピー 582
- ページテンプレートエディター 581, 582
- ページテンプレートのセット 569
  - 書き出し 571
  - 削除 572
  - 作成 570
  - 適用 746
  - 名前を付ける 572
  - フロー見出し 569, 595, 597, 599
  - 読み込み 570
  - レイアウト 746
- ページテンプレートの優先 584, 1764
  - 移動 757
  - 削除 586
  - テキスト 616
  - ページの削除 759
- 「ページテンプレートを読み込み」ダイアログ 579
- 「ページの移動」ダイアログ 481
- ページの形式変更 584, 594
- ページ配置 44, 54
- ページパネル 553, 562
- ページ範囲
  - 印刷 726, 727
  - 書き出し 726, 727
  - 選択 733
  - フロー 726, 727
- ページ番号 574, 1501
  - 移動 582, 604, 757
  - 外観 1501
  - 開始 760, 1503
  - ガイド 1505
  - カウント 621
  - 合計 621
  - サイズ 1501
  - 削除 582, 1501
  - シーケンスの変更 586, 588
  - 水平方向の配置 1501
  - 数字スタイル 588, 1502
  - トークン 621
  - パラグラフスタイル 1501
  - 非表示 588, 763, 1503–1505
  - 表示 763, 1504, 1505
  - フォントスタイル 1501
  - フロー 621
  - フロー見出し 763, 1503
  - ページテンプレート 574
  - ページ内の位置 604
  - 変更 586, 588
  - 変更の解除 589
- 「ページ番号の変更」ダイアログ 588
- ページビュー 44, 54
  - キュー 1209
  - 小節番号 1098
  - ナビゲーション 481, 483
  - 配置 44, 54
  - フロー 551
  - ページ番号 1505
- ページめくり (「フレーム区切り」を参照してください)
- ページ余白 742, 768
  - グラフィックスライス 636
  - 非表示 477
  - フレーム 603
  - 変更 745, 770, 771
- 「ページを挿入」ダイアログ 758
- ベース音
  - オルタード 346, 351
  - コード記号から音符を 514
  - 数字付き低音 1268, 1269
  - 対位法 1267
- ベースギター (「フレット楽器」を参照してください)
- ベーススイッチ 1024, 1032
- ベースライン
  - アタッチメントポイント 946, 970, 979, 1001, 1009, 1014
  - インストゥルメント名 207
  - 歌詞 1372, 1374, 1379
  - 強弱記号 1249
  - コード記号 1155, 1156
  - ディヴィジ 1723

- ベースライン (続き)
  - テキスト [421](#), [625](#), [935](#)
  - 譜表ラベル [207](#), [1723](#)
- へ音記号 (「音部記号」を参照してください)
- ペダル
  - ハーブのペダリング (「ハーブのペダリング」を参照してください)
  - ピアノ (「ペダル線」を参照してください)
- ペダル線 [1516](#)
  - MIDI インポート [94](#), [101](#), [297](#)
  - MIDI コントローラー [1535](#)
  - MIDI 録音 [295](#), [297](#)
  - MusicXML の読み込み [1535](#)
  - 上げ [1517](#)
  - 位置 [1517](#), [1523](#)
  - 移動 [101](#), [502](#), [652](#), [1518](#), [1523](#)
  - 延長線 [1516](#), [1526](#), [1529-1531](#)
  - 音符 [1523](#)
  - 外観 [1526](#), [1527](#), [1529](#), [1533](#), [1534](#)
  - 開始記号 [1517](#), [1526](#), [1527](#), [1532](#)
  - ガイド [490](#)
  - 括弧 [1531](#), [1532](#)
  - カラー [60](#)
  - 間隔 [1530](#)
  - 記号 [1014](#)
  - 形式設定 [1014](#), [1527-1529](#), [1531](#)
  - 再生 [1535](#)
  - 再生時にミュート [688](#)
  - 削除 [496](#)
  - 十字線 [656](#)
  - 終了記号 [1528](#), [1529](#)
  - 順番 [1523](#)
  - 浄書オプション [1517](#)
  - 浄書モード [1518](#)
  - 装飾音符 [1517](#), [1523](#)
  - タイプ [401](#), [1516](#)
  - 打楽器 [1536](#)
  - テキスト [1532-1534](#)
  - デフォルト設定 [1517](#)
  - デュレーション [1535](#)
  - 長さ [470](#), [652](#), [1518](#), [1523](#), [1525](#)
  - 入力 [398](#), [401](#), [407](#), [409](#)
  - ハーブのペダリング (「ハーブのペダリング」を参照してください)
  - 配置 [1517](#), [1518](#), [1521](#), [1523-1525](#)
  - 破線 [1529](#), [1530](#)
  - パネル [402](#), [409](#)
  - ハンドル [1518](#)
  - 非表示 [1527-1529](#)
  - フィルター [467](#)
  - フック [1518](#), [1526](#), [1528](#)
  - 太さ [1531](#)
  - 譜表に対する位置 [1523](#)
  - 分割 [1524](#)
  - 変更 [472](#)
  - ポップオーバー [401](#), [407](#)
  - マージ [1525](#)
  - リテイク (「ペダルのリテイク」を参照してください)
  - リテイクの削除 [1522](#)
  - リリース [1526](#)
  - レベル (「ペダルの強さの変更指示」を参照してください)
- ペダルの強さの変更指示 [1517](#), [1518](#), [1520](#), [1521](#)
  - 開始レベル [1520](#), [1521](#)
  - 削除 [1522](#)
  - 終了レベル [1521](#)
  - 入力 [401](#), [407-410](#), [1520](#)
  - ハンドル [1518](#)
- ペダルのリテイク [1517](#)
  - 位置 [1517](#)
  - 音符 [1517](#), [1523](#)
  - 削除 [1522](#)
  - 装飾音符 [1517](#)
  - タイプ [1519](#)
  - 入力 [401](#), [407-410](#), [1525](#)
  - 配置 [1517](#)
  - ハンドル [1518](#)
  - ペダルの強さ [1521](#)
- ヘッダー
  - MIDI CC エディター [866](#)
  - MIDI ピッチバンドエディター [865](#)
  - エディター [840](#)
  - キーエディター [831](#)
  - 強弱記号エディター [859](#)
  - 打楽器エディター [844](#)
  - テンポエディター [871](#)
  - トラック [659](#), [661](#), [670](#), [672-674](#)
  - ピアノロールエディター [835](#), [843](#)
  - フレーム制限 [633](#)
  - フロー [595](#)
  - ベロシティーエディター [856](#)
  - 欄外見出し [1323](#)
- 「～へ」の指示記号 (「インストゥルメントの変更ラベル」を参照してください) (「プレーヤーラベル」も参照)
- ヘミオラ
  - 音符のデュレーションの強制 [288](#)
  - 個別の拍子記号 [315-317](#), [319](#)
- 部屋
  - パンニング (「ステージテンプレート」を参照してください)
  - リバーブ (「スペーステンプレート」を参照してください)
- ベロシティー
  - MIDI インポート [101](#)
  - MIDI トリガー領域 [458](#), [459](#), [717](#)
  - MIDI 録音 [295](#)
  - エクスペクションマップ [1028](#)
  - エディター (「ベロシティーエディター」を参照してください)
  - 括弧付きの符頭 [1408](#)
  - コントロール [857](#), [875-877](#), [879](#)
  - 選択 [880](#)
  - ヒストグラムツール [875](#), [876](#)
  - 変換ツール [879](#)
  - 変更 [458](#), [459](#), [472](#), [857](#), [858](#), [875-877](#), [879](#)
  - リセット [858](#)
- ベロシティーエディター [856](#), [857](#), [859](#)
  - ズーム [838](#)
  - 高さ [837](#)
  - 追加 [840](#), [856](#)
  - 閉じる [840](#), [856](#)
  - ヒストグラムコントロール [876](#)
  - フィルター [877](#)
  - ベロシティーの変更 [857](#), [875-877](#), [879](#)

- ベロシティーエディター (続き)  
 ベロシティーのリセット 858  
 変換コントロール 879
- ベロシティーレーン (「ベロシティーエディター」を参照してください)
- 変移線 1542, 1551  
 MIDI 869  
 演奏技法 982, 1548  
 外観 976, 1547  
 強弱記号 862  
 デフォルト設定 976  
 デュレーション 1543  
 テンポ 871, 873  
 入力 399, 404, 406  
 非表示 1547  
 表示 1547, 1549
- 変換 527  
 MIDI CC 876  
 PDF 728  
 音符から連符 1828  
 音符を装飾音符に 1329  
 回転 531  
 キーエディター 875, 876, 879  
 逆行 528  
 繰り返し 532  
 スケールのマッピング 535  
 選択範囲 880  
 装飾音符を標準の音符に 1329  
 転回 528  
 ピッチのマッピング 533  
 ベロシティー 875, 876, 879  
 ポップオーバー 537  
 レイアウトをグラフィックファイルに 728  
 連符から標準の音符 1829
- 変換先  
 音符 533-535, 542
- 変換ツール 875, 879  
 非表示 880  
 表示 880
- 編曲者 81  
 書き出し 113  
 斜体 81, 932  
 追加 81, 582  
 トークン 620  
 フォント 932  
 太字 81, 932
- 変更ラベル  
 インストゥルメント (「インストゥルメントの変更ラベル」を参照してください)  
 コンデンシング (「プレーヤーラベル」を参照してください)  
 ディヴィジ 1733-1735  
 配置 1733
- 編者注  
 音符 1406, 1408  
 強弱記号 1237  
 コード記号 1169-1171  
 数字付き低音 1272, 1276  
 スラー 1663, 1664  
 タイ 1778, 1779  
 フィンガリング 1287  
 臨時記号 1054
- 編集 234, 469, 472  
 アイテム 472, 655, 826  
 移動 (「移動」を参照してください)  
 音符 219  
 音符のデュレーション 286, 470  
 歌詞のテキスト 1377-1379  
 再実行 478, 479  
 入力と編集 234  
 ハンドル 655  
 フロー見出し 599  
 ページテンプレート 582  
 マウス入力 235  
 マウスによる編集 236  
 元に戻す 478, 479  
 リズムグリッド 241  
 領域 157, 1848
- 返信  
 コメント 545, 548
- ベンディング  
 削除 1479  
 長さ 652  
 入力 386
- バンド  
 ギター (「ギターバンド」を参照してください) (「ダイブ」も参照)  
 ジャズ (「ジャズアーティキュレーション」を参照してください) (「ジャズの装飾音」も参照)  
 ビブラート (「ビブラートバー」を参照してください)
- バンドの音程 1475  
 外観 1476  
 ハンドル 1480, 1481, 1483  
 非表示 1475, 1476  
 微分音 1475  
 表示 1476
- 変拍子  
 アウフタクトとしての小節 1800  
 拍子記号 1796
- ## ほ
- ボイスिंग  
 音符 257, 278, 509, 515  
 コード記号 346, 515, 517, 675, 676  
 コードダイアグラム 1175, 1179, 1180, 1182, 1185, 1186  
 打楽器キット 157, 162  
 リデュース 509
- ポイント  
 MIDI 866, 868, 869  
 一定 862, 869  
 基準単位 55  
 強弱記号 859, 860, 862, 863  
 コピー 841, 864, 870  
 削除 842  
 選択 840  
 テンポ変更 871, 873  
 譜表のスペーシング 779  
 リニア 862, 869
- 棒グラフ 878
- 方向  
 アルペジオ記号 1454, 1455  
 移調 519, 520  
 一線譜上の音符 1846

## 方向 (続き)

- 扇形連桁 [1133](#), [1134](#)
- オーディオ (「パンニング」を参照してください)
- ギタープリベンド [1478](#)
- ギターベンド [474](#)
- グリッサンドライン [1397](#)
- 弦のシフト指示 [1312](#), [1397](#)
- 再生効果 [1046](#), [1047](#)
- スラーのカーブ [1667](#), [1668](#)
- スラッシュ符頭 [1638](#)
- 装飾音符 [1329](#)
- 第3線にある音符 [1418](#)
- タイのカーブ [1777](#), [1781](#), [1782](#)
- 段階的強弱記号 [1246](#), [1255-1257](#), [1265](#)
- パンニング [892](#)
- 不完全連桁 [1128](#)
- 符尾 [1416](#), [1418](#), [1420](#), [1846](#)
- ヘアピン [1246](#), [1255-1257](#)
- 用紙の向き [737](#)
- ライン [1565](#)
- 連桁 [1118](#), [1119](#), [1128](#)
- ボーイング (「演奏技法」を参照してください) (「スラー」.も参照)
- ボーカスコア (「レイアウト」を参照してください)
- ポート [661](#), [672](#), [711](#), [871](#)
  - インストゥルメント [713](#)
  - エクスプレッションマップ [661](#), [711](#), [714](#)
  - コードトラック [661](#)
  - 設定 [711](#)
  - テンポエディター [871](#)
  - テンポトラック [672](#)
  - パーカッションマップ [661](#), [711](#), [714](#)
  - 変更 [713](#)
  - ミキサー [884](#)
- ポール・ド・ヴォア (「装飾音」を参照してください)
- ホールトーン
  - コード記号 [351](#)
  - スケール [535](#), [542](#)
- ホルドの線 [1469](#), [1477](#)
  - 位置 [1476](#)
  - 移動 [652](#), [1480](#)
  - 外観 [1476](#)
  - 角括弧 [1273](#), [1276](#)
  - ギターベンド [1476](#), [1480](#)
  - 数字付き低音 [470](#), [1269](#), [1273-1275](#), [1278](#), [1279](#)
  - 長さ [1274](#), [1275](#), [1279](#), [1476](#), [1480](#)
  - 破線 [1476](#)
  - ハンドル [1278](#), [1480](#)
  - 非表示 [1273](#), [1274](#), [1477](#)
  - 表示 [1273](#), [1274](#), [1477](#)
- ホールハーフディミニッシュ (「スケール」を参照してください) (「音程」.も参照)
- 星
  - ペダル線 [1516](#), [1529](#)
- 補助音符 [1446](#)
  - 位置 [1448](#)
  - 表示 [1447](#)
  - 符頭のデザイン [1394](#)
- ポストベンド (「ギターポストベンド」を参照してください)
- 保存 [75](#), [114](#)
  - MIDI ファイル [95](#), [105](#), [106](#)
  - MusicXML ファイル [92](#)

## 保存 (続き)

- PDF ファイル [728](#)
- PNG ファイル [728](#)
- SVG ファイル [728](#)
- TIFF ファイル [728](#)
- アンサンプル [128](#)
- インストゥルメント [950](#), [954](#), [958](#), [959](#)
- インストゥルメントのスコアの順番 [964](#), [965](#)
- インストゥルメントファミリー [960](#), [962](#)
- インストゥルメント名をデフォルトとして [207](#)
- インポート設定 [95](#)
- エクスプレッションマップ [1038](#)
- エディター [881](#)
- 演奏技法 [983](#)
- 演奏した音符 [292](#)
- エンドポイント設定 [715](#), [716](#)
- オーディオ [105](#), [106](#), [110](#), [111](#)
- 音符入力オプションをデフォルトとして [921](#)
- 歌詞 [1366](#)
- カスタムアンサンプル [128](#)
- カスタムインストゥルメント [950](#), [954](#), [958](#), [959](#)
- カスタムの演奏技法 [982](#)
- カスタムの符頭 [973](#), [975](#)
- カスタムライン [984](#)
- キーエディター設定 [881](#)
- 記譜オプションをデフォルトとして [919](#)
- グラフィックファイル [640](#), [641](#), [728](#), [730](#)
- コード記号をデフォルトにする [949](#)
- コードダイアグラムシェイプ [1186](#)
- コメント [550](#)
- 再生テンプレート [709](#), [710](#)
- 自動保存 (「自動保存」を参照してください)
- 浄書オプションをデフォルトとして [923](#)
- ステージテンプレート [899](#), [903](#), [904](#)
- スペーステンプレート [907](#), [910-912](#)
- 設定をデフォルトとして [85](#), [95](#), [917](#), [919](#), [921](#), [923](#), [925](#), [930](#), [932](#)
- 打楽器キット [167](#), [956](#)
- チューニング [950](#), [959](#)
- 調性システム [1003](#), [1007](#), [1359](#), [1360](#)
- テキスト [113](#)
- デフォルトの再生オプション [925](#)
- デフォルトのライン [984](#), [988](#), [992](#)
- パーカッションマップ [1044](#)
- バックアップ [116](#), [117](#)
- パラグラフスタイルをデフォルトとして [932](#)
- フォルダーの場所 [117](#)
- フォントスタイルをデフォルトとして [930](#)
- プラグイン [715](#)
- プレーヤー [128](#)
- プレーヤーの順番 [964](#), [965](#)
- プロジェクトテンプレート [85](#), [95](#)
- ページテンプレートのセット [571](#)
- 文字スタイルをデフォルトとして [935](#)
- ライブラリー [916](#)
- レイアウトオプションをデフォルトとして保存 [917](#)
- 保存先
  - ファイルの書き出し [640](#)
- ボックス (「枠線」を参照してください) (「フレーム」.も参照)
- ホットキー (「キーボードショートカット」を参照してください)



- ポップオーバー 25, 224  
 MIDI トリガー領域 458, 459  
 アイテムの変更 472  
 アルペジオ記号 373, 378  
 アンサンプル (「アンサンプルピッカー」を参照してください)  
 移調 539  
 インストゥルメント (「インストゥルメントピッカー」を参照してください)  
 インストゥルメントフィルター 486  
 演奏技法 399, 404, 407  
 延長 366, 368  
 オクターブ線 358, 360, 363  
 音程追加 (「音符ツールのポップオーバー」を参照してください)  
 音部記号 358, 362  
 音符ツール 284, 521, 537  
 歌詞 424, 426, 427  
 ギターテクニク 373, 384, 387, 389, 391, 393-395, 397  
 キュー 453, 454  
 休止 366, 368  
 強弱記号 337, 341  
 グリッサンドライン 373, 380  
 弦の指示記号 402  
 コード記号 348, 353, 921  
 ジャズアーティキュレーション 372, 382  
 小節 329, 332  
 小節線 329, 331, 332, 334, 336  
 小節リピート記号 441, 451  
 ショートカット (「ジャンプ小節」を参照してください)  
 数字付き低音 429, 432  
 スラッシュ符頭 441  
 装飾音 371, 376, 378, 380, 382  
 調号 305, 308  
 テンポ 321, 326  
 通し番号付き小節領域 441  
 トリル 372, 1444  
 トレモロ 440, 447  
 ハープのペダリング 401  
 拍 330  
 拍子記号 311, 315, 317  
 フィンガリング 301, 302  
 ペダル線 401, 407  
 メトロノームマーク 321  
 リピート 439, 447, 451  
 リピート括弧 439  
 リピートマーカー 439  
 連符 281, 282
- ボディ  
 演奏技法の延長線 1544, 1547  
 変更 1563  
 ライン 986, 988, 992, 1551, 1553, 1563
- ポリコード記号 351, 1154  
 入力 346  
 配置 1155, 1167
- ポリフォニー 1858  
 MIDI インポート 98  
 MIDI 録音 290, 291  
 エクスプロード 510  
 コンデンシング (「コンデンシング」を参照してください)
- ポリフォニー (続き)  
 再生 685, 686, 1267  
 声部の追加 257  
 声部の変更 507  
 リデュース 509
- ポリューム  
 MIDI 1266  
 括弧付きの符頭 1408  
 強弱記号 863, 1229, 1235, 1257, 1264-1266  
 クリック 891  
 再生 891, 1028, 1265, 1266  
 増減 (「messa di voce」を参照してください)  
 チャンネルメーター 883, 884, 891  
 トラック 883, 884, 891  
 ビデオオーディオ 215  
 ベロシティ 856-858, 875, 879, 1028  
 ミキサー 883, 884, 891  
 無音の再生テンプレート 701, 702  
 メトロノームクリック 294  
 リセット 891
- ポルタ線 (「リピート括弧」を参照してください)  
 ポルタメント (「グリッサンドライン」を参照してください)  
 ホルン 143  
 移調 124, 146, 148, 198, 199, 201, 950, 958  
 音部記号 124, 148, 198-200, 360, 950, 958, 1198  
 支管の指示記号 1295, 1309  
 調号 124, 148, 950  
 パンニング (「ステージテンプレート」を参照してください)  
 フィンガリング 1295, 1309  
 リバーブ (「スペーステンプレート」を参照してください)
- ボンゴ (「無音程打楽器」を参照してください) (「打楽器キット」も参照)
- ま
- マーカー 1580, 1586  
 位置 1580  
 移動 502, 1584  
 外観 1580  
 ガイド (「ガイド」を参照してください)  
 書き出し 105, 106, 111, 113  
 カラー 60  
 コメント (「コメント」を参照してください)  
 削除 436, 496  
 重要 436, 1585  
 浄書オプション 1580  
 垂直位置 748, 776, 1580, 1581  
 ダイアログ 435  
 タイムコード 435, 1584, 1588  
 テキスト 108, 434, 436, 1582  
 デフォルト設定 1580  
 トラック 673, 676  
 入力 434, 435, 673  
 パネル 436  
 非表示 1581, 1604  
 表示 1581, 1604  
 フィルター 467  
 フォントスタイル 1583  
 譜表 1581  
 譜表のスペーシング 748, 776

- マーカー (続き)  
   読み込み 108  
   リピート 439, 1598  
   枠線 1584  
 「マーカーを追加」ダイアログ 435  
 マーク  
   テンポ (「テンポ記号」を参照してください)  
   トリル 1434, 1436, 1438, 1448  
   リハーサル (「リハーサルマーク」を参照してください)  
 マークアップ (「コメント」を参照してください) (「注釈」.も参照)  
 マークダウン 81  
   テキストアイテム 63  
 マージ  
   音符 101, 278, 280, 288, 509, 799, 1136-1139  
   休符 271, 288, 1136-1139, 1641, 1642  
   声部 98, 101, 509, 799  
   設定 913  
   譜表 509, 799 (「コンデンシング」.も参照)  
   プレーヤー 87, 88, 91, 94, 95, 98, 101  
   フロー 87, 94, 95, 760  
   プロジェクト 87, 913  
   ペダル線 1525  
   連桁 1112-1114  
 マイナー  
   音程 519-521, 538  
   コード記号 350, 1155, 1156  
   スケール 535, 542, 1348  
   調 1348  
 マウス入力 234  
   設定 235  
   無効化 219, 236  
   有効化 219, 236  
 マウスによる編集  
   無効化 236  
   有効化 236  
 前 (「後ろ」を参照してください)  
 前付け 1318  
   演奏上の指示 567, 573, 575  
   献呈 1321  
   作詞者 573  
   作曲者 573  
   タイトル 567, 573, 575  
   著作権 573  
   プレーヤーリスト 617  
   ページテンプレート 567, 573, 575  
   欄外見出し 1323  
 巻き戻し 678, 682, 698  
 マスター出力ボリューム 883, 884, 886, 887, 891  
 マスターページ (「ページテンプレート」を参照してください)  
 マッチ  
   オプション検索 63, 917, 919, 921, 923, 925  
 末尾  
   インストゥルメントの変更 61, 153  
   演奏技法 1537  
   強弱記号 1241, 1242  
   コードダイアグラム 1176  
   小節番号 1110  
   タイムコード 1586  
   フレット番号 1176  
   リハーサルマーク 1578  
 マップ  
   エクスプレッション (「エクスプレッションマップ」を参照してください)  
   キーボードショートカット 66  
   スケール (「スケールのマッピング」を参照してください)  
   打楽器 (「パーカッションマップ」を参照してください)  
   ピッチ (「ピッチのマッピング」を参照してください)  
 マリンバ (「インストゥルメント」を参照してください)  
 (「大譜表を用いる楽器」.も参照)  
 丸  
   アコーディオンの音域 976  
   演奏技法 402, 976, 1536  
   音符の囲み線 1742, 1743  
   キーボードパネル 229  
   記号 976, 994, 999  
   弦の指示記号 1313, 1314  
   コード記号 1155, 1156  
   コード記号の括弧 1169, 1172  
   コードダイアグラム 938, 1175, 1176, 1186, 1187  
   小節番号の囲み線 1096  
   数字付き低音の括弧 1269, 1273, 1276  
   タッピング 1486, 1489  
   タブ譜 1741, 1742  
   ハーモニクス 1429, 1432  
   ピッチ 531, 541  
   フィンガリング 1293  
   符頭 1389, 1394, 1840, 1843  
   符頭の括弧 1406, 1408  
   譜表ラベル 1688  
   ヘアピン (「ニエンテ」を参照してください)  
   リズム 255, 531, 541 (「付点音符」.も参照)  
   リハーサルマークの囲み線 1575  
 マルカート (「アーティキュレーション」を参照してください)  
 マルトレ (「アーティキュレーション」を参照してください)  
 マンドリン (「フレット楽器」を参照してください)
- み**  
 ミキサー 883, 884  
   オーディオ出力を非表示にする 711  
   サウンドトラック 215  
   スクロール 890  
   高さ 885, 890  
   チャンネル 883, 884, 886, 887, 890, 894  
   チャンネルストリップ 888  
   ツールバー 885  
   トラックのミュート 687, 883-885  
   トラックをソロにする 687, 883-885  
   パンニング 886, 892  
   ビデオ 215  
   非表示 883-885  
   表示 883-885  
   フィルター 888, 890  
   ポート 883, 884  
   ボリューム 891  
   リセット 687, 883, 891  
 ミキサーパネル 883  
   キーボードショートカット 48

- 右ゾーン 40, 41
    - 印刷モード 721
    - 記譜モード 228
    - 浄書モード 562
    - 設定モード 129
    - 非表示 48
    - 表示 48
  - 右手のフィンガリング 1299
    - アルペジオ記号 1303, 1304
    - 位置 1287
    - 角括弧 1300
    - 浄書オプション 1287
    - タッピング (「タッピング」を参照してください)
    - デフォルト設定 1287
    - 入力 301
    - ポップオーバー 304
    - 文字 1305
  - 右パン 907, 908
  - 右フック (「ライン」を参照してください)
  - 右ページ 567, 573
    - から開始 760
    - 形式設定 581, 612, 613, 616
    - 二重奏 612, 613, 616
  - ミクソリディアン
    - コード記号 351, 1165
    - スケール 535, 542
  - 短い
    - 再生時の音符 1071
  - 密集和音
    - 臨時記号のスタック 1055
  - 密度
    - 組段 566
    - フレーム 567
    - ページ 567, 747, 749, 764, 772, 773
  - メディアムスウィング 693, 697
  - 緑の音符
    - 強弱記号エディター 859
    - タブ譜 1740
  - ミドル C 55
    - Groove Agent 104
    - インストゥルメントの移調 950, 958, 959
    - エクスペッションマップ 1025
    - 音部記号 199, 200, 1191
    - 再生 55, 685, 1025, 1039
    - 転回 529, 540
    - パーカッションマップ 1039
    - ピッチのマッピング 534, 542
    - フレット楽器 168, 169, 171, 177, 959
    - 変更 55
    - レイアウト 199
  - ミニトランスポート 33, 35
  - 見開き
    - ページ配置 44, 733
  - 見開きページ 567, 573, 581
    - 二重奏 612, 613, 616
  - ミュート
    - Insert 895
    - MIDI キーボード 240
    - アイテム 688, 689
    - インストゥルメント 687
    - エフェクト 895
    - 音符 239, 688, 689, 1490
    - カラー 689
  - ミュート (続き)
    - スラッシュ音符 507, 1627, 1629
    - 声部 687
    - チャンネル 687, 886, 895
    - トラック 687, 883, 884
    - 無効化 687, 883-885
  - ミリ秒 35, 698
    - ディレイ 1028
  - ミリメートル
    - 基準単位 55
    - 譜表のスペーシング 779
    - フレームの寸法 42
  - 未割当のインストゥルメント
    - サウンドのロード 707
- ## む
- 無音
    - MIDI キーボード 240
    - アイテムのミュート 688
    - 音符 1490
    - 再生テンプレート 701, 702, 707
    - 存在しないサウンド 707
    - ヘアピン (「ニエンテ」を参照してください)
  - 無音程打楽器 1838
    - MIDI 42, 831, 844, 866, 1039
    - MIDI インポート 95
    - MusicXML ファイル 92
    - アーティキュレーション 1045, 1070, 1840, 1847
    - インストゥルメントの順番 164
    - インド太鼓の記譜 1857
    - 演奏技法 850, 1045, 1536, 1839, 1840, 1842, 1843, 1847
    - 音符入力 104, 263, 266, 267, 845, 846
    - 音符の移動 507
    - 括弧 (「括弧付きの符頭」を参照してください)
    - キーエディター (「打楽器エディター」を参照してください)
    - キット (「打楽器キット」を参照してください)
    - キットにおける強弱記号 1848
    - キットにおける声部 1855, 1856
    - キットの書き出し 167
    - キットの読み込み 167
    - 記譜オプション 1846
    - 記譜記号 1847
    - キュー 1221, 1222
    - グリッドキットの表示 164-166, 1698
    - グループ 164, 1698
    - グループ名の変更 165
    - ゴーストノート (「括弧付きの符頭」を参照してください)
    - 個別のインストゥルメント 1838
    - 再生 661, 714, 1039, 1045, 1839
    - 再生モード (「打楽器エディター」を参照してください)
    - 作成 950, 954, 956
    - スティッキング 1847
    - スラッシュ符頭 157, 1628
    - 装飾音符 277
    - 追加 124, 126, 146
    - ドラムセット (「ドラムセット」を参照してください)
    - トレモロ 1045, 1840
    - なぞる (「演奏技法」を参照してください)

## 無音程打楽器 (続き)

パーカッションマップ 661, 714, 1039  
 パートレイアウト 193, 1849  
 パンニング (「ステージテンプレート」を参照してください)  
 拍子記号 1811  
 表示タイプ 157, 1838, 1848, 1849  
 符頭 1840, 1843  
 符尾の方向 157, 267, 1846, 1855, 1856  
 譜表 157, 1848, 1849  
 譜表上の位置 850, 1840, 1843, 1846  
 譜表ラベル 164, 165, 1698  
 ルーディメンツ 248, 277, 285, 1327, 1816, 1823, 1826, 1846  
 レジェンド 1850-1853  
 レセヴィブレタイ 1785  
 連符 1847

## 向き

印刷 724, 737  
 書き出し 737  
 コードダイアグラム 1190  
 縦 737  
 変更 744  
 横 737

## 無効化

MIDI デバイス 354  
 音符入力 248, 251  
 音符の書き換え 271  
 ガイド 477, 491  
 キャレット 246  
 強調表示 477  
 コード記号の入力 354  
 再生 681  
 再生ヘッドの追従 679  
 挿入モード 262  
 ソロにされたトラック 687, 883-885  
 ダブルクリックによるモードの切り替え 46, 218  
 プレーヤーの並べ替え 137  
 マウス入力 236  
 マウスによる編集 236  
 ミュートされたトラック 687, 883-885  
 和音の入力 278

## 無調の調号 1349

音符の表記 520, 523

## め

## 明示的な休符 1640, 1641

暗黙の休符 1643  
 カラー 1644  
 削除 1646  
 非表示 1646  
 表示 1646

## 命名規則

ファイル名 731

## メーター 1795

オープン 1796, 1804, 1806  
 音符のグループ化 1113, 1136, 1139, 1630  
 カットコモンタイム 1139  
 休符のグループ化 1113, 1136, 1139  
 スラッシュ符頭 1630  
 チャンネルレベル 883, 884  
 トレモロ 1816

## メーター (続き)

拍子記号 (「拍子記号」を参照してください)  
 拍子なしの拍子記号 1796  
 変更 472  
 変拍子 1073, 1077  
 連桁のグループ化 1113, 1138  
 連符 1826

## メジャー

音程 519-521, 538  
 コード記号 350, 1155, 1156  
 スケール 535, 542, 1348  
 調 1348

## メゾ

強弱記号 (「強弱記号」を参照してください)  
 ソプラノ記号 (「音部記号」を参照してください)

## メトロノームクリック (「クリック」を参照してください)

## メトロノームマーク 1745, 1746, 1752

値 472, 874, 1752  
 移動 502, 652, 1756  
 外観 1754  
 括弧 1751, 1754  
 近似値 1754  
 クリック 294, 672  
 構成要素 1754  
 サイズ 1750  
 再生 294, 672, 698, 1753, 1755  
 順番 1756  
 小数点位置 326, 327, 1752, 1755  
 垂直位置 1717, 1718  
 選択 461  
 相対テンポ変更 1754  
 等式 324, 1761  
 トリル 1451  
 入力 320, 326, 327, 873  
 拍の単位 322, 472, 1752  
 範囲 1753  
 非表示 326, 1750  
 表示 1750  
 ピリオド 1754  
 フォント 1750  
 複数の位置 1717, 1718  
 譜表 1718  
 変更 472, 874, 1752, 1754  
 ポップオーバー 321

## メリスマ様式の歌詞 424, 427, 1368, 1379, 1381

## メロディー

コード 1154, 1157, 1177  
 再生 680, 685, 687, 1266, 1267  
 声部 257, 685, 799, 1858  
 入力 248, 251, 255 (「音符入力」.も参照)  
 符尾 257, 799  
 和音 278, 1175

## メロディックマイナー (「スケール」を参照してください) (「調号」.も参照)

## も

## モーター (「演奏技法」を参照してください)

## モーダル

グリッサンドライン 1466, 1467  
 コード記号 351, 1165  
 スケール 535, 542  
 調性システム 1003

モード 22, 33  
移調 535, 542  
印刷 719  
記譜 218  
グリッサンドライン 1466, 1467  
コード 242, 1165  
再生 658  
ジャンプ小節 70, 72  
浄書 553  
スケールのマッピング 535, 542  
設定 120  
挿入 242, 262, 280, 491  
テンポ 683

文字  
右手のフィンガリング 1305  
リハーサルマーク 1577

文字色 421, 625, 932, 935  
文字スタイル 929, 935  
削除 935  
作成 937  
存在しないフォント 80  
ダイアログ 935  
デフォルトとして保存 935

「文字スタイル」ダイアログ 935

モジュレーションホイールダイナミクス 1266  
モダニストの臨時記号の有効範囲ルール 1061

木管楽器 143  
移調 124, 146, 198, 950, 958  
インストゥルメントファミリー 960  
演奏技法 402  
角括弧 1143, 1695  
グリッサンドライン 1466, 1467  
グループ 183  
コード記号 1157  
作成 950, 954, 958  
追加 124, 126, 136, 141, 146  
パンニング（「ステージテンプレート」を参照してください）  
プレイヤーの順番 121, 137, 963, 964  
リバーブ（「スペーステンプレート」を参照してください）

モックアップ  
書き出し 110

元インストゥルメント  
音符の生成 512

元スタイル  
パラグラフスタイル 932, 934

もとにするページ  
フロー見出し 599  
ページテンプレート 575, 577, 582

元に戻す 33, 478  
履歴 479

もとのインストゥルメント 1208  
キューラベル 1213

元の音符  
スケールのマッピング 535, 542  
ピッチのマッピング 533, 534, 542

モノフォニー（「ポリフォニー」を参照してください）  
モルデント（「装飾音」を参照してください）

モルト  
マルカート（「アーティキュレーション」を参照してください）

## や

訳詞 1362  
歌詞を変更 1362  
パラグラフスタイル 1374  
ポップオーバー 426  
ラインを変更 1383

矢印 1551  
アルペジオ記号 1454  
カスタム 987, 994  
キャップ 1547, 1564  
声楽の譜表 1729  
ゾーン 42, 48, 120  
デザイン 1547  
展開 45  
テンポの等式 1762  
パネル 42, 48, 120  
符頭 1391, 1394  
分割記号 1729  
ライン 987, 994, 1553  
臨時記号 1009, 1357

## ゆ

有音程打楽器（「インストゥルメント」を参照してください）（「移調楽器」も参照）

有効化 246  
EQ 888  
Insert 895  
MIDI thru 240  
MIDI インポート 97  
MIDI デバイス 297, 354  
MIDI のコピー 501  
VST インストゥルメント 664, 666, 681  
インストゥルメントの変更 151  
インストゥルメントフィルター 488  
音符入力 246, 248, 251  
音符のスペーシング 554, 648  
ガイド 491  
記譜モードのダブルクリック 46, 218  
キャレット 246  
休符の入力 219  
強弱記号のリンク 501  
グラフィックスライス 554  
グラフィックの編集 554  
コード記号の再生 674, 675  
コード記号の入力 354  
コンデンシング 765, 809  
再生 33, 680, 681, 701, 707  
再生時のサンプリングされたトリル 1450  
再生中のクリック 680  
再生ヘッドの追従 679  
システムトラック 465  
自動保存 116  
スウィング再生 323, 694, 696  
スラーの衝突回避 1661  
スラーのリンク 501  
声部の個別再生 685, 686  
装飾音符の入力 219  
挿入モード 219, 262  
ダブルクリックによるモードの切り替え 46, 218  
チャンネルエフェクト 888, 895  
テキストの衝突回避 1770

## 有効化 (続き)

- デュレーションを強制 219
- デュレーションをロック 219
- トラック 97
- はさみ 219
- ピッチをデュレーションの前に指定 219
- 付点音符 219
- 譜表のスペーシング 554, 779
- 部分的なハーブのペダリング 1514
- プラグイン 666
- フレーム 554
- プレイヤーの並べ替え 137
- プレイヤーラベル 818
- マークダウン 81
- マウス入力 219, 236
- マウスによる編集 236
- ラインの衝突回避 988, 1556
- 連符の入力 219
- 和音の入力 219, 278
- ユーザーインターフェース 32
  - ウィンドウ 32
  - カラー 56-59
  - 言語 61, 69
  - トランスポートオプション 35
- ユーザー名
  - コメント 545, 550
- 優先
  - フロー見出し 595
- ユニゾン 1722
  - 移動 1735
  - オルタード (「オルタードユニゾン」を参照してください)
  - コンデンシング 806, 817, 819
  - 削除 509
  - 声部 257, 1401, 1859, 1860, 1862
  - ディヴィジ 1727, 1733-1735
  - 配置 509
  - 非表示 1734
  - 復元 1727
  - 付点 1401
  - 符尾 257
  - プレイヤーラベル 817, 819, 1733
- ユニゾン範囲 1727
  - カラー 1728
- ユニバーサルインド太鼓記譜法 1857
- 緩やかな連桁の傾斜 1119

## よ

## 用紙

- カラー 57
- サイズ 736, 737, 744
- 向き 737
- 両面印刷 735

## 洋式の調性

- オクターブの分割 1358
- 調号 1347

用紙サイズに合わせる 737 (「譜表サイズ」.も参照)

## 抑制

- 強調表示 477, 491, 1226, 1227, 1612, 1633 (「非表示」.も参照)
- 再生 688, 689
- 譜表 750-752, 1713

## 予告

- 調号 (「予告の調号」を参照してください)
- 拍子記号 (「親切拍子記号」を参照してください)
- 予告の調号 1352
  - 打ち消しのナチュラル記号 1350
  - 非表示 1353
  - 表示 1353
- 横棒線 (「ライン」を参照してください) (「グリッサンドライン」.も参照)
- 横向き 737, 744
- 余白 768, 1325
  - MusicXML ファイル 91
  - インストゥルメント名 (「譜表ラベル」を参照してください)
  - 演奏技法 1539
  - オシニア譜表 1712
  - 音部記号 1193
  - 囲み線 1096, 1575
  - 楽曲フレーム 567, 768, 770, 771, 779
  - キュー 1209
  - 休符 (「余白を埋める休符」を参照してください)
  - 強弱記号 1240
  - コード記号 1155, 1156, 1169, 1173
  - コードダイアグラム 1180
  - 小節線 1079
  - 小節番号 1096
  - タイ 1355, 1813
  - 打楽器のレジェンド 1855
  - タチエット 798
  - 調号 1347, 1355
  - ディヴィジ作成のラベル 1735
  - テキスト 629, 932, 1572, 1773
  - トリル 1446
  - ハーブのペダリング 1512
  - 非表示 477
  - 拍子記号 1809, 1813
  - 符尾 1423
  - 譜表 651, 764, 768, 770, 771, 1685, 1687, 1720
  - フレーム 629, 742
  - プレイヤーラベル 821
  - フロー見出し 591, 592, 769
  - ヘアピン 1423
  - ページ 742, 745, 768
  - 変更 651, 745
  - 補助音符 1446
  - 無音 111
  - ライン 1572
  - リハーサルマーク 1575
  - 臨時記号 1347, 1355
- 余白を埋める休符 1218, 1640
  - キュー 1218
  - スラッシュ領域 1632
  - 非表示 1218, 1632
- 余分な譜表
  - 移動 502, 506
  - 削除 1704, 1705
  - 追加 957
  - ディヴィジ (「ディヴィジ」を参照してください)
  - 幅 1708
  - 非表示 750-752, 1708
  - 表示 750-752, 1708

## 読み込み 86, 913

Cubase データ 1019, 1038  
 MIDI ファイル 94, 95  
 MusicXML ファイル 91, 92, 1597  
 エクスプレッションマップ 1019, 1038  
 演奏技法 97, 101, 913, 983  
 オプション 913, 915  
 キーエディター設定 881  
 コード記号 913  
 再生テンプレート 709  
 ステージテンプレート 904  
 スペーステンプレート 911  
 設定 913, 915  
 打楽器キット 104, 167  
 調性システム 913, 1359  
 テンポトラック 107, 108  
 トラック 94, 95  
 ドラムセット 104, 167  
 パーカッションマップ 1044  
 ハウススタイル (「ライブラリー」を参照してください)  
 パラグラフスタイル 913, 915, 932  
 フォントスタイル 913, 915, 930  
 符頭 913, 967  
 フレット楽器のチューニング 173  
 フロー 87, 88, 94, 95  
 フロー見出し 570  
 ページテンプレート 570, 578, 579, 913, 915  
 ペダル線 94, 101, 297  
 無音程打楽器 92, 95  
 ライブラリー 915  
 ライン 913, 988

1/4 音 1003, 1059, 1357  
 移調 539  
 オクターブの分割 1008, 1358  
 ギターバンド 386, 1473, 1475  
 調号 1012  
 調性システム 1357, 1358  
 臨時記号 1009, 1059, 1357, 1358

## ら

ライドベル (「無音程打楽器」を参照してください) (「演奏技法固有の符頭」.も参照)  
 「ライブステージ」ダイアログ 899  
 「ライブスペース」ダイアログ 907  
 ライブラリー 913  
 インストゥルメント 950  
 書き出し 916  
 コードダイアグラム 938  
 サウンド 661, 664, 666, 701, 1019, 1020, 1039  
 ダイアログ 913  
 打楽器 1039  
 フレット楽器のチューニング 172, 173  
 プロジェクトテンプレート 84, 85  
 読み込み 913, 915

ライン 1461, 1536, 1542, 1551, 1553  
 MIDI 866, 868, 870  
 アルペジオ記号 (「アルペジオ記号」を参照してください)  
 位置 1554, 1555, 1558, 1559  
 移動 502, 506, 652, 1555-1559, 1573  
 演奏技法 (「演奏技法の線」を参照してください)

## ライン (続き)

延長 (「ホールドの線」を参照してください)  
 オクターブ線 (「オクターブ線」を参照してください)  
 音符 (「符尾」を参照してください) (「連桁」.も参照)  
 音符の連結 (「連桁」を参照してください)  
 外観 976, 984, 986-988, 1547, 1563, 1564  
 開始位置 1562  
 ガイド 241, 656  
 描く 873  
 角括弧 1140, 1144, 1145, 1148, 1695  
 囲み線 1096, 1575  
 歌詞 424, 426, 427, 1361, 1379, 1382 (「歌詞の延長線」.も参照)  
 カスタム 984, 986-988, 992, 999, 1001  
 加線 1399  
 カラー 60, 584, 997, 1001  
 間隔 988, 992, 994, 1554  
 記号 994, 997  
 ギターバンド (「ギターバンド」を参照してください) (「ビブラートバー」.も参照)  
 キャップ 984, 987, 988, 994, 997, 1547, 1553, 1564  
 キュー 1215  
 休止 (「中間休止記号」を参照してください) (「休止」.も参照)  
 強弱記号 859, 860, 864, 1249  
 くさび形 984, 986, 988, 992  
 組段区切り 1553, 1573  
 組段の分割記号 (「組段の分割記号」を参照してください)  
 繰り返し可能な記号 986, 988, 992, 999, 1001  
 グリッサンド (「グリッサンドライン」を参照してください)  
 グループ 1695  
 弦の指示記号 413, 414, 470  
 弦のシフト指示 1312  
 構成要素 1553  
 コード 261, 379-381, 417, 419, 509-511  
 コードダイアグラム 1176  
 コンデンシング 801  
 サイズ 1560, 1567  
 再生 (「再生ヘッド」を参照してください)  
 削除 496  
 ジャズアーティキュレーション 1495, 1499  
 斜線 417  
 十字線 656  
 終端 994, 997, 1553  
 終端線 994  
 終了位置 1562  
 順番 1541, 1555, 1556  
 浄書オプション 1554  
 浄書モード 648, 1556  
 小節線 (「小節線」を参照してください)  
 小節番号 1100, 1102  
 衝突回避 988, 1556  
 垂直 419, 1551, 1554, 1556  
 垂直位置 1541, 1554, 1558  
 水平 417, 1551, 1554, 1555  
 水平のテキスト 1570  
 数字付き低音 (「数字付き低音」を参照してください)  
 ステムレット (「ステムレット」を参照してください)  
 スラー 1655, 1665  
 セグメント 1573

## ライン (続き)

装飾音符 1331, 1557  
 挿入モード 494, 495  
 タイ 1778-1780  
 第2連桁 1128  
 第2括弧 1145, 1148  
 タイプ 1547, 1551, 1554  
 タイムコード 1581  
 タブ譜 1737, 1738  
 段階的テンポ変更 1761  
 中間休止記号 (「中間休止記号」を参照してください)  
 注釈 984, 987, 988, 994, 997, 1553  
 停止位置 494, 495  
 テキスト 932, 994, 1553, 1565, 1567-1572, 1696, 1770  
 デフォルト設定 988, 1554  
 デュレーション 1560, 1561  
 テンポ記号 672, 871, 1757, 1759  
 トリル 1439, 1440  
 長さ 652, 1560-1562, 1573  
 斜め 417, 1551, 1559  
 波線 1439, 1453  
 入力 416, 417, 419  
 ハープのペダリング 1506, 1513  
 背景 1571  
 背景の塗りつぶし 1571, 1572  
 配置 656, 1562  
 幅 764, 992  
 反転 1565  
 ハンドル 1573  
 非表示 470, 1215, 1274, 1545  
 ビブラートバー (「ビブラートバー」を参照してください)  
 表示 470, 1215, 1274, 1545  
 フィンガリング 1310  
 フォント 1567  
 フック 994  
 符頭 1389, 1562, 1840  
 符頭にかかる 1389, 1840  
 太さ 923, 992, 1155, 1156  
 譜表 1703, 1704  
 譜表に対する位置 1559  
 譜表に対する配置 1558  
 譜表をまたぐ 419  
 フレーム区切り 1573  
 プレーヤーグループ (「プレーヤーグループのラベル」を参照してください)  
 プレーヤーラベル 820  
 分割の矢印 1729  
 ペダル (「ペダル線」を参照してください)  
 ベロシティ 857  
 変更 1547, 1563, 1564  
 ボディ 986, 988, 999  
 マーカー 1581  
 余白 1572  
 読み込み 913  
 リセット 988, 992, 994, 999  
 リpeat括弧 (「リpeat括弧」を参照してください)  
 リpeatマーカーのテキスト 1603  
 臨時記号 1562  
 列 1556  
 連結 417, 1551, 1554  
 連桁 (「連桁」を参照してください)

## ライン (続き)

連符の大括弧 (「連符の大括弧」を参照してください)  
 和音 378  
 「ライン注釈を編集」ダイアログ 994, 997  
 ラインのスペーシング 627, 747, 932, 934, 1768 (「譜表のスペーシング」も参照)  
 「ラインボディを編集」ダイアログ 992  
 「ラインを編集」ダイアログ 988  
 ラスタライズ (「譜表サイズ」を参照してください)  
 ラック (「VSTとMIDI」パネル)を参照してください)  
 ラベル  
 インストゥルメント 165, 207, 1684  
 インストゥルメントの変更 (「インストゥルメントの変更ラベル」を参照してください)  
 オシリア譜表 1714  
 角括弧 1695  
 キュー (「キューラベル」を参照してください)  
 コンデンス (「プレーヤーラベル」を参照してください)  
 打楽器キット 165, 1698, 1848  
 ディヴィジ 1730, 1733-1735  
 譜表 (「譜表ラベル」を参照してください)  
 プレーヤーグループ 165, 1695, 1696  
 マーカー 1580  
 ユニゾン 819, 1733-1735  
 ラン  
 ギターバンド 1469, 1480  
 装飾音符 277  
 欄外見出し 573, 1323  
 書き出し 113  
 非表示 763  
 フォント 932  
 フロータイトル 75, 81, 763, 1318  
 プロジェクトのタイトル 75, 81, 1318  
 ページテンプレート 574  
 ページ番号 763  
 ランダム化 876, 877, 879

## り

リーガル用紙サイズ 736, 1017  
 リード 190  
 移調 146, 198, 201  
 インストゥルメントの変更 150  
 作成 950  
 追加 124, 126, 136, 146  
 パート名 203, 205  
 譜表ラベル 1689  
 リードシート  
 インストゥルメントの追加 136, 146  
 音部記号 1197  
 カポコード記号 179-182  
 組段あたりの小節数 785  
 コード記号 346, 354, 1154  
 コードダイアグラムのグリッド 1179, 1180, 1182  
 再生 1629  
 小節線 1085  
 スラッシュ (「スラッシュ符頭」を参照してください)  
 打楽器キット 156  
 長休符 1649  
 調号 1349  
 ドラム 156



- リードシート (続き)  
フレームあたりの組段数 786  
プロジェクトテンプレート 84
- リガード (「ハンマーオン」を参照してください)
- リスト  
Hub 75  
コメント 546  
プレーヤー 203, 618, 1322
- リストライク (「ギタープリベンド」を参照してください)
- リズムックフィール 692, 693  
ガイド 490, 694, 696  
デフォルト設定 693  
変更 694  
変更の削除 696  
ポップオーバー 323
- 「リズムックフィール」ダイアログ 697
- リズム  
音符の生成 511, 512, 517  
回転 531, 541  
コード記号 355, 356, 511, 512, 517  
再クオンタイズ 293  
スラッシュ (「スラッシュ符頭」を参照してください)  
タイ 1136-1139  
タブ譜 1738, 1739  
反転 528, 529, 541 (「逆行」も参照)  
ロック 522
- リズム記号 26, 1625
- リズムグリッド 42, 241  
楽譜の選択 466  
カラー 58  
間隔 42, 241  
キーエディター 833, 839  
キーボードショートカット 64, 68  
変更 241  
連結線 478
- リズムセクション  
角括弧 1143, 1695  
コード記号 1154, 1157, 1159  
再生 1629  
スラッシュ (「スラッシュ符頭」を参照してください)  
追加 124, 126, 136, 141, 146  
としてインストゥルメントを定義 950, 954  
譜表のグループ化 1143, 1695
- リズムによるキュー 1221  
位置 1209, 1224  
移動 1224  
キューを変換 1222  
スラッシュ 1223  
譜表上の位置 1225
- 「リズムを反転」ダイアログ 529
- リセット 496  
アイテム 476, 477  
位置 477, 656  
移調 202  
インストゥルメント 950  
インストゥルメント名 207, 209, 950  
エクスペッションマップ 1030  
演奏技法 976  
演奏されるデュレーション 854  
オクターブ線の角度 1207  
オプション 63, 913, 917, 919, 921, 923, 925  
音楽記号 1014  
音部記号 202
- リセット (続き)  
音符のスペーシング 647, 648, 651  
外観 476  
角括弧 1152, 1153  
歌詞のライン 1374  
カポ 176, 177, 179  
カラー 58, 60  
環境設定 63  
キーボードショートカット 70  
休符 1643, 1646  
強弱記号 842, 1265, 1266  
強弱記号レベル 1267  
組段 779, 788  
コード記号 949, 1165  
コード記号のボイシング 676  
コードダイアグラム 938, 1184, 1187  
コンデンシング 811, 815, 816  
再生効果 1047  
再生テンプレート 707  
再生の上書き 854  
小節線 1152  
小節番号 1105, 1107  
垂直方向のスペーシング 782  
スウィング再生 697  
数字付き低音 1285  
ステージテンプレート 902  
ステムレット 1133  
スペーステンプレート 910  
声部の順番 1863  
ソロ状態 687, 883  
第2連桁 1128  
チャンネルボリューム 891  
チャンネル名 894  
中括弧 1152, 1153  
テキスト 627, 1768  
テンポ 1746  
トリルの音程 1446  
ノートベロシティ 858  
パーカッションマップ 1039  
パートレイアウト 198  
背景色 58  
配置設定 788  
パラグラフスタイル 627, 932, 1768  
フィンガリング 1184, 1301  
フィンガリングスライド 1306  
フェーダー 891  
フォントスタイル 930, 932  
符頭 967, 1395  
符尾 1117, 1420  
譜表 751, 752, 779, 788  
譜表のグループ化 1153  
譜表のスペーシング 782  
譜表ラベル 209  
譜表をまたぐ連桁 1123, 1127  
プレーヤー名 204, 205  
フロー見出し 594, 599, 913  
ページ 586, 591, 594, 759  
ページサイズ 744, 917, 1017  
ページテンプレート 591, 761, 913  
ページのカラー 57  
ページ番号 589  
ベロシティ 858  
ボイシング 676

- リセット (続き)  
 ボリューム 891  
 ミュート状態 687, 883  
 文字スタイル 935  
 ライン 988, 992, 994, 999  
 リズミックフィール 697  
 臨時記号 1052  
 レイアウト 198, 586, 591, 788, 917  
 レイアウト名 205  
 連桁 1117, 1119, 1123, 1127, 1128, 1133
- 立体音響 (「パンニング」を参照してください) (「リバーブ」.も参照)  
 リッチブラック 739  
 リップ (「ジャズアーティキュレーション」を参照してください) (「グリッサンドライン」.も参照)  
 リディアン  
 コード記号 351, 1165  
 スケール 535, 542
- リテイク (「ペダルのリテイク」を参照してください)  
 リデュース 190, 507, 509, 772, 799  
 音符のデュレーション 286, 288  
 音符をコード記号に 355, 356  
 コンデンシング (「コンデンシング」を参照してください)
- リニアポイント 862, 869, 871  
 入力 860, 868, 873
- リハーサルマーク 1574  
 位置 1576, 1718  
 移動 482, 502, 652  
 インデックス 1576  
 開始番号 1576  
 書き出し 113  
 囲み線 1574, 1575, 1578  
 カラー 60, 1579  
 キュー 455  
 サイズ 473, 1579  
 削除 496  
 シーケンス 1576, 1577  
 十字線 656  
 順番 1576  
 浄書オプション 1574  
 小節線 1576  
 垂直位置 1717, 1718  
 選択 460, 464, 466  
 先頭 1578  
 タイプ 1577  
 中間テキスト 1578  
 デフォルト設定 1574  
 テンポ記号 1576  
 ナビゲーション 482  
 入力 434  
 配置 1574  
 フィルター 467  
 フォント 1579  
 複数の位置 1576, 1717, 1718  
 譜表 1718  
 譜表に対する配置 1576, 1718  
 末尾 1578  
 余白の値 1575
- 「リハーサルマークに移動」ダイアログ 482
- リバーブ 886–888, 896, 905  
 削除 894  
 チャンネル 884
- リバーブ (続き)  
 追加 893, 905, 910  
 テール 111  
 デフォルト設定 912  
 テンプレート (「スペーステンプレート」を参照してください) (「ステージテンプレート」.も参照)  
 非表示 890  
 表示 890  
 変更 896, 905, 910, 912  
 保存 907, 908, 910  
 ミキサー 884
- リピート  
 演奏技法 1545  
 音符 (「トレモロ」を参照してください) (「小節リピート記号」.も参照)  
 カウント 691, 1592, 1612, 1619  
 カウントの移動 652  
 書き出し 689  
 括弧 (「リピート括弧」を参照してください)  
 強弱記号 689  
 グループ化 1616, 1617  
 再生 688–691, 1343, 1592  
 浄書オプション 1079, 1591, 1599, 1611  
 小節 1610, 1618  
 小節線 (「リピート小節線」を参照してください)  
 テンポ記号 689  
 長さ 472, 1611  
 任意の音符 (「括弧付きの符頭」を参照してください)  
 羽根 1086  
 番号 691, 1592, 1601, 1612, 1619, 1633  
 頻度 688, 1614, 1621  
 フォントスタイル 1616  
 マーカー (「リピートマーカー」を参照してください)  
 ミュート 688
- リピート回数 689, 1591, 1607  
 MIDI 録音 293  
 移動 1607  
 言語 1609  
 小節番号 1108–1110  
 総数 691, 1592  
 任意の音符 (「括弧付きの符頭」を参照してください)  
 場所 1607  
 非表示 1607  
 表示 1607  
 分割 1592  
 変更 691, 1592  
 ミュート 688  
 リピート 690, 691, 1343, 1592
- リピート括弧 1591  
 MIDI 録音 293  
 MusicXML ファイル 1597  
 位置 1591, 1594, 1718  
 移動 502, 652, 1593  
 オssia 譜表 1719  
 外観 1591, 1595  
 書き出し 689  
 組段区切り 1594  
 最終セグメント 1595  
 サイズ 1593, 1595  
 再生 689, 690, 1343  
 削除 496  
 十字線 656  
 浄書オプション 1591

- リピート括弧 (続き)  
 小節番号 1108-1110  
 垂直位置 1717, 1718  
 セグメント 1591, 1594  
 選択 460, 464, 466  
 タイプ 439  
 追加の括弧 443, 445  
 テキスト 1595  
 デフォルト設定 1591  
 長さ 652, 1593  
 入力 439, 442-445  
 任意の音符 (「括弧付きの符頭」を参照してください)  
 配置 1594  
 パネル 442, 444, 445  
 ハンドル 1593, 1594  
 フィルター 467  
 フォントスタイル 1595  
 複数の位置 1594, 1717, 1718  
 フック 1595, 1596  
 譜表 1718  
 フレーム区切り 1594  
 ポップオーバー 439, 443  
 リピート回数 1592
- リピート小節線 1079, 1081, 1598  
 MIDI 録音 293  
 演奏回数 691, 1592  
 外観 1079  
 カウント (「リピート回数」を参照してください)  
 書き出し 689  
 角括弧 1086, 1591, 1595  
 間隔 1347  
 組段の開始位置 1083  
 組段の終了位置 1083  
 再生 689, 690, 1343  
 スペーシング 1079  
 テキスト (「リピート回数」を参照してください)  
 ドット 1079  
 入力 329, 331, 334, 336  
 羽根 1086  
 パネル 331, 336  
 ポップオーバー 329, 331, 334  
 リピート回数 691, 1592  
 リピート括弧 1591, 1595
- リピートセクション (「リピートマーカー」を参照してください)  
 リピートの 2 回め以降  
 小節番号 1108, 1110  
 リピートのポップオーバー 439  
 リピートマーカー 1598  
 MIDI 録音 293  
 位置 1599, 1605, 1718  
 移動 502, 652  
 インデックス 1601  
 演奏回数 691  
 大文字 1599  
 外観 1599  
 書き出し 689  
 コーダ記号 1600  
 小文字 1599  
 サイズ 1599, 1600  
 再生 689, 690, 1343  
 削除 496  
 十字線 656
- リピートマーカー (続き)  
 順番 1601  
 浄書オプション 1599  
 小節線 1083, 1604  
 小節番号 1108-1110  
 省略 1599  
 垂直位置 1717, 1718  
 セーニョ記号 1600  
 タイプ 439  
 テキスト 1602  
 デフォルト設定 1599  
 入力 439, 442, 446, 447  
 任意の音符 (「括弧付きの符頭」を参照してください)  
 パネル 442, 447  
 パラグラフスタイル 1599  
 非表示 1604  
 表示 1604  
 フィルター 467  
 フォント 1599  
 複数 1601  
 複数の位置 1605, 1717, 1718  
 譜表 1718  
 譜表に対する位置 1605  
 変更 472  
 ポップオーバー 439, 446  
 ライン 1603  
 ワードラップ 1603
- リブレット  
 書き出し 1366  
 リブレット作者 81, 620, 1320  
 リムショット (「演奏技法」を参照してください) (「演奏技法固有の符頭」.も参照)  
 リュート (「フレット楽器」を参照してください)  
 領域  
 MIDI ノート (「MIDI トリガー領域」を参照してください) (「MIDI CC エディター」.も参照)  
 印刷プレビュー 39  
 演奏技法 855  
 音符 843, 844  
 カウント 1612, 1619, 1633  
 楽譜 38  
 キーエディター 831, 840, 843, 844, 855, 859, 865, 866, 871, 879, 880  
 キュー 455, 457, 1226, 1227  
 強弱記号 859  
 グラフ 878  
 コード記号 (「コード記号領域」を参照してください)  
 再生モード (「カラー領域」を参照してください)  
 小節 (「通し番号付き小節領域」を参照してください)  
 小節リピート記号 (「小節リピート記号」を参照してください)  
 スラッシュ 1629, 1631 (「スラッシュ符頭」.も参照)  
 選択 462-464, 466, 840, 879, 880  
 ツール 40, 826  
 テンポ 871  
 プロジェクト開始領域 37  
 編集 40, 157, 1848
- 両端揃え  
 組段 651, 749, 764, 776, 1720  
 垂直 749, 776  
 テキスト 631  
 譜表 749, 764, 776, 1708, 1720

- 両端揃え (垂直方向)  
   組段 749, 776  
   テキスト 631  
   譜表 749, 776  
 両端揃え (水平方向)  
   組段 764  
   テキスト 631, 932  
   譜表 764  
 両面印刷 724, 735  
   冊子印刷 735  
 両立しない演奏技法のグループ 1029  
   編集 1037  
 リリース  
   ギターバンド 1469, 1476  
   トレモロ 440, 447, 449, 1818  
   ハンドル 1480, 1483  
 「履歴」ダイアログ 479  
 リンク  
   MIDI 501, 870  
   VST/MIDI へのパーカッションマップのリンク 661, 714  
   楽曲をフレームに 613, 614  
   キーエディター 835  
   強弱記号 501, 1262, 1263  
   強弱記号のグループ 1260, 1261  
   小節線 1088, 1090-1092, 1142, 1714  
   スラー 501, 1672, 1673  
   中間休止記号 1335, 1339  
   トラック 835  
   フェルマータ 1335, 1339, 1340  
   譜表 (「角括弧」を参照してください) (「中括弧」.も参照)  
   フロータイトル 210, 1318  
   フロー見出し 599  
   フロー名 210, 1318  
   ページテンプレート 575, 577, 582  
 リンクの解除  
   楽曲フレーム 614  
   キーエディター 835  
   強弱記号 1263  
   スラー 1673  
   トラック 835  
 臨時記号 1051  
   MIDI 入力 271  
   Stein-Zimmermann 1357, 1358  
   アタッチメントポイント 1009  
   位置 1051  
   移調 520, 1354, 1355  
   移動 1056, 1057  
   異名同音 271, 523, 524, 526  
   インストゥルメント名 61  
   打ち消し 1060, 1063, 1350  
   オクターブの分割 1358  
   オルタードユニゾン (「オルタードユニゾン」を参照してください)  
   音程 372, 538, 1443  
   カーニング 1056  
   外観 1052, 1062  
   ガイド 490  
   書き換え 271, 523, 524, 526  
   角括弧 1052, 1062, 1428  
   カスタム 1003, 1005, 1009 (「カスタムの調性システム」.も参照)  
   臨時記号 (続き)  
     加線 1051  
     括弧 1052, 1062, 1428  
     カラー 58, 1054  
     間隔 1347, 1355  
     ギタープリベンド 1478  
     グールド矢印 1357, 1358  
     区切りをまたぐタイ 1052, 1783  
     グリッサンドライン 1461  
     構成要素 1009  
     コード記号 174, 179, 181, 348, 1155-1157, 1164, 1165  
     サイズ 1054, 1157  
     再表示 1060-1062  
     削除 1052  
     順番 1051  
     浄書オプション 1051  
     小節線 1350  
     衝突回避 1055-1057  
     親切 (「親切臨時記号」を参照してください)  
     数字付き低音 431, 1269  
     スタックの順番 1055, 1056  
     スペーシング 1056  
     スラー 1661  
     装飾音 1435, 1448  
     タイトル 619  
     調号 1051, 1346, 1347, 1350, 1354, 1355  
     調性システム 1003  
     テキスト 420, 423, 619, 624  
     デフォルト設定 1051  
     トークン 619  
     トリル 1441-1443, 1446, 1448  
     入力 238, 269, 306, 1060  
     パート名 205  
     ハーブのペダリング (「ハーブのペダリング」を参照してください)  
     ハーモニクス 1428  
     背景 1355  
     背景の塗りつぶし 1355  
     パネル 223, 309  
     ピアノロールエディター 843, 845  
     ピッチをデュレーションの前に指定 238  
     非表示 1051, 1052, 1062, 1063, 1350, 1428, 1442  
     微分音 1059, 1060, 1358  
     表示 1051, 1052, 1062, 1350, 1428, 1442  
     表示なし 305, 1052, 1349, 1350, 1428  
     フィルター 467, 468, 1007  
     譜表ラベル 61  
     変更 269, 306  
     ホルンの支管の指示記号 1295  
     矢印 1009, 1357, 1358  
     有効範囲ルール (「臨時記号の有効範囲ルール」を参照してください)  
     1/4 音 1059, 1357, 1358  
     ライン 1562  
     レイアウト名 205  
     和音 1055  
   臨時記号の表記 271  
     書き換えの無効化 271, 921  
     変更 523, 524, 526  
     リセット 526

## 臨時記号の有効範囲ルール 1060

- 一般的な慣習 1060
- 新ウィーン楽派 1061
- 変更 1061
- モダニスト 1061

「臨時記号を編集」ダイアログ 1009

リフォルツァンド（「強弱記号」を参照してください）

## る

ルーティング 661, 670, 713, 714

ルート

- コード記号 346, 349, 351, 354, 1155, 1156, 1166
- コードダイアグラム 1177

ルーラー

- 再生モード 659
- 十字線 656
- リズムグリッド 241

ルバート

- 組段に付くテキスト 420, 932
- テキスト 420, 932
- テンポ記号 321, 1745
- 表現テキスト 337

## れ

レイアウト 27, 129, 133, 190, 799

- MIDI インポート 101
- MIDI の書き出し 105
- MusicXML ファイル 93
- tacet al fine 1650
- 移調 146, 190, 194, 195, 198, 199, 201, 202, 619, 1325
- 異名同音の表記 523, 526
- 印刷 724, 733, 737
- 印刷モードのパネル 720
- インストゥルメントの順番 137, 963
- インストゥルメントの変更ラベル 155
- インストゥルメントフィルター（「インストゥルメントフィルター」を参照してください）
- インデント 1720
- 大きな拍子記号 1801, 1803
- オーケストラの順番 137-139, 183, 963, 1695, 1696
- オーディオの書き出し 110
- オッサ譜表 1713, 1715
- オッサ譜表の非表示 1713
- 音部記号 198-200, 202, 360, 1194-1196, 1198, 1204
- 音符のスペーシング 643
- 音符の表記 523, 526
- カード（「レイアウトカード」を参照してください）
- 解析 117
- 書き出し 728, 733
- 角括弧 1142, 1143, 1146, 1148（「譜表のグループ化」.も参照）
- カスタムスコア 190
- 画像解像度 729
- 楽曲フレーム 610
- カラーモード 729
- キーエディター 831
- キーボード 66, 69
- キュー 453, 1208
- 強弱記号 1233
- 切り替え 47

レイアウト（続き）

- 空白の譜表 750, 753
- 空白ページ 757, 758
- 組段オブジェクト 1717-1719
- 組段の形式設定 748, 764, 776, 789, 822
- 組段の分割記号 1716
- グラフィックファイル 728, 738
- 形式設定 742, 822
- 形式設定のコピー 195, 822, 823
- コード記号 1159
- 固定 785-787
- コンデンス 765, 799
- コンデンスラベル（「プレーヤーラベル」を参照してください）
- 削除 197
- 作成 101, 192, 195, 198
- 実音 195, 619, 1325
- 縮尺サイズ 737
- 順番 196
- 小節番号 1094, 1097-1099, 1109
- 数字付き低音 1270
- ズーム 45, 483
- 設定 917
- 設定モードのパネル 129, 190
- 選択 34
- ソート 196
- タイトル 567, 573, 595
- タイムコード 1581, 1587, 1589
- 打楽器キットの表示 1849
- 打楽器のレジェンド 1850
- タチエツト 795, 797, 798
- タブ 36, 49
- 中括弧 1142-1144, 1146, 1148（「譜表のグループ化」.も参照）
- 長休符 1097, 1649, 1650, 1653
- ディヴィジの譜表ラベル 1731, 1734, 1735
- ディヴィジ 1722, 1723
- テキスト 420, 573, 1763, 1770, 1775
- トークン 619, 1325
- 通し番号付き小節領域 1619
- ナビゲーション 479-483
- 名前の変更 205
- 名前を付ける 205（「レイアウト名」.も参照）
- パート 190, 193, 822
- パートのコピー 822, 823
- ハーブのペダリング 1509
- 配置設定 784-788
- 番号（「レイアウト番号」を参照してください）
- 番号の付け直し 197
- 比較 52
- 左ページ 760
- ビュータイプ 44
- 拍子記号 1801, 1803, 1814
- 開く 36, 47
- ファイル名 731
- フィンガリング 1294
- フォントサイズ 930, 932
- 復元 198
- 複数のウィンドウ 53
- 複数開く 49, 52
- 複製 195
- 部数 724
- 譜表 750-752

- レイアウト (続き)
- 譜表サイズ 747
  - 譜表のグループ化 1148
  - 譜表のスペーシング 748, 749, 776, 1770
  - 譜表の非表示 750-752
  - 譜表フィルター (「インストゥルメントフィルター」を参照してください)
  - 譜表ラベル 203, 619, 1685, 1689, 1731, 1734
  - フルスコア 190
  - フレーム 607, 609
  - フレーム区切り 792
  - フレームチェーン (「楽曲フレームチェーン」を参照してください)
  - フレームのコピー 607
  - フレームの順番 614
  - プレーヤー 133, 193, 616
  - プレーヤーの結合 193
  - プレーヤーの削除 193
  - プレーヤーの順番 137-139, 183, 963, 1695, 1696
  - プレーヤーの追加 193
  - プレーヤーラベル 817
  - プレーヤーリスト 1322
  - フロー 133, 193, 615, 760, 761
  - フローの削除 193
  - フローの追加 193
  - フロー範囲 726, 727
  - フロー見出し 591, 595, 596, 599, 762, 763
  - プロパティ 825-828
  - プロパティのコピー 825
  - ページサイズ 736, 744
  - ページテンプレート 567, 581, 590
  - ページテンプレートのセット 569, 746
  - ページの削除 759
  - ページの追加 757, 758
  - ページの優先の解除 586
  - ページ範囲 726, 727, 733
  - ページ番号 1501
  - ページめくり 792
  - ヘッダー 1323
  - 編集 584
  - マーカー 1581
  - 前付け 1318
  - 向き 737, 744
  - 用紙サイズ 736
  - 用紙サイズに合わせる 737
  - 余白 745, 768, 770
  - 欄外見出し 763, 1323
  - リセット 586, 591, 788, 917
  - リハーサルマーク 1576, 1579, 1718
  - リピート回数 1109
  - リピートマーカーのテキスト 1603
  - 両端揃え 749, 764, 776
  - 両端揃え (垂直方向) 749
  - 臨時記号 523, 526
  - 「レイアウト」パネル 129
  - ロック 785-787
  - 枠線 1325 (「余白」も参照)
- レイアウトオプション 30, 917
- 検索 917
  - 小節番号 1094-1097, 1100
  - ダイアログ 917
  - デフォルトとして保存 917
  - 別のレイアウトへコピー 822
  - 「レイアウトオプション」ダイアログ 917
  - レイアウトカード 129, 133
    - 展開矢印マーク 45
    - 番号 129 (「レイアウト番号」も参照)
    - 開く 129
  - レイアウトセレクター 34
    - レイアウトの切り替え 47
    - レイアウトの順番 196
  - レイアウトパネル
    - 設定モード 129
  - 「レイアウト」パネル
    - 印刷モード 719, 720
    - 設定モード 120
  - レイアウト番号 129
    - 順番 196
    - 変更 197
  - レイアウトフレームチェーン 611
  - レイアウト名 203, 205
    - 最初のページ 573
    - トークン 619
    - 変更 205
    - 欄外見出し 574
    - リセット 205
    - 臨時記号 205
    - 枠線 1325
  - レイテンシー
    - MIDI 録音 290, 295
    - 値の変更 296
  - レイヤー (「声部」を参照してください)
  - レート
    - フレーム 216
  - レーン (「エディター」を参照してください) (「トラック」も参照)
  - レガート
    - 演奏技法 (「演奏技法」を参照してください) (「再生効果」も参照)
    - 音符のデュレーション 286
    - 再生 925, 1028, 1683
    - スラー 1655, 1683
  - レセヴィブレタイ 1536, 1784, 1785
    - 角度 1788
    - 形状 1788
    - 幅 1785, 1788
  - レター用紙サイズ 736, 744, 1017
  - 列
    - 移調 199
    - 音部記号 199
    - カウント 1623
    - 強弱記号 1233, 1260, 1261
    - コード記号 174, 179, 180, 182, 1155, 1156
    - コードダイアグラム 1179, 1180, 1182
    - 小節番号 1102, 1623
    - 数字付き低音 1268, 1269, 1277, 1278
    - 声部 1860-1862
    - 存在しないフォント 80
    - ビデオ 436
    - ボタン (「ツールバー」を参照してください) (「下ゾーン」も参照)
    - マーカー 436
    - ライン 1556
    - 臨時記号 1055, 1056
  - レディング 932, 934

## レベル

入れ子状の連符 1827  
 強弱記号 (「強弱記号レベル」を参照してください)  
 チャンネル 883, 884, 891  
 ペダル線 1517, 1518, 1520, 1521 (「ペダルの強さの変更指示」も参照)

## 連結線 26, 502, 652

演奏技法 1541, 1543, 1545, 1548  
 強弱記号 1255  
 十字線 656  
 中間休止記号 370  
 テキスト 1764  
 非表示 477, 478  
 表示 478

## 連桁 1112, 1114, 1133

位置 1118, 1119, 1123, 1127, 1420  
 扇形 1133, 1134  
 大きなピッチ差 1334  
 音符 1114  
 角度 1119, 1120, 1133, 1134  
 歌詞 1115  
 間隔 1119, 1130  
 記譜オプション 1112  
 休符 1112, 1114, 1131  
 グループ化 1112, 1114, 1136, 1139 (「拍グループ」も参照)  
 傾斜 1119, 1120, 1334  
 コーナー 1127  
 ステムレット (「ステムレット」を参照してください)  
 スペーシング 1125  
 スラッシュ 1631  
 声楽の譜表 1115  
 装飾音符 1333, 1334  
 タイ 274  
 第2連桁 1127, 1128  
 第1連桁 1127  
 タブ譜 1739  
 中央配置の連桁 1121, 1122  
 デフォルト設定 1112  
 トレモロ 1820  
 倍音 1128  
 半小節 1112, 1138  
 反転 1118  
 ハンドル 1120  
 非表示 1422  
 拍子記号 1113, 1138  
 複数の譜表 (「譜表をまたぐ連桁」を参照してください)  
 太さ 1117  
 符尾の方向 1118, 1122, 1123, 1126, 1420  
 譜表間のオブティカルスペーシング 1125  
 譜表に対する位置 1118  
 譜表をまたぐ (「譜表をまたぐ連桁」を参照してください)  
 分割 919, 1112, 1115, 1136, 1139  
 方向 1118-1120, 1128, 1134  
 メーター 1138  
 リセット 1117, 1119, 1123, 1127  
 臨時記号 1061  
 臨時記号の再表示 1061  
 連桁の解除 1115  
 連符 1112, 1115, 1117, 1130, 1136, 1830

## 連桁グループ 25, 1112, 1113, 1136

カットコモンタイム 1139  
 記譜オプション 1112  
 作成 1114  
 弱起 (アウフタクト) 1800  
 選択 460, 461  
 定義 1112, 1138  
 デフォルト設定 919, 1112  
 半小節 1112  
 拍子記号 1113  
 符尾の方向 1417  
 リセット 1117

## 連桁線

数 1128  
 間隔 1130  
 太さ 1117  
 方向 1128

## 連桁の傾斜 1119

装飾音符 1334  
 変更 1120

## 連桁のでっぱり 1127

## 練習曲 (「フロー」を参照してください)

## 練習問題

カラー 60, 1393  
 空白の譜表 755, 756  
 テキストの配置 1769  
 ノート名の符頭 1393, 1397  
 抜粋 (「フロー」を参照してください) (「グラフィックスライス」も参照)

## 連続

MIDI CC 879, 880  
 音符 248, 522, 527, 879, 880  
 ギターバンド 1469, 1474  
 キュー 1216  
 休符 1649  
 強弱記号 341, 343, 1250, 1255, 1260, 1265  
 コントローラー 1033  
 小節数 1613, 1620  
 ビュー 44, 54, 831, 843, 844  
 譜表をまたぐ連桁 1123  
 ヘアピン 1250  
 ベロシティー 879, 880  
 リハーサルマーク 1576

## 連弾 (「二重奏」を参照してください)

## 連符 1327, 1816, 1826

アーティキュレーション 298, 1067  
 アンスケール 1829  
 位置 656, 1826  
 移動 502, 506, 528, 531, 652, 1826, 1836  
 入れ子状の連符 1827  
 音符 1828  
 外観 1826, 1831, 1834, 1835  
 回転 531  
 ガイド 490, 1831, 1835  
 角括弧 (「連符の大括弧」を参照してください)  
 カラー 60  
 間隔 1826  
 キーエディター 843  
 記号 1014  
 クオンタイズ 103  
 形式設定 1014, 1835  
 サイズ 1826  
 削除 1829

## 連符 (続き)

- 終了位置 [1833](#)
  - 浄書オプション [1826](#)
  - 小節線 [1829](#)
  - 水平括弧 [1834](#)
  - スウィング再生 [692, 693](#)
  - スラー [299](#)
  - タイプ [282, 1826](#)
  - 打楽器キット [1847](#)
  - タッキングインデックス [656](#)
  - デフォルト設定 [1826](#)
  - トレモロ [1816](#)
  - 入力 [103, 281, 1827, 1828](#)
  - 拍の単位 [284](#)
  - 番号 (「連符の数字」を参照してください)
  - 反転 [528, 1832](#) (「逆行」.も参照)
  - ハンドル [1831](#)
  - ピアノロールエディター [843](#)
  - 非表示 [1826, 1831, 1835](#)
  - 表示 [1835](#)
  - 比率 (「連符の数字」を参照してください)
  - フィルター [467](#)
  - フィンガリング [1287](#)
  - フォントスタイル [1837](#)
  - フック [1831](#)
  - 譜表に対する位置 [1832](#)
  - 変換 [527, 1828, 1829](#)
  - ポップオーバー [281, 282](#)
  - 臨時記号 [269](#)
  - 連桁 [1112, 1115, 1117, 1130, 1136, 1830](#)
- 連符の数字 [1826, 1834, 1835](#)
- 外観 [1835, 1837](#)
  - サイズ [1837](#)
  - 水平位置 [1836](#)
  - 非表示 [1826, 1835](#)
  - 表示 [1826](#)
  - フォント [1837](#)
- 連符の大括弧 [1831](#)
- 移動 [652](#)
  - 角度 [652, 1831](#)
  - 終了位置 [1833](#)
  - 水平 [1834](#)
  - 長さ [652, 1831](#)
  - ハンドル [1831](#)
  - 非表示 [1826, 1831](#)
  - 表示 [1826, 1831](#)
  - フック [1831](#)
- 連符の比率 (「連符の数字」を参照してください)

## ろ

## ローカル

- コード記号 [346, 1154](#)
- 数字付き低音 [427, 1268](#)
- プロパティ [825-828](#)

## ロード

- MIDI インストゥルメント [667, 681, 701, 707](#)
- VST インストゥルメント [667, 681, 701, 707](#)
- 再生テンプレート [707](#)
- サウンド [667, 681, 701, 707, 893, 894, 896, 910, 912](#)
- ステージテンプレート [902](#)
- スペーステンプレート [910, 912](#)

## ロード (続き)

- ビデオファイル [213](#)
- リバーブ [894, 896, 910, 912](#)

## ローマ数字

- トークン [621](#)
- フィンガリング [1310](#)
- 譜表ラベル [1693](#)
- フロー番号 [621](#)
- ページ番号 [588, 1502](#)
- 和声分析 [1268](#)

ルール (「トレモロ」を参照してください) (「連符」.も参照)

ロールコード (「アルペジオ記号」を参照してください)  
録音

- MIDI (「MIDI 録音」を参照してください)
- 演奏技法 [295](#)
- オーディオ [110](#)
- カウントイン [295](#)
- クリック設定 [294, 672](#)
- デバイス [297](#)
- テンポ [683](#)
- ピッチの入力 [238](#)
- 非録音時の MIDI 入力データを記録 [292, 698](#)
- ペダル線 [295](#)

## 六線譜

タブ譜 (「タブ譜」を参照してください)

## ロクリアン

- コード記号 [351, 1165](#)
- スケール [535, 542](#)

## ロシア語

- リピート回数 [1609](#)

## ロシア式

- インストゥルメント名 [61](#)
- 打ち消しのナチュラル記号 [1350](#)

## ロック

- 演奏されるデュレーション [833, 852](#)
- キーエディター [835](#)
- 組段 [557, 787, 788, 790](#)
- デュレーション (「デュレーションをロック」を参照してください)
- フレーム [557, 633, 634, 787, 788](#)
- レイアウト [787, 788](#)

## ロマンチック

- トリル [1449](#)

## わ

## ワークスペース 22

- オプション [33, 34](#)
- 環境設定 [63](#)
- キーボードショートカット [29, 68](#)
- 設定 [46, 61](#)

## ワークフロー

- コメント [545](#)

ワーミーバー (「ビブラートバー」を参照してください)

ワイルドカード (「トークン」を参照してください)

## 和音 1154

- アルペジオ記号 [1456](#)
- 移動 [528, 531](#)
- エクスプロード [510](#)
- 回転 [531](#)
- 記号 (「コード記号」を参照してください) (「コードダイアグラム」.も参照)



## 和音 (続き)

構築 539  
再生 1629  
識別 511  
衝突回避 1055, 1057  
数字付き低音 1283  
装飾音符 277, 278  
タブ譜 1408, 1409, 1741  
入力 284, 509, 539  
配置 510  
反転 528  
ピッチのマッピング 533  
ペロシティー 857 (「ペロシティーエディター」も参照)  
変換 527  
密集 1055  
ライン 511  
臨時記号 1055-1057

## 和音なしの記号 351

## 和音の入力 280

アルペジオ記号 378  
エクスプロード 261  
音域の選択 251  
キャレット 242  
タブ譜 268, 278  
複数の譜表 261  
有効化 219, 278

## 枠線 740, 1770

印刷 724  
インストゥルメントの変更ラベル 156, 932  
書き出し 728  
形状 932, 1096, 1584, 1771  
コード記号 1169  
小節番号 1096  
スタイル 932, 1584, 1771  
タレット 795, 932  
テキスト 628, 932, 994, 1570, 1770, 1771  
パート名 932  
ハーブのペダリング 1510-1512  
フィンガリング 1293  
太さ 629, 1511, 1570, 1772  
マーカー 1584  
余白 932, 1169, 1512, 1773  
ライン 1570  
ライン注釈 994  
リハーサルマーク 1575, 1578  
レイアウト名 1325

## 和声分析 (「数字付き低音」を参照してください)

## 割り当て

MIDI コマンド 69  
エンドポイントに声部を 713  
エンドポイントへのインストゥルメントの割り当て 713  
エンドポイントへのエクスペッションマップの割り当て 661, 714  
エンドポイントへのパーカッションマップの割り当て 661, 714  
音符を弦に 1397  
キーボードショートカット 68  
声部 257, 259, 507, 509, 510, 685, 1628, 1856  
打楽器キットの声部 1628, 1856  
符頭のデザイン 1394, 1396  
フレームをフレームチェーンに 613

## 割り当て (続き)

プレーヤーをフレームチェーンに 616  
フローにプレーヤーを 133, 189  
フローをフレームチェーンに 615  
ページテンプレート 590, 746  
レイアウトにプレーヤーを 133, 193  
レイアウトにフローを 133, 193